

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第1分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第1分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会





1 遺跡遠景 (開通前)



2 遺跡遠景 (開通後)





1 角田調査区近景（南から）と方形土壇156出土銅製品



2 フロヤ調査区銅鐸埋納坑（南から）と出土土器片









1. フロヤ調査区袋状土塊18 (南および北から)



2. フロヤ調査区袋状土塊14出土の銅貨





1 角田調査区竪穴住居132 (南東から)



2 出土品







1 フロヤ調査区中世遺構面（西から）



2 角田調査区土墳墓21出土鏡



# 序

山陽自動車道は、大阪府吹田市を起点として瀬戸内海沿岸の主要都市を結び、山口県下関市に至る総延長約502kmの高速自動車道であります。岡山県においては、昭和63年3月の笠岡～早島インターの供用開始に始まり、平成5年12月には県内全線を開通することができました。また、最後まで残っておりました兵庫県内の区間も、平成9年12月に開通し、ここに岡山県と関西および九州を結ぶ交通の大動脈が完成いたしました。

この山陽自動車道を建設するにあたり、建設省および日本道路公団では、その予定路線内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて岡山県教育委員会と協議し、昭和52年から記録保存のための発掘調査を岡山県教育委員会に委託して実施してまいりました。その成果は、17冊の報告書として岡山県教育委員会によりまとめられています。

第18冊目にあたる本書には、昭和63年から平成元年にかけて実施した岡山市所在の高塚遺跡、および平成7年に実施した三手遺跡の2遺跡の発掘調査の成果が収載されています。これらの遺跡は、おもに弥生時代から近世にかけての集落跡で、本書に報告されているように多くの貴重な成果がありました。この本が埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、教育・学術のために広く活用されることを期待します。

最後に、発掘調査の実施や本書の編成にあたってご尽力いただいた岡山県教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深甚なる謝意を表すものであります。

平成12年3月

日本道路公団中国支社津山工事事務所

所長 藤間秀之

# 序

瀬戸内海沿岸部の諸都市を連結して東西に走る山陽自動車道は、平成9年12月に念願の全線、延長約502kmの開通が実現し、近畿圏と九州圏を結ぶ大動脈としての役割を果たしております。

岡山県教育委員会は岡山県内の山陽自動車道建設に先立ち、この地がかつて勢威を誇った吉備領域の中樞に当たるだけに、予定路線内に所在する埋蔵文化財の保護を図るため、関係当局と繰り返し協議・調整を行ってまいりました。その結果、現状での保存が困難な遺跡については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとし、昭和52年から建設省岡山国道工事事務所あるいは日本道路公団広島建設局の委託を受けて、発掘調査を実施してまいりました。その成果については、既に17冊の報告書として刊行いたしております。

第18冊にあたる本報告書には、岡山市高塚遺跡、同三手遺跡の発掘調査成果を収載しております。これらの遺跡は、おもに弥生時代から近世にかけての集落跡で、発掘調査例としては極めて希な弥生時代の流水文銅鐸の発見にはじまり、中国の「新」時代に鑄造された貨幣である貨泉の大量出土、古墳時代の韓式系土器の出土など、数多くの成果を上げることが出来ました。

この報告書が学術研究に寄与するだけでなく、埋蔵文化財の保護・保存のために活用され、また、地域の歴史研究のための資料として広く役立つならば幸甚に存じます。

最後に発掘調査の実施や報告書の作成にあたっては、山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員の先生方に有益なご助言とご指導を賜り、また、関係者各位から多大なご協力をいただきました。ここに深甚なる謝意を表するものであります。

平成12年3月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 葛原克人

## 例 言

- 1 本書は、岡山県教育委員会が高速自動車国道山陽自動車道の建設に伴い、日本道路公団と岡山県の委託契約に基づき実施した、岡山市高塚に所在する高塚遺跡および、岡山市三手に所在する三手遺跡の発掘調査報告書であり、本報告書は第18分冊目にあたる。なお、契約事項は文化課が行い、発掘調査および報告書作成は岡山県古代吉備文化財センターが担当した。
- 2 本書に収載した発掘調査は、昭和62年度から平成元年度および平成6年度に実施したもので、調査面積は高塚遺跡16,195㎡、三手遺跡1,730㎡である。
- 3 昭和52年以来実施してきた山陽自動車道建設に伴う発掘調査事業は本書をもって一応の終結を迎える。
- 4 発掘調査および報告書作成にあたっては「高速自動車国道山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会」を設け、次の方々を委員を委嘱した。対策委員各位からは有益なご指導とご助言をいただいた。記して深謝の意を表す次第である。

水内 昌康 (岡山県文化財保護審議会委員)	昭和61年4月～
鎌木 義昌 (岡山県文化財保護審議会委員)	昭和61年4月～平成5年3月
西岡憲一郎 (岡山県遺跡保護調査団)	昭和61年4月～平成3年5月
西川 宏 (岡山県遺跡保護調査団)	昭和61年4月～
間壁 葎子 (倉敷考古館)	昭和61年4月～平成9年3月
高見 周夫 (岡山県遺跡保護調査団)	昭和63年4月～
根木 修 (岡山市教育委員会)	昭和61年4月～
稲田 孝司 (岡山大学)	昭和61年4月～平成5年3月
新納 泉 (岡山大学)	昭和61年4月～平成3年5月 平成5年4月～
亀田 修一 (岡山理科大学)	平成5年4月～
土井 基司 (岡山大学)	平成3年5月～平成5年6月

- 5 銅鐸の発掘にあたっては現地において、現国立歴史民俗博物館の佐原真館長からご指導と助言を得た。また、銅鐸の保存処理にあたっては奈良国立文化財研究所にお世話になった。記して感謝の意を表す次第である。
- 6 本書の作成は、平成10年度に岡山県古代吉備文化財センターおよび津寺事務所において実施した。遺構・遺物の整理は、岡山県古代吉備文化財センター職員 江見正己・井上弘・二宮治夫・平井泰男・築地由行・弘田和司・柴田英樹・難波拓史・室山博文・田坂佳子・東恵子の11名が担当した。
- 7 本書の執筆は、発掘担当者および整理担当者があたり、文責はそれぞれ文末に記した。
- 8 遺跡の環境や遺物の材質などに関する鑑定・同定については次の方々および機関に依頼し、有益な教示を得、一部の成果については報告文を頂いた。記して深謝の意を表す次第である。なお、人骨鑑定については『岡山県発掘調査報告』90(1994)で既に報告済みであるが、当該部分のみ再録した。

鉛同位体比法による銅製品分析	馬淵 久夫 (くらしき作陽大学)
鉄滓分析	大澤 正己

銅鐸埋納壙内顔料物質の化学分析  
土器の胎土分析および土・朱  
・金属・ガラス玉の蛍光X線分析  
人骨鑑定  
歯による性別・年齢鑑定  
動物遺体鑑定  
石器・石製品の石材鑑定  
陶磁器鑑定  
  
烏帽子鑑定  
木器・木製品の樹種鑑定  
種子鑑定

安田 博幸（武庫川女子大学）  
  
白石 純（岡山理科大学自然科学研究所）  
池田 次郎（九州国際大学）  
小橋 進（岡山県歯科医師会法歯会）  
富岡 直人（岡山理科大学）  
妹尾 護（倉敷芸術科学大学）  
村上 伸之（有田町歴史民俗資料館）  
山本 信夫（太宰府市教育委員会）  
元興寺文化財研究所  
パリノ・サーヴェイ株式会社  
パリノ・サーヴェイ株式会社

9- 遺物写真については江尻泰幸氏の協力と援助を得た。

10 本書の編集・構成は高塚遺跡塚廻り調査区を弘田、フロヤ調査区を平井、角田調査区を江見・柴田・田坂、三手遺跡を江見、一覧表・観察表等を築地、写真図版を江見・井上が担当し、全体にわたって江見が中心になって行った。

11 本書に収載した遺物および記録の一切は、岡山市西花尻1325-3に所在する岡山県古代吉備文化財センターに保管している。

# 凡 例

- 1 本報告書に記載された高度は海拔高であり、方位は地形図および全体図などは国土座標系の座標北を示し、古代以降の遺構図については磁北と真北を並記し、そのほか特に示さない限り磁北であり、遺跡付近の磁北線偏差は西偏 $6^{\circ}30''$ を測る。
- 2 グリッドは国土地理院第5座標系により、100mごとに設定した。
- 3 挿図の縮尺については明記しているが、主なものについては一部例外はあるものの以下のように統一している。

## 遺構

竪穴住居・掘立柱建物 1/60 土墳墓・袋状土壇・方形土壇・土壇 1/30

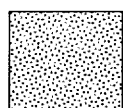
## 遺物

土器 1/4 土製品・金属器 1/3 石器・石製品 1/2、1/3 玉類 1/1

- 4 土層名称については、各発掘調査担当者によって表記方法が異なっており、統一できていない。
- 5 掲載した遺物の番号については、土器、土製品、金属器、石器・石製品、木器・木製品、ガラス製品にわけて通し番号を付け、土器以外については下記略号を番号の前に付している。

土製品 **C** 金属器 **M** 石器・石製品 **S** 木器・木製品 **W** ガラス製品 **G**

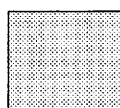
- 6 掲載した遺構上のスクリーントーンは以下の範囲を示すものである。



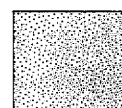
被熱範囲



焼土



炭



粘土

- 7 土器実測図で表現する中軸線左右の白抜きは、小破片のために口径復元に不確実性のあることを示す。
- 8 遺構名で用いる袋状土壇と方形土壇とは、平均的規模が長さ1m前後、深さ1m前後の弥生時代の土壇で、前者が平面円形を基本とし、検出面に比べ底部付近の壁が掘り込まれたもので、後者は平面方形（長方形）を基本とし、壁はほぼ垂直に掘り込まれているもので、これらを個別に抽出している。
- 9 本書で使用した時代区分は一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために文化史区分、世紀を併用した。また、原始・先史時代については考古学的時代区分を使用し、特に、弥生時代から古墳時代の時期区分については「津寺遺跡4」の第2章第5節に従っている。
- 10 本報告書で掲載した地形図のうち第2図は国土地理院発行の1/25,000の地形図、総社東部・倉敷を複製加筆したものである。

# 目 次

(第一分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	9
第1節 高塚遺跡	10
1 調査の経緯と第一次調査	10
2 調査の組織	16
3 調査の経過と日誌抄	17
第2節 三手遺跡	20
1 調査の経緯	20
2 調査の組織	20
3 調査の経過と日誌抄	21
第3節 報告書作成の経過	22
1 整理の経過	22
2 整理の組織と体制	22
3 時期区分について	24
第3章 高塚遺跡	29
第1節 塚廻り調査区	29
1 調査区の概要	29
2 弥生時代の遺構と遺物	31
(1) 概要	31
(2) 遺構に伴わない遺物	32
3 古墳時代の遺構と遺物	35
(1) 概要	35
(2) 竪穴住居	38
(3) 井戸	43
(4) 土壙	43
(5) 焼成土壙	45
(6) 溝	45

(7) 遺構に伴わない遺物	46
4 古代～中世の遺構と遺物	48
(1) 概要	48
(2) 掘立柱建物	51
(3) 土壙墓	56
(4) 井戸	57
(5) 土壙	60
(6) 焼成土壙	68
(7) 溝	69
(8) 窪地	79
(9) 河道	82
(10) 柱穴	82
(11) 遺構に伴わない遺物	85
5 近世の遺構と遺物	93
(1) 概要	93
(2) 溝	93
第2節 フロヤ調査区	96
1 調査区の概要	96
2 弥生時代の遺構と遺物	98
(1) 概要	98
(2) 竪穴住居	99
(3) 掘立柱建物	121
(4) 銅鐸埋納壙	123
(5) 袋状土壙	132
(6) 土壙	193
(7) 溝	253
(8) 柱穴	254
(9) 遺構に伴わない遺物	255
3 古墳時代の遺構と遺物	258
(1) 概要	258
(2) 竪穴住居	258
(3) 土壙	302
(4) 遺構に伴わない遺物	305
4 古代～中世の遺構と遺物	308
(1) 概要	308

(2) 掘立柱建物	308
(3) 柱穴列	341
(4) 土壙墓	342
(5) 井戸	345
(6) 土壙	347
(7) 焼成土壙	354
(8) 溝	354
(9) 河道	364
(10) 柱穴	365
(11) 遺構に伴わない遺物	366
5 近世の遺構と遺物	370
(1) 概要	370
(2) 素掘溝群	370

(第二分冊)

第3節 角田調査区	373
1 調査区の概要	373
2 弥生時代の遺構と遺物	374
(1) 概要	374
(2) 竪穴住居	385
(3) 柱穴列	498
(4) 袋状土壙	499
(5) 方形土壙	526
(6) 土壙	619
(7) 溝	728
(8) 土器溜り	733
(9) 河道	754
(10) 柱穴	756
(11) 遺構に伴わない遺物	762

(第三分冊)

3 古墳時代の遺構と遺物	773
(1) 概要	773
(2) 竪穴住居	779
(3) 掘立柱建物	893
(4) 土壙	894



(5) 溝	899
(6) 河道	900
(7) 柱穴	915
(8) 遺構に伴わない遺物	915
4 古代～中世の遺構と遺物	925
(1) 概要	925
(2) 掘立柱建物	929
(3) 柵列	945
(4) 土墳墓	946
(5) 火葬墓	953
(6) 井戸	953
(7) 土壙	955
(8) 鍛冶炉	965
(9) 溝	966
(10) 土器溜り	969
(11) 窪地	970
(12) 河道	971
(13) 柱穴	985
(14) 遺構に伴わない遺物	990
5 近世の遺構と遺物	997
(1) 概要	998
(2) 素掘溝群	998
第4節 まとめ	999
1 弥生時代の集落変遷	999
2 高塚遺跡フロヤ調査区検出の銅鐸埋納壙とその出土銅鐸について	1003
3 高塚遺跡出土の貨泉について	1017
4 古墳時代の集落について	1032
5 古墳時代中期の土器	1038
6 古代・中世における集落の変遷	1045
第4章 三手遺跡	1051
第1節 調査の概要	1051
1 向原ⅡA区の概要	1051
2 向原ⅡB区の概要	1053
3 向原Ⅲ区の概要	1055
(1) 下層の遺構と遺物	1055

(2) 上層の遺構と遺物 .....	1057
第2節 まとめ .....	1059
<b>付載 自然科学による鑑定・分析</b>	
1 高塚遺跡出土の銅鐸・貨泉・棒状銅製品の鉛同位体比 .....馬淵久夫 平尾良光 榎本淳子 早川泰弘 .....	1063
2 高塚銅鐸の埋納坑内土壌にかかわる顔料物質の微量化学分析 .....安田博幸 金杉直子 .....	1071
3 高塚遺跡出土の銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の分析 .....	白石 純 .....1075
4 高塚遺跡出土土器の胎土分析 .....	白石 純 .....1079
5 高塚遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査.....	大澤正己・鈴木瑞穂 .....1087
6 高塚遺跡出土の中世人骨について .....	池田次郎 .....1131
7 高塚遺跡出土の烏帽子（烏帽子様乾燥遺物）について ..(財)元興寺文化財研究所 .....	1137
8 高塚遺跡の自然科学分析 .....	パリオ・サーヴェイ株式会社.....1151

**(第四分冊)**

遺構一覧表

遺物観察表

遺構名称新旧対照表

写真

報告書抄録

山陽自動車道関連発掘調査一覧

# 巻頭図版目次

巻頭図版 1	1 遺跡遠景（開通前） 2 遺跡遠景（開通後）	巻頭図版 6	1 角田調査区竪穴住居132（南東から） 2 出土土器
巻頭図版 2	1 角田調査区近景（南から）と方形土塼156出土銅製品 2 フロヤ調査区銅鐸埋納墳（南から）と出土土器片	巻頭図版 7	古墳時代遺構出土土器群
巻頭図版 3	フロヤ調査区出土高塚銅鐸A面	巻頭図版 8	1 フロヤ調査区中世遺構面（西から） 2 角田調査区土塼墓21出土鏡
巻頭図版 4	フロヤ調査区出土高塚銅鐸B面		
巻頭図版 5	1 フロヤ調査区袋状土塼18（南および北から）		

# 図目次

第1図	収載遺跡位置図	1	第39図	掘立柱建物 1 (1/80)	51
第2図	周辺遺跡分布図 (1/50,000)	3	第40図	掘立柱建物 2 (1/80)	52
第3図	遺跡周辺地形図 (1/7,500)	9	第41図	掘立柱建物 3 (1/80)	52
第4図	第一次調査位置図 (1/4,000)	11	第42図	掘立柱建物 4 (1/80)	53
第5図	古地形概略断面図 (縦1/200、横1/4,000)	12	第43図	掘立柱建物 5 (1/80)	54
第6図	ボーリング断面図① (1/80)	13	第44図	掘立柱建物 6 (1/80)	54
第7図	ボーリング断面図② (1/80)	14	第45図	掘立柱建物 7 (1/80)	55
第8図	第一次調査出土遺物 (1/4,1/3)	15	第46図	掘立柱建物 8 (1/80)	55
第9図	塚廻り調査区遺構全体図 (1/500)	27~28	第47図	掘立柱建物 9 (1/80)	56
第10図	土層断面図① (1/80)	30	第48図	土塼墓 1 (1/20)	56
第11図	土層断面図② (1/80)	31	第49図	井戸 2 (1/40)・出土遺物① (1/3)	57
第12図	塚廻り調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750)	32	第50図	井戸 2 出土遺物② (1/4,1/3)	58
第13図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ① (1/4)	33	第51図	井戸 3 (1/40)・出土遺物 (1/4,1/3)	59
第14図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ② (1/4,1/2)	34	第52図	土塼 6 (1/30)	60
第15図	塚廻り調査区古墳時代主要遺構全体図 (1/750)	35	第53図	土塼 7 (1/30)	60
第16図	塚廻り調査区古墳時代主要遺構部分図① (1/300)	36	第54図	土塼 8 (1/30)	60
第17図	塚廻り調査区古墳時代主要遺構部分図② (1/300)	37	第55図	土塼 9 (1/30)	60
第18図	竪穴住居 1 (1/60)	38	第56図	土塼10 (1/30)・出土遺物 (1/4)	61
第19図	竪穴住居 1 出土遺物 (1/4,1/3)	39	第57図	土塼11 (1/30)・出土遺物 (1/4)	61
第20図	竪穴住居 2 (1/60)・出土遺物 (1/4)	40	第58図	土塼12 (1/30)・出土遺物 (1/4)	62
第21図	竪穴住居 3 (1/60)	41	第59図	土塼13 (1/30)	62
第22図	竪穴住居 4 (1/60)・出土遺物 (1/4)	41	第60図	土塼14 (1/30)・出土遺物 (1/4)	62
第23図	竪穴住居 5 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)	42	第61図	土塼15 (1/30)・出土遺物 (1/4)	63
第24図	井戸 1 (1/30)・出土遺物 (1/4)	43	第62図	土塼16 (1/30)	63
第25図	土塼 1 (1/30)	43	第63図	土塼17 (1/30)	63
第26図	土塼 2 (1/30)・出土遺物 (1/4)	44	第64図	土塼18 (1/30)・出土遺物 (1/4)	64
第27図	土塼 3 (1/30)	44	第65図	土塼19・20 (1/60)・出土遺物 (1/4)	64
第28図	土塼 4 (1/30)・出土遺物 (1/4)	44	第66図	土塼21 (1/60)・出土遺物 (1/4)	65
第29図	土塼 5 (1/30)・出土遺物 (1/4)	44	第67図	土塼22 (1/30)・出土遺物 (1/4)	65
第30図	焼成土塼 1 (1/30)	45	第68図	土塼23 (1/30)・出土遺物 (1/4)	66
第31図	焼成土塼 2 (1/30)	45	第69図	土塼24 (1/30)・出土遺物 (1/4)	66
第32図	焼成土塼 3 (1/30)	45	第70図	土塼25 (1/40)・出土遺物 (1/4)	66
第33図	焼成土塼 4 (1/30)	45	第71図	土塼26 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)	67
第34図	溝 1 (1/30)・出土遺物 (1/4)	45	第72図	焼成土塼 5 (1/30)	68
第35図	遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ① (1/4)	46	第73図	焼成土塼 6 (1/30)	68
第36図	遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ② (1/3,1/2,1/1)	47	第74図	焼成土塼 7 (1/30)	68
第37図	塚廻り調査区中世主要遺構全体図① (1/750)	48	第75図	溝 2 (1/30)・出土遺物 (1/4)	69
第38図	塚廻り調査区中世主要遺構全体図② (1/300)	49~50	第76図	溝 3 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3,1/2)	70

第77図	溝4 (1/30)・出土遺物① (1/4) .....	71
第78図	溝4 出土遺物② (1/4) .....	72
第79図	溝4 出土遺物③ (1/4,1/3) .....	73
第80図	溝5 (1/30) .....	74
第81図	溝6 (1/30) .....	74
第82図	溝7 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4) .....	74
第83図	溝8① (1/30) .....	74
第84図	溝8② (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3) .....	75
第85図	溝9 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	76
第86図	溝10 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	77
第87図	溝11 (1/30)・出土遺物① (1/3) .....	77
第88図	溝11出土遺物② (1/4) .....	78
第89図	窪地1 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	79
第90図	窪地2 出土遺物 (1/4) .....	79
第91図	窪地3 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	80
第92図	窪地4 出土遺物 (1/4) .....	80
第93図	河道1・2 出土遺物 (1/4) .....	81
第94図	柱穴1～7 出土遺物 (1/4,1/3,1/2) .....	82
第95図	その他の柱穴出土遺物① (1/4) .....	83
第96図	その他の柱穴出土遺物② (1/4,1/3,1/2) .....	84
第97図	遺構に伴わない遺物 (中世) ① (1/4) .....	85
第98図	遺構に伴わない遺物 (中世) ② (1/4) .....	86
第99図	遺構に伴わない遺物 (中世) ③ (1/4) .....	87
第100図	遺構に伴わない遺物 (中世) ④ (1/4) .....	88
第101図	遺構に伴わない遺物 (中世) ⑤ (1/4) .....	89
第102図	遺構に伴わない遺物 (中世) ⑥ (1/4) .....	90
第103図	遺構に伴わない遺物 (中世) ⑦ (1/3) .....	91
第104図	遺構に伴わない遺物 (中世) ⑧ (1/3,1/2) .....	92
第105図	塚廻り調査区近世主要遺構全体図 (1/750) .....	93
第106図	塚廻り調査区近世主要遺構部分全体図 (1/500) .....	94
第107図	溝12 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	94
第108図	溝13 (1/30) .....	95
第109図	溝14 (1/30)・出土遺物 (1/3) .....	95
第110図	溝15 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	95
第111図	フロヤ調査区遺構全体図 (1/500) .....	97
第112図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750) .....	98
第113図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図①(1/300) .....	99
第114図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図②(1/300) .....	100
第115図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図③(1/300) .....	101
第116図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図④(1/300) .....	102
第117図	フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図⑤(1/300) .....	103
第118図	竪穴住居6 (1/60) .....	104
第119図	竪穴住居6 出土遺物① (1/4,1/1) .....	105
第120図	竪穴住居6 出土遺物② (1/3,1/2) .....	106
第121図	竪穴住居7 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	107
第122図	竪穴住居8 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3) .....	108
第123図	竪穴住居9 (1/60) .....	109
第124図	竪穴住居9 出土遺物 (1/4,1/3) .....	110
第125図	竪穴住居10 (1/60) .....	110
第126図	竪穴住居10出土遺物① (1/4) .....	111

第127図	竪穴住居10出土遺物② (1/3) .....	111
第128図	竪穴住居11 (1/60) .....	111
第129図	竪穴住居12 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	112
第130図	竪穴住居13 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/1) .....	113
第131図	竪穴住居14 (1/60)・出土遺物① (1/3) .....	114
第132図	竪穴住居14出土遺物② (1/4) .....	115
第133図	竪穴住居15 (1/60)・出土遺物① (1/1) .....	116
第134図	竪穴住居15出土遺物② (1/4) .....	117
第135図	竪穴住居16 (1/60) .....	118
第136図	竪穴住居16出土遺物 (1/4,1/3) .....	119
第137図	竪穴住居17 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2) .....	119
第138図	竪穴住居18 (1/60) .....	120
第139図	竪穴住居19 (1/60) .....	120
第140図	竪穴住居20 (1/60) .....	120
第141図	掘立柱建物10 (1/60) .....	121
第142図	掘立柱建物11 (1/60) .....	122
第143図	掘立柱建物12 (1/60) .....	122
第144図	掘立柱建物13 (1/60) .....	123
第145図	掘立柱建物14 (1/60) .....	123
第146図	銅鐸埋納墳 (1/10)・出土遺物 (1/4) .....	124
第147図	高塚銅鐸A面および側面(D) (1/3) .....	125~126
第148図	高塚銅鐸B面および側面(C)・断面(1/3) .....	127~128
第149図	高塚銅鐸俯瞰および仰視(1/3) .....	129
第150図	高塚銅鐸A面拓本(1/3) .....	130
第151図	高塚銅鐸B面拓本(1/3) .....	131
第152図	袋状土壙1 (1/30) .....	132
第153図	袋状土壙2 (1/30) .....	132
第154図	袋状土壙3 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	133
第155図	袋状土壙4 (1/30) .....	133
第156図	袋状土壙5 (1/30) .....	133
第157図	袋状土壙6 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	134
第158図	袋状土壙7 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	135
第159図	袋状土壙8 (1/30) .....	136
第160図	袋状土壙9 (1/30) .....	136
第161図	袋状土壙10 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	137
第162図	袋状土壙11 (1/30)・出土遺物①(1/3) .....	137
第163図	袋状土壙11出土遺物②(1/4) .....	138
第164図	袋状土壙12 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	139
第165図	袋状土壙13 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	140
第166図	袋状土壙14 (1/30) .....	141
第167図	袋状土壙15 (1/30) .....	141
第168図	袋状土壙16 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	142
第169図	袋状土壙17 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	142
第170図	袋状土壙18 (1/30)・出土遺物①(1/4) .....	143
第171図	袋状土壙18出土遺物②(1/4) .....	144
第172図	袋状土壙18貨泉出土状況(略図)(1/5) .....	145
第173図	袋状土壙18出土貨泉①(1/1) .....	145
第174図	袋状土壙18出土貨泉②(1/1) .....	146
第175図	袋状土壙18出土貨泉③(1/1) .....	147
第176図	袋状土壙19 (1/30)・出土遺物(1/4) .....	148

第177图	袋状土坑20 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	149	第227图	袋状土坑68 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	178
第178图	袋状土坑21 (1/30) ······	149	第228图	袋状土坑69 (1/30) ······	178
第179图	袋状土坑22 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	150	第229图	袋状土坑70 (1/30) ······	178
第180图	袋状土坑23 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	150	第230图	袋状土坑71 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	179
第181图	袋状土坑24 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	151	第231图	袋状土坑72 (1/30) ······	180
第182图	袋状土坑25 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	151	第232图	袋状土坑73 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	180
第183图	袋状土坑26 (1/30) ······	152	第233图	袋状土坑74 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	180
第184图	袋状土坑27 (1/30) ······	152	第234图	袋状土坑75 (1/30) ······	181
第185图	袋状土坑27出土遺物 (1/4) ······	152	第235图	袋状土坑76 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	182
第186图	袋状土坑28 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	153	第236图	袋状土坑77 (1/30) ······	182
第187图	袋状土坑29 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	153	第237图	袋状土坑77出土遺物 (1/4) ······	183
第188图	袋状土坑30 (1/30) ······	154	第238图	袋状土坑78 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	183
第189图	袋状土坑31 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	155	第239图	袋状土坑79 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	184
第190图	袋状土坑32 · 33 · (1/30) ······	155	第240图	袋状土坑80 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	185
第191图	袋状土坑34 · 35 (1/30) · 出土遺物① (1/4,1/2) ····	156	第241图	袋状土坑81 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	186
第192图	袋状土坑35出土遺物② (1/4) ······	157	第242图	袋状土坑82 (1/30) ······	186
第193图	袋状土坑36 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	157	第243图	袋状土坑83 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	187
第194图	袋状土坑37 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	158	第244图	袋状土坑84 (1/30) ······	187
第195图	袋状土坑38 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	160	第245图	袋状土坑84出土遺物 (1/4) ······	188
第196图	袋状土坑39 (1/30) ······	160	第246图	袋状土坑85 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/2) ······	189
第197图	袋状土坑40 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	160	第247图	袋状土坑86 (1/30) · 出土遺物① (1/2) ······	190
第198图	袋状土坑41 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	160	第248图	袋状土坑86出土遺物② (1/4) ······	191
第199图	袋状土坑42 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	161	第249图	袋状土坑86出土遺物③ (1/4) ······	192
第200图	袋状土坑43 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	161	第250图	土坑27 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	194
第201图	袋状土坑44 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	162	第251图	土坑28 (1/30) ······	195
第202图	袋状土坑45 (1/30) ······	162	第252图	土坑29 (1/30) ······	195
第203图	袋状土坑46 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	163	第253图	土坑30 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	195
第204图	袋状土坑47 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	163	第254图	土坑31 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	196
第205图	袋状土坑48 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	164	第255图	土坑32 (1/30) ······	196
第206图	袋状土坑49 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	164	第256图	土坑33 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	197
第207图	袋状土坑50 · 51 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	165	第257图	土坑34 (1/30) ······	197
第208图	袋状土坑52 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	166	第258图	土坑35 (1/30) ······	197
第209图	袋状土坑53 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	166	第259图	土坑36 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	197
第210图	袋状土坑54 (1/30) · 出土遺物① (1/4) ······	167	第260图	土坑37 (1/30) ······	198
第211图	袋状土坑54出土遺物② (1/4) ······	168	第261图	土坑38 (1/30) ······	198
第212图	袋状土坑55 (1/30) ······	168	第262图	土坑39 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	198
第213图	袋状土坑56 (1/30) ······	168	第263图	土坑40 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	198
第214图	袋状土坑56出土遺物 (1/4) ······	169	第264图	土坑41 (1/30) ······	198
第215图	袋状土坑57 · 58 (1/30) ······	169	第265图	土坑42 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	199
第216图	袋状土坑57 · 58出土遺物 (1/4) ······	170	第266图	土坑43 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	200
第217图	袋状土坑59 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	171	第267图	土坑44 (1/30) ······	200
第218图	袋状土坑60 (1/30) ······	172	第268图	土坑45 (1/30) ······	200
第219图	袋状土坑61 (1/30) ······	172	第269图	土坑46 (1/30) ······	201
第220图	袋状土坑62 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	173	第270图	土坑47 (1/30) ······	201
第221图	袋状土坑63 (1/30) ······	174	第271图	土坑48 (1/30) ······	201
第222图	袋状土坑64 (1/30) ······	174	第272图	土坑49 (1/30) ······	201
第223图	袋状土坑64出土遺物 (1/4) ······	175	第273图	土坑50 (1/30) ······	202
第224图	袋状土坑65 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	176	第274图	土坑51 (1/30) ······	202
第225图	袋状土坑66 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	176	第275图	土坑52 · 53 (1/30) ······	203
第226图	袋状土坑67 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	177	第276图	土坑54 (1/30) ······	203

第277図	土壙55 (1/30) .....	203
第278図	土壙56 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	204
第279図	土壙57 (1/30) .....	204
第280図	土壙58 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	205
第281図	土壙59 (1/30) · 出土遺物① (1/4) .....	206
第282図	土壙59出土遺物② (1/4) .....	207
第283図	土壙60 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	208
第284図	土壙61 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	209
第285図	土壙62 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	210
第286図	土壙63 (1/30) .....	210
第287図	土壙64 (1/30) .....	210
第288図	土壙65~67 (1/30) .....	211
第289図	土壙68 (1/30) .....	212
第290図	土壙69 (1/30) .....	212
第291図	土壙70 (1/30) .....	213
第292図	土壙71 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	213
第293図	土壙72 (1/30) .....	214
第294図	土壙73 (1/30) .....	214
第295図	土壙74 (1/30) .....	214
第296図	土壙75 (1/30) .....	214
第297図	土壙76 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	215
第298図	土壙77 (1/30) .....	215
第299図	土壙78 (1/30) .....	215
第300図	土壙79 (1/30) .....	215
第301図	土壙80 (1/30) .....	216
第302図	土壙81 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	216
第303図	土壙82 (1/30) .....	216
第304図	土壙83 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	217
第305図	土壙84 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	218
第306図	土壙85 · 86 (1/30) .....	218
第307図	土壙87 (1/30) .....	218
第308図	土壙88 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/3) .....	218
第309図	土壙89 (1/30) .....	219
第310図	土壙90 (1/30) .....	219
第311図	土壙91 (1/60) · 出土遺物 (1/4) .....	220
第312図	土壙92 (1/60) · 出土遺物 (1/4) .....	221
第313図	土壙93 (1/60) · 出土遺物 (1/4) .....	222
第314図	土壙94 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	222
第315図	土壙95 (1/30) .....	223
第316図	土壙96 (1/20) .....	223
第317図	土壙97 (1/20) .....	223
第318図	土壙98 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	223
第319図	土壙99 (1/20) .....	224
第320図	土壙100 (1/20) .....	224
第321図	土壙101 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	225
第322図	土壙102 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	225
第323図	土壙103 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	226
第324図	土壙104 (1/30) .....	226
第325図	土壙105 (1/20) .....	226
第326図	土壙106 (1/20) .....	226

第327図	土壙107 (1/20) · 出土遺物 (1/4) .....	227
第328図	土壙108 (1/30) .....	227
第329図	土壙109 (1/20) .....	228
第330図	土壙110 (1/30) .....	228
第331図	土壙111 · 112 (1/30) .....	229
第332図	土壙113 (1/30) .....	230
第333図	土壙114 (1/30) .....	230
第334図	土壙115 (1/30) .....	230
第335図	土壙116 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	230
第336図	土壙117 · 118 (1/30) .....	231
第337図	土壙119 (1/30) .....	232
第338図	土壙120 (1/30) .....	232
第339図	土壙121 (1/30) .....	232
第340図	土壙122 (1/20) .....	232
第341図	土壙123 (1/30) .....	233
第342図	土壙124 (1/30) .....	233
第343図	土壙125 (1/30) .....	233
第344図	土壙126 (1/30) .....	233
第345図	土壙127 (1/30) .....	234
第346図	土壙128 (1/30) .....	234
第347図	土壙129 (1/20) .....	235
第348図	土壙130 (1/30) .....	235
第349図	土壙131 (1/30) .....	235
第350図	土壙132 (1/30) .....	235
第351図	土壙133 (1/30) .....	236
第352図	土壙134 (1/20) .....	236
第353図	土壙135 (1/30) · 出土遺物 (1/3) .....	236
第354図	土壙136 (1/20) .....	236
第355図	土壙137 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	237
第356図	土壙138 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	237
第357図	土壙139 (1/30) .....	238
第358図	土壙140 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	238
第359図	土壙141 (1/30) · 出土遺物 (1/4) .....	239
第360図	土壙142 (1/20) .....	240
第361図	土壙143 (1/20) · 出土遺物 (1/4) .....	240
第362図	土壙144 (1/30) · 出土遺物 (1/3,1/4) .....	241
第363図	土壙145 (1/20) .....	242
第364図	土壙146 (1/30) .....	242
第365図	土壙147 (1/30) .....	242
第366図	土壙148 (1/30) .....	242
第367図	土壙149 (1/30) .....	242
第368図	土壙150 (1/30) .....	243
第369図	土壙151 (1/60) .....	243
第370図	土壙151出土遺物① (1/4) .....	243
第371図	土壙151出土遺物② (1/4) .....	244
第372図	土壙152 (1/30) .....	245
第373図	土壙153 (1/30) .....	245
第374図	土壙154 (1/30) · 出土遺物① (1/3) .....	246
第375図	土壙154出土遺物② (1/4) .....	247
第376図	土壙154出土遺物③ (1/4) .....	248

第377図	土壙155 (1/30) ……………	249	第425図	竪穴住居38 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	283
第378図	土壙156 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	249	第426図	竪穴住居39 (1/60)・出土遺物① (1/1) ……………	284
第379図	土壙157 (1/30) ……………	249	第427図	竪穴住居39出土遺物② (1/4) ……………	285
第380図	土壙158 (1/30) ……………	249	第428図	竪穴住居40 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4) ……………	286
第381図	土壙159 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	250	第429図	竪穴住居41 (1/60,1/30) ……………	287
第382図	土壙160 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	251	第430図	竪穴住居42 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	288
第383図	土壙161・162 (1/30) ……………	251	第431図	竪穴住居43 (1/60)・出土遺物① (1/4) ……………	289
第384図	土壙163 (1/30) ……………	252	第432図	竪穴住居43出土遺物② (1/3) ……………	290
第385図	土壙164 (1/20) ……………	252	第433図	竪穴住居44 (1/60) ……………	290
第386図	土壙165 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	252	第434図	竪穴住居44出土遺物① (1/4) ……………	291
第387図	土壙166 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	252	第435図	竪穴住居44出土遺物② (1/4) ……………	292
第388図	土壙167 (1/30) ……………	253	第436図	竪穴住居45 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	293
第389図	土壙168 (1/20) ……………	253	第437図	竪穴住居46 (1/60)・出土遺物① (1/3) ……………	294
第390図	溝16 (1/30) ……………	253	第438図	竪穴住居46出土遺物② (1/4) ……………	295
第391図	溝17～19 (1/30) ……………	254	第439図	竪穴住居46出土遺物③ (1/4) ……………	296
第392図	柱穴 8・9 出土遺物 (1/3,1/4) ……………	254	第440図	竪穴住居46出土遺物④ (1/4) ……………	297
第393図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ① (1/2,1/3) ……	255	第441図	竪穴住居46出土遺物⑤ (1/4) ……………	298
第394図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ② (1/4) ……………	256	第442図	竪穴住居47 (1/60)・出土遺物① (1/1,1/3) ……………	299
第395図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ③ (1/4) ……………	257	第443図	竪穴住居47出土遺物② (1/4) ……………	300
第396図	フロヤ調査区古墳時代主要遺構全体図 (1/750)・ 主要遺構部分図①(1/300) ……………	259	第444図	竪穴住居48 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	301
第397図	フロヤ調査区古墳時代主要遺構部分図②(1/300) ……	260	第445図	竪穴住居49 (1/60)・出土遺物 (1/3) ……………	301
第398図	フロヤ調査区古墳時代主要遺構部分図③(1/300) ……	261	第446図	土壙169 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	302
第399図	竪穴住居21 (1/60)・出土遺物 (1/6) ……………	262	第447図	土壙170 (1/30)・出土遺物 (1/1,1/4) ……………	303
第400図	竪穴住居22 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	263	第448図	土壙171 (1/30) ……………	303
第401図	竪穴住居23 (1/60)・出土遺物① (1/1,1/3) ……………	264	第449図	土壙172 (1/20) ……………	303
第402図	竪穴住居23出土遺物② (1/4) ……………	265	第450図	土壙173 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	304
第403図	竪穴住居24 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	266	第451図	土壙174 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	304
第404図	竪穴住居25 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	267	第452図	遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ① (1/3,1/1) ……	305
第405図	竪穴住居26 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	268	第453図	遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ② (1/4) ……………	306
第406図	竪穴住居27・28 (1/60) ……………	269	第454図	遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ③ (1/4) ……………	307
第407図	竪穴住居28出土遺物① (1/4) ……………	270	第455図	フロヤ調査区古代～中世遺構全体図 (1/500) ……	309
第408図	竪穴住居28出土遺物② (1/1) ……………	270	第456図	フロヤ調査区古代～中世主要遺構全体図 (1/750) ・主要遺構部分図① (1/300) ……………	310
第409図	竪穴住居29・30 (1/60)・竪穴住居30出土遺物① (1/3,1/4) ……………	271	第457図	フロヤ調査区古代～中世主要遺構部分図② (1/300) ……………	311
第410図	竪穴住居30出土遺物② (1/1) ……………	272	第458図	フロヤ調査区古代～中世主要遺構部分図③ (1/300) ……………	312
第411図	竪穴住居30出土遺物③ (1/3) ……………	272	第459図	掘立柱建物15 (1/60) ……………	313
第412図	竪穴住居31 (1/60) ……………	272	第460図	掘立柱建物16 (1/60) ……………	314
第413図	竪穴住居32 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	273	第461図	掘立柱建物17 (1/60) ……………	315
第414図	竪穴住居33 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……………	274	第462図	掘立柱建物18 (1/60) ……………	315
第415図	竪穴住居34 (1/60) ……………	274	第463図	掘立柱建物19 (1/60) ……………	316
第416図	竪穴住居35 (1/60)・出土遺物① (1/3) ……………	275	第464図	掘立柱建物20 (1/60)・出土遺物 (1/3) ……………	317
第417図	竪穴住居35出土遺物② (1/4) ……………	276	第465図	掘立柱建物21 (1/60) ……………	318
第418図	竪穴住居35出土遺物③ (1/1) ……………	276	第466図	掘立柱建物22 (1/60) ……………	318
第419図	竪穴住居36 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	277	第467図	掘立柱建物23 (1/60) ……………	319
第420図	竪穴住居37 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/1) ……………	278	第468図	掘立柱建物24 (1/60) ……………	319
第421図	竪穴住居37出土遺物② (1/4) ……………	279	第469図	掘立柱建物25 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……	320
第422図	竪穴住居37出土遺物③ (1/4) ……………	280	第470図	掘立柱建物26 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……	321
第423図	竪穴住居37出土遺物④ (1/4) ……………	281	第471図	掘立柱建物27 (1/60) ……………	322
第424図	竪穴住居37出土遺物⑤ (1/4) ……………	282			

第472図	掘立柱建物28 (1/60) .....	323	第509図	土壙176 (1/60) .....	348
第473図	掘立柱建物29 (1/60) .....	324	第510図	土壙177 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	348
第474図	掘立柱建物30 (1/60) .....	325	第511図	土壙178 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	348
第475図	掘立柱建物31 (1/80)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	326	第512図	土壙179 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	349
第476図	掘立柱建物32 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2) .....	327	第513図	土壙180 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4) .....	350
第477図	掘立柱建物33 (1/60) .....	327	第514図	土壙181 (1/30) .....	350
第478図	掘立柱建物34 (1/60)・出土遺物 (1/2) .....	328	第515図	土壙182 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	351
第479図	掘立柱建物35 (1/60)・出土遺物 (1/2) .....	328	第516図	土壙183 (1/30) .....	351
第480図	掘立柱建物36 (1/60) .....	329	第517図	土壙184 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4) .....	352
第481図	掘立柱建物37 (1/60) .....	329	第518図	土壙185 (1/30) .....	353
第482図	掘立柱建物38 (1/60) .....	329	第519図	土壙186 (1/40) .....	353
第483図	掘立柱建物39 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	330	第520図	土壙187 (1/30) .....	353
第484図	掘立柱建物40 (1/60) .....	331	第521図	焼成土壙8 (1/20) .....	354
第485図	掘立柱建物40出土遺物 (1/4) .....	332	第522図	溝20 (1/40)・出土遺物 (1/3,1/4) .....	354
第486図	掘立柱建物41 (1/60) .....	332	第523図	溝21 (1/30,1/60)・出土遺物 (1/3) .....	355
第487図	掘立柱建物42 (1/60) .....	333	第524図	溝22~29 (1/30) .....	356
第488図	掘立柱建物43 (1/60) .....	333	第525図	溝26出土遺物 (1/3) .....	357
第489図	掘立柱建物44 (1/80) .....	334	第526図	溝29出土遺物 (1/4) .....	357
第490図	掘立柱建物45 (1/60) .....	335	第527図	溝30・31 (1/30) .....	358
第491図	掘立柱建物46 (1/60) .....	336	第528図	溝31出土遺物① (1/3) .....	358
第492図	掘立柱建物47 (1/60) .....	336	第529図	溝30・31出土遺物② (1/4) .....	359
第493図	掘立柱建物48 (1/60) .....	337	第530図	溝32 (1/30) .....	360
第494図	掘立柱建物49 (1/60) .....	338	第531図	溝32出土遺物① (1/4,1/2,1/3) .....	360
第495図	掘立柱建物50 (1/60) .....	339	第532図	溝32出土遺物② (1/3) .....	361
第496図	掘立柱建物51 (1/60) .....	340	第533図	溝32水溜 (1/60) .....	361
第497図	掘立柱建物52 (1/60) .....	340	第534図	溝32出土遺物③ (1/3) .....	362
第498図	掘立柱建物53 (1/60) .....	341	第535図	溝33~37 (1/60,1/30) .....	363
第499図	柱穴列 1 (1/60) .....	341	第536図	河道 3 (1/60) .....	364
第500図	土壙墓 2 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	342	第537図	柱穴16~31出土遺物 (1/4) .....	365
第501図	土壙墓 3・4 (1/30)・土壙墓 3 出土遺物 (1/3) .....	343	第538図	柱穴10~32出土遺物 (1/3,1/2) .....	366
第502図	土壙墓 5 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	343	第539図	遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ① (1/4) .....	367
第503図	土壙墓 6 (1/30)・出土遺物 (1/2) .....	344	第540図	遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ② (1/2,1/3) .....	368
第504図	土壙墓 7 (1/30) .....	344	第541図	遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ③ (1/3) .....	369
第505図	井戸 4 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	345	第542図	素掘溝群 1 (1/400) .....	370
第506図	井戸 5 (1/30)・出土遺物① (1/3,1/4) .....	346	第543図	素掘溝群 1 断面① (1/60) .....	371
第507図	井戸 5 出土遺物② (1/3) .....	347	第544図	素掘溝群 1 断面② (1/30,1/60) .....	372
第508図	土壙175 (1/60) .....	347	第545図	素掘溝群 1 出土遺物 (1/4,1/3) .....	372

## 表目次

表 1	高塚遺跡調査一覧表 .....	18	表 3	整理一覧表 .....	23
表 2	三手遺跡調査一覧表 .....	21	表 4	経年対比表 .....	26

## 写真目次

写真 1	新聞報道 .....	17	写真 4	遺物実測 .....	23
写真 2	三手遺跡作業風景 .....	21	写真 5	塚廻り調査区作業風景 .....	29
写真 3	復元作業 .....	23	写真 6	フロヤ調査区作業風景 .....	96



# 第1章 地理的・歴史的環境

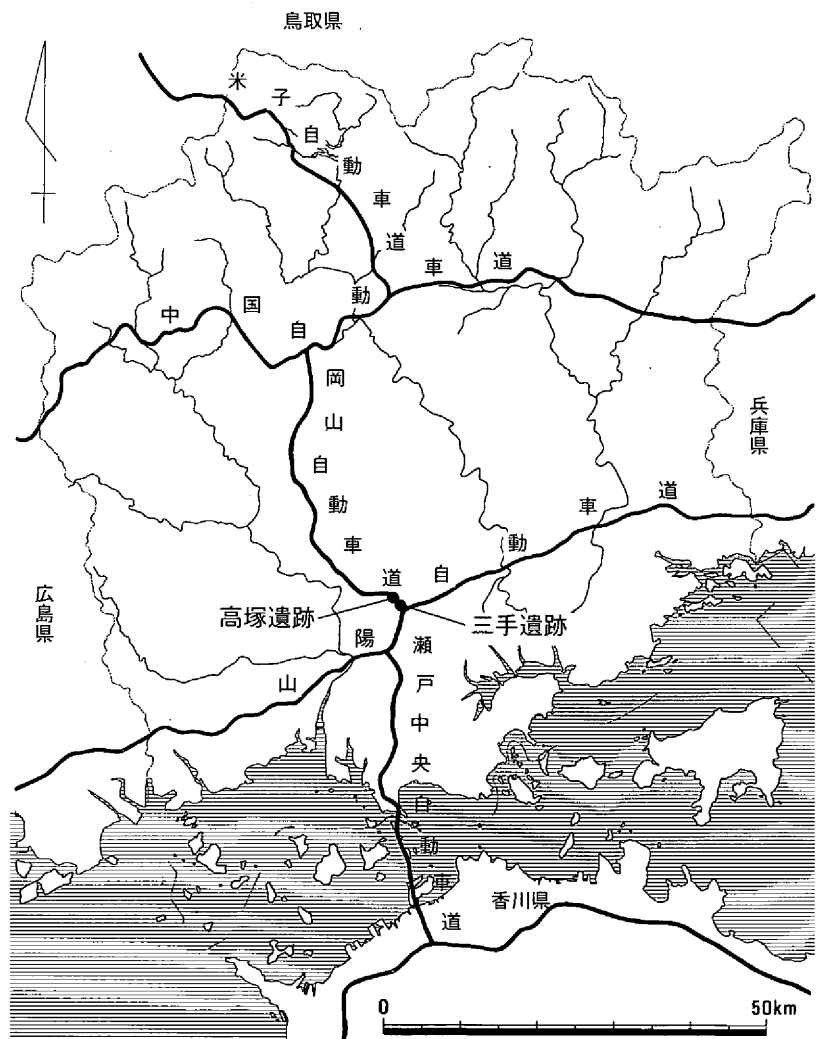
## 第1節 遺跡の立地と地理的環境

本書で報告されている高塚遺跡と三手遺跡は、現在の行政区分では岡山県岡山市高塚および三手に所在する。ここは岡山市の西部にあたり、総社市との境に近接した平野部である。古代においても微妙な位置であったと思われ、備中国賀夜郡生石郷に属した可能性が高いが、都宇郡や窪屋郡との境に非常に近く、各遺跡（特に調査対象の微高地）がどの郡に属するかは明言できない。現状では水田地帯であり、標高は高塚遺跡でおよそ6.5m、三手遺跡で6mを測る。

当遺跡を取り巻く丘陵としては、ごく近くに標高60～70mの三須丘陵が位置し、北には標高400～500mの吉備高原がひかえている。さらに離れて南西には標高302mの福山と223mの仕手倉山を中心とする山塊が横たわっている。

東は吉備高原の南端がのび、標高162mの独立丘陵である吉備中山との間はやや狭い平地となっており、ここに旧山陽道が設定されている。これらの丘陵からは標高40～50m程度のなだらかな低丘陵がのび、さまざまな時期において集落や墳墓、城などに利用されている。こうした周辺の丘陵は、主に中生代の深成岩である花崗岩などで形成されているが、吉備中山はホルンフェルス化した古生代の砂岩・泥岩から成る。

両遺跡の立地は、現在足守川と砂川の合流地点となっており、高塚遺跡の方はそれらに挟まれており、庚申山の北に位置する。一方の三手遺跡は、その対岸である足守川左岸に拡がっている。ここからは、周囲に肥沃な平野の拡が



第1図 収載遺跡位置図

りが見え、遠く南方には児島を望むことができる。さらに高塚遺跡の西方には、長良山と上林の丘陵との間に総社市街地さえも視野に収めることができる。かつては海岸線が南方数kmまで迫っていた時期もあったことが推測され、陸路の要である古代から近世の山陽道も2.5km南を東西に走るなど、交通をはじめとしてさまざまな観点において重要な地域であったことは想像に難くない。

次に遺跡が展開している平野の形成であるが、一般的に岡山県南部の沖積平野は、中国山地に源を發して瀬戸内海へ注ぐ吉井川・旭川・高梁川を中心として、この他に吉備高原から流れ出る多くの中小河川からの砂泥堆積により形成されたものである。その一部である高梁川以東の総社平野では、かつては高梁川の分流が東へ向かっており、東西方向に長い微高地がいくつも存在していたようである。この分流は、やがて足守川や砂川・血吸川などの前身たる河川と合流して、さらに南流していたと思われる。

この合流地点は、龍王山から南にのびる丘陵と半独立状の三須丘陵によって狭くなっていることに加え、非常に多くの河川が東や西、さらに北から集まっている。また、高梁川の分流が一転して南に屈曲する地点でもある。このため、合流点およびそれに近い下流域、特に高塚遺跡や三手遺跡、津寺遺跡などが所在する現在の足守川流域は、流路が実に複雑に絡み合い、沖積作用と侵食作用を絶えず繰り返していたと考えられる。このことは、この地域において、微高地が各所で形成される可能性を意味する。しかしその一方で多くの微高地は、上東遺跡などの位置する下流域に比べると、河川や低位部により比較的小規模に分断されたものにならざるをえない状況下にあったと思われる。結果、小山から高松原古才にかけては、高梁川分流による比較的大きな自然堤防が連なって形成されるが、それより西側ではいくつかの微高地が点在するものと考えられる。

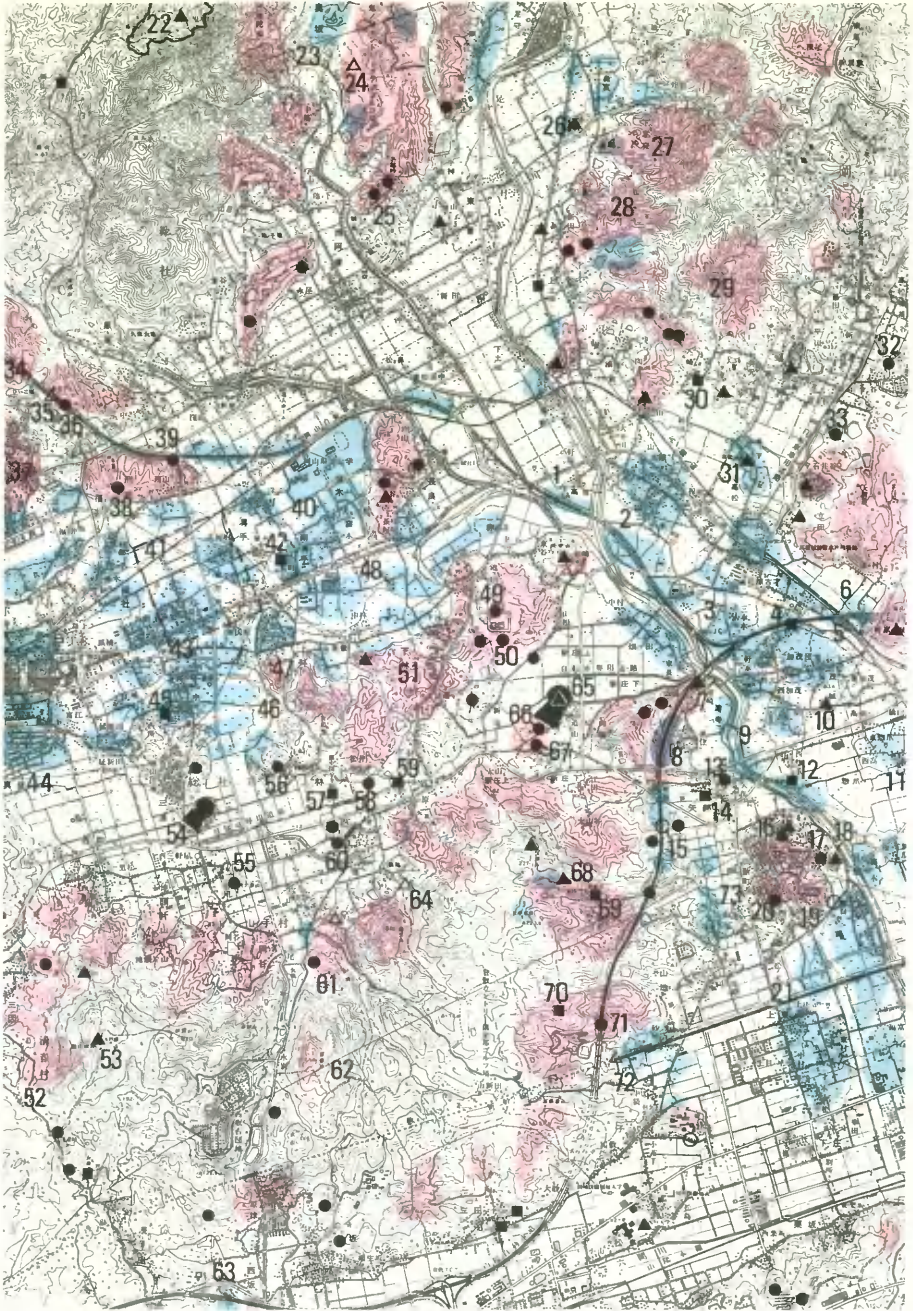
このように想定される平野形成は、生活環境として、直接この地域の人々の歴史に影響を及ぼすことも多かったに違いない。

## 第2節 歴史的環境

この地域に残された最も古い遺物として、現在確認されているのは旧石器時代のナイフ形石器である。窪木葉師遺跡、甫崎天神山遺跡、菅生小学校裏山遺跡などでわずかに出土している程度であり、現在の瀬戸内海および沿岸部を中心に展開したと想像される拠点集落とは全く異なり、一時的な狩猟や移動などによりもたらされたものと思われるが、平野部の状況など詳細は不明である。

後氷期海進が最大になり、やがて沖積化が進む縄文時代になると、現在の丘陵斜面や平野部でも、生活の痕跡として遺構も確認されるようになる。早期についてはまだ遺物のみであるが、真壁遺跡や長良山遺跡・矢部貝塚・若宮神社東遺跡などで、押型紋土器片や石器などが出土している。丘陵や高梁川からの多量の堆積物によって早くから形成された微高地などに、小規模な生活が営まれるようになったと考えられる。これに続く前期～中期前半の遺跡については、海進の影響であるのか現在のところほとんど不明であるが、中期後半頃から後期にかけては、遺跡数も増え、遺構も確認される。

標高15mの舌状台地に形成された中期後半～後期前半を中心とする矢部貝塚は、ヤマトシジミを主体としており、当地域がほぼ汽水域であったことを示している。この自然環境は、この後も比較的長く続くようである。さらに沖積化がいつそう進むことにより、標高760cmの南溝手遺跡でも後期中葉から遺構が確認され、後期後葉には既にイネの栽培を行っていた可能性を示す籾圧痕の付いた土器片



第2圖 周边遺跡分布圖 (1/50,000)

- 1 高塚遺跡 2 三手遺跡 3 津寺遺跡 4 加茂政所遺跡 5 高松原古才遺跡 6 立田遺跡  
 7 甫崎天神山遺跡 8 前池内遺跡・雲山遺跡ほか 9 足守川矢部南向遺跡・加茂A・B遺跡  
 10 加茂城跡 11 高田遺跡 12 惣爪廃寺 13 鯉喰神社弥生墳丘墓 14 矢部廃寺  
 15 矢部貝塚 16 楯築弥生墳丘墓 17 日畑廃寺 18 日畑城跡 19 王墓山古墳群  
 20 女男岩弥生墳丘墓・辻山田遺跡 21 上東遺跡 22 鬼城山山城  
 23 千引かなくろ谷遺跡・千引遺跡 24 くもんめふ窯跡 25 随庵古墳 26 冠山城跡  
 27 南坂遺跡・南坂古墳群 28 上土田古墳群 29 大崎古墳群 30 大崎廃寺  
 31 備中高松城跡 32 小盛山古墳 33 佐古田堂山古墳 34 金黒池東遺跡ほか  
 35 奥ヶ谷窯跡 36 中山遺跡・中山古墳群 37 小寺古墳群ほか 38 西山遺跡・西山古墳群  
 39 西山26号墳 40 南溝手遺跡・窪木遺跡 41 備中国府推定地 42 栢寺廃寺  
 43 金井戸・見延遺跡ほか 44 真壁遺跡 45 三須廃寺 46 三須河原遺跡ほか  
 47 緑山古墳群 48 窪木薬師遺跡 49 折敷山古墳 50 小造山古墳 51 法蓮古墳群  
 52 峠古墳群 53 福山城跡 54 作山古墳 55 角力取山古墳 56 江崎古墳 57 備中国分寺  
 58 こうもり塚古墳 59 備中国分尼寺 60 宿寺山古墳 61 前山遺跡 62 狸岩山古墳群  
 63 菅生小学校裏山遺跡 64 末ノ奥窯跡群 65 造山古墳 66 櫛山古墳 67 千足古墳  
 68 日差山城跡 69 日差廃寺 70 二子御堂廃寺 71 二子14号墳 72 二子御堂奥窯跡群  
 73 若宮神社東遺跡ほか

が出土している。晩期では、南溝手遺跡以外にも、標高240cmの吉野口遺跡あるいは、標高1m以下の菅生小学校裏山遺跡でも遺構が確認されるようになる。このように、平野の形成は中・後期から晩期までにかなり進行し、それとともに人々はそこへ進出し、まもなく稲作を開始していった様子がうかがえる。

これら縄文時代晩期の集落の多くは、弥生時代前期あるいは中期になっても引き続いて集落として存在する。なかでも真壁遺跡や南溝手遺跡は代表的な拠点集落であったと思われる。特に後者では、多くの遺物や朝鮮との関係を推測させる「松菊里型」の竪穴住居が検出され、その内の1軒では管玉製作が行われたことが明らかになっている。この他にも、沖積地では岩倉遺跡など、丘陵では山津田遺跡などがある。

中期から後期にかけては、それまでのさまざまな蓄積が一気に溢れだすかのように、遺跡数が飛躍的に増加する。集落は、それまでの時期のものに加えて、ほかにも沖積地や丘陵を問わず広く分布しているが、大規模かつ後の時代に継続するものは沖積地に認められる。当地域では、中期前半の高田遺跡をはじめ、上東遺跡、足守川矢部南向遺跡、津寺遺跡、加茂政所遺跡、そして高塚遺跡などがあり、集落縁辺に水田が確認されるものも多い。これらからは、銅鐸や貨泉、舶載鏡、銅釧などの青銅製品の出土をみている。さらに近年、上東遺跡では、「敷葉工法」を駆使した盛土と杭列による「波止場状遺構」とされる突堤が検出されるなど、この地域で海を越えた多様な交流があり、「吉備」のなかでも特に重要な位置を占める地域であったことを示唆している。これに対して丘陵では、中期後半頃に限って小規模な集落が出現する。前池内遺跡や矢部掘越遺跡、西山遺跡などがそれに該当する。これは、複雑な事情・経緯を経て膨張し、拡散した集団間の緊張を物語っている可能性も考えられる。

また後期には、平地の集落から離れて、丘陵上に墳墓が位置する。甫崎天神山遺跡や前山遺跡などは集団墓としての性格が強いが、後期後半以降では、当代最大規模の楯築弥生墳丘墓を筆頭として、足守川流域を中心に墳丘墓が築造される。浦尾弥生墳丘墓や鯉喰神社弥生墳丘墓などがそうであり、

特殊器台や特殊壺を使用する独特の祭祀形態を共有している。以上のような点は、当地域が「吉備」という地域の中核であったことや、来る古墳時代への移行に果たした役割がいかにか大きかったかを物語るものであろう。

古墳時代前期の集落は、弥生時代後期から引き続いてさらに発展するものと、あまり発展せず場合によっては縮小あるいは廃絶するものが目立つ。津寺遺跡や足守川加茂A・B遺跡、上東遺跡などが前葉に最盛期を迎える一方で、真壁遺跡や南溝手遺跡などでは縮小方向に向かっている可能性がある。総社平野では、中林遺跡や金井戸新田遺跡などの集落が確認されており、今後大規模な集落が明らかになる可能性は残されるが、津寺遺跡などを中心とした古足守川下流域が優位であることは確実ではないだろうか。ここでは、搬入や模倣による非在地系土器が多数確認されており、他の瀬戸内沿岸地域や近畿・山陰をはじめ東海・北陸地域などとの交流の拠点になっていたことをうかがわせる。また、鉄器が比較的豊富であることも、それらに関連して特徴的である。しかし、このような大規模集落も、前期後葉までにいったん急激に衰退するようである。水田を覆う洪水砂などから、自然災害がその直接的な要因のひとつとも考えられている。

以上のような集落の状況は、前方後円墳をはじめとする古墳の分布とも関連を持っている。当地域最古の前方後円墳は、吉備中山山頂付近に位置する墳長120mの中山茶白山古墳と足守川西岸の墳長47mの矢部大塚古墳である。いずれも古足守川下流域に存在しており、前者の系譜は尾上車山古墳へと続くが、以後どちらも途絶えることとなる。これらは、大きく見れば臨海性の立地であり、当時海浜地域が特に重要視されていたが、ある時期に衰退したことを暗示している。これに対し同じ頃、郷境墳墓群のように古墳としての要素をあまり持たない小墳墓や矢部古墳群などの墳墓群が築造され続けていることは、古墳時代初期の様子を示すものとして興味深い。一方、内陸にあたる足守の東丘陵上には、上土田4号墳や大崎西2号墳などのように墳長30m程度の前方後方墳などを盟主とした、小規模な方墳や円墳で構成される古墳群が多数存在している。さらに続いて墳長110mの造出し付き円墳である小盛山古墳、墳長150mの佐古田堂山古墳が築造されていることは、前期における当地域の政治動向や集落動向を探る上で重要である。

古墳時代中期になると、再び沖積地に集落が確認されるようになる。生活様式も大きな変化が生じ、竪穴住居にはカマドが作り付けられ、従来の土師器に加えて須恵器、場合によっては陶質土器や軟質土器も使用される。前半期の調査例では、窪木薬師遺跡や津寺遺跡、菅生小学校裏山遺跡が代表的である。なかでも菅生小学校裏山遺跡は、立地などから「泊」の一部とも推測される。そこから北上して「水別」の峠を抜けると、容易に作山古墳の所在する総社平野南部に辿り着くことができることを考えれば、古足守川以外の吉備中核部への新しい玄関口としての機能を有していたとも言えよう。中葉以降は本格的に集落が展開し、高塚遺跡でも多くの住居が検出されている。こうした遺跡を特徴付ける遺物としては、陶質土器や軟質土器、そして初期の在地産須恵器があげられる。これらは伽耶地域の影響が強く認められ、須恵器を焼成していた窯のひとつとして総社平野北部の奥ヶ谷窯跡が調査されている。このように朝鮮との関係を示すものは、古墳の主体部構造や副葬品でも見られ、造山古墳の陪塚とされる榊山古墳の銅製馬形帯鉤は著名である。また、窪木薬師遺跡は、後期にいたるまで鉄器生産を行っていた集落であることが判明しており、燃料調達の容易な総社平野縁辺を中心に渡来系工人がもたらした新しい技術による各種生産が展開を始めたようである。それを示す一例としては、随庵古墳があげられるであろう。この状況は以後、吉備において当地域が果たす役割に大きな影響を



残すことになる。

この時期を代表する大規模な前方後円墳は、墳長360mの造山古墳、286mの作山古墳、118mの宿寺山古墳である。全国第4位の規模を誇る造山古墳は、津寺周辺の平野部などから見て非常に目立つ存在である。その被葬者の影響力は、おそらくこの地域にとどまらず、少なくとも吉備全体に及んでいたと思われる。しかし、この足守川流域の首長墳の系列は次の小造山古墳を最後に姿を消し、以後吉備地域を代表するような首長墳系列は、総社平野南部に移ることになる。そして、この時期あたりから、中小規模の古墳が総社平野を望む丘陵上に多く群を成すようになる。西山古墳群や中山古墳群、法蓮古墳群などが確認され、形象埴輪や在地産の須恵器を伴っている。これらは、吉備中枢の政権をさまざまな形で支えた集団に関わる墓であろう。埋葬施設では、千足古墳のように横穴式石室を採用するものが出現し、後葉以降の中小古墳でも縦穴系横口式石室などが主体部になるなど、新しい墓制と埋葬思想が導入されていることが注目される。

古墳時代後期は、平地を中心として集落がいつそうの広がりを見せる。特に6世紀後半から7世紀前半にかけては著しく、津寺遺跡や加茂政所遺跡などでは頻繁に鍛冶を行っていた集落も確認されている。一方、北部の丘陵では、千引かなくろ谷遺跡・千引き遺跡などで製鉄炉や炭窯が確認され、本格的に鉄生産が行われた様子が看取される。この他、7世紀以降では新たに仏教が広まり、窪屋郡内には三須廃寺、都宇郡内には惣爪廃寺・日畑廃寺、賀夜郡内には栢寺廃寺・大崎廃寺などが氏寺として建立される。これに伴い、都宇郡に属する南部の丘陵では瓦や須恵器を焼成した窯も操業されており、二子御堂奥窯跡群では4基の窯が調査され、瓦の一部は日畑廃寺と同範であることが判明している。また遺構は不明であるが、窪屋郡の末ノ奥窯跡群では、津寺遺跡や加茂政所遺跡で出土している素弁八弁蓮華紋軒丸瓦と同紋の軒丸瓦も近年出土しており興味深い。さらに特徴的な出来事としては、多大な労力の結集を必要とする前方後円墳の築造が終焉を迎えた後、小さな地域枠を越えた大規模な土木工事の実施がある。津寺遺跡の護岸施設は、この地域にとってさまざまな意味において重要であった古足守川の改修工事という位置付けが可能であり、また2.8kmに及ぶ堅牢な外郭線を石塁と土塁で築き、城門や水門、角楼が確認されている鬼城山山城はその最たる遺構である。

当地において、7世紀初頭頃まで政治的頂点にあったのは、墳長100mのこうもり塚古墳と45mの江崎古墳の被葬者であったことは明らかであろう。これらは、後に建立される備中国分寺などにほど近い位置にある。その一方で、丘陵には前池内古墳群、峠古墳群などのような群集墳が、大小さまざまではあるが、いたるところで形成されている。これらの多くは、有力家父長層の台頭を象徴するものと評価されるが、規模の大きい横穴式石室を継続的に有する緑山古墳群や、貝殻石灰岩製の家形石棺を採用する王墓山古墳を中心とした群などはそれらとは異なり、政権内部で中心的な役割を果たした人物や集団の墓と思われる。やがて古墳の築造は衰えるが、稀に二子14号墳のような外護列石を伴う二段築成の方墳が認められ、前池内5号墳では、追葬過程において「官」の逆字押印のある須恵器が持ち込まれるなど、在地有力者層の中には後に官人化していくものもあったことがうかがえる。

律令体制が確立する古代の備中国では、国府推定地として現在の総社市金井戸付近があげられているが、確認調査等ではそれを裏付ける確証は得られていない。一方でその南に隣接する三須河原遺跡などでは、「郡殿」と書かれた墨書土器や整然と配置された掘立柱建物群が調査され、窪屋郡衙の所在と構造の一部が明らかになりつつある。都宇郡では幸利神社周辺を郡衙に比定する考えもあるが、現在のところ明らかではない。ただし、8世紀中頃を前後する時期の津寺遺跡では、公的施設と考え

られる南北123.8m・東西94mに及ぶ溝による長方形区画とそれに関係する掘立柱建物群が検出されている。これらの近くには、寺院が存在あるいはその可能性が高いことで注目される。古代山陽道は、以上のような施設のすぐ南を東西方向に走っていたと推定される。これに沿って位置する矢部廃寺は、「津峴駅家」に比定されており、出土している平城宮式垂式の瓦は備中の「国府系瓦」とされ、これらは備中国分寺や備中国分尼寺でも用いられている。対してこの時期の一般的な集落の様子については不明な点が多いが、真壁遺跡では竪穴住居が検出されている。また公的施設に隣接する三須畠田遺跡や津寺遺跡では、その近くに掘立柱建物や土壙、畑などが検出されている。この頃、前池内古墳群など一部の群集墳では石室内に火葬骨を埋葬したり、墓域内に蔵骨器を埋納するなど、在地有力者層が官人化するとともに新しい慣習を取り入れていたことがわかる。津寺遺跡の胞衣壺などもそれを示すものであろう。

律令体制が実質崩壊する過程で、当地域でも荘園経営が行われている。賀陽氏によって荘園化が進められ、後に山城神護寺領となる足守庄は特に有名で、「備中国足守庄絵図」（神護寺所蔵）が今に伝えられている。この域内では、これまでに延寿寺跡などの発掘調査も行われ、荘園の成立・運営時期について重要な資料が得られている。この南に隣接する生石庄も9世紀頃から賀陽氏によって開発されたと考えられ、1176年（安元2年）の「八条院領目録」（山科家古文書）によると官省符庄であったことがわかる。高塚村はこの生石庄の一部であった可能性が高いが、調査対象となった三手遺跡はそれとは条里の方向が異なっており注意される。一方、備中国内にはこのような荘園以外に国衙領も点在し、1426年（応永33年）の「惣社宮造営帳写」（池上文書）では、当地域に刑部郷や服部郷、山手保などがみられる。生石庄の南に位置する河面郷がどちらの性格を帯びているかは不明であるが、加茂政所遺跡では在庁官人あるいは開発領主の屋敷などに関わると推測される小規模寺院の所在が確認され、梵鐘鑄造遺構や平安宮内裏出土瓦と同範の軒瓦が検出されている。この周辺では岡山市上沼遺跡や津寺遺跡のように集落も確認されている。さらに同じく津寺遺跡の野上田調査区では、河道から浄瓶や「倉」・「上厨」と書かれた墨書土器などが出土しており、現在の足守川左岸にも荘家ないしは公的施設が所在する可能性が高い。

このような状況下、それまで氏寺として建立された平地伽藍の寺院は衰退し、丘陵上に山上寺院がみられるようになる。なかでも備前南西部と備中南東部には多くの寺院が分布している。その一つである日差廃寺は報恩開基伝承を持つ寺院であり、これに対し、新山廃寺や浅原寺などの有力寺院も中世にかけて隆盛をきわめる。備中国の一宮である吉備津神社が文献に登場するのもこの頃である。このような社寺が宗教界だけでなく、当地域の政治や経済に大きな影響力を保持したことは明らかであろう。

平安時代末期から鎌倉時代を経て南北朝の頃までに、この地域の人々もいくつかの戦乱に巻き込まれている。特に1336年（建武3年）の福山城合戦は有名で、在地武士の活躍が認められる。高塚遺跡や津寺遺跡土筆山調査区、近年では総社市の諸上遺跡などで調査されているような、溝で区画された屋敷地と建物群は、鎌倉時代から南北朝を中心としているとみられ、かれらのような人物と関係した集落の一端を示している。これら屋敷地内の土壙墓の副葬品には、輸入陶磁器や和鏡を伴うものもあり、興味深い。この他、三手向原（処分場）遺跡では土師器を焼成したと考えられる窯状遺構が、津寺遺跡丸田調査区の土壙墓からは鍛冶道具の副葬がみられ、当時の各種生産を知る資料として注目される。

室町時代の集落としては矢部南向遺跡などがあり、高塚遺跡をはじめそれ以外の遺跡でも、継続して集落が営まれたものもあると思われるが、詳細については不明な点が多い。一方、丘陵などでは、それまでに築成されたものを含めて多くの城がみられ、地域の緊張状態がうかがえる。特に、この時代末期には、織田勢と毛利勢による備前・備中の国境での攻防が繰り返されており、1582年（天正10年）の羽柴秀吉による備中高松城水攻めはあまりに有名である。この戦略で重要な役割を果たした堤については、近年、調査によって基底部の構造が明らかにされ、甫崎天神山城やすくも山城などの毛利方の陣城も発掘調査が行われるなど史実との対照が可能になってきている。備中高松城の開城後の中国国分では、備中国に関して言うと、都宇郡・窪屋郡・賀陽郡の一部が宇喜多秀家に、残り8郡は羽柴秀吉と毛利輝元によって分割して領有されることとなった。これ以後、この地域は水田開発が進められ、現在の景観に近づいていくようである。また、築造年代は不明であるが、妹尾兼康伝承をもつ高梁川に設置された総社市井尻野の湛井堰を取水口とする十二ヶ郷用水は、現在でも流域の水田を潤している。

1600年（慶長5年）の関ヶ原の戦い以降、備中国は複雑な様相を呈しつつも、やがて幕府領・大名領・旗本領に整理された。当地域では、足守藩・庭瀬藩・備前岡山藩、蒔田氏・花房氏・榊原氏・戸川氏などの名がみられる。なかでも花房氏は原古才村に、木下氏は上足守村に陣屋を置き、以後その地は陣屋町として栄えた。なお、三手村と高塚村は木下家定に与えられ、幕末まで足守藩領となっており、山陽道から分岐して原古才村を抜けた松山往来は、両村を通過している。

近代になり、1875年（明治8年）には、高塚村と三手村は、小山・福崎・田中・長田・松ヶ鼻・門前・下土田村と合併し生石村となるが、1881年（明治14年）に再び分村している。

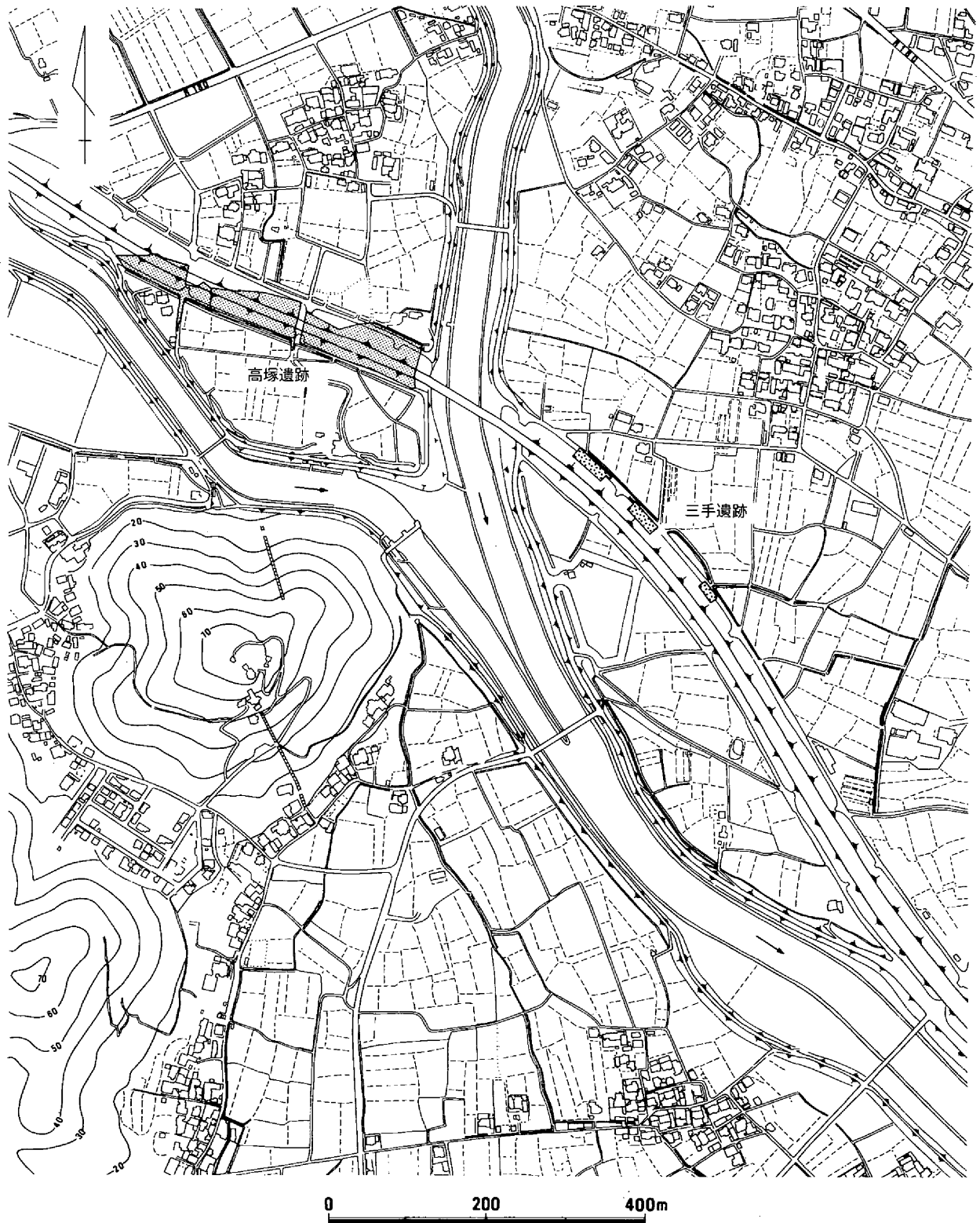
以上、当地域がたどった歴史のごく一部を概観した。そこには、この地が吉備地域の中核として繁栄するのに十分恵まれた地理的条件を背景にしていたことがうかがえる。古墳時代のある時期以降、やがては中央政権に組み込まれ、その時々諸制度によってさまざまな形で再編が繰り返されるが、長期間にわたり特に重要な地域であり続けたことは疑いないところである。（柴田）

#### 主要参考文献

- 『岡山県の地名』日本歴史地名大系第34巻 株式会社平凡社 1988
- 『岡山県史』第1巻自然風土 1983、第2巻原始・古代Ⅰ 1991、第3巻古代Ⅱ 1989  
第4巻中世Ⅰ 1990、第5巻中世Ⅱ 1991、第18巻考古資料 1986
- 『新修倉敷市史』第1巻考古 1996
- 『総社市史』通史編 1998、考古資料編 1987
- 高崎 東「窪木薬師遺跡 第1章 地理的・歴史的環境」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』86  
岡山県教育委員会 1993
- 亀山行雄「津寺遺跡4 第1章 遺跡をとりまく環境」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』116  
岡山県教育委員会 1997
- 久保恵里子「窪木遺跡2 第2章 遺跡の位置と環境」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』124  
岡山県教育委員会 1998



## 第2章 調査の経緯と経過



第3図 遺跡周辺地形図 (1/7,500)

## 第1節 高塚遺跡

### 1 調査の経緯と第一次調査

#### (1) 調査の経緯

高塚遺跡は、岡山県および岡山市の遺跡地図にも記載されていなかった遺跡であった。しかし、昭和62年8月、日本道路公団と文化課の協議がなされ、高塚という地名、土器小片の散布が見られることなどにより、岡山県教育委員会としては当該地を調査対象地域に含めたい旨を、さらには調査範囲確定のため、早急に第一次調査実施の要望を申し入れた。それに対し公団は、昭和63年度において遅れていた国道180号線から足守川右岸までの用地買収のため地元協議に入っていた時であり、用地買収前の調査は困難であることなどの理由で、また三手・津寺遺跡の50,000㎡以上の発掘調査をかかえており、難色を示した。しかしながら、文化課としてはもし遺跡として確認された場合、用地買収後の調査では足守川右岸橋脚の工事行程との絡みから、期間内での発掘調査が不可能になる恐れのあることを強調した。

この結果、12月6日岡山市高松支所において一次調査を前提とした6者（公団岡山工事事務所・地権者代表・岡山地方振興局・岡山市高松支所・文化財センター・文化課）による協議がなされ、調査を行うことの了解を求めた。この時点では、ほぼ地元協議が整い幅杭を打設直後であった。また、調査予定地は未買収地であり、年内に各地権者の了解を取る必要があった。翌昭和63年1月において調査予定地46か所の内31か所の承諾が得られ、取り合えず了解を得られた箇所には1月11日より調査にはいることになった。調査は1月27日に終了し、2月2日まで埋め戻しを行った。結果については後述するが、弥生時代から古墳時代・中世にかけての包含層・遺構面が約16,000㎡程拡がることが判明し、昭和63年度から全面調査にはいることになった。（浅倉・伊藤）

#### (2) 第一次調査の概要

当該用地内を対象に足守川右岸の東部から順次西方向に一辺2mのボーリング位置を31か所設置し、主に土層観察を中心とした調査を開始した。以下、各ボーリング（B）の状況を略述する。

B1は第2層～第4層が人工的埋土と判断され、第5層の暗灰色粘土から中世土器が出土しており、中世には河道と考えられる。

B2は第4層の暗茶褐色微砂および第6層の黒青色細砂から弥生後期土器が出土するとともに、弥生後期の微高地が確認された。なお、第4層は何らかの遺構埋土の可能性が高い。

B3は第4層の淡褐色細砂から中世土器が、第5層の暗茶褐色微砂から弥生後期土器が出土している。第6・7層は弥生後期微高地の基盤層と考えられる。なお、第5層は竪穴住居埋土の可能性あり。

B4は第4層の黒褐色微砂が竪穴住居と判断されるもので、これより弥生後期末の土器が出土している。また、第3層下からは径約30cm、深さ約50cmを測る中世柱穴2個が検出されている。柱穴からは拳大の角礫に混じって早島式土器碗が出土している。

B5は第6層の灰色粘土が中世水田と思われ、第7層の青灰色粘土も時期不明ながら水田の可能性

がある。第8層は微高地基盤層と思われる。

B6は第5層の淡褐色微砂から中世後半、第6層の淡茶褐色微砂から中世前半、第7・8層から弥生後期、第10層の淡茶色微砂から弥生中期初頭の土器が出土している。

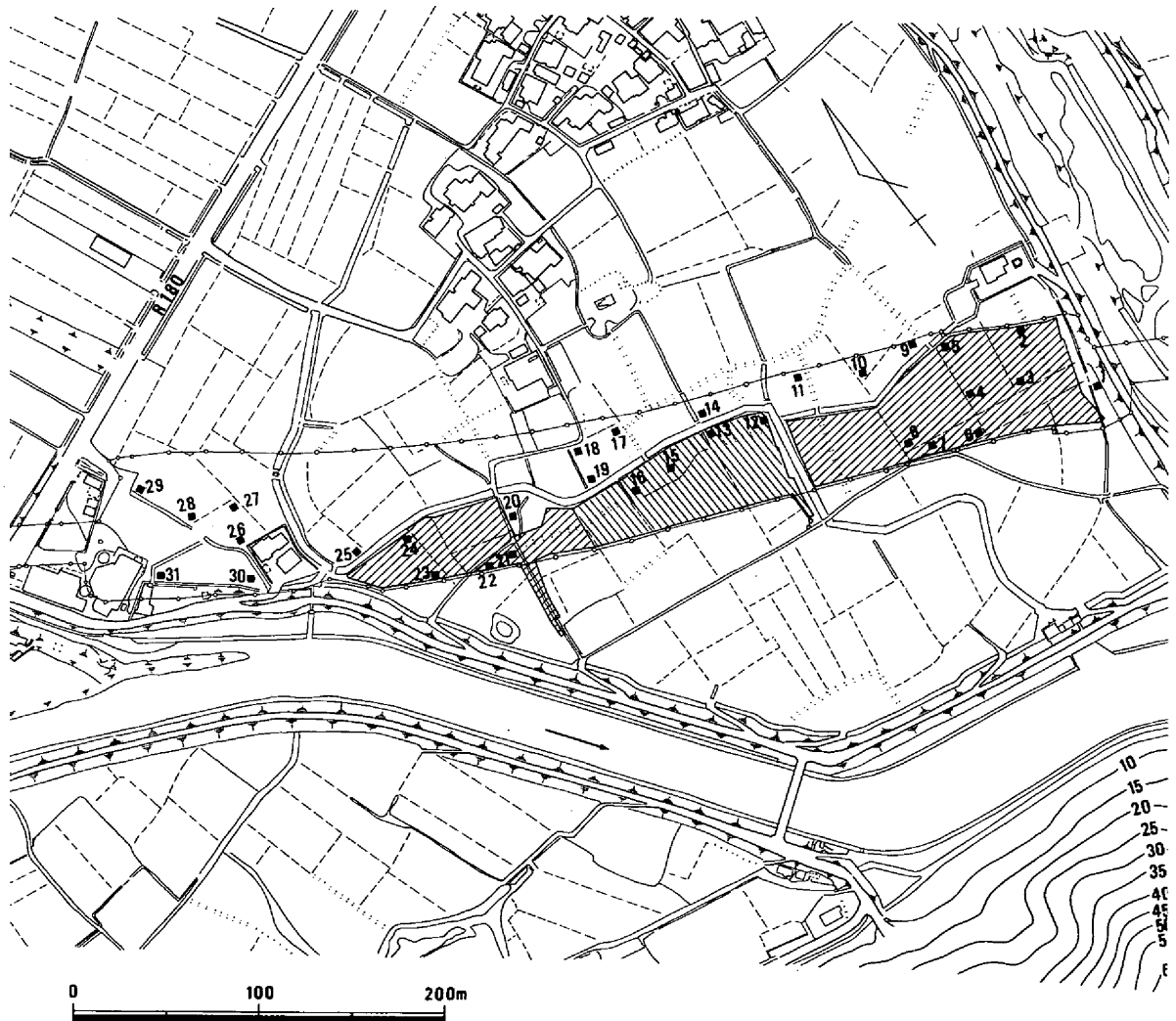
B7は第4層の淡灰茶褐色微砂から中世、第5層の暗茶褐色微砂から古代?の土器が出土しており、第6層以下は竪穴住居の埋土と判断される。2軒の住居が重複した状況で検出された。住居壁が一部確認された東側の住居床面は貼床がなされ、埋土から弥生後期土器が出土している。

B8は第4・5層が中世溝の堆積土と思われるもので、第6層の暗茶褐色微砂層からは炭化材・焼土に混じって甗片および鉄器片が出土しており、土器の特徴から古墳時代中頃の火災を受けた竪穴住居跡と判断される。

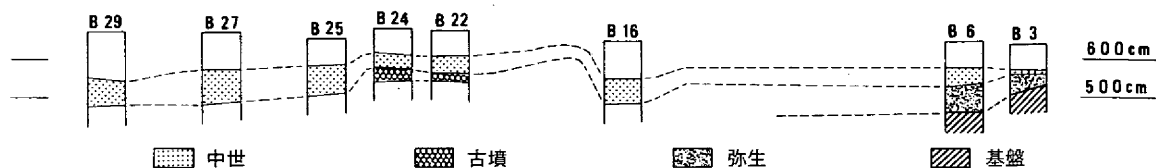
B9は第5～7層に中世遺物や馬の歯などが出土しており、第8層の炭・木片混じりの状況から溝あるいは河道部分と推定される。

B10は第3～5層が砂層で以下は粘土層と変化しており、B9と同様河道の様相を呈していた。

B11は第6層の暗青灰色粘土から備前焼が出土しているが、第6層下部には炭化物の薄層があり、第7層は褐色細砂で中世河道の可能性はある。



第4図 第一次調査位置図 (1/4,000)



第5図 古地形概略断面図（縦1/200、横1/4,000）

B 12は第4層の青灰色粘土から備前焼片が出土している。

B 13は第7層の淡青灰色粘土に中世遺物が認められ、下層の淡茶灰褐色細砂からの遺物は皆無であったがこの層が微高地基盤層になる可能性が高い。

B 14は第6・7層から中世遺物が出土しているが、下層の堆積状況から河道部分と考えられる。

B 15は第6層の黒灰色粘土から獣骨および早島式土器碗が出土している。

B 16は第5層の灰黒色微砂から炭・種子・木片などに混じって漆器碗が出土している。また、第6層の黒色粘土からは備前焼片・古銭なども出土しているが、下層の暗灰色粗砂から河道にあるものと判断される。

B 17は掘り下げ途中で湧水したため中止し、埋め戻した。

B 18は河道の堆積状況と判断されたが、遺物は皆無であった。

B 19はB 17と同様中止した。

B 20は全体に堆積する粘土層の状況から中近世の沼地と思われる。

B 21は第6層の灰色粘土が中世水田の可能性があり、第7層の茶褐色微砂は古墳時代あるいは中世の溝と考えられる層で、第9層の黒色粘土は前述の沼地と思われるものである。

B 22は第7層の茶褐色微砂に中世遺物と鉄滓が出土しており、第8層の黒色粘土からは古墳時代初頭の土器が確認された。

B 23は第6～10層に中世遺物の重複した状況が確認された。第6・7層は溝状の遺構で、第8層は土壌、第9層は柱穴である。また、第10層からは白磁片も出土している。

B 24は近世用水と思われる第6～11層の下部は、第13層の暗褐色微砂から中世遺物が、第16層の黒色粘土から土師器が出土している。

B 25は第7層の黒色粘土から備前焼片が出土している。

B 26は第4層の灰色粘土から備前焼が、第5層の灰黒色粘土から中世遺物が出土している。

B 27は第5・7層から中世遺物が、第8層の茶褐色微砂からは古代の土師器片が出土している。

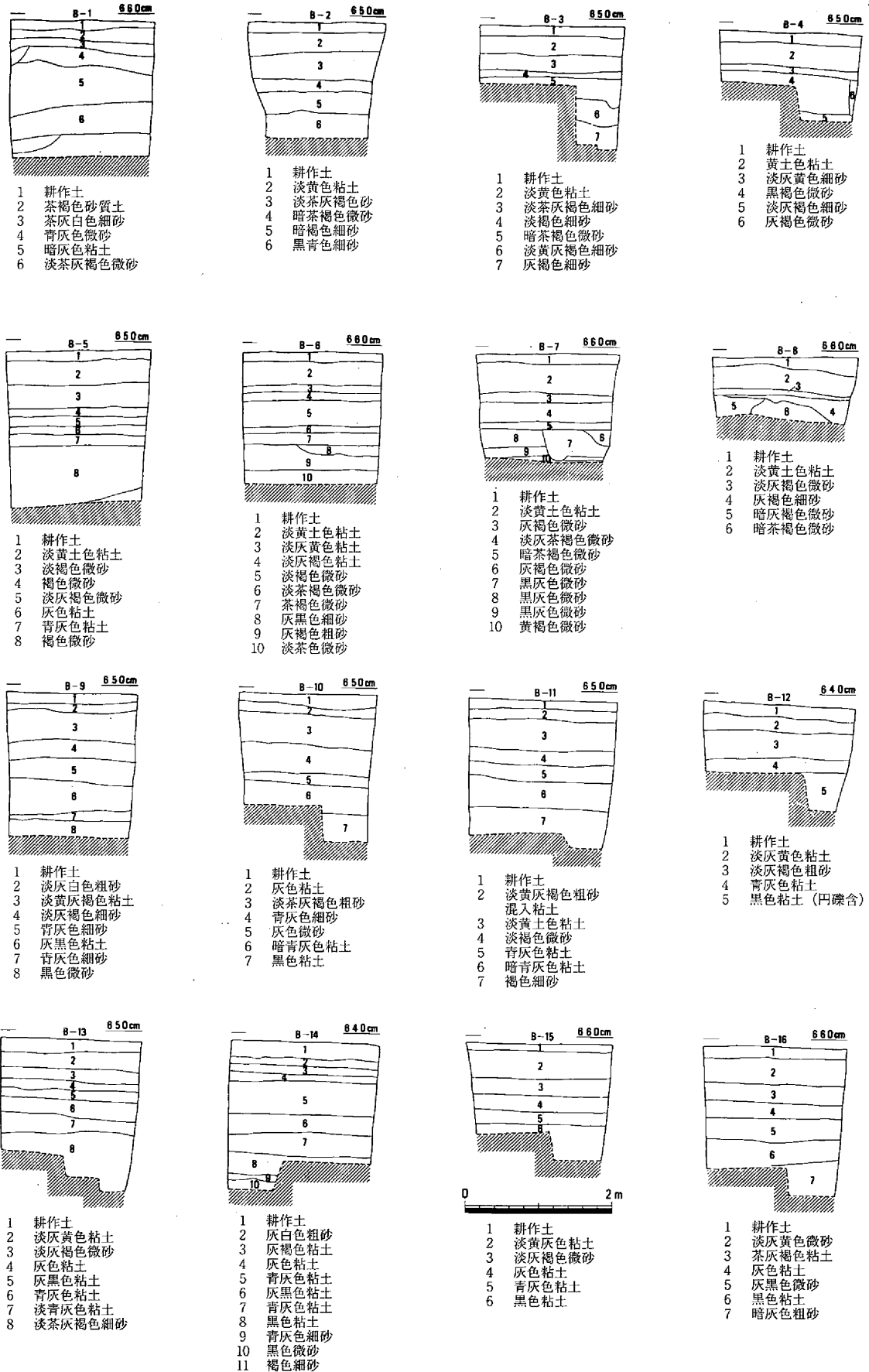
B 28は第3層の灰白色粗砂で湧水が激しく発掘を中止した。

B 29は第6層の黒色粘土から中世遺物が出土している。

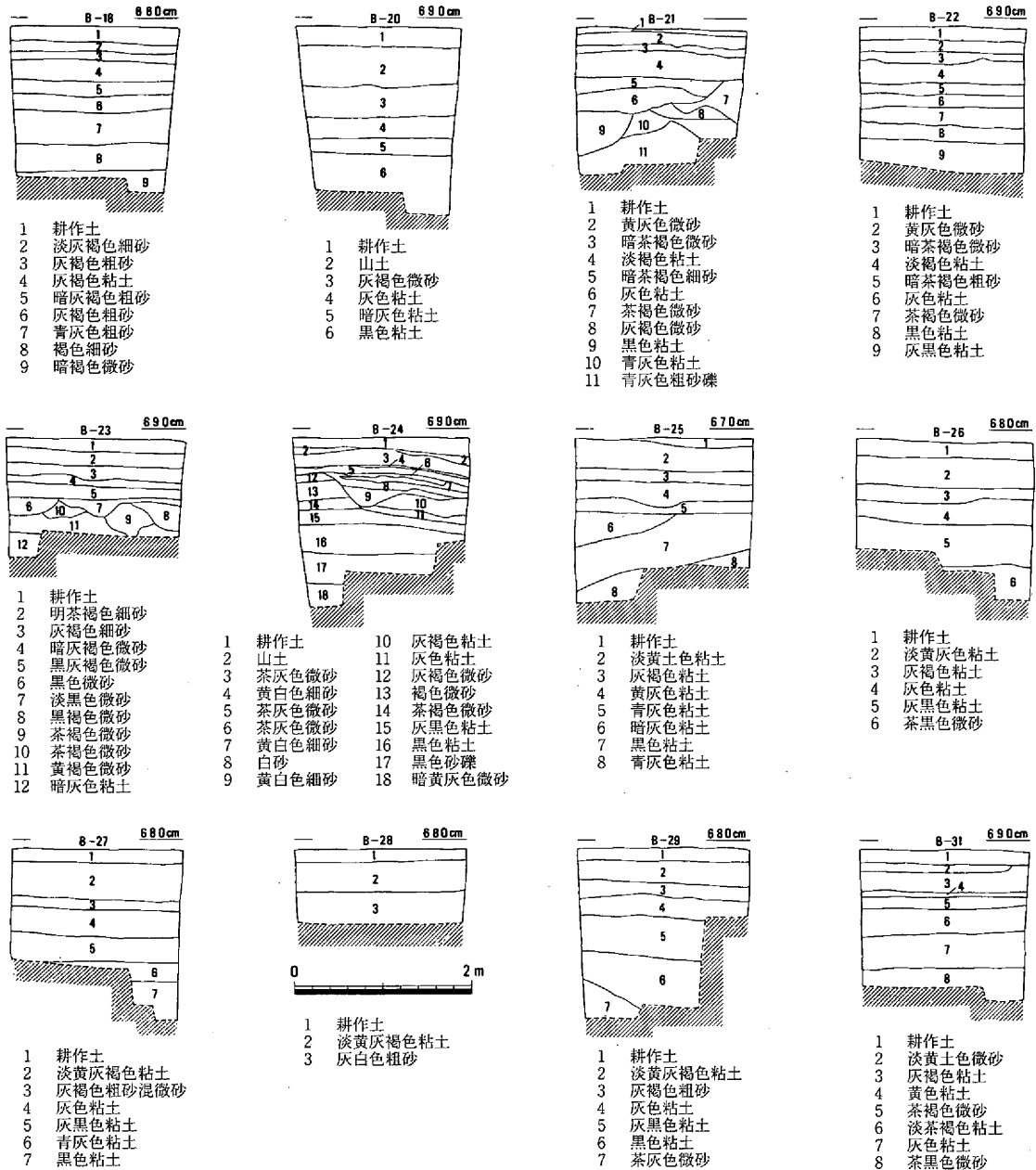
B 30は設定位置が農作業に支障をきたすと予測されたため調査を断念した。

B 31は第7層の灰色粘土から中世土器細片が出土しており、第8層の茶黒色微砂は中世の基盤層になるものと思われる。

次に出土遺物についてみると、遺物は調査した大半のボーリングから出土しており、その量は整理箱3箱分となる。その種類は弥生中期初頭の甕をはじめ、弥生中期後葉の高杯、弥生後期後葉の甕・高杯、古墳前期の壺、古墳中期の甗・鉄器、鎌倉時代の白磁・土師器、室町時代の青磁・古銭・土鍾



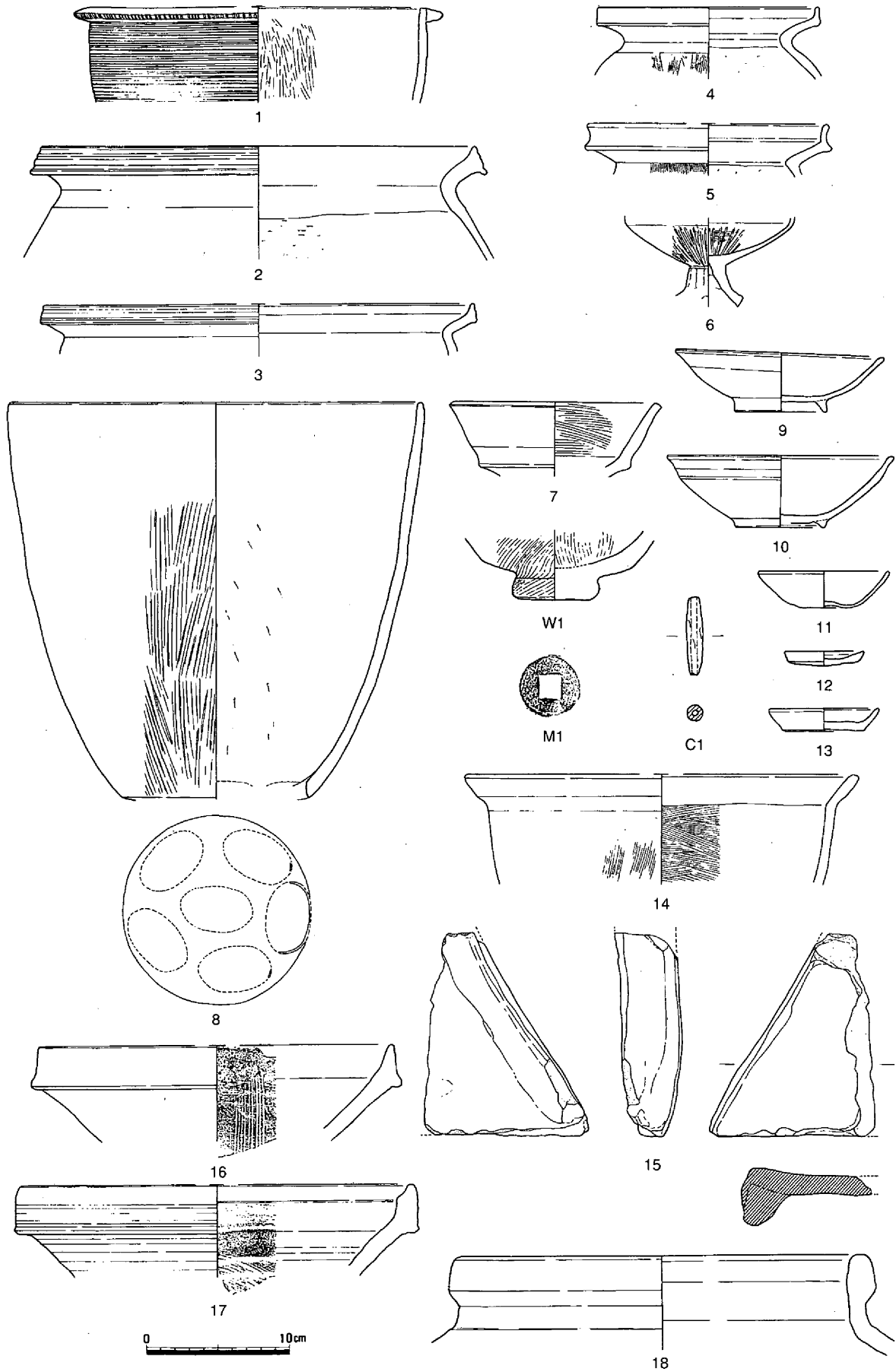
第6図 ボーリング断面図① (1/80)



第7図 ボーリング断面図② (1/80)

・漆器・鉄滓・土師器・備前焼、戦国時代の備前焼、江戸時代の染付けなど、長期に渡る時代の遺物が確認された。

以上、設置した31か所のボーリングのうち4か所は中断を余儀なくされたが、この調査によって高塚遺跡は弥生時代から近世に至る一大集落の可能性が示唆され、特に自動車道予定地内の遺跡の広がり第4図のスクリーントーンで示す部分で、これより北西部は河道あるいは湿地と向っていくものと判断された。また、微高地の基盤層は東部から西部に向かって下がっていくことが確認されるとともに、出土遺物においても弥生時代から中近世遺物へと西方に向って全般的に新しくなっていく傾向が認められ、これら旧地形の推定復元および出土遺物の状況から、今回の調査は塚廻り・フロヤ・角田の斜線部分を対象とした。(浅倉)



第8図 第一次調査出土遺物 (1/4, 1/3)

## 2 調査の組織

### 昭和62年度

#### 岡山県教育委員会

教育長 宮地暢夫

#### 岡山県教育庁

教育次長 石井敏雄

#### 文化課

課長 吉尾啓介

課長代理 河野 衛

課長補佐(埋蔵文化財係長)

伊藤 晃

主 査 藤川洋二

#### 岡山県古代吉備文化財センター

所 長 橋本泰夫

総務課長 佐々木清

総務主幹 藤本信康

主 任 花本静夫

主 任 岡田祥司

調査第二課長 葛原克人

文化財保護主幹(第一係長)

正岡睦夫

文化財保護主任 浅倉秀昭

主 事 石田義人

### 昭和63年度

#### 岡山県教育委員会

教育長 竹内康夫

#### 岡山県教育庁

教育次長 前 亮治

#### 文化課

課 長 吉尾啓介

課長代理 河野 衛

参 事 浅野間朗雄

課長補佐(埋蔵文化財係長)

伊藤 晃

主 査 藤川洋二

#### 岡山県古代吉備文化財センター

所 長 水田 稔

総務課長 佐々木清

総務主幹 藤本信康

主 任 花本静夫

主 任 岡田祥司

主 任 片山淳司

調査第二課長 葛原克人

課長補佐 正岡睦夫

第二係長  
主 事

松本和男  
弘田和司

### 平成元年度

#### 岡山県教育委員会

教育長 竹内康夫

#### 岡山県教育庁

教育次長 竹本博明

#### 文化課

課 長 吉尾啓介

(11月30日まで)

課 長 鬼澤佳弘

(12月1日以降)

課長代理 河野 衛

参 事 浅野間朗雄

課長補佐(埋蔵文化財係長)

伊藤 晃

主 査 藤川洋二

#### 岡山県古代吉備文化財センター

所 長 長瀬日出明

次 長 河本 清

総務課長 竹原成信

課長補佐(総務係長) 藤本信康

主 任 岡田祥司

主 任 平松郁男

主 任 片山淳司

調査第三課長 正岡睦夫

課長補佐(第一係長) 松本和男

文化財保護主任 江見正己

文化財保護主任 垣内一也

文化財保護主任 平井泰男

主 事 佐守 学

主 事 弘田和司

主 事 横山伸一郎

主 事 谷岡孝久

第二係長 浅倉秀昭

文化財保護主査 窪田廣志

文化財保護主査 古谷野寿郎

文化財保護主任 岡本寛久

文化財保護主任 栗尾昭和

文化財保護主任 川崎 肇

文化財保護主事 長川 優

主 事 小松原基弘

主 事 森 宏之

市町村専門職員発掘調査協力者 倉敷市教育委員会 福本明 鍵谷守秀 小野雅明  
発掘調査協力者 錦戸正 山田悌史 森宏之 守屋佳慶 政田孝 (写真撮影)



### 3 調査の経過と日誌抄

昭和63年に行った第一次調査の結果、高塚遺跡には、弥生時代から中世にわたる遺構が、重層的に存在することを確認した。全体の面積は、18,000m<sup>2</sup>に及び、公開からは早期の調査完了を要請された。岡山ジャンクション部分に所在する津寺遺跡はなお継続調査中であつたので、平成元年度には、調査第三課を新設する方針が決められ、調査員を増員して対応するという処置がとられた。

調査にあたっては、効率化を図るため、重機によって包含層の直上まで排土し、これより下層は人力で掘り下げながら遺構の検出に努めた。ほとんどの地区で、中世から古代、古墳時代、弥生時代と重層的に遺構が検出され、しかも、遺構密度が高く、調査は困難を極めた。遺構が所存する微高地は、東西方向に延びていて、小字名が東から「角田」「フロヤ」「塚廻り」であつたので、小字名をそのまま調査区の名称とした。

調査は緊急を要していた。そのため、平成元年2月7日から調査員を再配置して、角田調査区の工事用道路部分の調査に着手した。平成元年4月からは、調査第三課の18名を6班編成とし、1班3名を原則として、作業員をそれぞれ30名ほど配置した。調査は東から順次着手した。塚廻り調査区でも、緊急に南へ延びる農道を拡幅し、調査区の西寄りで民有地との境へ用水路を設置する必要から、一部の調査員で対応した。一方、岡山ジャンクションから東へ延びるルートに所在する政所遺跡、立田遺跡についても、遺跡の性格や調査範囲を確認するため、この地区の第一次調査に入らざるをえなかった。

供用開始予定に合わせるためには、工事用道路、横断道路のためのボックス設置など、施工上急ぐところがあることから、調査区域を36か所に区分して対応せざるをえなかった。小区画にしたことから、関連する遺構を同時に調査できないなどの問題も生じた。

また、南側は民有地に接していて、稲作の時期と調査時期が重なったこともあり、水漏れや崩壊の虞れがあることから、調査範囲を少し控えなければならなかった。台風による増水、壁の崩壊などもあり、隣接地や調査への影響も著しいものがあり、遺構・遺物の多さとも相俟って調査は困難を極めたが、平成3年3月末、なんとか無事に調査を完了することができた。

遺構の実測・測量は、国土地理院第5座標系に基づき、グリッドを設定し行った。起点は高塚遺跡の北西にあたるX=-145500、Y=-48400とし、大きく100mグリッドを設け、さらには、その中を10mの小グリッドに分



二五世紀前半の

#### 20基の住居跡と朝鮮系の土器片



高塚遺跡で発掘されている5室の住居跡と付帯的な住居跡

高塚遺跡(岡山)に渡来人拠点集落

国内で最多枚数

弥生後期初めの土坑から

古代中国の貨幣貨泉25枚出土

高さ58センチ、完全な形

土中保管説を裏付け?

集落跡から銅鐸出土

岡山 高塚遺跡

▲890906付

「いずれも山陽新聞から切り抜き」

岡山・高塚遺跡

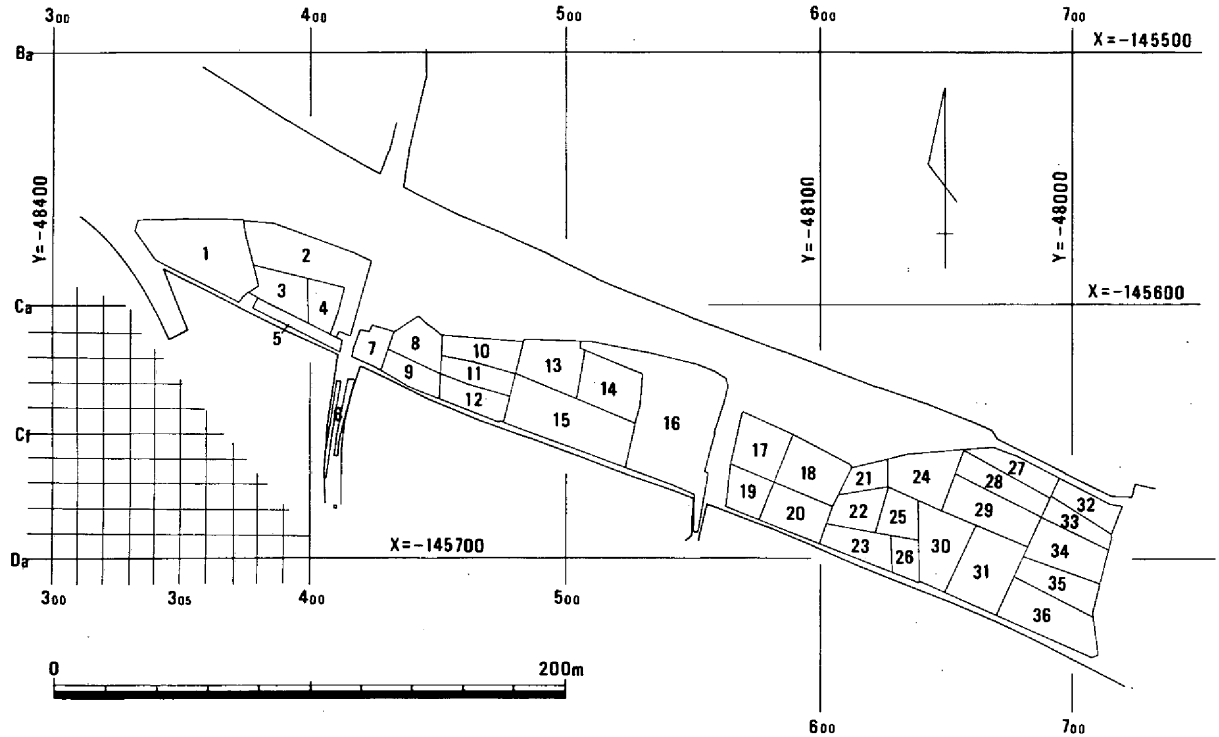
▲900313付

◀891021付

写真1 新聞報道

割した。大グリッド分割は、X軸の起点を0とし、アラビア数字で東方向へ増加し、Y軸は起点をAとし、アルファベット大文字で南方向へ以下B、C、Dと続くように呼称した。小グリッド分割は、10mごとにX軸は00～09、Y軸はa～jに区分した。グリッド名は、各北西交点を優先することとし、C5グリッドないしは、Cf405グリッドのように呼称する。以下本文中のグリッド記載はこれによるものとする。

表1 高塚遺跡調査一覧表



番号	調査区名	旧調査区名	調査担当者	番号	調査区名	旧調査区名	調査担当者
1	塚廻り	塚廻り2区	正岡睦夫・古谷野寿郎・川崎肇・森宏之	19	角田	角田ⅣSW区	浅倉・窪田・栗尾
2		塚廻り3A区		20		角田ⅣSE区	
3		塚廻り3B区		21		角田3b区	
4		塚廻り3C区	浅倉秀昭・窪田廣志・栗尾昭和	22		角田3d区	松本・垣内・佐守
5		塚廻り1区	正岡・古谷野・川崎・森	23		角田3e区	
6		塚廻り農道	正岡・川崎	24		角田3a区	
7		塚廻り4C区	浅倉・窪田・栗尾	25		角田3c区	
8		塚廻り4B区		26		角田3f区	
9		塚廻り4A区		27		角田ⅡA区	江見正己・横山伸一郎・谷岡孝久
10	フロヤ	フロヤ3C区	28	角田ⅡB区			
11		フロヤ3B区	浅倉・窪田・栗尾	29	角田ⅡC区		
12		フロヤ3A区	松本和男・垣内一也・佐守学	30	角田ⅡE区		
13		フロヤⅡB区		31	角田ⅡD区		
14		フロヤⅡC区		岡本寛久・長川優・小松原基弘	32	角田ⅠA区	平井・弘田
15		フロヤⅡA区	平井泰男・弘田和司	33	角田ⅠB区		
16	フロヤⅠ区	岡本・長川・小松原	34	角田ⅠC区			
17	角田	角田ⅣNW区	浅倉・窪田・栗尾	35	角田ⅠD区		
18		角田ⅣNE区	浅倉・窪田・栗尾	36	角田ⅠE区		

高塚遺跡では、考古学上、注目される発見が相次ぎ、しばしば、全国的な報道が行われた。平成元年8月25日には、銅鐸が穴の中に入った状態で発見された。集落遺跡内から銅鐸が発見される例は、それまでほとんど無かったことから、学術的な意義も大きかった。また、発掘調査で銅鐸が発見される例も稀である。発掘調査中は、調査員が現地で夜間警備にあたり、9月5日、銅鐸が出土したままの状態、記者発表を行った。

平成2年2月28日には、中国の「新」時代の貨幣である貨泉が25枚出土し、弥生時代後期前半の土器を伴っていたことから、学術的意義は大きく、3月12日に発表した。これ以外にも、堅穴住居に造り付けの「カマド」が吉備地方へ最初に導入された様子が明らかとなり、韓国系の陶質土器や軟質土器を多数出土したことから、大いに注目された。

銅鐸を埋納していた土壌は、切り取って保存処理を行い、古代吉備文化財センターに展示している。また、銅鐸などは、速報展示を行い、多数の見学者があった。金属製の遺物については、化学的な保存処理を行い、銅鐸については、岡山県で予算化し、複製品を作成した。これらは、すでに全国各地で展示されている。

(正岡)

## 日誌抄

## 昭和62年度

昭和62年12月6日(日) 第一次調査協議

昭和63年1月11日(金) 第一次調査開始

2月3日(水) 第一次調査終了

## 昭和63年度

平成元年1月31日(火) 埋蔵文化財保護対策委員会開催

2月7日(火) 角田Ⅰ区上層 調査開始

3月2日(木) 角田Ⅰ区上層 調査終了

3月17日(金) 埋蔵文化財保護対策委員会開催

## 平成元年度

平成元年4月1日(土) 調査準備

4月4日(火) 角田Ⅰ区 調査再開

角田Ⅱ区 調査着手

角田Ⅲ区 調査着手

角田Ⅳ区 調査着手

フロヤⅠ区 調査着手

6月17日(土) 埋蔵文化財保護対策委員会開催

7月10日(月) 塚廻りⅠ区 調査着手

7月20日(木) 塚廻り農道部 調査着手

塚廻りⅣ区 調査終了

1月26日(金) フロヤⅠ区 調査終了

2月7日(水) フロヤⅢ区 調査終了

2月20日(火) 埋蔵文化財保護対策委員会開催

2月21日(水) 角田Ⅱ区 調査終了

2月28日(水) フロヤⅡ区 貨泉がまとまって出土

3月31日(土) 角田Ⅲ区 調査終了

フロヤⅡ区 調査終了

塚廻りⅢ区 調査終了

7月26日(水) 塚廻り農道部 調査終了

7月26日(水) 塚廻りⅠ区 調査終了

8月25日(金) フロヤⅠ区 銅鐸出土

10月21日(金) 角田Ⅰ区 調査終了

10月23日(月) フロヤⅡ区 調査着手

10月30日(月) 埋蔵文化財保護対策委員会開催

角田Ⅳ区 調査終了

11月1日(水) フロヤⅢ区 調査着手

11月6日(月) 塚廻りⅣ区 調査着手

11月16日(木) 塚廻りⅡ区 調査着手

12月15日(金) 塚廻りⅢ区 調査着手

平成2年1月22日(月) 塚廻りⅡ区 調査終了

## 第2節 三手遺跡

### 1 調査の経緯

山陽自動車道建設に伴う岡山県内の発掘調査は平成4年でもって終了している。しかし、平成5年の供用開始が危ぶまれた状況で、当面の発掘調査から控除した岡山ジャンクション付近の植栽部分（ループ内）6,128㎡、盛土のり面（H=5.0m以下）24,629㎡、高架下（掘削部以外）3,850㎡の計35,000㎡が後年次の対応として残されていた。

今回の発掘調査の対象となった三手遺跡の盛土のり面3,164㎡は控除面積の一部であり、平成6年7月14日に開かれた中国横断自動車道の協議に並行し、公団岡山工事事務所の意向として議題に上がったものである。すなわち、中国横断自動車道の発掘調査の進捗が順調であることと、後年次の計画であった山陽自動車道の施行2車線から4車線化への流れが文化課と岡山工事事務所間で諒解され、発掘調査の方向へ動き出したものである。8月10日に岡山工事事務所から条件が整備でき次第に実施したいとの連絡が入る。そこで、昭和63年度の三手遺跡で発掘された遺構・遺物の出土状態から、遺構が工事区に継続して広がる場所を調査区に絞り込み、さらに隧道部を除いた約2,500㎡を対象地とした。調査は中国横断自動車道の発掘調査の終了を待って平成7年1月から3月までとし、同人員でもって実施することを了承する。

そして、岡山工事事務所の土木施行計画書に基づき、現地において法規制事前協議の条件整備と施行順序（保安柵・工事用道路・目隠板・盛土のり面捨土・鋼矢板打設・集水柵撤去・舗装ガラ撤去）の説明を受け、発掘調査の手順の打ち合わせを行う。

三手遺跡の調査は最終年度に刊行する高塚遺跡の報告書と同時刊行する事を確認する。（高畑）

### 2 調査の組織

#### 平成6年度

#### 岡山県教育委員会

教育長 森崎岩之助

#### 岡山県教育庁

教育次長 岸本憲二

#### 文化課

課長 大場 淳

課長代理 松井新一

課長補佐(埋蔵文化財係長) 高畑知功

主任 若林一憲

#### 岡山県古代吉備文化財センター

所長 河本 清

次長 葛原克人

総務課長 丸尾洋幸

課長補佐

主査

主任

調査第二課長

課長補佐(第二係長)

文化財保護主査

文化財保護主査

文化財保護主任

文化財保護主事

文化財保護主事

文化財保護主事

主事

主事

杉田卓美

石井善晴

三宅秀吉

伊藤 晃

平井 勝

中野雅美

三上修二

小延祥夫

東呂木博

大村俊幸

山本昌彦

高見生郎

蛭原啓介

発掘調査協力者 上田匡文

### 3 調査の経過と日誌抄

調査地区は、昭和63年度に山陽自動車道建設に伴って発掘調査を実施した場所の北東に接する部分で、三手遺跡の立地する微高地の縁辺部に当たる。調査範囲は昭和63年度の成果に基づいて長さ250m、幅幅の予定幅20mが対象となった。調査は対象地域内全面を掘り下げることはせず、3カ所に調査区を設定して実施した。調査区は北西側から長さ約50mの範囲を向原ⅡA区とし、これに接する長さ約45mの範囲を向原ⅡB区、さらに北東側に約80m離れた位置に長さ約25mの向原Ⅲ区を設けた。それに伴い調査員も3名からなる班を3班編成し、それぞれの調査区を担当した。

調査は1月17日に向原Ⅲ区から開始した。次いで1月23日には向原ⅡA区、そして2月1日には向原ⅡB区の調査に入った。向原Ⅲ区は中世の水田や溝が確認されたが、溝は比較的深い位置にあることと湧水の影響で、調査面積に比較して調査期間が費やされることとなった。向原ⅡA区はほとんど遺構が無く、微高地の端が確認された。向原ⅡB区も浅い溝がわずかに確認された以外には、ほとんど遺構はなかった。

昭和63年度の調査成果から推定された通り、調査地区は微高地の縁辺部にあたることから、全体的に遺構・遺物は少なかった。そのため調査は順調に進み、2月24日をもって終了することとなった。

(平井)

#### 日誌抄

##### 平成6年度

平成7年1月4日(水) 調査準備

1月17日(火) 向原Ⅲ区調査開始

1月23日(月) 向原ⅡA区調査開始

2月1日(水) 向原ⅡB区調査開始

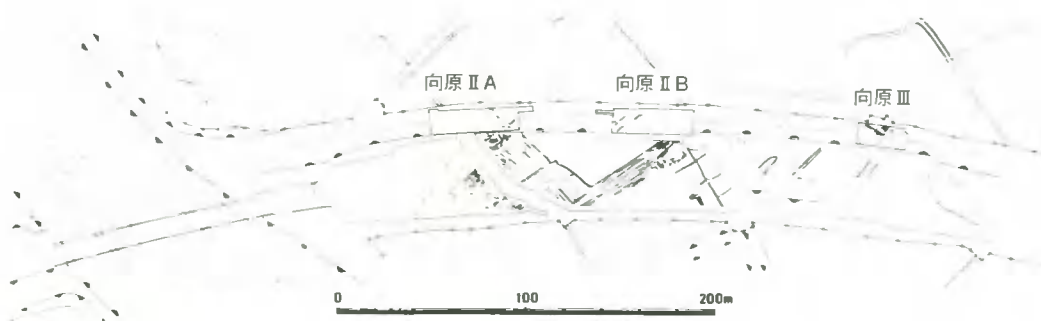
3月31日(金) 向原ⅡA区、ⅡB区、Ⅲ区  
調査終了

表2 三手遺跡調査一覧表

調査区名	調査担当者
向原ⅡA区	中野雅美・大村俊幸・高見生朗
向原ⅡB区	平井勝・小延祥夫・東呂木博
向原Ⅲ区	伊藤晃・三上修二・山本昌彦・蛭原啓介



写真2 三手遺跡作業風景



## 第3節 報告書作成の経過

### 1 整理の経過

平成10年度の整理対象遺跡は高塚遺跡と三手遺跡となり、長年続けられてきた整理作業も後年次対応の発掘調査が再開されるまでの間、一応の終結を向かえることとなった。

遺跡からは総遺構数1550余り、総遺物数1700箱余りの膨大な資料が検出されておられ、これに対処すべく調査員11名と復元・トレース・実測の補助員およびパート職員約40名が整理にあたることとなった。調査員の構成は専門職員7名、教師からの出向3名、専門の臨時職員1名である。高塚遺跡については表3に示すように調査員を4班に編成し、旧調査区を基準に7ブロックに分け整理を進めた。また、三手遺跡については江見が二宮の応援を受け作業を遂行した。

いっぽう資料の量的な問題から、整理作業は継続して使用してきた津寺事務所だけでは手狭で、センターとの二カ所に別れ、並行して実施するという変則的なあり方で進めざるを得ない状況であった。なお、センターでは井上・平井がこれにあたった。

また、津寺事務所は当該年度中に撤去が予定されていたため、遺物復元の目処がついた12月中旬に事務所を撤収し、調査員および整理補助員・パート職員の一部はセンターへ戻った。これより年度末までは新収蔵庫の一隅で整理作業を継続した。

この間、平成10年9月1日(火)および平成11年2月25日(木)には埋蔵文化財保護対策委員会が開催され、委員の方々からは有益なご指導・ご教示を得た。(江見)

### 2 整理の組織と体制

#### 平成10年度

#### 岡山県教育委員会

教育長 黒瀬定生

#### 岡山県教育庁

教育次長 平岩 武

#### 文化課

課長 高田朋香

課長代理 西山 猛

参事 正岡睦夫

課長補佐(埋蔵文化財係長) 松本和男

主事 三宅美博

#### 岡山県古代吉備文化財センター

所長 葛原克人

次長 大村俊臣

総務課長 小倉 昇

課長補佐

安西正則

主査

山本恭輔

調査第一課長

高畑知功

課長補佐(第二係長)

江見正己

文化財保護主幹

井上 弘

文化財保護主幹

二宮治夫

文化財保護主査

平井泰男

文化財保護主任

築地由行

文化財保護主任

弘田和司

文化財保護主任

柴田英樹

文化財保護主事

難波拓史

文化財保護主事

室山博文

主事

田坂佳子

主事

東 恵子

#### 整理協力者

阿部典子 伊丹もと子 上田真理子 大村宏美 柏野由美子 川崎康代 川原啓子 熊代明美

桑田一美 神原さちみ 近藤明子 島村仁美 杉本弘美 高塚睦子 辻尚子 馬場まり 伴祐子

藤田さち子 丸山啓子 三垣佐知子 明楽美和子 村岡雅子 森久仁江 薬師寺かほり 山本恵美子

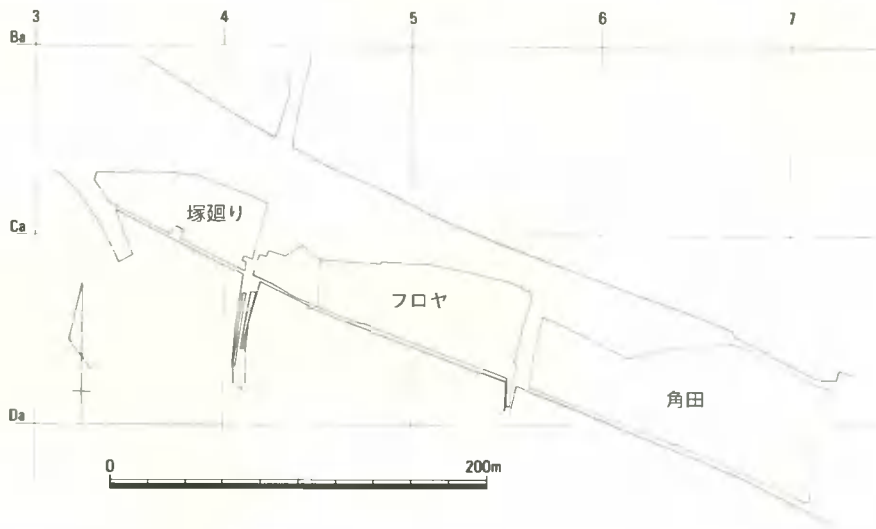


写真3 復元作業



写真4 遺物実測

表3 整理一覧表



高塚遺跡

調査区名	旧調査区名	遺構数	遺物数	整理担当者
塚廻り	塚廻り	75	104	二宮治夫・築地由行・弘田和司
フロヤ	フロヤ3区	41	42	二宮・築地・弘田
	フロヤI・II区	391	307	井上弘・平井泰男
角田	角田M区	444	251	二宮・築地・弘田
	角田3区	305	413	柴田英樹・難波拓史・東恵子
	角田II区	199	432	江見正己・室山博文・田坂佳子
	角田I区	75	142	井上・平井
総計		1530	1691	

三手遺跡

調査区名	遺構数	遺物数	整理担当者
向原IIA区	13	6	江見・二宮
向原IIB区			
向原III区			



### 3 時期区分について（「津寺遺跡4」1997より）

本書では、「津寺遺跡2」において採用した編年案を基本的に踏襲した<sup>(1)</sup>。これは、百間川遺跡群で行っている大枠での時期区分に合わせたもので、弥生時代前期をⅠ～Ⅲ、中期をⅠ～Ⅲ、後期をⅠ～Ⅳ、古墳時代前期をⅠ～Ⅲ、中期をⅠ～Ⅱ、後期をⅠ～Ⅲに大別する（表1）。このうち古墳時代中期以降については、津寺遺跡の資料に基づき新たに時期区分を設定したものである<sup>(3)</sup>。ただし、本書に用いる編年は、津寺遺跡の資料全体を見通したものとはなっていないため、地域性や編年上の問題点については、今後のまとめの中で示されて行くものと考えている。なお、文中に現れる弥・前・Ⅰ等の表記は、弥生時代前期Ⅰの略記であり、以下に概述する津寺遺跡の編年案に基づくものであることを意味する。

弥・前・Ⅰは、壺や甕の口頸部に見られる段や無軸木葉文に特徴づけられる時期で、岡山市津島遺跡の資料を標識とする。弥・前・Ⅱは、削り出し突帯が施される壺やヘラ描沈線文をめぐらす甕を特徴とする時期で、この地域においては岡山市高尾貝塚の資料があげられる。弥・前・Ⅲでは、壺に施された突帯が断面三角形の貼付突帯になり、壺や甕に施されたヘラ描沈線文が多条化する。この時期は、従来門田式と呼ばれたもので、津寺遺跡でも遺構に伴わない土器がわずかながら出土している。

弥・中・Ⅰは、ヘラ描沈線文が櫛描文に変わる時期で、新相の壺は櫛描文と突帯で飾るが、甕では櫛描文が消失する。弥・中・Ⅱは、従来のこも池式に対応し、津寺遺跡において集落の形成がはじまる段階である。壺や甕では内面下半にケズリが見られるようになり、高杯が普及する。また器台が出現するのもこの頃である。弥・中・Ⅲは、凹線文が盛行する時期で、壺や甕に見られた内面下半のヘラケズリが一般化する。また凹線文を飾る口縁部の拡張は著しく、器台も普及する。中屋調査区の溝-3に当該期の遺物を見ることができる。

弥・後・Ⅰは、上東・鬼川Ⅰ式に相当する。壺の頸部に施されていた凹線が沈線へと変化し、甕とともに行われる内面のヘラケズリは頸部直下まで及ぶようになる。高杯は口端部を拡張して多条の凹線をめぐらし、長い脚部に施された透かしは退化傾向を示す。津寺遺跡では、西川調査区を中心に弥・中・Ⅲから弥・後・Ⅰへの過渡的な様相を示す資料が多く出土している。上東・鬼川Ⅱ式にあたる弥・後・Ⅱでは、上東式の特徴である長頸壺と大形の器台が盛行する。高杯は、外反する口縁部に変わり、短い脚部は薄くつくる端部をもつようになる。また、別づくりの脚部が見られるようになるのもこの頃である。この時期の遺物は、西川調査区の溝-2において比較的まとまった出土を見る。弥・後・Ⅲは長頸壺の最終段階で、上東・鬼川Ⅱ式に相当する。高杯は短脚となり、小形化する。また、小形の器種では精良な胎土が使用されるようになる。器台は、墳墓などで特殊なものが見られるものの、集落においては減少する。オノ町Ⅰ・Ⅱ式にあたる弥・後・Ⅳは、酒津式の主体となる時期である。壺は頸部に長頸壺のなごりを留めるものの、甕では口縁部に擬凹線をめぐらすものが現れる。高杯は依然として小形であるが深い杯部をもつようになる。津寺遺跡の集落が拡大し始める時期である。

古・前・Ⅰは、下田所式にあたる。壺は強く外反する二重口縁をもち、甕は擬凹線にかわって櫛描沈線を飾る。高杯は中実気味につくられた長い脚部に変化する。中屋調査区の溝-16から出土した遺物の主体をなす時期である。亀川上層式にあたる古・前・Ⅱでは、壺や甕の体部に球形化が進み、底部は完全な丸底となる。布留式の指標とされる小形の器種が揃うのもこの時期である。中屋調査区



の溝-4では、この時期の遺物が多く出土しており、古・前・I～II津寺遺跡の最盛期とも言うべき時期にあたる。古・前・IIIは津寺遺跡の集落が縮小した段階であり、わずかに中屋調査区の竪穴住居-55において遺物の出土を見るにすぎない。壺は崩れた二重口縁をもつが、甕では短く外反する口縁にかわる。球形の体部の内面はユビナデで調整する。高杯は、杯部がしだいに深さを増し、内面をヘラケズリする脚部も長さを減じて透かし孔を消失する。

古・中・Iは、須恵器が出現する段階であり、津寺遺跡においてカマドをもつ竪穴住居が現れるのもこの時期である。崩れた二重口縁をもつ壺がわずかに残るが、その分量は甕と大差なく、これ以後土師器の主要な器種ではなくなっていく。高杯は、杯部の屈折が鈍くなり、椀形のものも現れる。脚部の透かしは脚柱部に施されるようになる。西川調査区の竪穴住居-49では古相、中屋調査区の竪穴住居-118では新相の遺物が出土しており、大阪府陶邑古窯址群のTK73～TK208型式に並行するものと思われる<sup>(4)</sup>。古・中・IIになると、長胴の甕が出現し、高杯は、椀形の杯部に絞り込んだ脚部をもつものが主体となる。集落で須恵器が見られるようになるのはこの時期であり、陶邑古窯址群のTK23～TK47型式に並行するものと思われる。

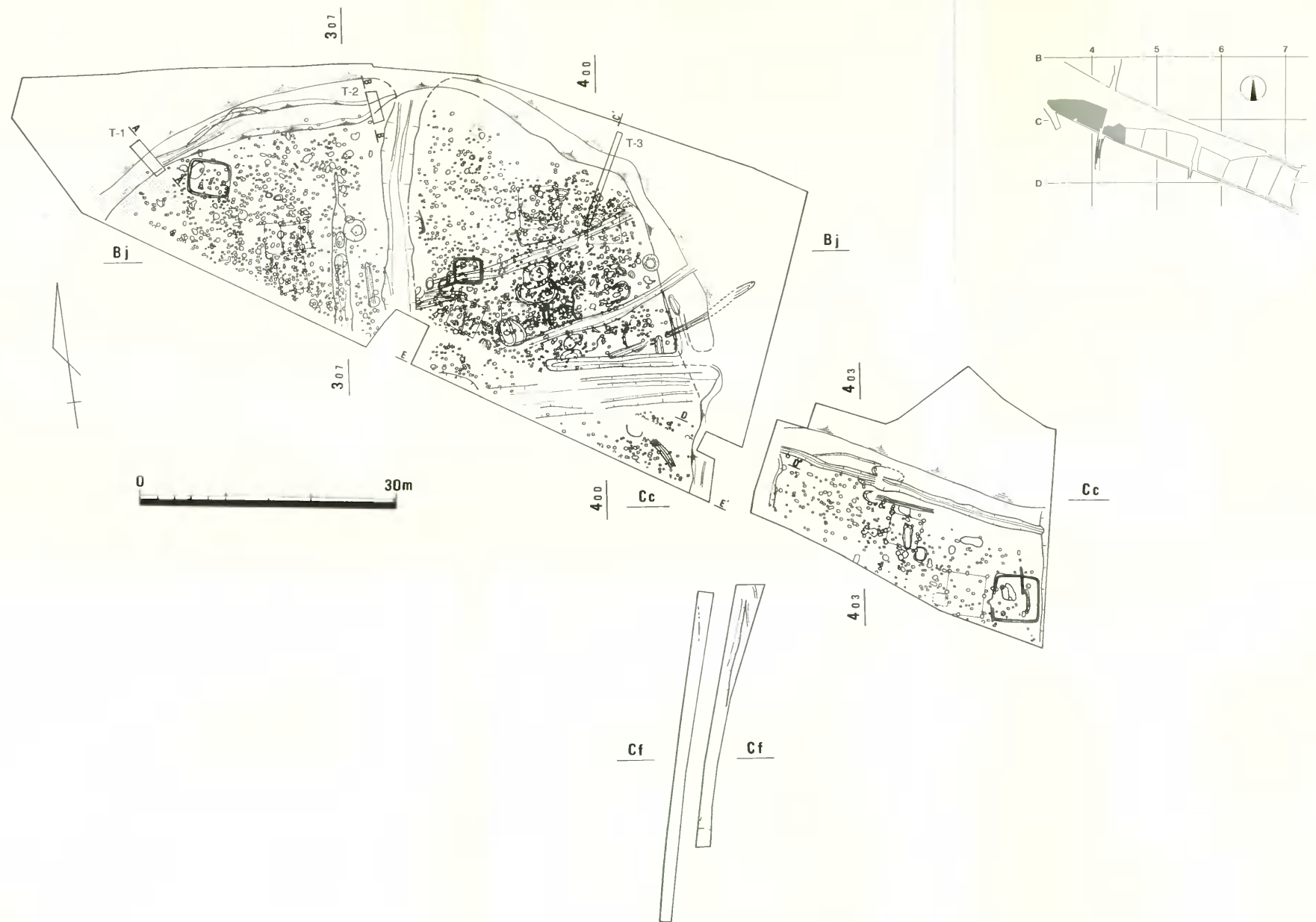
古・後・I～IIIについては土師器の資料が十分でなく、須恵器をもってこれに代えたい<sup>(5)</sup>。また、7世紀以降は実年代を用いることとし、陶磁器等については従来の編年を援用した<sup>(6)</sup>。(亀山)

#### 註

- (1) 正岡睦夫「時期区分」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98』岡山県教育委員会、1995
- (2) 江見正己「時期区分について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39』岡山県教育委員会、1980
- (3) この地域の編年案としては次のようなものが出されている。
  - 柳瀬昭彦「川入・上東」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16』岡山県教育委員会、1980
  - 高橋護「弥生土器—山陽1～4」『考古学ジャーナル173・175・179・181』1980
  - 高橋護「土師器の編年—中国・四国」『古墳時代の研究6』1991
  - 高畑知功・平井泰男・柴田英樹「土師器」『吉備の考古学的研究(下)』1992
- (4) 田辺昭三『陶邑古窯址群』平安学園考古学クラブ、1966
- (5) 岡山県の須恵器の編年案として以下のものがあるが、他地域との対比も考慮して、ここでは註4文献に従う。
  - 山磨康平・島崎東「須恵器」『吉備の考古学』1987
  - 伊藤晃「窯業」『岡山県の考古学』1987
  - 中野雅美「須恵器の編年—山陽」『古墳時代の研究6』1991
  - 山本悦世・土井基司・田代健二「須恵器」『吉備の考古学的研究(下)』1992
- (6) 本書で援用した陶磁器等の編年として次のようなものがある。
  - 間壁忠彦・間壁葎子「備前焼ノート1～4」『倉敷考古館研究集報1・2・5・18』1966～1984
  - 横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』九州歴史資料館、1978
  - 鈴木康之「土師質土器の変遷過程」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告II』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所、1994

表4 編年対比表

年代	時代	時期		津 寺	上 東	百間川	雄 町	高橋編年	田辺編年
50	弥生時代	前期	津 島	弥・前・Ⅰ		百・前・Ⅰ		I 期	a
				弥・前・Ⅱ		百・前・Ⅱ	雄町1	II 期	a
			門 田	弥・前・Ⅲ		百・前・Ⅲ	雄町2	III 期	b
		中期	南 方	弥・中・Ⅰ		百・中・Ⅰ	雄町3	IV 期	a
			菰 池	弥・中・Ⅱ		百・中・Ⅱ	雄町4	V 期	b
			前山Ⅱ	弥・中・Ⅲ		百・中・Ⅲ	雄町5	VI 期	a
		仁 伍			鬼川市0		雄町6	VII 期	b
		後期	上 東	弥・後・Ⅰ	鬼川市1	百・後・Ⅰ	雄町7	VIII 期	a
				弥・後・Ⅱ	鬼川市2	百・後・Ⅱ	雄町8	IX 期	b
				弥・後・Ⅲ	鬼川市3	百・後・Ⅲ	雄町9	X 期	c
			酒 津	弥・後・Ⅳ	才ノ町1 才ノ町2	百・後・Ⅳ	雄町10	IX 期	a
							雄町11	X 期	b
雄町12	X 期						c		
前期		古・前・Ⅰ	下田所	百・古・Ⅰ	雄町13	X 期	a		
		古・前・Ⅱ	亀川上層	百・古・Ⅱ	雄町14	X 期	b		
		古・前・Ⅲ		百・古・Ⅲ		X I 期	a		
400	墳 時	中期		川入大溝			X II 期	a	TK73~ TK208 TK23~ TK47 MT15~ TK10 TK43~ TK209 TK217
							X III 期	b	
500	時 代	後期						a	
								b	
								b	
600	時 代	後期						a	
								b	
								b	



第9図 塚廻り調査区遺跡全体図 (1/500)

## 第3章 高塚遺跡

### 第1節 塚廻り調査区

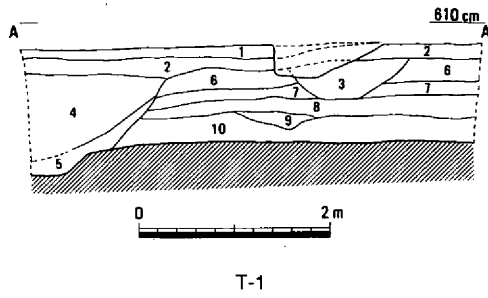
#### 1 調査区の概要

塚廻り調査区は、高塚遺跡西端部に位置している。山陽自動車道は北西から南東へ通り、東西方向に続く弥生時代以来の微高地が続いている。古代か中世の初め頃、この微高地の北側を洪水によって削り取られたようで、新しく河道が形成されている。弥生時代および古墳時代の遺構は東側に多いが、西端部の塚廻り調査区でも若干確認されている。

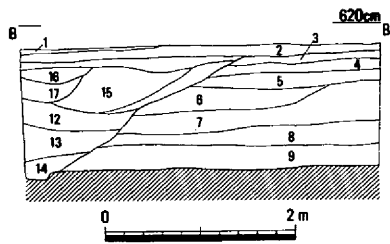
弥生時代では、斜面の堆積層の中から土器片などを検出しているが、遺構は検出されていない。古墳時代には、竪穴住居5軒、井戸1基、土壇5基などがあり、集落を形成している。時期的には古墳時代後半のものを主体とする。古代の遺構は検出されていない。中世には、東西約40mごとに南北方向の溝を掘り、区画を設けている。区画ごとに数棟の掘立柱建物と井戸1基が検出される。出土遺物には、亀山焼、備前焼、土師器のほか、若干の陶磁器や木製品もある。土壇墓も1基発見された。近世には、若干の遺物を出土するが、遺構としては溝のみである。(正岡)



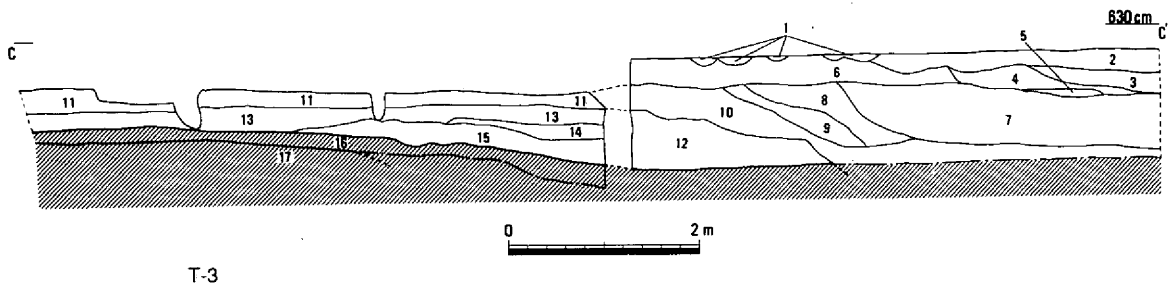
写真5 塚廻り調査区作業風景



- 1 褐色 (7.5YR4/3) 微砂 (マンガン少含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 粘質微砂
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 微砂
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 微砂
- 5 黒褐色 (2.5YR3/1) 微砂
- 6 灰色 (10Y4/1) 粘質微砂
- 7 オリーブ黒色 (Y3/1) 粘質微砂
- 8 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質砂 (礫少含)
- 9 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土混じり砂 (礫含)
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 粘質微砂
- 11 灰色 (10Y5/1) 粘質微砂
- 12 灰色 (4/1) 粘質微砂
- 13 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土
- 14 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土
- 15 オリーブ黒色 (10Y3/1) 微砂
- 16 オリーブ灰色 (10Y5/2) 粘質微砂
- 17 オリーブ黒色 (10Y3/1) 微砂

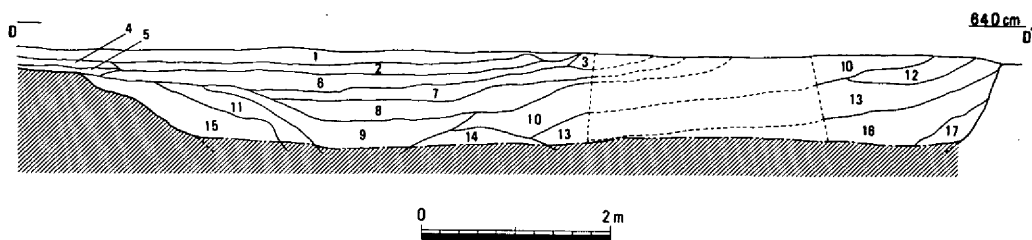


- 1 褐色微砂 (マンガン含)
- 2 暗褐色微砂混じり土
- 3 緑黒色粘質微砂
- 4 暗灰色粘土 (自然河川)
- 5 暗灰色砂混じり粘土
- 6 緑黒色微砂
- 7 暗オリーブ灰色粘質微砂
- 8 暗オリーブ灰色砂混じり粘質微砂
- 9 オリーブ灰色粘質微砂
- 10 暗オリーブ色砂

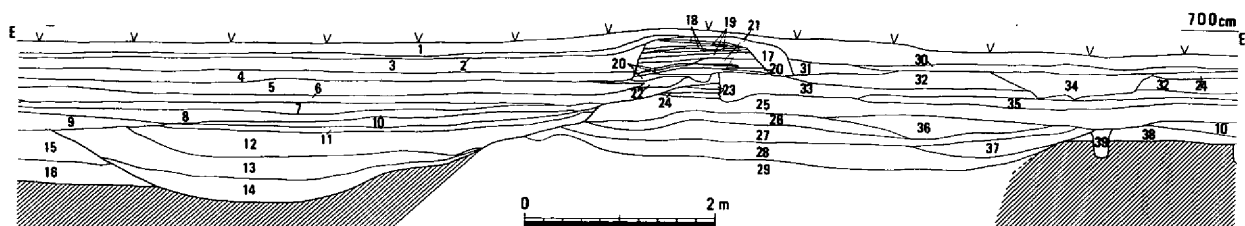


- |  |   |  |
|--|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 薄い灰褐色微砂</li> <li>2 青灰色粘土</li> <li>3 黒褐色細砂混じり粘土 (礫含)</li> <li>4 暗青灰色微砂混じり粘土</li> <li>5 暗青灰色礫混じり粘土</li> <li>6 黄褐色微砂混じり粘土</li> <li>7 青灰色微砂混じり粘土</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8 灰オリーブ色 (5Y6/2) 微砂混じり粘土</li> <li>9 暗青灰色微砂混じり粘土 (礫含)<br/>(弥生包含層)</li> <li>10 灰オリーブ色 (5Y5/3) 細砂混じり粘土</li> <li>11 暗褐色 (3/4) 粘土混じり微砂<br/>(鉄・マンガン多含)</li> <li>12 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘土混じり細砂</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>13 褐灰色 (4/1) 微砂 (同色の粘土塊含)</li> <li>14 褐灰色 (5/1) 微砂</li> <li>15 褐灰色 (5/1) 微砂 (やや粘土混じり)</li> <li>16 褐灰色 (4/1) 微砂 (鉄僅少含)</li> <li>17 円礫層 (10cm程度の径多い)</li> </ol> |
|--|---|--|

第10図 土層断面図① (1/80)



- |                           |                    |                  |
|---------------------------|--------------------|------------------|
| 1 灰褐色粘土混じり微砂              | 6 におい橙色微砂混じり粘土     | 12 灰褐色粘質土        |
| 2 におい橙色微砂混じり粘土<br>(鉄分沈着層) | 7 青灰色細砂混じり粘土       | 13 暗緑灰色粗砂混じり粘土   |
| 3 灰褐色粘土混じり微砂              | 8 暗青灰色細砂混じり粘土 (礫含) | 14 灰オリーブ色粘土混じり粗砂 |
| 4 におい黄褐色粘土混じり微砂           | 9 青黒色粘土            | 15 暗青灰色粘土        |
| 5 におい褐色粘土混じり微砂            | 10 暗青灰色粘土混じり粗砂     | 16 暗灰黄色粘質土       |
|                           | 11 灰オリーブ色礫混じり粗砂    | 17 暗灰色粘質土        |



- |                   |                           |                   |
|-------------------|---------------------------|-------------------|
| 1 灰色粗砂混じり粘土 (耕作土) | 15 褐色粗砂                   | 27 淡青灰色円礫混じり粘土    |
| 2 やや薄い灰色粗砂混じり粘土   | 16 暗青灰色粘土                 | 28 青灰色円礫混じり粘土     |
| 3 黄褐色粗砂円礫混じり粘土    | 17 鈍い黄褐色粗砂混じり粘土<br>(ブロック) | 29 青灰色細砂混じり粘土     |
| 4 灰褐色円礫混じり粘土      | 18 灰色粘土                   | 30 やや薄い灰色粗砂混じり粘土  |
| 5 鈍い黄褐色粗砂混じり粘土    | 19 黄褐色細砂                  | 31 鈍い黄褐色粗砂混じり粘土   |
| 6 灰黄色細砂混じり粘土      | 20 灰色細砂                   | 32 鈍い黄褐色粗砂混じり粘土   |
| 7 浅黄褐色細砂          | 21 黄褐色粗砂                  | 33 灰黄色細砂混じり粘土     |
| 8 灰色円礫混じり微砂       | 22 淡黄色細砂                  | 34 淡黄色細砂          |
| 9 灰色円礫混じり粘土       | 23 淡灰色細砂                  | 35 やや薄い灰黄色細砂混じり粘土 |
| 10 薄い灰色粘土         | 24 鈍い褐色粗砂混じり粘土            | 36 黄褐色粘土          |
| 11 不明             | 25 灰色細砂混じり粘土              | 37 不明             |
| 12 淡青灰色粘土         | 26 灰黄色粗砂混じり粘土             | 38 鈍い黄褐色粘土 (Mn含む) |
| 13 暗青灰色円礫混じり粘土    |                           | 39 灰色粘土           |
| 14 青灰色粘土          |                           |                   |

第11図 土層断面図② (1/80)

## 2 弥生時代の遺構と遺物

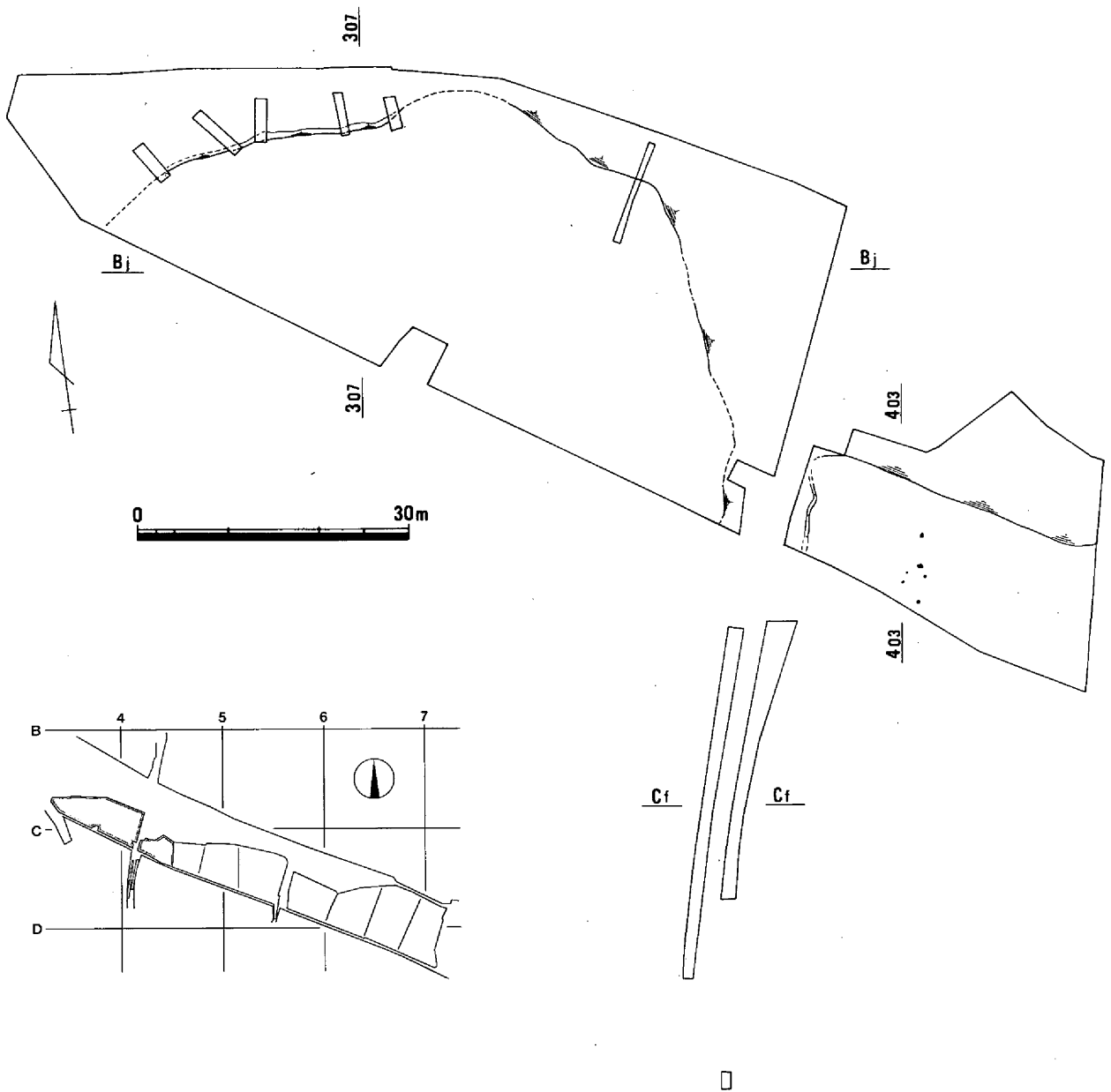
### (1) 概要

高塚遺跡の東南部には、弥生時代の遺構が密集し、集落の中心部が存在するが、塚廻り調査区では、明瞭な遺構は検出されていない。集落の周辺部にあたると判断される。河道の埋土や微高地の斜面から弥生土器、石器、木器が出土している。第11図9層は円礫を含んだ暗青灰色微砂混じり粘土層で、この土層中から弥生時代後期の土器片が少しまとまって出土した。弥生土器には、前期から後期にわたるものがあるが、中期後半から後期前半のものが多い。石器には、打製石包丁と打製石鏃がある。木器は形状から弥生時代の高杯と推測されている。

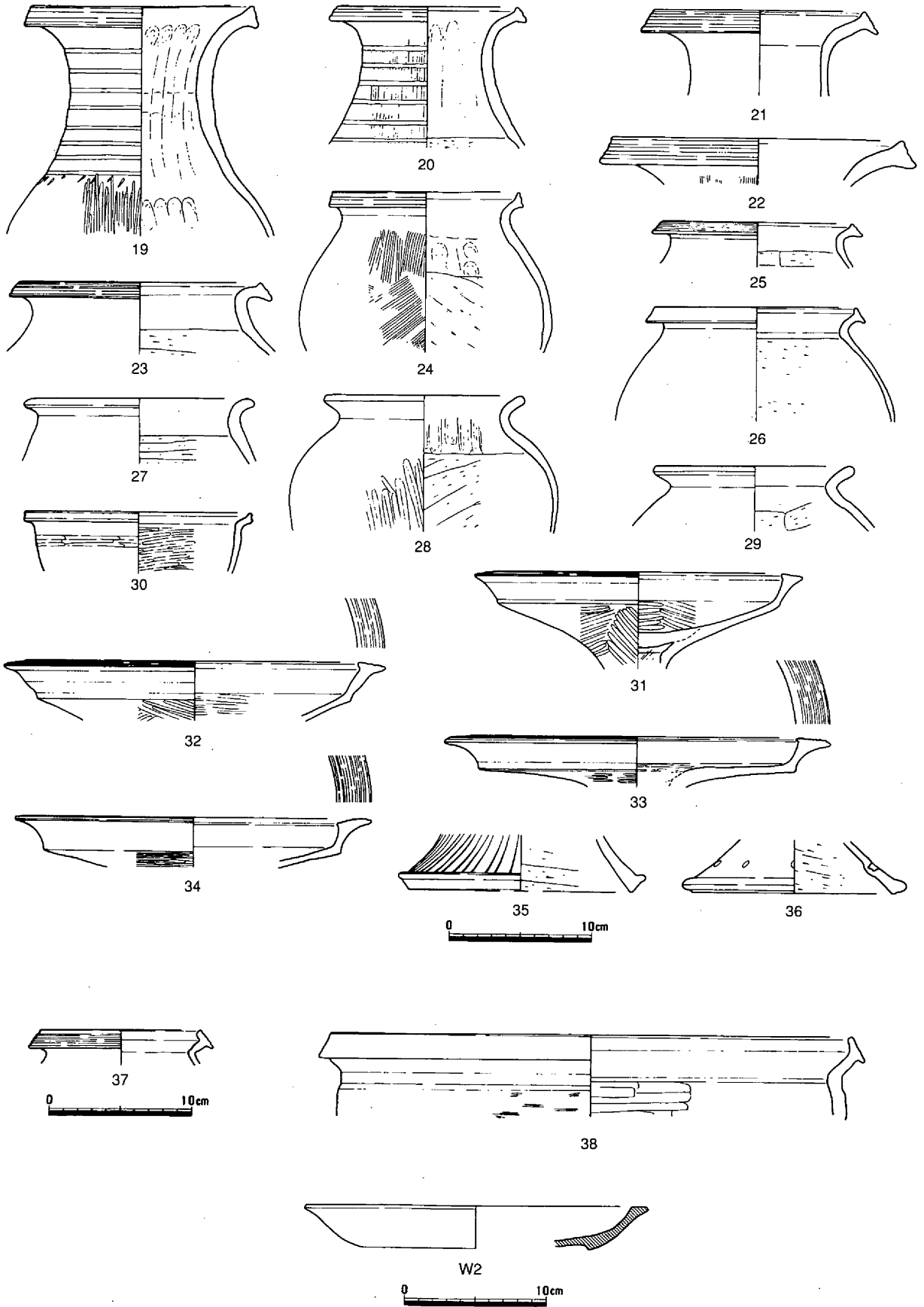
(正岡)

(2) 遺構に伴わない遺物 (第13・14図、図版89)

塚廻り調査区から出土した弥生時代の遺物には、土器、石器、木器がある。土器には前期から後期まで各時期のものを含んでいる。北側の河道や微高地からの斜面部で検出されたものは、弥生時代後期の土器である。長頸壺19~22には、頸部に沈線を施すもの19・20と施さないもの21がある。甕23~29には、口縁部を「く」の字に折り曲げ、端部を肥厚し、外面に凹線を施すもの23~25、無文のもの26、端部を丸く終わらせるもの27~29がある。いずれも、内部の頸部付近までヘラケズリを施している。鉢30は「く」の字状に折り曲げた口縁部の端を上方へ小さく拡張したもので、後期後半に比定される。高杯31~36は、皿状の杯部から少し斜め上方へ延び、端部をほぼ水平に拡張する。口唇部には細かい



第12図 塚廻り調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750)

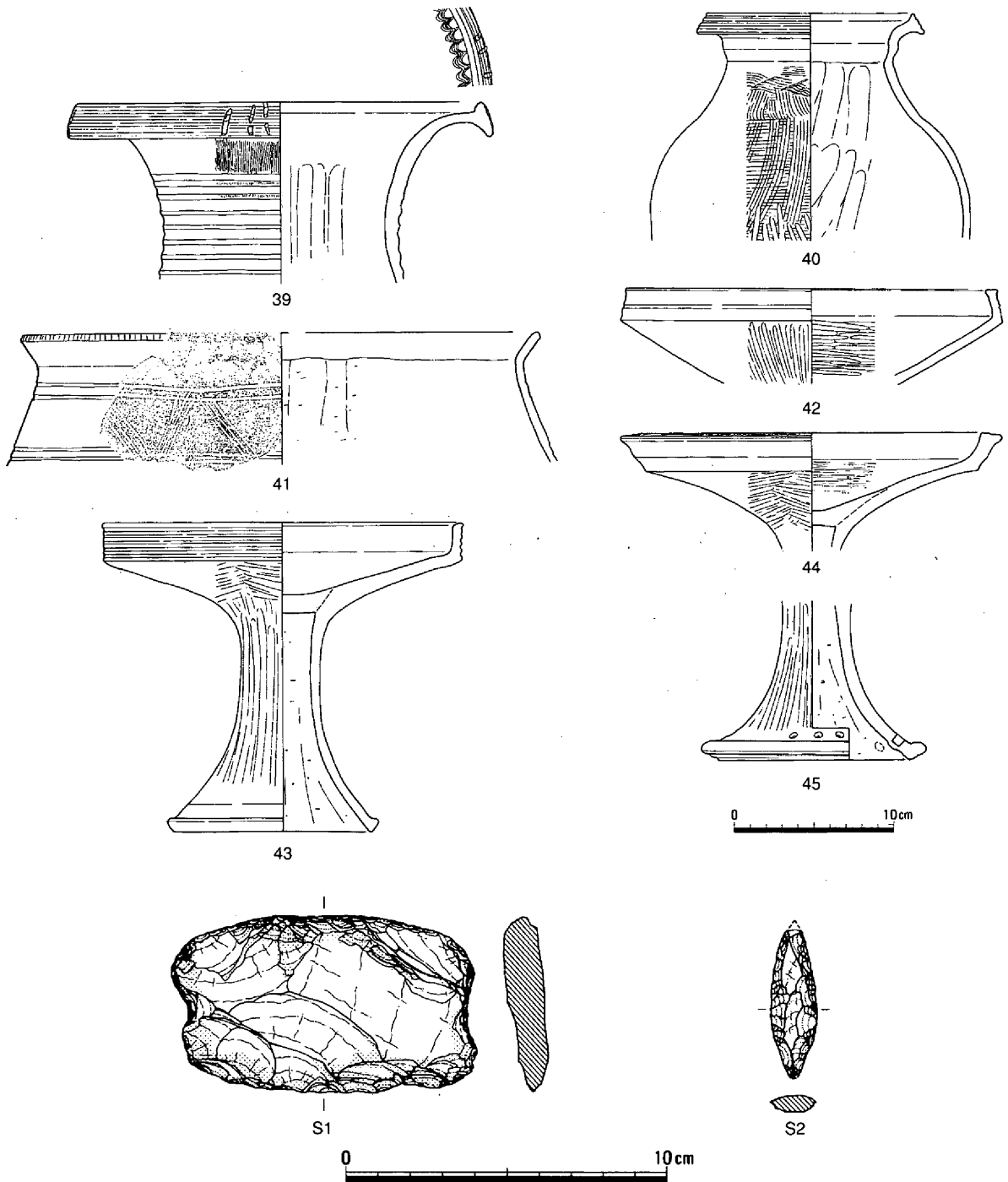


第13図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）①（1/4）



凹線文を施す。脚部は裾が広がり、端部は肥厚する。外面には三角形の透かしから変化した沈線を縦位に多数配するもの35と円形の刺突文を施すもの36がある。

南北方向に掘られた幅10mの溝内から出土したものに、中期後半の甕37、後期後半の鉢38、木製高坏W2がある。木製高坏は杯部のみで、外面に黒漆が残存し、形状から弥生時代と推測されるものである。そのほかに、包含層中から出土した遺物として、弥生土器と石器がある。石器には、サヌカイト製の打製石包丁S1、柳葉形打製石鏃S2がある。 (正岡)



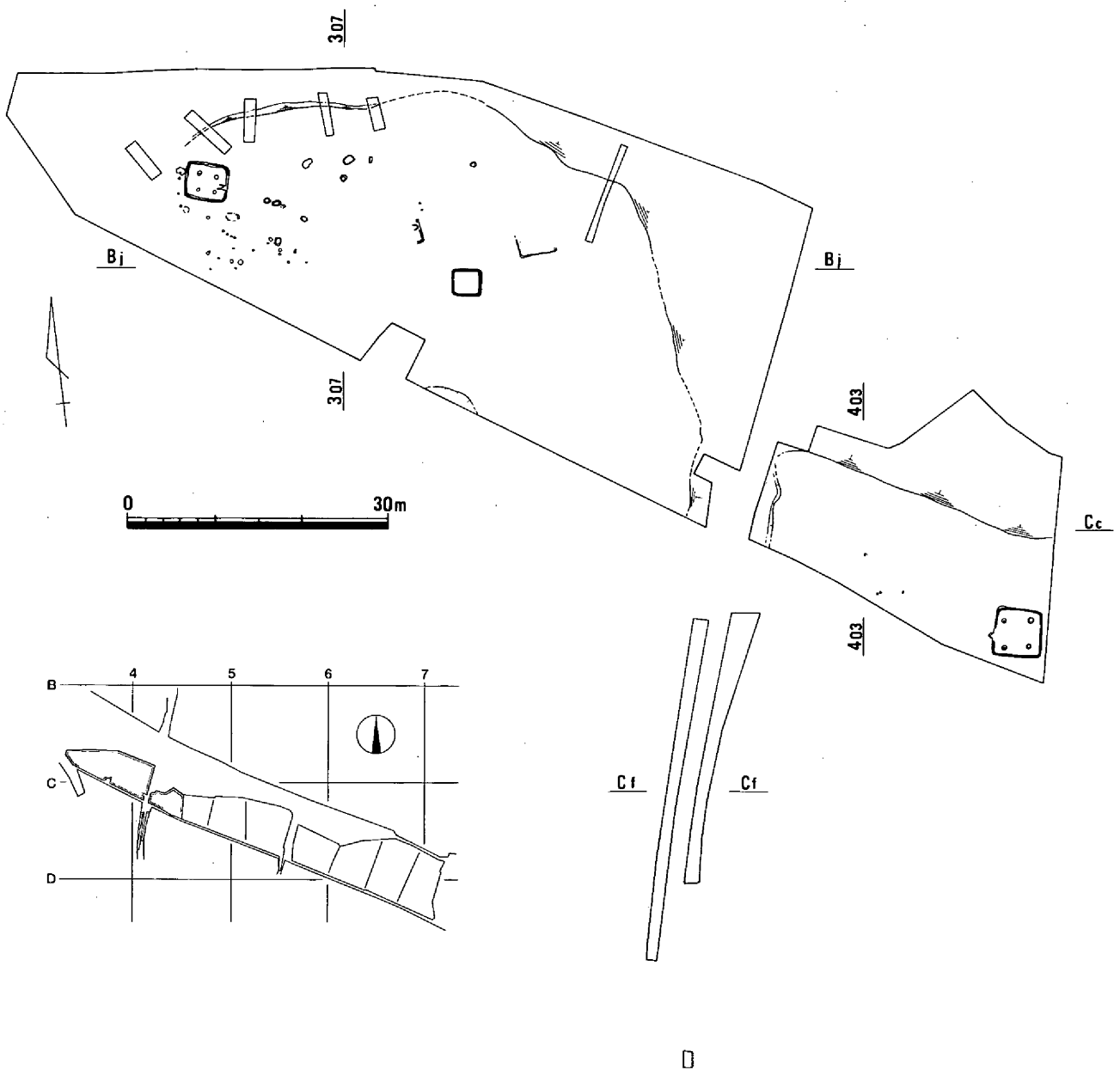
第14図 遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ② (1/4,1/2)

### 3 古墳時代の遺構と遺物

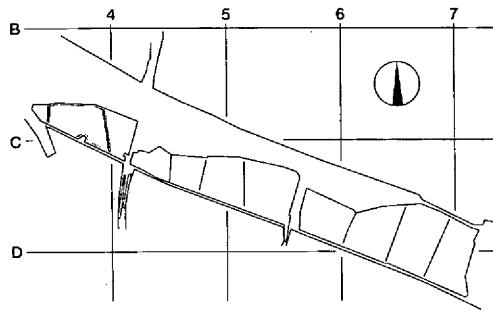
#### (1) 概要

調査区は東西に長い微高地の西端部に位置している。北側部分は古代以後に河道によって削り取られたものと思われ、本来は、さらに北側へも遺構が続いていたものと判断される。南側は用地外へも続いている。本調査区の東寄りの地点には、南北方向で幅約10mの溝があるが、もとは連続していたものである。

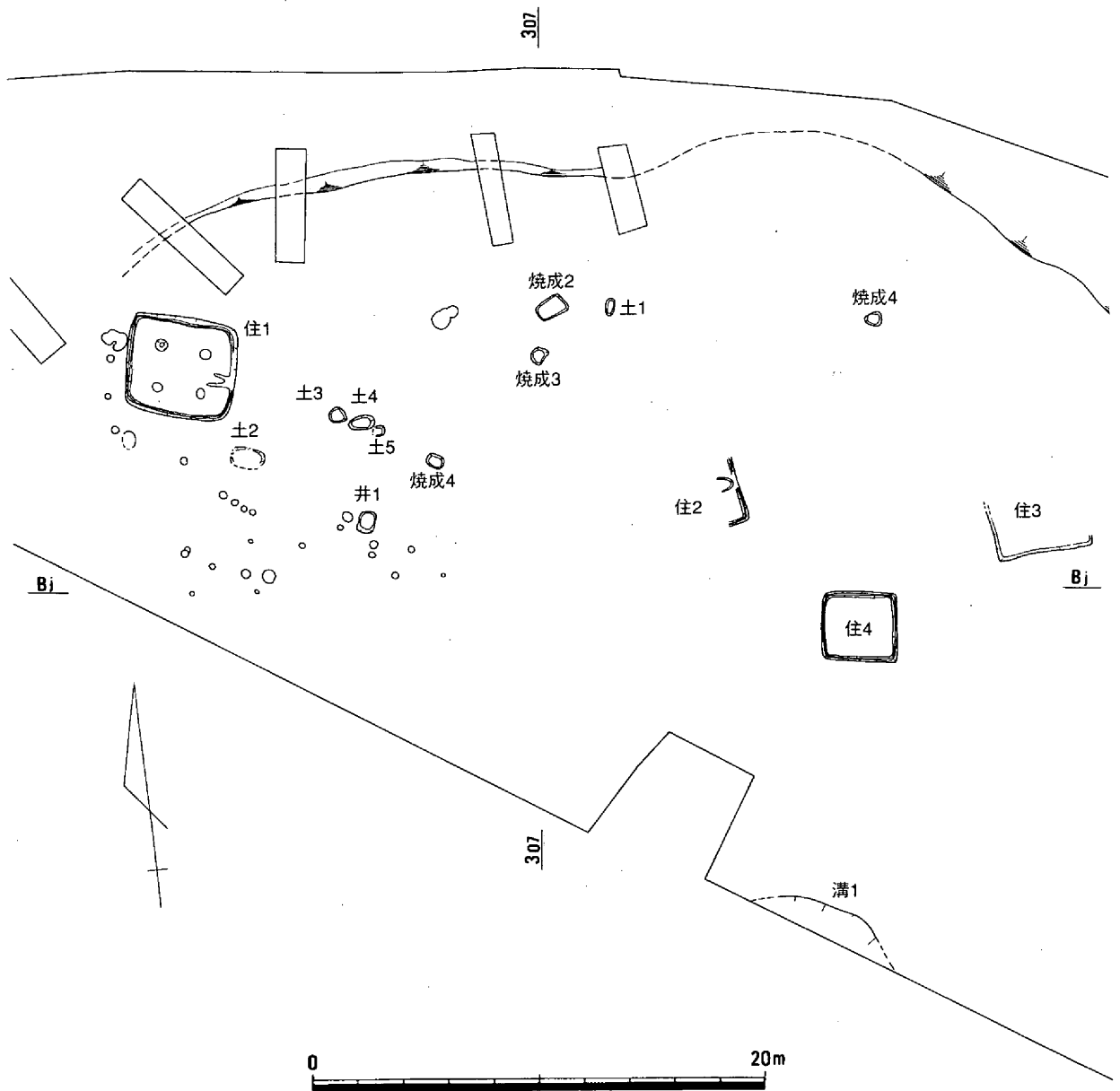
古墳時代の遺構としては、竪穴住居5軒、井戸1基、土壇5基、焼成土壇4基などを検出している。



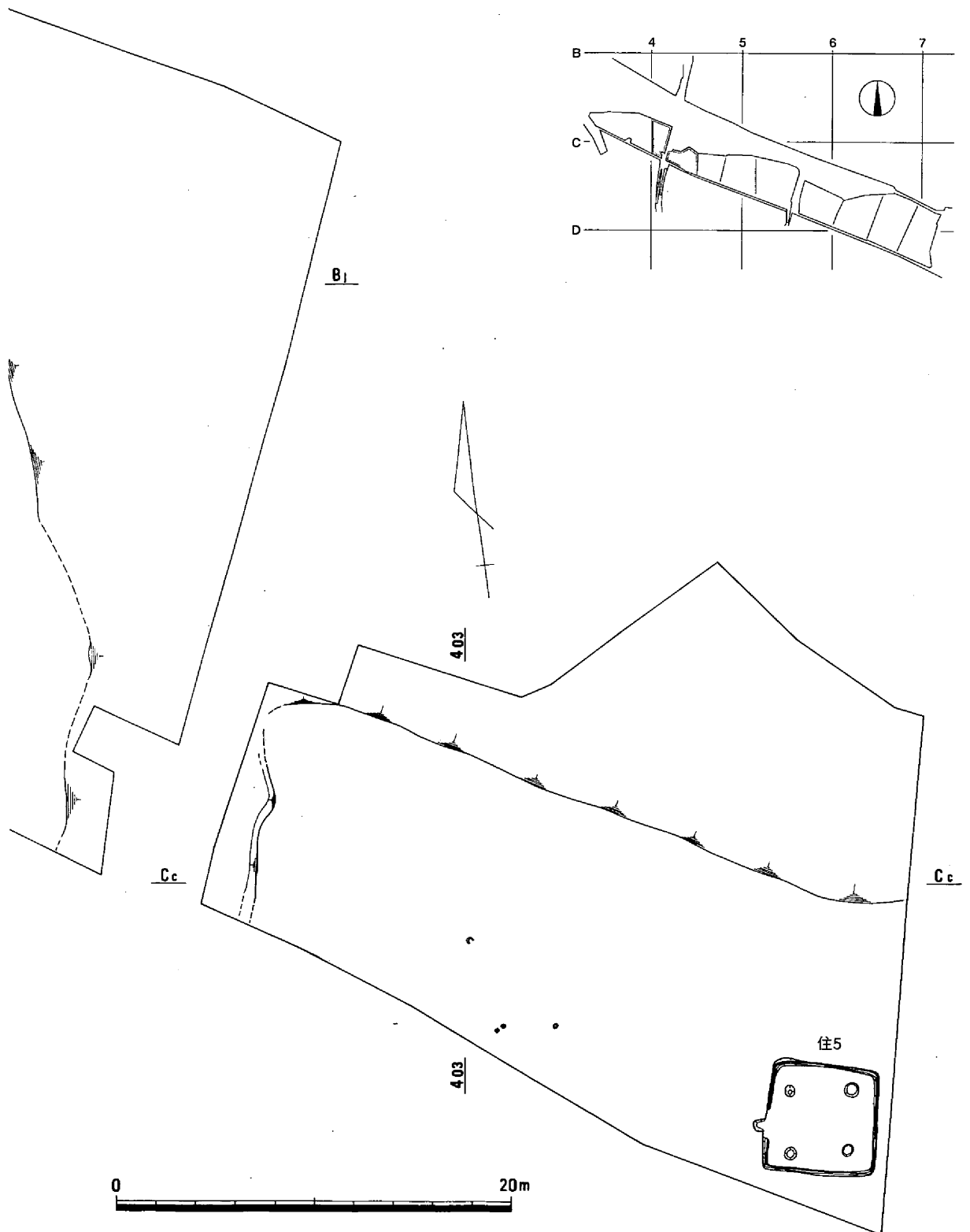
第15図 塚廻り調査区古墳時代主要遺構全体図 (1/750)



竪穴住居は、いずれも方形を呈するものである。そのうちの1軒には、土錘を30個も出土したものがあ  
り、漁労をしていたものと考えられる。焼成土壌の  
まとまりが見られるが、関係すると思われる鍛冶炉  
は検出されていない。4軒の竪穴住居は古・前・Ⅲ  
～古・後・Ⅲの期間にわたっており、同時に存在し  
たのは1軒のみである。もちろんほかに削平された  
ものもあると考えられる。東方の地区には同時期の  
竪穴住居が多く、この地区は集落のはずれに位置し  
ている。  
(正岡)



第16図 塚廻り調査区古墳時代主要遺構部分図① (1/300)



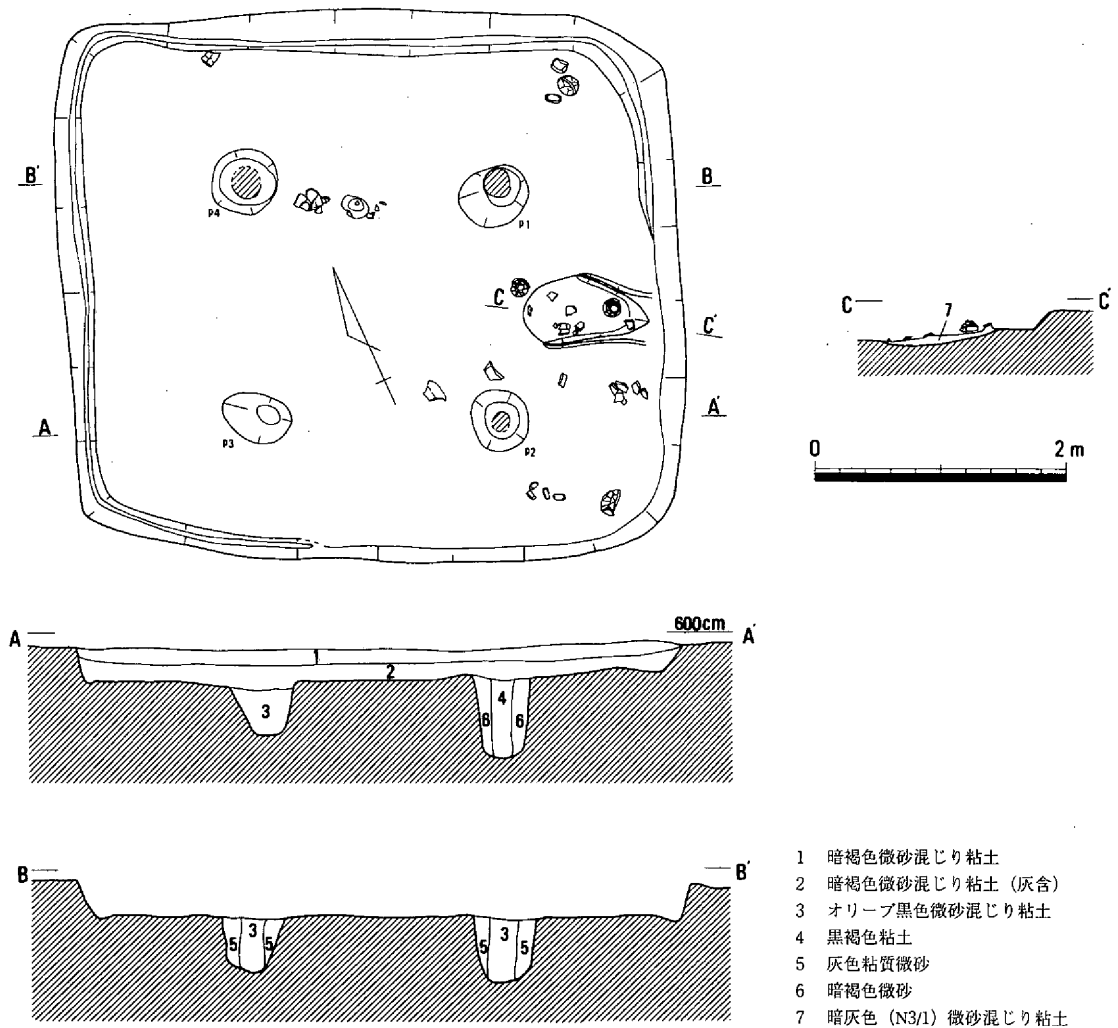
第17図 塚廻り調査区古墳時代主要遺構部分図② (1/300)

## (2) 竪穴住居

### 竪穴住居 1 (第16・18・19図、図版1・83・87)

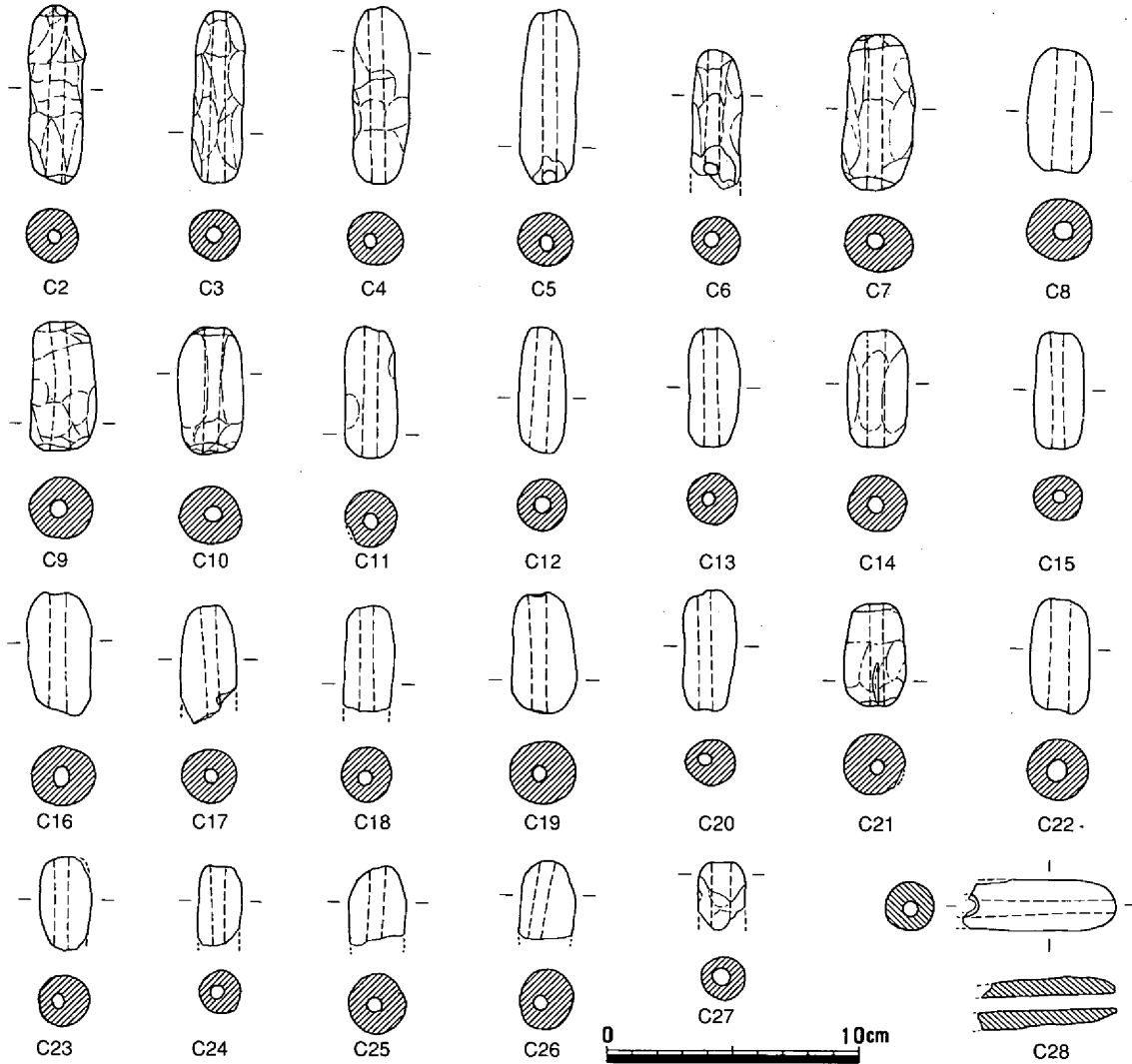
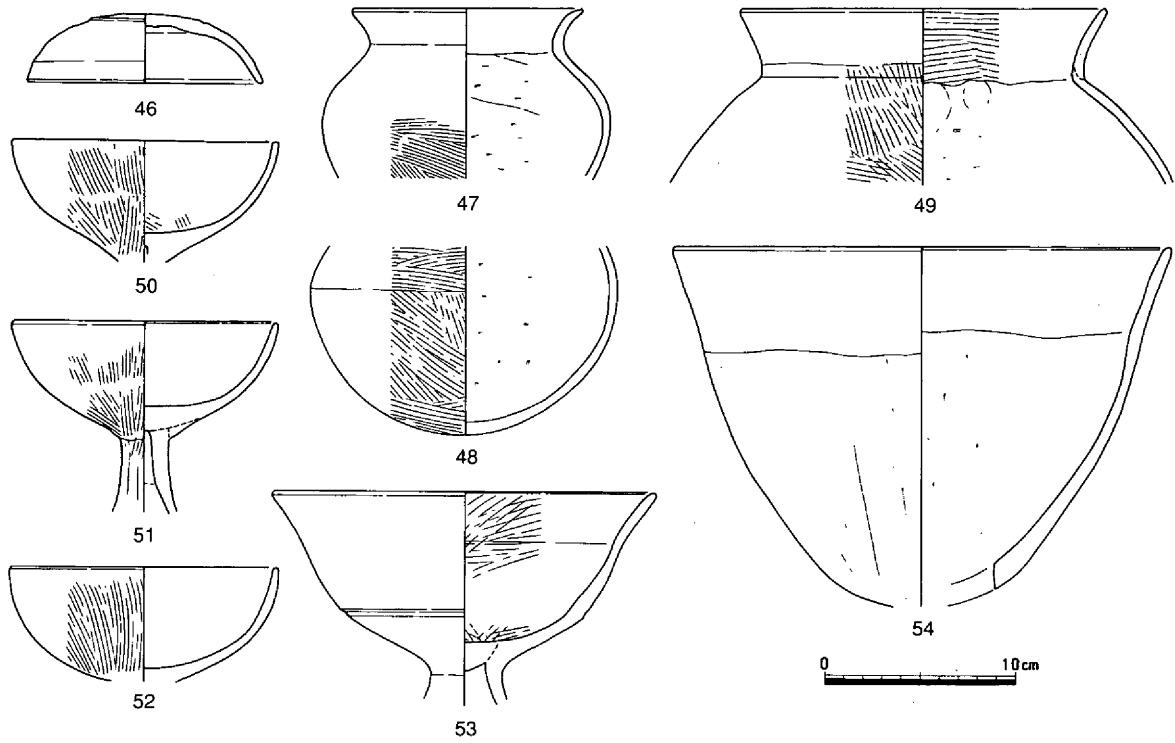
調査区の西端部に位置する。北側は後世の攪乱で削り取られていることから、北側へも集落が広がっていた可能性もある。東側には、竪穴住居や土壇が多数存在しているが、この地区の密度は低い。平面形は方形を呈し、隅は少し丸くなる。全体に上部は削平されている、床面から検出面までの高さは24cmである。大きさは、長辺483cm、短辺433cmで、床面積は17.8㎡を測る。東壁に接して、造り付けのカマドが存在する。上部を削られているため、楕円形の焼土面があり、両側の一部に壁の立ち上がりを認めることができる。カマド内と周辺部に土師器片が散布している。カマドと南東隅付近を除いて、浅い壁帯溝が検出される。支柱穴は4本で、長方形に配置している。

床面と埋土中から、須恵器、土師器、土錘が出土している。須恵器には杯蓋46がある。土師器には、甕と高坏、甑がある。甕47~49には大小あり、外面にハケメ、内面にヘラケズリを施している。高坏には、浅い椀形の杯部のもの50~52と口縁部を外反した深い杯部のもの53がある。甑54は尖りぎみの底部に穿孔している。時期は、古・後・Ⅲに比定される。(正岡)



第18図 竪穴住居 1 (1/60)





第19図 竪穴住居1 出土遺物 (1/4,1/3)

竪穴住居 2 (第16・20図、図版83)

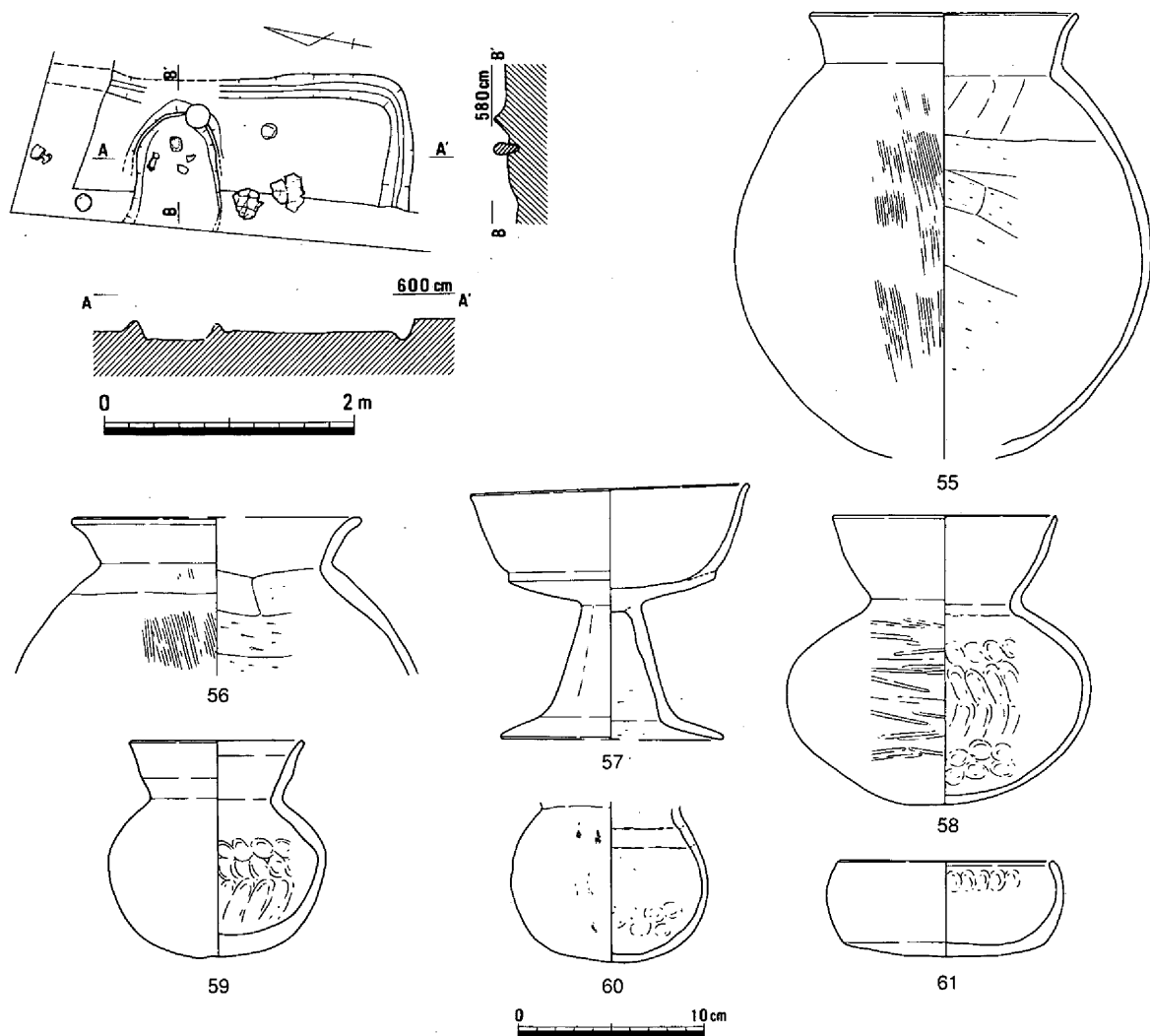
竪穴住居 1 から20mほど東側に位置する。東側には、竪穴住居 3・4 が近接している。本住居は削平が著しく、東側の一部しか残存していない。残存している一辺はほぼ南北方向を示し、南東隅が辛うじて分かる。南東隅から1.5m北寄りにカマドが存在する。U字形の壁が残存し、壁側に近接した位置に細長い石を立てて支え石とした状況が見られる。カマドの内外で土師器が検出された。他には、甕、高坏、直口壺、鉢がある。甕55・56は「く」の字形の口縁部から下膨れの胴部となる。高坏57はやや深めの皿形の杯部に外反した脚部をもつ。直口壺58~60は短く外反する口縁部からほぼ球形の胴部へ移る。鉢61は内湾する口縁部から平底となる。時期は古・中・I に比定される。 (正岡)

竪穴住居 3 (第16・21図)

竪穴住居 2 の10m程東に位置する。上部を削平されていて南側の3分の1を残している。検出面から床面までは5cm程である。平面形は方形を呈する。この一辺の長さは426cmを測る。カマドや壁帯溝は検出されていない。床面付近で土師器の小片を出土しているが詳細な時期はわからない。 (正岡)

竪穴住居 4 (第16・22図、図版1)

竪穴住居 2 の5m程南東へ寄ったところに位置している。上面を削平されているため、検出面から



第20図 竪穴住居 2 (1/60)・出土遺物 (1/4)

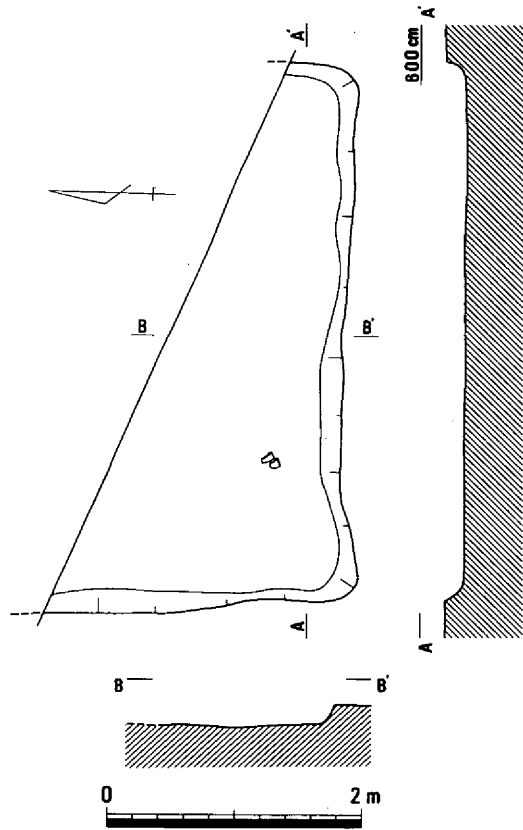
床面までの深さは11cmしかないがほぼ全容を検出することができた。平面形は方形を呈し、一辺の方位はN-88°-Wを示す。細い壁体溝が全周し、カマドは検出されていない。床面の中央部付近に炭化物がまとまったところが見られるが、明瞭な焼土面は確認できない。柱穴は検出できなかった。床面から土師器の高坏片62を検出している。時期は古・前・Ⅲに比定される。(正岡)

竪穴住居 5 (第17・23図、図版1・86)

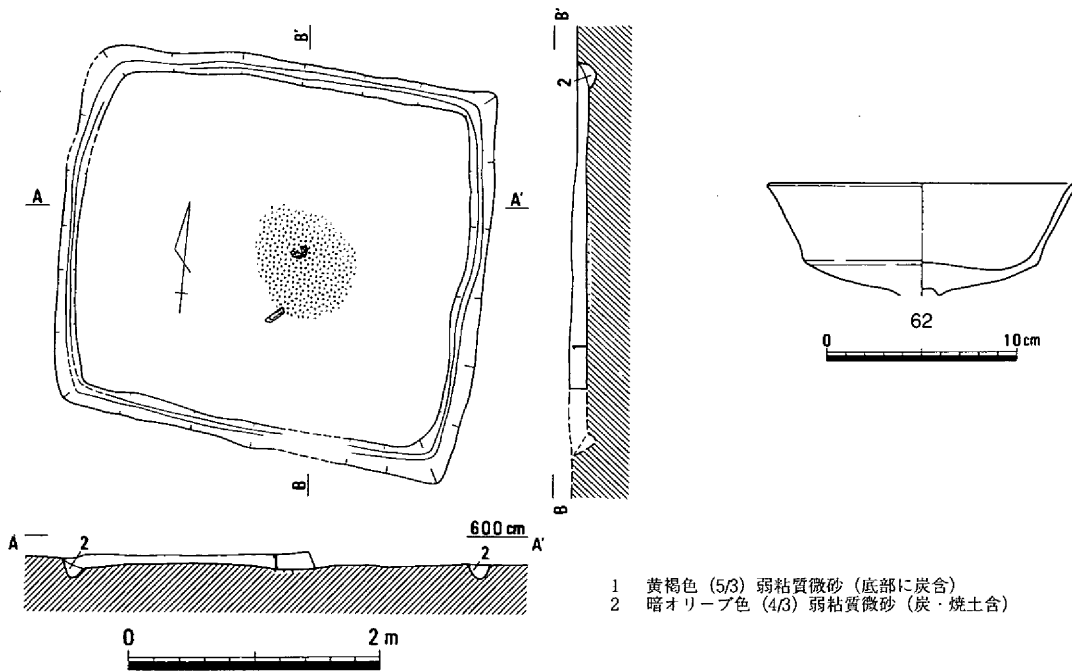
塚廻りCc403区の東南端で検出した平面形が正方形をした竪穴住居である。フロヤ調査区の方形竪穴住居群と一連のものである。柱穴は4本あり、西の壁中央部には造り付けのカマドを持っている。壁体溝はカマド部分を除いてすべて巡る。規模は、一辺553cm、深さ21cmで、床面積は28.7m<sup>2</sup>、床面標高は589cmである。

遺物は、数点の須恵器破片と鉄器が出土している。63は杯蓋で、口径13.0cmである。64は高杯脚部で、長方形透かし孔は二段持つと推定される。65は小形壺の口縁部で、波状文が二段施されている。66は甕の口縁部であろう。67は甕かあるいは横瓶の口縁部である。M2は刀子であろう。

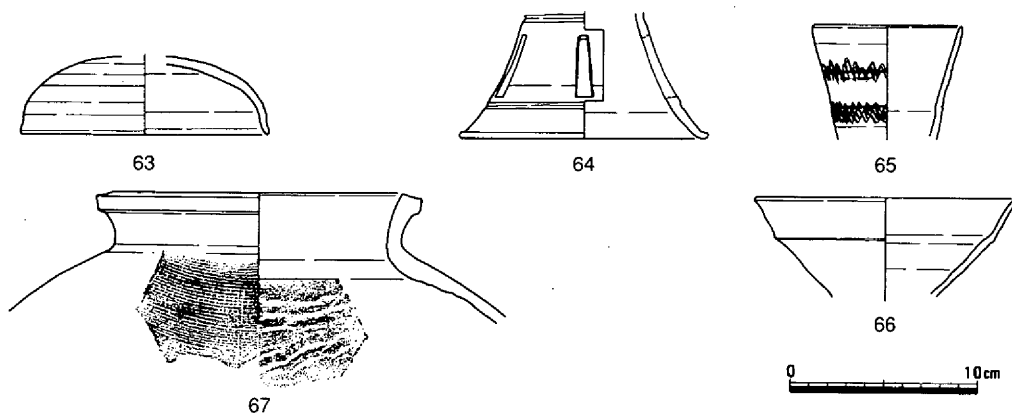
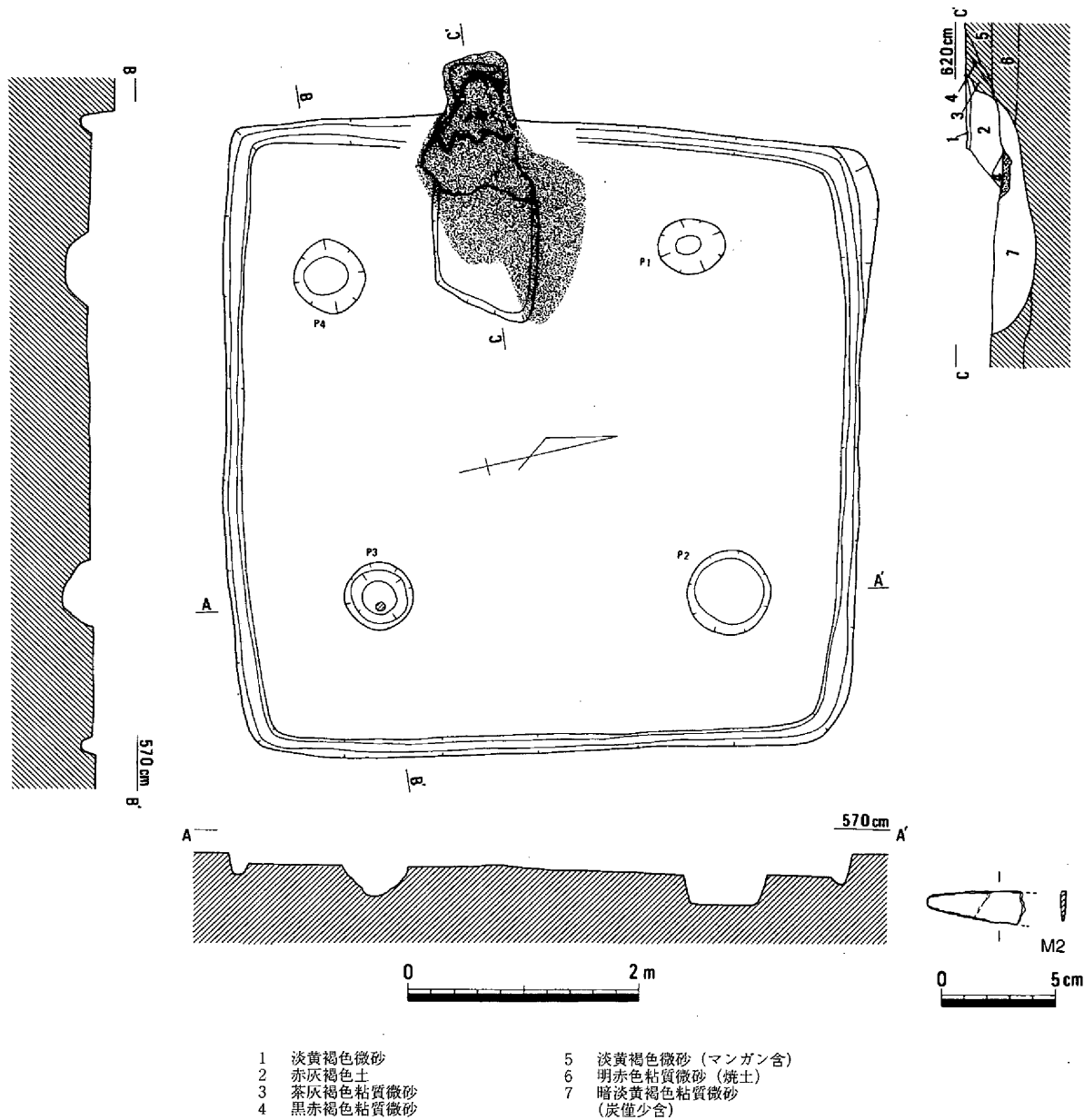
以上の遺物からこの住居の時期は、古・後・Ⅱと考えられる。(浅倉)



第21図 竪穴住居 3 (1/60)



第22図 竪穴住居 4 (1/60)・出土遺物 (1/4)

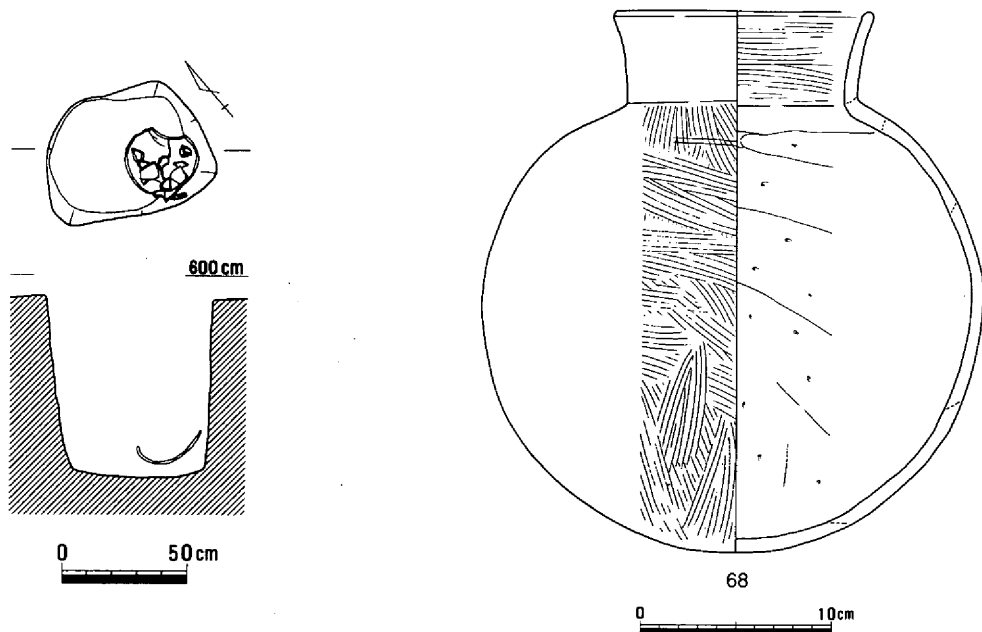


第23図 竪穴住居 5 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

### (3) 井戸

#### 井戸1 (第16・24図、図版83)

竪穴住居1の7m程南東寄りに位置する。周辺には焼成土壌などが見られる。平面形は不正方形を呈し、長さ66cm、幅49cm、深さ73cmを測る。底面はほぼ平坦である。下層から土師器の甕1個体分が出土した。直口する口頸部と球形の胴部からなっている。外面には煤の付着が見られる。(正岡)



第24図 井戸1 (1/30)・出土遺物 (1/4)

### (4) 土壌

#### 土壌1 (第16・25図)

調査区の北寄りに位置し、西側には焼成土壌2が近接している。平面形は楕円形を呈し、南北方向に長い。長さ79cm、幅40cm、深さ7cmを測る。時期は周辺の状況から古墳時代後期に比定される。

(正岡)

#### 土壌2 (第16・26図)

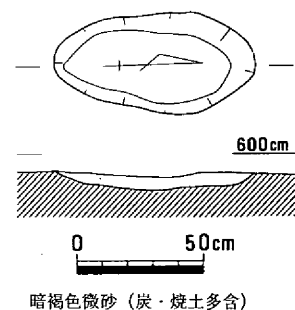
竪穴住居1の南東に近接している。東西方向に長く、長さ151cmを測る。埋土中から土師器の甕片69が出土している。時期は古・前・Ⅲに比定される。

(正岡)

#### 土壌3 (第16・27図)

竪穴住居1の3m東側に位置している。東側には近接して土壌4・5が直線的に並ぶ。平面形は不定形で、長径78cm、短径64cm、深さ27cmを測る。時期は埋土の状況から古墳時代に比定される。

(正岡)



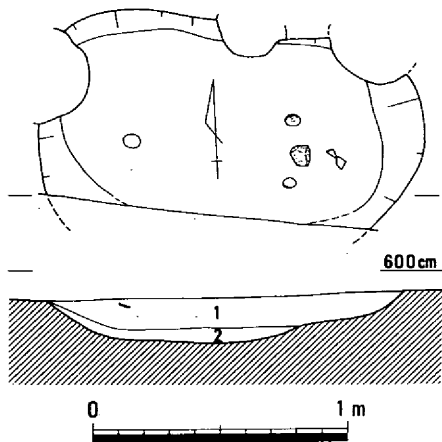
第25図 土壌1 (1/30)

土壙 4 (第16・28図)

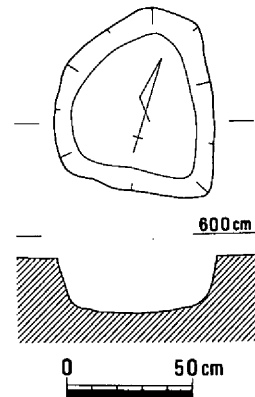
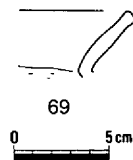
土壙 3 の東に近接し、東側には土壙 5 が所在する。周辺には焼成土壙や井戸がある。平面形は小判形を呈し、長さ110cm、幅68cm、深さ21cmを測る。床面は両側が少しくぼみ、中央部が少し高くなる。埋土中から須恵器の杯蓋片70が出土している。天井部から緩やかに広がり、口縁端部は丸くなる。時期は古・後・Ⅲに比定される。 (正岡)

土壙 5 (第16・29図)

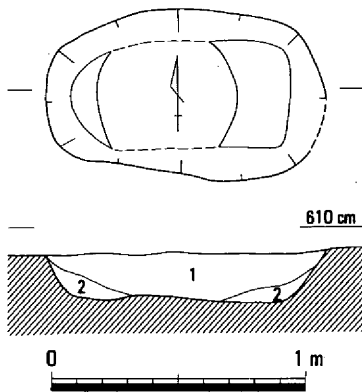
土壙 4 の東側に接している。平面形は不定形を呈する。大きさは、現存長46cm、幅43cm、深さ20cm



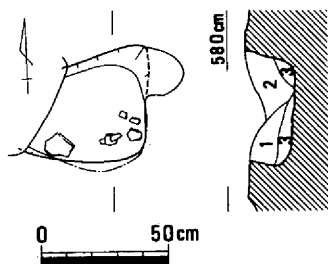
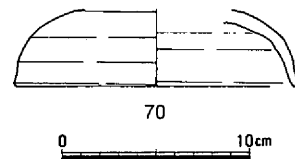
第26図 土壙 2 (1/30)・出土遺物 (1/4)



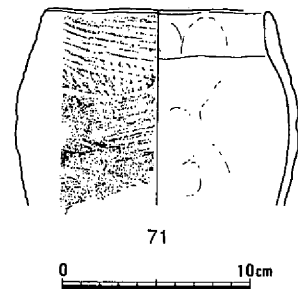
第27図 土壙 3 (1/30)



第28図 土壙 4 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗褐色微砂
- 2 暗赤褐色微砂



第29図 土壙 5 (1/30)・出土遺物 (1/4)

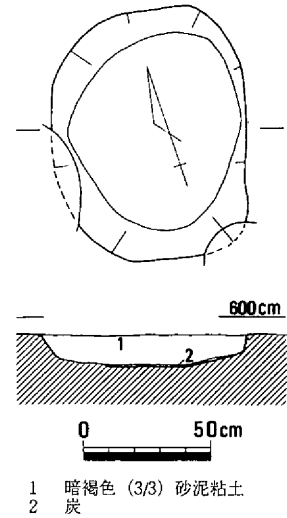


を測る。埋土中から製塩土器71を出土している。時期は古・後・Ⅱに比定される。(正岡)

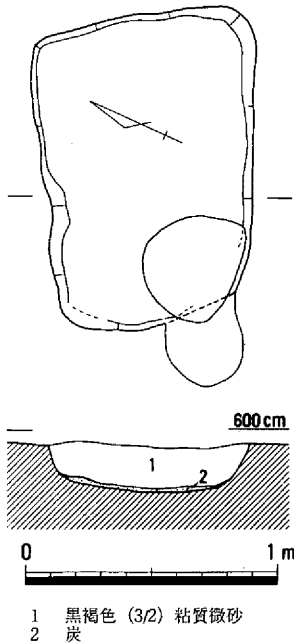
### (5) 焼成土壙

#### 焼成土壙 1～4 (第16・30～33図)

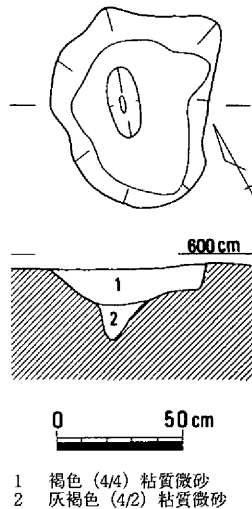
土壙の内面が火を受けていて、床面に灰か炭化物が残存する焼成土壙が4基検出された。焼成土壙1は、井戸1の北東側に近接する。平面形は隅丸方形を呈し、長さ99cm、幅77cm、深さ13cmである。焼成土壙2は、土壙1の西側に接近する。平面形は方形を呈し、長さ126cm、幅86cm、深さ21cmである。焼成土壙3は不定形で、長径76cm、短径62cm、深さ30cmである。焼成土壙4は不定形で、長径75cm、短径62cm、深さ15cmである。これらの焼成土壙は埋土の状況から古墳時代に比定される。(正岡)



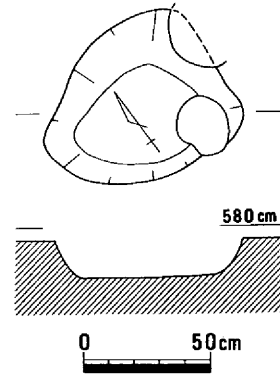
第30図 焼成土壙 1 (1/30)



第31図 焼成土壙 2 (1/30)



第32図 焼成土壙 3 (1/30)

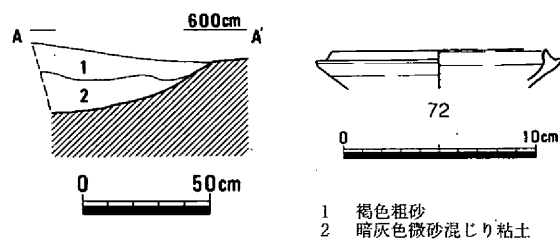


第33図 焼成土壙 4 (1/30)

### (6) 溝

#### 溝 1 (第16・34図)

調査区の南端部に位置し、大部分が調査区域外となっている。形状からすると、ほぼ東西方向を示している。埋土は粗砂ないし微砂混じり粘土で、水の流れていた状況を確認できる。埋土中から須恵器の杯身片72を出土している。時期は、古・後・Ⅲに比定される。(正岡)

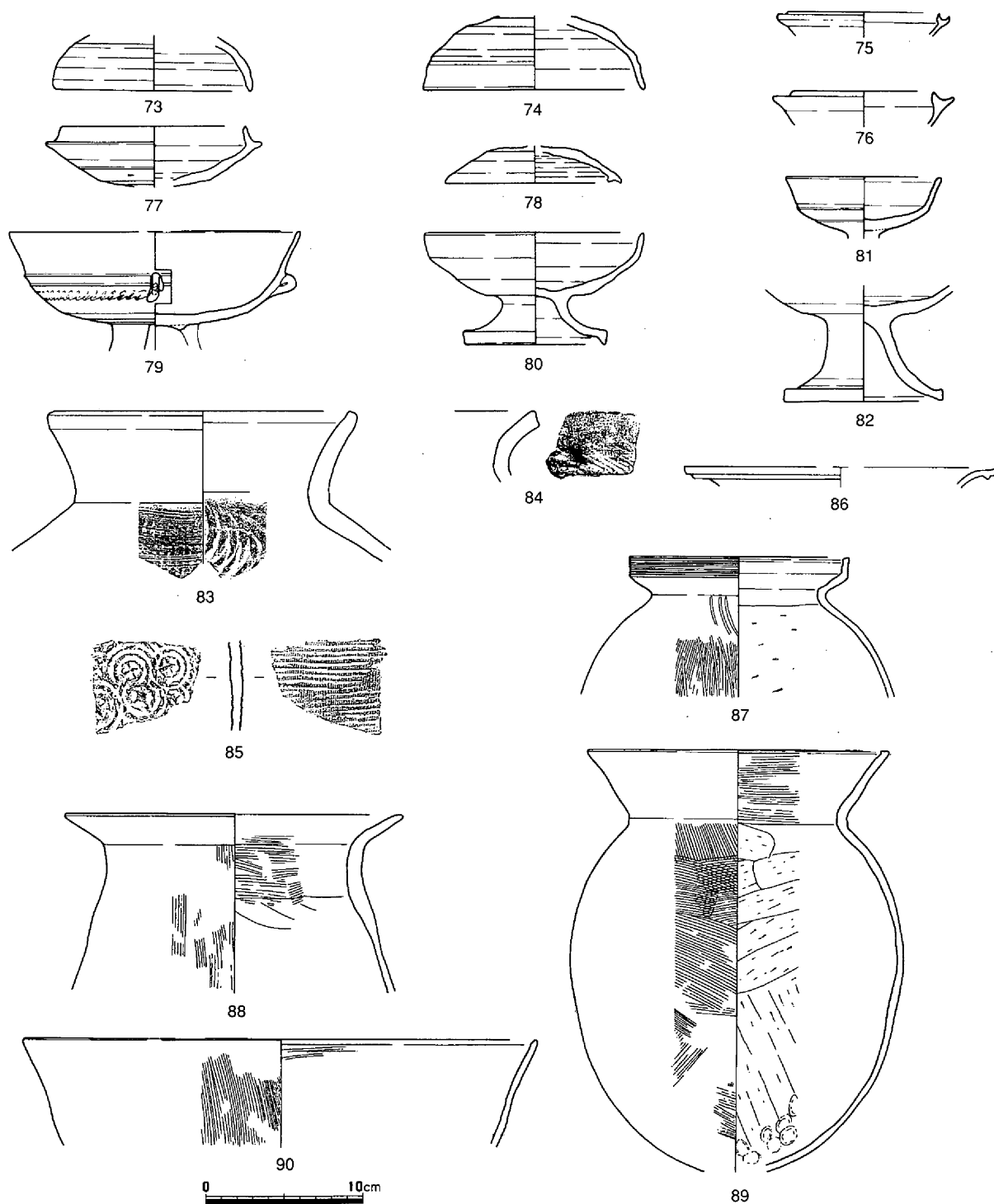


第34図 溝 1 (1/30)・出土遺物 (1/4)

(7) 遺構に伴わない遺物 (第35・36、図版87・89)

古墳時代の遺構を検出中、ないしは包含層中より出土した遺物には須恵器・土師器や土錘、石製模造品、ガラス玉などがある。出土量は決して多くないものの古墳時代前期から7世紀代(飛鳥時代)にかけての遺物がみられる。

須恵器には、73~85がある。このうち蓋杯類には、立ち上がりをもつ杯の蓋73・74と杯身75~77、

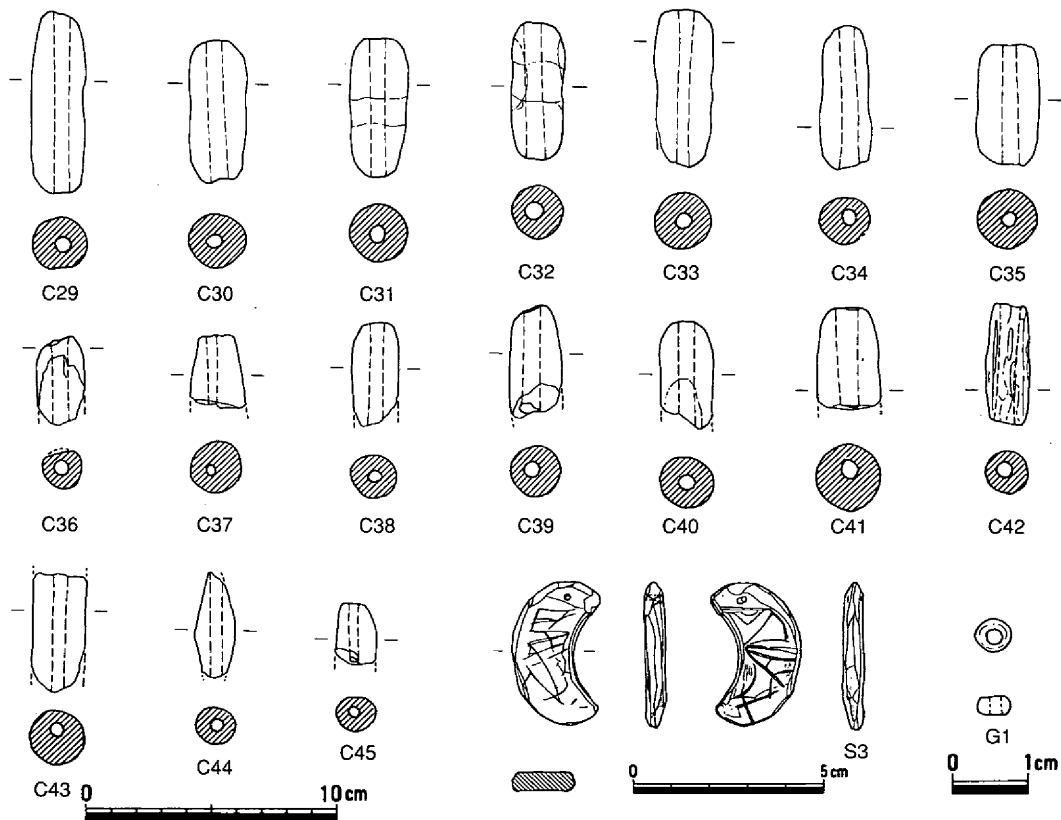


第35図 遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ① (1/4)

天井部につまみが付き内面に返りをもつ杯の蓋**78**がある。これらは、いずれも天井部や底部がヘラ切り後未調整である。陶邑編年のTK209~217型式に相当しよう。高杯には、短脚で無蓋の**79**がある。長方形の透かしが、3方に開く。杯部外面には把手がつき、また杯部外面では2条の稜線の直下に波状文を施しており、色調がセピア色を呈する。陶邑編年のTK208型式と考えられる。同じく無蓋高杯でも**80**の杯部は椀状を呈す。**81**は杯Gの底部に脚部がつくような形態をとる。これらはやや時期が下り、TK217型式に相当しよう。また、脚部片**82**も同様の時期と思われる。

甕**83~86**のうち、小形の破片**86**は端部が玉縁状をなし、その直下に突線を垂下させる。TK208型式に相当しよう。また、体部片**85**では、内面に車輪文の当具痕がみられる。時期は、口縁部片**83・84**ともに7世紀代であろう。土師器では、上部に拡張した口縁部の外面に櫛描き沈線を施す吉備型甕**87**や長胴で頸部のすぼまりが少なく、そこから強く外反する口縁部をもち、端部が丸く終わる**88**、さらに、卵形の体部をもち長く外反する口縁部をもち、端部を内側に肥厚させる**89**があり、底部内面には指頭圧痕が残る。**90**は口径から甑と考えられるが、器壁がかなり薄い。時期は、**87・89**が前・IIに属し、**88・90**は後・IIころとみられる。土器以外にも土製品、石器、石製品などがみられた。土錘は、図示した**C29~45**以外にも出土している。古墳時代の竪穴住居1からは30個体程の土錘が出土しており、これらも住居検出中およびその周辺からの出土で、古墳時代のものと思われる。**S3**は蛇紋岩製の模造品勾玉である。長さが39.0mm、幅が17.0mmで、最大厚が6mmを測る。両側面には、直線と弧文によって構成された文様が掘られている。ガラス玉**G1**は、直径が4.2mmで、孔径1.7mmを測る。色調がコバルトブルーを呈し、重さは0.07gを測る。

以上のように古墳時代の遺物には、中期のものと7世紀代の2者に分けられた。 (弘田)

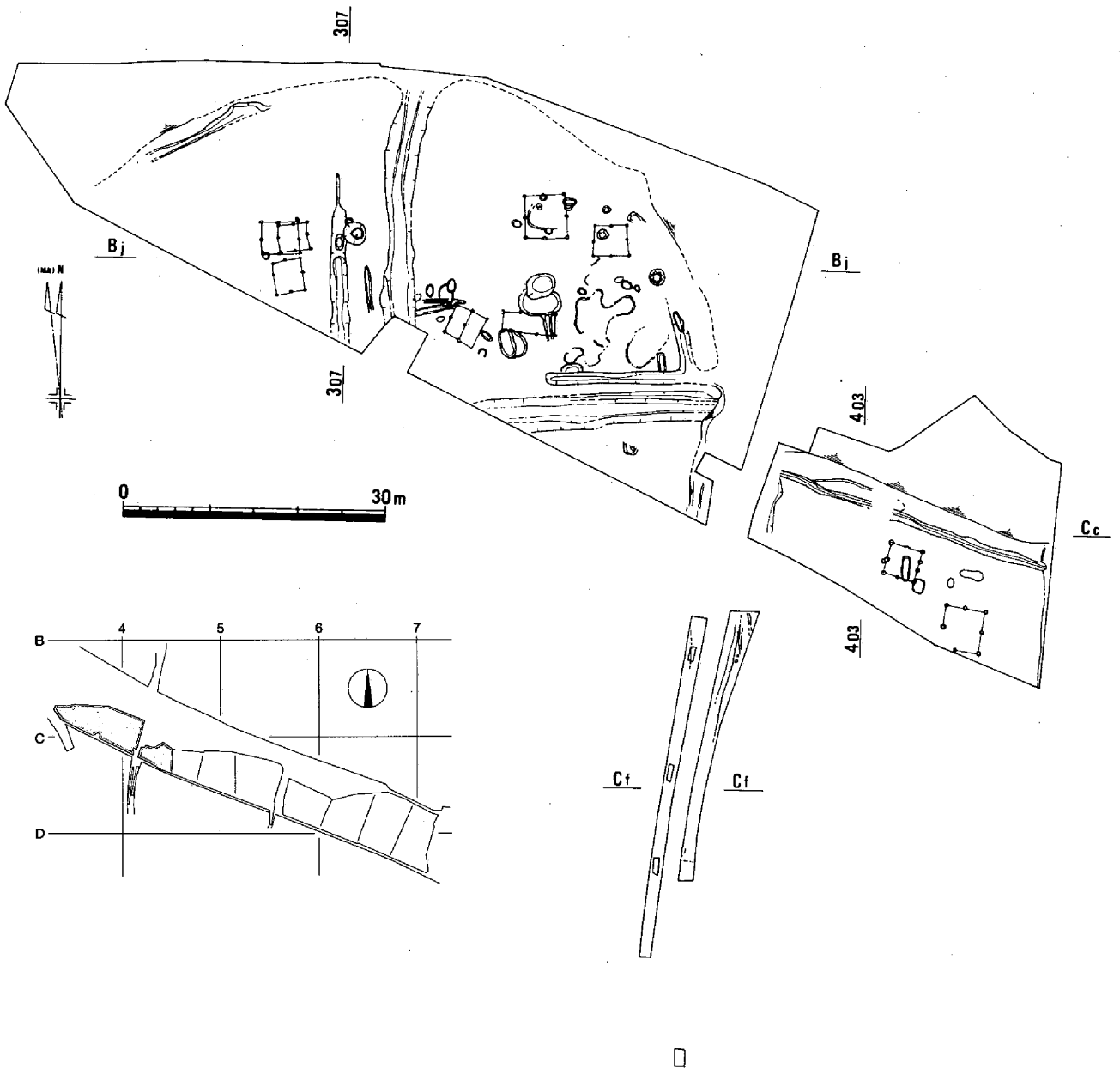


第36図 遺構に伴わない遺物(古墳時代)②(1/3,1/2,1/1)

## 4 古代～中世の遺構と遺物

### (1) 概要

東西に長い微高地の西端部に位置し、東西および南北方向の溝で区画された中で、多数の遺構を検出した。北側は古い時代に削り取られたもので、北端部でもある。区画内には、掘立柱建物9棟、井戸2基、土塋、焼成土塋などがあり、遺物の量も多い。区画ごとに見ると、数棟の建物と井戸1基が構成要素となっている。西から2つ目の区画で土塋墓1基を検出した。井戸は2基とも石組みである。多数の土塋があり、埋土中に土器類の入ったものもある。時期的には、鎌倉時代に属するものが多く、室町時代のものもある。(正岡)



第37図 塚廻り調査区中世主要遺構全体図① (1/750)



第38図 塚廻り調査区中世主要遺構全体図② (1/300)

## (2) 掘立柱建物

### 掘立柱建物 1 (第38・39図)

調査区の西端部に位置し、南北方向の溝4によって区画され、3棟の建物跡が重複または近接している。2×2間の建物で、棟方向はN-87°-Wを示している。規模は、桁行432~435cm、梁間381~384cm、面積16.3m<sup>2</sup>測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形で、2個が重複しているものが5か所見られることから、建て替えが行われたものと判断される。時期は中世に比定される。(正岡)

### 掘立柱建物 2 (第38・40図)

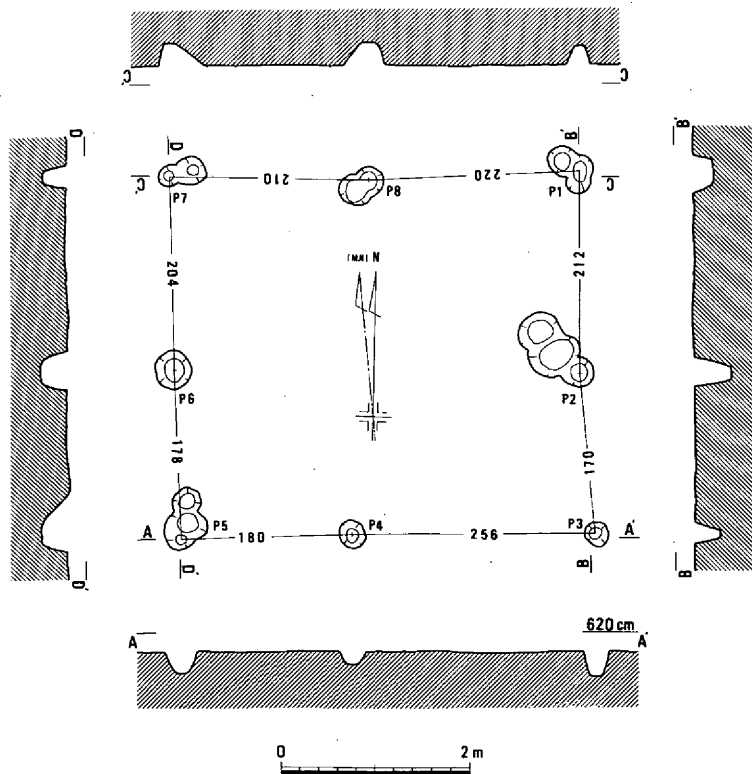
掘立柱建物1と重複し、少し東へ寄っている。2×2間の建物で、棟方向はN-88.5°-Eを示している。調査中には確認できなかったもので、図面整理中に建物にまとめることができたものである。規模は、桁行337~350cm、梁間312~314cm、面積10.8m<sup>2</sup>を測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形である。時期は中世に比定される。(正岡)

### 掘立柱建物 3 (第38・41図)

掘立柱建物1の南に近接している。その間隔は1m程で、同時に存在した可能性もある。2×2間の建物で、棟方向はN-1.5°-Eを示している。調査中には確認できなかったもので、図面整理中に建物にまとまることを確認したものである。規模は、桁行312~327cm、梁間312~327cm、面積12.7m<sup>2</sup>を測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形である。時期は中世に比定される。(正岡)

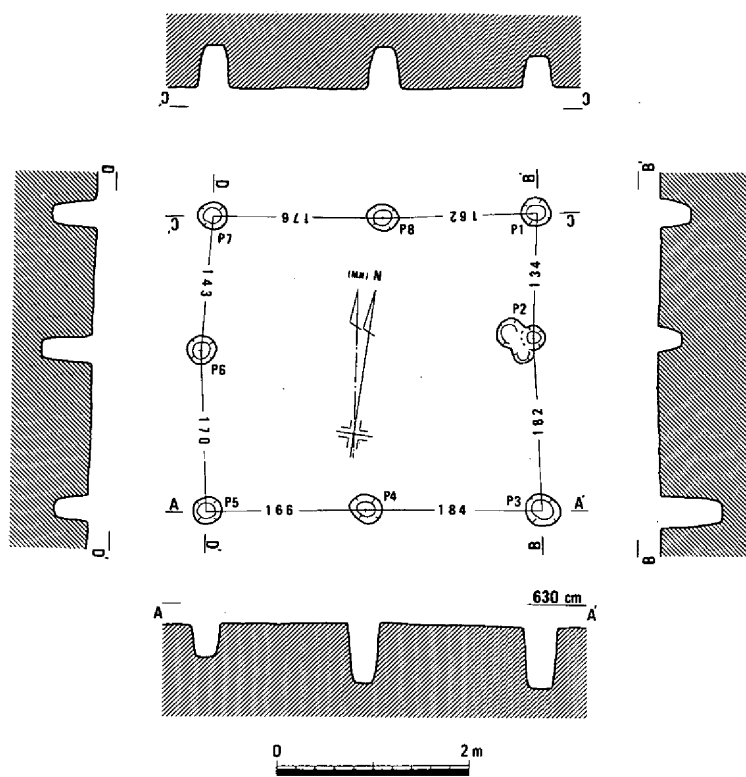
### 掘立柱建物 4 (第38・42図)

溝で区画された西から2つ目の区画の北部に位置する。2×2間の総柱建物で、棟方向はN-4°-Eを示している。調査中に確認できなかったもので、図面整理中に建物にまとまることを確認したも

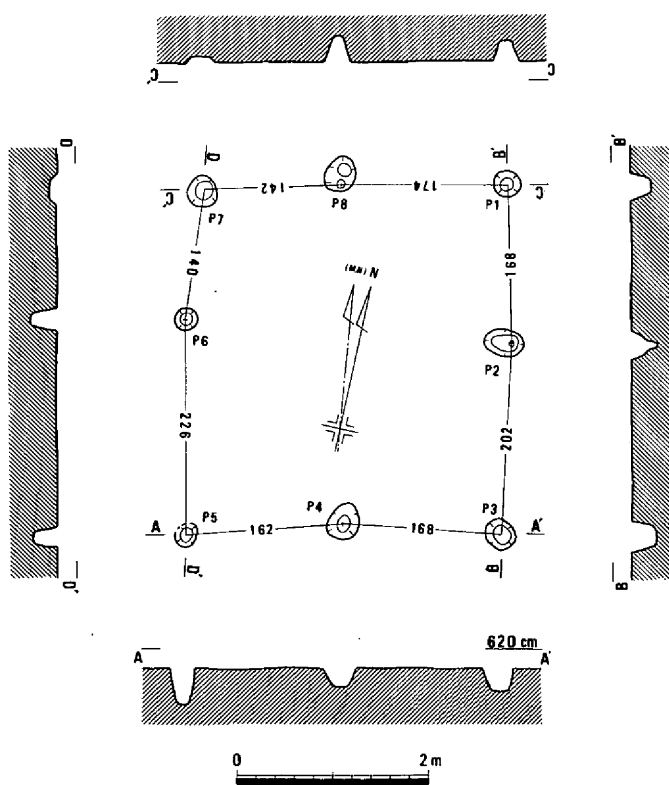


第39図 掘立柱建物 1 (1/80)





第40図 掘立柱建物 2 (1/80)



第41図 掘立柱建物 3 (1/80)

のである。規模は、桁行484~507cm、梁間467~472cm、面積23.9m<sup>2</sup>を測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形である。中央部の柱穴は少し北側にずれた位置にある。時期は中世に比定される。(正岡)

#### 掘立柱建物 5 (第38・43図)

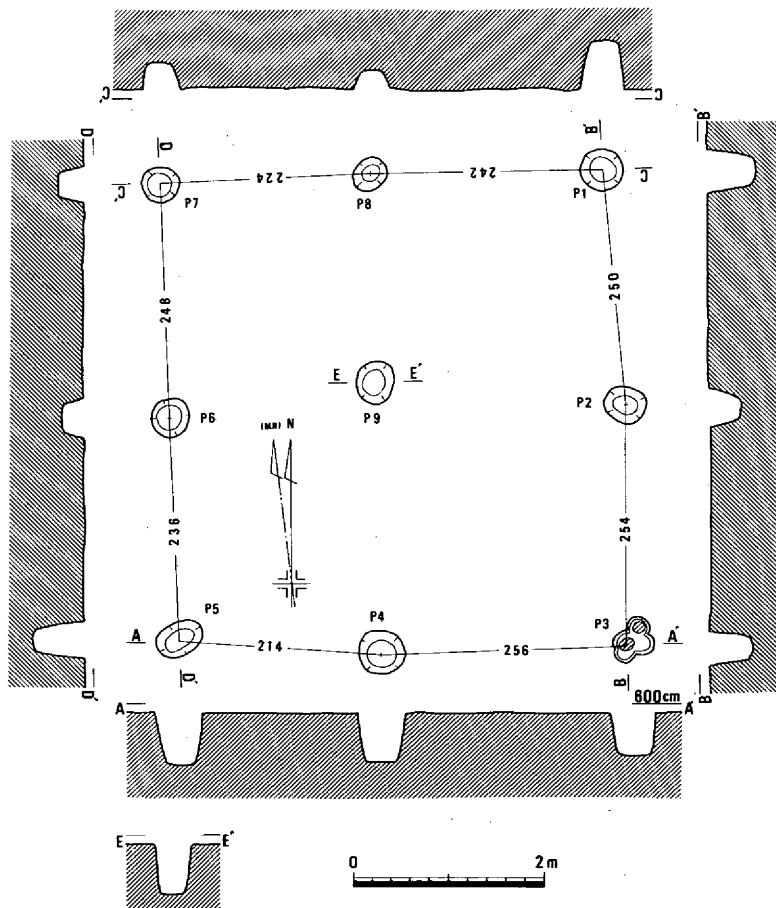
掘立柱建物 4 の東南側 3 m に位置する。2 × 2 間の総柱建物で、棟方向は N-83°-W を示している。調査中に確認できなかったもので、図面整理中に建物にまどまることを確認したものである。規模は、桁行 375~400 cm、梁間 361~364 cm、面積 13.6 m<sup>2</sup> を測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形である。中央部の柱穴と側柱に線上から少しずれたものもある。時期は中世に比定される。(正岡)

#### 掘立柱建物 6 (第38・44図)

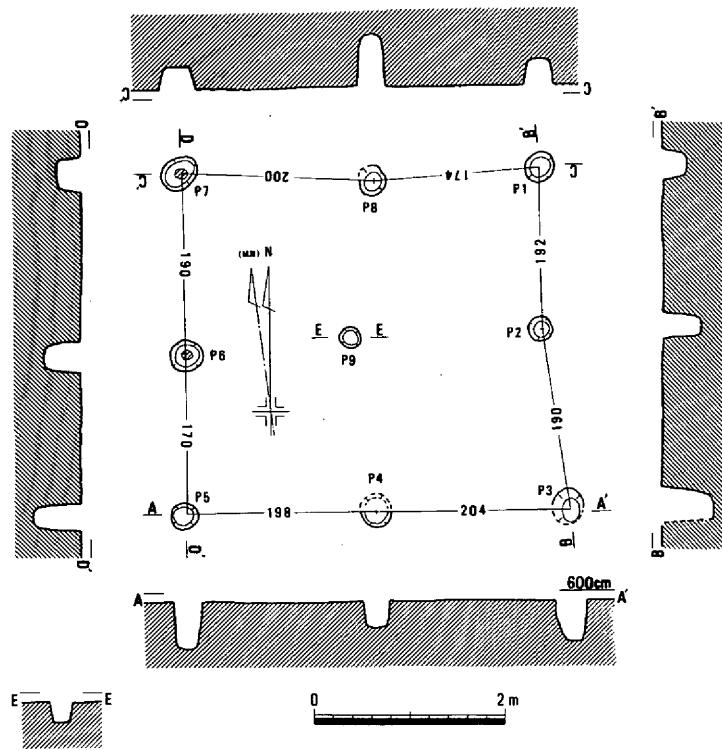
掘立柱建物 4 の南西 10 m 程のところであり、南北方向の区画溝に近い。2 × 2 間の総柱建物で、棟方向は N-83.5°-W を示している。同じ区画内にあるほかの 3 棟とは、棟方向が少しずれている。調査中に確認できなかったもので、図面整理中に建物にまどまることを確認したものである。規模は、桁行 386 cm、梁間 336~398 cm、面積 13.7 m<sup>2</sup> を測る。柱穴の掘り方は、いずれも円形である。側柱に少しずれるものがあり、南東隅の柱穴は未確認である。時期は中世に比定される。(正岡)

#### 掘立柱建物 7 (第38・45図)

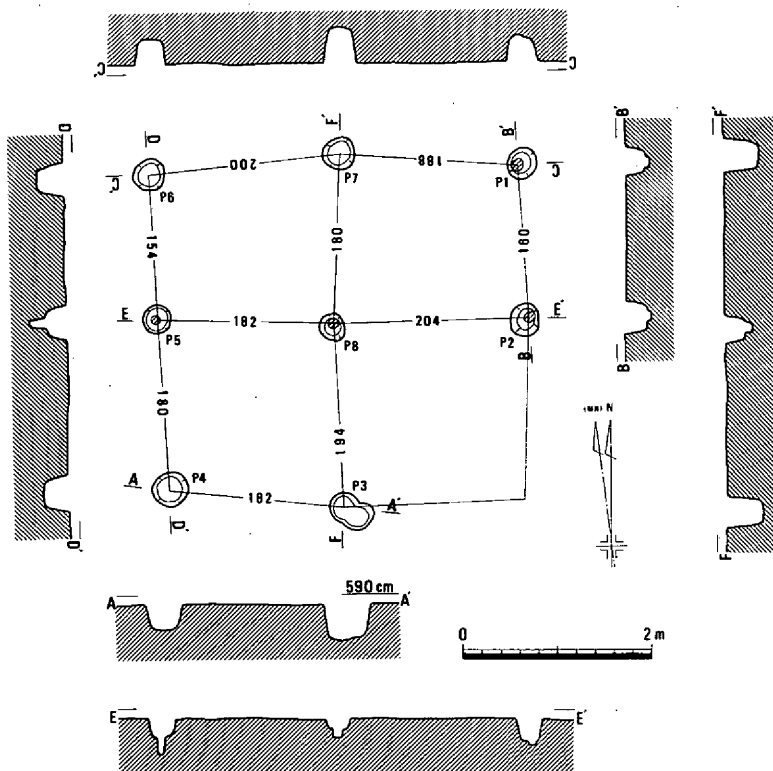
掘立柱建物 6 の東側に近接している。区画内のほかの 3 棟は、ほぼ正方形を呈するが、長方形の建物である。3 × 1 間の建物で、棟方向は N-84°-W を示している。図面整理中に確認したものである。規模は、桁行 601~604 cm、梁間 222~250 cm、面積 14.5 m<sup>2</sup> を測る。柱穴の掘り方は円形で、下部に柱



第42図 掘立柱建物 4 (1/80)



第43図 掘立柱建物 5 (1/80)



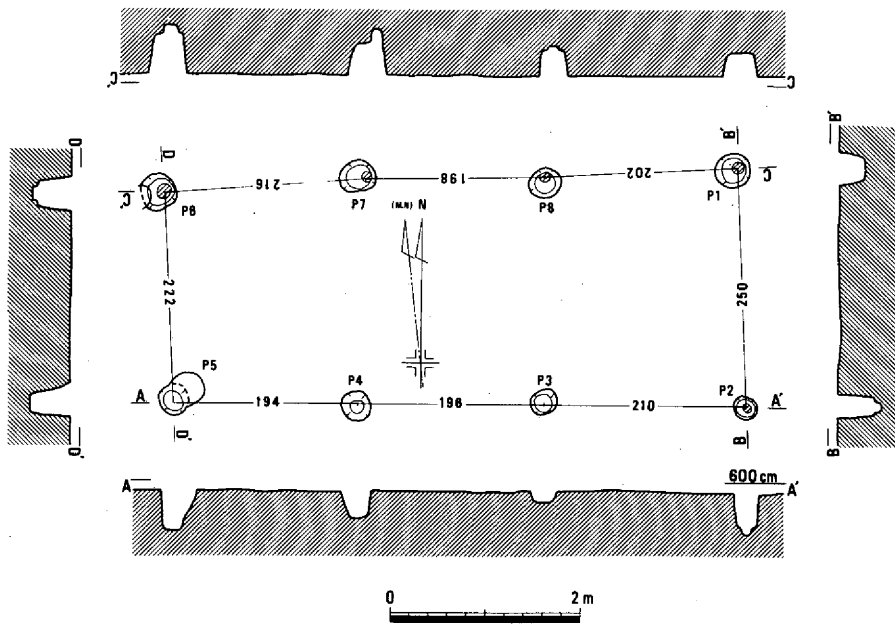
第44図 掘立柱建物 6 (1/80)

の沈んだ痕が検出された。時期は中世に比定される。

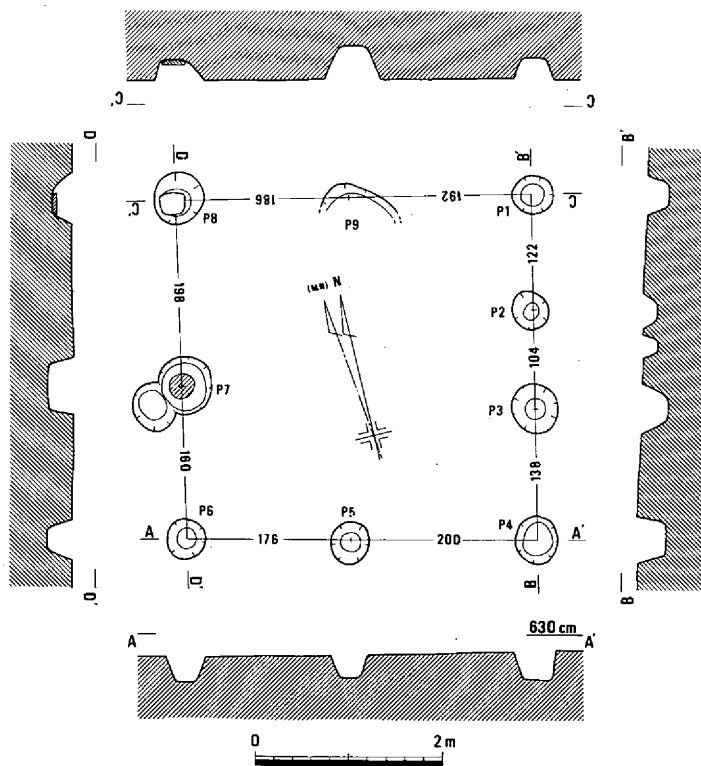
(正岡)

掘立柱建物 8 (第38・46図、図版2・19)

Cc403区北西部で検出したほぼ正方形の建物である。基本的には2×2間であるが、一部3間のところもある。棟方向は、N-77°-Wである。規模は、桁行376~370cm・梁間364~357cmで、面積



第45図 掘立柱建物 7 (1/80)

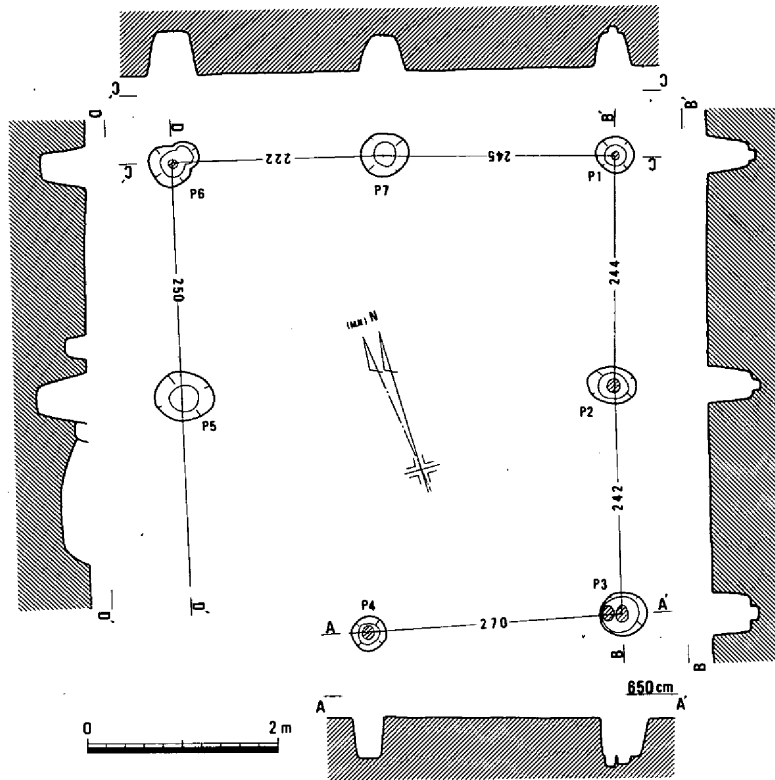


第46図 掘立柱建物 8 (1/80)

13.6m<sup>2</sup>を測る。

遺物は出土していないが、土層観察から中世のものと考えたい。

(浅倉)



第47図 掘立柱建物 9 (1/80)

掘立柱建物 9 (第38・47図)

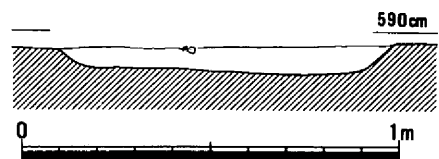
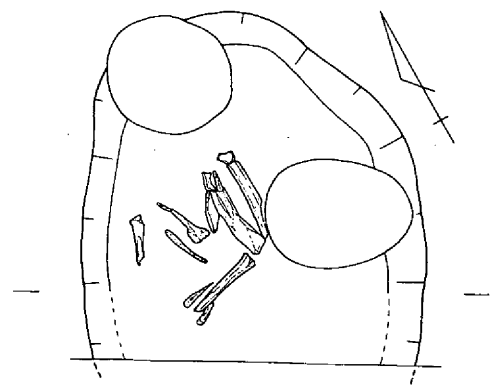
塚廻りCc403区中央部で検出したほぼ正方形の建物である。2×2間であるが、南西隅の柱穴が未検出である。棟方向は、N-16°-Wである。規模は、桁行482cm、梁間465cmで、面積22.8m<sup>2</sup>を測る。柱痕跡の残っている柱穴が多い。

遺物は出土していないが、土層観察から中世のものと考えたい。(浅倉)

(3) 土墳墓

土墳墓 1 (第38・48図)

区画内の南西隅に近く、掘立柱建物 6 に近い。南側の一部を切り取られ、後の柱穴も入っていたりして、保存状態はよくない。現状は楕円形を呈し、現存長98cm、幅91cm、深さ 8 cm、主軸N-30°-Wを測る。床面で若干の骨を検出した。時期は中世と推定される。(正岡)



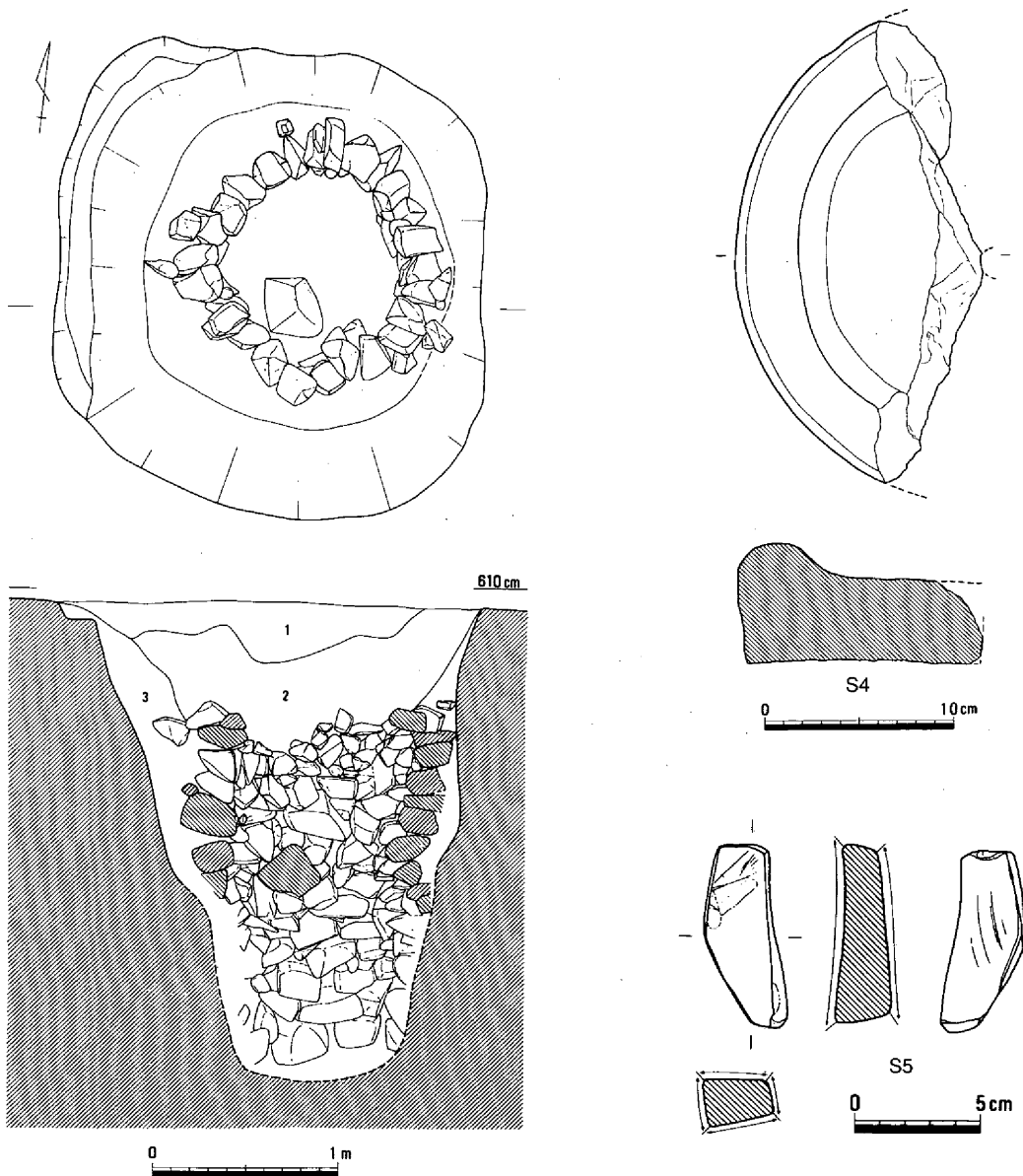
暗褐色 (3/3) 粘質微砂 (マンガン僅少含)

第48図 土墳墓 1 (1/20)

(4) 井戸

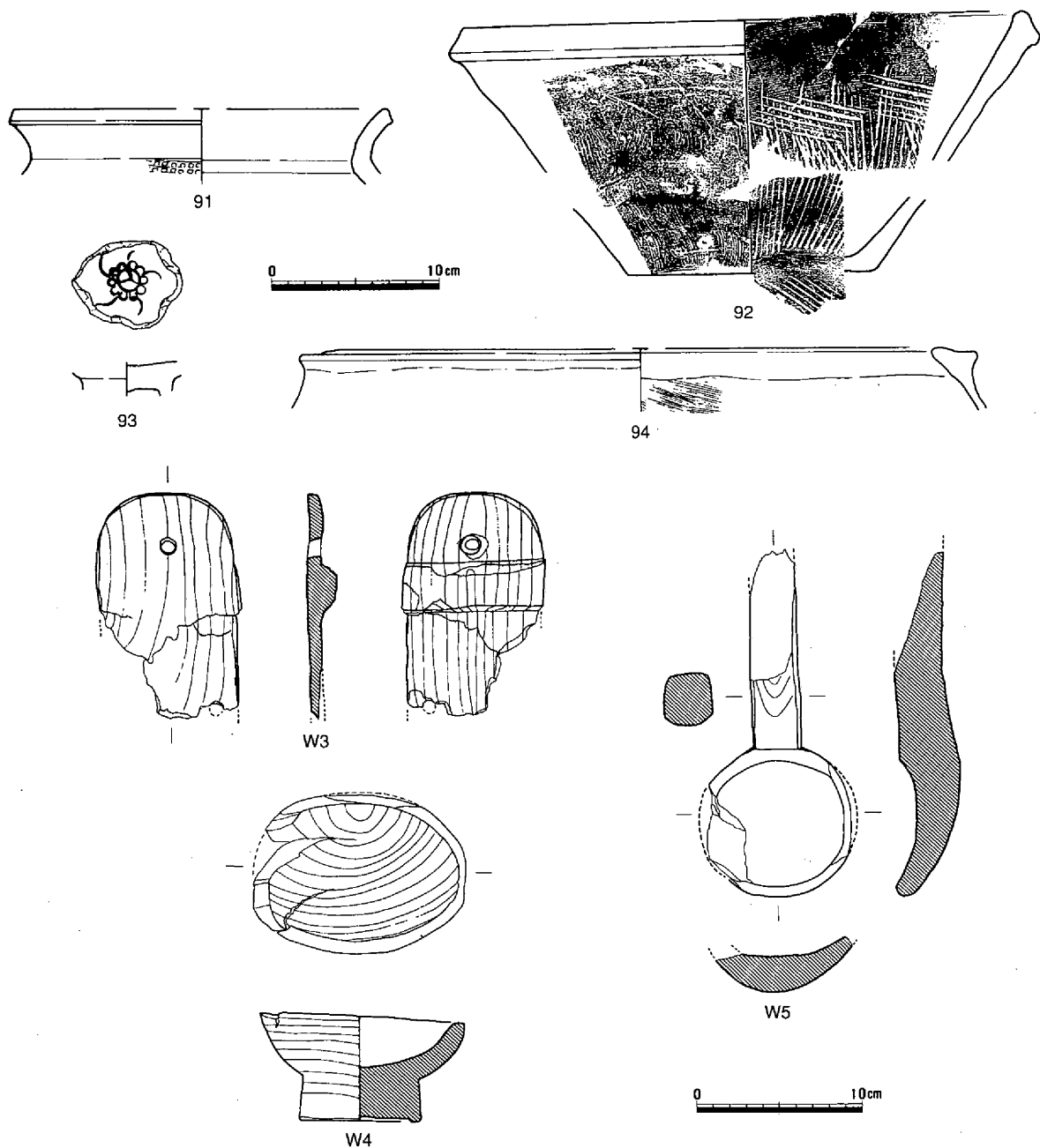
井戸 2 (第38・49・60図)

溝で区画された最も西側の区画において、井戸1基を検出した。掘立柱建物1と南北方向の溝4の中間に位置する。上部は崩れているが、下部の石組みが残存していた。最下部については出水のため、詳細な調査はできなかった。掘り方の平面形は隅丸方形を呈している。大きさは、長径246cm、短径225cm、深さ255cmを測る。石組みは円筒形に積み上げていて、存在していた上面の直径は90cmである。石材は小形の垂角礫を使用している。埋土中からは、土器、石製品、木製品が出土している。土器には、亀山焼の甕91、播鉢92、青磁碗93、瓦質土器の羽釜94がある。石製品には、石臼S4、砥石S5がある。木製品には、下駄W3、椀W4、杓子W5がある。時期は室町時代に比定される。(正岡)



1 青灰色微砂粘土混じり微砂 2 灰色(4/1)粘質土(礫群) 3 暗青灰色微砂混じり粘土

第49図 井戸 2 (1/40)・出土遺物① (1/3)



第50図 井戸2出土遺物② (1/4,1/3)

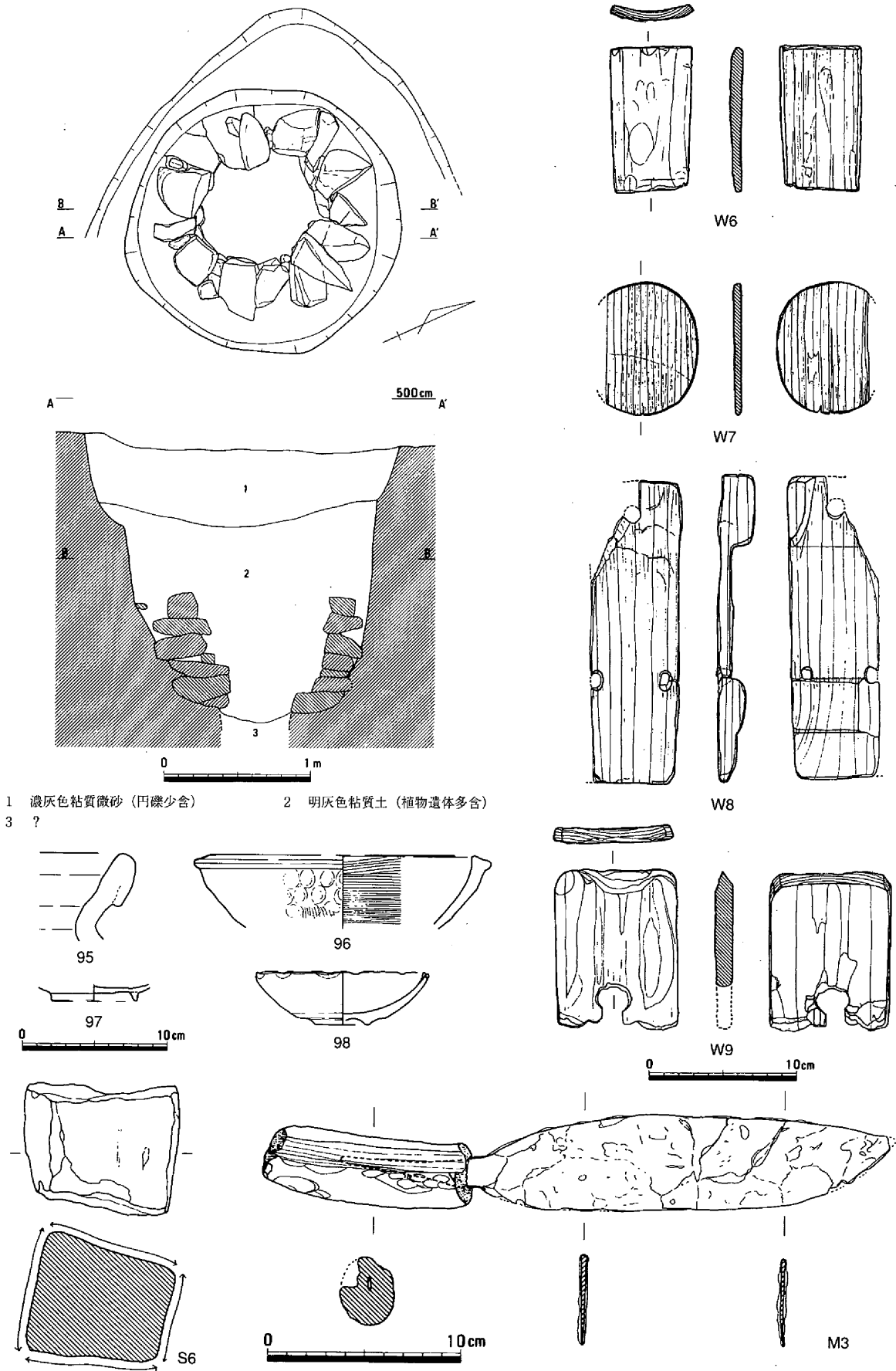
井戸3 (第38・51図、図版2・86・88・89)

Bj400区北西で検出した円形石組みの井戸である。検出面から約1m程度は石組みは破壊されていた。掘り方の大きさは、直径190~180cm、深さ190cmを測ることができた。石組みの石は花崗岩の割り石である。井戸の内径は上端で90cm、下端で40cmである。

井戸内部から出土した遺物は、陶磁器類、出刃包丁、砥石、木器が多数ある。95は灰赤色を呈する備前焼の甕である。96は亀山焼のこね鉢である。97は土師器で、高台付きの皿である。98は唐津焼の小皿で、口縁は輪花になっている。S6は4面使用した砥石である。M3は木の柄のついたままの出刃包丁である。W6は桶の側板、W7は桶の底板である。W8は下駄、W9は桶持ち手である。

以上の遺物と遺構の形態からこの井戸の使われた時期は、室町時代以降であろう。(浅倉)





1 濃灰色粘質微砂 (円礫少含)      2 明灰色粘質土 (植物遺体多含)  
3 ?

第51図 井戸3 (1/40)・出土遺物 (1/3,1/4)

(5) 土壇

土壇 6 (第38・52図)

西端の区画内にあり、井戸2によって南端を切られている。平面形は不整円形を呈し、大きさは、現存長95cm、幅89cm、深さ10cmを測る。埋土中に焼土塊を含んでいる。時期は中世に比定される。

(正岡)

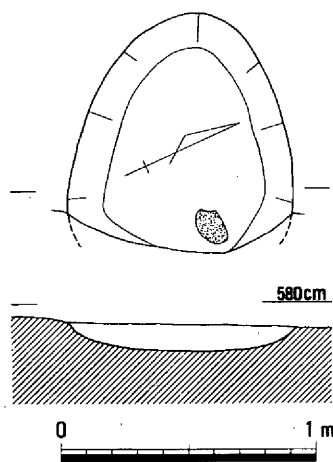
土壇 7 (第38・53図)

西端の区画内にあり、掘立柱建物2の南西隅の柱穴で一部を切り取られている。平面形はほぼ方形を呈し、長さ約80cm、幅77cm、深さ12cmを測る。底部は浅い皿状を呈する。底面には炭化物が見られる。時期は中世に比定される。

(正岡)

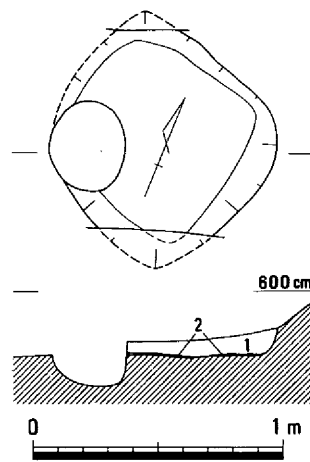
土壇 8 (第38・54)

西から2つ目の区画にあり、南北方向の区画溝4に近接したところに土壇がまとまっている。この

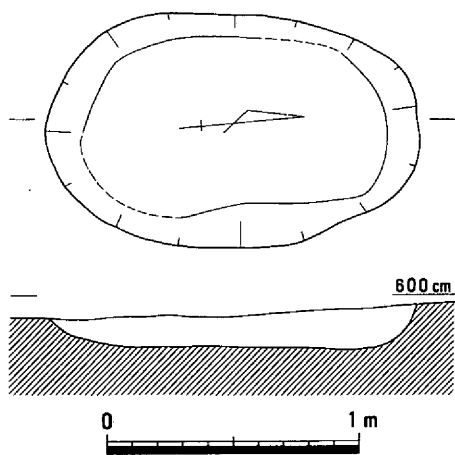


第52図 土壇 6 (1/30)

灰褐色微砂

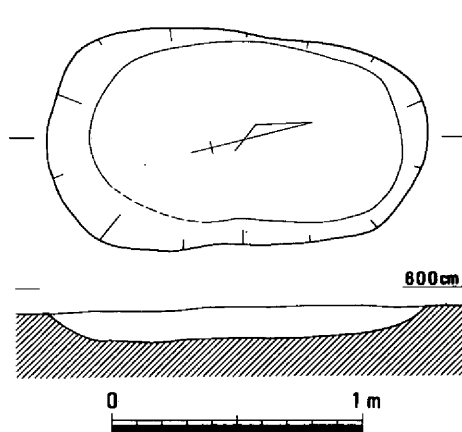


第53図 土壇 7 (1/30)



第54図 土壇 8 (1/30)

灰褐色微砂



第55図 土壇 9 (1/30)

灰褐色微砂

土壙も溝4に近接している。平面形は楕円形を呈し、長径147cm、短径93cm、深さ18cmを測る。底部は皿状である。時期は中世に比定される。(正岡)

**土壙9 (第38・55図)**

西から2つ目の区画内にあり、南西寄りに位置している。土壙8の東側にあり、土壙10の一部を切っている。平面形は小判形を呈し、長径152cm、短径90cm、深さ13cmを測る。長軸は南北方向を示し、底部は皿状を呈する。

時期は中世に比定される。

(正岡)

**土壙10 (第38・56図)**

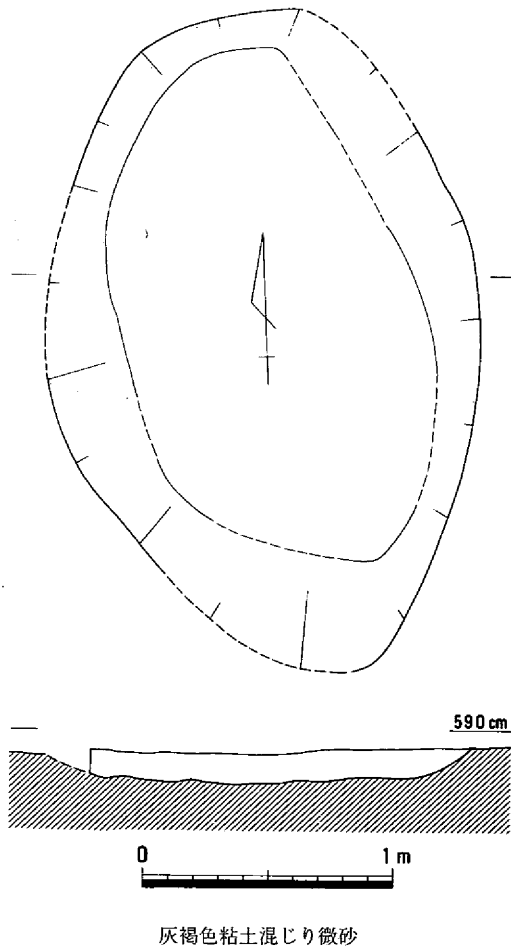
西から2つ目の区画内にあり、南西寄りに位置している。土壙8の東側に近接し、北東の一部は土壙9によって切られている。平面形は不整楕円形を呈し、長径264cm、短径179cm、深さ12cmを測る。底部は皿状である。埋土中からは、土師器の高台付椀99~101が出土した。高台の断面は正三角形を呈し、退化した新しい時期を示している。時期は鎌倉時代に比定される。

(正岡)

**土壙11 (第38・57図)**

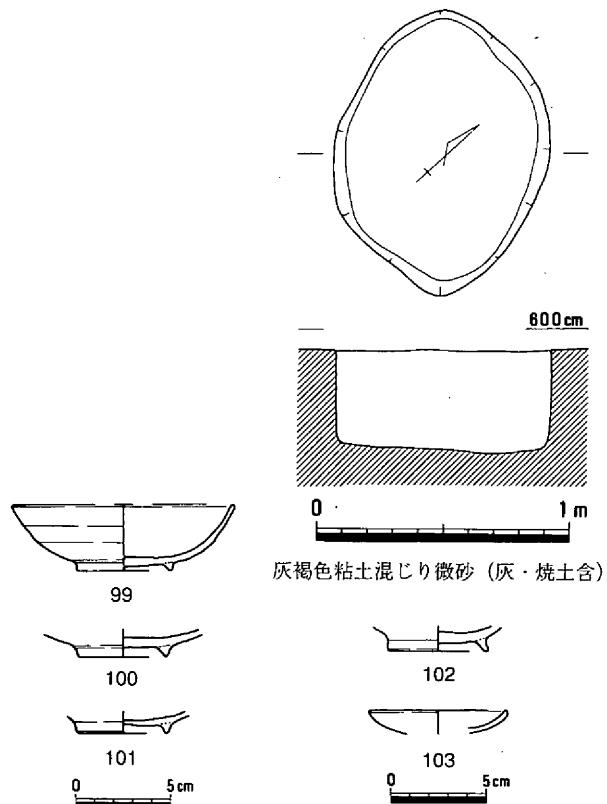
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の西側に近接している。平面形は不整楕円形を呈し、長径114cm、短径85cm、深さ41cmを測る。壁は垂直に掘り込み、底面は平坦である。埋土中から土師器の高台付椀102と皿103が出土した。時期は鎌倉時代に比定される。

(正岡)



灰褐色粘土混じり微砂

第56図 土壙10 (1/30)・出土遺物 (1/4)



灰褐色粘土混じり微砂 (灰・焼土含)

第57図 土壙11 (1/30)・  
出土遺物 (1/4)

土壙12 (第38・58図)

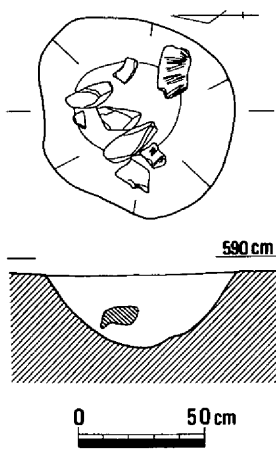
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の中に位置している。平面形は不整円形を呈し、長径87cm、短径78cm、深さ30cmを測る。断面は椀形である。埋土中からは、亀山焼の片口播鉢104と石が出土した。時期は室町時代に比定される。(正岡)

土壙13 (第38・59図)

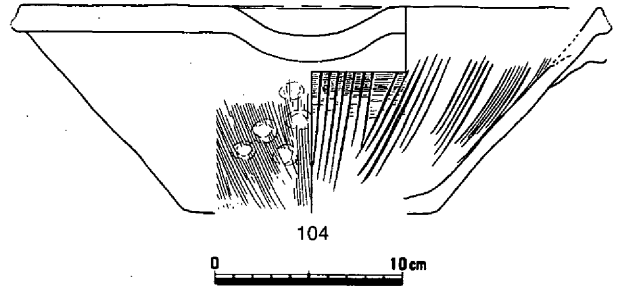
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の北東隅付近で一部重複する位置に所在する。南側の焼成土壙7を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、長径164cm、短径90cm、深さ35cmを測る。断面は椀形である。時期は中世に比定される。(正岡)

土壙14 (第38・60図)

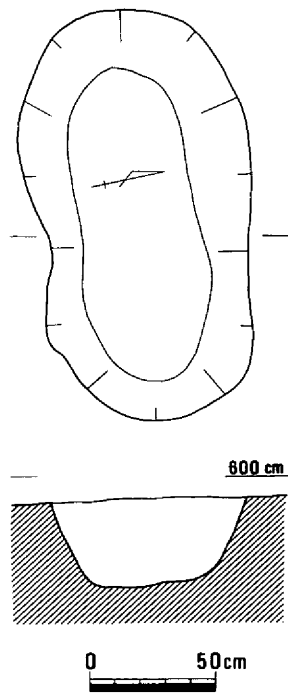
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の中に位置している。平面形はやや歪な円形を呈し、長径99cm、短径94cm、深さ21cmを測る



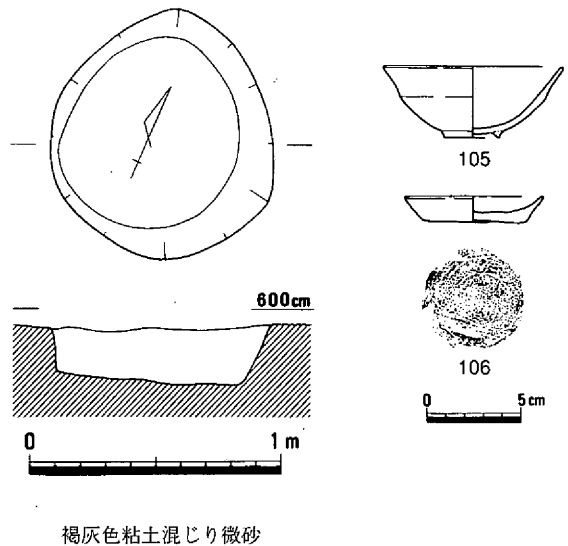
灰褐色粘土混じり微砂



第58図 土壙12 (1/30)・出土遺物 (1/4)



灰褐色粘土混じり微砂  
(焼土・炭化物粒含)



第59図 土壙13 (1/30)

第60図 土壙14 (1/30)・出土遺物 (1/4)

る。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。埋土中からは、土師器の高台付椀105と皿106が出土した。高台の断面は三角形で小さい。時期は鎌倉時代に比定される。(正岡)

**土壌15 (第38・61図)**

西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物5の北側に位置する。その北側は河道となる。平面は不定形で、長径100cm、短径74cm、深さ21cmを測る。断面形は椀形を呈している。埋土中から土師器の高台付椀107の小片が出土している。時期は鎌倉時代に比定される。(正岡)

**土壌16 (第38・62図)**

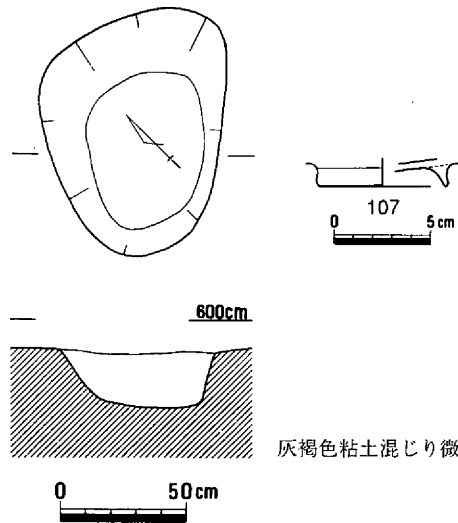
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物5の中に位置している。建物との関係はわかっていない。平面形は隅丸方形を呈し、長さ126cm、幅105cm、深さ27cmを測る。断面は椀形をである。時期は周辺の状況から中世に比定される。(正岡)

**土壌17 (第38・63図)**

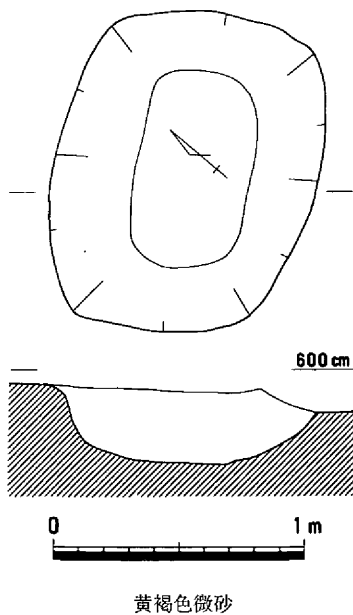
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物5の北東角に近接している。建物の反対側は河道になっている。土壌の南半分は近世の溝によって削り取られている。平面形は隅丸方形を呈し、現存長180cm、幅132cm、深さ16cmを測る。断面形は皿状である。時期は周辺の状況から中世に比定される。(正岡)

**土壌18 (第38・64図)**

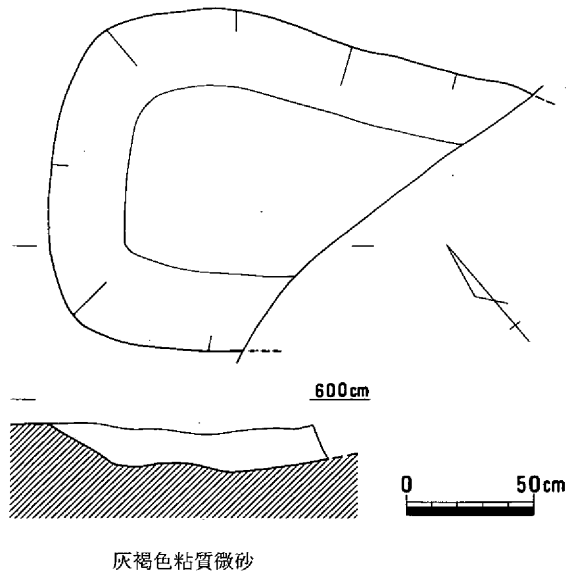
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物6の東側に接している。平面形は小判形を呈し、長径151cm、短径58cm、深さ16cmを測る。断面は椀形である。埋土中からは、土師器の高台付椀108とカマド109の破片が出土している。高台の径は小さく、新しい様相を呈する。カマド



第61図 土壌15 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第62図 土壌16 (1/30)

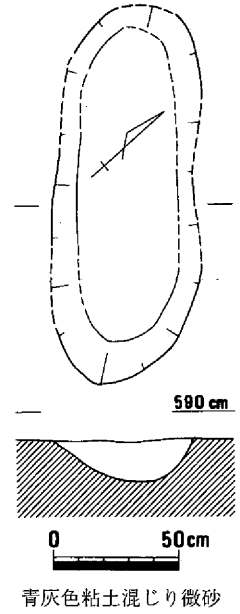


第63図 土壌17 (1/30)

は口縁部の破片である。時期は鎌倉時代に比定される。 (正岡)

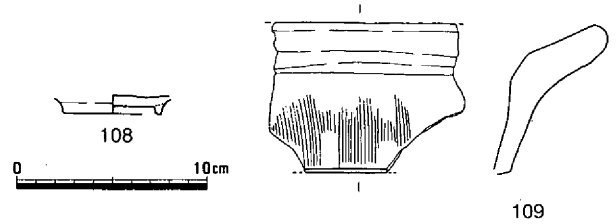
**土壙19・20 (第38・65図)**

西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物7の南西と北端部の一部が重複している。2つの土壙は重なっていて、土壙20を土壙19が切っている。土壙19の平面は楕円形を呈し、長径177cm、短径88cm、深さ5cmを測る。断面形は皿形である。埋土中から土師器の高台付椀110~112と皿113・114、土鍋115が出土している。高台の径は小さく、断面も三角形を呈する。鍋には煤が付着している。土壙20は土壙19によって西側部分を切られている。平面形は不定形で、現存長174cm、短径147cm、深さ11cmを測る。断面は椀形を呈している。埋土中から土師器の皿116~118が出土している。土壙19・20は鎌倉時代に比定される。 (正岡)

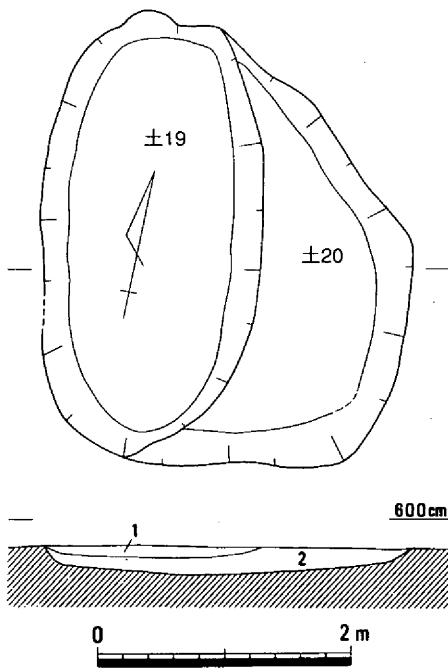


**土壙21 (第38・66図、図版84)**

西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物の北側に位置する。窪地3の北部分と重複している。平面形は不定形で、長径378cm、短径302cm、深さ58cmを測る。断面は椀形である。埋土中からは亀山焼の甕119・120、土師器の皿121・122と高台付椀123~126、土鍋127が出土している。亀山焼の甕では、119の外面は平行タタキ、内面は同心円文のタタキ、120の外面は格子目タタキ、内面は



第64図 土壙18 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰褐色粘土混じり微砂
- 2 褐灰色粘土混じり微砂 (焼土含)

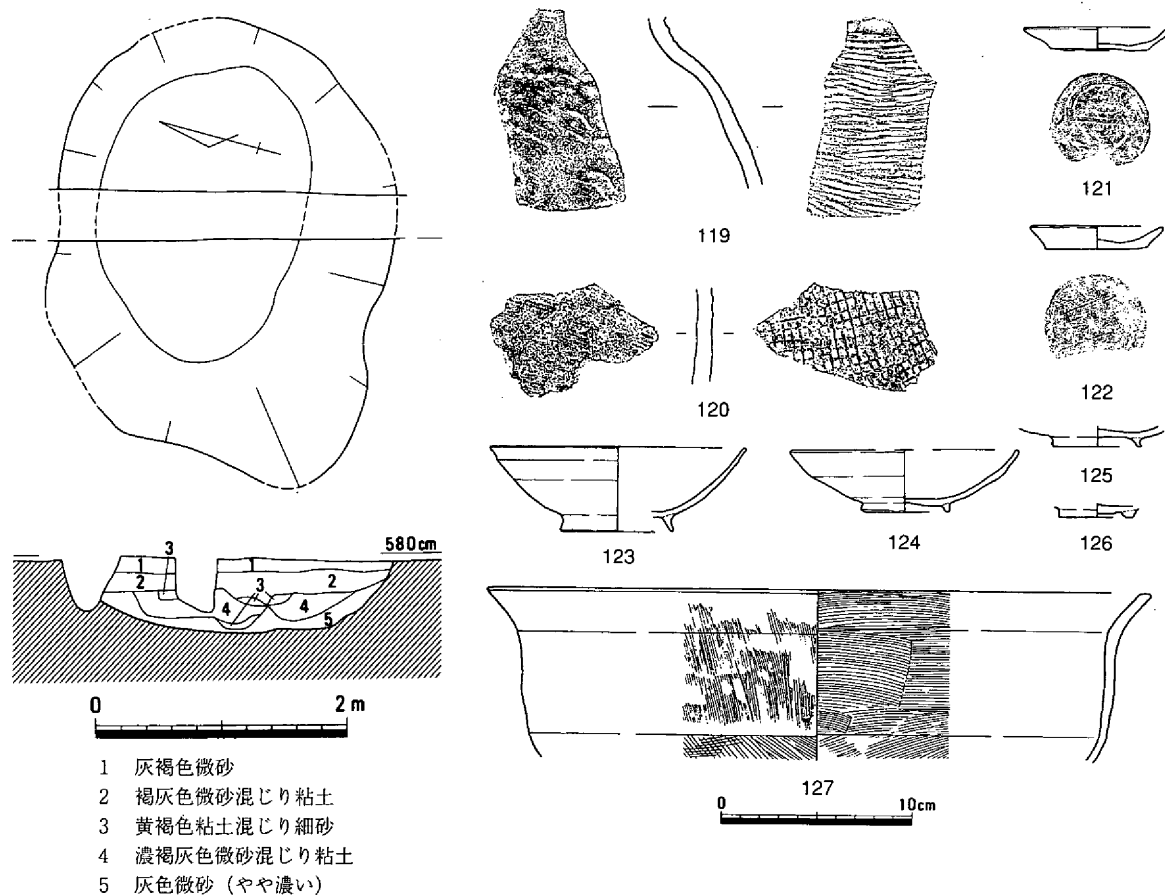
第65図 土壙19・20 (1/60)・出土遺物 (1/4)

ハケメを施している。時期は鎌倉時代に比定される。

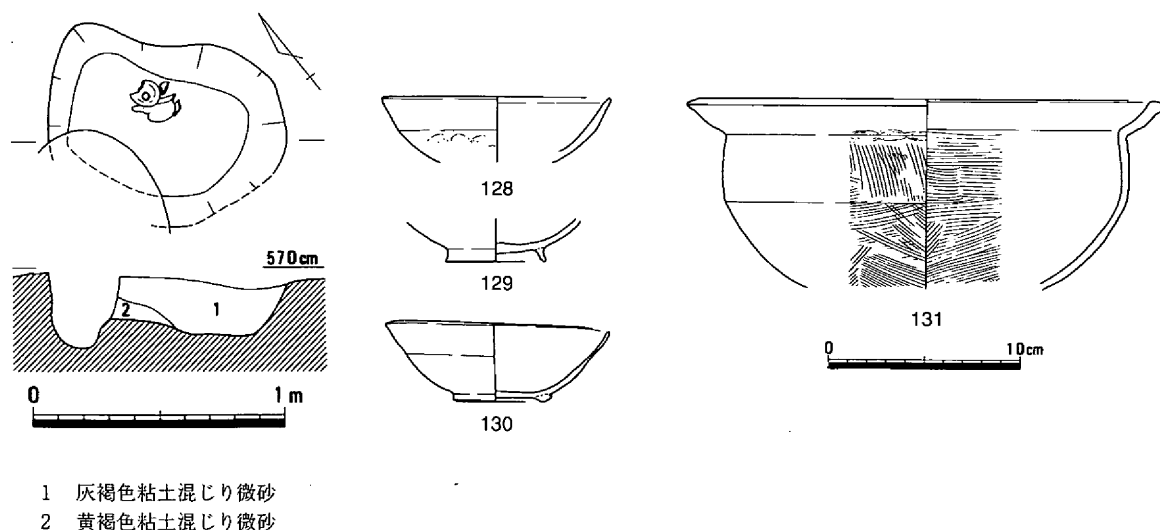
(正岡)

土壙22 (第38・67図、図版84)

西から2つ目の区画内にあり、土壙21の東側に位置する。周辺部には、土壙や窪地が分布している。平面形は不整形形で、長さ96cm、幅72cm、深さ20cmを測る。断面は椀形を呈している。埋土中からは、



第66図 土壙21 (1/60)・出土遺物 (1/4)



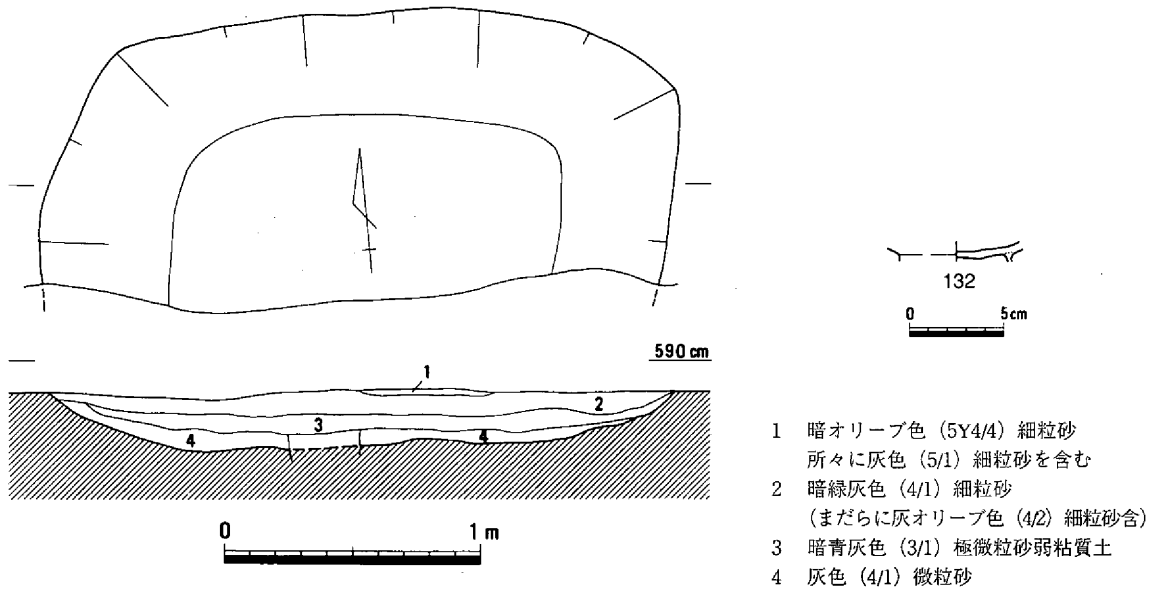
第67図 土壙22 (1/30)・出土遺物 (1/4)



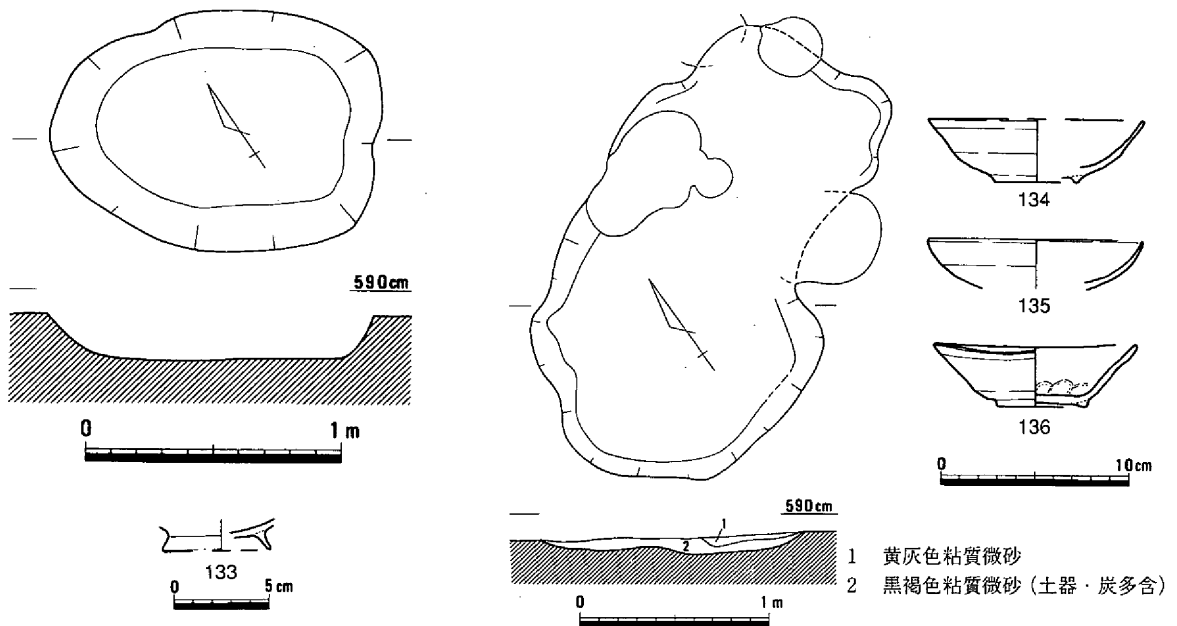
土師器の高台付椀128~130、土鍋131が出土している。高台の径は小さい。土鍋には煤が付着している。時期は鎌倉時代に比定される。 (正岡)

土壇23 (第38・68図)

西から2つ目の区画の南端部にあり、南側の一部を溝によって切られている。平面形は方形を呈し、長さ247cm、現存幅114cm、深さ22cmを測る。断面は皿形である。埋土中からは、土師器の高台付椀の小片133が出土している。時期は鎌倉時代に比定される。 (正岡)



第68図 土壇23 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第69図 土壇24 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第70図 土壇25 (1/40)・出土遺物 (1/4)

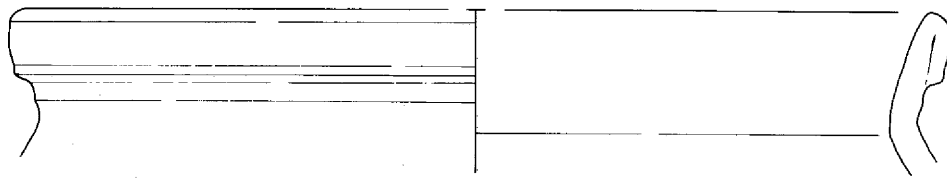
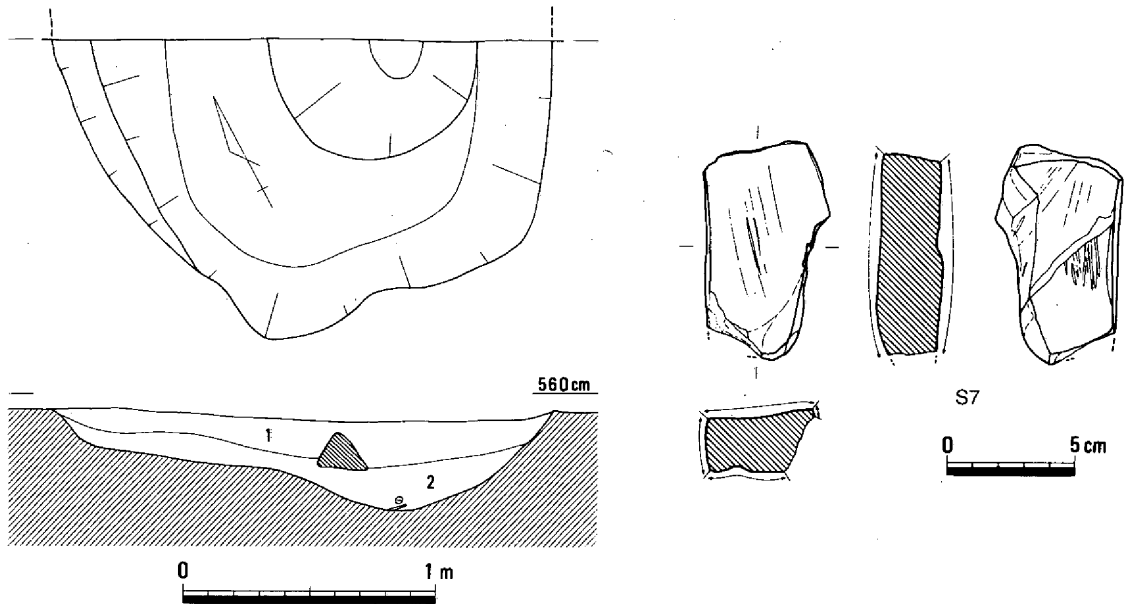
土壙24 (第38・69図)

Bj400区北西端で検出した不整楕円形の土壙である。規模は、長さ188cm、幅95cm、深さ18cmで、底面の標高は562cmを測る。

遺物は土師器高台付き椀の高台の細片が採集された。

この小さな遺物からこの土壙の使われた時期は、鎌倉時代以降と推定したい。

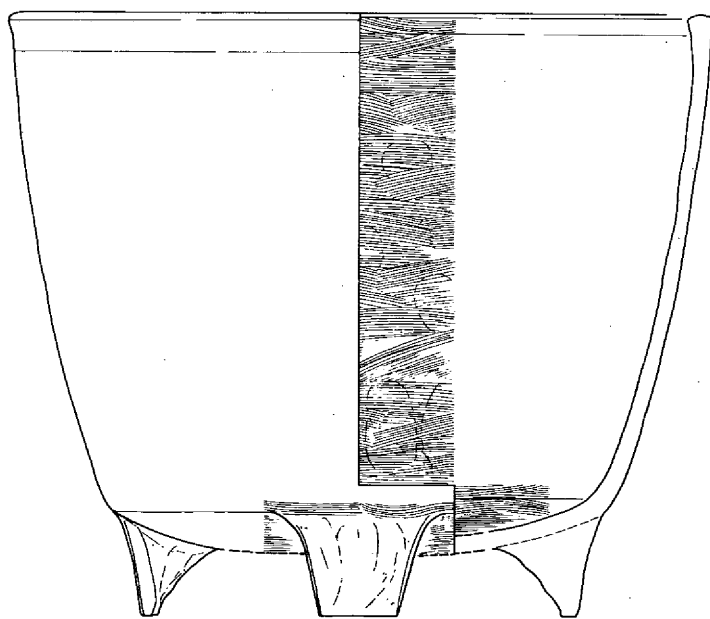
(浅倉)



137



138



139

第71図 土壙26 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)

土壌25 (第38・70図)

西から2つ目の区画の南端部にあり、土壌23の北側に接している。付近には、掘立柱建物や土壌、窪地、溝が密集している。平面形は不定形で、長径245cm、短径149cm、深さ9cmを測る。断面は皿形を呈している。埋土中からは、土師器の高台付椀134・136と椀135が出土している。136の高台付椀はほぼ完存し、高台は小さい。時期は鎌倉時代に比定される。(正岡)

土壌26 (第38・71図)

西から2つ目の区画の南側にあり、東西を区画する溝の南側に位置している。土壌の北側部分は調査区の境目にあたってしまったことから未調査に終わっている。平面形は不定形で、長径199cm、深さ40cmを測る。断面は皿形を呈している。埋土中からは、備前焼の大甕137と播鉢138、瓦質土器の火鉢139、砥石S7が出土している。時期は室町時代に比定される。(正岡)

(6) 焼成土壌

焼成土壌5 (第38・72図)

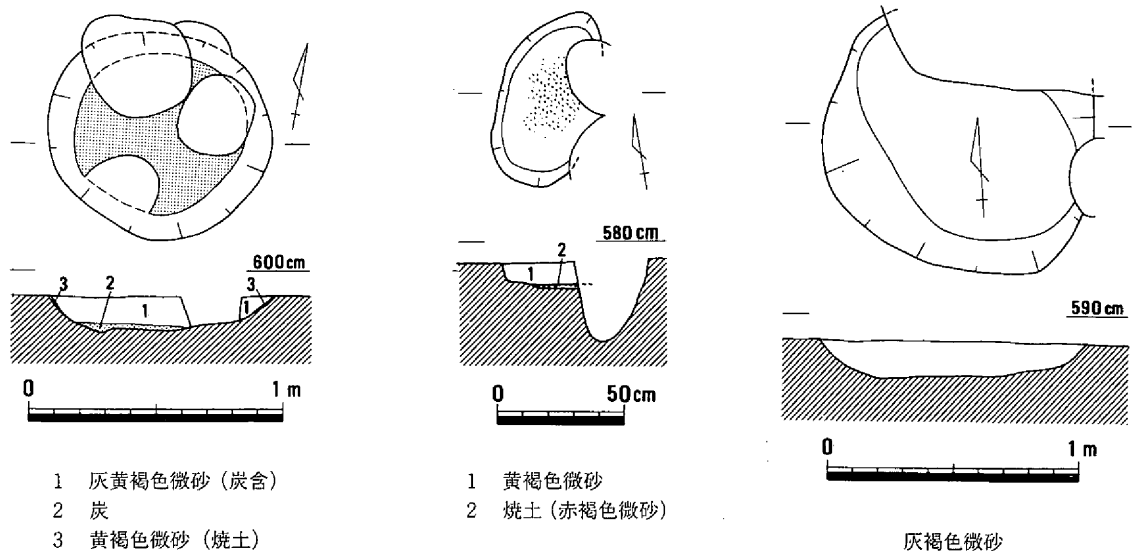
西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の北側柱穴で切られている。平面は円形を呈し、断面は碗形である。壁面はよく焼けていて、床面には、炭化物が残っている。大きさは、径88cm、深さ14cmを測る。時期は中世に比定される。(正岡)

焼成土壌6 (第38・73図)

西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の中に位置している。建物との関係についてはわかっていない。平面は楕円形を呈し、断面は碗形である。後の柱穴で削り取られたところもある。床面には、焼土が厚く残っている。時期は周辺の状況から中世に比定される。(正岡)

焼成土壌7 (第38・74図)

西から2つ目の区画内にあり、掘立柱建物4の北西隅と一部重なっている。焼成土壌の北側の一部を土壌13によって切られている。平面は不定形で、断面は皿形を呈している。大きさは、長径118cm、深さ16cmを測る。時期は周辺の状況から中世に比定される。(正岡)



第72図 焼成土壌5 (1/30)

第73図 焼成土壌6 (1/30)

第74図 焼成土壌7 (1/30)

(7) 溝

溝2 (第38・75図)

調査区の西端部に位置している。河道によって削られた微高地の端部に沿って15m程検出された。幅80~200m程で、断面はU字形を呈するが、不安定なものである。埋土中からは、亀山焼の甕140、土師器の皿141・142、土鍋143・144、土師器の台付皿145が出土した。土師器の皿は底部をヘラキリとし、142には、板状の痕が付いている。時期は鎌倉時代に比定される。(正岡)

溝3 (第38・76図、図版3・84・87・89)

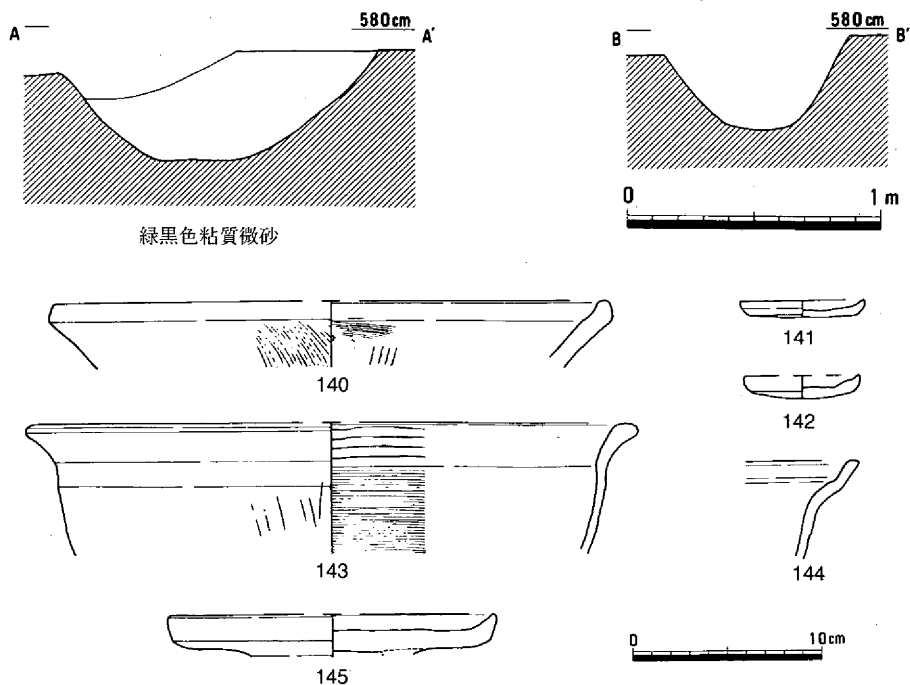
溝によって区画された最も西端に位置する。南北に区画する溝4の西側4mの位置に平行している。北側は細くなって終わり、南が深くなることから南へ流走していたことがわかる。北東部で井戸2によって一部切られている。溝3の西側には、掘立柱建物1~3が所在する。溝の断面は浅いU字形を呈している。

埋土中からは、亀山焼の甕146、備前焼の甕147、土師器の皿148~153、155~161、土師器の台付皿154、土鍋162~164、砥石S8、銭貨M4、土錘C46がある。備前焼の甕はやや大形のもので、口縁部を玉縁としている。148~151は少し深みがあり、椀形に近い。砥石の石材は流紋岩である。銭貨は開元通宝である。土錘は細い管状を呈し、3.05gを測る。時期は鎌倉から室町時代に比定される。

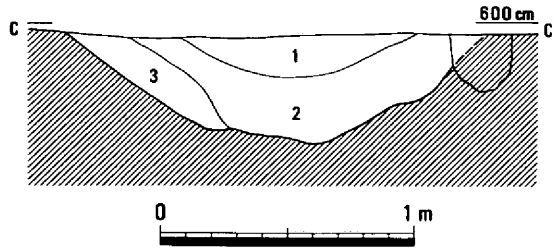
(正岡)

溝4 (第38・77~79図、図版85)

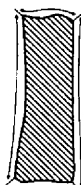
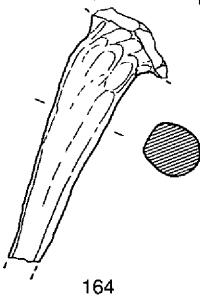
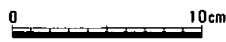
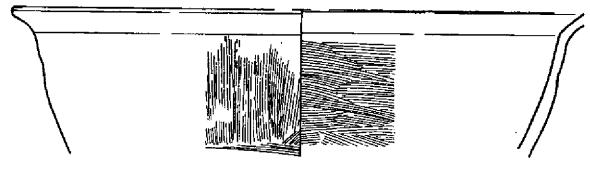
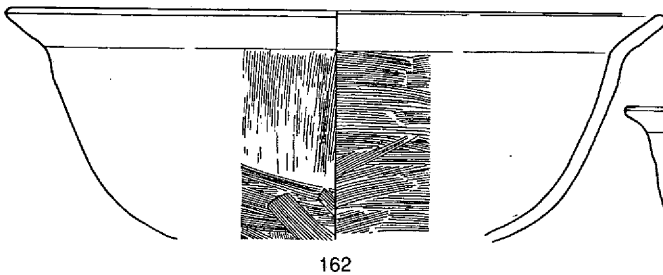
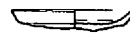
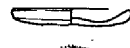
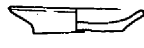
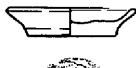
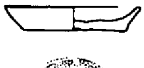
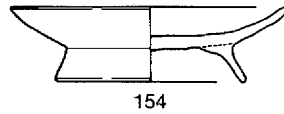
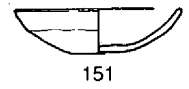
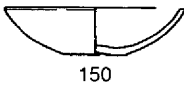
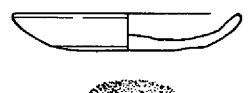
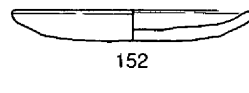
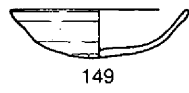
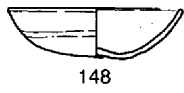
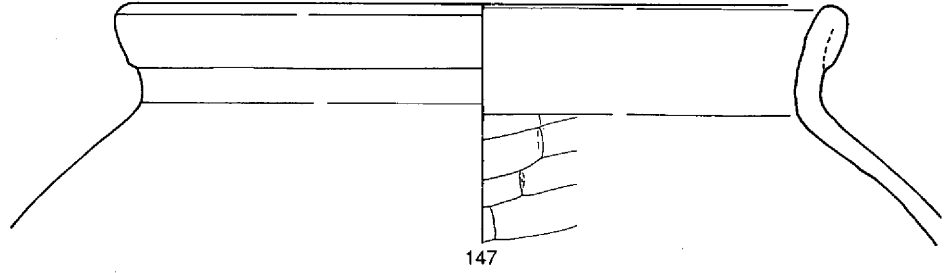
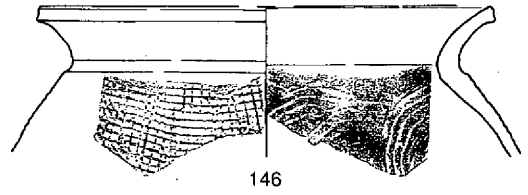
調査区の西部に位置し、居住区域を南北方向に区画する大形の溝である。西端部を区切る溝で、周辺の掘立柱建物や溝の方向とほぼ並行している。断面は播鉢形を呈し、北寄りには改修のためか二段掘りになっている。下層の埋土は青~暗灰色粘土で、多くの遺物を含んでいる。溝の幅は350cm、深さ120cmで、長さ120mを調査した。埋土中の遺物には、備前焼の甕165、唐津焼の皿166~168、染付



第75図 溝2 (1/30)・出土遺物 (1/4)



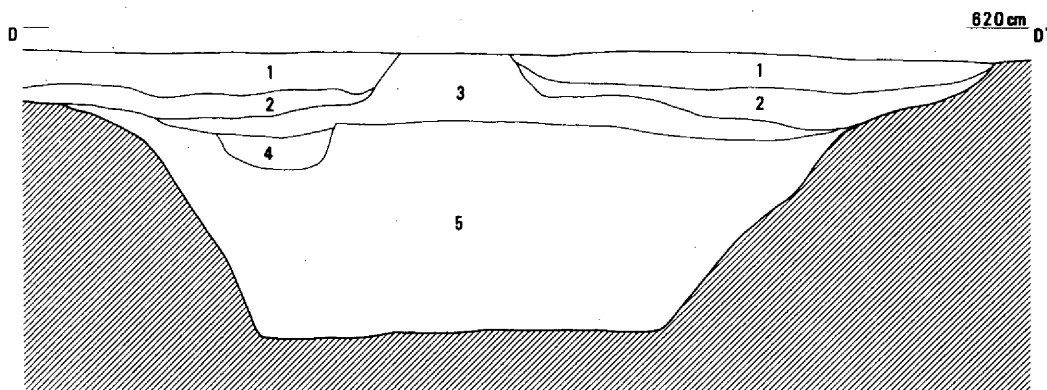
- 1 黄褐色微砂 (炭含)
- 2 灰褐色粘土混じり微砂
- 3 黄褐灰色微砂



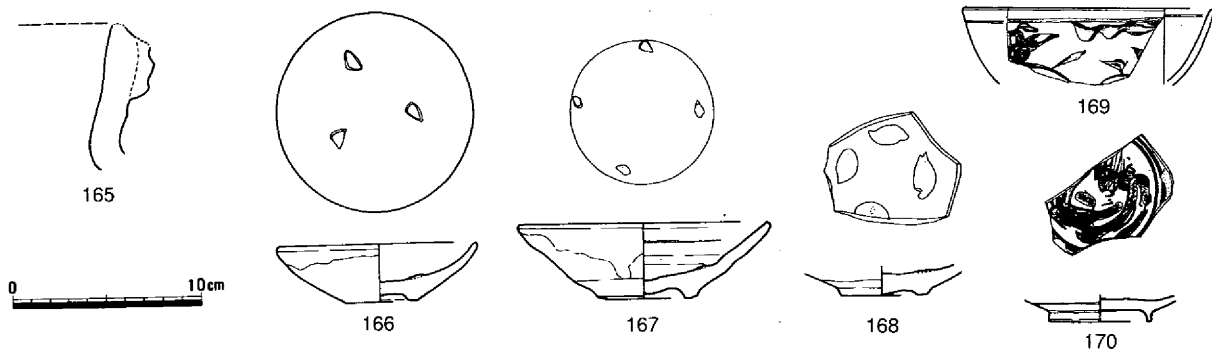
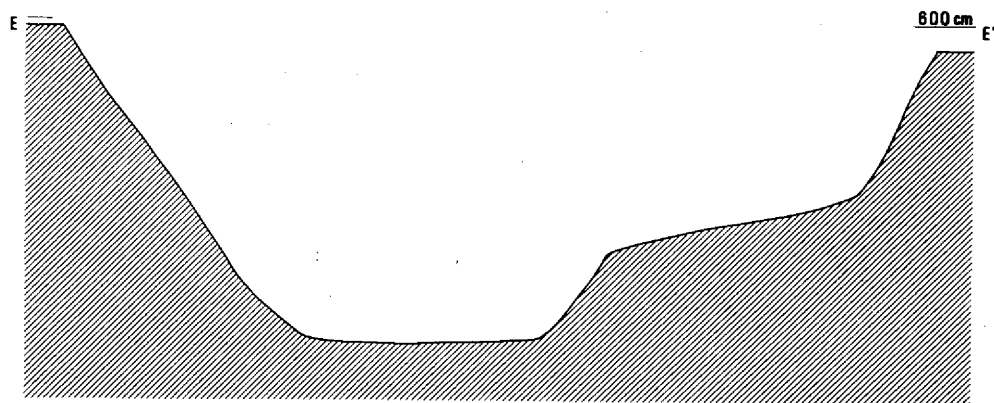
第76図 溝3 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3,1/2)

けの椀169、染付けの皿170、亀山焼の甕171~176、亀山焼の播鉢177~180、土師器の高台付椀181~187、土師器の皿188~192、土師器の台付皿193、土鍋194~196、土師器のカマド197、瓦質土器の甕198、砥石S 9がある。

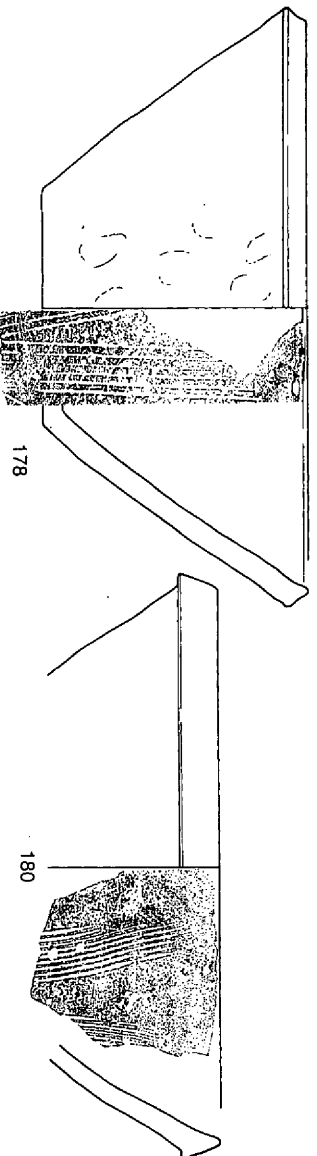
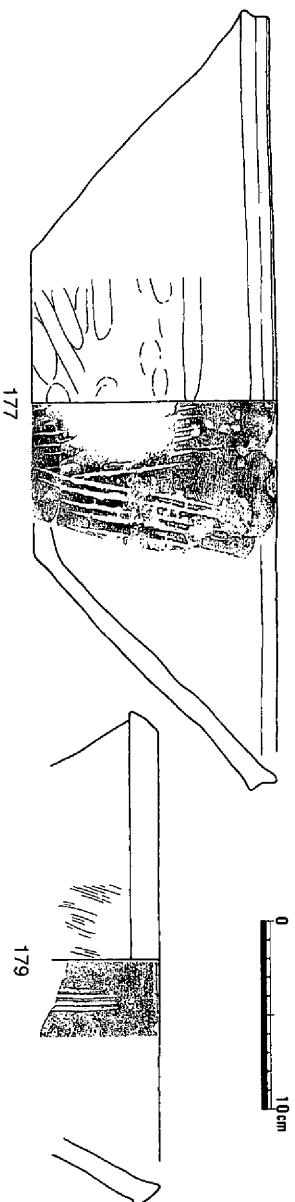
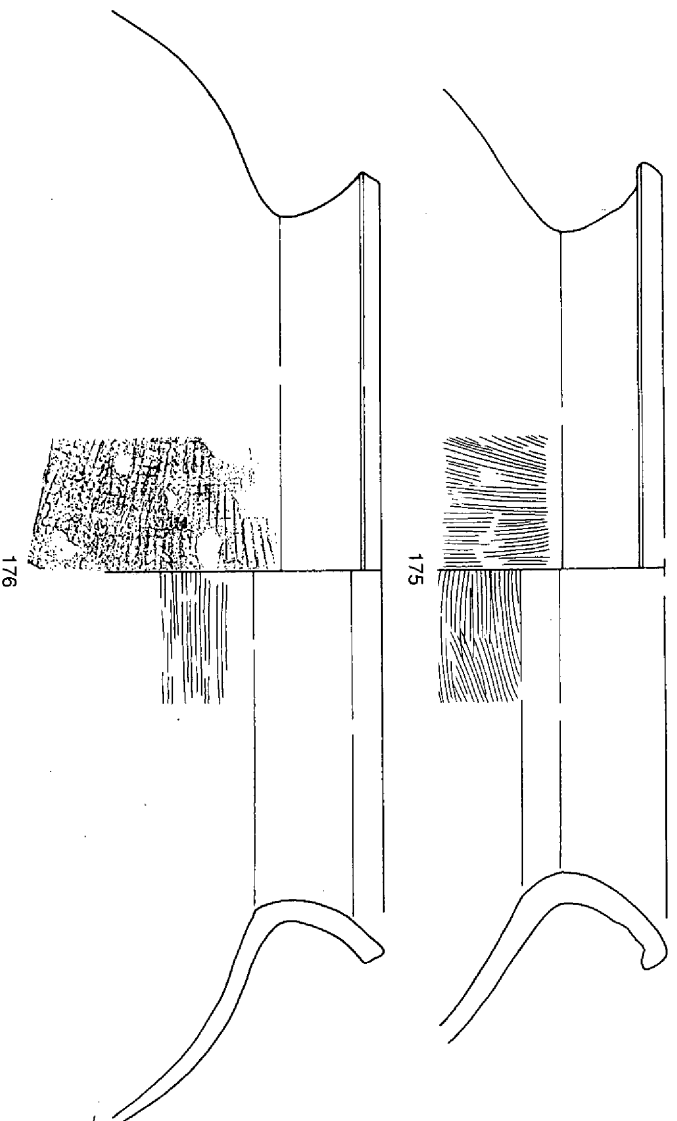
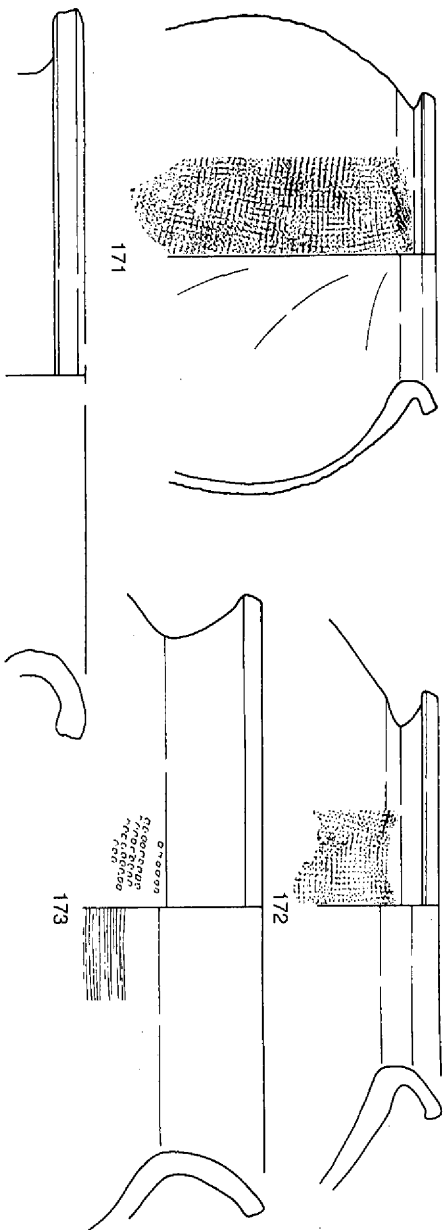
高台付椀の口径は12cm程で、やや小さく、高台の高さも低い。染付けは明末~清初に比定される。土鍋には脚の付くものもある。砥石の石材は流紋岩である。溝内の遺物には、鎌倉時代から江戸時代初期のものがあり、この間は継続していたものと判断される。(正岡)



- |                      |              |          |
|----------------------|--------------|----------|
| 1 褐灰色微砂 (マンガン含)      | 3 青灰色粘土      | 5 暗青灰色粘土 |
| 2 暗灰黄色微砂混じり粘土 (鉄沈着層) | 4 青灰色粘土 (灰含) |          |

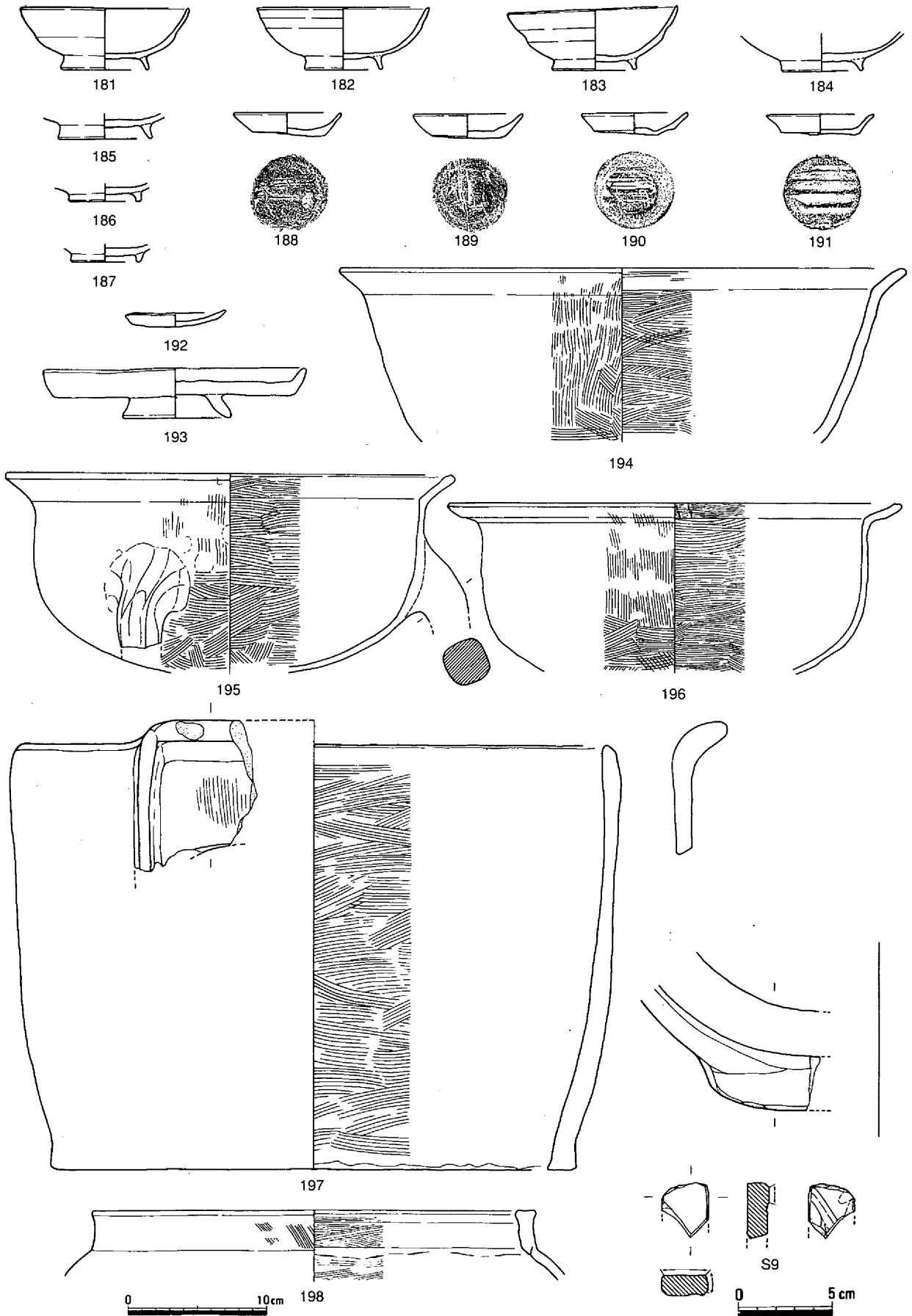


第77図 溝4 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第78図 溝4出土遺物② (1/4)





第79図 溝4出土遺物③ (1/4,1/3)

溝5 (第38・80図)

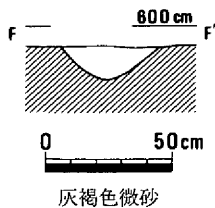
調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の南西部にあたり、土壌10の下層で検出される。東西方向に5 m程検出されただけで性格等も明らかでない。断面はU字形を呈し、埋土は灰褐色微砂である。時期は土層などから中世に比定される。(正岡)

溝6 (第38・81図)

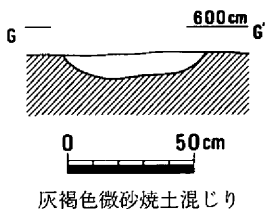
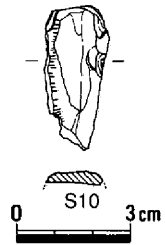
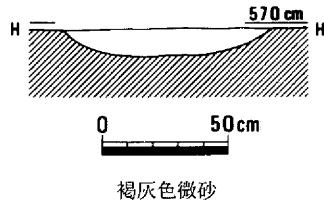
調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の南西部にあり、土壌10下層で検出される。溝5に並行し、南側に所在する。断面は皿状を呈し、埋土は灰褐色焼土混じり微砂である。出土遺物はないが土層などから中世に比定される。(正岡)

溝7 (第38・82図)

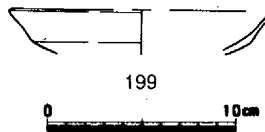
調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の中央部南寄りにあり、窪地3から南へ延びる。南北方向に4 m程検出されたもので、掘立柱建物7と重複している。断面は皿状を呈し、埋土は褐灰色微砂である。埋土中からは、土師器の高台付碗199と皿200、砥石らしいものS10が出土している。石材は頁岩である。時期は鎌倉時代に比定される。(正岡)



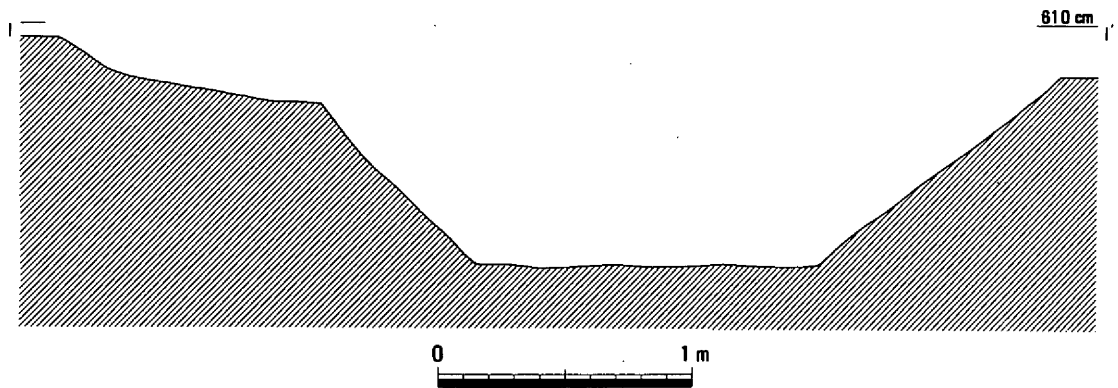
第80図 溝5 (1/30)



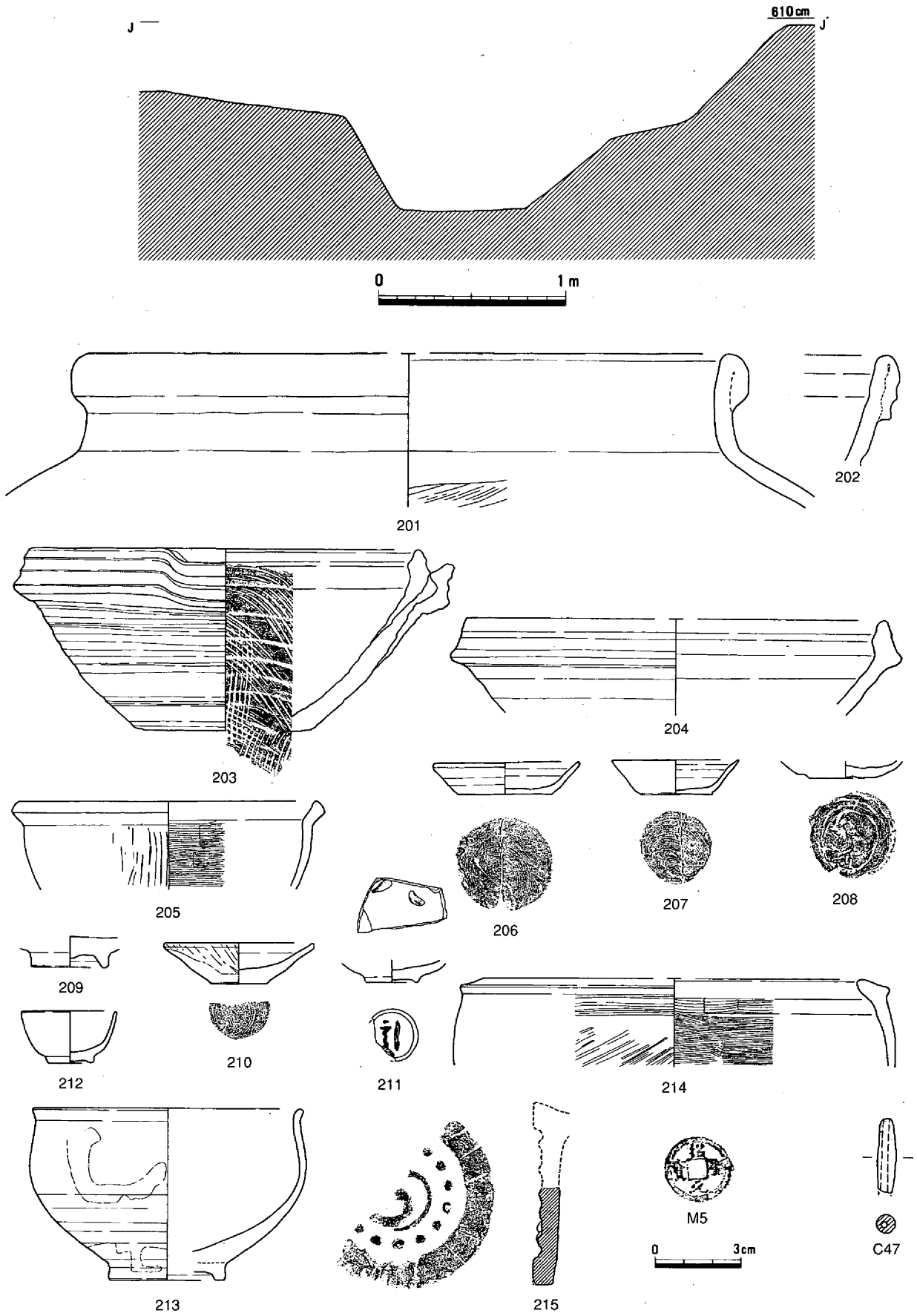
第81図 溝6 (1/30)



第82図 溝7 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)



第83図 溝8 (1/30)



第84図 溝8 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3)

溝8 (第38・83・84図、図版3・85・87)

Bj307・400区で検出した大溝である。ほぼ東西に長く直線的に掘削されている。大溝4と直角に交わると推定され、おそらく建物群を方形に区画する環濠であろう。規模は、検出面での幅最大400cm、一段低い面での幅290cm、底面の幅130cm、深さ90cm、検出全長23mを測る。浅い平行する溝が複数本あるが後の時代のものである。

遺物は、備前焼、瓦質土器、土師器、陶磁器、瓦、古銭、土錘などが出土している。201・202は備前焼の大甕の口縁部である。203・204は備前焼の播鉢である。205は瓦質土器の鍋である。206・207は土師器の杯で、糸切り底である。208は煤が付着した土師器の皿である。209は青磁の碗である。210~213は唐津の陶器である。214は瓦質土器の鍋である。215は巴文の付いた軒丸瓦である。

M5は「紹聖元寶」と読める北宋の古銭である。C47は管状の土錘である。

以上の遺構、遺物から見て、この溝の時期は室町時代と言える。 (浅倉)

溝9 (第38・85図、図版89)

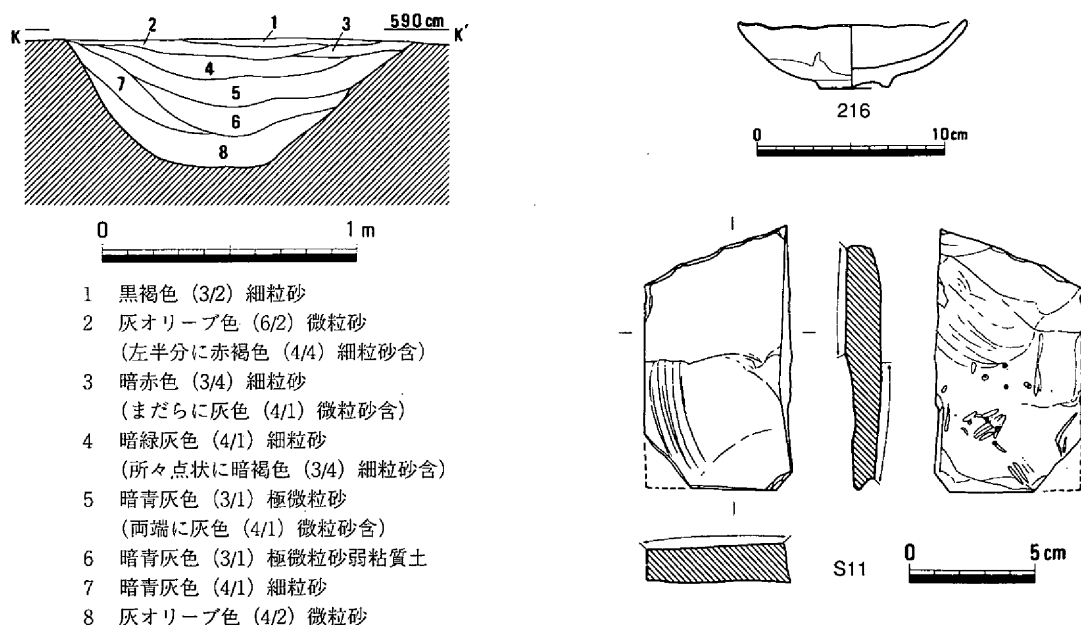
Bj307・400区で検出した溝である。ほぼ東西に短く直線的に掘削されている。大溝8と平行で、間は60~80cm開いている。西端は突然始まり、東は直角に折れ曲がって溝10になる。つまり溝9と溝10は同じものと考えられる。規模は、検出面での幅140cm、底面の幅40cm、深さ50cm、検出全長16mを測る。埋積土の土層は自然に堆積していった状態を示している。

遺物は、陶磁器、砥石などが出土している。216は唐津の陶器である。口径12.0cm、底径3.7cm、器高3.6cmを測り、底部に釉剥ぎがされ、口縁部に重ね焼きの痕跡が見られる。S11は砥石である。扁平な砥石である。

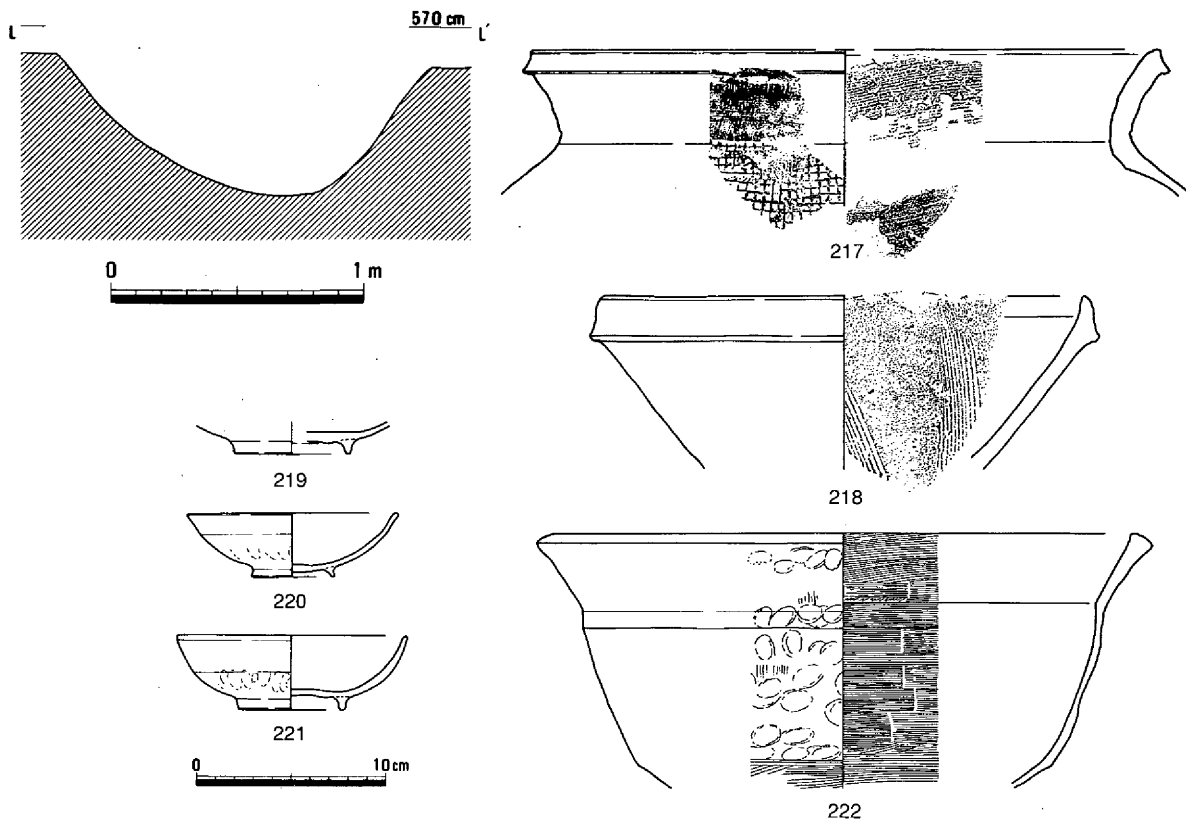
以上の遺構、遺物から見て、この溝の時期は室町時代以降と言える。 (浅倉)

溝10 (第38・86図、図版85)

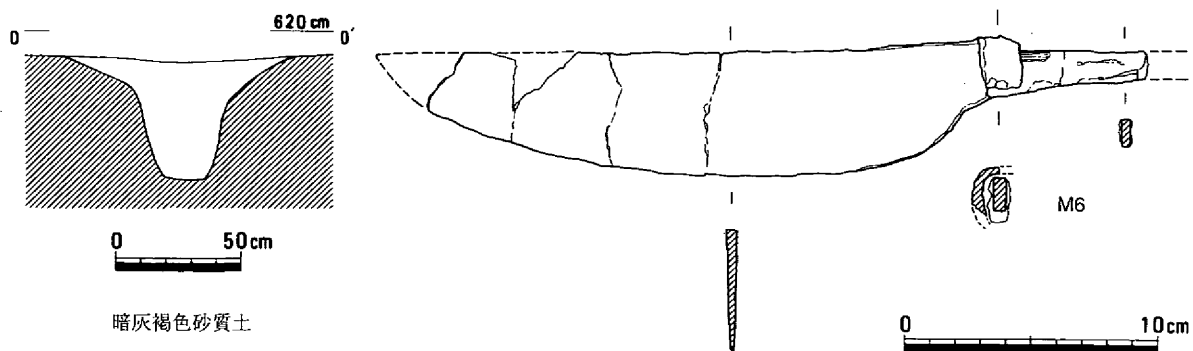
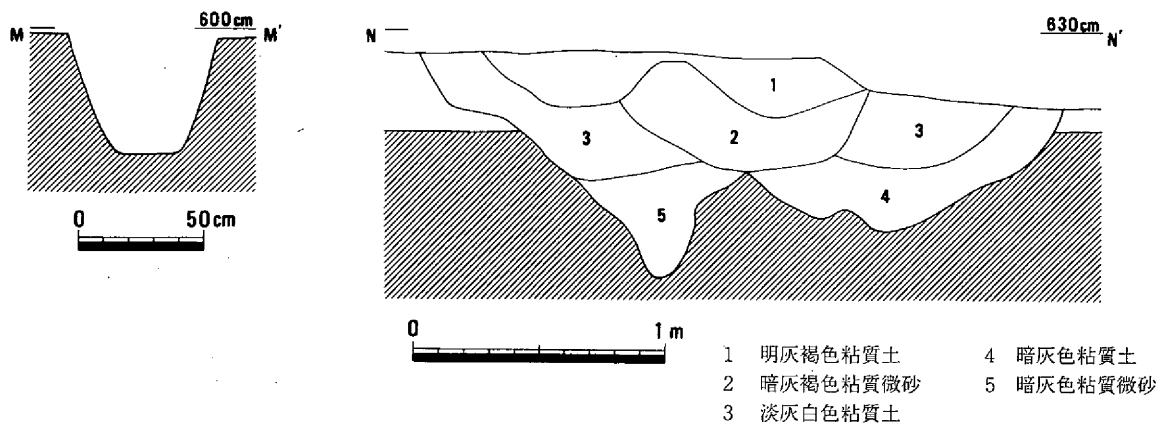
Bj400区で検出した溝である。ほぼ南北に短く直線的に掘削されている。溝9が直角に折れ曲がって溝10になる。つまり溝9と溝10は同じものと考えられる。規模は、検出面での幅150cm、底面の



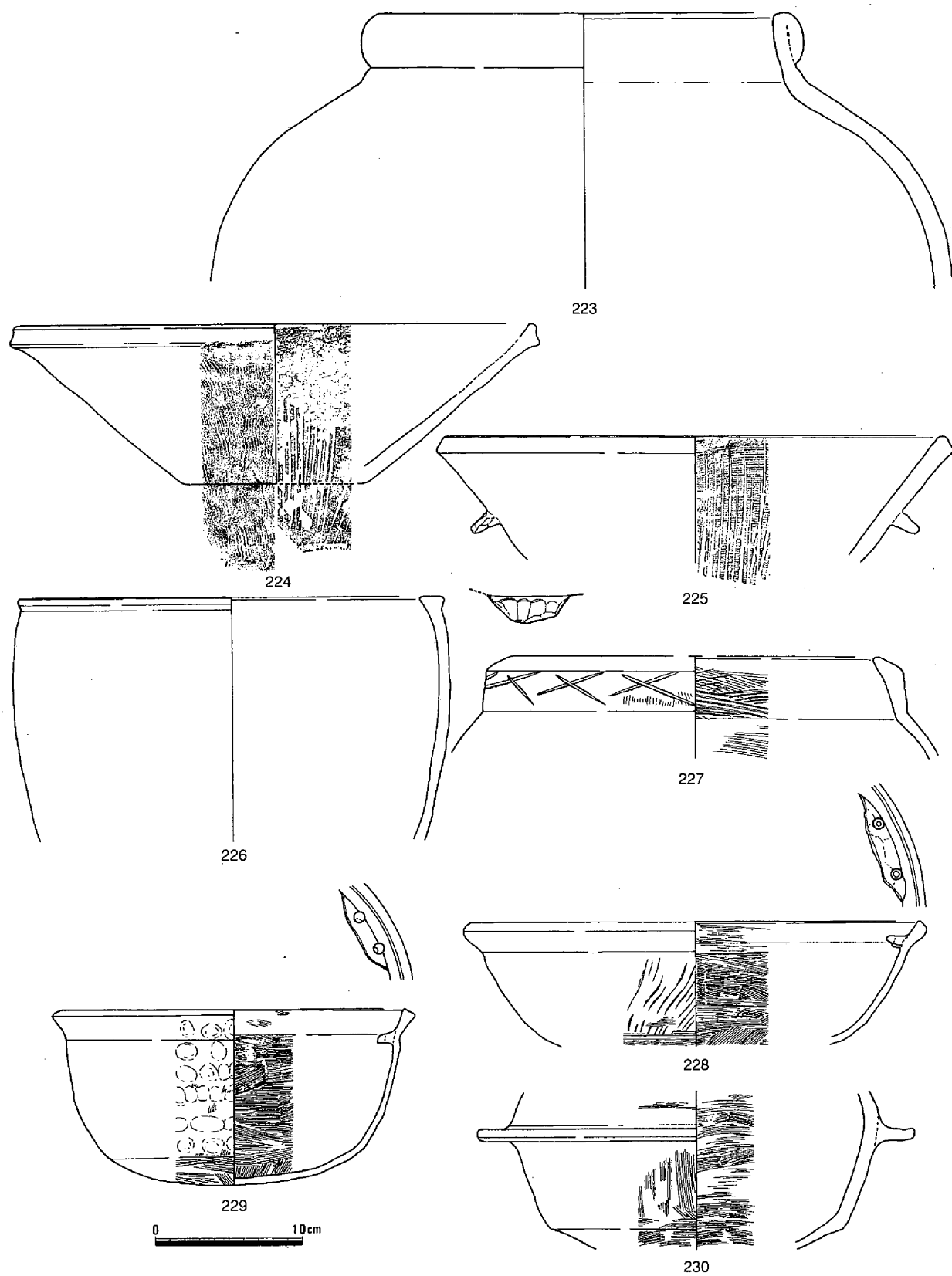
第85図 溝9 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



第86図 溝10 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第87図 溝11 (1/30)・出土遺物① (1/3)



第88図 溝11出土遺物② (1/4)

幅20cm、深さ50cm、検出全長7mを測る。

遺物は、亀山焼、備前焼、土師器などが出土している。217は亀山焼の甕である。体部外面には格子目のタタキを施している。218は備前焼の播鉢である。条線は間隔をあけている。219～221は土師器碗である。222は瓦質土器の鍋である。

以上の遺構、遺物から見て、この溝の時期は室町時代と言える。 (浅倉)

溝11 (第38・87・88図、図版86)

Cc403区で検出した溝である。ほぼ東西に長く直線的に掘削されている。旧河道の掘削岸と同じ方向である。規模は、検出面での幅60cm、底面の幅25cm、深さ45cm、検出全長33mを測る。

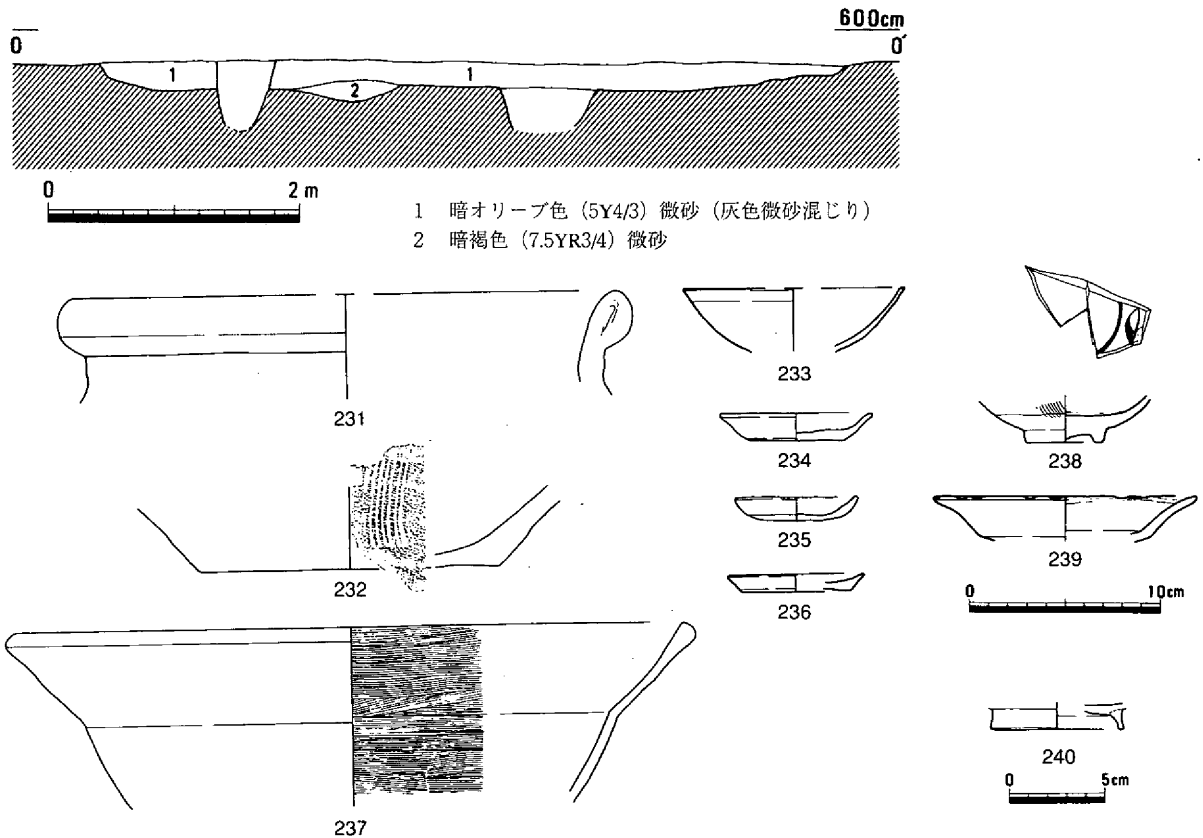
M6は出刃包丁である。223は備前焼の甕である。224・225は亀山焼の播鉢である。225には1対の突起が付いている。226は陶器の深鉢、227は瓦質土器の鍋、228・229は鍋、230は羽釜で、煤が付着している。

以上の遺構、遺物から見て、この溝の時期は室町時代以降と言える。 (浅倉)

(8) 窪地

窪地1 (第38・89図)

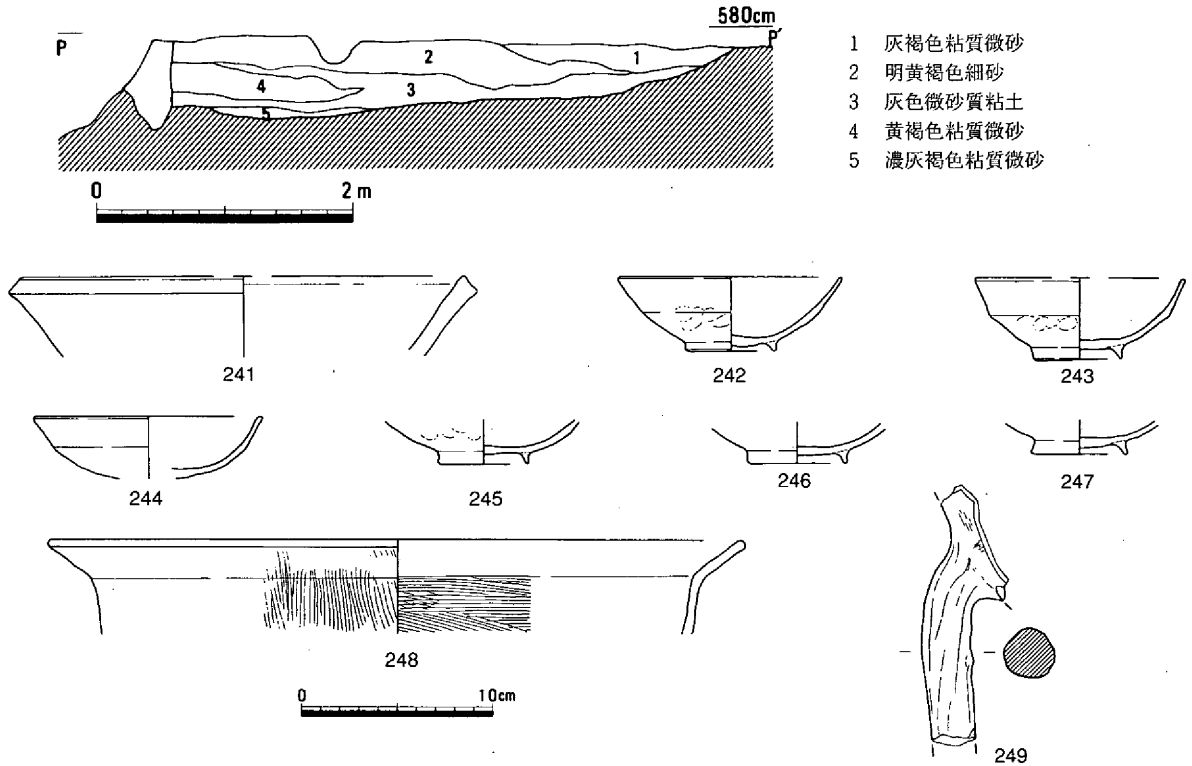
調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の中央部にあり、掘立柱建物4と重複している。東側の輪郭は不明瞭となる。断面は浅い皿状を呈し、埋土は暗オリーブ色微砂である。埋土中からは、備前焼の甕231と播鉢232、土師器の碗233、土師器の皿234～236、土鍋237、同安窯系の青磁小碗238、



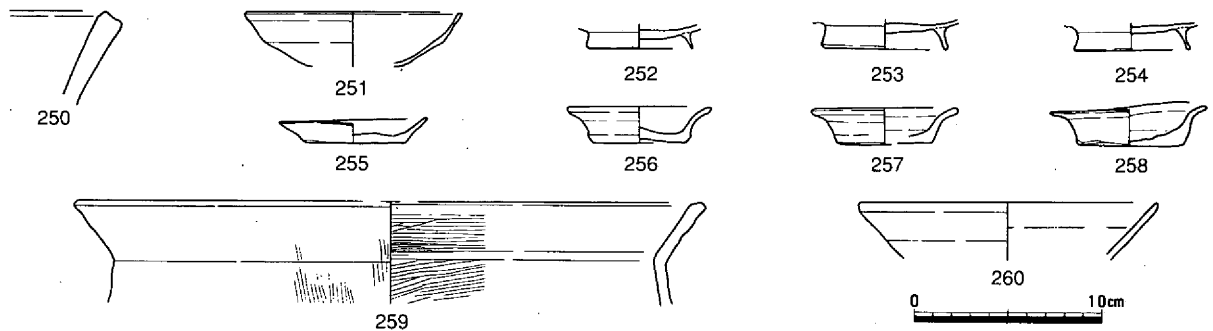
第89図 窪地1 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第90図 窪地2

出土遺物 (1/4)



第91図 窪地3 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第92図 窪地4 出土遺物 (1/4)

青磁皿239を出土した。時期は室町時代に比定される。

(正岡)

窪地2 (第38・90図)

調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の中央部南寄りにあり、掘立柱建物7の東側にあたる。西壁はほぼ南北になるが、東側は不整形である。埋土中からは、土師器の高台付碗240が出土している。時期は鎌倉時代に比定される。

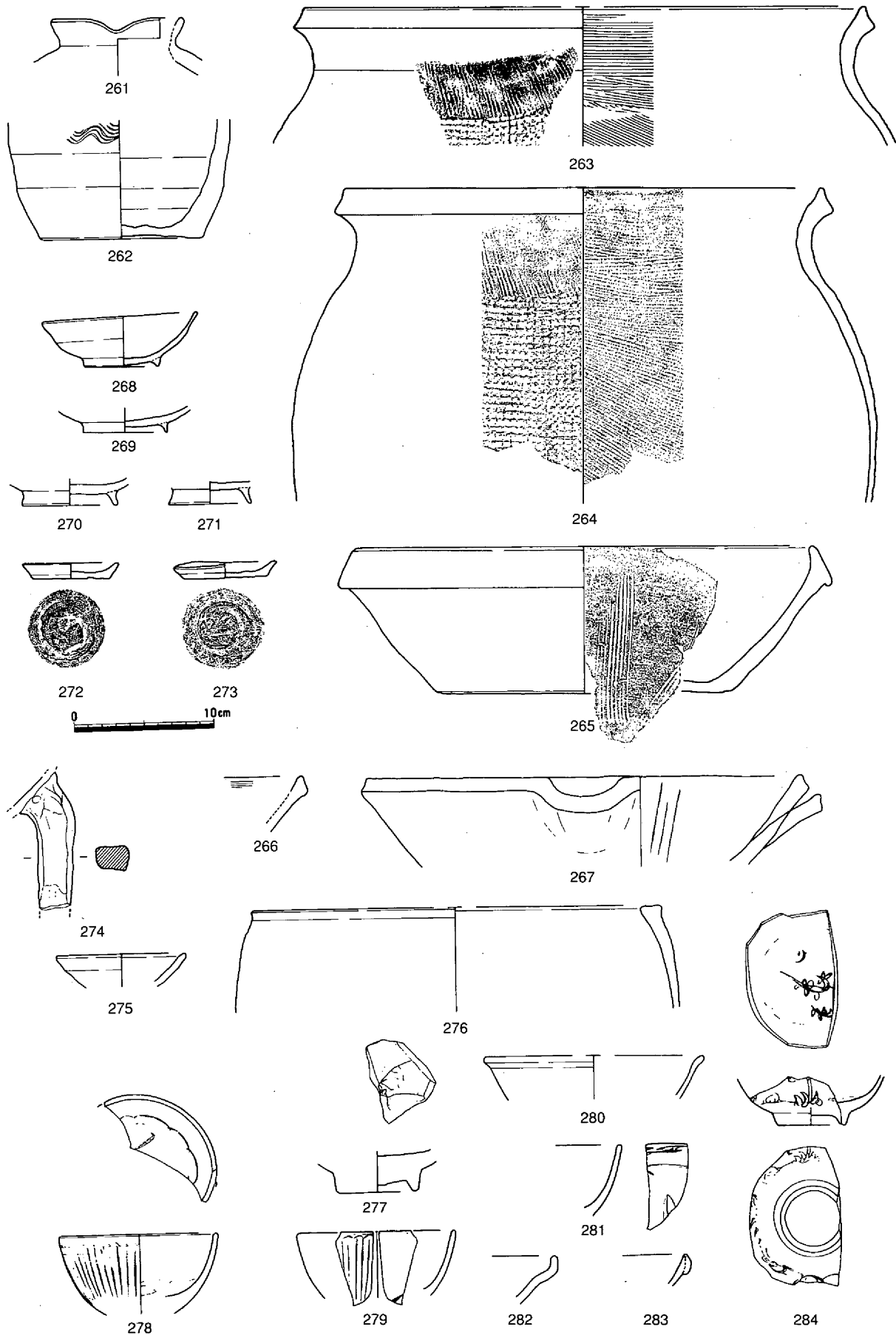
(正岡)

窪地3 (第38・91図)

調査区の西から2つ目の区画に位置する。窪地2の西側にあり、北側の一部を土壌21によって切られている。南側の肩部から南へ向かって溝7が延びていて、関連するものと推測される。断面は浅い皿状を呈し、埋土は細砂ないし微砂を主体とする。埋土中からは、亀山焼の鉢241、土師器の高台付碗242~247、土鍋248・249がある。時期は鎌倉時代に比定される。

(正岡)





第93図 河道1・2出土遺物 (1/4)

窪地4 (第38・92図)

Bj400区の溝9と溝10とのコーナーに近い所で検出した窪地である。平面形は楕円形である。深さは20cm程度である。亀山焼、土師器、青磁が出土している。

遺物から見て、この窪地が埋められたのは室町時代であろう。 (浅倉)

(9) 河道

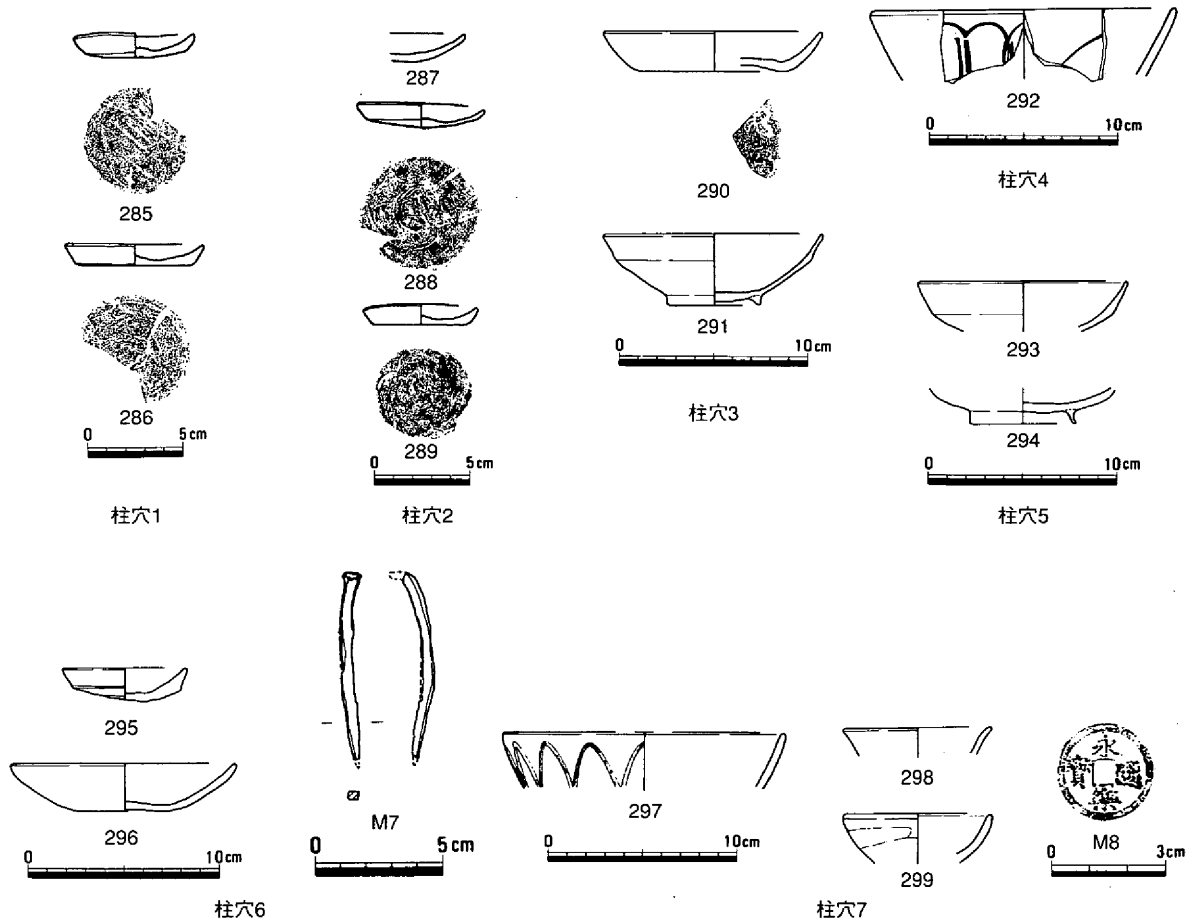
河道1・2 (第38・93図)

調査区の北側を東西に延びている。弥生時代以来の微高地が古代か中世初めの段階で削り取られた状況を示していることから、この時期に形成された河道と考えられる。埋没状況や埋土中の遺物を見ると近世までは継続されていたことがわかるが、その後、埋没し、近代には水田として利用されていたところである。埋土中からは、備前焼、亀山焼、土師器、瀬戸、青磁、白磁、染付けなどの焼物を多量に出土している。 (正岡)

(10) 柱穴

柱穴1～7 (第38・94図、図版3・86・87)

柱穴3では、備前焼の杯290と13世紀後半の土師質高台付き碗291が出土している。柱穴4では龍泉窯系青磁Ⅳ類の碗292が、柱穴7からは、龍泉窯系青磁Ⅳ類の碗297と白磁碗D類の298、白磁碗299お

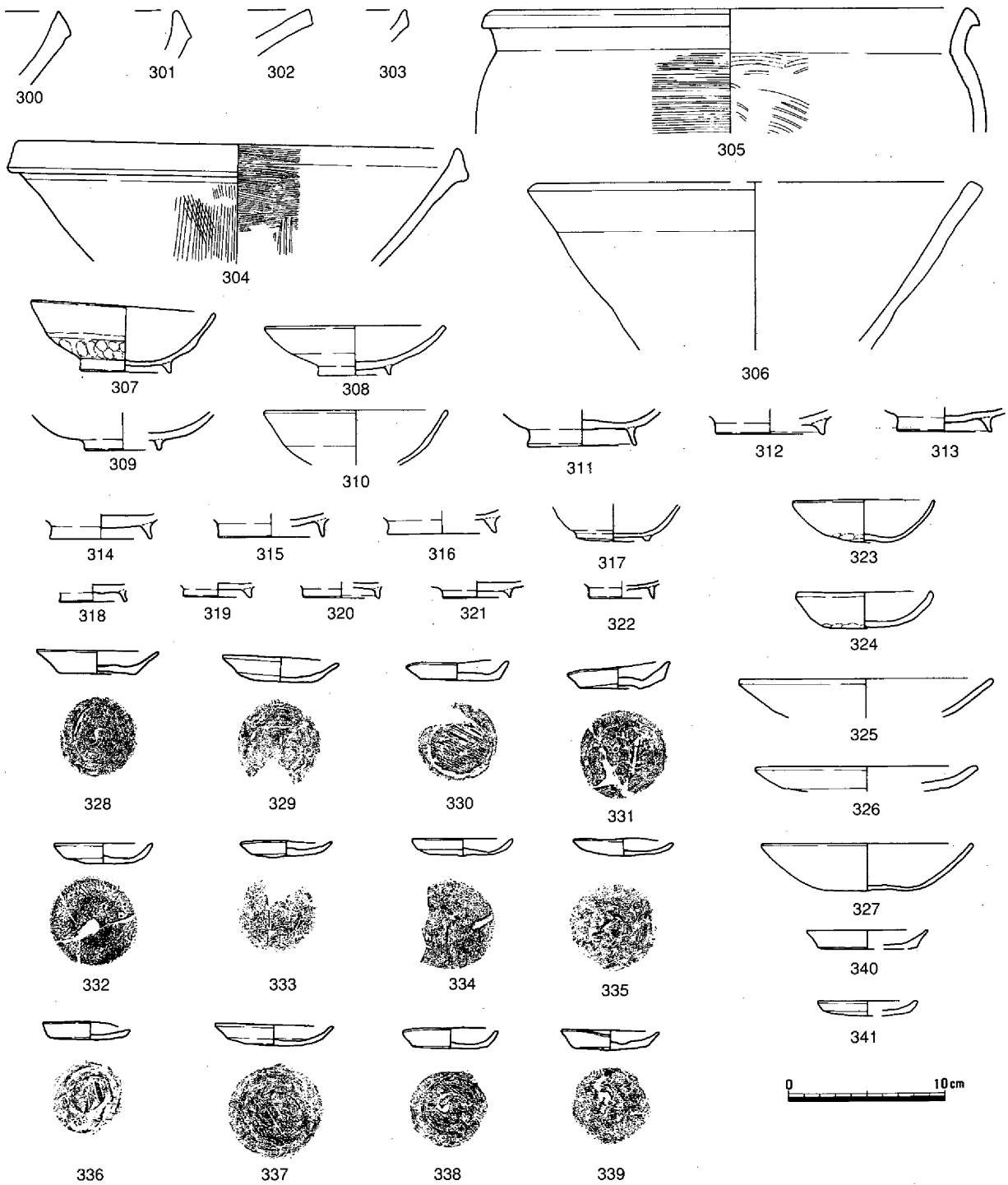


第94図 柱穴1～7出土遺物 (1/4,1/3,1/2)

よび永楽通宝M 8が出土している。柱穴5からは、13世紀代の土師質高台付き椀293・294が出土している。

その他の柱穴（第95・96図、図版3・87）

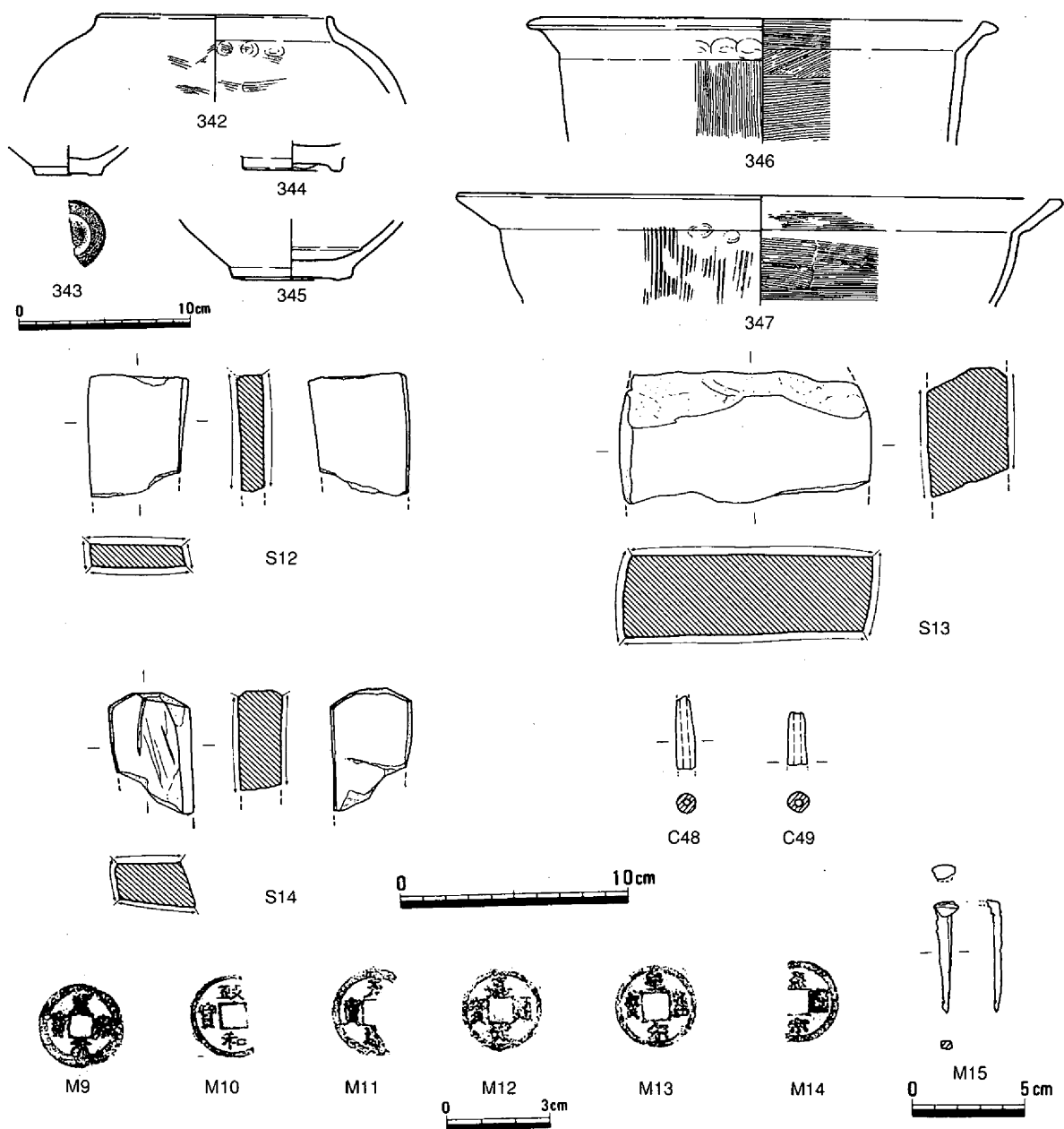
全体図に位置を示した柱穴1～7以外にも無数の柱穴から遺物が出土している。これらは、本来掘立柱建物の柱を構成していたと思われ、集落の成立から廃絶までのおよその時間幅を知る手がかりとなると思われる。



第95図 その他の柱穴出土遺物① (1/4)

300～303は備前焼の播鉢で、I～IV期までの時期幅がある。亀山焼では、甕305、播鉢304があり、15世紀代とみられる。東播系では、13世紀代に属するこね鉢306がみられる。土師器では、高台付き椀307～322が多くみられ、底径は4～7cmの間にある。また、323・324のようなへそ椀もある。皿では、小形で底部にヘラキリのみられる328～339・340・341以外に、15世紀以降とみられる大形の325～327がある。このほかにも、瓦質土器342や、陶磁器類では瀬戸産の343がある。龍泉窯系青磁碗の344では、周囲を打ち欠いており、なんらかの用途に転用したとみられる。345は白磁碗である。さらには、土師質の甕346や鍋347がある。

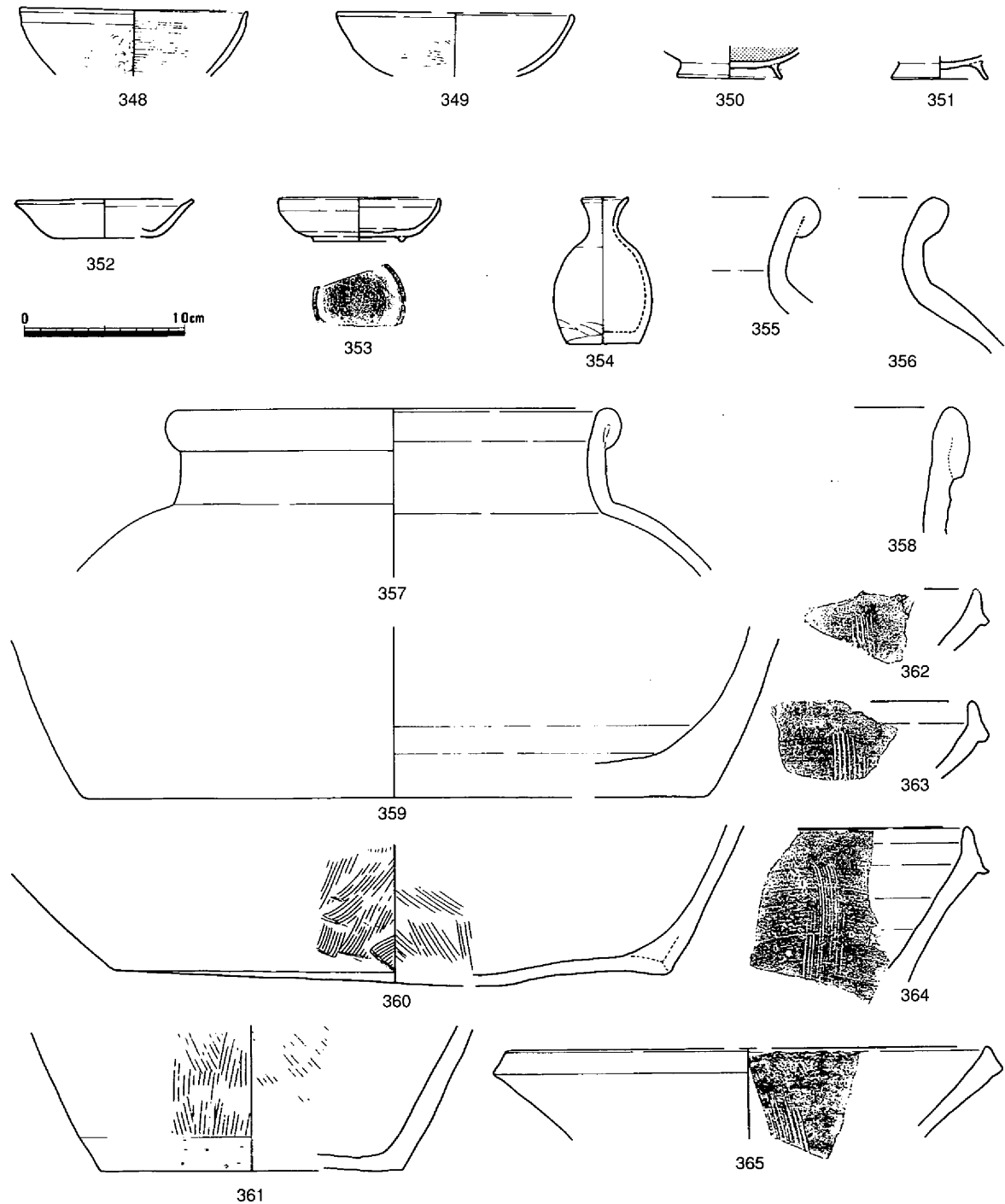
土器類以外にも、石製品、土製品、金属製品が出土している。砥石では、S12～14がみられる。土錘には、C48・49がある。金属製品としては、聖宗通宝M9、政和通宝M10、天□通宝M11、嘉定通宝M12、皇宗通宝M13・14などの宋銭と鉄釘M15が出土している。(弘田)



第96図 その他の柱穴出土遺物② (1/4,1/3,1/2)

(11) 遺構に伴わない遺物 (第97~104、図版86・87・89)

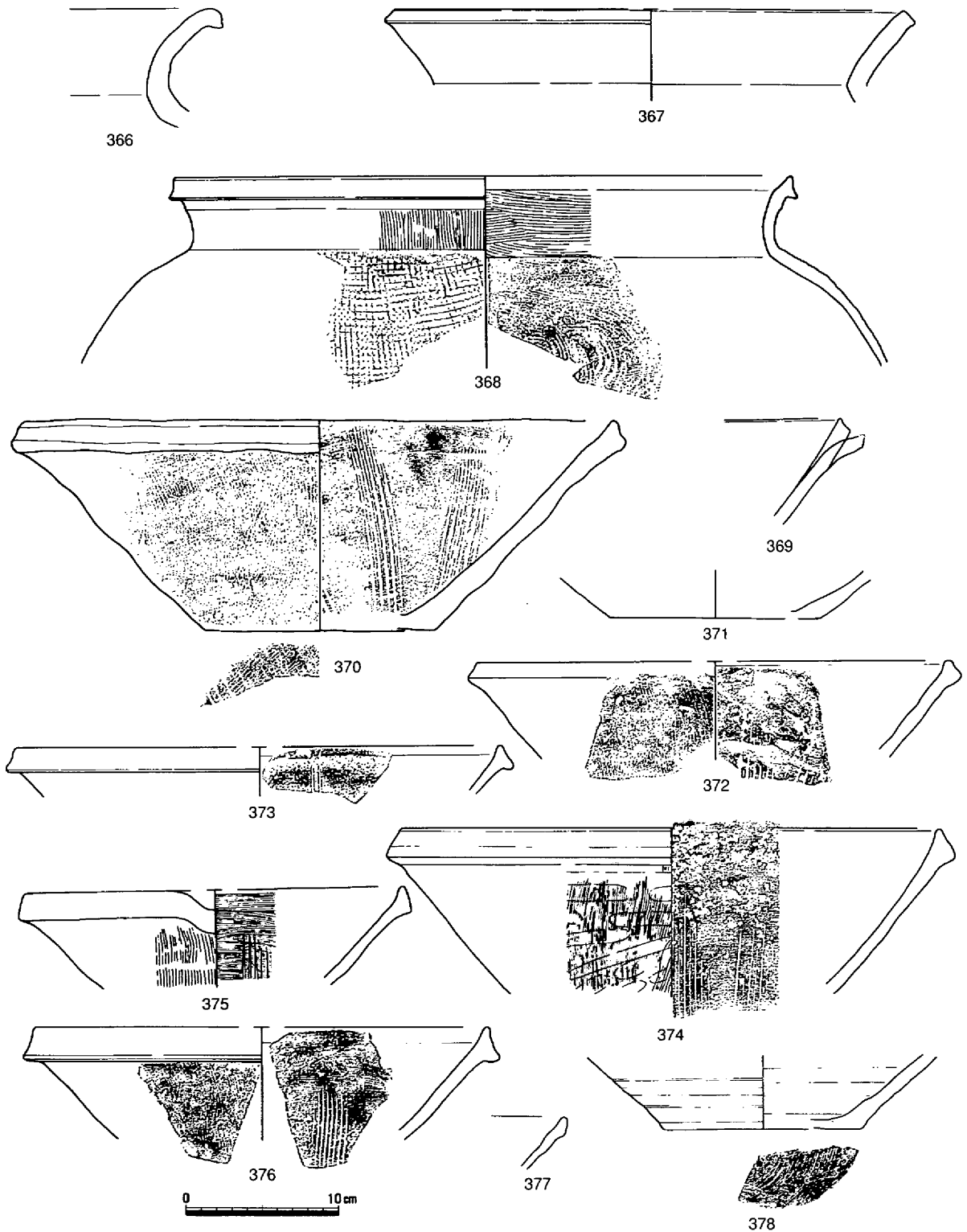
古代の遺構については確認していないが、わずかながらも遺物が出土している。土師器348は内面にヘラミガキを施し、349では外面にヘラミガキがみられる。時期は、11世紀後半以降と思われる。350は黒色土器の椀で、いわゆる内黒である。351は土師器の底部片である。時期は、11世紀前半に求められよう。



第97図 遺構に伴わない遺物 (中世) ① (1/4)

中世の遺物は、土器を中心にかなりの量が出土している。なお、土器以外の遺物として石器、鉄器、土製品がみられるが、なかには中世の包含層から出土しているが中世に属するかどうか不明なものも含まれている可能性がある。

353～366は、備前焼である。杯には352と高台の付く353があり、そのほかに徳利354、甕355～361

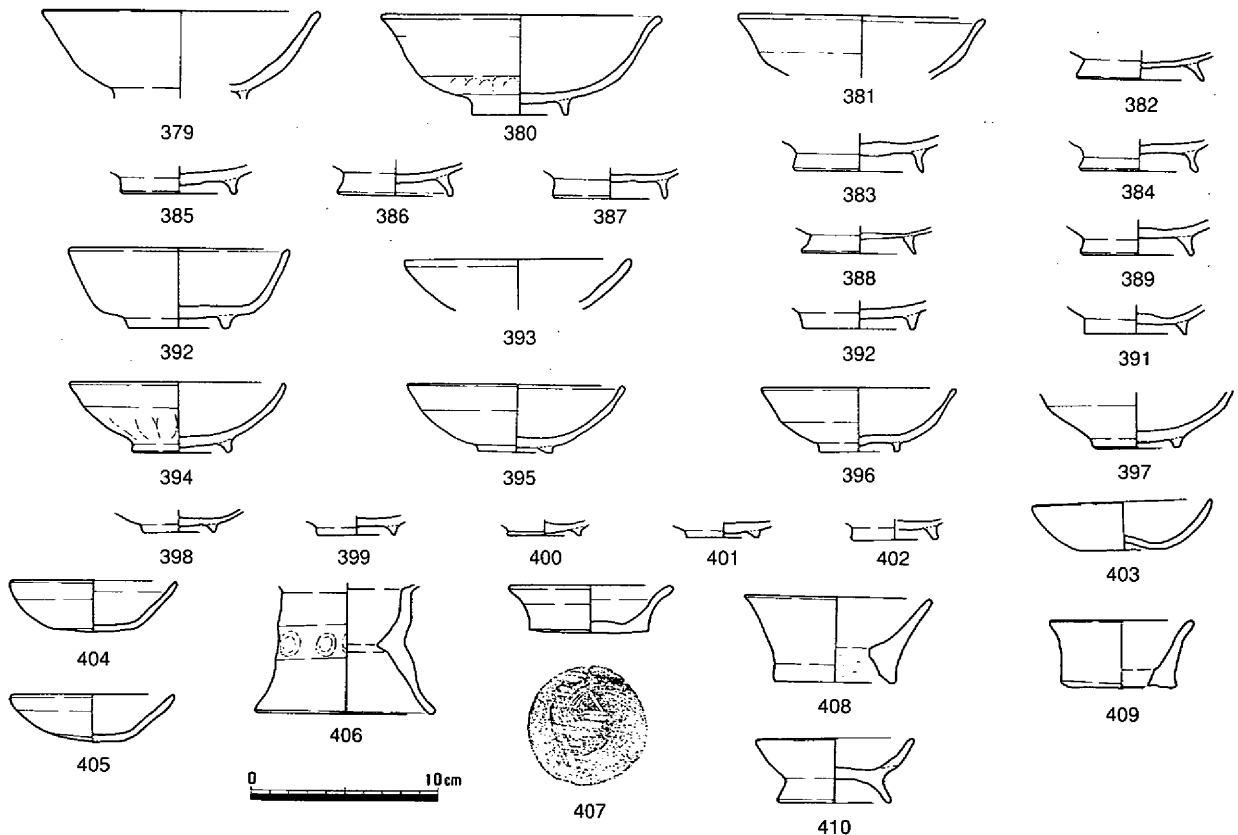


第98図 遺構に伴わない遺物（中世）②（1/4）

・366、播鉢362～365が出土している。時期は、IV～V期に属するものが大半であるが、366がII期に、365はIII期に該当する。亀山焼には、甕367～368、播鉢369～378がある。時期は、369が13世紀にはいるが、そのほかは14～15世紀代と思われる。377・378は東播系のこね鉢で、377は13世紀後葉と考えられる。

土師質高台付き碗379～402は、口径が10～14.5cm、底径が3.7～6.8cmの間にあり、13世紀前葉から14世紀初頭にかけての時期が考えられる。また、無高台のへそ碗403や404・405は14世紀中葉ころであろう。これ以外では蜀台形の406や407～409などがあり、これらは碗の受け皿と考えられる。皿では、高台の付く410が1点あるが、平安後期にさかのぼるとと思われる。411～412は、法量からみて4類ほどに分けられるが、すべての個体において底部にヘラキリを施している。このうち、411～442は口径が10.4～13.4cm、高さ2.2～2.6cmの間にあり、15世紀後半以降のものである。さらに、443～448では、底部に指押さえないしはナデを施している。443は畿内系小皿と考えられるが、それ以外については現在のところ在地産の可能性も考える必要があろう。時期は15～16世紀と思われる。449～455は脚台の付く盤としたい。全体に粗製の土器である。特徴としては、器壁が厚く、胎土中には砂粒を多く含み、調整は指押さえかナデである。また、色調は橙色系であり吉備系土師器碗に近い。ただし、449は底部ヘラキリがみられ、胎土の比較的精良な土器である。なお、内底面に煤が付着した個体が見られたのは使用法に関わるものであろうか。さらに、土師器鍋や釜の類には、456～467がある。碗・皿類と同様に13～16世紀までの時間幅がある。

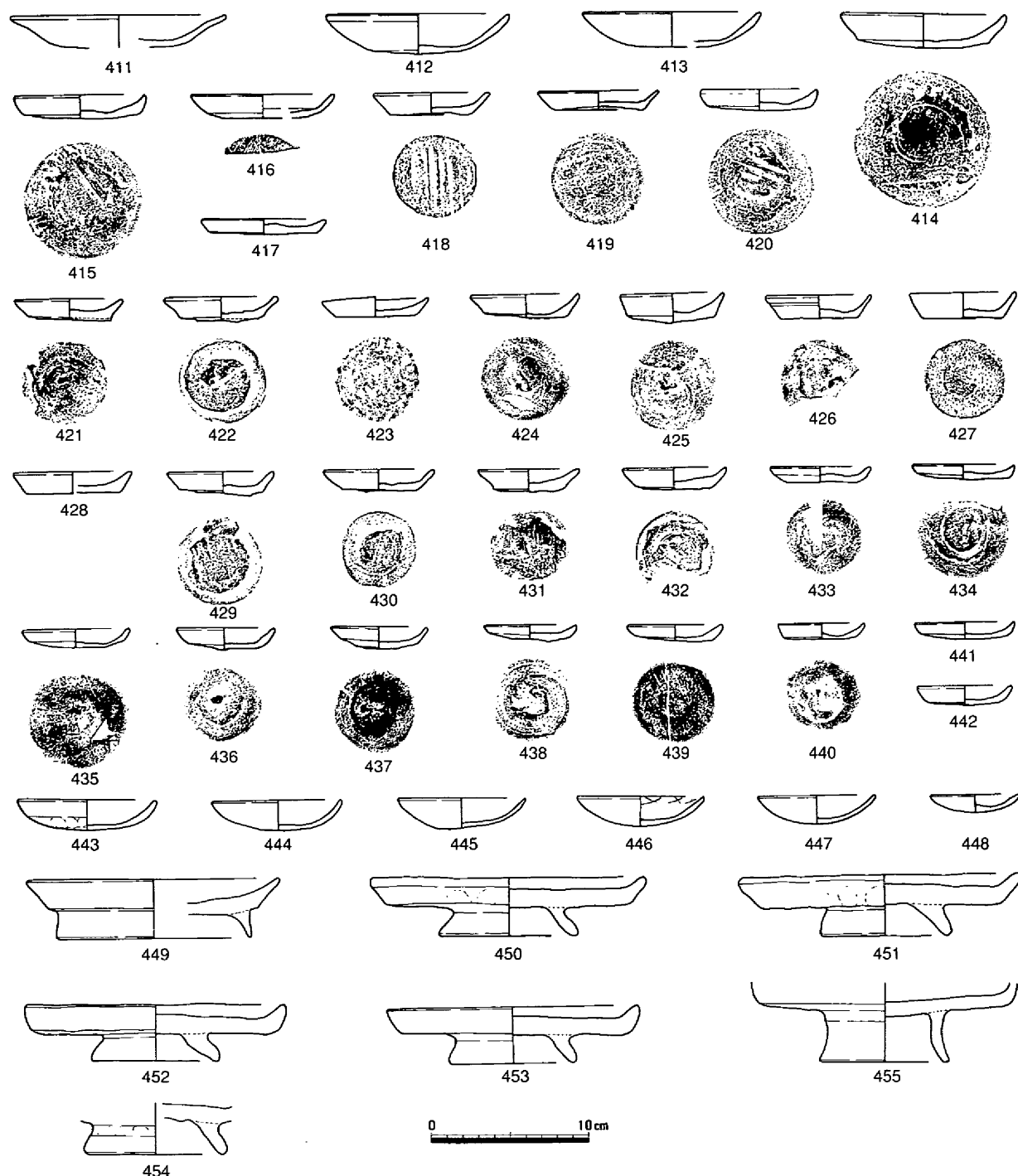
陶磁器類では、輸入陶磁器470～485と国産陶磁器486～493がある。前者はいずれも龍泉窯系であり、I類の碗470・471、IV類の碗472・473・477とそれに後出して15～16世紀代にみられる蓮弁文の碗474



第99図 遺構に伴わない遺物 (中世) ③ (1/4)

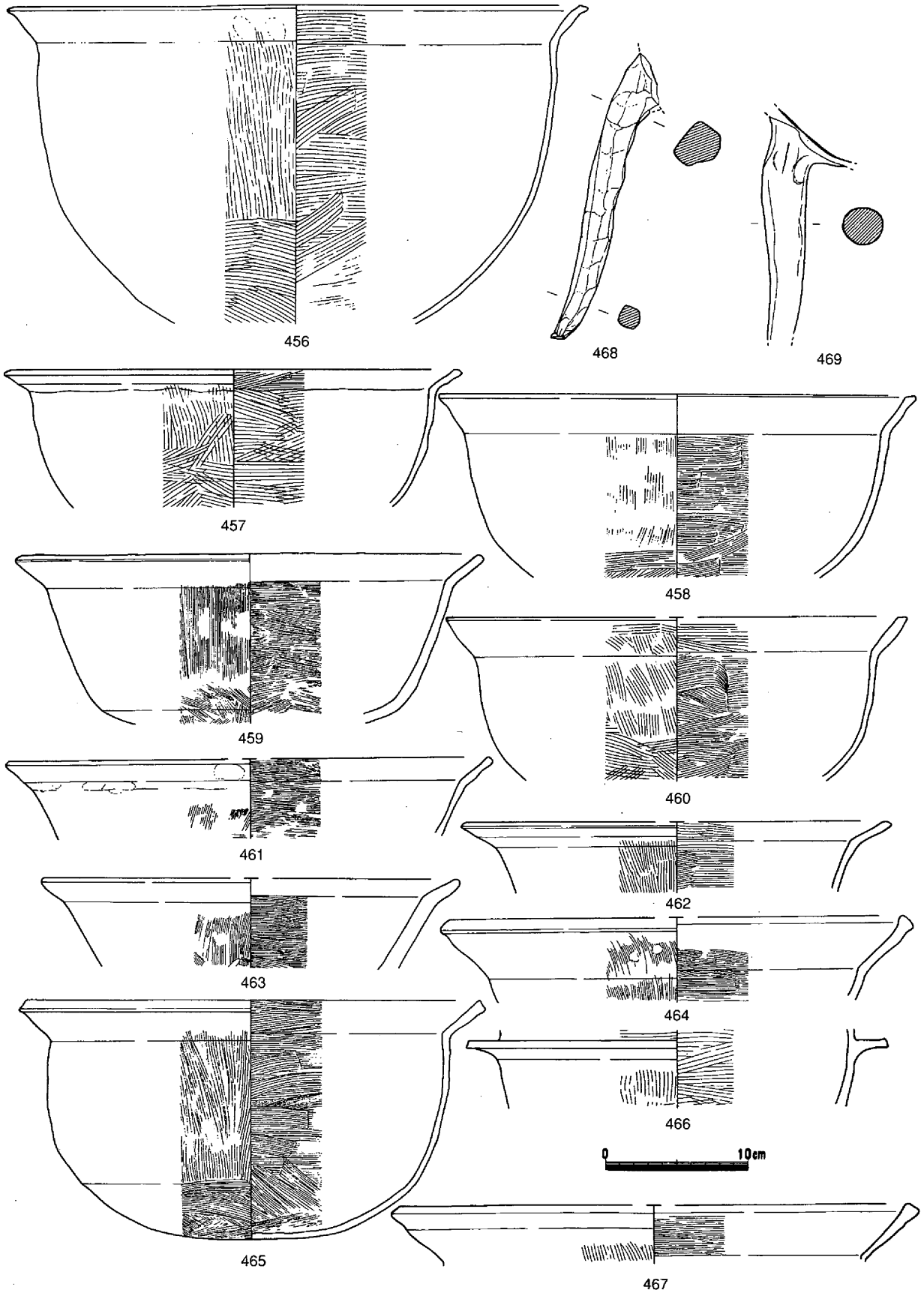
や無文の碗475・476・478がある。479～483は、白磁碗Ⅳ類の口縁部片と底部片484である。図示していないが「枢府系」白磁碗も出土している。485は、明末から清初頭にかけての染付けである。次に、国産陶磁器のうち、唐津産には486～490がある。486が折縁皿、487も皿で、488～490は碗である。時期は、17世紀初頭である。瀬戸・美濃産では、杯491、おろし皿492、菊皿493がみられる。492・493は、16世紀末ころの時期が考えられる。494は、雷文のスタンプを施す瓦質土器である。産地、器種ともに不明である。

さらには瓦質土器の羽釜495や、巴文の軒丸瓦496が出土している。

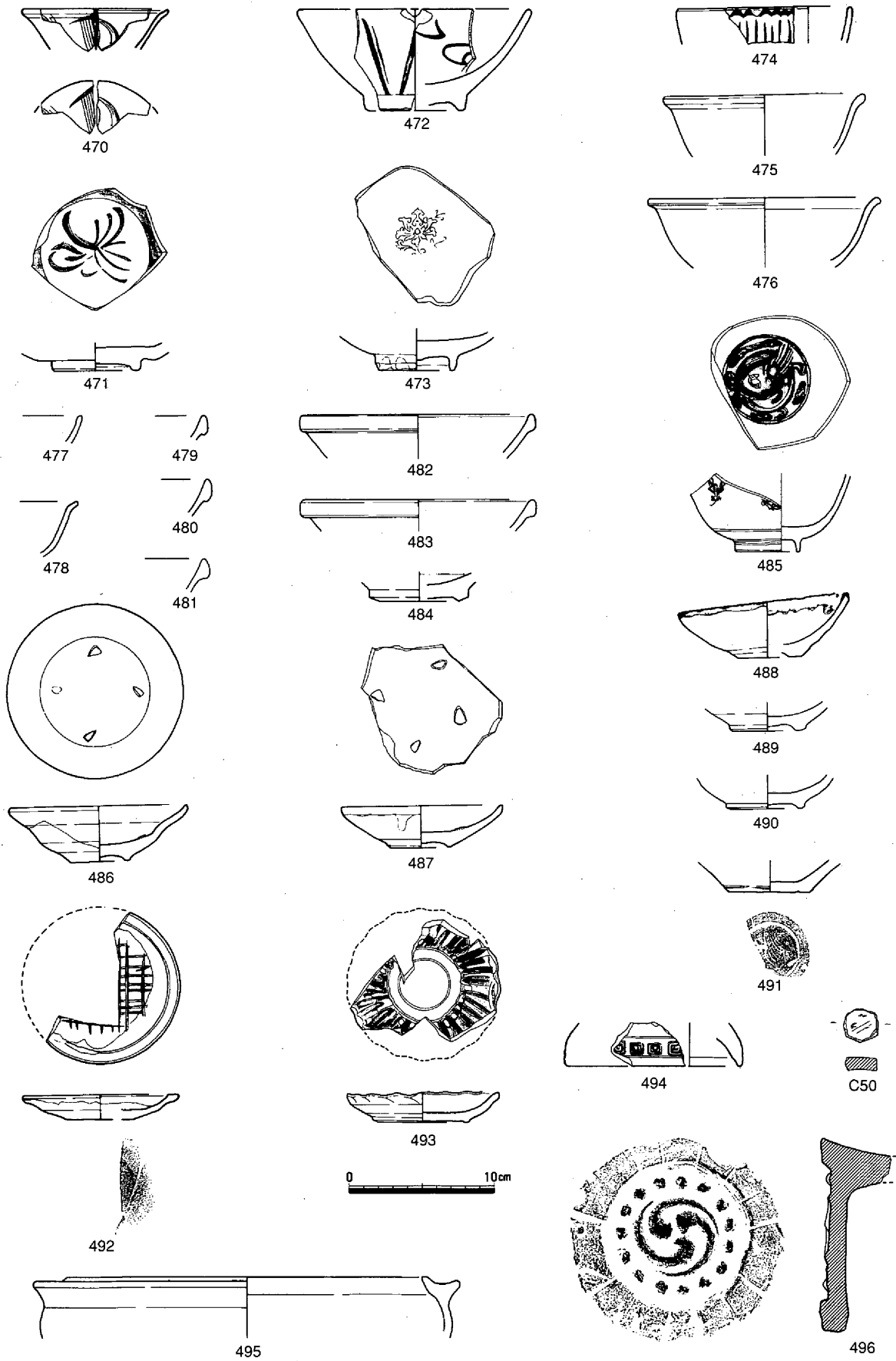


第100図 遺構に伴わない遺物（中世）④（1/4）

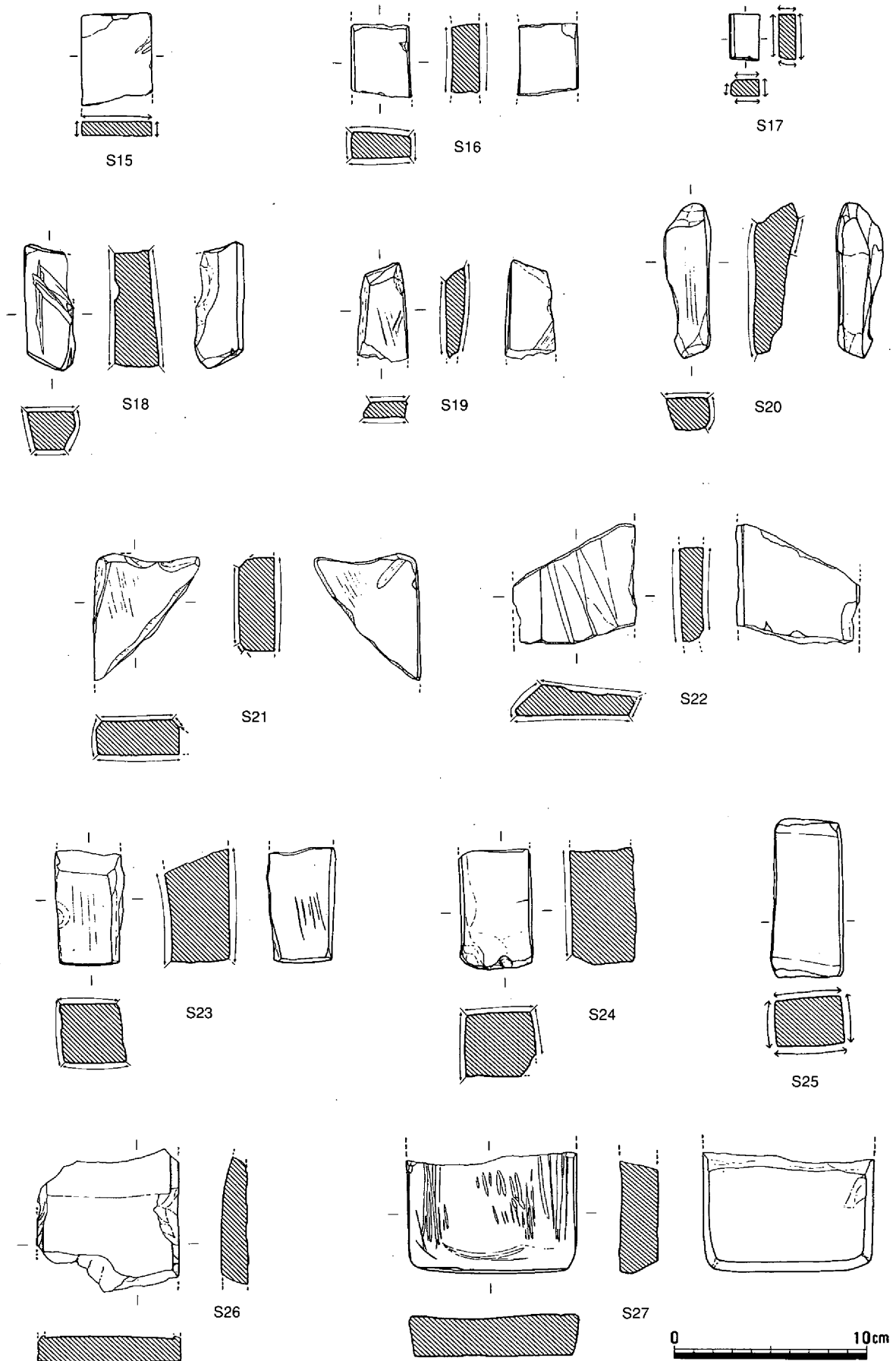




第101図 遺構に伴わない遺物 (中世) ⑤ (1/4)



第102図 遺構に伴わない遺物（中世）⑥（1/4）

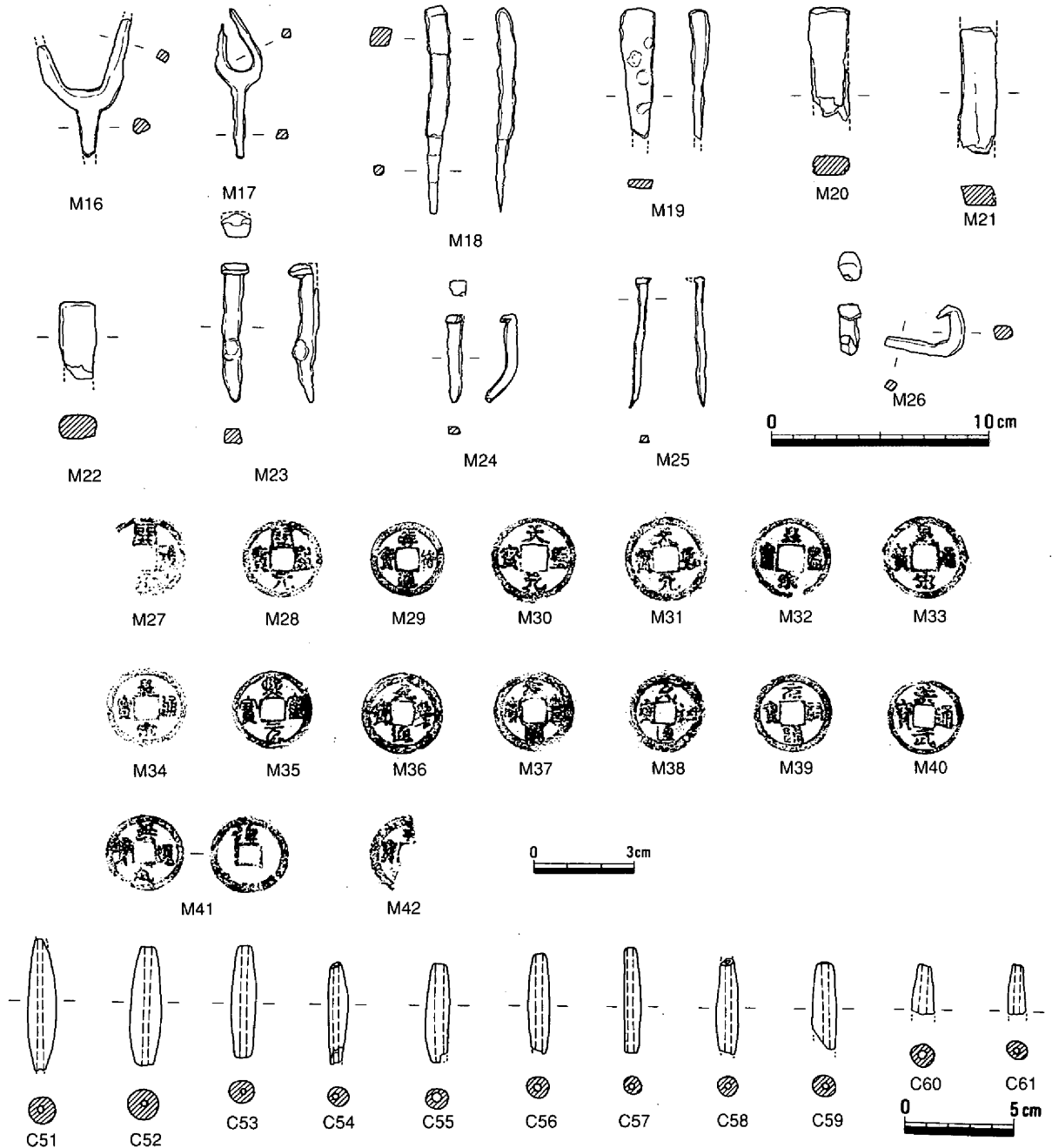


第103図 遺構に伴わない遺物（中世）⑦（1/3）

土器以外にも石製品、土製品や金属器などが出土している。石製品では、S15～25が砥石で、石材は流紋岩が多いが頁岩もある。S26は頁岩製の硯である。S28も硯の可能性もある。土製品のうち、C50は、土器片の周囲を打ち欠いた用途不明の土製品である。このほかには、土錘C51～61がある。

鉄器では、M16・17が雁又形の鉄鏃である。M18は釘状をなす。M19は頭部が丸くなっており、身部が扁平となる。用途不明である。M20～22は、大形の釘であろうか。M23～25は鉄釘である。銭貨では、開元通寶M27・28、祥符通寶M29、天聖元寶M30・31、皇宗通寶M33・34、熙寧通寶M35、元豊通寶M36・37、元祐通寶M38・39、洪武通寶M40・41、不明M42などの宋から明にかけての銅銭がある。

(弘田)



第104図 遺構に伴わない遺物 (中世) ⑧ (1/3, 1/2)

## 5 近世の遺構と遺物

### (1) 概要

近世に関する遺構は少ない。北側の河道は近世にも継続していて、2つ目と3つ目を区切る南北方向の溝も存在する。塚廻り調査区の西から2つ目の区画には、南北方向に並行して並ぶ3条の溝と同区画の南東隅にほぼ南北へ延びる短い溝を1条検出した。埋土中には、石臼のほか、備前焼の播鉢や唐津焼の高台付碗などを出土している。(正岡)

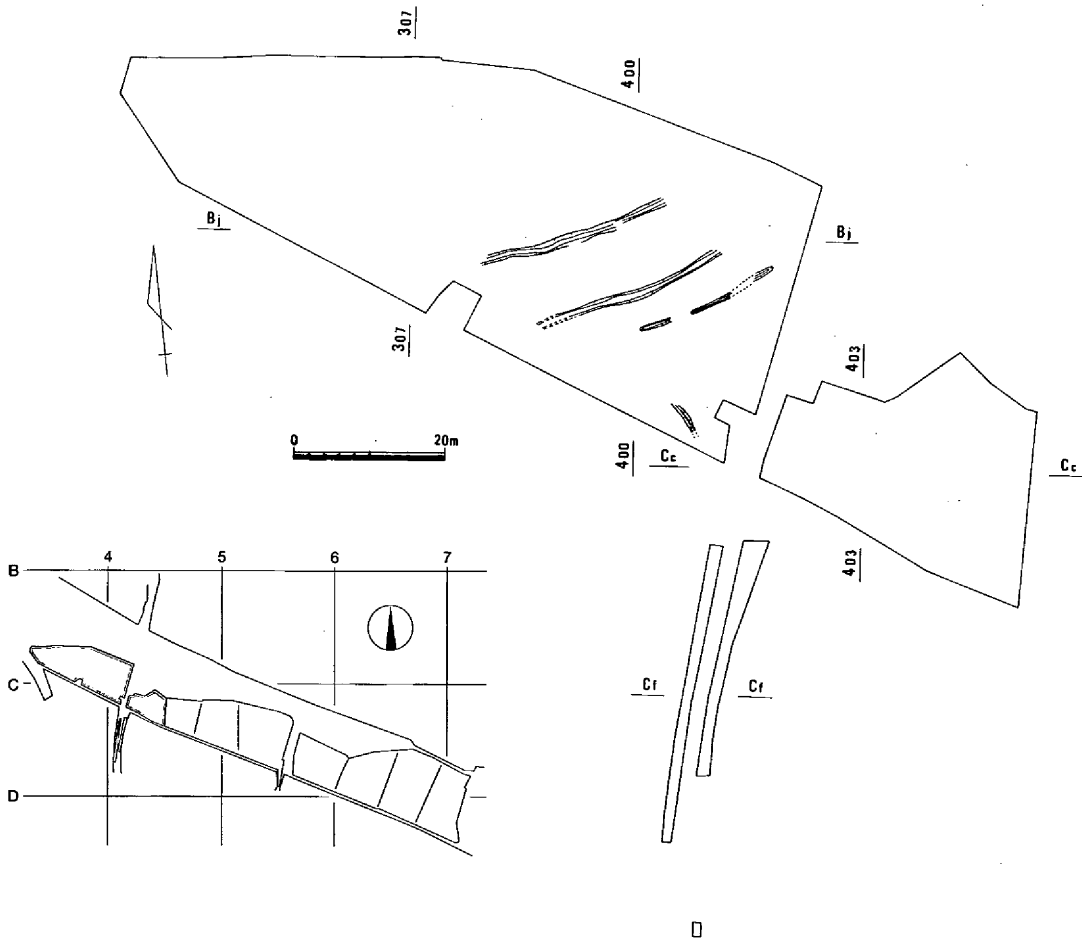
### (2) 溝

#### 溝12 (第106・107図)

調査区の西から2つ目の区画に位置し、並行する3条の溝のうち北側のものである。少し南へ湾曲しながら東西方向へ26mを検出した。断面はU字形を呈する。埋土中からは、備前焼の底部497、同播鉢498がある。時期は近世に比定される。(正岡)

#### 溝13 (第106・108図)

調査区の2つ目の区画に位置し、並行する3条の溝のうちの真ん中にある。少し南に湾曲しながら



第105図 塚廻り調査区近世主要遺構全体図 (1/750)

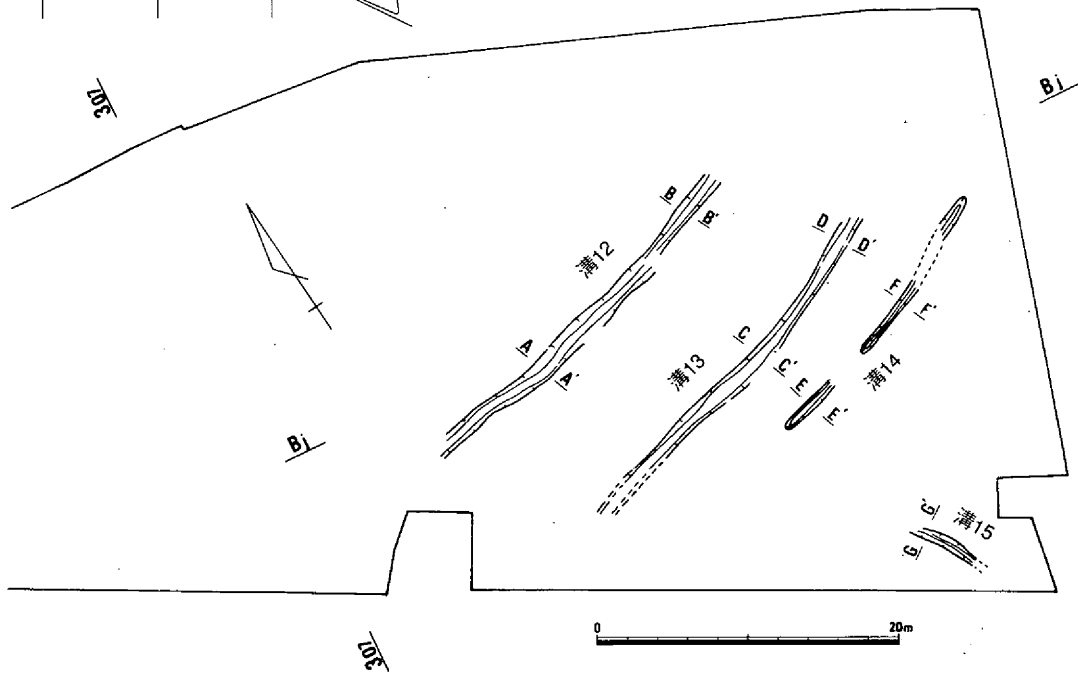
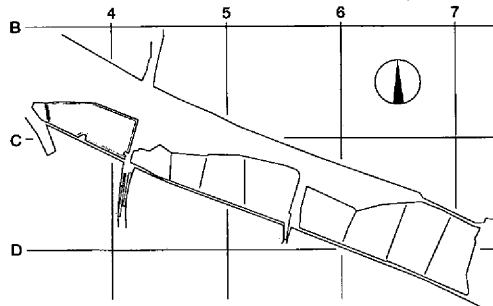
東西方向へ23mを検出した。断面は鍋底形を呈する。 (正岡)

**溝14** (第106・109図)

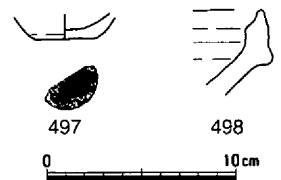
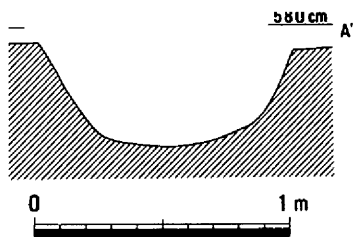
調査区の西から2つ目の区画に位置し、並行する3条の溝のうちの南側のものである。少し南に湾曲しながら東西方向へ途切れながら20mを検出した。断面は鍋底形を呈する。埋土中からは、角閃石安山岩製の石臼S28を出土した。直径19.3cm、高さ12.4m、重さ5,250gを測る。上面には皿状の彫り込みがあり、中央部に円形の穴が通る。時期は近世に比定される。 (正岡)

**溝15** (第106・110図、図版89)

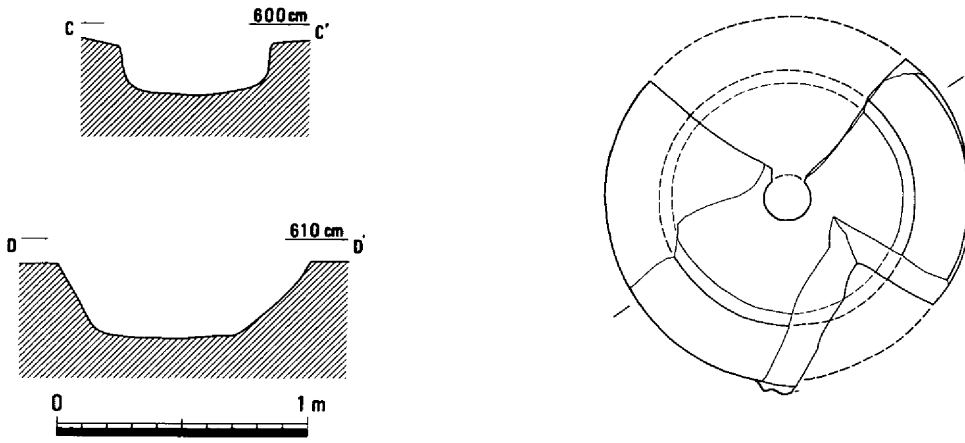
調査区の西から2つ目の区画に位置する。区画の南東隅にあつて、ほぼ南北方向へ延びる溝を4m程検出した。溝の幅80cm、深さ30cmを測り、断面はV字形を呈する。埋土中からは、亀山焼の甕499、唐津焼の高台付碗500を出土した。亀山焼の年代は鎌倉時代のものであるが、溝の年代は近世に比定される。 (正岡)



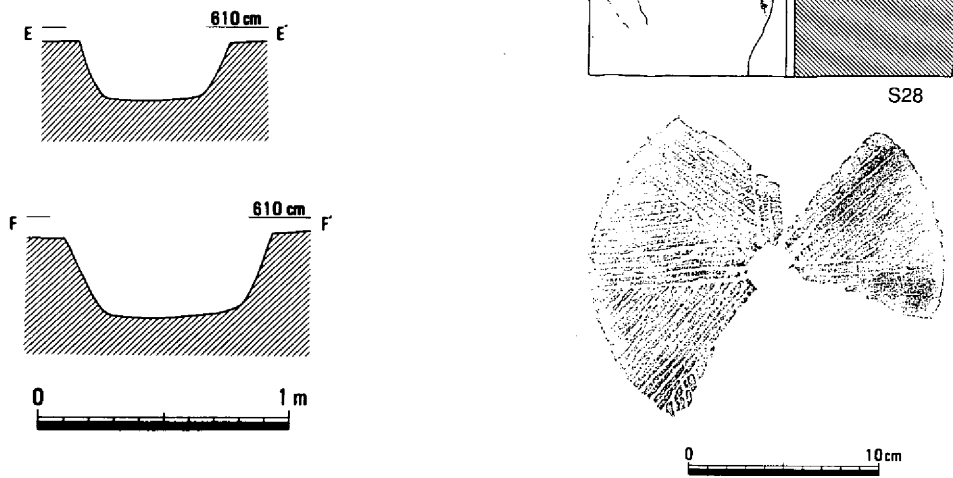
第106図 塚廻り調査区近世主要遺構部分全体図 (1/500)



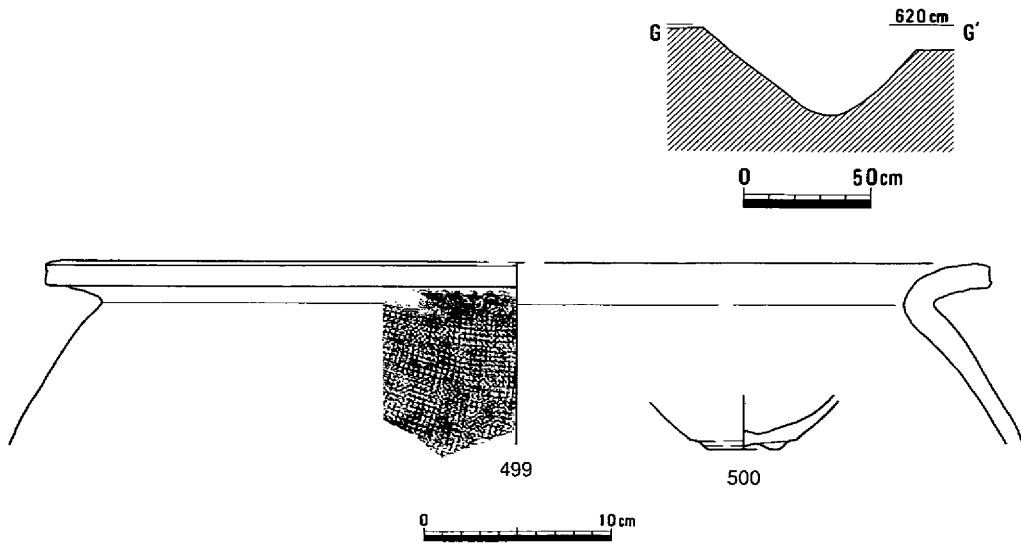
第107図 溝12 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第108図 溝13 (1/30)



第109図 溝14 (1/30)・出土遺物 (1/3)



第110図 溝15 (1/30)・出土遺物 (1/4)

## 第2節 フロヤ調査区

### 1 調査区の概要

フロヤ調査区は、今回発掘調査を実施した高塚遺跡の中では中央部に位置し、西側に塚廻り調査区、東側に角田調査区を設定している。

調査前の状況は水田として利用されていたが、調査の結果北側約1/3は中世から近世にかけては河道になっていたことが明らかになった。また微高地部分の基本的な土層は、現在の水田層の下に近世から続くと思われる粗砂・細砂を中心とした床土層が存在する。この床土層の下には中世から近世初頭と考えられる灰色～灰白色粘土が堆積しており、発掘調査はこの土層までを重機によって除去することから開始した。この灰色～灰白色粘土層の下は基本的には黄色砂質土になり、この面まで掘り下げることによって遺構を検出することができた。この黄色砂質土は約1mの深さまでは続いていることを確認したが、それより下位の状況については調査しなかった。

古代・中世以降の遺構・遺物は、黄色砂質土面上において掘立柱建物や柱穴・溝などを検出することができた。また弥生～古墳時代の竪穴住居・袋状土壇・土壇・柱穴などの遺構や遺物は、黄色砂質土面上において検出できるものもあったが、多くはこの面を10～20cm掘り下げることによって見つけることができた。

(平井)



銅鐸の検出



報道発表



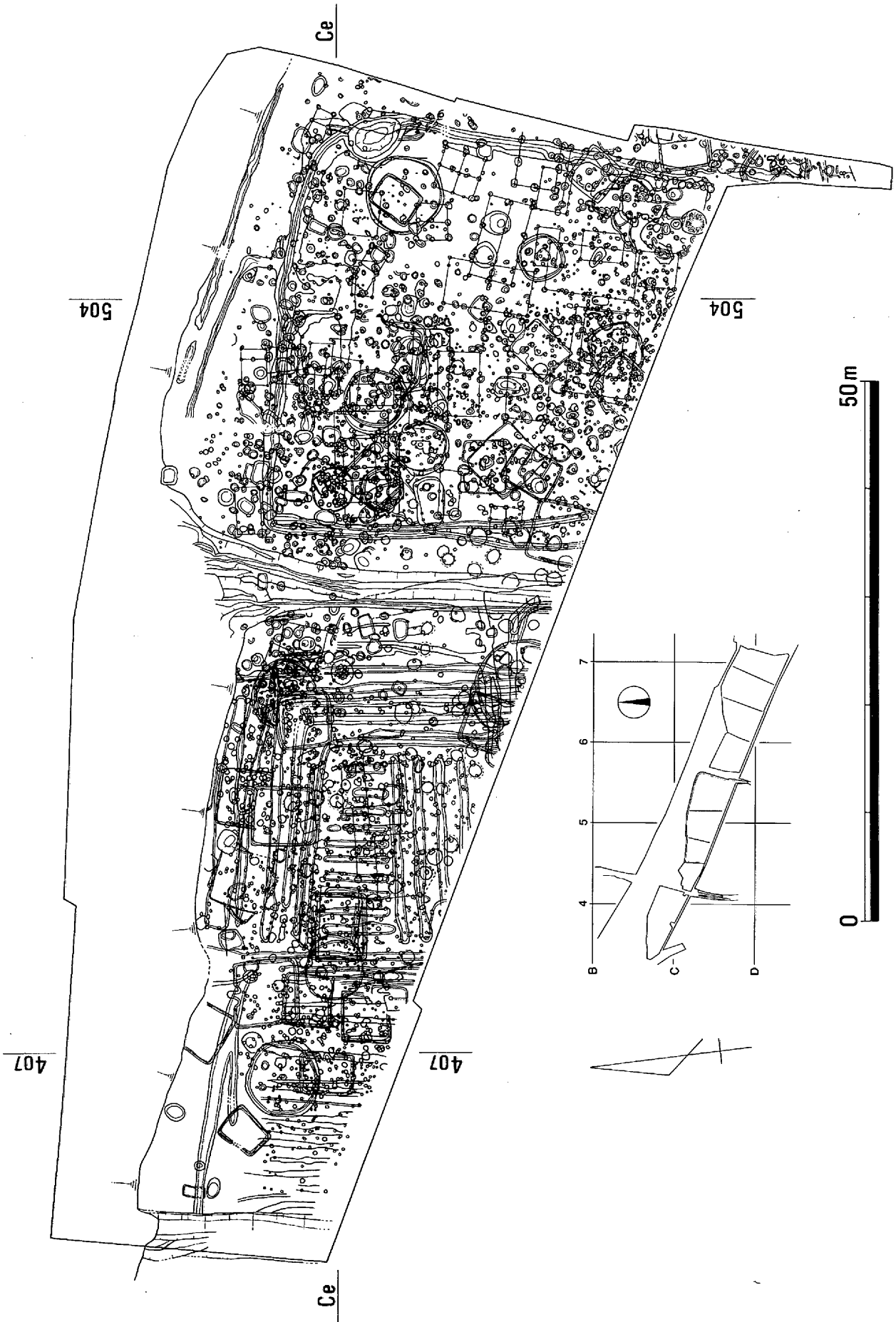
銅鐸埋納墳 切り取り作業



貨泉の検出

写真6 フロヤ調査区作業風景





第111図 フロヤ調査区遺構全体図 (1/500)

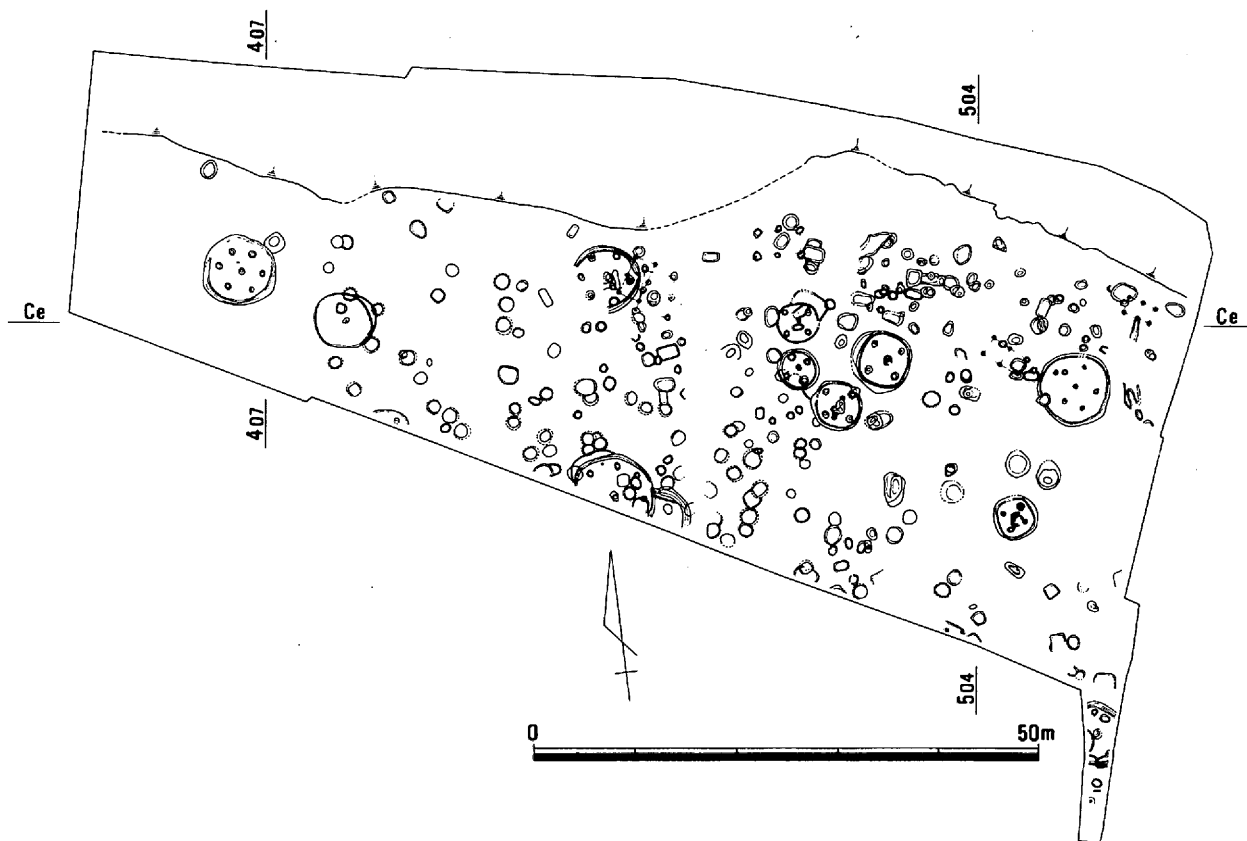
## 2 弥生時代の遺構・遺物

### (1) 概要

調査区南側の微高地部分において検出できたが、北側は中世以降に削られて河道となったもので、弥生時代の遺構は本来北側にも存在していたであろう。

検出できた遺構は、竪穴住居15軒、掘立柱建物5棟、銅鐸埋納壙1基、袋状土壙86基、土壙142基、溝4条、柱穴多数などである。竪穴住居の時期は、大きくは弥・後・Ⅰと弥・後・Ⅲ～Ⅳとに区別することができる。平面形は円形のものが多いが、隅丸方形にちかいものもある。竪穴住居8と13は火災を被った住居である。調査区の西半部には弥・後・Ⅲ～Ⅳの竪穴住居は存在していない。掘立柱建物の規模は、すべて2×1間である。柱掘り方の規模から高床倉庫ではないかと推定しているが、実態は不明である。時期は後期と考えているがより詳しい時期は不明である。銅鐸埋納壙については、本文と「第3章第4節まとめ」において詳述しているが、発掘調査中に検出できたものとして貴重であろう。袋状土壙の時期は、不明確なものもあるがすべて弥・後・Ⅰと考えている。平面形状は円形や楕円形のものが多いが、方形にちかいものも存在している。規模や底面の海拔高については、一定していない。西端部以外に密に分布しており、切り合うものもある。また同時期の竪穴住居とも切り合っており、袋状土壙のみが存在しているわけではない。

遺物としては、銅鐸と袋状土壙18から出土した貨泉が特筆できる。これ以外にも土器や土製品（分



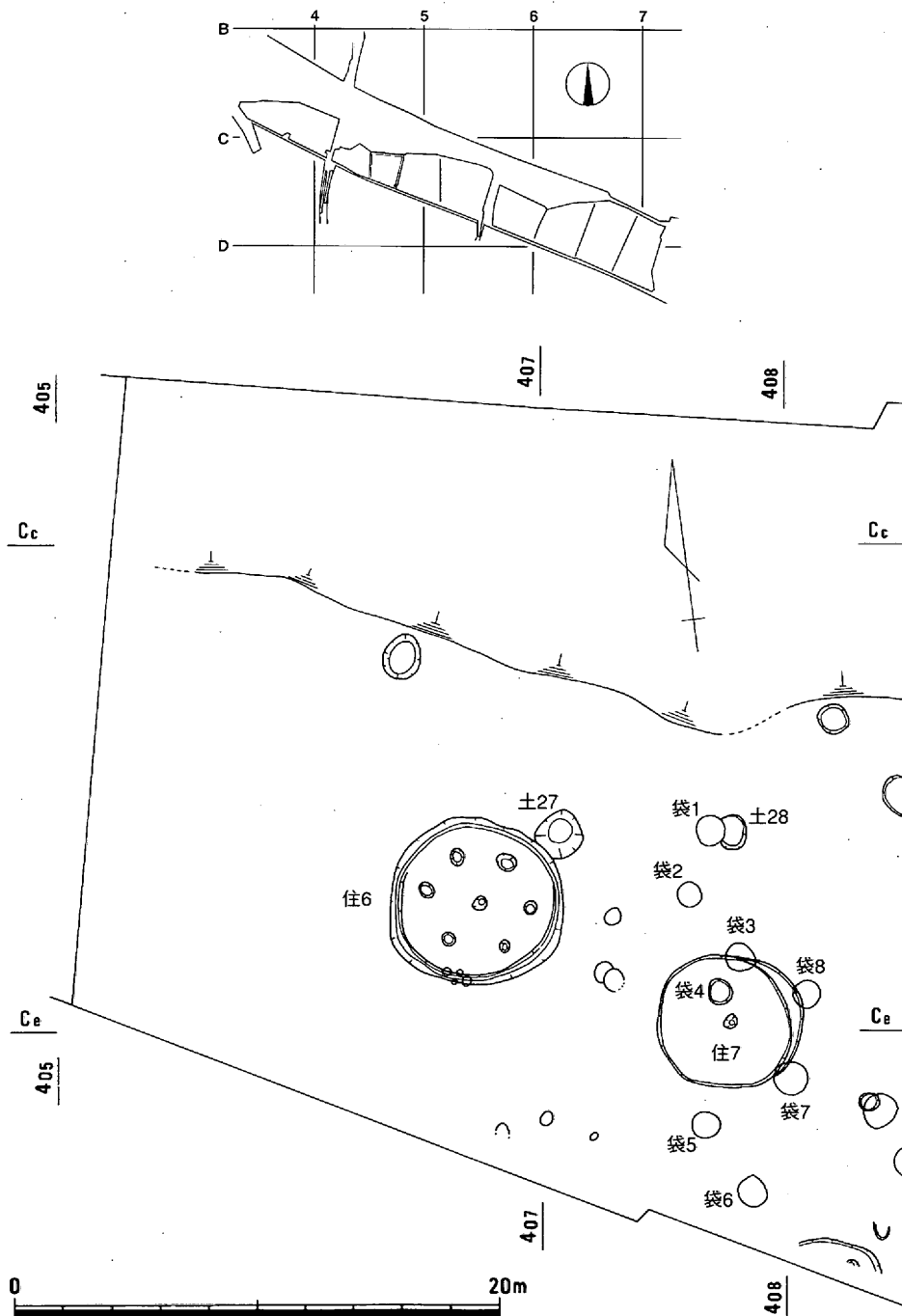
第112図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750)

銅形土製品、土器片転用の紡錘車、勾玉、土玉、土錘)、ガラス玉、石器(石包丁、スクレイパー)、鉄器(鉞、摘鎌)などが多数出土している。(平井)

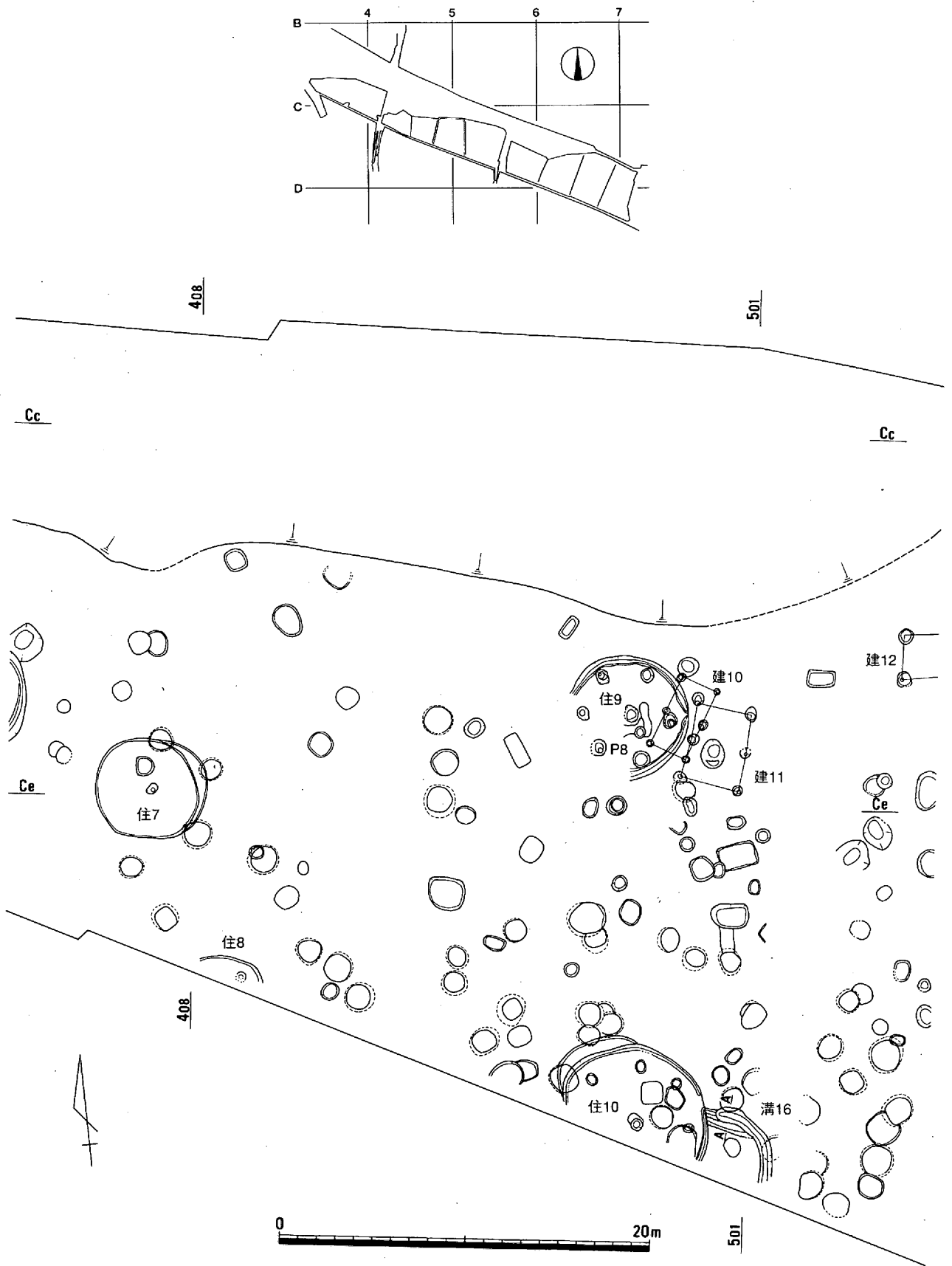
## (2) 竪穴住居

竪穴住居6 (第113・118~120図、図版4・90)

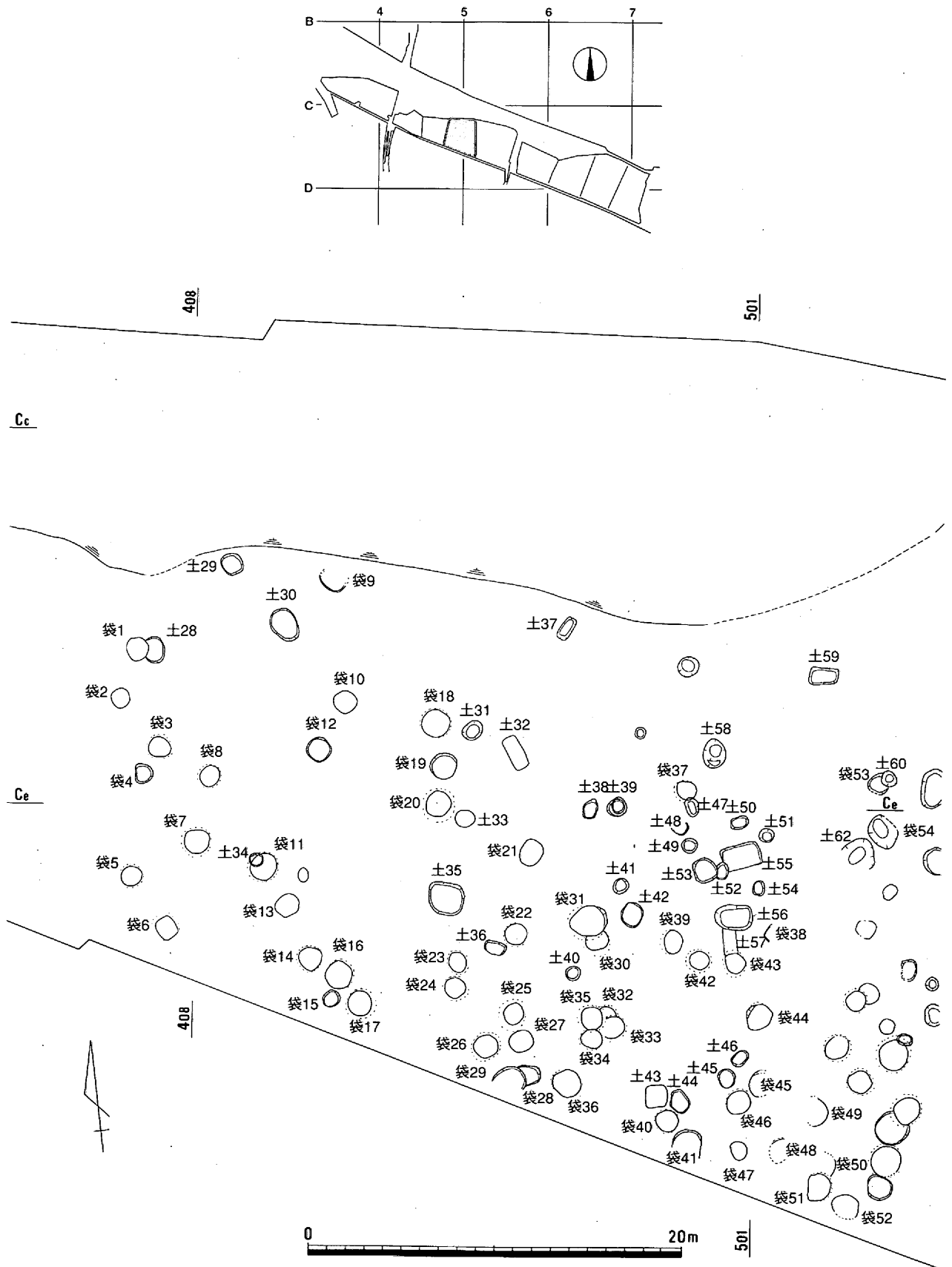
Cc406区中央部で検出した円形の竪穴住居である。規模は、東西740cm、南北675cm、深さは38cmを測る。床面積は、33.9m<sup>2</sup>、床面の標高は536cmである。柱穴は6本、中央穴は1個検出できた。焼



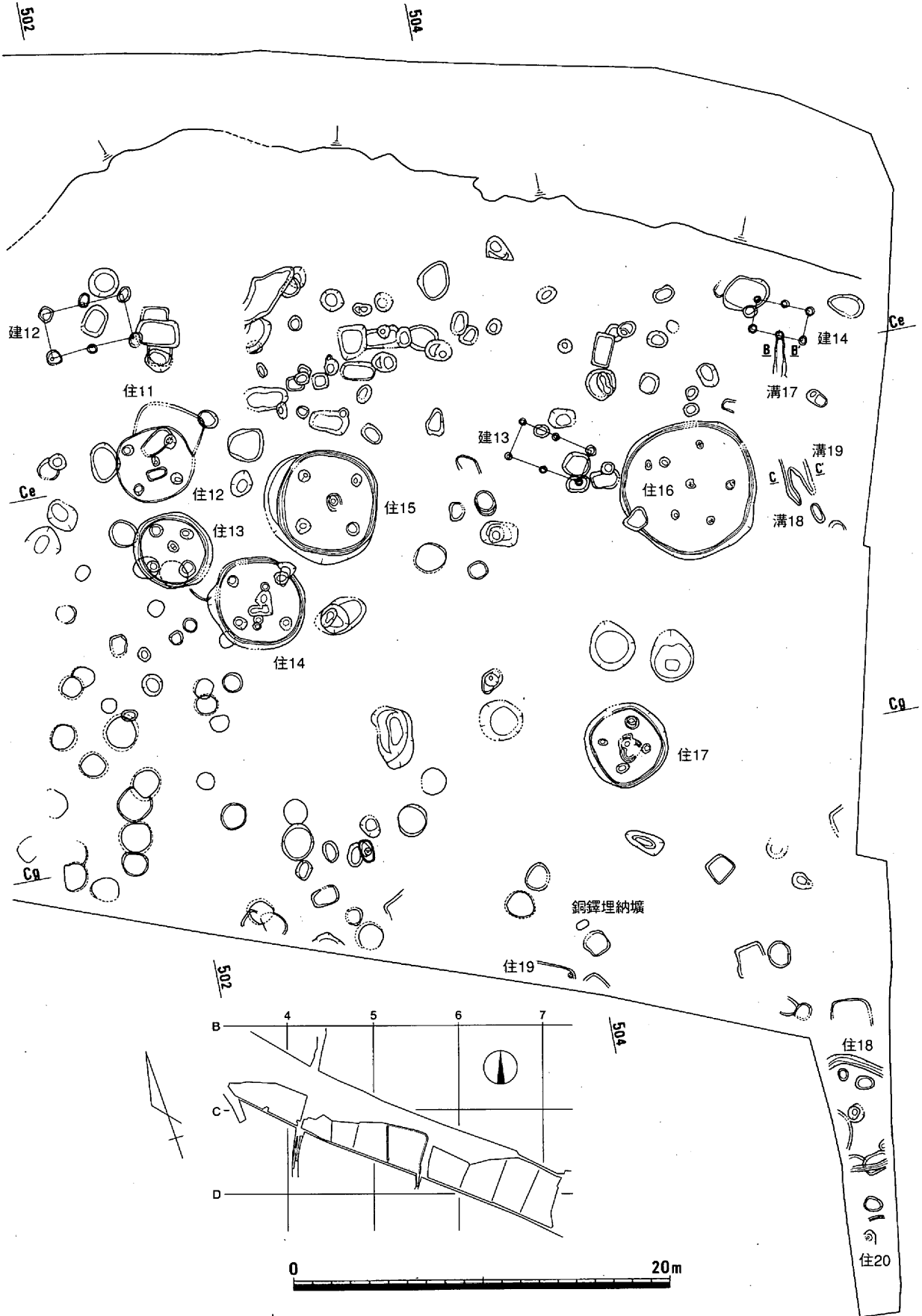
第113図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図① (1/300)



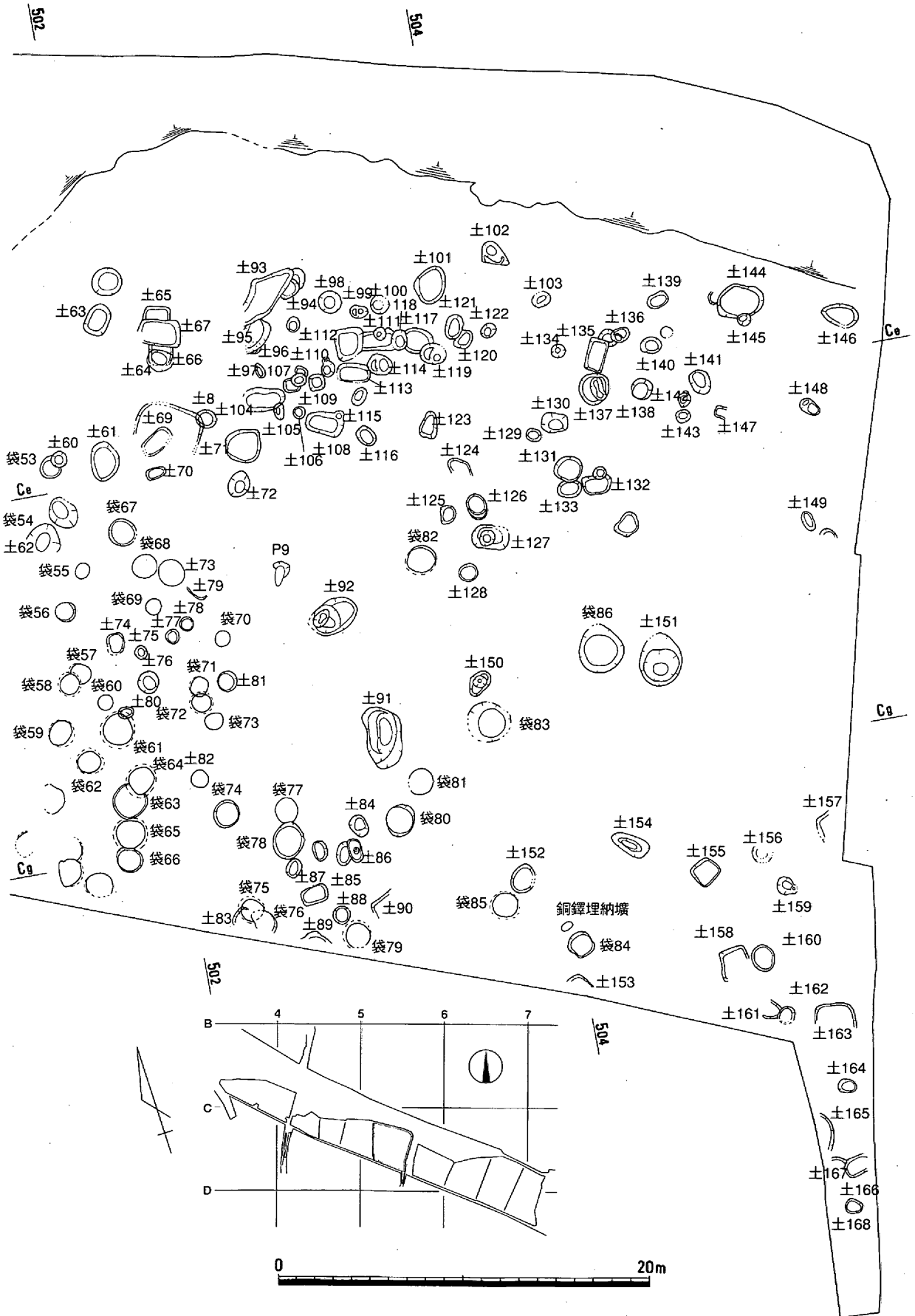
第114図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図② (1/300)



第115図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図③ (1/300)



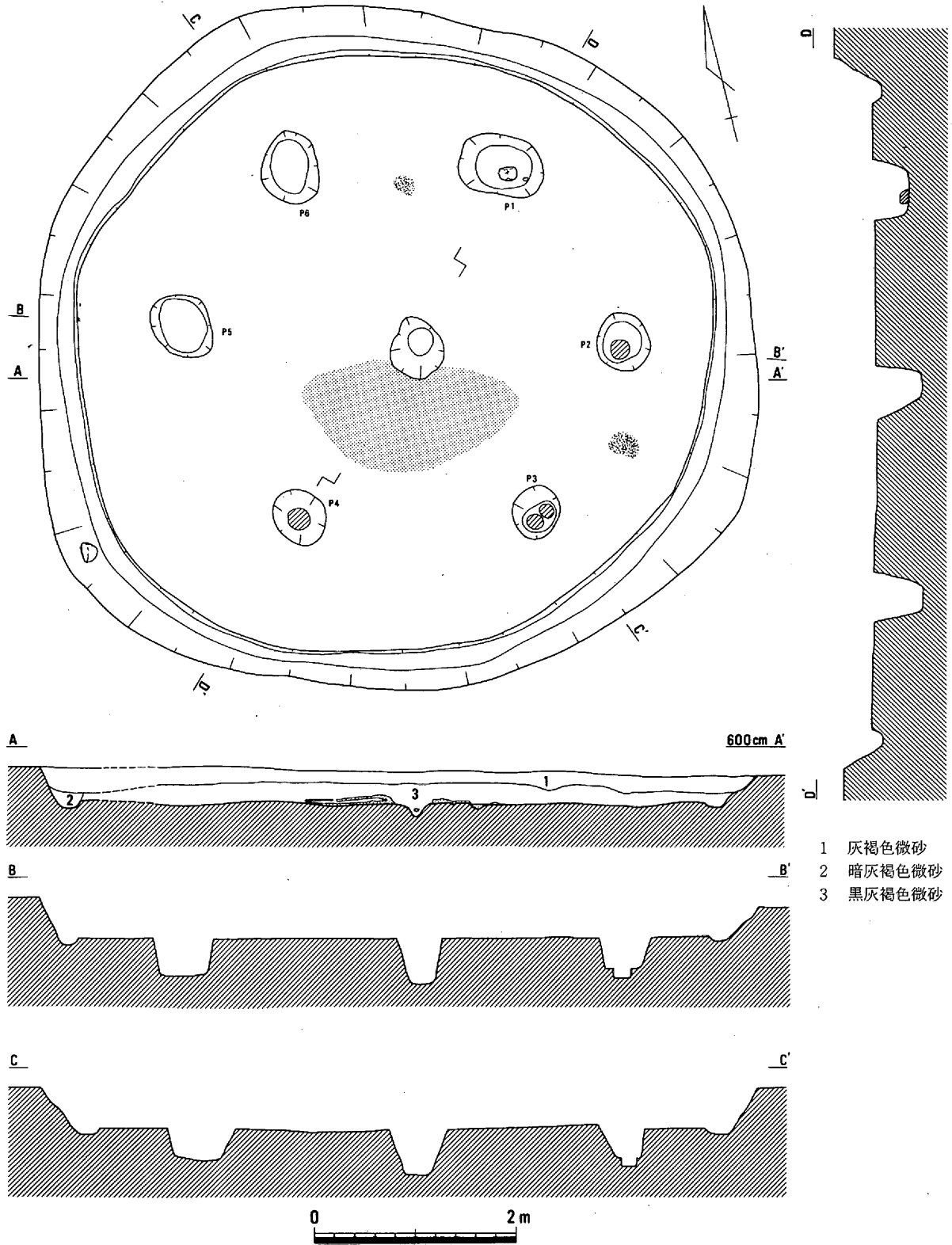
第116図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図④ (1/300)



第117図 フロヤ調査区弥生時代主要遺構部分図⑤ (1/300)

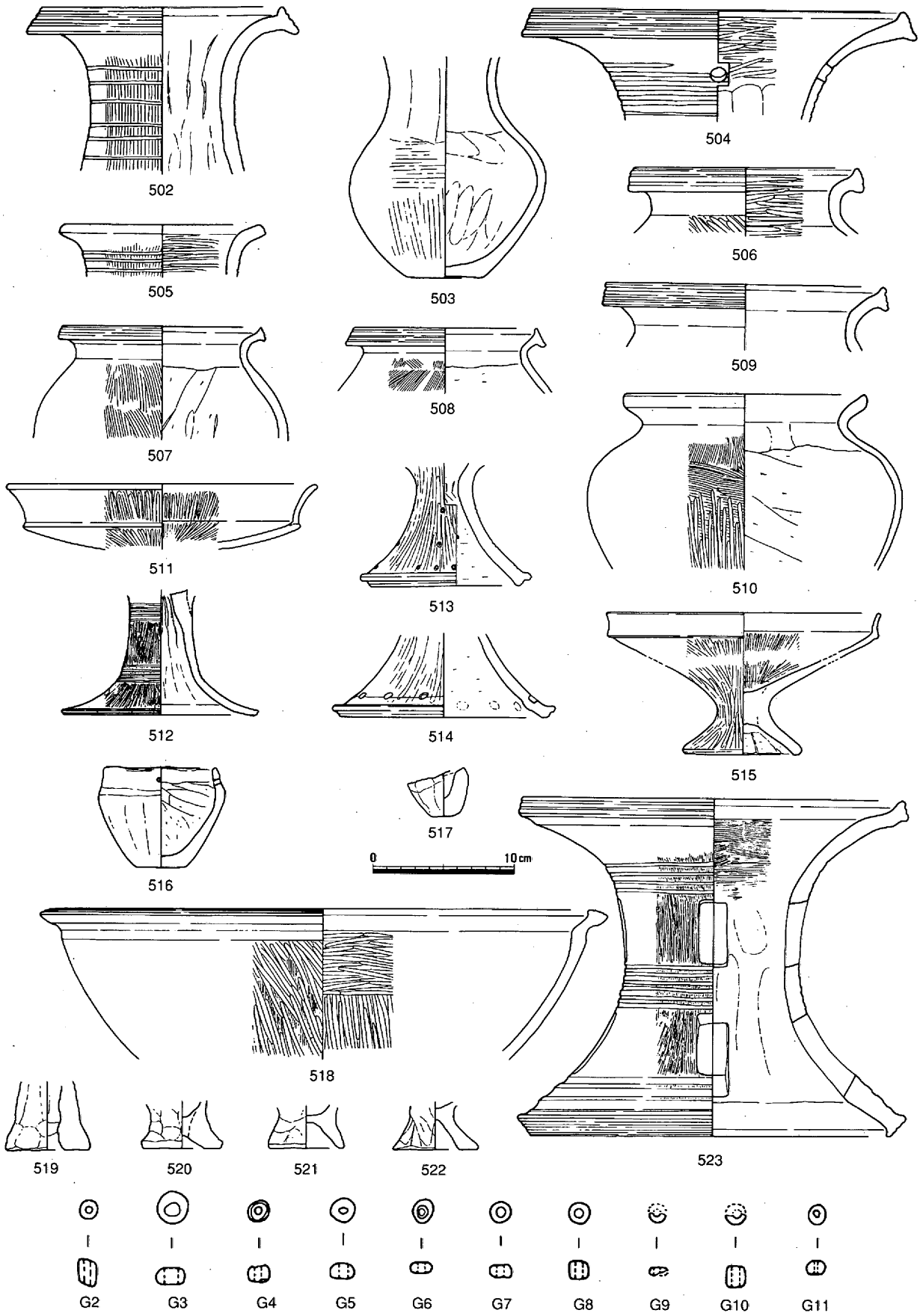
土面は2か所認めた。中央穴の周囲に炭が集中していた。このことから火災に遭遇したものと考えられる。

遺物は、弥生土器のほかにガラス小玉10点、紡錘車9点、分銅形土製品1点が出土している。502～

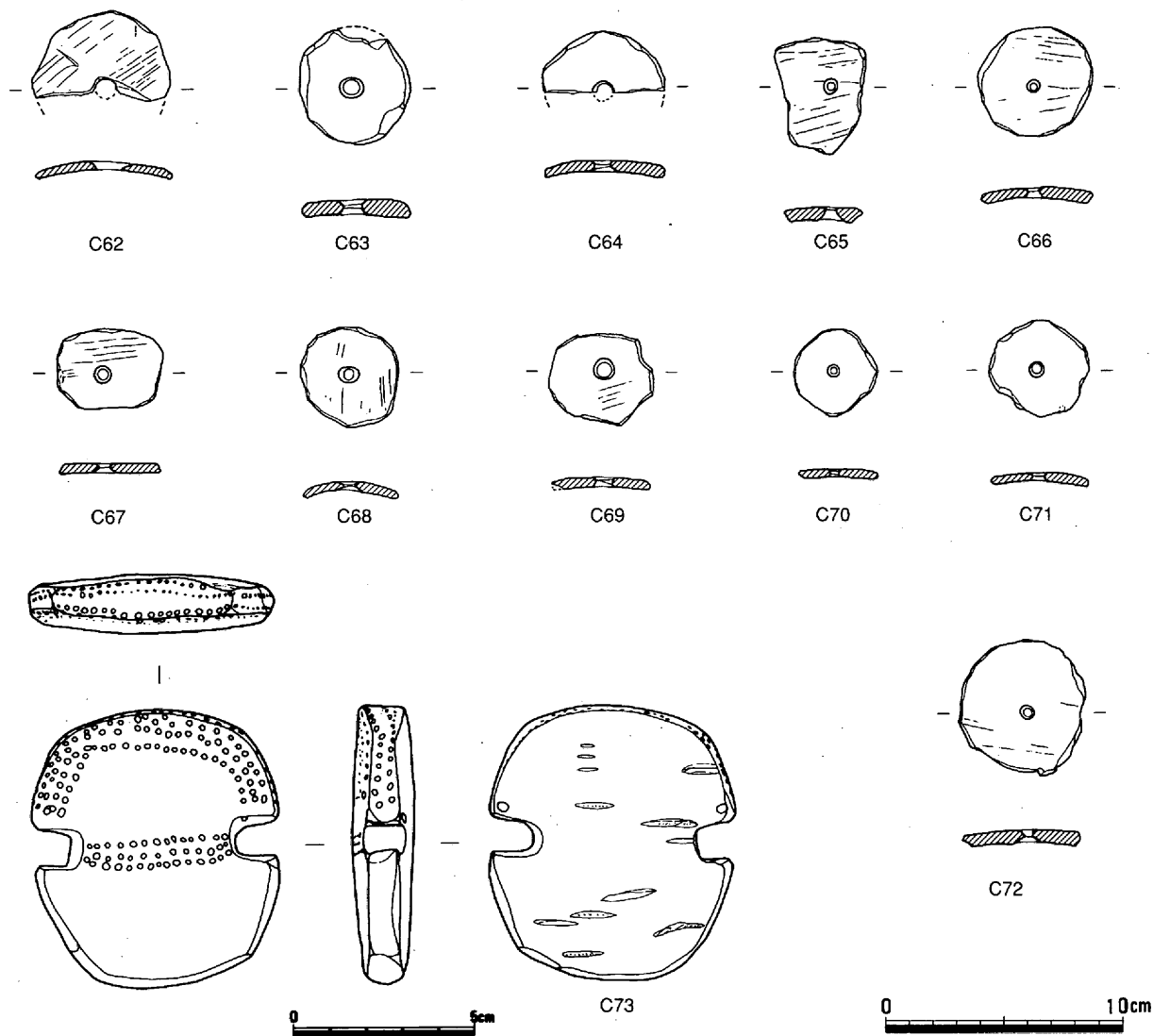


第118図 竪穴住居6 (1/60)





第119図 竪穴住居6出土遺物① (1/4, 1/1)

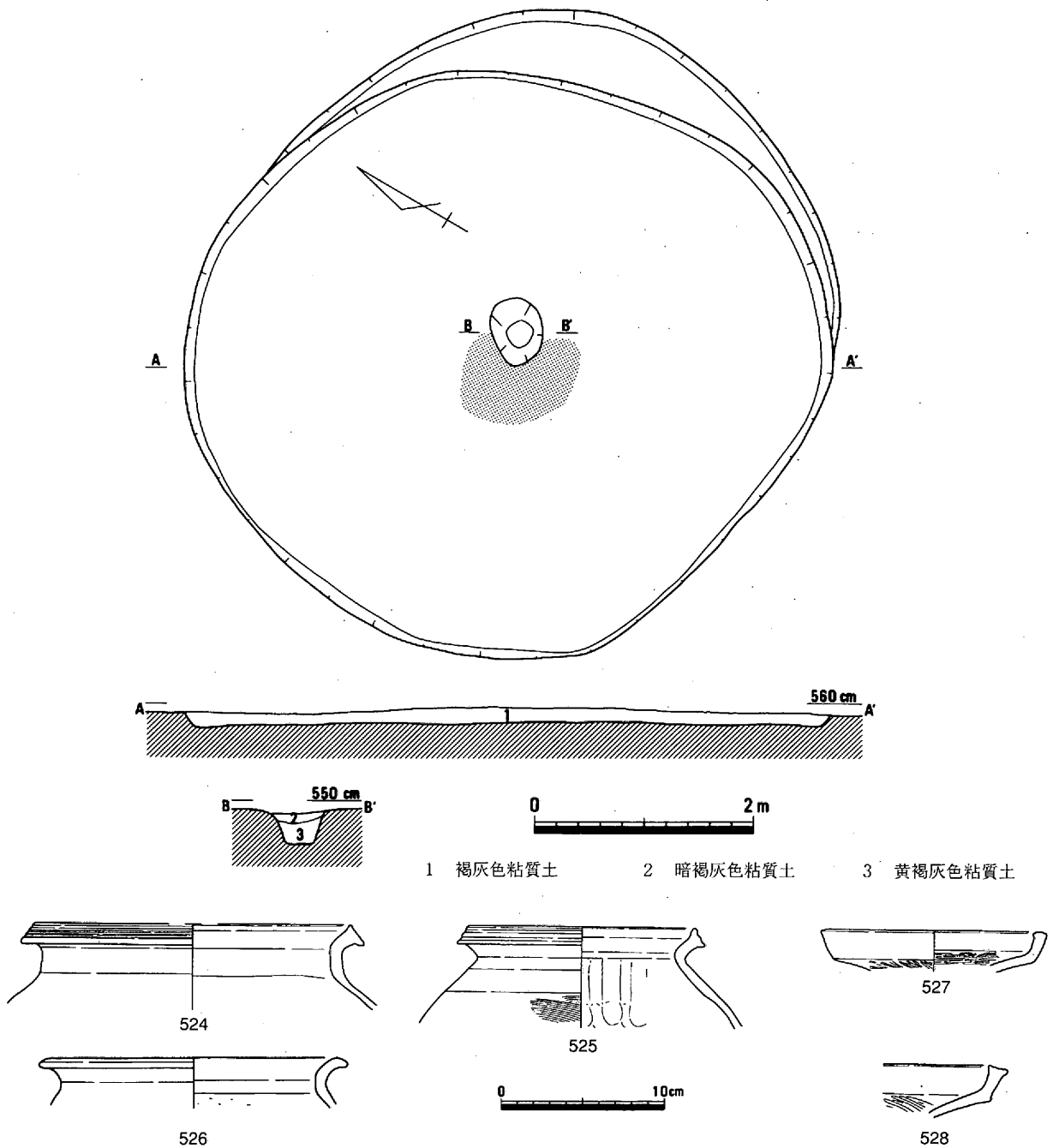


第120図 竪穴住居6 出土遺物② (1/3,1/2)

506は壺である。507～510は甕である。511～515は高杯である。516は小形手捏ね壺で、蓋付きと考えられる。517は手捏ね鉢である。518は大形の鉢である。519～522は製塩土器の底部である。523は器台である。ほぼ完形に復元できた。G 2～G11はガラス小玉である。大きさはさまざまで、重量は0.01～0.12 gを測る。色調はコバルトブルー1点、やや緑かかったもの1点、そのほかは水色を呈する。C62～C72は土器片を紡錘車に転用したものである。C73は分銅形土製品である。ほぼ完形品で、上方と考えられる器表面には刺突文を施している。くびれ部分にも3条の刺突文を施している。重量は110.46 gを測る。これらの遺物から、住居の時期は弥・後・Ⅱと考えている。(浅倉)

竪穴住居7 (第113・114・121図)

調査区の西半部、Cd・Ce4 07区に位置する。検出できた平面形は直径5.5m前後の不整形円で、深さは床面まで約15cmであった。埋土は褐灰色粘質土が1層のみで、床面はほぼ平らである。壁溝は検出できなかった。中央穴は約45×63cmの楕円形で、深さは約30cmであった。断面形は逆台形で、埋土は2層に分離できた。中央穴の南西の床面上には、図示した範囲に炭の散布が認められた。支柱穴は5個の可能性が考えられたが、確実ではなかったので図示していない。遺物は埋土中から少量の



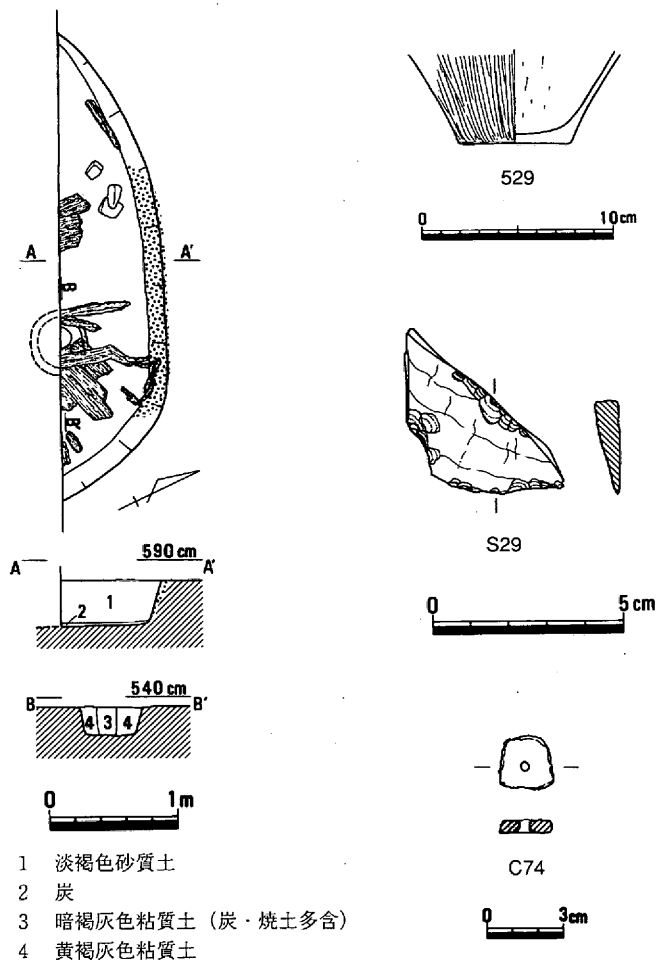
第121図 竪穴住居7 (1/60)・出土遺物 (1/4)

土器片が出土している。524～526は甕で、527・528は高杯である。時期は弥・後・Iと考えられる。なお東側には図示したような掘り込みが検出できたため、建て替えが行われたものと考えておきたい。

(平井)

竪穴住居8 (第114・122図、図版105)

調査区の西半部、竪穴住居7の南東約7mに位置する。検出できたのは北端部の一部で、大部分は調査区外にのびている。平面形は円形で、深さは約38cm残存していた。床面はほぼ平らで、床面直上には炭が薄く堆積していた。壁溝は検出できなかった。柱穴は1本確認でき、直径約55cmの円形で、深さは床面から約20cmであった。柱穴内には直径約15cmの柱痕跡が認められ、埋土には炭、焼土が多く



第122図 竪穴住居 8 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3)

中央穴の埋土には第39層を除いて炭粒が点々と含まれていたが、とくに大量の炭は認められなかった。中央穴の周囲には、深さが数cmのごく浅い溝が半周するような形で検出された。住居の主柱は6本で、柱穴の掘り方は楕円形を呈し、長径が73~95cm、深さは50~80cm前後を測った。柱間は225~290cmと一定せず、P1とP2との間がもっとも広がった。すべての柱穴で柱痕が認められ、その太さは直径15~30cmであったが、P1とP6では重複した柱痕があり、柱を建て替えたと考えられた。P3の底には礎板のめり込みと思われる長方形のくぼみがあり、その深さは8cmであった。竪穴の壁に沿って幅30~50cm、床面からの深さ10cm程度の壁体溝が巡らされていた。竪穴の埋土は大きくは5層で、最下層の第8層は貼床層とみられ、中央穴の南側では第8層の上面に厚い炭の堆積が認められた。

出土遺物は少なかった。530・532は鉢で、ともに口縁部を上方へ立ち上げている。531は短脚の高杯である。C75は土器片を転用した円板状土製品で、穿孔がないことから紡錘車の未製品かもしれない。図示した土器の年代は弥・後・Ⅲとみられ、竪穴住居9はこの時期と考えられる。(岡本)

竪穴住居10 (第114・125~127図、図版4・105)

Cf500区に位置する円形の竪穴住居で、南側は約半分が調査区外に続く。規模は、調査範囲内では直径が815cmで、検出面からの深さは32cmを測る。床面では、厚さ3~5cmの明黄色の粘土で貼床を施していた。主柱穴は、4本が確認されているが、未掘部分を含めると7本ほどと推定される。また、床面中央と思われる部分にもピットが検出されている。直径が65cmほどの楕円形を呈し、深さは

含まれていた。

この竪穴住居の特徴は床面上に存在する炭化材と壁で観察できた強い被熱痕跡であり、火災を被った住居であることが明らかである。

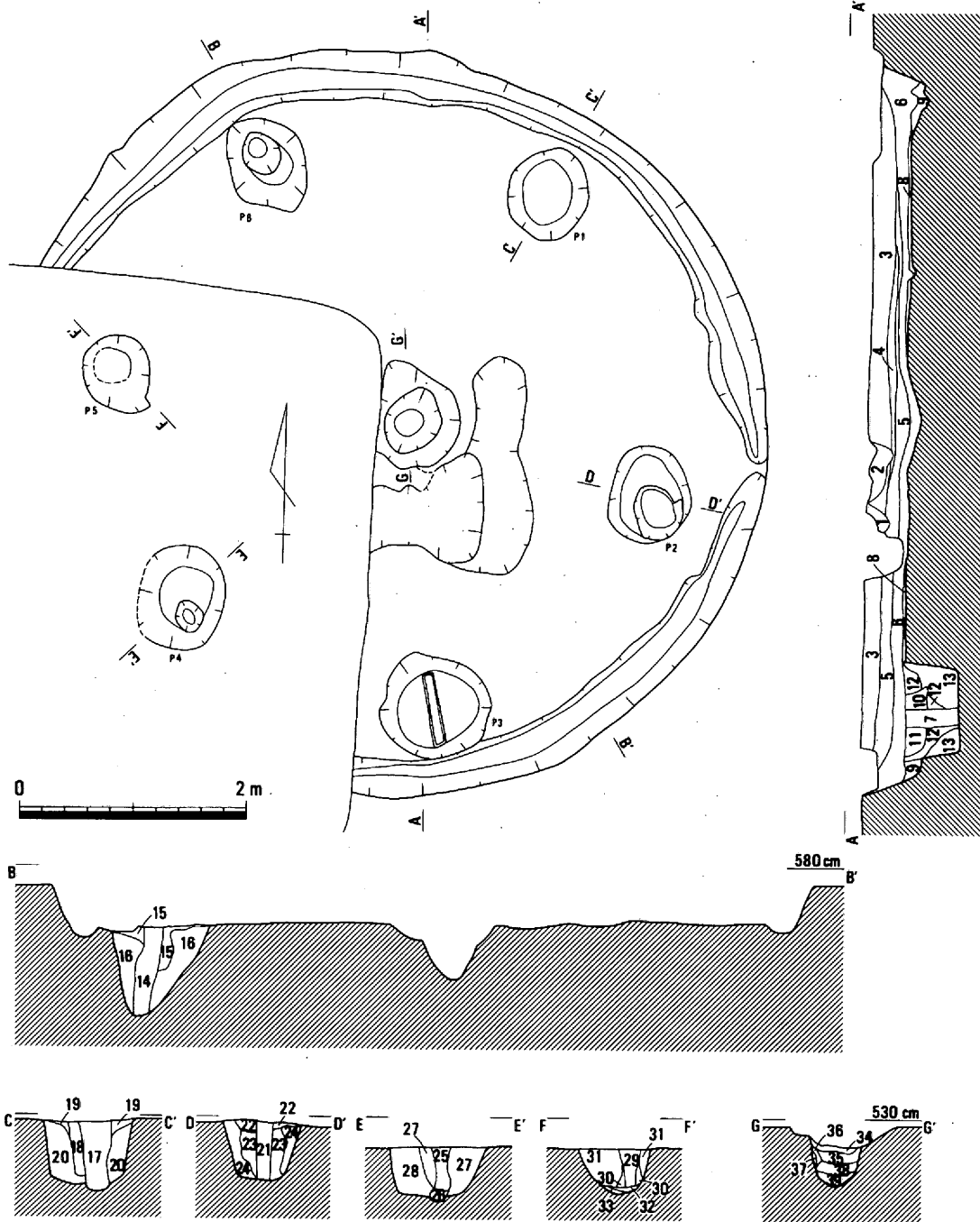
遺物は少量の土器片の他に、サヌカイト製の石器や土器片転用の紡錘車C74が出土している。S29はスクレイパーを楔に転用したものと考えている。

時期は明確ではないが、弥・後・Iではなかろうか。(平井)

竪穴住居9

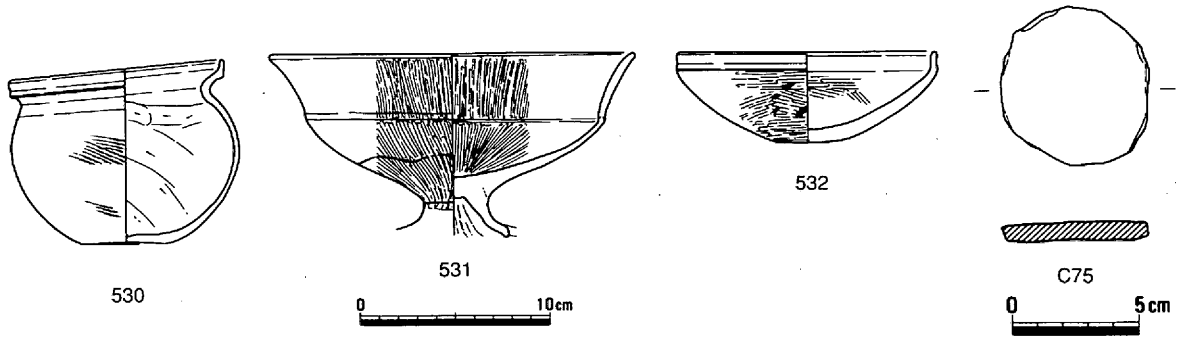
(第114・123・124図、図版4・105)

調査区の中央付近、Cd500区で検出された。掘立柱建物10と重複関係にあり、南西隅は竪穴住居36によって破壊をうけていたために柱穴のみを検出した。竪穴の平面形は円形で、直径が6.8m、深さは40cmであった。床面積は36㎡程度と推測される。住居の中央には中央穴があり、長径が96cm、短径は80cm前後、深さは52cmを測った。中



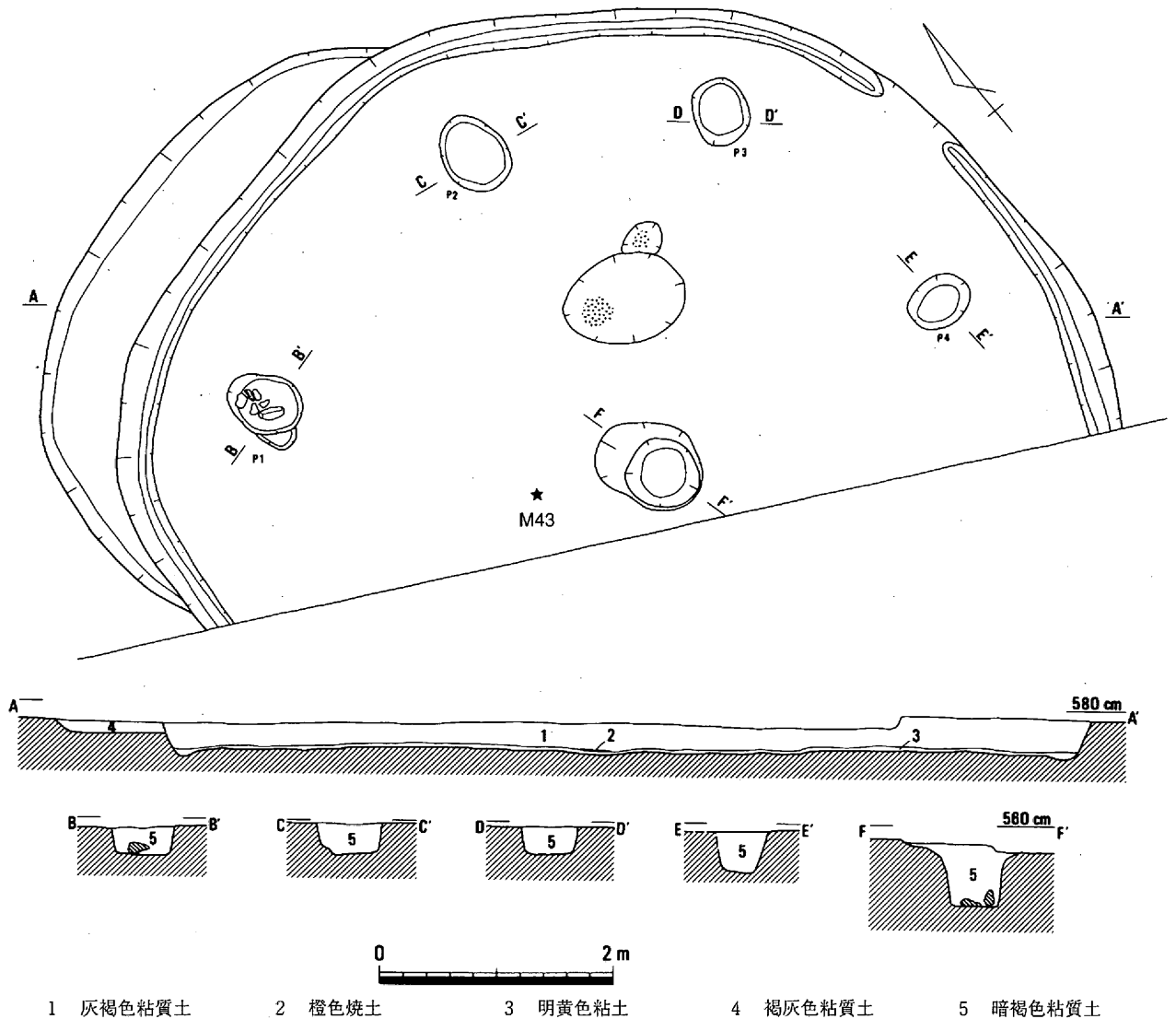
- |  |                           |                         |
|--|---------------------------|-------------------------|
| 1 褐灰色 (10YR5/1) 粘性砂質土 (炭多含)                | 10 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土   | 25 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性砂質土 |
| 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 (炭多含)               | 11 暗オリーブ色 (5Y4/3) 砂質土     | 26 灰色 (5Y6/1) 粘性砂質土     |
| 3 灰オリーブ色 (2Y5/2) 粘性砂質土 (明黄褐色粘質土塊多含)        | 12 黄色 (2.5Y7/8) 粘質土       | 27 明黄褐色 (2.5Y6/8) 粘性砂質土 |
| 4 灰オリーブ色 (2Y5/2) 粘性砂質土 (炭多含)               | 13 明黄褐色 (2.5Y6/8) 粘性砂質土   | 28 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘性砂質土 |
| 5 灰オリーブ色 (2Y5/2) 粘性砂質土 (炭多含)               | 14 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土   | 29 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土 |
| 6 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土                     | 15 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土   | 30 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 |
| 7 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘性砂質土 (明黄褐色粘質土塊・炭含)        | 16 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘性砂質土   | 31 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土  |
| 8 明黄褐色 (2.5Y7/6) ~ 淡黄色 (7.5Y8/3) 粘質土 (貼床層) | 17 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 | 32 灰白色 (5Y8/2) 砂質土      |
| 9 オリーブ色 (5Y6/6) 粘質土                        | 18 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土   | 33 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘性砂質土  |
|  | 19 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土   | 34 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土 |
|  | 20 オリーブ色 (5Y5/4) 粘性砂質土    | 35 黄色 (5Y7/6) 粘質土       |
|  | 21 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土   | 36 黄褐色 (2.5Y5/1) 粘性砂質土  |
|  | 22 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土   | 37 黄色 (5Y7/6) 粘質土       |
|  | 23 暗灰黄色粘性砂質土              | 38 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘性砂質土  |
|  | 24 オリーブ色 (5Y5/4) 粘性砂質土    | 39 オリーブ色 (5Y6/6) 粘性砂質土  |

第123図 竪穴住居9 (1/60)

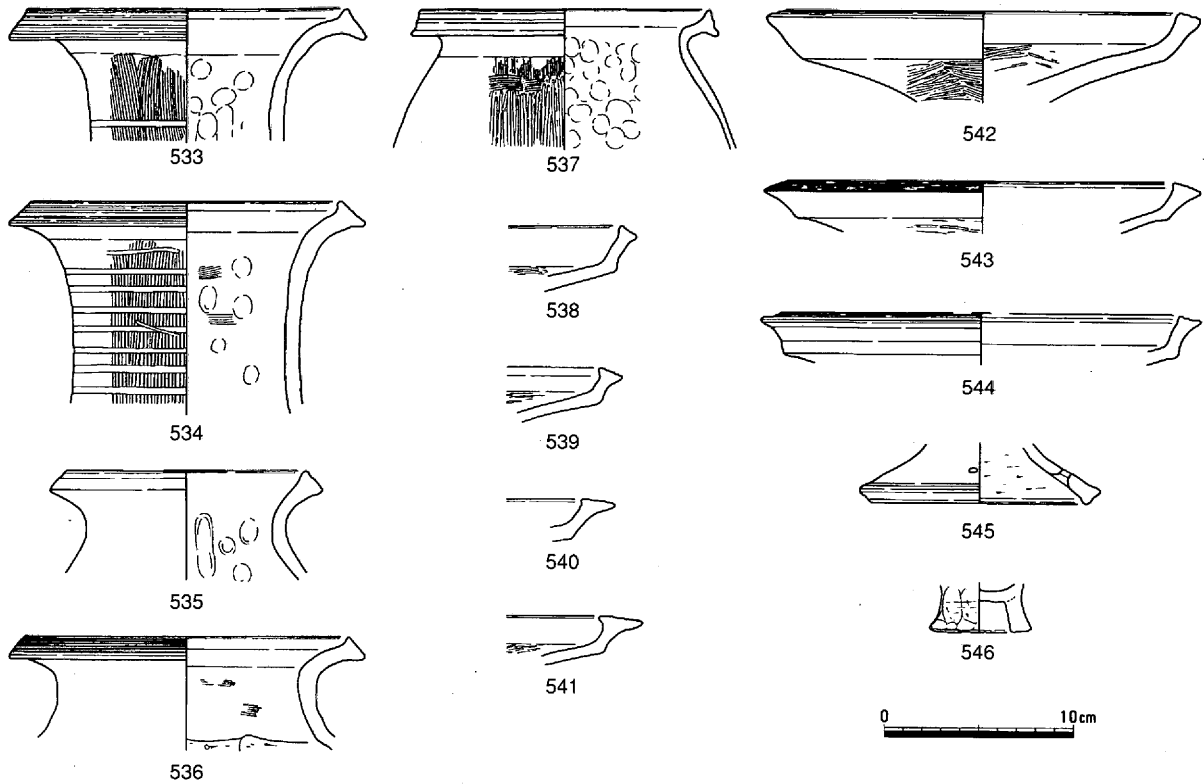


第124図 竪穴住居9 出土遺物 (1/4,1/3)

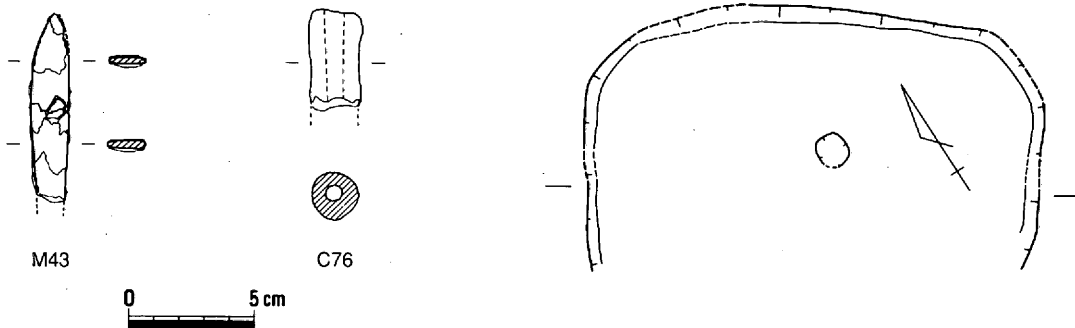
55cmとほかの柱穴より深い。いわゆる中央穴とみられるが、埋土中に炭やピット周囲に熱影響は認められなかった。ただし、このピットの北側には浅く掘りくぼめられた箇所が2か所あり、熱影響が認められた。



第125図 竪穴住居10 (1/60)



第126図 竪穴住居10出土遺物① (1/4)



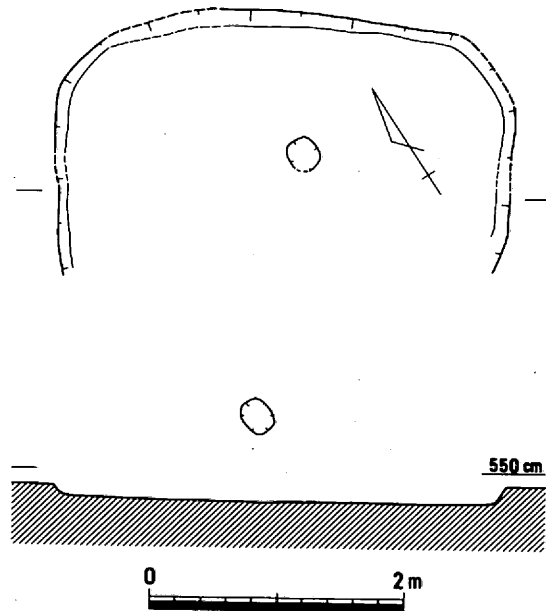
第127図 竪穴住居10出土遺物② (1/3)

出土した遺物のうち、土器としては壺533～536、甕537、高杯538～546がある。ほかには、鉞M43のほか、土錘C76がある。

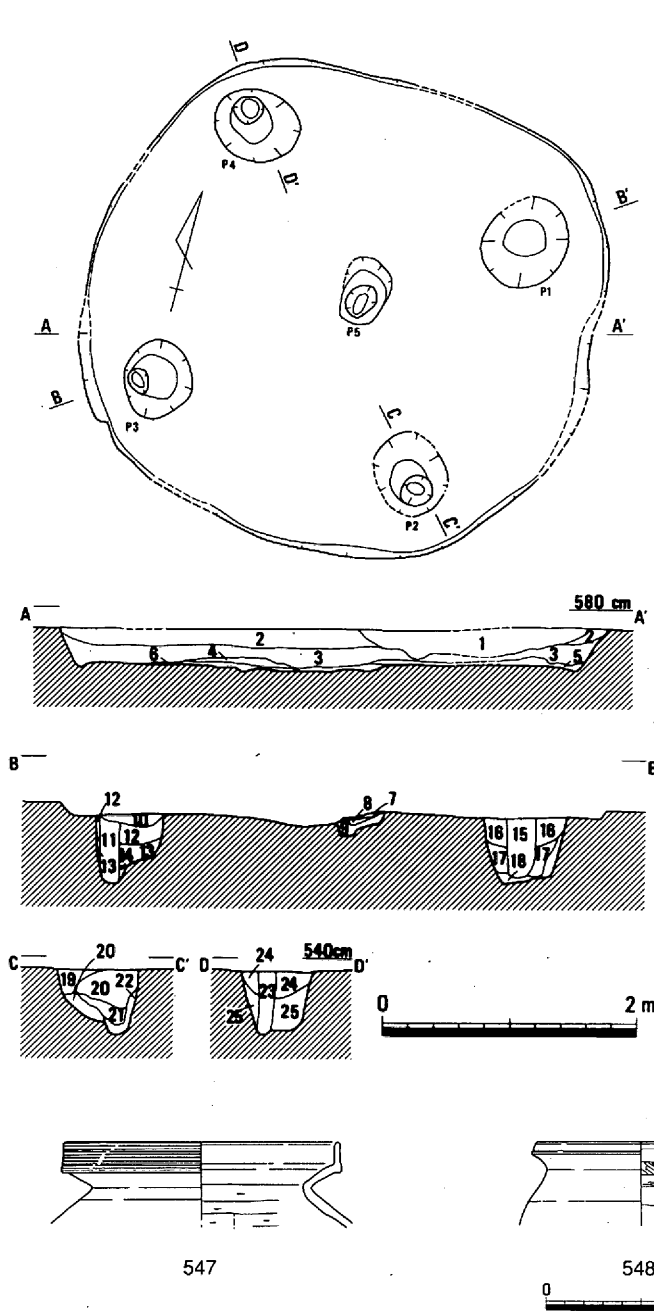
これらからみて、この住居の時期は、弥・後・Iである。  
(弘田)

竪穴住居11 (第116・128図)

調査区の中央付近、Cd502区で検出された。竪穴住居12によって半分程度を壊されていた。竪穴の平面形は隅丸方形を呈し、幅は3.6mを測った。深さは数cmにすぎなかった。住居の中央部を土壌69によって壊されていて、中央穴の存在は不明である。壁体溝は確認できなかった。住居の中軸線上に長径26・29cmの柱穴状のくぼみを検出したが、ごく浅いため柱穴とは断定できない。  
(岡本)



第128図 竪穴住居11 (1/60)



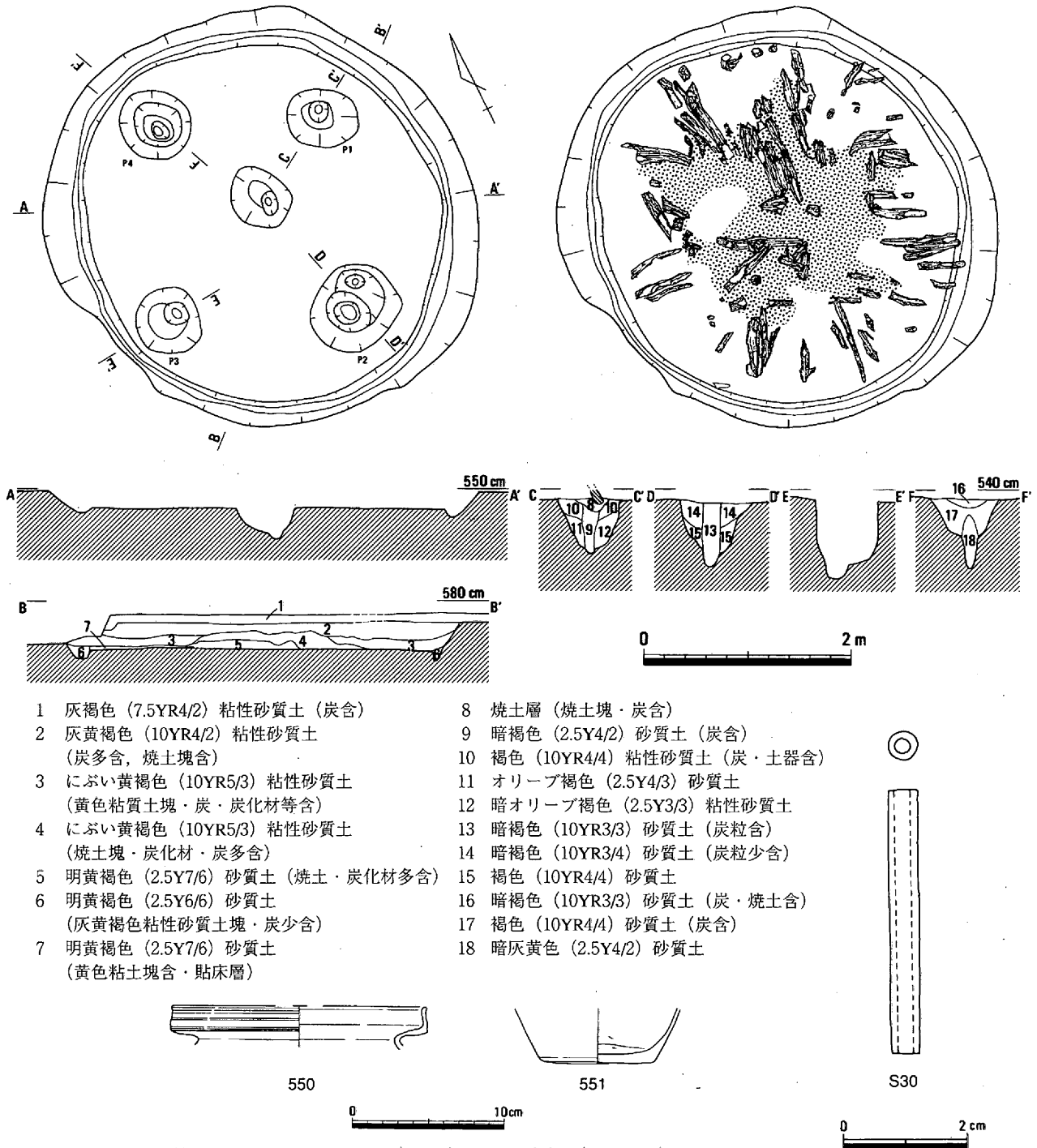
- 1 褐灰色 (7.5YR5/1) 粘性砂質土  
(淡黄色粘質土塊・炭多含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土  
(淡黄色粘土塊・炭少含)
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土  
(炭多含・焼土塊含)
- 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土  
(オリーブ色粘土含・炭多含)
- 5 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘性砂質土  
(明黄褐色粘土含・貼床層)
- 6 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土  
(黄色粘土含・貼床層)
- 7 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土  
(炭・焼土多含)
- 8 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土  
(炭・焼土多含)
- 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土  
(炭・焼土多含)
- 10 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 粘性砂質土  
(炭・焼土多含)
- 11 暗オリーブ色 (7.5Y4/3) 粘性砂質土
- 12 暗オリーブ色 (5Y4/4) 粘性砂質土
- 13 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘性砂質土  
(炭少含)
- 14 オリーブ色 (5Y5/4) 粘性砂質土
- 15 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土  
(土器・黄色粘土塊・焼土塊含)
- 16 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土
- 17 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘性砂質土  
(焼土塊含)
- 18 浅黄色 (5Y7/4) 粘性砂質土  
(粘性強、焼土塊少含)
- 19 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土
- 20 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土
- 21 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土  
(炭・焼土多含)
- 22 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
- 23 暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘性砂質土
- 24 暗オリーブ色 (7.5Y4/3) 粘性砂質土  
(炭少含)
- 25 暗オリーブ色 (5Y4/4) 粘性砂質土

第129図 竪穴住居12 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居12 (第116・129図、図版5)

調査区の中央部、Cd502区とCe502区に跨っていた。竪穴住居11と重複し、それよりも新しい。竪穴の平面形はやや角張った円形で、長径は4.3m、深さは35cmを測った。A-A'断面では壁体溝のようなくぼみが認められたが、全体では明瞭でなかった。中央穴が検出され、長径は54cmを測ったが、深さは20cmにすぎなかった。中央穴の埋土には多量の炭や焼土が含まれていたが、底に柱穴状のくぼみが確認された。主柱穴は4個で、いずれも楕円形の掘り方をもち、長径が64~75cm、深さは55cm前後であった。すべての柱穴で柱痕が確認され、その太さは15~23cmを測った。柱間は218~237cm、東がもっとも狭く、北がもっとも広がった。竪穴の壁と柱穴の距離は12~27cmであった。埋土を観察





第130図 竪穴住居13 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/1)

すると、底に敷かれた第5層と第6層は床面を整えた貼床で、その上に第4層がのっていた。第4層には炭が多量に含まれ、薄層をなしていた。出土遺物は少なく、図示した547は古墳時代前期の甕であるが、住居の形態や遺構の重複関係から弥生時代後期末の住居と判断される。(岡本)

竪穴住居13 (第116・130図、図版5・106)

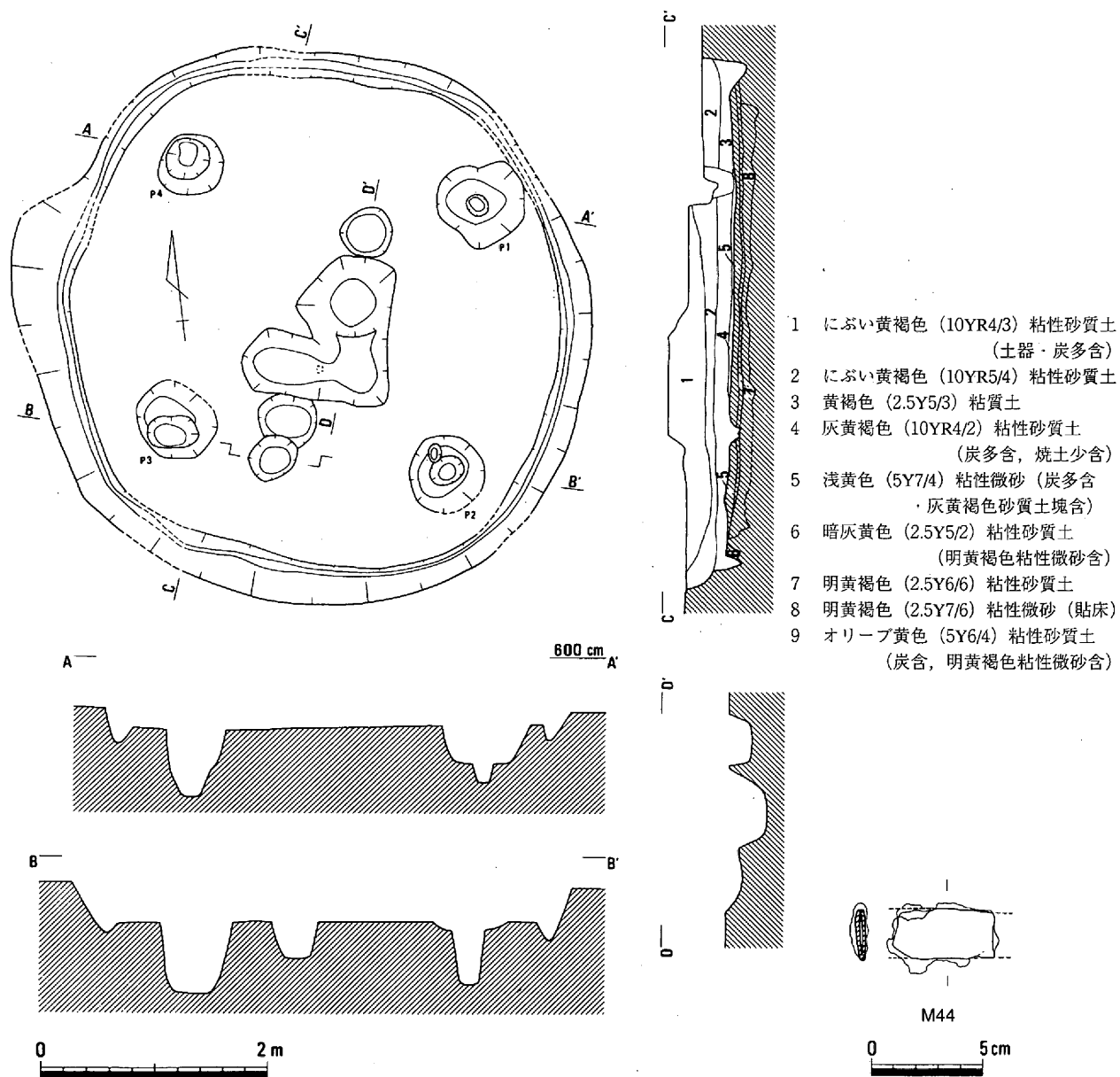
調査区の中央部、Ce502区で検出された。竪穴住居12の南で、わずか70cmしか離れていなかったため同時の存在は考えられない。古墳時代の竪穴住居39とほぼ同じ位置にあり、竪穴の上方は大きく破壊を受けていた。火災を受けて消滅したものとみられ、床面から大量の炭化材が出土した。炭化材

の多くは竪穴の中心から放射線を描くように転がっていたが、なかには柱穴を結ぶ線と平行する方向をとるものがみられ、後者は棟あるいは桁材、前者は垂木材と推定される。炭化材の一つを樹種鑑定したところ、コナラ亜属クヌギ節という結果を得た。竪穴の平面形は円形で、長径は4.36m、深さは30cmを測った。楕円形の中央穴があり、長径66cm、短径54cm、深さは31cmであった。中央穴の底に柱穴状のくぼみを認めた。支柱は4本で、柱穴の掘り方はいずれも不整な円形を呈し、長径が67~90cm、深さは37~77cmを測った。柱痕の直径は15~20cm程度であった。貼床が一部で認められた。

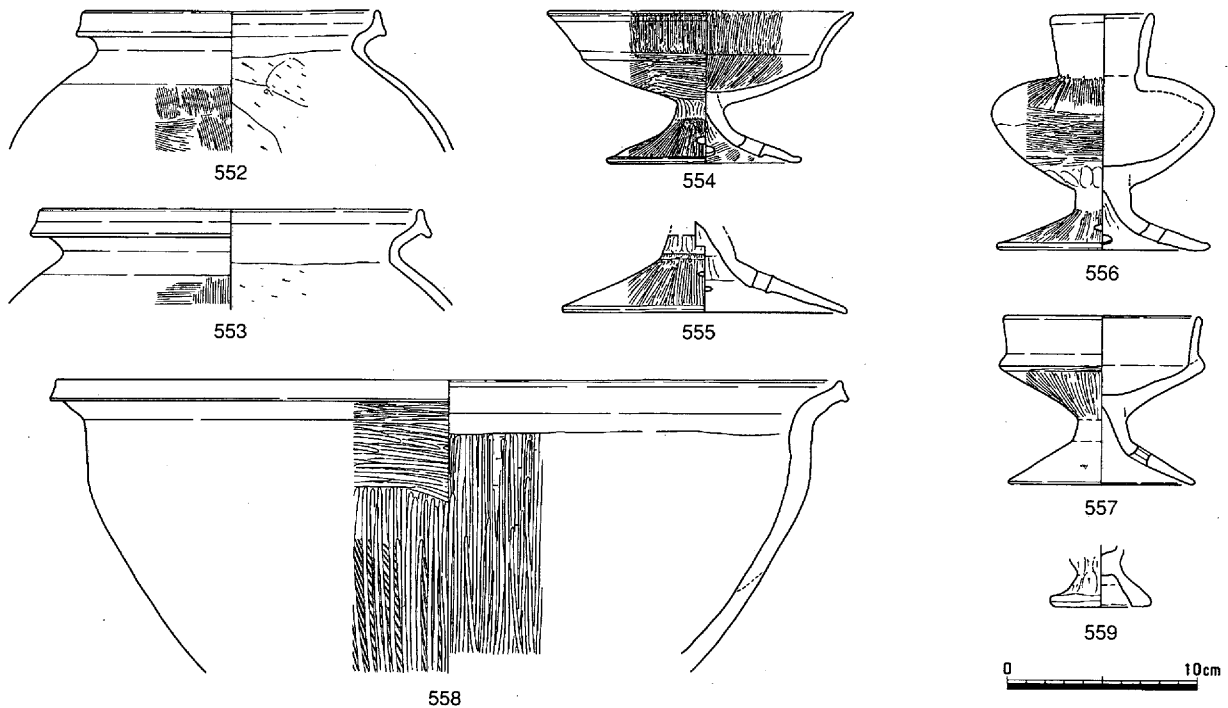
出土遺物は少なかった。550・551は甕で、弥・後・Ⅳの年代と考えられる。S30は蛇文岩製の管玉で、全長42.6mm、太さ4.7mm、孔径2.4mm、重さ1.63gを測った。(岡本)

竪穴住居14 (第116・131・132図、図版5・90)

調査区の中央部、Ce502区の南端で検出された。竪穴住居13の南東にあり、両住居跡間の距離は60cmと近接することから、共存はありえない。竪穴の平面形は円形で、長径は5.17m、深さは82cmで



第131図 竪穴住居14 (1/60)・出土遺物① (1/3)



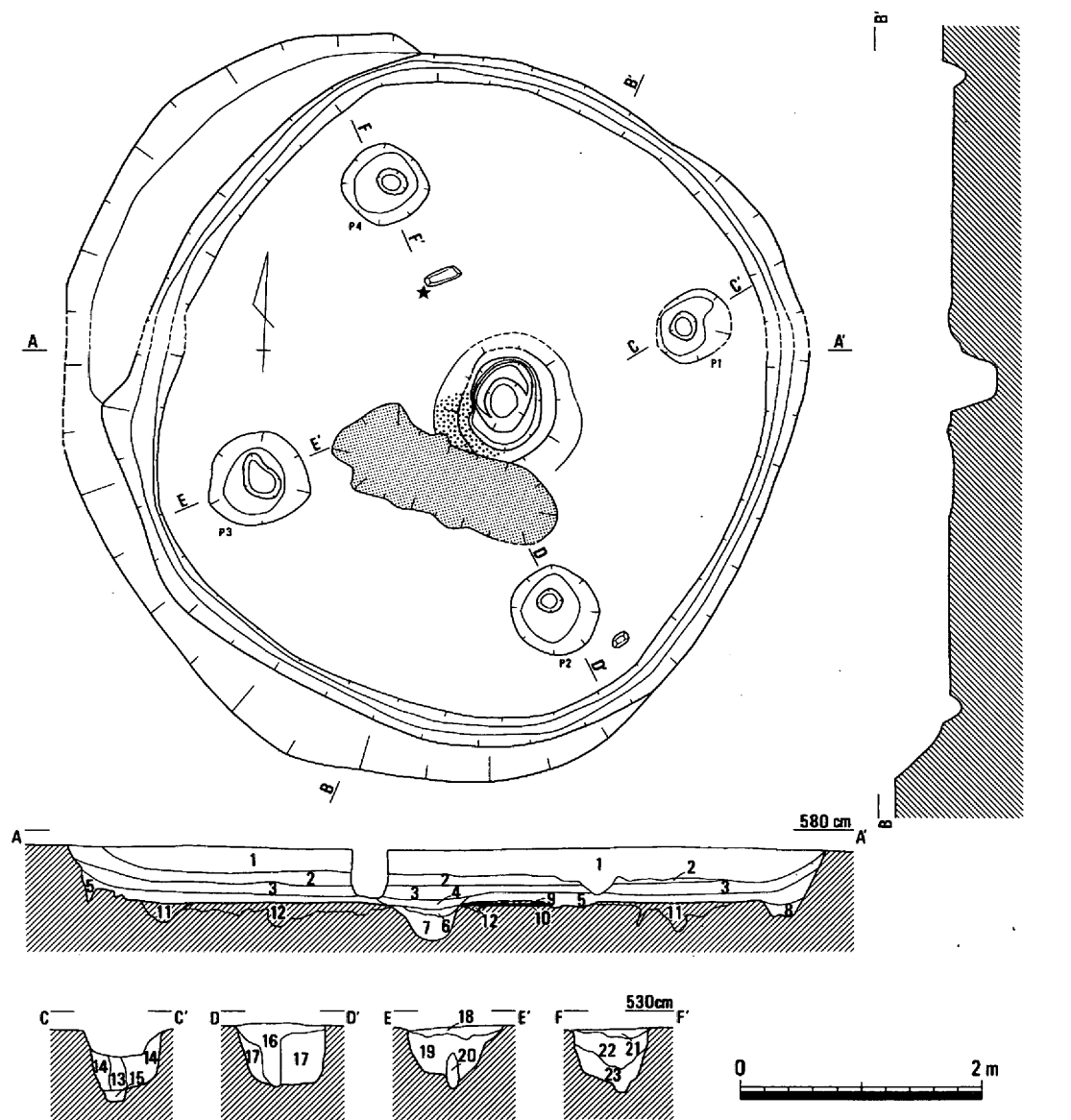
第132図 竪穴住居14出土遺物② (1/4)

あった。中央穴は段構造をなし、長径93cm、深さ35cmの円形の穴の南に、長さ132cm、幅55cm、深さ14cmの長楕円形の穴が連なっていた。この中央穴の南北に長径44~54cm、深さ18~33cmの柱穴状の穴が接していたが、中央穴に伴うものかどうかは明瞭ではない。主柱穴は4個で、掘り方は不整形な円形を呈し、長径が60~80cm、深さは52~58cmを測った。柱穴の底には長径20~33cmの柱のめり込んだ痕跡が認められた。壁体溝が全周し、床面からの深さは15cm程度であった。埋土を観察すると、第4層には大量の炭が含まれることから床面上の堆積層と考えられ、その下の第5層が塊状の土が混合した土質から貼床と判断された。ところが、第7層の上面でも炭の薄層が確認され、その下では竪穴状の掘り込みも存在した。このことから、この住居は建て替えて拡張されたのではないかとみられたが、柱穴の状況からはそのような事実はつかめなかった。床の構築を念入りに行ったものであろうか。

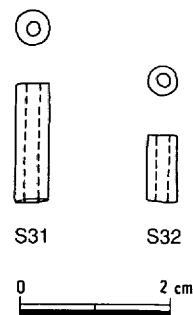
出土遺物がかなりあり、図示した土器では小形の高杯が目についた。これらの土器の年代は弥・後・Ⅲとみられる。M44は残存長47mmの鉄板であるが、器種は不明である。(岡本)

#### 竪穴住居15 (第116・133・134図、図版6・106)

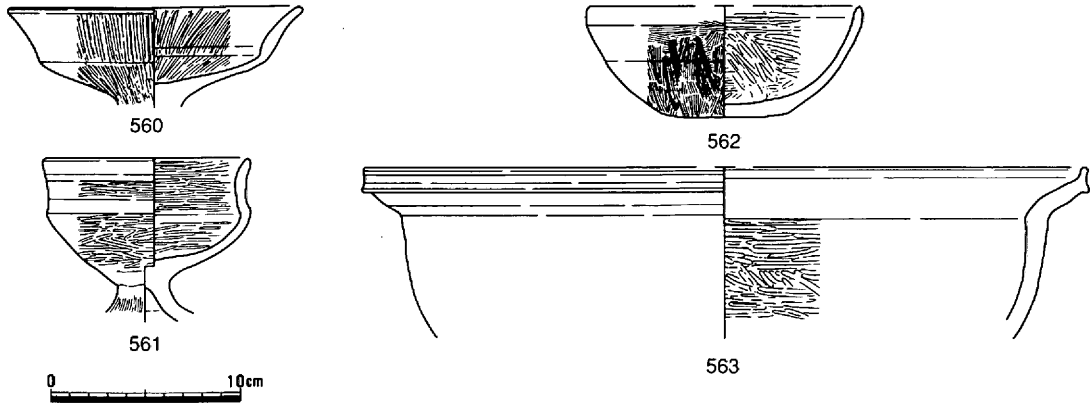
Ce 502・503区に跨って検出され、竪穴住居14の北東1mに位置していた。やはり竪穴住居14との共存は考えにくい。壁体溝に囲まれた床面の形状は隅丸方形に近く、各辺が胴張りを呈していた。住居の北東辺から南東辺にかけては後世の削平をうけていたが、それ以外では竪穴の壁は緩やかに立ち上がり、北西辺では床面から10cm程度高く、最大幅が52cmの三日月状の平坦面が形成されていた。住居の規模は壁体溝の外縁で測ると、長軸が5.51m、短軸は5.33mであった。住居の中央からわずかに東寄りに楕円形の中央穴があり、長径が77cm、深さは39cmを測った。中央穴の周囲には、高さが2、3cmにすぎないが、土手が認められた。また、中央穴の南西側に近接して、長径193cm、短径65cm、深さが7cmの長楕円形の浅い落ち込みがあり、中には炭の堆積がみられた。中央穴と落ち込みとの間には被熱部分があった。主柱穴は4個で、長径が66~84cm、深さは46~50cmであった。各柱穴の底で



- |  |  |
|--|--|
| 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土<br>(炭・土器多含)           | 11 暗灰黄色粘性砂質土 (2.5Y4/2)<br>(オリーブ黄色粘土塊含) |
| 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土<br>(浅黄色 (5Y7/4) 粘土塊・炭含) | 12 オリーブ色 (5Y6/6) 粘土<br>(暗灰黄色粘性砂質土塊含)   |
| 3 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土<br>(浅黄色粘土塊少含, 炭・土器多含)   | 13 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土                  |
| 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土<br>(炭・浅黄色粘土塊多含)         | 14 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土              |
| 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土<br>(炭多含, 焼土含)           | 15 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土              |
| 6 淡黄色 (7.5Y8/3) 粘土 (微砂土塊少含)                    | 16 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土                  |
| 7 オリーブ黄色 (5Y6/4) 粘土 (炭・焼土含)                    | 17 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土              |
| 8 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘性砂質土 (焼土塊含)                  | 18 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土                  |
| 9 淡黄色 (7.5Y8/3) 粘土 (砂質土塊少含, 貼床層)               | 19 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土              |
| 10 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土 (炭多含)                  | 20 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土              |
|  | 21 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土                  |
|  | 22 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土              |
|  | 23 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土              |



第133図 竪穴住居15 (1/60)・出土遺物① (1/1)



第134図 竪穴住居15出土遺物② (1/4)

柱のめり込みが認められ、断面に柱痕のみられるものもあった。柱痕の直径は15~20cm前後であった。埋土を観察すると、竪穴の底には凹凸があり、地ならしをして床面を貼っている。

出土遺物は少ないが、遺構図の星印の床面から碧玉製の管玉が1点出土し、埋土中からも1点出土した。土器のうち、560と561の高杯は短脚とみられ、弥・後・Ⅲの年代が与えられる。(岡本)

#### 竪穴住居16 (第116・135・136図、図版6・105)

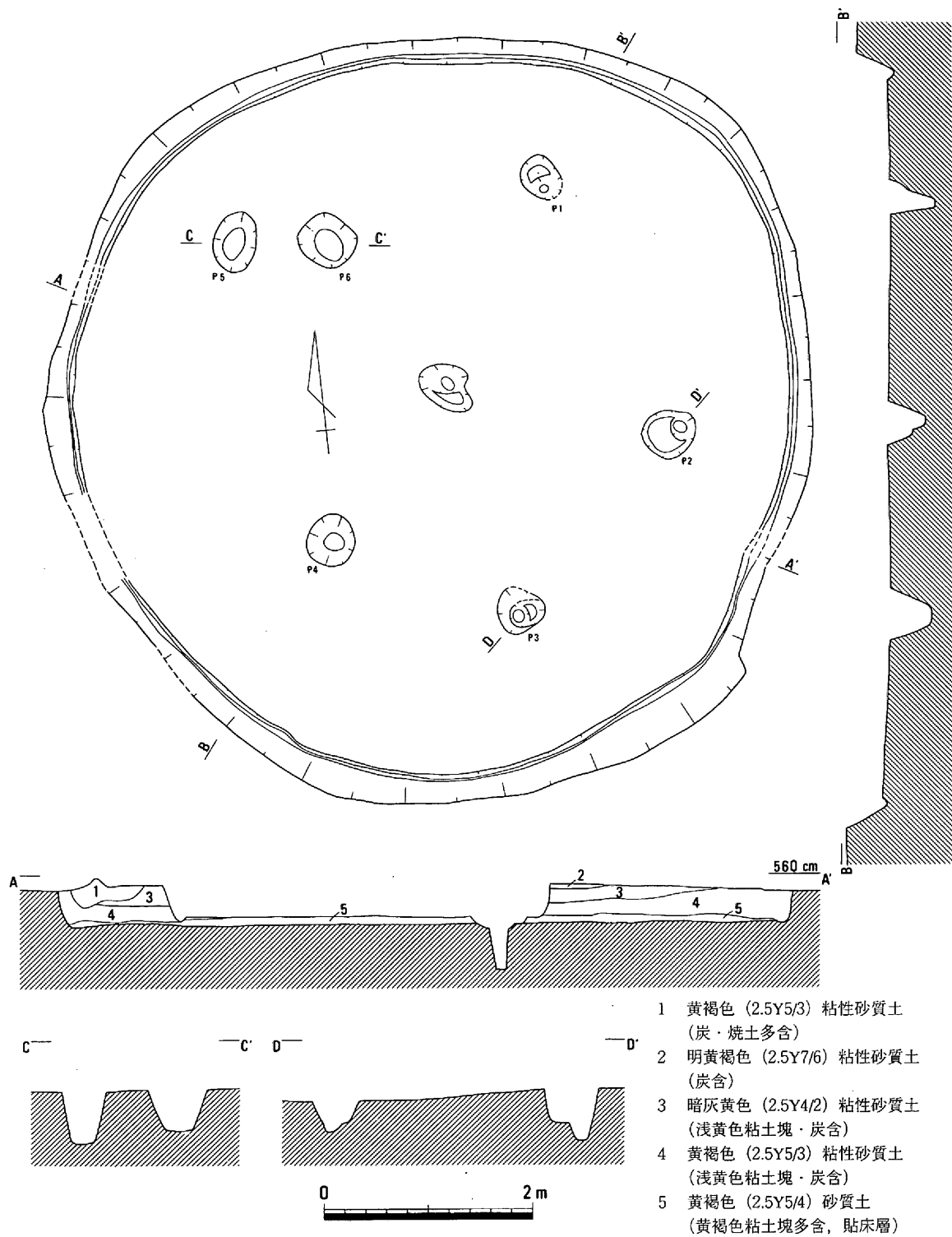
調査区の北東隅、Ce504・505区に跨って検出された。竪穴住居15の東13mにあり、遺跡内では大形住居の一つである。竪穴の平面形は円形で、長径が7.71m、短径は7.62m、深さは34cmを測った。壁体溝が全周し、床面からの深さは5cm程度であった。中央穴を検出したが、段をもつ不整形な形を示し、東西径が46cm、深さは35cmと小さかった。主柱は5本とみられるが、北東部の柱穴についてはP5かP6か明瞭ではない。柱穴の位置は壁体溝から75~146cmほど離れ、前述の4本柱の住居に比べると、かなり住居の内側に立てられていた。主柱穴の平面形は不整な楕円形で、長径が44~56cm、深さは29~51cmを測った。底に柱のめり込み痕跡を残す柱穴がみられ、直径15cm程度の柱が推定される。埋土をみると、第5層が床の全面に貼られ、第4層の底では炭の薄層が認められた。

出土遺物はごく少なく、その年代をもって住居の年代としうるか疑問もあるが、図示した土器の年代は弥生時代後期後葉と考えられる。C77は土器片を転用した紡錘車である。(岡本)

#### 竪穴住居17 (第116・137図、図版6・90・106)

調査区の東寄り、Cf504区からCg504区にかけて検出された。竪穴住居16から8m南南西に位置していた。後述する銅鐸埋納壙からは7m離れていた。竪穴の平面形は円形であったが、壁が内湾しながら緩やかに下がり、壁体溝に囲まれた床面は、竪穴住居15のように、胴の張った隅丸方形に近い形状を呈していた。長径が4.39m、短径は4.30m、深さは40cmを測った。長径が70cmの楕円形をした中央穴をもち、深さは36cmで、中央穴の底は柱穴状になっていた。中央穴の埋土にはあまり炭は含まれていなかった。中央穴の南に接して長径が86cm、深さ3cmのごく浅いくぼみがあり、くぼみの中には炭が層状に堆積し、一部は中央穴にも及んでいた。このくぼみと中央穴を取り巻くようにして土手が巡らされていた。この状況も竪穴住居15と類似する。土手の高さは3cm程度にすぎなかった。主柱穴は4個で、円形や楕円形を呈し、長径は50~73cmと差が大きく、深さは21~44cmであった。埋土の観察では貼床とみられる土層はなく、地山の上面が床面となっていた。

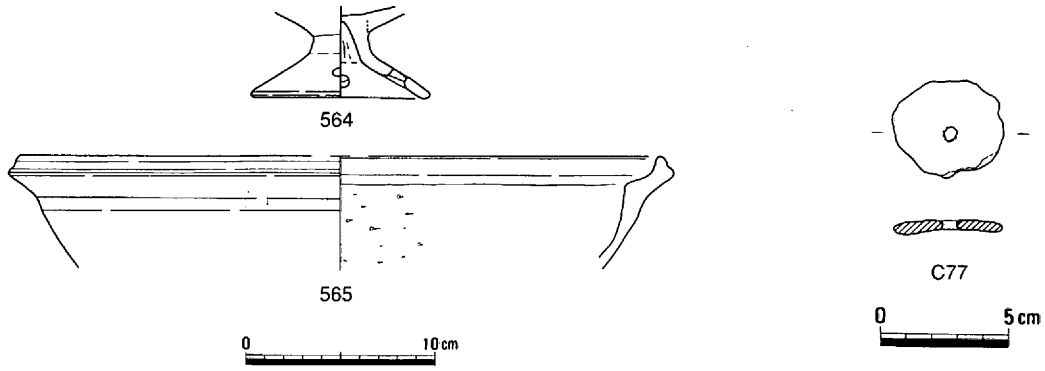
出土遺物は少なかったが、大形の破片がみられた。566は長頸壺、567は甕、568は鉢で、弥・後・I期のものと考えられる。石器が出土し、S33・34は鎌、S35はスクレイパーである。(岡本)



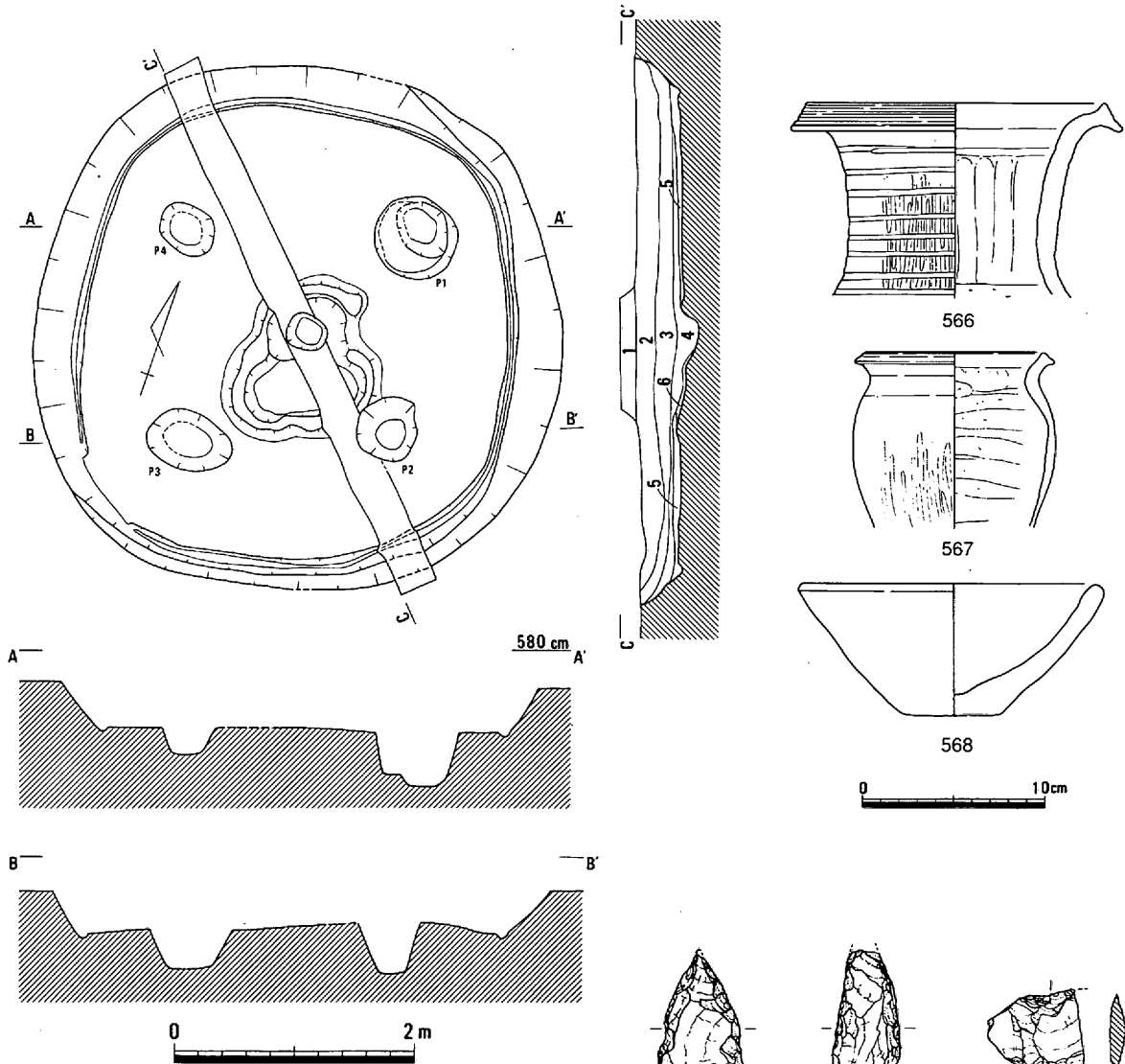
第135図 竪穴住居16 (1/60)

竪穴住居18 (第116・138図)

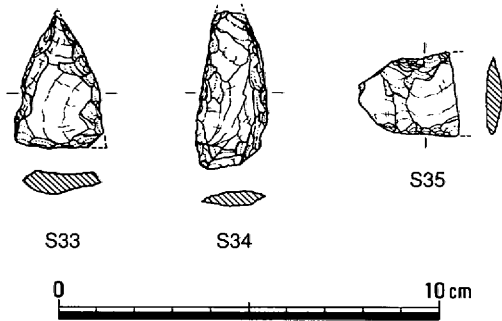
調査区の南東隅、用水路脇に突出したCi505区とCj505区に跨っていた。調査範囲が狭長なため一部の検出にとどまっている。住居の中央部分と柱穴2個が確認された。竪穴の平面形は不整形な円形と推定される。壁体溝が巡り、床面からの深さは10cm前後であった。中央穴があり、その長径は68cm、深さは60cmで、底には柱穴状のくぼみが認められた。中央穴の東半には浅いくぼみが伴っていた。



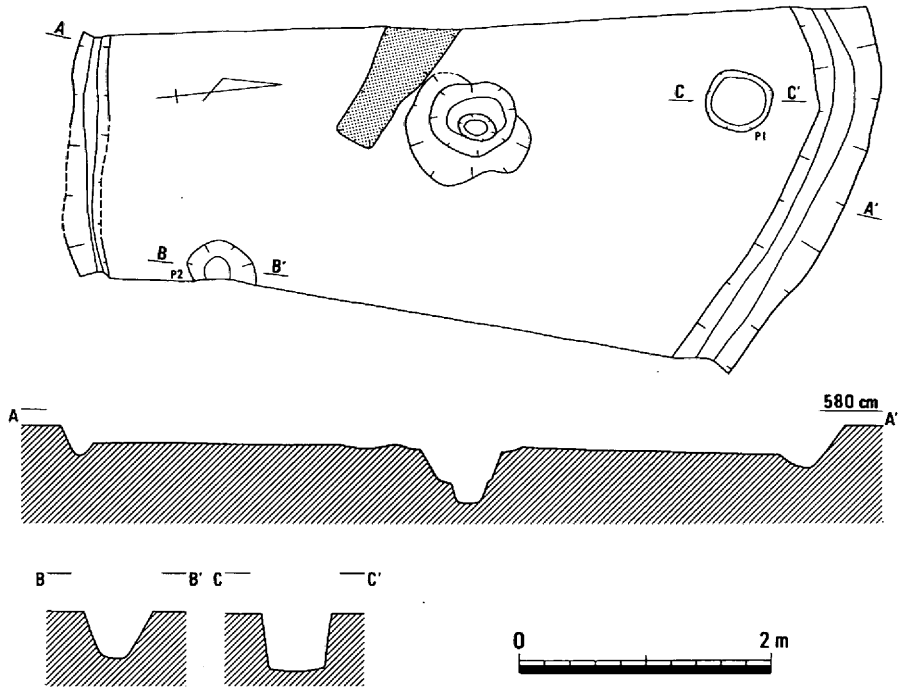
第136図 竪穴住居16出土遺物 (1/4,1/3)



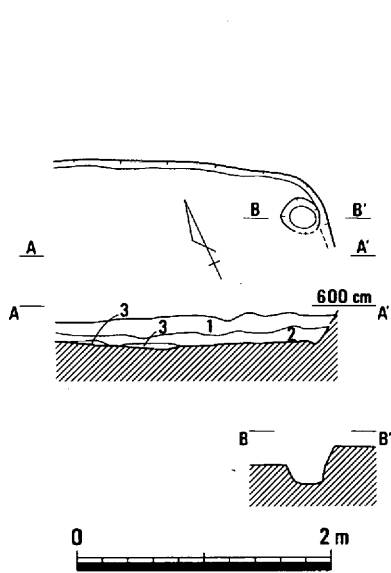
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土 (炭・土器多含)
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性砂質土 (炭含・浅黄色粘質土塊含)
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3粘性砂質土) (炭含, 浅黄色粘質土塊含)
- 4 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘性砂質土
- 5 オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘性砂質土
- 6 炭層
- 7 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘性砂質土 (灰黄褐色粘質土塊含)
- 8 オリーブ黄色 (5Y6/4) ~ オリーブ灰色 (10Y5/2) 粘質土 (基盤層)



第137図 竪穴住居17 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2)

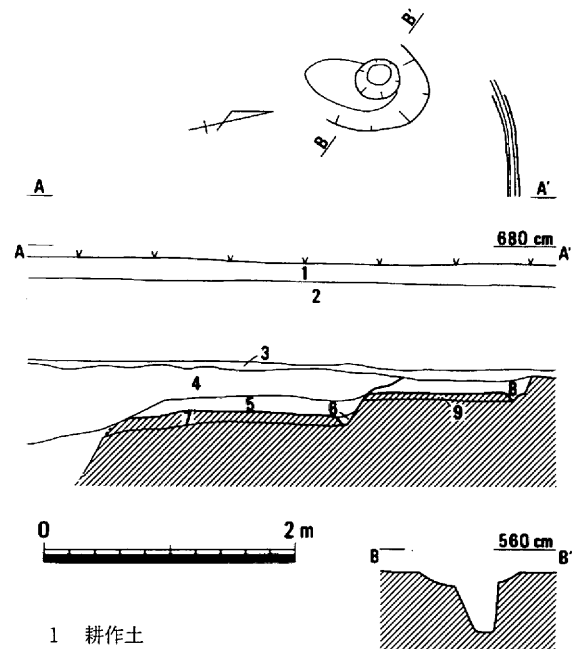


第138図 竪穴住居18 (1/60)



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 2 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭含)

第139図 竪穴住居19 (1/60)



- 1 耕作土
- 2 近世層
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (中世包含層)
- 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 (暗オリーブ灰色粘性砂質土・円礫含)
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土
- 6 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘性砂質土
- 7 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土 (貼床?)
- 8 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 9 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土 (上面貼床)

第140図 竪穴住居20 (1/60)



また、中央穴の南には深さ5cm程度の方形の落ち込みが接し、その中には炭が堆積していた。これは竪穴住居15・17と同じような状況であった。2個の柱穴はこの住居に確実に伴うかは断言できないが、これ以外には検出されなかった。長径が55cm、深さは36・45cmであった。出土遺物はごく少なくて、図示しうるものはなかったが、それらからこの住居の年代は弥・後・Ⅳと考えられる。(岡本)

#### 竪穴住居19 (第116・139図)

調査区の東部南端、Cg・Ch503区でごく一部分を検出したにすぎず、中央部分は調査区外に残されている。調査区南壁の土層断面から住居跡と判断した。検出部分も西端は破壊されているため、住居の全体像は想像すら困難であるが、検出された2mほどの北辺がかすかに外湾しながら直線状に延びることから、隅丸方形に近い平面形が推定される。壁体溝は断面図にあるようにきわめてかすかで、平面的には検出できなかった。長径30cm、深さ13cmの柱穴を図示しているが、住居の壁に接している例が他にみられないことから住居には伴わない可能性が高い。細かな年代は確定できない。(岡本)

#### 竪穴住居20 (第116・140図)

調査区の南東隅、用水路脇に突出したCj505区で検出された。竪穴住居18から2.5m南に位置していた。検出長95cmの弧状の壁体溝と柱穴1個を確認したにすぎない。壁体溝の深さは住居の床面から8cmであった。柱穴は壁体溝から50cmほど離れていた。南側を一部破壊されていたが、長径は100cm以上、深さは65cmであった。柱穴の底は柱がめり込んだような形状を呈し、底面の直径は19cmを測った。調査区の東壁で埋土を観察すると、竪穴住居20を破壊して南側にもう1軒の住居が存在したようであるが、平面的には検出できなかった。竪穴住居20の細かな年代は確定できない。(岡本)

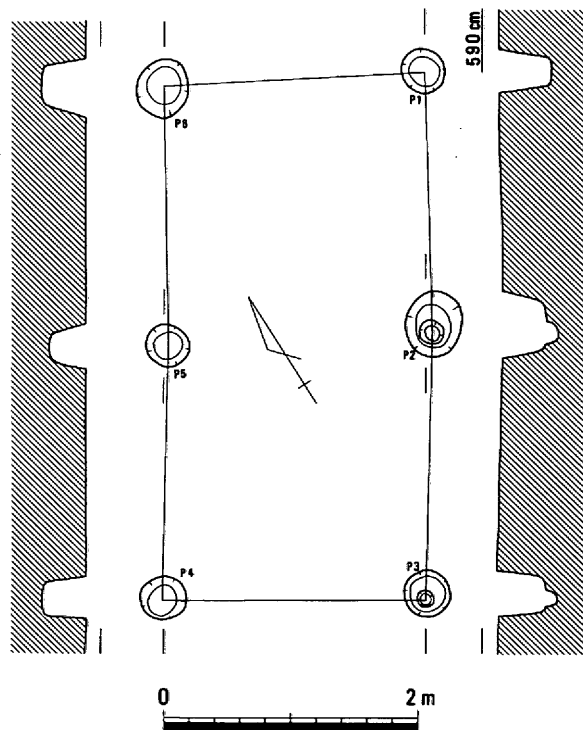
### (3) 掘立柱建物

#### 掘立柱建物10 (第114・141図)

調査区の中央付近、Cd500区で竪穴住居9と重複して検出された。建物の柱穴が住居の検出面から検出されたため、建物は住居より新しい年代が与えられる。ちなみに、竪穴住居9の年代は弥・後・Ⅲである。2×1間の掘立柱建物で、桁行全長が4.15m、梁間は2.05m、床面積は8.4㎡を測った。建物の棟方向はN-32°-Eである。柱間は桁行が200~210cm、梁間は205cmであった。柱穴は円形で、長径が34~52cm、深さが29~41cmを測り、それほど大きな差はみられなかった。柱穴の中には底に柱のめり込み痕跡を認めるものがあり、その直径は14・20cmであった。(岡本)

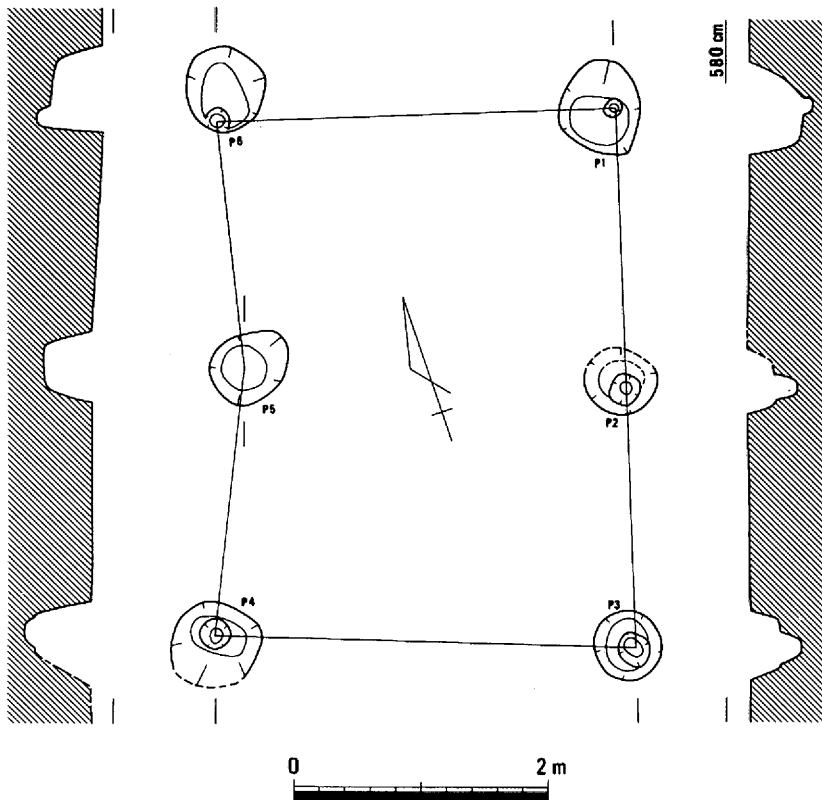
#### 掘立柱建物11 (第114・142図)

調査区の中央付近、Cd500区で掘立柱建物10と重複して検出された。竪穴住居9



第141図 掘立柱建物10 (1/60)

にも近接していて、同時の存在は考えられない。2×1間の掘立柱建物で、桁行全長が4.29m、梁間は3.29mと3.12m、床面積は12.4㎡を測った。建物の棟方向はN-17°-Eで、桁行の柱間は195~214cmであった。柱穴は不整な楕円か円形で、長径は56~76cm、深さが20~44cmあり、桁行の中央の柱穴



第142図 掘立柱建物11 (1/60)

が両端の柱穴より小さかった。ほとんどの柱穴の底には柱痕が認められ、直径は15~25cmを測った。(岡本)

**掘立柱建物12**

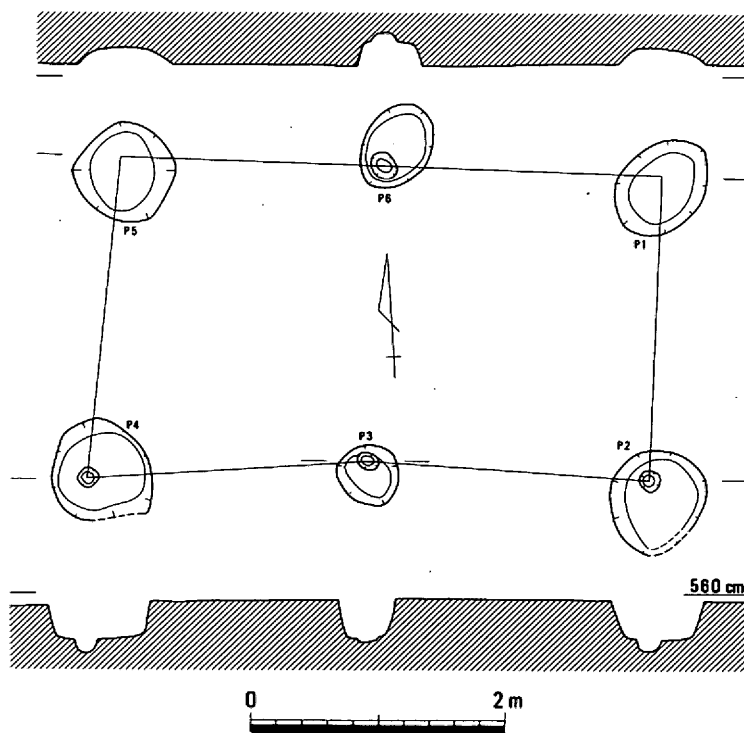
(第114・143図)

Cd501区とCd502区に跨って検出された。掘立柱建物11の北東8m、竪穴住居12の北5mに位置していた。2×1間の掘立柱建物で、桁行全長が4.42m、梁間は2.40mと2.50m、床面積は10.6㎡を測った。建物の棟方向はN-86°-W、桁行の柱間は205~222cmであった。柱穴は不整な楕円か円形で、長径は49~87cm、深さが18~30cmだった。桁行中央柱穴は両端の柱穴より小さく、掘立柱建物11と同様に建物の内側に寄っていた。柱痕の直径は17~22cmだった。(岡本)

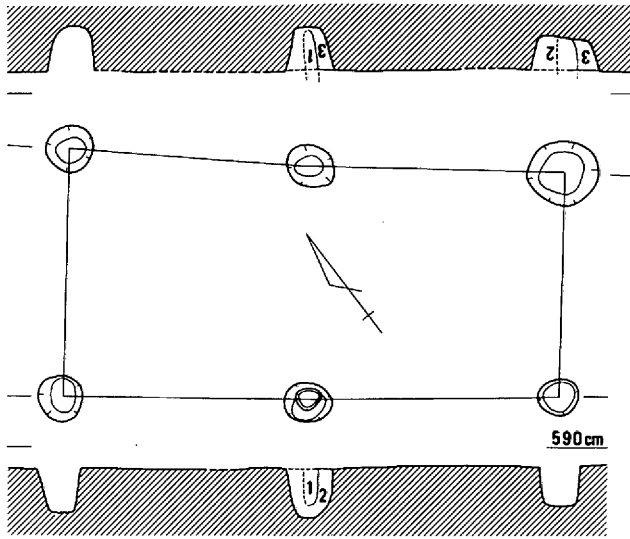
**掘立柱建物13**

(第116・144図)

調査区の東部、Ce504区で検出された。竪穴住居16の北西2mに位置していたため、住居との同時存在は考えにくい。2×1間の掘立柱建物で、桁行全長が395cm、梁間は178cmと196cm、床面積は7.3㎡を測った。建物の棟の方向はN-

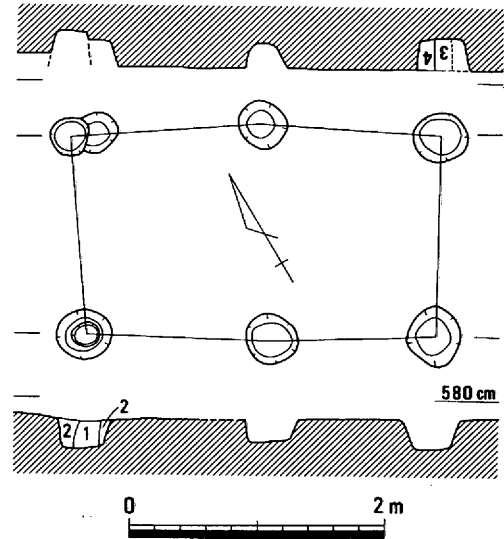


第143図 掘立柱建物12 (1/60)



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
  - 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
  - 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 0 2 m

第144図 掘立柱建物13 (1/60)



- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘性砂質土
  - 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
  - 3 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘性砂質土
  - 4 灰色 (7.5Y4/1) 粘性砂質土
- 0 2 m

第145図 掘立柱建物14 (1/60)

51°-Wであった。柱穴は円形で、北東角のみが長径58cmと大きく、他の柱穴の長径は33~41cm、深さには大きな差はなく、28~38cmだった。断面に柱痕を認めた柱穴が多かったが、柱のめり込んだ痕跡を残すものは1個で、それも浅かった。弥生時代後期後葉の土器片が出土した。(岡本)

掘立柱建物14 (第116・145図)

調査区の北東隅、Cd505区で検出された。竪穴住居16の北5mに位置していた。2×1間の掘立柱建物で、桁行全長が290cm、梁間は156cmと158cm、床面積は4.4m<sup>2</sup>を測った。建物の棟の方向はN-59°-Wであった。柱穴は円形で、長径が31~48cm、深さは20~29cmと大きな差はみられなかったが、桁行の中央の柱穴がやや浅かった。また、この中央柱穴は建物の外方へ少し張り出していた。柱穴の断面には柱痕跡が確認され、直径が17cmだった。北西隅の柱穴は、弥生時代後期後葉の土壌144の埋没後に掘削されていたため、この建物の年代は弥生時代後期後葉以降と考えられる。(岡本)

(4) 銅鐸埋納墳

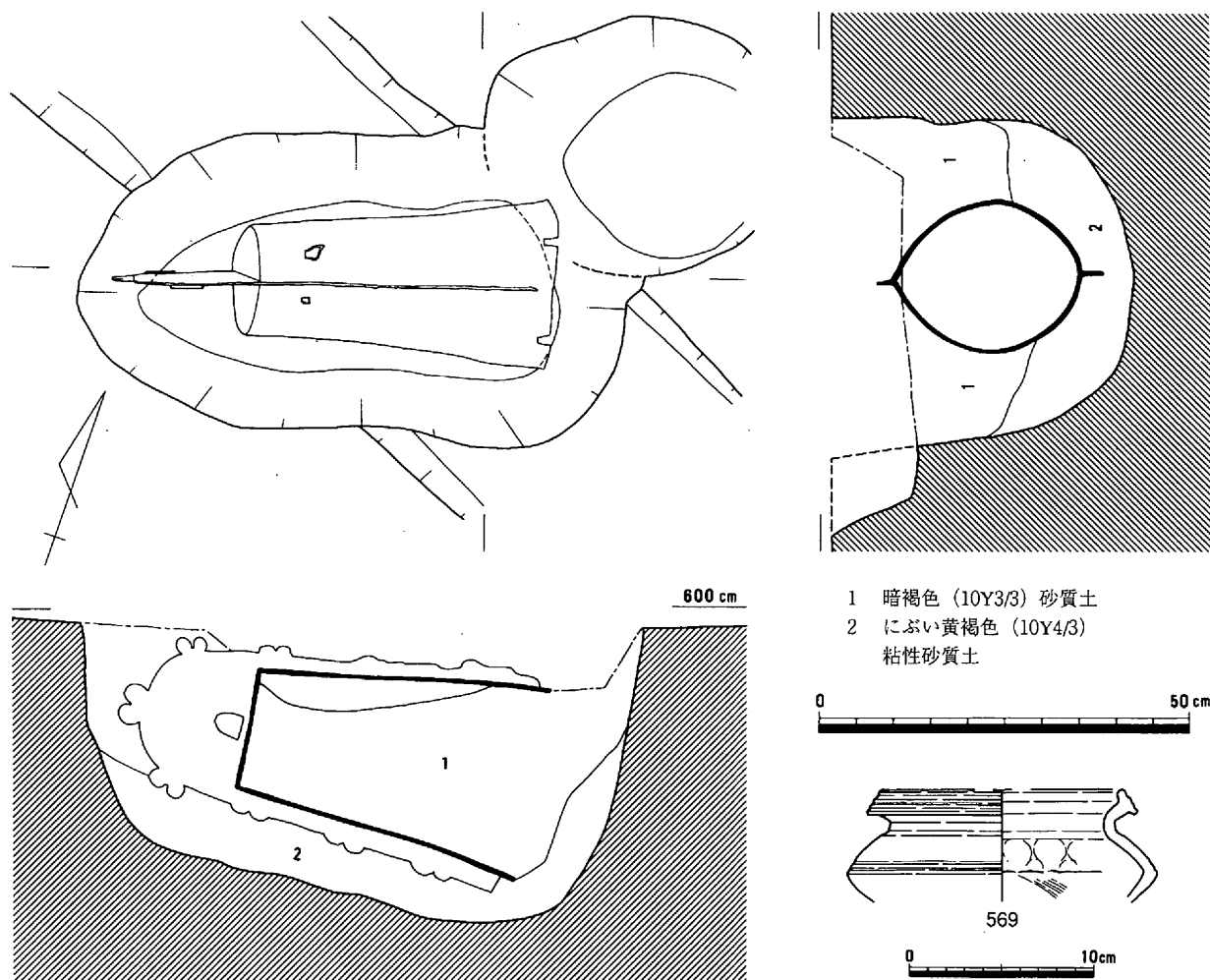
銅鐸埋納墳 (第116・146~151図、巻頭図版2、図版7・101・102)

調査区の南東端、Cg503区で検出された。集落の中心部にあるために多くの遺構と隣接しているが、同時、あるいは近接した時期の遺構としては竪穴住居17や袋状土壌84・85、さらに土壌151・155などがある。竪穴住居17は埋納墳の北7mにあり、袋状土壌85は西2.5mに、袋状土壌84は南東へわずか15cmしか離れていなかった。土壌151は銅鐸埋納墳の東7mに位置していた。

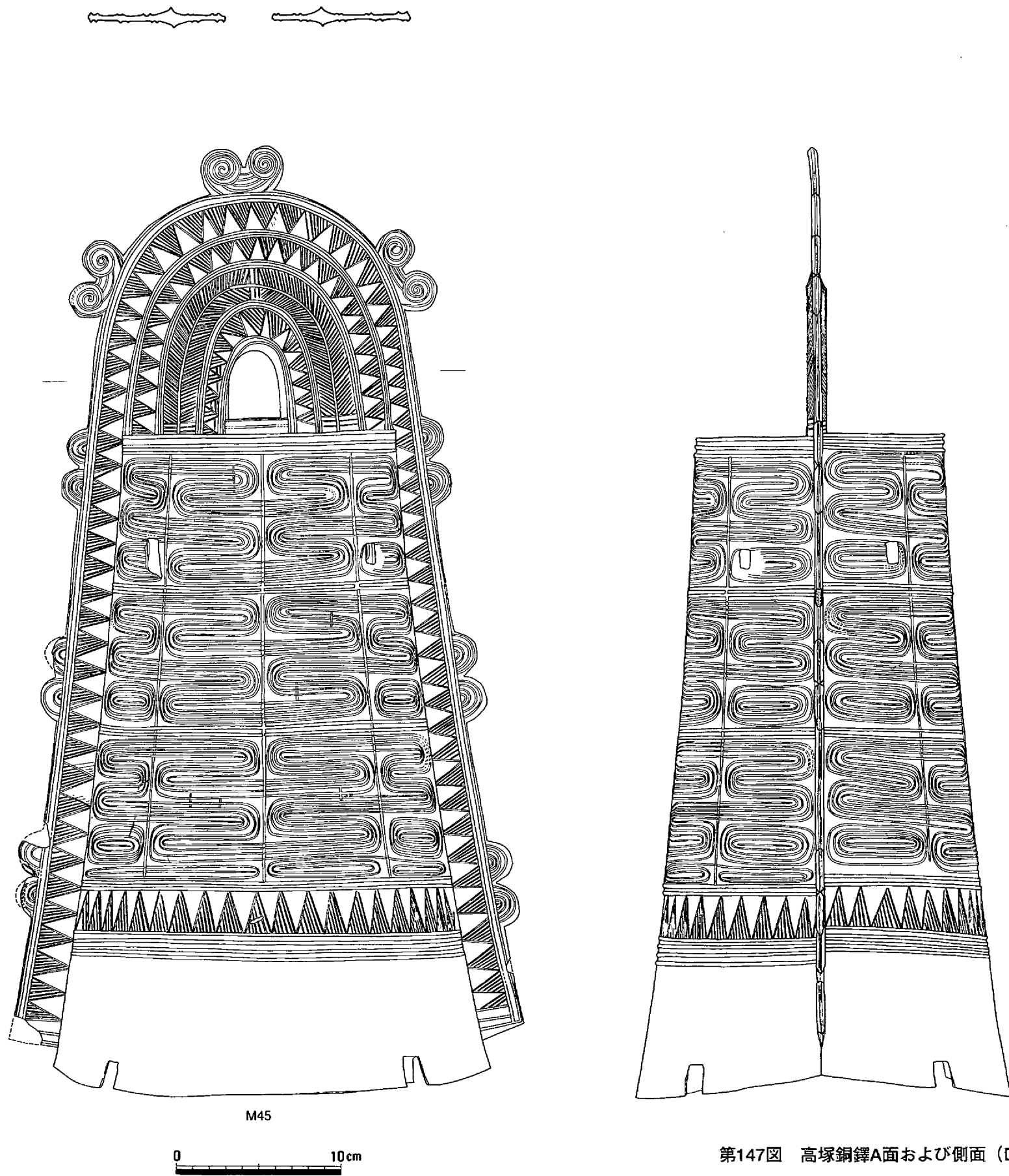
銅鐸埋納墳は北東角を中世の柱穴によって破壊されていたが、銅鐸そのものはかろうじて損傷をうけていなかった。ただ、検出当初は銅鐸埋納墳がちょうど調査区の側溝にあたってしまったため、スコップやジョレンによって不注意に掘り下げてしまい、銅鐸の鱗の一部を欠損してしまった。このことは、銅鐸の埋納位置が弥生時代の遺構検出面からあまり下がっていなかったことを示していて、後世の削平を考慮しても、弥生時代の生活面からそう深くない穴に銅鐸が埋納されていたとみてよい。

埋納壙の平面形は、埋納された銅鐸の外形に沿うように北・東・南の三辺は直線的で、鈕に接する西辺は弧状を描いて突出していた。ただ、南東角も丸みをもっていた。埋納壙の断面形でも、穴の底面の断面は銅鐸下端の鱗の端線とほぼ平行して、銅鐸の埋納される姿を想定して埋納壙が掘られたとみられる。鱗の上端線が水平になるように意識的に埋置されたものであろうか。この穴は銅鐸を埋納するためのものであったと断定できる。埋納壙の大きさは東西長が75cm、南北幅が43cmあり、深さは銅鐸の鈕の部分で27cm、裾の部分で40cmを測った。壁の傾斜は急で垂直に近く、底面への移行は丸みをもって緩やかであった。底面は南北断面をみると中央部がくぼみ、緩い弧状を呈していた。

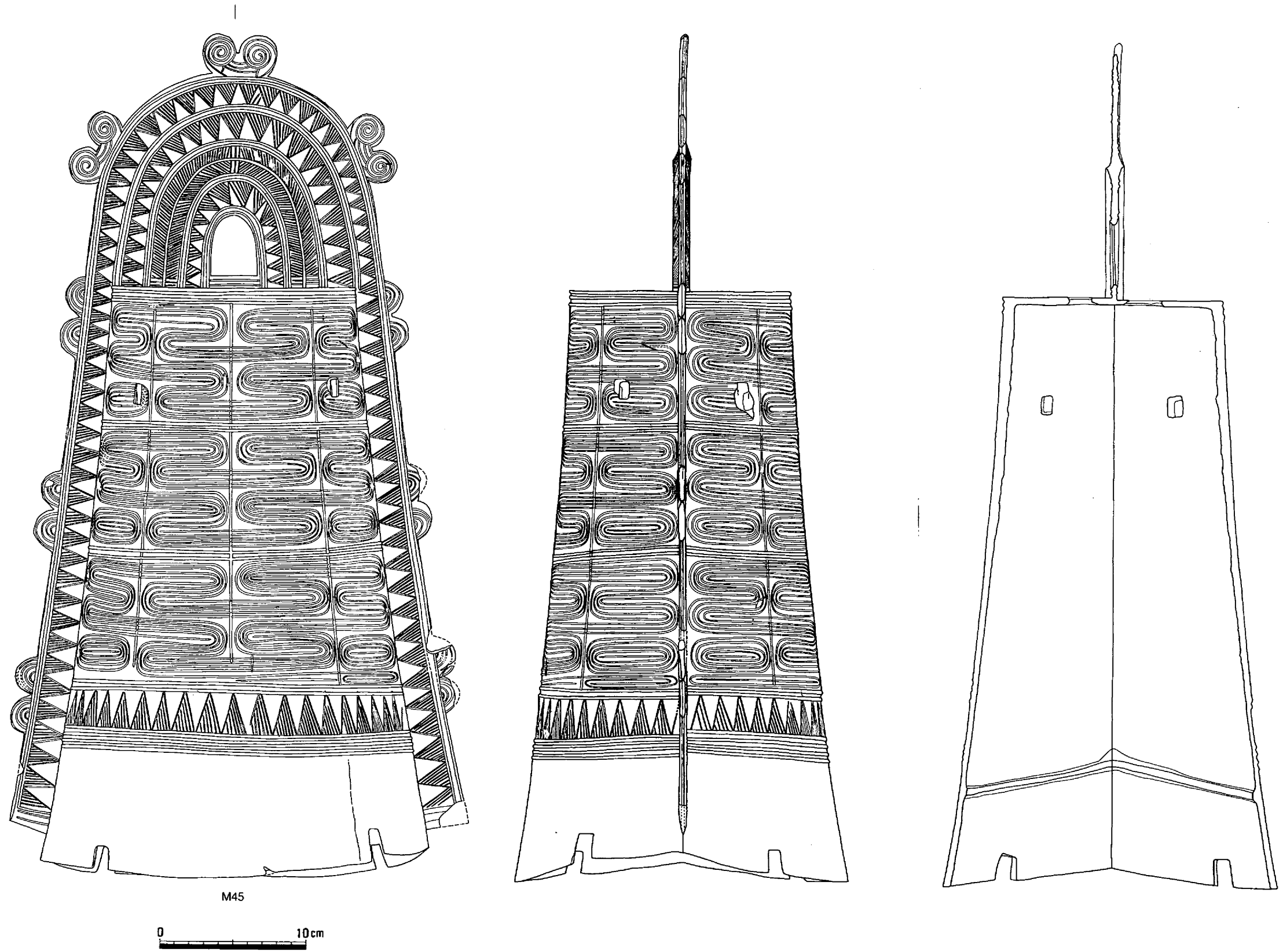
埋納壙の埋土は2層に分けられた。下層はにぶい黄褐色粘性砂質土で、炭粒や土器片などの混じりものを含まない均質な土であった。上層は暗褐色砂質土で、炭粒や土器片を点々と含み、包含層を掘ったような土であった。おそらく、埋納壙を掘った時に出た土と思われる。銅鐸は鱗が垂直に立つように横倒しに埋置され、鱗の耳の下端が底面から5～7cm浮いた状態にあった。埋土下層の粘性砂質土を詰めて銅鐸を固定したものと考えられる。その後、埋納壙を掘った土である埋土上層の砂質土を入れて銅鐸を完全に埋めたものとみられる。銅鐸の中には埋土上層の土が入っていたが、上端部分には空隙がみられ、意識的に銅鐸の内部に土を入れたとは考えられない。銅鐸を埋める過程で無意識的に流入したものと判断できる。埋納壙の下半には埋土下層の土が入っているため、埋め戻しにあつ



第146図 銅鐸埋納壙 (1/10)・出土遺物 (1/4)



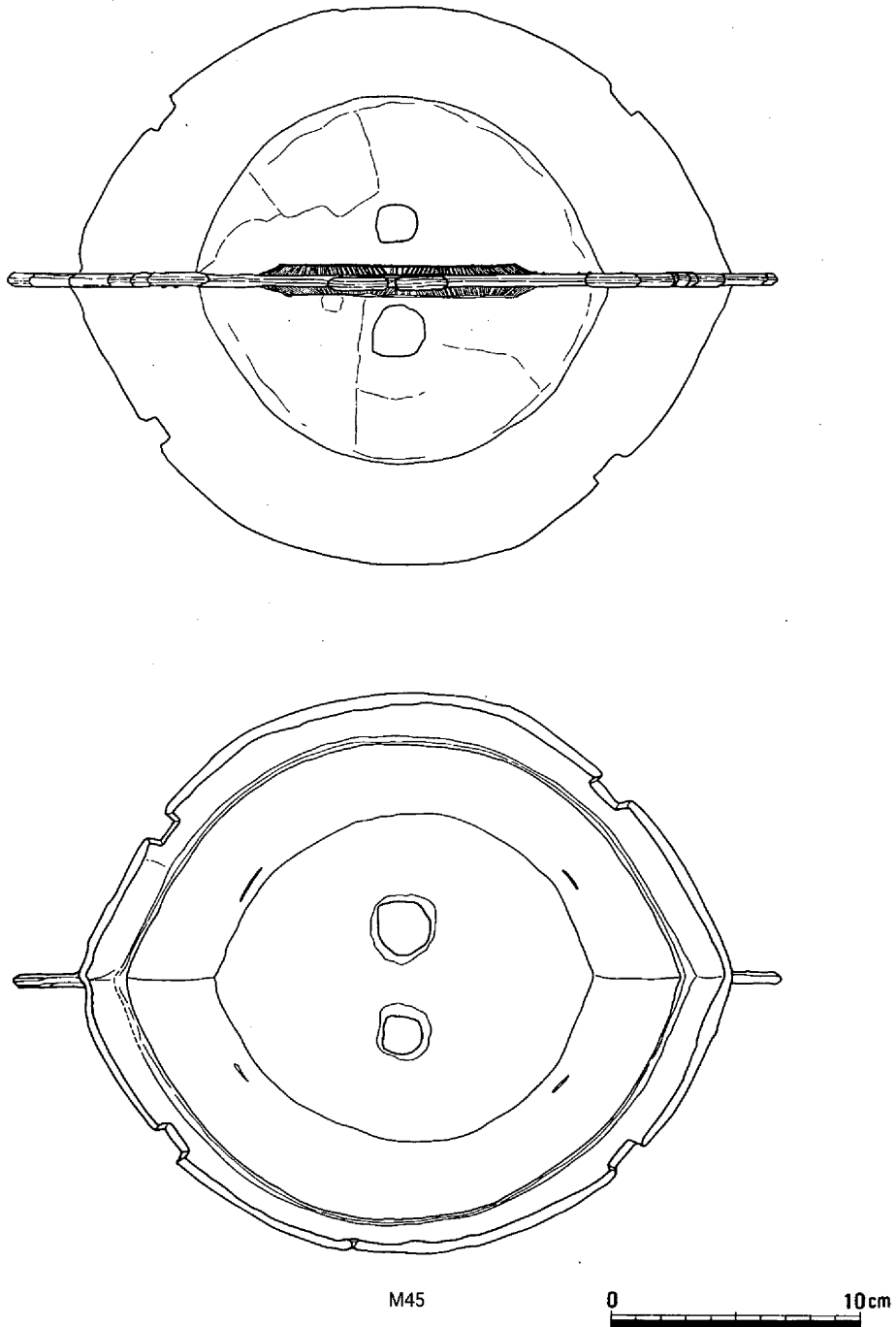
第147図 高塚銅鐸A面および側面 (D) (1/3)



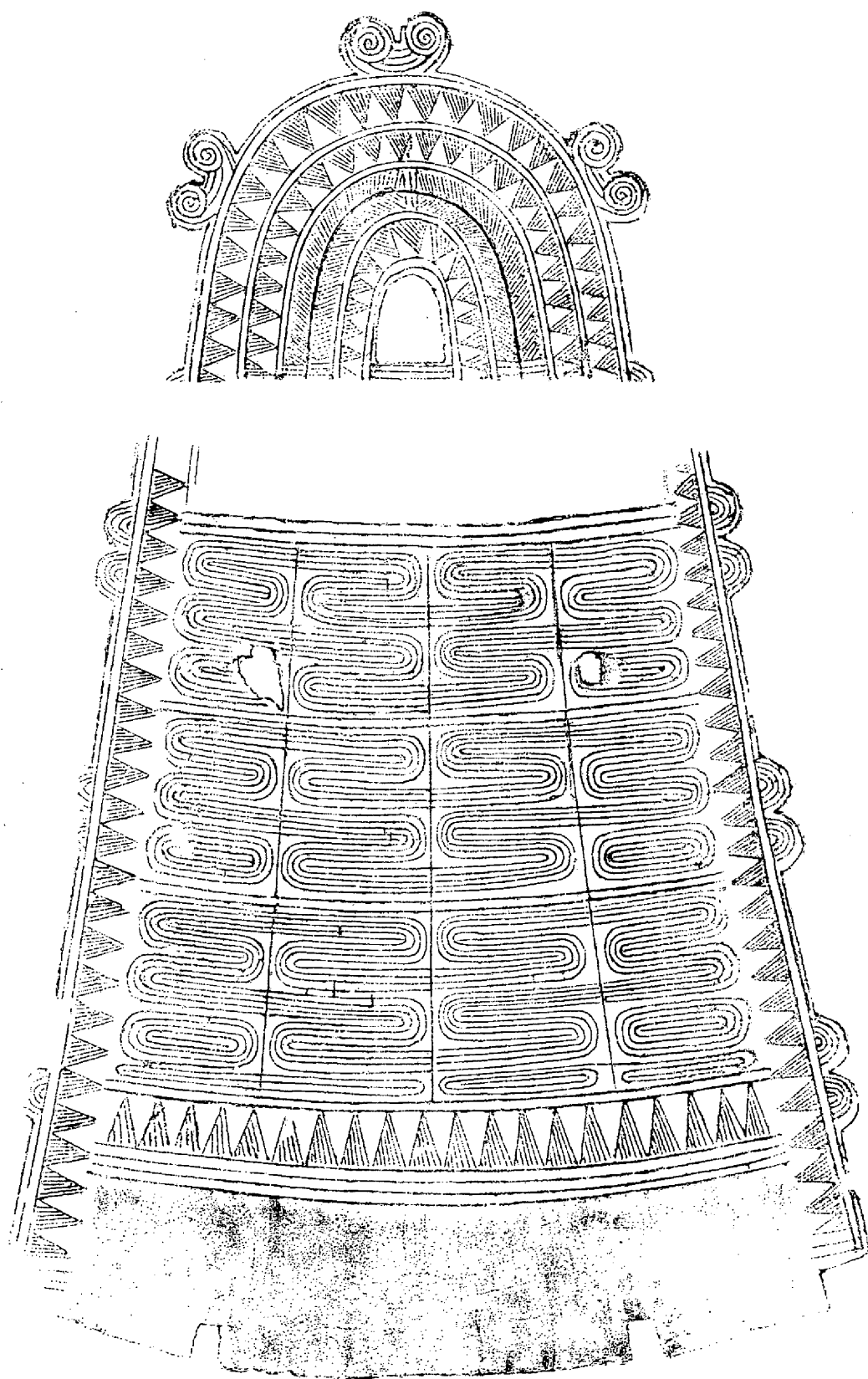
第148図 高塚銅鐸B面および側面 (C) (1/3)

て埋納壙を掘った土をすべて使用したとすると、銅鐸埋納壙の上には土饅頭ができていたことになる。

銅鐸埋納壙からはいくらか土器片が出土したが、図示しうるものは1点のみであった。台付鉢形土器の口縁部から胴部上半にかけての破片とみられる。口縁部を拡張して端面に凹線を巡らせ、算盤玉形の胴の肩部にも2条の凹線を飾っていた。弥・後・Iの年代が与えられる。出土した銅鐸は完形で、突線鈕式流水文銅鐸である。この詳細については第3章第4節まとめの項で述べることとする。出土遺物や周辺の遺構の年代観から判断して、この銅鐸埋納壙の年代は弥・後・Iと考えられる。(岡本)

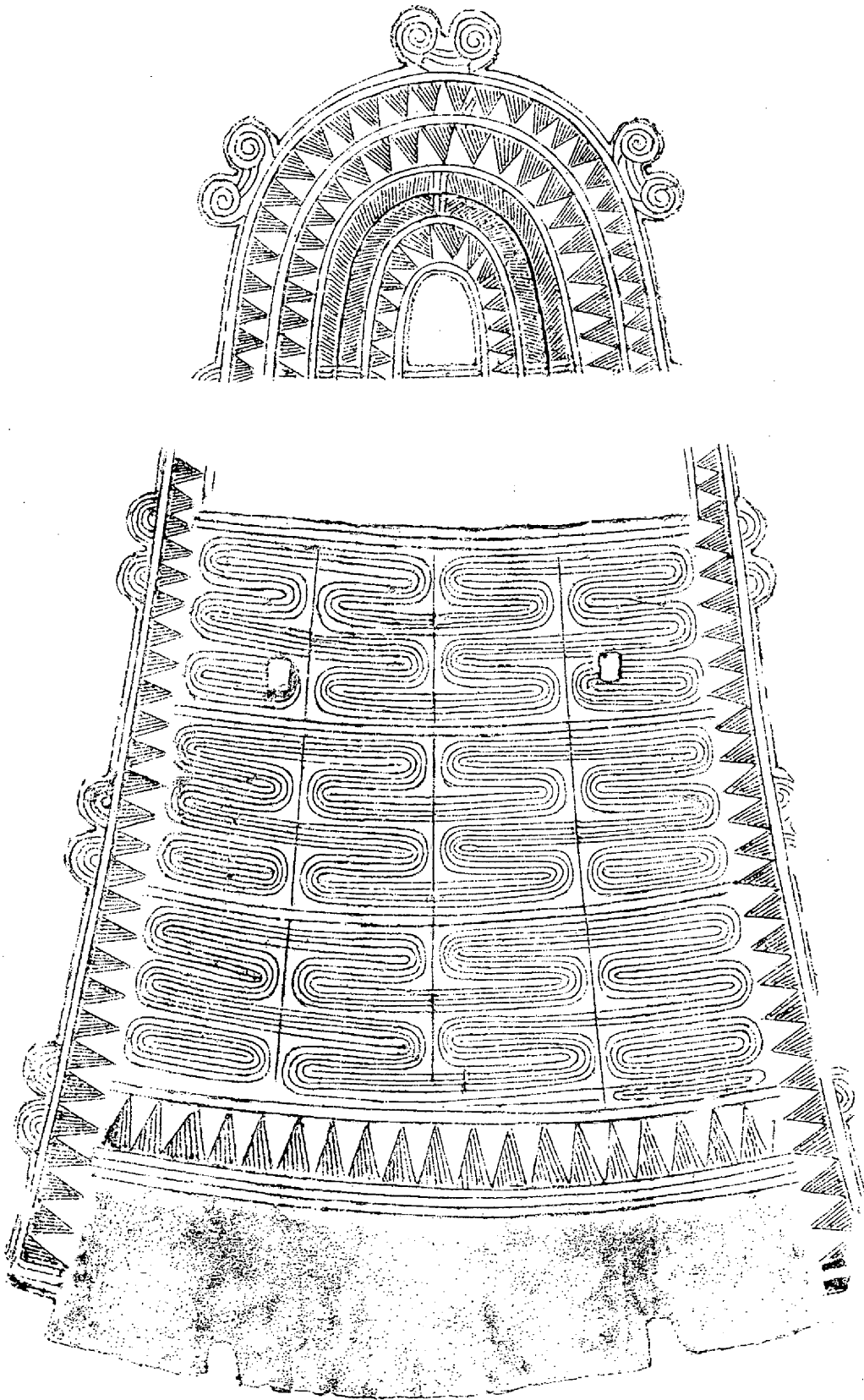


第149図 高塚銅鐸俯瞰および仰視 (1/3)



第150図 高塚銅鐸A面拓本(1/3)





第151図 高塚銅鐸B面拓本 (1/3)

## (5) 袋状土壇

### 袋状土壇 1 (第115・152図)

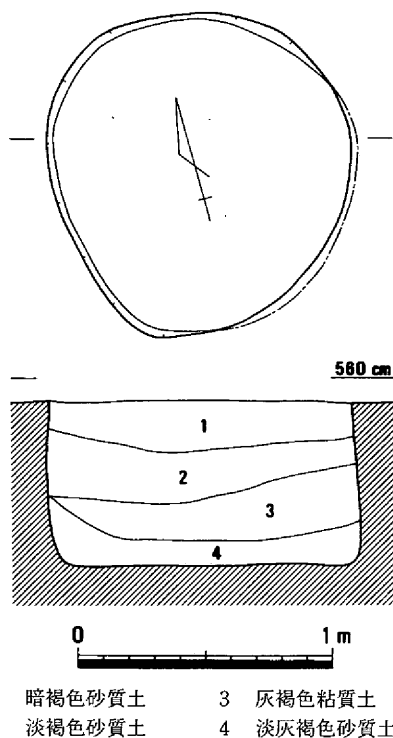
Cd407区にあり、袋状土壇群の北西端に位置する。平面形が楕円形を呈しており、規模は、上面での直径が131cmであるのに対して、底面は水平な面をなし、直径が125cm、検出面からの深さは65cmを測る。埋土は4層に分けられたがほぼ水平堆積であり、ごく少量の土器細片が出土したのみで炭などは含まない。

出土遺物からみてこの土壇の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

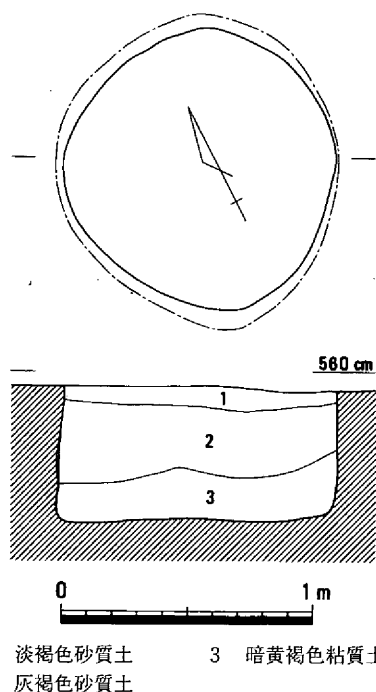
### 袋状土壇 2 (第115・153図)

Cd407区にあり、竪穴住居7の北2mに位置する。規模は、上面での直径が112cmで、平面形は楕円形を呈する。底面は平坦な面をなし、直径が125cmを測る。壁面はやや内傾して立ち上がり、検出面からの深さは52cmを測る。埋土は3層に分けられたが、少量の土器片以外に出土遺物はなく、ほぼ水平な堆積の状況であった。

出土遺物からみてこの土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (弘田)



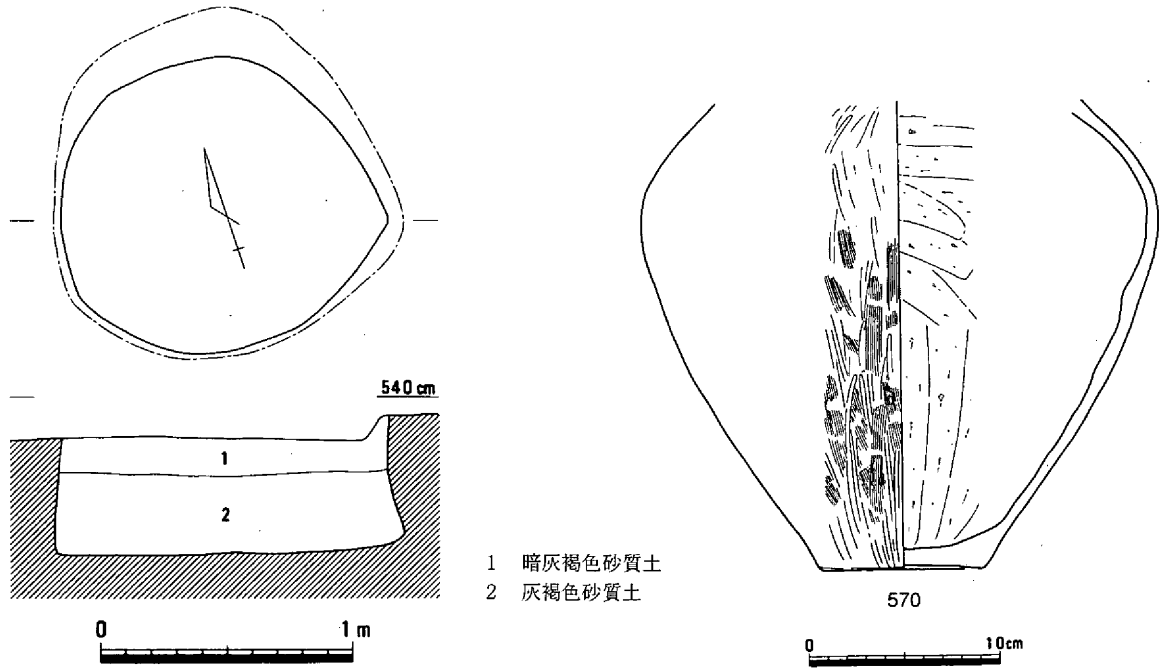
第152図 袋状土壇 1 (1/30)



第153図 袋状土壇 2 (1/30)

### 袋状土壇 3 (第115・154図)

Cd407区に位置し、弥・後・Iの竪穴住居7を調査後に検出しており、両者は切り合い関係にある。規模は、上面での直径が129cm、底面での直径が140cmで、平面形はやや不整形な円形を呈する。壁面は北と東側で強く内傾して立ち、検出面からの深さは46cmを測る。埋土は2層に分けられ、水平な堆積状況を示す。

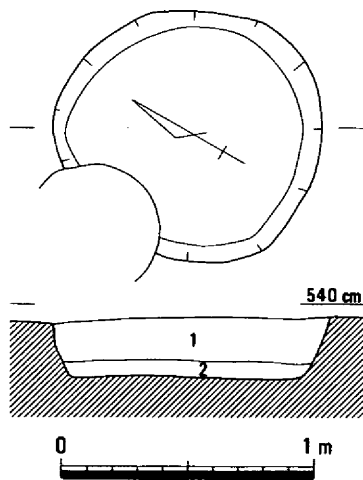


第154図 袋状土壙 3 (1/30)・出土遺物 (1/4)

出土遺物には壺の体部片570などがある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

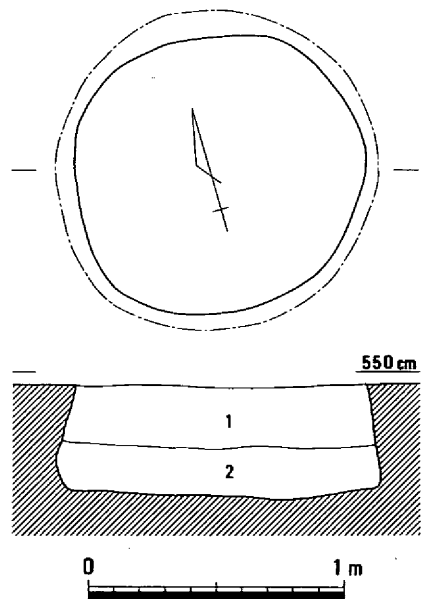
袋状土壙 4 (第115・155図)

Cd4 07区に位置する。竪穴住居7の中央よりやや北に寄った所の床面直下で検出した。規模は、上面での直径が107cm、底面での直径が99cmで、平面形は円形を呈する。検出面からの深さはわずか24cmで、断面形は浅い椀形をなすが、本来は袋状を呈すると考えて袋状土壙として扱った。埋土は2



1 灰褐色砂質土 2 淡褐色砂質土

第155図 袋状土壙 4 (1/30)



1 暗褐色砂質土 2 淡褐色砂質土

第156図 袋状土壙 5 (1/30)

層に分けられ、水平堆積をなす。

遺構の切り合い関係と出土遺物からみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

**袋状土壌 5 (第115・156図)**

Ce407区にあり、竪穴住居7の南1mのところの位置する袋状土壌で、上面と底面の平面形は円形を呈する。規模は、上面での直径が118cm、底面での直径が127cmで、深さは43cmを測る。埋土はほぼ水平に堆積しており、2層に分けられた。

図示しうる出土遺物はないが、この土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

**袋状土壌 6 (第115・157図)**

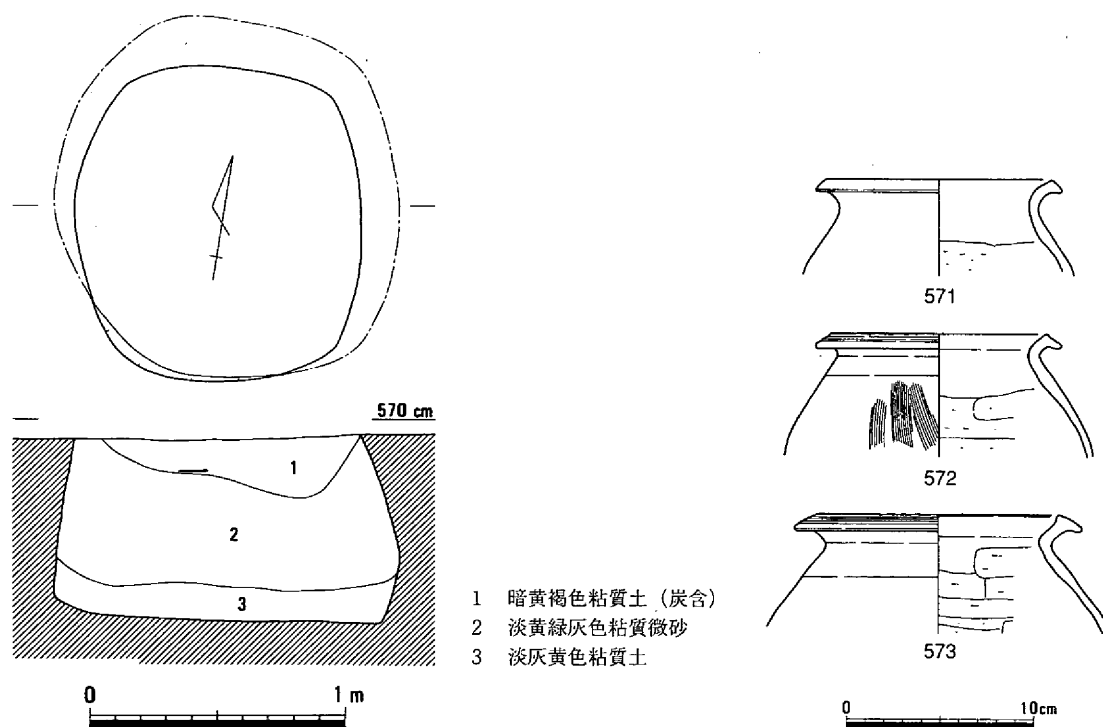
Ce407区に位置する袋状土壌で、平面形が隅丸長方形を呈する。規模は、上面での直径が133cmに対して、底面での直径は150cmを測るが、さらに最大径は底面より30cmほど上であり、西側と南側の壁がほぼ垂直に立つのに比べ底面の北側と東側ではそこから上部にむかって強く内傾して立ち上がる。また、深さは72cmを測る。埋土は3層に分けられるが、そのうちの1層には炭とともに土器類が出土している。

出土した土器には、甕の口縁部から体部にかけての破片571～573がある。これらの遺物からみてこの土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (弘田)

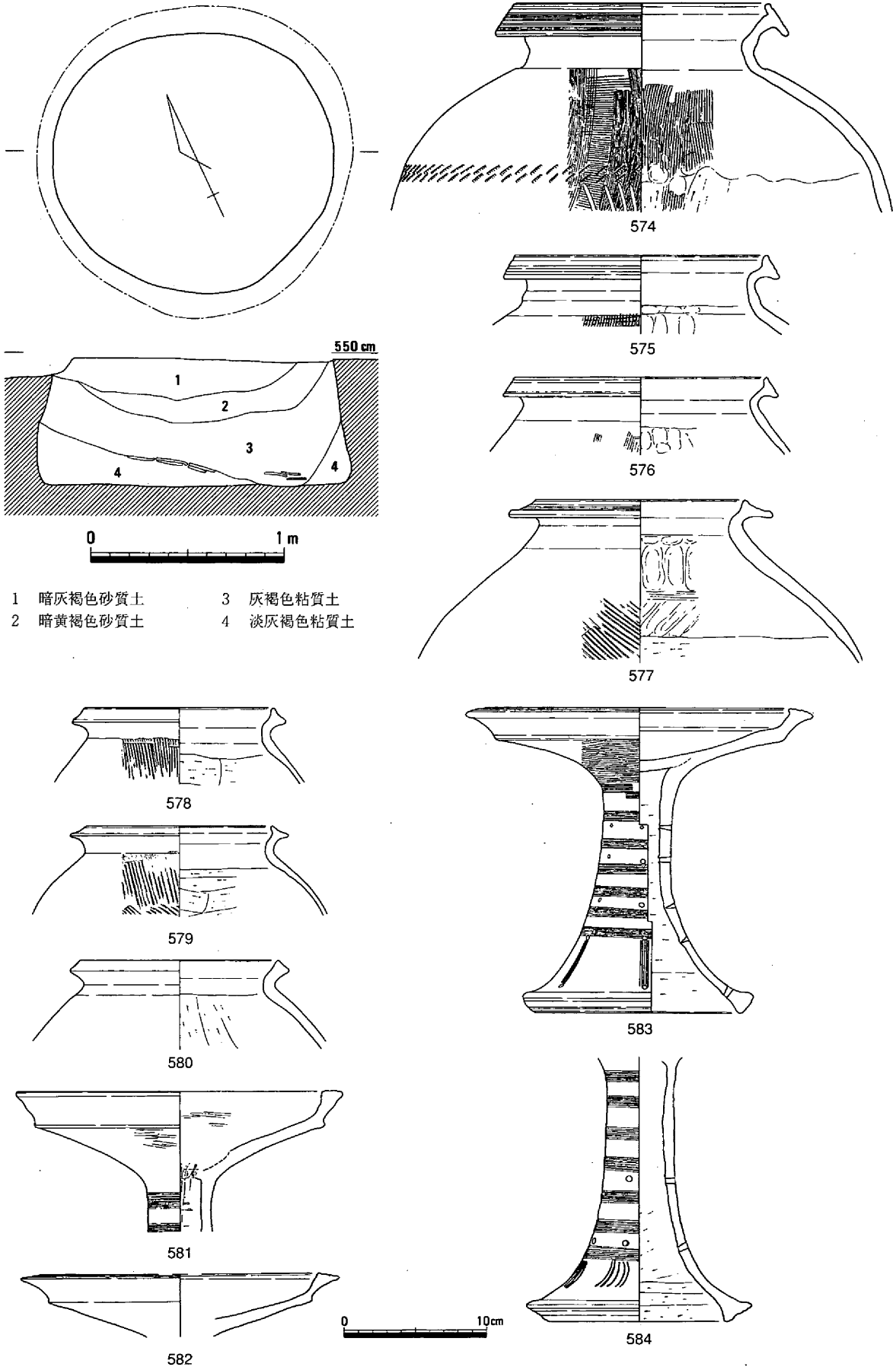
**袋状土壌 7 (第115・158図、図版90)**

Ce406・407区に位置する袋状土壌で、竪穴住居7の一部が切られる。平面形が円形を呈して、規模は、上面での直径が146cmを測る。底面はほぼ平坦な面をなしており、直径が165cm、深さは66cmで底面から内傾して開口部へと立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積しており4層に分けられたが、そのうち3層中と3層と4層の間からは土器片が多く出土している。

出土した遺物のうち、壺574は体部に刺突文を施し、上下に拡張した口縁部の外面には沈線を施す。



第157図 袋状土壌 6 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第158図 袋状土壇7 (1/30)・出土遺物 (1/4)

さらには甕575～580や、高杯581～584などがある。これらからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

**袋状土壌 8 (第115・159図)**

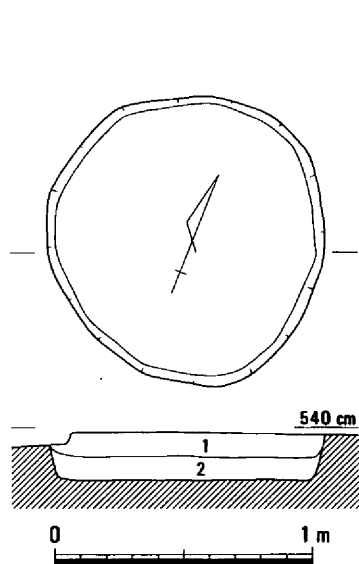
Cd408区に位置し、竪穴住居7に切られた袋状土壌である。開口部の平面形は楕円形を呈し、規模は、上面での直径が115cm、底面径は108cmを測る。底面は平坦な面をなし、壁面は底から上方に開いて立ち上がっている。上部は削平を受けており、検出面からの深さは浅く18cmである。また、埋土は水平に堆積しており、2層に分けられた。

時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

**袋状土壌 9 (第115・160図)**

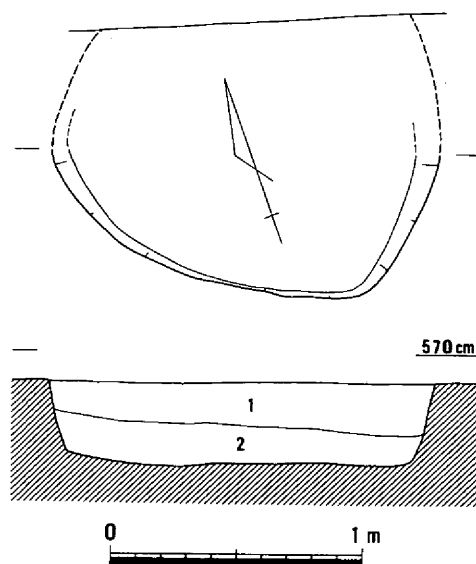
Cc408区にあり、北側を中世の河道によって切られた袋状土壌である。開口部の平面形は楕円形を呈し、規模は、上面での直径が153cm、底面では112cmを測る。また、底面は平坦な面をなし、壁面はそこから上方に開いて立ち上がっている。検出面からの深さは浅く32cmである。なお、埋土はほぼ水平に堆積しており、2層に分けられた。

時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)



1 暗褐色砂質土 2 淡褐色砂質土

第159図 袋状土壌 8 (1/30)



1 暗灰褐色砂質土 2 灰褐色砂質土

第160図 袋状土壌 9 (1/30)

**袋状土壌10 (第115・161図)**

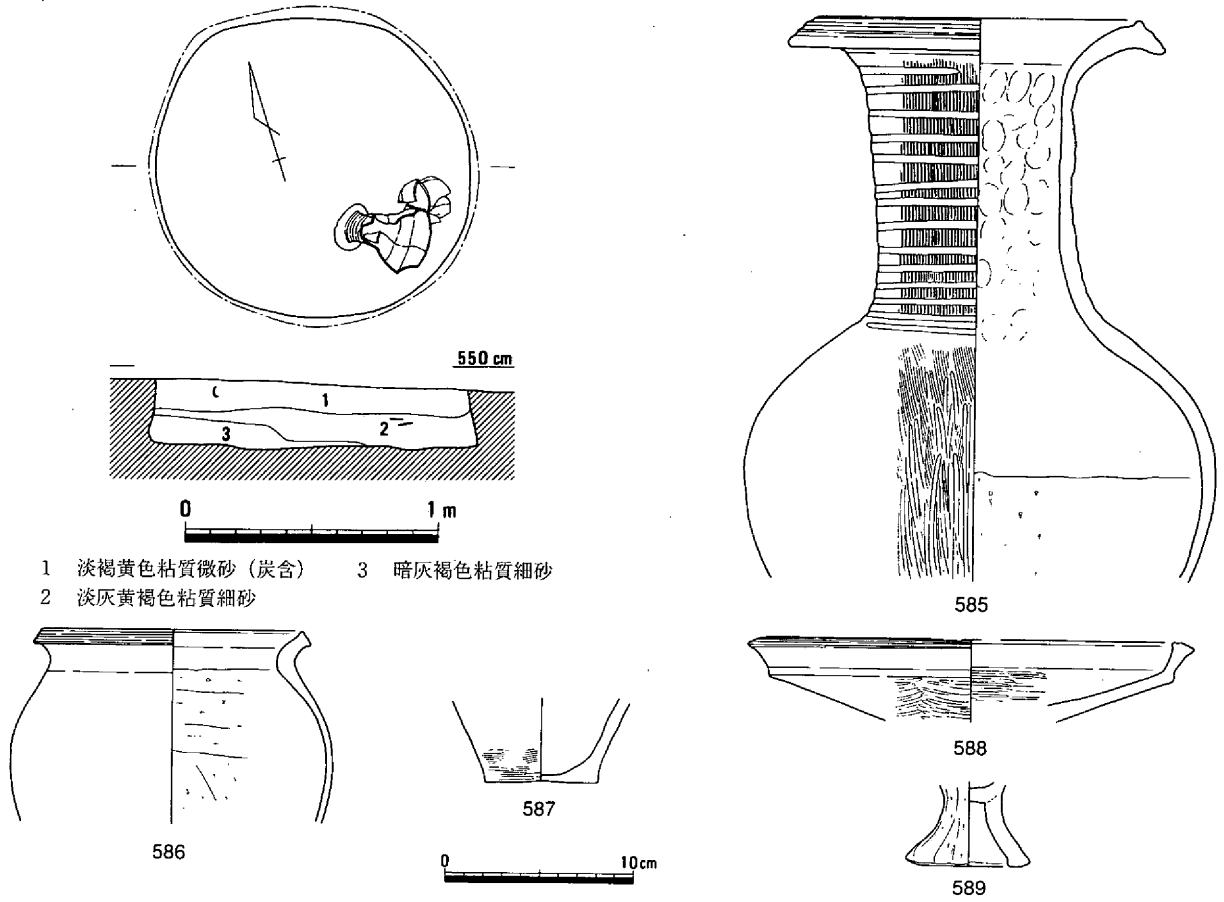
調査区の西半、竪穴住居7の北東部に位置する。平面形は直径125cm前後の円形で、深さは約27cm残存していた。断面形は袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、水平にちかい堆積状況であった。

遺物は少量の土器が出土している。585の壺は図示したように南東部の底面上から出土した。586・587は甕、588は高杯、589は製塩土器である。

土器の時期は、弥・後・Iと考えられる。(平井)

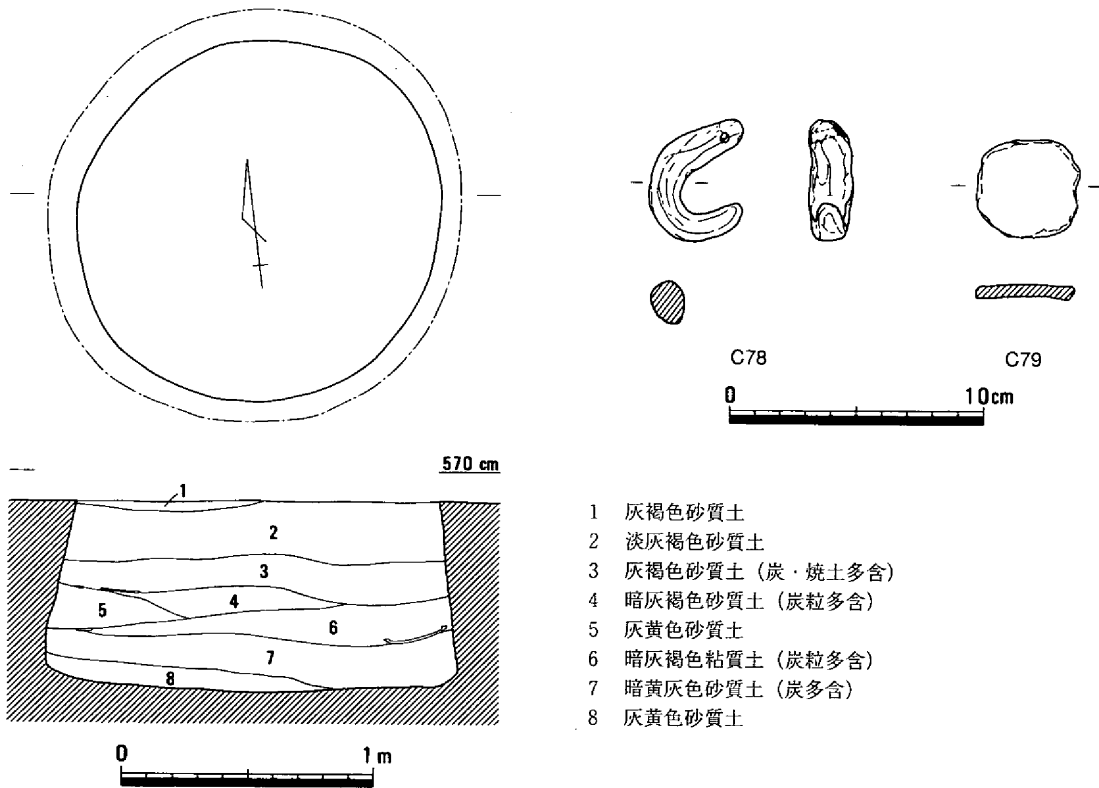
**袋状土壌11 (第115・162・163図、図版90・105)**

調査区の西半部、竪穴住居7の南東に位置する。平面形は直径140cm前後の円形で、深さは約90cm



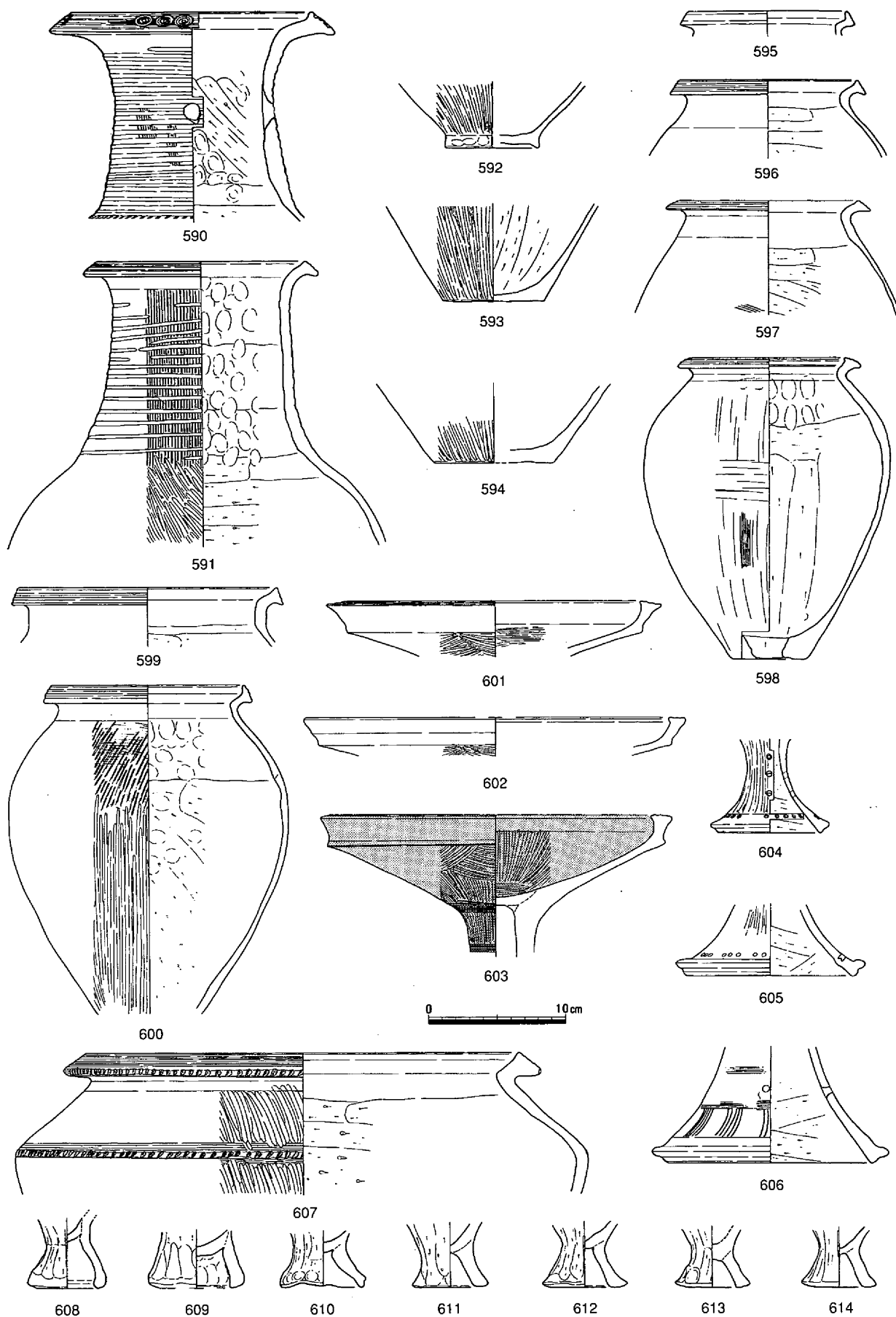
- 1 淡褐黄色粘質微砂 (炭含)    3 暗灰褐色粘質細砂  
2 淡灰黄褐色粘質細砂

第161図 袋状土坑10 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰褐色砂質土  
2 淡灰褐色砂質土  
3 灰褐色砂質土 (炭・焼土多含)  
4 暗灰褐色砂質土 (炭粒多含)  
5 灰黄色砂質土  
6 暗灰褐色粘質土 (炭粒多含)  
7 暗黄灰色砂質土 (炭多含)  
8 灰黄色砂質土

第162図 袋状土坑11 (1/30)・出土遺物① (1/3)



第163図 袋状土壇11出土遺物② (1/4)

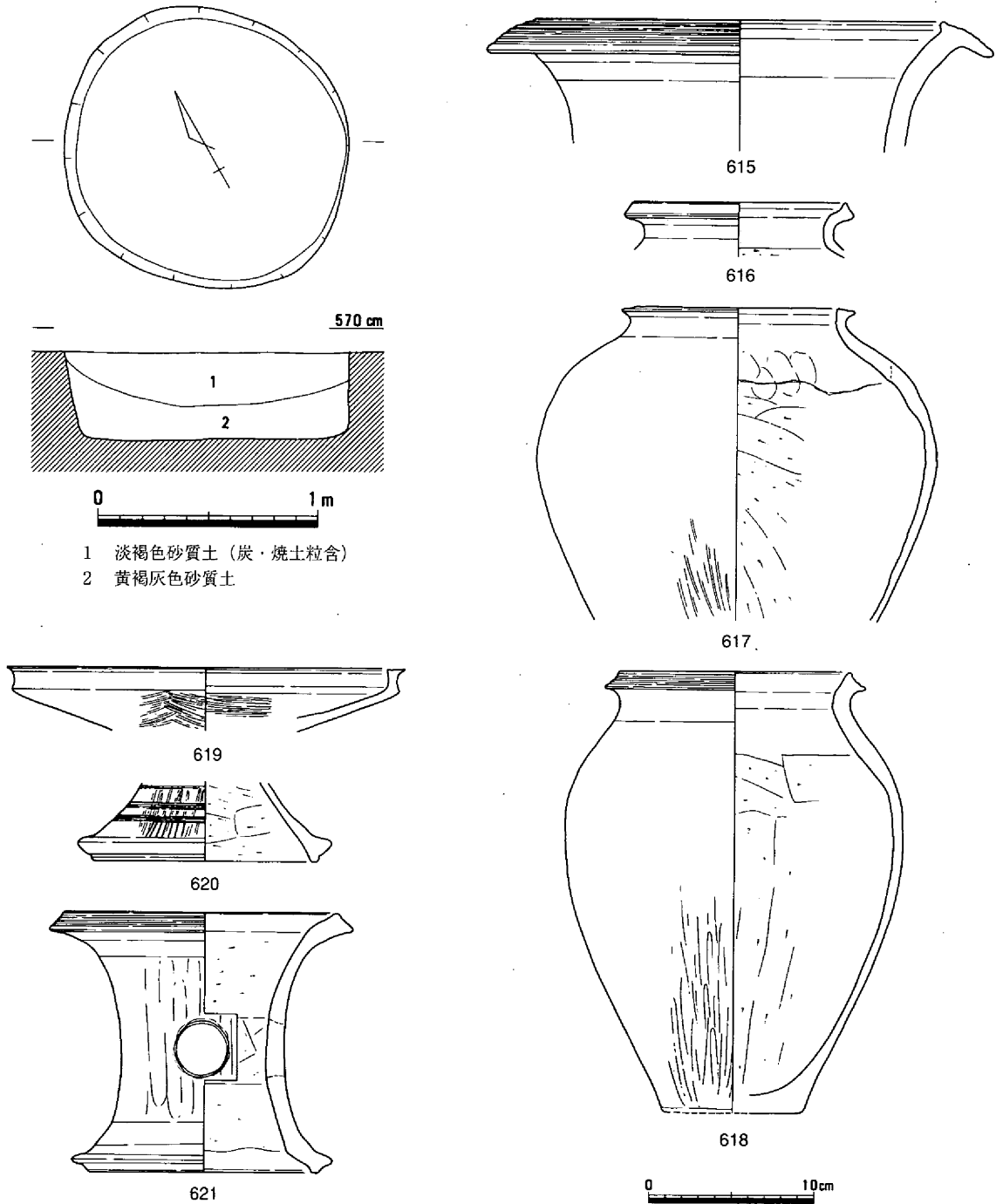


残存していた。断面形は袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は8層に分離でき、炭粒を含む土層もあり、水平に近い堆積状況であった。

遺物は土器の他に、土製勾玉C78や円板状土製品C79が出土している。長頸壺590の頸部には意識的な穿孔が確認できる。高杯603の内外面には赤色顔料（ベンガラ）が塗布されている。608～614は製塩土器の脚部である。土器の時期は、弥・後・Iと考えられる。（平井）

袋状土壙12（第115・164図、図版92）

調査区の西半部、袋状土壙11の北東約5mに位置する。平面形は直径125cm前後の円形で、深さは



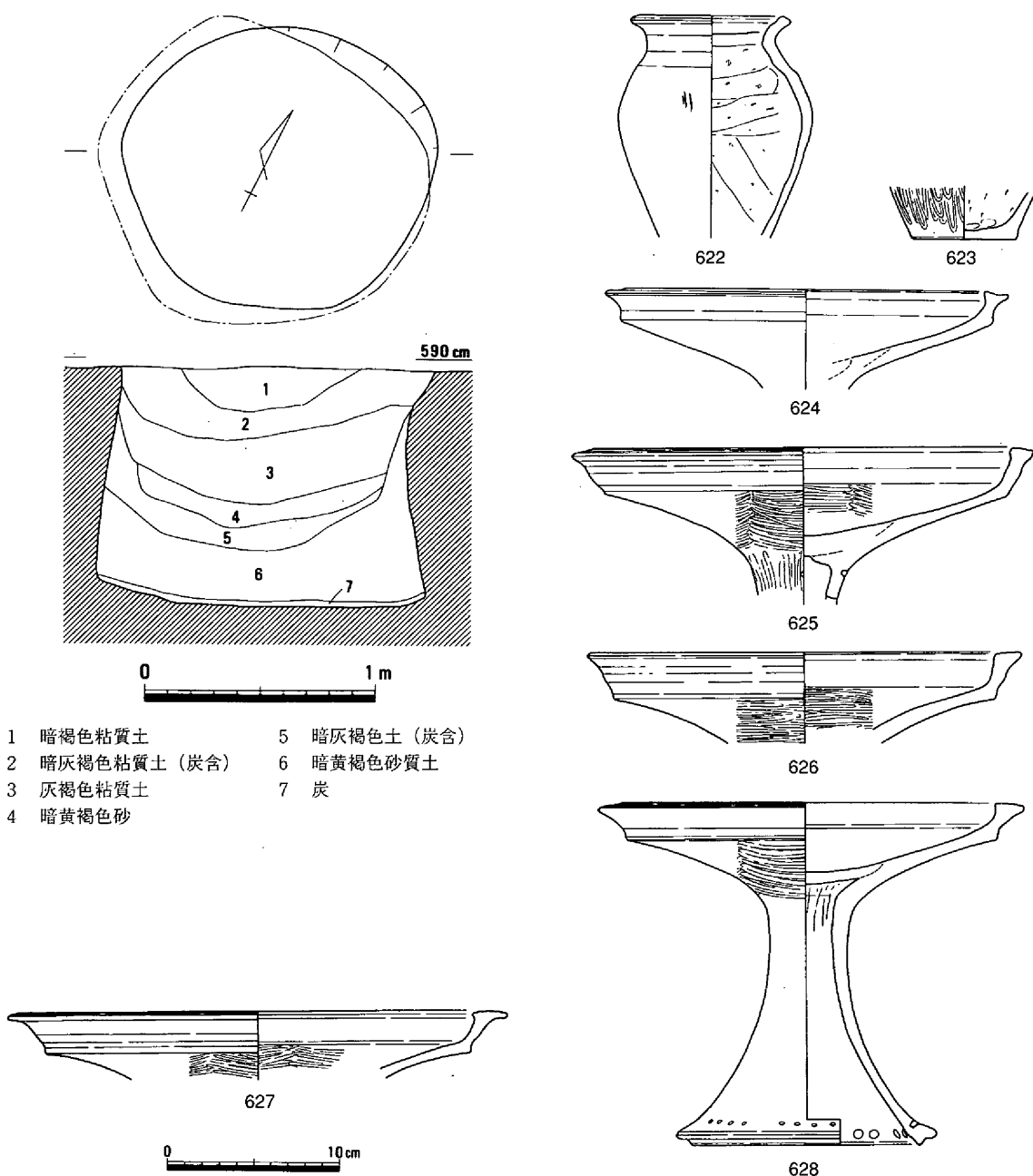
第164図 袋状土壙12 (1/30)・出土遺物 (1/4)

約40cm残存していた。断面形は垂直にちかく立ち上がる部分があるものの、袋状には検出できなかった。しかしながら、全体的な形状や出土土器から考えられる時期などから袋状土壙として報告しておきたい。出土遺物としては、少量の土器片が出土している。甕617・618の内面ヘラケズリは、頸部にまでは及んでいない。器台621の筒部には、円形の透かし孔が1個穿たれていた。これらの出土土器については、弥・後・Iと考えている。 (平井)

袋状土壙13 (第115・165図、図版92)

Ce408区の中央に位置する袋状土壙で、開口部の平面形は円形を呈し、直径が137cmを測る。底面はほぼ平坦な面となり、そこから壁面は強く内傾して立ち、深さは101cmを測る。

埋土は7層に分けられたが、底面では全体に薄く炭層がみられ、また1～5層は6層が堆積して後



第165図 袋状土壙13 (1/30)・出土遺物 (1/4)

にいったん掘り返され、再び堆積したとみられる。

出土した遺物としては、甕622・623、高杯624～628がある。これらの特徴から判断してこの土壌の時期は弥・後・Iである。(弘田)

**袋状土壌14** (第115・166図)

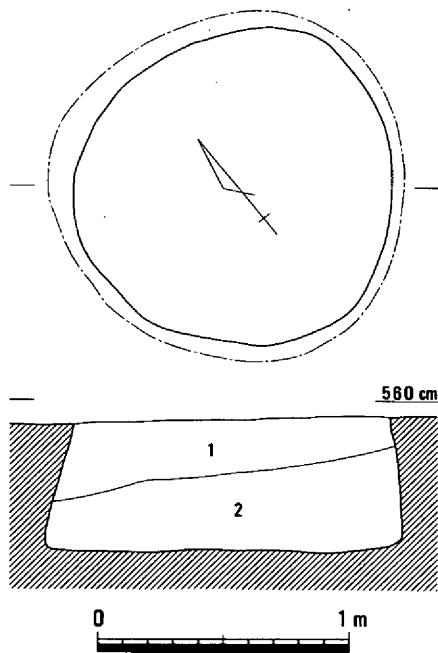
Ce408区にあり、さきの袋状土壌13から南へ2mの所に位置する。開口部と底面の平面形は円形を呈し、直径はそれぞれ137cmと、141cmを測る。底面はほぼ平坦な面となり、そこから壁面が強く内傾して立ち上がっている。検出面からの深さは53cmである。また、埋土は上下2層に分けられたが、顕著な出土遺物はみられなかった。

この土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

**袋状土壌15** (第115・167図)

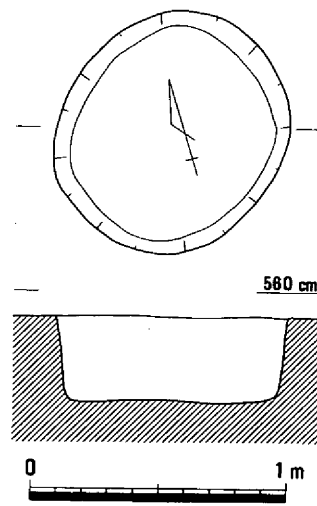
Ce・Cf408区に位置し、周囲を袋状土壌14・16・17に囲まれている。平面形は楕円形を呈し、上面での直径が96cm、底面では91cm、検出面からの深さは33cmを測る。底面は平坦な面をなすが、断面は逆台形状を呈しておりいわゆる袋状ではない。

周辺の状況から袋状土壌と判断した。また、顕著な出土遺物はないが、時期は弥・後・Iの可能性が高い。(弘田)



1 暗褐色砂質土      2 灰褐色砂質土

**第166図 袋状土壌14 (1/30)**



暗褐色砂質土

**第167図 袋状土壌15 (1/30)**

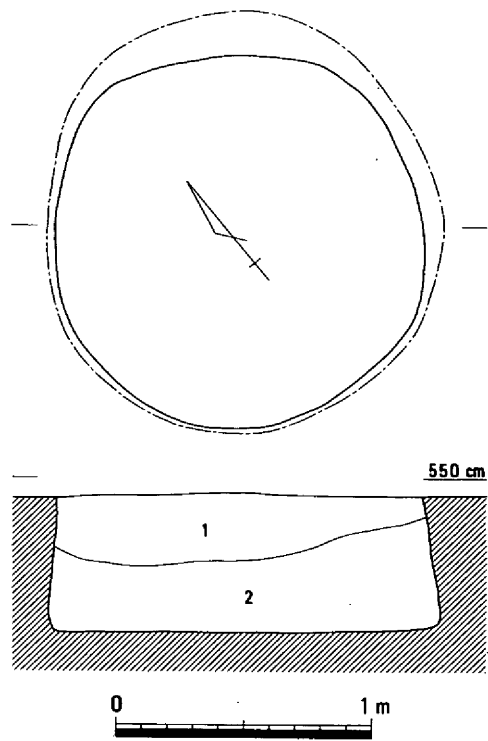
**袋状土壌16** (第115・168図)

Ce408区に位置する。上面および底面の平面形は円形を呈し、直径はそれぞれ148cm、167cmを測る。底面は平坦な面をなし、そこから壁が強く内傾して立ち、検出面からの深さは55cmを測る。また、埋土は2層に分けられ、ともに水平に堆積している。

出土した遺物には、甕の口縁部片629などがある。これからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iとみられる。(弘田)

**袋状土壌17** (第115・169図)

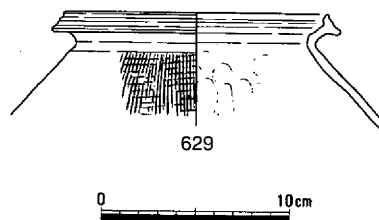
Ce・Cf408区に位置し、さきの袋状土壌15の東に接して位置する。平面形は円形を呈し、上面で



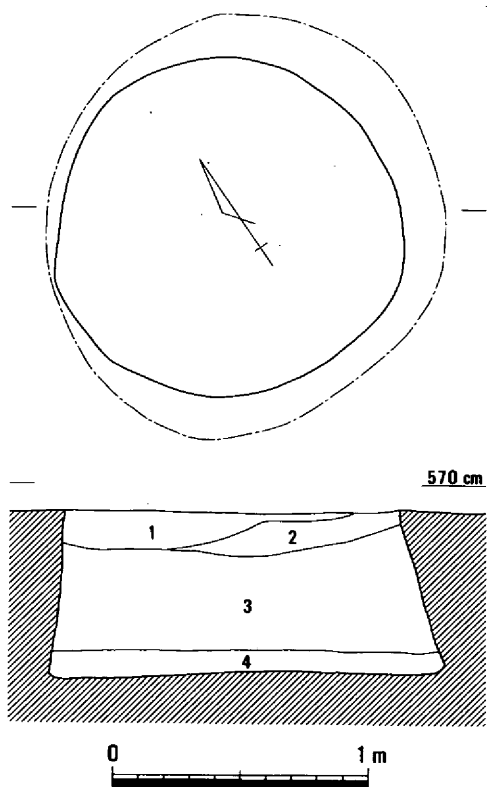
の直径が136cm、底面では168cmを測る。底面は平坦な面をなし、そこから壁面は上方に強く内傾して立ち上がり、深さは63cmを測る。また、埋土は4層に分けられたが、底面上では、全体に基盤層に類似した厚さ10cmほどの暗黄褐色の粘質土を敷いているようであった。

出土遺物としては、大形の甕630がある。口縁部から胴部にかけての1/4程度の破片であるが、これからみて、この土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

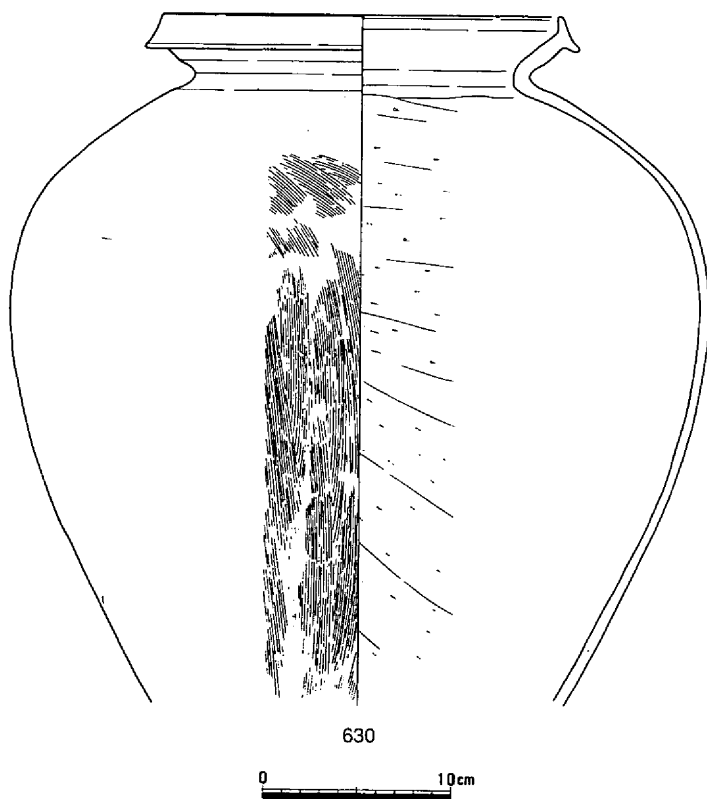
- 1 暗褐色砂質土
- 2 淡褐色砂質土



第168図 袋状土壙16 (1/30)・出土遺物 (1/4)

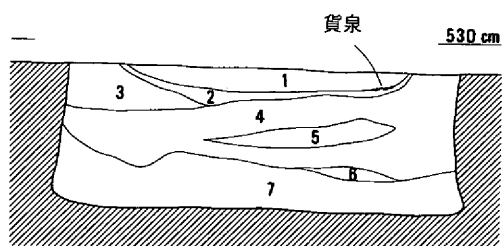
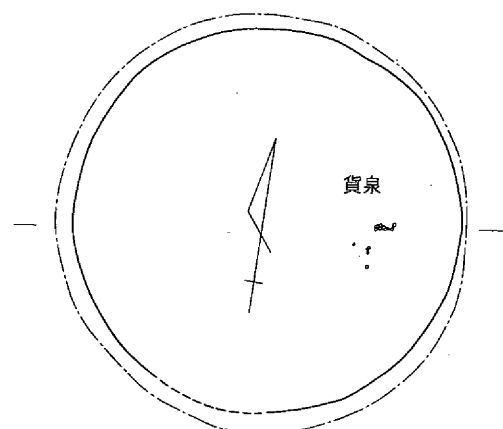


- 1 暗褐色砂質土
- 2 淡褐色砂質土
- 3 褐灰色粘質土
- 4 暗黄褐色粘質土

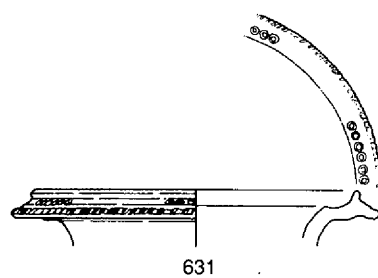


第169図 袋状土壙17 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙18 (第115・170~175図、図版8・91・103・104)



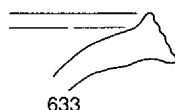
- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 黄褐色砂質土 (炭粒含)  | 5 黄色砂質土       |
| 2 灰+焼土          | 6 黄色粘質微砂      |
| 3 淡褐色砂質土 (炭粒含)  | 7 黄色砂質土 (炭粒含) |
| 4 黄灰褐色砂質土 (炭粒含) |               |



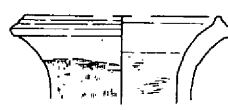
631



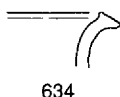
632



633



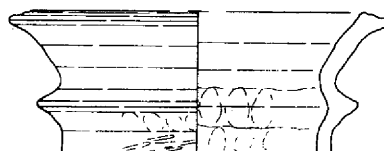
635



634



636



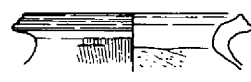
637



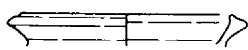
638



643



646



639



644



647



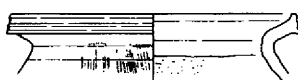
640



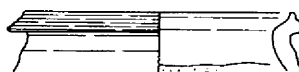
645



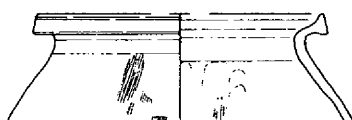
648



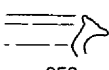
641



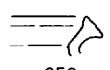
649



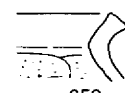
642



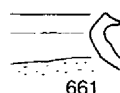
653



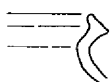
656



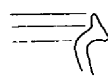
659



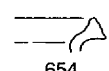
661



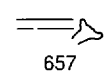
650



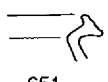
652



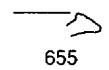
654



657



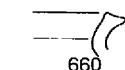
651



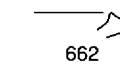
655



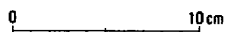
658



660



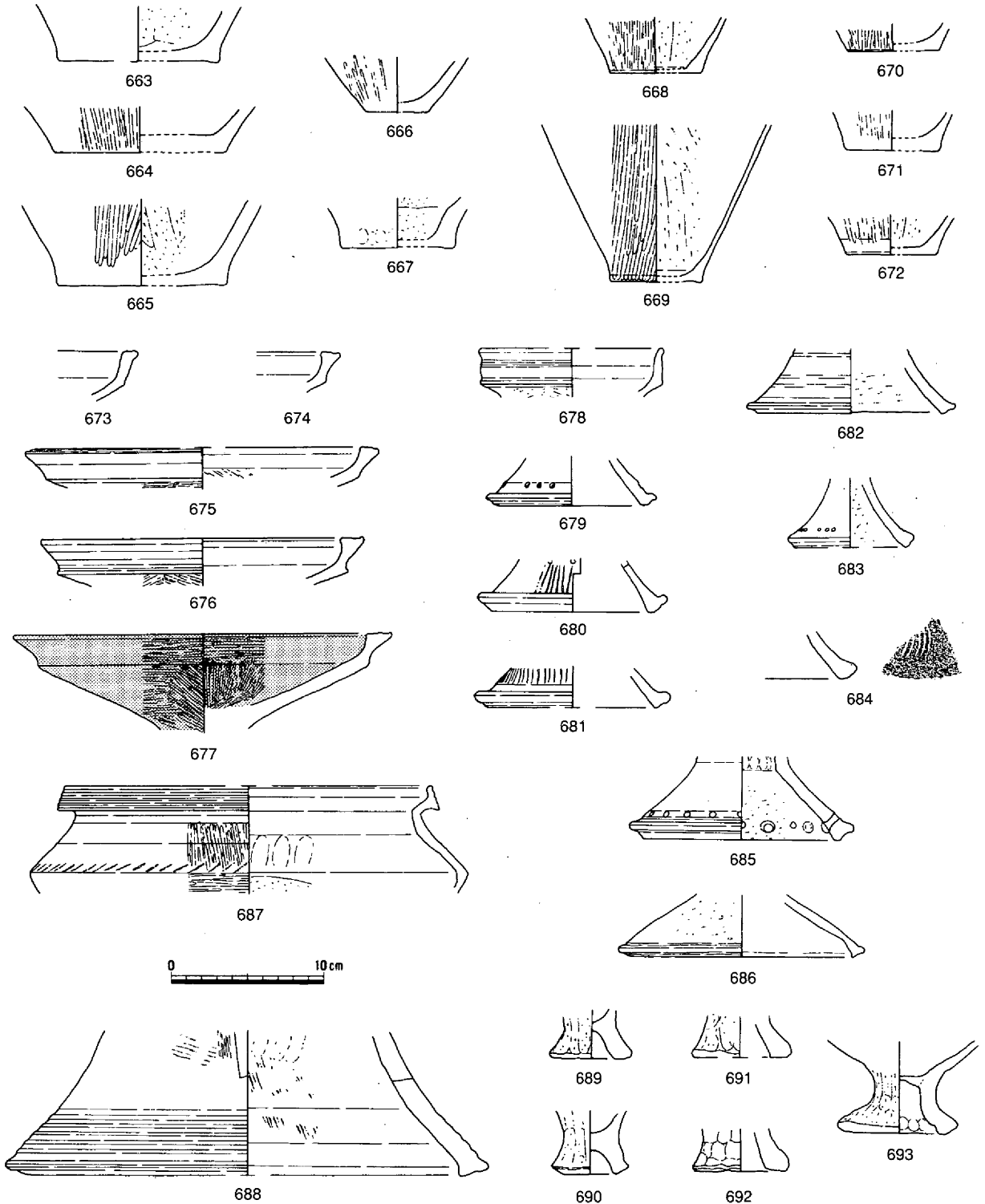
662



第170図 袋状土壙18 (1/30)・出土遺物① (1/4)

調査区の中央部、Cd409区に位置する。

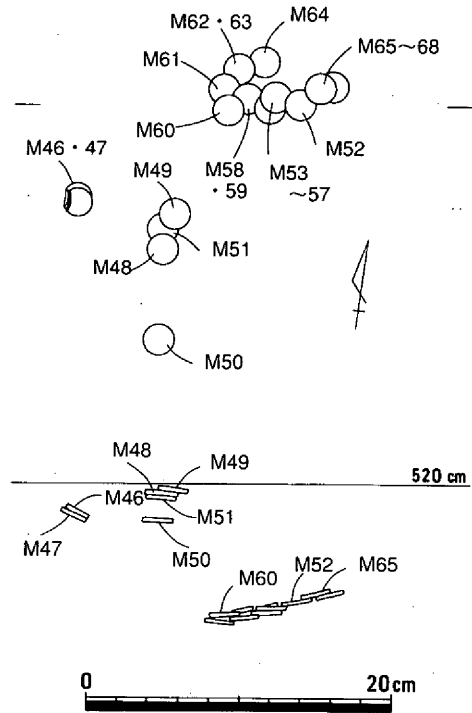
古墳時代前期の竪穴住居35に切られているが、平面形は直径約150cmの円形で、深さは55cm残存していた。底面はほぼ平らで、断面形は袋状を呈している。底面の形状は直径160~170cmの円形であった。底面の面積は2.14m<sup>2</sup>、海拔高は4.64mである。フロヤ調査区で検出した86基の袋状土壇のなかでは特別な形状を呈しているとはいえない。埋土は7層に分離できた。第170図の3~7層は水平にち



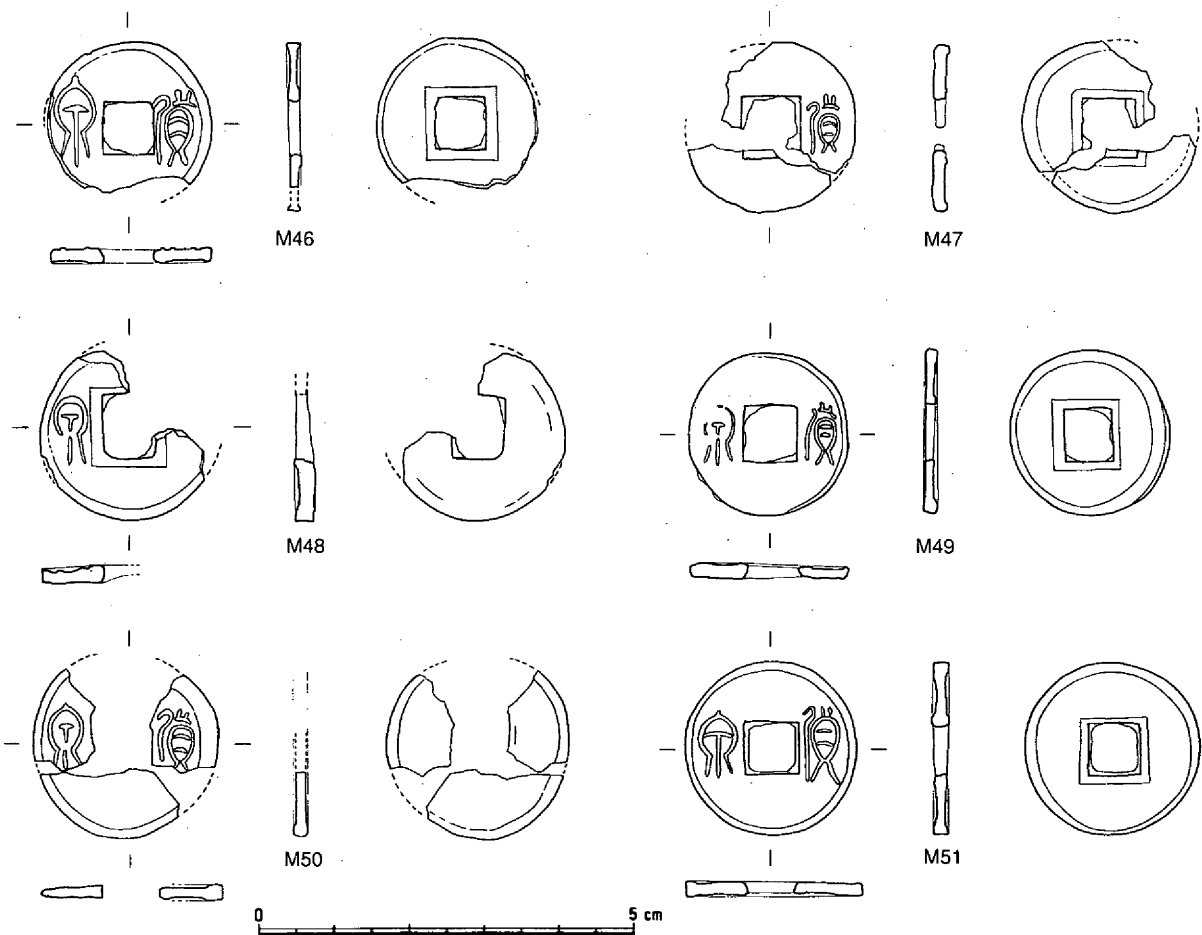
第171図 袋状土壇18出土遺物② (1/4)

かい堆積層で、短期間に意識的に埋められたのかもしれない。1・2層は皿状の堆積で、3～7層よりは時期的に新しいのではなかろうか。また2層は炭と灰の層でこの場所で火が炊かれたのかもしれない。

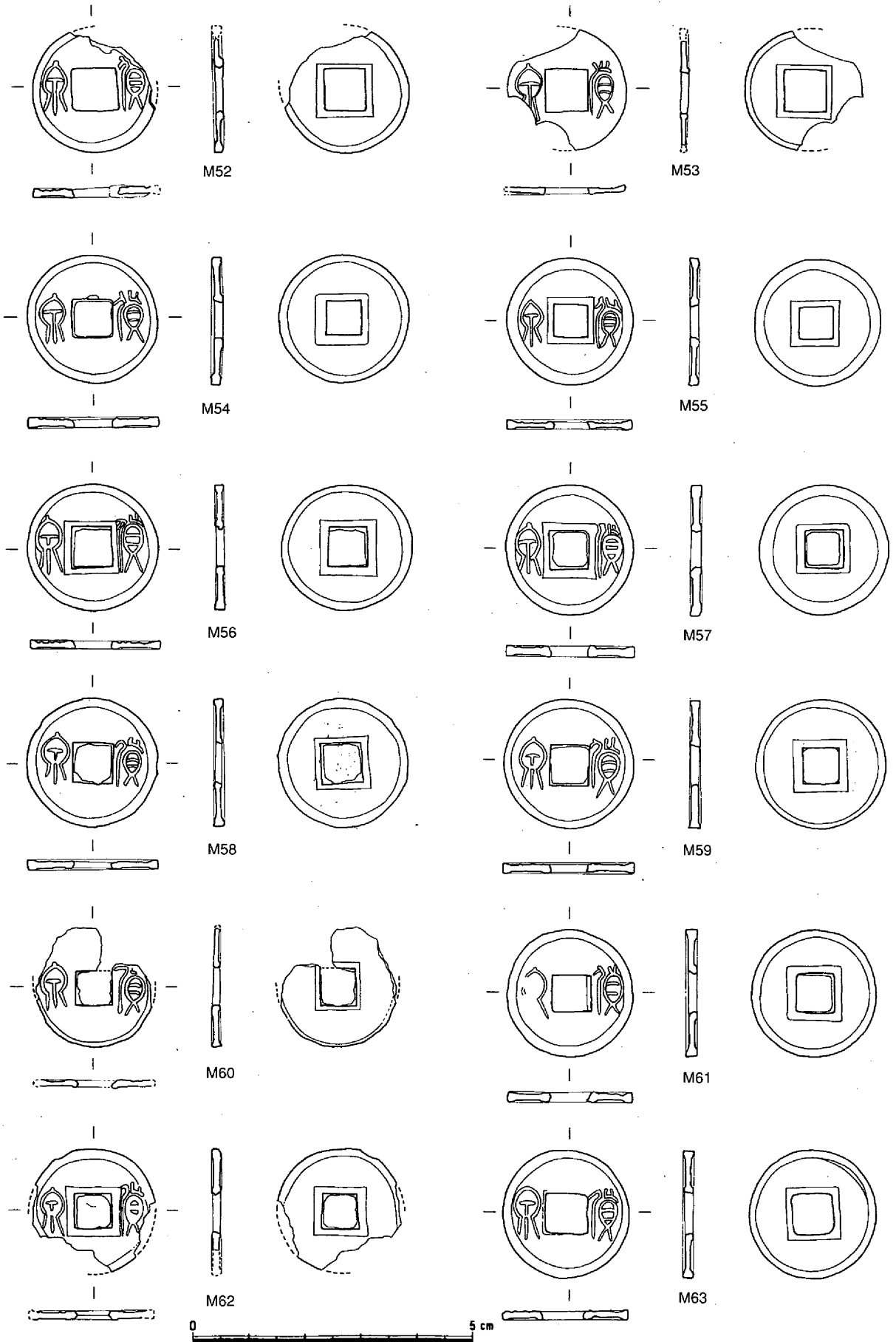
出土遺物のなかで最も注目されるのは貨泉24枚である。まず「貨泉」の出土状況については第170・172図や写真を掲載している。貨泉は、最初袋状土塋の平面形を検出中にM46～51の6枚を発見した。これらの特徴は、ほぼ直径15cmの範囲内で約3cmの高さの幅の中に位置しており、M46・47とM48・49・51はそれぞれ重なった状態で出土している。次に南半分の掘り下げ調査中に、偶然にも断面の壁の位置からM52～69の18枚を発見した。これらは直径約10cmの範囲内から重なり合う状態で出土しており、袋に入れられていたか布などにくるまれていたのではなかろうか。出土した貨泉は、大きさや重量、文字の形態などが異なっている。



第172図 袋状土塋18貨泉出土状況 (略図) (1/5)

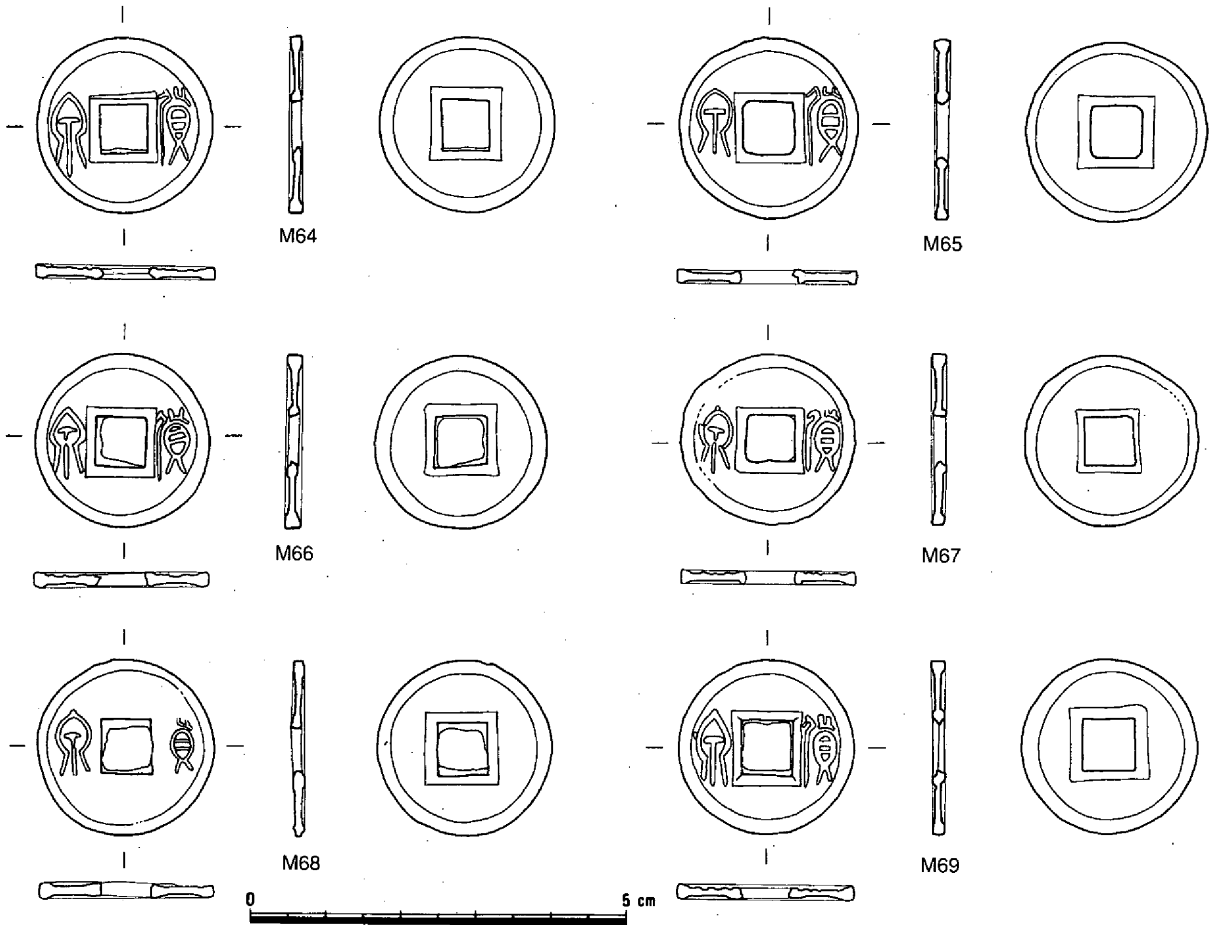


第173図 袋状土塋18出土貨泉① (1/1)



第174図 袋状土壙18出土貨泉② (1/1)





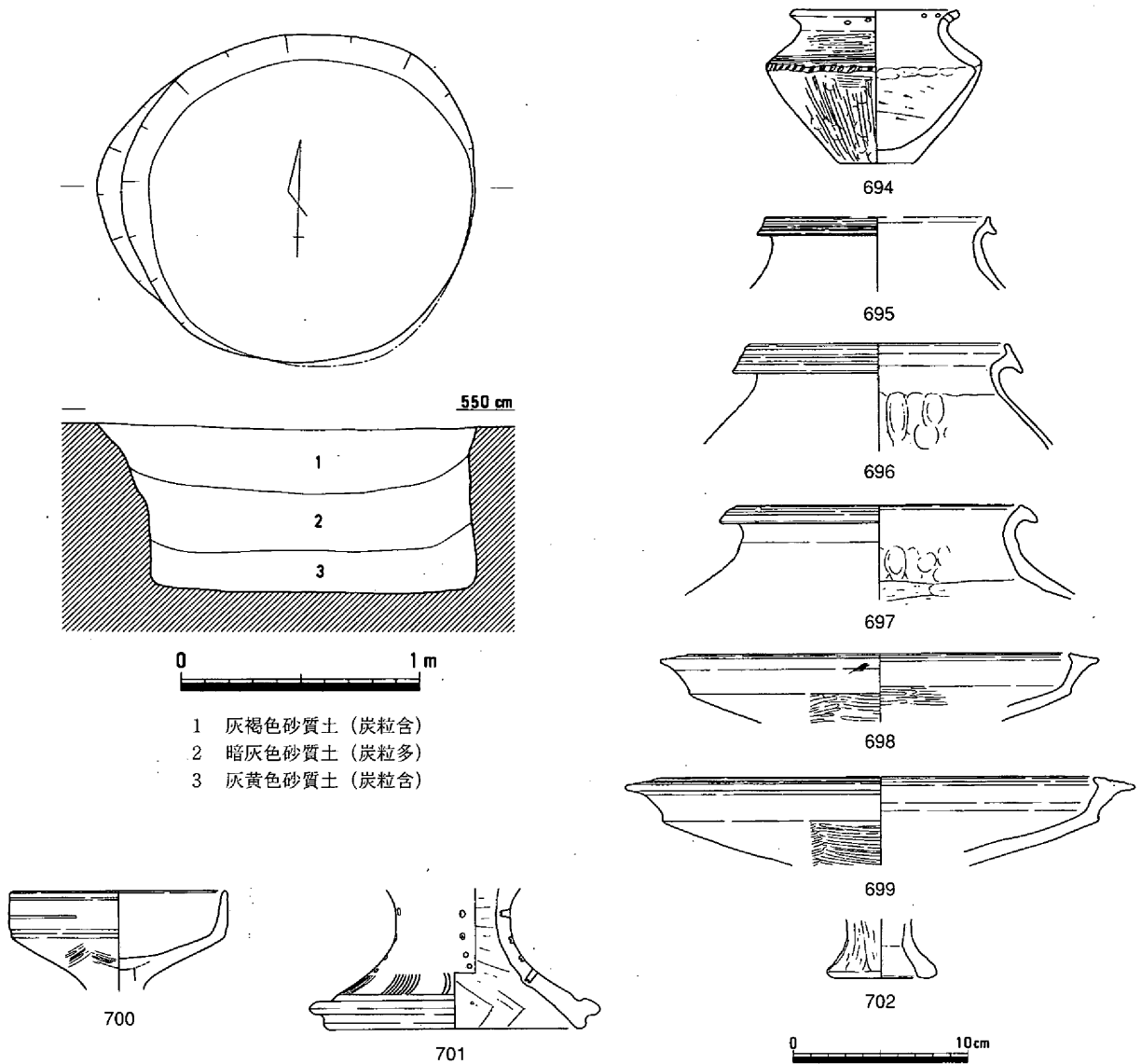
第175図 袋状土壙18出土貨泉③ (1/1)

貨泉は鑄造年代が限定できるため、共伴する遺物の歴年代を知るための重要な資料であり、この土壙からは土器片がコンテナ約2箱出土した。このうち実測図作成可能なものについては、ほとんどを第170・171図に掲載している。貨泉は前述したように1・2層から出土しているが、この両層から確実に出土した土器片（北半分については分層発掘を実施した）は631・632・637・640～642・647・648・650・656・663～666・670・672～674・676・678・686・691～693である。また636・649・689・690は3層から出土した土器である。その他の土器については、出土層位を明確にすることができなかった。土器の時期は出土層位によって大きな違いはなく、いずれも弥・後・Iと考えている。なお竪穴住居35の床面から出土した貨泉M80についても、本来はこの袋状土壙18に伴っていたものと判断している。（平井）

#### 袋状土壙19（第115・176図、図版90）

調査区の中央部、袋状土壙18の南東約1mにおいて検出した。平面形は直径140cm前後の円形で、深さは約70cm残存していた。断面形は一部袋状を呈しており、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、いずれも水平にちかい堆積状況であった。

遺物は少量の土器片が出土している。壺694の口縁部には2孔1対の孔が穿たれている。また肩部には、2条の沈線と列点紋が施されている。甕695～697の内面ヘラケズリは、頸部まで及んでいない。高杯698・699の口唇部は、拡張され凹線が施されている。701は台付鉢、702は製塩土器であろう。これらの土器の時期は、弥・後・Iと考えている。（平井）



- 1 灰褐色砂質土 (炭粒含)
- 2 暗灰色砂質土 (炭粒多)
- 3 灰黄色砂質土 (炭粒含)

第176図 袋状土壇19 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壇20 (第115・177図)

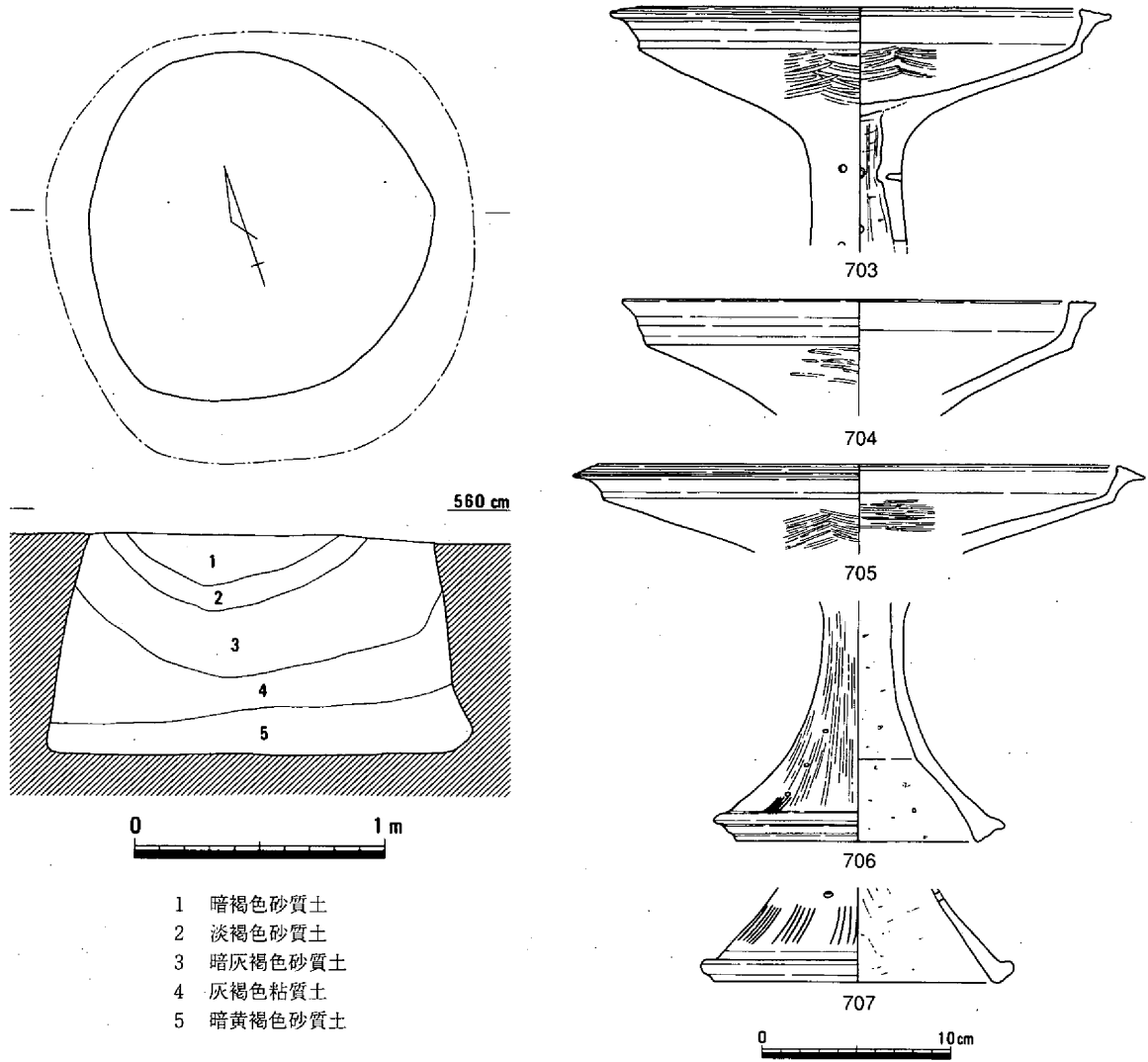
Cd・Ce409区に位置する袋状土壇で、開口部と底面の平面形は円形を呈す。規模は、上面での直径が142cmに対して、底面は直径が173cmを測り、平坦な面をなす。そこから壁面は強く内傾して立ち、検出面からの深さは88cmを測る。埋土は5層に分けられ、色調が地山に近い最下層の5層が厚さ20cmほど水平に堆積する以外はレンズ状に堆積していた。

出土した遺物のうち、図示したのはいずれも高杯片で703~707がある。これからみてこの土壇の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

袋状土壇21 (第115・178図)

調査区の中央部、竪穴住居9の南西約5mに位置する。平面形は約120×145cmの楕円形で、深さは約36cm残存していた。断面形は袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。埋土は、炭、焼土粒を含む黄褐色砂質土が1層のみであった。

遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。 (平井)



第177図 袋状土壙20 (1/30)・出土遺物 (1/4)

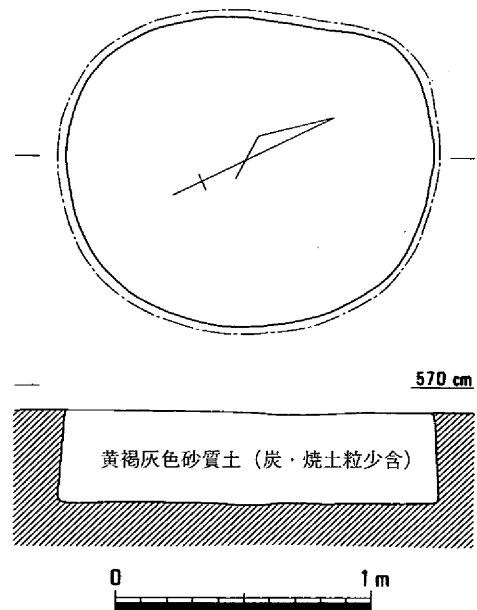
袋状土壙22 (第115・179図)

Ce4 09区に位置する袋状土壙で、開口部と底面の平面形は円形を呈する。規模は、上面での直径が119cmを測るのに対し、底面はほぼ平坦でわずかに周辺部が高くなり、直径は129cmである。また、上部は削平されており、検出面からの深さは43cmを測る。埋土は3層に分けられたが、少量の土器片以外は出土遺物はなく、各層ともほぼ水平に堆積している。出土遺物には甕の口縁部片708や底部片709・710がある。これからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。

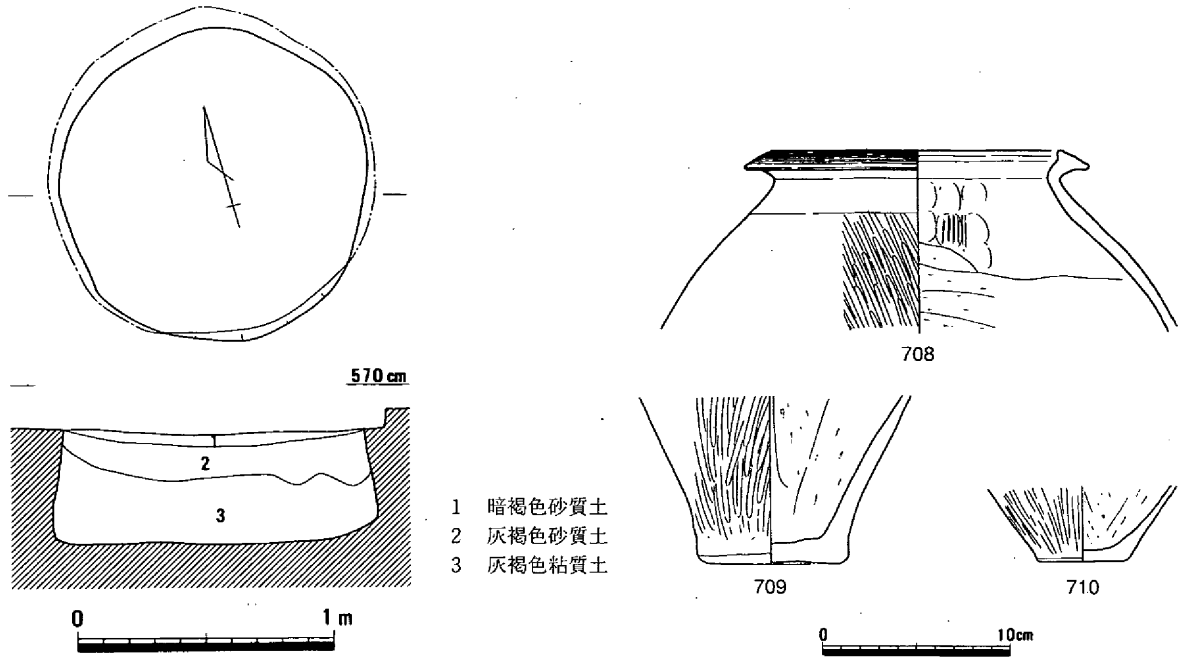
(弘田)

袋状土壙23 (第115・180図、図版105)

調査区の中央部、竪穴住居10の北西約8mに位置



第178図 袋状土壙21 (1/30)

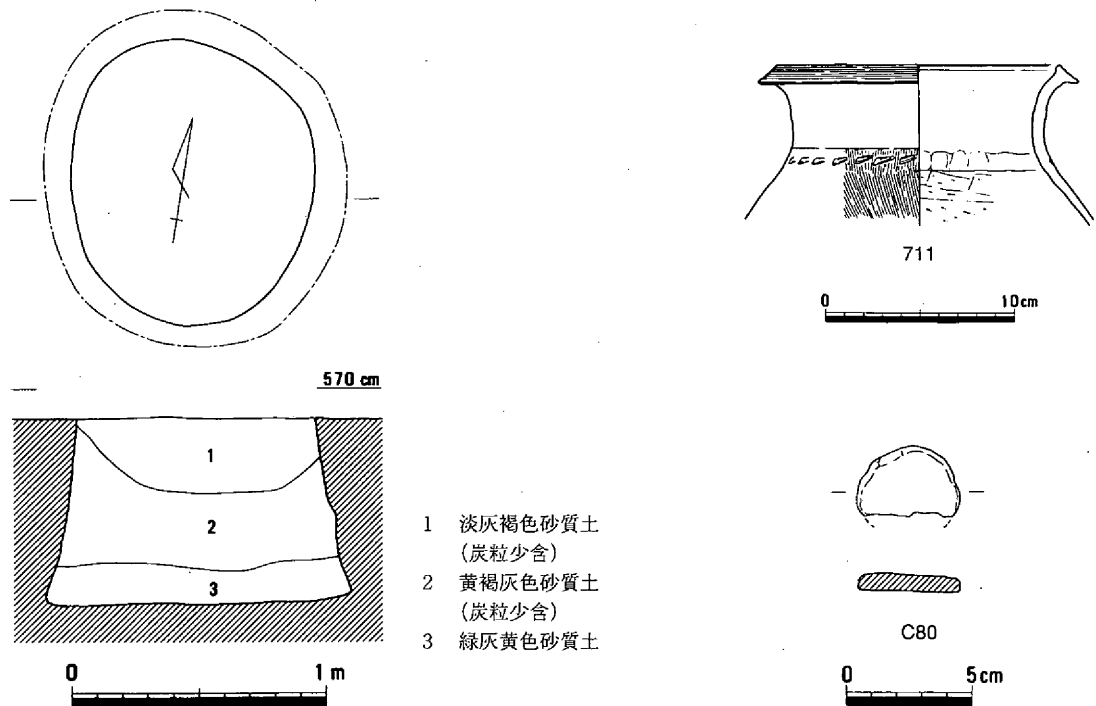


- 1 暗褐色砂質土
- 2 灰褐色砂質土
- 3 灰褐色粘質土

第179図 袋状土壙22 (1/30)・出土遺物 (1/4)

する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約73cm残存していた。断面形は袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。底面は約120×130cmの大きさで、面積は1.27㎡である。埋土は3層に分離でき、水平にちかい堆積層も確認できている。

遺物は円板状土製品C80のほか少量の土器片が出土したのみである。711は壺で、口唇部には凹線、頸部には刺突紋が施されている。時期は弥・後・Iであろう。(平井)



- 1 淡灰褐色砂質土 (炭粒少含)
- 2 黄褐灰色砂質土 (炭粒少含)
- 3 緑灰黄色砂質土

第180図 袋状土壙23 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

袋状土壇24 (第115・181図)

調査区の中央部、袋状土壇23の南に接して検出できた。平面形は直径約110cmの円形で、深さは約66cm残存していた。断面形は袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。底面は130×150cmの楕円形で、面積は1.52m<sup>2</sup>である。

遺物は少量の土器片が出土している。712は高杯で、口唇部には凹線が施されている。時期は弥・後・Iと考えられる。 (平井)

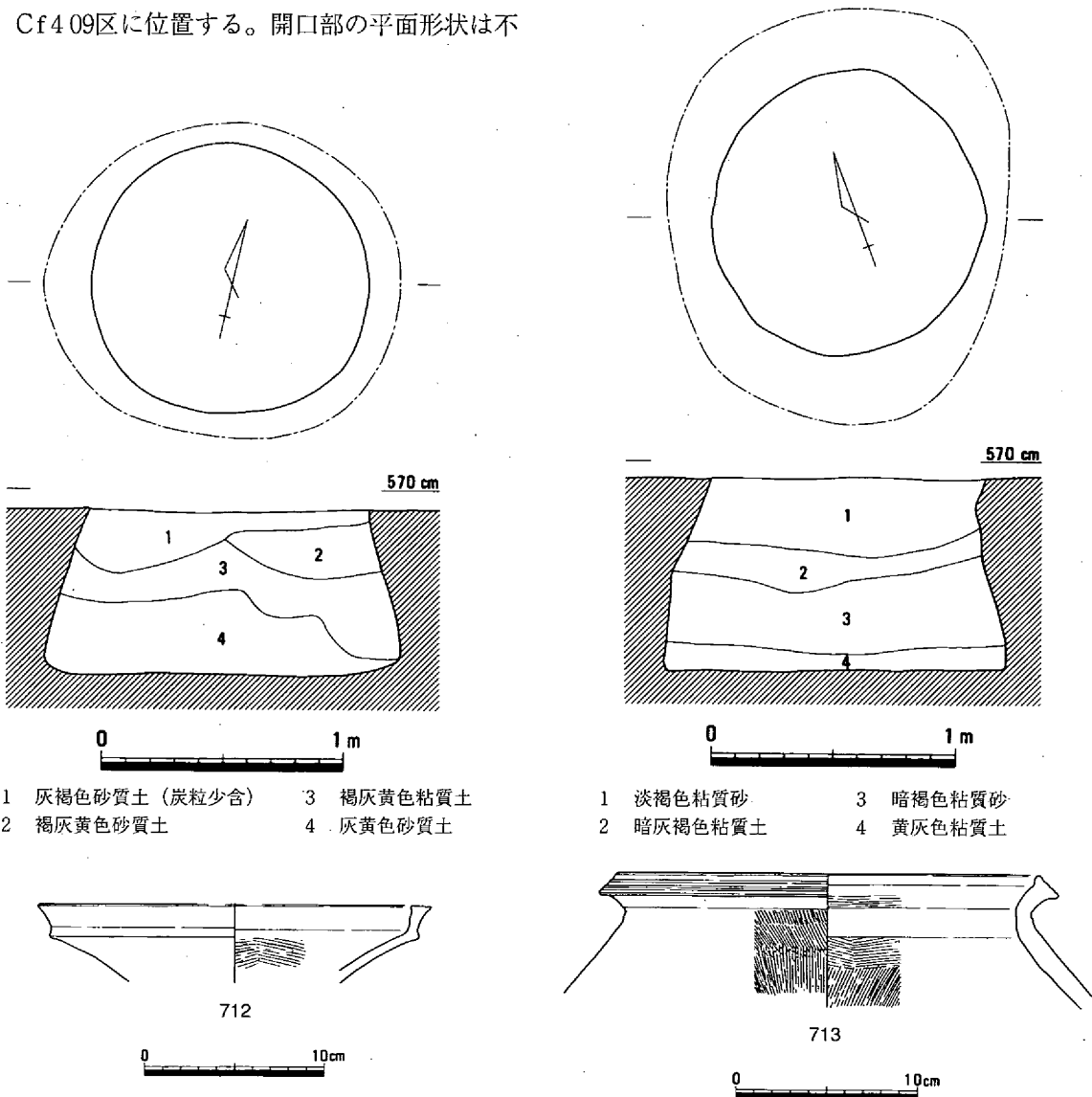
袋状土壇25 (第115・182図)

Cf4 09区にあり、竪穴住居10から北西へ3 mの所に位置する。開口部の平面形状は円形で、直径は118cmを測る。底面の形状は楕円形かつ平坦な面をなし、直径は138cmを測る。検出面からの深さは、78cmである。埋土は4層に分けられたが、このうち最下層は厚さ10cmほどの黄灰色粘質土で基盤上を覆っていた。

出土した甕の口縁部片713からみてこの土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (弘田)

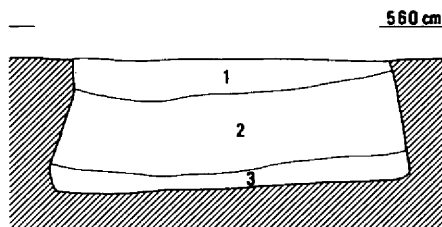
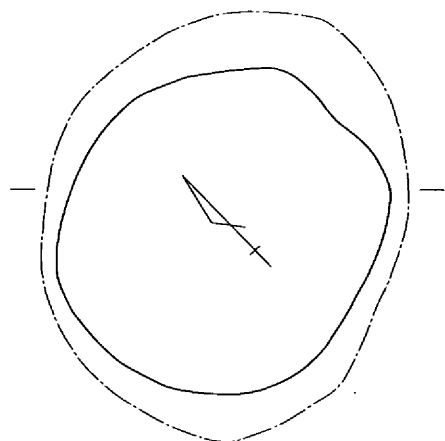
袋状土壇26 (第115・183図)

Cf4 09区に位置する。開口部の平面形状は不



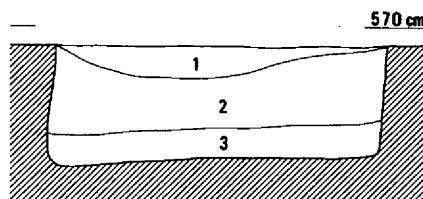
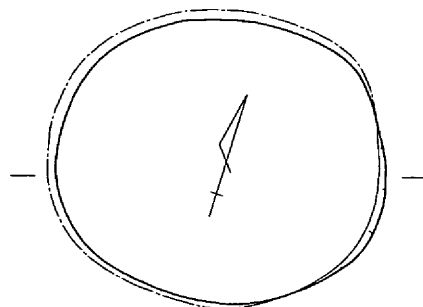
第181図 袋状土壇24 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第182図 袋状土壇25 (1/30)・出土遺物 (1/4)



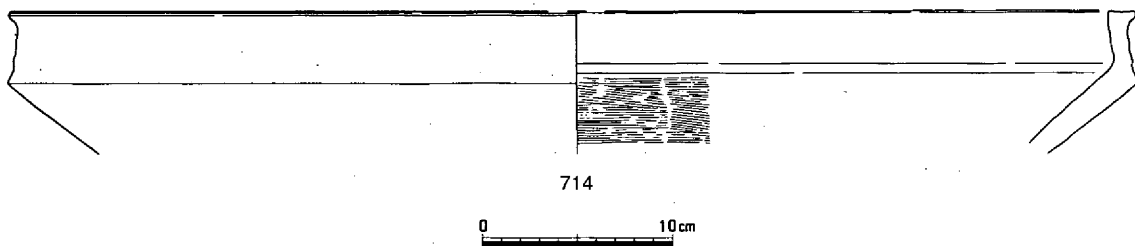
- 1 暗褐色砂質土      3 暗灰褐色砂質土  
2 灰褐色砂質土

第183図 袋状土壙26 (1/30)



- 1 褐灰色砂質土 (炭粒少含)      3 褐灰黄色砂質土 (炭粒少含)  
2 淡褐灰色砂質土 (炭粒少含)

第184図 袋状土壙27 (1/30)



第185図 袋状土壙27出土遺物 (1/4)

整楕円形を呈し、直径は132cmを測る。底面の形状も開口部と同様で、直径は172cmである。そこから壁面は上方に向けて内傾して立ち上がり、検出面からの深さは52cmを測る。また、埋土はほぼ水平に堆積しており、3層に分けられた。

出土遺物に図示しうるものはないが、この土壙の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

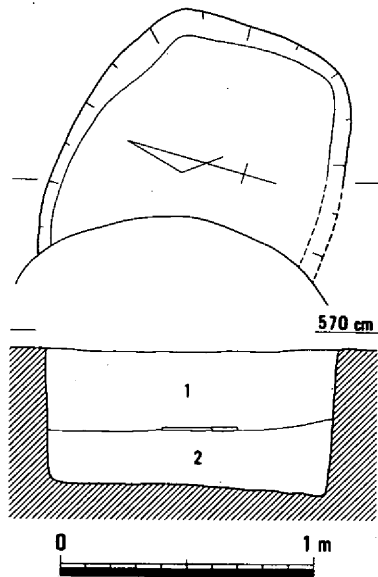
袋状土壙27 (第115・184・185図)

調査区の中央部、竪穴住居10の西北約2mに位置する。平面形は約110×130cmの楕円形で、深さは約45cm残存していた。断面形は袋状の部分が多く、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、下層はほぼ水平堆積である。埋土中には炭粒を少量含んでいる。

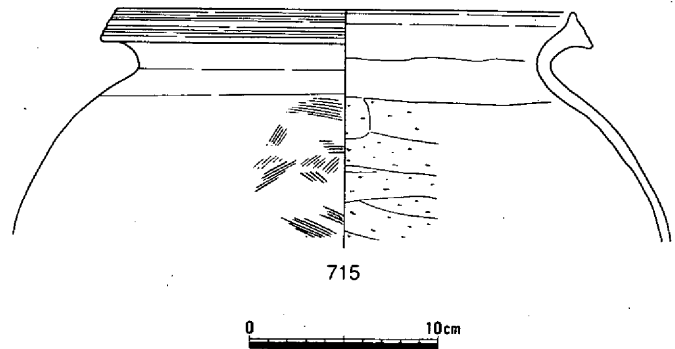
遺物は少量の土器片が出土している。714は鉢ではなかろうか。口唇部には凹線が3条施されている。時期は弥・後・Iと考えている。 (平井)

袋状土壙28 (第115・185図)

Cf409区にあり、竪穴住居10から西へ1mの所に位置する袋状土壙で、同じ袋状土壙29によって



- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土



第186図 袋状土坑28 (1/30)・出土遺物 (1/4)

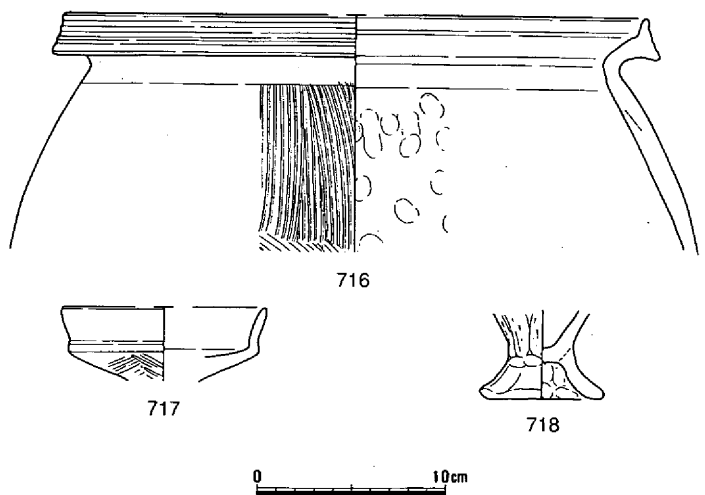
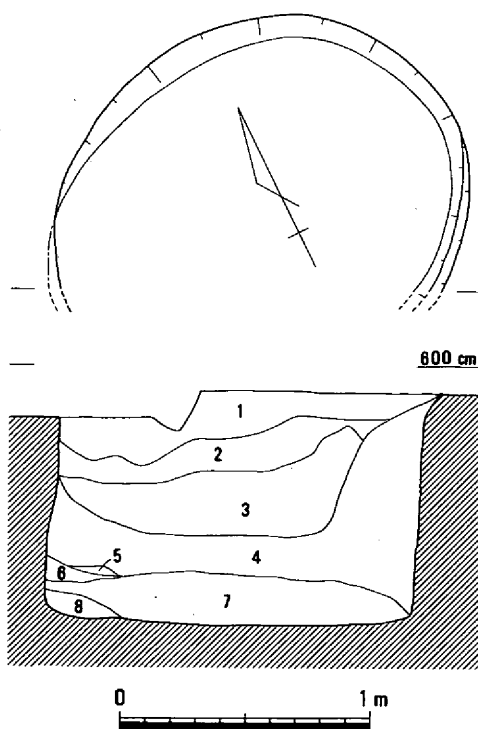
切られていた。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は、残存部での長さが138cmで、幅が118cm、深さは53cmを測る。底面は平坦面をなし、そこから壁面は垂直に近くわずかに上に向けて開くように立ち上がる。埋土は、上下2層に分けられ、その間から大形の甕の口縁部から体部にかけての破片715が出土している。

出土遺物からみてこの土坑の時期は、弥・後・Iである。

(弘田)

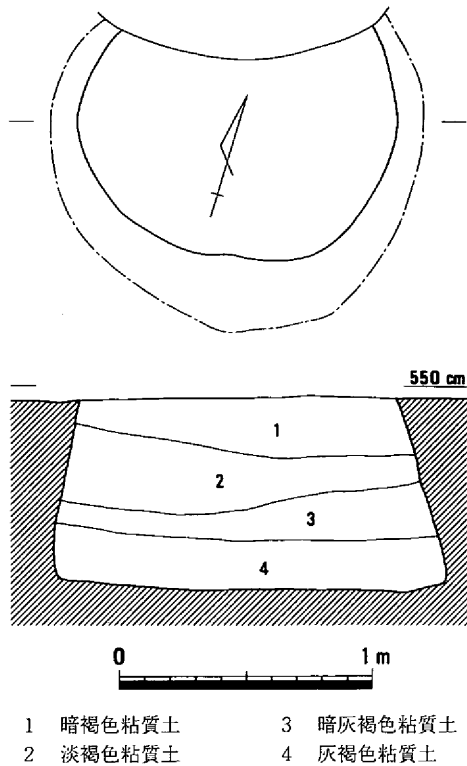
袋状土坑29 (第115・187図)

Cf4 09区にある袋状土坑で、さきの袋状土坑28を切っており、さらに南側は調査区外へと続いて



- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗黄褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 暗褐色灰色砂質土
- 5 炭
- 6 黄褐色砂質土
- 7 暗灰褐色砂質土
- 8 黄褐色砂質土

第187図 袋状土坑29 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 暗褐色粘質土 | 3 暗灰褐色粘質土 |
| 2 淡褐色粘質土 | 4 灰褐色粘質土  |

第188図 袋状土壙30 (1/30)

いる。規模は、上面での直径が152cmで、底面での直径が130cm、深さは53cmを測る。壁面はほぼ垂直かわずかに内傾するように立ち上がる。埋土は7層に分かれるが、このうち1～3層は一度掘り返されたのちに再び堆積したと思われる。

出土遺物には大形甕の破片716や高杯717、製塩土器718がある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。  
(弘田)

**袋状土壙30 (第115・188図)**

Ce 500区に位置する袋状土壙である。開口部の平面形は円形で、直径は126cm測る。底面は平坦な面をなし、その直径147cmが最大径である。壁面はそこから上方に向けて強く内傾して立ち、検出面からの深さは76cmを測る。なお、埋土はほぼ水平に堆積しており、4層に分けられた。

この土壙は、次の袋状土壙31に切られていることと、出土遺物から判断して時期は、弥・後・Iと考えられる。  
(弘田)

**袋状土壙31 (第115・189図)**

Ce 500区に位置する袋状土壙で、平面形が楕円形を呈する。規模は、上面での直径が204cmで、底面での直径が190cm、深さは82cmを測る。底面は平坦な面をなし、そこから壁面は上方にいったん膨らんだのちに強く内傾して立ち上がる。埋土は水平に堆積しており5層に分けられたが、4層が炭層であるほか各層とも炭を含んでいた。

出土遺物には甕719・720、高杯721・722がある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。  
(弘田)

**袋状土壙32 (第115・190図)**

Cf 500区に位置し、袋状土壙33・35によって切られている。規模は、検出面からの深さが40cmを測るほかは不明である。底面は平坦な面をなし、そこから壁面は強く内傾して立ち上がる。埋土は3層に分けられたが、いずれも水平に堆積している。

出土遺物や遺構の切り合い関係からみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。  
(弘田)

**袋状土壙33 (第115・190図)**

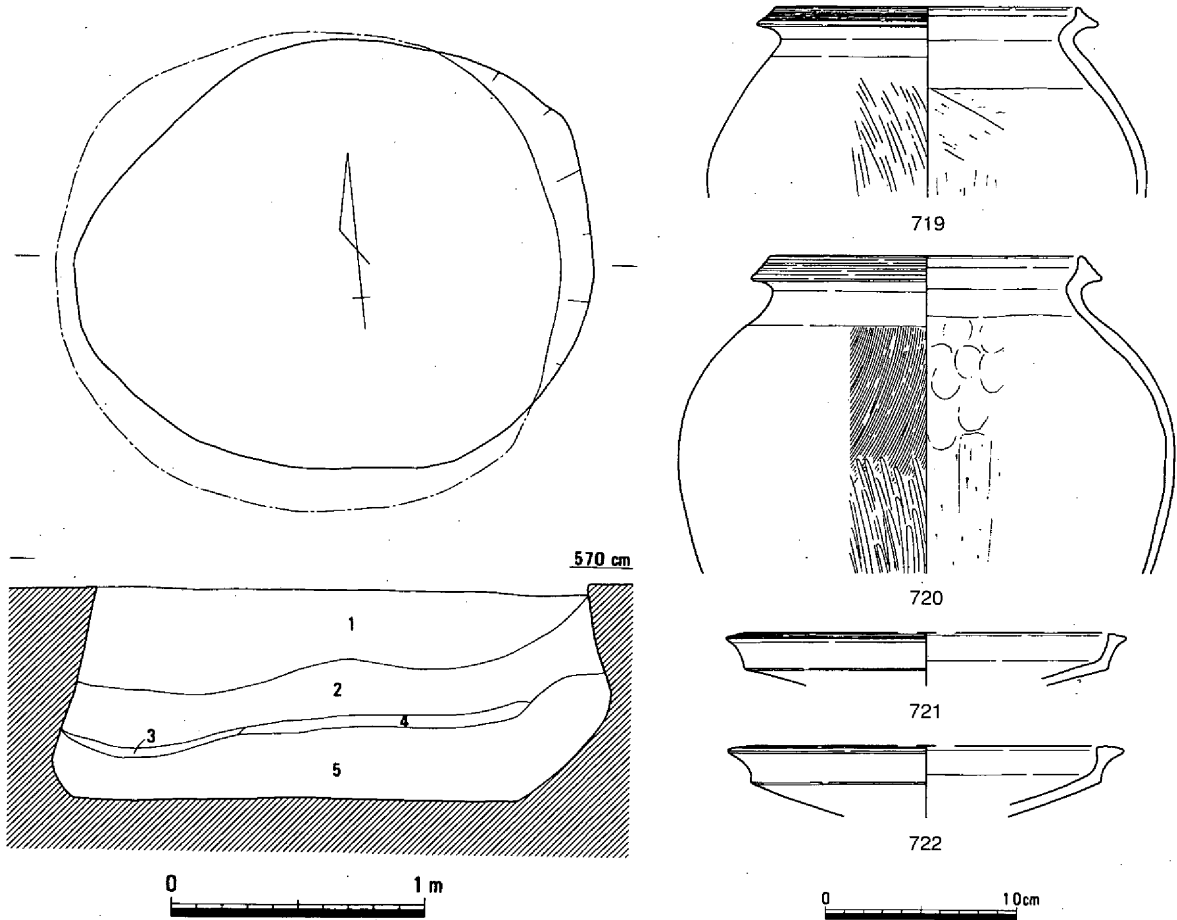
Cf 500区に位置する袋状土壙で、平面形は円形を呈する。残存部での規模は、上面での直径が113cmを測る。底面は平坦な面をなし、直径が132cmである。壁面は強く内傾して立ち、深さは40cmを測る。埋土は水平に堆積しており、3層に分けられた。

この袋状土壙は、袋状土壙32を切っており、かつ袋状土壙34・35に切られている。また、図示するものはないが、出土遺物からみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。  
(弘田)

**袋状土壙34 (第115・191図)**

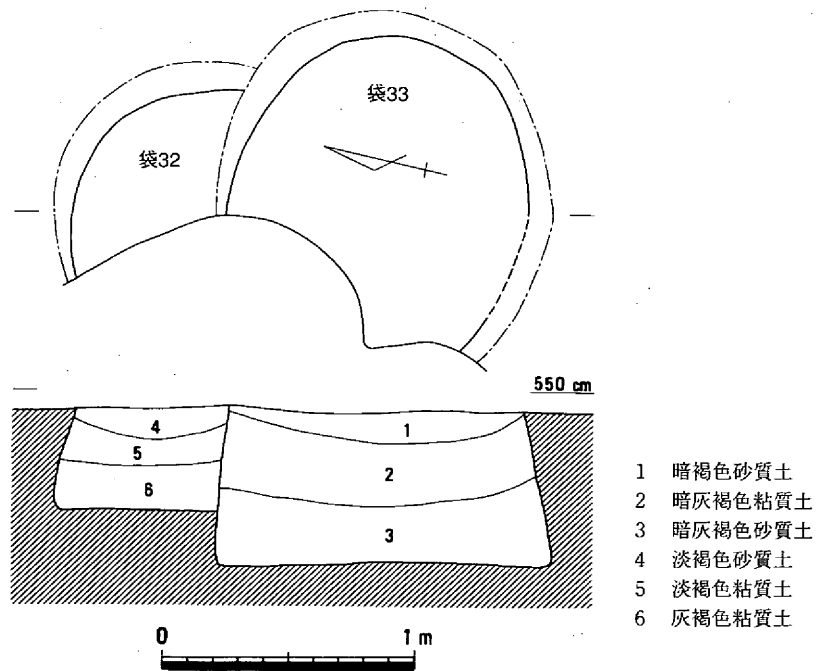
Cf 500区に位置する袋状土壙である。また、同じ袋状土壙の33を切って掘られており、35に切ら





- 1 暗褐色砂質土 (炭含)      3 灰褐色粘質土 (炭多含)      5 暗褐色粘質土 (炭含)  
 2 淡褐色砂質土 (炭含)      4 炭層

第189図 袋状土坑31 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗褐色砂質土  
 2 暗灰褐色粘質土  
 3 暗灰褐色砂質土  
 4 淡褐色砂質土  
 5 淡褐色粘質土  
 6 灰褐色粘質土

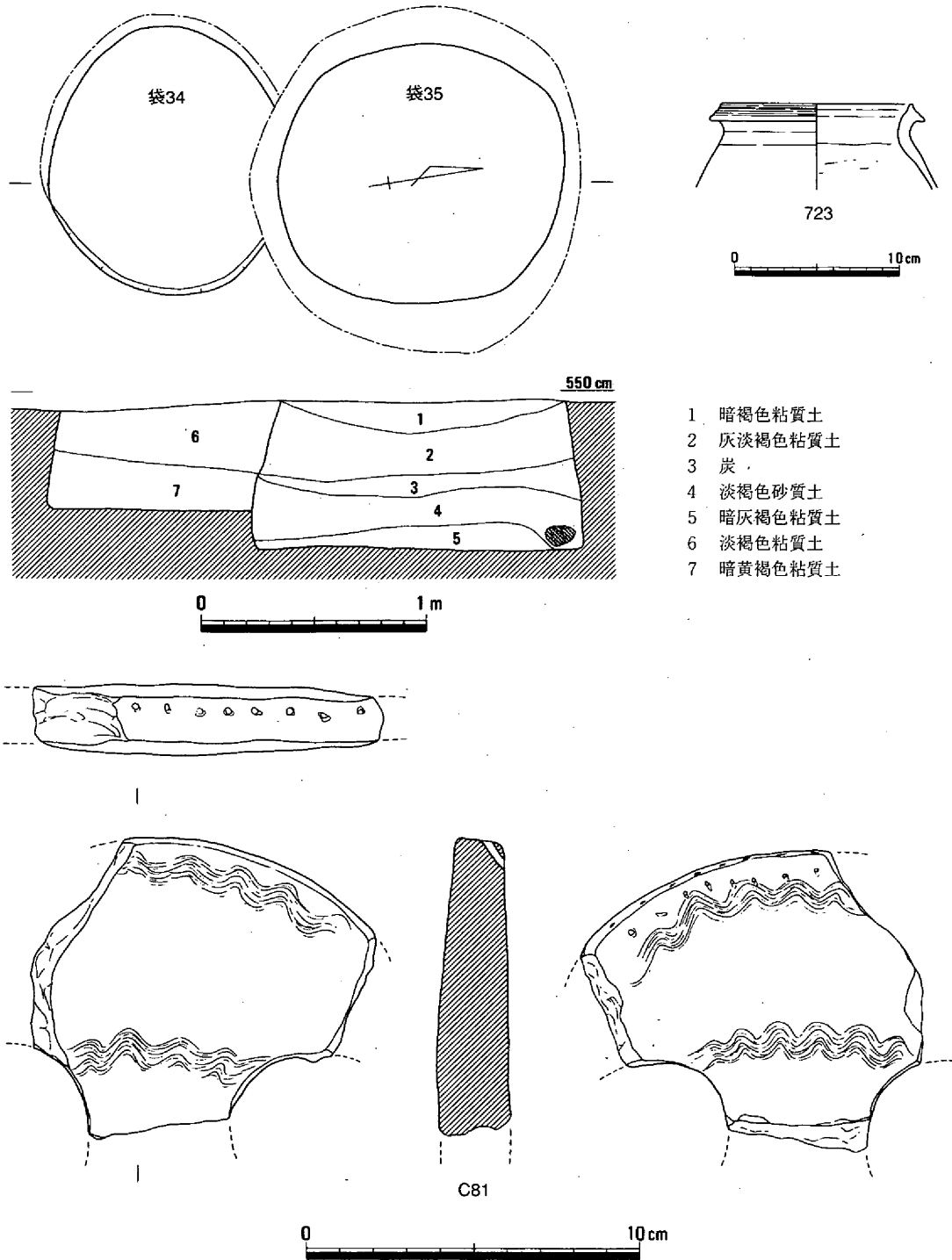
第190図 袋状土坑32・33 (1/30)

れていた。平面形は楕円形を呈し、上面での直径が122cmを測る。底面は平坦で、直径が125cmである。壁面は底面から強く内傾して立ち上がり、検出面からの深さは47cmを測る。なお、埋土は2層に分けられており、水平に堆積していた。

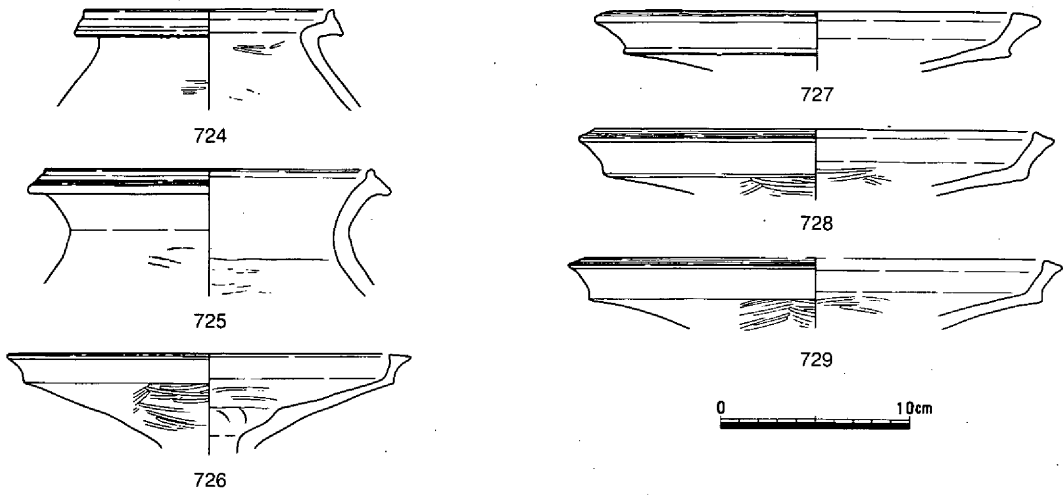
出土遺物には甕の723がある。これからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

袋状土壙35 (第115・191・192図)

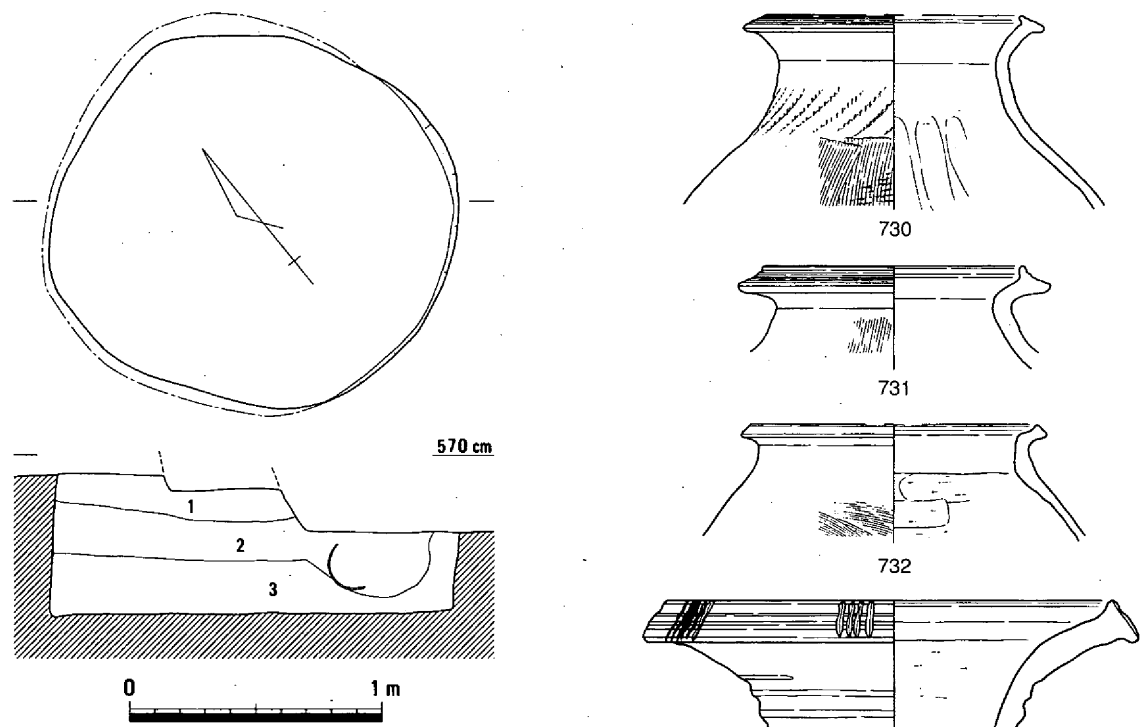
Cf500区に位置する袋状土壙で、袋状土壙32・33・34を切って掘り込まれていた。平面形は円形



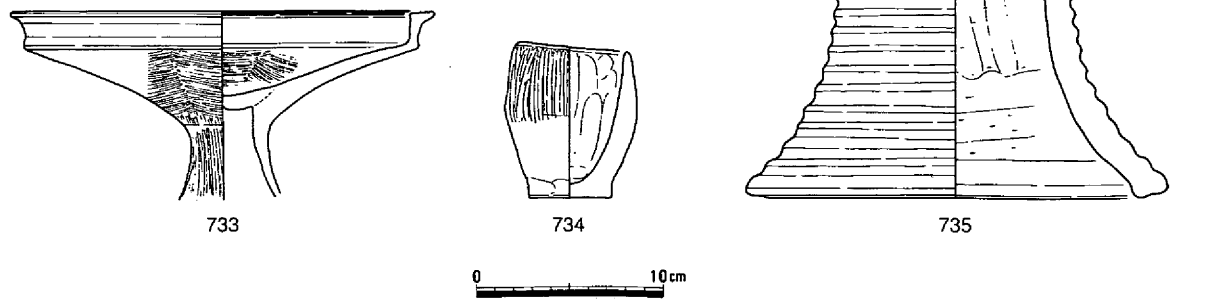
第191図 袋状土壙34・35 (1/30)・出土遺物① (1/4,1/2)



第192図 袋状土壙35出土遺物② (1/4)



- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土



第193図 袋状土壙36 (1/30)・出土遺物 (1/4)

を呈し、上面での直径が126cmである。底面は平坦な面をなし、直径が149cmを測る。壁面は底面から強く内傾して立ち上がり、検出面からの深さは66cmを測る。なお、埋土はほぼ水平に堆積しており5層に分けられたが、ほぼ中位にある3層は厚さ3~18cmの炭層である。また、底面近くの4層中に長径14cm、厚さ9cmの円礫がみられた。

出土遺物のうち分銅形土製品C81は、半分以上が欠損しているが、両面に4条1単位の波状文と8個の穿孔があり、うち1個は未貫通であった。土器には甕の破片724・725、高杯の杯部片726・727・728・729がある。これらからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

**袋状土壌36** (第115・193図、図版92)

Cf409・500区に位置する袋状土壌である。平面形は円形を呈し、上面での直径が159cmを測る。底面は平坦な面をなし、直径が160cmで、そこからほぼ垂直に壁が立ち上がり、検出面からの深さは55cmを測る。埋土は3層に分けられ、うち2層からは土器片が出土している。

出土した土器はいずれも破片であったが、体部にタタキがみられる壺730や甕731・732、高杯733、小形無頸壺734、器台735がある。このうち735は袋状土壌41から出土した破片と接合できた。これらからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

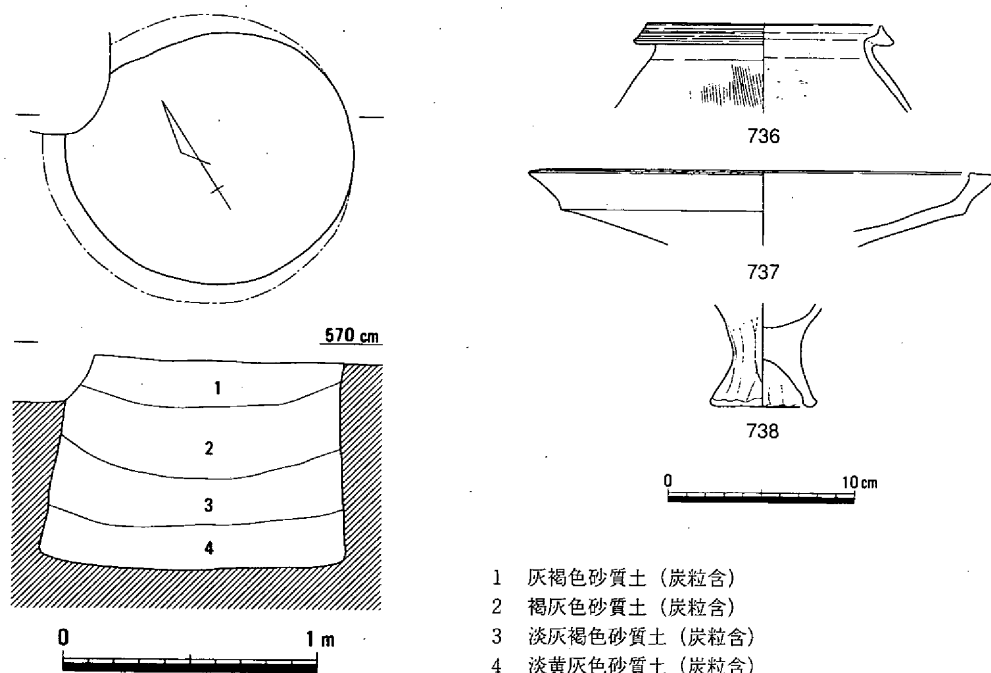
**袋状土壌37** (第115・194図)

調査区の中央部、竪穴住居9の南東約1mに位置する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約80cm残存していた。断面形はほとんど袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は4層に分離でき、すべて水平にちかい堆積状況であった。また埋土中には少量の炭粒を含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。甕736の口唇部には凹線が施されている。高杯737の口唇部は外側に少し拡張されている。738は製塩土器である。時期は弥・後・Iと考えられる。 (平井)

**袋状土壌38** (第115・195図)

Ce501区に位置する。大部分が中世の溝30によって削平されていると思われるが、断面をみると



第194図 袋状土壌37 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状を呈するところがあったことから、袋状土壌として扱った。平面形や直径は不明瞭であるが、深さは52cmを測り、底面は周辺に比べやや中央がくぼんでいた。

出土遺物のうち図示した739は、この土壌に混入した可能性がある。この土壌が掘削された時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

#### 袋状土壌39 (第115・196図)

Ce500区に位置する袋状土壌で、平面形は上面では楕円形を、底面ではほぼ円形を呈する。規模は、上面での直径が128cmで、底面での直径が124cm、深さは検出面から34cmを測る。底面はほぼ平坦な面をなしており、そこからいったん上部に膨らみ最大径となるが、特に東側の膨らみが大きい。なお、埋土は、1層のみであった。

図示できる遺物はないものの、この土壌の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

#### 袋状土壌40 (第115・197図)

Cf500区に位置する袋状土壌で、竪穴住居10の床面下層より検出された。上面の平面形は円形を呈し、直径が127cmを測る。底面は周辺が高く中央がくぼんでおり、その直径は136cmである。そこから壁面は内傾して立ち上がり、検出面からの深さは50cmを測る。

出土した遺物には、高杯杯部の小破片740がある。これからみたこの土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

#### 袋状土壌41 (第115・198図、図版92)

Cf500区に位置する袋状土壌で、竪穴住居10の床面下層において検出されており、さらに南側の約半分は調査区外に続いている。調査範囲内での規模は、上面での直径が160cmで、底面での直径が134cm、検出面からの深さは40cmを測る。平面形は楕円形を呈するとみられ、底面は平坦な面をなし、そこから上面へと壁面が垂直に立ち上がる。

長頸壺741が出土している。これからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

#### 袋状土壌42 (第115・199図)

調査区の中央部、竪穴住居10の北約5mに位置する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約87cm残存していた。断面形はいずれも袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、いずれも水平にちかい堆積状況であった。また、埋土中には炭粒を少量含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。甕742の口唇部には凹線が施され、体部内面はヘラケズリである。時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

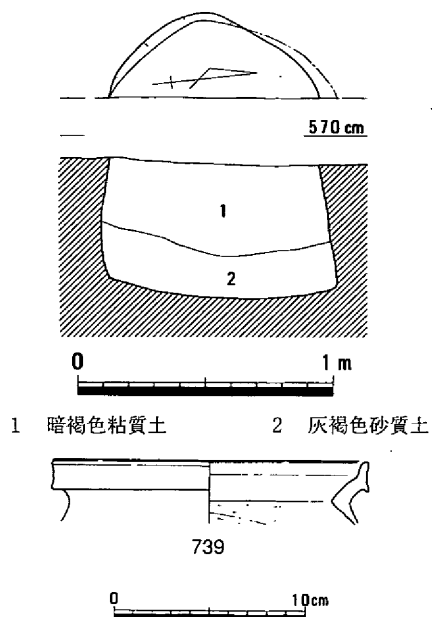
#### 袋状土壌43 (第115・200図、図版92・93)

Cf501区に位置する袋状土壌で、開口部と底面の平面形が歪な楕円形を呈する。規模は、上面での直径が97cm、底面での直径が147cmで、深さは94cmを測る。底面は平坦な面をなし、そこから壁面が内傾して立ち上がるが、土壌の長軸方向にその度合いが強い。埋土は4層に分けられるが、最下層は地山に近い色調の粘質土であった。

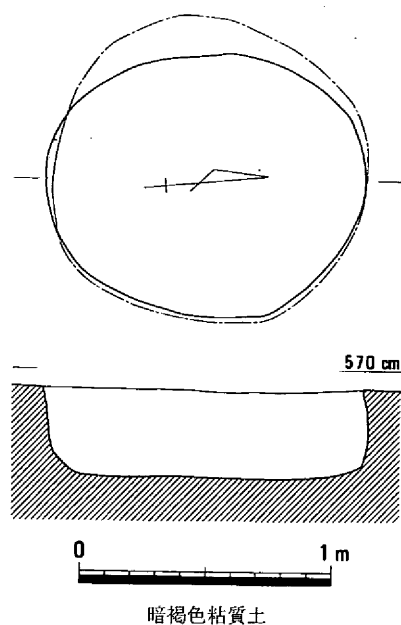
出土遺物のうち図示したのは高杯が2個体で、うち743は脚部がほぼ完形、744は全体の約半分が残存する。これらからみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

#### 袋状土壌44 (第115・201図)

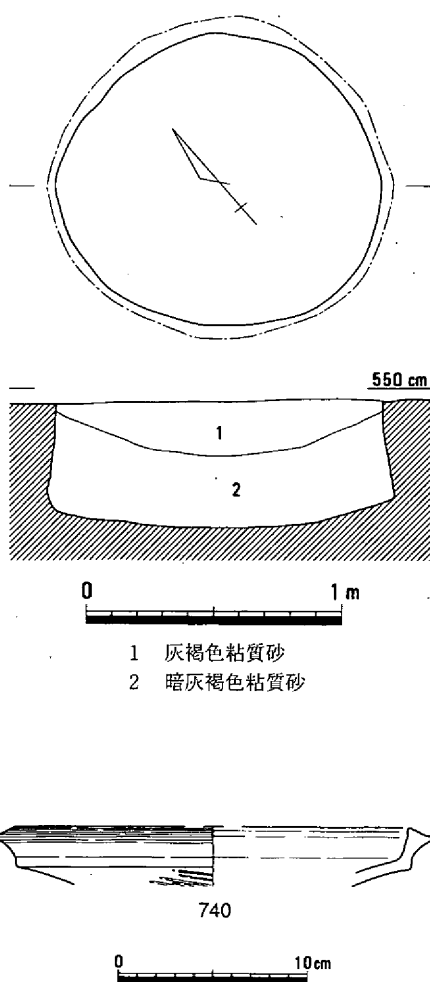
Cf500・501区に位置する袋状土壌で、平面形は不整楕円形を呈する。規模は、上面での直径が140cmで、底面での直径が155cm、深さは94cmを測る。壁面は大部分が垂直に立つが、一部が袋状をな



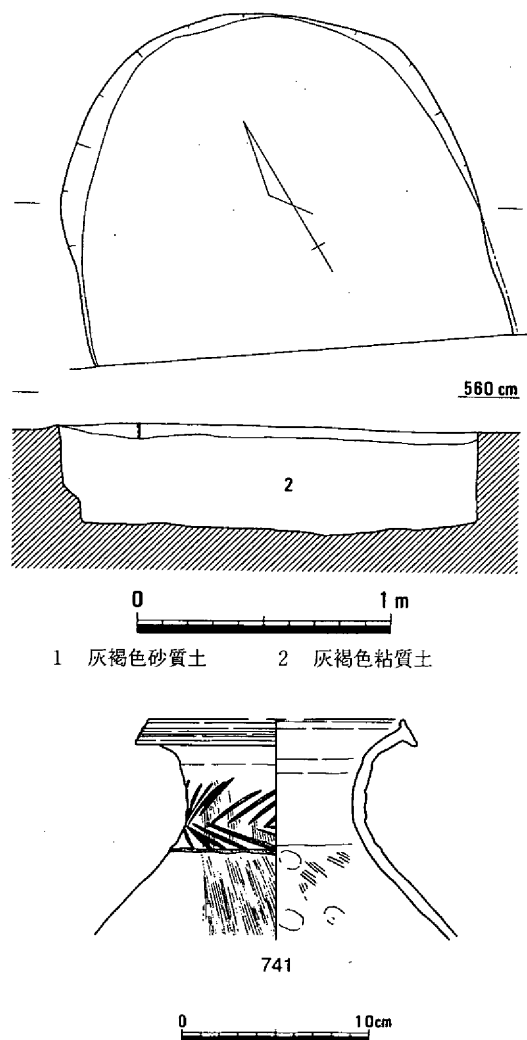
第195図 袋状土壙38 (1/30)・出土遺物 (1/4)



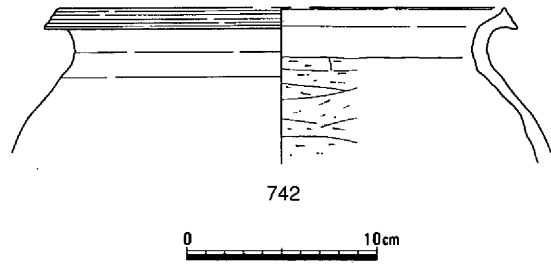
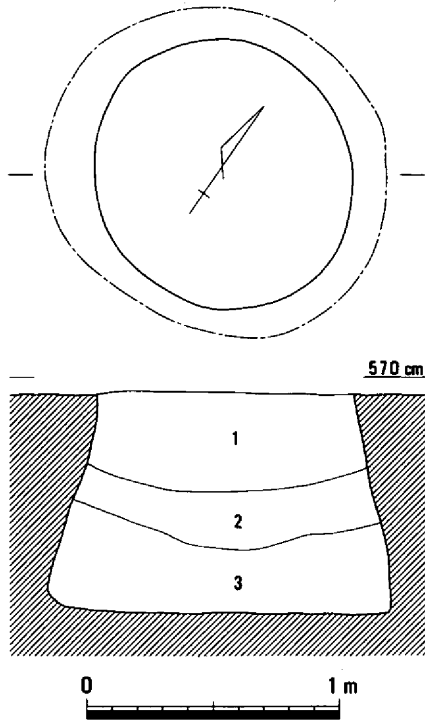
第196図 袋状土壙39 (1/30)



第197図 袋状土壙40 (1/30)・出土遺物 (1/4)

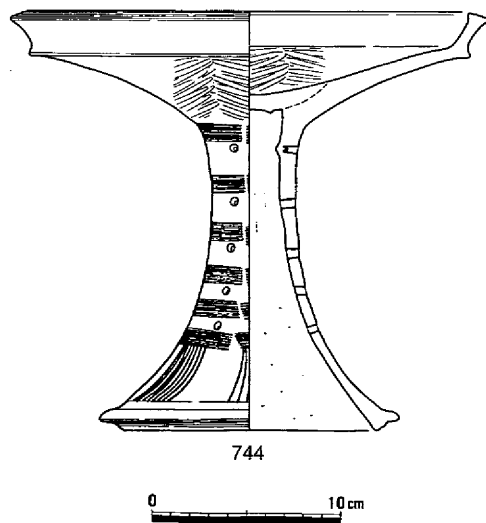
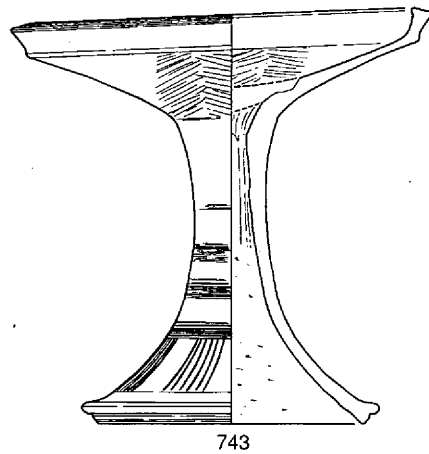
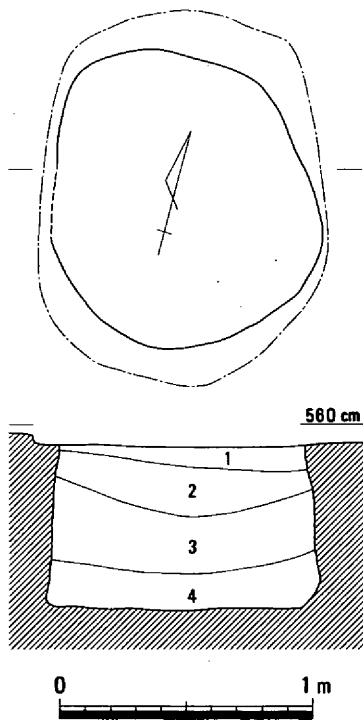


第198図 袋状土壙41 (1/30)・出土遺物 (1/4)



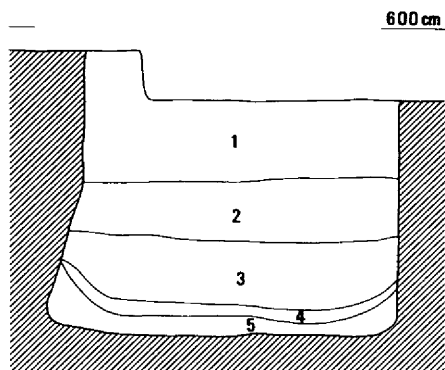
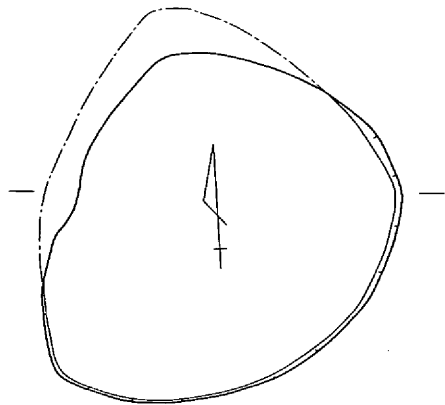
- 1 暗褐色砂質土（炭粒少含）
- 2 灰褐色粘質土（炭粒少含）
- 3 暗黄褐色粘質土

第199図 袋状土坑42（1/30）・出土遺物（1/4）

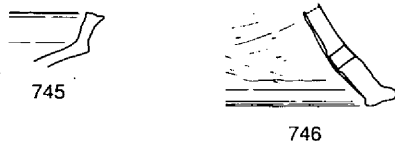


- 1 暗褐色砂質土
- 2 灰褐色粘質土
- 3 暗灰褐色粘質砂
- 4 暗黄褐色粘質土

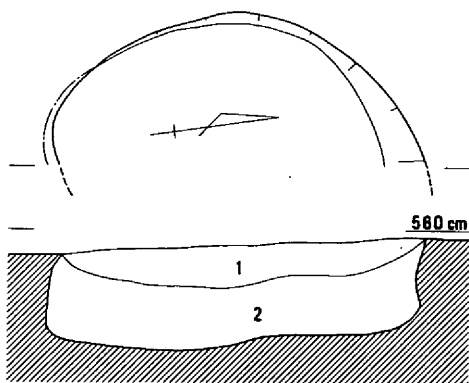
第200図 袋状土坑43（1/30）・出土遺物（1/4）



- 1 暗黄褐色粘質土(炭含)      4 炭
- 2 灰褐色粘質土(炭含)      5 暗黄褐色砂質土
- 3 灰褐色砂質土



第201図 袋状土壇44 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)



- 1 淡黄褐色微砂(炭含)
- 2 暗緑灰色粘質微砂(炭含)

第202図 袋状土壇45 (1/30)

していた。埋土は5層に分けられたが、ほぼ水平に堆積していたが、底面から8cm上の4層は炭層でレンズ状に堆積していた。

出土した遺物はいずれも細片であり、高杯杯部片745、脚部片746がある。これらからみてこの土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

袋状土壇45 (第115・202図)

調査区の中央部、竪穴住居10の北東約3mに位置する。平面形は東約半分が溝30・31によって切られているため不明確ではあるが、120×150cm前後の楕円形を呈していたのではなかろうか。断面形は一部が袋状になっており、底面には凹凸が認められた。埋土は2層に分離でき、少量の炭を含んでいた。

遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

袋状土壇46 (第115・203図)

調査区の中央部、袋状土壇45の南西隣りに位置する。平面形は約120×140cmの楕円形で、深さは約94cm残存していた。断面形は袋状を呈する部分がほとんどであった。

埋土は7層に分離でき、すべての土層に炭を含んでいた。図の4層は炭と灰の土層で、この層を境に上下に分離できる。

遺物は少量の土器片が出土している。壺747の頸部外面にはハケメ、体部内面にはヘラケズリが施されている。高杯748～750の脚部外面にはクシガキ平行沈線紋やヘラガキ沈線紋が確認できる。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

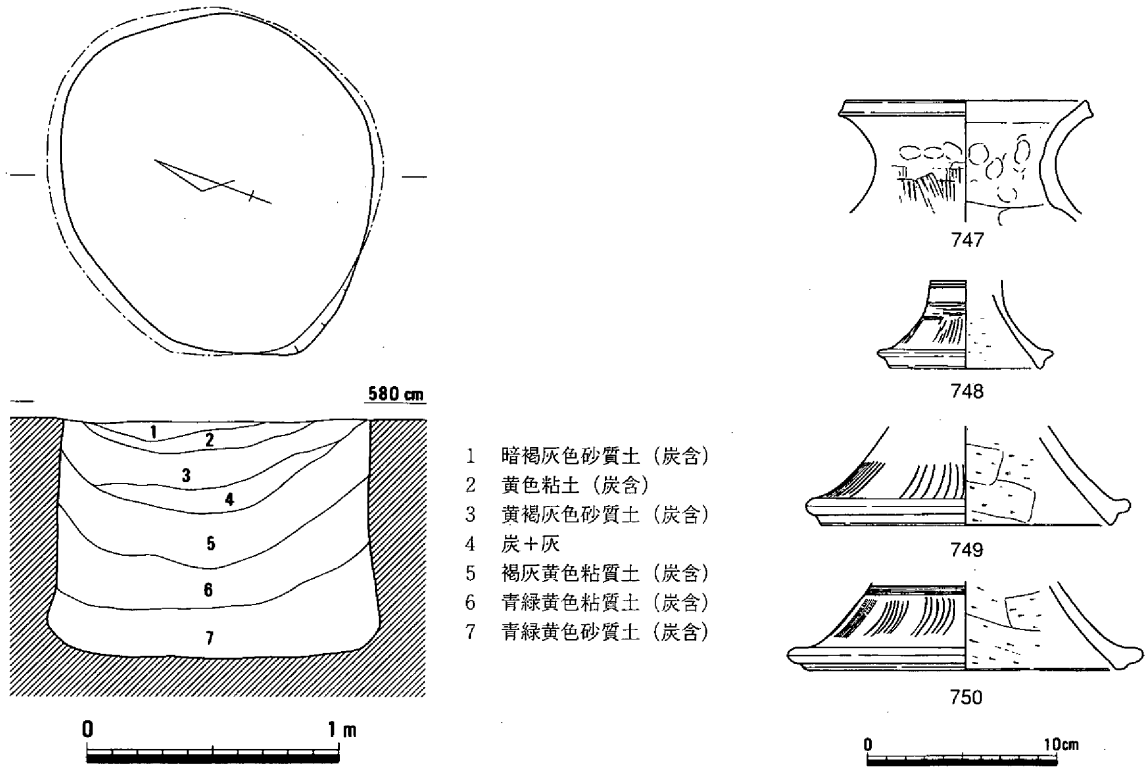
袋状土壇47 (第115・204図、図版92・93)

Cf500区に位置する袋状土壇で、竪穴住居10のすぐ東に接して位置する。平面形は楕円形を呈しており、上面での直径が106cmを測るのに対して、底面は水平な面をなしておりその直径は90cmで、壁面は上方にわずかに開いて立つ。また、深さはわずか19cmを測るのみで、埋土は1層である。

出土した遺物には、完形に近い甕751や口縁部以外がほぼ完形となる器台752や製塩土器の脚部753がある。

この土壇の時期は、弥・後・Iである。(弘田)





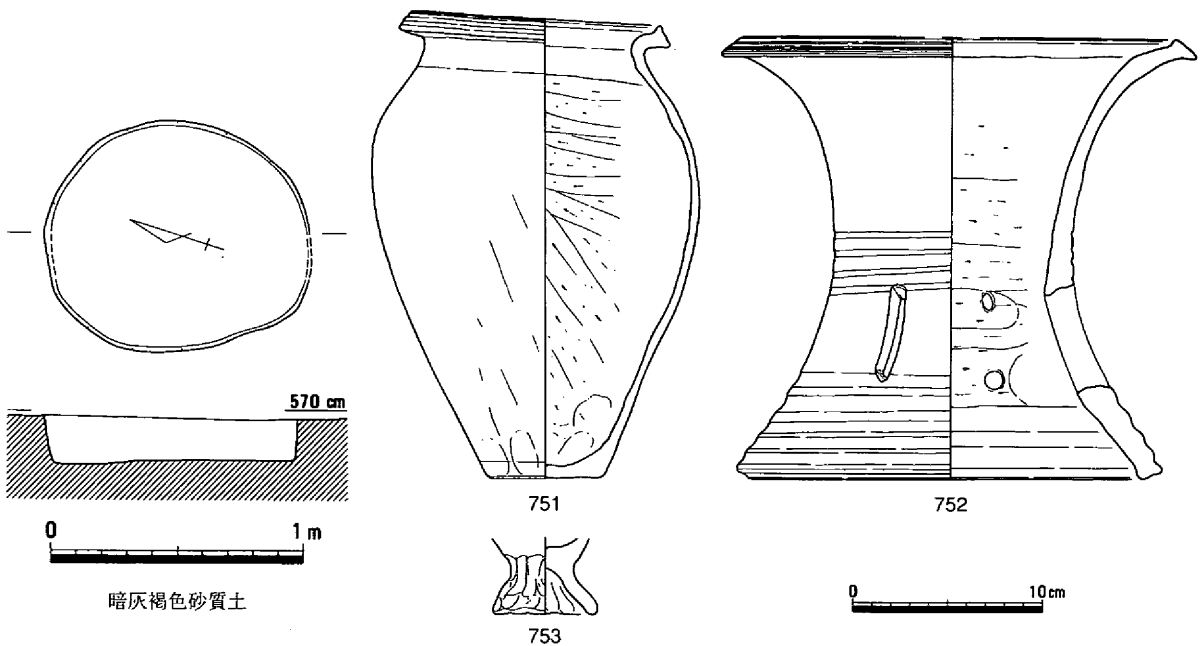
- 1 暗褐色砂質土 (炭含)
- 2 黄色粘土 (炭含)
- 3 黄褐色砂質土 (炭含)
- 4 炭+灰
- 5 褐灰黄色粘質土 (炭含)
- 6 青緑黄色粘質土 (炭含)
- 7 青緑黄色砂質土 (炭含)

第203図 袋状土坑46 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土坑48 (第115・205図)

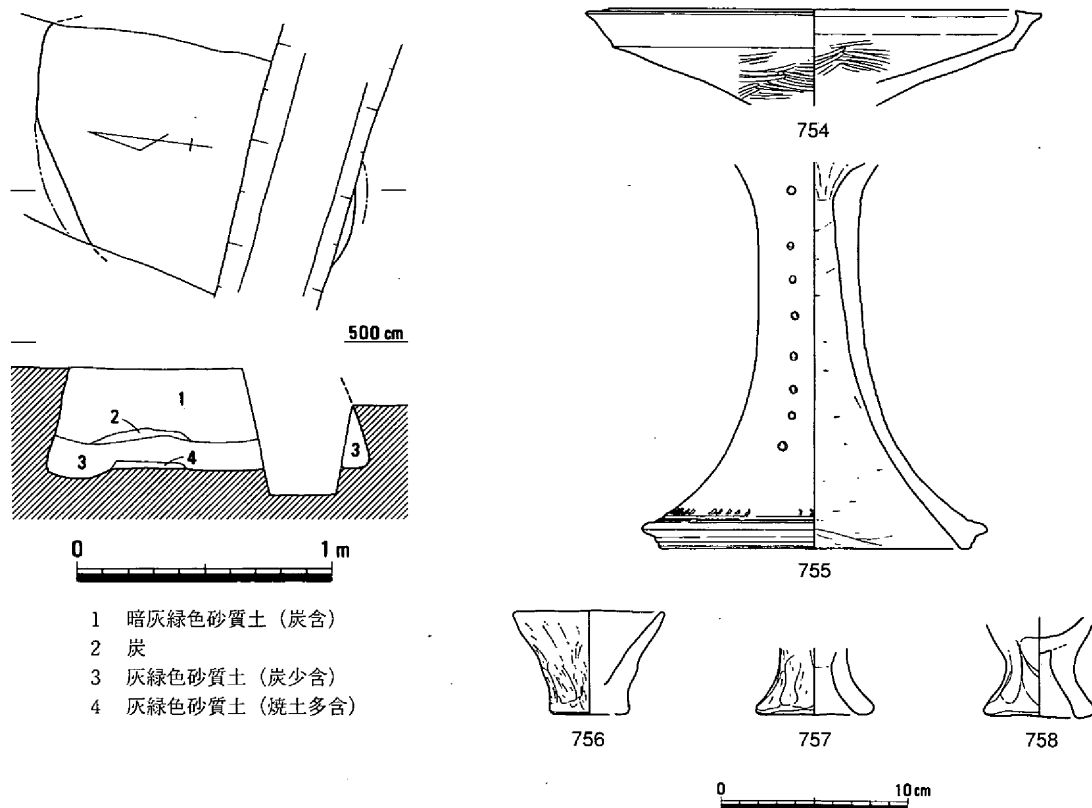
調査区の中央部、竪穴住居10の東約3mに位置する。平面形は溝16・30・31に切られているため不明確である。深さは約40cm残存しており、断面形は袋状を呈していた。埋土は4層に分離でき、底面はほぼ平らで、北の壁際にはくぼみが認められた。

遺物は少量の土器片が出土している。高杯754の口唇部には凹線が施されており、杯部内外面とも



暗灰褐色砂質土

第204図 袋状土坑47 (1/30)・出土遺物 (1/4)



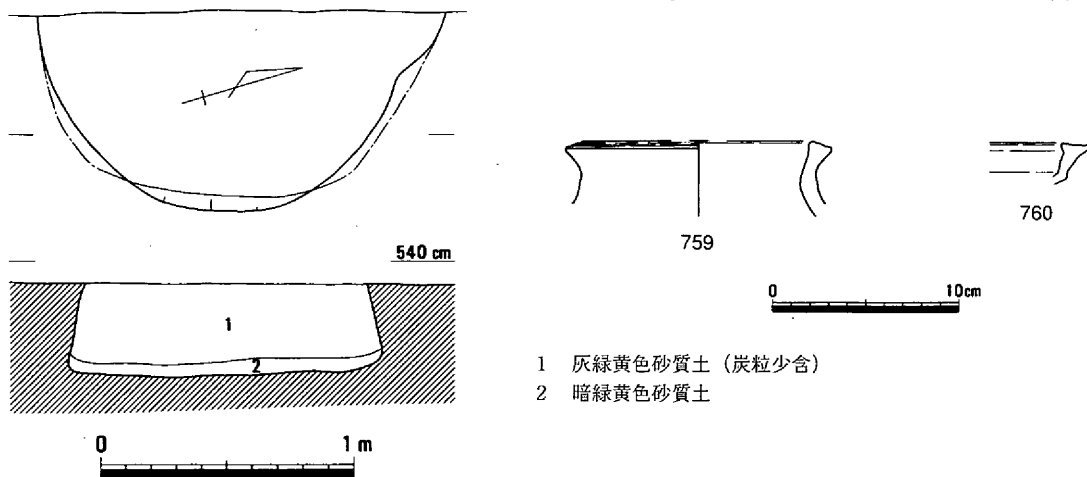
第205図 袋状土壙48 (1/30)・出土遺物 (1/4)

ヘラミガキが観察できる。755の脚裾部外面には円形の刺突紋が数単位施されている。756の体部外面はヘラケズリで、757・758は製塩土器の脚部である。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

袋状土壙49 (第115・206図)

調査区の中央部、袋状土壙48の北東約2mに位置する。平面形は、西側約半分が溝31によって切られているため不明確である。深さは約36cm残存していた。断面形は袋状を呈する部分が多く、底面はほぼ平らであった。埋土は2層に分離でき、炭粒を少量含んでいる。

遺物は土器片が少量出土しており、壺759と高杯760の口唇部には凹線が施されている。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)



第206図 袋状土壙49 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙50 (第115・207図)

Cf501区に位置する袋状土壙で、同じく袋状土壙51に切られているほか、中世の溝によって土壙の上部および西側が削平されていた。平面形は円形を呈するとみられ、残存部での規模は、上面での直径が108cm、底面での直径が112cmで、深さは34cmを測る。埋土は1層であったが、中には若干の土器片と炭を含んでいた。

出土遺物からみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

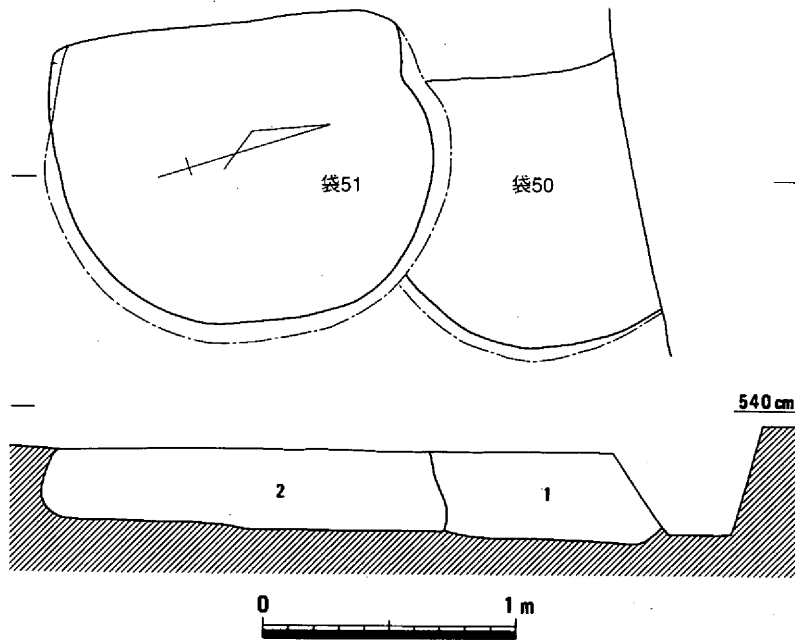
袋状土壙51 (第115・207図、図版90)

Cg501区にあり、さきの袋状土壙50を切ってすぐ南に位置する。袋状土壙50と同様に中世の溝によって削平を受けているが、規模は、上面での直径が146cmに対し、平坦な面をなす底部での直径が126cmであり、断面をみると強く内傾して立ち上がる。また、深さは31cmを測る。

図示した出土遺物は土壙50からの出土したものも含まれるが、これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (弘田)

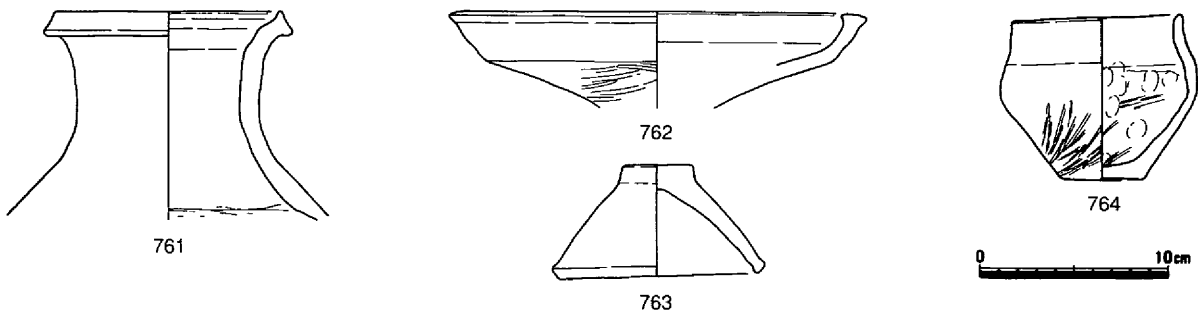
袋状土壙52 (第115・208図)

調査区の中央部、竪穴住居10の南東約7mに位置する。平面形は竪穴住居38や側溝によって切られ



1 暗褐灰色粘質微砂 (炭含)

2 炭黄褐灰色粘質微砂 (炭含)



第207図 袋状土壙50・51 (1/30)・出土遺物 (1/4)

ているため不明確ではあるが、約130×150cmの楕円形になると考えられる。深さは約55cm残存しており、埋土は2層に分離できた。断面形は部分的にはあるが、袋状を呈していた。

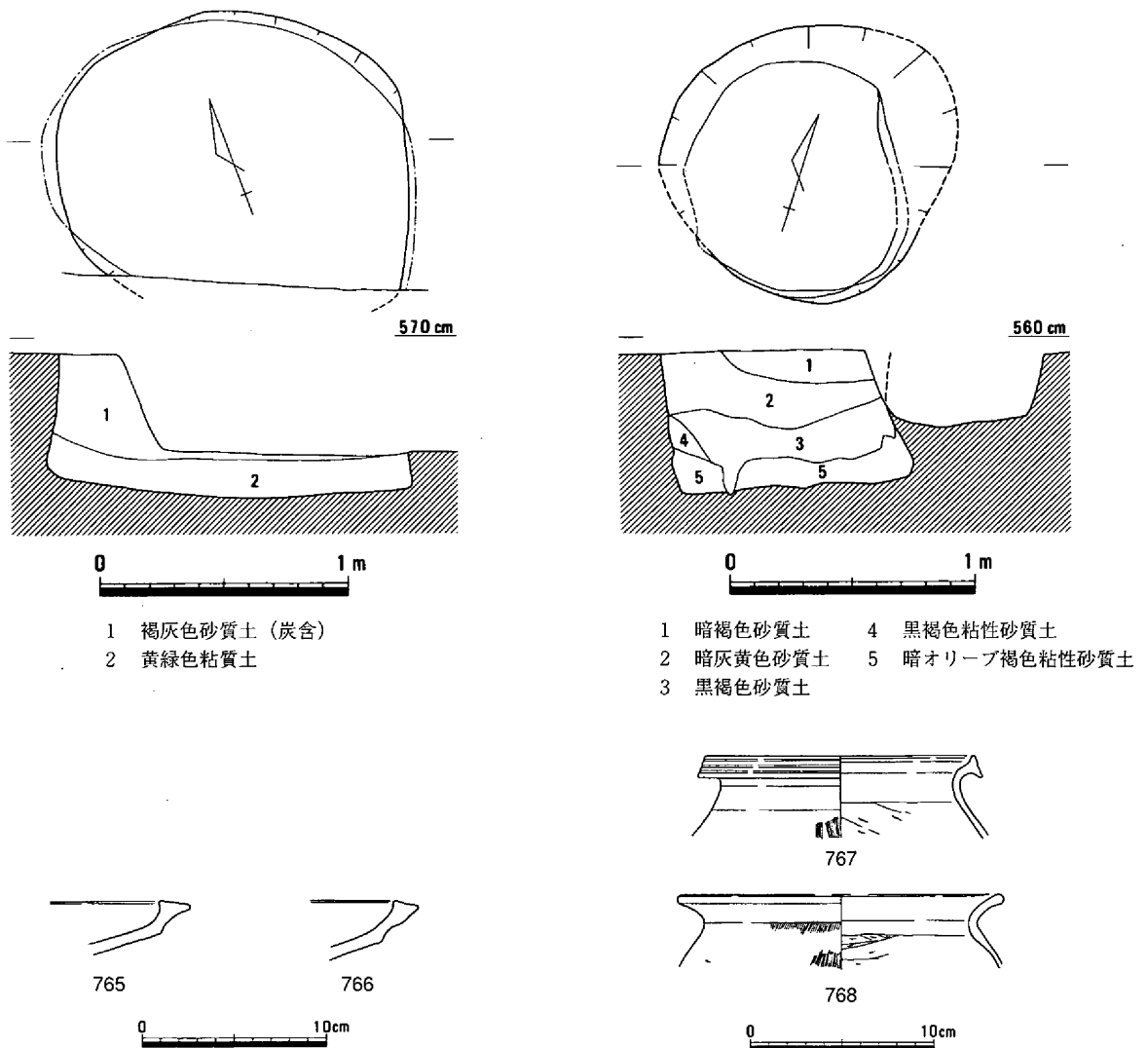
遺物は少量の土器片が出土している。高杯765の口唇部には凹線が施されている。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

**袋状土壙53 (第115・209図)**

調査区の中央付近、Cd501区で検出された。土壙60によって一部破壊されていた。底面は平坦で、その平面形は楕円形を呈し、長径が94cm、短径は84cmを測った。検出面での平面形は卵形に近く、長径が122cm、短径は111cmで、底面はその南側に片寄っていた。土壙の深さは59cmであった。壁の傾斜は左右対称ではなく、東壁の底がフラスコ状に抉れているのに対し、西壁は底面となす角度が鈍角になっていた。埋土はレンズ状に堆積し、第3層と第4層は類似し、第5層は基盤層に似るものの、土器片や炭粒が包含されていた。弥・後・Iの末からIIの初めの年代が与えられる。(岡本)

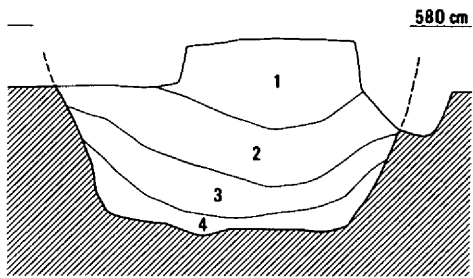
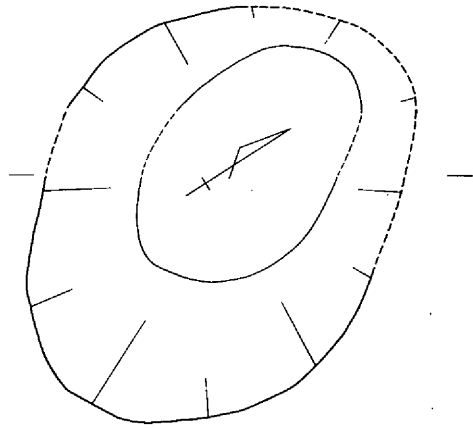
**袋状土壙54 (第115・210・211図)**

Ce501区で検出された。袋状土壙54から南に1m離れていた。検出面での平面形は楕円形で、長

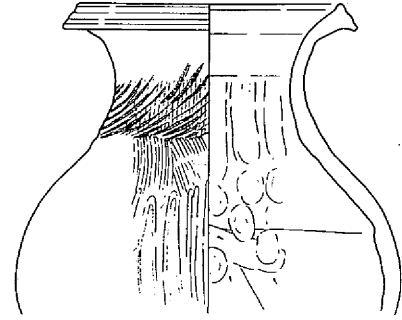


第208図 袋状土壙52 (1/30)・出土遺物 (1/4)

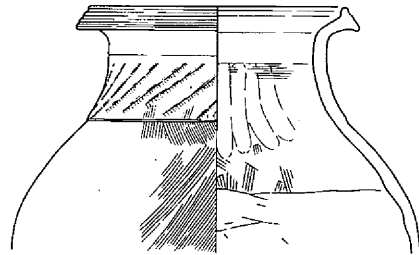
第209図 袋状土壙53 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗褐色砂質土
- 2 黒褐色砂質土
- 3 暗オリーブ褐色砂質土 (炭含)  
(土器多含)
- 4 暗オリーブ褐色砂質土



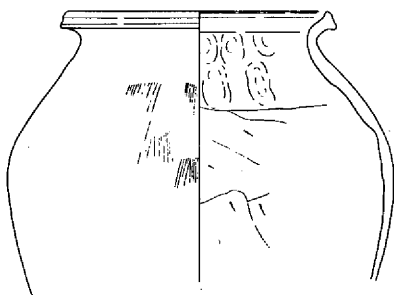
769



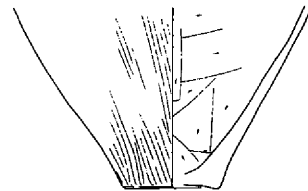
770



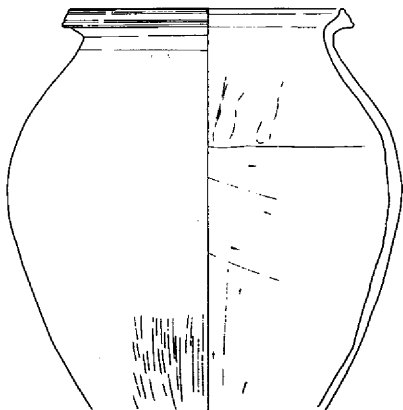
771



772



774



773



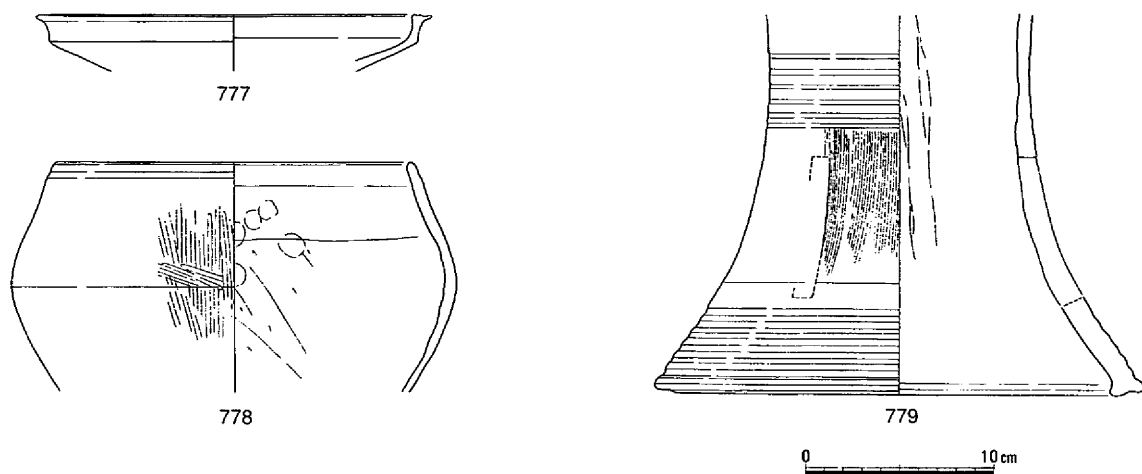
775



776



第210図 袋状土壙54 (1/30)・出土遺物① (1/4)



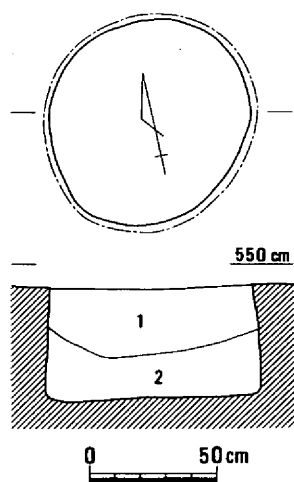
第211図 袋状土壙54出土遺物② (1/4)

径が推定で186cm、短径は135cmを測った。底面はその平面形の北側に片寄り、長径が109cmであった。土壙の断面形はフラスコ状にならず、壁は底面と鈍角をなしていたが、底面は平坦で、埋土もレンズ状の堆積を示し、袋状土壙の一つと判断した。土壙の深さは79cmであった。埋土のうち、第3層と第4層は類似し、第1層には多量の土器片が含まれていた。769・770の壺の頸部にはハケ状工具による連続刺突文が巡らされる。壺と甕の口縁端部は拡張されて端面に凹線を施し、胴部内面のヘラケズリは頸部まで達しないものが多い。出土遺物から土壙の年代は弥・後・Iとみられる。 (岡本)

袋状土壙55 (第117・212図)

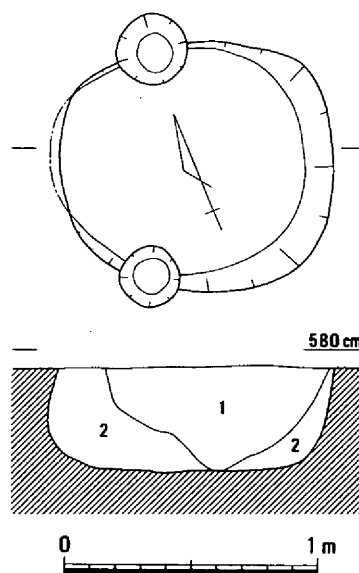
調査区の東半部、竪穴住居13の南西約3mに位置する。平面形は約76×84cmの楕円形で、深さは約44cm残存していた。断面形はいずれも袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は2層に分離でき、少量の炭を含んでいる。

遺物は少量の土器片が出土したのみであるが、時期は弥・後・Iと考えている。 (平井)



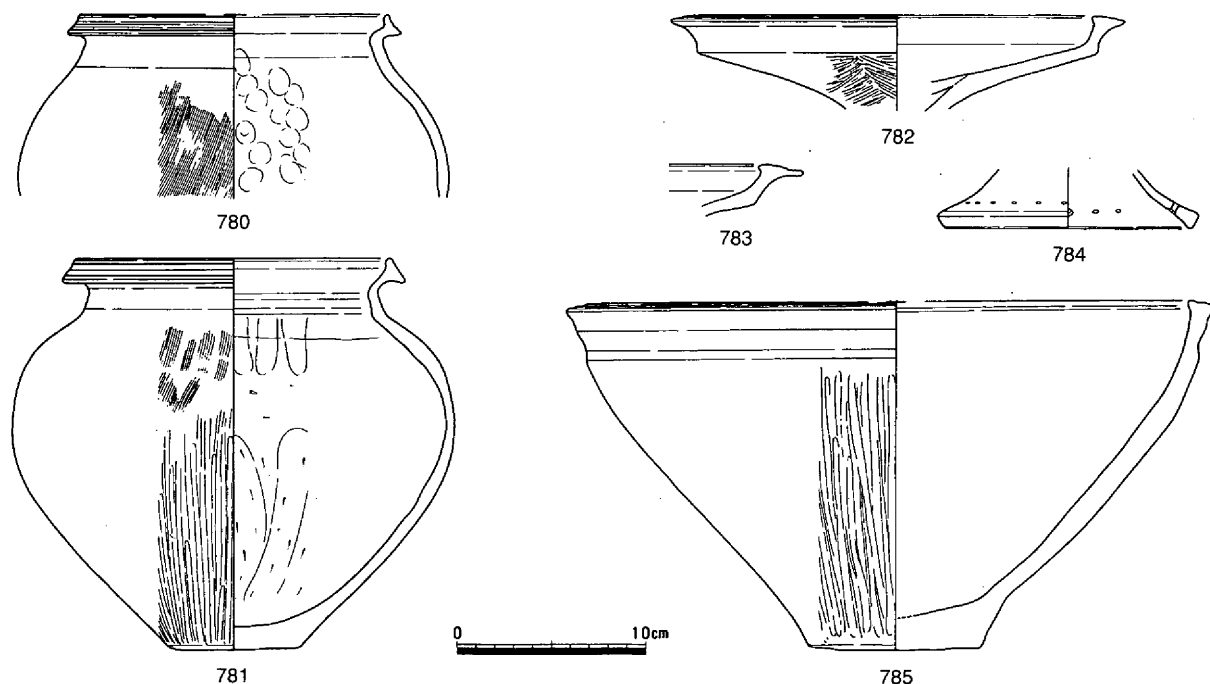
- 1 淡灰褐色細砂 (炭含)
- 2 暗緑色砂質土 (炭少含)

第212図 袋状土壙55 (1/30)



- 1 暗灰褐色粘質土 (炭粒含)
- 2 黄灰褐色砂質土

第213図 袋状土壙56 (1/30)



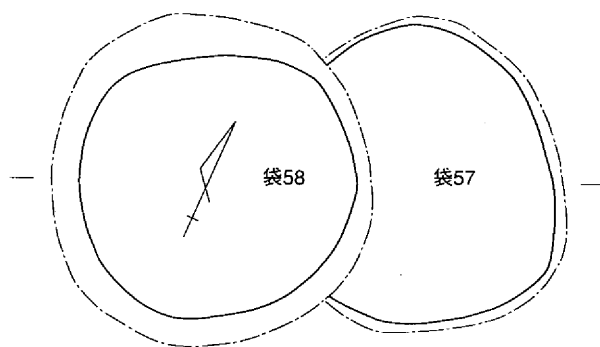
第214図 袋状土壙56出土遺物 (1/4)

袋状土壙56 (第117・213・214図)

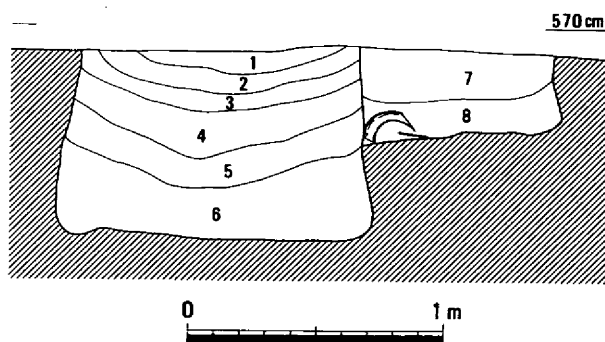
調査区の東半部、袋状土壙55の南西約2mに位置する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約40cm残存していた。断面形は一部分袋状を呈しており、他の袋状土壙に比べて丸みを持っているのが特徴である。埋土は2層に分離でき、炭粒を少量含んでいた。

遺物は少量の土器片が出土している。

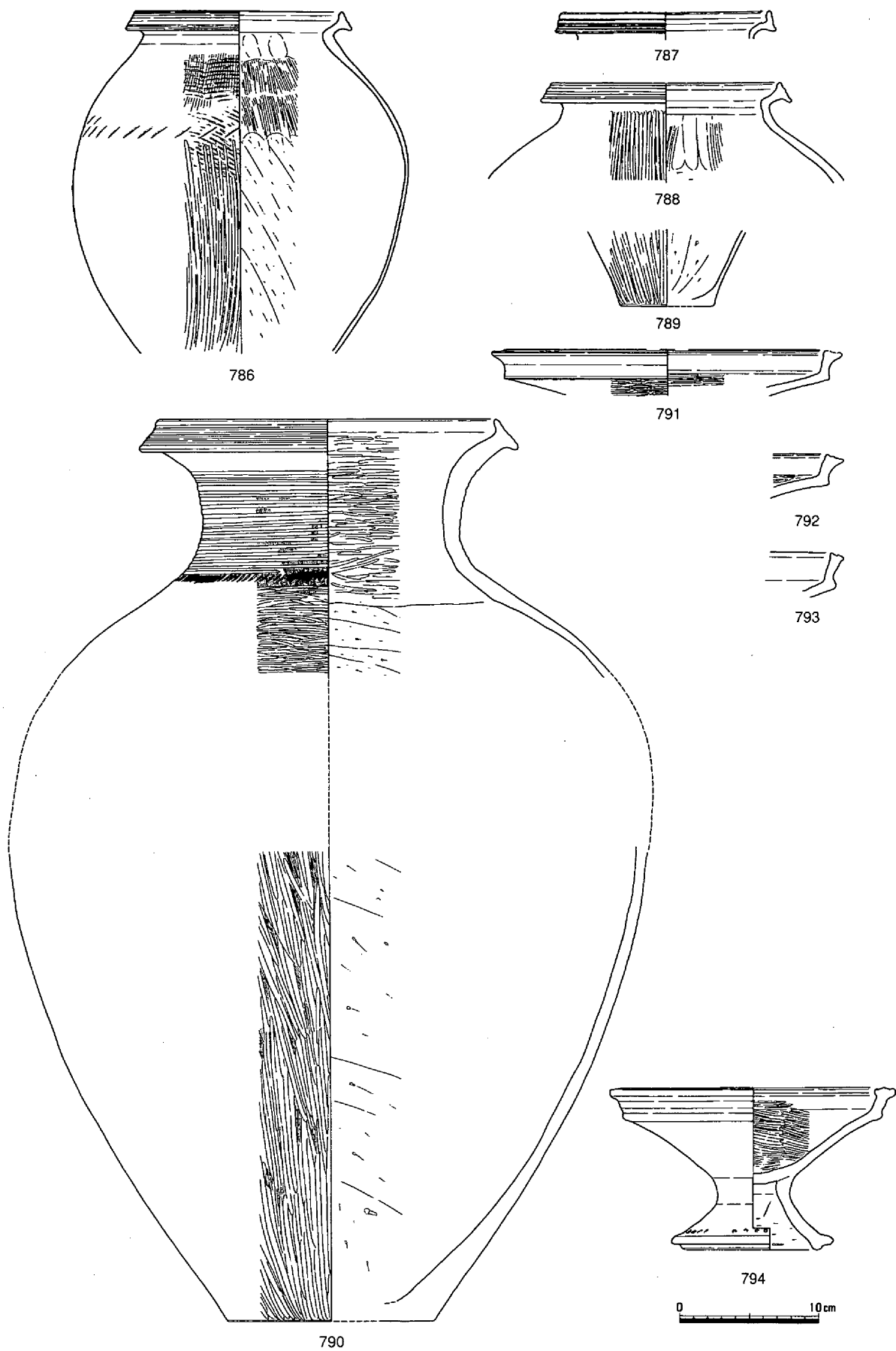
甕780・781の口唇部には凹線が施されており、781の体部内面下半にはヘラケズリが行われている。高杯782・783の口唇部には凹線、784の脚裾部には円形の孔が穿たれている。鉢785の口唇部にも凹線が施されている。時期は弥・後・Iであろう。(平井)



- 1 淡灰黄色微砂 (炭含)
- 2 暗黄褐色微砂
- 3 灰黄褐色微砂
- 4 淡褐灰黄色粘質微砂 (炭含)
- 5 暗黄灰色粘質微砂 (焼土・炭含)
- 6 暗灰褐色粘質土
- 7 暗黄褐色粘質微砂 (焼土・炭含)
- 8 灰黄褐色粘質細砂



第215図 袋状土壙57・58 (1/30)



第216図 袋状土壙57・58出土遺物 (1/4)



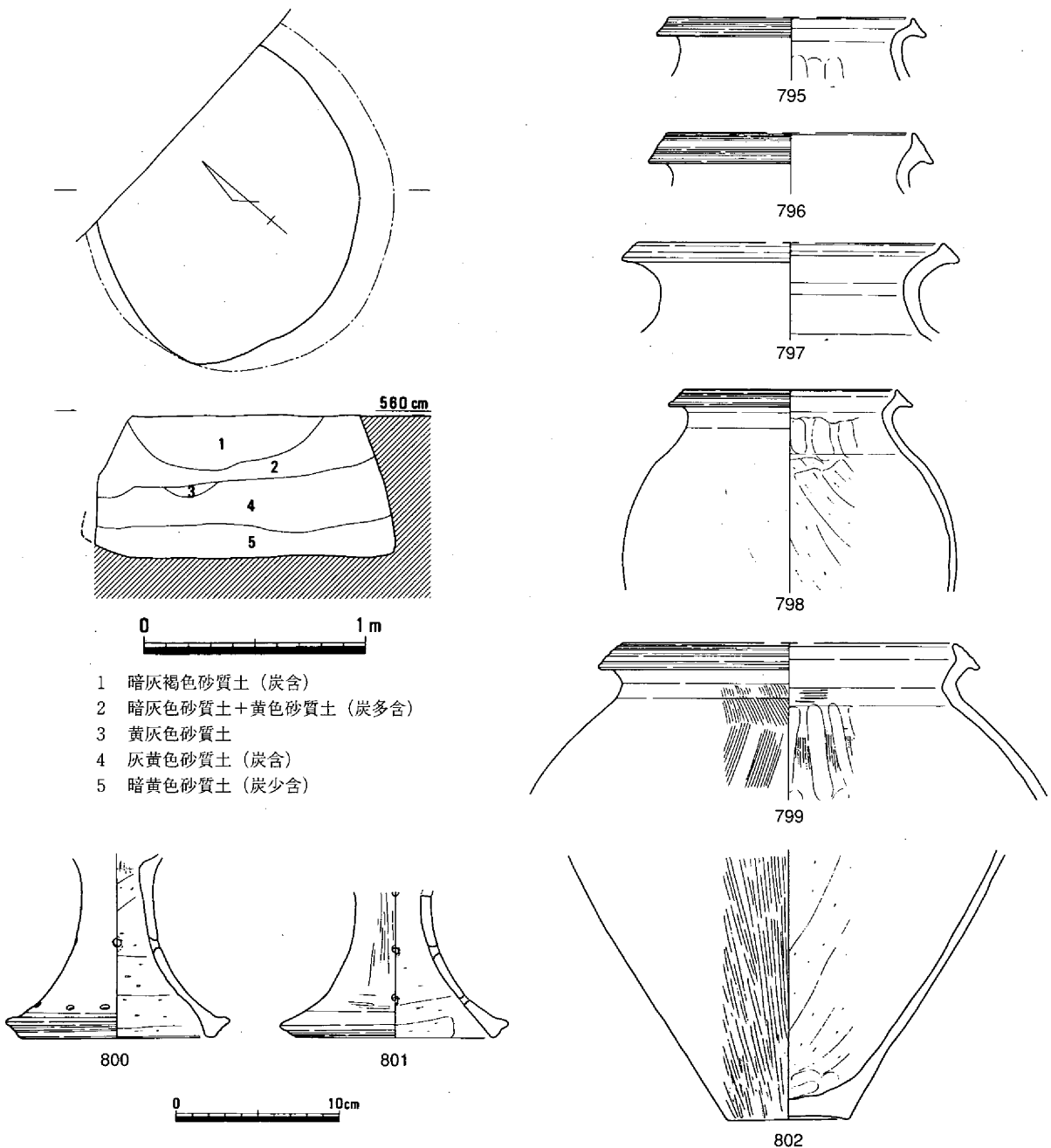
袋状土壙57 (第117・215・216図)

調査区の東半部、袋状土壙56の南約3mに位置する。平面形は西側が袋状土壙58によって切られているため不明確ではあるが、100×120cm前後の楕円形であったと考えられる。深さは約35cm残存していた。断面形は袋状を呈し、底面には凹凸が認められた。埋土は2層に分離でき、焼土や炭を少量含んでいた。

遺物は、壺790、甕786~789、高杯791~793などがまとまって出土している。786の体部上半にはタキ痕跡が観察できた。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

袋状土壙58 (第117・215・216図、図版93)

調査区の東半部において袋状土壙57を切るかたちで検出できた。平面形は約100×110cmの楕円形で、



第217図 袋状土壙59 (1/30)・出土遺物 (1/4)

深さは約75cm残存していた。断面形はいずれも袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。埋土は6層に分離でき、焼土や炭を少量含んでいた。

遺物は土器片が少量出土したのみである。高杯794の口唇部には凹線が施され、脚裾部には4個一単位の円形刺突紋が確認できる。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

**袋状土壙59** (第117・217図)

調査区の東半部、袋状土壙58の南西約2mに位置する。平面形は北端部がトレンチによって切られ、西端部は溝31によって一部分切られているため不明確ではあるが、約120×150cmの楕円形を呈していたものと考えられる。深さは約65cm残存していた。断面形は袋状を呈し、底面はほぼ平らであった。埋土は5層に分離でき、少量の炭を含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。壺795~797、甕798・799の口唇部には凹線が施されており、甕の体部内面のヘラケズリは頸部まで及んでいない。高杯800・801の脚部には円形の透かし孔が穿たれている。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

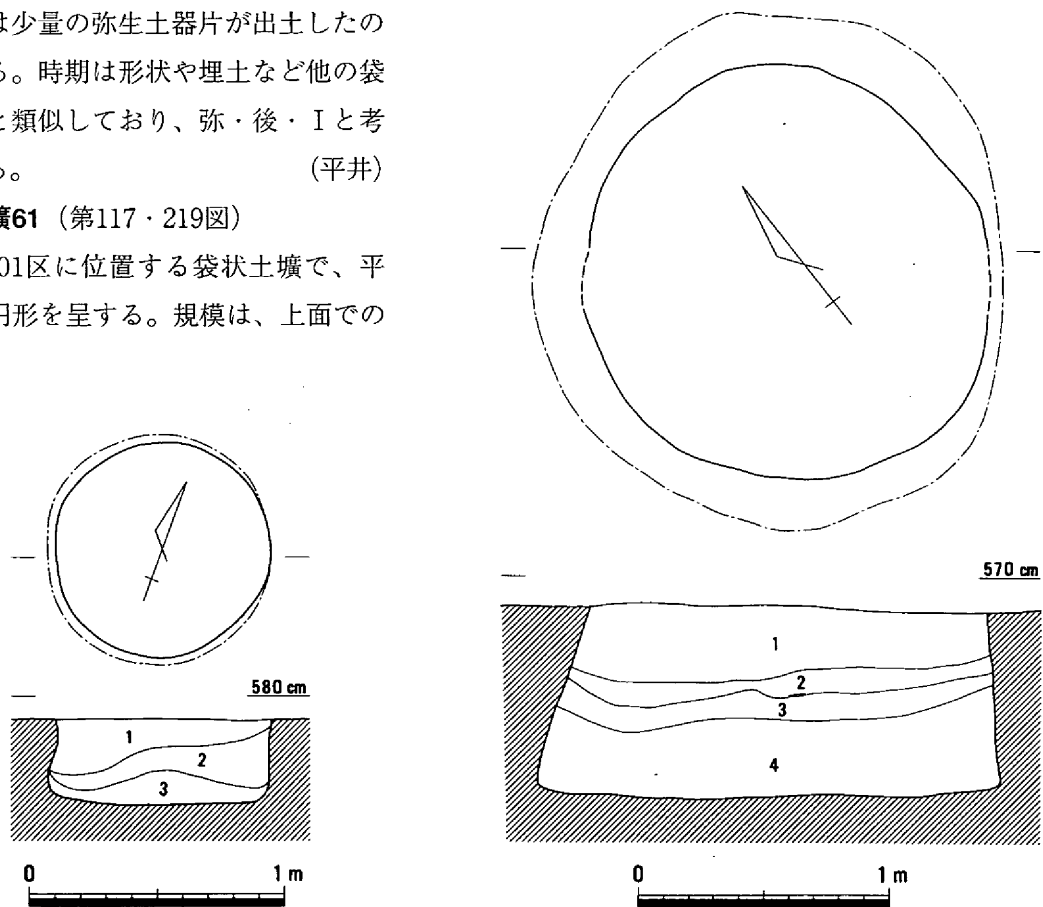
**袋状土壙60** (第117・218図)

調査区の東半部、袋状土壙59の北東約2mに位置する。平面形は直径約80cmの円形で、深さは約34cm残存していた。断面形は大部分が袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、炭や焼土を含んでいた。

遺物は少量の弥生土器片が出土したのみである。時期は形状や埋土など他の袋状土壙と類似しており、弥・後・Iと考えている。(平井)

**袋状土壙61** (第117・219図)

Cf501区に位置する袋状土壙で、平面形は円形を呈する。規模は、上面での



- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土 (炭多含)
- 3 黄色砂質土
- 4 (炭, 焼土少含)

- 1 暗褐色砂質土
- 2 暗灰褐色粘質土 (炭含)
- 3 暗灰褐色砂質土 (炭含)
- 4 灰褐色砂質土

第218図 袋状土壙60 (1/30)

第219図 袋状土壙61 (1/30)

直径が169cmに対して、底面での直径が280cmで、平坦な面をなす。壁面は強く内傾して立ち上がり、検出面からの深さは76cmを測る。埋土は4層に分けられ、そのうち2・3層では炭とともに土器片が出土している。

出土遺物からみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

**袋状土壌62** (第117・220図)

調査区の東半部、袋状土壌61の南西約1mに位置する。平面形は直径約120cmの不整形円で、深さは約70cm残存していた。断面形はいずれも袋状で、底面には窪みが認められた。埋土は4層に分離でき、炭粒を含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。壺803の口唇部には凹線が施され、外面はハケメ、体部内面はヘラケズリである。805~808は製塩土器の脚部で、外面はケズリ調整である。

これらの土器の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (平井)

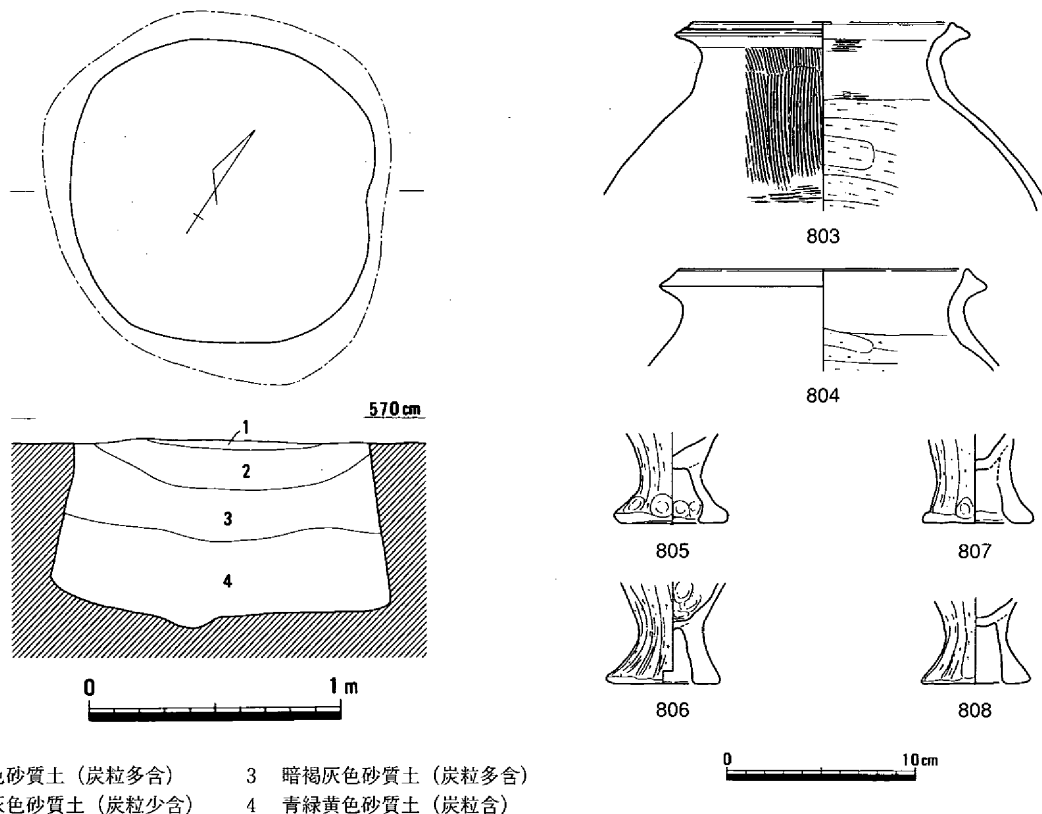
**袋状土壌63** (第117・221図)

Cf501区に位置し、後述する袋状土壌64に切られていた。規模は、上面での直径が176cmで、底面での直径が175cmを測る。検出面からの深さは32cmと浅く、断面が袋状を呈さないが、位置や規模、遺物の時期などからみて袋状土壌として扱った。

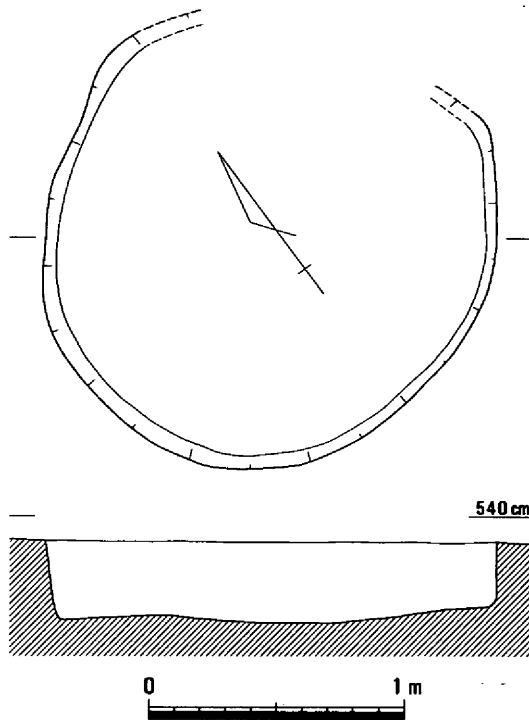
この土壌の時期は、弥・後・Iと考えられる。 (弘田)

**袋状土壌64** (第117・222・223図、図版93)

Cf501区に位置する袋状土壌で、開口部と底面の平面形は、不整形楕円形を呈する。規模は、上面

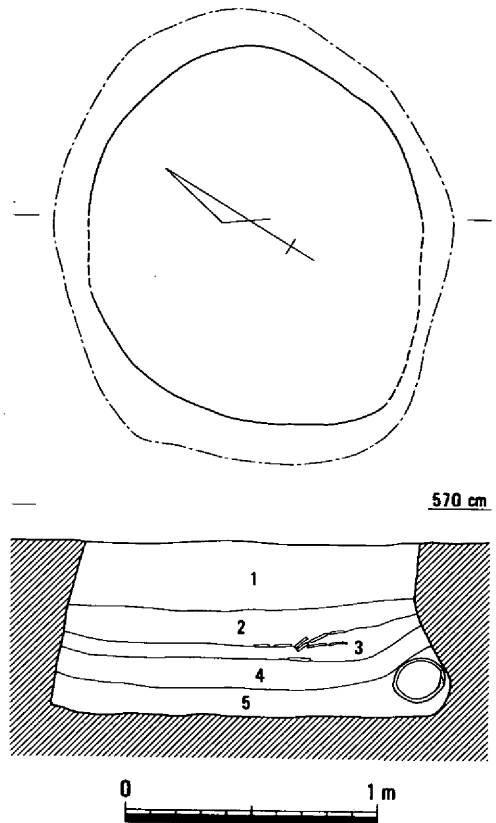


第220図 袋状土壌62 (1/30)・出土遺物 (1/4)



灰緑褐色粘質微砂

第221図 袋状土壙63 (1/30)



- |                |          |
|----------------|----------|
| 1 灰褐色砂質土       | 4 暗褐色砂質土 |
| 2 淡褐色砂質土       | 5 灰褐色粘質土 |
| 3 暗灰褐色粘質土 (炭含) |          |

第222図 袋状土壙64 (1/30)

での直径が157cmに対し、底面はほぼ平坦で直径が185cmである。また、壁面は強く内傾して立ち、深さは70cmを測る。埋土は5層に分けられ、各層とも水平に堆積しており、うち3層では炭とともに多くの土器片が出土している。

出土遺物には、壺・甕・高杯以外に製塩土器823～825、器台とみられる脚部片826がある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

袋状土壙65 (第117・224図)

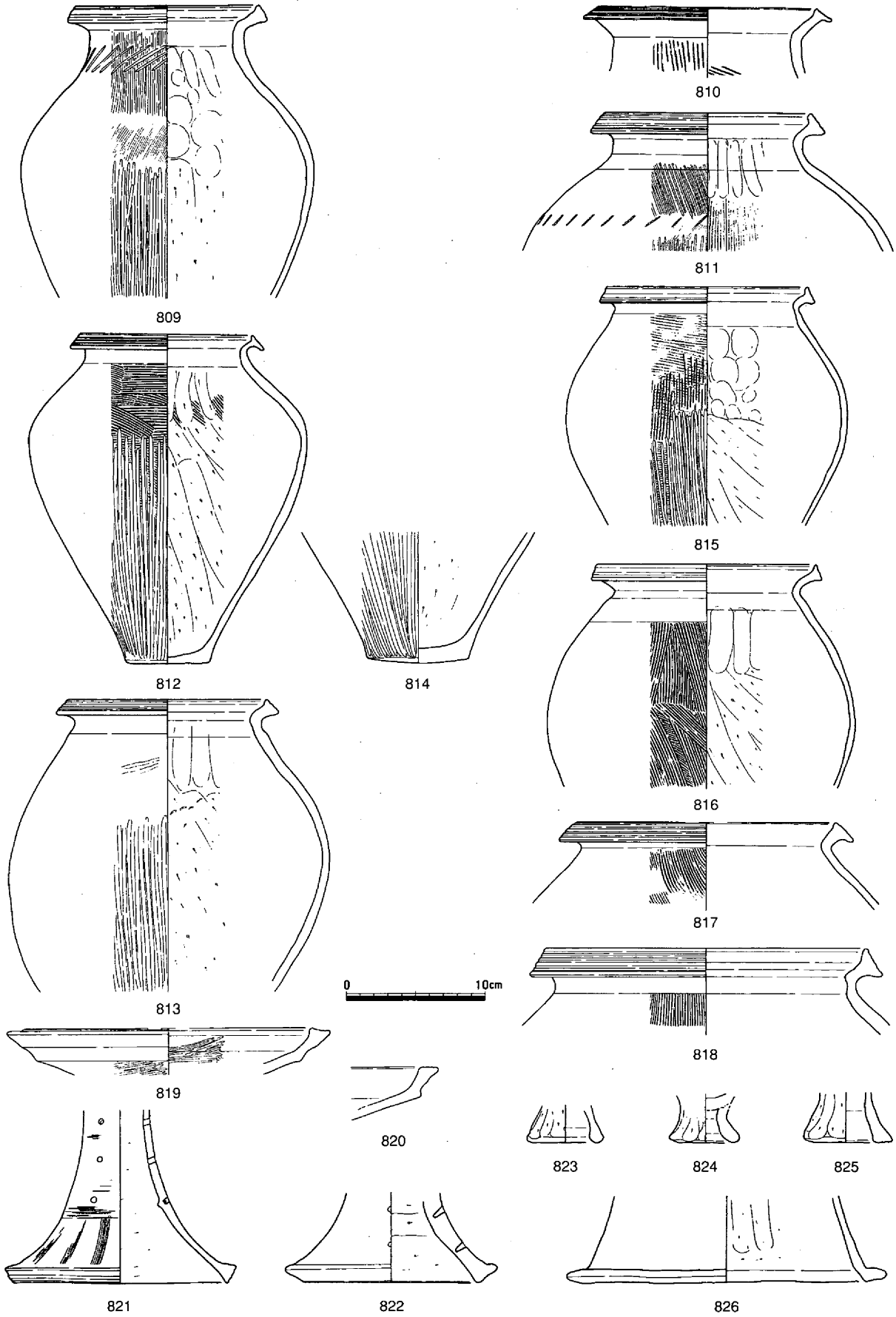
調査区の東半部、袋状土壙63の南隣りに位置する。平面形は直径約160cmの不整円形で、深さは約40cm残存していた。断面形はいずれも袋状で、底面はほぼ平らであった。埋土は3層に分離でき、少量の炭を含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。壺827の口唇部には凹線が施され、高杯828の脚裾部にはヘラガキ沈線紋が描かれている。時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)

袋状土壙66 (第117・225図)

調査区の東半部、袋状土壙65の南隣りに位置する。平面形は約130×150cmの不整楕円形で、深さは約20cm残存していた。埋土は、炭や焼土粒を含む暗青緑色砂質土が1層のみであった。

遺物は土器片が少量出土している。829は甕で、時期は弥・後・Iと考えられる。断面形は袋状にはなっていなかったが、平面形状や埋土の状況および出土遺物から考えられる時期などから、周辺に数多く検出できている袋状土壙と同じ用途の土壙として報告しておきたい。(平井)



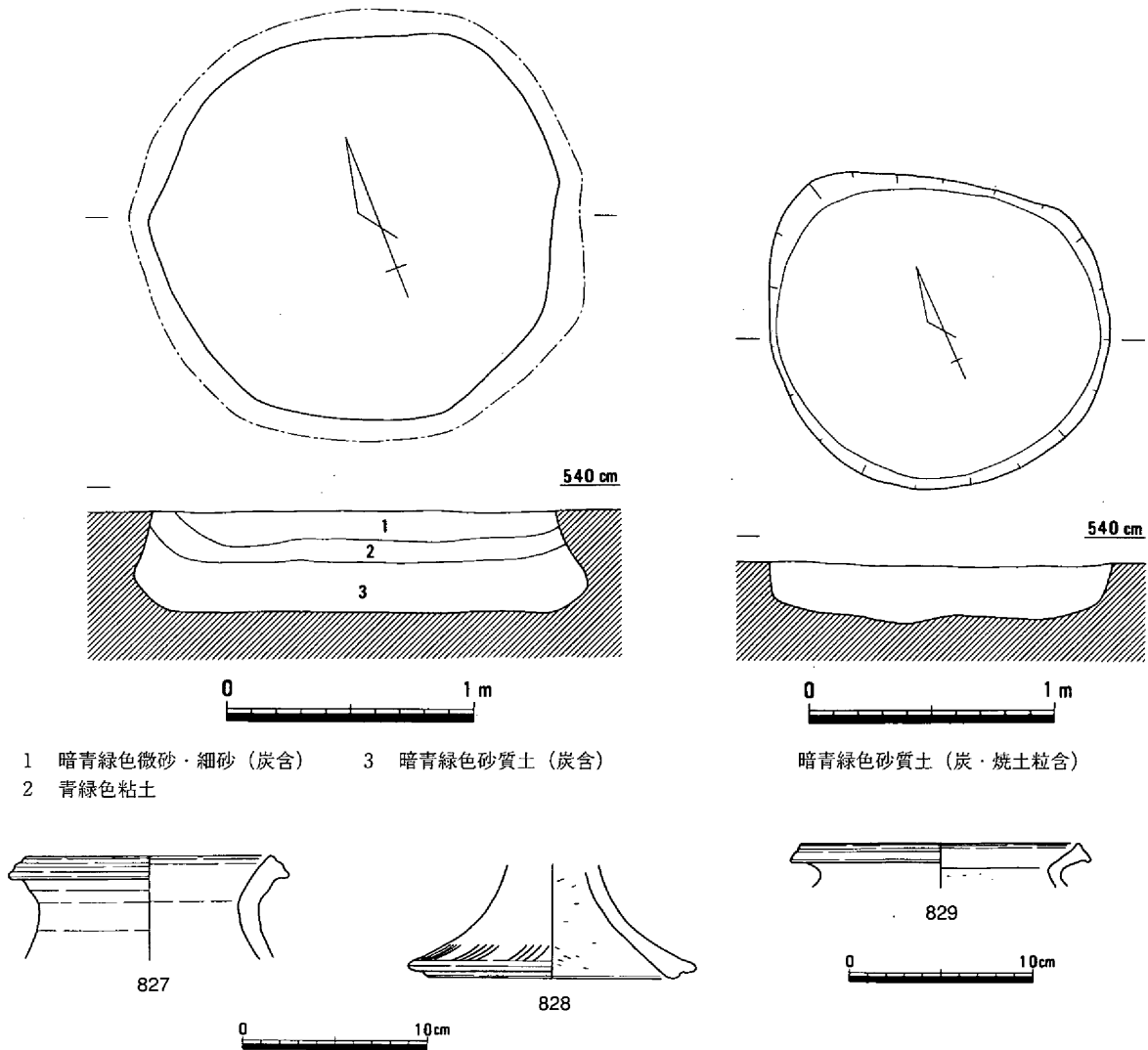
第223図 袋状土壙64出土遺物 (1/4)

袋状土壙67 (第117・226図)

袋状土壙64の南東2mで検出された。Ce501区とCe502区の境界に位置していた。検出面の平面形も底面も不整形な円形を呈し、検出面での長径は153cm、短径が150cm、底面の長径は137cmを測った。土壙の深さは60cmであった。土壙の壁は垂直に近く、壁の下端は湾曲して底面に続いていた。土壙の南側では一部で壁の下端がフラスコ状に抉れていた。埋土は4層に分けられた。第4層は底面全体に水平に堆積していたが、第3層は土壙の周縁に堆積し、第2層・第1層は凸レンズ状に堆積して土壙の周辺からの流入を示していた。第1層には土器片が多量に含まれていた。図示した土器のうち、830の壺の頸部と外側へ拡張した口縁端面には凹線文が巡らされていた。また、833の脚台部と836の高杯の脚部には鋭い櫛状工具による直線文が飾られ、弥・後・Iの特徴を示していた。(岡本)

袋状土壙68 (第117・227図)

Ce502区で検出された。袋状土壙67のすぐ南に位置し、その間隔は80cmにすぎなかった。土壙の断面形は台形に近く、底面の周縁が検出面の肩よりも外側に張り出す部分が多かった。検出面での平面形は卵形で、長径が141cm、短径は121cmで、土壙の深さは55cmを測った。底面の形状もほぼ同じで、



第224図 袋状土壙65 (1/30)・出土遺物 (1/4)

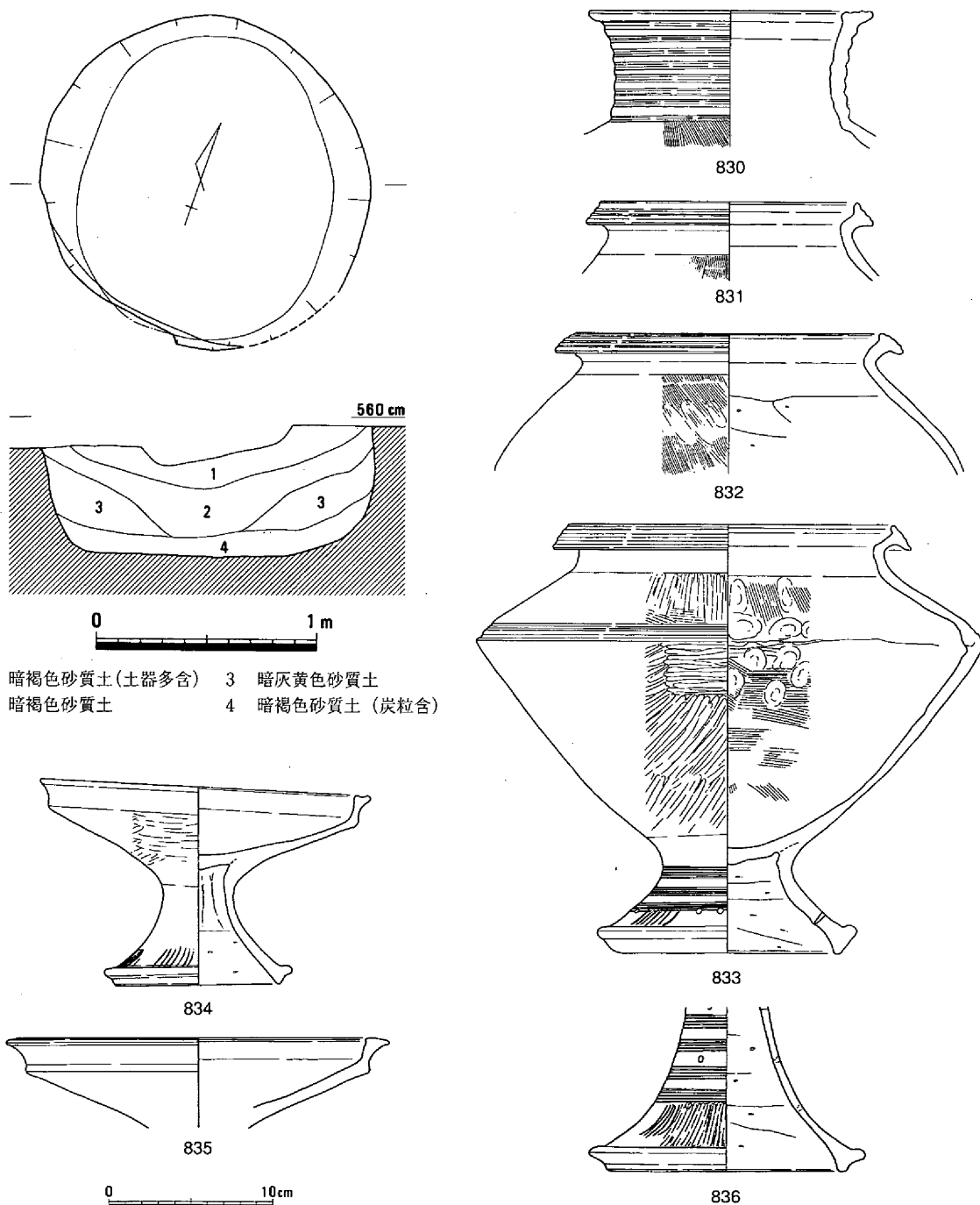
第225図 袋状土壙66 (1/30)

・出土遺物 (1/4)

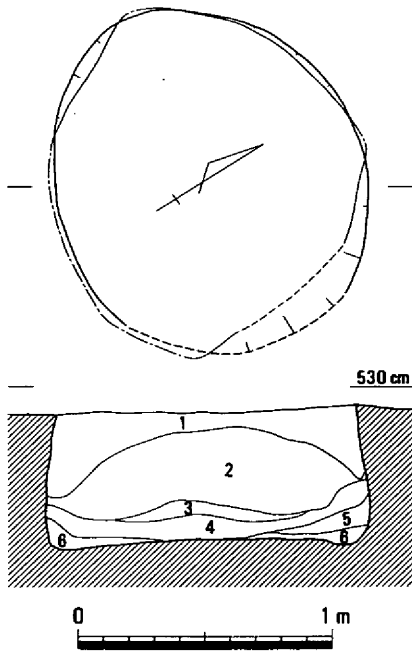
長径は141cmであった。埋土は6層に分けられた。第4層から第6層までは周辺からの土砂の流入を思わせたが、第2層は中央部分が大きく盛り上がり、中央部分へ土砂の投棄がなされたものと考えられる。出土した837の高杯から判断して、この袋状土壌の年代は弥・後・Iとみられる。（岡本）

袋状土壌69（第117・228図）

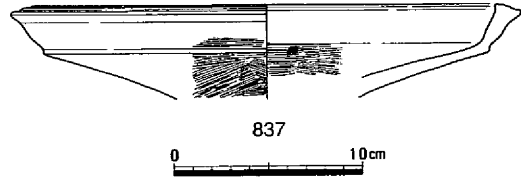
調査区の東半部、竪穴住居13の南西約1mに位置する。平面形は直径約90cmの円形で、深さは約40cm残存していた。断面形は袋状の部分が多く、底面はほぼ平らであった。埋土は、少量の炭粒を含む淡灰色細砂が1層のみであった。



第226図 袋状土壌67 (1/30)・出土遺物 (1/4)



遺物は少量の土器片が出土したのみである。時期は周辺で検出できている袋状土壙と同様に、弥・後・Iと考えられる。(平井)



- 1 暗褐色砂質土（焼土・炭粒含）
- 2 オリーブ褐色砂質土
- 3 暗灰黄色砂質土（炭粒・土器含）
- 4 黒褐色砂質土（炭粒・土器・灰含）
- 5 オリーブ褐色粘性砂
- 6 オリーブ褐色粘性砂（焼土含）

第227図 袋状土壙68 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙70 (第117・229図)

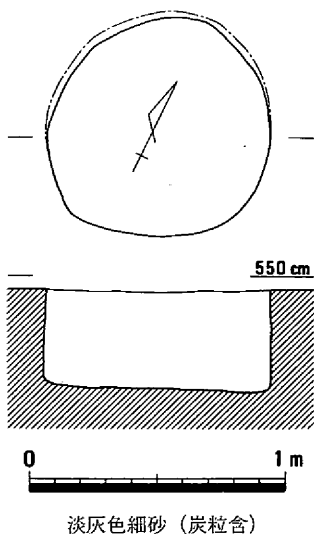
調査区の東半部、袋状土壙69の南東約4 mに位置する。平面形は直径約80cmの不整形円で、深さは約20cm残存していた。壁は垂直にちかく立ち上がっており袋状にはなっていないが、形状や時期などから袋状土壙として報告しておきたい。埋土は淡灰褐色砂質土が1層のみであった。

遺物は土器片が少量出土したのみであるが、時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

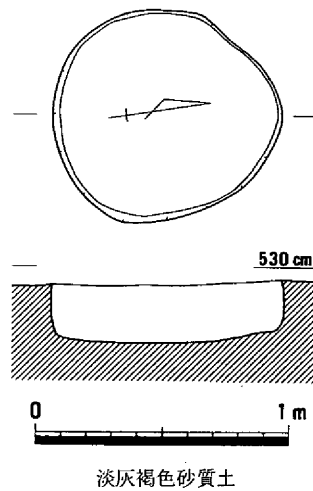
袋状土壙71 (第117・230図、図版93・106)

Cf 502区にあり、竪穴住居14から南西に2～3 m離れた所に位置する。平面形は楕円形かやや隅丸の方形を呈して、規模は、上面での直径が109cmで、底面での直径が110cm、深さは80cmを測る。断面をみると塊状の3層を包むように2層が堆積し、そこからはほぼ完形に復元できた土器も出土していることから、意図的に埋め戻された可能性もある。

出土遺物のうち、土器には甕838～841や、高杯842がある。このうちほぼ完形の甕839では、口縁端部の一部に丹塗りが認められた。また、用途不明であるが、有鉤状の骨角器B1がある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

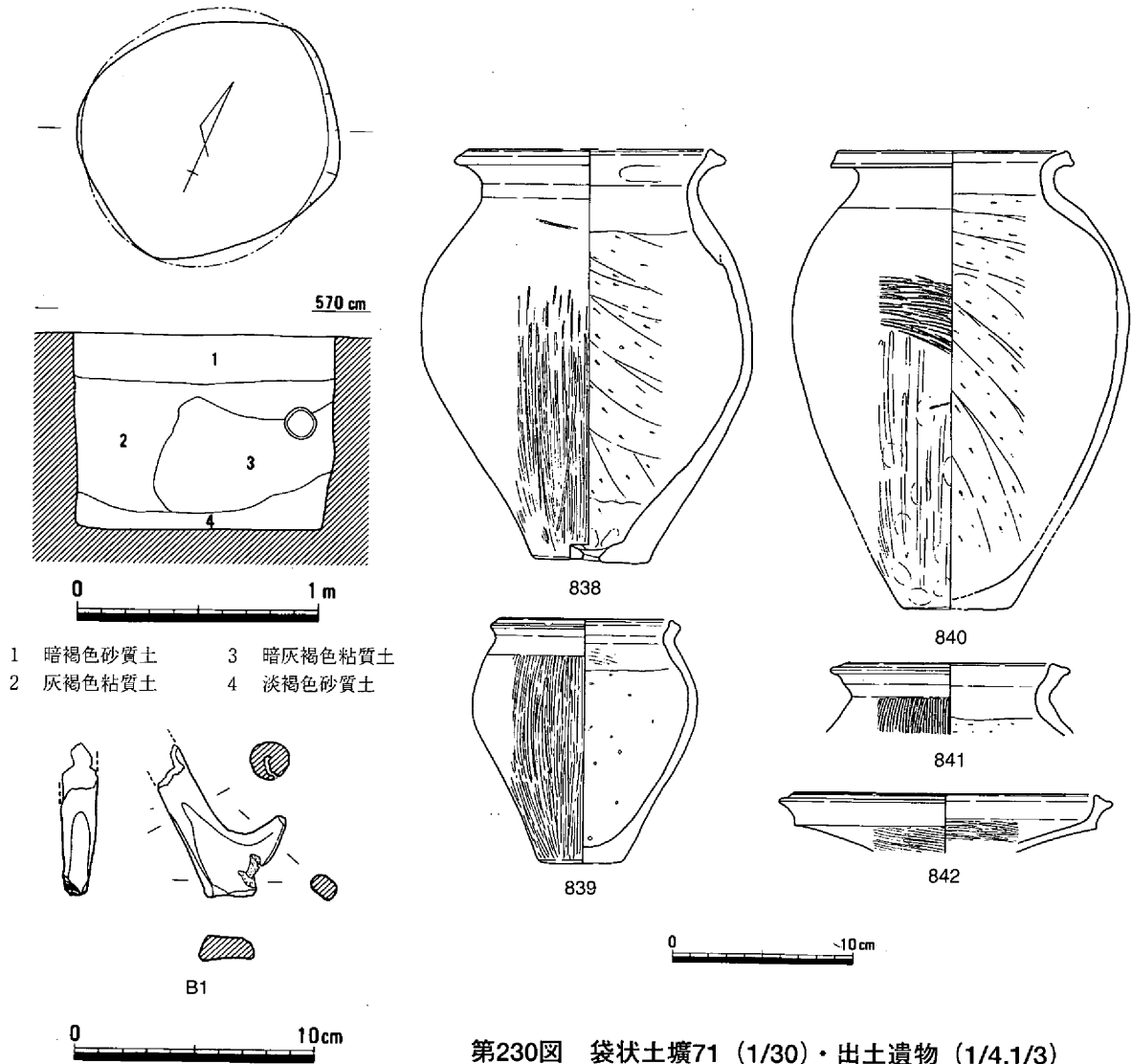


第228図 袋状土壙69 (1/30)



第229図 袋状土壙70 (1/30)





第230図 袋状土壙71 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

袋状土壙72 (第117・231図)

Cf5 02区に位置し、平面形が円形を呈する。規模は、上面での直径が110cmに対して、底面での直径が128cmと強く底面に向けて広がる。また、深さは54cmを測り、埋土は2層に分けられてともに炭を含む。

図示できるものはないが、出土した遺物からみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

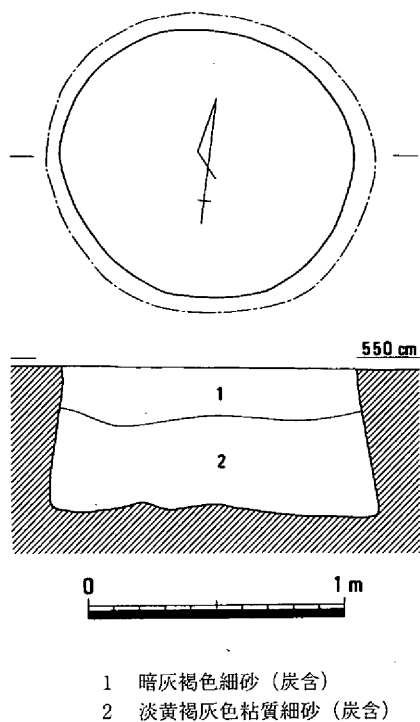
袋状土壙73 (第117・232図)

Cf5 02区に位置する。平面形が不整形円形を呈して、規模は、上面での直径が105cmを測る。底面は平坦ではなく凹凸がみられ、直径は89cmある。深さはわずかに28cmであるが上部が削平されたとみられ、壁面は一部を除き上に向かって開く。埋土は水平堆積をなし2層に分けられるが、ともに炭を含んでいた。

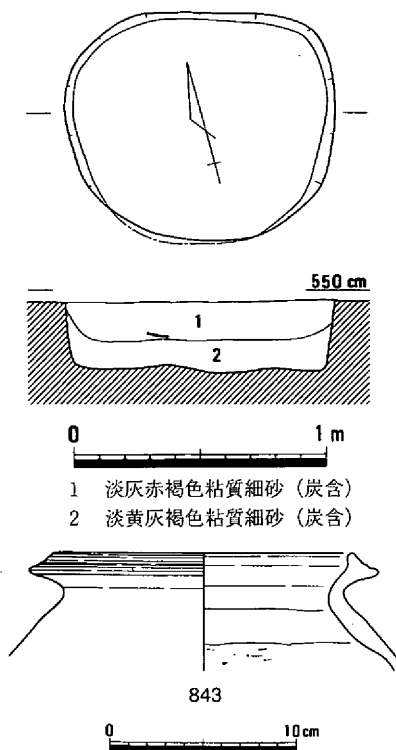
出土遺物である甕843からみてこの土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

袋状土壙74 (第117・233図、図版9)

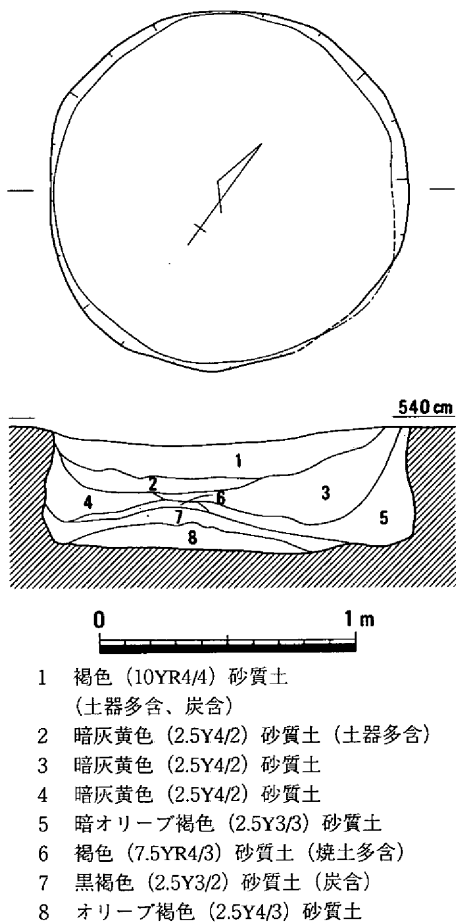
調査区の東部、Cf5 02区で検出された。袋状土壙73の南4 m、袋状土壙65の東4 mに位置していた。検出面での平面形も底面もともに円形を呈し、検出面では長径が144cm、底面の長径は138cmを測



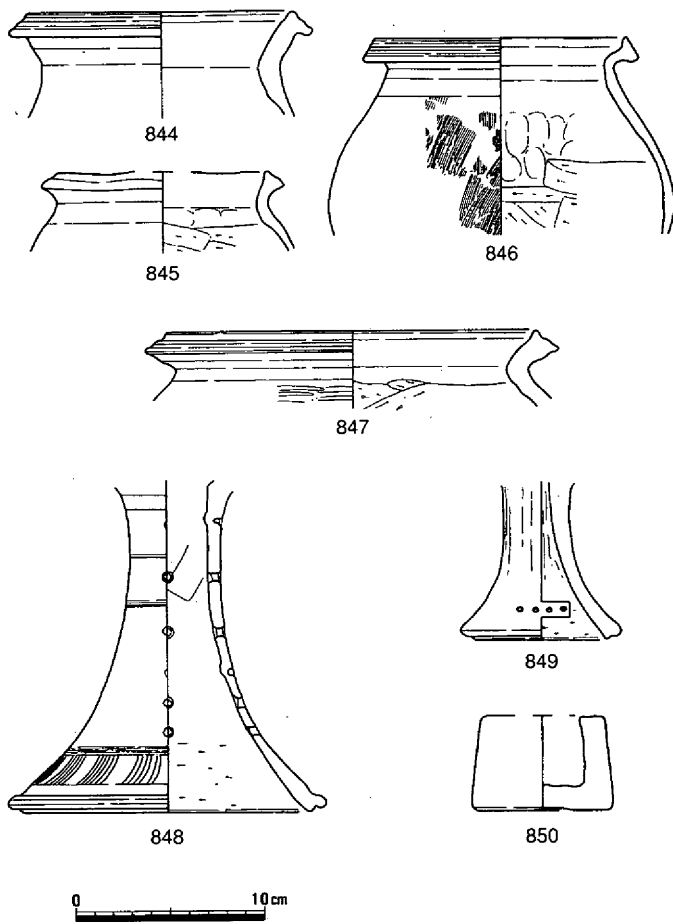
第231図 袋状土壙72 (1/30)



第232図 袋状土壙73 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第233図 袋状土壙74 (1/30)・出土遺物 (1/4)



った。土壙の深さは50cmであった。土壙の壁は内傾し、底面はほぼ平坦で、土壙の断面形はフラスコ状を呈していた。埋土は細かく分けることができた。第2層から第4層は同じ土質・土色であったが、各層の底に薄い炭の堆積がみられ、分層が可能であった。第6層は焼土層で、第7層の底にも炭の堆積が認められた。第6層から第8層までは土壙の中央部分がかもっとも厚く、埋土が投棄されたものと考えられる。土器片は第1層と第2層に多く含まれていた。出土土器から判断して、袋状土壙74の年代は弥・後・Iとみられる。(岡本)

#### 袋状土壙75 (第117・234図)

調査区東部南端Cg502区で検出され、袋状土壙74の南4mにあった。袋状土壙76によって破壊をうけていた。検出面での平面形は不整な円形で長径が133cm、土壙の深さは64cmを測った。底面の縁辺は肩口よりも広がっていて、土壙の断面形はフラスコ状を呈していた。底面の長径は156cmだった。埋土は5層に分けられ、第4層には炭や焼土塊が多く含まれていた。各層ともに中央部が厚く、投棄されて堆積したと考えられる。土壙の年代は弥・後・Iとみられる。(岡本)

#### 袋状土壙76 (第117・235図、図版9)

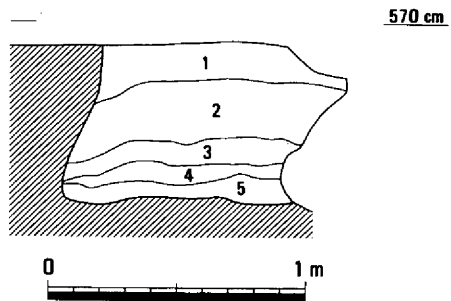
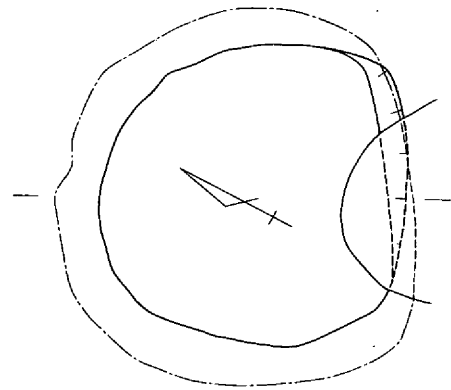
Cg502区の調査区南端にあり、一部は調査区外になっていた。袋状土壙75と重複し、それよりも新しい。検出面での平面形は楕円形を呈し、長径が162cm、短径は114cmで、土壙の深さは94cmを測った。底面はほぼ平坦で、形状は検出面と等しく、やや拡大していた。長径が166cm、短径は118cmであった。土壙の断面形は、底面周縁がフラスコ状に抉れていたが、中程から上方はわずかに逆「ハ」の字状に広がっていた。埋土は6層に分けられた。第4層と第5層には土器が包含されていた。各層とも中央部がかもっとも薄く、土は周辺から流入したとみられる。出土土器のうち、852の胴部上半外面にはタタキ目の痕跡が認められる。この土壙の年代は土器から弥・後・Iと考えられる。(岡本)

#### 袋状土壙77 (第117・236・237図)

調査区の東部、Cf502区で検出された。袋状土壙74の東2mに位置していた。検出面での平面形は円形で、長径が138cmあり、土壙の深さは80cmを測った。底面も円形で、長径は142cmであった。土壙の断面形はフラスコ状を呈し、上端がやや外開きになっていた。廃絶後の崩落によるものであろうか。埋土は細かく分層することが可能で、炭や灰を多く含む層を交互に何層も挟んでいた。おそらくは、貯蔵穴としての機能が失われた後に、ゴミ穴として生活廃棄物が繰り返し投棄されたものと考えられる。第3層より上で土器片が散見され、第1層にはとくに多く含まれていた。出土した土器の年代は弥・後・Iであり、この袋状土壙の年代を示していると判断する。(岡本)

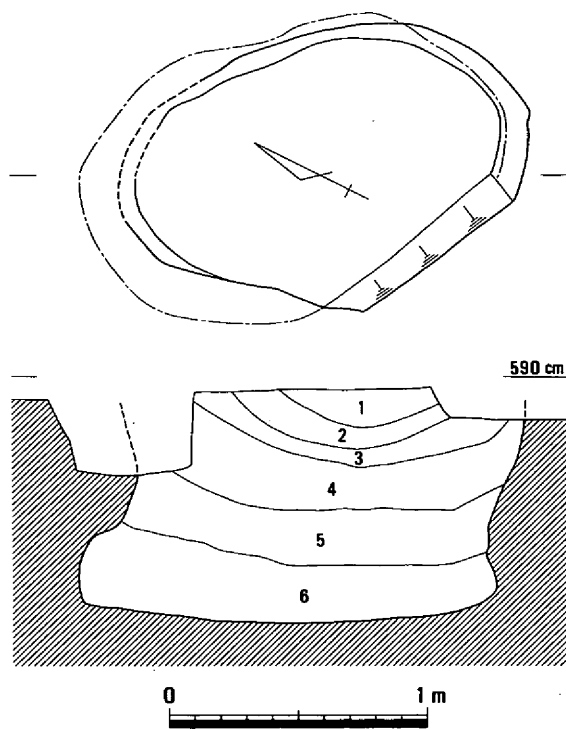
#### 袋状土壙78 (第117・238図、図版9)

調査区の東部、Cg502区で検出された。袋状土壙77の南側に接していた。両土壙の出土遺物を検

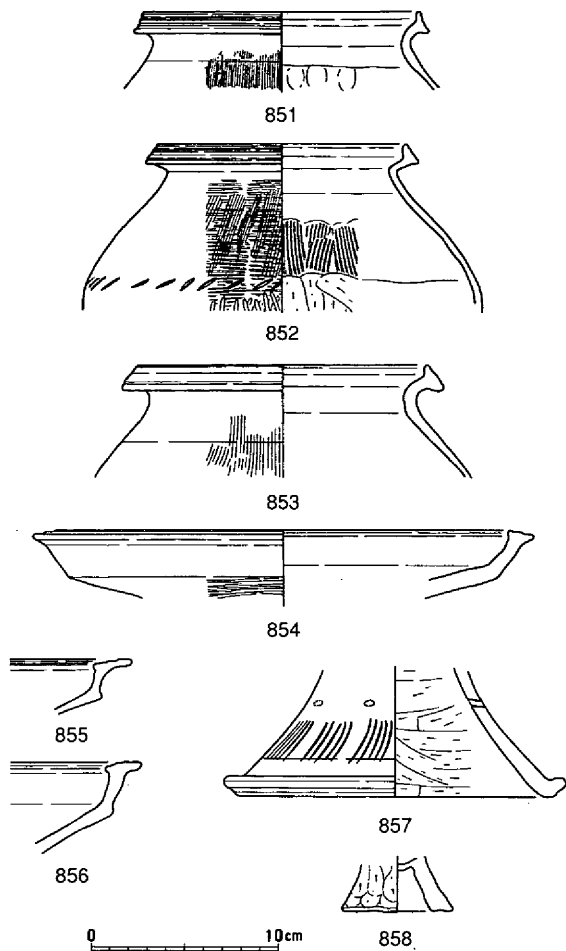


- 1 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土
- 2 浅黄色 (7.5Y7/3) 粘性砂質土
- 3 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘性砂質土
- 4 褐灰色 (10YR5/1) 粘性砂質土  
(炭・焼土塊多含)
- 5 オリーブ黄色 (7.5Y6/3) 粘性砂質土

第234図 袋状土壙75 (1/30)

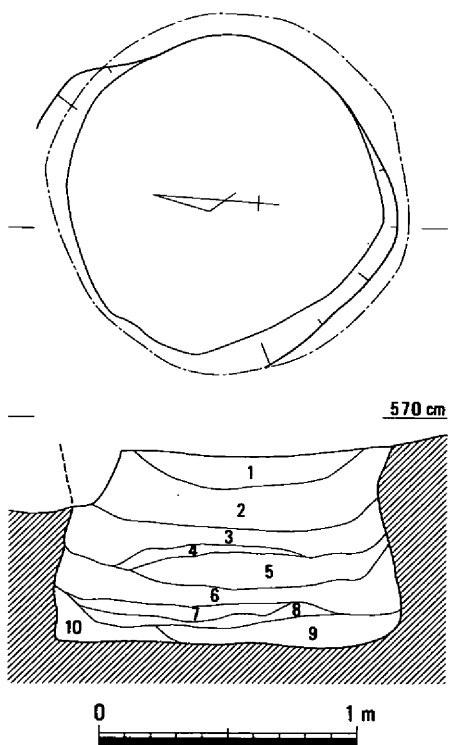


- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (マンガン含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (灰・炭含)
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭・土器含)
- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (炭・土器含)
- 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土



第235図 袋状土壌76 (1/30)・出土遺物 (1/4)

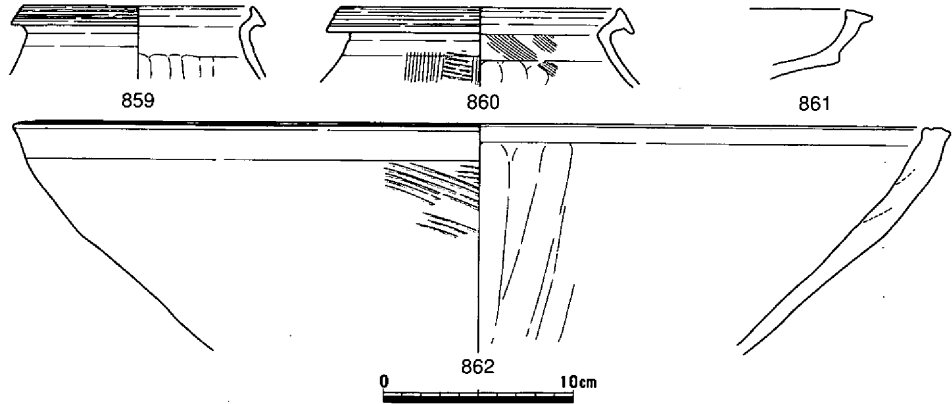
討すると、袋状土壌78の土器がより新しい傾向を示し、袋状土壌77の埋没後に掘られたものと推測される。検出面での平面形は楕円形を呈し、長径が200cm、短径は172cmで、土壌の深さは70cmを測った。底面も楕円形で、長径が190cm、短径は175cmであったが、検出面の平面形からは南側にかなりずれてい



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器・炭多含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (土器・炭含)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器・炭含)
- 4 炭・灰層
- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 (炭含)
- 7 炭層 (灰含)
- 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土 (灰多含)
- 9 炭層 (灰多含)
- 10 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂

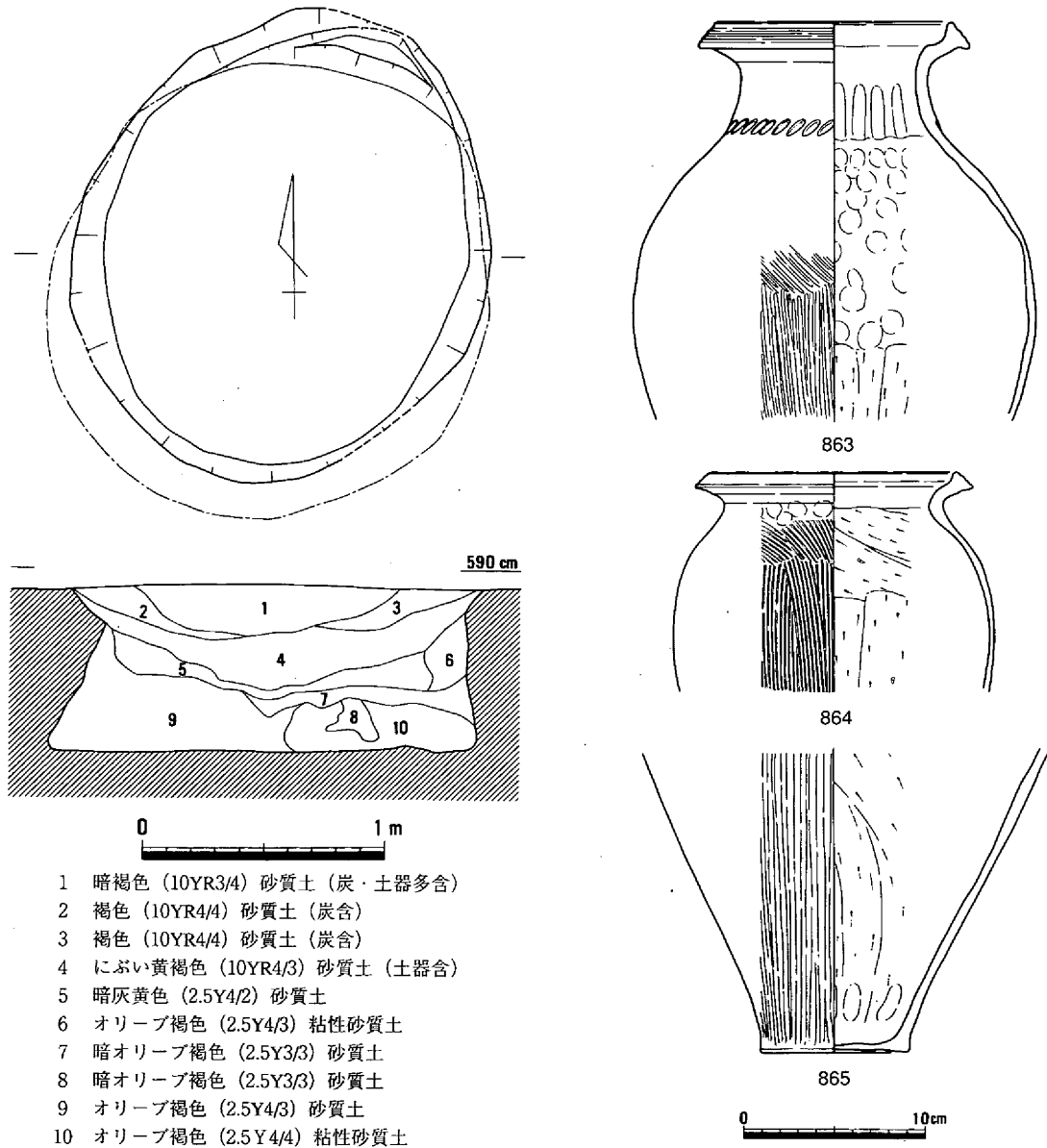
第236図 袋状土壌77 (1/30)

て、北側の壁には底面から40cmの高さの小さな段がみられた。底面は平坦で、土壌の断面形はフラスコ状を呈していた。土壌の上端部分、埋土の第4層より



第237図 袋状土壌77出土遺物 (1/4)

上方の部分は、廃棄後の崩落によって変形したものと判断される。埋土は10層に細分されたが、第7



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭・土器多含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (炭含)
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (炭含)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器含)
- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土
- 7 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土
- 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土
- 9 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
- 10 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土

第238図 袋状土壌78 (1/30)・出土遺物 (1/4)

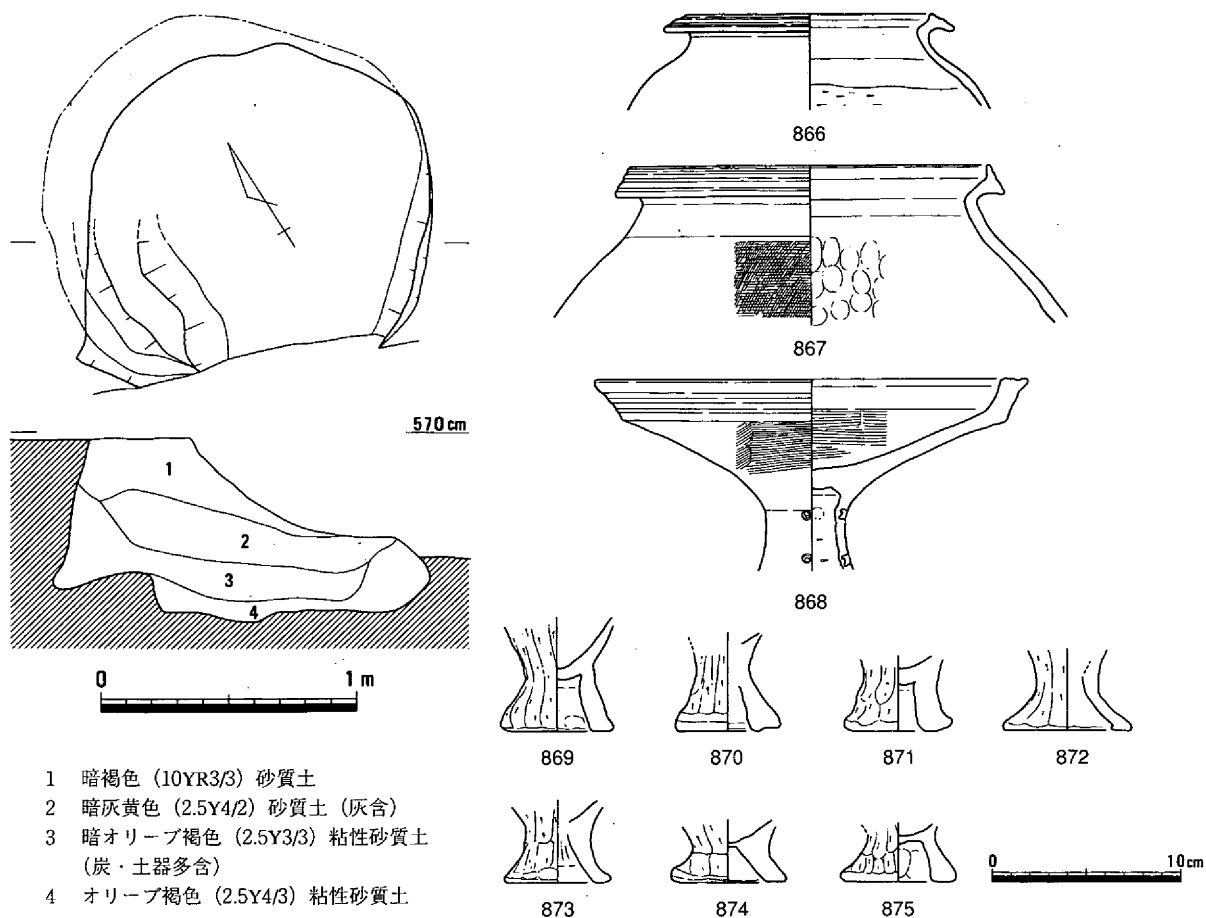
層と第8層は類似し、第6層と第10層は地山の土塊とみられた。また、第5層の底には炭の堆積がみられ、第1層には土器片が多く含まれていた。この土壌の年代は弥・後・Iと考えられる。(岡本)

**袋状土壌79 (第117・239図)**

調査区東部の南端、Cg502区で検出された。袋状土壌76の4m東に位置していた。一部は調査区外にある。検出面での平面形は不整形な円形で、長径が164cm、短径は134cmで、土壌の深さは73cmを測った。底面も不整な円形であったが、西側に小さな畦状の高まりが認められ、平坦ではなかった。ただ、底面の周縁は抉れていて、土壌の断面形はフラスコ状に近かった。底面の長径は159cmであった。埋土は4層に分けられ、複雑な堆積ではなかった。さらに、第3層と第4層はよく類似し、灰・炭や土器片の包含の有無で分層した。出土土器から弥・後・I期の土壌と考える。(岡本)

**袋状土壌80 (第117・240図、図版10・93)**

調査区の南東部、Cg503区で検出された。袋状土壌78の東4.5mに位置していた。検出面での平面形は円形で、長径が185cm、土壌の深さは75cmを測った。底面は平坦で、平面形はほぼ円形を呈し、長径が150cmであった。土壌の壁はわずかに内傾し、土壌の上端部は逆「ハ」の字状に開いていた。この開きは埋土の第4層以上に対応し、土壌の上部の崩落か、人為的な掘削後の堆積とみられる。埋土は11層に細別できた。第5層と第6層、第8層と第9層はともに同質の土である。第7層には炭の厚い堆積が認められ、第4層から上で土器片の包含がみられた。出土土器の年代から土壌は弥・後・Iであるが、第1層から出土した876のみは古・前・Iで、最終的な埋没時期を示すものか。(岡本)

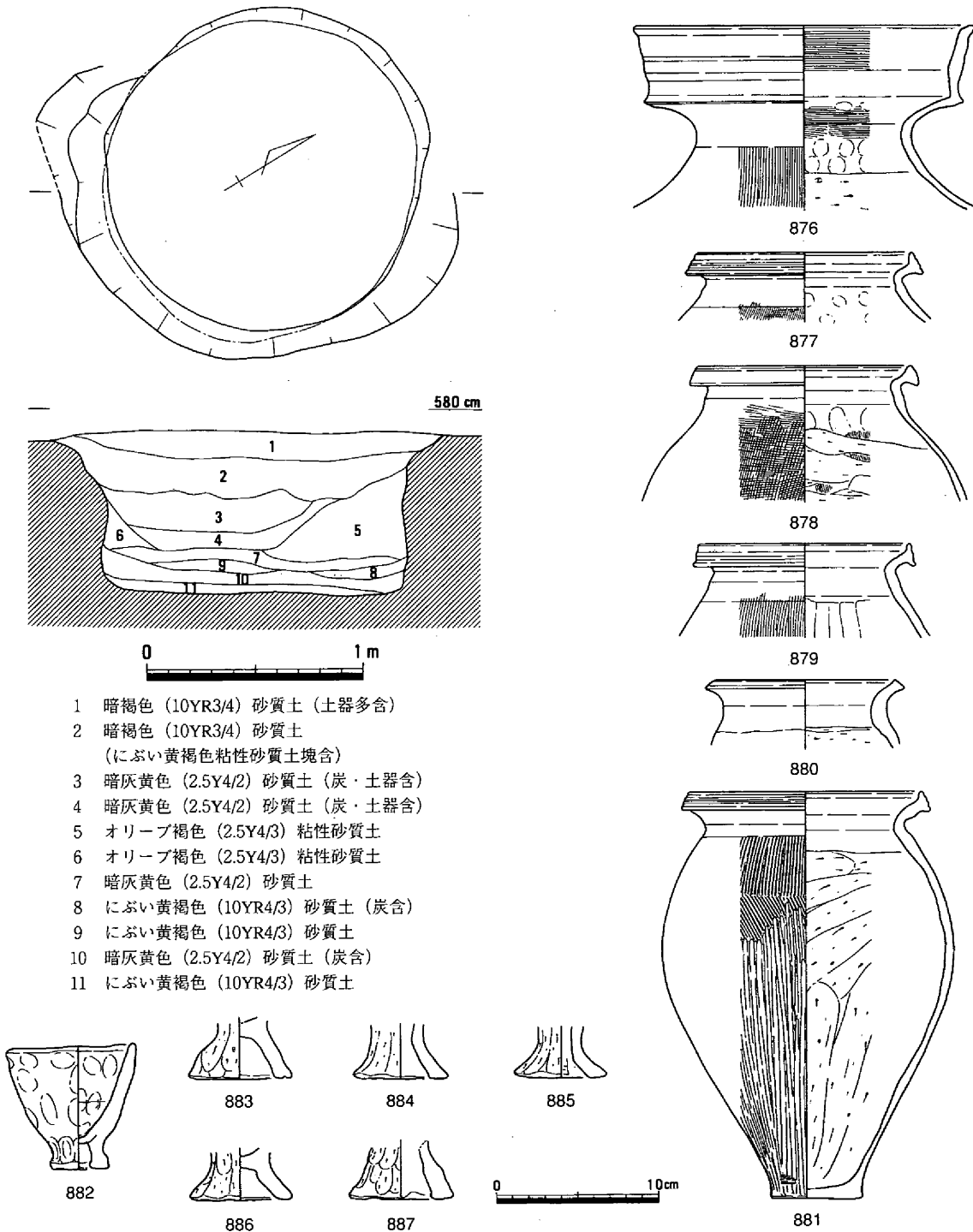


- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (灰含)
- 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土 (炭・土器多含)
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土

第239図 袋状土壌79 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙81 (第117・241図)

袋状土壙80のすぐ北にあって、両者の距離は80cmにすぎなかった。検出面での平面形も底面もともに円形を呈していて、底面がわずかに広がっていた。検出面では長径が148cm、底面の長径は150cmで、土壙の深さは50cmを測った。底面はほぼ平坦で、壁はわずかに内傾していた。埋土は6層に分けられた。南側から土砂が流入していったように観察された。第3層と第5層には粘性砂質土の塊が入っていた。出土土器として弥・後・Iの高杯があり、この袋状土壙の年代も同期と考える。(岡本)



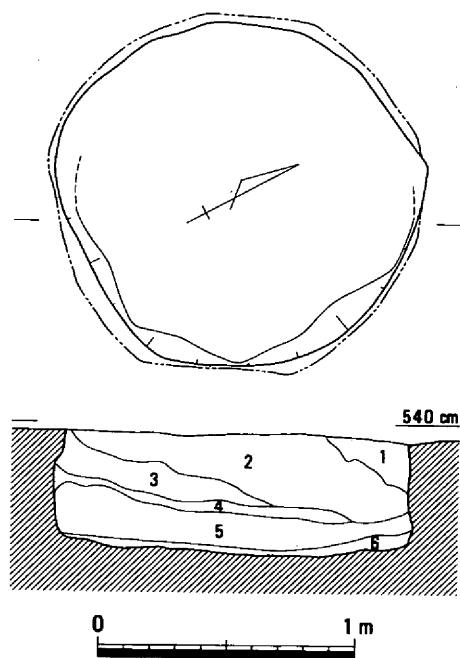
第240図 袋状土壙80 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙82 (第117・242図、図版10)

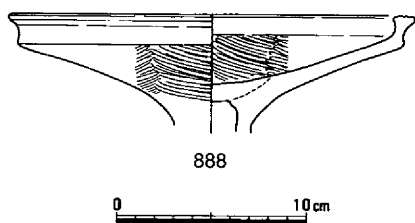
調査区の東部中央、Ce503区で検出された。近接した袋状土壙はなく、8m南に袋状土壙83が位置していた。検出面での平面形も底面もともに円形を呈し、検出面での長径が166cm、底面の長径は171cmを測った。土壙の深さは96cmであった。底面は平坦で、土壙の断面形をみると、下半はフラスコ状を呈していた。上半は廃棄後の崩落によって上開きになったものであろう。埋土のうち、第8層や第5層は中央が厚く、土砂を投棄した可能性が高い。この土壙の年代は弥・後・Iである。(岡本)

袋状土壙83 (第117・243図)

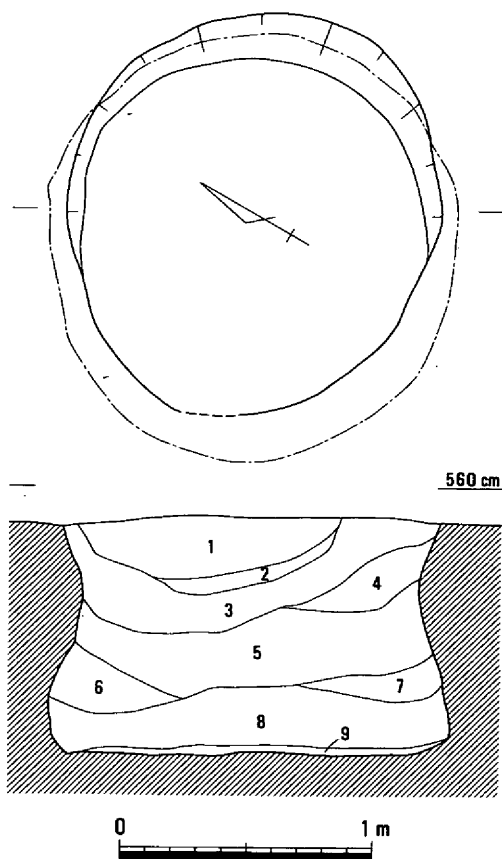
調査区の東部中央、Cf503区で検出された。袋状土壙81の北東3mに位置していた。古墳時代以降の遺構の掘削によって、上部はかなり破壊をうけていた。検出面での長径は残存長で240cm、土壙の深さは96cmを測った。底面は不整形な円形で、長径は160cm、短径が142cmだった。土壙の壁は外傾し、上方へわずかに開いていた。埋土は4層で単純な堆積状況を示していた。周辺から土砂が流入して



- 1 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (炭含)
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土 (粘性砂質土塊含)
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土



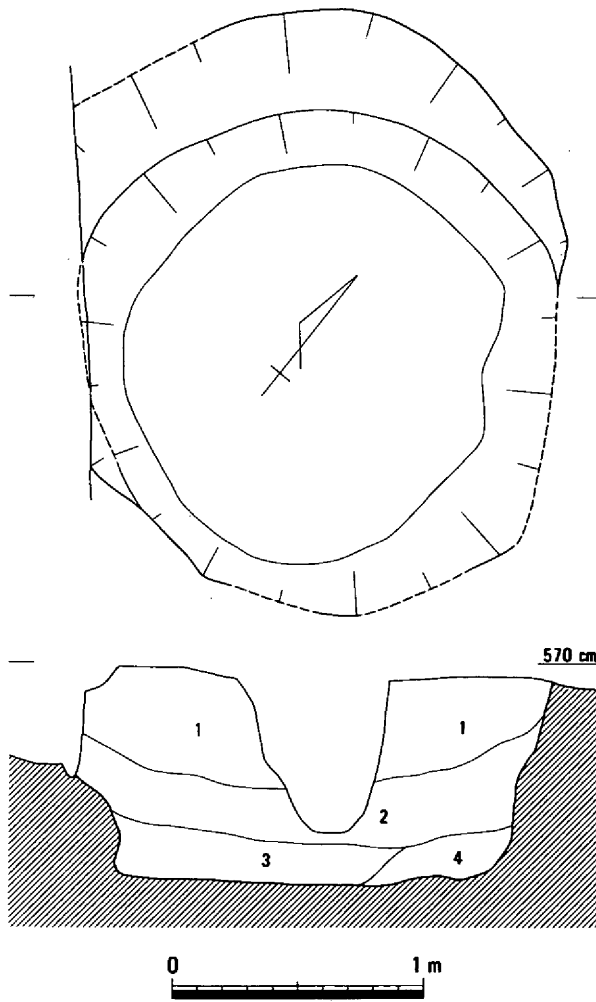
第241図 袋状土壙81 (1/30)・出土遺物 (1/4)



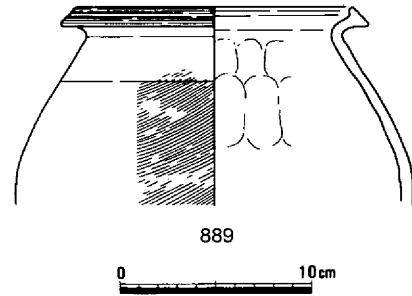
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭・土器含)
- 2 炭層
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭・土器含)
- 4 褐色 (10YR4/6) 砂質土
- 5 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 6 褐色 (10YR4/6) 砂質土
- 7 焼土層 (円礫多含)
- 8 褐色 (7.5YR4/3) 砂質土 (焼土・円礫多含)
- 9 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘性砂質土 (灰層)

第242図 袋状土壙82 (1/30)





順次に埋没したものであろう。第2層には炭粒が多く含まれ、とくに下面には炭の堆積が認められた。出土遺物は少なかった。889は甕で、口縁端面には凹線を巡らせ、胴部の内面はナデ調整で、指頭圧痕が残っている。これから土壌の年代は弥・後・Iと考える。(岡本)

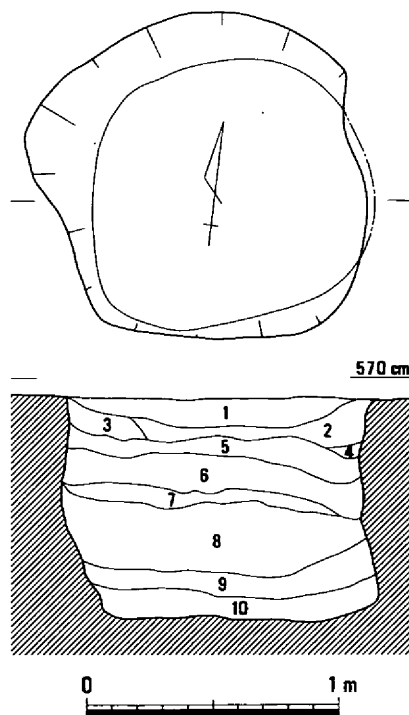


- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭多含)
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 4 褐色 (10YR4/4) 砂質土

第243図 袋状土壙83 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙84 (第117・244・245図、図版106)

調査区の南東隅、C g 5 03・5 04区で検出された。銅鐸埋納壙のすぐ南東にあり、両者の距離は20cm程にすぎなかった。北西3mに袋状土壙85が位置していた。土壙の北半は銅鐸埋納壙の保存処置のために削平された。土壙の平面形は円形に近く、検出面では長径が119cm、底面の長径は120cmを測った。土壙の深さは89cmであった。土壙の壁は内傾する部分もあったが、大部



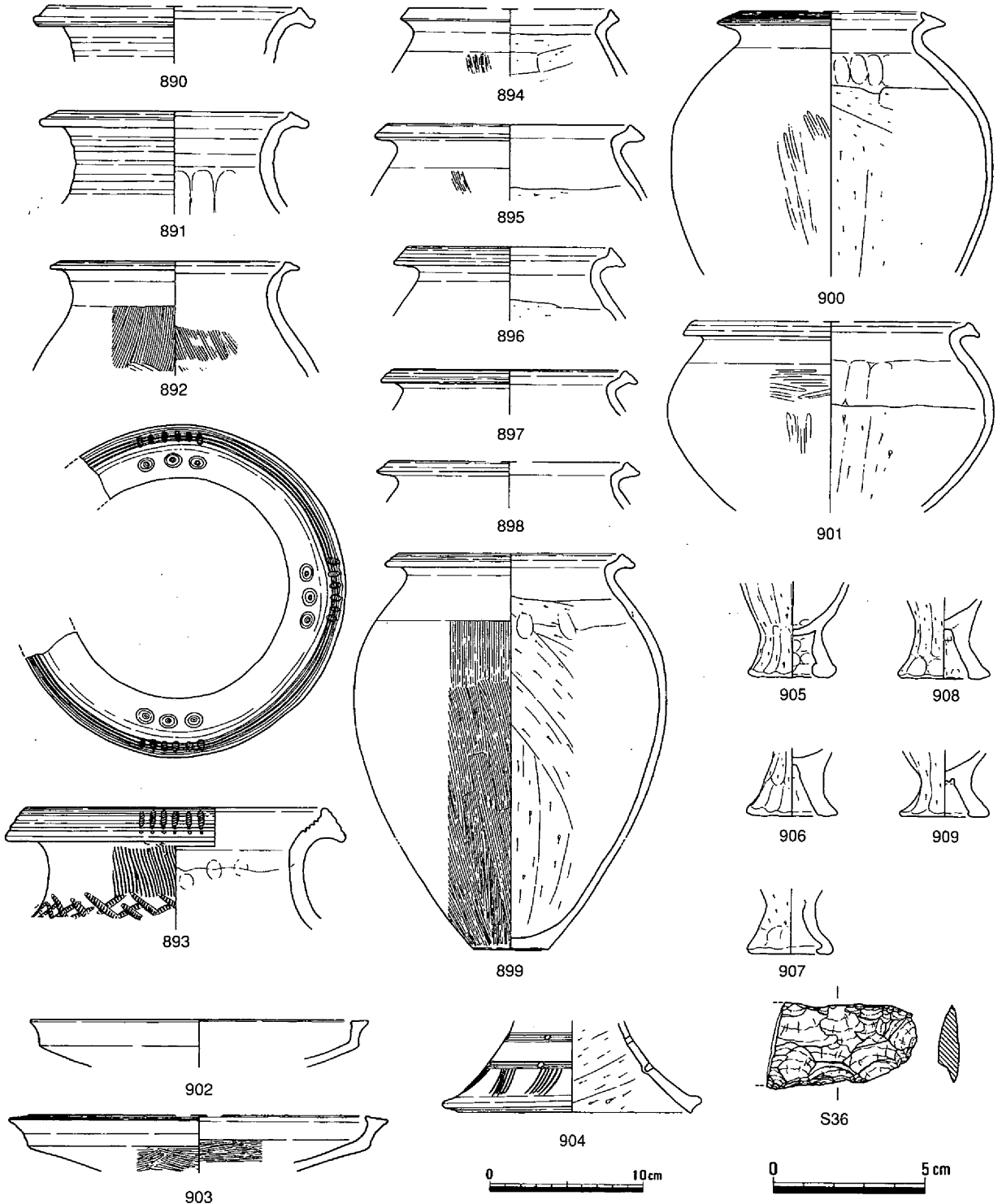
- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器・炭含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (土器・炭含)
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器・炭含)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
- 5 褐色 (7.5YR4/3) 砂質土 (炭・焼土・土器多含)
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 7 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土 (炭・焼土層)
- 8 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (炭・灰含)
- 10 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土

第244図 袋状土壙84 (1/30)

分は外湾して上方へ広がっていた。埋土は10層に細分された。第5層、第7層、第9層と炭や焼土・灰を含んだ層が交互に堆積していた。第5層には土器片が多く含まれていた。ゴミ穴として利用されたものであろうか。多量に出土した遺物から土壌の年代は弥・後・Iと考える。 (岡本)

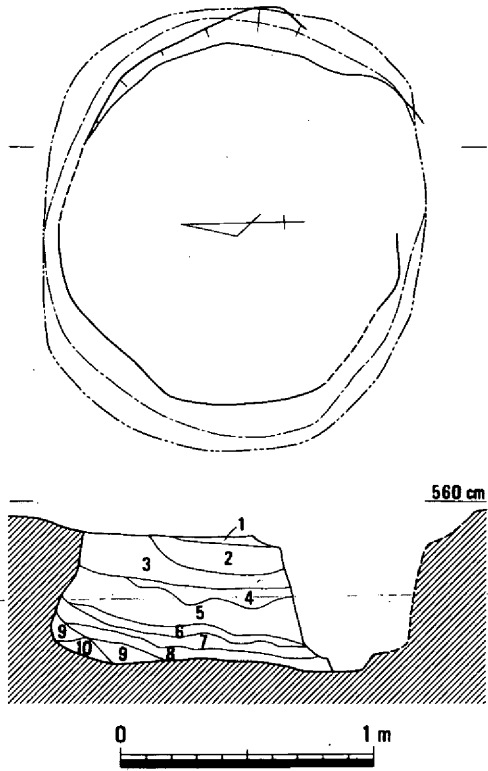
袋状土壌85 (第117・246図、図版106)

調査区の南東隅、Cg 5 03区で検出された。銅鐸埋納墳の北西2.5m、袋状土壌80の南東6 mに位置

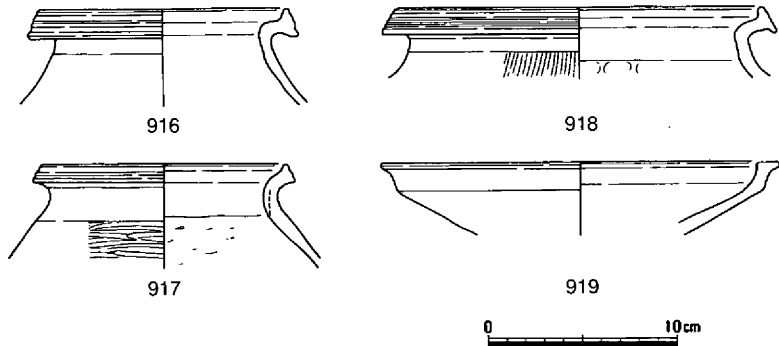
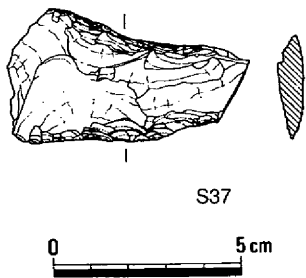
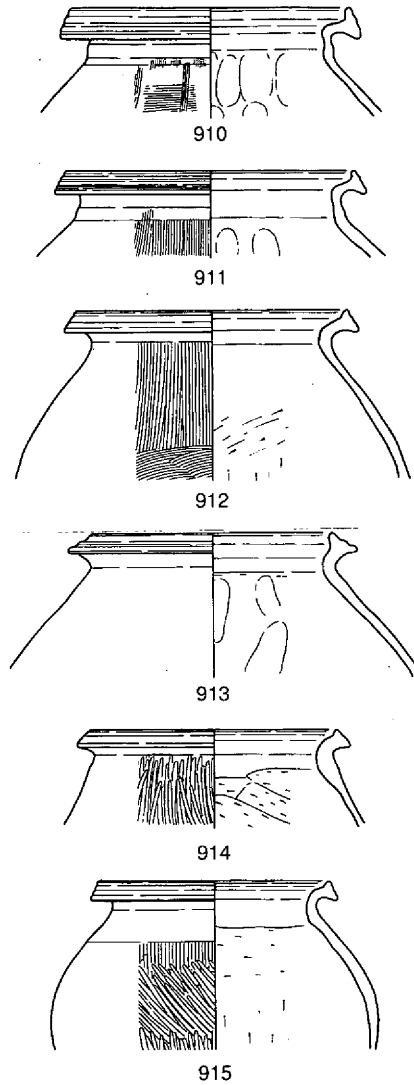


第245図 袋状土壌84出土遺物 (1/4)

していた。土壌の一部は後世の柱穴で破壊されていた。検出面での平面形は楕円形を呈し、長径が156cm、短径は134cmで、土壌の深さは55cmを測った。土壌の壁は下半部分で大きく抉れ、中央部が少し盛り上がった底面へ緩やかに移る。第246図の一点鎖線は底面の外郭線、二点鎖線は壁のもっとも張り出した部分を示す。底面の長径は165cmであった。埋土は細かく分けることができた。第5層には



- 1 褐色 (10YR4/6) 砂質土
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器含)
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (炭・灰含)
- 5 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土 (灰多含、炭・土器含)
- 6 炭層
- 7 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (炭含)
- 8 にぶい黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (焼土・炭・灰・土器含)
- 9 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (炭含)
- 10 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土 (炭含)



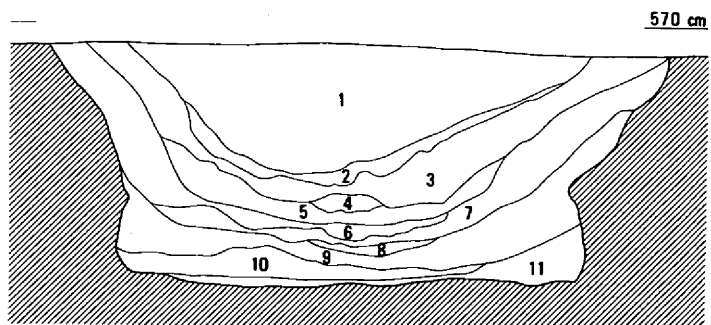
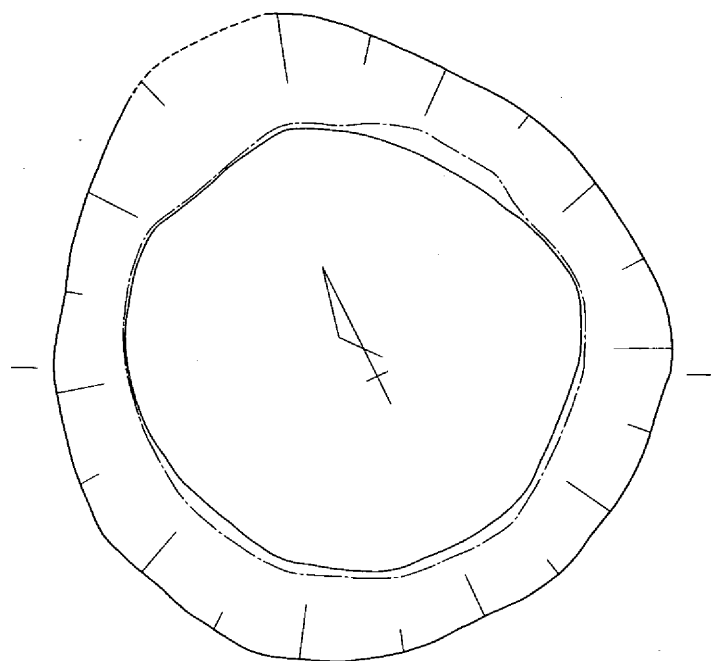
第246図 袋状土壌85 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2)

灰が多量に含まれ、第6層は炭層であった。また、第8層にも焼土や炭粒が含まれるなど、最終的にはゴミ穴として利用されたようである。この土壙の年代は遺物から弥・後・Iと考える。(岡本)

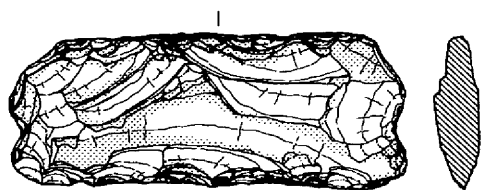
袋状土壙86 (第117・247~249図、図版10・93・94・106)

調査区東端の中央部、Cf504区で検出された。袋状土壙83の北東4.5mに位置し、すぐ東には同規模の土壙151があった。検出面での平面形は卵形で、長径が258cm、短径は240cmを測った。土壙の深さは96cmであった。土壙の下部はフラスコ状の断面を示していたが、土壙の上部は大きくラップ状に

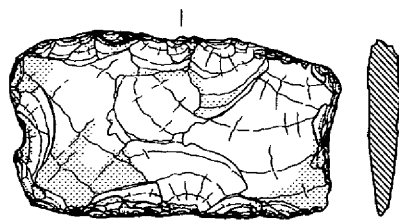
広がっていた。底面は平坦で、平面形は円形を呈し、長径が183cmであった。埋土は細かく分層された。薄い土層が何層も土壙の中央部へ落ち込むように堆積していた。最下層の第11層の下部には灰層が認められ、第8層は焼土層、第5層は炭・焼土・灰層であった。掘削されて間もなく崩落し、ゴミ穴として使用されたものであろう。多量の出土遺物は弥・後・I期のもので、土壙の年代も同期と考える。(岡本)



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭・土器含)
- 2 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭含)
- 4 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土
- 5 炭・焼土・灰層
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 7 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器・炭・灰含)
- 8 焼土層 (塊状)
- 9 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂 ~粘性砂質土 (灰・炭多含)
- 10 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘性砂質土
- 11 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂 ~粘性砂質土 (灰多含)



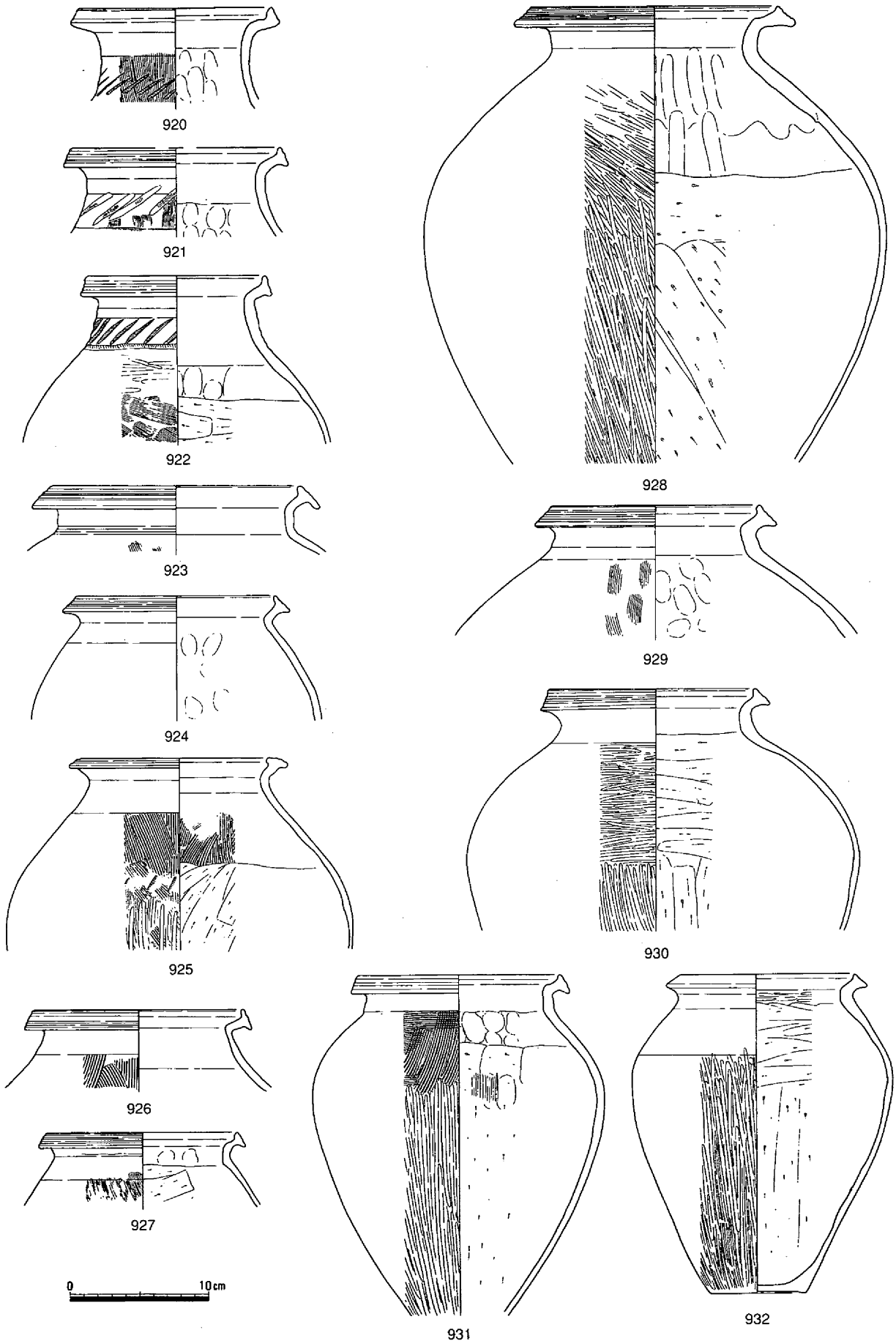
S38



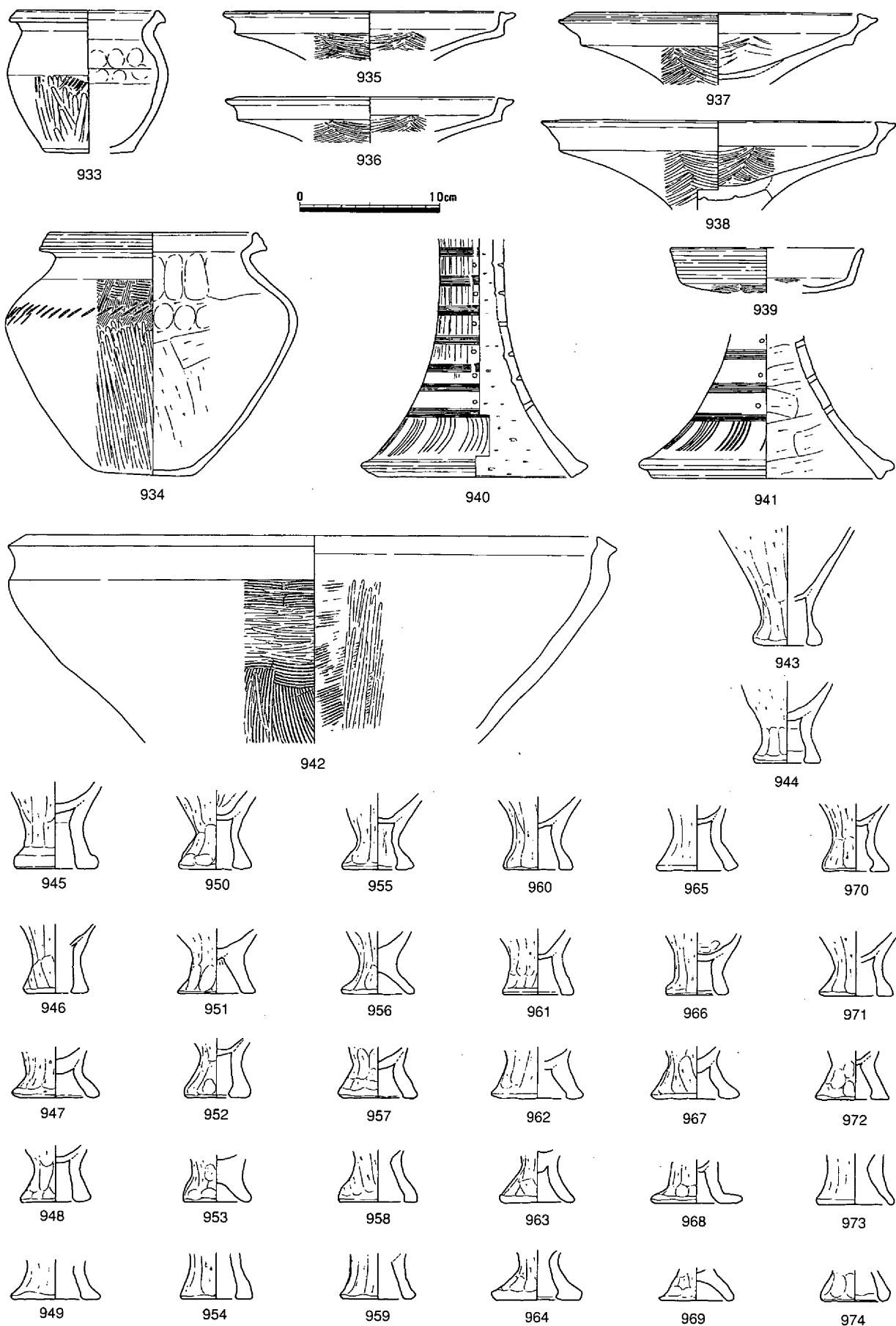
S39



第247図 袋状土壙86 (1/30)・出土遺物① (1/2)



第248図 袋状土壙86出土遺物② (1/4)



第249図 袋状土壙86出土遺物③ (1/4)

## (6) 土壇

**土壇27** (第113・250図、図版94)

Cc4 03区で検出した不整楕円形の土壇である。竪穴住居6に切られている。段を持っており、下幅の形は長楕円形を呈している。規模は、検出面で長さ222cm、幅170cm、深さは72cmを測る。底面の標高は510cmである。遺物は、弥生土器が3層から同じように出土した。975・976は長頸壺で口縁下端に刻み、頸部に沈線文、肩に刺突文を施している。977は首の短い壺である。978は肩部に刺突文を持つ甕、979は全形を知ることのできる甕、980は大形の甕である。981は高杯の杯部、982は脚部である。前二者は同一個体と考えられる。983は台付きの鉢である。

以上の弥生土器から考えて、この土壇の埋まった時期は、弥・後・Iと思われる。遺構の性格、用途については不明である。(浅倉)

**土壇28** (第113・251図)

Cd4 07区に位置し、袋状土壇1に切られた土壇である。平面形は楕円形を呈して、長さが146cm、幅は126cmを測る。また、深さが31cmを測る。

図示しうるほどではないが、弥・後・Ⅲ～Ⅳが出土している。ただし、遺構の切り合い関係からするとこの土壇の時期は弥・後・Iかそれ以前であろう。(弘田)

**土壇29** (第115・252図)

Cc4 08区で、微高地の北端部に位置する。平面形は隅丸方形を呈して、長さが135cm、幅は124cmを測る。底面は床面中央か周囲より低く、壁面は上部に開いて立ち上がり、検出面からの深さが31cmを測る。なお、埋土は上下2層に分けられた。

図示しうるほどではないが、時期は弥・後・Iと思われる。(弘田)

**土壇30** (第115・253図)

調査区の中央部、竪穴住居7の北東約8mに位置する。平面形は約140×185cmの不整楕円形で、深さは約20cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は2層に分離できた。埋土中には炭粒を少量含んでおり、底面には凹凸が認められた。

遺物は土器片が少量出土している。壺984、甕985の口唇部には凹線が施されている。時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

**土壇31** (第115・254図)

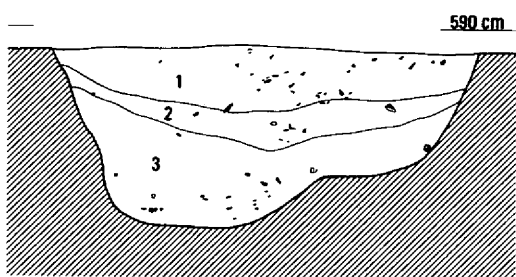
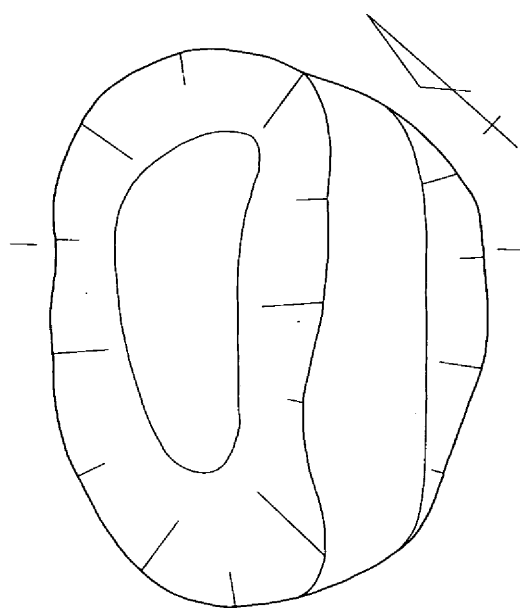
調査区の中央部、土壇30の南東約11mに位置する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約30cm残存していた。断面形は皿形で、底面には凹凸が認められた。埋土は2層に分離したが違いは明確ではなかった。

遺物は土器片が少量出土したのみである。高杯987・988の脚部にはクシガキ沈線紋がかすかに観察できた。また口唇部には凹線が施されている。時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

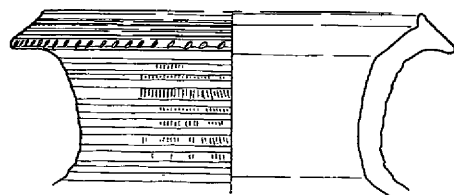
**土壇32** (第115・255図)

調査区の中央部、土壇31の南東約2mに位置する。平面形は約85×190cmの長方形で、深さは約20cm残存していた。断面形は箱形で、壁は垂直にちかく立ち上がっていた。埋土は少量の炭粒を含む淡灰褐色砂質土が1層のみであった。

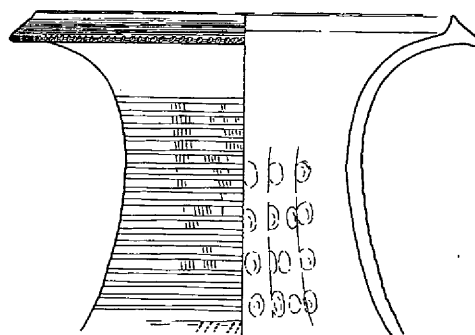
遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えている。(平井)



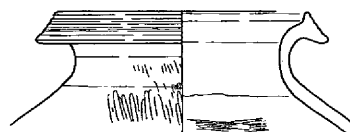
- 1 灰褐色微砂                      3 暗灰褐色微砂  
2 黒灰褐色微砂



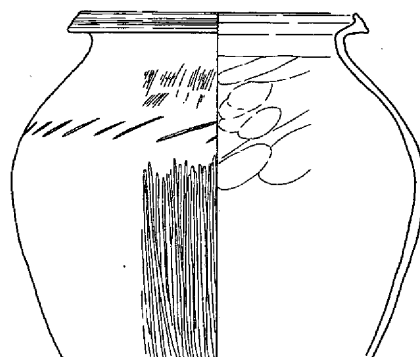
975



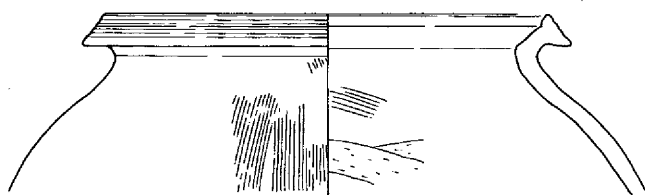
976



977



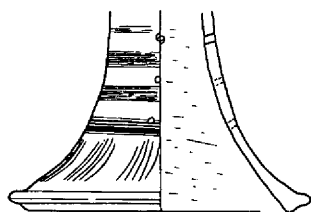
978



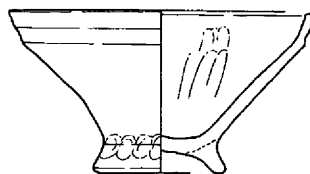
980



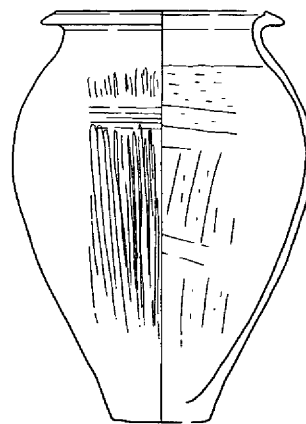
981



982



983



979

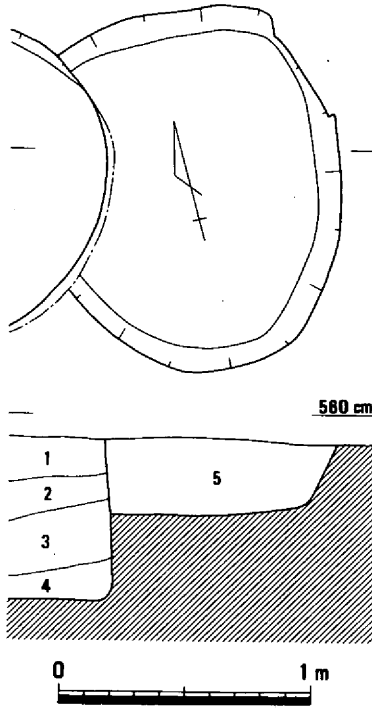


第250図 土壌27 (1/30)・出土遺物 (1/4)



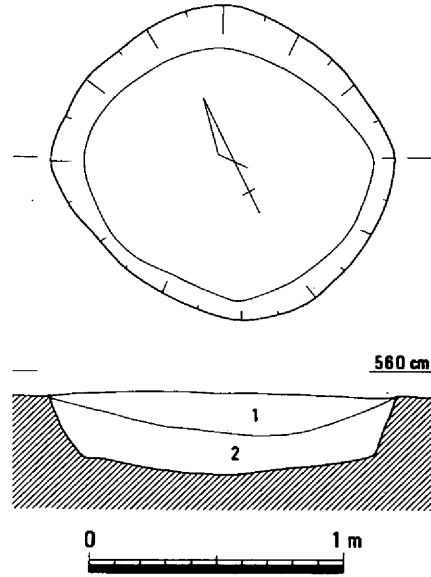
土壙33 (第115・256図)

調査区の中央部、土壙32の南西約4 mに位置する。平面形は約100×110cmの不整楕円形で、深さは約9 cm残存していたのみである。断面形は皿形で、底面には凹凸が認められた。埋土は炭を含む暗灰



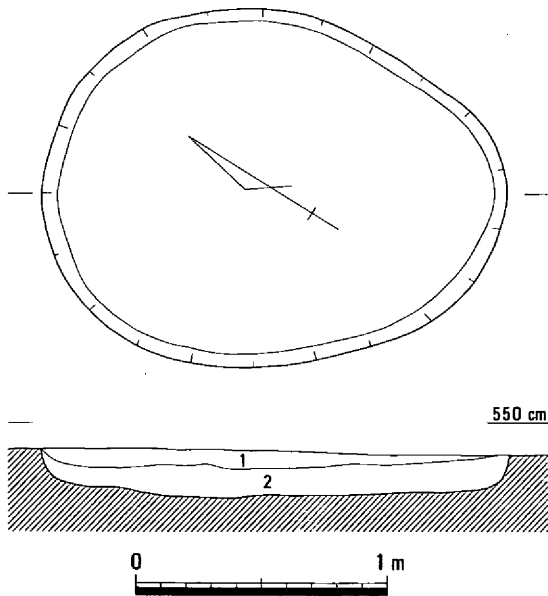
- 1 暗褐色砂質土    3 灰褐色粘質土    5 淡褐色砂質土  
2 淡褐色砂質土    4 淡灰褐色砂質土

第251図 土壙28 (1/30)



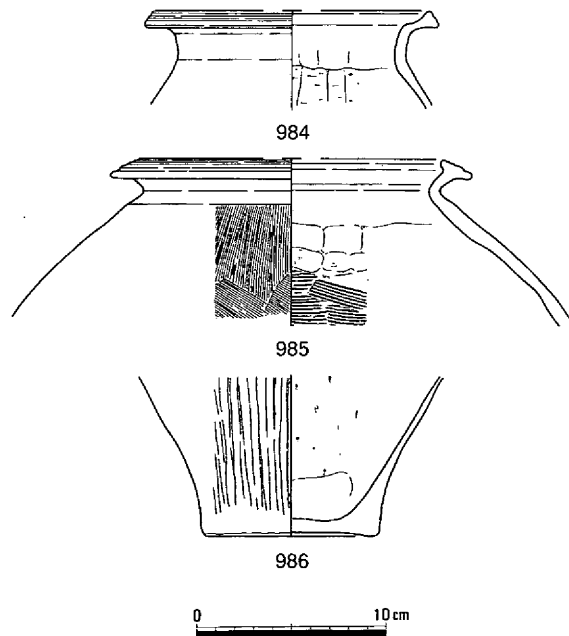
- 1 灰褐色砂質土  
2 褐灰色砂質土

第252図 土壙29 (1/30)



- 1 暗灰色砂質土 (炭粒含)    2 淡灰色細砂 (炭粒含)

第253図 土壙30 (1/30)・出土遺物 (1/4)

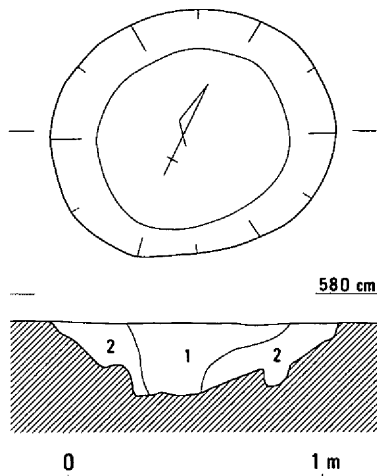


褐色粘質微砂が1層のみであった。

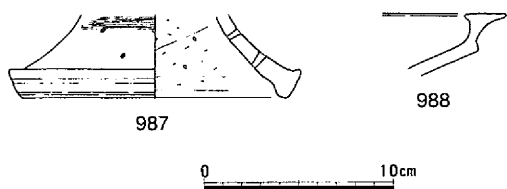
遺物は土器片が少量出土しているのみである。989は鉢で、小規模ながら底部が形成されている。時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えている。(平井)

土壙34 (第115・257図)

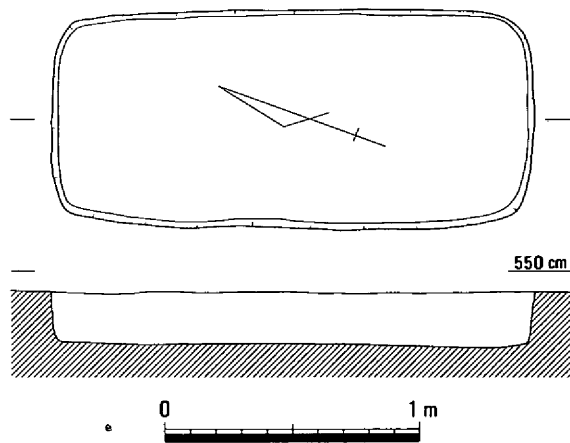
Ce408区に位置する小規模な土壙で、平面形が円形、断面形は箱形を呈する。規模は、長さが76cm、幅は71cmで、深さが31cmを測る。



1 暗灰褐色砂質土 2 黄褐色灰色砂質土



第254図 土壙31 (1/30)・出土遺物 (1/4)



淡灰褐色砂質土 (炭粒含)

第255図 土壙32 (1/30)

この土壙は、遺物の出土はないものの袋状土壙11の調査前にその上部において検出していること、検出面、埋土の色調などから判断して、時期は、弥・後・Ⅰの可能性はある。(弘田)

土壙35 (第115・258図)

Ce409区に位置し、平面形が隅丸方形、断面形は皿状を呈する。規模は、長さが222cm、幅は199cmで、深さが25cmを測る。底面は平坦で焼土面が1か所とその周辺には炭の散布がある。埋土は上下2層に分かれ、上層中および下層との間には焼土塊、炭や土器片を含んでいた。

図示しうる遺物はないが、この土壙の時期は、弥・後・Ⅲ～Ⅳである。(弘田)

土壙36 (第115・259図)

先述した土壙35から南東に2m離れた所に位置する土壙で、平面形が隅丸長方形を呈する。底面は平坦な面をなし、そこから壁面はやや上方に開き気味に立つ。

規模は、長さが118cm、幅は72cmで、深さが26cmを測る。なお、埋土は1層であった。

出土した遺物としては甕の口縁部片990がある。それからみてこの土壙の時期は、弥・後・Ⅰと考えられる。(弘田)

土壙37 (第115・260図)

調査区の中央部、竪穴住居9の北西約2mに位置する。平面形は約65×130cmの隅丸長方形で、深さは約8cm残存していたのみである。断面形は皿形で、埋土は暗灰色砂質土が1層のみであった。遺物は少量の土器片が出土したのみで、時期は弥生時代としか捉えられない。(平井)

土壙38 (第115・261図)

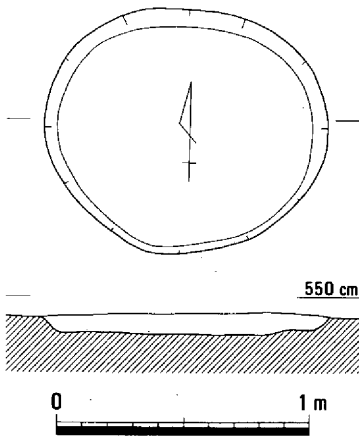
Cd・Ce500区に位置する土壙で、平面形がや

や不整形な隅丸長方形を、断面形は逆台形状を呈する。規模は、長さが111cm、幅は82cmで、検出面からの深さが30cmを測る。

図示しうるほどの遺物はないものの、この土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

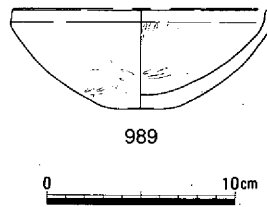
**土壌39** (第115・262図)

調査区の中央部、竪穴住居9の南約1mに位置する。平面形は約100×110cmの楕円形で、深さは約30cm残存していた。断面形は二段になっており、底面はほぼ平らであった。埋土は2層に分離するこ



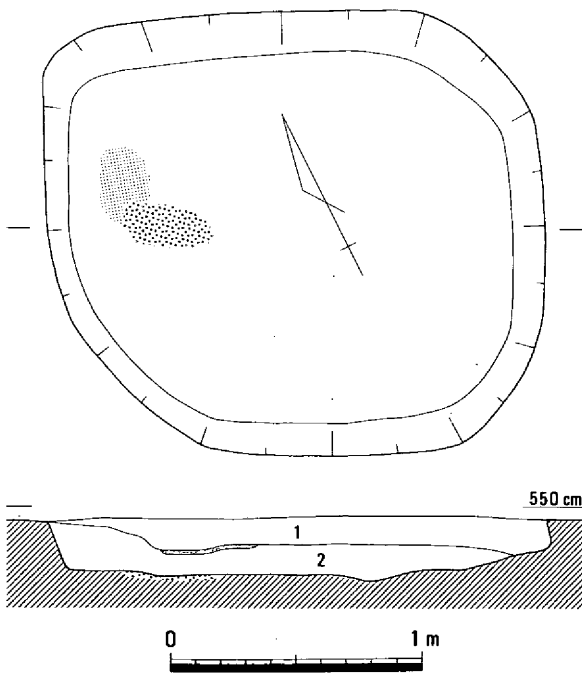
暗灰褐色粘質微砂 (炭含)

第256図 土壌33 (1/30)・出土遺物 (1/4)



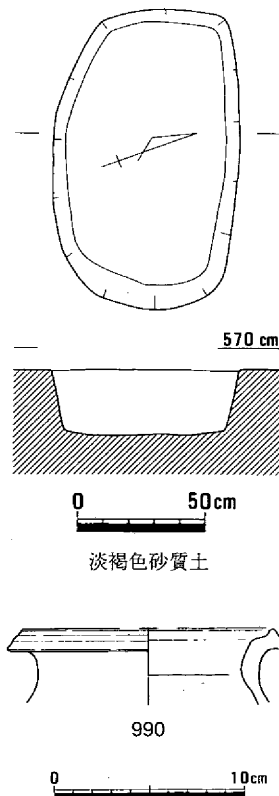
灰黄褐色粘質微砂

第257図 土壌34 (1/30)



1 暗褐色粘質微砂 (炭含) 2 淡黄褐色細砂

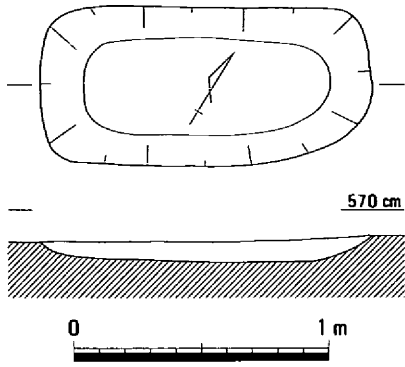
第258図 土壌35 (1/30)



淡褐色砂質土

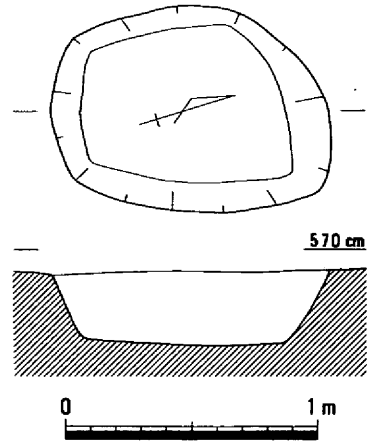
990

第259図 土壌36 (1/30)・出土遺物 (1/4)



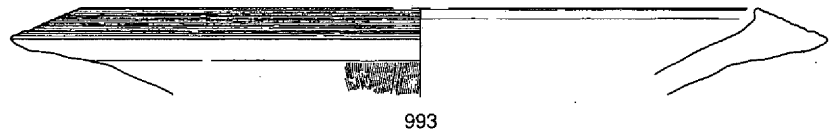
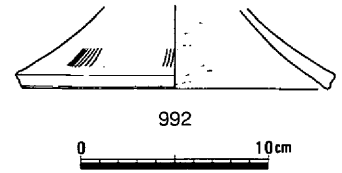
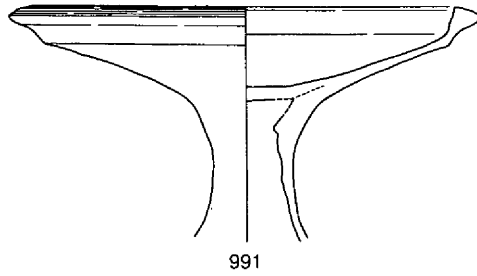
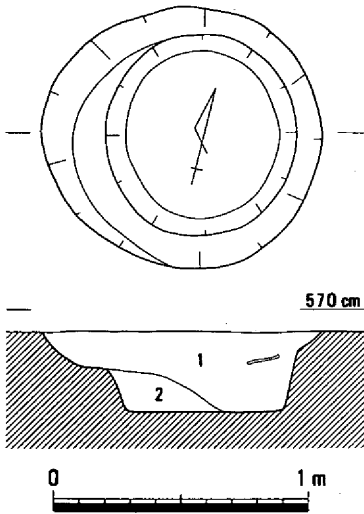
暗灰色砂質土

第260図 土壌37 (1/30)



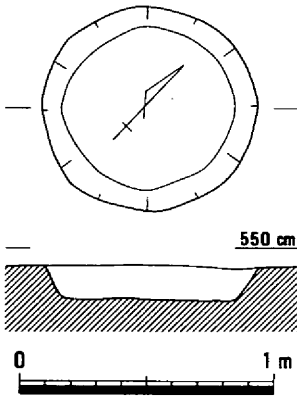
淡褐色砂質土

第261図 土壌38 (1/30)

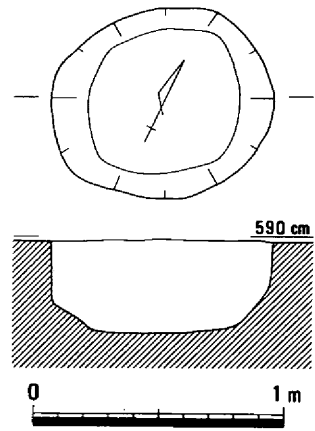
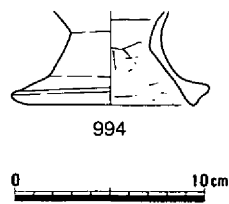


- 1 灰褐色粘質微砂 (炭粒少含)
- 2 灰褐色微砂 (炭粒少含)

第262図 土壌39 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第263図 土壌40 (1/30)・出土遺物 (1/4)



淡褐色砂質土

第264図 土壌41 (1/30)

とができ、炭粒を少量含んでいた。

遺物は土器片が少量出土している。高杯991の口唇部には凹線が施されている。993は器台ではなからうか。時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

#### 土壙40 (第115・263図)

Ce500区の南西隅に位置する小土壙である。平面形が円形を、断面形は皿状を呈する。規模は、長さが86cm、幅は79cmで、深さが13cmを測る。

台付き鉢の脚部片994が出土しており、それからみたこの土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

#### 土壙41 (第115・264図)

Ce500区に位置する土壙である。平面形が楕円形を呈する。断面をみると、平坦な底面から緩やかな傾斜をへたのち、上方へと壁面が垂直に立ち上がる。規模は、長さが88cm、幅は76cmで、深さは検出面から37cmを測る。

図示しうるほどの遺物は出土していないが、この土壙の時期は、弥・後・Iと考えられる。(弘田)

#### 土壙42 (第115・265図、図版94)

Ce500区に位置する土壙で、平面形がやや歪な隅丸長方形を、断面形は浅い皿状を呈する。規模は、長さが129cm、幅は117cmを測るが、検出面からの深さは16cmと浅い。この土壙の中央部においては、底面に接するようにして倒立した状態で完形の大型の鉢995が出土している。これ以外に顕著な出土遺物はなく土壙の性格は不明である。

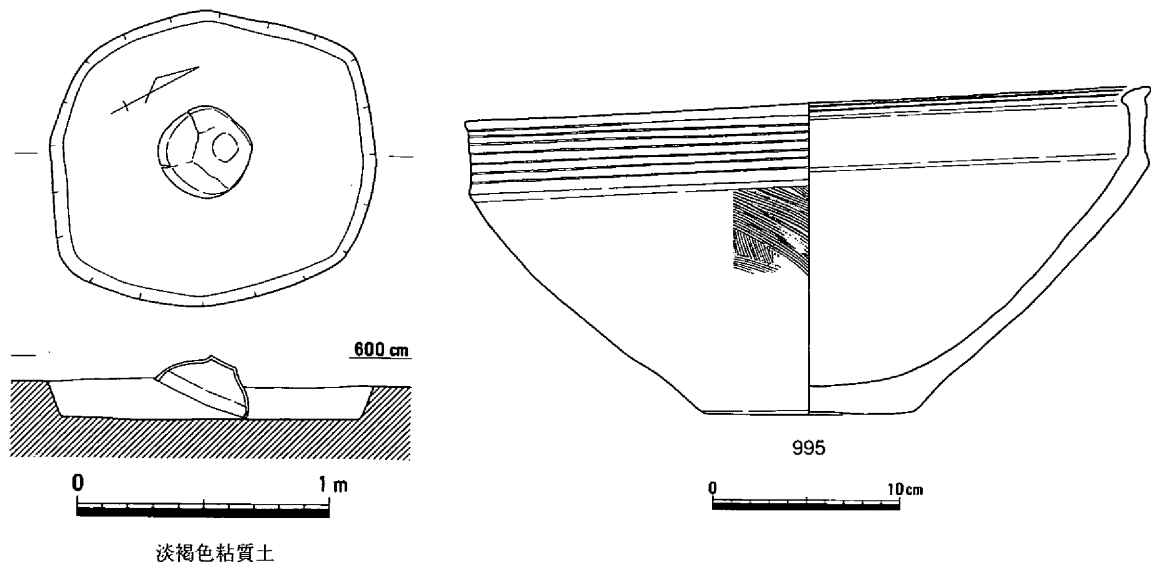
この土壙の時期は、弥・後・Iである。

(弘田)

#### 土壙43 (第115・266図)

Cf500区に位置する土壙で、竪穴住居10の床面直下から検出された。平面形が長方形を呈しており、底面は平坦な面をなし、壁面は垂直に立ち上がる。規模は、長さが125cm、幅は120cmで、深さが36cmを測る。出土した土器類には壺996、甕997・998、脚付き壺999、器台1000がある。埋土はレンズ状に堆積しており、3層に分けられたうちの2層には炭を含んでいた。

位置からみて竪穴住居10にともなう貯蔵穴の可能性はある。出土遺物からみて、この土壙の時期は、



第265図 土壙42 (1/30)・出土遺物 (1/4)

弥・後・Iである。

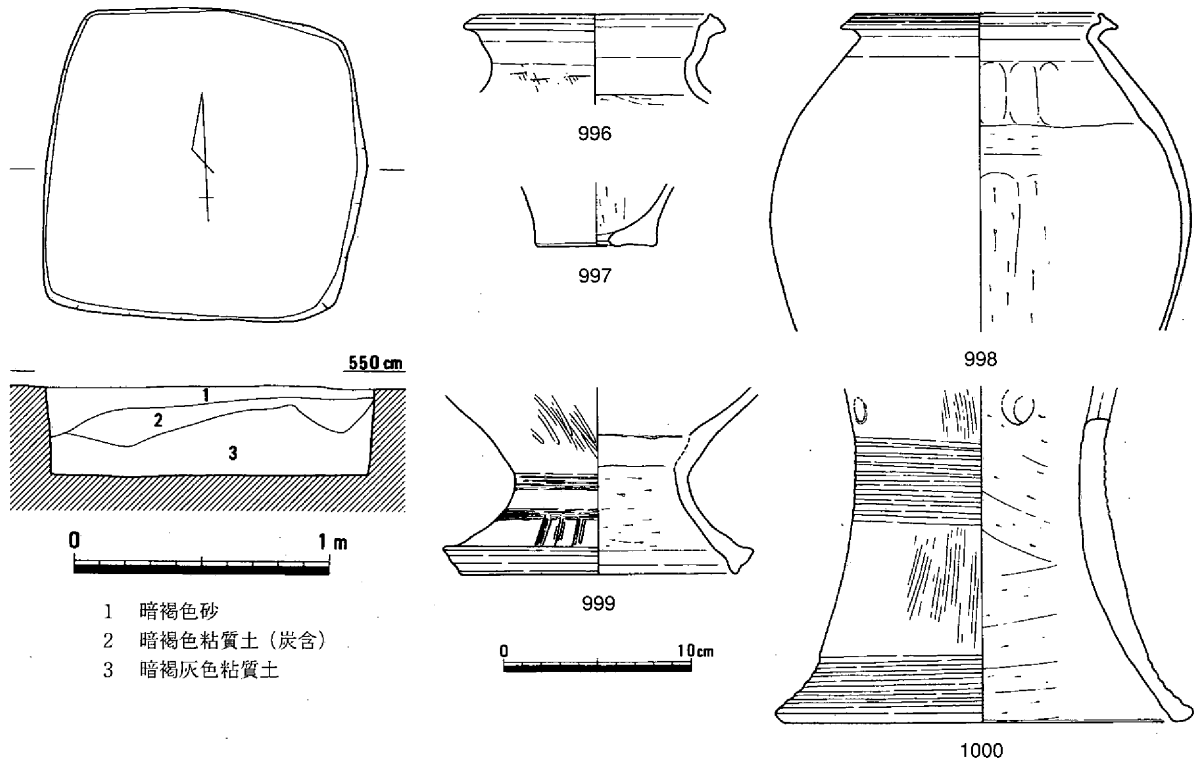
(弘田)

土壙44 (第115・267図)

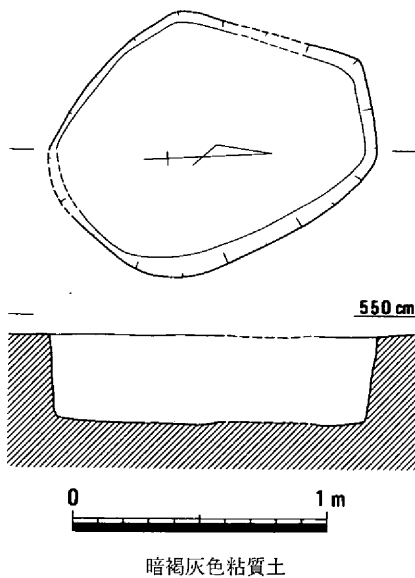
土壙43のすぐ東に接して位置する土壙である。平面形は不定形であるが、断面形は箱形を呈する。規模は、長さが129cm、幅は103cmで、深さが35cmを測る。

この土壙の時期は、弥・後・Iである。

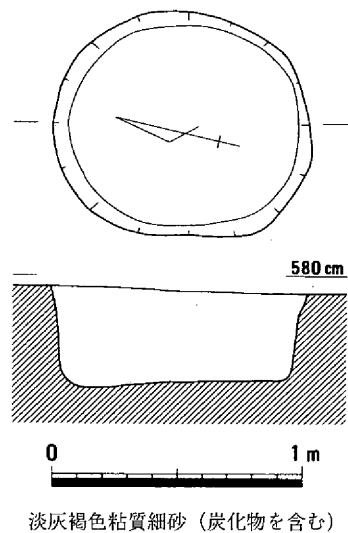
(弘田)



第266図 土壙43 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第267図 土壙44 (1/30)



第268図 土壙45 (1/30)

**土壙45** (第115・268図)

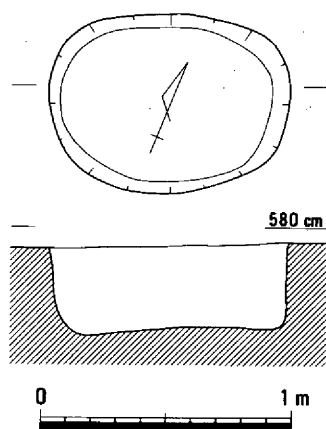
調査区の中央部、竪穴住居10の北東約2 mに位置する。平面形は約90×100cmの楕円形で、深さは約40cm残存していた。壁は垂直に近く立ち上がっており、底面はほぼ平らであった。遺物が出土しなかったため時期は不明確ではあるが、埋土や形状から弥・後・Iと考えている。断面形は袋状を呈していないが、袋状土壙の可能性も考えられる。(平井)

**土壙46** (第115・269図)

調査区の中央部、土壙45の北東約1 mに位置する。断面形は袋状を呈していないが、袋状土壙の可能性も考えられる。平面形は約70×100cmの楕円形で、深さは約30cm残存していた。壁は垂直にちかく立ち上がっており、底面はほぼ平らであった。遺物が出土しなかったため時期は不明確ではあるが、埋土や形状から弥・後・Iと考えている。(平井)

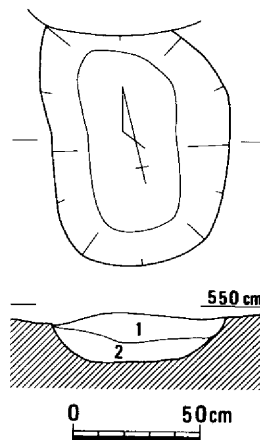
**土壙47** (第115・270図)

調査区の中央部、土壙46の北約14mに位置する。平面形は北端部が袋状土壙37に切られているが、



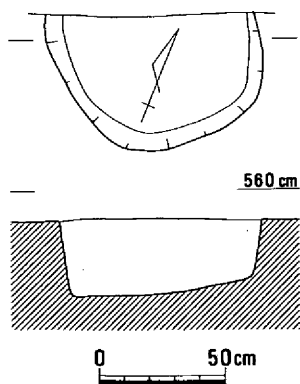
明灰褐色粘質細砂

第269図 土壙46 (1/30)



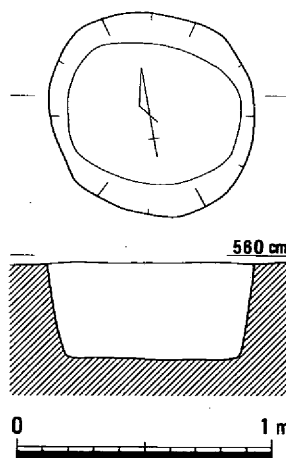
1 灰黄褐色粘質微砂 2 淡黄褐色粘質細砂

第270図 土壙47 (1/30)



淡褐色砂質土

第271図 土壙48 (1/30)



暗褐色砂質土

第272図 土壙49 (1/30)

約70×100cmの長楕円形を呈していたものと考えられる。断面形は皿形で、埋土は2層に分離することができた。

遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

**土壙48** (第115・271図)

Ce500区にあり、竪穴住居9の南東3mに位置する土壙である。平面形が楕円形を、断面形は歪な逆台形を呈する。北半部が削平されているが、規模は、長さが85cm、幅は58cm以上で、深さが30cmを測る。

図示し得ていないが出土遺物からみて、この土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

**土壙49** (第115・272図)

Ce500区にあり、さきの土壙48の南に接する土壙で、平面形が隅丸長方形を呈する。断面をみると、底面は平坦な面をなし、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。規模は、長さが81cm、幅は60cmで、深さが21cmを測る。

図示しうるほどの遺物はみられないものの、この土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

**土壙50** (第115・273図)

Ce500区に位置し、平面形が隅丸長方形、断面形は逆台形状を呈する。規模は、長さが96cm、幅は73cmで、深さが26cmを測る。

顕著な遺物はみられなかったが、この土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

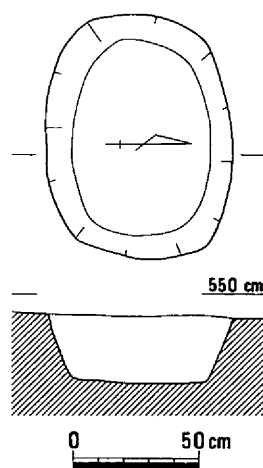
**土壙51** (第115・274図)

調査区の中央部、掘立柱建物11の南東約3mに位置する。平面形は直径約80cmの円形で、深さは最深部で約30cm残存していた。断面形は不整形で、埋土は暗褐灰色粘質土と黄褐灰色砂質土とによって2層に分離することができた。

遺物は少量の土器片が出土したのみで、時期は弥・後・IVと考えている。(平井)

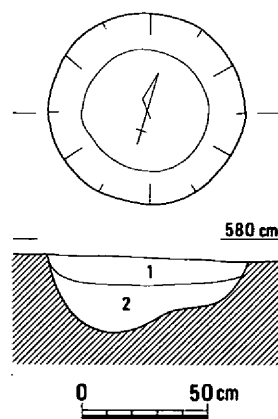
**土壙52** (第115・275図)

Ce500区に位置し、平面形が長楕円形で、断面形は逆台形を呈する。規模は、長さが92cm、幅は56cmで、深さが36cmを測る。



淡褐色粘質土

第273図 土壙50 (1/30)



1 暗褐灰色粘質土 2 黄褐灰色砂質土

第274図 土壙51 (1/30)



出土した遺物からみて、この土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。

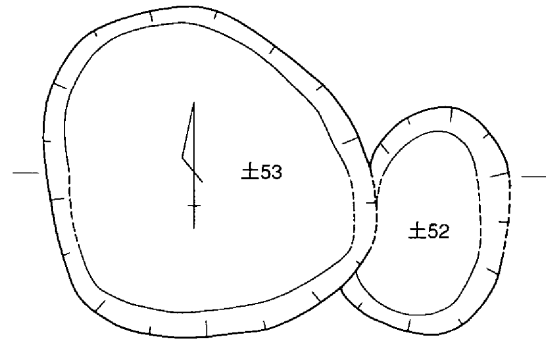
(弘田)

**土壇53** (第115・275図)

さきの土壇52を切っており、その西側に位置する。平面形は不整円形を呈しており、規模は、長さが134cm、幅は125cmを測る。また、底面は平坦な面をなし、壁面は上方にわずかに開くように立ち上がって、検出面からの深さが65cmを測る。なお埋土は、水平に堆積しており、3層に分けられた。

図示しうるほどの遺物はみられないものの、この土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。

(弘田)

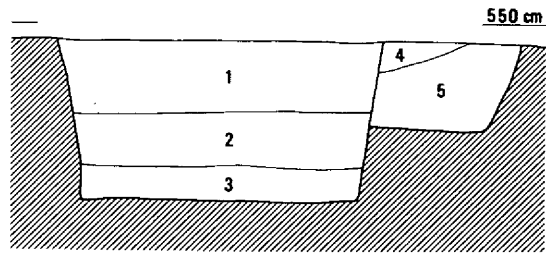


**土壇54** (第115・276図)

Ce501区に位置する土壇で、平面形が不整楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、長さが81cm、幅は79cmで、深さが38cmを測る。埋土は1層のみであった。

図示しうる遺物はないが、時期は、弥・後・Iと考えられる。

(弘田)



**土壇55** (第115・277図)

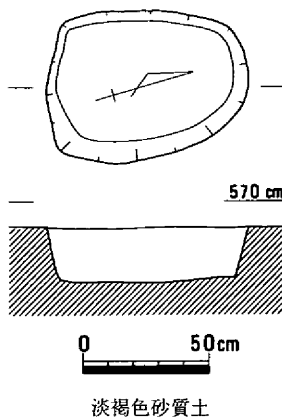
Ce501区に位置する土壇で、平面形が長方形を呈する。底面は平坦な面をなし、壁面は上方に開いて立つ。規模は、長さが209cm、幅は133cmで、深さが26cmを測る。

この土壇の時期は、弥・後・Iと考えられる。

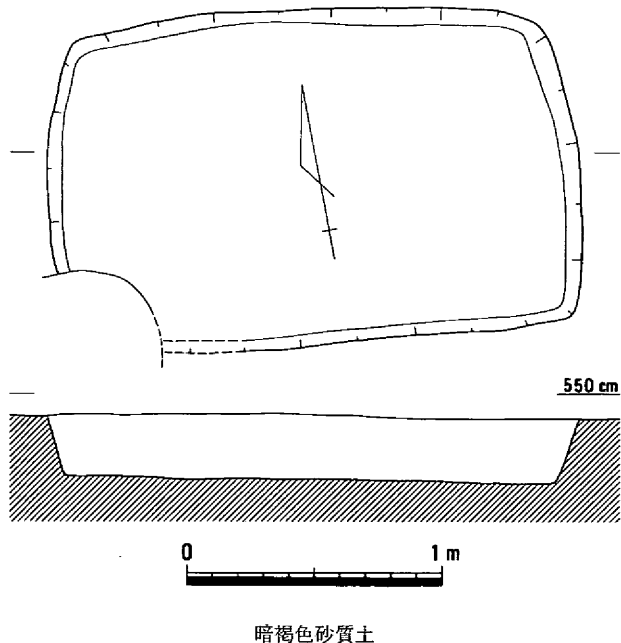
(弘田)

- 0 1 m
- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1 暗褐色砂質土 | 3 暗黄褐色粘土 | 5 灰褐色粘質土 |
| 2 淡褐色粘質土 | 4 暗褐色砂質土 |          |

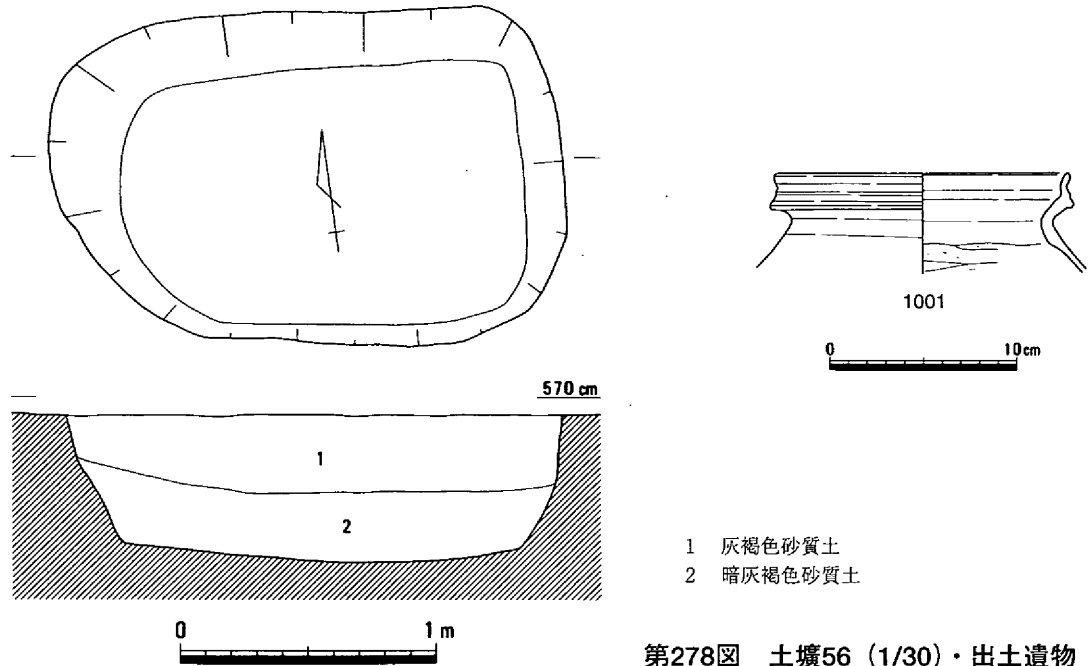
第275図 土壇52・53 (1/30)



第276図 土壇54 (1/30)



第277図 土壇55 (1/30)



第278図 土壙56 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙56 (第115・278図)

Ce 500区に位置し、土壙55を切って掘られた土壙である。平面形が隅丸長方形を呈する。断面をみると、底面から上方へといったん緩やかに開いたのち垂直に近く立ち上がる。規模は、長さが200cm、幅は128cmで、深さが58cmを測る。埋土は水平に堆積しており、上下2層に分けられた。

出土遺物としては、甕1001がある。これらからみてこの土壙の時期は、弥・後・Ⅲ～Ⅳである。方形土壙と同じ時期であり、上面が崩落した方形土壙かもしれない。(弘田)

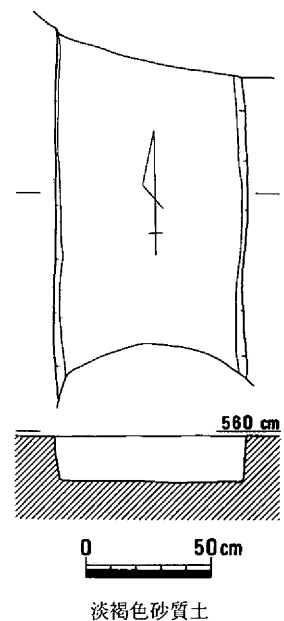
土壙57 (第115・279図)

Ce 500区に位置する土壙で、平面形は南北に細長い長方形を、断面は箱形を呈し、その両端は土壙56と袋状土壙43によって切られていた。残存部での規模は、長さが134cm以上、幅は77cmで、深さが18cmを測る。

この土壙の時期は、弥・後・Ⅰである。(弘田)

土壙58 (第115・280図)

調査区の中央部、Cd 500区で検出された。掘立柱建物11の中央にあって、竪穴住居9からは約1m東に位置していた。土壙の平面形は楕円形を呈し、長径が159cm、短径は129cmを測った。土壙の断面形は楕形であったが、底部が土壙の中心よりは北に片寄り、南側に段が認められた。土壙の深さは62cmで、段の肩は底から29cmの高さにあった。埋土は5層に分けられ、順次堆積したものとみられる。第5層は土壙の底部を埋め、第4層は段から上部の下半に堆積していた。第1層から第3層まではよく類似していたが、遺物の有無から分層した。第1層には土器片が集中し、炭粒や灰も多く含まれて

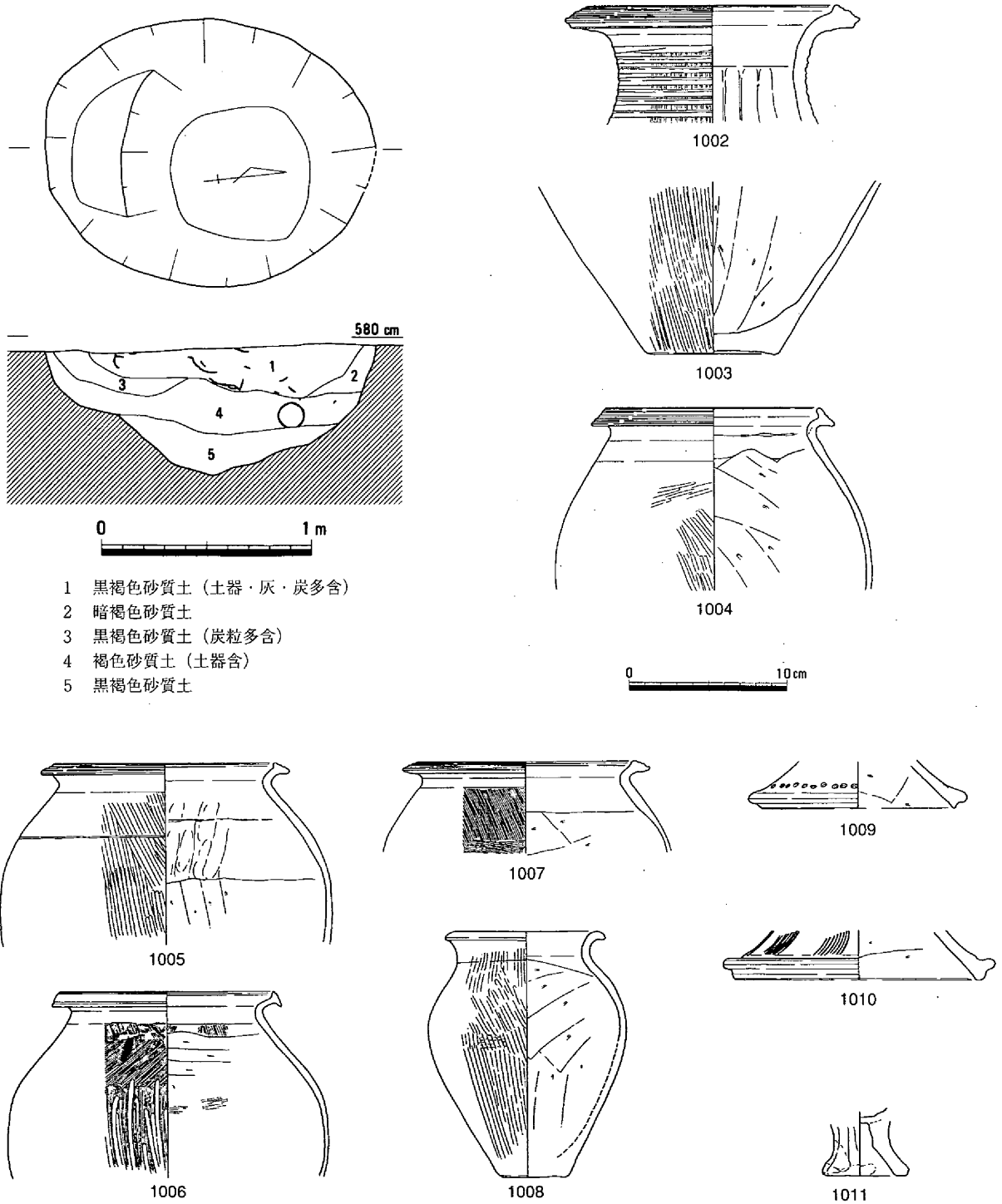


第279図 土壙57 (1/30)

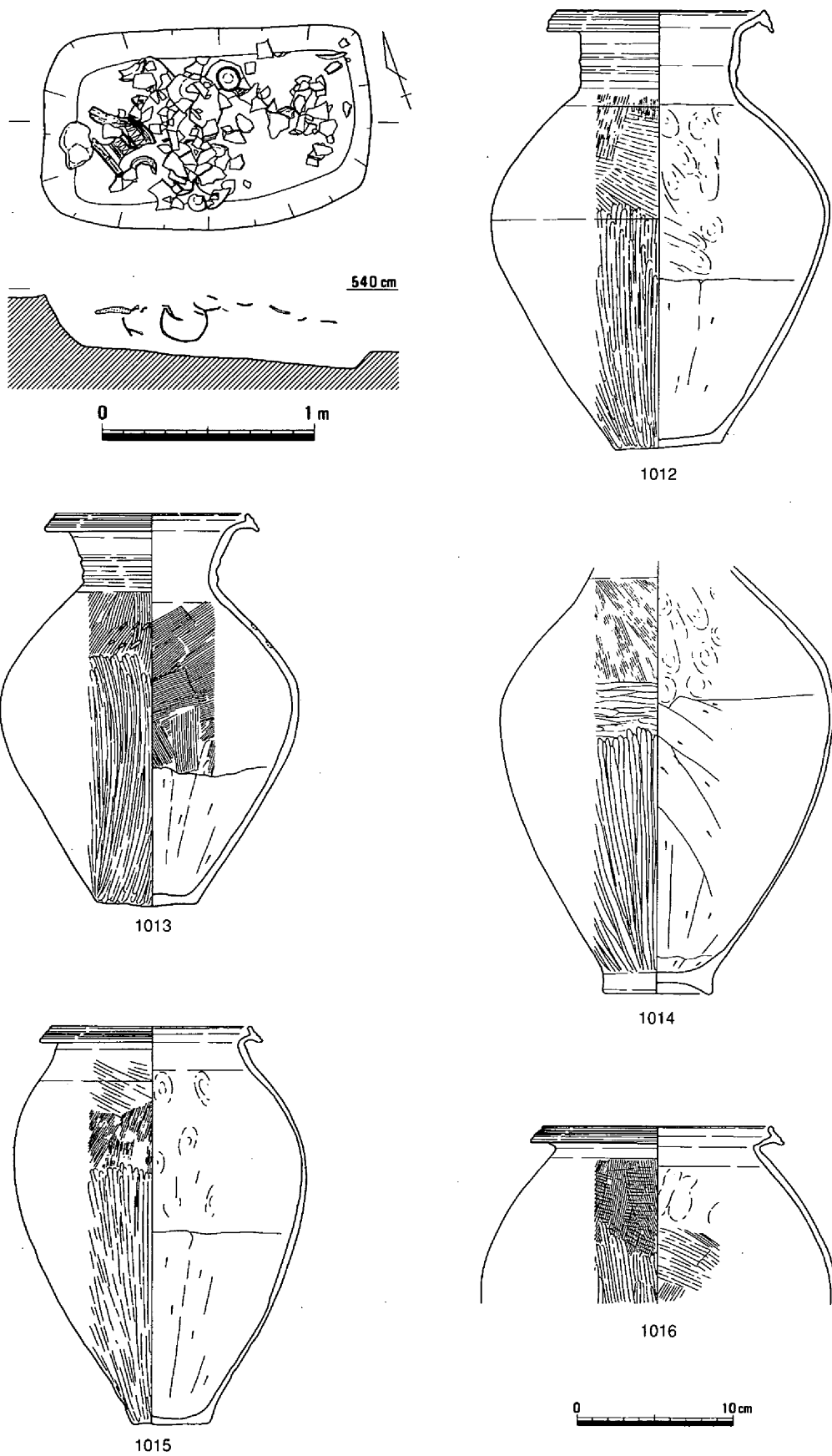
いた。この土壙は最後にはゴミ穴として利用されたものとみられる。出土した土器は弥・後・I期のものであるが、胴部内面のヘラケズリが頸部に達するIの終末のものも認められた。(岡本)

土壙59 (第115・281・282図、図版11)

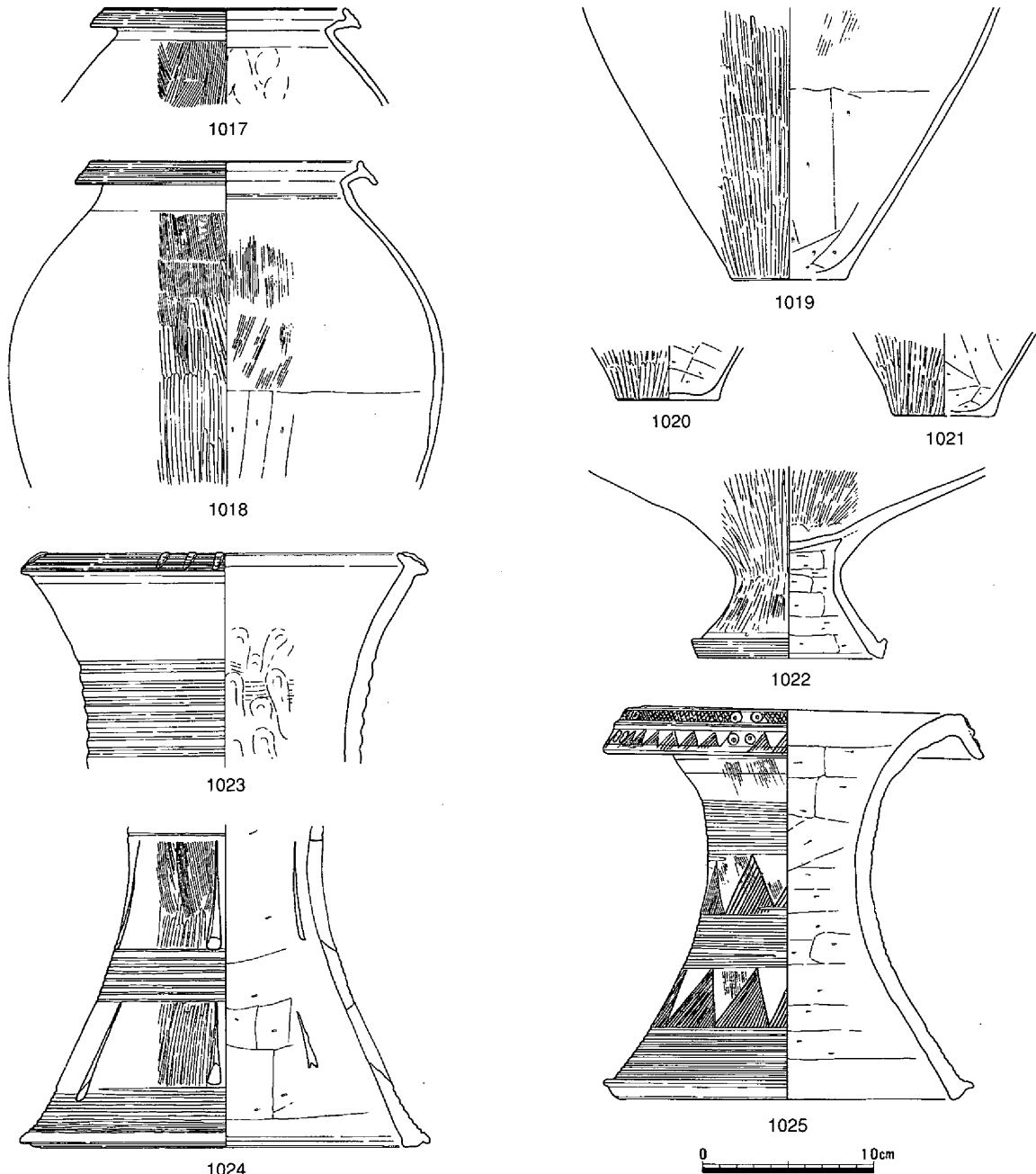
調査区の中央付近北部で検出された。掘立柱建物11と12の間にあった。土壙の平面形は長方形を呈し、四隅は丸みをもち、南辺もやや湾曲していた。土壙の長軸はほぼ東西方向を示していた。土壙の規模は長軸が155cm、短軸は97cmで、深さは34cmを測った。土壙の壁は傾斜面をなすため、土壙の断



第280図 土壙58 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第281図 土壙59 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第282図 土壙59出土遺物② (1/4)

面形は逆台形を呈していた。土壙の底面は平坦で、検出面での平面形と相似形で、長軸が131cm、短軸は70cmであった。土壙内からは大量の土器片が出土した。土器片の多くは大形の破片で、図上で完形になるものも数点みられた。破損して使用できなくなった土器を一括して投棄したような状況を示していた。埋土は1層で、土器片のほとんどは土壙の底面から遊離した状態にあった。

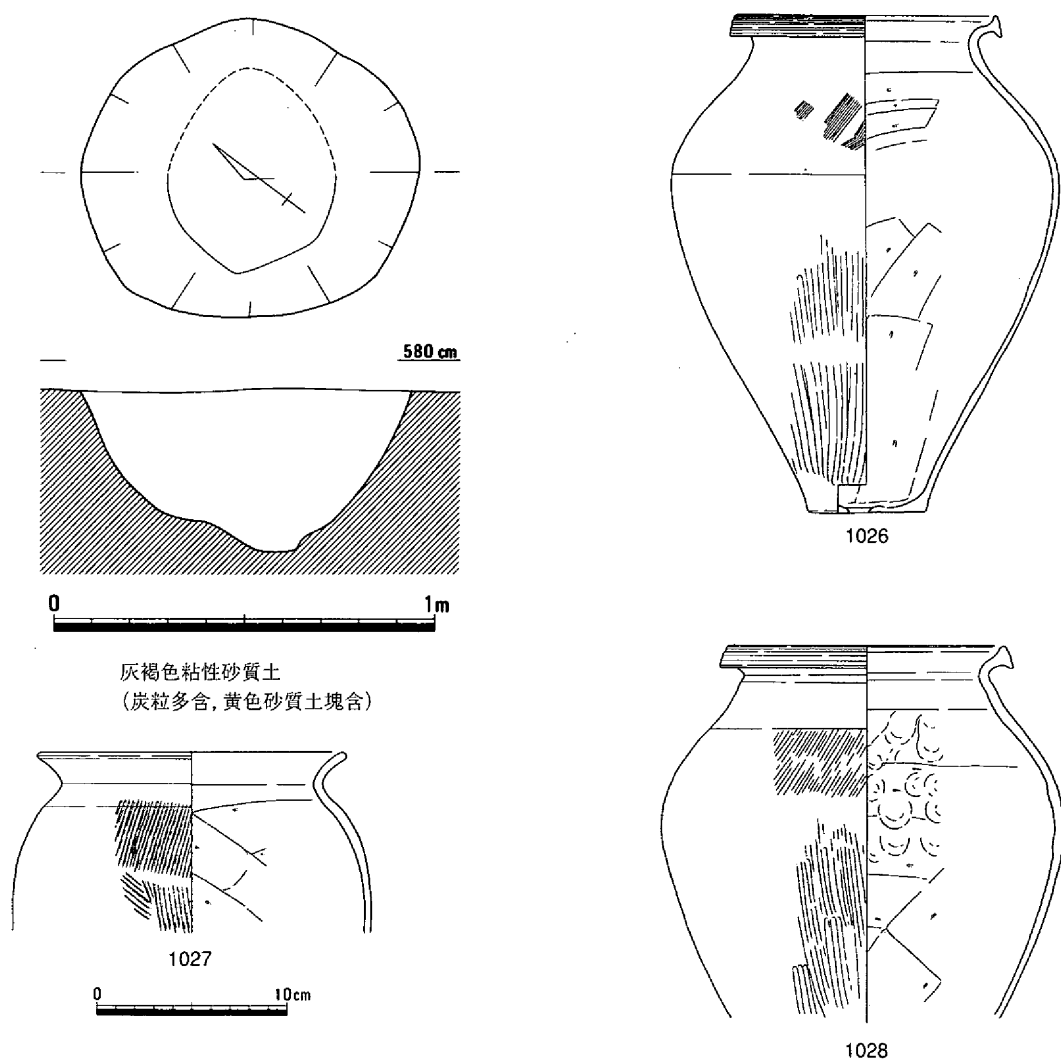
1012・1013の壺は頸部に凹線文を巡らせ、拡張された口縁端面も凹線で飾る。胴部外面の肩部はハケ調整で、それ以下はヘラミガキを施す。胴部内面は下半をヘラケズリするが、最大腹径部分より下方で止まり、それより上方はハケ、あるいはナデ調整である。1015・1018の甕の胴部の調整も同様である。1024・1025の器台は三段の凹線文帯を飾り、その間に三角形の透かし孔、あるいは複線鋸歯文を巡らせている。これらの土器は弥・中・Ⅲ期のもので、良好な一括資料と考える。(岡本)

土壙60 (第117・283図)

調査区の中央付近北部で検出された。Ce501区に位置し、竪穴住居12から2.5m西にあたる。袋状土壙53と重複していて、それよりも新しい。平面形は不整形な円形を呈し、長径が89cm、短径は78cmで、土壙の深さは44cmを測った。土壙の壁は緩やかに湾曲し、土壙の断面形は椀形を呈していたが、底部が一段落ち込んでいた。埋土は灰褐色粘性砂質土の1層で、黄色砂質土の小塊を含み、炭粒が多量に含まれていた。図示した出土土器のうち、土壙の年代を示すものは1027の甕とみられる。「く」の字状に外反する口縁部の先端は丸くおさめられている。弥・後・IVから古・前・Iにかけてのものと考えられる。1026・1028の甕は弥・後・Iのもので袋状土壙からの混入品とみられる。(岡本)

土壙61 (第117・284図)

土壙60の1.3m東にあり、同じCe501区に位置していた。竪穴住居12とは重複し、土壙61が古い。平面形は楕円形で、長径が213cm、短径は150cmを測り、土壙の深さは46cmであった。土壙の壁は湾曲する部分もあるものの、かなりの急傾斜で、広い底面をもつことから、土壙の断面形は箱形に近い。ただ、底面は平坦ではなく、かなりの凹凸があった。埋土は2層で、第1層の底面も凹凸が激しく、



第283図 土壙60 (1/30)・出土遺物 (1/4)

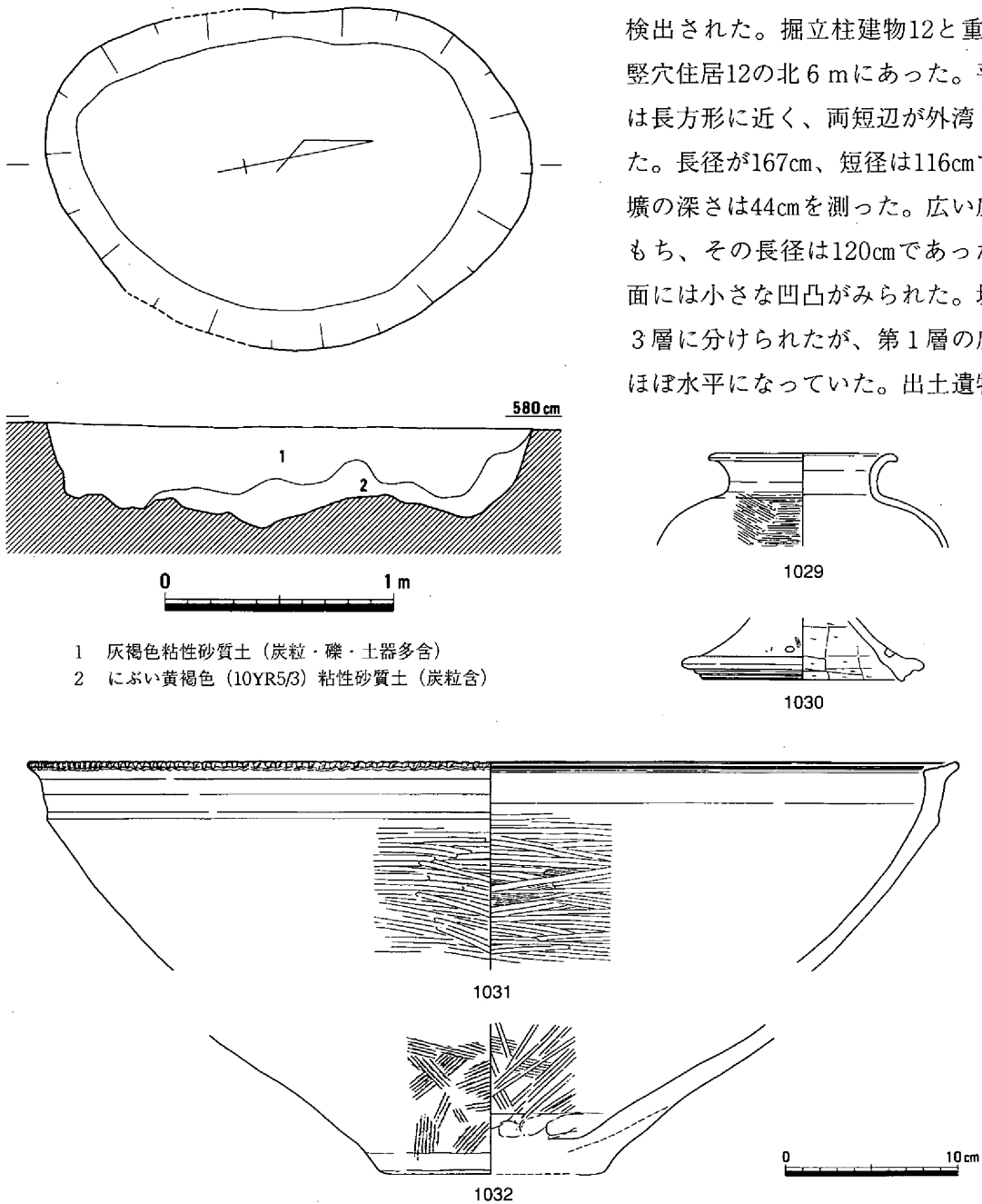
両層の堆積時間差はあまり考えられない。出土遺物から弥・後・Iの土壌と考える。 (岡本)

**土壌62** (第117・285図)

土壌60から3m南、袋状土壌54の南西に接するように検出された。Ce501区に位置し、土壌の南端は調査区の側溝によって破壊した。平面形は不整形な楕円形を呈するようで、検出部分の長径が188cm、土壌の深さは28cmを測った。底面は狭くて南へ傾斜し、土壌の断面形は皿形を呈していた。埋土は1層であった。出土土器の1033は高杯で、1034は鉢である。ともに口縁部を屈折させて立ち上げ、口縁端部を拡張して端面を作り出している。弥・後・Iのものである。 (岡本)

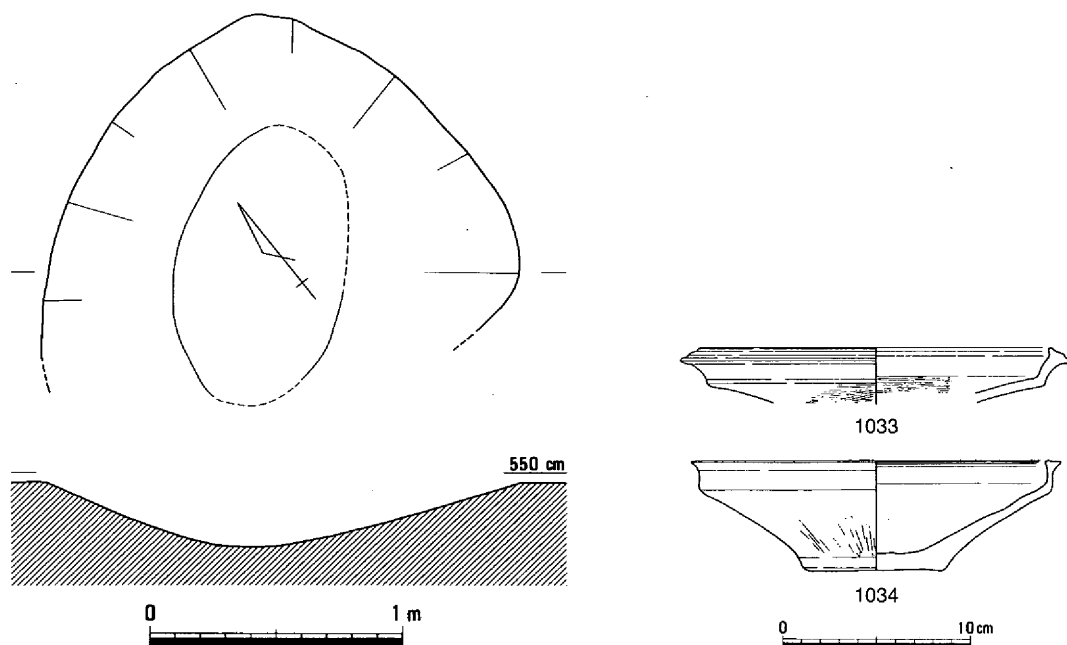
**土壌63** (第117・286図)

調査区の中央付近北部、Cd502区で検出された。掘立柱建物12と重複し、竪穴住居12の北6mにあった。平面形は長方形に近く、両短辺が外湾していた。長径が167cm、短径は116cmで、土壌の深さは44cmを測った。広い底面をもち、その長径は120cmであった。底面には小さな凹凸がみられた。埋土は3層に分けられたが、第1層の底面はほぼ水平になっていた。出土遺物は小



- 1 灰褐色粘性砂質土 (炭粒・礫・土器多含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土 (炭粒含)

第284図 土壌61 (1/30)・出土遺物 (1/4)

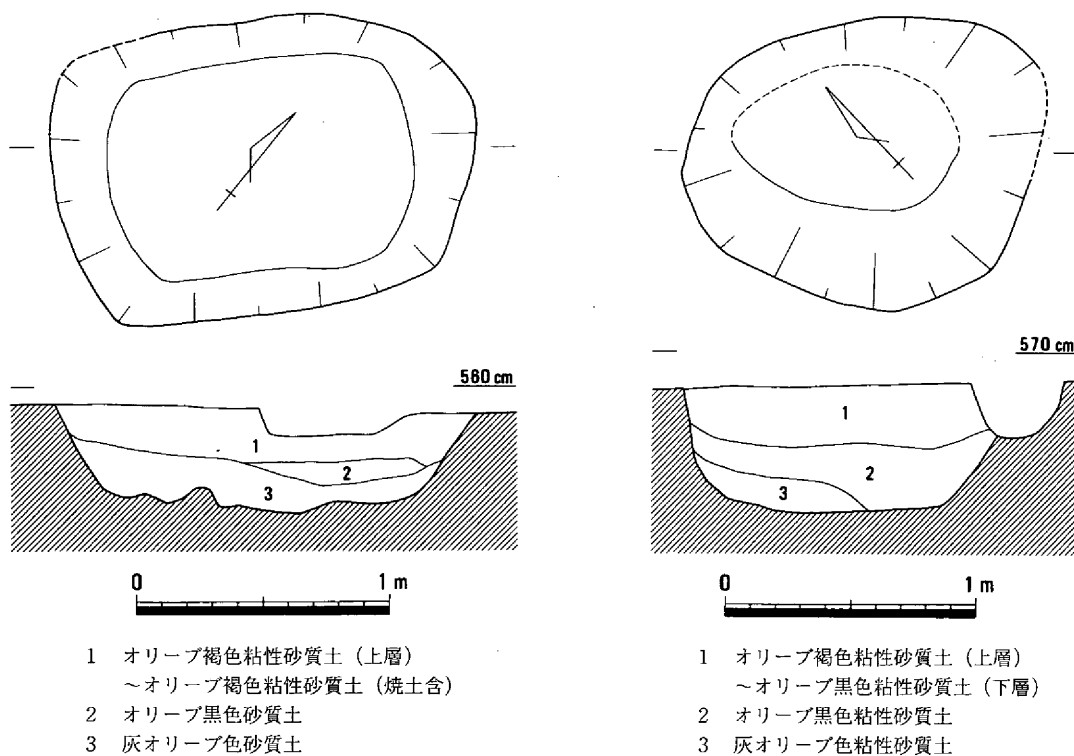


第285図 土壙62 (1/30)・出土遺物 (1/4)

片で、図示できるものはなかったが、その年代から土壙63は弥・後・Ⅳと考えられる。 (岡本)

土壙64 (第117・287図)

Cd502区に位置していた。土壙63から2.5m南東にあり、土壙66と重複していた。土壙66よりは新しい。土壙の平面形は不整形な楕円形で、長径が149cm、短径は116cmを測った。土壙の深さは52cmで



- 1 オリーブ褐色粘性砂質土 (上層)  
～オリーブ褐色粘性砂質土 (焼土含)
- 2 オリーブ黒色砂質土
- 3 灰オリーブ色砂質土

第286図 土壙63 (1/30)

- 1 オリーブ褐色粘性砂質土 (上層)  
～オリーブ黒色粘性砂質土 (下層)
- 2 オリーブ黒色粘性砂質土
- 3 灰オリーブ色粘性砂質土

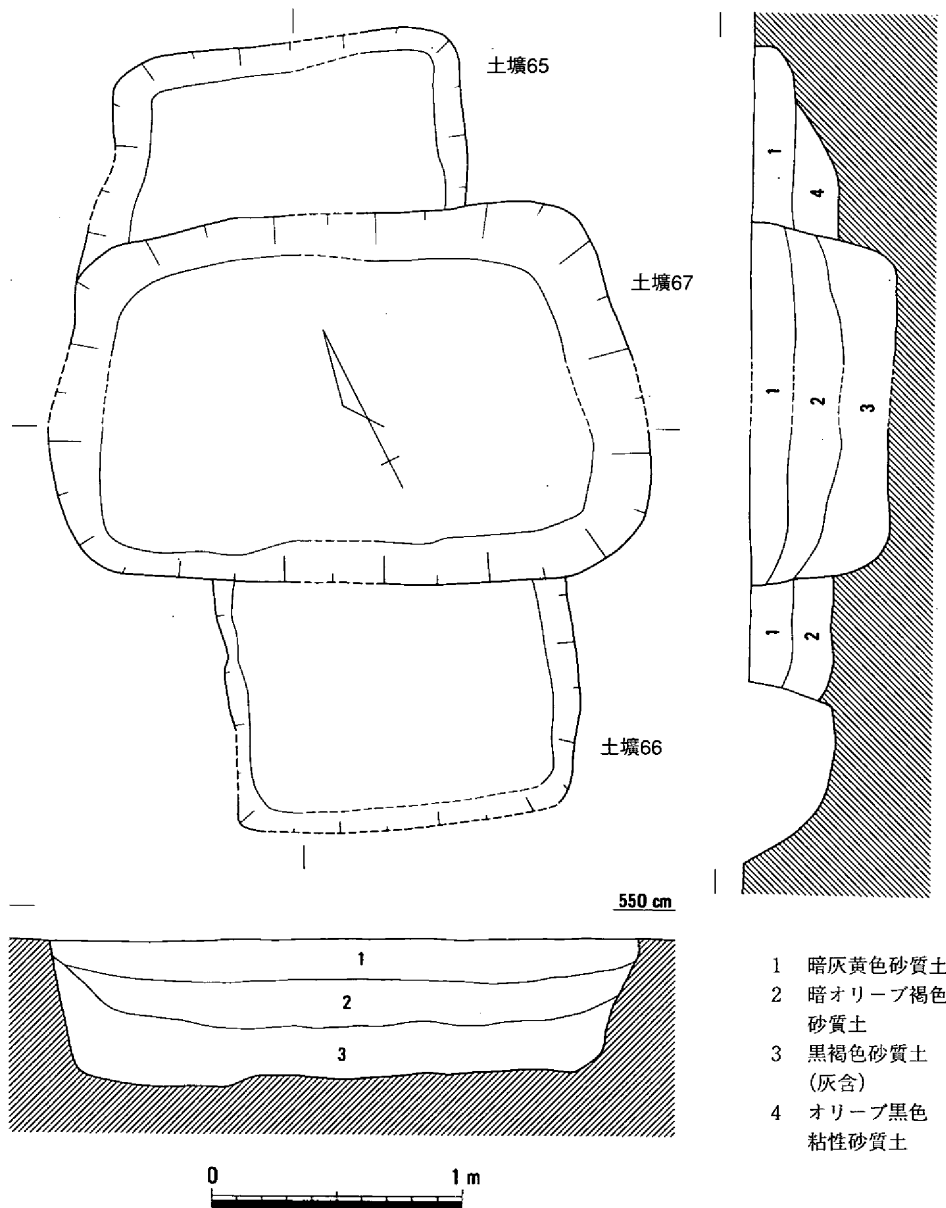
第287図 土壙64 (1/30)



あった。壁の傾斜は急で、あまり湾曲はみられず、土壙の断面形は逆台形に近かった。埋土は3層に分けられたが、西側からしだいに埋まっていったものと考えられる。第1層の底面は水平に近くなっていた。埋土には炭粒や焼土など顕著には認められなかった。土器片がわずかに包含されていたが、小片で弥生時代後期頃のものとしか判断できない。弥生時代後期の土壙であろう。(岡本)

**土壙65** (第117・288図)

Cd502区、土壙63の東1.5mで3基の方形の土壙が重複して検出された。中央に東西方向の長軸をもつ土壙67があり、これに破壊された状態で北に土壙65、南に土壙66が存在した。土壙65は残存部分が長方形を呈し、東西最大幅が151cm、南北の残存長が64cmで、土壙の深さは35cmを測った。埋土は2層で、ほぼ水平に堆積していたが、下層は地山の微高地基盤層とよく類似していた。出土遺物はなかったが、土壙67が弥・後・IVのため、それに近接した年代が推定される。(岡本)



第288図 土壙65～67 (1/30)

**土壙66** (第117・288図)

土壙67に破壊された状態でその南側に検出された。土壙64とも重複していた。平面形は長方形を呈し、東西幅が141cm、南北方向の残存長が100cmを測った。土壙の深さは33cmであった。壁の傾斜は急で、断面形は逆台形を呈していた。底面は平坦で広く、東西幅は121cmを測った。埋土は2層で、水平な堆積状況を示していた。土壙65と一連で一つの土壙の可能性もあるが、土壙67を境にわずかに食い違うようで、規模も長大すぎるようである。土壙65と近接した年代が考えられる。(岡本)

**土壙67** (第117・288図)

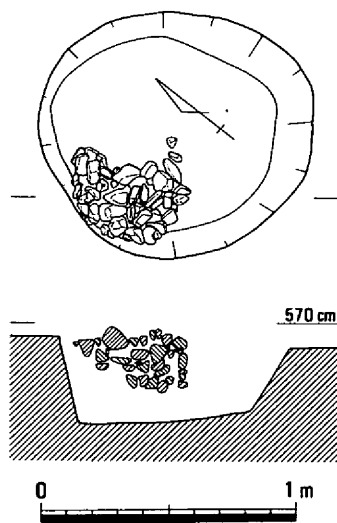
土壙65・66を破壊してその間に位置していた。土壙の平面形は不整形な長方形を呈し、四隅は丸みをもっていた。長軸方向の長さが237cm、幅は146cmで、土壙の深さは60cmを測った。土壙の壁の傾斜は急で、底面が平坦なため、土壙の断面形は箱形に近かった。底面は広く、長軸が196cm、幅が116cmであった。埋土は3層で順序よい堆積を示し、中央部分が厚くなっていた。第3層の底面では薄い灰の堆積が認められた。出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。小片で年代の特定は困難であったが、弥・後・IVかとみられるものがあり、土壙の年代もその時期かと推定される。(岡本)

**土壙68** (第117・289図)

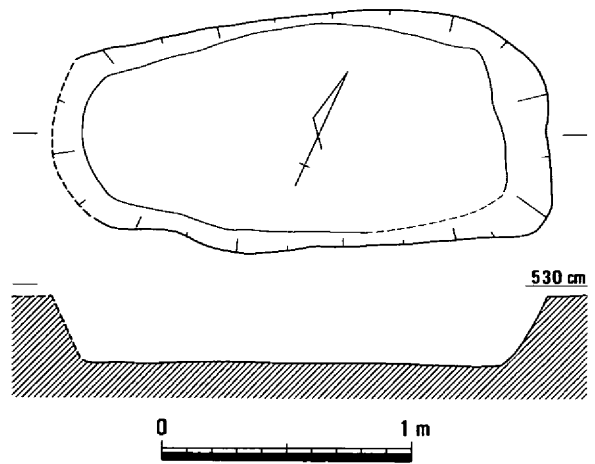
Cd502区で検出された。土壙66から南東3mに位置し、竪穴住居11と重複していた。竪穴住居11よりは新しいと考えられる。土壙の平面形は不整形な円形で、長径が108cm、短径は98cm、土壙の深さは34cmを測った。壁の傾斜は急で、広く平坦な底面をもっていたため、土壙の断面形は逆台形を呈していた。土壙の西側に石の集積が認められた。長径5~10cm程度の小石が30×45cmの範囲に集中し、25cmの厚さで堆積していた。集積の下端は土壙の縁から中心に向かって弧を描くように深くなっている。埋土が土壙の下半に堆積した段階で充填されたものと考えられる。柱穴の可能性はある。(岡本)

**土壙69** (第117・290図)

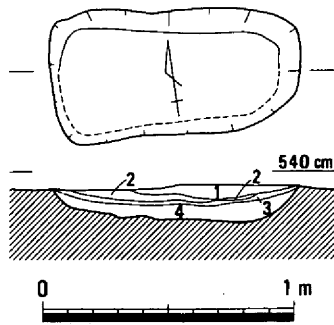
Cd502区で、土壙68の1.5m南西に位置し、竪穴住居12の床面下から検出された。西端は柱穴で破壊されていた。平面形は不整形な隅丸長方形を呈し、長軸長が推定で198cm、幅は93cmを測った。土壙の深さは27cmであった。出土遺物から土壙の年代は弥・後・IVの可能性が強い。(岡本)



第289図 土壙68 (1/30)



第290図 土壙69 (1/30)



- 1 明黄褐色砂質土  
(炭・焼土塊含)
- 2 明黄褐色砂質土
- 3 炭層
- 4 明黄褐色砂質土  
(にぶい黄褐色粘質土塊・炭含)

第291図 土壙70 (1/30)

土壙70 (第117・291図)

土壙69の60cm南、竪穴住居12の床面で検出された。不整形な隅丸長方形を呈し、長軸長が103cm、幅は55cmを測った。土壙の深さは16cmであった。壁は湾曲し、断面形は皿状を呈していた。埋土は4層に分けられ、第1層の底全体に炭や焼土塊を含み、第3層は炭層であった。この埋土の状況からすると、竪穴住居12に伴う可能性がある。(岡本)

土壙71 (第117・292図)

調査区の中央付近、Cd502区で検出され、竪穴住居12の東2mに位置していた。土壙の平面形は不整形で、楕円形の一端が角張っていた。長径が196cm、短径は172cm、土壙の深さは41cmを測った。底面は平坦で広く、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土は2層

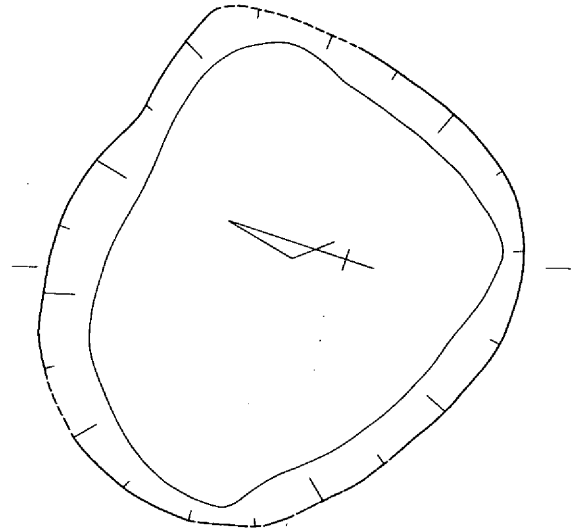
で、第1層は中央部が厚く、凸レンズ状に堆積していた。出土遺物は少なかったが、1点を図示することができた。1035は長頸壺の頸部から胴部上半にかけての破片である。頸部下端には貝殻圧痕文を巡らせている。弥・後・Ⅲのものともみられ、土壙もその時期のものと考えられる。(岡本)

土壙72 (第117・293図)

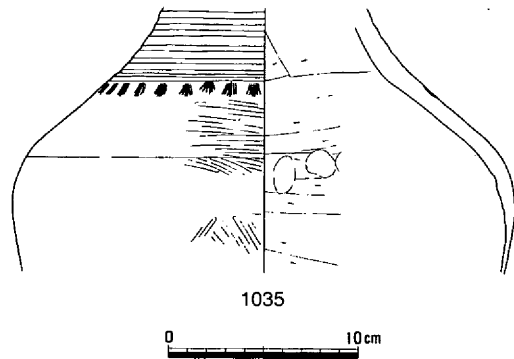
Ce502区で検出され、土壙71の20cm南に位置していた。土壙の東半上部は後世の削平をうけていた。平面形は楕円形で、長径が151cm、短径は残存部分で117cmあり、土壙の深さは37cmを測った。断面形は碗形を呈していた。出土遺物から判断すると、土壙の年代は弥・後・Ⅰと考えられる。(岡本)

土壙73 (第117・294図)

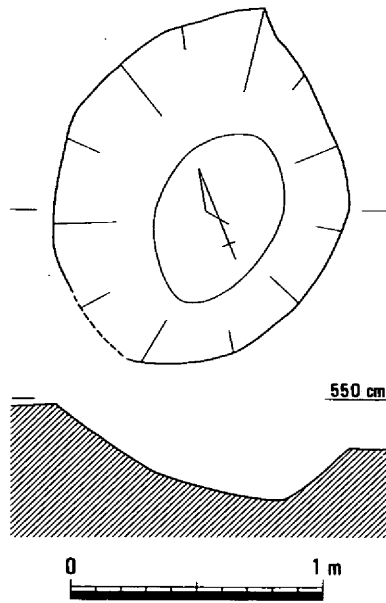
調査区の中央付近、Ce502区で検出された。竪穴住居13の床面下にあり、袋状土壙68の東に接し



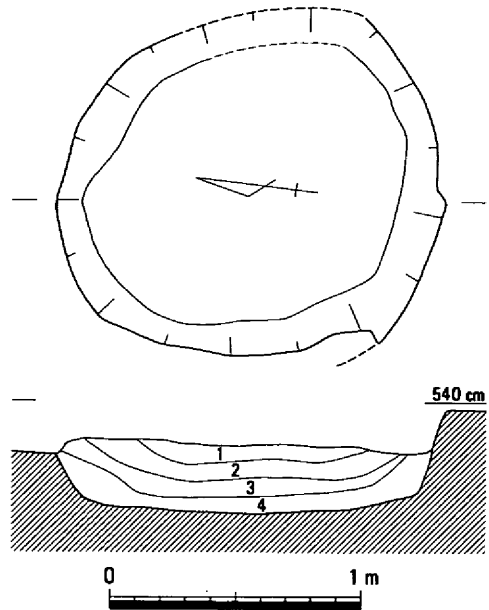
- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 灰オリーブ色 (5Y4/3) 砂質土



第292図 土壙71 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第293図 土壌72 (1/30)



- 1 褐色砂質土 (炭含)
- 2 暗褐色砂質土 (焼土・炭含)
- 3 褐色砂質土
- 4 にぶい黄褐色砂質土

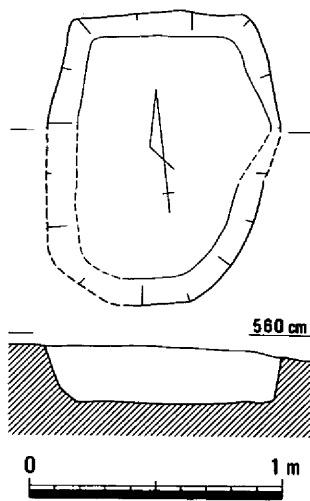
第294図 土壌73 (1/30)

ていた。平面形は円形に近く、長径が159cm、短径は残存部分で134cmを測り、土壌の深さは42cmであった。底面はわずかにくぼむもののほぼ平坦で、長径が131cmを測った。埋土は厚さが7、8cm前後の4層に分けられ、第2層には焼土や炭粒の混入がみられた。住居に上部を大きく破壊されているために明瞭ではないが、形態的には袋状土壌とみてもおかしくない。弥・後・Iと考える。(岡本) 土壌74 (第117・295図)

Ce502区にあり、竪穴住居13の南西3mに位置する土壌である。平面形が歪な隅丸長方形で、断面形は箱形を呈する。

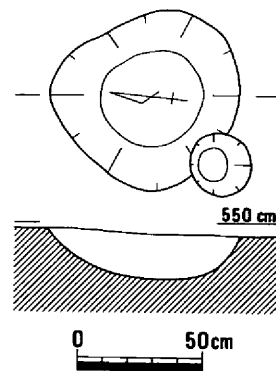
規模は、長さが115cm、幅は93cmで、深さが34cmを測る。

図示しうる遺物はないものの、この土壌の時期は、弥・後・Iである。(弘田)



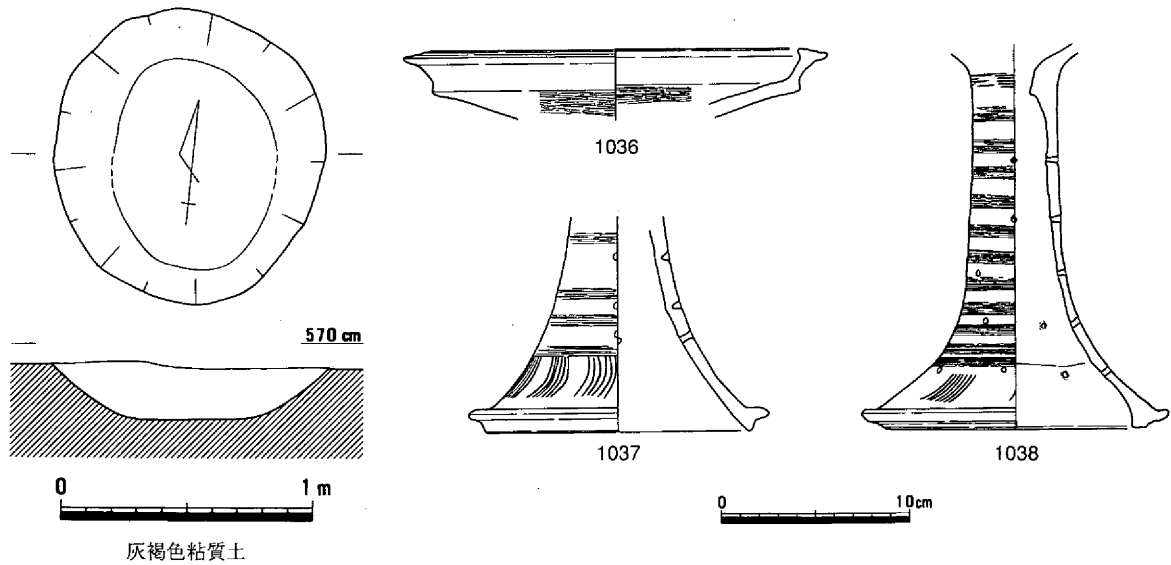
淡褐色砂質土

第295図 土壌74 (1/30)



褐黄色砂質土 (炭粒少含)

第296図 土壌75 (1/30)



第297図 土壇76 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壇75 (第117・296図)

調査区の東半部、竪穴住居13の南西約4 mに位置する。平面形は約70×75cmの不整楕円形で、深さは約20cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は少量の炭粒を含む褐黄色砂質土が1層のみであった。遺物が出土していないため時期は不明確ではあるが、弥・後・Iと考えている。(平井)

土壇76 (第117・297図)

Cf 5 01区に位置する土壇で、平面形が楕円形を、断面形は浅い椀状を呈する。規模は、長さが116 cm、幅は108cmで、深さが23cmを測る。

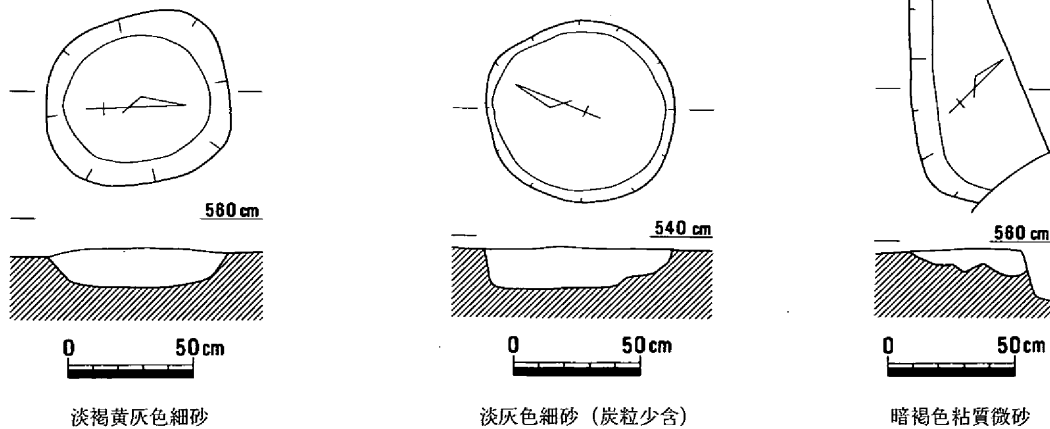
出土した遺物には高杯1036～1038がある。1038は5条1単位のクシガキ沈線が12条、脚裾部には7条1単位のヘラガキ沈線を巡らせている。

以上の特徴からみてこの土壇の時期は、弥・後・Iである。

(弘田)

土壇77 (第117・298図)

調査区の東半部、竪穴住居14の南西約3 mに位置している。平面形は67



第298図 土壇77 (1/30)

第299図 土壇78 (1/30)

第300図 土壇79 (1/30)

×72cmの不整楕円形で、深さは約15cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は1層のみであった。遺物が出土していないため時期は不明確ではあるが、弥・後・Iと考えている。(平井)

**土壇78** (第117・299図)

調査区の東半部、土壇77の北東隣りに位置する。平面形は直径約70cmの不整円形で、深さは約16cm残存していた。断面形は不整形で、埋土は少量の炭粒を含む淡灰色細砂が1層のみであった。遺物が出土していないため時期は不明確ではあるが、弥・後・Iと考えている。(平井)

**土壇79** (第117・300図)

調査区の東半部、土壇78の北東約2mに位置する。平面形は竪穴住居14などによって切られているため不明確で、深さは約10cm残存していた。断面形は皿形で、底面には凹凸が認められた。埋土は1層のみであった。遺物は少量の土器片が出土したのみで、時期は弥・後・Iである。(平井)

**土壇80** (第117・301図)

調査区の東半部、土壇79の南西約7mに位置する。平面形は約60×80cmの楕円形で、深さは約20cm残存していた。断面形は西側が深くなっており、埋土は1層のみであった。遺物が出土していないため時期は不明確ではあるが、弥・後・Iと考えている。(平井)

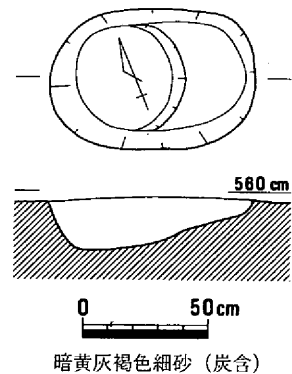
**土壇81** (第117・302図)

Cf502区に位置する土壇で、平面形が円形を呈する。規模は、長さが110cm、幅は103cmで、深さが31cmを測る。

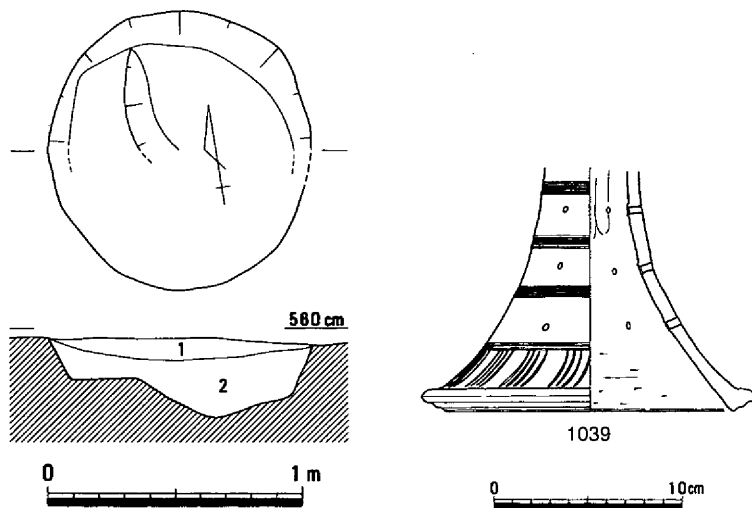
高杯の脚部**1039**が出土しており、これからみた土壇の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

**土壇82** (第117・303図)

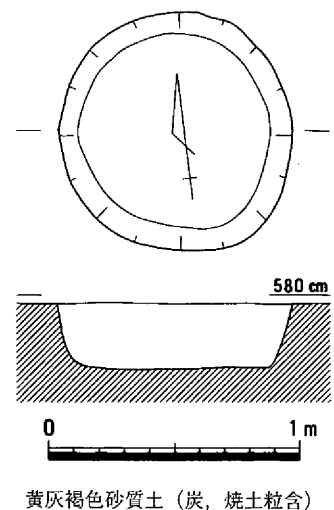
調査区の東半部、竪穴住居14の南西約7mに位置する。平面形は直径約90cmの円形で、深さは約25cm残存していた。断面形は箱形で、埋土は1層のみであった。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は弥・後・Iと考えている。(平井)



第301図 土壇80 (1/30)



第302図 土壇81 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第303図 土壇82 (1/30)

**土壙83** (第117・304図)

調査区東部の南端、Cg 5 02区で検出された。袋状土壙75・76と重複し、袋状土壙75が埋没した後掘られ、袋状土壙76に破壊されていた。平面形は不整形だが、中央のくぼみの形から推定すると、少し角張った楕円形を呈するようである。残存部分の長径は120cm、深さは37cmを測った。土壙の中央部は楕円形に一段浅く落ち込んでいた。埋土は2層に分けたが、類似した土であった。出土遺物から判断して土壙の年代は弥・後・Iで、袋状土壙76との関係から、その前半とみられる。(岡本)

**土壙84** (第117・305図)

調査区の東部南半、Cg 5 02区で検出された。土壙83の北西7mにあり、袋状土壙80に近接していた。平面形は楕円形で、長径が126cm、短径は94cm、土壙の深さは27cmを測った。広い平坦面をもっていたが、中央部分が不整形に9cmの深さで落ち込んでいた。土壙の壁は垂直に近かった。埋土は3層に分けられ、周辺から流入したように観察された。第2層には炭粒が多く含まれていた。出土遺物は少なかったが、図示したものは製塩土器の脚部である。弥・後・Iの土壙と考える。(岡本)

**土壙85** (第117・306図)

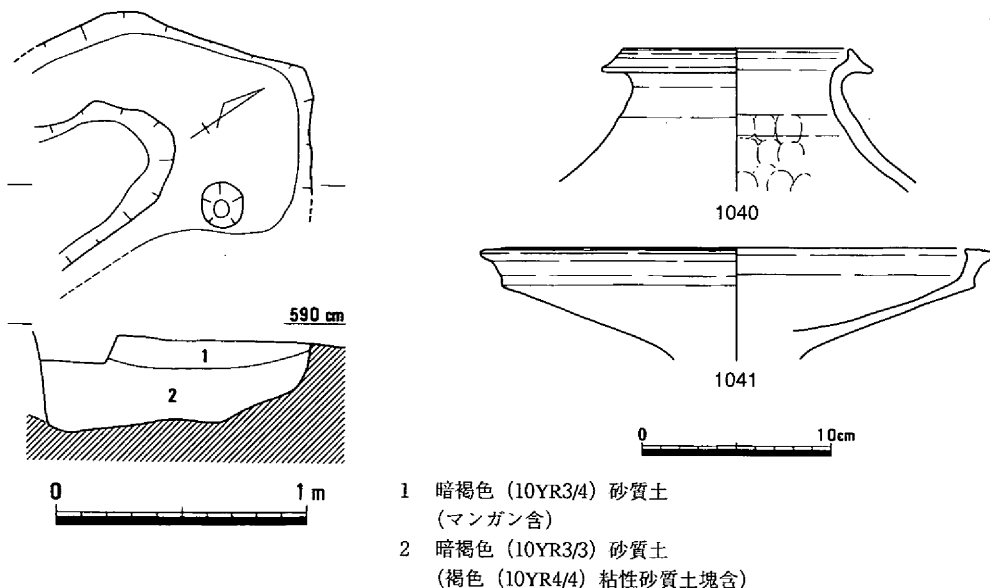
土壙84の70cm南西にあり、土壙86によって一部破壊をうけていた。Cg 5 02区に位置していた。平面形は楕円形で、長径が127cm、短径は残存部分で75cmを測った。広い楕円形の底面をもち、底面中央部西寄りに直径20cmの柱穴状の穴が認められた。底面までの深さは59cm、柱穴状の穴は底面から7cmの深さがあった。埋土は暗褐色砂質土であった。土壙の年代は弥・後・I以前である。(岡本)

**土壙86** (第117・306図)

土壙85と重複関係にあり、土壙84の25cm南に位置していた。土壙85よりは新しい。やはりCg 5 02区に所在した。平面形は長楕円形で、長径が128cm、短径は72cmあり、土壙の深さは34cmを測った。広い底面をもつが、不整形な落ち込みが広く中央部を占め、凹凸がみられた。埋土は暗褐色砂質土であった。土器が少量出土し、それによって土壙の年代は弥・後・Iと考えられる。(岡本)

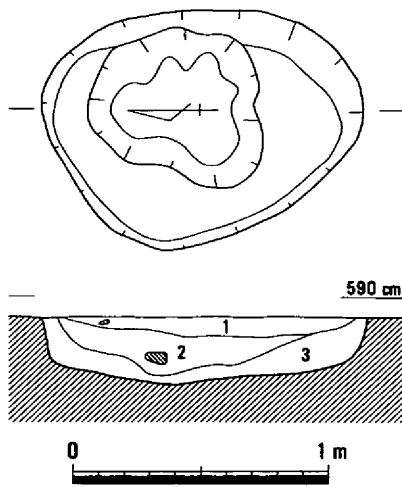
**土壙87** (第117・307図)

土壙83と土壙85の間に位置していた。平面形は長方形に近く、四隅は丸みをもっていた。長軸方向

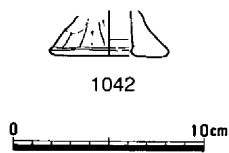


- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土  
(マンガン含)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土  
(褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土塊含)

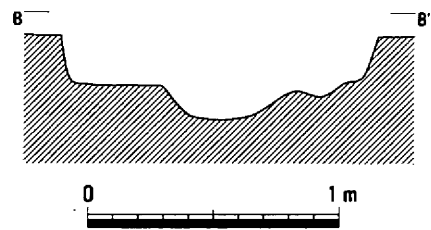
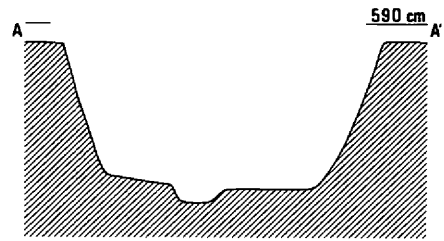
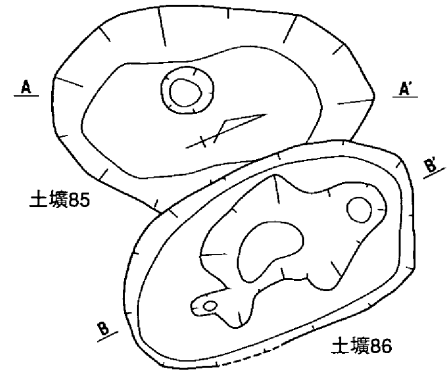
第304図 土壙83 (1/30)・出土遺物 (1/4)



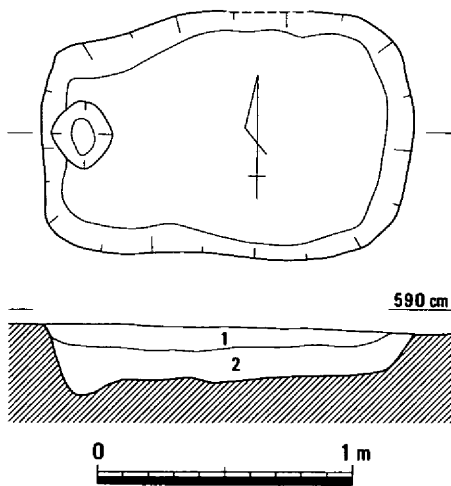
- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (マンガン多含)
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭多含)
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂質土



第305図 土壌84 (1/30)・出土遺物 (1/4)

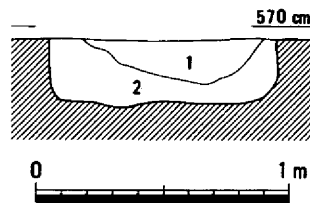
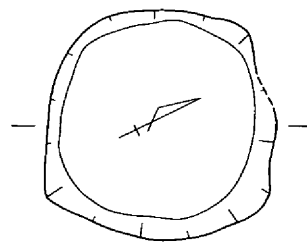


第306図 土壌85・86 (1/30)

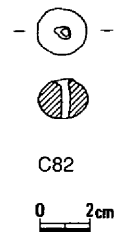
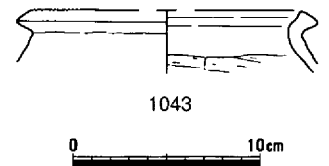


- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (マンガン多含)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (炭粒含)

第307図 土壌87 (1/30)



- 1 褐灰色 (7.5Y4/1) 粘性砂質土 (黄色粘性砂質土塊含・炭粒多含)
- 2 浅黄色 (2.5Y7/4) 粘性砂質土 (粘性砂質土塊含, 炭少含)



第308図 土壌88 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



の長さは146cm、幅は98cmを測った。長軸の方向はほぼ東西であった。底面は広く、ほぼ平坦であったが、わずかに凹凸が認められた。底面の西端で長径が27cm、深さ4cmの柱穴状の穴が検出された。土器が少量出土し、サヌカイト片もみられたが、弥生時代後期としか判断できない。(岡本)

**土壙88** (第117・308図、図版105)

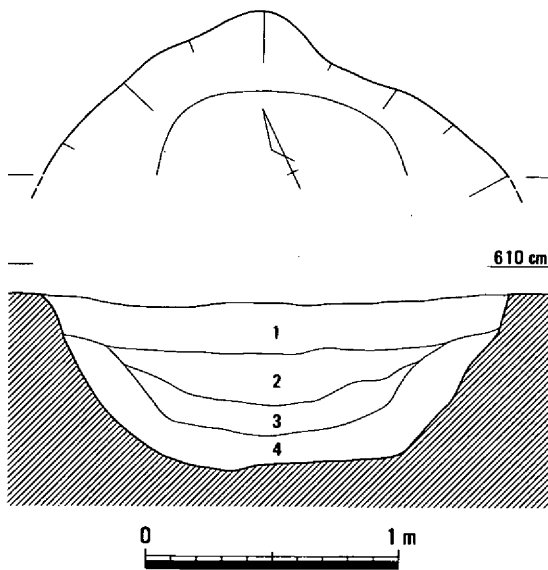
調査区東部の南端、Cg 5 02区で検出された。土壙87の南東60cmに位置し、袋状土壙79が南東に接していた。平面形は不整形な円形で、隅丸方形に近かった。長径が103cm、短径は95cmを測り、土壙の深さは28cmであった。土壙の壁はほぼ垂直で、広い底面はほぼ平坦であったため、土壙の断面形は箱形を呈していた。埋土は2層で、第1層には長径1~2cmの炭粒を多く含み、第2層は粗い砂粒で、粘性砂質土が斑状に混入していた。出土遺物が少しみられ、その年代は弥・後・Iであった。C82は土製の丸玉で、直径が19.5mm、重さは5.87gを測った。(岡本)

**土壙89** (第117・309図)

Cg 5 02区で検出された。調査区の南端で土壙の北端を検出したにとどまった。土壙87の1.5m南に位置していた。検出部分の長径は175cm、土壙の深さは68cmを測った。土壙の壁は緩やかに湾曲し、平坦な底面に至る。このため土壙の断面形は椀形を呈していた。埋土は4層で、第1層は水平に堆積して土壙の上部全体を埋めていた。第2層には炭粒や灰が含まれていた。徐々に堆積していたのが、最後に一気に埋没したようである。遺物がわずかに出土したが、年代は不明である。(岡本)

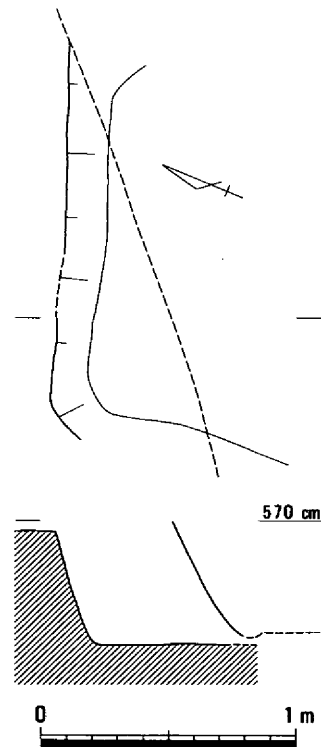
**土壙90** (第117・310図)

Cg 5 02区からCg 5 03区にかけて検出された。土壙88の東1mにあたる。古墳時代の住居46によって大部分を破壊されていたため全体像は不明である。残存部分は鉤形を呈し、あるいは方形の平面形をもっていたかと推定される。一辺の残存長は150cmで、土壙の深さは45cmを測った。土壙の断面形は



- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 | 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土         |
| 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 | 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (炭・灰含) |

第309図 土壙89 (1/30)



第310図 土壙90 (1/30)

逆台形を呈していた。3片の土器片が出土したが、細片のために年代は確定できない。(岡本)

**土壙91** (第117・311図)

調査区の東部南半、Cg503区で検出された。土壙84の北東2.5mにあり、南東に1m離れて袋状土壙81が検出された。不整形な長楕円形の大形土壙である。長径が341cm、短径は189cmで、土壙の深さは55cmを測った。土壙は段構造をなし、中央部分が一段深くなり、その西側に一段高い面が作られていた。中央部の底面は平坦ではなく、さらに真ん中が深くなっていた。埋土は2層に分けられた。第1層には炭が多く含まれ、とくに下半に集中していた。第2層ではオリブ色粘質土の大形土塊が下半に多く含まれていた。出土土器から土壙の年代は弥・後・Iと考えられる。(岡本)

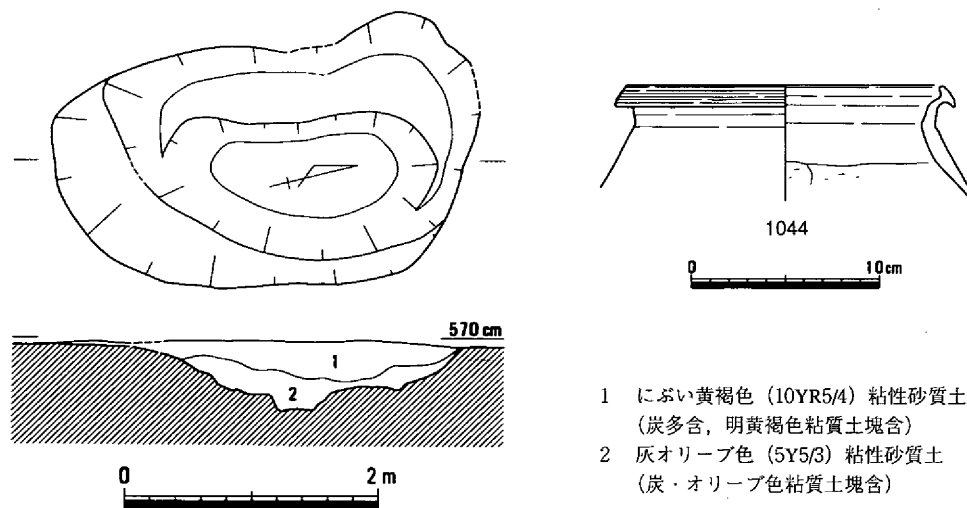
**土壙92** (第117・312図、図版94)

調査区の東部中央付近で検出された。Ce502区とCe503区に跨り、土壙91の北4.5mに位置していた。不整形な楕円形の大形土壙で、土壙内は段構造をなしていた。長径が296cm、短径は182cmで、土壙の深さは89cmを測った。土壙の東半に平坦面があり、その深さは40cm程度であった。土壙の西半は一段落ち込み、その北半がさらに深く落ち込んでいた。3段構造で、2段目と3段目の段差は20cm程度であった。埋土は複雑な堆積状況を示していた。第1段目を埋めた第1層と第2層は土壙の上部全体に広がっていたが、第3層から第5層までは第6層と第7層が堆積した後に掘り込まれた穴の埋土のようにみられ、これが3段目の落ち込みに対応する。第4層には土器片が多く含まれていた。

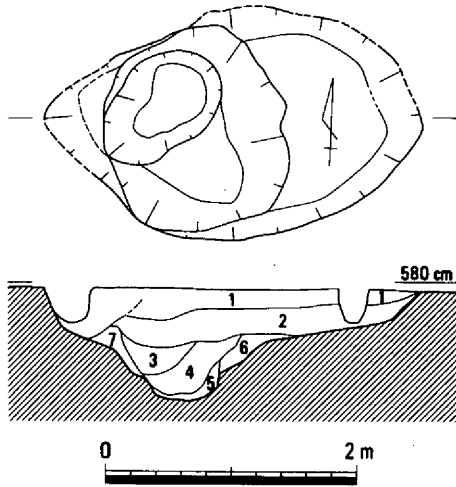
出土土器の年代は弥・後・Iで、図示できる破片が多くあった。甕の口縁部には、口縁部が頸部から屈折し、口縁端部を上方へ拡張するもの(1051・1053)や頸部から口縁部へ滑らかに外反して口縁端部を上下に拡張するもの(1047・1048)など変異がみられるものの良好な一括品である。(岡本)

**土壙93** (第117・313図)

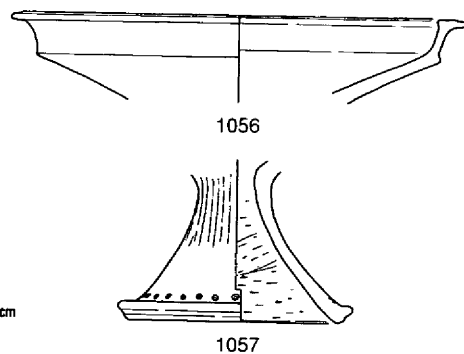
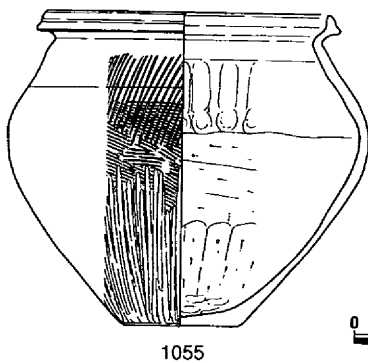
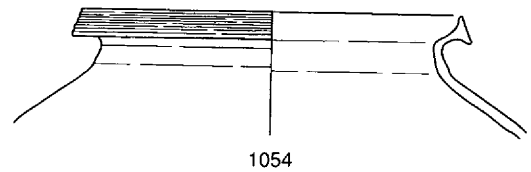
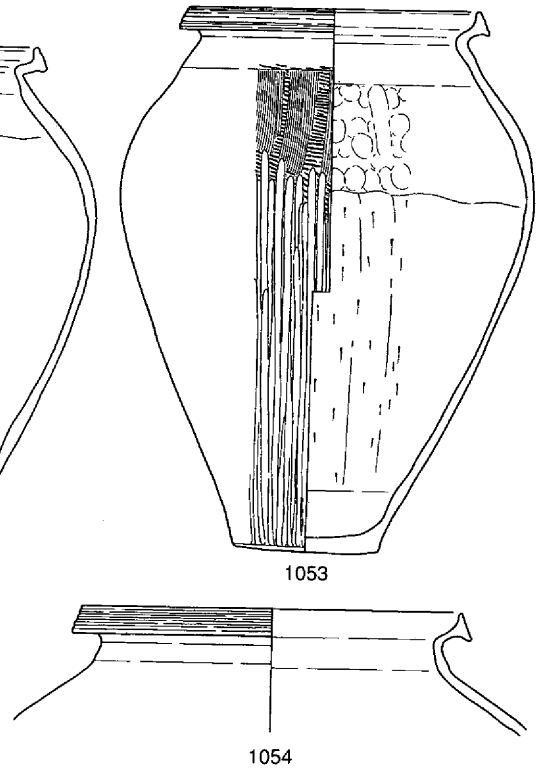
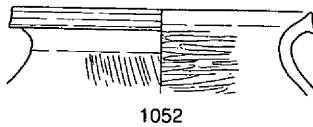
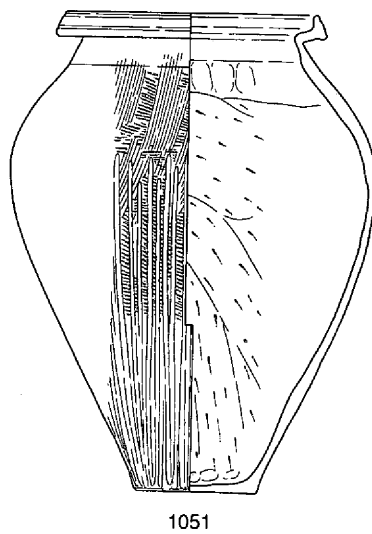
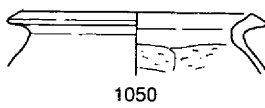
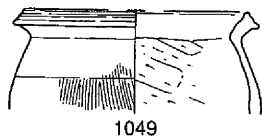
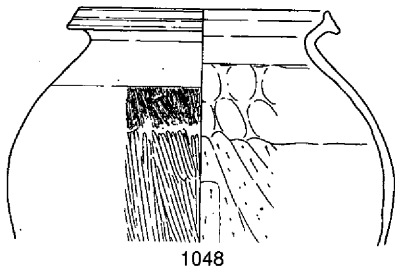
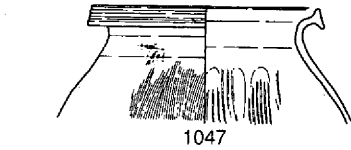
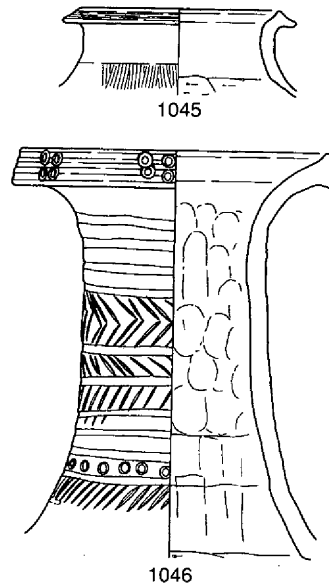
調査区の東部北半、Cd502区とCd503区に跨って検出された。周辺には土壙が集中し、土壙93は土壙94・95と重複して、それらより新しい。3.5m西にはやはり重複関係にある土壙64~67があった。土壙93の西端は側溝の掘削で破壊した。平面形は不定形で細長く、残存長が386cm、幅は170cm、土壙の深さは31cmを測った。底面は平坦ではなく、東半が深くなっていた。埋土は3層で、西側からの土砂の流入による埋没が想定される。製塩土器の脚部が出土し、弥・後・Iの土壙と考える。(岡本)



第311図 土壙91 (1/60)・出土遺物 (1/4)



- |                                 |                        |
|---------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (マンガン含)     | 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土 |
| 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭含)     | 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 |
| 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭含)     | 7 褐色 (10YR4/4) 砂質土     |
| 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土 (土器多含) |                        |



第312図 土壌92 (1/60)・出土遺物 (1/4)

土壙94 (第117・314図)

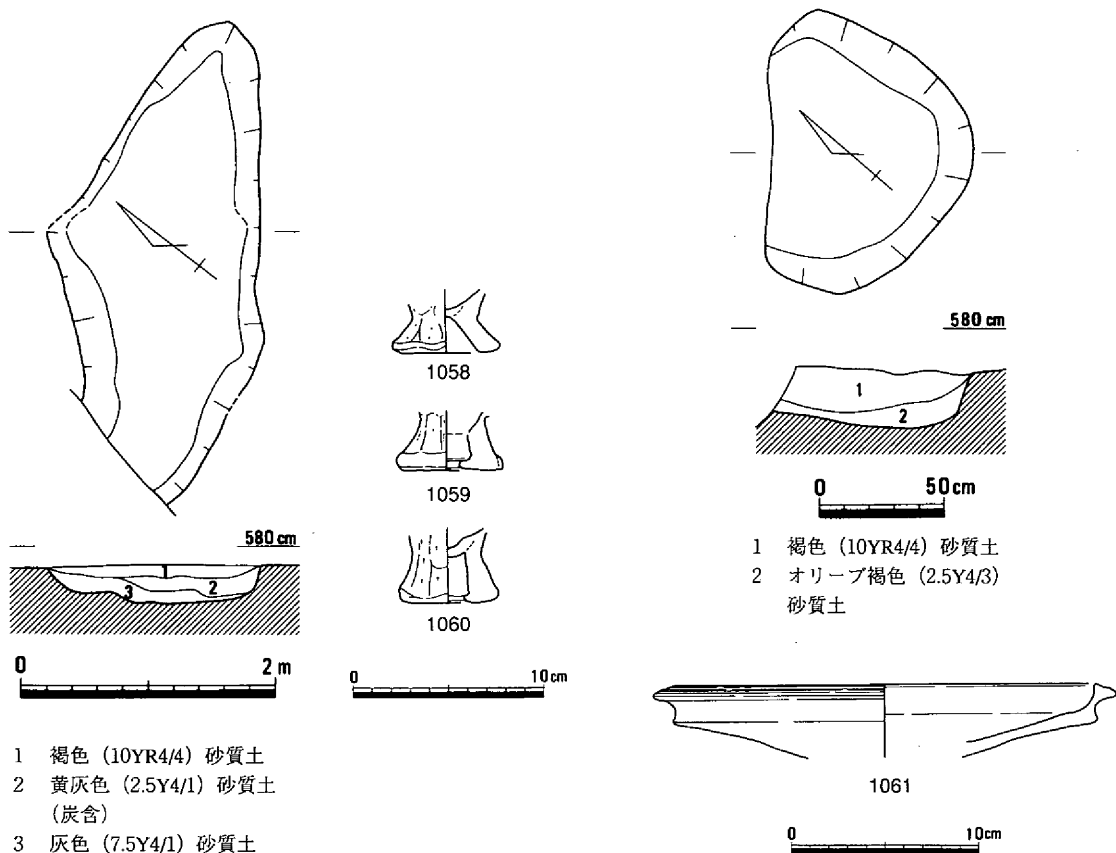
Cd503区にあり、土壙93の東部と重複していて、一部を土壙93によって破壊されていた。しかし、出土遺物から考えられる年代は弥・後・Iであり、土壙93との間にそれほど大きな年代差は認められない。破壊を受けた部分は全体の1/3程度とみられるため、土壙の平面形は明瞭ではないが、不整形な円形、ないしは隅丸方形と推定される。残存部分の長径が113cm、土壙の深さは24cmを測った。埋土は2層で、周辺からの土砂の流入を思わせた。(岡本)

土壙95 (第117・315図)

Cd502区で検出された。土壙93と重複し、その南側で土壙93によって一部が破壊された状態で検出された。また、土壙の西側は調査区の側溝の掘削で破壊した。土壙の平面形は不整形な楕円形を呈するものと推測され、残存部分の長径が150cm程度、幅は131cmを測った。土壙の深さは27cmであった。底面は平坦ではなく、中央部分がもっとも深くなるようにくぼんでいた。埋土は褐色砂質土の1層であったが、下半はオリーブ色に変わっていた。弥生時代後期前半の土器が出土した。(岡本)

土壙96 (第117・316図)

土壙95と重複し、その下方から検出された。土壙の西端は側溝で破壊した。土壙の平面形は楕円形と推測され、残存長が75cm、短径は63cmで、土壙の深さは28cmを測った。土壙の壁は緩やかに湾曲し、底面は中央部がくぼんでいたため、土壙の断面形は碗形を呈していた。埋土は2層で、中央部がもっとも厚くなっていた。土壙95との関係から土壙の年代は弥・後・Iかと推定される。(岡本)

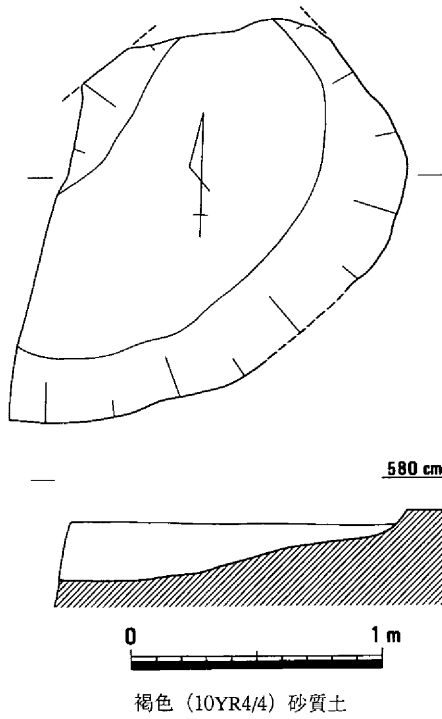


- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 (炭含)
- 3 灰色 (7.5Y4/1) 砂質土

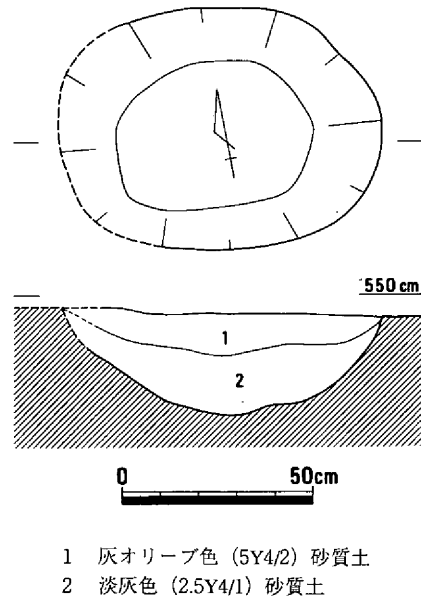
- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土

第313図 土壙93 (1/60)・出土遺物 (1/4)

第314図 土壙94 (1/30)・出土遺物 (1/4)



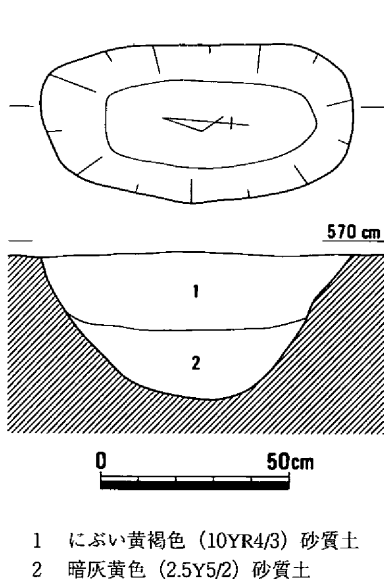
第315図 土壌95 (1/30)



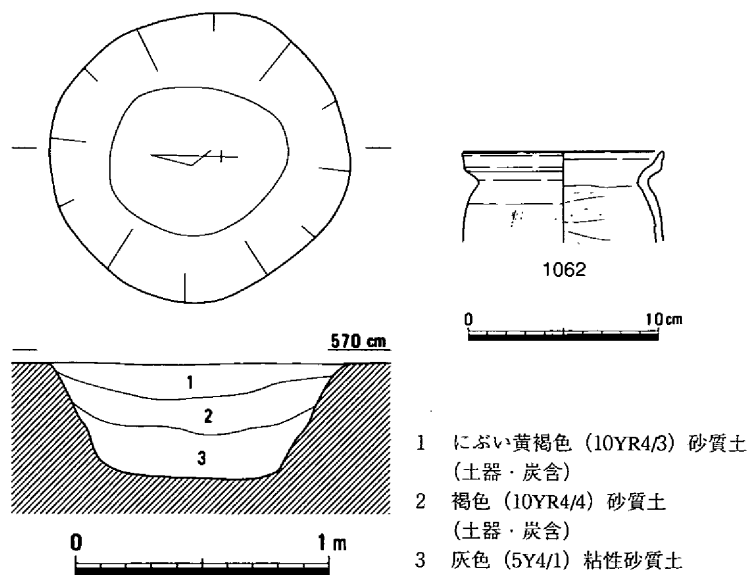
第316図 土壌96 (1/20)

土壌97 (第117・317図)

調査区の東部北半、Cd502区で検出された。土壌96の南50cmに位置していた。土壌の平面形は長楕円形を呈していて、長径が83cm、短径は41cm、土壌の深さは38cmを測った。底面は中央部がくぼみ、土壌の壁がわずかに内湾しながら傾斜するため、土壌の断面形は碗形を呈していた。埋土は2層に分けられたが、その境界面は水平に近かった。出土した土器はごく少量であったが、その年代は弥生時代後期後葉の弥・後・Ⅲ～Ⅳにかけてのものともみられ、土壌の年代もこの頃ともみられる。(岡本)



第317図 土壌97 (1/20)



第318図 土壌98 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙98** (第117・318図)

Cd503区で検出された。土壙94の1m東に位置していた。土壙の平面形はほぼ円形で、長径が118cm、短径は113cmで、土壙の深さは46cmを測った。土壙の壁は湾曲せずに傾斜し、底面はほぼ平坦なため、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土は3層に分けられ、第1層と第2層には土器片や炭粒が含まれていた。埋土は順序よい堆積を示していた。1062は甕の上半部で、口縁端部を上方へ大きく拡張している。これを含む遺物には弥・後・Ⅲ～Ⅳの年代が与えられる。(岡本)

**土壙99** (第117・319図)

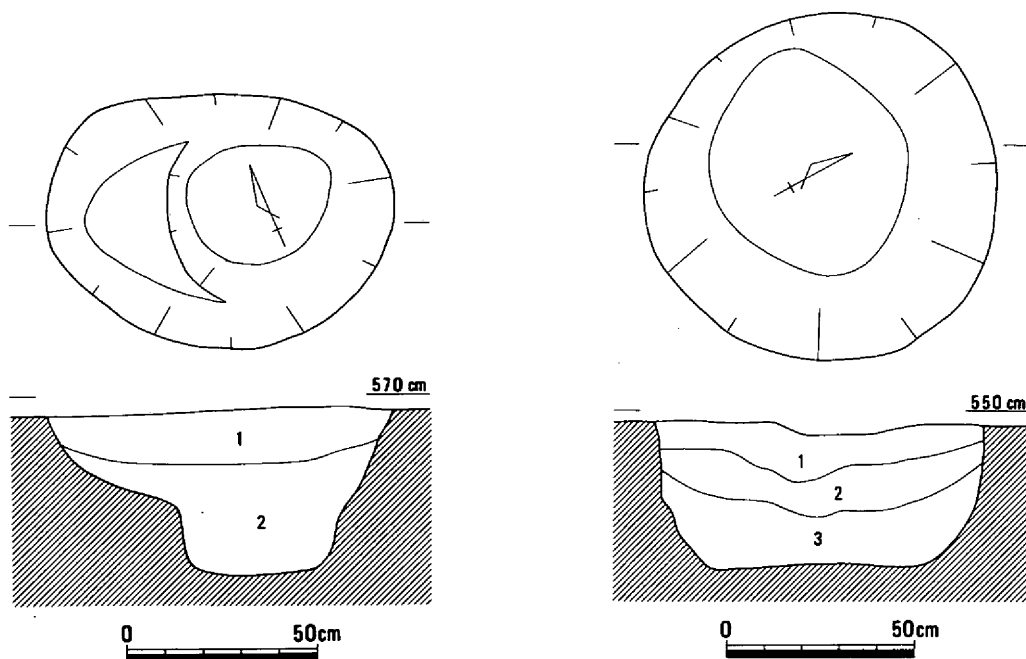
Cd503区で検出された。土壙98から55cm南東に位置していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が91cm、短径は66cmを測った。土壙内は段構造をなし、土壙の東半が一段深く落ち込んでいた。この落ち込み部分は底面が示すようにほぼ円形になっていた。検出面からの深さは、東半の落ち込み部分で44cm、西半の上段部分では26cmであった。遺物から土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳである。(岡本)

**土壙100** (第117・320図)

やはりCd503区に位置し、土壙99のすぐ東に近接して検出された。土壙の平面形はほぼ円形で、長径が98cm、短径は90cm、土壙の深さは38cmを測った。土壙の壁は上半が垂直に落ち、下半は内側へ湾曲する。底面はほぼ平坦で、中央部がかすかに高くなっていた。埋土は3層に分けられたが、第2層と第3層はよく類似していた。ある期間のうちにゆっくり堆積したものであろうか。少量の土器が出土し、その年代などから判断して土壙の年代は弥・後・Ⅰと考えられる。(岡本)

**土壙101** (第117・321図)

Cd503区で検出された。土壙100の東1.5mに位置していた。土壙の平面形は卵形に近い楕円形で、



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2)
- ～灰色 (10T5/1) 粘性砂質土

第319図 土壙99 (1/20)

- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第320図 土壙100 (1/20)

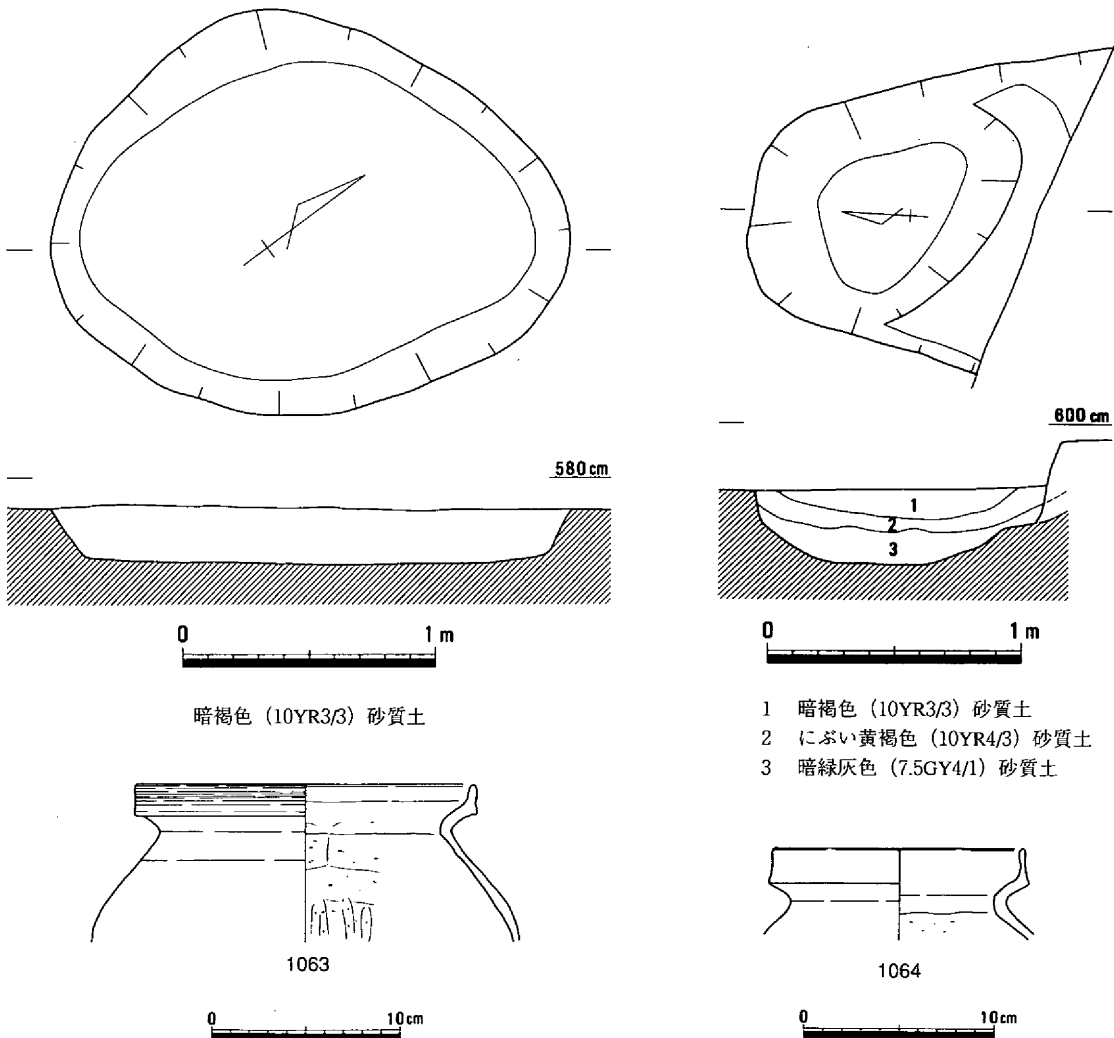
長径が206cm、短径が160cm、土壌の深さは24cmを測った。広く平坦な底面をもち、土壌の断面形は逆台形を呈していた。埋土は暗褐色砂質土の1層のみで少量の土器片を含むものの、炭粒や焼土などは顕著には含まれていなかった。出土土器の多くは弥・後・Ⅲ～Ⅳのものであったが、図示した1063の甕は口縁部外面にクシガキの沈線文が巡り、古墳時代初頭に降る可能性が強い。(岡本)

土壌102 (第117・322図)

調査区東部の北端、Cd504区で検出された。土壌101の東2mに位置していた。掲載図は南側に調査区全体の土層堆積状況を観察するための土手が残されていた段階のものである。平面形は不定形で、内部は段構造をなしていた。北側が一段深くなり、その部分の平面形は卵形に近く、肩部の長径は131cmであった。底面は凹面になっていた。検出面からの深さは、南側の一段目で15cm、北側の落ち込み部分では32cmを測った。埋土は順序よい堆積を示していた。弥生時代後期後半の土器が少量出土したが、1064は古墳時代前期とみられ、土壌の年代が古墳時代まで降る可能性がある。(岡本)

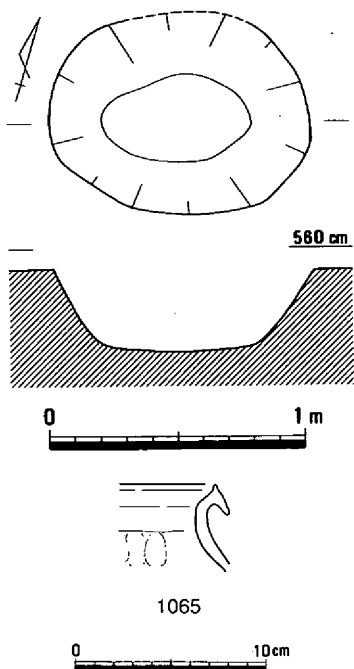
土壌103 (第117・323図)

調査区東部の北端、Cd504区で検出された。土壌102から南東へ2m離れて位置していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が103cm、短径は推定で85cm、土壌の深さは34cmを測った。底面はほぼ平坦

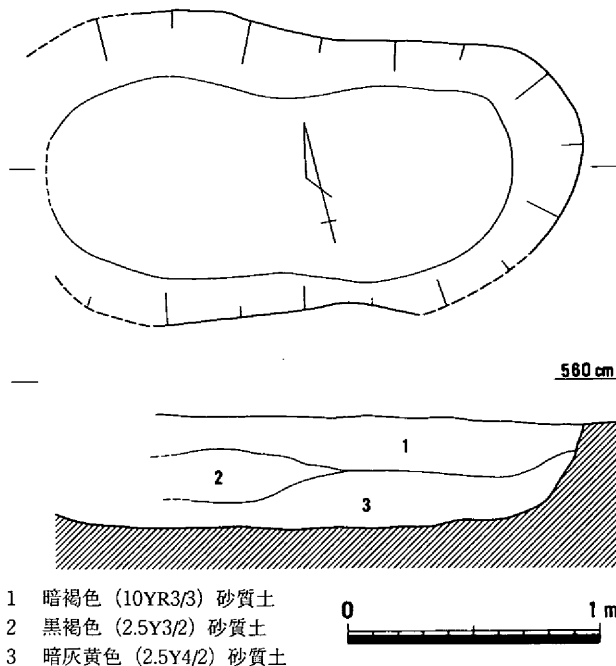


第321図 土壌101 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第322図 土壌102 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第323図 土壙103 (1/30)・出土遺物 (1/4)



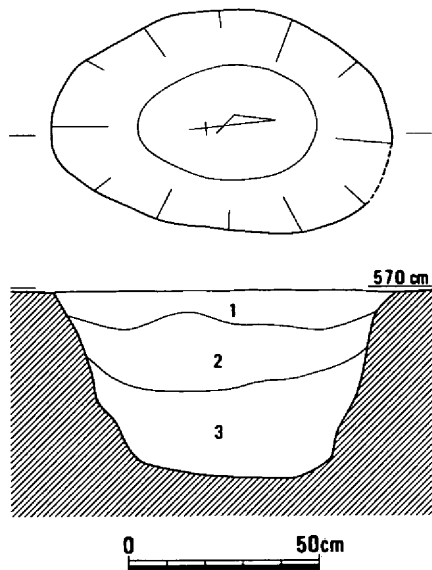
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第324図 土壙104 (1/30)

で、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土は1層であった。土器片が少量出土し、その年代は弥生時代後期前半のものとみられた。これから土壙の年代は弥・後・Iかと考える。 (岡本)

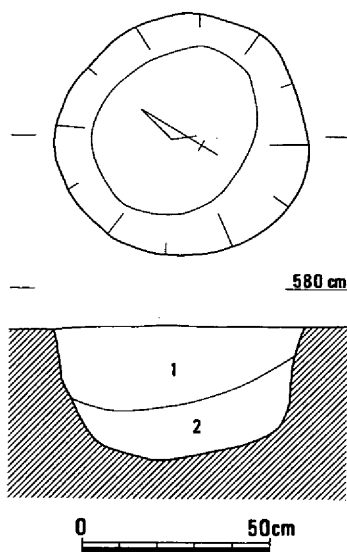
土壙104 (第117・324図)

調査区の東部北半、Cd502区で検出された。土壙の西端を調査区の側溝で破壊した。この土壙の北40cmには土壙97があった。土壙の平面形は長楕円形で、中央部が少しくびれていた。残存部分の長径が213cm、短径は125cmで、土壙の深さは46cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦であったが、わずか



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土

第325図 土壙105 (1/20)



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第326図 土壙106 (1/20)



に凹面をなしていた。土壌の壁もわずかに湾曲していた。埋土は3層に分けられたが、第2層と第3層はよく類似していた。弥生時代後期前半の土器片が少量出土した。(岡本)

**土壌105 (第117・325図)**

Cd502区で土壌104と重複して検出された。調査中の知見から土壌105の方が新しい。土壌の平面形は楕円形で、長径が87cm、短径は57cm、土壌の深さは49cmを測った。底面はわずかに傾斜するものの平坦で、土壌の壁もほとんど湾曲せず、土壌の断面形は逆台形を呈していた。埋土は3層に分けられ、順序よい堆積を示していた。弥生時代後期かとみられる土器片が少量出土した。(岡本)

**土壌106 (第117・326図)**

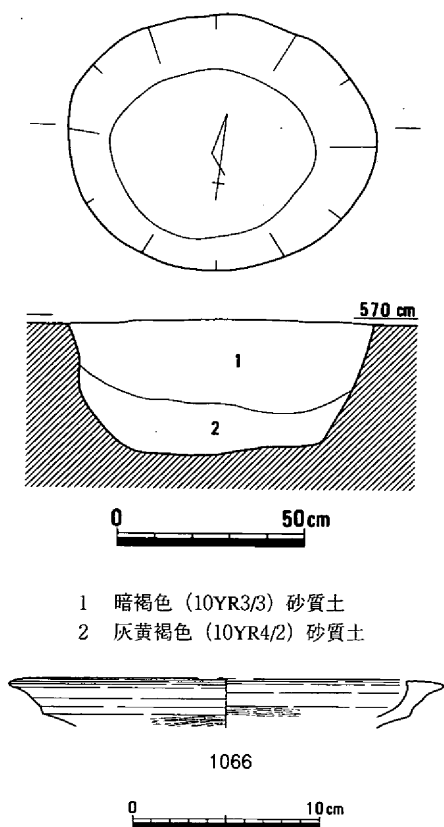
土壌105の50cm東にあった。調査区はCd503区にあたる。土壌の平面形は円形で、長径が67cm、短径は63cm、土壌の深さは35cmを測った。土壌の壁は急傾斜で、底面は凹面となっていた。土壌の断面形は椀形に近かった。埋土は2層に分けられた。この土壌は規模や形態から柱穴の可能性が高いが、柱痕は検出されなかった。弥生時代後期前半かとみられる土器片が少量出土した。(岡本)

**土壌107 (第117・327図)**

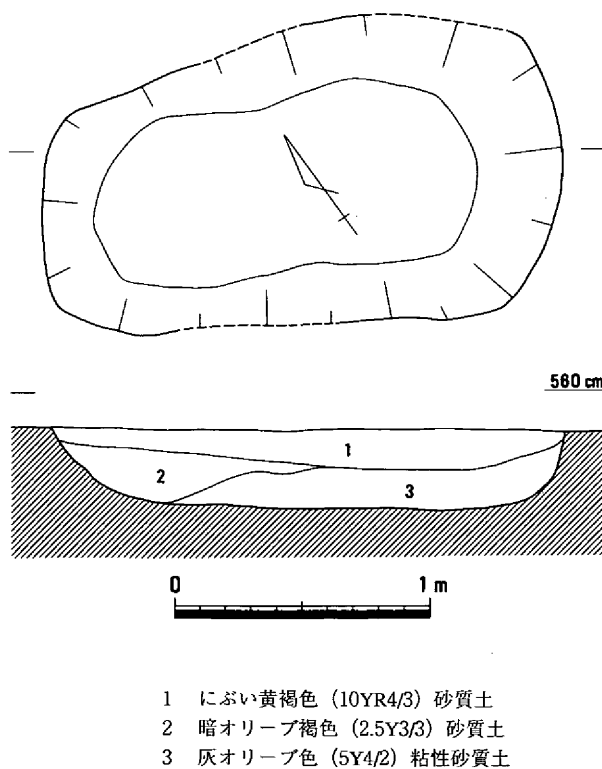
Cd503区で検出された。土壌106から1m北に位置していた。土壌の平面形は円形に近く、長径が81cm、短径は67cm、土壌の深さは35cmを測った。土壌の壁は湾曲し、底面はかすかに凹面をなしていたため、土壌の断面形は椀形を呈していた。埋土は上下2層に分けられた。土壌106との類似が認められ、この土壌も柱穴かもしれない。少量の出土土器から弥・後・Iの年代が考えられる。(岡本)

**土壌108 (第117・328図)**

土壌106の東に近接して検出された。土壌の平面形は隅丸長方形に近かったが、東辺はかなり湾曲



第327図 土壌107 (1/20)・出土遺物 (1/4)



第328図 土壌108 (1/30)

していた。長径が206cm、短径は119cmで、土壌の深さは32cmを測った。埋土は3層に分けられたが、片寄った堆積を示していた。これらの様相は土壌104・111と類似し、それらが近接していることは同じ機能をもっていたのではないかと思わせる。土壌の年代は弥・後・Iとみられる。 (岡本)

**土壌109 (第117・329図)**

土壌107の東に近接して検出された。やはりCd503区にあった。土壌の平面形は方形で、四隅が丸みをもっていた。長軸の長さが88cm、短軸は83cmで、土壌の深さは38cmを測った。底面はわずかに凹面で、土壌の断面形は椀形を呈していた。埋土は2層に分けられた。土器片がわずかに出土したが、小片であり、年代の確定には至らなかった。調査中の知見から弥生時代の土壌と考える。 (岡本)

**土壌110 (第117・330図)**

土壌109の北東部に接して検出された。この土壌の東には土壌112・113が近接していた。土壌の平面形は不定形で、楕円形の土壌の北側が瘤状に突出していた。長径が111cm、短径は71cmを測った。突出部分にも三日月状の底面があり、土壌内は二段構造になっていた。本体部分の底面は窪んでいて、土壌の深さは34cmであった。土壌の年代は出土土器から弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えられる。 (岡本)

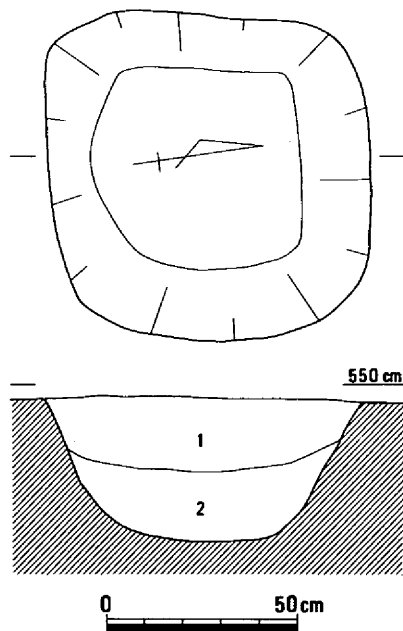
**土壌111 (第117・331図)**

調査区の東部北半、Cd503区の中央付近で重複しながら密集する土壌群が検出された。土壌111は西端を土壌112に、東端を土壌118に破壊されていた。平面形は土壌108のような隅丸の長方形とみられ、残存部分の長軸長が171cm、幅は105cmを測った。土壌の深さは31cmであった。底面は広くて平坦だった。弥生時代後期前半の土器片が出土し、弥・後・Iの土壌かとみられる。 (岡本)

**土壌112 (第117・331図)**

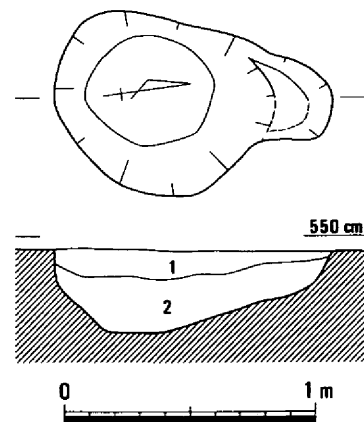
土壌111を破壊して、その西側に位置していた。南には土壌113が接していた。平面形は方形に近く、南辺が斜行していた。長軸の長さが176cm、幅は145cmで、土壌の深さは60cmを測った。底面はほぼ平坦で、壁は湾曲せず、土壌の断面形は逆台形を呈

していた。埋土は4層に分けられたが、第2層から第4層までは類似していた。土器片が少量出土し、弥・後・Iの土壌と考える。 (岡本)



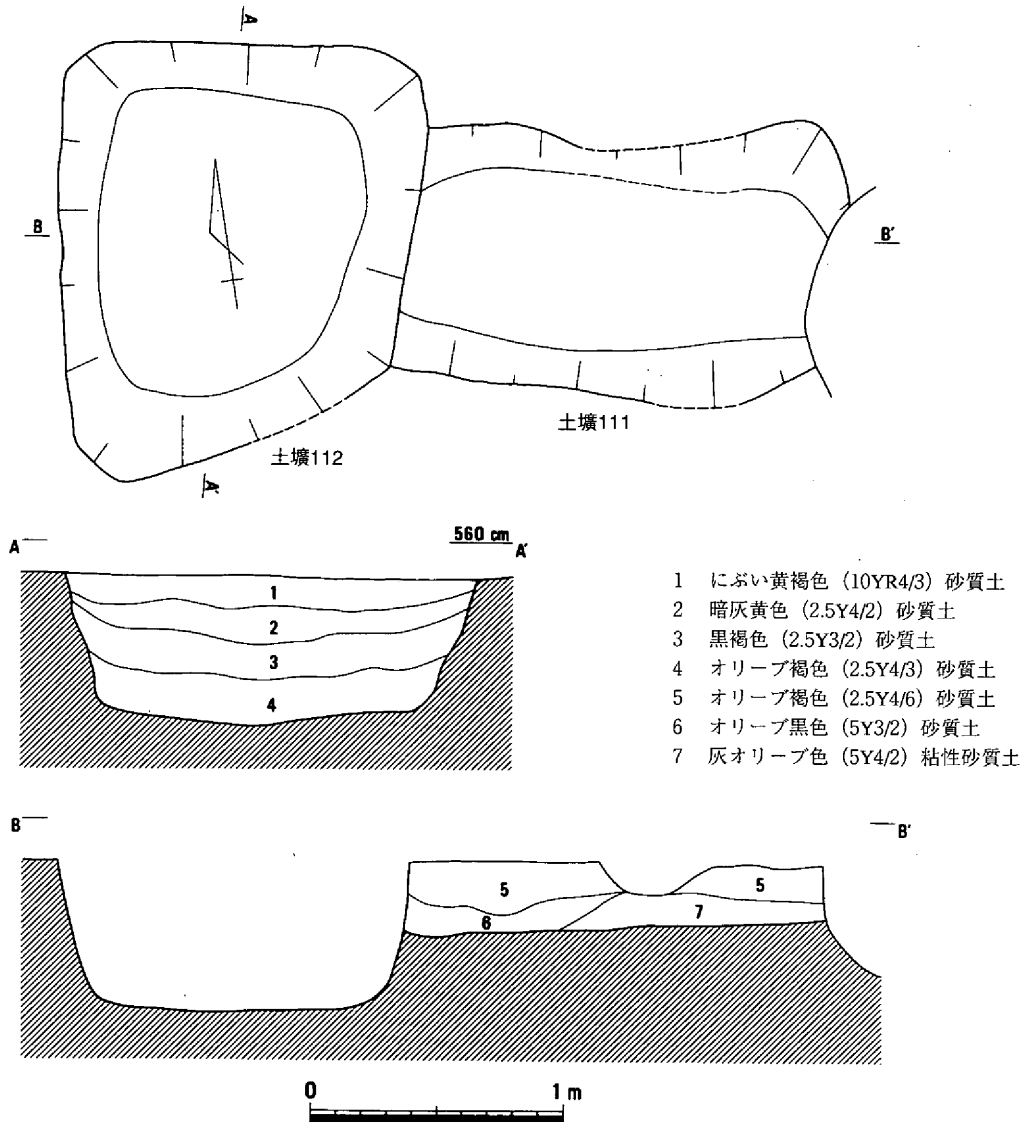
1 におい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土  
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第329図 土壌109 (1/20)



1 におい黄褐色 (10YR4/39) 砂質土  
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第330図 土壌110 (1/30)



第331図 土壙111・112 (1/30)

**土壙113 (第117・332図)**

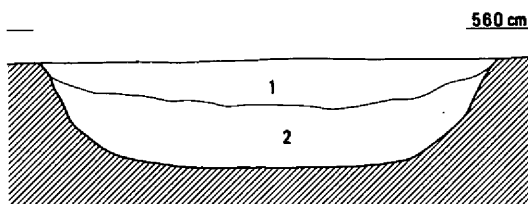
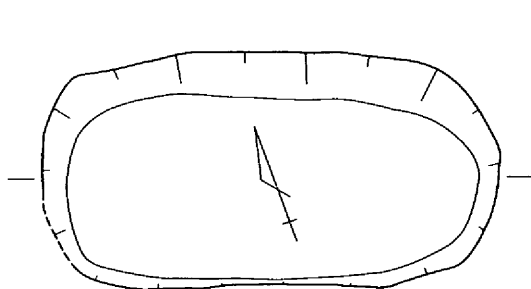
土壙112の南に接し、北東部は土壙114によって一部破壊をうけていた。土壙の平面形は長楕円形で、長径が182cm、短径は92cm、土壙の深さは43cmを測った。底面は広くてほぼ平坦で、壁は湾曲し、土壙の断面形は皿形を呈していた。埋土は2層に分けられ、第1層は凸レンズ状に堆積していた。弥生時代後期後半の土器が少量出土し、土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えられる。 (岡本)

**土壙114 (第117・333図)**

土壙113の東北部に近接し、その一部を破壊していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が129cm、短径は103cmを測った。土壙の内部は二段構造になっていて、東に片寄って土壙の本体があり、西半分は底面が一段高くなっていた。土壙の深さは本体部分で55cmあり、西側の上段部分はそれより30cmほど高かった。埋土は4層で順序よい堆積を示していた。年代は弥生時代後期後葉と考える。 (岡本)

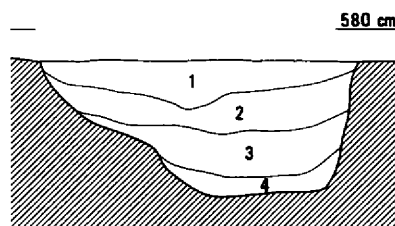
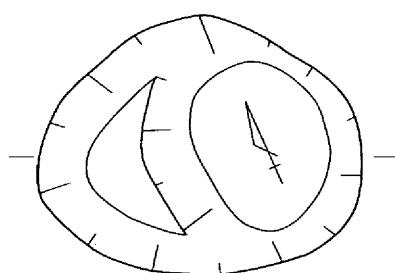
**土壙115 (第117・334図)**

土壙113の南30cmで検出された。やはりCd503区に位置していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が105cm、短径は73cm、土壙の深さは37cmを測った。底面は凹面で、壁も湾曲していたため、土壙の



- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土

第332図 土壌113 (1/30)



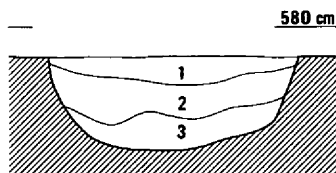
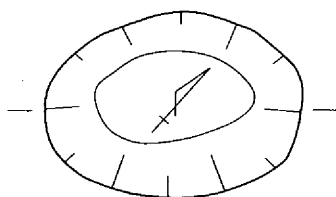
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
- 3 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 砂質土
- 4 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 砂質土

第333図 土壌114 (1/30)

断面形は楕円形をなしていた。埋土は3層に分けられたが、第1層と第2層は類似していた。出土土器の年代は弥生時代後期前半とみられ、土壌の年代は弥・後・Iと考えられる。(岡本)

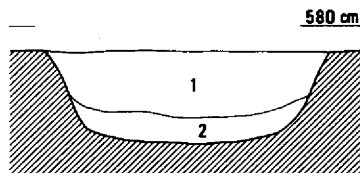
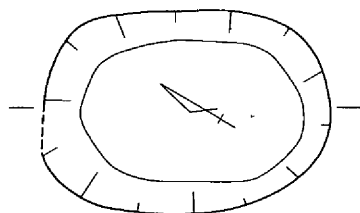
土壌116 (第117・335図、図版11)

Cd503区とCe503区に跨って検出された。土壌115の1m南に位置していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が114cm、短径は81cm、土壌の深さは36cmを測った。広い底面はわずかに凹面となっていた。土壌の壁は湾曲せず、上方は外反気味であった。埋土は2層に分けられたが、よく類似していた。短脚の高杯脚部1067が出土し、土壌の年代は弥生時代後期後葉と考えられる。(岡本)



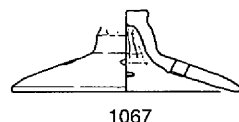
- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 3 灰色 (7.5Y4/1) 砂質土

第334図 土壌115 (1/30)



- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土

第335図 土壌116 (1/30)・出土遺物 (1/4)



1067

**土壙117** (第117・336図)

土壙111の東に土壙118・117・119が連接していた。土壙117は西端を土壙118に破壊され、南東部は土壙119によって削られていた。平面形は楕円形で、残存部分の長径が170cm、短径は142cm、土壙の深さは38cmを測った。広く平坦な底面をもち、土壙の壁はほとんど湾曲していなかった。土器片が少量出土したが、その年代から判断すると、土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳとみられる。(岡本)

**土壙118** (第117・336図)

土壙111と土壙117との間であって、それらの土壙を一部破壊していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が108cm、短径は82cm、土壙の深さは44cmを測った。底面は凹面で、土壙の断面形は椀形を呈していた。埋土は3層に分けられ、順序よい堆積状況を示していた。第1層には炭粒が含まれ、第2層と第3層は類似していた。土器片が少量出土したが、弥生時代後期としか判断できない。(岡本)

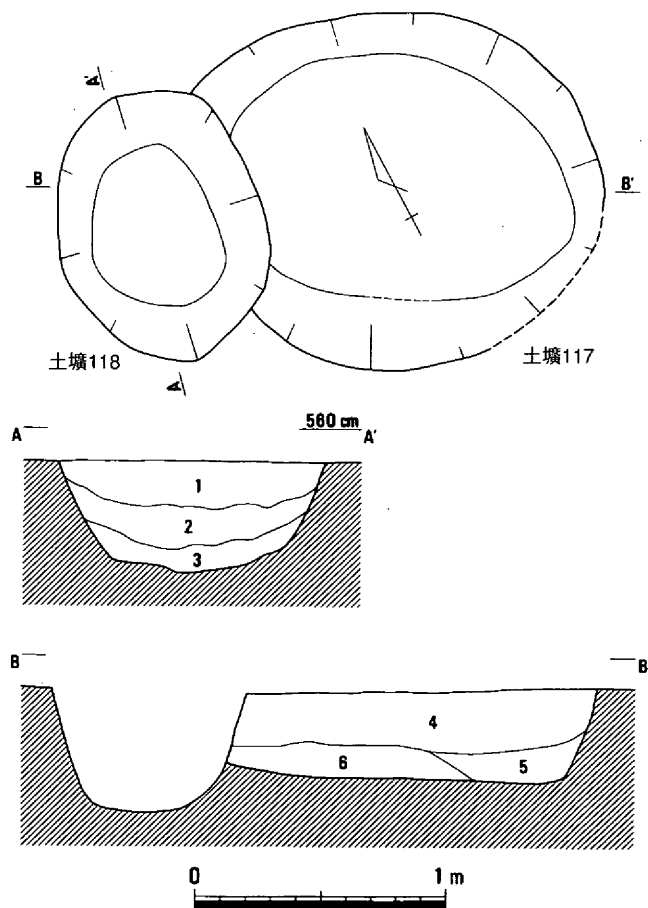
**土壙119** (第117・337図)

土壙117の南東部を削って作られていた。土壙の平面形は楕円形で、長径が141cm、短径は110cmを測った。土壙の内部は二段に作られ、東半が深く、西半では一段上がって三日月状の底面が形成されていた。西半の底面は傾斜していた。東半の底面までの深さは51cmで、西半の底面までの深さは35cm前後であった。弥生時代後期の土器片が少量出土したが、時期の細別はできなかった。(岡本)

**土壙120** (第117・338図)

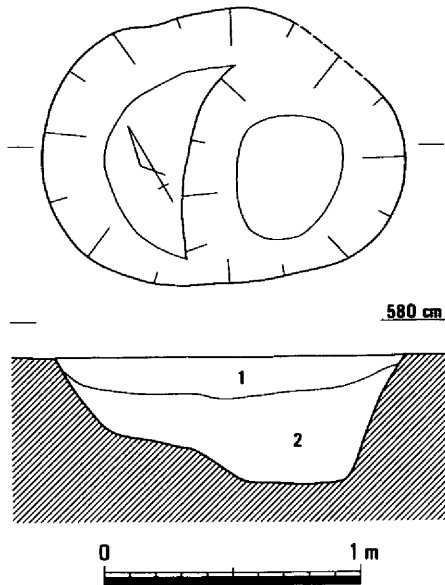
土壙119から50cm東、Cd503区とCd504区との境で検出された。この土壙の北には土壙121があり、

土壙120の一部を削っていた。土壙120の平面形は隅丸の方形に近く、長軸の長さが102cm、短軸は88cmあり、対角線の長さは115cmを測った。土壙の深さは34cmであった。底面はかすかに凹面をなし、壁の下半も湾曲していたため、土壙の断面形は椀形を呈していた。埋土は2層に分けられ、第1層は中央部が厚くなっていた。少量の弥生時代後期前半の土器片が出土したことから、この土壙の年代は弥・後・Ⅰと考える。(岡本)



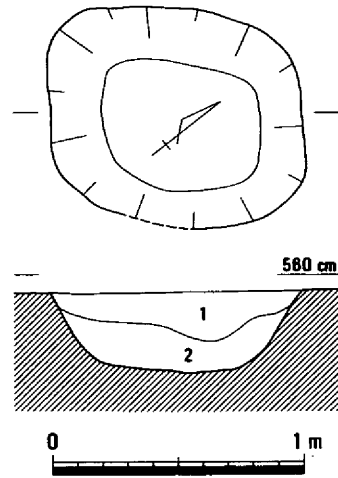
- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (炭含)
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 5 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土
- 6 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土

第336図 土壙117・118 (1/30)



- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土

第337図 土壌119 (1/30)



- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土

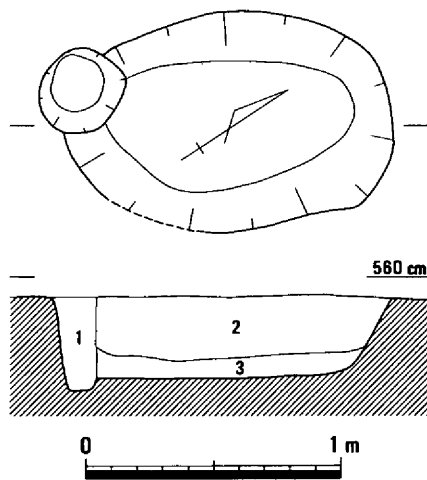
第338図 土壌120 (1/30)

土壌121 (第117・339図)

土壌120の北西にあり、南東端が土壌120を一部削っていた。平面形は楕円形で、長径が128cm、短径は87cm、土壌の深さは33cmを測った。底面は広く平坦で、壁は湾曲せず、土壌の断面形は逆台形を呈していた。埋土は2層に分けられ、第2層は薄く土壌の底に堆積していた。少量の土器片が出土し、それから弥・後・Iの土壌と考える。(岡本)

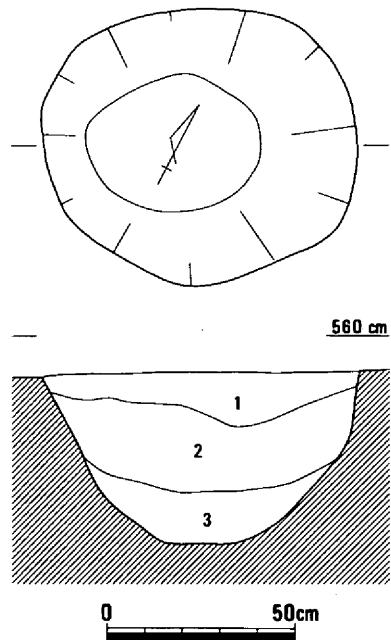
土壌122 (第117・340図)

土壌120の東45cmで検出された。Cd 5 04区に位置



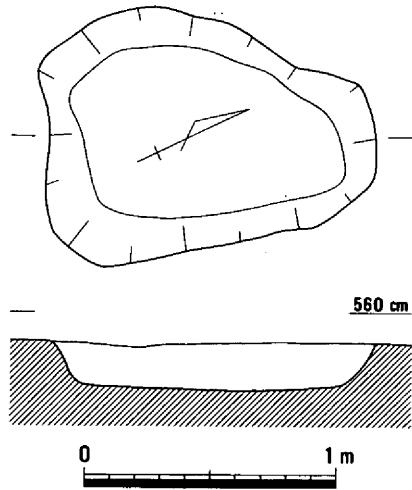
- 1 柱穴
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
- 3 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土

第339図 土壌121 (1/30)



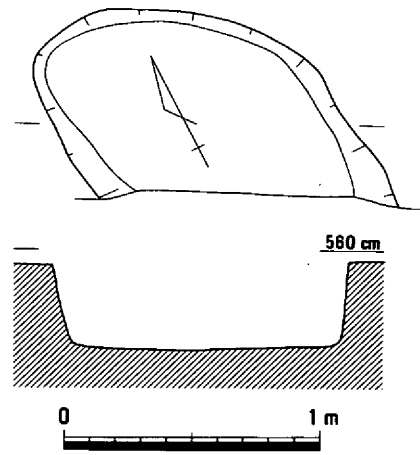
- 1 におい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土

第340図 土壌122 (1/20)



黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土

第341図 土壙123 (1/30)



第342図 土壙124 (1/30)

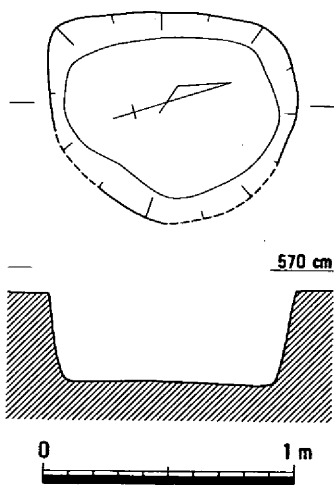
していた。平面形は円形に近く、長径が83cm、短径は72cm、土壙の深さは45cmを測った。土壙の壁は湾曲し、凹面の底面に続くため、土壙の断面形は椀形を呈していた。埋土は3層で、順序よい堆積を示していた。弥生土器片が少量出土したが、年代判定のできるものはみられなかった。(岡本)

土壙123 (第117・341図)

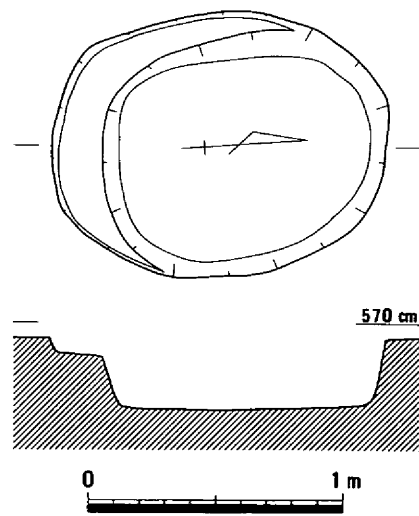
土壙116から2.5m東で検出された。Cd503区とCe503区との境に位置していた。土壙の平面形は不定形で隅丸の三角形のような形状を呈していた。長径が139cm、短径は99cmで、土壙の深さは20cmを測った。広く平坦な底面をもち、土壙の断面形は皿形を呈していた。埋土は1層だった。弥生時代後期とみられる土器片が1片出土したのみで、細かな時期判定はできなかった。(岡本)

土壙124 (第117・342図)

Ce503区で検出され、土壙123の南1.2mに位置していた。土壙の南半は調査区の側溝で破壊した。平面形は楕円形と推測される。残存部分の長径は153cm、短径は100cm、土壙の深さは36cmを測った。弥生時代後期の土器片が少量出土したが、細かな時期判定のできる資料はなかった。(岡本)



第343図 土壙125 (1/30)



第344図 土壙126 (1/30)

**土壙125 (第117・343図)**

調査区東部の中央付近、Ce503区で検出された。土壙124から1.5m南に位置していた。平面形は不整形な楕円形で、長径が105cm、短径は83cm、土壙の深さは37cmを測った。底面は広くて平坦だった。出土遺物はなかったが、検出面の位置や埋土から弥生時代の土壙と考えられる。(岡本)

**土壙126 (第117・344図)**

Ce503区に位置し、土壙125の70cm東で検出された。土壙の平面形は楕円形で、長径が135cm、短径は105cm、土壙の深さは28cmを測った。土壙の南から西にかけての縁辺で、検出面からの深さが7cm程度の段が認められた。土壙の底面は広く、ほぼ平坦であったが、中央部がわずかにくぼんでいた。出土遺物はなかったが、検出面の位置や埋土から弥生時代の土壙と考えられる。(岡本)

**土壙127 (第117・345図)**

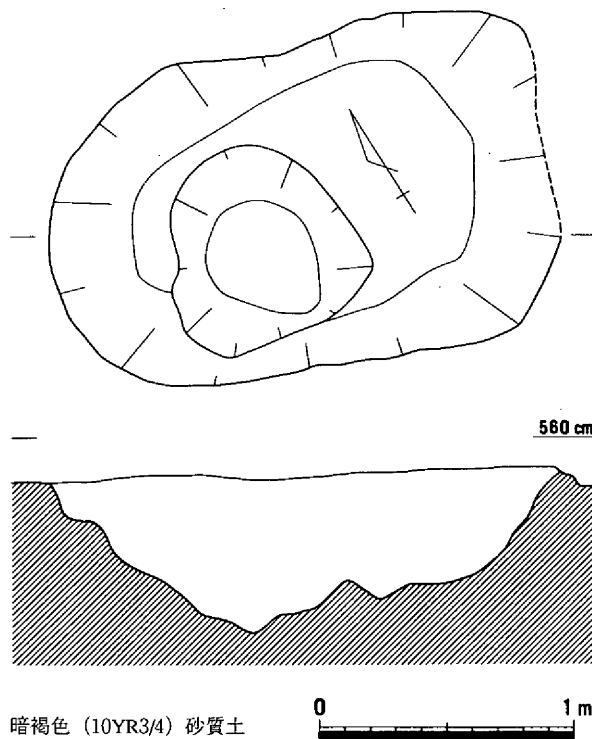
土壙126の20cm南に位置していた。大形の土壙で、一部はCe504区に及んでいた。土壙の西半は楕円形、東半は隅丸方形を呈した不定型な形状を示していた。土壙内は二段構造をなし、中央部から西に片寄って長径79cmの落ち込みがあった。長径が199cm、短径は134cm、深さは61cmを測った。土壙内全体に小凹凸がみられた。弥生土器かも定かでない小片が少量出土したのみであった。(岡本)

**土壙128 (第117・346図)**

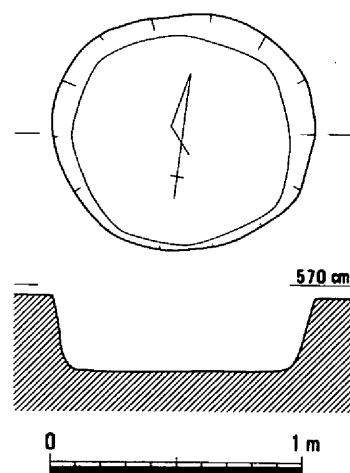
土壙127から1m南西で検出され、Ce503区に位置していた。平面形は円形で、長径が105cm、短径は93cm、土壙の深さは30cmを測った。広い底面をもっていたが、底面はわずかに凹面をなしていた。出土遺物はなかったが、検出面の位置や埋土から弥生時代の土壙と考えられる。(岡本)

**土壙129 (第117・347図)**

Ce504区で検出された。土壙124の3.5m東にあたる。平面形は楕円形で、長径が84cm、短径は63cm、土壙の深さは34cmを測った。底面は傾斜するものの少しくぼむ程度で、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土の第1層と第2層は類似していた。弥生時代後期の土器片が少量出土した。(岡本)

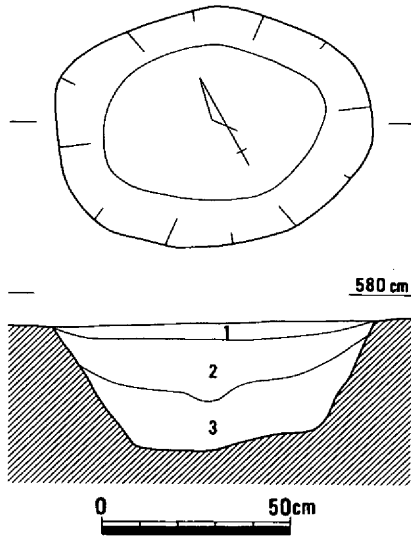


第345図 土壙127 (1/30)



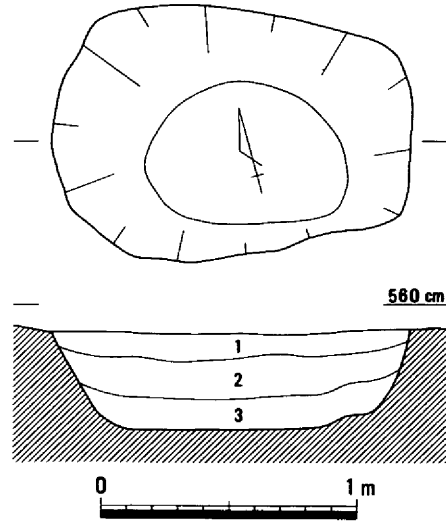
第346図 土壙128 (1/30)





- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第347図 土壌129 (1/20)



- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 3 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土

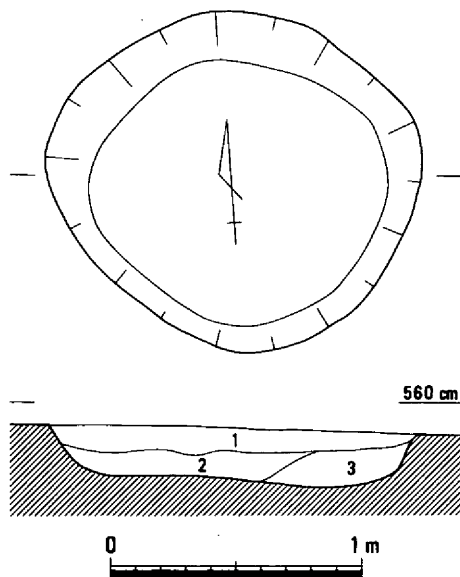
第348図 土壌130 (1/30)

土壌130 (第117・348図)

土壌129の北東に近接して検出された。平面形は不整形な楕円形で、東端は方形に近かった。長径が140cm、短径は102cm、土壌の深さは40cmを測った。底面はほぼ平坦で、土壌の断面形は逆台形を呈していた。弥生時代後期前半とみられる土器片が少量出土し、弥・後・Iの土壌と考える。(岡本)

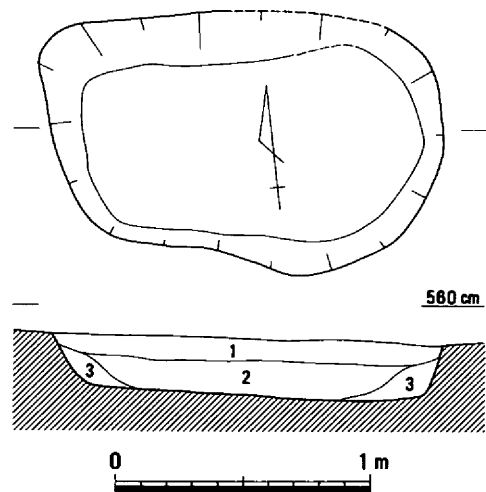
土壌131 (第117・349図)

Ce504区にあり、土壌130の南1.4mで検出された。土壌の平面形は不整形な円形で、長径が151cm、



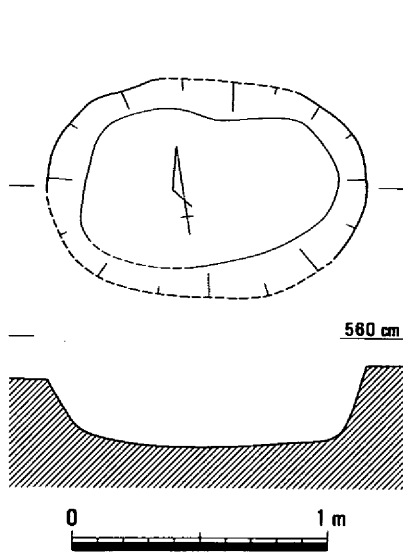
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 灰オリーブ色 (5YR4/2) 粘性砂質土
- 3 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘性砂質土

第349図 土壌131 (1/30)

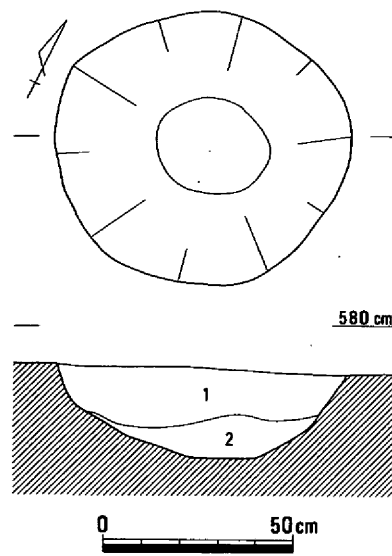


- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土
- 3 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘性砂質土

第350図 土壌132 (1/30)



第351図 土壙133 (1/30)



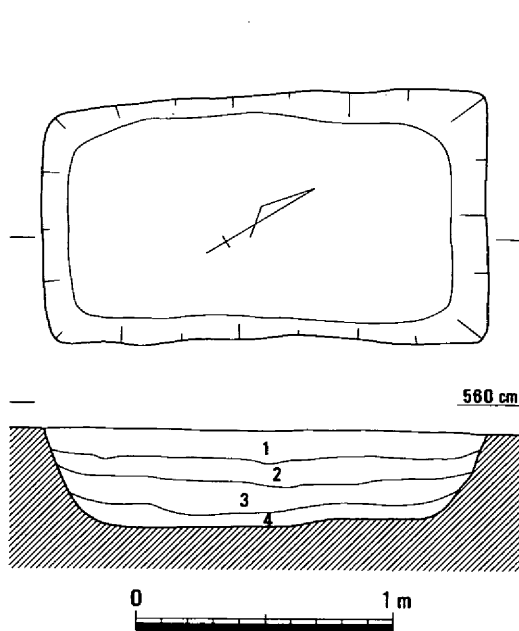
第352図 土壙134 (1/20)

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器・炭含)
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土

短径は133cm、土壙の深さは24cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦で、土壙の断面形は皿形を呈していた。埋土は3層に分けられ、第3層は土壙の東側に片寄って堆積していた。出土土器片は少量で、弥生時代後期後半のものかとみられ、これから土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考える。(岡本)

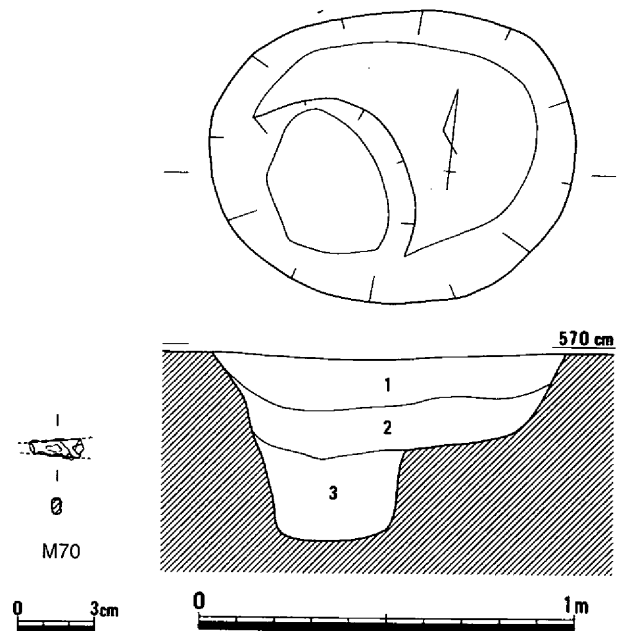
土壙132 (第117・350図)

土壙131の南東20cmにあった。東西方向に長い隅丸長方形の土壙で、長軸の長さが154cm、幅は105cm、土壙の深さは26cmを測った。埋土の堆積状況はやや複雑で、東西両端に第3層が少し堆積し、そ



- 1 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (炭・土器含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭・土器含)
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (炭・土器含)
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土

第353図 土壙135 (1/30)・出土遺物 (1/3)



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (炭少含)
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) ~オリーブ黒色 (7.5T3/2) 砂質土
- 3 灰色 (7.5Y4/1) 砂質土

第354図 土壙136 (1/20)

の間を第2層が堆積して土壌の下半を埋めていた。弥・後・Ⅰの土器片が1片出土した。(岡本)

**土壌133** (第117・351図)

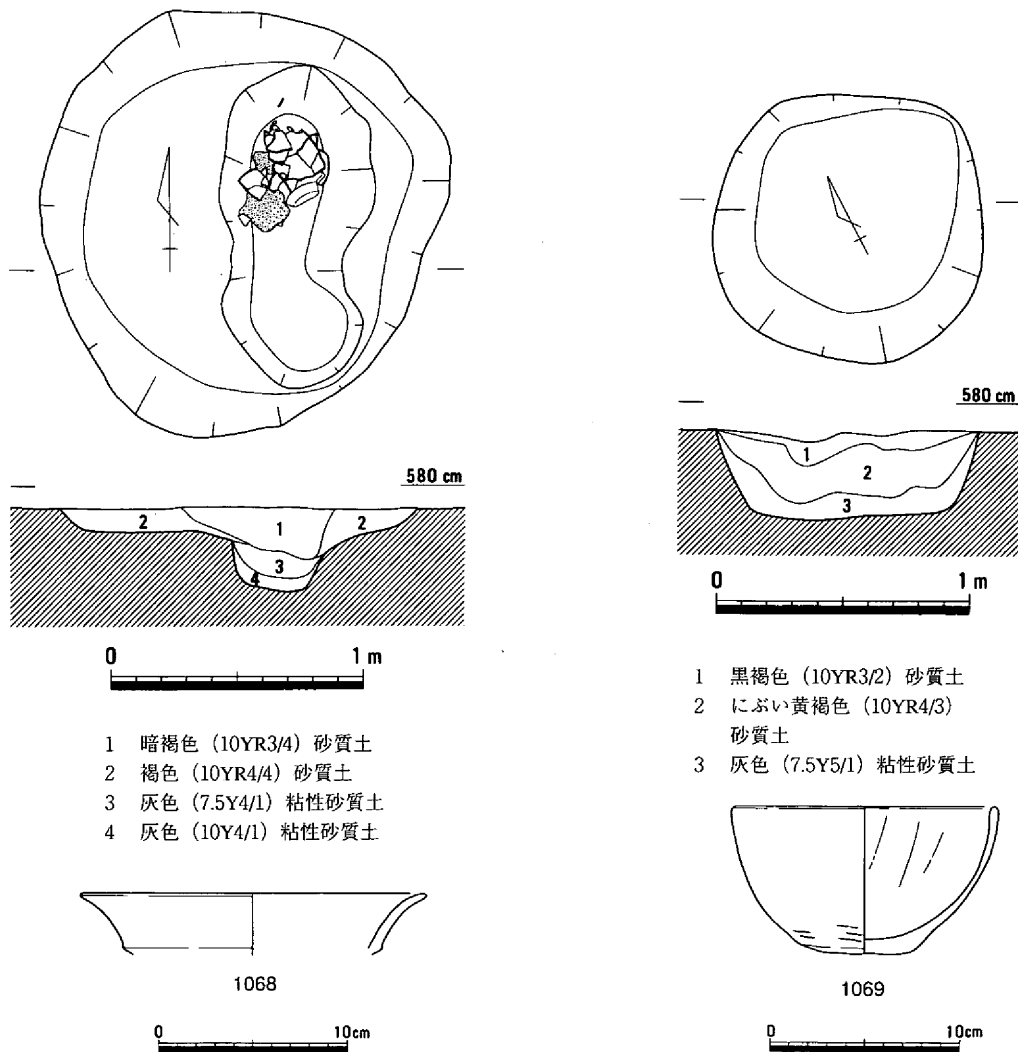
北縁の一部を土壌131によって破壊されていた。東には土壌132がほぼ接していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が推定で125cm、短径は85cm程度とみられ、土壌の深さは33cmを測った。底面は広くてわずかに凹面になり、土壌の断面形は皿形を呈していた。弥生時代後期とみられる土器片が少量出土したが、さらに年代を細別することはできなかった。(岡本)

**土壌134** (第117・352図)

調査区東部の北西、Cd504区で検出された。土壌103の2m南に位置していた。平面形は円形で、長径が78cm、短径は72cm、土壌の深さは25cmを測った。底面は凹面で、壁は湾曲するため、土壌の断面形は碗形を呈していた。埋土は2層で、第1層には土器片や炭粒が含まれていた。土器片は少量で、弥生時代後期のもものとみられたが、時期の細別はできなかった。後期の土壌としておく。(岡本)

**土壌135** (第117・353図)

土壌134の1m東で検出された。南北方向に長い長方形の土壌で、北は土壌136と近接し、南は土壌137と接していた。長軸の長さが173cm、幅は101cm、土壌の深さは38cmを測った。底面は広くてほぼ



第355図 土壌137 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第356図 土壌138 (1/30)・出土遺物 (1/4)

平坦であった。埋土は4層に分けられ、どの層もほぼ水平に堆積していた。第1層から第3層までは土器片や炭粒を含んでいた。M70は鉄片であるが、器種はわからない。断面形は長方形をなす。土器の年代は弥生時代後期後半とみられ、土壌の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えられる。 (岡本)

**土壌136** (第117・354図)

土壌135の北東に近接して検出された。平面形は楕円形で、長径が102cm、短径は76cmを測った。土壌内は二段構造となり、土壌の南西に円形の一段深い穴が設けられていた。この穴の長径は53cmであった。土壌の深さは東半の上段面までが25cm前後、南西の穴の底で50cmを測った。埋土は3層で、南西の穴は第3層の土で充填されていた。形態からは柱穴の可能性はある。遺物はなかった。 (岡本)

**土壌137** (第117・355図)

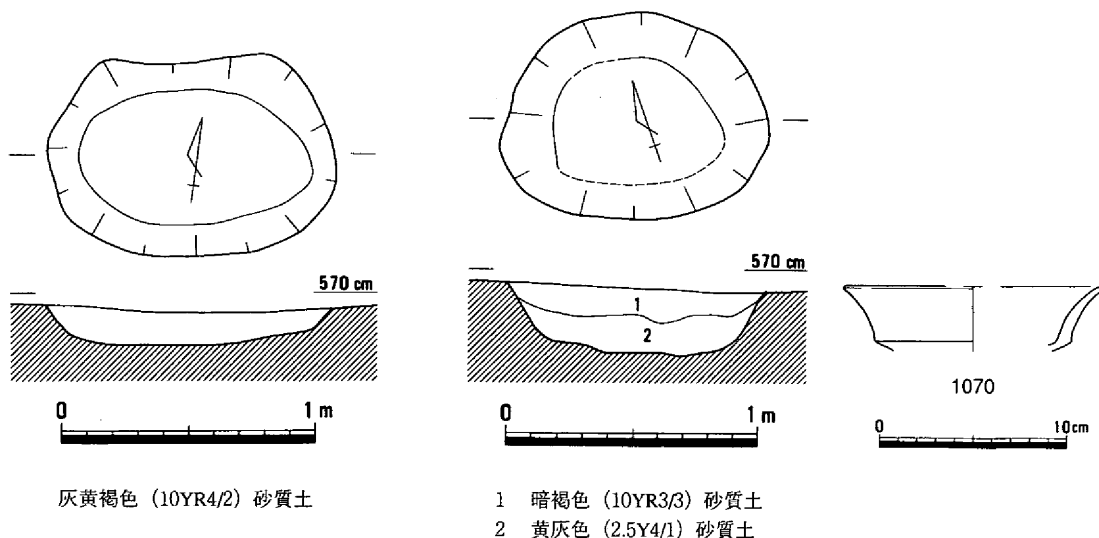
土壌135の南に接して検出され、Cd504区とCe504区に跨っていた。検出面での平面形は円形に近く、長径が169cm、短径は163cmを測ったが、底面の東半には不整形な長楕円形の落ち込みがあり、土壌内は二段構造になっていた。長楕円形の落ち込みは長径が123cm、短径は62cmで、一段目の底面からの深さは20cm程度、検出面からの深さが33cmであった。長楕円形の落ち込みを埋めた第3層中から大形の土器片が集中して出土した。土器の年代から弥・後・Ⅲ～Ⅳ期の土壌と考える。 (岡本)

**土壌138** (第117・356図、図版94)

土壌137の東に1.2m離れて検出された。やはりCd504区とCe504区に跨っていた。土壌の平面形は円形に近く、長径が114cm、短径は110cm、土壌の深さは35cmを測った。底面は広くほぼ平坦で、土壌の断面形は逆台形を呈していた。埋土は3層に分けられ、第1層には炭粒が多量に含まれていた。完形の鉢が1点と少量の土器片が出土した。鉢1069は直口で、口縁端部は丸くおさめている。底面をもつがやや不安定で、底部外面にはタタキ目の痕跡が認められた。弥・後・Ⅳと考える。 (岡本)

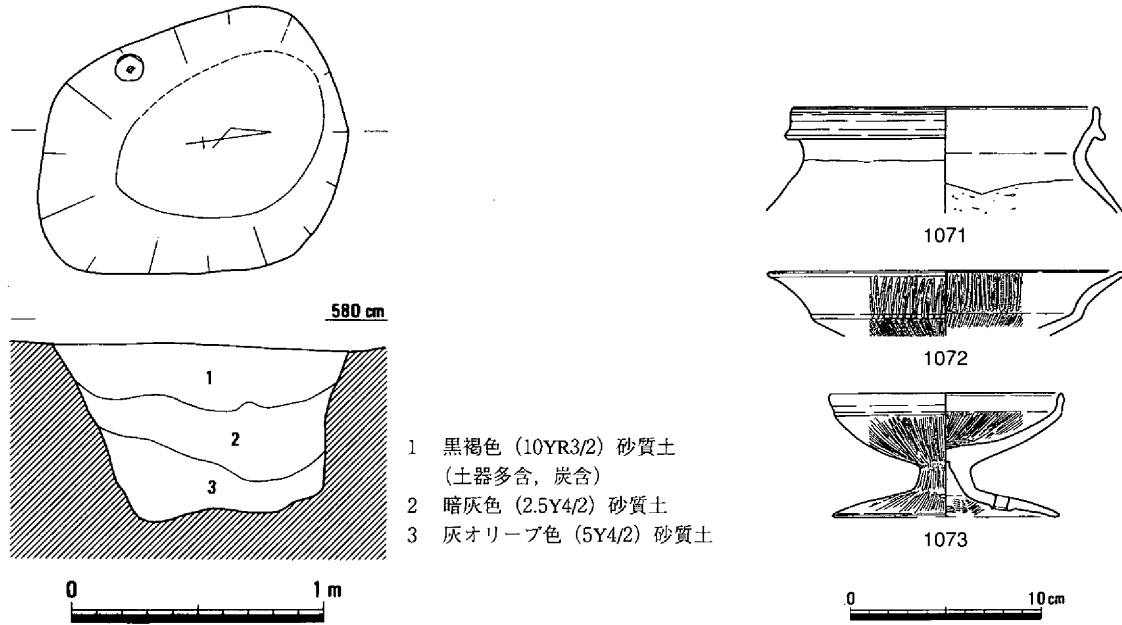
**土壌139** (第117・357図)

調査区の北西隅、Cd505区で検出された。土壌136から1.5m北東に位置していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が114cm、短径は77cm、土壌の深さは15cmを測った。底面は広く、わずかに凹面をなしていた。浅いためか、埋土は灰黄褐色砂質土の1層であった。出土遺物としては、弥生時代後期かとみられる土器片が2片にすぎず、細かな時期は不明である。 (岡本)



第357図 土壌139 (1/30)

第358図 土壌140 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第359図 土壙141 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙140** (第117・358図)

土壙138と土壙139の間に位置し、土壙139からの距離は1.5mであった。土壙の平面形は楕円形で、長径が107cm、短径は82cm、土壙の深さは29cmを測った。底面は湾曲して凹凸があり、土壙の断面形は椀形を呈していた。埋土は2層で、第1層は中央部がもっとも厚くなっていた。弥生時代後期後半の土器が少量出土した。1070は高杯である。弥・後・Ⅲ～Ⅳの土壙と考えられる。(岡本)

**土壙141** (第117・359図、図版11・94)

Cd505区とCe505区との境で検出された。土壙138の東2mに位置していた。土壙の平面形は不整形な楕円形で、長径が129cm、短径は100cm、土壙の深さは72cmを測った。底面は凹凸をもち、全体としては南へわずかに傾斜していた。土壙の壁はほとんど湾曲せず、土壙の断面形は四角形を呈していた。埋土は3層に分けられ、しだいに堆積した状況を示していた。第1層には土器片が多く含まれていた。出土土器の中には短脚の高杯などがあり、土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考える。(岡本)

**土壙142** (第117・360図)

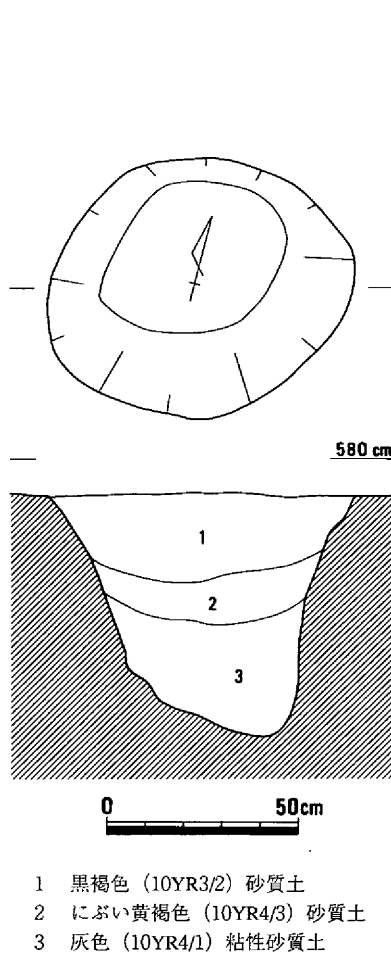
Ce505区に位置し、土壙141から35cm南西で検出された。規模は小さいものの、全体に土壙141との類似が認められた。平面形は円形に近く、長径が82cm、短径は69cm、土壙の深さは64cmを測った。底面はかなり傾斜していた。弥生時代後期後半かとみられる土器片が少量出土した。(岡本)

**土壙143** (第117・361図)

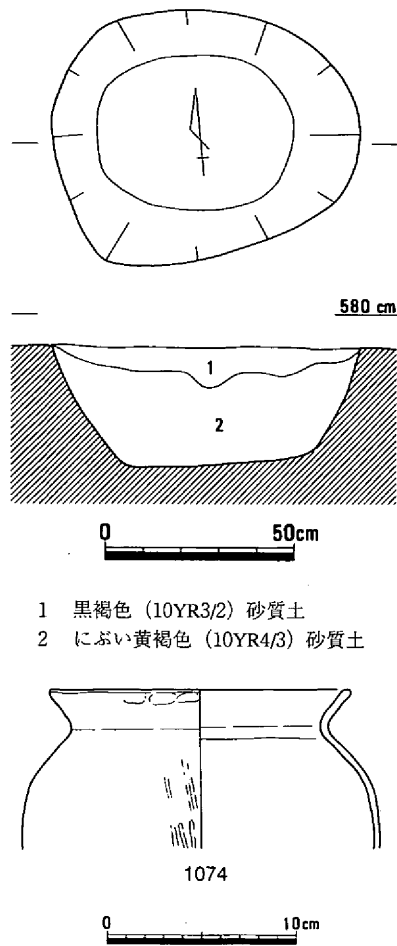
土壙142の南に近接して検出された。その距離は15cmにすぎなかった。やはりCe505区に位置していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が81cm、短径は66cmを測った。土壙の深さは32cmであった。底面は平面であったが、わずかに西へ傾斜していた。土壙の壁はあまり湾曲せず、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土は2層あり、第1層は中央部分がもっとも厚くなっていた。弥生時代後期後半の土器片が少量出土したが、1074の甕は弥・後・Ⅳから古・前・Ⅰに降る可能性がある。(岡本)

**土壙144** (第117・362図、図版12・102)

調査区の北西隅、Cd505区で検出された。掘立柱建物14の柱穴がこの土壙の埋没後に掘られてい



第360図 土壙142 (1/20)



第361図 土壙143 (1/20)・出土遺物 (1/4)

た。大形の土壙で、平面形は楕円形を呈し、長径が240cm、短径は181cm、土壙の深さは24cmを測った。底面は長径が224cmと広く、ほぼ平坦でわずかに凹凸がみられ、北へ少し傾斜していた。埋土は土器片を多く含み、炭粒も包含されていた。土器片は埋土中全体に散乱した状態であった。

出土遺物としては、土器片の他に鉄器もみられた。M71は有茎の鉄鏃で、鏃身は柳葉形で棘はなかった。茎は断面が円形を呈していた。M72は鉄斧の袋状部分の破片で、叩き延ばした鉄板を両側縁から折り返して柄を差し込む袋部を形成していた。袋部の上縁には鉢巻きを巡らせていたようである。出土した土器片は多量であったが、図示できるものは少なかった。弥・後・Ⅲが主体を占めている。1078の大形鉢は備後地方によくみられる形態をもち、備中地方でも散見される。(岡本)

土壙145 (第117・363図)

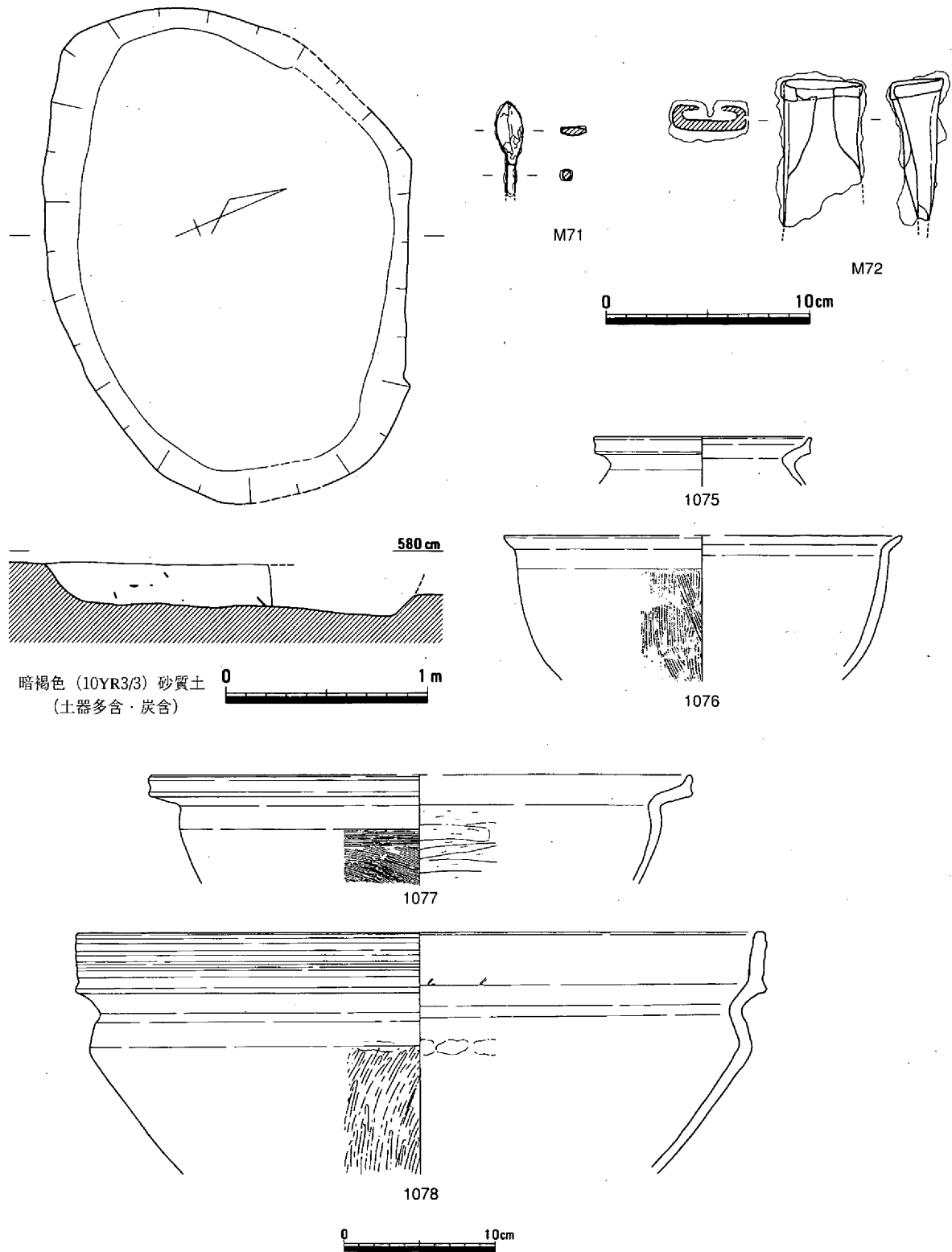
土壙144の南端を一部破壊して掘られていた。平面形は楕円形で、長径が71cm、短径は62cm、土壙の深さは28cmを測った。底面は北に片寄り、ほぼ平坦だった。埋土は2層に分けられ、第1層は中央部が厚くなっていた。弥生時代後期かとみられる土器片が少量出土したのみであった。(岡本)

土壙146 (第117・364図)

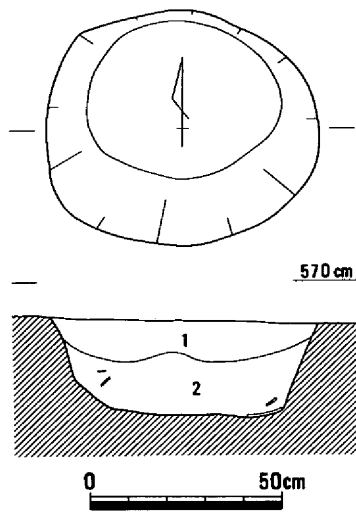
調査区の北東隅、Cd505区とCd506区に跨り、土壙144から3m東に位置していた。平面形は卵形で、長径が192cm、短径は119cm、土壙の深さは18cmを測った。底面は広くてほぼ平坦だった。焼土塊が中央から東寄りで検出された。遺物はなく、検出状況から弥生時代の土壙と考える。(岡本)

土壌147 (第117・365図)

Ce505区で検出された。土壌141の南東1mに位置していた。東半は中世の溝32によって破壊されていた。平面形は隅丸長方形と推定される。残存部分の長軸長は80cm、幅は65cm、土壌の深さは18cmを測った。埋土は3層で、第1層には土器片や炭粒が含まれていた。年代は明瞭でない。(岡本)

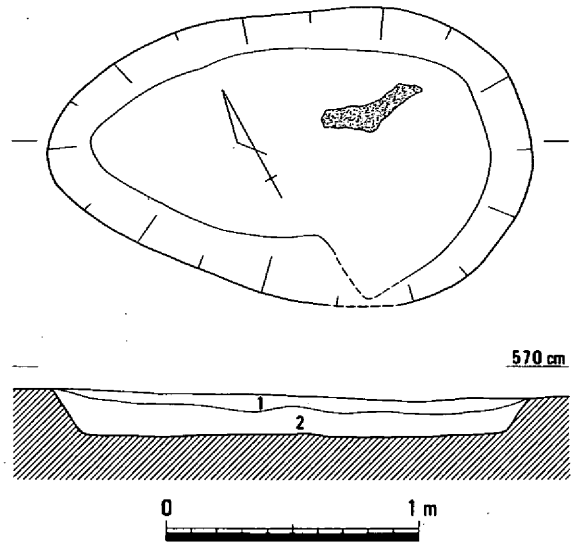


第362図 土壌144 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 2 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘性砂質土

第363図 土壙145 (1/20)



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 2 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土

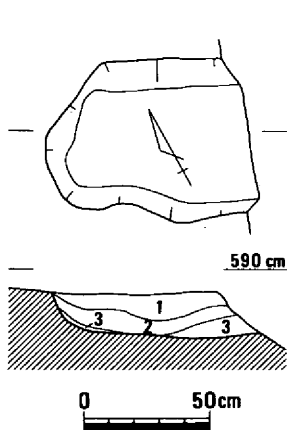
第364図 土壙146 (1/30)

土壙148 (第117・366図)

土壙147の東4mで検出された。やはりCe505区に位置していた。平面形は楕円形で、長径は118cm、短径は74cmを測った。土壙の内部は二段構造になり、北西部が一段深く39cmであった。南東部の底面も平坦ではなく、南東端がくぼんでいた。弥生時代後期後半の土器を出土した。(岡本)

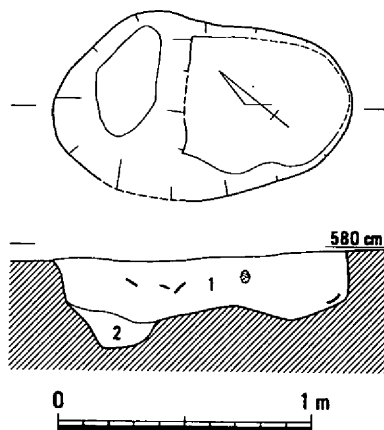
土壙149 (第117・367図)

調査区の東端Ce505区で、土壙148の5m南から検出された。平面形は長楕円形で、中央部分が少しくびれていた。長径が108cm、短径は52cm、土壙の深さは21cmを測った。底面は平坦ではなく、北端にくぼみがみられた。弥生時代後期とみられる土器片が少量出土した。(岡本)



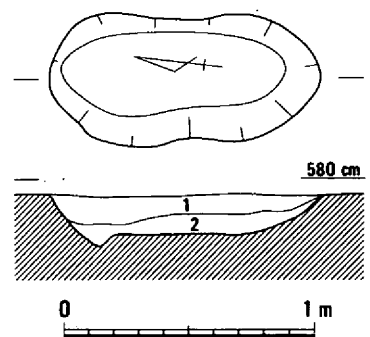
- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器・炭少含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂質土

第365図 土壙147 (1/30)



- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土 (炭・土器含)
- 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘性砂質土

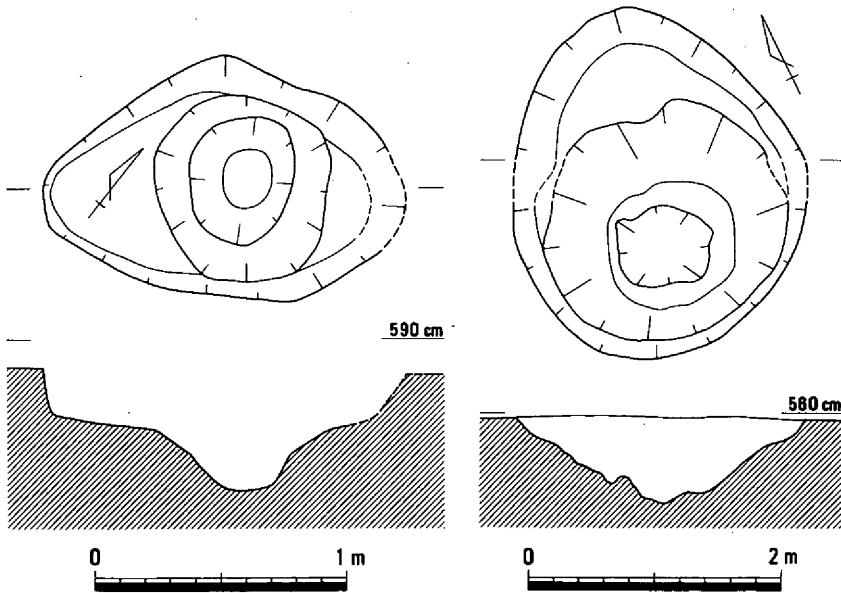
第366図 土壙148 (1/30)



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土

第367図 土壙149 (1/30)





暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土  
(浅黄色粘質土塊含, 炭・土器多含)

第368図 土壌150 (1/30)

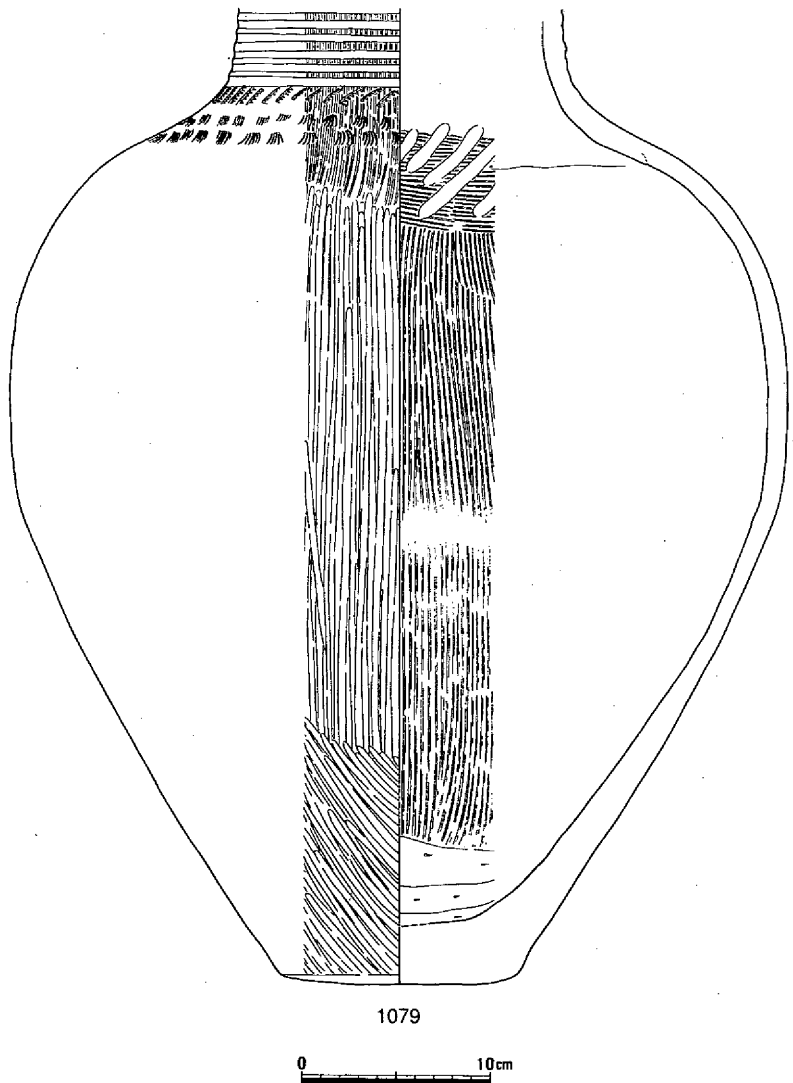
第369図 土壌151 (1/60)

**土壌150** (第117・368図)

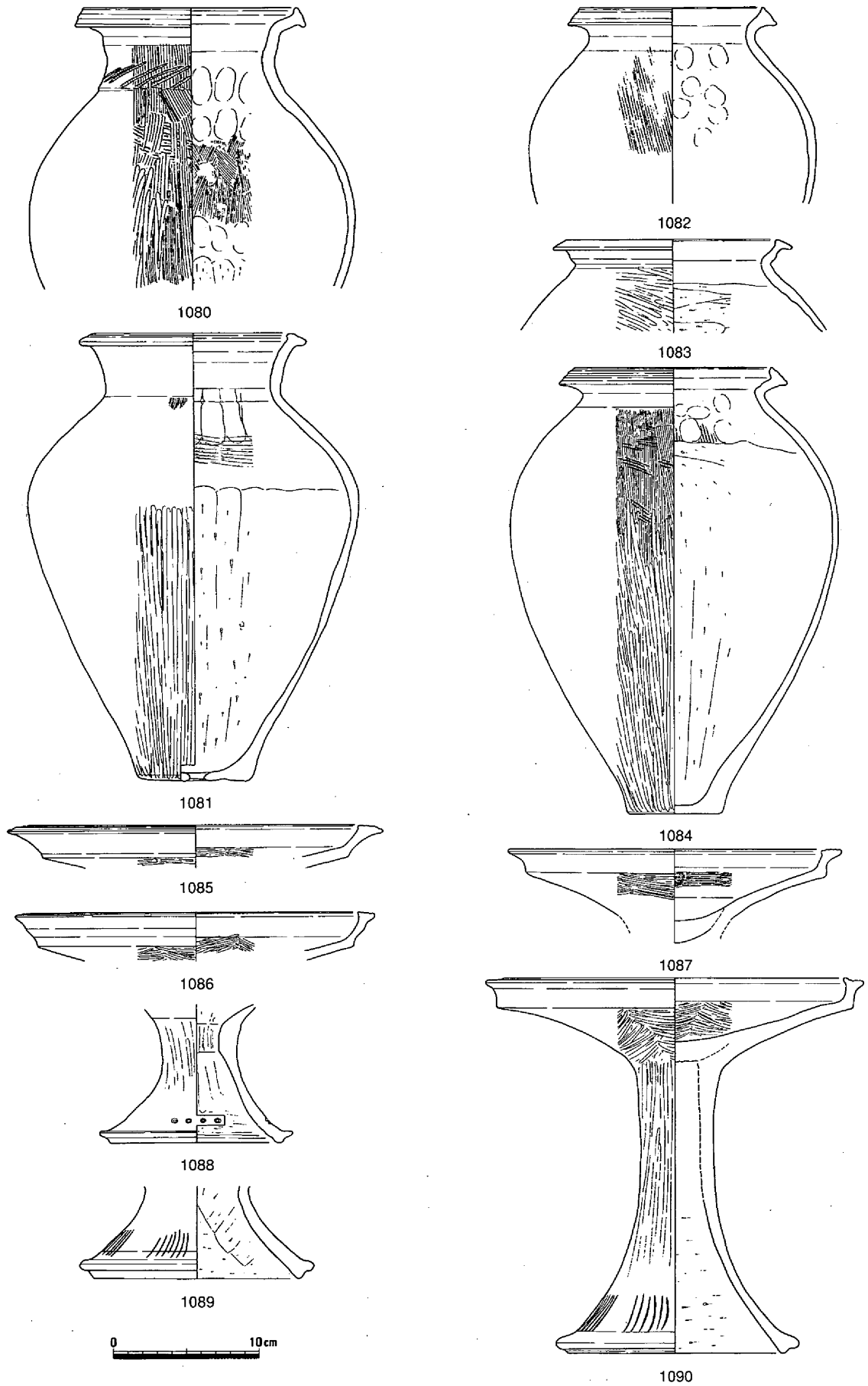
調査区東部中央付近のCf5 03区で検出された。袋状土壌が周辺に分布し、1 m南には袋状土壌83が位置していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が推定で140cm、短径は95cm、土壌の深さは49cmを測った。土壌の中央には長径が72cmの円形の穴が一段深く掘られていた。土器片がわずかに出土したが、時期の確定はできなかった。(岡本)

**土壌151** (第117・369~371図、  
図版95)

調査区の東端、Cf5 04区で検出された。袋状土壌86が1 m西にあり、竪穴住居17は1.5 m南西で検出された。大形の土壌で、平面形は卵形を呈し、長径が278cm、短径は233cmを測った。土壌の内部は、土壌の中央から南に片寄ってすり鉢状の穴が一段深く掘られ、そ



第370図 土壌151出土遺物① (1/4)



第371図 土壙151出土遺物② (1/4)

の底面の中央にさらに浅いくぼみがあった。南北方向の土壌の断面では、検出面も含めて三段構造となる。一段目の深さは20cm、二段目までは60cm、もっとも深い部分で68cmであった。埋土は暗灰黄色粘性砂質土であったが、底部付近は粘性が弱くて細砂に近く、上部では浅黄色粘質土塊を含み、炭粒や土器片を多量に包含していた。出土土器の年代は弥・後・Iであった。(岡本)

**土壌152** (第117・372図)

調査区東部の南端、Cg 5 03区で検出された。南西に袋状土壌85が近接していた。土壌の平面形は楕円形で、長径が154cm、短径は127cm、土壌の深さは35cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦で、土壌の断面形は逆台形を呈していた。埋土は暗褐色砂質土の1層であった。遺物は出土しなかったが、検出面や埋土から弥生時代の遺構と考えられる。(岡本)

**土壌153** (第117・373図)

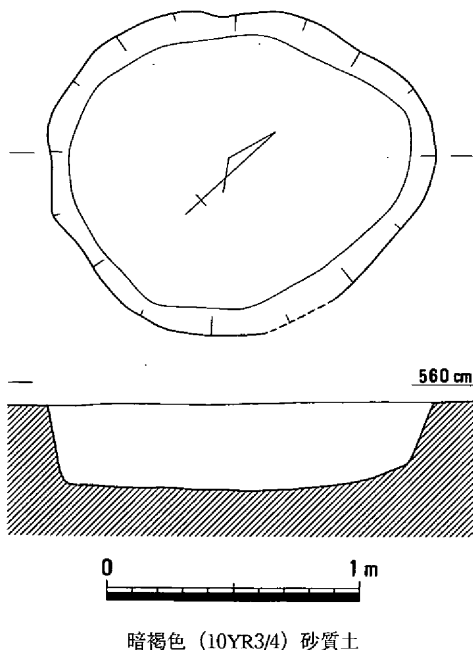
調査区東部の南端、Ch 5 03区とCh 5 04区の境で検出された。大部分は調査区外にある。平面形は楕円形と推定され、大形の土壌となるようである。土壌の中央にはやはり楕円形を呈する穴が一段深く掘り込まれ、その底での深さは47cmを測った。弥・後・Ⅲ～Ⅳの土器片が出土した。(岡本)

**土壌154** (第117・374～376図、図版12・94・102・106)

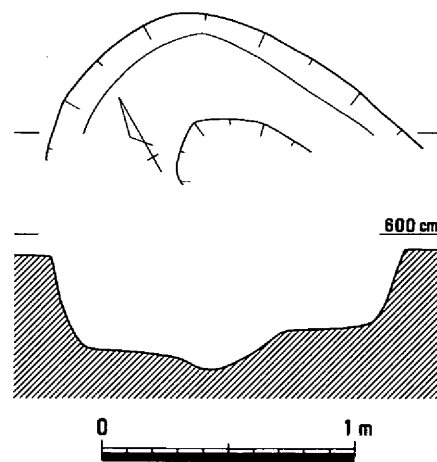
調査区の南東端付近、Cg 5 04区で検出された。土壌152の5 m東、土壌155の北西2.5mに位置していた。大量の土器片が折り重なった土器溜りが検出され、それらを除去して精査すると土壌の存在が確認された。土器溜りは土壌内に形成されていたと考えられる。土器溜りには土器の他にも鉄器や石器も包含され、また、多量の炭粒やかなりの数の河原石もいっしょに包含されていた。

土壌の平面形は卵を引き延ばしたような楕円形を呈し、長径が213cm、短径は106cm、土壌の深さは46cmを測った。土壌の壁は中程に傾斜角度が変化する肩をもち、それが全周していた。底面もかなり凹凸をもっていたが、土壌の断面形は大きくは楕形、ないしは「V」字形を呈していた。埋土は大部分が第1層の褐灰色粘性砂質土によって占められていたが、南半部では壁に添って第3層が薄く堆積していた。土壌の形状や遺物の出土状態からするとこの土壌はゴミ穴として掘削されたと考えられる。

出土遺物は多種多彩である。S40はサヌカイト



第372図 土壌152 (1/30)



第373図 土壌153 (1/30)

片で、断面は楔形である。M73は鉄製摘鎌の完形品である。M74は用途不明の鉄線で、先端を折り曲げ、断面は方形を呈する。出土土器のうち、甕では口縁端部の上方への拡張が顕著で、1106の口縁部外面には櫛描き沈線が施されていた。高杯はいずれも短脚である。1111や1129の底部は丸底に近くなっていた。土器の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと幅があり、古墳時代初頭のものも一部含まれるか。(岡本)

**土壙155** (第117・377図)

土壙154から2.5m南東で検出された。Cg 5 04区に位置していた。平面形は方形に近く、長軸方向の長さが133cm、幅は121cm、土壙の深さは33cmを測った。底面は広く、わずかに凹面をなしていた。弥生時代後期前半の土器が少量出土し、土壙の年代は弥・後・Ⅰと考えられる。(岡本)

**土壙156** (第117・378図)

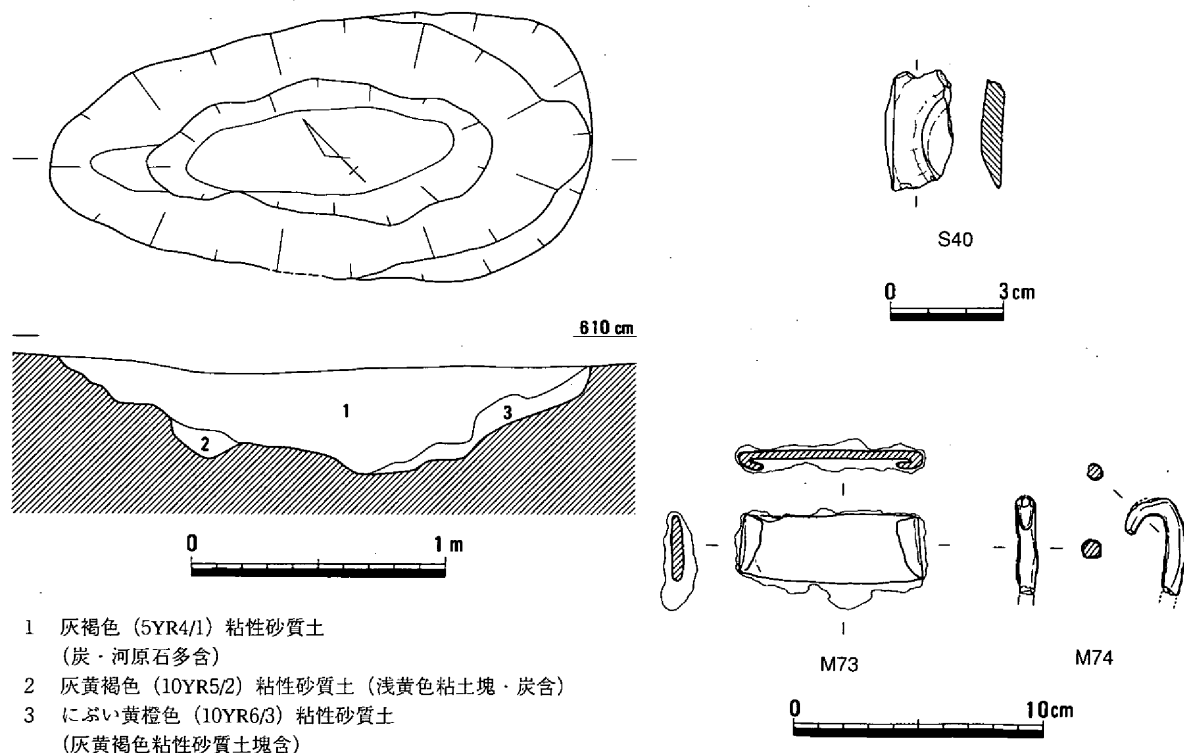
Cg 5 05区で検出され、土壙155の2 m東に位置していた。土壙の北半は竪穴住居47に破壊されていた。平面形は楕円形と推定され、残存部分の長径は101cm、土壙の深さは61cmを測った。埋土は暗褐色砂質土で炭粒を含んでいた。弥・後・Ⅰの土器片が出土し、その年代の土壙と考える。(岡本)

**土壙157** (第117・379図)

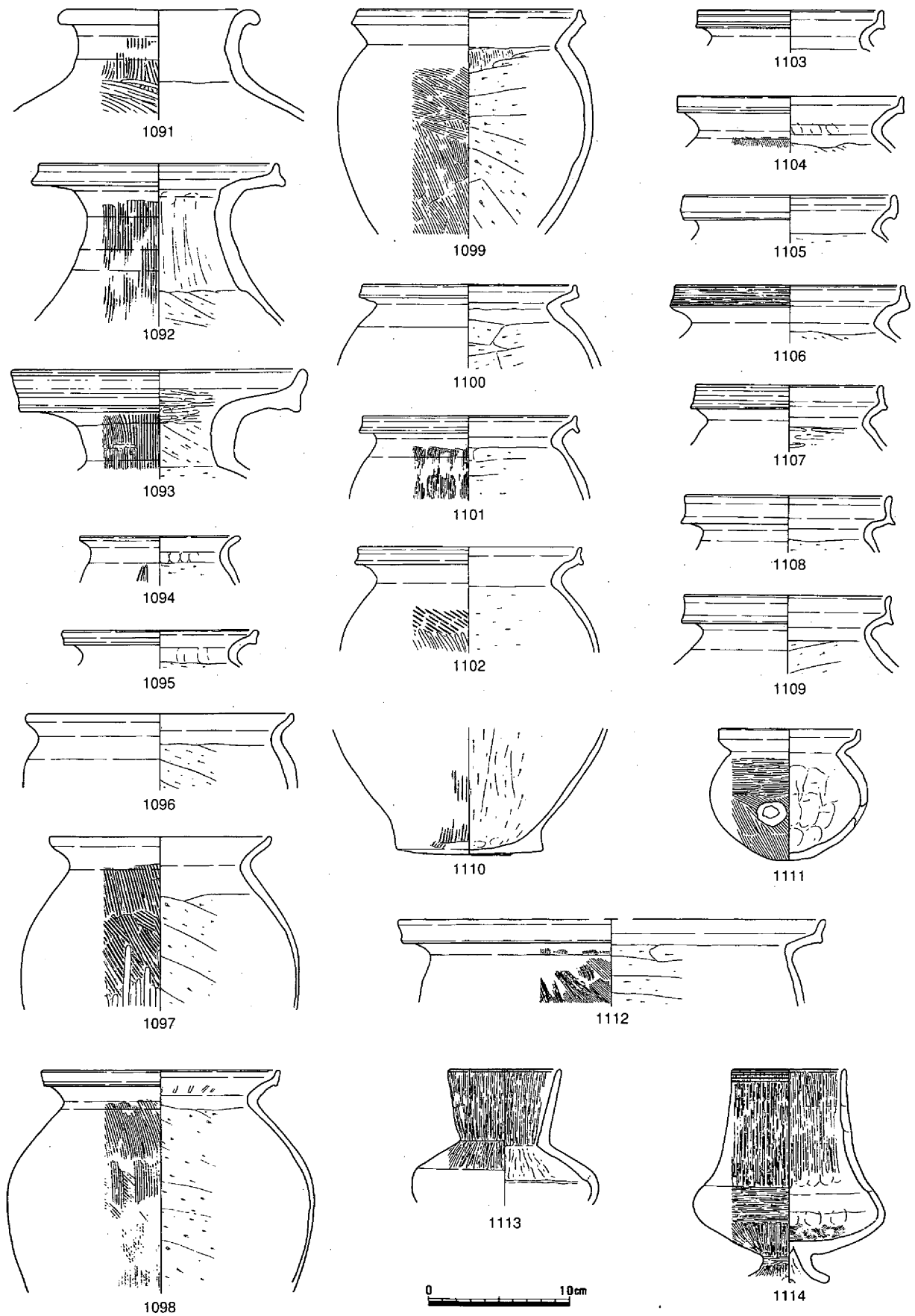
調査区の東端で検出され、土壙156から3 m東に位置していた。北東部を検出したにすぎない。平面形は方形と推定され、残存部分の長辺の長さが130cm程度、土壙の深さは63cmを測った。底面はほぼ平坦であった。弥生時代後期後半の土器が出土し、土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考える。(岡本)

**土壙158** (第117・380図)

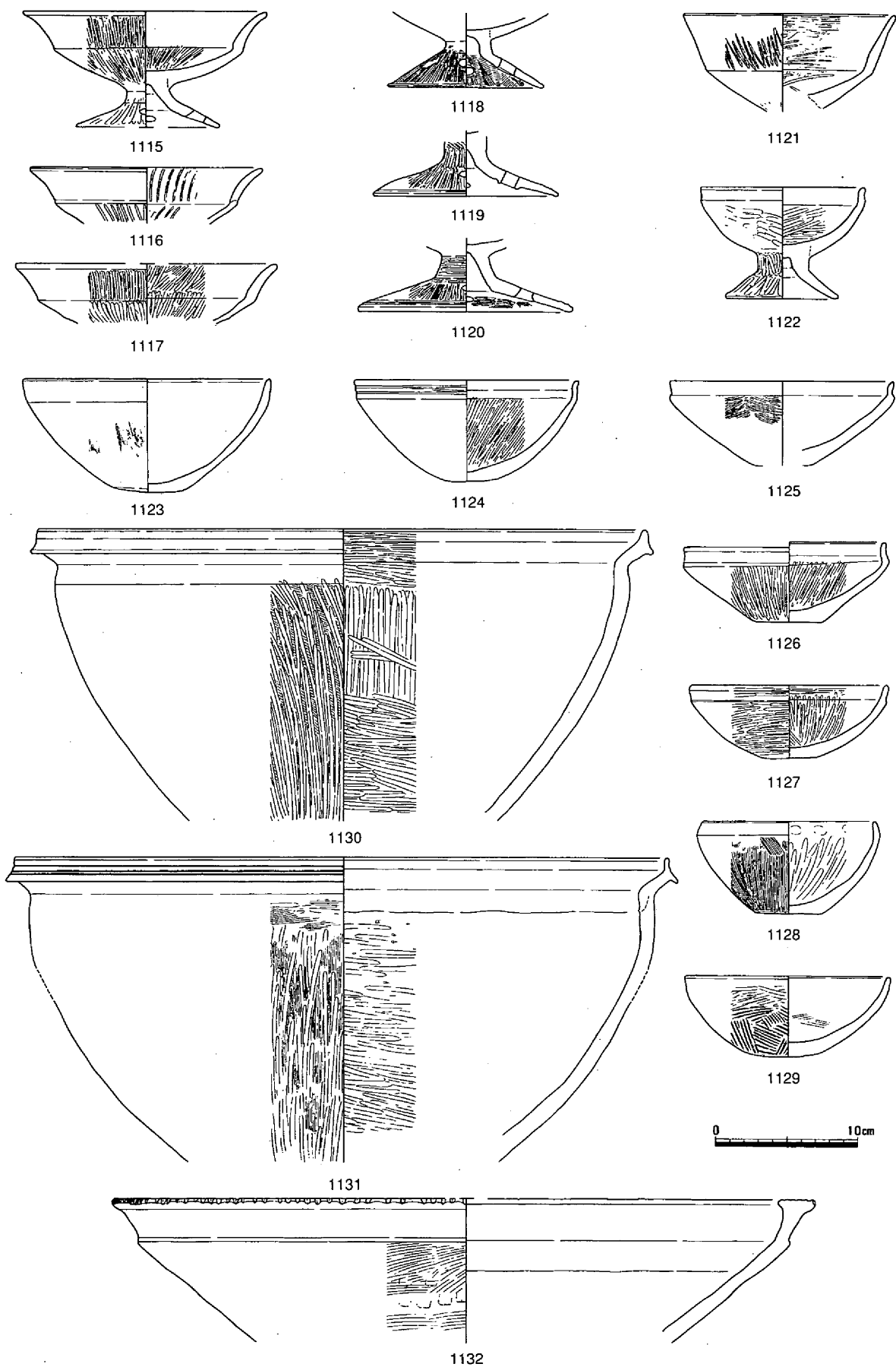
調査区の南東隅、Ch 5 04区で検出された。土壙155から3.5m南に位置していた。南東部は後世に破壊されていた。平面形は方形とみられ、長軸長が167cm、幅は151cm、土壙の深さは33cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦であった。弥生時代後期前半かともみられる土器片が出土した。(岡本)



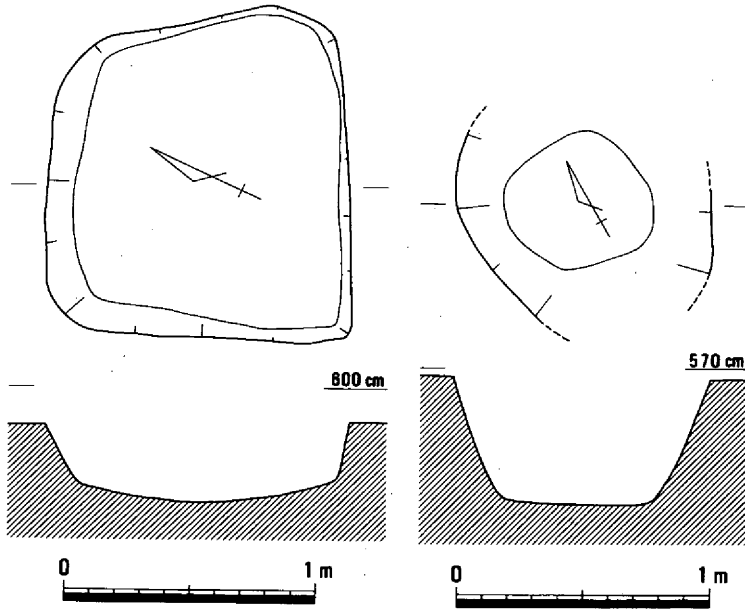
第374図 土壙154 (1/30)・出土遺物① (1/3)



第375図 土壙154出土遺物② (1/4)

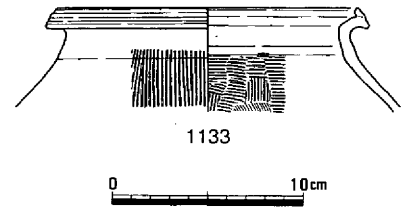


第376図 土壙154出土遺物③ (1/4)



第377図 土壙155 (1/30)

第378図 土壙156 (1/30)・出土遺物 (1/4)

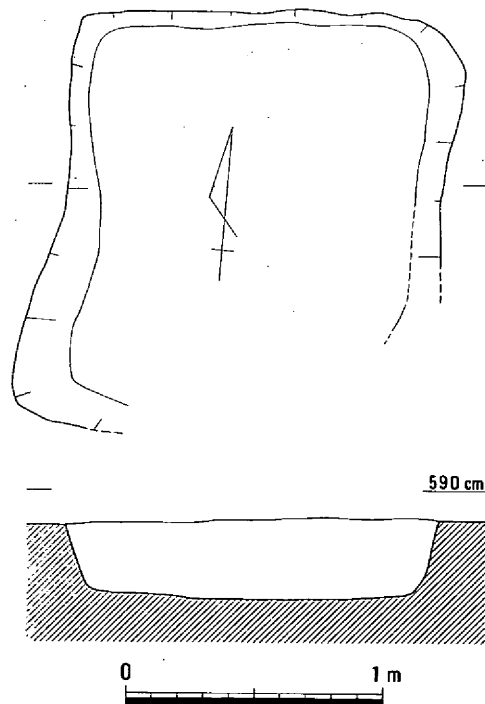


土壙159 (第117・381図、図版12・95)

調査区の南東端、Cg 5 05区で検出された。土壙156から1 m南東に位置していた。土壙の平面形は楕円形で、長径が推定で120cm、短径は82cmを測った。土壙内では、南東隅で長径が40cm前後の柱穴状の穴が土壙の底面よりも一段深く掘り込まれていた。柱穴状の穴の底は直径15cmで、検出面からの深さは42cmを測った。土壙の底面までの深さは27cmであった。土壙159は形態からすれば柱穴と考えるのが妥当であるが、周辺では土壙160が柱穴状の形態をもち、対になる可能性が考えられる。それら以外にも柱穴状の遺構はみられるが、建物の

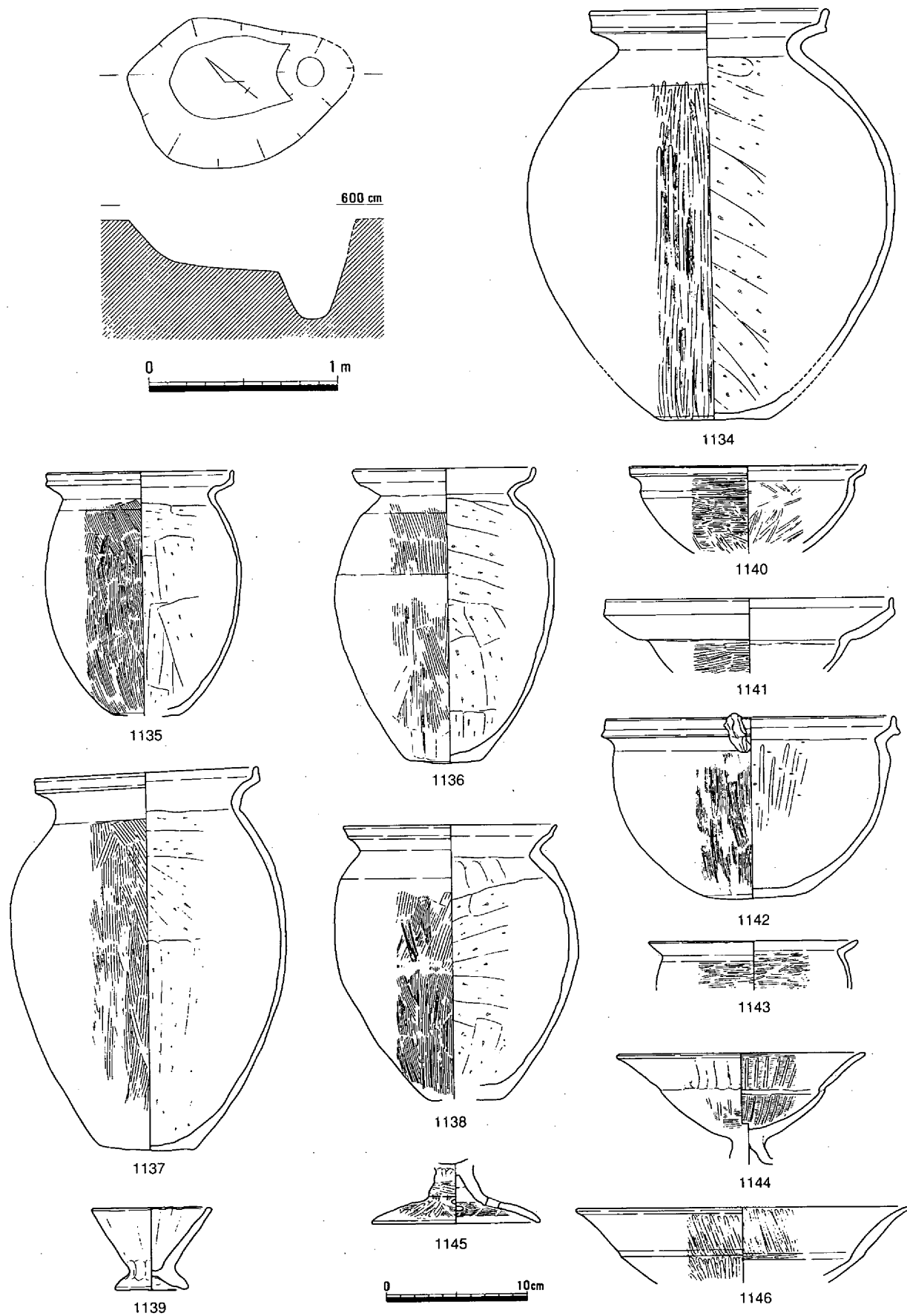


第379図 土壙157 (1/30)



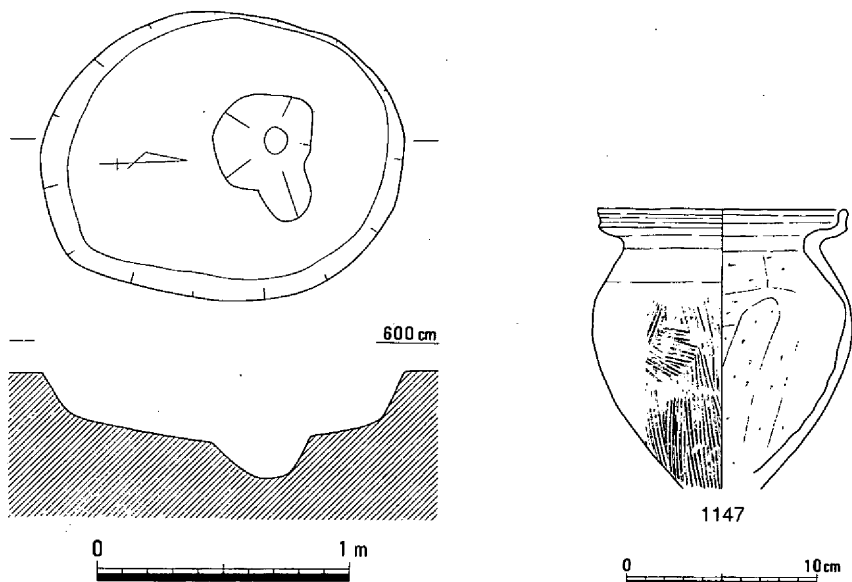
第380図 土壙158 (1/30)

暗褐色 (10YR3/3) 砂質土



第381図 土壙159 (1/30)・出土遺物 (1/4)





第382図 土壙160 (1/30)・出土遺物 (1/4)

存在は不明である。土壙内からは多量の土器片が出土した。出土土器はいずれも口縁端部を上方へ大きく拡張している。弥・後・Ⅲを主体とし、一部に弥・後・Ⅳを含むようである。(岡本)

土壙160 (第117・382図)

土壙158の東で検出され、土壙158の一部を掘削しているとみられる。平面形は楕円形で、長径が143cm、短径は114cmを測った。土壙の底面は広く、わずかな凹面をなしていたが、中央から少し北に片寄って直径40cm前後の柱穴状の穴が認められた。この穴が柱痕で、土壙160は柱穴である可能性が高い。1147の甕の口縁部外面には沈線が巡らされ、年代は弥・後・Ⅳとみられる。(岡本)

土壙161 (第117・383図)

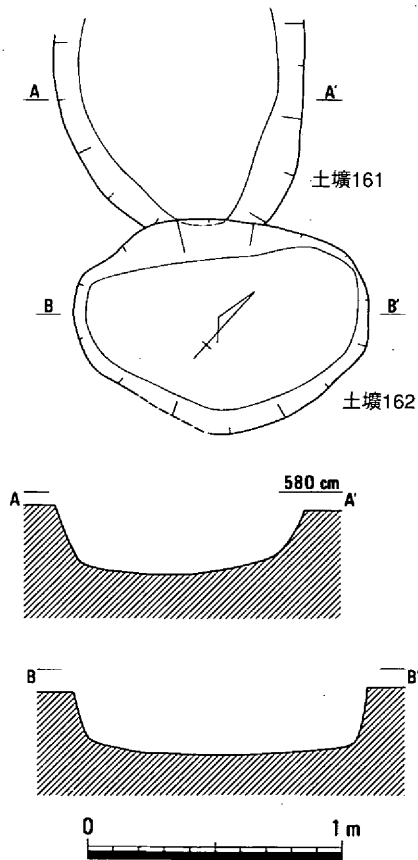
調査区の南東隅で土壙162と重複して検出された。土壙162に南東端を破壊されている。土壙の北西部分は後世の遺構によって破壊されていた。平面形は楕円形と推定され、短径は97cm、土壙の深さは22cmを測る。出土遺物は土器片が2片にすぎず、年代も不明であるが、土壙162との関係から弥生時代の土壙と考えられる。(岡本)

土壙162 (第117・383図)

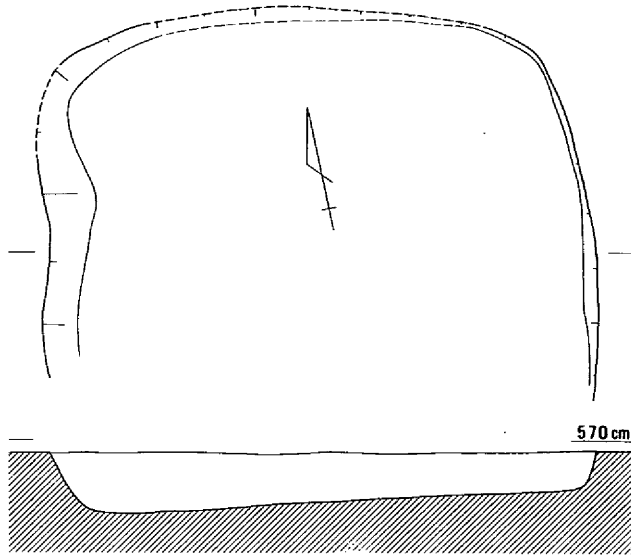
土壙161を一部破壊し、Ch505区に位置していた。平面形は不整形な楕円形で、長径が126cm、短径は84cm、土壙の深さは25cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦であった。土器片が少量出土し、弥生時代後期のものとみられたが、時期の細別はできなかった。(岡本)

土壙163 (第117・384図)

調査区の南東隅、Ch505区で検出された。土壙162から



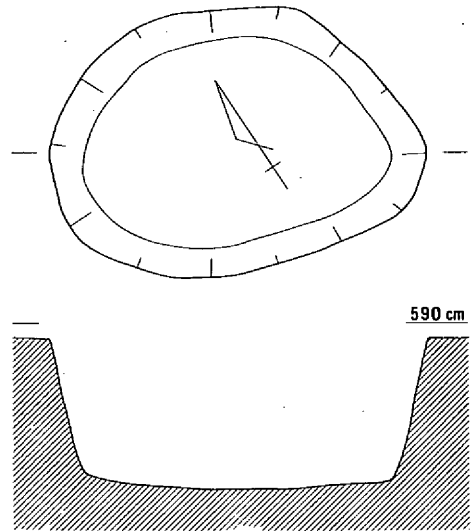
第383図 土壙161・162 (1/30)



暗褐色 (10YR3/4) 砂質土



第384図 土壇163 (1/30)

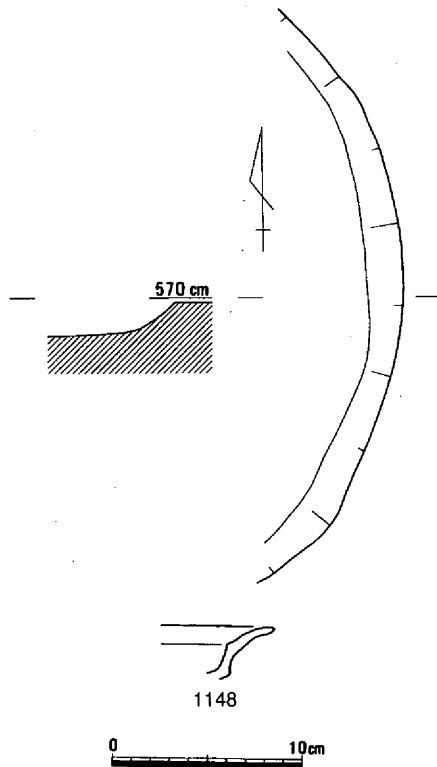


第385図 土壇164 (1/20)

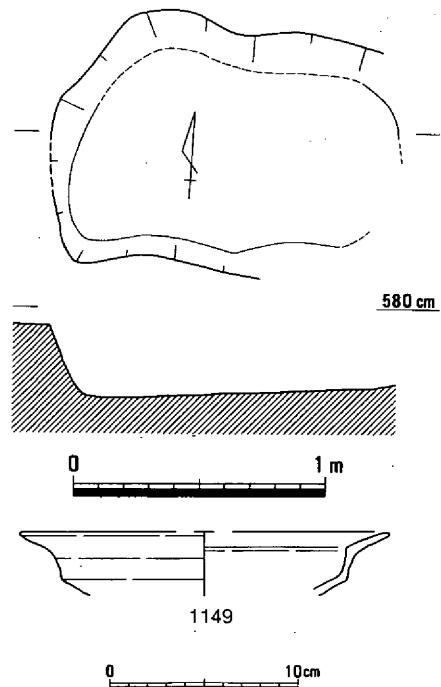
1 m東に位置していた。土壇の北東部分と北西部分が残存していた。平面形は方形と推定され、幅は218cm、土壇の深さは27cmを測った。底面はほぼ平坦であった。埋土は暗褐色砂質土の1層であった。年代不明の土器片が少量出土した。検出面や類例から弥生時代の土壇と考える。(岡本)

土壇164 (第117・385図)

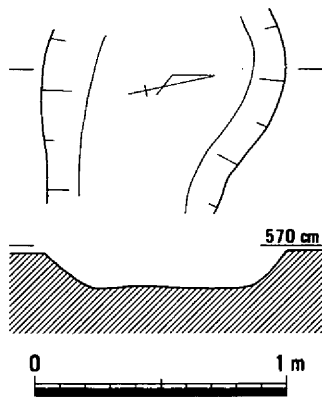
土壇163から3 m南で検出された。やはりCh505区に位置していた。平面形は不整な楕円形で、長径が97cm、短径は71cm、土壇の深さは40cmを測った。底面はわずかに凹面をなしていた。埋土は暗褐色砂



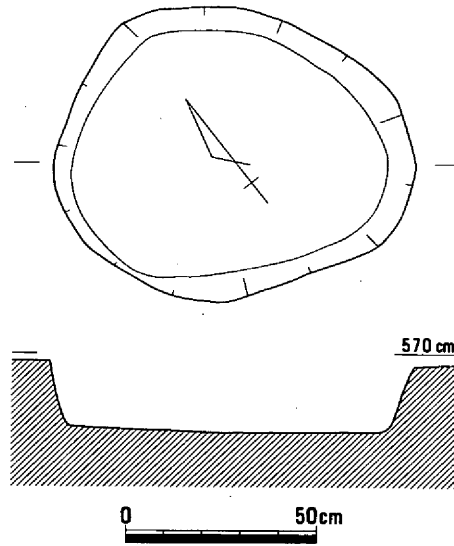
第386図 土壇165 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第387図 土壇166 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第388図 土壙167 (1/30)



第389図 土壙168 (1/20)

質土の1層であった。弥生時代後期前半の土器が少量出土し、弥・後・Iの土壙と考える。(岡本)  
**土壙165** (第117・386図)

調査区南東隅の突出部分で検出された。Ci505区にあり、土壙164の南西1.5mに位置していた。東端を検出したにすぎず、大部分は調査区外にある。平面形は円形、ないしは楕円形と推測される。竪穴住居18の埋没後に掘削されていた。土壙の深さは13cmであった。弥・後・IVの土壙か。(岡本)  
**土壙166** (第117・387図)

土壙165の南東1mに位置し、土壙167を破壊していた。竪穴住居18の埋没後に掘削されているため、年代は弥・後・IV以降と考える。土壙の東端は側溝で破壊した。平面形は不整形な楕円形で、推定長径が150cm前後、短径は98cm、土壙の深さは29cmを測った。埋土は暗褐色砂質土であった。(岡本)  
**土壙167** (第117・388図)

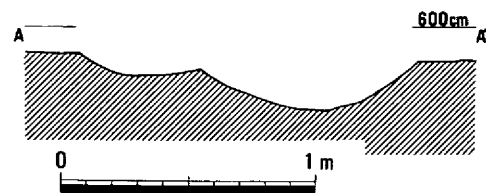
Ci505区にあり、土壙166によって東側を破壊され、西端は調査区外にある。このため平面形は推定が困難であるが、不整形な楕円形の可能性がある。短径は95cm、土壙の深さは16cmを測った。弥生時代後期後半の土器片が少量出土したことから、土壙の年代は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考える。(岡本)  
**土壙168** (第117・389図)

土壙166から1.2m南で検出された。Ci505区に位置していた。平面形は楕円形で、長径が94cm、短径は77cm、土壙の深さは17cmを測った。底面は平坦で、土壙の断面形は逆台形を呈していた。埋土は暗褐色砂質土であった。弥生時代後期前半の土器片が少量出土した。(岡本)

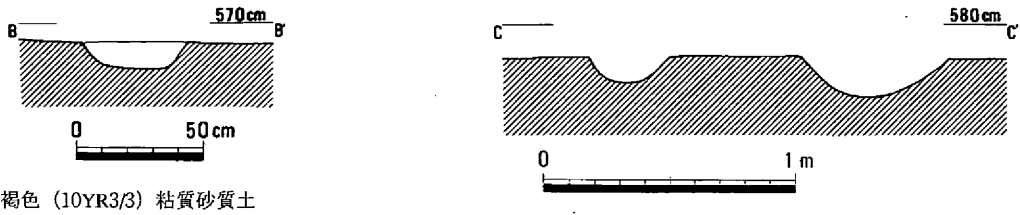
### (7) 溝

**溝16** (第114・390図)

調査区の中央南端部に位置する。平面形や深さは不明瞭であったが、幅約60~80cm、深さ約20cmの円弧を描く溝と幅1m前後、深さ約10cmの溝が切り合っている。埋土は暗褐色砂質土であった。時期は、少量の出土遺物や竪穴住居10に切られていることなどから弥生



第390図 溝16 (1/30)



暗褐色 (10YR3/3) 粘質砂質土

第391図 溝17~19 (1/30)

時代と考えられるが、詳細な時期は不明であり、役割もよくわからない。

(平井)

溝17 (第116・391図)

調査区の北東隅、掘立柱建物14の南で検出された。Cd505区とCe505区に跨っていた。掘立柱建物14の南桁中央柱穴の南から検出され、南は中世の溝32に伴う土壌によって破壊されている。方向から考えて、溝18・19に続いていたものとみられる。最大幅が56cm、深さは14cmであった。

(岡本)

溝18・19 (第116・391図)

溝17の4.5m南から検出された。弥生時代の溝が、中世の溝32に付属する大形の穴で切断されたものと考えられる。溝18が溝19から枝分かれしたような形で、溝18の深さは11cmと、溝19の深さ17cmより浅かった。2条の溝はともに2.5m程南に伸びて消え、溝はかなり起伏があったようである。水路のような溝とは異なっていたと考える。出土土器片はごく少量でその年代は不明である。

(岡本)

(8) 柱穴

柱穴8 (第114・392図、図版100・102)

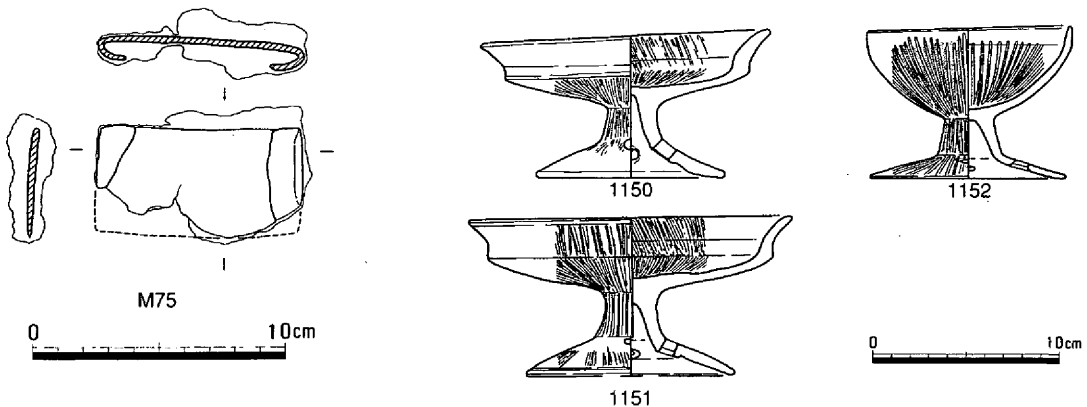
調査区の中央部、竪穴住居9と重複する位置関係にある。規模は約50×56cmの楕円形で、深さは33cm残存していた。鉄製の鍬先M75は底面から約15cm浮いた状態で出土している。錆に覆われているため不正確ではあるが、最大長83mm、最大幅43mm、最大厚10.5mmを測り、折り返し部分も観察できる。時期は不正確ではあるが弥・後・IVと考えている。

(平井)

柱穴9 (第117・392図)

調査区の東半部、土壌92の北西約2mに位置し、竪穴住居14を切って検出した。平面形は約90×130cmの不整楕円形の土壌状を呈していた。深さは約46cm残存しており、図示したような高杯1150~1152が出土した。時期は弥・後・IIIと考えている。

(平井)

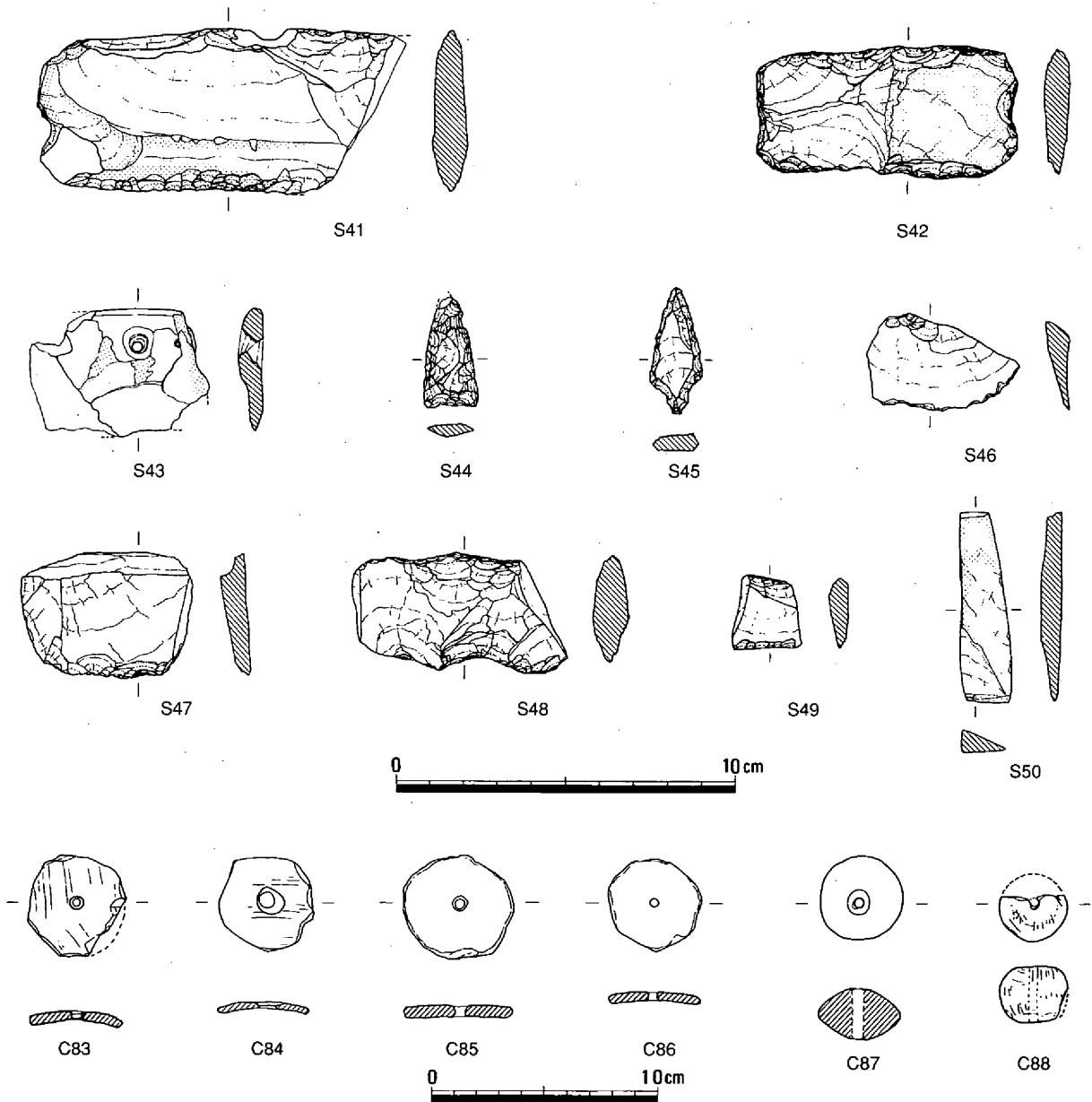


第392図 柱穴8・9出土遺物 (1/3, 1/4)

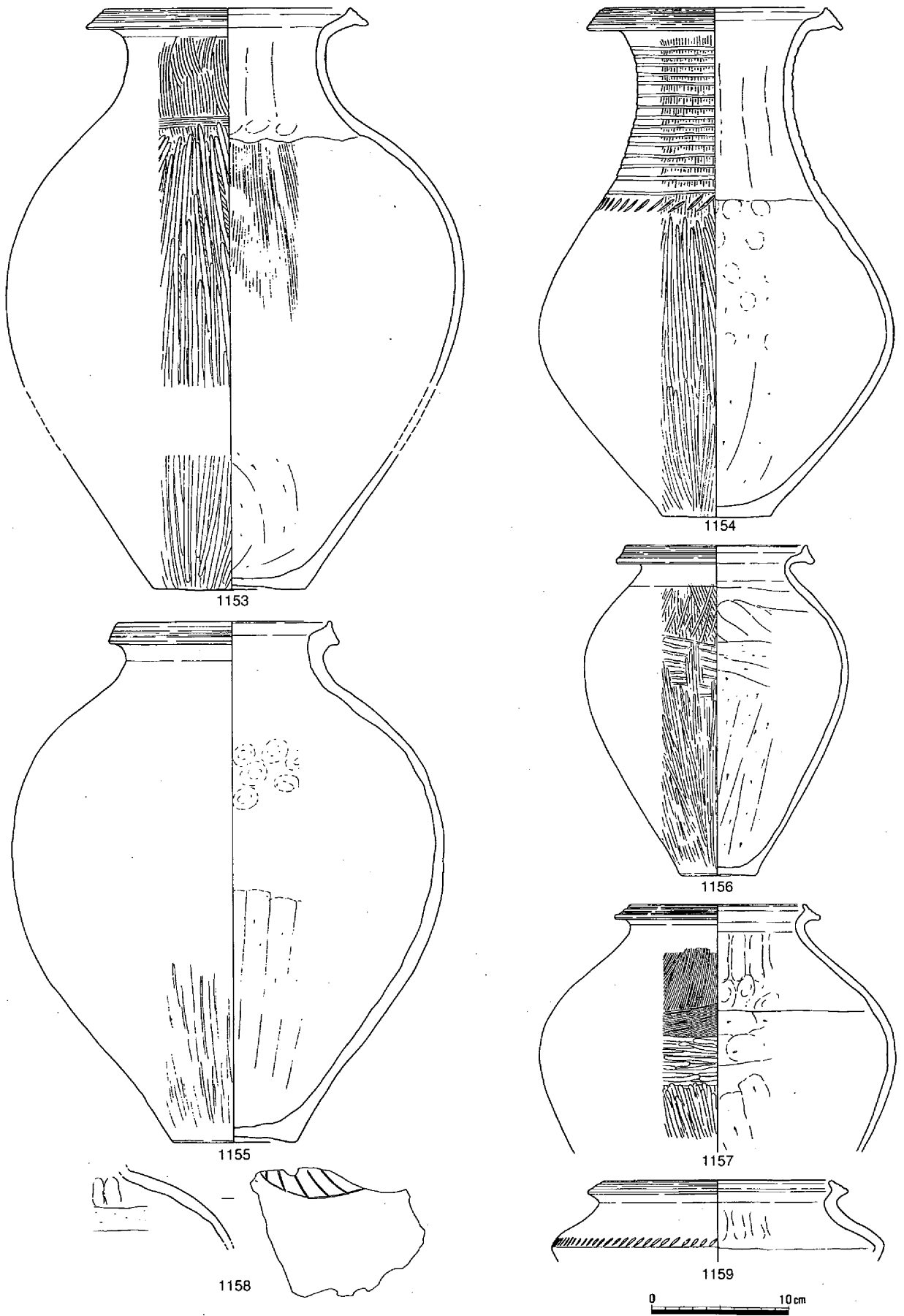
(9) 遺構に伴わない遺物 (第393~395、図版106)

弥生時代の遺構に伴わない遺物や古墳時代以降の遺構から出土した弥生時代の遺物については、遺構検出中に取り上げた土器が多く存在する。土器については完形にちかいものや特徴的と考えられるものを中心に図示している。石器についてはサヌカイト製の打製石器や形状から弥生時代のものと推定できる磨製石器のうち、ある程度形状が判明する個体について図示している。土製品についても形状の判明するものについてのみ図示している。

弥生時代の石器は多くない。図示した石器のうち S41・42はサヌカイト製の打製石包丁、S43は蛇紋岩製の磨製石包丁である。サヌカイト製の S44・45は石鏃、S46はスクレイパー、S47~49は楔と考えている。S50は先端部がノミ状に磨られている。



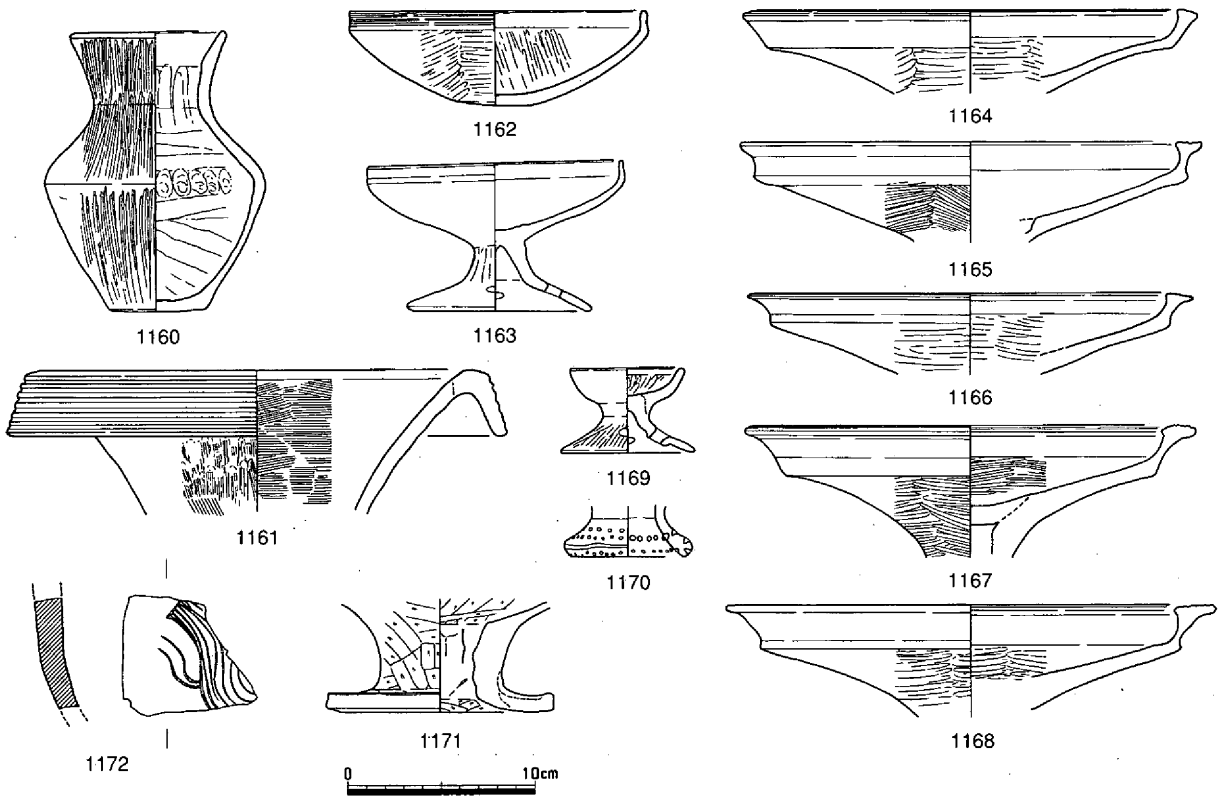
第393図 遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ① (1/2,1/3)



第394図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）②（1/4）

土製品のうちC83～86は土器片転用の紡錘車と考えている。C87・88は土玉である。土玉は時期を特定する根拠に乏しく、古墳時代においても同様の土玉の出土が知られているが、弥生時代後期の土壙88から出土しているC82等を参考に弥生時代として報告している。

土器のうち1153・1154は壺で、調査区西端部の中世溝から出土している。甕1156の肩部外面にはタキ痕跡が観察できる。1159は脚台がつくのではなかろうか。1153～1157・1159は弥・後・Iであろう。1158は壺で、肩部に細く鋭いヘラガキ沈線紋（絵画？）が施されている。時期は明確ではない。1161は弥・中・Ⅲの器台であろう。1162・1163・1169は弥・後・Ⅳの鉢と高杯、1164～1168は弥・後・Ⅰの高杯である。1170・1171は脚台と考えており、特徴的な調整や紋様が施されているが時期はわからない。1172は器台で、筒部外面にヘラガキ沈線紋（絵画）が描かれている。弥生時代のものであるが細かな時期は不明確である。1173～1190は製塩土器の脚部である。 (平井)



第395図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）③（1/4）

### 3 古墳時代の遺構・遺物

#### (1) 概要

調査区の南側の微高地上において検出できたが、北側は中世以降に削平されて河道となったものと考えており、本来は北側にも遺構・遺物は存在していたであろう。

検出できた遺構は竪穴住居29軒、土壇6基などである。竪穴住居の時期は前期・中期・後期の大きく3時期のものが存在している。平面形は前期の竪穴住居45を除いてすべて方形である。カマドは古・中・Ⅰまではなく、古・中・Ⅱ以降敷設されており、カマドの出現期を考えるうえで注目できる。土壇は少ない。また柱穴については埋土だけでは判断できないものが多く、弥生時代の全体図に示したもののなかに古墳時代のものが含まれている可能性がある。

遺物は土器、鉄器（板状・鑄造鉄斧）、石器（勾玉、白玉、管玉、石臼）、ガラス玉、土製品（紡錘車、土玉、土錘、鏡形土製品）などが多数出土している。土器の中には朝鮮系軟質土器が数点含まれており注目できる。

(平井)

#### (2) 竪穴住居

##### 竪穴住居21（第396・399図、図版13・96）

Cc4 03区で検出した長方形の平面形を呈する小形の竪穴住居である。長軸の向きはN-48°-Eである。規模は、長さ424cm、幅331cm、深さ28cmを測り、床面積は11.3m<sup>2</sup>、床面の標高は558cmである。北東の壁面中央部分に焼けた跡がみられる。カマドの可能性も否定できない。

ほぼ完形に復元できる二重口縁の壺1191はカマドと考えられる位置で出土している。胴部両面ともにハケメ調整している。

土器から考えて、この住居の廃棄された時期は古墳時代中期であろう。

(浅倉)

##### 竪穴住居22（第396・400図、図版13・96）

Cc4 05区で検出した方形の平面形を呈する普通サイズの竪穴住居である。北部は中世の河道によって削平されている。長軸の向きはN-40°-Wである。規模は、長さ477cm、幅（350）cm、深さ7cmを測り、床面積は14.8m<sup>2</sup>、床面の標高は558cmである。建て替えがみられる。南西隅と南の壁面中央部分に焼けた跡が認められる。カマドの可能性はある。

1192はほぼ完形の甕である。口縁部は二重口縁がまだ残っていて、底部は完全に丸底である。1193～1195は高杯であり、脚は長い。1196は製塩土器である。器壁は薄く、外面には平行タタキが顕著である。S51は携帯用の小形砥石である。吊り下げるために1個の小円孔を持つ。

以上の遺物から見て、この住居の廃棄された時期は古・前・Ⅲと考えたい。

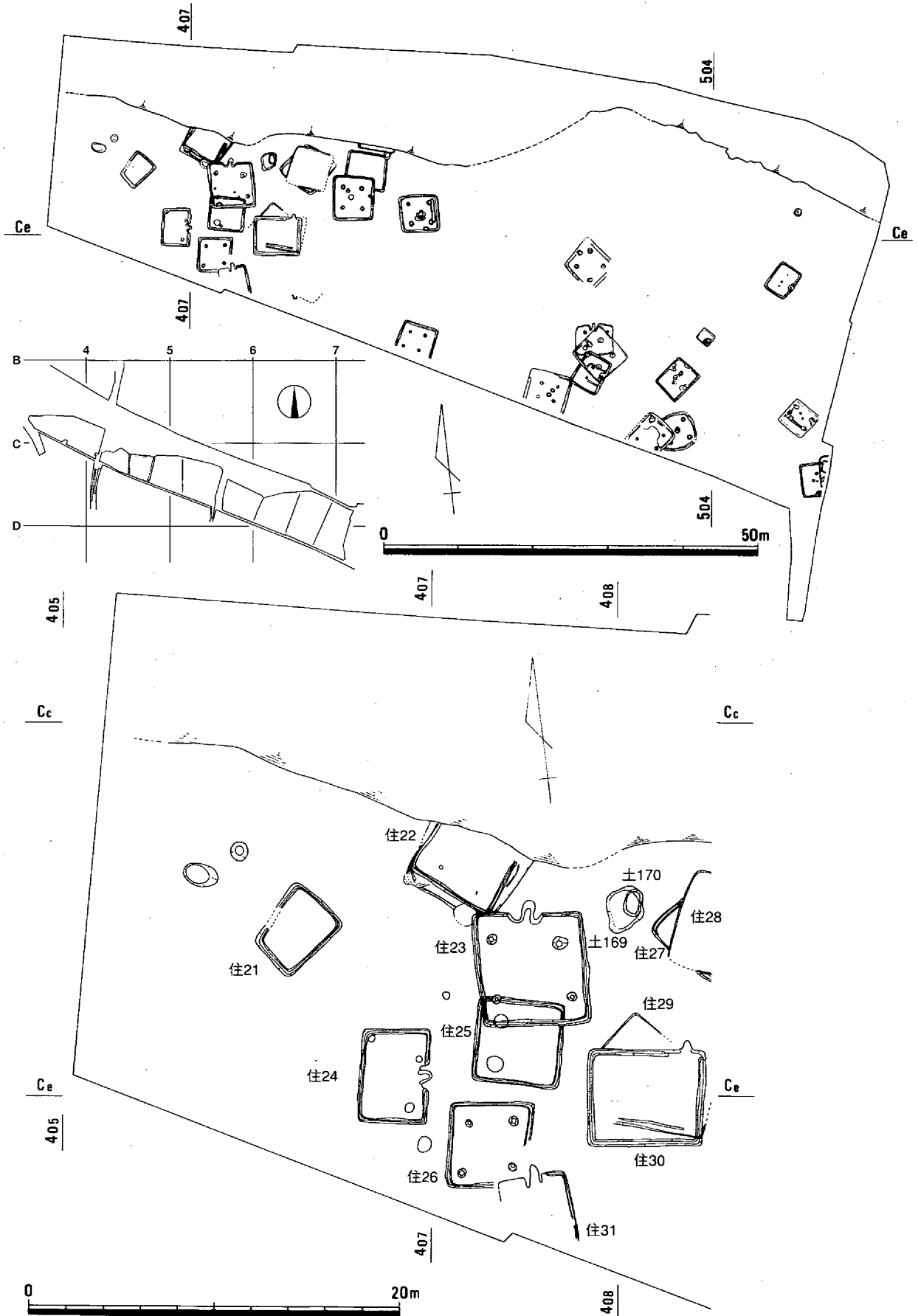
(浅倉)

##### 竪穴住居23（第396・401・402図、図版13・96）

Cc4 05区で検出した方形の平面形を呈するやや大形の竪穴住居である。竪穴住居22の角を切っている。長軸の向きはN-83.5°-Wである。規模は、長さ608cm、幅598cm、深さ29cmを測り、床面積は33.3m<sup>2</sup>、床面の標高は564cmである。主柱穴は4本検出できた。北の壁面中央部分に造り付けカマドを有する。

埋積土中から須恵器、土師器の他にガラス小玉1点、滑石製白玉5点、土錘1点、ふいごの羽口1

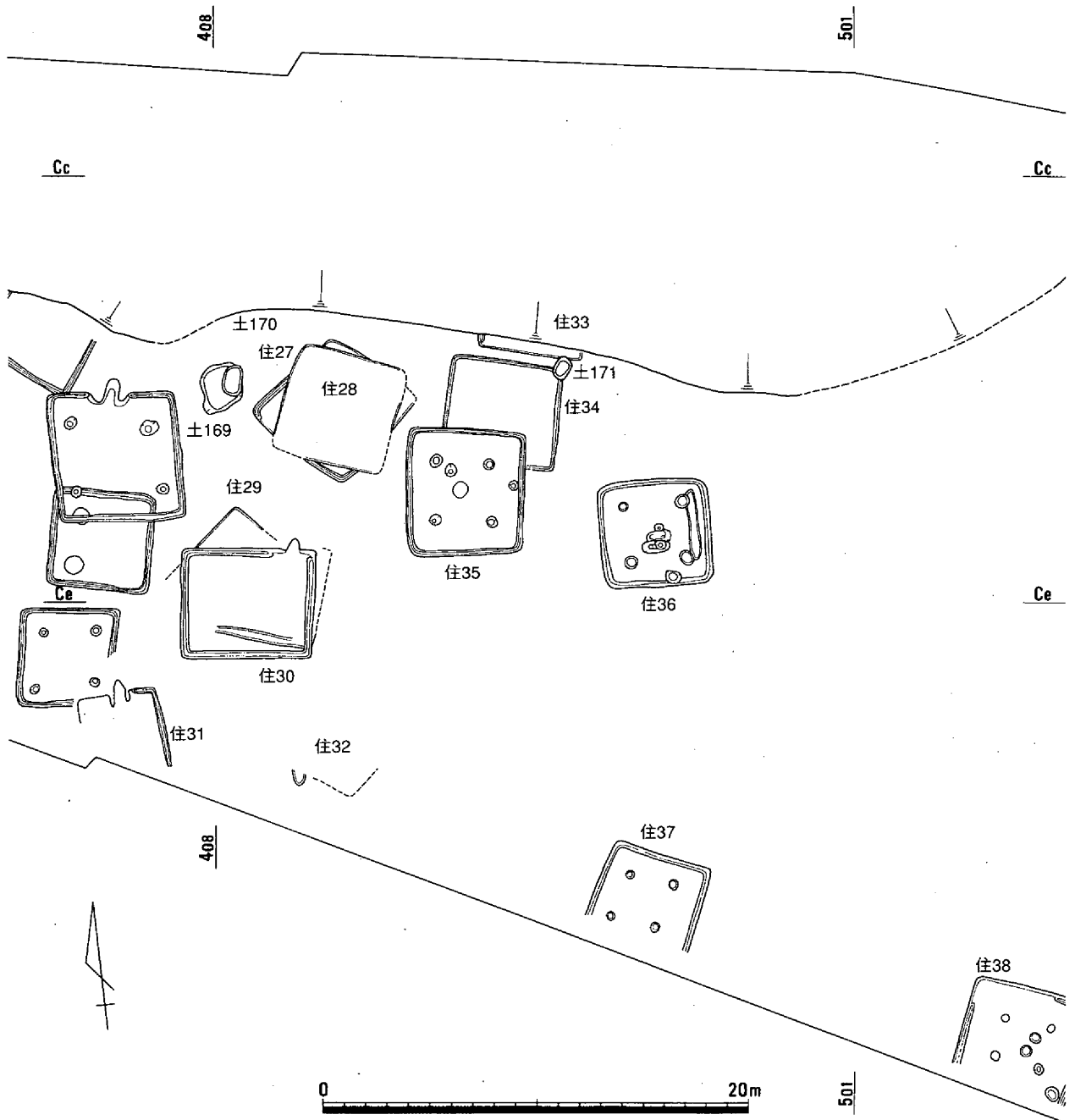
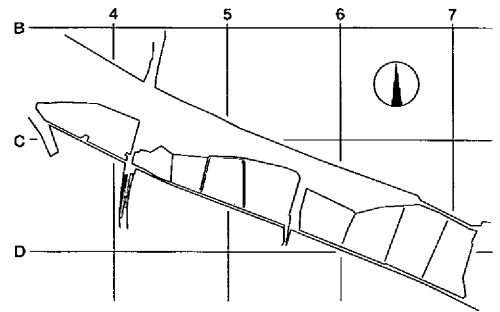




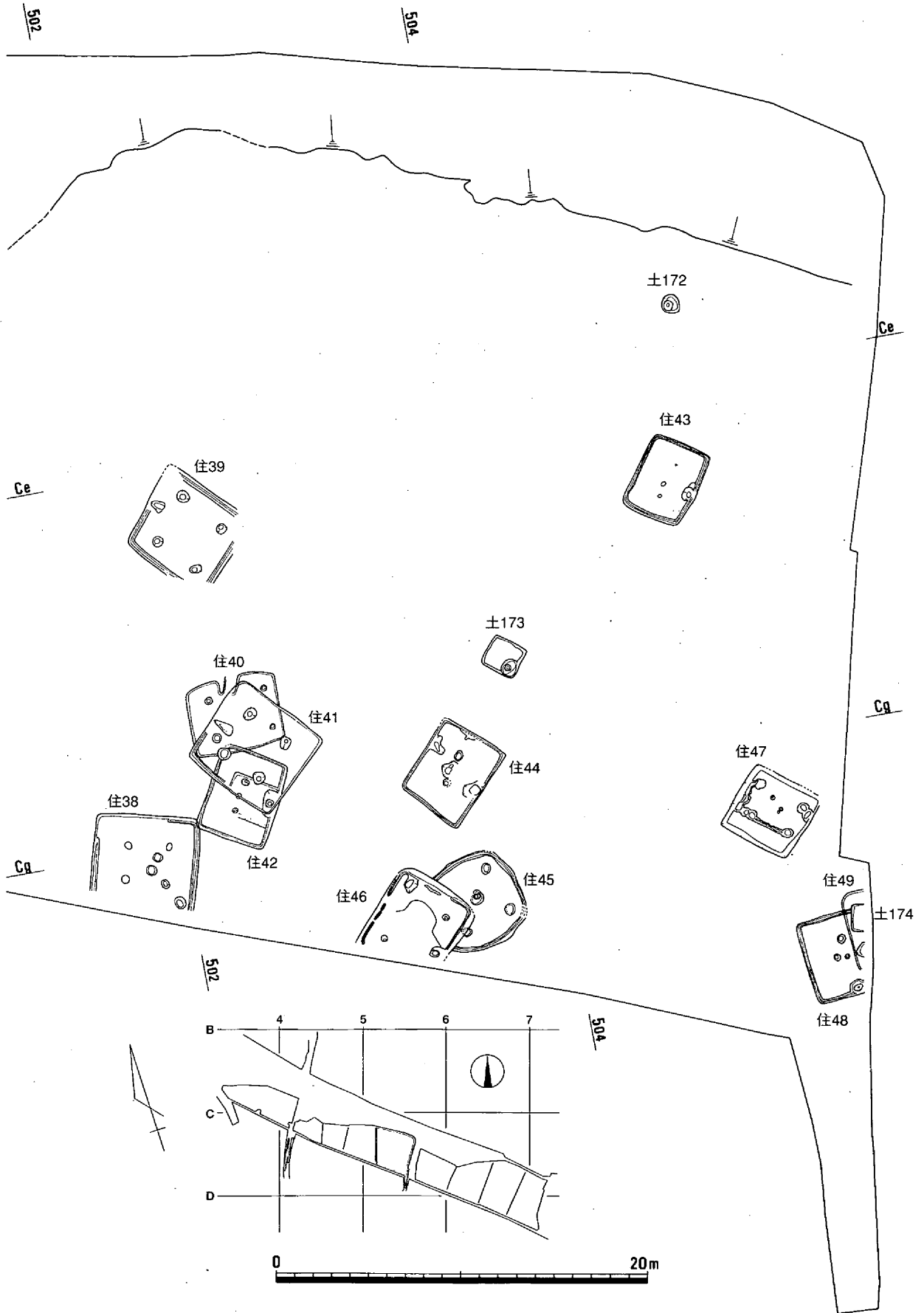
第396図 フロヤ調査区古墳時代主要遺構全体図 (1/750)・主要遺構部分図① (1/300)

点が出土している。1197～1199は須恵器の杯蓋、1200・1202～1205は杯身、1201・1206～1213は高杯、1214は甗、1215は短頸壺、1216は甕、1217は甌である。1218～1220は土師器の甕、1221～1223は甌である。ガラス小玉の色調は水色を呈する。白玉の重量は0.27～0.05gを測る。土錘は長さ46mmで、重量は3.42gである。羽口は暗青灰色に還元されている。

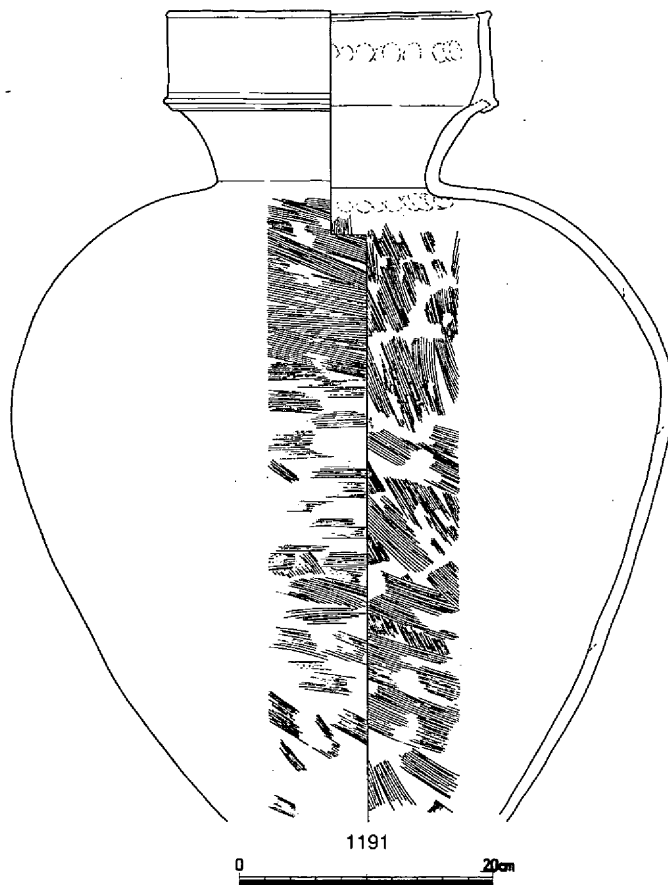
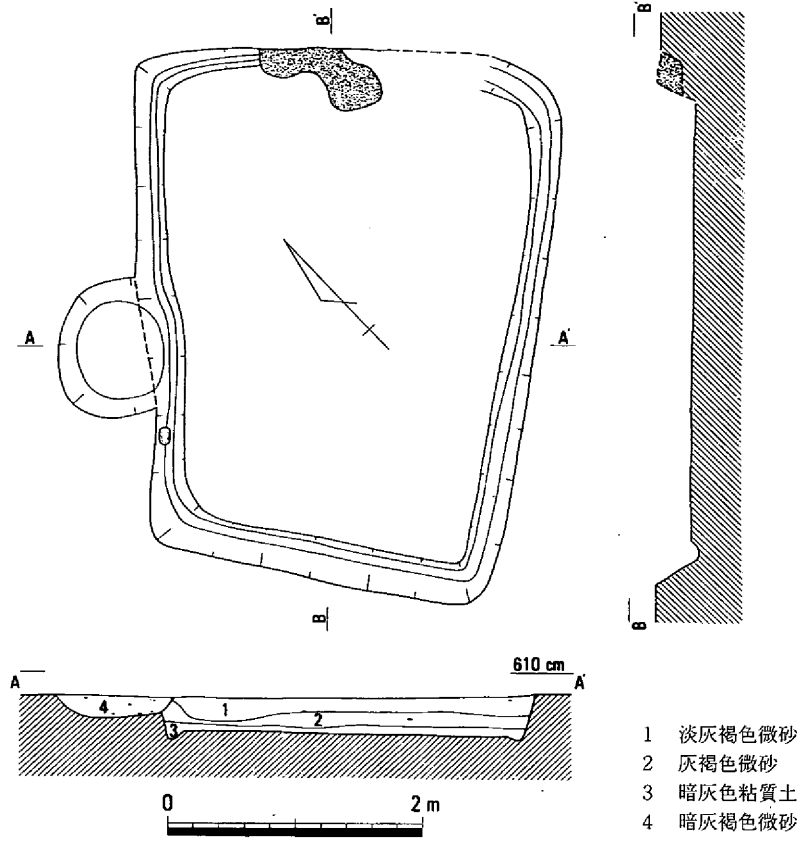
以上の出土遺物からこの住居の廃絶された時期は古・後・Ⅱと考えることができる。(浅倉)



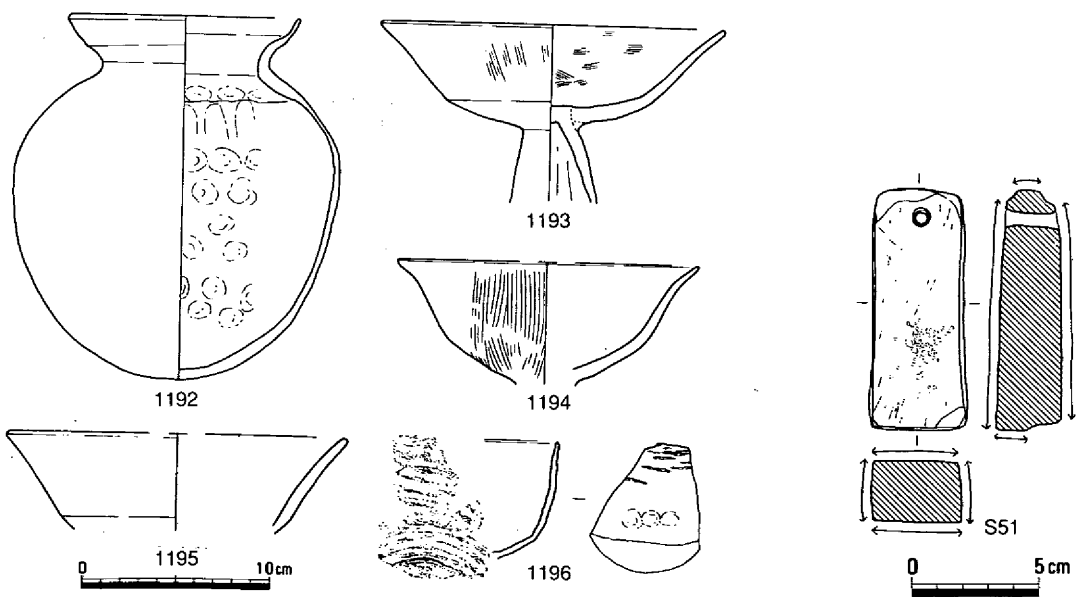
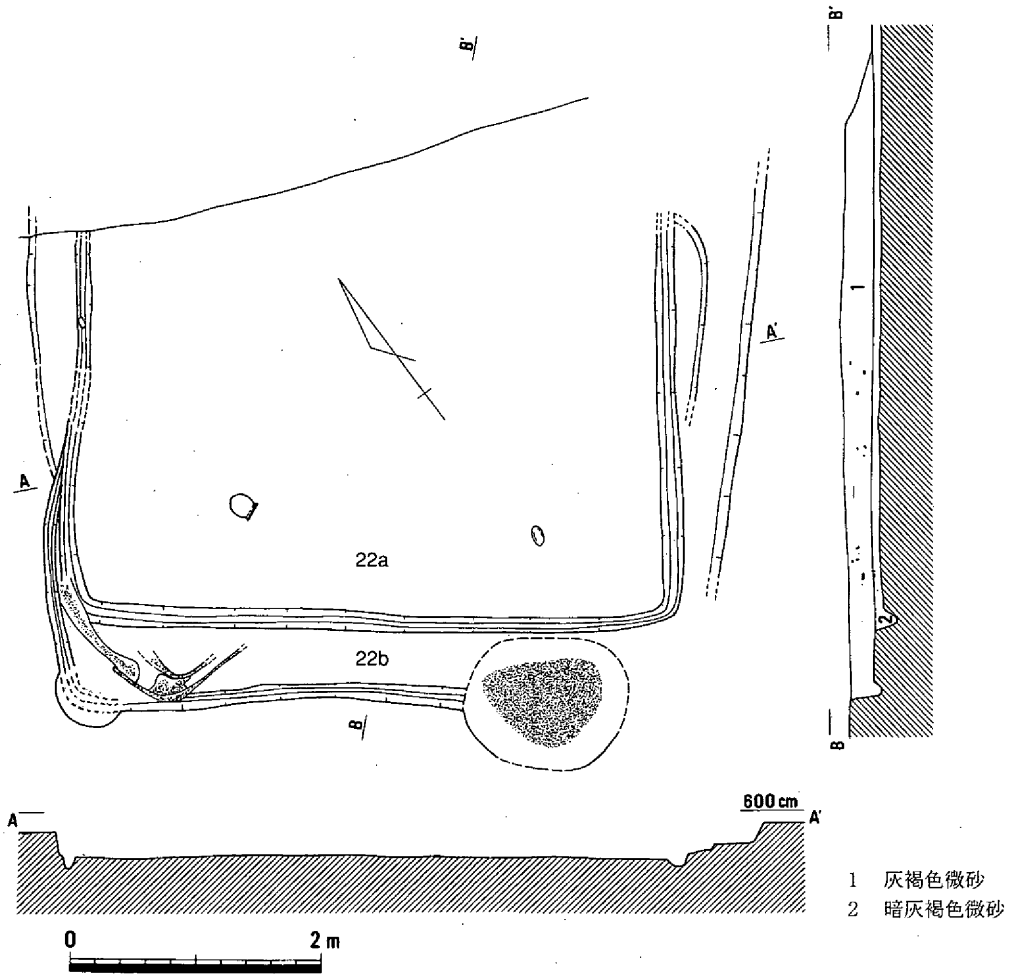
第397図 フロヤ調査区古墳時代主要遺構部分図② (1/300)



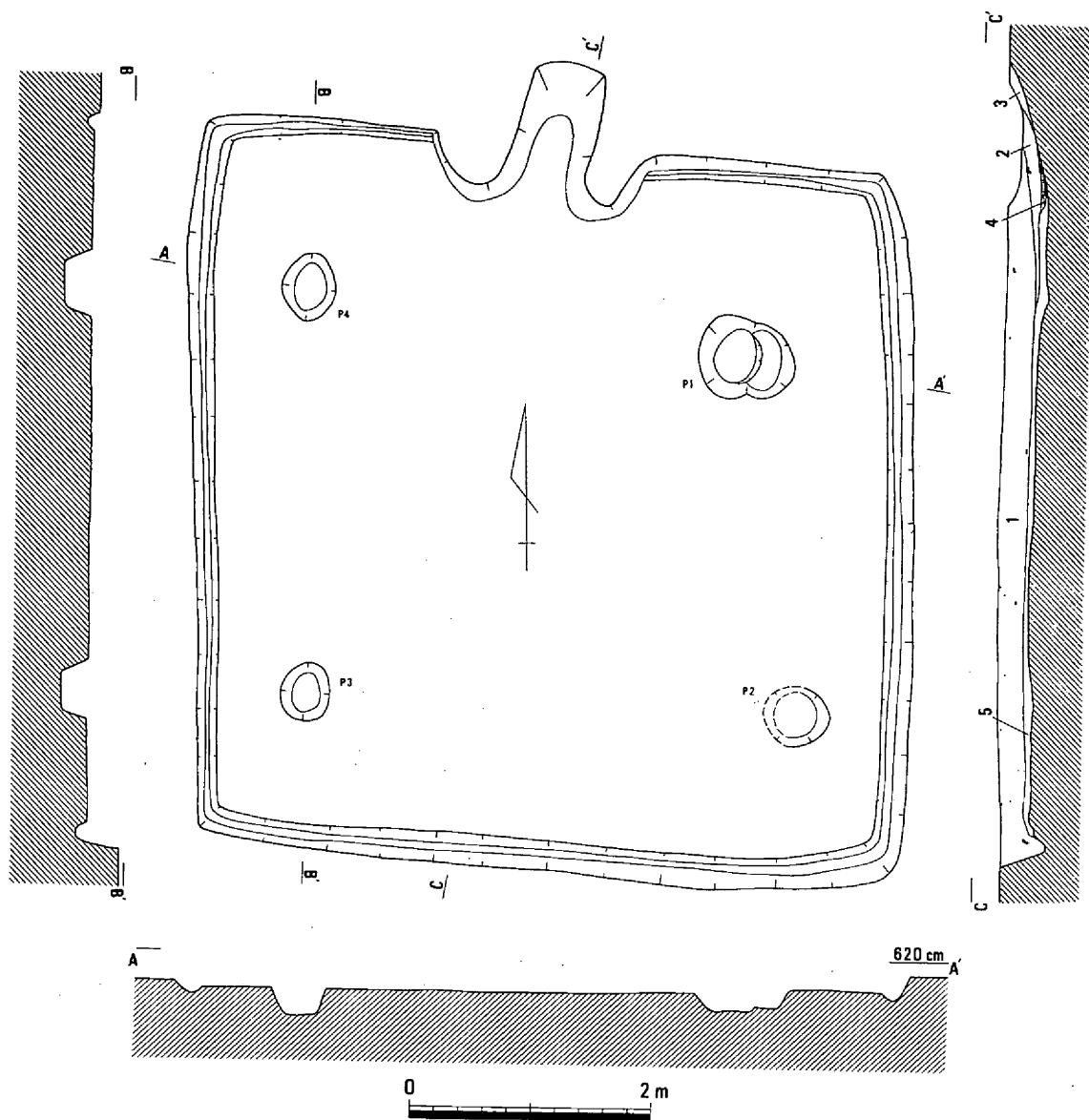
第398図 フロヤ調査区古墳時代主要遺構部分図③ (1/300)



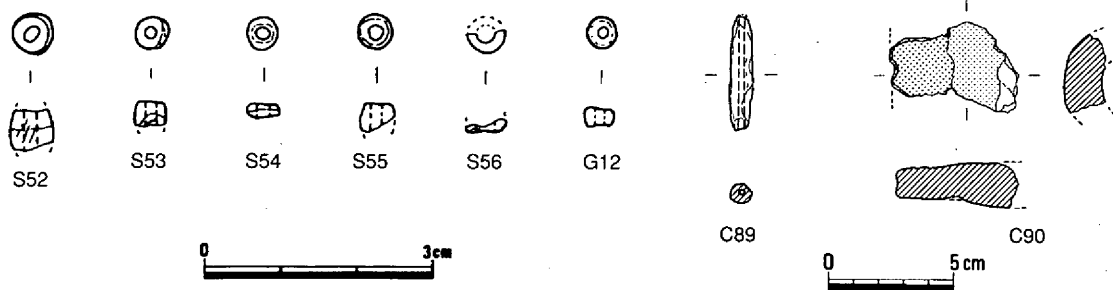
第399図 豎穴住居21 (1/60)・出土遺物 (1/6)



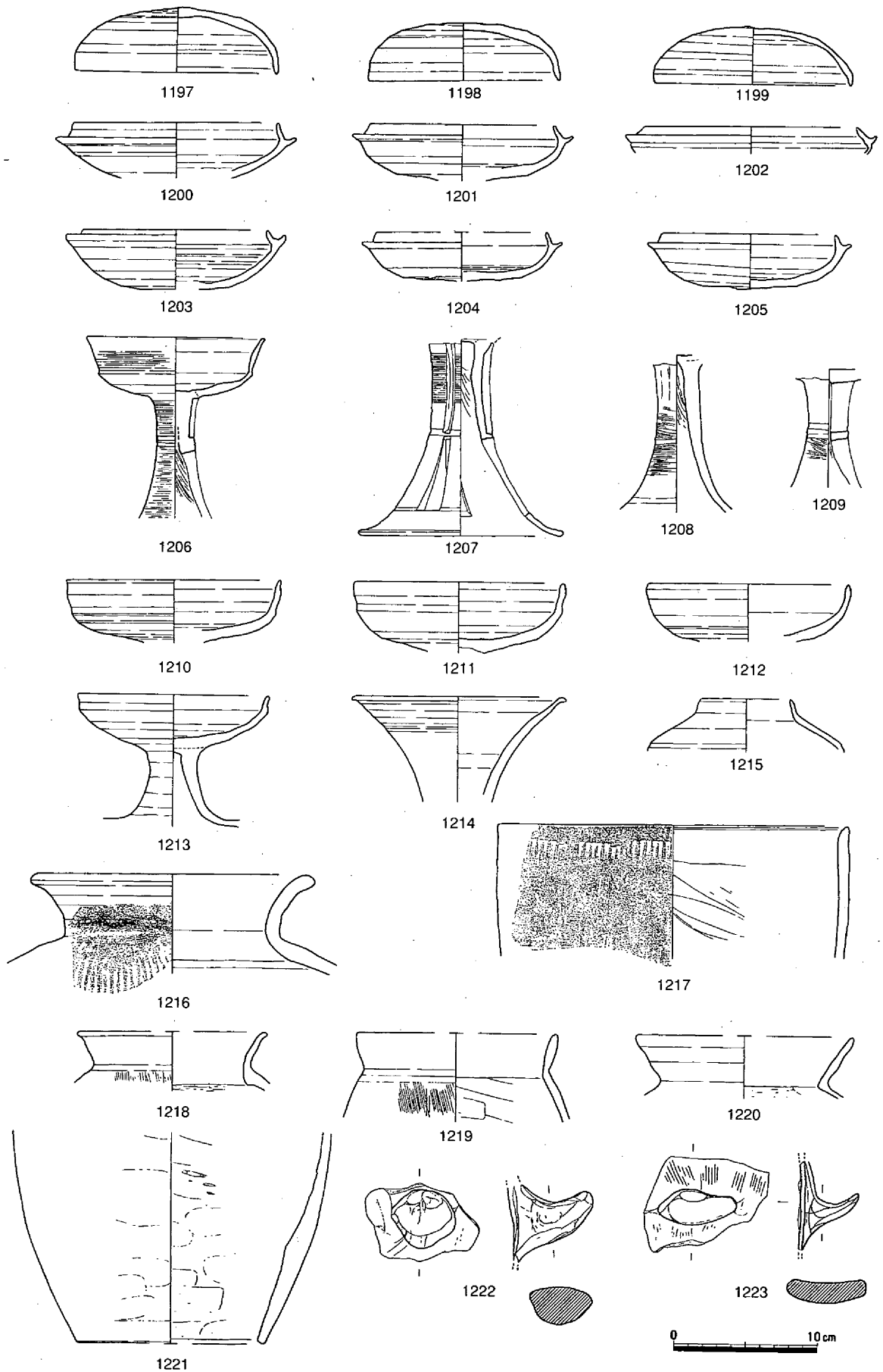
第400図 竪穴住居22 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1 灰褐色砂質土    | 3 灰褐色砂質土       |
| 2 灰褐色砂質土    | 4 暗赤褐色砂質土 (焼土) |
| (赤褐色土・焼土塊含) | 5 灰黄色砂質土       |



第401図 竪穴住居23 (1/60)・出土遺物① (1/1,1/3)



第402図 竪穴住居23出土遺物② (1/4)

竪穴住居24 (第396・403図、図版14)

Cc405区で検出した長方形の平面形を呈する小形の竪穴住居である。長軸の向きはN-10°-Eである。規模は、長さ490cm、幅369cm、深さ7cmを測り、床面積は17.4m<sup>2</sup>、床面の標高は597mmである。支柱穴は検出できなかった。東の壁面中央部分に造り付けカマドを有する。

遺物は、カマドの中から須恵器と魚の骨が出ている。1224~1226は杯蓋であり、口径は14.8~16.0cmを計測できる。1227は杯身であり、立ち上がりが低く、口径は11.3cmである。型式からすると杯蓋と杯身は同時期ではない。

須恵器から考えて、この住居の使用された時期は古・後・Ⅱ~Ⅲと推定できる。 (浅倉)

竪穴住居25 (第396・404図、図版14・96)

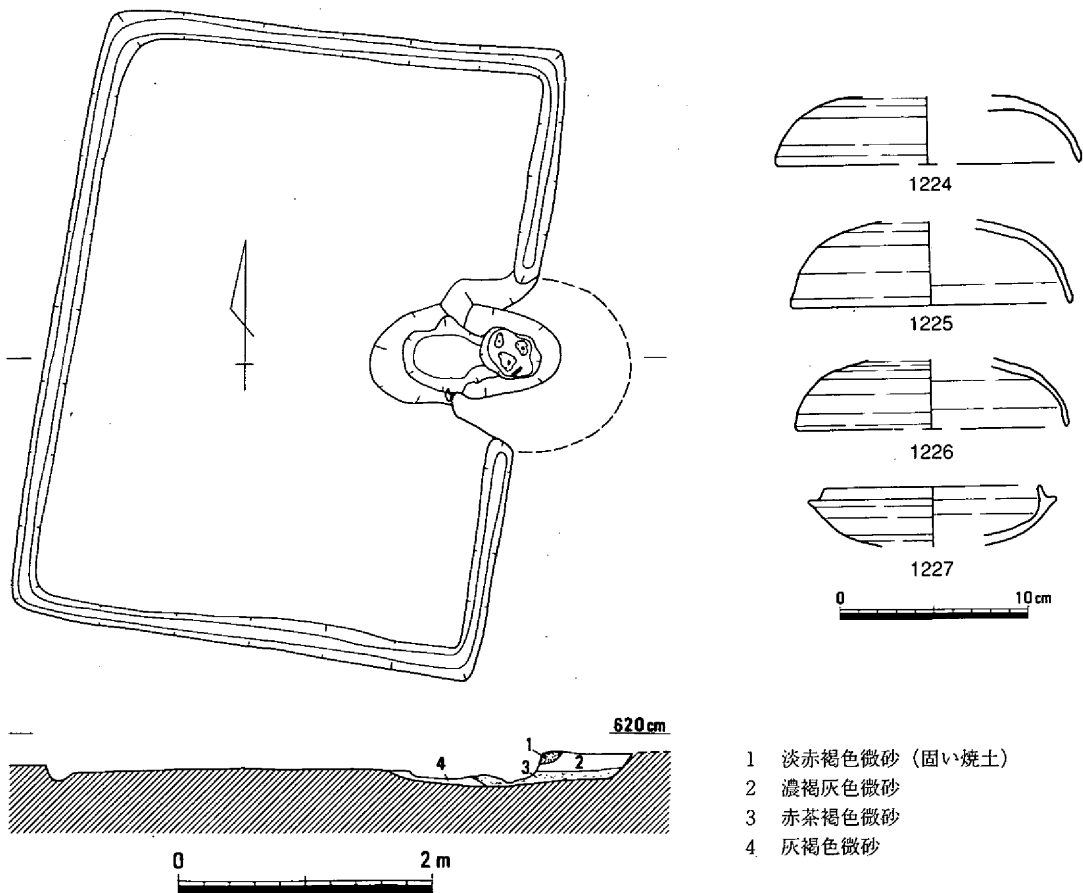
Cc405区で検出したほぼ正方形の平面形を呈する中形の竪穴住居である。長軸の向きはN-10°-Eである。規模は、長さ470cm、幅453cm、深さ14cmを測り、床面積は20.2m<sup>2</sup>、床面の標高は559cmである。支柱穴は4本中2本検出できた。床面が赤く焼けているところが2か所ある。

遺物は、土師器と鉄器が出土している。1228・1229は丸底甕である。1230~1232は高杯である。1233は手捏ねの小鉢である。M76は板状の鉄斧である。

土師器の型式から見て、この住居の廃棄された時期は古・中・Iであろう。 (浅倉)

竪穴住居26 (第396・405図、図版14・96)

Ce405区で検出したほぼ正方形の平面形を呈する中形の竪穴住居である。長軸の向きはN-1°-E

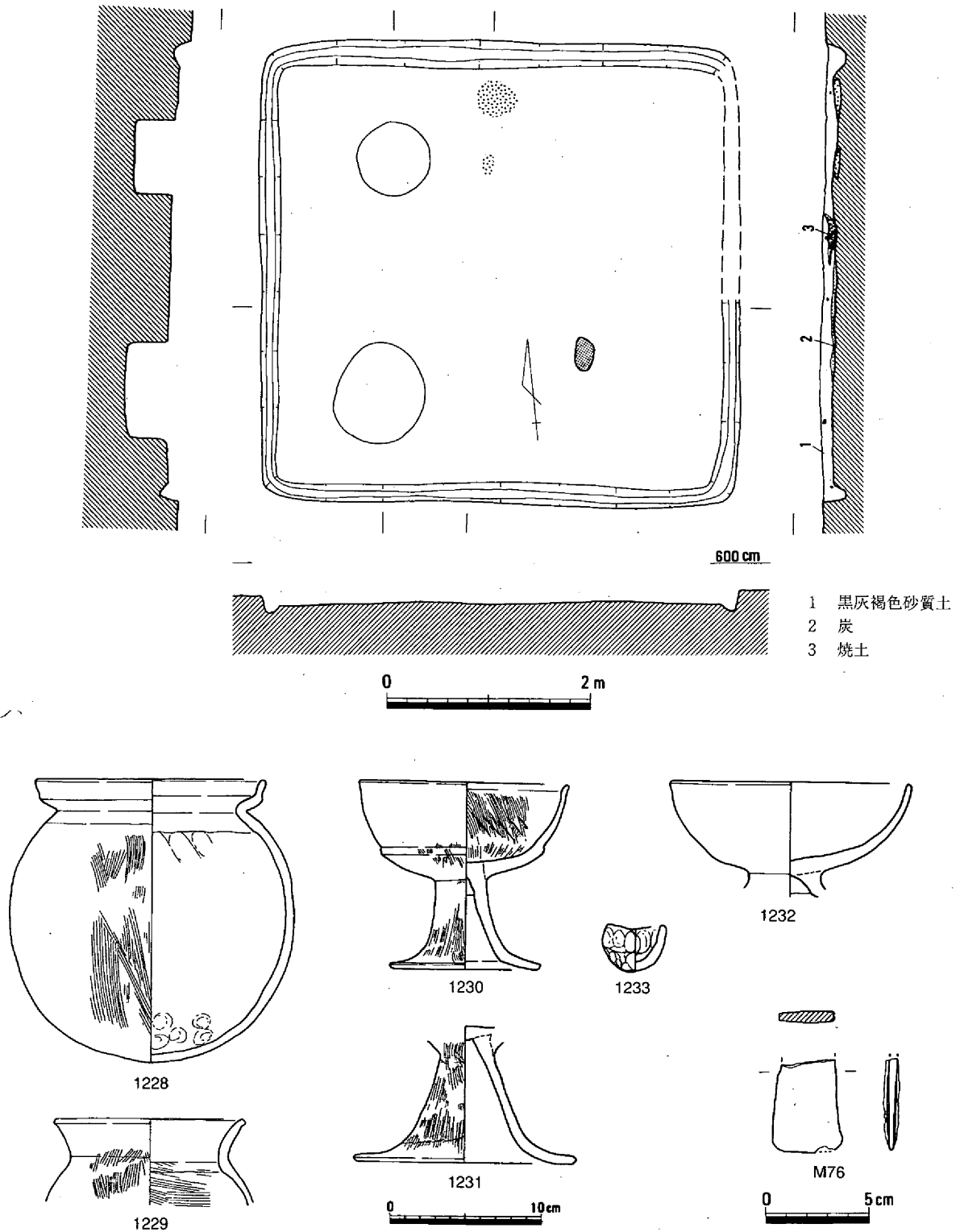


第403図 竪穴住居24 (1/60)・出土遺物 (1/4)



である。規模は、長さ480cm、幅462cm、深さ14cmを測り、床面積は18.7㎡、床面の標高は592cmである。支柱穴は4本検出できた。火災に遭って生焼けで、屋根の垂木が放射状に炭化して残存していた。また、柱も炭化したまま検出できた。

遺物は、初期須恵器甕腹1234と土師器高杯1235とメノウ製勾玉S57が出土している。須恵器の内面は



第404図 竪穴住居25 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

撫でて、外面は細かい縄目のタタキで調整している。勾玉は完形品である。

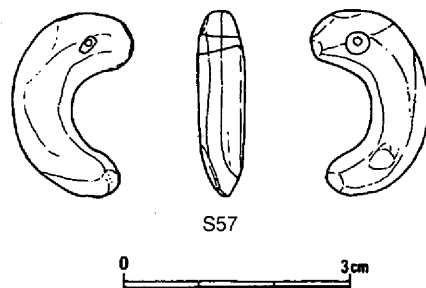
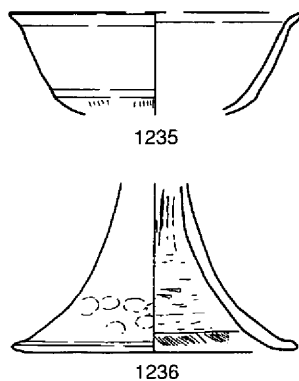
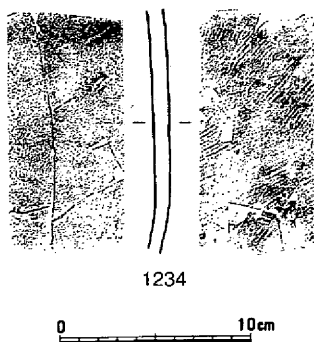
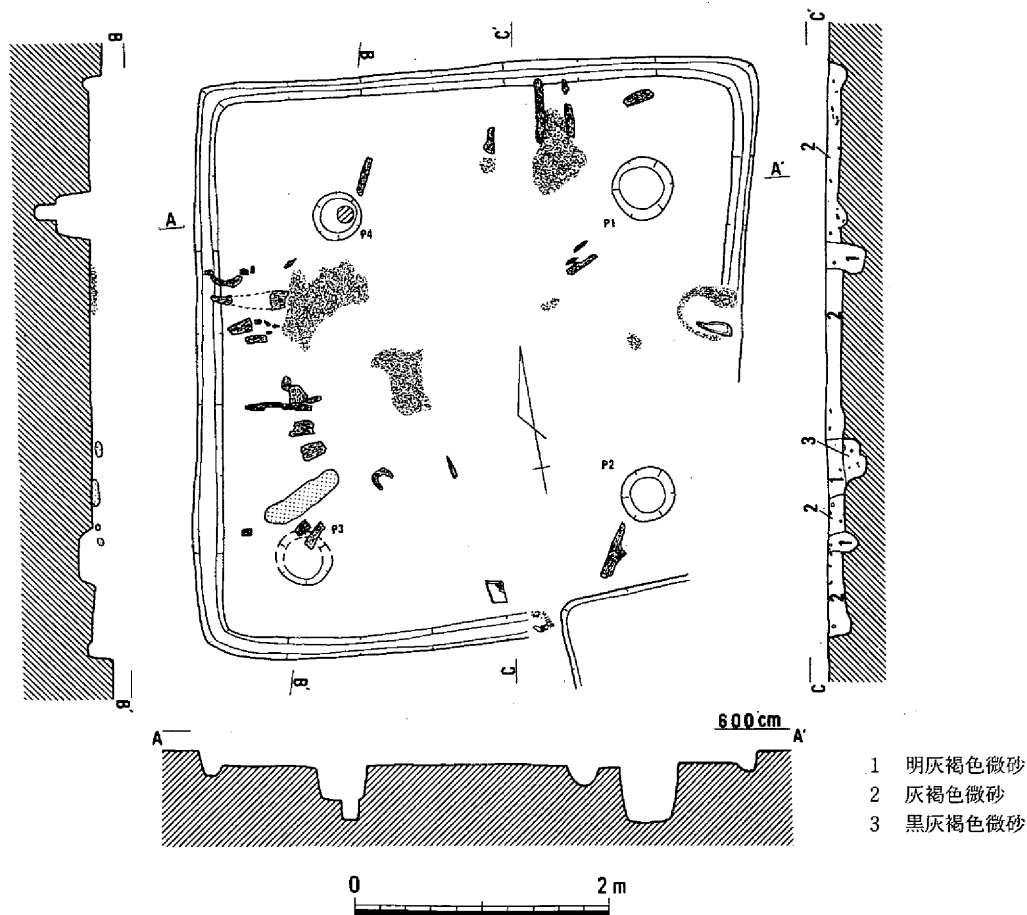
土師器の型式から見て、この住居の廃棄された時期は古・中・Ⅱであろう。

(浅倉)

竪穴住居27 (第396・406図)

調査区の西半部、竪穴住居23の東約4 mに位置する。平面形は竪穴住居28に切られているため不正確ではあるが、約555×565cmの方形になるものと考えている。深さは約25cm残存しており、底面はほぼ平らであった。壁際には幅25cm、深さ5 cm前後の溝が部分的にはあるが検出できている。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は古墳時代前期としか捉えられない。

(平井)



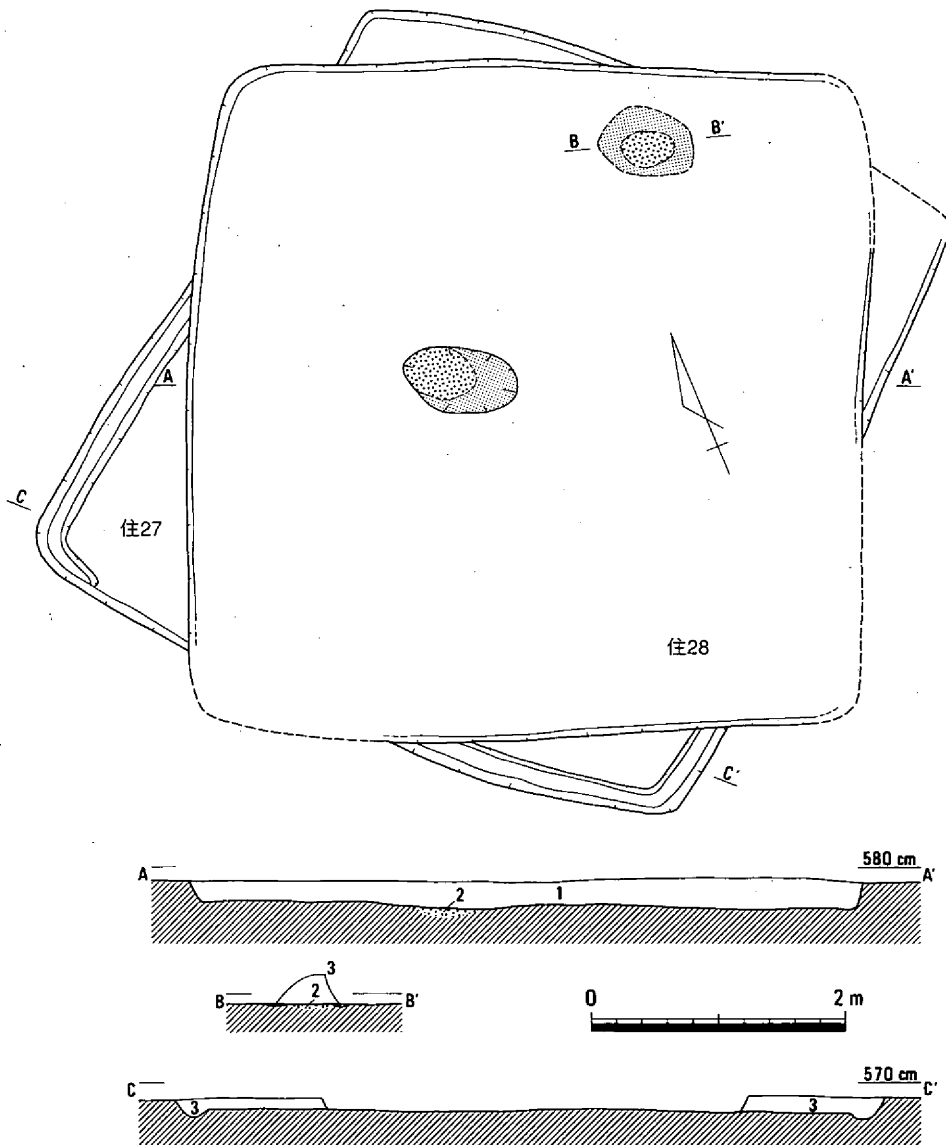
第405図 竪穴住居26 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

竪穴住居28 (第396・406~408図、図版97・105)

調査区の西半部、竪穴住居27を切るかたちで検出できた。平面形は約一辺約534cmの隅丸正方形で、深さは最深部で約25cm残存していた。埋土は暗褐色粘質微砂が1層のみで、床面はほぼ平らであった。支柱穴は検出できなかったが図示したような床面上の2か所に炉跡を確認することができた。炉跡は楕円形の強く被熱した橙色焼土塊の部分があり、その周囲に炭や焼土粒が分布していた。壁際に溝は検出できなかった。遺物は少量の土器片と滑石製の勾玉 S58が出土している。土器は壺、甕、高杯および手捏ねの鉢などがあり、時期は古・中・Iと考えている。 (平井)

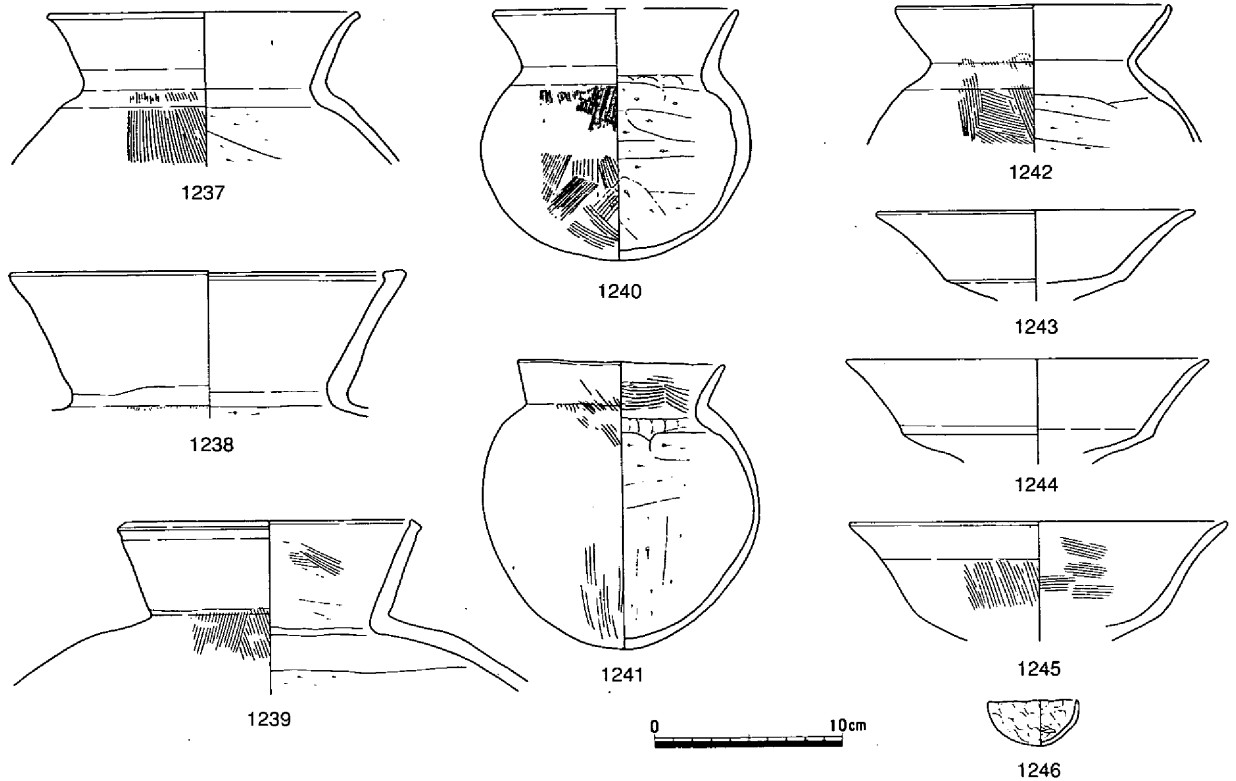
竪穴住居29 (第396・409図)

竪穴住居27・28の南約3mに位置する。平面形は竪穴住居30に切られるなどしており明確に検出することはできなかったが、方形を呈するものと考えられる。深さは約8cm残存しており、壁溝は検出できなかった。支柱穴は確認できなかったが、北東辺に被熱面が検出できカマド跡と考えられる。被



- 1 暗褐色粘質微砂 2 橙色焼土塊 (被熱) 3 暗褐色粘質土 (炭粒含) 4 暗灰褐色粘質微砂

第406図 竪穴住居27・28 (1/60)



第407図 竪穴住居28出土遺物① (1/4)

熱面は約30×40cmの楕円形で橙色によく焼けており、周辺には熱のため変色した部分が観察できた（カマド1）。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は古墳時代後期としか捉えられない。（平井）

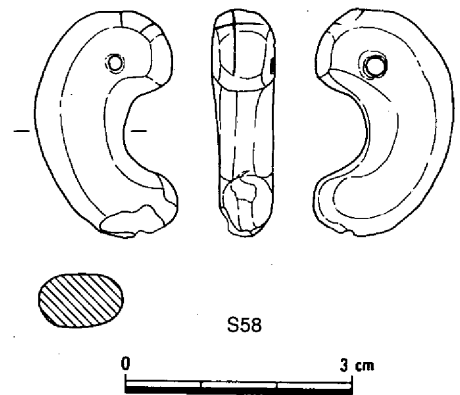
竪穴住居30（第396・409～411図、図版105・106）

竪穴住居29を切るかたちで検出できた。建て替えの可能性を考慮しており、新段階の平面形は約526×672cmの長方形で、深さは約20cm残存していた。壁際には幅30cm前後で深さ約5cmの溝が確認でき、北東の隅にはカマド（カマド4）を検出した。カマドは長さ約100cm、幅約50cmで袖は明確ではなかった。燃焼部は住居内に

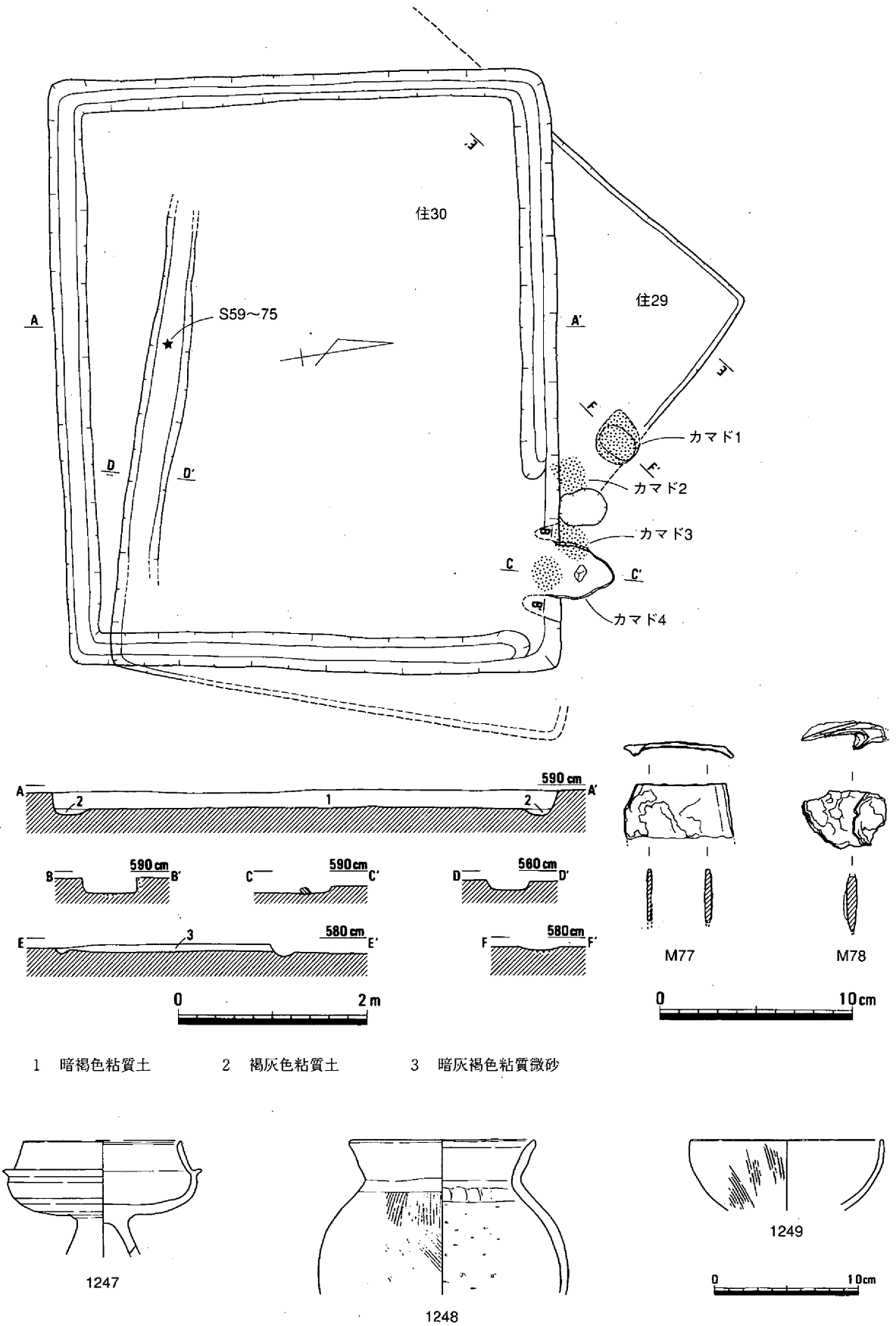
位置している。遺物は須恵器1247、土師器1248・1249、鉄製摘鎌M77、不明鉄器M78、石製管玉S76、ガラス小玉G13・14、古銅輝石安山岩S77などが出土し、時期は古・中・Ⅱと考えている。新段階の床面を掘り下げたところ壁溝と考えられる溝が検出でき、カマド4の西側にはカマド2・3が確認できたためこれらを古段階の竪穴住居30として報告する。カマド2・3は燃焼部と考えられる強く焼けた焼土面が検出できたのみである。遺物はほとんど出土していないが、壁溝から滑石製の白玉S59～75がまとめて出土しているのが特徴で、時期は古・中・Ⅱではなかろうか。（平井）

竪穴住居31（第396・412図）

Ce407区に位置する。南北に細長い長方形の竪穴住居で、規模は東西方向（短辺）が324cm、南北方向は378cm以上を測りさらに南側は調査区外につづく。床面上では北側の辺のほぼ中央には造り付

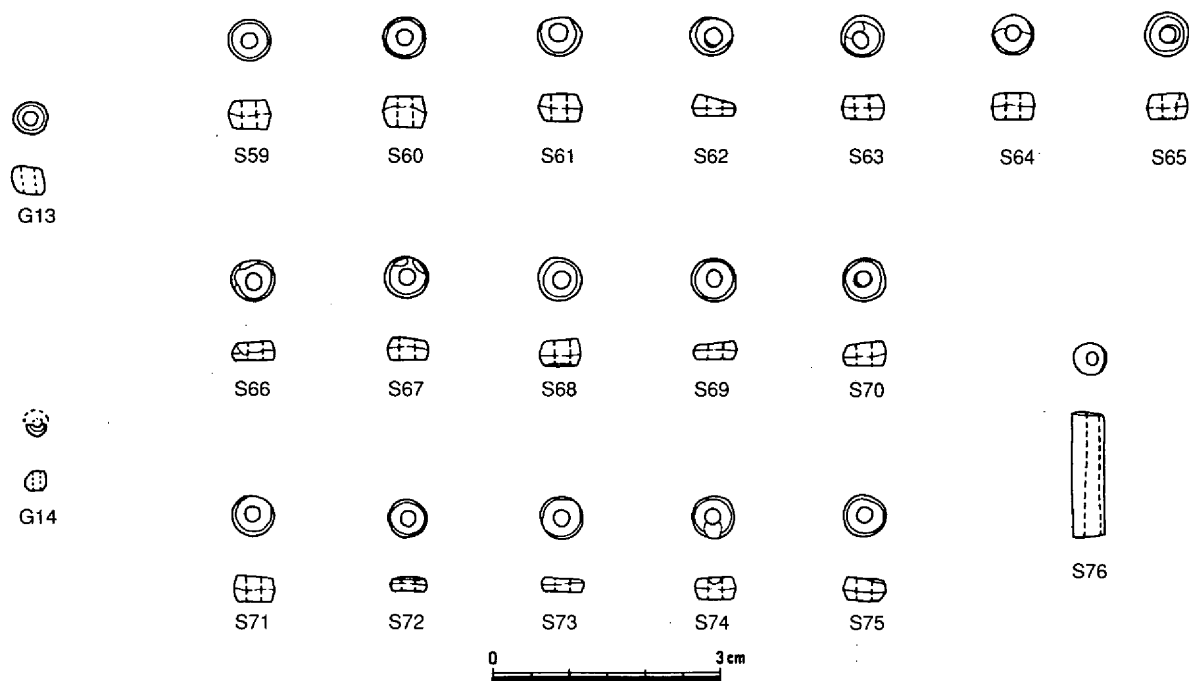


第408図 竪穴住居28出土遺物② (1/1)

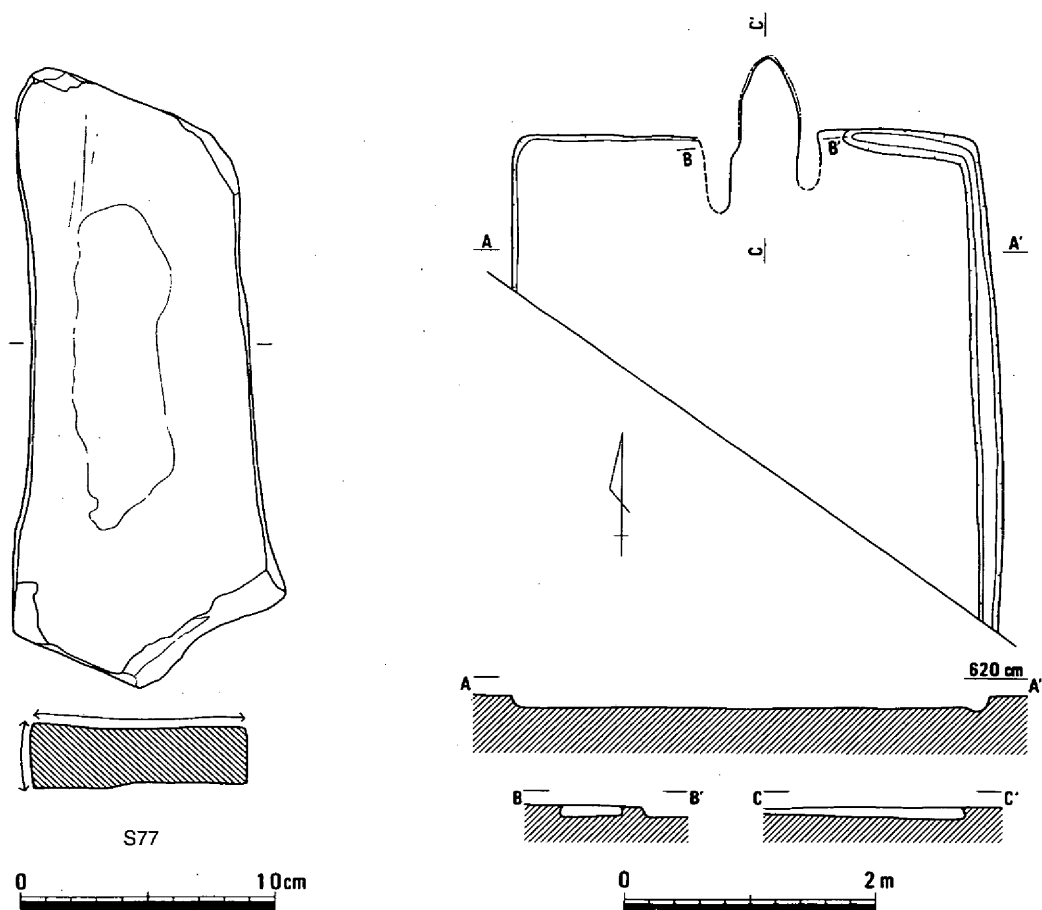


1 暗褐色粘質土      2 褐灰色粘質土      3 暗灰褐色粘質微砂

第409図 竪穴住居29・30 (1/60)・竪穴住居30出土遺物① (1/3,1/4)



第410図 竪穴住居30出土遺物② (1/1)



第411図 竪穴住居30出土遺物③ (1/3)

第412図 竪穴住居31 (1/60)

けのカマドをもち、煙道は床面と同じ高さで住居外に突出する。このほかに、東壁沿いには壁帯溝を巡らせるが焼土面や柱穴は確認できなかった。

図示しうる遺物はないが、時期は古・後・Ⅱと考えられる。 (弘田)

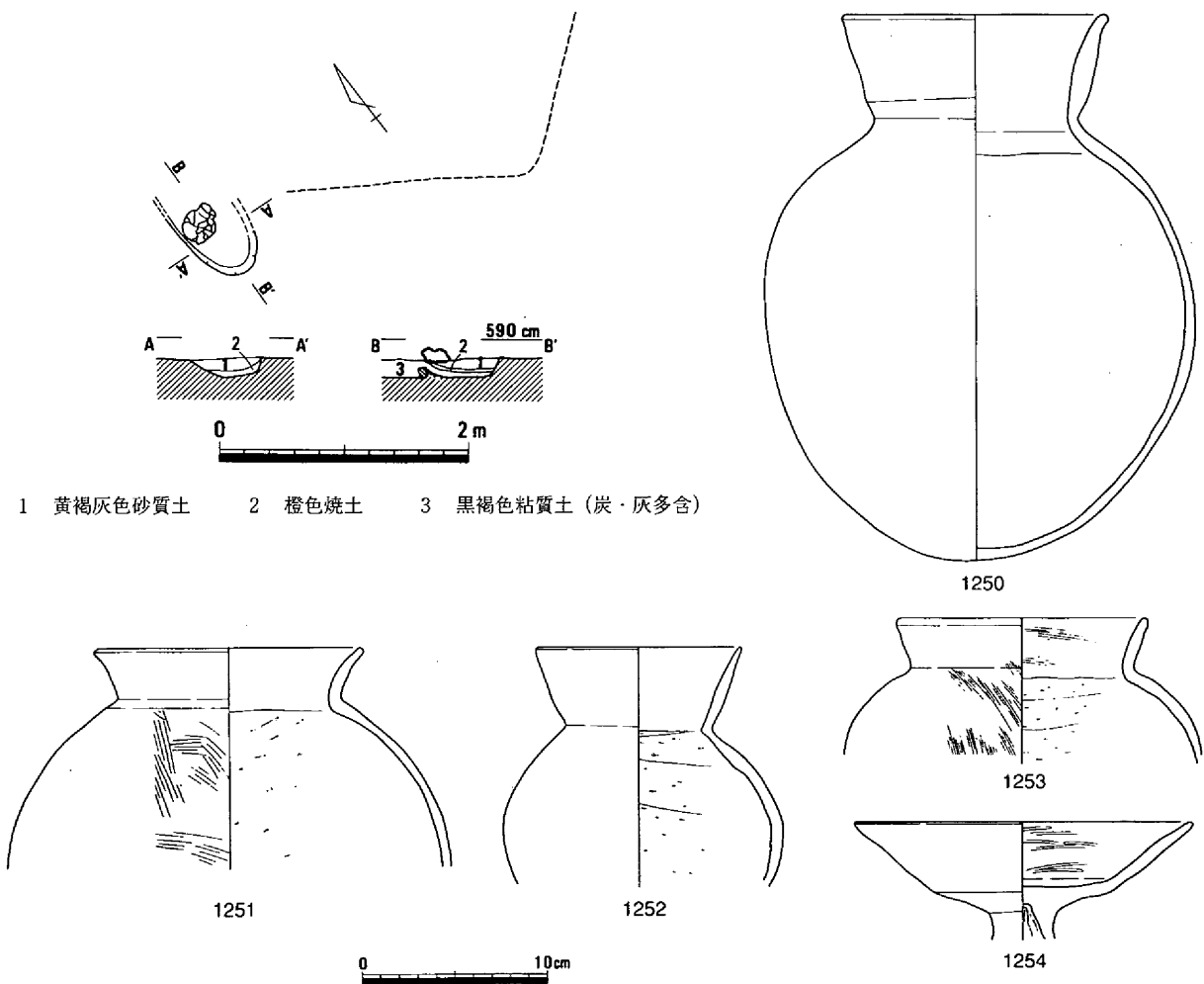
**竪穴住居32** (第397・413図、図版97)

調査区の中央部、竪穴住居31の東約6mに位置する。この竪穴住居は焼土面を伴うくぼみを検出し、これをカマドの痕跡と理解しているもので、平面形や床面などは不明確であった。平面形については推定した線を破線で示しているが、これだとカマドが南側に設置されていることになり、当遺跡では特異な事例となる点からも不確かであろう。カマドと考えたくぼみは、図示したように幅約50cmの長楕円形の約半分で、埋土中からは甕や高杯がまとも出土しているのが特徴である。土器の時期は古・中・Ⅰと考えている。 (平井)

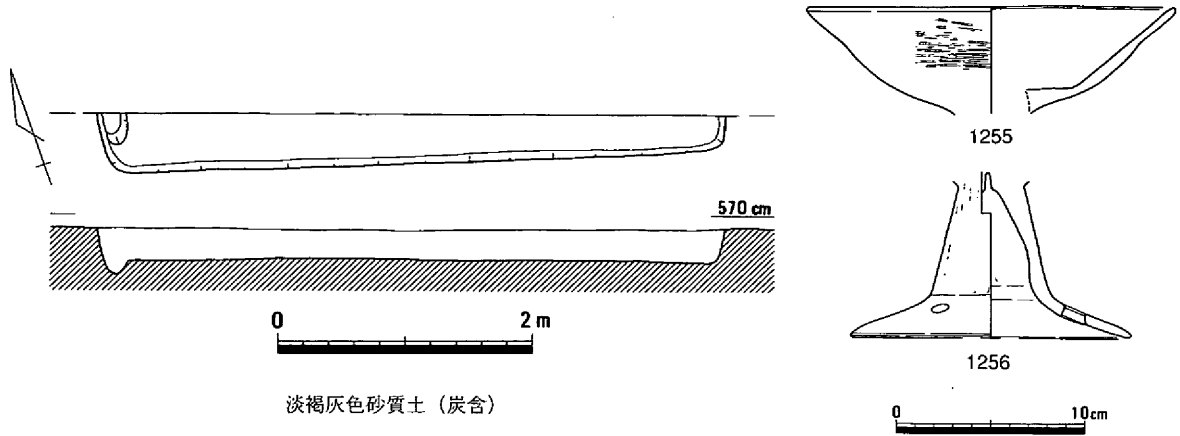
**竪穴住居33** (第398・414図)

調査区の中央部、竪穴住居28の北東約5mに位置する。平面形は北側のほとんどが中世以降の河道によって切られているため不明確ではあるが一辺約5mの方形で、深さは約20cm残存していた。西辺には壁溝が巡るのかもしれない。

埋土中から高杯などの土器片が出土しており、時期は古・前・Ⅰ～Ⅱであろう。 (平井)



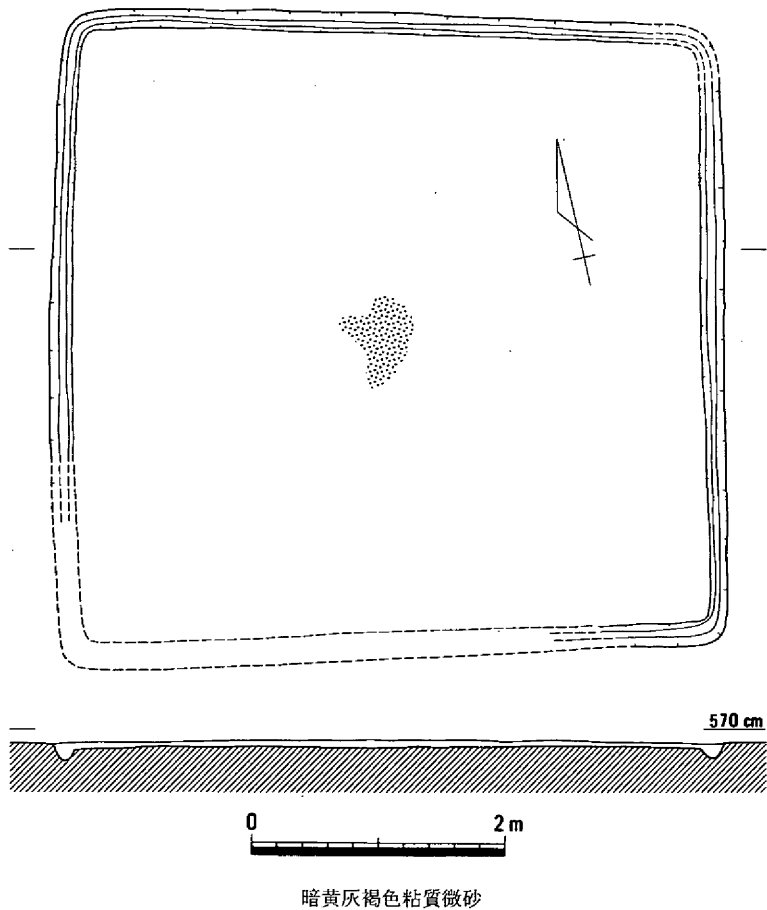
第413図 竪穴住居32 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第414図 竪穴住居33 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居34 (第397・415図)

調査区の中央部、竪穴住居33の南隣りに位置する。平面形は南西部が竪穴住居35に切られてはいるが、約490×530cmの方形で、深さは約5cm残存していたにすぎない。壁際には幅約10cm、深さ7cm前後の溝が検出できた。床面はほぼ平らで、中央部には図示したような範囲に被熱面が検出できたが、支柱穴は確認できなかった。遺物は少量の土器片が出土したのみで、時期は竪穴住居35との切り合いからも古墳時代前期と考えられるが、より細かい時期は不明である。(平井)



第415図 竪穴住居34 (1/60)



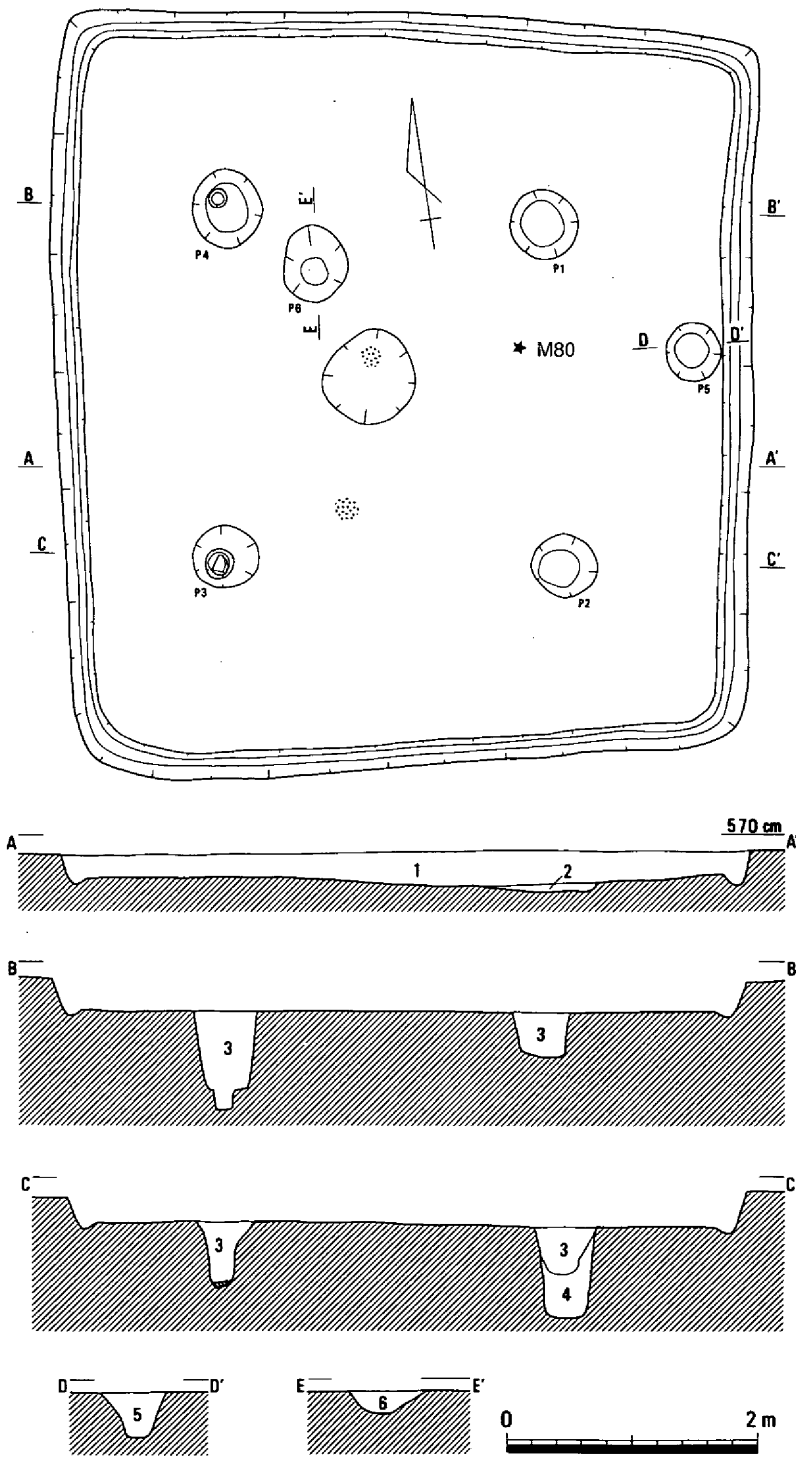
竪穴住居35 (第397・417・418図、図版15・104)

調査区の中央部、竪穴住居34を切るかたちで検出できた。平面形は約550×600cmの方形で、深さは約25cm残存していた。壁際には幅約10cm、深さ5cm前後の溝が巡っており、床面はほぼ平らであった。主柱穴は4本検出できた。いずれも直径50cm前後の円形で、深さは床面から約35~80cmを測る。P3の底面には平らな石が据えられていた。

床面のほぼ中央には深さ約8cmのくぼみと被熱面が存在しており、被熱面は約1m南でも確認できている。この中央のくぼみの北西隣りには平面形が楕円形のP6が検出でき、埋土中には炭粒が散布していた。

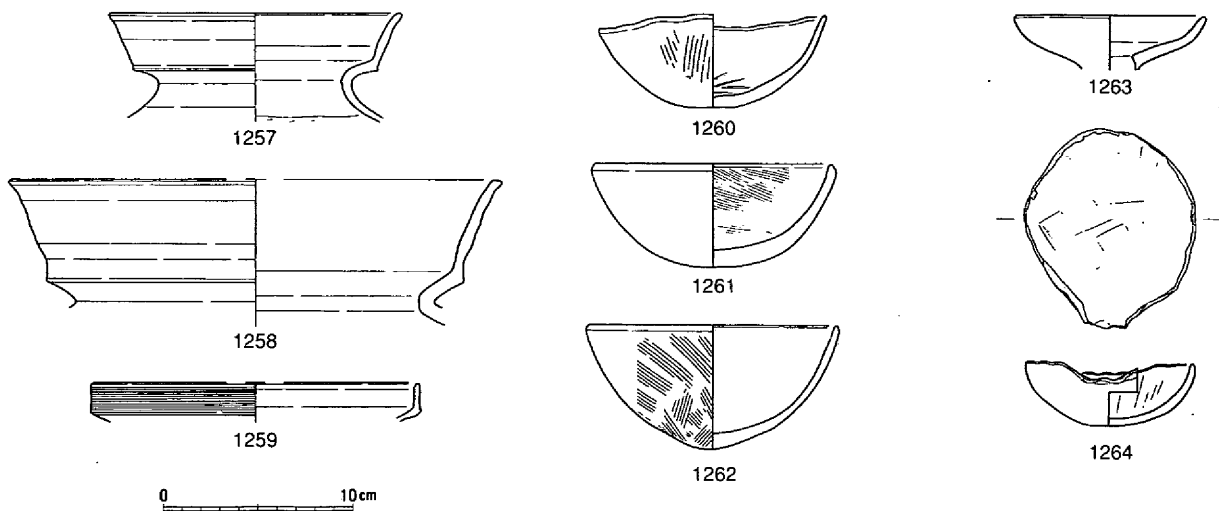
P5は東辺のほぼ中央の壁際に位置しており、この竪穴住居に伴う穴と考えている。検出できた平面形は直径約45cmの円形で、深さは約35cm残存していた。

遺物は少量の土器片の他に鉄器M79や貨泉M80が出土している。貨泉は床面を精査中に図示した位置から出土しており、先に報告している24枚の貨泉が出土した袋状土壌18がP2の近く

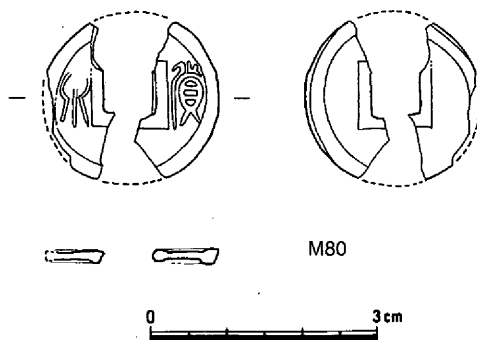


- 1 灰褐色砂質土 (炭粒含)
- 2 暗灰色砂質土
- 3 灰褐色砂質土 (炭粒含)
- 4 暗灰色砂質土
- 5 黄褐色砂質土
- 6 灰褐色砂質土 (炭含)

第416図 竪穴住居35 (1/60)・出土遺物① (1/3)



第417図 竪穴住居35出土遺物② (1/4)



第418図 竪穴住居35出土遺物③ (1/1)

に存在していることから、M80は本来袋状土壙18の埋土中に廃棄されていたものが混入したものと考えるべきと理解している。M80は2片あり、直接接合しないが同一個体と判断している。「泉」の字は錆のため不明瞭であった。土器の時期は古・前・Iと考えている。(平井)

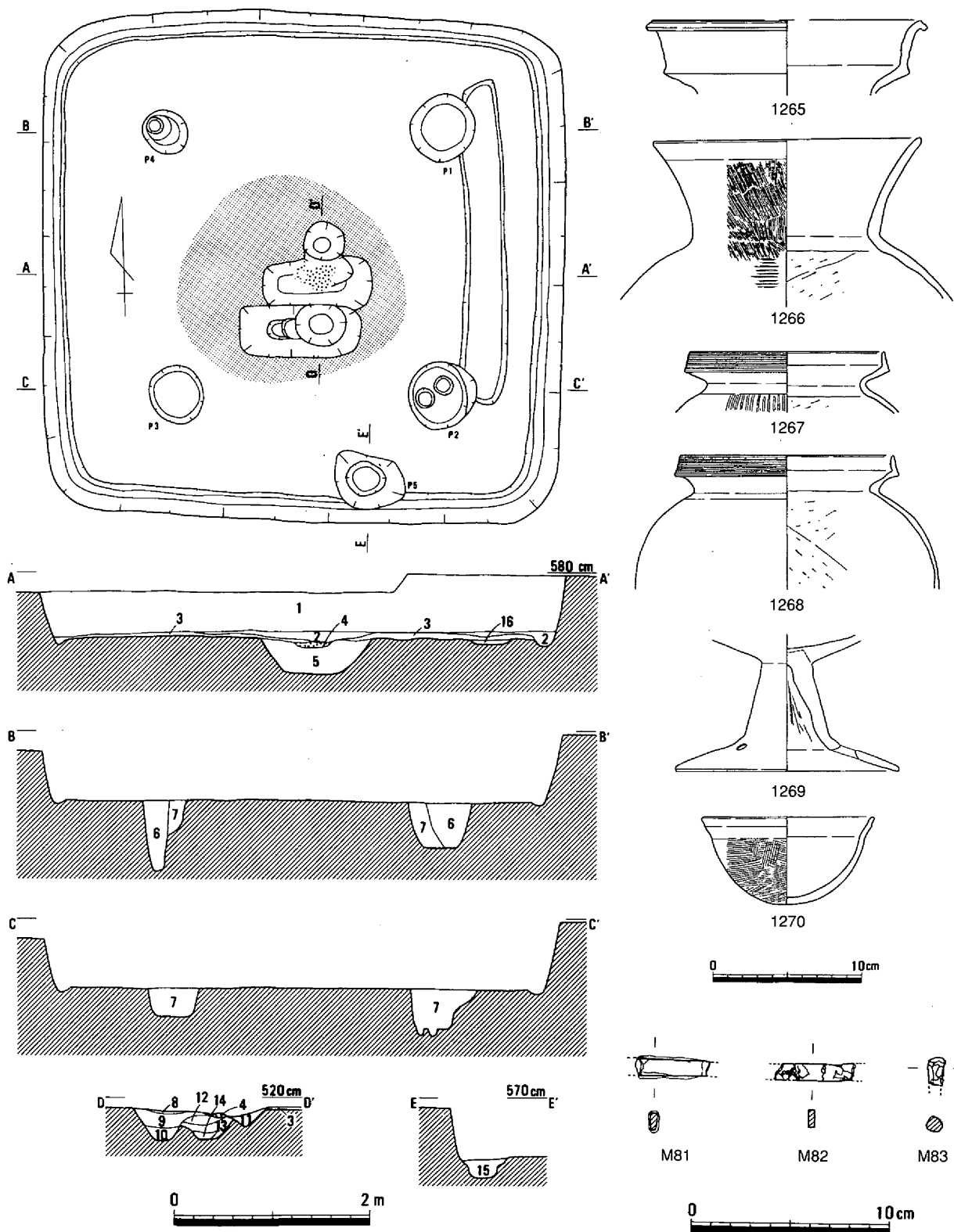
竪穴住居36 (第397・419図、図版15・97)

調査区の中央部、竪穴住居35の東約5mに位置する。平面形は約520×530cmの方形で、深さは約65cm残存していた。壁際には幅10cm前後、深さ5～10cmの溝が検出できている。床面はほぼ平らで、海拔高は4.78mとフロヤ調査区の竪穴住居の中では最も低い。

主柱穴は4本検出できた。平面形は直径約40～65cmの円形や楕円形で、深さは床面から30～73cmを測る。P2の底面には柱痕跡と考えられる穴が2個確認できた。床面のほぼ中央にはよく焼けた被熱面があり炉跡と考えられる。この炉跡の北には直径約40cmの円形で深さ約10cmの穴があり、埋土中には炭や焼土を含んでいた。また南側にも円形の浅いくぼみが存在していた。さらに床面の中央にはこれらより古い長方形の土壙が2基検出できた。切り合い関係があり南の土壙がより古い、いずれも最下層には炭を多く含んでいた。

南側の壁際には不整形の土壙が検出できこの竪穴住居に伴うものと考えられる。なお床面を除去した段階で東の壁に沿って図示したような浅い溝が検出できている。

遺物は埋土中から少量の土器や鉄器が出土しており、時期は古・前・Iと考えられる。(平井)



- |             |          |                   |             |
|-------------|----------|-------------------|-------------|
| 1 暗灰褐色粘質微砂  | 5 淡灰色砂質土 | 9 淡褐灰色砂質土(黄色粘土塊含) | 13 淡灰色砂質土   |
| 2 暗黄褐色粘質微砂  | 6 暗灰色砂質土 | 10 淡褐灰色砂質土(炭多含)   | 14 炭+黄色砂質土  |
| 3 淡青褐灰色粘質微砂 | 7 灰黄色砂質土 | 11 灰褐色砂質土(炭・焼土含)  | 15 暗黄褐色粘質微砂 |
| 4 橙色焼土塊     | 8 褐灰色砂質土 | 12 黄色粘土           | 16 黄灰褐色粘質微砂 |

第419図 竪穴住居36 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

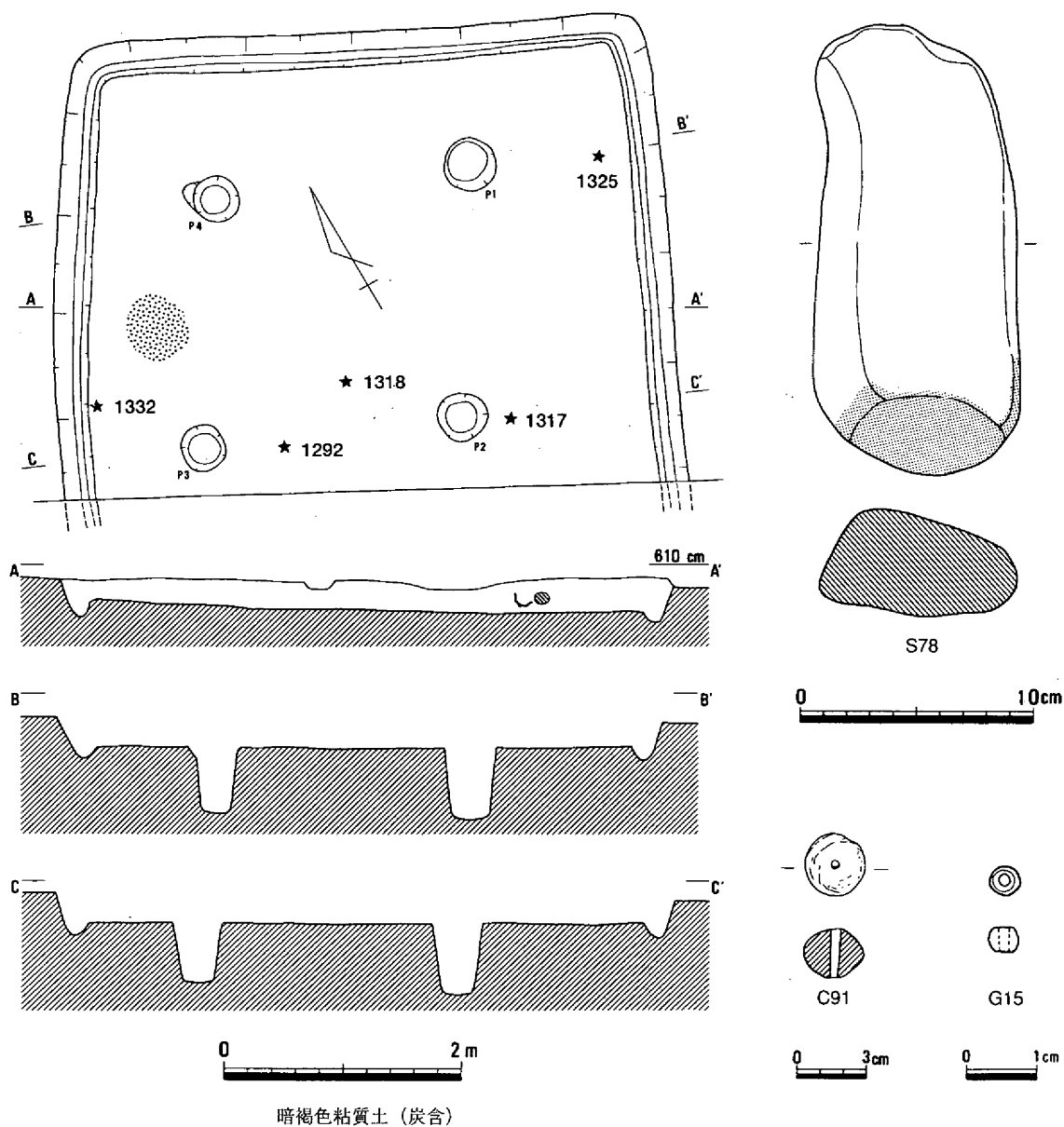
竪穴住居37 (第397・420～424図、図版15・97・98・105・106)

Cf 4 09・5 00区に位置する方形の竪穴住居である。南側の一部が調査区外となるが、規模は、北辺での辺長が520cm、検出面からの深さ29cmを測る。床面上では周囲に壁帯溝を巡らし、支柱穴は4本、および西壁近くには焼土面が存在した。

出土遺物のうち蓋1272と椀1273は須恵器である。土師器は、甕をみると二重口縁のものや端部が内傾するものもあるが多くは端部を丸く収める。高杯は杯部が椀形のもの、稜線が明瞭に巡るもの、口径に対し器高が浅く稜線が不明瞭なものがある。このほかには手捏ね土器や薄手小形の製塩土器1327もみられる。S78は先端が使用によって非常に摩滅しており、かつ極微量の赤色物がみられたことから石杵の可能性はある。そのほかにも土玉C91やガラス玉G15がみられる。

以上の出土遺物からみてこの竪穴住居の時期は、古・中・Iである。

(弘田)



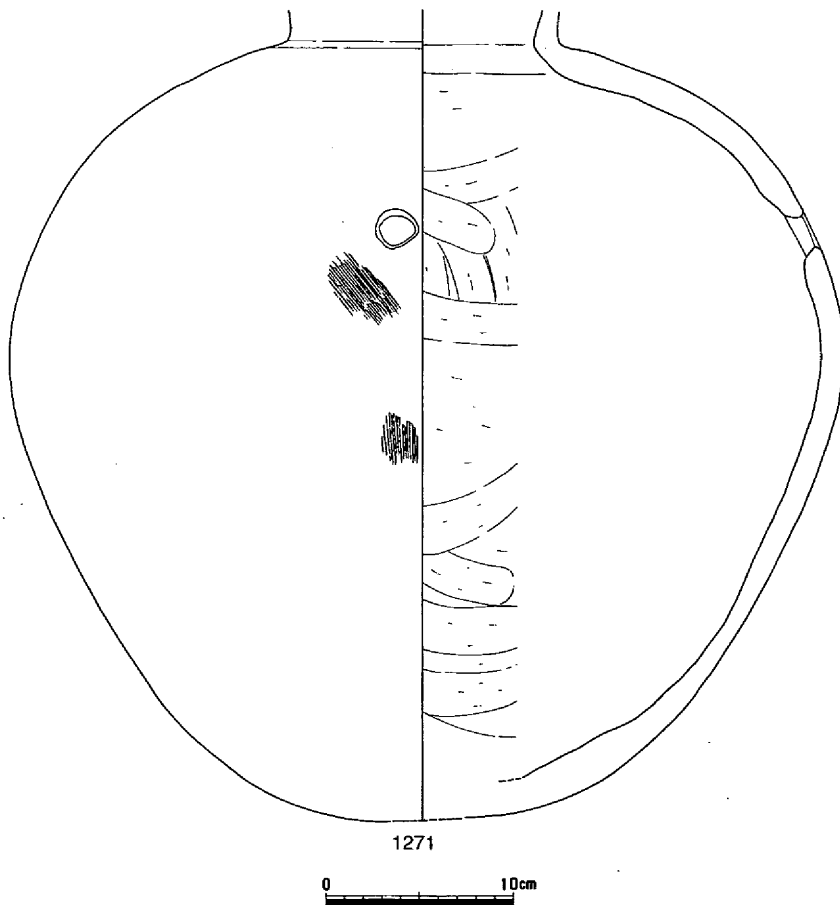
第420図 竪穴住居37 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/1)

### 竪穴住居38 (第397・425図、図版16・98)

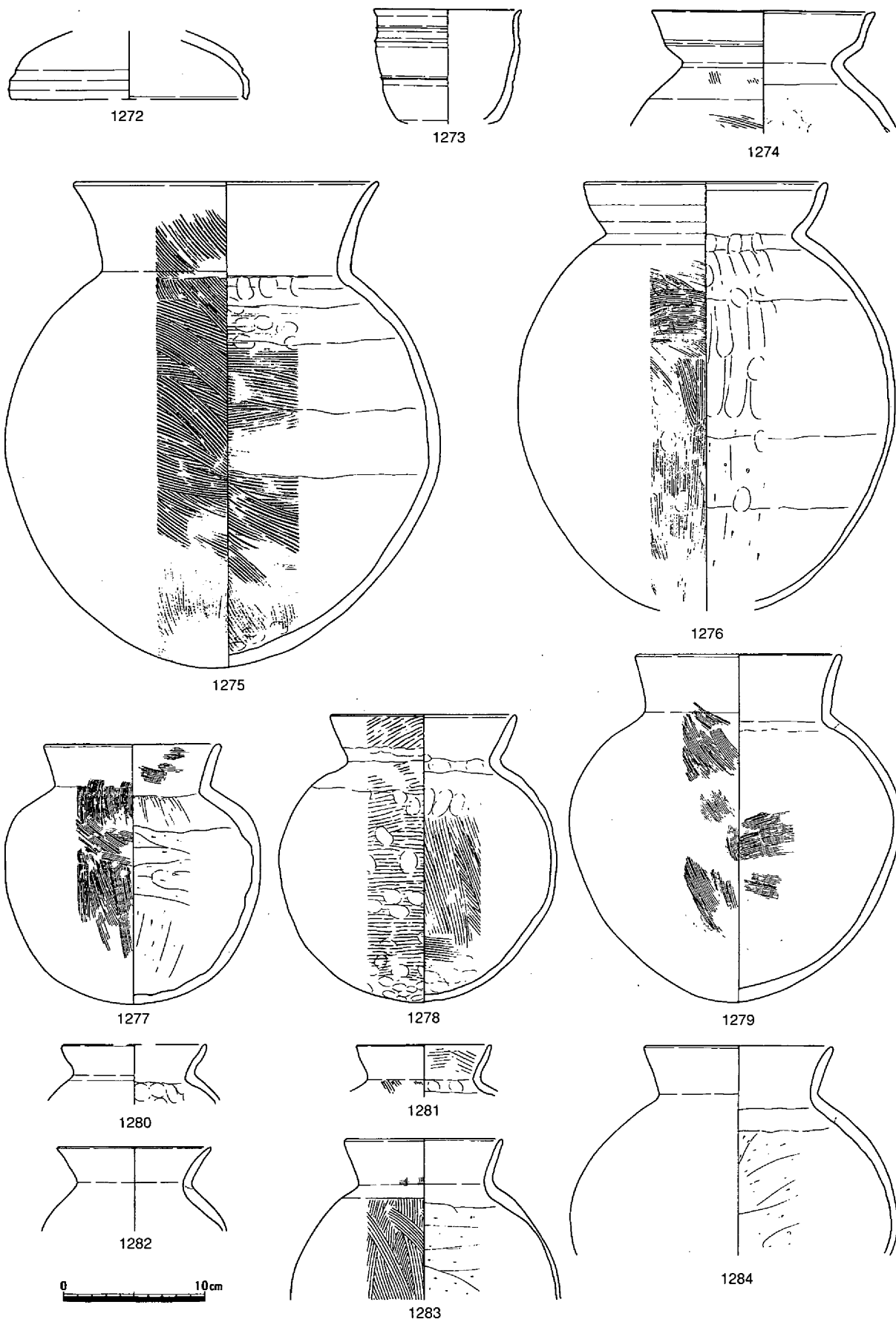
調査区東半部の南壁際に位置する。平面形は南端が調査区外にのびるため不明であるが、一辺が約580cmを測る方形で、深さは約35cm残存していた。壁際には幅約15cm、深さ10cm前後の溝が部分的にはあるが検出できた。床面はほぼ平らで、中央部付近に2基の土壙が検出できた。北側の土壙は約50×55cmの楕円形で深さ12cmを測り、北と南の壁が堅く焼けているのが特徴で炉跡と考えられる。南側の土壙もほぼ同規模で、南壁に被熱部分が少し確認できており、埋土中には炭や焼土を含んでいた。支柱穴は4本確認できている。P4の埋土上面からはほぼ完形の土器**1338**が出土した。また**1337**もほぼ完形で床面直上からの出土である。土器の時期は古・前・Iであろう。(平井)

### 竪穴住居39 (第398・426・427図、図版16・105)

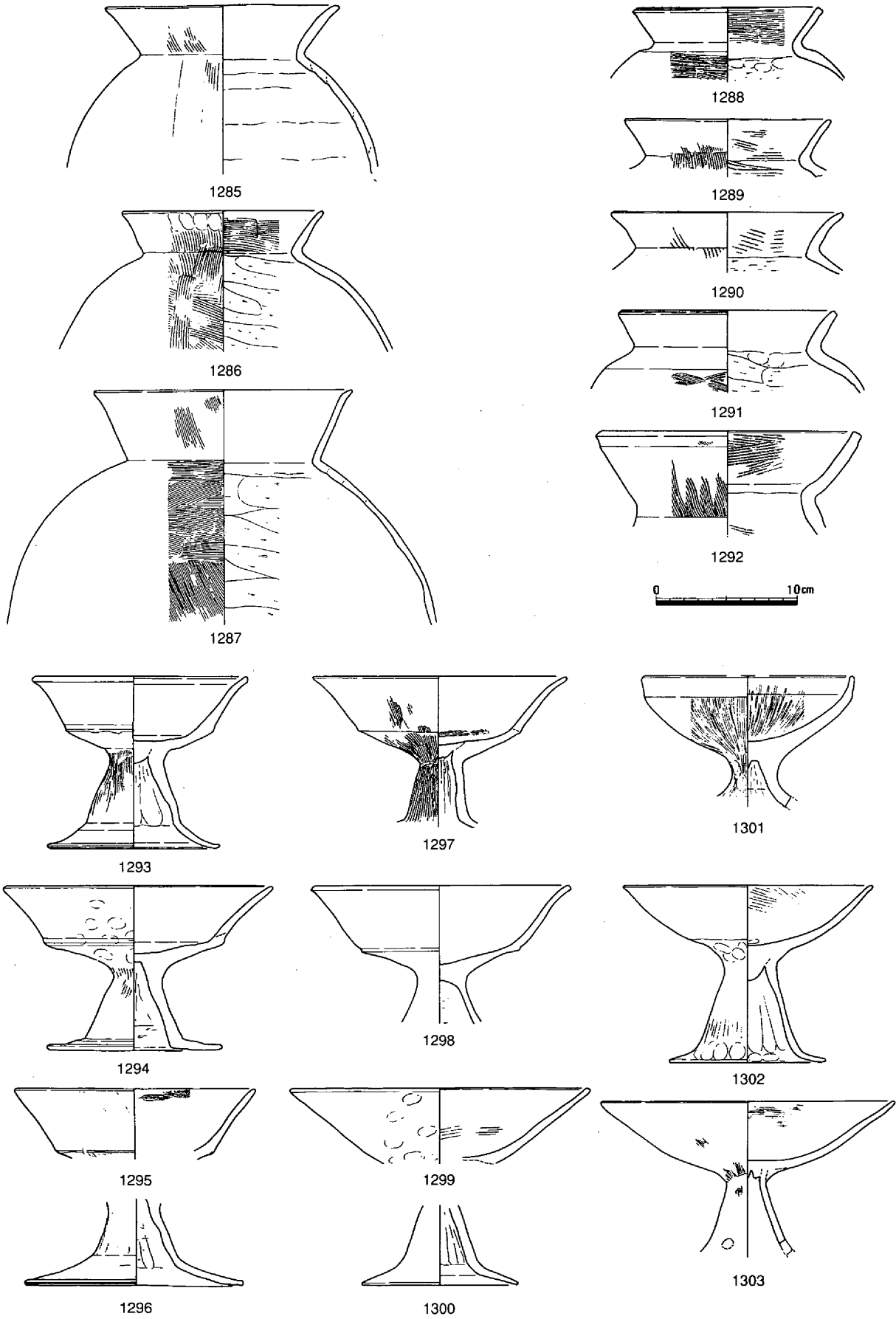
Ce502区で検出された。住居の平面形は、西角が鈍角のため、平行四辺形のような方形を呈していた。長軸の長さが536cm、短軸の長さは510cmを測った。床面までの深さは10cmであった。竪穴の周囲には幅が30~40cm、床面からの深さが10cm程度の壁体溝が検出された。北西壁の中央付近にカマドが作られ、燃焼部には長径が23cmの自然石が斜めに倒れた状態でみつきり、カマドに懸ける甕を据えた支柱だったと考える。燃焼部の前面を断割すると2面の被熱面が認められ、カマドを修繕したものとみられる。燃焼部は壁から50cmほど内側にあつて、壁との間には焼土塊を含んだ土が盛られていた。第8層の南半上面は焼けていて、煙道の一部とみられる。なお、住居の中央でも小範囲の焼土面を検出した。支柱穴は4個で、掘り方は円形を呈し、長径が52~73cm、深さは55~66cmを測った。柱痕の



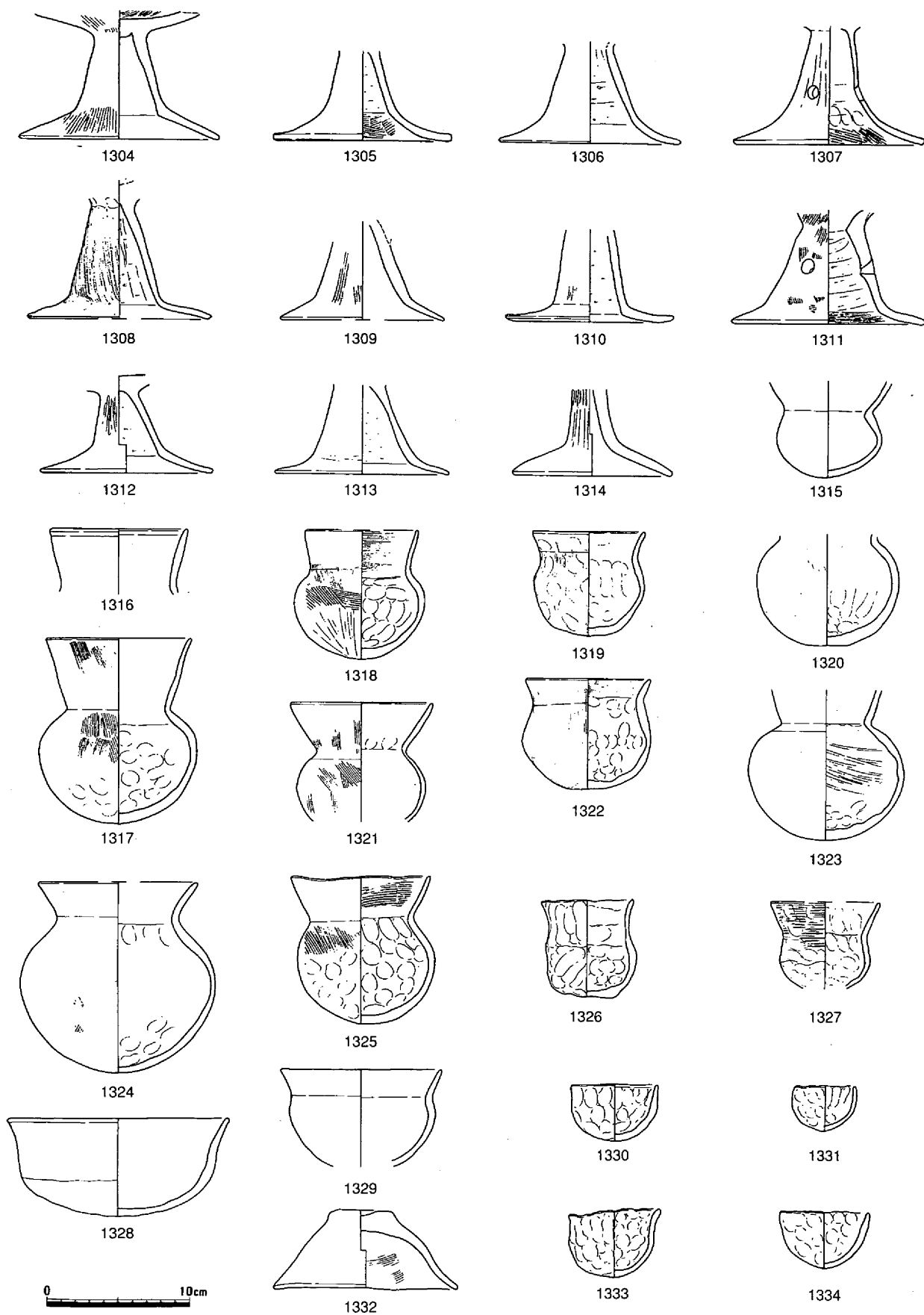
第421図 竪穴住居37出土遺物② (1/4)



第422図 豎穴住居37出土遺物③ (1/4)

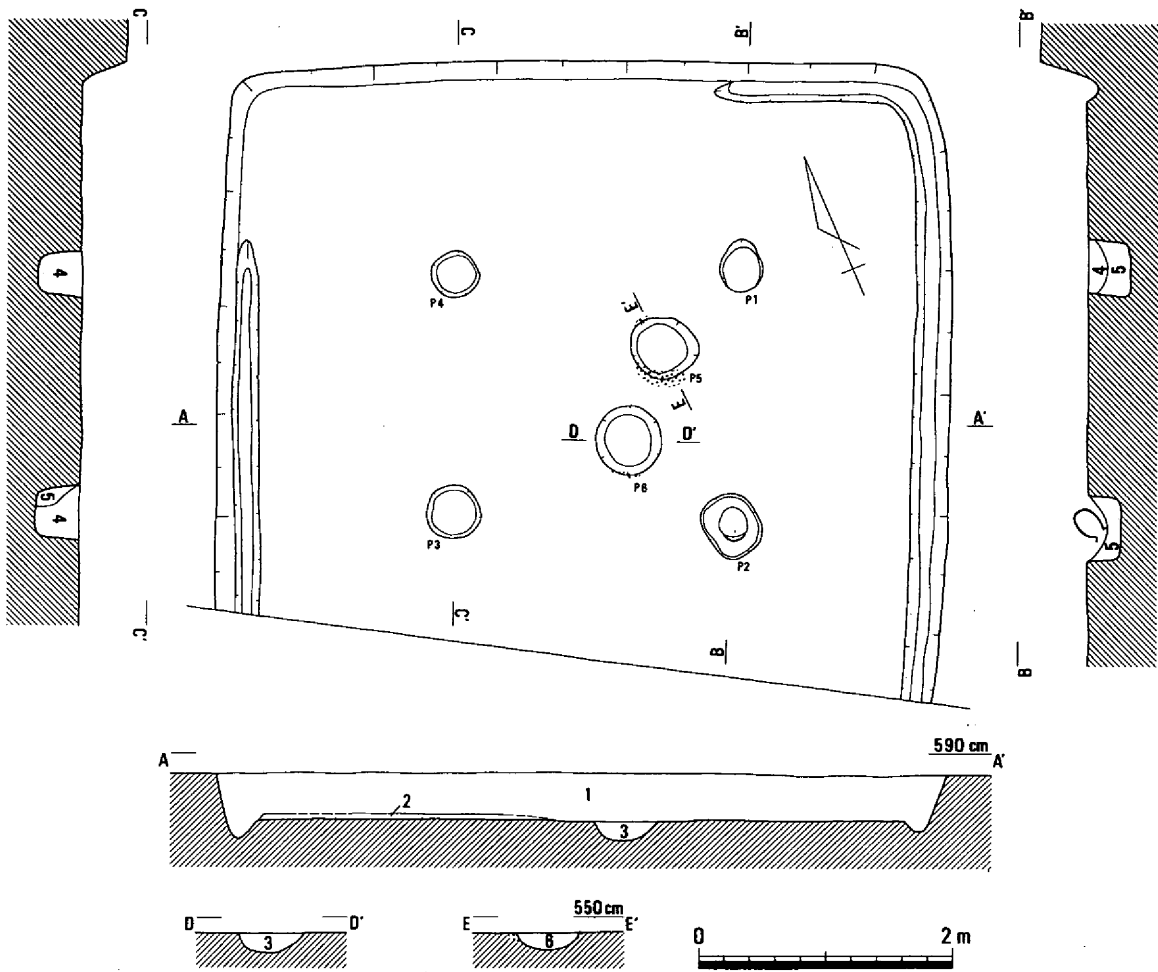


第423図 竪穴住居37出土遺物④ (1/4)

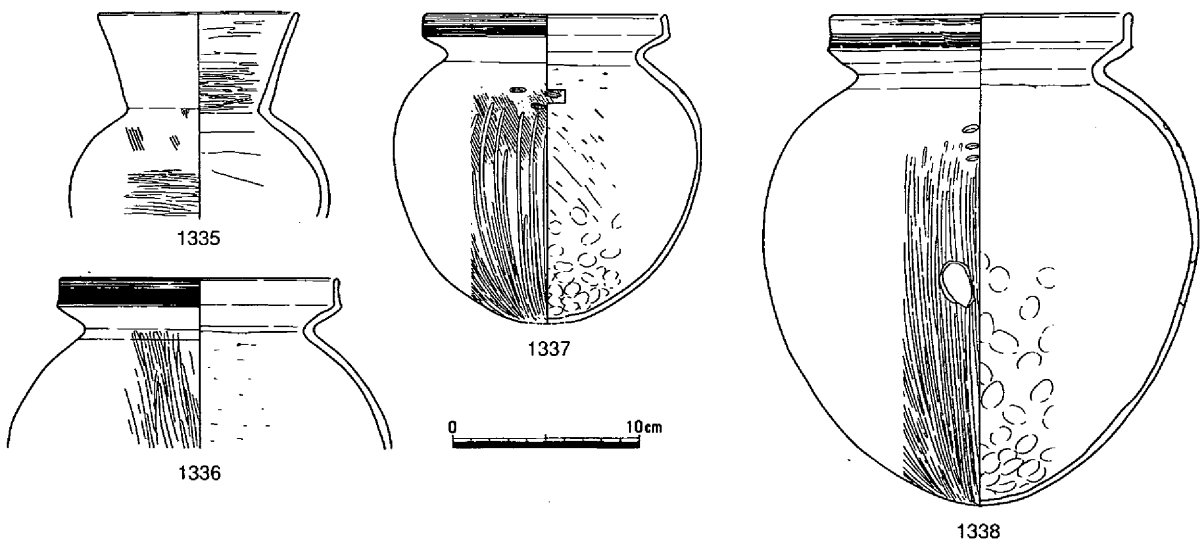


第424図 竪穴住居37出土遺物⑤ (1/4)

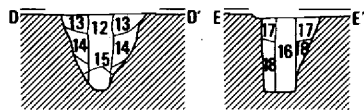
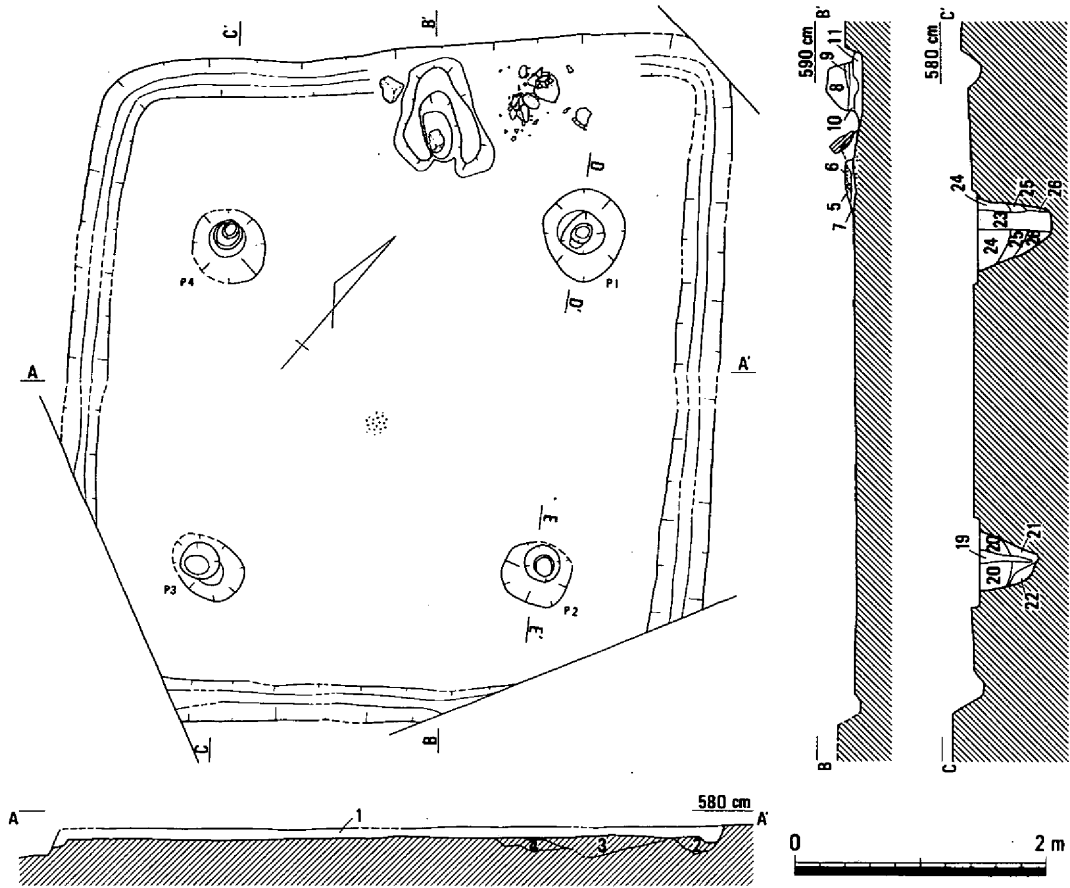




- |                  |                   |           |
|------------------|-------------------|-----------|
| 1 淡褐灰色砂質土 (炭粒少含) | 3 灰黄綠色粘質土 (炭・焼土含) | 5 青緑灰色粘質土 |
| 2 黄綠色粘土 (貼床?)    | 4 暗青緑灰色粘質土        | 6 灰黄綠色粘質土 |

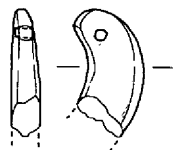


第425図 竪穴住居38 (1/60)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘性砂質土 (炭粒含)
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性砂質土
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土 (炭粒含)
- 4 明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土 (炭粒含)
- 5 褐色 (7.5YR4/4) 砂質土
- 6 赤褐色 (2.5YR4/6) 粘性砂質土
- 7 褐灰色 (5YR4/1) 粘性砂質土 (焼土塊・炭・灰含)
- 8 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土 (焼土塊含)
- 9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土 (焼土塊含)
- 10 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘性砂質土 (焼土少含)
- 11 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘性砂質土 (黄色砂質土塊含)

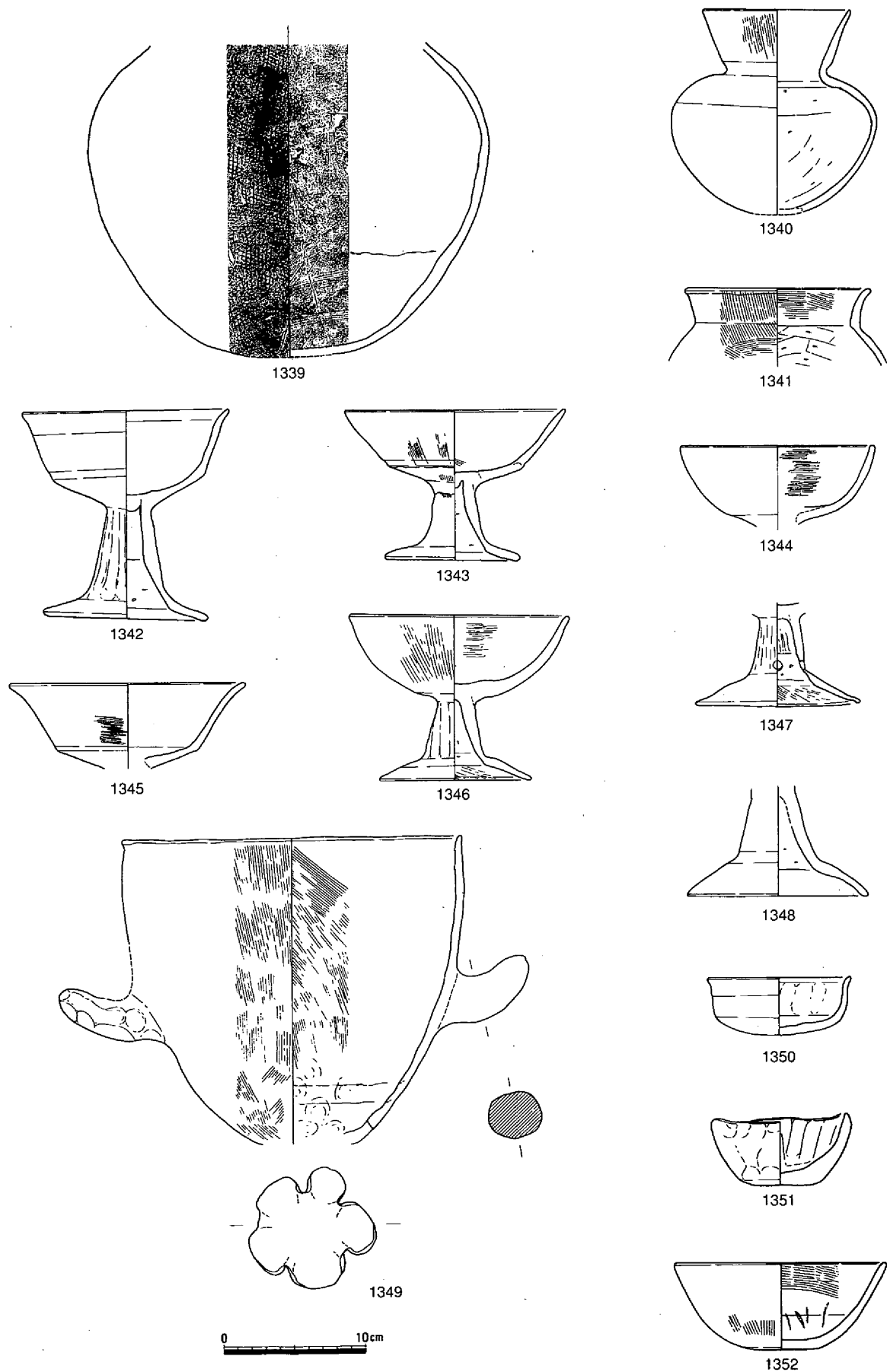
- 12 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土 (黒褐色粘土塊含)
- 13 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘性砂質土
- 14 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土 (灰黄褐色粘土塊含)
- 15 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘性砂質土
- 16 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土
- 17 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土
- 18 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘性砂質土
- 19 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土
- 20 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土 (炭含)
- 21 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土
- 22 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘性砂質土
- 23 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土 (炭粒・淡黄色粘土小塊含)
- 24 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土 (炭多含)
- 25 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 (炭粒含, 淡黄色微砂塊含)
- 26 オリーブ色 (5Y5/4) 粘性砂質土 (炭粒少含)



S79



第426図 竪穴住居39 (1/60)・出土遺物① (1/1)

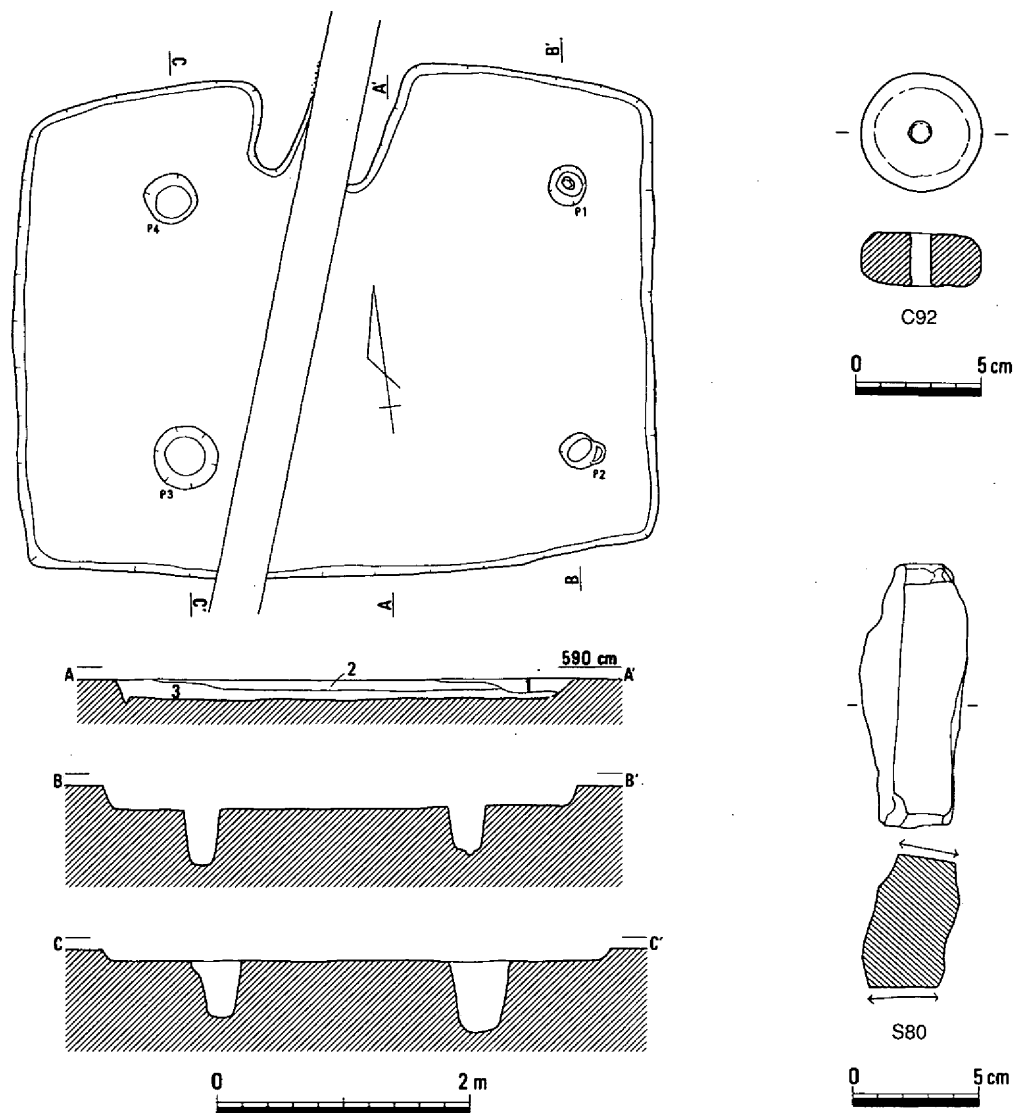


第427図 竪穴住居39出土遺物② (1/4)

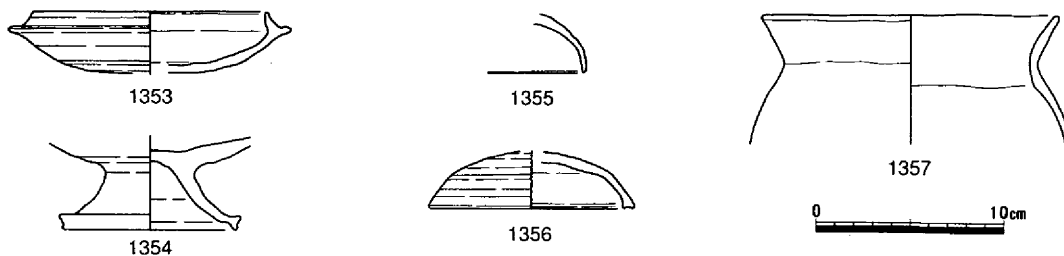
直径は17~21cmであった。カマドの北東側で土器溜りが形成され、須恵器壺の大形破片や完形に近い土師器高杯が集中していた。出土遺物から古墳時代中期の竪穴住居と考えられる。(岡本)

竪穴住居40 (第398・428図、図版105・106)

調査区の東半部、竪穴住居38の北東約5mに位置する。竪穴住居41を切ってつくられている。平面



- 1 赤灰色 (2.5YR4/1) 粘性砂質土 (炭・焼土粒含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土 (炭粒少含)
- 3 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性砂質土 (炭・焼土含)



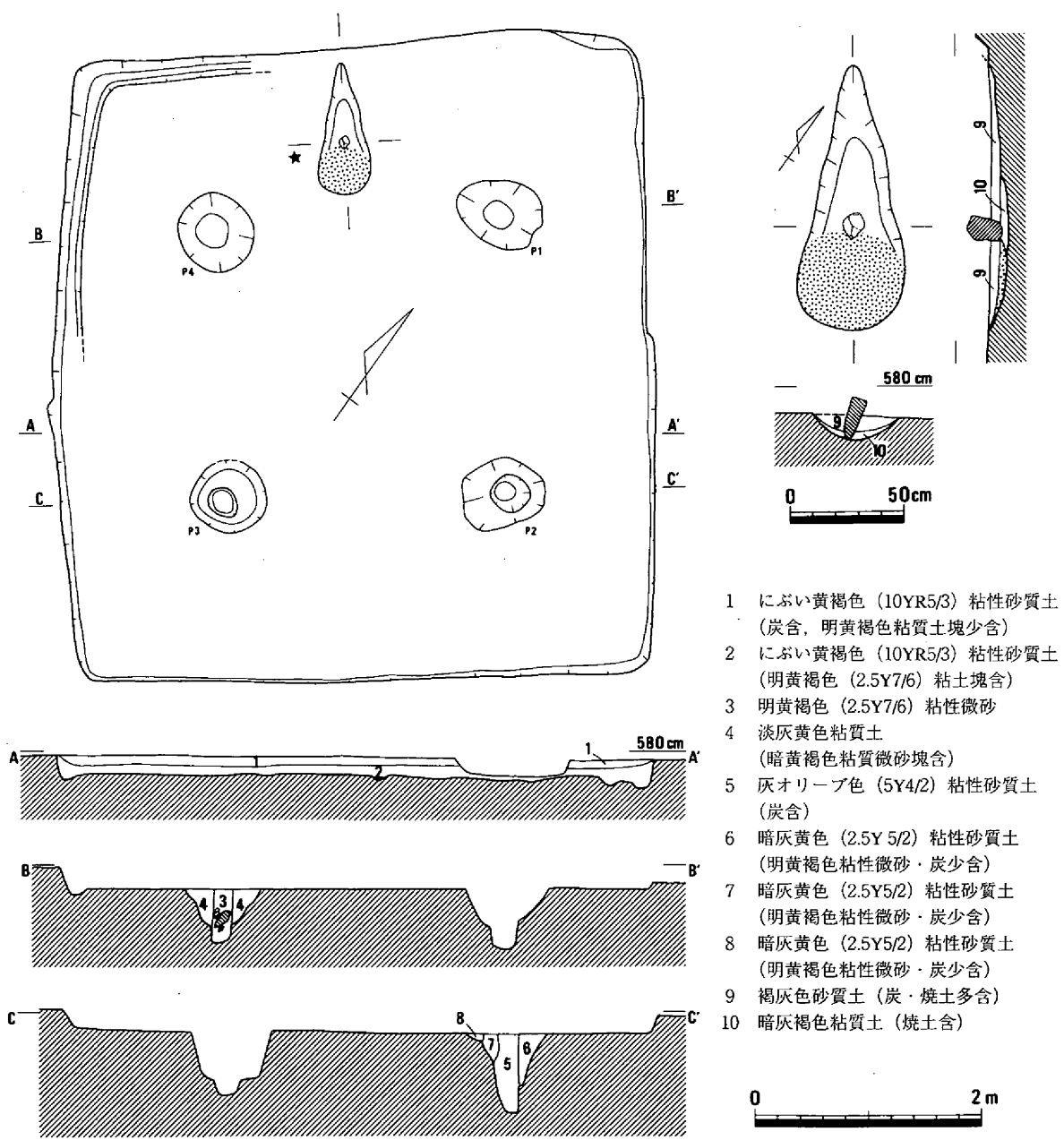
第428図 竪穴住居40 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

形は約200×390cmの長方形で、深さは約15cm残存していた。北辺の中央部にはカマドが設置されていたものと考えられるが、調査区境の側溝のため袖のみが検出されたにすぎない。床面はほぼ平らで、柱穴は4本検出できている。柱穴は直径約20~50cmの円形で、深さは床面から約40~60cmを測る。ただしP1・2が東壁に接近している点に問題が残る。

遺物は埋土中から須恵器1353~1356、土師器1357、土製紡錘車C92、石製砥石S80などが出土した。土器の時期は7世紀前半と考えている。(平井)

竪穴住居41 (第398・429図)

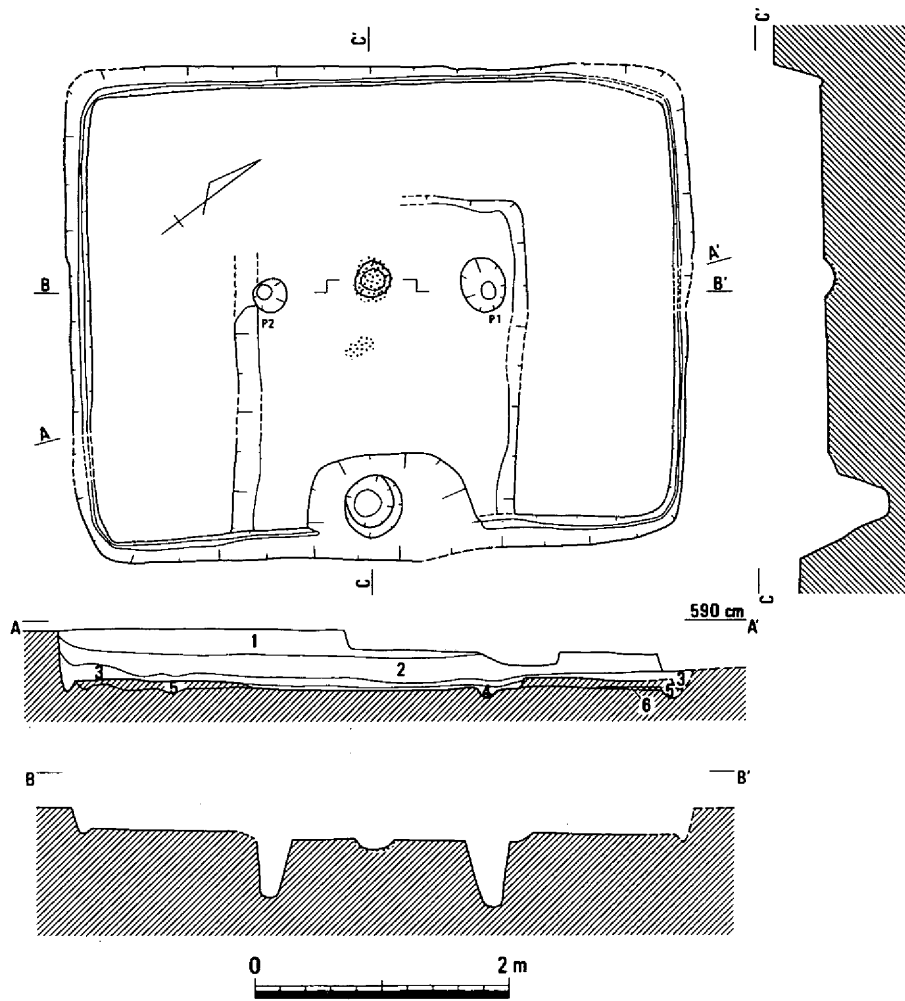
Cf502区にあり、竪穴住居40によって北半部分は破損をうけていた。平面形は方形で、長軸長が565cm、短軸長は538cm、住居の深さは16cmを測った。土層断面では壁体溝のくぼみが確認できたが、



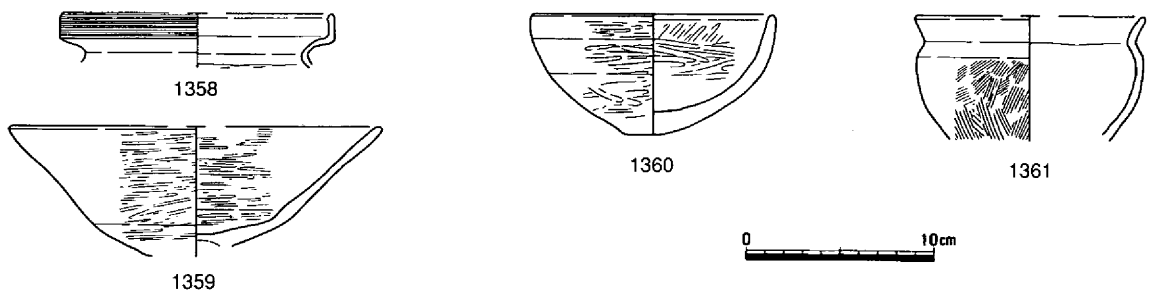
- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土 (炭含, 明黄褐色粘質土塊少含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土 (明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘土塊含)
- 3 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘性微砂
- 4 淡灰黄色粘質土 (暗黄褐色粘質微砂塊含)
- 5 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘性砂質土 (炭含)
- 6 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) 粘性砂質土 (明黄褐色粘性微砂・炭少含)
- 7 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 (明黄褐色粘性微砂・炭少含)
- 8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土 (明黄褐色粘性微砂・炭少含)
- 9 褐灰色砂質土 (炭・焼土多含)
- 10 暗灰褐色粘質土 (焼土含)

第429図 竪穴住居41 (1/60, 1/30)

住居全体では西角部分でしか明瞭には検出されなかった。壁体溝の幅は25cm、床面からの深さは数cmにすぎなかった。主柱穴は4個で、掘り方は円形を呈し、長径が67~78cm、深さは25~53cmを測った。柱痕の直径は20cm前後だった。P1・P2間は243cmであった。北西壁中央付近に接してカマドがあった



- |   |   |   |                                     |
|---|---|---|-------------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土<br>(炭・明黄褐色粘質土塊含)           | 4 | 灰色 (7.5Y4/1) 粘性砂質土 (一部底に炭)          |
| 2 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘性砂質土<br>(炭・明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘土塊含) | 5 | 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘性砂質土<br>(明黄褐色粘質土塊含) |
| 3 | 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘性砂質土<br>(炭僅少含, 明黄褐色粘性砂質土塊含)       | 6 | 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘性砂質土                |

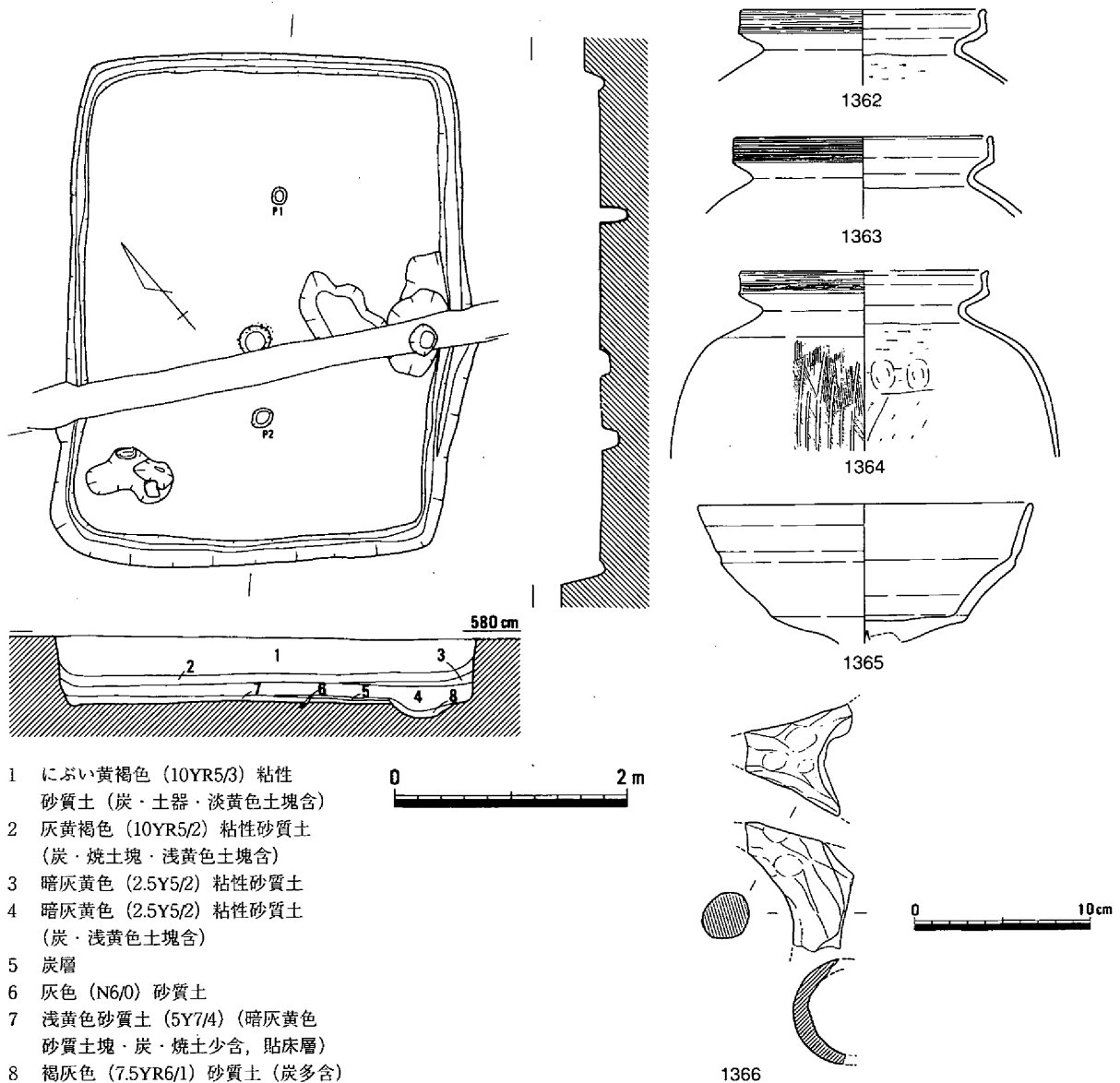


第430図 竪穴住居42 (1/60)・出土遺物 (1/4)

たが、上部は破壊をうけ、長径116cm、短径46cmの火炎状の穴が残存していたにすぎなかった。穴の南半が燃焼部で被熱部分の北端には支柱石が立っていた。年代は古墳時代中期である。（岡本）

竪穴住居42（第398・430図、図版16・97）

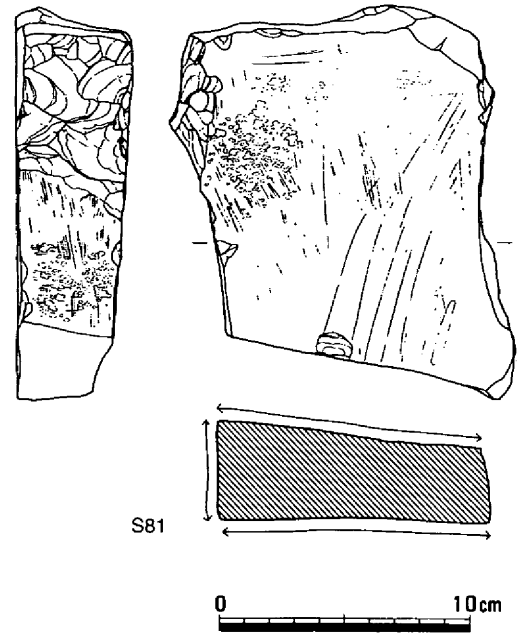
竪穴住居40・41によって北半部分の埋土上方を削平されていた。住居の平面形は長方形で、長軸長が493cm、短軸長は394cm、床面までの深さは39cmを測った。壁体溝が巡っていた。住居の長軸方向の中軸線に添って柱穴が2個検出され、その間の距離は175cmを測った。柱穴は中軸線よりは15cmほど西に片寄っていた。柱穴の長径は28・44cm、深さは46・49cmであった。2個の柱穴の中央で長径28cm、深さ6cmの穴がみつき、表面は焼土となっていた。炉と考える。その50cm南にも小範囲の焼土面が存在した。住居の東を除く三辺では幅1～1.3mの高床部が認められ、土層図の第5・6層がこれにあたる。東壁の中央部に接して長辺が130cmの方形の土壇があり、中央付近には長径51cm、床面からの深さ50cmの円形の穴が検出された。出土遺物から住居の年代は古・前・Iと考える。（岡本）



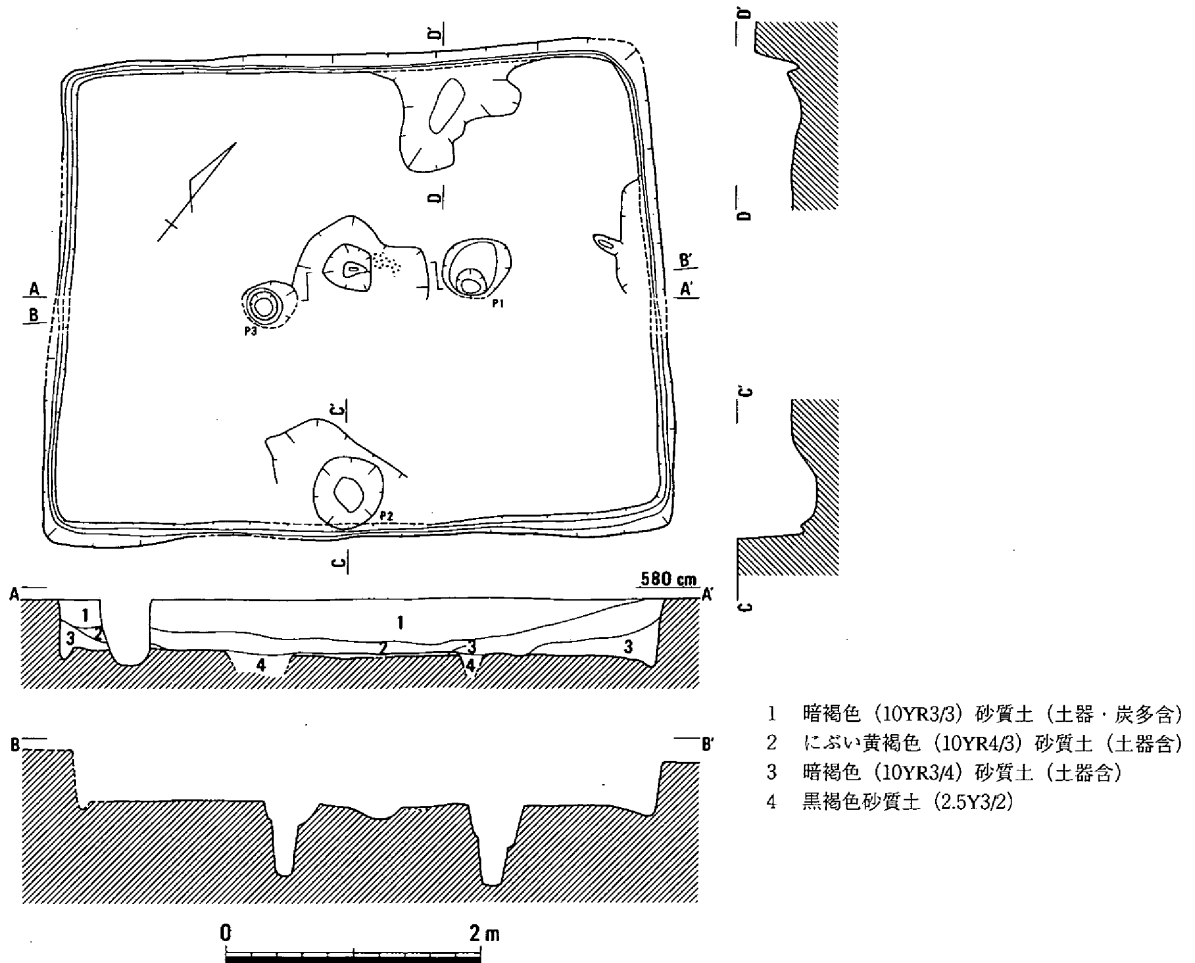
第431図 竪穴住居43 (1/60)・出土遺物① (1/4)

竪穴住居43 (第398・431・432図、図版17)

調査区の東端、Ce504区とCe505区に跨って検出された。平面形は長方形で、長軸長441cm、短軸長346cm、床面までの深さは59cmを測った。柱穴は2個で、住居の長軸方向の中軸線に添って検出された。柱穴間の距離は190cmであった。柱穴間の midpoint より南寄りで長径が28cm、深さ9cmの穴があり、表面の一部が焼けていた。南東壁の中央部で、壁に接して不整形な長方形の穴が検出された。長径110cm、短径50cm、深さ12cmで、西寄りの底部に長径27cm、深さ42cmの円形の穴が掘られていた。壁体溝は全周していた。土層断面の第7層中に炭の薄層が2層含まれ、数回床を貼り替えたとみられる。住居年代は古・前・I～IIである。(岡本)



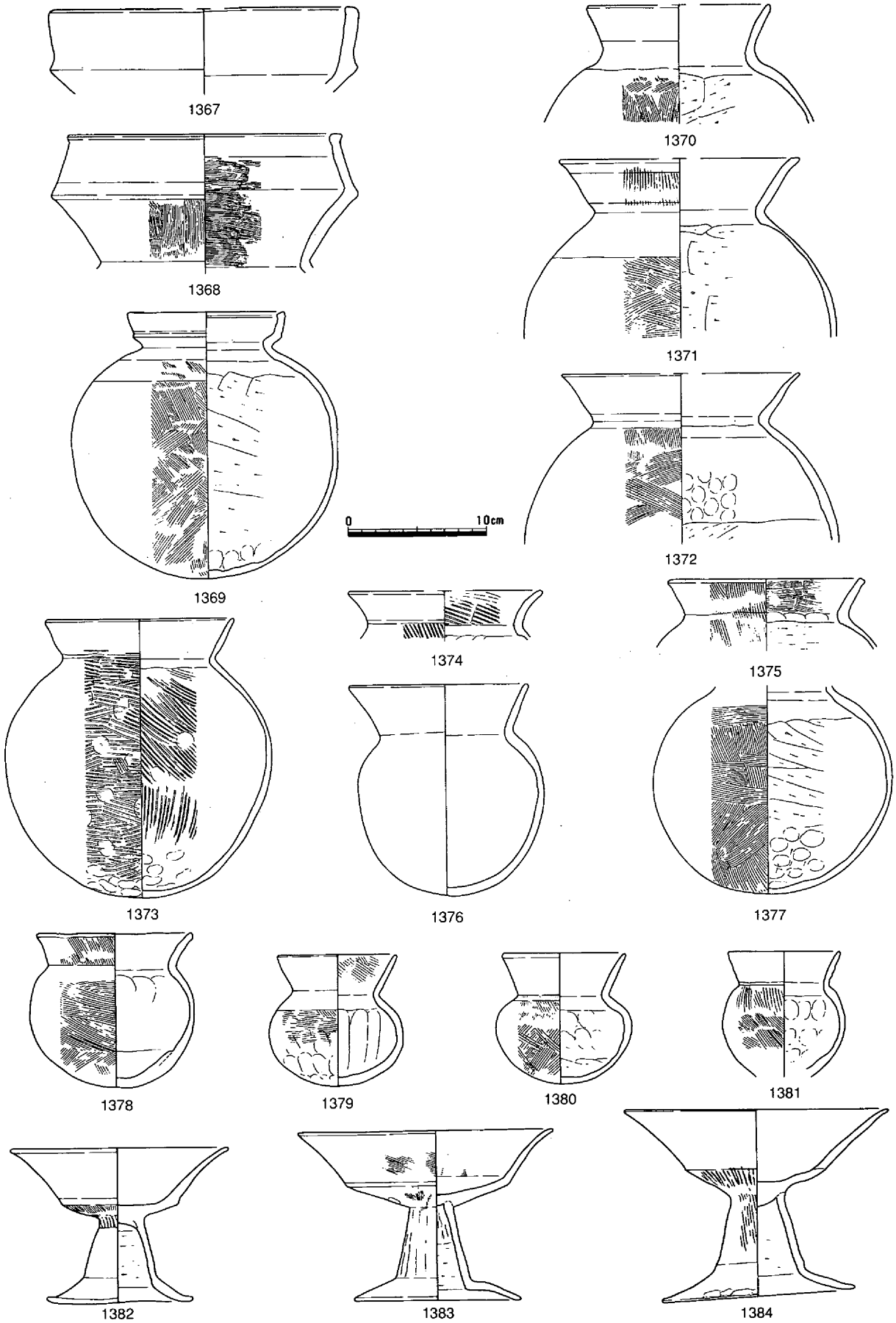
第432図 竪穴住居43出土遺物② (1/3)



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (土器・炭多含)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器含)
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器含)
- 4 黒褐色砂質土 (2.5Y3/2)

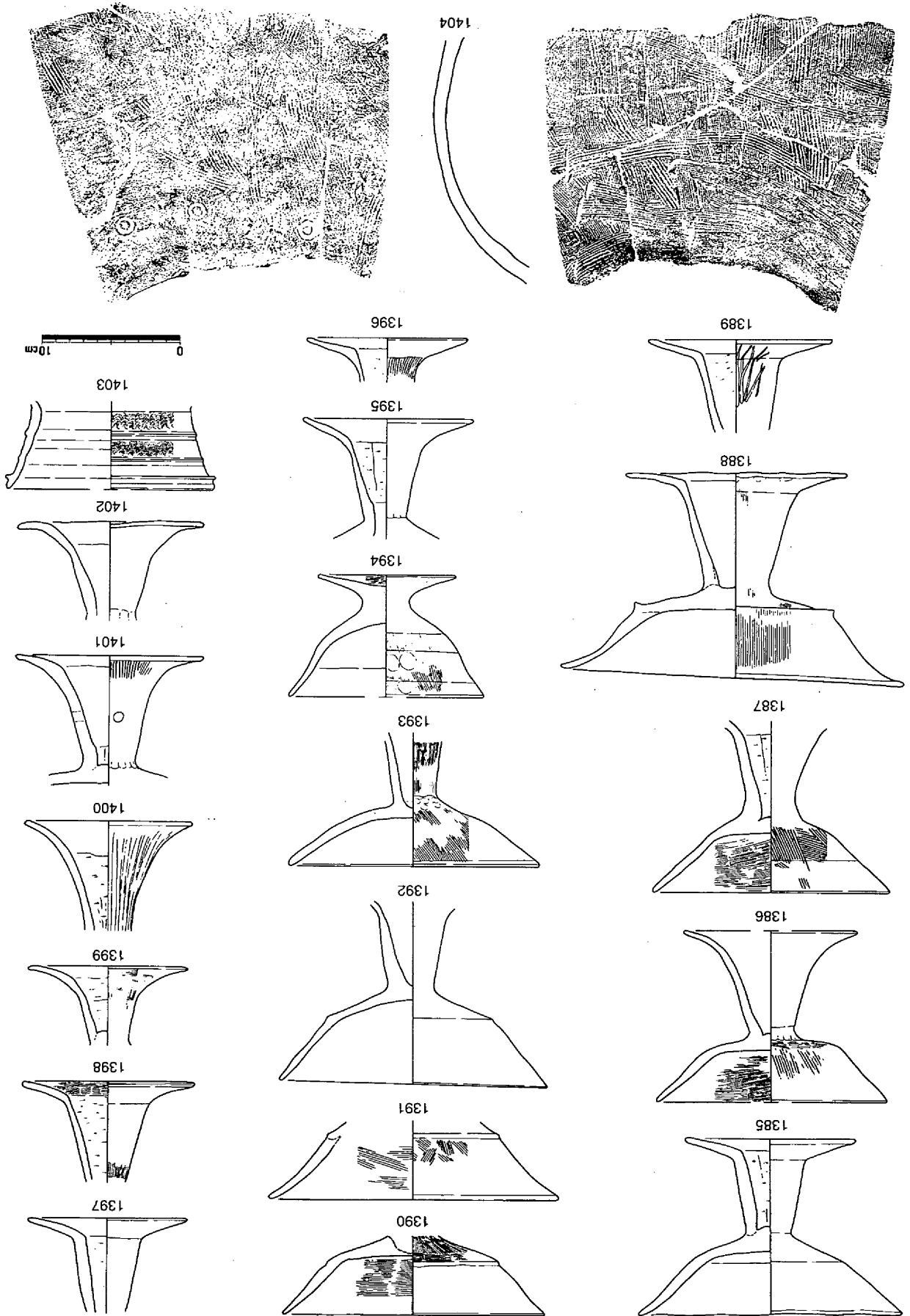
第433図 竪穴住居44 (1/60)





第434図 豎穴住居44出土遺物① (1/4)

第435図 竪穴住居44出土遺物② (1/4)

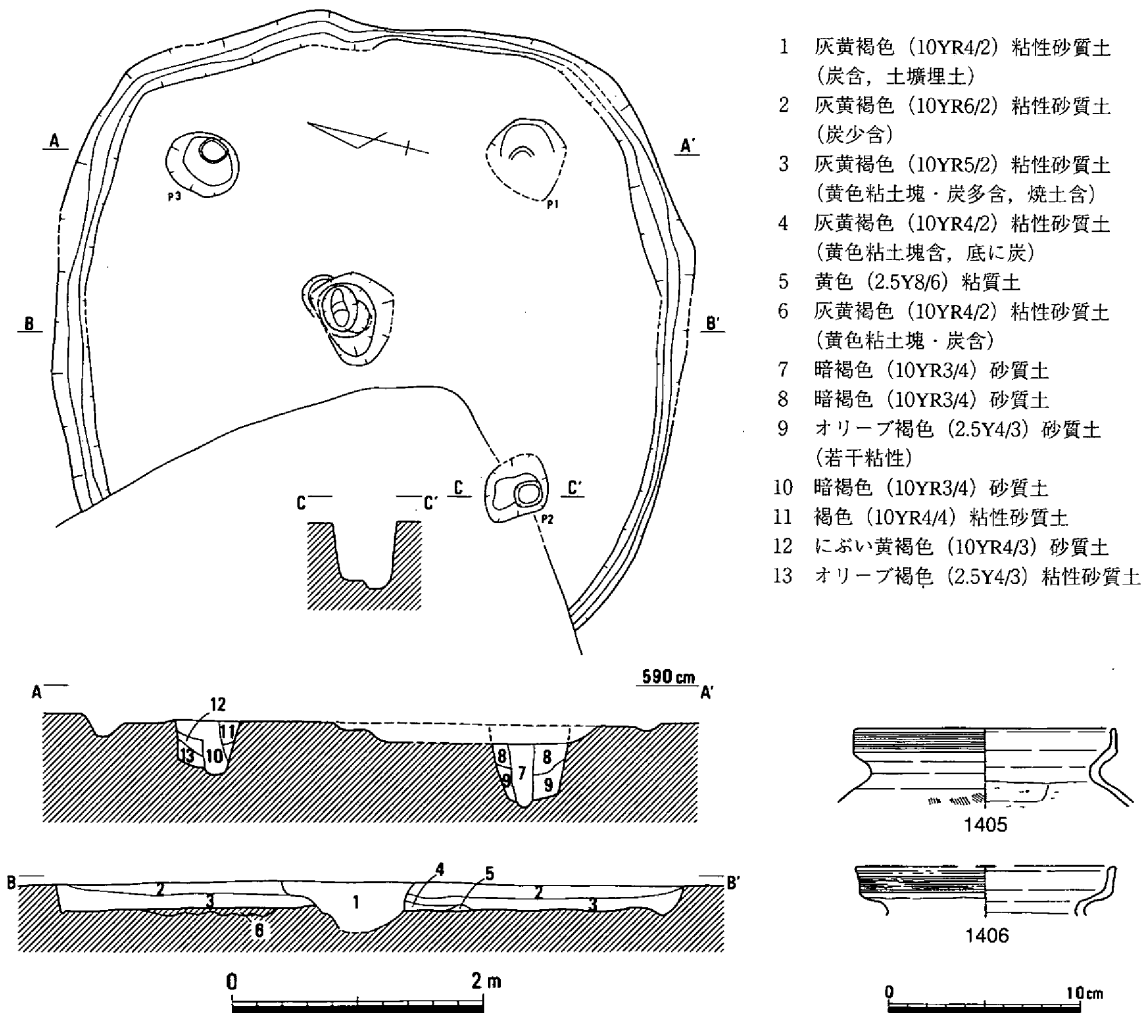


竪穴住居44 (第398・433~435図、図版17・98)

調査区東部南半、Cf503区とCg503区に跨って検出された。竪穴住居43の南西15m、竪穴住居42の東7mに位置していた。平面形は長方形だが、両長辺の長さに差があり、やや歪んでいる。長軸長が475cm、短軸長は386cm、床面までの深さは46cmを測った。長軸方向の中軸線添いに柱穴が2個検出された。柱穴の掘り方は円形で、長径が45・56cm、深さは62・67cm、柱間は162cmであった。両柱穴の間いっばいに不定型な浅いくぼみが検出され、中心部分には長径が41cm、床面からの深さは11cmの穴があり、穴の北東に接して焼土の広がりが認められた。炉のような施設とみられる。南東辺の中央に長径が60cm、深さ22cmの円形の土壇が接していた。周辺に不定型な浅い落ち込みが一部検出され、その中央に掘られていたようである。壁体溝が全周していた。埋土は徐々に埋没した状況を呈していた。遺物のほとんどは第1層から出土し、1403は検出時に出土した。古・中・Iと考える。(岡本)

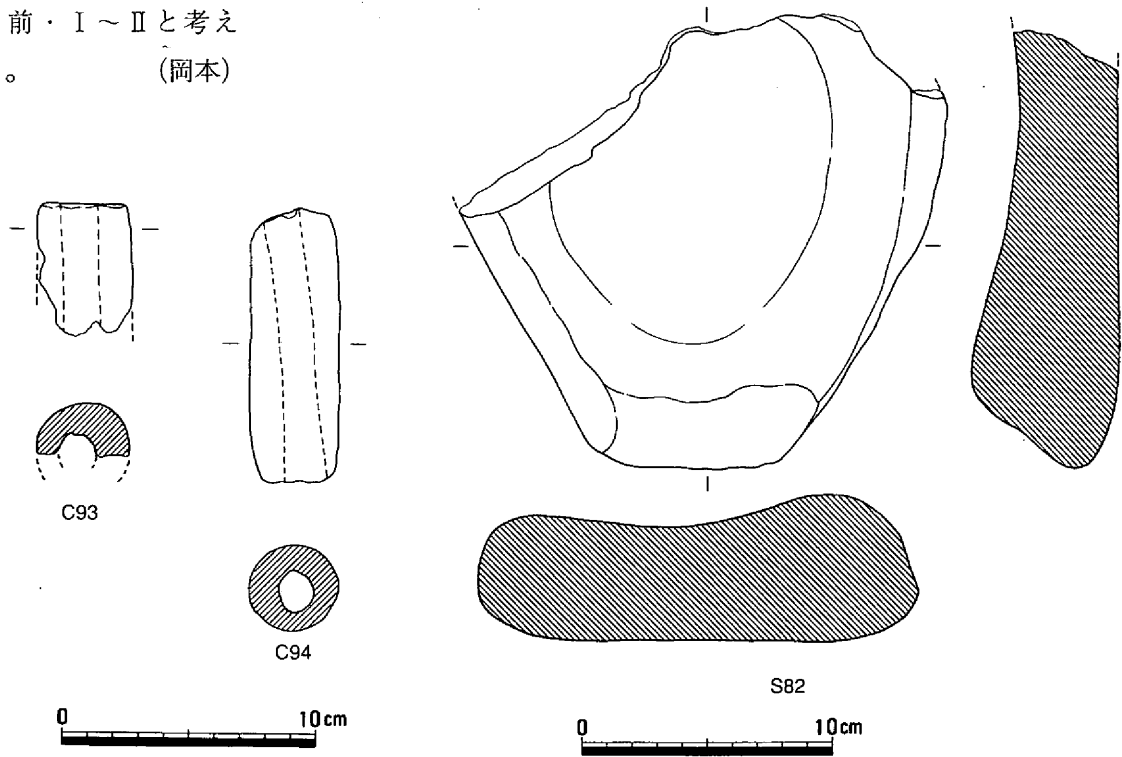
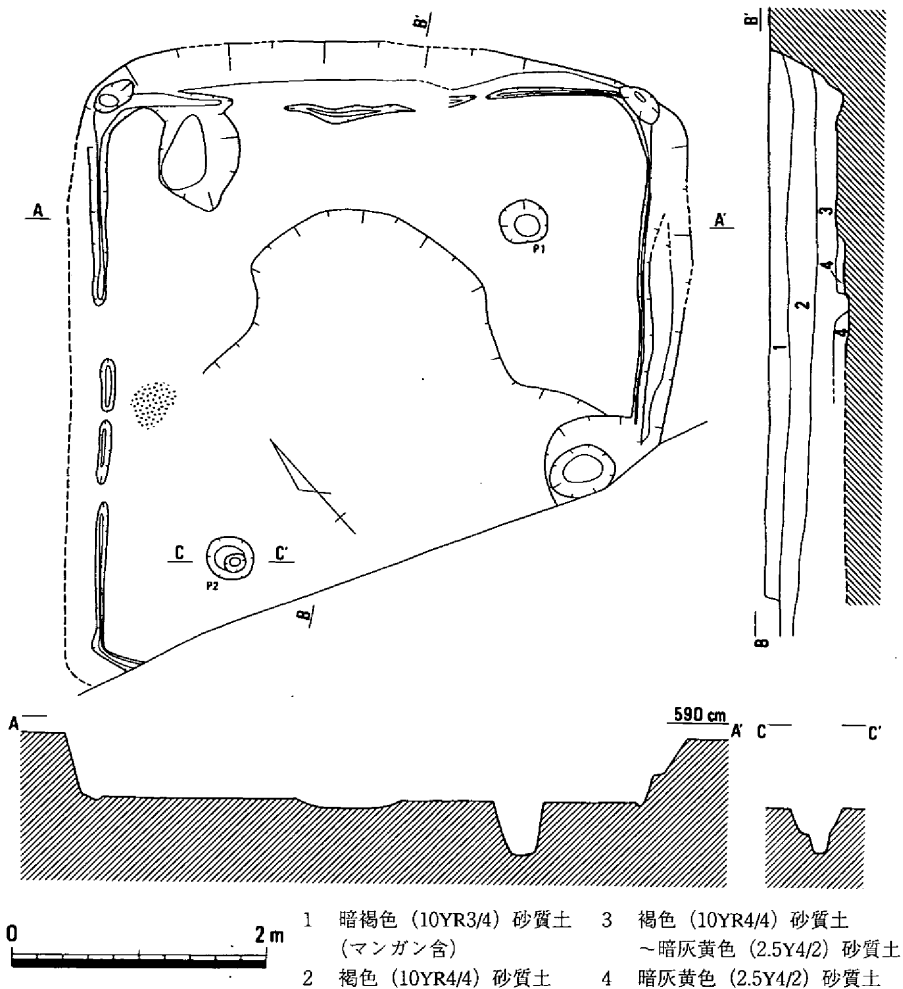
竪穴住居45 (第398・436図、図版17)

Cg503区にあり、竪穴住居46によって西部を破壊されていた。平面形は隅丸方形とみられるが、各辺ともに胴張りを示し、外湾していた。南北方向の長径は504cm、床面までの深さは21cmであった。主柱穴は4個と推定され、北西の1個は消滅していた。柱穴の掘り方は楕円形に近く、長径が60~65

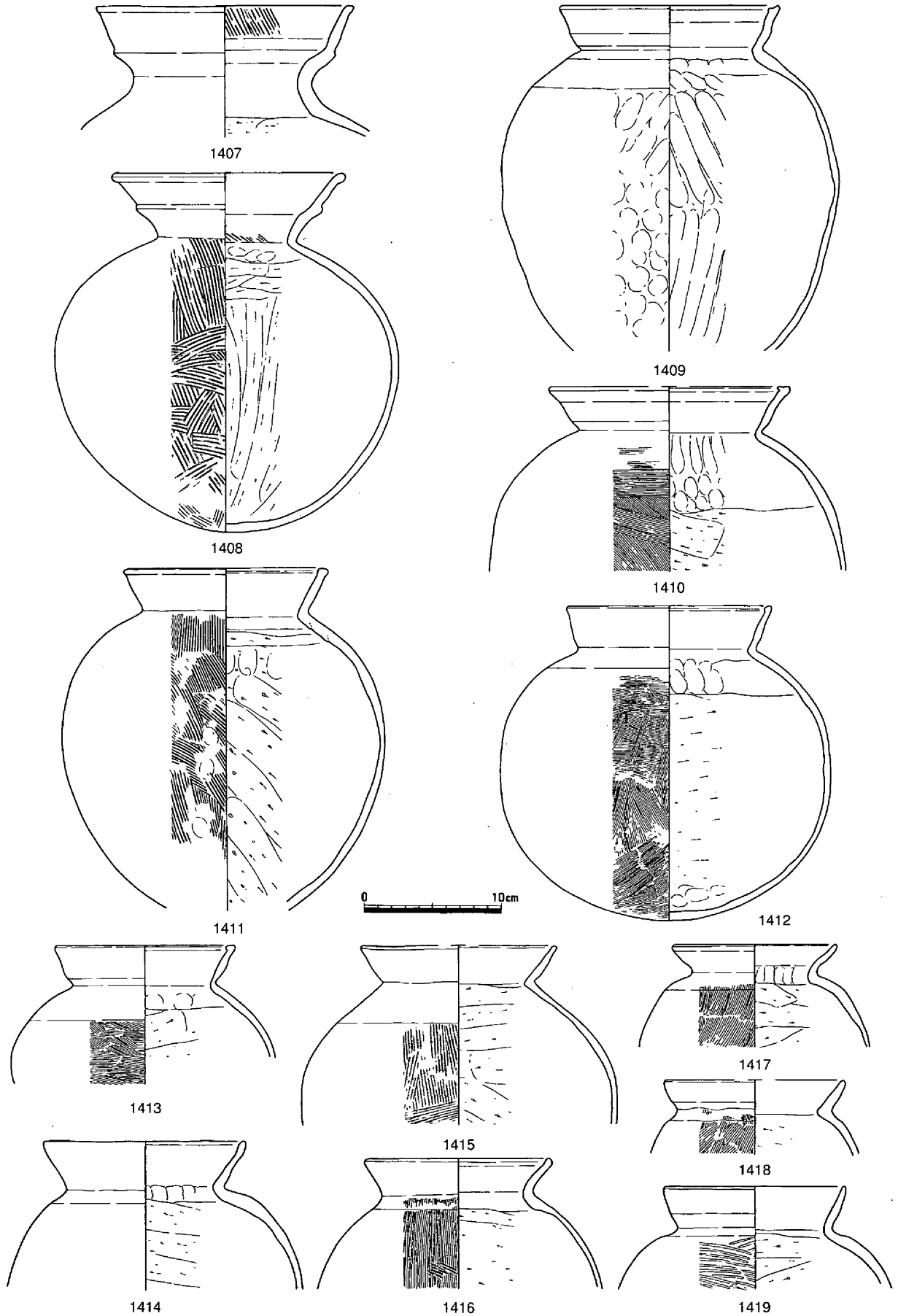


第436図 竪穴住居45 (1/60)・出土遺物 (1/4)

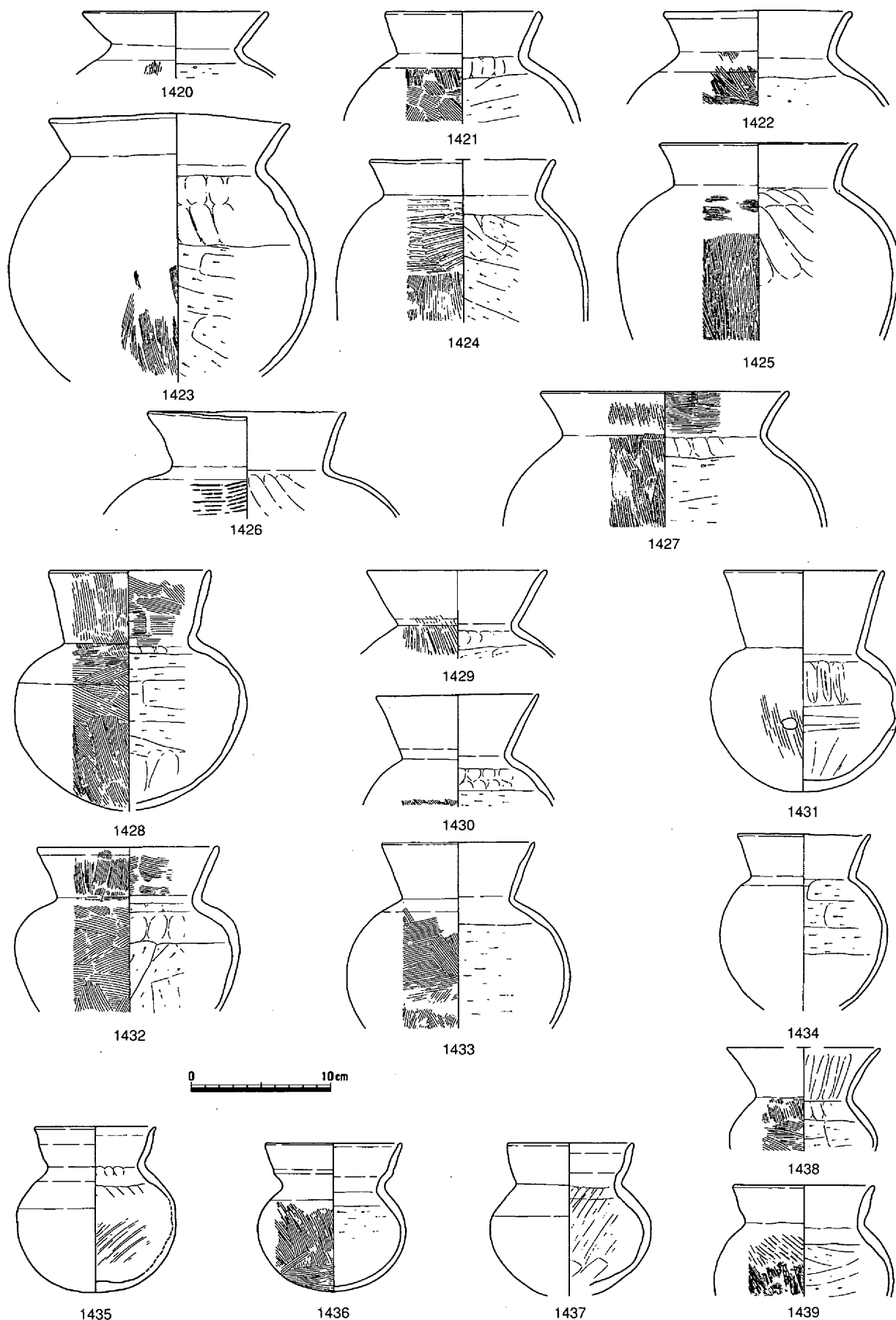
cm、深さは26~45cmで、柱痕の直径は15~20cmを測った。住居の中央は後世の土壌で攪乱されていたが、土壌の底に長径が39cmの楕円形の小穴が検出され、中央穴の痕跡とみられた。壁体溝が全周するようで、その幅は15~30cm前後、床面からの深さは10cm以内であった。埋土は大きくは2層に分けられ、床面には炭層が認められた。第6層は竪穴掘削時のくぼみをならしたもので、貼床は認められなかった。住居の年代は古・前・I~IIと考える。(岡本)



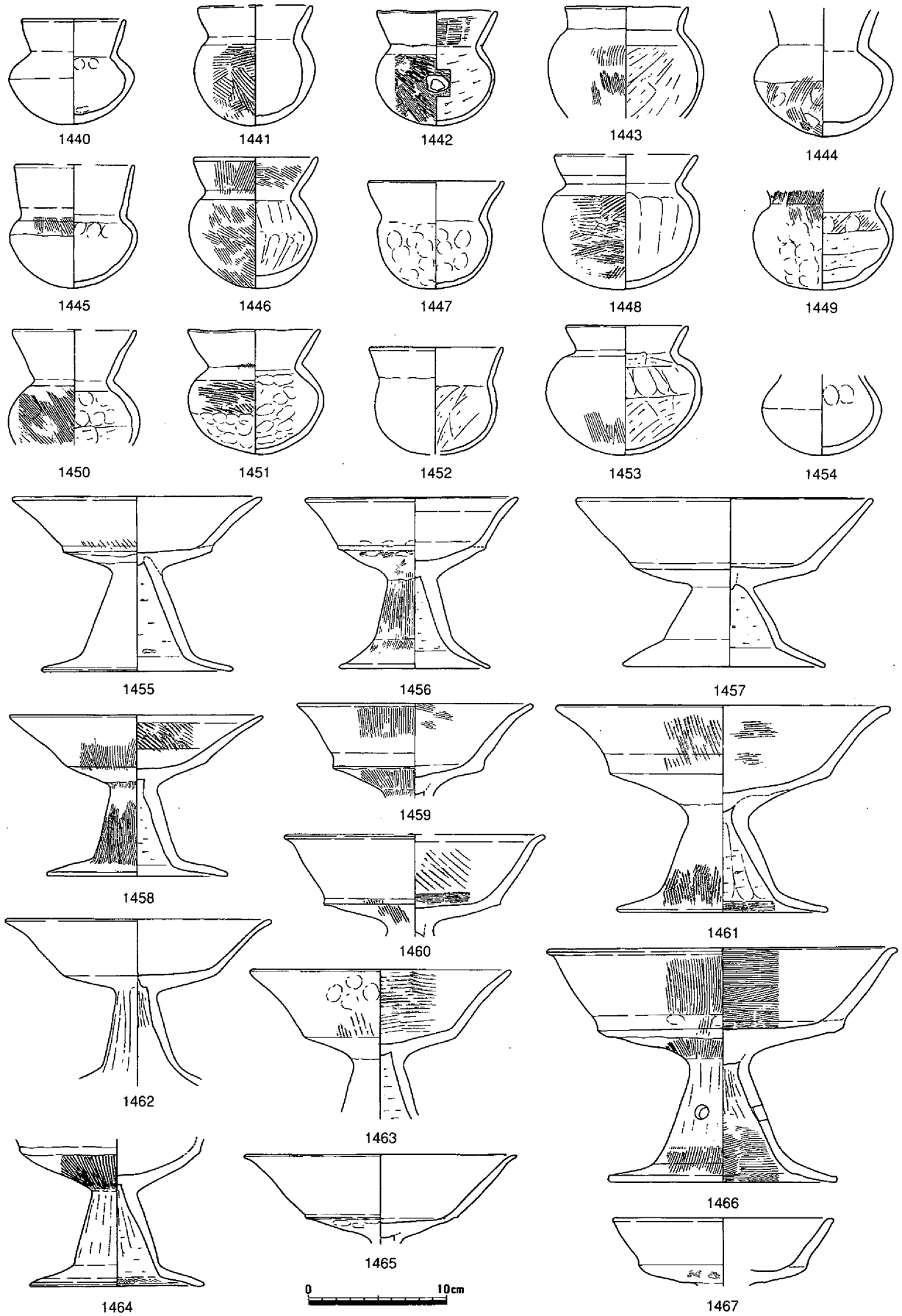
第437図 竪穴住居46 (1/60)・出土遺物① (1/3)



第438図 竪穴住居46出土遺物② (1/4)



第439図 豎穴住居46出土遺物③ (1/4)



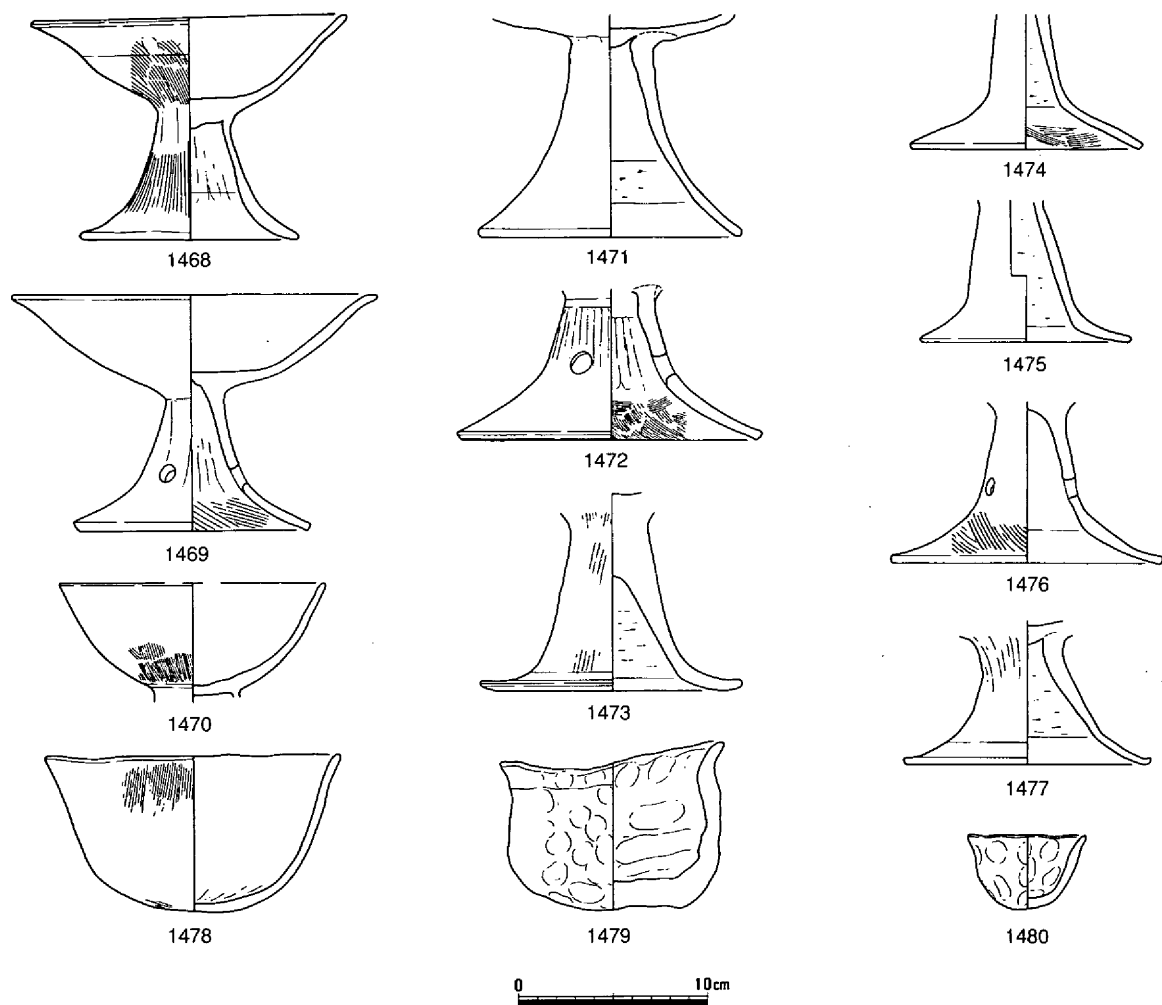
第440図 竪穴住居46出土遺物④ (1/4)

竪穴住居46 (第398・437~441図、図版18・99・105・106)

調査区の東部南端、Cg 503区を中心に検出された。一部は調査区外に存在する。平面形は方形で、長軸長が推定で510cm、短軸長も北西壁の検出を誤ったために推定で490cmを測った。壁体溝が切れ切れながらほぼ全周して検出された。壁体溝の深さが一定していなかったものとみられる。柱穴は4個と推定されるが、地山面を掘り下げても北角の柱穴は検出できなかった。柱穴の掘り方は円形で、長径が38cm、深さは32・40cmを測り、P 2で直径15cmの柱痕を確認した。住居の北角から東角にかけての北東部では地山が削り残され、高床部のような高まりが検出された。南西側の低い床面部分には埋土第4層の土が敷かれ、床を貼り直した可能性がある。南東壁の中央より南寄り、壁添いに隅丸方形の土壇が検出され、その中央に長径が53cm、床面からの深さが25cmの楕円形の穴が掘られていた。対面の北西壁の中央付近では、長径40cmの焼土面が確認された。この部分では発掘を誤ったために確実ではないが、カマドとみられる施設は認められなかった。住居の南西部分の床面に大量の土器片が投棄されていた。須恵器を含まない時期の良好な一括資料である。S 82の石臼の磨り面には朱がわずかに付着していた。出土土器から判断して住居の年代は古・中・Iと考えられる。(岡本)

竪穴住居47 (第398・442・443図、図版18・106)

調査区の東端、Cg 504区とCg 505区に跨って検出された。竪穴住居44の東南東12mにあたる。平

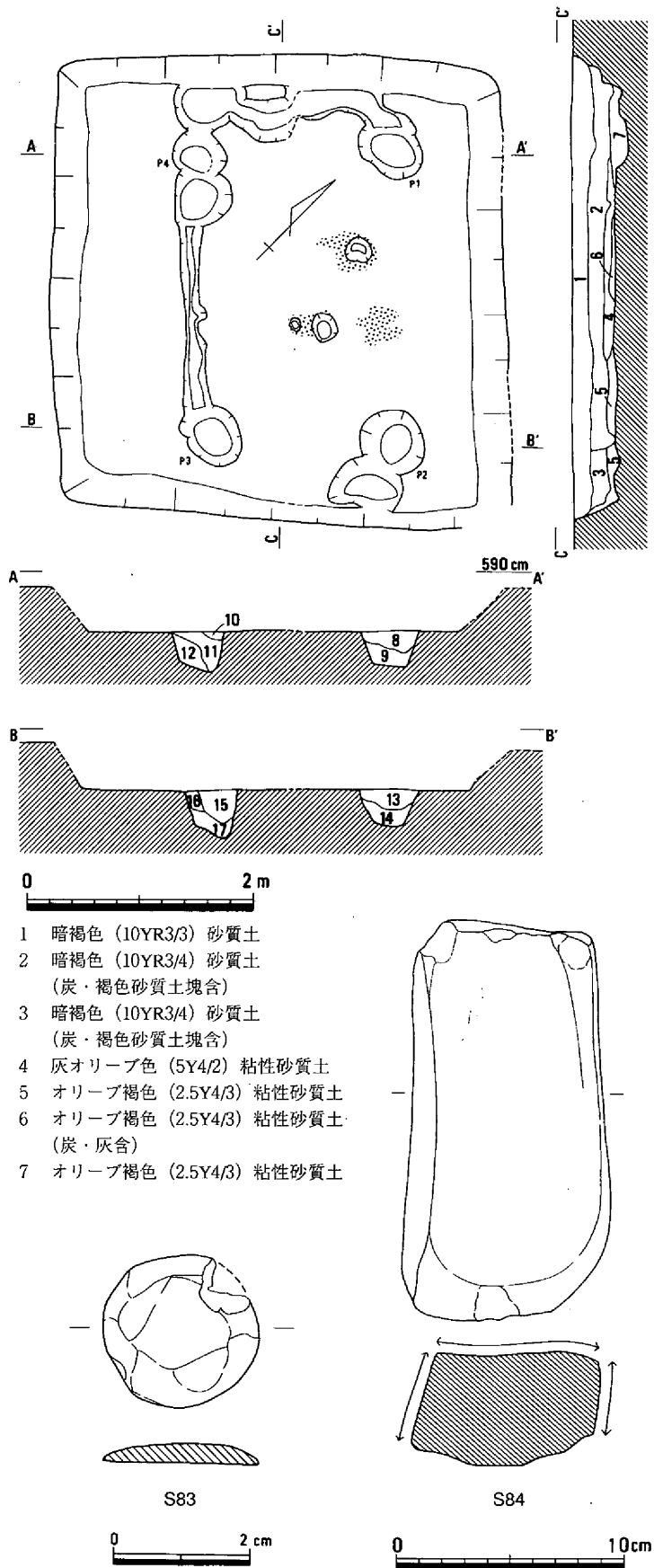


第441図 竪穴住居46出土遺物⑤ (1/4)



面形は方形でわずかに歪んでいた。長軸長が415cm、短軸長は400cm、床面までの深さは38cmを測った。土層断面では床面から3cmほどの深さの壁体溝が認められたが、全体としては明瞭に検出することができなかつた。主柱穴は4個で、P1とP2の間が260cmなのに対し、P1とP4の間は175cmとかなり短かつた。柱穴の長径は47~61cm、深さは31~44cmで、各柱穴ともに明瞭な柱痕は確認できなかつた。柱穴に囲まれた住居の中央付近から北東寄りで3か所の火所を認めた。このうち2か所では長径が25cm前後、深さが3~5cmの小穴を伴っていた。北西壁の中央付近では壁の下半に幅35cm、奥行き14cmの小さな段が作られ、その前面には長さ210cm、幅20~38cm、深さ10cmの溝状の落ち込みがみられた。P3とP4の間には深さが5cm前後の溝があり、間仕切りのようなものが存在したようである。初期須恵器を伴うため、住居の年代は古・中・Iと考える。(岡本) 竪穴住居48 (第398・444図、図版18)

調査区の南東隅、Ch505区で半分強を検出した。東半部は現用水路によってすでに破壊されているとみられる。竪穴住居49と重複していた。竪穴住居47からは4m南にあた

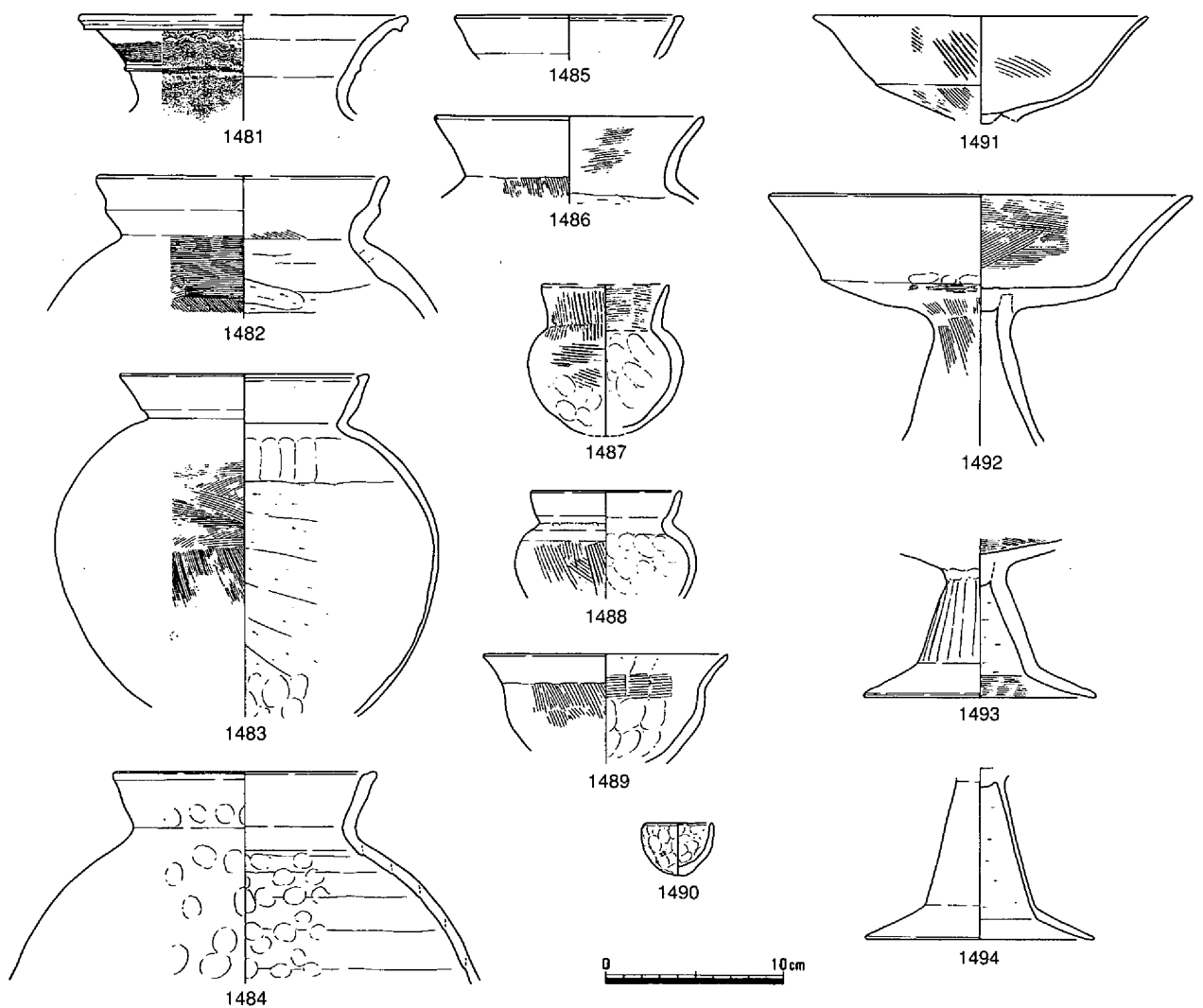


第442図 竪穴住居47 (1/60)・出土遺物① (1/1,1/3)

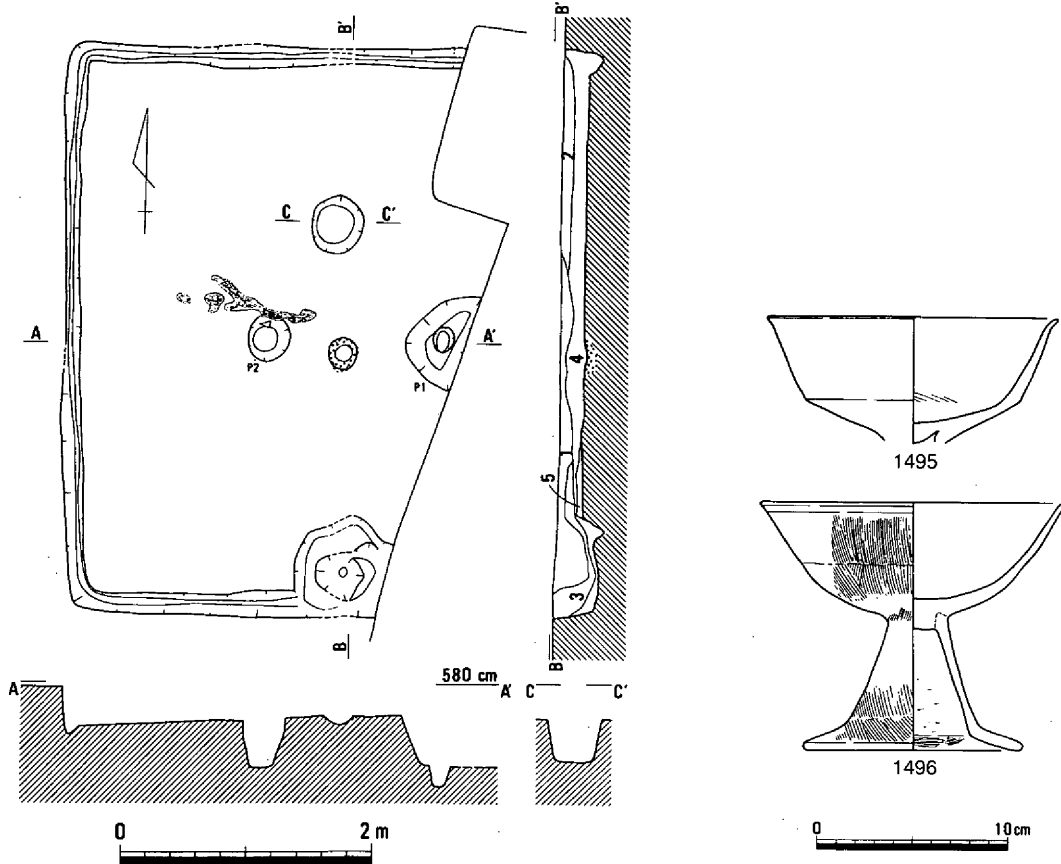
る。住居の平面形は方形で、長軸長は453cm、床面までの深さは20cmを測った。壁体溝が全周すると推定され、その幅が15~20cm、床面からの深さは10cm程度であった。主柱穴は2個で、短軸とみられる東西方向の中軸線添いに検出され、柱間は140cmを測った。西側の柱穴の長径は40cmであったが、東側の柱穴の掘り方は長径が80cmと大きく、中に直径17cmの柱痕を確認した。柱穴の深さは、西が40cm、東は41cmであった。両柱穴の間には長径が25cmの円形の小穴があり、表面は被熱によって赤色に変化していた。炉と考えられる。この炉の北1mには長径が46cm、深さ35cmの柱穴状の穴が検出された。住居の南壁の中央付近には不定形の土塊があり、中央部分には長径が38cmの楕円形のくぼみが見られ、床面から底までの深さは35cmを測った。住居の年代は古・中・Iと考える。(岡本)

竪穴住居49 (第398・445図、図版106)

調査区の南東隅にあり、竪穴住居48によって上方を大きく破壊されていた。大部分は調査区外になり、西端部を検出したにすぎない。平面形は隅丸方形とみられ、南北方向の長さは450cm前後と推定される。床面までの深さは北西隅で44cmであった。土層断面を観察すると、竪穴の底部はかなり凹凸があり、第5層の土をいれて平坦にならし、床面を作っていた。床面の一部に焼土の広がり確認された。柱穴は検出されず、壁体溝も明瞭ではなかった。古墳時代前期の住居と考える。(岡本)

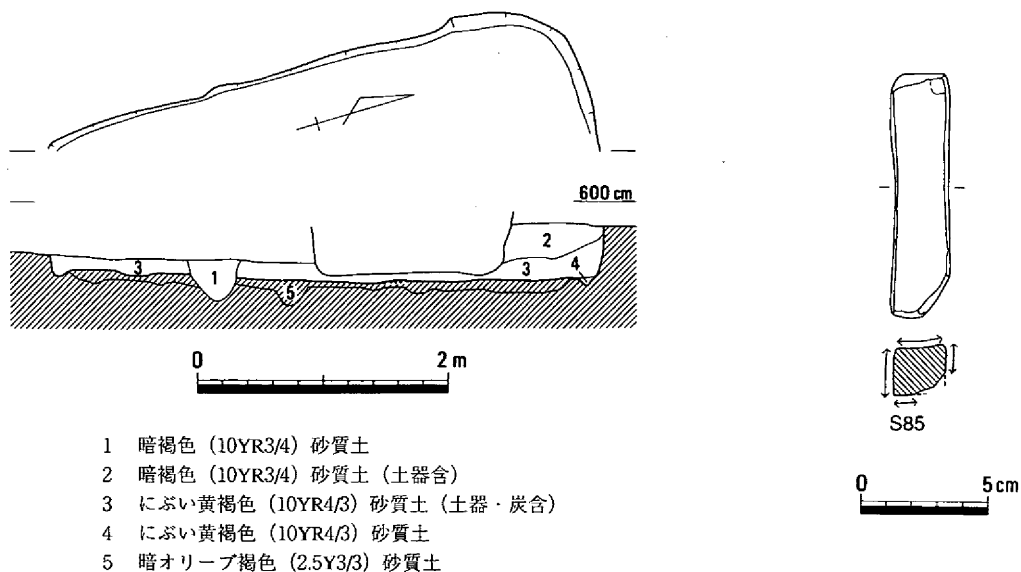


第443図 竪穴住居47出土遺物② (1/4)



- 1 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 粘性砂質土 (炭・焼土少含)
- 2 灰褐色 (7.5YR5/2) 粘性砂質土 (浅黄色粘質土塊僅少含)
- 3 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘性砂質土 (炭・焼土少含)
- 4 灰褐色 (7.5YR5/2) 粘性砂質土 (浅黄色粘質土塊多含, 炭含)
- 5 浅黄色 (5Y7/4) 粘質土 (焼土含)

第444図 竪穴住居48 (1/60)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (土器含)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (土器・炭含)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土

第445図 竪穴住居49 (1/60)・出土遺物 (1/3)

(3) 土壇

土壇169 (第397・446図)

調査区の西半部、竪穴住居23と27の間に位置する。平面形は約210×270cmの不整楕円形で、深さは約8cm残存していたにすぎない。埋土は炭や焼土を含む灰褐色粘質土が1層のみで底面には部分的に板状の焼土が存在していた。

遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は古・中・Iと考えている。 (平井)

土壇170 (第397・447図、図版100・105)

Cc4 09区にあり、竪穴住居33・34を切る土壇である。平面形は長楕円形を、断面形は箱形を呈す。規模は、長さが150cm、幅は89cmで、深さが32cmを測る。

出土遺物には、石製の勾玉 S86 (滑石か?) と土師器の中形甕 2 個体がある。口縁部が二重口縁の1498と口縁部が外上方に真っ直ぐに立ち、端部が外にわずかに肥厚する1499である。以上からみて、この土壇の時期は、古・中・Iである。 (弘田)

土壇171 (第397・448図)

調査区の中央部、竪穴住居33・34を切るかたちで検出できた。平面形は約70×110cmの楕円形で、深さは35cm残存していた。埋土は2層に分離でき、底面はほぼ平らであった。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は古墳時代前期としか捉えられない。 (平井)

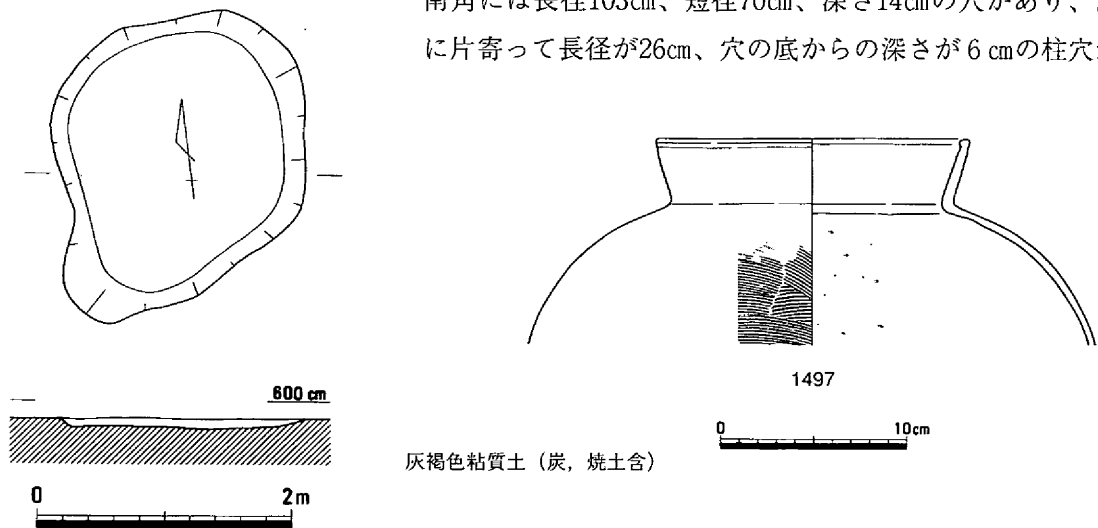
土壇172 (第398・449図、図版100)

調査区の北東隅、Cd5 05区で検出された。竪穴住居43から北7mにあたる。平面形は不整形な円形で、長径が100cm、短径は98cmを測った。二段構造で、底面の西端に長径50cmの穴が掘り込まれていた。検出面から穴の底までの深さは30cmであった。古墳時代初頭の土器が出土した。 (岡本)

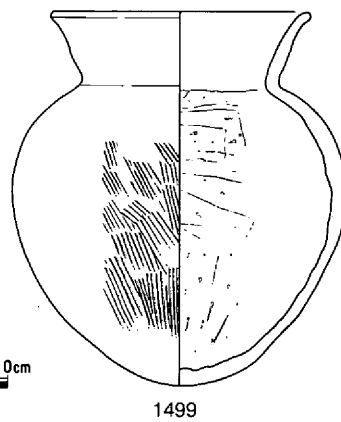
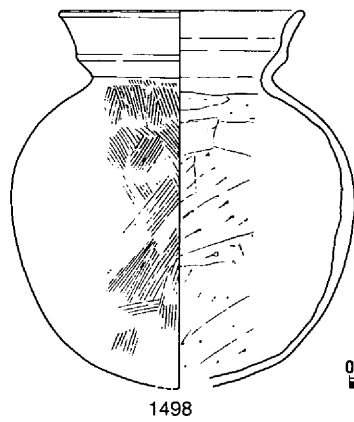
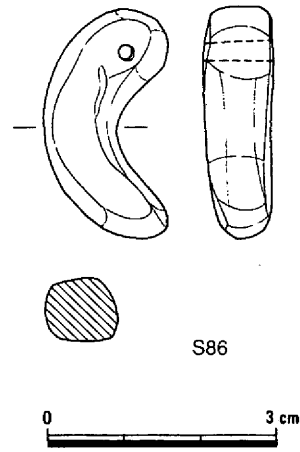
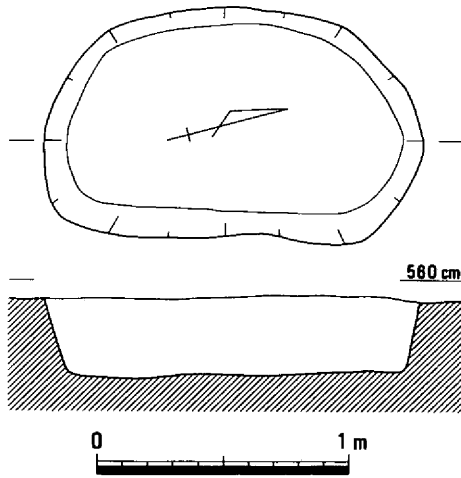
土壇173 (第398・450図、図版100)

調査区の東部中央付近のCf5 03区で検出された。竪穴住居44の北東3.5mに位置していた。平面形は方形を呈し、南西辺は竪穴住居44の北東辺と平行に近い位置関係にあった。北西-南東軸方向がわずかに長くて195cmを測り、北東-南西軸の長さは183cmであった。土壇の深さは14cmだった。土壇の

南角には長径103cm、短径70cm、深さ14cmの穴があり、南西に片寄って長径が26cm、穴の底からの深さが6cmの柱穴が検

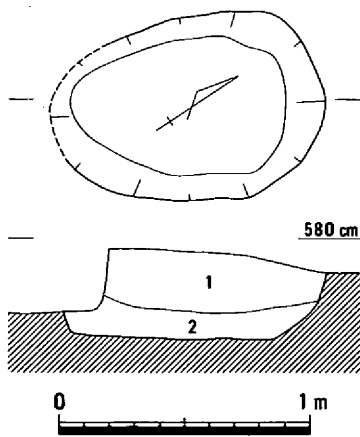


第446図 土壇169 (1/60)・出土遺物 (1/4)



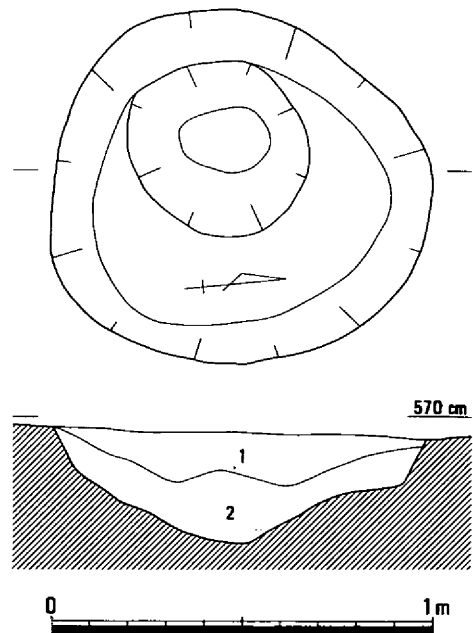
第447図 土壙170 (1/30)・出土遺物 (1/1,1/4)

出された。住居の東角にも長径が23cm、深さ16cmの柱穴が確認され、片流れの覆いのあった可能性が考えられる。東角には焼土面も存在した。古墳時代中期の土壙である。(岡本)



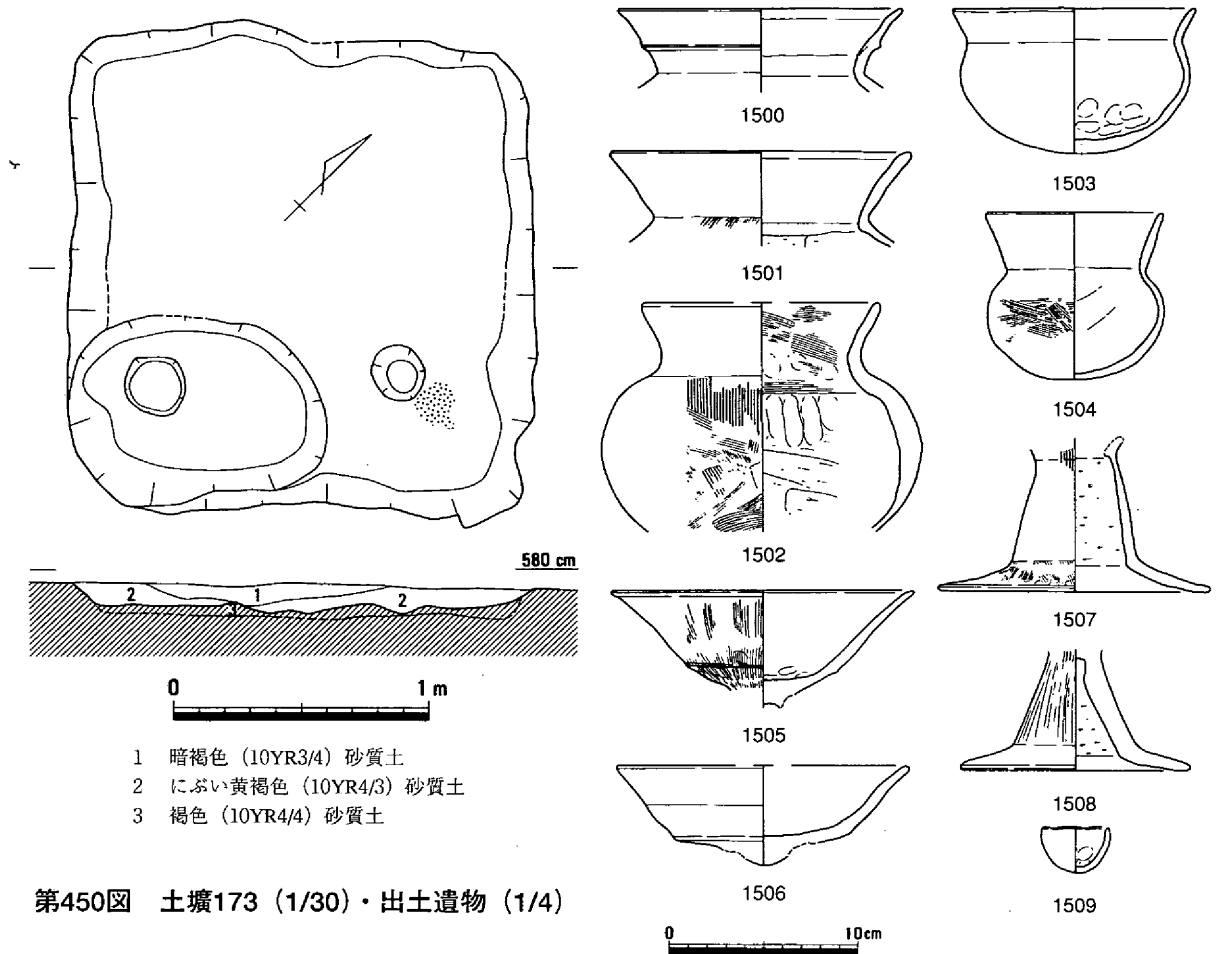
- 1 茶褐色砂質土
- 2 暗茶褐色砂質土

第448図 土壙171 (1/30)



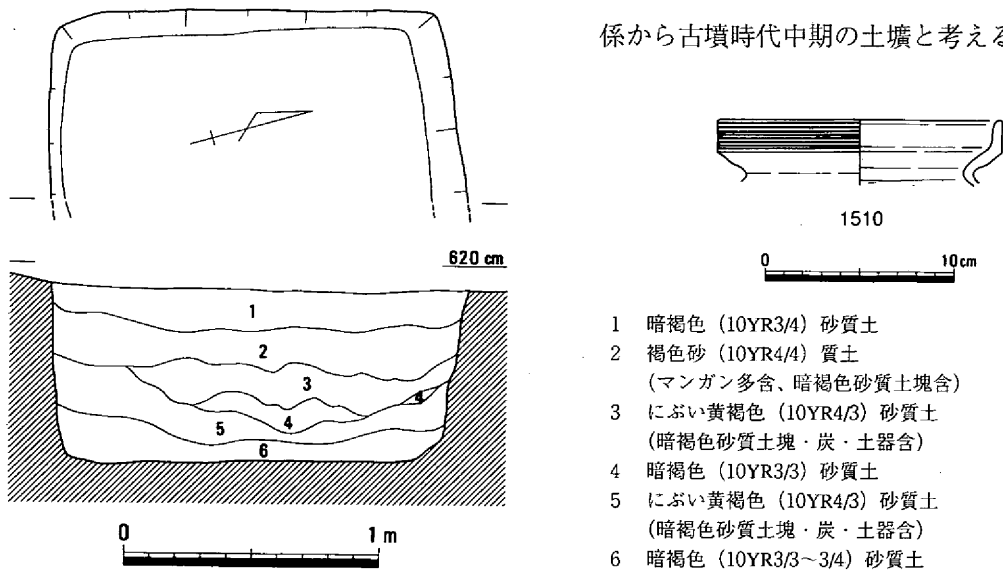
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土 (土器少含)
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

第449図 土壙172 (1/20)



土壙174 (第398・451図)

調査区の南東隅、Ch5 05区で検出され、竪穴住居48・49を破壊していた。半分強は調査区外にある。平面形は方形で一辺の長さは152cmを測り、土壙の深さは72cmであった。底面は平坦で、壁は垂直に近く、断面形は箱形を呈していた。古墳時代初頭の土器が出土したが、竪穴住居48との関係から古墳時代中期の土壙と考える。(岡本)

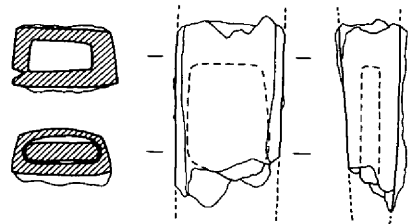


(4) 遺構に伴わない遺物 (第452~454、図版102・105)

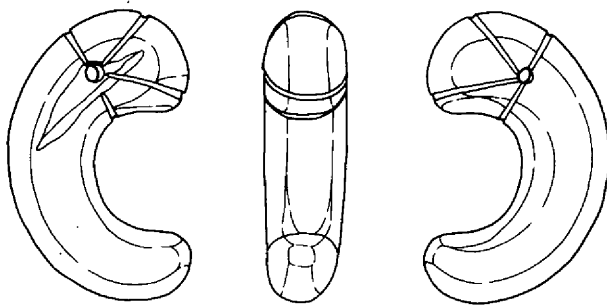
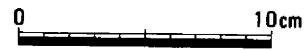
遺構検出中に出土した遺物や古代・中世の遺構から出土した遺物などを掲載している。鉄斧M84はフロヤ2A区で中世遺構検出中に出土した。欠損部分があるが、断面形は台形を呈している。鋳造品と考えている。レントゲン撮影によって確認しているのみであるが、内部に長さ4.6cm、幅3.2cm、厚さ0.8cmほどの鉄板が存在しているようである。

S87はフロヤ2A区で遺構検出中に出土した蛇紋岩製の勾玉である。頭部分には直径約2mmの円形の穴が穿たれており、さらにあたかもこの穴からのびるように細い沈線が刻まれている。5世紀代のものであろうか。S88はフロヤ2A区で出土した滑石製の勾玉で一部欠損している。S89はフロヤ2B区の中世柱穴から出土した滑石製の管玉である。欠損品であり、古墳時代のものと考えている。

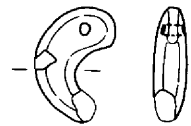
C95~97はフロヤ3区で出土しており、古墳時代の土錘と考えている。C98はフロヤ1区で遺構検出中に、ま



M84



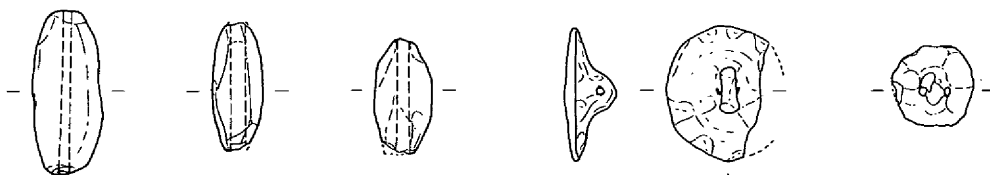
S87



S88



S89



C95

C96

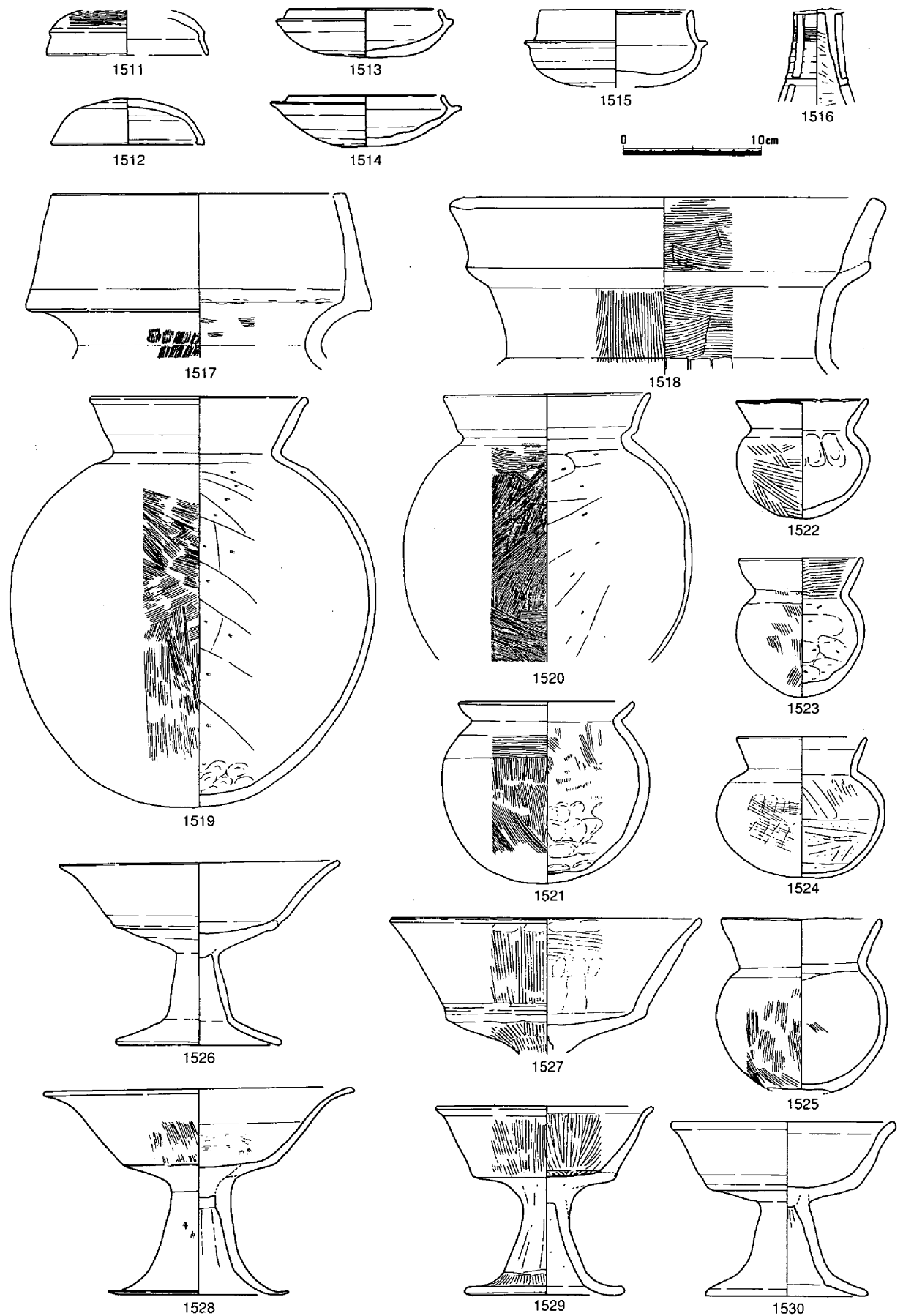
C97

C98

C99

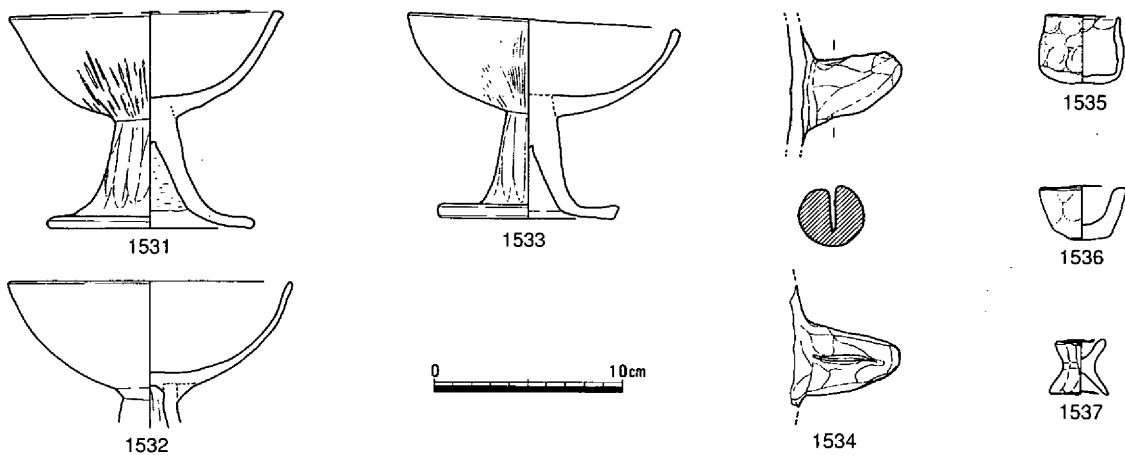


第452図 遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ① (1/3,1/1)



第453図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）②（1/4）





第454図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）③（1/4）

たC99はフロヤ1区の中世柱穴から出土しておりいずれも、形状から鏡形土製品で古墳時代のものと考えている。

土器は特徴的なものや完形にちかいものを中心に掲載している。1511～1516は須恵器である。このうち1511は杯蓋で天井部にハケメが施されているのが特徴的である。1516は長脚二段の三方向透かし孔が施されている。

1517～1537は土師器である。1517・1518は壺、1519～1521は甕、1522～1525は小形丸底壺、1526～1533は高杯、1534は甑、1535～1537は手捏ね土器と考えている。高杯の杯部の形状には直線的なものと碗形のものとの違いがあり、脚部の接合方法の違いとも対応しているようである。また直線的な杯部にはハケメ仕上げのものとヨコナデ仕上げのものが存在している。1534は甑の把手部分で上面に切り込みが施されているのが特徴で、朝鮮系軟質土器の影響を受けた土器と考えている。1537の時期は不詳だが古墳時代と考えて掲載している。これらの土師器のほとんどの時期は5世紀代と考えてよいのではなかろうか。

（平井）

## 4 古代～中世の遺構と遺物

### (1) 概要

調査区の南側において掘立柱建物38棟、柱穴列1、土壇墓6基、井戸2基、土壇13基、焼成土壇1基、溝18条、柱穴などを検出し、北側は中世後半に河道となったものと考えている。

古代と考えた遺構には掘立柱建物5棟がある。これらは、いわゆる総柱の建物があることや柱の規模などから、いずれも高床倉庫ではないかと考えられる。溝30・31の東側に集中しており、柱穴から青銅製の巡方が出土していることや東側の角田調査区から出土している丹塗り土師器などから、公的な倉庫群と推測している。

中世の遺構としては、南北方向の溝に区画された屋敷地の存在が特筆できる。屋敷地は接するかたちで2か所存在していることは明らかで、いずれも規模は約35×40mの方形で、内部には数棟の掘立柱建物や石組みの井戸が存在している。時期は掘立柱建物が何回かの建て替えが想定できることや出土遺物から、14世紀から16世紀ごろまで存続していたのではないかと考えている。しかしながらこの屋敷地の性格を特定できる遺物は出土していない。

遺物は土器、土製品（土錘）、石器（砥石、茶臼）、古銭、鉄器などが出土している。（平井）

### (2) 掘立柱建物

#### 掘立柱建物15（第458・459図）

調査区の東半部、502ラインの南側に位置する。規模は2×2間の総柱建物である。各柱の掘り方の形状は円形のものと同丸方形のものがあり統一されていない。検出面からの深さについても約10cmから35cmとバラツキが認められる。底面に柱痕跡が検出できた柱穴が6本あり、柱の規模は直径15～20cm前後と推測できる。建物の規模は桁行290cm、梁間243cmで、柱間距離は118～152cmである。棟方向はほぼ磁北に沿っているといえそうである。

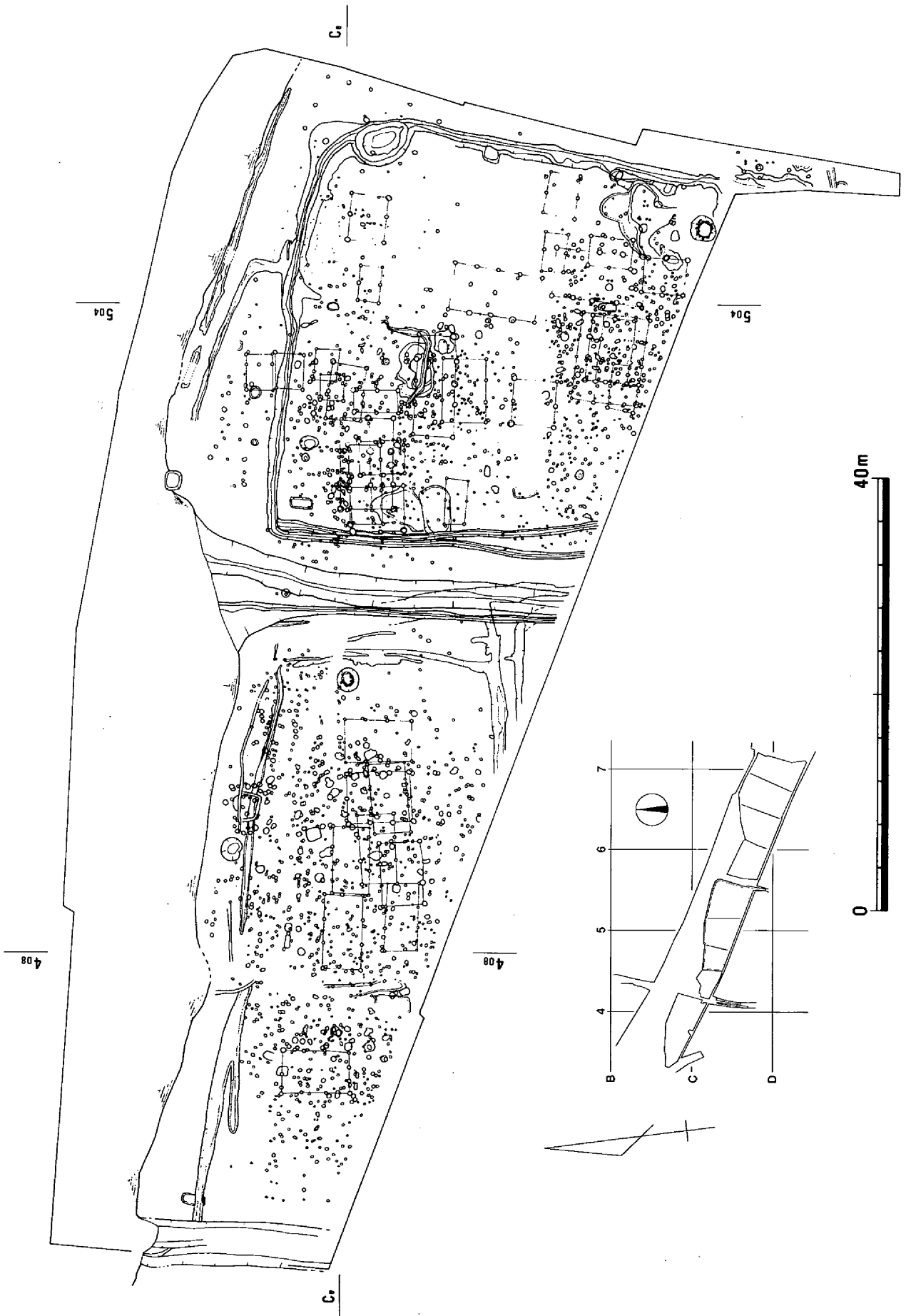
遺物は柱穴内から土器片が少量出土したのみで、時期は規模や柱穴の形状から古代と考えているが、より細かい時期については不詳である。（平井）

#### 掘立柱建物16（第458・460図）

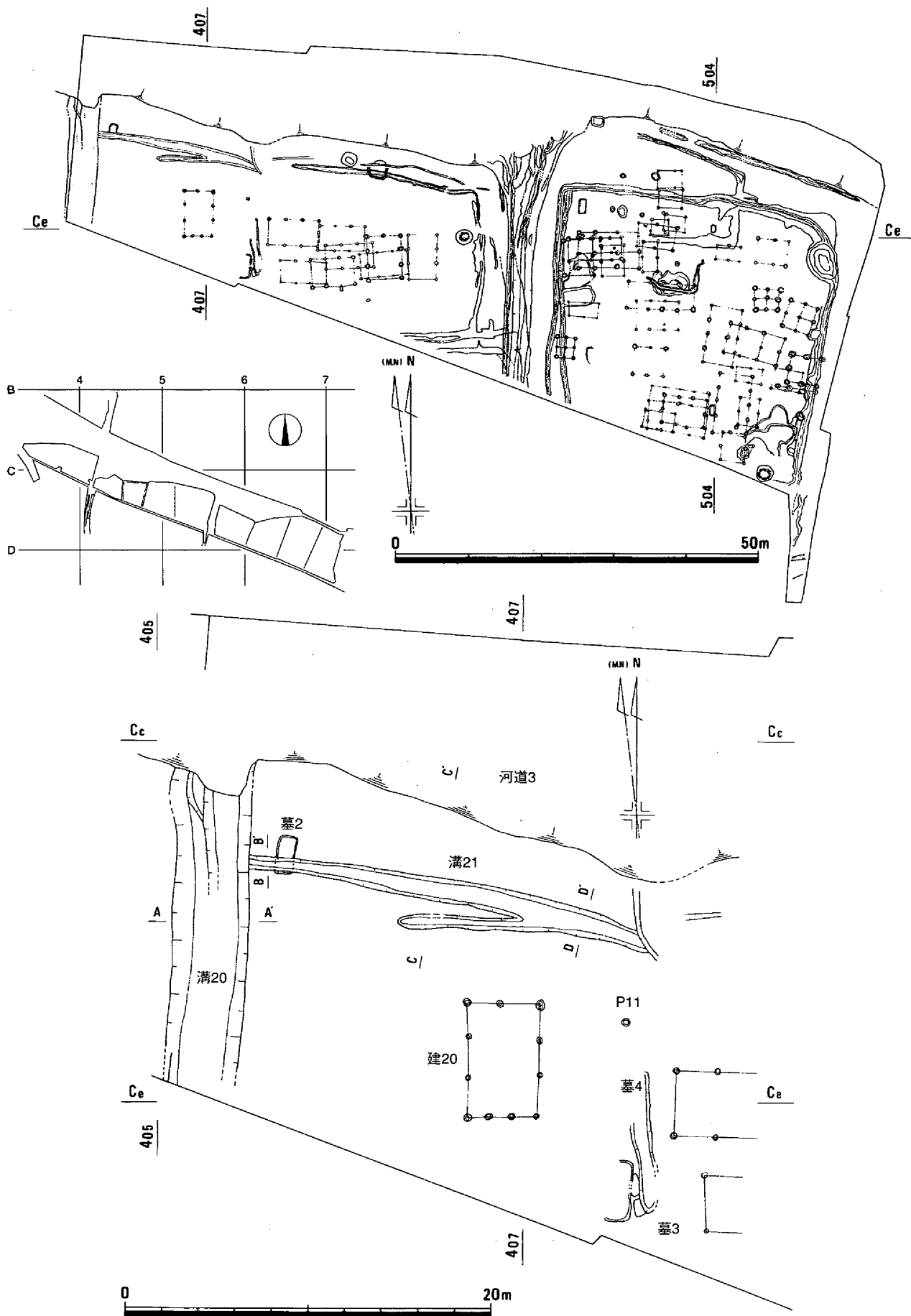
調査区の東端付近、Cf504区で検出された。東西棟の建物で、桁行3間、梁間2間の構造をもっていた。桁行全長が790cm、梁間全長は419cmで、床面積は31.8m<sup>2</sup>を測った。棟の方向はN-69°-Wである。桁行の柱間は西側が230・236cm、中央が255・245cm、東側で305・267cmと、東側ほど長くなっていた。梁間の柱間は201～216cmとほぼ一定していた。桁行の東から二つ目のP3とP7の間にはP11が検出され、P3からの柱間とP7からの柱間には33cmの差が認められた。P11は検出された柱穴では小さい方で、底面はもっとも高く、東柱の可能性が高い。東1間分は床が張られていたと考えた。柱穴は不整形な楕円形が多かったが、P4・P5のように方形に近いものもみられた。長径が38～61cm、深さは5～33cmを測った。柱穴出土の遺物によって平安時代の建物と判断した。（岡本）

#### 掘立柱建物17（第458・461図、図版19）

調査区の東端付近、掘立柱建物16の北3mに位置していた。棟の方向はN-79°-Wで、掘立柱建物16とは平行していなかった。桁行、梁間ともに2間の総柱建物で、各辺の長さから東西棟の建物と考

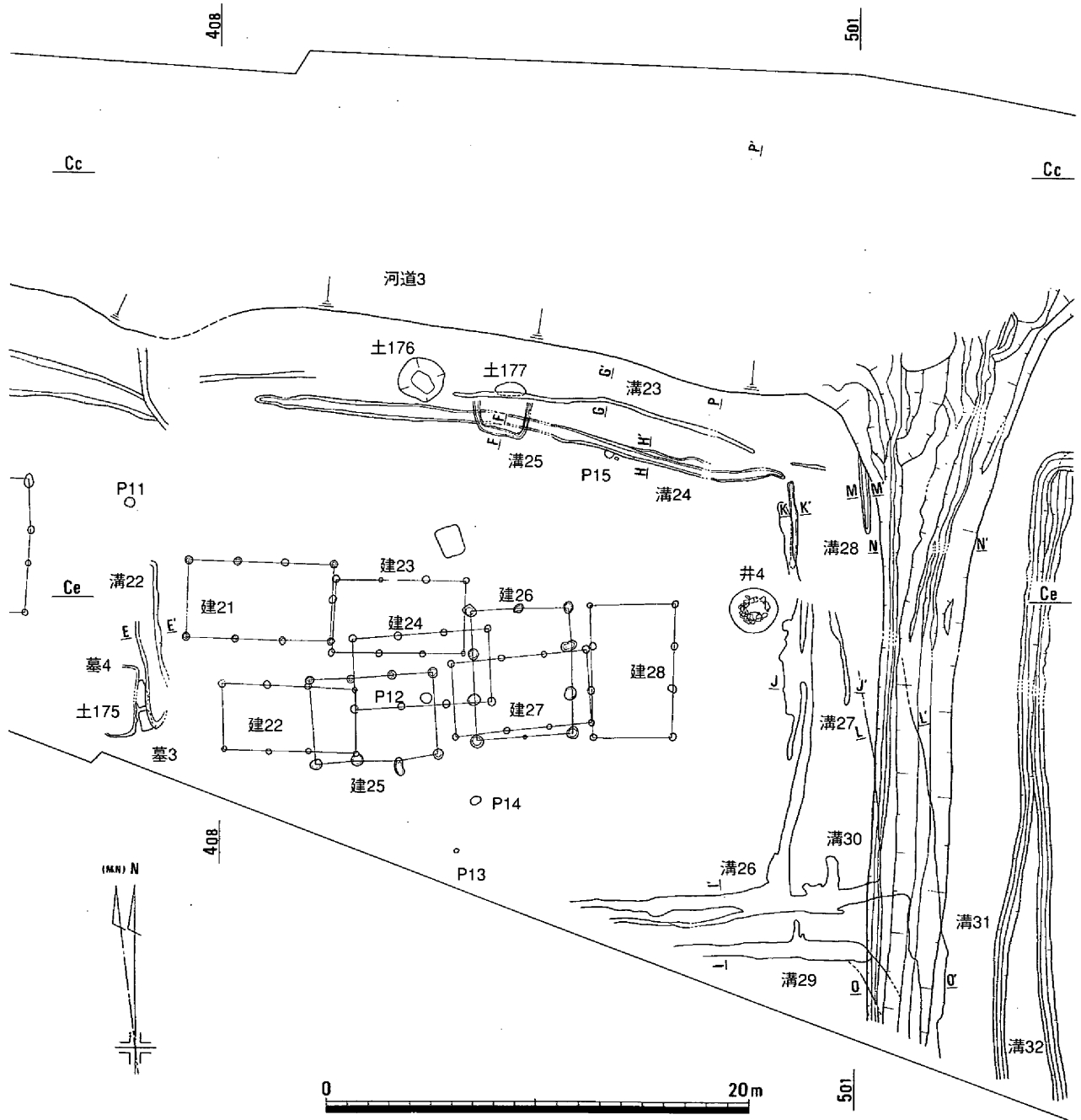
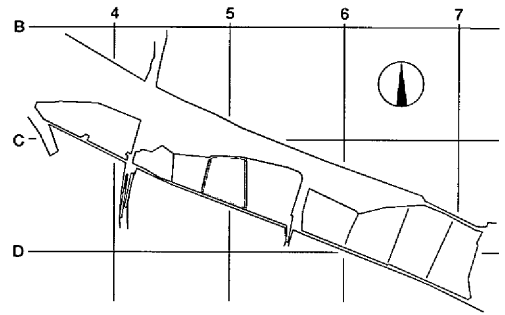


第455図 フロヤ調査区古代～中世遺構全体図 (1/500)

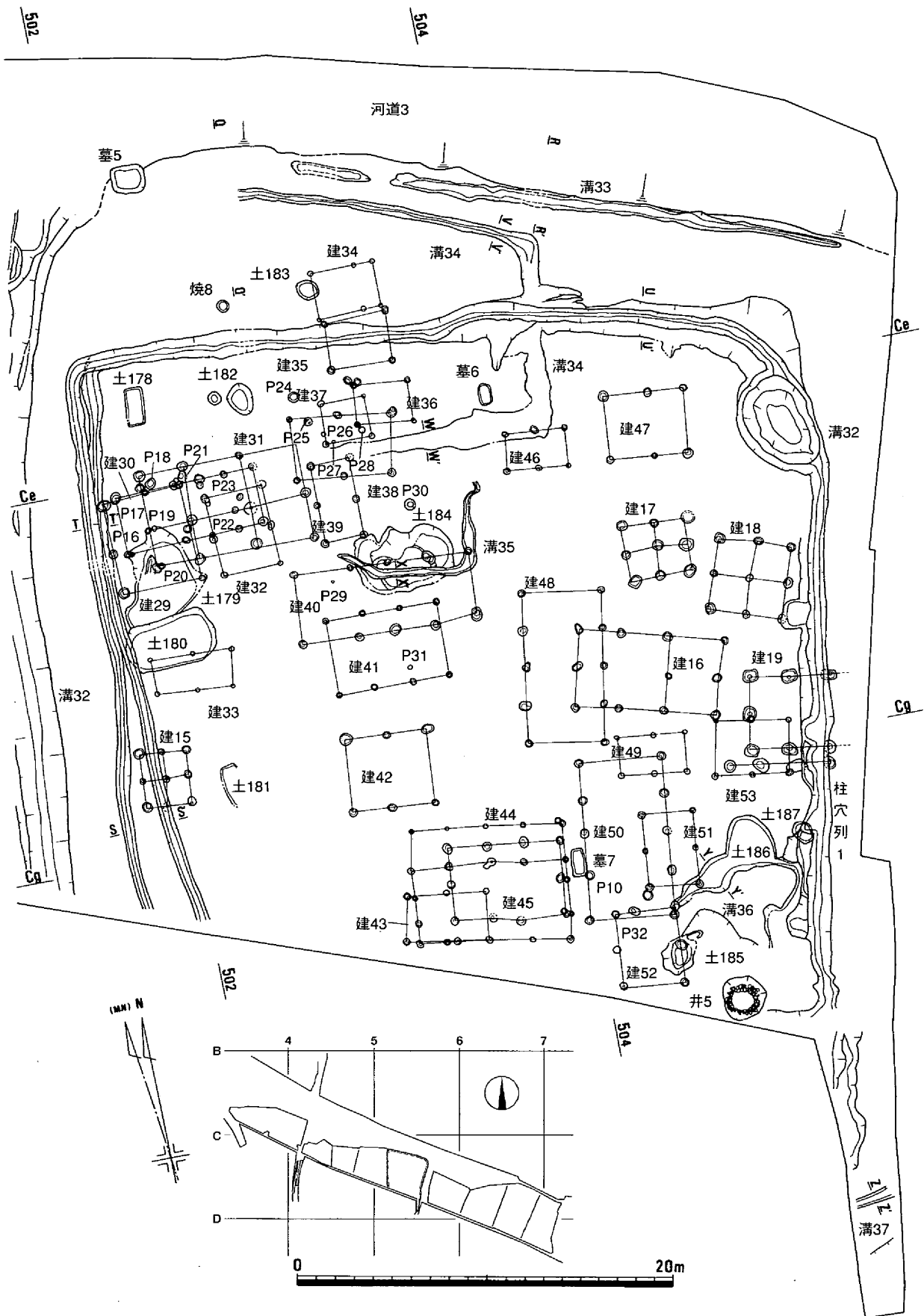


第456図 フロヤ調査区古代～中世主要遺構全体図 (1/750)・主要遺構部分図① (1/300)

える。桁行全長が350cm、梁間全長は306cmで、床面積は9.8㎡を測った。ほとんどの柱穴で柱のめり込み痕跡を認めたが、それらを結ぶと第461図に示したようになりに乱れた姿をみせていた。これは主にP9の配置によるが、P9は束柱のために融通性をもって据えられたものであろう。柱穴の形状は不整形な円形で、長径が46~75cm、深さは28~52cmで、柱のめり込み痕跡は直径15~25cmを測った。建物の年代はその構造から古代とみられる。(岡本)



第457図 フロヤ調査区古代~中世主要遺構部分図② (1/300)



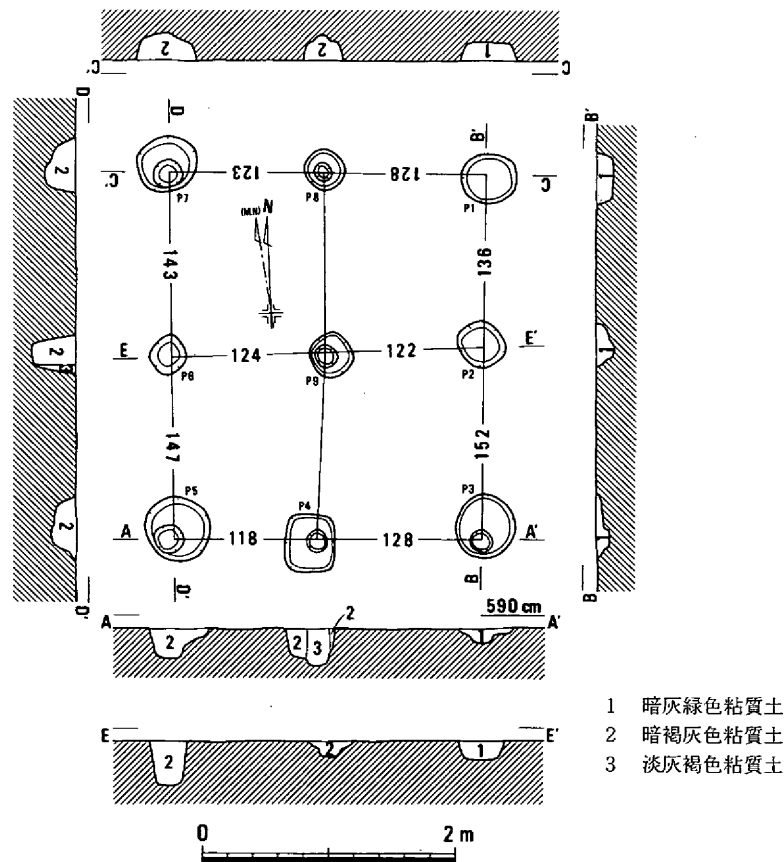
第458図 フロヤ調査区古代～中世主要遺構部分図③ (1/300)

掘立柱建物18 (第458・462図、図版19)

Cf505区を中心に検出された。掘立柱建物17の東1mと近接しているが、建物の棟方向はかなり異なり、むしろ南西に近接する掘立柱建物16に近かった。ちなみに掘立柱建物18の棟方向はN-64°-Wで、掘立柱建物16とは5°相違していた。建物は2間×2間の総柱建物で、東西辺全長の400cmに対し、南北辺全長も396cmとほとんど変わらず、ほぼ正方形の平面形をもっていた。このため、掘立柱建物17も含め、四柱造りの屋根構造をもっていた可能性が高いと考えたい。床面積は15.5㎡であった。柱間は190~209cmを測り、ほぼ一定の値を示していた。掘立柱建物17よりははるかに厳密に建てられていたといえる。柱穴の掘り方は円形に近く、長径が35~60cm、深さは27~48cmを測ったが、長径については大小の差が大きく、P4・P6・P8・P9と中間の柱穴の径が小さかった。掘立柱建物17にも同様の傾向がみられ、東柱であることによるものであろうか。P2・P7・P8で柱のめり込んだ痕跡を検出し、その直径は25cm前後で大きな相違はなかった。中世土器らしい小片が出土したが、棟の方向や建物の構造から建物の年代は古代と考える。平安時代後期の建物であろうか。 (岡本)

掘立柱建物19 (第458・463図、図版19)

調査区的最東端、Cf505区とCg505区に跨って検出された。東西棟の掘立柱建物で、棟の方向はN-74°-Wを測り、東半部は調査区外にあたる。掘立柱建物16の東1.5mと近接し、同時存在は考えられない。3m北には掘立柱建物18が検出されている。建物の南桁から南に80cm離れて柱穴列1が検出されたが、列の方向が掘立柱建物19の棟方向と等しく、柱穴の形状も類似することから、庇あるいは縁としてこの建物に付属していた可能性が高い。建物の構造は桁行が3間以上、梁間は2間であっ

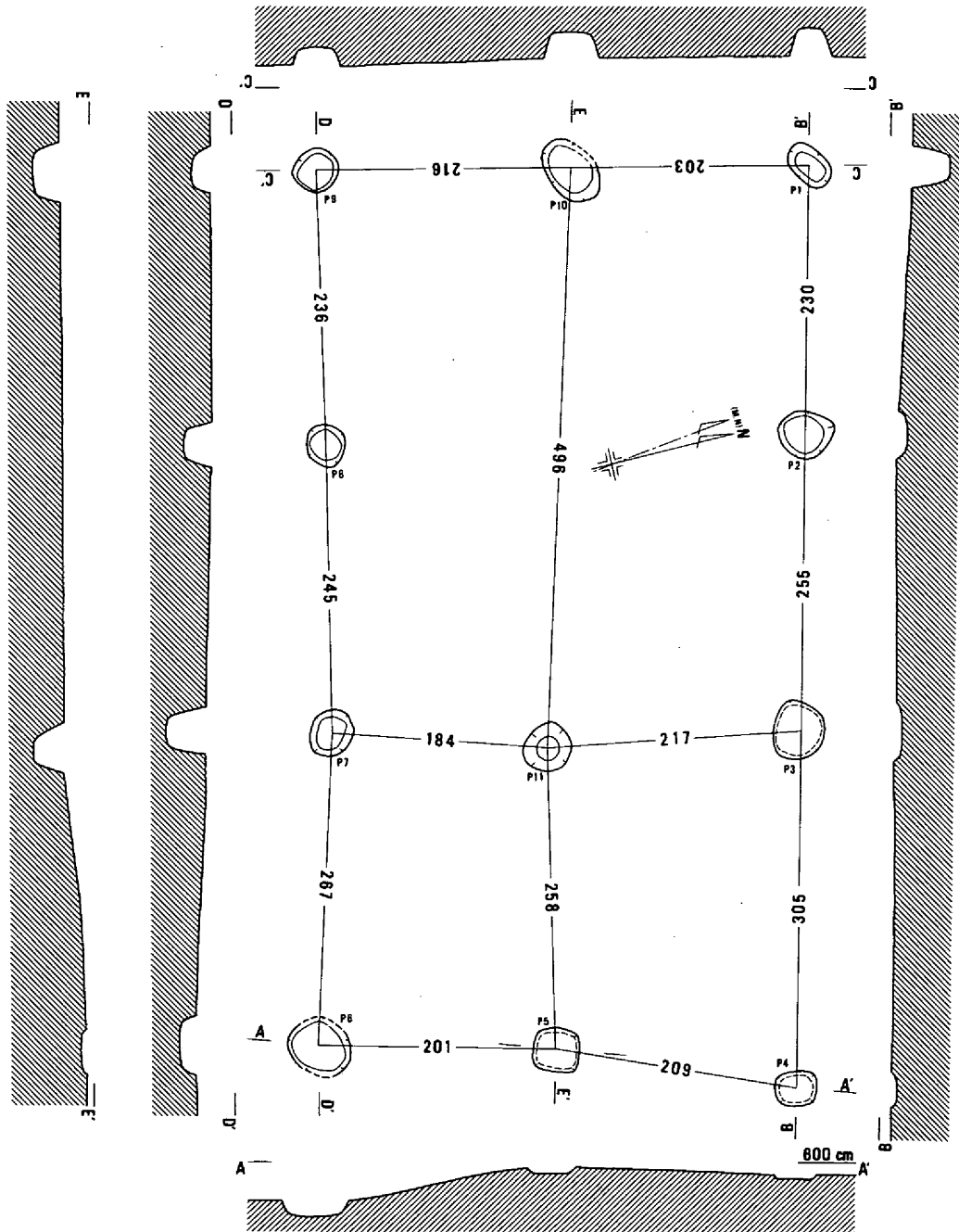


第459図 掘立柱建物15 (1/60)

た。桁行検出長が434cm、梁間全長は397cm、検出部分の床面積は16.8m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は206～222cm、梁間の柱間は197・200cmで、いずれもほぼ一定していた。規格的な建物といえる。柱穴の掘り方は隅丸長方形を呈し、長軸長が72～87cm、深さは21～47cmであった。ほとんどの柱穴で柱痕が認められ、直径は14～26cmを測った。須恵器片が出土し、柱穴の形状から古代の建物と考える。（岡本）

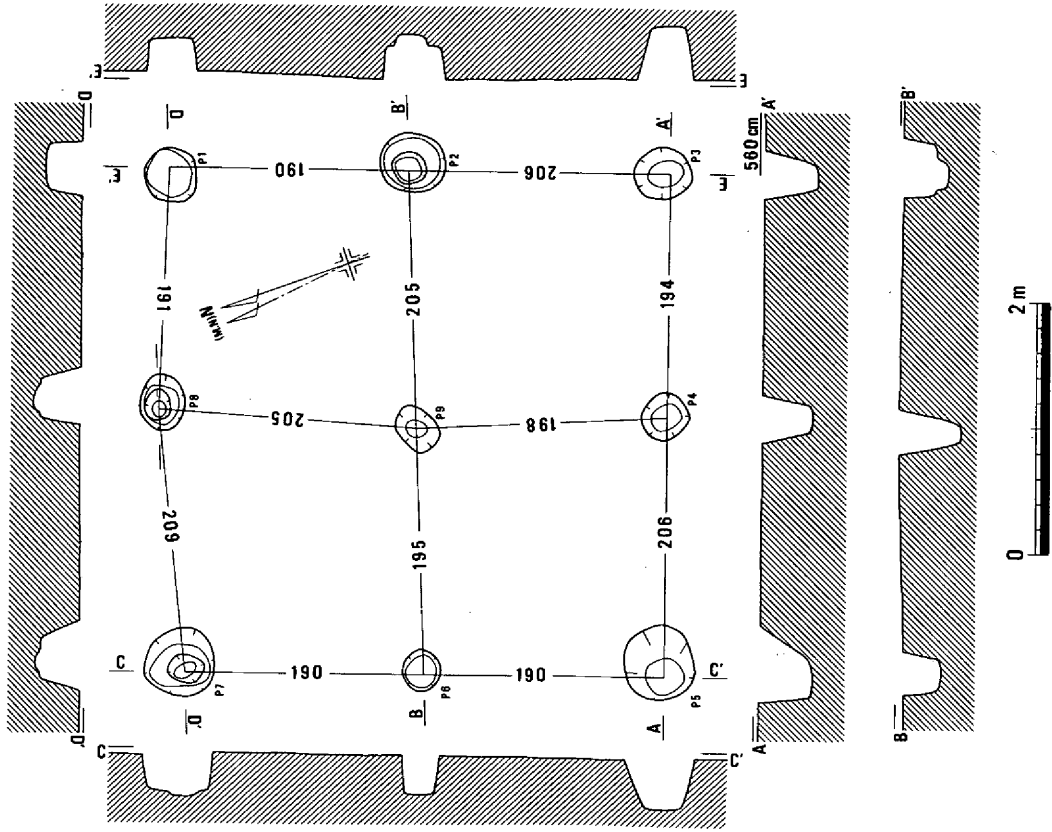
掘立柱建物20（第456・464図）

Cc405区で検出した掘立柱建物である。ほぼ真北に棟方向を向けている。N-8°-Eを示す。間数は、3間×2間であるが、北の壁は2間・南の壁は3間となって、変則的な建物である。一般住居でな

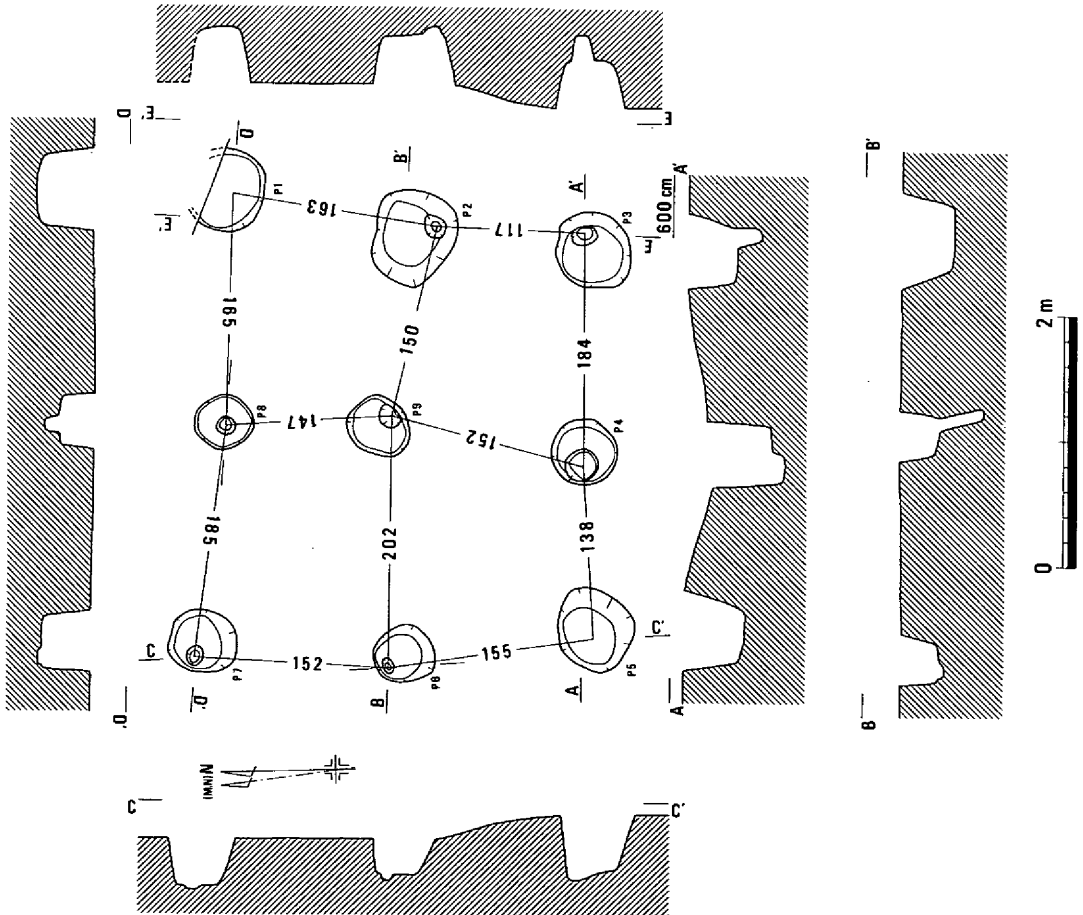


第460図 掘立柱建物16 (1/60)





第462図 掘立柱建物18 (1/60)



第461図 掘立柱建物17 (1/60)

く、特別なものと考えられる。11本の柱穴の中で柱痕跡の残存するものは3本あった。柱と柱の間隔はまちまちで統一されていない。面積は24.4㎡である。

遺物としては土錘が1点柱穴から出土している。C100は橙色を呈する土錘で両端が欠けている。

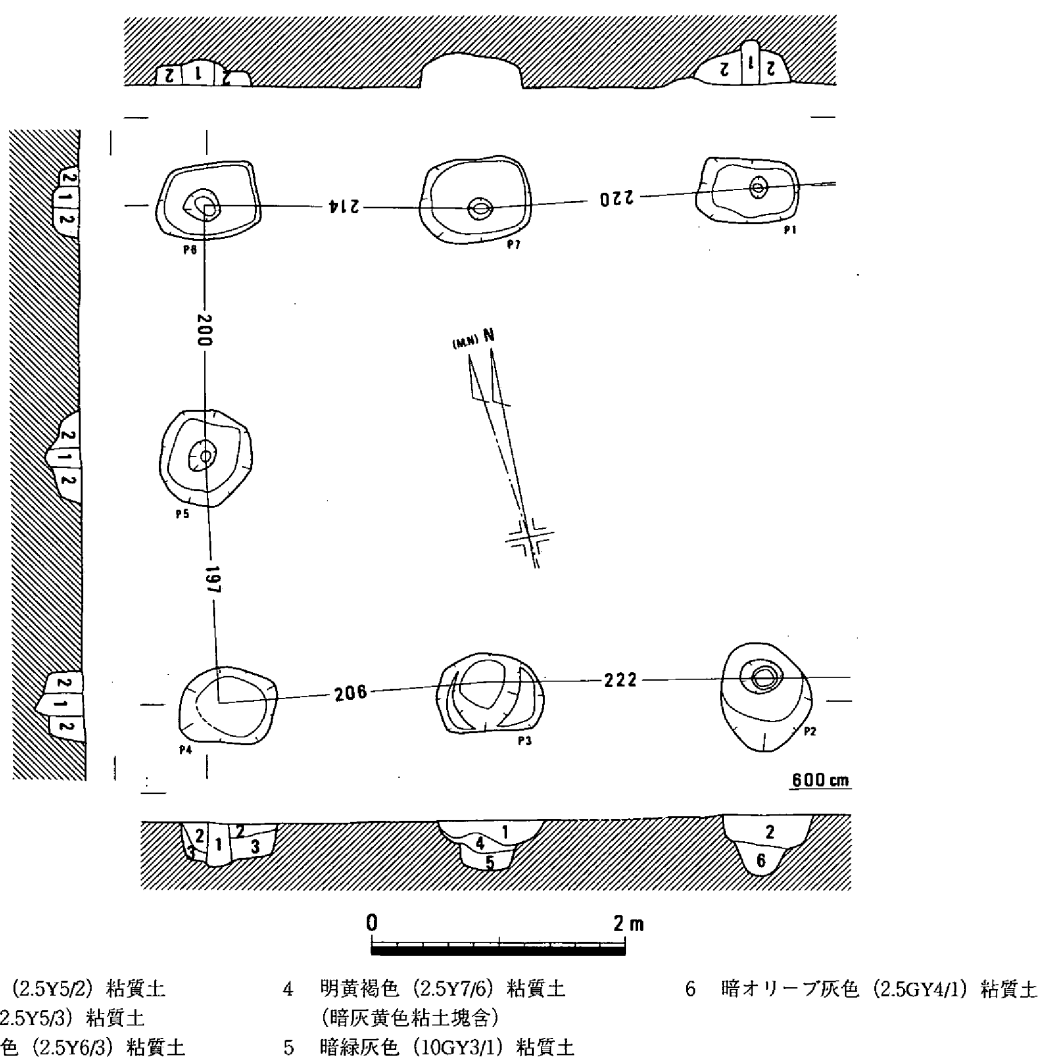
この土錘と柱穴の土質から考えて、この建物の時期は中世に属するであろう。 (浅倉)

#### 掘立柱建物21 (第457・465図、図版19)

調査区の中央部、408ラインの南側に位置する3×1間の掘立柱建物である。規模は桁行690cm、梁間366cmで、桁行の柱間距離は225~233cmである。柱穴掘り方は直径30cm前後の円形や楕円形で、深さは検出面から5~10cm残存していたにすぎない。埋土は灰黄褐色粘質微砂が1層のみであった。棟方向の方位はN-85°-Wで、面積は25.28㎡である。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は中世と考えている。規模や方位などから掘立柱建物23との類似性を指摘することができるが、位置関係から同時期に存在していたとは考えられない。 (平井)

#### 掘立柱建物22 (第457・466図)

調査区の中央部、掘立柱建物21の南約2mに位置する3×1間の掘立柱建物である。発掘調査終了後図面作成時に復元設定した掘立柱建物で、規模は桁行631cm、梁間332cm、桁行の柱間距離は190~

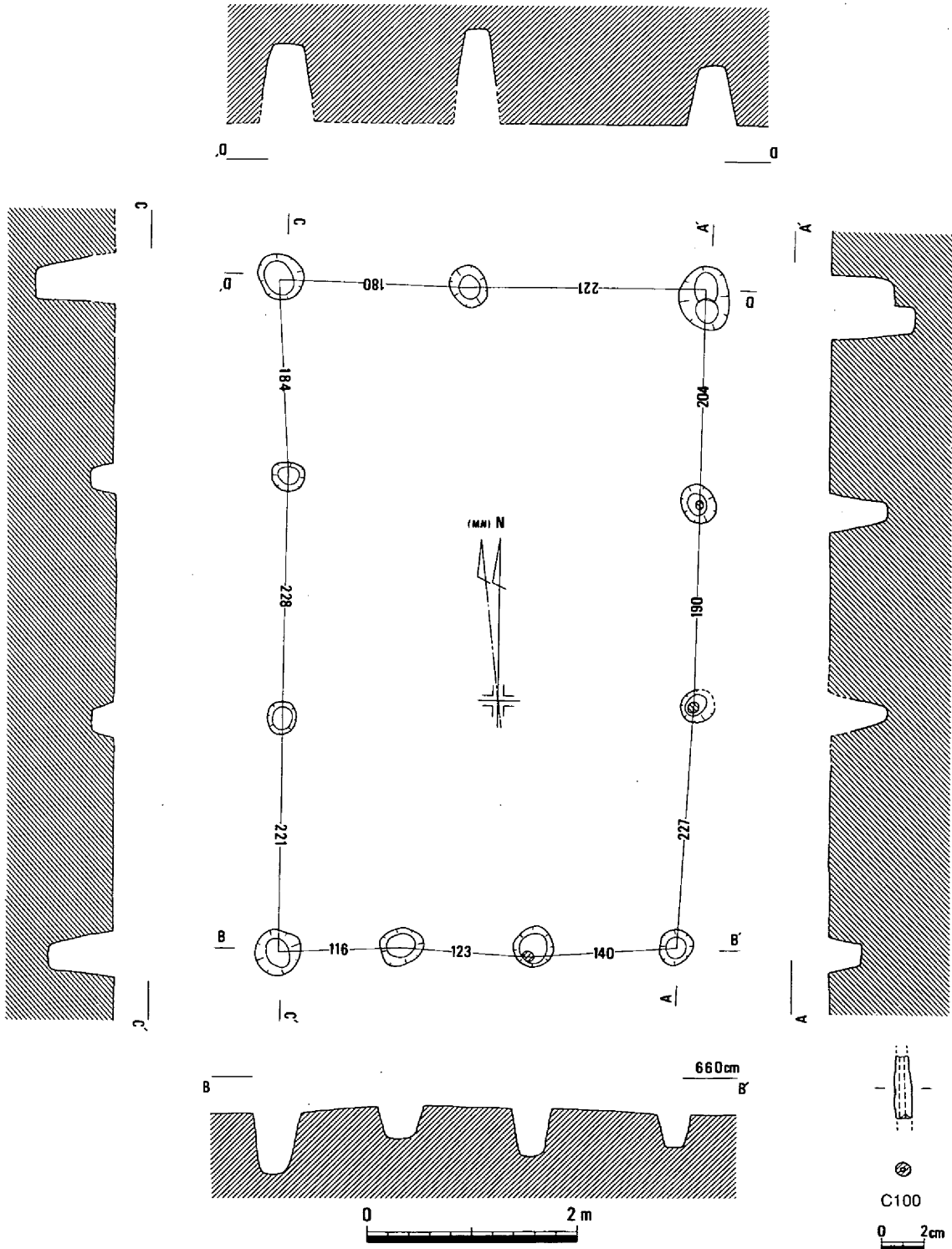


第463図 掘立柱建物19 (1/60)

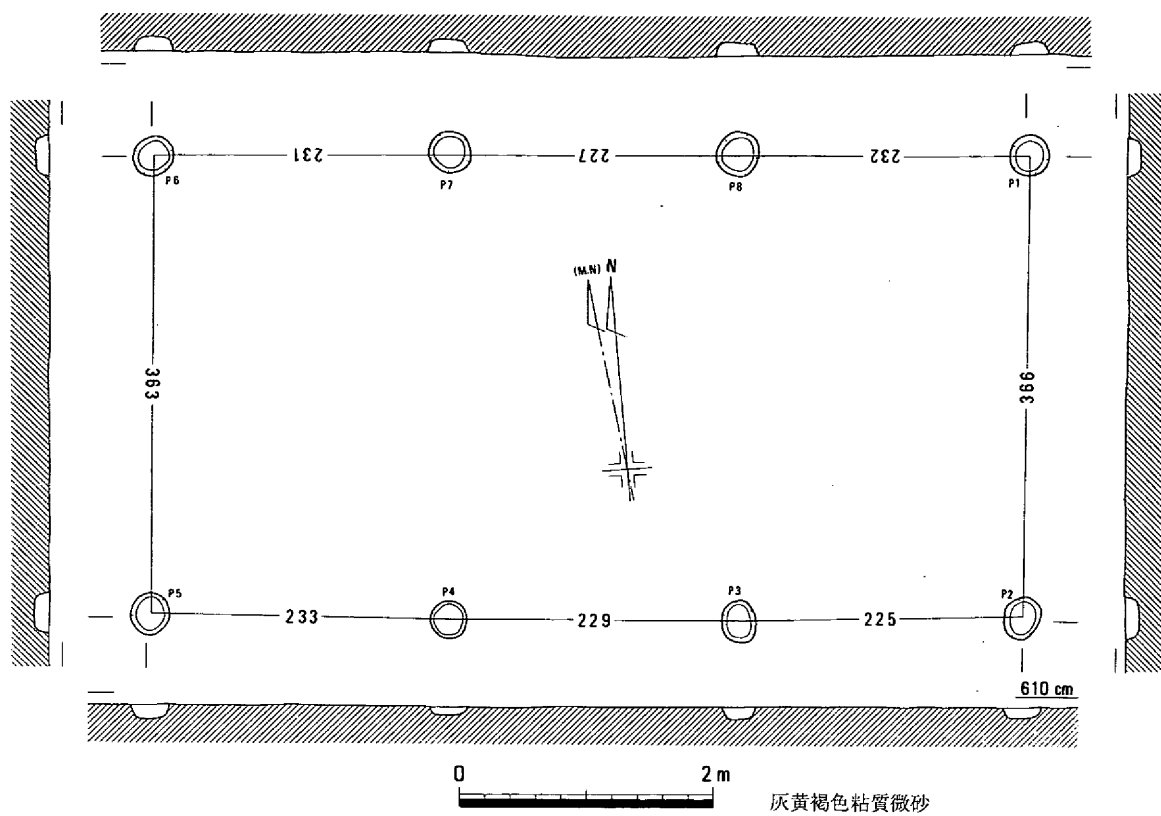
227cmである。

柱穴掘り方はおもに直径20~30cmの円形で、深さは検出面から15~50cm残存していた。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。棟方向の方位はN-82°-Wで、面積は19.85㎡である。

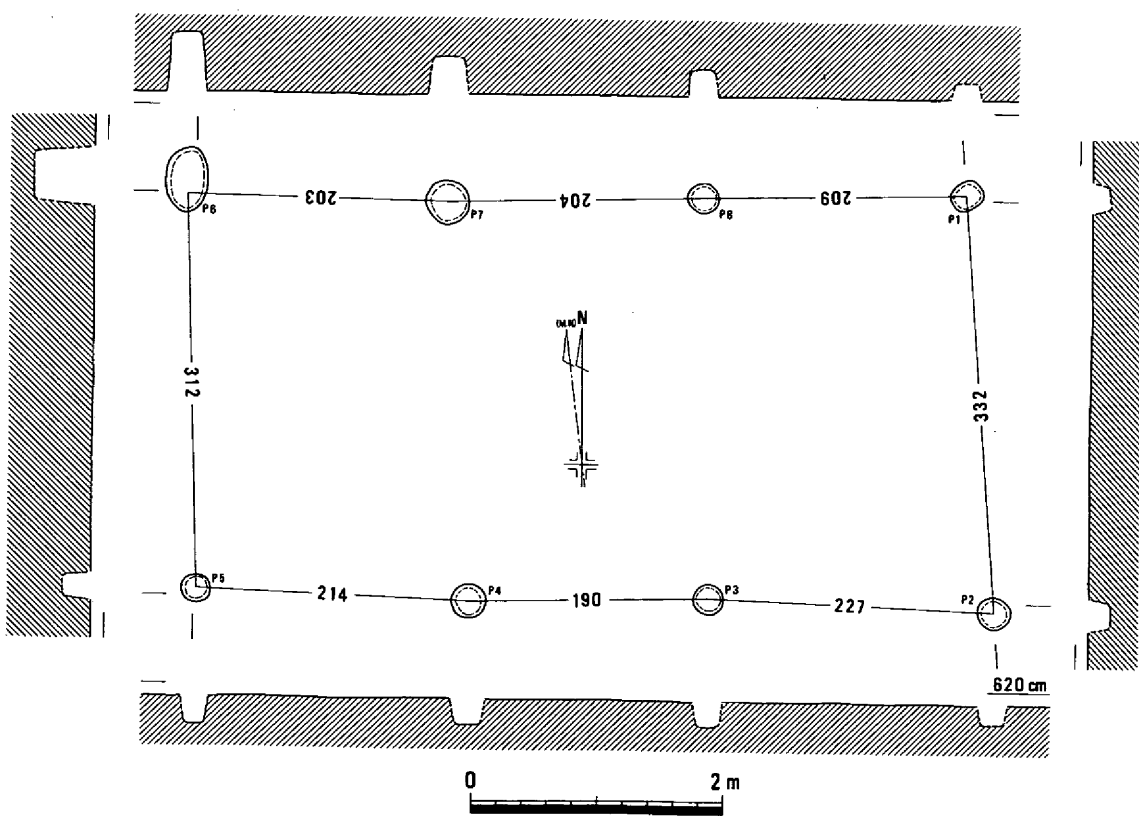
遺物は土器片が少量出土したのみで、規模や形状から時期は中世と考えられる。掘立柱建物21・23と棟方向はほぼ共通しているといえるが、面積はやや小規模である。 (平井)



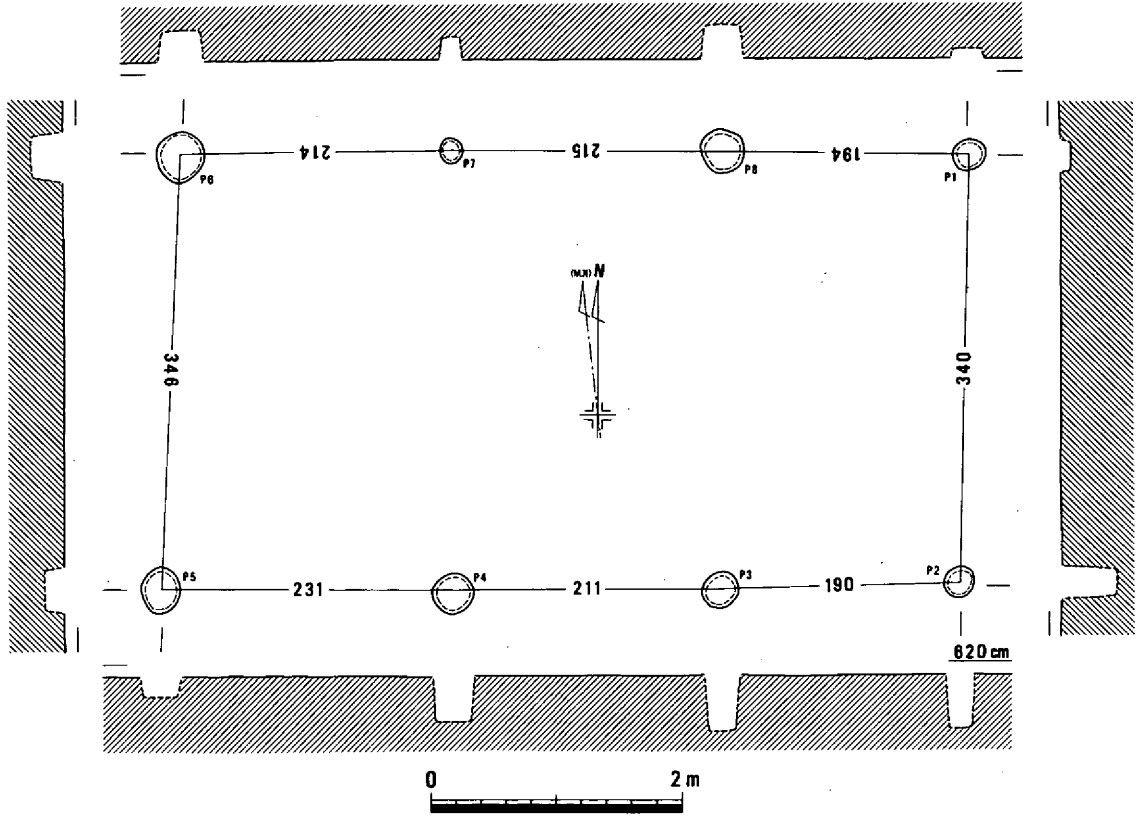
第464図 掘立柱建物20 (1/60)・出土遺物 (1/3)



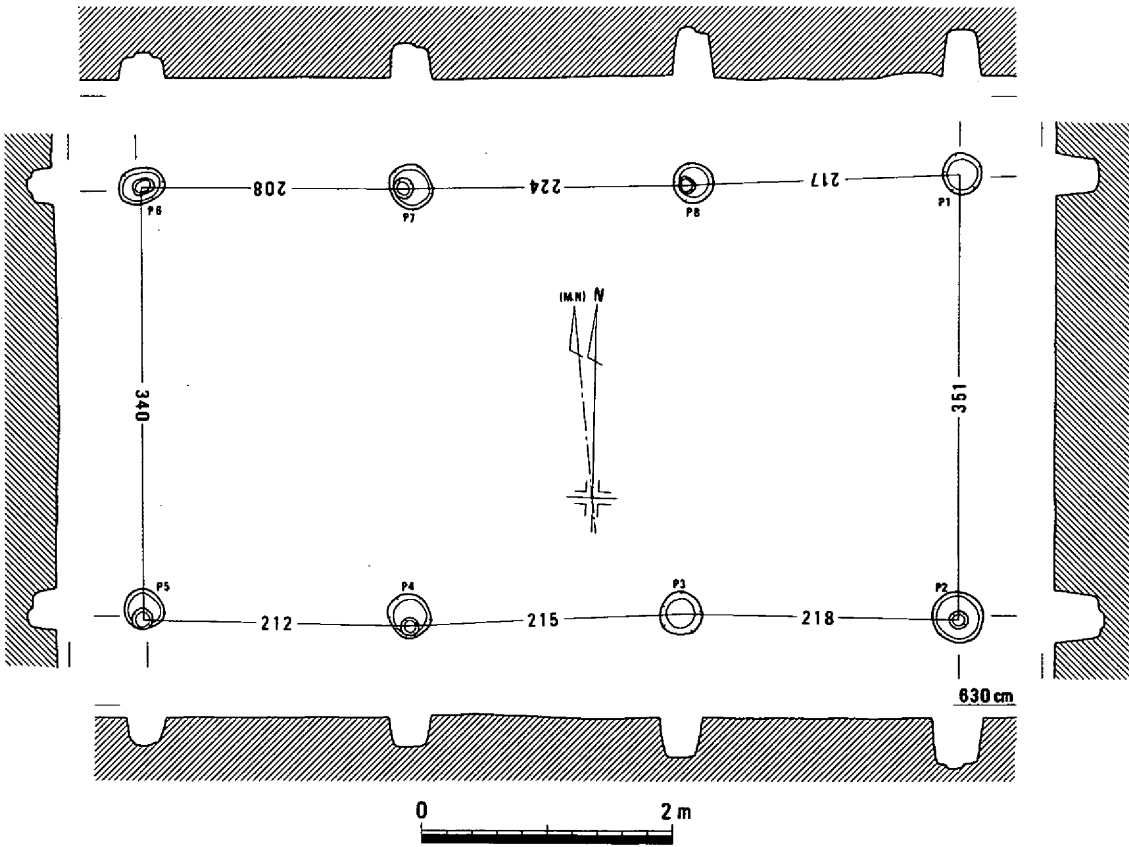
第465図 掘立柱建物21 (1/60)



第466図 掘立柱建物22 (1/60)



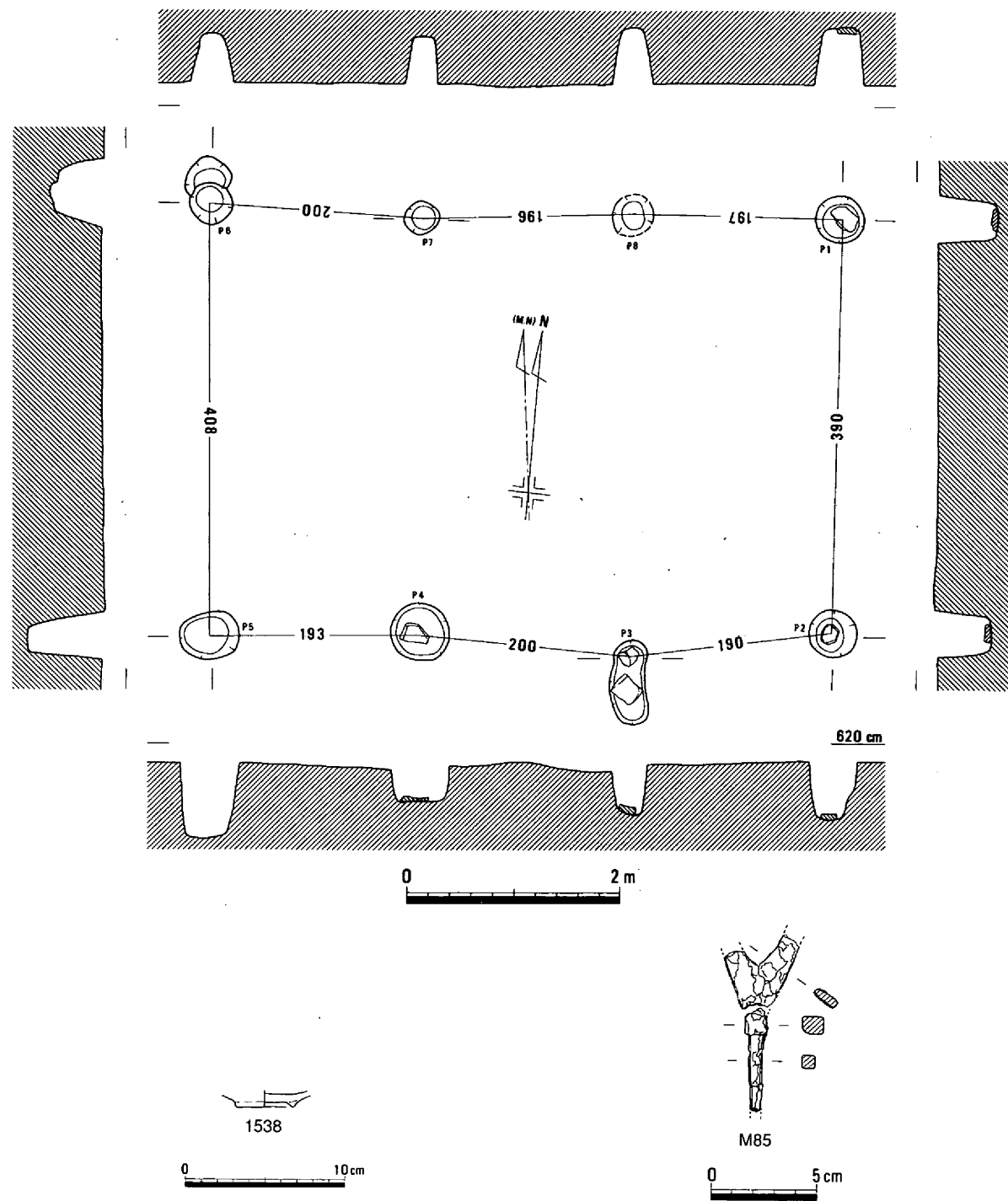
第467図 掘立柱建物23 (1/60)



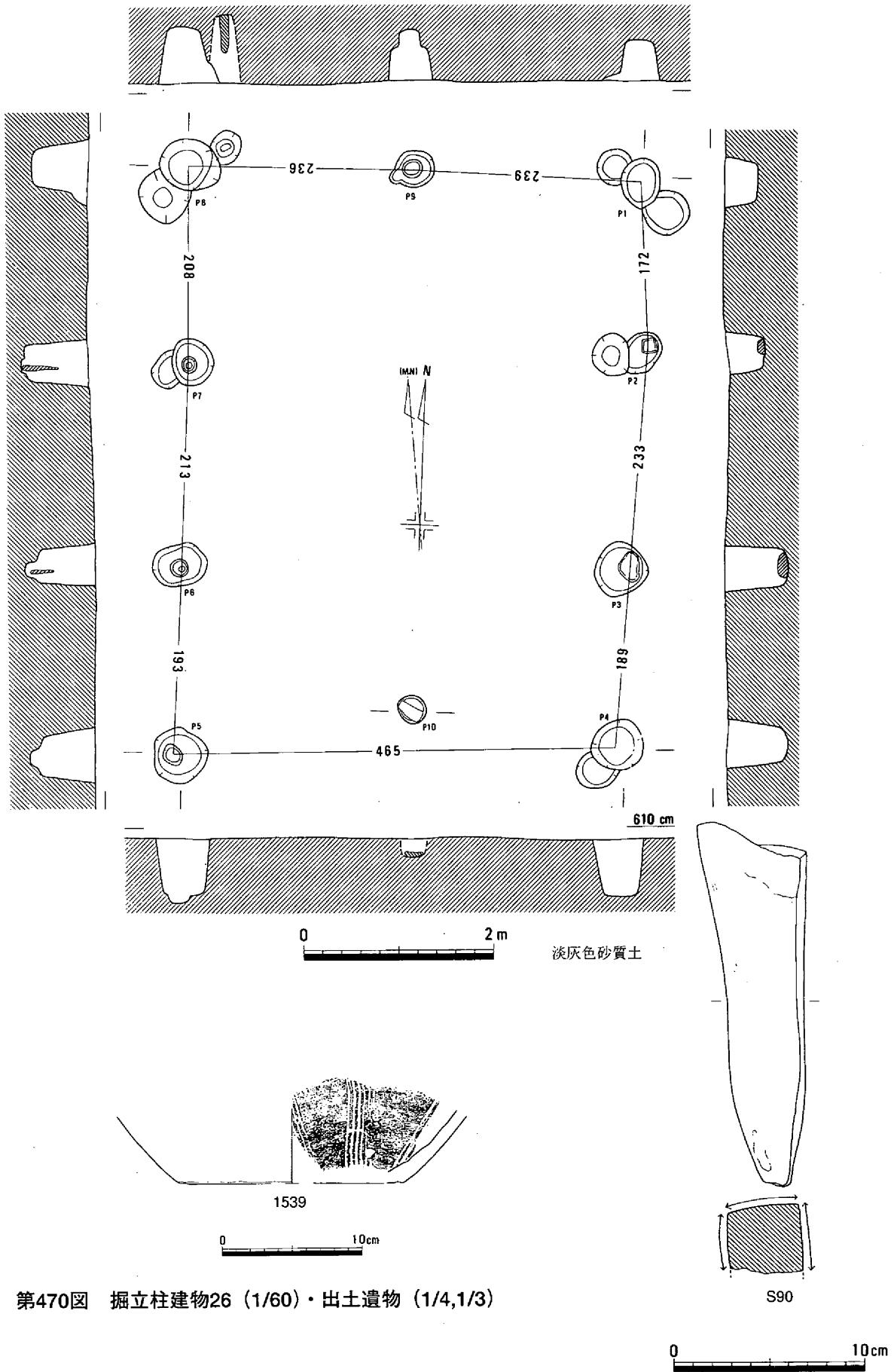
第468図 掘立柱建物24 (1/60)

掘立柱建物23 (第457・467図)

調査区の中央部、掘立柱建物21の東隣りに位置する。発掘調査終了後図面作成時に復元設定した3×1間の掘立柱建物である。規模は桁行632cm、梁間346cmで、桁行の柱間規模は190~231cmを測る。柱穴掘り方は15~40cmの円形や楕円形で、深さは8~45cm残存していた。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。棟方向はN-84°-Wで、面積は21.80m<sup>2</sup>であった。規模や形状から時期は中世と考えられる。掘立柱建物21と棟方向や規模の点で共通性がある。 (平井)



第469図 掘立柱建物25 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



第470図 掘立柱建物26 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

掘立柱建物24 (第457・468図)

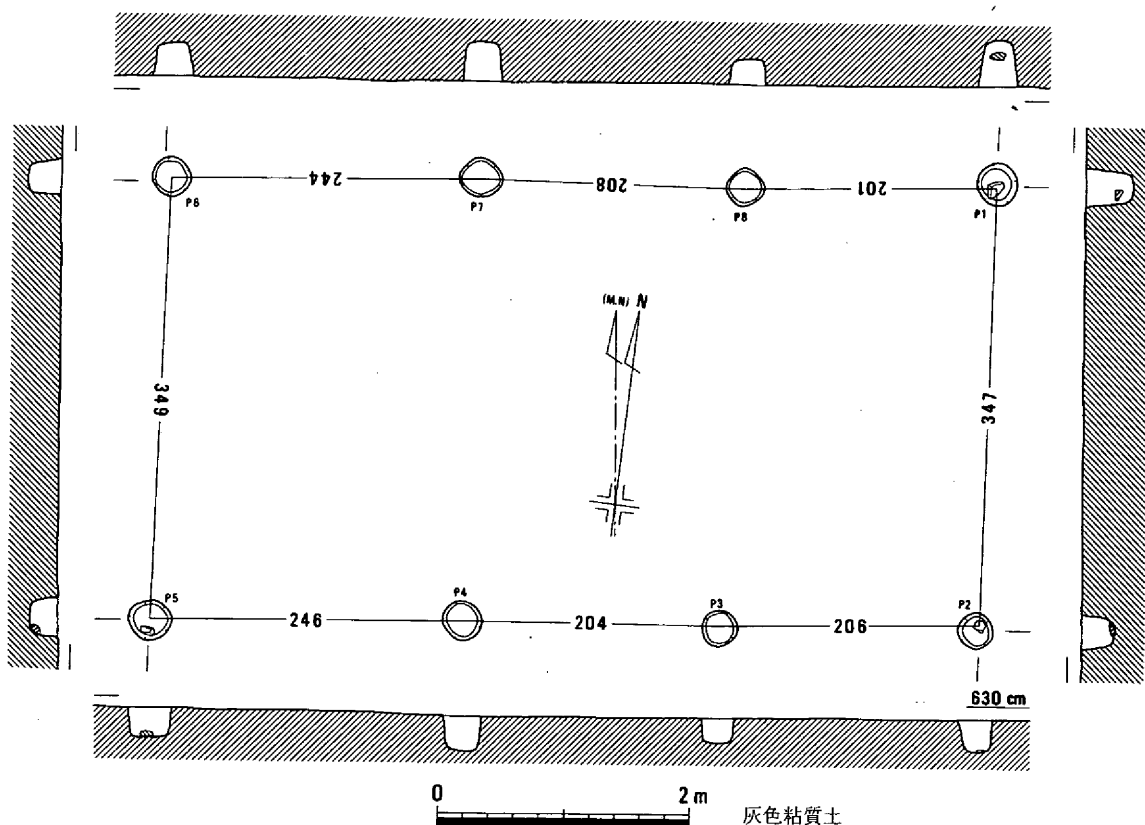
調査区の中央部、掘立柱建物21・22の東隣りに位置する3×1間の掘立柱建物である。規模は桁行650cm、梁間351cmで、桁行の柱間距離は208～224cmを測る。柱穴掘り方は20～40cmの円形や楕円形で、深さは20～40cm残存していた。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。棟方向はN-88°-Eで、面積は22.19㎡であった。遺物は土器片が少量出土したのみで、規模や形状から時期は中世と考えられる。掘立柱建物27と棟方向や規模の点で共通性があるといえるが、両者は切り合い関係にあるため同時期には存在していないと考えられる。(平井)

掘立柱建物25 (第457・469図、図版19)

調査区の中央部、掘立柱建物23の南に位置する3×1間の掘立柱建物である。規模は桁行593cm、梁間408cmで、桁行の柱間距離は190～200cmを測る。柱穴掘り方は直径30～50cm前後の円形や楕円形で、深さは約30～70cm残存していた。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。P1・2・3・4の底面には平たい石が据えられていた。棟方向はN-85°-Eで、面積は23.63㎡であった。遺物は少量の土器片と共に鉄鏃M85が出土している。時期は中世である。掘立柱建物24・27と棟方向はほぼ共通しているが、同時期に存在していたとは考えにくい。(平井)

掘立柱建物26 (第457・470図)

調査区の中央部、掘立柱建物23・25の東隣りに位置する3×2間の掘立柱建物である。規模は桁行615cm、梁間475cmで、桁行の柱間距離は172～233cmを測る。柱穴掘り方は直径約25～60cmの円形や楕円形で、深さは約20～70cm残存していた。埋土は淡灰色砂質土であった。P2・3・10の底面には平た



第471図 掘立柱建物27 (1/60)



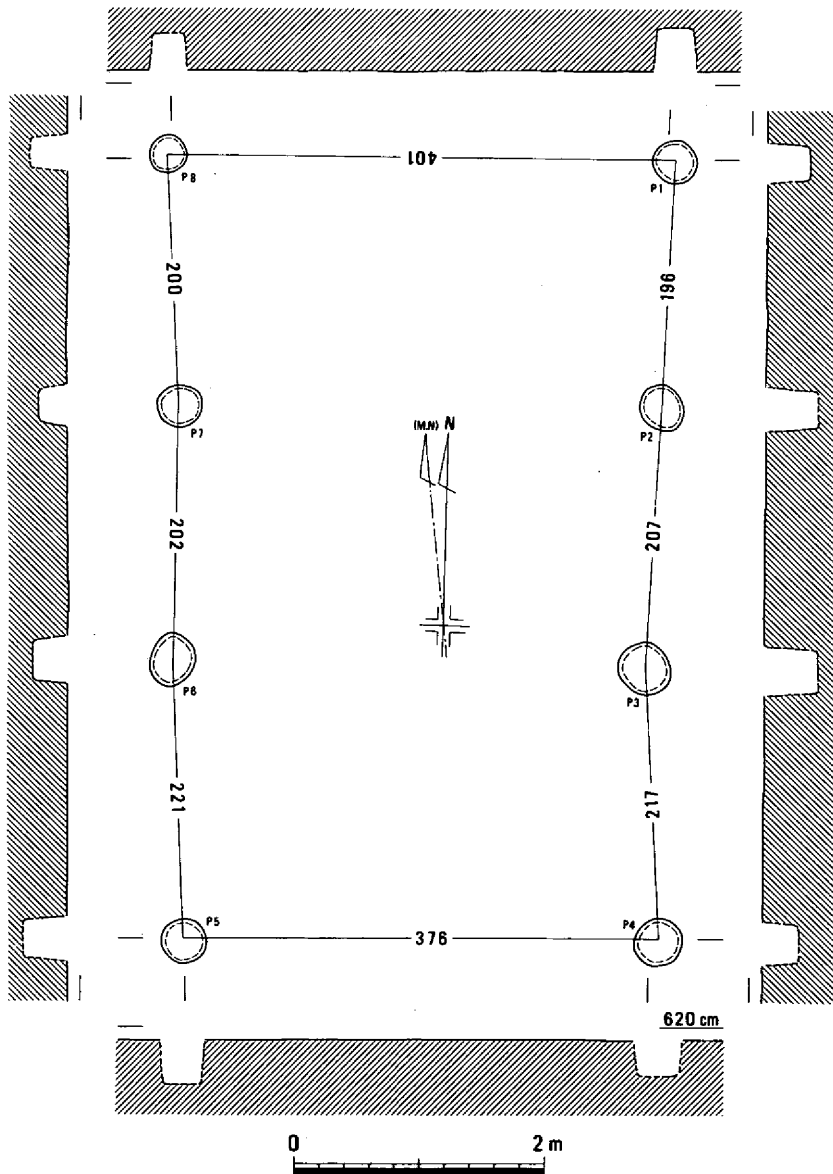
い石が据えられており、P 6・7には柱材の一部が残存していた。ただしP10については図示したように位置が北にずれており疑問が残る。棟方向はN-1°-Wで、面積は28.72m<sup>2</sup>とフロヤ2区の調査区では最大規模である。

遺物は少量の土器片と砥石 S90が出土しており、時期は中世である。 (平井)

**掘立柱建物27** (第457・471図、図版19)

調査区の中央部、掘立柱建物25の東隣りに位置する3×1間の掘立柱建物である。規模は桁行660cm、梁間349cmで、桁行の柱間距離は201~246cmを測る。柱穴掘り方は直径30cm前後の円形や楕円形で、深さは約20~40cm残存していた。埋土は灰色砂質土であった。P 1・2・5には石が据えられていた。棟方向はN-83°-Eで、面積は22.74m<sup>2</sup>であった。

遺物は土器片が少量出土したのみで、柱穴の形状や埋土、規模などから時期は中世と考えられる。掘立柱建物24・25と棟方向は共通しているが、同時に存在していたとは考えられない。 (平井)



第472図 掘立柱建物28 (1/60)

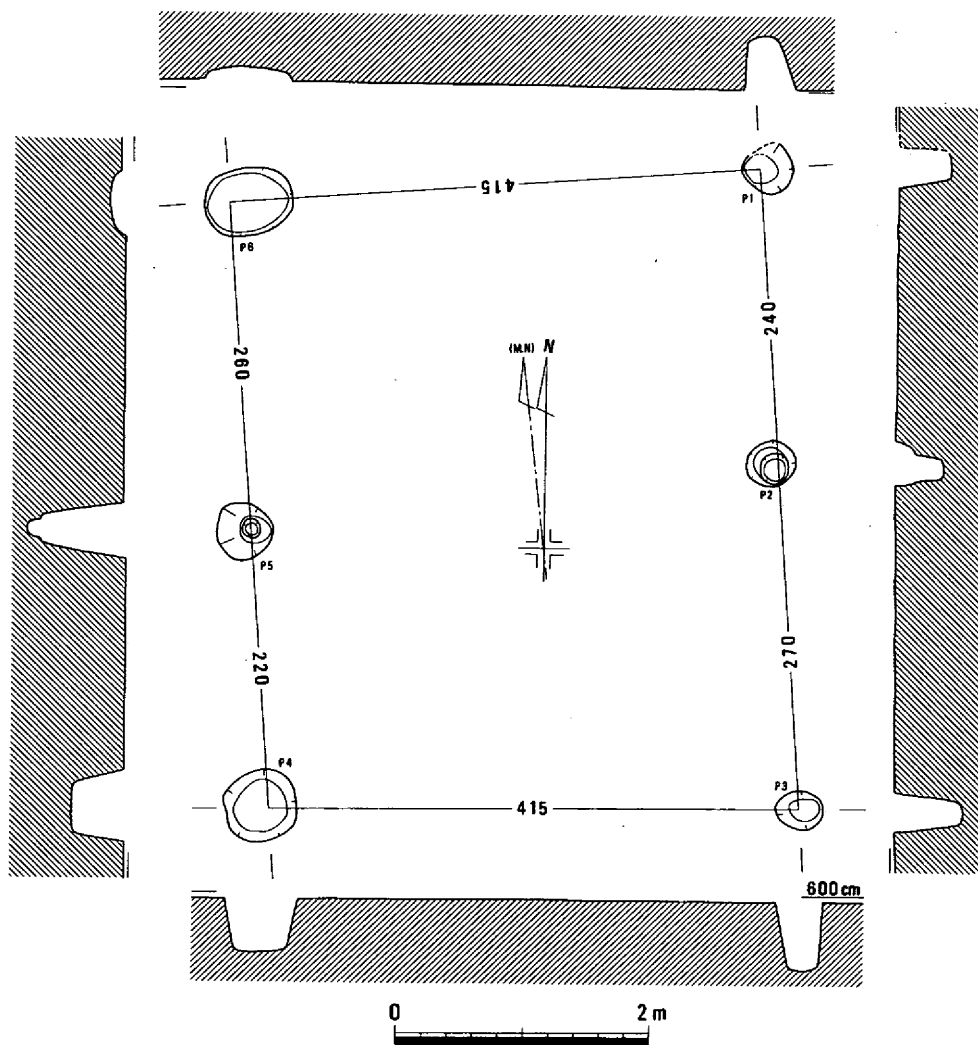
**掘立柱建物28 (第457・472図)**

調査区の中央部、掘立柱建物26の東隣りに位置する。発掘調査終了後に図面上で復元設定した3×1間の掘立柱建物である。桁行の柱通りは直線的ではなく、梁間距離についても約30cm違いが認められるが、棟方向が掘立柱建物26と類似することから設定した。規模は桁行623cm、梁間401cmで、桁行の柱間距離は196~221cmを測る。柱穴掘り方は直径約30~40cmの円形や楕円形で、深さは約20×40cm残存していた。柱穴断面形は図上復元のため正確ではない。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。棟方向はN-3°-Eで、面積は23.69m<sup>2</sup>である。

遺物は土器片が少量出土したのみで、柱穴の形状や埋土、規模などから時期は中世と考えている。掘立柱建物26との類似性が高いが、同時期に存在していたとは考えられない。(平井)

**掘立柱建物29 (第458・473図)**

調査区の中央部Ce501区とCe502区に跨って検出された。溝32によって囲まれた、調査区東半の方形区画内にあり、建物の西桁は溝32と接していた。掘立柱建物30・31と重複関係にあり、東に1m離れて掘立柱建物32が棟を揃えて検出された。南北棟の建物で、棟の方向はN-2°-Eであった。桁行が2間、梁間は1間の構造で、桁行全長が510cm、梁間全長は415cm、床面積は20.5m<sup>2</sup>を測った。桁

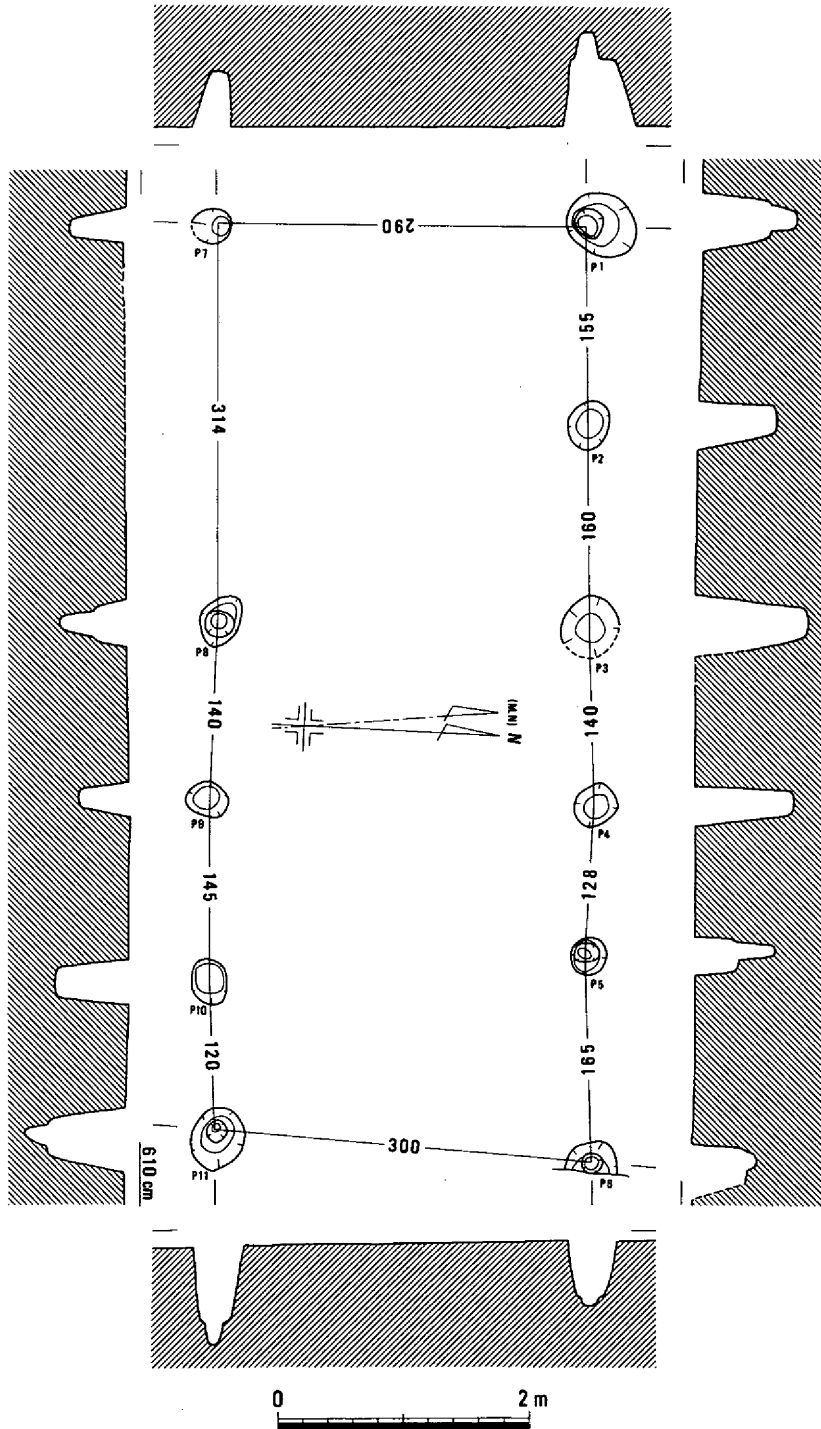


第473図 掘立柱建物29 (1/60)

行の柱間は220~270cmと一定していなかった。柱穴は円形で、長径が38~68cm、深さは10~76cmと、これも変化の幅が大きかった。これは主にP6の存在による。P2とP5で柱痕を確認し、その直径は16cmと24cmであった。建物の構造や柱穴の配置・形状から中世の建物と考える。 (岡本)

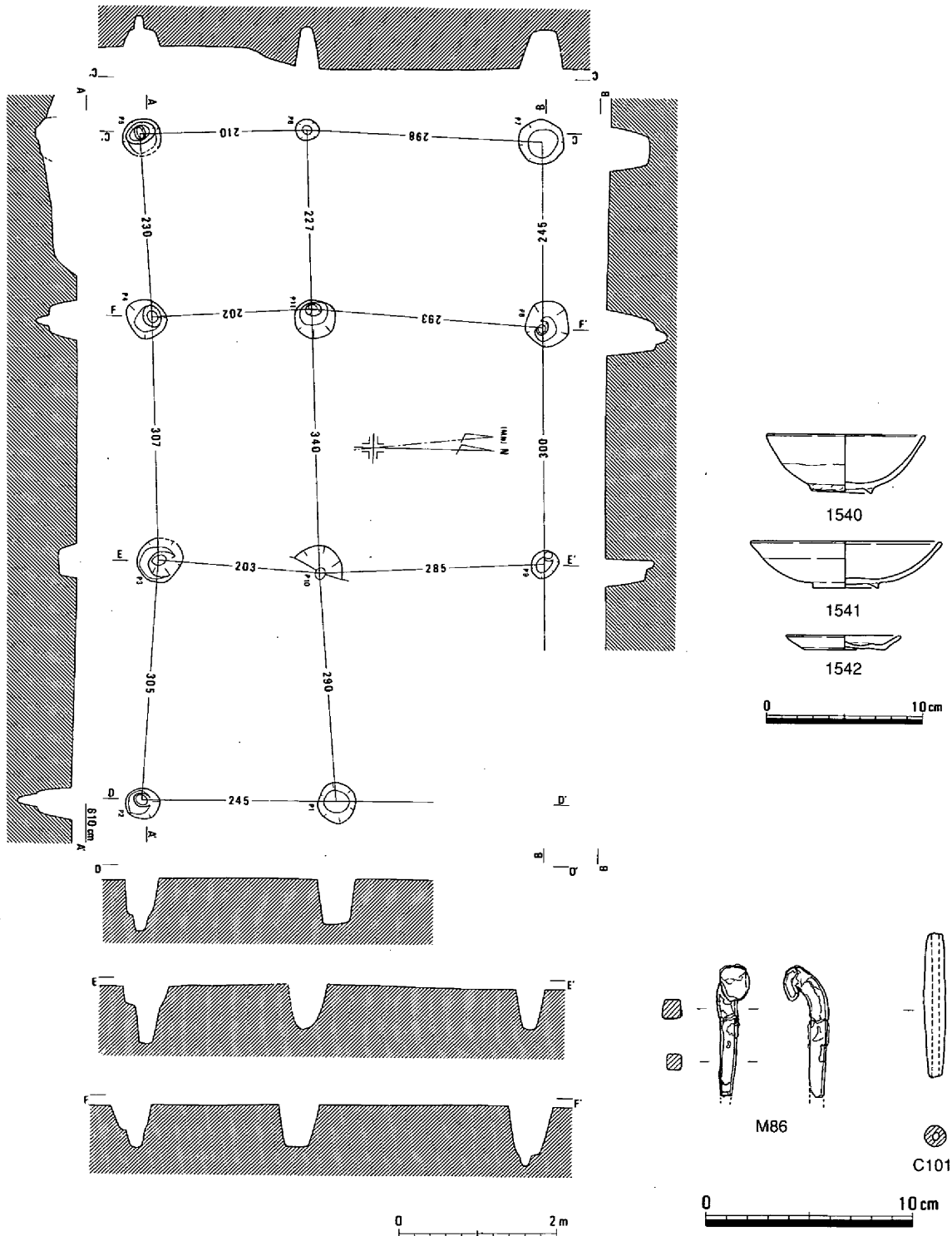
掘立柱建物30 (第458・474図)

Ce502区を中心に検出され、掘立柱建物29・31と重複していた。東西棟の建物で、棟方向はN-86°-Wであった。掘立柱建物29と同様に梁間が桁行と直角にならず歪んでいた。P7とP8の間は土



第474図 掘立柱建物30 (1/60)

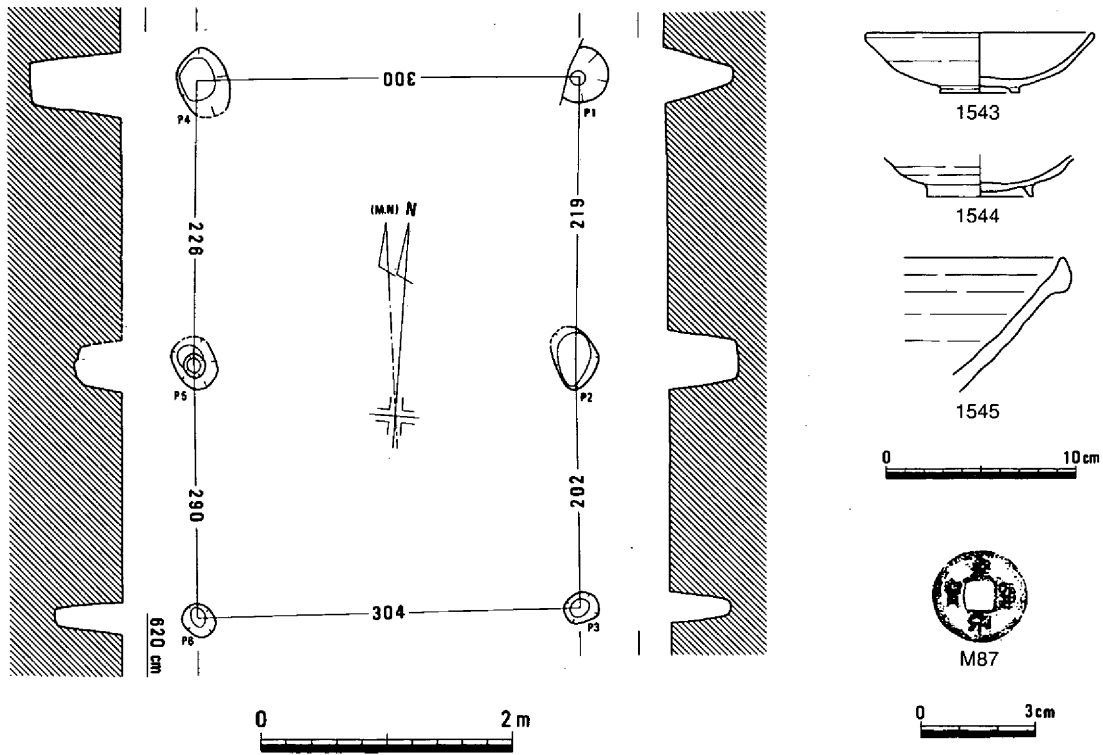
塋によって破壊をうけていた。桁行全長が740cm、梁間全長は300cm、床面積は21.5m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は120~165cmと差が大きく、西側2間が160cm程度であるのに比べ、東側3間は140cm前後と狭かった。柱穴は円形で、長径が30~57cmと幅があったが、隅の柱穴と、前述の西側2間と東側3間の境にあたるP3とP8の径が他より大きく、部屋割りに伴う構造上の必要によるものかと考える。柱穴の深さは40~88cmで、柱痕の直径は17~23cmを測った。構造などから中世の建物と考える。(岡本)



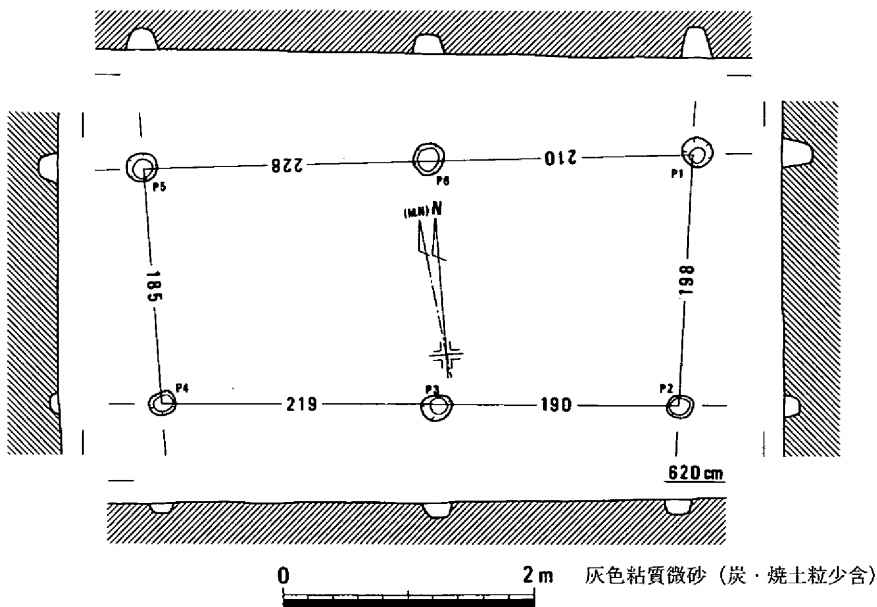
第475図 掘立柱建物31 (1/80)・出土遺物 (1/4,1/3)

掘立柱建物31 (第458・475図、図版100)

調査区の東半にあった方形区画の北西隅で検出された大形の掘立柱建物である。掘立柱建物29・30・32・38と重複関係にあり、すぐ東に接近していた掘立柱建物39とも共存しえない。土壌179の埋没後に建てられ、掘立柱建物30よりは新しい年代の建物と考えられる。桁行が3間、梁間は2間の東西棟の建物で、棟の方向はN-87°-Wであった。桁行全長が842cm、梁間全長は508cm、床面積は42.8㎡



第476図 掘立柱建物32 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2)

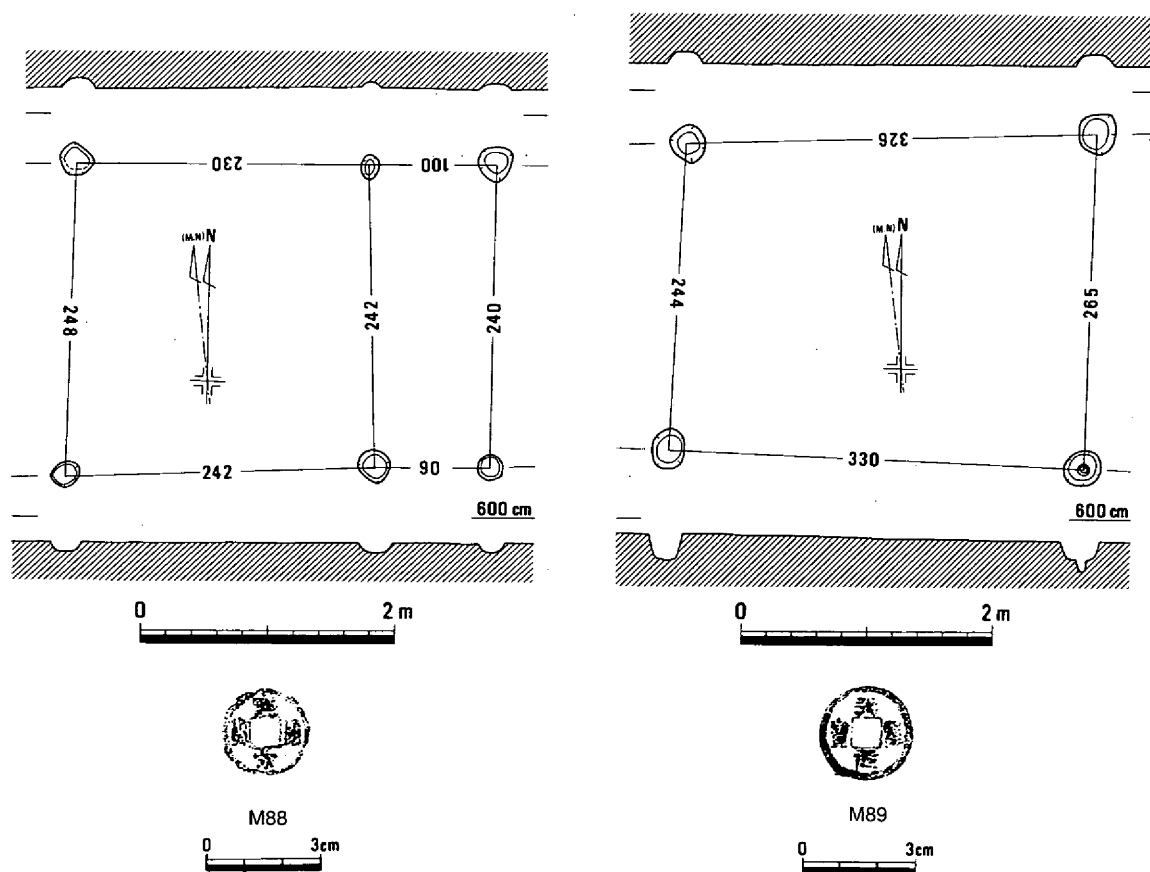


第477図 掘立柱建物33 (1/60)

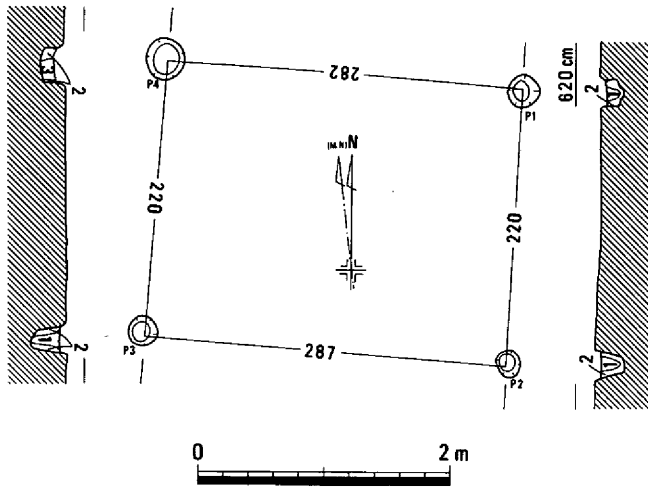
を測った。桁行の柱間は、西側の1間が230・245cmであるのに対し、東側の2間は300～307cmを測り、60cmほどの差がみられた。また、梁間でも北側の298cmに対し、南側は210・245cmで、さらに大きな差がみられた。この建物では桁行の対面する各柱穴間にも柱穴が検出され、総柱建物の構造となっていた。中間の柱穴までの柱間も、南側が202・203cm、北側が293・285cmと梁間と同じような大きな差がみられた。総柱の構造から床張りの建物と考えられるが、柱穴の配置からは倉庫以外の可能性が高く、住居とみられる。土師器の椀や皿、鉄釘、土錘が出土し、鎌倉時代後半の建物と考える。(岡本)  
**掘立柱建物32** (第458・476図)

調査区の中央、Ce502区で検出した。掘立柱建物30・31と重複関係にあった。西にあった掘立柱建物29とは1m、東にあった掘立柱建物39とは2.5m離れていた。桁行が2間、梁間が1間の南北棟の建物で、棟の方向はN-3°-Eであった。桁行全長が426cm、梁間は304cm、床面積は12.8㎡を測った。桁行の柱間は200～226cmで、北側が南側より20cmほど長かった。柱穴は楕円形で、長径が27～55cmと差が大きく、これは南東隅と南西隅の柱穴が極端に小さかったためである。この2柱穴については柱痕のみを掘り下げた可能性がある。柱穴の深さは38～73cmを測り、深い北西隅の柱穴と浅い西桁中央柱穴以外は50～60cmで揃っていた。P5の柱痕は直径20cmであった。出土遺物には魚住焼のこね鉢や銭貨「皇宋通寶」がみられた。掘立柱建物31との関係から鎌倉時代前半の建物と考える。(岡本)  
**掘立柱建物33** (第458・477図)

調査区の東半部、掘立柱建物15の北隣りに位置する2×1間の掘立柱建物である。規模は桁行438cm、梁間198cmで、桁行の柱間距離は190～228cmを測る。柱穴の掘り方は直径20～25cmの円形と小さ

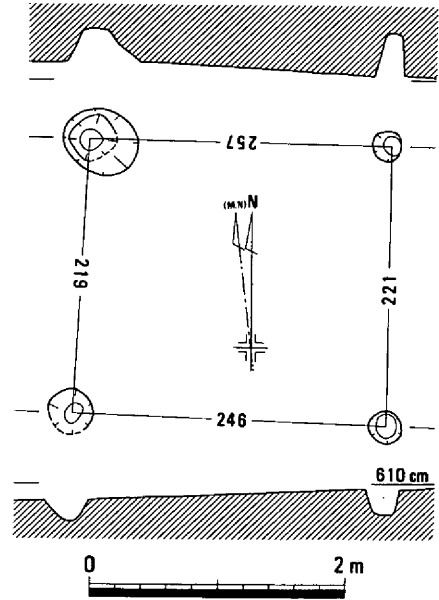


第478図 掘立柱建物34 (1/60)・出土遺物 (1/2) 第479図 掘立柱建物35 (1/60)・出土遺物 (1/2)



- 1 灰褐色 (10YR4/2) 砂質土      3 灰褐色 (10YR6/2) 砂質土
- 2 灰褐色 (10YR5/2) 砂質土

第480図 掘立柱建物36 (1/60)

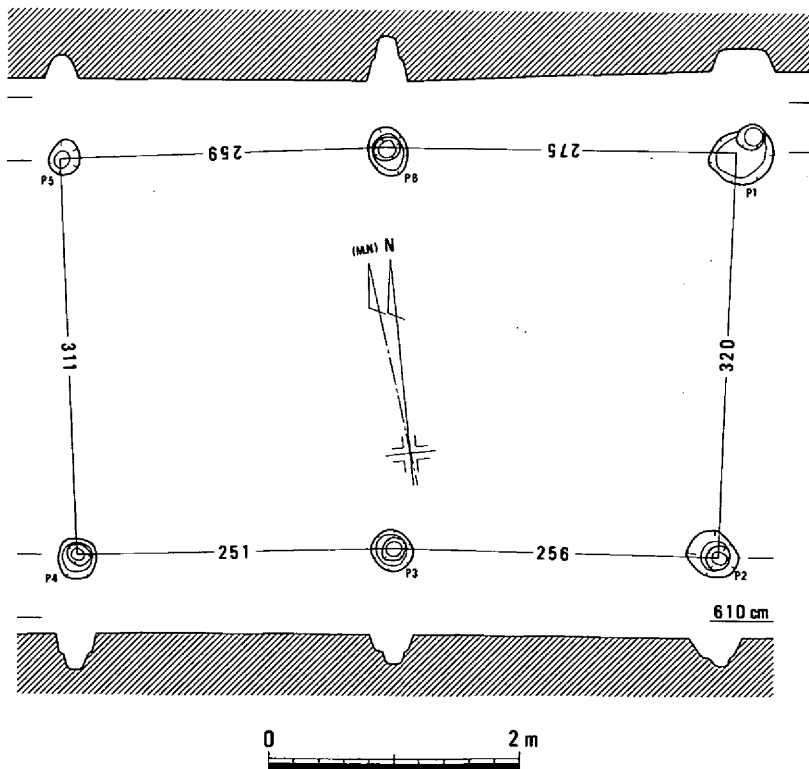


第481図 掘立柱建物37 (1/60)

く、深さも5~25cm残存していたにすぎない。埋土は炭・焼土粒を少量含む灰色粘質微砂であった。棟方向はN-87°-Eで、面積は8.1m<sup>2</sup>と小規模である。規模的には掘立柱建物39・49などとの類似性を指摘することができる。遺物は土器片が少量出土したのみで、時期は柱穴の形状や埋土、規模などから中世と考えている。(平井)

**掘立柱建物34 (第458・478図)**

調査区の東部北半、Cd503区で検出された。調査区東半の方形区画外にあり、建物の棟方向は溝34



第482図 掘立柱建物38 (1/60)

とも平行しない。おそらく方形区画が形成される以前の遺構と考えられる。東西棟の建物で、棟の方向はN-85°-Wであった。桁行方向に3個の柱穴が検出されたが、東側1間の柱間は90・100cmで、西側の柱間230・242cmよりはかなり短かった。このため、1間×1間の建物の東に庇を付けた建物を考えたい。梁間は248cmで、床面積は8.1m<sup>2</sup>であった。柱穴は円形で、長径が20~28cm、深さは5~8cmにすぎず、残存状態は悪かった。柱痕は認められなかった。出土遺物として銭貨「皇宋通寶」が1枚あった。前述したように、方形区画溝との関係から鎌倉時代前半以前の建物と考えたい。(岡本)

**掘立柱建物35 (第458・479図)**

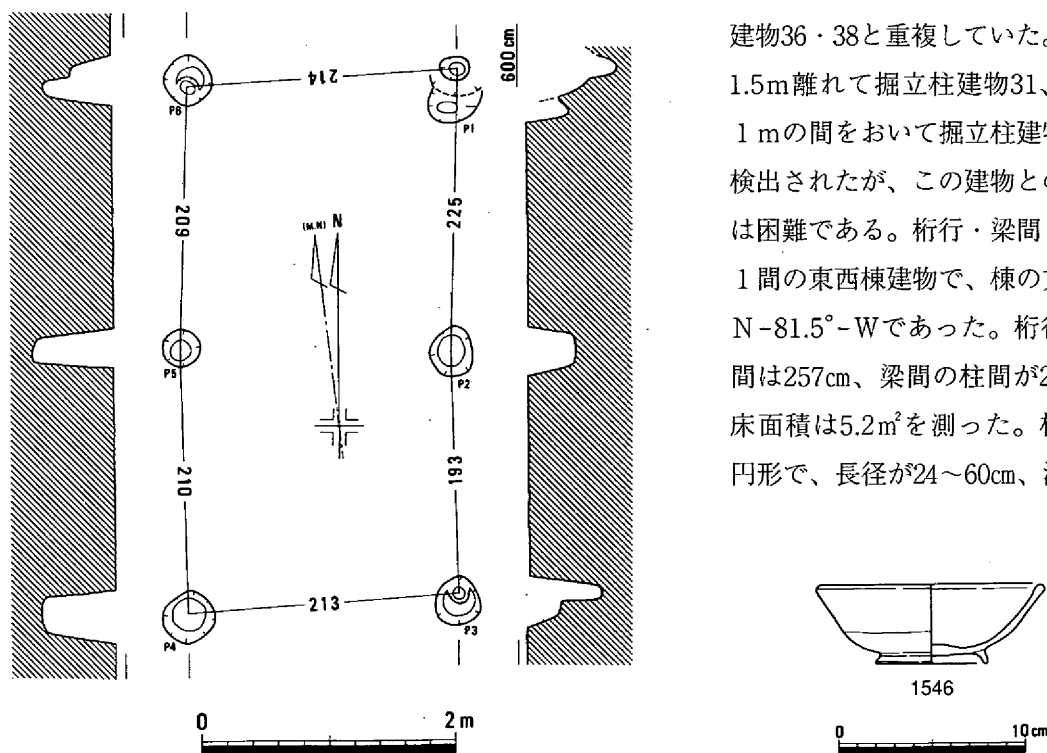
Cd503区で検出された。掘立柱建物34の南に接するように位置していたため同時の存在は考えられない。両者の面積がほぼ等しいことから、あるいは建て替えられた可能性もある。この建物は溝32を跨ぐように位置していて、両者の共存はありえない。桁行・梁間ともに1間の建物で、桁行が330cm、梁間は265cm、床面積は8.3m<sup>2</sup>を測った。東西棟の建物で、棟方向はN-83°-Wであった。柱穴は円形で、長径が29~33cm、深さは10~20cm、南東柱穴の柱痕は直径が10cmを測った。出土遺物に銭貨「天聖元寶」があった。掘立柱建物34と同様に鎌倉時代前半以前の建物と考えたい。(岡本)

**掘立柱建物36 (第458・480図)**

調査区の東部北半、Cd503区で検出された。掘立柱建物35から1m南に位置し、掘立柱建物37・38と重複していた。桁行・梁間ともに1間の東西棟建物で、棟の方向はN-78.5°-Wであった。桁行長は287cm、梁間長が220cm、床面積は6.2m<sup>2</sup>を測った。柱穴は円形で、長径が22~34cm、深さは18~24cmであった。いずれの柱穴でも柱痕跡が確認され、その直径は11~17cmを測った。柱穴からは中世の土器片が出土したが、時期を細かくは確定できなかった。溝32と平行するようにもみえる。(岡本)

**掘立柱建物37 (第458・481図)**

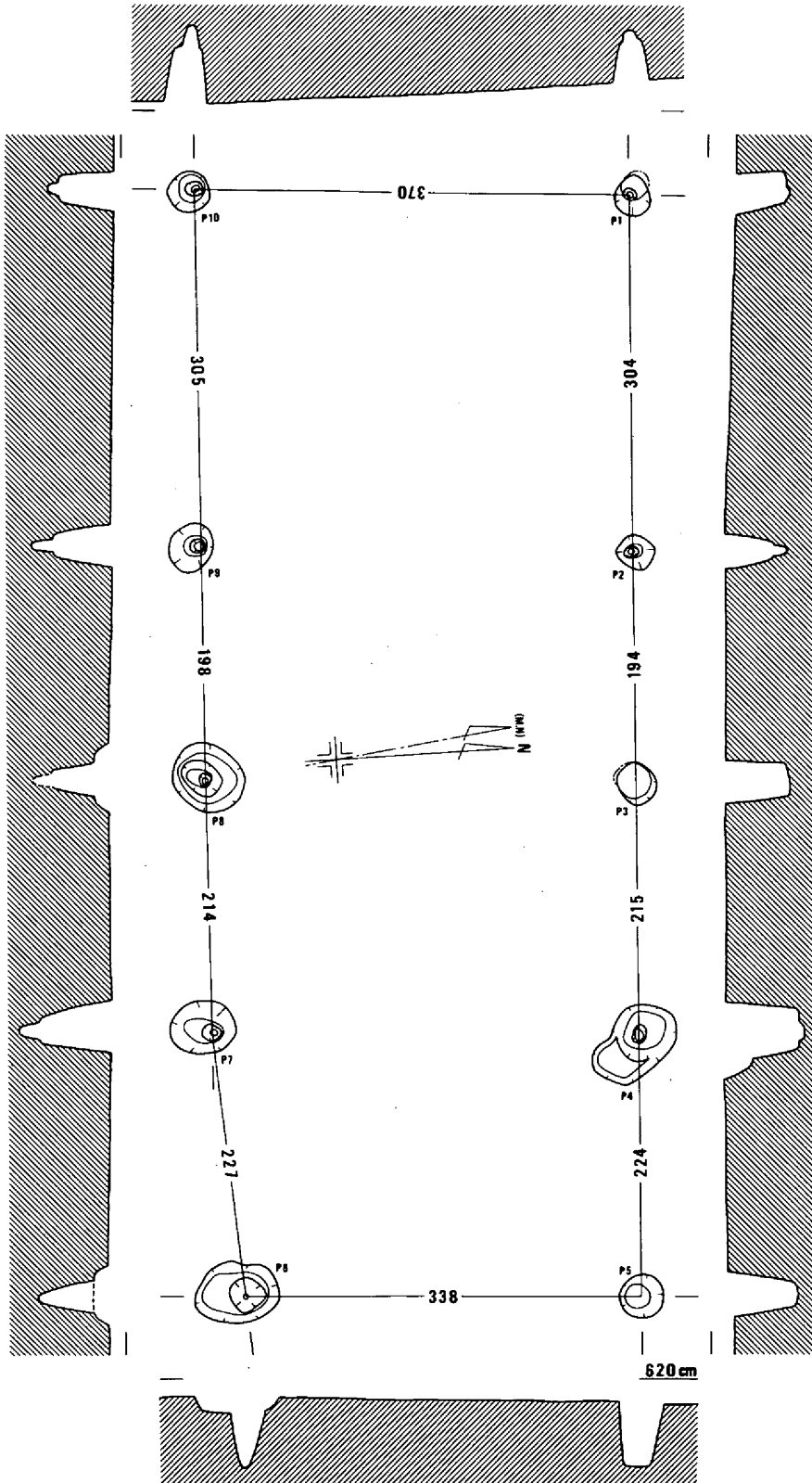
Cd503区で検出され、掘立柱建物36・38と重複していた。西に1.5m離れて掘立柱建物31、南に1mの間をおいて掘立柱建物39が検出されたが、この建物との共存は困難である。桁行・梁間ともに1間の東西棟建物で、棟の方向はN-81.5°-Wであった。桁行の柱間は257cm、梁間の柱間が221cm、床面積は5.2m<sup>2</sup>を測った。柱穴は円形で、長径が24~60cm、深さは



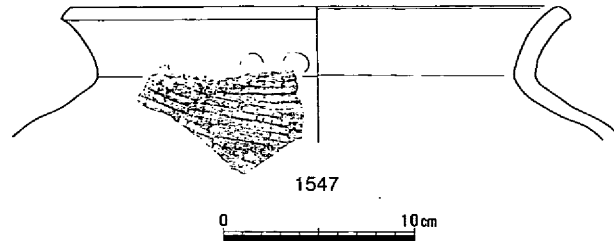
第483図 掘立柱建物39 (1/60)・出土遺物 (1/4)



19~33cmで、北西柱穴のみが大きく崩れたようであった。時期不明の中世土器片が出土した。(岡本)



第484図 掘立柱建物40 (1/60)



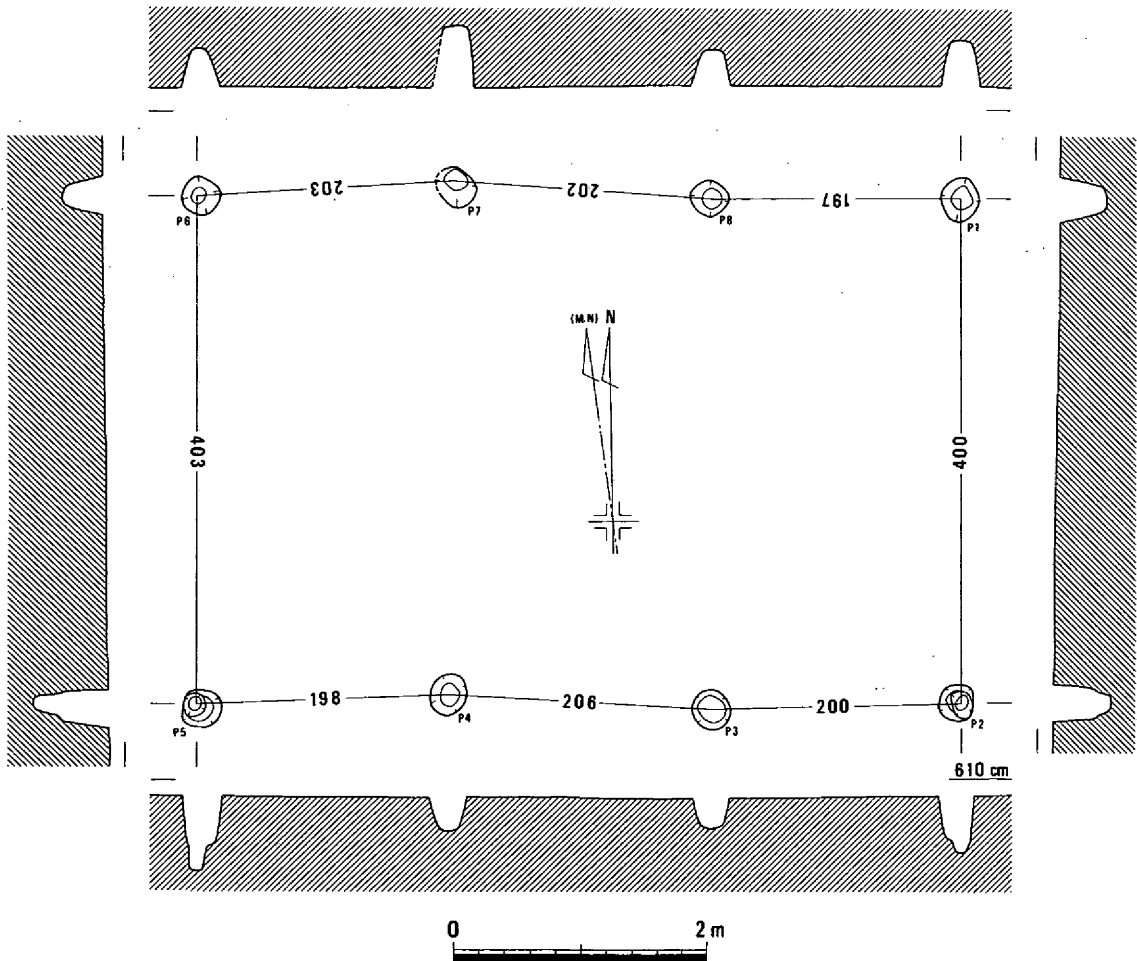
第485図 掘立柱建物40出土遺物 (1/4)

掘立柱建物38 (第458・482図)

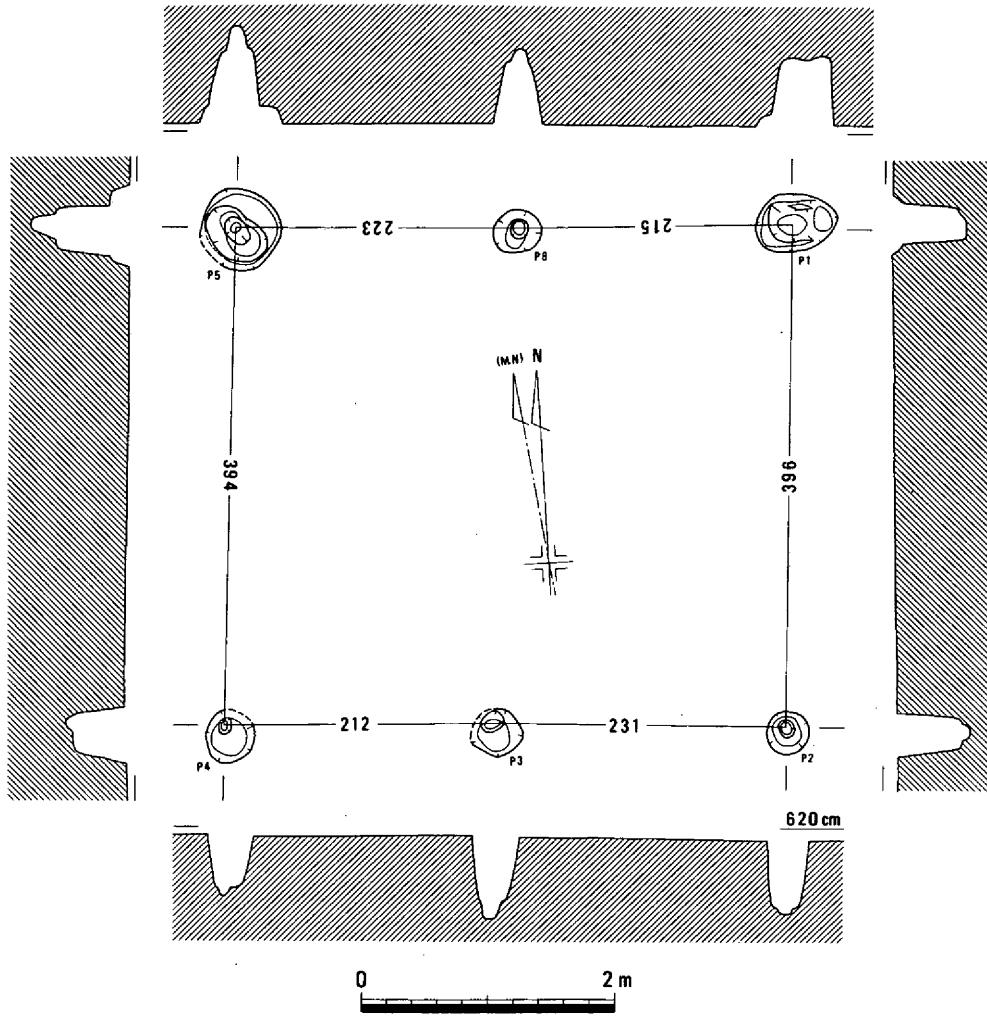
調査区の東部北半、Cd503区とCe503区に跨って検出された。掘立柱建物31・36・37・39と重複していた。北桁行は溝32によって囲まれた方形区画の北辺と平行していたが、溝32と連続する溝34を跨ぐようで、方形区画に伴うかは断定できない。東西棟の建物で、棟方向はN-77°-Wであった。桁行が2間、梁間は1間の構造で、桁行全長が534cm、梁間は320cm、床面積は16.4㎡を測った。柱穴は円形に近く、長径が28~52cm、深さは18~36cmで、P5以外では柱のめり込み痕跡が認められた。この柱痕の直径は20cm前後であった。土師器の高台付椀が出土し、鎌倉時代の建物と考える。(岡本)

掘立柱建物39 (第458・483図)

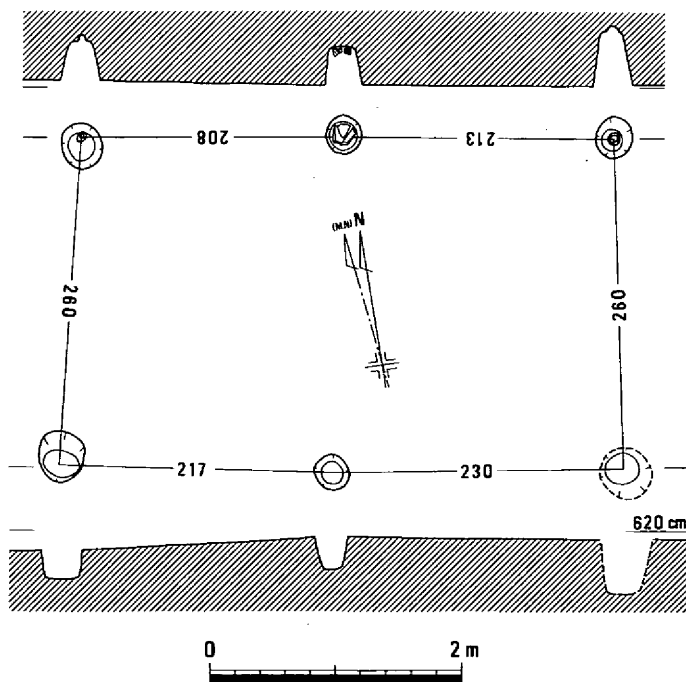
Ce503区で検出された。掘立柱建物38と重複し、西にあった掘立柱建物31とも80cmしか離れてい



第486図 掘立柱建物41 (1/60)



第487図 掘立柱建物42 (1/60)

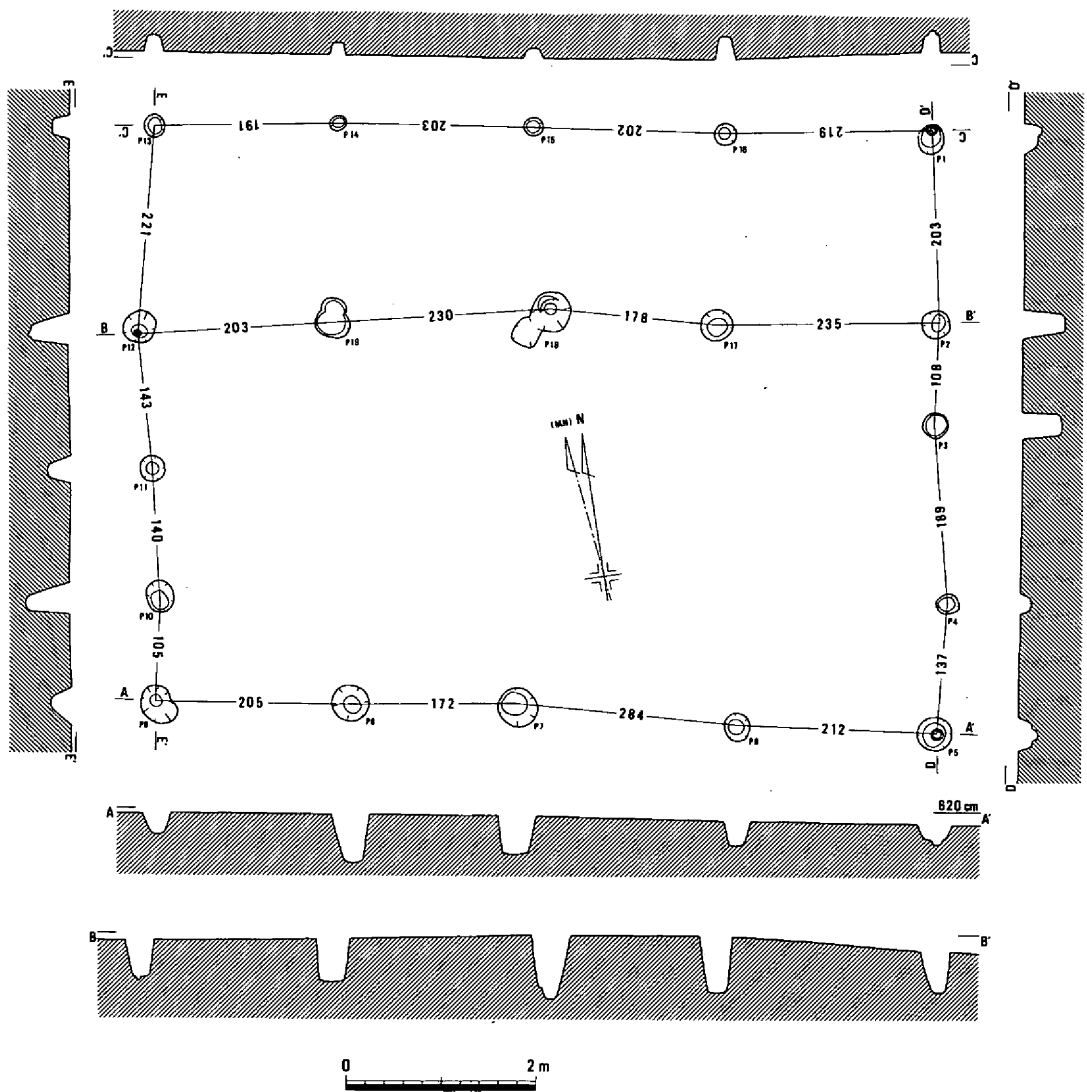


第488図 掘立柱建物43 (1/60)

なかったため、同時の存在は考えられない。西には2.5m離れて掘立柱建物32があり、南1.5mには掘立柱建物40が存在した。棟方向がほぼ直交する掘立柱建物41は南へ4m離れていた。桁行が2間、梁間は1間の南北棟の建物で、棟の方向はN-7°-Eであった。桁行全長は419cm、梁間は214cmで、床面積は8.9㎡を測った。柱間は桁行が193~225cmで、梁間も含め、近似した値を示していた。柱穴は円形で、長径が30~40cm、深さは38~64cmを測った。P1・P3・P6で柱のめり込み痕跡が認められ、その直径は15~20cmであった。出土遺物として土師器の高台付椀がある。1546の口径は117mmに復元される。13世紀後半の年代が与えられ、鎌倉時代後半の建物と考えられる。 (岡本)

**掘立柱建物40 (第458・484・485図、図版19)**

調査区の東部中央付近、Ce503区を中心に検出された大形の建物である。南に位置する掘立柱建物41と重複し、土壇184や溝35の埋没後に建てられていた。桁行が4間、梁間は1間の東西棟の建物で、棟の方向はN-81°-Wであった。南東隅の柱穴が北にずれていたために平面形はやや歪んでいたが、桁行全長が943cm、梁間は370cm、床面積は34.4㎡を測った。桁行の柱間は、東から3間が194~227cmであるのに対し、西端の1間は304・305cmとかなり広がっていた。部屋割りに伴うもので、



第489図 掘立柱建物44 (1/80)

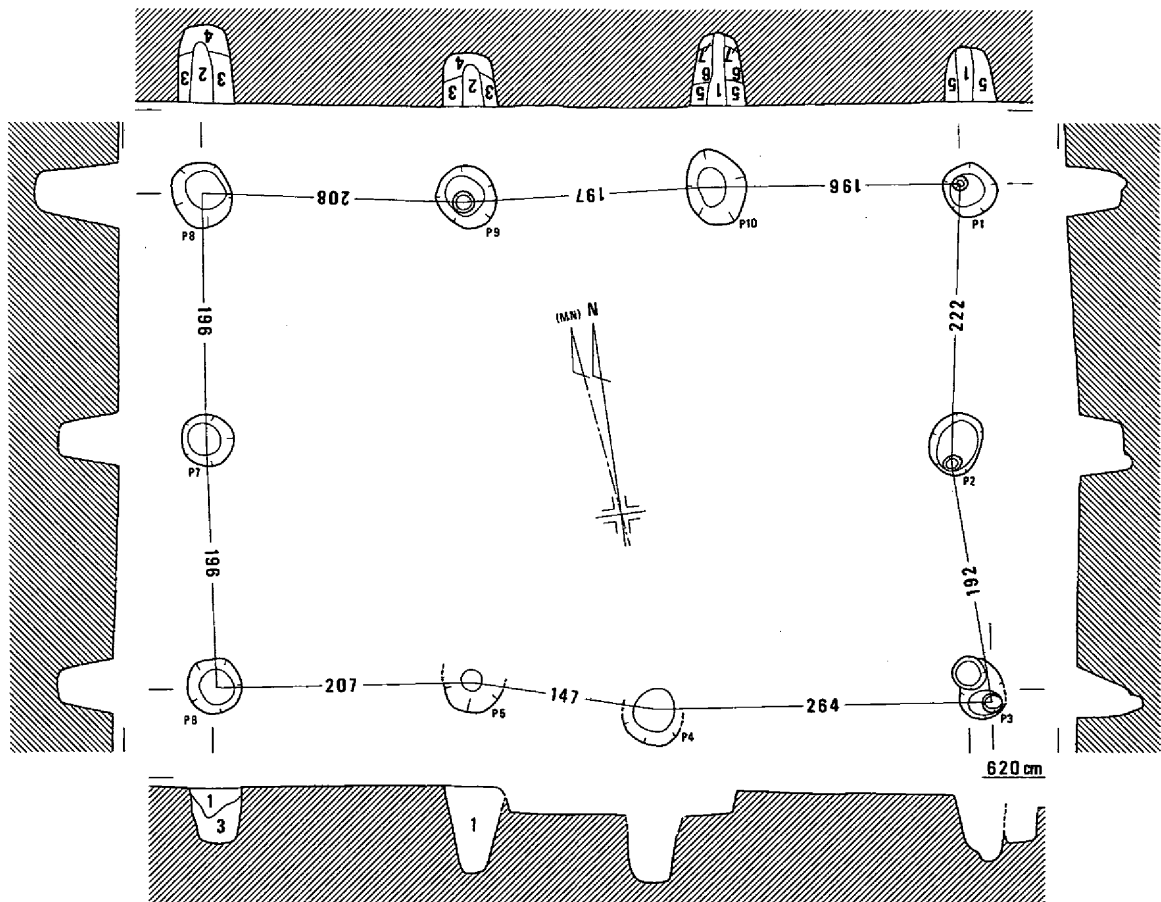
あるいは西側1間が土間で、他が床張りというような構造上の違いがあったのかもしれない。柱穴は円形か楕円形で、長径が35~80cm、深さは42~80cmと差が大きく、西端1間の四隅の柱穴が小さめだった。1547の亀山焼の甕も出土したが、遺構の重複関係から14世紀以降の建物と考える。(岡本)

**掘立柱建物41** (第458・486図、図版19)

掘立柱建物40と重複し、Cf503区を中心に検出された。調査区東半の方形区画の中央付近に位置していた。2.5m南には掘立柱建物42、4m東には掘立柱建物48が検出された。桁行が3間、梁間は1間の東西棟の建物で、棟の方向はN-82°-Wであった。桁行の全長が604cm、梁間は403cmで、床面積は24.2㎡を測った。桁行の柱間は197~206cmとほぼ均等で、梁間の柱間は桁行の柱間の倍となっていた。規格的に整った建物といえる。柱穴は円形で、長径が31~35cm、深さは24~50cmと、規模としては揃っていた。P2とP5で直径が20cmの柱痕が確認された。柱穴からは中世の土器片が少量出土したが、年代を確定できるものはみられなかった。時期的に掘立柱建物40と近接するか。(岡本)

**掘立柱建物42** (第458・487図)

調査区東部の南半、Cf502区とCf503区に跨って検出された。東西棟の建物で、棟方向はN-79°-Wであった。桁行2間、梁間1間の構造で、桁行全長は443cm、梁間が396cm、床面積は17.4㎡を



- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (焼土塊含)
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土 (焼土・炭含)
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
- 6 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 7 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土



第490図 掘立柱建物45 (1/60)

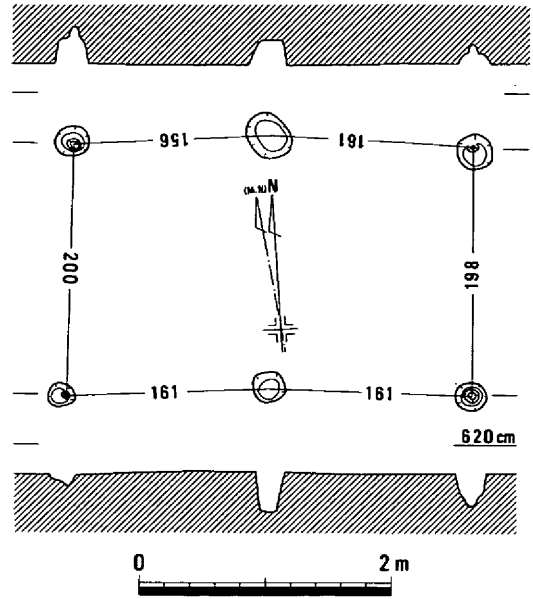
測った。桁行の柱間は212~231cmで、梁間はその倍に近かった。柱穴は円形か楕円形であった。P1とP5は浅い一段目が大きかったが、それより下部は長径が55cmで、他の柱穴の長径35~44cmと大差はなかった。土師器の高台付椀が出土し、鎌倉時代の建物である可能性が高い。(岡本)

**掘立柱建物43** (第458・488図、図版20)

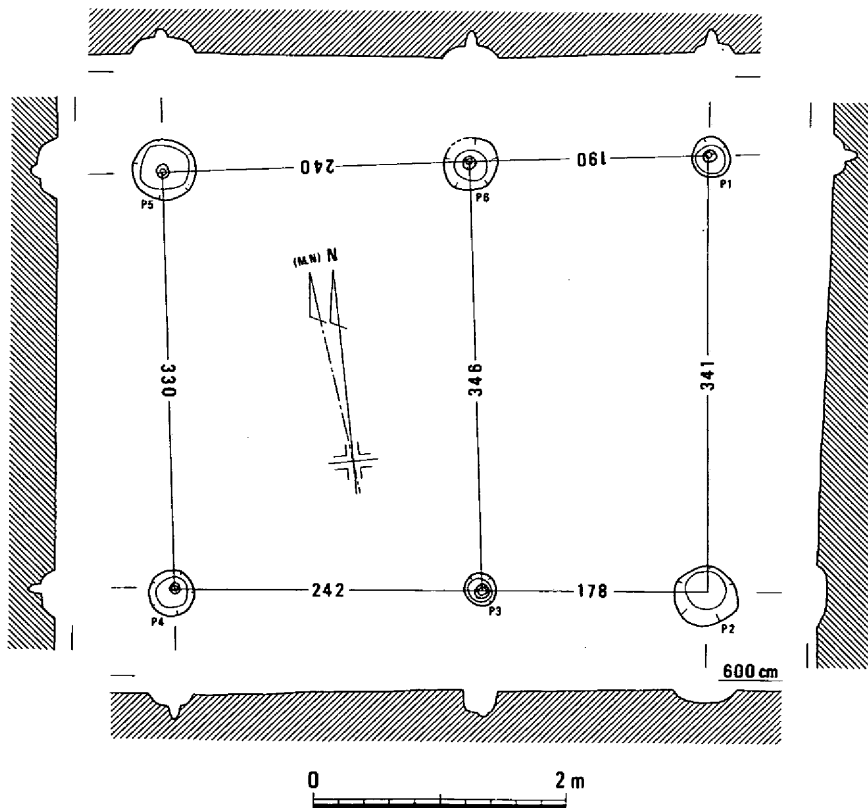
調査区東部の南端で検出され、掘立柱建物44・45と重複していた。東西棟の建物で、棟の方向はN-74°-Wであった。平面形はやや歪んでいた。桁行2間、梁間1間の構造で、桁行全長は447cm、梁間が260cm、床面積は11.2m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は208~230cmで、大きな差はみられなかった。柱穴は円形で、長径が29~40cm、深さは22~43cmであった。北東隅と北西隅の柱穴で直径10cmの柱痕が認められた。建物の時期は不明である。(岡本)

**掘立柱建物44** (第458・489図、図版20)

調査区の東部南端、Cg503区で検出された。溝32に囲まれた方形区画の南北中軸線上にあり、区画の南端部に配置されていた。棟の方向は方形区画の北辺とほぼ平行し、区画内に検出された建物の中では最大の規模をもつことから、方形区画に伴う母屋のような中心的な建物と考える。建物は東西



第491図 掘立柱建物46 (1/60)

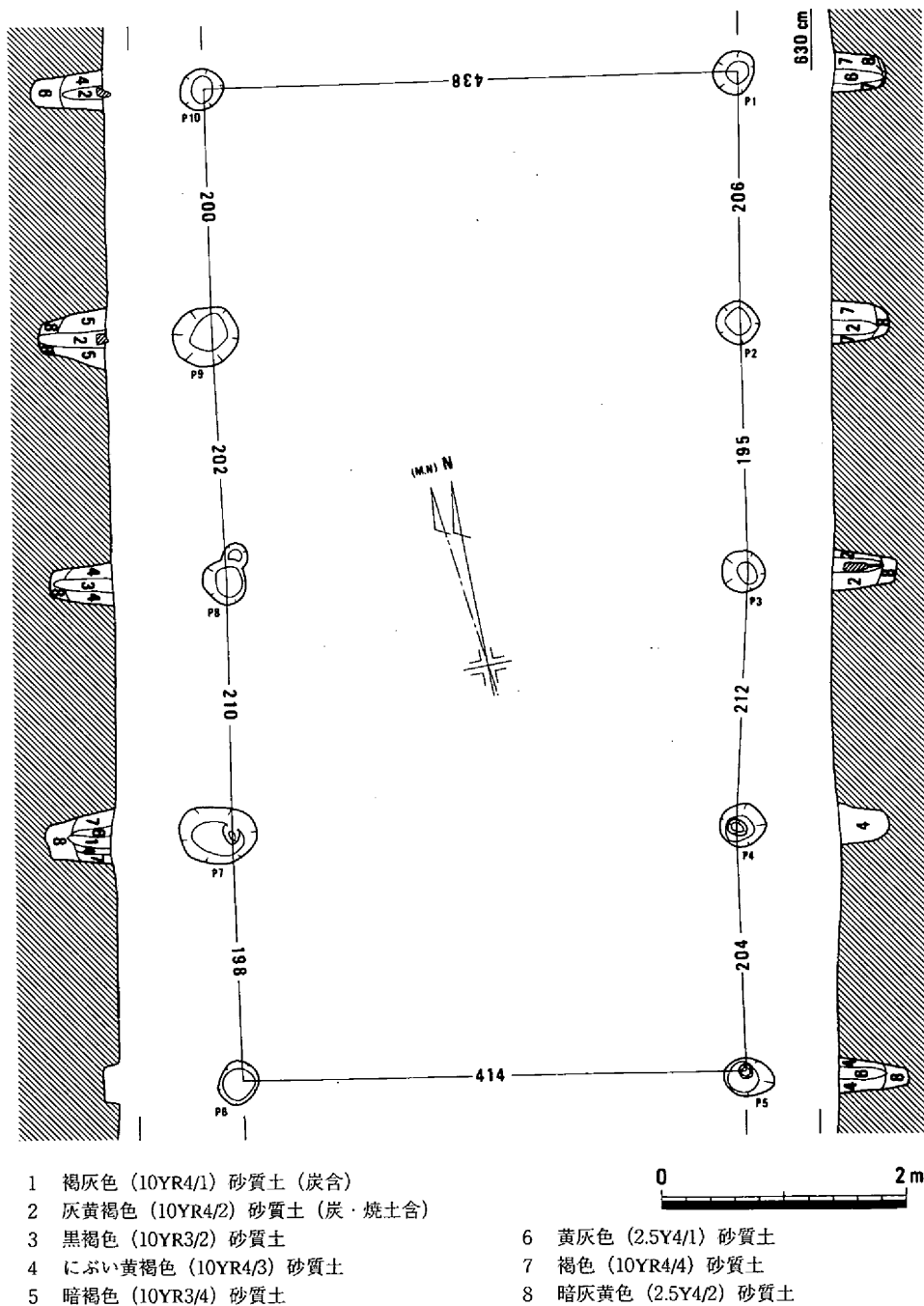


第492図 掘立柱建物47 (1/60)

棟で、棟の方向はN-74°-Wであった。北辺の柱穴は径が小さくて浅く、また、梁間の北端1間がとくに長かったため、北側の1間は底と考える。身舎は桁行4間、梁間3間とみられたが、梁間中央の2個の柱穴は小さく、柱間も105~189cmと一定しなかったため、東柱である可能性がある。底部分も含めて、桁行全長は823cm、梁間全長が637cm、床面積は50.8m<sup>2</sup>を測った。柱穴は円形で、長径が18~44cm、深さは12~66cm、柱痕の直径は9~12cmであった。中世の土器片が出土したが、時期は確定できない。方形区画に伴うことからすると室町時代の建物ではないかとみられる。(岡本)

掘立柱建物45 (第458・490図、図版20)

掘立柱建物44の建坪内に収まる形で重複していた。桁行が3間、梁間は2間の東西棟建物で、棟の



第493図 掘立柱建物48 (1/60)

方向はN-76°-Wであった。桁行全長は600cm、梁間全長が392cm、床面積は23.4m<sup>2</sup>を測った。平面形は東辺で歪みがみられた。桁行の柱間は、南辺で147cmと264cmという大差がみられたが、他は196~208cmでほぼ一定し、梁間の柱間も192~222cmで桁行と近似していた。柱穴は円形ないしは楕円形で、長径が41~62cm、深さは35~72cmであった。北桁行の柱穴では柱痕が確認され、その直径は13~18cmを測った。中世の青磁碗の破片や土師器片が出土したが、時期は確定できなかった。(岡本)

**掘立柱建物46 (第458・491図)**

調査区東部の北半、Ce504区で検出された。溝34の埋没後に建てられていた。桁行2間、梁間1間の東西棟の建物で、棟の方向はN-79.5°-Wであった。桁行全長は322cm、梁間は200cm、床面積は6.3m<sup>2</sup>を測った。柱間は、桁行が158・161cm、梁間は198・200cmと、いずれもほぼ一定であった。柱穴は円形で、長径が22~38cm、深さは10~32cmと差が大きかった。室町時代の建物と考える。(岡本)

**掘立柱建物47 (第458・492図)**

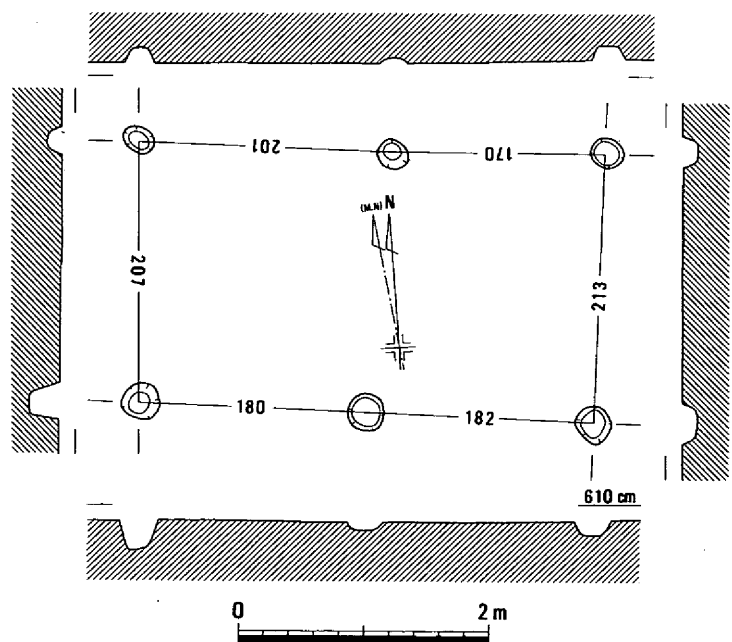
掘立柱建物46から2.3m東で検出された。東西棟で、棟の方向はN-78°-Wであった。桁行2間、梁間1間の建物で、桁行全長430cm、梁間341cm、床面積は14.3m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は東が178・190cm、西が242・240cmで、均等にはなっていなかった。桁行の柱間も330・341cmでわずかな差がみられた。柱穴は円形で、長径が27~50cm、深さは8~16cmであった。ほとんどの柱穴で杭穴状の柱のめり込み痕跡を認めた。直径は10cm前後であった。時期不明の中世の土器片が出土した。(岡本)

**掘立柱建物48 (第458・493図)**

調査区東部の中央付近、Cf503・504区に跨って検出された。南北棟の大形建物で、棟の方向はN-17°-Eを測り、掘立柱建物44の棟方向と直交していた。桁行4間、梁間1間の構造で、桁行全長は814cm、梁間が438cm、床面積は34.6m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は195~212cmで、ほぼ均等に柱穴が配置されていた。柱穴は円形ないしは楕円形で、長径が36~65cm、深さは40~60cmで、P6のみが13cmと極端に浅かった。P4・P6以外の柱穴で柱痕を確認した。柱穴の底に暗灰黄色砂質土の堆積があり、それより上方で杭状の柱痕がみられた。柱痕の直径は10~15cmであった。鉄釘や備前焼小片が出土し、棟方向からは室町時代の建物と考えたい。(岡本)

**掘立柱建物49 (第458・494図)**

掘立柱建物48の南東角に近接し、掘立柱建物50と重複していた。桁行2間、梁間1間の東西棟建物で、棟の方向はN-77°-Wであった。桁行全長は371cm、梁間が213cm、床面積は7.7m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は170~201cmで、北桁の2間は不均等だった。柱穴は円形で、長径が25~30cm、深さは5~22cmで、桁行中央柱穴が浅かった。遺物はなく、時期は不明である。(岡本)

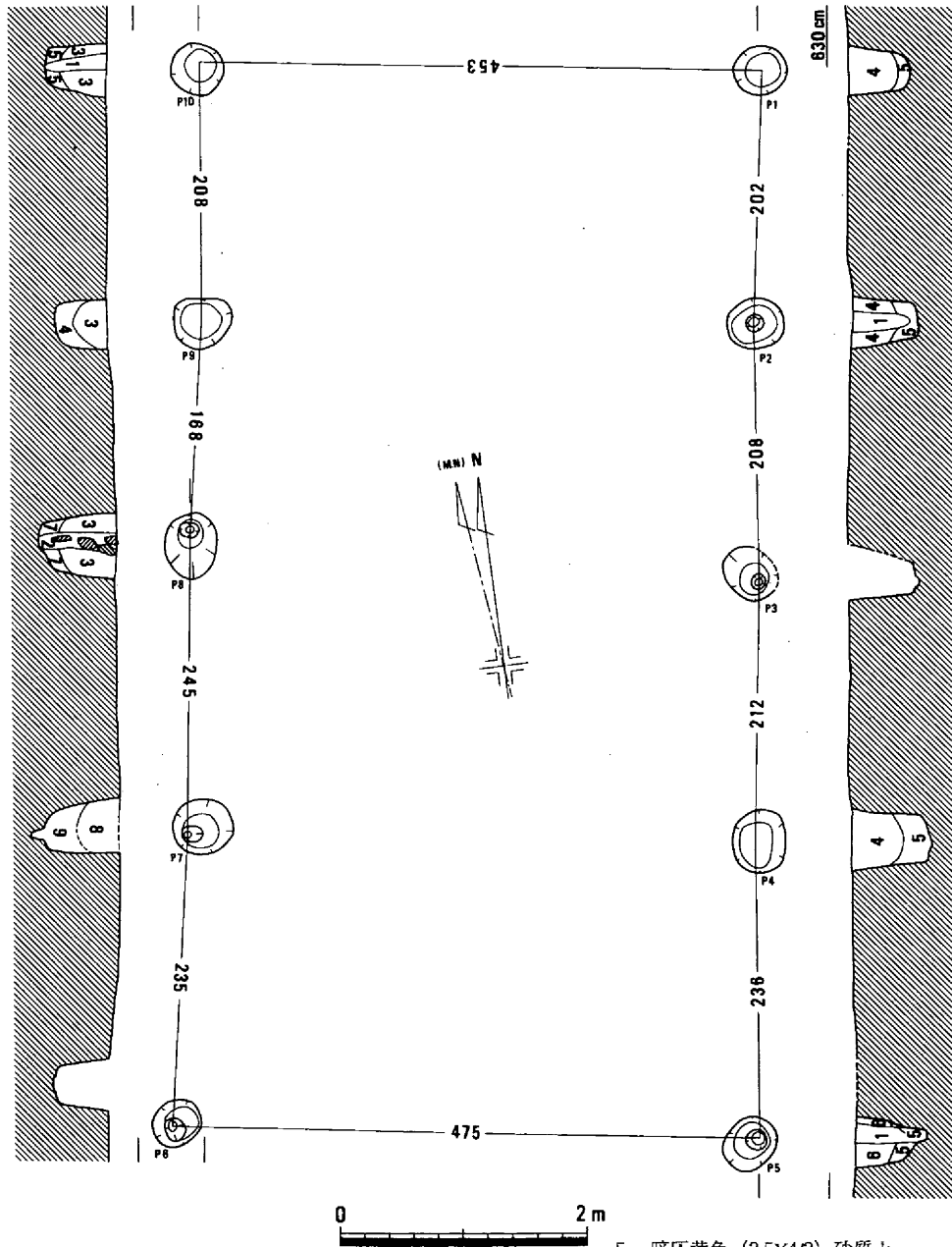


第494図 掘立柱建物49 (1/60)



掘立柱建物50 (第458・495図、図版20)

調査区の南東隅、Cg504区を中心に検出された。掘立柱建物49・51・52と重複し、北に1m離れた掘立柱建物48や西に1m離れた掘立柱建物44・45とも同時には存在しない。南北棟の大形建物で、棟方向はN-15°-Eであった。桁行4間、梁間1間で、桁行全長858cm、梁間475cm、床面積37.9m<sup>2</sup>を測った。桁行柱間は168~245cmと差が大きく、掘立柱建物48ほど整っていない。柱穴は円形ないしは楕円形で、長径が41~54cm、深さは45~65cmであった。ほとんどの柱穴で柱痕が確認され、その直径は13~18cmを測った。備前焼を含む少量の中世土器片が出土したが、時期は確定できない。(岡本)



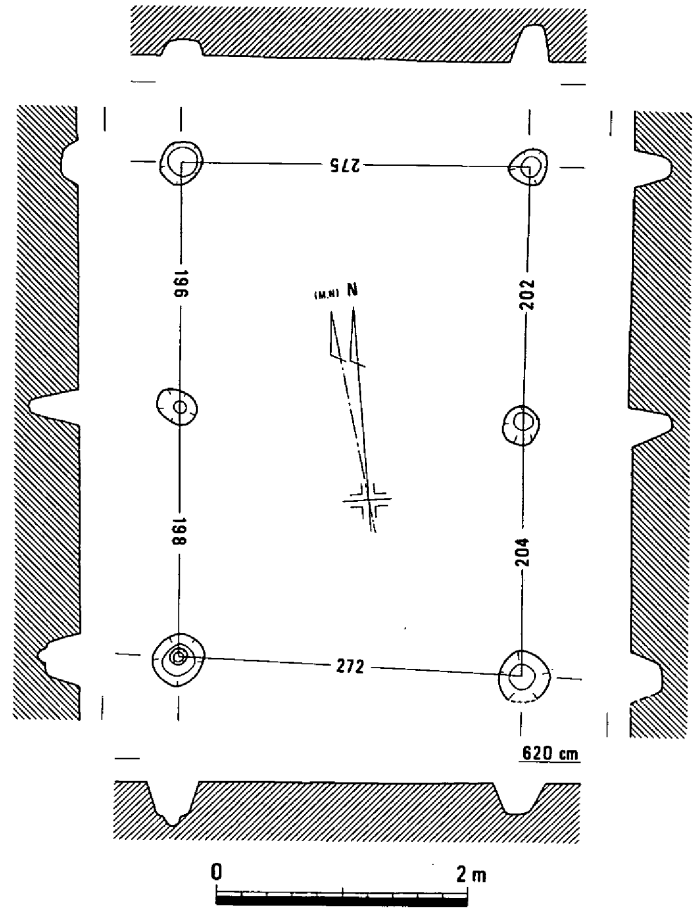
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (焼土・炭含)
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (炭・焼土含)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (炭含)

- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
- 6 褐色 (10YR4/4) 砂質土
- 7 褐色 (10YR4/6) 砂質土
- 8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土
- 9 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土

第495図 掘立柱建物50 (1/60)

**掘立柱建物51 (第458・496図)**

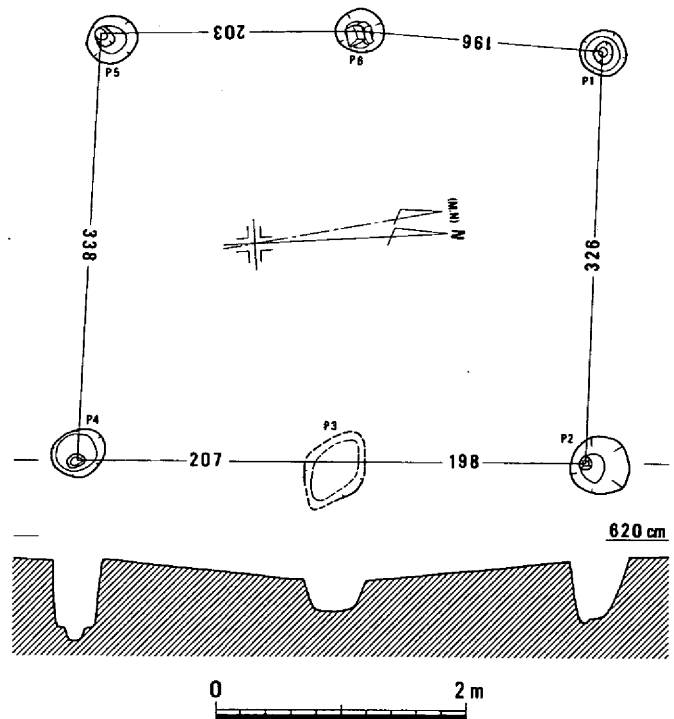
調査区の南東隅、Cg 5 04区で検出された。掘立柱建物50と重複し、溝36の埋没後に建てられていた。桁行2間、梁間1間の南北棟建物で、棟方向はN-12°-Eであった。桁行全長は406cm、梁間が275cm、床面積は8.9㎡を測った。桁行の柱間は196~204cmで、ほぼ一定の値を示し、梁間も272・275cmとほぼ等しかった。柱穴は円形で、長径が30~42cm、深さは12~40cmで、北西角の柱穴がとくに浅かった。南西角の柱穴で直径が14cmの柱のめり込み痕跡を確認した。溝36からは土師器の高台付椀が出土したため、鎌倉時代後半以降の建物と考える。(岡本)



第496図 掘立柱建物51 (1/60)

**掘立柱建物52 (第458・497図)**

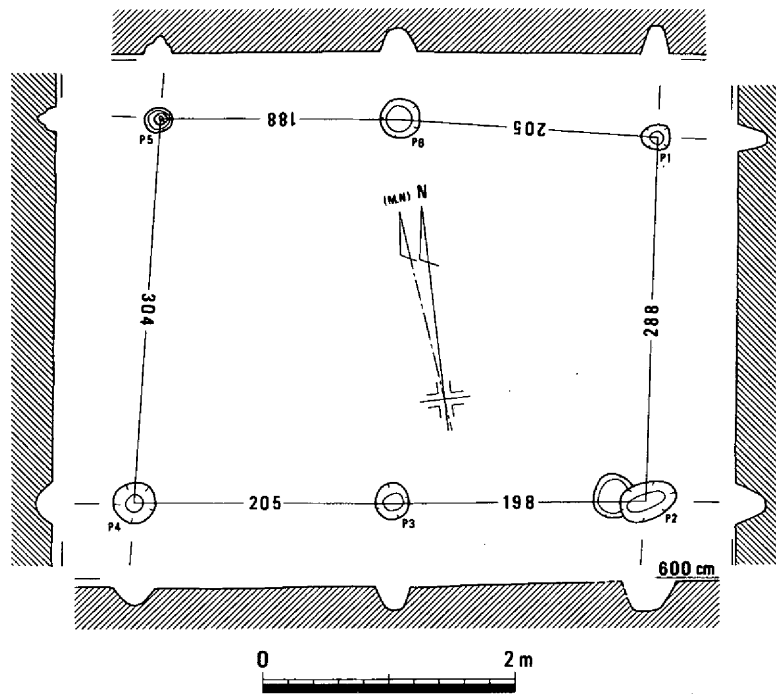
調査区の南東隅、Cg 5 04区とCh 5 04区に跨って検出された。掘立柱建物50と重複し、掘立柱建物51から1 m南に位置していた。土層185の埋没後に建てられていた。桁行2間、梁間1間の南北棟建物で、棟の方向はN-11°-Eであった。桁行全長は405cm、梁間が338cm、床面積は13.3㎡を測った。桁行の柱間は196~207cmで、ほぼ一定の値を示し、梁間では12cmの差があった。柱穴は円形で、長径が38~50cm、深さは43~55cmで、桁行中央柱穴が浅い。四隅の柱穴で直径が10~17cmの柱痕を認めた。建物の時期は不明である。(岡本)



第497図 掘立柱建物52 (1/60)

**掘立柱建物53 (第458・498図)**

調査区の東端、Cg線と5 05線の交点付近で検出された。東80cmには方形区画の溝32があり、西1.5mには掘立柱建物49が検出された。桁行



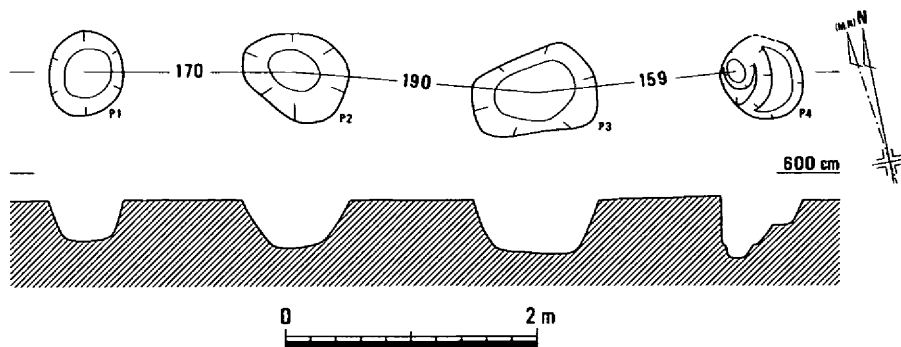
第498図 掘立柱建物53 (1/60)

2間、梁間1間の東西棟建物で、棟の方向はN-75°-Wであった。桁行全長は403cm、梁間が304cm、床面積は11.8m<sup>2</sup>を測った。桁行の柱間は188~205cmで、少し差がみられた。柱穴は円形で、長径が23~45cm、深さは10~22cm、柱痕の直径は10cmであった。遺物がなく建物の時期は不明。(岡本)

### (3) 柱穴列

#### 柱穴列1 (第458・499図)

調査区の東端、Cg504区とCg505区で検出された。東西方向に3間分、4個の柱穴を検出した。列の方向が掘立柱建物19と等しく、建物の南桁から80cmしか離れていなかったため、建物に伴う庇か縁と考える。さらに東へ続いていたものとみられる。柱間は159~170cmと一定しないが、P1が建物の角の対角線上に位置するためと思われる。柱穴は円形ないしは隅丸方形で長径が67~98cm、深さは31~42cmを測った。出土遺物はないが、掘立柱建物19に伴うことから古代の遺構と考える。(岡本)



第499図 柱穴列1 (1/60)

### (4) 土壙墓

#### 土壙墓 2 (第456・500図、図版21・102)

Cc4 05区で検出した土壙墓である。平面形は長方形で、断面も含めて全体形は箱型を呈している。規模は、長さ209cm、幅102cm、深さ15cmを測り、底面の標高は575cmである。主軸は、N-12°-Eの方向を指す。人骨は、顎、両腕、両足および肋骨等が伸展の状態で見出された。副葬品は、頭の位置とその側に置かれていた。棺釘は角と側板中央部から出土している。

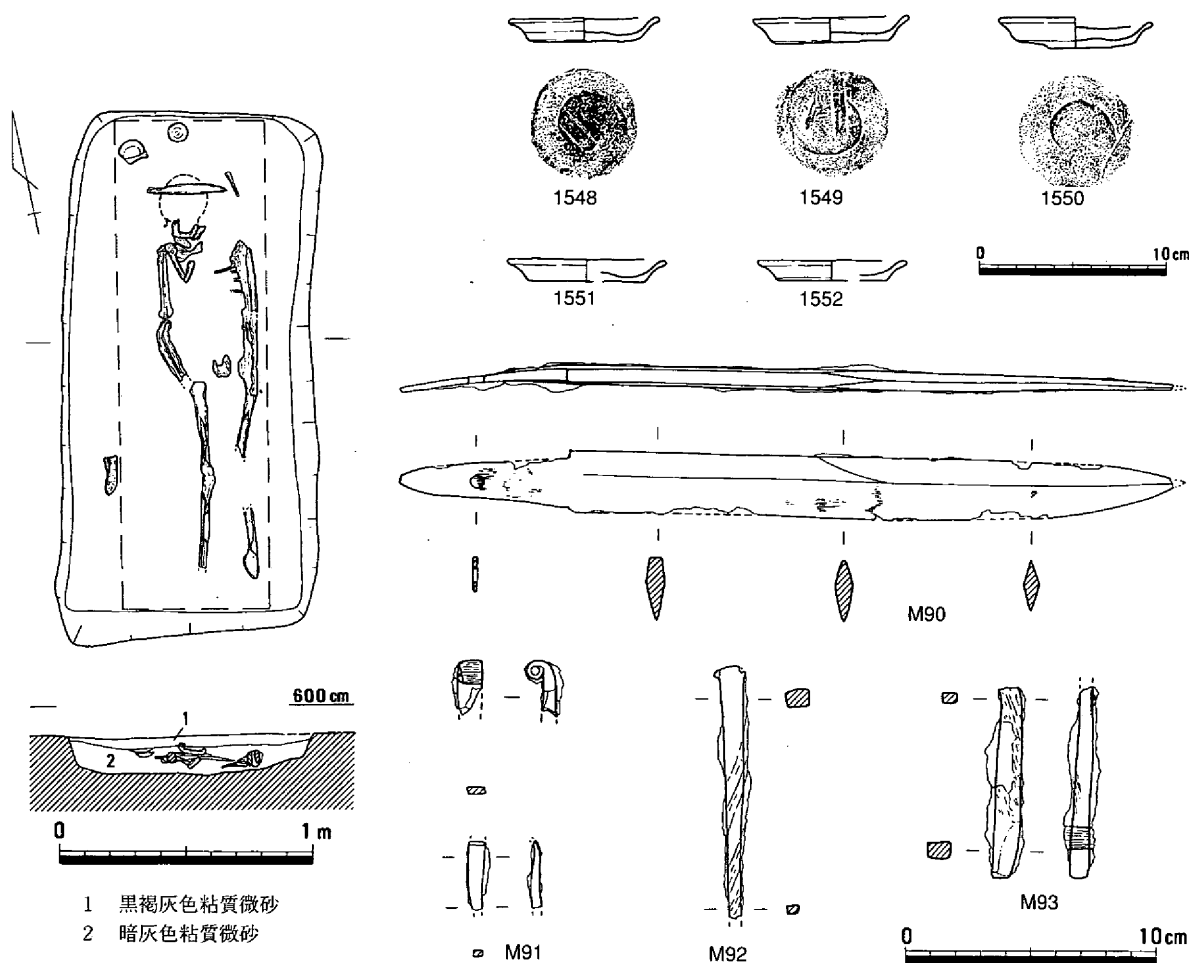
1548~1552の5枚は、土師器小皿である。ひも作りし、板目が底面に残っている。色調は灰白色をしている。小皿の口径は、8.4~8.0cmである。1548は完形品であった。M90は諸刃の剣である。柄の部分がわずかに折れ曲がっている。全長305cm、幅24cm、厚さ7cm、重量120.90gを測ることができた。棺釘は3本実測できた。M93は少し形の変った釘である。

以上の副葬品と土層から室町時代の木棺墓と考えたい。

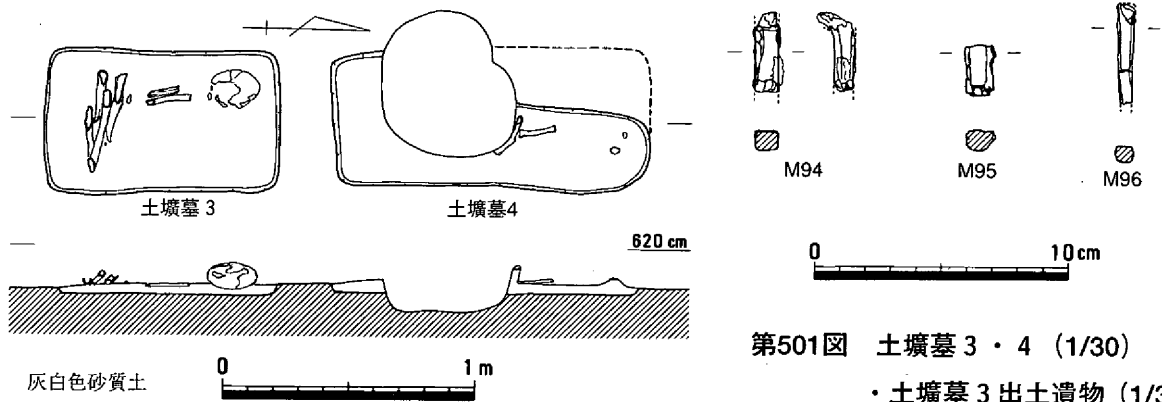
(浅倉)

#### 土壙墓 3 (第456・501図、図版21)

調査区の西半部、Ce4 07区に位置する。平面形は長さ94cm、幅59cmの長方形で、深さは検出面から5cmを測るにすぎない。内部からは図示したような配置でヒトの頭骨や下肢骨などを検出すること



第500図 土壙墓 2 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



第501図 土壙墓3・4 (1/30)  
・土壙墓3出土遺物 (1/3)

ができた。頭は北方向に向けられており、下肢は折り曲げられている。埋土は灰白色砂質土であった。また原位置ではないが鉄釘M94~96が3本出土しており、被葬者は木棺に納められていたものと推測できる。

土器などの副葬品が出土していないため詳細な時期については不明であるが、検出面や埋土の状況などから中世であると考えられる。(平井)

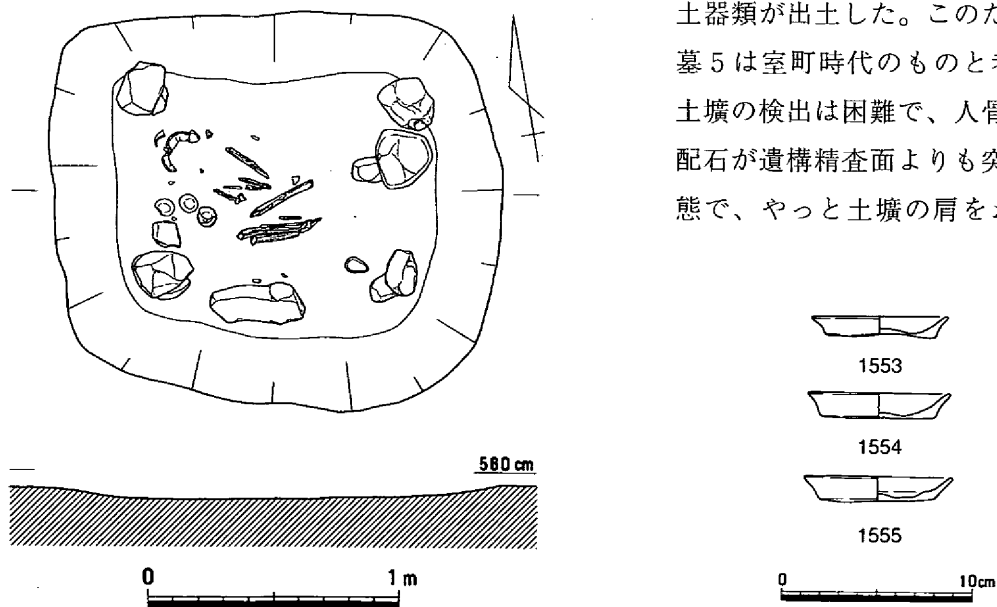
土壙墓4 (第456・501図)

調査区の西半部、土壙墓3の北隣りにおいて検出できた。平面形は西北部が不明確ではあるが、長さ128cm、幅53cmの長方形で、深さは検出面から6cmを測るにすぎない。また南半部は一部柱穴によって壊されていた。内部からは人骨が少量出土したが、埋葬状況は明らかとはならなかった。

土器などの副葬品が出土していないため詳細な時期については不明であるが、検出面や埋土の状況などから中世と考えている。(平井)

土壙墓5 (第458・502図、図版21)

調査区中央部の北端、Cc502区で検出され、河道3の埋没後に掘られていた。溝31は河道3に流れ込んでいたとみられ、鎌倉時代の土器類が出土した。このため、土壙墓5は室町時代のものと考えたい。土壙の検出は困難で、人骨や周囲の配石が遺構精査面よりも突出した状態で、やっと土壙の肩をおさえた。

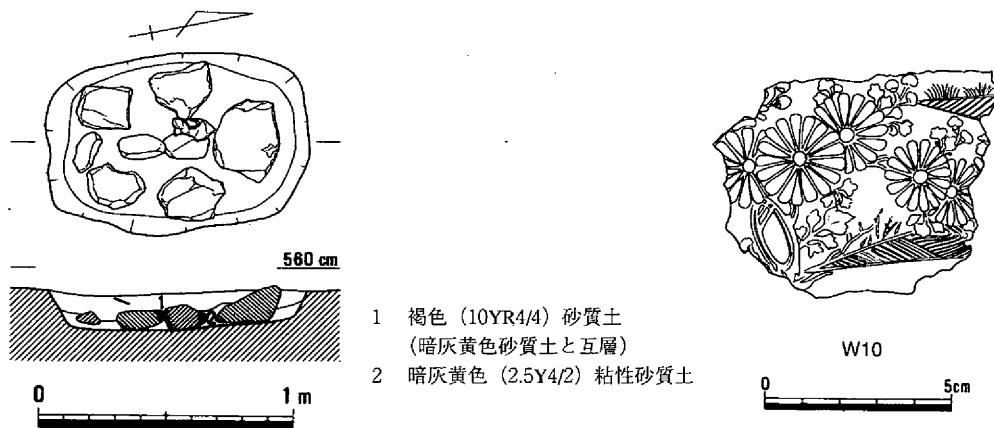


第502図 土壙墓5 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壌の平面形は隅丸長方形で、長軸長が180cm、短軸長は158cm、土壌の深さは6cmにすぎなかった。底面は長さ127cm、幅100cmを測った。底面の四隅には石が置かれ、南辺の中央と北東角の石の南にも同じ大きさの石が残存していた。石の上端の高さには10cm程度の差があり、揃ってはいなかった。石の上端は土壌の底面からは15~27cm高かった。石に囲まれて人骨の断片と土師器の小皿が3個出土したが、土壌の底面からは4、5cmほど浮いていた。人骨の断片は頭蓋骨と四肢骨の一部で、下肢を折り曲げた状態で西に頭を置いて埋葬されていたと推定される。出土遺物と配石の位置関係から、配石の上に木棺が据えられていたと考える。釘は出土しなかった。土師器小皿は遺体の頭部付近に並べられていた。遺物も考慮して、室町時代でも前半の墓とみられる。 (岡本)

土壌墓6 (第458・503図、図版22)

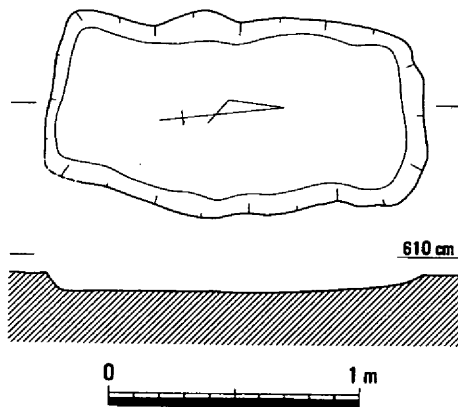
調査区の東部北半、Cd503区で検出された。溝32によって囲まれた方形区画の内側にあり、区画北辺の中央部から2.2m南に位置していた。土壌の平面形は隅丸長方形で、やや胴張りを呈していた。長軸の方向は南北で、長軸長は103cm、短軸長は82cm、土壌の深さは16cmを測った。底面の広さは長さが89cm、幅が62cmであった。底面には石が敷かれていた。北端に大きめの石が据えられ、東西両側に2個ずつ間隔をおいて並び、南端には小石が長軸を東西にして置かれていた。さらに、中央には石が2個接して入れられていた。中央の石の上から漆器碗の断片が出土し、埋土の上層から骨片のようなものも出土した。漆器碗の外面には、黒漆の地に赤漆で菊花と籬を描いていた。釘は出土しなかったが、木棺を石敷きの上に据えた土葬墓と考える。室町時代の墓とみられる。 (岡本)



第503図 土壌墓6 (1/30)・出土遺物 (1/2)

土壌墓7 (第458・504図)

調査区東部南半、Cg503区で検出された。掘立柱建物44と同50の間に位置していた。平面形は歪んだ長方形をなし、長軸を南北方向に採っていた。長軸長が153cm、短軸長は81cm、土壌の深さは7cmを測った。底面は広く、ほぼ平坦であった。遺物はないが、形態から土葬墓と考える。時期は不明である。 (岡本)



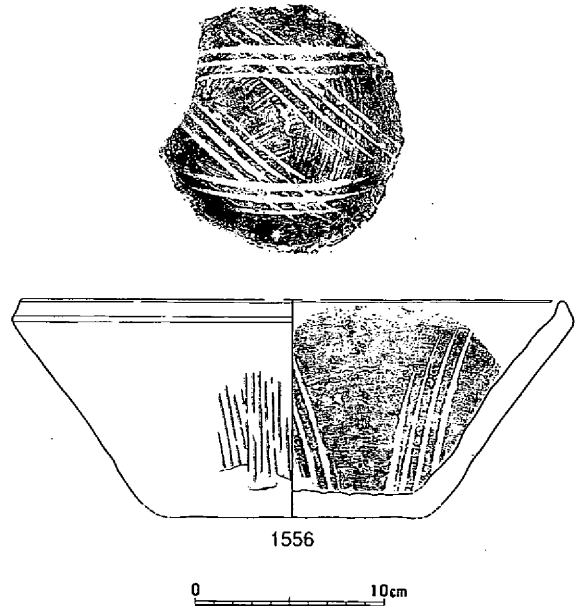
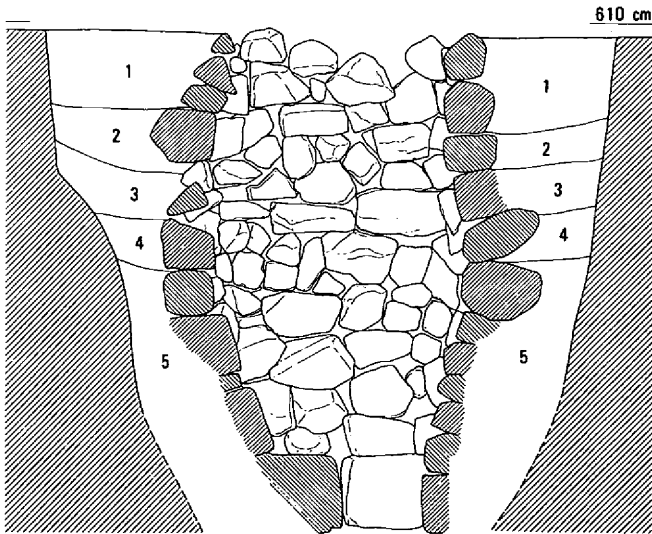
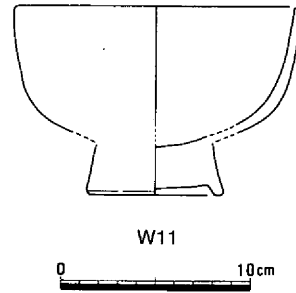
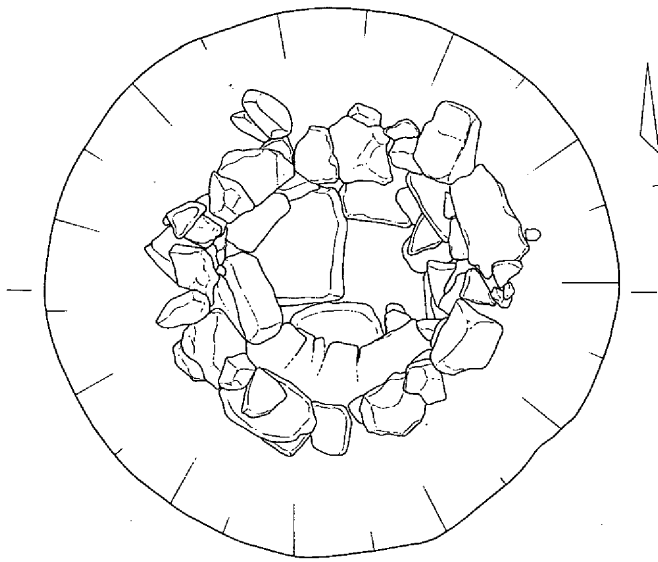
第504図 土壌墓7 (1/30)

(5) 井戸

井戸4 (第457図・505図、図版22)

Ce500区において検出した平面円形の石組井戸である。掘り方の直径は上面で216~230cmあまりを測る。また、上面での内径は80~90cm程度で、中位あたりでの内径100cmあまりに比べ狭まるのは土圧によって内側にせり出しているためであろう。深さは190cm程度を測り、底面ではやや大きめの石を辺長30cm程に方形に組んでいた。この井戸は、西方の建物群とともに溝によって囲まれた一つの屋敷地を構成するとみられる。

出土遺物には、黒漆を塗布した木製椀W11と亀山焼の播鉢1556や、図示していないが染め付け類がある。遺物からは、少なくとも室町期には利用されており、江戸期には埋没したと考えられる。(弘田)



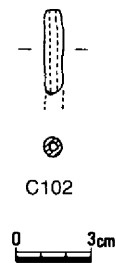
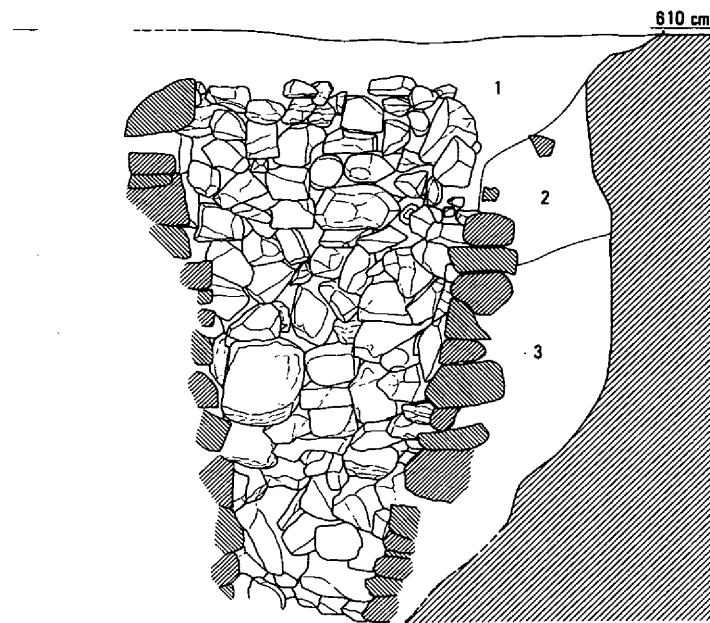
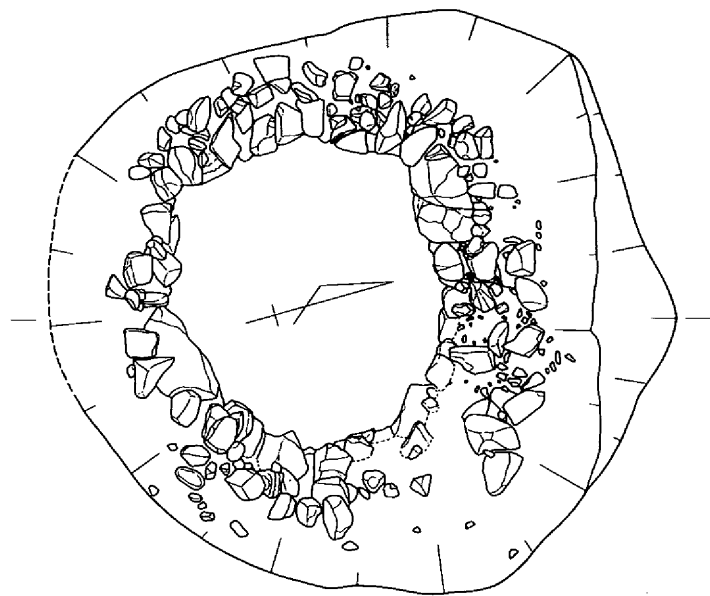
- 1 黄褐色粘質土
- 2 暗黄褐色粘質土
- 3 褐灰色粘質土
- 4 暗褐灰色粘質土
- 5 灰白色粘質土

第505図 井戸4 (1/30)・出土遺物 (1/4)

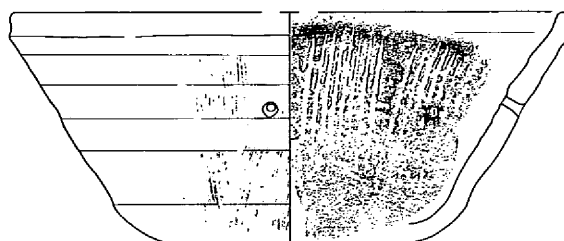
井戸5 (第458・506・507図、図版22・105・106)

調査区の南東隅、Ch504区で検出された。井戸の掘り方が調査区の南端に接していた。調査区東

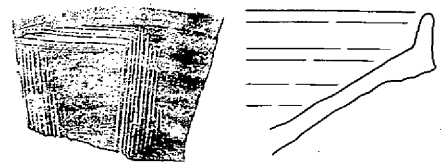
半の溝32で囲まれた方形区画の東辺からは3mほど内側に位置していたが、調査区の南壁に沿って井戸から東辺の溝32に続くとみられる溝の肩部が検出された。このため、井戸の南側に洗い場のような施設があって、そこからあふれた水が溝32に流れ込んでいたのではないかと推測される。井戸は深さ2.1mまで掘り下げたところで湧水がひどくなり、崩落のおそれもあったため発掘を中止した。円形の



- 1 にぶい黄橙色 (10YR6/3) ~灰色 (5Y6/1) 粘性砂質土
- 2 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘性砂質土
- 3 暗青灰色 (5BG4/1) 砂質土 (砂利多含)



1557



1558



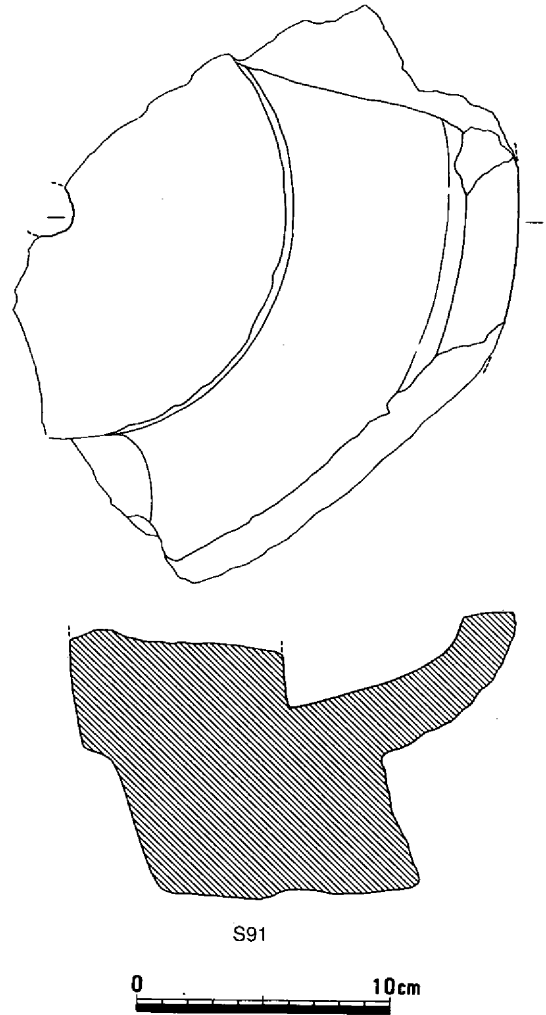
第506図 井戸5 (1/30)・出土遺物① (1/3,1/4)



石組み井戸で、検出面では長径123cm、短径107cmを測った。壁体には長径が20~35cm程度の河原石やその割石を積み上げていた。壁の断面はわずかに外傾させていたため、底部の短径は53cmと検出面の半分に狭まっていた。石材は不揃いで、積み方にも規則性はみられなかった。井戸の掘り方は北半は隅丸方形で、南半は円形を呈し、長径が240cmであった。掘り方は深さ1.4cmまでは垂直に掘られていたが、それ以下は急激に狭まりをみせていた。壁体の石積みは一重で、裏込めの石は認められなかったが、埋土第3層の下半はほとんどが砂利からなっていた。

かなりの出土遺物があったが、ここでは亀山焼のすり鉢(1557)と備前焼のすり鉢(1558)を図示した。備前焼のすり鉢は口縁部を高く立ち上げたもので、備前焼IV期に属し、15世紀代の室町時代後半の年代が与えられる。C102は土錘である。S91は石臼の破片で、下のすり石と受け皿と脚台を一体にして作り出したものである。すり石部分の半径は95mmと小さく、茶臼と考えられる。

出土遺物や溝32の年代などから、井戸5は室町時代後半の15世紀後半から16世紀前半に機能していたものとみられる。(岡本)



第507図 井戸5出土遺物② (1/3)

## (6) 土壇

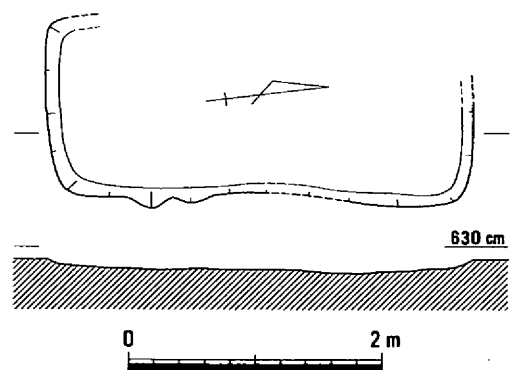
### 土壇175 (第457・508図)

調査区の西半部、土壇墓4を切るかたちで検出できた。平面形は西側の一部が検出できなかったが、長さ315cm、幅150cm前後の長方形で深さは8cm残存していたにすぎない。断面形は皿形で、底面には凹凸が認められた。埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。遺物は少量の備前焼、須恵器、土師器などが出土しており、時期は中世(室町時代)と考えている。(平井)

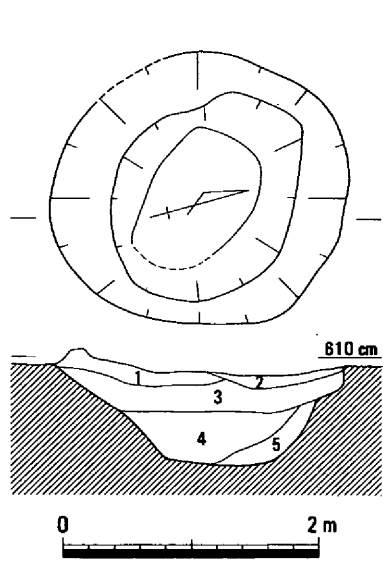
### 土壇176 (第457・509図)

調査区の中央部、河道3と溝24との間に位置する。平面形は217×228cmの楕円形で、深さは検出面から87cm残存していた。断面形は逆台形で、約40cmの深さの所でわずかに屈曲している。

埋土は5層に分離でき、大きくは1~3層と4・

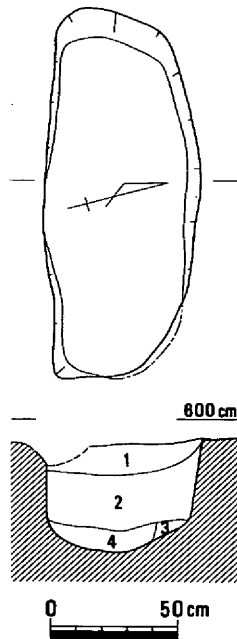


第508図 土壇175 (1/60)

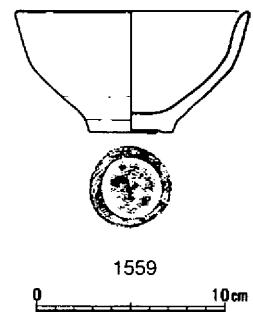


- 1 茶褐色粘質微砂
- 2 茶灰褐色粘質微砂
- 3 灰褐色粘質微砂
- 4 灰青色粘質土
- 5 灰黄色微砂

第509図 土壙176 (1/60)



第510図 土壙177 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 茶灰褐色粘質微砂
- 3 暗青灰色砂質土
- 4 青灰色粘質微砂

5層とに区分することができる。

遺物は亀山焼や土師器鍋などの土器が少量出土しており、時期は中世と考えている。溝で区画された屋敷地の外に位置しているため、この屋敷よりは新しい時期のものと考えられるべきかもしれないが明確ではない。(平井)

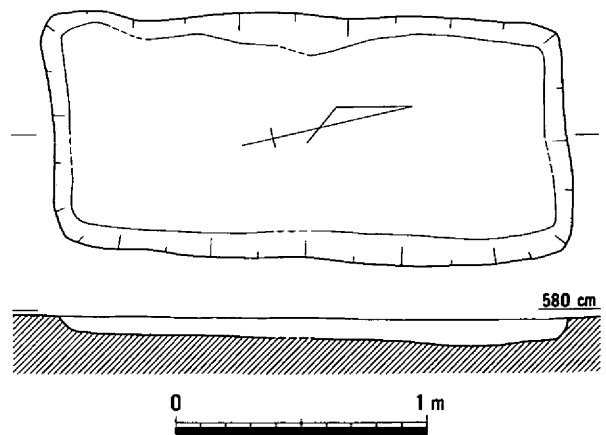
土壙177 (第457・510図)

調査区の中央部、土壙176の東約3mに位置する。溝23との切り合い関係は明瞭ではなかった。平面形は長さ147cm、幅62cmの不整長方形で、深さは検出面から43cm残存していた。断面形はU字形で、埋土は4層に分離できた。

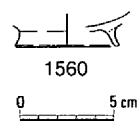
遺物は亀山焼や土師器鍋、小皿などと共に国産の天目茶碗1559が出土している。時期は中世末頃と考えている。(平井)

土壙178 (第458・511図)

調査区の中央付近、Cd 5 02区で検出された。調査区の東半、溝32によって囲まれた方形区画の北西隅に位置し、北辺からは1.2m、西辺からは1.2ないし2m離れていた。検出面での土壙の平面形は長方形を呈していた。長軸の方向は南北で、真北に近くなっていた。土壙の規模は長軸長が207cm、短軸長は100cmで、土壙の深さは12cmにすぎなかった。埋土は灰黄褐色粘性砂質土の1層で、炭粒や土師



灰黄褐色粘性砂質土 (炭・土師器舎)

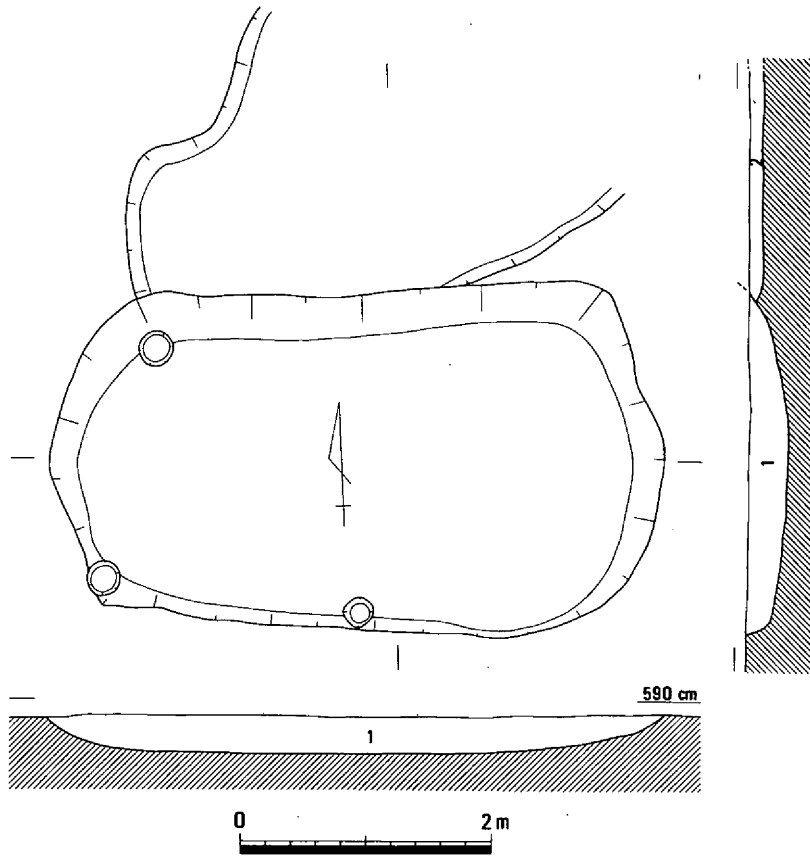


第511図 土壙178 (1/30)・出土遺物 (1/4)

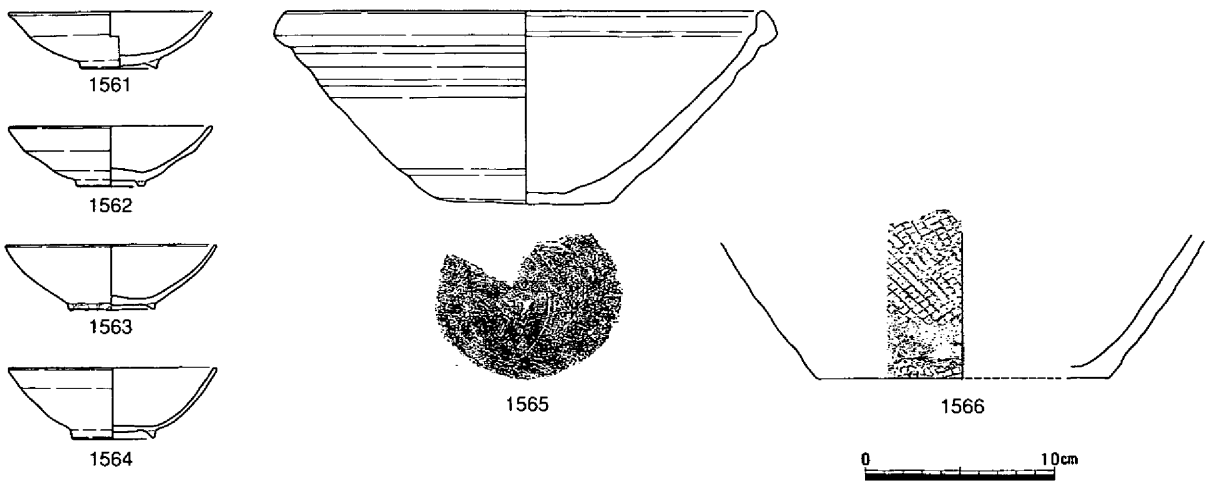
器の小片をわずかに含んでいた。底面も検出面と同じ長方形で、広くてほぼ平坦だったが、北側がかすかに低くなっていた。土壙178は形態的には土葬墓とみてもよいが、物証を欠いている。土師器の高台付碗の破片が出土したが、土壙の年代はこれより降ると考える。 (岡本)

土壙179 (第458・512図、図版23・100)

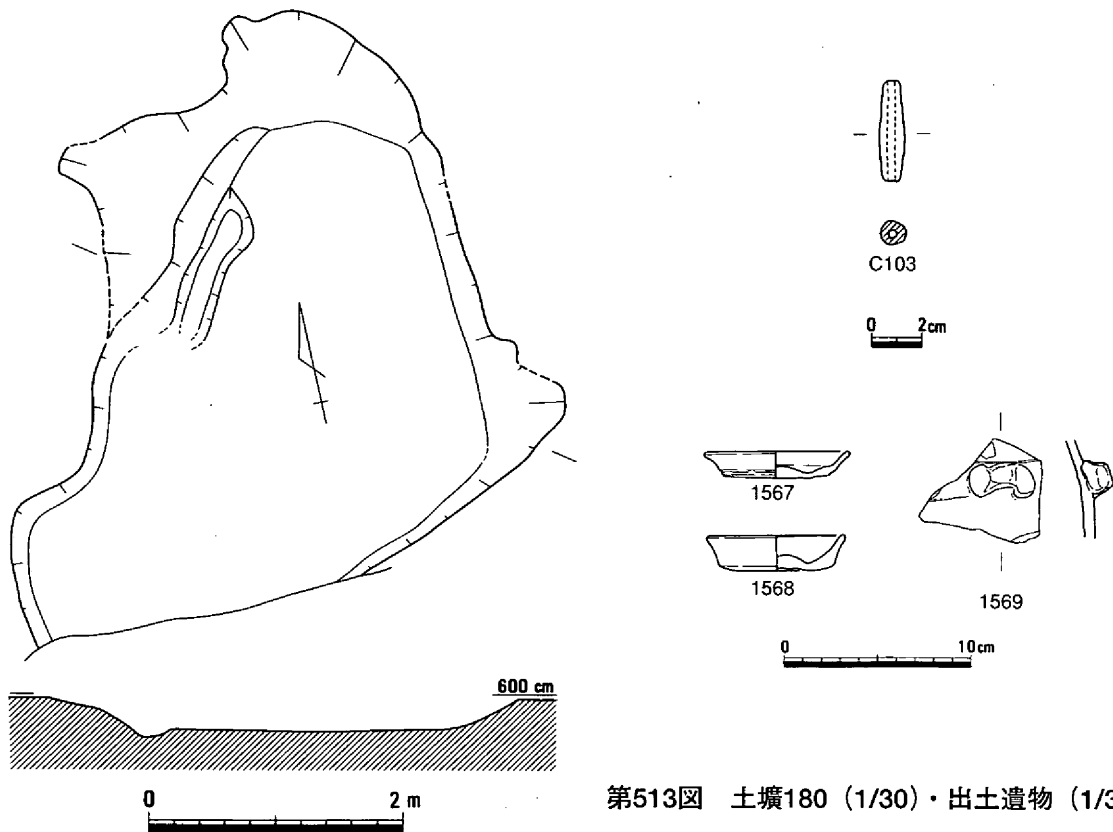
調査区の東半部、Ce502区に位置する。平面形は約260×490cmの不整長方形で、深さは検出面から約30cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は淡灰色砂質土が1層のみであった。



1 淡灰色砂質土                      2 淡褐色灰色砂質土 (灰褐色土塊含)



第512図 土壙179 (1/60)・出土遺物 (1/4)



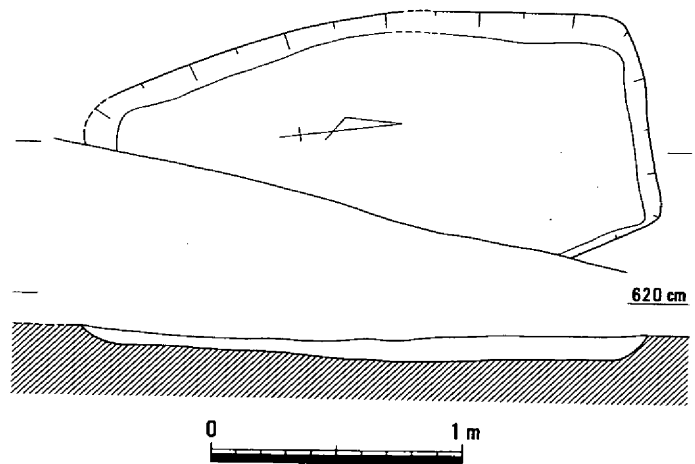
第513図 土壌180 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)

遺物は土師器、亀山焼、魚住焼、青磁、白磁などが出土している。1561～1564は土師器椀で、口径は10.6～11.1cm、器高3.0～3.8cmである。1565は魚住焼の捏鉢で、底部外面には糸切り痕跡が確認できる。1566は亀山焼で、外面は格子目タタキ、内面はナデである。

最も新しい土師器椀や魚住焼捏鉢については14世紀初頭頃と考えておきたい。溝32に切られているため、溝32で区画された屋敷よりは古いものと考えることができよう。(平井)

**土壌180** (第458・513図、図版23・105)

調査区の東半部において土壌179に切られるかたちで検出できた。平面形は約3×5mの不整形な楕円形で、深さは約20cm残存していた。断面形は一定しておらず、埋土は淡褐灰色砂質土であった。遺物は土師器椀、小皿1567・1568、褐釉？壺1569や土錘C103などが出土している。時期は12～13世紀ではなかろうか。(平井)



淡褐灰色粘質微砂 (暗褐色粘質微砂土塊含)

第514図 土壌181 (1/30)

**土壌181** (第458・514図)

調査区の東半部、土壌179の南約6mに位置する。平面形は南東

部が不明であるが、長さ約220cm、幅約110cmの不整長方形を呈していたのではなかろうか。深さは検出面から約10cm残存していたのみで、埋土は淡褐色粘質微砂が1層のみであった。遺物は少量の土師器片が出土したのみで、時期は中世としか捉えられない。(平井)

**土壙182** (第458・515図)

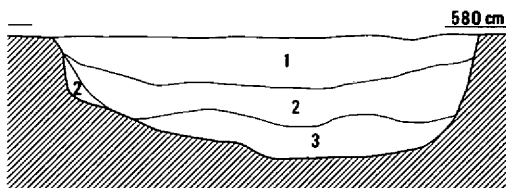
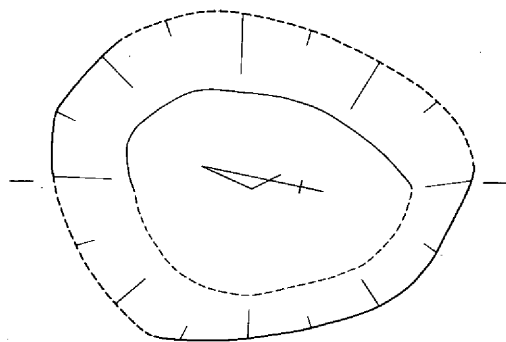
調査区の中央付近、Cd502区で検出された。土壙178から4.5m東に位置していた。調査区東半の方形区画内の北西部にあたり、北辺から1.5m離れていた。平面形は不整形な楕円形で、長径が169cm、短径は130cmと推定され、土壙の深さは50cmを測った。埋土は3層に分けられ、各層に炭粒や土器片がわずかに包含されていた。第3層は他の層よりも砂粒が粗かった。出土遺物として、土師器の高台付椀がみられた。このため、土壙の年代は鎌倉時代後期の13世紀後半以降と考える。(岡本)

**土壙183** (第458・516図)

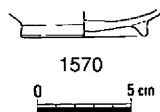
調査区東部の北半、Cd503区で検出された。調査区東半の方形区画の外側に位置し、北辺から北へ1.3m離れていた。掘立柱建物34と重複していた。土壙の平面形は円形に近く、長径が114cm、短径は99cm、土壙の深さは9cmを測った。埋土はにぶい黄橙色砂質土の1層であった。出土遺物として中世土器の破片がいくらかみられたが、細かな時期については確定できなかった。(岡本)

**土壙184** (第458・517図、図版23)

調査区東半の中央付近、Ce503区で検出された。溝35や掘立柱建物40より古く、土壙の埋没後にそれらが作られていた。調査区東半の方形区画の中央付近よりやや北西に片寄っていた。不定型な大形の土壙で、長径が522cm、短径は360cm、土壙の深さは39cmを測った。土壙の内部は二段構造になり、土壙の東西に検出面から一段下がった平坦面があり、それからさらに一段落ちて土壙の中央から南寄りに長径300cmの底面が広がっていた。一段目の平坦面は中央へ向かって傾斜し、二段目の底面もわずかな凹面をなしていた。埋土の第2層には炭や焼土の大粒が含まれていた。出土遺物には多くの土器片の

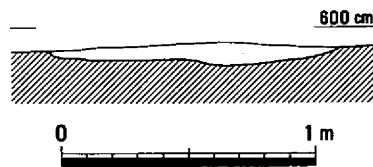
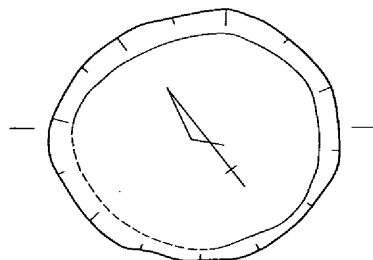


1 暗褐色砂質土 2 暗オリーブ褐色砂質土 3 黒褐色砂質土



第515図 土壙182 (1/30)・出土遺物 (1/4)

り、土壙の東西に検出面から一段下がった平坦面があり、それからさらに一段落ちて土壙の中央から南寄りに長径300cmの底面が広がっていた。一段目の平坦面は中央へ向かって傾斜し、二段目の底面もわずかな凹面をなしていた。埋土の第2層には炭や焼土の大粒が含まれていた。出土遺物には多くの土器片の

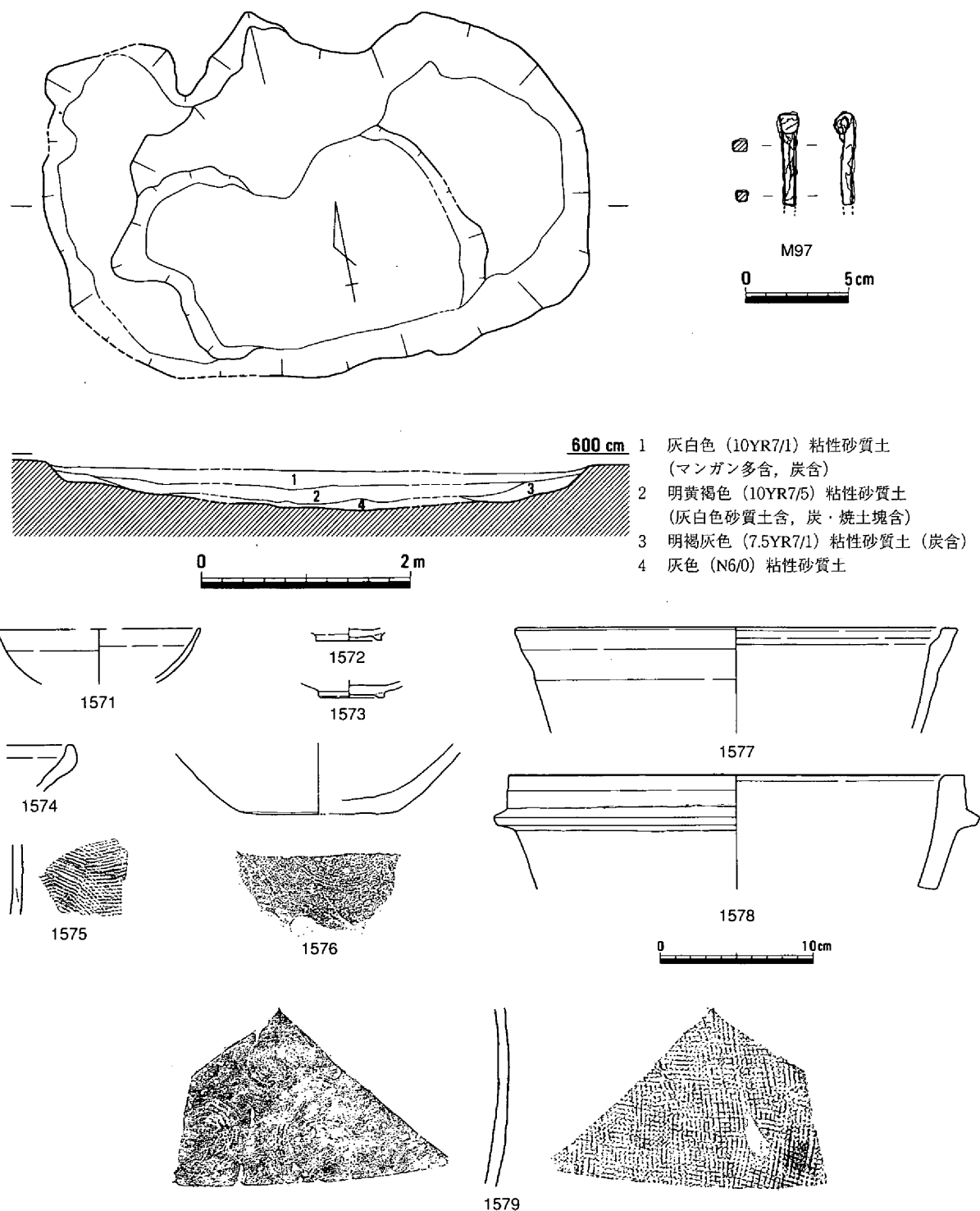


にぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質土

第516図 土壙183 (1/30)

他にM97の鉄釘もみられた。1574・1576は魚住焼の鉢、1575は同甕、1578は石鍋、1579は亀山焼の甕である。これらの遺物から土壌の年代は鎌倉時代後期、13世紀後半から14世紀前半と考える。(岡本) 土壌185 (第458・518図)

調査区の南東隅、Cg504区とCh504区に跨って検出された。掘立柱建物52と重複関係にあり、土壌埋没後に建てられていた。第519図の第1層は建物の柱穴である。土壌の形状は不定形で、アメー



第517図 土壌184 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

バ状を呈していた。北東に突出部があり、中央は一度掘り直されたか、壁の途中に肩部が認められた。長径273cm、短径144cm、深さ38cmを測った。埋土は2層で、上層では焼土や炭の小粒が点々とみられた。室町時代の土壙と考える。(岡本)

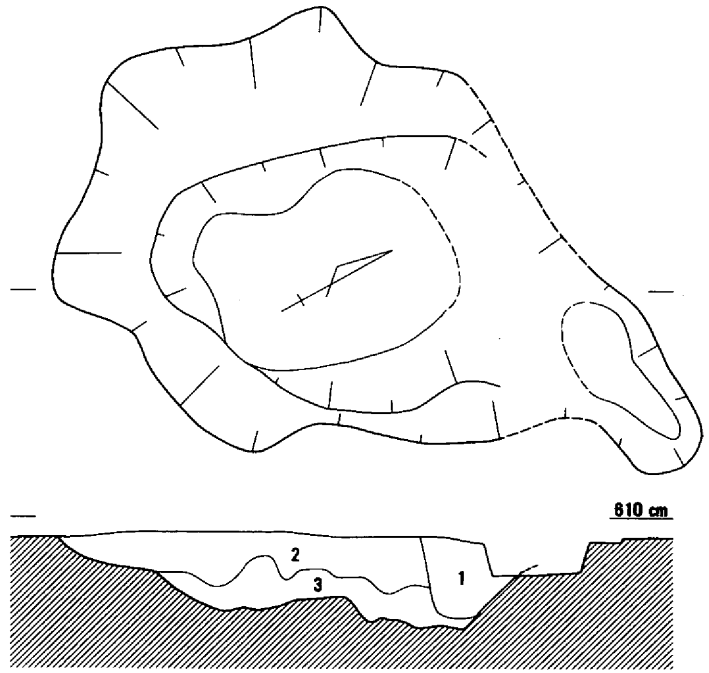
**土壙186 (第458・519図)**

調査区の南東隅、Cg504区で検出された。溝36と一体になり、先後関係はつかめなかった。あるいは溝36の施設かもしれない。楕円形で、検出長が250cm、短径は264cm、深さは11cmを測った。底面は凹面で、小さな凹凸がみられた。備前焼片が出土し、室町時代かと考える。(岡本)

**土壙187 (第458・520図)**

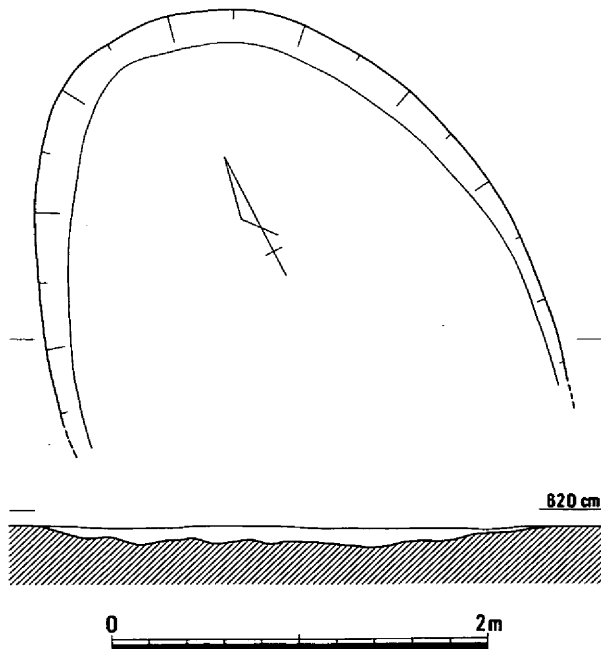
調査区の南東隅、Cg505区に位置し、溝32の下から検出された。調査

区東半の方形区画が形成される以前の遺構である。土壙の平面形は楕円形で、長径が126cm、短径は93cm、土壙の深さは33cmを測った。壁の傾斜は急で、土壙の断面形は箱形を呈していた。広い底面はわずかに凹面をなしていた。須恵器の破片が一片出土したが、中世のものか判然としない。ただ、溝32との関係から鎌倉時代後半よりは古い時代の遺構と考える。(岡本)



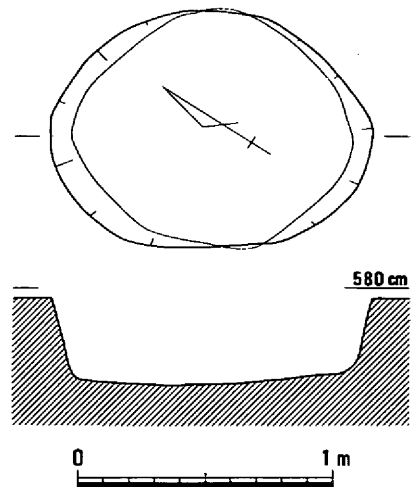
- 1 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘性砂質土 (焼土・炭少含)
- 2 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘性砂質土 (焼土・炭少含)
- 3 にぶい黄橙色 (10YR6/3) 粘性砂質土 (灰色 (N6/0) 土塊含)

第518図 土壙185 (1/30)



褐灰色 (10YR5/1) 粘性砂質土 (炭・焼土少含)

第519図 土壙186 (1/40)

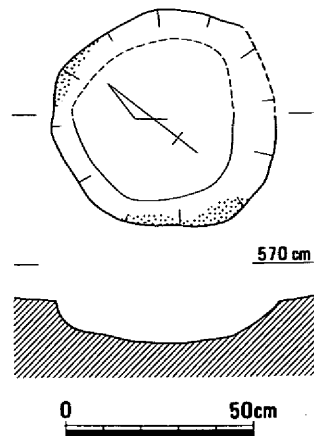


第520図 土壙187 (1/30)

### (7) 焼成土壙

#### 焼成土壙 8 (第458・521図)

調査区の中央部北半、Cd502区で検出された。調査区東半の方形区画の外に位置し、北辺から1m北にあった。土壙は不整な円形で、長径が59cm、短径は58cm、深さは11cmを測った。土壙の底面は凹面をなし、そこに10mmの厚さで炭の堆積がみられた。また、土壙の北と南西の壁は被熱によって赤色に変色していた。赤色部分は底面から3cmほど上から検出面までに及んでいた。土壙内で火を焚いたものと考えて間違いはない。(岡本)

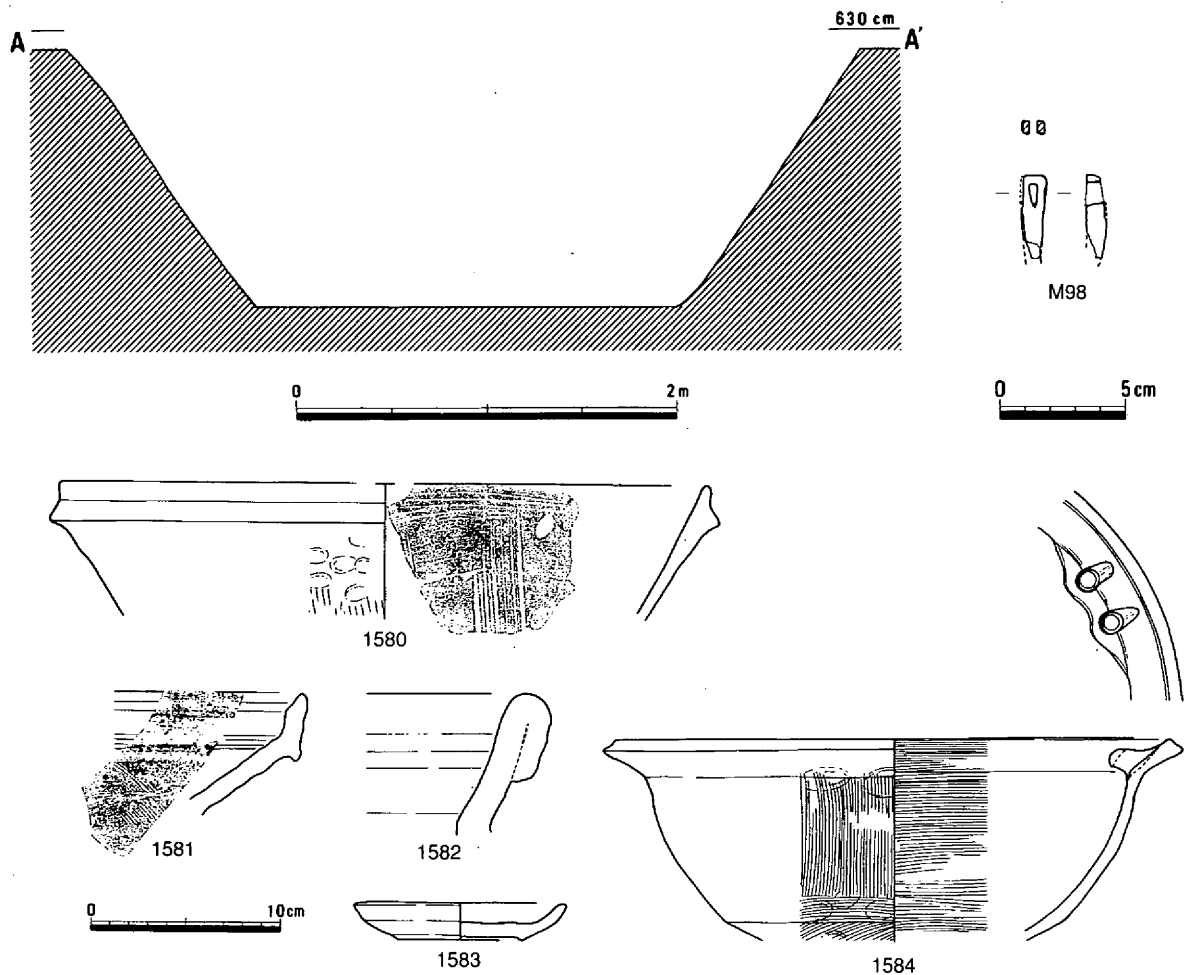


第521図 焼成土壙 8 (1/20)

### (8) 溝

#### 溝20 (第456・522図、図版23)

Cc405区で検出した大形溝である。東方50mに検出した大溝と北方に東西に延びる河道で一つの



第522図 溝20 (1/40)・出土遺物 (1/3,1/4)



区画を造ることができる。この溝を境としてフロヤ調査区と塚廻り調査区が分かれ、小字の境になっている。規模は、検出した長さ17m、幅420cm、深さ136cmを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形をしている。底面の標高は、480cmである。

遺物としては、中世土器と陶磁器及び鉄器が出土している。1580は亀山焼きの播鉢である。1581は備前焼の播鉢である。1582は備前焼の大甕の口縁部である。1583は肥前産陶器と考えられる。1584は黒色の瓦質土器で、内耳鍋と呼ぶものである。M98は穴あきの鉄器だが品名は不明である。

以上の遺物と遺構の観察からこの溝は集落区画の環濠で、中世後期に使われたと言える。(浅倉)

溝21 (第456・523図)

Cc4 05区で検出した東西に延びる溝である。2条の溝が合流する。土壌墓2を切っていることから中世後期よりだいぶ新しいようである。東方には幅、深さ、方向など同じものが多数平行しているのが検出されている。南方でも図示していないが平行する数条の溝を検出している。

遺物は品名不明の鉄器が1点出土している。

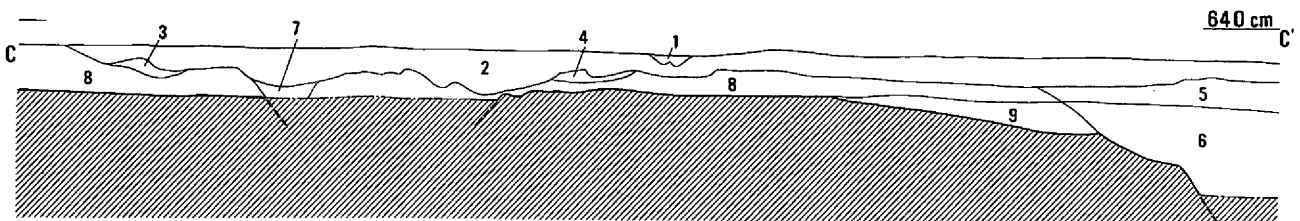
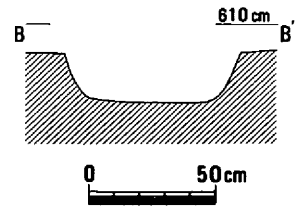
遺構・遺物のあり方から畑の畝溝で中世末期と考えられる。(浅倉)

溝22 (第457・524図)

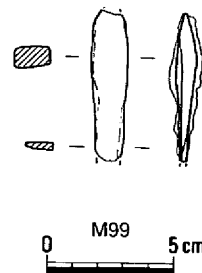
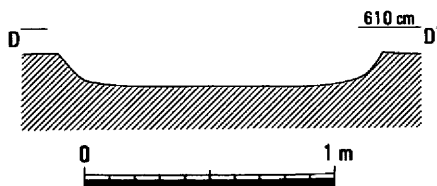
調査区の西半部Cc4 07区に位置する。検出できたのは長さ約8mのみであった。幅約100~120cm、深さ10cm前後で、埋土は淡灰色砂質土がほとんどであった。遺物はほとんど出土しなかった。ほぼ南北に直線的に掘削されており、掘立柱建物21~28を区画する溝の一つと考えられ、時期は中世と考えている。(平井)

溝23 (第457・524図)

調査区の中央部、河道3の南に位置する。幅20cm前後、深さ約5cmで、長さ約20mが検出できている。遺物は土器片が少量出土した



- |          |           |           |          |
|----------|-----------|-----------|----------|
| 1 暗灰褐色微砂 | 5 淡灰黄色粘質土 | 9 淡灰褐色微砂  | 13 灰黄色細砂 |
| 2 淡灰褐色微砂 | 6 暗灰色粘質土  | 10 灰褐色微砂  | 14 灰黄色細砂 |
| 3 暗灰褐色微砂 | 7 灰褐色微砂   | 11 灰黄色粘質土 |          |
| 4 淡灰褐色微砂 | 8 明灰褐色粘質土 | 12 暗灰褐色細砂 |          |



第523図 溝21 (1/30,1/60)・出土遺物 (1/3)

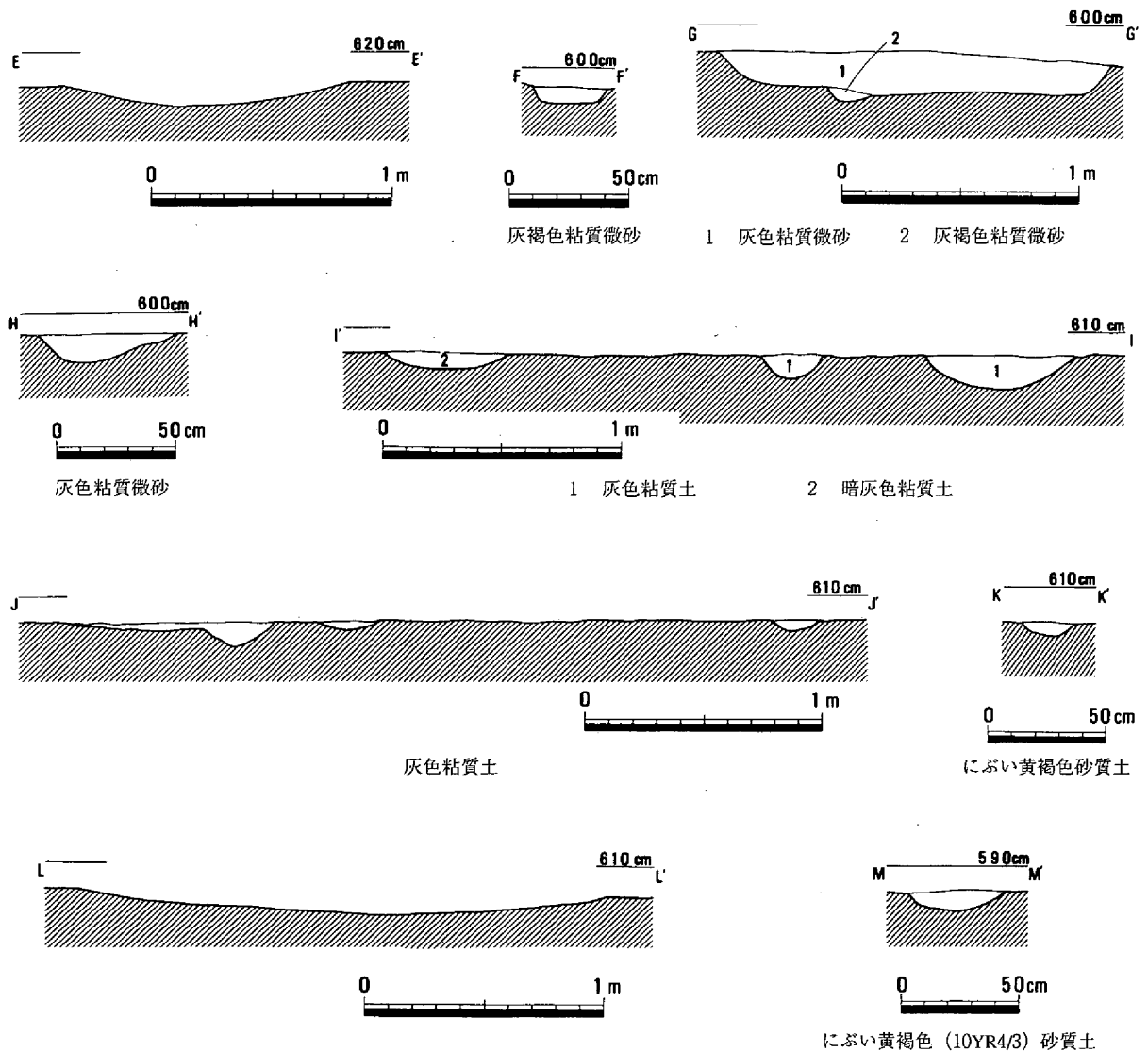
のみで、埋土は灰褐色粘質微砂であった。ほぼ東西方向に掘削されており、掘立柱建物21~28を区画する溝の一つと考えられる。時期は明確ではないが中世と考えておきたい。なお図示した断面図の1層は近世の素掘溝である。(平井)

溝24 (第457・524図)

調査区の中央部、溝23の南に沿って検出できた。幅60cm前後、深さ約10cmで、長さ約25mが検出できている。埋土は灰色粘質微砂が1層のみであった。遺物は土師器椀、鍋や備前焼の小片が少量出土したのみである。溝23と同じくほぼ東西方向で直線的に掘削されており、掘立柱建物21~28を区画する溝の一つと考えられる。時期は中世であろう。(平井)

溝25 (第457・524図)

調査区の中央部、溝24を切るかたちで検出できた。幅30cm前後、深さ約8cmで、U字状に掘削されている。埋土は灰褐色粘質微砂が1層のみであった。遺物は土師器鍋などの小片が少量出土したのみで、時期は中世としか捉えられない。形状からは何らかを取り囲む溝と考えられるが、用途を明確にする資料は得られなかった。(平井)

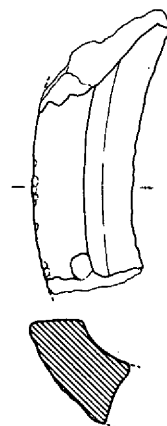


第524図 溝22~29 (1/30)

**溝26** (第457・524・525図)

調査区の中央部、掘立柱建物群の東と南に位置する。東西・南北方向に掘削されたいくつかの溝について、そのつながりから一つの溝番号26として報告している。検出できた幅は約20~260cmと一定しておらず、深さは最大でも約15cmを測るにすぎない。埋土は灰色粘質土がほとんどであった。遺物は土師器、備前焼、亀山焼や茶臼の破片 S92などが少量出土しており、時期は中世と考えられる。

東西、南北にほぼ直線的に掘削されていることから溝22~24と同様に掘立柱建物21~28を区画する溝と考えることができる。そして南北方向の溝が二重になっていることから、後述する溝29の位置も考慮に入れると、掘立柱建物群は二重の溝によって区画されており、かつ南側の調査区外にも溝で区画される掘立柱建物群の存在を推定することができるのではなかろうか。(平井)



0 10 cm  
第525図 溝26出土遺物 (1/3)

**溝27・28** (第457・524図)

溝27は調査区の中央部、溝26の東において検出した。幅15~40cm前後、深さ約5cmの小規模な溝で、長さはほぼ南北方向に約5m確認できたのみである。

溝28は溝27の北東部において検出された。幅40cm前後、深さ約10cmで、長さはほぼ南北方向に約4m確認できたのみである。

溝27・28とも時期が特定できる遺物は出土していないが中世で、溝22~24・26と同様に掘立柱建物群を区画する溝の一部と考えている。(平井)

**溝29** (第457・524・526図)

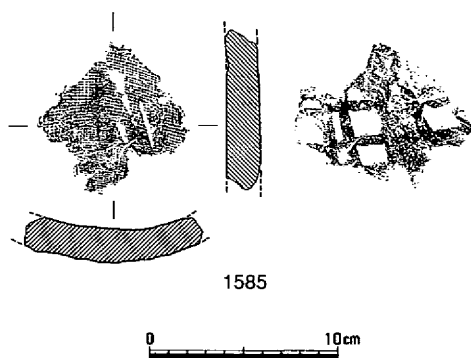
調査区の中央部、溝26の南に位置する。幅50cm前後、深さ約8cmで、東西方向に約9m確認でき、東端部では南方向に屈曲するものと推測できる。形状から建物群を区画する溝で、南側の調査区外に掘立柱建物群の存在を推定しておきたい。遺物は土師器のほかに格子目タタキの瓦1585が出土しており、瓦葺きの建物が存在していたのかもしれない。時期は中世である。(平井)

**溝30・31** (第457・527~529図、図版24・102)

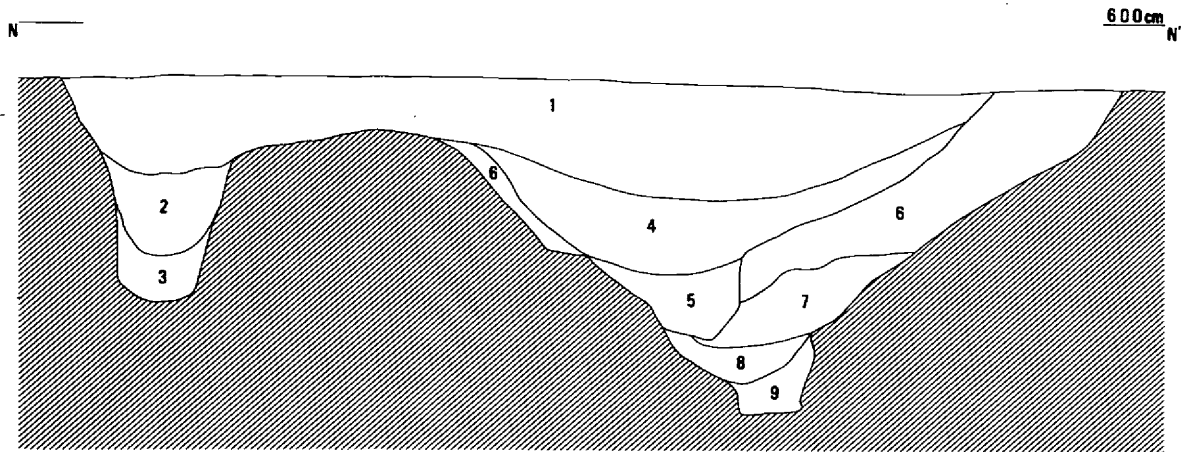
溝30は調査区の東半部、501ラインの東隣りに位置する。幅約30~50cm、深さ約60~80cmの規模でほぼ南北方向に約25m検出でき、北端部では図示したように河道3に向かって扇状に広がっている。埋土は大きくは3層に分離でき、図の1層は中世と考えている。底面の海拔高は北側の方が低くなっていた。遺物は少量の土器片が出土している。

南端からN断面までの範囲からは内黒土器1592など古代の土器のみが出土しているが、北端部では中世土器が出土している。

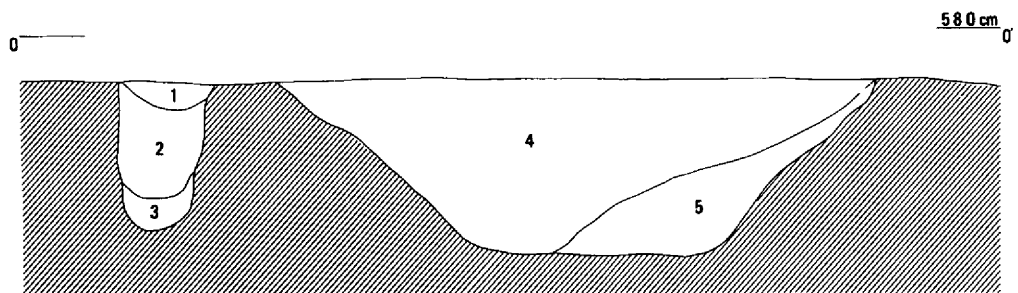
溝31は溝30の東隣りに沿うように検出できた。幅約2~3m、深さ約70~130cmの規模でほぼ南北方向に約30m検出でき、北端部では西側が膨らんでいた。埋土は南半部では2層前後、北半部ではそれ以



第526図 溝29出土遺物 (1/4)



- |                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 明褐色 (7.5YR7/1) ~ 青灰色 (5B6/1) 粘性砂質土 | 6 黄灰色 (2.5Y6/1) ~ 青灰色 (5B5/1) 粘性砂質土 |
| 2 緑灰色 (7.5G6/1) 粘性砂質土 (オリーブ灰色粘質土塊含)  | 7 青灰色 (5B5/1) 粘性砂質土                 |
| 3 灰色 (N5/0) 粘性砂質土 (灰オリーブ色斑)          | 8 灰色 (N5/0) 粘性砂質土 (細砂、粘性微砂塊含)       |
| 4 青灰色 (10BG5/1) 粘性砂質土                | 9 灰色 (N5/0) 粘性微砂質土                  |
| 5 青灰色 (10BG5/1) 粘性砂質土 (灰オリーブ色斑)      |                                     |

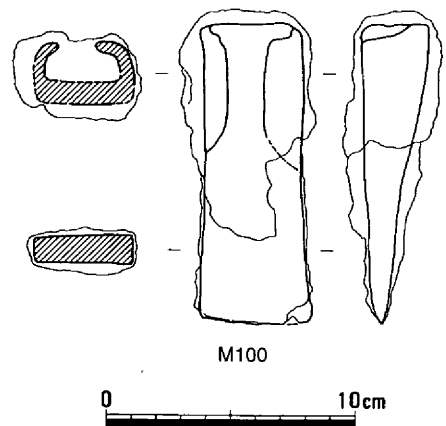


- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1 暗灰色粘質土 | 3 暗緑灰色粘質土 | 5 暗灰色粘質土 |
| 2 青灰色粘質土 | 4 青灰色粘質土  |          |

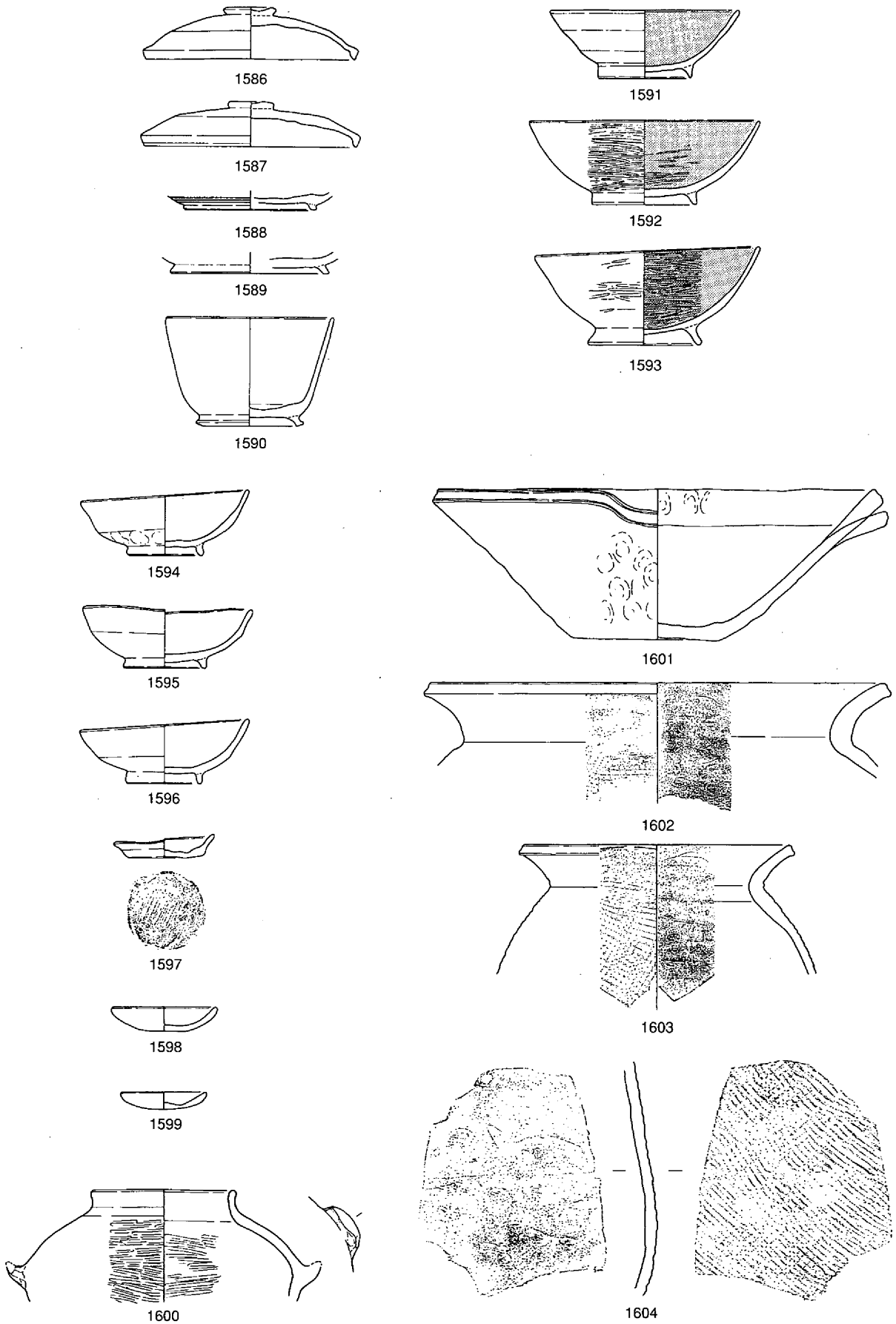
第527図 溝30・31 (1/30)

上に分離できている。底面の海拔高は北側の方が低くなっていた。遺物は少量の土器片が出土している。南端からN断面までの範囲からは須恵器1586~1590、土師器1591・1593など古代のみの土器が出土している。北端部では溝30と共に遺物を取り上げているが、1594~1604のように中世の遺物がほとんどであった。鉄斧M100は溝31の北端部から出土した。

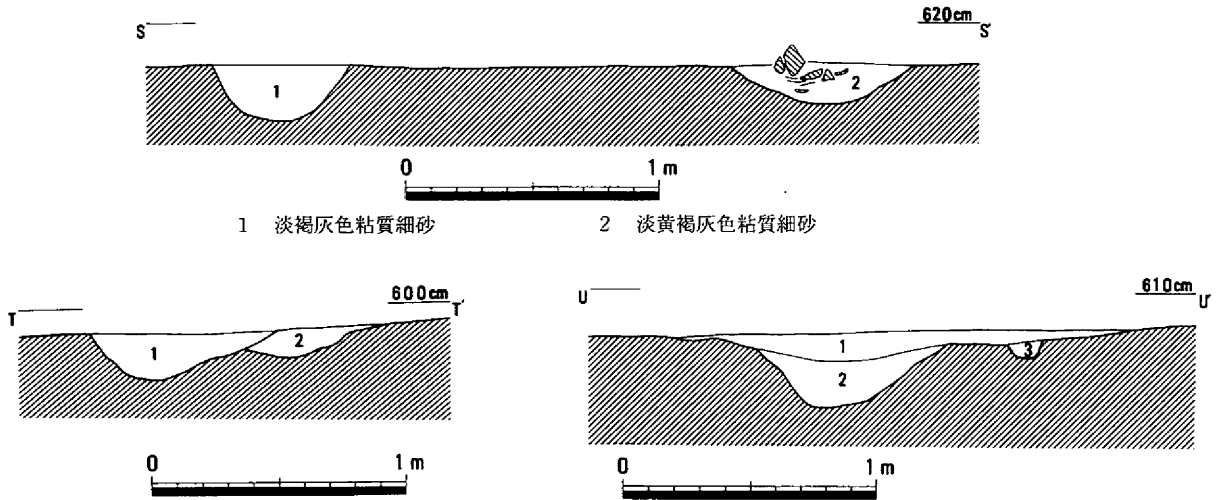
溝30・31の時期はN断面より南側については中世の溝26に切られていることや出土遺物から古代(平安時代か)で、これより東側に存在する古代の掘立柱建物群(掘立柱建物15~19)を区画する溝である可能性が高いと考えているが、北端部は遺物からは中世と考



第528図 溝31出土遺物① (1/3)



第529図 溝30・31出土遺物② (1/4)



1 淡褐灰色粘質細砂      2 淡黄褐灰色粘質細砂

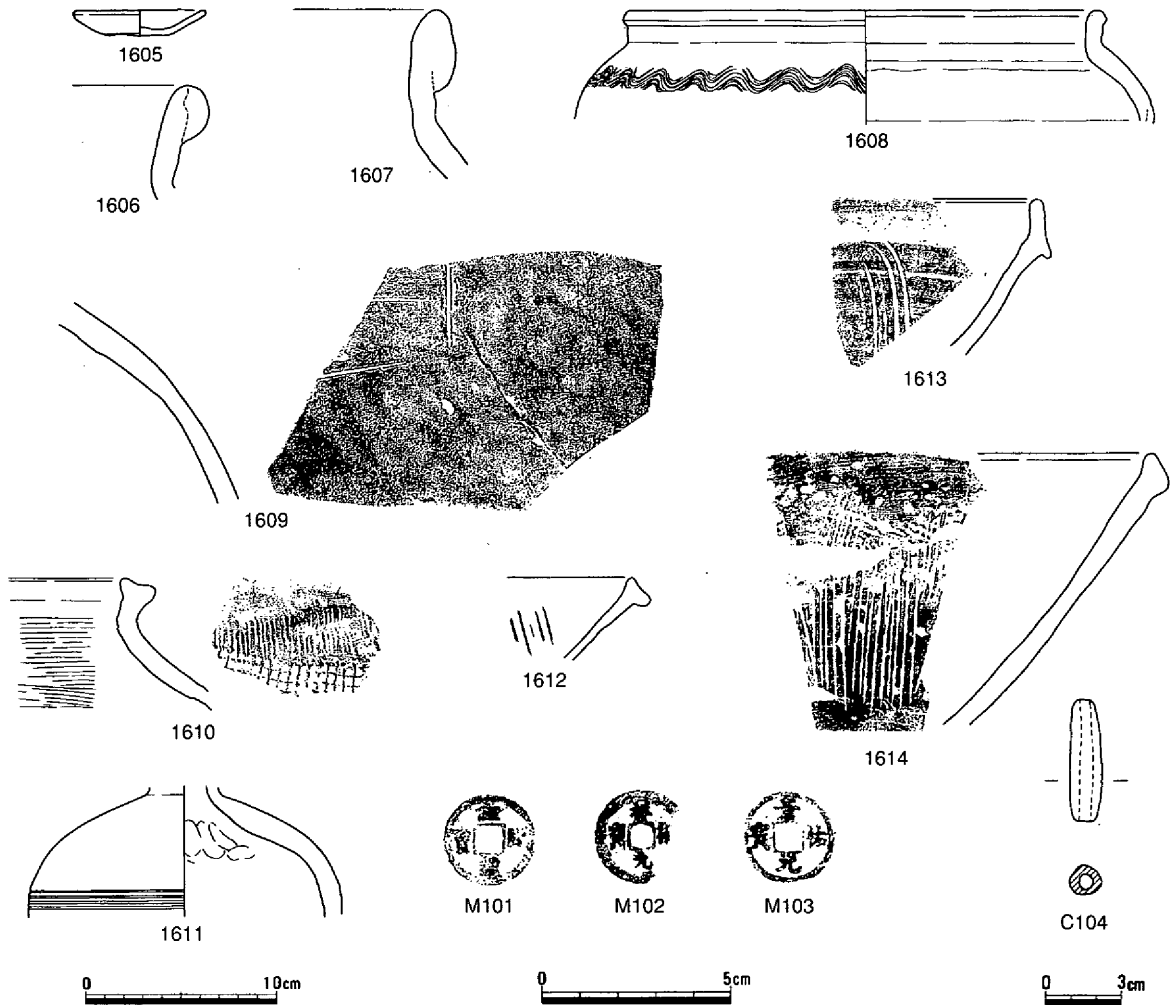
1 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土  
2 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土 (1層より少し暗)

1 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土 (炭粒少含)  
2 灰白色 (N7/0) 粘性砂質土

第530図 溝32 (1/30)

ざるをえない。平安時代から鎌倉時代まで機能した溝であろうか。

(平井)



第531図 溝32出土遺物① (1/4,1/2,1/3)

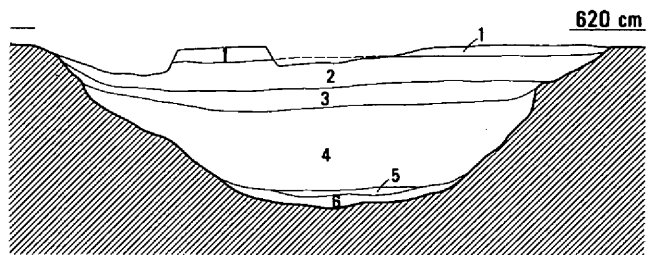
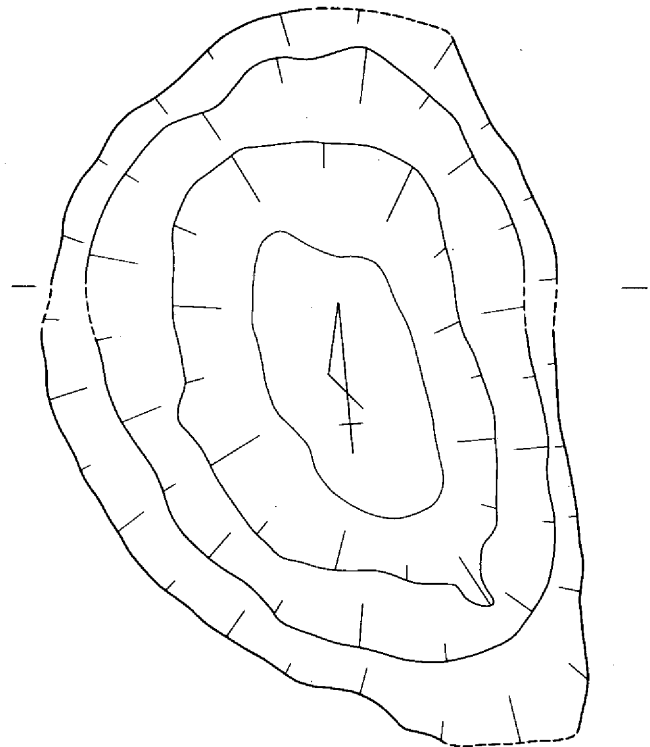


第532図 溝32出土遺物② (1/3)

溝32 (第458・530～534図、図版24・105・106)

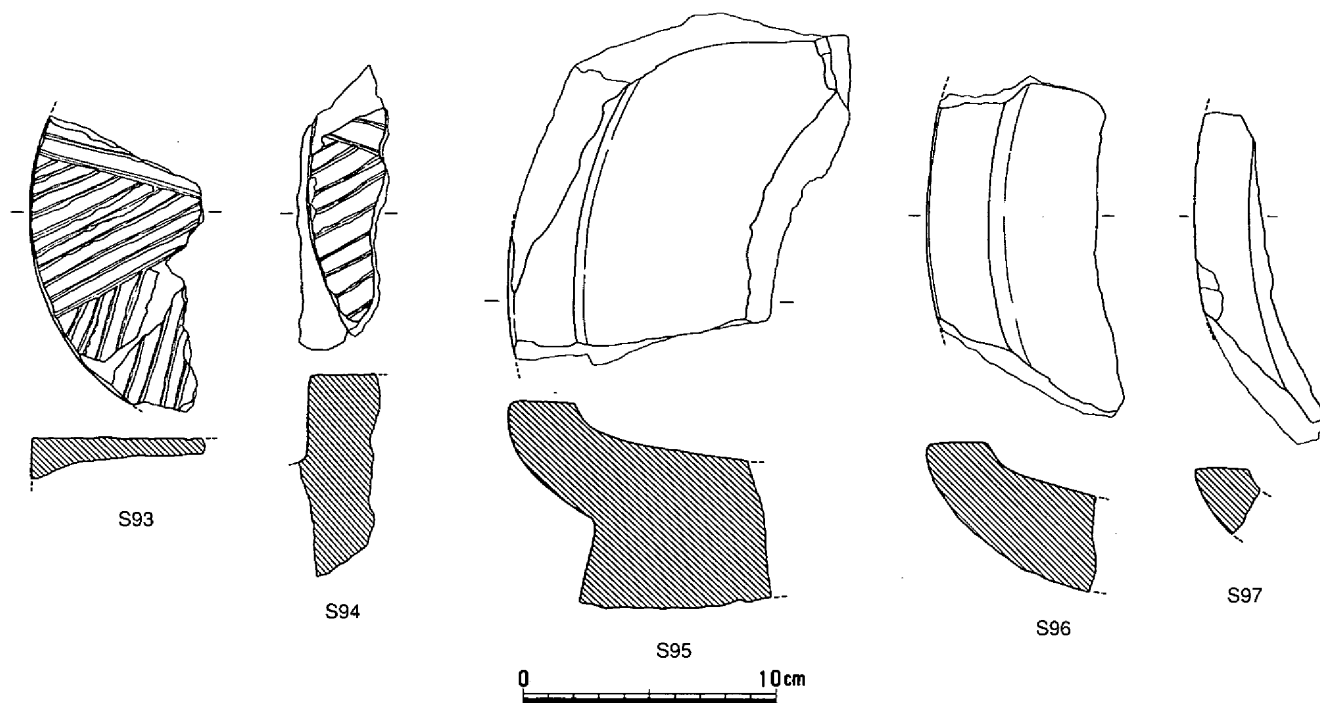
調査区の東半にあって、Cg 5 01区からCd 5 01区までは北に延び、東へ方向を転じてCd 5 05区まで続き、次に南に折れてCi 5 05区まで直線上に繋がっていた。南端は調査区外に至り、その先の行方については不明であるが、調査区内だけでも東西が35m、南北は検出部分で45mほどの方形に土地を区画していた。区画内には掘立柱建物が重複した状態で検出され、この溝32が屋敷地を画する溝として機能していたものと考えられる。調査区の南東隅で井戸5が検出されたが、ここから東へ延びる溝があり、それが溝32に接続していたとみられる。また、方形区画の西辺では溝32は2条に分かれていたが、これは第530図に示したように、切り合い関係にあったことから掘り直しによって生じたものであった。当初は東側の溝が掘られていたが、西寄りに掘り直したものである。

溝の幅は方形区画の東辺と西辺では50～80cmであったが、北辺部分では広く浅い溝の中央部分がさらに落ち込むという形状を示す部分が多く、溝の上端幅では150～200cmと広がり、一段落ち込んだ部分は幅が50～80cmを示していた。このことは、溝の底部が全周において水平にはなっていないことと関係するとみられ、後世の削平によって東辺や西辺の浅い部分は上部の溝が破壊によって消滅してい



- 1 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土 (土器少含)
- 2 にぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質土 (炭少含, 土器含)
- 3 灰色 (5Y6/1) 粘性砂質土 (灰褐色粘質土塊僅少含)
- 4 灰色 (5Y6/1) ～青灰色 (10BG5/1) 粘性砂質土 (褐灰色粘質土塊含)
- 5 灰色 (N6/0) 粘質土 (明青灰色 (5BG7/1) 粘質土塊含)
- 6 灰色 (N5/0) 粘質土 (腐植物含)

第533図 溝32水溜 (1/60)



第534図 溝32出土遺物③ (1/3)

たためと考える。本来の溝32の姿はCd505区で見られるような形であったとみてよい。北辺部分についても掘立柱建物の柱穴の残存状況から削平をうけていたとみられるため、本来の溝32は幅が3～4 m程度はあった可能性が強い。溝の深さはもっとも残りのよい部分で43cmを測った。溝の底部の高度をみると東辺の南端近くで標高610cm、西辺の南端付近では580cm程度であったが、北辺の中央付近では550cmと下がり、北へ行くほど低くなる傾向を示していた。埋土でも2層であったものが、西辺では1層になっていた。西辺の内側の溝と東辺の溝の南半では角礫が多量に含まれていて、東辺の溝では上層に礫とともに炭粒や焼土小塊が多く含まれていた。

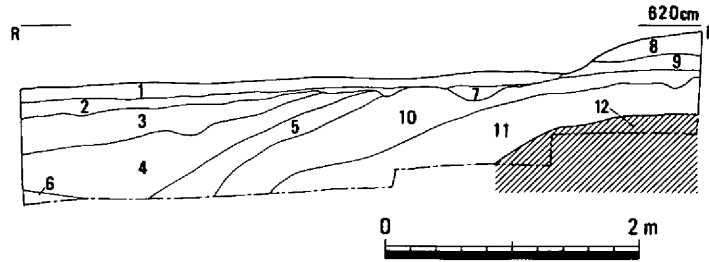
方形区画の北東角近くに第533図で示す大形の落ち込みが検出された。長径が595cm、短径が410cmの不整形な楕円形を呈し、深さは130cmであった。底の埋土は粘質土で、底には腐植物の堆積がみられた。井戸と繋がっていることもあって、溝32には水が溜っていたとみられ、この土壌部分が水溜の施設になっていたものとする。洗い場として存在したものであろうか。

出土遺物は多岐にわたるが、備前焼や亀山焼の年代から15世紀から16世紀前半にかけて機能していた溝と考える。緑釉陶器や青磁片、それに複数の北宋銭・鉄鏃・茶臼の出土が注意される。(岡本) 溝33 (第459・535図)

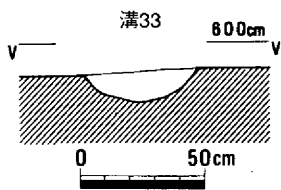
調査区東部の北半、河道3の肩部に沿うような形で検出された。ほぼ直線状に伸び、溝34の北半部分の東西溝と平行し、その間の距離は1 m程度であった。何らかの関連をもっていたと考えられる。溝の幅は70～90cm、深さは最大で22cmであった。検出部分の中央部がもっとも低かった。(岡本) 溝34 (第459・535図)

調査区東半にあった方形区画の北辺中央付近で溝32から南北に溝が派生し、2～3 m伸びて西へ屈折してさらに続いていた。方形区画内の南部では溝32と平行し、8 mほどで消えるが、区画外の北部では溝32とは平行せず、15m分を確認した。溝底の標高をみると、溝32の上部の広く浅い一段目と等しい。溝34全体では北部が南部よりも高いが、南部の底はほとんど水平に近かった。(岡本)

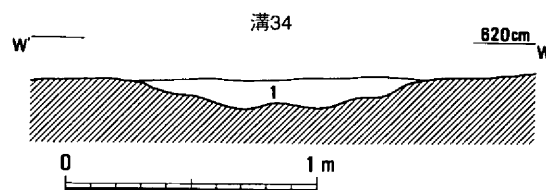




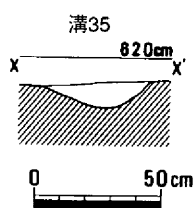
- |                                    |                                |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂                 | 7 褐灰色 (10YR6/1) 粘性砂質土 (溝33)    |
| 2 灰白色 (10YR7/1) 粘性砂質土 (灰白色粘性微砂小塊含) | 8 灰黄褐色砂質土 (炭粒、土器、小礫含)          |
| 3 緑灰色 (10GY6/1) 粘質土 (炭化腐植物、礫多含)    | 9 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土 (灰白色微砂小塊含) |
| 4 青灰色 (5BG5/1) 粘性砂質土 (腐植物多含、礫含)    | 10 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土 (土器片含)    |
| 5 青灰色 (5BG5/1) 粘性砂質土 (炭粒、礫含)       | 11 褐灰色 (7.5YR6/1) 粘性砂質土        |
| 6 青灰色 (5BG5/1) 粗砂                  | 12 青灰色 (10BG5/1) 粘性砂質土         |



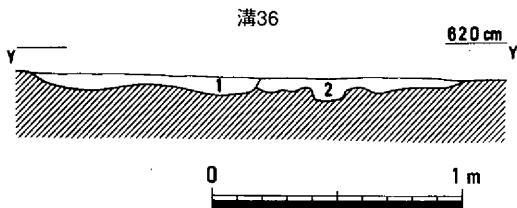
にぶい褐色 (7.5YR5/3) 砂質土



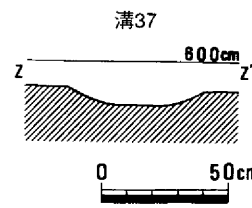
にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂質土



灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土



- 1 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土 (炭、焼土粒含)
- 2 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土 (浅黄色粘性砂質土塊、炭粒、焼土粒含)



第535図 溝33~37 (1/60,1/30)

溝35 (第458・535図)

調査区東半の中央付近、Ce503区で検出された。「L」字状の溝で、溝34の南半部と相似していた。幅が45~70cm、深さは10cm以内と浅かった。部分的に焼土の大きな塊を包含し、溝32との類似がみられ、同時存在の可能性が高い。溝の底はほぼ水平であった。中世土器片が出土した。(岡本)

溝36 (第458・535図)

調査区の南東隅、Cg504区で検出された。検出長は7mほどに過ぎず、緩い弧を描いて溝32に注ぎ込んでいたようである。土層断面を実測した部分では2条の溝の切り合い関係が確認されたが、発掘中には認識できなかった。炭粒や焼土粒を含んでいた。溝の深さは10cmと浅かった。(岡本)

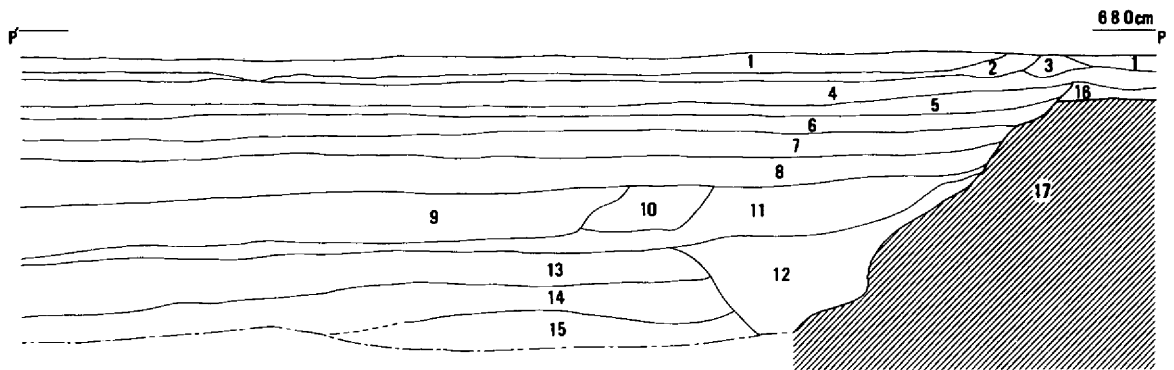
溝37 (第458・535図)

調査区の南東端、突出部分の中程、Ci505区で検出された。この溝から22m南には微高地の端部、あるいは旧河道の肩部が確認された。方形区画に対する位置関係で見れば溝32と類似している。溝の幅は50~65cm、深さは7cmときわめて浅かった。中世のものらしい土器片が少量出土した。(岡本)

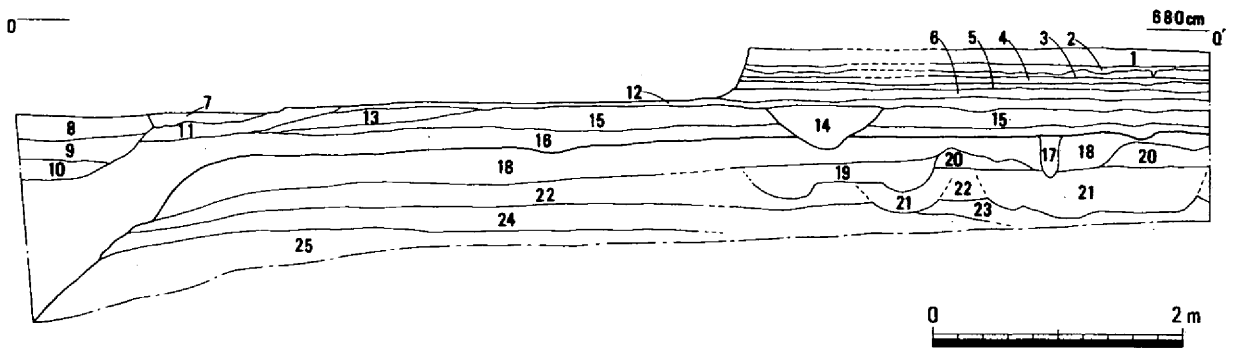
(9) 河道

河道3 (第458・536図)

調査区の北側においてほぼ東西方向に検出された。弥生時代や古墳時代の遺構残存状況から、少なくとも古墳時代まではこの位置に河道は存在しておらず微高地が続いていたものと考えられる。河道3の完掘は行えなかったが、断面の観察などから肩口の傾斜は強いと思われる。埋土は粘質土や微砂、細砂が水平にちかく堆積していた。埋土中からは土師器、須恵器、漆塗り木製椀小片などが少量出土している。時期は中世である。南側に想定できる屋敷とともに足守川への水上運搬のための河道として機能していたのではなかろうか。(平井)



- |            |            |             |             |
|------------|------------|-------------|-------------|
| 1 暗黄灰色粘質微砂 | 6 淡褐灰色粘質微砂 | 11 淡灰色粘質微砂  | 16 淡灰褐色粘質細砂 |
| 2 明青灰色粘質微砂 | 7 明灰色粘質土   | 12 青灰色粘土    | 17 灰褐色粘質細砂  |
| 3 黄灰色粘質微砂  | 8 灰白色粘質土   | 13 暗青灰色粘質微砂 |             |
| 4 淡灰黄色粘質微砂 | 9 淡青灰色粘質土  | 14 淡緑灰色細砂   |             |
| 5 淡黄褐色粘質微砂 | 10 黒灰色粘質微砂 | 15 褐緑灰色粘質土  |             |



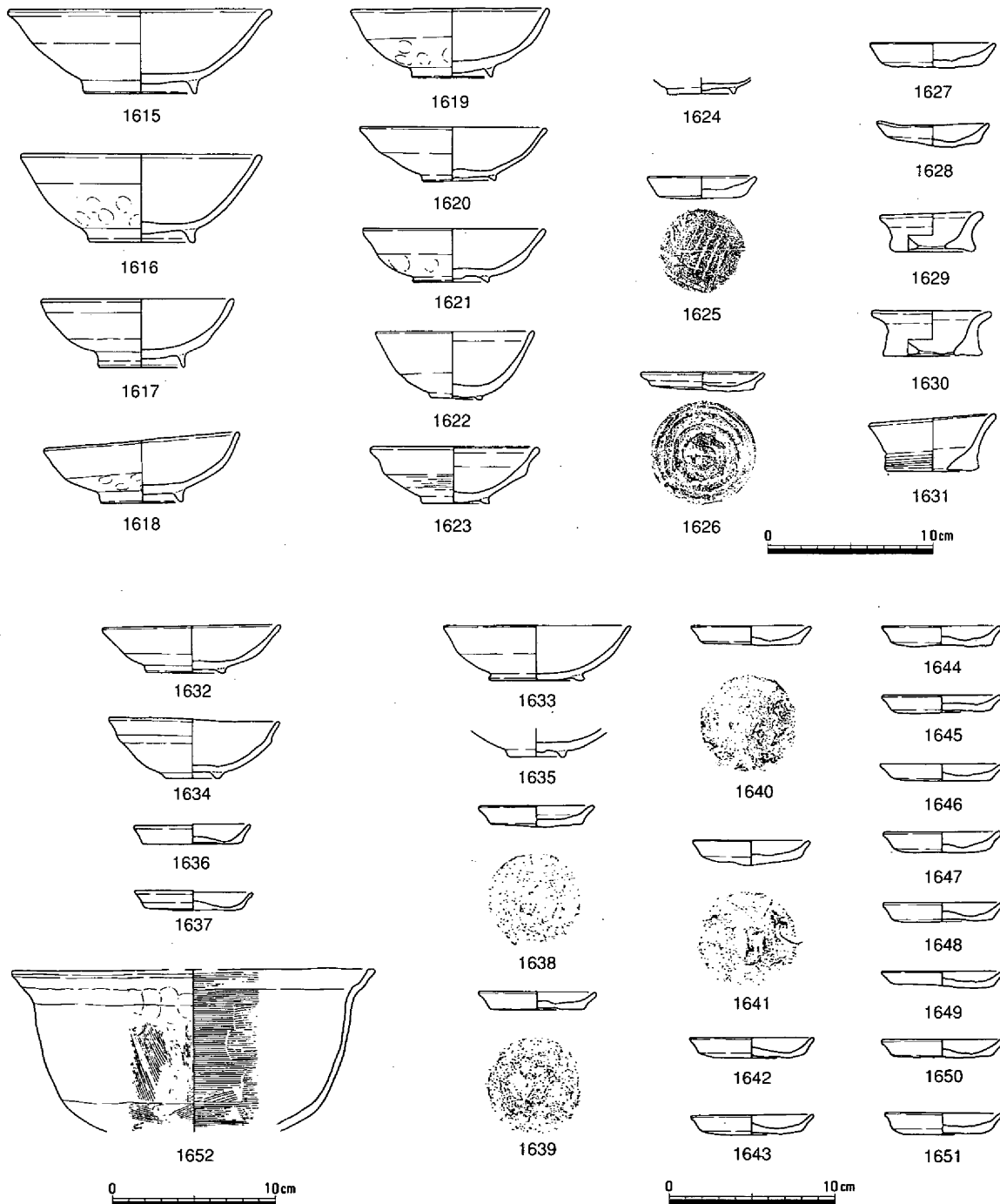
- |                           |                           |                                      |
|---------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 1 灰色 (10Y6/1) 砂質土 (現代耕作土) | 10 青灰色 (5BG5/1) 粘質土       | 19 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘質土                |
| 2 灰白色 (10Y7/1) 砂質土        | 11 明褐色 (7.5YR7/1) 粘質砂質土   | 20 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土                 |
| 3 浅黄色 (5Y7/3) 砂質土         | 12 淡黄色 (2.5Y8/3) 砂質土      | 21 褐色 (10YR4/4) 砂質土                  |
| 4 明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土      | 13 にぶい褐色 (7.5YR7/3) 粘性砂質土 | 22 青灰色 (5BG5/1) ~ 褐色 (10YR4/4) 粘性砂質土 |
| 5 灰白色 (5Y7/1) 粘性砂質土       | 14 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 砂質土   | 23 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土              |
| 6 灰白色 (10Y7/1) 粘性砂質土      | 15 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土     | 24 緑灰色 (7.5GY5/1) 微砂                 |
| 7 灰白色 (N7/0) 粘質土          | 16 にぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質土   | 25 オリーブ灰色 (10Y5/2) 微砂                |
| 8 青灰色 (5B6/1) 粘質土         | 17 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土      |                                      |
| 9 青灰色 (10B5/1) 粘質土        | 18 にぶい褐色 (7.5YR5/3) 砂質土   |                                      |

第536図 河道3 (1/60)

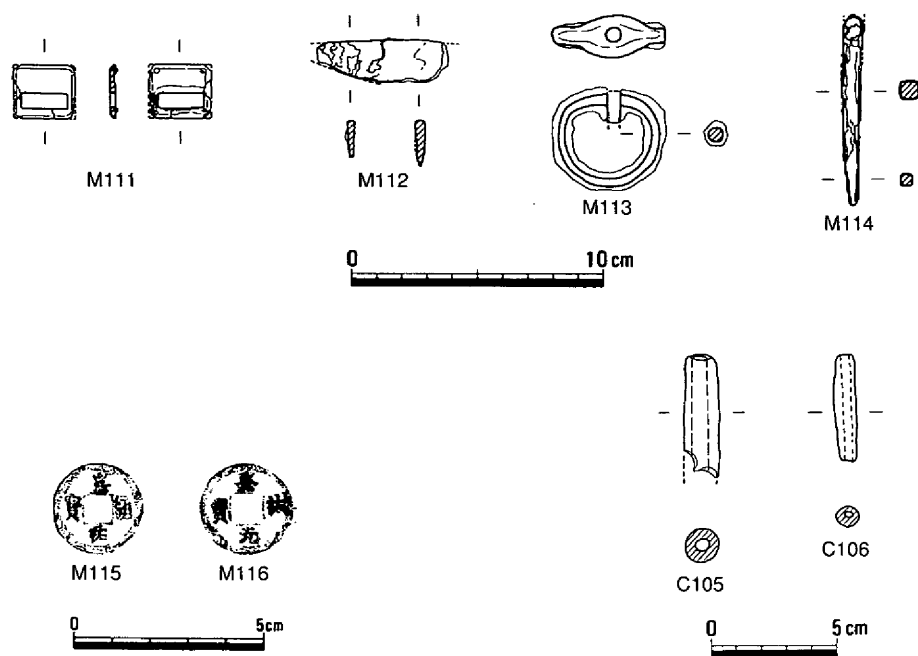
(10) 柱穴

柱穴10~32 (第457・458・537・538図、図版100・102)

古代・中世の柱穴は調査区の全域にわたって数多く検出できた(第455図)。これらのうち掘立柱建物を構成する柱穴についてはすでに報告している。掘立柱建物については発掘調査時に設定・復元したもののほかに整理作業時に復元したものも報告しているが、第455図に示しているようにそれ以外に多数の柱穴が存在していることや未検出の柱穴の存在をも想定するならば、報告した以外に掘立柱



第537図 柱穴16~31出土遺物 (1/4)



第538図 柱穴10～32出土遺物 (1/3,1/2)

建物は存在しないとは言い切れない。例えば後述するような完形品に近い土器が複数出土する柱穴については掘立柱建物を構成する柱穴の一つと想定することもできよう。

第537・538図に示した柱穴出土遺物は完形品に近い土器や金属製品、土製品について掲載している。**1615・1616**は柱穴26 (P26) から出土した土師器碗で12世紀後半、**1617**は柱穴25 (P25)、**1618**は柱穴27 (P27)、**1619**は柱穴28 (P28)、**1620**は柱穴16 (P16)、**1621**は柱穴20 (P20) から出土した土師器碗で13世紀後半、**1622**は柱穴19 (P19)、**1623**は柱穴17 (P17)、**1624**は柱穴22 (P22) から出土した土師器碗で14世紀前半ではなかろうか。**1625・1629・1630**は柱穴30 (P30) から出土した小皿と脚台、**1626**は柱穴29 (P29)、**1627**は柱穴23 (P23)、**1628**は柱穴22 (P22) から出土した小皿、**1631**は柱穴21 (P21) から出土した脚台で鎌倉時代と考えている。

**1632・1634・1636・1637・1652**はフロヤ1区の柱穴31 (P31) から出土した土師器で13世紀末から14世紀初頭ではなかろうか。**1633・1635・1638～1651**はフロヤ2C区の柱穴18 (P18) から出土した土師器で13世紀後半と考えている。

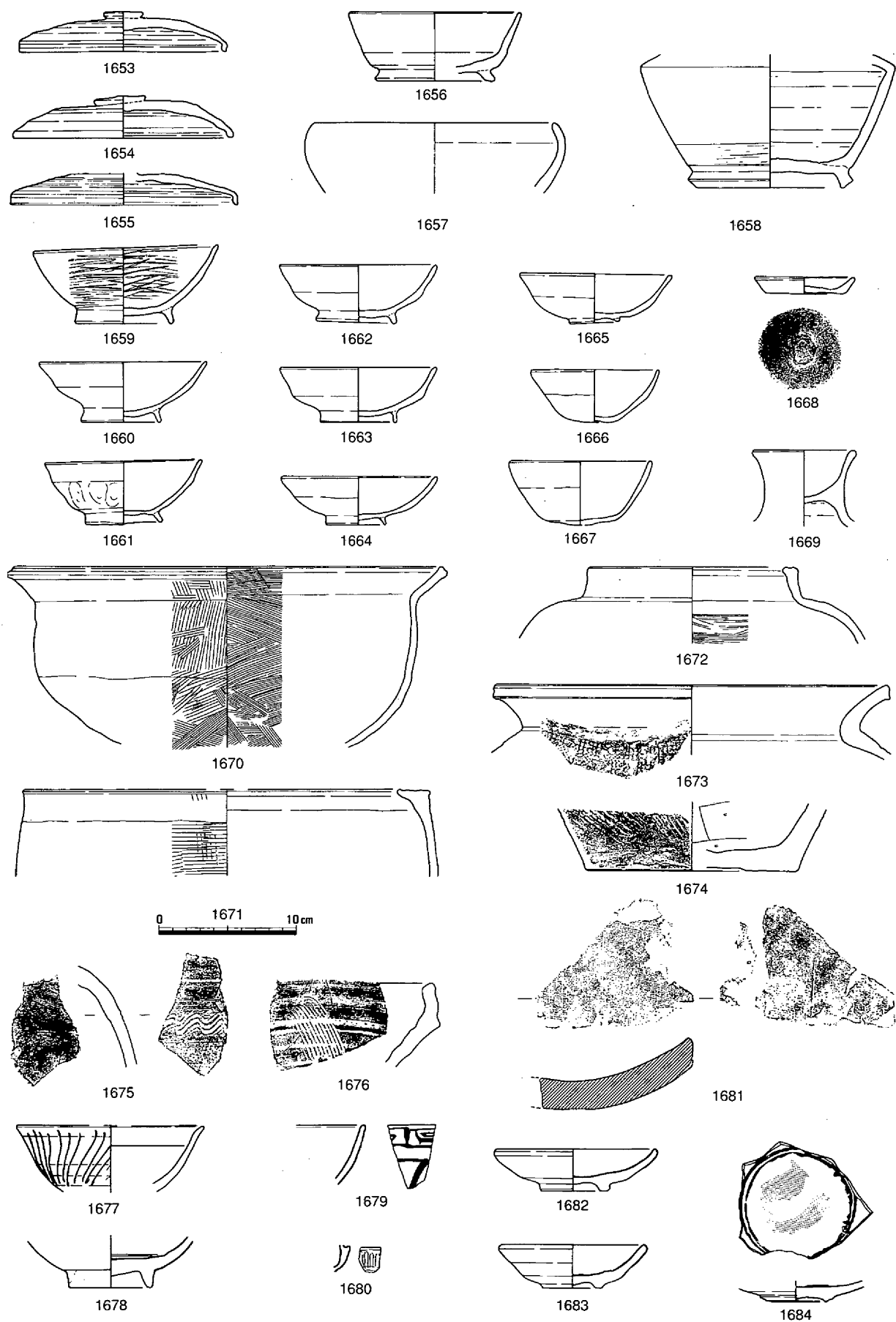
**M111**はフロヤ1区の柱穴10 (P10) の上面から出土した青銅製帯金具(「巡方」)である。縦21.5mm、横24.3mmの長方形で、厚さは3mmを測る。約18×6mmの長方形の透かし孔があり、内面の四隅には釘が埋め込まれている。古代のものであろう。**M112**は柱穴15 (P15) からの出土で刀子、**M114**は柱穴14 (P14) からの出土で釘、**M113**は柱穴12 (P12) からの出土で用途不詳である。いずれも時期は特定できない。**M115**は柱穴24 (P24)、**M116**は柱穴32 (P32) から出土した「嘉祐通寶」と「嘉祐元寶」である。

**C105・106**は土錘と考えている。

(平井)

### (11) 遺構に伴わない遺物 (第539～541図)

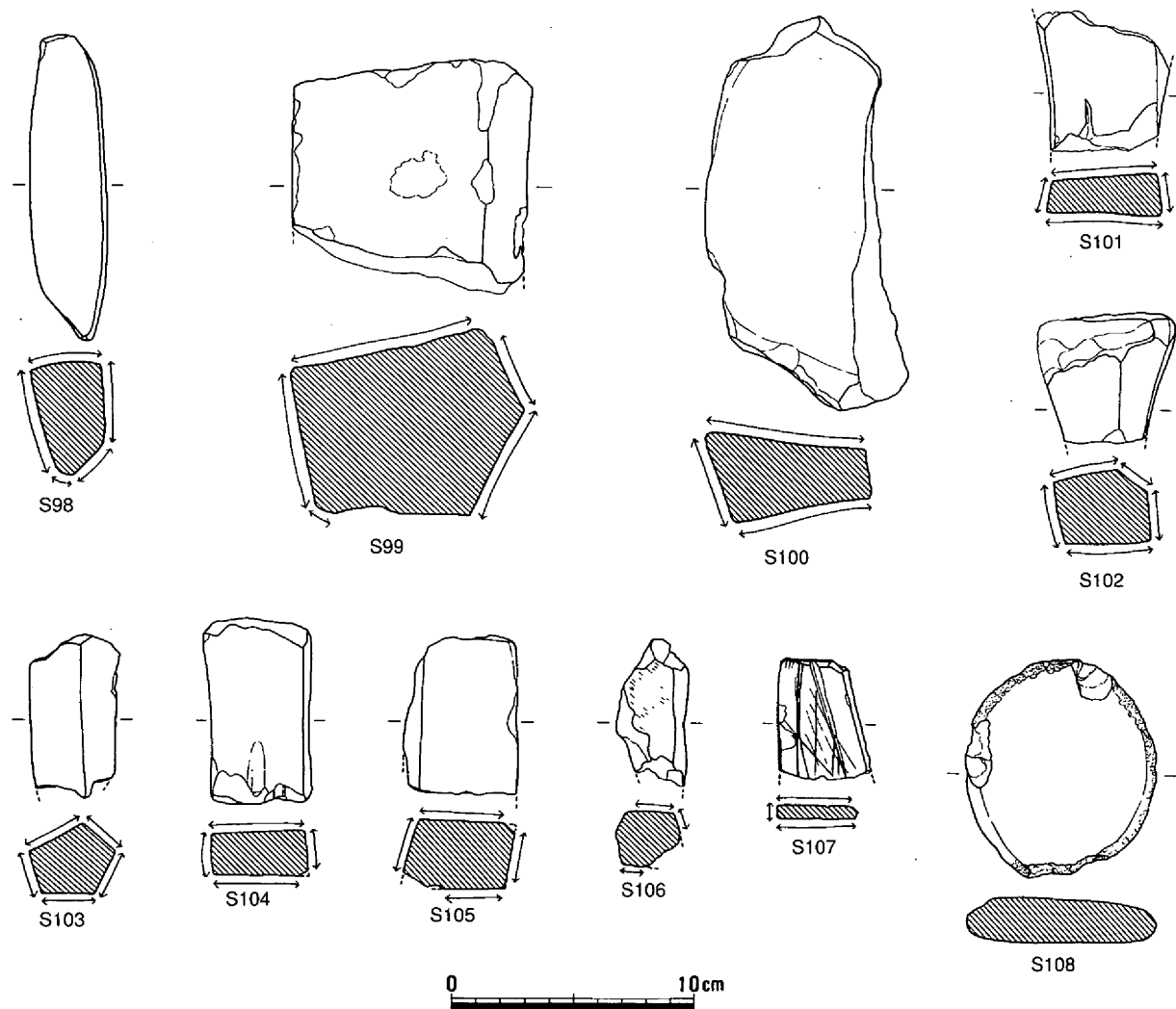
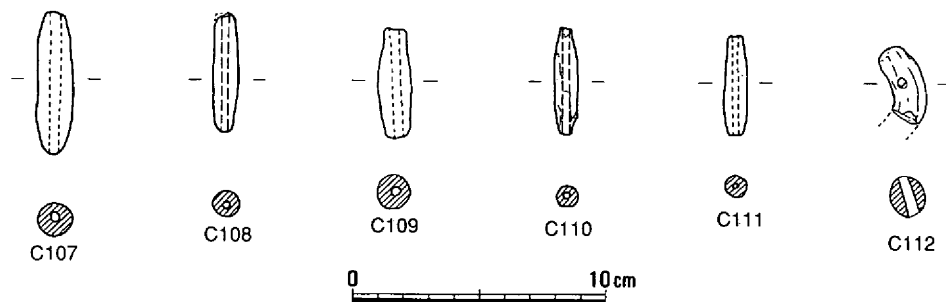
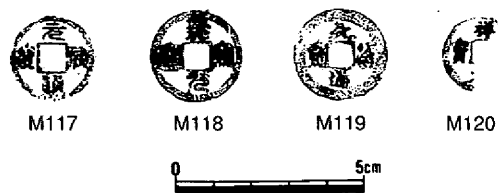
古代・中世の遺構については報告した以外には遺物を全く出土しない土壙状遺構や柱穴状遺構、溝



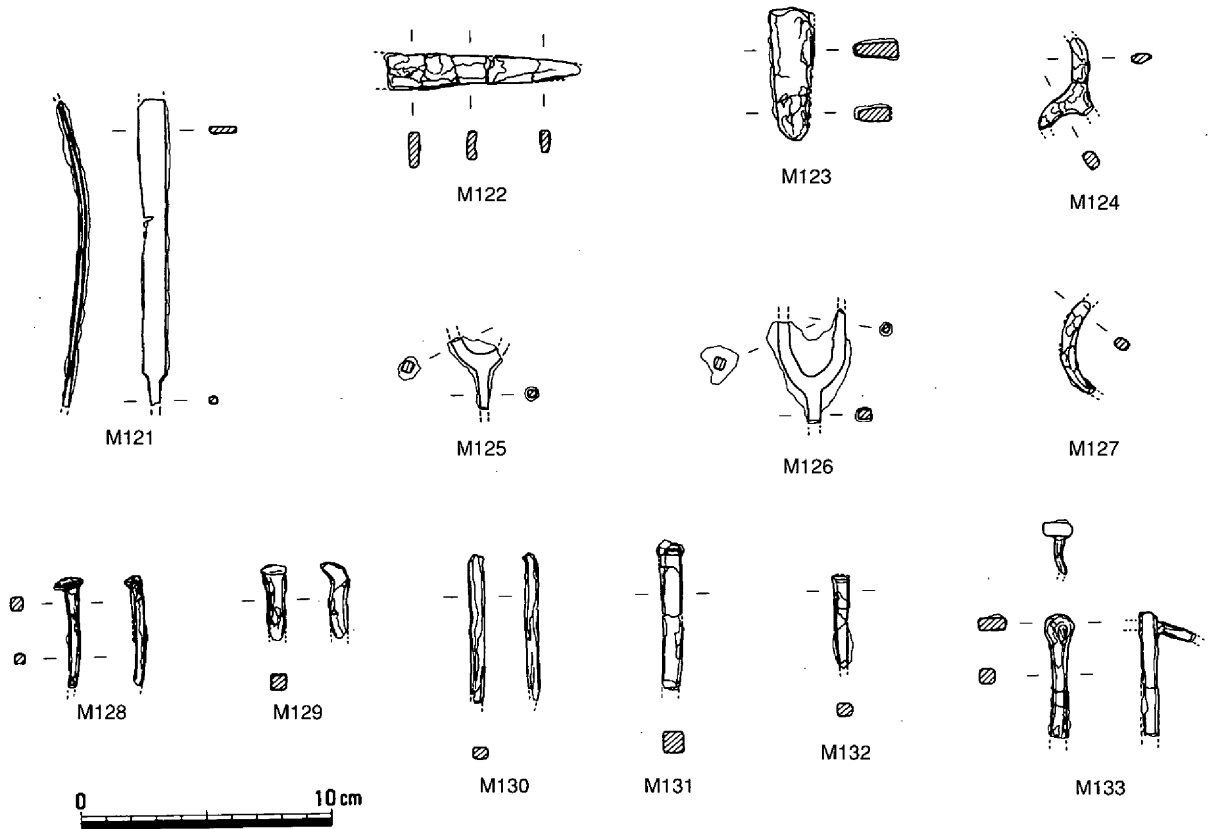
第539図 遺構に伴わない遺物(古代~中世)①(1/4)

状遺構などが少し検出できている。

古代・中世の遺構に伴わない遺物はおもに遺構検出中に出土した遺物である。1653～1656は須恵器杯蓋と杯身で7世紀後半から8世紀前半であろう。1657は須恵器鉄鉢、1658は須恵器長頸壺であ



第540図 遺構に伴わない遺物（古代～中世）②（1/2,1/3）



第541図 遺構に伴わない遺物（古代～中世）③（1/3）

る。1659～1665は高台付土師器椀で、11世紀後半から13世紀後半と考えている。1666・1667は無高台の土師器椀で14世紀前半から中頃ではなかろうか。1668は土師器小皿、1669は用途不詳である。1670は土師器鍋、1671は瓦質鉢、1672は瓦質釜である。1673・1674は亀山焼、1675は備前焼壺、1676は備前焼播り鉢である。1677・1688は白磁碗、1679は雷文帯青磁碗、1680は青白磁合子の身である。1681は平瓦で凹面は細かい布目、凸面はナデである。1682・1683は唐津焼の皿で、内面と外面は体部上半まで薄い釉薬がかけられおり、見込みには胎土目痕跡が観察できる。1684は唐津焼の皿で、見込みには砂目積みの痕跡が観察できる。1610～1630年頃の製作と考えられているがこの節において図示している。

M117は「元祐通寶」、M118は「熙寧元寶」、M119は「元符通寶」、M120は「祥符元寶」と考えている。

C107～111は土錘、C111は土製勾玉であろうか。

S98～107は砥石と考えている。S108は叩き石ではなかろうか。

M121～133は鉄製品である。器種、用途がわからないものが多いが、M128～132は釘と考えてよいであろう。これらの鉄製品は古代・中世と考えているが遺構に伴っておらず共伴遺物も明確ではないため、古墳時代や近世のものが含まれている可能性も否定できない。（平井）

## 5 近世の遺構・遺物

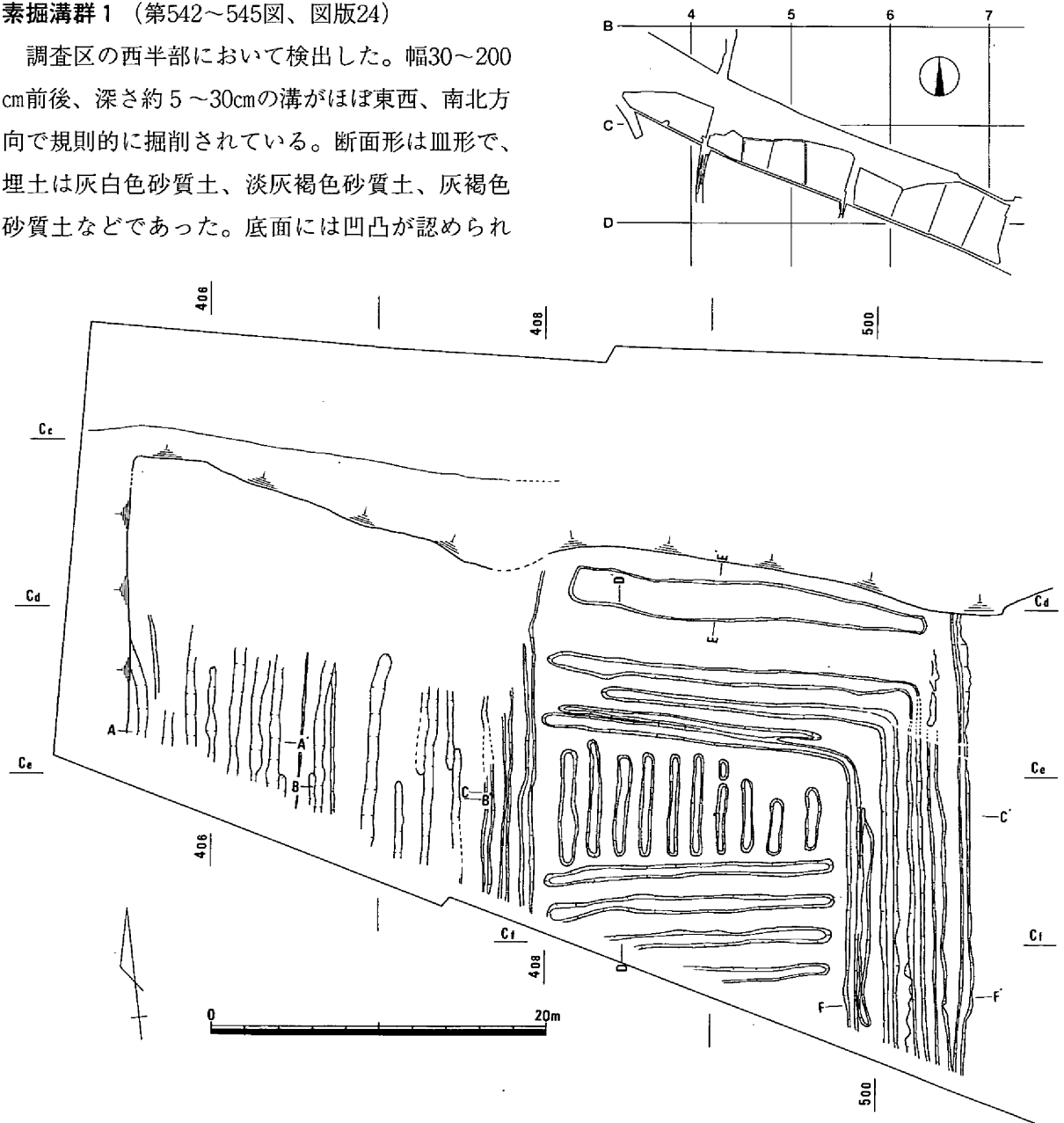
### (1) 概要

近世の遺構として明確に捉えられたのは後述する素掘溝群のみであった。古代・中世の節で報告した河道3については、明確ではないが素掘溝群が検出できなかったことなどから近世においても機能していた可能性が考えられる。近世の水田層は明確に調査できなかった。遺物は唐津焼や伊万里焼、備前焼などが少量出土しているのみである。(平井)

### (2) 素掘溝群

#### 素掘溝群1 (第542～545図、図版24)

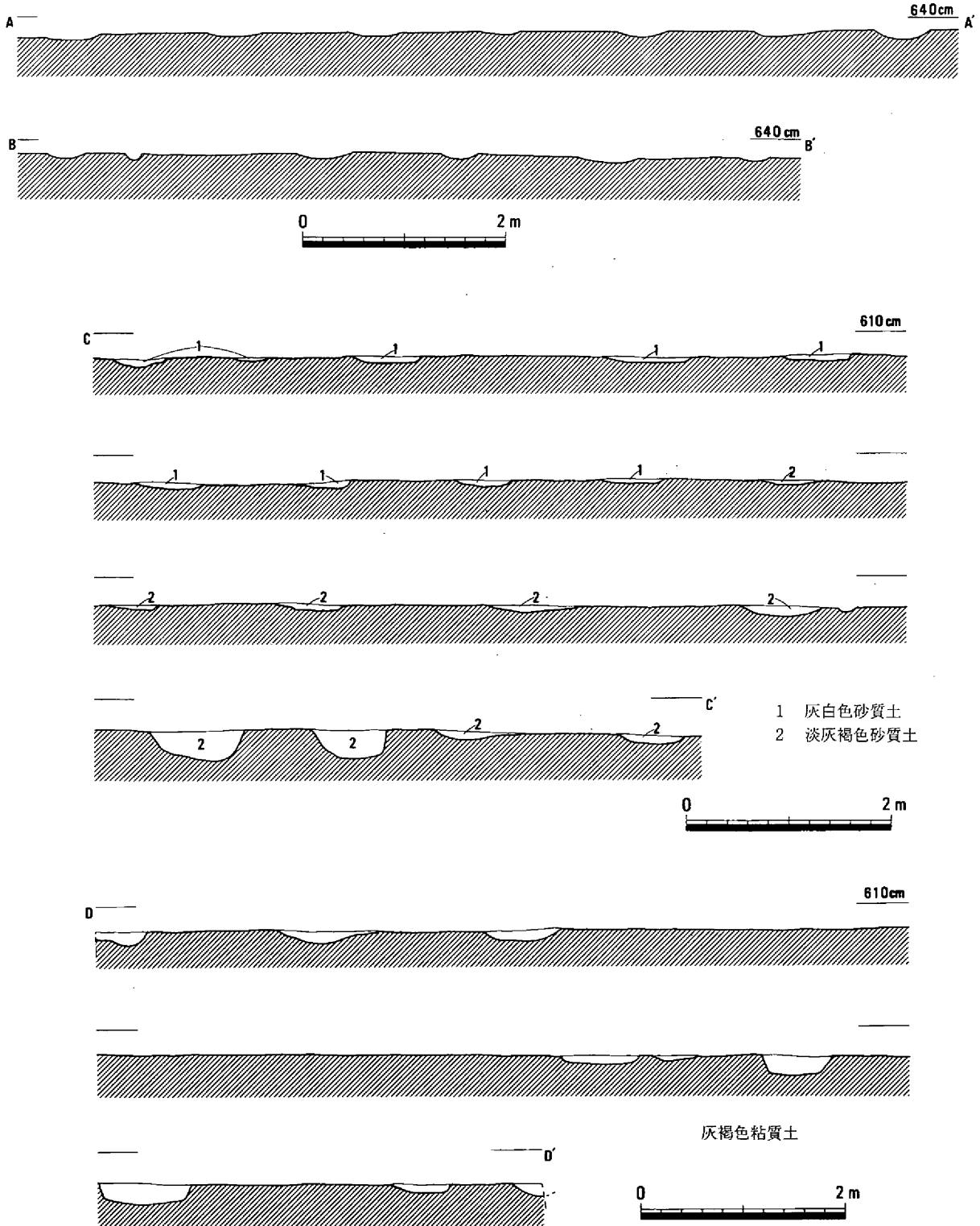
調査区の西半部において検出した。幅30～200cm前後、深さ約5～30cmの溝がほぼ東西、南北方向で規則的に掘削されている。断面形は皿形で、埋土は灰白色砂質土、淡灰褐色砂質土、灰褐色砂質土などであった。底面には凹凸が認められ



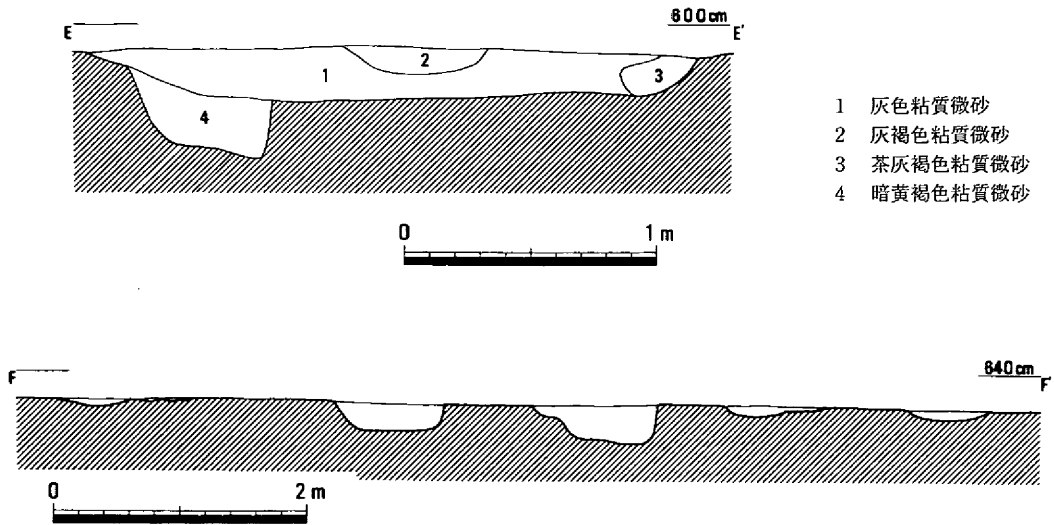
第542図 素掘溝群1 (1/400)



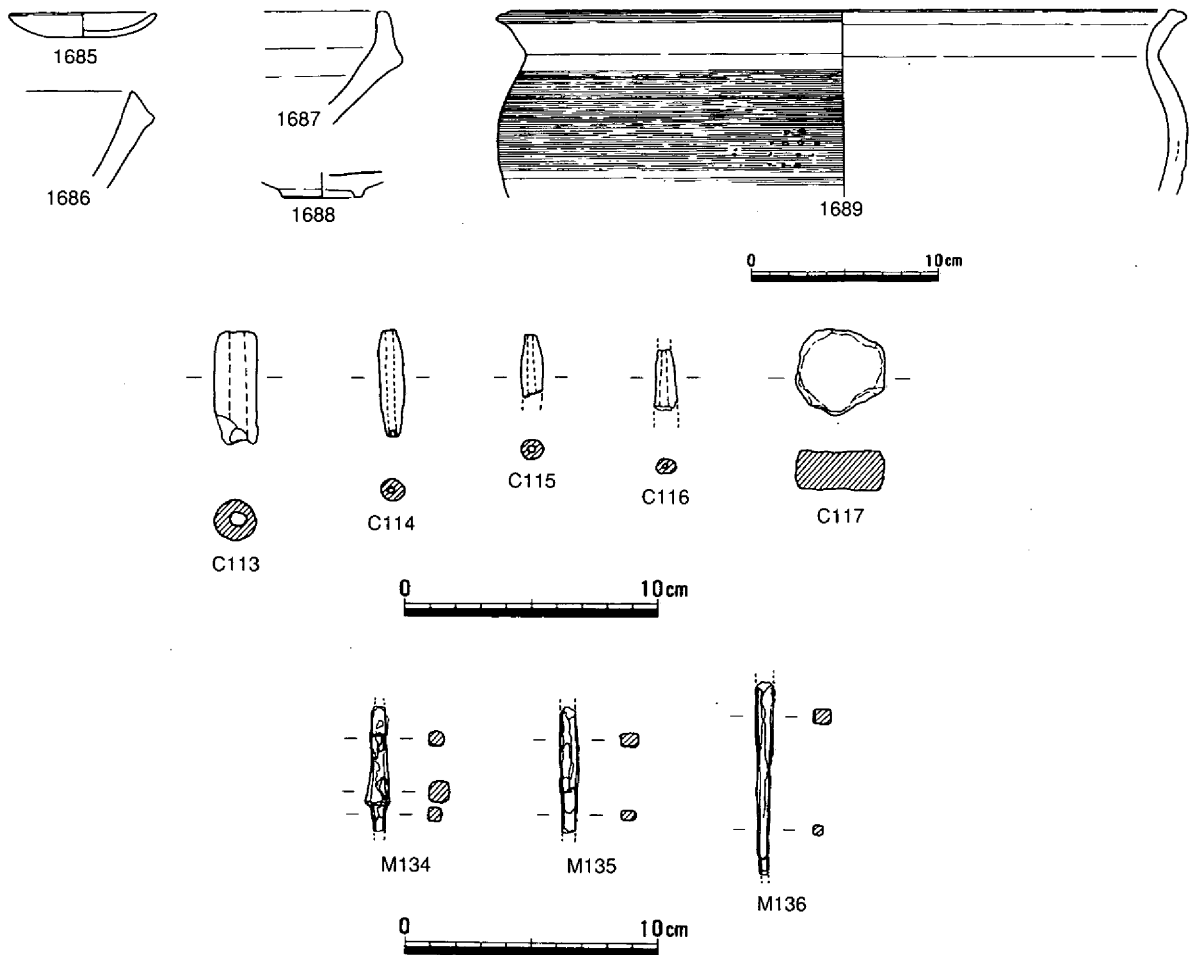
た。遺物は埋土中から土器、土製品、鉄器が少量出土している。1685は土師器皿で底面はナデである。1686・1687は備前焼播鉢の小片である。1688は唐津焼の皿で見込み部分には砂目積みの痕跡が観察できる。1689は瓦質の鉢で体部上半にはカキメが施されている。C113～116は土錘、C117は備前焼製の円板状土製品である。M134～136は鉄製品である。



第543図 素掘溝群1断面① (1/60)



第544図 素掘溝群1断面② (1/30,1/60)



第545図 素掘溝群1出土遺物 (1/4,1/3)

時期については、検出面が掘立柱建物群などよりは新しいことや屋敷を囲む溝や柱穴を切っていることおよび出土遺物から近世（前期か）と考えている。この素掘溝群の性格は畑作に伴う溝で、屋敷地が廃棄された後、屋敷地に規制されるかたちで畑作化されたのではなかろうか。（平井）

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建設に伴う発掘調査

18

(第1分冊)

2000年3月16日 印刷

2000年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター  
岡山市西花尻1325-3  
発 行 岡山県教育委員会  
岡山市内山下2-4-6  
印 刷 岡山県農協印刷株式会社

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第2分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第2分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

## 第二分冊目次

第3章 高塚遺跡	373
第3節 角田調査区	373
1. 調査区の概要	373
2. 弥生時代の遺構と遺物	374
(1) 概要	374
(2) 竪穴住居	385
(3) 柱穴列	498
(4) 袋状土壇	499
(5) 方形土壇	526
(6) 土壇	619
(7) 溝	728
(8) 土器溜り	733
(9) 河道	754
(10) 柱穴	756
(11) 遺構に伴わない遺物	762

## 図目次

第546図	角田調査区遺構全体図 (1/500)	375~376	第568図	竪穴住居59~62 (1/60)	397
第547図	角田調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750)	377	第569図	竪穴住居60・61出土遺物 (1/4,1/3)	398
第548図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図① (1/300)	378	第570図	竪穴住居62出土遺物 (1/4)	399
第549図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図② (1/300)	379	第571図	竪穴住居63 (1/60)・出土遺物① (1/4,1/2,1/3)	400
第550図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図③ (1/300)	380	第572図	竪穴住居63出土遺物② (1/4)	401
第551図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図④ (1/300)	381	第573図	竪穴住居63出土遺物③ (1/4)	402
第552図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図⑤ (1/300)	382	第574図	竪穴住居64 (1/60)・出土遺物① (1/4)	403
第553図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図⑥ (1/300)	383	第575図	竪穴住居64出土遺物② (1/4,1/3)	404
第554図	角田調査区弥生時代主要遺構部分図⑦ (1/300)	384	第576図	竪穴住居65 (1/60)・出土遺物 (1/4)	405
第555図	竪穴住居50 (1/60)・出土遺物 (1/4)	385	第577図	竪穴住居66 (1/60)	406
第556図	竪穴住居51 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)	386	第578図	竪穴住居66出土遺物① (1/4)	407
第557図	竪穴住居52 (1/60)・出土遺物 (1/4)	387	第579図	竪穴住居66出土遺物② (1/4)	408
第558図	竪穴住居53 A (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)	388	第580図	竪穴住居67 (1/60)	409
第559図	竪穴住居53 B (1/60)・出土遺物 (1/4)	389	第581図	竪穴住居67出土遺物 (1/4,1/3)	410
第560図	竪穴住居53出土遺物 (1/4,1/3)	390	第582図	竪穴住居68 (1/60)・出土遺物① (1/4)	411
第561図	竪穴住居54 (1/60)	391	第583図	竪穴住居68出土遺物② (1/4)	412
第562図	竪穴住居54出土遺物 (1/4,1/3)	392	第584図	竪穴住居69 (1/60)・出土遺物 (1/4)	412
第563図	竪穴住居55 (1/60)・出土遺物 (1/4)	393	第585図	竪穴住居70 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/2)	413
第564図	竪穴住居56 (1/40)	393	第586図	竪穴住居70出土遺物② (1/4)	414
第565図	竪穴住居56出土遺物 (1/4)	394	第587図	竪穴住居71 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)	415
第566図	竪穴住居57 (1/60)	395	第588図	竪穴住居72・73 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/4)	416
第567図	竪穴住居58 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)	396	第589図	竪穴住居72・73出土遺物② (1/4)	417

第590图	竖穴住居74 (1/60) ······	417	第640图	竖穴住居103断面 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	461
第591图	竖穴住居75 · 76 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	418	第641图	竖穴住居104 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3,1/2) ······	462
第592图	竖穴住居77 A (1/60) ······	419	第642图	竖穴住居105 (1/60) ······	463
第593图	竖穴住居77 B · C (1/60) ······	420	第643图	竖穴住居105出土遺物 (1/4,1/3) ······	464
第594图	竖穴住居77断面 (1/60) ······	421	第644图	竖穴住居106 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	465
第595图	竖穴住居77出土遺物① (1/4) ······	422	第645图	竖穴住居107 (1/60) ······	466
第596图	竖穴住居77出土遺物② (1/4) ······	423	第646图	竖穴住居107出土遺物① (1/4) ······	467
第597图	竖穴住居77出土遺物③ (1/1,1/3,1/5) ······	424	第647图	竖穴住居107出土遺物② (1/4) ······	468
第598图	竖穴住居78 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	425	第648图	竖穴住居107出土遺物③ (1/4,1/3) ······	469
第599图	竖穴住居79 (1/60) ······	426	第649图	竖穴住居108 (1/60) ······	470
第600图	竖穴住居79出土遺物 (1/4) ······	427	第650图	竖穴住居108出土遺物 (1/4) ······	471
第601图	竖穴住居80 (1/60) ······	428	第651图	竖穴住居109 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	471
第602图	竖穴住居80出土遺物 (1/4,1/3,1/1) ······	429	第652图	竖穴住居110 (1/60) ······	472
第603图	竖穴住居81 · 82 (1/60) ······	430	第653图	竖穴住居110出土遺物 (1/4,1/3) ······	473
第604图	竖穴住居81 · 82出土遺物 (1/4,1/1) ······	431	第654图	竖穴住居111 (1/60) ······	473
第605图	竖穴住居83 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	431	第655图	竖穴住居111出土遺物 (1/4) ······	474
第606图	竖穴住居84 (1/60) ······	432	第656图	竖穴住居112 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	475
第607图	竖穴住居84出土遺物 (1/4,1/2) ······	433	第657图	竖穴住居113 (1/60) ······	476
第608图	竖穴住居85 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	433	第658图	竖穴住居113出土遺物① (1/4) ······	477
第609图	竖穴住居86 (1/60) · 出土遺物① (1/3) ······	434	第659图	竖穴住居113出土遺物② (1/4) ······	478
第610图	竖穴住居86出土遺物② (1/4) ······	435	第660图	竖穴住居113出土遺物③ (1/4) ······	479
第611图	竖穴住居86出土遺物③ (1/4) ······	436	第661图	竖穴住居113出土遺物④ (1/4) ······	480
第612图	竖穴住居86出土遺物④ (1/4) ······	437	第662图	竖穴住居114 A · B (1/60) ······	481
第613图	竖穴住居86出土遺物⑤ (1/4) ······	438	第663图	竖穴住居114断面 (1/60) ······	482
第614图	竖穴住居87 (1/60) · 出土遺物① (1/3) ······	438	第664图	竖穴住居114出土遺物① (1/1,1/3) ······	482
第615图	竖穴住居87出土遺物② (1/4) ······	439	第665图	竖穴住居114出土遺物② (1/4) ······	483
第616图	竖穴住居88 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	440	第666图	竖穴住居115 (1/60) ······	483
第617图	竖穴住居89 (1/60) ······	441	第667图	竖穴住居115出土遺物① (1/4) ······	484
第618图	竖穴住居90 (1/60) ······	442	第668图	竖穴住居115出土遺物② (1/4) ······	485
第619图	竖穴住居90断面 (1/60) · 出土遺物 (1/3,1/4) ······	443	第669图	竖穴住居116 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/1) ······	486
第620图	竖穴住居91 (1/60,1/30) ······	444	第670图	竖穴住居117 (1/60) · 出土遺物 (1/2,1/4) ······	487
第621图	竖穴住居91出土遺物 (1/4,1/3) ······	445	第671图	竖穴住居118 (1/60) · 出土遺物① (1/2) ······	488
第622图	竖穴住居92 (1/60) ······	445	第672图	竖穴住居118出土遺物② (1/4) ······	489
第623图	竖穴住居93 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	446	第673图	竖穴住居119 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	490
第624图	竖穴住居94 (1/60) · 出土遺物① (1/3) ······	447	第674图	竖穴住居120 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/2) ······	491
第625图	竖穴住居94出土遺物② (1/4) ······	448	第675图	竖穴住居121 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	492
第626图	竖穴住居95 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	449	第676图	竖穴住居122 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	493
第627图	竖穴住居96 (1/60) ······	450	第677图	竖穴住居123 (1/60,1/30) ······	494
第628图	竖穴住居96出土遺物 (1/4,1/1) ······	451	第678图	竖穴住居123出土遺物 (1/4,1/3) ······	495
第629图	竖穴住居97 (1/60) ······	452	第679图	竖穴住居124 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	496
第630图	竖穴住居97出土遺物 (1/4) ······	453	第680图	竖穴住居125 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	497
第631图	竖穴住居98 (1/60) ······	453	第681图	竖穴住居126 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	498
第632图	竖穴住居98出土遺物① (1/4) ······	454	第682图	柱穴列2 (1/60) ······	498
第633图	竖穴住居98出土遺物② (1/4) ······	455	第683图	袋状土壙87 (1/30) ······	499
第634图	竖穴住居99 (1/60) ······	456	第684图	袋状土壙88 (1/30) ······	499
第635图	竖穴住居99出土遺物 (1/4) ······	457	第685图	袋状土壙89 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	500
第636图	竖穴住居100 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	457	第686图	袋状土壙90 · 91 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	500
第637图	竖穴住居101 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	458	第687图	袋状土壙92 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	501
第638图	竖穴住居102 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	459	第688图	袋状土壙93 (1/30) ······	501
第639图	竖穴住居103 (1/60) ······	460	第689图	袋状土壙94 (1/30) ······	502

第690図	袋状土壙95 (1/30) ······	502	第740図	方形土壙 8 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	530
第691図	袋状土壙96 (1/30) ······	502	第741図	方形土壙 9 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	531
第692図	袋状土壙97 (1/30) · 出土遺物① (1/2) ······	502	第742図	方形土壙10 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	532
第693図	袋状土壙97出土遺物② (1/4) ······	503	第743図	方形土壙11 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	532
第694図	袋状土壙98 (1/30) ······	504	第744図	方形土壙12 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	533
第695図	袋状土壙99 (1/30) ······	504	第745図	方形土壙13 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	533
第696図	袋状土壙100 (1/30) ······	505	第746図	方形土壙14 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	534
第697図	袋状土壙101 (1/30) ······	505	第747図	方形土壙15 (1/40) ······	534
第698図	袋状土壙102 (1/30) ······	505	第748図	方形土壙16 (1/30) ······	534
第699図	袋状土壙103 (1/30) · 出土遺物 (1/3) ······	506	第749図	方形土壙17 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	535
第700図	袋状土壙104 (1/30) ······	507	第750図	方形土壙18 (1/40) · 出土遺物 (1/4) ······	535
第701図	袋状土壙105 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	507	第751図	方形土壙19 (1/40) · 出土遺物 (1/4) ······	536
第702図	袋状土壙106 (1/30) ······	507	第752図	方形土壙20 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	536
第703図	袋状土壙107 (1/30) ······	507	第753図	方形土壙21 (1/40) · 出土遺物 (1/4) ······	537
第704図	袋状土壙107出土遺物 (1/4) ······	508	第754図	方形土壙22 (1/40) · 出土遺物 (1/4) ······	537
第705図	袋状土壙108 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	509	第755図	方形土壙23 (1/60) · 出土遺物① (1/2,1/3) ······	538
第706図	袋状土壙109 (1/30) ······	509	第756図	方形土壙23出土遺物② (1/4) ······	539
第707図	袋状土壙109出土遺物 (1/4) ······	510	第757図	方形土壙23出土遺物③ (1/4) ······	540
第708図	袋状土壙110 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	511	第758図	方形土壙23出土遺物④ (1/4) ······	541
第709図	袋状土壙111 (1/30) ······	511	第759図	方形土壙23出土遺物⑤ (1/4) ······	542
第710図	袋状土壙112 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	512	第760図	方形土壙23出土遺物⑥ (1/4) ······	543
第711図	袋状土壙113 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	512	第761図	方形土壙24 (1/60) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	544
第712図	袋状土壙114 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	513	第762図	方形土壙25 · 26 (1/30) ······	544
第713図	袋状土壙115 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	514	第763図	方形土壙27 (1/30) ······	545
第714図	袋状土壙116 (1/30) ······	514	第764図	方形土壙28 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	545
第715図	袋状土壙116出土遺物① (1/4) ······	515	第765図	方形土壙29 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	545
第716図	袋状土壙116出土遺物② (1/4,1/2) ······	516	第766図	方形土壙30 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	546
第717図	袋状土壙117 (1/30) · 出土遺物① (1/4) ······	517	第767図	方形土壙31 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	547
第718図	袋状土壙117出土遺物② (1/4) ······	518	第768図	方形土壙32 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	547
第719図	袋状土壙118 (1/30) ······	518	第769図	方形土壙33 (1/60) ······	548
第720図	袋状土壙119 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	519	第770図	方形土壙34 (1/30) ······	548
第721図	袋状土壙120 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	519	第771図	方形土壙35 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	548
第722図	袋状土壙121 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	520	第772図	方形土壙36 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	549
第723図	袋状土壙122 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	521	第773図	方形土壙37 (1/30) · 出土遺物 (1/3) ······	549
第724図	袋状土壙123 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	521	第774図	方形土壙38 (1/30) ······	550
第725図	袋状土壙124 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	522	第775図	方形土壙39 (1/60) · 出土遺物 (1/3) ······	550
第726図	袋状土壙125 (1/30) · 出土遺物① (1/4) ······	522	第776図	方形土壙40 (1/60) ······	550
第727図	袋状土壙125出土遺物② (1/4) ······	523	第777図	方形土壙41 · 42 (1/30) · 出土遺物 (1/1) ······	551
第728図	袋状土壙126 (1/30) · 出土遺物① (1/4) ······	523	第778図	方形土壙43 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	551
第729図	袋状土壙126出土遺物② (1/4) ······	524	第779図	方形土壙44 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	552
第730図	袋状土壙127 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	524	第780図	方形土壙45 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	552
第731図	袋状土壙128 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	525	第781図	方形土壙46 (1/30) ······	552
第732図	袋状土壙129 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	525	第782図	方形土壙46出土遺物① (1/4) ······	553
第733図	方形土壙 1 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	526	第783図	方形土壙46出土遺物② (1/4) ······	554
第734図	方形土壙 2 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	527	第784図	方形土壙47 (1/30) ······	555
第735図	方形土壙 3 (1/40) · 出土遺物 (1/4) ······	527	第785図	方形土壙48 (1/60) ······	555
第736図	方形土壙 4 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	528	第786図	方形土壙49 (1/60) ······	555
第737図	方形土壙 5 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	528	第787図	方形土壙50 · 51 (1/60) · 出土遺物 (1/4) ······	556
第738図	方形土壙 6 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	529	第788図	方形土壙52 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	556
第739図	方形土壙 7 (1/30) · 出土遺物 (1/4,1/3) ······	529	第789図	方形土壙53 (1/30) · 出土遺物 (1/4) ······	557



第790図	方形土壙54 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	557
第791図	方形土壙55 (1/60)・出土遺物① (1/4) ……	558
第792図	方形土壙55出土遺物② (1/4) ……	559
第793図	方形土壙56 (1/30) ……	559
第794図	方形土壙57 (1/30)・出土遺物 (1/3) ……	560
第795図	方形土壙58 (1/30) ……	560
第796図	方形土壙59 (1/30) ……	561
第797図	方形土壙60 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	561
第798図	方形土壙61・62 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/4) ……	562
第899図	方形土壙61・62出土遺物② (1/4) ……	563
第800図	方形土壙63 (1/30) ……	563
第801図	方形土壙64 (1/30) ……	563
第802図	方形土壙65 (1/60)・出土遺物 (1/3) ……	564
第803図	方形土壙66 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	564
第804図	方形土壙67 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	565
第805図	方形土壙68 (1/60) ……	565
第806図	方形土壙69 (1/60) ……	565
第807図	方形土壙70 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	566
第808図	方形土壙71 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	567
第809図	方形土壙72 (1/30) ……	567
第810図	方形土壙73 (1/60) ……	567
第811図	方形土壙74 (1/60) ……	568
第812図	方形土壙75 (1/30) ……	568
第813図	方形土壙76 (1/30) ……	568
第814図	方形土壙77 (1/30) ……	569
第815図	方形土壙78 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	569
第816図	方形土壙79 (1/30) ……	570
第817図	方形土壙80 (1/30) ……	570
第818図	方形土壙81 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	571
第819図	方形土壙82 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	572
第820図	方形土壙83 (1/30) ……	572
第821図	方形土壙83出土遺物 (1/4) ……	573
第822図	方形土壙84 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	574
第823図	方形土壙85 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	574
第824図	方形土壙86 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	575
第825図	方形土壙87 (1/30) ……	575
第826図	方形土壙88 (1/30) ……	575
第827図	方形土壙88出土遺物 (1/4) ……	576
第828図	方形土壙89 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	576
第829図	方形土壙90 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	577
第830図	方形土壙91 (1/30) ……	578
第831図	方形土壙92 (1/30) ……	578
第832図	方形土壙92出土遺物① (1/4) ……	579
第833図	方形土壙92出土遺物② (1/4) ……	580
第834図	方形土壙93 (1/30) ……	581
第835図	方形土壙94 (1/30) ……	581
第836図	方形土壙94出土遺物① (1/4) ……	582
第837図	方形土壙94出土遺物② (1/4) ……	583
第838図	方形土壙95 (1/30) ……	583
第839図	方形土壙96 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	584

第840図	方形土壙97 (1/30) ……	584
第841図	方形土壙98 (1/30) ……	584
第842図	方形土壙99 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	585
第843図	方形土壙100 (1/30) ……	586
第844図	方形土壙101 (1/30) ……	586
第845図	方形土壙102 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	587
第846図	方形土壙103 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4) ……	587
第847図	方形土壙104 (1/30) ……	588
第848図	方形土壙105 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	588
第849図	方形土壙106 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2) ……	589
第850図	方形土壙107・108 (1/30)・方形土壙107出土遺物 (1/4,1/2) ……	590
第851図	方形土壙109 (1/30) ……	591
第852図	方形土壙110 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	591
第853図	方形土壙111 (1/30) ……	592
第854図	方形土壙112 (1/30) ……	592
第855図	方形土壙113 (1/30) ……	592
第856図	方形土壙113出土遺物 (1/4) ……	593
第857図	方形土壙114 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	594
第858図	方形土壙115 (1/30) ……	594
第859図	方形土壙116・117 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	595
第860図	方形土壙118 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	595
第861図	方形土壙119 (1/30) ……	595
第862図	方形土壙120 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	596
第863図	方形土壙121 (1/30) ……	596
第864図	方形土壙122 (1/30) ……	596
第865図	方形土壙123 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) ……	597
第866図	方形土壙124 (1/30) ……	598
第867図	方形土壙125 (1/30) ……	598
第868図	方形土壙126 (1/30) ……	598
第869図	方形土壙127 (1/30) ……	599
第870図	方形土壙128 (1/30) ……	599
第871図	方形土壙129 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	600
第872図	方形土壙130 (1/30) ……	600
第873図	方形土壙130出土遺物 (1/4) ……	601
第874図	方形土壙131 (1/30) ……	601
第875図	方形土壙132 (1/30) ……	602
第876図	方形土壙133 (1/30) ……	602
第877図	方形土壙134 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	602
第878図	方形土壙135 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	603
第879図	方形土壙136 (1/30) ……	603
第880図	方形土壙136出土遺物① (1/4) ……	604
第881図	方形土壙136出土遺物② (1/4) ……	605
第882図	方形土壙137 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	606
第883図	方形土壙138 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	606
第884図	方形土壙139 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4) ……	607
第885図	方形土壙140 (1/30) ……	609
第886図	方形土壙141 (1/30) ……	609
第887図	方形土壙142 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	609
第888図	方形土壙143 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	610

第889図	方形土壙144 (1/30) ……………	610
第890図	方形土壙145 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	610
第891図	方形土壙146 (1/30)・出土遺物 (1/3) ……………	611
第892図	方形土壙147 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	611
第893図	方形土壙148 (1/30) ……………	612
第894図	方形土壙149 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	612
第895図	方形土壙150 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	613
第896図	方形土壙151 (1/30) ……………	614
第897図	方形土壙152 (1/30) ……………	614
第898図	方形土壙153 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	614
第899図	方形土壙154 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	615
第900図	方形土壙155 (1/30) ……………	615
第901図	方形土壙156 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	616
第902図	方形土壙157 (1/30) ……………	617
第903図	方形土壙158 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	617
第904図	方形土壙159~161 (1/30)・方形土壙161出土遺物 (1/4) ……………	618
第905図	方形土壙162 (1/30) ……………	618
第906図	方形土壙163・土壙399 (1/30) ……………	618
第907図	土壙188 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	619
第908図	土壙189 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	619
第909図	土壙190 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	620
第910図	土壙191 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	621
第911図	土壙192 (1/40)・出土遺物 (1/4) ……………	621
第912図	土壙193 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	621
第913図	土壙194 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	622
第914図	土壙195 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	622
第915図	土壙196 (1/40) ……………	622
第916図	土壙197 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	623
第917図	土壙198 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	623
第918図	土壙199 (1/20)・出土遺物 (1/4) ……………	624
第919図	土壙200 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	624
第920図	土壙201 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	625
第921図	土壙202 (1/20)・出土遺物 (1/4) ……………	625
第922図	土壙203 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	625
第923図	土壙204 (1/30) ……………	625
第924図	土壙204出土遺物 (1/4) ……………	626
第925図	土壙205 (1/30) ……………	626
第926図	土壙205出土遺物① (1/4) ……………	627
第927図	土壙205出土遺物② (1/3,1/4) ……………	628
第928図	土壙206 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	629
第929図	土壙207 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	629
第930図	土壙208・209 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	630
第931図	土壙210 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	630
第932図	土壙211 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	630
第933図	土壙212 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	631
第934図	土壙213・214 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2) ……………	631
第935図	土壙215 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	632
第936図	土壙216 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	632
第937図	土壙217 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	632

第938図	土壙218 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	633
第939図	土壙219 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	633
第940図	土壙220 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	634
第941図	土壙221 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	634
第942図	土壙222 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	634
第943図	土壙223 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	635
第944図	土壙224 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	635
第945図	土壙225 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	636
第946図	土壙226 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	636
第947図	土壙227 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	637
第948図	土壙228 (1/40)・出土遺物 (1/4) ……………	637
第949図	土壙229 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	638
第950図	土壙230 (1/40)・出土遺物 (1/4,1/1) ……………	638
第951図	土壙231 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	638
第952図	土壙232 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	639
第953図	土壙233 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	639
第954図	土壙234 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	640
第955図	土壙235 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	640
第956図	土壙236 (1/30)・出土遺物① (1/4) ……………	641
第957図	土壙236出土遺物② (1/4) ……………	642
第958図	土壙236出土遺物③ (1/4) ……………	643
第959図	土壙237 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	644
第960図	土壙238 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	644
第961図	土壙239 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	644
第962図	土壙240・241 (1/30)・土壙241出土遺物 (1/4) ……	645
第963図	土壙242 (1/30) ……………	645
第964図	土壙243 (1/30) ……………	646
第965図	土壙244 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	646
第966図	土壙245 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	646
第967図	土壙246 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	646
第968図	土壙247 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	647
第969図	土壙248 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	647
第970図	土壙249 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	647
第971図	土壙250 (1/30) ……………	648
第972図	土壙251 (1/30) ……………	648
第973図	土壙252 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	648
第974図	土壙253 (1/30) ……………	648
第975図	土壙254 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	649
第976図	土壙255 (1/30) ……………	649
第977図	土壙256 (1/30) ……………	649
第978図	土壙257 (1/30) ……………	649
第979図	土壙258 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	650
第980図	土壙259 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	650
第981図	土壙260 (1/30) ……………	651
第982図	土壙261 (1/30) ……………	651
第983図	土壙262 (1/30) ……………	651
第984図	土壙263 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	651
第985図	土壙264 (1/30) ……………	652
第986図	土壙265 (1/30) ……………	652
第987図	土壙266 (1/30) ……………	652

第 988 图	土坑267 (1/30) .....	652
第 989 图	土坑268 (1/30) .....	652
第 990 图	土坑269 (1/30) .....	653
第 991 图	土坑270 (1/30) .....	653
第 992 图	土坑271 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	653
第 993 图	土坑272 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	654
第 994 图	土坑273 (1/30) .....	655
第 995 图	土坑274 (1/30) .....	655
第 996 图	土坑275 (1/30) .....	655
第 997 图	土坑276 (1/30) .....	655
第 998 图	土坑277 (1/30) .....	655
第 999 图	土坑278 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	656
第1000图	土坑279 (1/30) .....	656
第1001图	土坑280 (1/30) .....	656
第1002图	土坑281 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	657
第1003图	土坑282 · 283 (1/30) .....	657
第1004图	土坑284 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	657
第1005图	土坑285 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	658
第1006图	土坑286 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	659
第1007图	土坑287 (1/30) .....	659
第1008图	土坑288 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	659
第1009图	土坑289 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	660
第1010图	土坑290 (1/30) .....	660
第1011图	土坑291 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	661
第1012图	土坑292 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	662
第1013图	土坑293 (1/30) .....	662
第1014图	土坑294 (1/30) .....	662
第1015图	土坑295 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	663
第1016图	土坑296 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	664
第1017图	土坑297 (1/30) .....	664
第1018图	土坑298 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	664
第1019图	土坑299 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	665
第1020图	土坑300 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	665
第1021图	土坑301 (1/30) .....	665
第1022图	土坑302 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	666
第1023图	土坑303 (1/30) .....	667
第1024图	土坑304 (1/30) .....	667
第1025图	土坑305 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	667
第1026图	土坑306 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	668
第1027图	土坑307 (1/30) .....	668
第1028图	土坑308 (1/30) .....	668
第1029图	土坑309 (1/30) .....	669
第1030图	土坑310 (1/30) .....	669
第1031图	土坑311 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	669
第1032图	土坑312 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	670
第1033图	土坑313 (1/30) .....	670
第1034图	土坑314 (1/30) · 出土遗物① (1/4) .....	671
第1035图	土坑314出土遗物② (1/4) .....	672
第1036图	土坑315 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	672
第1037图	土坑316 (1/60) · 出土遗物 (1/4) .....	673

第1038图	土坑317 (1/60) .....	674
第1039图	土坑318 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	674
第1040图	土坑319 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	674
第1041图	土坑320 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	675
第1042图	土坑321 (1/30) .....	676
第1043图	土坑322 (1/30) .....	676
第1044图	土坑323 (1/30) .....	676
第1045图	土坑324 (1/30) .....	676
第1046图	土坑325 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	677
第1047图	土坑326 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	677
第1048图	土坑327 (1/30) .....	678
第1049图	土坑328 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	678
第1050图	土坑329 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	679
第1051图	土坑330 (1/30) .....	679
第1052图	土坑331 (1/30) .....	679
第1053图	土坑332 (1/30) .....	679
第1054图	土坑333 (1/30) .....	680
第1055图	土坑334 (1/30) .....	680
第1056图	土坑335 (1/30) · 出土遗物 (1/4,1/3) .....	680
第1057图	土坑336 (1/30) .....	681
第1058图	土坑337 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	681
第1059图	土坑338 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	682
第1060图	土坑339 (1/30) .....	682
第1061图	土坑340 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	682
第1062图	土坑341 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	683
第1063图	土坑342 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	684
第1064图	土坑343 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	684
第1065图	土坑344 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	684
第1066图	土坑345 (1/30) .....	684
第1067图	土坑346 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	685
第1068图	土坑347 (1/30) .....	685
第1069图	土坑348 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	685
第1070图	土坑349 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	686
第1071图	土坑350 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	687
第1072图	土坑351 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	687
第1073图	土坑352 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	687
第1074图	土坑353 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	688
第1075图	土坑354 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	689
第1076图	土坑355 (1/30) · 出土遗物① (1/3) .....	689
第1077图	土坑355出土遗物② (1/4) .....	690
第1078图	土坑356 (1/30) · 出土遗物 (1/4,1/3) .....	691
第1079图	土坑357 (1/30) .....	692
第1080图	土坑358 (1/30) .....	692
第1081图	土坑359 (1/30) .....	692
第1082图	土坑360 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	692
第1083图	土坑361 (1/30) .....	693
第1084图	土坑362 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	693
第1085图	土坑363 (1/30) · 出土遗物 (1/4) .....	693
第1086图	土坑364 (1/30) .....	694
第1087图	土坑365 (1/30) · 出土遗物 (1/2) .....	694

第1088図	土壙366 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	694	第1138図	土壙406 (1/30) ……………	722
第1089図	土壙367 (1/30) ……………	695	第1139図	土壙407 (1/30) ……………	723
第1090図	土壙368 (1/20)・出土遺物 (1/2) ……………	695	第1140図	土壙408 (1/30) ……………	723
第1091図	土壙369 (1/30) ……………	696	第1141図	土壙409 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	723
第1092図	土壙370 (1/30) ……………	696	第1142図	土壙410 (1/30) ……………	723
第1093図	土壙371 (1/30) ……………	696	第1143図	土壙411 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	724
第1094図	土壙372 (1/30) ……………	697	第1144図	土壙412 (1/60) ……………	724
第1095図	土壙373 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	697	第1145図	土壙413 (1/30) ……………	725
第1096図	土壙374 (1/30) ……………	697	第1146図	土壙414 (1/30) ……………	725
第1097図	土壙374出土遺物① (1/4) ……………	698	第1147図	土壙415 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	725
第1098図	土壙374出土遺物② (1/4) ……………	699	第1148図	土壙416 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	725
第1199図	土壙375 (1/30) ……………	699	第1149図	土壙417 (1/30) ……………	725
第1100図	土壙376 (1/30) ……………	699	第1150図	土壙418 (1/30) ……………	725
第1101図	土壙376出土遺物 (1/4,1/2) ……………	700	第1151図	土壙419 (1/30) ……………	727
第1102図	土壙377 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	701	第1152図	土壙420 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	727
第1103図	土壙378 (1/30) ……………	701	第1153図	土壙421 (1/30) ……………	727
第1104図	土壙379 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	701	第1154図	土壙422 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	727
第1105図	土壙380 (1/30) ……………	702	第1155図	土壙423 (1/30) ……………	727
第1106図	土壙381 (1/30) ……………	702	第1156図	土壙424 (1/30) ……………	727
第1107図	土壙382 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	702	第1157図	溝38 (1/60) ……………	728
第1108図	土壙383 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	703	第1158図	溝38出土遺物① (1/4) ……………	729
第1109図	土壙384 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	704	第1159図	溝38出土遺物② (1/4) ……………	730
第1110図	土壙385 (1/30) ……………	704	第1160図	溝38出土遺物③ (1/4) ……………	731
第1111図	土壙386 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	705	第1161図	溝38出土遺物④ (1/4) ……………	732
第1112図	土壙387 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	706	第1162図	土器溜り1出土遺物① (1/4) ……………	734
第1113図	土壙388 (1/30) ……………	706	第1163図	土器溜り1出土遺物② (1/4) ……………	735
第1114図	土壙389 (1/30) ……………	706	第1164図	土器溜り1出土遺物③ (1/4) ……………	736
第1115図	土壙390 (1/30)・出土遺物① (1/1,1/3) ……………	707	第1165図	土器溜り1出土遺物④ (1/4) ……………	737
第1116図	土壙390出土遺物② (1/4) ……………	708	第1166図	土器溜り1出土遺物⑤ (1/4) ……………	738
第1117図	土壙390出土遺物③ (1/4) ……………	709	第1167図	土器溜り1出土遺物⑥ (1/4) ……………	739
第1118図	土壙390出土遺物④ (1/4) ……………	710	第1168図	土器溜り1出土遺物⑦ (1/4) ……………	740
第1119図	土壙390出土遺物⑤ (1/4) ……………	711	第1169図	土器溜り1出土遺物⑧ (1/4) ……………	741
第1120図	土壙390出土遺物⑥ (1/4) ……………	712	第1170図	土器溜り1出土遺物⑨ (1/4) ……………	742
第1121図	土壙390出土遺物⑦ (1/4) ……………	713	第1171図	土器溜り1出土遺物⑩ (1/4) ……………	743
第1122図	土壙391 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	714	第1172図	土器溜り2出土遺物 (1/4) ……………	743
第1123図	土壙392 (1/30) ……………	714	第1173図	土器溜り3出土遺物 (1/4) ……………	744
第1124図	土壙393 (1/30) ……………	714	第1174図	土器溜り4出土遺物① (1/4) ……………	745
第1125図	土壙394 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	715	第1175図	土器溜り4出土遺物② (1/4) ……………	746
第1126図	土壙395 (1/30)・出土遺物① (1/4) ……………	716	第1176図	土器溜り4出土遺物③ (1/4) ……………	747
第1127図	土壙395出土遺物② (1/4) ……………	717	第1177図	土器溜り4出土遺物④ (1/4) ……………	748
第1128図	土壙395出土遺物③ (1/4) ……………	718	第1178図	土器溜り4出土遺物⑤ (1/4) ……………	749
第1129図	土壙396 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	718	第1179図	土器溜り4出土遺物⑥ (1/4) ……………	750
第1130図	土壙397 (1/30) ……………	718	第1180図	土器溜り4出土遺物⑦ (1/4) ……………	751
第1131図	土壙398 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	719	第1181図	土器溜り5出土遺物① (1/4) ……………	752
第1132図	土壙400 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	720	第1182図	土器溜り5出土遺物② (1/4) ……………	753
第1133図	土壙401 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) ……………	720	第1183図	河道4 (1/60)・河道5出土遺物 (1/4) ……………	754
第1134図	土壙402 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	721	第1184図	河道5 (1/60) ……………	755
第1135図	土壙403 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	722	第1185図	柱穴33・34出土遺物 (1/4) ……………	756
第1136図	土壙404 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……………	722	第1186図	柱穴35~41出土遺物 (1/4) ……………	757
第1137図	土壙405 (1/30) ……………	722	第1187図	柱穴42~48出土遺物 (1/4) ……………	758

第1188図	柱穴49～51出土遺物 (1/4) ……………	759	第1195図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑤ (1/4) ……	766
第1189図	柱穴52～61出土遺物 (1/4) ……………	760	第1196図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑥ (1/4) ……	767
第1190図	柱穴62～74出土遺物 (1/4) ……………	761	第1197図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑦ (1/4) ……	768
第1191図	遺構に伴わない遺 (弥生時代) ① (1/4) ……	762	第1198図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑧ (1/4) ……	769
第1192図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ② (1/4) ……	763	第1199図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑨ (1/2,1/3) ……	770
第1193図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ③ (1/4) ……	764	第1200図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑩ (1/2) ……	771
第1194図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ④ (1/4) ……	765	第1201図	遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑪ (1/1,1/3) ……	772

## 写真目次

写真 7	角田調査区作業風景 (東から) ……………	373	写真 9	角田調査区土城掘り下げ ……………	374
写真 8	角田調査区竪穴住居居住群 (北東から) ……	373			

## 第3節 角田調査区

### 1 調査区の概要

角田調査区は高塚遺跡の東端に位置し、西側はフロヤ調査区に続き、東側は足守川の西堤防裾にあたる。調査区は幅約60m、長さ約150mを測り、調査区西側北部は現用水路によって調査幅を減じている。一次調査で明らかのように、調査区の基本土層は耕作土下に50cm余りの近世砂層が堆積しており、以下、中世および弥生時代遺物包含層、基盤層と続く。基盤層は東から西にわずかながら低くなるとともに調査区の西方に向かい中世が、東方に弥生時代遺物包含層が厚くなる傾向を示していた。

調査は表土下約60cmの中世遺物包含層上部まで重機によって排土して開始し、その結果、調査区全



写真7 角田調査区作業風景（東から）



写真8 角田調査区竪穴住居群（北東から）

面にわたって弥生時代から中世に至る遺構遺物が検出された。特に、弥生時代後期においては調査区南東部から溝および河道が検出され、微高地はそのあたりから下がっていくものと推定された。また、古墳時代から中世においては調査区南東部および北東部に斜面堆積を確認しており、この時期、調査区周辺の微高地は比較的幅が狭く、東西に細長く延びていたものと思われる。

一方、弥生時代から古墳時代の遺構は調査区全体から多くの検出をみた。しかしながら、古代の遺構は極めて少なく、中世のそれは調査区西方を中心に掘立柱建物群や土墳墓などが検出された。なお、これ以外にも全体図に示すように夥しい柱穴が検出されたが、建物として確認できないものは該当する時代の主要遺構から除外せざるを得なかった。(江見)

## 2 弥生時代の遺構と遺物

### (1) 概要

調査区からは竪穴住居77軒以上、袋状土壇43基、方形土壇163基、土壇286基、溝1条、土器溜り5か所、柱穴多数などが検出された。これら遺構は伴出遺物から全般的に弥・後・IおよびⅢ・Ⅳに属するものが大半で、弥・後・Ⅱの範疇と思われるものは極めて少ない状況であった。



写真9 角田調査区土壇掘り下げ

前述のように当調査区は南東部を除き大半が微高地部分にあたる。

竪穴住居は平面形態が円形あるいは不整形円形を呈するものが多く、一部、後期前半に属するものに方形ないし隅丸方形のものがみられた。袋状土壇は主に調査区中央から東部にかけて検出され、伴出遺物は弥・後・I期のものが大半を占めた。方形土壇は調査区全体から検出され、遺物の示す年代観は弥・後・ⅢからⅣであった。また、土壇においても調査区全体から検出されており、実数は報告例をはるかに上回る数であったが、必要最小限にとどめた。なお、掘立柱建物は何棟か所在したものと考えているが、前述のようにそれを決定付ける状況が確認されず、報告を差し控えた。

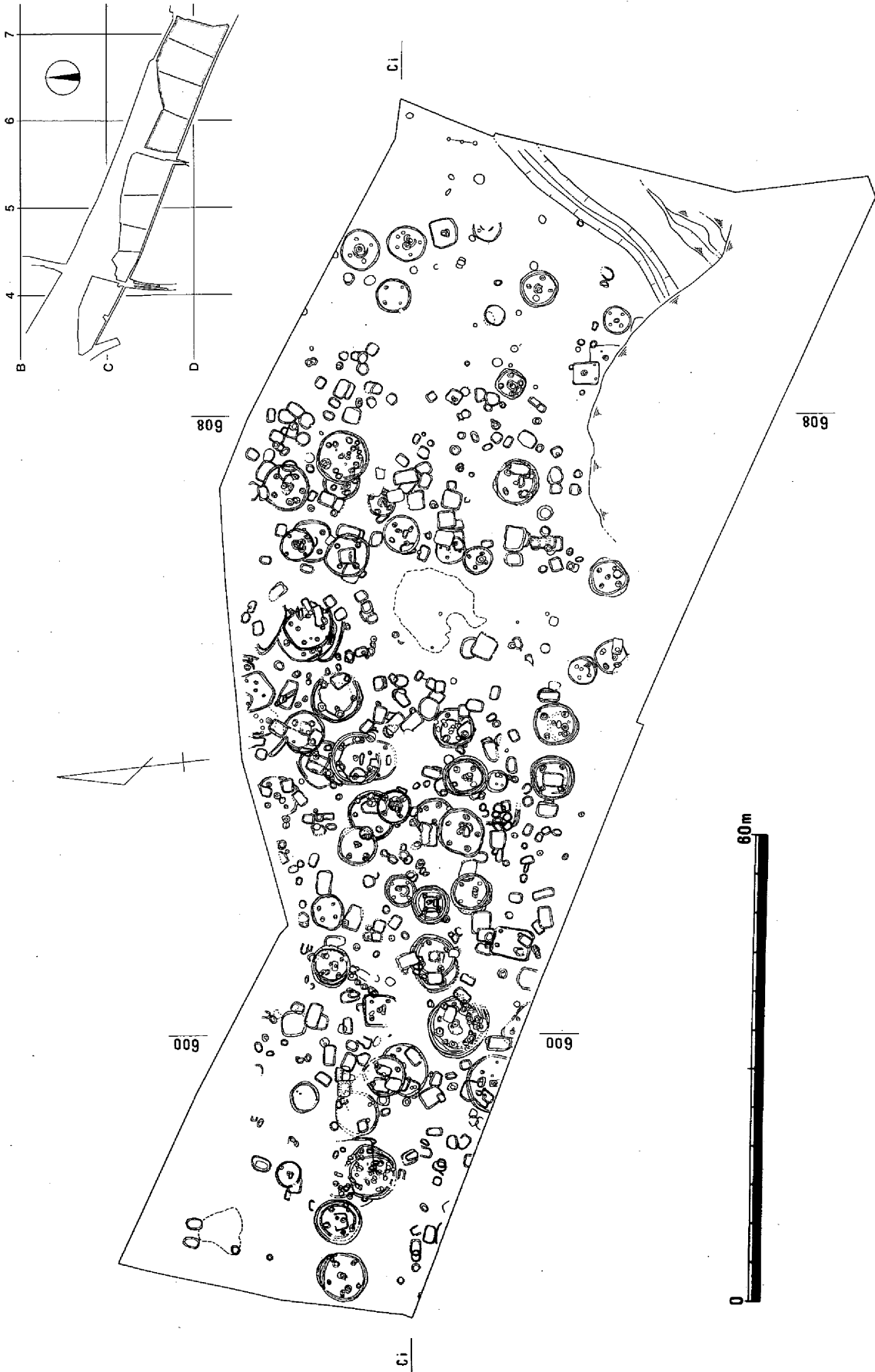
出土遺物の大半は後期に属するもので、コンテナ約1200箱が出土しており、特筆されるものとして、棒状銅製品と遊離遺物ではあるが銅鐸片がある。なお、前期に遡る土器片も数点出土しているが、遺構は全く確認できなかった。(江見)





第546図 角田調査区遺構全体図 (1/500)

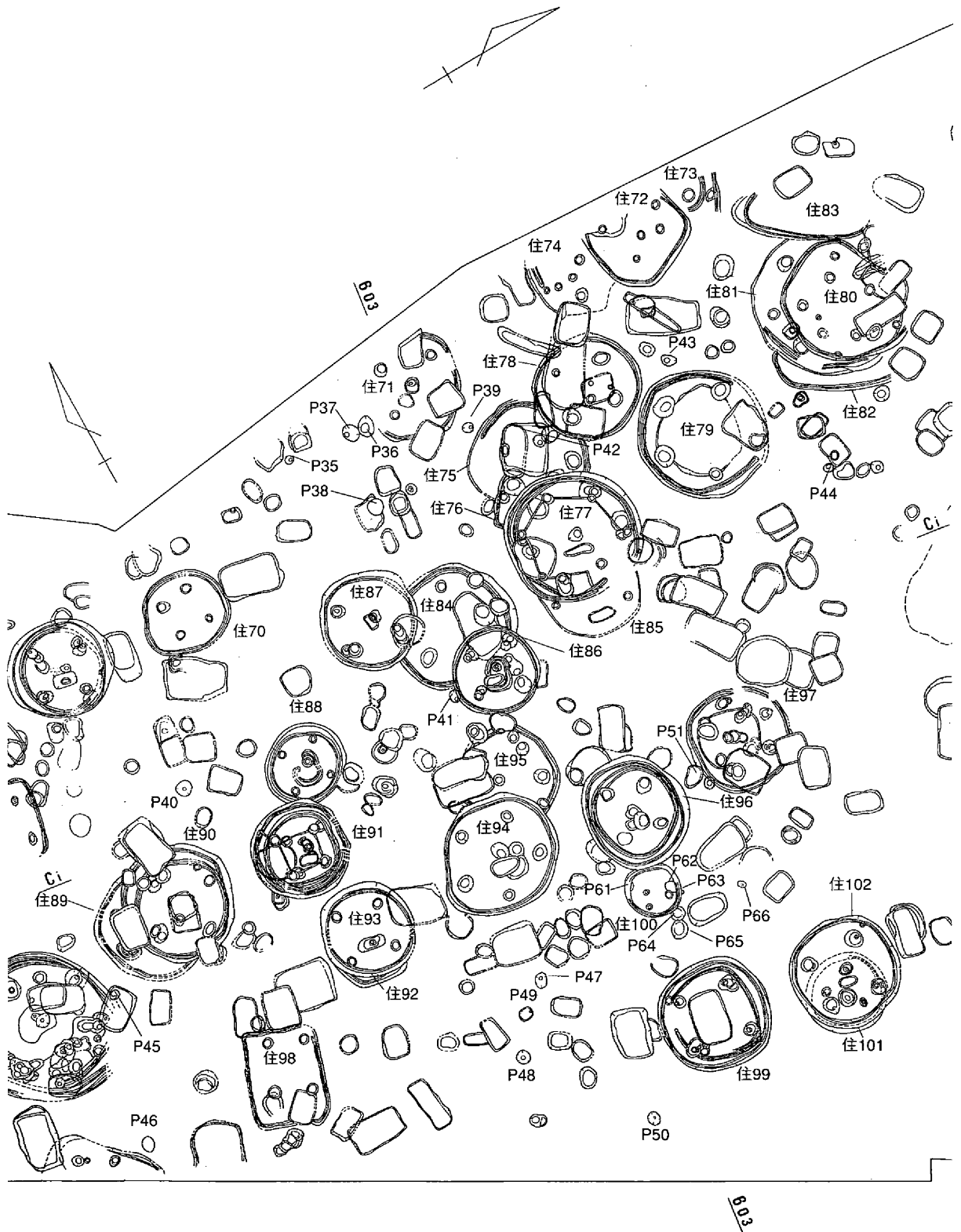




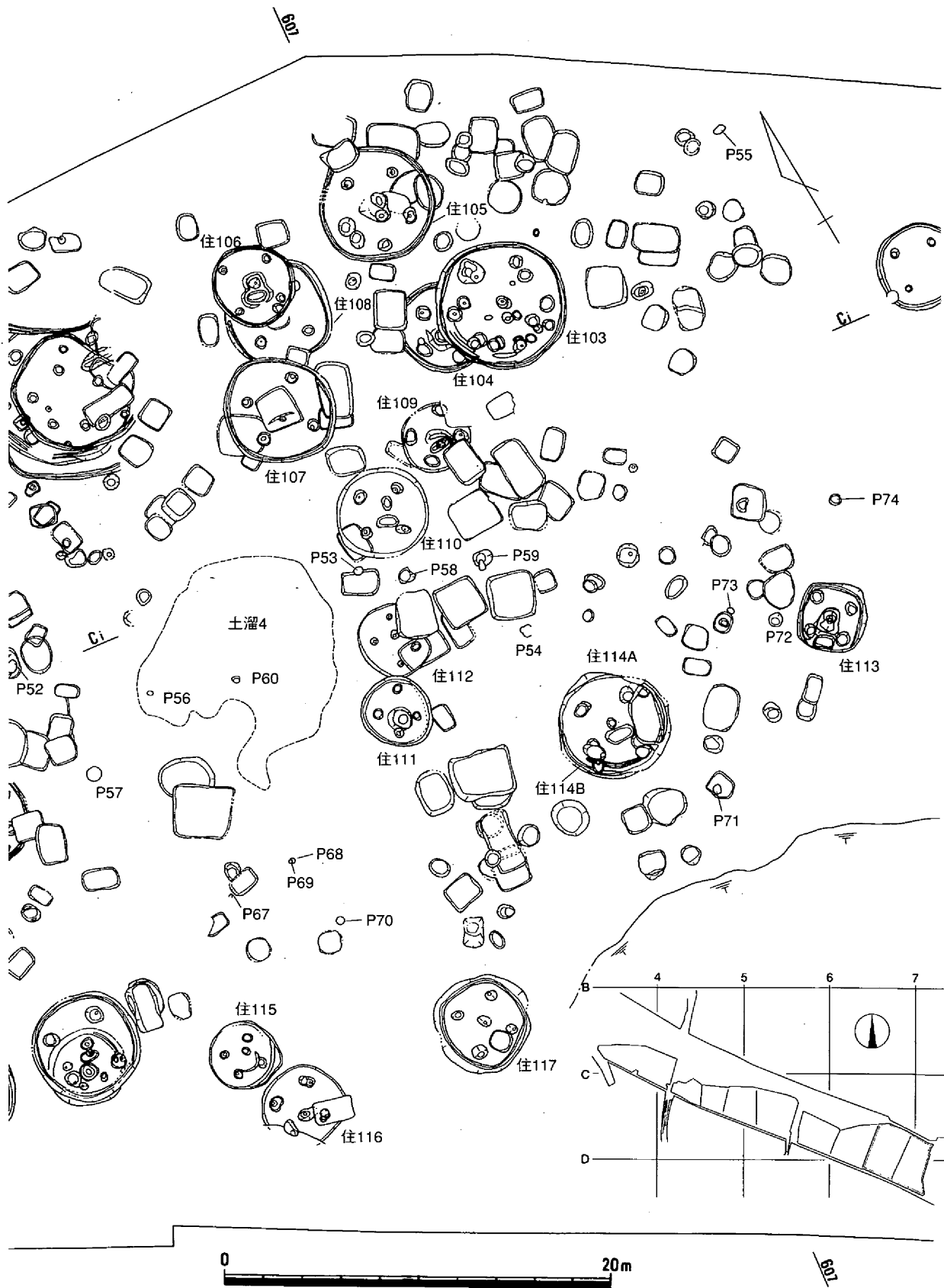
第547図 角田調査区弥生時代主要遺構全体図 (1/750)



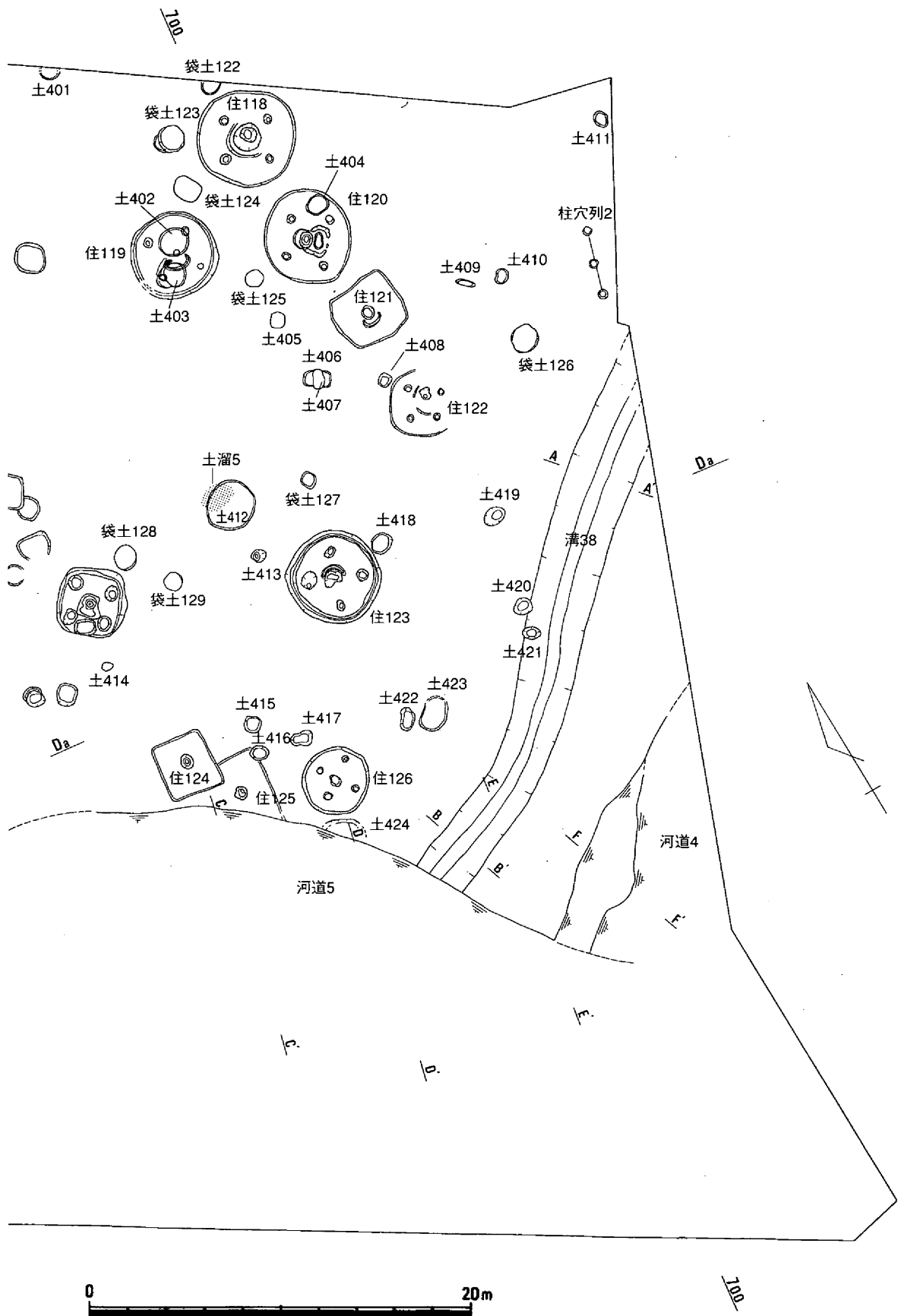
第548図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図① (1/300)



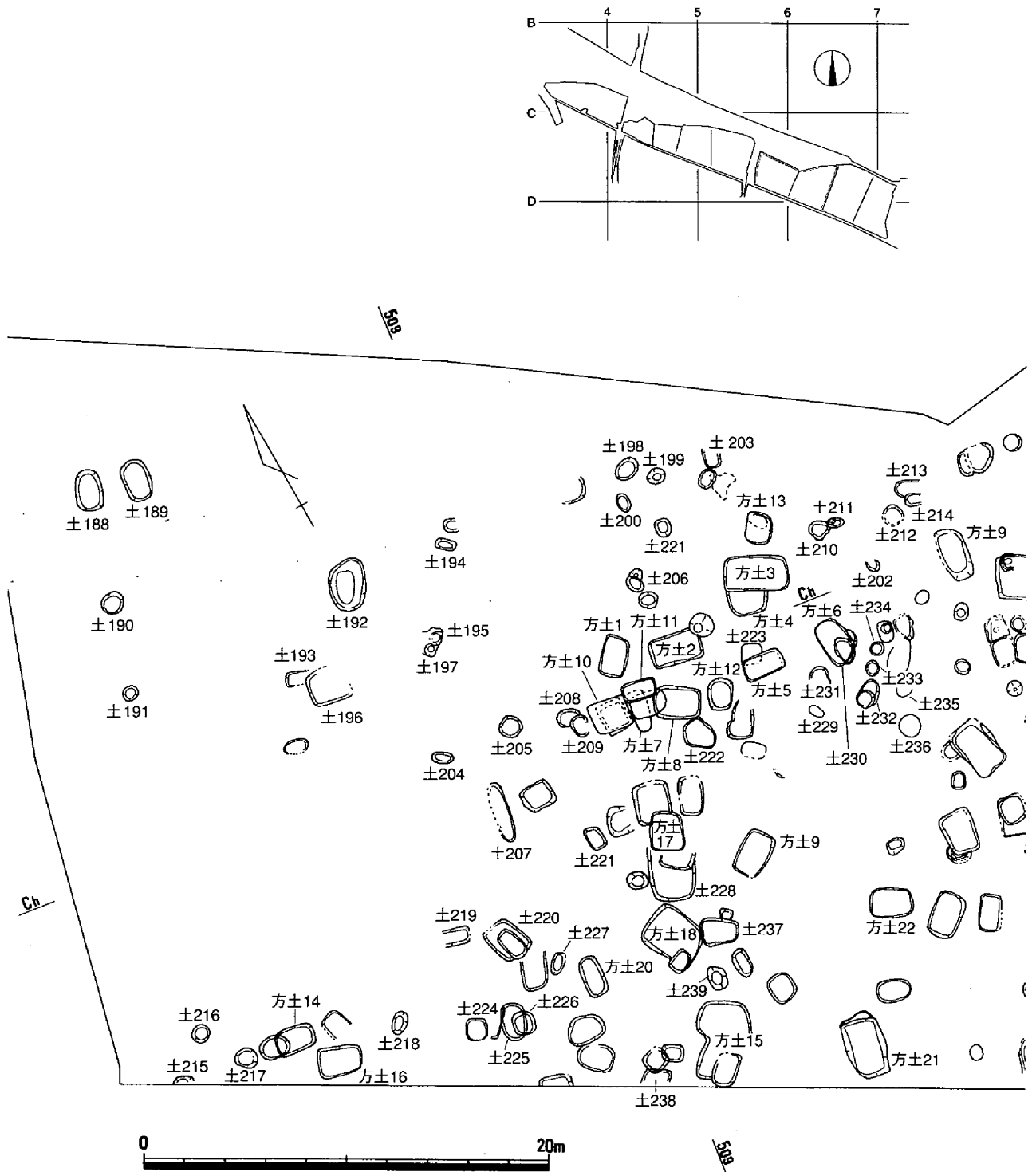
第549図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図② (1/300)



第550図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図③ (1/300)



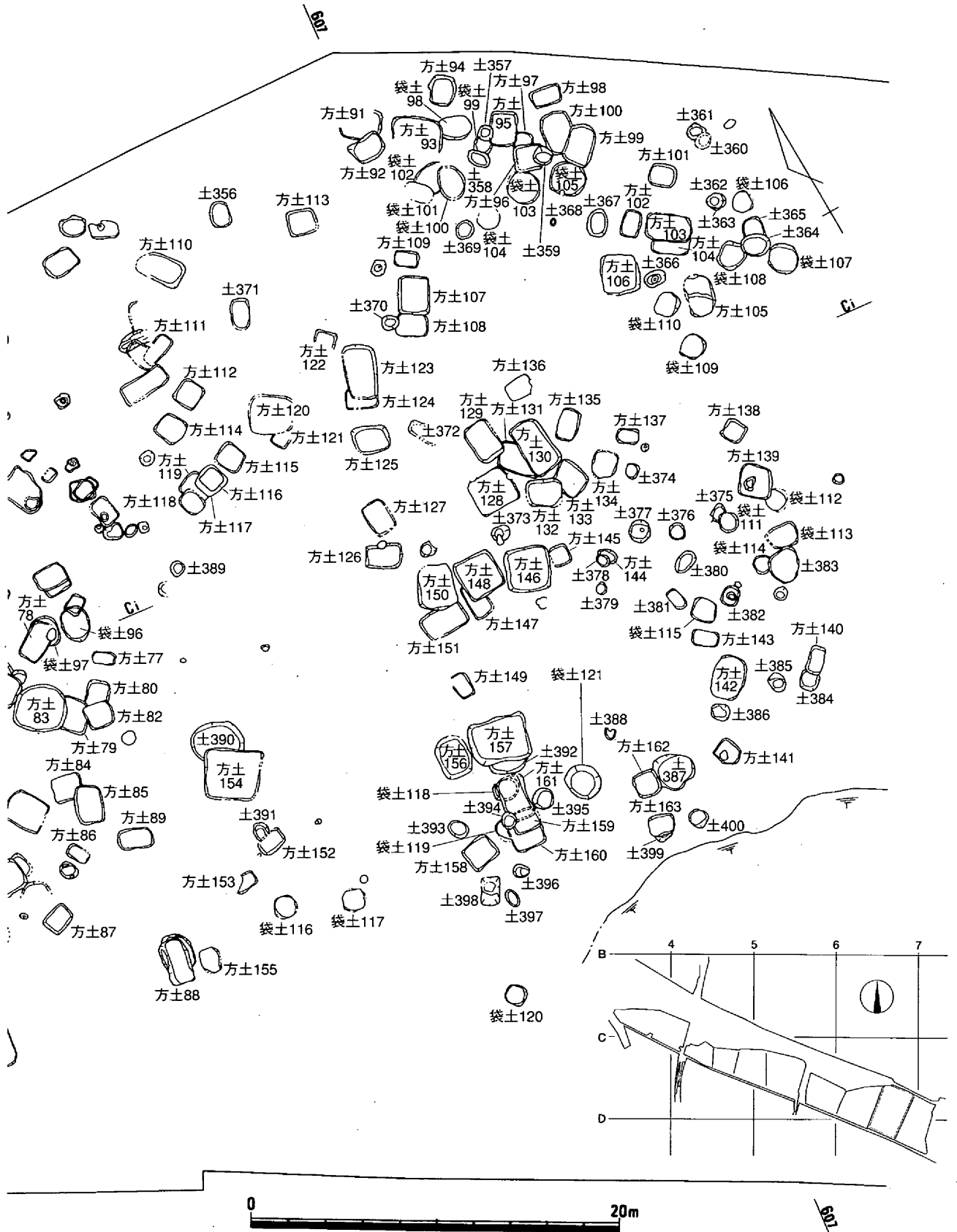
第551図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図④ (1/300)



第552図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図⑤ (1/300)



第553図 角田調査区弥生時代主要遺構部分図⑥ (1/300)



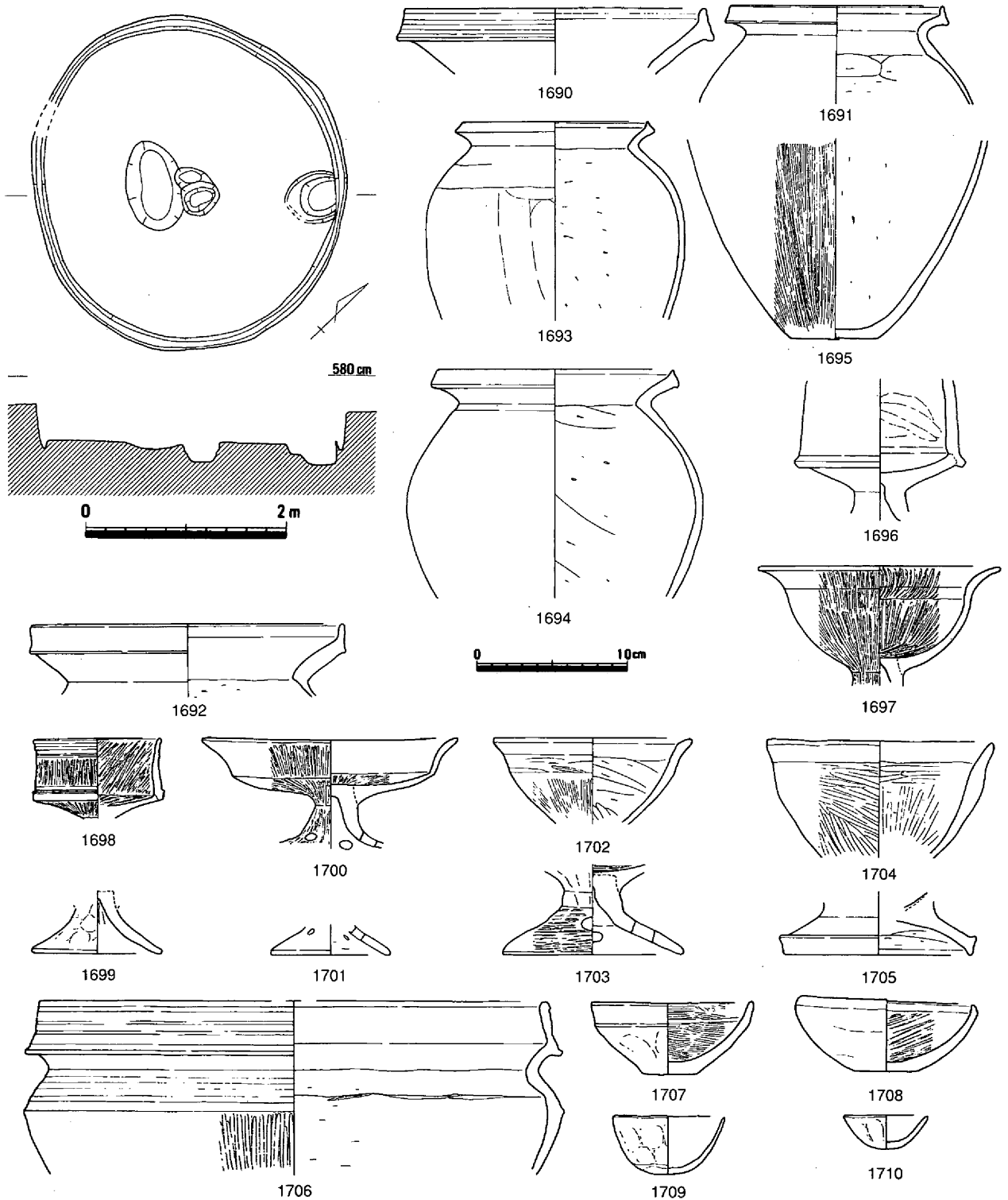
第554図 角田調査区弥生時代主要遺構部分⑦ (1/300)



(2) 竪穴住居

竪穴住居50 (第548・555図、図版25)

調査区西端のCg508区で検出したほぼ円形の竪穴住居である。規模は、長さ328cm、幅305cm、深さ36cmで、床面積は7.9m<sup>2</sup>を測る。床面の標高は514cmである。柱穴は検出できなかった。中央穴と考



第555図 竪穴住居50 (1/60)・出土遺物 (1/4)

えられる穴が2個見ついている。壁体溝は壁際に幅15cm、深さ10cmで全周に巡っている。ほかに2個の楕円形の穴が検出できたが、伴うものかどうか判断できない。

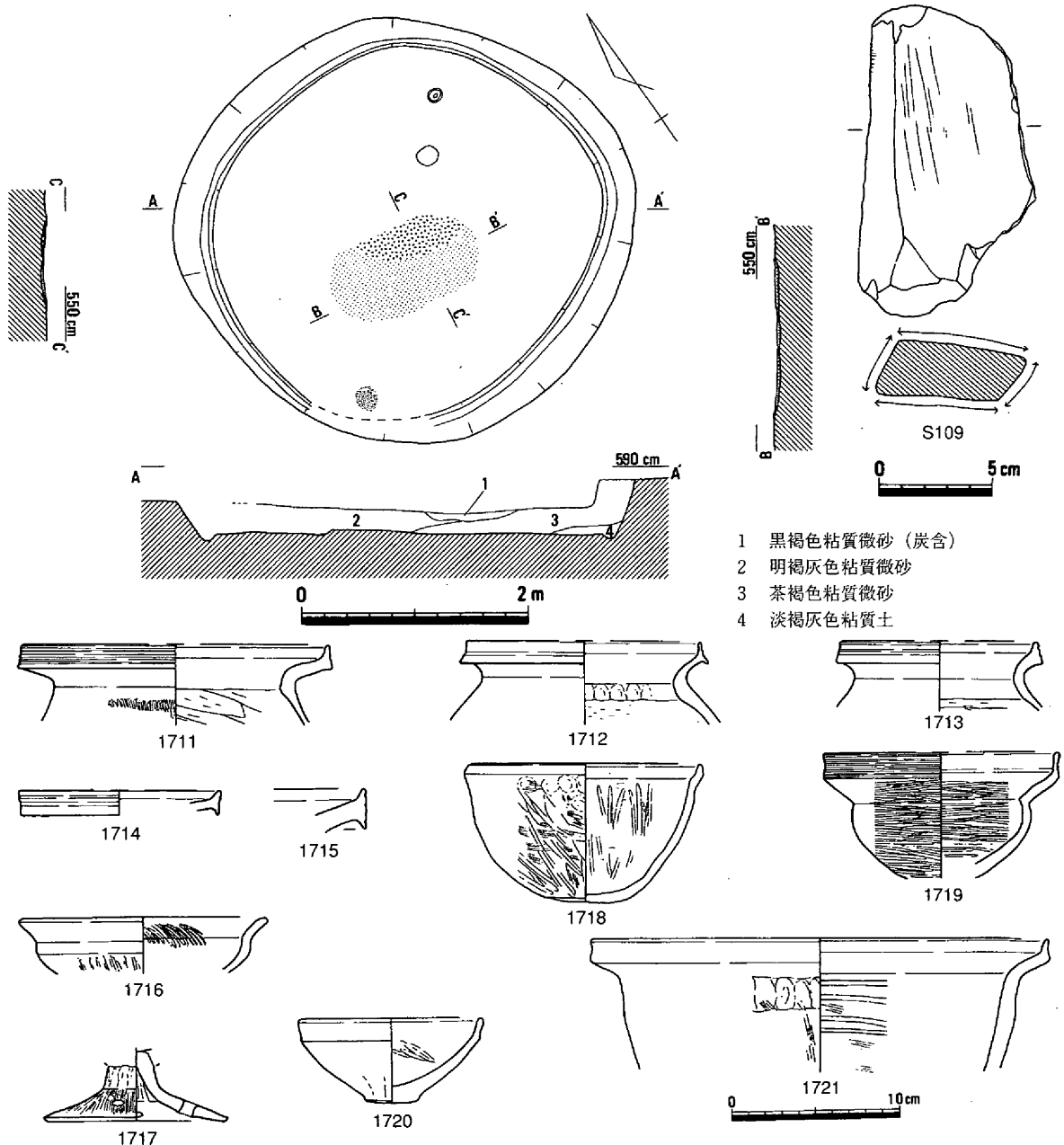
遺物は、弥生土器が多数出土している。1690は壺で、口径は19.8cmである。1691~1695は甕で、内面ヘラケズリしている。底部は平底である。1696~1701は高杯で、ヘラミガキしたものが多い。1696はブランデーグラスに似た形状をしている。1700の杯部は浅い。1702・1704・1705は台付き鉢である。1703は高杯の脚部であり、円形の透かし穴を持っている。1706は大形の鉢で、口径は推定34.0cmある。1707・1708は小形の鉢である。1709・1710は手捏ねの鉢である。

以上の遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅲとしておきたい。

(浅倉)

竪穴住居51 (第548・556図、図版25・107)

調査区西端のCg509区で検出した中膨らみの隅丸方形と言うかほぼ円形の竪穴住居である。規模



第556図 竪穴住居51 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

は、長さ373cm、幅332cm、深さ48cmで、床面積は9.7m<sup>2</sup>を測る。床面の標高は536cmである。柱穴は検出できなかった。中央穴も見つかっていない。壁体溝は壁際に幅15cm、深さ10cmで全周に巡っている。床面中央部が赤く焼けている。火災に遭ったものであろう。

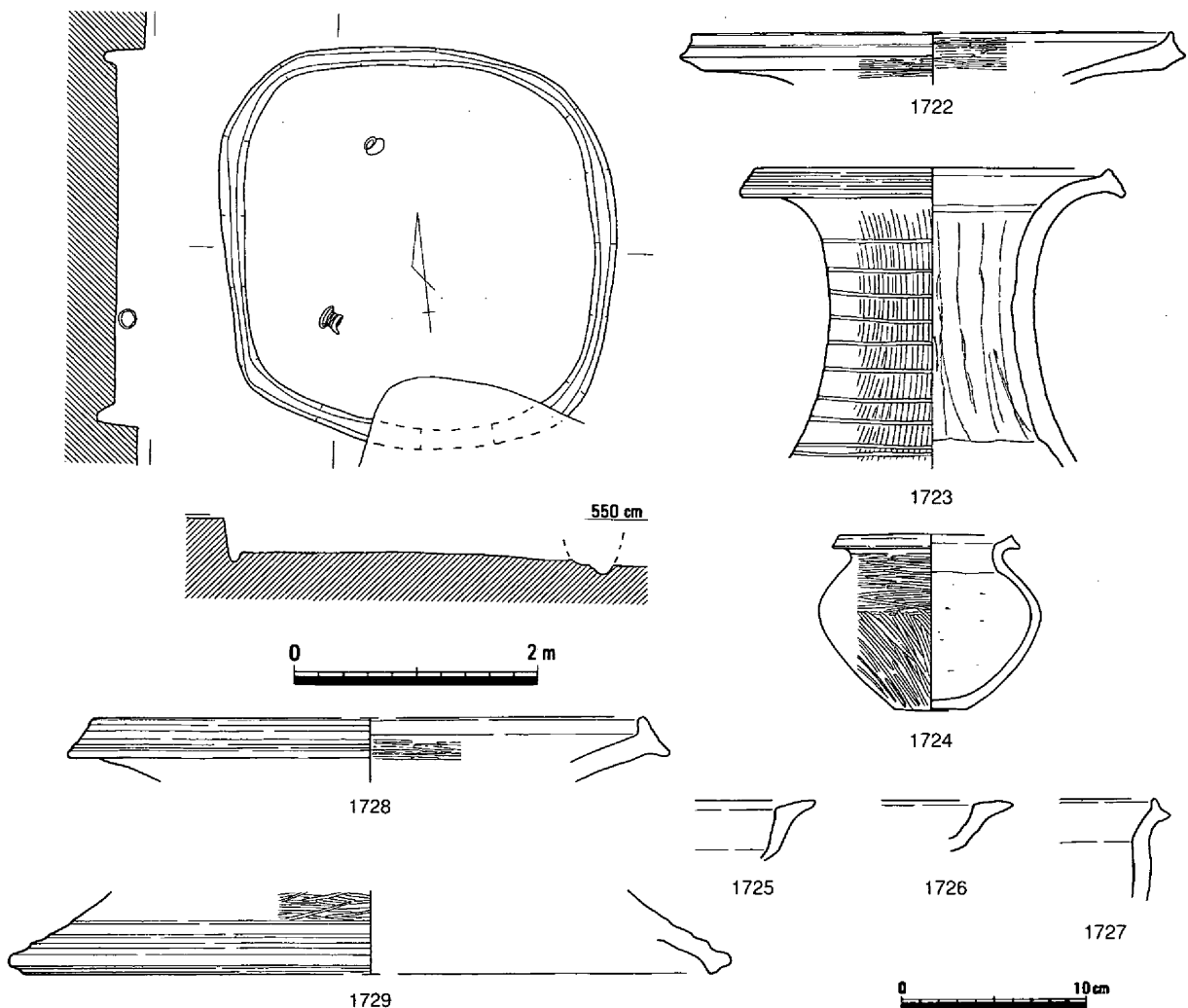
遺物は、弥生土器が多数出土しているほかに、砥石が1点ある。S109は流紋岩製の砥石である。1711～1713は甕である。1714・1715は壺である。1716・1717は高杯である。1718～1721は鉢である。1721は、口径26.8cmを測る。

以上の遺構と遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅲとしておきたい。(浅倉)

竪穴住居52 (第548・557図、図版25・107)

調査区西端のCg600区で検出した中膨らみの隅丸方形の竪穴住居である。規模は、長さ308cm、幅312cm、深さ27cmで、床面積は8.6m<sup>2</sup>を測る。床面の標高は522cmである。柱穴は検出できなかった。中央穴も見つかっていない。壁体溝は壁際に幅15cm、深さ10cmで全周に巡っている。

遺物は、弥生土器が多数出土している。1722は壺である。1723は長頸壺である。1724は完形の小形壺である。1725・1726は高杯である。1727は鉢である。1728・1729は器台である。同一個体と考えられるが接合できない。以上の遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅰとしておきたい。(浅倉)

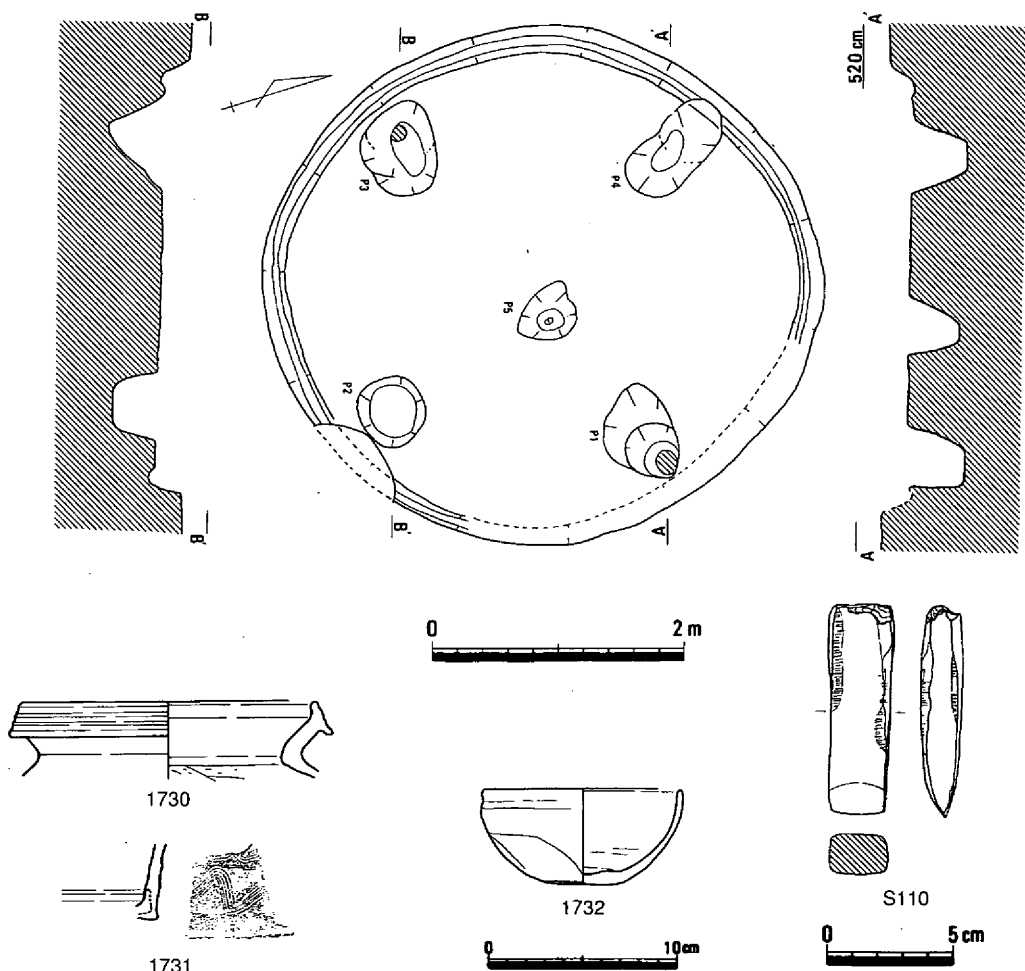


第557図 竪穴住居52 (1/60)・出土遺物 (1/4)

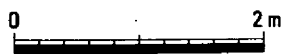
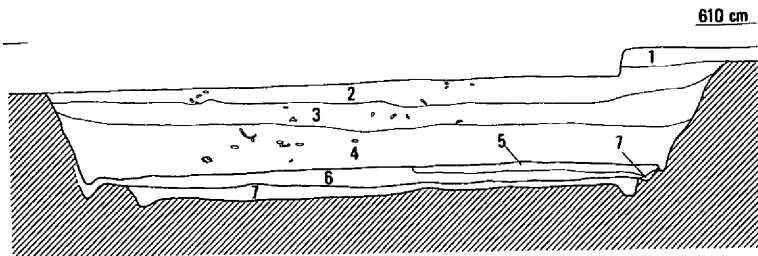
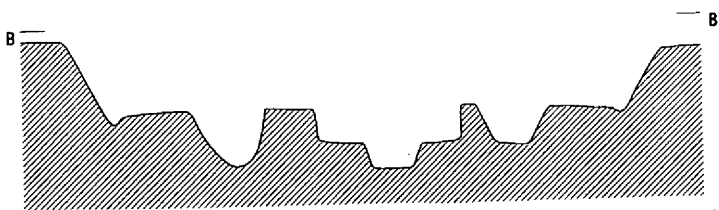
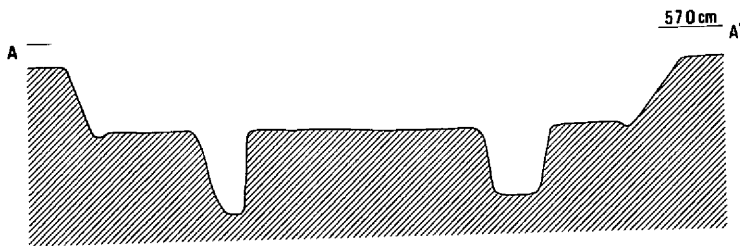
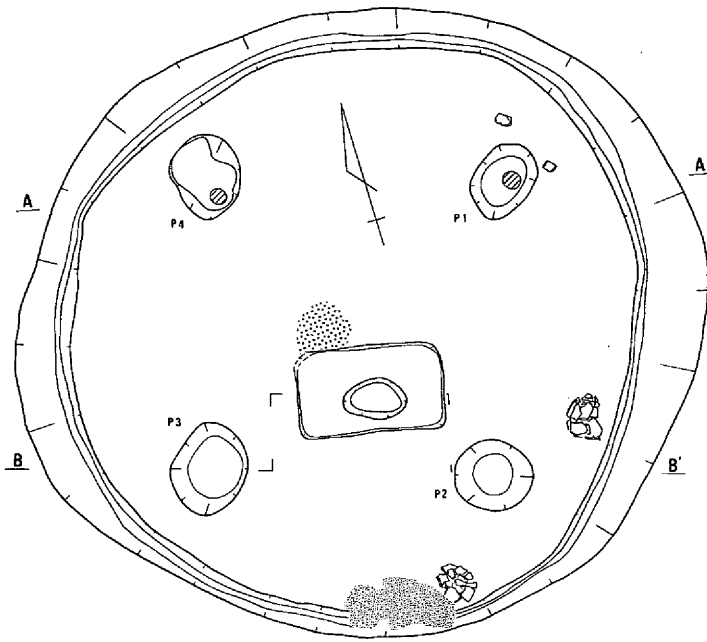
竪穴住居53A・B (第548・558～560図、図版26・107)

調査区西端のCh601区で検出したほぼ円形の2軒の竪穴住居である。Aの規模は、長さ424cm、幅400cm、深さ20cmで、床面積は13.0m<sup>2</sup>を測る。床面の標高は478cmである。柱穴は4本検出できた。中央穴もある。Bの規模は、長さ475cm、幅460cm、深さ56cmで、床面積は17.8m<sup>2</sup>を測る。床面の標高は504cmである。柱穴は4本検出できた。中央穴もある。焼土面が1か所ある。火災に遭ったものであろう。遺物は、Aの方は弥生土器のほかに柱状石斧が出土している。S110は緑色片岩製の柱状片刃石斧である。1730・1731は壺である。1732は鉢である。これまでがAの出土土器である。Bの方は完形の壺が出土している。1733は甕である。1734は壺である。1735は完形の壺である。1736は鉢である。1737は鉢である。ここまでがBから出土したことがはっきりしている。このあとの土器はA・Bのどちらから出たのかよくわからないものである。1738は壺、1739～1746は甕、1747～1749は高杯、1750～1752は鉢、1753・1754は台付き鉢、1755は鉢、1756は甕、1757は手捏ね土器である。C118～C122は土器片を廃物利用した紡錘車の未製品である。

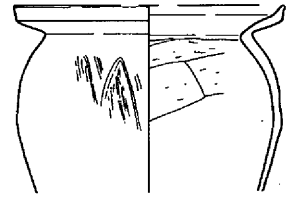
以上の遺構や遺物からこの住居の時期はAの方が弥・後・Ⅲであり、Bの方は弥・後・Ⅳとしておきたい。Aの住居を拡張してBの住居を建てて替えしたように思われる。土層断面を観察すると、中間にもう1軒存在したことがわかる。(浅倉)



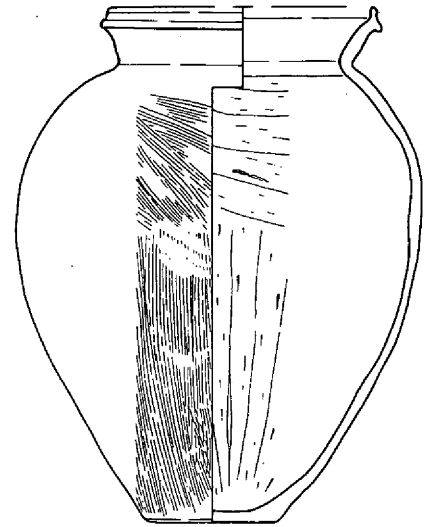
第558図 竪穴住居53A (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



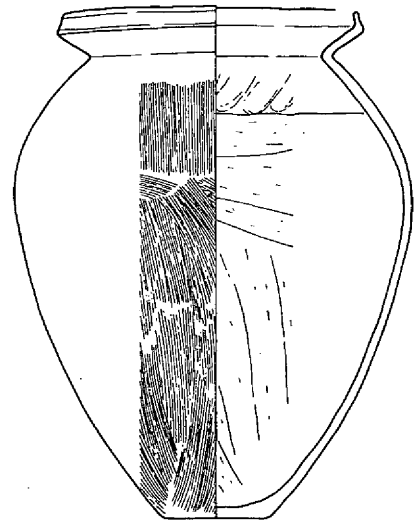
- 1 淡明灰褐色粘質微砂
- 2 明灰褐色微砂
- 3 灰色微砂
- 4 暗灰褐色微砂
- 5 明黄褐色粘質土 (貼床)
- 6 黄灰色微砂
- 7 暗黄灰色微砂



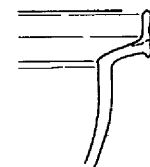
1733



1734



1735



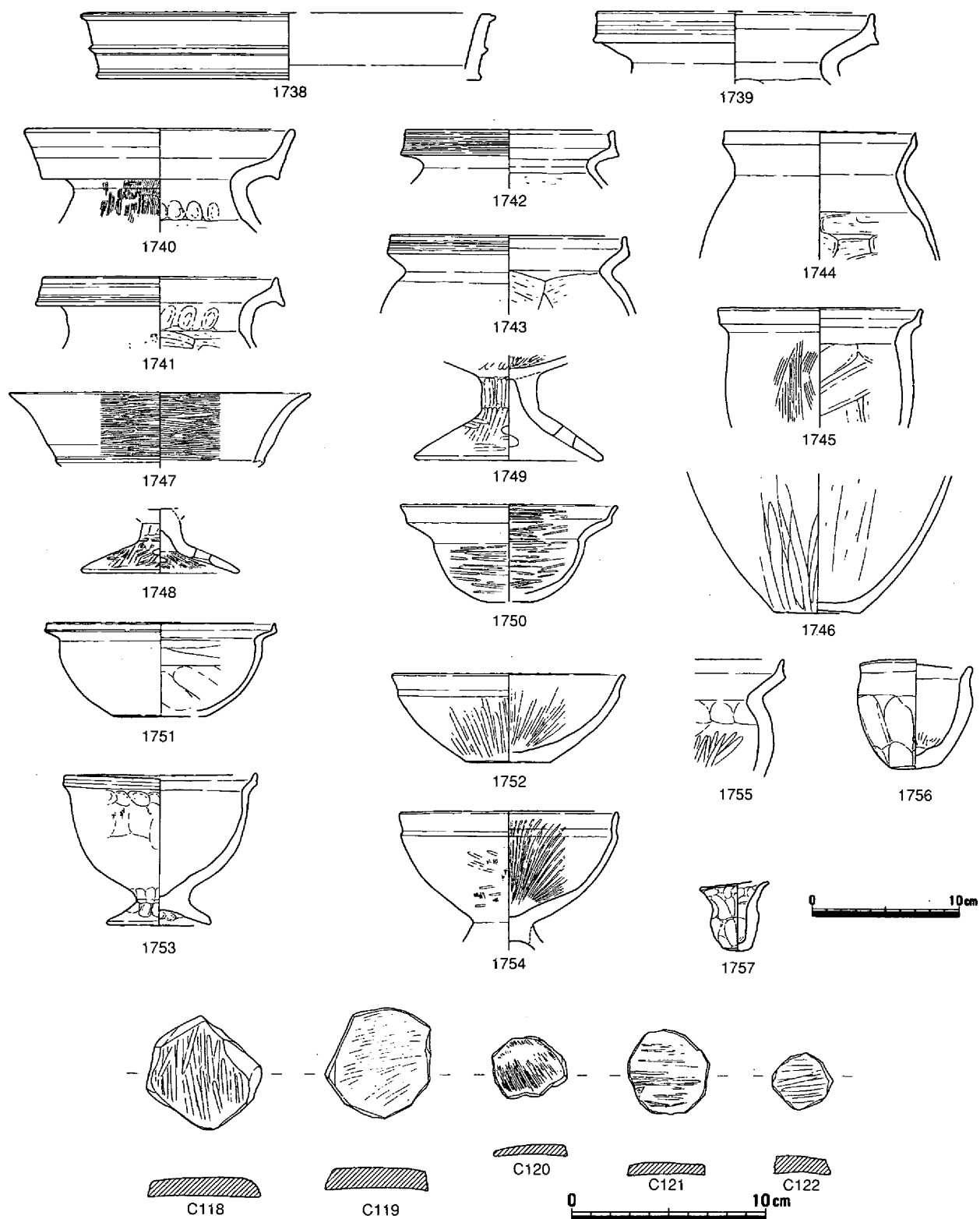
1736



1737



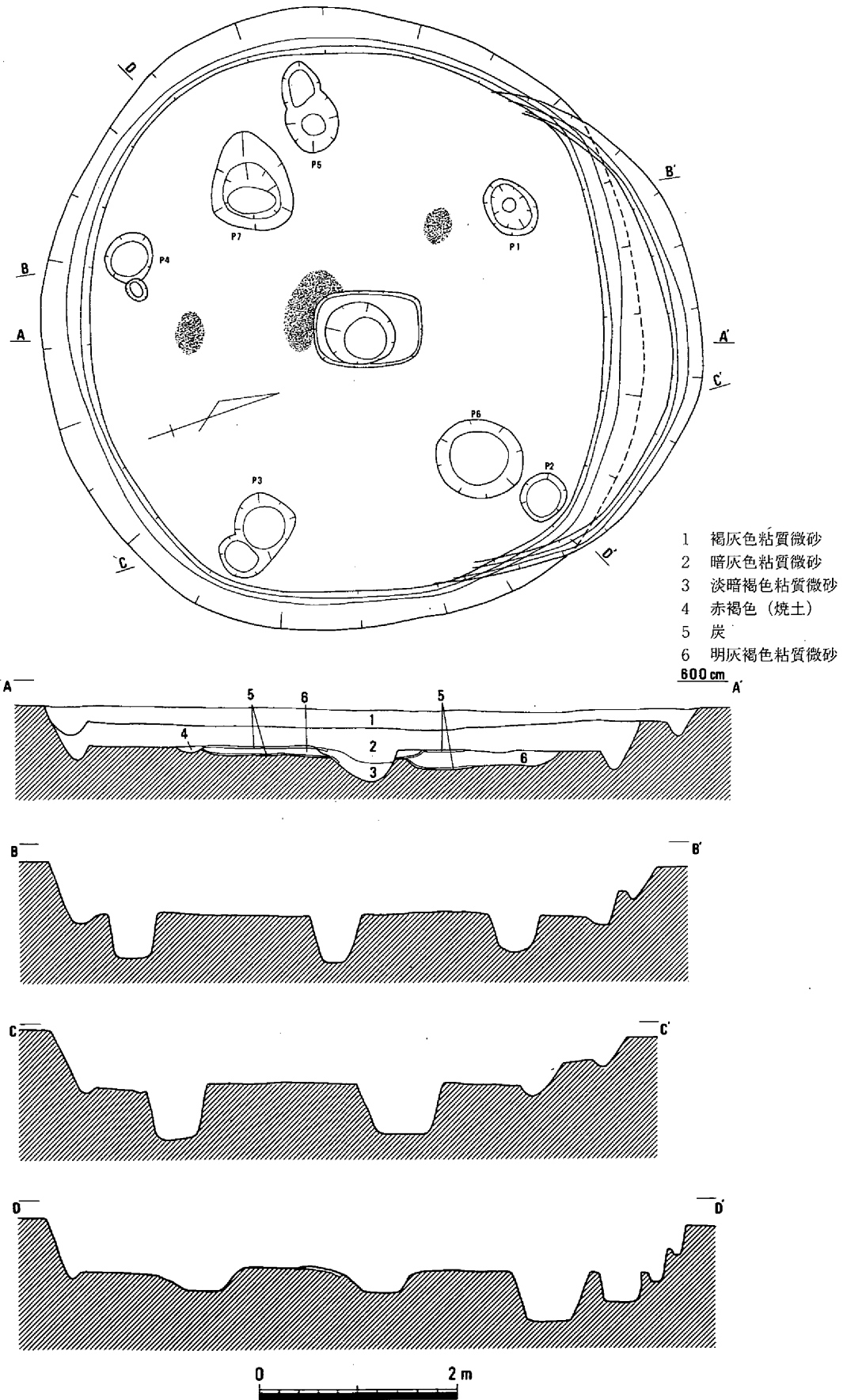
第559図 豎穴住居53B (1/60)・出土遺物 (1/4)



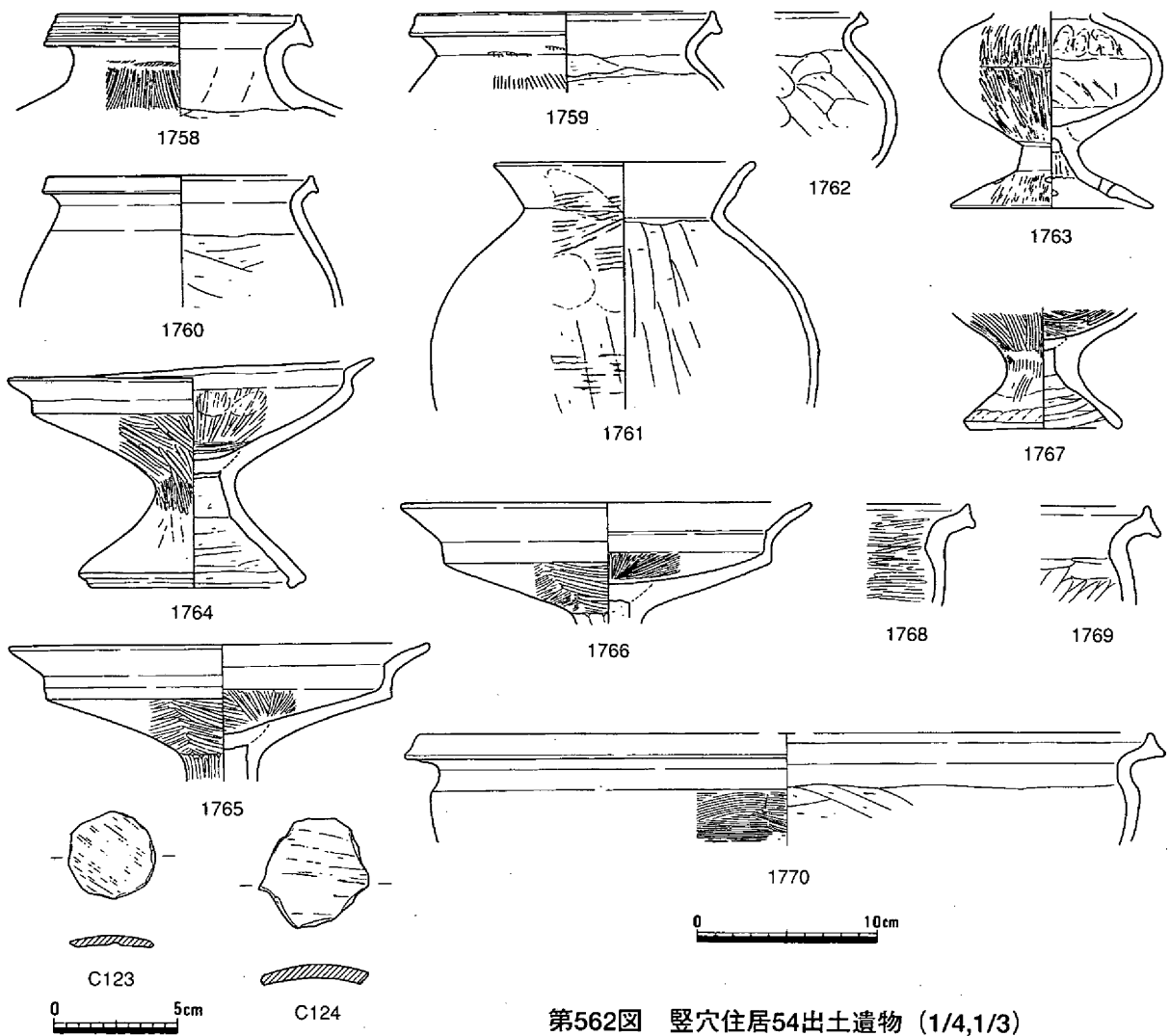
第560図 竪穴住居53出土遺物 (1/4, 1/3)

竪穴住居54 (第548・561・562図、図版26・107)

調査区西端のCh507区で検出した、ほぼ円形の2軒重複した竪穴住居である。上層の住居の規模は、長さ650cm、推定幅500cm、深さ10cmを測る。床面の標高は555cmである。柱穴は5本検出できた。中央穴もある。下層の住居の規模は、長さ572cm、幅572cm、深さ40cmで、床面積は25.9m<sup>2</sup>を測る。床面



第561図 竪穴住居54 (1/60)



第562図 竪穴住居54出土遺物 (1/4,1/3)

の標高は530cmである。柱穴は5本検出できた。中央穴もある。焼土面が3か所ある。火災に遭ったものであろう。遺物としては、弥生土器のほかに土器片を再利用した紡錘車の未製品が2点出土している。1758は壺の口縁部で、口径は13.5cmある。1759は甕の口縁部で、口径は16.0cmある。1760・1761は甕の口縁部で、口径は14.0cmある。1762は甕か鉢の口縁部である。1763はたまねぎ形の胴部をし、高杯の短脚の付く小形台付直口壺である。1764は完形の高杯で、口径19.6cm、底径10.7cm、器高12.2cmを測ることができる。1765は高杯の上半部で、口径は22.5cmである。1766も高杯の上半部で、口径は22.3cmである。1768・1769は鉢の口縁部細片である。1770は大形の鉢の口縁部で、推定口径40.0cmを測る。体部外面はヨコハケ、内面はヘラケズリしている。C123・C124は土器片を廃物利用した紡錘車の穴をあける前のものである。以上の遺構や遺物から、この住居の時期は上方のものが弥・後・Ⅲであり、下方は弥・後・Ⅱとしておきたい。(浅倉)

竪穴住居55 (第550・563図)

Ci507区の南調査区境で、わずかにコーナーだけが検出できた方形の竪穴住居である。壁体溝と床面が検出できた。深さは50cmもある。床面の標高は520cmである。

遺物は弥生土器が2点出土している。1771はほぼ完形になる甕で、口径14.2cmである。1772は甕の



口縁部で、口径は17.0cmである。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

**竪穴住居56** (第550・564・565図、図版108)

Ci507区の南調査区境で北部1/3が検出できた隅丸方形の竪穴住居である。

壁体溝は、東側に溝らしき痕跡が認められる。床面はやや凸凹している。深さは66cmもある。床面の標高は534cmである。

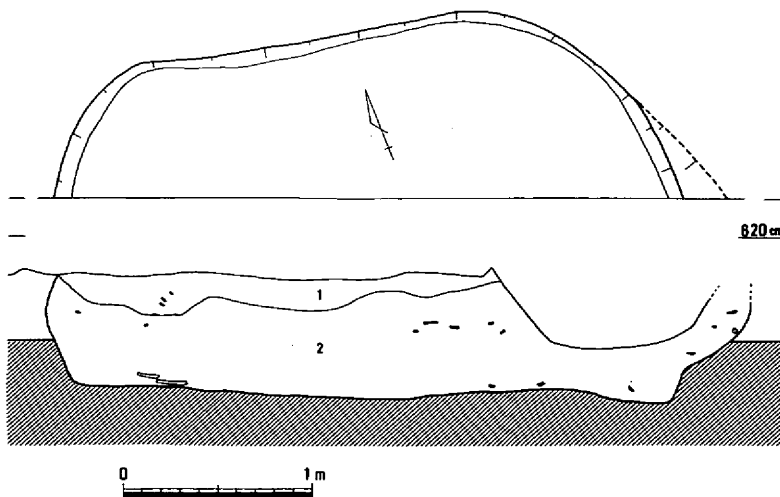
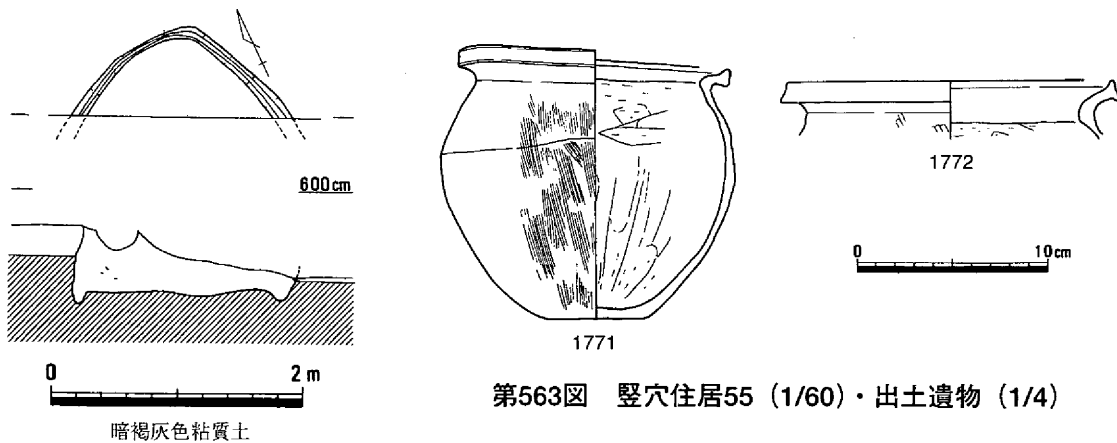
遺物は弥生土器が10点余り出土している。1773~1775は壺で、1773は二重口縁部外面を鋸歯文飾っているで口径は24.3cmである。1776は甕である。1777は鉢で、口径は29.0cmある。1778は口径21.2cmの鉢である。1779・1780は高杯である。

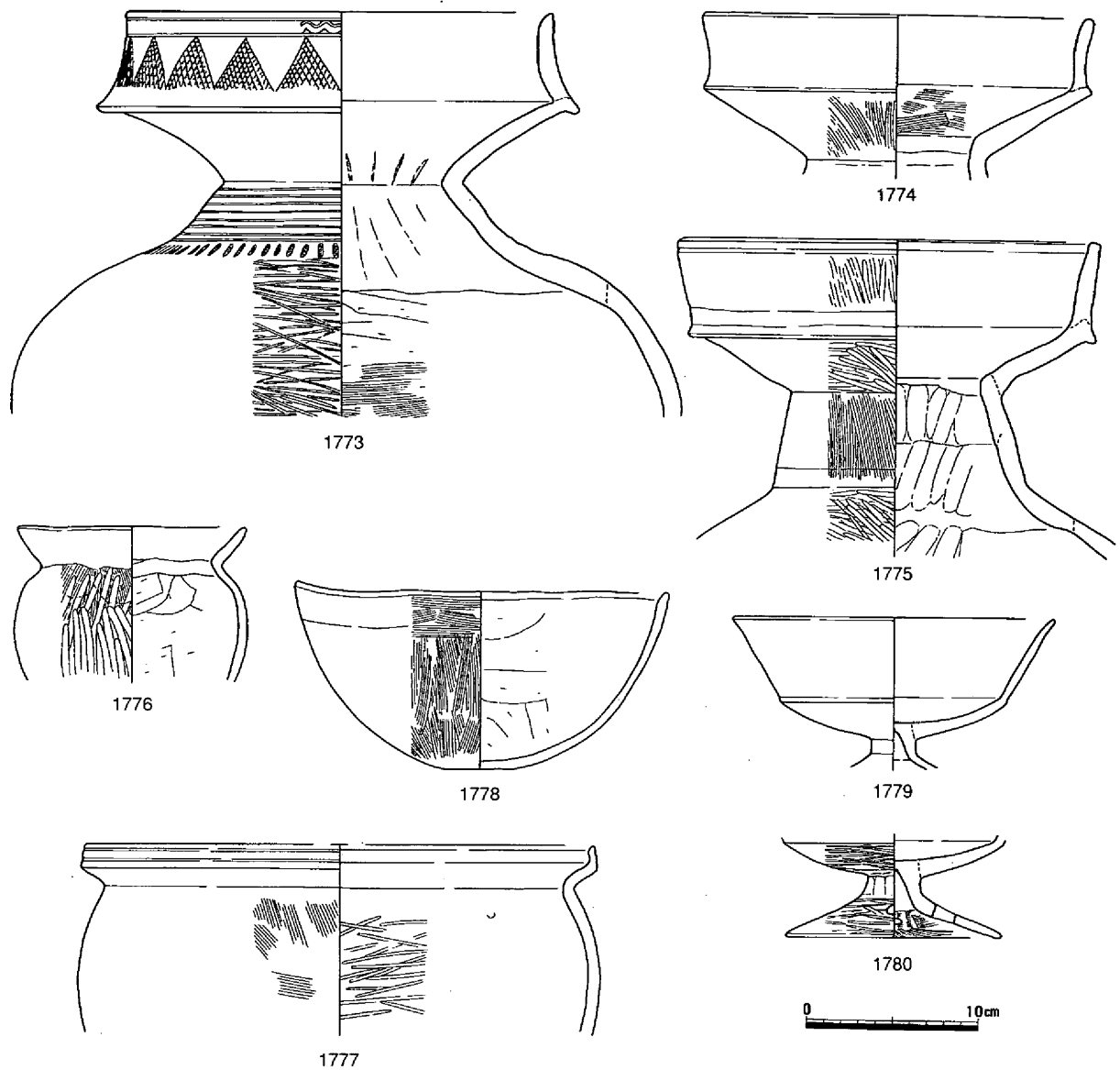
遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅳとしたい。

(浅倉)

**竪穴住居57** (第548・566図、図版27)

Ch507区の竪穴住居54の東で検出できたほぼ円形の竪穴住居である。壁体溝は、ほかの遺構に切られているものの全周に巡っている。柱穴はその間隔から推定して5本あったものであろう。内4本を検出している。中央穴も持っていた。住居の規模は、長さ584cm、幅555cm、深さ38cmである。床面





第565図 竪穴住居56出土遺物 (1/4)

積は24.9㎡、床面の標高は502cmである。

遺物は、弥生土器が多数出土している。しかし下層の竪穴住居58の遺物と混同したためここでは説明を省いて、次の住居58の遺物の項目で説明する。

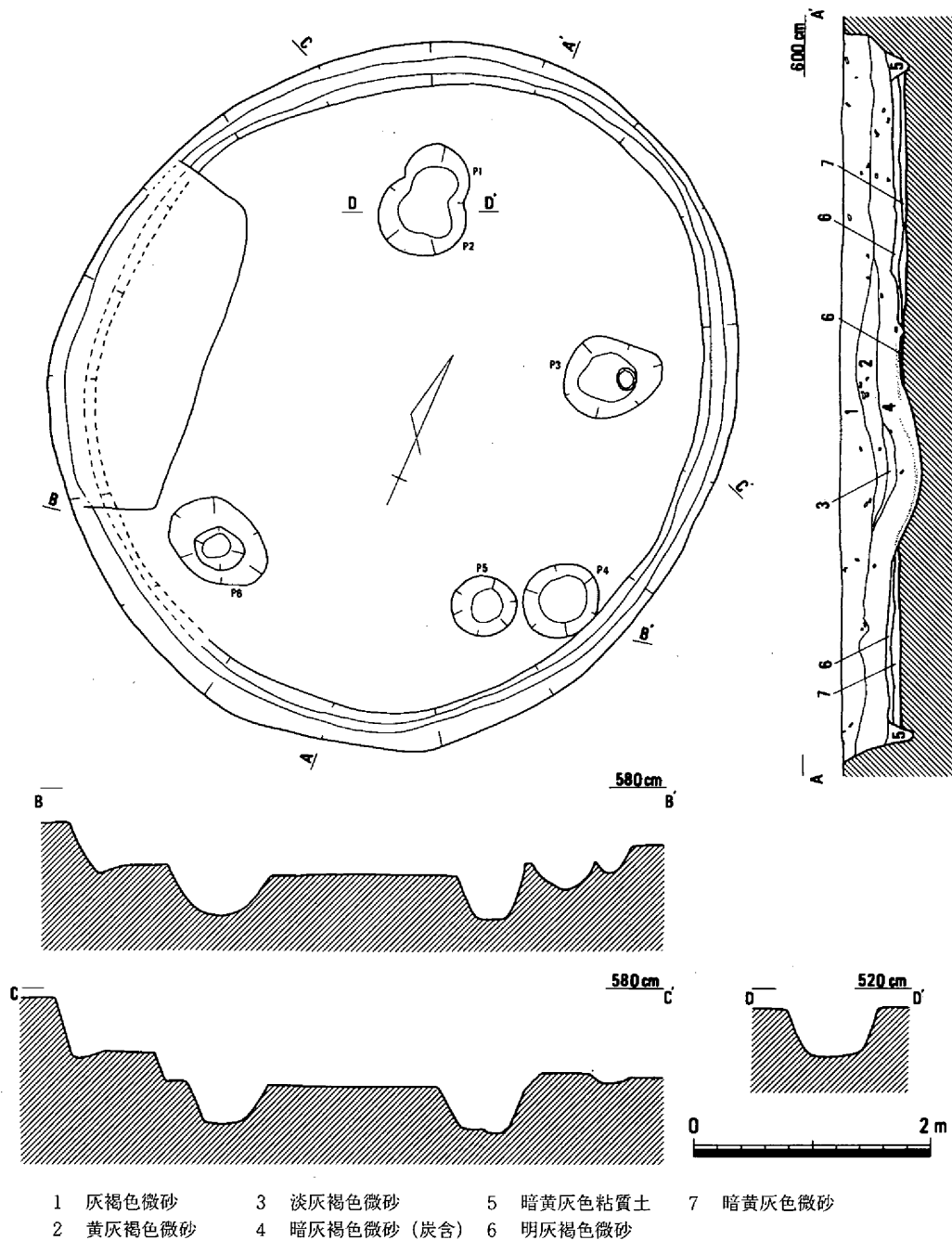
遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅳとしたい。

(浅倉)

**竪穴住居58 (第550・567図)**

Ch 5 07区の竪穴住居57の下層で検出できた、ほぼ円形の竪穴住居である。壁体溝は、ほかの遺構に切られているものの、全周に巡っている。柱穴は2本であろう。中央穴も持っている。住居の規模は、長さ454cm、幅420cm、深さ24cmである。床面積は14.8㎡、床面の標高は492cmである。

遺物は、弥生土器が多数出土している。1781は台付直口壺の口縁部である。1782は台付き直口壺の体部であり、貼付凸帯には鋸歯文を、その上部には波状文を飾っている。1783～1785は甕である。1786～1789は高杯で、1790・1791は鉢である。M137は鉄製の鋤先である。



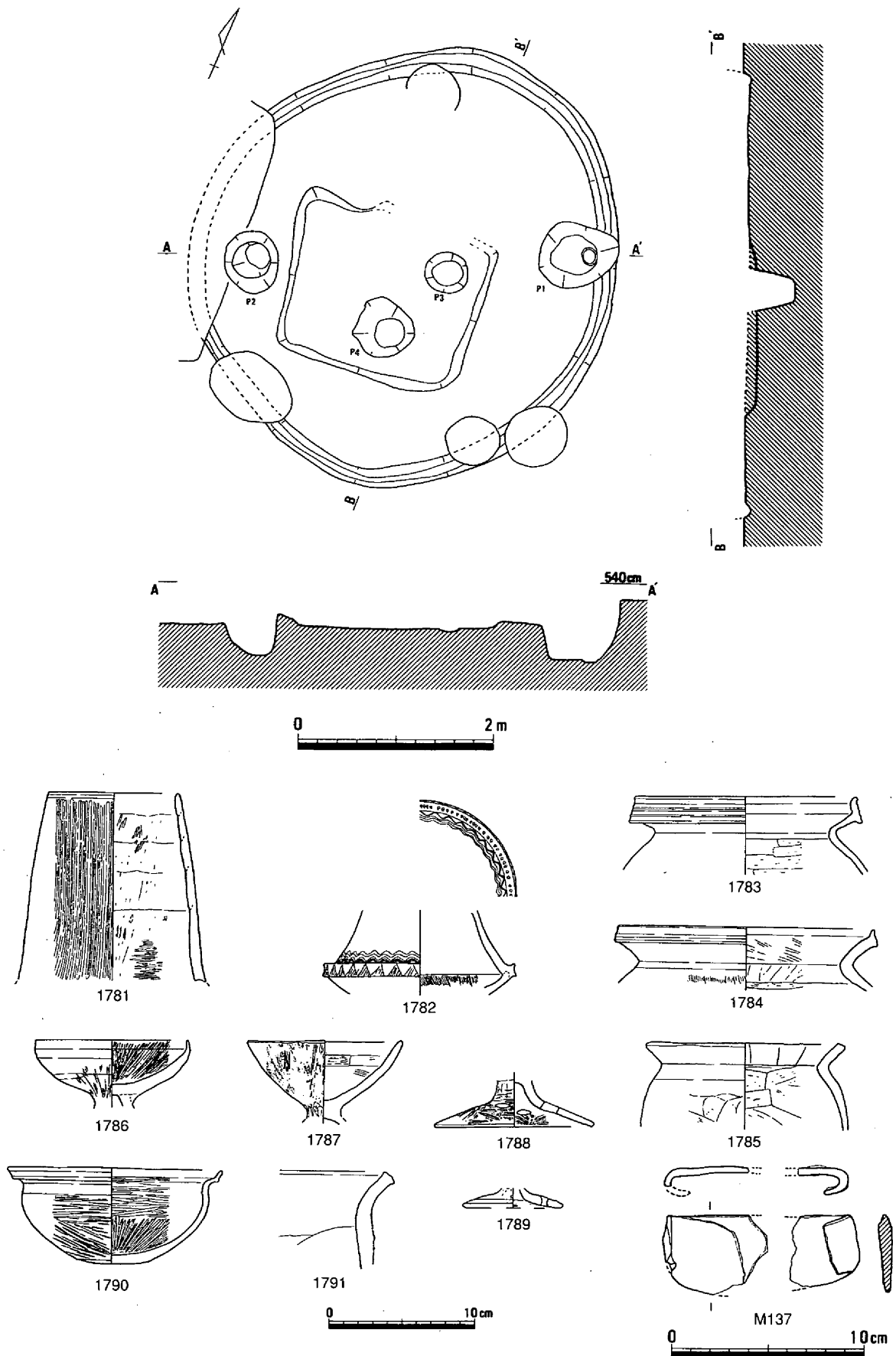
第566図 竪穴住居57 (1/60)

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・IVとしたい。

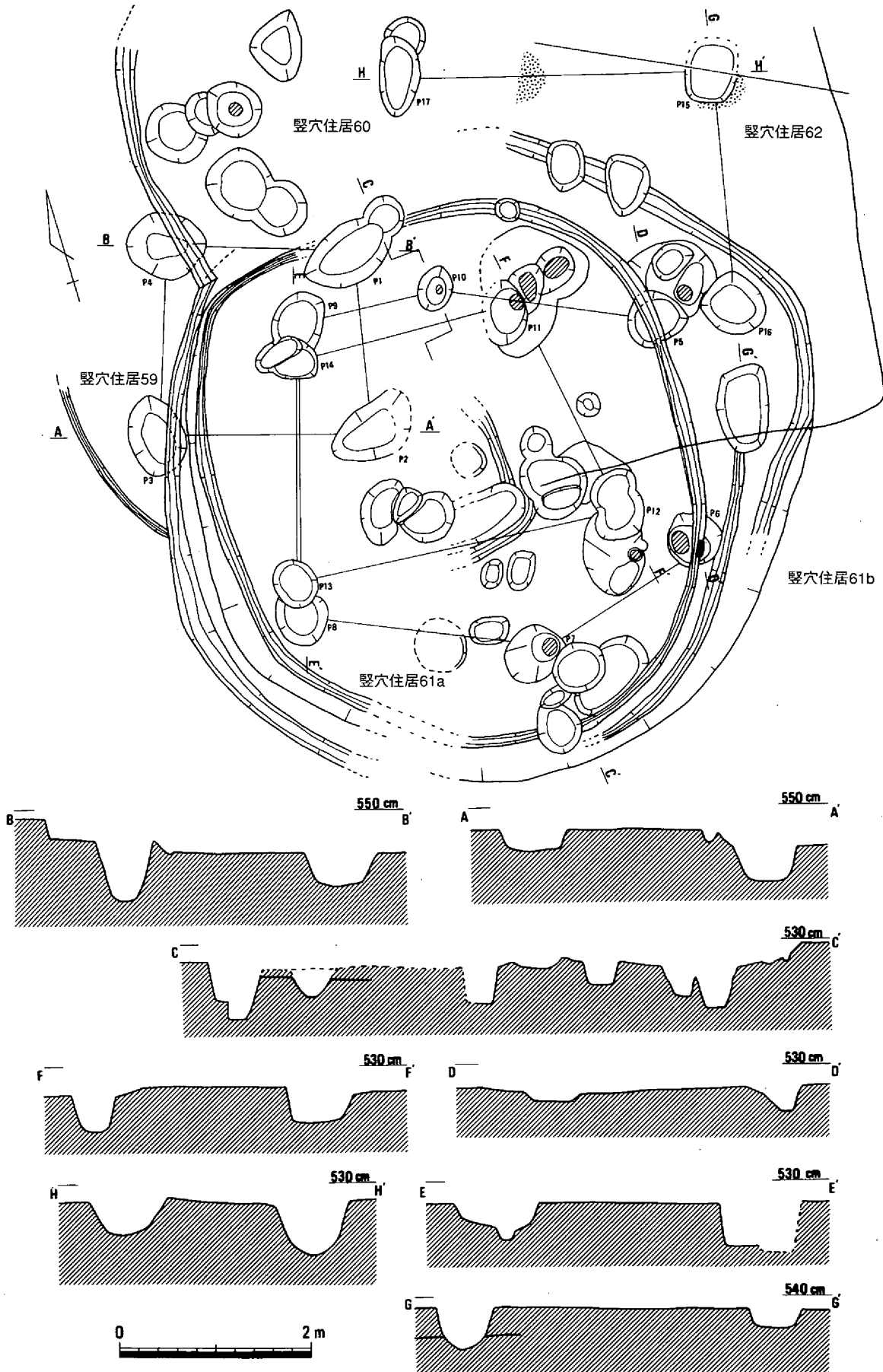
(浅倉)

竪穴住居59～62 (第548・568～570図、図版108)

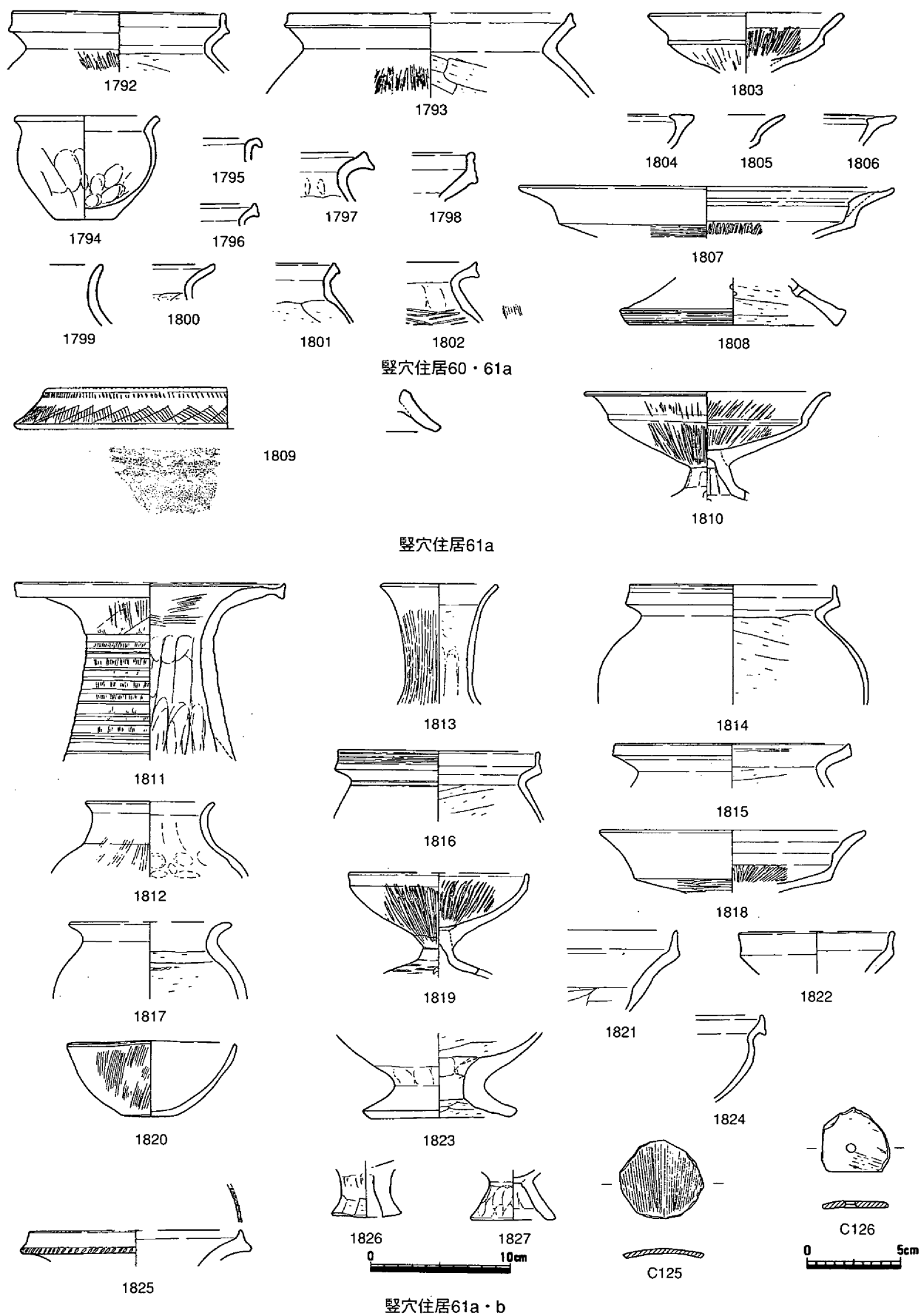
Ch 508区の竪穴住居57の東で検出できた、ほぼ円形の竪穴住居群である。5軒の住居が重なり合っている。壁体溝が5本検出できたことからそれがわかる。竪穴住居59は、長さ180cmの壁体溝と床面および柱穴4本を確認した。住居の推定床面積は16.4㎡、床面の標高は538cmである。竪穴住居60は、壁体溝270cmと床面および柱穴1本を検出した。住居床面の標高は510cmである。竪穴住居61は、aとbの2軒が重なっており、aの方が小さくて新しいことが土層断面の観察で確認している。つまり拡張ではなく縮小されたものである。61aの規模は、長さ570cm、幅541cm、深さ68cmである。床面



第567図 竪穴住居58 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

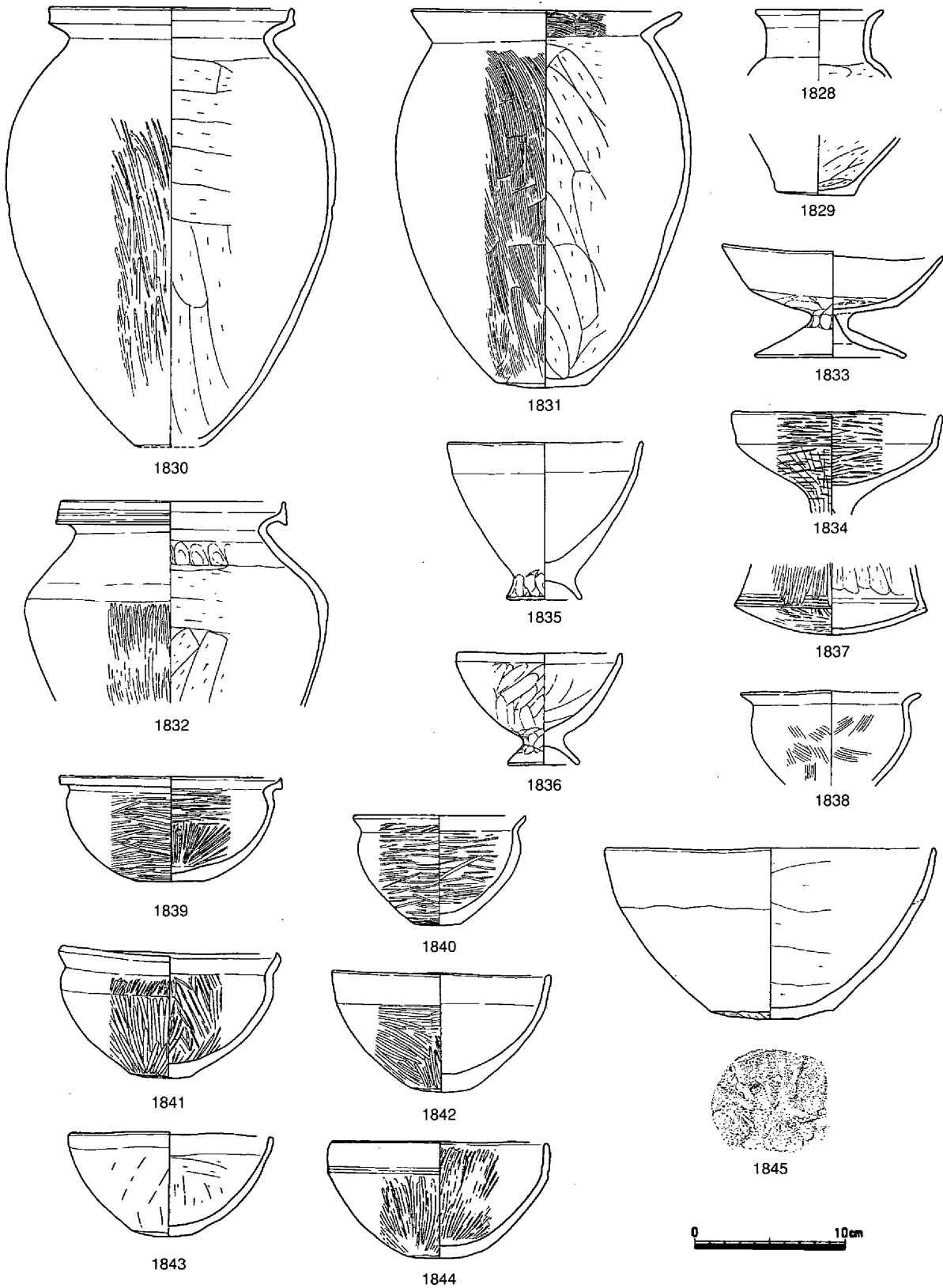


第568図 竪穴住居59~62 (1/60)



第569図 豎穴住居60・61出土遺物 (1/4,1/3)

積は23.2m<sup>2</sup>、床面の標高は504cmである。柱穴は4本を確認した。中央穴は1個あるようである。61bの規模は、長さ700cm、幅680cm、深さ30cmである。床面積は33.5m<sup>2</sup>、床面の標高は538cmである。



第570図 竪穴住居62出土遺物 (1/4)

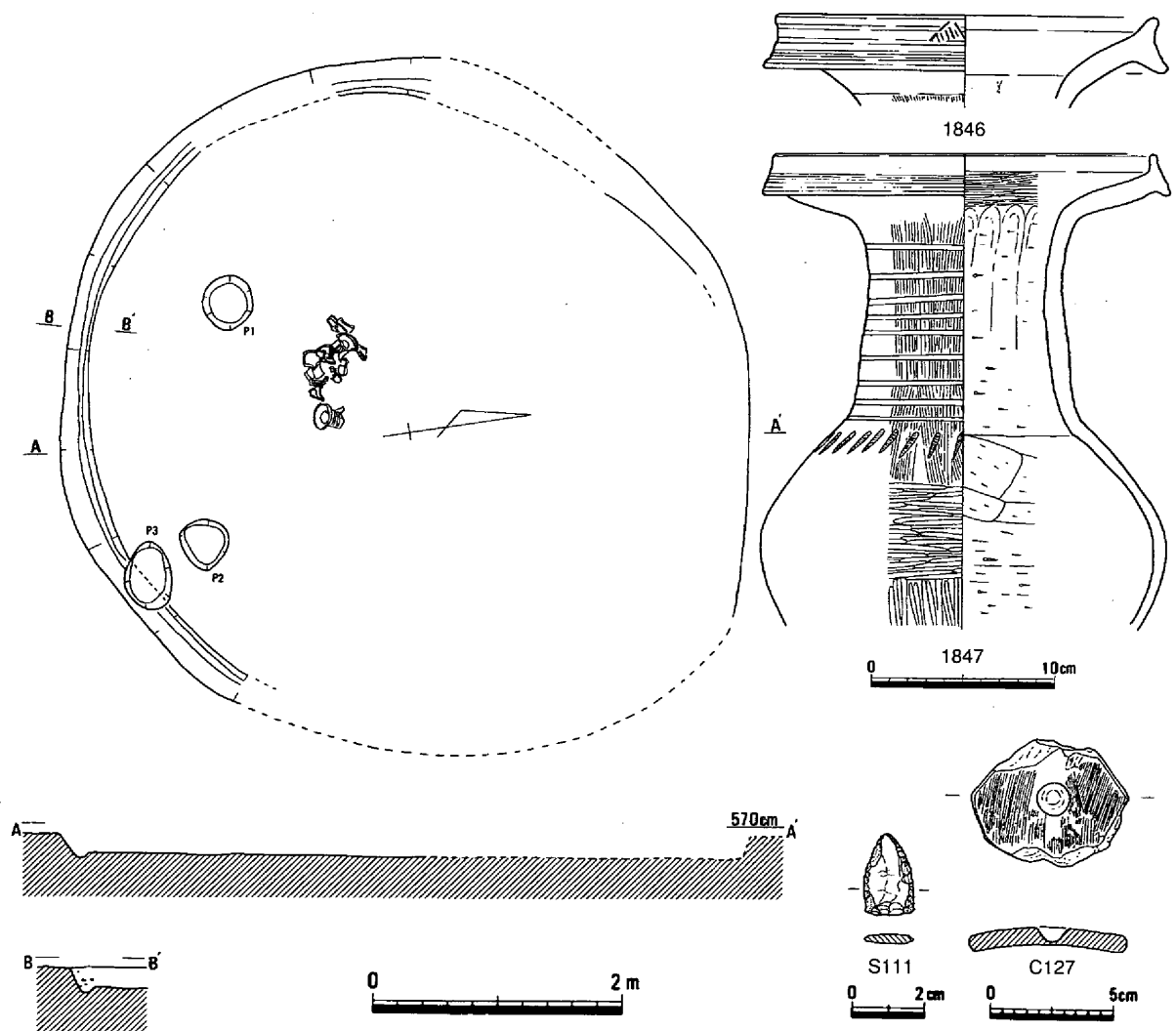
柱穴は6本を確認した。中央穴はaの掘削で消失したものである。 竪穴住居62は、隅丸方形のコーナー部分の壁体溝と床面および柱穴4本を検出した。住居床面の標高は520cmである。

この住居群から出土した遺物は、弥生土器多数とその土器体部を再利用した紡錘車2点がある。1792～1808は竪穴住居60・61aから出土した土器である。1809・1810は竪穴住居61aから出土した土器である。1811～1827は竪穴住居60a・61bから出土した土器である。1830～1845は竪穴住居62から出土したものである。C125とC126は竪穴住居60a・61bから出土した紡錘車である。C125は未製品である。

遺構や遺物の観察から、この住居群の時期は弥・後・Ⅱ～Ⅳにあたる。 (浅倉)

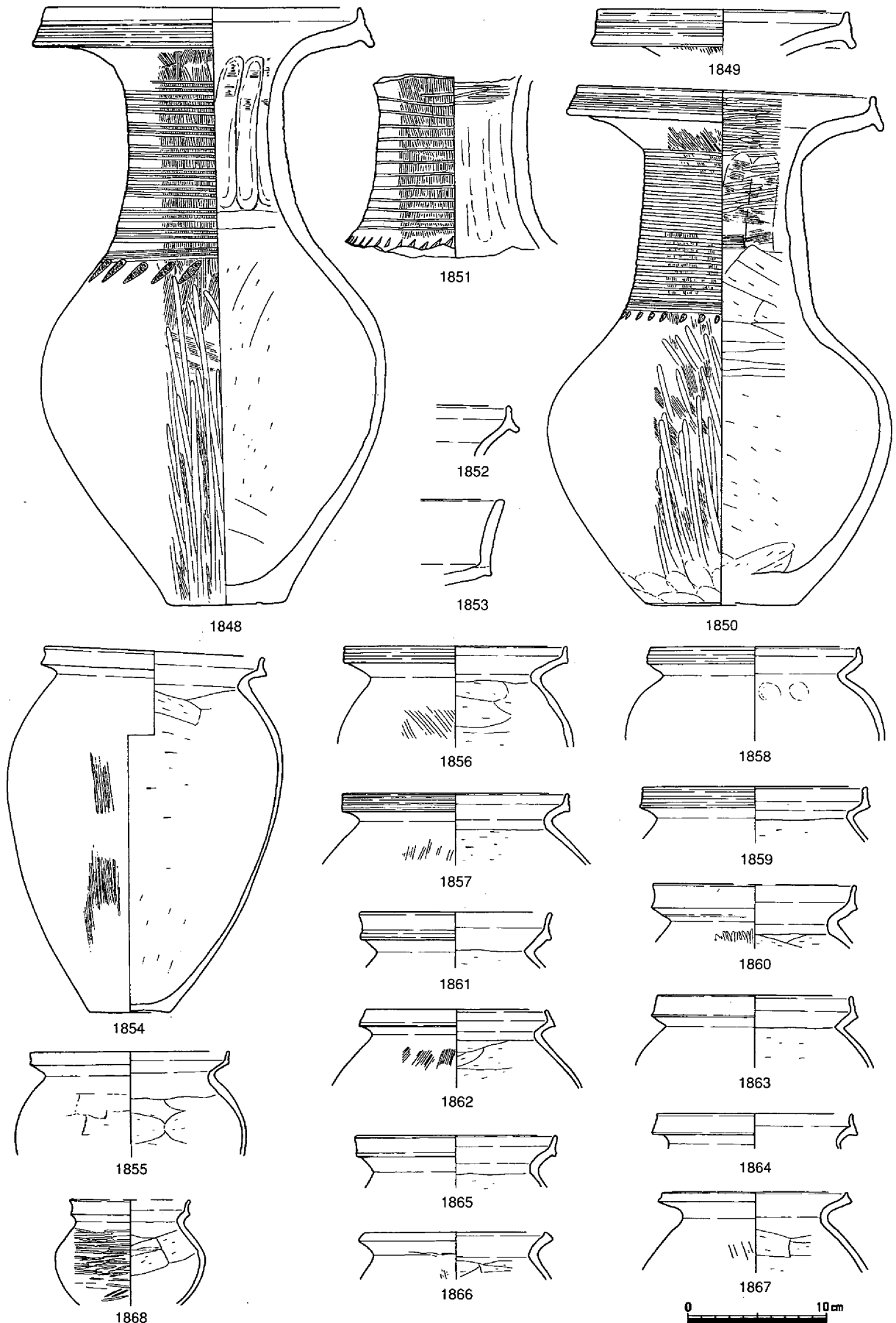
竪穴住居63 (第548・571～573図、図版108・109)

Ch509区の竪穴住居62の東で検出できた、ほぼ円形の竪穴住居である。壁体溝は、北側と南側で別々に検出しているものの、全周に巡っているものと考えられる。柱穴は2本しか確認できていないが、その間隔から推定して6本あったものであろう。住居の規模は、長さ575cm、幅516cm、深さ16cmである。床面積は23.0m<sup>2</sup>、床面の標高は546cmである。床面中央部やや南寄り、弥生土器が壊れた状態で集中して出土している。



第571図 竪穴住居63 (1/60)・出土遺物① (1/4,1/2,1/3)





第572図 豎穴住居63出土遺物② (1/4)

遺物は弥生土器のほかに、土器片転用の紡錘車1点と石鏝が1点出土している。1846～1851は長頸壺である。1852・1853は壺である。1854～1868は甕で、大小ある。1869～1876は高杯である。1877は蓋であり、丸い穴を持つ。1878～1882は鉢である。1883～1889は台付き鉢である。1890は大形の鉢である。1891は器台と考えられる。

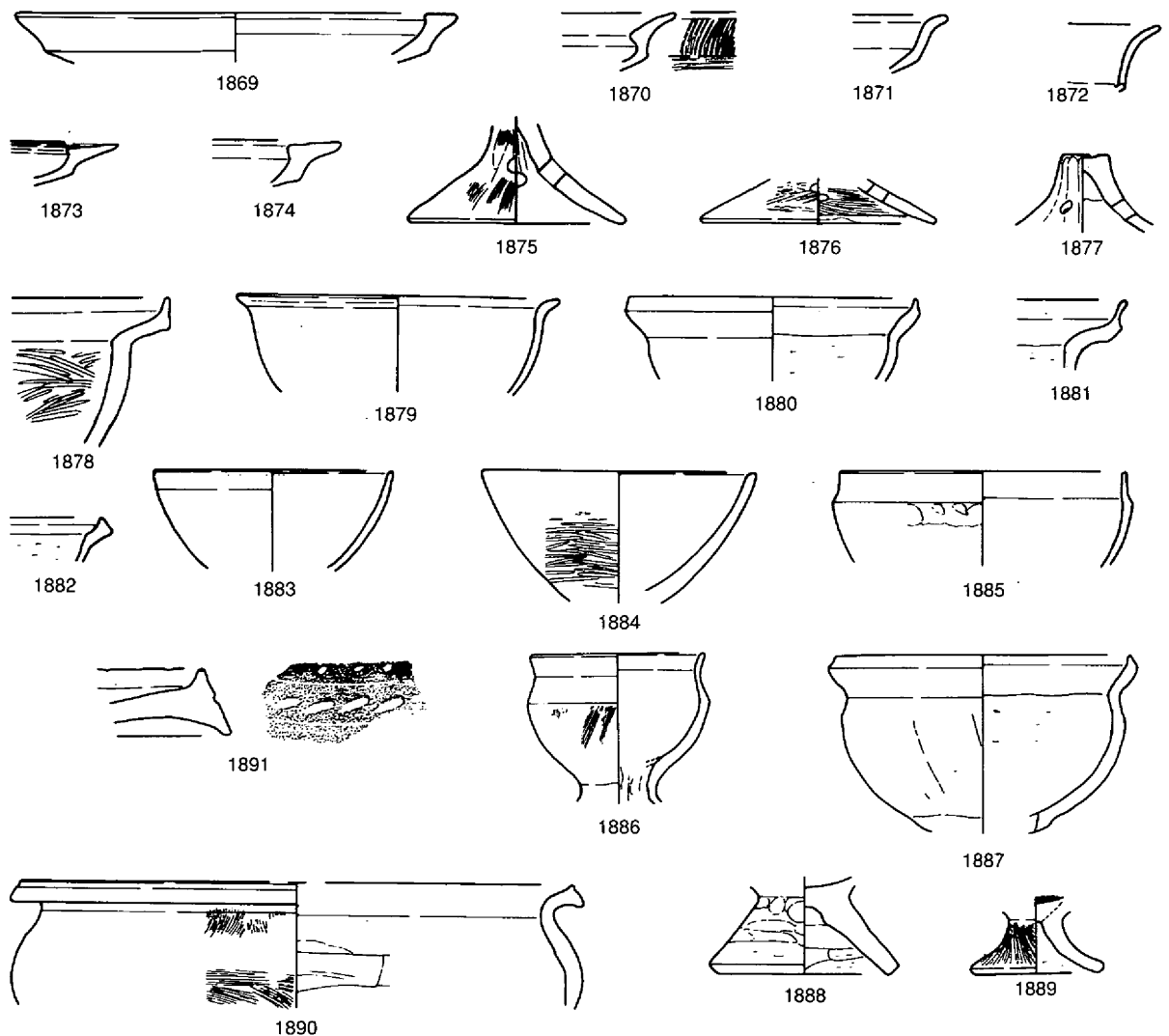
遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲとしたい。(浅倉)

竪穴住居64 (第548・574・575図、図版109)

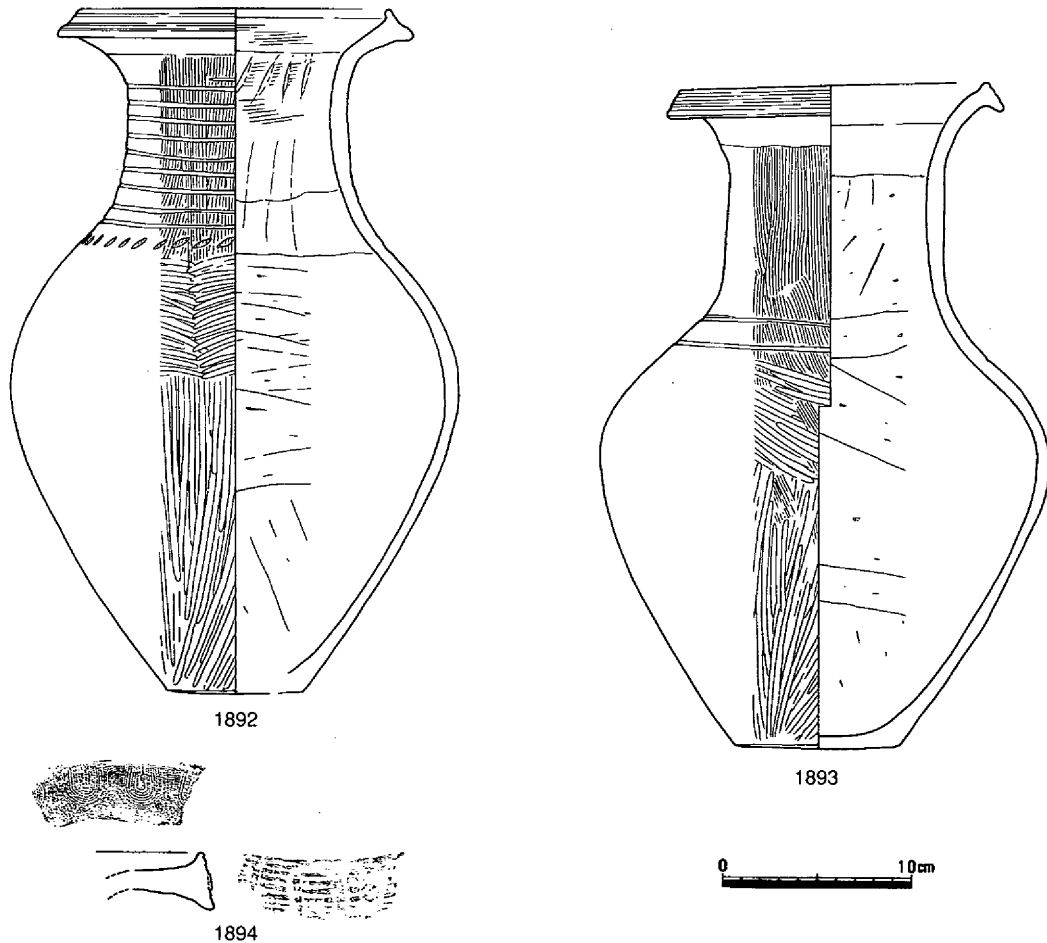
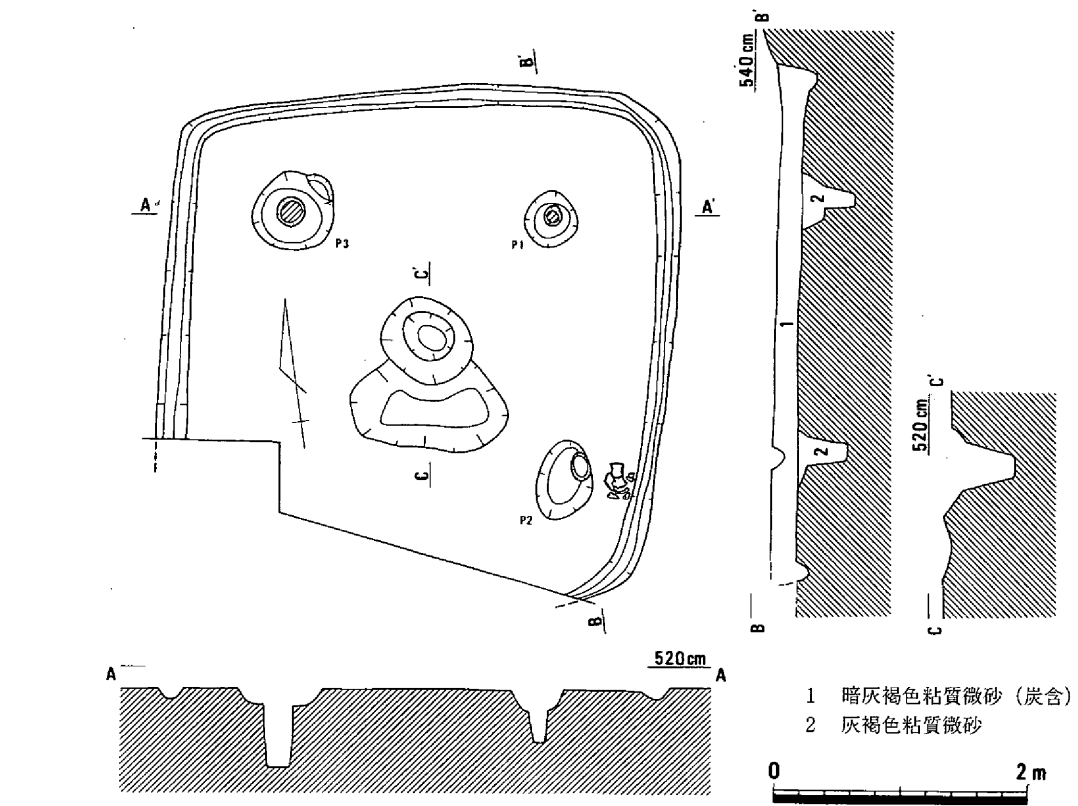
Ch600区の竪穴住居63の10m東で検出できたほぼ正方形の竪穴住居である。壁体溝は、南側をトレンチで欠く。柱穴は4本中3本を検出できた。柱痕跡の残るものがある。中央穴は2個あるので、掘り替えしたものであろう。住居の規模は、長さ395cm、幅393cm、深さ33cmである。床面積は13.0㎡、床面の標高は503cmである。

遺物は弥生土器のほかに、石斧1点と砥石が1点出土している。1892・1893は長頸壺である。1892は完形である。1894～1898は壺である。1899～1901は甕である。1902～1905は高杯である。1906は蓋であり、一对の丸い穴を持つ。1907・1908は器台である。1909は台付き鉢で、製塩土器である。

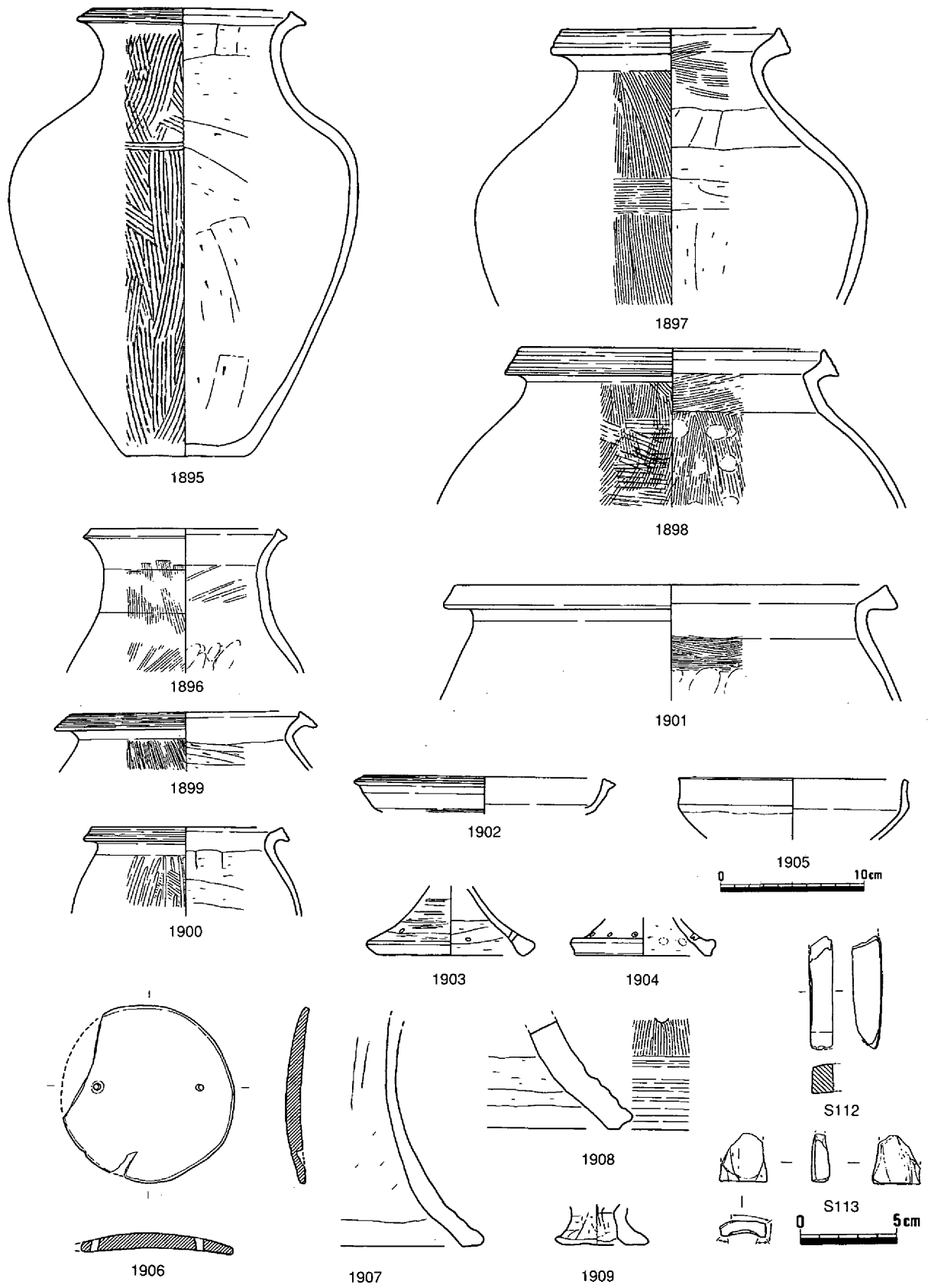
遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅰ～Ⅱとしたい。(浅倉)



第573図 竪穴住居63出土遺物③ (1/4)



第574図 竪穴住居64 (1/60)・出土遺物① (1/4)



第575図 竪穴住居64出土遺物② (1/4,1/3)

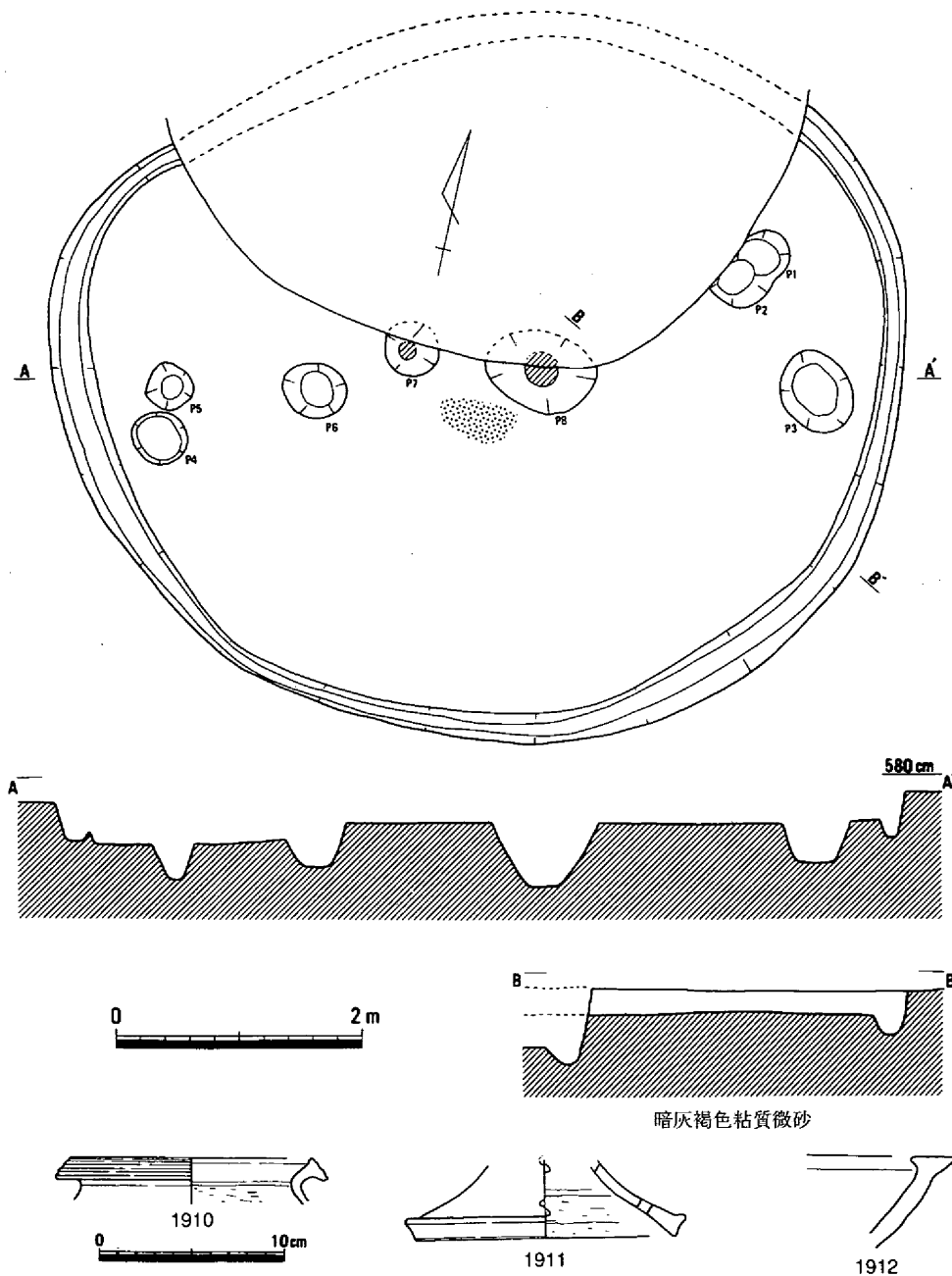
竪穴住居65 (第548・576図、図版27)

Ci509区の竪穴住居63の東南で検出できた楕円形の竪穴住居である。壁体溝は、北側を竪穴住居66で切られている。柱穴は2本を検出できた。中央穴はあると思われるが、ほかの柱穴によって壊されている。床面は焼けているので、火災に遭っていることがわかる。住居の規模は、長さ678cm、幅525cm、深さ20cmである。床面積は20.5m<sup>2</sup>、床面の標高は540cmである。

遺物は弥生土器が若干出土している。1910は甕の口縁部である。肥厚した端面に凹線文を2条施し、体部内面はヘラケズリしている。1911は高杯の脚部である。丸い穴を4個持つ。1912は鉢であろう。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Iとしたい。

(浅倉)



第576図 竪穴住居65 (1/60)・出土遺物 (1/4)

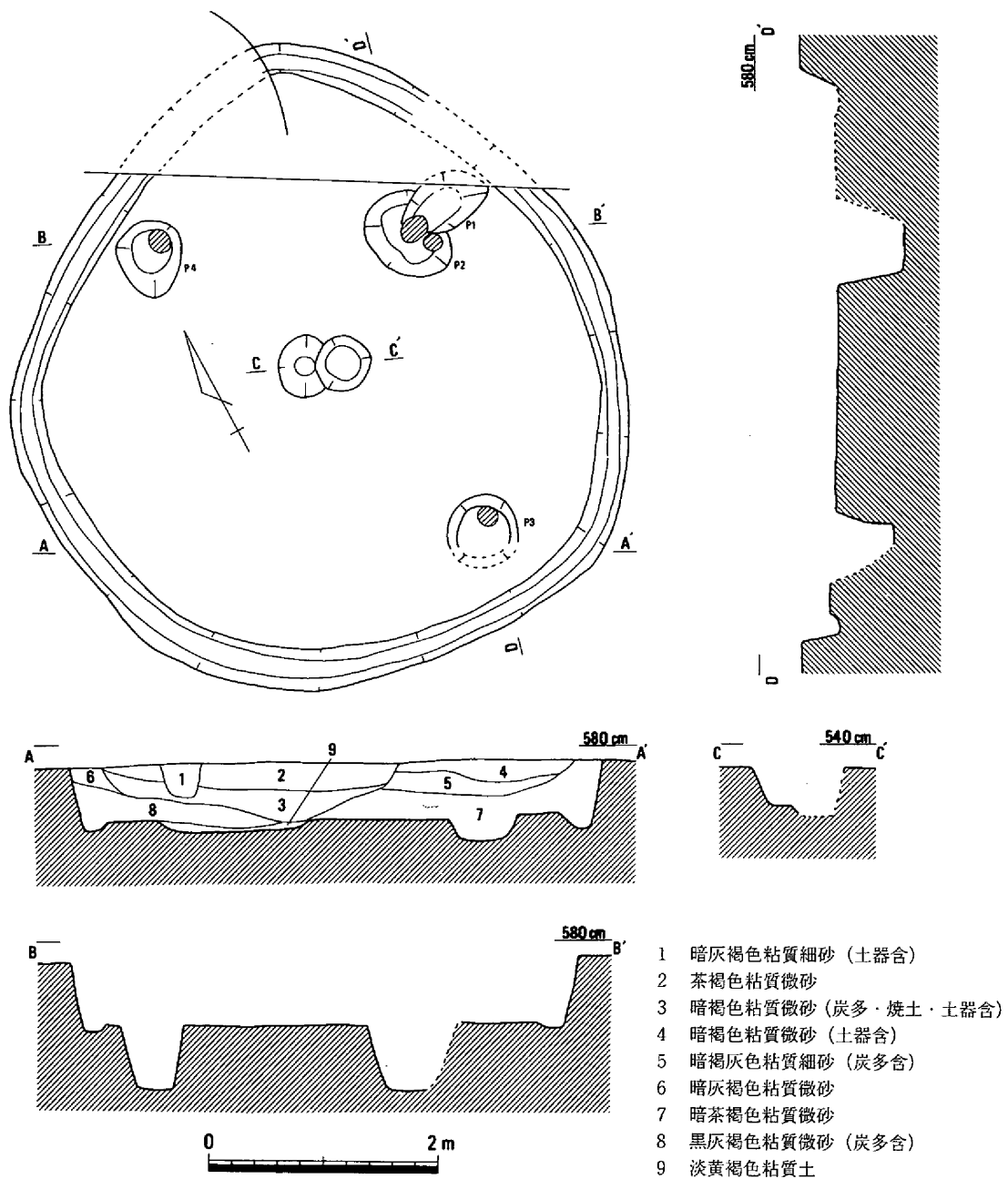
竪穴住居66 (第548・577~579図、図版27・110)

Ch5 09区の竪穴住居65の北で検出できたほぼ円形の竪穴住居である。壁体溝は、北側の一部をトレンチで切られている。柱穴は4本中3本を検出できた。中央穴は2個あるが、掘り直したものである。住居の規模は、長さ545cm、幅522cm、深さ50cmである。床面積は22.3m<sup>2</sup>、床面の標高は517cmである。

遺物は弥生土器が多数出土している。しかも形のわかるものが多い。1913は壺で、体部上半部に竹籠の痕跡が明瞭に焼き付いている。1918は台付き直口壺で、細かいヘラミガキがされている。1919は典型的な吉備地方の甕である。1924は蓋である。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・IVとしたい。

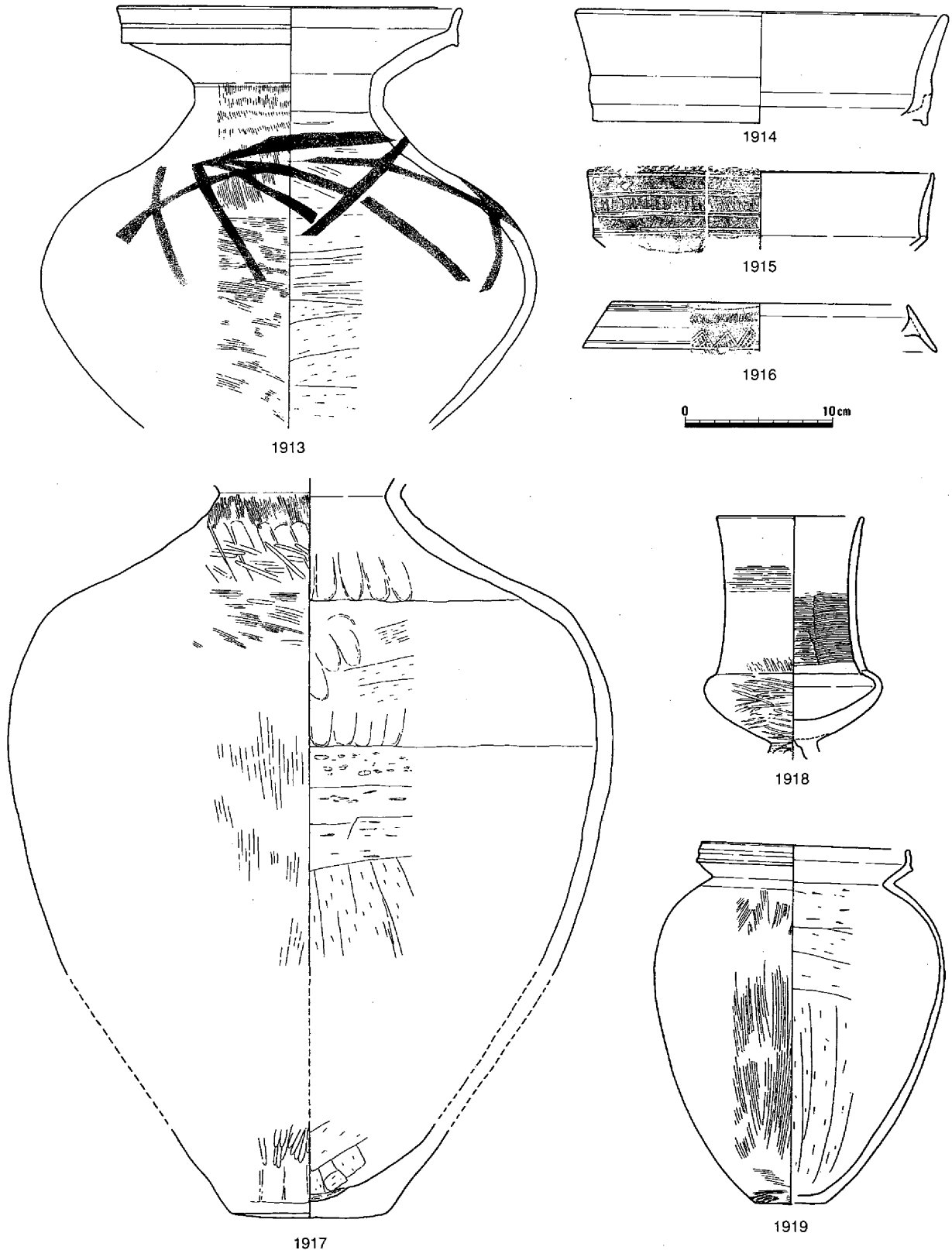
(浅倉)



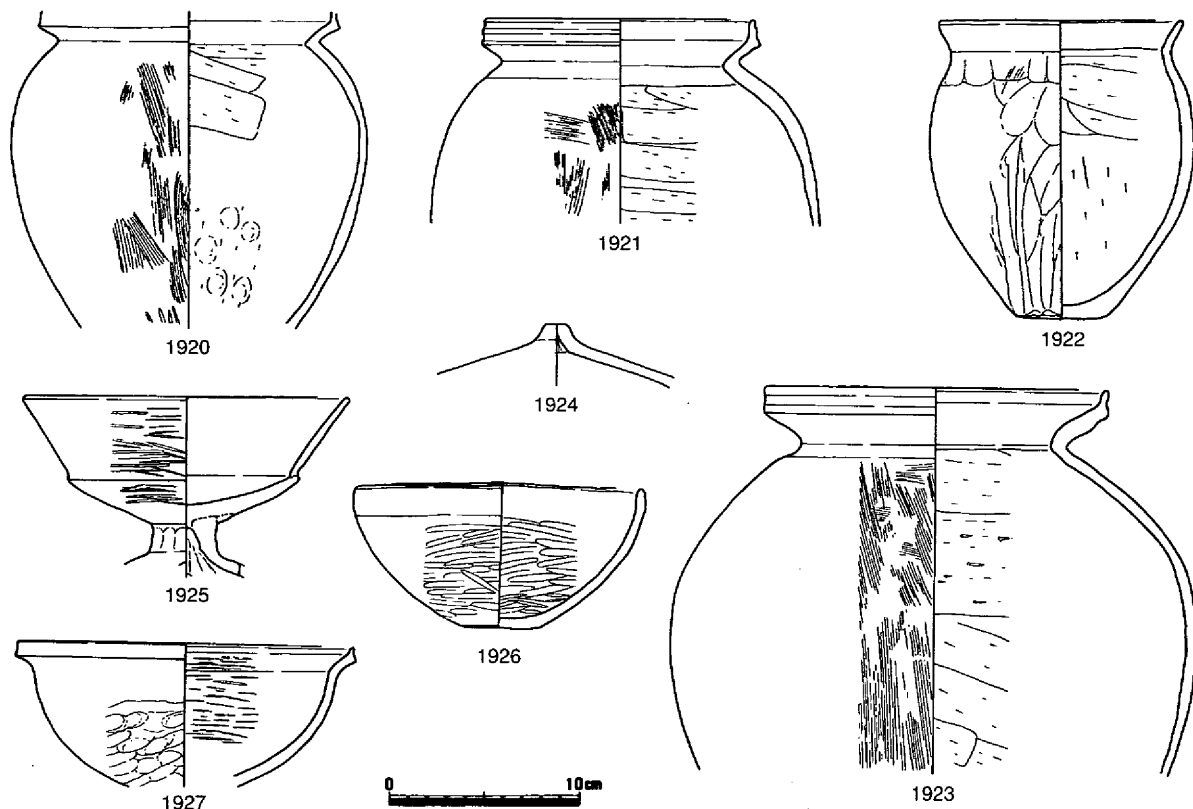
第577図 竪穴住居66 (1/60)

竪穴住居67 (第548・580・581図、図版27・110)

Ci600区の竪穴住居66の東南で検出できたほぼ円形の竪穴住居である。壁体溝は、4本検出していることから4軒の住居が重なっていることがわかる。柱穴は多数検出できた。どの時期の住居にど



第578図 竪穴住居66出土遺物① (1/4)



第579図 竪穴住居66出土遺物② (1/4)

の柱穴が対応しているのか非常に難しい。5本柱の住居と6本柱の住居が存在することは判明した。中央穴は4個あるが、どの住居に伴うものかはっきりしない。住居の規模は、最大のものが長さ732cm、幅696cm、深さ50cmである。床面積は43.0㎡、床面の標高は520cmである。

遺物は弥生土器が多数出土している。後で述べる銅鐸小片はこの住居が完全に埋まった後掘られた柱穴から出土したものである。1928は壺の口縁部である。1929～1931は甕である。1932・1933は高杯の脚部である。1934は蓋であろう。1935は装飾壺である。1937は壺で口径14.2cm、器高27.4cmである。1938～1943は短脚の高杯である。1944・1945は小形の鉢である。1946～1949は手捏ねの土器である。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅱ～Ⅳとしたい。(浅倉)

竪穴住居68 (第548・582・583図、図版111)

Cj 5 09区の竪穴住居67の西南で検出できたほぼ半円形の竪穴住居である。柱穴は6本中3本を検出できた。中央穴は1個ある。中央穴には炭を伴う。住居の規模は、長さ732cm、幅不明、深さ46cmである。床面積は22.7㎡、床面の標高は525cmである。

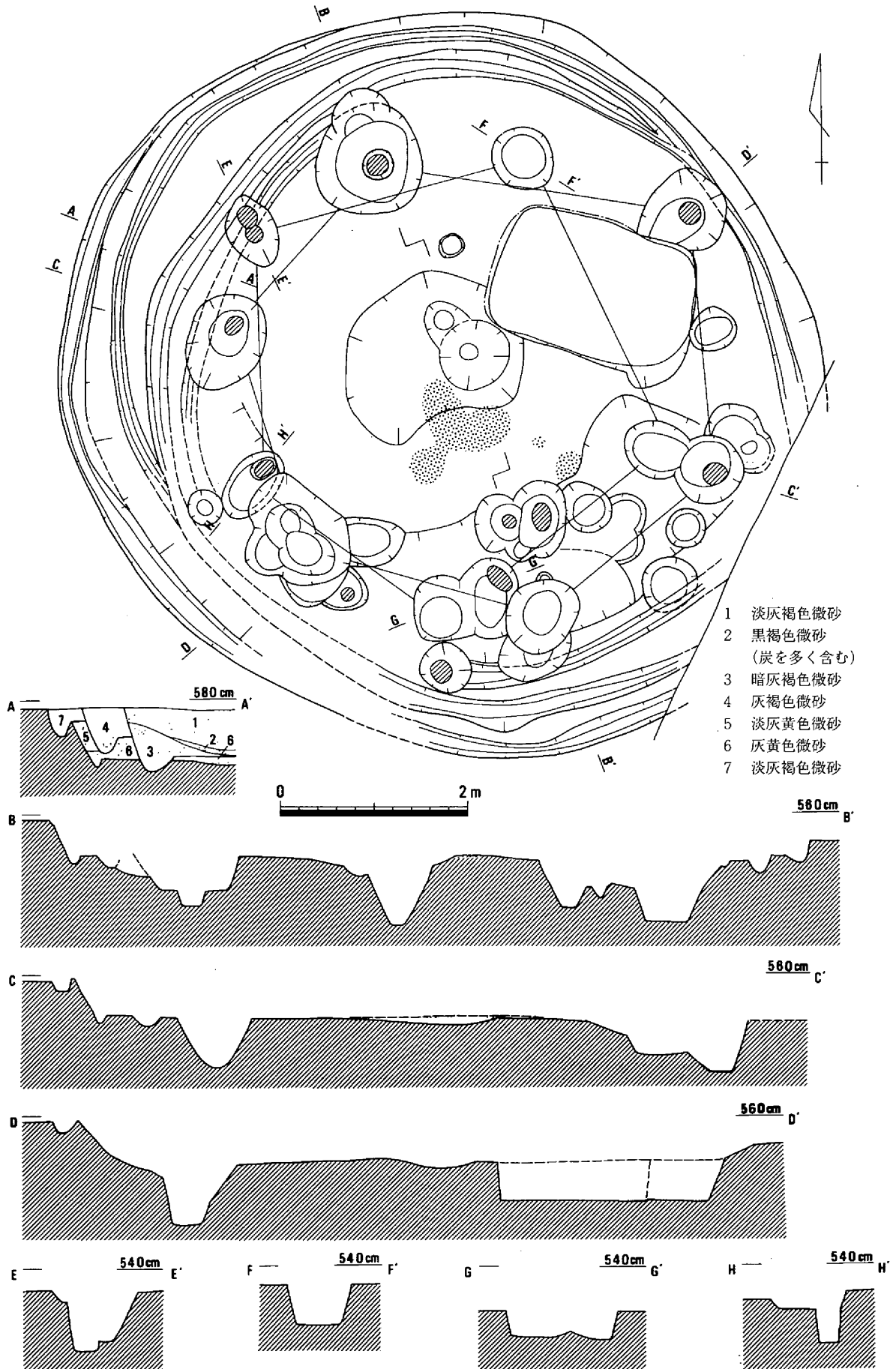
遺物は弥生土器が多数出土している。しかも形のわかるものが多い。1950～1952は甕である。1953～1955は短脚の高杯である。1956は鉢である。1957は台付き鉢である。1958・1959はほぼ完形の小形の鉢、1960は中形の鉢である。1962は手捏ね土器である。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)

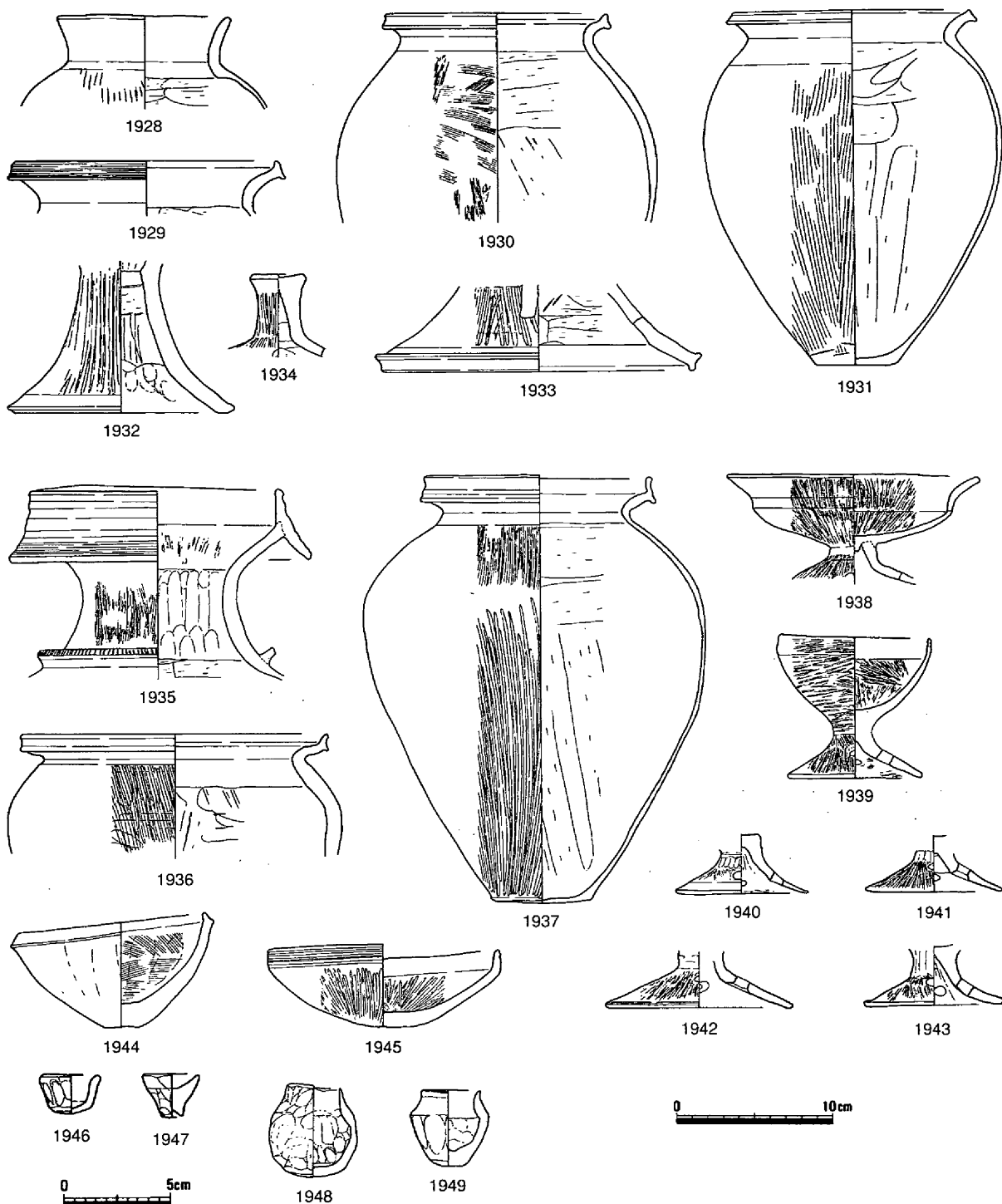
竪穴住居69 (第548・584図)

Cj 6 00区の竪穴住居68の東で検出できた方形の竪穴住居である。北西コーナー部分だけを検出し





第580図 竪穴住居67 (1/60)

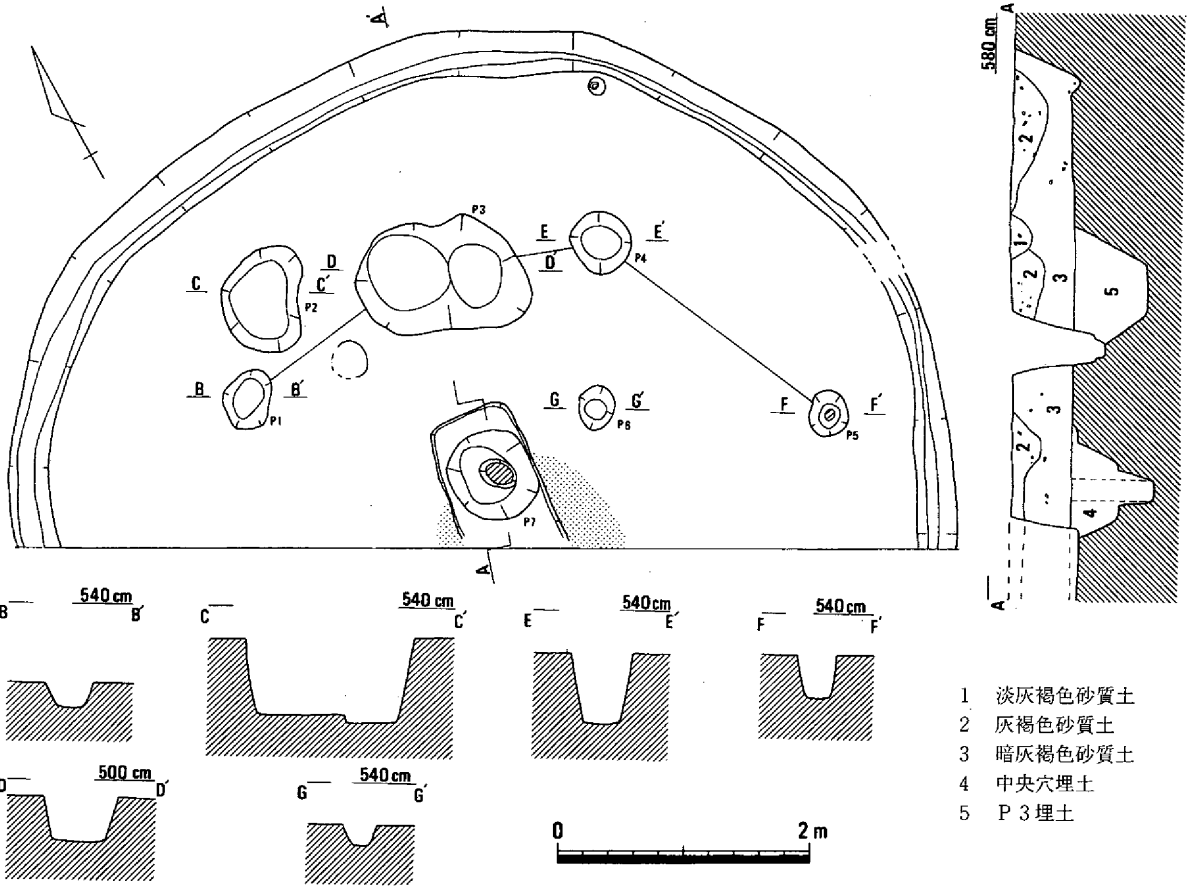


第581図 竪穴住居67出土遺物 (1/4,1/3)

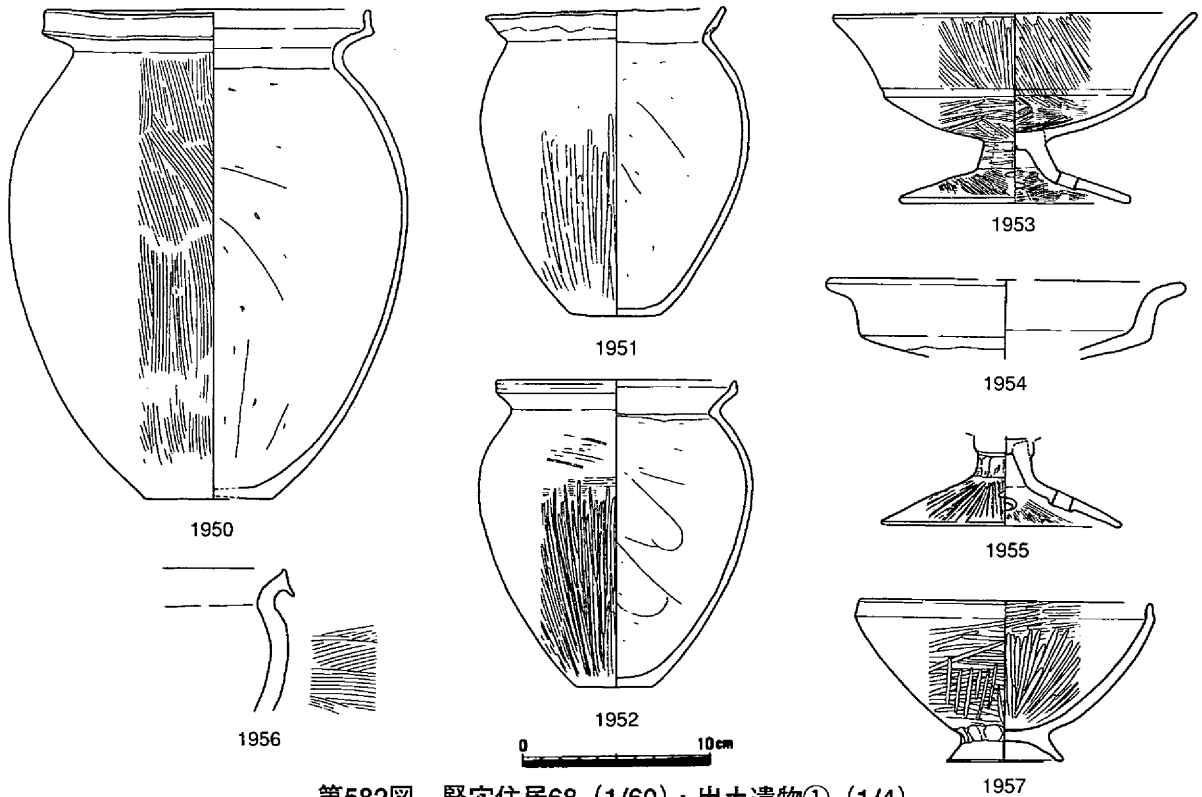
ている。2軒の住居が重なっていると考えられる。柱穴は3本を検出できた。住居の規模は、長さ(516)cm、幅(200)cm、深さ60cmである。床面積は(5.4)m<sup>2</sup>、床面の標高は550cmである。土層断面図の第1層は上層の住居の埋土である。第2層は明黄褐色粘質土で貼床と考えられる。第3層は下層の住居の埋土である。第4層は下層住居の壁体溝の埋土である。遺物は弥生土器が若干出土している。1965は高杯の杯部である。口径は17.3cmを測る。1966は高杯の脚部である。底径は10.2cmである。

遺構や遺物から、この住居の時期は弥・後・IIとしたい。

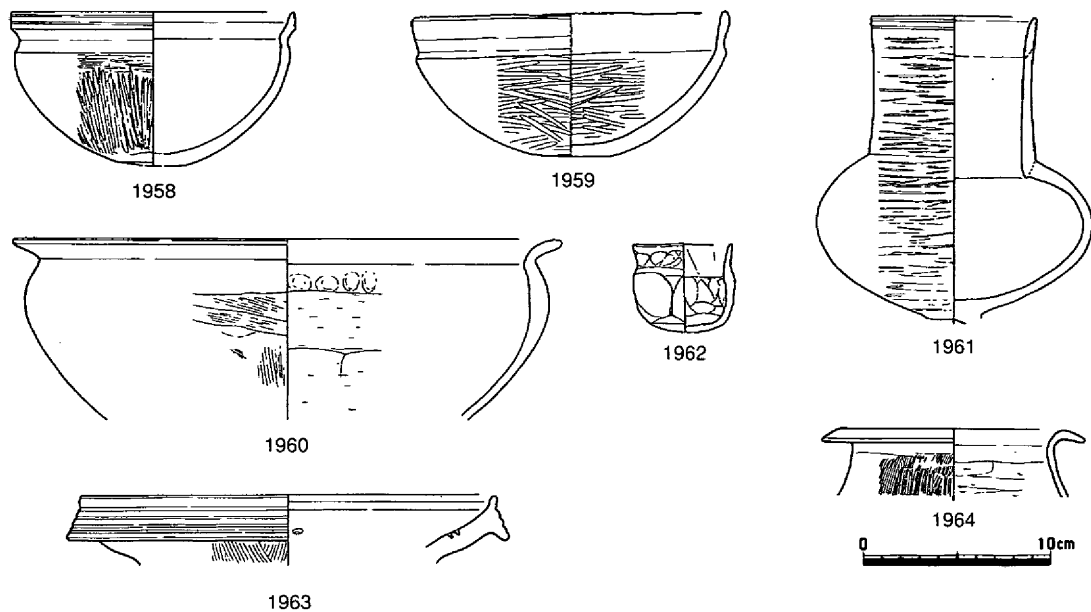
(浅倉)



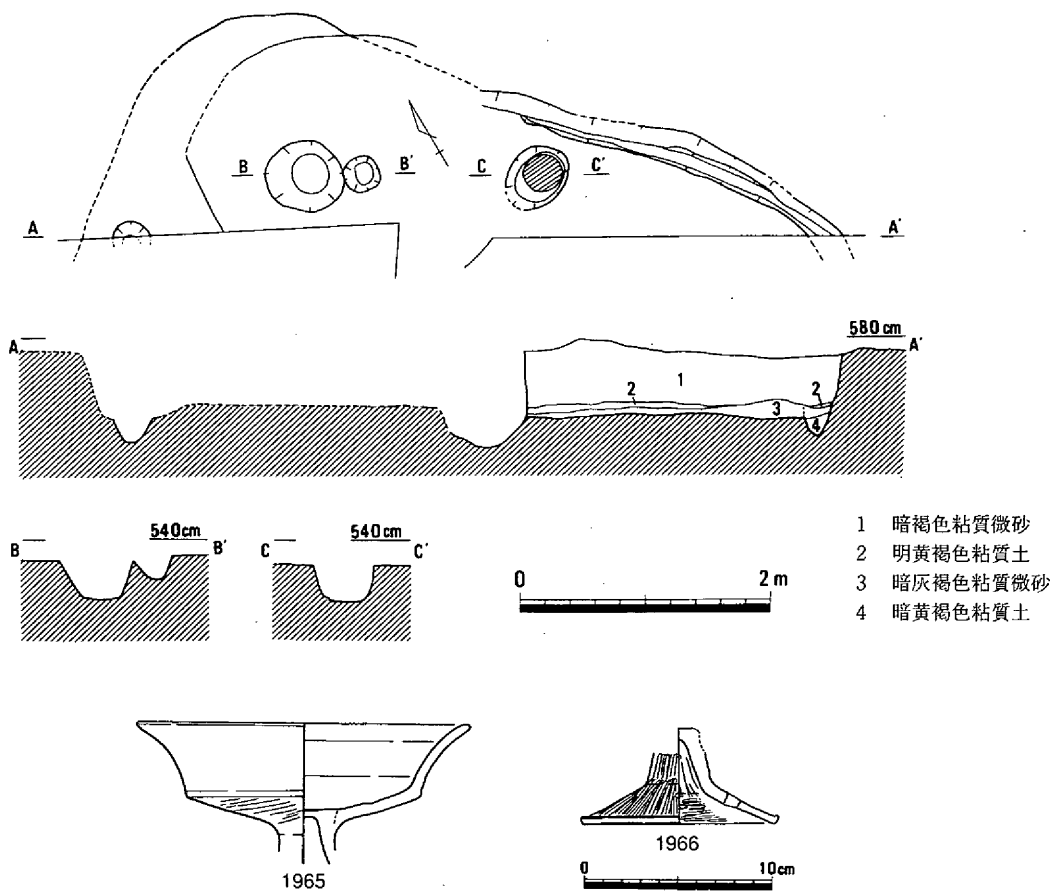
- 1 淡灰褐色砂質土
- 2 灰褐色砂質土
- 3 暗灰褐色砂質土
- 4 中央穴埋土
- 5 P3埋土



第582図 豎穴住居68 (1/60)・出土遺物① (1/4)



第583図 竪穴住居68出土遺物② (1/4)



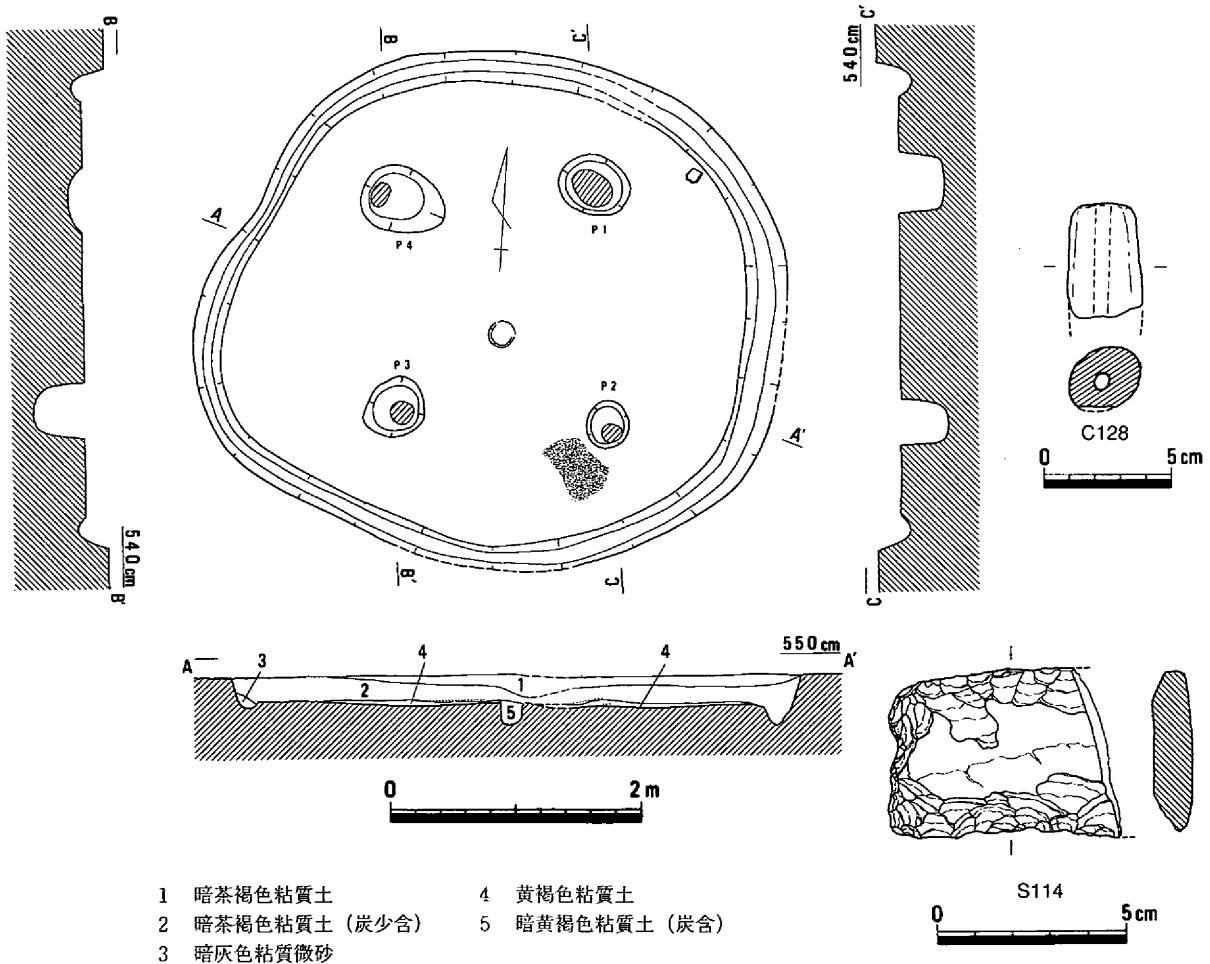
第584図 竪穴住居69 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居70 (第549・585・586図、図版28・163・166)

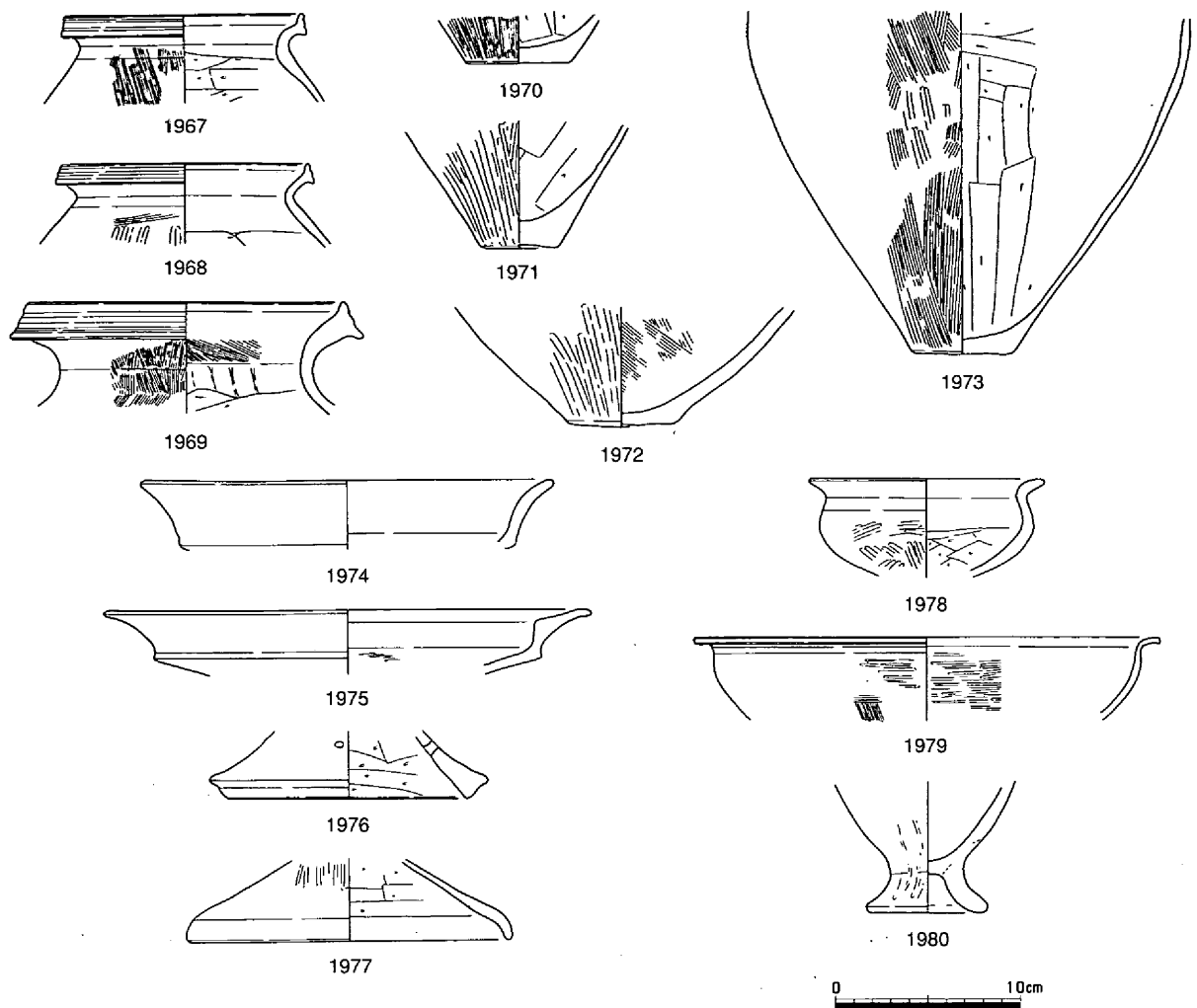
竪穴住居70は方形土塙24に接して検出されている。住居は完存しており、その規模は403×460cmを測り、平面形はほぼ円形を呈するが、西側で変形している。深さは検出面から約26cm程残存しており、壁際には幅5～10cm、深さ5～15cm前後の壁体溝が巡っている。床面はほぼ平坦であるが、P2付近で焼土面がみられた。柱穴は4本確認されていることから、4本柱で構成される竪穴住居である。柱間距離は168～196cmを測る。なお、床面中央には炭を含む径、深さが20cmの中央穴が存在する。主な遺物としては土錘C128、打製石包丁S114、土器では甕1967～1973、高杯1974～1977、鉢1978・1979、台付鉢1980などが出土している。時期はこれらの遺物からみて、弥・後・Ⅲ～Ⅳと思われる。(松本)

竪穴住居71 (第549・587図、図版111・166)

方形土塙31・32に切られた状態で検出された竪穴住居である。遺構の残存状態も悪く、北西の壁体溝は検出されていないが、規模は約500×520cm程の隅丸方形を呈する住居である。深さは検出面から約17cmと残存状態はよくない。壁際には幅5～10cm、深さ5～10cmを測る壁体溝が巡っている。床面は水平であり、炭混じりの茶褐色粘質土で貼床されていた。なお、この床面のほぼ中央には中央穴がみられた。主柱穴は3本のみ検出されたが、4本目の位置には方形土塙31が存在するため確認できていないが、4本柱で構成される竪穴住居と思われる。柱間距離は244～256cmを測る。



第585図 竪穴住居70 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/2)



第586図 竪穴住居70出土遺物② (1/4)

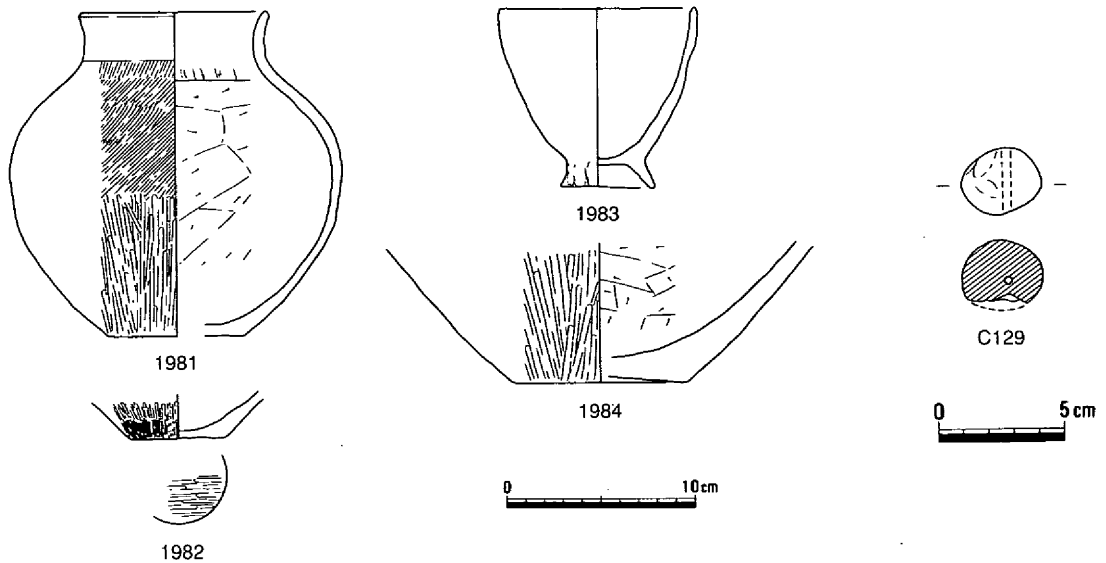
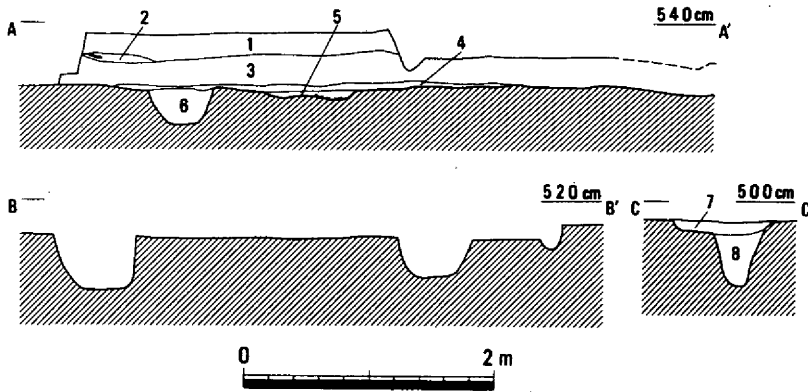
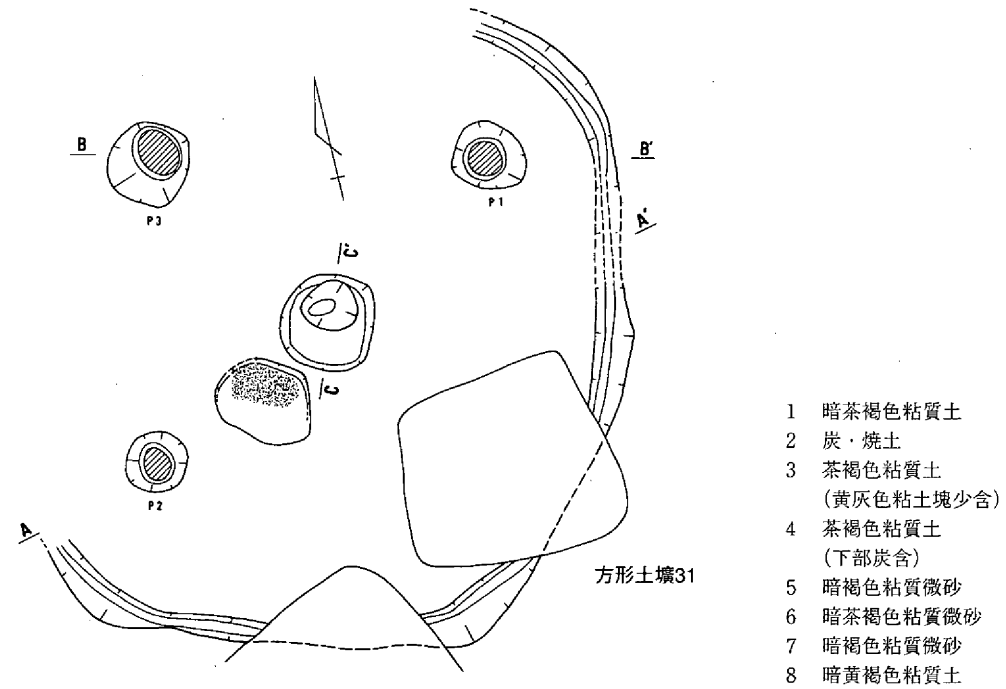
主な出土遺物としては、土錘C129、土器では壺1981、台付鉢1983、甕1984などが出土している。これらの遺物からみて、この遺構の時期は弥・後・Iに属すると思われる。(松本)

**竪穴住居72** (第549・588・589図、図版28)

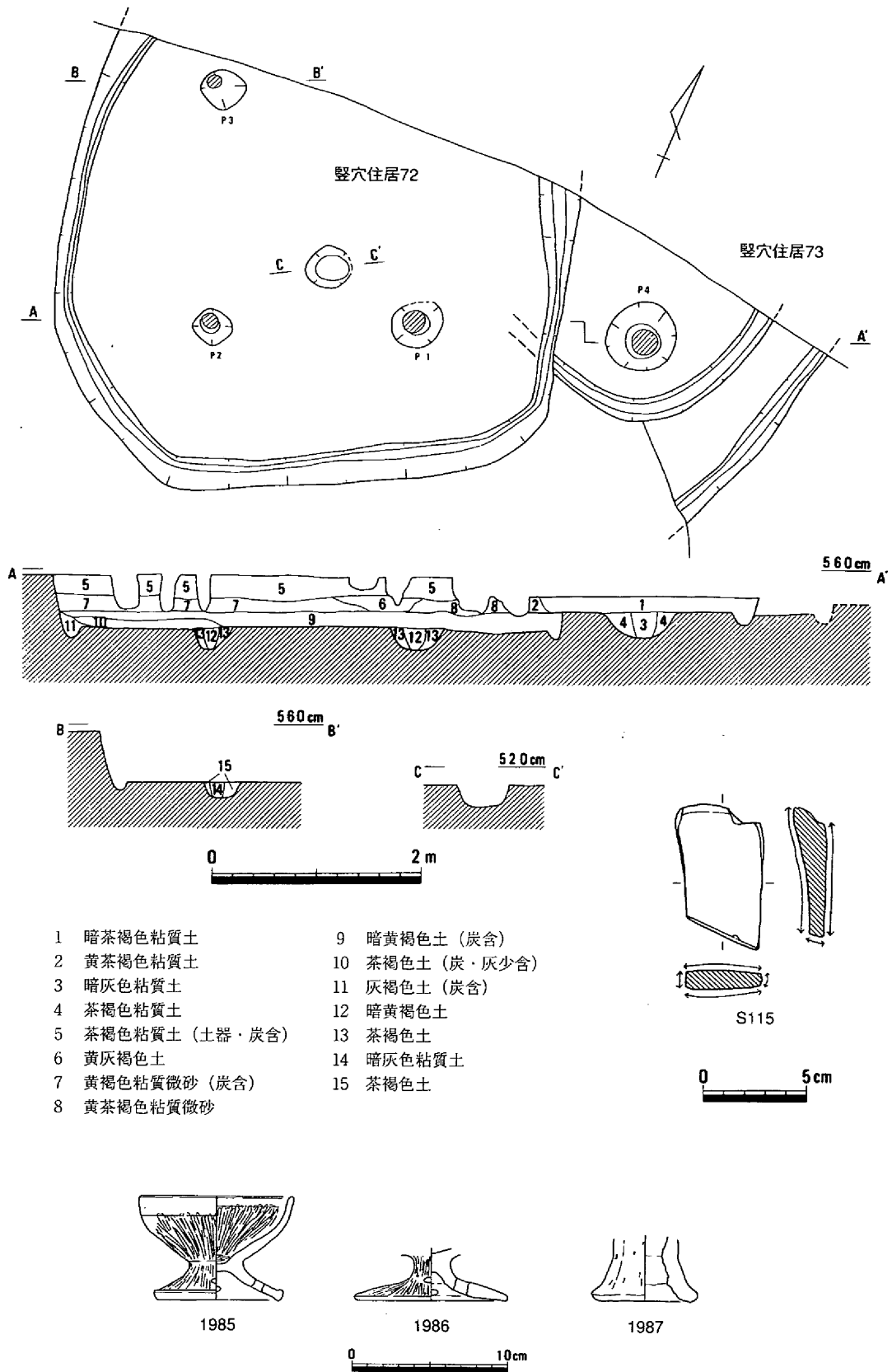
竪穴住居73と切り合い関係をもつ遺構である。断面観察からみて、竪穴住居73が本遺構を切っていることが確認されている。遺構の規模は208×474cmであるが、一辺が500cm前後の隅丸方形を呈する住居と思われる。深さは検出面から約46cmを測る。北辺部は検出していないが、壁際に幅5～10cm、深さ約10cm程の壁体溝が巡っている。床面には炭、灰混じりの水平な貼床面がみられた。支柱穴は3本のみ検出されたが、おそらく4本柱で構成される竪穴住居と思われる。柱間距離は196～232cmを測る。なお、床面中央からやや南寄りに浅い中央穴がみられた。遺物は上層から壺1988、高杯1989～1993、鉢1994、台付鉢1995が出土しているが、ここでは弥・後の範疇に入るとおきたい。(松本)

**竪穴住居73** (第549・588・589図、図版163)

竪穴住居72を切る状態で検出された遺構である。隅丸方形を呈する竪穴住居で、壁際には幅5～10cm、深さ約10cmの壁体溝が巡っている。柱穴が1本(P4)確認されているが、この遺構に伴うものは不明である。主な遺物としては、石製品では砥石S115、土器では高杯1985・1986、製塩土器1987

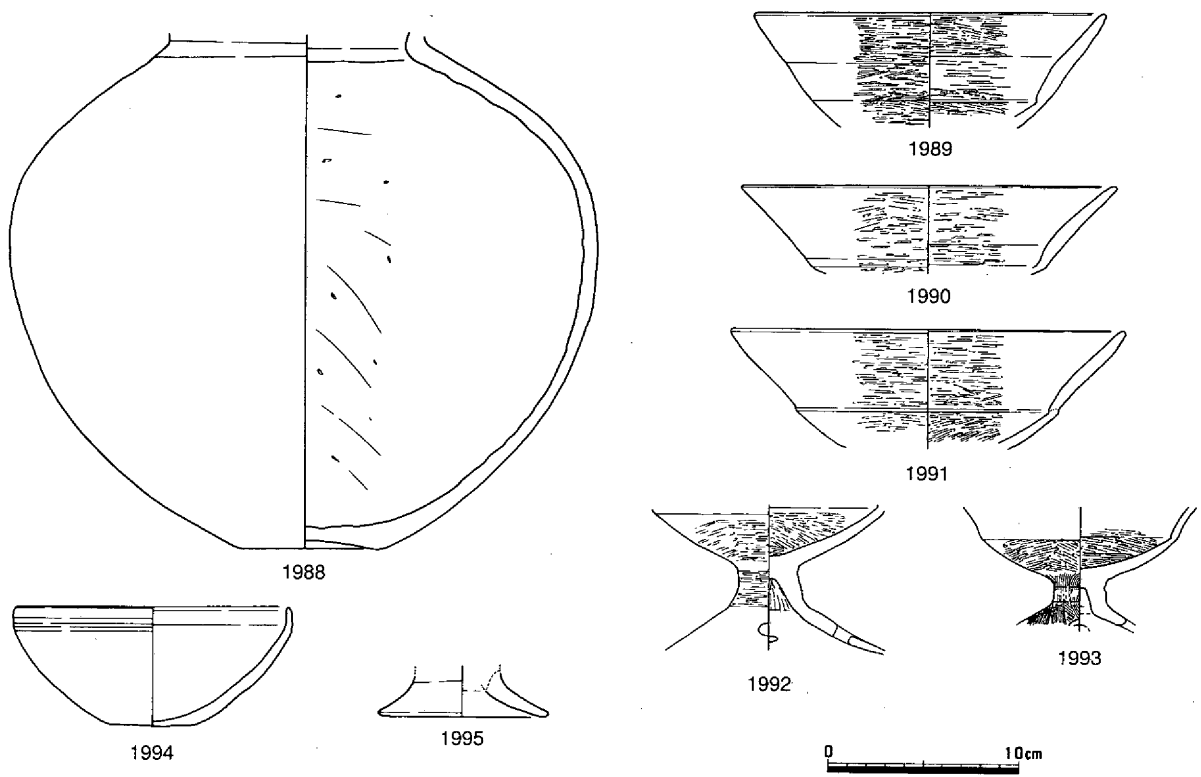


第587図 竪穴住居71 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



第588圖 豎穴住居72・73 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/4)



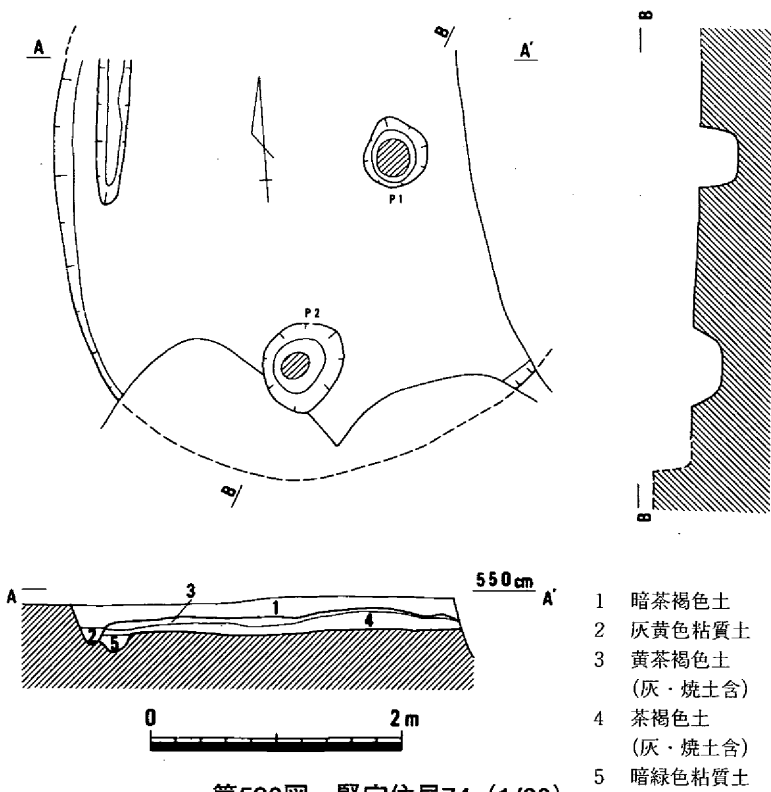


第589図 竪穴住居72・73出土遺物② (1/4)

などが出土している。時期は弥・後の後半の範疇に入ると思われる。(松本)

竪穴住居74 (第549・590図)

竪穴住居72に切られる状態で検出された。遺構の残存状態はよくないが、壁体から復元される規模は径約4.2～4.5 m程で、楕円形を呈すると思われる。深さは検出面から20 cmと浅いが、壁体溝が西に残存する。床面には灰、焼土を含む茶褐色土の貼床がみられる。柱穴は2本確認している。なお、貼床除去後に壁体溝を検出しており、建て替えが想定される。図示する遺物はないが、時期は弥・後・I～IIと思われる。(松本)



第590図 竪穴住居74 (1/60)

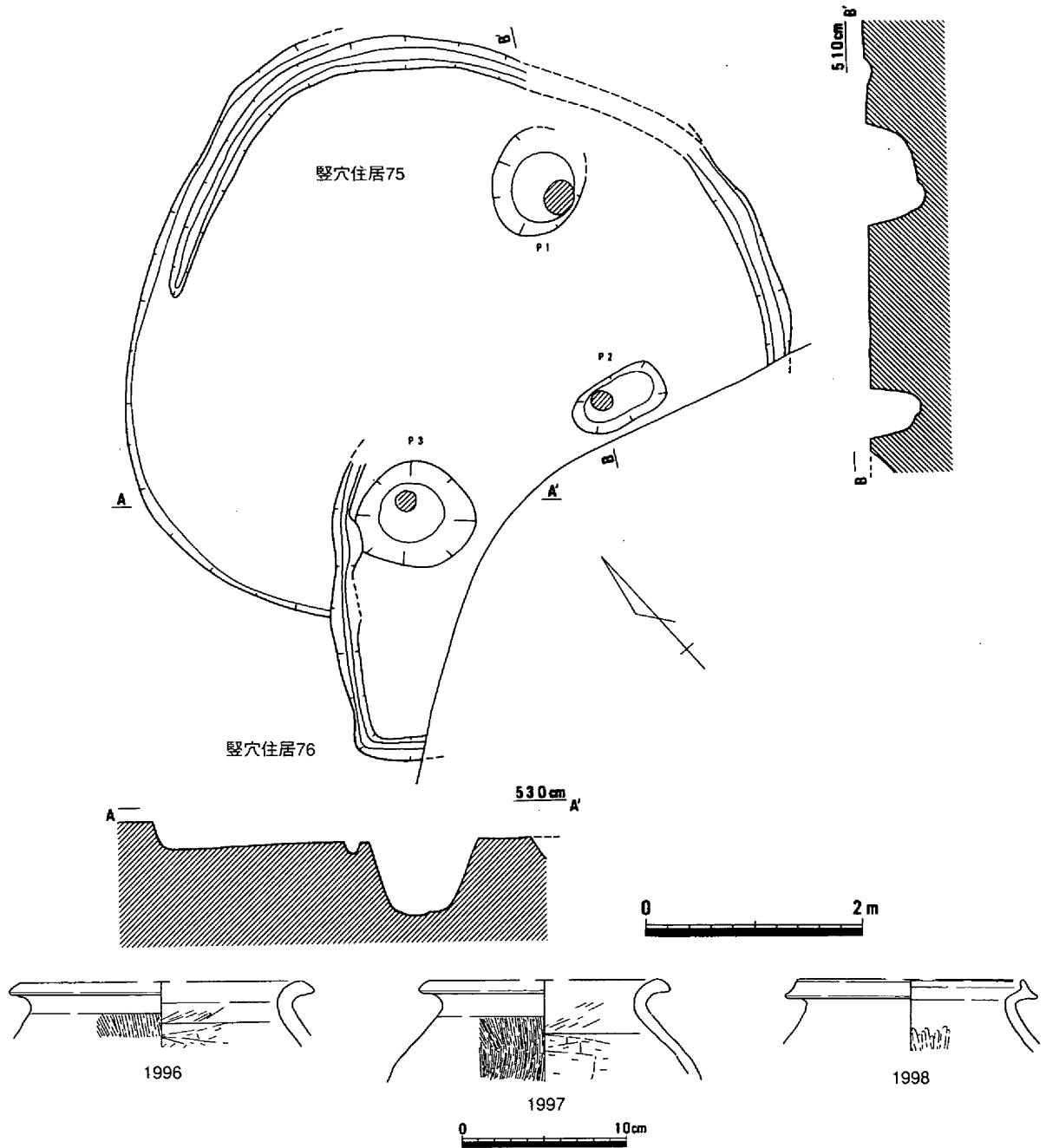
- 1 暗茶褐色土
- 2 灰黄色粘質土
- 3 黄茶褐色土 (灰・焼土含)
- 4 茶褐色土 (灰・焼土含)
- 5 暗緑色粘質土

竪穴住居75 (第549・591図)

竪穴住居76・77と切り合い関係をもつ遺構である。遺構の残存状態はよくないが、復元される規模は550～600cm程の円形ないし隅丸方形の形態を呈する。深さは検出面から約22cm程と浅いが、住居の北～東側には幅5～10cm、深さ5cm前後の壁体溝が検出されている。柱穴は3本確認されているが、4本柱で構成されていたと考えられる。中央穴は存在しない。遺物は竪穴住居75・76のどちらの遺物か確認できなかったが、甕1966～1998がある。時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

竪穴住居76 (第549・591図)

竪穴住居75と切り合う状態で検出された遺構である。遺構の残存状態は極めて悪く、壁体溝のみの

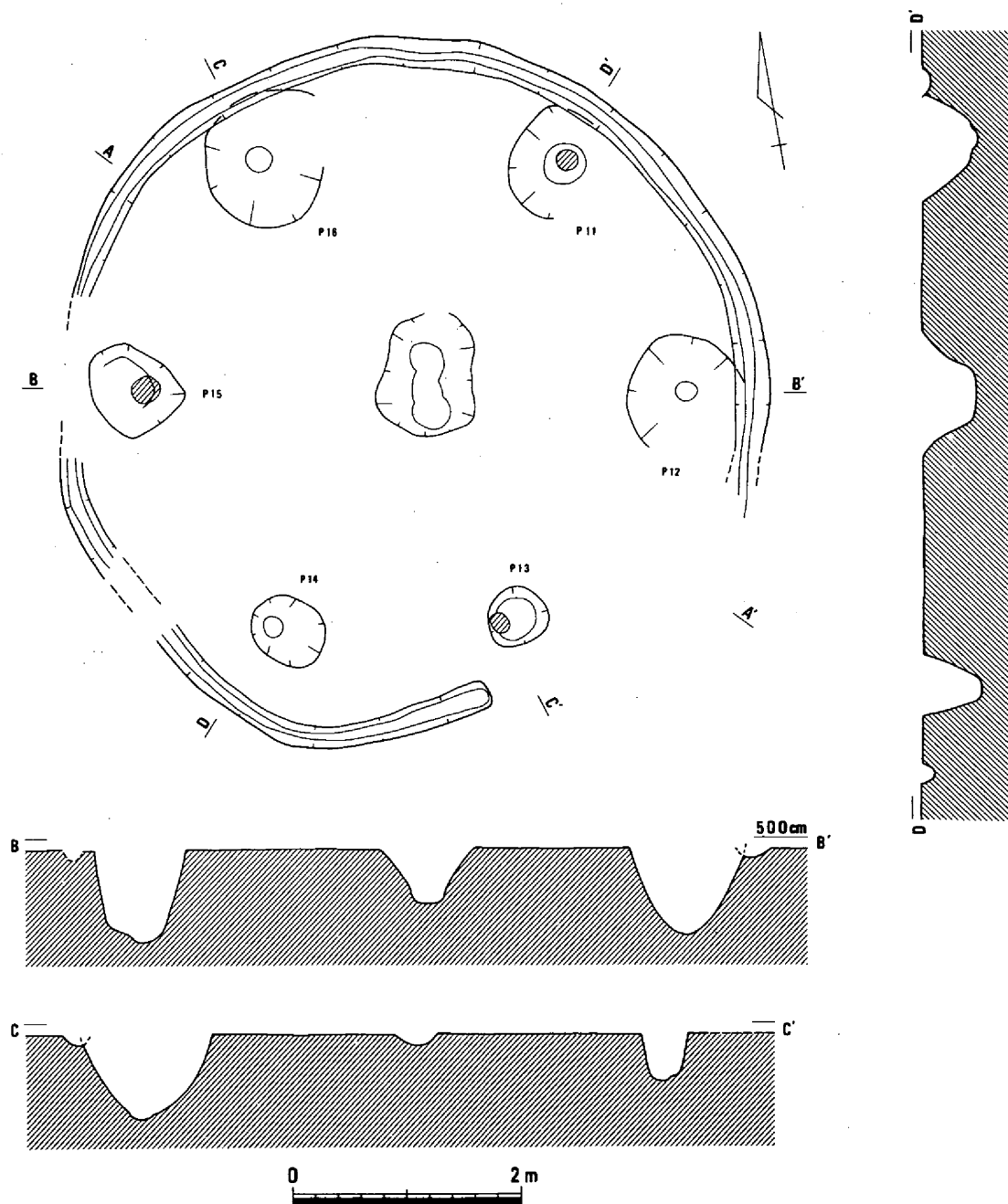


第591図 竪穴住居75・76 (1/60)・出土遺物 (1/4)

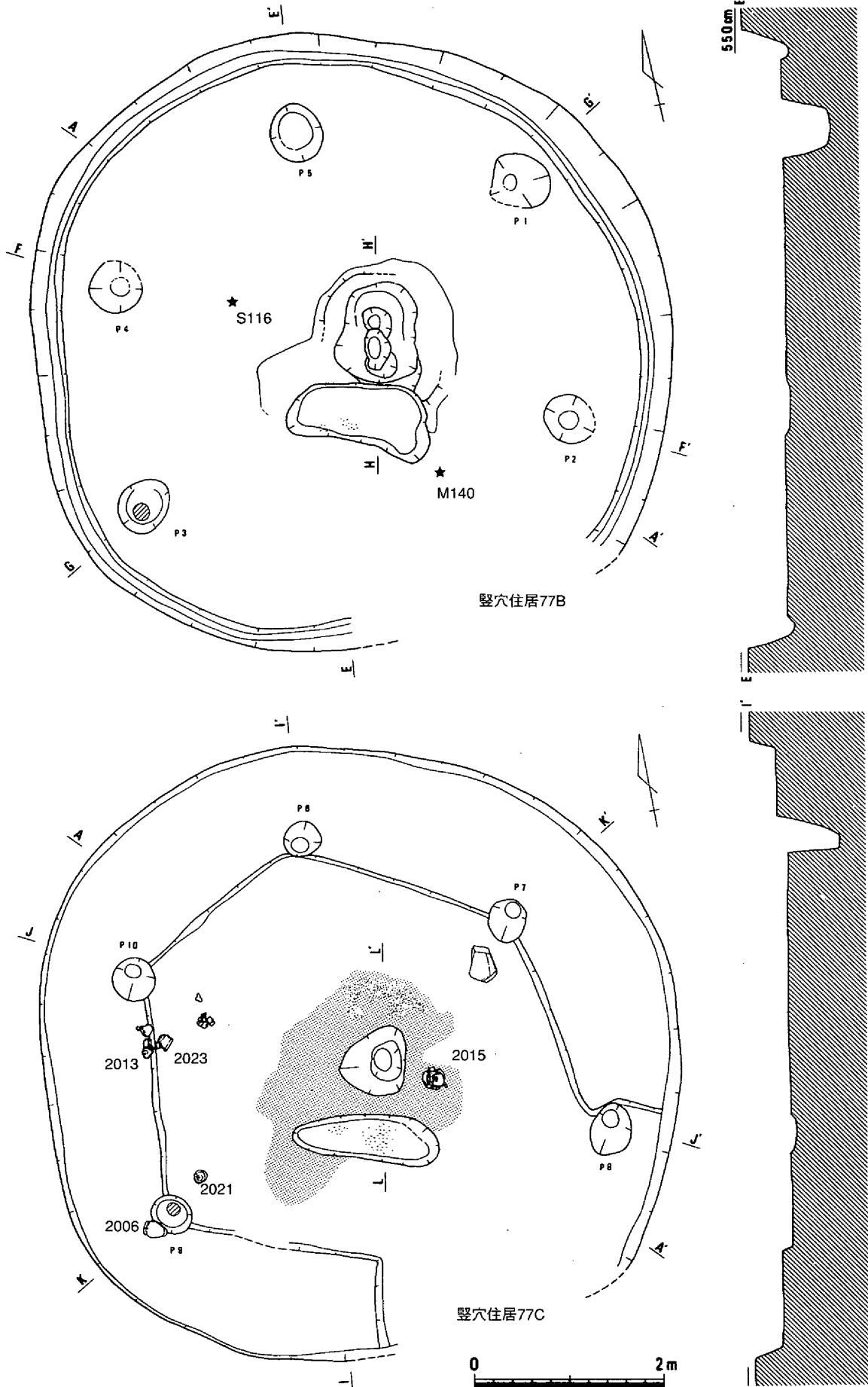
検出であったが、規模は一辺が260cmの方形を呈する小形の竪穴住居である。壁体溝の幅は5～10cm、深さ約10cmを測る。時期は竪穴住居75と相前後するものであり、弥・後・Iと思われる。（松本）

竪穴住居77（第549・592～597図、図版28・29・111・163・166・169）

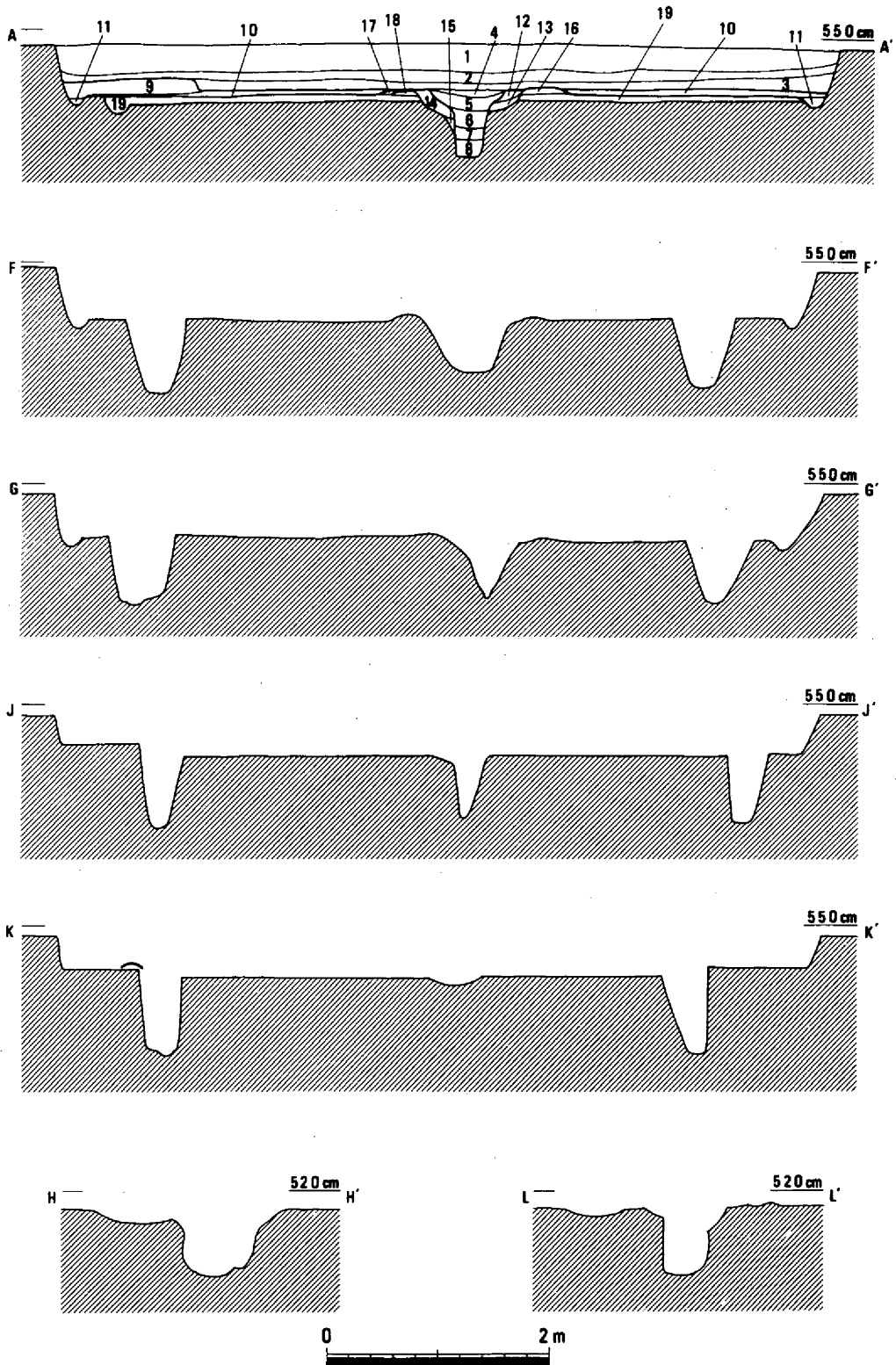
この住居は3回の建て替えが確認されているが、平面形は多角形（六角形）であったと思われる。最も古い77aの規模は径約700cmを測るが、一辺の長さは約300cmである。床面には丁寧な貼床が施されている。壁際には幅5～15cm、深さ5～10cm前後の壁体溝が巡るが、南壁はほかの遺構に切られたため途切れている。支柱穴の6本はいずれも壁体溝に近接して検出されているが、この6本の柱で構成されていた。柱間距離は200～270cmを測る。なお、床面中央には中央穴がみられた。77bは径約670cm、



第592図 竪穴住居77A (1/60)

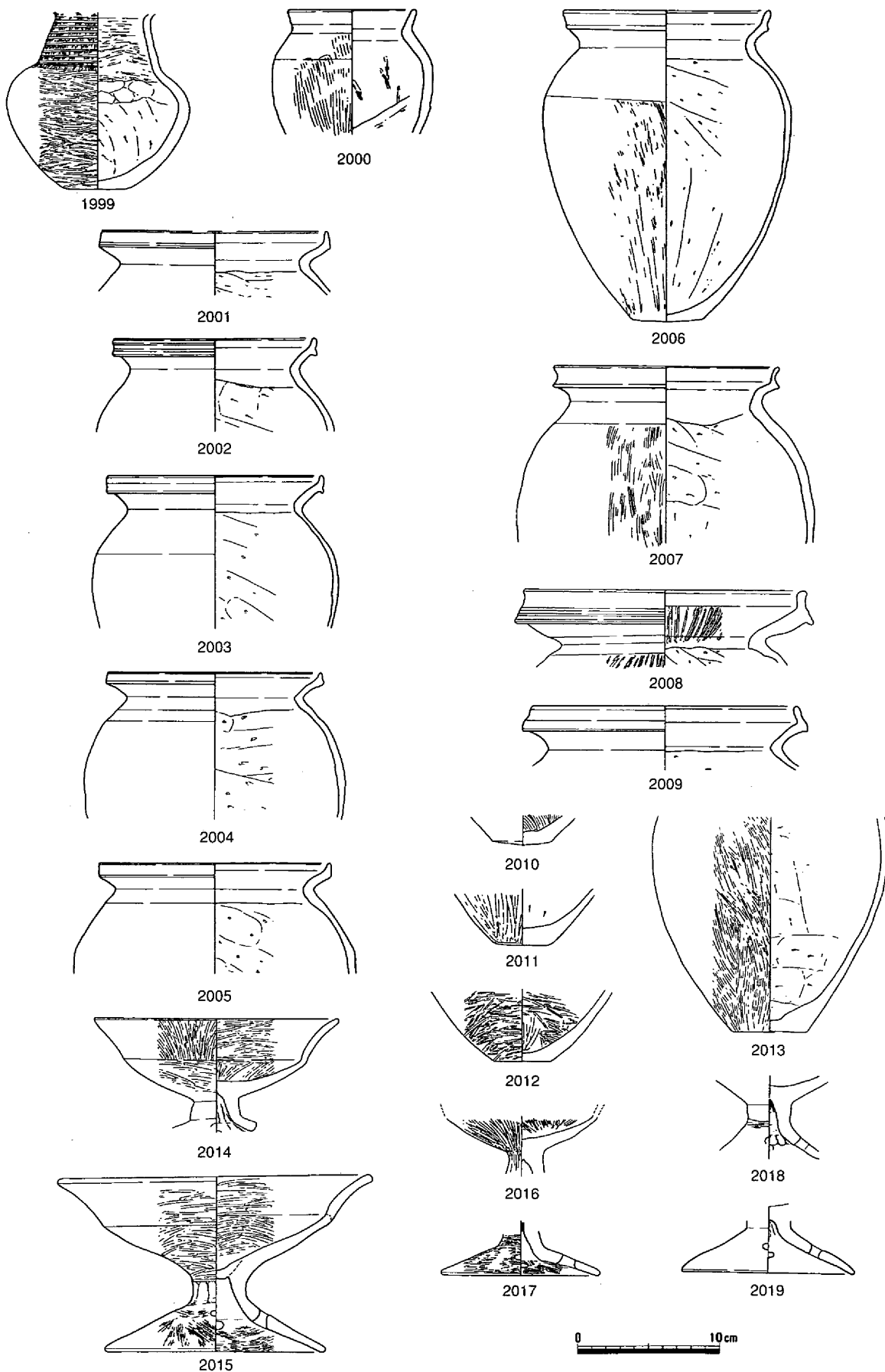


第593図 竪穴住居77B・C (1/60)

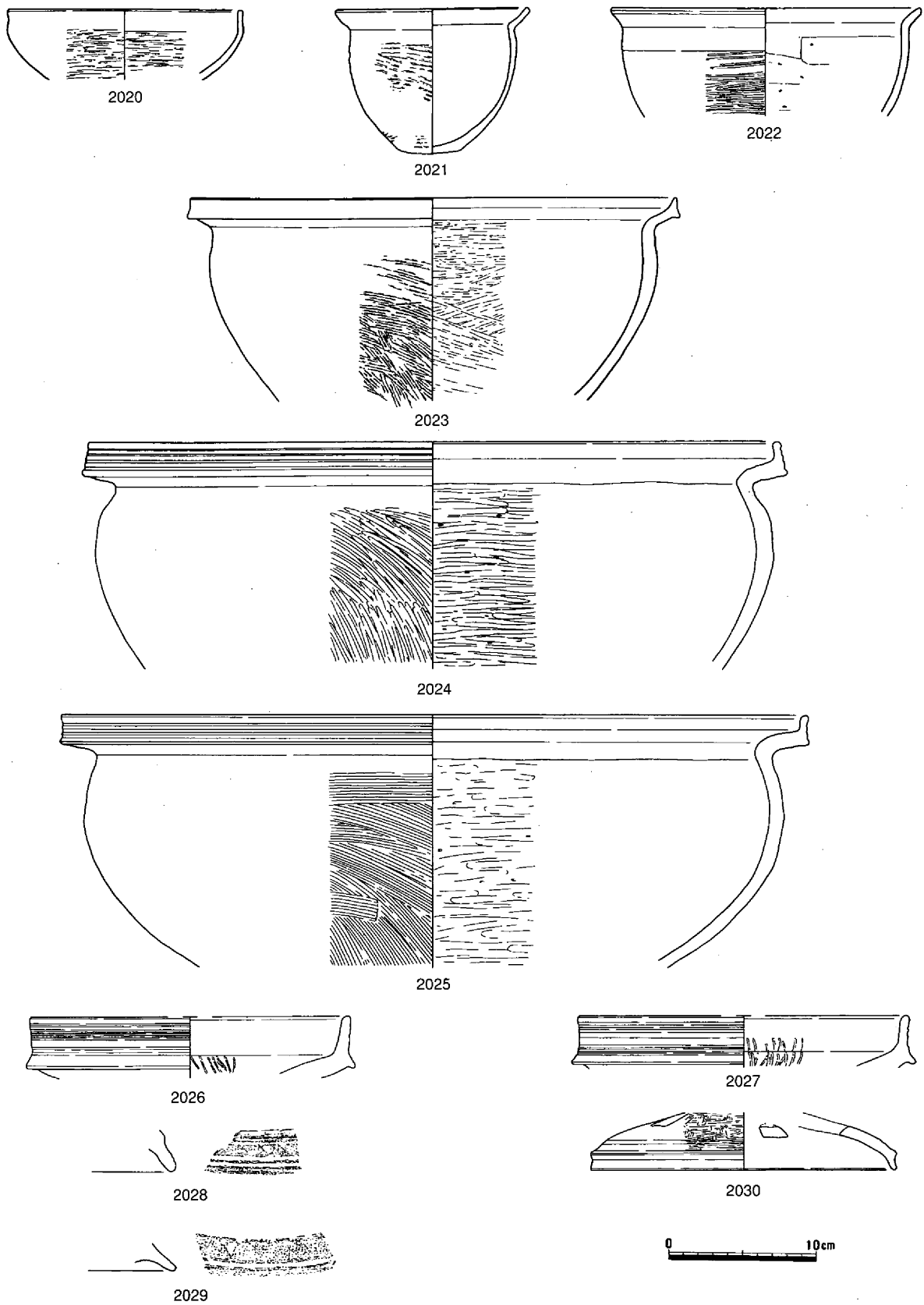


- |                |            |                  |
|----------------|------------|------------------|
| 1 暗茶褐色粘質土      | 7 暗灰茶褐色粘質土 | 13 淡茶褐色粘質微砂 (炭含) |
| 2 茶褐色粘質土       | 8 暗灰茶褐色粘質土 | 14 暗灰茶褐色粘質土 (炭含) |
| 3 灰茶褐色粘質土      | (黄灰色粘土塊少含) | 15 暗茶褐色粘質土       |
| 4 暗灰褐色粘質土      | 9 黄灰色粘質土   | 16 淡黄灰色粘質土と炭の互層  |
| 5 暗灰褐色粘質土 (炭含) | 10 灰黄色粘質土  | 17 茶灰褐色粘質土       |
| 6 暗灰褐色粘質土      | 11 暗灰色粘質土  | 18 黄灰色粘質土        |
| (黄灰色粘土塊含)      | 12 茶灰褐色粘質土 | 19 茶褐色粘質土        |

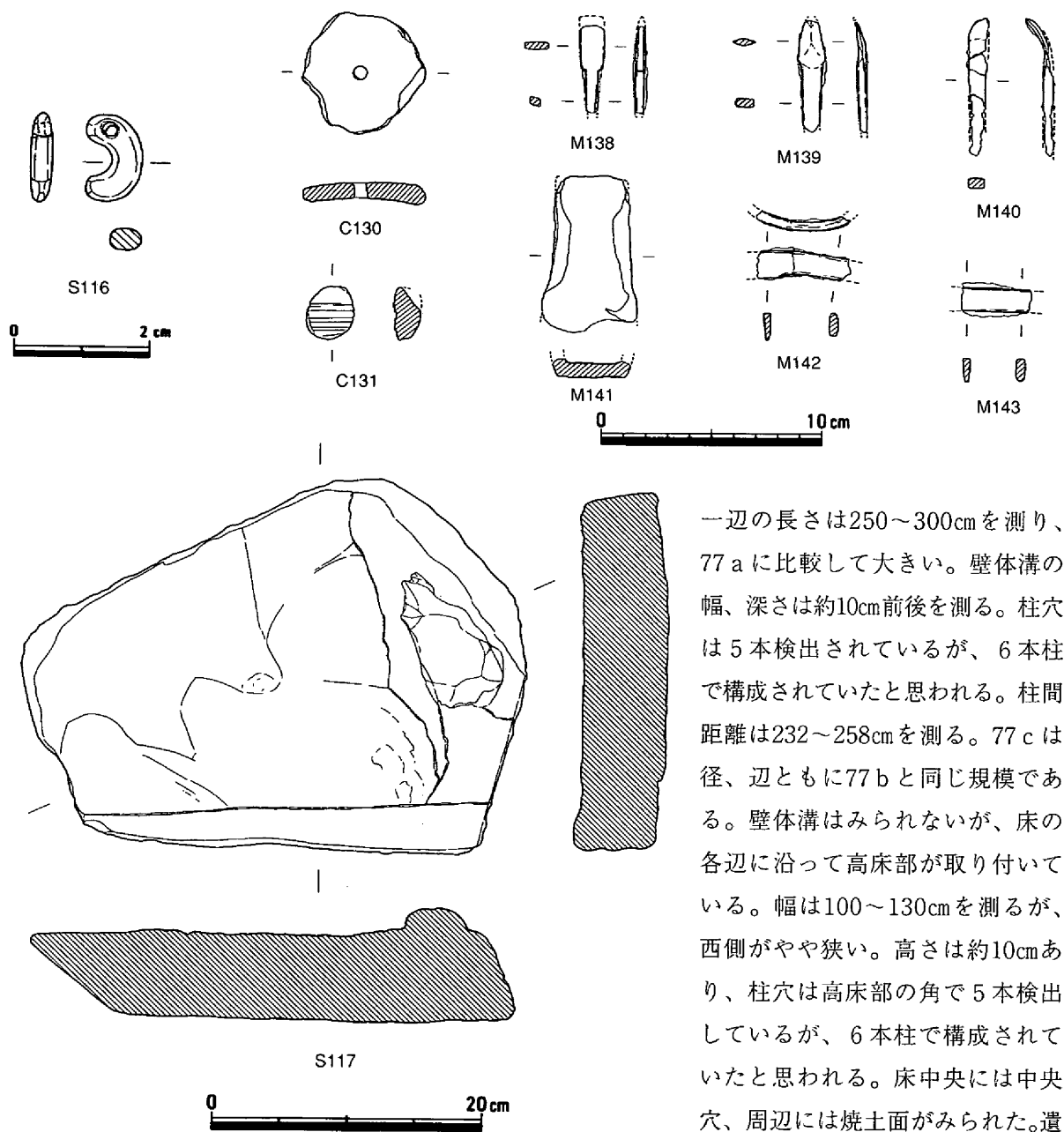
第594図 竪穴住居77断面 (1/60)



第595図 竪穴住居77出土遺物① (1/4)



第596図 竪穴住居77出土遺物② (1/4)



一辺の長さは250~300cmを測り、77 a に比較して大きい。壁体溝の幅、深さは約10cm前後を測る。柱穴は5本検出されているが、6本柱で構成されていたと思われる。柱間距離は232~258cmを測る。77 c は径、辺ともに77 b と同じ規模である。壁体溝はみられないが、床の各辺に沿って高床部が取り付いている。幅は100~130cmを測るが、西側がやや狭い。高さは約10cmあり、柱穴は高床部の角で5本検出しているが、6本柱で構成されていたと思われる。床中央には中央穴、周辺には焼土面がみられた。遺物は77 b の床面で勾玉 S 116、鉾 M 140、77 c の床面では甕2006・2013、高杯2015・2016、鉢2021、2023が出土している。

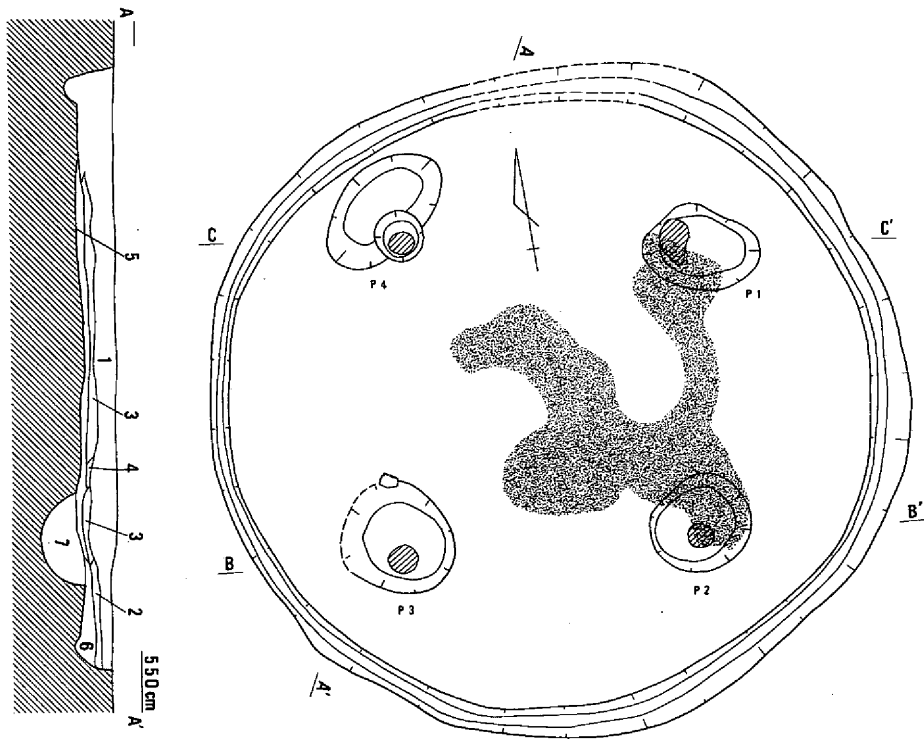
第597図 竪穴住居77出土遺物③ (1/1,1/3,1/5)

覆土内から、土器、土製品、石製品、鉄製品などが出土している。時期は77 a・77 b が弥・後、77 c は弥・後・IVに廃絶したものと思われる。(松本)

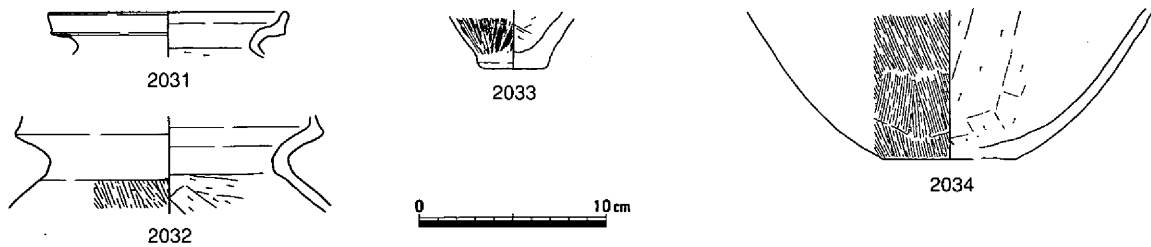
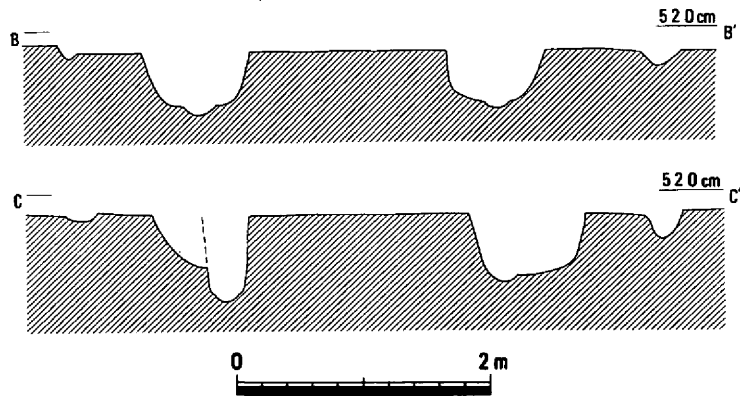
竪穴住居78 (第549・598図、図版29)

竪穴住居79の西隣で検出された遺構である。遺構の一部は方形土塋38などに切られてはいるが、ほぼ完存している。検出された遺構の規模は径が508×534cmを測り、平面形は円形を呈する。深さは検出面から23cmと浅いが、壁際には幅10cm前後、深さ5~10cm程の壁体溝が巡っている。床には黄色、黄褐色土による貼床がみられた。中央穴はないが、中央付近にはかなり広範囲に炭の分布がみられた。主柱穴は4本検出されており、4本柱で構成される竪穴住居である。柱間距離は216~250cmを測る。





- 1 暗茶褐色土
- 2 茶褐色土
- 3 黒褐色土 (炭・焼土含)
- 4 炭
- 5 黄色粘土
- 6 暗黄褐色土 (炭含)
- 7 茶褐色粘質土 (炭・焼土含)



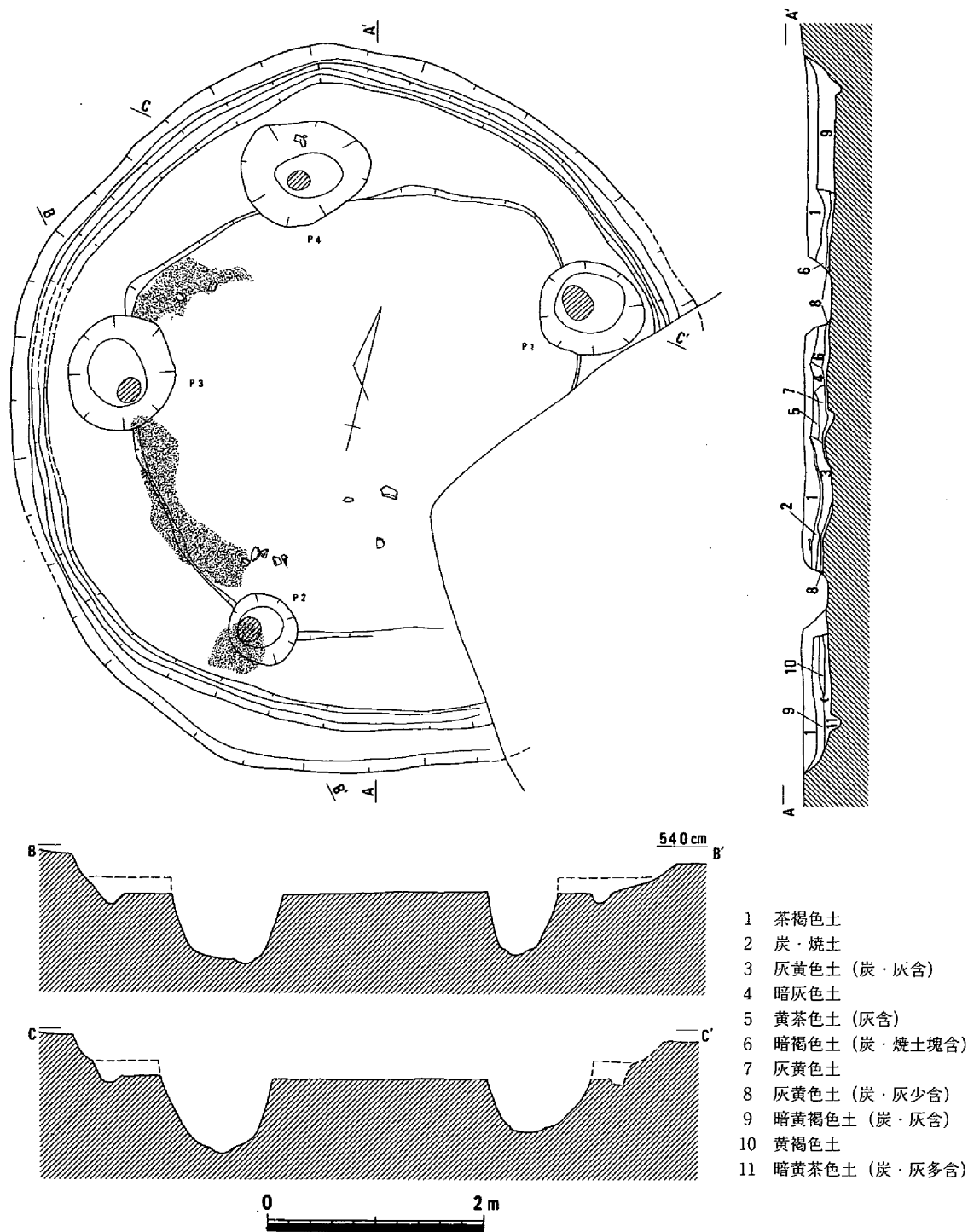
第598図 竪穴住居78 (1/60)・出土遺物 (1/4)

柱穴掘り方はいずれも大きいですが、柱痕跡は20cm程である。主な遺物としては甕2031～2034が出土している。これらの遺物から、この遺構は弥・後・Ⅳに廃絶したものと思われる。(松本)

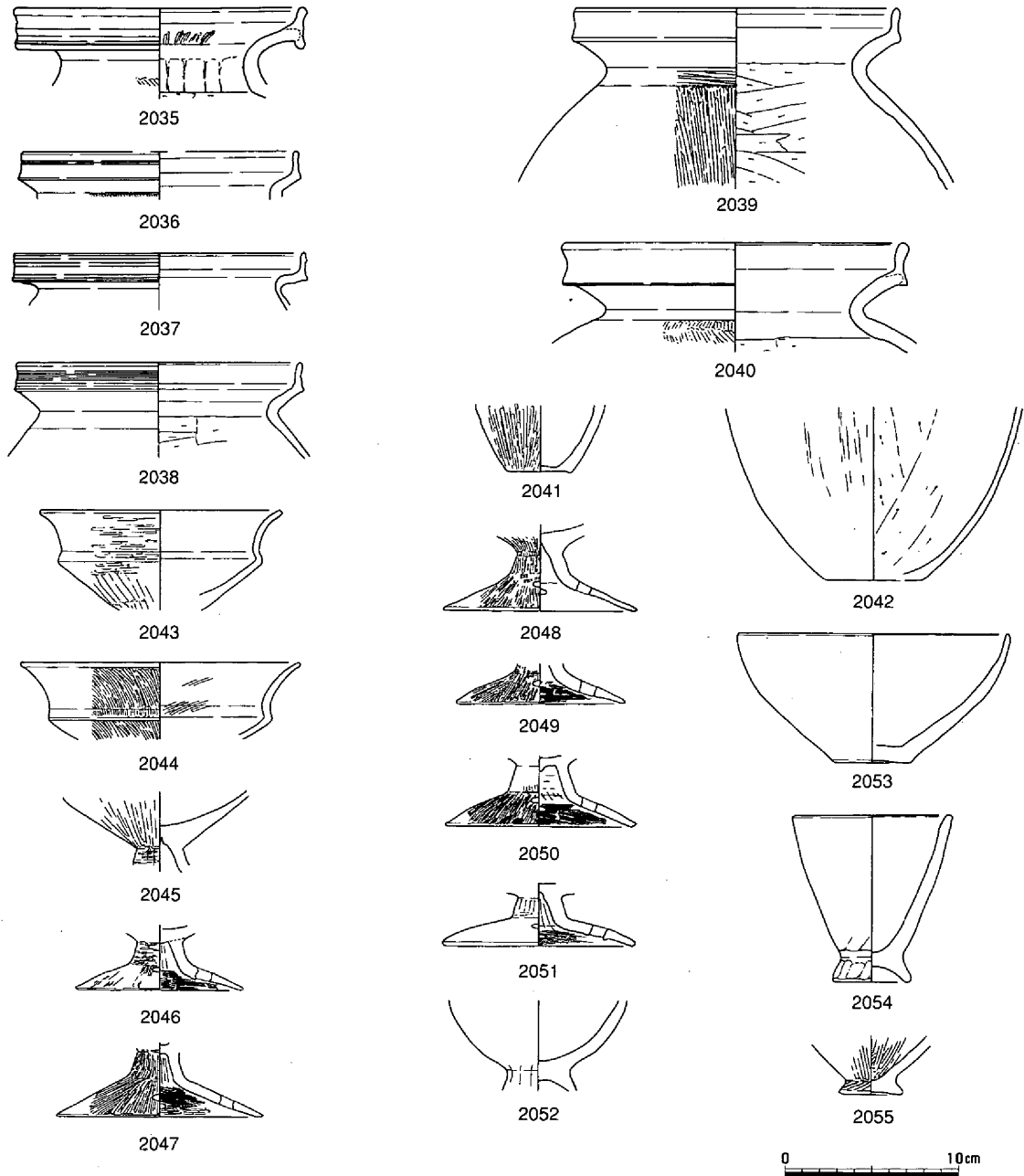
竪穴住居79 (第549・599・600図、図版30・111)

この遺構は古墳時代の住居に一部切られているが、拡張による建て替えが行われている竪穴住居である。平面形は多角形(五角形)を呈するものと思われる。規模は650×680cmを測るが、一辺が約400

cmである。深さは検出面から26cmと浅いが、壁際には幅10cm前後、深さ5~10cm程の壁体溝が巡っている。主柱穴は4本確認されているが、5本柱で構成される竪穴住居である。床面の壁に沿って高床部がつくられている。高床部の幅は35~80cm、高さ10~15cmを測るが、各コーナーでは狭くなっている。柱穴の位置は壁体溝に近い。床面西側の高床部に接する位置においては、焼土面が3か所検出されている。主な遺物としては、甕2035~2042、高杯2043~2052、鉢2053、台付鉢2054・2055などの土器がある。これらの遺物からみて、この住居は弥・後・IVには廃絶したものと考えられる。(松本)



第599図 竪穴住居79 (1/60)



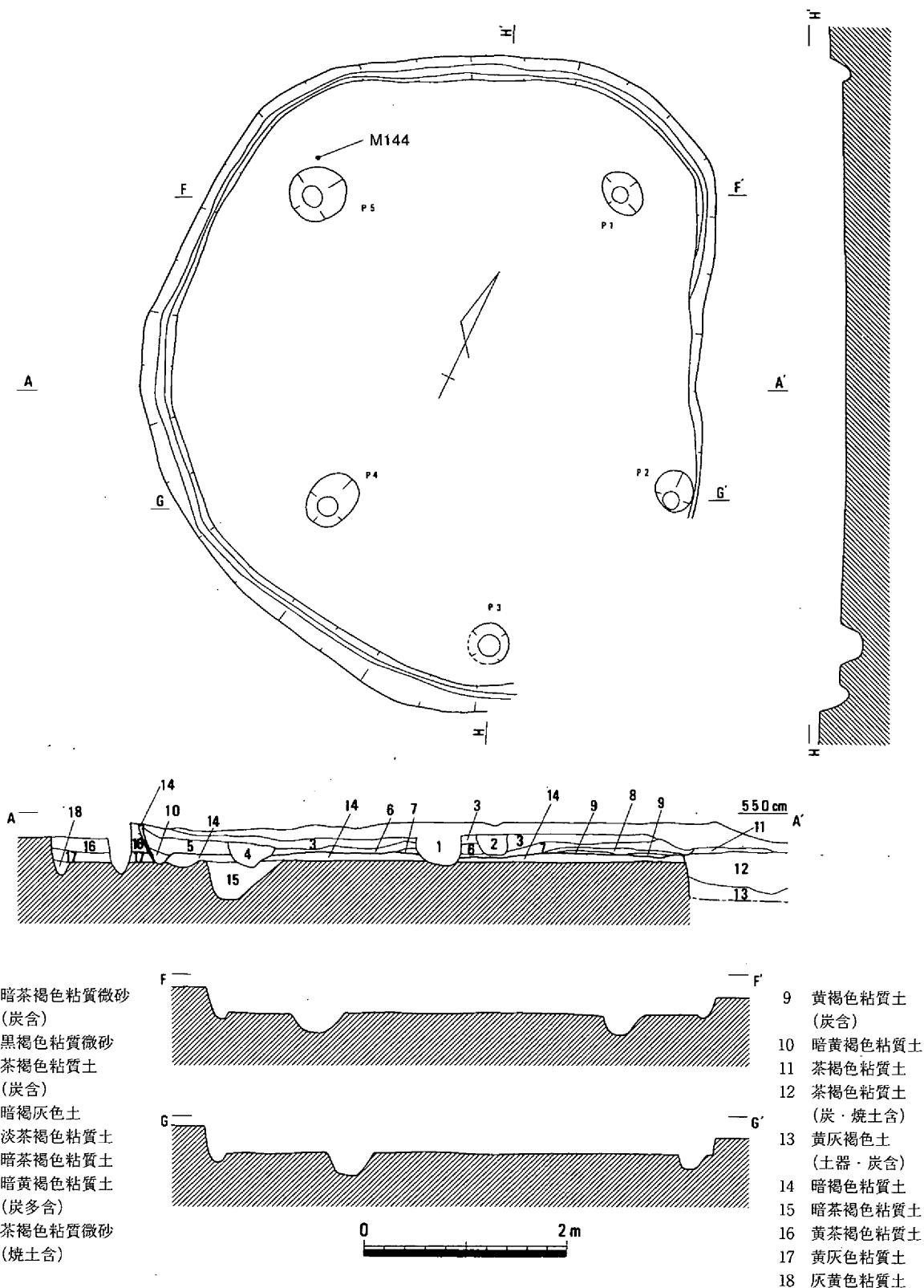
第600図 竪穴住居79出土遺物 (1/4)

竪穴住居80 (第549・601・602図、図版30・112・163・169)

竪穴住居81を切り、土壙326に切られる竪穴住居である。平面形は不整な円形を呈し、確認された規模は528×636cmである。柱穴は5本の主柱穴が確認されているが、P2・3についてはこの遺構を構成する柱穴であるか不明である。いずれの柱穴も掘り方は小さくて、浅いものである。東～南東の壁以外には、幅が5～10cm、深さ約10cmの壁体溝が巡っている。床には中央穴や焼土面も検出されていない。主な遺物としては、土器では壺2056～2058、高杯2059・2060、鉢2061・2062、石製品では叩き石S118、管玉S119、金属製品では鏃M114、鎌M145、刀子M146などが出土している。これらの遺物からみて、この住居は弥・後・IVには廃絶したものと考えられる。(松本)

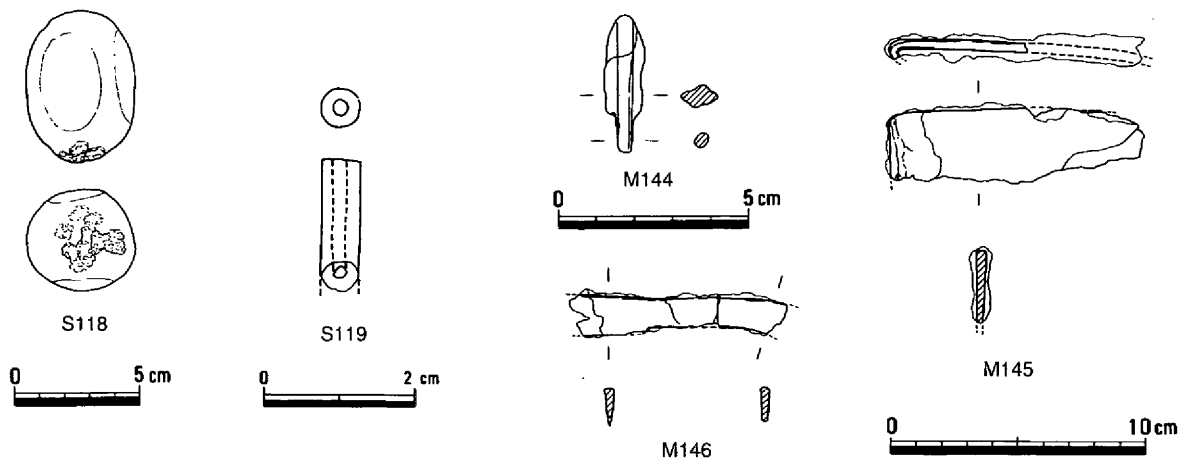
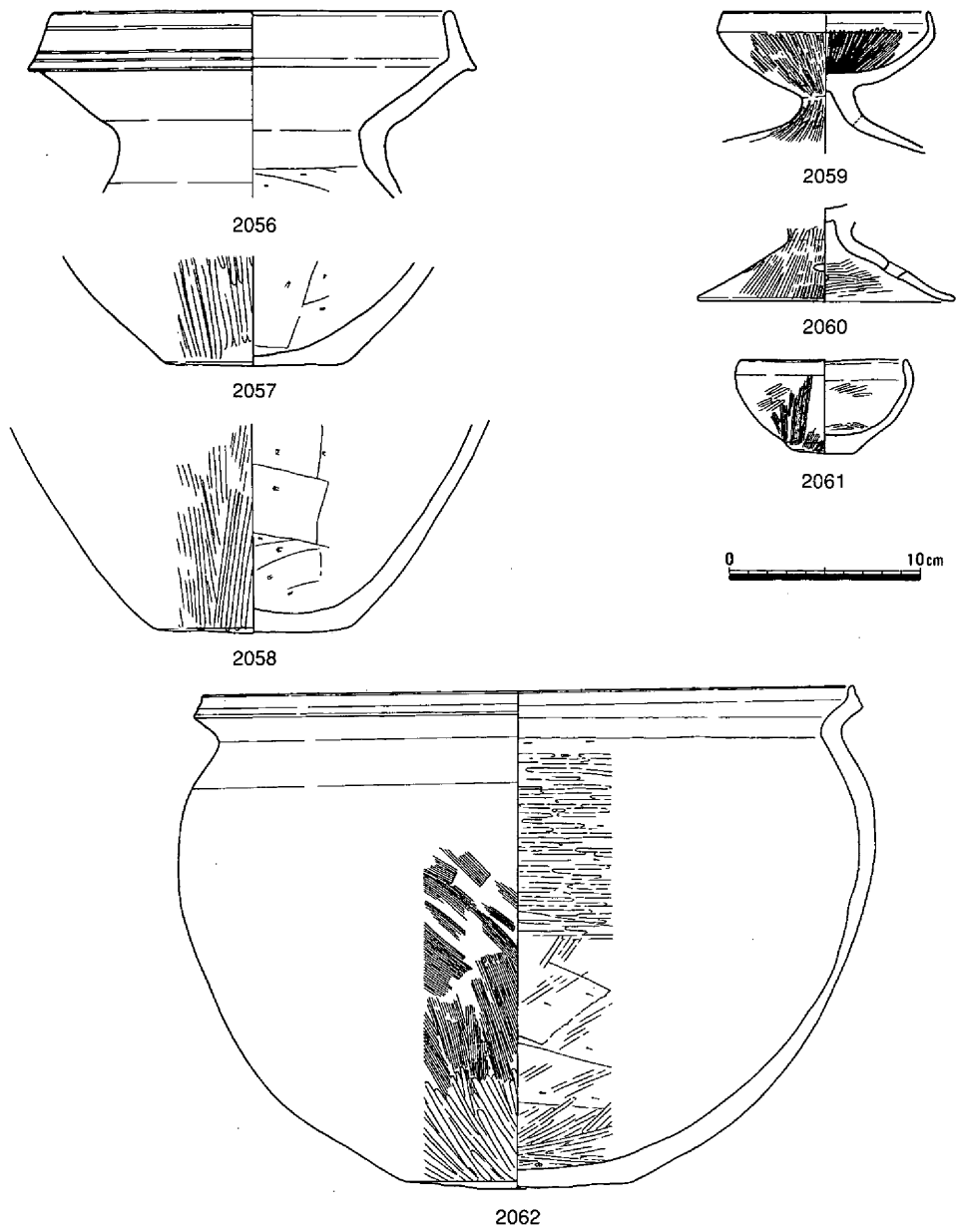
竪穴住居81・82 (第549・603・604図、図版163)

竪穴住居81は方形土壙47に切られる遺構である。遺構の残存状態はよくないが、確認された規模は

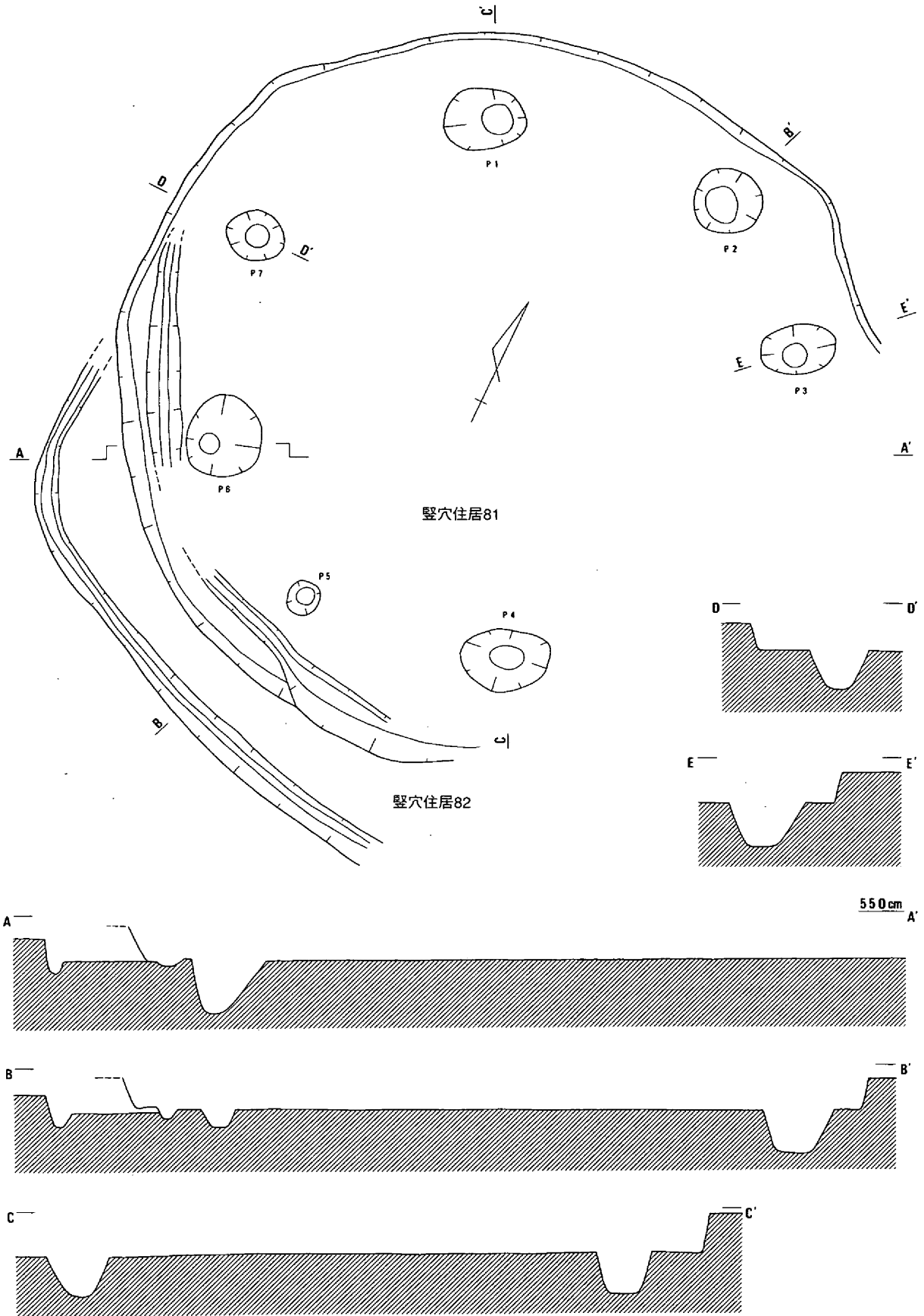


第601図 竪穴住居80 (1/60)

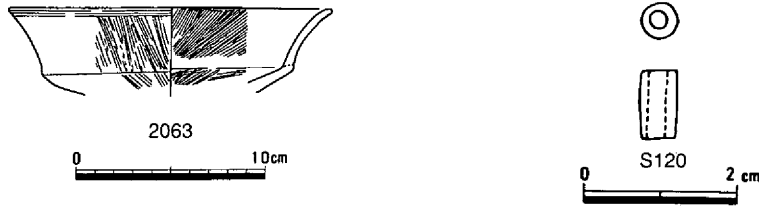
736×780cmを測り、平面形は円形を呈する。住居の南西部においては、幅10~15cm、深さ5cm程の壁体溝が部分的に検出された。主柱穴は6本検出されたが、おそらく7本柱で構成される竪穴住居と思われる。竪穴住居82は遺構の残存状態が極めて悪く、規模等については不明な点が多いが、壁体溝の



第602図 竪穴住居80出土遺物 (1/4,1/3,1/1)



第603図 豎穴住居81・82 (1/60)



第604図 竪穴住居81・82出土遺物 (1/4,1/1)

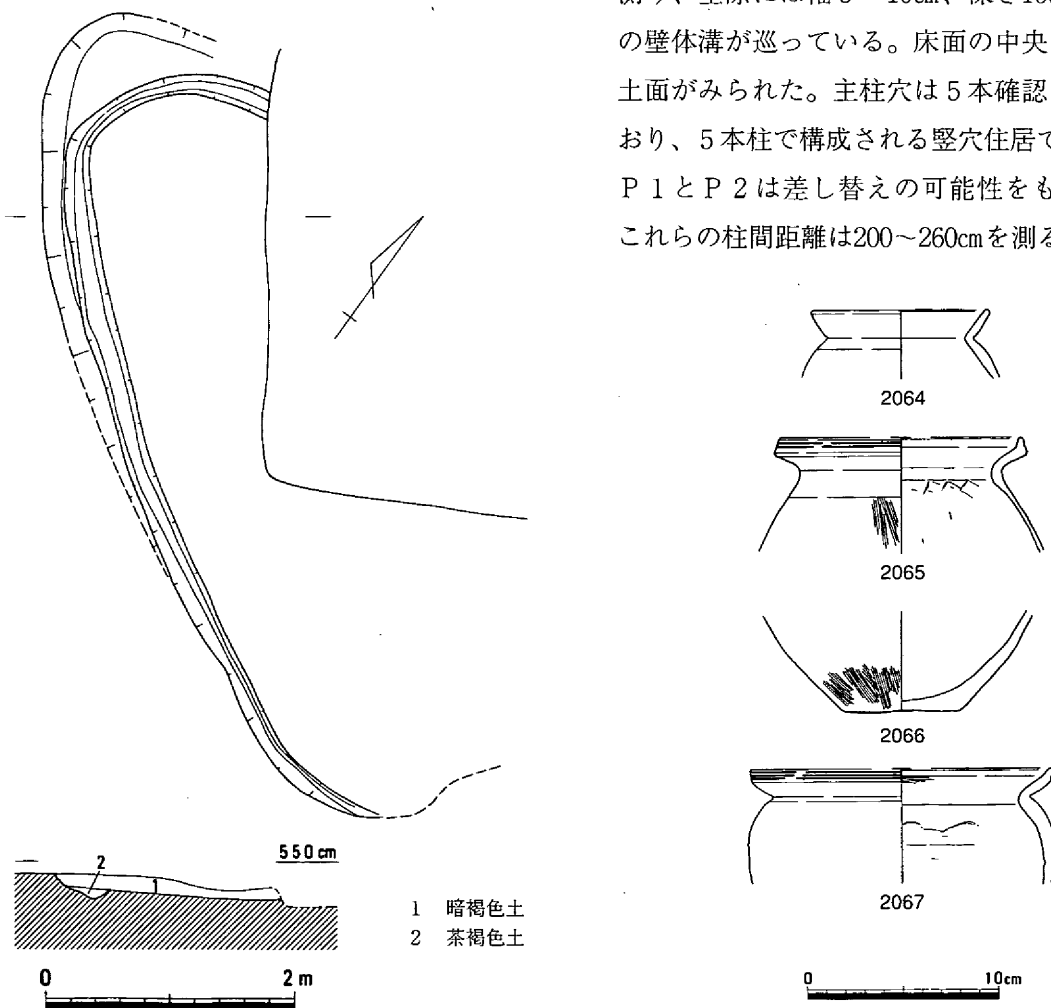
形態からみて、隅丸方形を呈すると思われる。出土遺物には高杯2063、碧玉製の管玉 S 120がある。時期は住居81が弥・後・Ⅲ～Ⅳ、住居82は弥・後・Ⅱ～Ⅲ頃に廃絶したと考えられる。(松本)

竪穴住居83 (第549・605図)

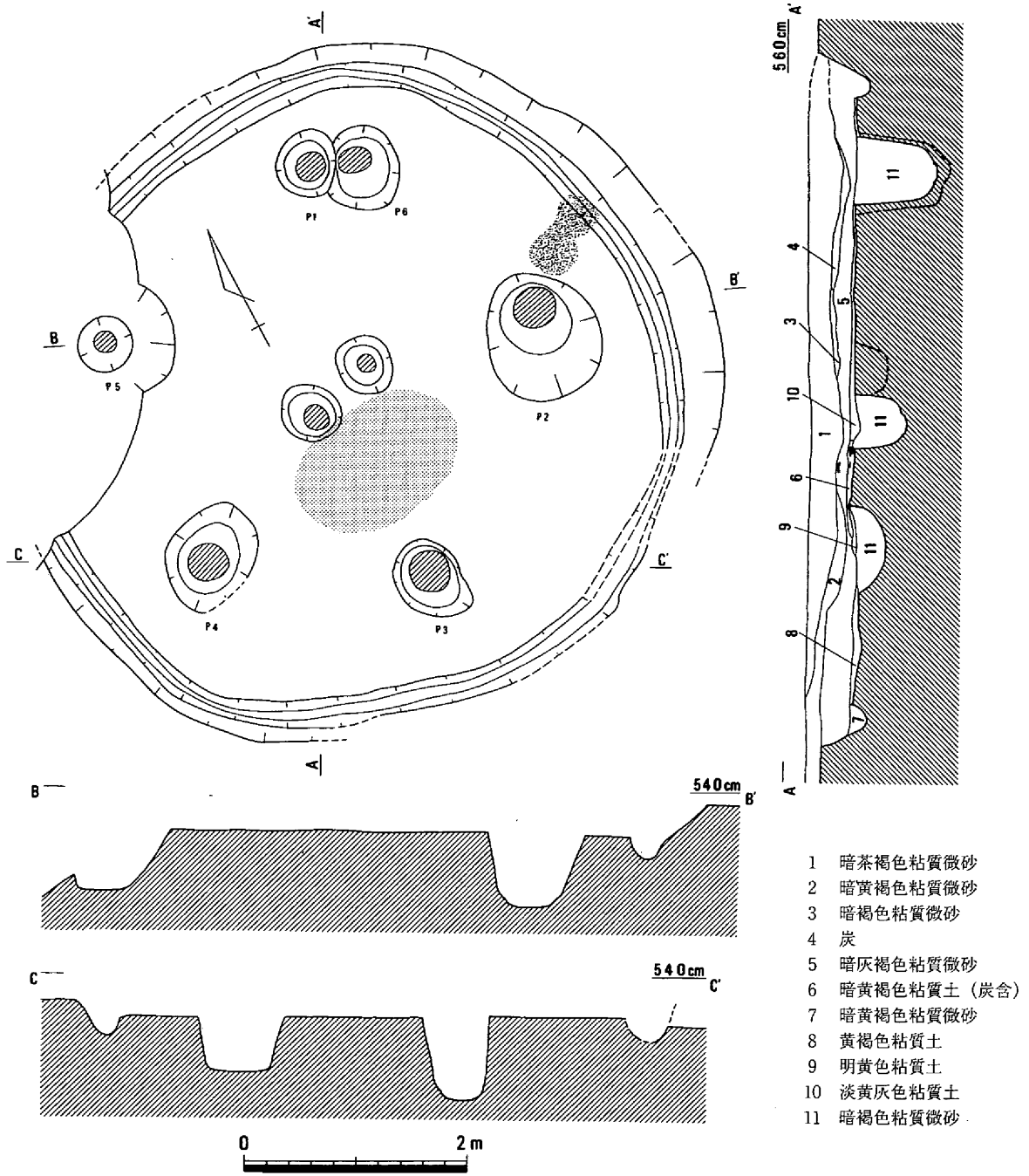
竪穴住居80の北に位置する。遺構の残存状態が悪いため、規模等に不明な点が多い。検出された壁体溝での平面形は極めて不規則であり、形態は不明である。竪穴住居の可能性は少ないようであるが、ここではとりあえず竪穴住居としておきたい。出土遺物としては、土器では甕2064～2066、鉢2067がある。時期は弥・後・Ⅳには廃絶していたと考えられる。(松本)

竪穴住居84 (第549・606・607図、図版31・112)

竪穴住居86・87に切られる状態で検出された遺構である。平面形はほぼ円形で、規模は径600cmを測り、壁際には幅5～10cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡っている。床面の中央には焼土面がみられた。主柱穴は5本確認されており、5本柱で構成される竪穴住居である。P 1とP 2は差し替えの可能性をもつが、これらの柱間距離は200～260cmを測る。



第605図 竪穴住居83 (1/60)・出土遺物 (1/4)



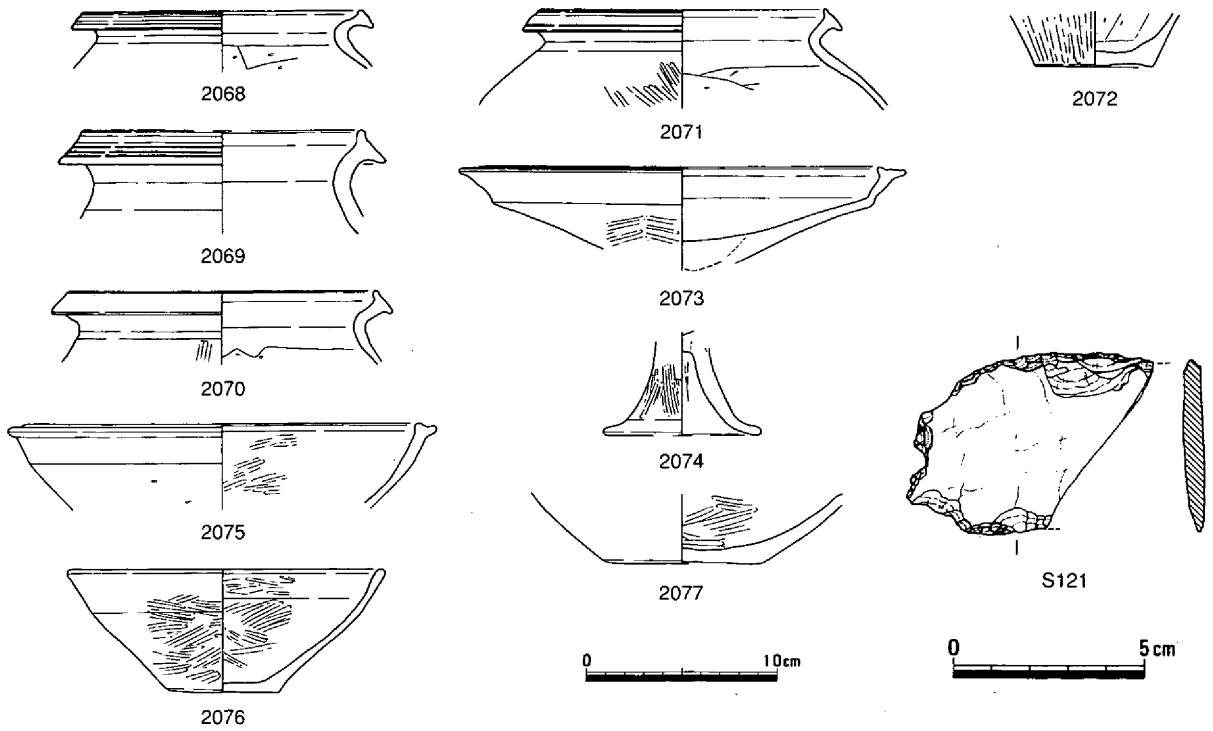
第606図 竪穴住居84 (1/60)

主な出土遺物としては、土器では甕2068～2072、高杯2073・2074、鉢2075～2077、石製品では打製石包丁と思われる石器S121がある。これらの遺物からみて、この竪穴住居は弥・後・I～IIの時期に廃絶していたと考えられる。(松本)

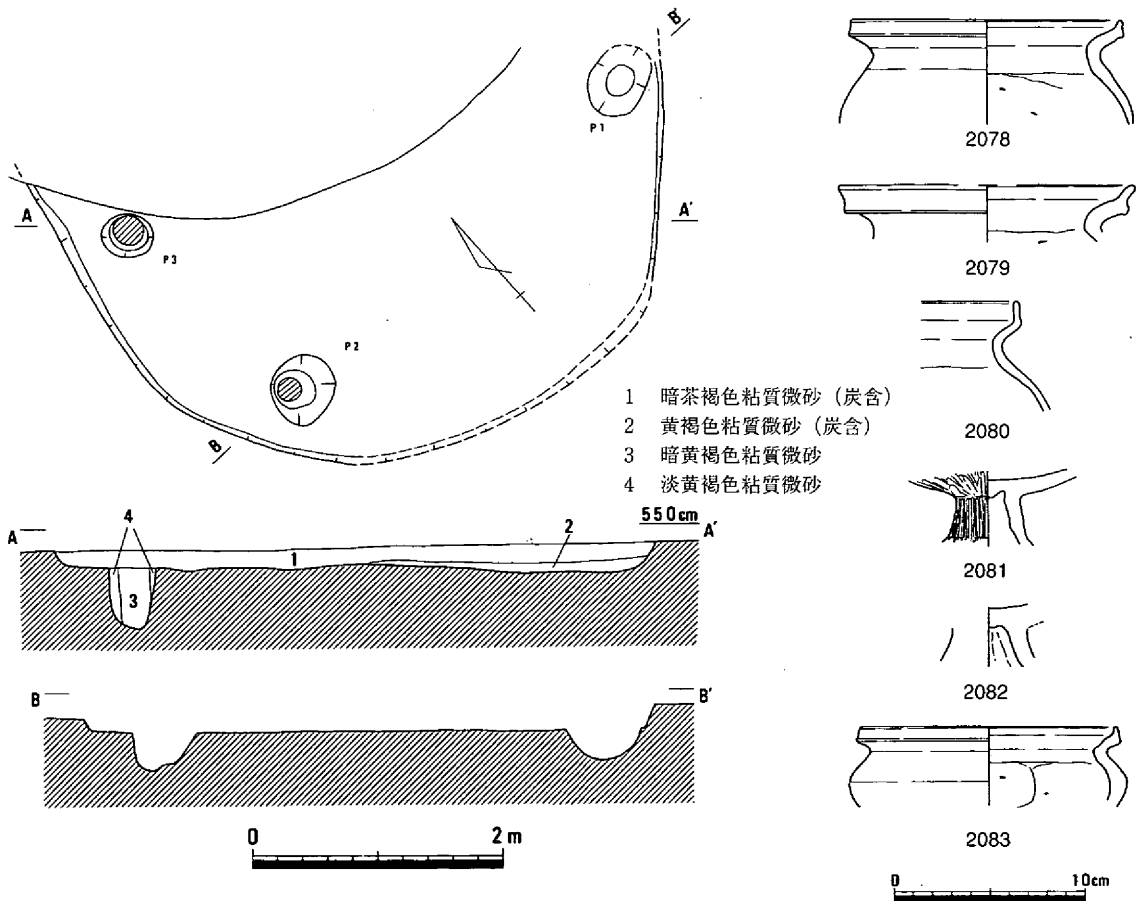
竪穴住居85 (第549・608図)

竪穴住居77と切り合い関係をもつ住居である。遺構の残存状態は極めて悪いため、不明な点が多い。平面形は円形ないし小判形を呈すると思われる。規模は500cm前後の小形の竪穴住居と推察される。柱穴は床面において3本検出しているが、支柱穴であるかは不明である。遺物は土器では、甕2078～2080、高杯2081・2082、鉢2083がある。時期は弥・後・III～IVと考えられる。(松本)





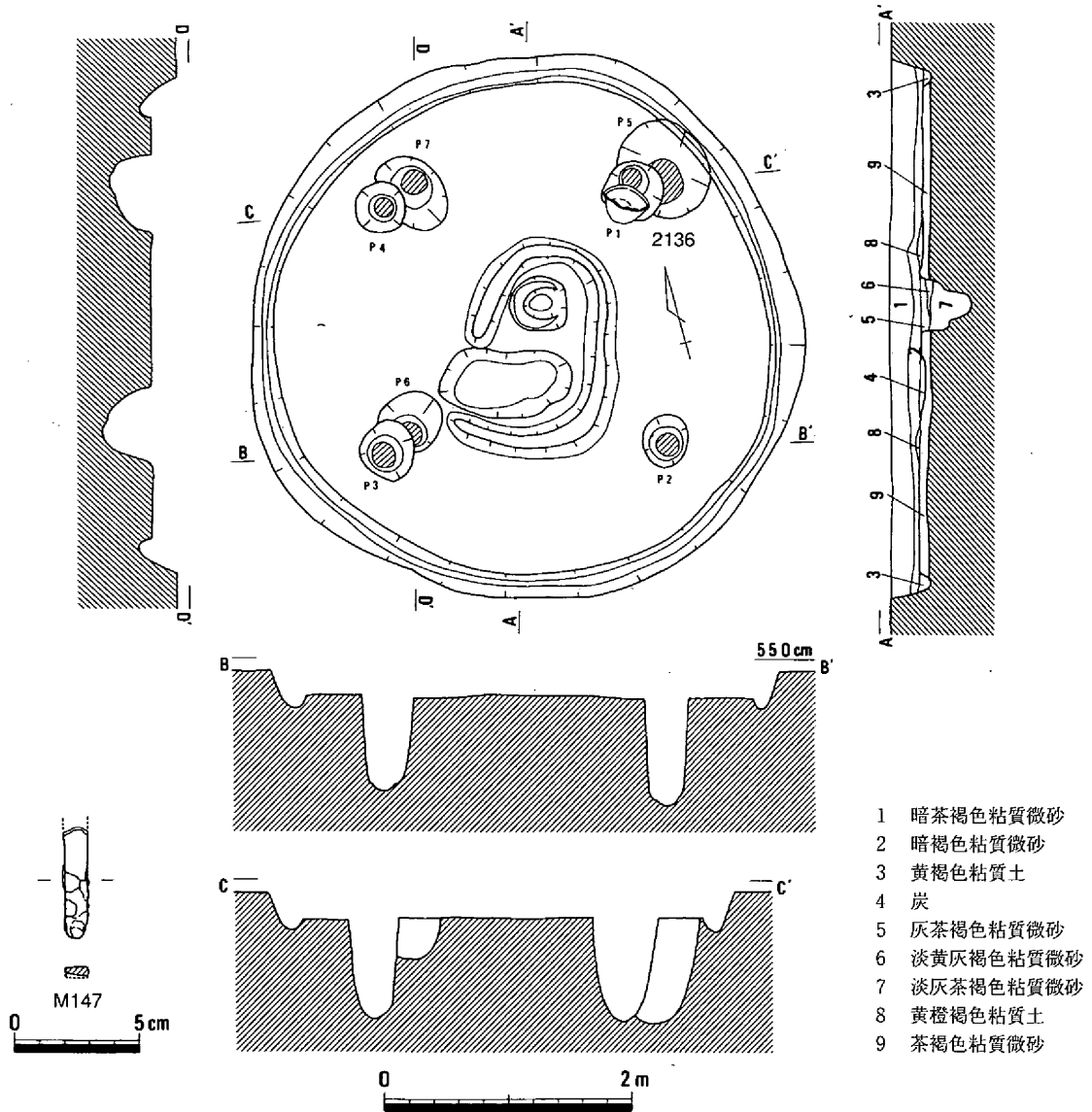
第607図 豎穴住居84出土遺物 (1/4,1/2)



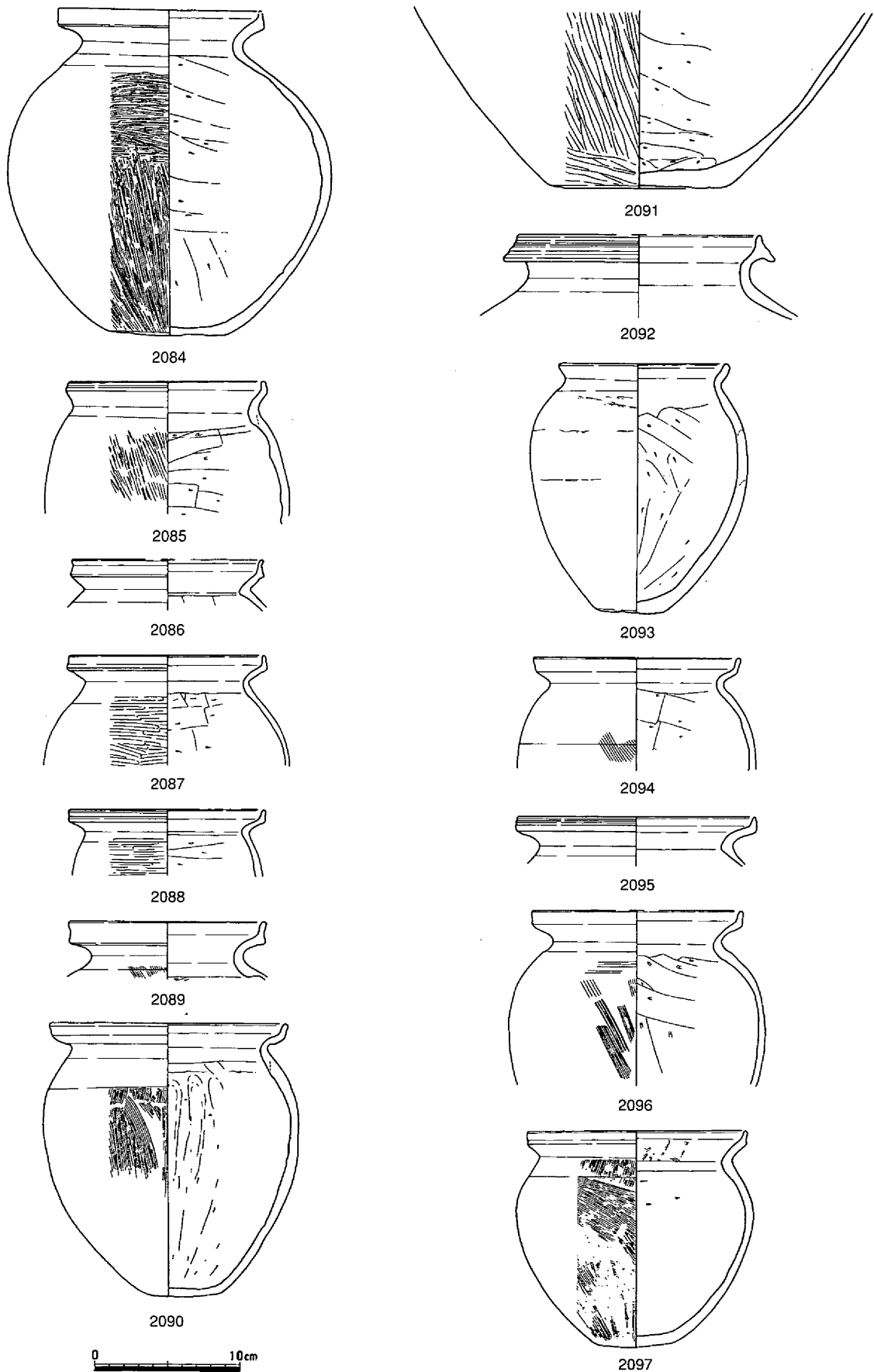
第608図 豎穴住居85 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居86 (第549・609～613図、図版112)

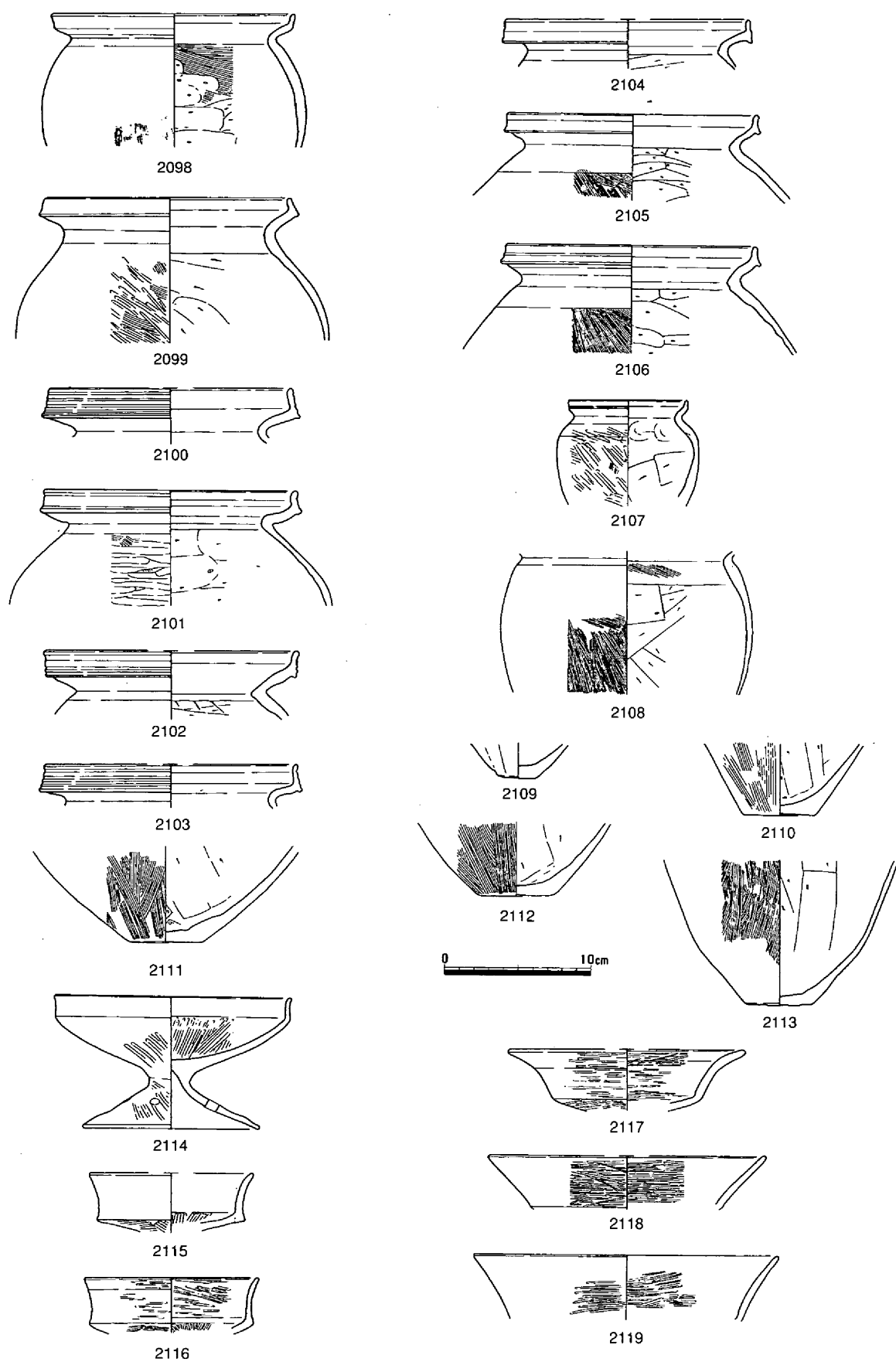
竪穴住居84、土壙334、方形土壙48などを切る竪穴住居である。遺構の残存状態は良好である。平面形は円形を呈しており、径は450cmを測る。深さは検出面から約24cm程が残存している。住居の壁際には幅5～10cm、深さ約10cm前後の壁体溝が巡っている。床面中央には径が40×45cm、深さ約40cmのピット、隣接して径55×110cm、深さ5cm前後の炭の埋まった浅いピットが検出されている。なお、これらの遺構を囲むように黄橙褐色粘質土で作られた幅20～30cm、高さ5cm前後の土手が巡っている。支柱穴は4本確認されていることから、4本柱で構成される竪穴住居である。柱間距離は202～228cmを測る。なお、これらの支柱穴のうちP1はP5に、P3はP6に、P4はP7に差し替えられた柱穴と思われることから、この竪穴住居は建て替えではなく、改修が行われていたことを示すものであろう。遺物は土器、鉄器が出土している。床面に付着する土器としては、P1に接して出土した鉢2136がある。そのほかの遺物はいずれも覆土内である。土器では壺2084・2091、甕2085～2090・2092～2113、高杯2114～2127、台付直口壺2128～2130、鉢2131～2135、台付鉢2137～2143などがある。鉄器では鉈



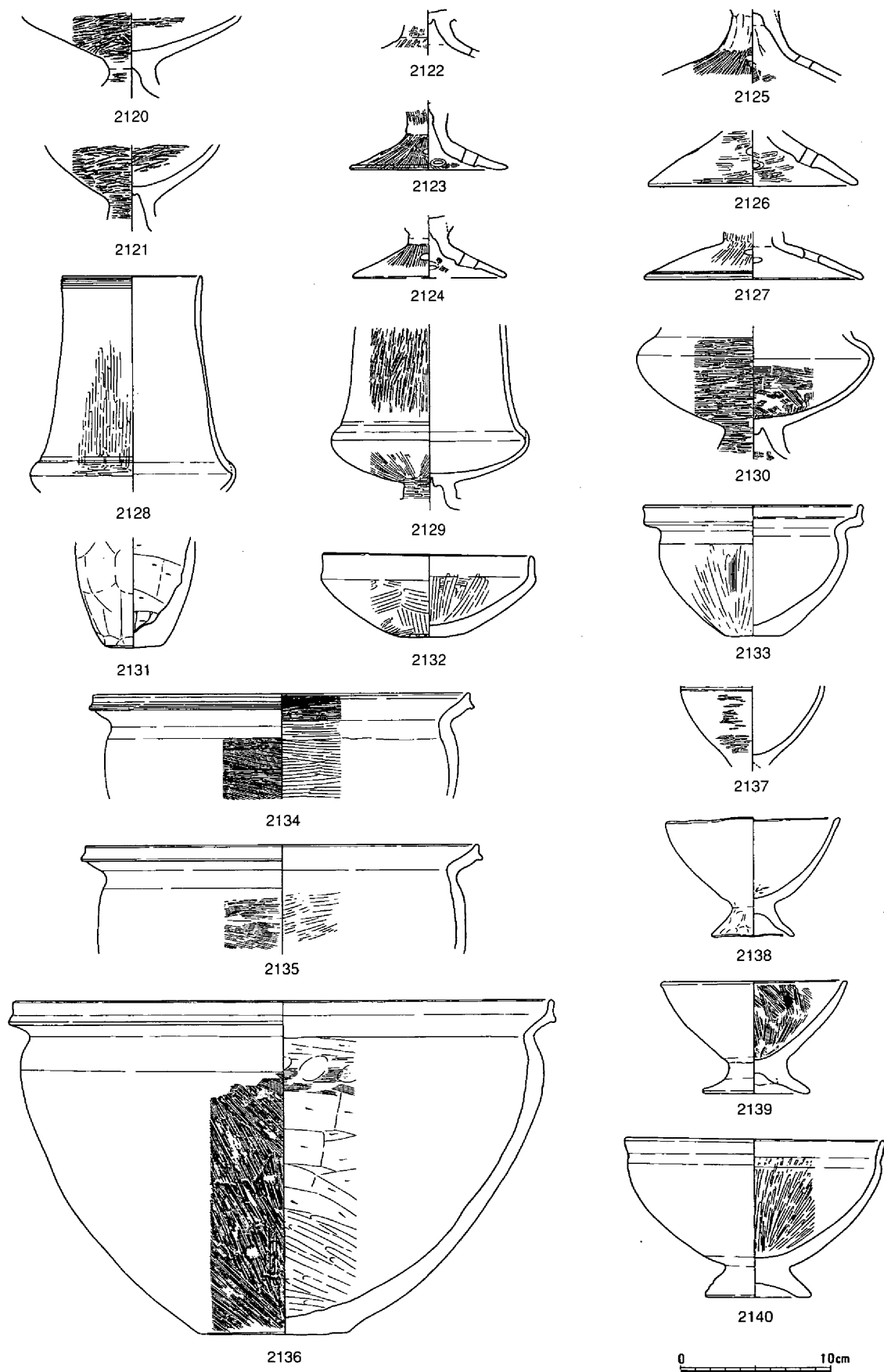
第609図 竪穴住居86 (1/60)・出土遺物① (1/3)



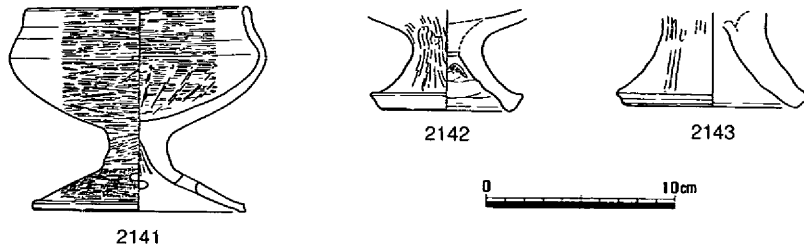
第610図 竪穴住居86出土遺物② (1/4)



第611図 豎穴住居86出土遺物③ (1/4)



第612図 竪穴住居86出土遺物④ (1/4)



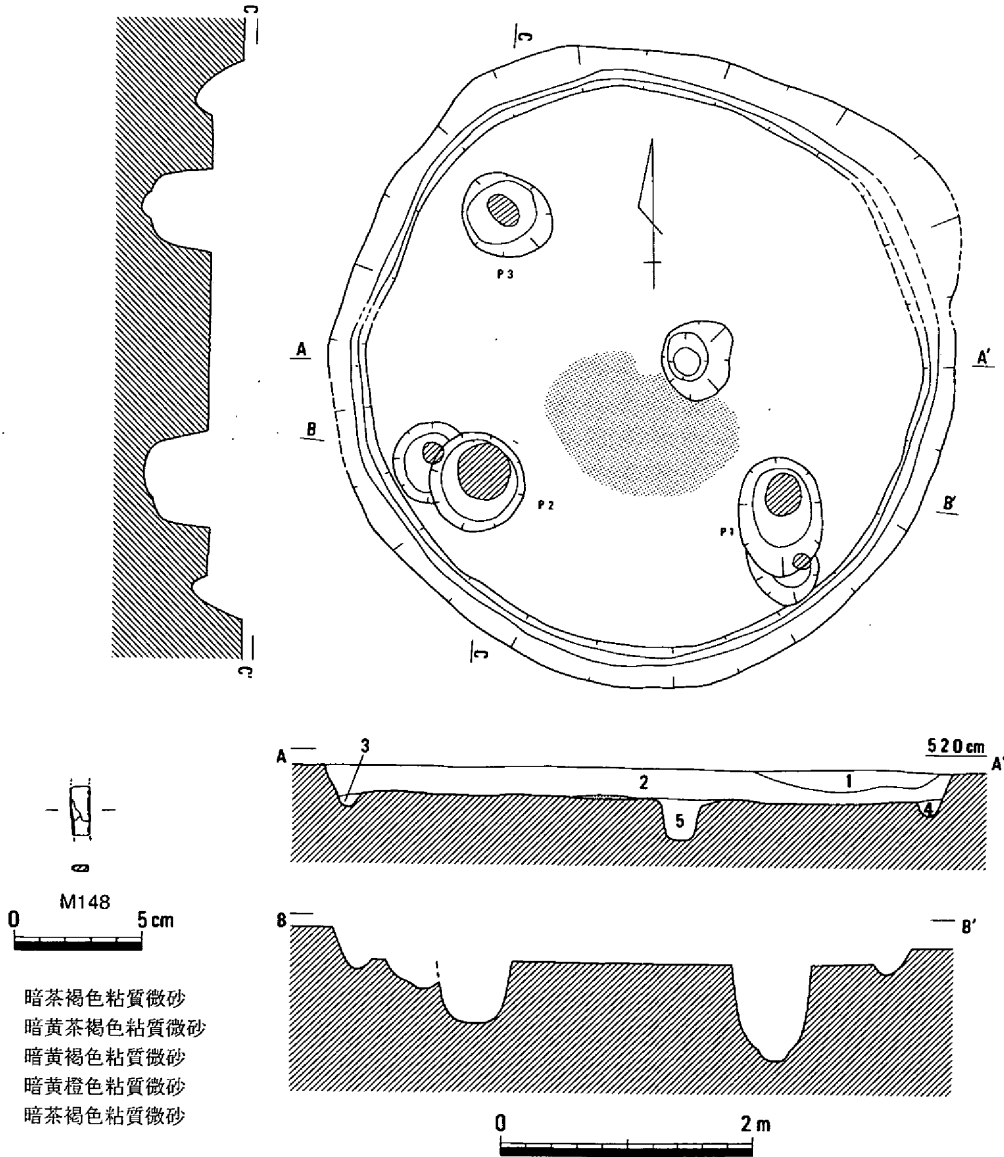
第613図 竪穴住居86出土遺物⑤ (1/4)

M147と思われるものが出土している。時期は弥・後・IVと思われる。

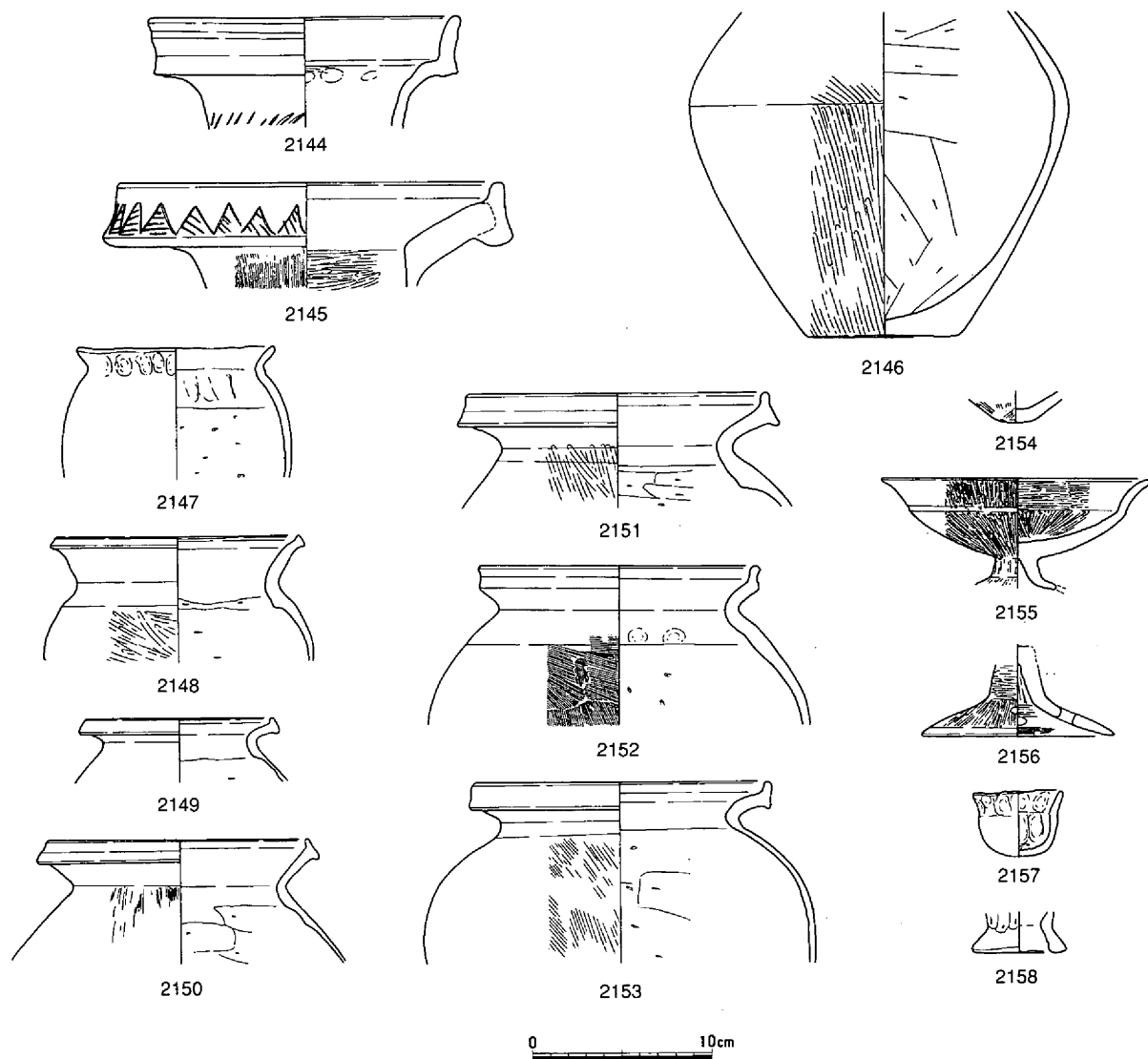
(松本)

竪穴住居87 (第549・614・615図、図版113)

竪穴住居84を切り、土壌273に切られる状態で検出された遺構である。平面形はほぼ円形を呈し、径は約500cmを測る。深さは検出面から25cm残存しており、壁際には幅5~10cm、深さ10cm前後の壁



第614図 竪穴住居87 (1/60)・出土遺物① (1/3)



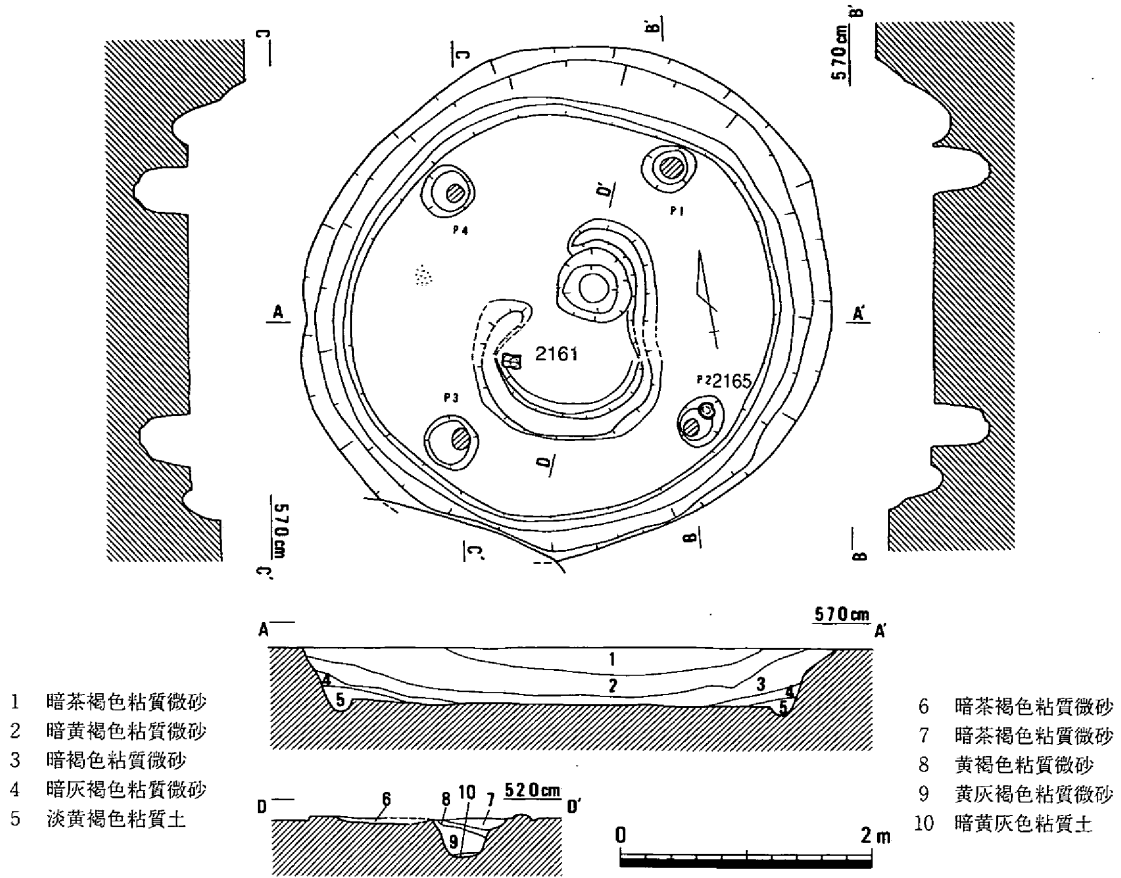
第615図 竪穴住居87出土遺物② (1/4)

体溝が巡るが、東側では土壙273によって欠損している。床面の中央には径60cm、深さ35cm程のピットが存在し、その周囲には90×150cm程の炭の範囲がみられた。主柱穴は3本検出されたが、4本柱で構成される竪穴住居と思われる。柱間距離は208～240cmを測る。この竪穴住居のP1・2も差し替えられた柱と思われる。遺物は土器、鉄器が出土している。土器では壺2144～2146、甕2147～2154、高杯2155・2156、手捏ね鉢2157、製塩土器2158がある。鉄器では鉈M148と思われるものが出土している。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

#### 竪穴住居88 (第549・616図、図版31・113)

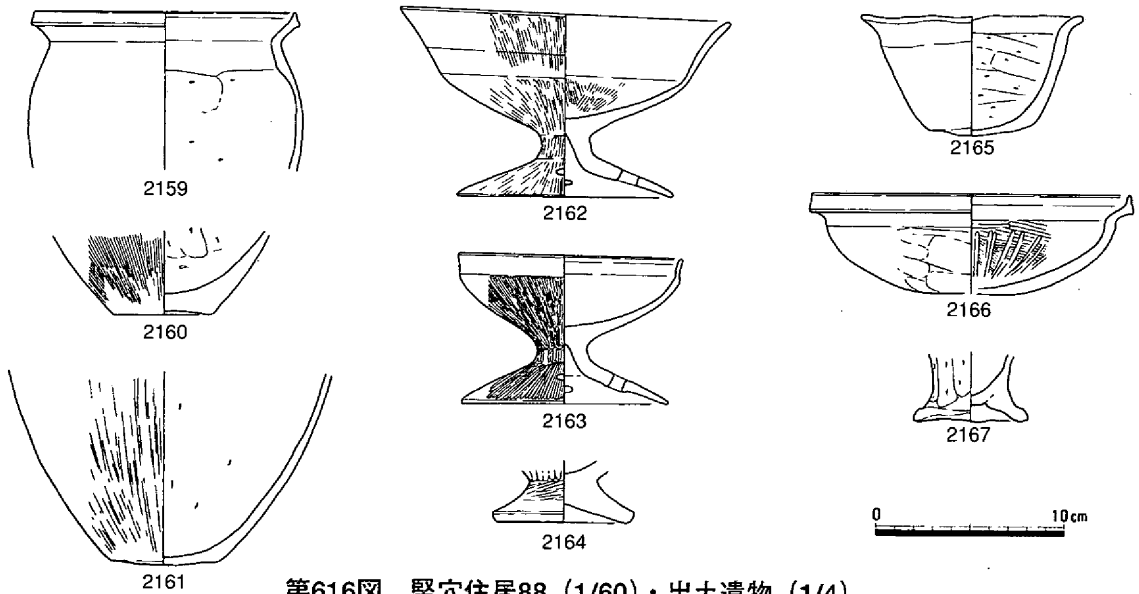
竪穴住居91の北隣で検出された住居である。平面形は円形を呈し、規模は径約400cmを測る。深さは検出面から約45cm残存しており、壁際には幅、深さとも約10cm前後の壁体溝が巡っている。床面の中央には径60cm、深さ30cmのピットがあり、その周囲には竪穴住居86と同様に土手状のものがみられた。主柱穴は4本確認されている。柱間距離は172～208cmを測る。

遺物は床面に付着した状態で甕2161と鉢2165が出土している。覆土内では、甕2159・2160、高杯2162・2163、台付鉢2164、鉢2166、製塩土器2167がある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗黄褐色粘質微砂
- 3 暗褐色粘質微砂
- 4 暗灰褐色粘質微砂
- 5 淡黄褐色粘質土

- 6 暗茶褐色粘質微砂
- 7 暗茶褐色粘質微砂
- 8 黄褐色粘質微砂
- 9 黄灰褐色粘質微砂
- 10 暗黄灰色粘質土



第616図 豎穴住居88 (1/60)・出土遺物 (1/4)

豎穴住居89 (第549・617図)

豎穴住居90の西で切られた状態で検出された。遺構の残存状態は悪いが、推定径500×650cmの楕円形に近い平面形を呈していたと思われる。深さは検出面から約25cmと浅いが、残存する壁際には幅が10cm前後、深さ15cm程の壁体溝が巡っている。支柱穴は4本検出されているが、柱配列が不規則である。5本柱で構成された可能性がある。時期は切り合い関係から弥・後・I～IIと思われる。(松本)



竪穴住居90 (第549・618・619図、図版31・113・169)

竪穴住居89を切り、方形土壇54に切られる状態で検出された。拡張のため建て替えが行われた住居である。古い住居90aは平面形が円形を呈し、規模は径500cmを測る。壁際には幅が5～10cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡っている。4本の主柱穴が確認されているが、柱間距離は242～272cmを測る。柱穴の掘り方は径50～95cmの円形あるいは楕円形を呈し、いずれの柱穴にも径15cm程度の柱痕跡が確認されている。拡張された住居90bは多角形(六角形)の平面形を呈すると思われる。径は約600cmを測るが、一辺の長さは200～300cmである。壁際には幅、深さが10cm前後の壁体溝が巡っている。5本の主柱穴が確認されているが、柱穴の一部には差し替えがみられた。柱間距離は164～300cmを測る。遺物は土器、鉄器が出土している。土器は甕2168・2169、鉢2170、高杯2171～2173、鉄器は手鎌M149がある。

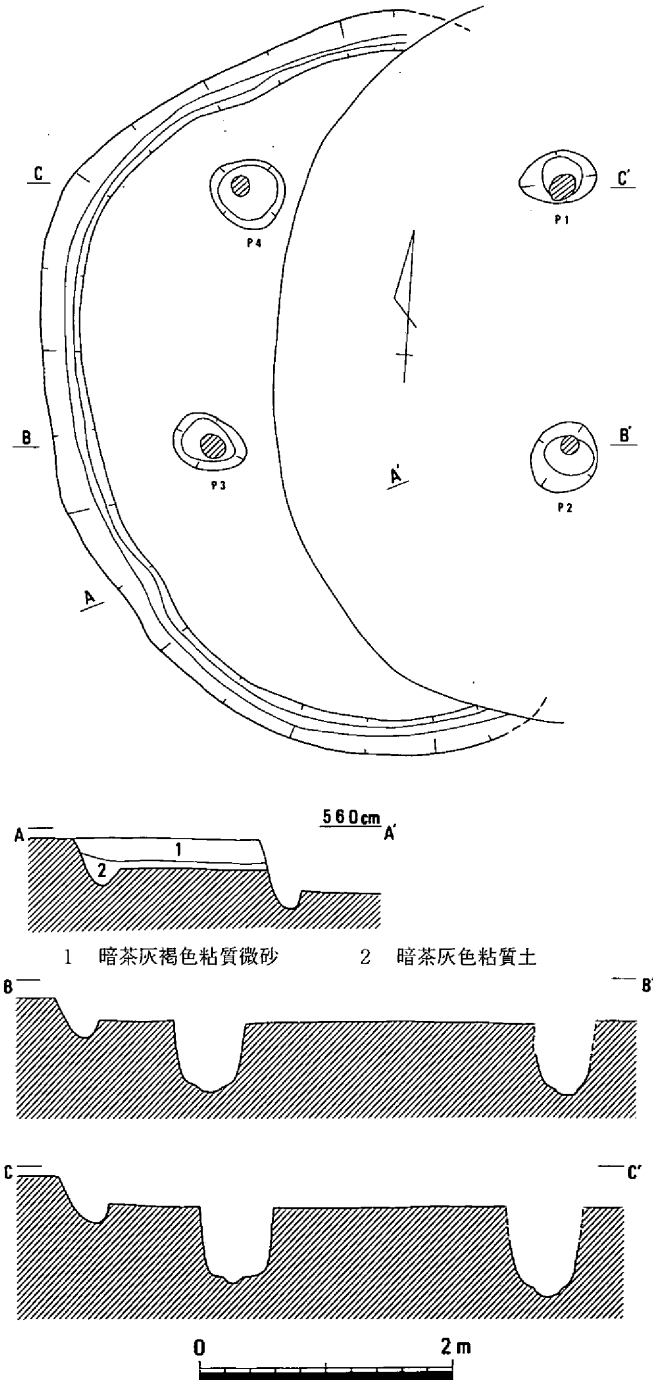
時期は弥・後・IVと思われる。

(松本)

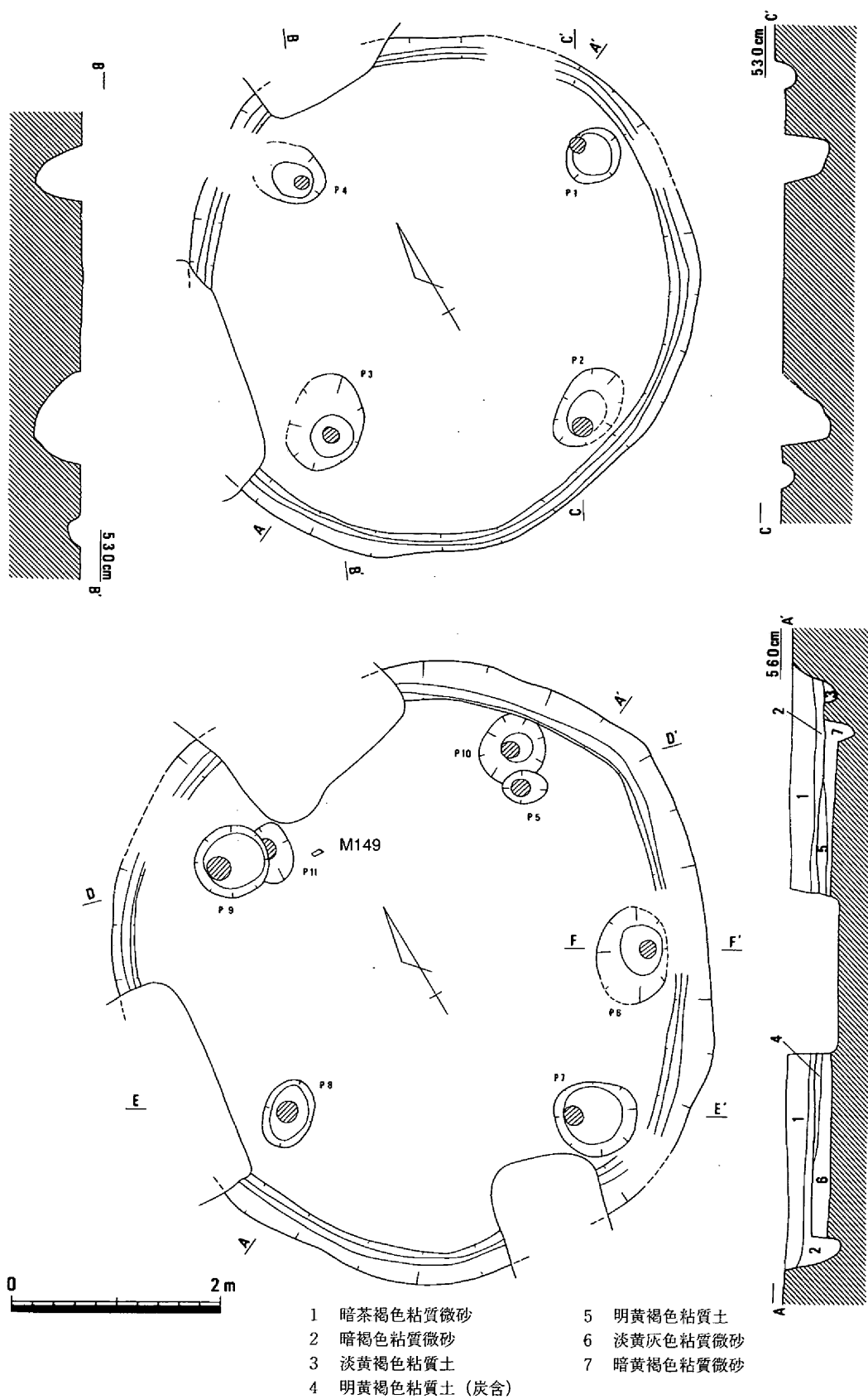
竪穴住居91 (第549・620・621図)

竪穴住居88の南隣で検出された遺構である。この住居は壁体溝からみて、拡張のため2回の建て替えが行われている。最も古い住居91aは平面形が不整な円形を呈するが、規模は径が370cmを測る。壁際には幅が5～10cm、深さ約10cm前後の壁体溝が巡っている。床面の中央部にはピットがない。主柱穴は4本確認されている。最も新しい住居91cは平面形が円形を呈し、規模は径500cmを測る。壁際には幅5～10cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡るが、南西で途切れている。床面の壁に沿って高床部がつくられており、幅は100～120cm、高さは西側でやや高くなるが、約15～20cmを測る。主柱穴は4本確認されているが、いずれも高床部の角で検出されている。床の中央部には炭を含むピットと内部に炭、焼土を含む浅い土壇が検出されている。

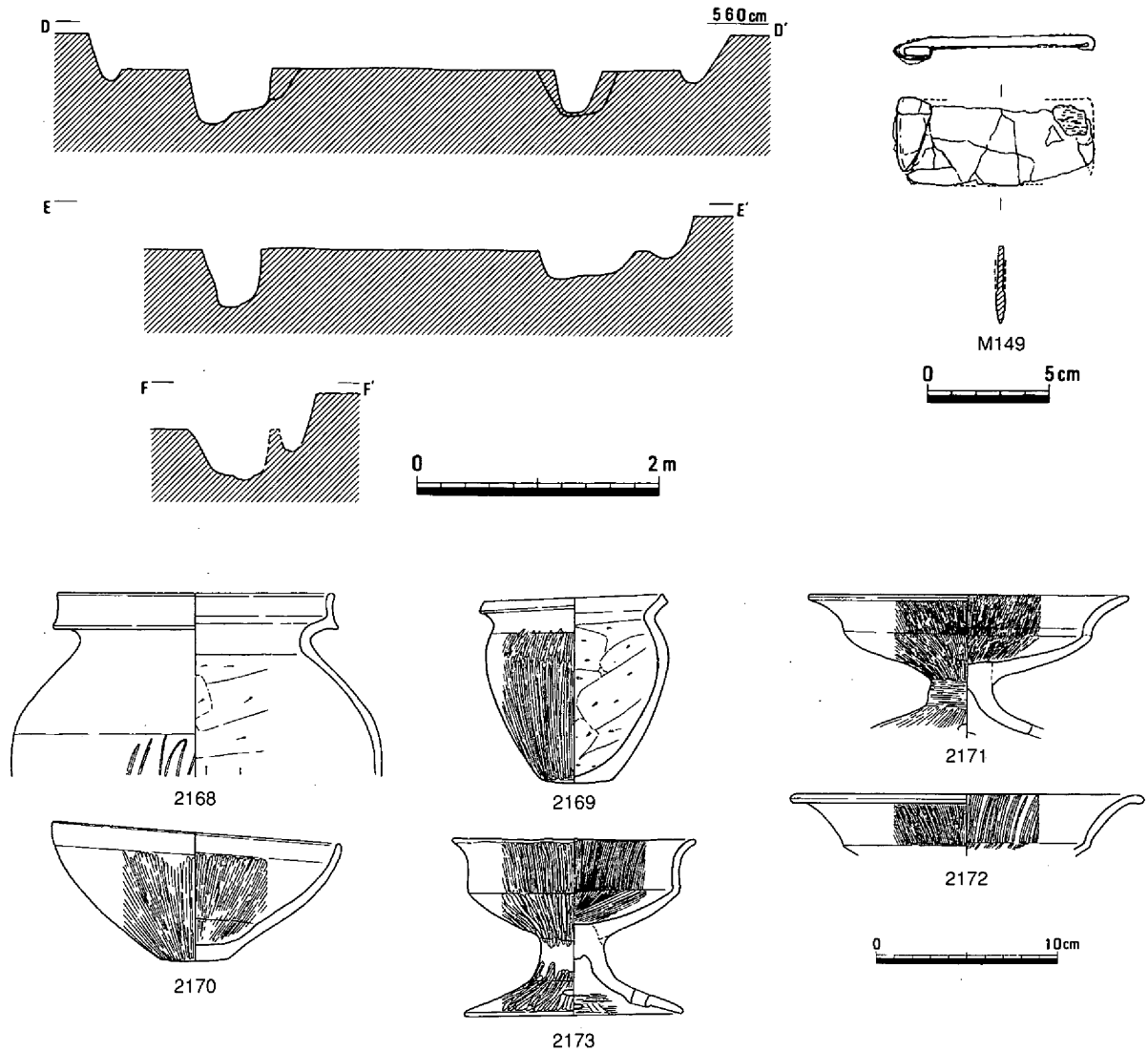
遺物は土器、石器、土製品が出土



第617図 竪穴住居89 (1/60)



第618図 竪穴住居90 (1/60)



第619図 竪穴住居90断面 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

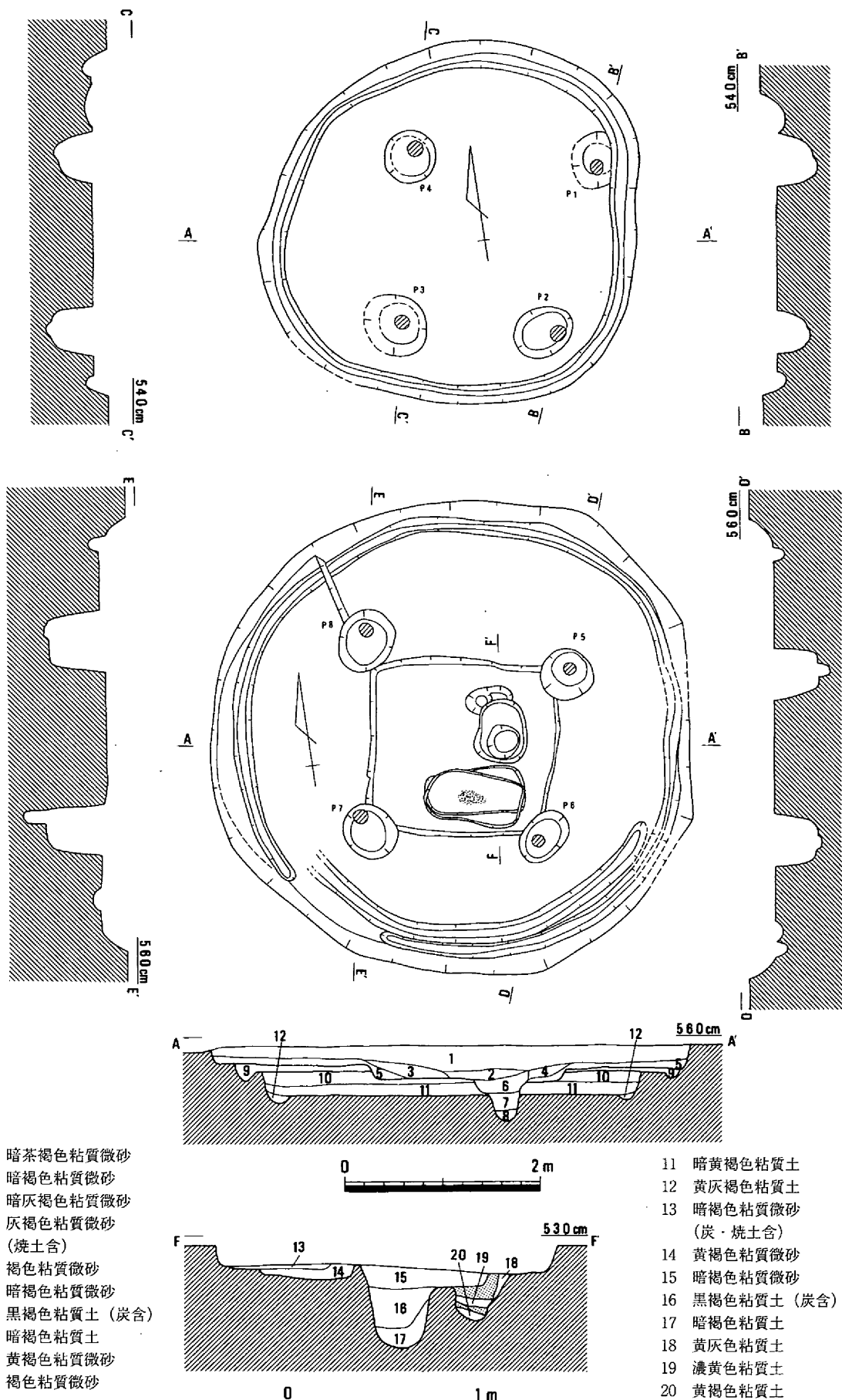
している。土器は甕2174～2176、高杯2177・2178、鉢2179、台付鉢2180・2181、製塩土器2182、石器は叩き石S122、土製品は紡錘車C132、玉C133がある。時期は91 a 住居は弥・後の範疇に、91 c 住居は弥・後・Ⅳに廃絶したものと思われる。(松本)

竪穴住居92 (第549・622図)

竪穴住居93に切られる状態で検出された。遺構の残存状態は悪いため、規模は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。深さは検出面から約30cmと浅いが、残存する壁際には幅10cm前後、深さ約15cmの壁体溝が巡っている。主柱穴は検出されていない。図示できる出土遺物はないが、この竪穴住居の時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

竪穴住居93 (第549・623図、図版163・166)

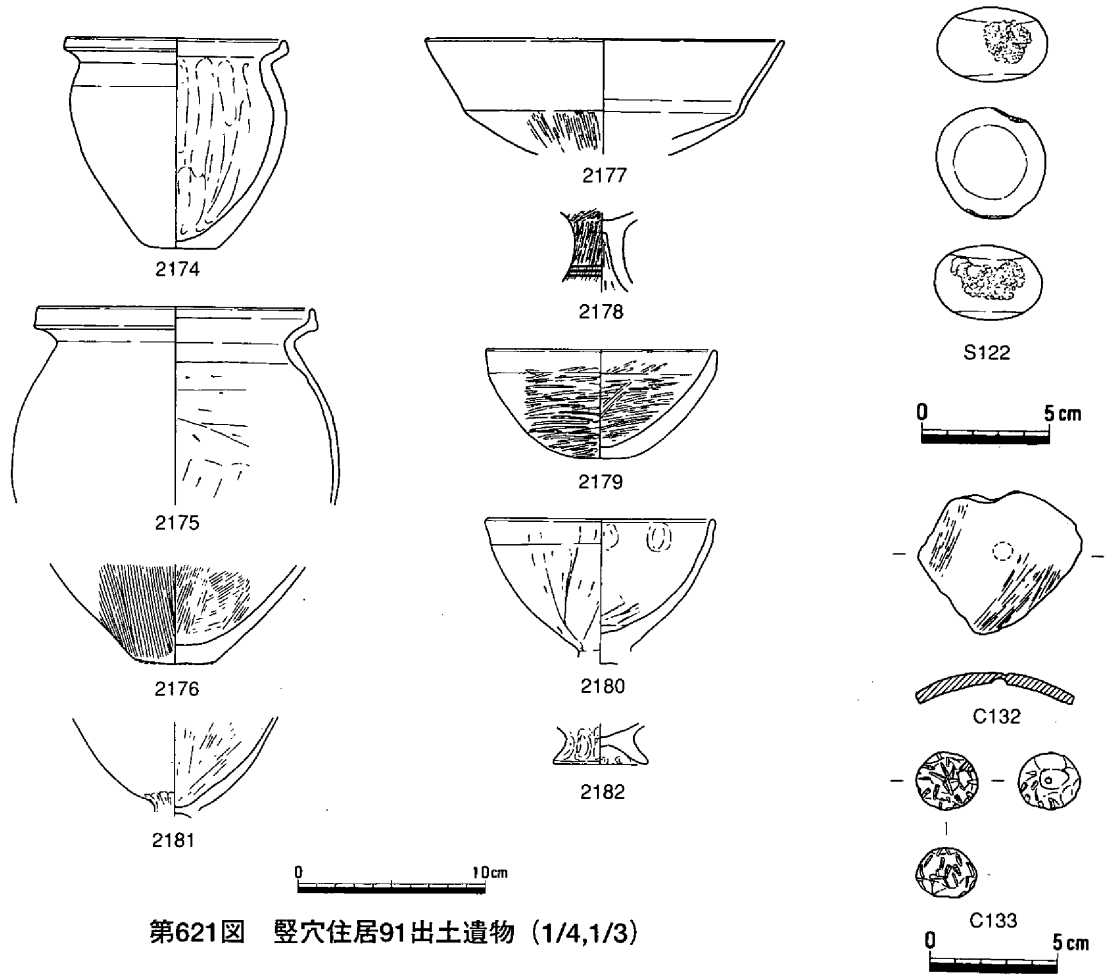
竪穴住居92、方形土壇68を切る状態で検出された。遺構の残存状態は良好である。平面形は円形を呈し、規模は径480cmを測る。深さは検出面から約30cmと浅いが、壁際には幅5～10cm、深さ約10～15cmの壁体溝が巡っている。床面のやや南寄りには長方形(60×125×40cm)の土壇が検出されている。この土壇の上部には炭の分布がみられた。柱穴は4本確認されており、4本柱で構成される竪穴住居



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂
- 3 暗灰褐色粘質微砂
- 4 灰褐色粘質微砂  
(焼土含)
- 5 褐色粘質微砂
- 6 暗褐色粘質微砂
- 7 黑褐色粘質土 (炭含)
- 8 暗褐色粘質土
- 9 黄褐色粘質微砂
- 10 褐色粘質微砂

- 11 暗黄褐色粘質土
- 12 黄灰褐色粘質土
- 13 暗褐色粘質微砂  
(炭・焼土含)
- 14 黄褐色粘質微砂
- 15 暗褐色粘質微砂
- 16 黑褐色粘質土 (炭含)
- 17 暗褐色粘質土
- 18 黄灰褐色粘質土
- 19 濃黄色粘質土
- 20 黄褐色粘質土

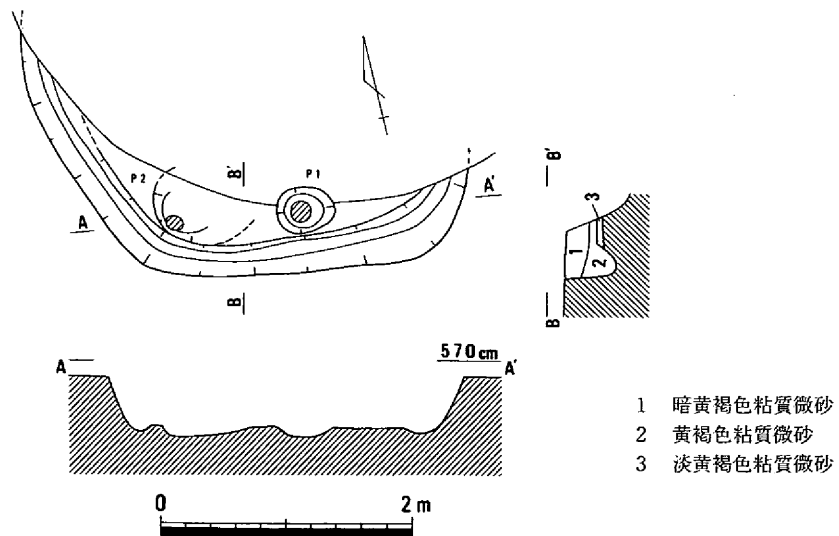
第620図 竪穴住居91 (1/60,1/30)



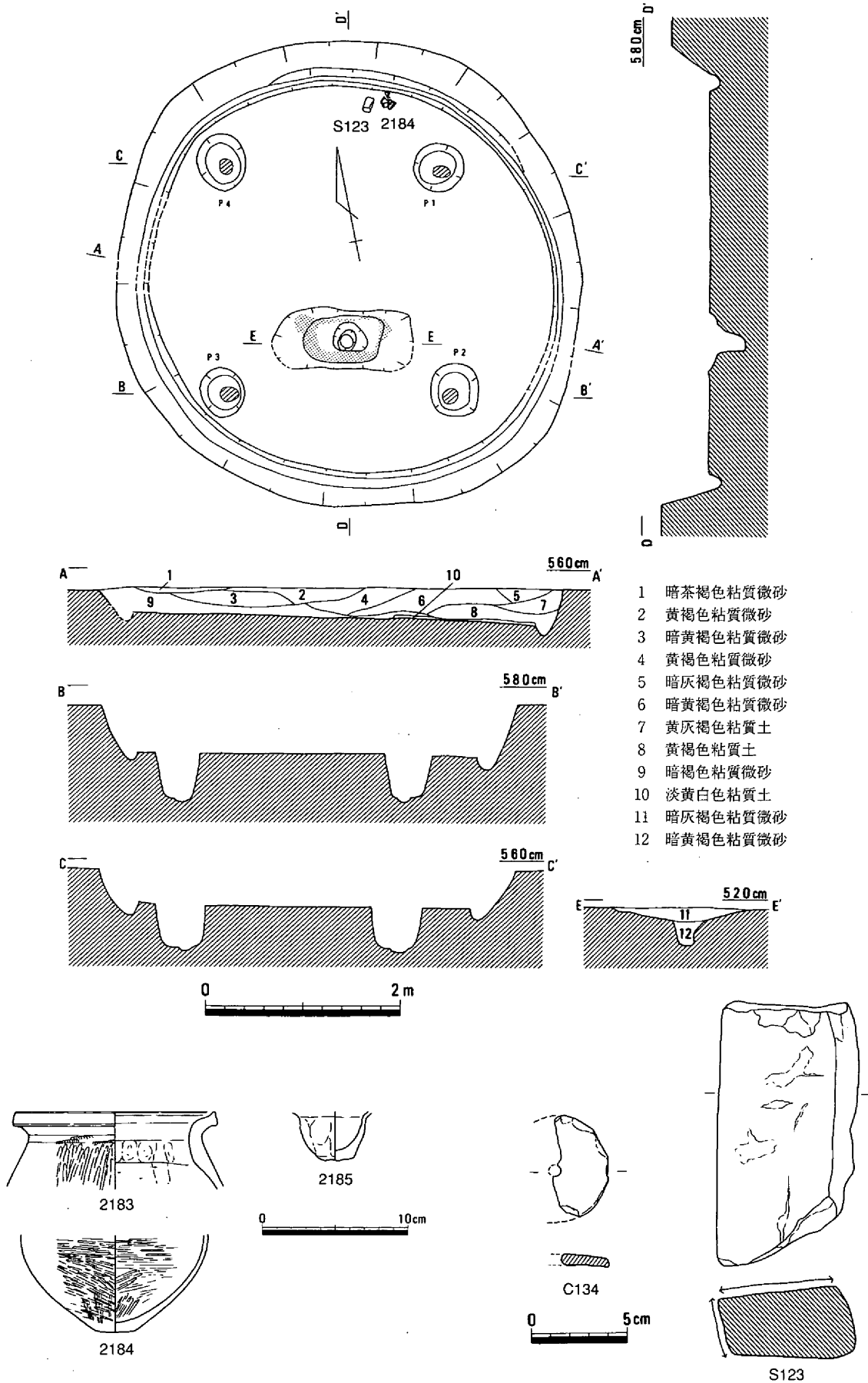
第621図 竪穴住居91出土遺物 (1/4,1/3)

である。柱間距離は220~236cmを測る。柱穴の掘り方は径40~60cmの円形あるいは楕円形を呈し、いずれの柱穴にも径15cm程度の柱痕跡が確認されている。

遺物は鉢2184と砥石 S 123が床面に付着して出土している。覆土内からは、土器では甕2183、手捏ね土器2185、土製品では紡錘車 C134がある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



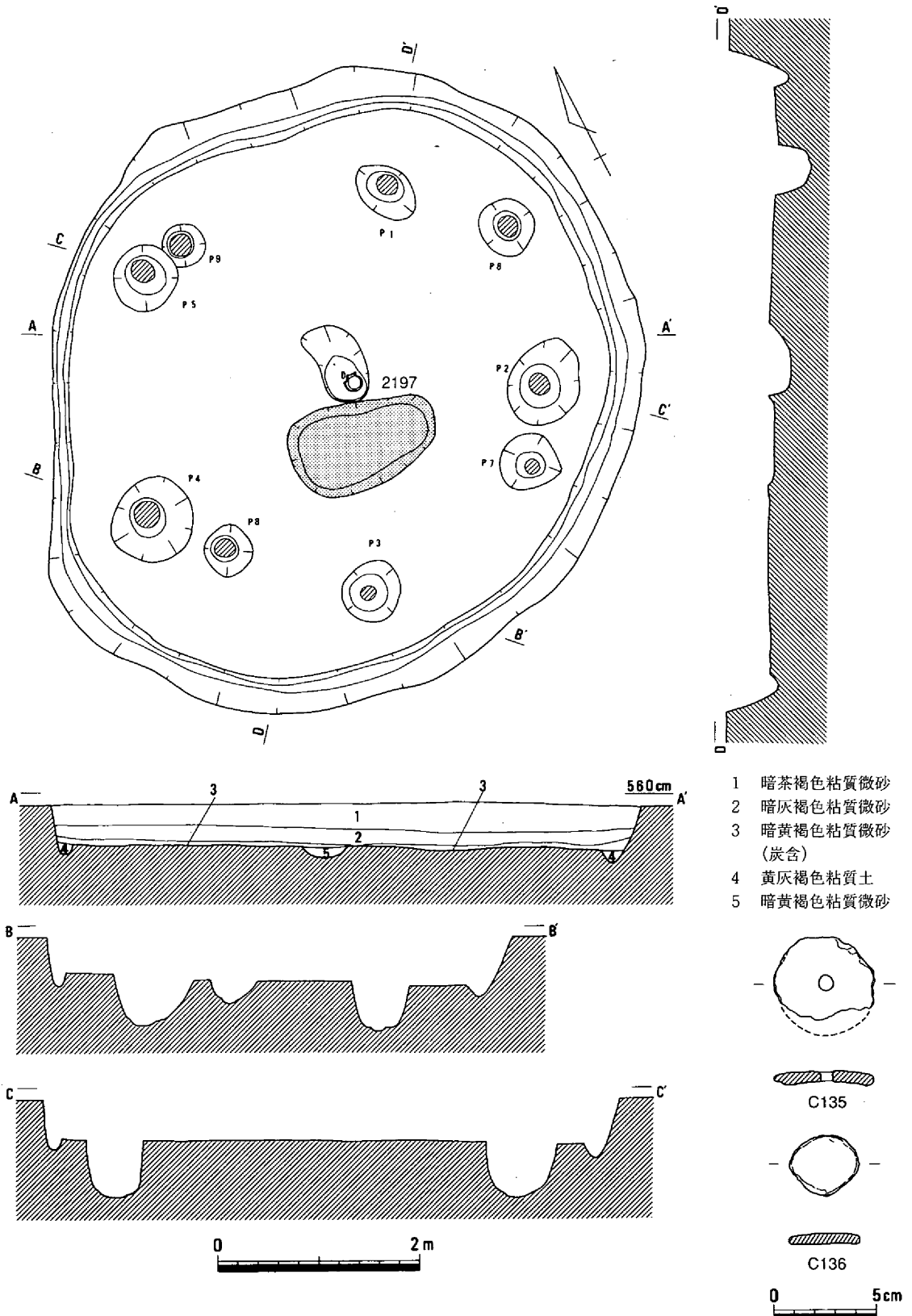
第622図 竪穴住居92 (1/60)



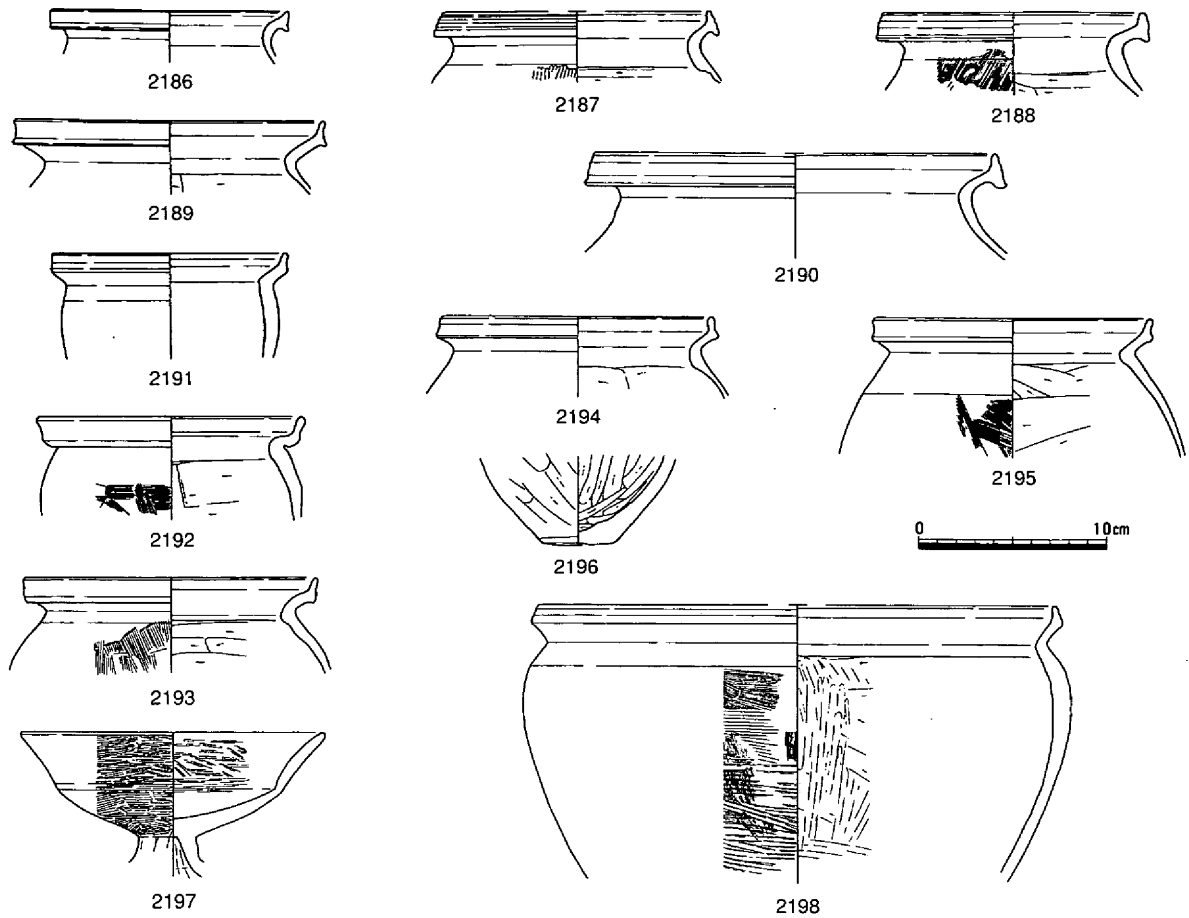
第623図 豎穴住居93 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

竪穴住居94 (第549・624・625図、図版32・166)

竪穴住居95を切る状態で検出された遺構である。平面形は不整な円形を呈するが、規模は径580×650cmを測る。住居の壁際には幅が5～15cm、深さが約10cm前後の壁体溝が巡っている。床面中央には



第624図 竪穴住居94 (1/60)・出土遺物① (1/3)



第625図 竪穴住居94出土遺物② (1/4)

ピットと炭が入った方形の浅い土壇が検出されている。主柱穴は5本確認されているが、いずれも柱の差し替えが行われている。柱間距離は232～266cmを測る。

遺物は中央ピット内から出土した高杯2197以外は覆土内である。覆土内の土器で、甕2186～2197、鉢2198、土製品では紡錘車C135・136がある。C136は未製品と思われる。時期はこれらの遺物からみて、弥・後・IVには廃絶していたと考えられる。(松本)

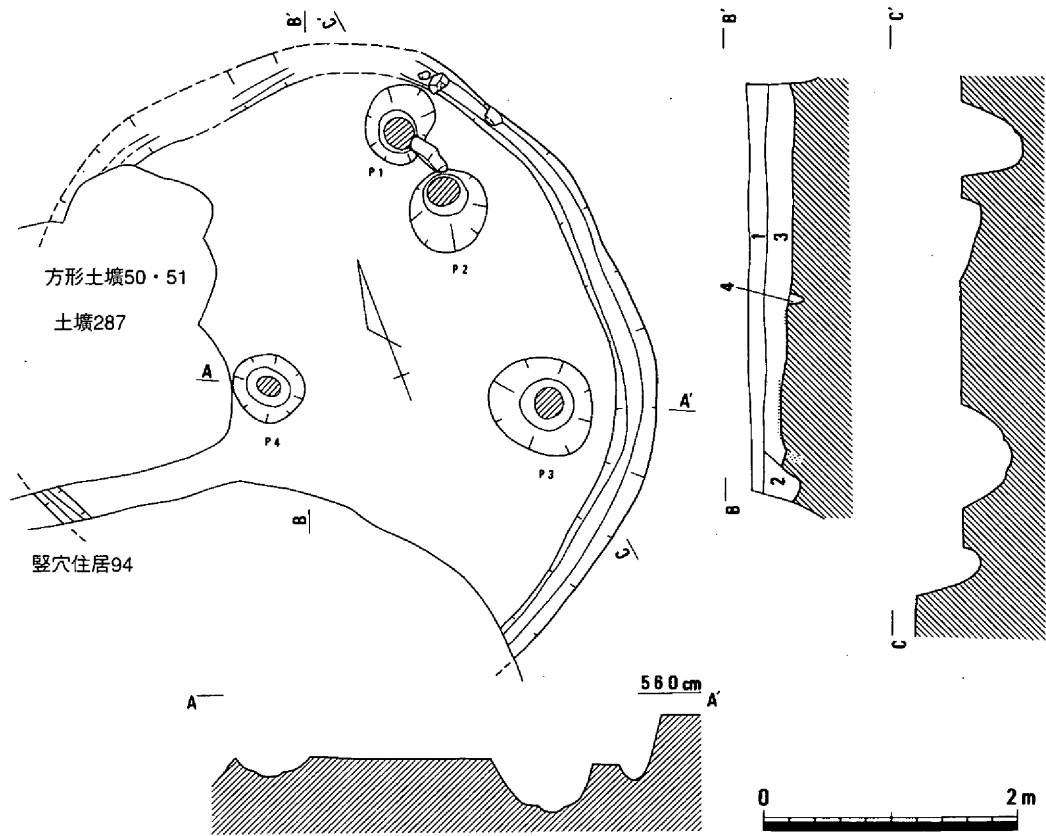
竪穴住居95 (第549・626図、図版113・166)

竪穴住居94に切られる状態で検出された。遺構の残存状態はよくないが、平面形は円形を呈し、規模は径約500cm程に推定されるものである。壁際には幅が5～15cm、深さ5～15cmの壁体溝が巡っている。中央ピットを持たない。主柱穴は2本(P2・3)検出されているが、おそらく4本柱で構成される竪穴住居と思われる。柱穴の掘り方は60～80cmの円形と楕円形を呈し、径20cmの柱痕跡が確認されている。遺物は覆土内から土器と土製品が出土している。土器は甕2199～2204、高杯2205、鉢2206・2207、台付鉢2208、土製品は完形品の土錘C137がある。これらの遺物からみて、この竪穴住居は弥・後・IVには廃絶していたものと考えられる。(松本)

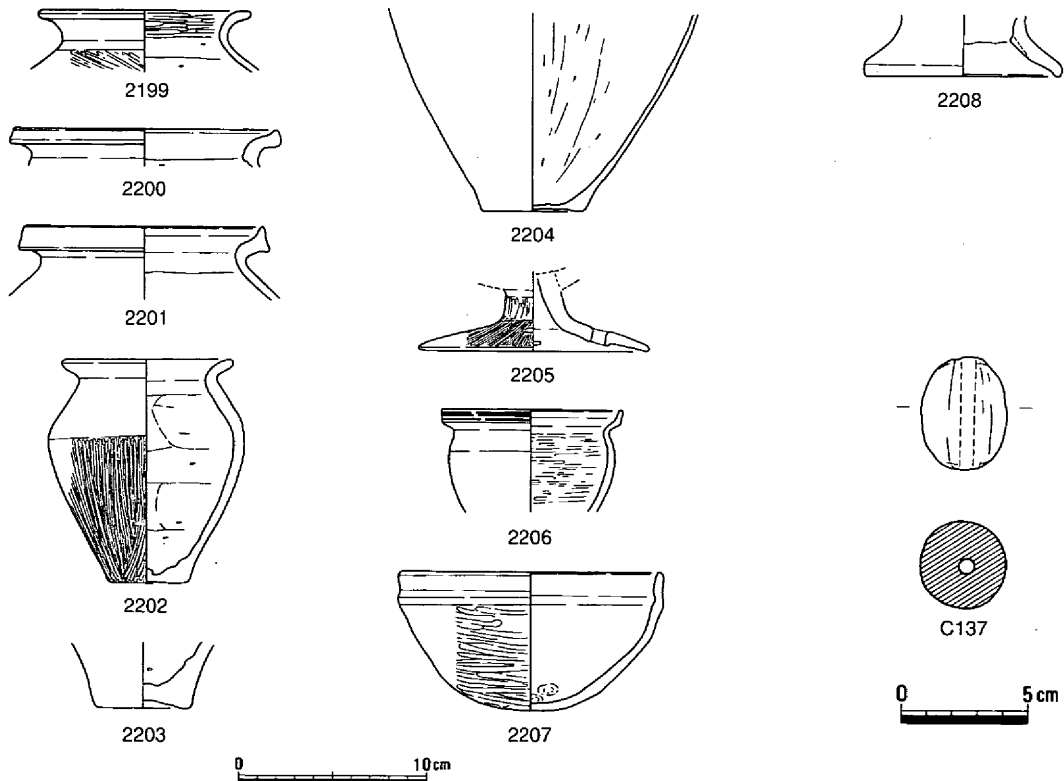
竪穴住居96 (第549・627・628図、図版32・163)

竪穴住居94の東隣において検出されたが、遺構の残存状態は良好である。拡張のため建て替えが行われた住居である。新旧の住居とも平面形は円形を呈している。古い住居96aの規模は壁体溝から計

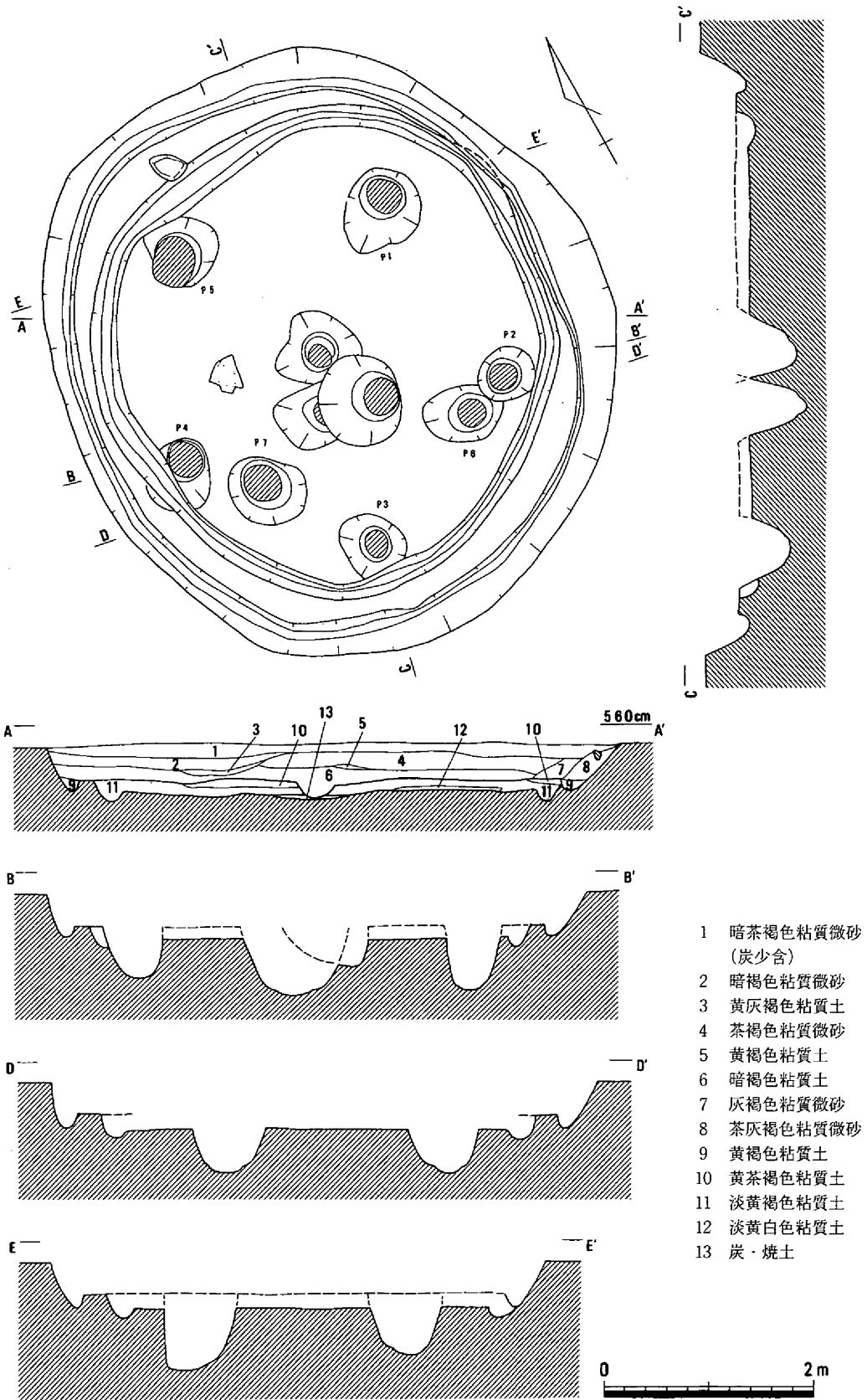




- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗灰褐色粘質微砂
- 3 暗青灰色粘質微砂 (炭含)
- 4 淡灰色粘質土



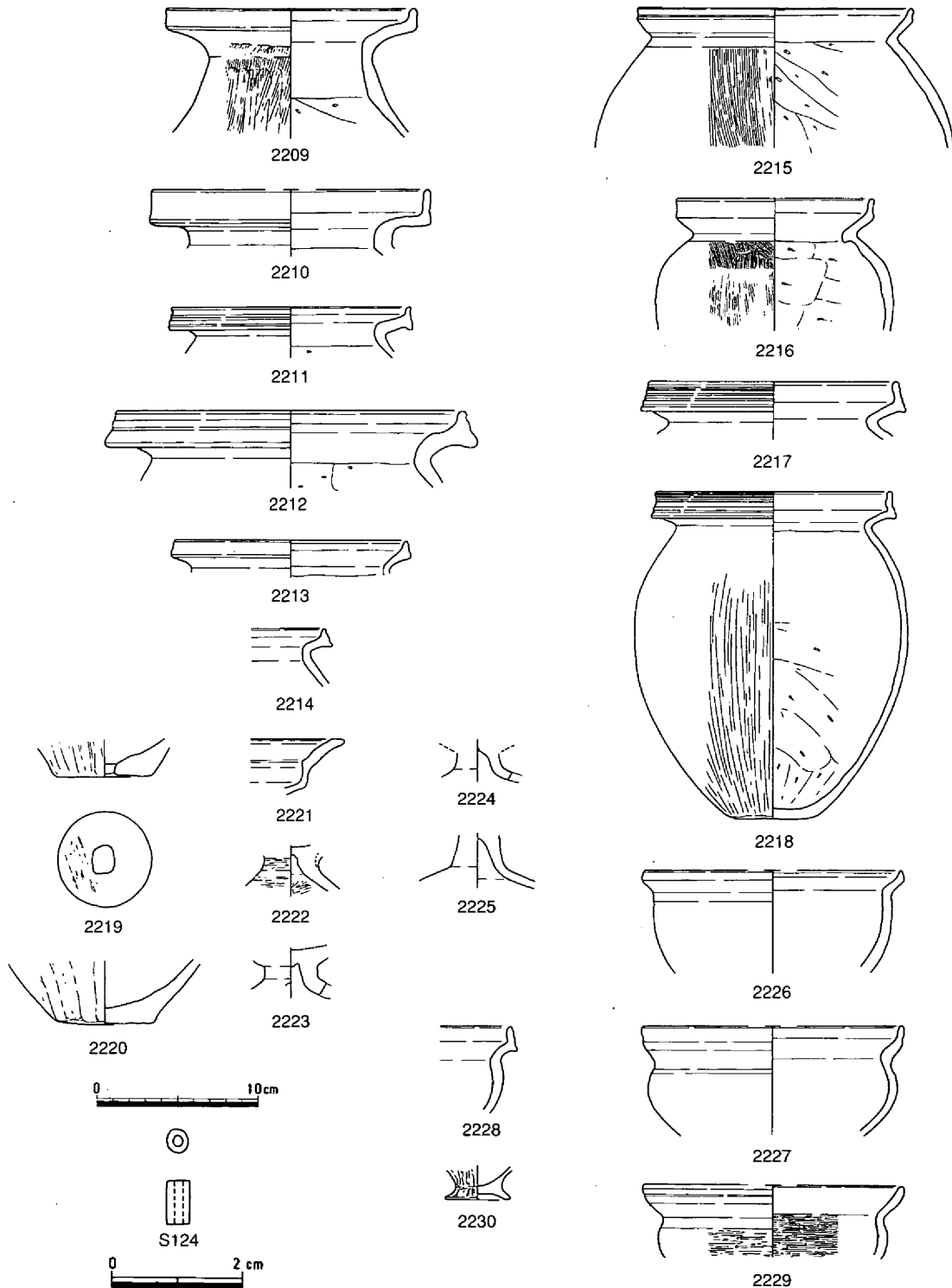
第626図 竪穴住居95 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



- 1 暗茶褐色粘質微砂  
(炭少含)
- 2 暗褐色粘質微砂
- 3 黄灰褐色粘質土
- 4 茶褐色粘質微砂
- 5 黄褐色粘質土
- 6 暗褐色粘質土
- 7 灰褐色粘質微砂
- 8 茶灰褐色粘質微砂
- 9 黄褐色粘質土
- 10 黄茶褐色粘質土
- 11 淡黄褐色粘質土
- 12 淡黄白色粘質土
- 13 炭・焼土

第627図 豎穴住居96 (1/60)

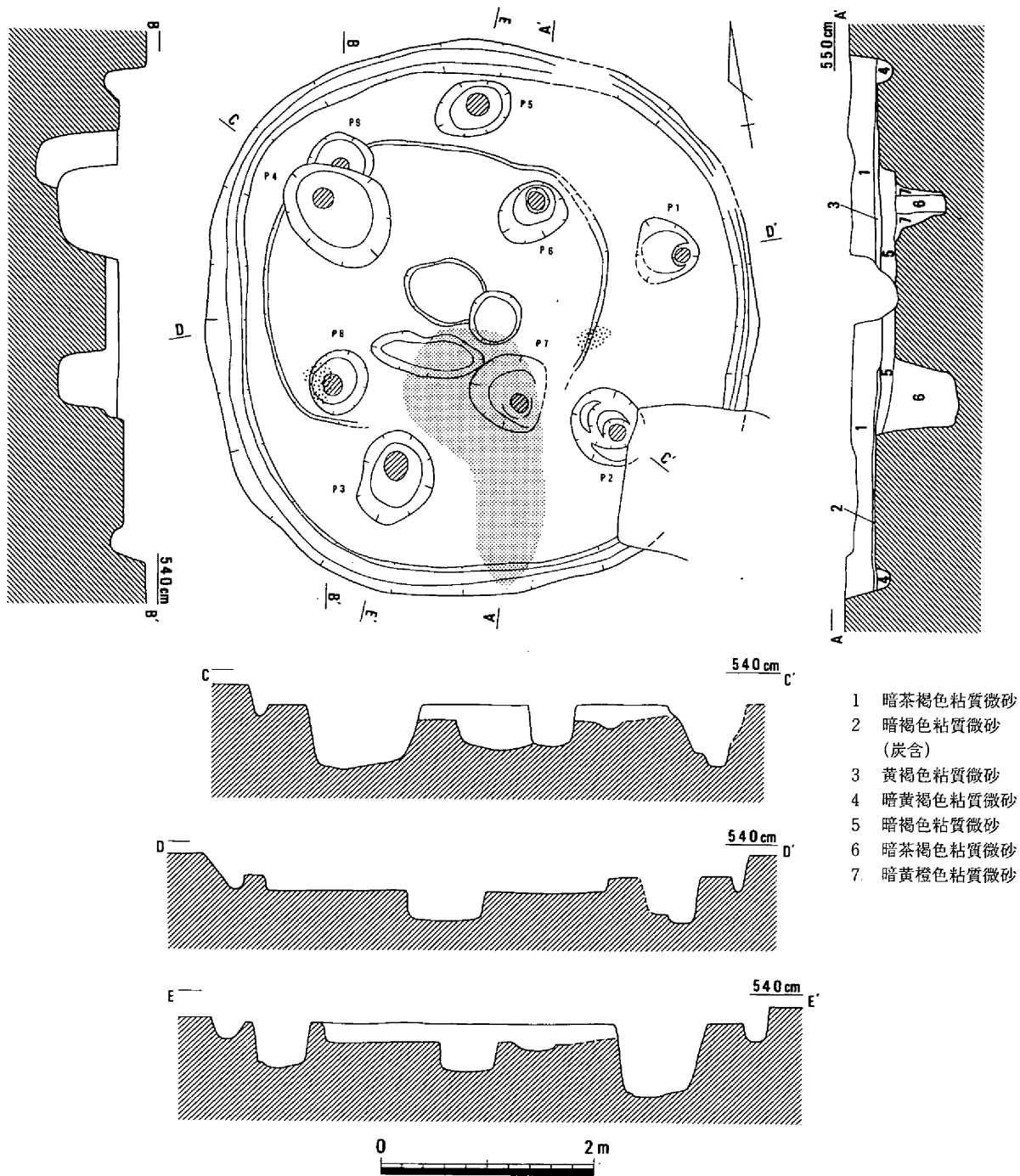
測すると径が430cm程である。96 b の径は500×580cmを測り、壁際には幅が5～10cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡っている。96 a の支柱穴はP 1・5～7の4本で構成されていたが、拡張された96 b においては支柱穴はP 1～5の5本柱となっていたものと思われる。柱間距離は約200cmである。遺物は土器では壺2209・2210、甕2211～2220、高杯2221～2225、鉢2226～2229、高台付鉢2230、石製品では管玉 S124が出土している。時期は96 b が弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃に廃絶したと思われる。 (松本)



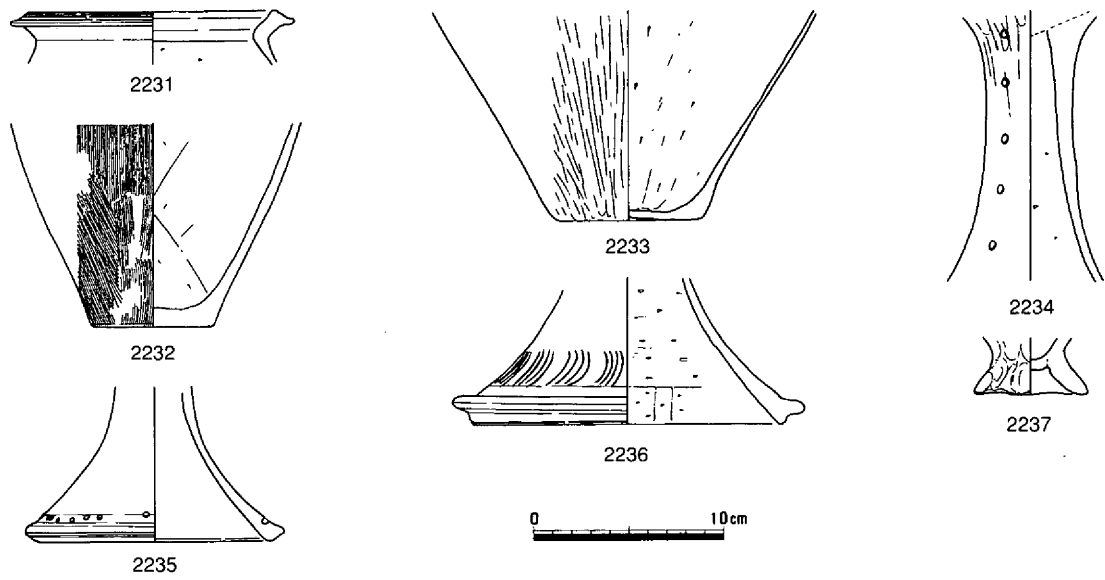
第628図 竪穴住居96出土遺物 (1/4,1/1)

竪穴住居97 (第549・629・630図)

竪穴住居96の北東において検出された。土壌352に切られてはいるが、遺構の残存状態は良好である。平面形は円形を呈し、規模は径約520cmを測る。壁際には幅5~10cm、深さ10~15cmの壁体溝が巡っている。この住居も床面の壁に沿って高床部がつくられている。高床部の幅は20~120cmを測るが、西側が極めて狭くなっている。高さは15cmほどである。主柱穴は5本(P1~5)確認されている。なお、床面中央部にはピットがみられ、周囲には炭、焼土の分布もみられる。遺物としては甕2231~2233、高杯2234~2236、製塩土器2237などが出土している。時期は弥・後・Iと思われる。(松本)



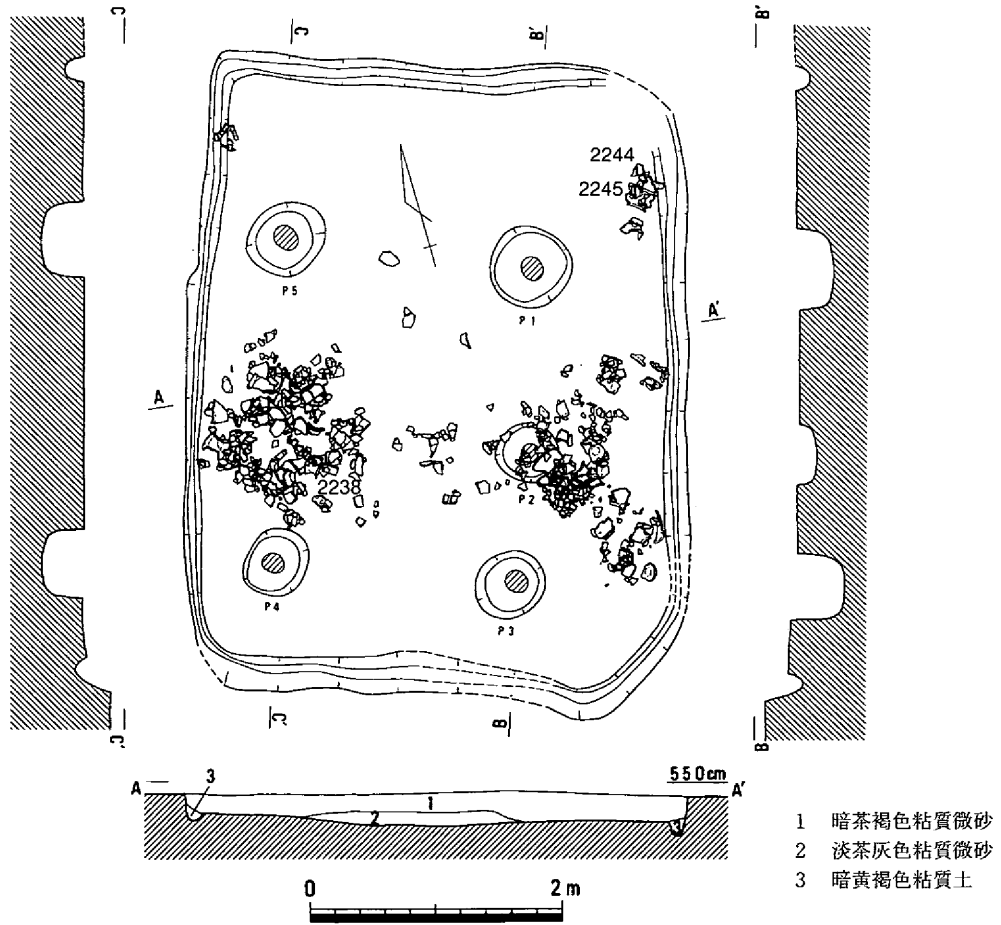
第629図 竪穴住居97 (1/60)



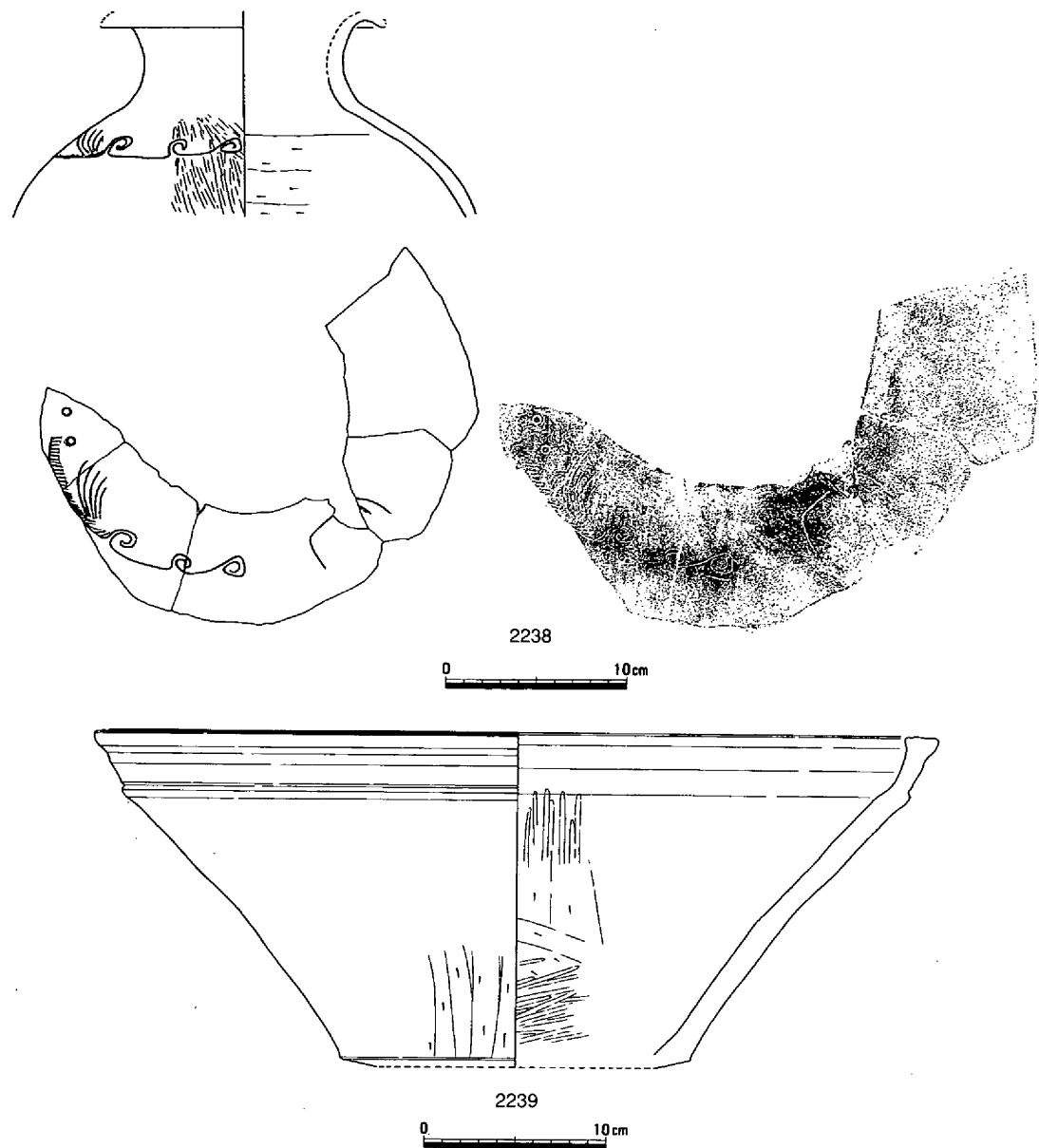
第630図 竪穴住居97出土遺物 (1/4)

竪穴住居98 (第549・631～633図、図版33・113)

竪穴住居93の南西に位置し、方形土壙59・61に切られる状態で検出された。平面形は方形を呈し、一辺が390×500cmを測る竪穴住居である。深さは検出面から25cmを測り、残存状態はよくないが、壁



第631図 竪穴住居98 (1/60)



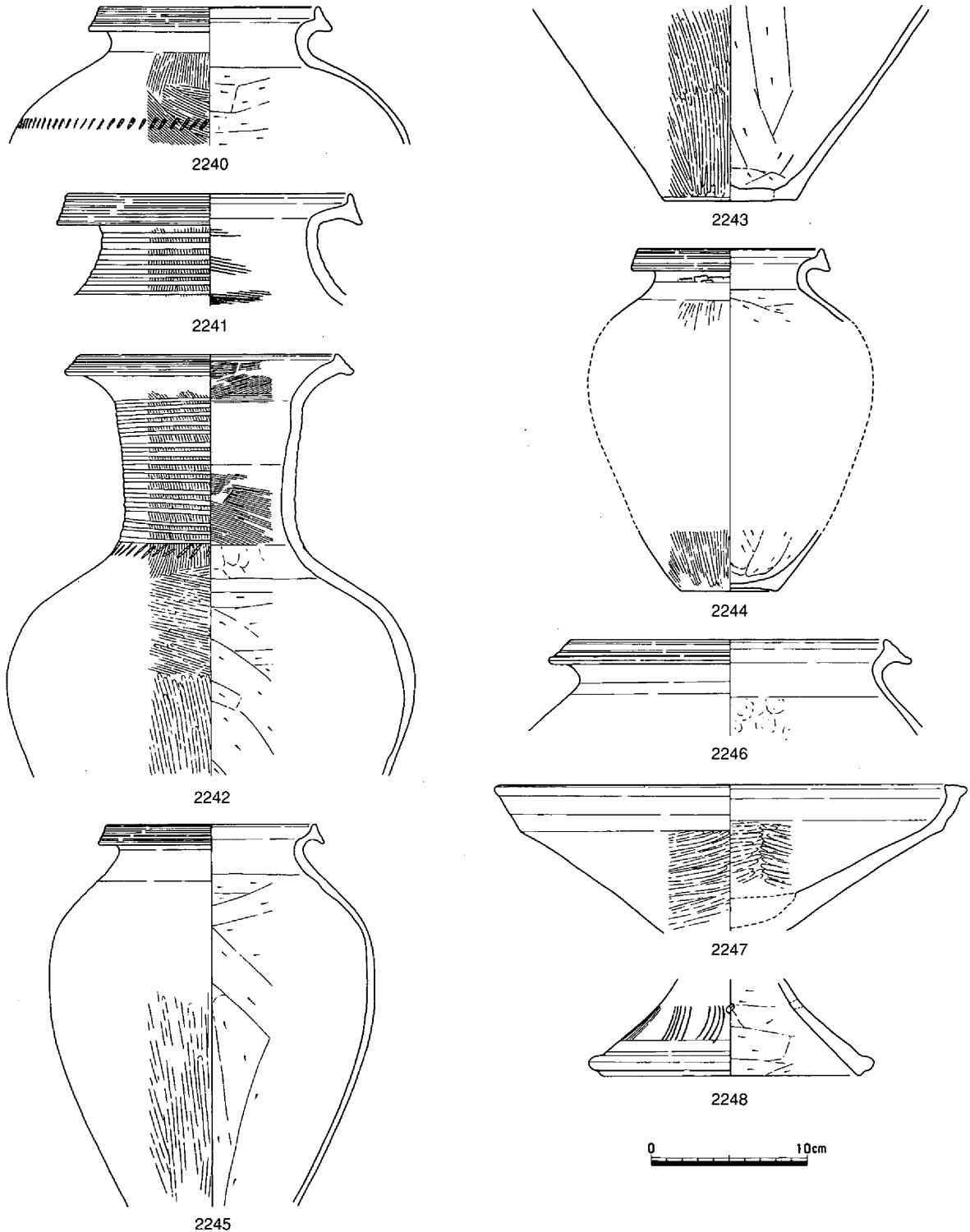
第632図 竪穴住居98出土遺物① (1/4)

際には幅が5～10cm前後、深さが10～15cmの壁体溝が巡っている。主柱穴は4本確認され、柱間距離は長辺で258cm、短辺で194cmを測る。柱穴の掘り方は径50～60cmの円形を呈し、いずれの柱穴にも径15cm程度の柱痕跡が確認されている。なお、床には中央穴が存在しない。

遺物としては壺2238・2240～2242、鉢2239、甕2243～2246、高杯2247・2248などの土器が床面から出土している。なお、壺2238の肩部には絵画としての意味は不明であるが、線刻文様を施している。廃絶した時期は弥・後・Iと思われる。高塚遺跡ではこのような平面形をもつ遺構は少なく、別用途の使用が想定される遺構と思われる。(松本)

竪穴住居99 (第549・634・635図)

調査区の中央、Ci 603区の西端中央から検出された平面隅丸方形気味の不整円形の竪穴住居である。住居中央部は後記する方形土塋90によって削平を受けている。主柱は4本からなり、床面下層から検出された壁体溝の所在から拡張建て替えがなされたものと考えられる。最終住居の規模は径約



第633図 竪穴住居98出土遺物② (1/4)

5.5m、深さ48cmを残し、床面積は22.6㎡を測る。床面上部の第2層には土塊混入土が堆積しており、住居廃棄の際に埋め戻されたものと思われる。また、支柱間の距離は270cm前後を測る。柱穴は径80cm、深さ40~70cmを測り、いずれも柱部分が数cm陥没した状態を示し、上部構造に相当の重量がかかっていたものと想像される。遺物は主に第2層から甕、鉢、脚台などが出土しているがいずれも細片であった。口縁端部が上方に拡張する甕2249~2251、椀状に立ち上がる鉢2259などの特徴から、当住居は

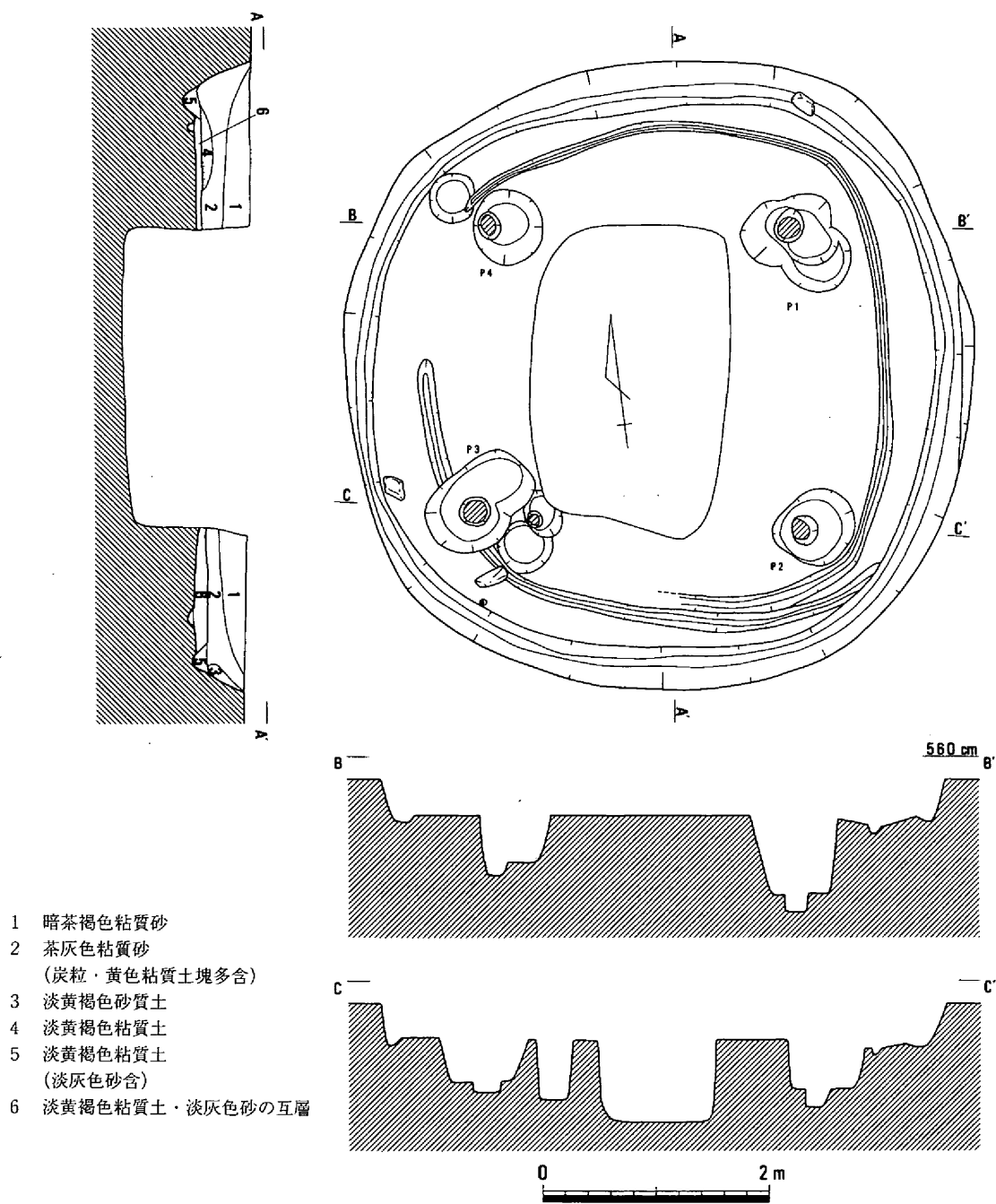
弥・後・Ⅲに廃棄されたものと思われる。

(江見)

竪穴住居100 (第549・636図)

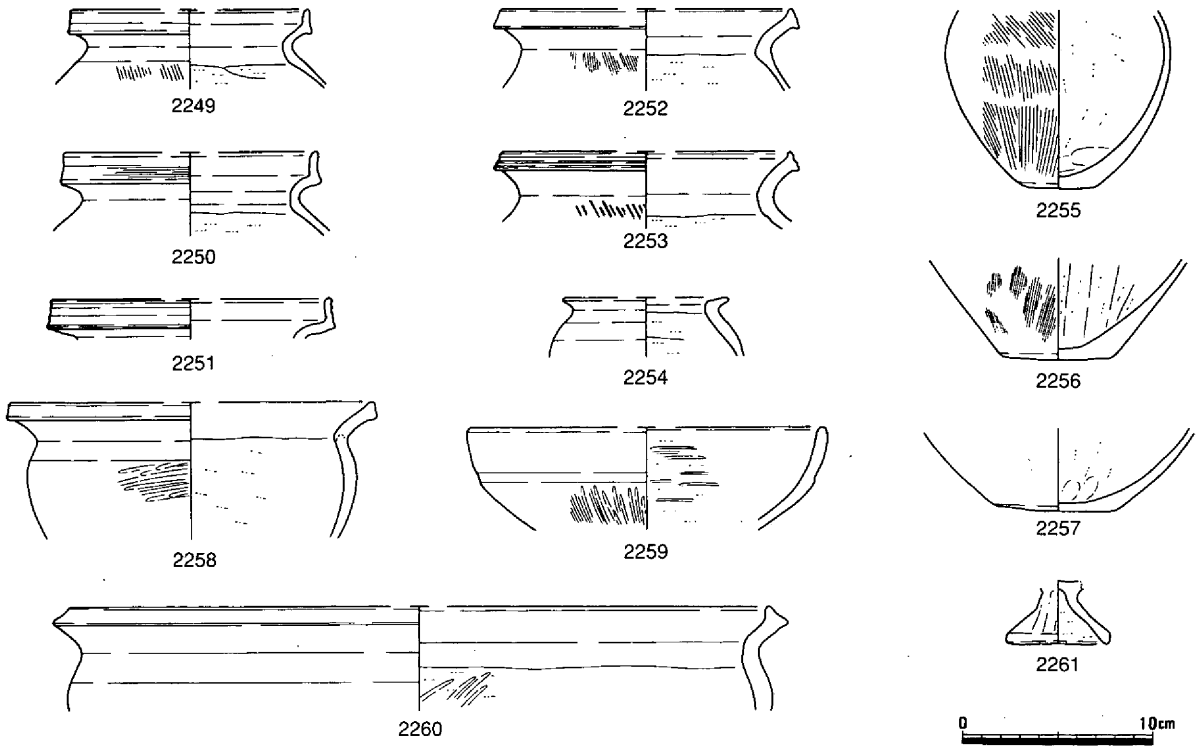
竪穴住居99の北方数m、竪穴住居96に北端部を削平されて検出された平面不整形円形を呈す小規模な住居である。主柱は4本からなると推定されたが、住居南半部から2個の柱穴を検出するにとどまった。住居の平面規模は長径2.9mを測り床面積は約5㎡と狭い。遺物は覆土中から出土しているが少量で、図示し得たのはわずかである。鉢2262・甕2263の口縁部にはいずれも凹線が巡らされ、その特徴から当住居は弥・後・Ⅲに廃絶したものと考えられる。

(江見)

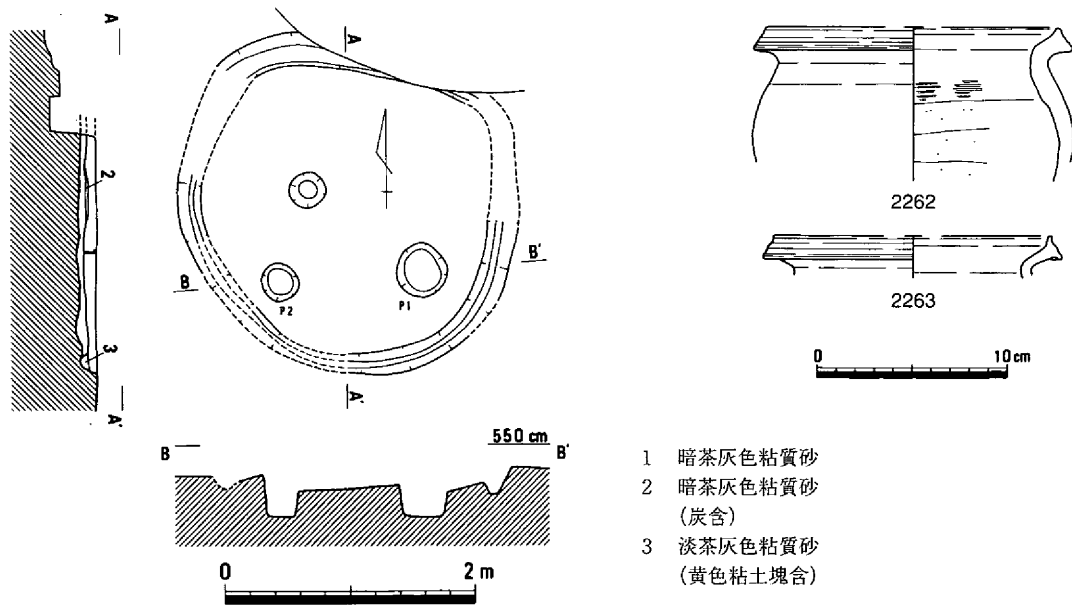


第634図 竪穴住居99 (1/60)





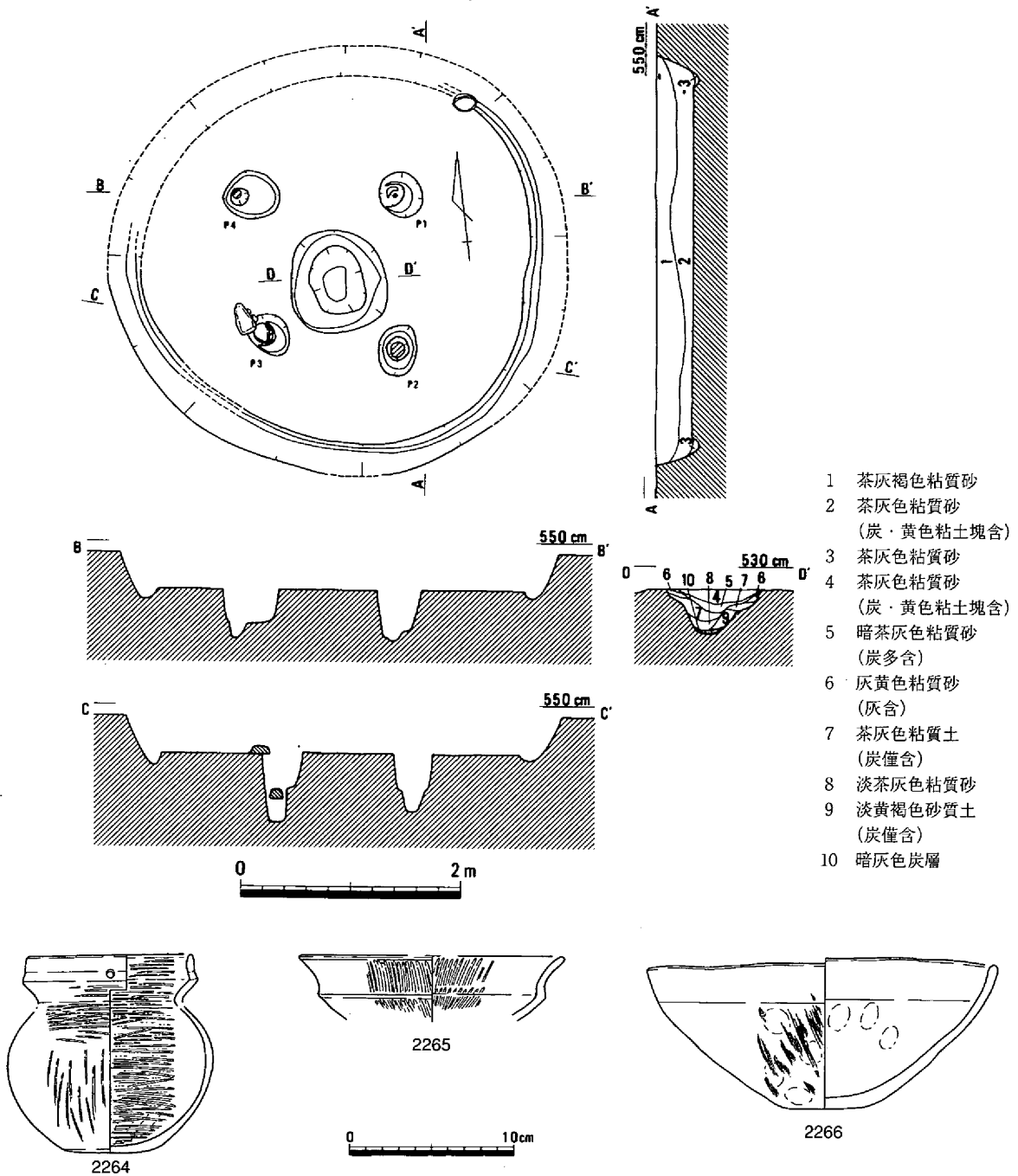
第635図 竪穴住居99出土遺物 (1/4)



第636図 竪穴住居100 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居101 (第549・637図、図版114)

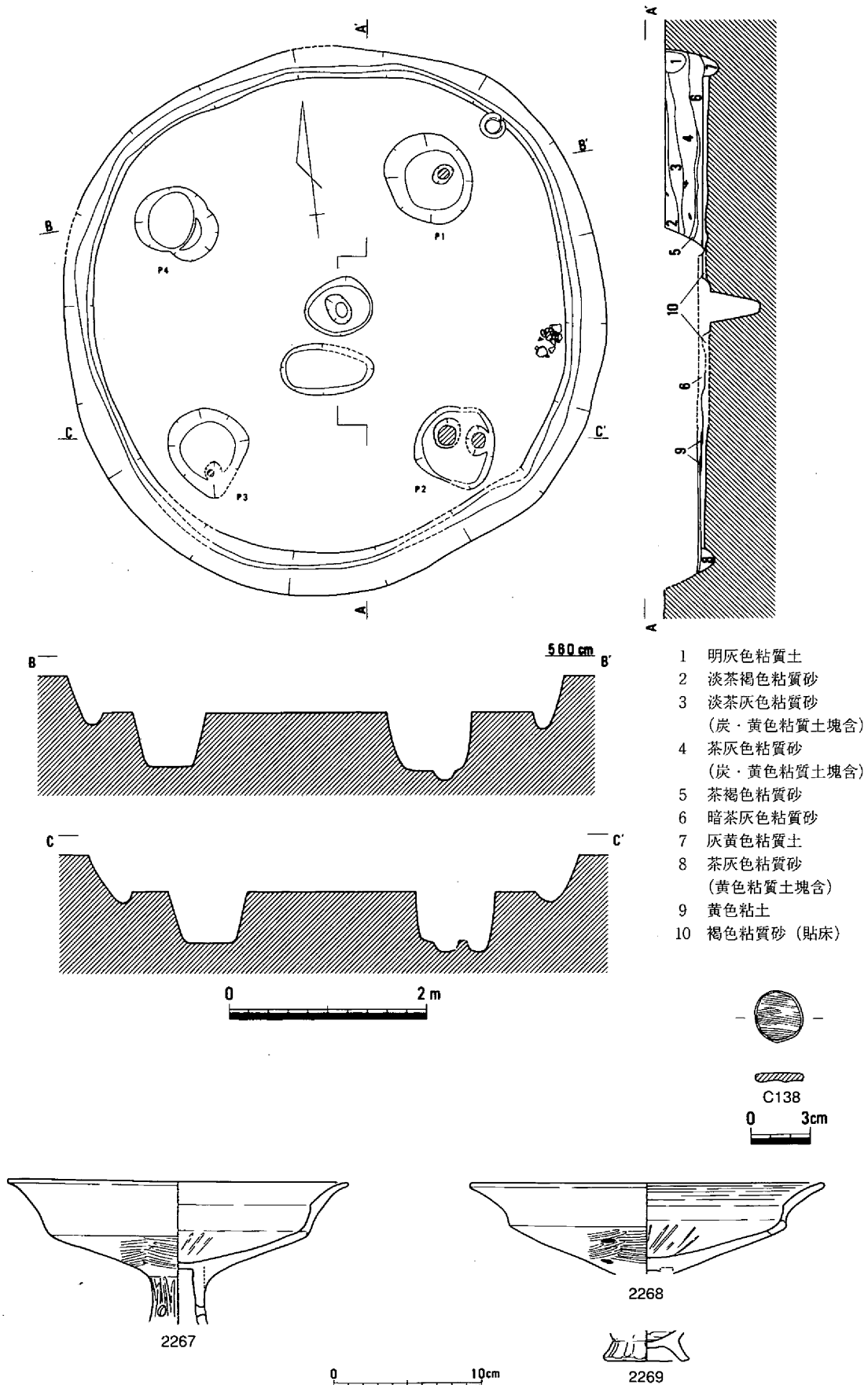
竪穴住居99の東に位置し、後述の竪穴住居102を切って検出された平面円形の竪穴住居である。主柱はやや歪な配置ながら4本からなり、住居中央には土壇周縁に段をもつ中央穴が穿たれていた。床面からはP3の西側から扁平な円盤が、北東隅からは鉢2266をはじめ甕2264・高杯2265などが出土しており、これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲの時期を示す。(江見)



第637図 竪穴住居101 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居102 (第549・638図、図版166)

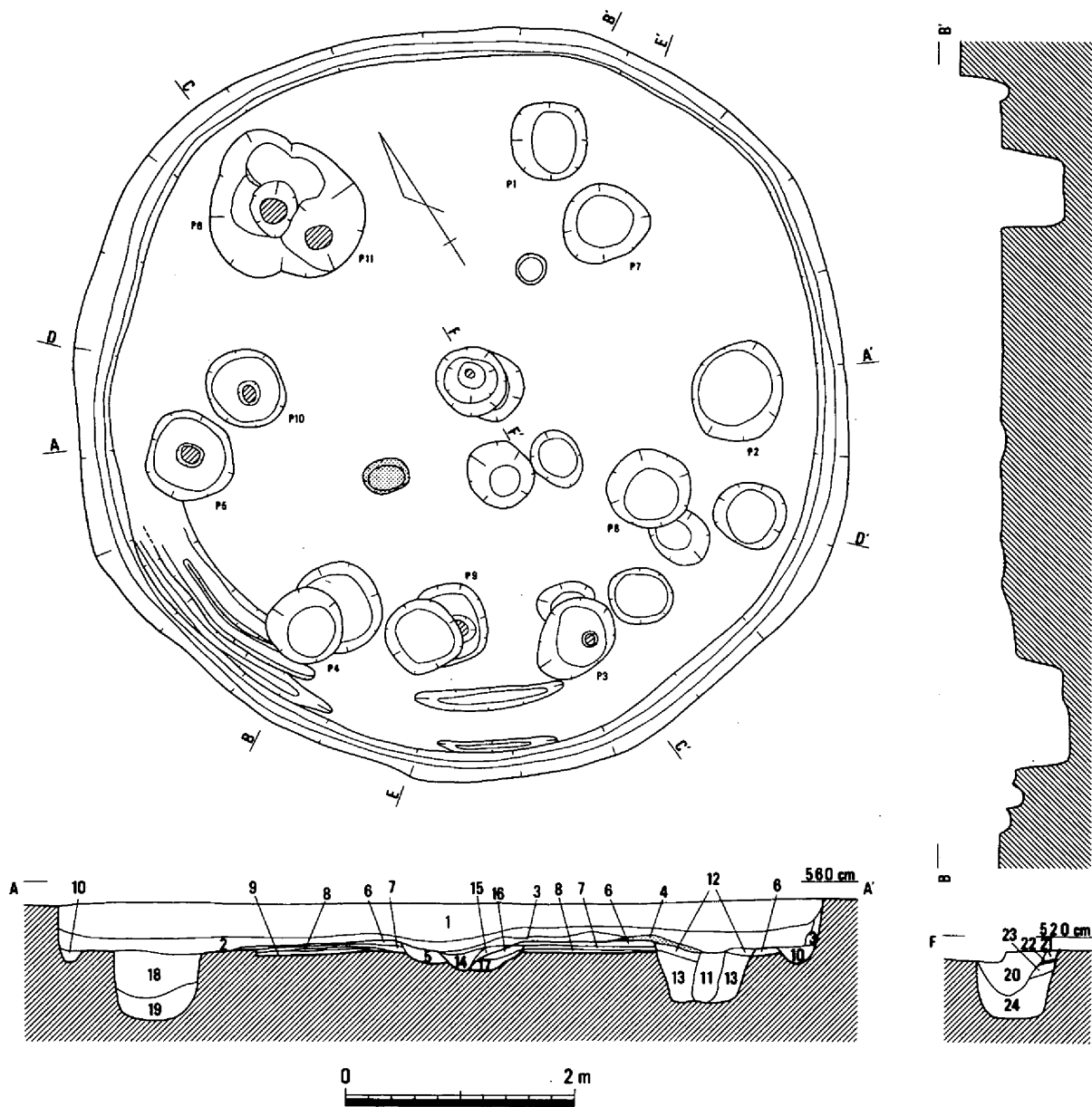
竪穴住居101に大きく削平を受けて検出された竪穴住居で平面円形を呈す。平面規模は径約5.5m、床面積約21m<sup>2</sup>、床面の標高5.03mを測る。支柱は4本からなり住居主軸はほぼ南北方向を示す。柱穴間距離は2.6m前後を測る。中央穴はその周縁が段をなし、その南部からは50×90cmの楕円形を呈す浅いくぼみ状の箇所が確認された。遺物は東部から北東部にかけてわずかながら検出されたが、床面に密着して出土した高杯2268の特徴やほかの共伴遺物の状況から弥・後・Ⅱに廃絶した住居と考えられる。なお、土製品C138は覆土から出土したものでやや小振りながら紡錘車の未製品か。(江見)



第638図 竪穴住居102 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

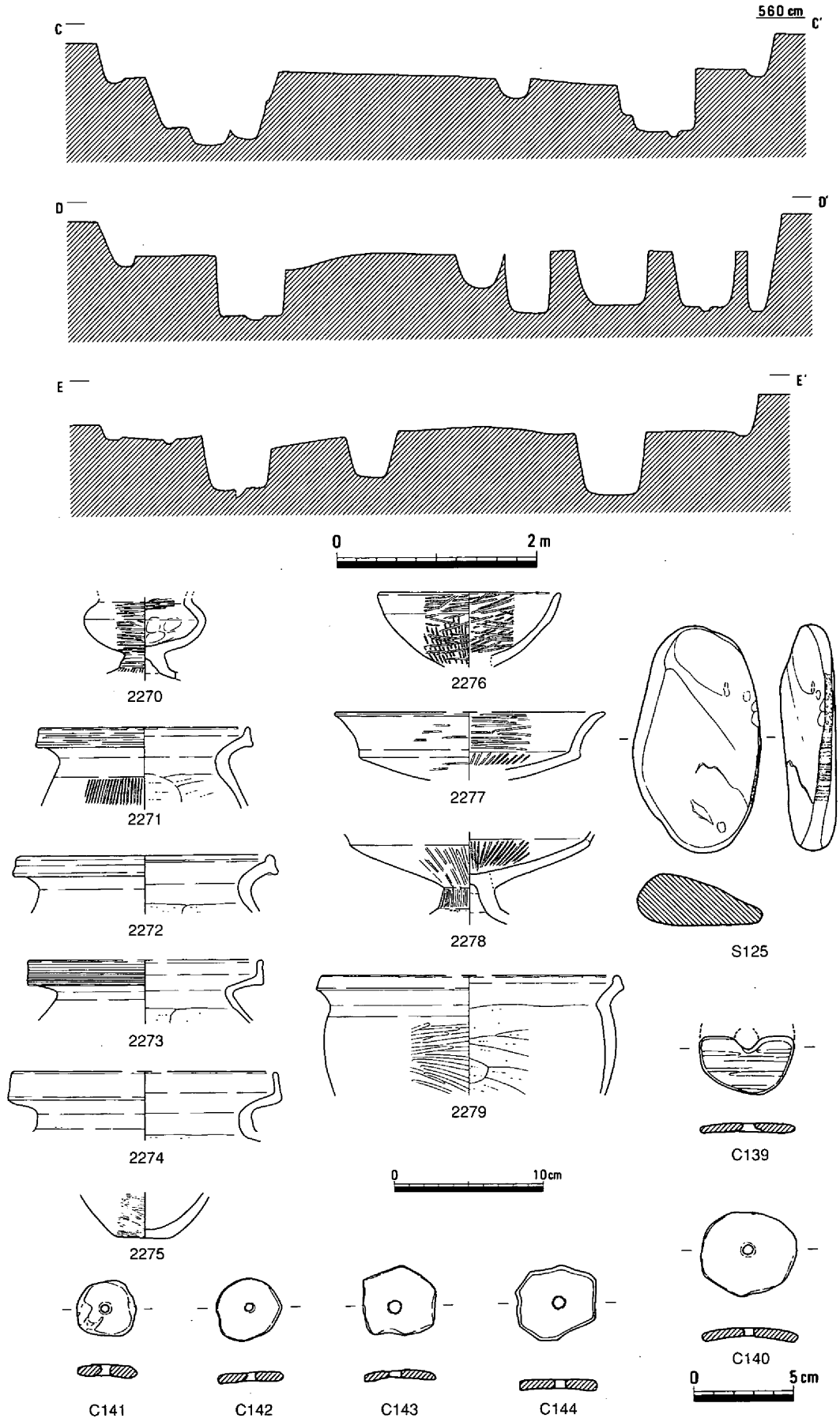
竪穴住居103 (第550・639・640図、図版33・163・166)

Ch6 07区の南西に位置し、後述の竪穴住居104を切って検出された平面円形の住居である。住居は数度の拡張建て替えがなされ、主柱もP7～11の5本からP1～6の6本に増え、最終的な住居の平面規模は径約6.8m、床面積約33m<sup>2</sup>、床面の標高5.07mを測る。柱穴配置から竪穴住居の主軸はほぼ南北方向を向き、最終の主柱位置はいずれも壁から内側約1mに掘り込まれていた。中央穴は掘り返



- |                 |                 |               |              |
|-----------------|-----------------|---------------|--------------|
| 1 暗茶褐色粘質土       | 7 黄色粘質土 (上部に炭層) | 14 暗黄灰色粘質土    | 20 暗茶灰色粘質土   |
| 2 暗茶灰色粘質土       | 8 黄色粘質土 (上部に炭層) | 15 黄褐色粘土 (炭含) | (黄色粘質土塊・炭含)  |
| 3 暗茶灰色粘質土 (炭多含) | 9 黄色粘質土 (上部に炭層) | 16 灰黄色粘質砂     | 21 暗茶灰色粘質土   |
| 4 炭層            | 10 暗茶灰色粘質土      | 17 黄灰色粘質砂     | 22 炭層        |
| 5 黄褐色粘質土 (炭含)   | 11 暗茶灰色粘質土      | 18 茶褐色粘質土     | 23 暗茶灰色粘質土   |
| 6 黄色粘質土         | 12 黄褐色粘質土 (炭含)  | (黄褐色粘質土含)     | 24 黄色粘土塊・炭互層 |
| (上部に炭層)         | 13 黄褐色粘質土 (炭僅含) | 19 茶褐色粘質砂     |              |

第639図 竪穴住居103 (1/60)

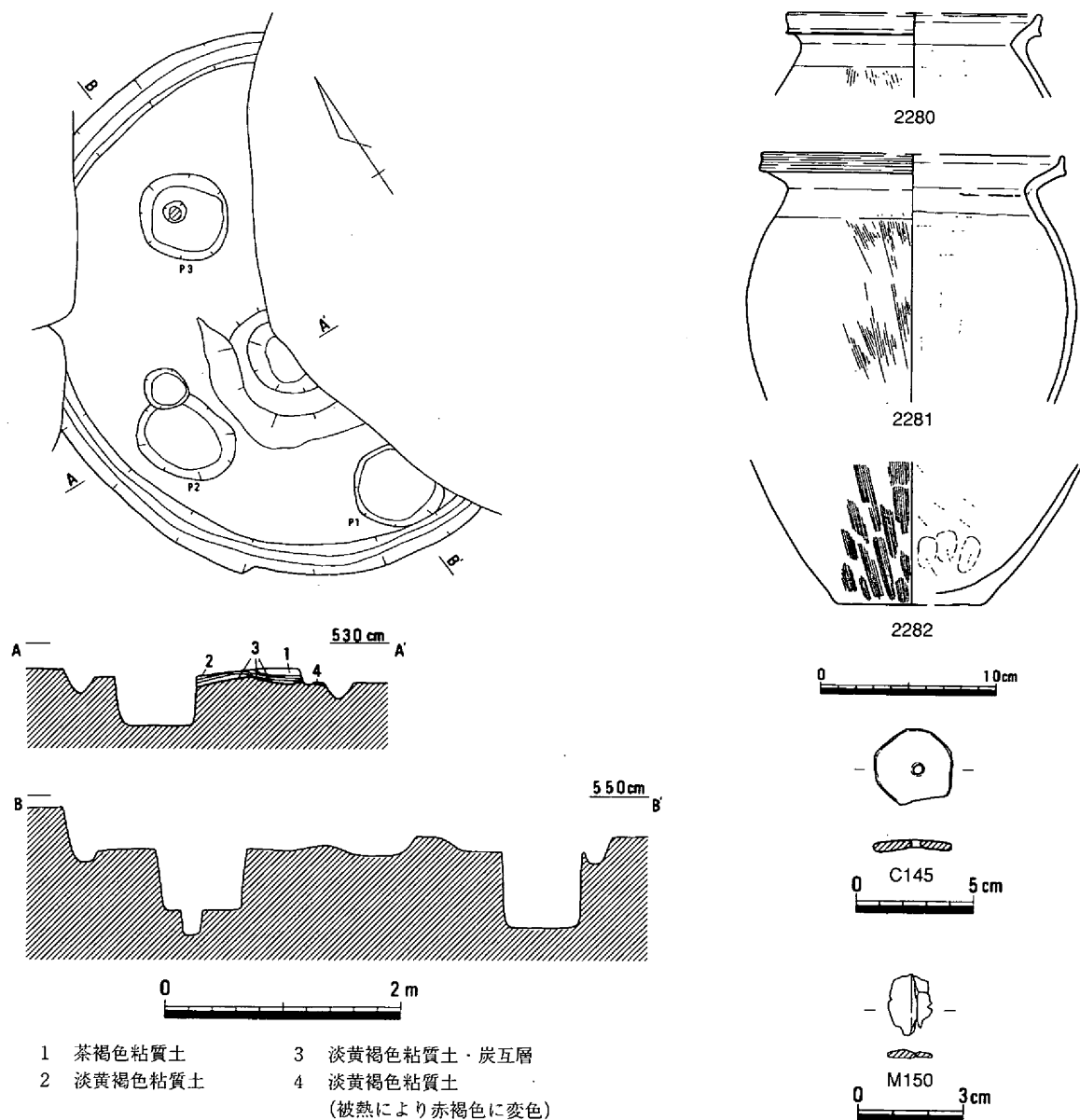


第640図 竪穴住居103断面(1/60)・出土遺物(1/4,1/3)

しが確認された炭および粘質土塊の互層で、特に被熱部分は認められなかった。遺物は主に覆土から出土しており、紡錘車C139~144はいずれも土器を再利用しており、径は30~47mmを測る。S125は流紋岩の円礫を利用した叩き石と思われるもので側面に敲打痕跡が認められる。長さ約125mm、幅64mm、重量約240gを測る。土器類は台付直口壺2270をはじめ、甕2271~2275、高杯2276~2278、鉢2279などが出土しており、これら遺物は弥・後・Ⅲの特徴を示す。(江見)

竪穴住居104 (第550・641図)

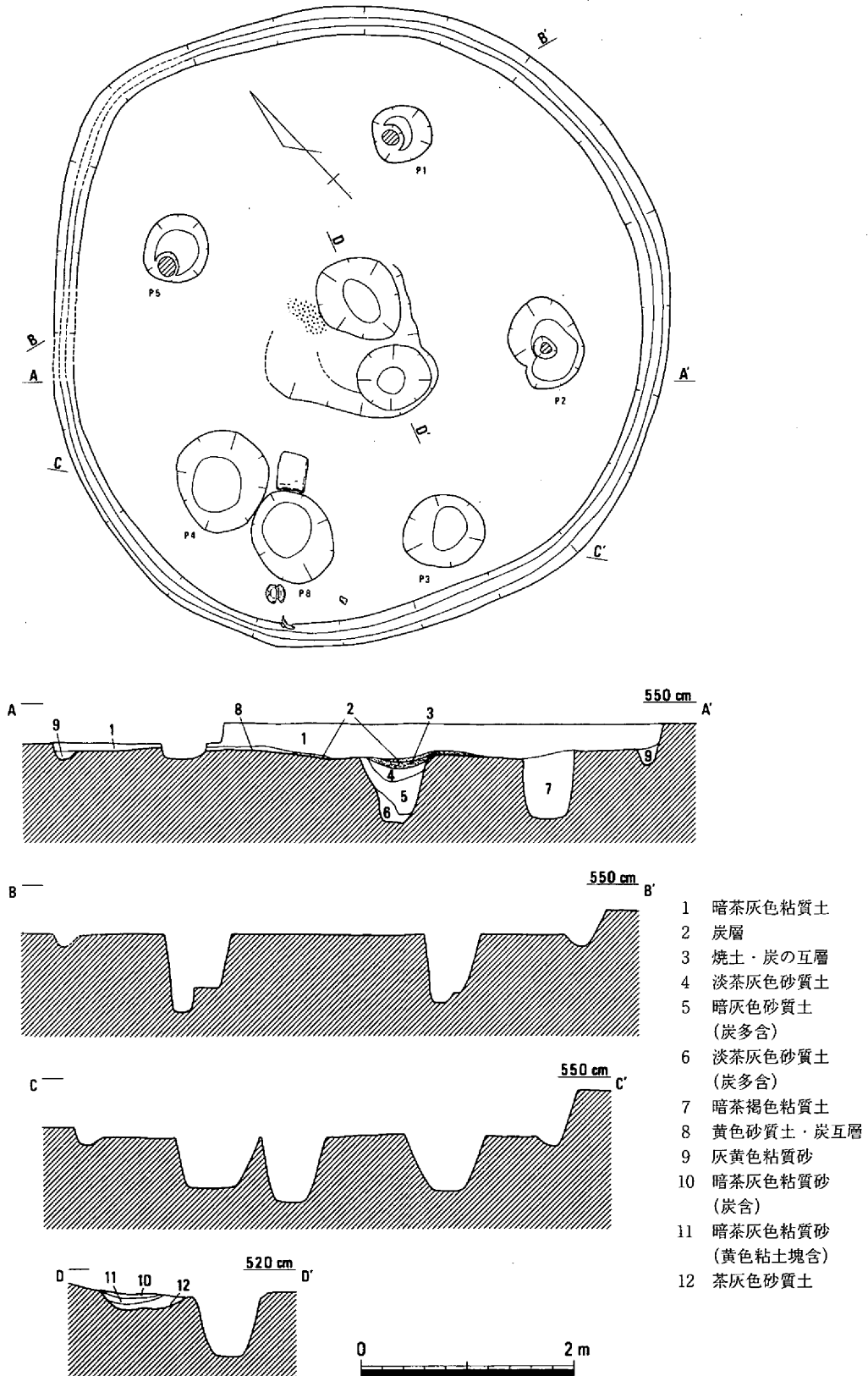
竪穴住居103の西に位置し、住居の東部をこれによって削平を受け、北西部を方形土壇によって切られて検出された平面円形を呈す住居である。径約4.5mを測る。主柱は4本からなると思われるが、P2および3の2本を確認したのみである。中央穴の周囲には断面蒲鉾状の低い土手が巡らされ、特に南西側に顕著であった。遺物は甕2280~2282および紡錘車C145が覆土から、銅鏃M150が住居北部床面から出土している。土器の特徴から弥・後・Ⅲに廃絶した住居と考えられる。(江見)



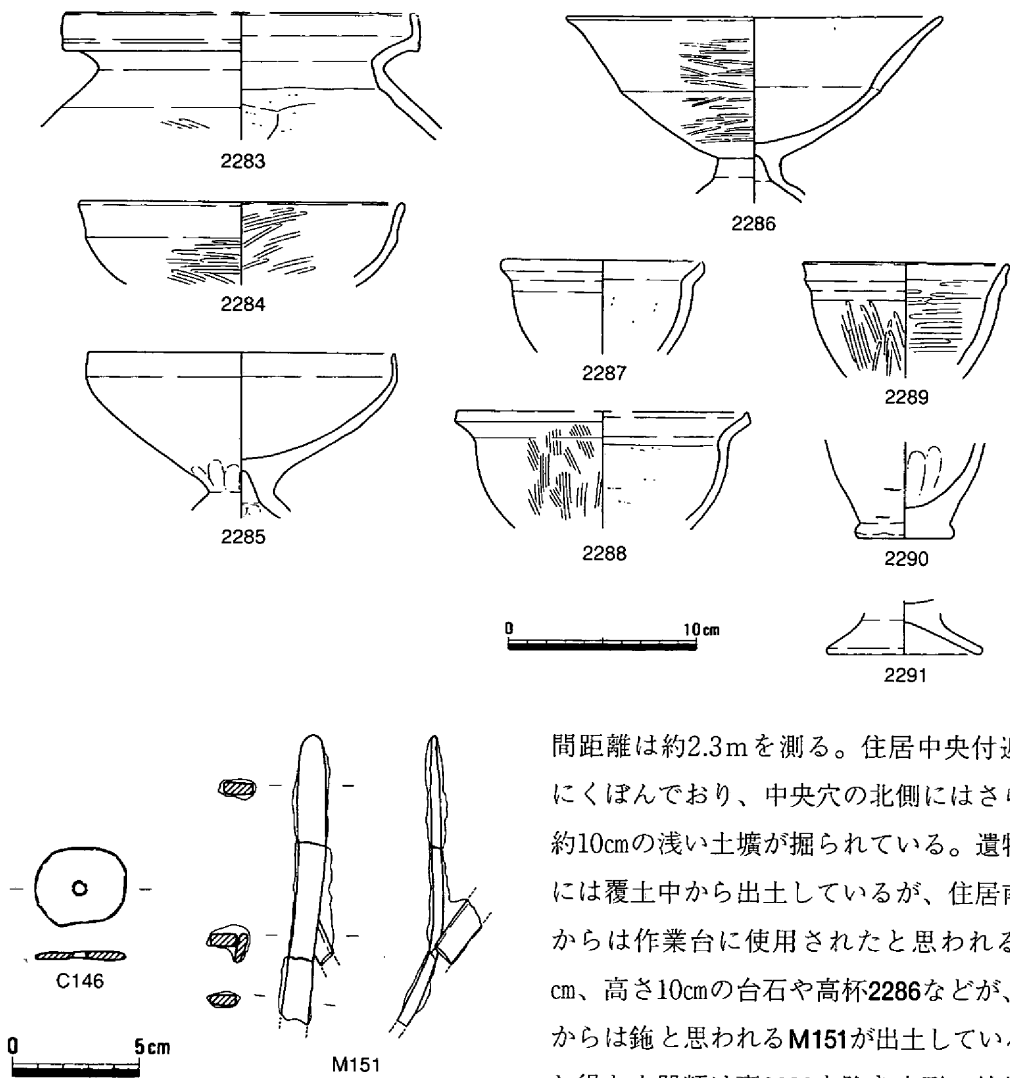
第641図 竪穴住居104 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3,1/2)

竪穴住居105 (第550・642・643図、図版34・114・166・169)

竪穴住居104の北数mに位置し、袋状土壇100を切り、方形土壇92に一部切られて検出された平面円形の住居である。規模は径約6.1m、床面積約26.5㎡を測る。支柱はP1～5の5本からなり、柱穴



第642図 竪穴住居105 (1/60)



第643図 竪穴住居105出土遺物 (1/4,1/3)

間距離は約2.3mを測る。住居中央付近は全体にくぼんでおり、中央穴の北側にはさらに深さ約10cmの浅い土壌が掘られている。遺物はおもには覆土中から出土しているが、住居南部床面からは作業台に使用されたとと思われる25×35cm、高さ10cmの台石や高杯2286などが、貼床内からは鉈と思われるM151が出土している。図示し得た土器類は甕2283を除き小形の鉢類2287～2290が多く、これら土器は弥・後・Ⅲ～Ⅳにかけての特徴をもつものである。(江見)

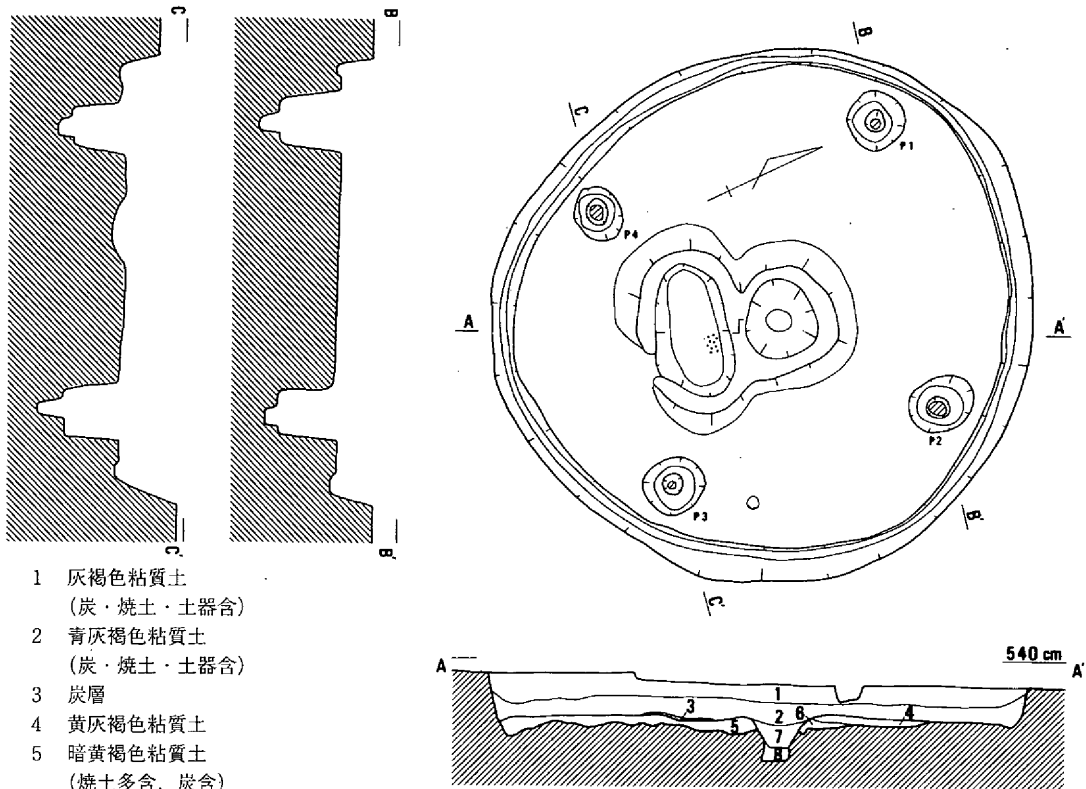
竪穴住居106 (第550・644図、図版34・114)

竪穴住居105の西数mに位置し、後述する竪穴住居108を切って検出された平面円形の小規模な住居である。規模は径約4.3m、床面積約12.6㎡と狭い。主柱は4本からなり、柱穴間距離は2.3m前後で比較的長いが、壁体からの距離はいずれも約50cmと壁に寄っている。中央穴の南部には70×100cm、深さ約5cmの窪地状を呈す部分をもち、北東部に径約20cmの範囲に被熱面が確認された。遺物は床面南東部から小形鉢2296が、ほかは覆土から出土している。長頸壺2297の頸部には20条の沈線が確認され、高杯2294・2295の口縁は外反するなど、土器の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

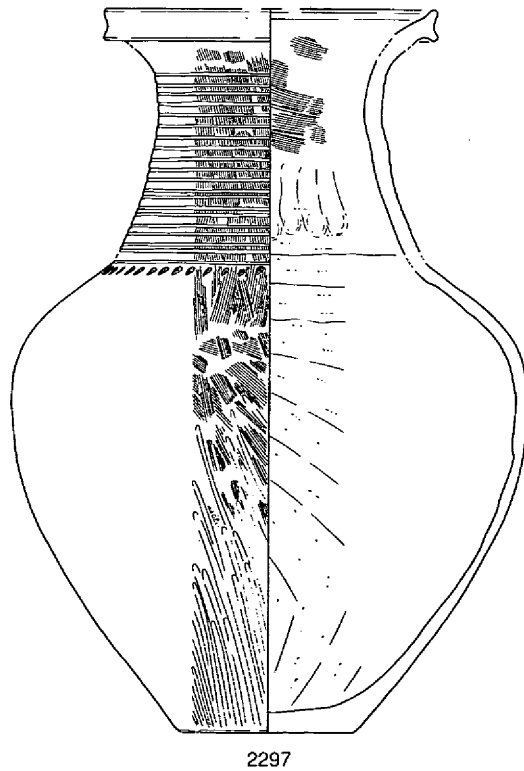
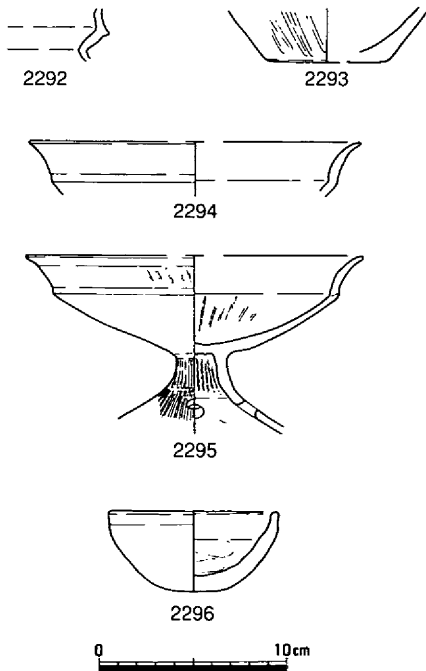
竪穴住居107 (第550・645～648図、図版34・114・163)

竪穴住居106の南数mに位置し、方形土壌123の南部を切って検出された平面不整形の住居で、4方に低いベッドが巡る。規模は径約5.6m、床面積23㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴間は西側のP3～4間が約2mと狭いが、ほかは2.5mを越す距離を測る。床面中央部は180×200cmの方形にわずかに低く、その中央南部には径約30cm、深さ45cmの中央穴が穿たれていた。また、中央穴の東約



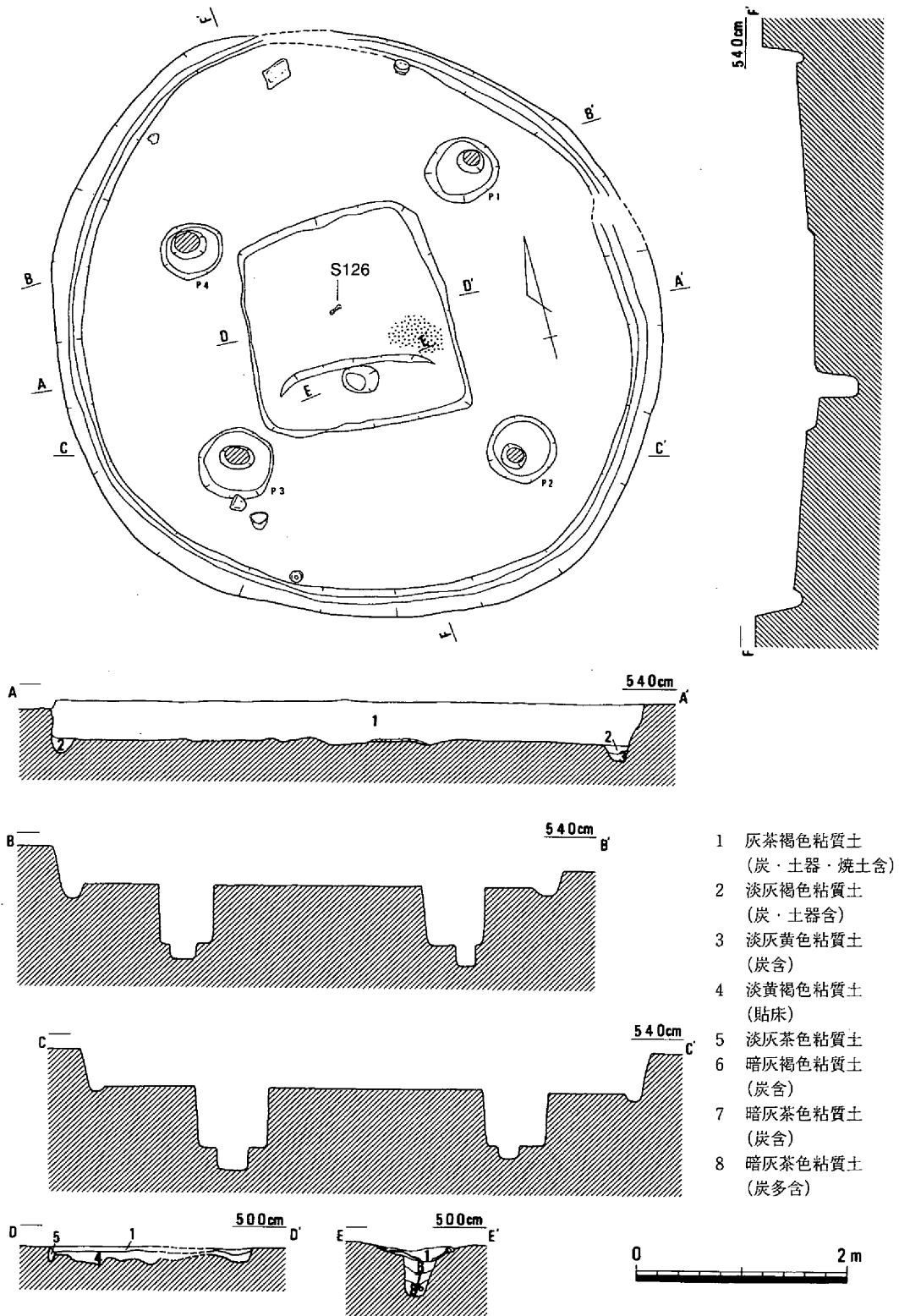


- 1 灰褐色粘質土  
(炭・焼土・土器含)
- 2 青灰褐色粘質土  
(炭・焼土・土器含)
- 3 炭層
- 4 黄灰褐色粘質土
- 5 暗黄褐色粘質土  
(焼土多含, 炭含)
- 6 褐灰色粘質土  
(炭含)
- 7 暗褐灰色粘質土  
(炭・焼土・土器含, 上部に炭層)
- 8 暗灰茶褐色粘質土  
(焼土含, 炭多含)

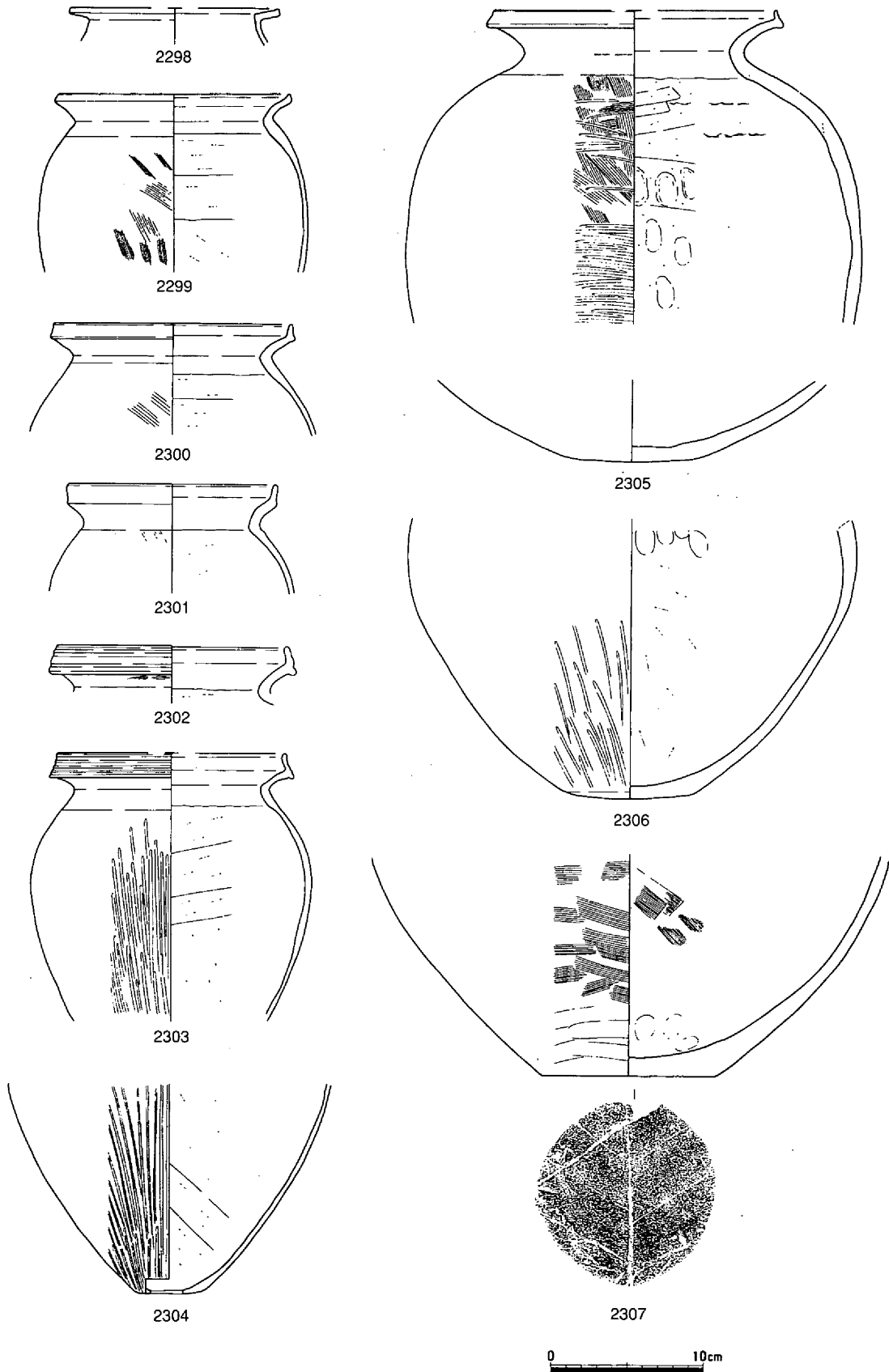


第644図 竪穴住居106 (1/60)・出土遺物 (1/4)

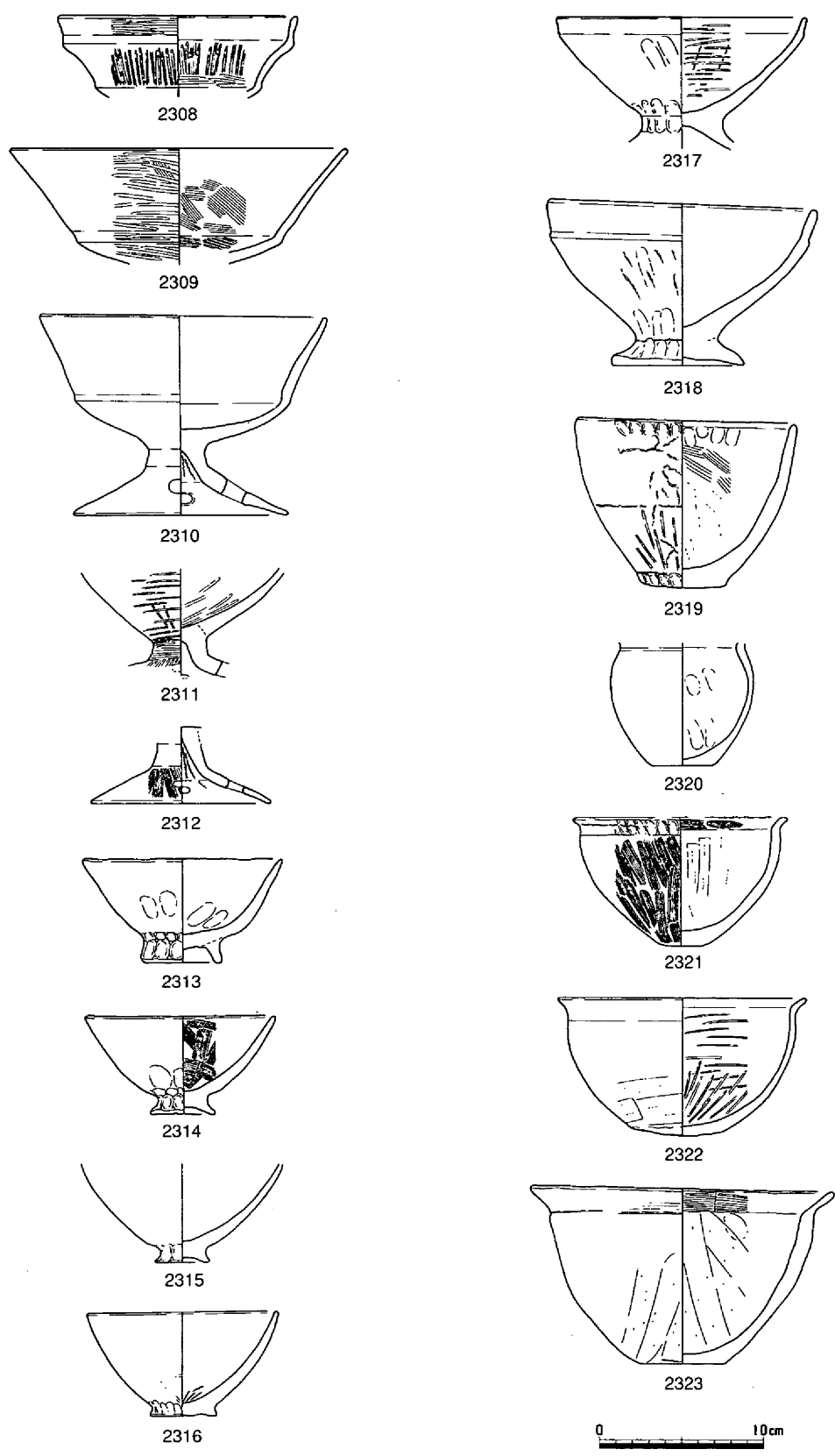
70cmから径約30cmの被熱面が検出されている。遺物は図示した以外に覆土下層および床面の各所から出土しており、特に住居西側北部から高杯2310、南部から鉢2318・2319など、小形ながら完形遺物の出土が目立った。また、北部床面からは作業台として使用されたと思われる台石が、また、中央からは4面使用の砥石S126が出土している。土器は壺の可能性のあるものも一部含むが、多くを鉢類が



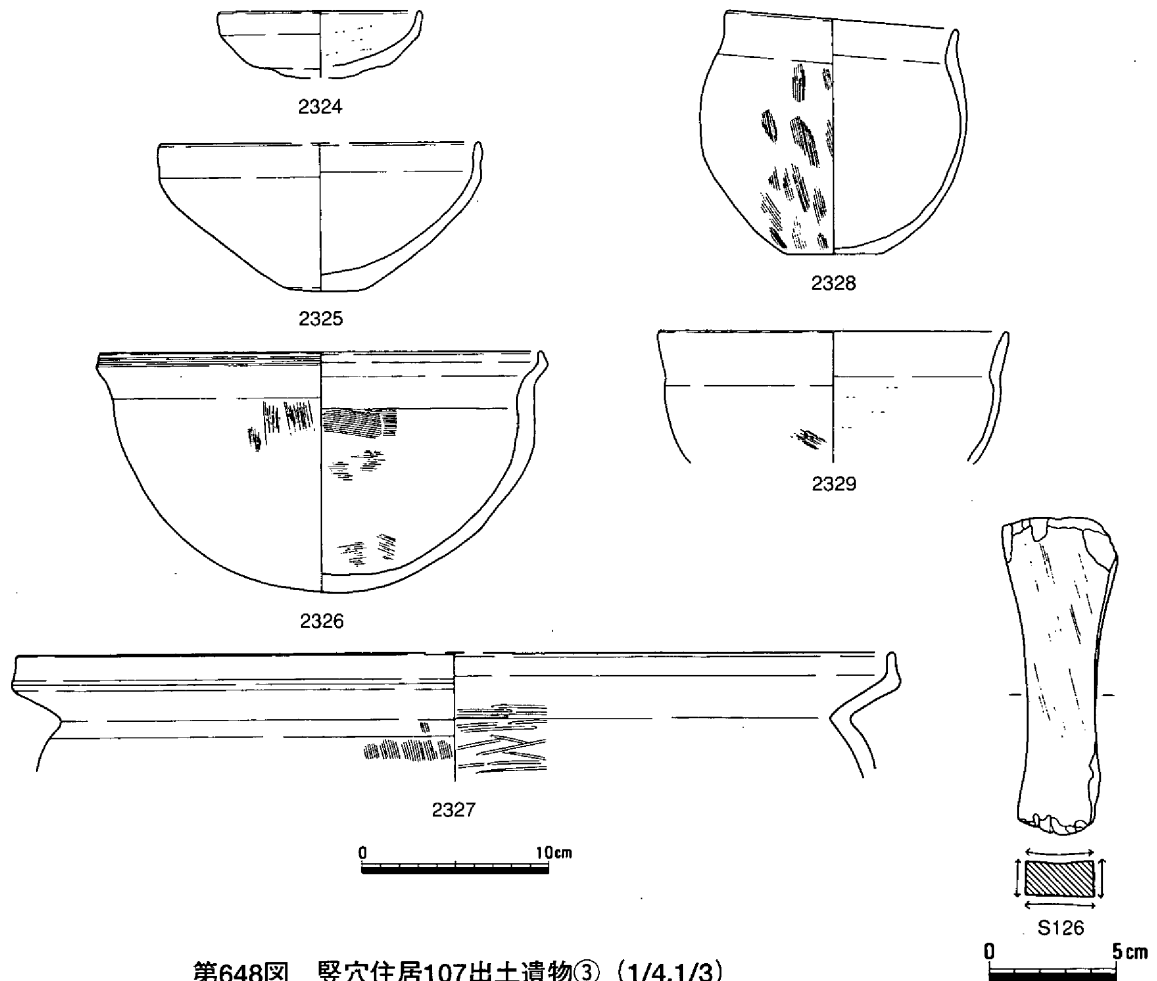
第645図 竪穴住居107 (1/60)



第646図 竪穴住居107出土遺物① (1/4)



第647図 豎穴住居107出土遺物② (1/4)

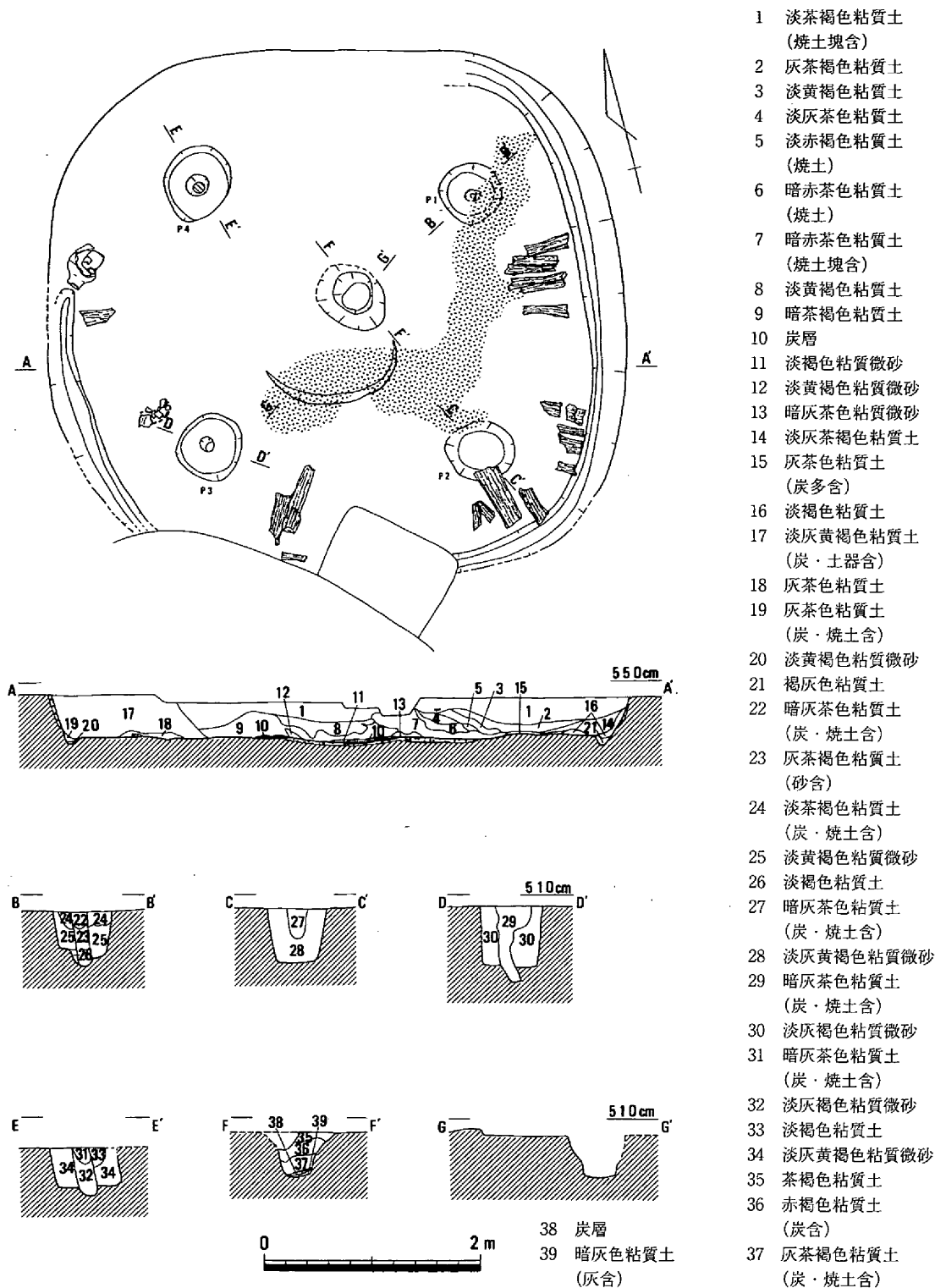


第648図 竪穴住居107出土遺物③ (1/4,1/3)

占めた。甕は口縁部が拡張し凹線が施される2303をはじめ、讃岐からの搬入と思われる2298、地域不明の甕2305～2308、高杯は二段に外反する口縁をもつ2308や斜め外方に直線的に延びる口縁の2309・2310などがある。鉢は台付の2313～2318、口縁が短く外反する2321～2323や2324～2329など比較的小形のものが多い。以上、当住居は覆土および床面の状況から火災を受けたためか、弥・後・Ⅳに遺物放棄のまま埋没したものと判断される。(江見)

#### 竪穴住居108 (第550・649・650図、図版35・114・115)

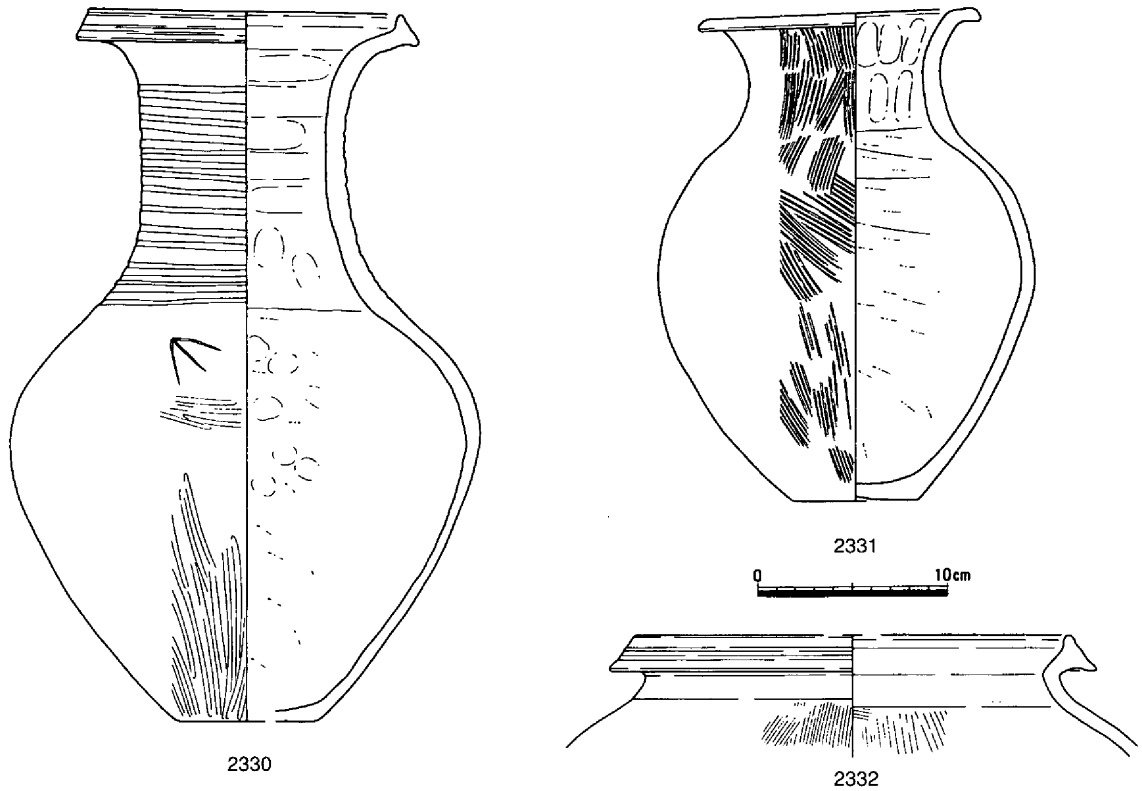
竪穴住居107の北に接する位置にあたり、北西部は竪穴住居106によって削平を受けて検出された。平面隅丸方形を呈し、規模は約5.3×4.9m、床面積約22m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、いずれも住居隅から1m前後の位置に配されていた。柱穴間距離は2.5m前後を測る。また、住居中央南寄りには中央穴に向かってわずかながらくぼみ状の部分が認められ、中央穴には炭および灰が多く堆積していた。いっぽう、覆土には多くの炭および焼土が認められ、壁の大部分および床面南東部一帯には被熱面が広がり、垂木と推定される炭化材が放射線状に検出されるとともに、西北部の壁際からは長頸壺2330が押し潰された状態で出土している。2330は頸部がほぼ直立し、口縁が緩やかに外反する。ほかに口縁端部が水平に引き出された壺2331や内面上部にハケ調整痕を残す甕2332など、土器の特徴から当住居は弥・後・Ⅰに火災を受け焼失した住居と考えられる。(江見)



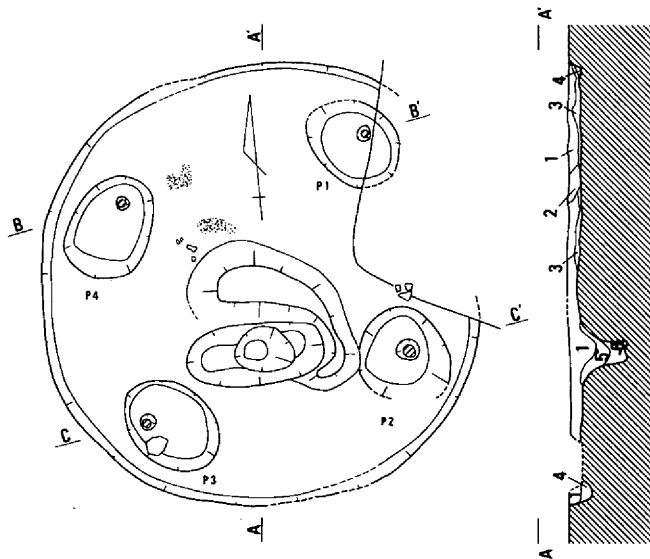
第649図 竪穴住居108 (1/60)

竪穴住居109 (第550・651図、図版35)

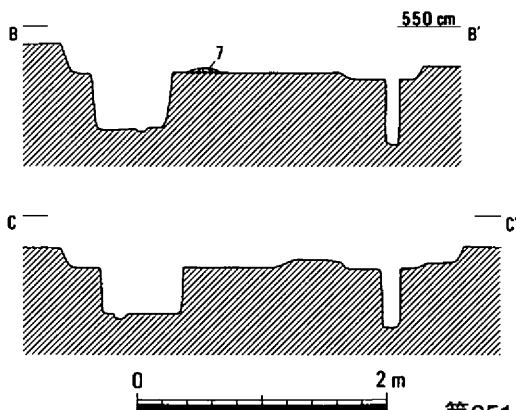
Ch 6 05区の南東隅に位置し、住居の東部を古墳時代竪穴住居160に、南部を方形土壇に切られて検出された。平面円形を呈し、規模は径約3.6m、床面積約9㎡の小規模な住居である。主柱は4本からなり、いずれも柱痕跡が明瞭に残る。柱穴間距離は約2mとやや長く、壁からの距離はいずれも約



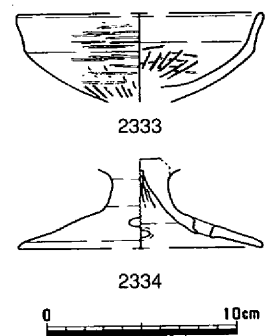
第650図 竪穴住居108出土遺物 (1/4)



50cmと短い。中央穴は床面中央やや南寄りに掘られ、北～東にかけては断面蒲鉾状の緩い帯状の土手が巡る。覆土には炭・焼土が混入し、床面北西部には2か所の被熱面が検出されるなど、当住居は焼失廃棄されたと思われる。遺物は細片が多く、わずかに高杯2333・2334を図示し得るのみであった。遺物は弥・後・Ⅲの特徴をもつ。(江見)



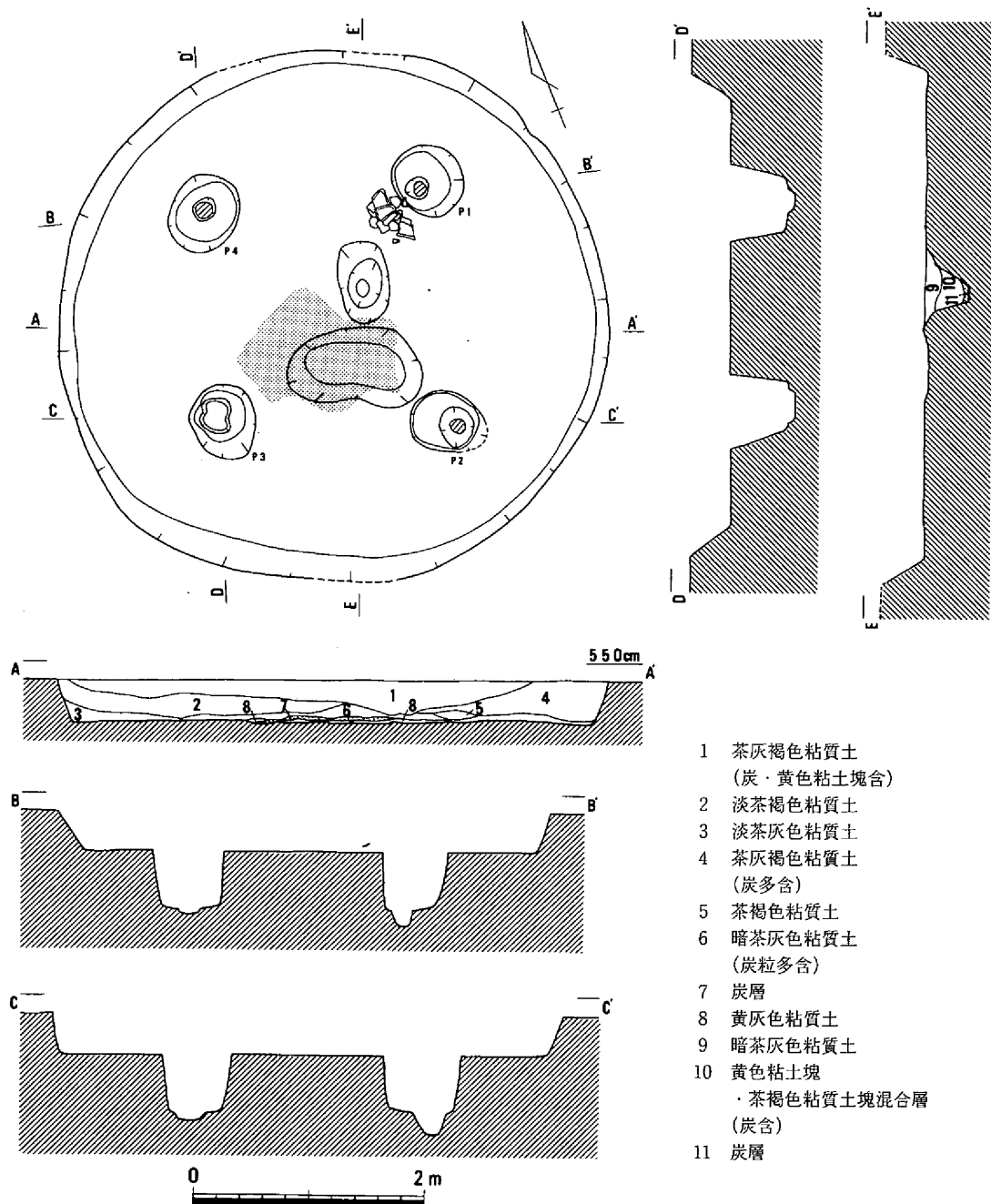
- 1 茶灰褐色粘質土 (炭・焼土含)
- 2 赤褐色粘土
- 3 茶灰色粘質土 (炭多含)
- 4 暗茶灰色粘質土 (炭粒・焼土粒多含)
- 5 炭・暗灰色粘質土混合層
- 6 淡灰褐色粘質土
- 7 焼土



第651図 竪穴住居109 (1/60)・出土遺物 (1/4)

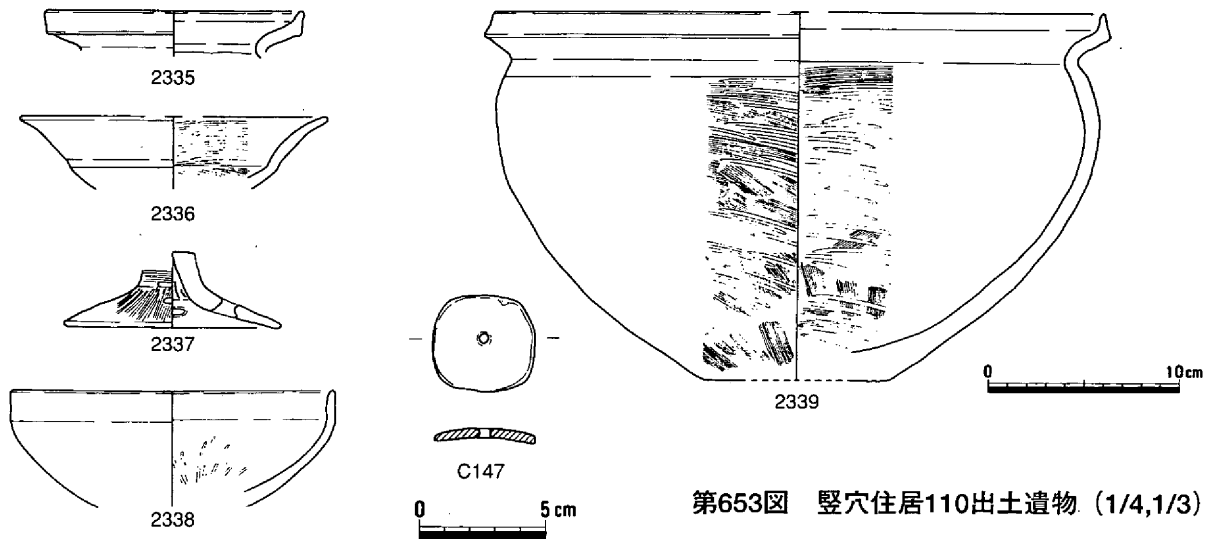
竪穴住居110 (第550・652・653図、図版35・115・166)

竪穴住居107の南数mに位置する平面円形の住居で、上部を古墳時代の掘立柱建物54および竪穴住居161・162に切られ、方形土壇127を切って検出された。規模は径約4.7m、床面積15.4m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴間距離は2m前後、壁から約1mを測る。中央穴は床面中央北東寄りに穿たれ、その南部からは東西約1.2m、南北約60cmの楕円形の浅い土壇が検出され、一帯には厚さ数cmの炭層が堆積していた。遺物は鉢2339が押し潰された状態で出土したのをはじめ、甕2335、高杯2336・2337、紡錘車C147など、いずれも覆土から出土しており、これら土器の特徴から当住居は弥・後・Ⅲに廃棄されたものと考えられる。(江見)



第652図 竪穴住居110 (1/60)

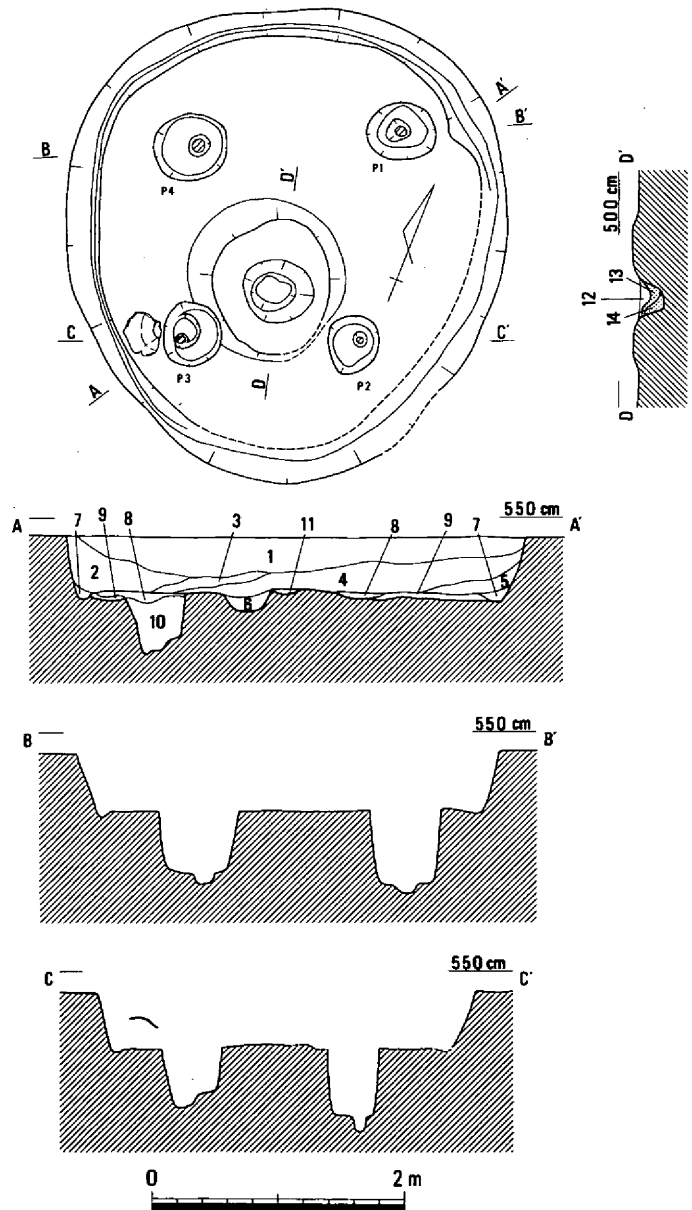




第653図 竪穴住居110出土遺物 (1/4,1/3)

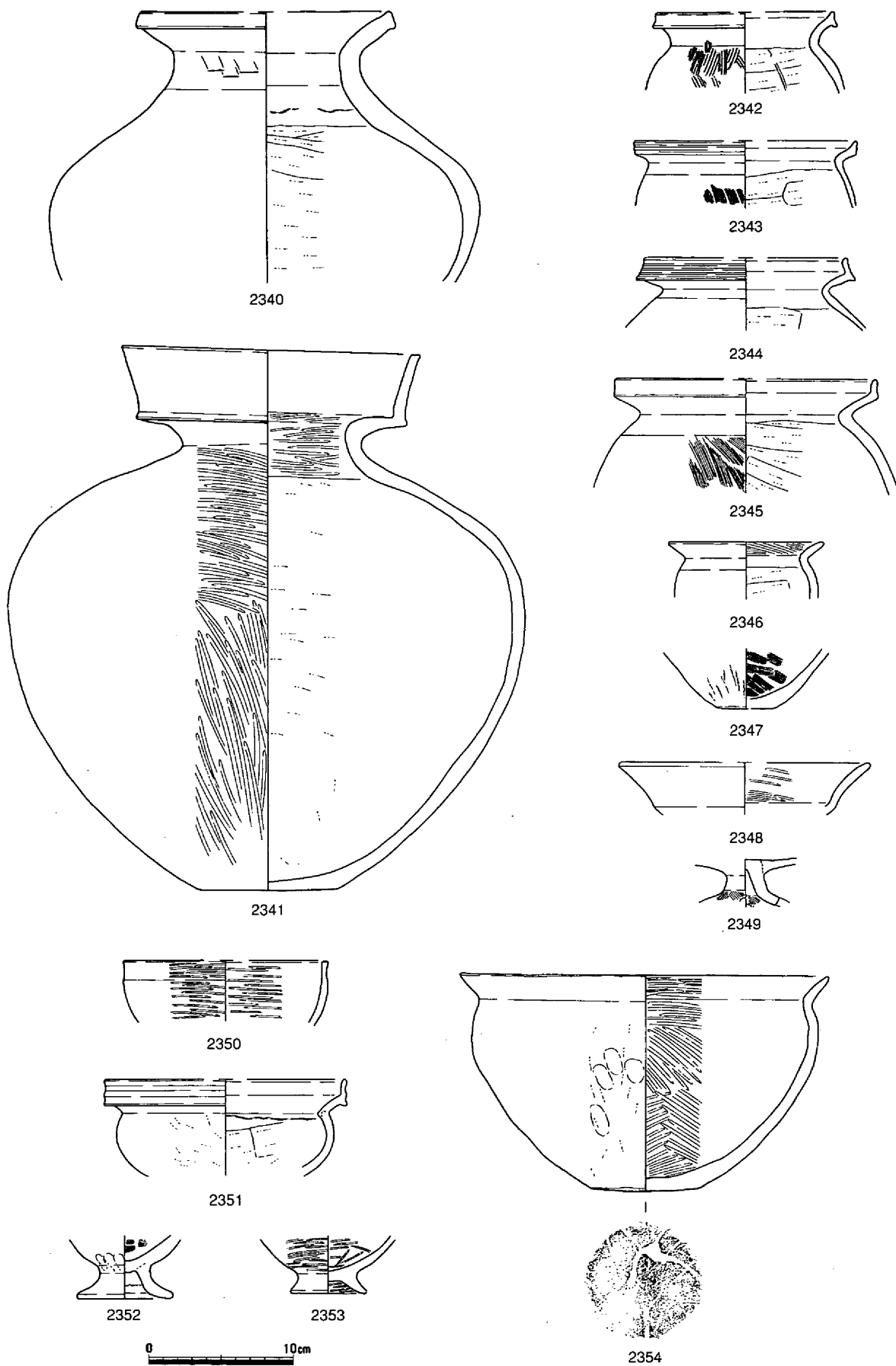
竪穴住居111 (第550・654・655図)

竪穴住居110の南方10mに位置し、後述の竪穴住居112の南端を一部切って検出された平面不整円形で小規模な住居である。規模は径約3.5m、床面積9㎡を測る。支柱は4本からなるが、南東のP2が西に寄り、P2～3間距離が約1.4mとほかの約1.7mと比較して短く、住居全体が歪になっている。床面中央南寄りからは径約50cm、深さ約25cmの中央穴が検出され、その周囲には幅約40cm、高さ数cmの土手状に巡る高まりが確認された。遺物はいずれも覆土から出土しており、特に住居南西部からは反転した状態で検出された壺2341をはじめ、図示し得た大半の遺物はここからまとまって出土した。壺2341の口縁は水平に鋭く外反し、直立



- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 灰茶褐色砂質土<br>(土器・炭・焼土含) | 7 灰褐色砂質土              |
| 2 茶褐色砂質土<br>(炭塊含)       | 8 黄灰茶色粘質土             |
| 3 淡灰茶色粘質土<br>(黄色粘土塊多含)  | 9 暗茶灰色砂質土<br>(貼床)     |
| 4 灰茶色砂質土                | 10 黄茶褐色粘質土            |
| 5 灰茶色砂質土<br>(黄色粘土塊多含)   | 11 黄茶色粘質土             |
| 6 灰褐色粘質土                | 12 灰褐色粘質土             |
|                         | 13 暗茶色炭層<br>(黄色粘土塊多含) |
|                         | 14 暗灰茶色炭層             |

第654図 竪穴住居111 (1/60)

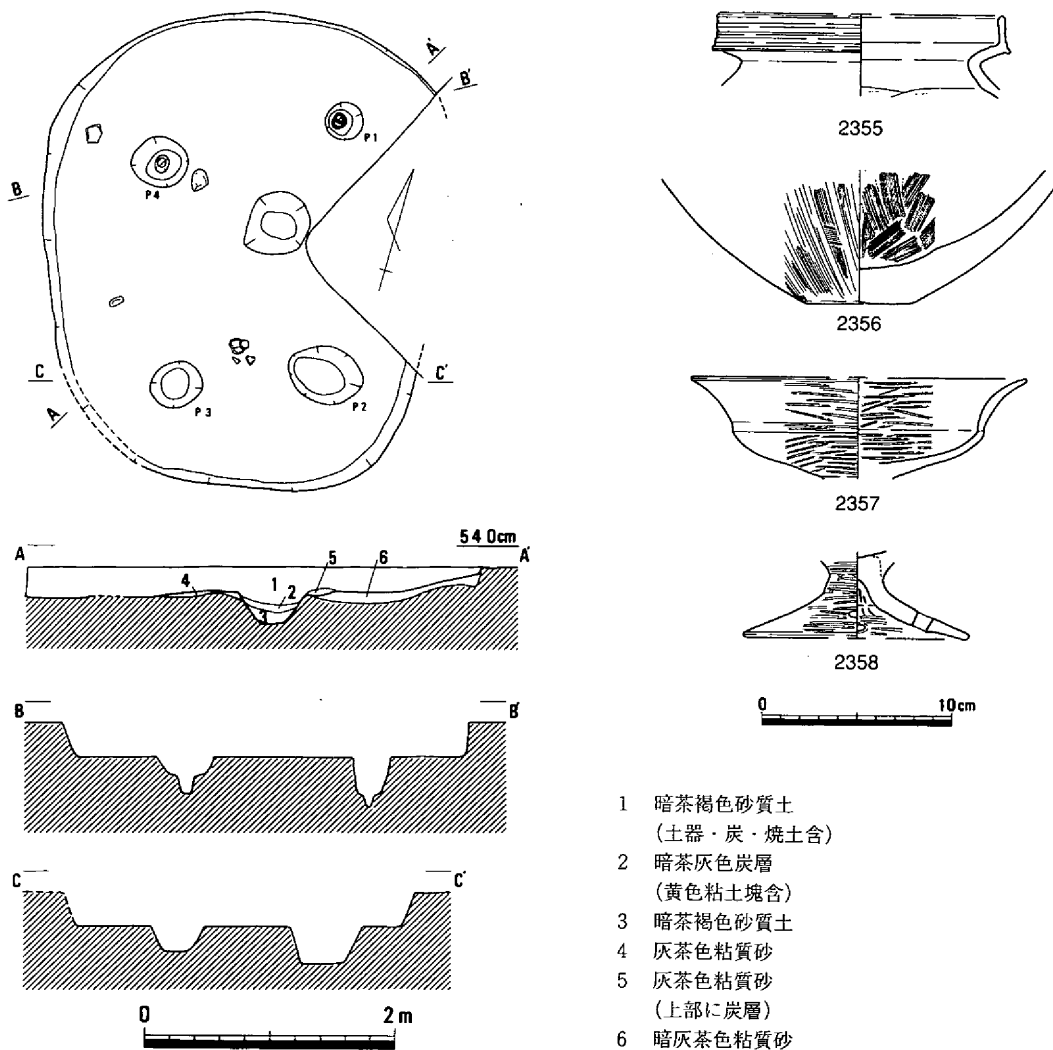


第655図 竪穴住居111出土遺物 (1/4)

気味に大きく立ち上がり、胴部は最大径がやや上位に位置する。甕2344の口縁拡張部は内傾して立ち上がり、高杯2348はわずかながら外反するなど、弥・後・Ⅲ～Ⅳにかけてのものであろう。(江見)

竪穴住居112 (第550・656図、図版36)

竪穴住居111の北に接し、住居東部を方形土壇150に切られ、方形土壇151を切って検出された平面不整楕円形の小規模な住居である。規模は径約3.2×3.8m、床面積約9㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴間距離は東西方向が1.5m前後に対し、南北方向が2m前後とやや長い。中央穴は床面中央北寄りから検出され、その周囲にはわずかながら土手状の高まりも確認されている。住居内からは自然石と思われる円礫数個と土器片2355～2358が出土している。甕2355の直立する口縁拡張部には凹線が巡り、高杯2357の口縁は外反するなど、その特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

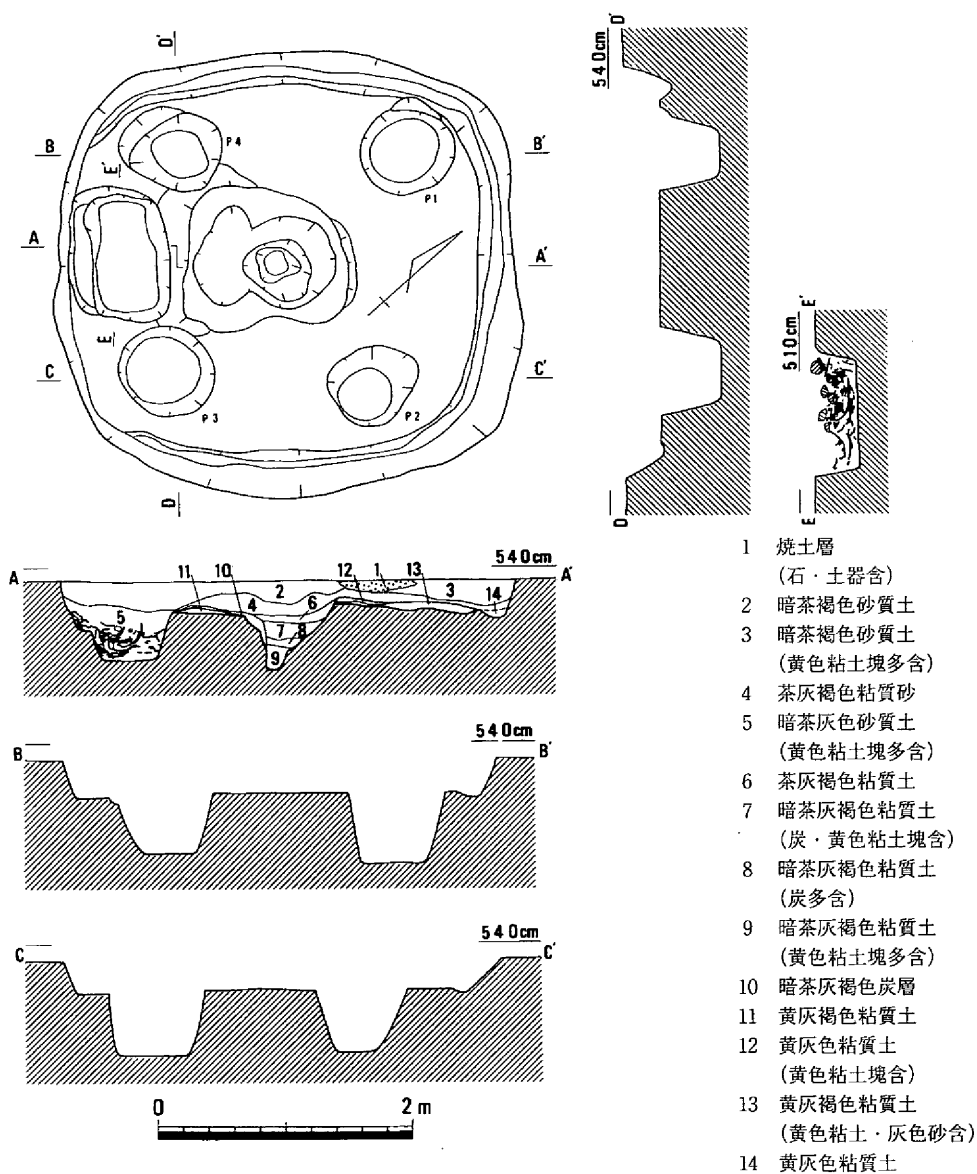


第656図 竪穴住居112 (1/60)・出土遺物 (1/4)

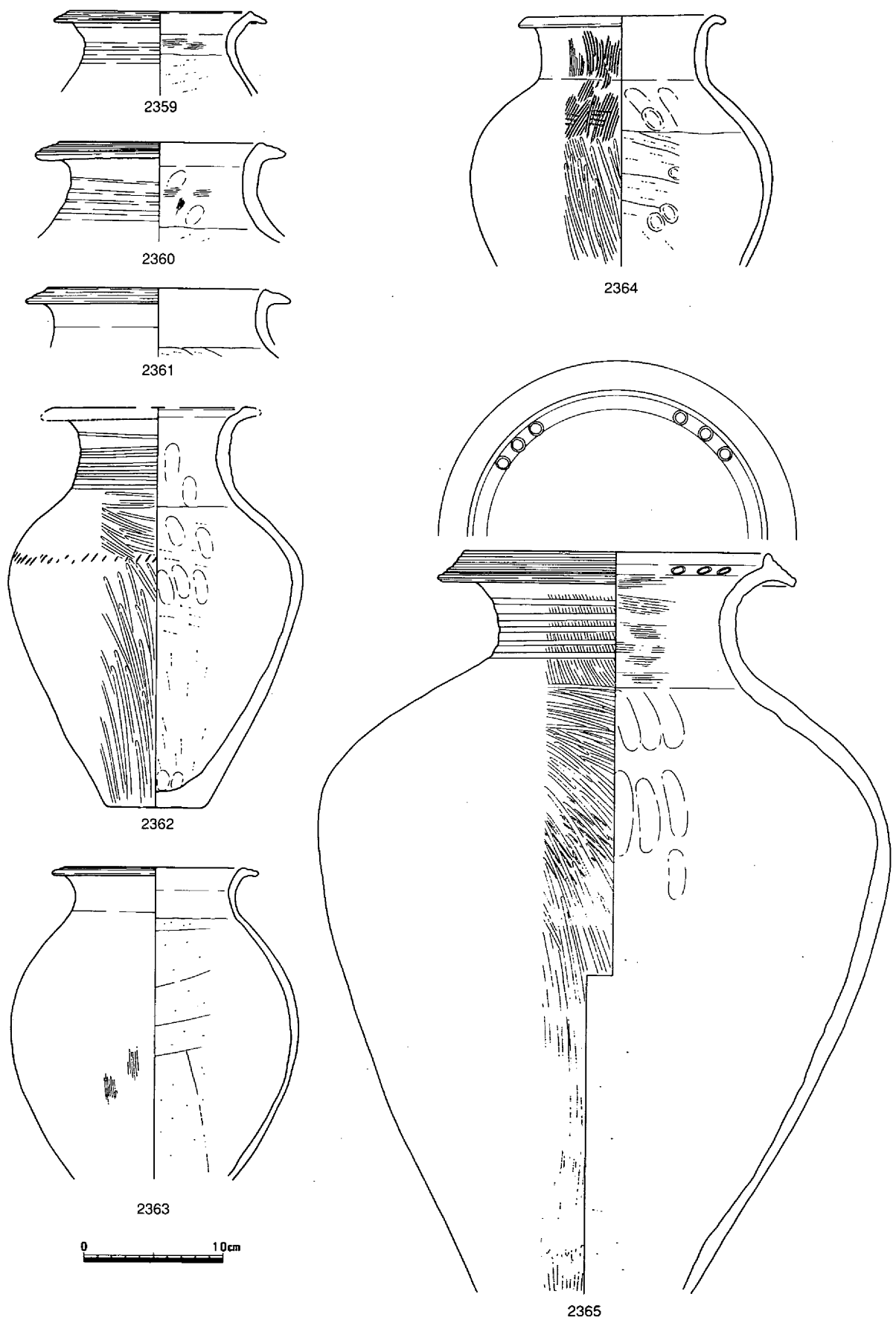
竪穴住居113 (第550・657～661図、図版36・115・116)

竪穴住居112の東方約20m、Cj6 08区から検出された平面隅丸方形の小規模な住居である。規模は一辺約3.5m、床面積9.4㎡を測る。住居の主軸は南北軸に対し45°東へ振っている。主柱は4本からなり、柱穴間距離は約2m、壁の隅から70cm前後を測る。中央穴の周囲には100×130cmの範囲に低い

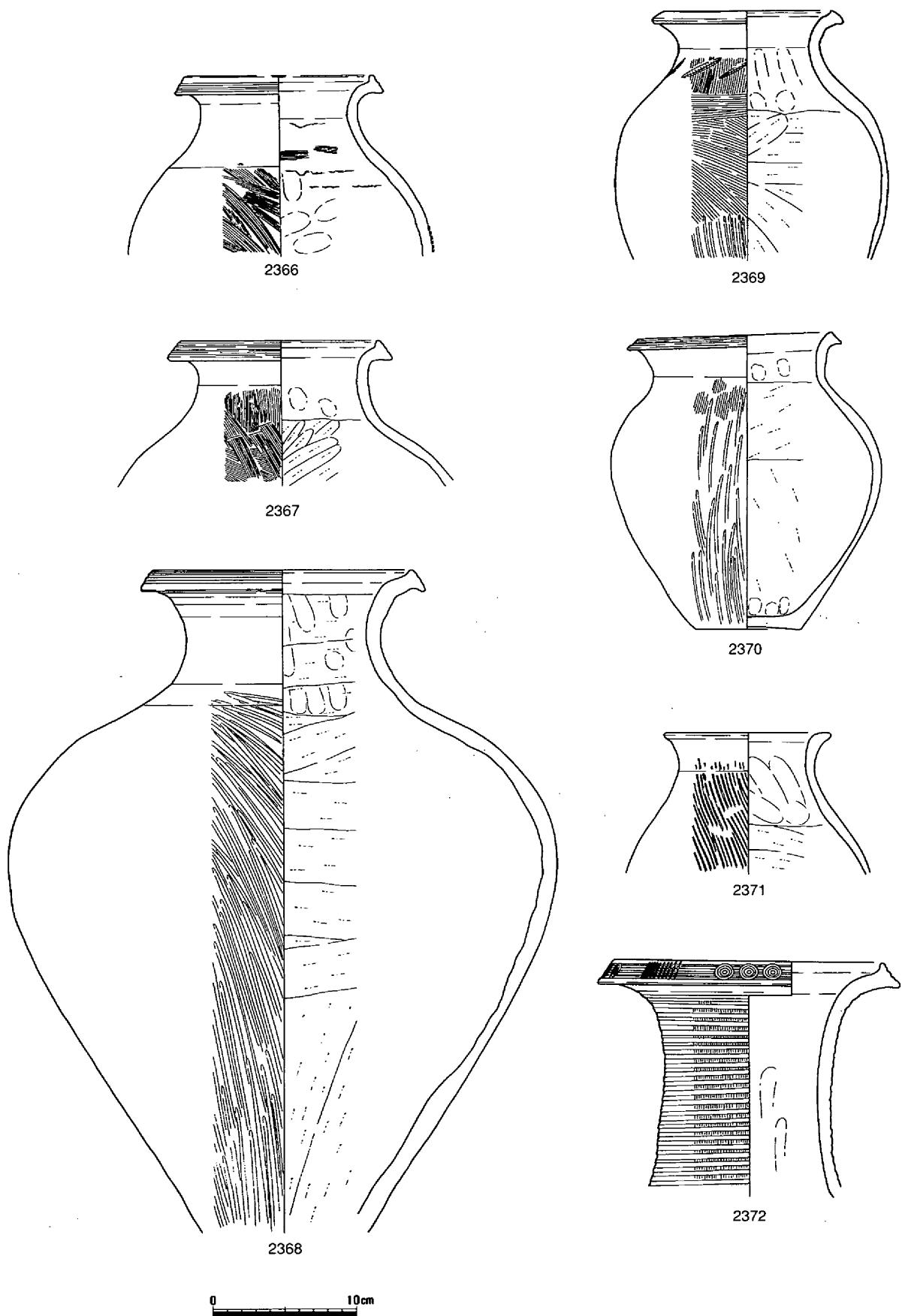
土手状の高まりが巡らされていた。また、住居南部からは南壁に沿って80×110cm、深さ約40cmの貯蔵穴と思われる土窟が検出された。平面は長方形、断面は傾斜をもつもの急で、南辺の途中に段をもつ。土窟からは円礫とともに大量の土器が流れ込むような状態で出土している。遺物は覆土からの出土も見られるが図示した大半はここからのものである。土器は壺2359～2372、甕2373～2381、高杯2382～2387、器台2388～2390、製塩土器2391・2392などである。壺2366～2372・甕2376の口縁部は端部が肥厚し、壺2359～2365・甕2377～2380のそれは外方に引き出されている。壺の胴部は最大径が高く、2365の口縁内面には竹管文が配され、2372には円形および棒状浮文が、2362・2369には胴部に刺突文が巡る。甕2375は内面のヘラケズリが肩部付近で終了しており、また、2375には胴部に刺突文を巡らす。高杯の口縁端部は上面に凹線を巡らし、脚部はヘラおよびクシ状工具による施文がなされている。器台は筒部が長く、円・方の透かしをもつ。以上、全体的には古い様相を残すものが多いものの弥・後・Iの特徴を示しており、当住居はこの期に廃絶したものと考えられる。(江見)



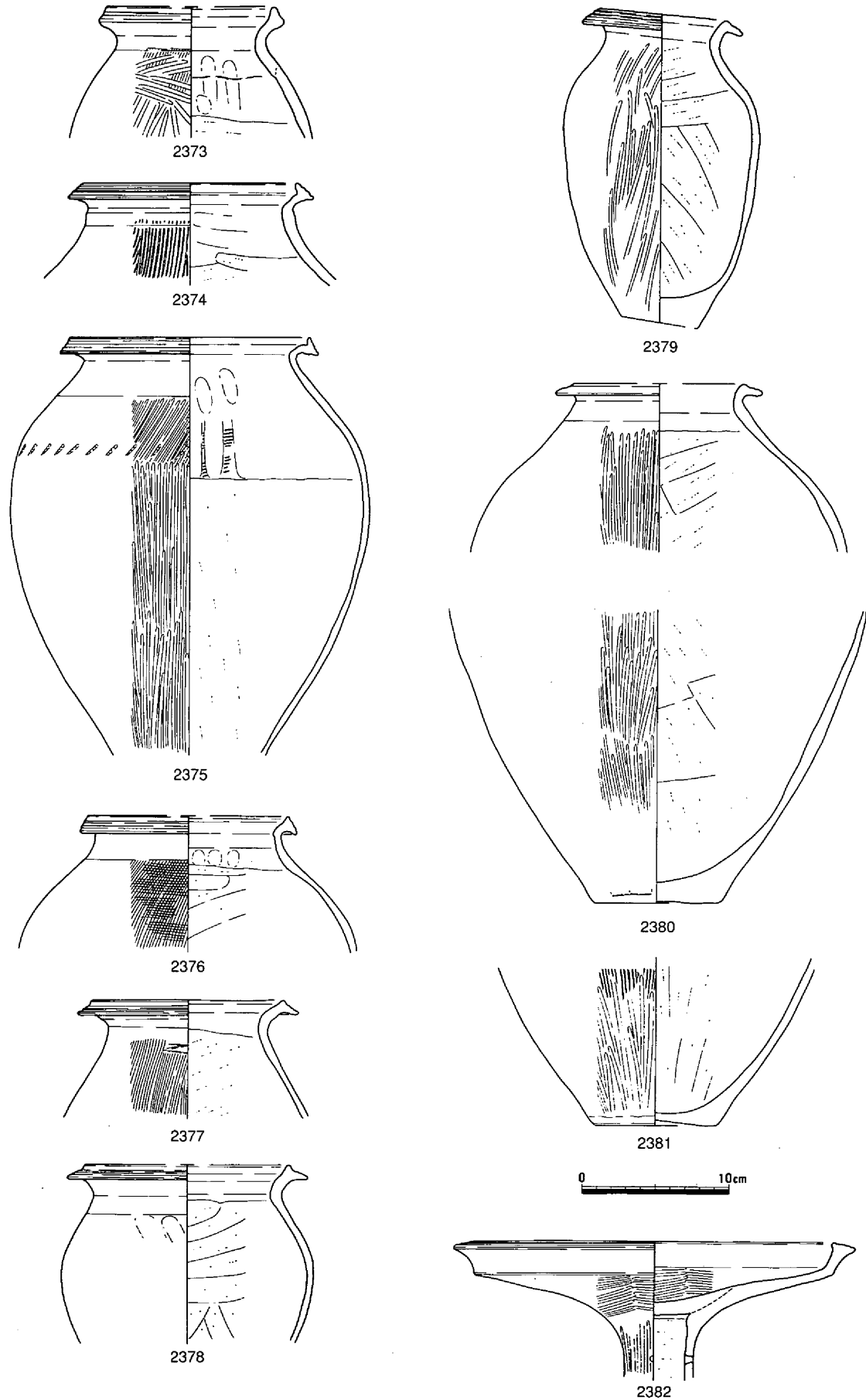
第657図 竪穴住居113 (1/60)



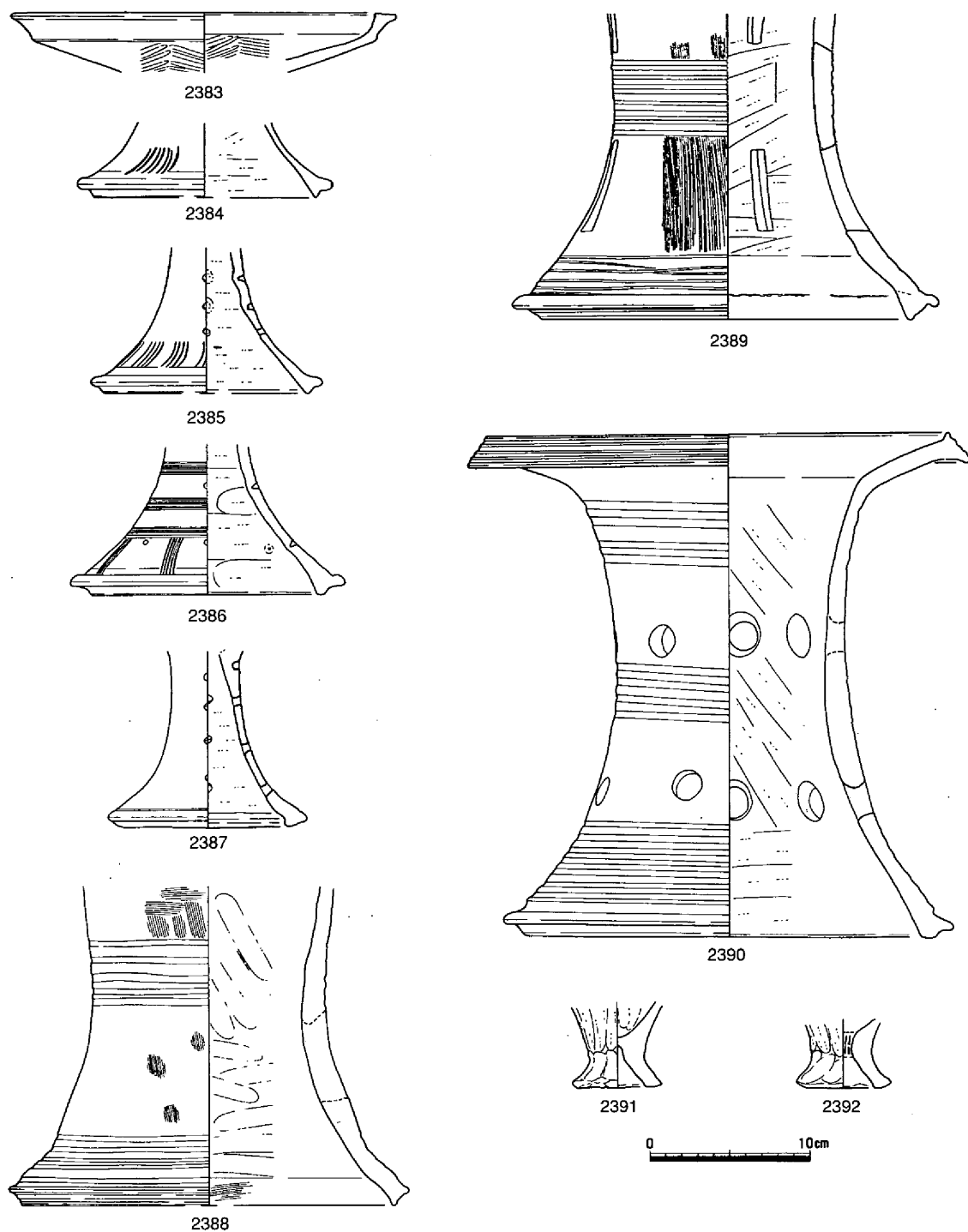
第658図 豎穴住居113出土遺物① (1/4)



第659図 竪穴住居113出土遺物② (1/4)



第660図 竪穴住居113出土遺物③ (1/4)

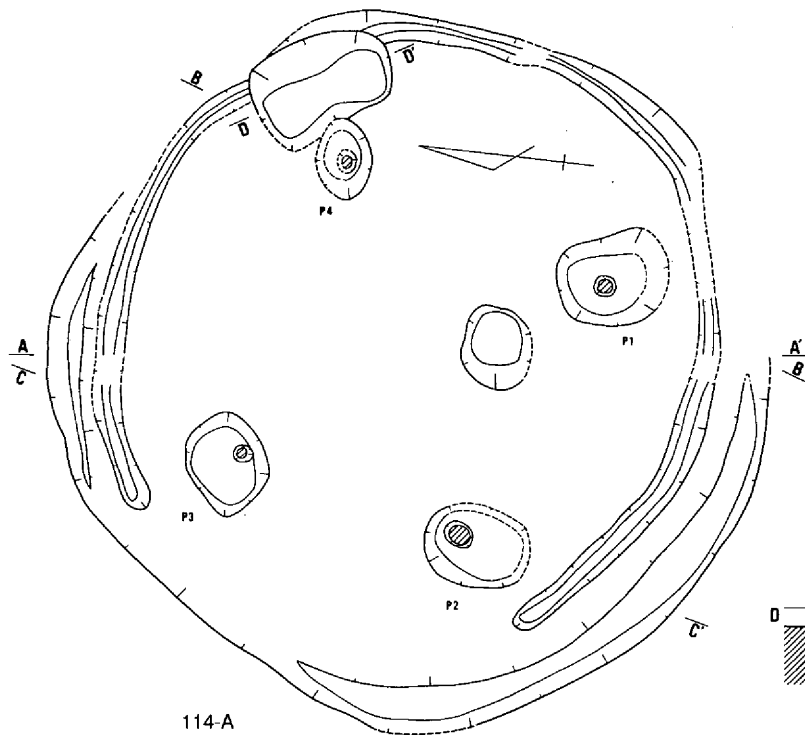


第661図 竪穴住居113出土遺物④ (1/4)

竪穴住居114A・B (第550・662~665図、図版37・116・163・168)

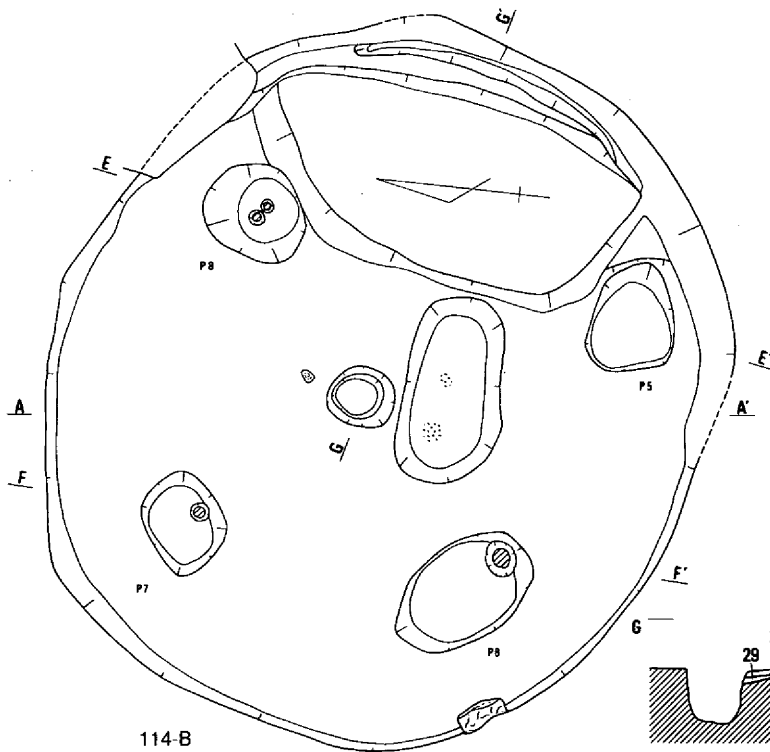
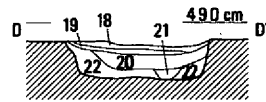
竪穴住居113の西約10mに位置する平面円形の住居で、ベッドをもつ住居(B)に建て替えのなされたものである。A・Bいずれも主柱は4本からなり、床面積においても約22㎡前後を測り、建て替えは拡張を目的としたものではないように思われた。施設配置はAでは中央穴が床面中央の南東寄りに位置し、北東からは貯蔵穴の可能性を考える長方形土壇が検出されている。いっぽう、Bの中央穴は床面のほぼ中央に位置し、その南部からは楕円形を呈す浅い土壇が検出され、2か所に被熱面が確認された。また、住居東部にはP5および8の間、ほぼ南北方向に平面台形状に一段高いベッドが設





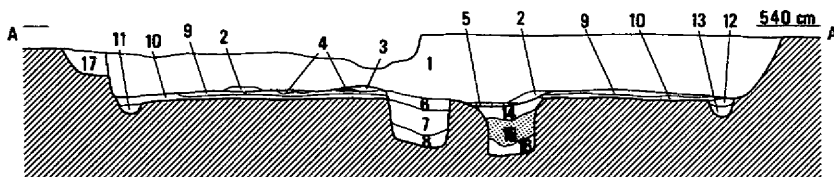
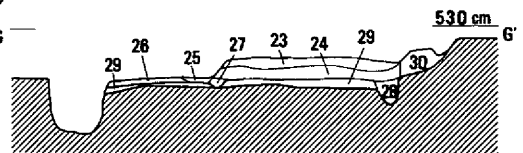
114-A

- 1 暗茶灰色粘質砂 (炭含)
- 2 暗茶灰色粘質砂 (黄色粘質土塊含)
- 3 暗茶灰色粘質砂 (炭・焼土含)
- 4 淡黄灰色粘質土 (貼床)
- 5 炭層
- 6 暗茶褐色粘質土 (炭・焼土含)
- 7 暗灰茶褐色粘質土 (炭・焼土含)
- 8 黄褐色粘質土 (炭含)
- 9 暗茶褐色粘質土 (炭・焼土含)
- 10 淡黄灰色粘質土 (貼床)
- 11 淡茶褐色粘質土
- 12 茶褐色粘質土
- 13 褐色粘質土
- 14 淡茶褐色粘質微砂 (炭含)
- 15 暗褐色粘質土 (炭層)
- 16 淡灰黄色粘質微砂
- 17 暗茶褐色粘質砂
- 18 灰茶褐色粘質土 (炭含)

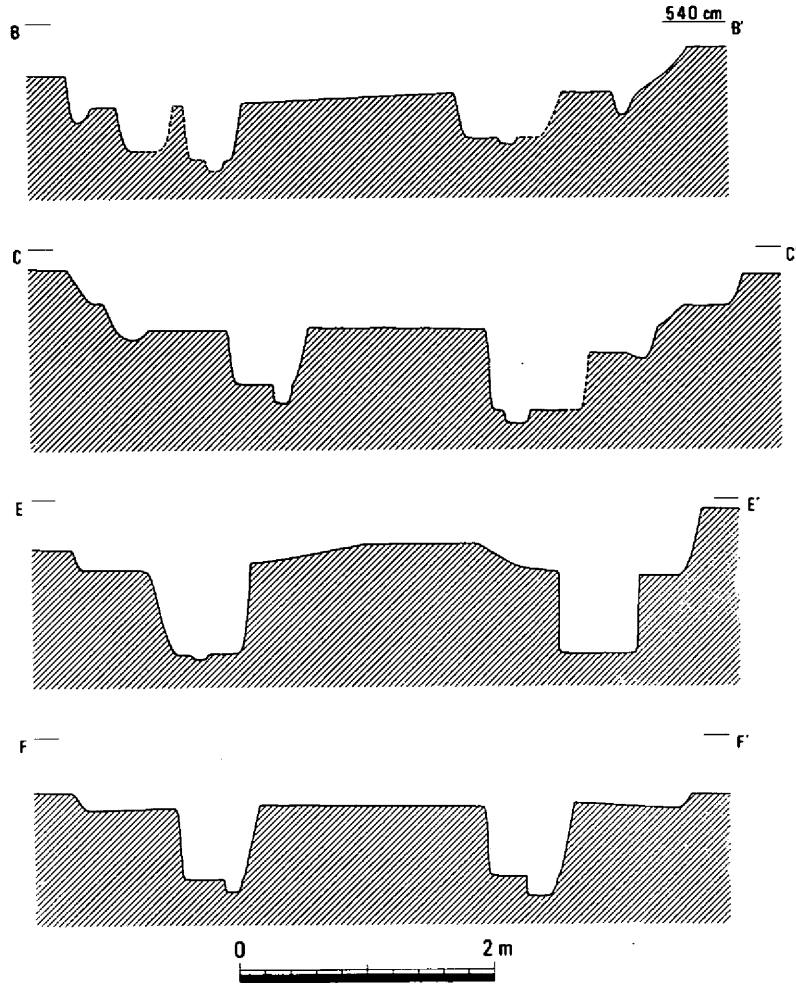


114-B

- 19 淡褐色粘質土
- 20 暗茶灰色粘質土 (炭・土器含)
- 21 暗褐色粘質土
- 22 淡灰褐色粘質土 (炭含)
- 23 淡茶褐色粘質微砂
- 24 暗茶褐色粘質土
- 25 暗茶灰色粘質砂
- 26 暗茶灰色粘質砂 (炭少含)
- 27 暗茶灰色粘質土
- 28 暗褐色粘質土
- 29 淡黄灰色粘質土 (貼床)
- 30 茶褐色粘質土

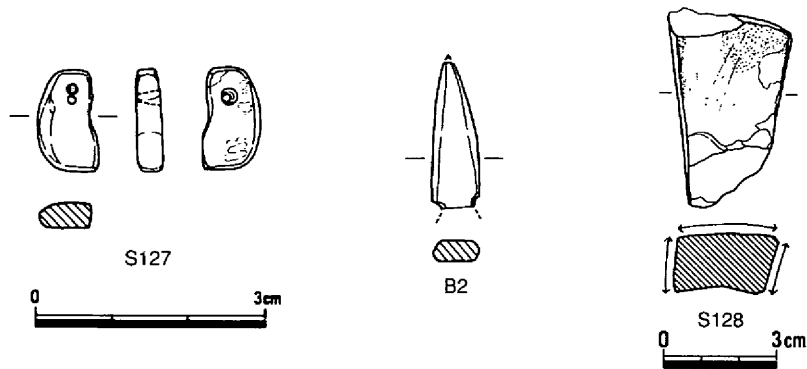


第662図 竪穴住居114A・B (1/60)

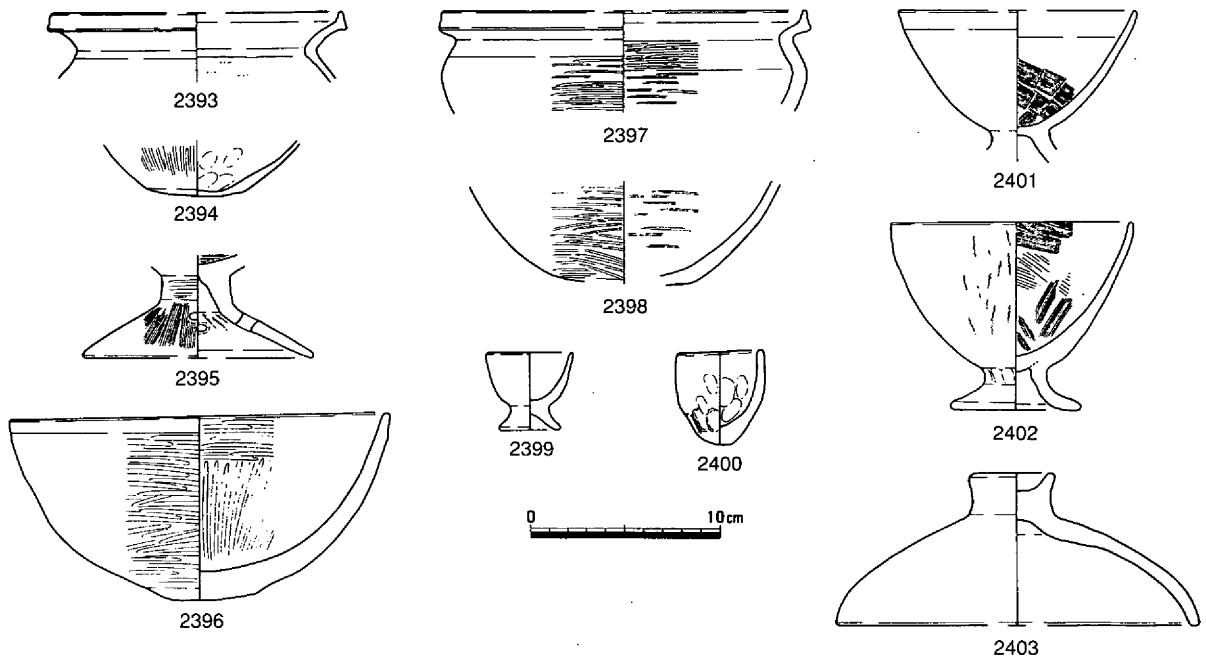


第663図 竪穴住居114断面 (1/60)

置され、その高さは約20cmを測る。出土遺物は総じて少なく、いずれも144Bに伴うものと思われる。S 127は翡翠の勾玉で床面から出土している。淡緑色を呈し、長さ13.3mm、重さ0.75gを測り、径2mmの穿孔がなされている。ほかにB 2の被熱した鹿角製品、S 128の砥石、土器2393～2403は覆土下層から出土したものである。土器は鉢類が多く、ボウル状の2396や、台付の小形鉢2401・2402、ミニチュア鉢2399・2400などに混じって甕、高杯などが出土しており、これらは弥・後・Ⅲの範疇と思われる。(江見)



第664図 竪穴住居114出土遺物① (1/1,1/3)

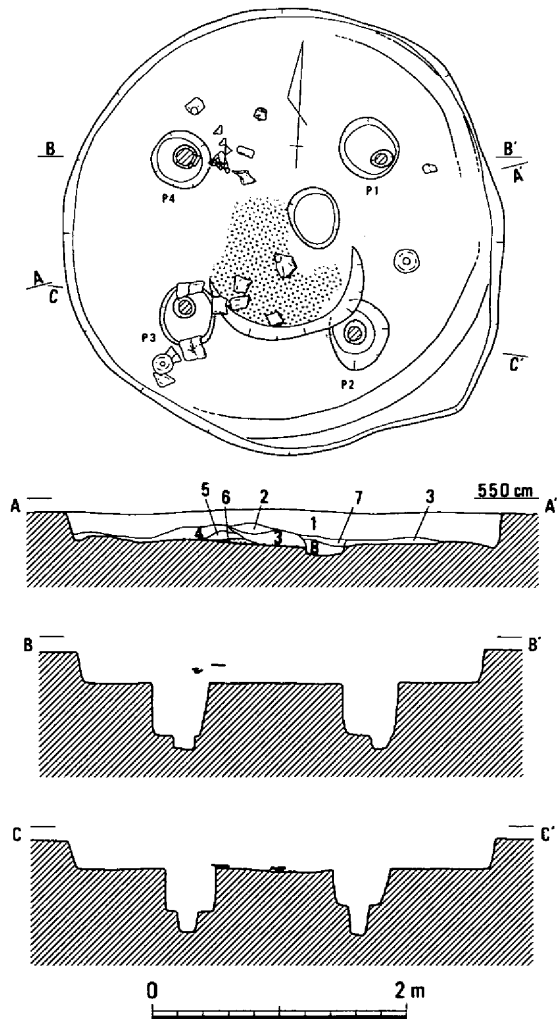


第665図 竪穴住居114出土遺物② (1/4)

竪穴住居115 (第550・666~668図、図版37・116)

Da 6 04区から検出された小規模な住居で、平面不整形円形を呈して検出されたが本来は円形であったものと思われる。規模は径約3.5m、床面積約9m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴間距離は1.5m前後を測る。床面中央部は北に緩く下がり、径約1mのくぼんだ範囲は炭層で覆われていた。床面中央東寄りから検出された中央穴は深さ約10cmでほかに比べ極端に浅い。

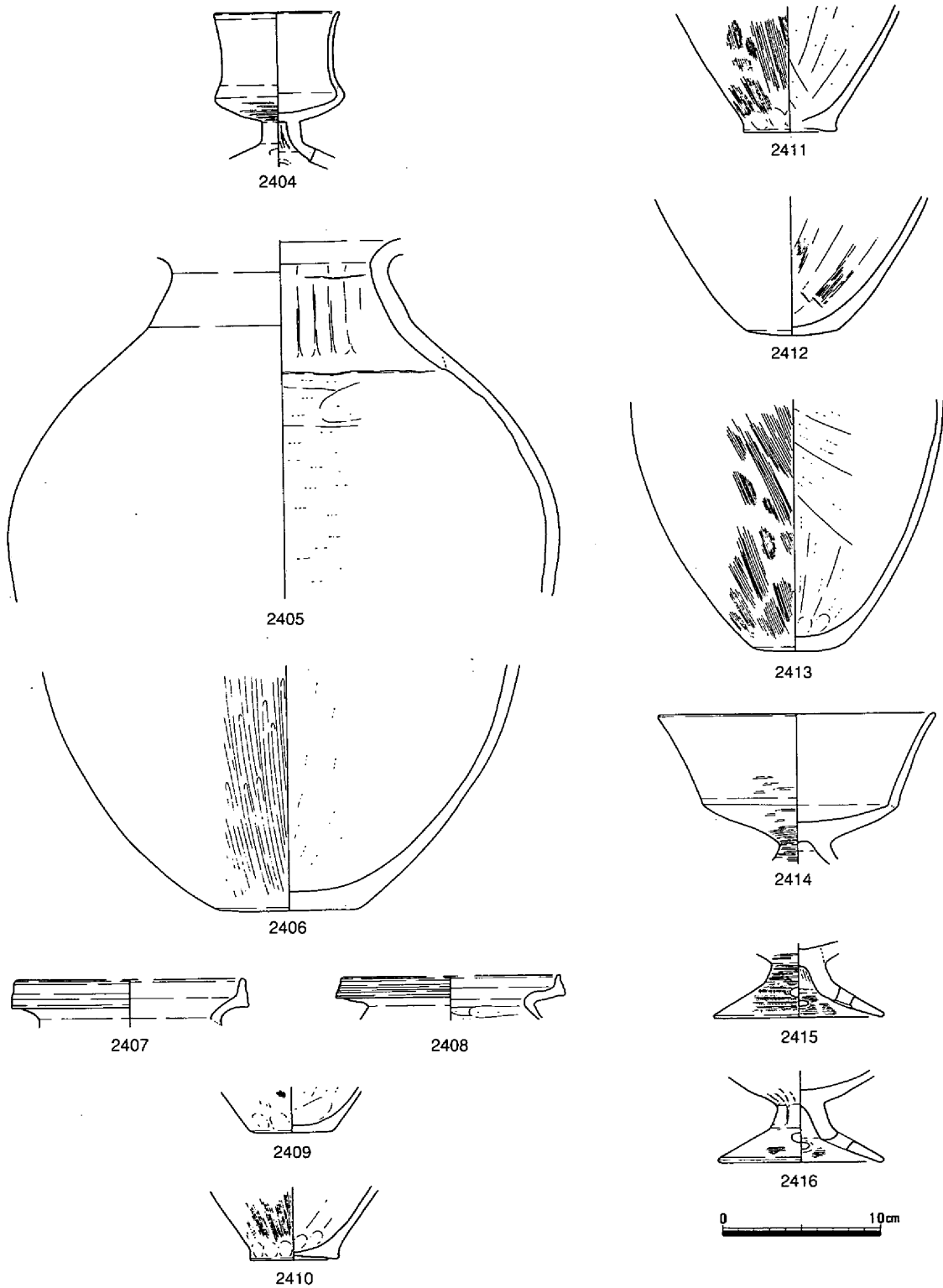
遺物は覆土下部から床面にかけて出土し、特に鉢2417・2418はほぼ完形の状態であった。台付直口壺2404の口縁外面には浅い凹線状の施文が認められる。壺2405は短く「ハ」字状の頸部をもち、口縁は屈曲して開く。甕は底部が逆反りして平底を呈す2410・2411と、胴部から緩く底部に達し、やや丸みをもつ2412・2413がある。高杯はいずれも短脚であるが直口壺と比べやや



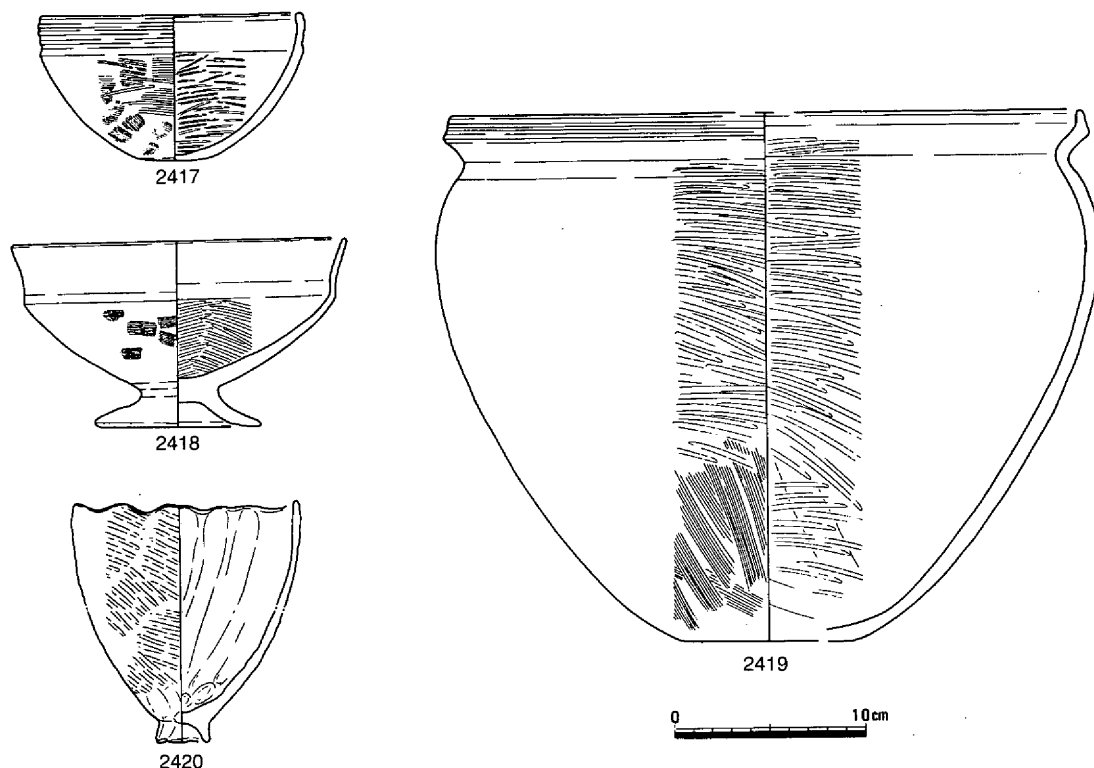
- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 淡灰茶色粘質砂<br>(土器含) | 4 褐灰色粘質砂<br>(炭含) |
| 2 淡褐色粘質砂           | 5 淡灰褐色粘質砂        |
| 3 暗褐色粘質砂<br>(炭含)   | 6 炭層             |
|                    | 7 茶灰色粘質砂         |
|                    | 8 暗茶灰色粘質砂        |

第666図 竪穴住居115 (1/60)

太く、2414の口縁は斜め外方に直線的に大きく延びるものである。鉢2417~2419はいずれも深い体部をなす。製塩土器2420は外面にタタキメ、内面にナデ、台部に押圧痕跡の残るもので、口縁端部の作りは雑である。以上、遺物は弥・後・Ⅲ~Ⅳの特徴を示しており、当住居はこの時期に廃棄されたものと考えられる。(江見)



第667図 竪穴住居115出土遺物① (1/4)



第668図 竪穴住居115出土遺物② (1/4)

#### 竪穴住居116 (第550・669図、図版37・163)

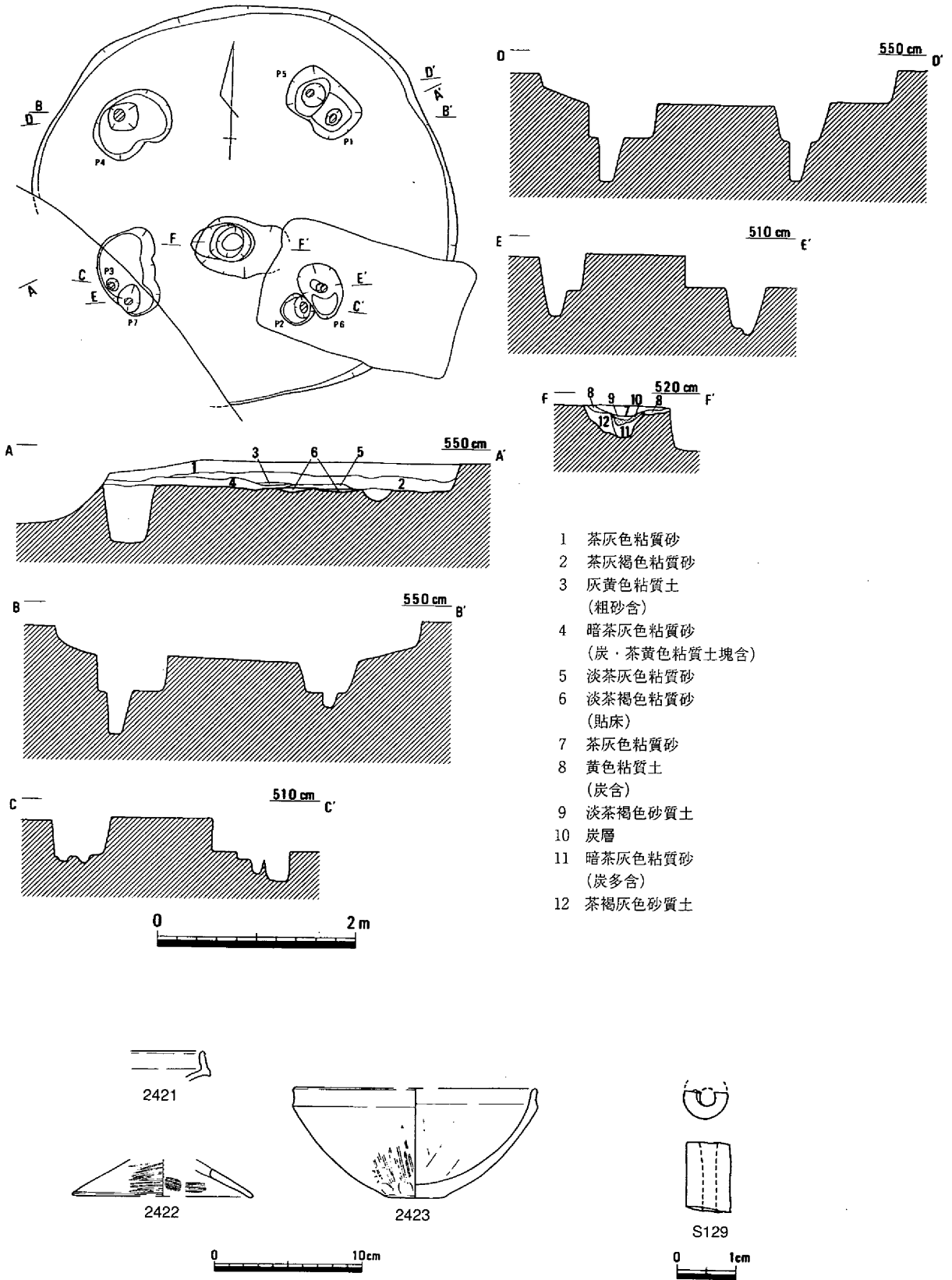
竪穴住居115の南東に位置し、住居南西部は中世の斜面堆積によって削平を受けている。なお、南東部は試掘坑である。平面はほぼ円形を呈し、規模は径約4.2m、床面積約13m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴間距離は2m前後を測る。北西にあたるP4を除きほかは柱の建て替えがなされており、そのいずれも柱根部が柱穴から著しく沈んだ状況が認められた。床面中央南寄りに位置する中央穴は径約40cm、深さ約40cmを測り、小規模ながら炭が主体を占める堆積であった。

遺物の出土はわずかであったが、住居北東部床面からは石製管玉S129が出土している。碧玉製で濃緑色を呈し、径7.3mm、長さ12mm、重さ0.64gを測る。土器は覆土中から出土しており、内傾して立ち上がる拡張面をもつ甕2421、高杯2422、小形鉢2423など、これら土器の特徴から、当住居は弥・後・Ⅲに埋没したものと考えられる。(江見)

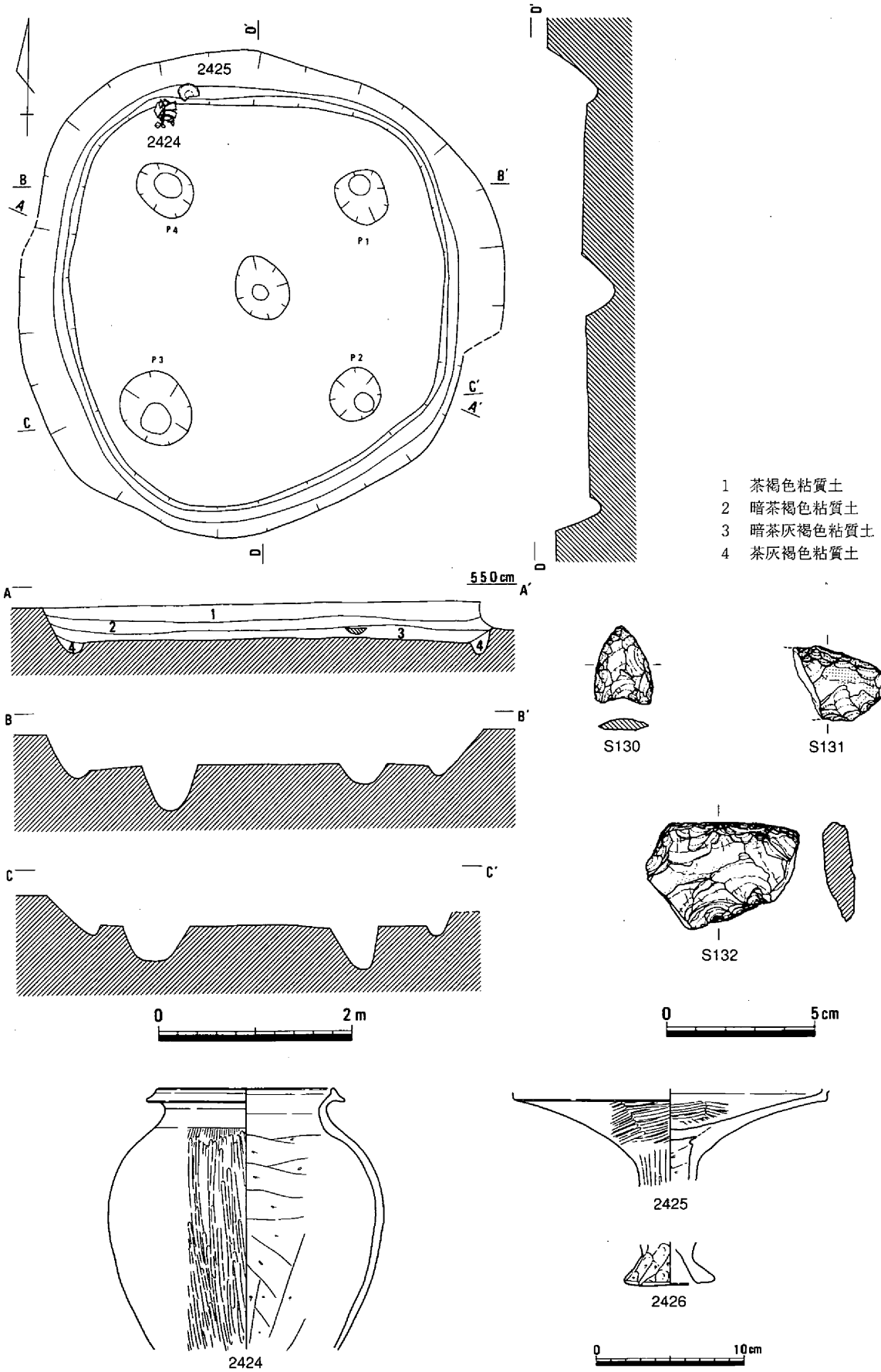
#### 竪穴住居117 (第550・670図、図版163)

竪穴住居116の東約6mにおいて土壙398を切る状態で検出された。遺構の残存状態は比較的良好である。平面形はやや不整な円形を呈し、規模は径約500cmを測る。深さは検出面から約35cmを測り、壁際には幅が5~10cm、深さ約10cmの壁体溝が巡っている。なお、床面の中央部には55×70×30cmのピットがみられる。主柱穴は4本確認されており、4本柱で構成される竪穴住居である。柱間距離は196~240cmを測る。柱穴の掘り方は50~80cmの円形あるいは楕円形を呈している。

遺物は北側の壁体溝において甕2424、高杯2425などの土器が出土している。覆土内からは土器では製塩土器、石器では石鏃S130、石包丁と推察されるS131、楔S132などが出土している。なお、石器の材質はいずれもサヌカイト製である。時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)



第669圖 豎穴住居116 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/1)

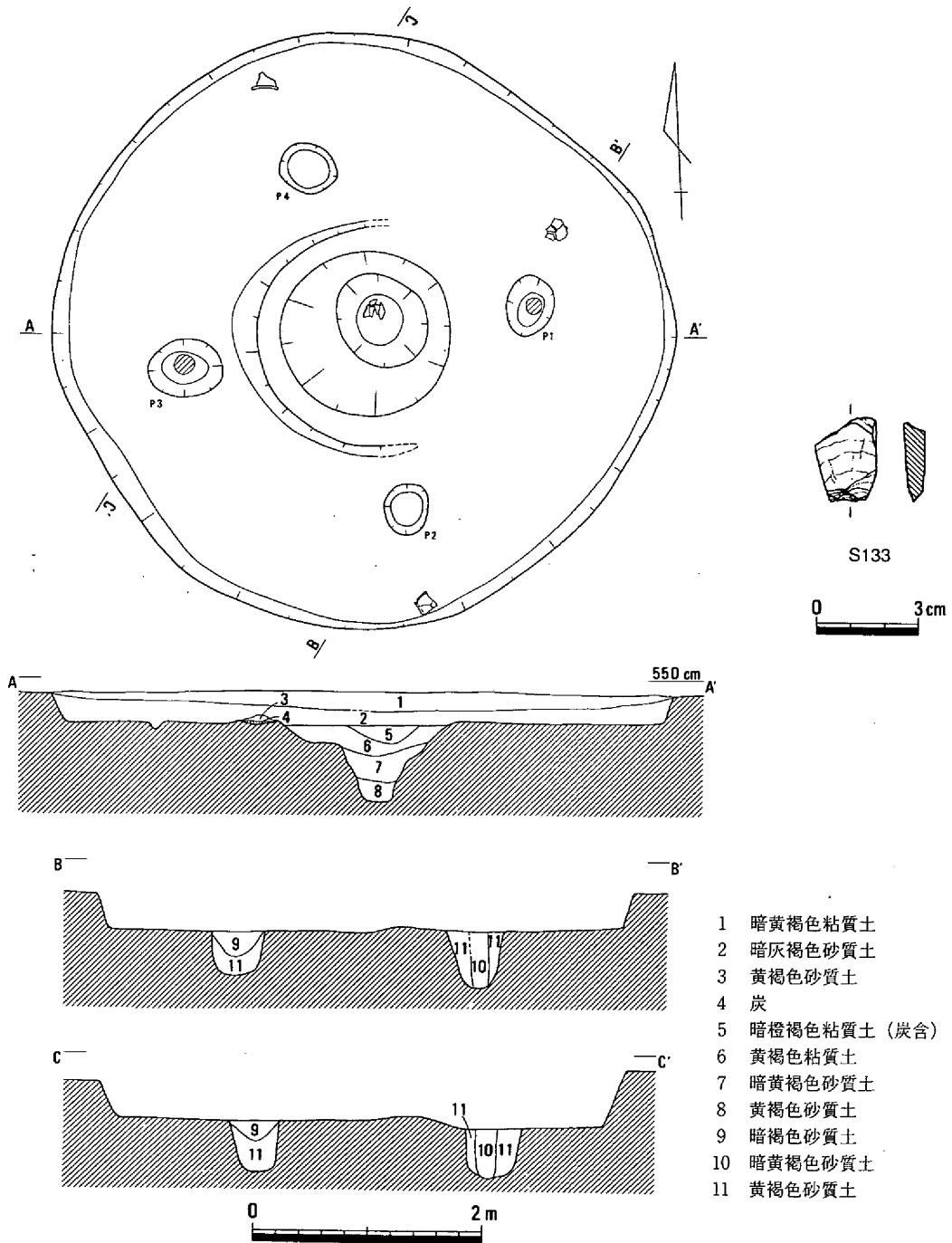


第670図 竪穴住居117 (1/60)・出土遺物 (1/2,1/4)

竪穴住居118 (第551・671・672図、図版38)

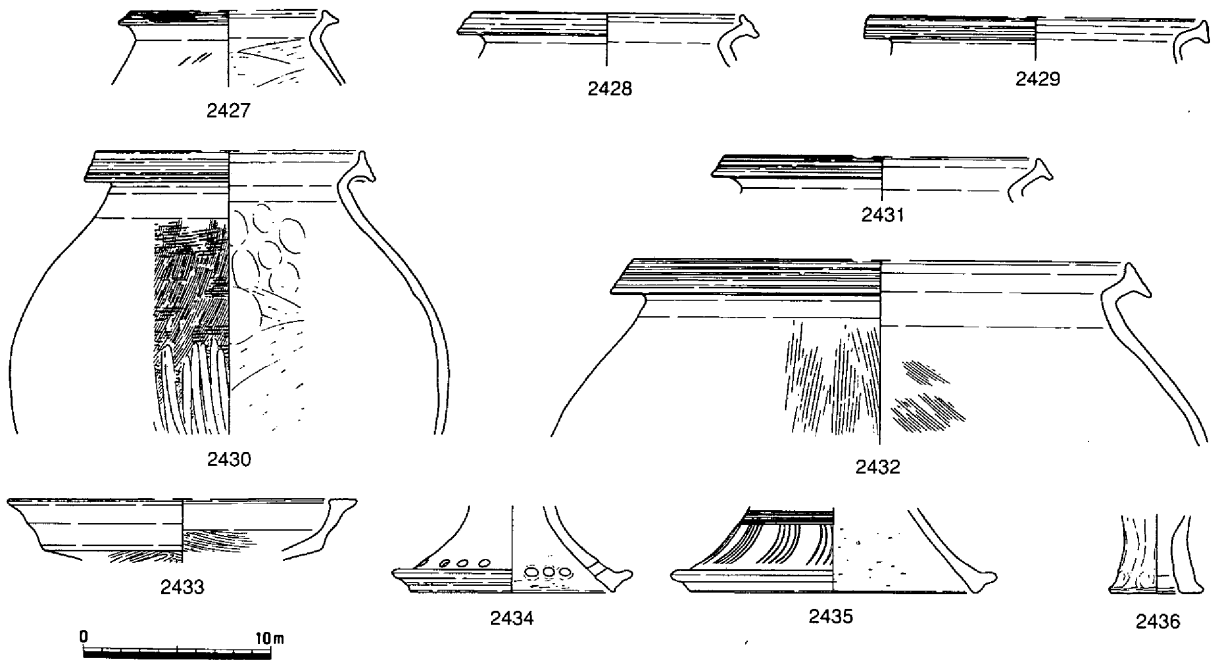
調査区の北西端に位置する円形の竪穴住居で、直径が520~543cmの歪な円形を呈する。床面には中央穴、主柱穴4本が見られたが壁体溝はみられなかった。中央穴は床面上では直径140cm程の楕円形をしているが、断面をみると2段階に下がり、上部が皿状のくぼみをなすのに対し、下面は柱穴と同規模で同形状を呈し、底部からは土器片が出土している。さらに、中央穴の廻りをわずかに盛りあがった土手が半周しており、その上面から中央穴6層下にかけて炭を多く含む層がみられた。

出土遺物にはサヌカイト製楔形石器や土器類があり、時期は弥・後・Iに比定できる。(弘田)



第671図 竪穴住居118 (1/60)・出土遺物① (1/2)





第672図 竪穴住居118出土遺物② (1/4)

## 竪穴住居119 (第551・673図、図版38・166)

調査区の北東端部に位置する。平面形は440×467cmのほぼ円形で、床面までの深さは約45cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁は垂直に近く立ち上がっていた。壁際には幅10cm前後、深さ約10cmの溝が掘られていた。埋土は3層に分離でき、炭、焼土を含んでいた。

主柱穴は4本確認できた。平面形は直径30～45cmの円形で、深さは約40～60cm残存していた。P 2～4では柱痕跡が確認でき、これによると柱は直径15cm前後の円形であると推測できる。

床面のほぼ中央部には平面形が直径約30cmの円形で深さ約30cmの穴が掘られており、埋土の最下層には炭が多く堆積していた。またこの中央の穴の南側には逆C字形に低い土手がつくられており、その両側には炭や灰が散布していた。こうしたことから床面中央部が炉として用いられたと考えたい。

遺物は埋土中から土器や土製品が出土した。土器はいずれも小片で壺、甕、高杯、ミニチュアなどがある。C148は土器片転用の紡錘車である。時期は弥・後・Ⅲではなかろうか。(平井)

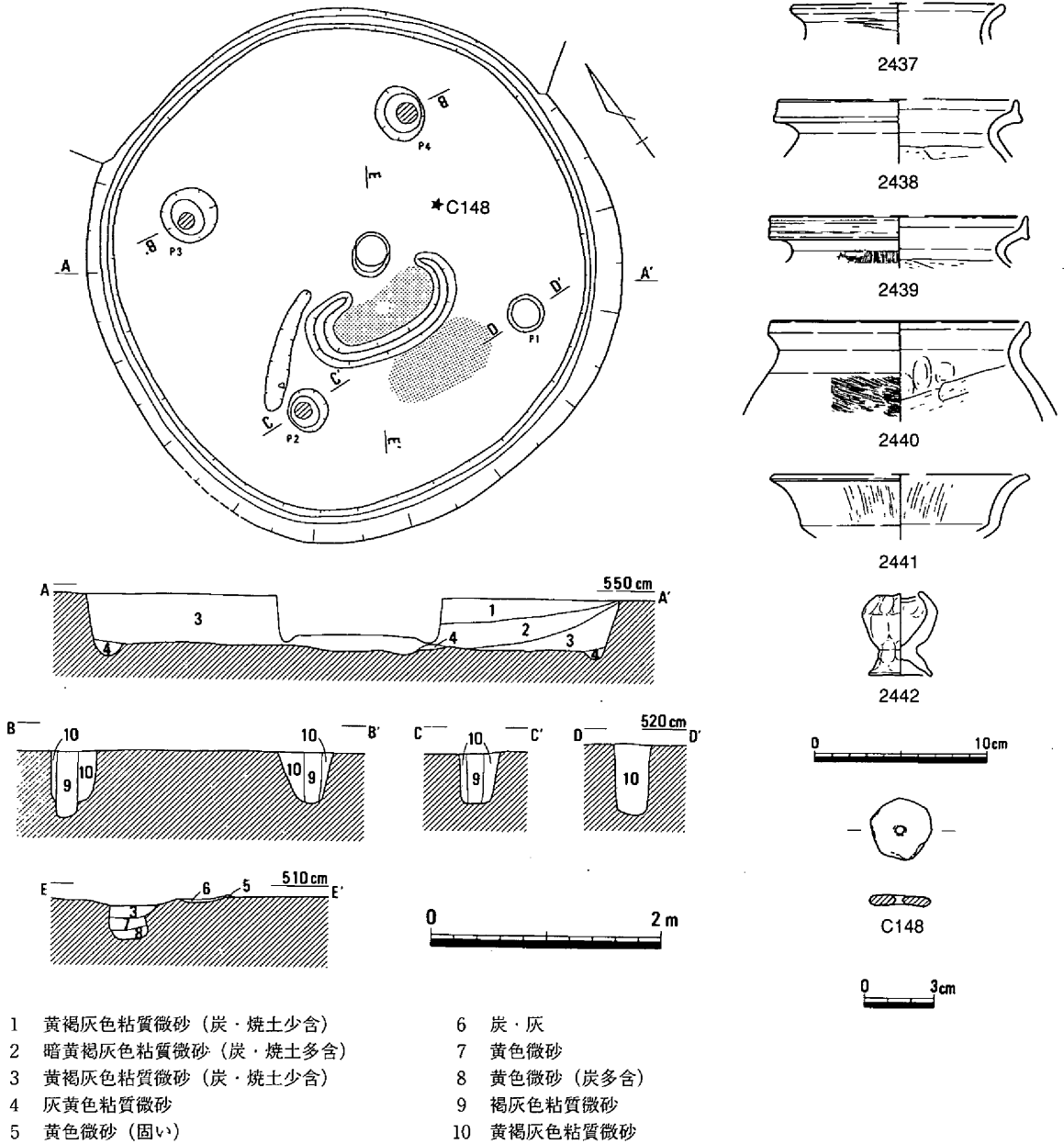
## 竪穴住居120 (第551・674図、図版38・39・163)

調査区の北東端部、竪穴住居119の東約3mに位置する。平面形は479×502cmのほぼ円形で、床面までの深さは約30cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁は垂直に近く立ち上がっていた。壁際に溝は検出できなかった。

主柱穴は4本確認できた。平面形は直径40～50cmの円形で、深さは約50～70cm残存していた。P 2～4では土層の違いから柱痕跡が確認できた。

床面のほぼ中央部には平面形が約70×80cmの楕円形で深さ約40cmの穴が掘られており、埋土の下層には炭や灰が多く堆積していた。またこの中央の穴の南東隣には内部に焼土面や炭が確認できた約45×90cmの長楕円形のくぼみがあり、これらの周囲には低い土手がつくられていた。これらは炉として機能していた痕跡と考えられる。

遺物は少量の土器片や石鏃S134が出土しており、時期は弥・後・Ⅰである。(平井)



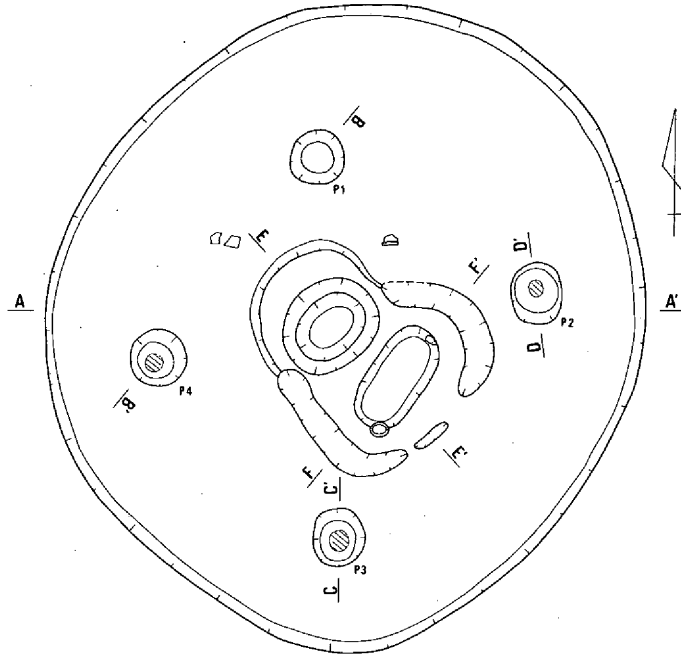
第673図 竪穴住居119 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

竪穴住居121 (第551・675図)

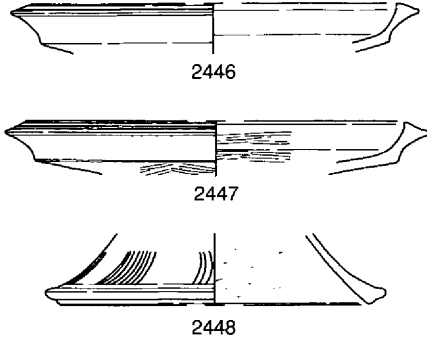
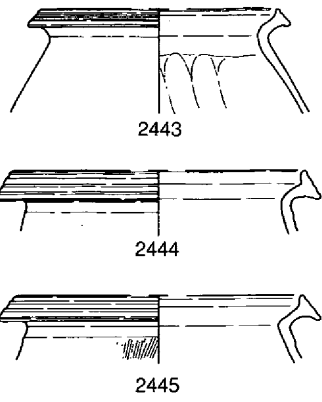
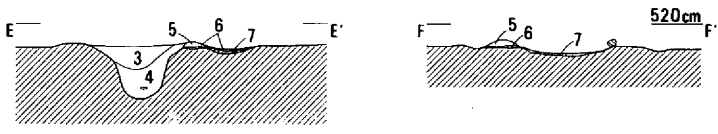
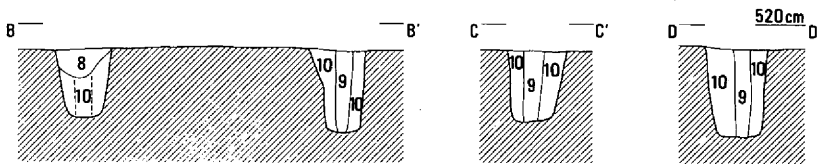
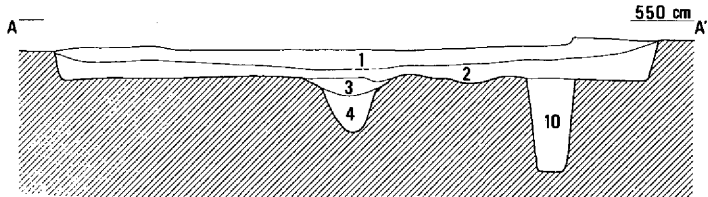
調査区の北東部に位置する。平面形がやや不整な方形を呈し、一辺が424×432cmを測る。床面上では中央穴と焼土面がみられたが柱穴や壁体溝は確認できなかった。中央穴は直径65~70cmの楕円形で、床面からの深さは35cmを測り、底面には薄い炭層がみられた。また、この南側では中央穴を囲むように高さ7cmの「コ」の字状の土手があり、中央穴の南縁からこの土手にかけて炭の集積がみられた。さらに炭を伴う焼土面2か所のほか中央穴西側の壁体沿いでも炭、焼土の散布がみられが、これから中央穴に向けては平面的には捉えられなかったものの断面観察によると高さ6cm程の土手状の高まりが存在した。その上面から中央穴の埋土上層(4層)と中層(5層)の間にかけては薄い炭層がはしっていた。

出土した土器類2449~2466からみてこの住居の時期は、弥・後・Iである。

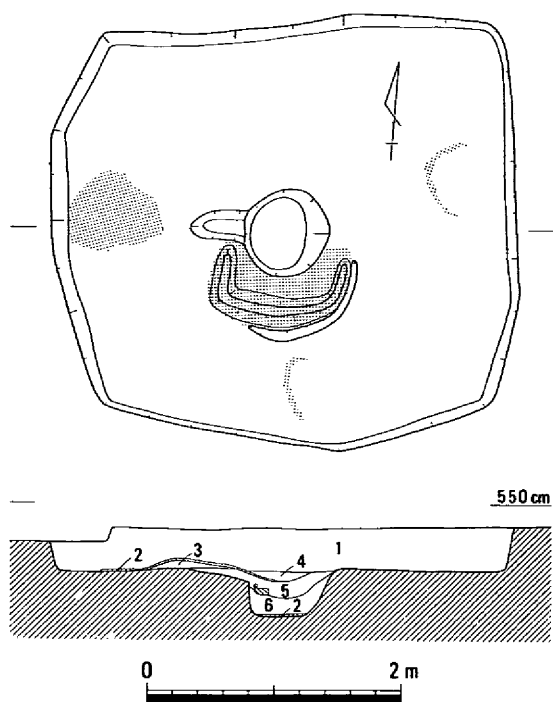
(弘田)



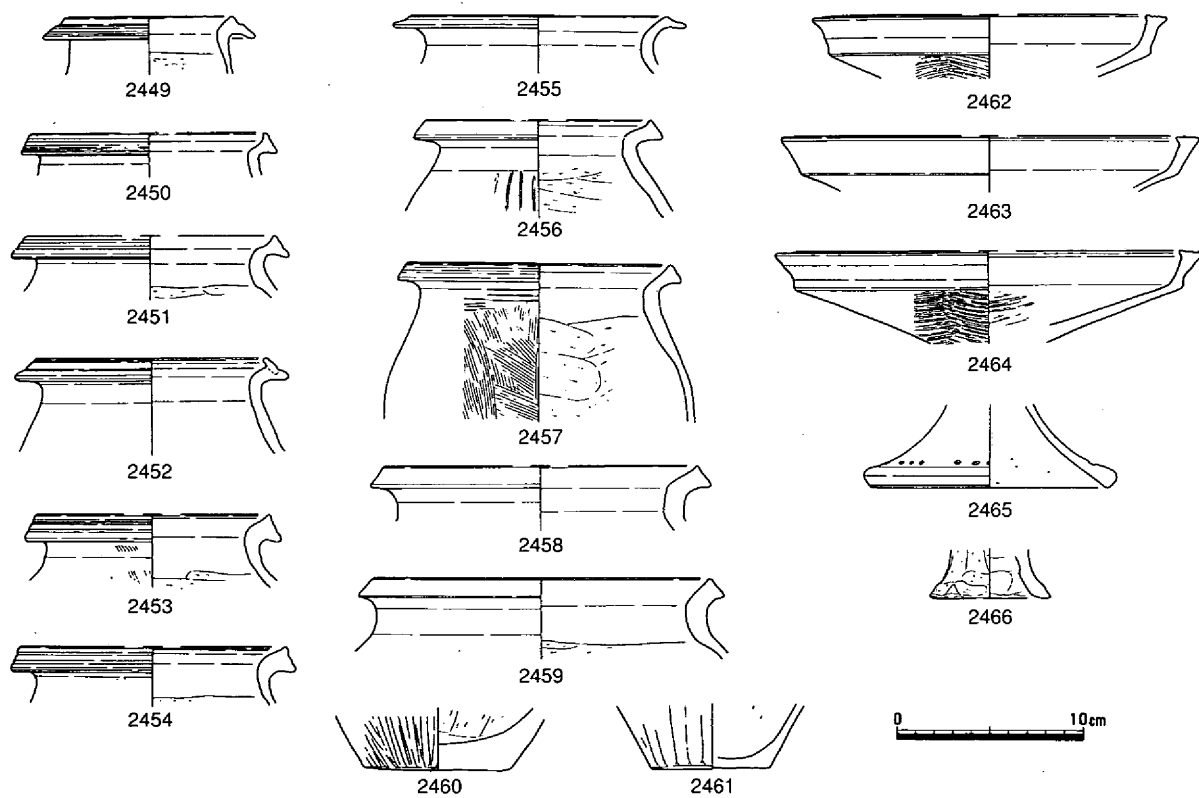
- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 暗黄橙色粘質土
- 3 灰黄色砂質土 (炭・灰・焼土粒少含)
- 4 灰黄色砂質土 (炭・灰多含)
- 5 淡黄色砂質土 (土手状の盛土)
- 6 炭
- 7 焼土面
- 8 黄褐灰色砂質土 (炭含)
- 9 暗灰黄色砂質土 (炭含)
- 10 淡黄色砂質土



第674図 竪穴住居120 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/2)



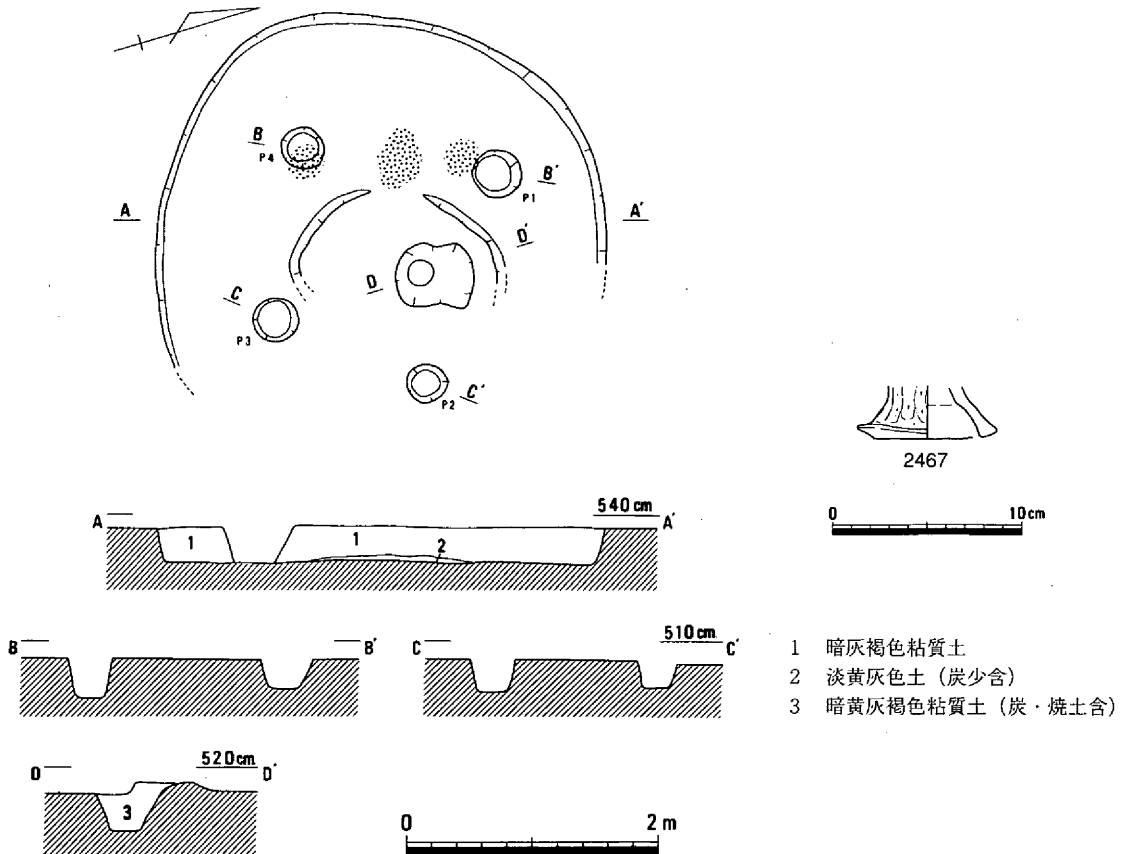
- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 暗橙褐色粘質土  | 4 暗黄褐色粘質土 |
| 2 炭        | 5 暗灰褐色粘質土 |
| 3 暗黄灰褐色粘質土 | 6 黄褐色粘質土  |



第675図 豎穴住居121 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居122 (第551・676図)

調査区の北東端部、竪穴住居121の南約2mに位置する。東側は一部古墳時代の竪穴住居によって切られているが、平面形は直径350cm前後の円形で、深さは28cm残存していた。床面はほぼ平らで中央部近くには約50×60cm不整楕円形の土壌が掘られており、その周りには土手状の高まりが認められた。また西側には被熱面が3か所確認できた。支柱穴は4本と考えている。遺物は少量の土器片が出土したのみで、時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)



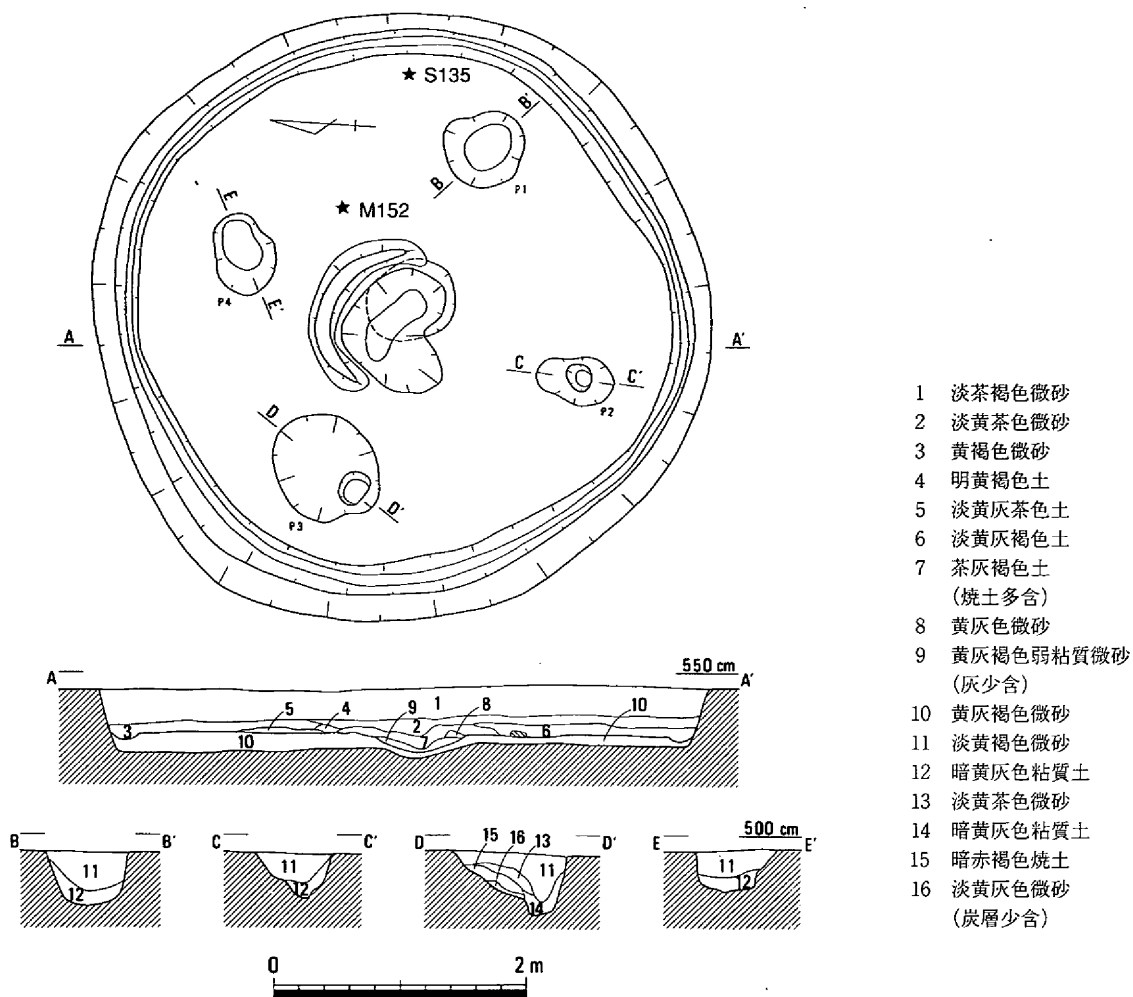
第676図 竪穴住居122 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居123 (第551・677・678図、図版39)

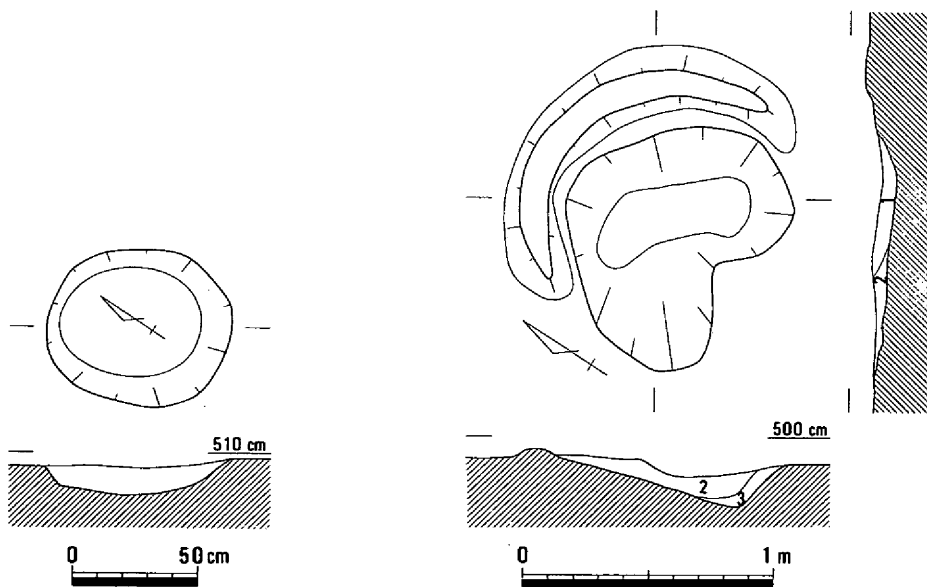
調査区の東端部、竪穴住居122の南西約6mに位置する。平面形は488×492cmのほぼ円形で、最古の床面までの深さは50cm残存していた。断面観察によれば床面が2面(新古)あるように思われた。新しい床面はほぼ平らで、壁際には幅15cm前後、深さ約5cm溝が掘られていた。床面のほぼ中央部には最下層に炭が多く堆積した不整形な土壌が掘られており、北側には図示したような低い土手がつくられていた。支柱穴は4本確認できている。

古い段階と考えた床面はほぼ平らで、中央部には埋土中に炭や灰を多く含む約60×70cmの楕円形の土壌が検出できた。支柱穴については新段階の柱穴と同じではないかと考えている。

遺物は少量の土器や石器、鉄器が出土した。図示した遺物のうち2471は柱穴P3からでそのほかの土器やS135・M152・153鉄器は新段階の埋土中からの出土である。古段階の埋土中から出土したの



- 1 淡茶褐色微砂
- 2 淡黄茶色微砂
- 3 黄褐色微砂
- 4 明黄褐色土
- 5 淡黄灰茶色土
- 6 淡黄灰褐色土
- 7 茶灰褐色土  
(烧土多含)
- 8 黄灰色微砂
- 9 黄灰褐色弱粘質微砂  
(灰少含)
- 10 黄灰褐色微砂
- 11 淡黄褐色微砂
- 12 暗黄灰色粘質土
- 13 淡黄茶色微砂
- 14 暗黄灰色粘質土
- 15 暗赤褐色烧土
- 16 淡黄灰色微砂  
(炭層少含)



暗黄灰色微砂 (灰·炭多含)

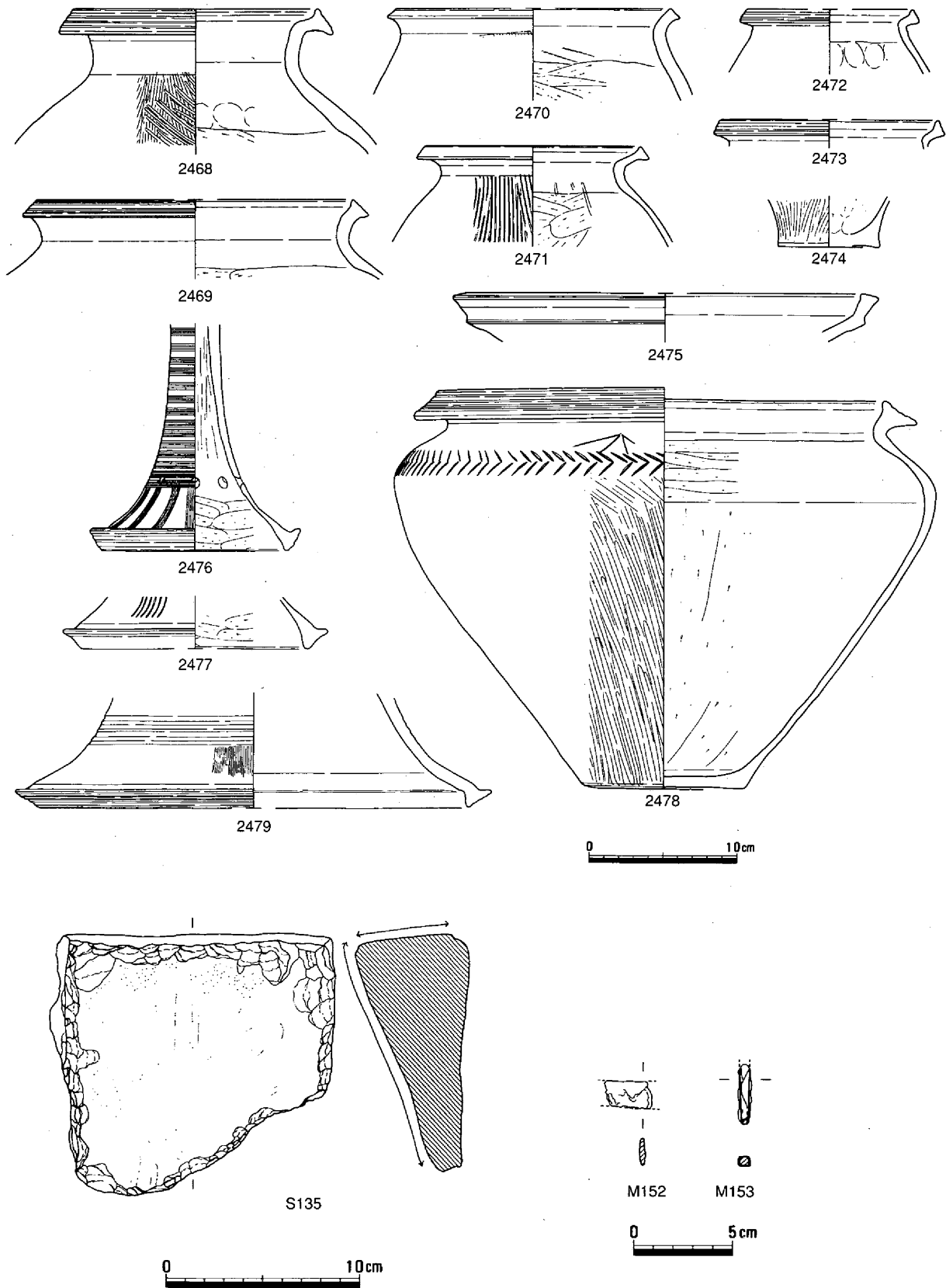
- 1 茶灰褐色土
- 2 黄茶褐色微砂

3 暗黄褐色弱粘質土 (炭多含)

第677图 豎穴住居123 (1/60,1/30)

は少量の土器片のみである。古・新段階とも時期は弥・後・Iと考えている。

(平井)

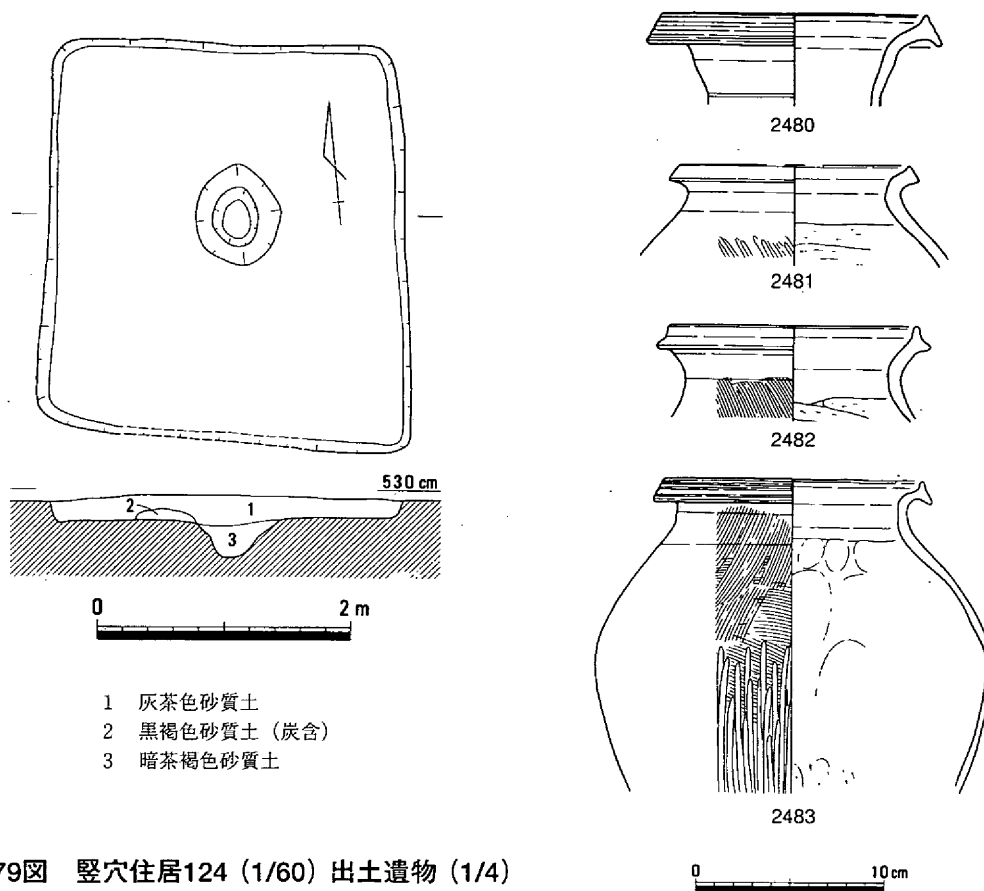


第678図 竪穴住居123出土遺物 (1/4, 1/3)

竪穴住居124 (第551・679図)

調査区の東南部に位置する竪穴住居で、平面形は長方形を呈し、辺長は398×418cmを測る。床面上では柱穴や壁体溝や焼土面は確認できなかったが、床面中央よりやや北東にずれた位置で直径66～80cm、深さ30cmの楕円形を呈する中央穴が存在した。断面形状は二段に下がり、上部が浅い皿状、下部は椀状をなすものの、埋土は1層で炭や焼土を伴わない。ただし、断面観察時に中央穴の西側において炭を多く含んだ黒褐色砂質土の堆積が確認できたが、これが中央穴に伴うものかどうかは不明である。なお、鹿角が中央穴のやや北から出土している。

出土した土器類からみて、この住居の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)



第679図 竪穴住居124 (1/60) 出土遺物 (1/4)

竪穴住居125 (第551・680図)

さきの竪穴住居124と古墳時代の河道5によって切られた竪穴住居で、規模は不明であるが平面形は方形を呈する。床面上では60～65cmの円形のピット1個が確認されたものの壁体溝はみられない。このピットは深さが16cmを測るが、埋土は1層であり、遺物や炭、焼土などは出土していない。なお、このピットの縁に接して焼土面1か所とさらにその両側には炭の集積が2か所存在した。

出土遺物のうち短頸広口壺2485は拡張した口縁部の外側に凹線を、肩部外面には刺突文を施す。壺2486は短く外反した口縁部をもち、端部は丸く終わらせる。ともに内面のヘラケズリは肩上部には及ばない。また、高杯2488は床面直上から出土している。以上の遺物からみてこの住居の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

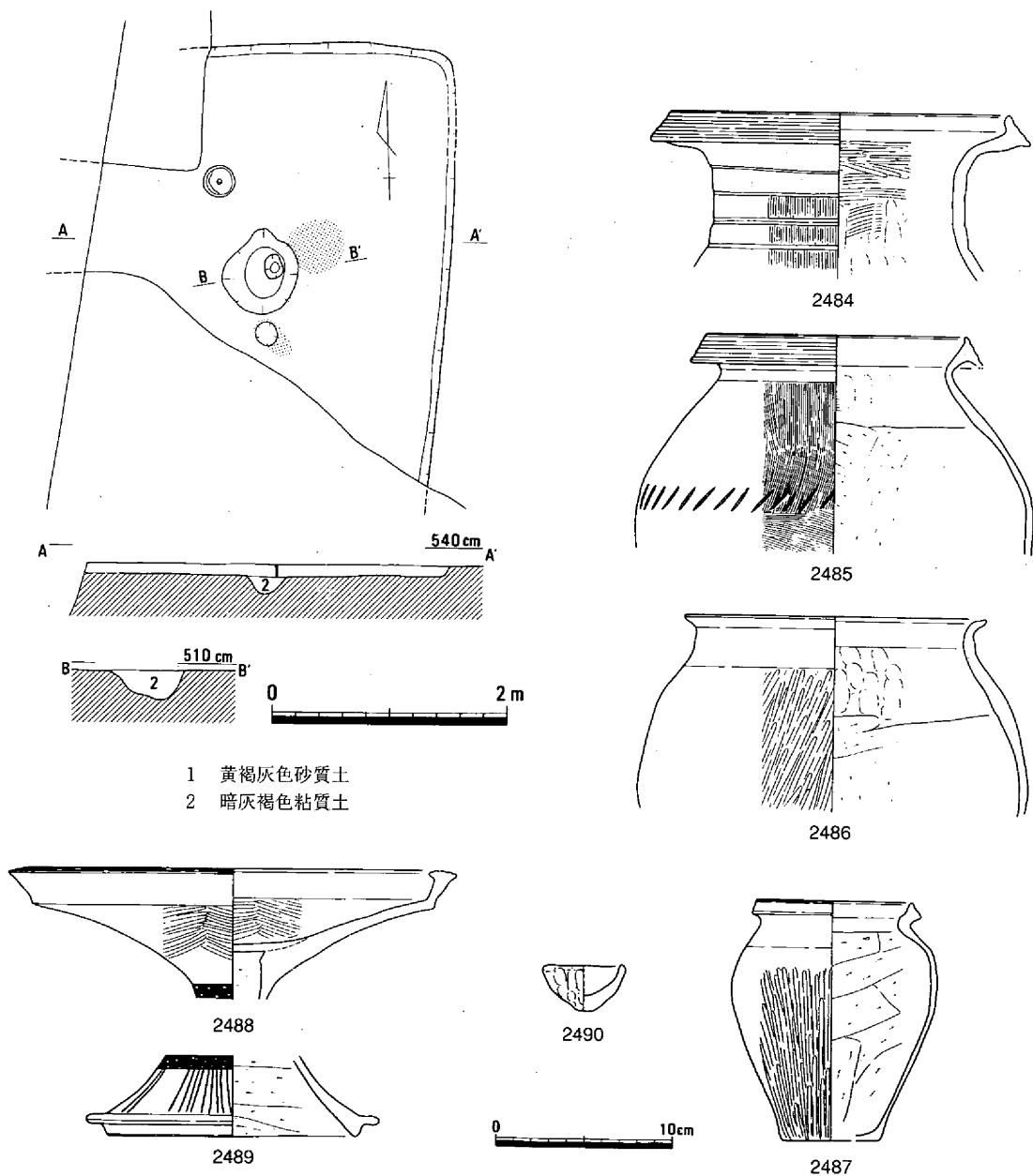


竪穴住居126 (第551・681図、図版39)

調査区の東南部で、竪穴住居125の東に接して位置する。直径は353~361cmを測り、やや歪な円形を呈した竪穴住居である。床面上では主柱穴4本、中央穴1か所と壁の周囲には壁体溝を巡らせていた。

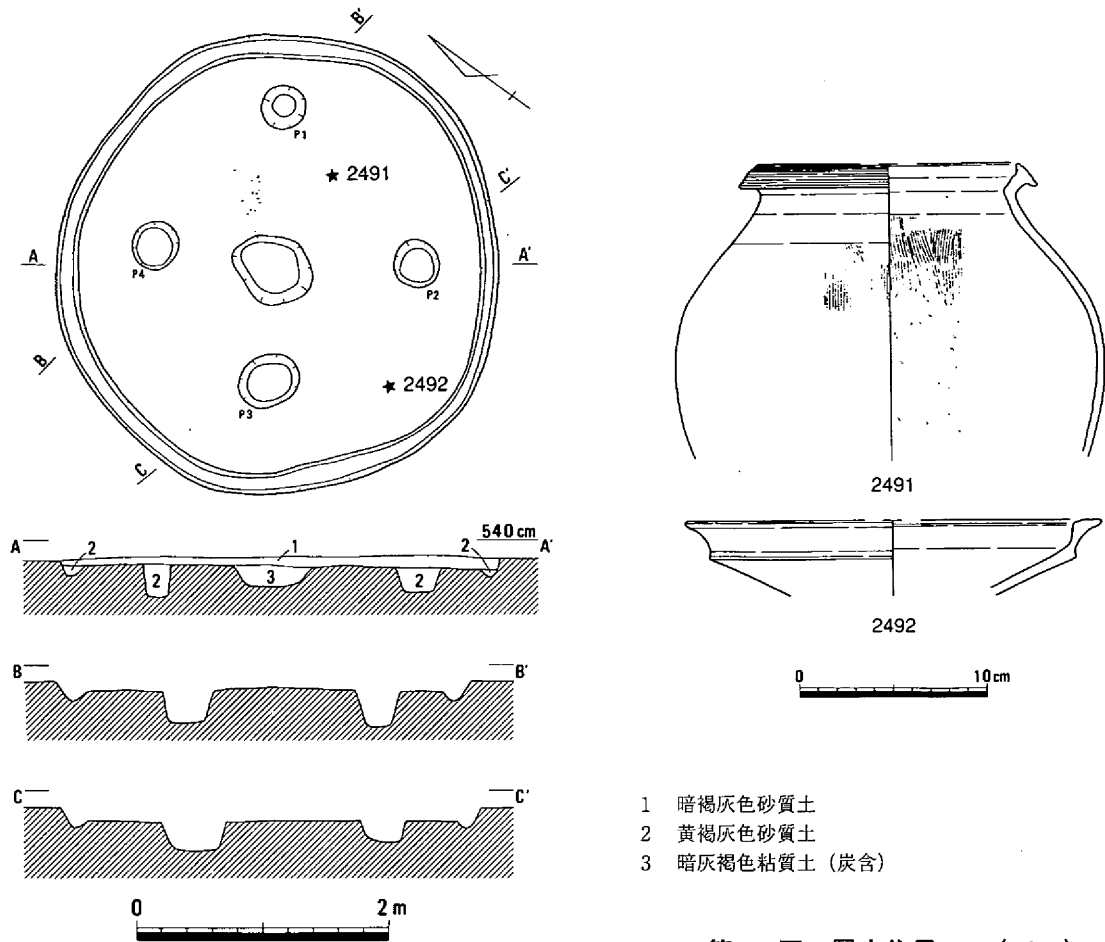
中央穴の平面形は不整楕円形を呈し、径が55~66cm、深さは18cmを測り、埋土中には炭を含んでいた。また、これと接するようにして焼土面3か所が存在していた。これ以外の柱穴では掘り方の規模が直径で35~50cm、深さは20~25cmを測る。

図示した土器類のうち壺2491、高杯2492はともに床面直上からの出土である。この2点の土器からみてこの住居の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)



- 1 黄褐色砂質土
- 2 暗灰褐色粘質土

第680図 竪穴住居125 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第681図 竪穴住居126 (1/60)

・出土遺物 (1/4)

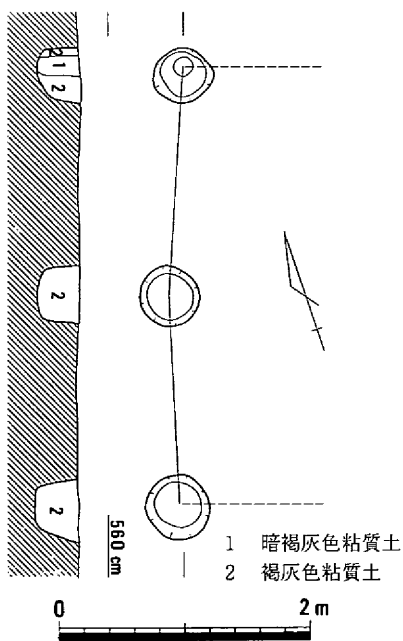
### (3) 柱穴列

柱穴については埋土や出土遺物によって時期が特定できたものもあるが、特に弥生時代と古墳時代については区別が難しかった。しかしながら弥生時代と推定できる柱穴はおそらく数百個は存在していたものと考えられる。これらについては一定の間隔で並ぶものもあるが、本報告書では発掘調査段階で柱穴列として認識した遺構のみを報告しておきたい。

#### 柱穴列 2 (第551・682図)

調査区の北東端部に位置する。図示したように3個の柱穴が南北方向に並んで位置している。周辺には柱穴はほとんど存在しておらず、これらは掘立柱建物を構成する柱穴列と認識した。柱穴の平面形は直径40~50cmの円形で、深さは35cm前後残存していた。推定した掘立柱建物は東側の調査区外にのびる可能性を考慮しており、規模については不明である。

時期については弥生時代としか捉えられなかった。(平井)



第682図 柱穴列 2 (1/60)

## (4) 袋状土壙

## 袋状土壙87 (第553・683図)

袋状土壙88の西約9mに位置する。平面形は円形を呈し、床面はほぼ平坦である。規模は上面径190cm、底面径190cm、深さ33cmを測る。弥・後・I～IIの時期に埋没したと考えられる。(松本)

## 袋状土壙88 (第553・684図)

方形土壙68に切られる状態で検出された。平面形は円形を呈し、床面はほぼ平坦である。規模は上面径142cm、底面径136cm、深さ29cmを測る。弥・後・I頃の時期に埋没したと考えられる。(松本)

## 袋状土壙89 (第553・685図)

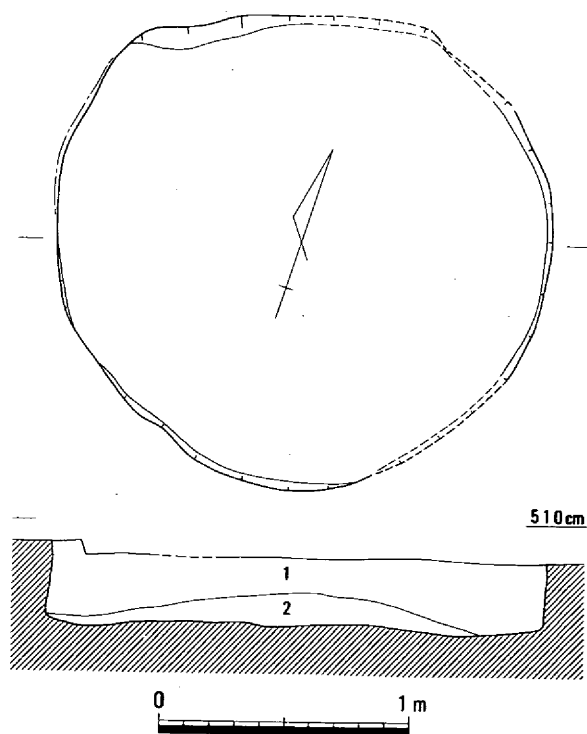
土壙314の南西において検出された。平面形は隅丸方形を呈し、床面は平坦である。規模は上面径146cm、底面径137cm、深さ63cmを測る。埋土はレンズ状の堆積を示しており、5層に区分することができた。遺物は1層～4層において炭とともに出土している。図示できるものとしては甕2493～2496がある。これらの遺物からみて、当遺構は弥・後・Iに埋没したと考えられる。(松本)

## 袋状土壙90 (第553・686図)

袋状土壙91に切られた状態で検出された。遺構の残存状態が悪いため、規模は不明であるが、平面形は円形、床面はほぼ平坦になると推察される。埋土はレンズ状に堆積し、3層に区分される。遺物としては甕2497が出土している。弥・後・I頃の時期に埋没したと思われる。(松本)

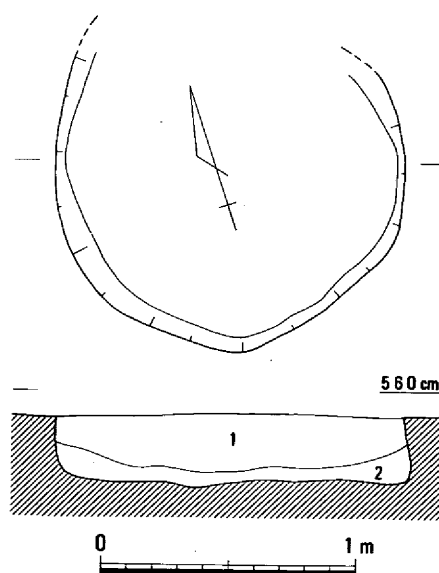
## 袋状土壙91 (第553・686図)

平面形は円形を呈し、床面は平坦である。規模は上面径126cm、底面径121cm、深さ85cmを測る。埋土は水平堆積を示すが、6層に区分された。遺物としては高杯2498が出土している。弥・後・Iの時期に埋没したと思われる。(松本)



- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 茶灰褐色粘質土

第683図 袋状土壙87 (1/30)



- 1 黄灰褐色粘質微砂
- 2 淡黄灰色粘質土

第684図 袋状土壙88 (1/30)

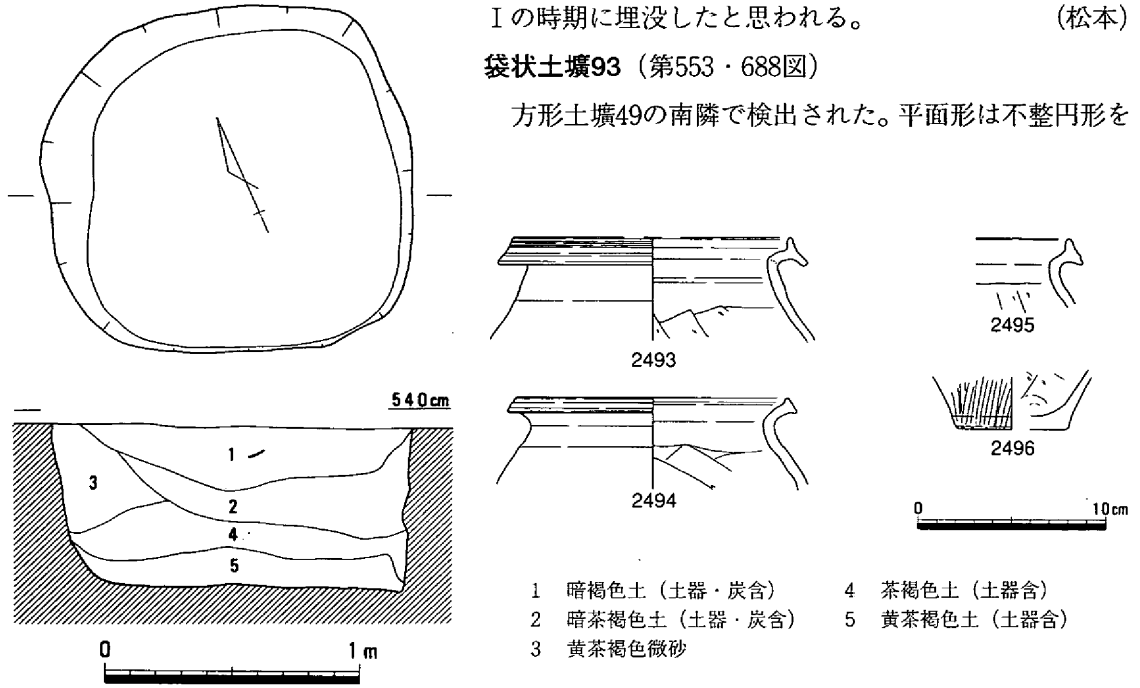
袋状土壙92 (第553・687図)

袋状土壙90の南に位置し、方形土壙75に切られる状態で検出された。平面形は不整な円形を呈する。掘り方は北側で二段掘りとなっている。床面は平坦である。埋土は3層に区分された。遺物としては

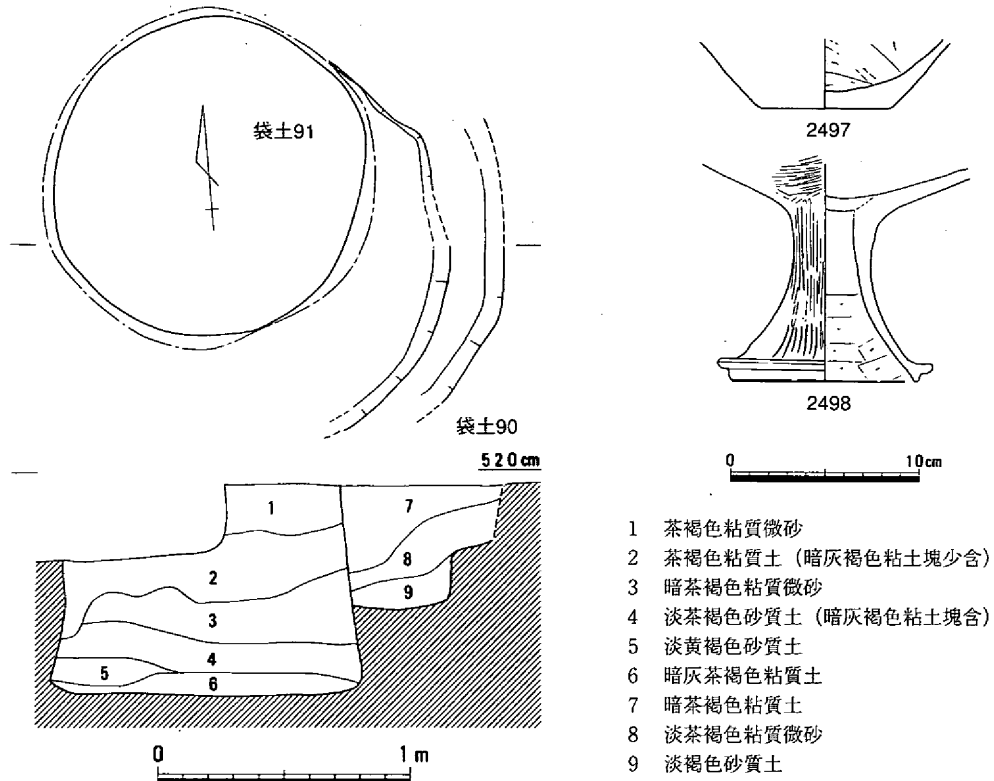
甕2499・2500、高杯2501などが出土している。弥・後・Iの時期に埋没したと思われる。 (松本)

袋状土壙93 (第553・688図)

方形土壙49の南隣で検出された。平面形は不整円形を



第685図 袋状土壙89 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第686図 袋状土壙90・91 (1/30)・出土遺物 (1/4)

呈し、床面は凹凸が著しい。規模は上面径239cm、底面径222cm、深さ76cmを測る。埋土はレンズ状の堆積を示し、5層では炭、焼土を多量に含む。弥・後・I頃の時期に埋没したと思われる。（松本）

袋状土壙94（第553・689図、図版117）

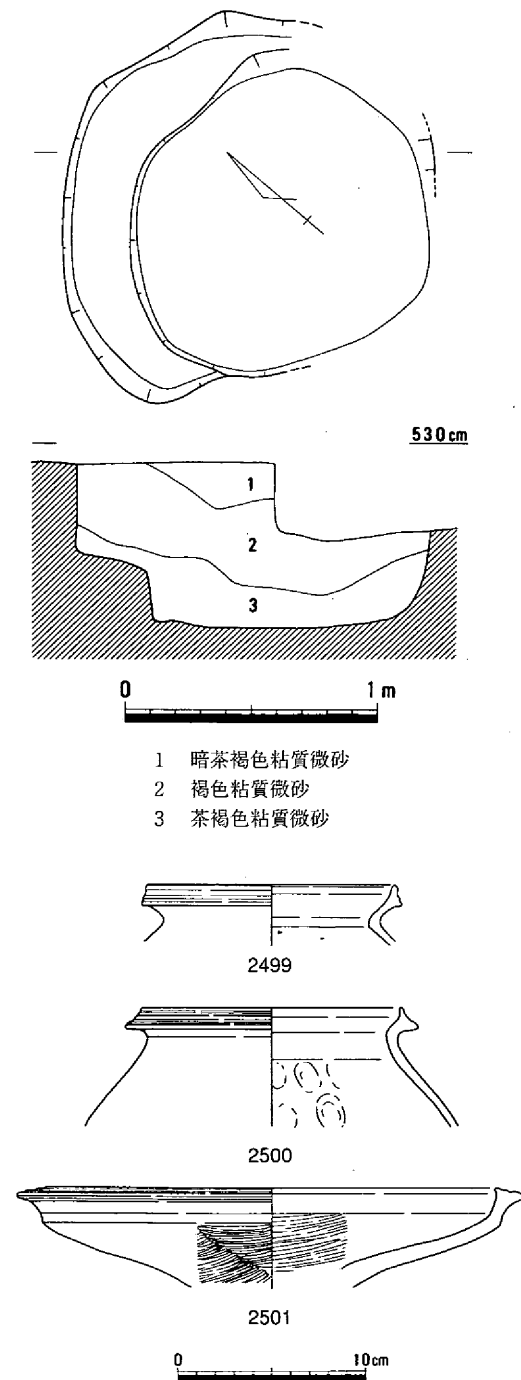
袋状土壙93の東約2mに位置する。平面形は円形を呈し、床面は平坦である。規模は上面径112cm、底面径107cm、深さ39cmを測る。出土遺物はなく、時期は弥・後の範疇に入るものであろう。（松本）

袋状土壙95（第553・690図）

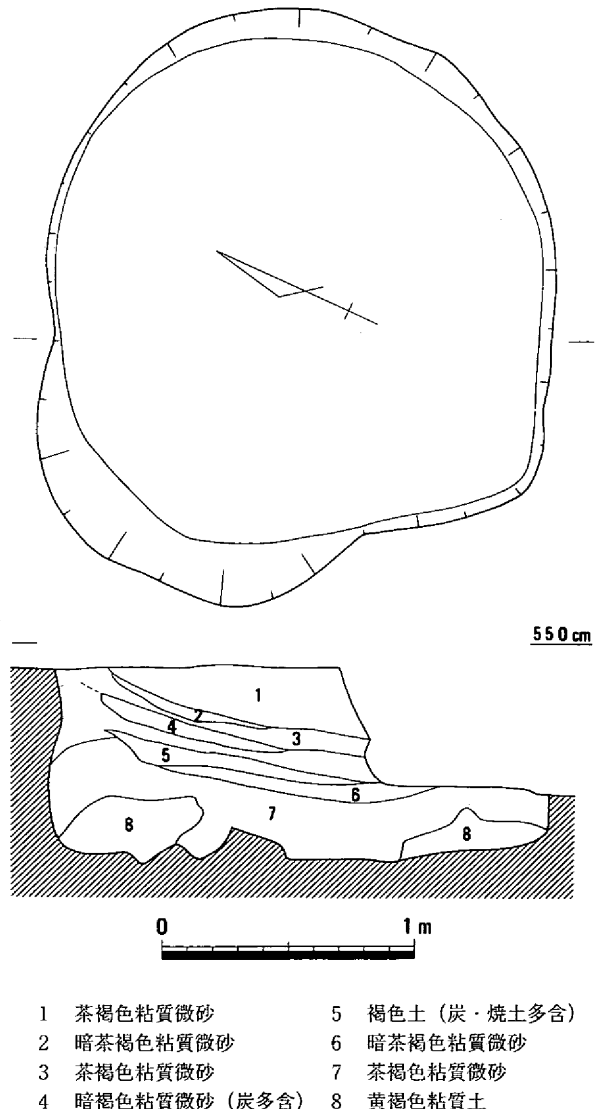
方形土壙74の東隣において検出された。平面形は不整な円形を呈し、床面は平坦である。規模は推定径170cm前後、深さは47cmを測る。埋土は水平の堆積を示し、2層に区分された。遺物の出土はないが、時期は弥・後の範疇に入るものと思われる。（松本）

袋状土壙96（第554・691図）

Ch604区の南中央に位置し、土壙347に北西部を切られて検出された。径155×178cm、深さ約50cmを残す。楕



第687図 袋状土壙92 (1/30)・出土遺物 (1/4)

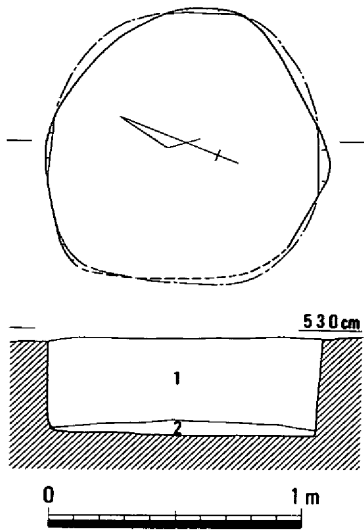


第688図 袋状土壙93 (1/30)

円形を呈す底部はやや凹凸があるものの平坦で、床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。土壌内は砂質土の水平堆積が確認され、これから弥生時代後期前半と思われる壺、甕、高杯細片が出土している。(江見)

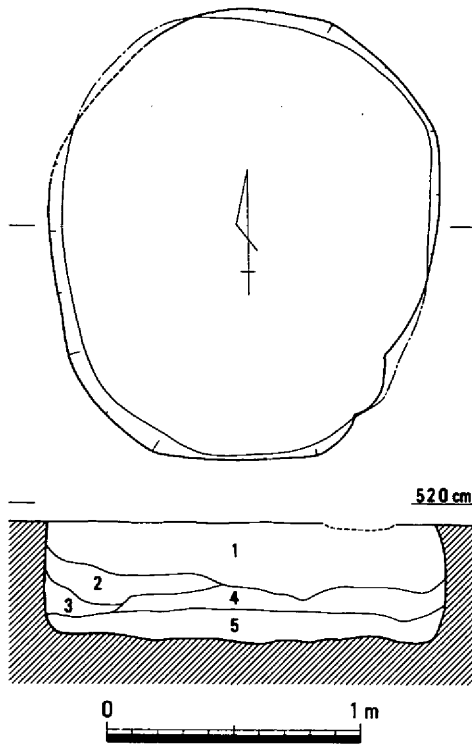
袋状土壙97 (第554・692・693図、図版117)

袋状土壙96の西に位置し、上部を方形土壙78



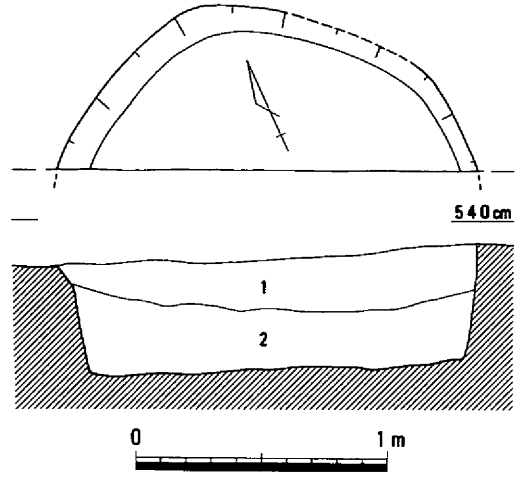
- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質土

第689図 袋状土壙94 (1/30)



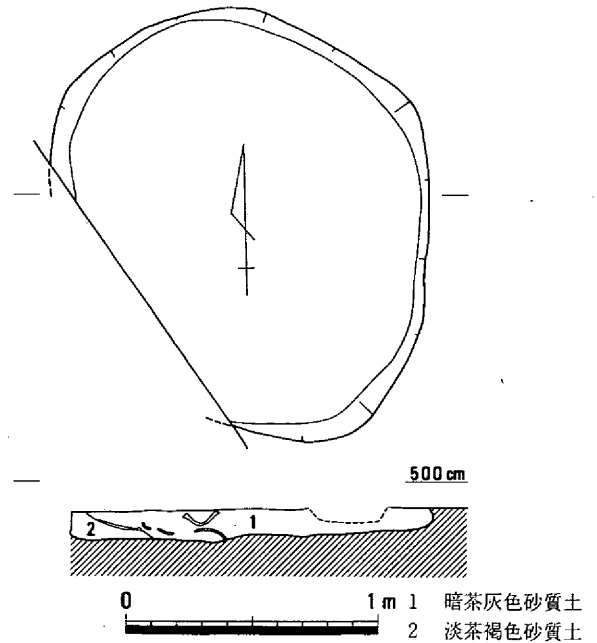
- 1 暗茶灰色粘質砂 3 淡茶灰色砂質土 5 暗灰茶色砂質土
- 2 茶灰色粘質砂 4 茶灰色砂質土

第691図 袋状土壙96 (1/30)

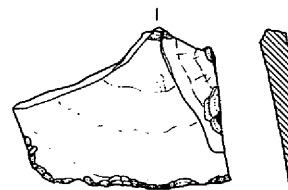


- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶灰褐色粘質土

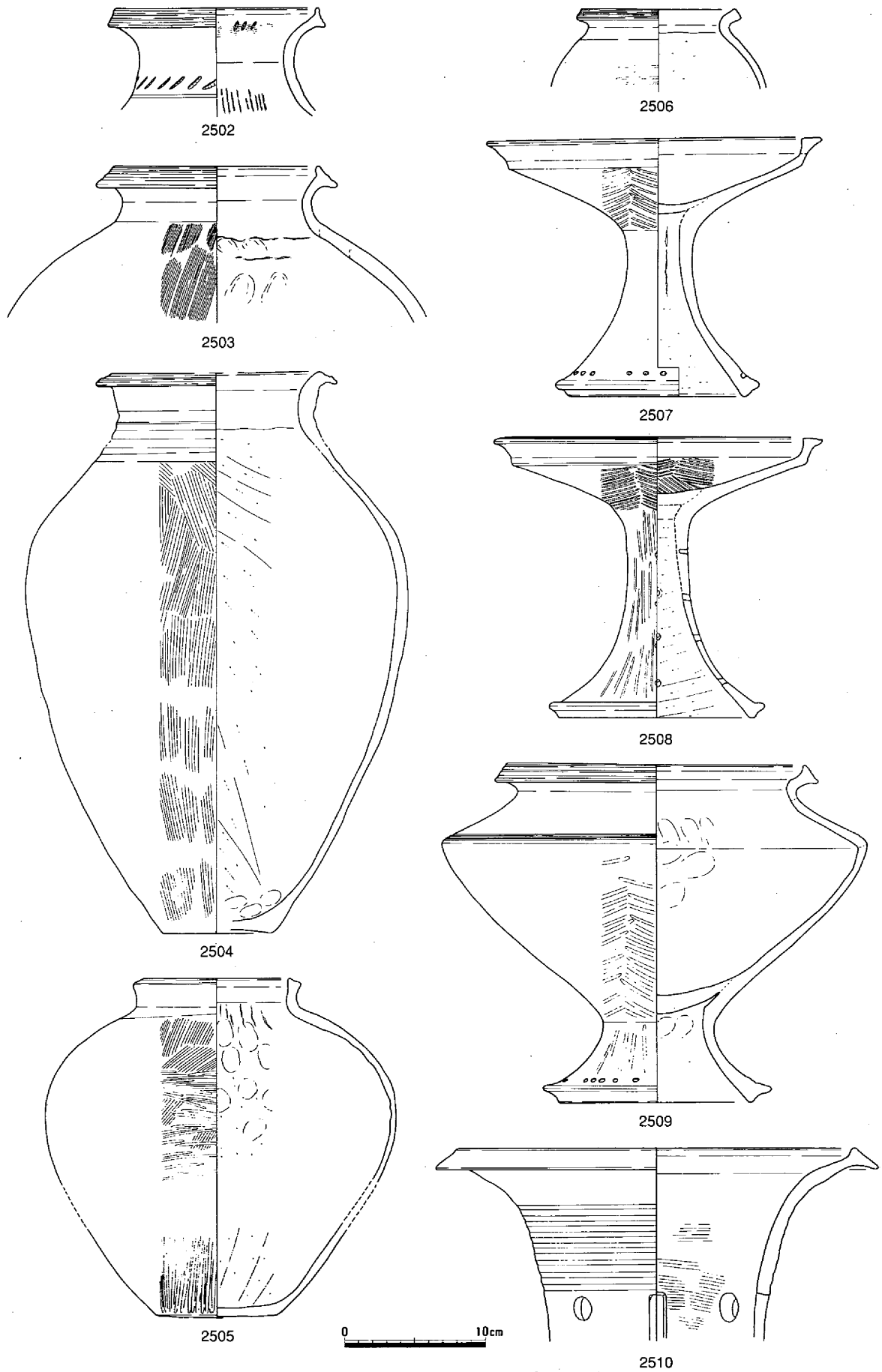
第690図 袋状土壙95 (1/30)



- 1 暗茶灰色砂質土
- 2 淡茶褐色砂質土



第692図 袋状土壙97 (1/30)・出土遺物① (1/2)



第693図 袋状土壙97出土遺物② (1/4)

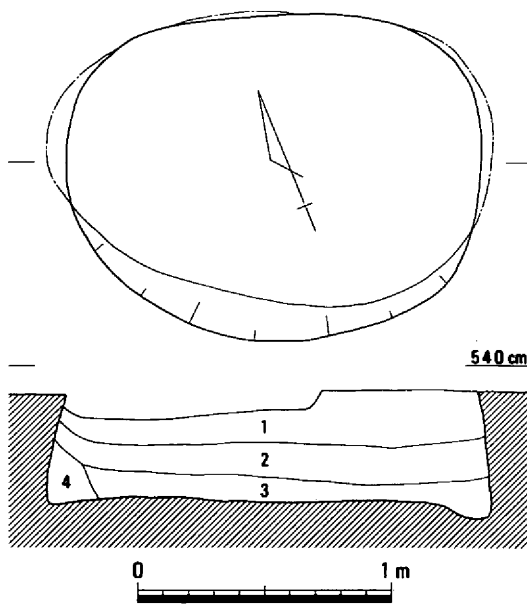
に削平を受けて検出された。径150×170cm、深さ約15cmを残す。楕円形を呈す底部は中央部に向かって緩く傾斜しているがほぼ平坦で、床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。遺物は床面中央を中心に押し潰されるような状態で出土した。壺2502～2505、甕2506、高杯2507・2508、台付鉢2509、器台2510などで、これらに混じってサヌカイト製のスクレイパーS136も出土しており、土器の特徴から当袋状土壙は弥・後・Iに埋没したものと考えられる。(江見)

**袋状土壙98** (第554・694図)

Cg607区の北部に位置し、後述の方形土壙93の東端を切って検出された。径130×162cm、深さ約50cmを残す。楕円形を呈す底部の周囲はやや深く掘られ、中央部をわずかながら高くしている。遺物は弥生時代後期前半の甕および高杯細片が出土している。(江見)

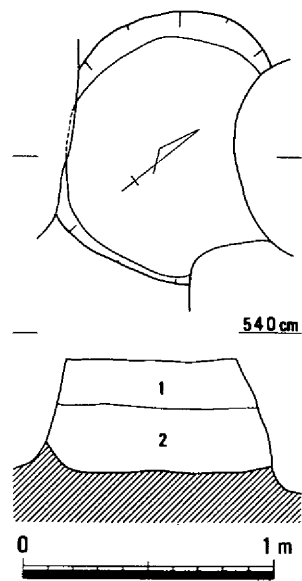
**袋状土壙99** (第554・695図)

袋状土壙98の南東に位置し、南北部分を土壙357・358などによって切られて検出された。径100cm、深さ45cmを残す。円形を呈す底部は平坦で、推定床面積は0.6m<sup>2</sup>と狭い。遺物は弥生時代後期前半の甕細片が出土している。(江見)



- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 茶灰褐色粘質砂<br>(炭粒含) | 3 淡茶灰粘質砂<br>(灰色粘質土塊含) |
| 2 暗茶灰色粘質砂          | 4 淡茶灰色粘質微砂            |

第694図 袋状土壙98 (1/30)



- |            |
|------------|
| 1 暗茶褐色粘質砂  |
| 2 淡茶灰褐色粘質砂 |

第695図 袋状土壙99 (1/30)

**袋状土壙100** (第554・696図)

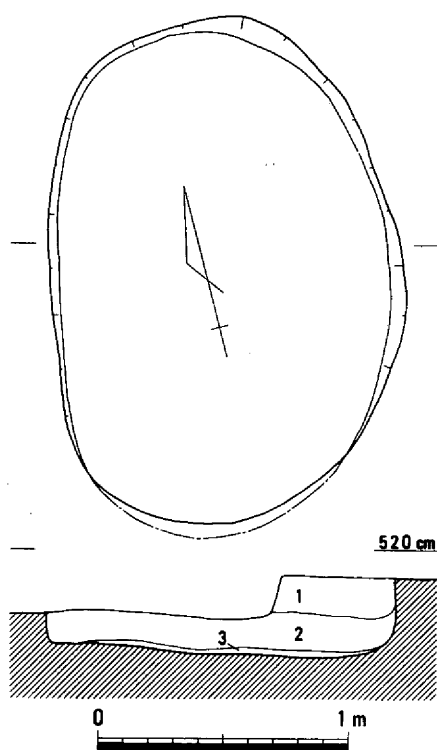
袋状土壙99の南西数mに位置し、西部を竪穴住居105に削平を受け、後述袋状土壙102を切って検出された。径140×198cm、深さ約30cmを残す。楕円形を呈す底部はほぼ平坦で壁は垂直に立ち上がる。床面積は2.15m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期前半の壺、甕、高杯細片が出土している。(江見)

**袋状土壙101** (第554・697図)

袋状土壙100の西に位置し、上部および両端を竪穴住居105に削平され、後述袋状土壙102を切って検出された。推定径100×160cm、深さ約15cmを残す。底部はほぼ平坦で推定床面積は1.3m<sup>2</sup>を測る。

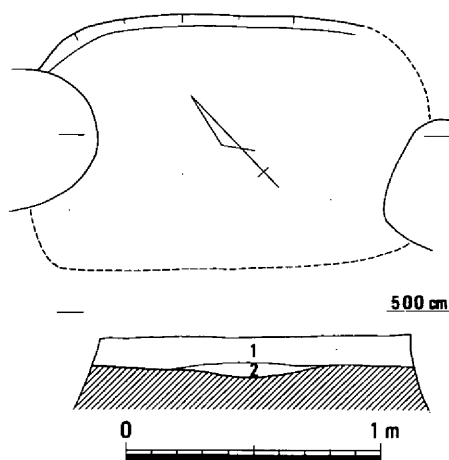


遺物は時期不明の遺物細片のみであった。推定される平面形態からすれば後述する方形土壇の可能性もあるが、遺構の切り合い関係から当項に属すものと判断した。  
(江見)



- 1 茶灰褐色粘質砂
- 2 淡茶灰褐色粘質砂 (炭含)
- 3 淡茶灰色粘質砂

第696図 袋状土壇100 (1/30)



- 1 暗茶灰色粘質砂
- 2 淡茶灰色粘質砂

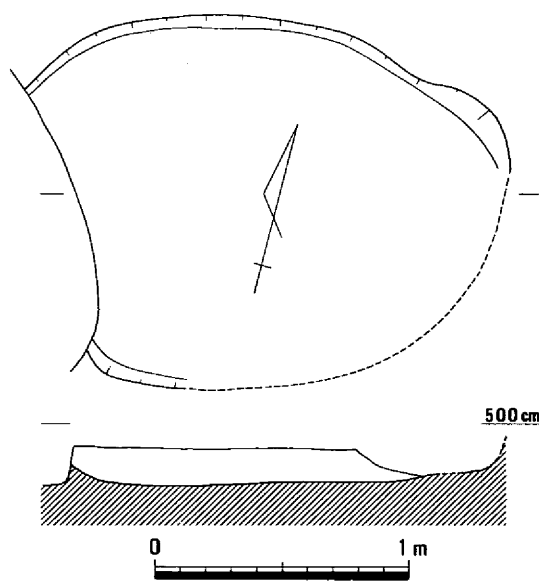
第697図 袋状土壇101 (1/30)

袋状土壇102 (第554・698図)

竪穴住居105の下層、袋状土壇100および101の間から検出された。推定径150×200cm、深さ約15cmを残す。楕円形を呈す底部は平坦で、推定床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。遺物は少なく、わずかに土器細片が出土したのみであったが、当土壇は周辺の遺構検出のあり方から弥生時代後期前半に埋没したものである。  
(江見)

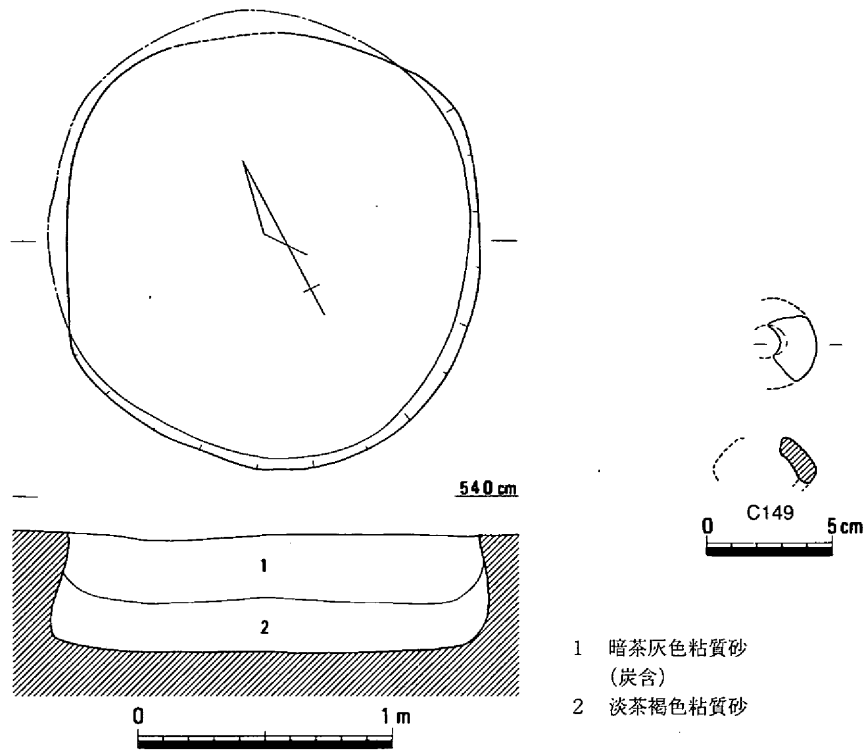
袋状土壇103 (第554・699図)

Cg607区の南東、袋状土壇102の南東5mに位置し、方形土壇96に一端を切られて検出された。径162×175cm、深さ約45cmを残す。円形を呈す底部は平坦で、床面積2.3m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期前半と思われる甕および高杯の細片とともに土玉? C149が出土している。中空の算盤状に作られたもので、上端中央部のみ明瞭に丸く仕上げていることが確認されるが、ミニチュア土器の可能性もある。  
(江見)



- 茶褐色粘質砂 (炭含)

第698図 袋状土壇102 (1/30)



第699図 袋状土壙103 (1/30)・出土遺物 (1/3)

袋状土壙104 (第554・700図)

袋状土壙103の西数mに位置し、北半を調査区側溝により削平を受けている。径約120cm、深さ約30cmを残す。円形を呈す底部は中央がやや高く、壁際に向かって低くなっている。遺物は弥生時代後期と思われる甕細片が出土している。(江見)

袋状土壙105 (第554・701図)

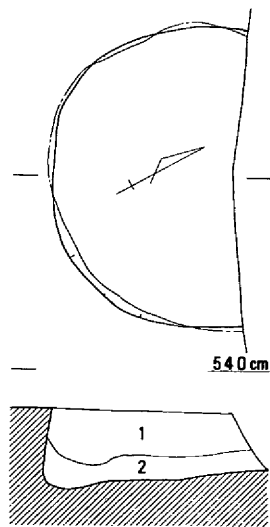
袋状土壙103の東に位置し、北東端部を方形土壙99に切られて検出された。径185×204cm、深さ約30cmを残す。不整円形を呈す底部は中央に向かってわずかに低く、床面中央西寄りから被熱面が検出された。床面積は約2.4m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期前半の甕、高杯、鉢とともにミニチュア鉢2511が出土している。(江見)

袋状土壙106 (第554・702図)

Ch6 08区の北西、袋状土壙105の南東約10mから検出された。径106×110cm、深さ約35cmを残す。円形を呈す底部は全体にわずかな凹凸をもちながら壁に向かって傾斜しており、東隅で顕著である。床面積は1m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期前半と思われる甕1片が出土するにとどまった。(江見)

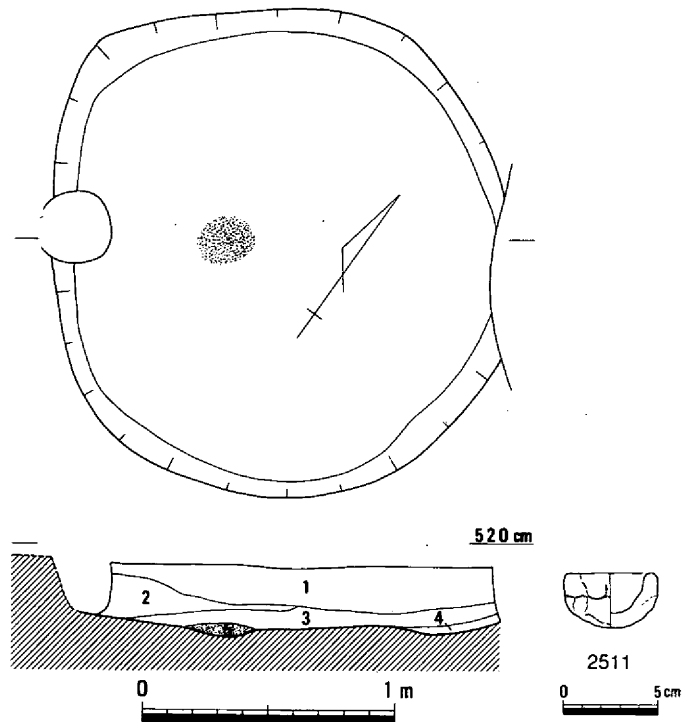
袋状土壙107 (第554・703・704図、図版40)

袋状土壙106の南4mから検出された。径約160cm、深さ約85cmを残す。楕円形を呈す底部はやや凹凸があるものの総じて平坦である。壁は下半がやや掘り込まれるもののほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は10数層に分層され、とくに遺物は床面直上の第9層からまとまって出土している。壺、甕いずれも口縁端部が上下にわずかに引き出され、凹線が巡り、甕2514・2515の胴部外面には刺突文が巡らされるなど、古い様相を残す。弥・後・Iに埋没したものと考えられる。(江見)



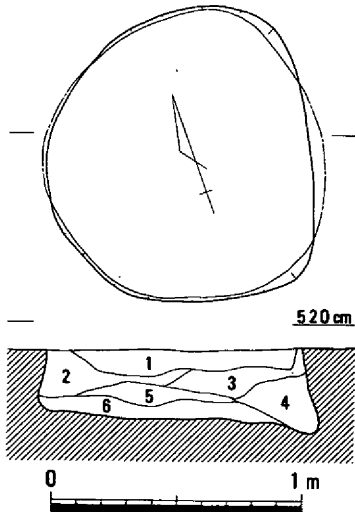
- 1 灰褐色粘質土  
(焼土・炭含)  
2 暗灰褐色粘質土  
(焼土・炭含)

第700図 袋状土壌104 (1/30)



- 1 茶灰褐色粘質砂 (炭多含)  
2 淡茶褐色粘質砂  
3 灰色砂質土 (炭多含)  
4 暗灰色粘質土 (炭含)  
5 赤褐色焼土

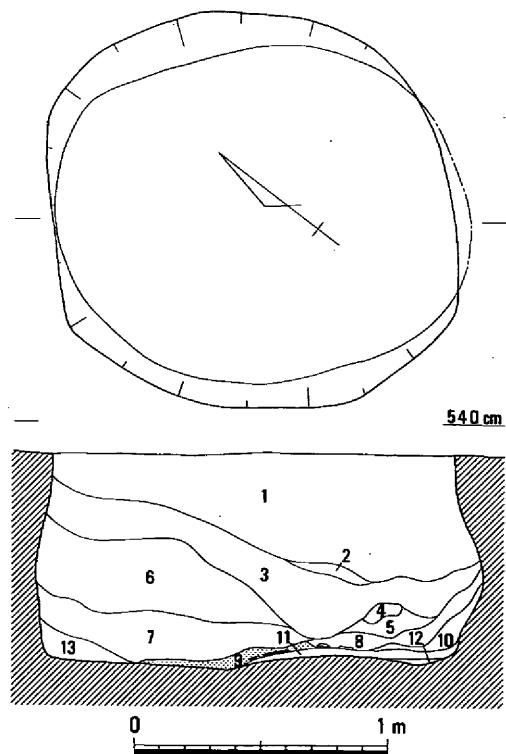
第701図 袋状土壌105 (1/30)・出土遺物 (1/4)



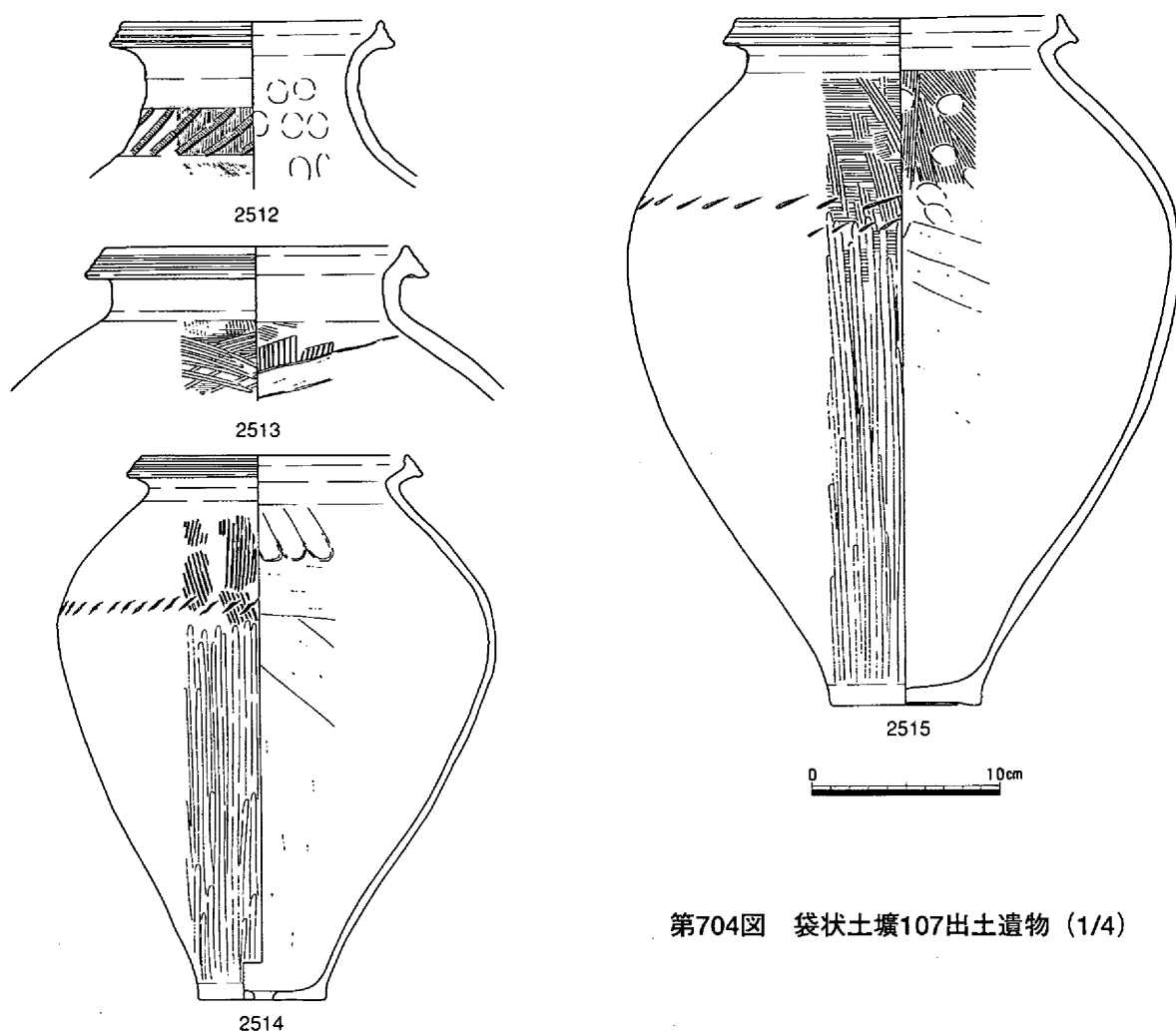
- 1 暗茶褐色粘質土 (炭・土器片含)  
2 淡黄褐色粘質微砂  
3 淡灰茶色粘質微砂  
4 淡茶褐色粘質微砂  
5 褐灰色粘質土 (灰色粘土塊含・炭含)  
6 淡黄茶色粘質微砂

第702図 袋状土壌106 (1/30)

- 1 淡灰茶褐色粘質土  
2 淡灰黄色細砂塊  
3 灰茶色粘質土  
4 淡灰黄色細砂塊  
5 灰茶色粘質土  
6 淡黄灰褐色粘質土  
7 淡黄褐色粘質微砂  
8 淡灰黄色細砂塊  
9 炭層 (土器片含)  
10 淡灰茶色粘質土  
11 淡黄褐色粘質微砂  
12 淡茶灰色粘質土  
13 淡黄灰色細砂



第703図 袋状土壌107 (1/30)



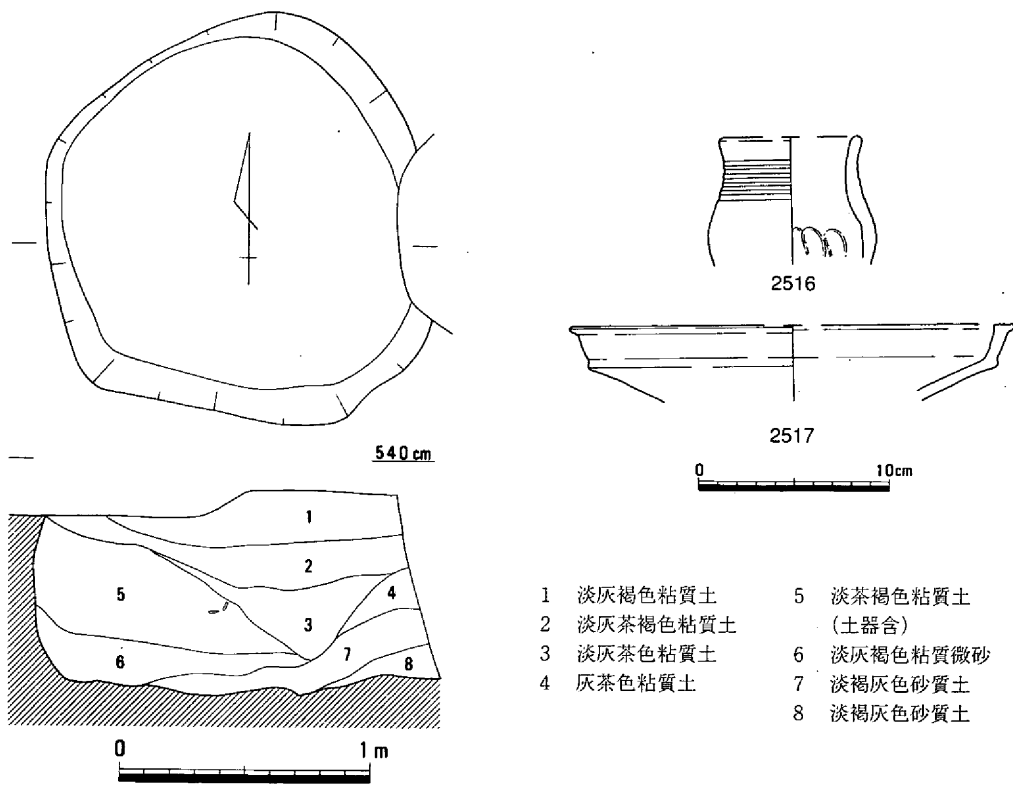
第704図 袋状土壙107出土遺物 (1/4)

袋状土壙108 (第554・705図)

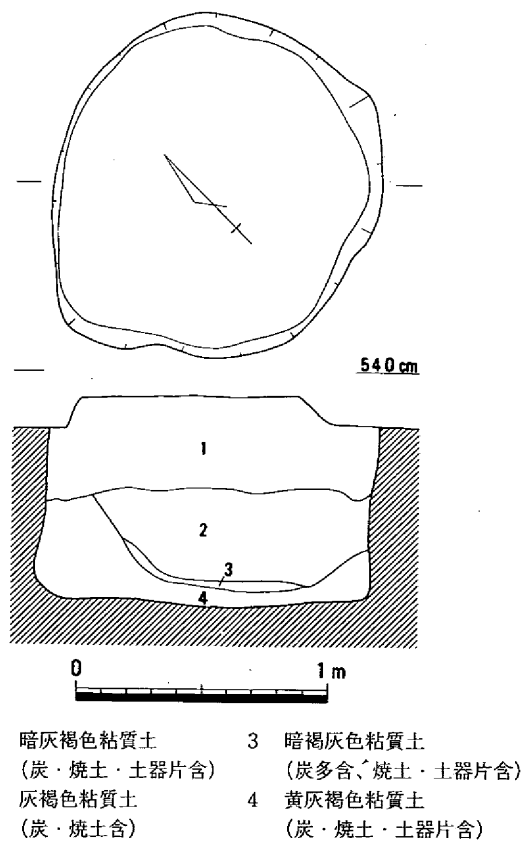
袋状土壙107の西数mに位置し、東部を土壙364に切られて検出された。径150×160cm、深さ約80cmを残す。不整形を呈す底部はやや凹凸があり、床面積は約1.5m<sup>2</sup>を測る。壁は上方に向かいすぼまる傾向が認められるが、ほぼ垂直である。遺物は少なく、第5層中より土器片が出土したのみである。小形の壺2516は口縁下に5条の沈線を巡らせている。高杯2517の口縁は斜めに立ち上がり、端部が外方に引き出され上部に拡張面をもつ。拡張面には4条の凹線が巡る。これら土器の特徴から当袋状土壙は弥・後・Iに埋没したものと考えられる。(江見)

袋状土壙109 (第554・706・707図、図版117)

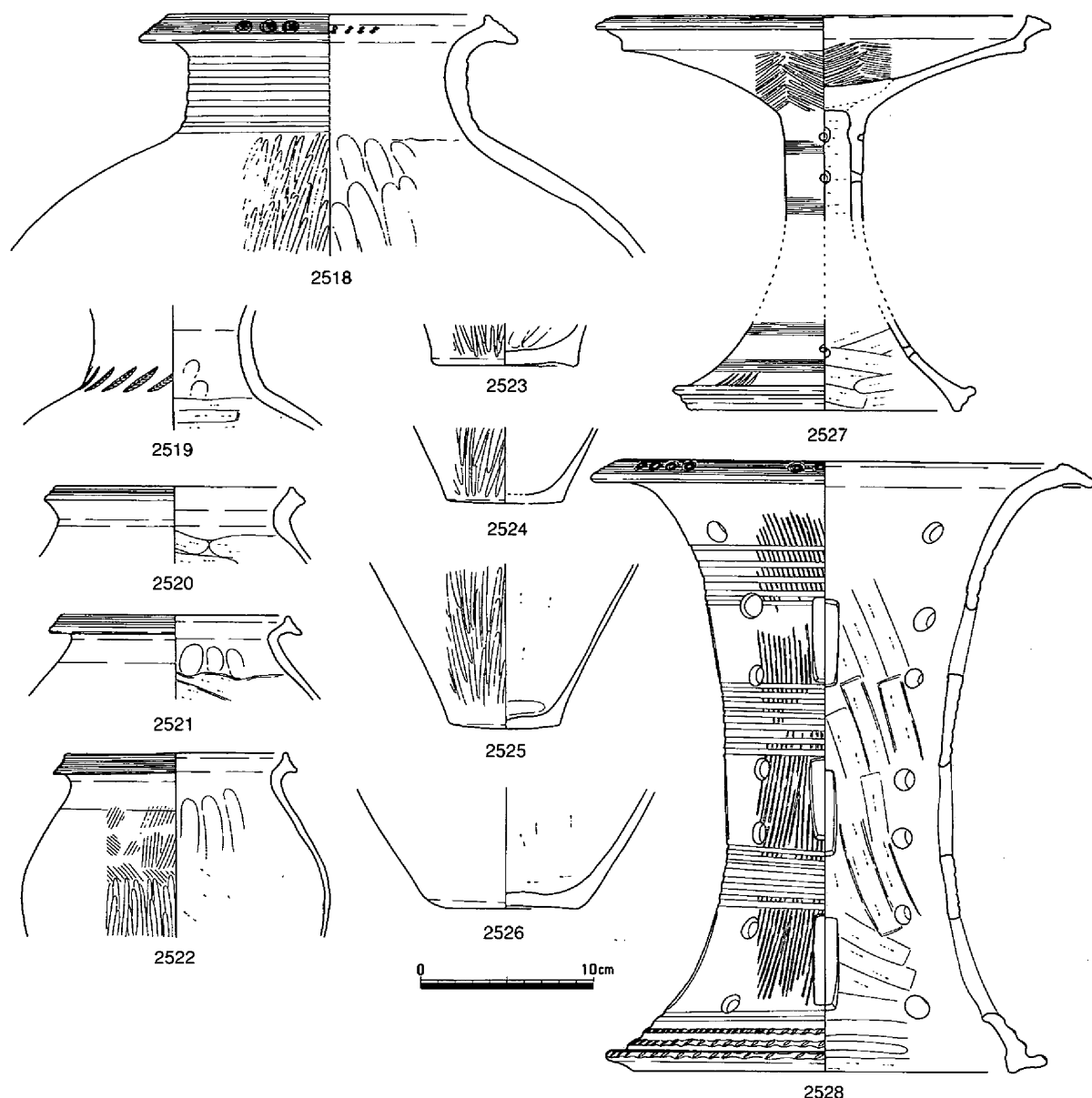
袋状土壙108の南西5mに位置し、上部を古墳時代竪穴住居によって削平を受けて検出された。径130×146cm、深さ約85cmを残す。不整形を呈す底部は平坦で、床面積1.23m<sup>2</sup>を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は4層からなり、とくに第1層はそれまで堆積した土に人為的に埋め戻されたものと判断される。遺物は第2層を除き出土しており、とくに下層から比較的多く出土した。器種は壺2518・2519、甕2520～2525、高杯2527、器台2528などである。壺2518、器台2528の口縁部は端部が外方に引き出され上面に凹線および竹管文が施され、また、各々の形態からこれらは弥生時代中期の様相を色濃く残すものであるが、ほかの甕や高杯のあり方から、当袋状土壙は弥・後・Iに廃棄されたものと判断される。(江見)



第705図 袋状土壙108 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第706図 袋状土壙109 (1/30)



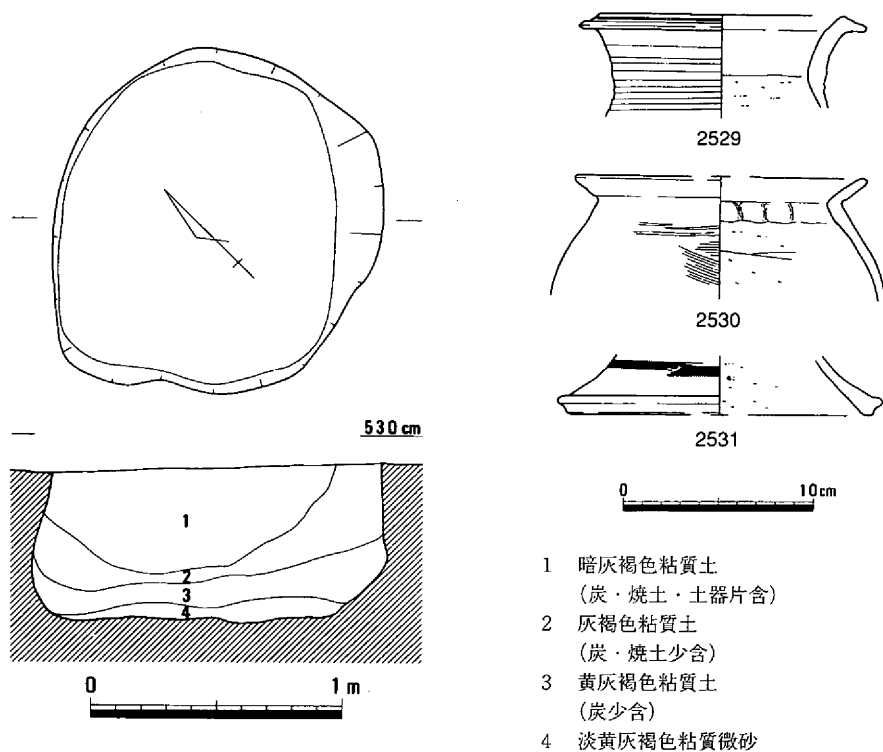
第707図 袋状土壙109出土遺物 (1/4)

袋状土壙110 (第554・708図)

袋状土壙109の北数mに位置し、上部を古墳時代竪穴住居158に削平を受けて検出された。径131×140cm、深さ約60cmを測る。不整形を呈す底部はやや凹凸があるが総じて平坦である。床面積は約1.2㎡を測る。壁は上方にすぼまるもののほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なくいずれも細片で、壺2529、甕2530、高杯2531が出土している。2529の頸部には沈線が巡らされ、2531にはクシ状工具による施文がなされ、これら遺物は弥・後・Iの範疇のものであろう。(江見)

袋状土壙111 (第554・709図)

Ci6 08区の南西端、袋状土壙110の南約12mに位置し、土壙375を切って検出された。径約105cm、深さ約40cmを残す。円形を呈す底部はわずかながら中央に向かって低く、床面積は0.74㎡と小規模である。埋土には粘質土塊が混入する、明らかに人為的に埋め戻された状況が窺えるものであった。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期前半と思われる壺および甕の細片が出土したのみである。(江見)



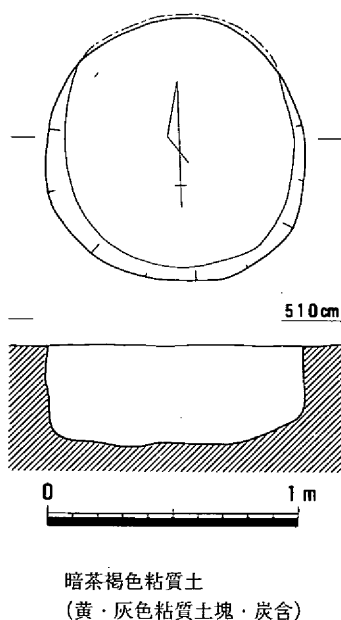
第708図 袋状土壙110 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙112 (第554・710図)

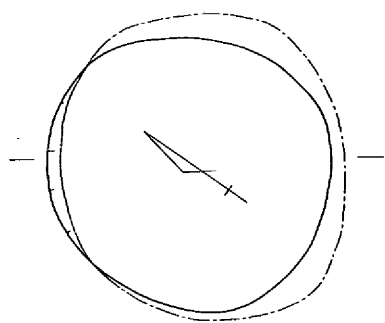
袋状土壙111の東数mに位置し、土壙の北端部を方形土壙139に切られて検出された。径約110cm、深さ約75cmを残す。円形を呈す底部は平坦で、床面積1.13m<sup>2</sup>を測る。壁は上部に向かいわずかにすぼまり気味であるが、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、甕2532～2534、高杯2535のほか、壺細片などである。甕の口縁はいずれも端部が外方に引き出され、2534の胴部は肩の張りが少ない。高杯は直立気味に開く口縁部に、端部は左右に摘み出されて上部に面をなし、浅い凹線が巡る。これら遺物は弥・後・Iの特徴を示す。(江見)

袋状土壙113 (第554・711図)

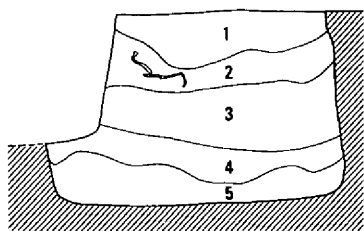
袋状土壙112の南数mから検出された。径130×168cm、深さ約30cmを残す。不整円形を呈す底部は平坦で、床面積約1.5m<sup>2</sup>を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は2層からなり、遺物は図示した高杯2536のほか、甕細片が数片とわずかであった。遺物の特徴から弥・後・Iに埋没したものと思われる。(江見)



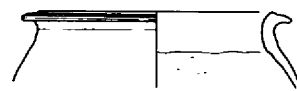
第709図 袋状土壙111 (1/30)



540cm



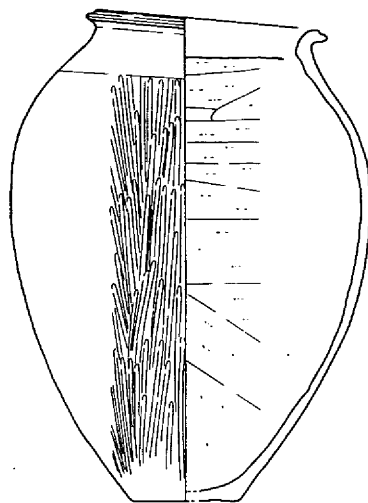
- |                      |                                     |
|----------------------|-------------------------------------|
| 1 淡茶褐色粘質土<br>(炭・焼土含) | 4 淡茶灰色粘質微砂<br>(炭含)                  |
| 2 淡灰茶色粘質土<br>(炭・土器含) | 5 淡茶灰色粘質微砂<br>(炭・焼土・土器片・<br>黄色粘土塊含) |
| 3 淡黄橙色粘質微砂           |                                     |



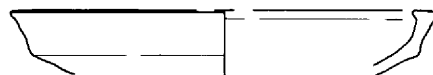
2532



2533



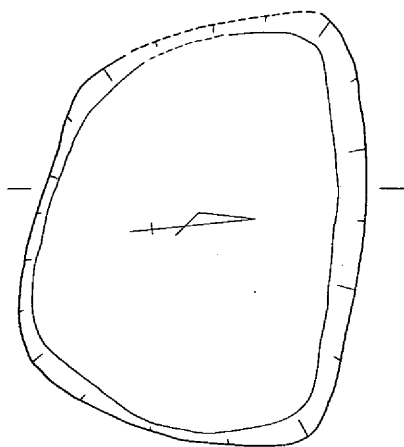
2534



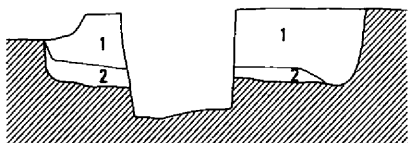
2535



第710図 袋状土壇112 (1/30)・出土遺物 (1/4)



540cm



2536



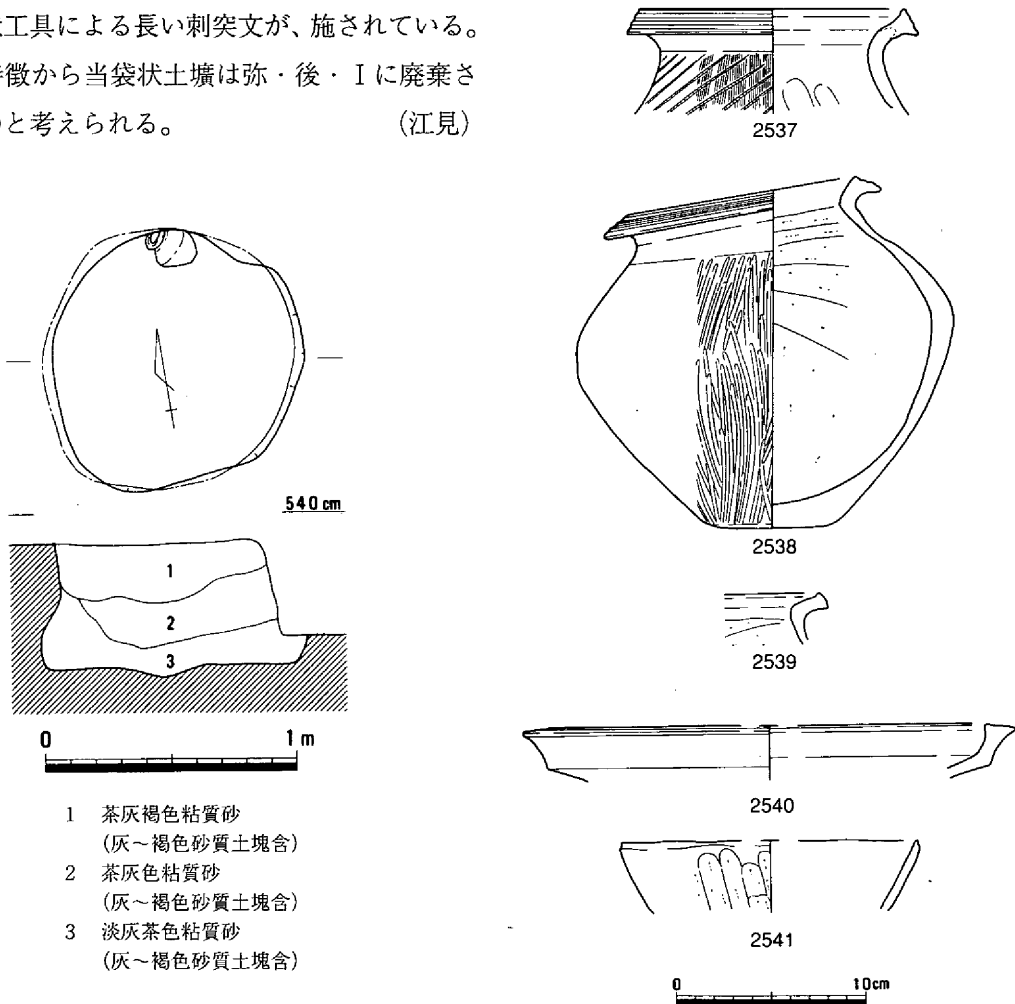
- 1 暗茶灰色砂質土  
(黄色粘質土塊含)
- 2 淡茶灰色粘質砂

第711図 袋状土壇113 (1/30)・出土遺物 (1/4)



袋状土壙114 (第554・712図)

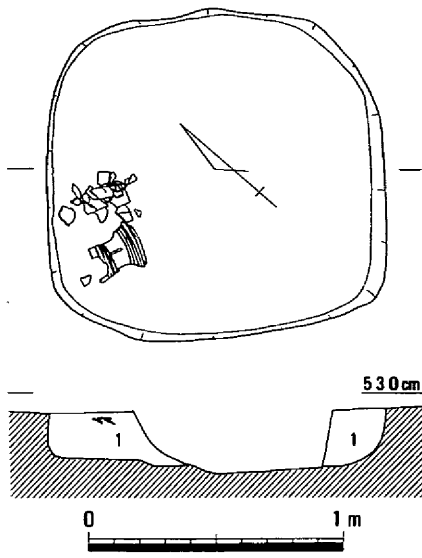
袋状土壙113の南西に位置し、東端を土壙383に切られて検出された。径約100cm、深さ約50cmを残す。円形を呈す底部は平坦であるが、中央部分がやくぼむ。床面積は0.83m<sup>2</sup>を測る。壁は下部でやや広がりを見せるものの、上部はほぼ垂直に立ち上がる。3層からなる堆積層にはいずれも人為的に埋め戻したと思われる土塊が含まれていた。遺物は完形の壺2538が北部床面に横転する状態で検出されており、このほか、壺2537、甕2539、高杯2540、製塩土器2541などの破片が出土している。壺の口縁部にはいずれも凹線が巡らされ、2537の頸部には刷毛状工具による長い刺突文が、施されている。土器の特徴から当袋状土壙は弥・後・Iに廃棄されたものと考えられる。(江見)



第712図 袋状土壙114 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壙115 (第554・713図)

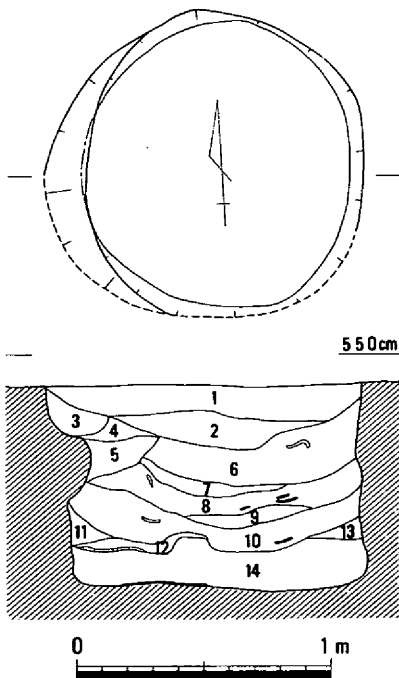
袋状土壙114の西4 mから検出された。径約130cm、深さ約20cmを残す。隅丸方形を呈す底部は平坦で、床面積約1.4m<sup>2</sup>を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土壙西部の埋土上層からまとまって出土した。壺2542、甕2543～2545、高杯2546、器台2547などで、高杯脚部の作りは稚拙である。また、器台裾部の広がりも少ない。以上、甕口縁部のあり方や器台の形態から、これら遺物は弥・後・Iの特徴をもつものと判断され、袋状土壙として当項で取り扱ったが、当土壙は平面形態および周辺の方形土壙のあり方と主軸が類似することなどから、方形土壙の廃棄の際、古い様相をもつ一群の遺物が同時に混入された可能性も否めない。(江見)



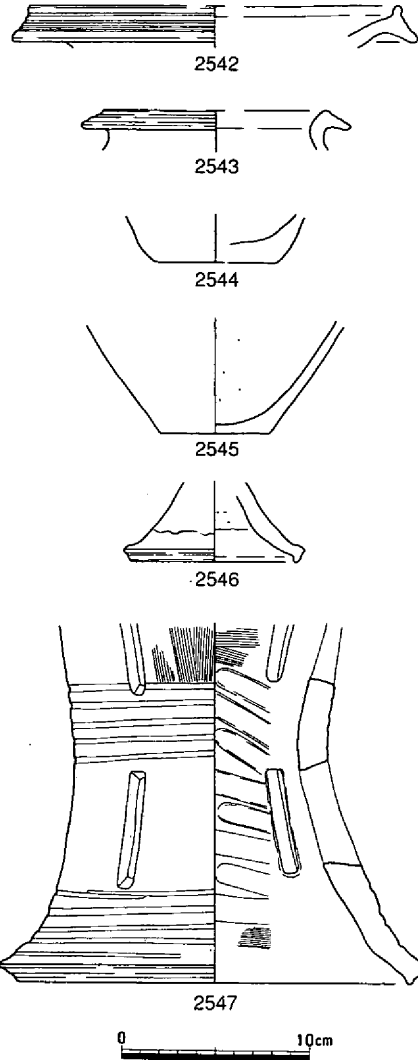
灰茶褐色粘質土  
(土器・炭・礫含)

袋状土坑116 (第554・714~716図)

Cj604区の南東、袋状土坑115の西方28mから検出された。径125cm、深さ約80cmを残す。円形を呈す底部は中央がわずかに高い平坦面をなし、床面積は0.93㎡を測る。壁は断面西側の堆積から明らかのように、本来内傾



第714図 袋状土坑116 (1/30)

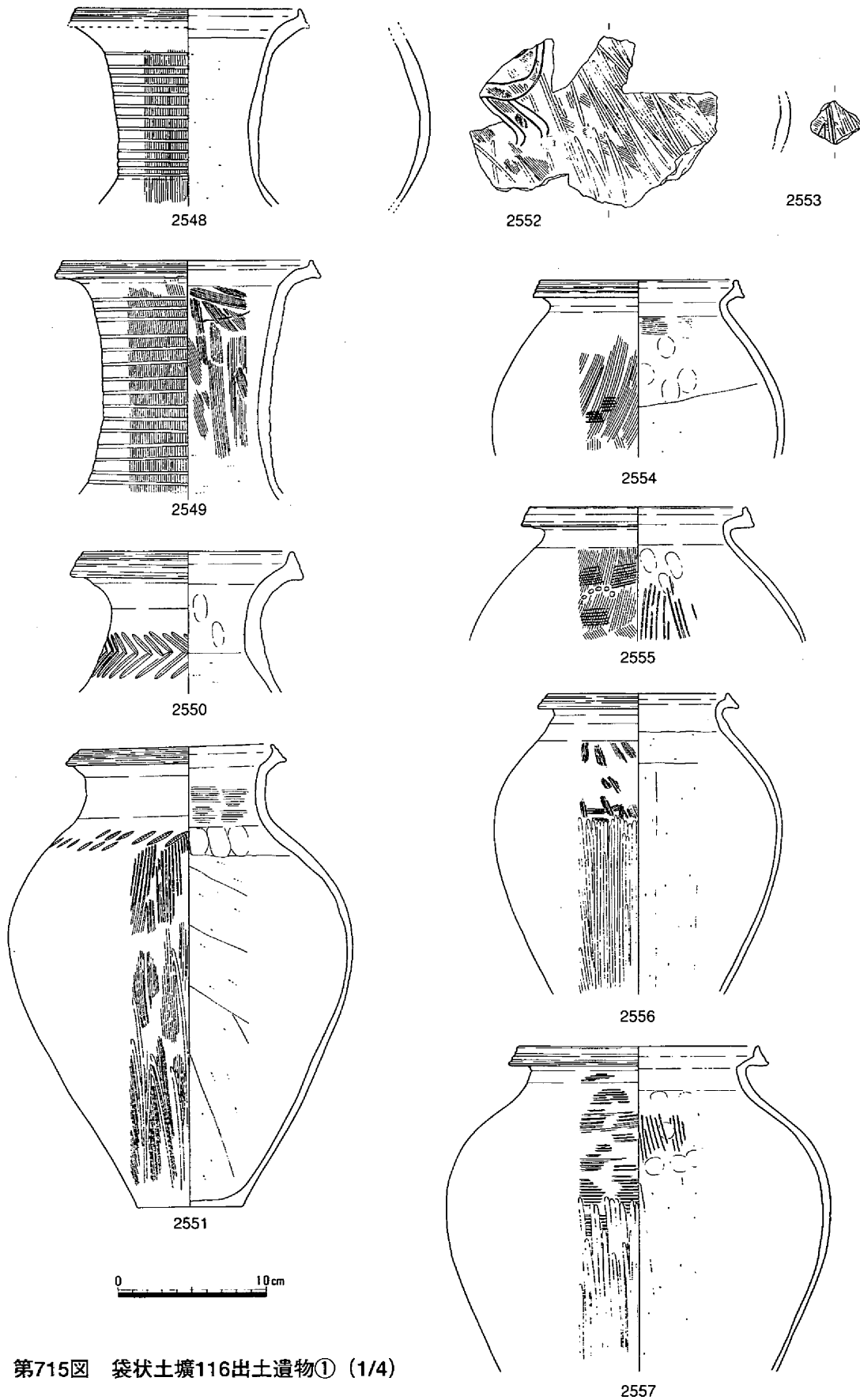


第713図 袋状土坑115 (1/30)・出土遺物 (1/4)

して立ち上がっていたと推定されるが現状ではほぼ垂直である。埋土には多くの炭粒が含まれ、遺物はおもに第6~10層から出土した。長頸壺2548・2549は頸部が上方に開き、壺2550・2551の頸部には刺突文が巡る。2552・2553は同一個体の壺と思われる。胴最大部から上半にか

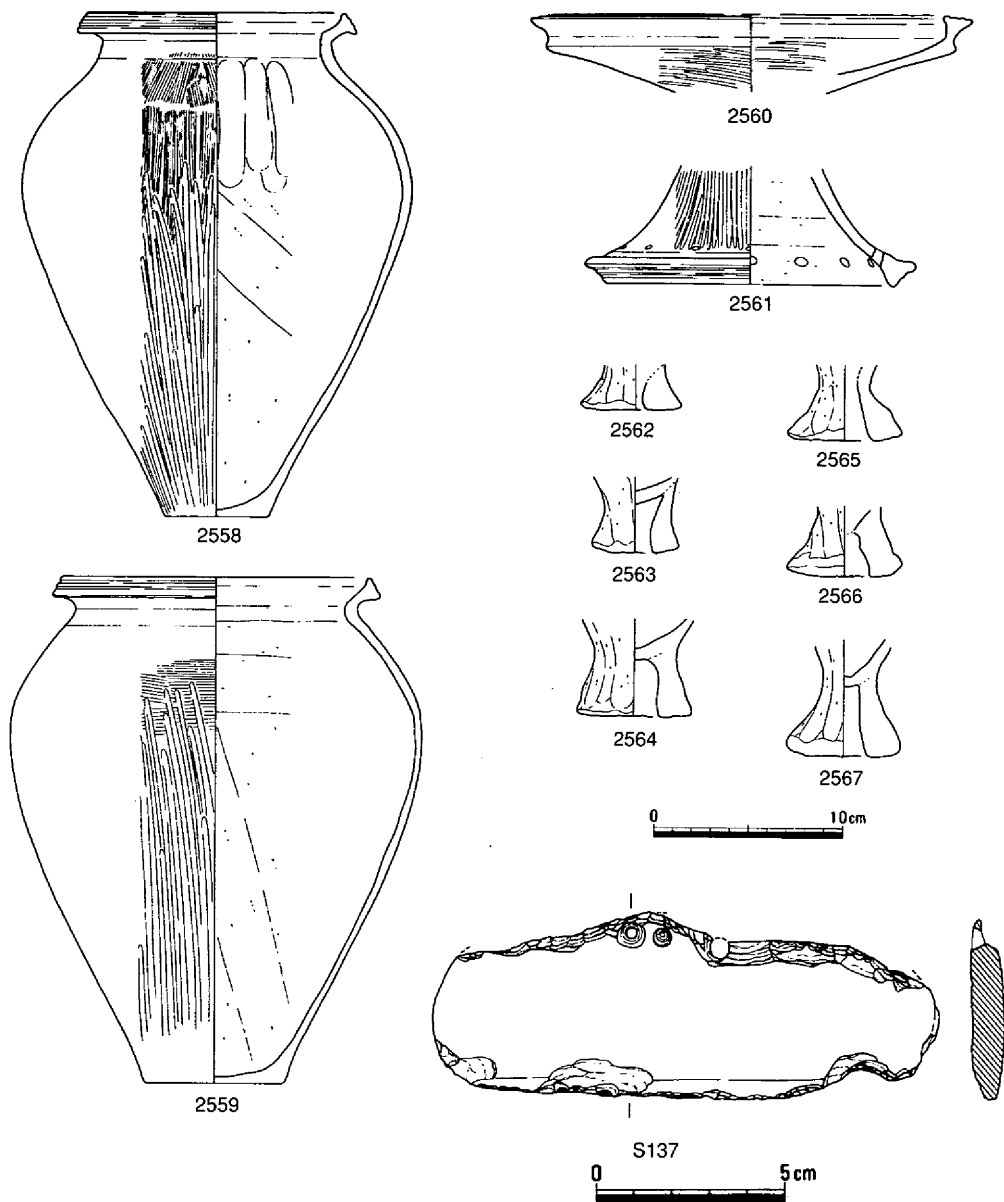
- |                      |                      |                     |
|----------------------|----------------------|---------------------|
| 1 暗茶色粘質微砂<br>(炭・土器含) | 6 暗茶灰色粘質土<br>(炭・土器含) | 11 淡黄褐色粘土<br>(壁の崩れ) |
| 2 淡灰茶褐色粘質微砂<br>(炭含)  | 7 茶褐色粘質砂<br>(炭含)     | 12 暗褐色粘質細砂<br>(炭含)  |
| 3 茶褐色粘質微砂            | 8 暗茶灰色粘質土<br>(炭・土器含) | 13 暗灰褐色粘質砂<br>(炭含)  |
| 4 淡灰褐色粘質微砂<br>(炭含)   | 9 灰褐色粘質土             | 14 淡黄褐色粘質土<br>(炭含)  |
| 5 灰褐色粘質微砂<br>(炭含)    | 10 暗灰色粘質土<br>(炭・土器含) |                     |

けての破片で、刷毛調整の後ヘラミガキが施され、その上にヘラガキによる鹿が描かれている。甕



第715図 袋状土壙116出土遺物① (1/4)

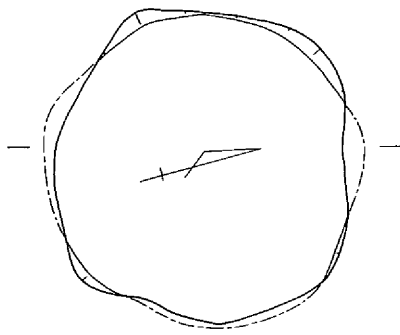
2554～2559の口縁端部は大きく肥厚させている。ほかに、高杯2560・2561、製塩土器2562～2567などが出土している。また、3か所に穿孔痕がある緑色片岩製の石包丁S137も出土している。以上、遺物の特徴から当袋状土壙は弥・後・Iに廃棄されたものと考えられる。(江見)



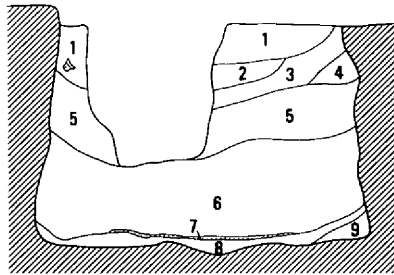
第716図 袋状土壙116出土遺物② (1/4,1/2)

袋状土壙117 (第554・717・718図)

袋状土壙116の東4mに位置し、古墳時代竪穴住居174の下層から検出された。径113×130cm、深さ約90cmを残す。不整形を呈す底部は中央付近がややくぼむ。壁は内傾して立ち上がる。埋土には炭粒を多く含み、遺物は各層から出土しているが特に第6層から多く認められた。遺物は壺、甕、高杯、鉢、製塩土器などで、特に製塩土器2582～2594が多く出土した。底径4～6cmを測り、4cm大の小形のもので大半を占める。甕2574の外面にはタタキ痕跡が残る。高杯2577の口縁端部は外方に大きく引き出され、これら遺物の特徴から当土壙は弥・後・Iに廃棄されたものであろう。(江見)

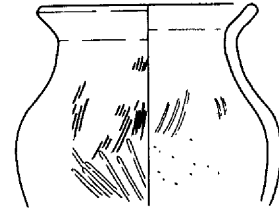


550 cm

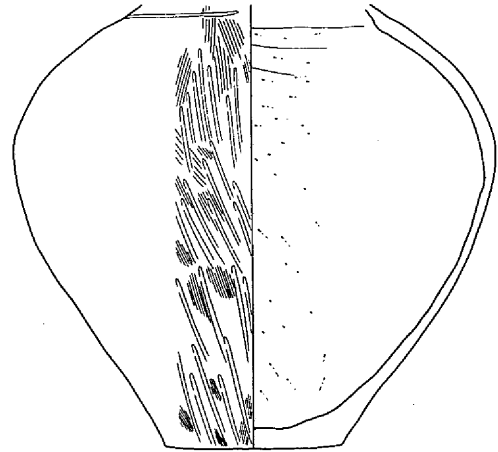


0 1 m

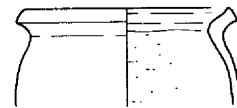
- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1 茶褐色粘質微砂<br>(炭・土器含)   | 5 淡茶灰色粘質土<br>(炭含、細砂含)      |
| 2 淡褐色粘質微砂<br>(炭含)      | 6 淡黄褐色粘質土<br>(炭・土器・黄色粘土塊含) |
| 3 暗灰茶色粘質土<br>(土器含、炭多含) | 7 炭層                       |
| 4 淡灰茶色粘質微砂<br>(炭含)     | 8 暗茶灰色粘質土<br>(炭・土器含)       |
|                        | 9 淡褐灰色粘質土<br>(茶色粘質土含)      |



2568



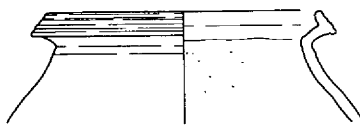
2569



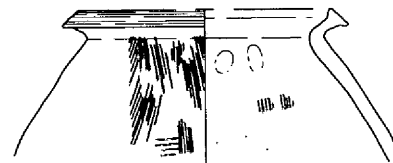
2572



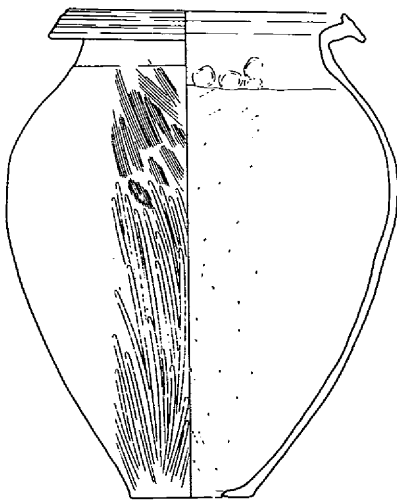
2573



2570



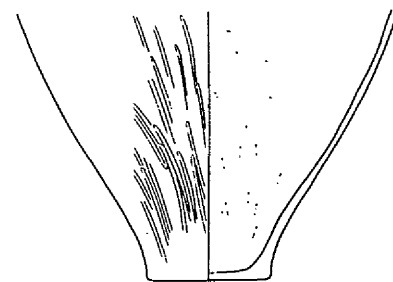
2574



2571



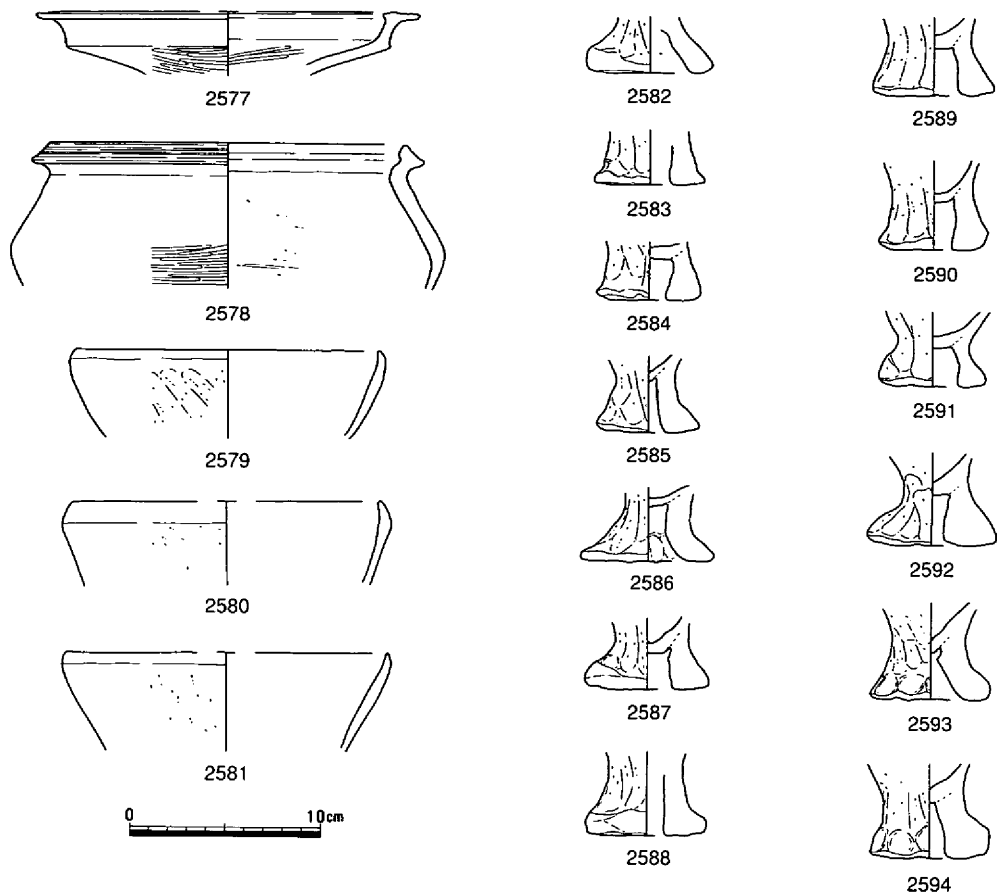
2575



2576

0 10 cm

第717図 袋状土壌117 (1/30)・出土遺物① (1/4)



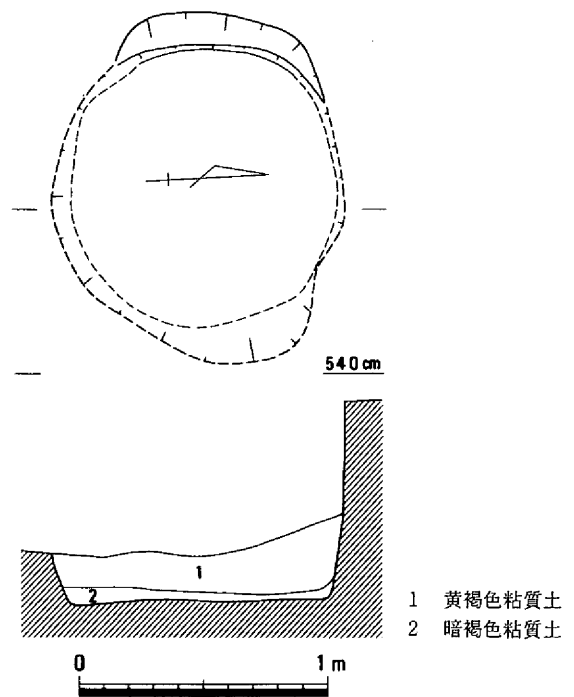
第718図 袋状土壙117出土遺物② (1/4)

袋状土壙118 (第554・719図)

方形土壙161に切られた状態で検出された。遺構の残存状態はよくないが、平面形はおそらく不整な円形を呈するものと推察される。床面は平坦である。規模は上面最大径が約140cm、底面径117cm、深さは79cmを測る。埋土は水平な堆積を示し、2層に区分された。図示する遺物はないが、弥・後・Iの時期に埋没したと思われる遺構である。(松本)

袋状土壙119 (第554・720図)

方形土壙160、土壙394に切られる状態で検出された。平面形は楕円形を呈し、床面は平坦である。規模は上面径が90×127cm、底面径120cm、深さ69cmを測り、断面形はフラスコ状を呈している。埋土の中央は盛り上がるが、ほぼ水平堆積を示しており、2層に区分される。上層においては、土器のほかに多量の炭が含まれていた。遺物としては甕2595、高杯



第719図 袋状土壙118 (1/30)

2596などが出土している。これらの遺物からみて、弥・後・Iの時期に埋没したと思われる。

(松本)

**袋状土壙120 (第554・721図)**

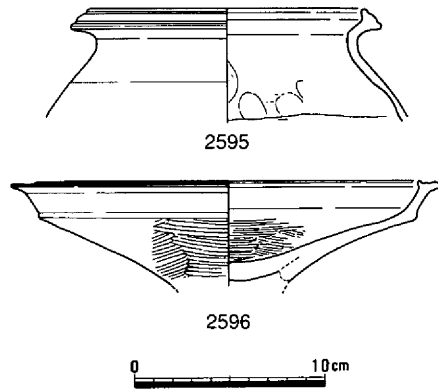
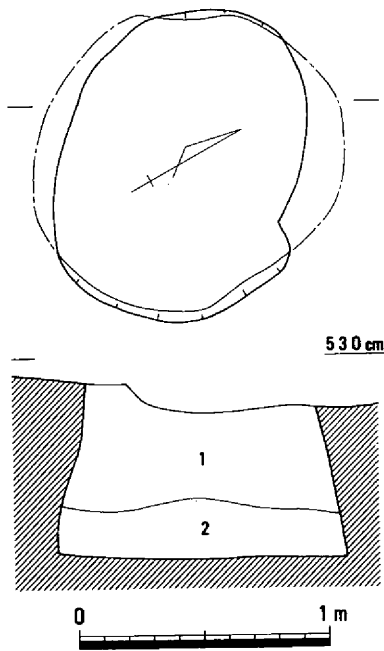
方形土壙158の南約7mに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、床面の中央部がやや盛り上げる。規模は上面径112cm、底面径110cm、深さ53cmを測り、断面形は台形を呈している。埋土は4層に区分されるが、1層は炭を含み、3層では土器、炭を含んでいた。

遺物の大部分は最下層である3層から出土したが、図示可能な遺物は壺2597のみである。この遺物からみて、弥・後・Iの時期に埋没したと思われる。

(松本)

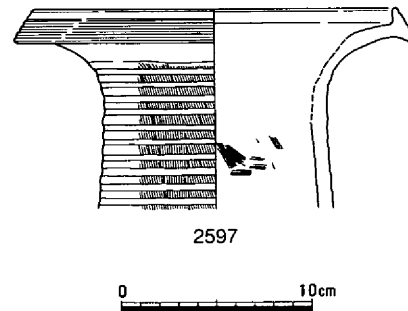
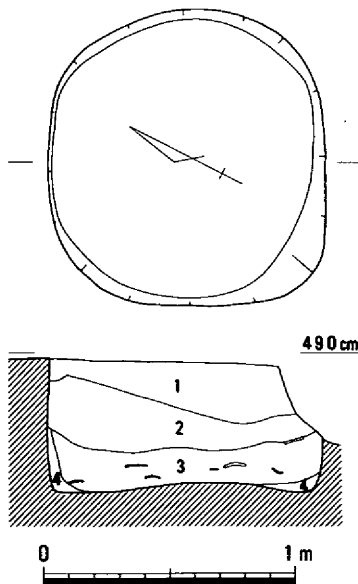
**袋状土壙121 (第554・722図)**

方形土壙162の西約2mの位置で検出された。平面形は円形を呈し、床面はほぼ平坦である。規模は



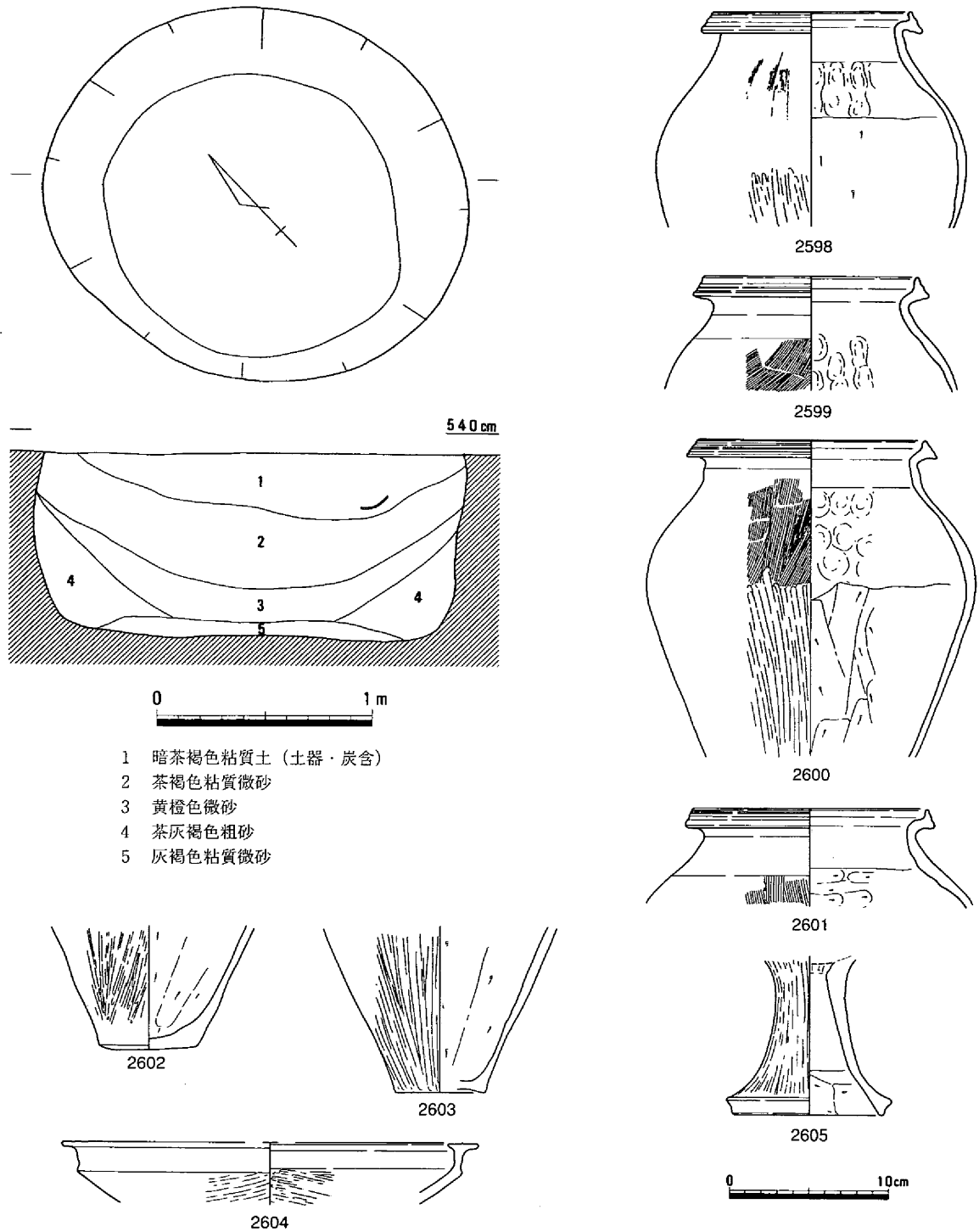
- 1 暗褐色土 (土器・炭多含)
- 2 黄褐色土

第720図 袋状土壙119 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰黄褐色細砂混じり土 (炭含)
- 2 黄褐色微砂混じり粘質土
- 3 灰色細砂 (土器・炭含)
- 4 黄褐色粘質土

第721図 袋状土壙120 (1/30)・出土遺物 (1/4)



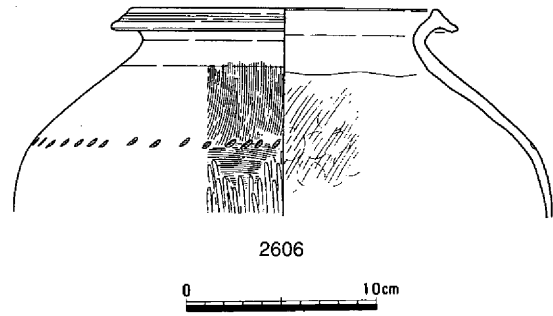
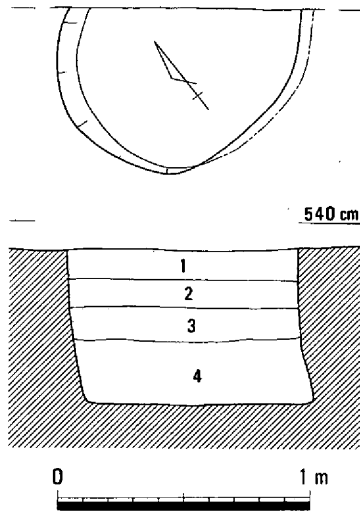
第722図 袋状土壙121 (1/30)・出土遺物 (1/4)

上面径198cm、底面径176cm、深さ88cmを測る。埋土はレンズ状に堆積するが、5層に区分された。1層は土器、炭を含む土層であった。遺物としては甕2598～2603、高杯2604・2605などがある。これらの遺物からみて、弥・後・Iの時期に埋没したと思われる。(松本)

袋状土壙122 (第551・723図)

竪穴住居118の北に接して位置する。北側の約半分が調査区外へと続くが、調査範囲では上面径が196cm、底面径は195cm、深さが123cmを測る。





- 1 暗黄褐色土
- 2 灰褐色砂質土
- 3 暗灰褐色粘質土
- 4 灰黄褐色砂質土

第723図 袋状土壙122 (1/30)・出土遺物 (1/4)

壺2606が出土しており、時期は弥・後・Iとみられる。

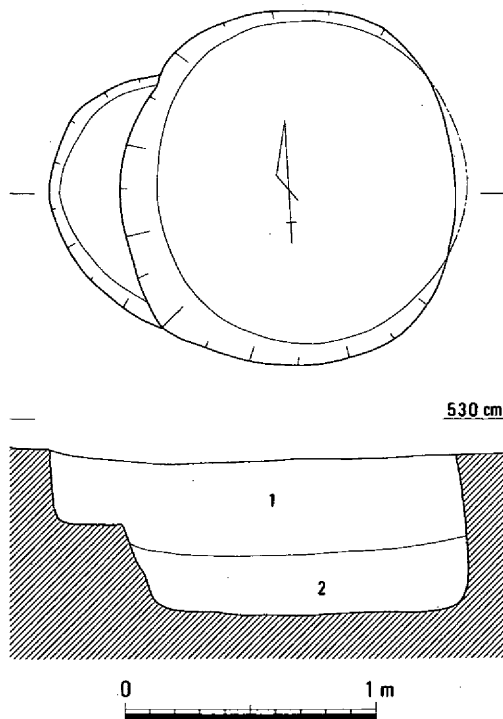
(弘田)

袋状土壙123 (第551・724図)

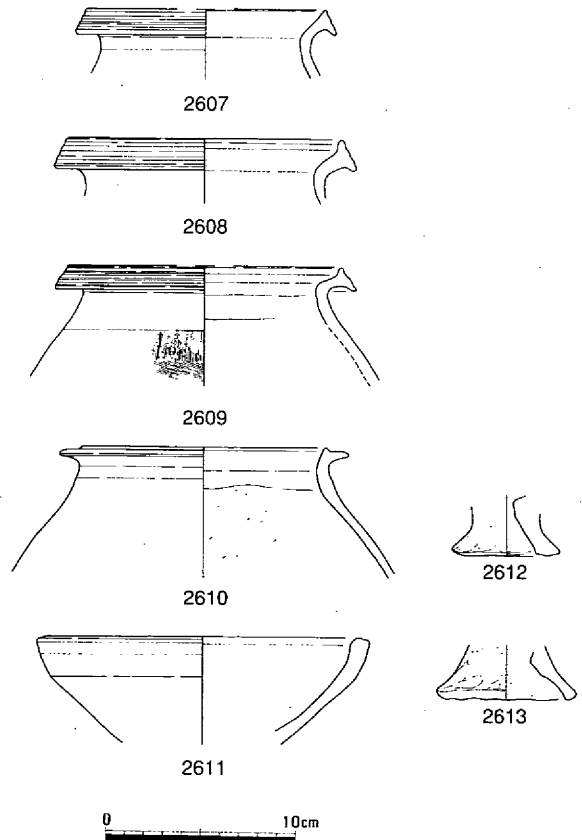
調査区の北東部、竪穴住居118の西隣りに位置する。平面形は約130×140cmの楕円形で、西側に張り出し部分が検出できたが、切り合いなのか拡張なのかなどについては解らなかつた。深さは約60cm残存しており、底面はほぼ平らであった。断面形は東側が一部袋状になっていた。

埋土中からは少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えられる。

(平井)



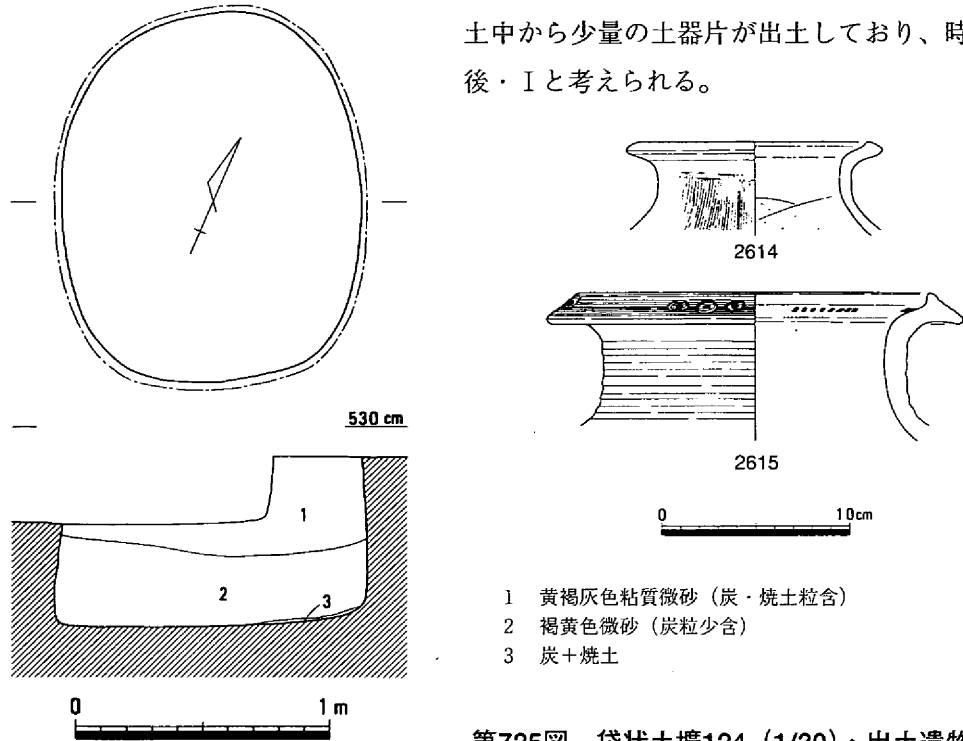
- 1 黄褐色粘質微砂 (炭・焼土含)
- 2 褐色微砂 (炭粒少含)



第724図 袋状土壙123 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壇124 (第551・725図)

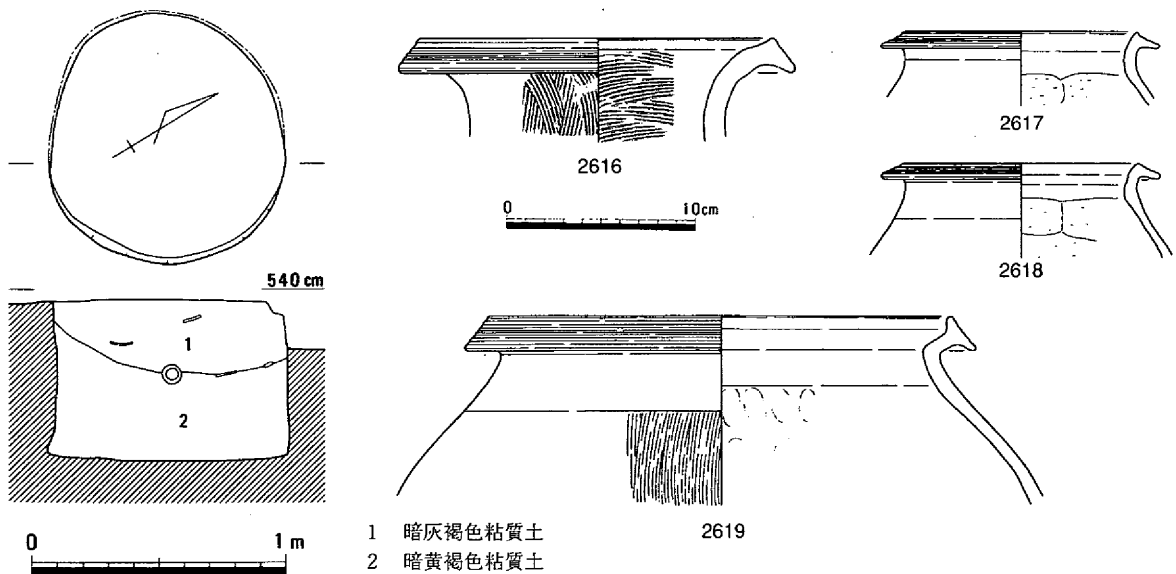
調査区の北東部、竪穴住居118の南西隣りに位置する。平面形は約120×150cmの楕円形で、深さは66cm存していた。底面はほぼ平らで、断面形はわずかではあるが袋状を呈していた。埋土は3層に分離でき、底面には炭、焼土が薄く堆積していた。埋土中から少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)



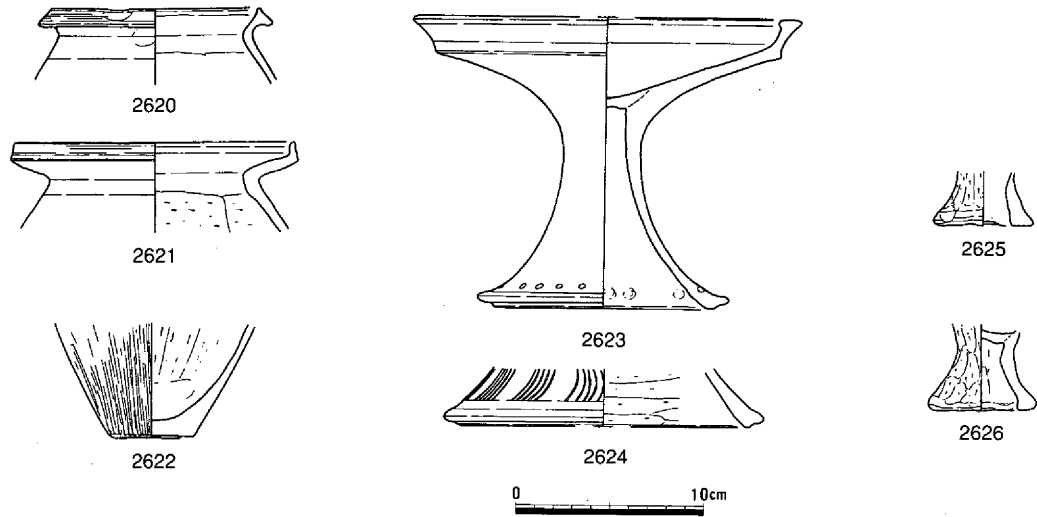
第725図 袋状土壇124 (1/30)・出土遺物 (1/4)

袋状土壇125 (第551・726・727図)

竪穴住居119と120の間に位置する。規模は、上面での直径が97cm、底面径は100cmで、深さが64cmを測る。埋土は2層に分けられ、遺物は上層中および2層との間から出土している。出土した遺物からみて、時期は弥・後・Iである。(弘田)



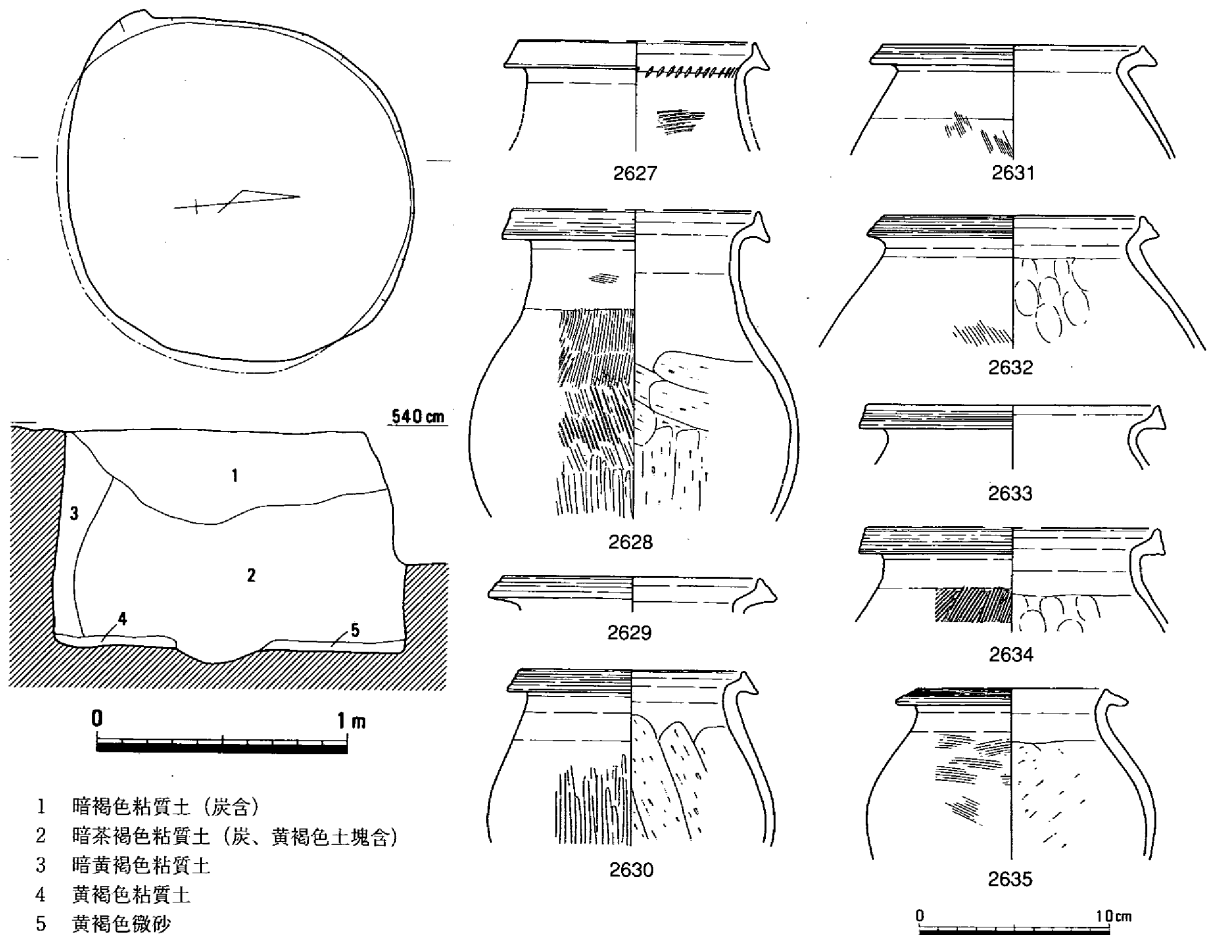
第726図 袋状土壇125 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第727図 袋状土壙125出土遺物② (1/4)

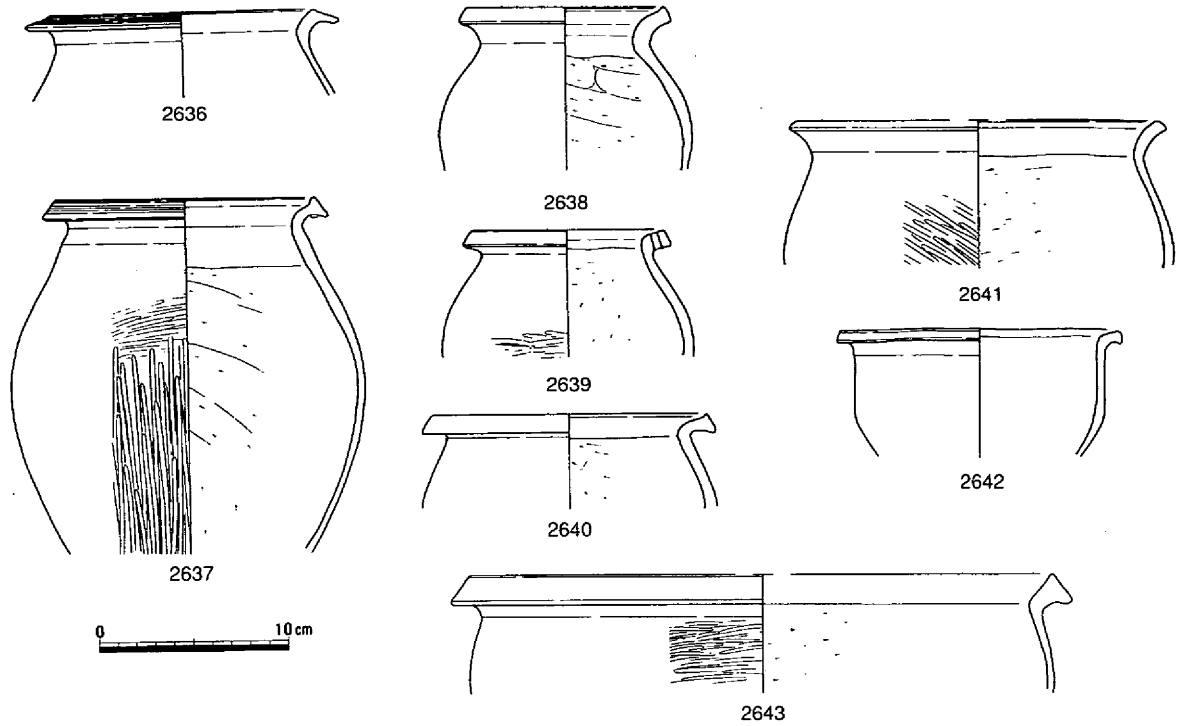
袋状土壙126 (第551・728・729図)

調査区の東端近く、竪穴住居122の東4 mに位置する。平面形は円形を呈し、規模は上面での直径が156cm、底面径は147cmで、深さが92cmを測る。埋土は、大きく上下2層に分かれるがともに炭を含ん



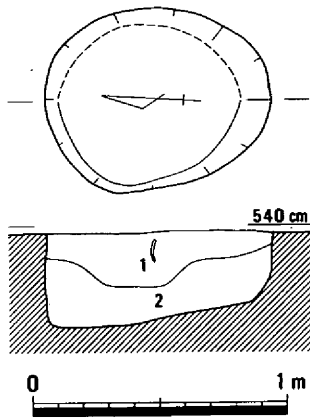
- 1 暗褐色粘質土 (炭含)
- 2 暗茶褐色粘質土 (炭、黄褐色土塊含)
- 3 暗黄褐色粘質土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 黄褐色微砂

第728図 袋状土壙126 (1/30)・出土遺物① (1/4)

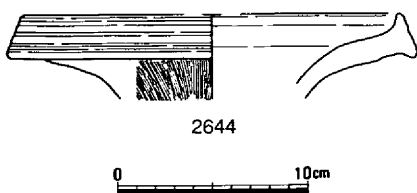


第729図 袋状土壙126出土遺物② (1/4)

でいた。また、断面観察時には底面中央がややくぼんでおり、その周囲には貼床状の黄褐色の層（4・5層）がみられた。出土した土器類2627～2643には、後期ⅠからⅢまでの時間幅がみられる。（弘田）



- 1 淡茶褐色微砂
- 2 黄灰褐色微砂



第730図 袋状土壙127 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

袋状土壙127 (第551・730図)

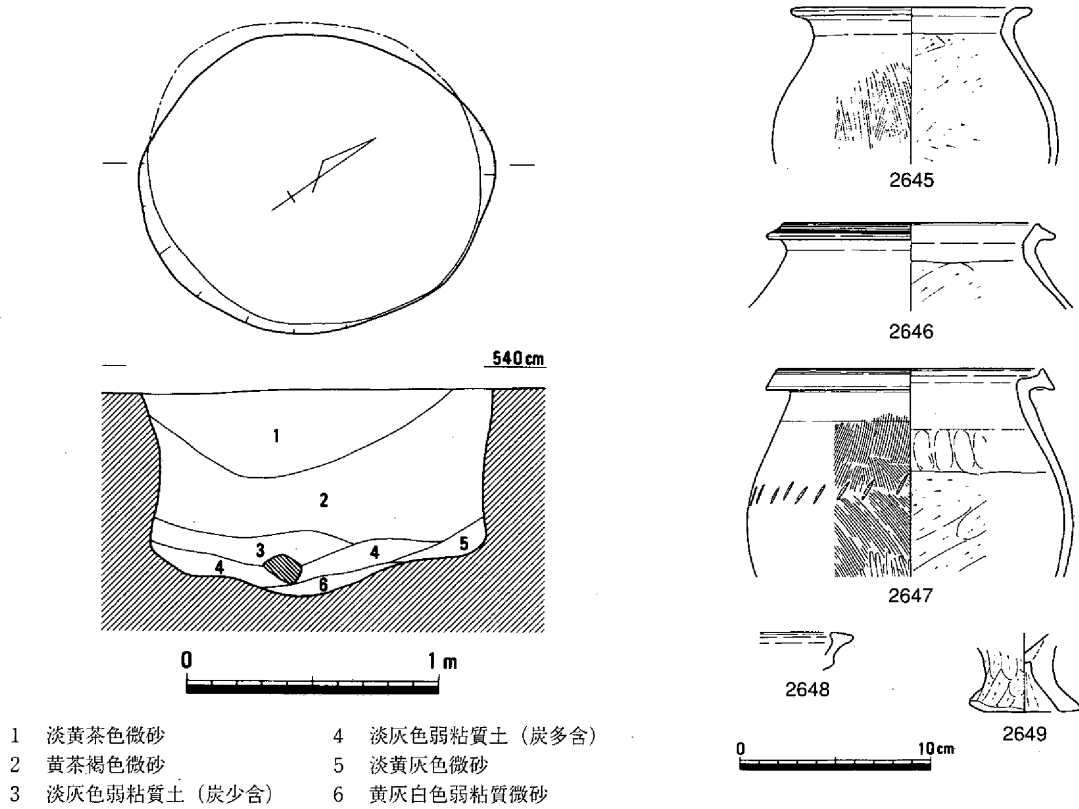
調査区の北東部、竪穴住居123の北約2mに位置する。平面形は約70×90cmの楕円形で、深さは37cm残存していた。底面は平らでなく南側が高くなっていた。断面形は明瞭な袋状になってはいないが全体的な形状から袋状土壙として報告している。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Ⅰと考えている。（平井）

袋状土壙128 (第551・731図)

調査区の北東部、竪穴住居113の北東隣りに位置する。平面形は約120×140cmの楕円形で、深さは82cm残存していた。断面形は一部袋状になっており、底面には凹凸が認められた。埋土は6層に分離でき、下層には炭が堆積していた。遺物は少量の土器片が出土している。2645～2647は甕で、口唇部形状はそれぞれ異なっているのが特徴的である。時期は弥・後・Ⅰと考えている。（平井）

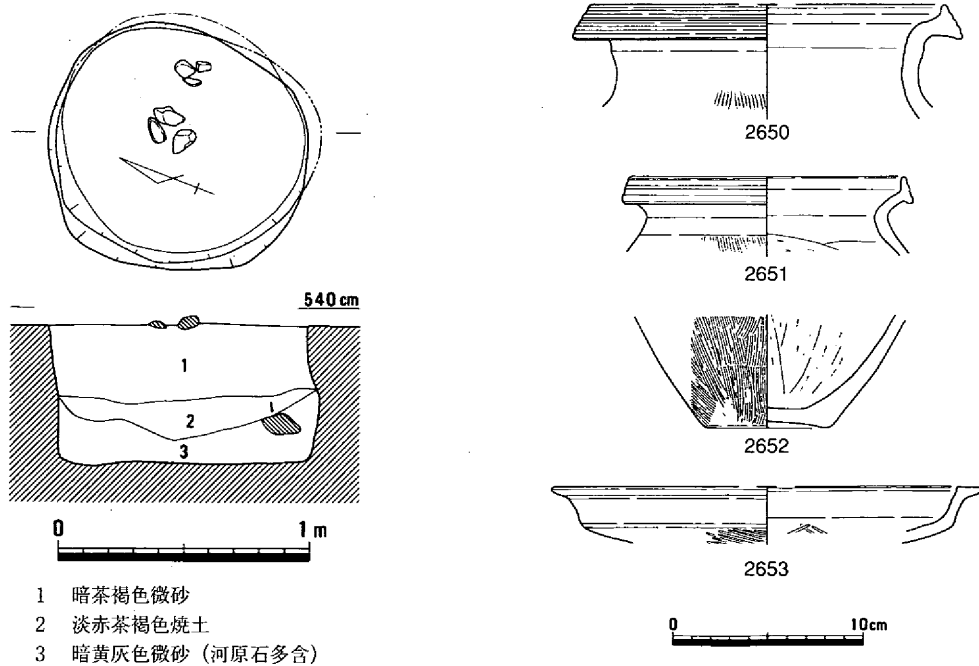
袋状土壙129 (第551・732図)

調査区の北東部、袋状土壙128の南東約2mに位置している。平面形は直径約1mの不整円形で、深さは55cm残存していた。底面はほぼ平らで、断面形は一部袋状になって



第731図 袋状土壇128 (1/30)・出土遺物 (1/4)

いた。埋土中に河原石が多く含まれていたのが特徴である。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えられる。(平井)



第732図 袋状土壇129 (1/30)・出土遺物 (1/4)

### (5) 方形土壇

#### 方形土壇 1 (第552・733図、図版41)

Cg509区の南西部で検出した方形土壇である。規模は、長さ202cm、幅139cm、深さ31cm、面積2.09m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は523cmである。遺物は、弥生土器が数点出土している。遺構や遺物の観察からこの遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

#### 方形土壇 2 (第552・734図)

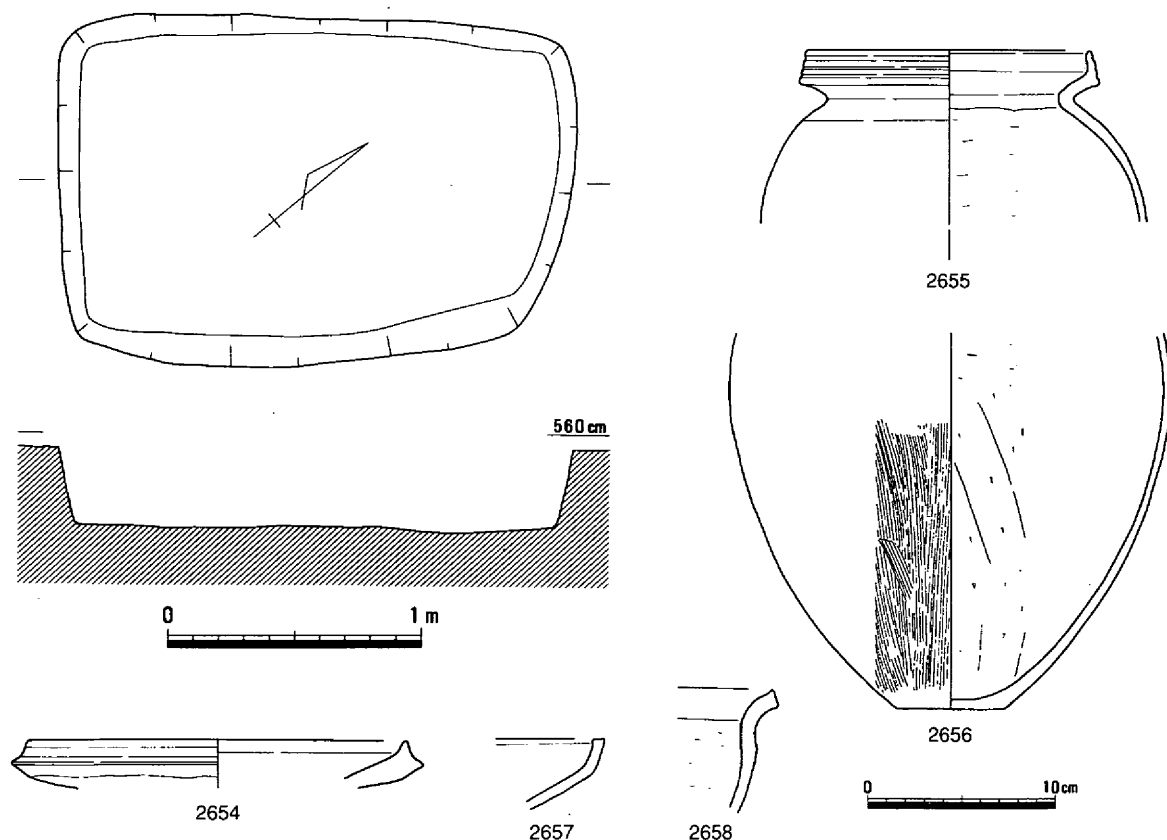
Cg509区の方形土壇1の東で検出した土壇である。規模は、長さ272cm、幅154cm、深さ26cm、面積3.62m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は534cmである。遺物は、弥生土器が数点出土している。遺構や遺物の観察からこの遺構の性格は不明で、時期は弥・後・III~IVとしたい。(浅倉)

#### 方形土壇 3 (第552・735図、図版42)

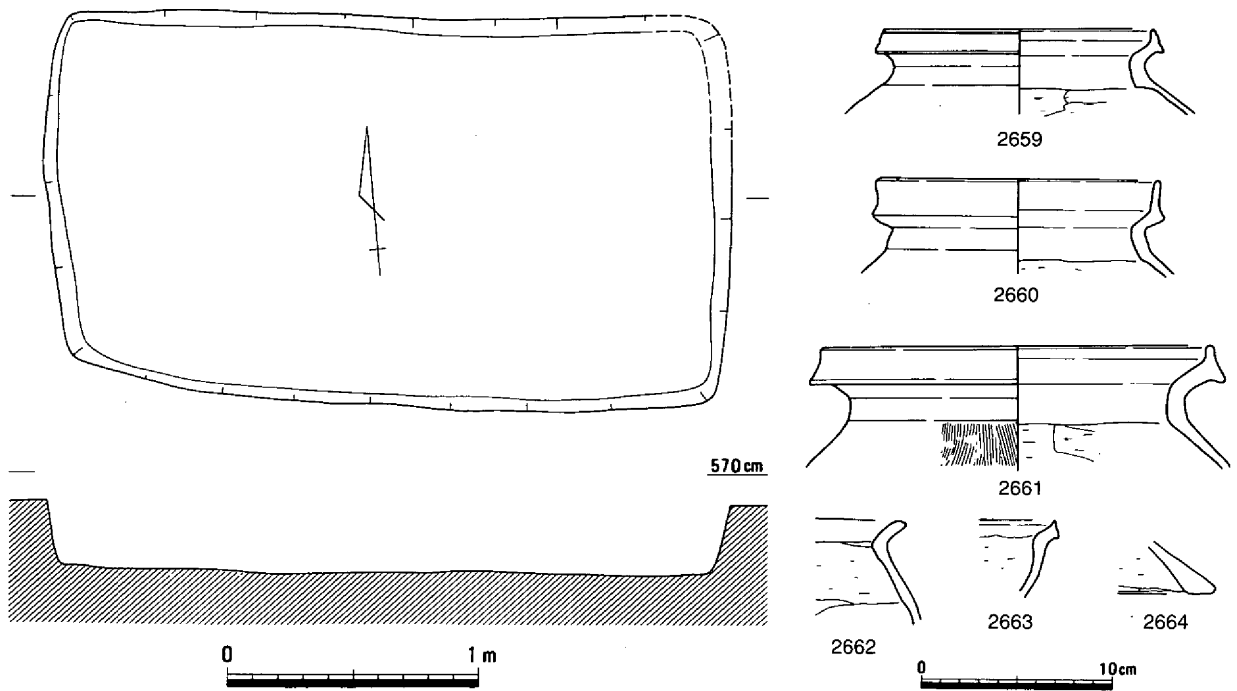
Cg600区の方形土壇2の北東で検出した。規模は、長さ305cm、幅180cm、深さ50cm、面積4.47m<sup>2</sup>を測ることができる。本遺跡の中で最大級の土壇である。底面の標高は485cmである。遺物は、弥生土器が数点出土している。2673は鉢である。遺構や遺物の観察からこの遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

#### 方形土壇 4 (第552・736図、図版42)

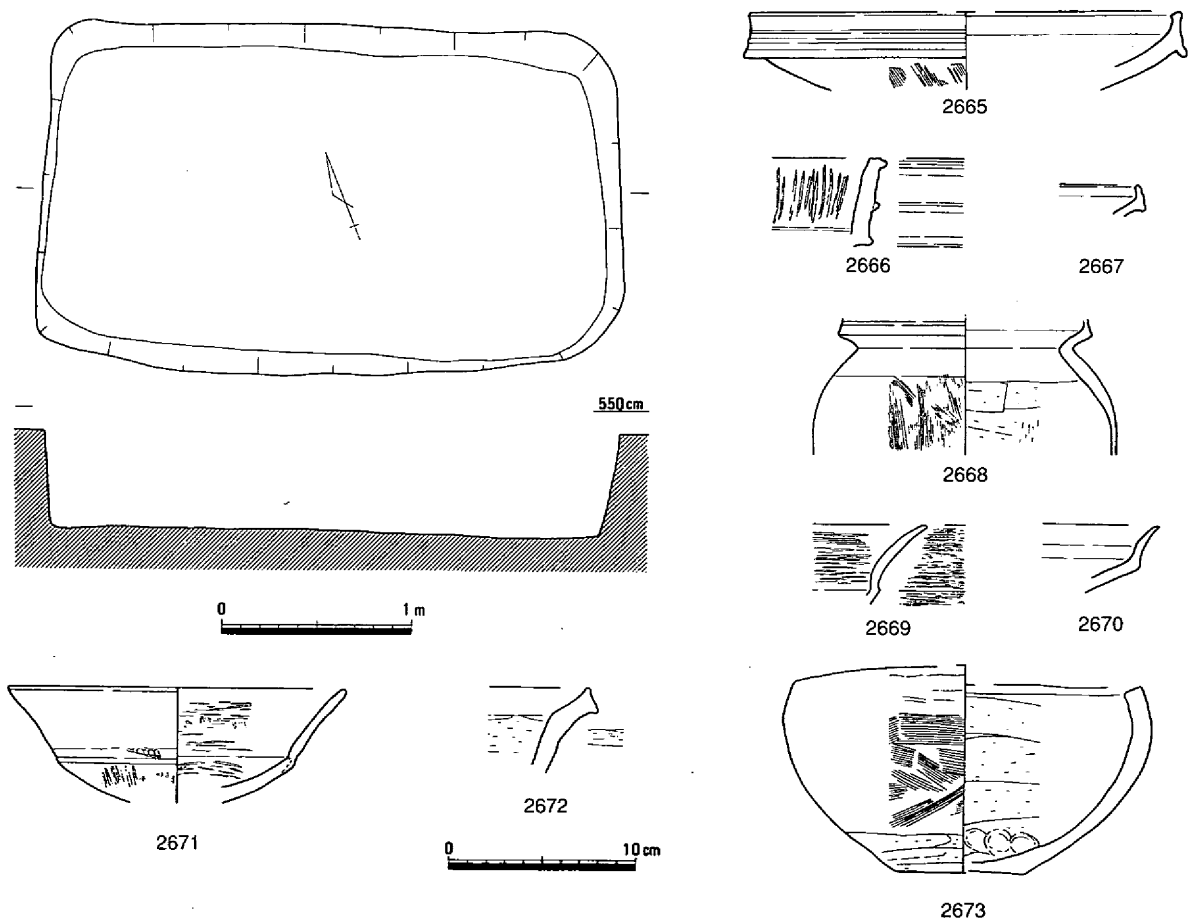
Cg600区の方形土壇3に切られて検出した土壇である。規模は、長さ(172)cm、幅172cm、深さ52cm、面積(1.50)m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は485cmである。遺物は、弥生土器細片が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IIIとしたい。(浅倉)



第733図 方形土壇 1 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第734図 方形土坑 2 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第735図 方形土坑 3 (1/40)・出土遺物 (1/4)

方形土壙 5 (第552・737図、図版42)

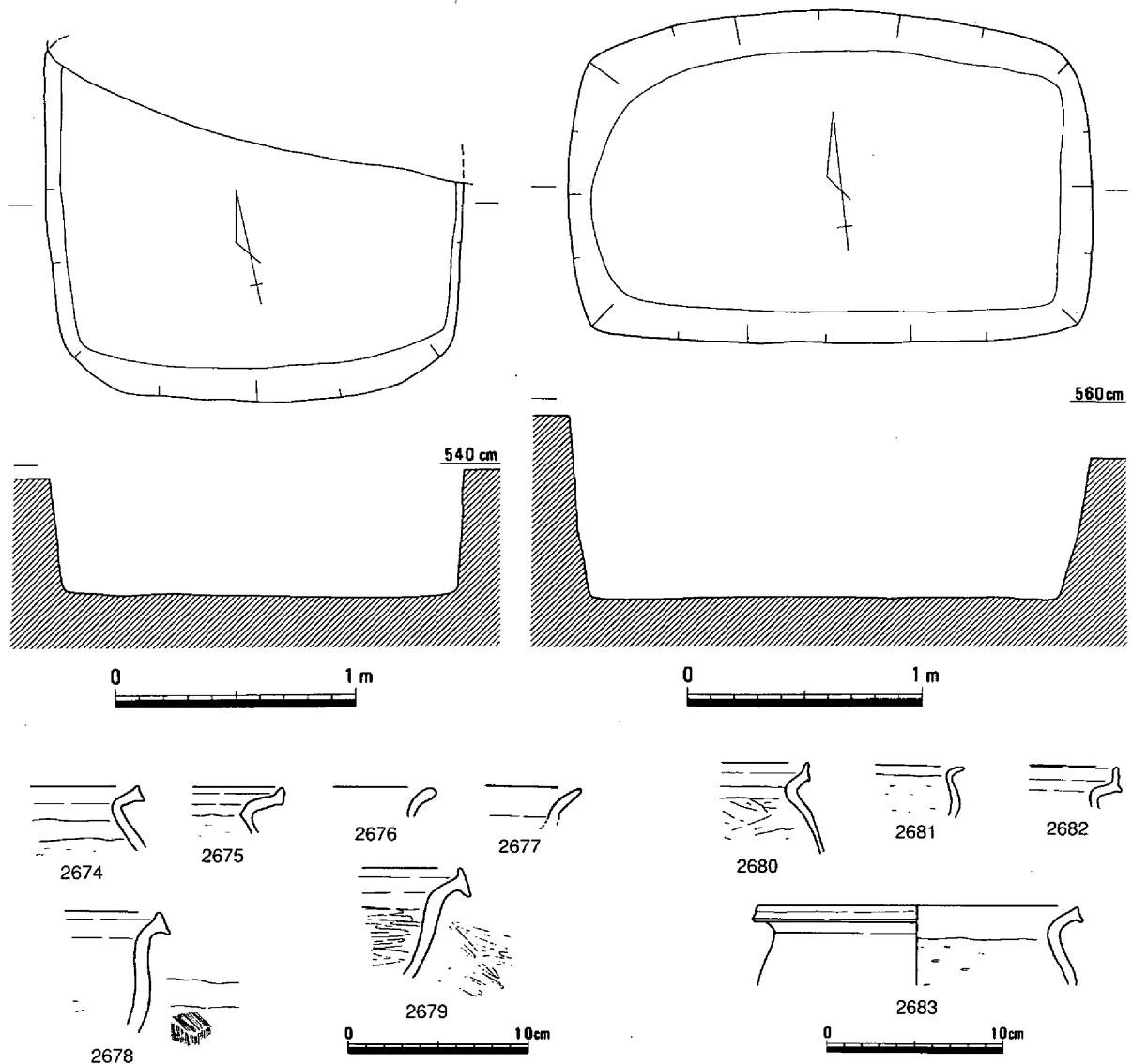
Ch 6 00区の方形土壙 4 の南で検出した土壙である。規模は、長さ221cm、幅142cm、深さ87cm、面積1.99m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は477cmである。遺物は、弥生土器細片が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

方形土壙 6 (第552・738図、図版42)

Ch 6 00区の方形土壙 5 の東で検出した土壙である。規模は、長さ232cm、幅140cm、深さ70cm、面積2.29m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は483cmである。遺物は、弥生土器が1点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IIIとしたい。(浅倉)

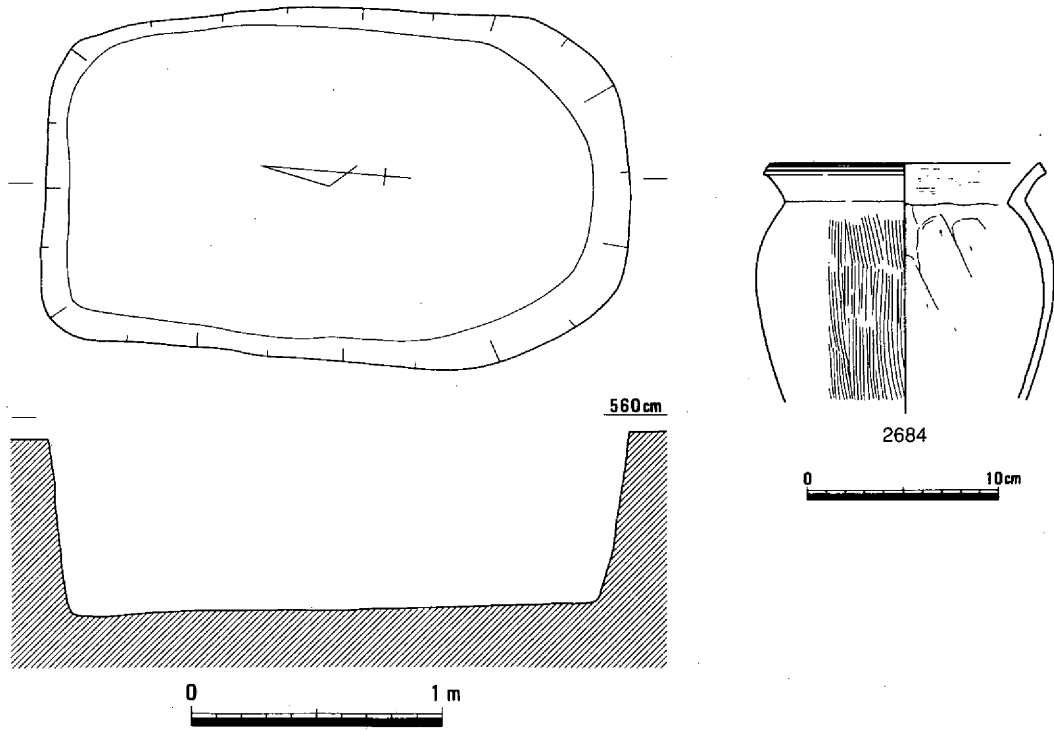
方形土壙 7 (第552・739図)

Ch 5 09区の方形土壙 1 の南で検出した土壙である。2基直角に重なっている。規模は、aが長さ177cm、幅(130)cm、深さ35cm、面積(1.90)m<sup>2</sup>、bが長さ215cm、幅82cm、深さ12cm、面積(1.10)m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は494cmである。遺物は、弥生土器が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

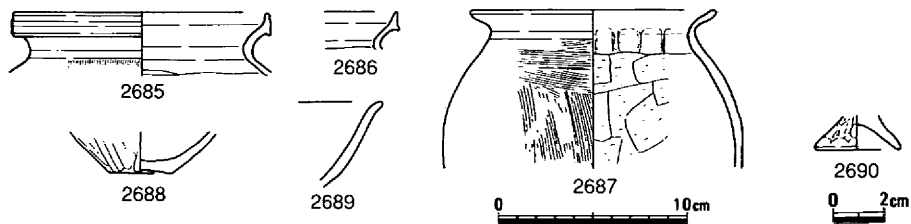
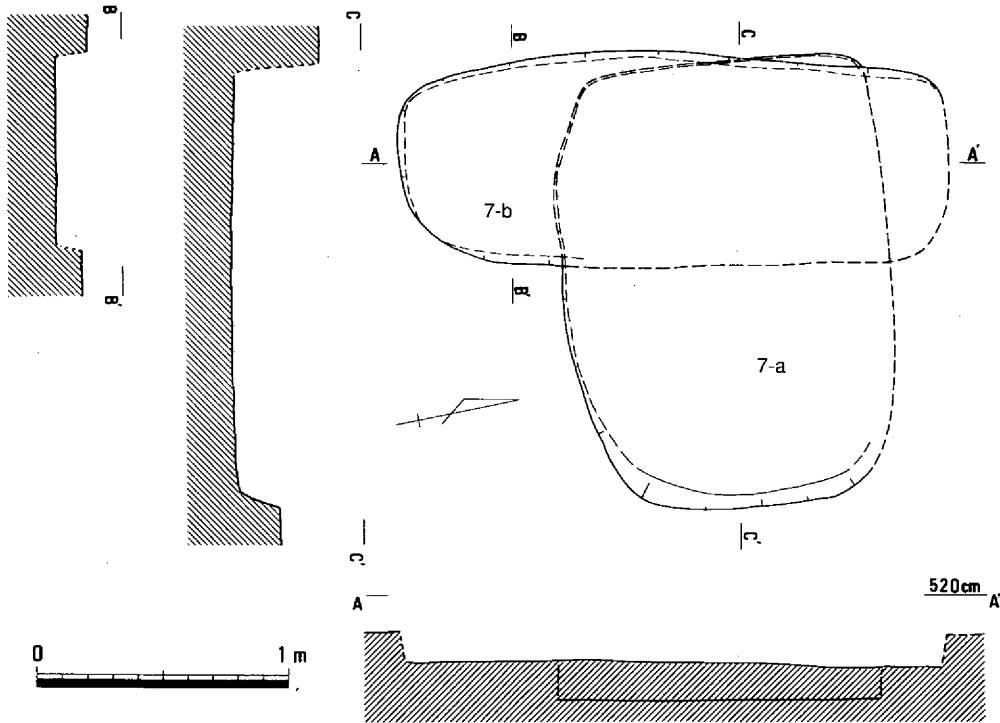


第736図 方形土壙 4 (1/30)・出土遺物 (1/4) 第737図 方形土壙 5 (1/30)・出土遺物 (1/4)

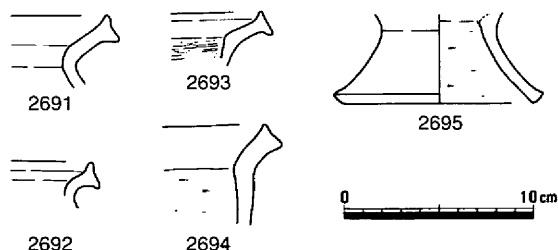
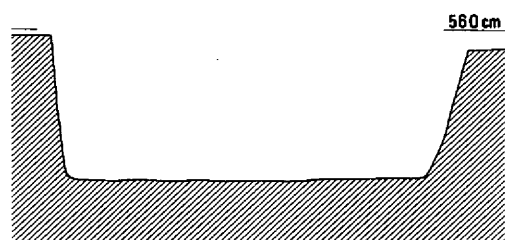
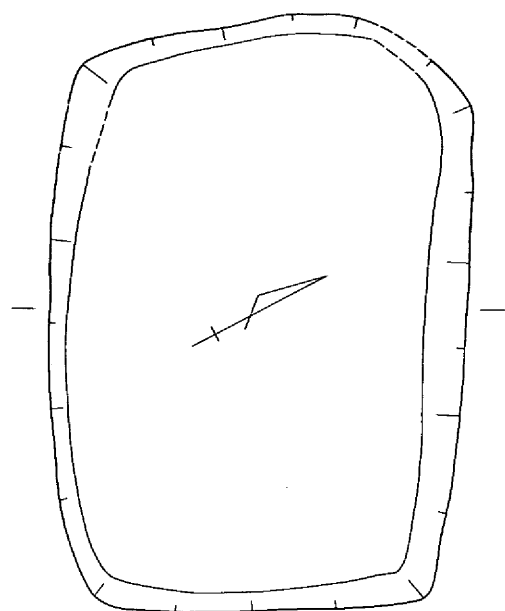




第738図 方形土坑6 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第739図 方形土坑7 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



第740図 方形土壇 8 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**方形土壇 8 (第552・740図)**

Ch 5 09区の方形土壇 7 の東で検出した土壇である。規模は、長さ237cm、幅163cm、深さ57cm、面積2.90m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は500cmである。

遺物は、弥生土器細片が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

**方形土壇 9 (第552・741図、図版119)**

Ch 6 01区の方形土壇 3 の東 8 m で検出した土壇である。規模は、長さ264cm、幅(140)cm、深さ56cm、面積1.94m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は500cmである。

2696の甕は、口径14.4cm、器高20.7cmある。2697の甕の口径は16.6cm、2703の高杯の口径は13.8cm、2710の台付き鉢の底径は4.8cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)

**方形土壇 10 (第552・742図)**

Ch 5 09区の方形土壇 7 の西で検出した土壇である。3基重なっている。規模は、aが長さ199cm、幅169cm、深さ30cm、面積3.00m<sup>2</sup>、bが長さ(170)cm、幅(130)cm、深さ(13)cm、面積2.08m<sup>2</sup>、cが面積1.30m<sup>2</sup>、を測ることができる。底面の標高は483cmである。

遺物は、弥生土器細片が10余点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳとしたい。(浅倉)

**方形土壇 11 (第552・743図)**

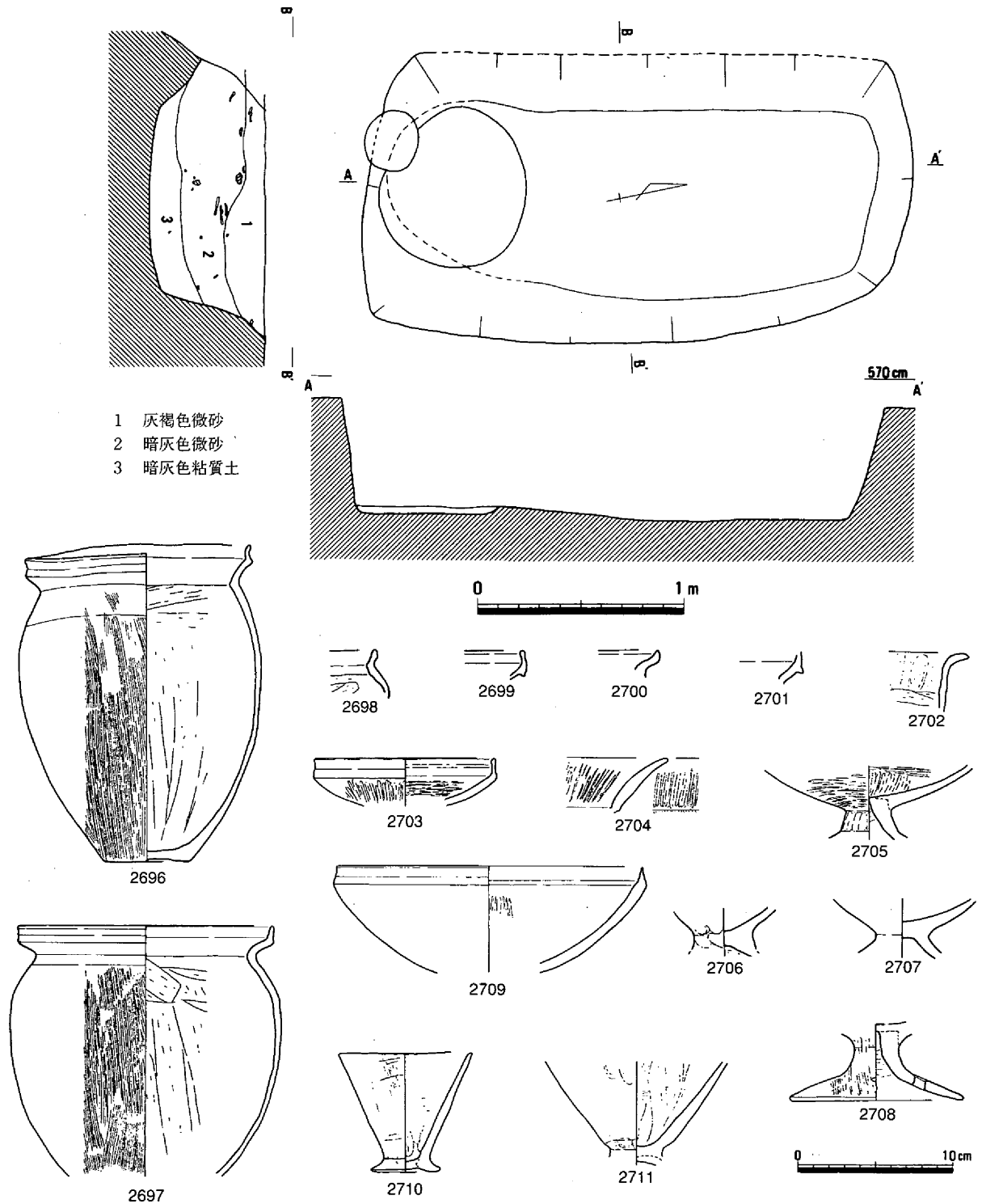
Ch 5 09区の方形土壇 1 の南東で検出した土壇である。規模は、長さ146cm、幅96cm、深さ40cm、面積1.14m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は518cmである。遺物は、弥生土器細片が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳとしたい。(浅倉)

**方形土壇 12 (第552・744図)**

Ch 5 09区の方形土壇 8 の東で検出した土壇である。規模は、長さ155cm、幅112cm、深さ43cm、面積1.15m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は515cmである。遺物は、弥生土器細片が数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

**方形土壇 13 (第552・745図)**

Cg 6 00区の方形土壇 3 の北で検出した土壇である。規模は、長さ144cm、幅100cm、深さ29cm、面

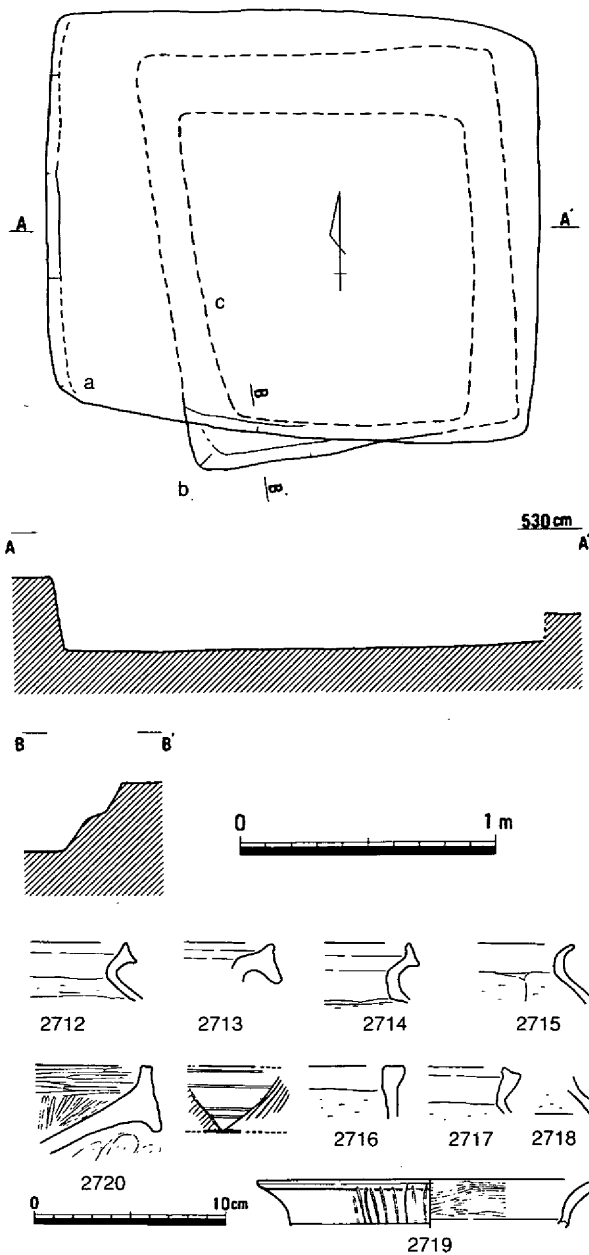


第741図 方形土壇9 (1/30)・出土遺物 (1/4)

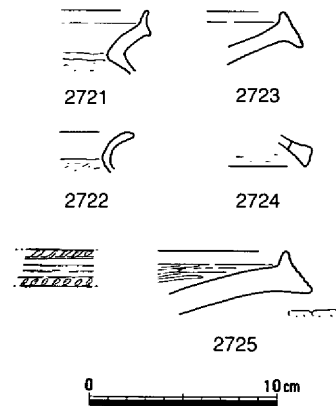
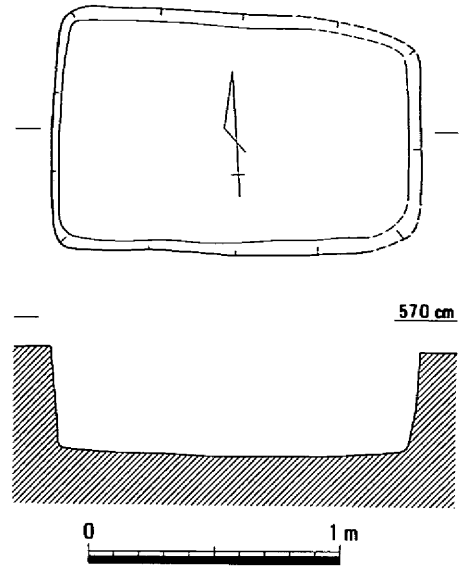
積0.68m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は561cmである。遺物は、弥生土器細片が10数点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

方形土壇14 (第552・746図)

Ci507区の南部で検出した土壇である。規模は、長さ204cm、幅122cm、深さ55cm、面積1.91m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は506cmである。時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)



第742図 方形土壇10 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第743図 方形土壇11 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

方形土壇15 (第552・747図)

Ci 5 09区の南部で検出した土壇である。規模は、長さ270cm、幅(180)cm、深さ65cm、面積4.33m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は494cmである。この遺構の時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

方形土壇16 (第552・748図)

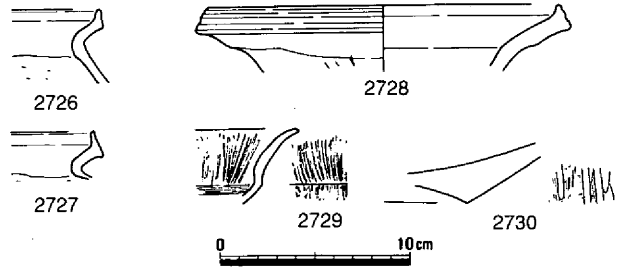
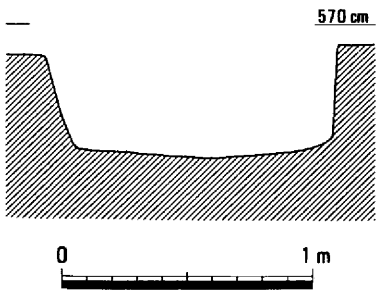
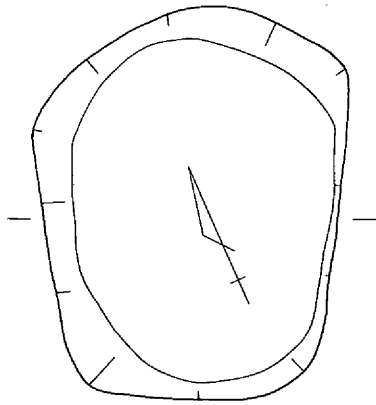
Ci 5 07区の南部で検出した土壇である。規模は、長さ218cm、幅149cm、深さ71cm、面積2.30m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は494cmである。時期は弥生後期としたい。(浅倉)

方形土壇17 (第552・749図)

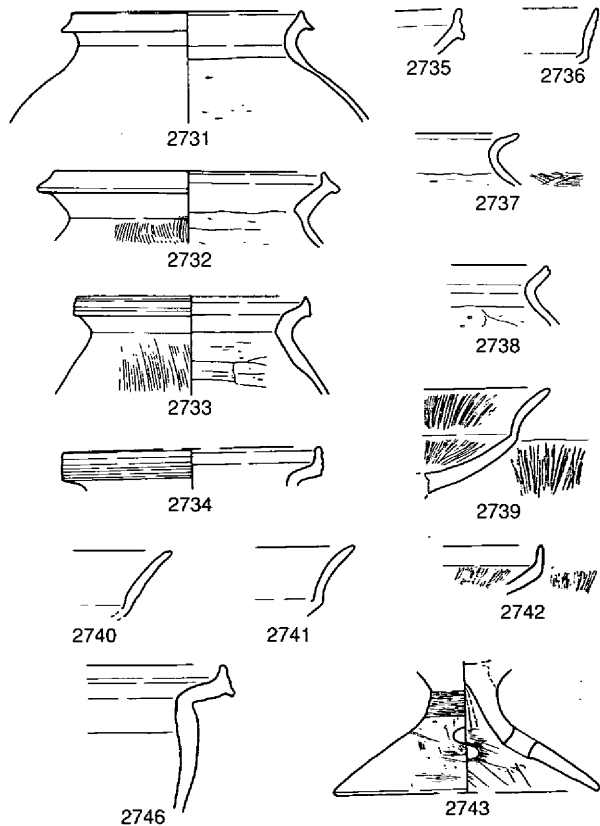
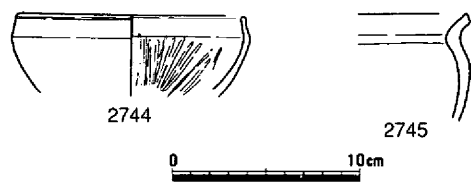
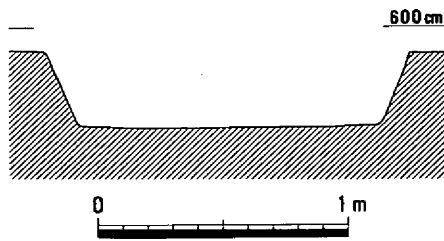
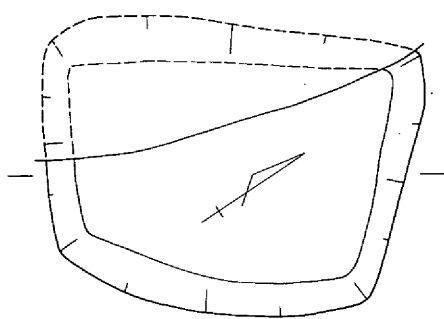
Ch 5 09区の北西部で検出した土壇である。規模は、長さ220cm、幅171cm、深さ56cm、面積2.56m<sup>2</sup>を測ることができる。底面の標高は443cmである。遺物は、弥生土器が2点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IIIとしたい。(浅倉)

方形土壙18 (第552・750図)

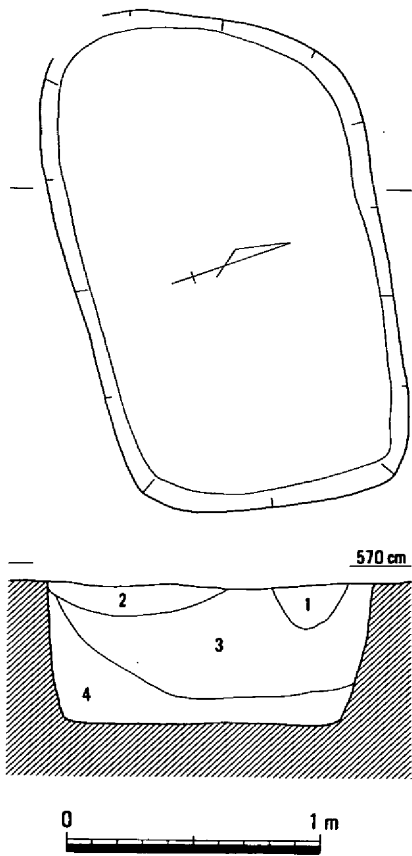
Ci509区の方形土壙17の南で検出した土壙である。規模は、長さ305cm、幅232cm、深さ86cm、面積2.65㎡を測ることができる。底面の標高は466cmである。遺物は、弥生土器の甕が1点出土している。2751は口縁端面に5条の沈線をもつ。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)



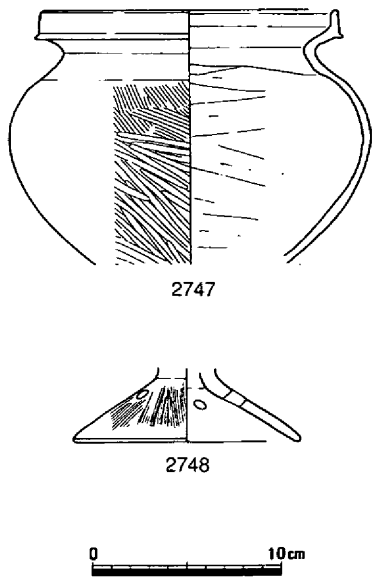
第744図 方形土壙12 (1/30)・出土遺物 (1/4)



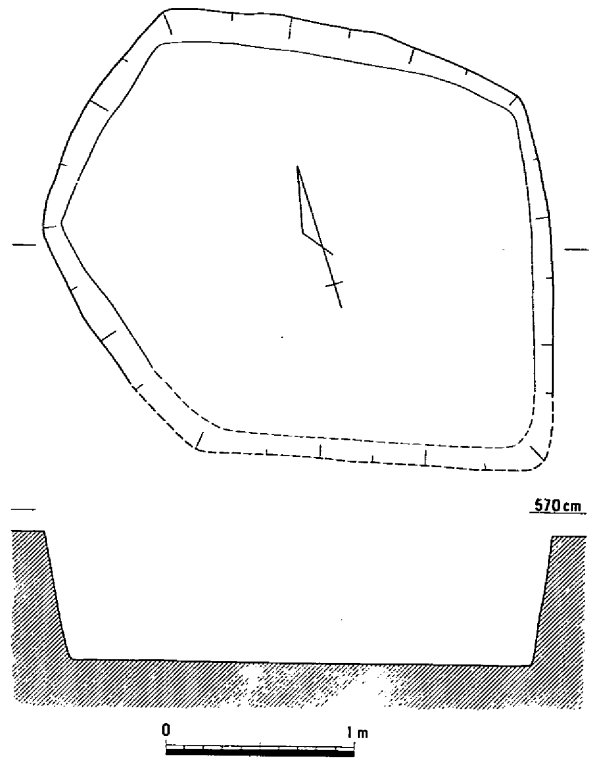
第745図 方形土壙13 (1/30)・出土遺物 (1/4)



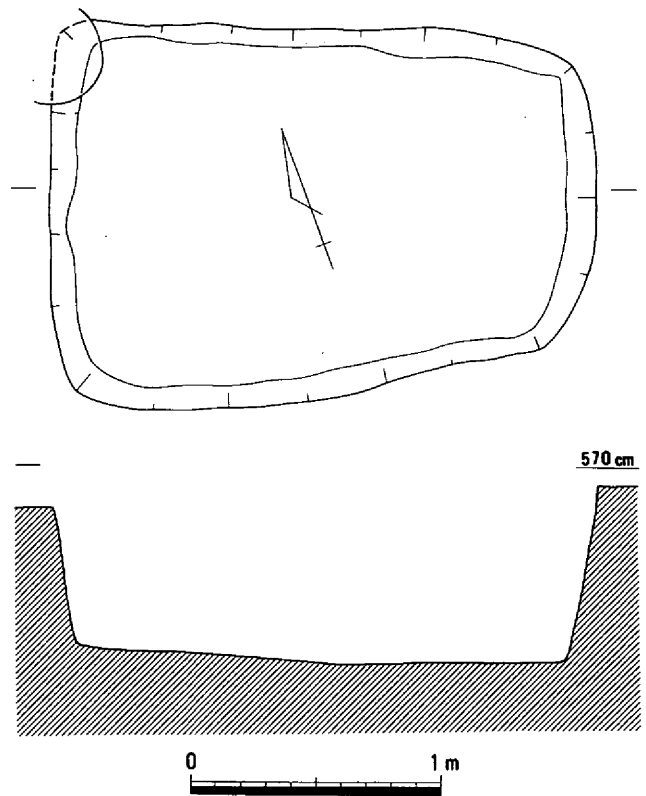
- 1 淡灰褐色砂質土    3 灰褐色砂質土  
2 黒灰褐色砂質土    4 暗灰褐色粘質土



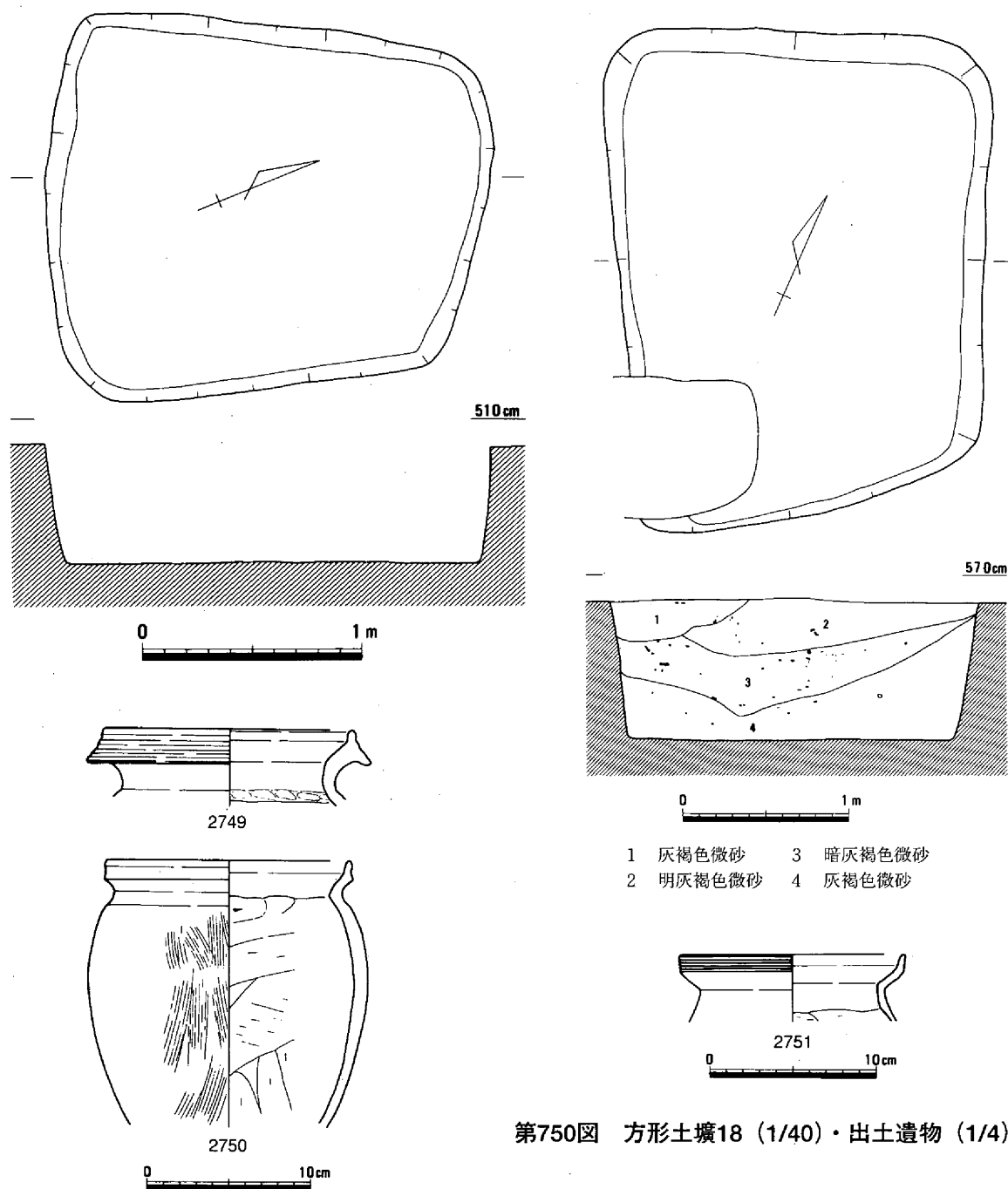
第746図 方形土壇14 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)



第747図 方形土壇15 (1/40)



第748図 方形土壇16 (1/30)



第750図 方形土壇18 (1/40)・出土遺物 (1/4)

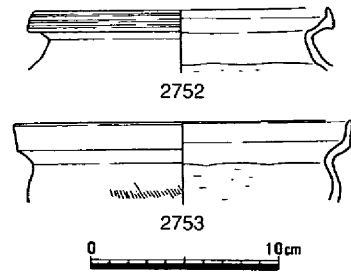
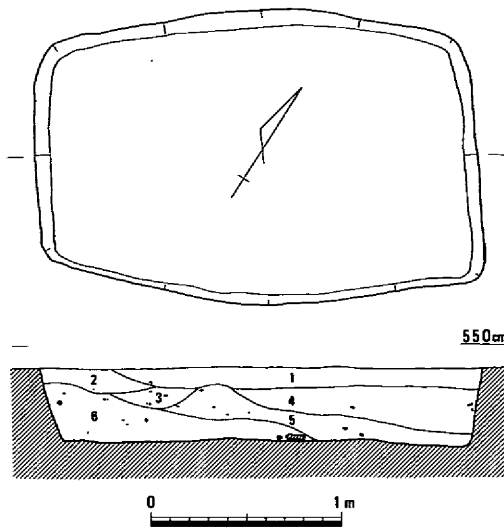
第749図 方形土壇17 (1/30)・出土遺物 (1/4)

測ることができる。底面の標高は496cmである。遺物としては、弥生土器甕、鉢が出土している。2752は口縁端面に3条の沈線をもつ。2753は口縁の端部が上に拡張する。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

方形土壇20 (第552・752図、図版119)

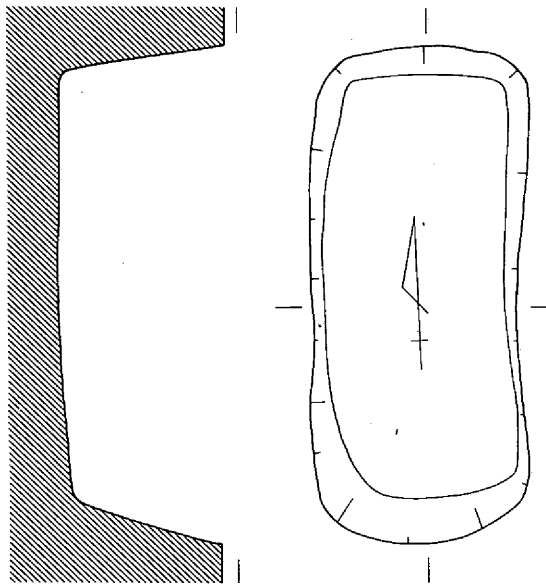
Ci508区の方形土壇18の西で検出した土壇である。規模は、長さ198cm、幅83cm、深さ65cm、面積1.12㎡を測ることができる。底面の標高は503cmである。

遺物は、この種の土壇では珍しく完形に近い弥生土器が数点出土している。2754は甕で、口径15.2cm、底径5.5cm、器高は(20.5)cmである。2756は台付き鉢の完形品で、口径14.5cm、器高18.5cmを

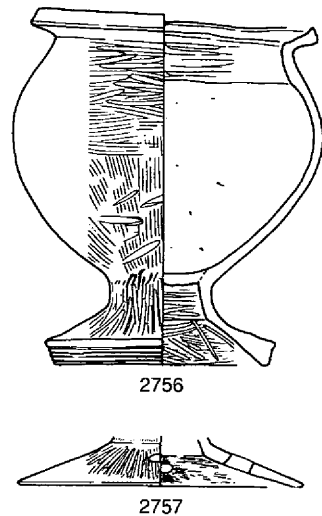
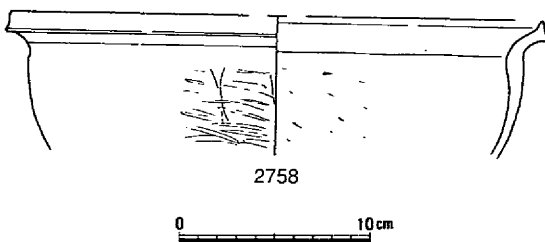
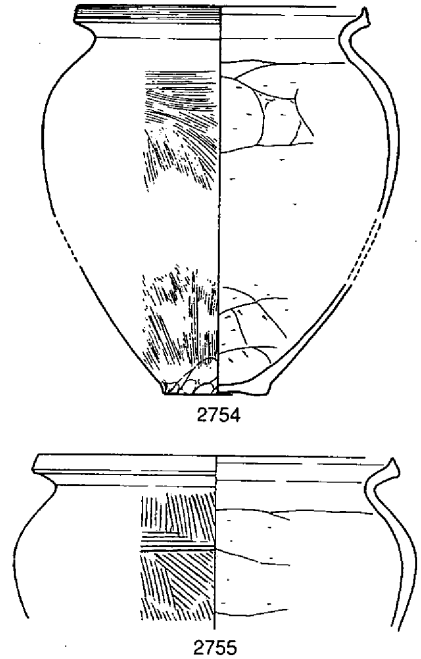
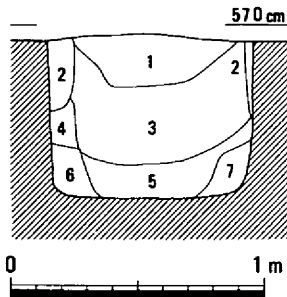


- 1 明灰褐色微砂
- 2 暗灰褐色微砂
- 3 淡灰褐色微砂
- 4 灰褐色微砂
- 5 暗灰褐色微砂
- 6 灰褐色微砂

第751図 方形土坑19 (1/40)・出土遺物 (1/4)



- 1 黒褐色粘質微砂  
(炭多・土器僅少含)
- 2 濃褐色粘質微砂
- 3 淡黒褐色粘質微砂  
(炭少・焼土僅少・土器含)
- 4 暗黄褐色粘質微砂
- 5 暗灰褐色粘質土
- 6 明黄褐色粘質土
- 7 淡暗灰褐色粘質微砂



第752図 方形土坑20 (1/30)・出土遺物 (1/4)



測る。2757は高杯の脚部で、底径15.0cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。  
(浅倉)

**方形土壇21 (第552・753図)**

Cj509区の方形土壇15の東で検出した土壇である。規模は、長さ(325)cm、幅197cm、深さ91cm、面積2.06㎡を測ることができる。底面の標高は475cmである。遺物は、弥生土器甕が出土している。

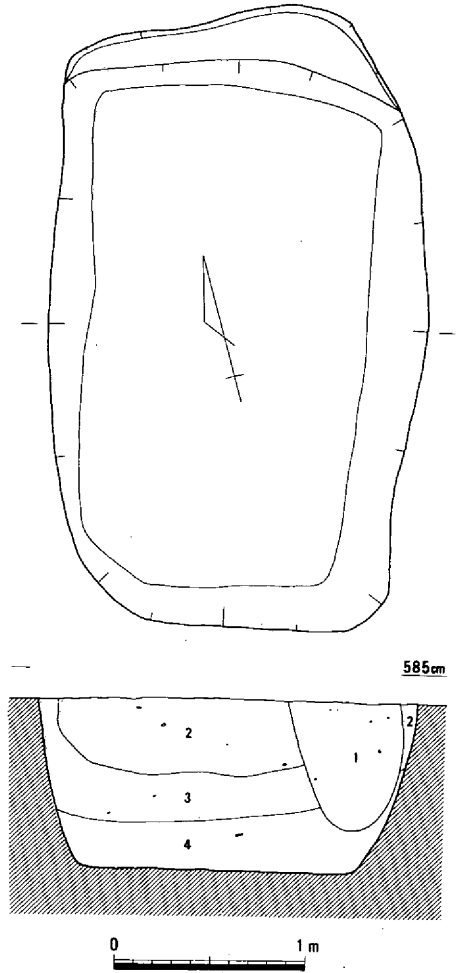
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。  
(浅倉)

**方形土壇22 (第552・754図)**

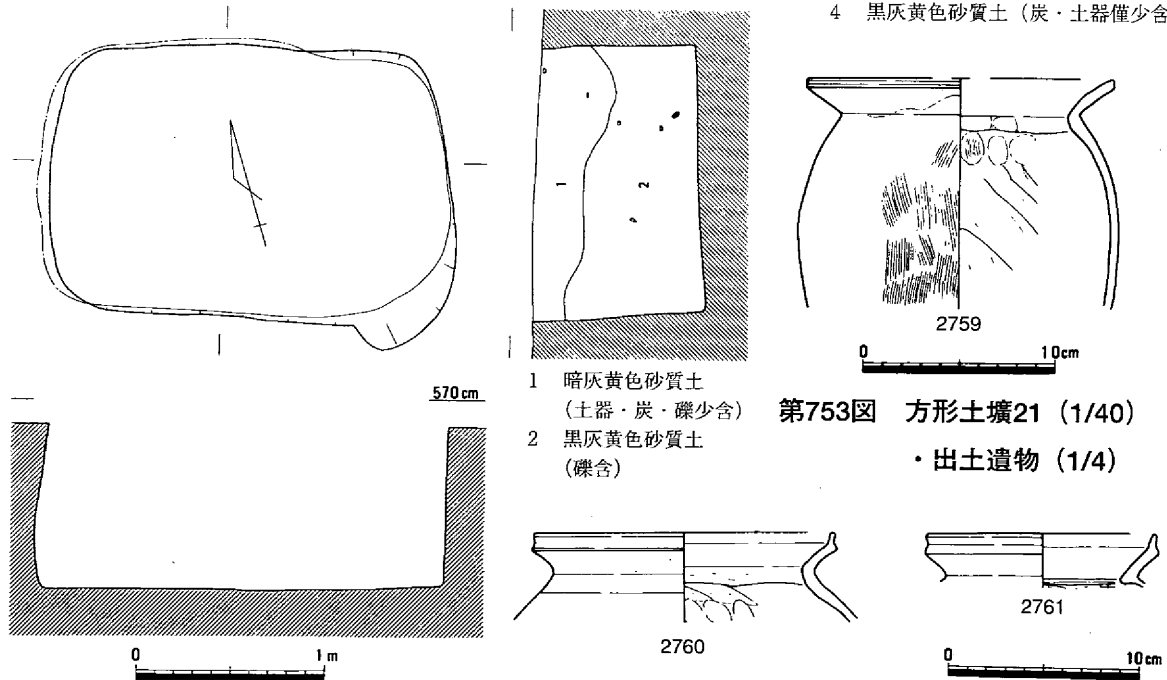
Ci600区の方形土壇21の北で検出した土壇である。規模は、長さ218cm、幅145cm、深さ87cm、面積1.54㎡を測ることができる。底面の標高は470cmである。遺物は、弥生土器甕が2点出土している。この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。  
(浅倉)

**方形土壇23 (第553・755～760図)**

方形土壇29の北約4mの位置で検出された。規模は197×315cm、深さ90cmを測り、床面は平坦である。土壇壁はほぼ垂直に掘り込まれ、断面形は箱形を呈している。土層断面においては、新しい柱穴がみられるが、埋土は



- 1 黒灰褐色砂質土 (炭・土器僅少含)
- 2 灰褐色砂質土 (炭・土器僅少含)
- 3 暗灰黄色砂質土 (炭・土器僅少含)
- 4 黒灰黄色砂質土 (炭・土器僅少含)



- 1 暗灰黄色砂質土 (土器・炭・礫少含)
- 2 黒灰黄色砂質土 (礫含)

第753図 方形土壇21 (1/40)  
・出土遺物 (1/4)

第754図 方形土壇22 (1/40)・出土遺物 (1/4)

12層に区分された。堆積はほぼ水平であった。なお、上層の第4層には灰がかなり含まれていた。遺物は埋土内から大量に出土している。石器ではスクレイパーないし石包丁 S138、石鏃 S139、砥石 S140がみられ、土器では壺2763～2767、甕2768～2807、高杯2808～2818、鉢2819～2836、台付鉢2837～2841、直口壺2842・2843、台付直口壺2845・2846など各種の土器が出土している。そのうち、2766・2768・2819～2821・2823・2837は完形ないしほぼ完形である。なお、2802・2805の底部は焼成後の穿孔がみられる。これらの遺物からみて、弥・後・Ⅳの時期と思われる。(松本)

方形土壙24 (第553・761図)

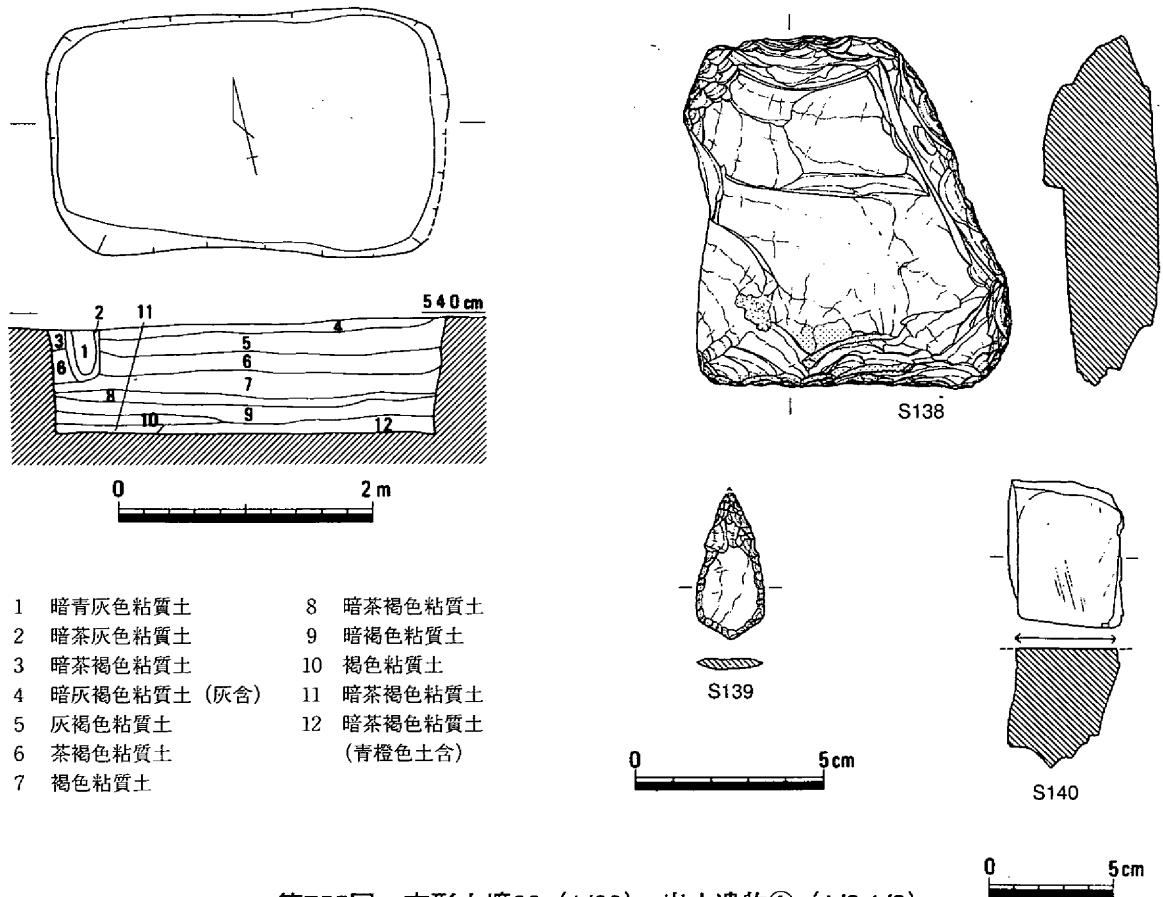
土壙260と切り合い関係のある遺構で、方形土壙29の西約3mに位置する。規模は221×325cm、深さ78cmを測り、床面は平坦である。断面形は逆台形を呈している。埋土は4層に区分され、1～3層には土器、炭を含むが、最下層は炭を多く含んでいた。遺物には甕2847・2848・2850～2852、壺2849、鉢2853などがある。これらの遺物からみて、弥・後・Ⅲ～Ⅳの時期と思われる。(松本)

方形土壙25 (第553・762図)

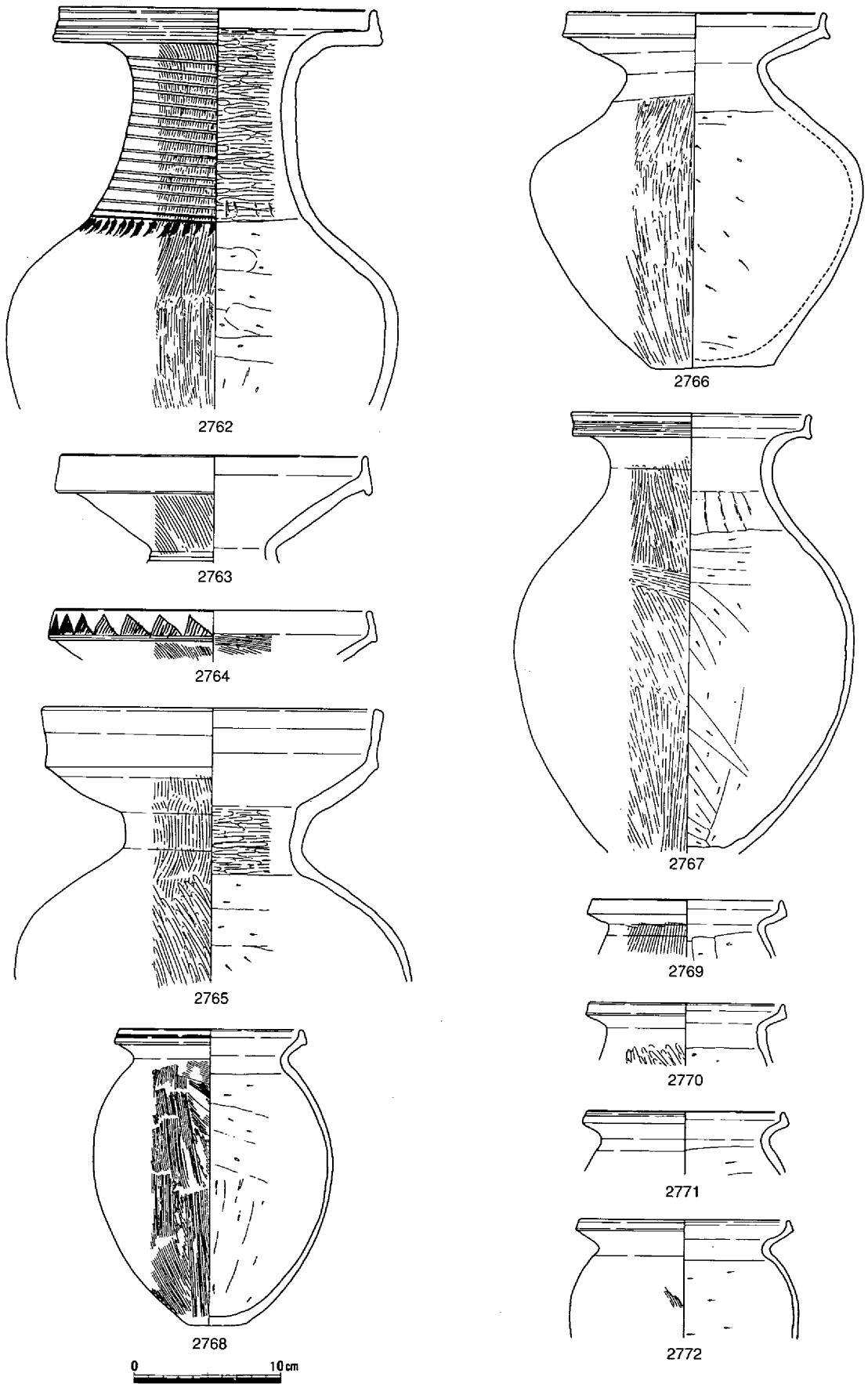
方形土壙28の西隣に位置し、方形土壙26に切られている。したがって、確認された規模は110×115cm、深さは29cmを測る。床面の中央部がくぼんでいる。埋土は2層に区分される。出土遺物はないが、遺構の切り合い関係からみて、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳと思われる。(松本)

方形土壙26 (第553・762図)

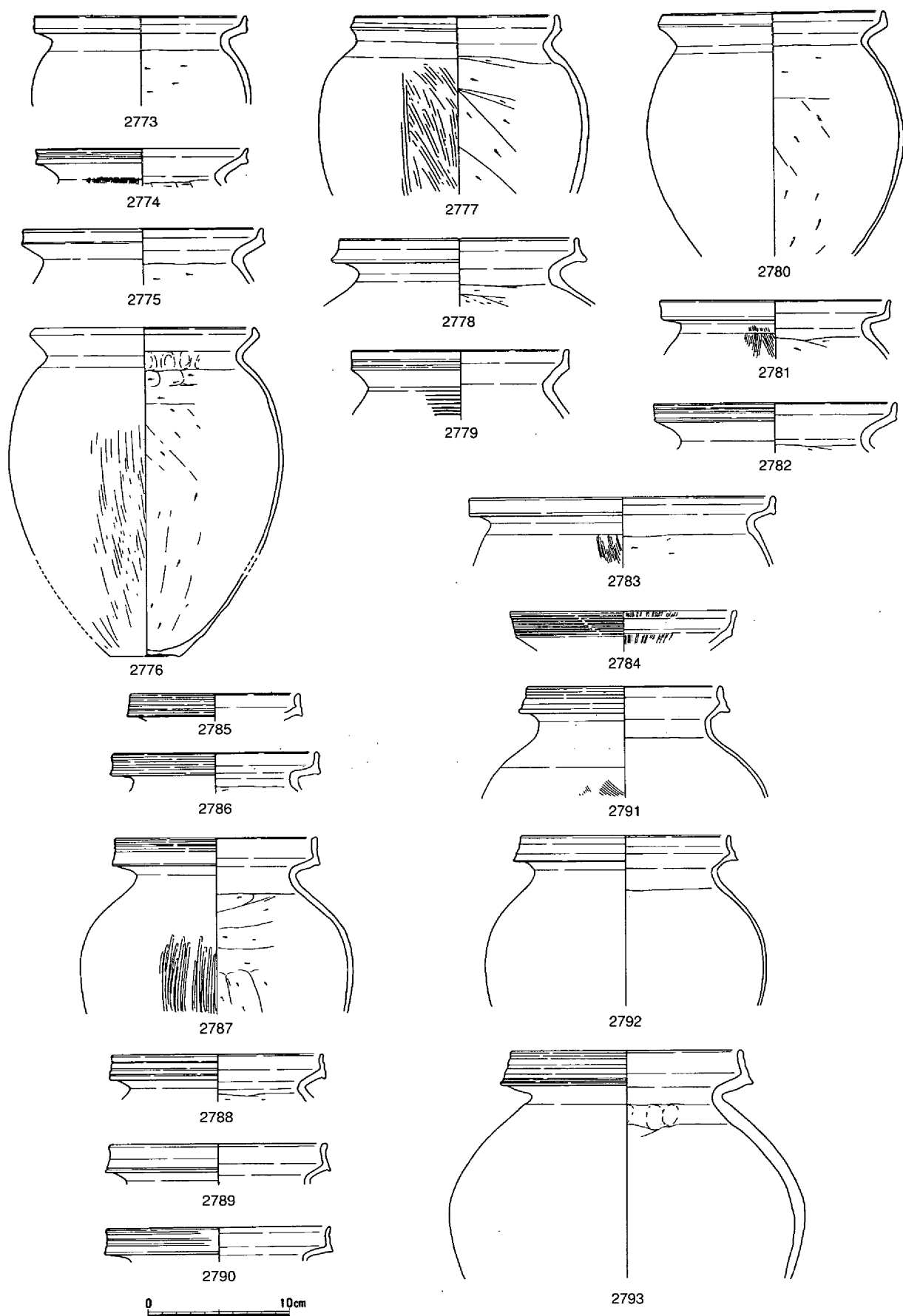
方形土壙25を切る状態で検出された。平面形は正方形に近く、規模は115×143cm、深さは26cmを測



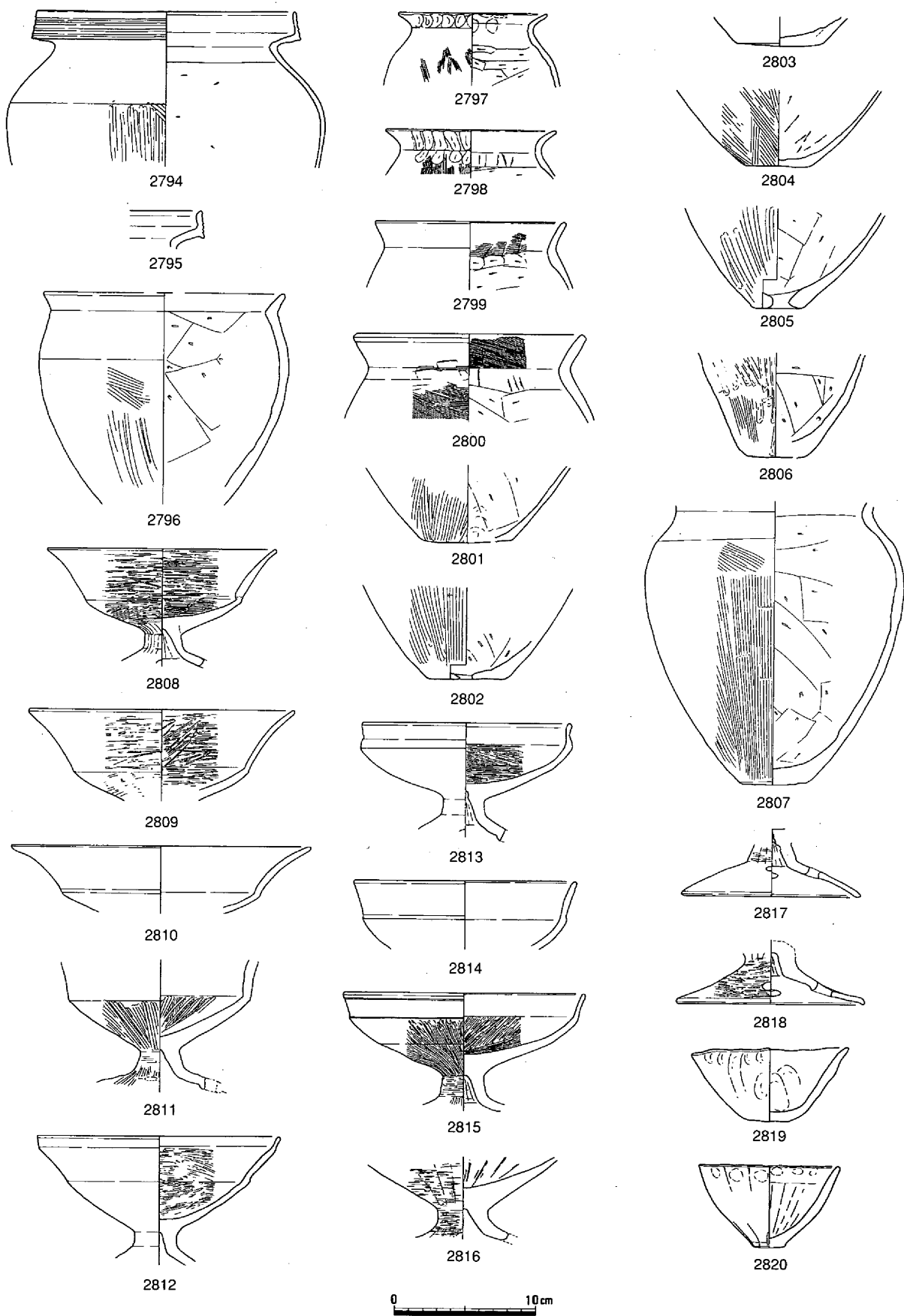
第755図 方形土壙23 (1/60)・出土遺物① (1/2,1/3)



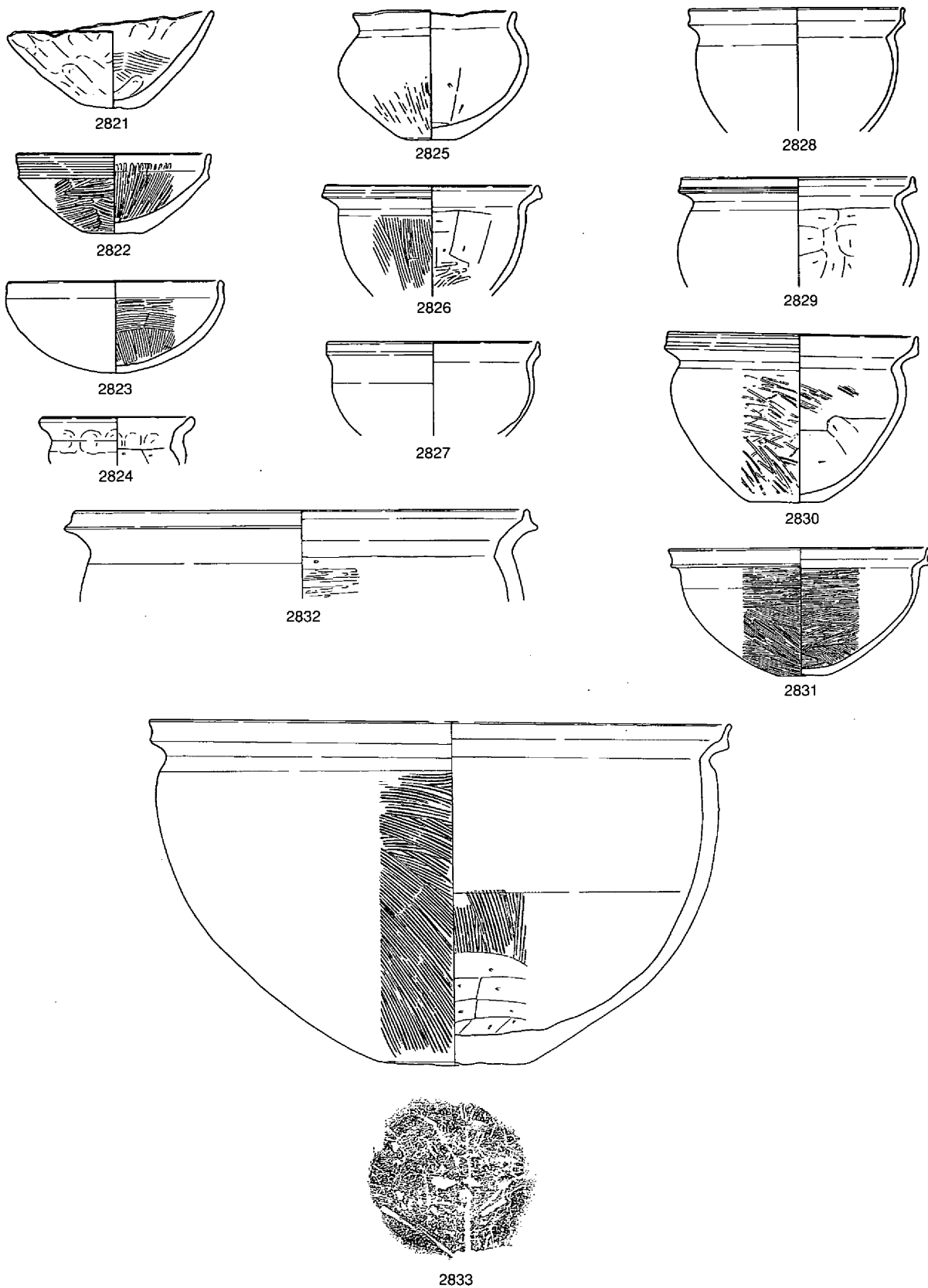
第756図 方形土壇23出土遺物② (1/4)



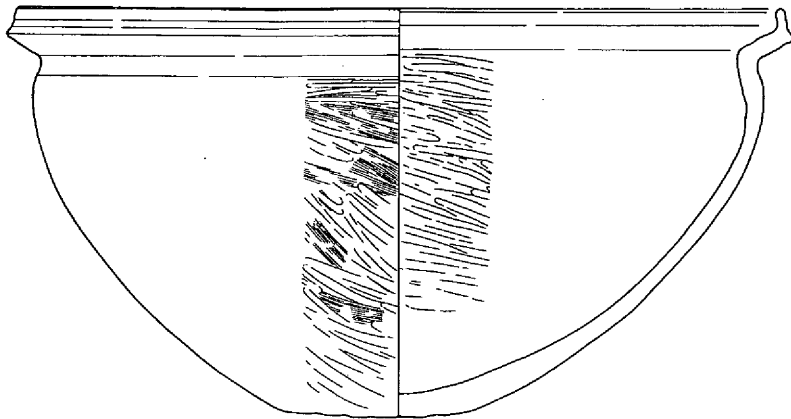
第757図 方形土壇23出土遺物③ (1/4)



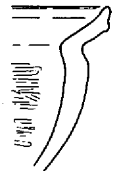
第758図 方形土壙23出土遺物④ (1/4)



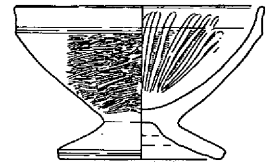
第759図 方形土壇23出土遺物⑤ (1/4)



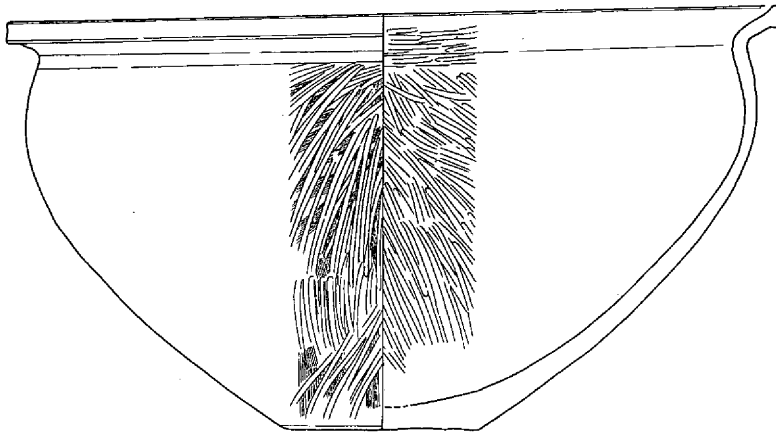
2834



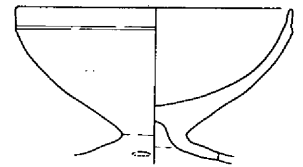
2836



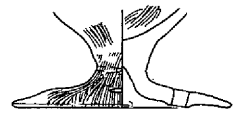
2837



2835



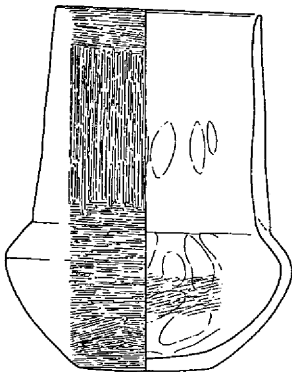
2838



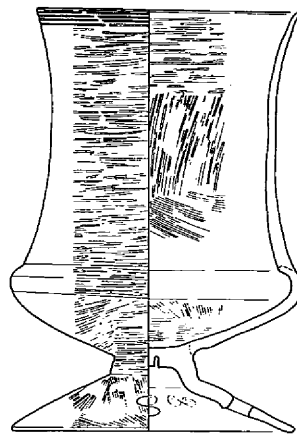
2839



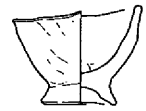
2840



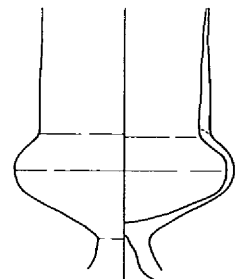
2842



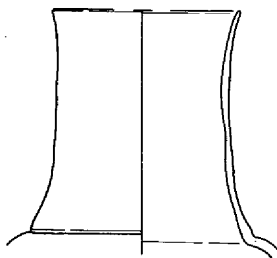
2844



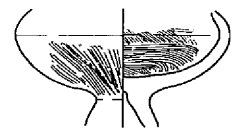
2841



2845



2843



2846

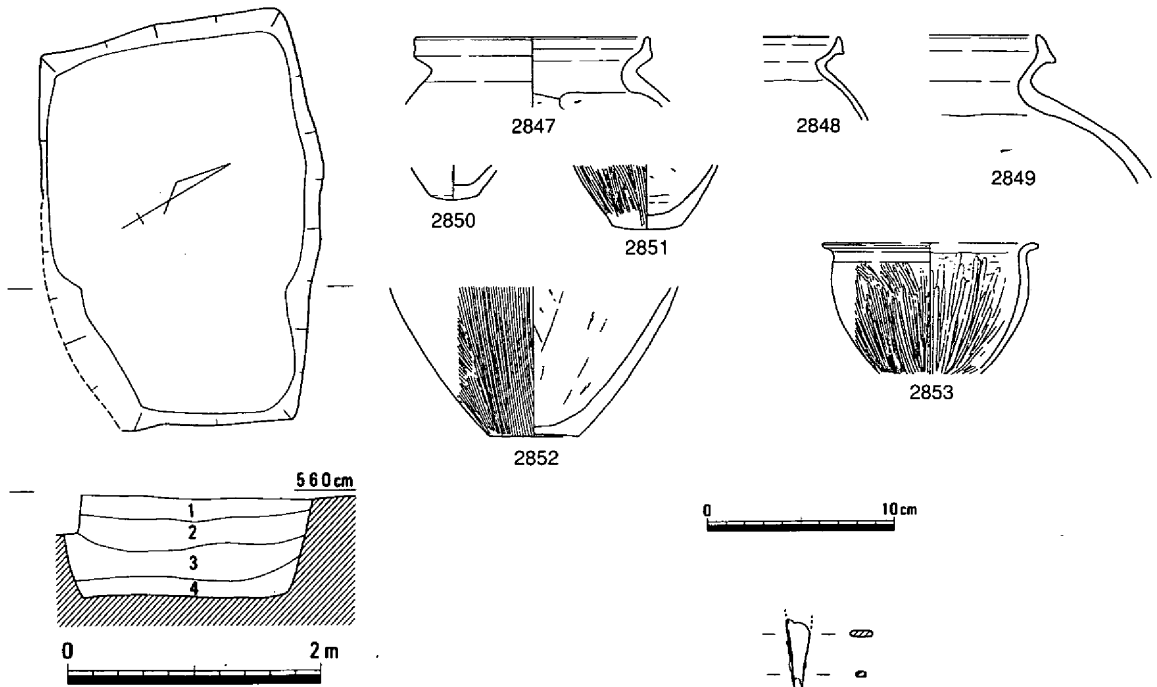


第760図 方形土壇23出土遺物⑥ (1/4)

り、床面はほぼ平坦である。埋土は3層に区分される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

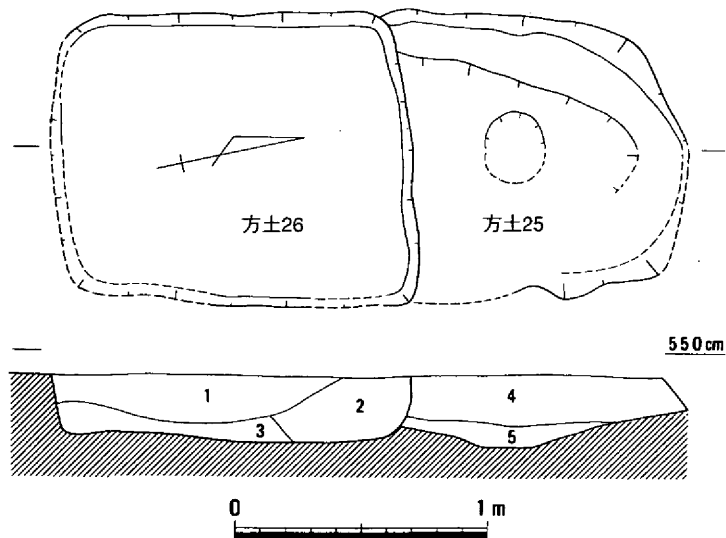
方形土壇27 (第553・763図)

方形土壇28の南において検出された。規模は144×172cm、深さは24cmを測る。床面は平坦であるが、やや北寄りで30×60cmの焼土帯が検出されている。埋土は4層に区分されるが、水平の堆積である。



- 1 暗茶褐色粘質土 (土器・炭含)
- 2 黄茶褐色粘質土 (土器・炭含)
- 3 茶褐色粘質土 (土器・炭含)
- 4 灰茶褐色微砂混じり土 (炭多含)

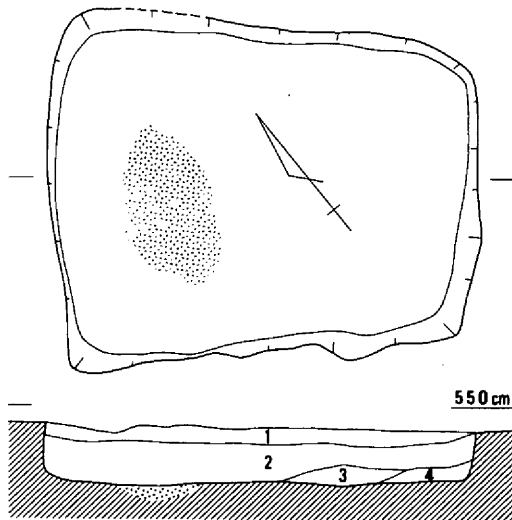
第761図 方形土壇24 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)



- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 淡黄灰色粘質土
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 暗茶褐色粘質微砂
- 5 黄灰色粘質微砂

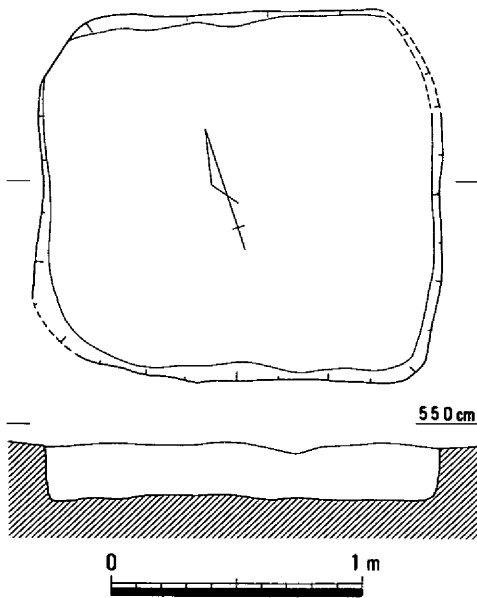
第762図 方形土壇25・26 (1/30)



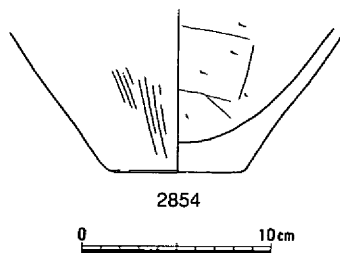


- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂
- 3 黄褐色粘質微砂
- 4 暗黄褐色粘質微砂

第763図 方形土壙27 (1/30)



- 1 暗茶灰褐色粘質微砂



2854

図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

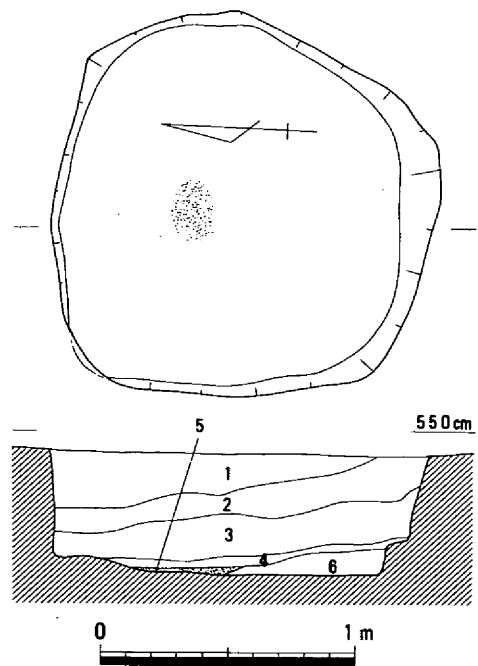
方形土壙28 (第553・764図、図版163)

方形土壙26の東隣で、切り合う状態で検出された。規模は146×160cm、深さは22cmを測る。床面は平坦である。埋土は暗茶灰褐色粘質微砂の1層だけである。出土遺物は少ないが、図示できる遺物としては壺の底部2854がある。時期は切り合い関係や出土遺物からみて弥・後・IV頃と思われる。

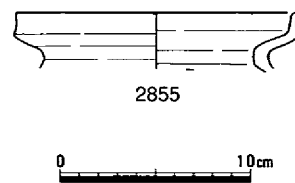
(松本)

方形土壙29 (第553・765図)

方形土壙24の東約3mの位置で検出された。規模は151×153cm、深さは48cmを測る。床面は平坦であるが、二段掘りの断面形を呈している。埋土



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂 (炭含)
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 明黄褐色粘質微砂
- 5 焼土
- 6 黄褐色粘質微砂



2855

第764図 方形土壙28 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第765図 方形土壙29 (1/30)・出土遺物 (1/4)

は6層に区分されるが、埋土は南から北方向に堆積していたことが看守される。なお、床面中央部において、焼土帯がみられた。遺物は甕2855がある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙30 (第553・766図)

方形土壙31の北約2mの位置で検出された。一部未調査ではあるが、確認された規模は長軸が195cm、短軸が124cm、深さ56cmを測る。床面は平坦である。埋土は6層に区分されるが、土器と炭を含む土層がレンズ状に堆積していた。2層は新しい時期の柱穴痕と思われる。遺物は各層から出土しているが、図示できるものとして、壺2856、甕2857・2858がある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

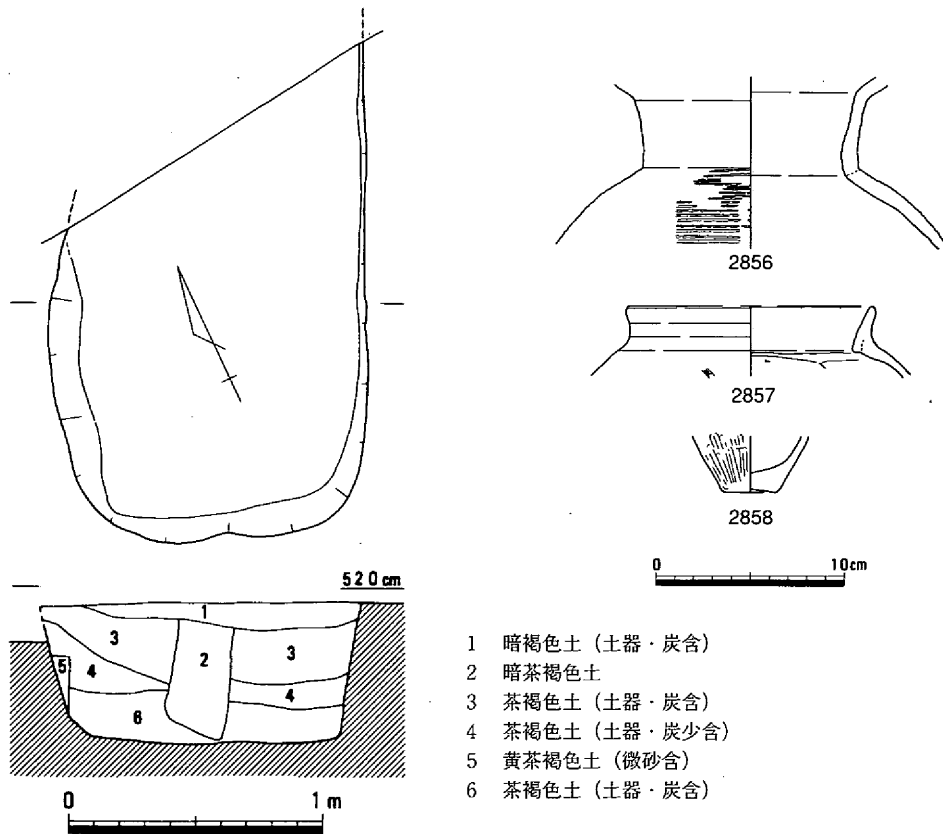
方形土壙31 (第553・767図)

方形土壙32の北隣で検出された遺構である。規模は150×172cm、深さは65cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は上層が把握できていないが、確認された土層は4層である。水平な堆積であるが、どの埋土内からも土器、炭が含まれていた。図示できる遺物は高杯の脚部2859のみである。短脚化されたものである。この遺物からみて、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙32 (第553・768図)

方形土壙31の南隣で検出された比較的に残存状態が良好な遺構である。規模は135×188cm、深さは62cmを測る。床面は平坦である。埋土は7層に区分されるが、2層から6層にかけては炭をかなり多く含む土層であった。下層は水平、上層はレンズ状の堆積を呈している。

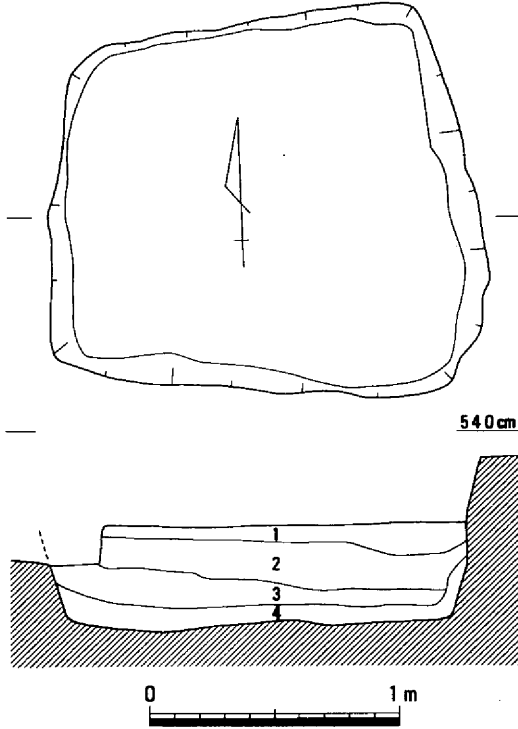
図示できる遺物は少ないが、甕2860～2864が出土している。これらの出土遺物からみて、遺構の時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



第766図 方形土壙30 (1/30)・出土遺物 (1/4)

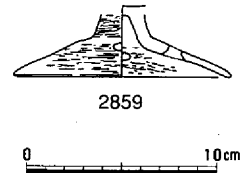
方形土壙33 (第553・769図)

方形土壙35と切り合い関係をもつ遺構である。規模は122×272cm、深さは40cmを測るが、形態は長方形となる。床面は平坦ではない。埋土は1層である。図示する遺物はないが、時期は弥・後・IV頃のものと思われる。(松本)



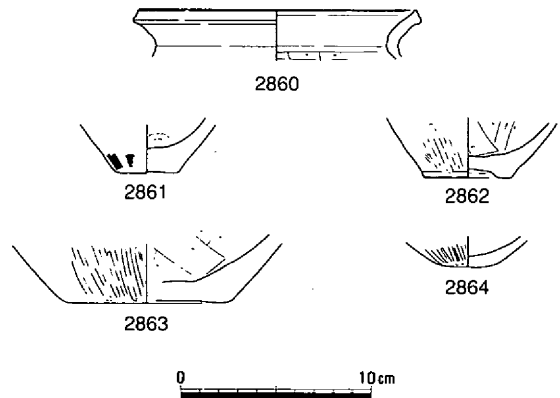
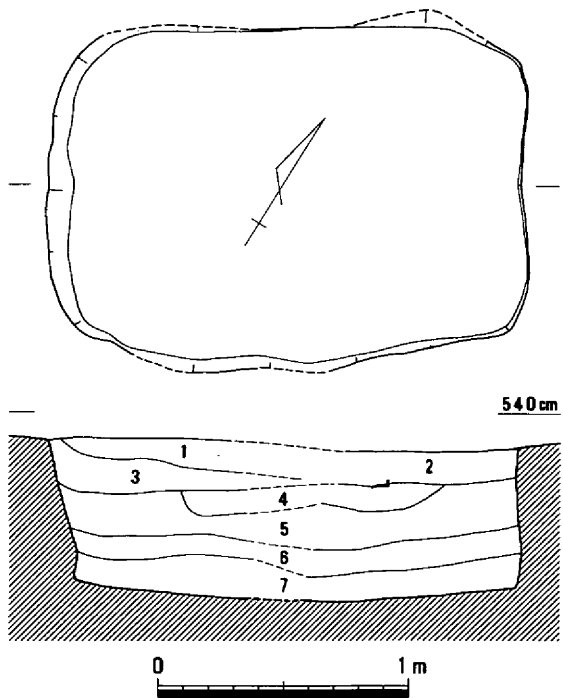
方形土壙34 (第553・770図)

方形土壙36・37と切り合い関係をもつ遺構である。遺構の残存状態はよくないが、規模は160×187cm、深さは33cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は3層に区分されるが、水平堆積である。遺物はないが、切り合い関係からみて、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



- 1 暗灰褐色土 (土器・炭含)
- 2 灰茶褐色土 (土器・炭含)
- 3 黄灰褐色土 (土器・炭含)
- 4 灰黄色土 (土器・炭含)

第767図 方形土壙31 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 黄褐色土
- 2 暗褐色土 (炭多含)
- 3 黄茶褐色土 (炭含)
- 4 暗黄褐色土 (炭多含)
- 5 茶褐色土 (炭多含)
- 6 暗灰褐色土 (炭多含)
- 7 暗黄褐色土

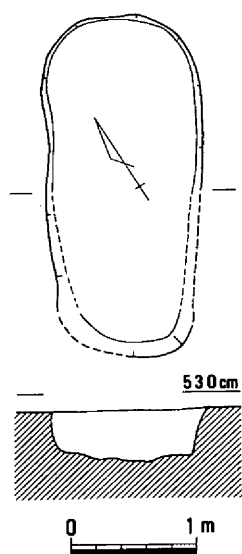
第768図 方形土壙32 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壙35 (第553・771図)

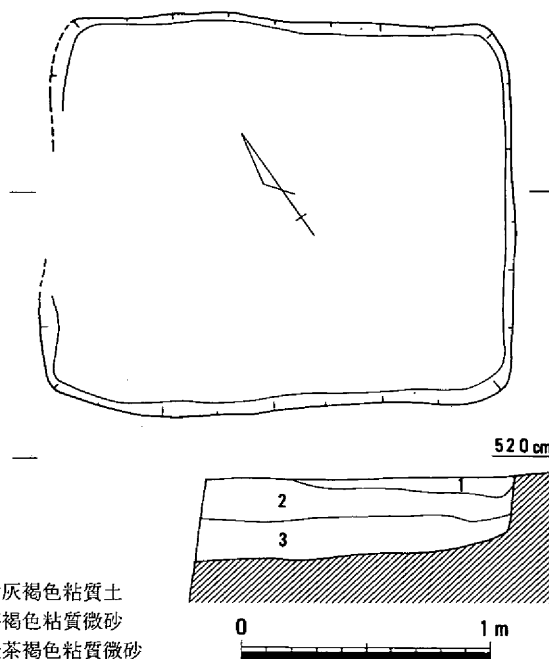
方形土壙33に切られる状態で検出された遺構である。規模は246×260cm、深さは62cmを測る。床面は平坦である。埋土は大きく7層に区分されるが、1層は方形土壙33の埋土である。2～7層が本遺構の埋土であるが、5層には粘土塊が含まれていた。堆積はレンズ状を呈している。出土遺物としては、甕2865・2866、鉢2867・2868、高杯2869などがある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙36 (第553・772図)

方形土壙34の北隣に位置し、方形土壙37とも切り合い関係をもつため、遺構の残存状態はよくない。規模は136×151cm、深さは13cmと浅い。床面は東に傾斜している。埋土は2層に区分され



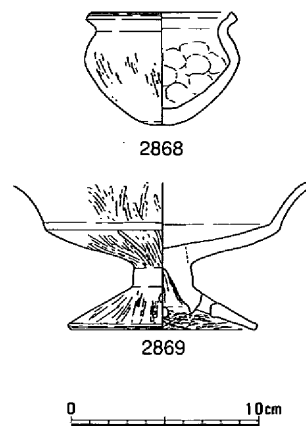
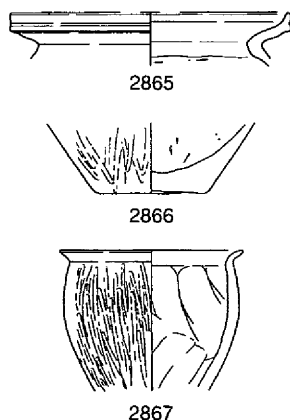
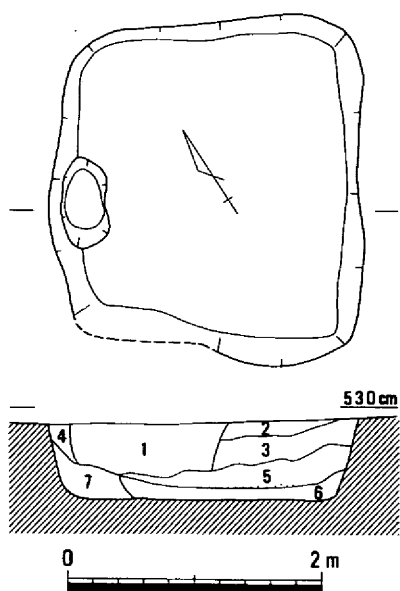
暗灰褐色粘質土 (黄灰色微砂少含)



- 1 黄灰褐色粘質土
- 2 茶褐色粘質微砂
- 3 淡茶褐色粘質微砂

第770図 方形土壙34 (1/30)

第769図 方形土壙33 (1/60)



- 1 暗灰褐色粘質土 (黄灰色微砂少含)
- 2 暗茶褐色粘質土 (黄灰色微砂含)
- 3 暗灰茶褐色粘質土 (黄灰色微砂少含)
- 4 淡褐色粘質微砂
- 5 暗茶褐色粘質土 (黄灰色粘土塊・黄灰色微砂含)
- 6 灰褐色粘質土 (黄灰色微砂少含)
- 7 淡茶褐色粘質微砂

第771図 方形土壙35 (1/60)・出土遺物 (1/4)

だが、1層から遺物が出土している。主な遺物としては、甕2870、高杯2871、鉢2872などがある。これらの遺物からみて、時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

**方形土壙37 (第553・773図)**

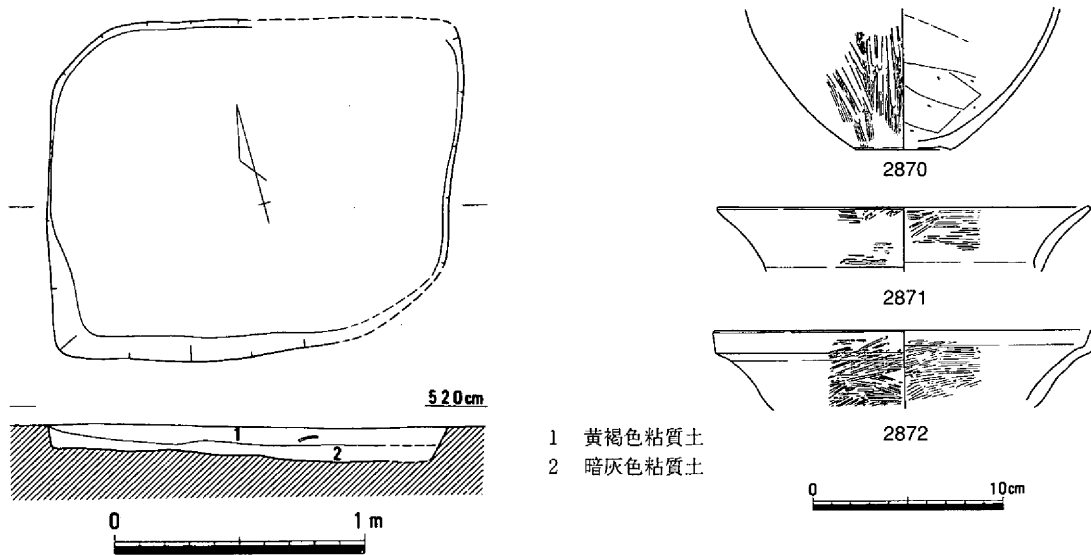
方形土壙34・36・38と切り合い関係をもつ。規模は長軸現存長が165cm、短軸は108cm、深さは6cmを測る。床面は平坦である。埋土は1層である。出土遺物としては、砥石S141がある。石材は流紋岩溶岩である。時期は遺構の切り合い関係からみて、弥・後・Ⅲ～Ⅳと思われる。(松本)

**方形土壙38 (第553・774図)**

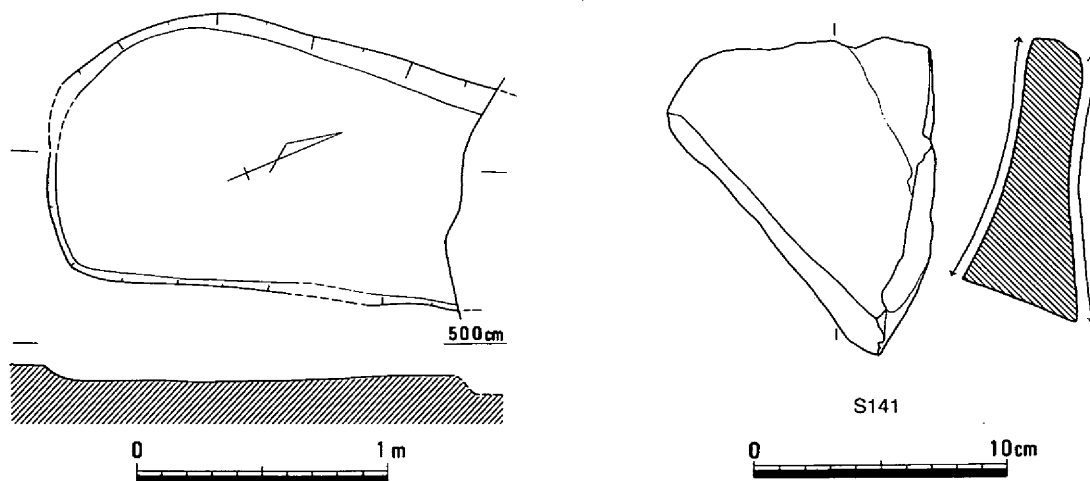
方形土壙37を切る状態で検出された遺構である。規模は171×223cm、深さは49cmを測る。床面には一段低い面がある。埋土は5層に区分されるが、ほぼ水平の堆積である。図示できる遺物はないが、遺構の切り合い関係からみて、弥・後・Ⅳ頃と思われる。(松本)

**方形土壙39 (第553・775図)**

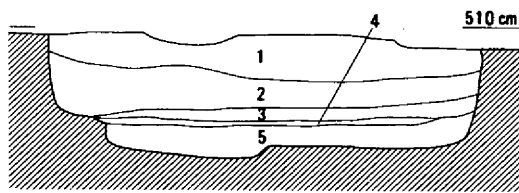
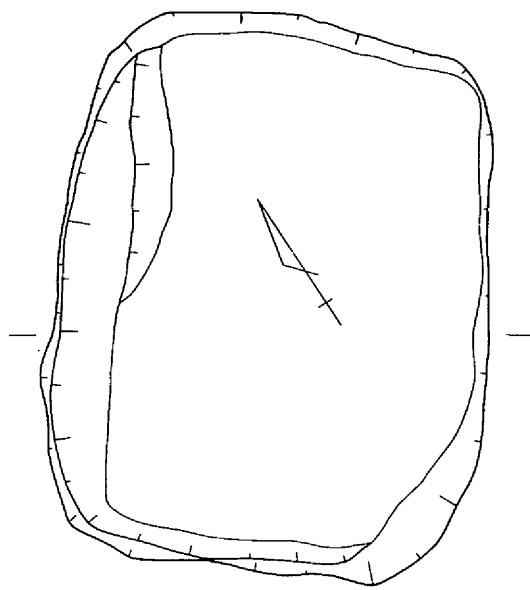
方形土壙38の東約2mの位置で検出された遺構である。規模は200×366cm、深さは64cmを測る。床



第772図 方形土壙36 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第773図 方形土壙37 (1/30)・出土遺物 (1/3)



- 1 茶褐色粘質土
- 2 褐色粘質土
- 3 暗茶褐色粘質土
- 4 黄淡色粘質土
- 5 暗褐色粘質土

第774図 方形土壙38 (1/30)

面は水平であるが、中央部のやや西の位置で方形のくぼみ (45×65cm) がみられた。埋土は4層に区分されるが、1～3層には炭が含まれており、特に2層には多く含まれていた。堆積はレンズ状を呈している。図示できる土器はないが、鉄製品では鏃M155が1点出土している。時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

方形土壙40 (第553・776図)

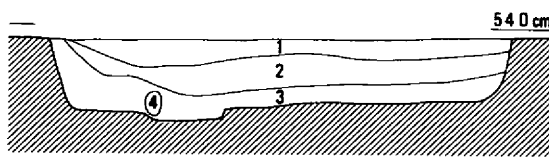
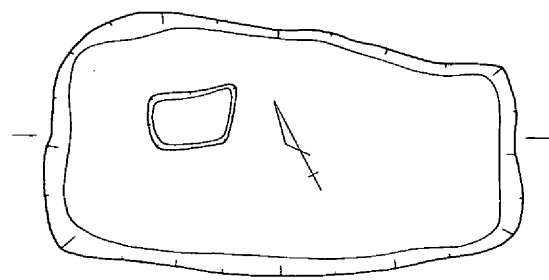
方形土壙34の南東約6mの位置で検出された。平面形は不整な方形を呈しているが、規模は180×244cm、深さは66cmを測る。床面は平坦である。埋土は4層に区分されるが、堆積は水平である。遺物の出土はないが、弥・後・IV頃と思われる。(松本)

方形土壙41 (第553・777図)

方形土壙40の南約4mの位置で検出された。方形土壙42に切られる状態で検出され、不明な点が多い。規模は長軸の現存長が148cm、短軸は50cm、深さは45cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分される。遺物としては石製の勾玉S142の出土がある。時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

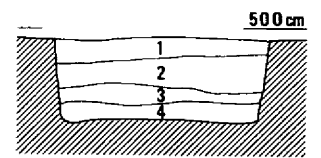
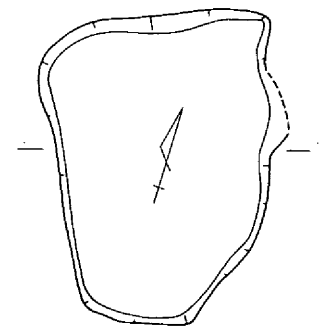
方形土壙42 (第553・777図)

方形土壙41を切る状態で検出された遺構である。



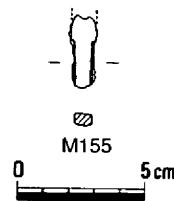
- 1 暗茶褐色粘質微砂 (炭少含)
- 2 暗褐色粘質土 (炭多含)
- 3 暗茶色粘質土 (炭少含)
- 4 茶灰色粘質土

第775図 方形土壙39 (1/60)・出土遺物 (1/3)



- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 茶褐色粘質土
- 3 淡茶褐色粘質土
- 4 淡褐色粘質土

第776図 方形土壙40 (1/60)

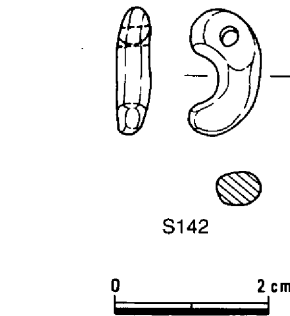
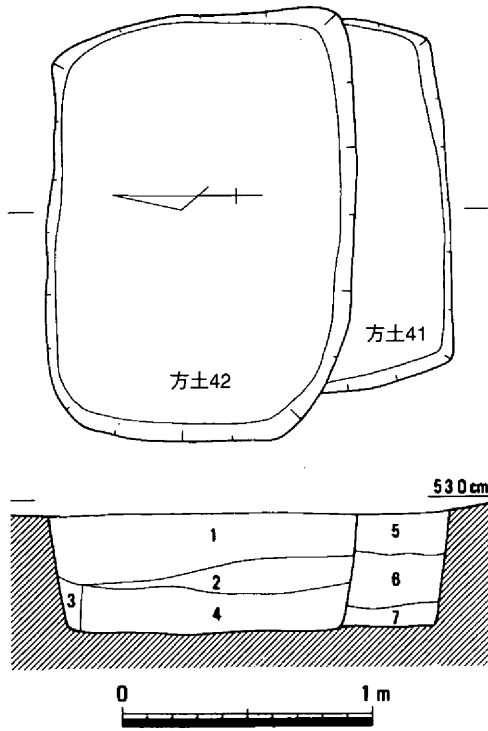


規模は124×170cm、深さは48cmを測る。床面は平坦である。埋土は4層に区分される。上層の1・2層は炭を含む土層である。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

方形土壙43 (第553・778図)

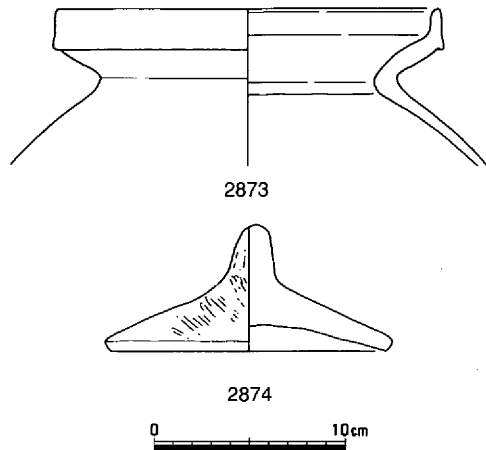
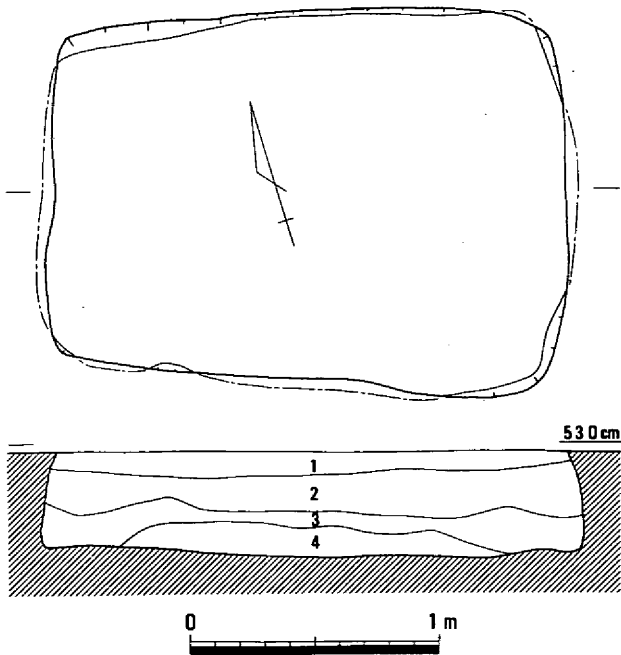
方形土壙44の東隣に位置する。規模は146×205cm、深さは42cmを測る。床面は平坦である。断面は台形を呈しており、袋状土壙の範疇に入るものである。埋土は4層に区分されるが、3層には炭が含まれていた。図示できる遺物としては、甕2873、蓋2874などの土器が出土している。時期は弥・後・IV頃と思われる。

(松本)



- 1 暗茶褐色粘質微砂 (炭含)
- 2 淡茶褐色粘質土 (炭含)
- 3 暗褐色粘質土
- 4 茶褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質微砂 (暗灰色粘土塊含)
- 6 淡茶褐色粘質土 (炭含)
- 7 茶褐色粘質土

第777図 方形土壙41・42 (1/30)・出土遺物 (1/1)

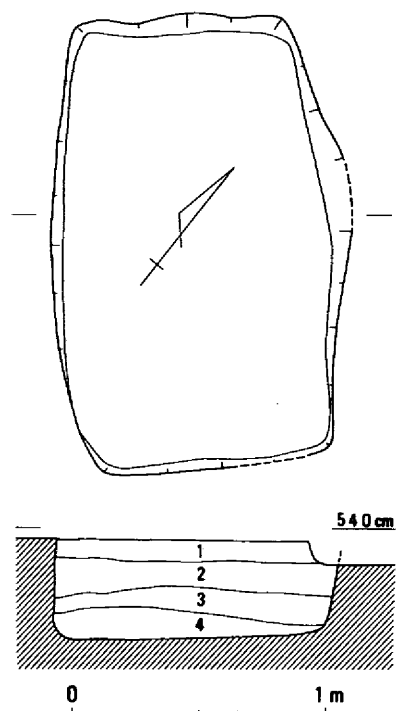


- 1 淡灰褐色砂質粘土
- 2 茶褐色粘質土
- 3 茶褐色粘質土 (炭含)
- 4 淡茶褐色粘質微砂

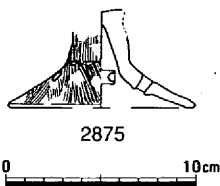
第778図 方形土壙43 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壙44 (第553・779図)

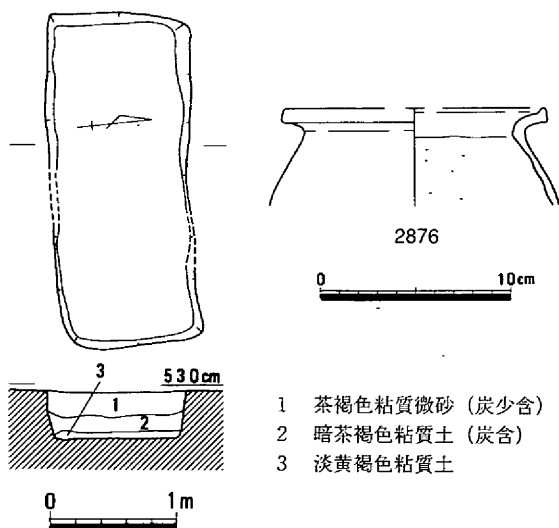
方形土壙43の北隣において検出された遺構である。規模は118×183cm、深さは40cmを測る。床面は平坦である。埋土は4層に区分されるが、いずれの土層においても炭が含まれていた。図示できる遺物としては、高杯の脚部2875が出土している。時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃と思われる。(松本)



- 1 淡茶褐色粘質微砂 (炭少含)
- 2 茶褐色粘質土 (炭多含)
- 3 茶褐色粘質土 (炭少・黄褐色微砂含)
- 4 暗茶褐色粘質土 (炭少含)



第779図 方形土壙44 (1/30)・  
出土遺物 (1/4)



- 1 茶褐色粘質微砂 (炭少含)
- 2 暗茶褐色粘質土 (炭含)
- 3 淡黄褐色粘質土

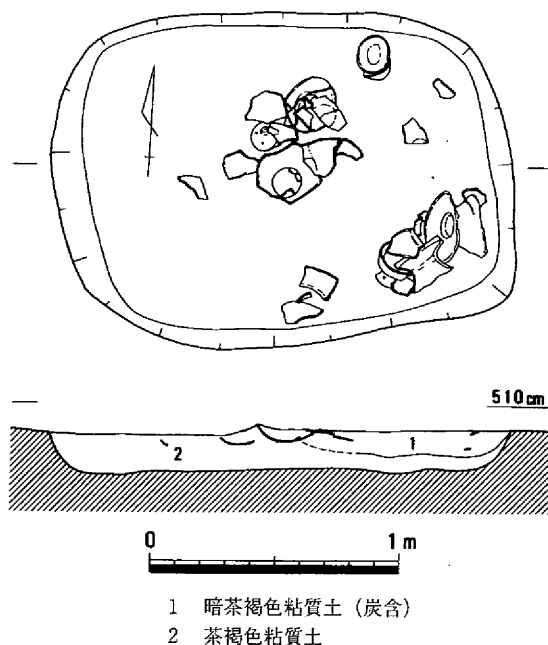
第780図 方形土壙45 (1/60)・出土遺物 (1/4)

方形土壙45 (第553・780図)

方形土壙47の南隣で検出された。規模は115×267cm、深さは37cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、1・2層は炭を含む土層である。堆積は水平である。遺物の出土は少ないが、図示できる遺物としては、甕2876がある。時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

方形土壙46 (第553・781～783図、図版121)

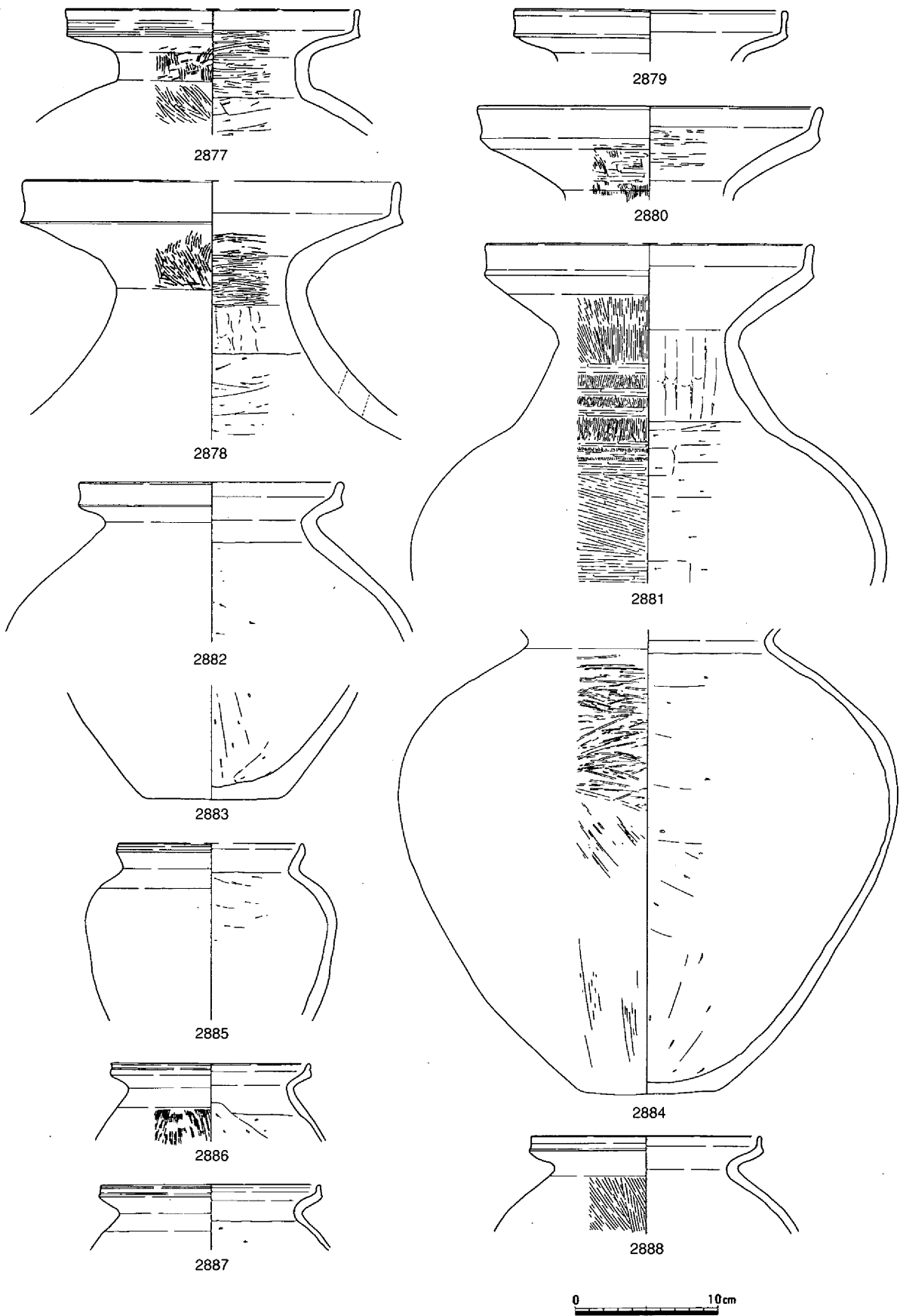
土壙321の西約1mの位置で検出された遺構であるが、その残存状態はよくない。規模は132×186cm、深さは16cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は2層に区分され、上層には炭を含む。遺物は床面近くの位置に投棄されたような状態で多量に出土した。出土遺物は土器のみである。器種は、壺2877～2885・2888、小形壺2903、甕2886・2887、2889～2893、高杯2894～2898、鉢2899～2901・2904、台付鉢2902などであるが、壺の出土比率が高い。壺には長頸化および短頸化したものの2種類があり、高杯の脚部はいずれも短脚化したもの



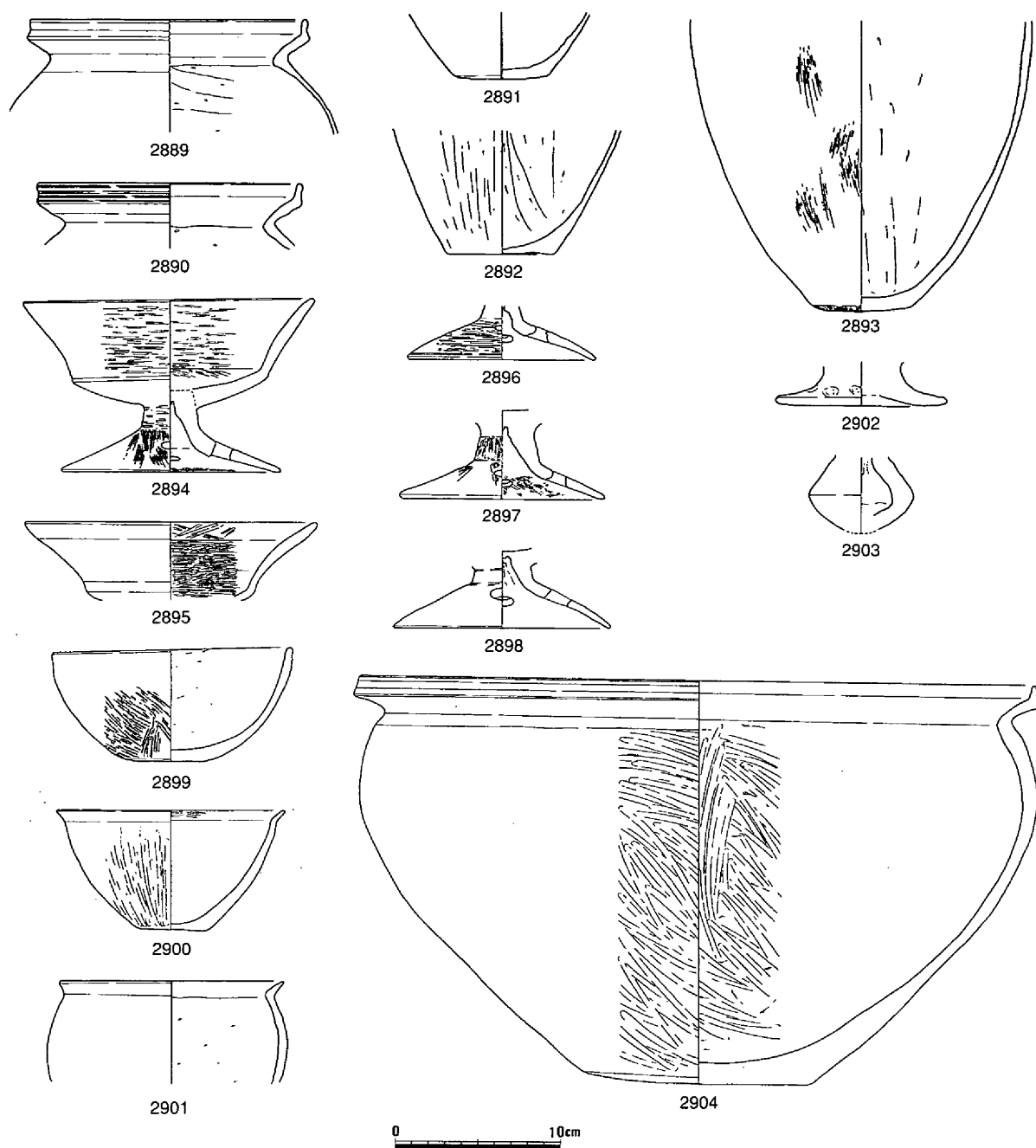
- 1 暗茶褐色粘質土 (炭含)
- 2 茶褐色粘質土

第781図 方形土壙46 (1/30)





第782図 方形土壙46出土遺物① (1/4)



第783図 方形土壙46出土遺物② (1/4)

である。これらの遺物からみて、この方形土壙が廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙47 (第553・784図)

方形土壙45の北隣において検出され、切り合い関係をもつ遺構である。規模は長軸約170cm前後、短軸120cm、深さは52cmを測る。床面はやや西に傾斜するが、ほぼ平坦である。埋土の上層には炭、焼土、下層に炭を含む。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

方形土壙48 (第553・785図)

土壙285と切り合い関係をもつ遺構である。規模は190×349cm、深さは64cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分された。出土遺物がないため、時期決定は困難であるが、検出面レベルや遺

構の切り合いからみて、弥・後の範疇に入ると思われる。

(松本)

**方形土壙49** (第553・786図)

袋状土壙93の北東で検出された遺構である。規模は105×233cm、深さは94cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積は水平である。図示できる遺物の出土はないが、廃絶された時期は弥・後・IVと思われる。

(松本)

**方形土壙50** (第553・787図、図版43)

方形土壙51に切られる状態で検出された遺構であるため、遺構の残存状態はよくない。規模は長軸が298cm、短軸は約140cmと推定される。深さは66cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分されるが、堆積は水平である。出土遺物としては土器がある。器種はいずれも甕2905～2907である。これらの遺物からみて、廃絶の時期は弥・後・IV頃と思われる。

(松本)

**方形土壙51** (第553・787図、図版43)

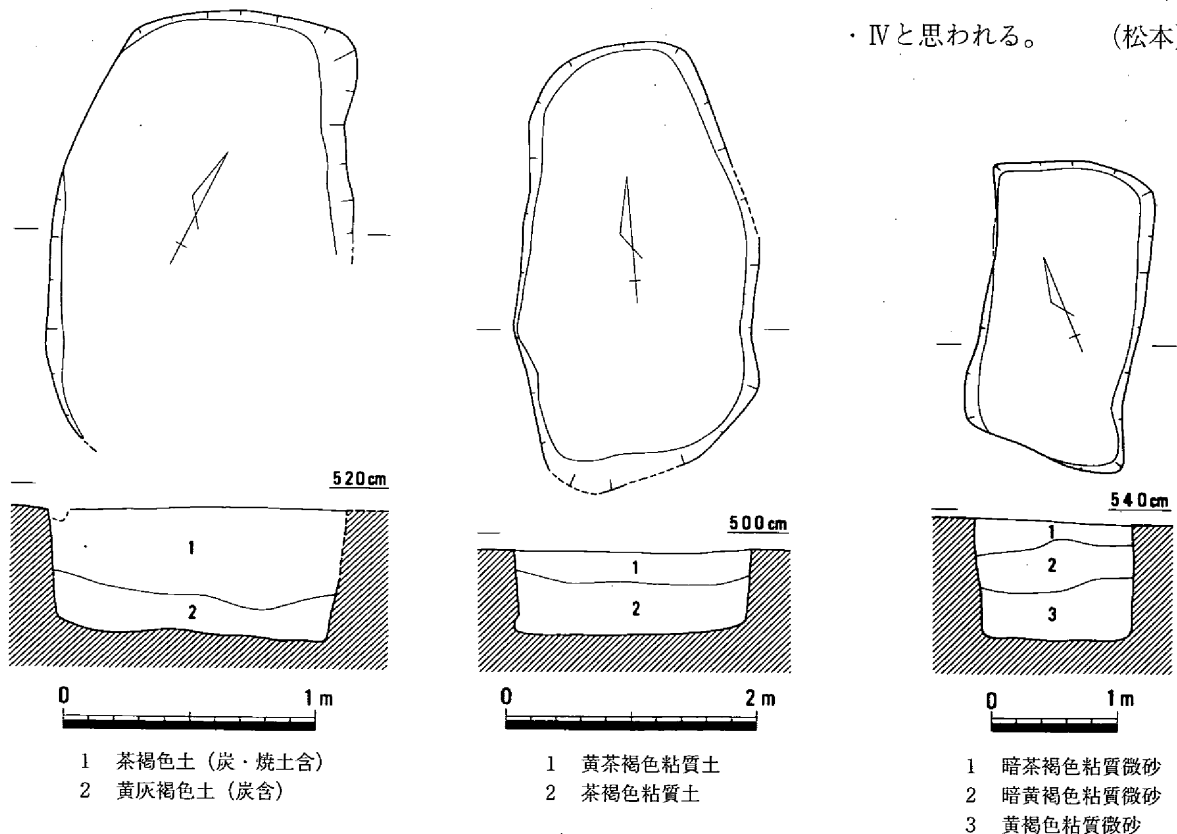
方形土壙50を切る状態で検出された遺構である。規模は100×292cm、深さは72cmを測る。床面は平坦である。埋土は5層に区分されるが、埋土の堆積は南から北に傾斜している。断面形は台形状を呈している。出土遺物としては甕2908・2909と高杯2910などの土器がある。これらの遺物からみて、廃絶された時期は弥・後・IVと思われる。

(松本)

**方形土壙52** (第553・788図)

方形土壙53の西約1.5mの位置で検出された。規模は160×221cm、深さは68cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積は水平である。断面形は逆台形を呈している。出土遺物としては、土器と鉄器がある。土器は甕2911・2912と高杯2913がある。鉄器は刀子M156が出土している。廃絶の時期は弥・後・IVと思われる。

(松本)



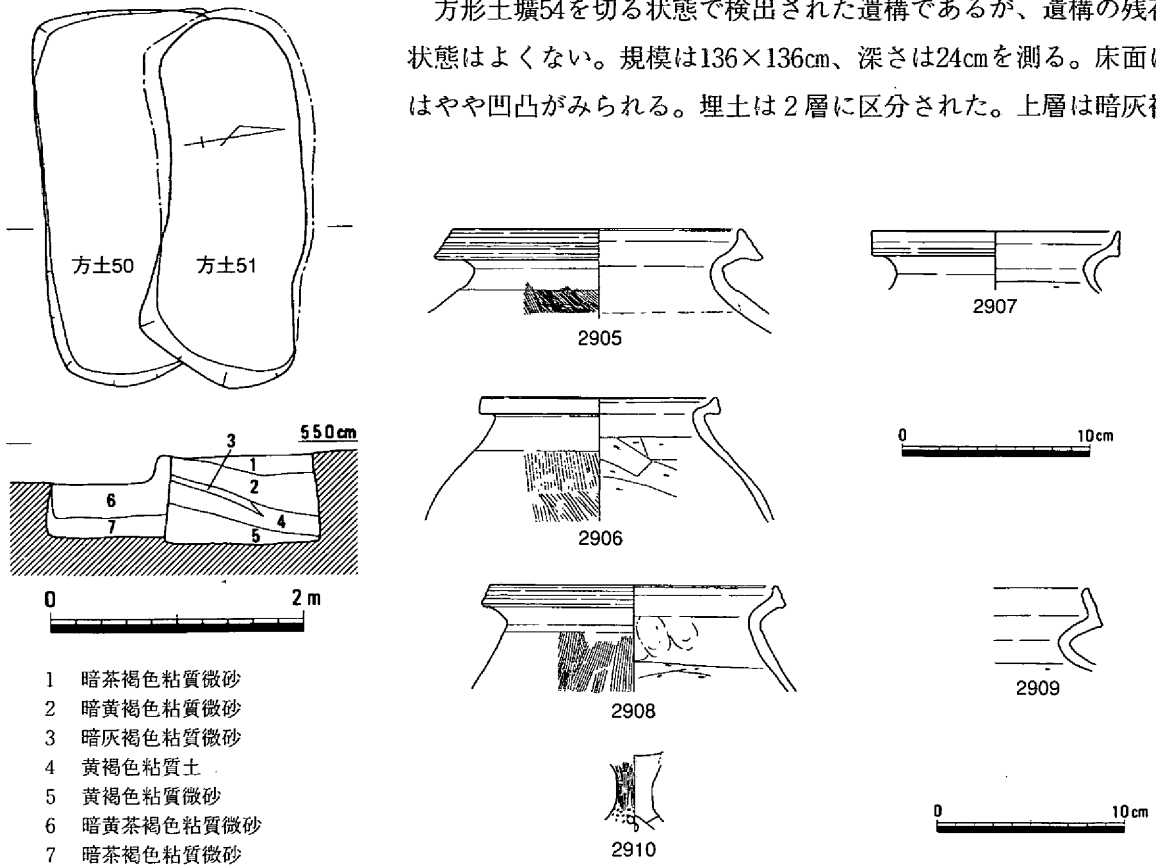
第784図 方形土壙47 (1/30)

第785図 方形土壙48 (1/60)

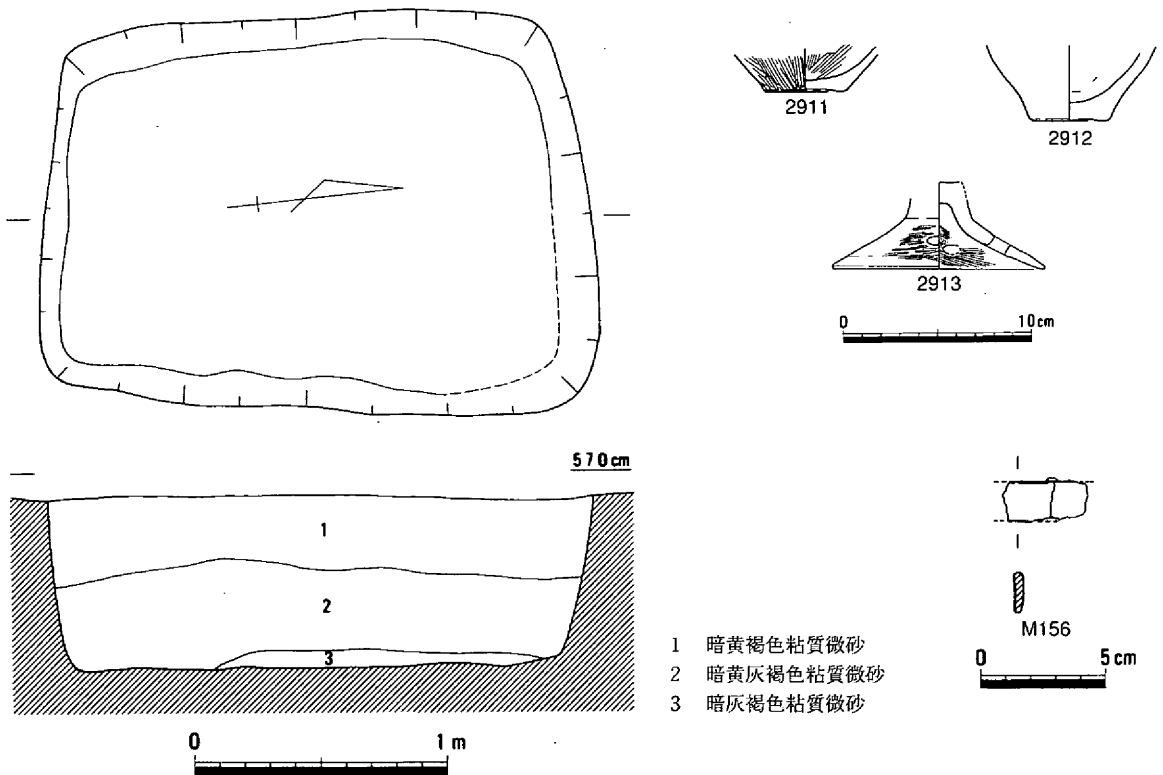
第786図 方形土壙49 (1/60)

方形土壇53 (第553・789図)

方形土壇54を切る状態で検出された遺構であるが、遺構の残存状態はよくない。規模は136×136cm、深さは24cmを測る。床面にはやや凹凸がみられる。埋土は2層に区分された。上層は暗灰褐



第787図 方形土壇50・51 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第788図 方形土壇52 (1/30)・出土遺物 (1/4, 1/3)

色、下層は暗褐色でいずれも粘質微砂土である。出土遺物としては、壺2914、甕2915などの土器がある。これらの遺物からみて、廃絶の時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

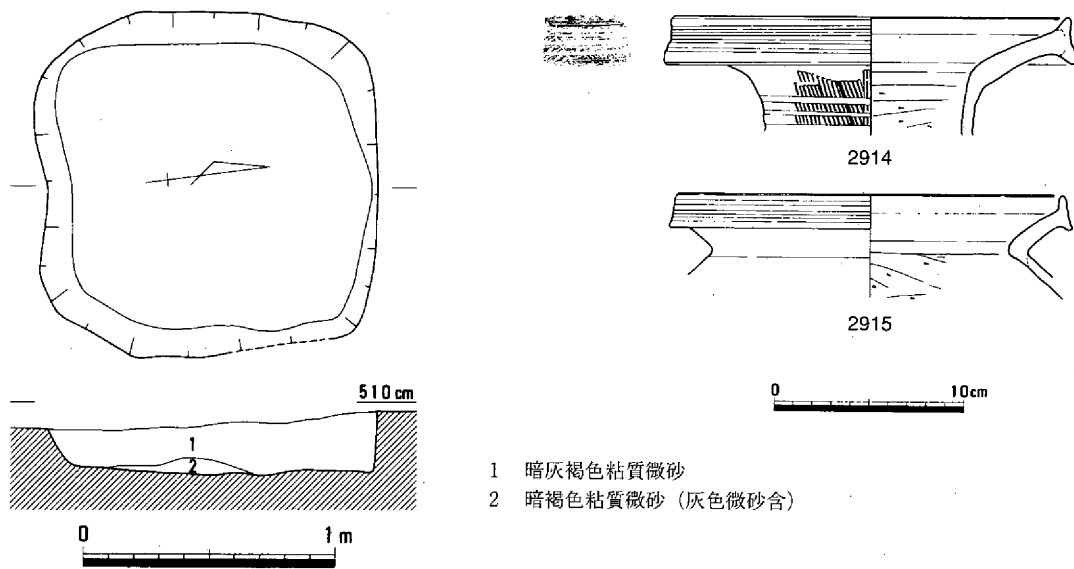
方形土壙54 (第553・790図)

方形土壙53に切られる状態で検出された。規模は145×185cm、深さは49cmを測る。床面は平坦である。埋土は6層に区分される。断面は箱形を呈するものと思われる。

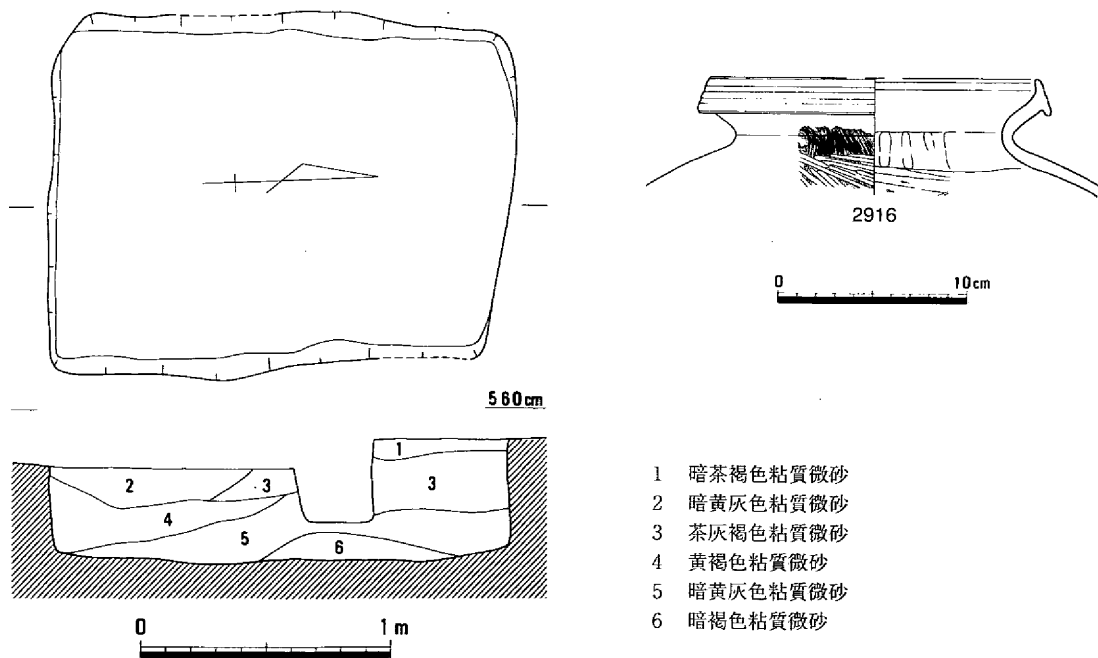
図示できる遺物としては、甕2916がある。廃絶の時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙55 (第553・791・792図)

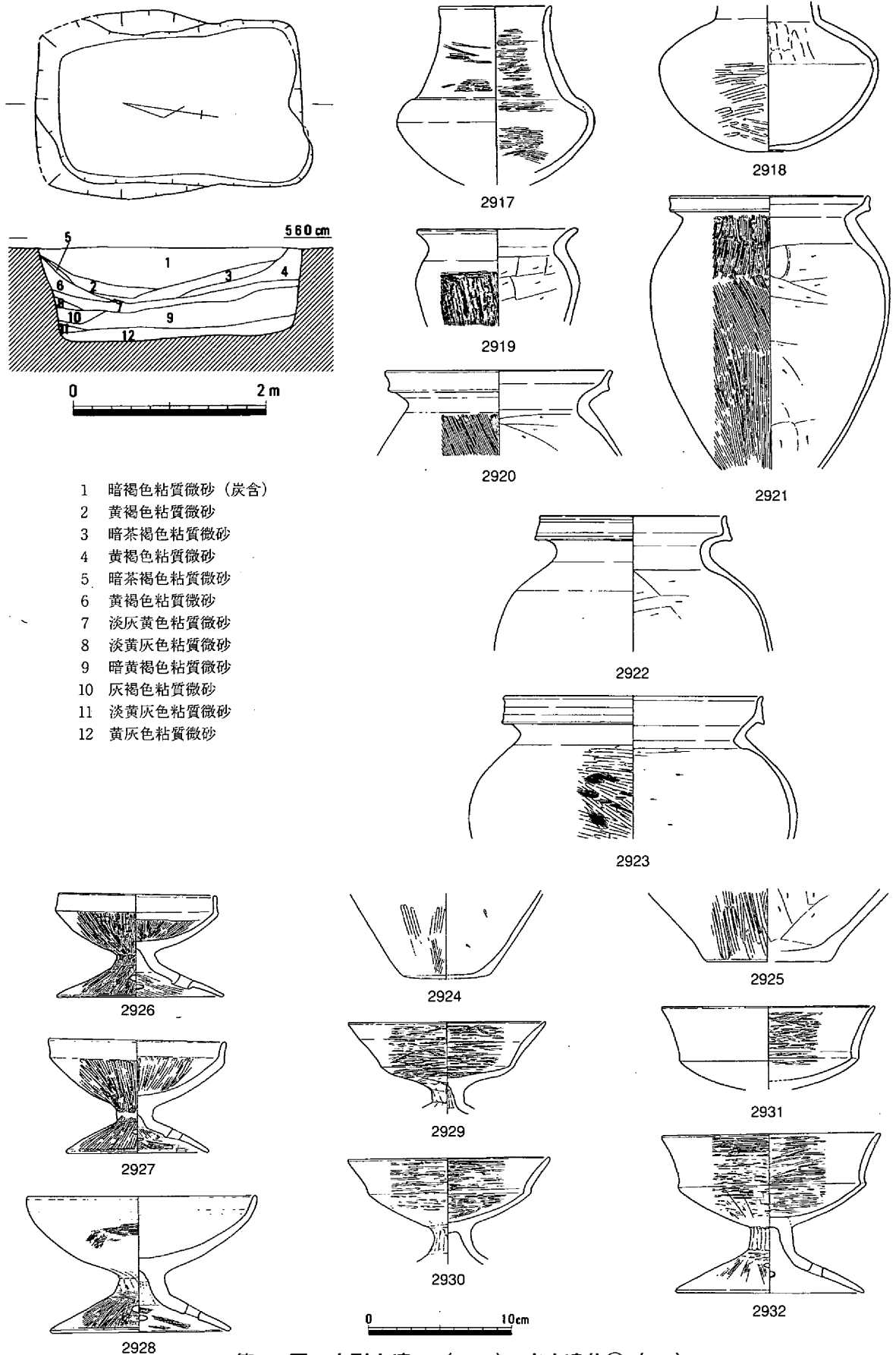
方形土壙53の北約1.5mの位置で検出された。規模は196×284cm、深さは99cmを測る。床面は平坦



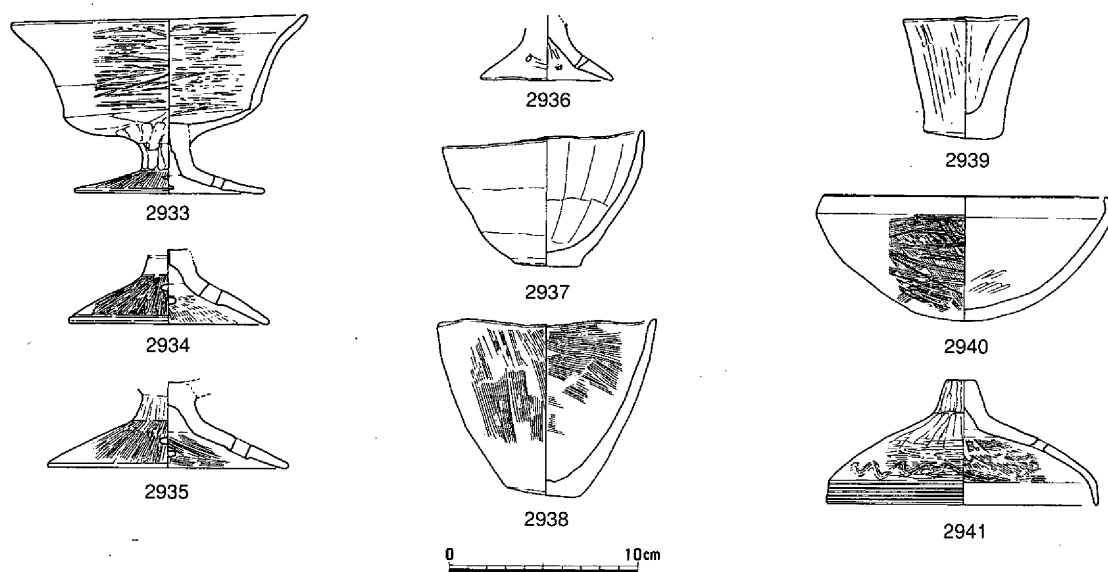
第789図 方形土壙53 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第790図 方形土壙54 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第791图 方形土坑55 (1/30) · 出土遺物① (1/4)



第792図 方形土壙55出土遺物② (1/4)

である。埋土は12層に区分されたが、堆積はレンズ状となっている。断面形は逆台形を呈する。出土遺物としては、直口壺2917・2918、甕2919～2925、高杯2926～2936、鉢2937～2940、蓋2941などの土器がある。高杯、鉢、蓋など小形土器に完形品がみられた。高杯は杯部に各種の形態が存在するが、脚部は短脚である。これらの遺物からみて、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙56 (第553・793図)

方形土壙58の東に約1mの位置で検出された遺構である。規模は108×174cm、深さは68cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積は水平に近い。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・III～IVと思われる。

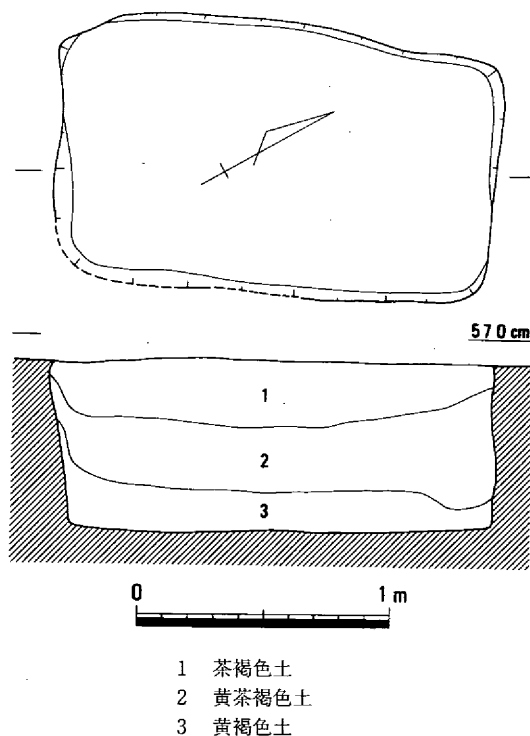
(松本)

方形土壙57 (第553・794図)

方形土壙53の南約1.5mの位置で検出された。規模は99×138cm、深さは49cmを測る。床面中央部がくぼみ、30×40cmの被熱範囲がみられた。埋土は1層で、炭、焼土を含む土層であった。断面形からみて、袋状土壙の範疇に入るものと思われる。遺物としては砥石S143がある。時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

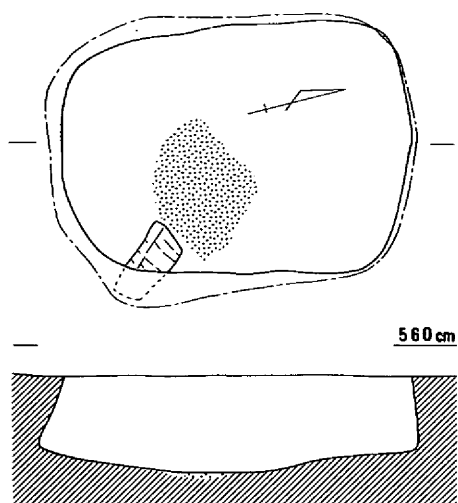
方形土壙58 (第553・795図)

方形土壙56の西隣において検出された。規模は154×222cm、深さは115cmを測り、残存状態は良好である。床面は平坦である。埋土は5層に区分



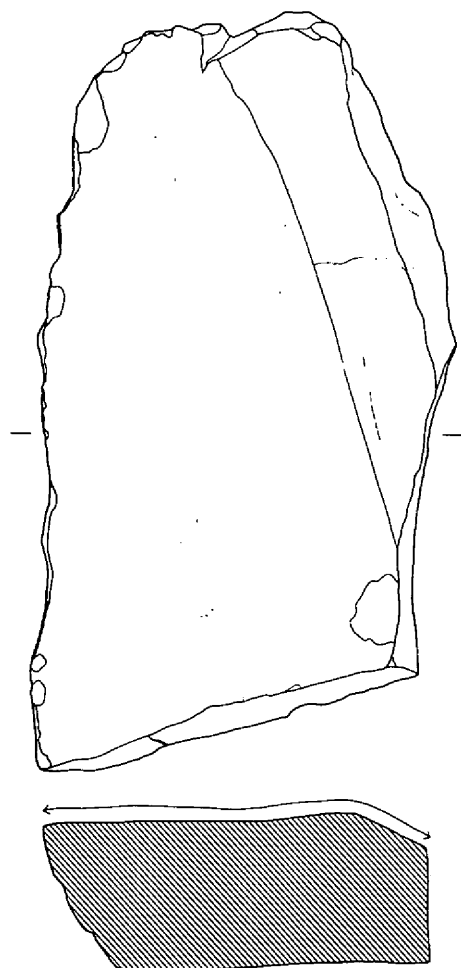
- 1 茶褐色土
- 2 黄茶褐色土
- 3 黄褐色土

第793図 方形土壙56 (1/30)



0 1 m

暗茶褐色粘質微砂 (炭・焼土含)



S143

0 10 cm

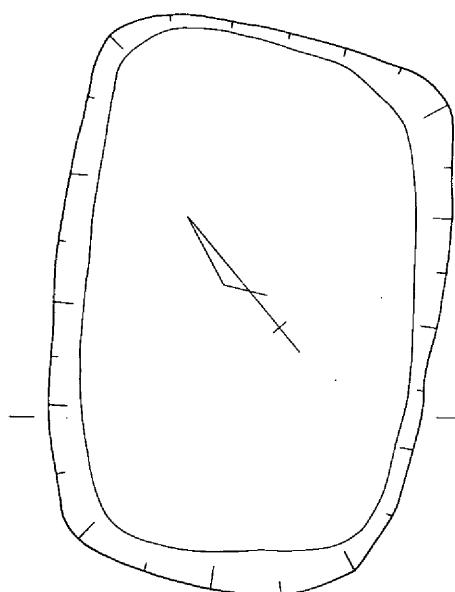
された。断面形は箱形を呈している。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

方形土壙59 (第553・796図)

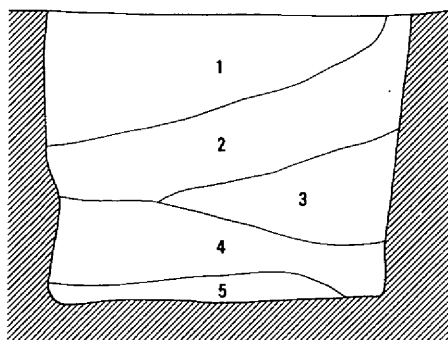
方形土壙61の西隣において検出された。規模は134×203cm、深さは18cmを測り、遺構の残存状態は悪い。床面は平坦である。埋土は1層で、炭を含む土層である。出土遺物はないが、時期は弥・後と思われる。(松本)

方形土壙60 (第553・797図)

方形土壙56の南約5mの位置で検出されたが、南部分は用地外となり、未調査である。確認された規模は長軸が230cm、短軸267cm、深さ100cmを測る。床面は平坦で



530 cm



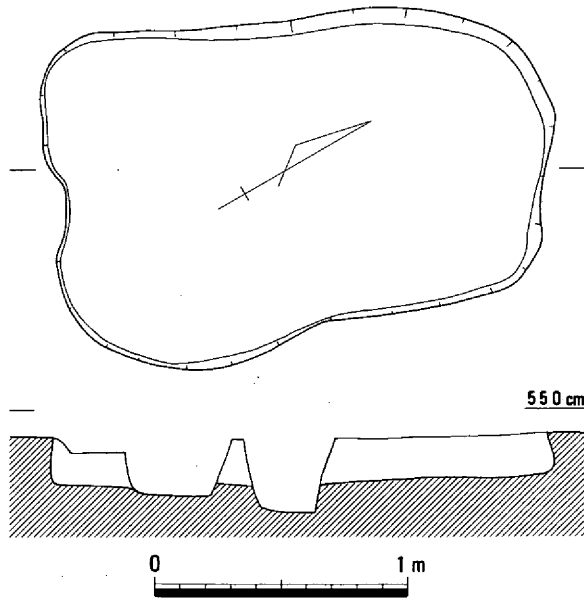
0 1 m

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 灰褐色粘質微砂  | 4 黒褐色粘質微砂 |
| 2 黄灰褐色粘質微砂 | 5 暗黄灰色粘質土 |
| 3 明黄褐色粘質微砂 |           |

第794図 方形土壙57 (1/30)・出土遺物 (1/3)

第795図 方形土壙58 (1/30)





茶褐色粘質土（炭含）

第796図 方形土壙59 (1/30)

ある。埋土は6層に区分され、堆積は水平に近い。断面形は逆台形を呈している。

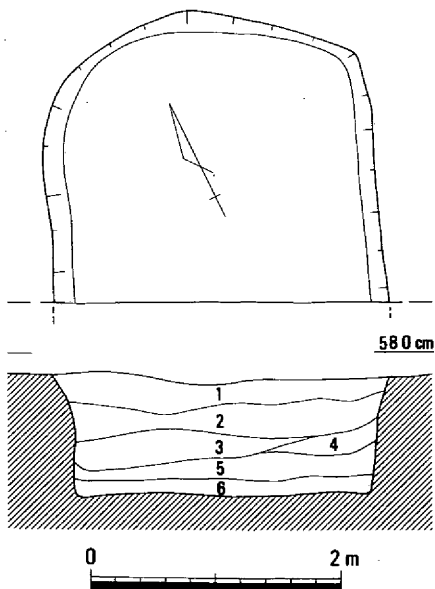
出土遺物としては、壺2942、甕2943～2945、器台2946などの土器がある。これらの遺物から、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。

(松本)

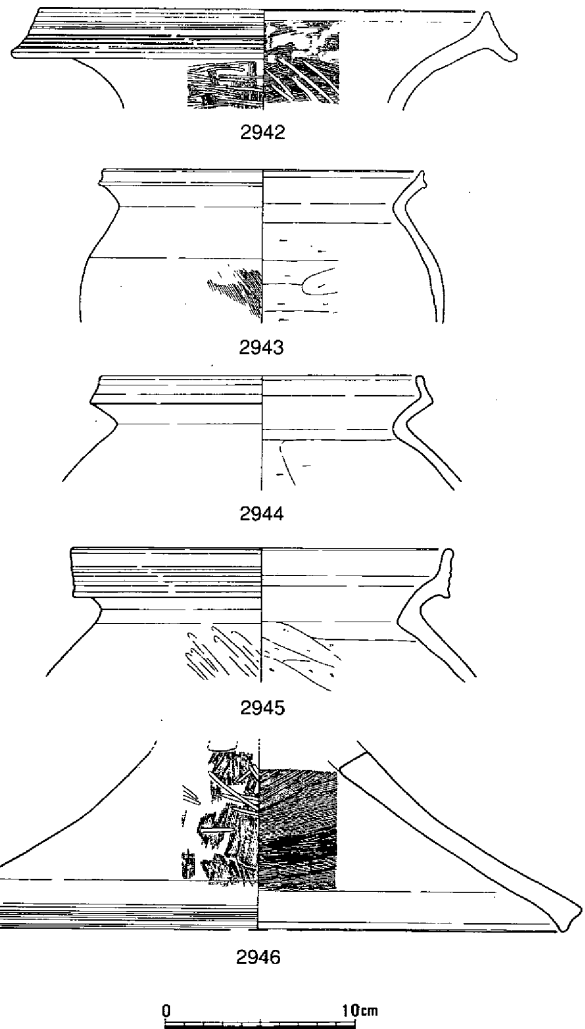
方形土壙61 (第553・798・799図、図版166)

方形土壙62を切る状態で検出された。規模は177×214cm、深さは55cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分され、焼土も出土した。出土遺物には、壺2942、甕2943～2945、器台2951や土錘C150がある。遺構の切り合い関係からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱ頃と思われる。

(松本)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗黄褐色粘質微砂
- 3 黄灰褐色粘質微砂
- 4 暗青灰色粘質微砂
- 5 暗黄褐色粘質微砂
- 6 黄褐色粘質微砂



第797図 方形土壙60 (1/60)・出土遺物 (1/4)

方形土壇62 (第553・798・799図)

方形土壇61に切られる状態で検出された遺構であるが、残存状態は良好であった。規模は236×293cm、深さは115cmを測る。床面は平坦である。埋土は7層に区分されるが、最上層には炭、焼土を含んでいた。埋土の堆積は水平に近い。断面形は箱形を呈している。

出土遺物としては、壺2951・2952、甕2953～2956、高杯2957～2960、製塩土器2961、台付鉢2962などがある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱと思われる。(松本)

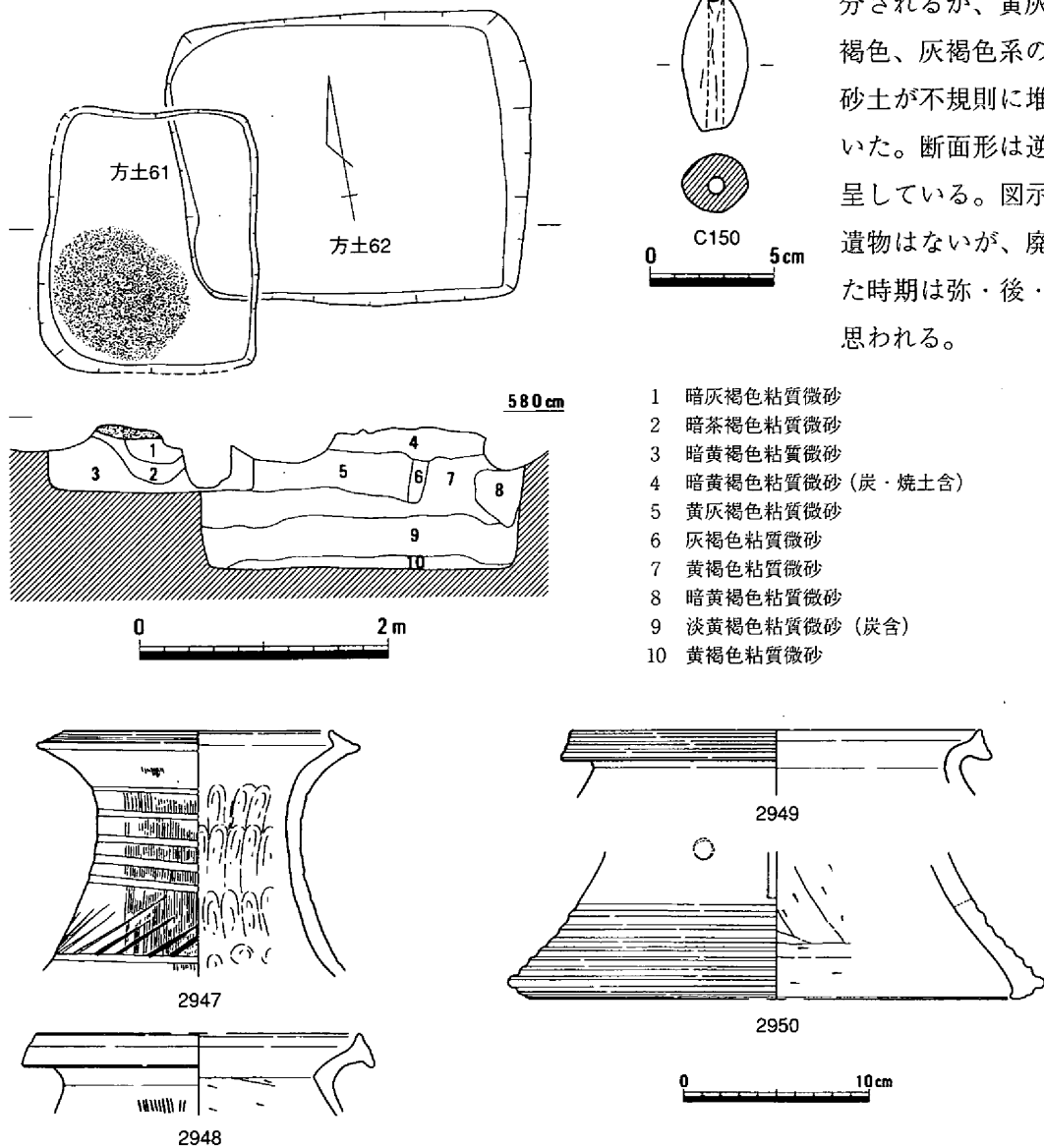
方形土壇63 (第553・800図)

方形土壇61の南約3mの位置で検出された。規模は126×169cm、深さは28cmを測る。床面は平坦である。埋土は1層である。出土遺物はないが、弥・後・Ⅱ～Ⅲ頃の時期と思われる。(松本)

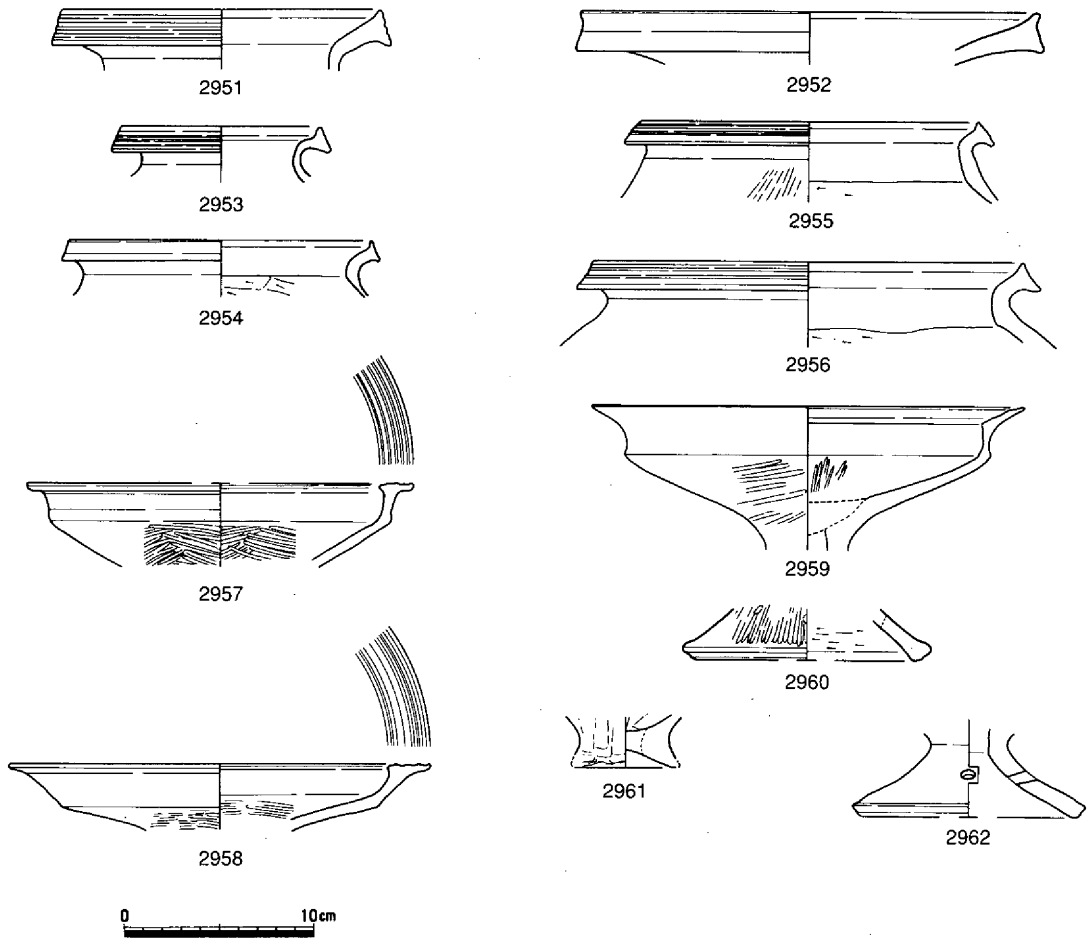
方形土壇64 (第553・801図)

方形土壇65と切り合い関係をもつ遺構である。規模は109×167cm、深さは50cmを測る。床面は平坦

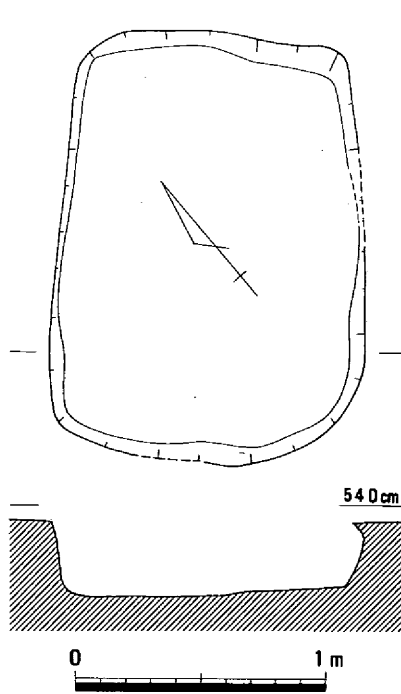
である。埋土は5層に区分されるが、黄灰色、黄褐色、灰褐色系の粘質微砂土が不規則に堆積していた。断面形は逆台形を呈している。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳ頃と思われる。(松本)



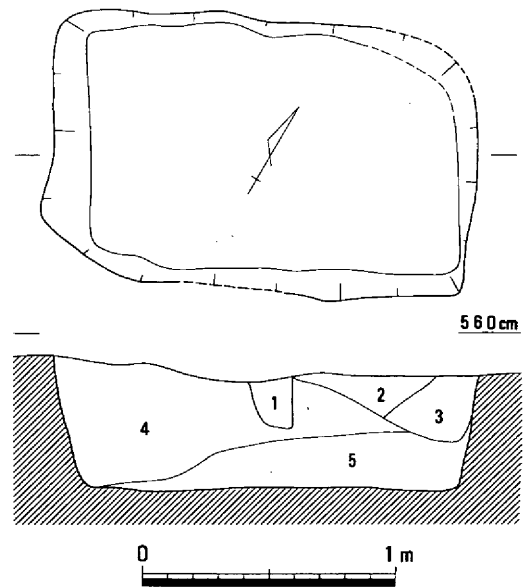
第798図 方形土壇61・62 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/4)



第799図 方形土壇61・62出土遺物② (1/4)



第800図 方形土壇63 (1/30)



- |            |            |
|------------|------------|
| 1 黄灰色粘質微砂  | 4 黄灰褐色粘質微砂 |
| 2 黄褐色粘質微砂  | 5 暗黄褐色粘質微砂 |
| 3 暗灰褐色粘質微砂 |            |

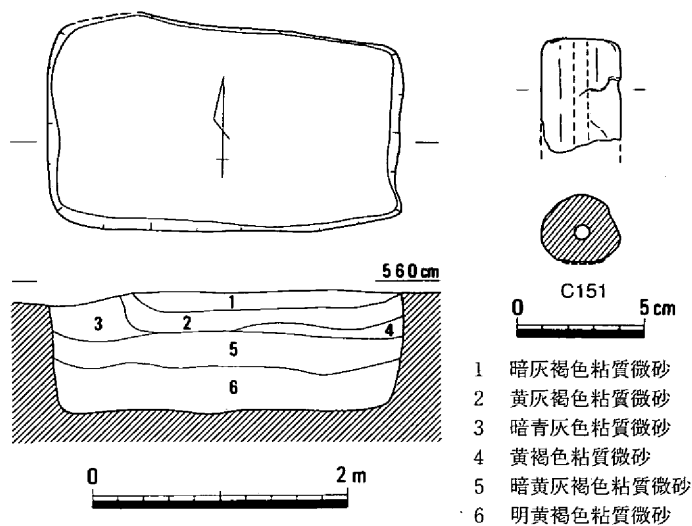
第801図 方形土壇64 (1/30)

方形土壙65 (第553・802図、図版166)

方形土壙64と一部切り合う関係の遺構である。規模は173×276cm、深さは96cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は6層に区分されるが、下層では水平、上層でレンズ状の堆積となる。図示できる遺物としては土錘C151がある。廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

方形土壙66 (第553・803図)

方形土壙65の東約1mの位置で検出された遺構である。規模は109×270cm、深さは35cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分され、断面形は箱形を呈している。出土遺物としては土器がある。土器はすべて1層からの出土である。器種としては、壺2963・2964、甕2965～2967、高杯2968、鉢2969などがある。



- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 黄灰褐色粘質微砂
- 3 暗青灰色粘質微砂
- 4 黄褐色粘質微砂
- 5 暗黄灰褐色粘質微砂
- 6 明黄褐色粘質微砂

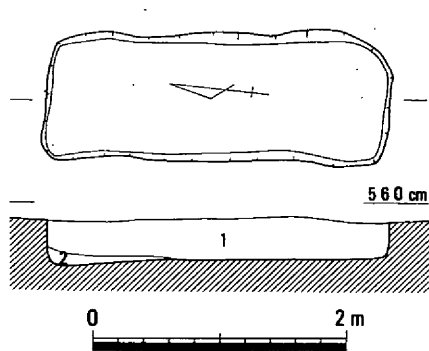
これらからみて、この遺構が廃棄された時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲ頃と思われる。(松本)

これらの遺物からみて、この遺構が廃棄された時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲ頃と思われる。(松本)

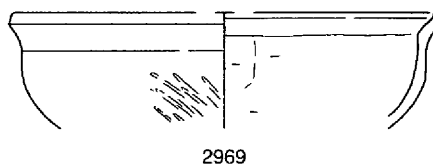
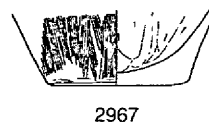
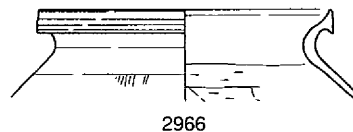
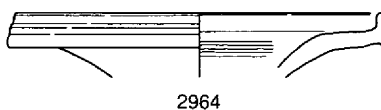
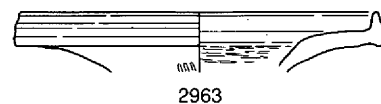
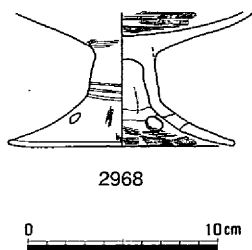
方形土壙67 (第553・804図)

方形土壙66の北約1.5mの位置で検出された。規模は135×168cm、深さは66cmを測る。床面は平坦である。埋土

第802図 方形土壙65 (1/60)・出土遺物 (1/3)



- 1 黄灰褐色粘質微砂
- 2 黄褐色粘質土



第803図 方形土壙66 (1/60)・出土遺物 (1/4)

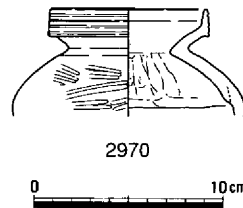
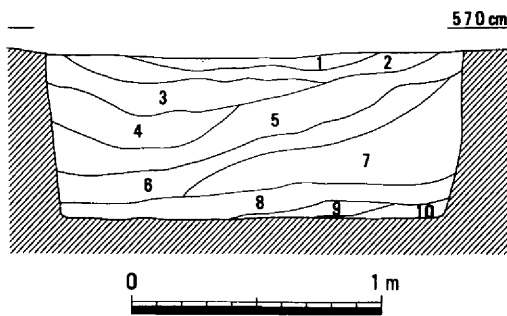
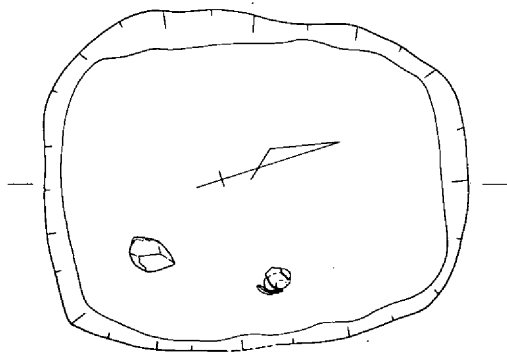
は10層に区分されたが、9層は炭、焼土である。堆積はレンズ状である。断面形は箱形を呈しており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、床面において甕2970が出土している。廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

**方形土壙68 (第553・805図)**

袋状土壙88の北隣で検出された。規模は196×284cm、深さは68cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分された。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

**方形土壙69 (第553・806図)**

袋状土壙88の南約1mの位置で検出された。規模は195×236cm、深さは65cmを測る。床面は平坦である。断面形は箱形を呈する。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

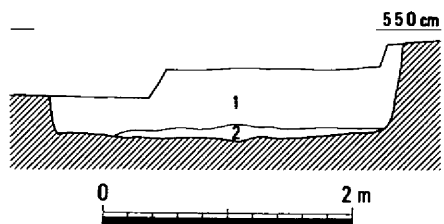
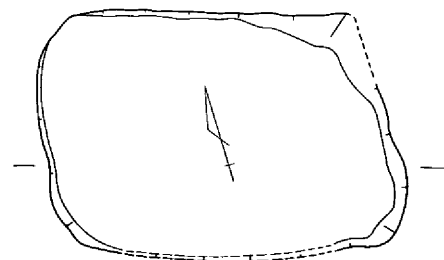


- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 黄褐色粘質微砂
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 黄褐色粘質微砂
- 5 暗茶褐色粘質微砂
- 6 明黄褐色粘質微砂
- 7 暗黄褐色粘質微砂
- 8 黄褐色粘質微砂
- 9 炭・焼土
- 10 淡黄茶褐色粘質土

**方形土壙70 (第553・807図)**

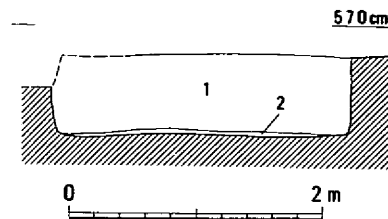
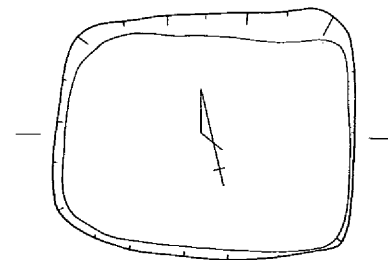
方形土壙71と切り合い関係をもつ遺構である。規模は108×147cm、深さは27cmを測り、遺構の残存状態はあまり良好ではない。床面はほぼ平坦である。埋土は3層に区分される。断面形はフラスコ状を呈することから、袋状土壙の範疇に入るものである。出土遺物としては、甕2971～2975と鉢2976・2977があるが、ほとんどの遺物は床面に付着し

第804図 方形土壙67 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 黄灰褐色粘質土

第805図 方形土壙68 (1/60)



- 1 暗黄褐色粘質微砂
- 2 淡黄灰色粘質土

第806図 方形土壙69 (1/60)

たような状態で出土している。これらの遺物の特徴からみて、この方形土壙の廃棄された時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃と思われる。(松本)

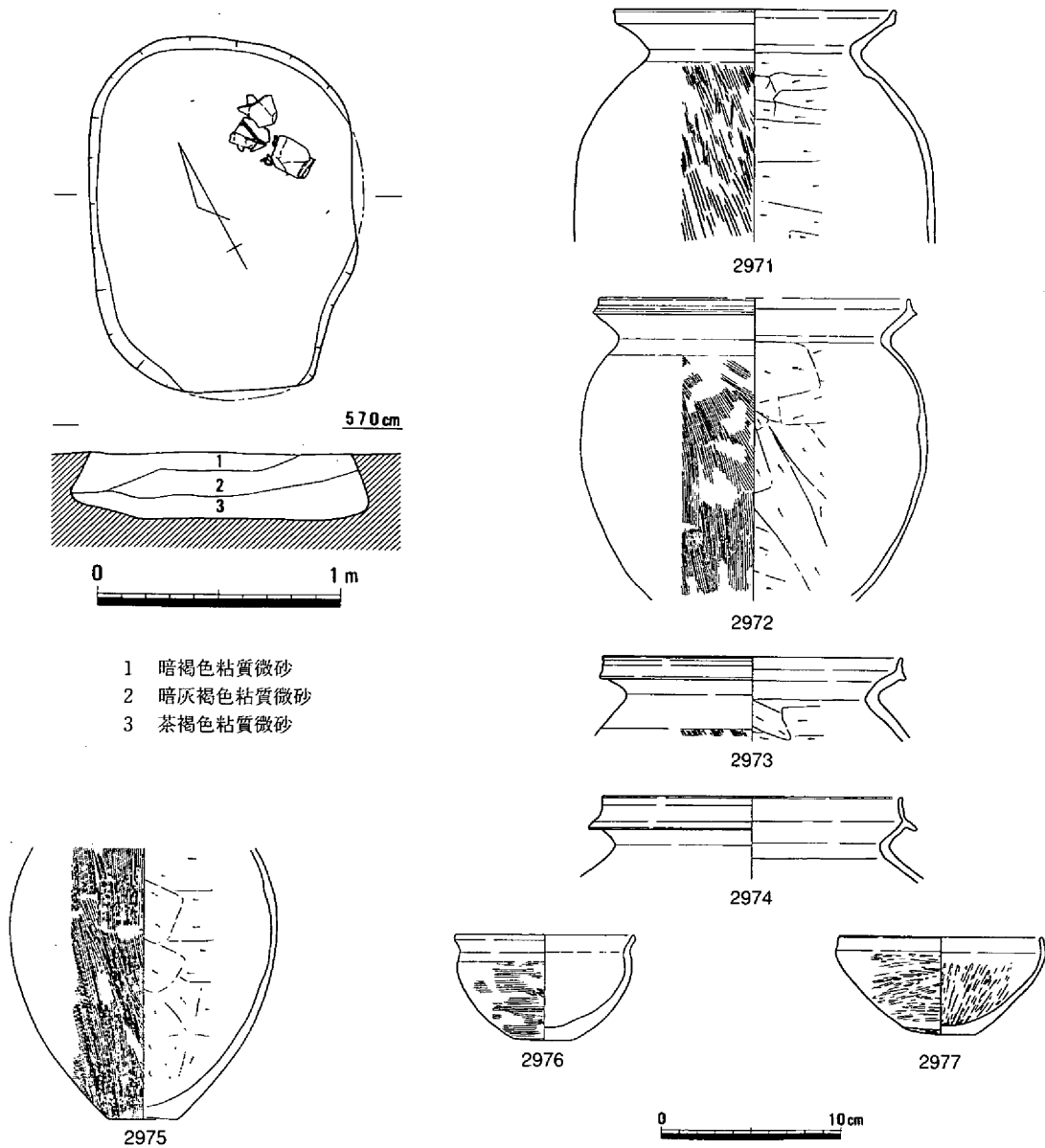
方形土壙71 (第553・808図)

方形土壙70と切り合う遺構である。規模は112×151cm、深さは38cmを測る。床面には少し凹凸がみられる。埋土は3層に区分され、堆積はレンズ状を呈している。断面形は逆台形を呈している。

出土遺物としては、甕2978、高杯2979・2980、台付鉢2981などの土器がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

方形土壙72 (第553・809図)

方形土壙69の南約3mの位置で検出された。規模は98×155cm、深さは47cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分された。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 暗灰褐色粘質微砂
- 3 茶褐色粘質微砂

第807図 方形土壙70 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壇73 (第553・810図)

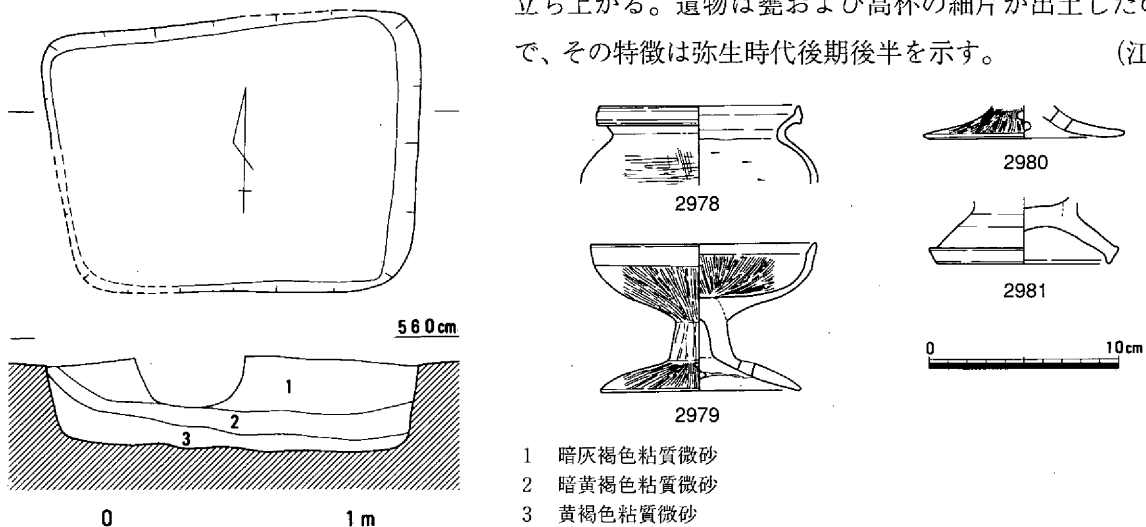
方形土壇72の南約3mの位置で検出された。規模は193×257cm、深さ99cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壇74 (第553・811図)

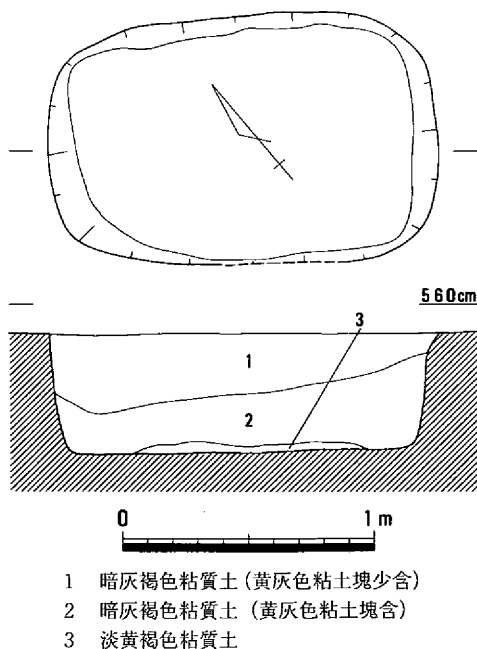
袋状土壇75の北隣で検出された。規模は170×265cm、深さ80cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分される。出土遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

方形土壇75 (第553・812図)

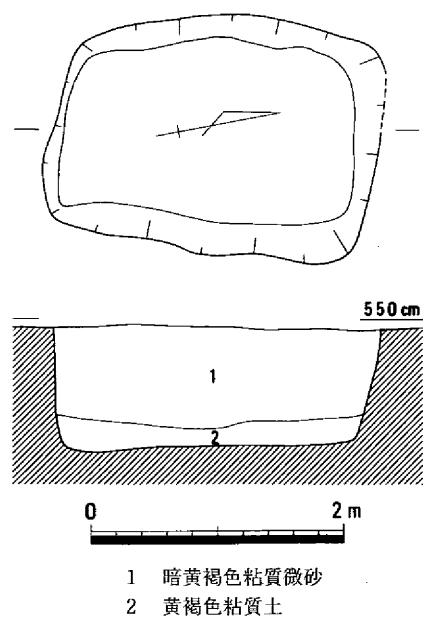
Ch603区の南東隅に位置し、土壇の南東部を竪穴住居145に切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は154×254cm、深さ約40cmを残す。床面積は3.45㎡を測る。底部はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は甕および高杯の細片が出土したのみで、その特徴は弥生時代後期後半を示す。(江見)



第808図 方形土壇71 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第809図 方形土壇72 (1/30)



第810図 方形土壇73 (1/60)

方形土壇76 (第553・813図)

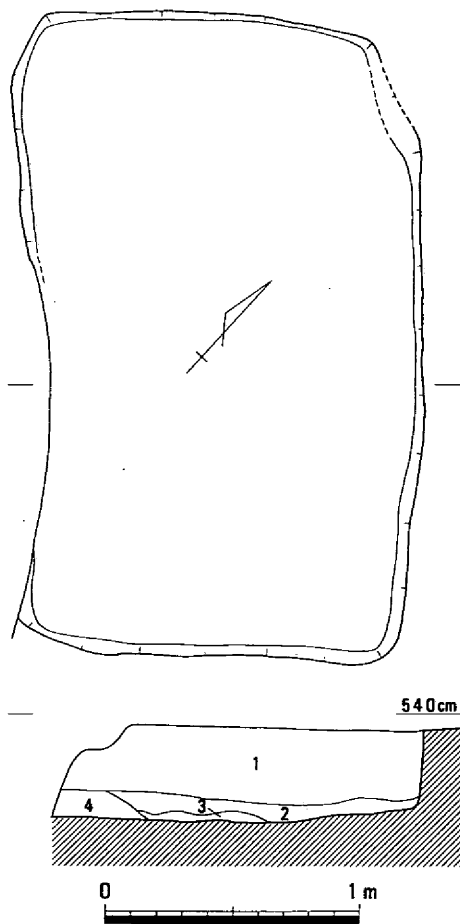
方形土壇75の北に位置し、これによって南半部の大半が削平を受けた状態で検出された。平面長方形を呈し、推定規模は115×200cm、深さ約30cmを残す。推定床面積は2m<sup>2</sup>を測る。底部はやや凹凸があるが総じて平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は弥生時代後期の土器細片が出土した。(江見)

方形土壇77 (第553・814図)

方形土壇76の南東6m、Ci604区の北西から検出された。平面長方形を呈し、規模は65×125cm、深さ30cmを残す。床面積は0.61m<sup>2</sup>を測る。底部は凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は甕、高杯の細片が出土しており、その特徴は弥生時代後期後半を示す。(江見)

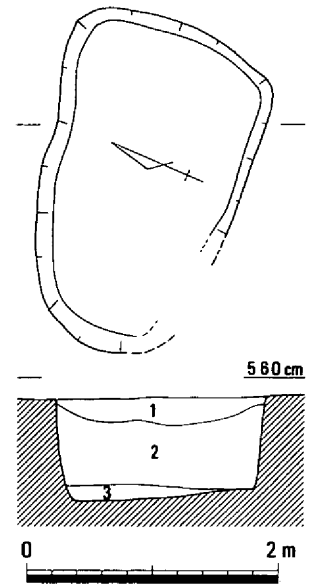
方形土壇78 (第554・815図)

方形土壇77の北西3mに位置し、北東部を土壇に切られ、袋状土壇97を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は132×223cm、深さ25cmを測る。推定床面積は約2.3m<sup>2</sup>を測る。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は小形の壺2982、甕2983・2984、高杯2985、器台2986などが出土したが、壺は頸部が上方に開き、器台



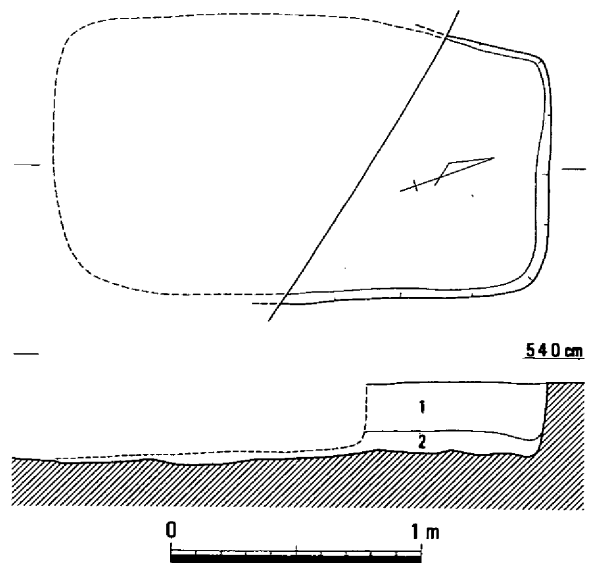
- 1 暗茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊含)
- 2 暗茶灰色粘質砂 (灰色砂含)
- 3 茶灰色粘質砂 (黄色砂含)
- 4 茶褐色砂質土

第812図 方形土壇75 (1/30)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 黄褐色粘質土
- 3 淡黄褐色粘質土

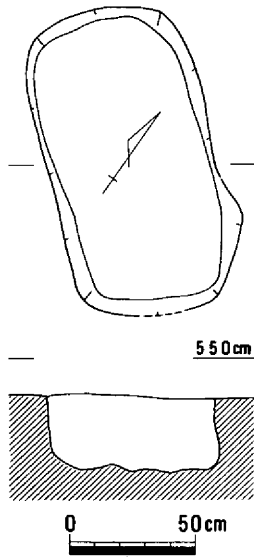
第811図 方形土壇74 (1/60)



- 1 暗茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊含)
- 2 暗茶灰色粘質砂 (炭含)

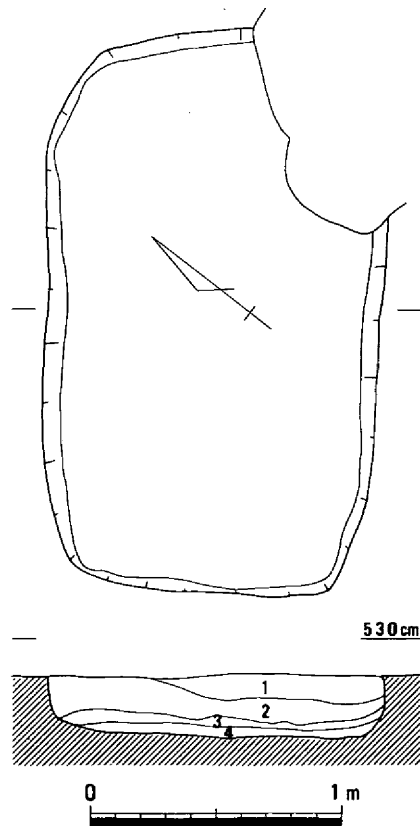
第813図 方形土壇76 (1/30)





暗茶灰色粘質土  
(炭含)

第814図 方形土壙77 (1/30)



- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗茶灰色粘質砂<br>(炭含)    | 3 暗茶灰色砂質土<br>(灰色砂塊含) |
| 2 茶灰色粘質砂<br>(黄色粘土塊含) | 4 淡茶灰色粘質砂            |

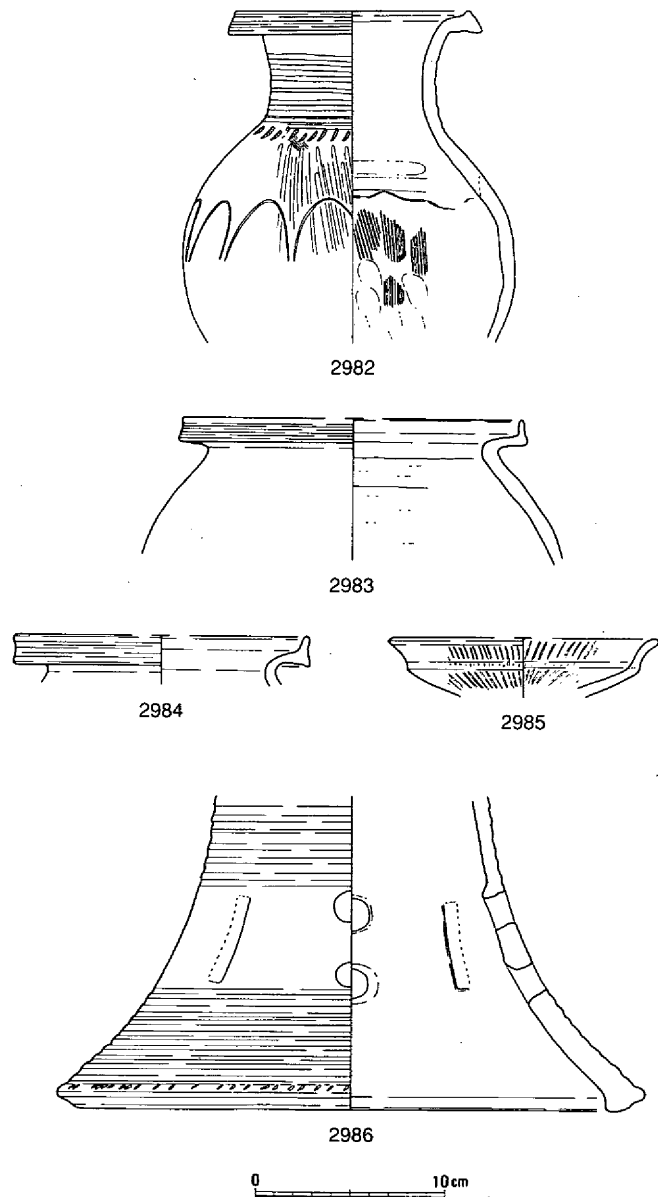
には凹線が巡らされるなど、古い様相を示し、これら2点は混入したものと思われる。甕、高杯の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

方形土壙79 (第554・816図)

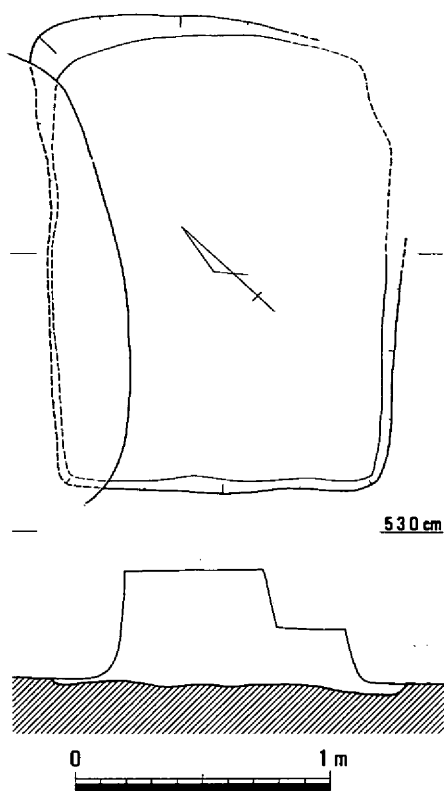
方形土壙78の南3mに位置し、東西部を方形土壙82・83によって削平を受け検出された。平面長方形を呈し、規模は140×188cm、深さ46cmを残す。底部は平坦で、推定床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期後半の土器細片が出土している。(江見)

方形土壙80 (第554・817図、図版43)

方形土壙79の北に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は126×221cm、深さ約60cmを残す。底部は平坦で床面積は2.32m<sup>2</sup>を測る。遺物は弥生時代後期後半の壺、甕、高杯片が出土している。(江見)

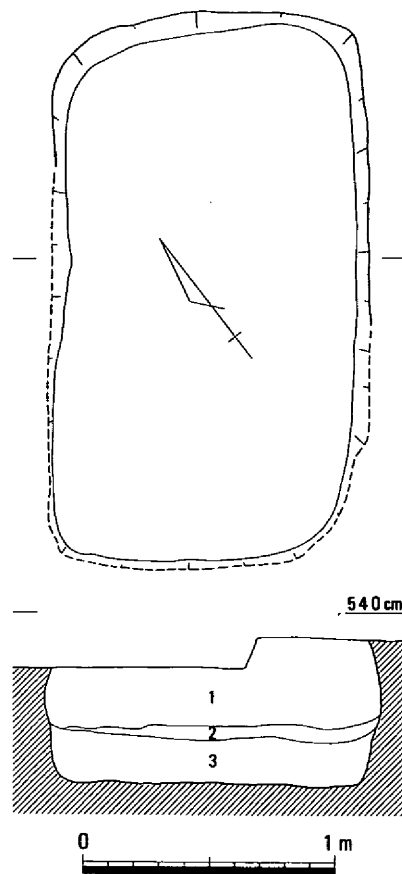


第815図 方形土壙78 (1/30)・出土遺物 (1/4)



暗茶灰色粘質砂  
(黄色粘土塊含)

第816図 方形土壇79 (1/30)



1 暗茶灰色粘質砂  
2 茶灰色粘質砂  
3 暗灰茶色砂質土

第817図 方形土壇80 (1/30)

方形土壇81 (第553・818図)

方形土壇80の北西5mから検出された。平面長方形を呈し、規模は163×294cm、深さ約50cmを測る。床面積は約3.9m<sup>2</sup>を測る。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は甕2987~2991、鉢2992が出土しているが、鉢は底部が丸底で混入の可能性もある。上部に拡張する口縁をもつ2987や底部の特徴から、当土壇は弥・後・Ⅲに埋没したものと考えられる。

(江見)

方形土壇82 (第554・819図)

方形土壇80の南に接して検出された。平面台形気味の不整形を呈す。規模は137×147cm、深さ約20cmを残す。床面積は1.67m<sup>2</sup>を測る。底部はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は甕、高杯の破片が出土している。高杯2994の脚柱部は中実で、搬入された可能性がある。これら遺物の特徴から当土壇は弥・後・Ⅲに埋没したものと思われる。

(江見)

方形土壇83 (第554・820・821図、図版121)

方形土壇82の北西から検出された。平面不整形を呈す。規模は244×283cm、深さ約40cmを残す。底部は平坦で壁は北部が上方にやや開き気味であるが本来はほぼ垂直に立ち上がるものと思われる。遺物は壺2995をはじめ、甕、高杯、鉢などが出土しており、とくに高杯が多く見られた。壺は口縁が屈曲して大きく開き、端部が直立して立ち上がる拡張部をもつ。甕は口縁端部が上方に摘み出される2996と、丸くおさめる2997がある。高杯は椀状の杯部をもつ2998~3000と外反気味に開く口縁の3001~3004があり、これらの特徴から当土壇は弥・後・Ⅳに埋没したものと考えられる。

(江見)

**方形土壙84** (第554・822図)

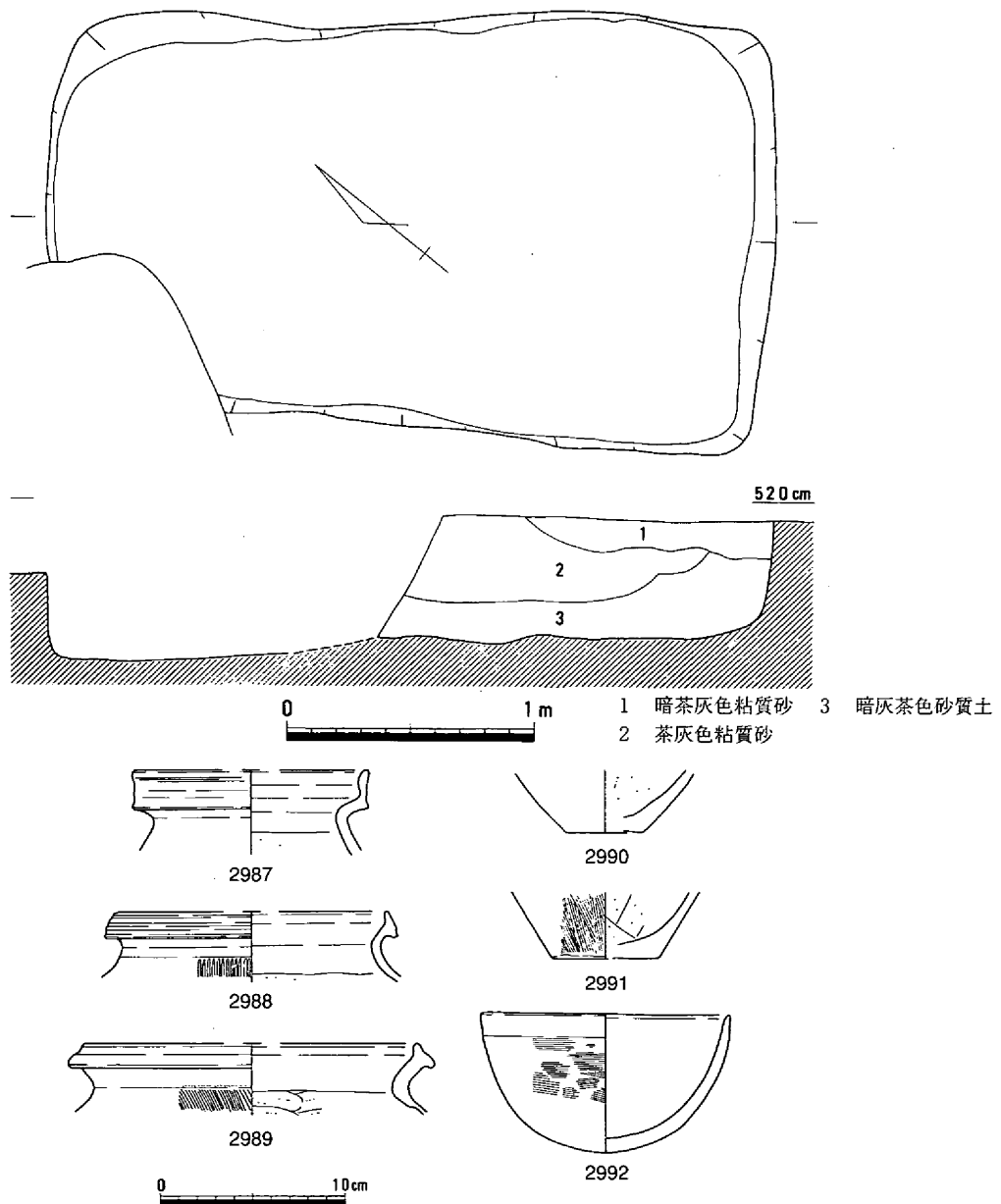
方形土壙83の南4mに位置し、方形土壙85に切られて検出された。平面方形を呈し、規模は145×154cm、深さ約50cmを残す。床面積は約1.95m<sup>2</sup>を測る。遺物は少なく甕3008・3009のほか、高杯細片が出土するのみで、その特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

**方形土壙85** (第554・823図)

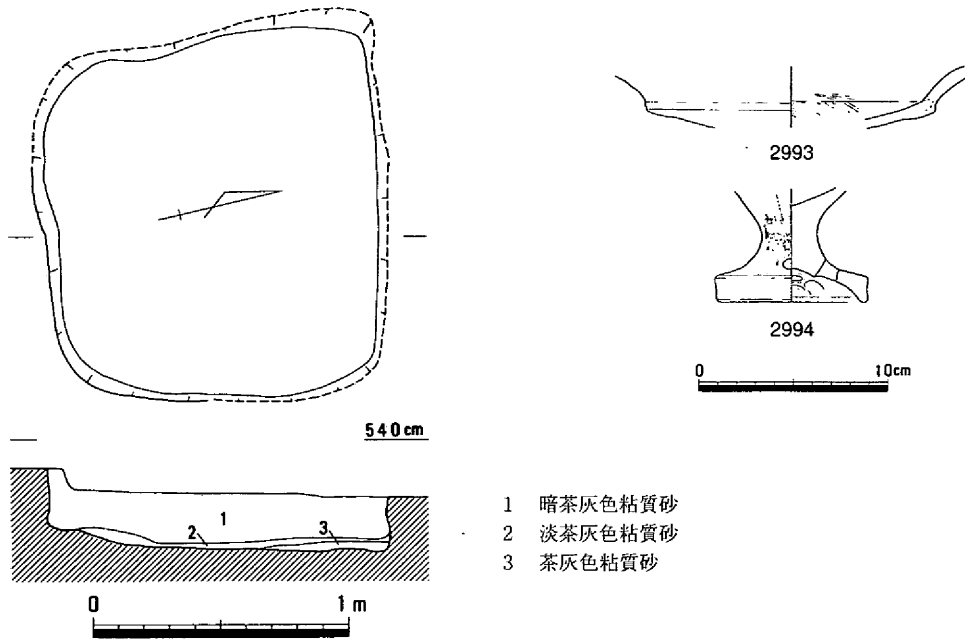
方形土壙84の南東に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は147×213cm、深さ約80cmを残す。床面積は2.59m<sup>2</sup>を測る。底部はやや凹凸があるが平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なくいずれも細片で、遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

**方形土壙86** (第554・834図、図版121)

方形土壙85の南西数mから検出された。平面長方形を呈し、規模は70×121cm、深さ10cmを残す。

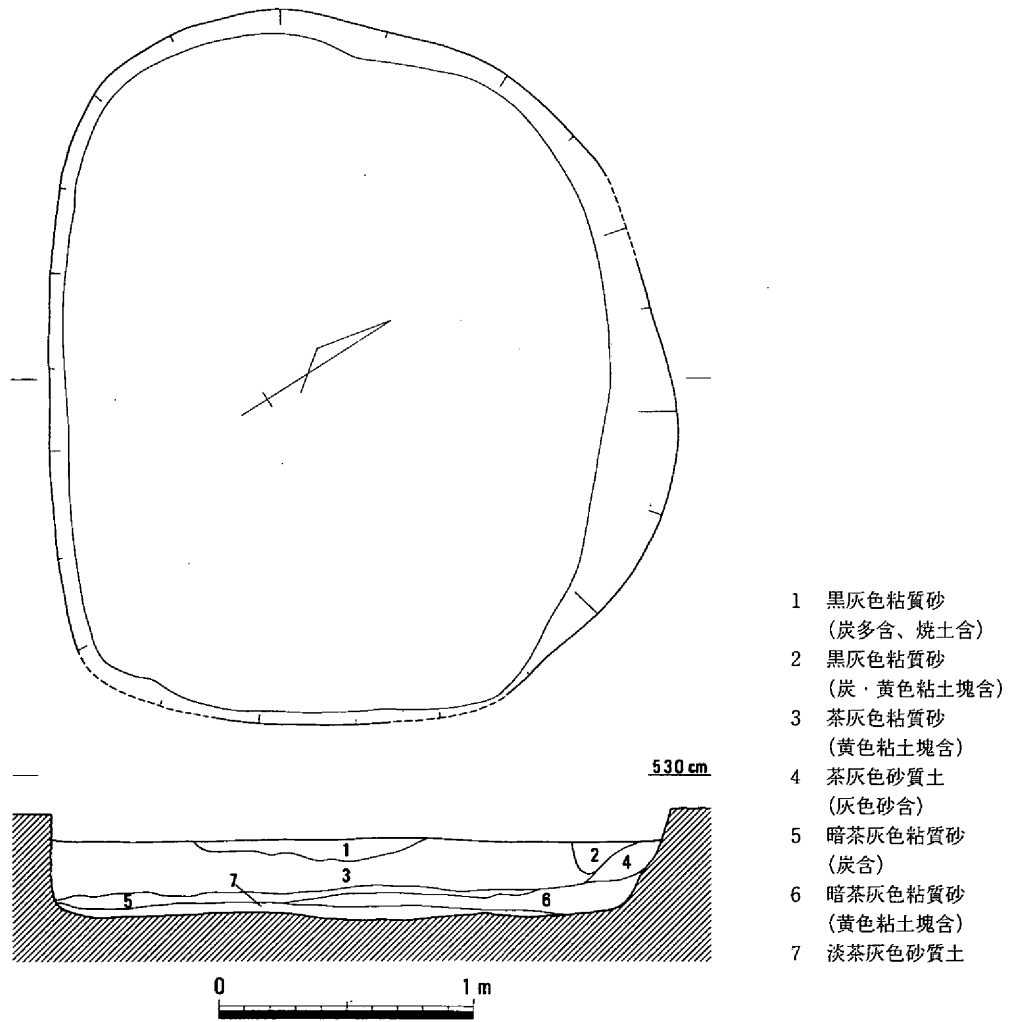


第818図 方形土壙81 (1/30)・出土遺物 (1/4)



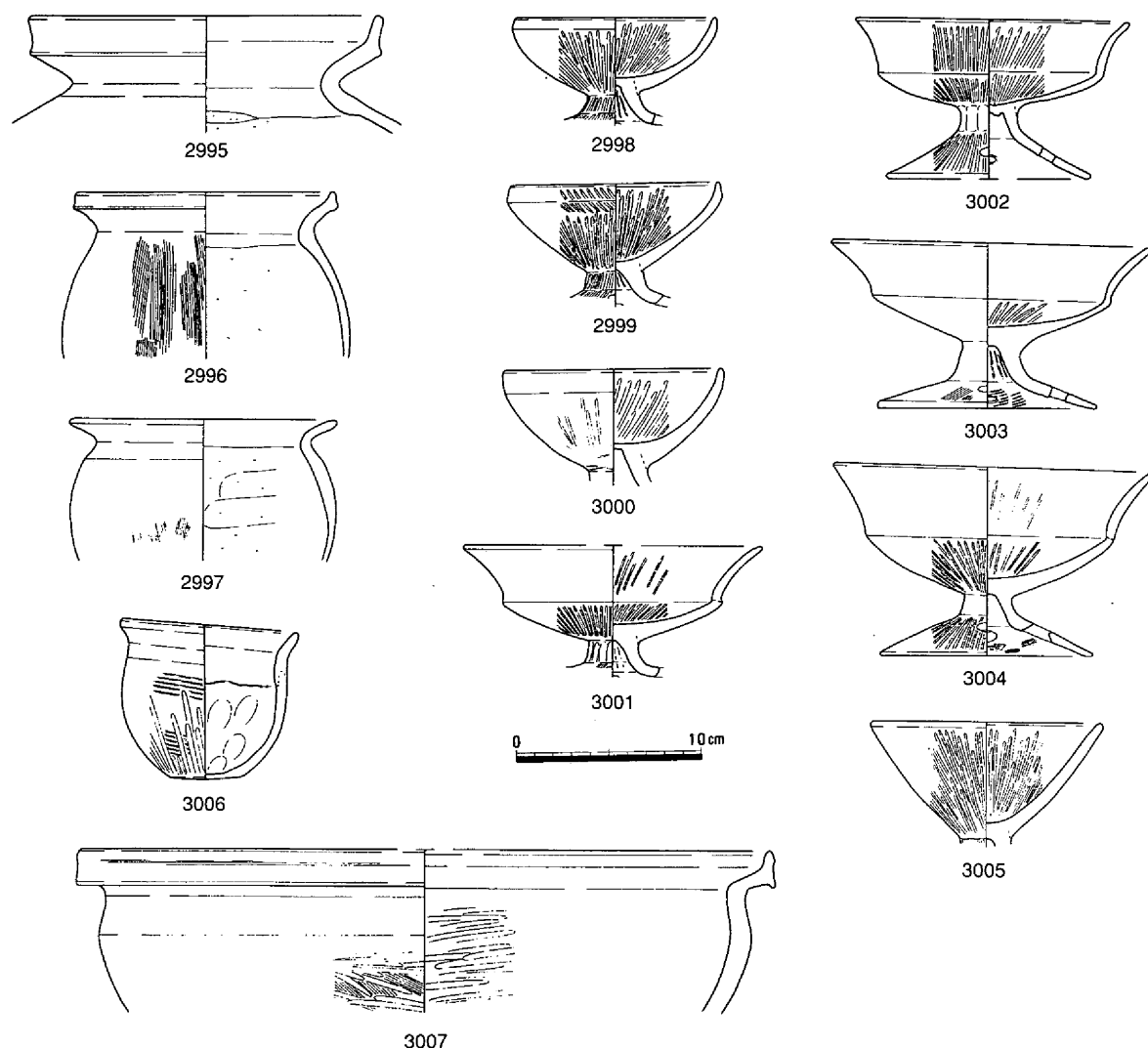
- 1 暗茶灰色粘質砂
- 2 淡茶灰色粘質砂
- 3 茶灰色粘質砂

第819図 方形土壙82 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 黒灰色粘質砂  
(炭多含、焼土含)
- 2 黒灰色粘質砂  
(炭・黄色粘土塊含)
- 3 茶灰色粘質砂  
(黄色粘土塊含)
- 4 茶灰色砂質土  
(灰色砂含)
- 5 暗茶灰色粘質砂  
(炭含)
- 6 暗茶灰色粘質砂  
(黄色粘土塊含)
- 7 淡茶灰色砂質土

第820図 方形土壙83 (1/30)



第821図 方形土壙83出土遺物 (1/4)

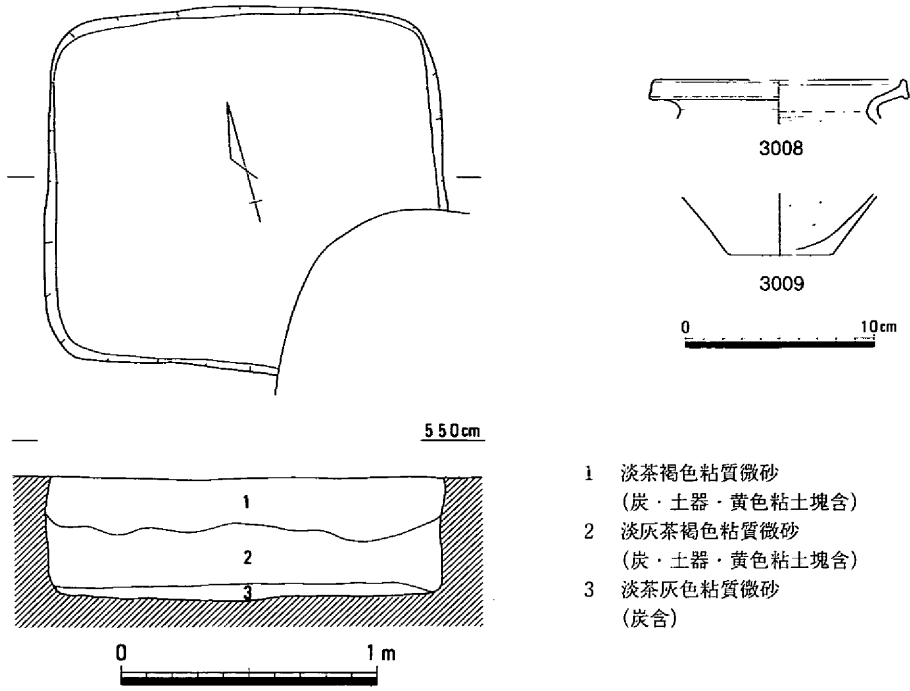
床面積は約 $0.8\text{m}^2$ を測る。遺物は少なく、床面中央から出土した小形鉢3013の破片のみであった。遺物の形態から弥・後・Ⅲに埋没したと思われる。(江見)

#### 方形土壙87 (第554・825図)

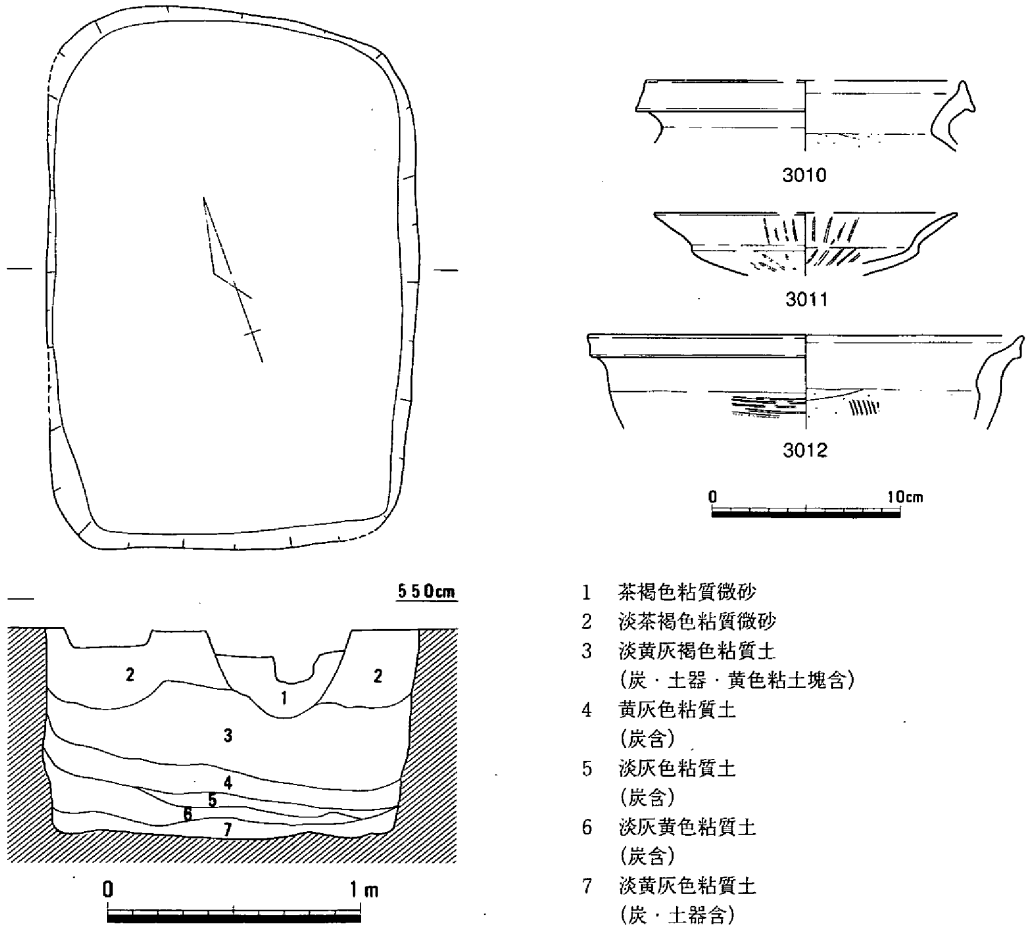
方形土壙86の南東4 mから検出された。平面長方形を呈し、規模は $116\times 140\text{cm}$ 、深さ約 $45\text{cm}$ を残す。床面積は $1.24\text{m}^2$ を測る。床はやや南に傾斜するもののほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および台付鉢の破片が出土している。(江見)

#### 方形土壙88 (第554・826・827図、図版121・122)

方形土壙87の南東約7 mから検出された。平面不整長方形を呈し、北部に一部段を形成する。断面は東西方向に逆台形状を呈すが、南北断面から本来壁は垂直に近く掘り込まれていたのではないかと思われる。規模は $169\times 267\text{cm}$ 、深さ約 $65\text{cm}$ を残し、床面積は $2.15\text{m}^2$ を測る。遺物は甕、高杯、鉢が出土しており、とくに高杯、鉢が多く見られた。小形の甕3016はやや長胴で平底を呈し、鉢3025・3026など、やや古い様相を示すものを含むものの、これらは弥・後・Ⅲ～Ⅳのものであろう。(江見)



第822図 方形土壙84 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第823図 方形土壙85 (1/30)・出土遺物 (1/4)

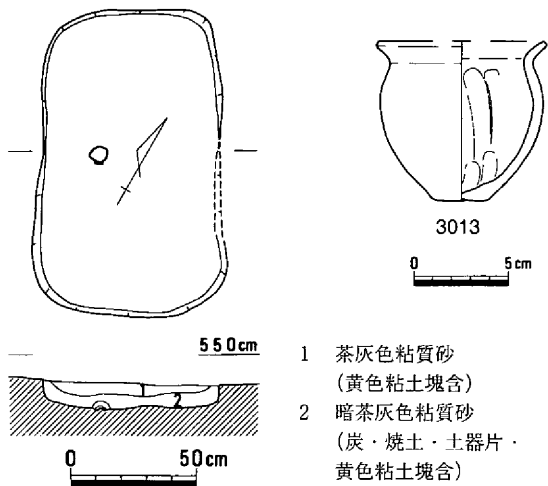
方形土壇89 (第554・828図)

方形土壇88の北7mから検出された。平面長方形を呈し、規模は110×186cm、深さ約60cmを残す。床面積は1.52m<sup>2</sup>を測る。床は壁に向かってわずかに傾斜しているがほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はいずれも破片であるが、甕、鉢などが出土しており、弥・後・Ⅲの特徴を示す。 (江見)

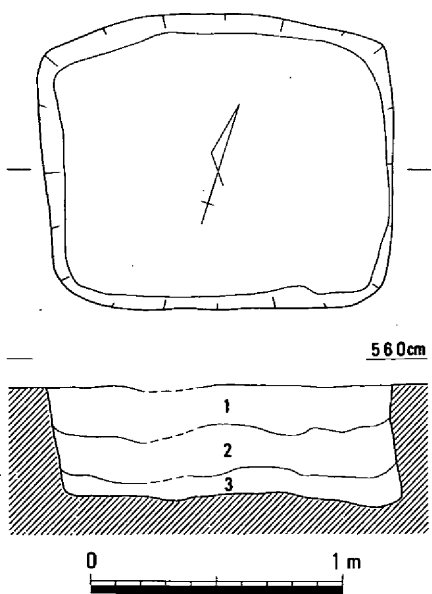
方形土壇90 (第553・829図)

Cj603区の南西に位置し、竪穴住居99を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は176×270cm、深さ110cmを残す。床面積は4.03m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は明瞭に埋め戻されたと理解される土塊混入土が主体を占め、途中火を焚いた形跡が認められた。遺物は甕、高杯、鉢などが出土している。甕は口縁端部が上方に拡張するもののほか、鋭く外方に引き出す

3036や、丸くおさめる3037があり、これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。 (江見)

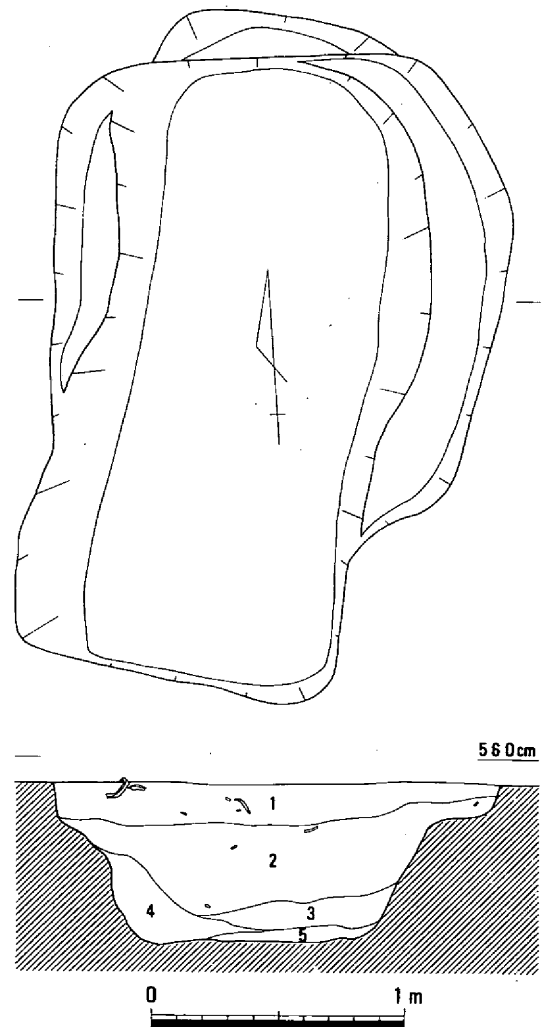


第824図 方形土壇86 (1/30)・出土遺物 (1/4)



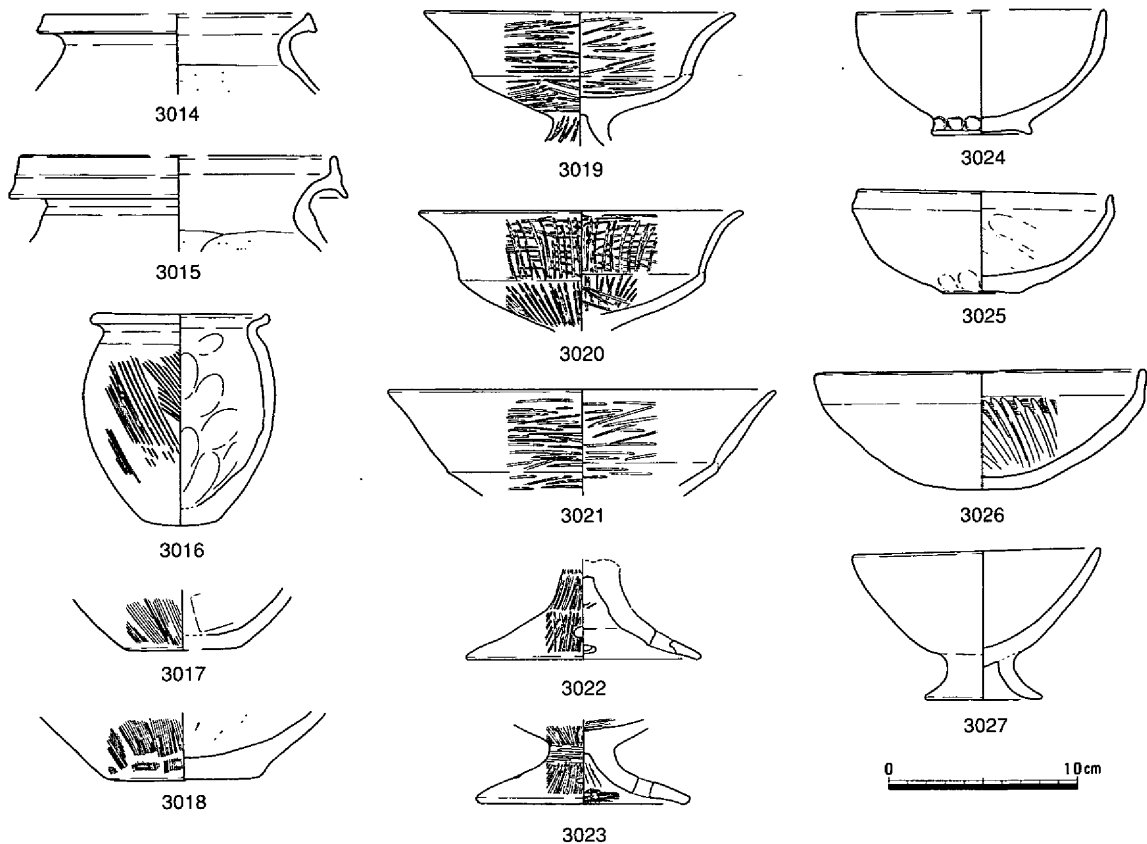
- 1 茶灰色砂質土
- 2 茶灰色砂質土 (黄色粘土塊含)
- 3 淡茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊多含)

第825図 方形土壇87 (1/30)

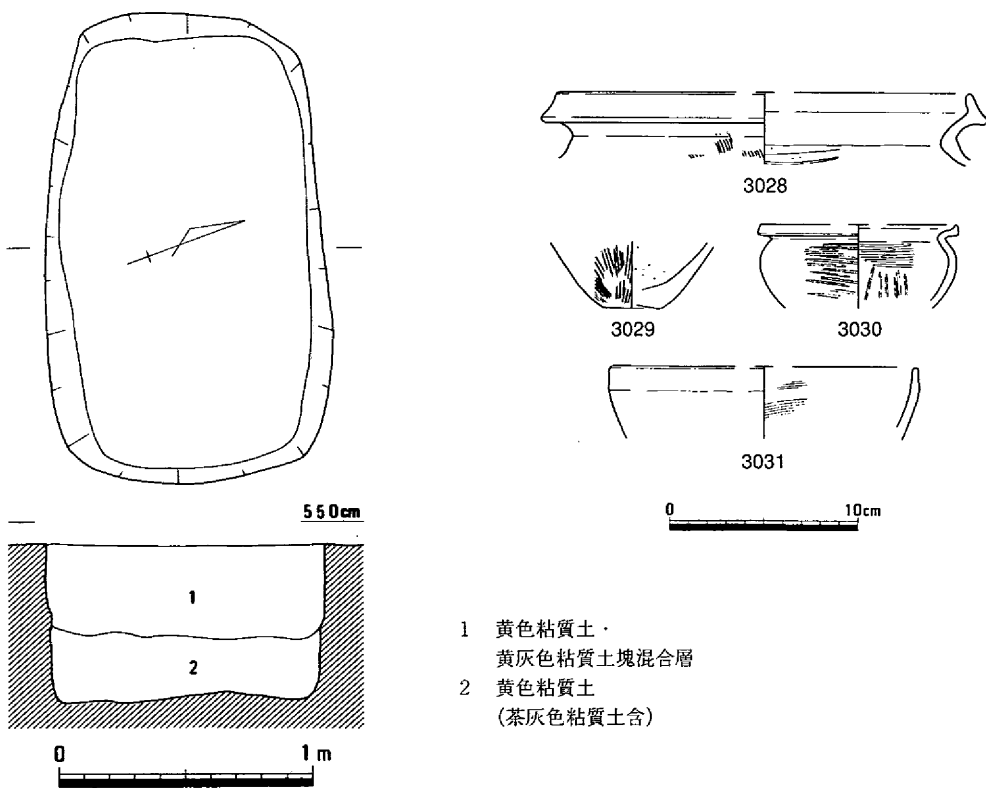


- 1 暗茶褐色粘質砂 (炭多含)
- 2 茶灰褐色粘質砂 (黄色粘土塊含)
- 3 茶褐色粘質砂
- 4 茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊含)
- 5 灰黄色粘質土 (灰色砂質土含)

第826図 方形土壇88 (1/30)

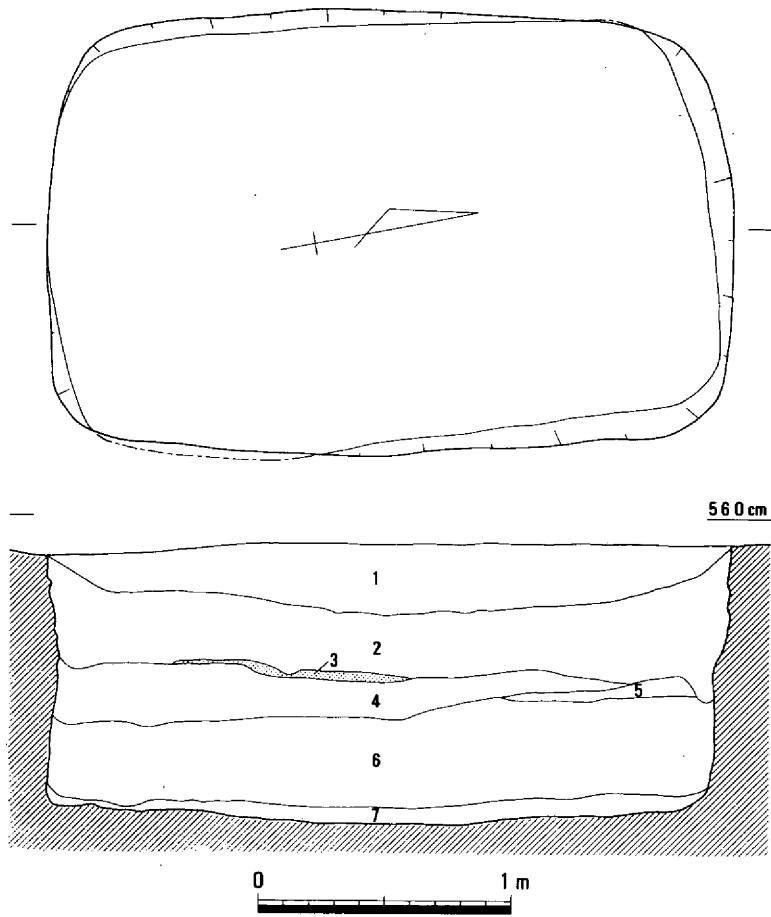


第827図 方形土坑88出土遺物 (1/4)

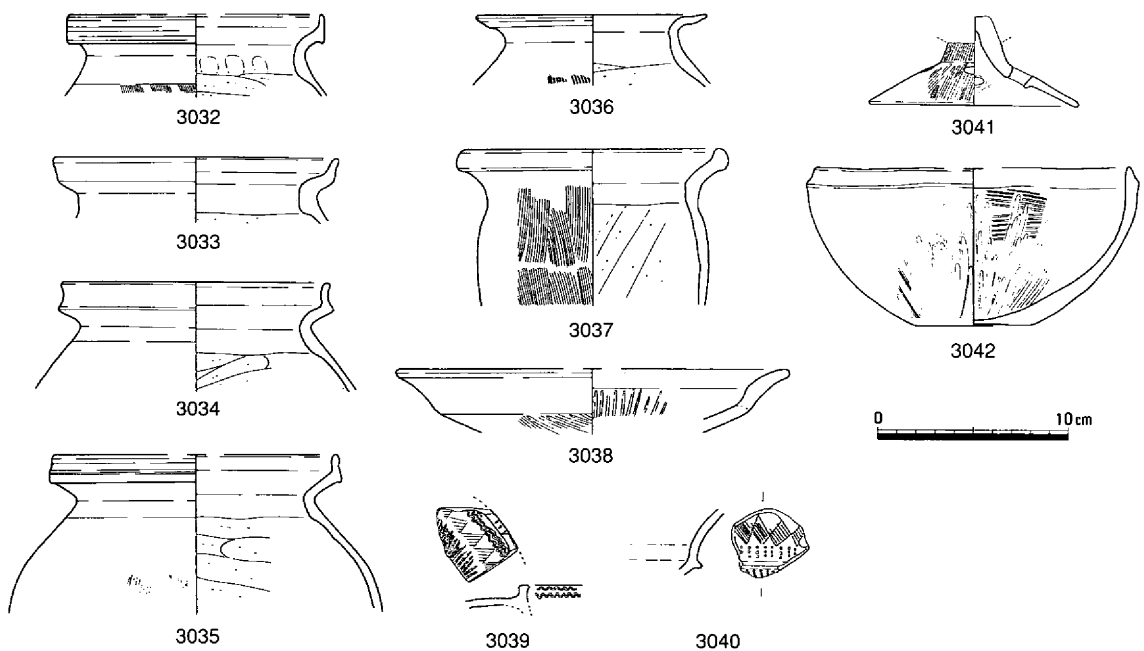


第828図 方形土坑89 (1/30)・出土遺物 (1/4)





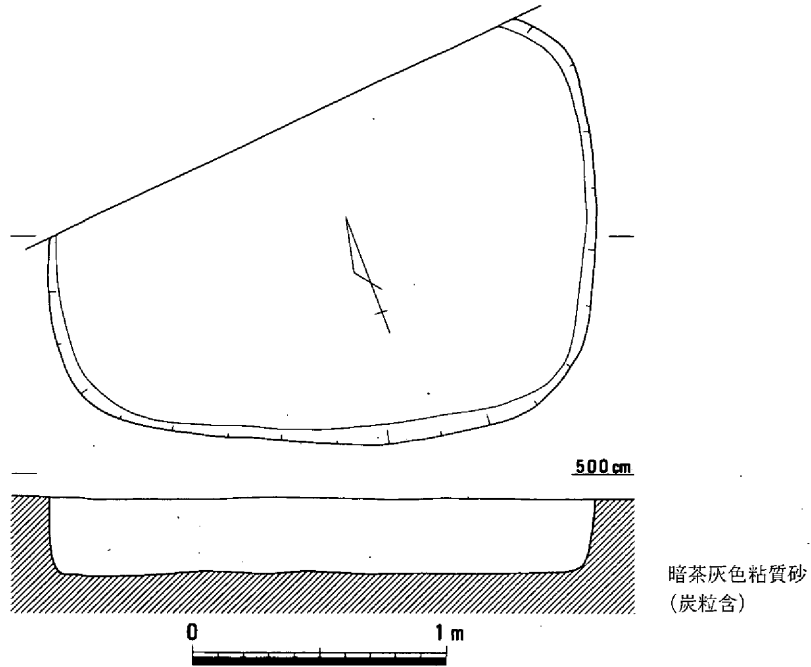
- |                       |                       |                       |         |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------|
| 1 茶灰色砂質土              | 3 焼土・炭層               | 5 暗茶色粘質砂              | 7 黄色粘質土 |
| 2 茶灰色砂質土<br>(黄色粘土塊少含) | 4 淡灰色砂質土<br>(黄色粘土塊多含) | 6 茶灰色砂質土・<br>黄色粘質土混合層 | (茶灰色砂含) |



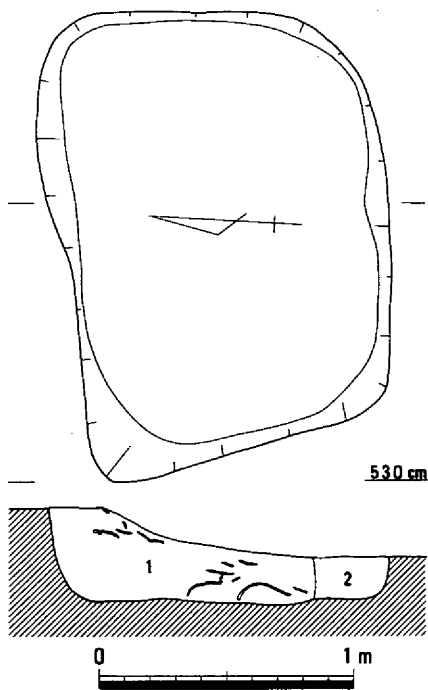
第829図 方形土壇90 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壇91 (第554・830図)

Cg 6 07に位置し、北側を古墳時代斜面によって削平を受けて検出された。平面長方形を呈し、規模は180×216cm、深さ約30cmを残す。推定床面積は3.2m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕、高杯の細片が出土した。(江見)



第830図 方形土壇91 (1/30)



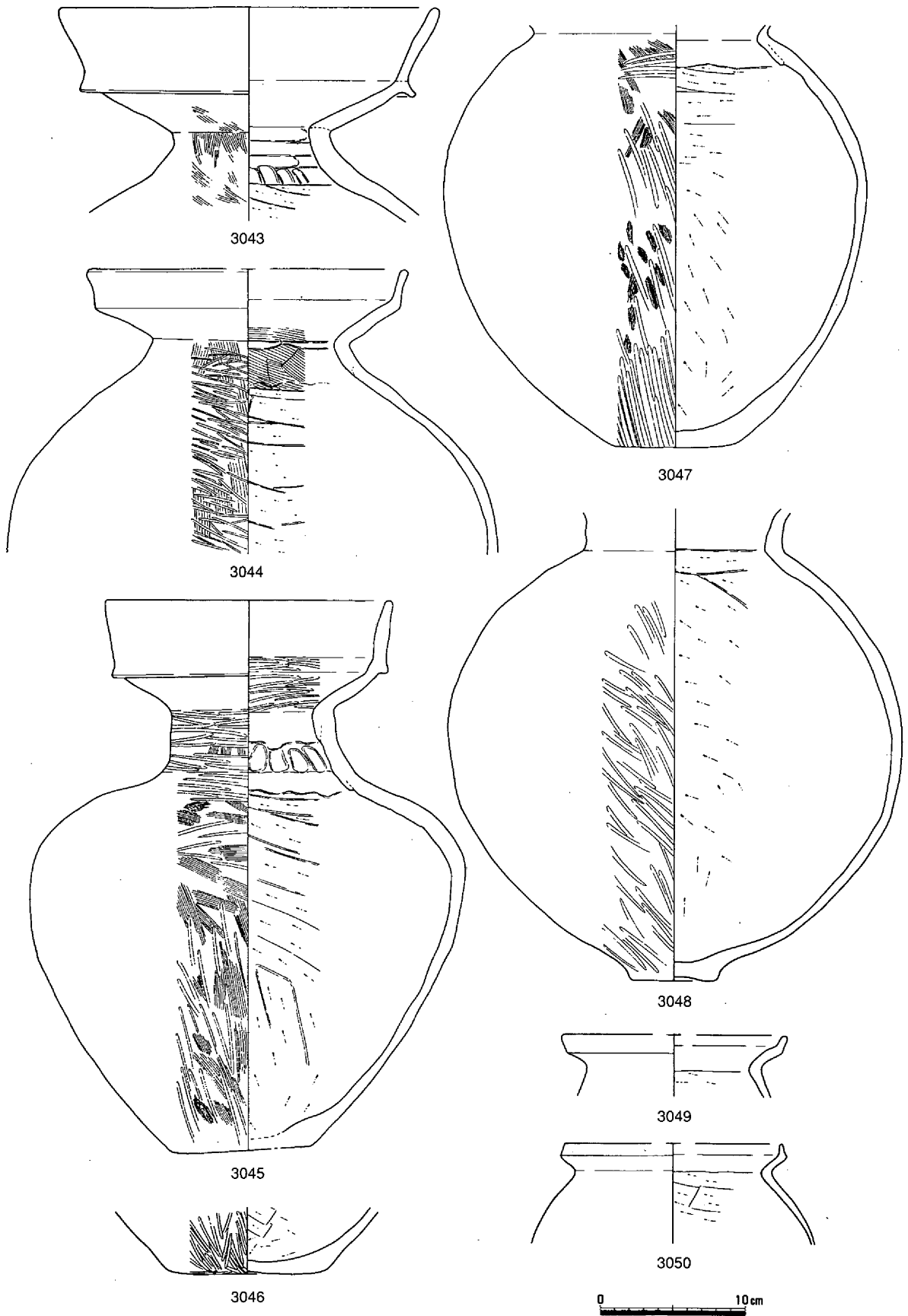
1 暗茶灰色粘質土 2 茶灰色砂質土

第831図 方形土壇92 (1/30)

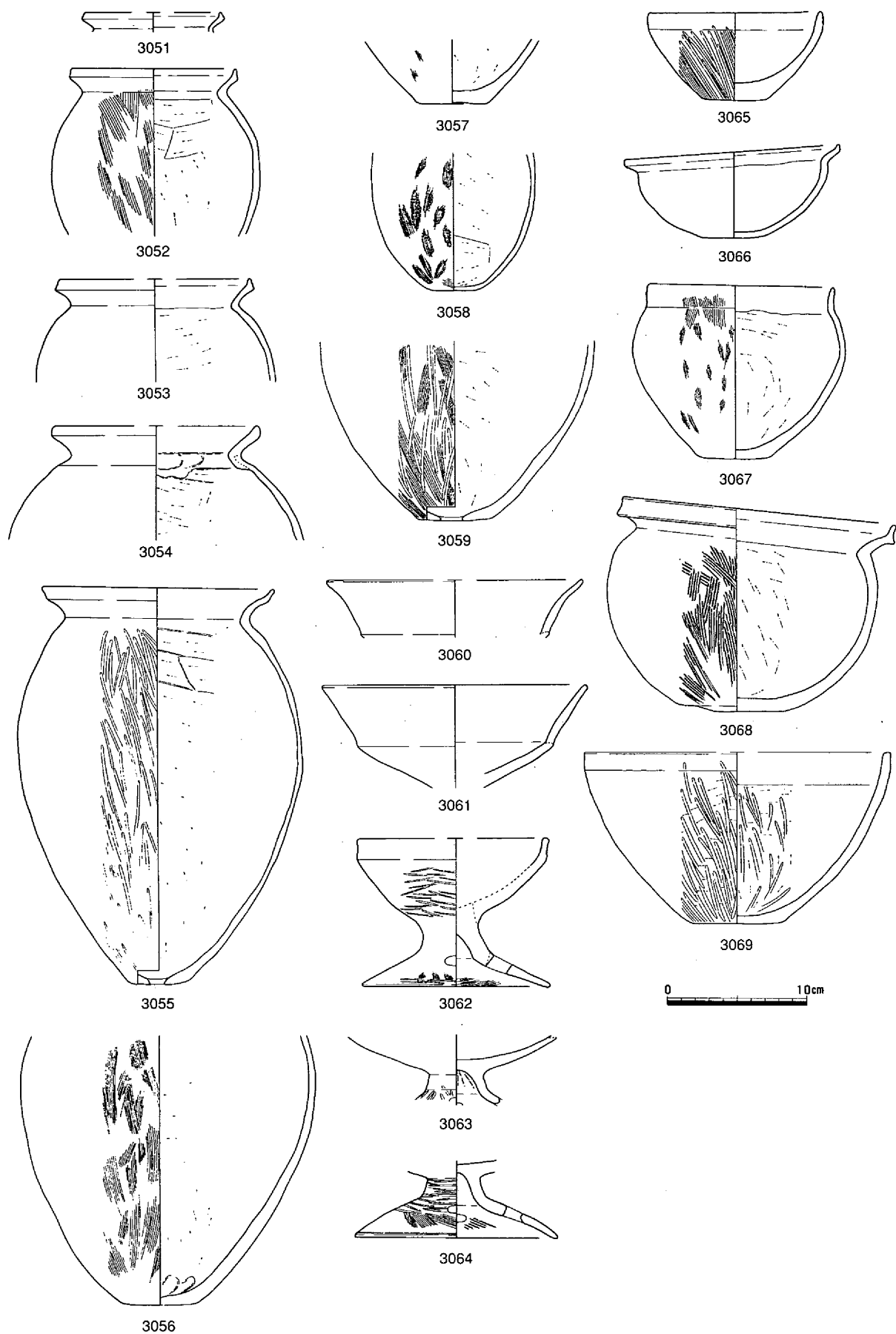
方形土壇92 (第554・831～833図、図版44・122)

方形土壇91の南部上層から検出された。平面台形気味の長方形を呈す。規模は132×176cm、深さ約40cmを残す。床面積は1.77m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土壇中央に流れ込むような状況で出土しており、その量はコンテナ7箱におよび、完形に復元されるものが比較的多く含まれていた。器種は壺3043～3048、甕3049～3059、高杯3060～3064、鉢3065～3069などがある。壺には口縁が大きく拡張する3043・3045などや搬入と思われる3048がある。甕は口縁端部に凹線を巡らせるものが少なく、また、甑に転用された3055・3059などがある。高杯は口縁が斜め外方に延びる3060・3061と椀状を呈す3062がある。鉢は浅い3065・3066と比較的深い3067～3069などがある。以上、遺物の特徴は弥・後・Ⅲ～Ⅳにかけての様相を示しており、当土壇はこの期に埋没したものと思われる。

(江見)



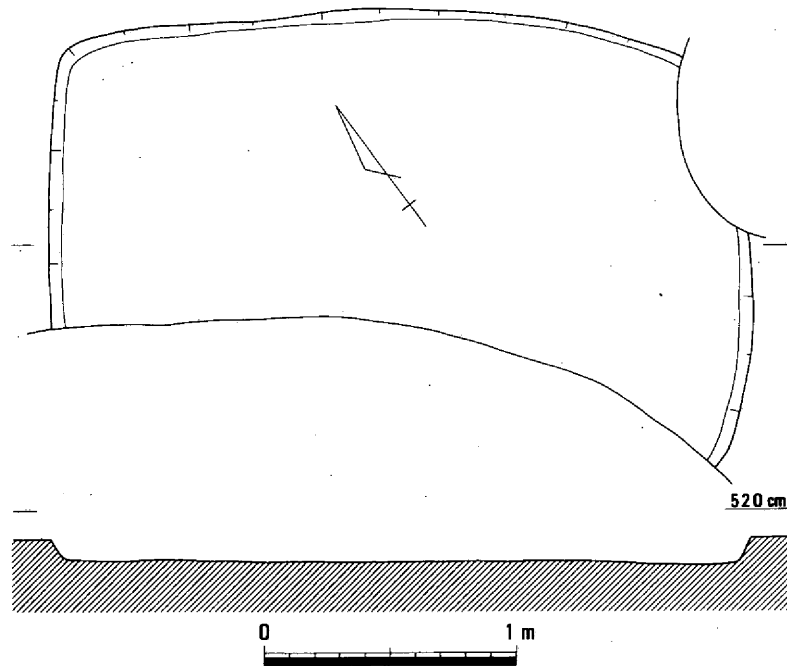
第832図 方形土壇92出土遺物① (1/4)



第833図 方形土坑92出土遺物② (1/4)

方形土壙93 (第554・834図)

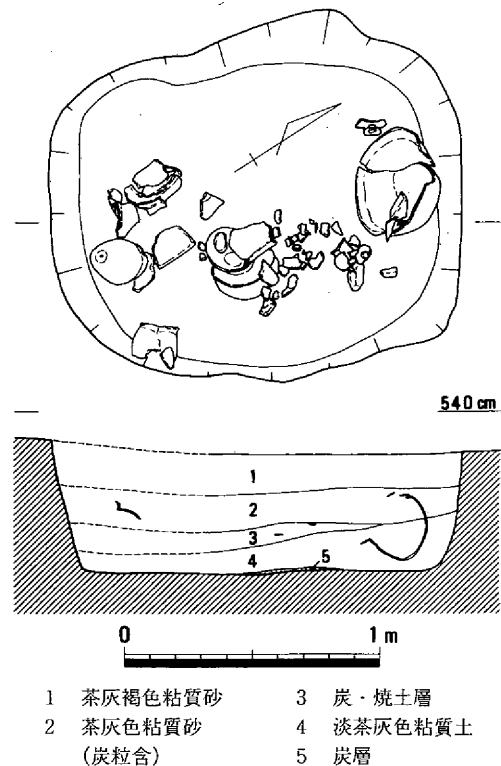
方形土壙92の東に位置し、土壙南部を竪穴住居105に切られて検出された。平面長方形を呈す。規模は約190×277cm、深さ約10cmを残す。推定床面積は約4.4m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は皆無であったが、周辺の状況から弥生時代後期のものと判断した。(江見)



第834図 方形土壙93 (1/30)

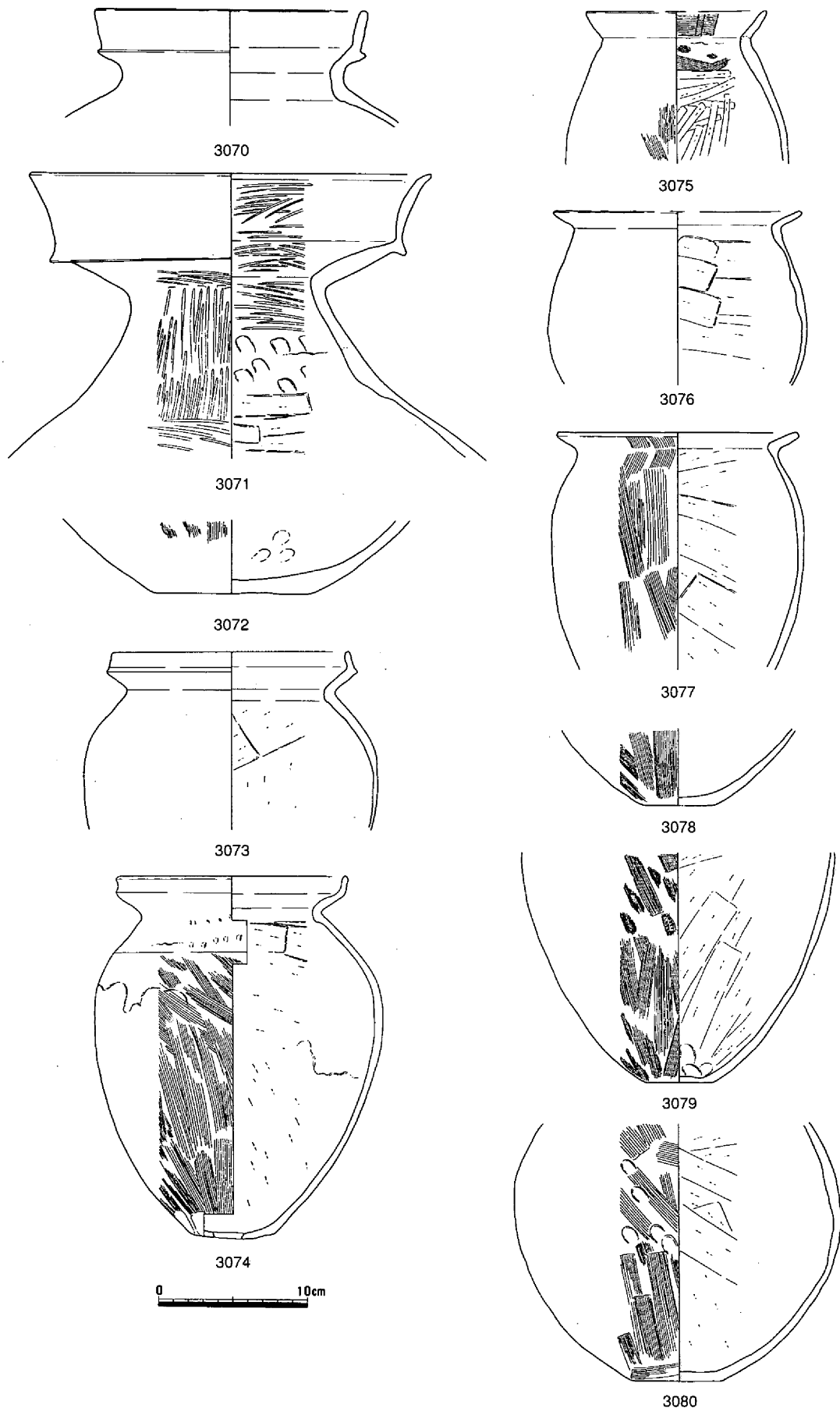
方形土壙94 (第554・835～837図、図版44・119)

方形土壙93の北東数mから検出された。平面長方形を呈す。規模は139×161cm、深さ約50cmを残す。床面積は1.42m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土壙の中央部下層を中心に土器が廃棄転落した状況で出土している。器種は壺、甕、高杯、鉢などでコンテナ3箱分出土している。壺3071の口縁は屈曲して開き、拡張部は外方に緩く外反し、「ハ」字状に短く開く頸部へ続く。甕は口縁拡張部をもつ3073・3074と「く」字状に外反する3075～3077があり、前者の胴部は倒卵形を呈すのに対し、後者はやや下膨れの形態を示す。なお、3074は焼成後の底部穿孔がなされ、甑として再利用されたものである。高杯3082の口縁は直線的に延びる。大形の鉢3081は深い体部もつ。以上、遺物の特徴は弥・後・IVを示しており、当土壙はこの期に埋没したものと判断される。(江見)

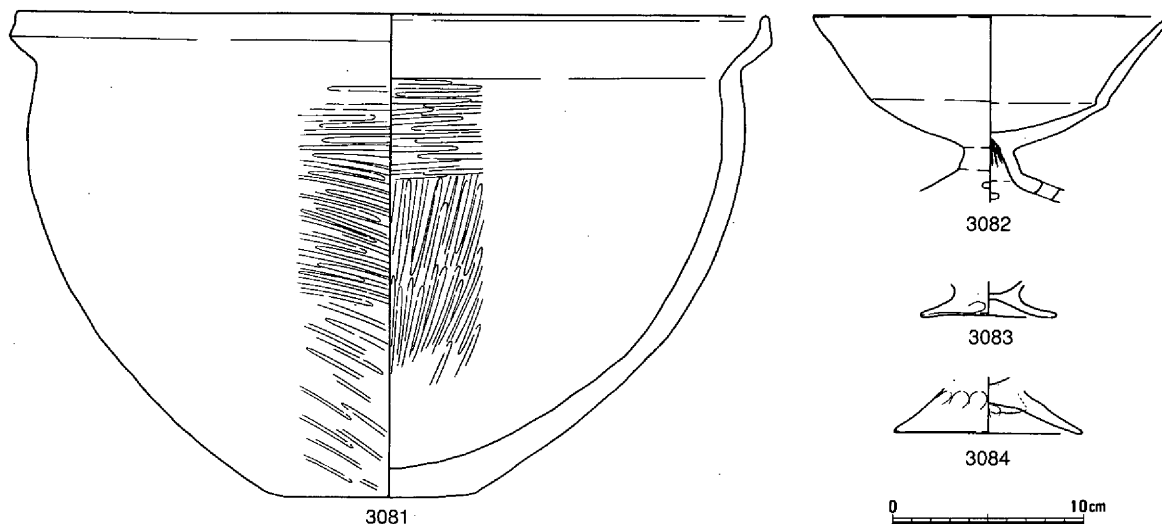


- |           |                    |
|-----------|--------------------|
| 1 茶灰褐色粘質砂 | 3 炭・焼土層            |
| 2 茶灰色粘質砂  | 4 淡茶灰色粘質土<br>(炭粒含) |
|           | 5 炭層               |

第835図 方形土壙94 (1/30)



第836図 方形土坑94出土遺物① (1/4)



第837図 方形土壙94出土遺物② (1/4)

方形土壙95 (第554・838図)

方形土壙94の南東3mに位置し、土壙357に一部切られて検出された。平面長方形を呈す。規模は143×185cm、深さ約50cmを残す。床面積は2.37㎡を測る。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土している。(江見)

方形土壙96 (第554・839図)

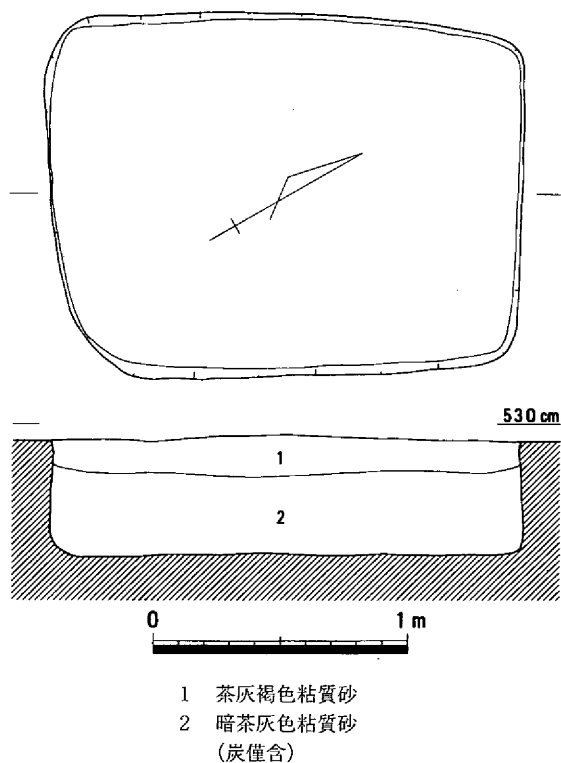
方形土壙95の南東に位置し、土壙359に一部切られて検出された。平面不整形を呈す。規模は146×160cm、深さ約30cmを残す。推定床面積は約1.6㎡を測る。床はほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に立ち上がる。遺物は甕、ミニチュア鉢および高杯片が出土しており、その特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

方形土壙97 (第554・840図)

方形土壙96の北に接して検出され、これおよび方形土壙95に切られている。平面長方形を呈し、規模は103×150cm、深さ45cmを残す。推定床面積は約1.2㎡を測る。床は北へわずかに傾斜するがほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土している。(江見)

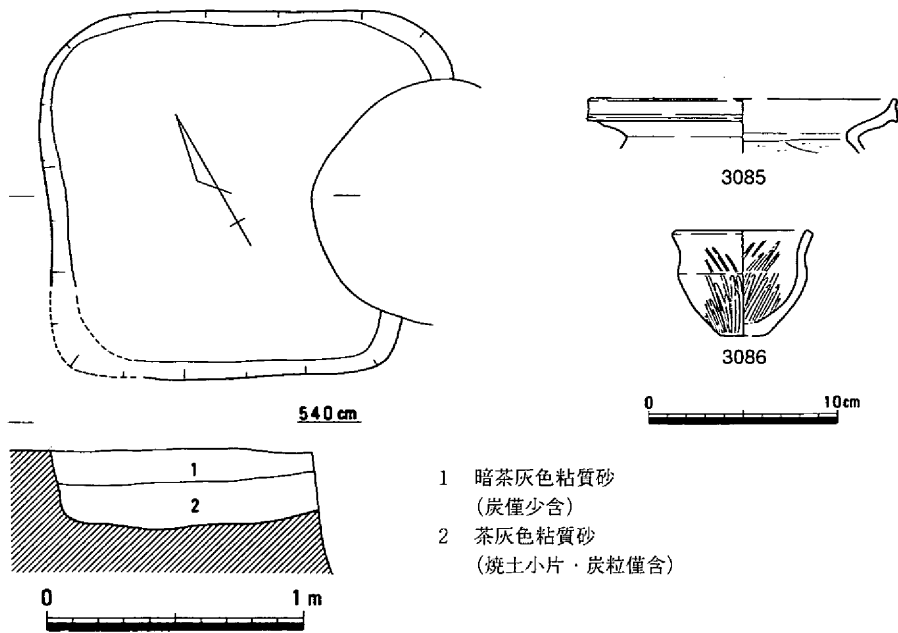
方形土壙98 (第554・841図)

方形土壙97の北西数mに位置し、方形土壙93に一部切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は98×159cm、深さ約30cmを残す。床面積は1.34㎡を測る。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土している。(江見)

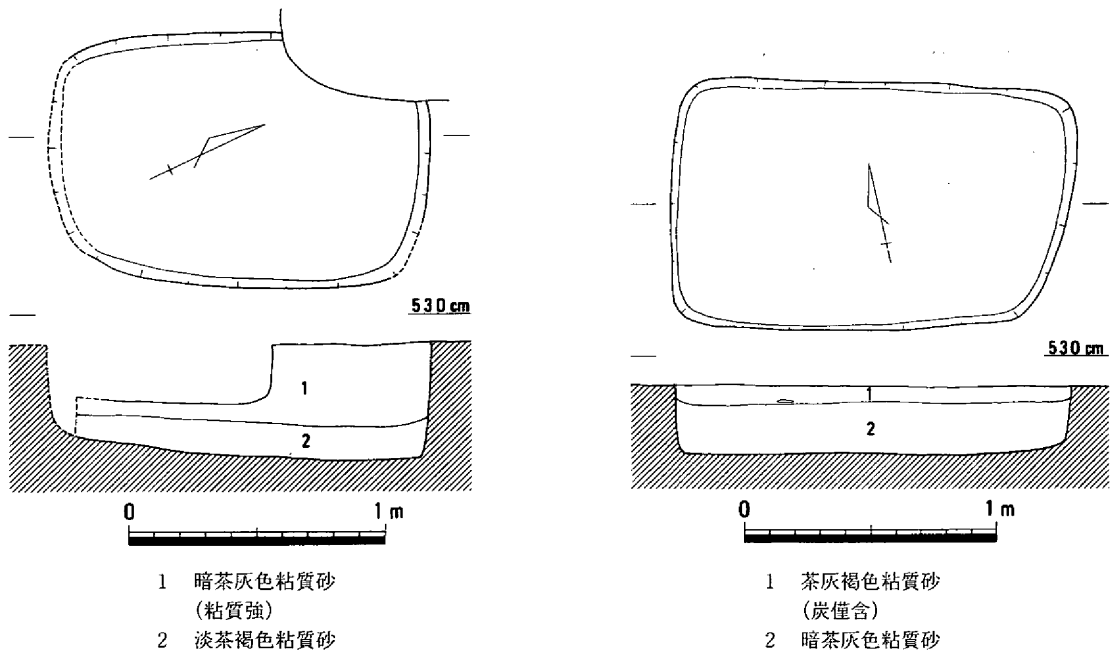


第838図 方形土壙95 (1/30)

- 1 茶灰褐色粘質砂
- 2 暗茶灰色粘質砂  
(炭僅含)



第839図 方形土壇96 (1/30)・出土遺物 (1/4)



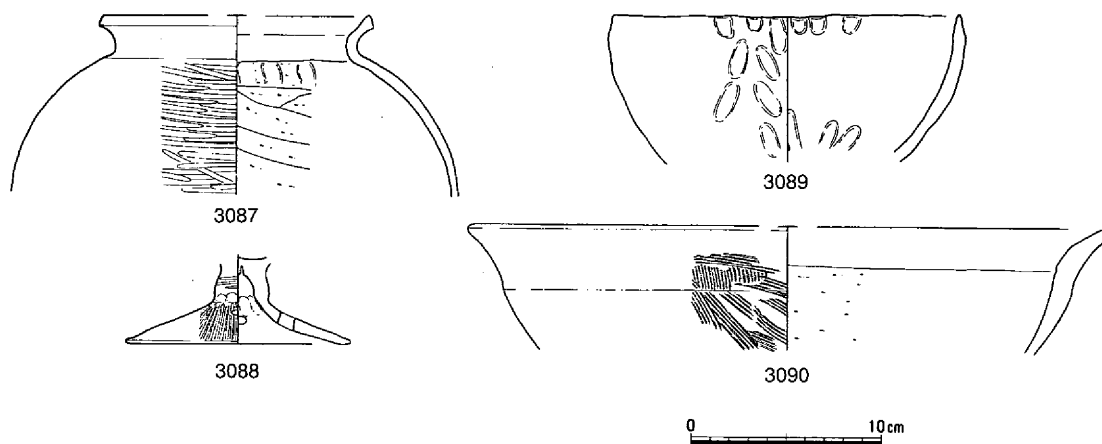
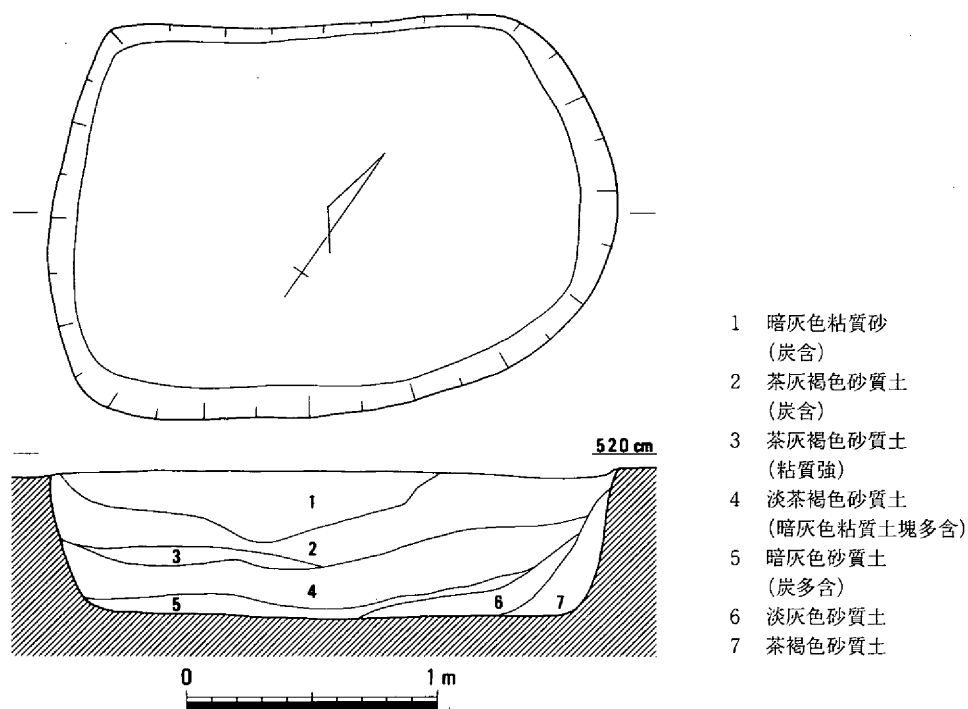
第840図 方形土壇97 (1/30)

第841図 方形土壇98 (1/30)

方形土壇99 (第554・842図)

方形土壇98の南数mに位置し、袋状土壇105および方形土壇100を切って検出された。平面不整長方形を呈し、規模は154×225cm、深さ約60cmを残す。床面積は2.5m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁はわずかに外傾気味であるが、ほぼ垂直に立ち上がっている。遺物は甕、高杯、鉢などが出土した。甕?3087は胴部が球形で丸く張る。短脚の高杯3088の裾部には4孔が穿たれている。鉢3089は押圧痕の顕著なもので製塩土器の可能性もある。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)





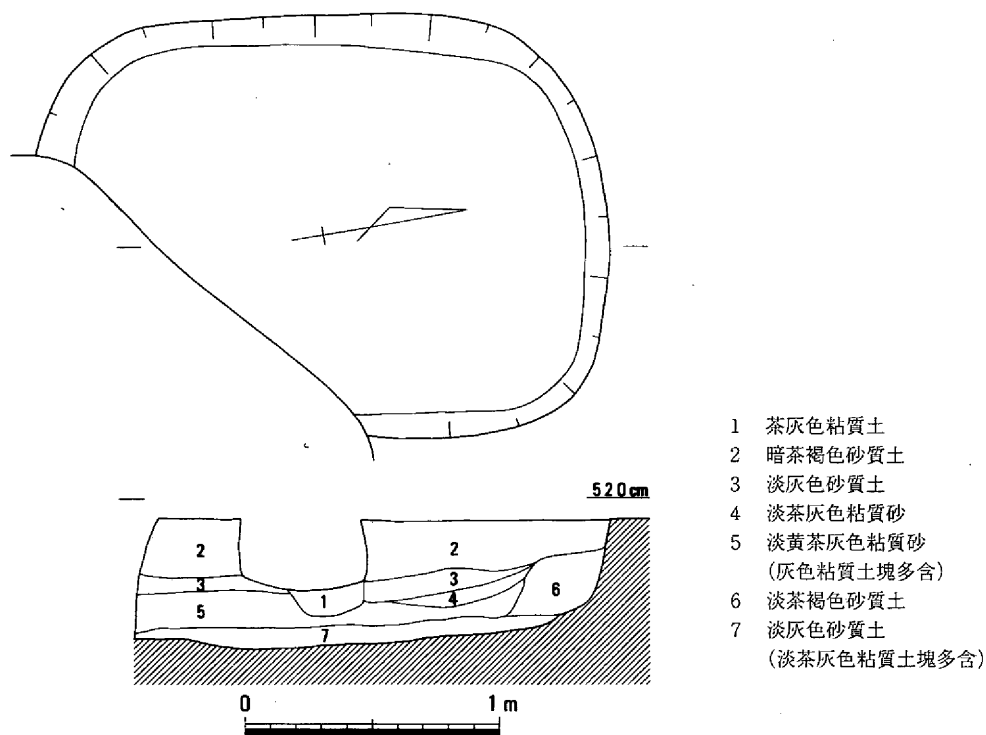
第842図 方形土壇99 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壇100 (第554・843図)

方形土壇99の北西に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は168×222cm、深さ約50cmを測る。推定床面積は2.5㎡を測る。床は中央がややくぼむものの全体的には平坦で、壁もやや外傾気味ではあるが、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕、高杯、製塩土器などの細片が出土している。(江見)

方形土壇101 (第554・844図)

方形土壇100の南東6m、Cg608区の南中央から検出された。平面方形を呈す。規模は121×147cm、深さ54cmを残す。床面積は1.48㎡を測る。床はやや凹凸があるものの平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土には炭、焼土を多く含む。遺物は上層から、弥生時代後期後半と思われる壺、甕、高杯などが出土しているが、いずれも細片であった。(江見)



第843図 方形土壇100 (1/30)

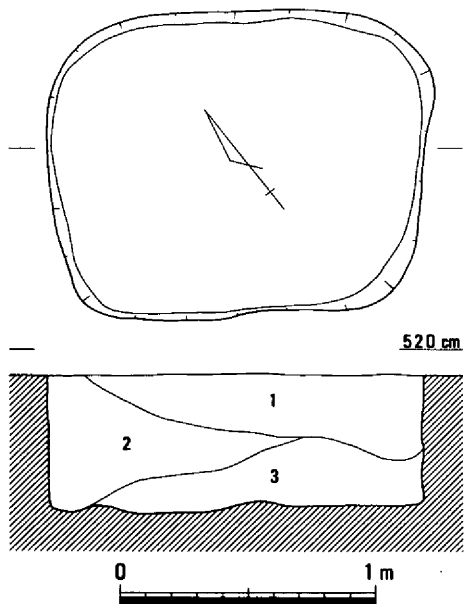
- 1 茶灰色粘質土
- 2 暗茶褐色砂質土
- 3 淡灰色砂質土
- 4 淡茶灰色粘質砂
- 5 淡黄茶灰色粘質砂  
(灰色粘質土塊多含)
- 6 淡茶褐色砂質土
- 7 淡灰色砂質土  
(淡茶灰色粘質土塊多含)

方形土壇102 (第554・845図)

方形土壇101の南西数mから検出された。平面長方形を呈し、規模は121×147cm、深さ84cmを残す。床面積は1.26㎡を測る。床は平坦で、壁は一部内傾気味ながら垂直に立ち上がる。埋土には炭、焼土を多く含み、遺物は上層から出土しているが細片が多く、高杯のほか、甕なども出土している。高杯はいずれも短脚で、口縁が斜め外方に延びる3091と杯部が碗状を呈す3093があり、これらの特徴は弥・後・IVを示す。(江見)

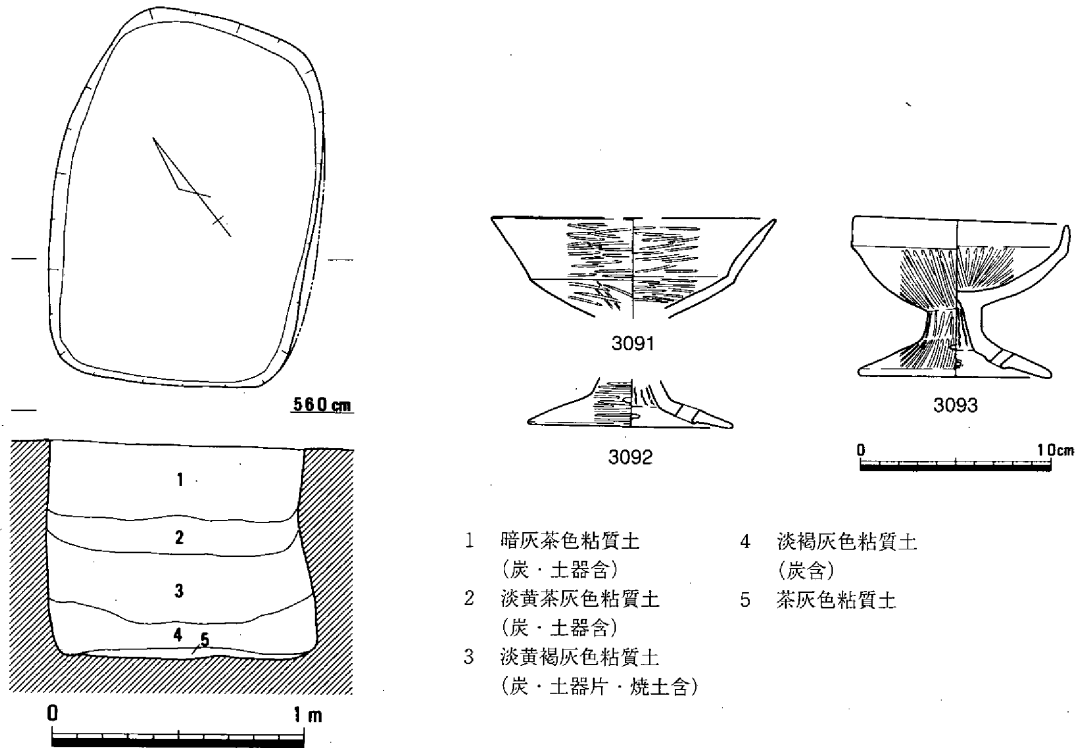
方形土壇103 (第554・846図)

方形土壇102の西に位置し、方形土壇104を一部切って検出された。平面長方形を呈す。規模は152×249cm、深さ73cmを残す。床面積は3.07㎡を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土に炭、焼土を多く含む。遺物は少なく、図示し得た高杯のほか、甕、鉢の細片が出土している。高杯3094はやや大形の杯部をもち、口縁に板目状の条線が認められる。内外面ヘラミガキを施す。S144は溶結凝灰岩製の砥石で、上面のみ使用痕が認められた。当土壇は遺物の特徴から弥・後・IVには埋没したものと考えられる。(江見)

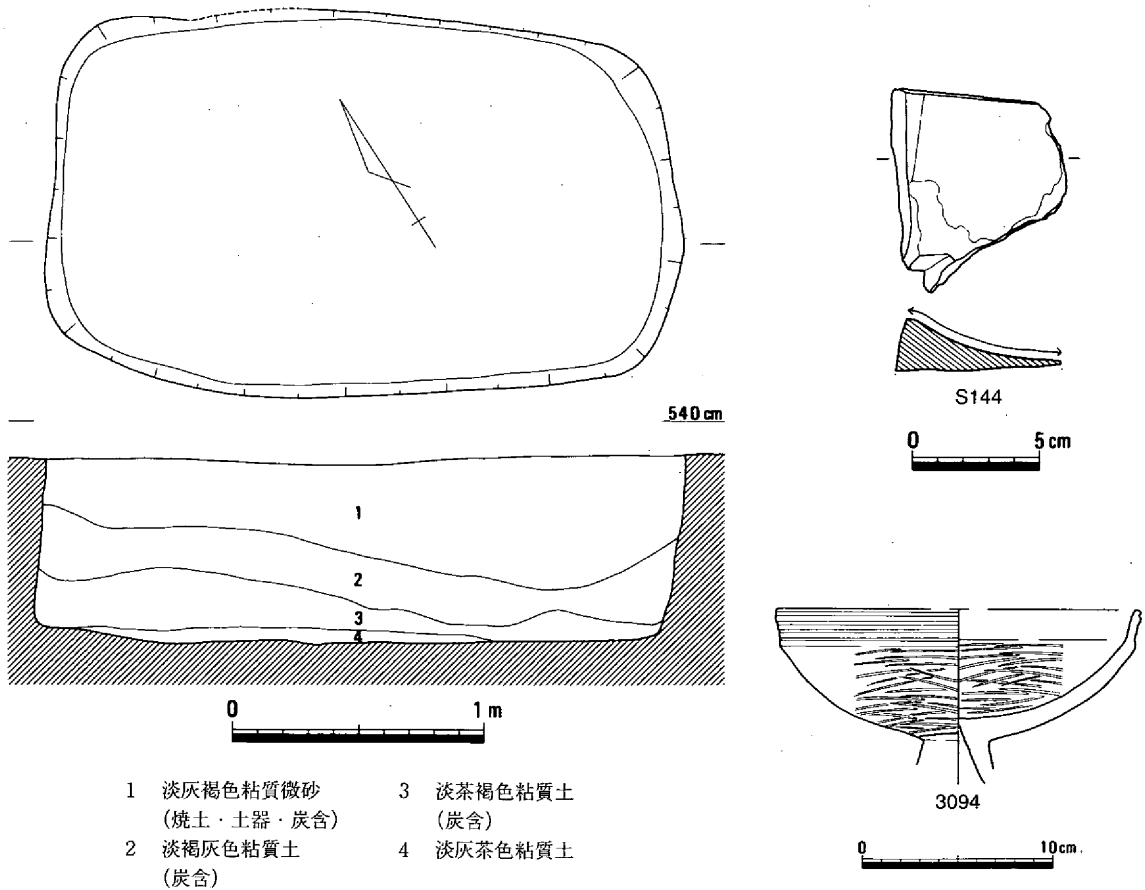


第844図 方形土壇101 (1/30)

- 1 淡灰茶色粘質微砂  
(炭・土器片・焼土含)
- 2 淡茶褐色粘質微砂  
(炭・焼土含)
- 3 灰黄褐色砂質土  
(炭含)



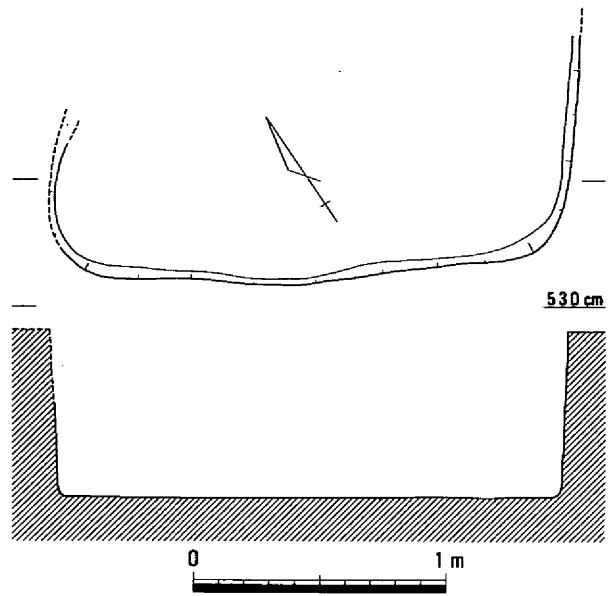
第845図 方形土壙102 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第846図 方形土壙103 (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)

方形土壙104 (第554・847図)

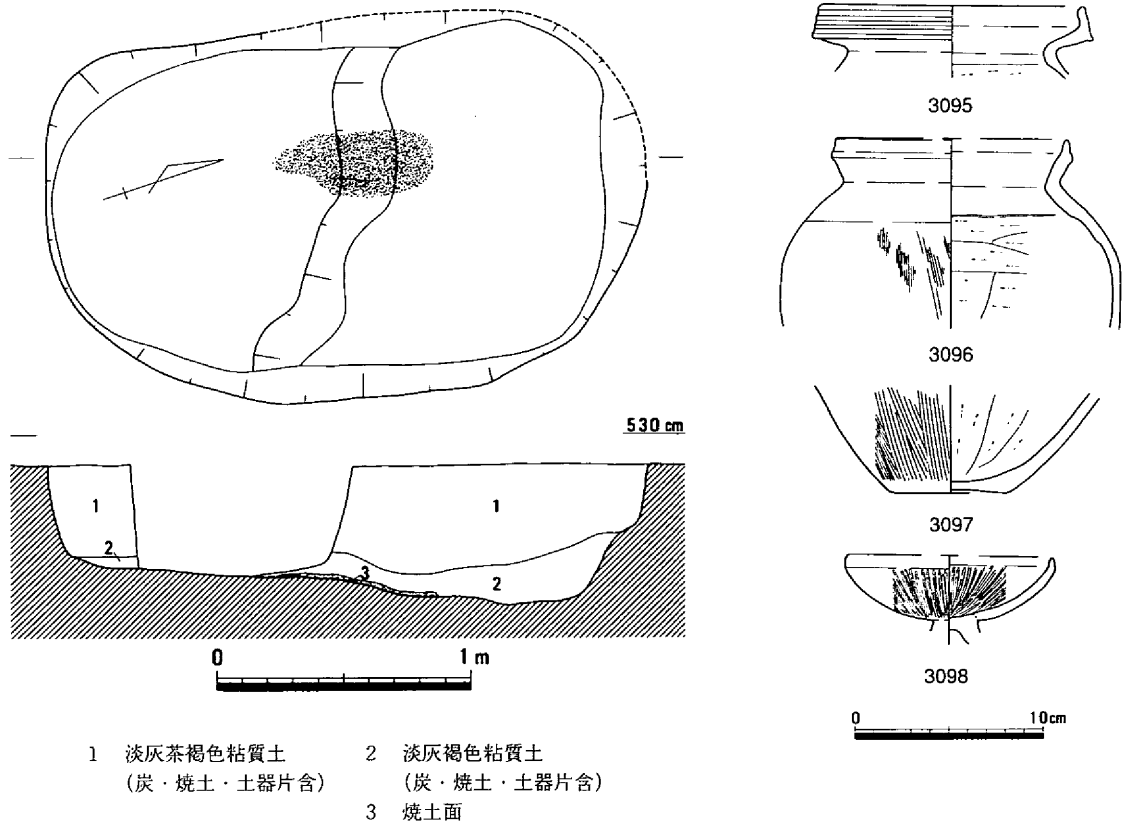
方形土壙103の南に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は長さ204cm、深さ約60cmを残す。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は淡茶褐色粘質土で、遺物は皆無であったが、周囲の遺構検出状況から弥生時代後期に埋没したものと考える。(江見)



第847図 方形土壙104 (1/30)

方形土壙105 (第554・848図)

方形土壙104の南数mから検出された。平面長方形を呈し、規模は148×235cm、深さ約50cmを残す。床面積は2.51m<sup>2</sup>を測る。床は北に緩く傾斜をしているがほぼ平坦で、床面中央からは焼土面が確認された。壁は北壁がやや傾斜を示すものの、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なくいずれも破片であるが、甕および高杯が出土している。甕3095の口縁には凹線が巡り、高杯3098は小形器台に続くものである。これら遺物の特徴は弥・後・IVを示す。(江見)

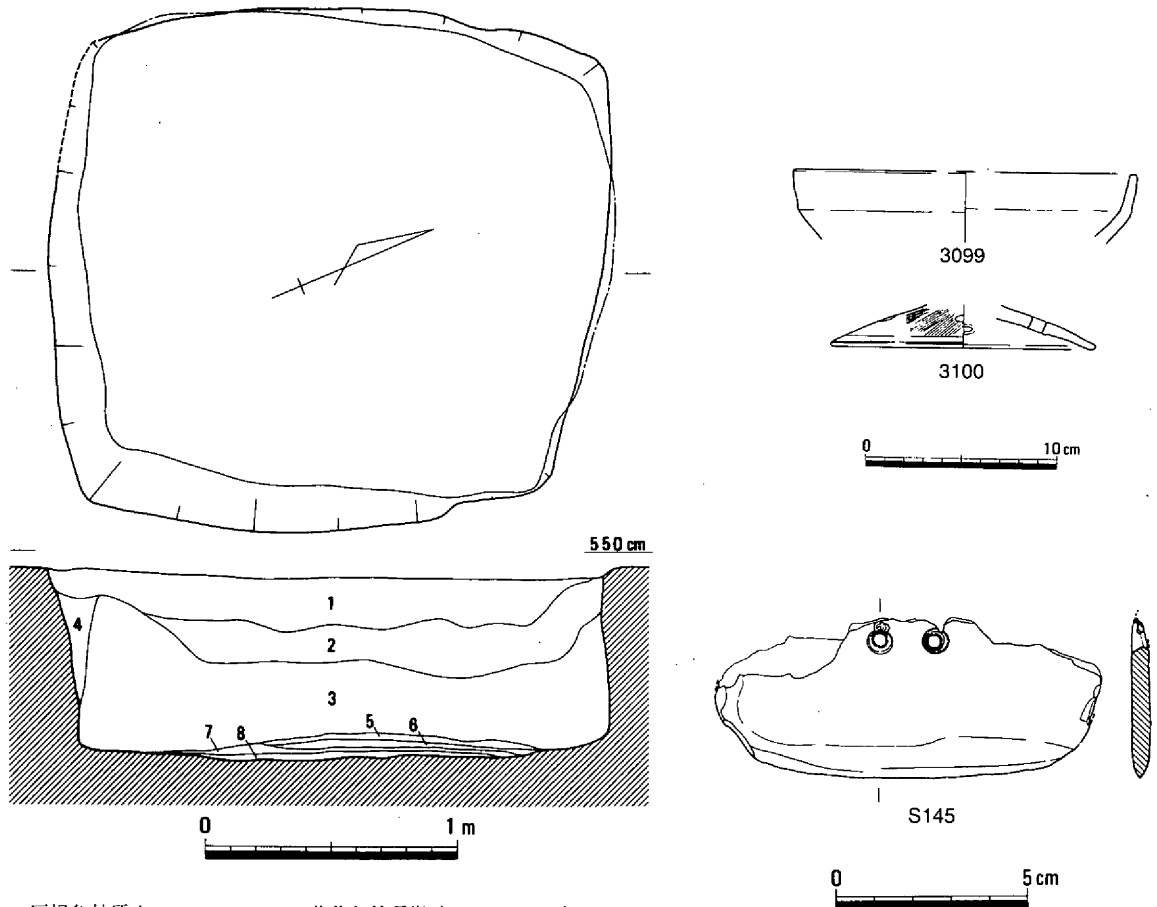


- 1 淡灰茶褐色粘質土 (炭・焼土・土器片含)
- 2 淡灰褐色粘質土 (炭・焼土・土器片含)
- 3 焼土面

第848図 方形土壙105 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壙106 (第554・849図)

方形土壙105の北西4mから検出された。平面方形を呈し、規模は219×206cm、深さ約70cmを残す。床面積は3.49m<sup>2</sup>を測る。床は中央部分がわずかにくぼんでいるがほぼ平坦で、壁においても部分的に内傾する部分も認められるが、おおむね垂直に立ち上がる。埋土には焼土、炭を多く含み、下層の第5～8層の堆積は使用時の床面上昇がうかがえ、第3層から上層は一気に埋め戻されたものと想像される。遺物は少なく、高杯および壺の細片、石包丁が出土している。高杯3100の裾端部には浅い凹線が巡る。石包丁S145は粘板岩製である。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)



- |                          |                       |                       |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 灰褐色粘質土<br>(炭・焼土・土器片含)  | 4 黄茶色粘質微砂<br>(壁面の崩れ)  | 7 暗黄褐色粘質土<br>(焼土・炭少含) |
| 2 暗灰褐色粘質土<br>(炭・焼土・土器片含) | 5 暗茶褐色粘質土<br>(炭・焼土含)  | 8 淡黄灰色粘質微砂<br>(焼土含)   |
| 3 黄茶灰色粘質土<br>(炭・焼土・土器片含) | 6 淡黄茶灰色粘質土<br>(炭・焼土含) |                       |

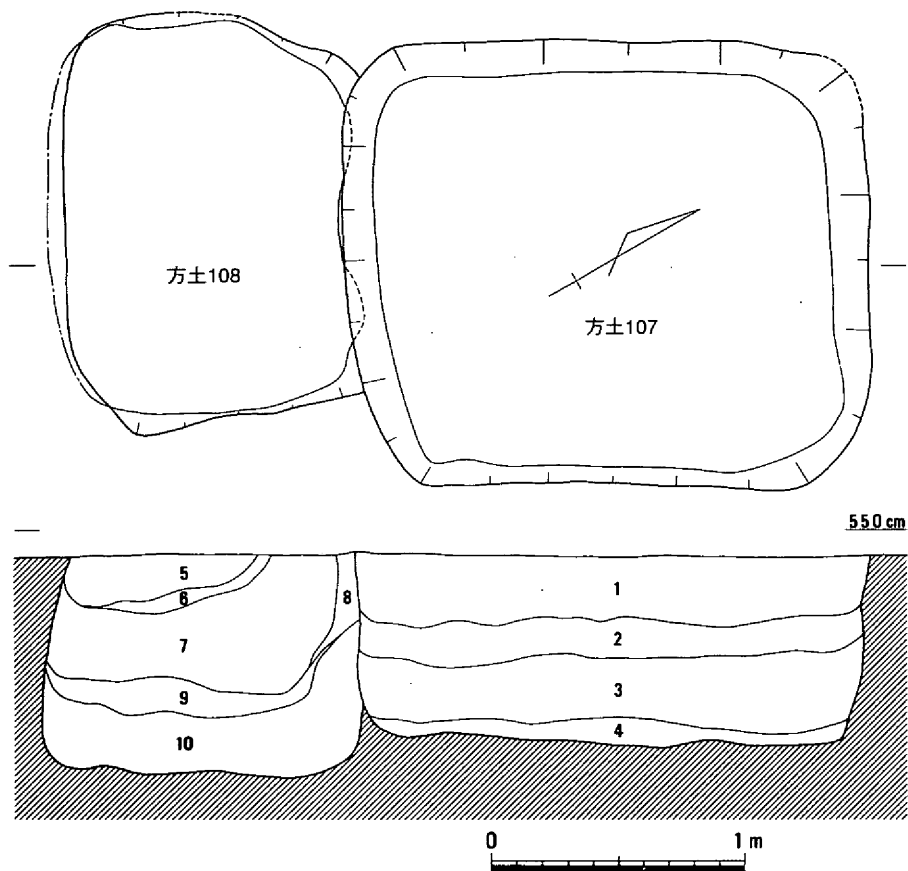
第849図 方形土壙106 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2)

方形土壙107 (第554・850図、図版166)

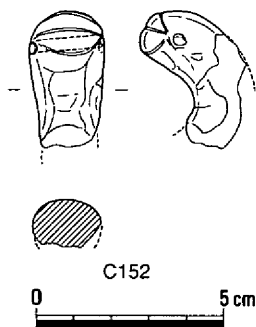
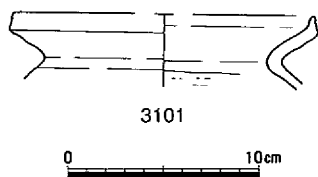
方形土壙106の西約10m、Cg 6 06区の南東隅に位置し、方形土壙108を一部切って検出された。平面方形を呈し、規模は175×207cm、深さ76cmを残す。床面積は2.68m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸するものの平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土には炭、焼土が多く含まれる。遺物は少なく、甕のほか、壺、高杯の細片および土製勾玉C152が出土している。勾玉は燈色を呈し、復元長約5cmの比較的大形のものである。土器の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

方形土壙108 (第554・850図)

方形土壙107の南に接して検出された。平面不整形を呈し、規模は125×166cm、深さ約90cmを残す。床面積は約1.7m<sup>2</sup>を測る。床面はほぼ平坦で、壁は一部内傾する部分も認められるがほぼ垂直に立ち上がる。遺物は皆無であったが、周囲の遺構検出状況から弥生時代後期後半には埋没したと思われる。(江見)



- |                            |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭多含)  | 4 暗灰茶褐色粘質土<br>(炭含)         | 7 淡灰褐色粘質土<br>(土器片・焼土・炭含)   |
| 2 暗茶灰色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭多含) | 5 灰褐色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭多含)  | 8 黄灰褐色粘質土<br>(土器片少含・焼土・炭含) |
| 3 暗灰褐色粘質土<br>(焼土含、炭多含)     | 6 暗灰褐色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭多含) | 9 暗黄灰褐色粘質土<br>(土器片少含・炭含)   |
|                            |                            | 10 茶灰色粘質微砂<br>(炭少含)        |



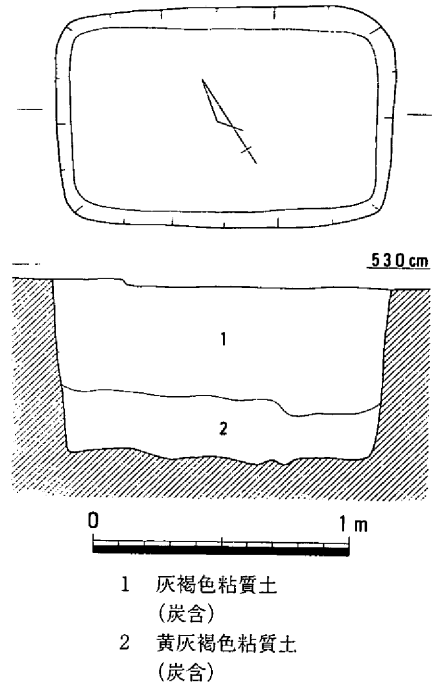
第850図 方形土壙107・108 (1/30)・方形土壙107出土遺物 (1/4,1/2)

方形土壙109 (第554・851図)

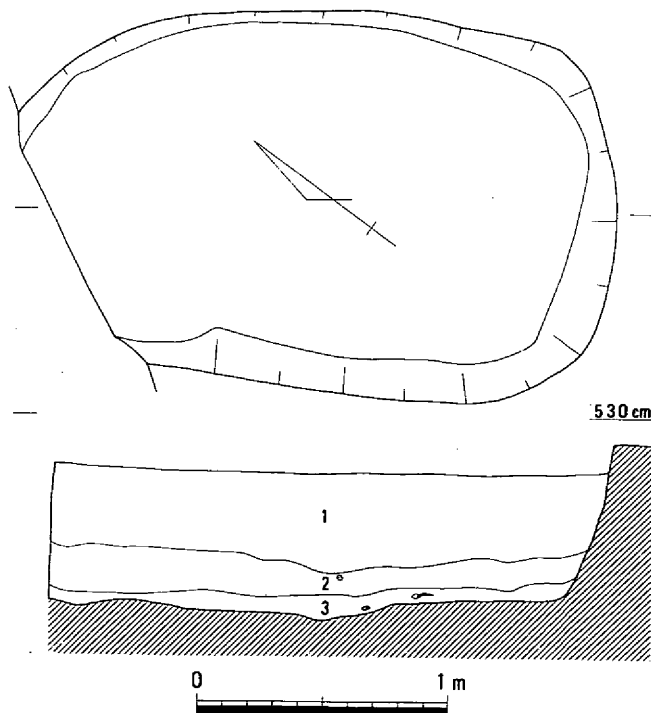
方形土壙107の北から検出された。平面長方形を呈し、規模は87×130cm、深さ70cmを残す。床面積は0.83m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸するもののほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期と思われる土器細片が出土するのみであった。(江見)

方形土壙110 (第554・852図)

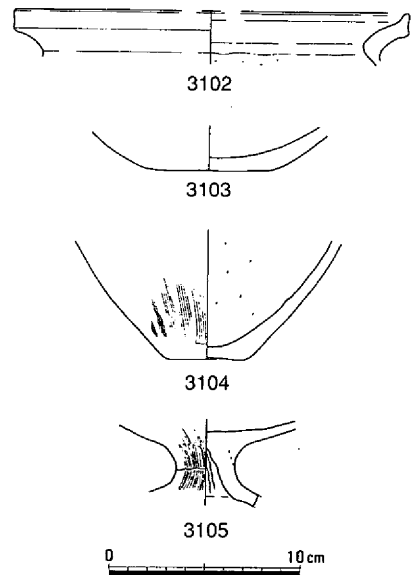
方形土壙109の北西13m、Cg605区の北西から検出された。平面楕円形気味の長方形を呈し、規模は150×250cm、深さ約70cmを残す。推定床面積約2.5m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸があるもののほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に立ち上がる。埋土には焼土、炭が多く含まれていた。遺物は少なく、甕、高杯の破片のほか、鉢細片が出土した。甕3102は口縁端部が肥厚し、上方に摘み出されている。甕3104は平底で、細身の胴部に続く。高杯3105の杯部は浅く、脚柱部は短い。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示し、当土壙はこの期に埋没したと思われる。(江見)



第851図 方形土壙109 (1/30)



第852図 方形土壙110 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰褐色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)
- 2 黄灰褐色粘質砂  
(炭・焼土・土器片・黄色粘土塊含)
- 3 暗黄灰褐色粘質土  
(炭・焼土・黄色粘土塊含)

方形土壙111 (第554・853図)

方形土壙110の南西4mから検出された。平面長方形を呈し、規模は約90×170cm、深さ約50cmを残す。推定床面積は約1.4m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥

生時代後期後半と思われる甕の細片が出土している。

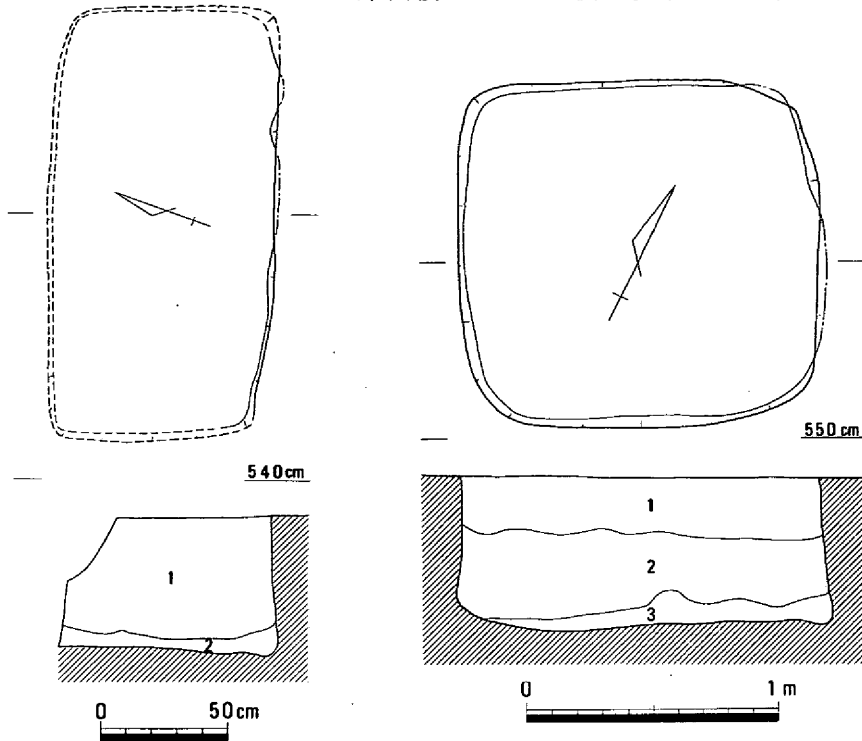
(江見)

方形土壇112 (第554・854図)

方形土壇111の南数mから検出された。平面方形を呈し、規模は138×141cm、深さ約60cmを残す。床面積は1.72m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁はやや内傾気味な

がらほぼ垂直に立ち上がる。埋土にはいずれも炭粒を含む。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の破片が出土するのみであった。

(江見)

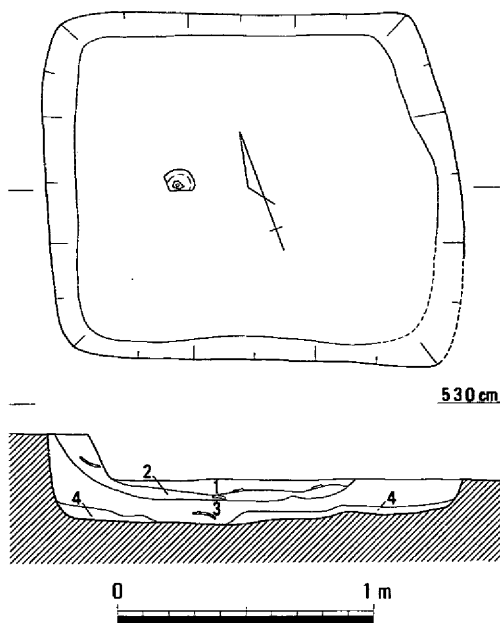


- 1 淡黄褐色粘質土 (土器片・炭含)
- 2 淡灰褐色粘質土 (炭含)
- 3 淡黄茶灰色粘質微砂 (炭含)

- 1 灰茶色粘質土 (焼土・炭・土器片・黄色粘土塊含)
- 2 暗灰茶色粘質土 (炭含)

第854図 方形土壇112 (1/30)

第853図 方形土壇111 (1/30)



方形土壇113 (第554・855・856図)

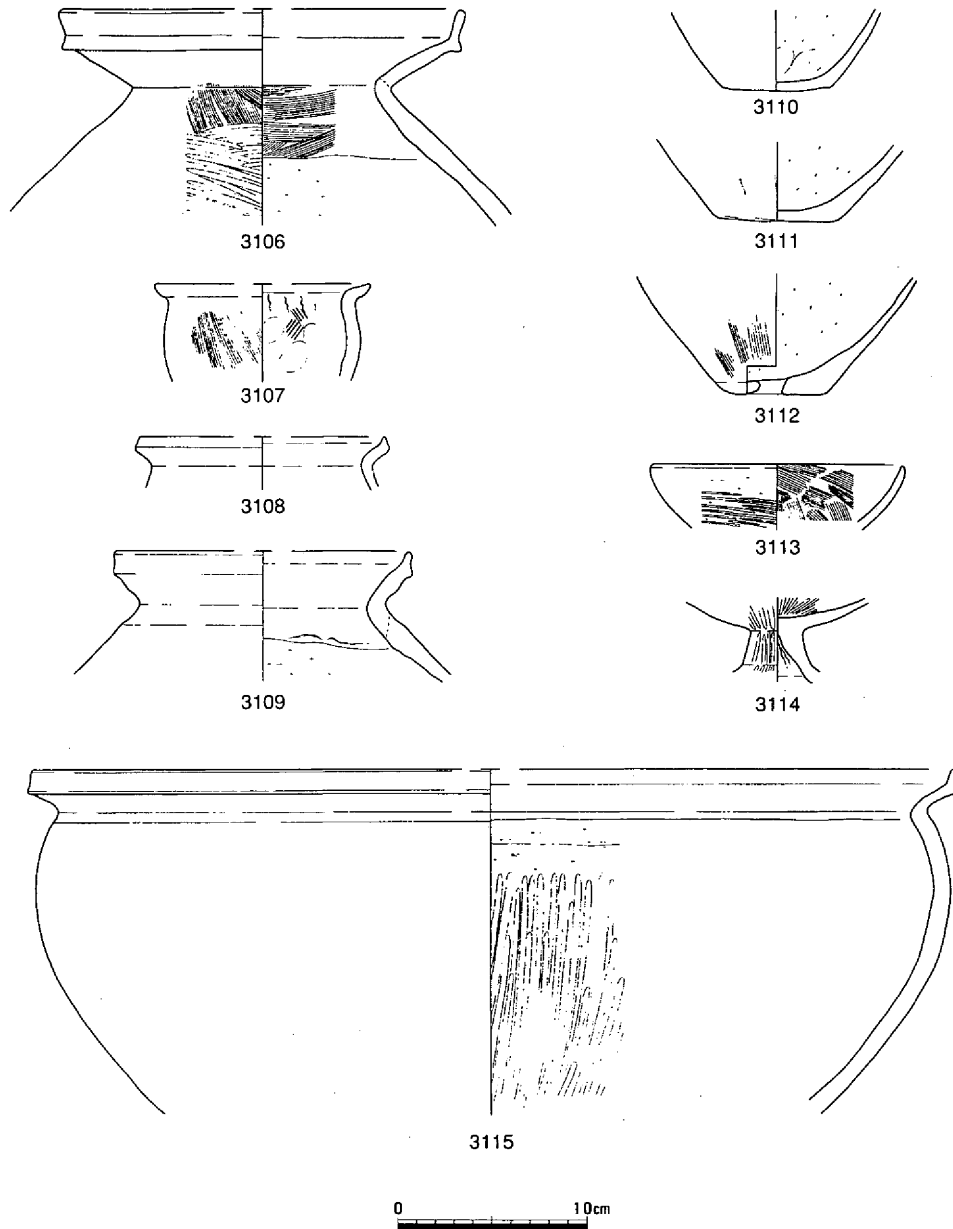
方形土壇112の北東11mから検出された。平面方形を呈し、規模は137×162cm、深さ約35cmを残す。床面積は約1.6m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土には多くの炭、焼土が含まれ、遺物はコンテナ1箱出土している。いずれも破片であるが、器種は壺、甕、高杯、鉢などで、壺3106は屈曲して開く口縁に、端部を上方に拡張している。大形鉢3115は比較的精緻な作りで、口縁端部は凹部を形成する。これら遺物は弥・後・Ⅲの範疇のものと思われる。

(江見)

- 1 茶褐色粘質土 (土器・炭・焼土含)
- 2 暗灰茶褐色粘質土 (土器・炭・焼土含)
- 3 灰褐色粘質微砂 (土器・焼土含)
- 4 暗灰茶褐色粘質土 (炭・焼土含)

第855図 方形土壇113 (1/30)





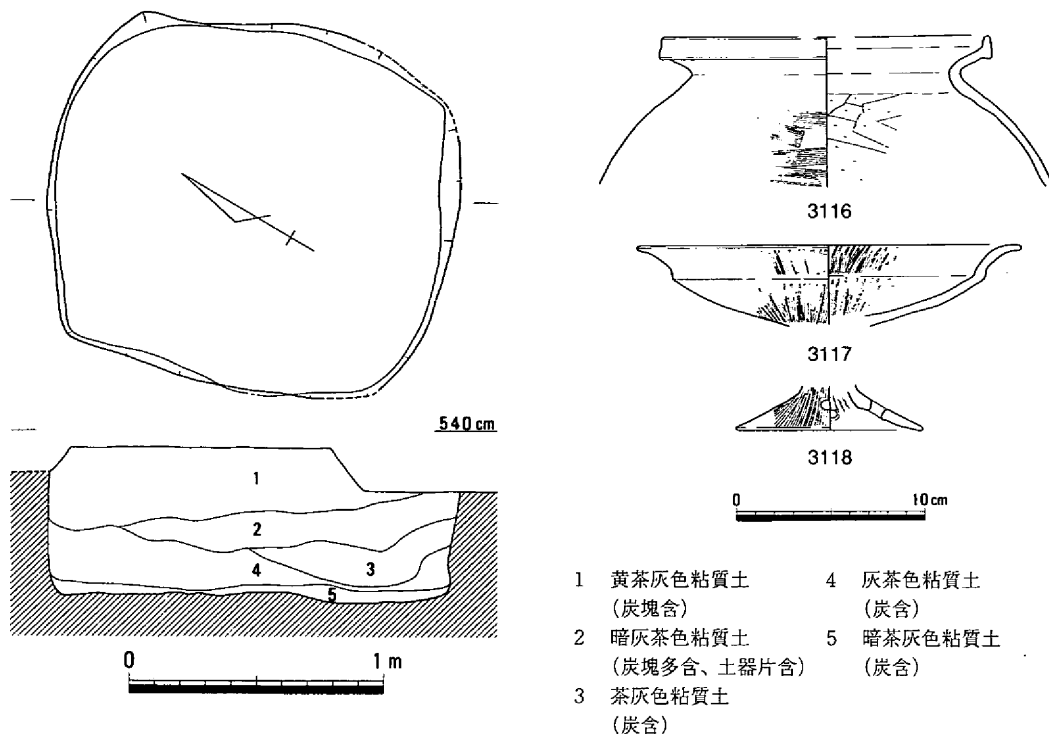
第856図 方形土壇113出土遺物 (1/4)

方形土壇114 (第554・857図)

Ch6 05区の北部中央に位置し、方形土壇112の南東から検出された。平面不整形を呈し、規模は148×160cm、深さ約60cmを残す。床面積は1.88m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸するもののほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土にはいずれも炭粒が多く含まれていた。遺物は少なくいずれも破片で、甕、高杯のほか、壺の細片も出土している。甕3116の口縁は上部に引き出され、高杯3117の口縁部は外反するなど、弥・後・Ⅲの特徴を示している。(江見)

方形土壇115 (第554・858図、図版45)

方形土壇114の南東数mから検出された。平面方形を呈し、規模は132×150cm、深さ24cmを残す。床面積は1.58m<sup>2</sup>を測る。埋土には炭粒、焼土が含まれている。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺、甕、高杯の細片が出土している。(江見)



第857図 方形土壇114 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壇116 (第554・859図、図版45)

方形土壇115の西側に位置し、方形土壇117を切っ  
て検出された。平面方形を呈し、規模は114×114  
cm、深さ34cmを残す。床面積は1.1㎡を測る。床は  
ほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、  
わずかに弥生時代後期後半と思われる甕、高杯細片  
が出土するのみであった。(江見)

方形土壇117 (第554・859図、図版45)

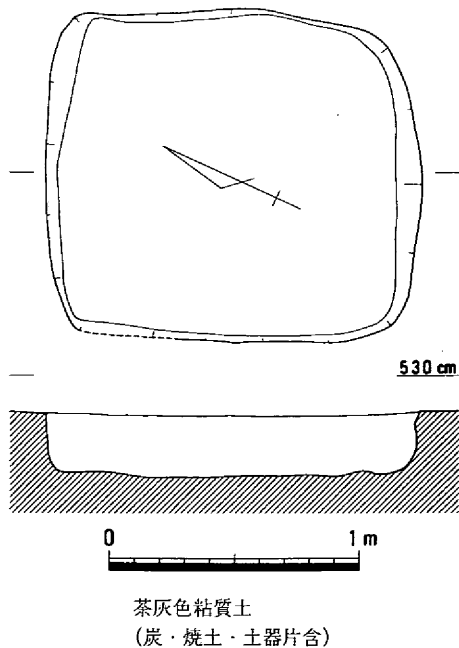
方形土壇116に中央部の大半を切られて検出され  
た。平面方形を呈し、規模は148×149cm、深さ約20  
cmを残す。床面積は1.79㎡を測る。床は平坦で、壁  
は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、壺3119の口縁  
には凹線が巡り、その特徴は弥・後・Ⅲの範疇と思  
われる。(江見)

方形土壇118 (第554・860図)

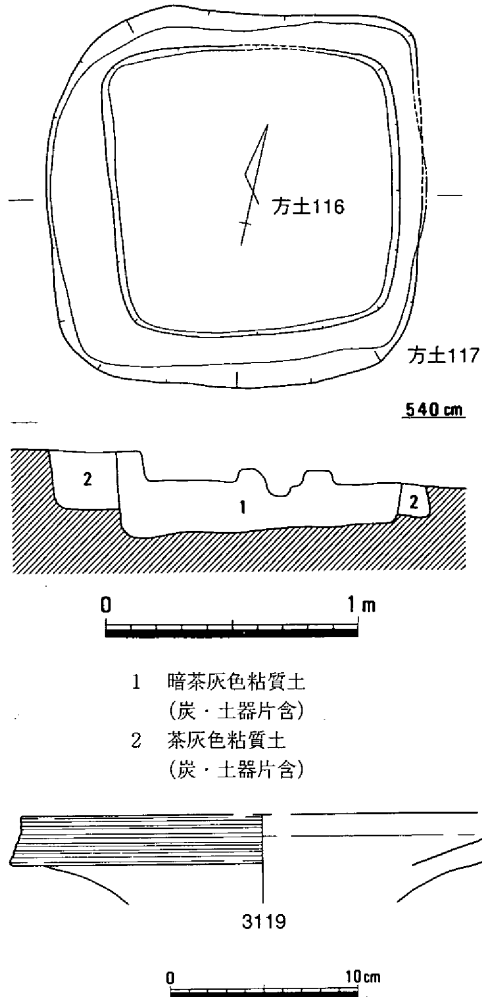
方形土壇117の西に位置し、方形土壇119を切っ  
て検出された。不整形方形を呈し、規模は108×133cm、深さ約30cmを残す。床面積は1.08㎡を測る。床は  
ほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は高杯のほか、壺、甕の細片が出土している。高杯3120は  
直立気味に外反する口縁をもち、弥・後・Ⅳの範疇であろうか。(江見)

方形土壇119 (第554・861図)

方形土壇117・118に切られて検出された。平面不整形方形を呈し、規模は137×167cm、深さ約20cmを



第858図 方形土壇115 (1/30)

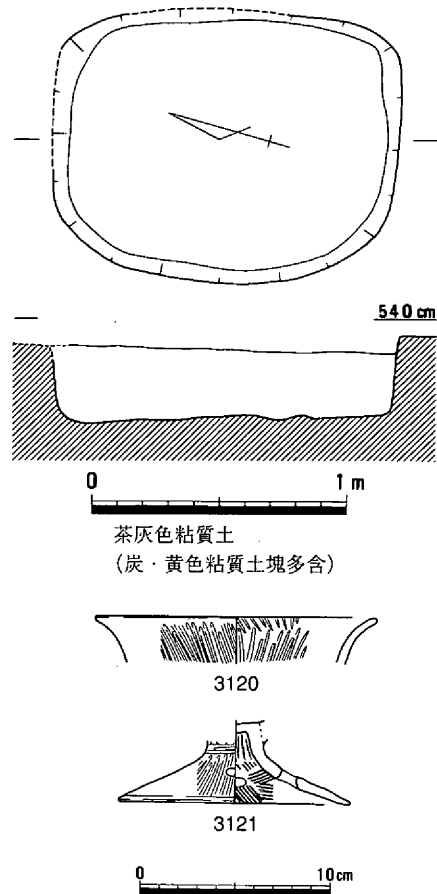


第859図 方形土壙116・117 (1/30)・出土遺物 (1/4)

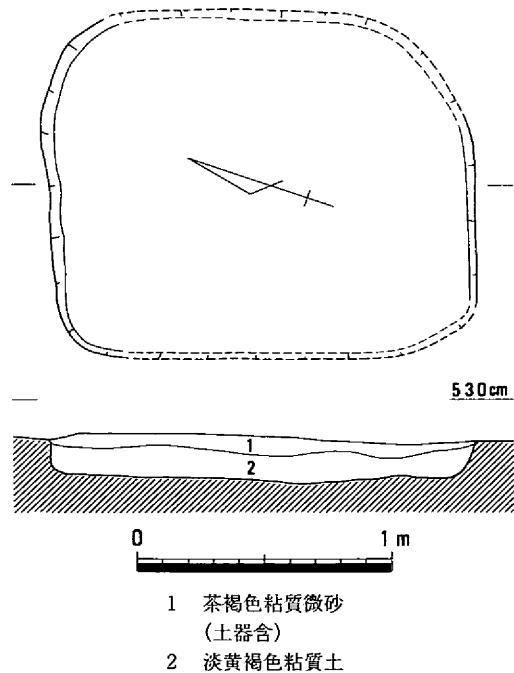
残す。床面積は約1.9m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、弥生時代後期後半と思われる甕の細片が出土するのみであった。(江見)

方形土壙120 (第554・862図、図版45・120)

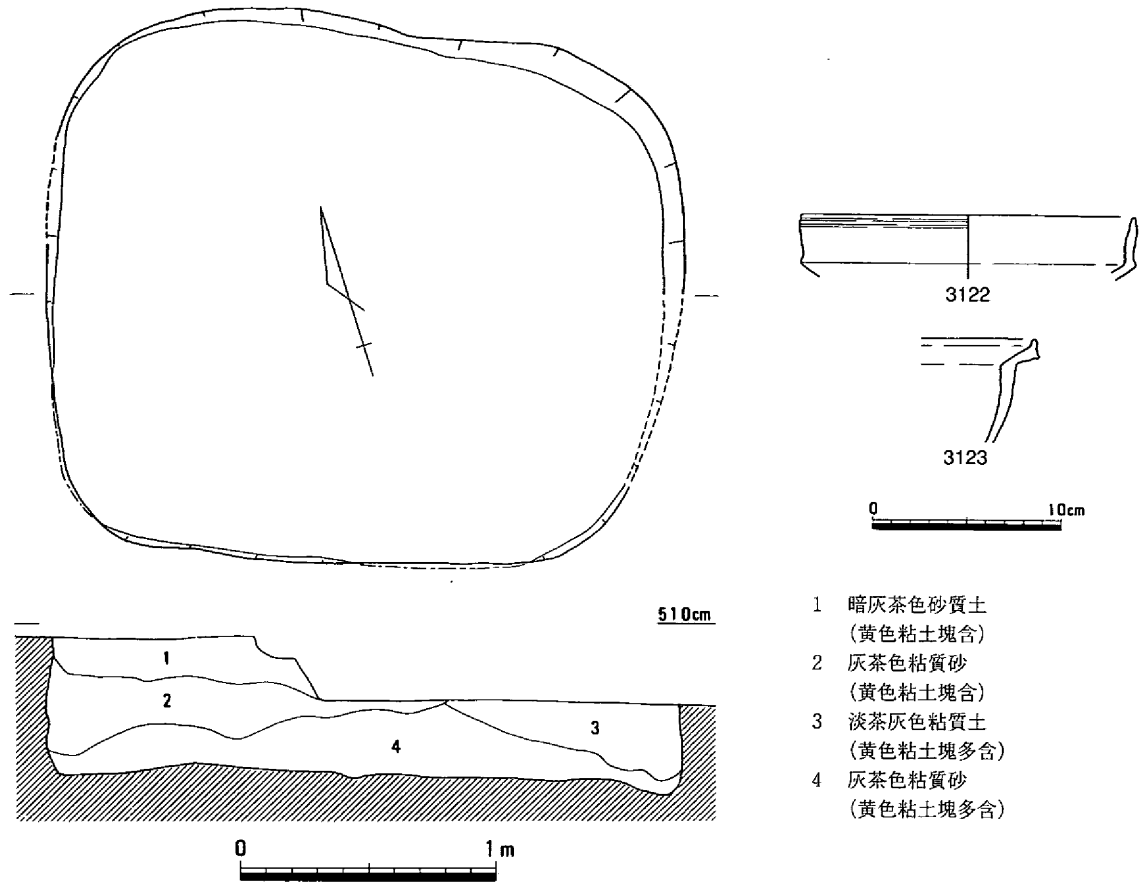
方形土壙119の東6mに位置し、竪穴住居107の下部から検出された。平面不整形方形を呈し、規模は215×249cm、深さ54cmを残す。床面積は約4.5m<sup>2</sup>を測る。床は中央がやや高く、壁に向かってやや傾斜する。壁は内傾気味ながらほぼ垂直に立ち上がる。埋土には土塊が多く含まれ人為的に埋め戻されたものと判断された。遺物は少なく、いずれも小破片で、3122は壺の口縁にあたるものか、端部には浅い凹線が認められる。遺物の特徴から弥・後・Ⅲの範疇のものと思われる。(江見)



第860図 方形土壙118 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第861図 方形土壙119 (1/30)



- 1 暗灰茶色砂質土  
(黄色粘土塊含)
- 2 灰茶色粘質砂  
(黄色粘土塊含)
- 3 淡茶灰色粘質土  
(黄色粘土塊多含)
- 4 灰茶色粘質砂  
(黄色粘土塊多含)

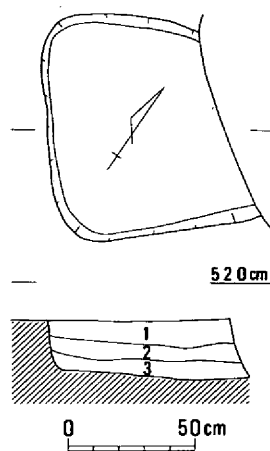
第862図 方形土壙120 (1/30)・出土遺物 (1/4)

方形土壙121 (第554・863図)

方形土壙120に一部切られて検出された。平面方形を呈し、長さ70cm以上、幅約80cmの小規模な土壙で、深さ約20cmを残す。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は水平堆積を示し、上層から遺物が出土した。しかしながら遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕細片が出土するのみであった。(江見)

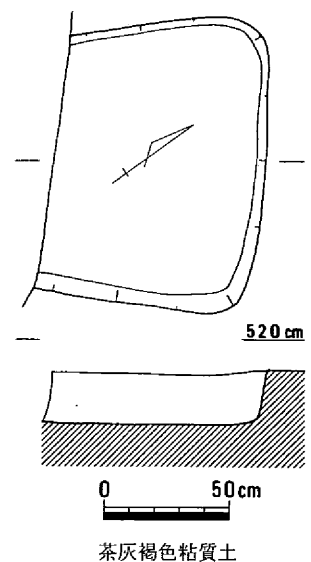
方形土壙122 (第554・864図)

方形土壙121の北東5mに位置し、竪穴住居108を切り、竪穴住居107に切られて検出された。平面方形を呈し、長さ88cm以上、幅112cm、深さ20cmを残す。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は茶灰褐色粘質土である。遺

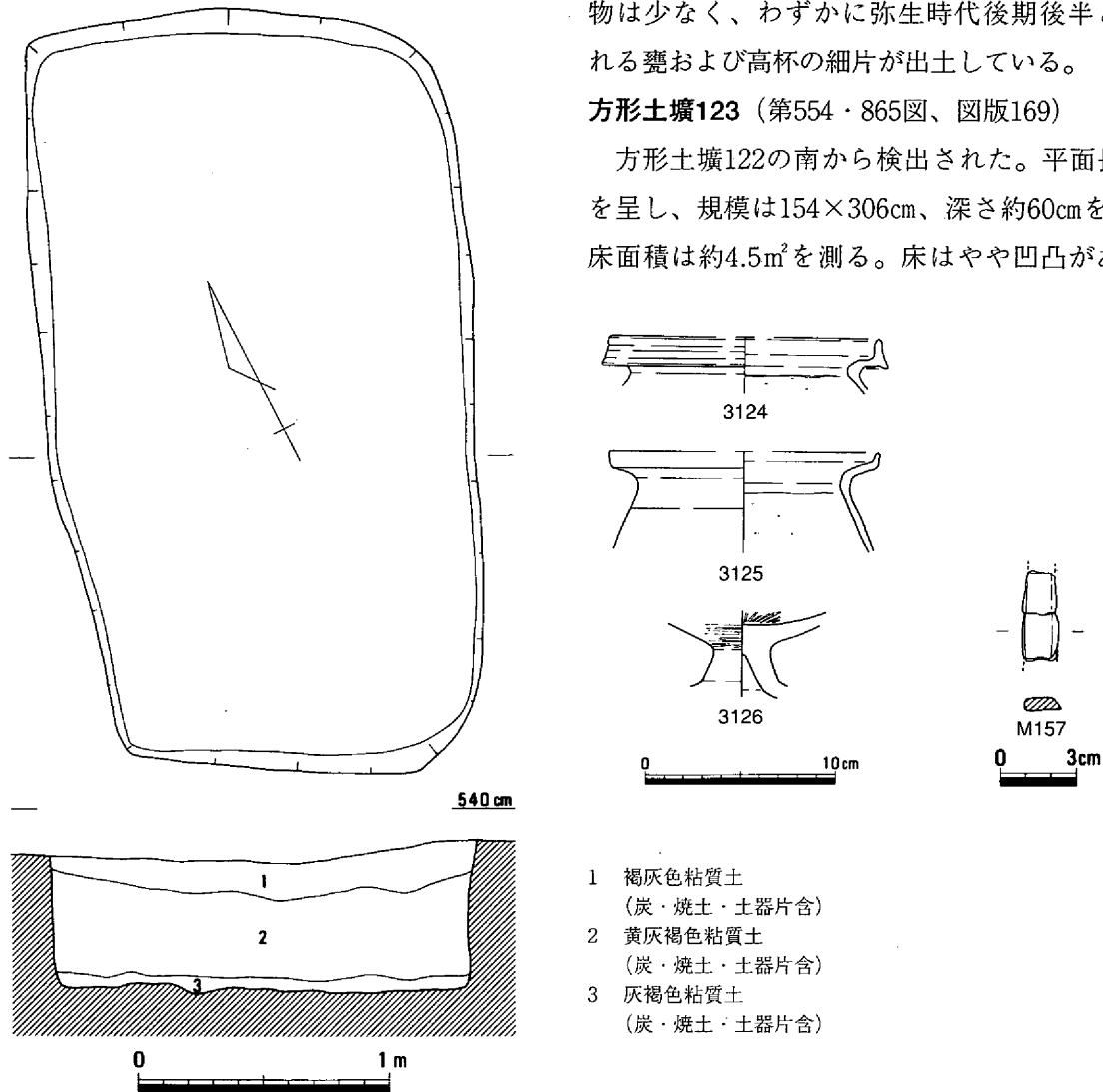


- 1 茶褐色粘質微砂  
(炭・土器含)
- 2 淡黄褐色粘質土
- 3 淡褐灰色粘質土

第863図 方形土壙121  
(1/30)



第864図 方形土壙122  
(1/30)



物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土している。(江見)  
**方形土壇123** (第554・865図、図版169)

方形土壇122の南から検出された。平面長方形を呈し、規模は154×306cm、深さ約60cmを残す。床面積は約4.5m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸があるが

- 1 褐灰色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)
- 2 黄灰褐色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)
- 3 灰褐色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)

第865図 方形土壇123 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は甕、高杯とともに板状の鉄製品M157が出土している。上下に延び、鉢の基部にあたるものであろうか。土器の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

**方形土壇124** (第554・866図)

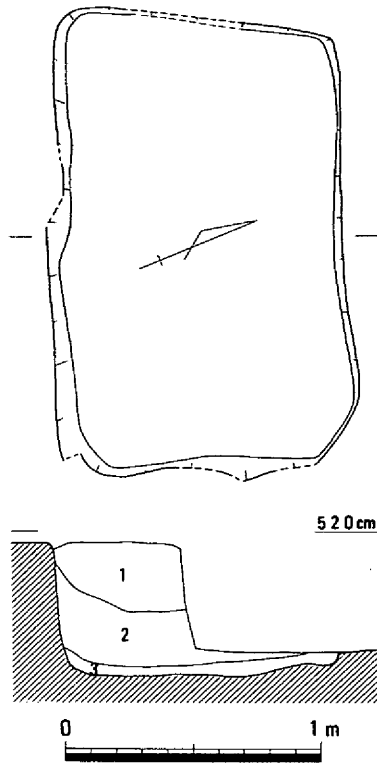
方形土壇123の南に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は115×182cm、深さ約50cmを残す。床面積は1.83m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺および甕の細片が出土している。(江見)

**方形土壇125** (第554・867図)

方形土壇124の南から検出された。平面方形を呈し、規模は155×194cm、深さ75cmを残す。床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁は外傾気味ながらほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺および高杯の破片が出土している。(江見)

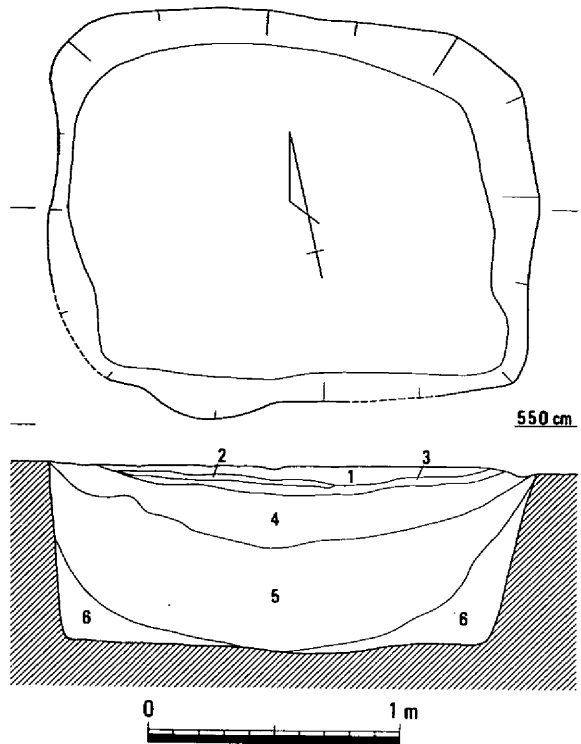
**方形土壇126** (第554・868図)

方形土壇125の南6mから検出された。平面不整長方形を呈し、規模は135×185cm、深さ約40cmを残す。床面積は約2m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸するとともに壁際がわずかに深く掘り込まれていた。壁は



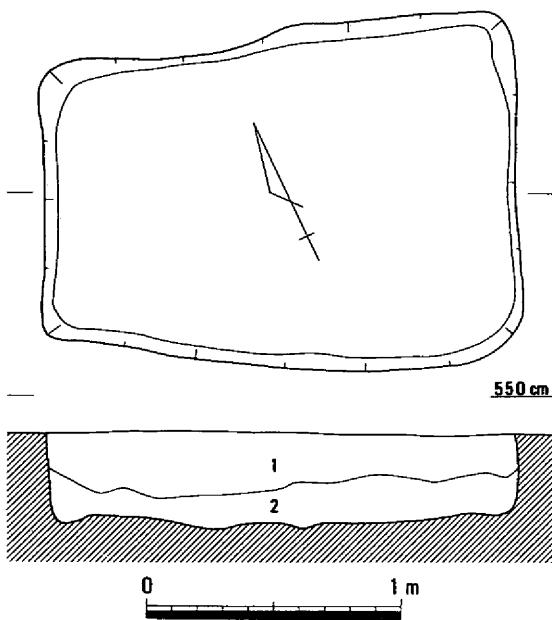
- 1 茶褐色粘質土  
(黄色粘質土塊含)
- 2 茶灰色粘質土  
(褐色粘質土塊含)
- 3 淡茶灰色粘質土  
(灰・暗灰色粘質土塊含)

第866図 方形土壙124 (1/30)



- 1 黄褐色粘質砂
- 2 暗灰色粘質土  
(炭含)
- 3 黄褐色粘質砂
- 4 黄褐色粘質砂  
(灰褐色粘質土含)
- 5 黄褐色粘質土塊・灰色粘質土塊混合層
- 6 淡茶灰色粘質土

第867図 方形土壙125 (1/30)



垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土している。(江見)

方形土壙127 (第554・869図)

方形土壙126の北に位置し、竪穴住居110に切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は128×187cm、深さ56cmを残す。床面積は約2㎡を測る。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は中央に高く壁際に低く堆積していた。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕の破片が出土するのみであった。(江見)

- 1 茶褐色粘質土  
(炭・土器片・焼土含)
- 2 茶灰色粘質微砂  
(炭・土器片・焼土含)

第868図 方形土壙126 (1/30)

方形土壙128 (第554・870図)

Ci606区の北東、方形土壙127の東6mから検出された。平面方形で、規模は205×235cmと大形で、深さ約20cmを残す。床面積は4.27m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は茶灰色粘質土で黄色粘土塊が混入する。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺、甕、高杯の細片が出土している。(江見)

方形土壙129 (第554・871図)

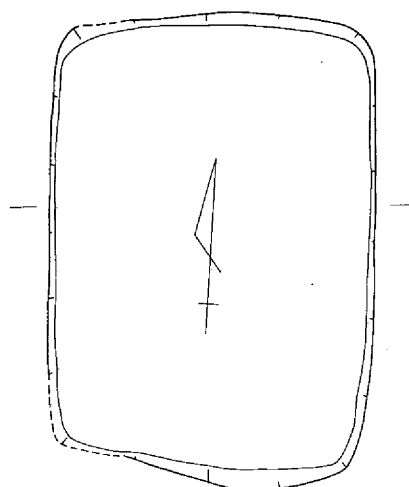
方形土壙128の北に位置し、竪穴住居109を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は154×218cm、深さ70cmを残す。床面積は2.71m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸があるもののほぼ平坦で、壁においても北壁はやや外傾するがほかは垂直に立ち上がる。遺物は少なく、高杯3127は緩く外反する口縁をもち、弥・後・IVの範疇であろうか。(江見)

方形土壙130 (第554・872・873図、図版122)

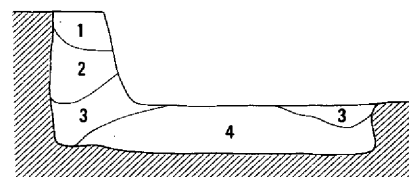
方形土壙129の東に位置し、方形土壙131を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は164×304cm、深さ60cmを残す。床面積は4.35m<sup>2</sup>を測る大形の土壙である。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土にはいずれも土塊が混入し、人為的に埋め戻されたことが想像される。遺物は上層から出土している。甕3128の口縁端部は上方に摘み出され、小形の鉢3130・3131は口縁が短く外方に延びる。これら遺物の特徴は弥・後・IVの範疇に入るものと思われる。(江見)

方形土壙131 (第554・874図)

方形土壙130・129に切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は推定長160×幅250cm、深さ約40cmを残す。推定床面積は約3.4m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁は外傾気味ではあるが、ほぼ垂直に立ち上がる。埋土は茶灰褐色粘質土で炭粒が混入してい

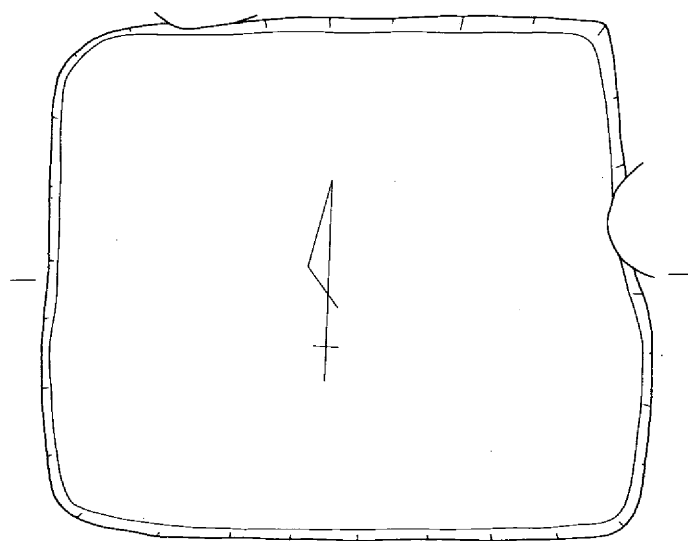


540cm



- 1 茶灰褐色粘質土
- 2 茶灰色粘質土
- 3 茶灰褐色粘質土 (茶灰色粘質土塊・炭含)
- 4 茶灰色粘質土 (褐色粘質土塊・炭含)

第869図 方形土壙127 (1/30)

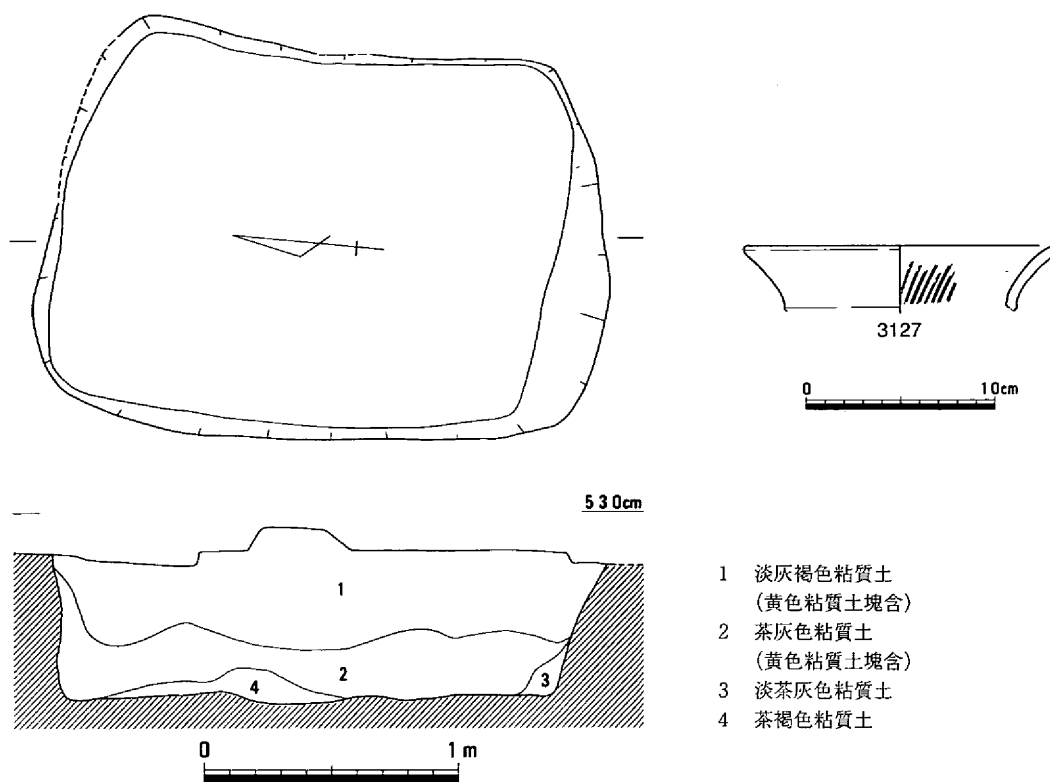


530cm

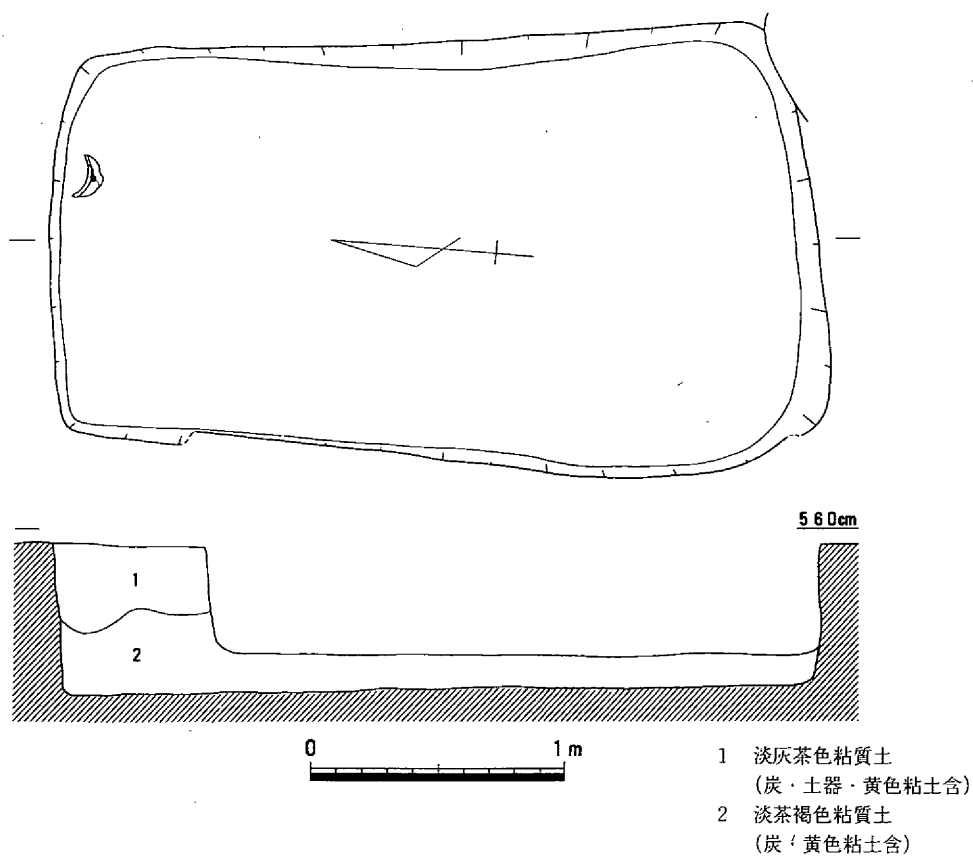


茶灰色粘質土 (黄色粘土塊含)

第870図 方形土壙128 (1/30)



第871図 方形土壙129 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第872図 方形土壙130 (1/30)



た。遺物は少なく、弥生時代後期後半と思われる壺、高杯、鉢の細片が出土するのみであった。(江見)

#### 方形土壙132 (第554・875図)

方形土壙131の南に位置し、方形土壙133を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は147×196cm、深さ55cmを残す。床面積は2.16m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で壁はやや外傾するものの、垂直に近く立ち上がる。埋土は2層からなる。いずれも土塊を含み一気に埋め戻されたものと想像される。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕細片が出土するのみであった。(江見)

#### 方形土壙133 (第554・876図)

方形土壙132の東に接して検出された。平面不整形を呈し、規模は167×177cm、深さ約50cmを残す。床面積は約2.3m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は方形土壙132と同様に2層からなるとともに、一気に埋め戻された状況が想像された。遺物は少なく、わずかに高杯および鉢の破片が出土するのみであった。(江見)

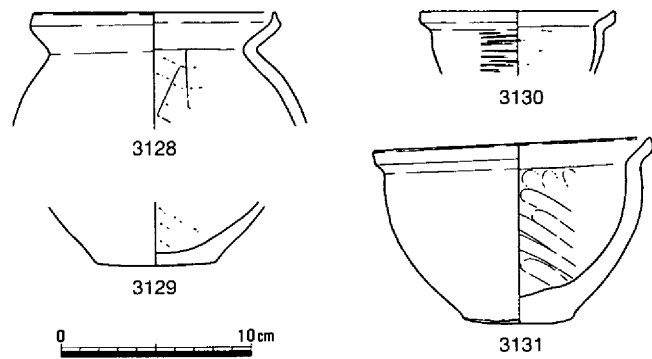
#### 方形土壙134 (第554・877図)

方形土壙133の東から検出された。

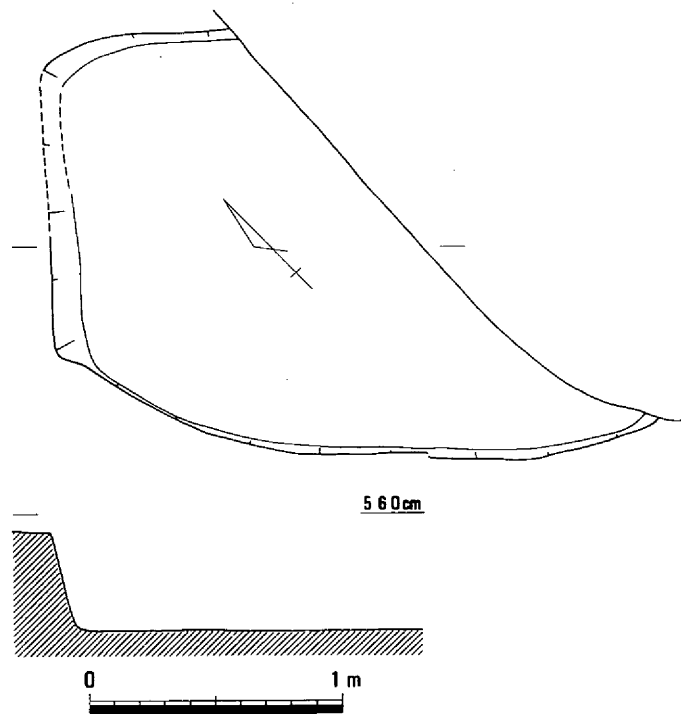
平面円形気味の方形を呈す。規模は142×158cm、深さ56cmを残す。床面積は1.51m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がり、一部内傾する箇所も認められる。また、断面から明らかなように、南東部に段をもつ箇所が所在し、第2層下面が床面として機能した可能性も考えられる。埋土は3層からなり、前述同様に土塊が混入し、人為的に埋め戻されたことと思われる。遺物は少なく、甕3132・3133のほか、壺、高杯の破片が出土している。3132の口縁は端部が内傾して立ち上がり、凹線が巡らされている。3133の胴部は倒卵形を呈し、肩がやや張ると思われ、下半が直線気味に緩く弧を描き平底に達する。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

#### 方形土壙135 (第554・878図、図版46・122)

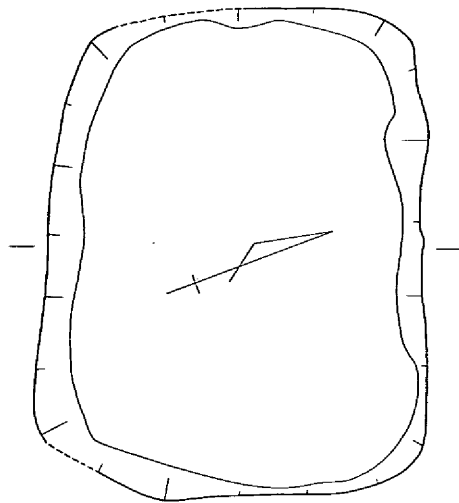
方形土壙134の北数mから検出された。平面長方形を呈し、規模は108×172cm、深さ22cmを残す。床面積は1.15m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は2層からなり、第2層は炭



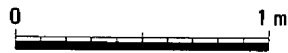
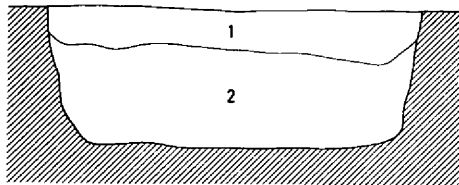
第873図 方形土壙130出土遺物 (1/4)



第874図 方形土壙131 (1/30)

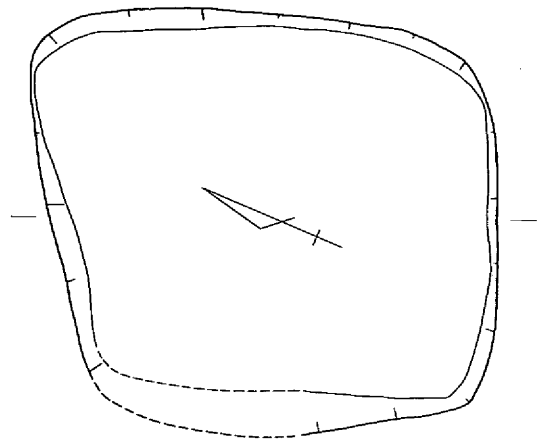


550 cm

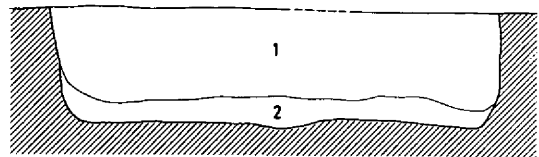


- 1 茶灰褐色粘質土  
(炭多含、褐色粘質土塊含)
- 2 茶灰色粘質土  
(褐色粘質土塊含)

第875図 方形土坑132 (1/30)

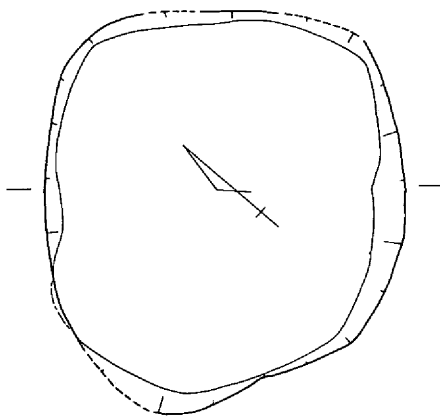


540 cm

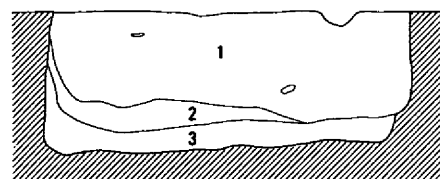


- 1 茶灰色粘質土  
(黄褐色粘質砂塊含)
- 2 黄褐色粘質砂  
(茶灰色粘質土塊含)

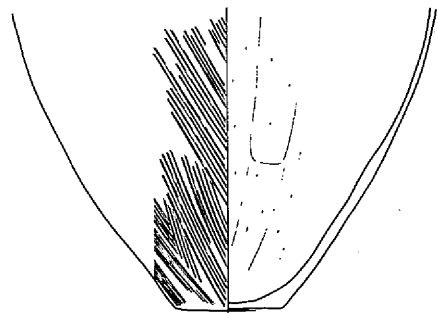
第876図 方形土坑133 (1/30)



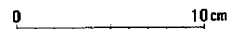
540 cm



3132

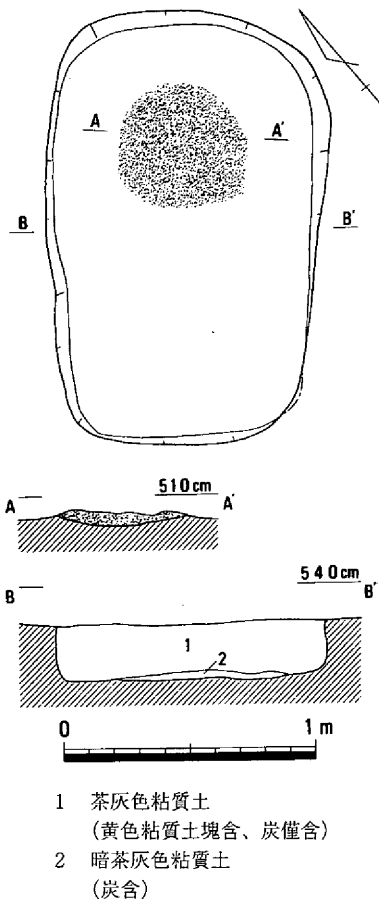


3133



- 1 茶灰色粘質土  
(黄褐色粘質砂塊含)
- 2 黄褐色粘質砂  
(茶灰色粘質土塊含)
- 3 暗褐色粘質土  
(黄・灰色粘質土塊・炭含)

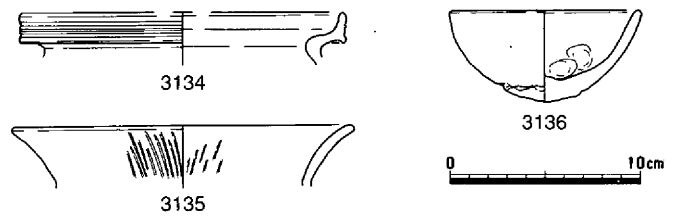
第877図 方形土坑134 (1/30)・出土遺物 (1/4)



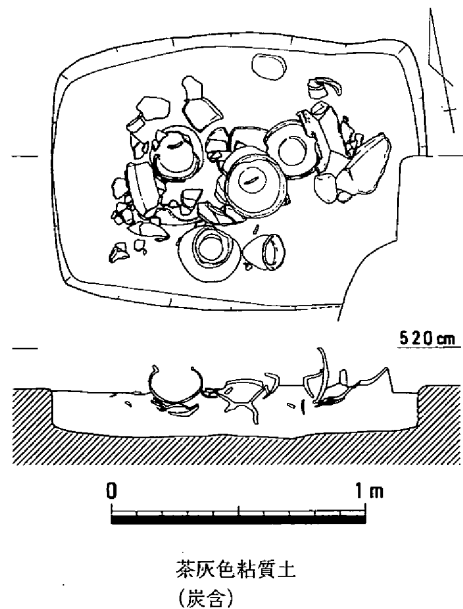
第878図 方形土壙135 (1/30)・出土遺物 (1/4)

粒を含む。床面北部からは径約50cmの範囲が被熱により赤褐色に変化しており、中央部で厚さ約5cmを測った。遺物は甕、高杯、鉢が出土している。甕3134は垂直に立ち上がる口縁部に刷毛状工具による施文がなされ、高杯3135の口縁は緩く外反する。鉢3136は小形のもので、押圧ナデによる。弥・後・IVの範疇と思われる。(江見) 方形土壙136 (第554・879図、図版46)

方形土壙135の北数mに位置し、南東部を土壙によって一部切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は109×148cm、深さ約20cmを測る。床面積は約1.4m<sup>2</sup>を測る比較的小規模なものである。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土は炭粒が混入する茶灰色粘質土で、遺物は床面からやや浮いた状態で土壙中央を中心にコン

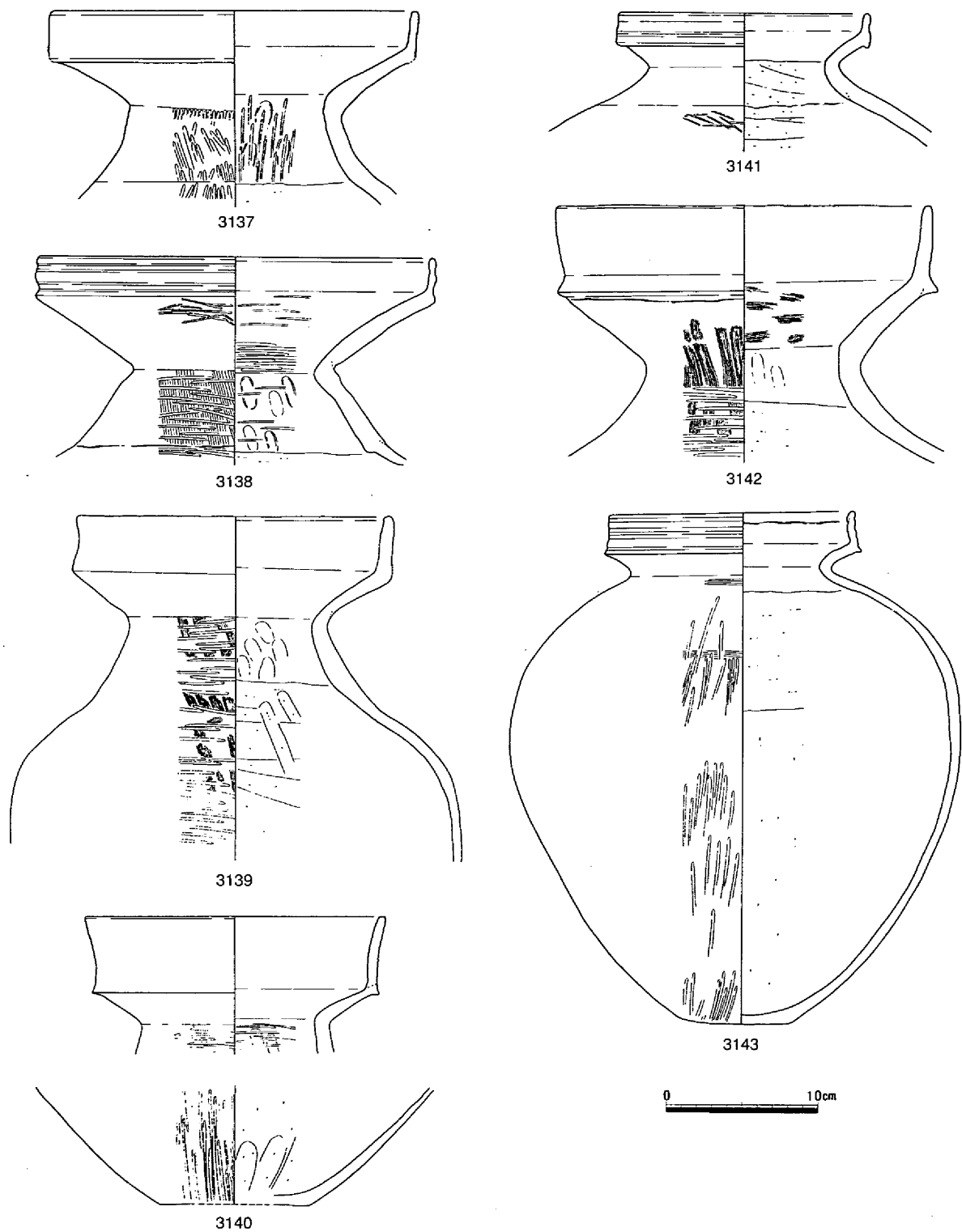


テナ4箱分の土器が出土した。器種は壺3137～3144をはじめ、甕3145～3148、鉢3149～3150などである。壺は「ハ」字状に短い頸部をもつ3137～3140・3142と頸部をもたない形態的には甕に似る3141・3143があり、いずれも口縁端部は上方に拡張している。3143の胴部最大径は中央やや上位にあり、緩く弧を描きながら平底へと続く。なお、下半部外面に煤の付着は認められなかった。3144の下半にはヘラ状工具による浅く細い線刻がなされている。円弧、あるいは屈曲線から構成されているようであるが、その表現するものは理解しがたい。甕3145・3146はほぼ完形に復元された小形なもので、いずれも口縁は「く」字状に開き、さらに外反気味の拡張部が延びる。外面ハケ、内面ヘラケズリするものの小形のわりに器壁が厚い。いっぽう、3147・3148の口縁は上部に引き出されるもので、3147には刷毛状工具によるナデが、3148は強いヨコナデにより凹部が形成されている。小形の鉢3149は椀状を呈すも

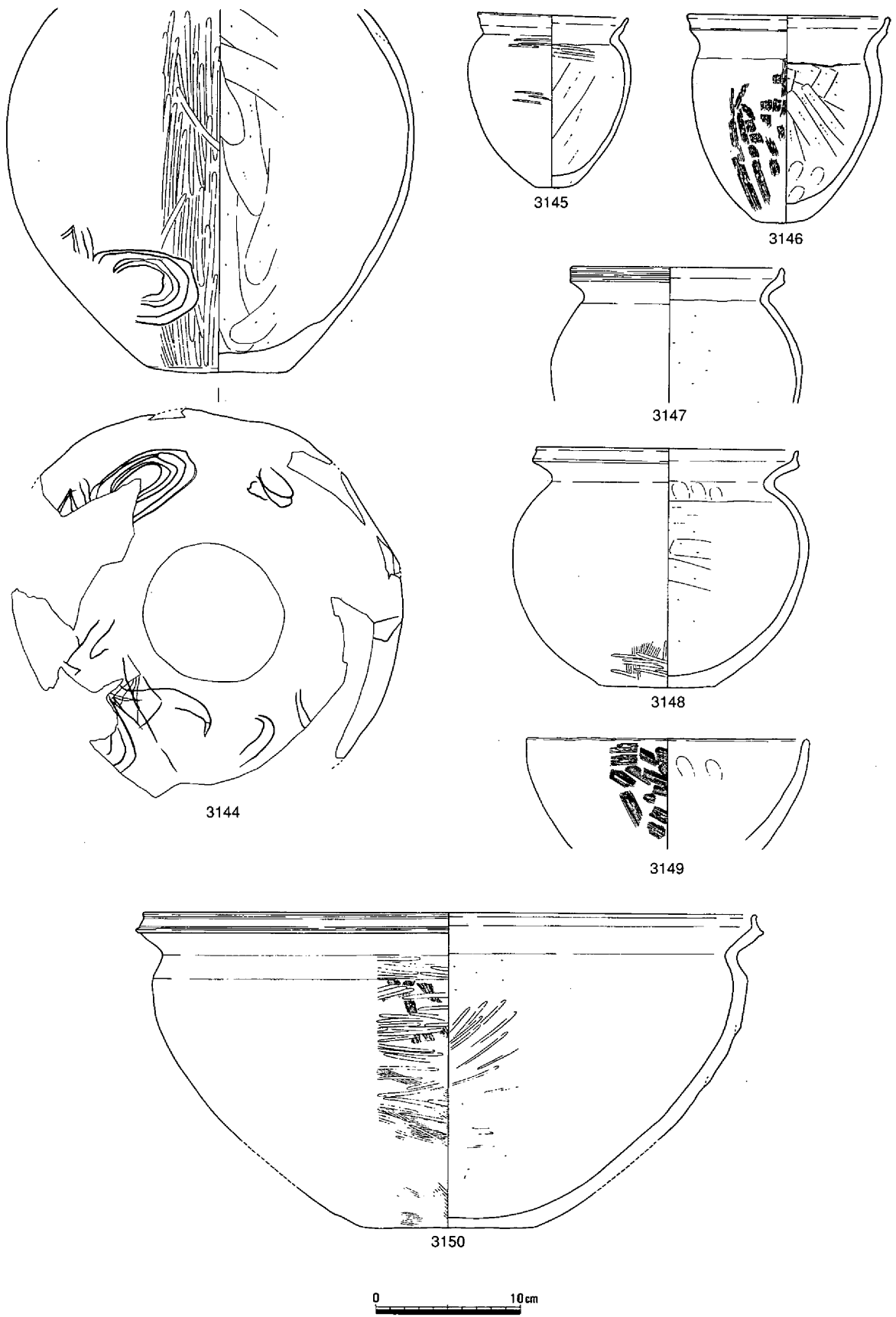


第879図 方形土壙136 (1/30)

ので、外面ハケ調整、内面押圧ナデで仕上げしており、全体に器壁は厚い。大形の3150は口縁のつくりは3148と同様で、体部の外面はハケ調整の後ヘラミガキ、内面はヘラミガキされている。以上、土器の特徴は弥・後・Ⅳを示し、当土壌はこの期に埋没してものと考えられる。(江見)



第880図 方形土壌136出土遺物① (1/4)



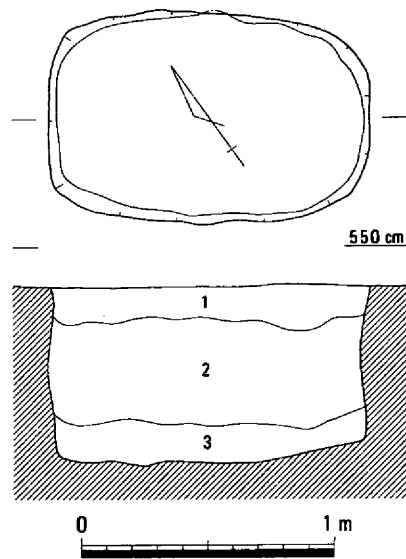
第881図 方形土壙136出土遺物② (1/4)

方形土壇137 (第554・882図)

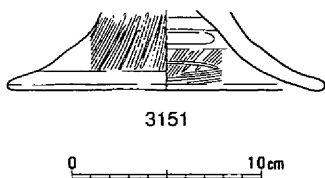
方形土壇136の南東3mから検出された。平面長方形を呈し、規模は83×126cm、深さ70cmを残す。床面積は0.83m<sup>2</sup>を測る。床は中央がくぼみ気味であるがほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、3151のほかは甕細片のみであった。3151は台付鉢の脚台部と思われるもので、内外面にハケメが認められる。弥・後・Ⅲに属すものか。(江見)

方形土壇138 (第554・883図)

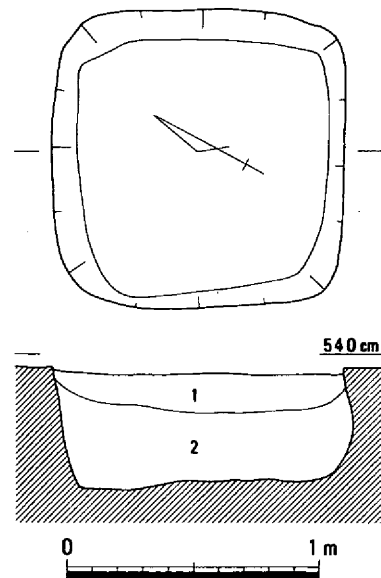
方形土壇137の南東6mから検出された。平面方形を呈し、規模は116×118cm、深さ45cmを残す。床面積は0.91m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁は一部内傾する箇所が認められるもののほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、小形の鉢あるいは高杯と思われる3152のほか、甕細片が出土するのみで、これら土器の特徴は弥・後・Ⅲ～Ⅳに属すものと思われる。(江見)



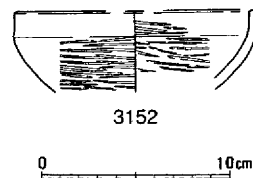
- 1 暗黄褐色粘質土  
(炭含)
- 2 茶灰色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)
- 3 暗茶灰色粘質砂  
(炭含)



第882図 方形土壇137 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 灰黄茶色粘質土  
(土器片・焼土含)
- 2 暗茶黄灰色粘質土  
(土器片・焼土・炭多含)



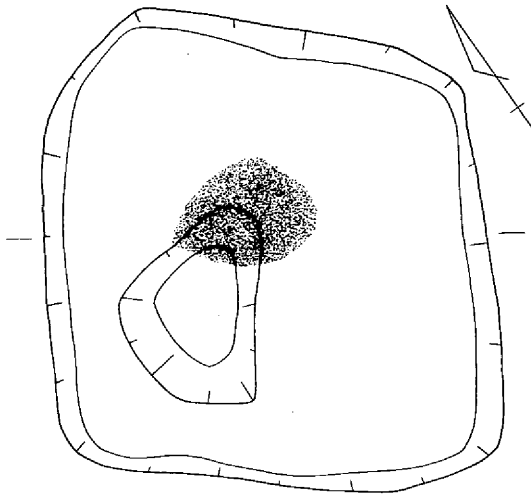
第883図 方形土壇138 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

方形土壇139 (第554・884図、図版166)

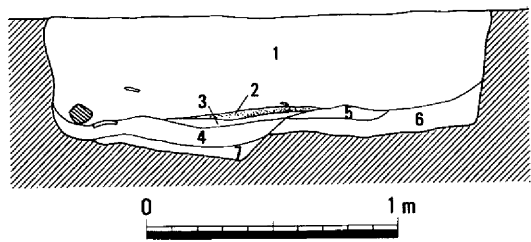
方形土壇138の南から数mから検出された。平面不整形方形を呈し、規模は176×182cm、深さ57cmを残す。床面積は2.53m<sup>2</sup>を測る。床面南東寄りに一部さらに掘り下げた部分が検出されているが、周囲は総じて平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。第1層下部からは炭層とともに焼土面の広がり確認

され、遺物は主にこれより上層から出土している。器種は壺をはじめ甕、高杯、鉢などであるが、いずれも破片で量も少ない。壺と思われる3153は口縁拡張部がほぼ垂直に立ち上がり、甕3156・3158の

口縁拡張部も壺と同様である。鉢3161は外面ヘラミガキ、内面ナデが施されている。特異な遺物として、人形土製品C153が出土している。人間を模したものと思われ、高さ5cm、幅2cm、重量22.3gを残す。大きな頭部の顔面には目、口が窪み、鼻は引き出されている。手足は欠損する。土器は弥・後・IVの特徴を示す。(江見)

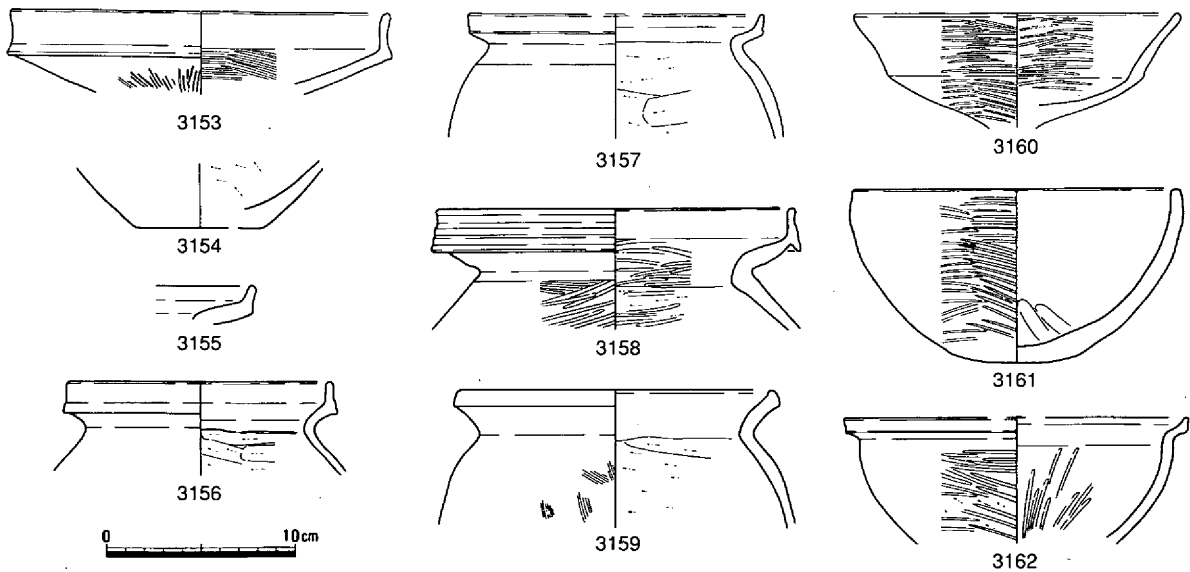


540cm



- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 茶灰色粘質土<br>(黄色粘質土塊含) | 6 茶灰色粘質土<br>(炭・灰多含)           |
| 2 炭層                  | 7 黄灰褐色粘質土<br>(茶灰色粘質土塊含・焼土塊少含) |
| 3 赤褐色焼土層              |                               |
| 4 黄灰褐色粘質土             |                               |
| 5 黄灰褐色粘質土<br>(炭・灰含)   |                               |

0 5cm



第884図 方形土壇139 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4)

方形土壇140 (第554・885図)

Cj608区の南西に位置し、土壇384を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は81×147cm、深さ43cmを残す。床面積は0.91m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸があるもののほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は皆無であったが、周辺の状況から弥生時代後期に埋没したものと判断した。(江見)

**方形土壙141**（第554・886図）

方形土壙140の南西約7mから検出された。平面不整形を呈し、規模は113×136cm、深さ50cmを残す。床面積は1.25m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は内傾気味ながら垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺および甕細片が出土している。（江見）

**方形土壙142**（第554・887図）

方形土壙141の北東3mから検出された。平面長方形を呈し、規模は178×237cm、深さ約80cmを残す。床面積は3.35m<sup>2</sup>を測る。床は中央がわずかに高く、壁際に向かって下がっており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は甕および鉢が出土している。**3164**はミニチュア鉢で、**3165**は上げ底を呈す鉢で、内面ヘラミガキである。これらの土器は弥・後・Ⅲの範疇のものか。（江見）

**方形土壙143**（第554・888図）

方形土壙142の北から検出された。平面長方形を呈し、規模は88×140cm、深さ53cmを残す。床面積は0.96m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、壺、甕、鉢などの破片が出土している。壺**3166**の内外面はヘラミガキが施され、鉢**3168**は外面に押圧痕、内面にハケ痕跡が残る。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅳの範疇のものと思われる。（江見）

**方形土壙144**（第554・889図）

方形土壙143の北7mに位置し、土壙378に切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は68×100cm、深さ47cmを残す。推定床面積は約0.4m<sup>2</sup>を測る。床はやや凹凸し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺および甕の破片が出土している。（江見）

**方形土壙145**（第554・890図）

方形土壙144の北西数mに位置し、方形土壙146に一部切られて検出された。平面方形を呈し、規模は96×109cm、深さ約40cmを残す。推定床面積は約0.9m<sup>2</sup>を測る。床は中央がややくぼみ、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに鉢および高杯の破片が出土するのみであるが、これら土器の特徴は弥・後・Ⅲを示すものと思われる。（江見）

**方形土壙146**（第554・891図）

方形土壙145の西に接して検出された。平面方形を呈し、規模は245×250cm、深さ約90cmを残す。床面積4.5m<sup>2</sup>を測る大形の土壙である。床は凹凸が認められるが全体に中央が高く、壁に向かって傾斜している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の破片のほか、土製紡錘車**C154**が出土している。（江見）

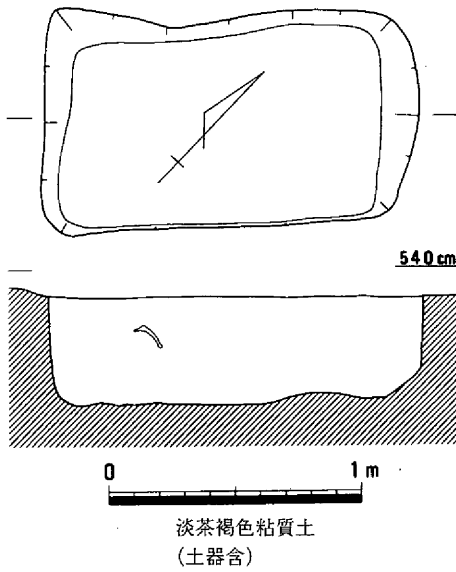
**方形土壙147**（第554・892図）

方形土壙146の西数mに位置し、方形土壙147に一部切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は117×195cm、深さ55cmを残す。床面積は1.99m<sup>2</sup>を測る。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、壺および甕の破片が出土するのみであった。壺**3173**は直口壺と思われるもので、胴部に凹線が巡らされている。これら土器の特徴は弥・後・Ⅲの範疇か。（江見）

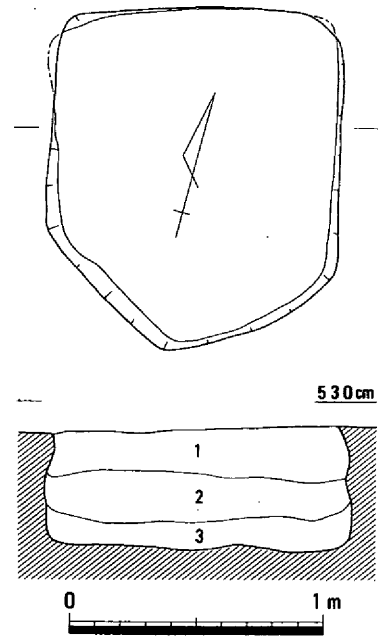
**方形土壙148**（第554・893図）

方形土壙147の北に接して検出された。平面方形を呈し、規模は219×222cm、深さ72cmを残す。床面積は4.39m<sup>2</sup>を測る大形の土壙である。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。埋土はいずれも土塊が混入しており、人為的に埋め戻された状況が想像される。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺、甕、高杯の細片が出土したのみである。（江見）



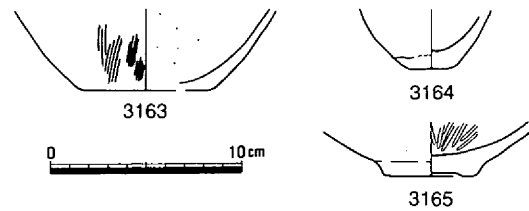
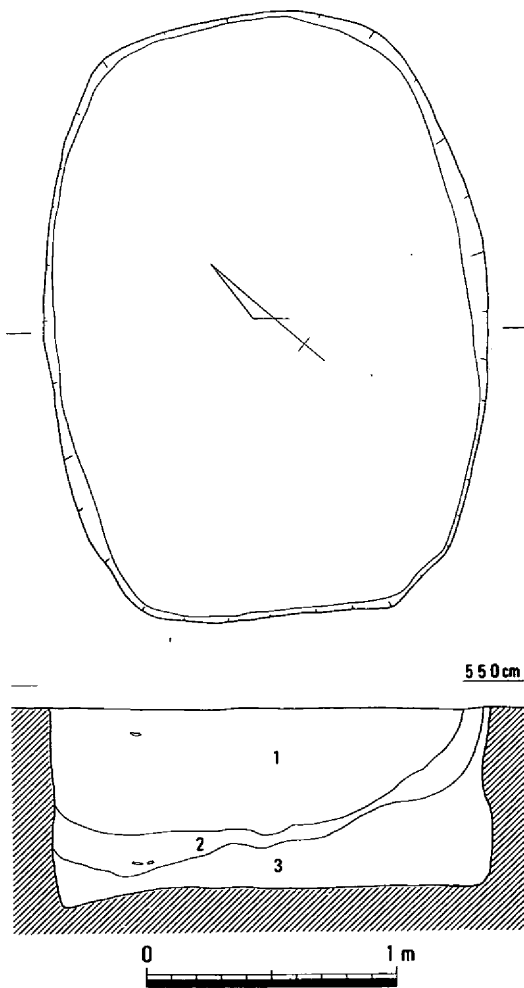


第885図 方形土壇140 (1/30)



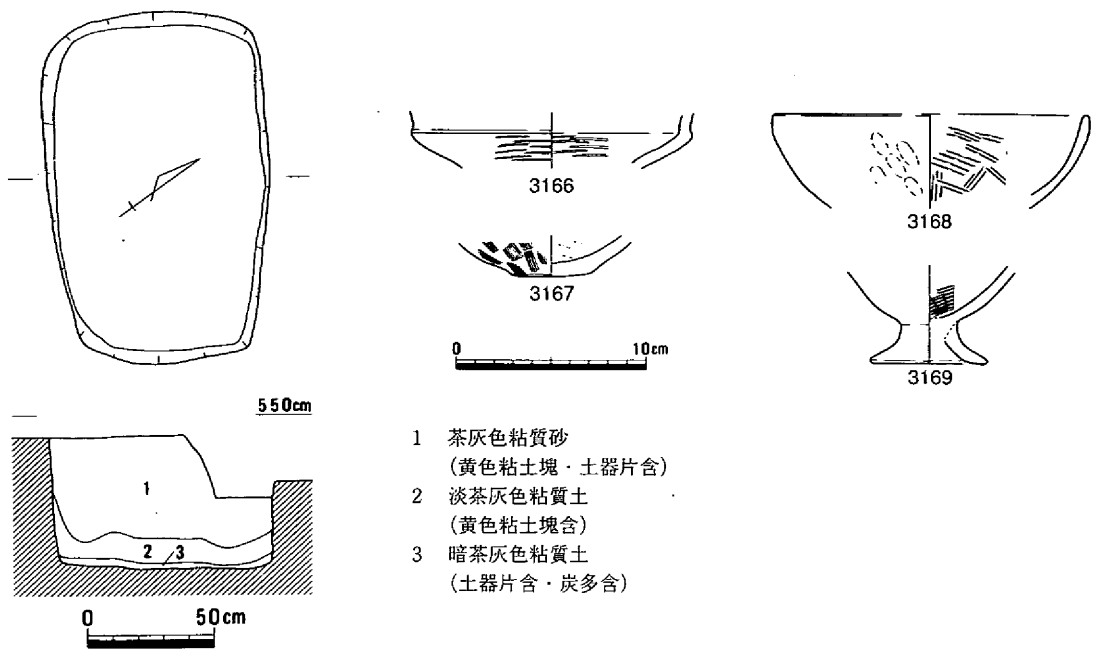
- 1 暗茶灰色砂質土  
(黄色粘質土塊含)
- 2 暗茶褐色砂質土  
(黄・灰色粘質土塊含)
- 3 茶灰褐色砂質土  
(灰色粘質土塊僅含)

第886図 方形土壇141 (1/30)



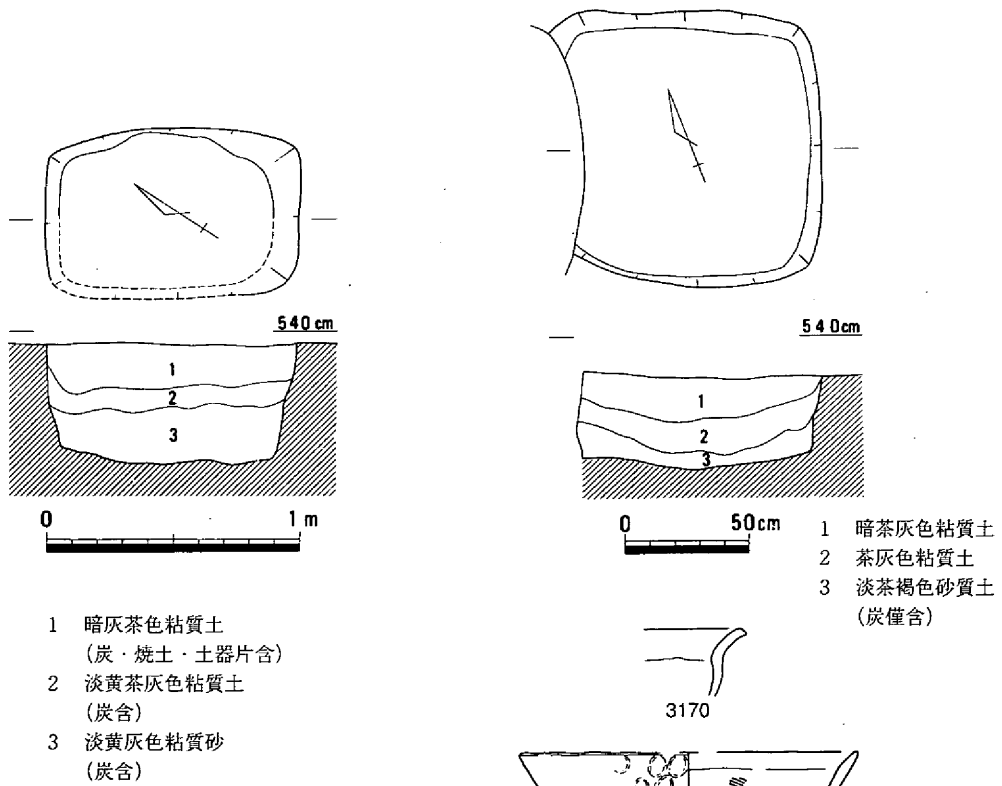
- 1 淡黄茶褐色粘質土  
(土器片・炭含)
- 2 灰茶色粘質土  
(土器片・炭含)
- 3 淡黄灰褐色粘質砂  
(土器片・炭含)

第887図 方形土壇142 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 茶灰色粘質砂  
(黄色粘土塊・土器片含)
- 2 淡茶灰色粘質土  
(黄色粘土塊含)
- 3 暗茶灰色粘質土  
(土器片含・炭多含)

第888図 方形土壙143 (1/30)・出土遺物 (1/4)

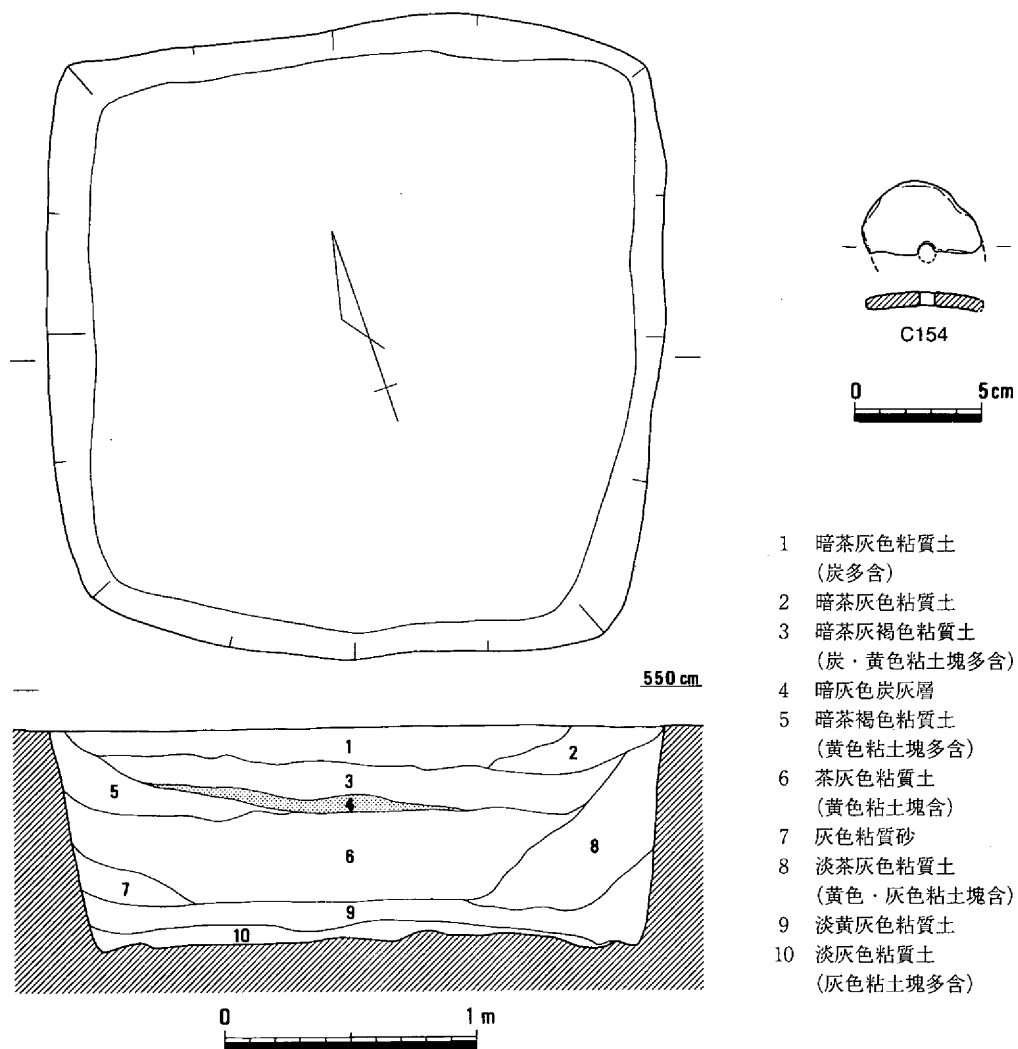


- 1 暗灰茶色粘質土  
(炭・焼土・土器片含)
- 2 淡黄茶灰色粘質土  
(炭含)
- 3 淡黄灰色粘質砂  
(炭含)

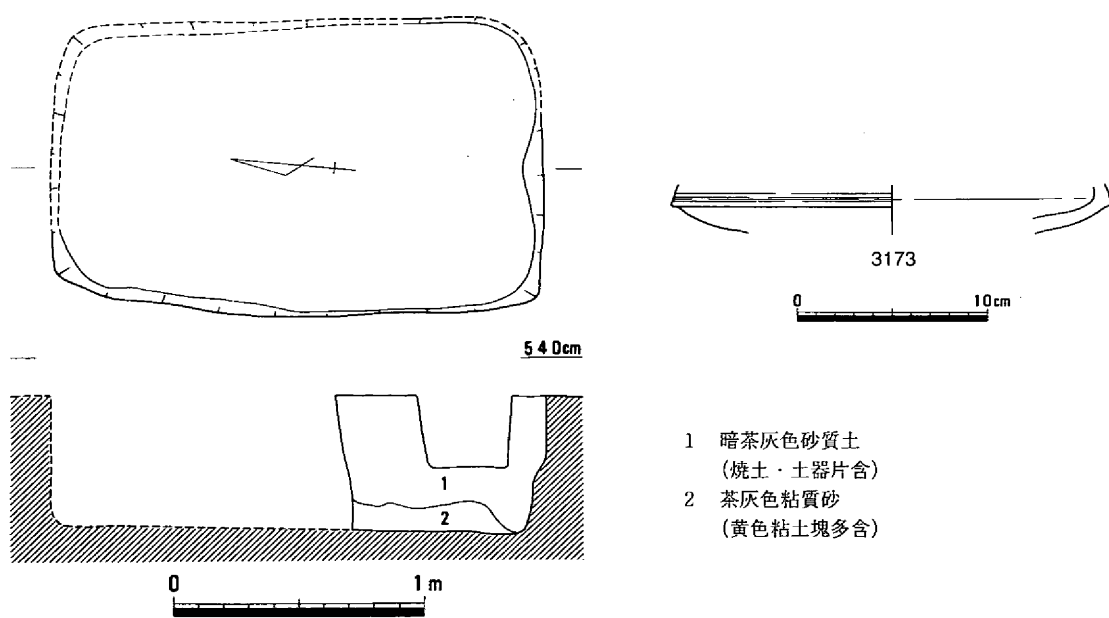
- 1 暗茶灰色粘質土
- 2 茶灰色粘質土
- 3 淡茶褐色砂質土  
(炭僅含)

第889図 方形土壙144 (1/30)

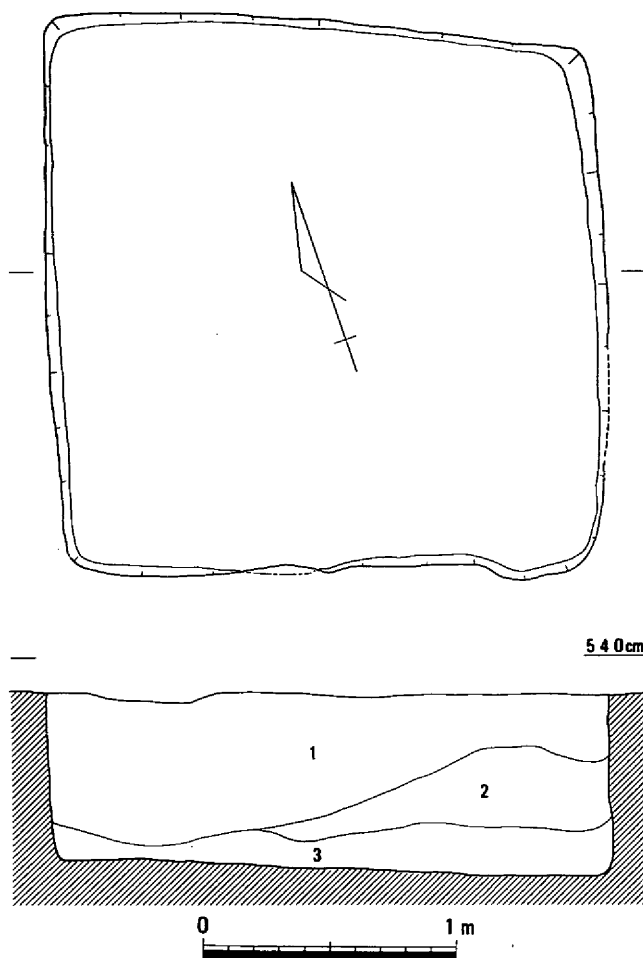
第890図 方形土壙145 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第891図 方形土壇146 (1/30)・出土遺物 (1/3)



第892図 方形土壇147 (1/30)・出土遺物 (1/4)

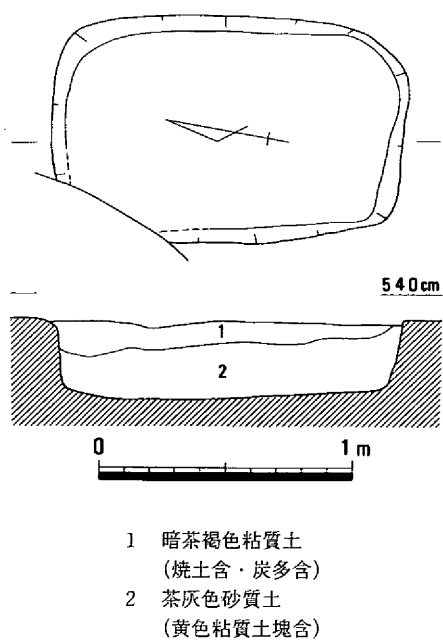


- 1 茶灰色粘質土  
(黄色粘質土塊多含)
- 2 淡茶褐色粘質砂  
(茶灰色粘質土塊少含)
- 3 淡茶灰色粘質砂  
(茶灰色粘質土塊含)

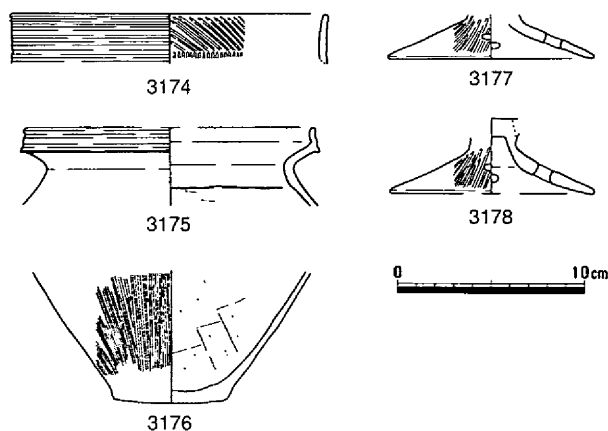
第893図 方形土壙148 (1/30)

方形土壙149 (第554・894図)

方形土壙148の南西6mに位置し、竪穴住居111に一部切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は89×139cm、深さ32cmを残す。床面積は約0.9m<sup>2</sup>を測る。床はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は壺、甕、高



- 1 暗茶褐色粘質土  
(焼土含・炭多含)
- 2 茶灰色砂質土  
(黄色粘質土塊含)



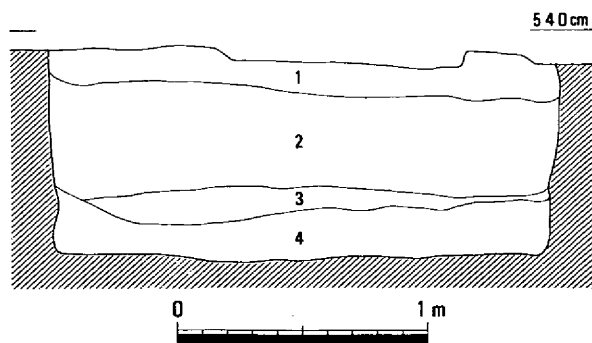
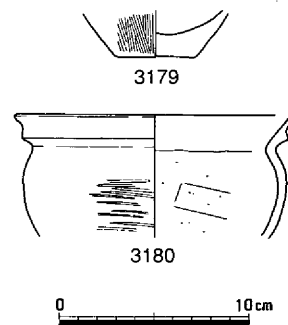
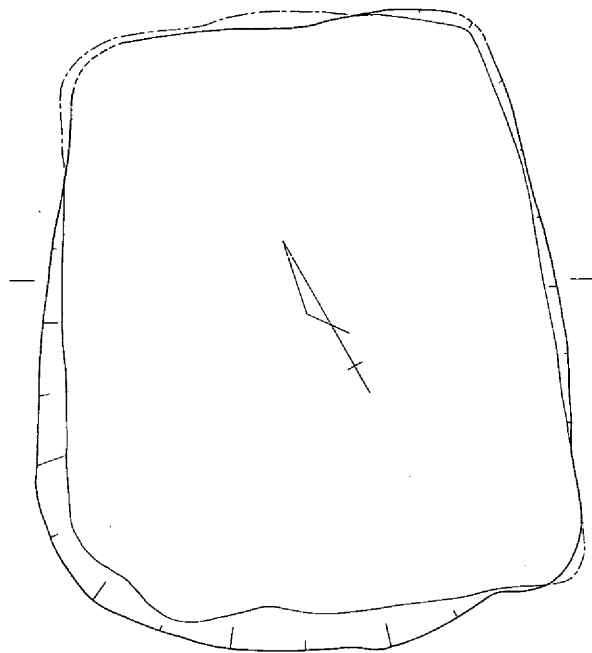
第894図 方形土壙149 (1/30)・出土遺物 (1/4)

杯などの破片が出土している。壺**3174**の外表面は凹線が巡り、内表面はヘラミガキがなされている。甕**3176**は底部が逆反りする。これら遺物の特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)

**方形土壙150** (第554・895図)

方形土壙149の西側から検出された。平面不整形方形を呈し、規模は210×247cm、深さ84cmを残す。床面積は4.35㎡を測る大形の土壙である。床は平坦で、壁は一部内傾する箇所もあるが、おおむね垂直に立ち上がる。埋土は下層にまで土塊を含むことから土壙廃棄の際、一気に埋め戻された様子が想像される。遺物は少なく、わずかに甕**3179**および鉢**3180**が出土するのみであった。**3179**は外面ハケ調整している。**3180**は口縁が「く」字状に延び、端部を薄くし拡張している。体部外面はハケ調整の

後ヘラミガキ、内面はヘラケズリしている。これらの土器の特徴は弥・後・Ⅲの範疇のものと考えられ、この期に廃棄されたものと思われる。(江見)



- 1 暗灰色粘質砂  
(黄色粘質土塊・焼土含)
- 2 黄色粘質土塊・暗茶灰色粘質土塊混合層
- 3 暗茶灰色粘質土
- 4 黄色粘質土塊・暗茶灰色粘質土塊混合層

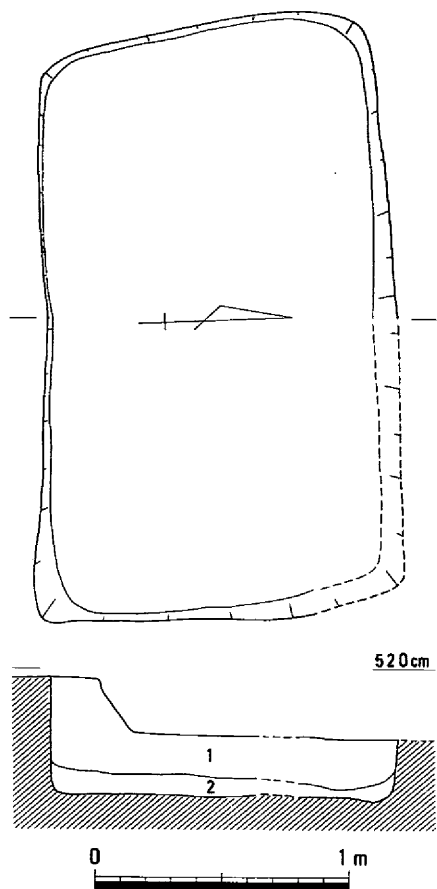
第895図 方形土壙150 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

**方形土壙151** (第554・896図)

方形土壙150の南に接して検出された。平面長方形を呈し、規模は137×239cm、深さ50cmを残す。床面積は約2.9㎡を測る。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺、甕、高杯の破片が出土している。(江見)

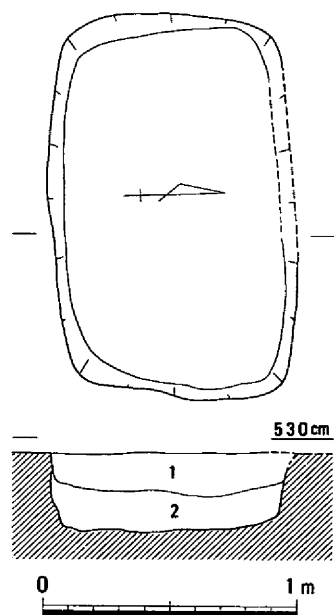
**方形土壙152** (第554・897図)

方形土壙151の南東15m、Cj604区の東部に位置し、土壙319を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は95×152cm、深さ32cmを残す。床面積は約1.1㎡を測る。床はほぼ平坦で、壁もおおむね



- 1 茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊・焼土塊含)  
2 暗茶灰色粘質砂 (焼土塊・黄色粘土塊含)

第896図 方形土壙151 (1/30)



- 1 暗茶灰色粘質砂  
2 茶灰色粘質砂 (黄色粘土塊多含)

第897図 方形土壙152 (1/30)

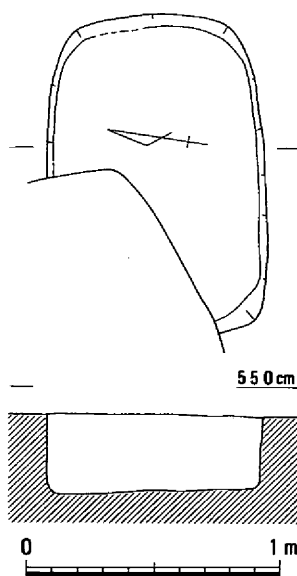
垂直に立ち上がる。埋土は2層からなり、下層は土塊が混入するものであった。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土するのみであった。(江見)

方形土壙153 (第554・898図)

方形土壙152の南西に位置し、古墳時代竪穴住居170に一部切られて検出された。平面長方形を呈し、規模は81×105cm、深さ40cmを残す。推定床面積は約0.9㎡を測る。床は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、図示した甕3181は口縁が緩く外反し、端部は肥厚し、外方に引き出されている。この特徴は主に弥生時代後期前半の特徴を示し、混入でなければ当土壙の初源に近いものと思われる。(江見)

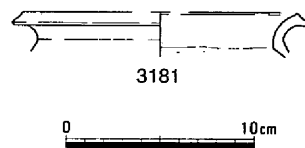
方形土壙154 (第554・899図)

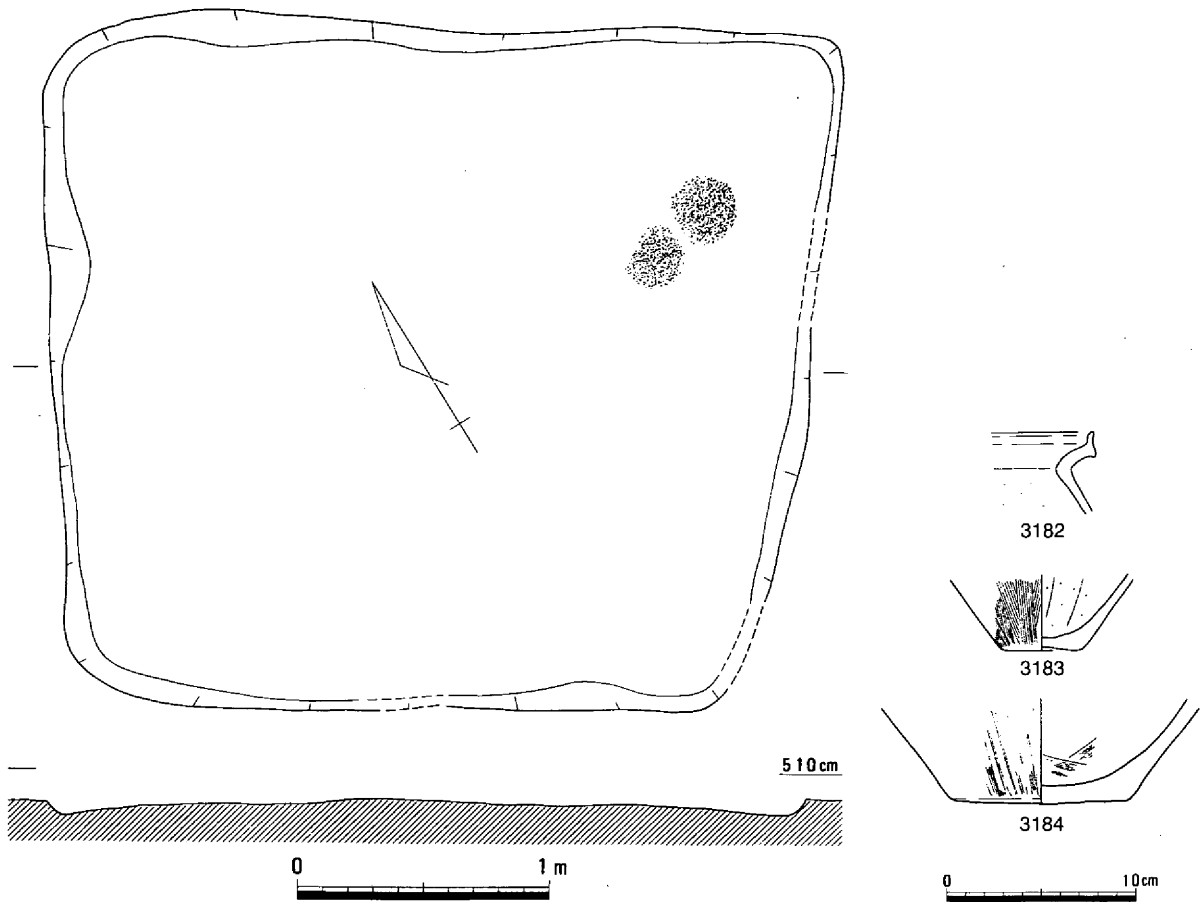
方形土壙153の北4mから検出された、当遺跡で最大規模の土壙である。平面不整形方形を呈し、規模は266×302cm、深さ6cmを残す。床面積は7.27㎡を測る。床は中央部が僅かに高く、壁に向かって緩く傾斜している。壁はほぼ垂直に立ち上がるものと思われる。床面北西からは2か所に被熱面が検出されている。遺物は少なく、わずかに甕片が出土するのみであったが、その特徴は弥・後・Ⅲを示す。(江見)



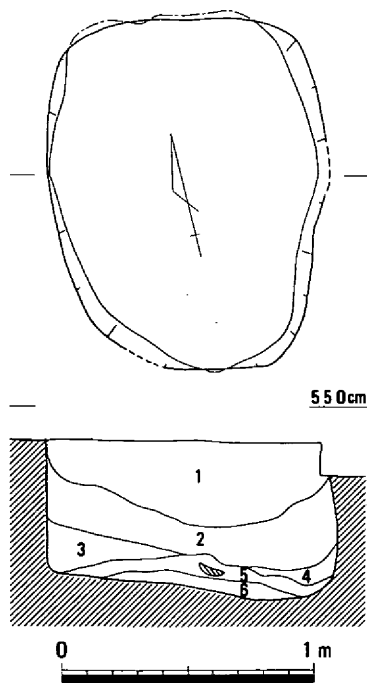
- 淡茶褐色粘質微砂 (炭・土器・黄色粘土塊含)

第898図 方形土壙153 (1/30)・出土遺物 (1/4)





第899図 方形土壇154 (1/30)・出土遺物 (1/4)



方形土壇155 (第554・900図)

Cj6 04区の南中央、方形土壇88の東から検出された。平面不整長方形を呈し、規模は111×137cm、深さ約60cmを残す。床面積は1.17m<sup>2</sup>を測る。床は東にやや傾斜するものの平坦で、壁は内傾する箇所も認められるが、ほぼ垂直に立ち上がる。弥生時代後期と思われる土器細片が出土するのみであった。(江見)

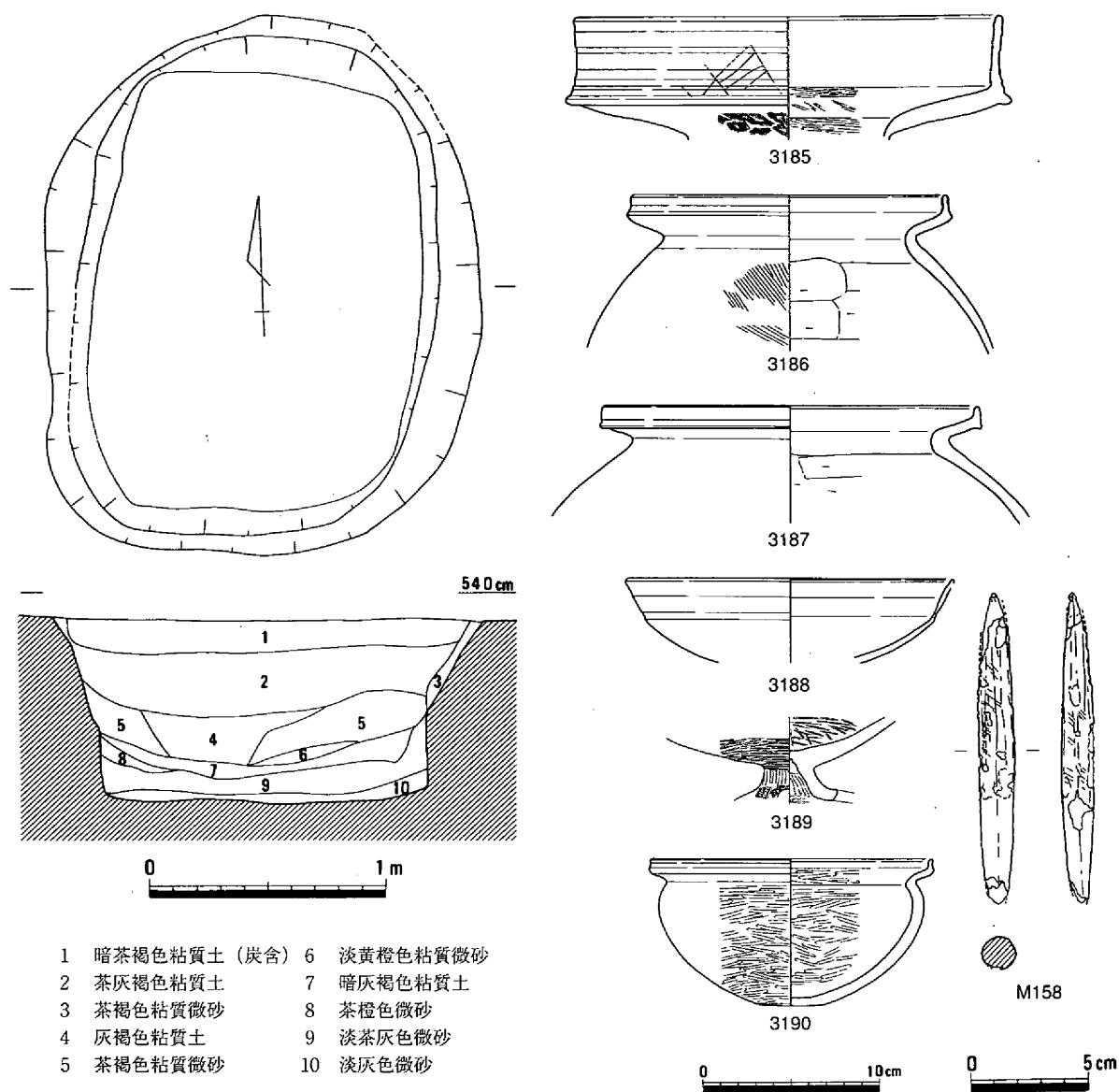
- 1 淡褐色粘質微砂 (炭含)
- 2 淡灰褐色粘質微砂 (炭含)
- 3 淡茶褐色粘質微砂 (炭含)
- 4 淡灰茶色粘質微砂 (炭含)
- 5 茶褐色粘質土 (炭・焼土含)
- 6 淡黄褐色粘質土 (炭含)

方形土壇156 (第554・901図、図版169)

方形土壇157の西隣において検出された遺構である。上部はかなり削平されている。規模は184×230cm、深さは78cmを測る。床面は平坦である。埋土は10層に区分されるが、1層は炭を含む。断面は逆台形を呈している。

出土遺物としては、土器、銅製品がある。土器は壺3185、甕3186・3187、

第900図 方形土壇155 (1/30)



- |                |            |
|----------------|------------|
| 1 暗茶褐色粘質土 (炭含) | 6 淡黄橙色粘質微砂 |
| 2 茶灰褐色粘質土      | 7 暗灰褐色粘質土  |
| 3 茶褐色粘質微砂      | 8 茶橙色微砂    |
| 4 灰褐色粘質土       | 9 淡茶灰色微砂   |
| 5 茶褐色粘質微砂      | 10 淡灰色微砂   |

第901図 方形土壙156 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

高杯3188・3189、鉢3190などの器種がある。銅製品M158は先端が尖り、紡錘形を呈した銅製品である。断面は丸い。表面全体は研磨して仕上げしており、擦痕がみられる。形状からは器種や用途は不明である。この銅製品は第1層において、先端を上にして垂直の状態出土した。出土状態からみて、この遺構が廃棄され、埋没が最終段階に近い頃に投棄されたものと推察される。後述されるように、鉛同位体分析では本遺跡出土の銅鐸、貨泉と同じ範囲内に属し、国産でないこと、成分のほとんどが銅であることが判明している。用途については類例の増加によって検討しなければならないが、現状では製品ではなくて、むしろ銅素材を想定しておきたい。廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本) 方形土壙157 (第554・902図)

方形土壙156の東隣に位置する。規模は124×160cm、深さは42cmを測る。床面は平坦である。埋土は5層に区分され、1・2層には炭を含む。堆積は水平である。断面は逆台形を呈する。図示できる遺物の出土はないが、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



方形土壙158 (第554・903図)

方形土壙160の西隣に位置する。規模は141×168cm、深さは49cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分されるが、ほとんどは1層である。堆積は水平である。断面は箱形を呈する。出土遺物は甕3191～3193、高杯3194・3195がある。廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

方形土壙159 (第554・904図)

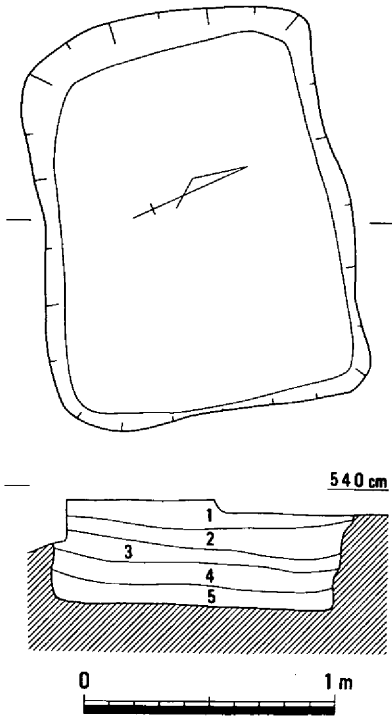
方形土壙160・161と切り合い関係をもつ遺構であるため、残存状態が悪い。確認された規模は42×132cm、深さは17cmである。160・161に切られてはいるが、時期は弥・後の範疇に入るものである。(松本)

方形土壙160 (第554・904図)

方形土壙161に切られた状態で検出された。規模は173×176cm、深さは75cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分された。断面は箱形を呈する。遺物はないが、廃棄された時期は弥・後の範疇に入ると思われる。(松本)

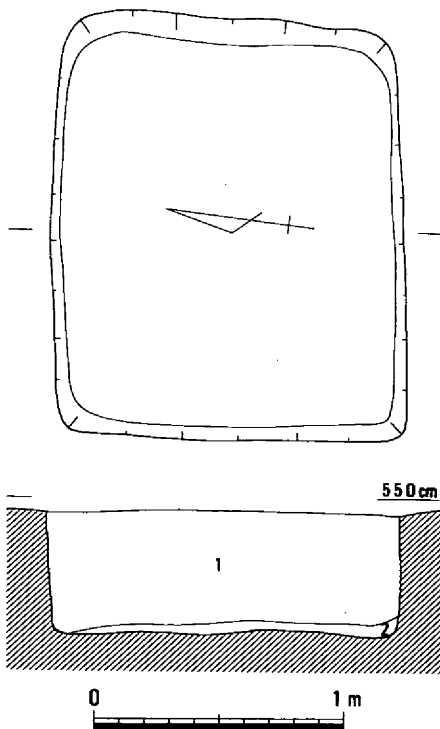
方形土壙161 (第554・904図)

方形土壙159・160を切る状態で検出された。規模は146

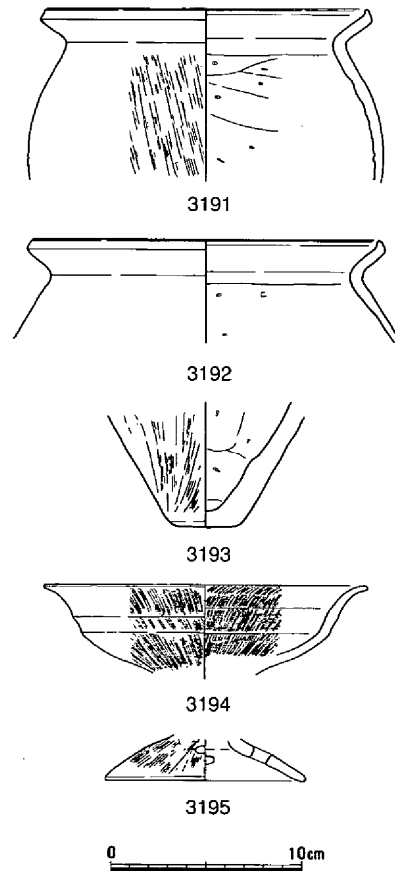


- 1 暗茶褐色粘質微砂 (炭少含)
- 2 灰褐色粘質微砂 (炭少含)
- 3 茶灰褐色粘質微砂
- 4 淡黄褐色粘質微砂
- 5 淡黄灰色粘質微砂

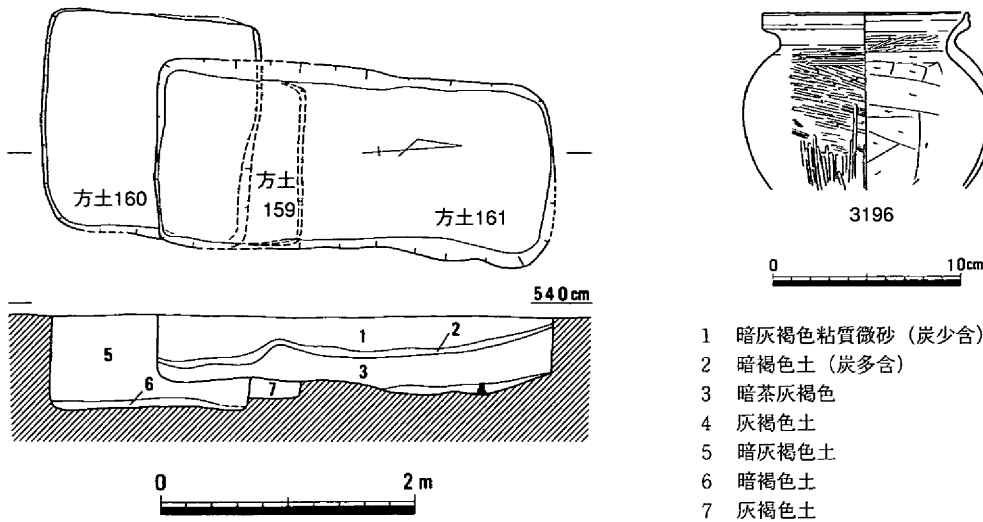
第902図 方形土壙157 (1/30)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 淡黄橙色粘質土



第903図 方形土壙158 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第904図 方形土壙159~161 (1/30)・方形土壙161出土遺物 (1/4)

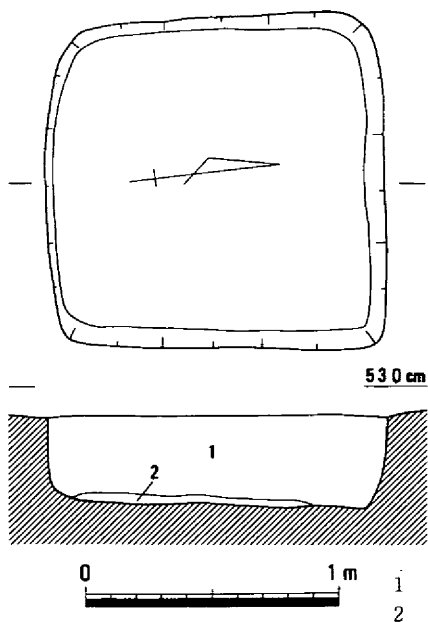
×315cm、深さ63cmを測る。床面は凹凸がみられる。埋土は4層に区分されるが、1・2層には炭が含まれている。遺物としては甕3196がある。廃棄された時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃と思われる。(松本)

方形土壙162 (第554・905図)

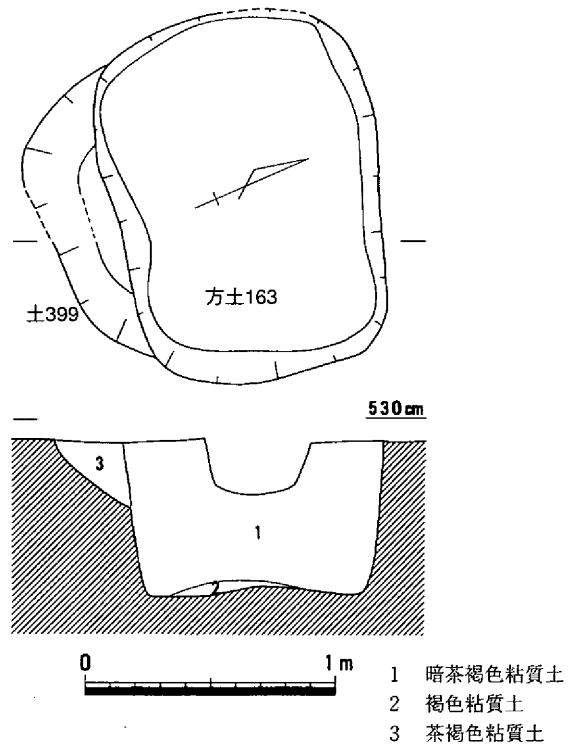
土壙387の西隣に位置する。規模は134×134cm、深さは36cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

方形土壙163 (第554・906図)

方形土壙162の南約1mに位置する。規模は112×146cm、深さは62cmを測る。床面中央部はやや高くなっている。埋土は2層に区分される。廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第905図 方形土壙162 (1/30)



第906図 方形土壙163・土壙399 (1/30)

(6) 土壇

土壇188 (第552・907図)

Cf507区で検出した胴膨らみの長方形土壇である。規模は、長さ186cm、幅140cm、深さ32cmを測ることができる。底面の標高は513cmである。

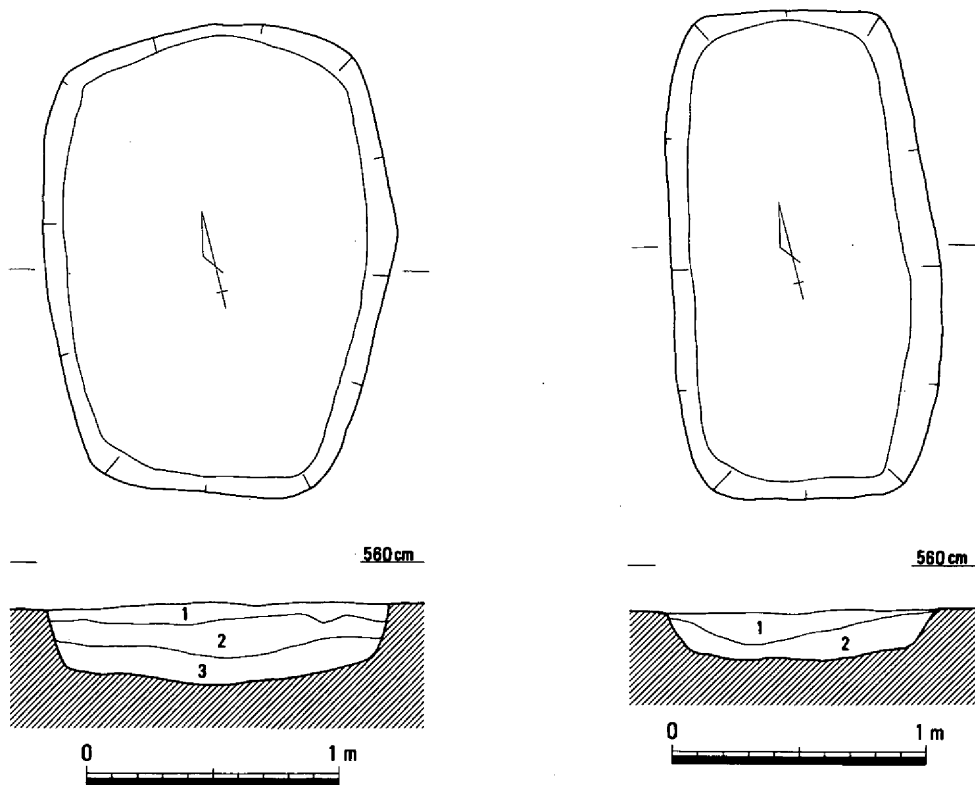
遺物は、弥生土器壺が1点出土している。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

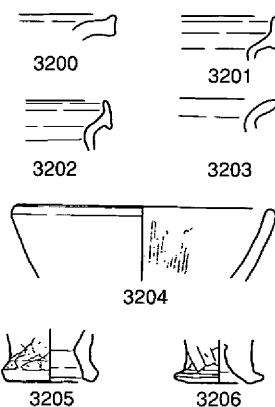
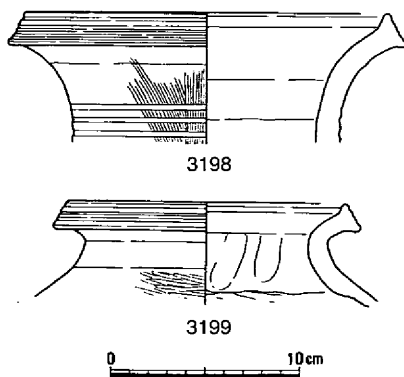
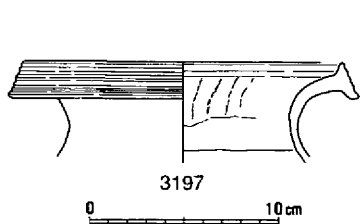
土壇189 (第552・908図、図版47)

Cf507区で検出した東胴膨らみの長方形土壇である。規模は、長さ193cm、幅103cm、深さ22cmを



- 1 茶褐色粘質微砂
- 2 淡褐色粘質土 (炭僅少含・土器含)
- 3 淡灰褐色粘質土

- 1 褐色粘質微砂 2 淡褐色粘質土



第907図 土壇188 (1/30)

・出土遺物 (1/4)

第908図 土壇189 (1/30)・出土遺物 (1/4)

測ることができる。底面の標高は524cmである。

遺物は、弥生土器が9点出土している。製塩土器は2点ある。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳとしたい。

(浅倉)

**土壌190** (第552・909図)

Cg 5 07区で検出した不整円形土壌である。規模は、長さ122cm、幅112cm、深さ30cmを測ることができる。底面の標高は535cmである。

遺物は、弥生土器が8点出土している。製塩土器は3点ある。3211は完形の台付鉢である。口径20.1cm、底径12.6cm、器高18.8cmを測る。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳとしたい。

(浅倉)

**土壌191** (第552・910図)

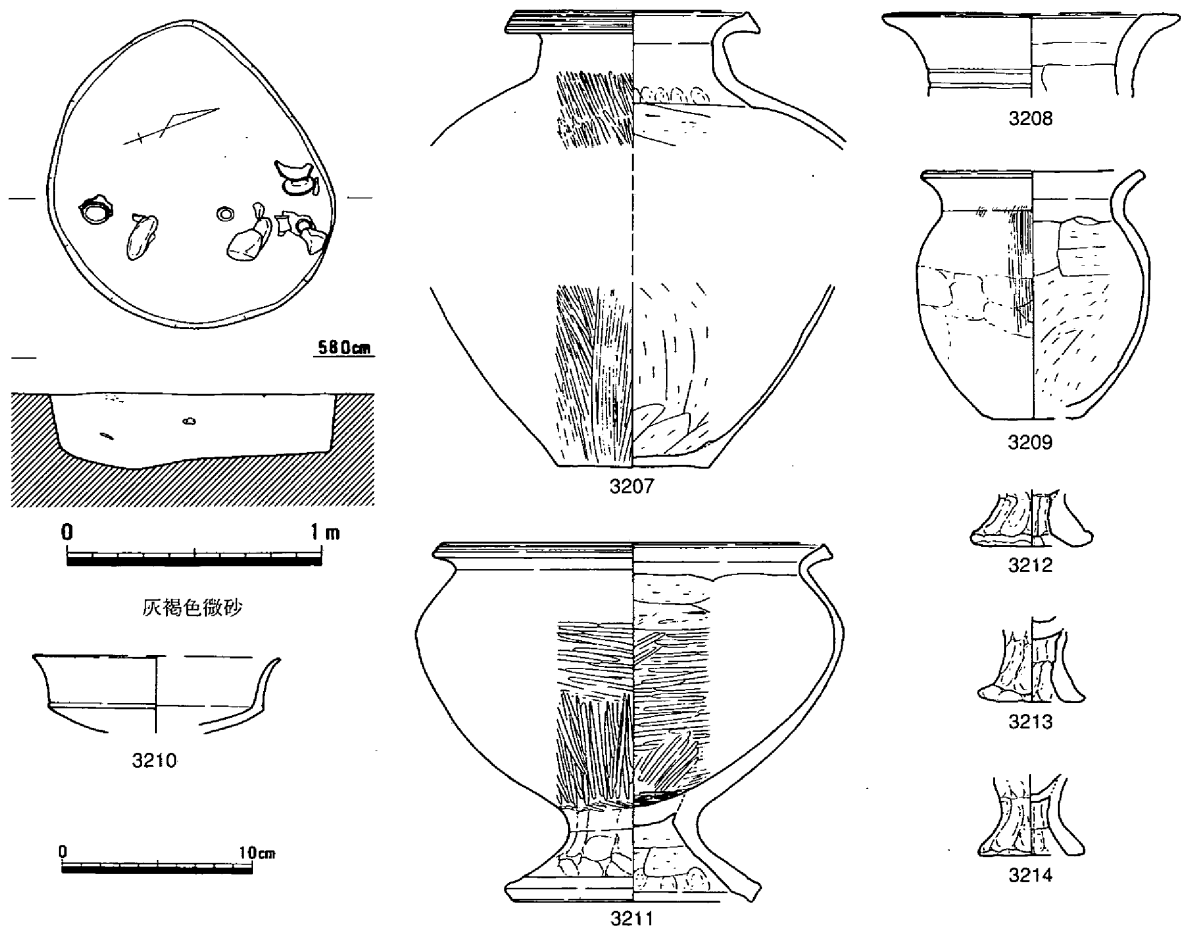
Cg 5 07区で検出した楕円形土壌である。規模は、長さ83cm、幅69cm、深さ18cmを測ることができる。底面の標高は545cmである。黄色粘土を伴う。遺物は、弥生土器細片が2点出土している。この遺構は粘土貯蔵穴であろう。時期は弥・後・Ⅳとしたい。

(浅倉)

**土壌192** (第552・911図)

Cg 5 08区で検出した楕円形土壌である。規模は、長さ262cm、幅180cm、深さ40cmを測ることができる。底面の標高は530cmである。

遺物は、弥生土器細片が3点出土している。



第909図 土壌190 (1/30)・出土遺物 (1/4)

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

**土壌193 (第552・912図)**

Cg507区で検出した長方形土壌である。規模は、検出長140cm、幅76cm、深さ17cmを測ることができる。底面の標高は537cmである。

遺物は、弥生土器細片が4点出土している。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

**土壌194 (第552・913図)**

Cg508区で検出した楕円形土壌である。規模は、長さ105cm、幅58cm、深さ27cmを測ることができる。底面の標高は535cmである。

遺物は、弥生土器細片が5点出土している。3225は高杯で、口径30.0cmと推定できる。

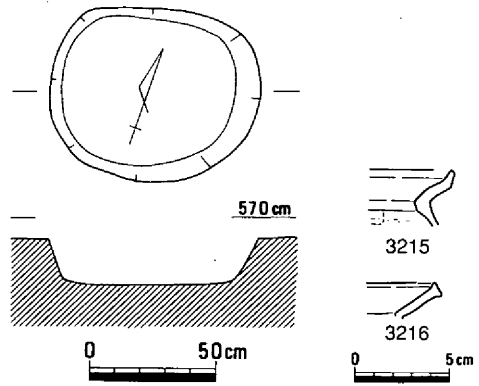
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅱとしたい。

(浅倉)

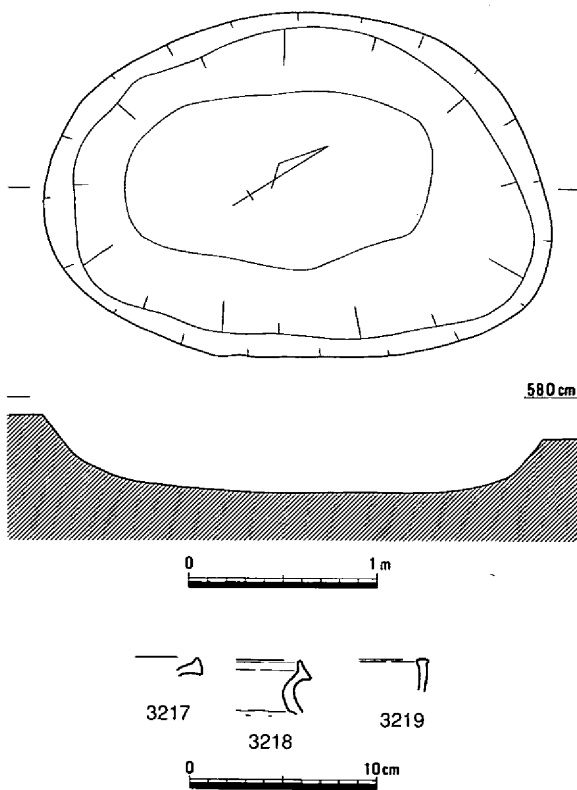
**土壌195 (第552・914図)**

Cg508区で検出した円形土壌である。規模は、長さ65cm、幅50cm、深さ26cmを測ることができる。底面の標高は554cmである。

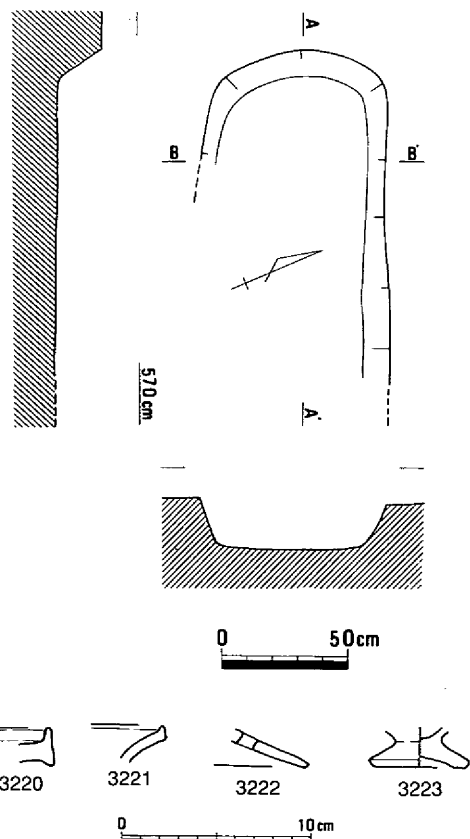
遺物は、弥生土器細片が2点出土している。3229・3230は甕の口縁部である。



第910図 土壌191 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第911図 土壌192 (1/40)・出土遺物 (1/4)



第912図 土壌193 (1/30)・出土遺物 (1/4)

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

土壙196 (第552・915図)

Cg 508区で検出した胴膨らみの方形土壙である。規模は、長さ200cm、幅192cm、深さ43cmを測ることができる。底面の標高は522cmである。

遺物は、弥生土器片が出土しているが、口縁部がないため図示できない。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥生中期かもしれない。

(浅倉)

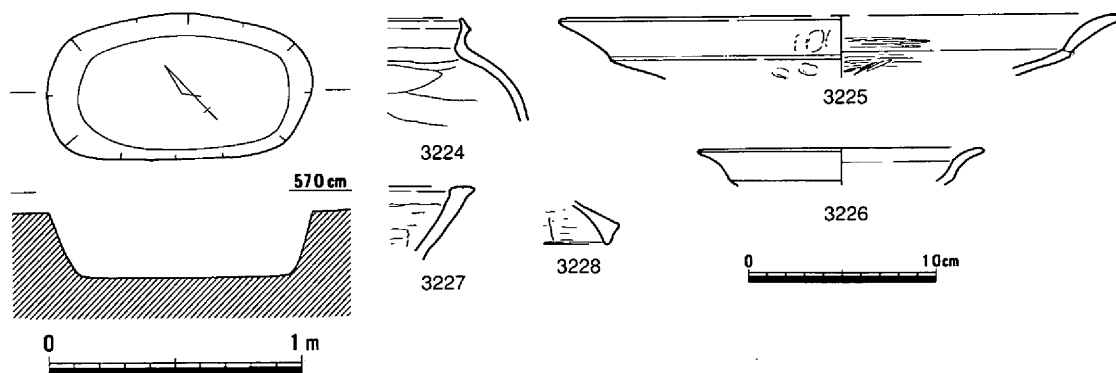
土壙197 (第552・916図)

Cg 508区で検出した円形土壙である。規模は、長さ69cm、幅60cm、深さ42cmを測ることができる。底面の標高は543cmである。

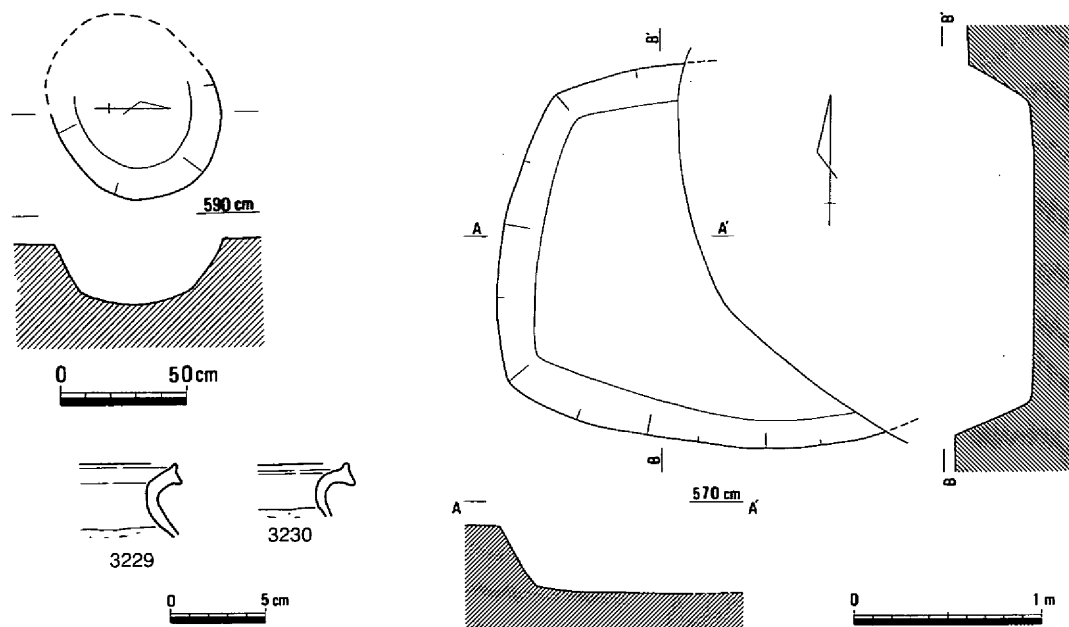
遺物は、弥生土器が9点出土している。甕、高杯、鉢がある。3239は口径14.7cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥、後、Ⅲとしたい。

(浅倉)



第913図 土壙194 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第914図 土壙195 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第915図 土壙196 (1/40)

土壙198 (第552・917図)

Cg509区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ136cm、幅94cm、深さ30cm測ることができる。底面の標高は534cmである。

遺物は、弥生土器が2点出土している。甕である。3241は口径16.0cmである。

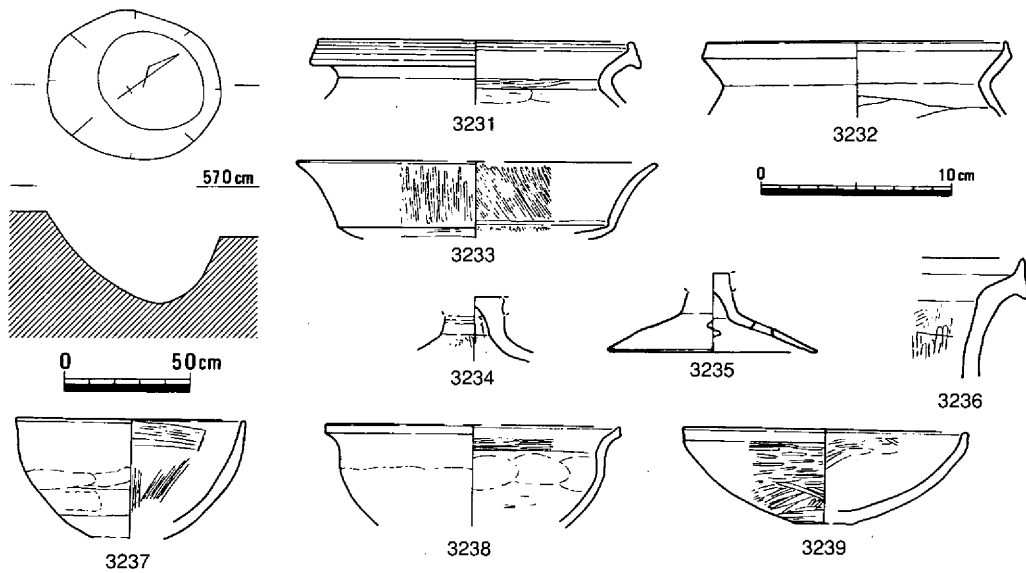
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

土壙199 (第552・918図)

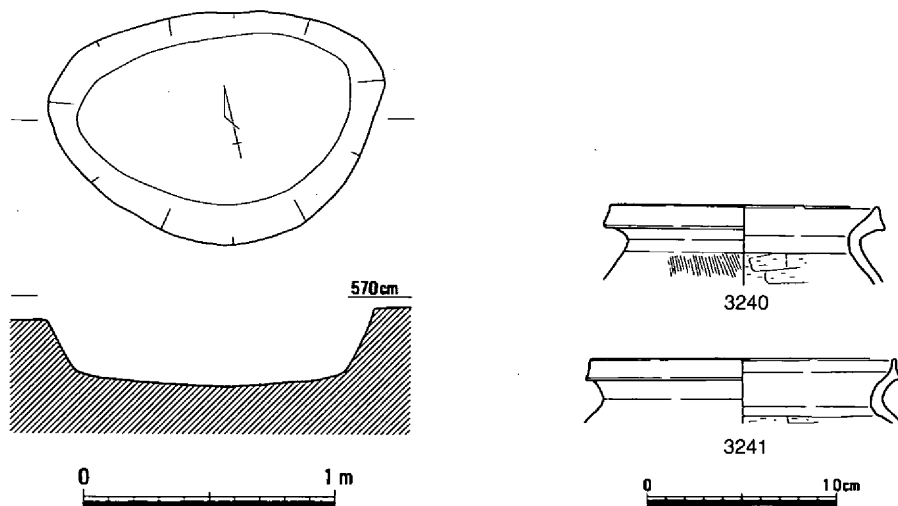
Cg600区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ95cm、幅75cm、深さ21cmを測ることができる。底面の標高は547cmである。

遺物は、弥生土器が8点出土している。壺、甕、高杯がある。3243は口径19.3cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)



第916図 土壙197 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第917図 土壙198 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙200 (第552・919図)

Cg 5 09区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ89cm、幅62cm、深さ49cmを測ることができる。底面の標高は517cmである。

遺物は、弥生土器が4点出土している。甕、高杯がある。3252は口径12.0cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

土壙201 (第552・920図)

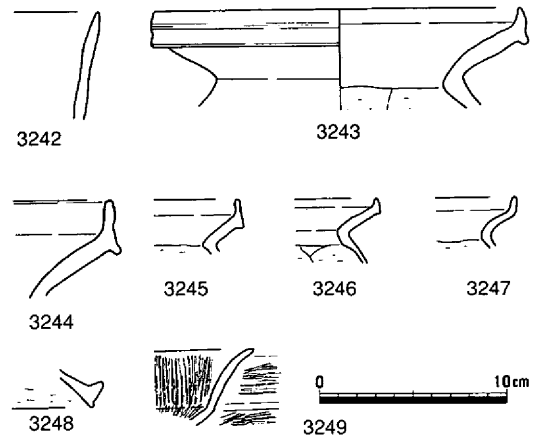
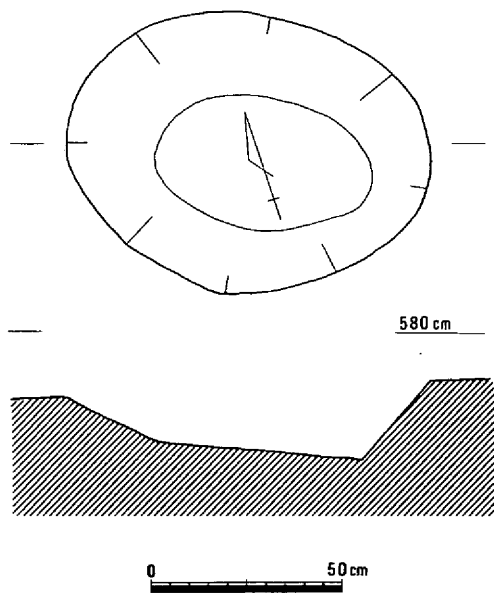
Cg 5 09区で検出した不整楕円形土壙である。規模は、長さ93cm、幅77cm、深さ23cmを測ることができる。底面の標高は532cmである。

遺物は、弥生土器が10点出土している。壺、甕、高杯がある。3254は口径18.0cmである。

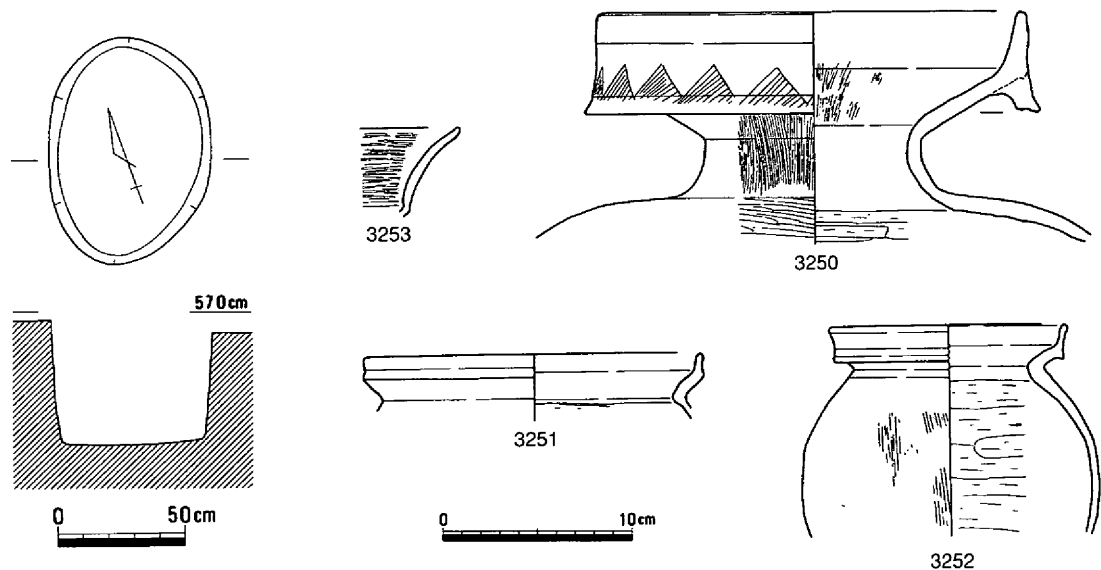
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

土壙202 (第552・921図)

Cg 6 00区で検出した楕円形土壙である。規模は、

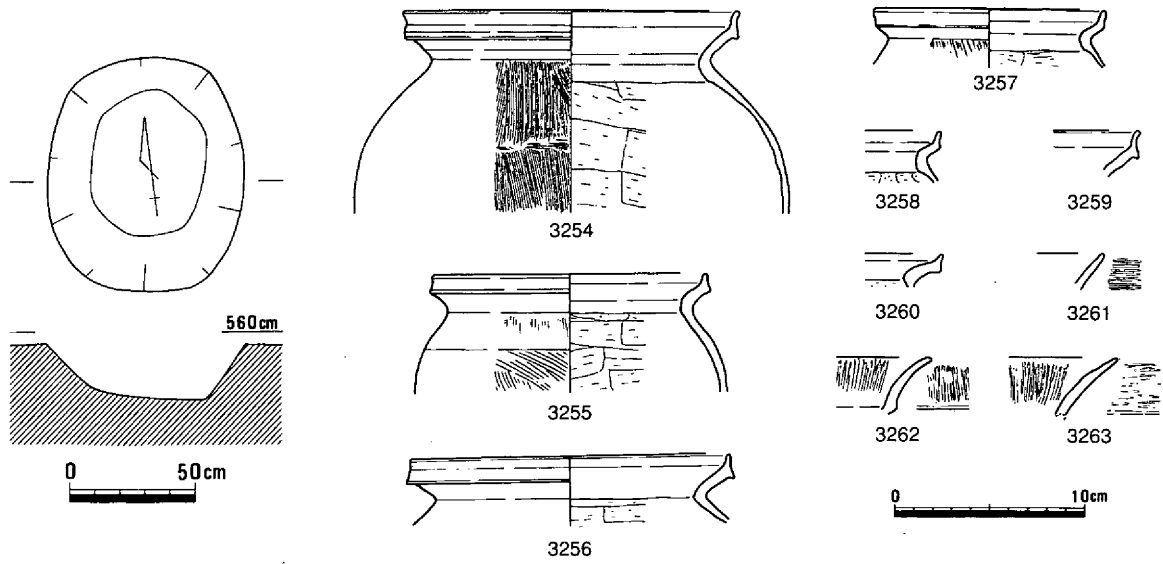


第918図 土壙199 (1/20)・出土遺物 (1/4)

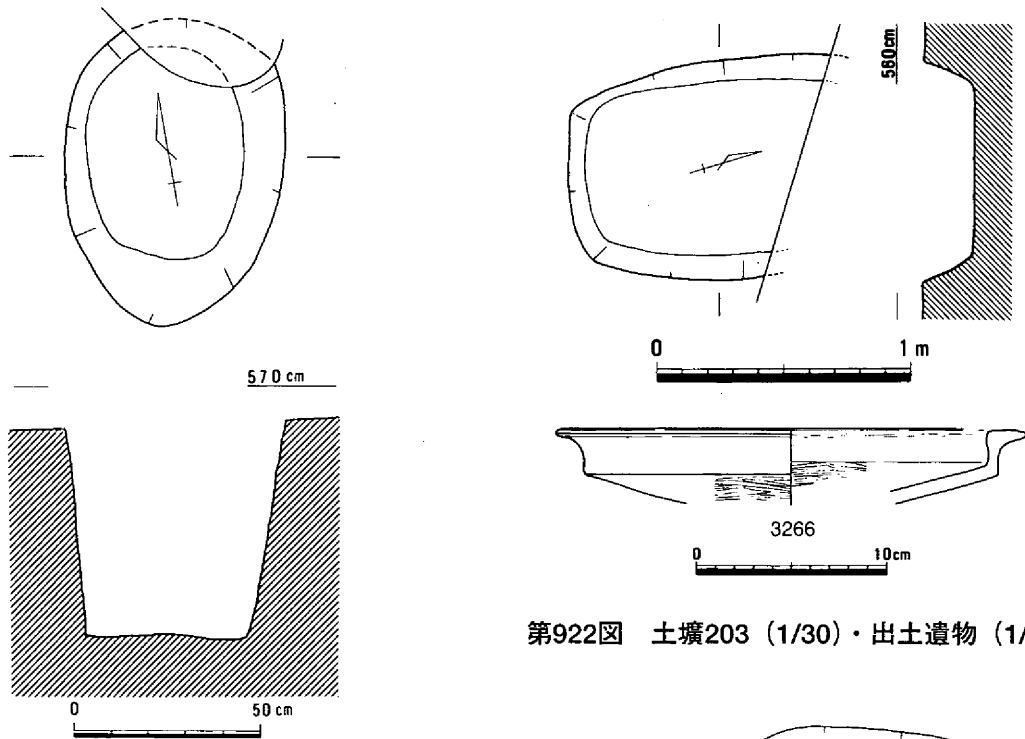


第919図 土壙200 (1/30)・出土遺物 (1/4)

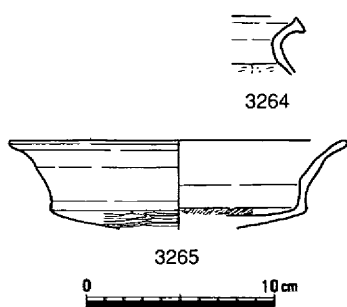




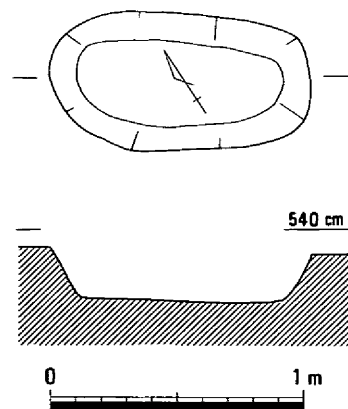
第920図 土壌201 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第922図 土壌203 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第921図 土壌202 (1/20)・出土遺物 (1/4)



第923図 土壌204 (1/30)

長さ76cm、幅58cm、深さ57cmを測ることができる。底面の標高は504cmである。

遺物は、弥生土器が2点出土している。甕、高杯である。3265は口径18.1cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅱとしたい。(浅倉)

土壇203 (第552・922図)

Cg 6 00区で検出した長方形土壇である。規模は、長さ100cm、幅87cm、深さ21cmを測ることができる。底面の標高は530cmである。

遺物は、弥生土器が1点出土している。高杯の杯部である3266は口径24.0cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅰとしたい。(浅倉)

土壇204 (第552・923・924図)

Ch 5 08区で検出した楕円形土壇である。規模は、長さ102cm、幅54cm、深さ22cmを測ることができる。底面の標高は511cmである。

遺物は、弥生土器が4点出土している。甕、高杯、台付鉢がある。3270は口径11.7cmである。

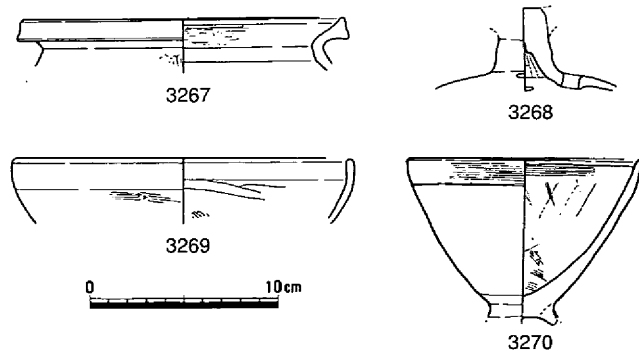
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

土壇205 (第552・925～927図、図版123)

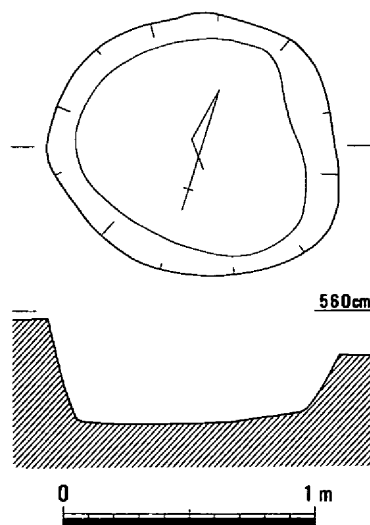
Ch 5 08区の南西隅で検出した不整形土壇である。規模は、長さ115cm、幅104cm、深さ41cmを測ることができる。底面の標高は516cmである。

遺物は、弥生土器が22点出土しているほかに管状の土錘が1点採集できた。土器は長頸壺、壺、甕、高杯、台付鉢、台付甕、器台がある。3271の長頸壺は、頸部の沈線は20条も施されている。また口径は20.0cmである。3272も長頸壺になるかもしれない。3273の甕は内面ヘラケズリしている。3274の壺も内面ヘラケズリしている。3275～3279は甕である。3278の甕は口縁部が外反するのみの単純なものである。3280～3283は高杯である。3280は高杯と言うより台付鉢としたのがよいかもしれない。3281は口径21.5cmある。3284は大形の鉢で、口径は42.5cmを測る。外面はヘラミガキしており、内面はヘラケズリが残っている。3286の台付鉢は、口径12.2cm、底径6.0cm、器高8.3cmを測ることができる。3297・3288は台であるが、鉢の台にしては少々長いように思える。3289～3291は器台の口縁部である。3292は器台の脚部である。3289には鋸歯文・刺突文が施されている。C 155は長さ78.0mm、幅42.0mm、重量140.17gを測る管状土錘である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅱとしたい。(浅倉)



第924図 土壇204出土遺物 (1/4)



第925図 土壇205 (1/30)

土壙206 (第552・928図)

Cg509区で検出した楕円形土壙である。2基が切り合っている。規模は、aが長さ104cm、幅68cm、深さ31cmを、bが長さ55cm、幅53cm、深さ37cmを測る。底面の標高は524cmと510cmである。遺物は、弥生土器片が1点出土している。甕である。

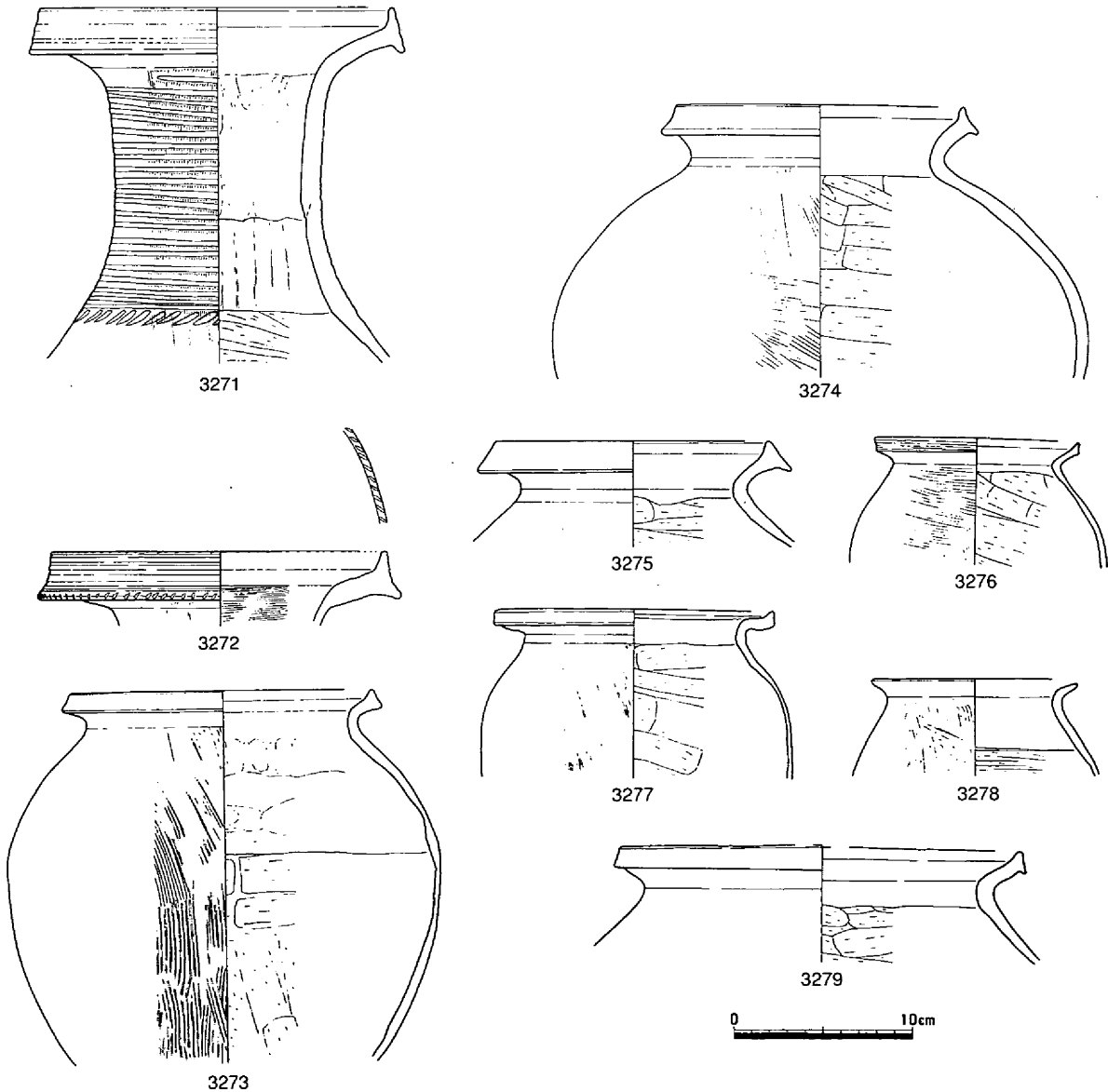
この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

土壙207 (第552・929図)

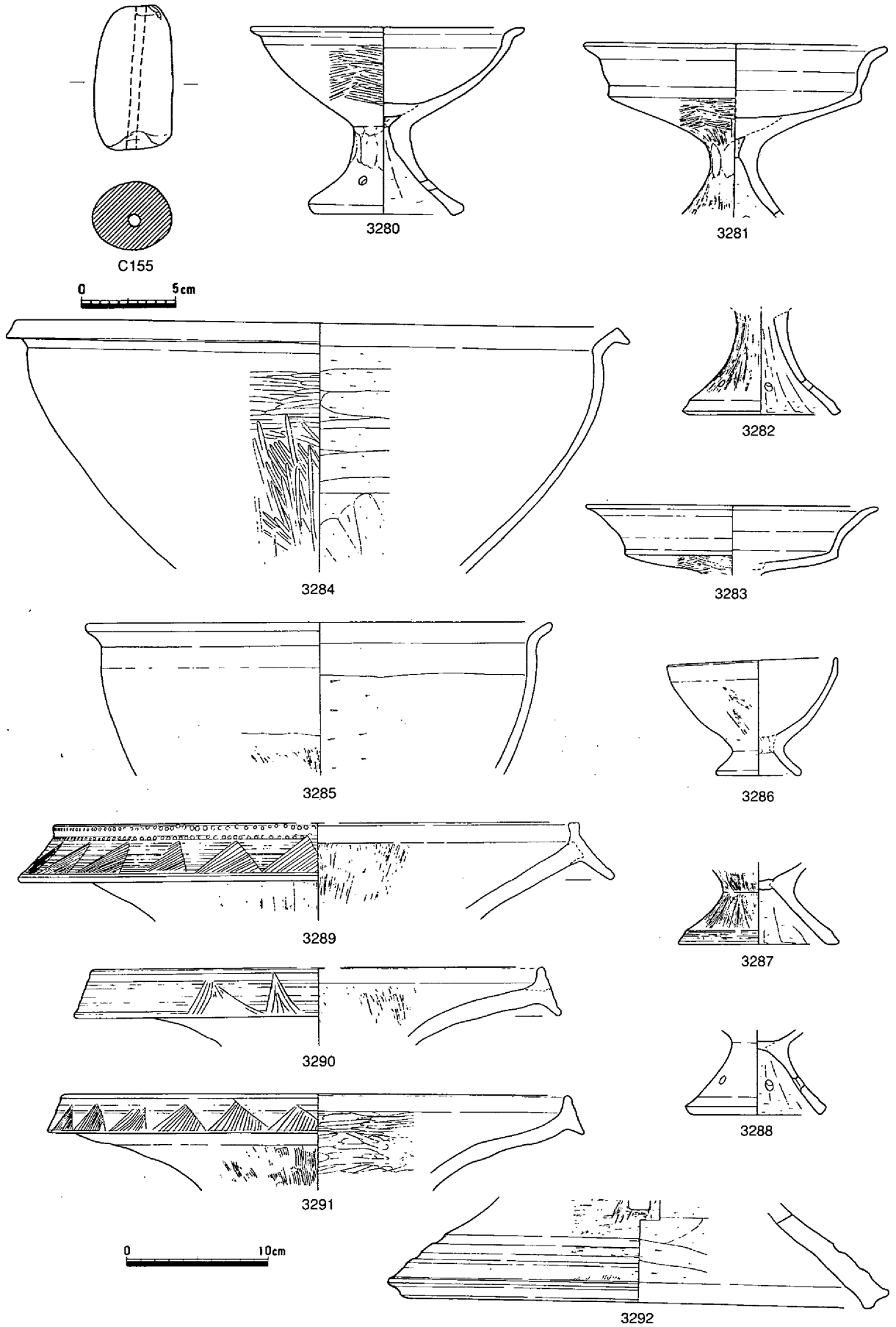
Ch508区で検出した長楕円形土壙である。規模は、長さ309cm、幅72cm、深さ14cmを測る。底面の標高は536cmである。

遺物は、弥生土器が5点出土している。長頸壺、甕、鉢、器台である。3294の長頸壺は、口径17.4cmを測る。3295・3296は甕で、口縁端部が立ち上がっている。3297の鉢は、内面ヘラケズリである。3298は器台で、底径は29.4cmである。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)



第926図 土壙205出土遺物① (1/4)



第927図 土壙205出土遺物② (1/3,1/4)

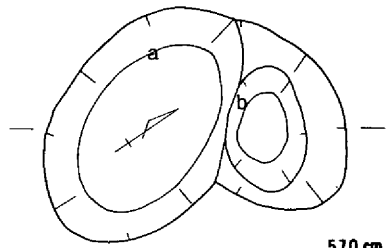
土壙208・209（第552・930図）

Ch509区で検出した楕円形土壙である。規模は、208が長さ111cm、幅81cm、深さ24cmを測る。底面の標高は515cmである。209は長さ116cm、幅76cm、深さ29cmを測る。底面の標高は523cmである。

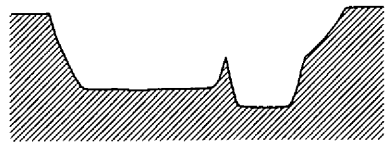
遺物は、弥生土器が6点出土している。甕と高杯である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲとしたい。

（浅倉）



570 cm



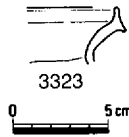
0 1 m

土壙210（第552・931図）

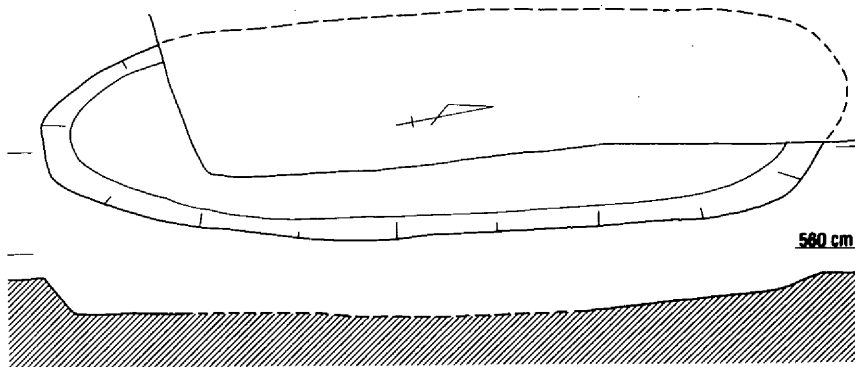
Cg600区で検出した隅丸方形土壙である。規模は、長さ111cm、幅106cm、深さ24cmを測る。底面の標高は509cmである。

遺物は、弥生土器が3点出土している。甕と高杯である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後

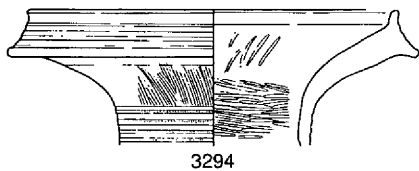


第928図 土壙206 (1/30)・出土遺物 (1/4)



560 cm

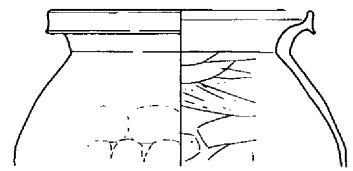
0 1 m



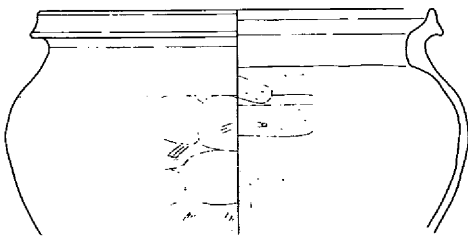
3294



3295

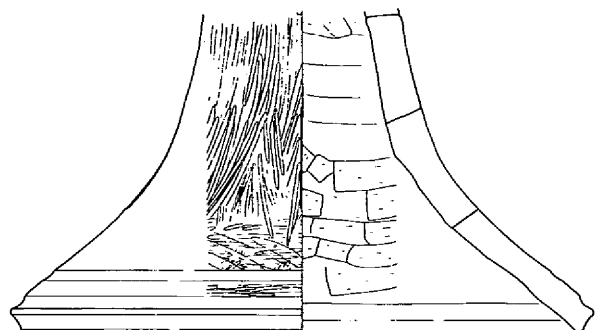


3296



3297

0 10 cm



3298

第929図 土壙207 (1/30)・出土遺物 (1/4)

・IVとしたい。

(浅倉)

土壙211 (第552・932図)

Cg 6 00区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ89cm、幅42cm、深さ17cmを測る。底面の標高は541cmである。

遺物は、弥生土器が3点出土している。甕と高杯である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Iとしたい。

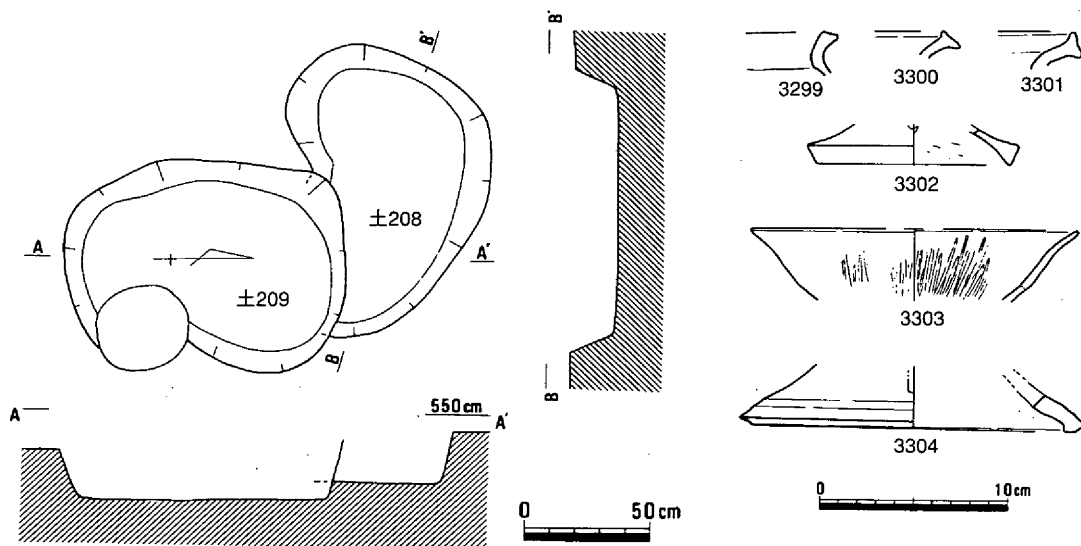
(浅倉)

土壙212 (第552・933図)

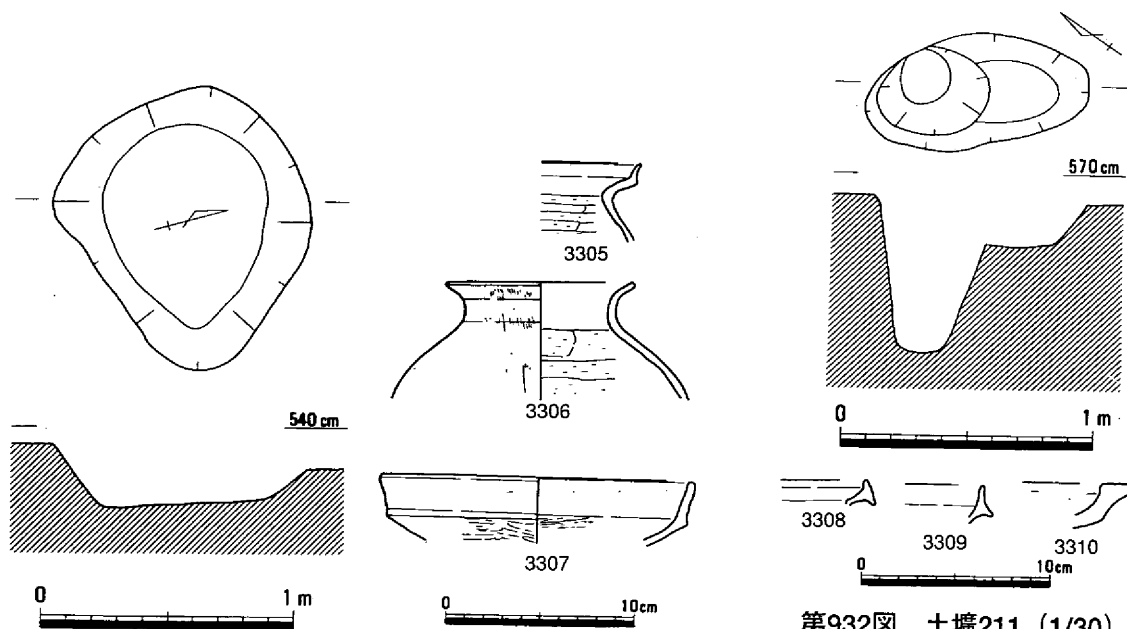
Cg 6 01区で検出した不定形土壙である。規模は、長さ110cm、幅90cm、深さ59cmを測る。底面の標高は500cmである。遺物は、弥生土器が2点出土している。どちらも甕である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)



第930図 土壙208・209 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第931図 土壙210 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第932図 土壙211 (1/30)

・出土遺物 (1/4)

土壌213・214 (第552・934図)

Cg 6 01区で検出した2基の土壌である。土壌213は楕円形の平面形を呈し、長さ132cm、幅89cm、深さ26cmを測る。底面の標高は564cmである。土壌214は長方形の平面形を呈し、長さ78cm、幅64cm、深さ38cmを測る。底面の標高は554cmである。213を214が切っていることから214の方が新しい。

遺物は、弥生土器が3点と石包丁が出土している。土器は甕と鉢である。3313は口径13.6cmの甕、3314は口径15.4cmの甕、3315の鉢は口径19.6cmを測る。S146はサヌカイト製の両端に抉りを持った打製石包丁である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は土器から考えて弥・後・Ⅱ～Ⅲとしたい。(浅倉)

土壌215 (第552・935図)

Ci 5 06区で検出した不整楕円形土壌である。ほぼ半分を検出した。規模は、長さ135cm、幅44cm、深さ20cmを測る。底面の標高は545cmである。

遺物は、弥生土器片が2点出土している。高杯である。

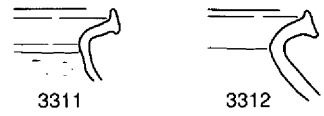
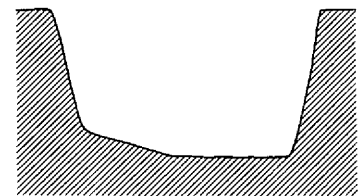
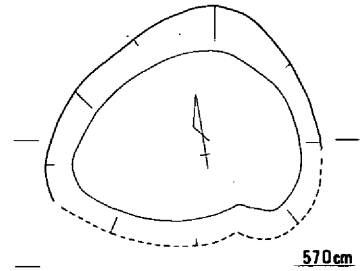
この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。(浅倉)

土壌216 (第552・936図)

Ch 5 06区で検出した不整隅丸方形土壌である。規模は、長さ95cm、幅61cm、深さ32cmを測る。底面の標高は535cmである。

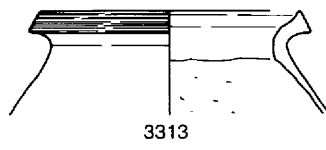
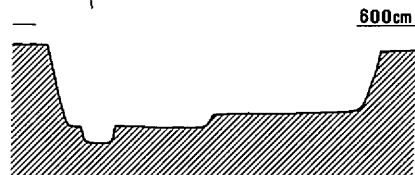
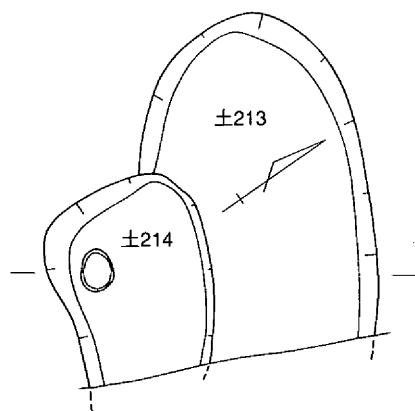
遺物は、弥生土器片が2点出土している。高杯である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は土器から考えて土壌215と同じ弥・後・Ⅱとしたい。(浅倉)

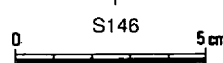
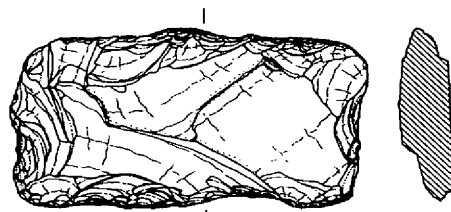


第933図 土壌212 (1/30)

・出土遺物 (1/4)



3315



第934図 土壌213・214 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2)

土壙217 (第552・937図)

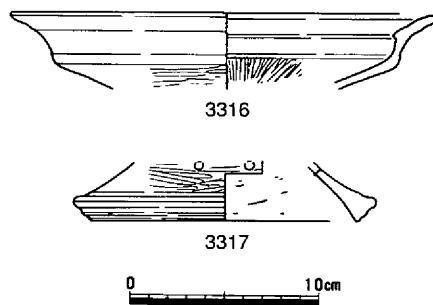
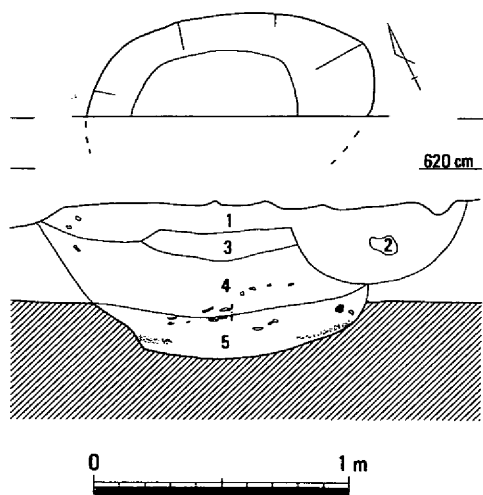
Ci506区で検出した円形土壙である。規模は、長さ111cm、幅105cm、深さ43cmを測る。遺物は、弥生土器片が5点出土している。壺、甕、高杯である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。

(浅倉)

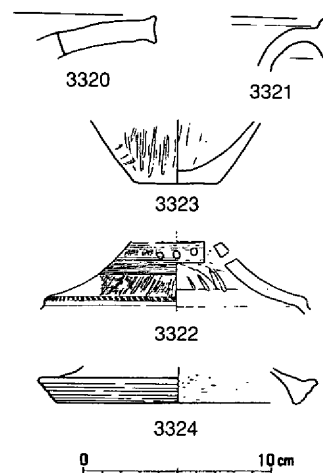
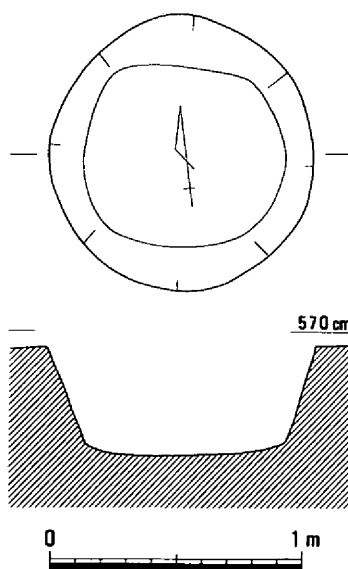
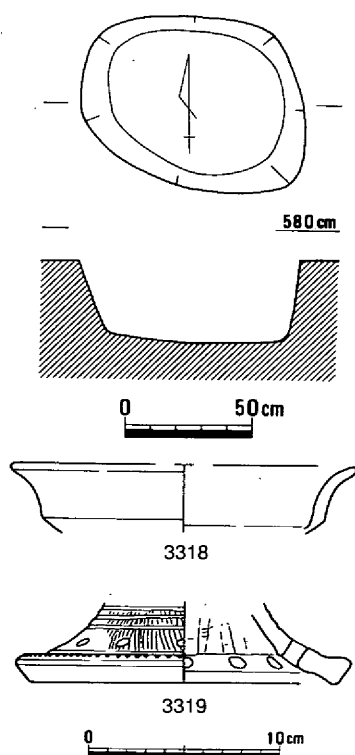
土壙218 (第552・938図)

Ci507区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ105cm、幅73cm、深さ33cmを測る。遺物は、



- |           |          |
|-----------|----------|
| 1 暗灰黄色微砂  | 4 黒灰褐色微砂 |
| 2 明灰黄色粘質土 | 5 黒褐色微砂  |
| 3 灰褐色微砂   |          |

第935図 土壙215 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第936図 土壙216 (1/30)

・出土遺物 (1/4)

第937図 土壙217 (1/30)・出土遺物 (1/4)



弥生土器片が1点出土している。甕である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

**土壌219** (第552・939図)

Ch508区で検出した長方形土壌である。規模は、長さ140cm、幅78cm、深さ31cmを測る。

遺物は、弥生土器片が1点出土している。甕である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。

(浅倉)

**土壌220** (第552・940図)

Ci508区で検出した長方形土壌である。2基重なっている。

遺物は、弥生土器片が2点出土している。甕と高杯である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

**土壌221** (第552・941図)

Ch509区で検出した方形土壌である。規模は、長さ128cm、幅83cm、深さ14cmを測る。

遺物は、弥生土器片が1点出土している。甕である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。

(浅倉)

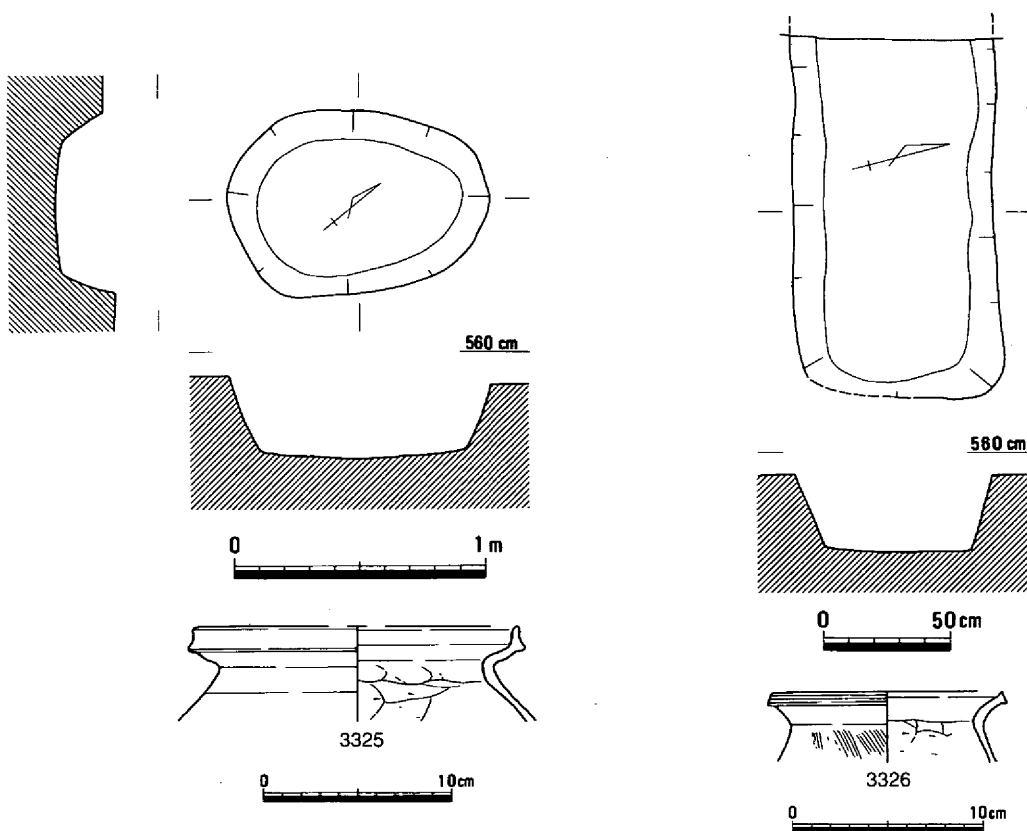
**土壌222** (第552・942図)

Ch509区で検出した不整形土壌である。規模は、長さ171cm、幅140cm、深さ57cmを測る。遺物は、弥生土器片が5点出土している。甕である。この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

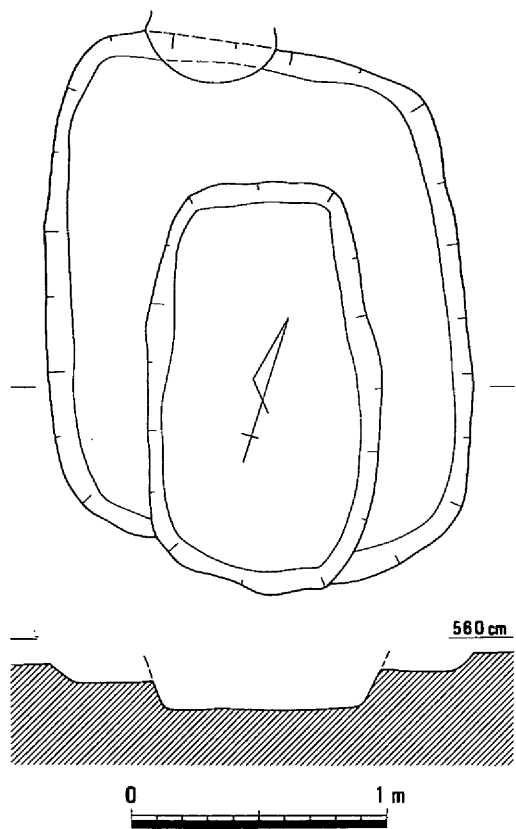
**土壌223** (第552・943図)

Ch600区で検出した不整形土壌である。規模は、長さ105cm、幅67cm、深さ45cmを測る。

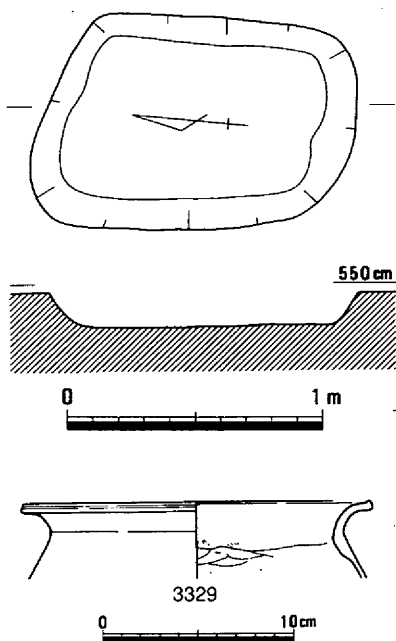


第938図 土壌218 (1/30)・出土遺物 (1/4)

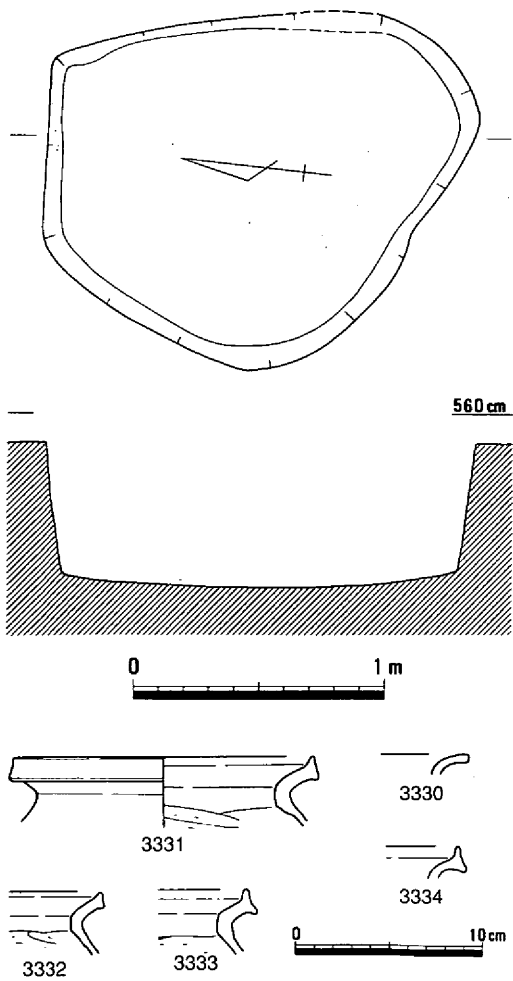
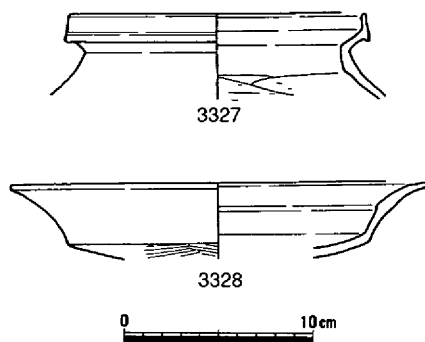
第939図 土壌219 (1/30)・出土遺物 (1/4)



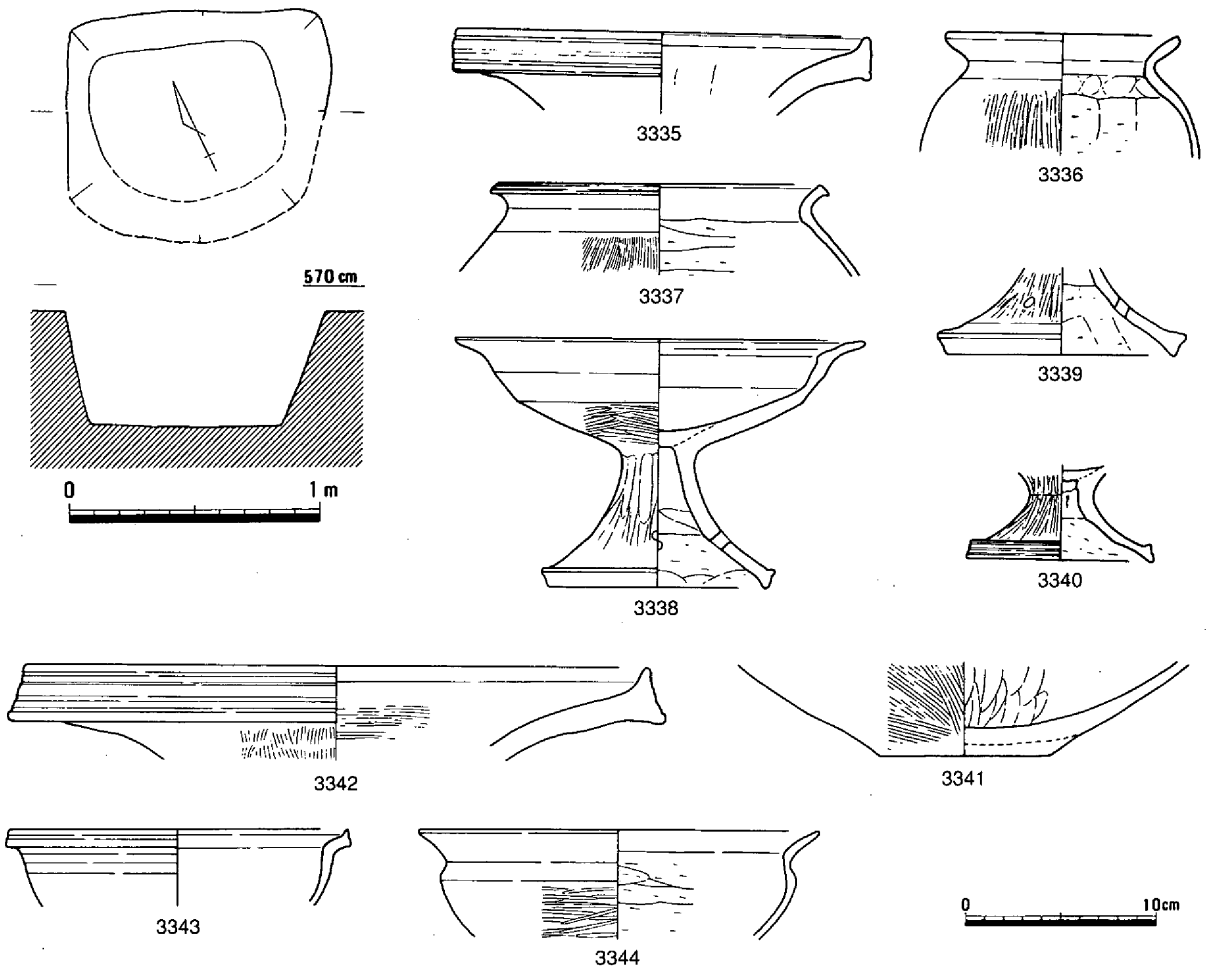
第940図 土壙220 (1/30)・出土遺物 (1/4)



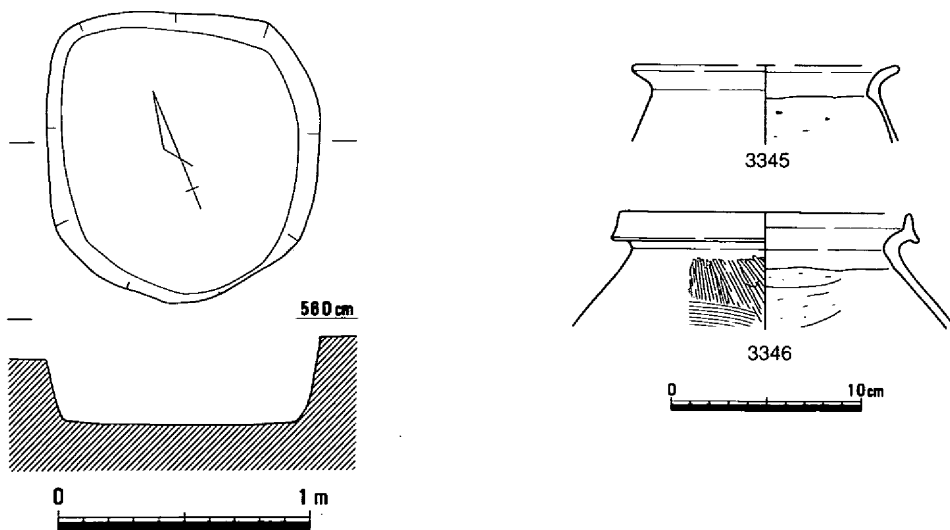
第941図 土壙221 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第942図 土壙222 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第943図 土壙223 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第944図 土壙224 (1/30)・出土遺物 (1/4)

遺物は、弥生土器片が10点出土している。壺、甕、高杯、器台、鉢である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。

(浅倉)

土壌224 (第552・944図)

Ci508区で検出した不整形土壌である。規模は、長さ115cm、幅109cm、深さ34cmを測る。遺物は、弥生土器片が2点出土している。甕である。3345は外反する口縁部を持つ。3346は口縁部端部が上下に拡張している。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)

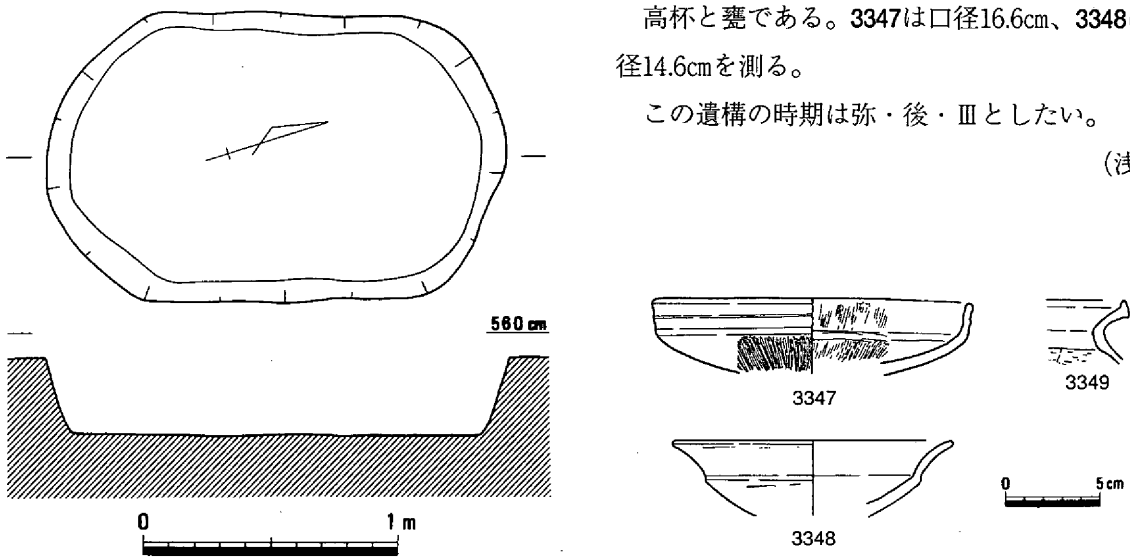
土壌225 (第552・945図)

Ci508区で検出した小判形土壌である。規模は、長さ180cm、幅114cm、深さ30cmを測る。遺物は、弥生土器片が3点出土している。

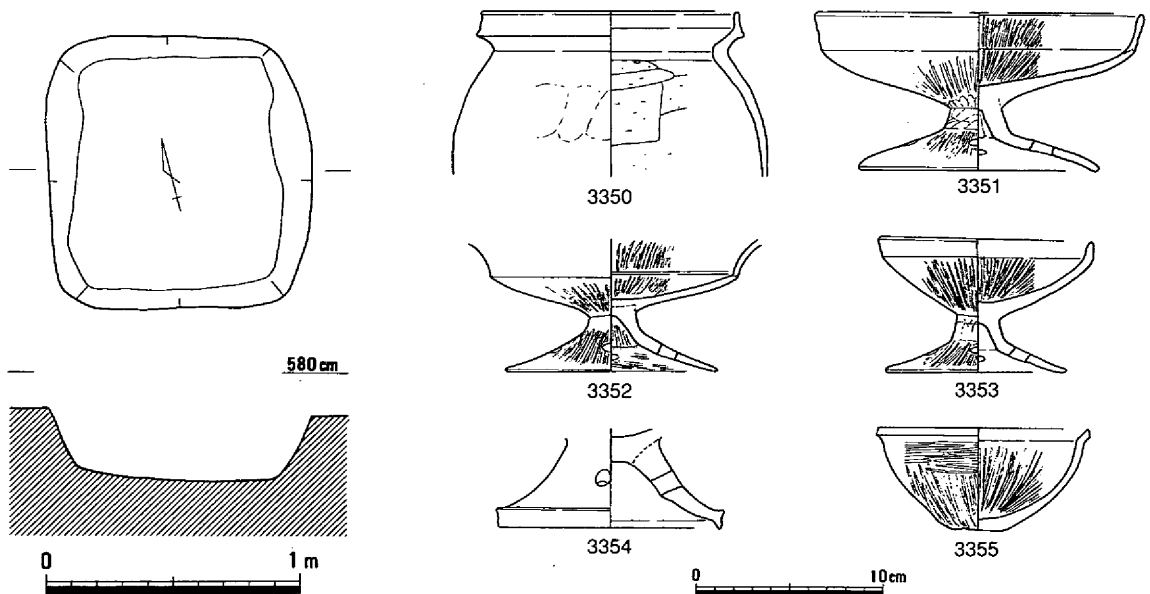
高杯と甕である。3347は口径16.6cm、3348は口径14.6cmを測る。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。

(浅倉)



第945図 土壌225 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第946図 土壌226 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙226 (第552・946図)

Ci508区で検出した方形土壙である。規模は、長さ108cm、幅105cm、深さ22cmを測る。遺物は、弥生土器片が6点出土している。甕、高杯と鉢である。3353は口径11.2cmを測る。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳとしたい。(浅倉)

土壙227 (第552・947図)

Ci508区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ105cm、幅58cm、深さ7cmを測る。遺物は、弥生土器片が2点出土している。台付鉢と鉢である。3356は口径10.8cmを測る。

この遺構の時期は弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)

土壙228 (第552・948図)

Ci509区で検出した不整形方形土壙である。規模は、長さ178cm、幅130cm、深さ21cmを測る。遺物は、弥生土器片が2点出土している。直口壺と鉢である。

この遺構の時期は弥・後・Ⅲとしたい。(浅倉)

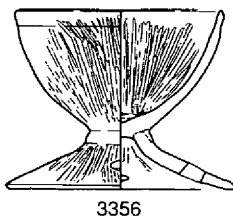
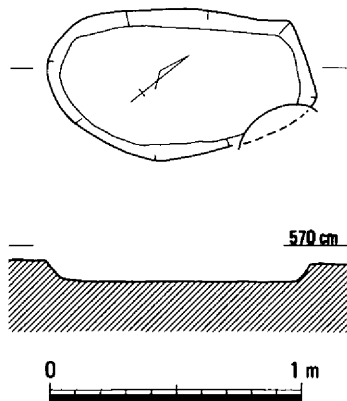
土壙229 (第552・949図)

Ch600区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ83cm、幅45cm、深さ19cmを測る。遺物は、弥生土器片が8点出土している。直口壺、壺、高杯である。

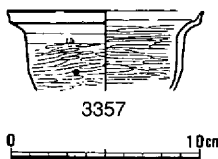
この遺構の時期は弥・後・Ⅱとしたい。(浅倉)

土壙230 (第552・950図)

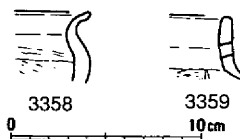
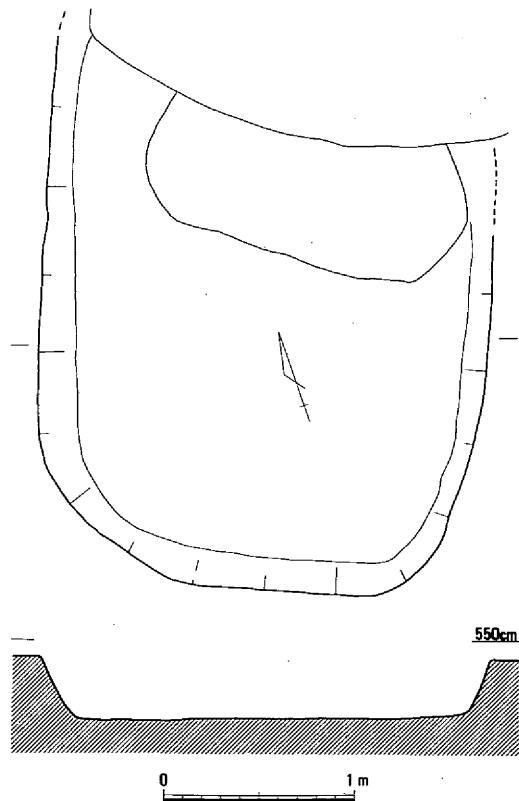
Ch600区で検出した不整形楕円形土壙である。



3356



3357

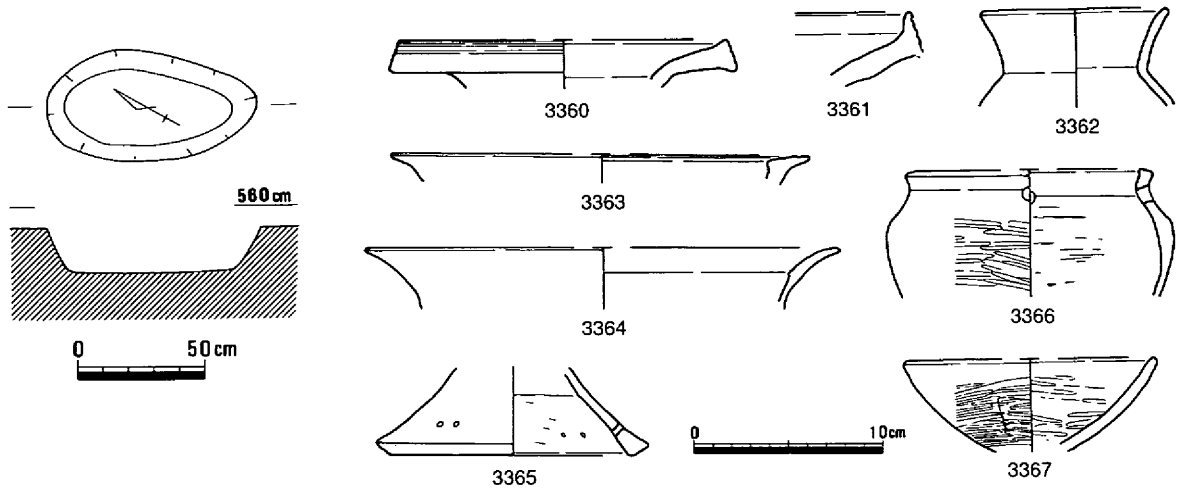


3358

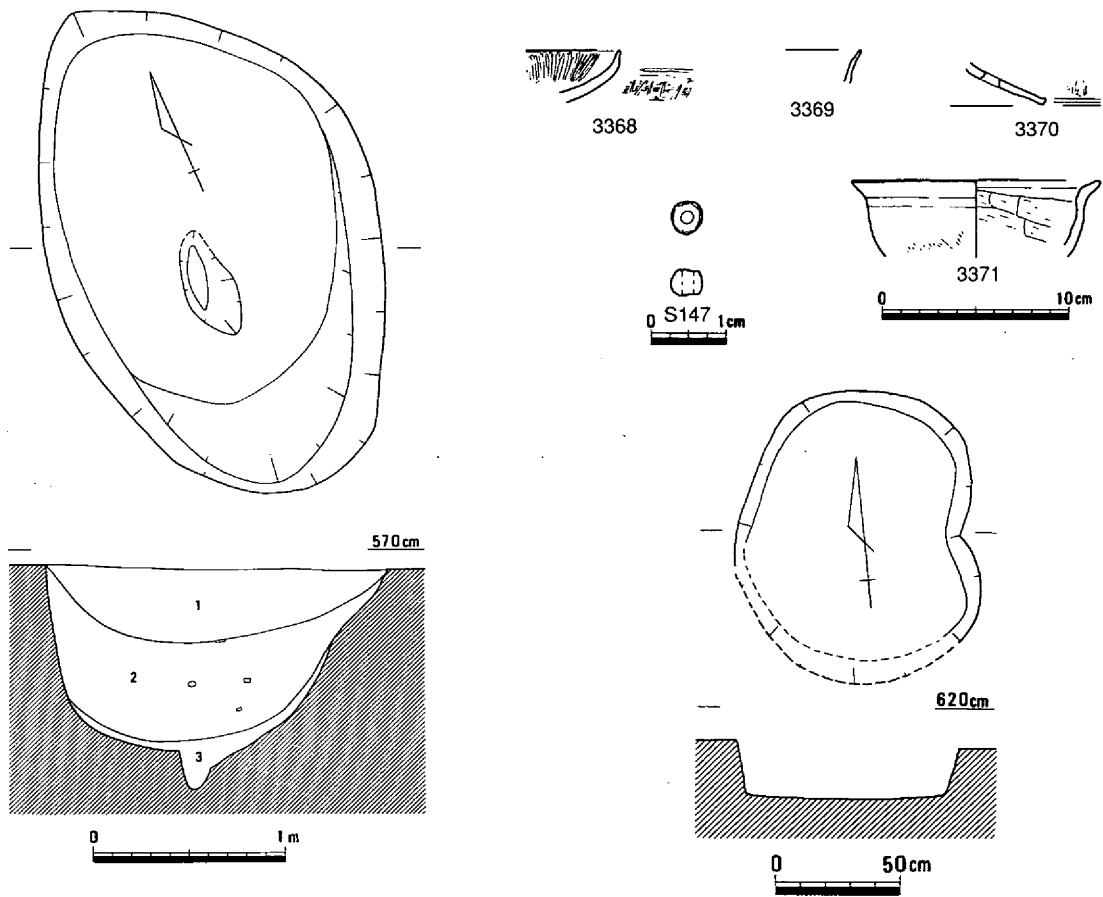
3359

第947図 土壙227 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第948図 土壙228 (1/40)・出土遺物 (1/4)

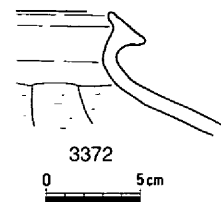


第949図 土壙229 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 淡灰褐色微砂
- 2 暗灰褐色微砂 (炭含)
- 3 灰褐色粘質土

第950図 土壙230 (1/40)・出土遺物 (1/4,1/1)



第951図 土壙231 (1/30)・出土遺物 (1/4)

長さ266cm、幅172cm、深さ91cmを測る。底部中央南寄りにピットを持つ。

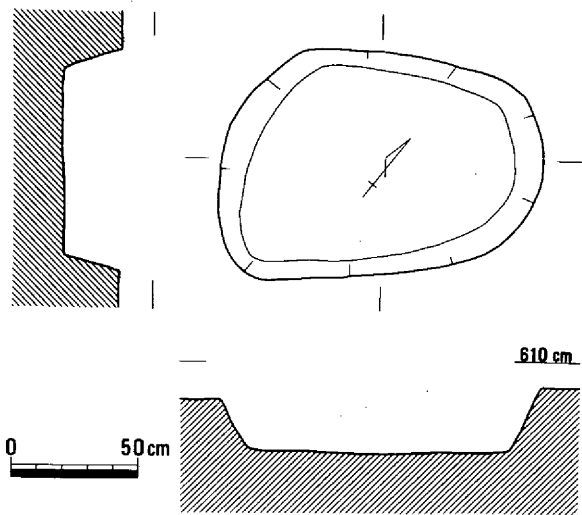
遺物は、弥生土器片が4点と滑石製の白玉が1点出土している。土器は、高杯と鉢である。

この遺構の性格は不明であるが、時期は弥・後・IVとしたい。(浅倉)

**土壙231** (第552・951図)

Ch600区で検出した不整楕円形土壙である。断面形は皿型を呈する。規模は、長さ97cm、幅87cm、深さ21cmを測る。底面の標高は584cmである。

遺物は、弥生土器片が1点出土している。甕である。外面はヨコナデとハケメにより調整している。時期は弥・後・Iとしたい。(浅倉)



**土壙232** (第552・952図)

Ch600区で検出した不整楕円形土壙である。規模は、長さ105cm、幅88cm、深さ23cmを測る。底面の標高は584cmある。

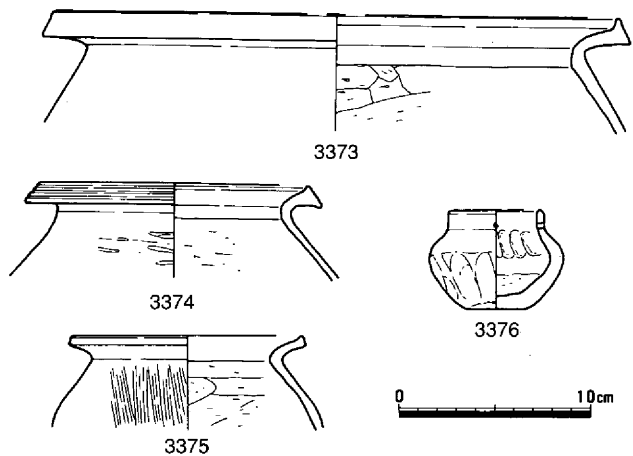
遺物は、弥生土器片が4点出土している。甕は3373のように大形のものもある。3376はミニチュア壺である。

時期は弥・後・I～IIとしたい。(浅倉)

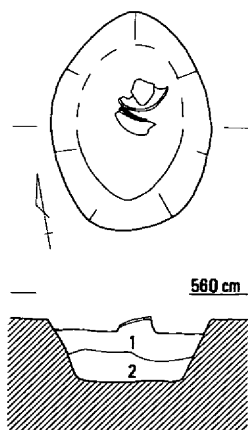
**土壙233** (第552・953図)

Ch600区で検出した楕円形土壙で、長さ87cm、幅62cm、深さ25cmを測る。

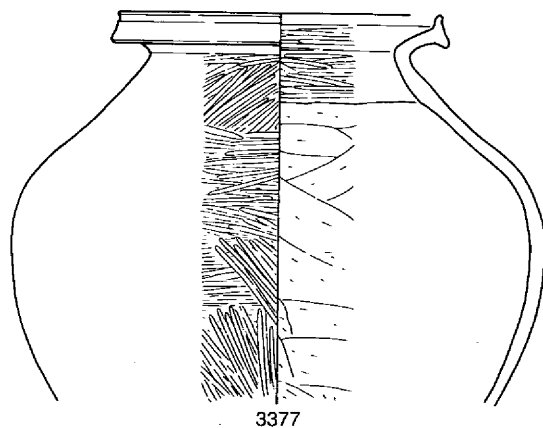
遺物は、弥生土器片が1点出土している。



第952図 土壙232 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 淡灰褐色微砂
- 2 暗灰褐色微砂



第953図 土壙233 (1/30)・出土遺物 (1/4)

3377は口径17.0cmの壺である。時期は弥・後・IVとしたい。

(浅倉)

土壌234 (第552・954図)

Ch600区で検出した不整形土壌で、長さ70cm、幅70cm、深さ36cmを測る。

遺物は、弥生土器片が1点出土している。3378の甕は口径13.8cmである。

この遺構の時期は弥・後・IVとしたい。

(浅倉)

土壌235 (第552・955図)

Ch600区で検出した不整形土壌で、長さ84cm、幅42cm、深さ57cmを測る。

遺物は、弥生土器片が2点出土している。壺と鉢である。

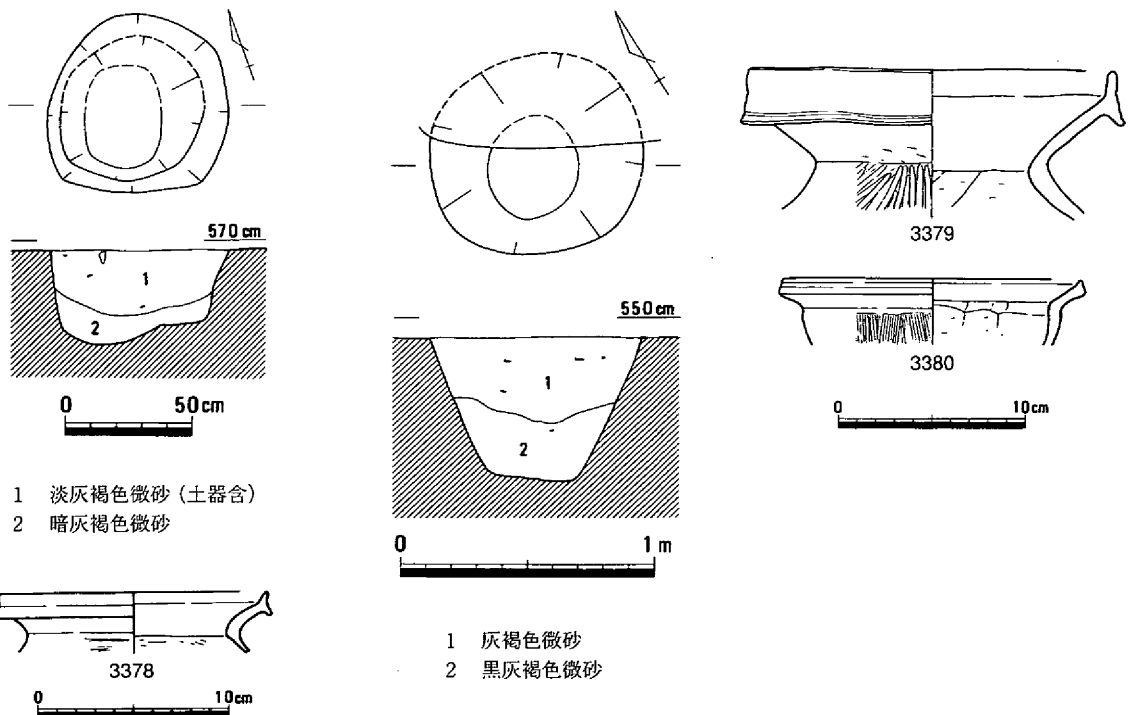
この遺構の時期は弥・後・IVとしたい。

(浅倉)

土壌236 (第552・956～958図、図版124)

Ch600区で検出した円形土壌で、長さ115cm、幅108cm、深さ18cmを測る。浅い土壌であったが、土器がぎっしり詰まっていた。

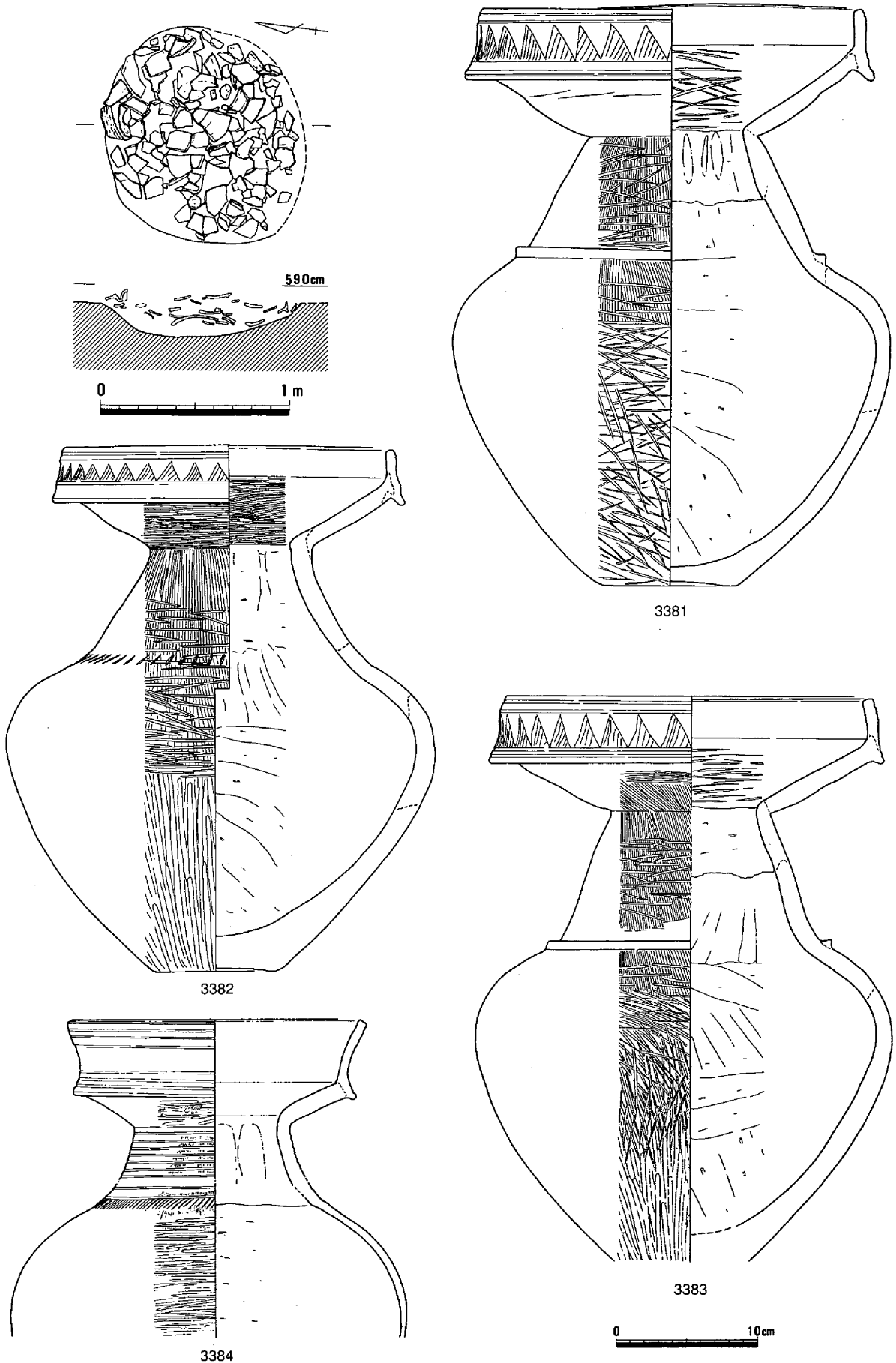
遺物は、弥生土器片が20点出土している。壺、甕、高杯、鉢などである。完形に復元できたものもある。3381は鋸歯文と凸帯で飾られた長頸壺である。大きさは、口径26.4cm、底径9.2cm、器高40.8cmを測る。3382は鋸歯文と刺突文で飾っており、口径23.2cm、底径8.8cm、器高37.0cmを測る。3383は3381とは相似形である。3384は頸部沈線文と刺突文で飾ってある二重口縁の長頸壺で、口径20.0cmある。3385は凸帯を持つ二重口縁の壺で、口径27.3cm、底径11.4cm、器高45.5cmを測る。3386は二重口縁の壺で、口径23.3cm、底径10.1cm、器高32.2cmを測る。3387～3389は小形の甕である。3387の口径は11.7cmを測る。3390～3392は壺であろう。3390の口径は19.0cmである。3393は口縁部がかなり歪んでいる壺である。内面はヘラケズリ、外面はハケメ調整している。口径15.8cm、底径7.5cm、器高33.8cmを測る。3394は台付直口壺と呼ぶもので、細かいヘラミガキを施した赤い土器である。透かし



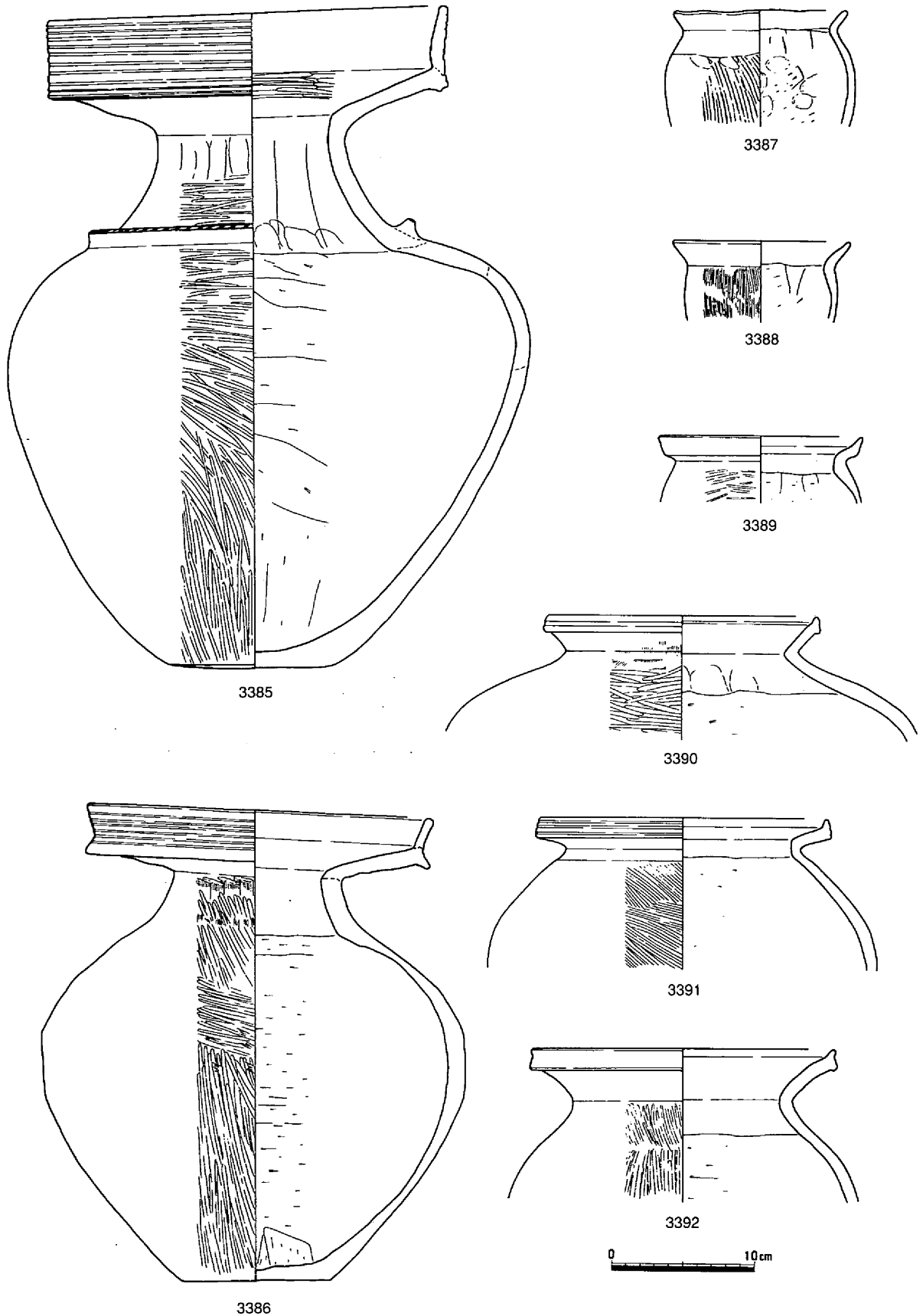
第954図 土壌234 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第955図 土壌235 (1/30)・出土遺物 (1/4)





第956図 土壙236 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第957図 土壙236出土遺物② (1/4)

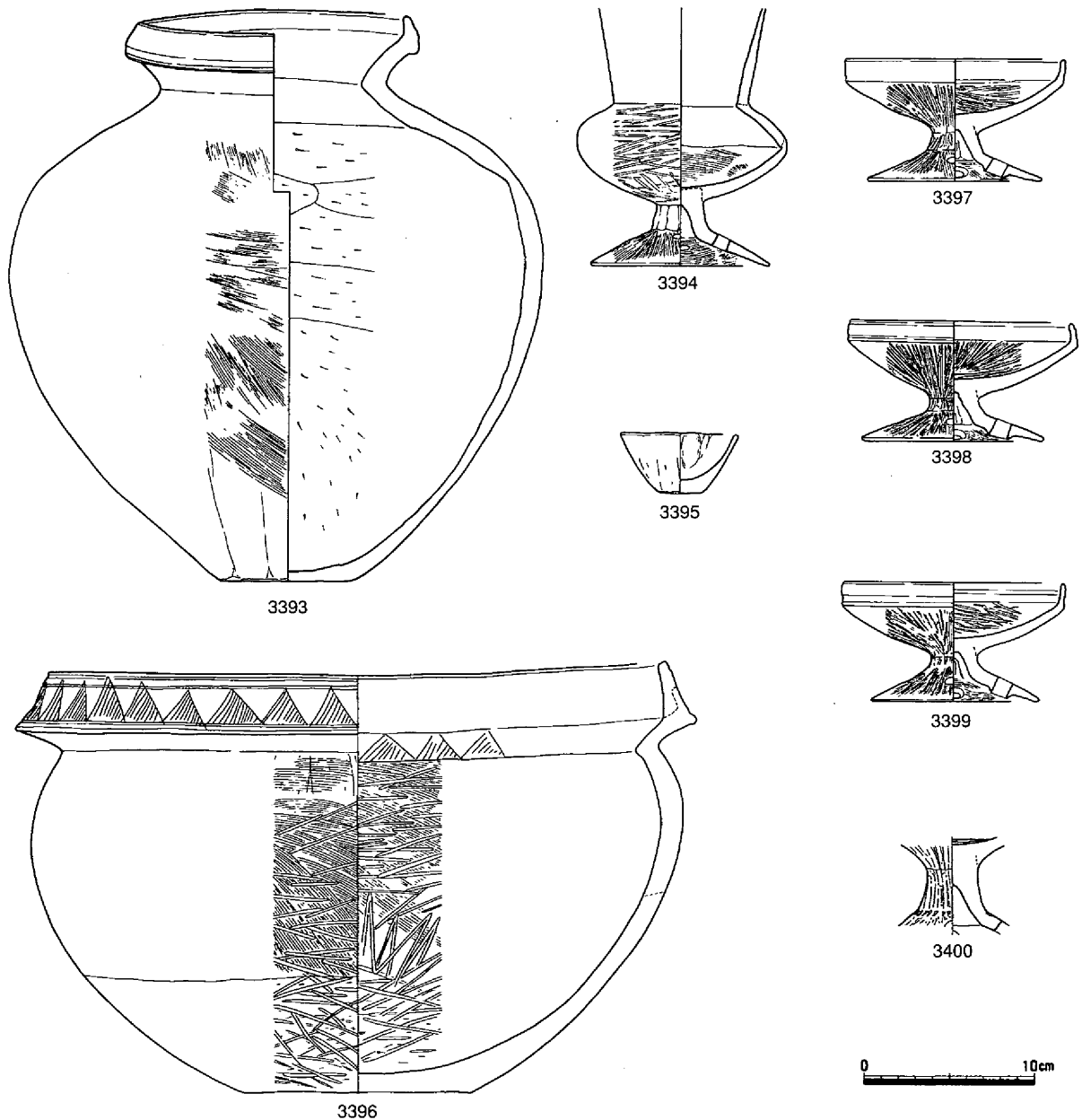
孔は4個穿っている。3395は手捏ねの鉢で、口径6.7cm、器高2.5cmを測る。3396は大形の鉢で、口縁部の内面と外面に鋸歯文を施している。3397～3399は短脚の高杯で、3397の口径12.8cm、底径10.0cm、器高7.2cmを測り、透かし孔は4個穿っている。3400は高杯の脚柱の一部である。

この遺構の用途は、割れて使えなくなった土器を穴を掘って捨てた場所と考えられる。時期は土器から考えて弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)

土壙237 (第552・959図)

Ci509区で検出した方形土壙である。規模は、長さ189cm、幅130cm、深さ31cmを測る。遺物は、弥生土器片が3点出土している。甕、高杯、器台である。3401は甕で、口径12.0cmである。3402は高杯の脚部で、底径が14.6cmある。3403は器台と考えられる。

この遺構の時期は、弥・後・Ⅳとしたい。(浅倉)



第958図 土壙236出土遺物③ (1/4)

土壙238 (第552・960図)

Ci508区で検出した方形土壙である。規模は、長さ127cm、幅65cm、深さ34cmを測る。

遺物は、弥生土器片が1点出土している。壺の口縁部であろう。

この遺構の時期は、弥生後期としたい。(浅倉)

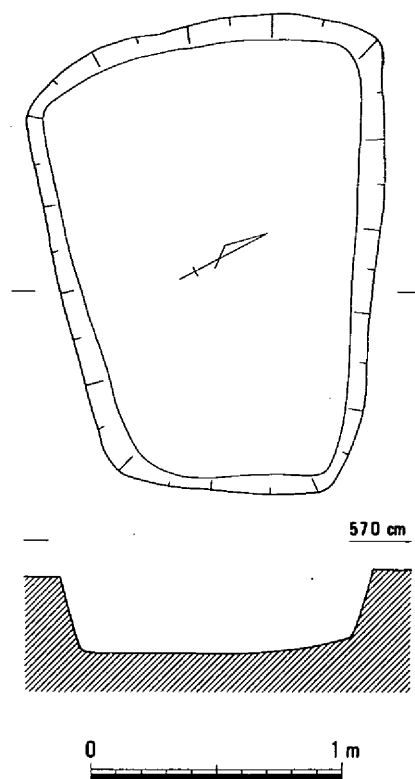
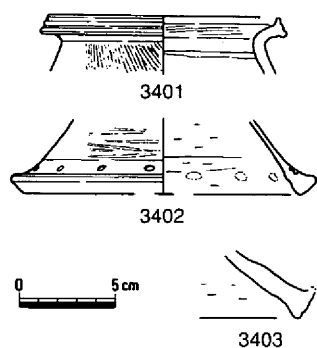
土壙239 (第552・961図)

Ci509区で検出した楕円形土壙である。規模は、長さ118cm、幅89cm、深さ13cmを測る。

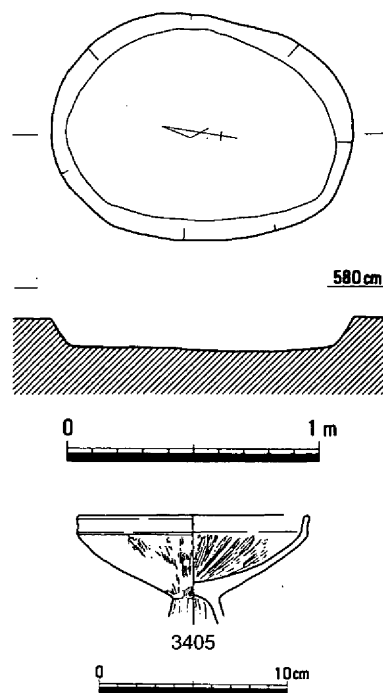
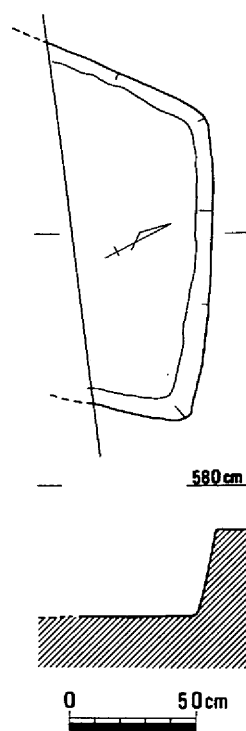
遺物は、弥生土器片が1点出土している。高杯である。

この遺構の性格は不明だが、時期は弥・後・IVとしたい。

(浅倉)



第959図 土壙237 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第960図 土壙238 (1/30)・出土遺物 (1/4) 第961図 土壙239 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙240** (第553・962図)

土壙241と切り合い関係をもつが、平・断面観察でも前後関係が確認できなかった。確認された規模は144×160cmの楕円形を呈し、深さは38cmを測る。時期は弥・後・I頃と思われる。(松本)

**土壙241** (第553・962図)

土壙240と切り合い、遺構の一部は調査区外となる。確認された規模は80×118cmの不整楕円形を呈し、深さは41cmを測る。床面は平坦である。出土遺物としては、甕3406・3407、鉢3408などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

**土壙242** (第553・963図)

土壙241の東隣において検出された遺構である。規模は85×93cmの円形を呈し、深さは31cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分されるが、堆積は水平である。断面は箱形を呈している。出土遺物はないが、廃棄された時期は遺構検出レベルからみて弥・後の頃と思われる。(松本)

**土壙243** (第553・964図)

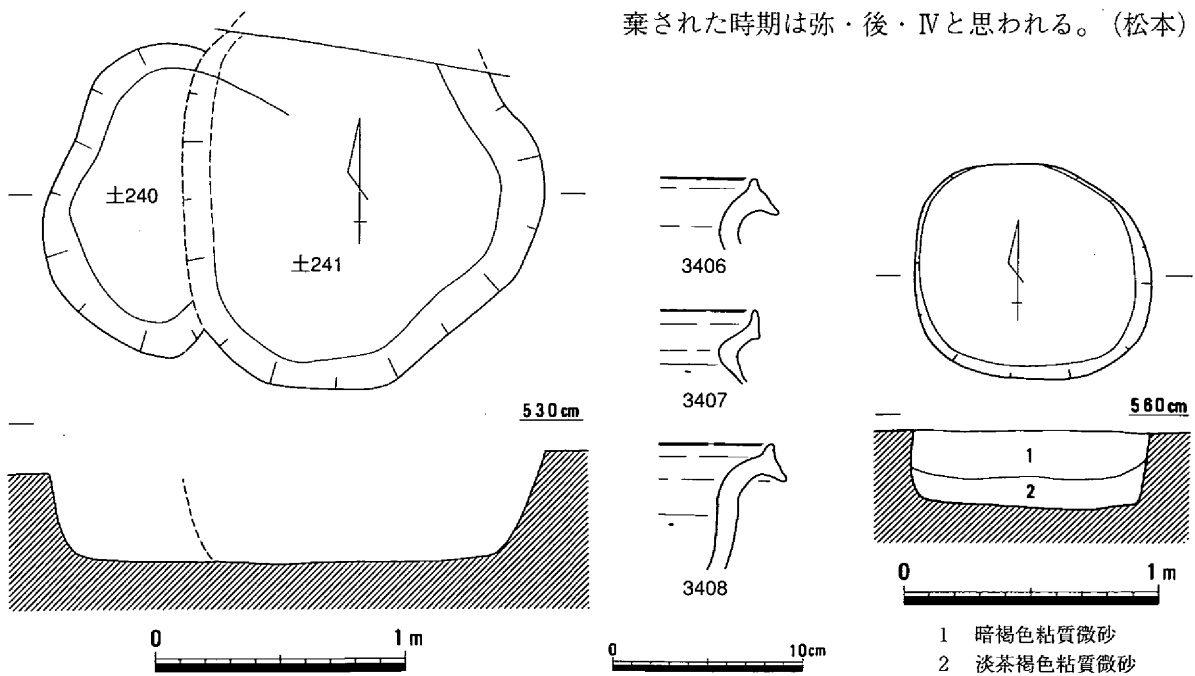
土壙242の東約2mの位置で検出された。規模は71×94cmの隅丸方形を呈し、深さは39cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分され、堆積は水平である。断面は逆台形を呈する。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

**土壙244** (第553・965図)

土壙243の北東約1mの位置で検出された。規模は78×127cmの楕円形を呈し、深さは30cmを測る。床面は北から南に傾斜している。埋土は2層に区分されるが、炭混じりの第1層がほとんどである。出土遺物としては、甕3409がある。廃棄された時期は弥・後・IIIと思われる。(松本)

**土壙245** (第553・966図)

土壙244の南隣の位置で検出された遺構である。規模は79×87cmの不整円形を呈し、深さは28cmを測る。床面の中央部はくぼんでいる。埋土は2層に区分され、レンズ状に堆積している。出土遺物として高杯3410がある。遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



第962図 土壙240・241 (1/30)・土壙241出土遺物 (1/4)

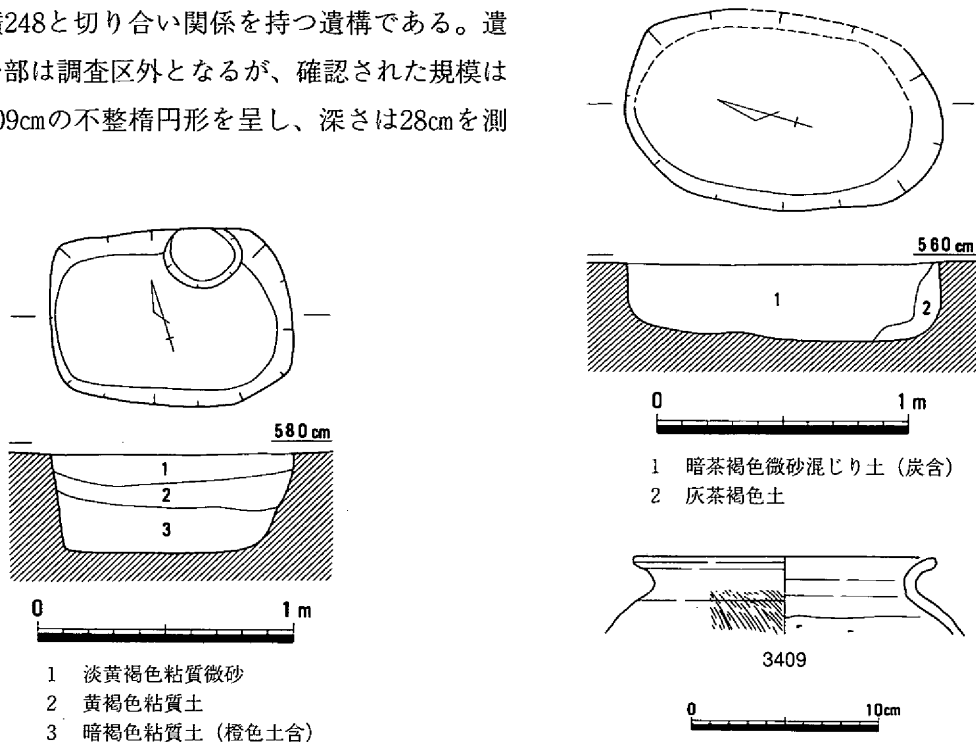
第963図 土壙242 (1/30)

土壙246 (第553・967図)

土壙247の西隣において検出された。遺構の一部は調査区外となるが、確認された規模は87×165cmの不整楕円形を呈し、深さは26cmを測る。床面はやや凹凸がみられる。断面は逆台形を呈している。出土遺物としては、高杯3411がある。廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

土壙247 (第553・968図)

土壙248と切り合い関係を持つ遺構である。遺構の一部は調査区外となるが、確認された規模は87×109cmの不整楕円形を呈し、深さは28cmを測

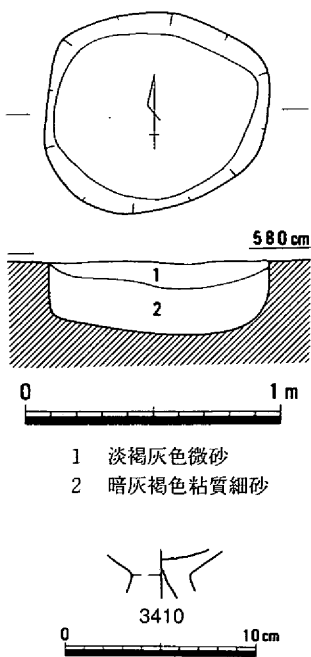


- 1 淡黄褐色粘質微砂
- 2 黄褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土 (橙色土含)

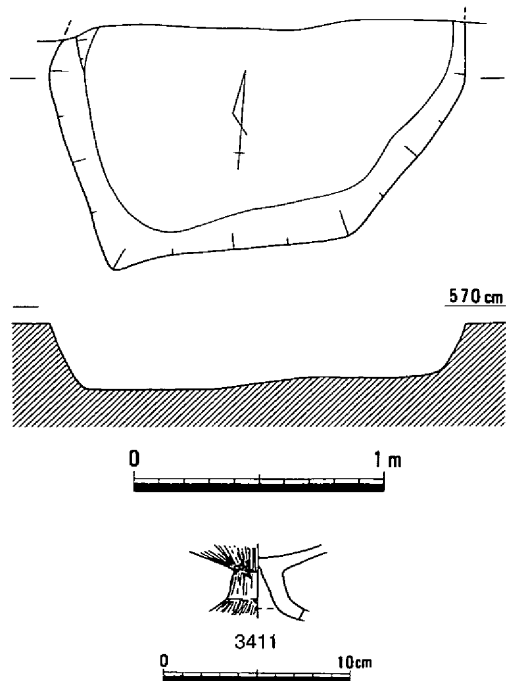
- 1 暗茶褐色微砂混じり土 (炭含)
- 2 灰茶褐色土

第964図 土壙243 (1/30)

第965図 土壙244 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 淡褐灰色微砂
- 2 暗灰褐色粘質細砂



第966図 土壙245 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第967図 土壙246 (1/30)・出土遺物 (1/4)

る。床面は平坦と思われる。埋土は3層に区分され、堆積はレンズ状を呈する。出土遺物としては甕3412がある。土壙248に切られているため、廃棄された時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

**土壙248 (第553・969図)**

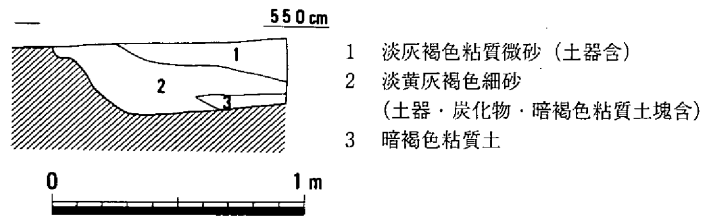
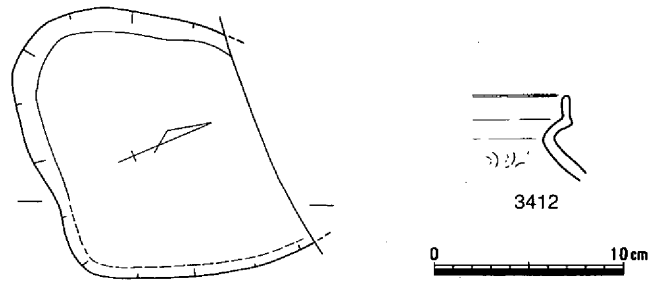
土壙247を切る状態で検出された。規模は88×99cmの隅丸方形を呈し、深さは24cmを測る。床面は平坦に近い。埋土は2層に区分される。出土遺物としては、甕3413、高杯3414・3415などがある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

**土壙249 (第553・970図)**

土壙245の南約1mの位置で検出された。規模は108×180cmの不整楕円形を呈し、深さは40cmを測る。床面は平坦である。埋土は4層に区分され、堆積はレンズ状を呈する。出土遺物としては、甕3416～3418、高杯3419がある。廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

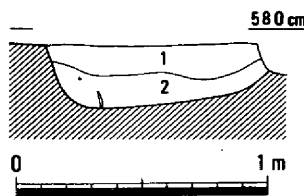
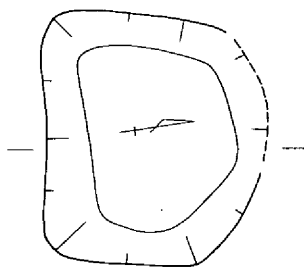
**土壙250 (第553・971図)**

土壙253の西隣で検出された。規

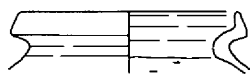


- 1 淡灰褐色粘質微砂 (土器含)
- 2 淡黄灰褐色細砂 (土器・炭化物・暗褐色粘質土塊含)
- 3 暗褐色粘質土

第968図 土壙247 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 明褐色微砂
- 2 暗灰褐色粘質細砂



3413



3414

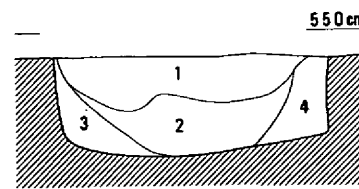
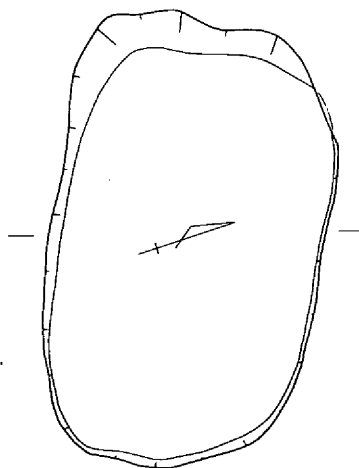


3415



第969図 土壙248 (1/30)

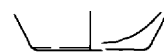
・出土遺物 (1/4)



3416



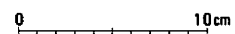
3417



3418



3419



- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 暗黄褐色粘質微砂
- 3 黄褐色粘質土
- 4 茶褐色粘質土

第970図 土壙249 (1/30)・出土遺物 (1/4)

模は125×162cmの不整隅丸方形を呈し、深さは27cmを測るが、遺構の残存状態は悪い。床面は平坦で、断面は逆台形を呈する。出土遺物はないが、弥・後の時期と思われる。(松本)

**土壙251 (第553・972図)**

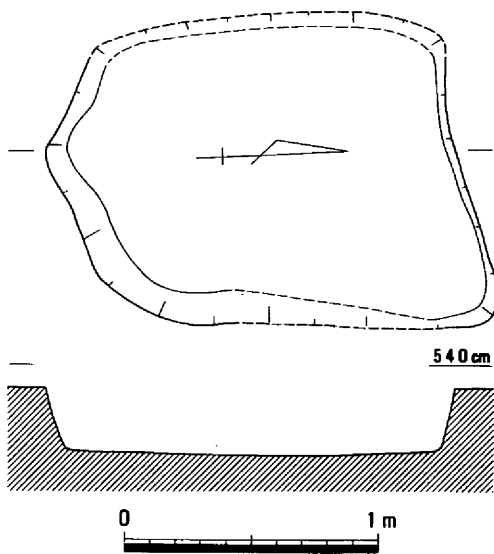
土壙250の南隣で検出された。規模は72×127cmの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。床面は平坦である。断面は逆台形を呈する。出土遺物はないが、弥・後の時期と思われる。(松本)

**土壙252 (第553・973図)**

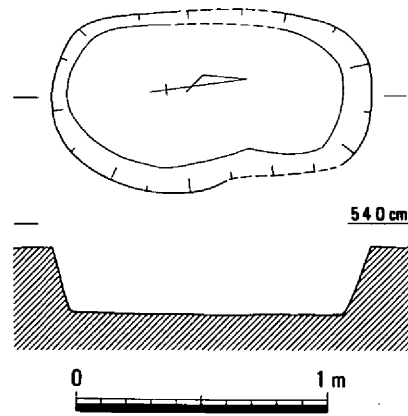
土壙253の北隣で検出された遺構である。規模は115×145cmの隅丸方形を呈し、深さは20cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は2層に区分された。断面はU字形を呈する。出土遺物としては甕3420～3422がある。遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

**土壙253 (第553・974図)**

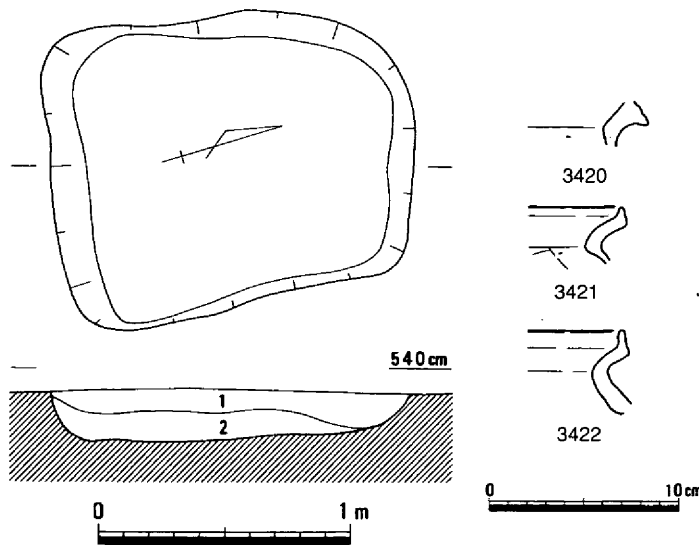
土壙255と切り合い関係をもつ。規模は101×122cmの隅丸方形を呈し、深さは35cmを測る。床面中央



第971図 土壙250 (1/30)

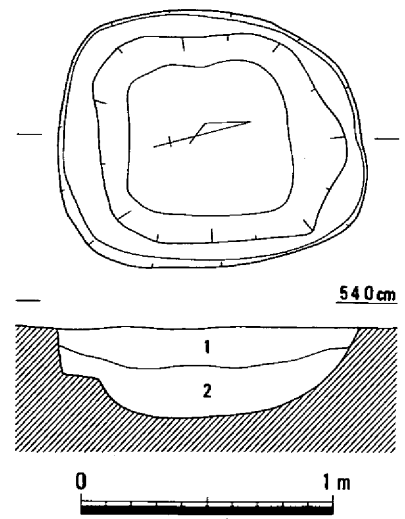


第972図 土壙251 (1/30)



- 1 暗茶褐色粘質土(暗青灰色土含)
- 2 茶褐色粘質土

第973図 土壙252 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 明灰褐色粘質微砂
- 2 淡褐灰色粘質細砂(炭化物含)

第974図 土壙253 (1/30)



部はくぼみ、断面はU字形を呈する。出土遺物はないが、弥・後・I頃と思われる。 (松本)

**土壙254** (第553・975図、図版125)

土壙253の東隣において検出された。規模は52×57cmの円形を呈し、深さは25cmを測る。床面は中央部がくぼみ、断面はU字形を呈する。埋土は2層に区分される。遺物としては床面から出土した鉢3423がある。この遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃と思われる。 (松本)

**土壙255** (第553・976図)

土壙253と切り合い関係をもつ。規模は77×186cmの隅丸長方形を呈し、深さは16cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分される。出土遺物はないが、弥・後の遺構と思われる。 (松本)

**土壙256** (第553・977図)

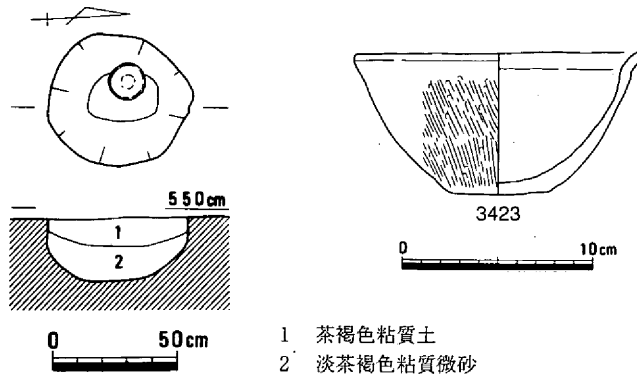
土壙255の東約2mの位置で検出された。規模は51×76cmの楕円形を呈し、深さは47cmを測る。埋土は3層に区分され、断面はU字形を呈する。遺物はないが、弥・後・Ⅱ以降と思われる。 (松本)

**土壙257** (第553・978図)

土壙256の東約1mの位置で検出された。規模は71×113cmの楕円形を呈し、深さは33cmを測る。床面は平坦である。図示できる遺物はないが、弥・後・Iと思われる。 (松本)

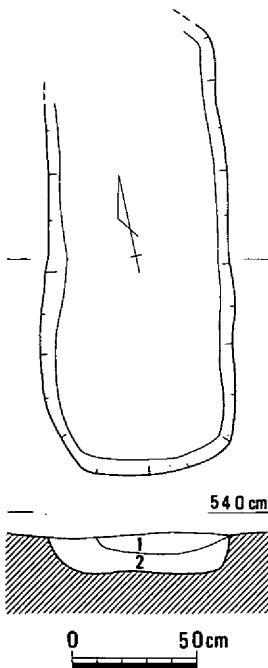
**土壙258** (第553・979図)

方形土壙25の北約1mの位置で検出された遺構である。規模は76×83cmの楕円形を呈し、深さは16cmと浅い。埋土は3層に区分される。床面はほぼ平坦であるが、床



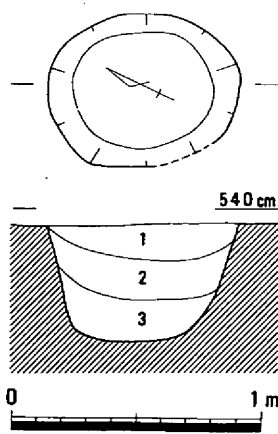
第975図 土壙254 (1/30)・出土遺物 (1/4)

- 1 茶褐色粘質土
- 2 淡茶褐色粘質微砂



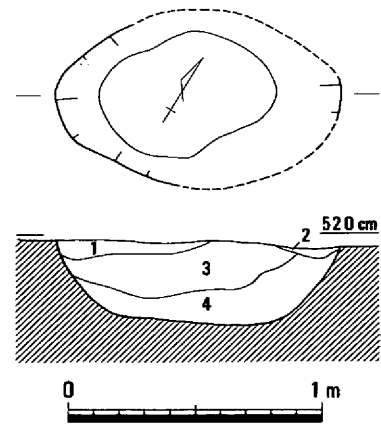
- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 茶褐色粘質微砂

第976図 土壙255 (1/30)



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質微砂
- 3 暗茶褐色粘質土

第977図 土壙256 (1/30)



- 1 淡黄褐色微砂
- 2 黄橙色粗砂
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 黄褐色砂質土

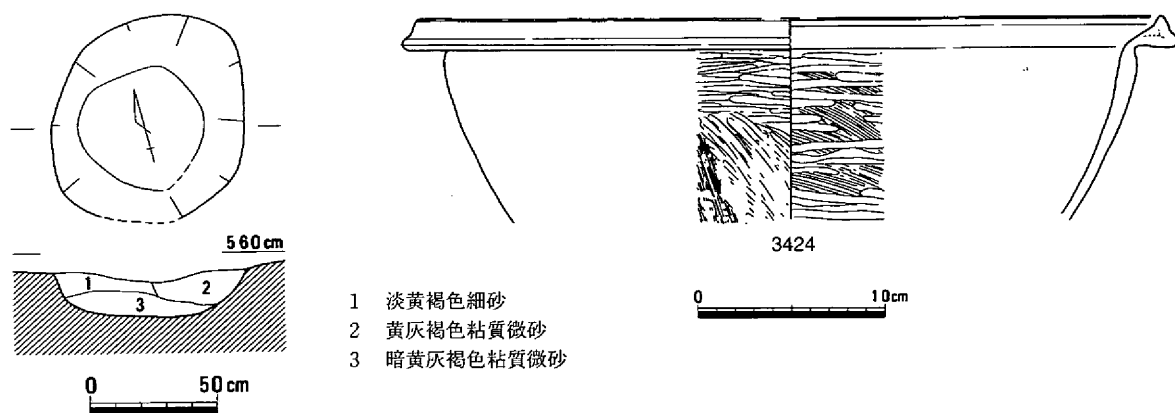
第978図 土壙257 (1/30)

面積は少ない。断面はU字形を呈している。出土遺物としては、大形の鉢3424がある。この遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

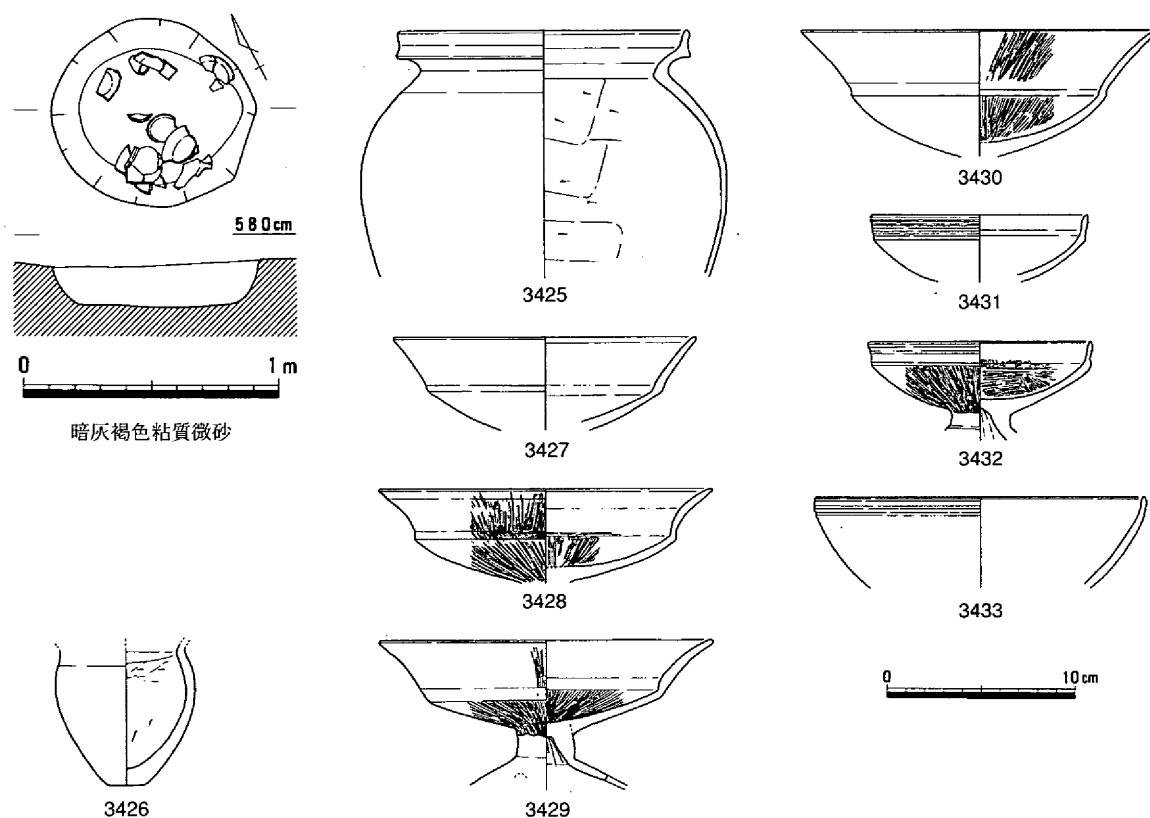
土壙259 (第553・980図、図版47・125)

土壙258の南約2mの位置で検出された遺構である。規模は74×81cmの円形を呈し、深さは17cmと浅い。埋土は1層だけである。床面は平坦で、断面はU字形を呈している。

出土遺物としては、甕3425・3426、高杯3427～3433などの土器が出土している。これらの土器はいずれも床面において、投棄された状態で検出された。高杯の杯部は3形態に大別されるが、脚部は短脚である。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第979図 土壙258 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第980図 土壙259 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙260 (第553・981図)

方形土壙24と切り合い関係をもつ。規模は75×98cmの不整楕円形を呈し、深さは29cmを測る。埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・I～IIと思われる。(松本)

土壙261 (第553・982図)

方形土壙28の北隣において検出された。遺構の東側は削平されているが、規模は69×80cmの不整形を呈し、深さは37cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、2層は炭を含む。断面はU字形を呈している。遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・IV頃と思われる。(松本)

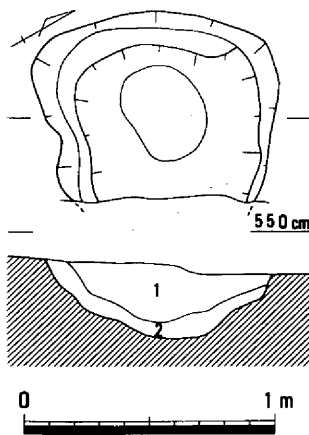
土壙262 (第553・983図)

方形土壙55の東約2mの位置で検出された。規模は83×105cmの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。床面は平坦である。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・I～II頃と思われる。(松本)

土壙263 (第553・984図、図版125)

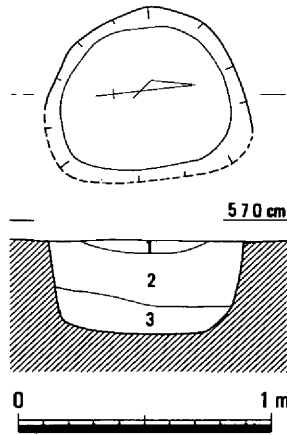
方形土壙27の東約1mの位置で検出された。規模は88×102cmの円形を呈し、深さは22cmを測る。

床面は平坦である。埋土は2層に区分され、炭、焼土などを含んでいる。遺物は床面から甕3434が出土している。廃棄された時期は弥・後・III～IV頃と思われる。(松本)



- 1 暗褐色粘質微砂 (土器含)
- 2 淡黄灰褐色粘質土

第981図 土壙260 (1/30)

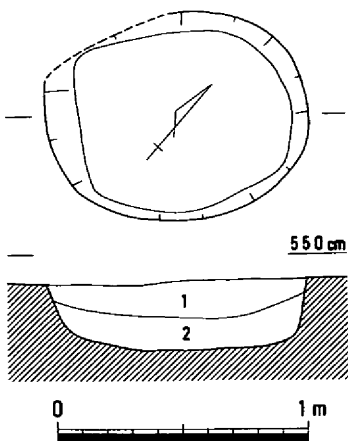


- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 暗茶灰色粘質微砂 (炭含)
- 3 黄灰色粘質土

第982図 土壙261 (1/30)

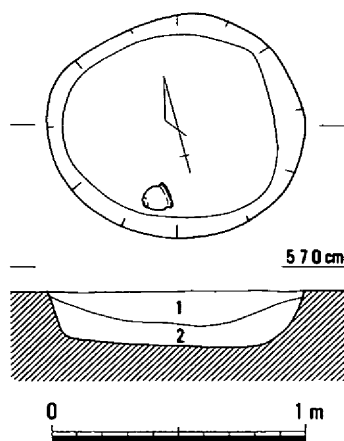
土壙264 (第553・985図)

方形土壙55に切られた状態で検出された。確認された規模は80×89cm、深さは32cmを測り、楕円形が想定される。埋土は3層に区分される。図示できる遺物はないが、弥・後・IVと思われる。(松本)



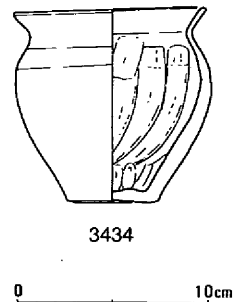
- 1 暗茶灰色粘質微砂 (土器・炭含)
- 2 灰褐色粘質微砂

第983図 土壙262 (1/30)



- 1 茶褐色粘質土 (炭含)
- 2 暗茶褐色粘質土 (炭・焼土含)

第984図 土壙263 (1/30)・出土遺物 (1/4)



**土壙265 (第553・986図)**

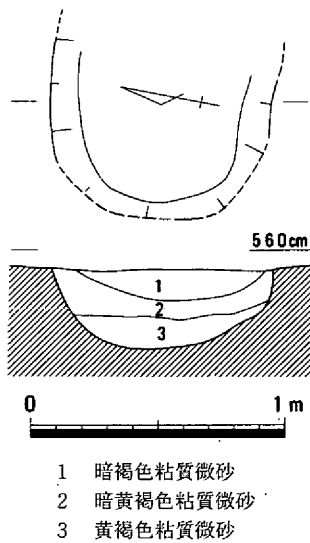
土壙264の南隣の位置で検出された。規模は68×86cmの隅丸方形を呈し、深さは30cmを測る。床面は中央部からやや南でくぼむが、平坦に近い。埋土は1層であるが、土器、炭を包含していた。断面はU字形を呈する。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

**土壙266 (第553・987図)**

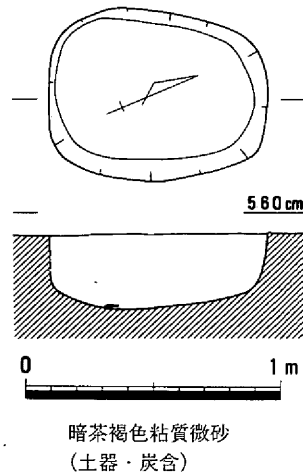
方形土壙52に切られた状態で検出された。規模は93×約125cmの楕円形を呈し、深さは10cmと浅い。埋土は1層である。出土遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・I～II頃と思われる。(松本)

**土壙267 (第553・988図)**

方形土壙57に切られた状態で検出された。規模は70×108cmの楕円形を呈し、深さは34cmを測る。埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



第985図 土壙264 (1/30)



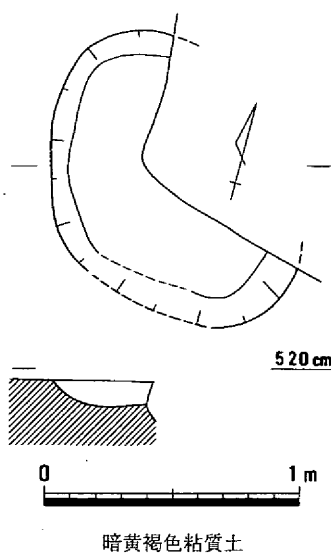
第986図 土壙265 (1/30)

**土壙268 (第553・989図)**

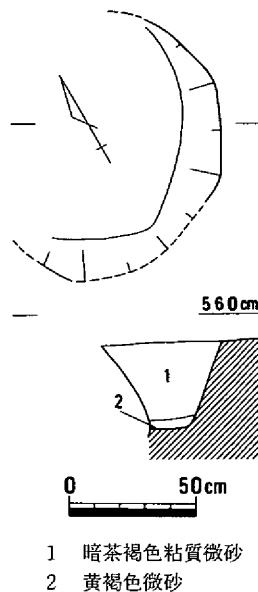
土壙270の西隣で検出された遺構である。規模は81×118cmの不整楕円形を呈し、深さは45cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分されたが、上層においては炭を含んでいた。出土遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・I～II頃と思われる。(松本)

**土壙269 (第553・990図)**

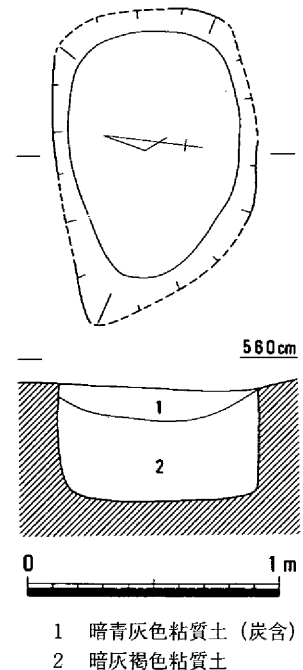
袋状土壙87の南約1mの位置で検出された。ほかの遺構に切られ



第987図 土壙266 (1/30)



第988図 土壙267 (1/30)

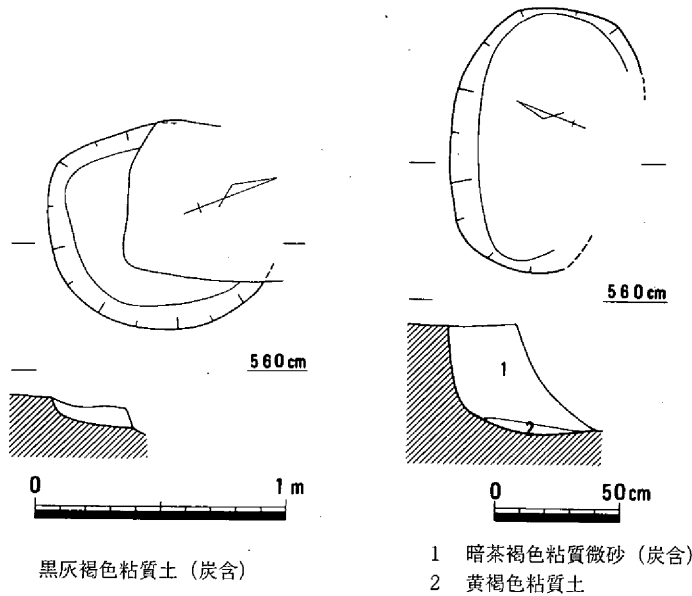


第989図 土壙268 (1/30)

ているため、遺構の残存状態は悪い。確認された規模は82×85cmで、円形を呈し、深さは8cmと浅い。埋土は1層で、炭を含む土層である。図示できる遺物はないが、弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙270 (第553・991図)

土壙268の東隣で検出された遺構である。ほかの遺構に切られているため、残存状態は悪い。規模は74×106cmの長楕円形を呈し、深さは43cmを測る。床面は平坦となり、埋土は2層に区分された。上層は炭を含んでいる。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅱと思われる。(松本)



第990図 土壙269 (1/30)

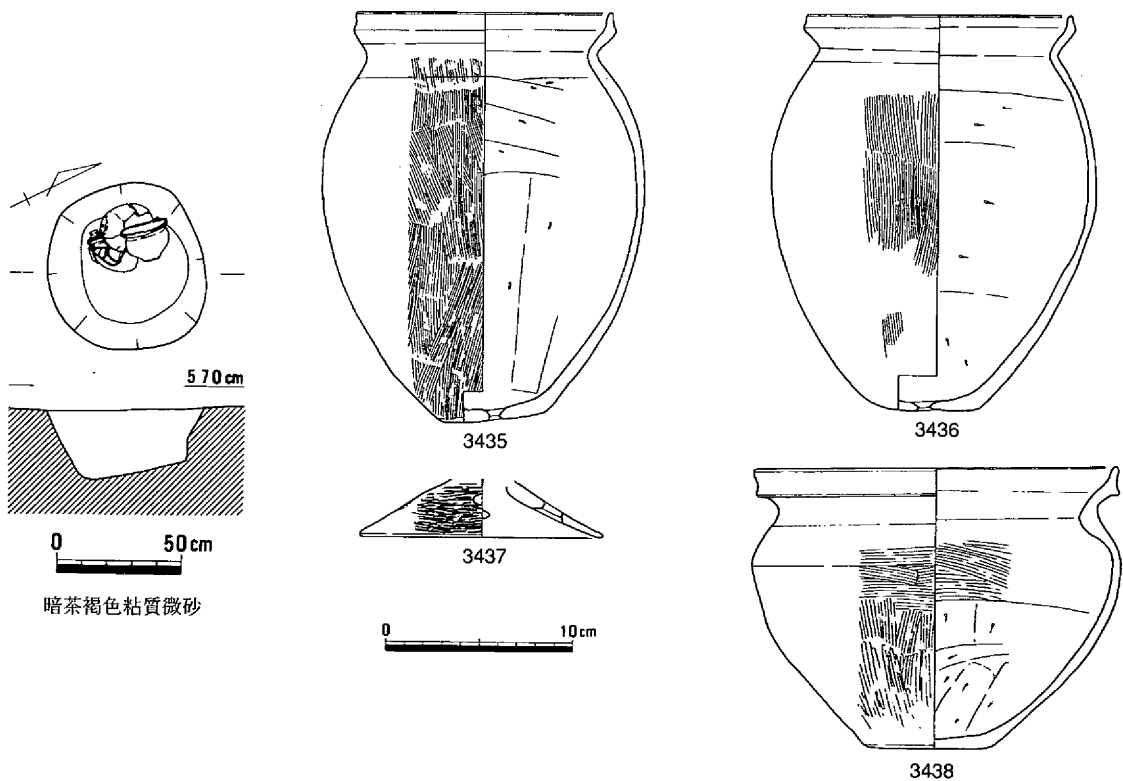
第991図 土壙270 (1/30)

土壙271 (第553・992図、図版125)

土壙268と切る状態で検出された遺構である。規模は62×66cmの円形を呈し、深さは27cmを測る。床面は平坦であるが、南に傾斜している。埋土は1層で、断面は逆台形を呈する。遺物は床面に付着する状態で、甕3435・3436、高杯3437、鉢3438などが高杯を除いてほぼ完形の状態で出土している。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙272 (第553・993図、図版47)

土壙273の北西約1mの位置で検出



第992図 土壙271 (1/30)・出土遺物 (1/4)

された遺構である。規模は54×83cmの隅丸方形を呈し、深さは10cmと極めて浅い。床面は平坦であり、埋土は1層である。断面はU字形を呈するものと推察される。遺物は遺構中央から東壁にかけて集中して出土している。主な遺物としては、壺3439～3442、甕3443、高杯3444～3446、台付鉢3447などが出土している。壺は短頸と長頸に区別される。また、3443の底部には焼成後の穿孔がみられた。廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

土壙273 (第553・994図)

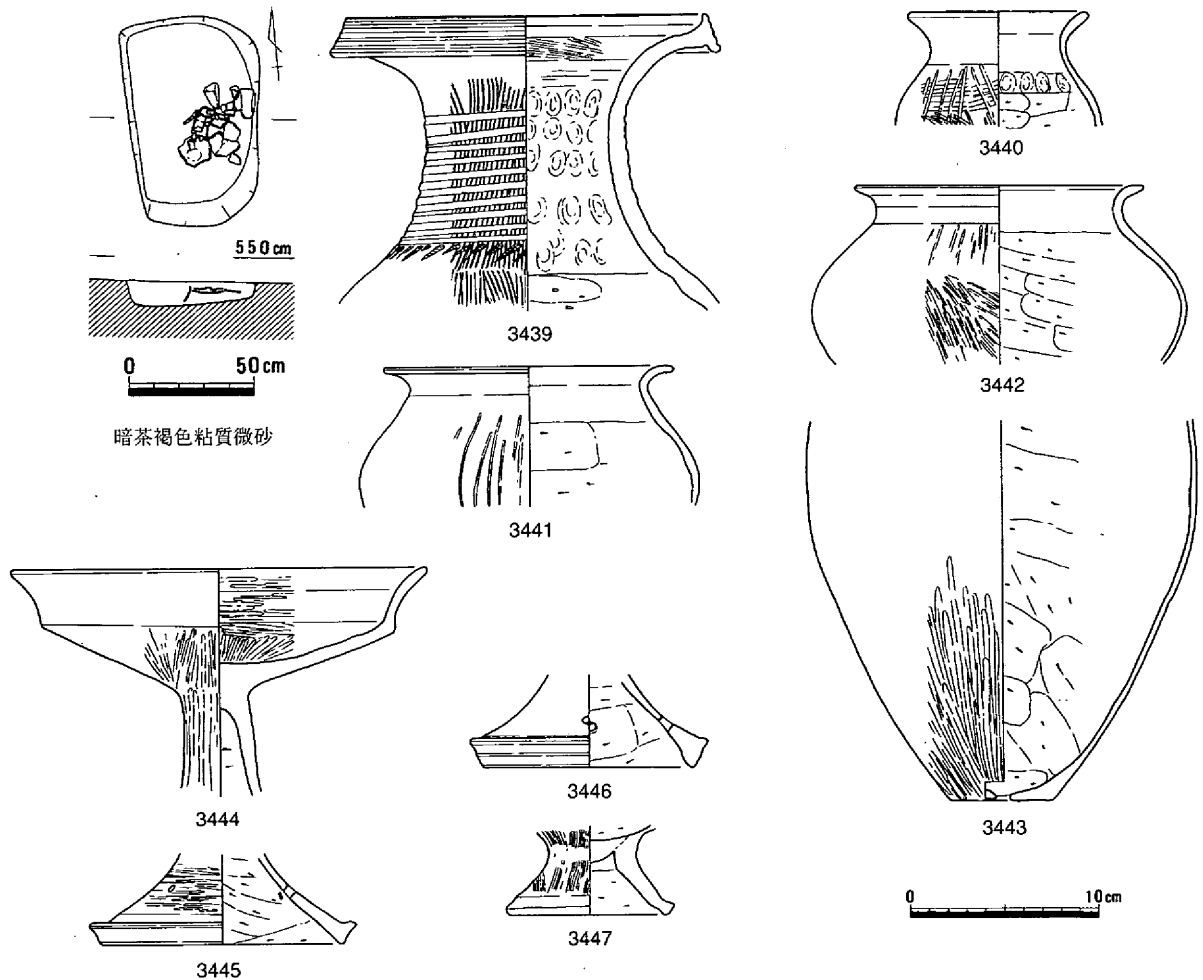
土壙272の南東約1mの位置で検出された遺構である。規模は168×181cmの不整円形を呈し、深さは43cmを測る。床面は平坦である。埋土は5層に区分されたが、1層では土器、炭を含んでいた。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙274 (第553・995図)

土壙275の北隣で検出された遺構である。規模は87×95cmの不整円形を呈し、深さは24cmを測る。床面は平坦であり、埋土はいずれも茶褐色系の粘質微砂であり、2層に区分された。断面はU字形を呈している。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅰ～Ⅱ頃と思われる。(松本)

土壙275 (第553・996図)

土壙274の南隣で検出された遺構である。規模は91×122cmの隅丸方形を呈し、深さは40cmを測る。



第993図 土壙272 (1/30)・出土遺物 (1/4)

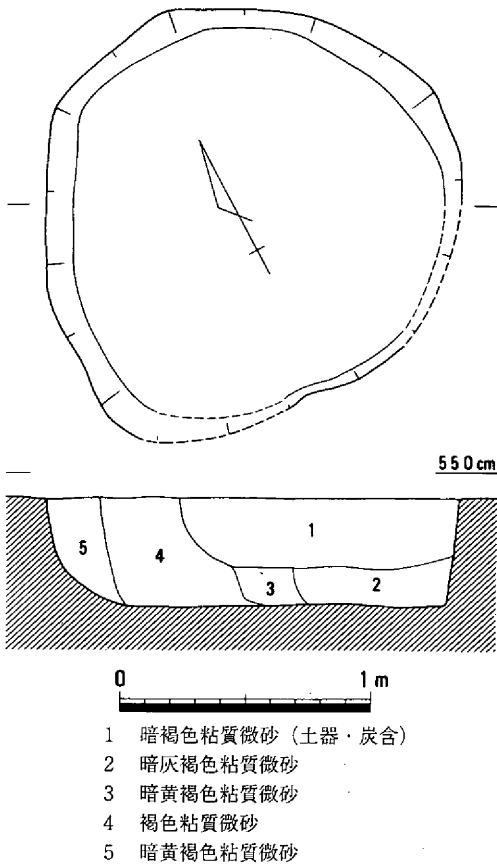
床面は平坦である。土層断面には新しい柱穴が確認されているが、本遺構の埋土は2層である。堆積は水平である。出土遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅱ以降と思われる。(松本)

土壙276 (第553・997図)

土壙278と切り合い関係をもつ遺構である。規模は108×130cmの不整形円形を呈し、深さは43cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積は水平である。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

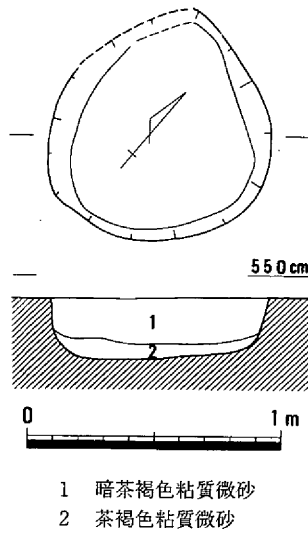
土壙277 (第553・998図)

土壙278の東隣の位置で検出された遺構である。ほかの遺構に切られているため、遺構の残存状態は悪い。確認された規模は79×96cmの楕円形を呈し、深さは30cmを測る。床面は平坦に近く、埋土は3層に区分された。遺物の出土はないが、遺構の切り合い関係や検出レベルからみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅰ～Ⅱ頃と思われる。(松本)



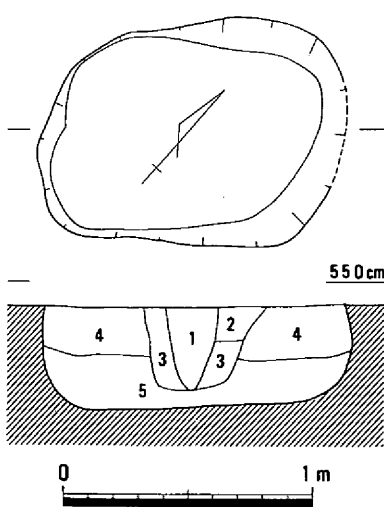
- 1 暗褐色粘質微砂 (土器・炭含)
- 2 暗灰褐色粘質微砂
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 褐色粘質微砂
- 5 暗黄褐色粘質微砂

第994図 土壙273 (1/30)



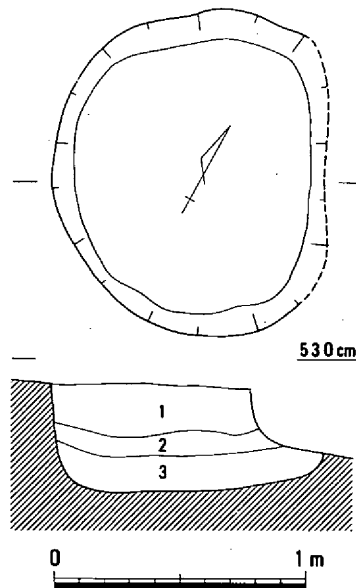
- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質微砂

第995図 土壙274 (1/30)



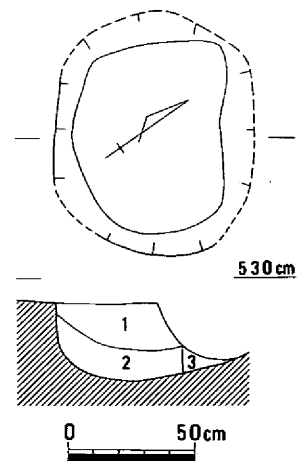
- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質微砂
- 3 暗黄褐色粘質微砂
- 4 暗茶褐色粘質微砂
- 5 茶灰褐色粘質微砂

第996図 土壙275 (1/30)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質微砂
- 3 暗黄褐色粘質微砂

第997図 土壙276 (1/30)

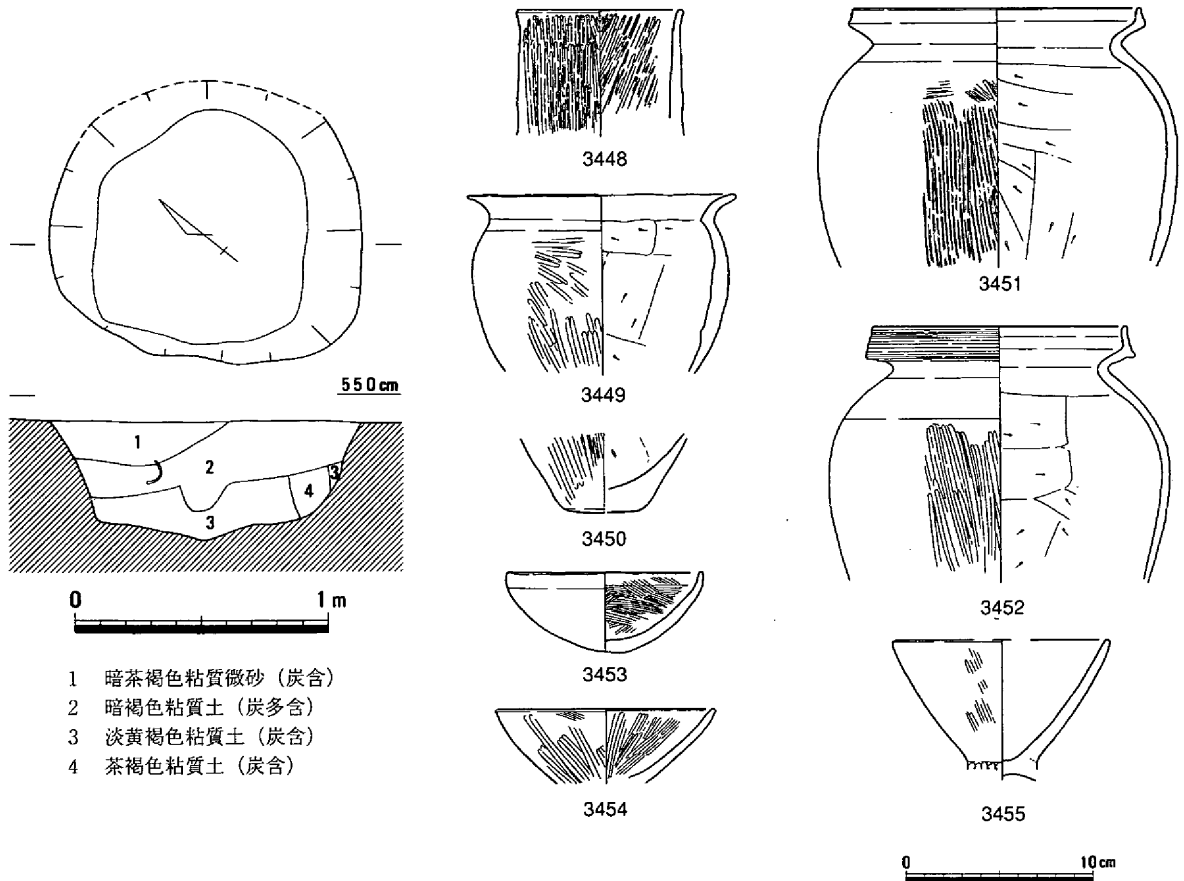


- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗黄褐色粘質微砂
- 3 暗灰褐色粘質土

第998図 土壙277 (1/30)

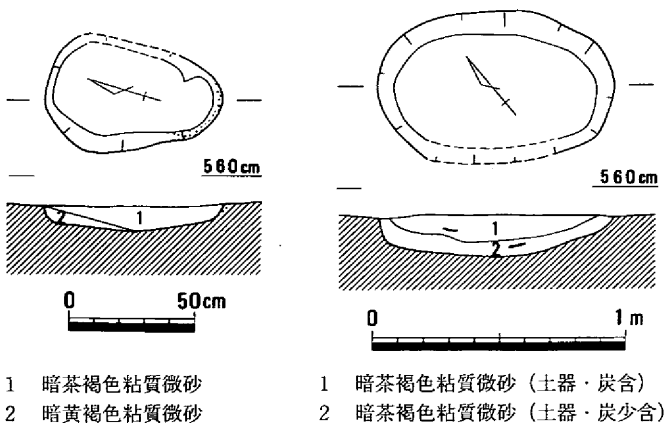
土壙278 (第553・999図)

土壙276を切る状態で検出された遺構である。規模は111×123cmで、円形を呈しており、深さは47cmを測る。床面には凹凸がみられ、平坦ではない。埋土は4層に区分されるが、全体に炭を多く含む埋土であった。堆積は東から西に向けて傾斜している。断面は逆台形を呈する。遺物は上層を中心に土器が出土している。主な土器としては直口壺3448、甕3449～3452、鉢3453・3454、台付鉢3454などがある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



- 1 暗茶褐色粘質微砂 (炭含)
- 2 暗褐色粘質土 (炭多含)
- 3 淡黄褐色粘質土 (炭含)
- 4 茶褐色粘質土 (炭含)

第999図 土壙278 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗黄褐色粘質微砂

第1000図 土壙279 (1/30) 第1001図 土壙280 (1/30)

土壙279 (第553・1000図)

土壙280の西隣に位置する遺構である。規模は47×70cmの楕円形を呈し、深さは10cmと浅い。床面は平坦である。埋土は2層に区分された。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

土壙280 (第553・1001図)

土壙279の東隣の位置で検出された。規模は60×94cmの楕円形を呈し、深さ



は16cmと浅い。埋土は2層に区分されるが、全体に炭、土器を包含する埋土であった。堆積はレンズ状を呈する。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・I～II頃と思われる。(松本)

**土壙281** (第553・1002図)

土壙280の東隣の位置で検出された。規模は98×133cmの不整楕円形を呈し、深さは40cmを測る。埋土は5層に区分されるが、いずれの土層も褐色系の粘質微砂土である。掘り方は不規則な二段掘りとなっており、床面が丸底となる。図示できる遺物としては高杯3456がある。3456は短脚の脚部であり、この遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

**土壙282** (第553・1003図)

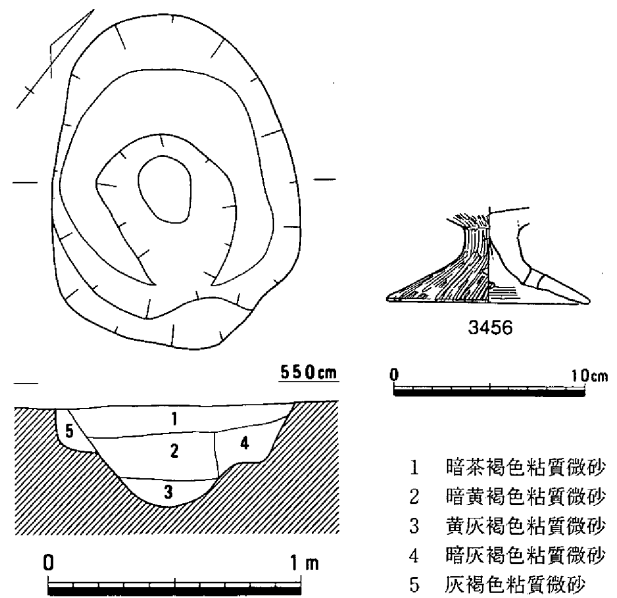
土壙283に切られる状態で検出された。確認された規模は95×114cmで、楕円形を呈すると推察される。深さは9cmである。図示できる遺物はないが弥・後・IVと思われる。(松本)

**土壙283** (第553・1003図)

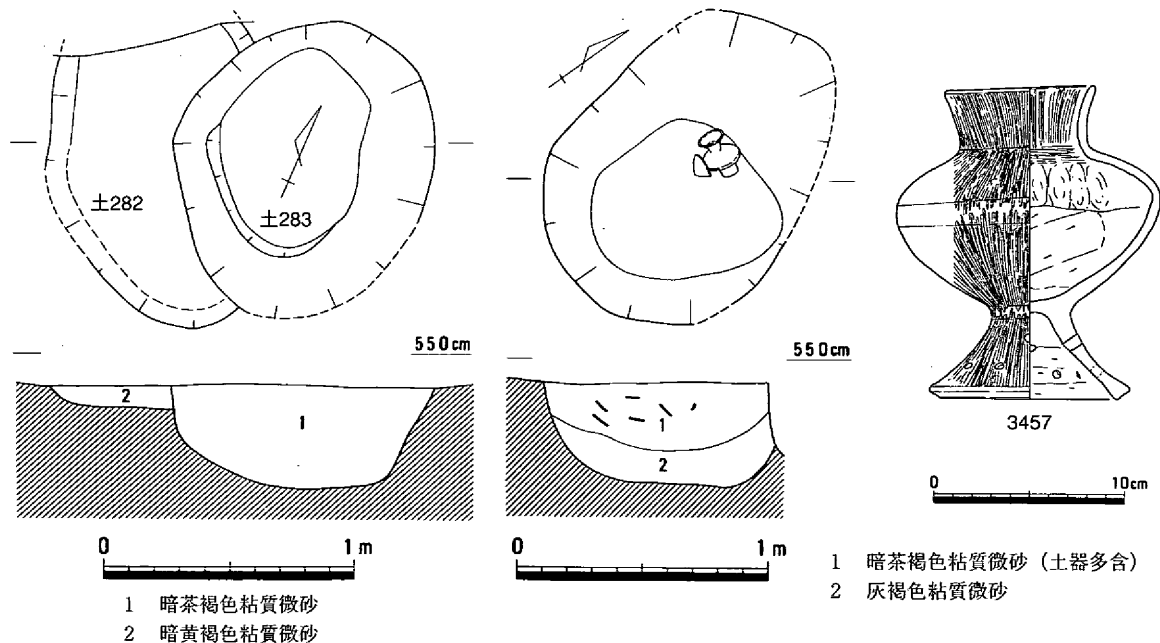
土壙282を切る状態で検出された。規模は103×121cmの不整形円形を呈し、深さは41cmを測る。床面はほぼ水平である。埋土は1層である。断面はU字形を呈している。遺物はないが、土壙283との切り合い関係からみて、本遺構は弥・後・IV頃の遺構と思われる。(松本)

**土壙284** (第553・1004図、図版48・125)

方形土壙51の北隣の位置で検出された。規模は97×132cmの楕円形を呈し、深さは41cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は2層



第1002図 土壙281 (1/30)・出土遺物 (1/4)

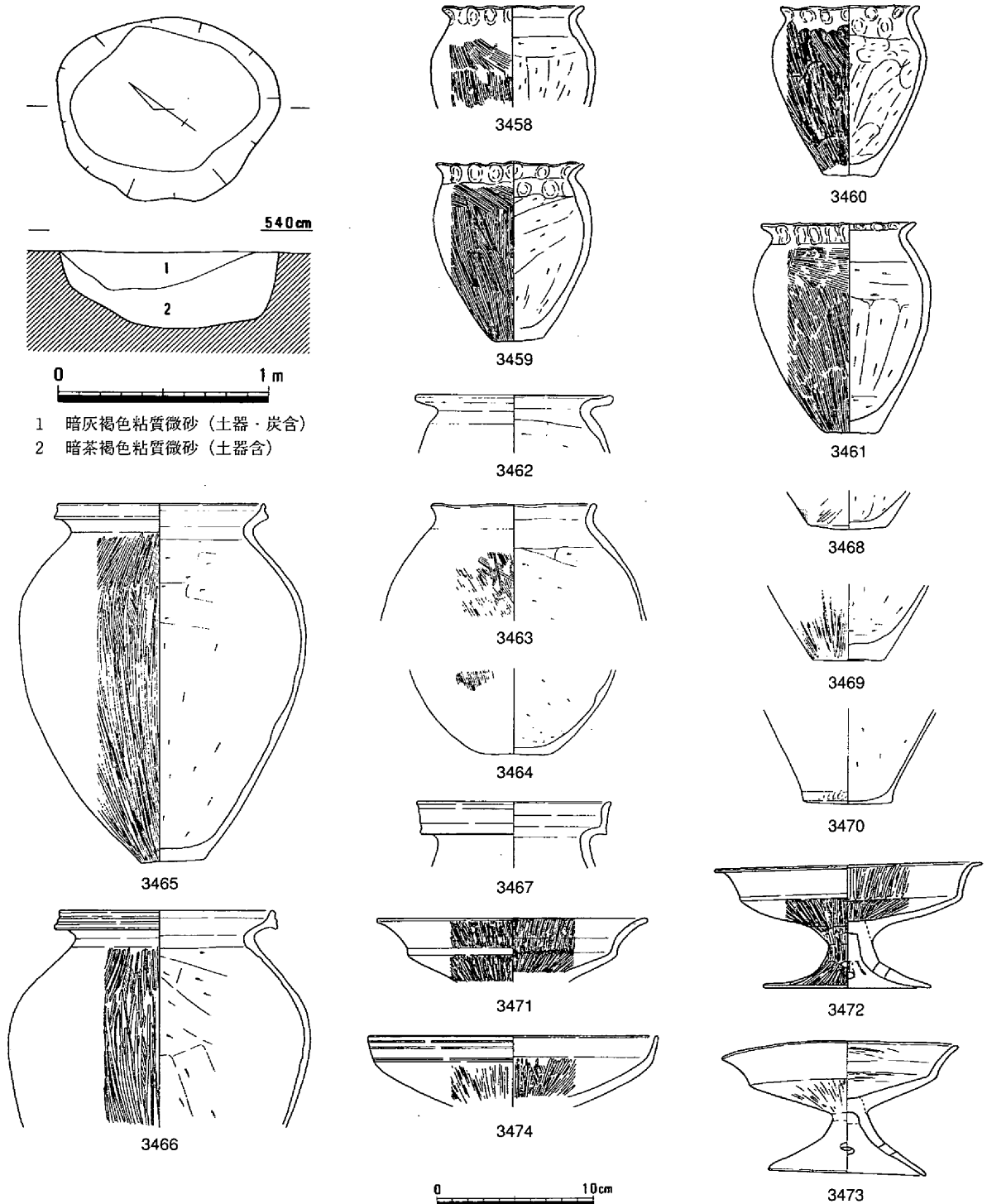


第1003図 土壙282・283 (1/30)

第1004図 土壙284 (1/30)・出土遺物 (1/4)

に区分され、堆積はレンズ状を呈する。断面はU字形となる。大部分の遺物は1層内で出土している。図示できた土器として台付直口壺3457がある。廃棄された時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲと思われる。(松本) 土壌285 (第553・1005図、図版126)

方形土壌48の東隣で検出された遺構である。規模は87×105cmの不整楕円形を呈し、深さは36cmを測る。床面は平坦でない。埋土は2層に区分されたが、灰褐色ないし茶褐色の粘質微砂土である。そして、上層では炭が出土している。断面はU字形を呈している。



第1005図 土壌285 (1/30)・出土遺物 (1/4)

遺物としては土器が多量に出土している。主な土器として甕3458～3470、高杯3471～3474などがある。特に甕は口縁部の形態から、3458～3461・3462・3463・3465と3466そして3467に大別でき、高杯も2つに大別された。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

土壙286 (第553・1006図)

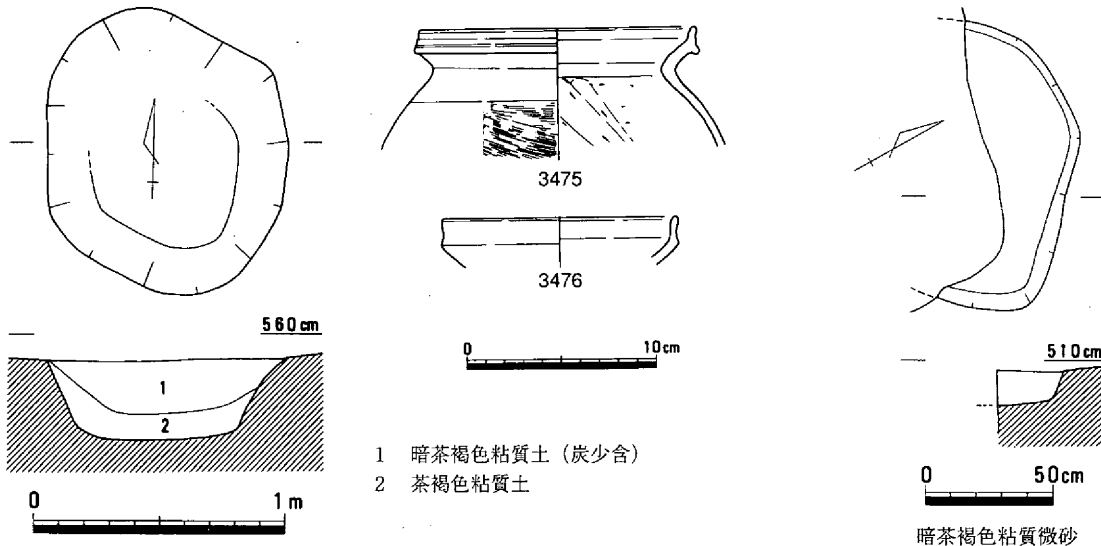
土壙337の西隣において検出された遺構である。規模は100×115cmの円形を呈し、深さは31cmを測る。床面は平坦で、断面は逆台形を呈している。埋土は2層に区分されるが、上層には炭を含んでいた。出土遺物としては、甕3475・3476などがある。廃棄された時期は弥・後・IIと思われる。(松本)

土壙287 (第553・1007図)

方形土壙51に切られる状態で検出された。規模は65×110cmで、不整楕円形と思われる。深さは14cmを測る。床面は平坦である。遺物はないが、弥・後・I～II頃と推察される。(松本)

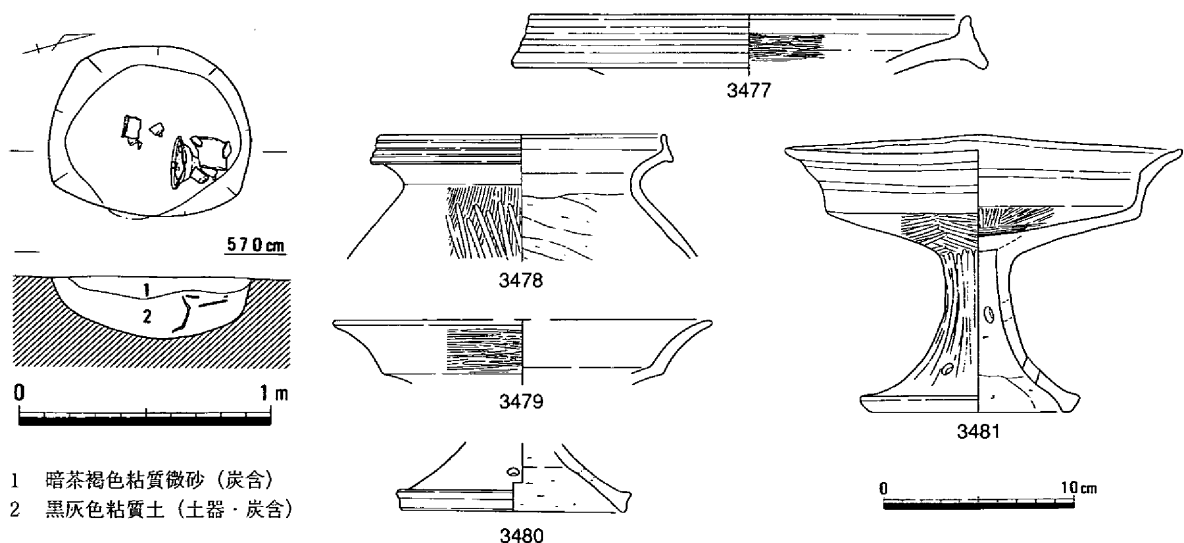
土壙288 (第553・1008図、図版126)

方形土壙59と切り合い関係をもつ遺構である。規模は67×80cmの楕円形を呈し、深さは24cmを測る。



第1006図 土壙286 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1007図 土壙287 (1/30)



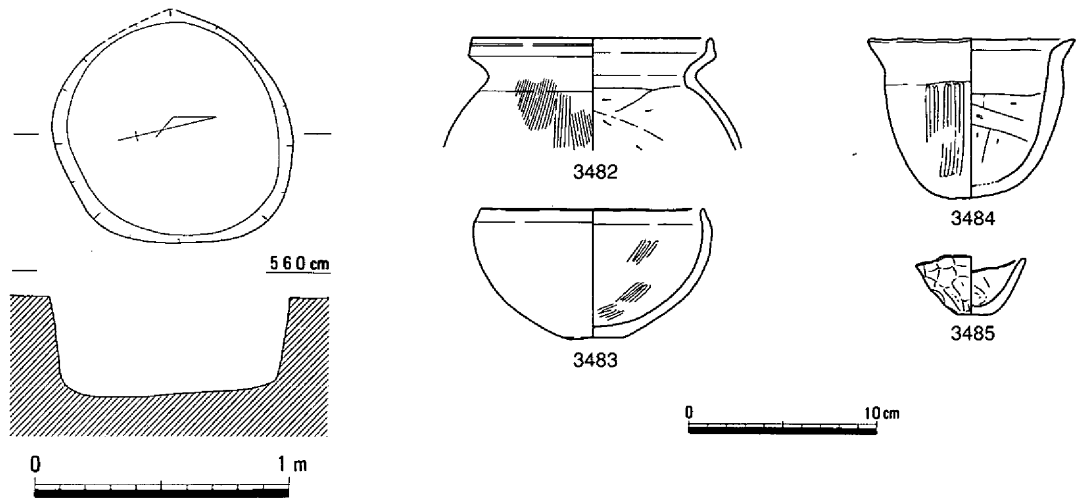
第1008図 土壙288 (1/30)・出土遺物 (1/4)

床面中央はくぼむ。埋土は2層に区分されるが、両層に炭を含んでいた。断面はU字形を呈する。遺物はいずれも下層からの出土である。主な遺物としては、壺3477、甕3478、高杯3479～3481などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱと思われる。(松本)

**土壙289 (第553・1009図)**

方形土壙67の西約1mの位置で検出された遺構である。規模は93×94cmの円形を呈し、深さは40cmを測る。床面は平坦である。断面は逆台形を呈している。

図示できる主な遺物としては、甕3482、鉢3483・3484、手捏ね鉢3485などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第1009図 土壙289 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙290 (第553・1010図)**

方形土壙63の西隣で検出された。規模は100×101cmの不整楕円形を呈し、深さは15cmを測る。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

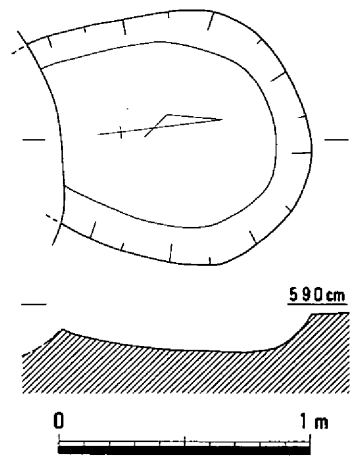
**土壙291 (第553・1011図)**

方形土壙56の南約3mの位置で検出された。規模は117×121cmの円形を呈し、深さは58cmを測る。床面は粘土(6層)の貼り付けによって平坦にされているが、断面はU字形を呈する。

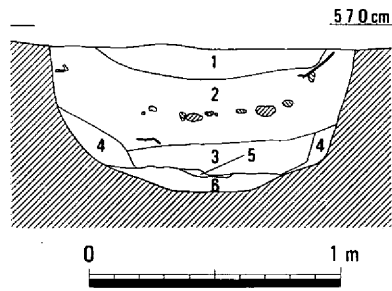
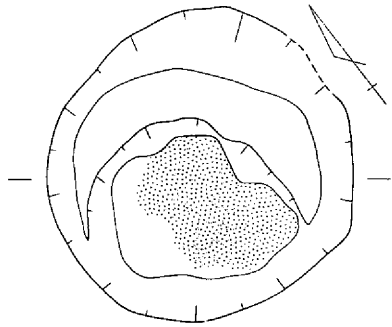
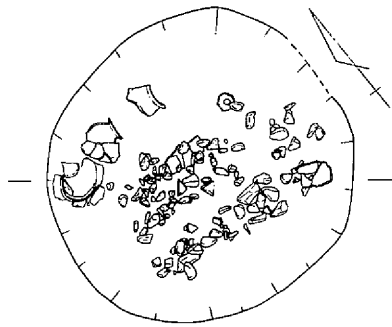
埋土は6層区分された。出土遺物としては、甕3486～3489、高杯3490～3492、鉢3493などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

**土壙292 (第553・1012図)**

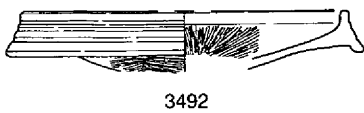
土壙290の南約1mの位置で検出された。この遺構は本来は2ないし3遺構が切り合ったような状態のものと考えられるが、前後関係が不明であるため、一括して土壙292としている。規模は86×176cmの不整楕円形を呈し、深さは49cmを測る。断面はU字形を呈し、埋土は10層に区分された。遺物は壺3494、甕3495・3496、高杯3497、鉢3498などの土器がある。時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)



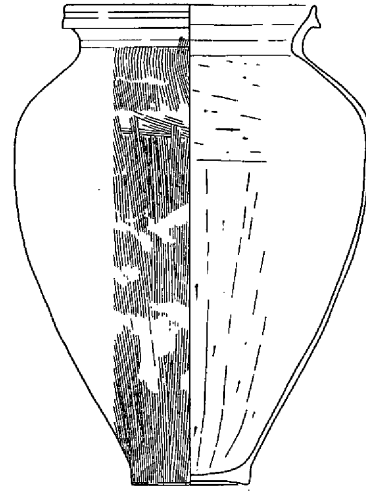
第1010図 土壙290 (1/30)



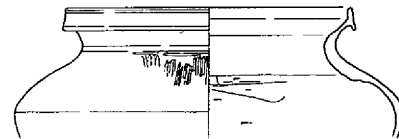
- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 黒灰褐色粘質微砂 (炭多含)
- 3 黄灰色粘質土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 淡明灰褐色粘質土
- 6 淡明黄灰色粘土



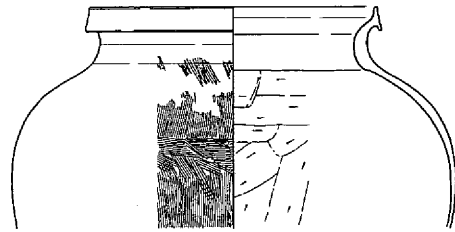
3492



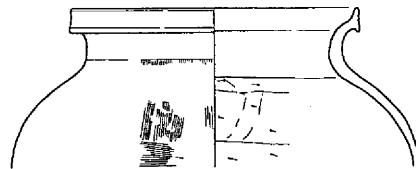
3486



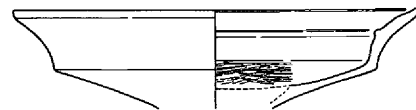
3487



3488



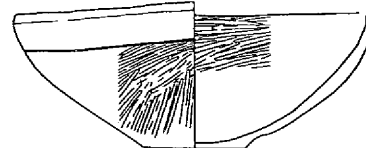
3489



3490

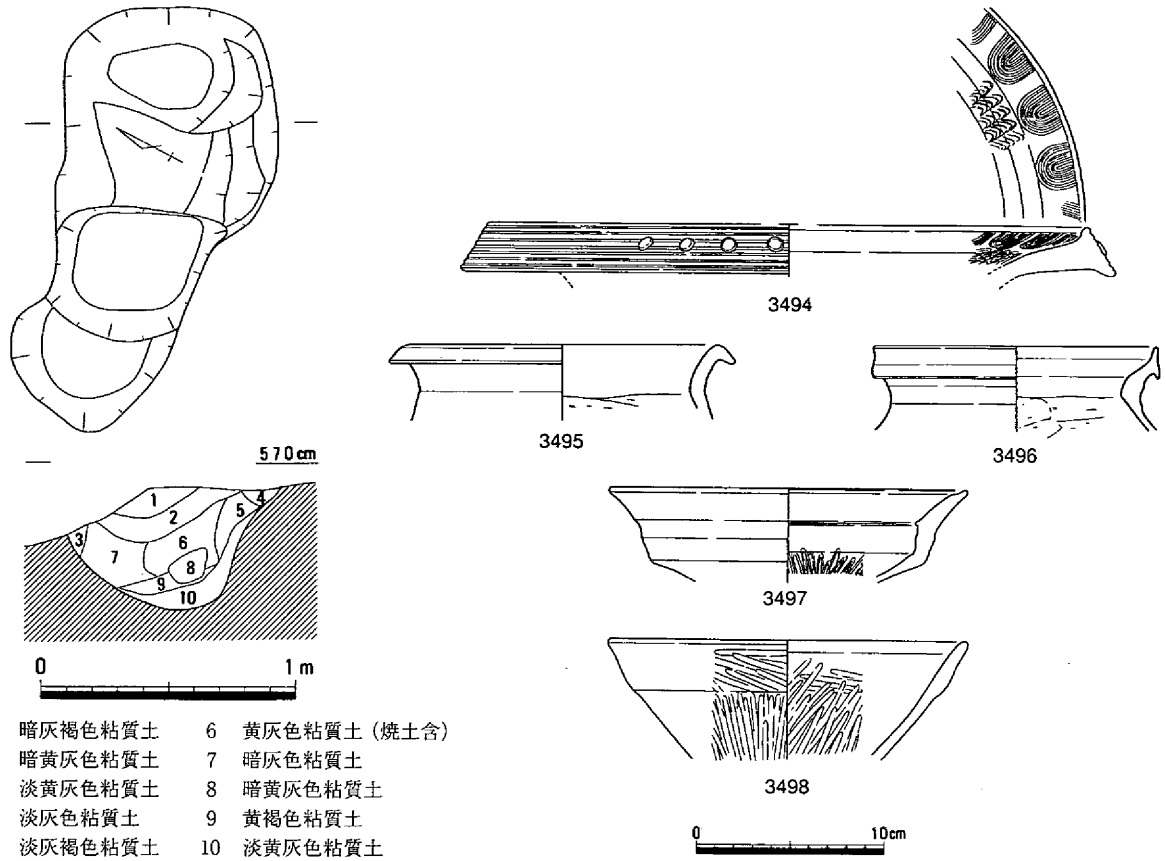


3491



3493

第1011図 土壤291 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1 暗灰褐色粘質土 | 6 黄灰色粘質土 (焼土含) |
| 2 暗黄灰色粘質土 | 7 暗灰色粘質土       |
| 3 淡黄灰色粘質土 | 8 暗黄灰色粘質土      |
| 4 淡灰色粘質土  | 9 黄褐色粘質土       |
| 5 淡灰褐色粘質土 | 10 淡黄灰色粘質土     |

第1012図 土壌292 (1/30)・出土遺物 (1/4)

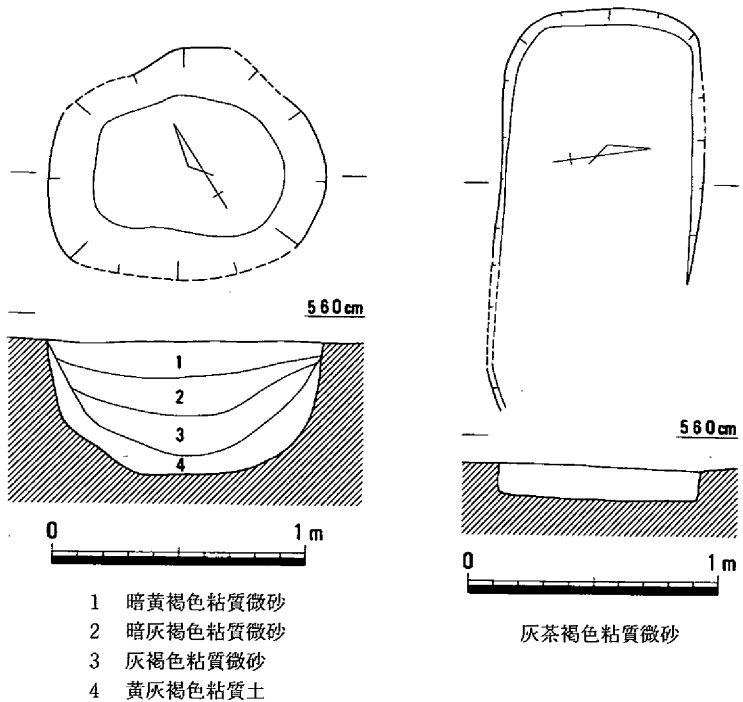
土壌293 (第553・1013図)

土壌307の西隣で検出された。規模は92×110cmの不整楕円形を呈し、深さは52cmを測る。床面は平坦である。断面はU字形となる。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IIと思われる。(松本)

土壌294 (第553・1014図)

方形土壌69の西隣で検出された。確認された規模は81×160cmの隅丸方形を呈し、深さは13cmを測る。床面は平坦である。規模、形態から土壌墓の可能性も想定される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IIIと思われる。

(松本)



- |            |
|------------|
| 1 暗黄褐色粘質微砂 |
| 2 暗灰褐色粘質微砂 |
| 3 灰褐色粘質微砂  |
| 4 黄灰褐色粘質土  |

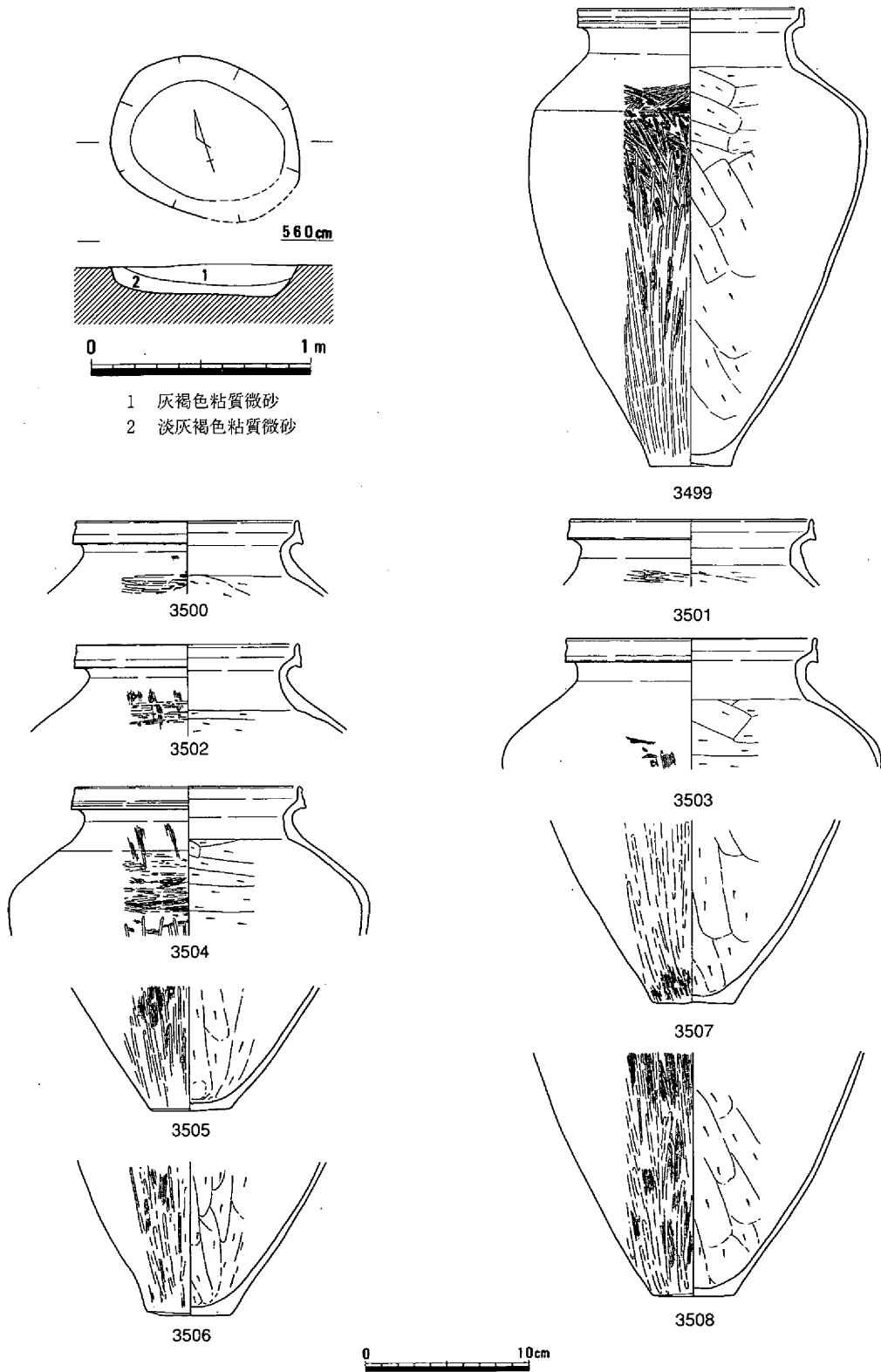
灰茶褐色粘質微砂

第1013図 土壌293 (1/30)

第1014図 土壌294 (1/30)

土壙295 (第553・1015図、図版126)

土壙294と切り合い関係をもつ遺構である。遺構はかなり削平をうけているが、その規模は51×89cmの楕円形を呈し、深さは14cmを測る。床面は平坦であり、埋土は2層に区分される。



第1015図 土壙295 (1/30)・出土遺物 (1/4)

主な出土遺物としては甕3499～3508がある。いずれも口縁部は上方に拡張し、端面に浅い凹線をもつ。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙296 (第553・1016図)

土壙294の南西の位置で検出された遺構である。規模は74×78cmの円形を呈し、深さは32cmを測る。床面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積はレンズ状を呈していた。断面はU字形となる。

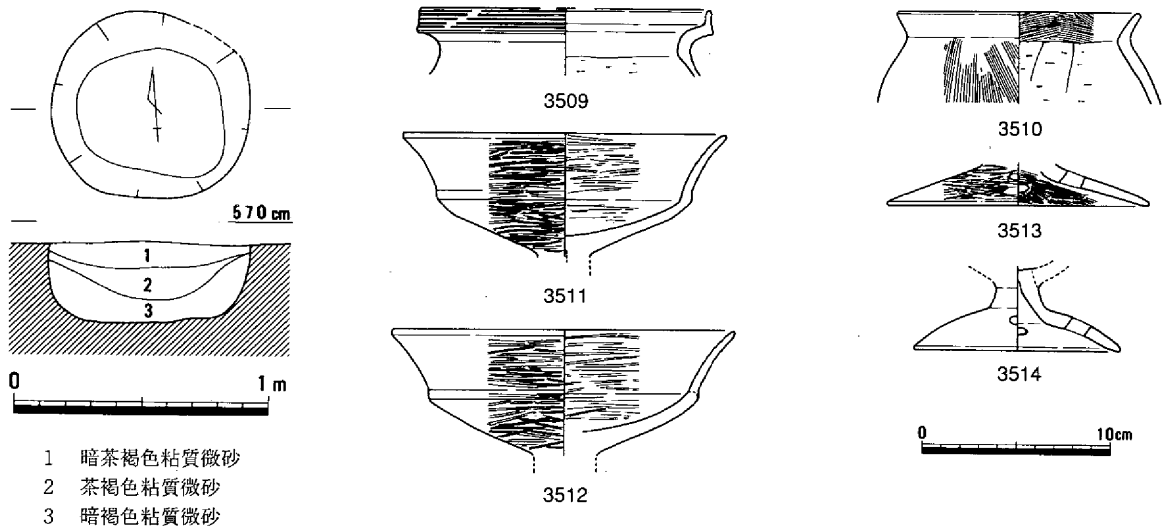
出土遺物としては、甕3509・3510、高杯3511～3514などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙297 (第553・1017図)

規模は78×84cmの円形を呈し、深さは21cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分された。出土遺物はないが、遺構検出レベルからみて、時期は弥・後の範疇と思われる。(松本)

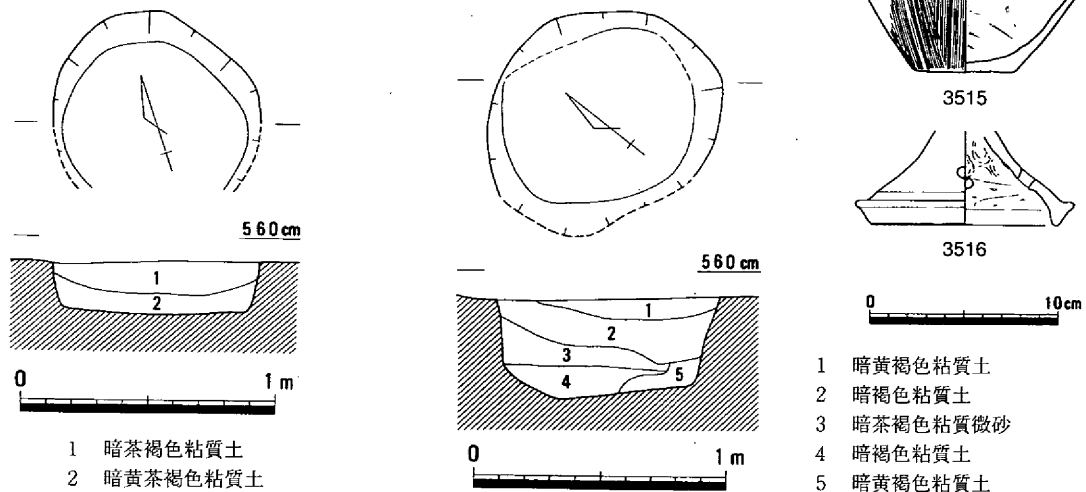
土壙298 (第553・1018図)

土壙297の東隣で検出された。規模は82×100cmの楕円形を呈し、深さは39cmを測る。床面は平坦で



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質微砂
- 3 暗褐色粘質微砂

第1016図 土壙296 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗茶褐色粘質土
- 2 暗黄茶褐色粘質土

- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 暗茶褐色粘質微砂
- 4 暗褐色粘質土
- 5 暗黄褐色粘質土

第1017図 土壙297 (1/30)

第1018図 土壙298 (1/30)・出土遺物 (1/4)



ある。埋土は5層に区分され、断面はU字形を呈する。図示できる出土遺物としては、甕3515、高杯3516などの土器がある。廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

土壙299 (第553・1019図)

土壙298の東約1mの位置で検出された。規模は67×97cmの楕円形を呈し、深さは44cmを測る。床面は平坦である。埋土は5層に区分された。断面はU字形を呈している。出土遺物は少ないが、甕3515などがある。廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

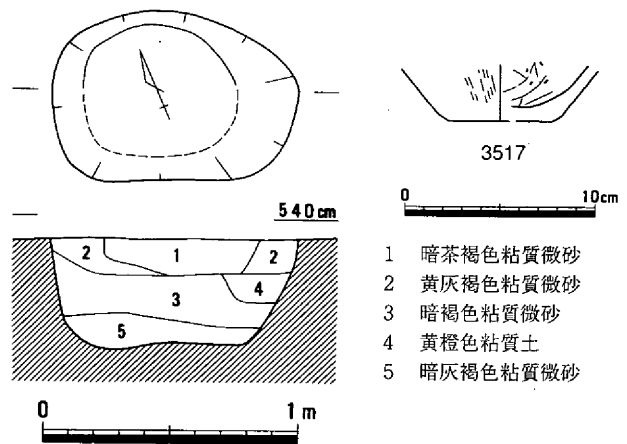
土壙300 (第553・1020図)

土壙299と切り合い関係をもつ遺構である。確認された規模は67×143cmの楕円形を呈し、深さは30cmを測る。床面は平坦であり、断面は逆台形を呈している。図示できる遺物は少ないが、甕3518、高杯3519～3521などの土器がある。

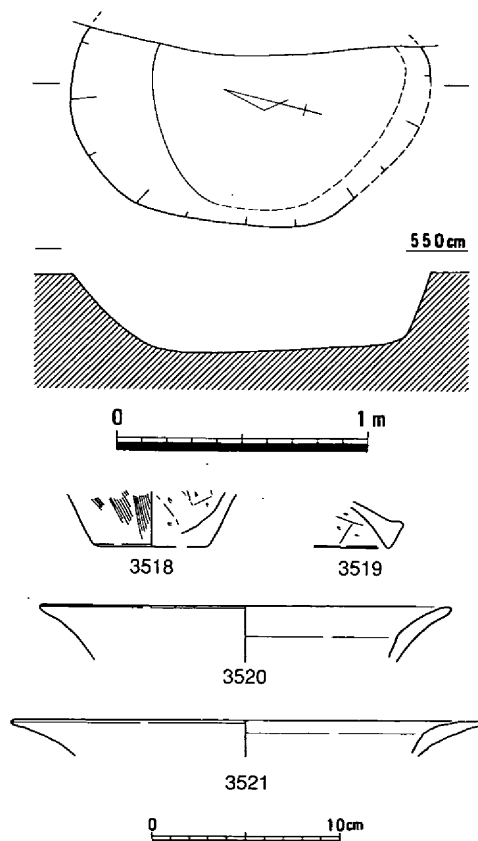
これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

土壙301 (第553・1021図)

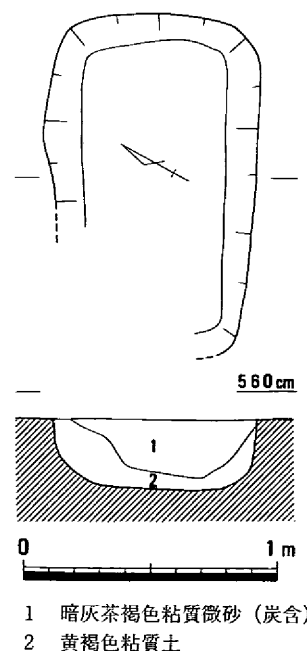
方形土壙69に切られる状態で検出された。確認された規模は84×138cmの隅丸方形を呈し、深さは28cmを測る。床面は平坦である。上層の埋土には炭が含まれていた。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IIIと思われる。(松本)



第1019図 土壙299 (1/30)・出土遺物 (1/4)



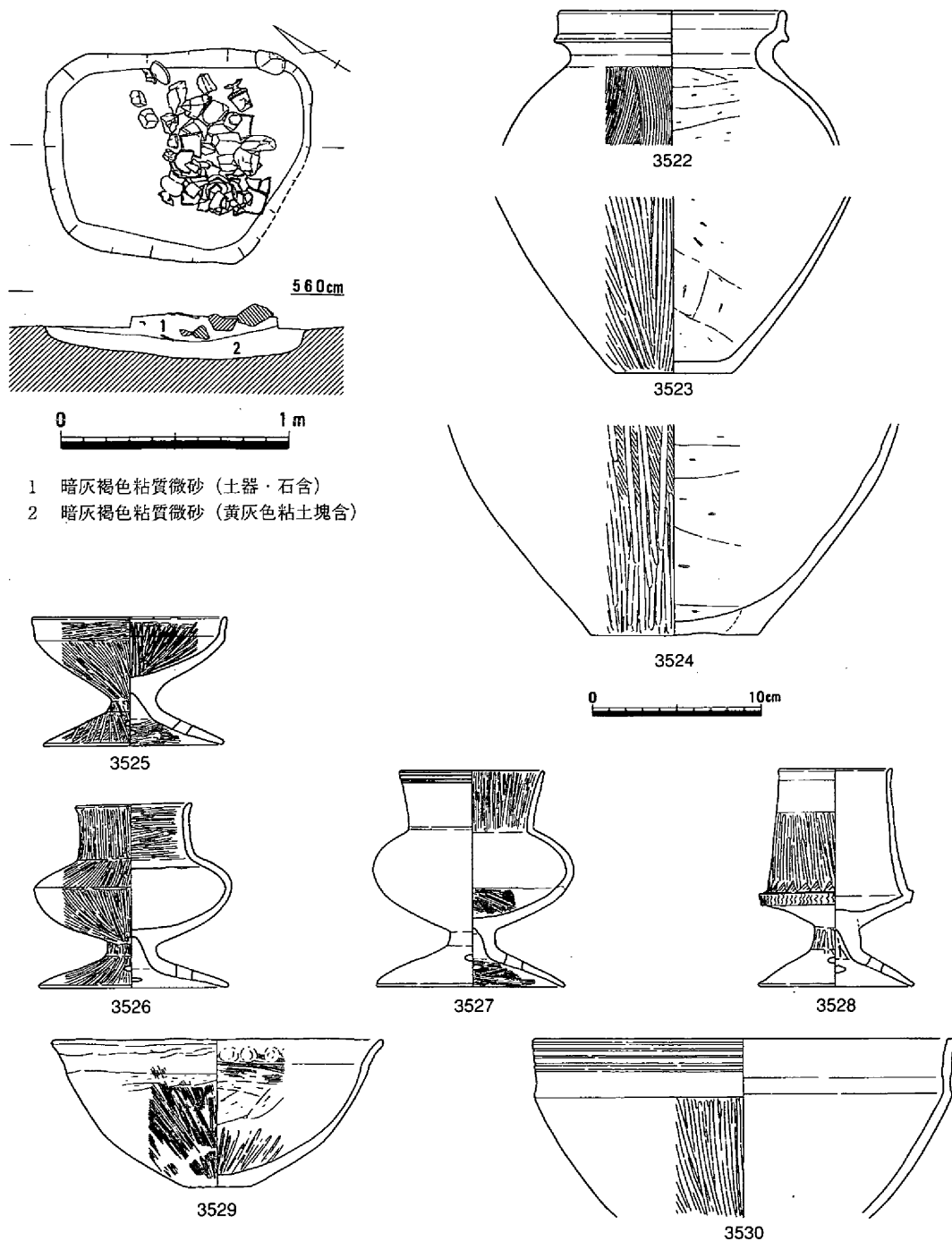
第1020図 土壙300 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1021図 土壙301 (1/30)

土壌302 (第553・1022図、図版126)

土壌304の西隣の位置で検出された遺構である。遺構の上部はかなり削平されていた。規模は96×116cmの隅丸方形を呈し、深さは19cmを測る。床面中央は少しくぼむが、平坦に近い。埋土は2層に区別されるが、ほとんどの遺物は上層で出土したが、完形ないしほぼ完形であった。主な遺物としては、甕3522、壺3523・3524、高杯3525、台付壺3526・3527、台付直口壺3528、鉢3529・3530などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



第1022図 土壌302 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙303 (第553・1023図)

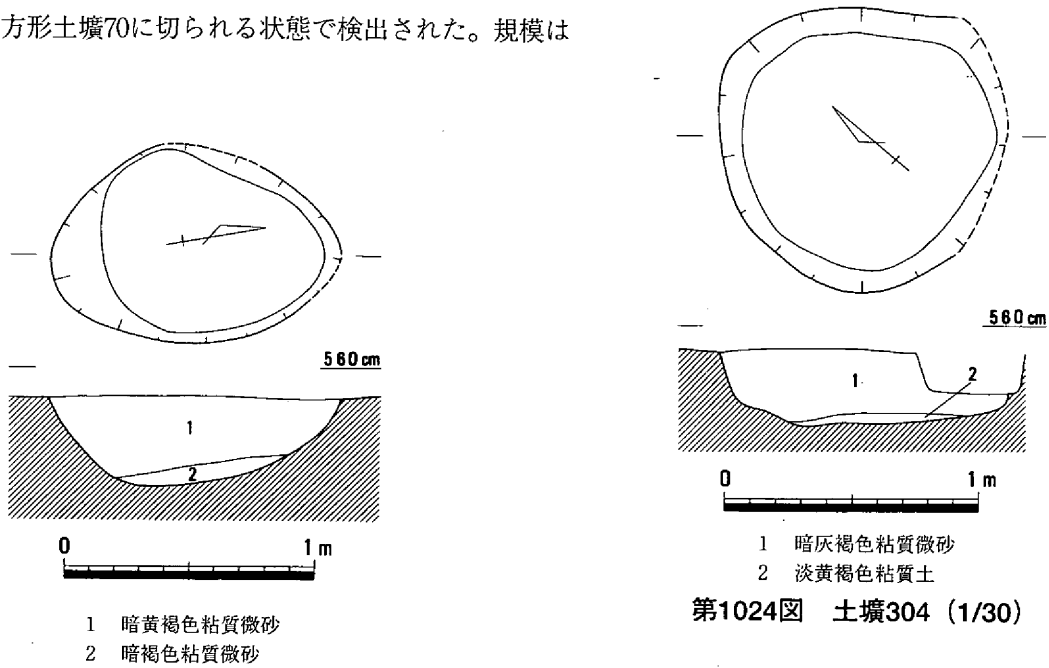
土壙301の東隣で検出された。規模は79×116cmの楕円形を呈し、深さは36cmを測る。断面は皿状を呈している。埋土は2層に区分される。出土遺物はないが、弥・後のものと思われる。(松本)

土壙304 (第553・1024図)

土壙302の東隣で検出された。規模は113×120cmの円形を呈し、深さは31cmを測る。床面は平坦で、埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

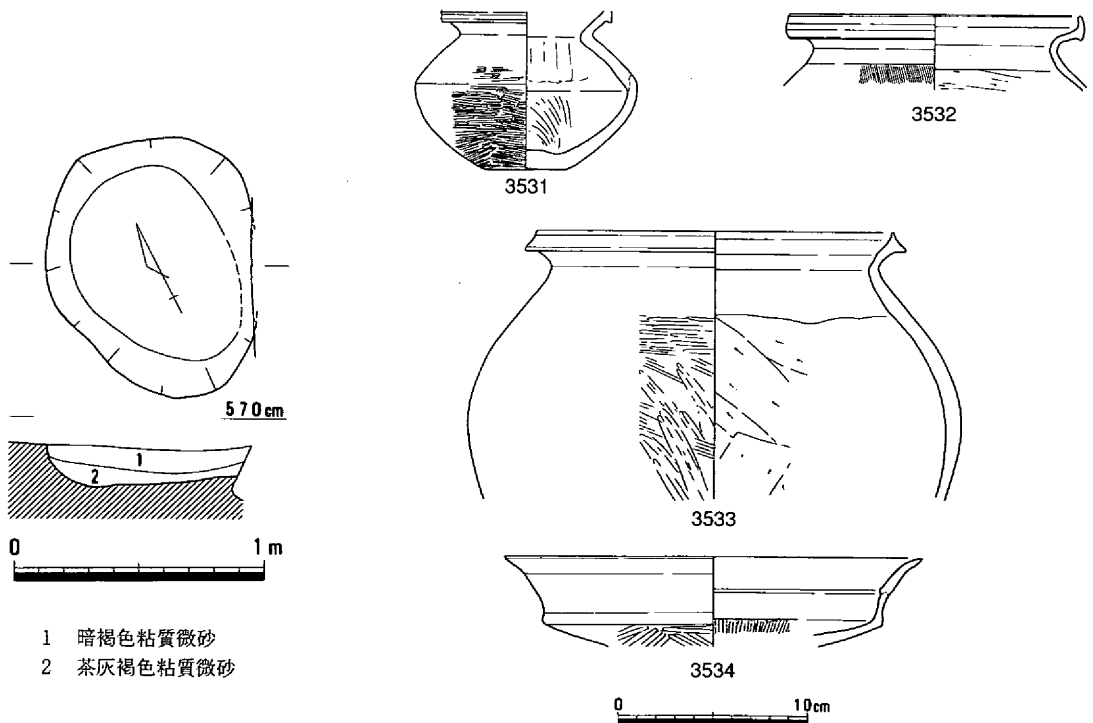
土壙305 (第553・1025図)

方形土壙70に切られる状態で検出された。規模は



第1024図 土壙304 (1/30)

第1023図 土壙303 (1/30)



第1025図 土壙305 (1/30)・出土遺物 (1/4)

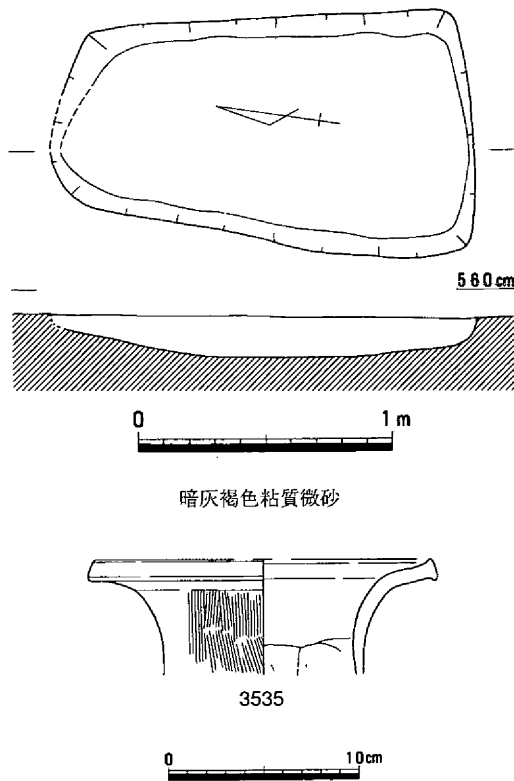
90×106cmの楕円形を呈し、深さは16cmを測る。床面はほぼ平坦であり、埋土は2層に区分された。断面は皿状になる。出土遺物としては、小形の短頸壺3531、甕3532・3533、高杯3534などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱと思われる。(松本)

土壙306 (第553・1026図)

土壙307を切る状態で検出された。規模は98×166cmの隅丸方形を呈し、深さは16cmを測る。断面は皿状となり、埋土は1層である。図示できる出土遺物としては、長頸の壺3535がある。この遺物から廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙307 (第553・1027図)

土壙306が切る状態で検出された。規模は56×148cmの隅丸方形で、深さ19cmを測る。床面はほぼ平坦である。土壙墓の可能性はある。図示できる遺物はないが、弥・後・Ⅲと思われる。(松本)



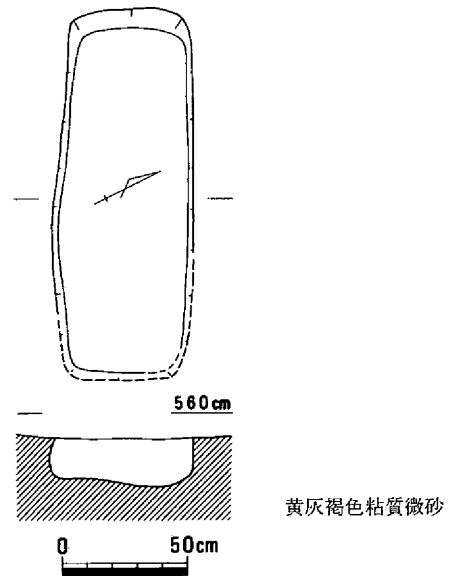
第1026図 土壙306 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙308 (第553・1028図)

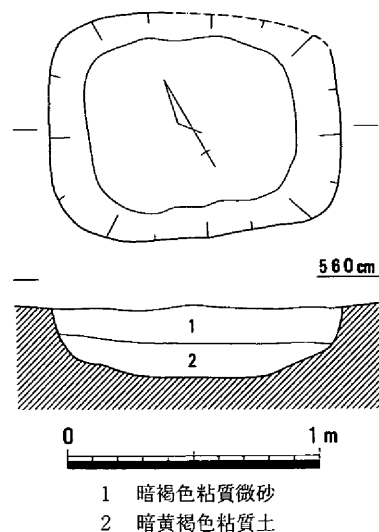
土壙309の西隣に位置する。規模は90×116cmの隅丸方形を呈し、深さは28cmを測る。床面は平坦である。出土遺物はないが、検出レベルからみて、時期は弥・後と思われる。(松本)

土壙309 (第553・1029図)

土壙308の東隣に位置する。規模は90×115cmの楕円形を呈し、深さは40cmを測る。床面は南側が一段低く



第1027図 土壙307 (1/30)



第1028図 土壙308 (1/30)

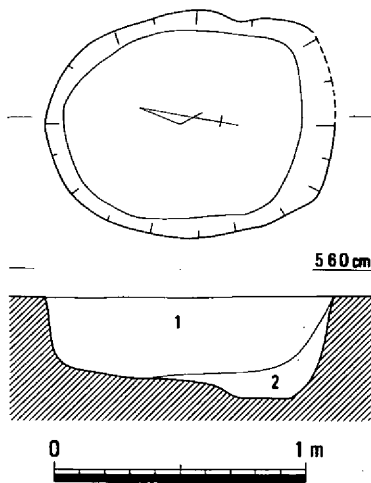
なっている。遺物の出土はないが、検出レベルからみて、時期は弥・後と思われる。 (松本)

土壙310 (第553・1030図)

方形土壙73に切られる状態で検出された。現状の規模は67×122cmで、不整楕円形が想定される。深さは49cmを測る。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。 (松本)

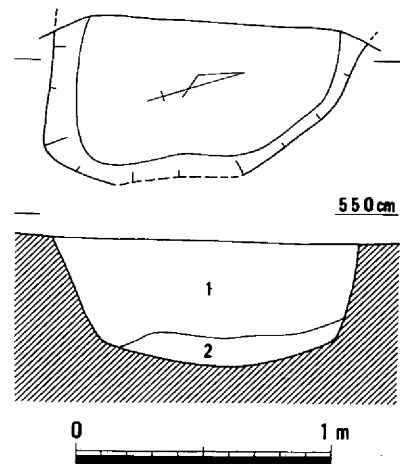
土壙311 (第553・1031図)

土壙312の西約3mの位置で検出された遺構である。上部はかなり削平されているが、規模は61×84cmの楕円形を呈し、深さは24cmを測る。床面はくぼんでいる。埋土は2層に区分されるが、遺物の



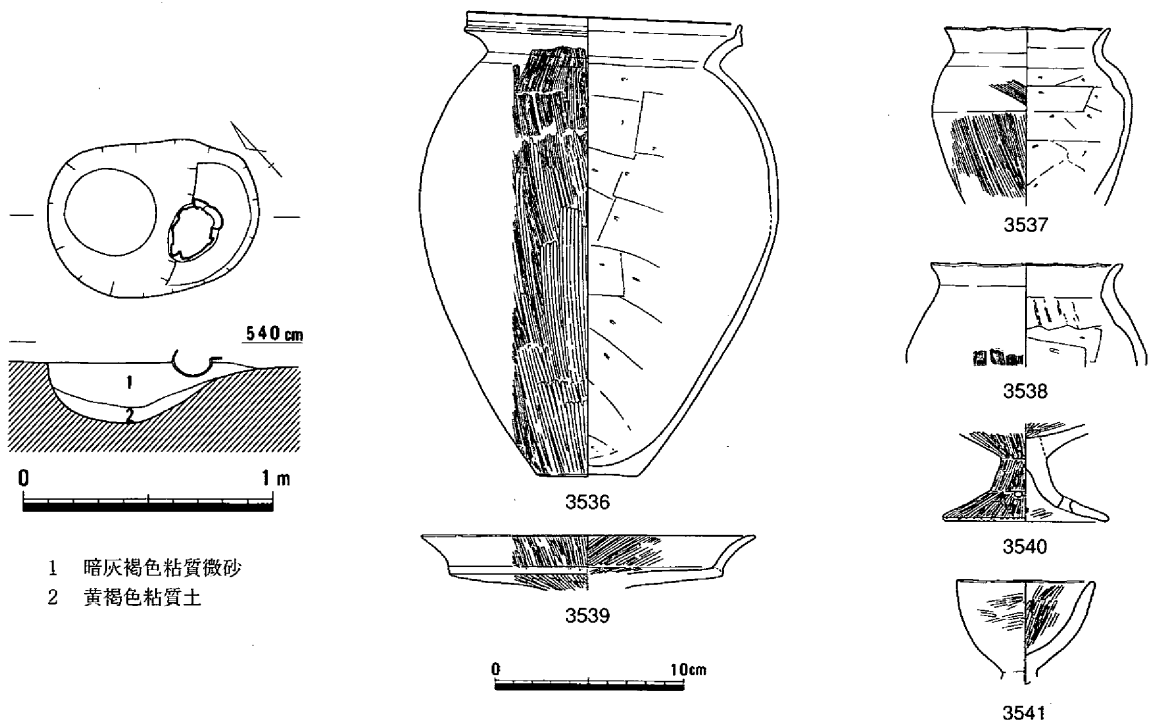
- 1 灰褐色粘質土 (黄灰色粘土塊少含)
- 2 灰色粘質土 (灰褐色微砂含)

第1029図 土壙309 (1/30)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 淡黄褐色粘質土

第1030図 土壙310 (1/30)



- 1 暗灰褐色粘質微砂
- 2 黄褐色粘質土

第1031図 土壙311 (1/30)・出土遺物 (1/4)

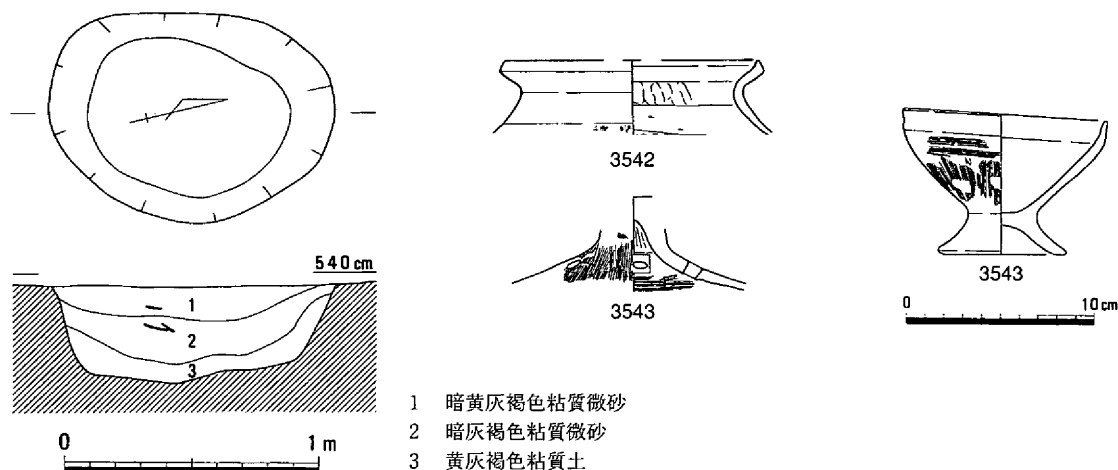
大部分は上層からの出土である。断面はU字形を呈していたと推察される。

出土遺物としては、甕3536～3538、高杯3539・3540、台付鉢3541などの土器がある。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

**土壙312 (第553・1032図)**

土壙309の南隣で検出された。規模は84×112cmの楕円形を呈し、深さは48cmを測る。床面は凹凸がみられる。埋土は3層に区分されるが、堆積はレンズ状を呈している。断面はU字形となる。

遺物は1・2層内から出土している。図示された遺物は甕3542、高杯3543、台付鉢3544などの土器である。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第1032図 土壙312 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙313 (第553・1033図)**

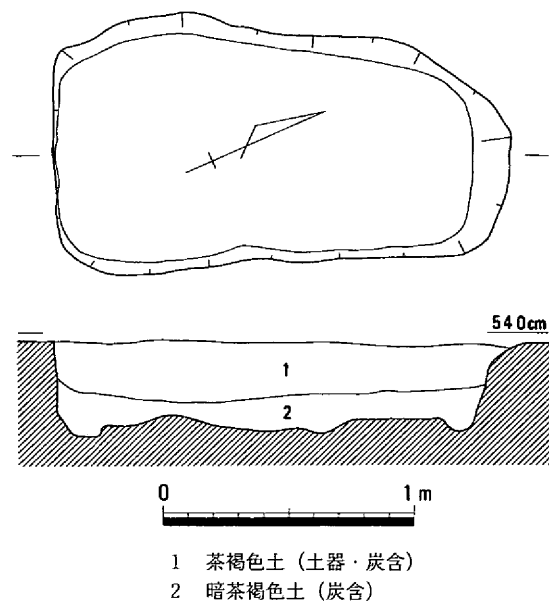
方形土壙37の西隣で検出された。規模は102×182cmの方形を呈し、深さは36cmを測る。床面には凹凸がみられる。埋土は2層に区分されるが、両層ともに炭が含まれていた。図示できる遺物はないが、上層からは土器が出土している。廃棄された時期は弥・後・Ⅳ頃と思われる。(松本)

**土壙314 (第553・1034・1035図、図版48)**

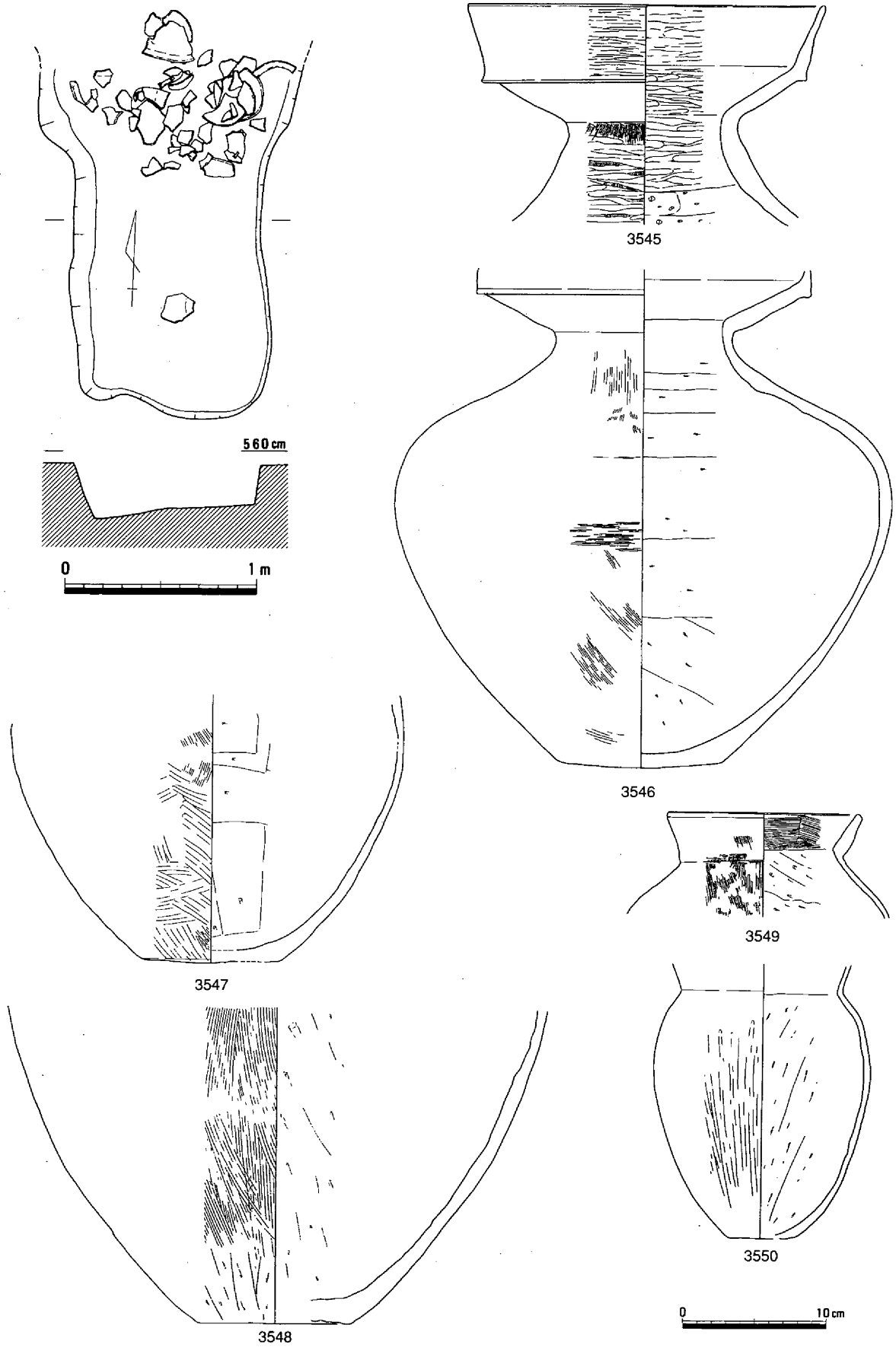
袋状土壙89の東隣で検出された遺構で、北側は調査区外である。確認された規模は135×185cmで、不整楕円形が想定される。深さは29cmと浅い。床面は平坦で、断面は逆台形を呈している。

遺物は遺構の北寄りで投棄されたような状態で出土した。図示できた遺物としては、壺3545～3548、甕3549～3544、鉢3555・3556などの土器がある。

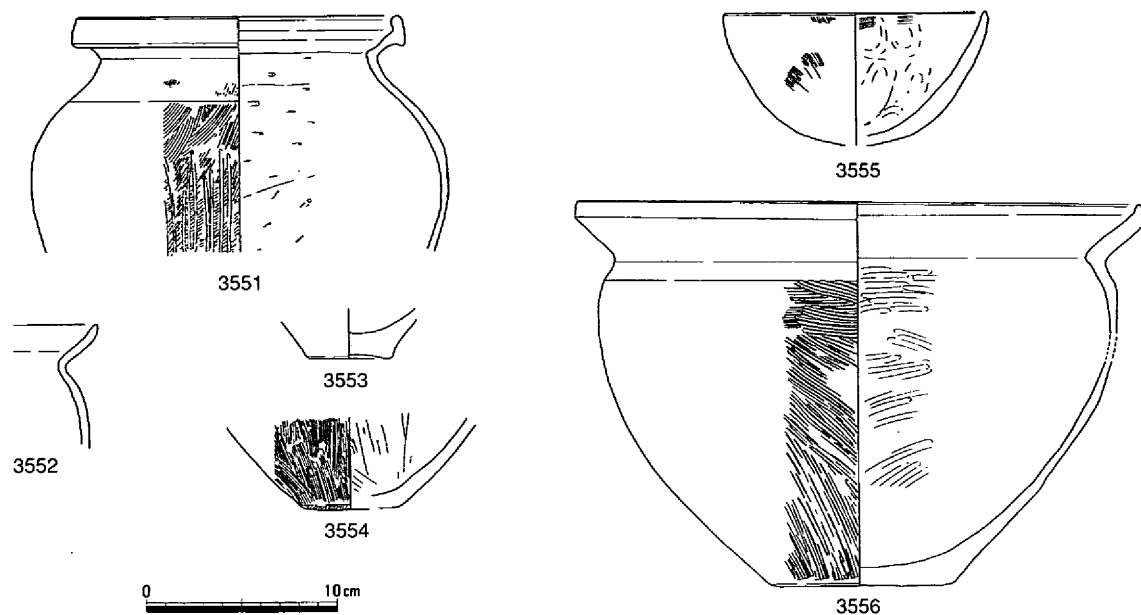
壺はいずれも口縁部が上方に拡張し、いわゆる二重口縁を呈するものである。頸部は「く」の字形となる。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第1033図 土壙313 (1/30)



第1034図 土壙314 (1/30)・出土遺物① (1/4)



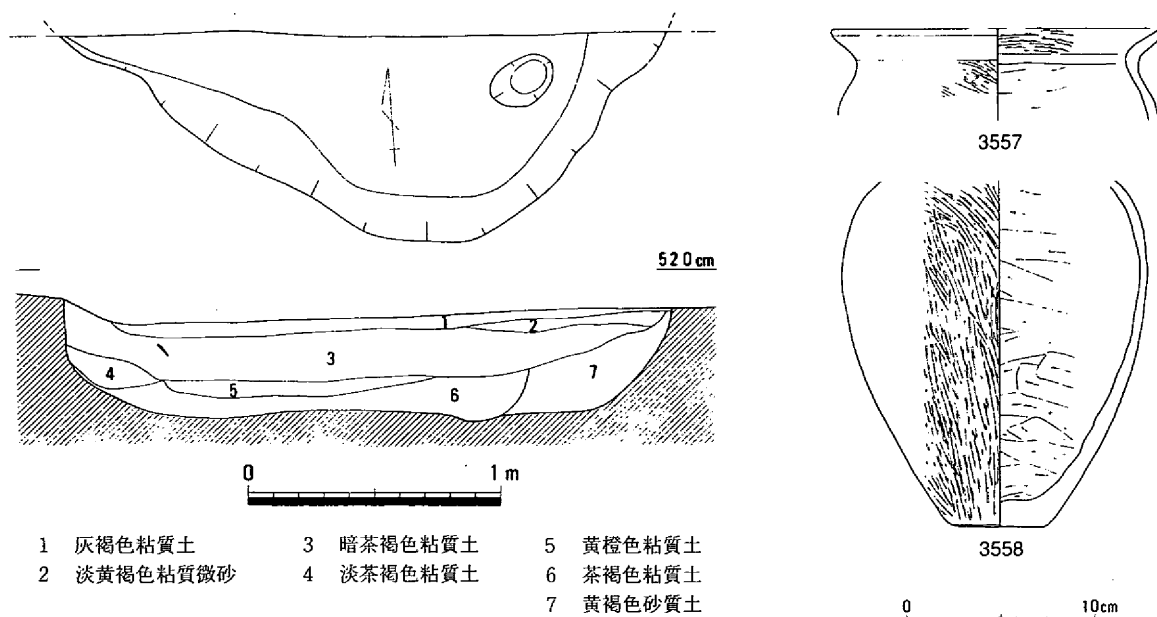
第1035図 土壙314出土遺物② (1/4)

土壙315 (第553・1036図)

土壙314の東約3mの位置で検出されたが、北側は調査区外となる。確認された規模は81×240cmであるが、平面形は不整楕円形が想定される。深さは42cmを測る。床面はほぼ平坦である。埋土は7層に区分されるが、堆積はレンズ状を呈する。断面はU字形となる。図示できる遺物としては、甕3557・3558などの土器がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

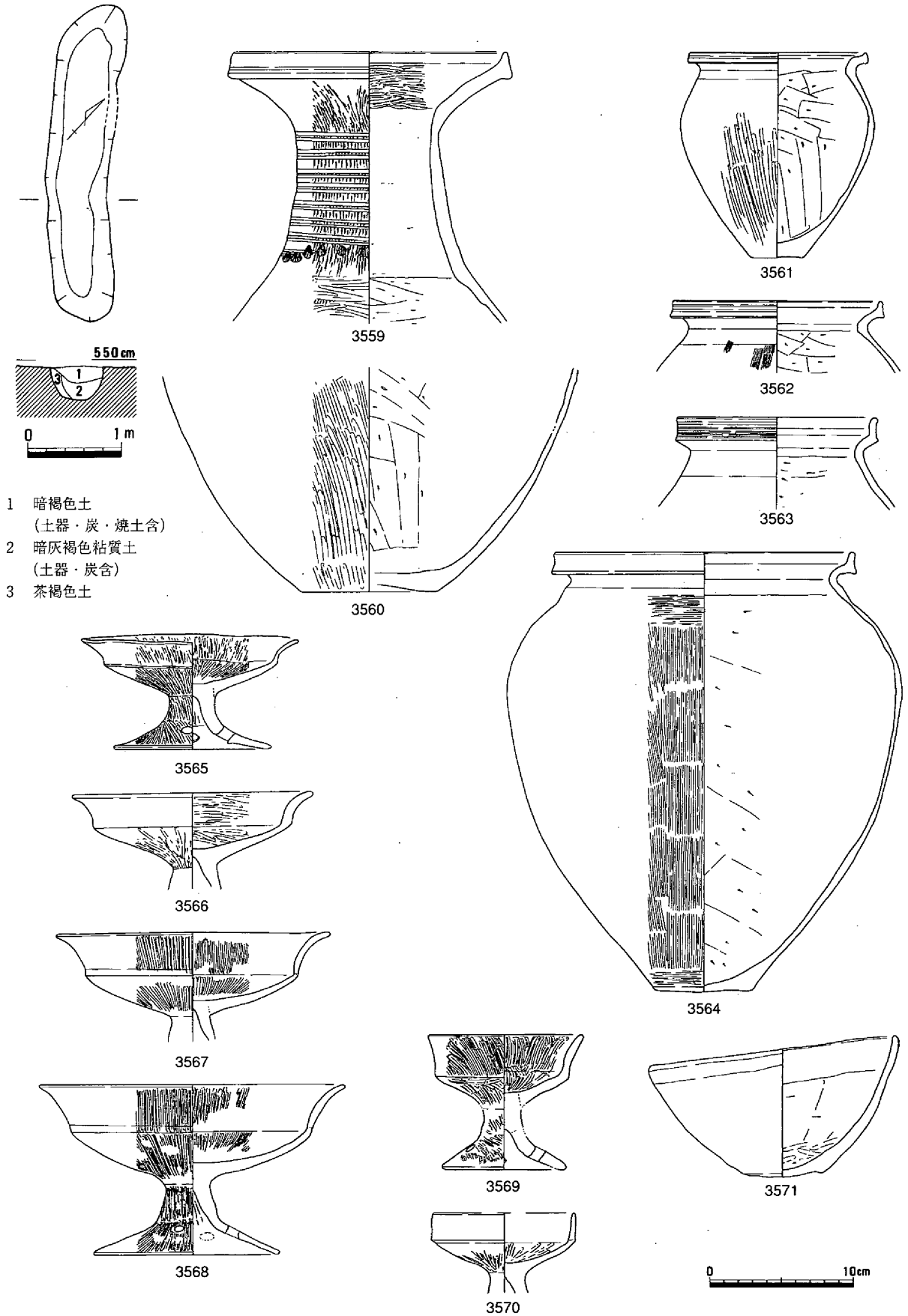
土壙316 (第553・1037図)

方形土壙37と切り合い関係をもつ遺構である。規模は69×336cmの不整楕円形を呈し、深さは36cm



第1036図 土壙315 (1/30)・出土遺物 (1/4)





- 1 暗褐色土  
(土器・炭・焼土含)
- 2 暗灰褐色粘質土  
(土器・炭含)
- 3 茶褐色土

第1037図 土壌316 (1/60)・出土遺物 (1/4)

を測る。床面はほぼ平坦であるが、埋土は3層に区分された。断面はU字形を呈する。

出土遺物としては、壺3559・3560、甕3561～3564、高杯3565～3570、鉢3571などの土器がある。壺は長頸である。高杯の脚部は短脚傾向を示すものであるが、杯部は大きく3種類に分類できる。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳ頃と思われる。(松本)

**土壙317 (第553・1038図)**

土壙318の上部で検出された。規模は58×332cmの不整楕円形を呈し、深さは15cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形を呈する。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

**土壙318 (第553・1039図)**

土壙317の下層で検出された。規模は85×103cmの不整楕円形を呈し、深さは31cmを測る。床面中央はくぼみ、断面はU字形となるが、東側は内傾する。埋土は3層に区分され、1・2層には炭が含まれていた。なお、床面には粘土がみられた。図示できる遺物としては、高杯3572・3573がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

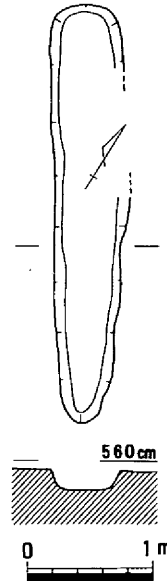
**土壙319 (第553・1040図)**

方形土壙39の南で検出された遺構である。規模は70×80cmの円形を呈し、深さは50cmを測る。床面は中央部が尖り、断面はV字形となる。埋土は4層に区分された。図示できる遺物としては、高杯の脚部3574・3575がある。廃棄された時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳと思われる。(松本)

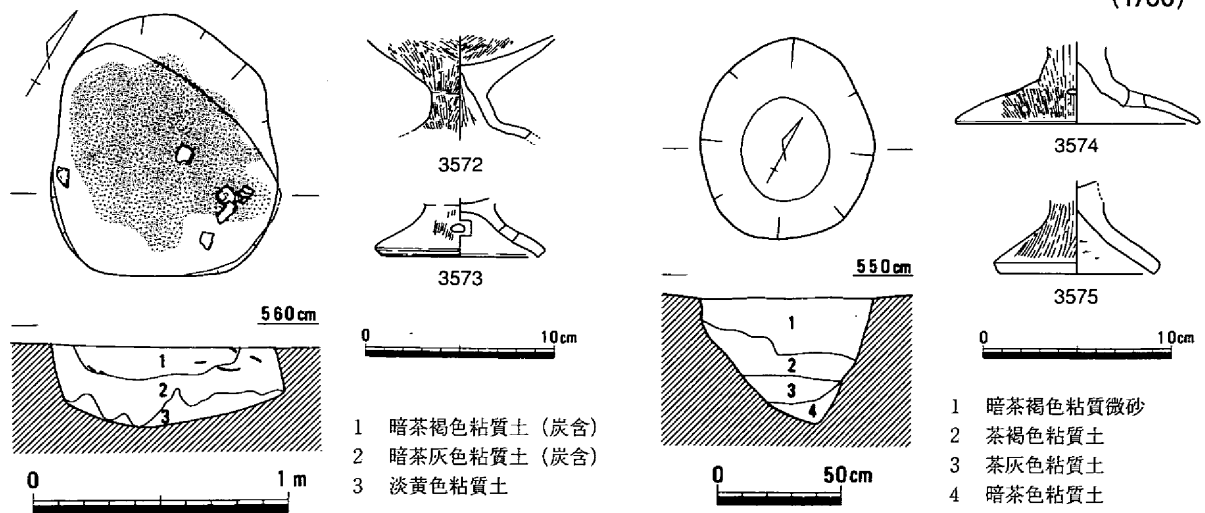
**土壙320 (第553・1041図)**

方形土壙39の東約2mの位置で検出された遺構である。規模は100×131cmの楕円形を呈し、深さは53cmを測る。床面は凹凸がみられ、中央部が一段低くなっており、断面は逆台形状となるものである。埋土は2層に区分されるが、下層には微砂が少量含まれていた。

出土遺物としては、壺3576、甕3577～3585、高杯3586～3588などの土器がある。3576は長頸の壺、口縁部の端面には凹線、頸部にはヘラガキ沈線文が施されている。甕の底部3582には穿孔がみられ、また、高杯の脚部は



第1038図 土壙317 (1/60)

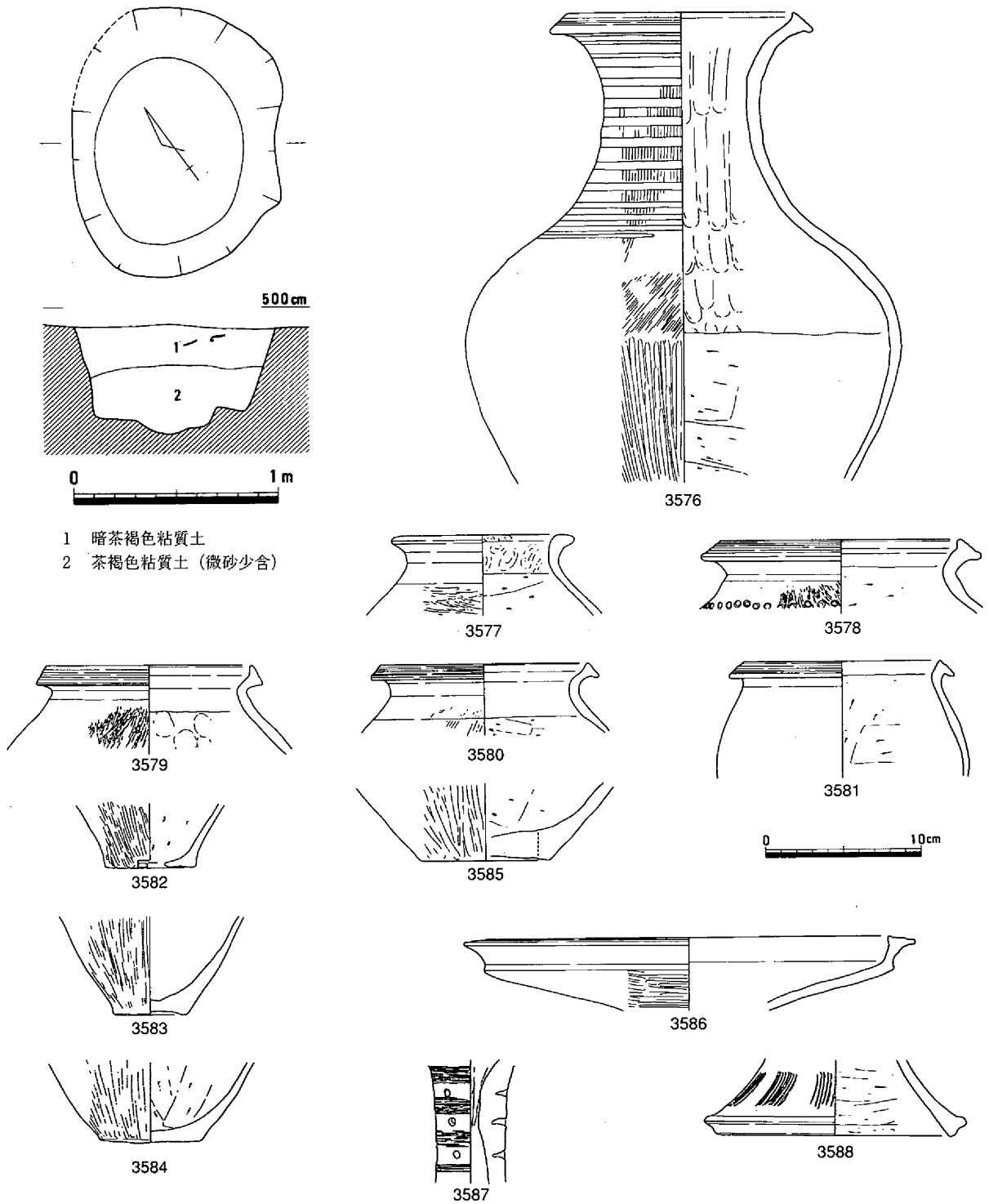


第1039図 土壙318 (1/30)・出土遺物 (1/4) 第1040図 土壙319 (1/30)・出土遺物 (1/4)

長脚となるものである。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

土壌321 (第553・1042図)

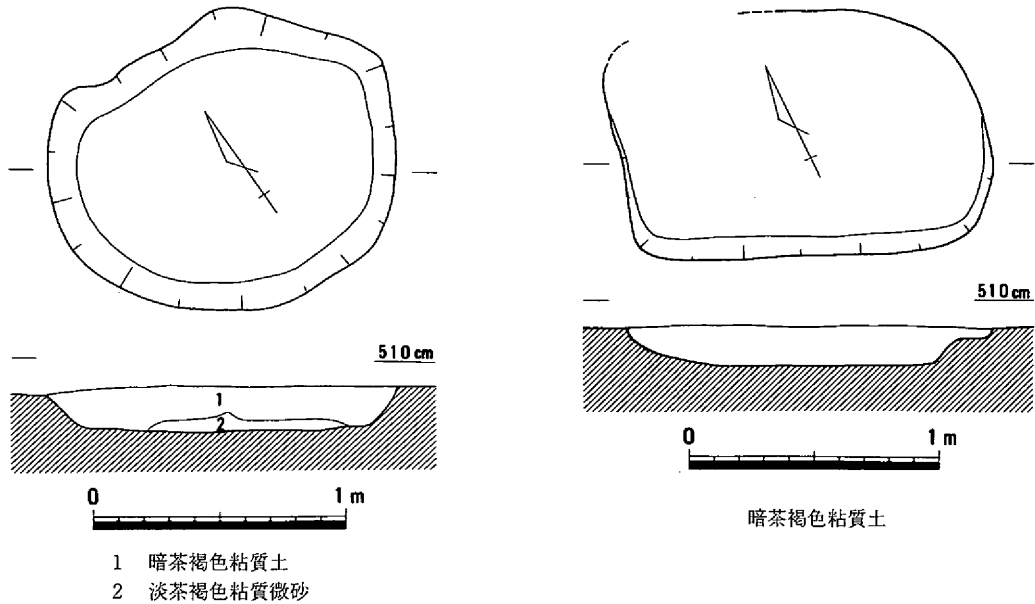
土壌322の西隣において検出された遺構である。規模は122×138cmの楕円形を呈し、深さは18cmを測る。床面は平坦であり、埋土は2層に区分された。断面は皿状となるものである。出土遺物はないが、遺構検出レベルからみて、時期は弥・後・IV頃と推察される。(松本)



第1041図 土壌320 (1/30)・出土遺物 (1/4)

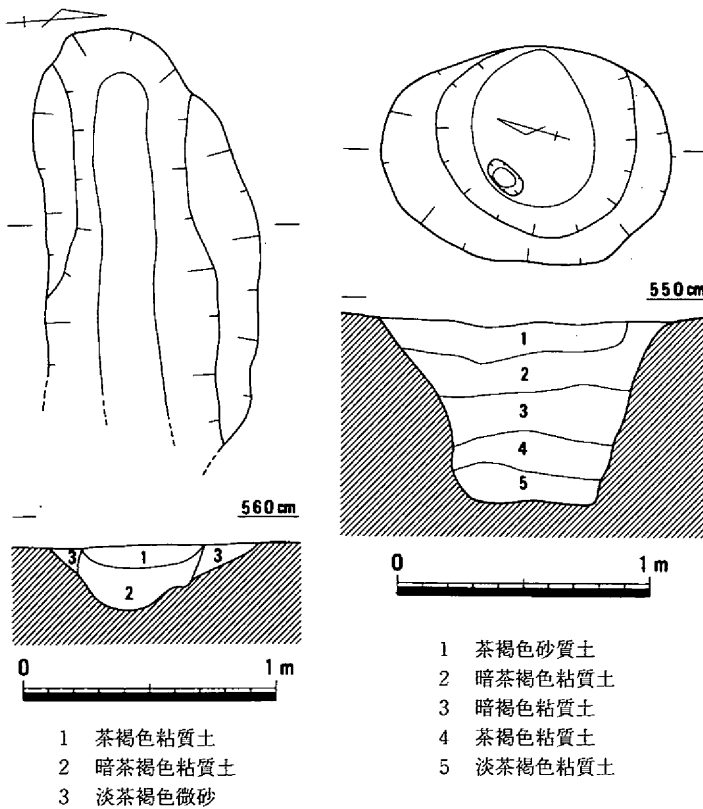
土壙322 (第553・1043図)

土壙321の東隣で検出された遺構である。上部がかなり削平をうけているが、規模は98×148cmの隅丸方形を呈し、深さは16cmを測る。床面は平坦で、埋土は1層だけである。断面は皿状を呈している。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



第1042図 土壙321 (1/30)

第1043図 土壙322 (1/30)



第1044図 土壙323 (1/30)

第1045図 土壙324 (1/30)

土壙323 (第553・1044図)

方形土壙47の北隣で検出された遺構である。確認された規模は84×200cmの不整楕円形を呈し、深さは26cm測る。埋土は3層に区分されるが、堆積はレンズ状となる。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙324 (第553・1045図)

方形土壙39の東隣で検出された。規模は87×115cmの楕円形を呈し、深さは72cmを測る。床面は平坦で、埋土は5層に区分される。断面は逆台形状を呈している。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

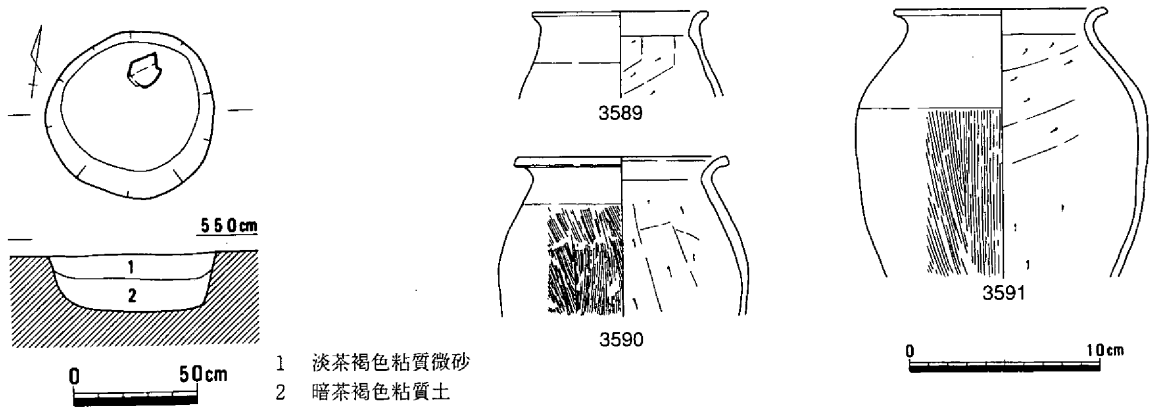
土壙325 (第553・1046図)

土壙327の西隣で検出された遺構である。規模は67×68cmの円形を呈し、深さは23cmを測る。床面は平坦である。埋土は2層に区分されるが、堆積は水平である。断面はU字形を呈する。

遺物は床面において出土している。主な遺物としては、甕3589～3591などの土器がある。甕の口縁部はいずれも「く」字状に短く外反するものであり、3590は端部がやや肥厚している。これらの遺物から、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

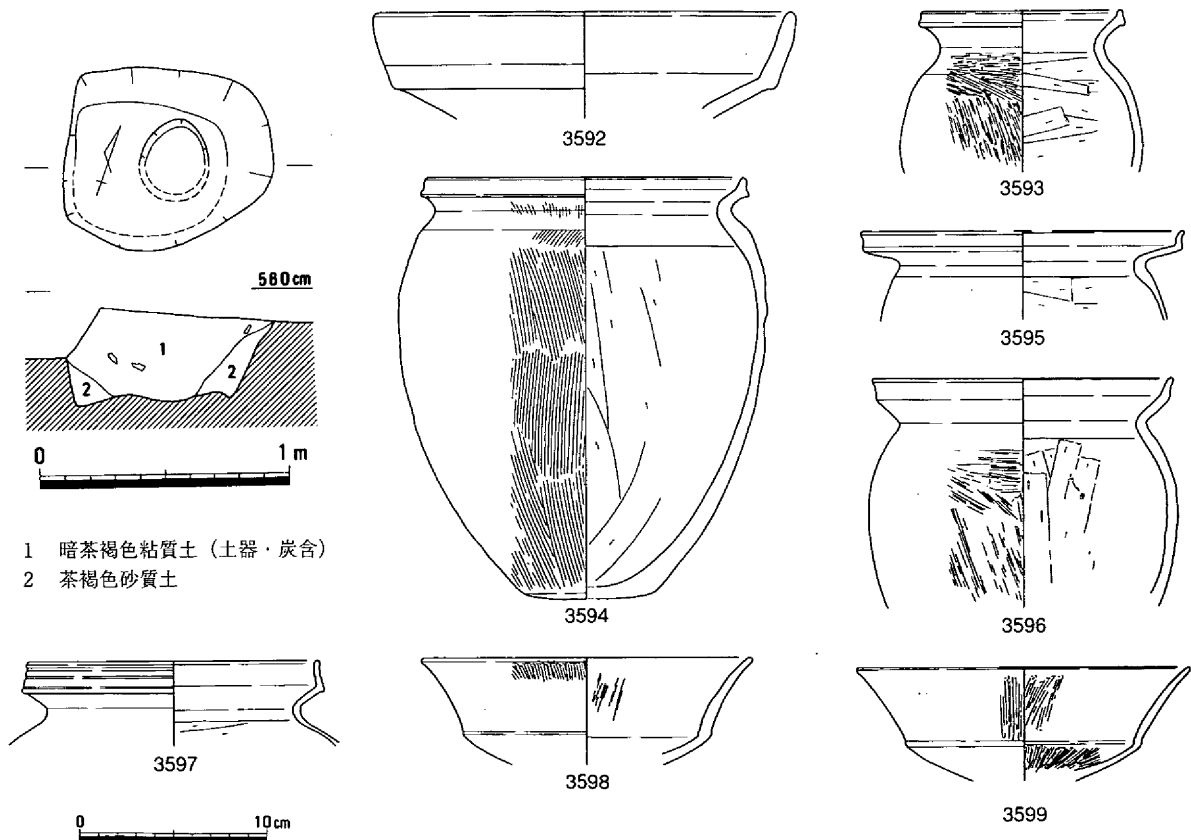
土壙326 (第553・1047図、図版127)

方形土壙45の西約3mの位置で検出された遺構である。規模は73×84cmの不整隅丸方形を呈し、深



- 1 淡茶褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質土

第1046図 土壙325 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗茶褐色粘質土 (土器・炭含)
- 2 茶褐色砂質土

第1047図 土壙326 (1/30)・出土遺物 (1/4)

さは36cmを測る。床面には凹凸がみられ、断面は逆台形状となるものである。埋土は2層に区分されるが、1層からは土器、炭が出土している。堆積はレンズ状を呈する。

出土遺物としては、壺3592、甕3593～3597、高杯3598・3599などの土器がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

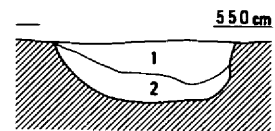
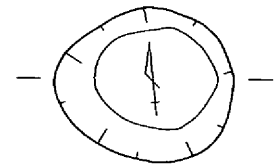
土壌327 (第553・1048図)

土壌325の東隣で検出された。規模は62×72cmの円形を呈し、深さは24cmを測る。床面は平坦で、埋土は2層に区分された。遺物の出土はないが、検出レベルから弥・後・Ⅳ頃と思われる。(松本)

土壌328 (第553・1049図、図版128)

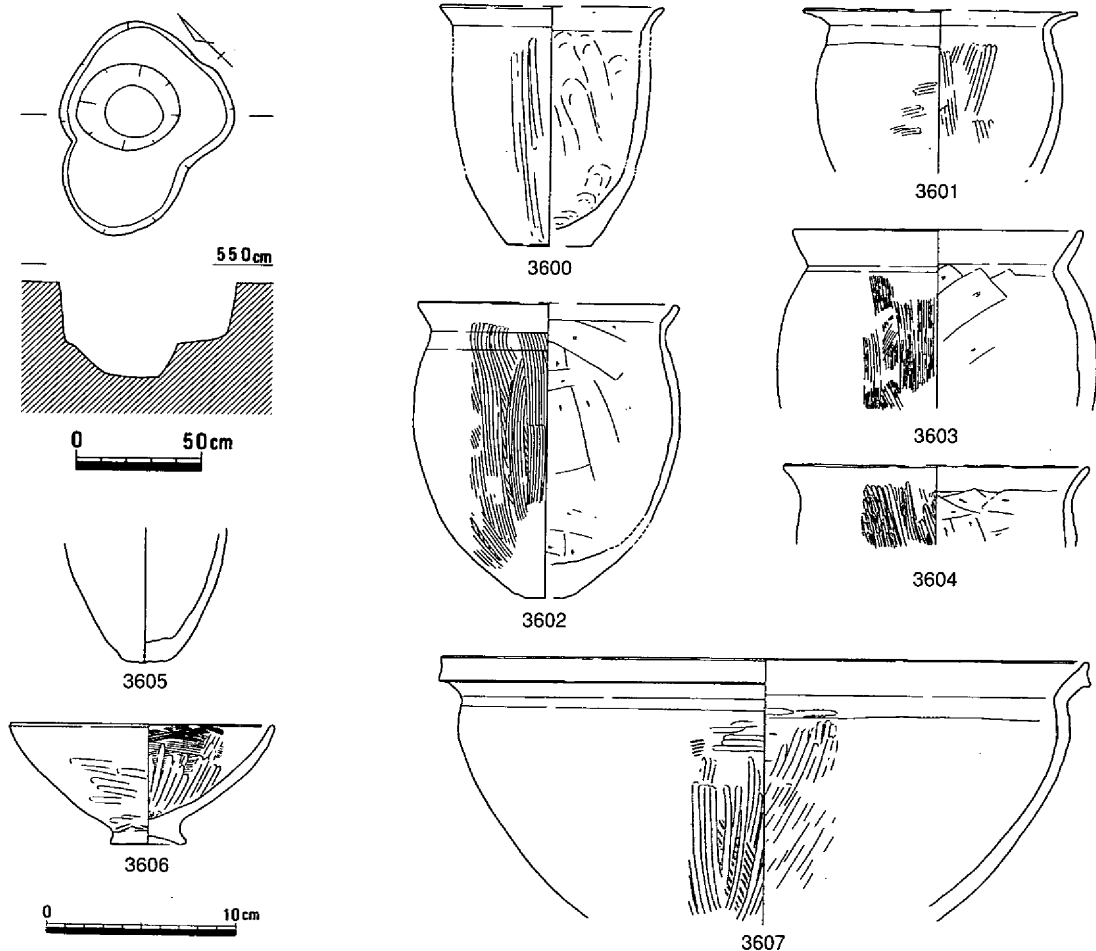
土壌330の東隣において検出された遺構である。規模は68×86cmの不整楕円形を呈し、深さは38cmを測る。床面中央には一段低いくぼみがみられる。出土遺物としては、甕3600～3605、台付鉢3606、鉢3607などの土器がある。甕は口縁部が「く」の字となるものである。これらの遺物から、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。

(松本)



- 1 茶褐色粘質微砂
- 2 淡茶褐色粘質微砂

第1048図 土壌327 (1/30)



第1049図 土壌328 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙329 (第553・1050図)

土壙331の東約3mの位置で検出された。規模は98×105cmの円形を呈し、深さは18cmを測る。床面は凹凸がみられるが、断面は皿状を呈している。埋土は3層に区分されるが、1層からは炭が出土している。図示できた遺物は甕3608である。遺物からみて、時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

土壙330 (第553・1051図)

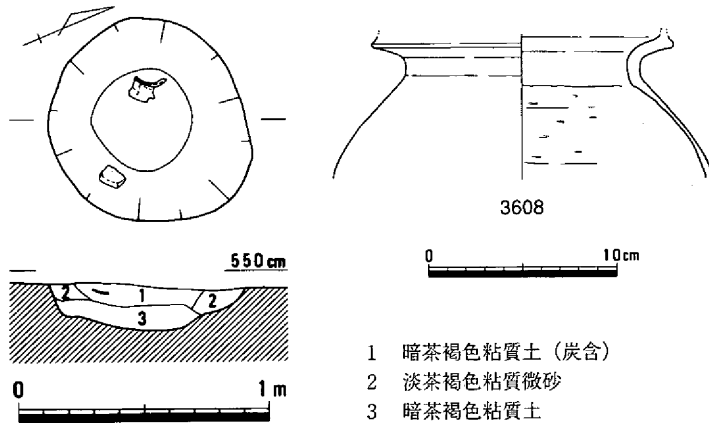
方形土壙40の東隣で検出された。規模は51×82cmの隅丸方形を呈し、深さは7cmを測る。断面は皿状を呈し、埋土には炭を含む。遺物の出土はないが、弥・後の時期と思われる。(松本)

土壙331 (第553・1052図)

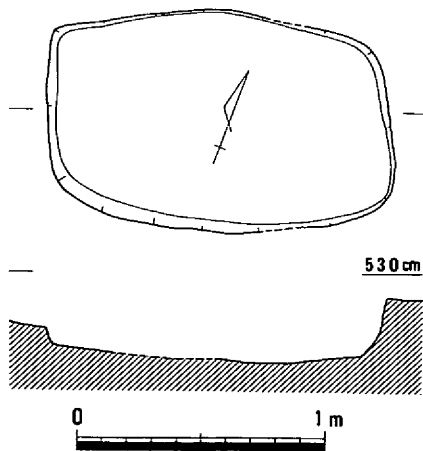
土壙332の下層で検出された。規模は89×138cmの隅丸方形を呈し、深さは26cmを測る。床面は平坦、断面はU字形を呈している。出土遺物はないが、時期は弥・後・Ⅰ頃と思われる。(松本)

土壙332 (第553・1053図)

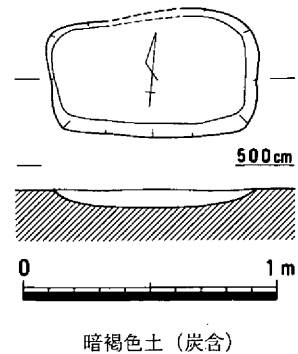
土壙331の上位で検出された遺構である。削平を受けているが、規模は115×134cmの隅丸方形を呈し、深さは30cmを測る。床面は平坦である。断面は皿状を呈している。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲと思われる。(松本)



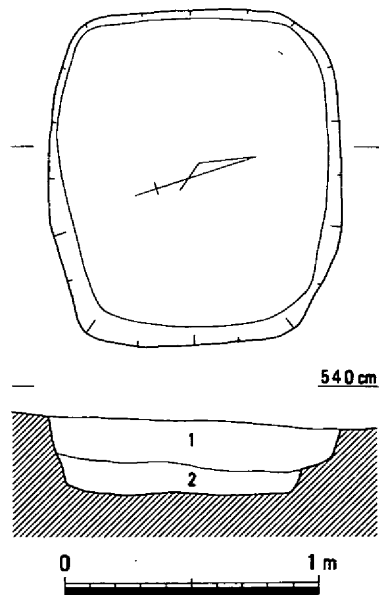
第1050図 土壙329 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1052図 土壙331 (1/30)



第1051図 土壙330 (1/30)



1 暗茶褐色粘質土 2 暗黄褐色粘質土

第1053図 土壙332 (1/30)

土壙333 (第553・1054図)

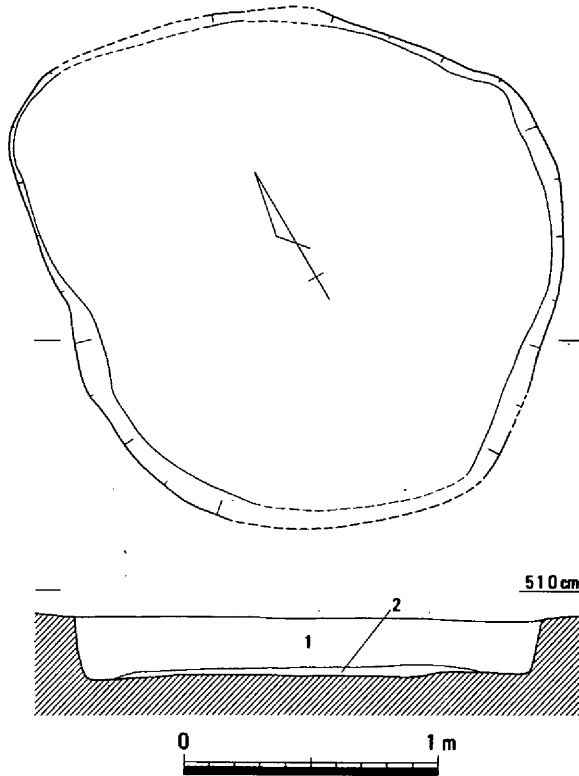
土壙335の北隣に位置する。規模は210×228cmの不整形円形を呈し、深さは23cmを測る。床面は平坦で、断面は逆台形を呈する。図示できる遺物はないが、弥・後・IVの時期と思われる。(松本)

土壙334 (第553・1055図)

土壙339の北隣に位置する。現存する規模は75×140cmを測り、深さは20cmを測る。床面は平坦で、埋土は2層に区分される。図示できる遺物はないが、弥・後・IVの時期と思われる。(松本)

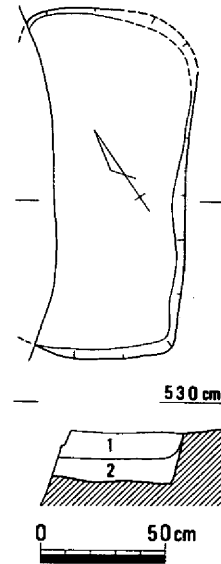
土壙335 (第553・1056図、図版166)

土壙333の南隣で検出された。規模は74×124cmの隅丸方形を呈し、深さは10cmを測る。断面は皿状を呈している。出土遺物としては、土器では高坏3609・3610、土製品では紡錘車C156などがある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・III～IV頃と思われる。(松本)



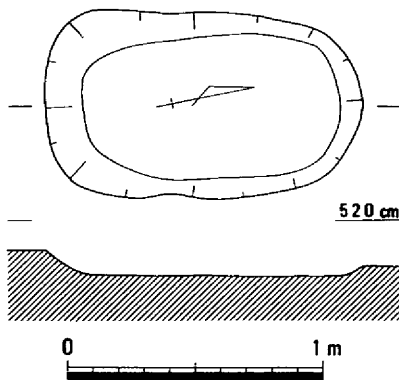
- 1 暗褐色粘質微砂(黄色・灰色土少含)
- 2 暗黄褐色粘質微砂

第1054図 土壙333 (1/30)

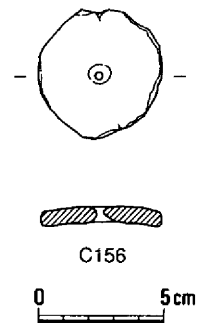
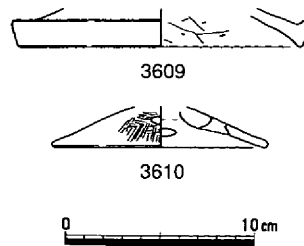


- 1 茶褐色微砂(炭含)
- 2 黄茶褐色微砂(炭含)

第1055図 土壙334 (1/30)



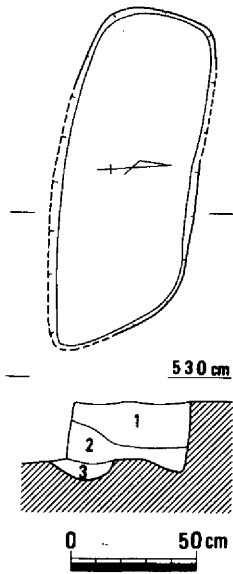
第1056図 土壙335 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)





土壙336 (第553・1057図)

土壙335の南約1.5mの位置で検出された。規模は58×132cmの不整楕円形を呈し、深さは31cmを測る。床面には凹凸が見られる。図示できる遺物はないが、時期は弥・後・IVと思われる。(松本)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 褐色粘質微砂
- 3 暗褐色粘質微砂

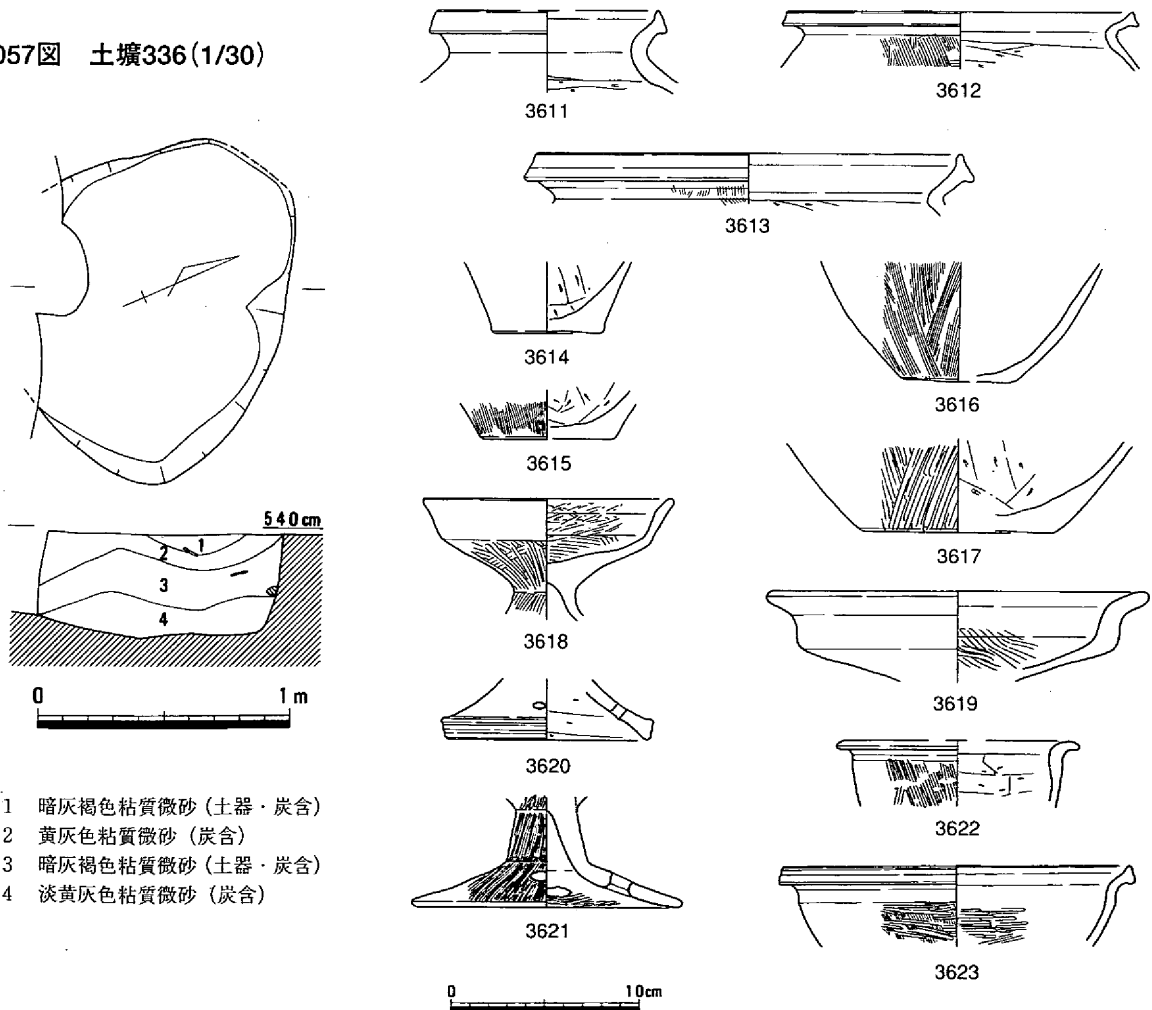
土壙337 (第553・1058図)

土壙286の東隣で検出された遺構である。規模は110×133cmの不整楕円形を呈し、深さは41cmを測る。床面にはやや凹凸がみられる。埋土は4層に区分されるが、炭は各層から出土している。遺構の南側は切られているが、断面はU字形となる。遺物は1・3層から出土し、主な遺物としては甕3611～3617、高杯3618～3621、鉢3622・3623などがある。これらの遺物から廃棄された時期は弥・後・IIと思われる。(松本)

土壙338 (第553・1059図、図版127)

方形土壙50と切り合い関係をもつ遺構である。規模は64×82cmの楕円形を呈し、深さは31cmを測る。床面は中央部がくぼみ、断面がU字形を

第1057図 土壙336 (1/30)



- 1 暗灰褐色粘質微砂 (土器・炭含)
- 2 黄灰色粘質微砂 (炭含)
- 3 暗灰褐色粘質微砂 (土器・炭含)
- 4 淡黄灰色粘質微砂 (炭含)

第1058図 土壙337 (1/30)・出土遺物 (1/4)

呈するものである。埋土は2層に区分される。

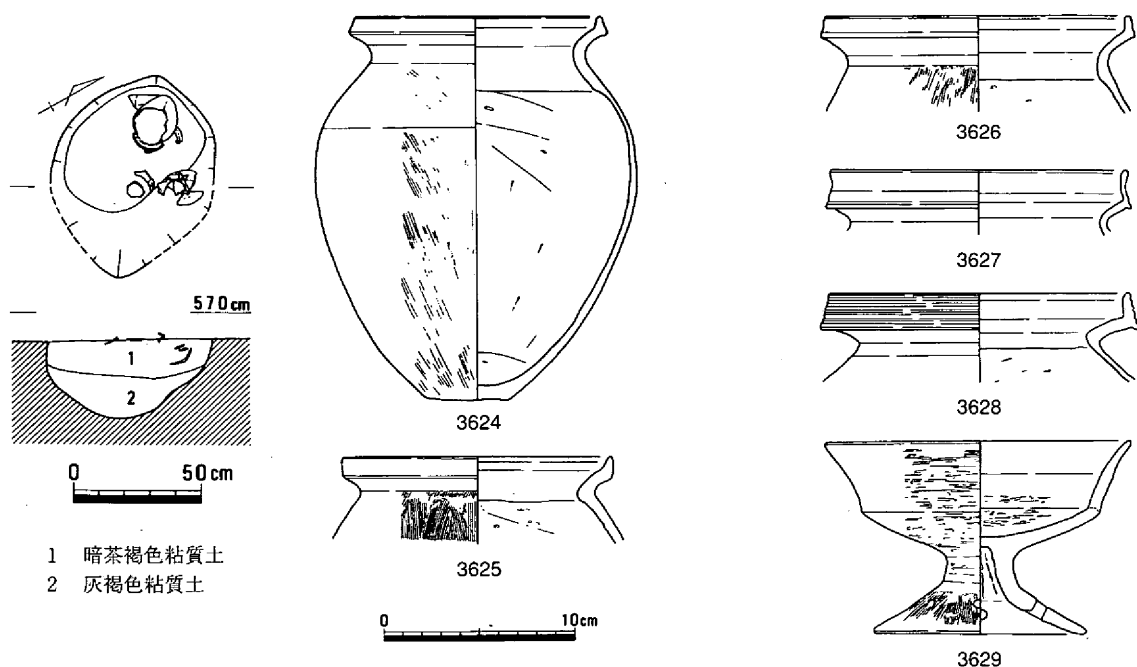
遺物は1・2層から出土したが、主な遺物としては甕3624~3628、高杯3629などの土器がある。甕は口縁端部が上方に拡張するものとあまり拡張しないものの2種類があり、高杯の脚部は短脚である。これらの遺物の特徴からみて、この遺構が廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

土壙339 (第553・1060図)

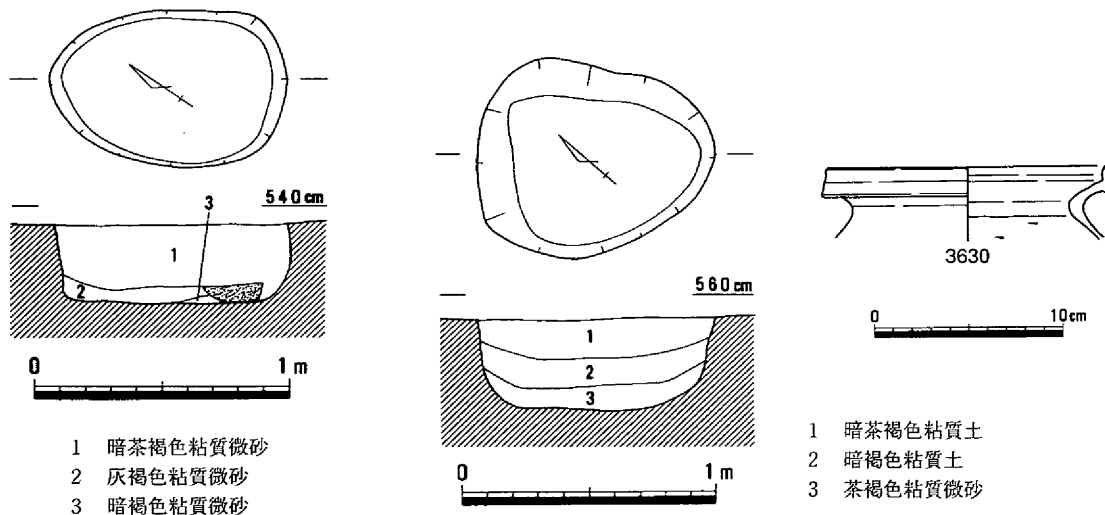
土壙334の南隣で検出された遺構である。規模は62×93cm不整楕円形を呈し、深さは31cmを測る。床面は平坦であり、断面はU字形を呈している。埋土は3層に区分されるが、床面の南端では焼土層がみられた。遺物の出土はないが、遺構検出レベルからみて弥・後のものと思われる。(松本)

土壙340 (第553・1061図)

方形土壙49の西隣で検出された遺構である。規模は80×94cmの不整楕円形を呈し、深さは36cmを測



第1059図 土壙338 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1060図 土壙339 (1/30)

第1061図 土壙340 (1/30)・出土遺物 (1/4)

る。床面は平坦である。埋土は3層に区分され、堆積はレンズ状となる。図示できる遺物としては甕3630がある。出土遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅰ～Ⅱ頃と思われる。(松本)

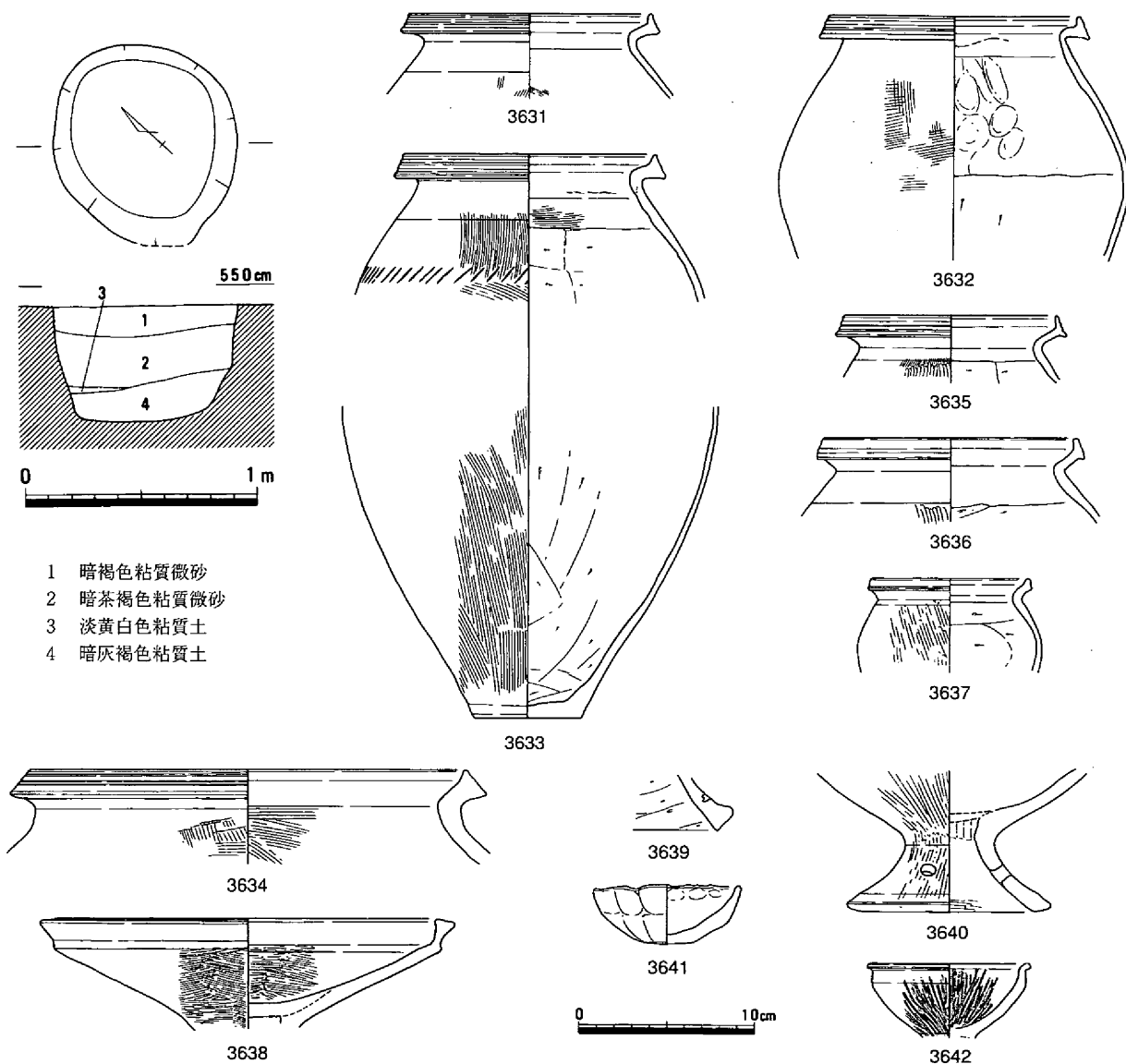
**土壌341** (第553・1062図)

袋状土壌93と切り合い関係をもつ遺構である。規模は80×91cmの円形を呈し、深さは49cmを測る。床面は平坦となり、断面はU字形を呈している。埋土は4層に区分されるが、堆積はほぼ水平である。

出土遺物としては甕3631～3637、高杯3638・3639、鉢3641、台付鉢3640・3642などの土器がある。甕は口縁部が短く「く」の字状に外反し、端面には退化した凹線文が施されている。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

**土壌342** (第553・1063図)

方形土壌40の下位で検出された遺構である。規模は76×88cmの不整楕円形を呈し、深さは29cmを測る。断面はU字形を呈し、床面は中央部が少しくぼんでいる。図示できる遺物としては高杯3643がある。出土遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱ頃と思われる。(松本)



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質微砂
- 3 淡黄白色粘質土
- 4 暗灰褐色粘質土

第1062図 土壌341 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙343 (第553・1064図)

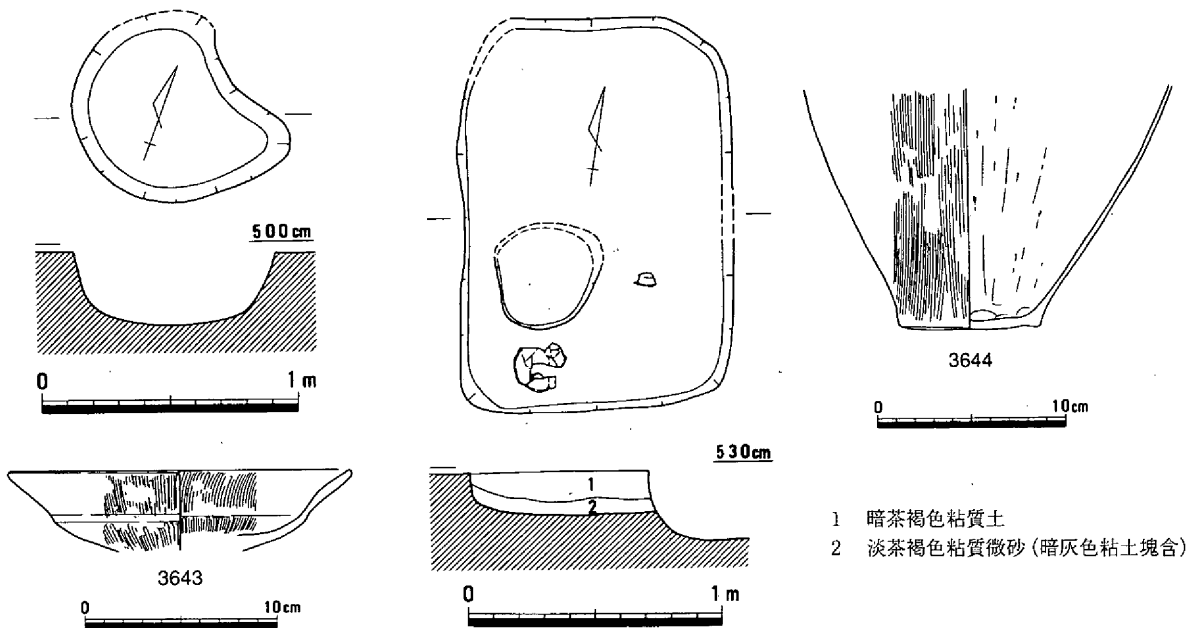
土壙331の南で検出された遺構である。規模は106×157cmの方形を呈し、深さは18cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。埋土は2層に区分される。遺物は床面の南西端付近で甕3644が出土している。時期の決め手となる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後と思われる。(松本)

土壙344 (第553・1065図)

土壙343に切られる状態で検出された。規模は86×104cmの不整楕円形を呈し、深さは27cmを測る。断面はU字形となる。埋土は2層に区分される。遺物は両層から出土するが、図示できる遺物としては甕3645がある。遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Iと思われる。(松本)

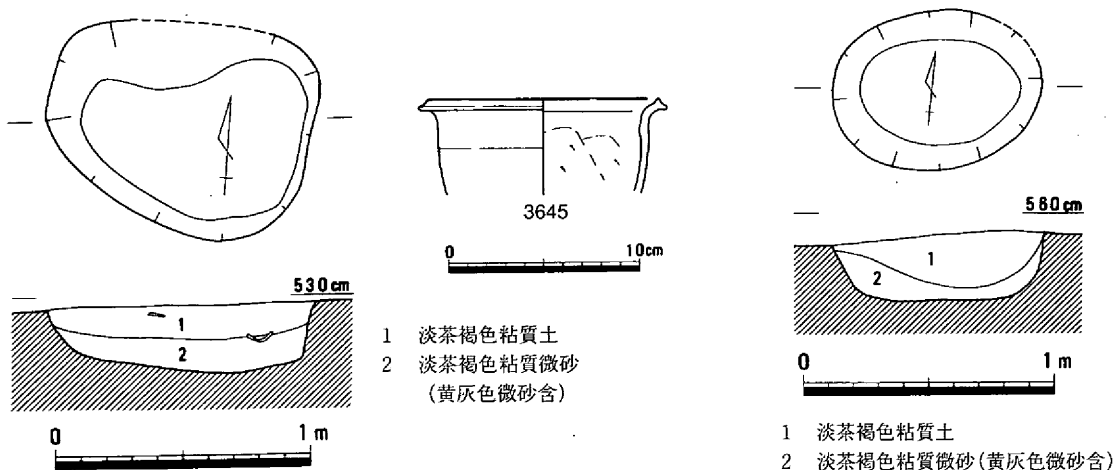
土壙345 (第553・1066図)

土壙344の東隣で検出された。規模は64×84cmの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。出土遺物はないが、遺構面からみて弥・後のものと思われる。(松本)



第1063図 土壙342 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

第1064図 土壙343 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1065図 土壙344 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1066図 土壙345 (1/30)

土壌346 (第553・1067図、図版128)

方形土壌43の西隣で検出された遺構である。規模は55×57cmの円形を呈し、深さは13cmと浅い。床面の中央部はくぼみ、断面がU字形を呈するものである。埋土は茶褐色粘質微砂である。

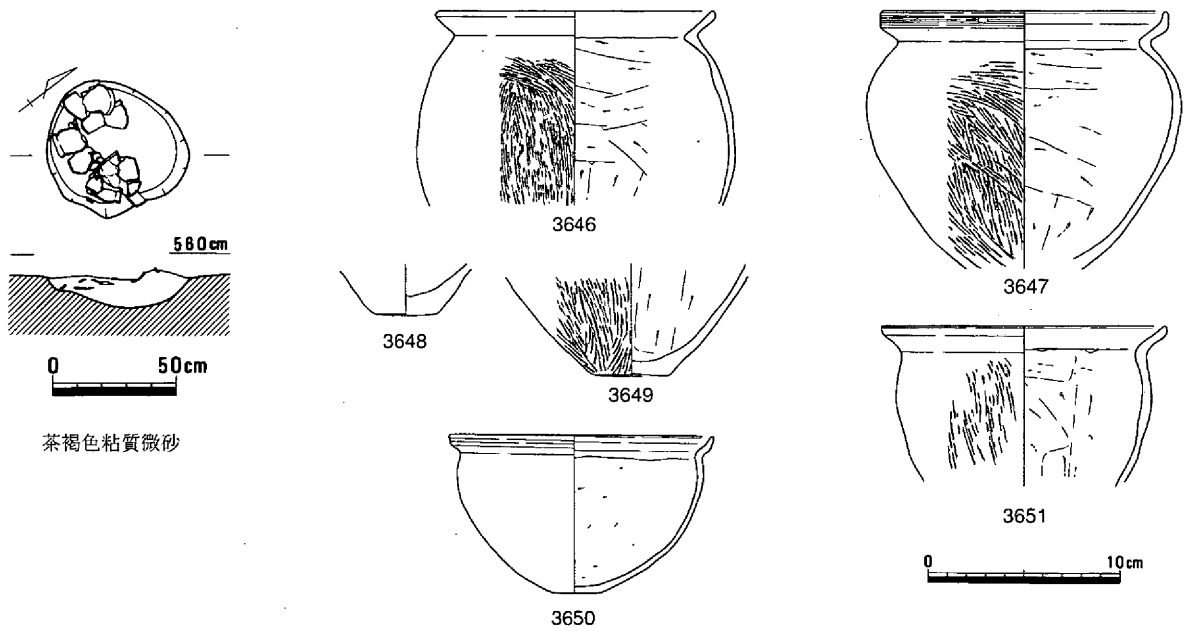
出土遺物としては甕3646～3649、鉢3650・3651などの土器がある。甕は口縁部の形態からみて2種類みられる。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

土壌347 (第553・1068図)

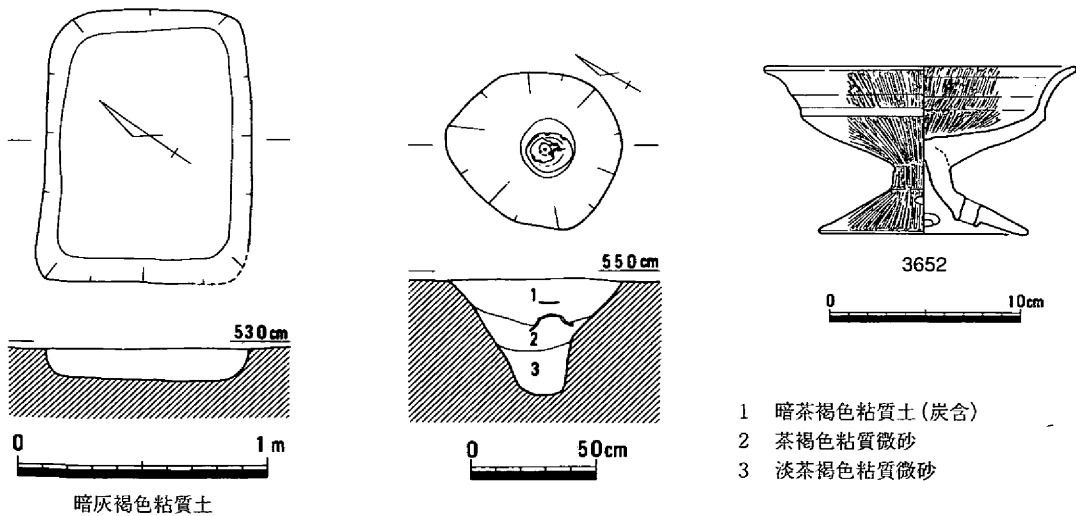
方形土壌41の南隣で検出された。規模は83×108cmの隅丸方形を呈し、深さは13cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。遺物はないが、検出レベルからみて弥・後と思われる。(松本)

土壌348 (第553・1069図)

土壌345の東隣で検出された。規模は61×70cmの円形を呈し、深さは46cmを測る。断面はV字形に

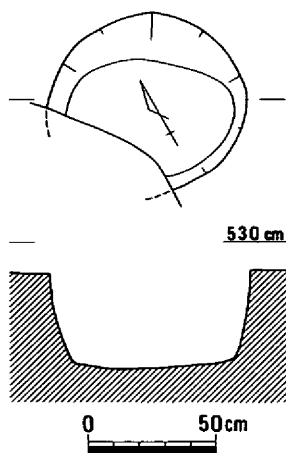


第1067図 土壌346 (1/30)・出土遺物 (1/4)



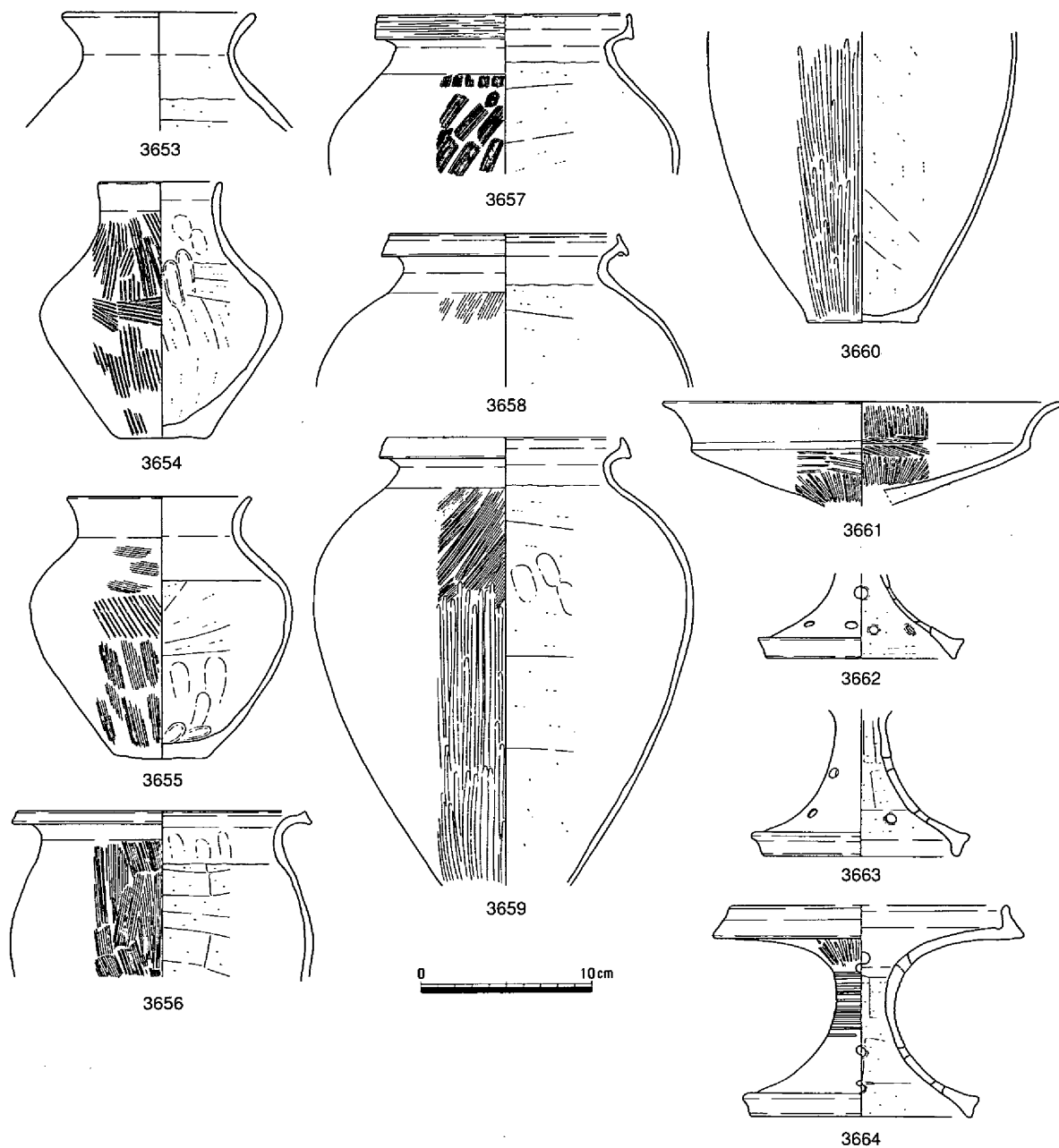
第1068図 土壌347 (1/30)

第1069図 土壌348 (1/30)・出土遺物 (1/4)



近い。埋土の1層は炭を含む。図示できる遺物としては高杯3652がある。遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本) 土壙349 (第553・1070図、図版49・128)

Ci604区北西に位置し、方形土壙88に一部切られて検出された。平面不整円形を呈し、規模は70×78cm、深さ38cmを残す。遺物は上層から土器溜りを形成していた。器種は壺3653～3655、甕3656～3660、高杯3661～3663、器台3664などである。壺はいずれも口縁端部が丸くおさめられており、甕の口縁は端部が肥厚する3656と拡張する3657～3659がある。高杯3661は口縁が外反し、脚端部3662・3663は肥厚してい

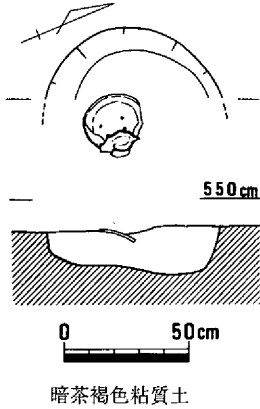


第1070図 土壙349 (1/30)・出土遺物 (1/4)

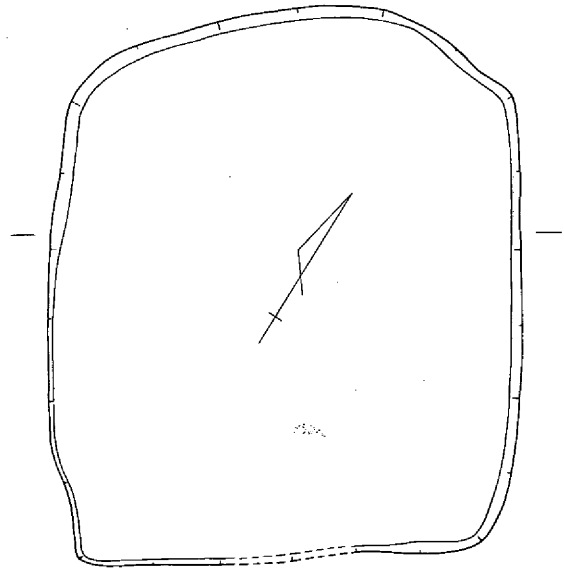
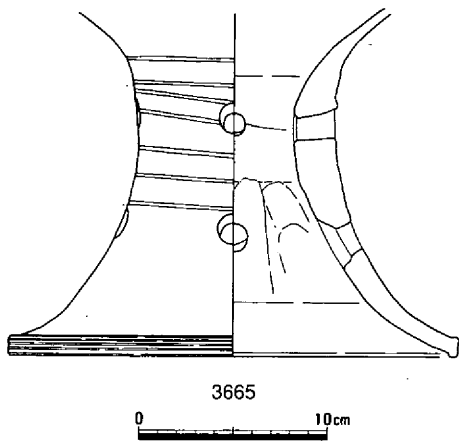
る。器台3664の脚裾部は高杯と同様で、筒部には円孔を穿つとともに螺旋状の沈線が巡る。これら土器の特徴は弥・後・Ⅱの範疇を示す。 (江見)

**土壙350** (第553・1071図)

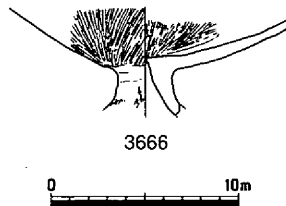
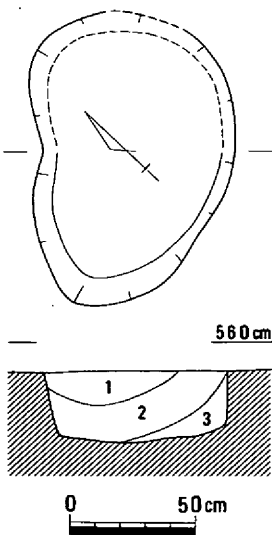
土壙347の東約4mの位置で検出された。確認された規模は40×73cm、深さは19cmを測り、円形が想定される。床面はほぼ平坦で、断面はU字形となる。出土遺物としては器台3665がある。廃棄された時期は弥・後・Ⅰ～Ⅱと思われる。 (松本)



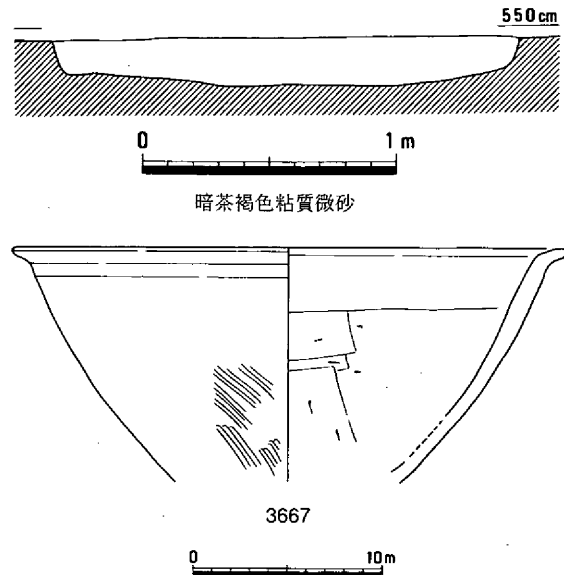
暗茶褐色粘質土



第1071図 土壙350 (1/30)・出土遺構 (1/4)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗褐色粘質土(炭多含)
- 3 黄褐色粘質土



第1072図 土壙351 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1073図 土壙352 (1/30)・出土遺物 (1/4)

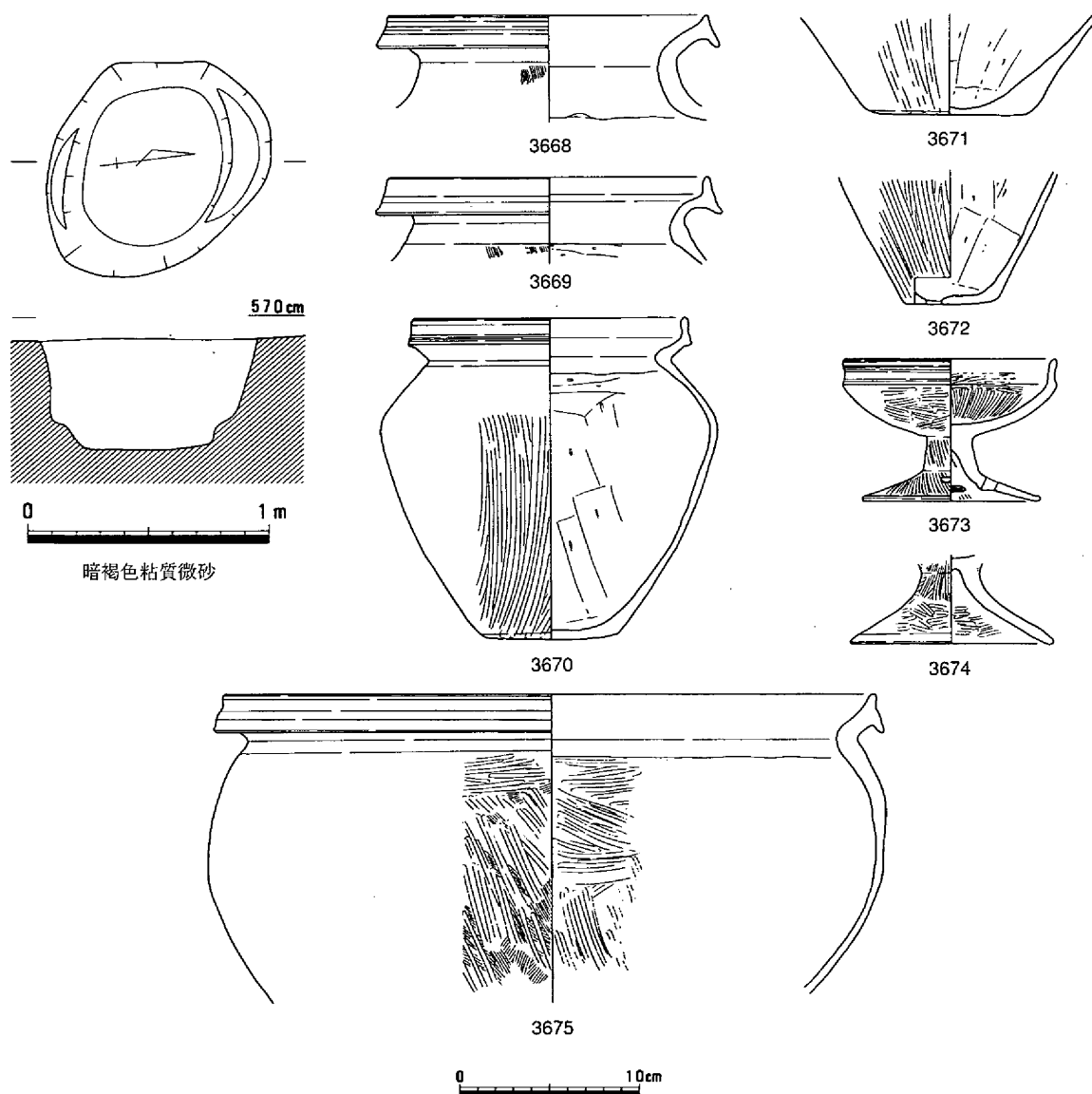
し、深さは19cmを測る。床面はほぼ平坦であり、断面はU字形を呈している。出土遺物としては鉢3667がある。遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅱ頃と思われる。(松本)

土壙353 (第553・1074図、図版128)

袋状土壙95の東約1mの位置で検出された遺構である。規模は81×102cmの不整円形を呈し、深さは47cmを測る。床面は平坦である。掘り方は二段掘りとなっている。埋土は1層である。出土遺物としては甕3668～3670・3672、壺3671、高杯3673・3674、鉢3675などの土器がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅲと思われる。(松本)

土壙354 (第553・1075図、図版49)

土壙353の西6mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は133×201cm、深さ37cmを残す。床は中央がくぼみ、壁は内傾気味に立ち上がる。袋状土壙の可能性もあるが、平面形態から当項に記した。土壙内からは黄燈色の粘土塊が混入していた。遺物は壺3676、高杯3677・3678、鉢3679などが出土しており、その特徴は弥・後・Ⅱを示す。(江見)



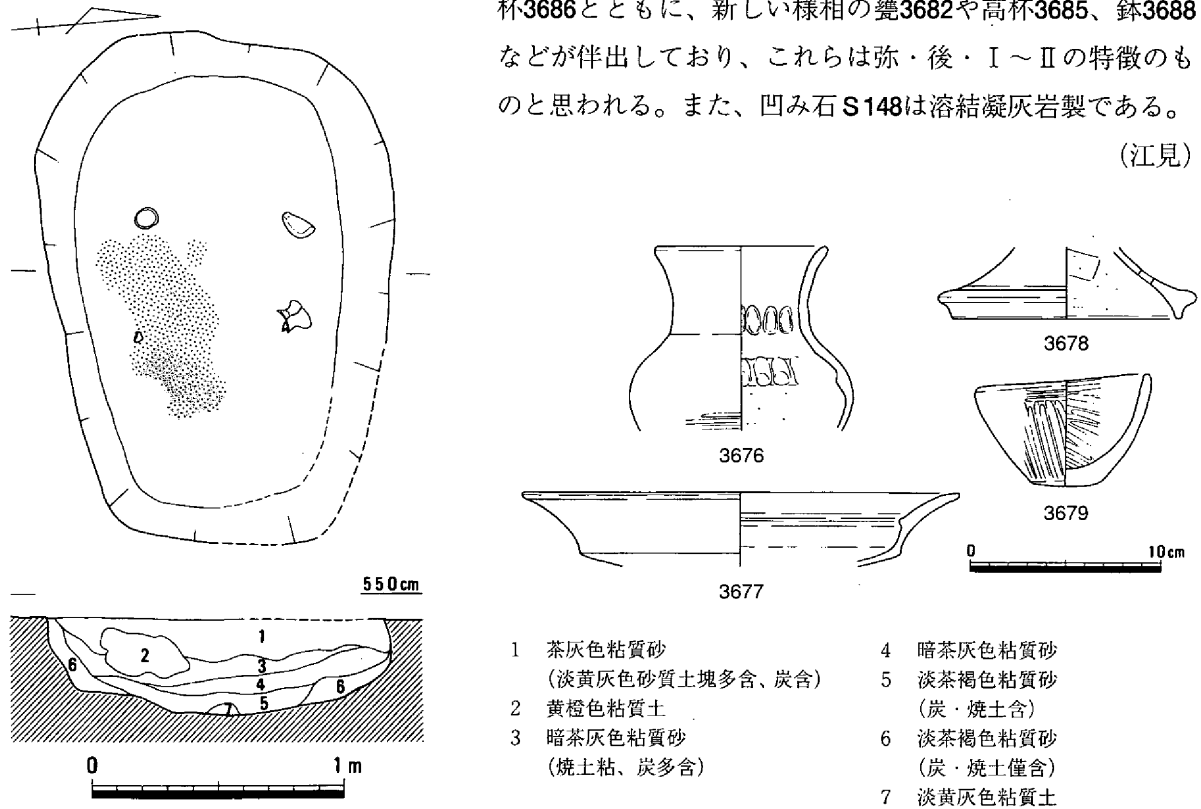
第1074図 土壙353 (1/30)・出土遺物 (1/4)



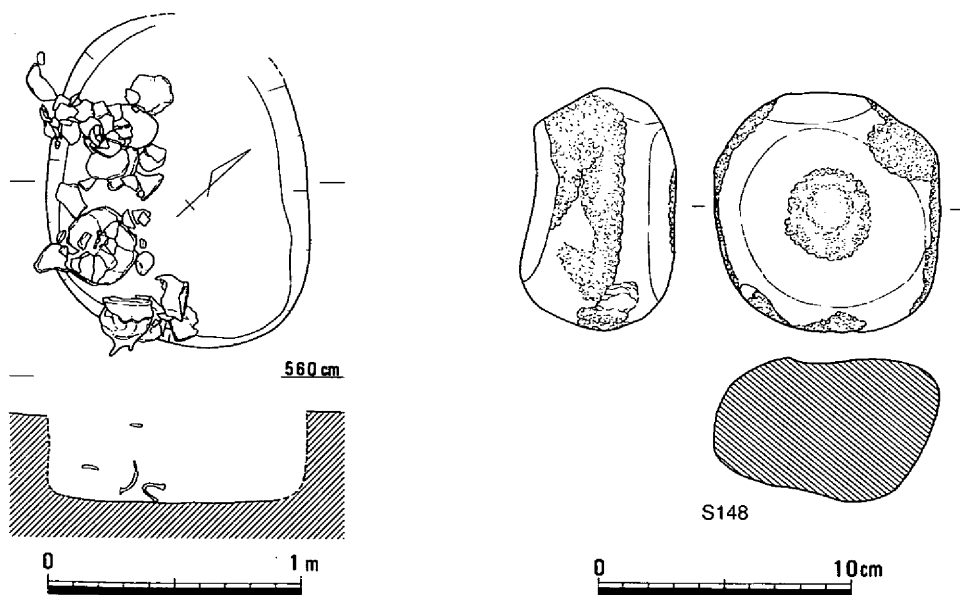
土壙355 (第553・1076・1077図、図版163)

土壙354の南西数mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は103×135cm、深さ37cmを残す。床は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、袋状土壙の可能性もある。遺物は土壙検出面上部から床面中央にかけて投棄されたと想像される状況で出土した。遺物量は多くコンテナ3箱分が出土し、器種は壺、甕、高杯、鉢などである。古い様相をもつ甕3683や高杯3686とともに、新しい様相の甕3682や高杯3685、鉢3688などが伴出しており、これらは弥・後・I～IIの特徴のものと思われる。また、凹み石S148は溶結凝灰岩製である。

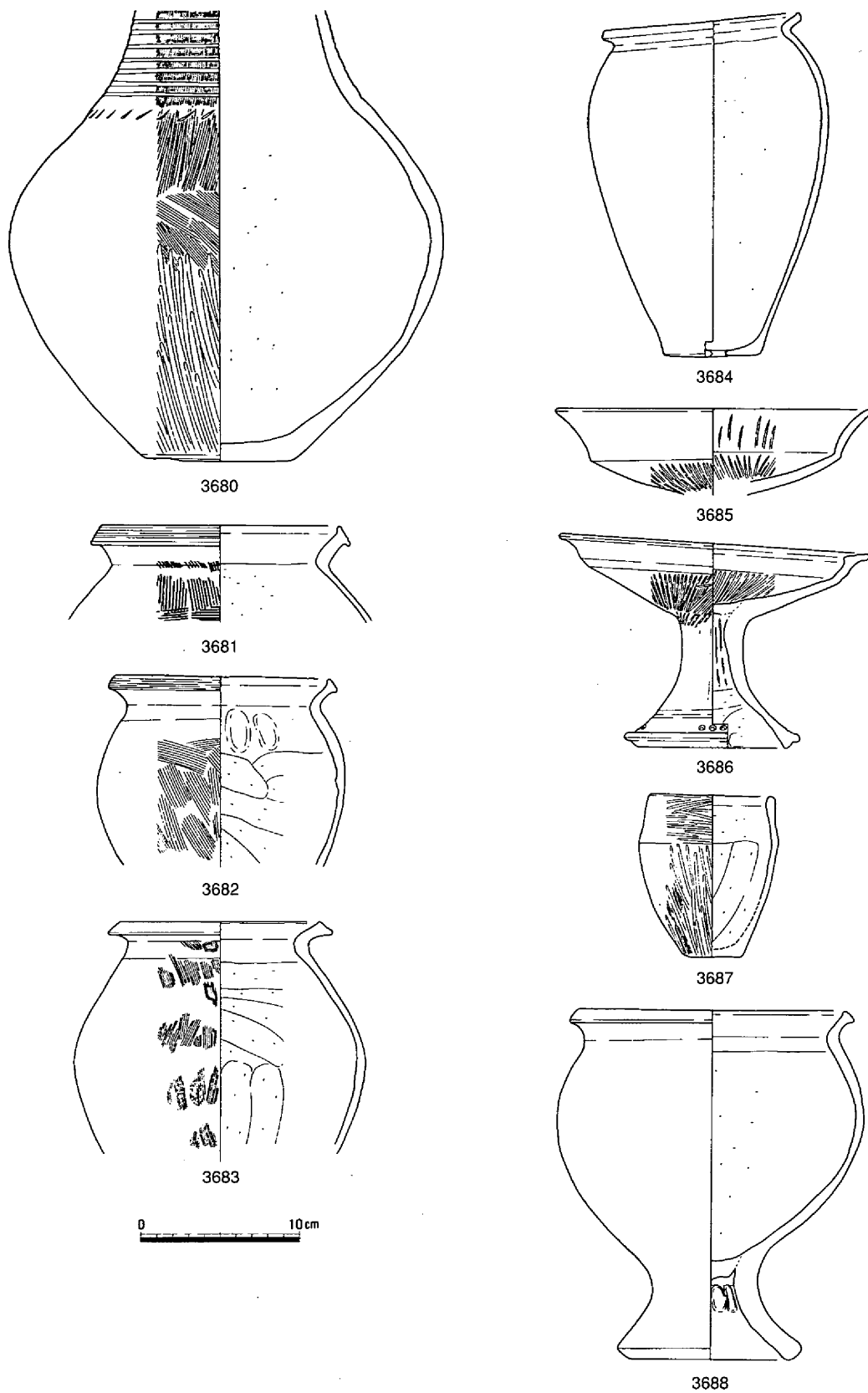
(江見)



第1075図 土壙354 (1/30)・出土遺物 (1/4)



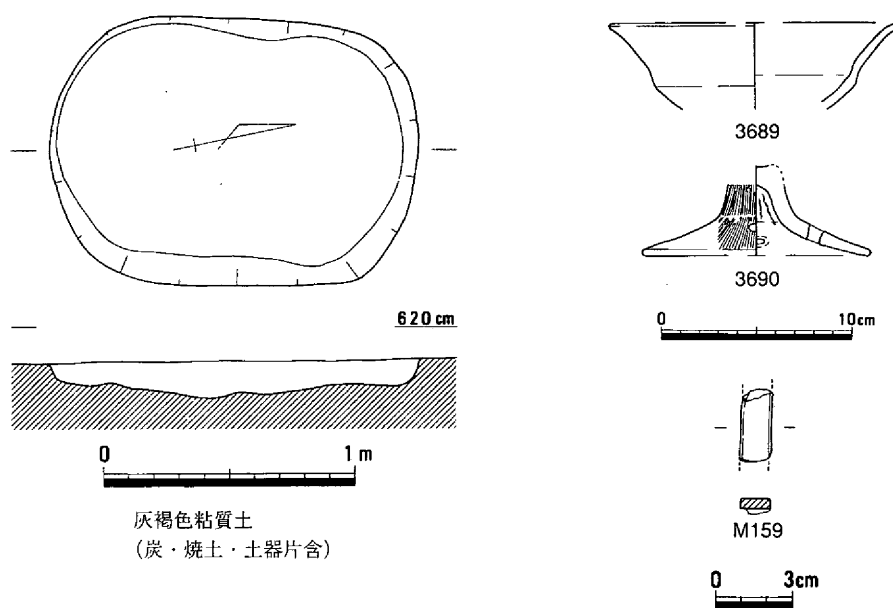
第1076図 土壙355 (1/30)・出土遺物① (1/3)



第1077図 土壙355出土遺物② (1/4)

## 土壙356 (第554・1078図)

Cg 6 06区の北西に位置し、竪穴住居153の下層から検出された。平面楕円形を呈し、規模は106×146cm、深さ14cmを残す。床は凹凸が著しく、埋土には炭、焼土が混じるものであった。遺物は少なく、高杯とともに鉋と思われる板状の鉄製品M159が出土している。3689は深い杯部に外反する口縁をもち、脚部3690は短脚である。土器の特徴は弥・後・Ⅲ～Ⅳを示す。(江見)



第1078図 土壙356 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

## 土壙357 (第554・1079図)

Cg 6 07区に位置し、方形土壙95を切って検出された。平面不整形円形を呈し、規模は81×89cm、深さ51cmを残す。床は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。遺物は少なく、弥生時代後期前半と思われる甕および高杯細片が出土するのみであったが、これらは混入の可能性が高い。(江見)

## 土壙358 (第554・1080図)

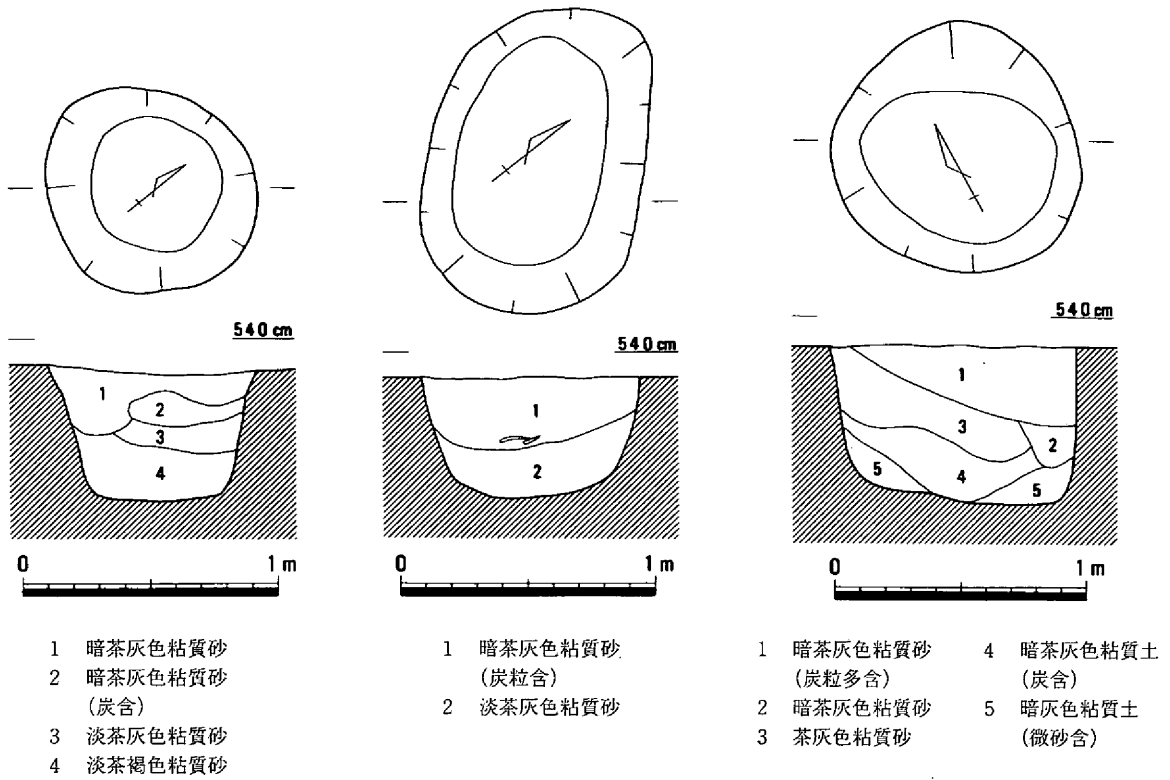
土壙357の南東から検出された。平面楕円形を呈し、規模は92×123cm、深さ48cmを残す。床は緩くくぼみ、壁はやや外傾して立ち上がる。埋土は2層からなり、遺物は弥生時代後期前半の長頸壺、甕、石器などの細片が出土している。(江見)

## 土壙359 (第554・1081図)

土壙358の南東4 mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は98×100cm、深さ63cmを残す。床はほぼ平坦で壁は垂直に立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる甕および高杯細片が出土している。(江見)

## 土壙360 (第554・1082図)

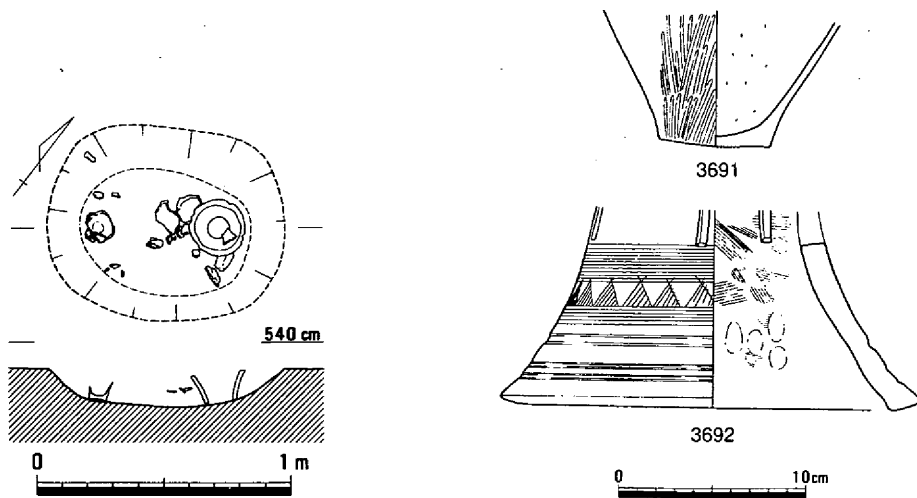
土壙359の東方9 m、Cg 6 08区から検出された。平面楕円形を呈し、規模は76×93cm、深さ15cmを残す。断面は皿状を呈す。土壙内からは破損した甕および器台が出土しており、3691の底部は平底で薄い胴部に続き、3692の下半部には沈線および凹線が施されるとともに鋸歯文が巡らされている。ま



第1079図 土壌357 (1/30)

第1080図 土壌358 (1/30)

第1081図 土壌359 (1/30)



第1082図 土壌360 (1/30)・出土遺物 (1/4)

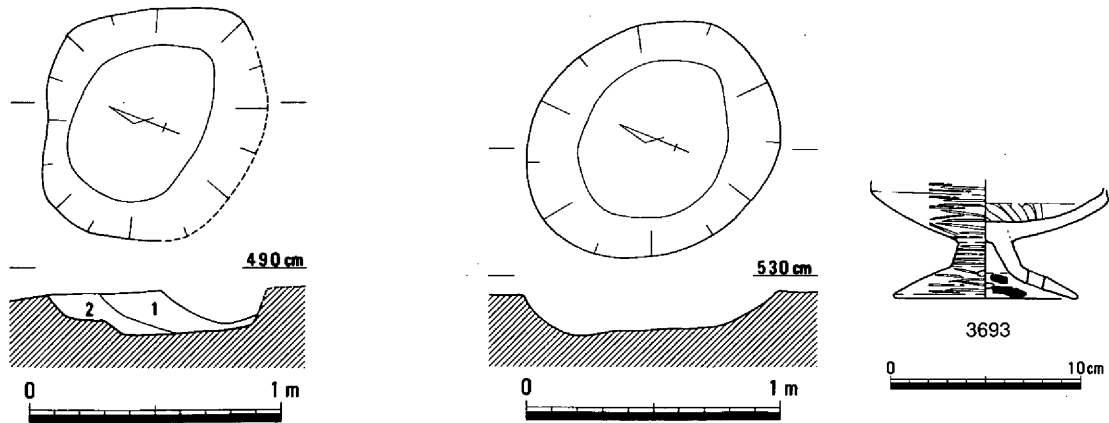
た、長方形透かしが5か所に穿たれている。これら遺物の特徴は弥・後・Iを示す。 (江見)

土壌361 (第554・1083図)

土壌360の北側に接して検出された。平面不整円形を呈し、規模は90×105cm、深さ20cmを残す。底部はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。埋土に焼土および炭を多く含み、これに混じって弥生時代後期後半と思われる甕および高杯細片が出土している。 (江見)

土壌362 (第554・1084図)

土壌361の南4mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は88×104cm、深さ18cmを残す。断面は皿状を呈す。遺物は少なく、短脚の高杯3693のほか、壺、甕の細片が出土しており、これら遺物の特徴は弥・後・IVと思われる。(江見)



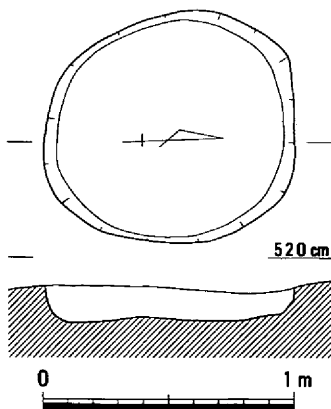
- 1 淡茶褐色粘質土  
(暗茶色粘土塊・炭・土器片含)
- 2 暗灰茶色粘質土  
(炭・土器片・焼土含)

第1084図 土壌362 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壌363 (第554・1085図、図版49)

土壌362の下層から検出された。平面不整形円形を呈し、規模は91×99cm、深さ15cmを残す。底部はほぼ平坦で、壁は直立気味に立ち上がり、袋状土壌になる可能性もある。埋土には炭が混入するものであった。遺物は少なく、高杯3694のほか、わずかに壺、甕の細片が出土するのみであった。高杯は口縁拡張面に凹線を巡らす。これら遺物の特徴は弥・後・Iと考えられる。(江見)

第1083図 土壌361 (1/30)



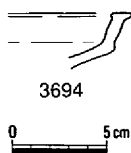
淡灰茶褐色粘質土  
(炭・土器片含)

土壌364 (第554・1086図)

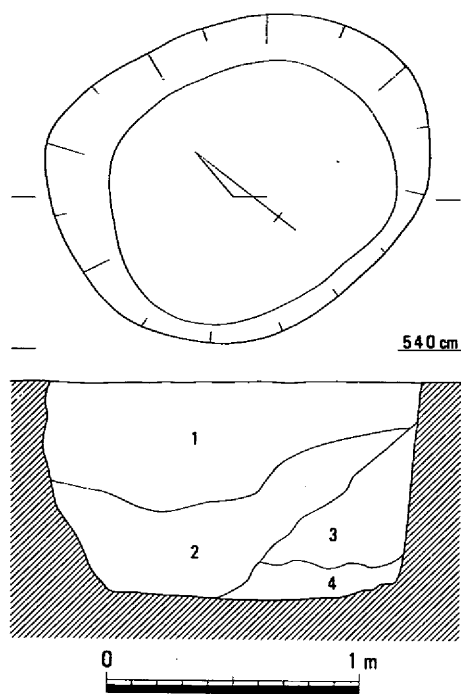
土壌363の南3mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は121×151cm、深さ87cmを残す比較的大形の土壌である。底部は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。埋土は4層からなる。遺物は少なく、弥生時代後期前半と思われる土器細片が出土するのみであった。(江見)

土壌365 (第554・1087図)

土壌364の北側に接して検出された。平面不整形円形を呈し、規模は径約110cm、深さ約40cmを残す。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、方形土壌の可能性もある。埋土は2層からなる。遺物は弥生時代後期後半と思われる壺および甕細片とともに石包丁S149が出土している。なお、石器は土器との関係から混入の可能性が高い。(江見)



第1085図 土壌363 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

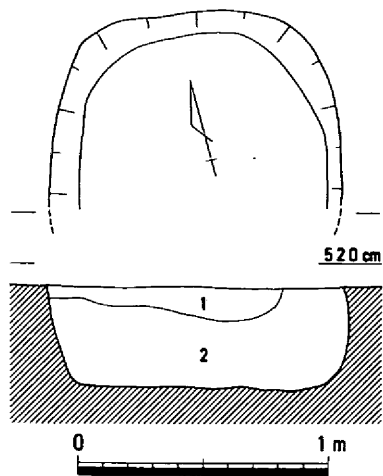


- 1 淡灰茶褐色粘質土
- 2 淡灰褐色粘質土  
(黄色砂塊含)
- 3 灰褐色砂質土  
(粘土含)
- 4 淡灰黄褐色細砂

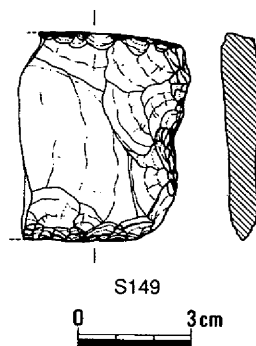
第1086図 土壌364 (1/30)

土壌366 (第554・1088図、図版50)

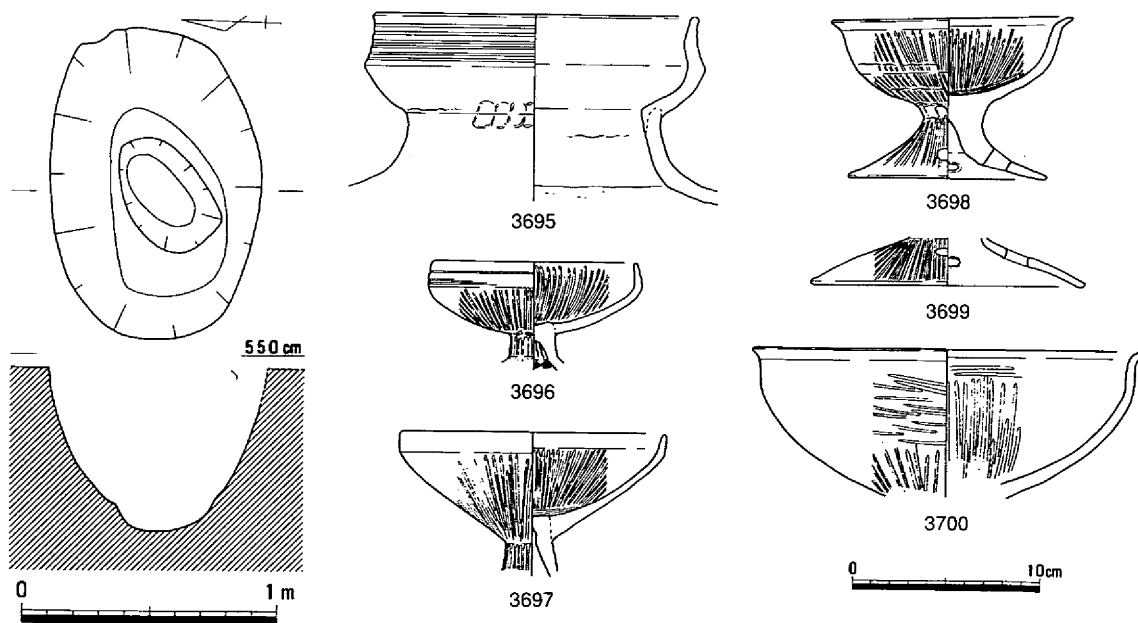
土壌365の西6mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は83×123cm、深さ64cmを残す。断面は「U」字状を呈す。遺物は壺、高杯、鉢などが出土している。3695は屈



- 1 淡灰茶色砂質土  
(炭・焼土含)
- 2 淡黄灰褐色粘質微砂  
(炭含)



第1087図 土壌365 (1/30)  
・出土遺物 (1/2)



第1088図 土壌366 (1/30)・出土遺物 (1/4)

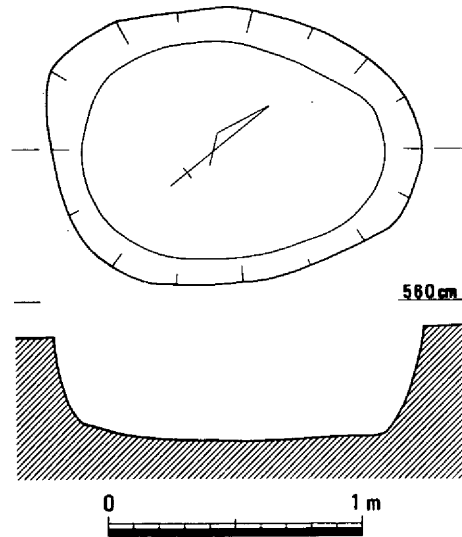
曲して広がる口縁で、拡張部には凹線が巡る。高杯は杯部が深く、3696・3697は口縁が内傾気味に立ち上がるのに対し、3698は屈曲して短く外反する。弥・後・Ⅲ～Ⅳの範疇であろう。(江見)

土壙367 (第554・1089図)

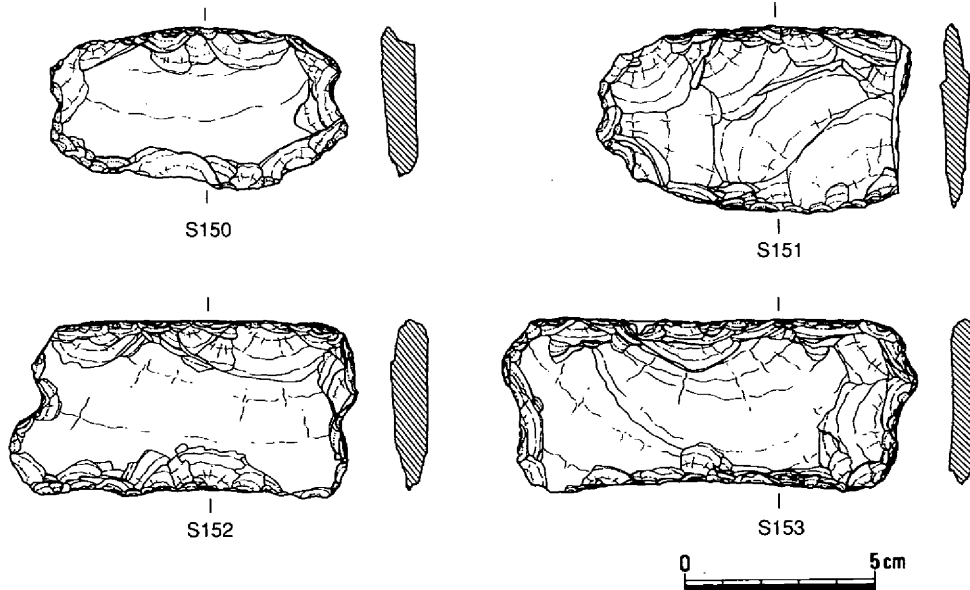
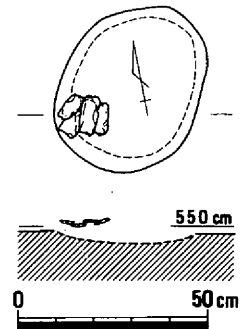
土壙366の北4mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は108×144cm、深さ45cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。遺物は弥生時代後期後半と思われる壺および甕細片が出土するにとどまった。(江見)

土壙368 (第554・1090図、図版163・164)

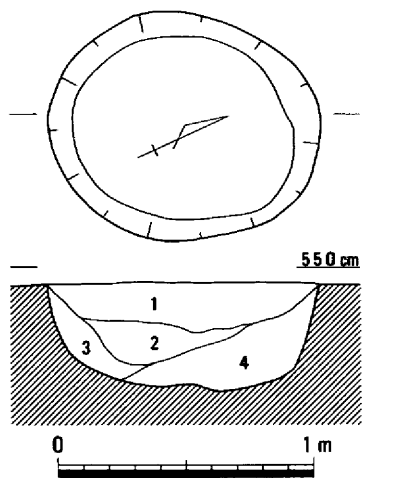
土壙367の西数mから検出された。平面楕円形を呈し、規模は36×43cm、深さ数cmを残すものであったが、埋土は基盤と極めてよく似る淡茶褐色の砂質土で、土壙内はわずかに黒みを帯びた状態であった。土壙南西部からは4個の石包丁が一部重なるように並べた状態で検出された。底部からはわずかに浮いた状態で、石包丁の長辺を南北方向に向け、西端にやや小形のS150・S151、中央にS153、東にS152が置かれていた。いずれもサヌカイト製で、幅10cm前後、重さ約40～60gと小形ながら完形品である。なお、S151は端部が一度欠損しているが、その後敲打し、再度挟りをつくっている。石包丁は刃部が弧状気味のS150・S151と直線的なS152・S153があり、後者には珪酸による光沢が比較的明瞭に確認された。ほかに遺物はなく、時期判断はしがたいが、これら石包丁は弥生時代後期前半に



第1089図 土壙367 (1/30)

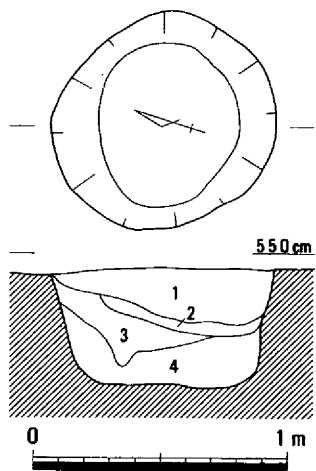


第1090図 土壙368 (1/20)・出土遺物 (1/2)



- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 灰茶色粘質土<br>(土器片・炭多含)  | 3 褐灰色粘質土<br>(粘質強)  |
| 2 淡灰茶色粘質土<br>(土器片・炭少含) | 4 暗灰茶色粘質土<br>(炭多含) |

第1091図 土壙369 (1/30)



- |                             |
|-----------------------------|
| 1 灰茶色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭多含)   |
| 2 淡灰茶色粘質土<br>(土器片・焼土含、炭少含)  |
| 3 暗褐灰色粘質土<br>(土器片・焼土・炭含)    |
| 4 褐灰色粘質土<br>(土器片・焼土・炭含、粘質強) |

第1092図 土壙370 (1/30)

土壙372 (第554・1094図)

土壙371の南東12mに位置し、東部を竪穴住居109に切られて検出された。平面楕円形を呈し、規模は78×187cm、深さ34cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。埋土には炭が多く含まれ、これに混じって弥生時代後期後半と思われる壺、甕細片が出土している。(江見)

何らかの祀りに使用されたものと思われる。(江見)  
土壙369 (第554・1091図)

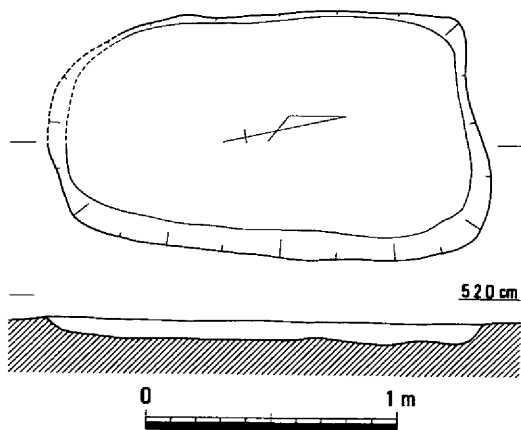
土壙368の北西5mから検出された。平面円形で、規模は径約100cm、深さ43cmを残す。底部はややくぼみ、壁は外傾気味に立ち上がる。埋土は4層のレンズ状堆積からなり、第3層を除き、いずれも炭が多く含まれていた。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期と思われる甕細片が出土するのみであった。(江見)

土壙370 (第554・1092図)

土壙369の南西7mに位置し、方形土壙108を切って検出された。平面円形を呈し、規模は径約85cm、深さ約50cmを残す。底部はほぼ平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。埋土は4層からなり、いずれも焼土および炭が多く含まれていた。遺物は少なく土器細片で、時期は弥生時代後期のものと思われる。(江見)

土壙371 (第554・1093図)

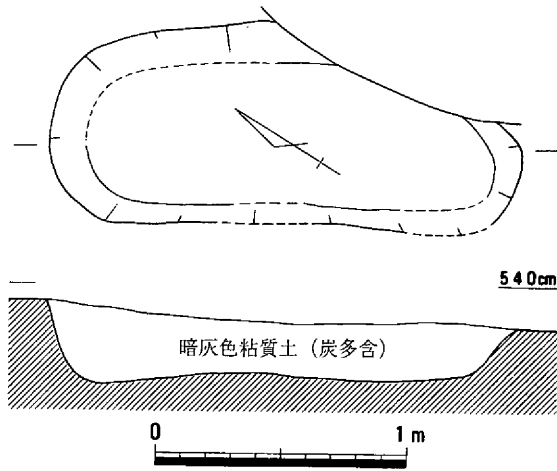
土壙370の北西8mから検出された。平面不整長方形を呈し、規模は96×174cm、深さ約10cmを残す。底部はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。埋土には炭、焼土が含まれていた。遺物は少なく、弥生時代後期と思われる土器細片が出土した。(江見)



- 灰褐色粘質土  
(炭・土器片・焼土含)

第1093図 土壙371 (1/30)

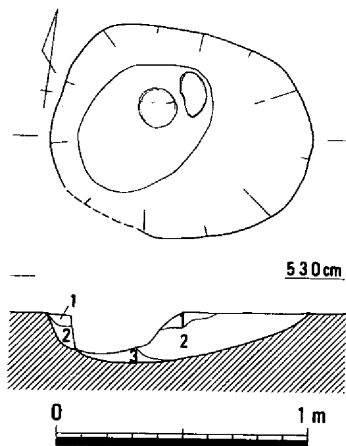




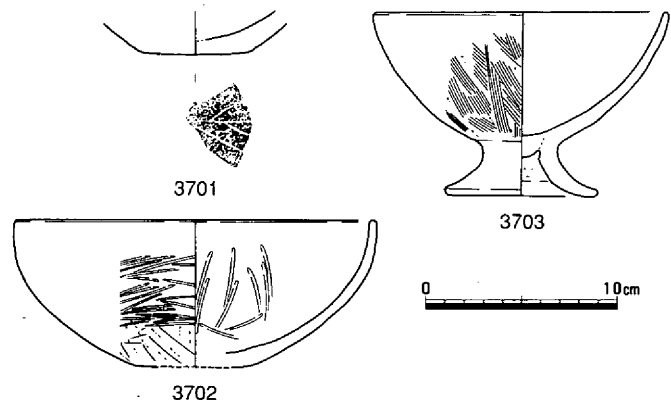
第1094図 土壙372 (1/30)

土壙373 (第554・1095図)

土壙372の南7 mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は82×102cm、深さ20cmを残す。底部は緩く傾斜しくぼむ。壁は斜め外方に立ち上がる。埋土は3層からなり、上層には炭が含まれていた。土壙中央からは鉢が底部に接する状態で出土した。遺物はほかに壺3701が出土している。台付鉢3703はほぼ完形で外面にハケ調整されており、3702は平底で内外面にヘラミガキしている。壺3701の外面には木の葉痕跡が認められる。これらの遺物は弥・後・IVの範疇のものか。(江見)



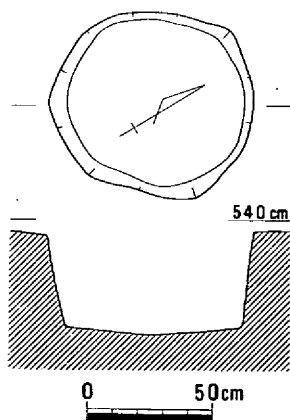
- |                            |                                  |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 暗灰色砂質土<br>(炭多含)          | 3 淡茶灰色粘質土<br>(暗灰色粘質砂・<br>灰色粘土塊含) |
| 2 暗茶灰色砂質土<br>(炭多含、黄色砂質土塊含) |                                  |



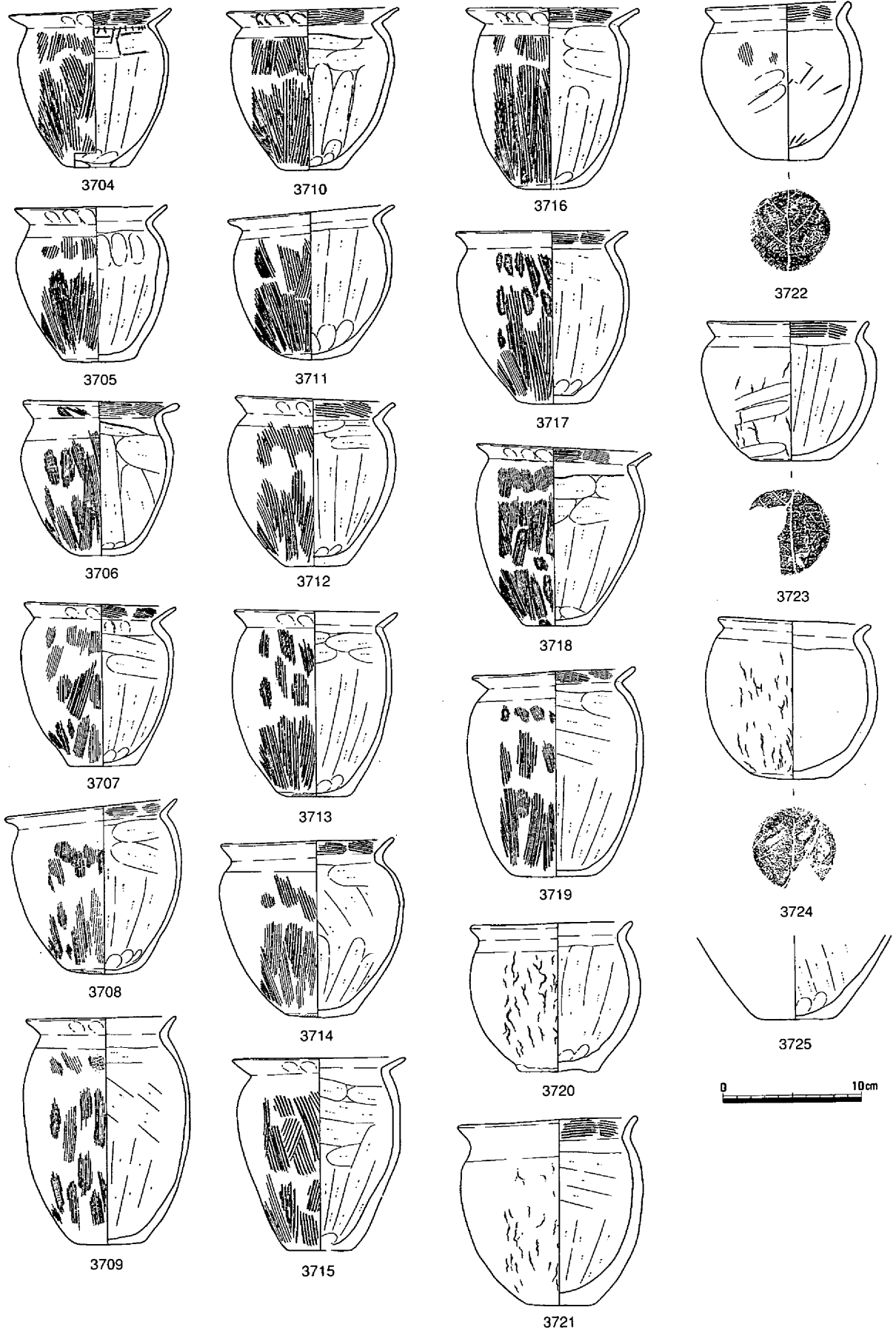
第1095図 土壙373 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙374 (第554・1096・1097図、図版128・129)

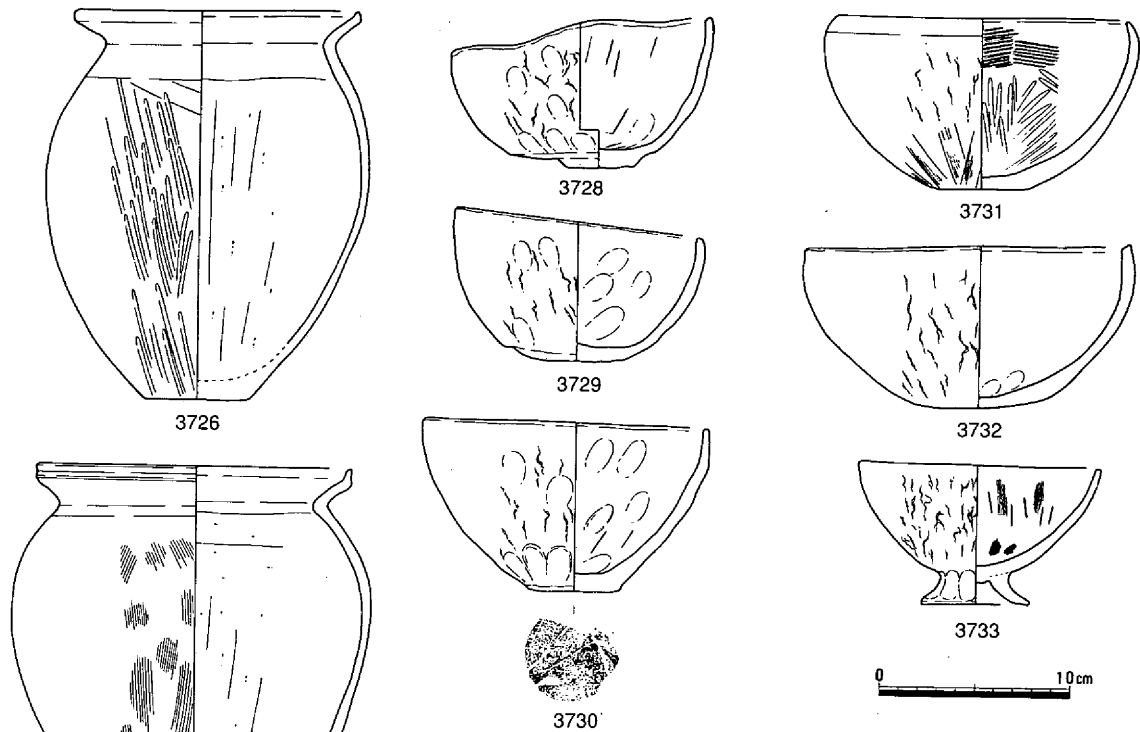
土壙373の東8 mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は径約75cm、深さ約40cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。埋土は茶灰色粘質砂で、炭、焼土が多く含まれていた。土壙内からは埋土に混じって甕3704～3727および鉢3728～3733がぎっしりと重なり合うように出土した。遺物は完形にこそ復元できなかったものの、完形品を含む土器が一括して投棄されたものと想像される。甕20数個体、鉢6個体を数え、ほかの器種は全く確認されなかった。甕は高さが10～15cmの小形なものが多く、いずれも口縁は「く」字状に開くものである。鉢も小形のものばかりである。3720～3733は外面に縦皺が顕著に認められる。これら遺物の特徴は弥・後・IVを示す。(江見)



第1096図 土壙374 (1/30)



第1097図 土壙374出土遺物① (1/4)



第1098図 土壙374出土遺物② (1/4)

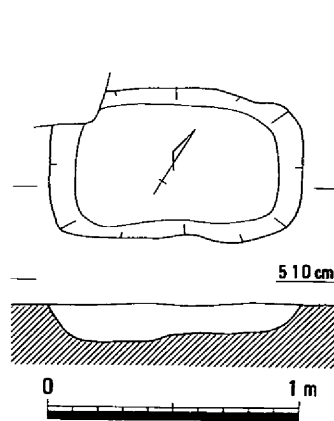
土壙375 (第554・1099図)

土壙374の南東5mに位置し、袋状土壙111の下層から検出された。平面長方形を呈し、規模は58×100cm、深さ15cmを残す。底部はやや凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。埋土に拳大の粘質土塊が混入する。遺物は弥生時代後期と思われる土器細片が出土している。(江見)

土壙376 (第554・1100図、図版129)

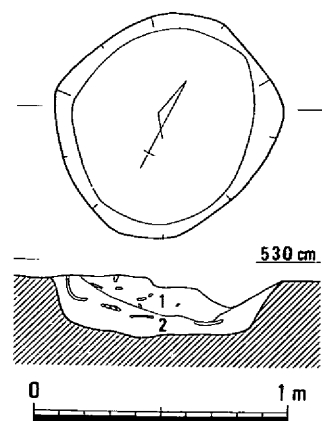
土壙375の西3mから検出された。平面不整円形を呈し、規模は80×86cm、深さ24cmを残す。底部はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。埋土は2層からなり、上層からは炭粒が多く認められた。

遺物は破片ではあるがいずれの層からも出土している。器種は甕、高杯、鉢および砥石などである。甕は口縁端部が上下につまみ出された3734と、上方に拡張気味の3735・3736がある。高杯3783は口縁が斜め外方に延び、3784の杯部はやや深い。小形鉢3741～3743はいずれも体部が深い。また、3743・3744は外面に縦皺が残り、鉢3737は厚い平底で搬入品であろう。砥石S154はホ



暗茶褐色粘質土  
(黄・白色粘質土塊含)

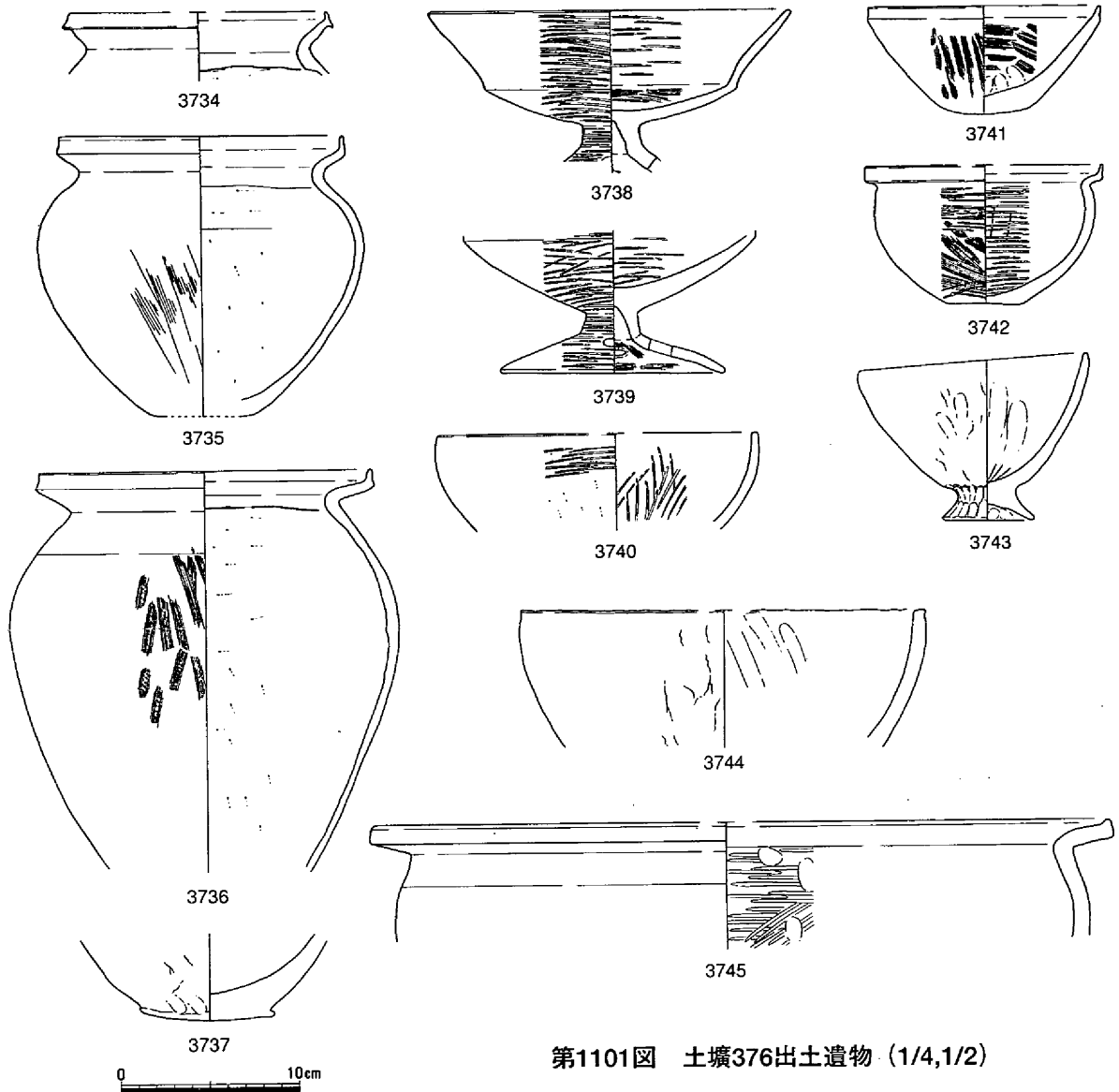
第1099図 土壙375 (1/30)



1 暗茶灰色粘質土 (炭含)      2 暗茶灰色粘質土 (炭僅含)

第1100図 土壙376 (1/30)

ルンフェルス製で、4面に使用痕が認められる。これら遺物の示す特徴から、当土壙は弥・後・Ⅳに  
 廃棄されたものと考えられる。(江見)



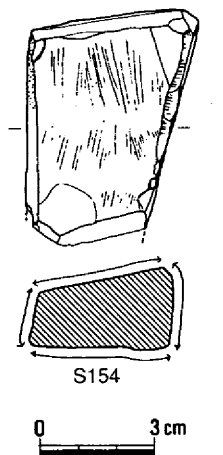
第1101図 土壙376出土遺物 (1/4, 1/2)

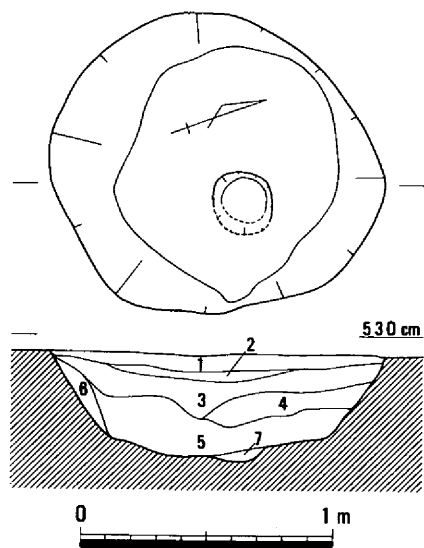
**土壙377 (第554・1102図)**

土壙376の北西数mから検出された。平面不整円形を呈し、規模は120×129cm、深さ42cmを残す。底部中央からは浅いくぼみが認められたが、おおむね平坦である。壁は外傾して立ち上がる。埋土は7層からなる。遺物は少なく弥・後・Ⅳの甕および鉢が出土している。(江見)

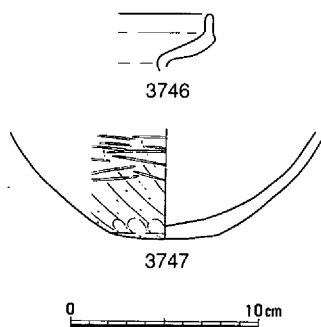
**土壙378 (第554・1103図)**

土壙377の西数mに位置し、方形土壙144を切って検出された。平面円形を呈し、規模は径約70cm、深さ23cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。遺物は少なく弥生時代後期後半

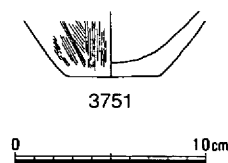
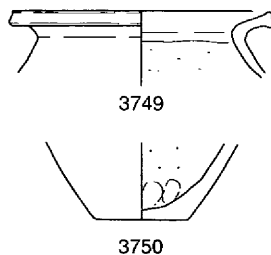
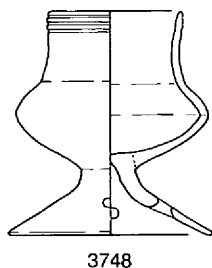
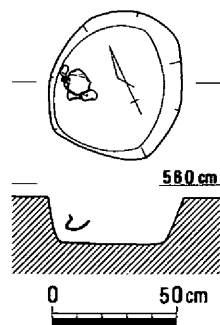




- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1 淡茶褐色粘質土             | 5 灰・炭層           |
| 2 淡褐色粘質土              | (灰褐色粘土塊・土器含)     |
| 3 淡灰茶褐色粘質土<br>(炭・土器含) | 6 淡黄灰色粘質微砂       |
| 4 灰褐色粘質微砂<br>(炭・土器含)  | 7 暗灰色粘質土<br>(炭含) |

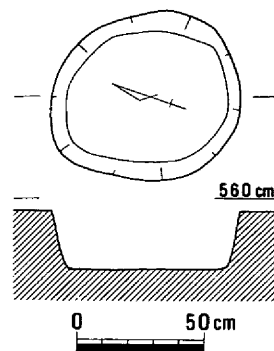


第1102図 土壌377 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1104図 土壌379 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1103図 土壌378 (1/30)



と思われる甕片が出土している。(江見)

土壌379 (第554・1104図、図版50)

土壌378の南西から検出された。平面円形を呈し、規模は径約55cm、深さ約20cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。土壌西部からは底部からやや浮いた状態で台付直口壺3748や甕3749～3751が出土している。3747は口縁端部を丸くおさめ、浅い凹線3条が巡る。3749は口縁が「く」字状に大きく開き、端部を肥厚させている。これら遺物の特徴から、当土壌は弥・後・Ⅲに廃棄されたものと考えられる。(江見)

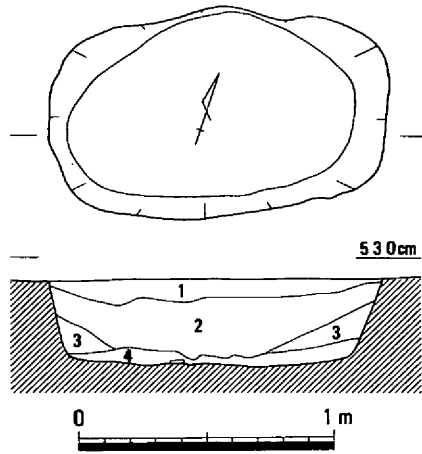
土壌380 (第554・1105図)

土壌379の東5mに位置し、竪穴住居

165の下層から検出された。平面楕円形を呈し、規模は84×132cm、深さ34cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。埋土は4層からなり、特に第2層には炭および土器片が含まれていた。しかしながら遺物は少なく細片で、弥生時代後期と思われるものであった。(江見)

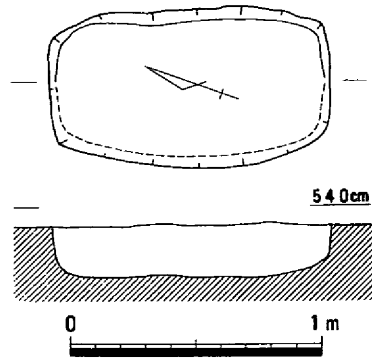
土壌381 (第554・1106図)

土壌380の南西から検出された。平面長方形を呈し、規模は63×112cm、深さ21cmを残す。底部はやや凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土の淡灰茶褐色粘質土には炭が混じる。遺物は少なく弥生時代後期後半の壺および甕細片が出土するのみであった。(江見)



- 1 茶褐色粘質土
- 2 暗灰茶色粘質土 (炭・土器含)
- 3 灰褐色粘質微砂
- 4 淡黄灰茶色粘質微砂

第1105図 土壌380 (1/30)

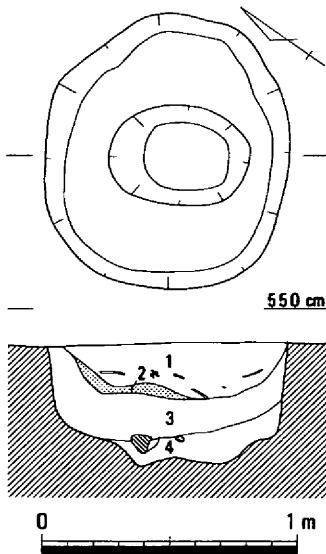


- 淡灰茶褐色粘質土 (炭・土器片含)

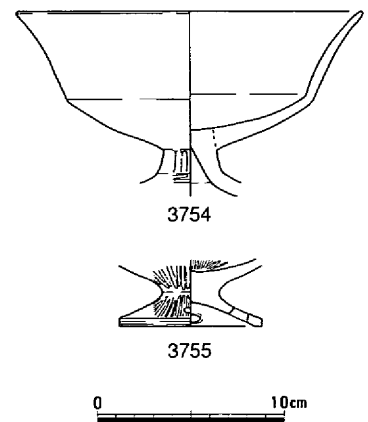
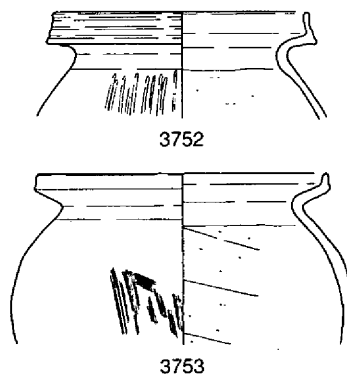
第1106図 土壌381 (1/30)

土壌382 (第554・1107図)

土壌380の南東数mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は96×109cm、深さ48cmを残す。底部には中央部分が一段深く掘り込まれ、やや凹凸がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は4層からなり、いずれも炭が多く含まれていた。遺物は主に上層から出土しており、器種は甕、高杯、鉢などで、甕3752は内傾して拡張する口縁部に凹線が巡り、高杯3754の口縁は斜め外方に緩く外反しながら開くなど、弥・後・IVの特徴を示す。(江見)



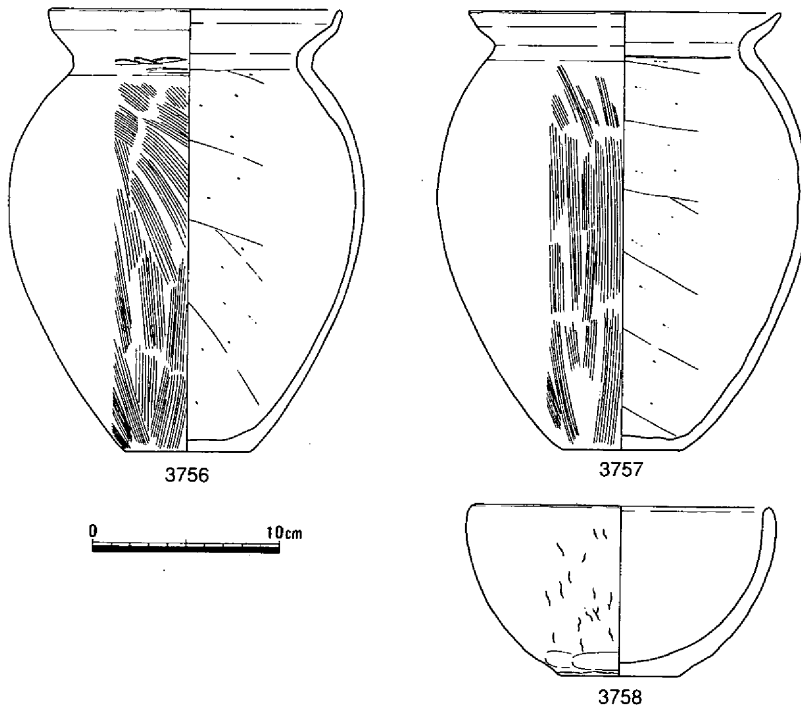
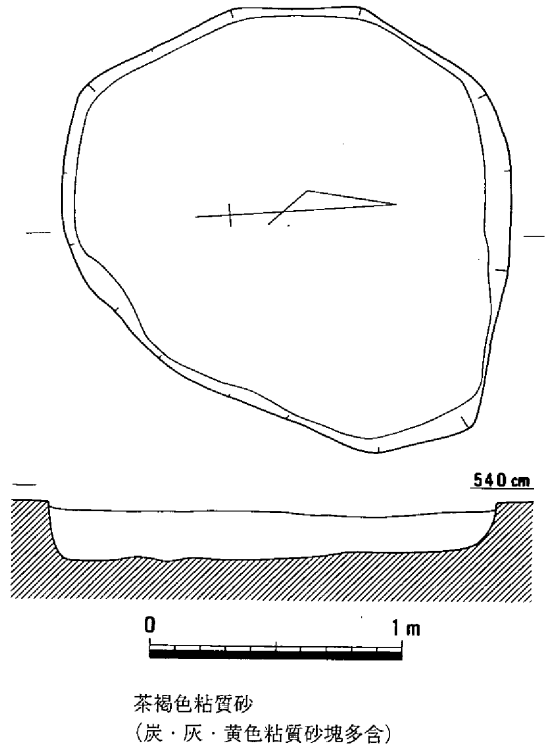
- 1 茶灰色粘質砂 (炭・焼土含、土器多含)
- 2 暗灰色炭層
- 3 淡茶灰色粘質砂 (炭・焼土含、黄色粘土塊多含)
- 4 暗灰色炭灰層



第1107図 土壌382 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙383 (第554・1108図、図版129)

土壙382の東数mから検出された。平面不整形円形を呈し、規模は158×188cm、深さ23cmを残す比較的大形ながら浅い土壙である。底部はほぼ平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。埋土には炭、灰などとともに粘質砂塊が混入しており、人為的に埋め戻されたことが想像される。遺物は甕、鉢が出土しており、いずれも1/3から2/3残存する破片である。甕は口縁端部が上方に拡張する3756、厚みを減じる3757があり、いずれも肩が張らず、広い平底をもつ。鉢3758はボウル状の小形のもので、緩くカーブし立ち上がる口縁に、端部は丸くおさめる。外面には縦皺が残る。これら土器の特徴は弥・後・Ⅳの範疇のものと思われる。(江見)



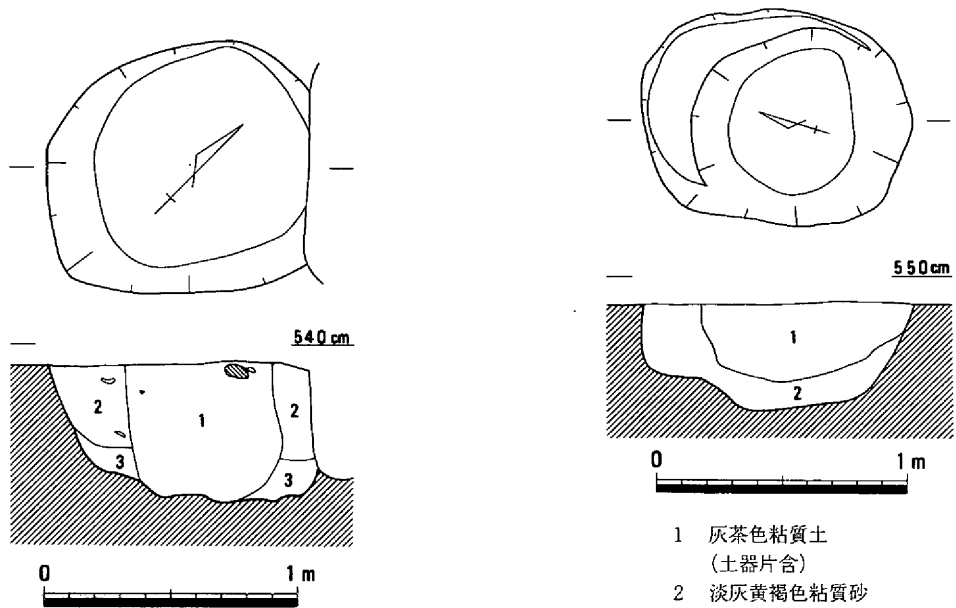
第1108図 土壙383 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙384 (第554・1109図)

土壙383の南6mに位置し、方形土壙140に一部切られて検出された。平面不整形円形を呈し、規模は104×119cm、深さ56cmを残す。底部は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。埋土の状況から明らかなように、土壙中央は径約60cmの第1層が下層を切っており、重複した土壙のあった可能性がある。しかしながら図示し得た遺物3759～3768はおおむね弥・後・Ⅲの範疇のものと思われる。(江見)

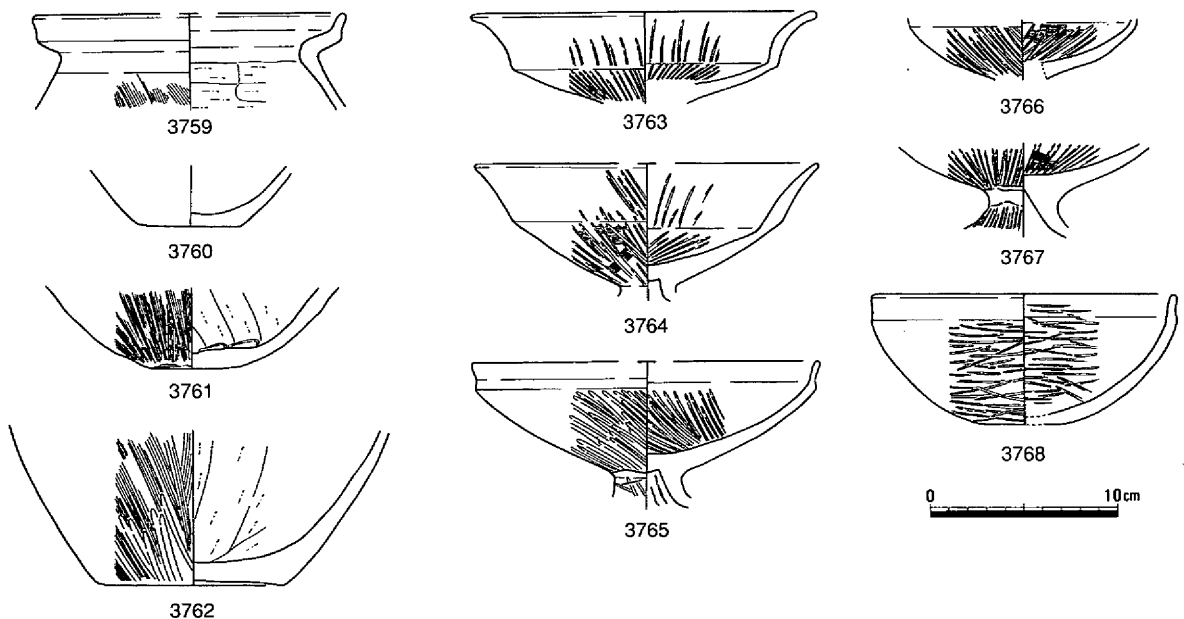
土壙385 (第554・1110図)

土壙384の北西から検出された。平面不整円形を呈し、規模は84×108cm、深さ42cmを残す。底部は平坦ながら北部に狭い段がつく。壁は外傾して立ち上がる。埋土は2層からなり、上層から弥生時代後期前半と思われる甕、高杯の細片が出土している。(江見)



- 1 暗茶灰色砂質土
- 2 暗茶灰色砂質土
- (黄色砂質土塊含)
- 3 茶灰褐色砂質土

第1110図 土壙385 (1/30)



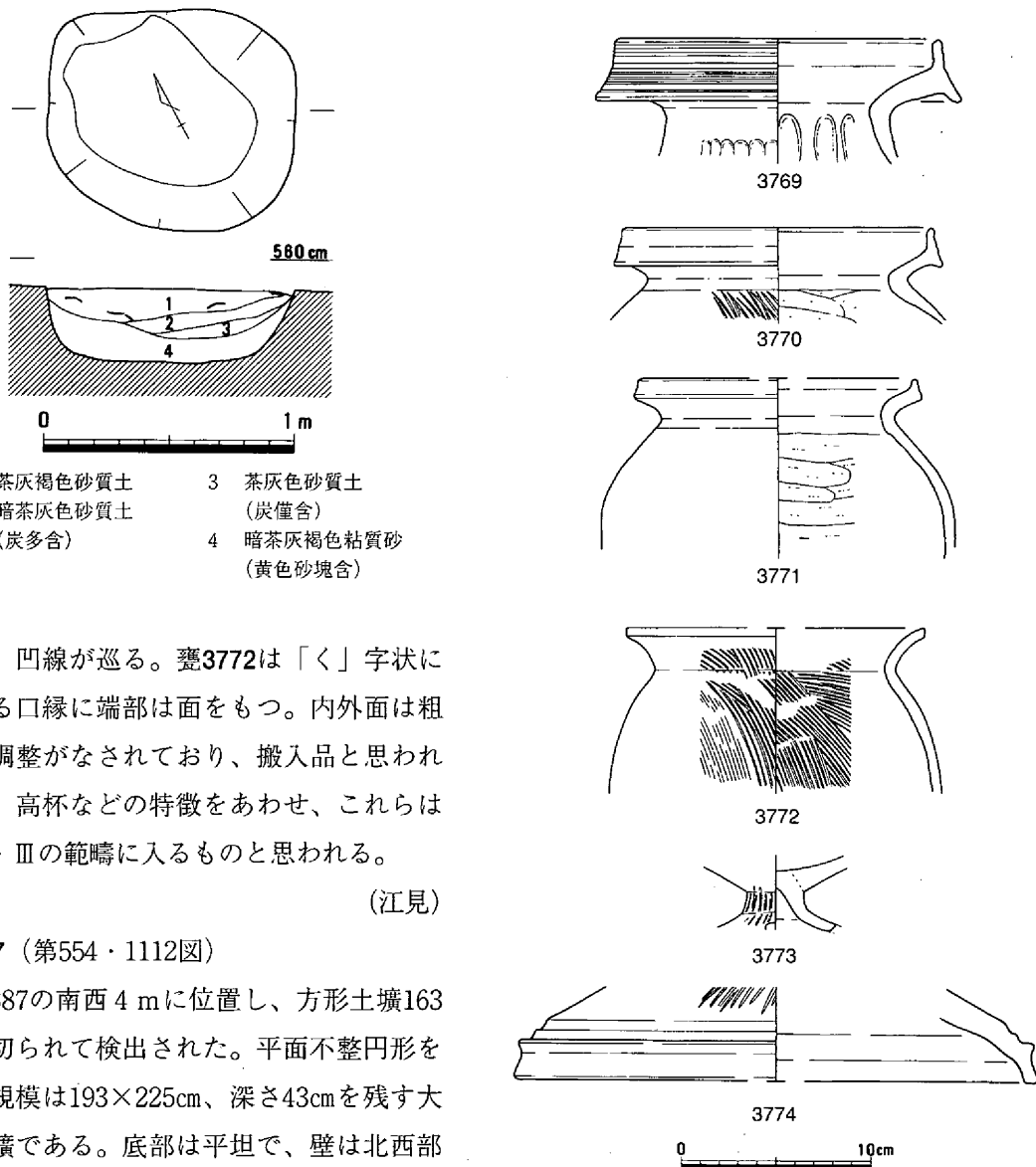
第1109図 土壙384 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙386 (第554・1111図)

土壙385の西4mから検出された。平面不整円形を呈し、規模は87×98cm、深さ31cmを残す。底部は平坦で壁は緩く外傾して立ち上がる。埋土は4層からなり、第4層が人為的に埋め戻された後は自



然堆積したものか、レンズ状の堆積を示す。遺物はおもに上層から出土している。器種は壺、甕、高杯、器台などがある。壺3769は長めの頸をもつと思われ、急に開く口縁に端部は上下に大きく拡張し



ており、凹線が巡る。甕3772は「く」字状に外反する口縁に端部は面をもつ。内外面は粗いハケ調整がなされており、搬入品と思われる。甕、高杯などの特徴をあわせ、これらは弥・後・Ⅲの範疇に入るものと思われる。

(江見)

**土壙387 (第554・1112図)**

土壙387の南西4mに位置し、方形土壙163に一部切られて検出された。平面不整円形を呈し、規模は193×225cm、深さ43cmを残す大形の土壙である。底部は平坦で、壁は北西部分が外傾して立ち上がるものの、ほかの箇所は垂直あるいは内傾気味に立ち上がることから、本来はほぼ垂直に掘り込まれていたのではないかと推定される。埋土は5層からなり、いずれも粘土塊や炭、焼土を含むもので、人為的に埋め戻された様子がうかがえる状況であったが、特に第2層下部では径約70cm、厚さ5cm余りの焼土面が検出され、比較的大規模に火を伴う作業がなされたものと思われる。

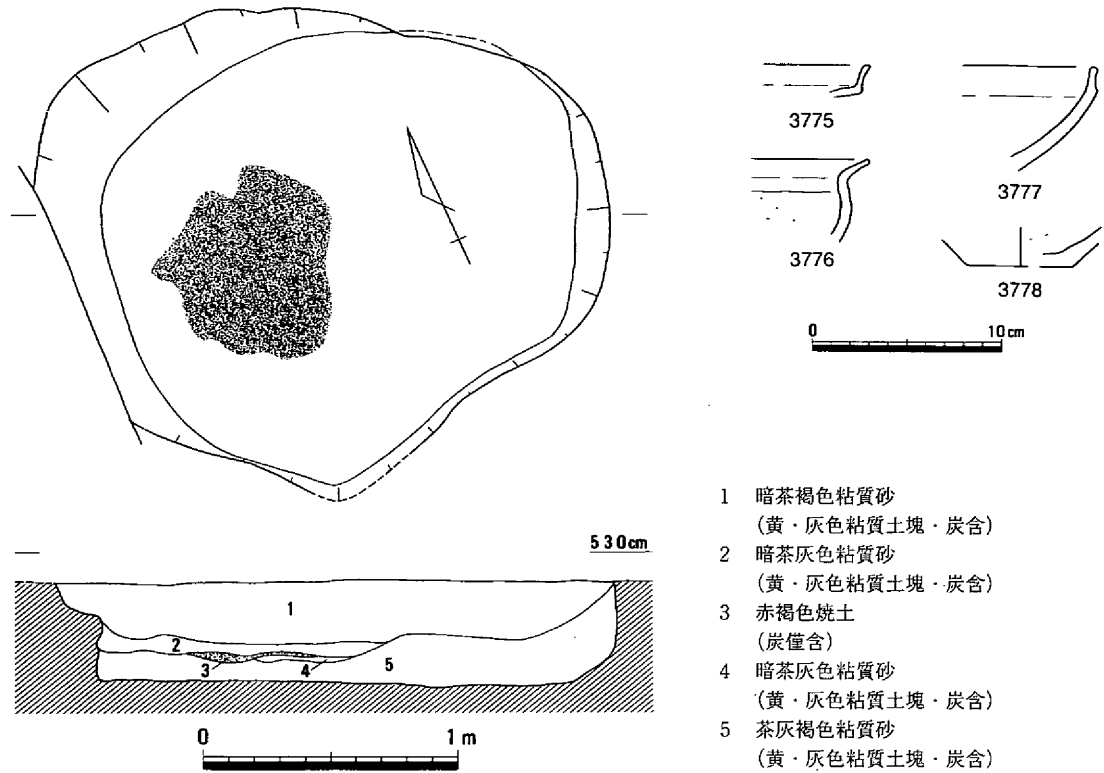
遺物は少なく、わずかに図示し得た土器は甕、鉢、高杯片であったが、これらの示す特徴は弥・後・Ⅲの範疇と思われる、当土壙はこの時期に廃棄されたものと考えられる。

(江見)

**土壙388 (第554・1113図)**

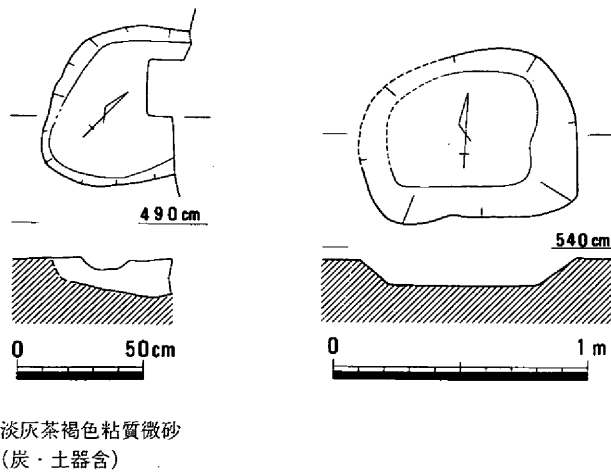
土壙387の北4mに位置し、竪穴住居114の下層から検出された。平面不整円形を呈し、規模は60×80cm、深さ15cmを残す。底部は中央がくぼみ、壁は緩く外傾して立ち上がる。遺物は少なく、わずか

第1111図 土壙386 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗茶褐色粘質砂  
(黄・灰色粘質土塊・炭含)
- 2 暗茶灰色粘質砂  
(黄・灰色粘質土塊・炭含)
- 3 赤褐色焼土  
(炭僅含)
- 4 暗茶灰色粘質砂  
(黄・灰色粘質土塊・炭含)
- 5 茶灰褐色粘質砂  
(黄・灰色粘質土塊・炭含)

第1112図 土壙387 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1113図 土壙388 (1/30) 第1114図 土壙389 (1/30)

に弥生時代後期後半と思われる甕および高杯の細片が出土するのみであった。(江見)

**土壙389 (第554・1114図)**

Ch 6 05区の南西、土壙388の北西25mの位置から検出された。平面不整形方形を呈し、規模は67×84cm、深さ11cmを残す。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。遺物は少なく、わずかに弥生時代後期後半と思われる壺および甕の細片が出土するのみであった。(江見)

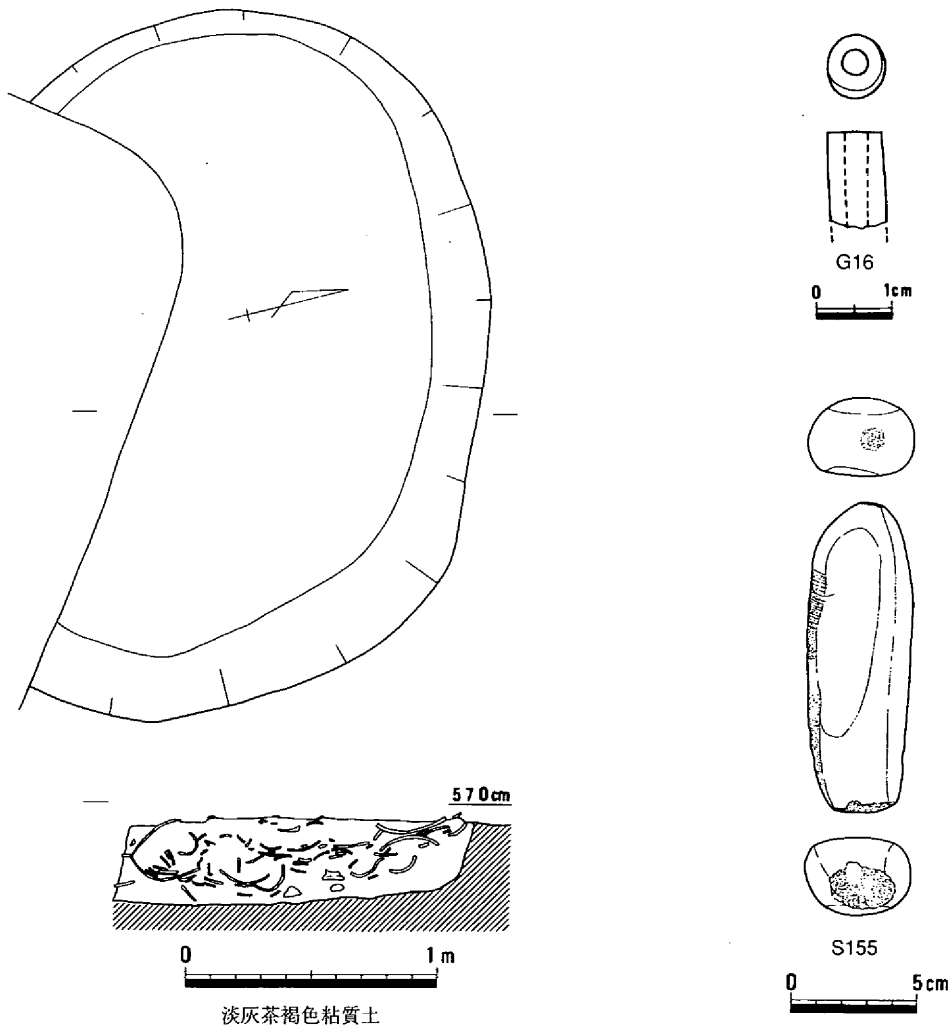
**土壙390 (第554・1115～1121図、図版50・130・164・168)**

Ci 6 04区の南東、土壙389の南西10mに位置し、方形土壙154に一部を切られて検出された。平面楕円形を呈し、規模は220×推定284cm、深さ34cmを残す。底部は緩く中央に向かって傾斜しており、壁は斜め外方に立ち上がる。土壙内には淡灰茶褐色粘質土が堆積し、これに混じって大量の土器が投棄された状態で出土している。器種は壺をはじめ、甕、高杯、鉢類などで総量はコンテナ16箱におよび、小形のものには完形に近いものが目立ち、大形品においても復元完形できたものが多い。土器以外にも土壙上部からガラス製管玉G16、叩き石S155などが出土している。壺は広口の3785、長頸をもつ

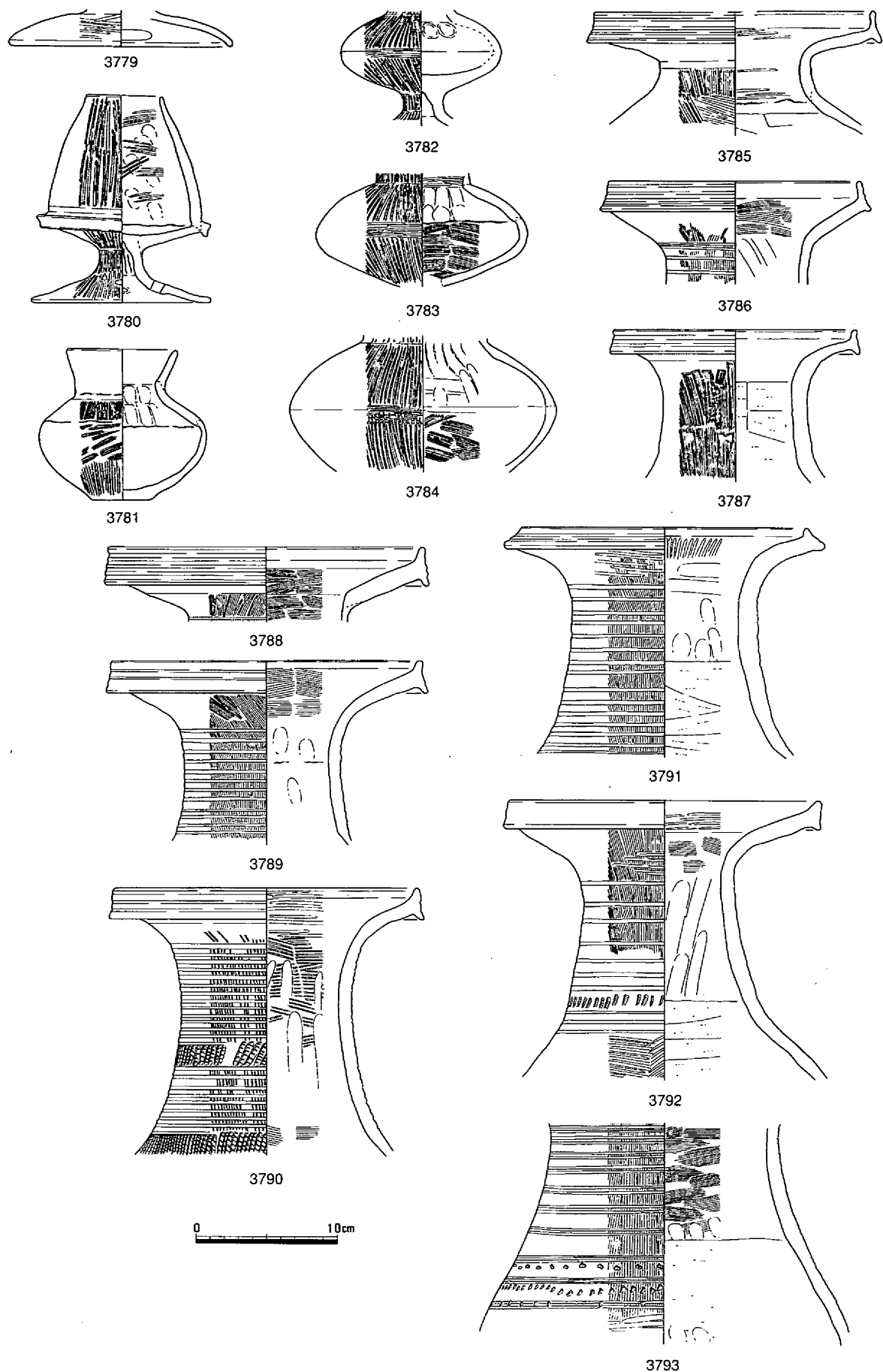
3786～3794、直口壺3781～3784、形態的に甕に似る3795などで、長頸壺は口縁が緩く外反する3790・3791や口縁が屈曲気味に開く3786・3788などがあり、口縁から頸部のあり方から時期差が感じられる。なお、3793は広い頸から胴部にかけて緩く広がる壺で、一般的に長頸という形態とはやや様相を異にする。外面には半裁竹管により施文され、胴部にはヘラ状工具による刺突が巡る。内面は頸部にハケ調整痕が残り、胴部はヘラケズリされている。甕は口縁端部を丸くおさめた3818、肥厚させた3819、つまみ出した3803～3815、拡張して立ち上げた3804・3809～3813・3816などがあるが、おおむね胴部が長く肩が張り気味で、明瞭な平底を呈している。なお、3816の肩部にはタタキメ痕跡が認められるとともに2か所に刺突がなされている。高杯は口縁が外反する3828～3839と椀状を呈す3840・3841がある。前者は鋭く外反する3836や緩く外反する3832などが見られるが、いずれも比較的深い杯部をもち、脚柱部は短い。鉢類はいずれも体部が深く、大形鉢3859～3861は口縁が屈曲して開き、端部は肥厚あるいは上部につまみ出されている。ほかに特異な土器として瓢形土器3862がある。口径7.1cm、現存高12cmの小形なもので、鈍燈色を呈し胎土に細砂を含む。内面には押圧痕が残り、外面は粗いヘラミガキが認められる。また、ガラス管玉G16は淡清緑色を呈す欠損品で、径7.5mm、現存長12.5mmを測る。

以上、当土壌は弥・後・Ⅲに廃棄されたものと考えられる。

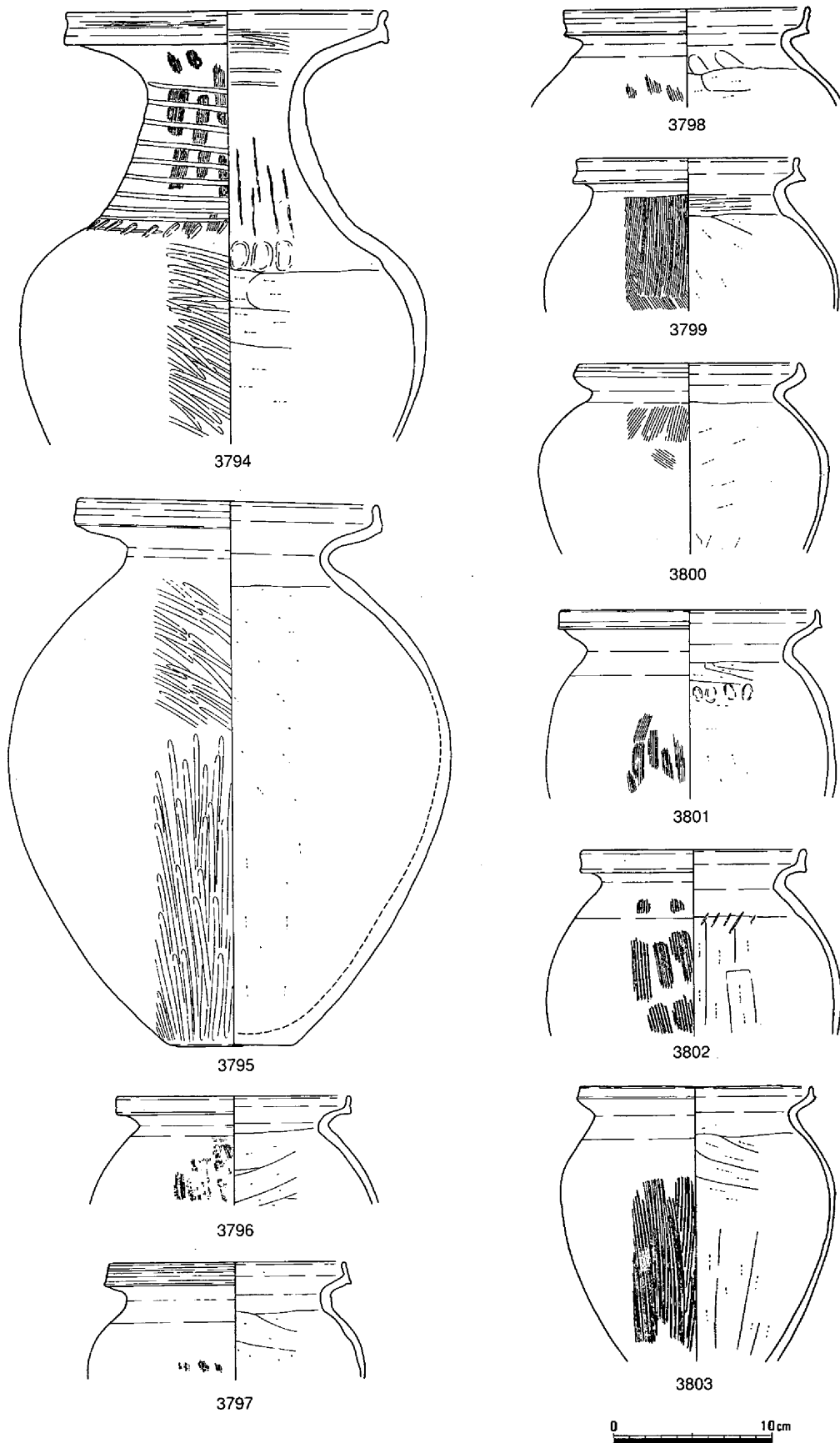
(江見)



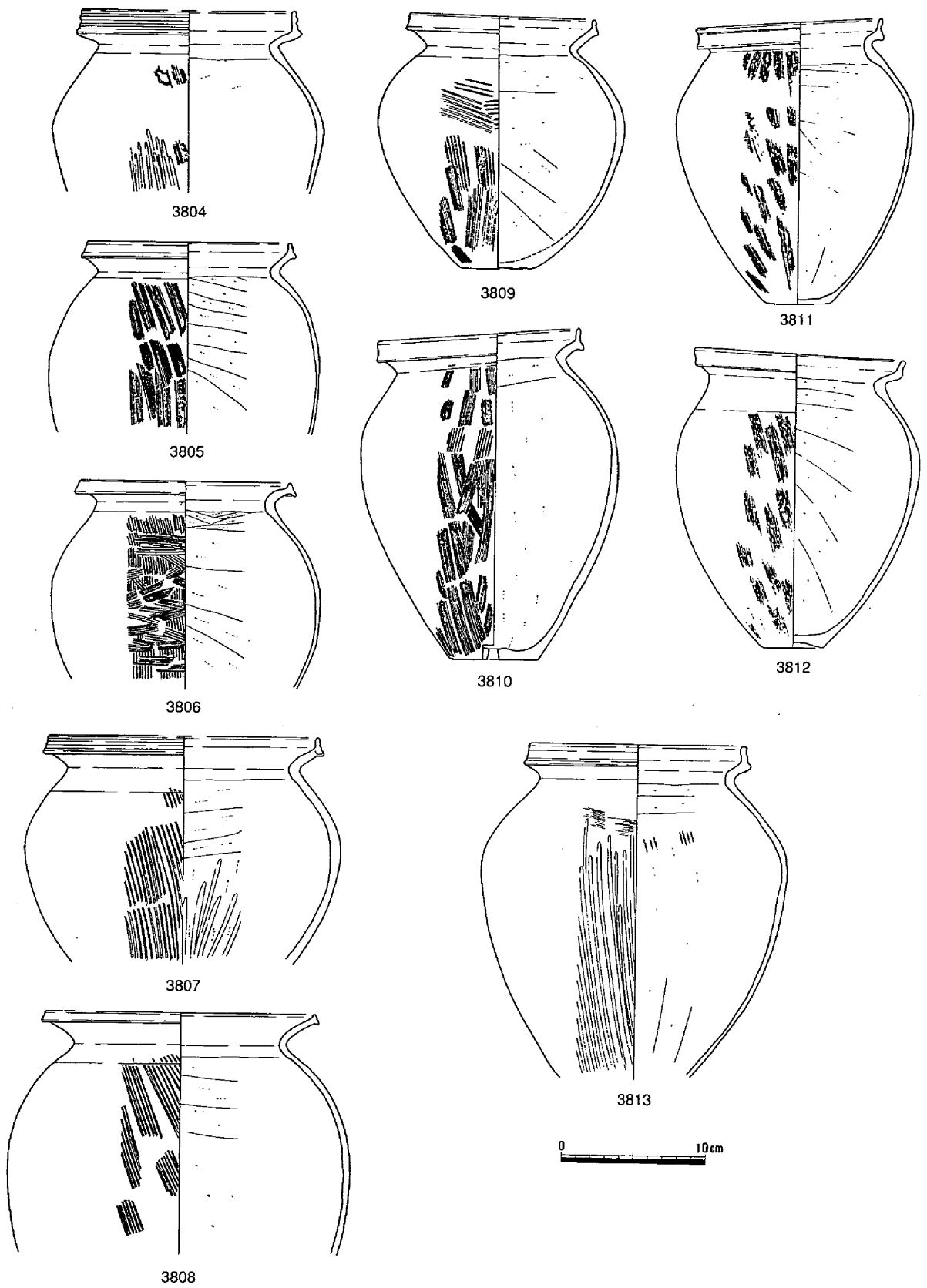
第1115図 土壌390 (1/30)・出土遺物① (1/1,1/3)



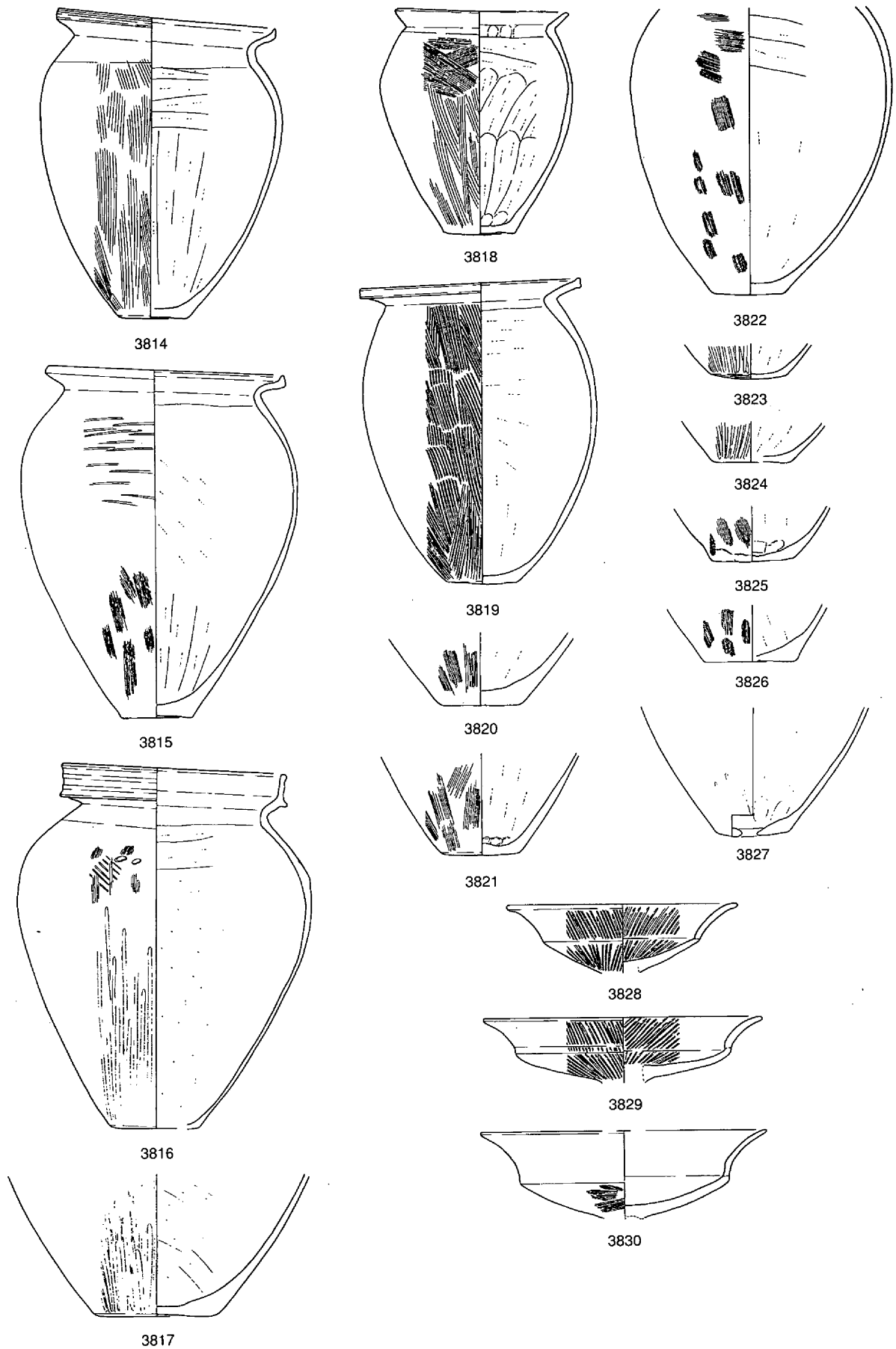
第1116図 土壙390出土遺物② (1/4)



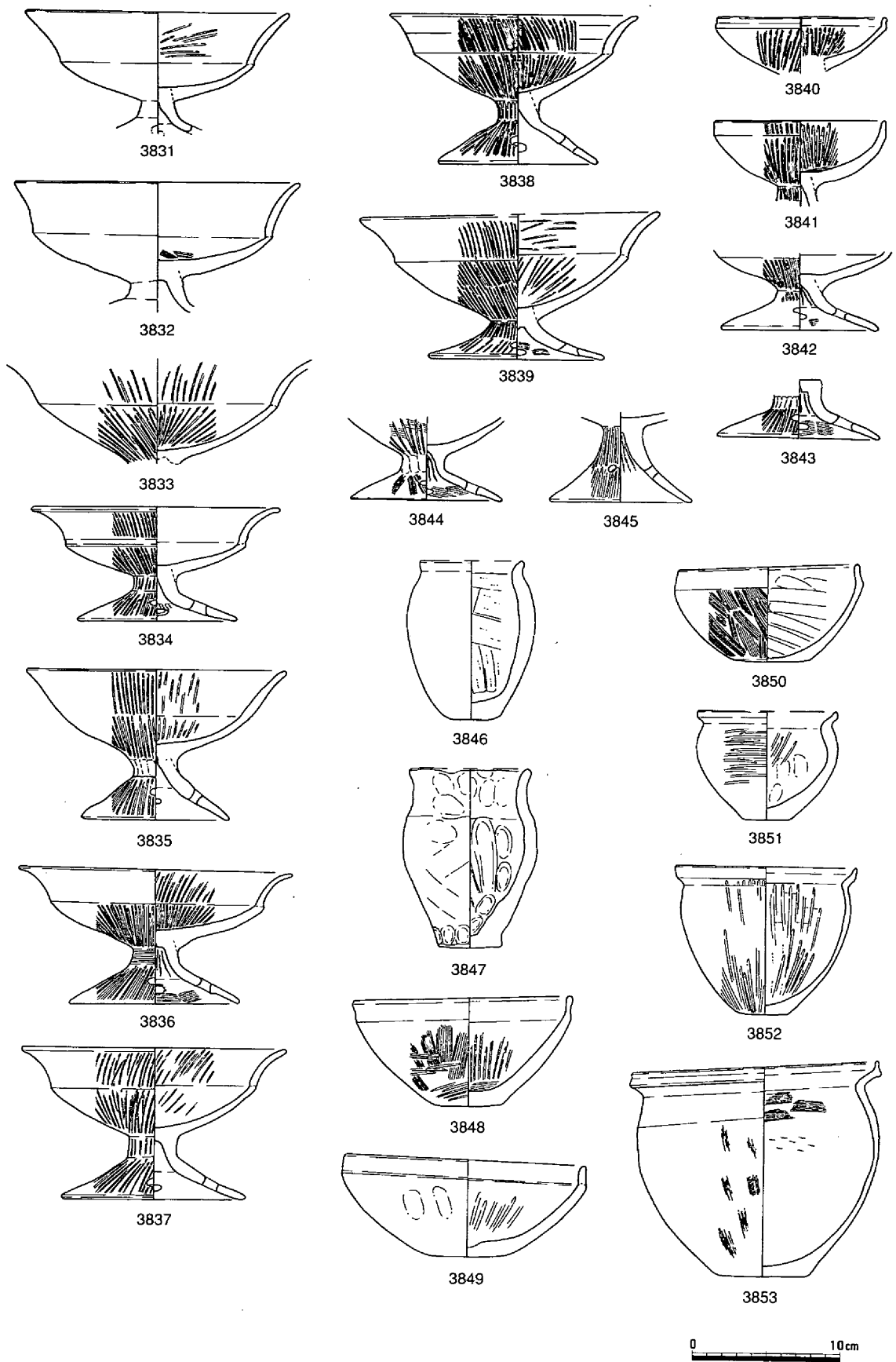
第1117図 土坑390出土遺物③ (1/4)



第1118図 土壙390出土遺物④ (1/4)

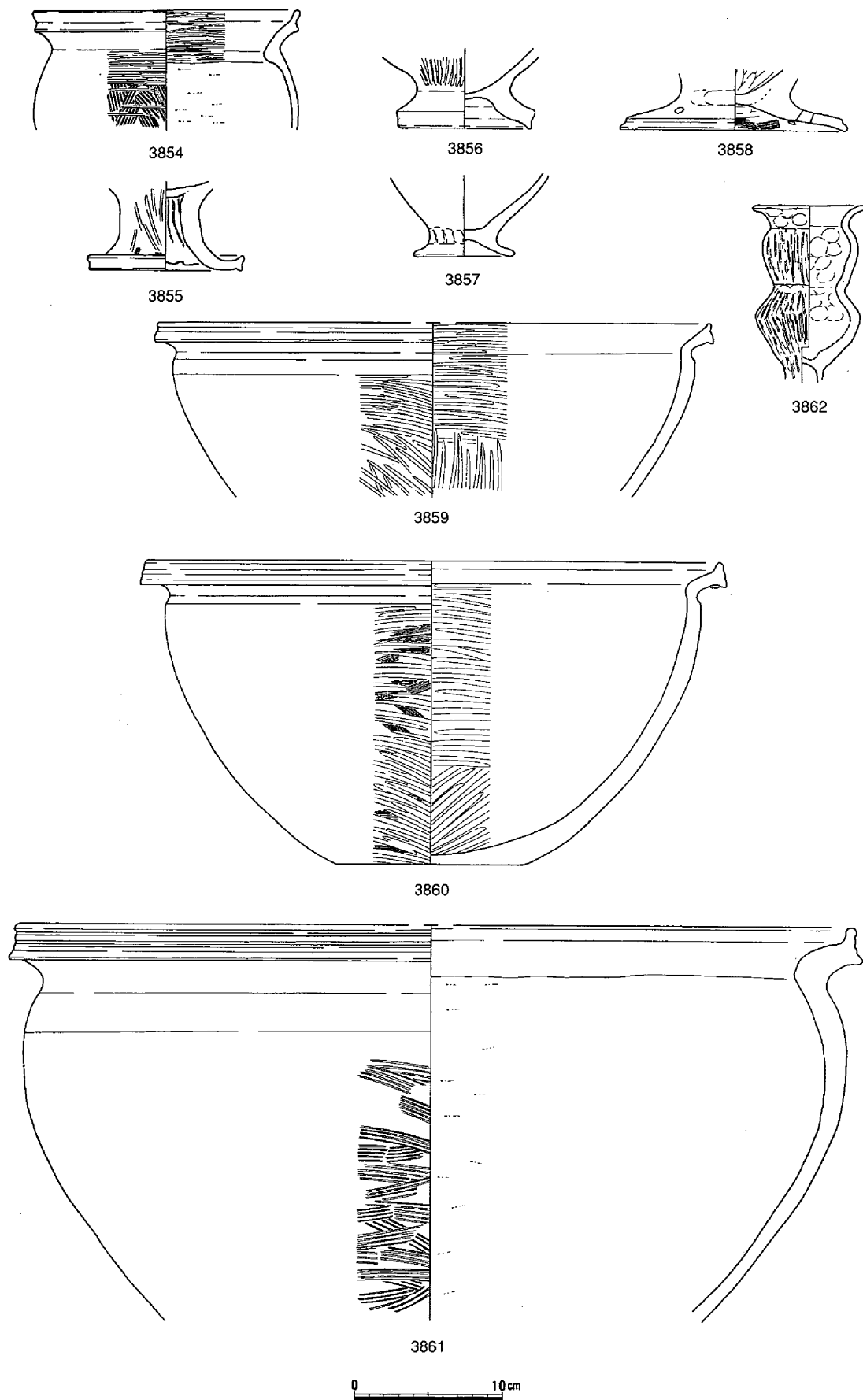


第1119図 土壙390出土遺物⑤ (1/4)



第1120図 土壙390出土遺物⑥ (1/4)

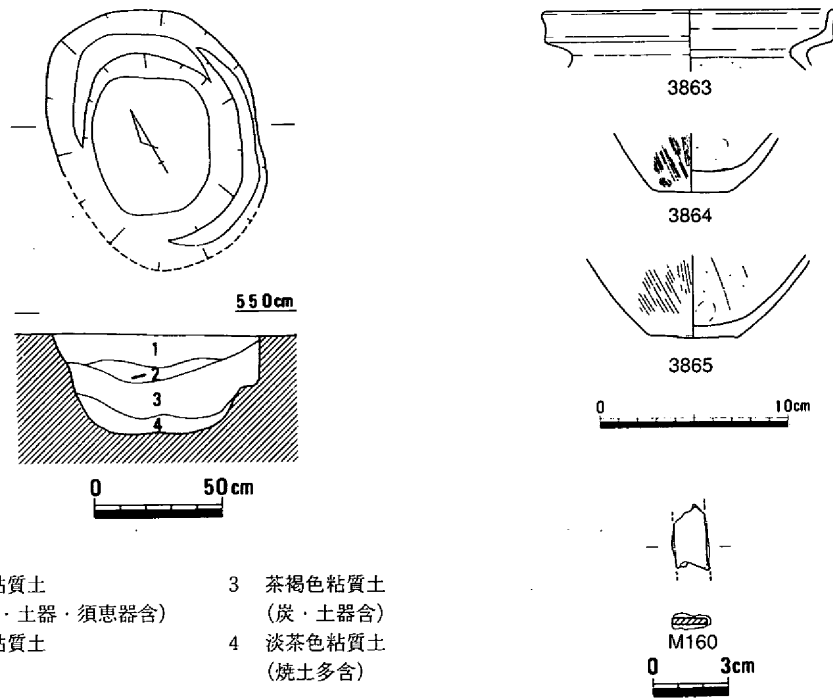




第1121図 土壌390出土遺物⑦ (1/4)

土壙391 (第554・1122図、図版169)

土壙390の南5mに位置し、方形土壙152に一部切られて検出された。平面楕円形を呈し、規模は80×86cm、深さ32cmを残す。底部はほぼ平坦であるが、北～東にかけて狭い段がつく。壁は外傾して立ち上がる。埋土は4層からなり、わずかながら壺、甕の破片とともに板状の鉄器M160が出土している。土器は弥・後・Ⅲの範疇のものと思われる。(江見)

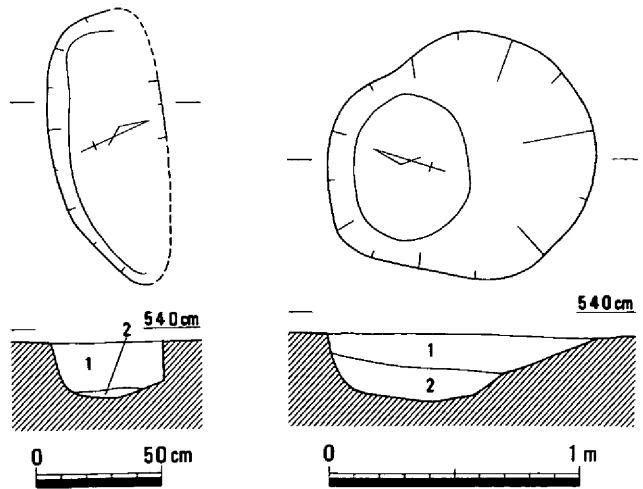


- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 暗茶褐色粘質土<br>(炭・焼土・土器・須恵器含) | 3 茶褐色粘質土<br>(炭・土器含) |
| 2 暗灰茶色粘質土<br>(炭多含)          | 4 淡茶色粘質土<br>(焼土多含)  |

第1122図 土壙391 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

土壙392 (第554・1123図)

方形土壙157に切られた状態で検出された。規模は46×110cmの楕円形を呈し、深さは22cmを測る。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)



- |            |
|------------|
| 1 暗茶褐色粘質微砂 |
| 2 黄橙色微砂    |

- |            |
|------------|
| 1 暗茶褐色粘質土  |
| 2 暗茶灰褐色粘質土 |

第1123図 土壙392 (1/30) 第1124図 土壙393 (1/30)

土壙393 (第554・1124図)

方形土壙158の北隣で検出された遺構である。規模は95×110cmの不整形円形を呈し、深さは27cmを測る。床面はほぼ平坦で、埋土は2層に区分された。図示できる遺物の出土はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅰ頃と思われる。(松本)

土壙394 (第554・1125図)

方形土壙159・袋状土壙119を切る状態で検出された遺構である。規模は83×85cmの円形を呈し、深

さは40cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。埋土は3層に区分されるが、1層には炭を少量含んでいた。堆積は水平である。図示できる遺物としては甕3866・3867などの土器がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

**土壙395** (第554・1126～1128図、図版131・132)

方形土壙161の東隣で検出された遺構である。規模は113×114cmの円形を呈し、深さは66cmを測る。床面は平坦であり、断面は箱形を呈している。埋土は5層に区分された。堆積は最下層の5層が水平であるが、1～4層はレンズ状の堆積となっている。また、2～4層内には炭、土器を含んでいるが、とりわけ、4層内には多量の土器が包含されていた。

出土遺物としては壺3868、甕3869～3891、高杯3892、鉢3893～3898、台付鉢3899、台付直口壺3900などの土器がある。遺物は破損されたものが少ないようであり、ほぼ完形のものの方が比較的に多く出土している。器種は甕が多く出土している。形態は口縁部が「く」の字状となるが、さらに上方に拡張し、端部もわずかに拡張させるもの3869・3870と「く」の字状だけの2種類に大別される。3872の口縁部内面にはヘラガキ沈線による鋸歯文様がみられた。鉢は口縁部の形態からみて4種類に大別される。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

**土壙396** (第554・1129図)

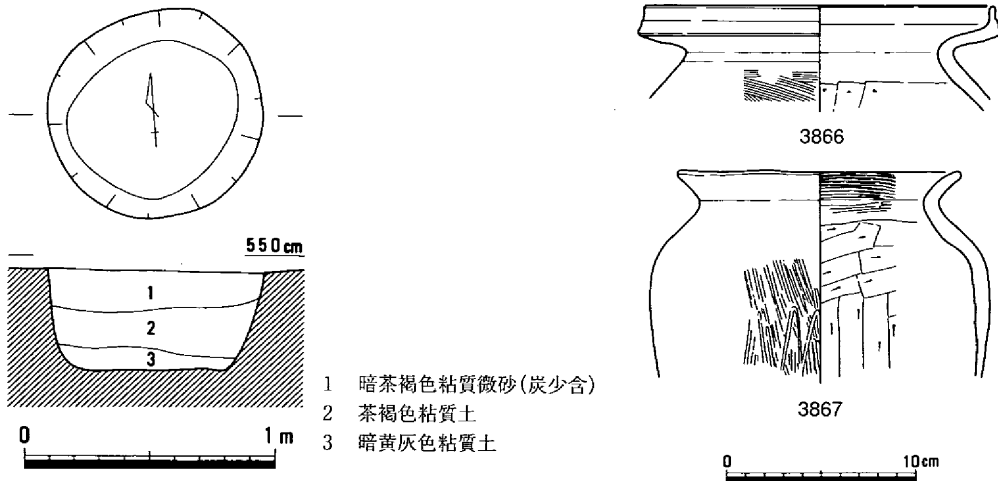
土壙398の東約1mの位置で検出された遺構である。規模は75×85cmの円形を呈し、深さは27cmを測る。床面は西が深くなっているが、断面はU字形となる。埋土は2層に区分されるが、上層には炭を含んでいた。遺物は両層から出土したが、図示できる遺物としては甕3901がある。この甕の口縁端部は下に拡張する。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・Ⅰと思われる。(松本)

**土壙397** (第554・1130図)

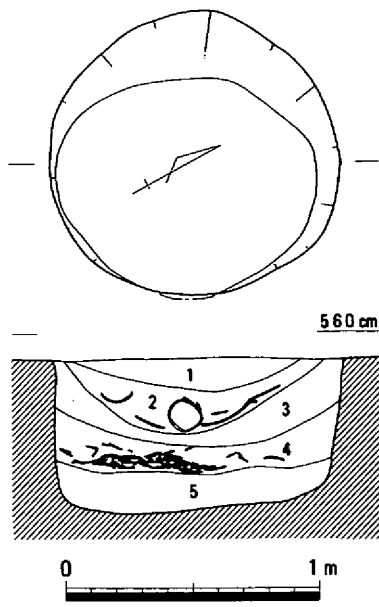
土壙398の南東に位置する遺構である。規模は59×97cmの隅丸方形を呈し、深さは24cmを測る。床面は平坦であり、断面はU字形を呈している。埋土は2層に区分され、堆積はレンズ状となる。図示できる遺物はないが、廃棄された時期は弥・後・Ⅳと思われる。(松本)

**土壙398** (第554・1131図、図版132)

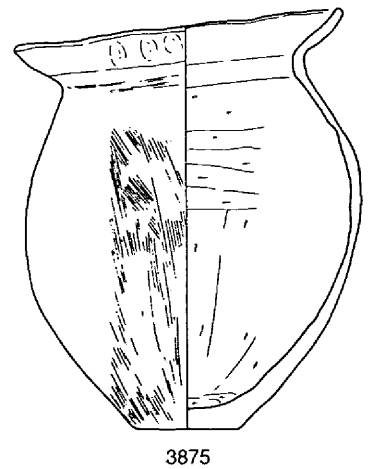
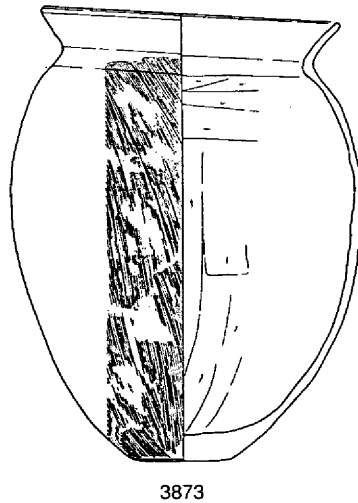
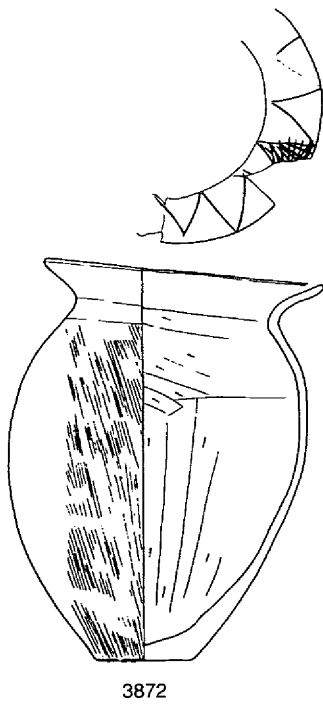
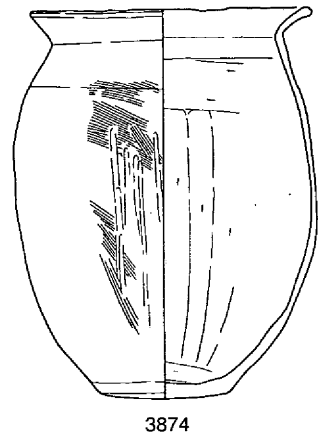
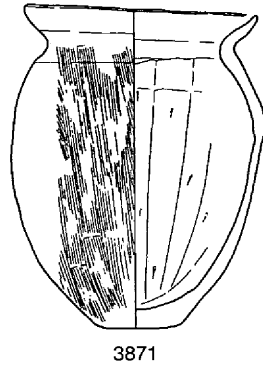
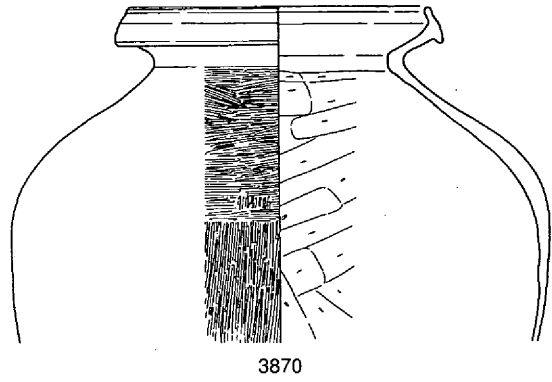
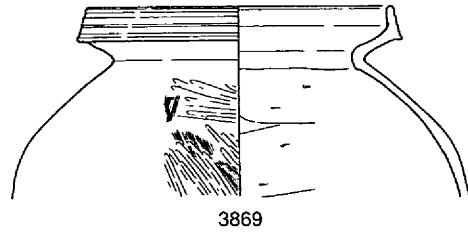
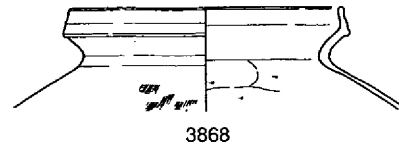
方形土壙158の南で検出された遺構である。規模は102×155cmの方形を呈し、深さは26cmを測る。北側の掘り方は急な傾斜となるが、南側では緩やかな傾斜となる。床面は北側部分がくぼむが、断面



第1125図 土壙394 (1/30)・出土遺物 (1/4)



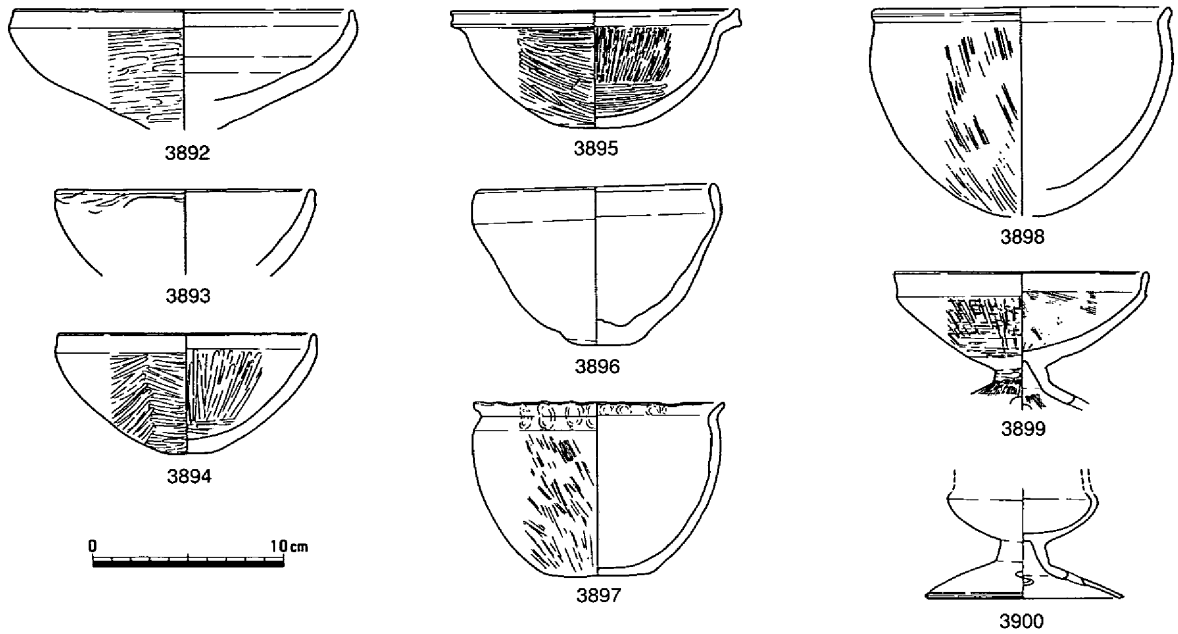
- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質土  
(炭少含)
- 3 暗茶褐色粘質土  
(炭少含)
- 4 暗茶灰褐色粘質土  
(土器多・炭含)
- 5 茶灰褐色粘質土



第1126図 土壙395 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第1127図 土壙395出土遺物② (1/4)



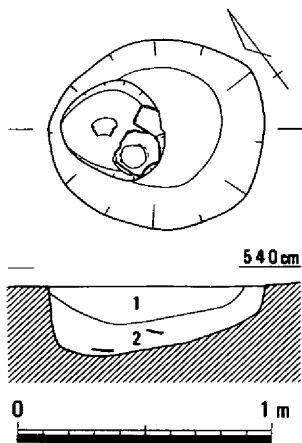
第1128図 土壙395出土遺物③ (1/4)

は皿状に近いものである。埋土は2層に区分されたが、遺物は両層から出土している。

出土遺物としては甕3902～3910・3914、高杯3911、鉢3912・3913などの土器がある。甕の形態は口縁部が「く」の字となるが、さらに上方に拡張するもの3902と拡張されないもの3903～3908・3914に大別される。なお、3903の頸部から胴部外面にかけては、ヘラガキによる波状文と意味不明の沈線文様が施されていた。鉢は大形と小形に大別される。高杯は口縁部が大きく外反するものである。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

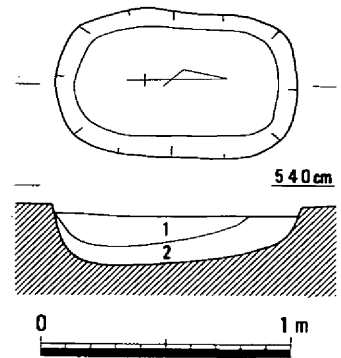
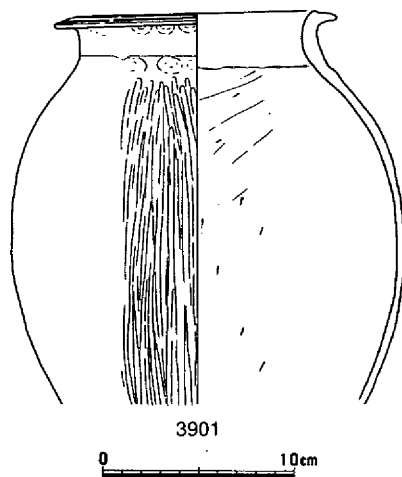
**土壙399 (第554・906図)**

方形土壙163に切られる状態で検出された遺構である。確認された規模は32×116cm、深さは26cmを測る。不整楕円形が想定される遺構である。出土遺物はないが、遺構の切り合い関係ならびに検出レベルからみて、この遺構は弥・後・IVの頃のものとして推察される。(松本)



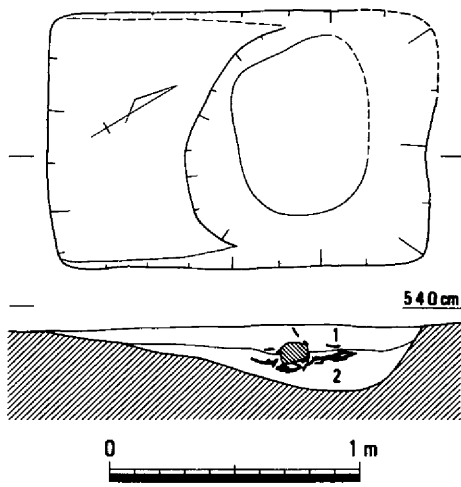
- 1 暗茶褐色粘質微砂(炭多含)
- 2 茶褐色粘質微砂

第1129図 土壙396 (1/30)・出土遺物 (1/4)

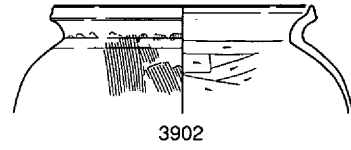


- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質微砂

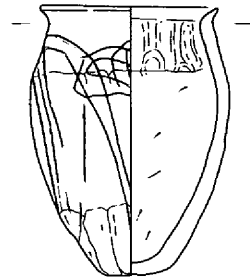
第1130図 土壙397 (1/30)



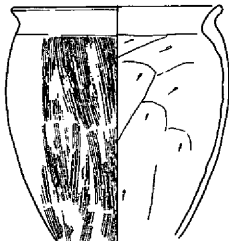
- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質微砂



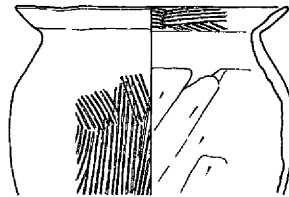
3902



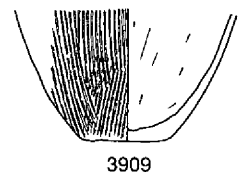
3903



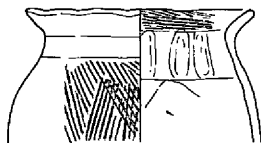
3904



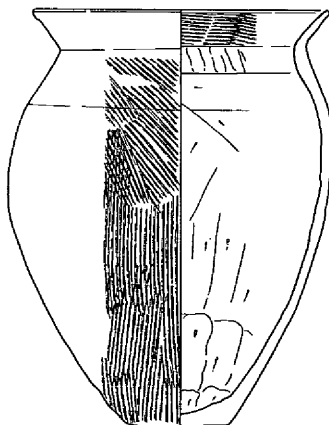
3907



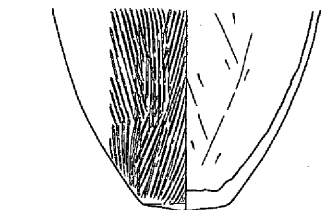
3909



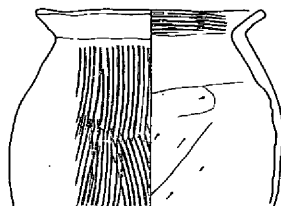
3905



3908



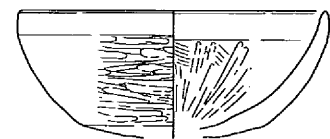
3910



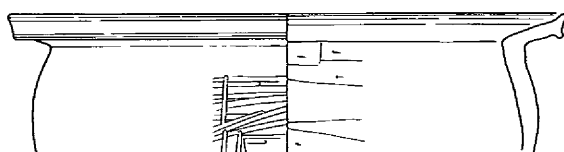
3906



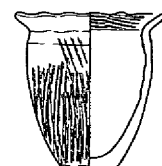
3911



3912



3913

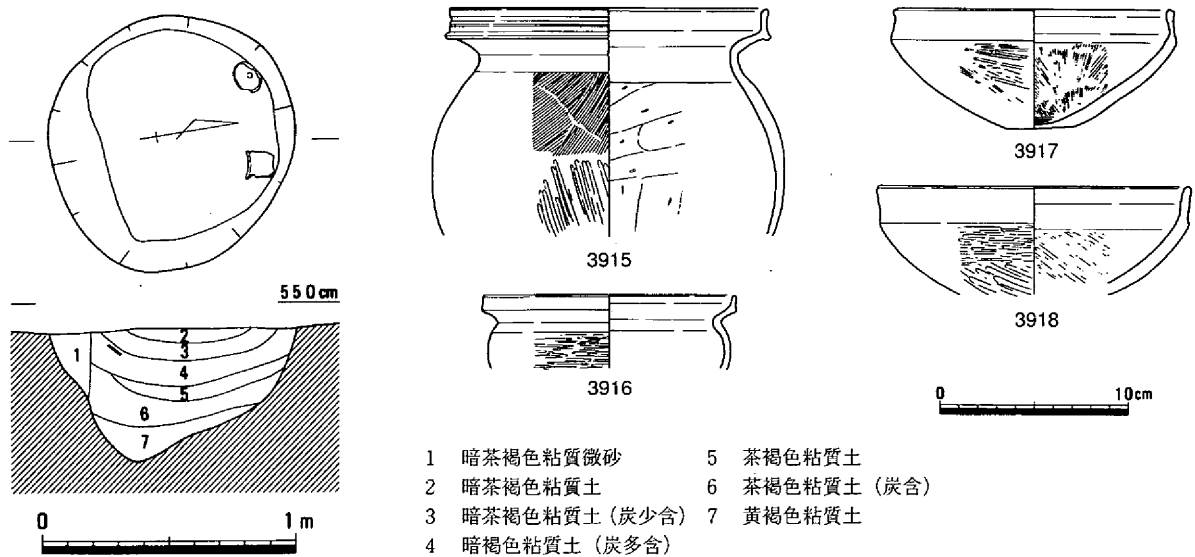


3914

第1131図 土坑398 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙400 (第554・1132図)

方形土壙163の東約1mの位置で検出された遺構である。規模は96×103cmの円形を呈し、深さは53cmを測る。断面はV字形に近いもので、床面の中央やや北寄りがかぼむものである。埋土は7層に区分されるが、3・4・6層には炭が含まれている。特に4層には炭が多量に含まれていた。堆積はレンズ状を呈する。遺物は上層から下層までみられたが、図示できる遺物としては甕3915、鉢3916～3918などの土器である。これらの遺物からみて、廃棄された時期は弥・後・IVと思われる。(松本)

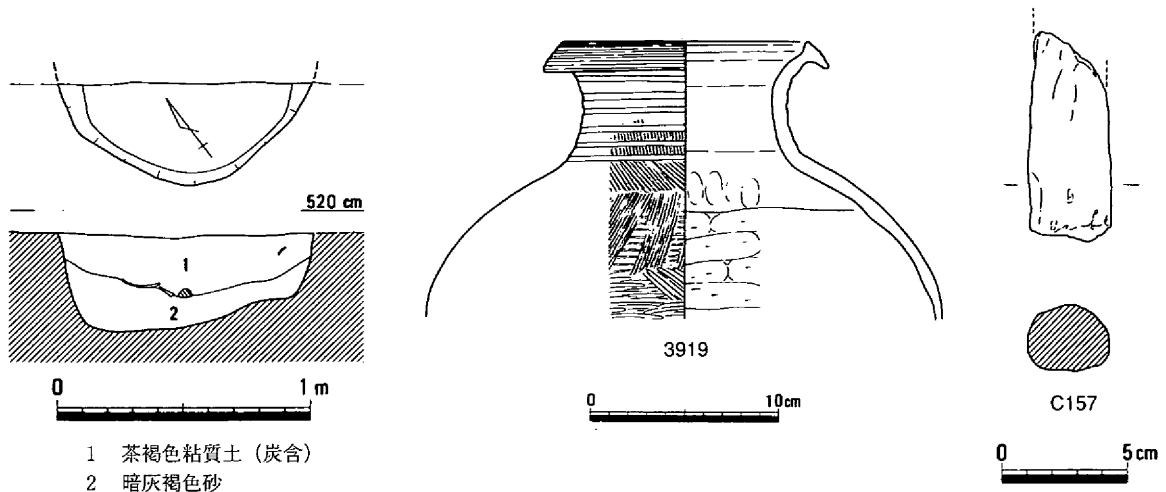


第1132図 土壙400 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙401 (第551・1133図)

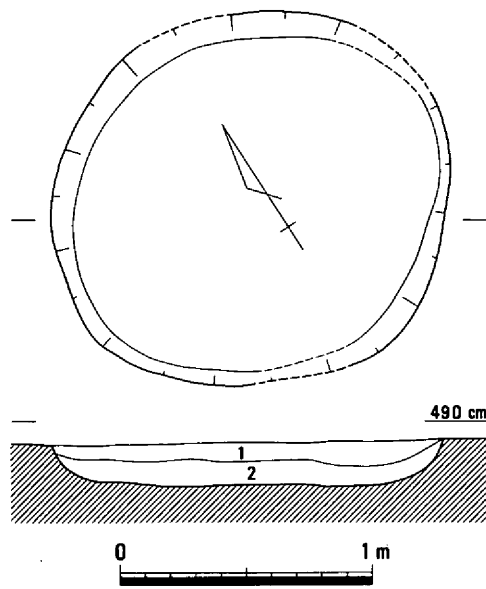
調査区の北東部に位置する。北側は調査区外に続くため形状や規模は不明であるが、底面は平坦ではなく西側に傾斜し、検出面からの深さは38cmを測る。

出土した遺物には長頸壺3919と用途不明の棒状を呈した土製品C157がある。この土壙の時期は弥・後・Iとみられる。(弘田)

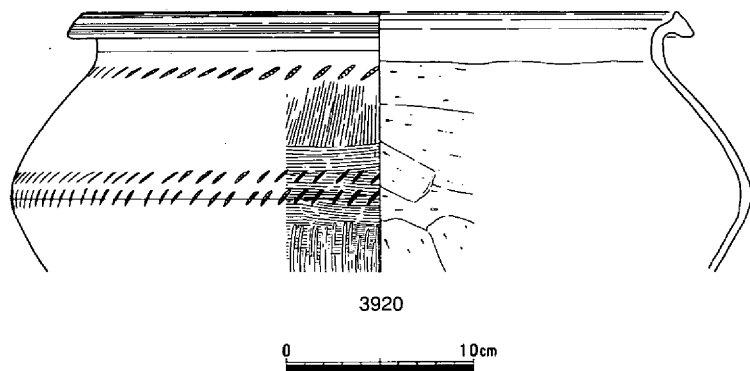


第1133図 土壙401 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)





- 1 暗黄色粘質微砂
- 2 暗黄褐灰色粘質微砂（炭・焼土粒多含）



第1134図 土壌402 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壌402** (第551・1134図)

調査区の北東部、竪穴住居119と重複するかたちで検出できた。平面形は約150×170cmの楕円形で、深さは17cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は2層に分離でき、下層には炭や焼土粒を多く含んでいた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。竪穴住居119の柱穴と重複していることや出土土器の時期などから竪穴住居よりは古い土壌と考えられる。(平井)

**土壌403** (第551・1135図)

調査区の北東部、竪穴住居119と重複するかたちで検出できた。形状からは2つの土壌が切り合っているように考えられる。新段階の土壌は約110×130cmの楕円形で、深さは25cm残存していた。底面はほぼ平らで、埋土中には炭や焼土を少量含んでいた。

古段階の土壌は推定約100×160cmの楕円形で深さは34cm残存していた。遺物は少量の土器片が出土している。時期は弥・後・Iで、竪穴住居119よりは古い土壌である。(平井)

**土壌404** (第551・1136図)

調査区の北東部、竪穴住居120と重複するかたちで検出できた。平面形は約100×120cmの隅丸方形で、深さは15cm

残存していた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。出土土器からは竪穴住居120と同時期ではあるが、竪穴住居に伴う土壌かどうかは明確にならなかった。(平井)

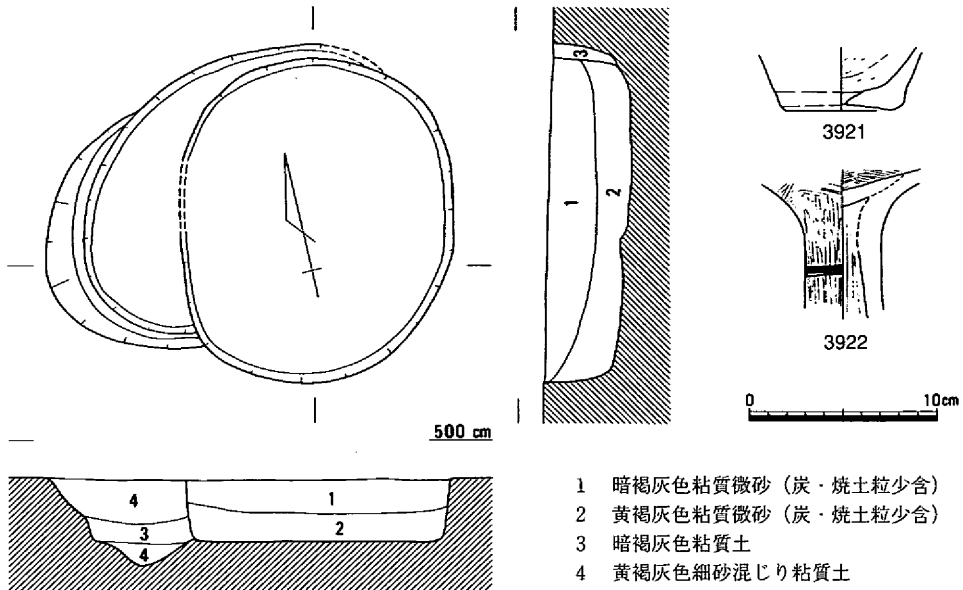
**土壌405** (第551・1137図)

調査区の北東部で竪穴住居119・120の南に位置する。平面形は不整形を、断面形は箱形を呈する。規模は、長さが89cm、幅は87cmで、深さが27cmを測る。図示しうる遺物はないものの出土した土器小片からみて、この土壌の時期は弥生時代後期の範疇にあると考えられる。(弘田)

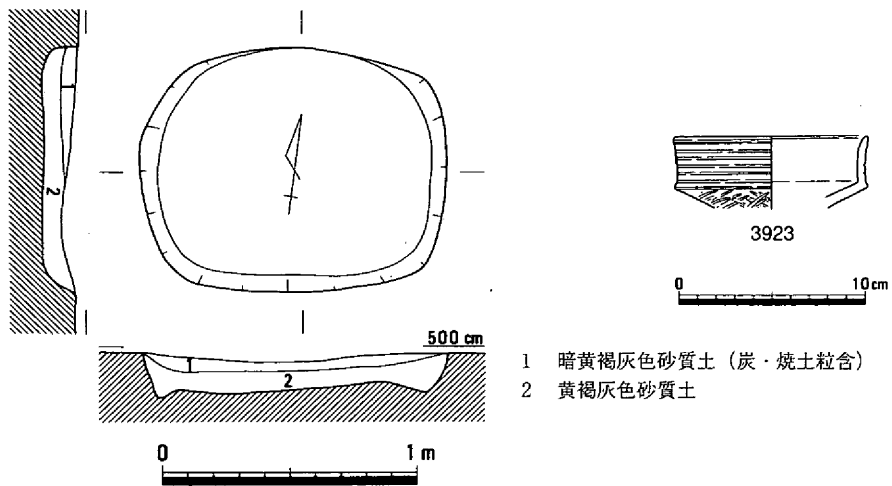
**土壌406** (第551・1138図)

調査区の北東部にあり、先の土壌405の南に位置する。平面形は歪な長方形を、断面形は東側に低く下がった箱形を呈する。規模は、長さが143cm、幅は84cmで、深さが23cmを測る。

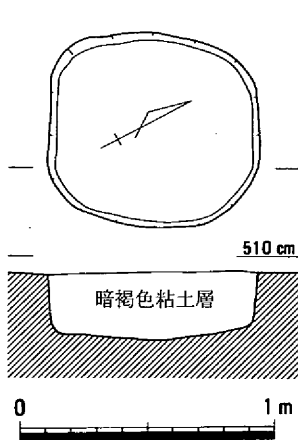
図示しうる遺物はないものの出土した土器小片からみて、この土壌の時期は弥生時代後期に属すると考えられる。(弘田)



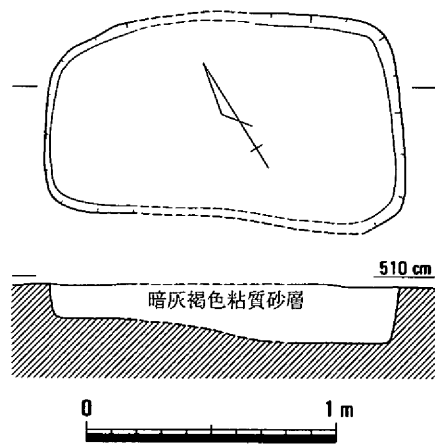
第1135図 土壙403 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1136図 土壙404 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1137図 土壙405 (1/30)



第1138図 土壙406 (1/30)

土壙407 (第551・1139図)

調査区の北東端近くにあり、土壙406を切る土壙である。平面形は長楕円形を、断面形は箱形を呈する。規模は、長さが107cmで、幅は4cm、深さが34cmを測る。

この土壙の時期は、弥生時代後期に属すると考えられる。 (弘田)

土壙408 (第551・1140図)

竪穴住居122の北に接して位置する土壙で、平面形が楕円形、断面形は碗形を呈する。規模は、長さが78cm、幅は62cmで、深さが21cmを測る。

図示しうる遺物はないものの、土器の小片からみてこの土壙の時期は後期と思われる。 (弘田)

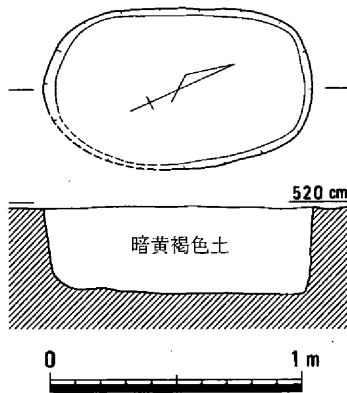
土壙409 (第551・1141図)

調査区の北東部、竪穴住居121の東約3mに位置している。南東側が側溝に切られたが平面形は長楕円形であったと考えられ、深さは24cm残存していた。断面形は逆台形で、下層には炭や焼土粒を多く含んでいた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iである。 (平井)

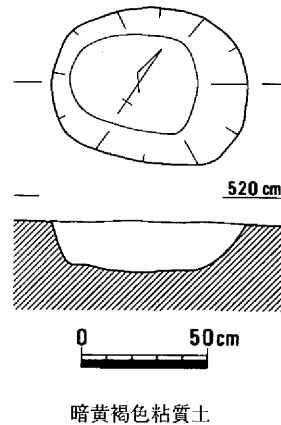
土壙410 (第551・1142図)

調査区の北東隅付近に位置する土壙で、平面形が不整楕円形、断面形は碗形を呈する。規模は、長さが85cm、幅は60cmで、深さが38cmを測る。

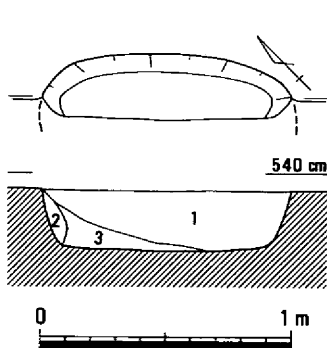
図示しうる遺物はないものの、土器の小片からみてこの土壙の時期は後期と思われる。 (弘田)



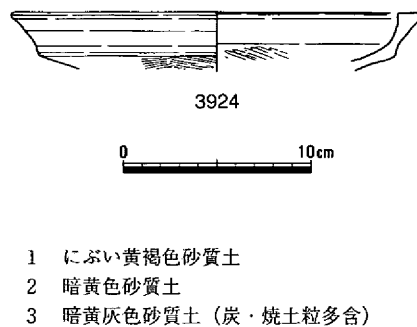
第1139図 土壙407 (1/30)



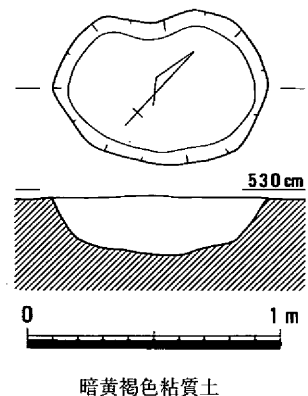
第1140図 土壙408 (1/30)



第1141図 土壙409 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 にぶい黄褐色砂質土
- 2 暗黄色砂質土
- 3 暗黄灰色砂質土 (炭・焼土粒多含)



第1142図 土壙410 (1/30)

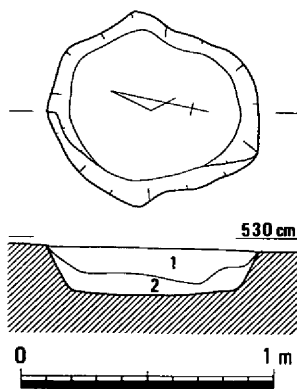
**土壌411 (第551・1143図)**

調査区の北東隅に位置する土壌で、平面形は円形で、断面形は皿状を呈する。また、規模は、長さが84cm、幅は75cmで、深さが19cmを測る。

出土した甕の口縁部片3925からみてこの土壌の時期は、弥・後・Iである。 (弘田)

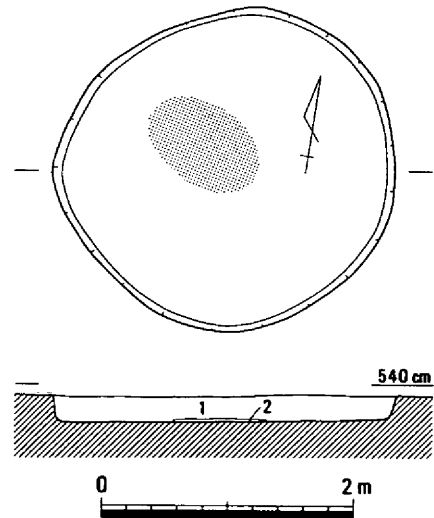
**土壌412 (第551・1144図)**

調査区の北東部、竪穴住居123の北西約3mに位置する。平面形は直径約260cmの不整円形で、深さは約20cm残存していた。壁は垂直にちかく立ち上がっており、底面はほぼ平らであった。中央部近くの底面には炭と灰が散布していた。形状から竪穴住居の可能性が考えられるが明確ではなかった。遺物が出土していないため時期は不明確ではあるが、弥・後・Ⅲ～Ⅳの土器溜り5と重複しており、この時期にちかいと考えている。 (平井)



- 1 茶褐色粘質土
- 2 暗黄褐色粘質土

第1143図 土壌411 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 淡灰褐色粘質微砂
- 2 炭+灰

第1144図 土壌412 (1/60)

**土壌413 (第551・1145図)**

調査区の北東部、竪穴住居123の北西約2mに位置する。平面形は直径約70cmの不整円形で、深さは36cm残存していた。底面は西側が一段深くなっていた。遺物がほとんど出土していないが、時期は弥生時代後期と考えている。 (平井)

**土壌414 (第551・1146図)**

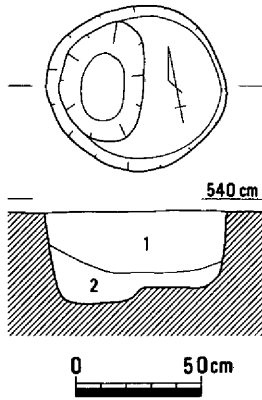
調査区の北東部、竪穴住居113の南約2mに位置する。平面形は推定約40×50cmの不整長方形で、深さは21cm残存していた。埋土は2層に分離でき、底面はほぼ平らであった。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。 (平井)

**土壌415 (第551・1147図)**

調査区の北東部、竪穴住居125の北東約1mに位置している。平面形は一辺約90cmの隅丸正方形で、深さは30cm残存していた。断面形は椀形で、埋土は2層に分離できた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。 (平井)

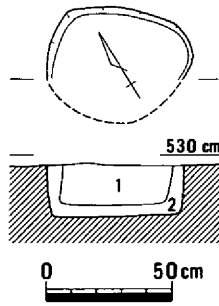
**土壌416 (第551・1148図)**

土壌415の南隣りに位置している。平面形は約80×90cmの不整楕円形で、深さは21cm残存していた。



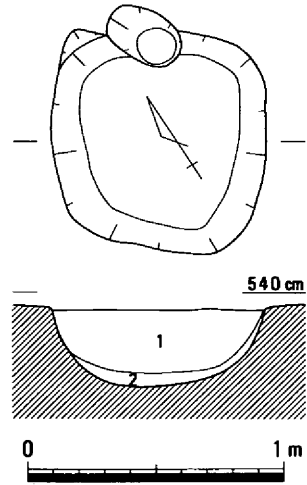
- 1 茶褐色微砂
- 2 暗茶褐色弱粘質土

第1145図 土壌413 (1/30)



- 1 淡黄灰褐色硬質土
- 2 黄茶白色微砂

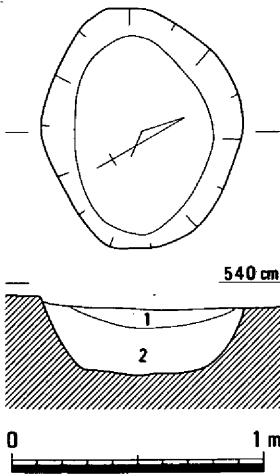
第1146図 土壌414 (1/30)



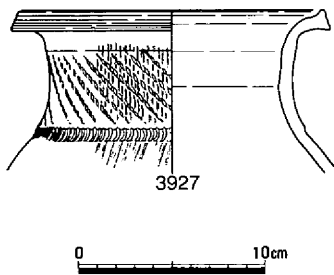
- 1 暗茶褐色砂質土
- 2 暗灰褐色砂質土

第1147図 土壌415 (1/30)

・出土遺物 (1/4)

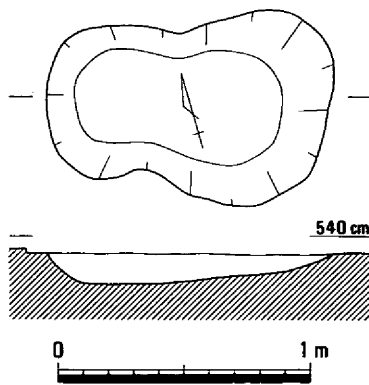


- 1 暗茶褐色土 (炭含)
- 2 暗灰褐色砂質土



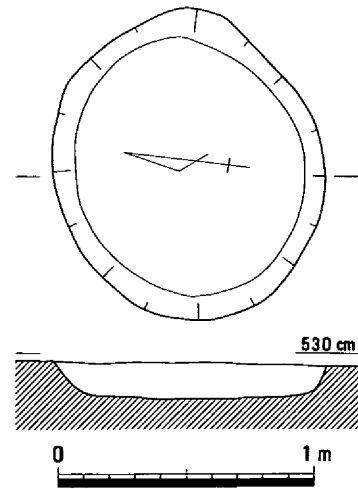
第1148図 土壌416 (1/30)

・出土遺物 (1/4)



暗茶褐色土

第1149図 土壌417 (1/30)



淡黄茶色微砂

第1150図 土壌418 (1/30)

断面形は楕形で、埋土は2層に分離できた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

土壌417 (第551・1149図)

土壌416の東2 mに位置する。平面形は約100×110cmのヒョウタン形で、深さは12cm残存していた。

断面形は皿形で、埋土は暗茶褐色土が1層のみであった。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は弥・後・Iと考えている。(平井)

**土壙418** (第551・1150図)

調査区の北東部、竪穴住居123の東隣りに位置する。平面形は約110×120cmの楕円形で、深さは14cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は淡黄茶色微砂が1層のみであった。時期は弥生時代後期としか捉えられない。(平井)

**土壙419** (第551・1151図)

土壙418の東約5mに位置する。平面形は約90×120cmの楕円形で、深さは15cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は分層できる可能性もあったが基本的には明黄灰褐色粘質土が1層のみであった。時期は弥生時代後期としかとらえられない。(平井)

**土壙420** (第551・1152図)

土壙419の南約5mに位置する。平面形は約90×100cmの楕円形で、深さは13cm残存していた。断面形は皿形で、埋土は分層できる可能性があったが基本的には明灰褐色土が1層のみであった。遺物は少量の土器片が出土したのみであった。溝38を切っていることや出土土器から時期は弥・後・Ⅲ～Ⅳと考えている。(平井)

**土壙421** (第551・1153図)

土壙420の南隣りに位置する。平面形は約60×90cmの楕円形で、深さは9cm残存していたのみである。断面形は皿形である。下層には暗灰褐色土が堆積していたが、上面に焼土、炭があり、炉跡として使用されたのかもしれない。遺物はほとんど出土しておらず、時期は弥生時代後期としか捉えられなかった。(平井)

**土壙422** (第551・1154図)

調査区の東端あたりで竪穴住居126から東へ3mほど離れた所に位置する土壙である。平面形は不整楕円形を呈し、断面形では長軸の北東方向にむかって底面が緩やかに下がった浅い椀状を呈する。規模は、長さが123cm、幅は73cmで、深さが31cmを測る。埋土は2層に分けられ、うち上層では焼土や炭が多くが認められた。

出土した甕の口縁部片**3929**は、短い「く」の字状の口縁で端部は上方に拡張し、その外面には2条の凹線がみられる。これからみてこの土壙の時期は、弥・後・Iである。(弘田)

**土壙423** (第551・1155図)

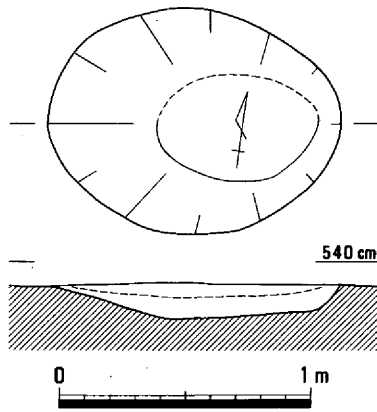
さきの土壙422のすぐ東に接して位置する土壙である。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平坦で断面形は浅い皿状である。規模は、長さが192cmで、幅は146cm、深さが17cmを測る。

出土遺物には図示できるものはないが、この土壙の時期は弥生時代後期と考えられる。(弘田)

**土壙424** (第551・1156図)

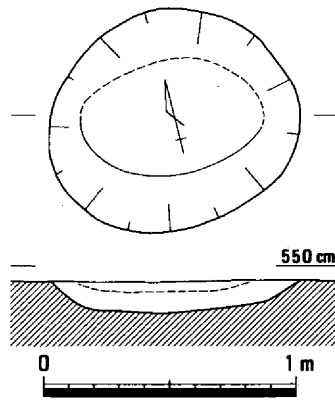
調査区の東端あたりのDa609区にあり竪穴住居126の南に接して位置する。古墳時代の河道5によって大半が削平されておりごく一部が検出できたにすぎない。そのために本来の平面形状は不明で、規模も深さ45cm以外は不明である。ただし、残存状況から判断するとかなり大形の土壙もしくは竪穴住居の可能性も考えられる。

図示しうるほどの顕著な遺物は出土していないものの、この土壙の時期は弥生後期の範疇にあると考えられる。(弘田)



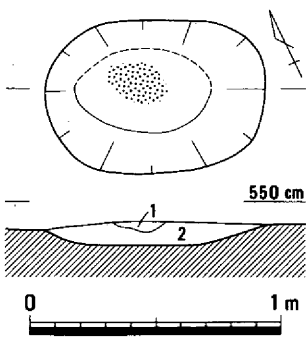
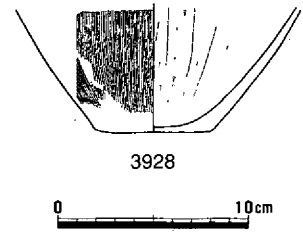
明黄灰褐色粘質土

第1151図 土壙419 (1/30)



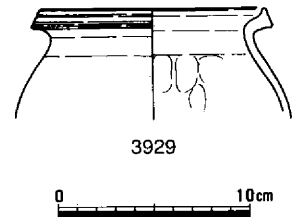
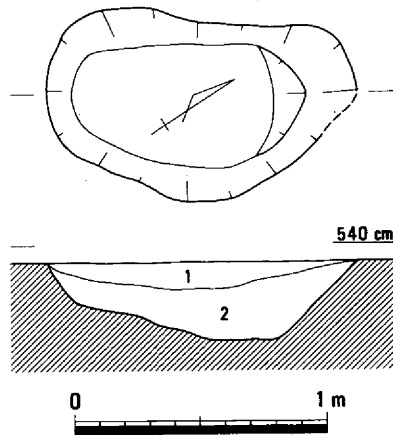
明灰褐色土

第1152図 土壙420 (1/30)・出土遺物 (1/4)



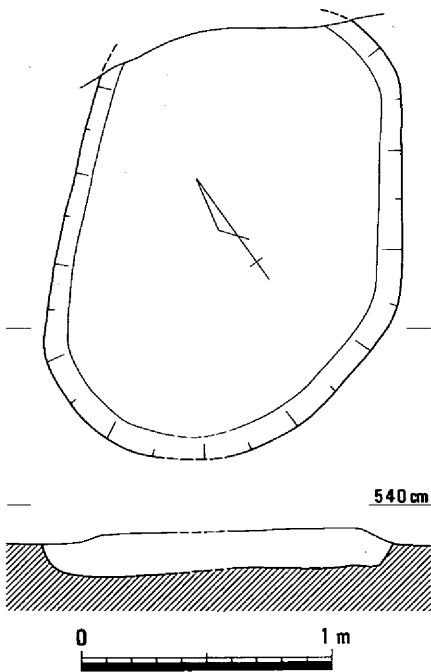
- 1 焼土・炭
- 2 暗灰褐色土

第1153図 土壙421 (1/30)



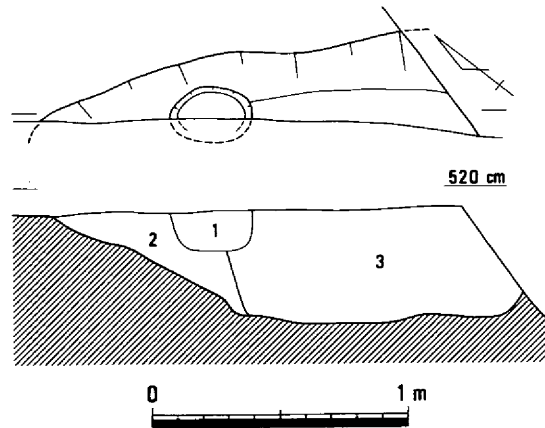
- 1 暗灰褐色粘質砂(焼土塊・炭多含)
- 2 暗黄褐色粘質砂

第1154図 土壙422 (1/30)・出土遺物 (1/4)



明茶褐色土(上面に焼土)

第1155図 土壙423 (1/30)



- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質微砂
- 3 灰褐色粘質微砂

第1156図 土壙424 (1/30)

(7) 溝

溝38 (第551・1157～1161図)

調査区の東端部において検出した溝である。幅2.5～3.5m前後で、深さは検出面から約60cm残存していた。調査区内では北東から南西方向に少し蛇行しながら掘削されている。検出できた長さは約30mであった。

北側部分の断面観察では掘り直しが行われていると理解でき、掘り直し後の断面形はV字形にちかいと判断できる (たとえばA断面)。B断面では明確ではないが同じように掘り直しを想定することができよう。また掘り直し以前の断面形状についてもV字形にちかいと推定することができる。

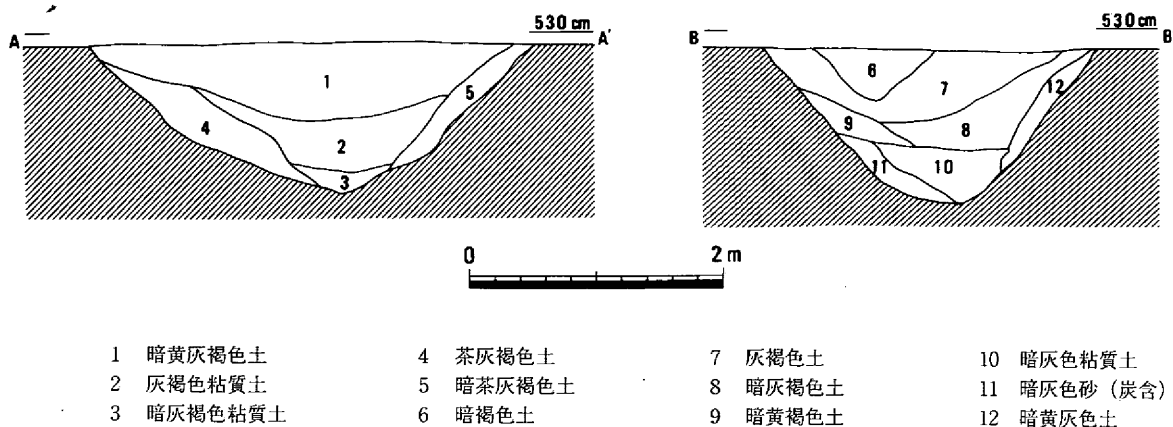
埋土は5～7層に分離できており、灰色～褐色系統の砂質土や粘質土が堆積していた。埋土からは水路として機能していたかどうかはわからなかった。「環濠」の可能性も考えられる。

底の高さは海拔4.6～4.7mで、南に向かってわずかではあるが低くなっていた。

河道5との関係については、河道5より南では溝は検出できなかった。また出土土器の比較では両者に大きな時期的隔たりは認めがたい。したがって溝38と河道5は同時期に存在、機能していたと考えることもできるが、河道5の検出状況が古い竪穴住居を壊すなど集落の形成されている微高地を挟るように流れていると考えられることから、本来溝38は南西部分にも続いていたのが河道5によって挟られた (切られた) ものと理解しておきたい。

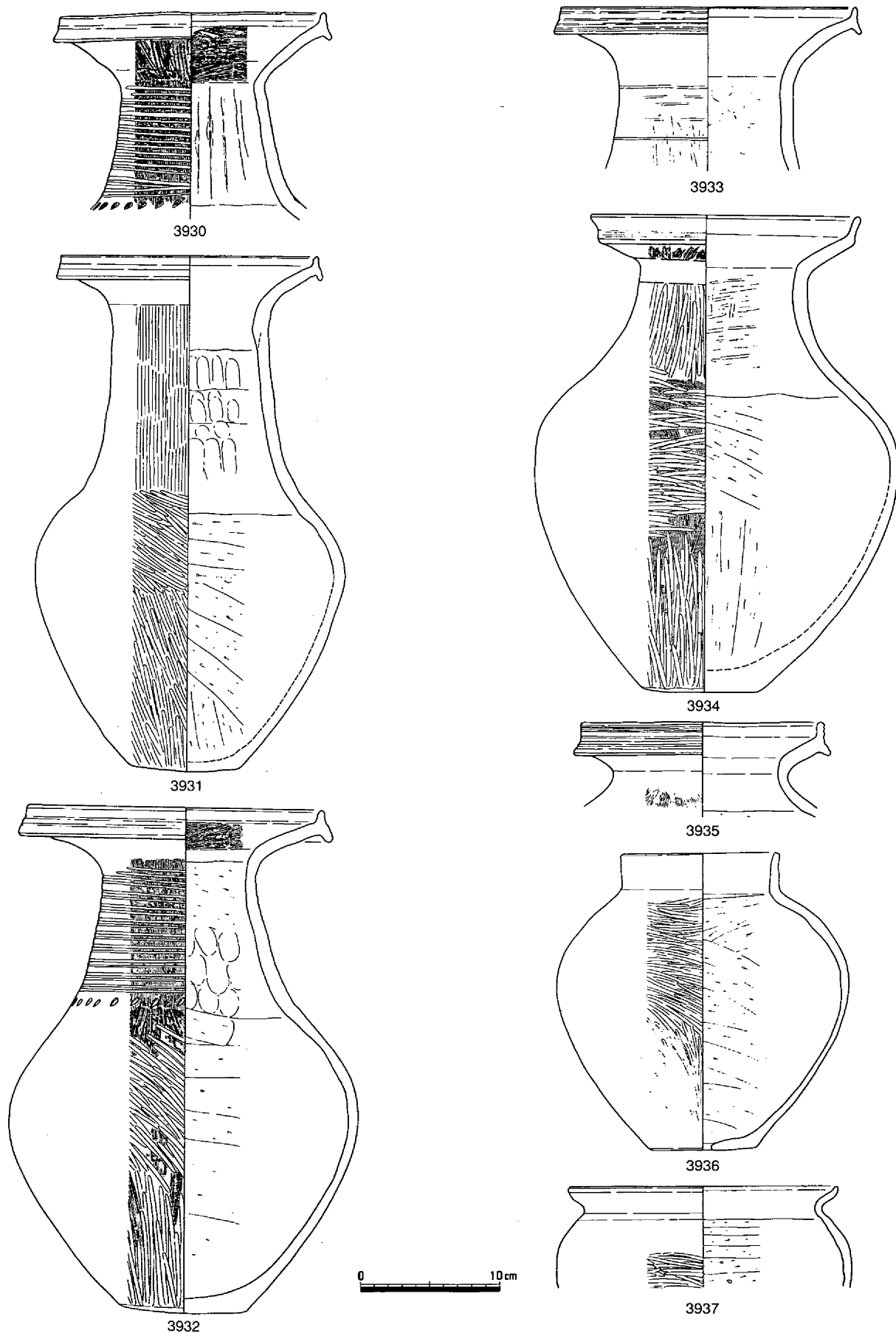
遺物は埋土中から土器がまとまって出土した。土器はA断面の3層にあたる掘り直し後の最下層からの出土が最も多かった。

3930～3934は長頸壺である。3930と3932の頸部外面には縦のハケメののちに2本単位の沈線が螺旋状に施され、肩部には刺突文が巡らされている。3933の頸部外面には沈線が施されているが磨滅のため不鮮明である。3936は直口壺と考えているが肩部には煤が付着しており、底部には穴が穿たれている。3938～3960は甕と考えている。3938・3939は口唇部の形状や内面ヘラケズリからほかの土器群より古い時期のものと考えられる。3940～3956は口唇部をわずかに上方や上下に拡張しており、内面はヘラケズリが頸部近くまで施されている。また体部外面はハケメ調整のみである点で共通しており、底部近くは薄く仕上げられ、しっかりした平底の名残りをとどめている点が特徴的である。3957・

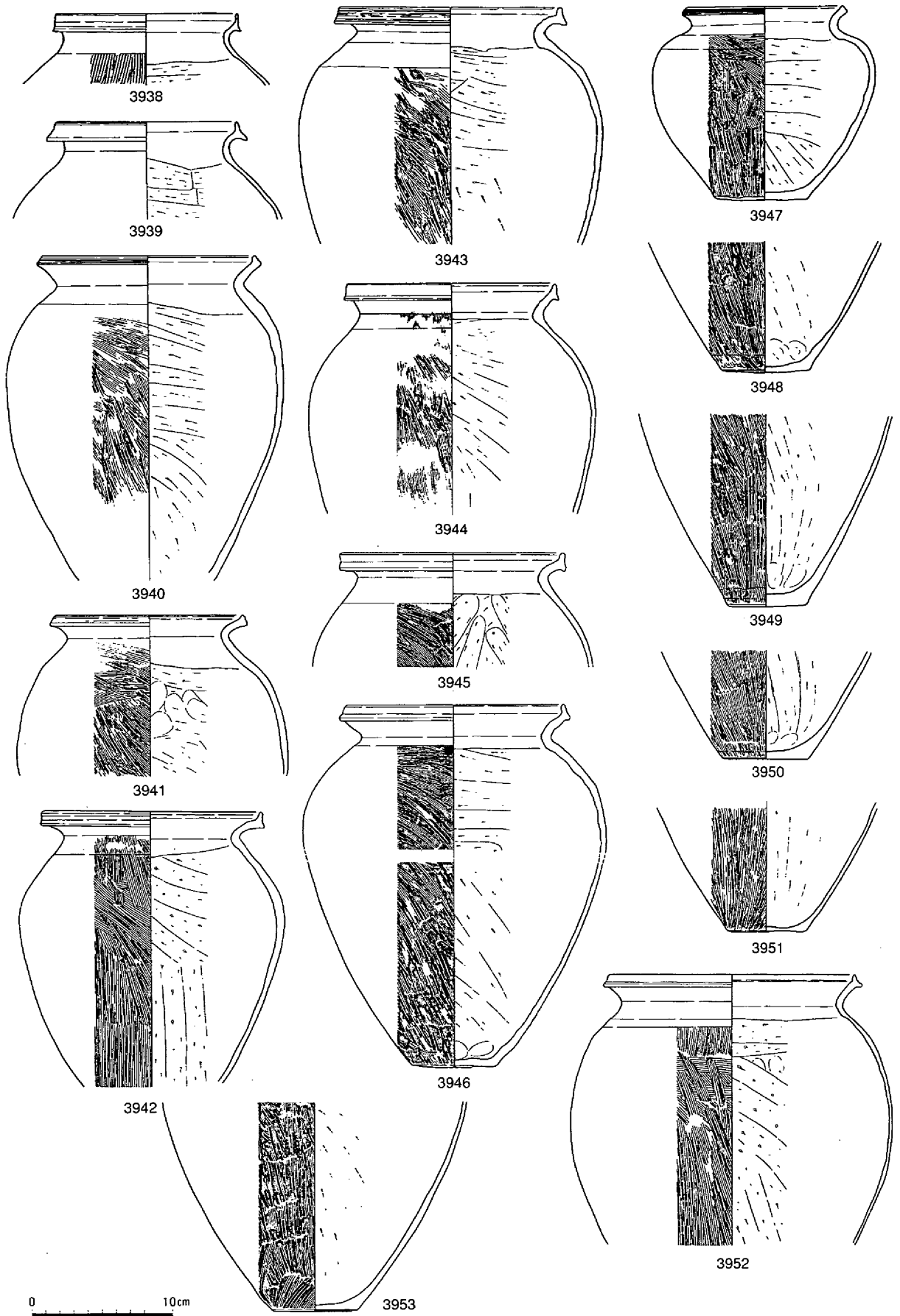


第1157図 溝38 (1/60)

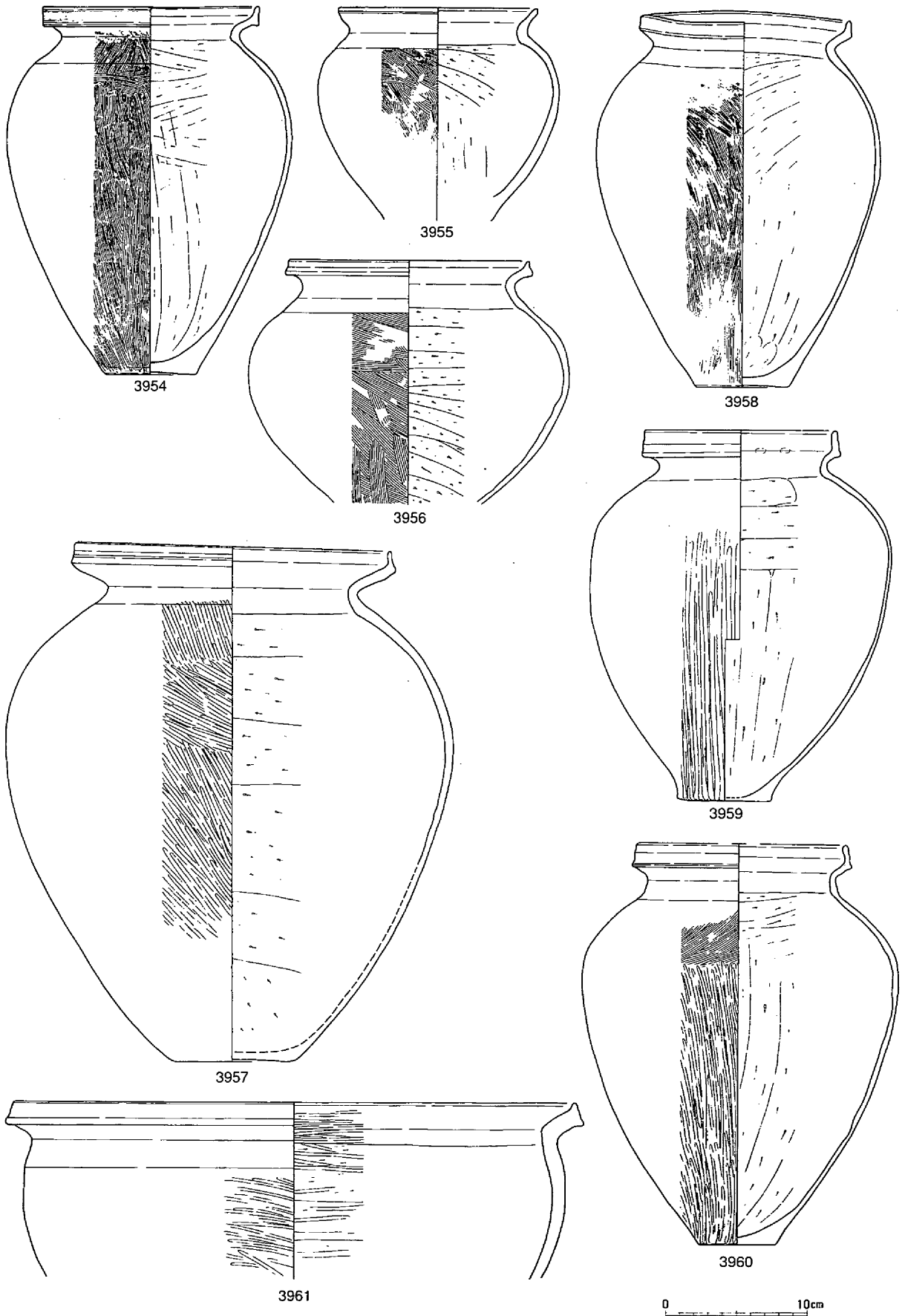




第1158図 溝38出土遺物① (1/4)

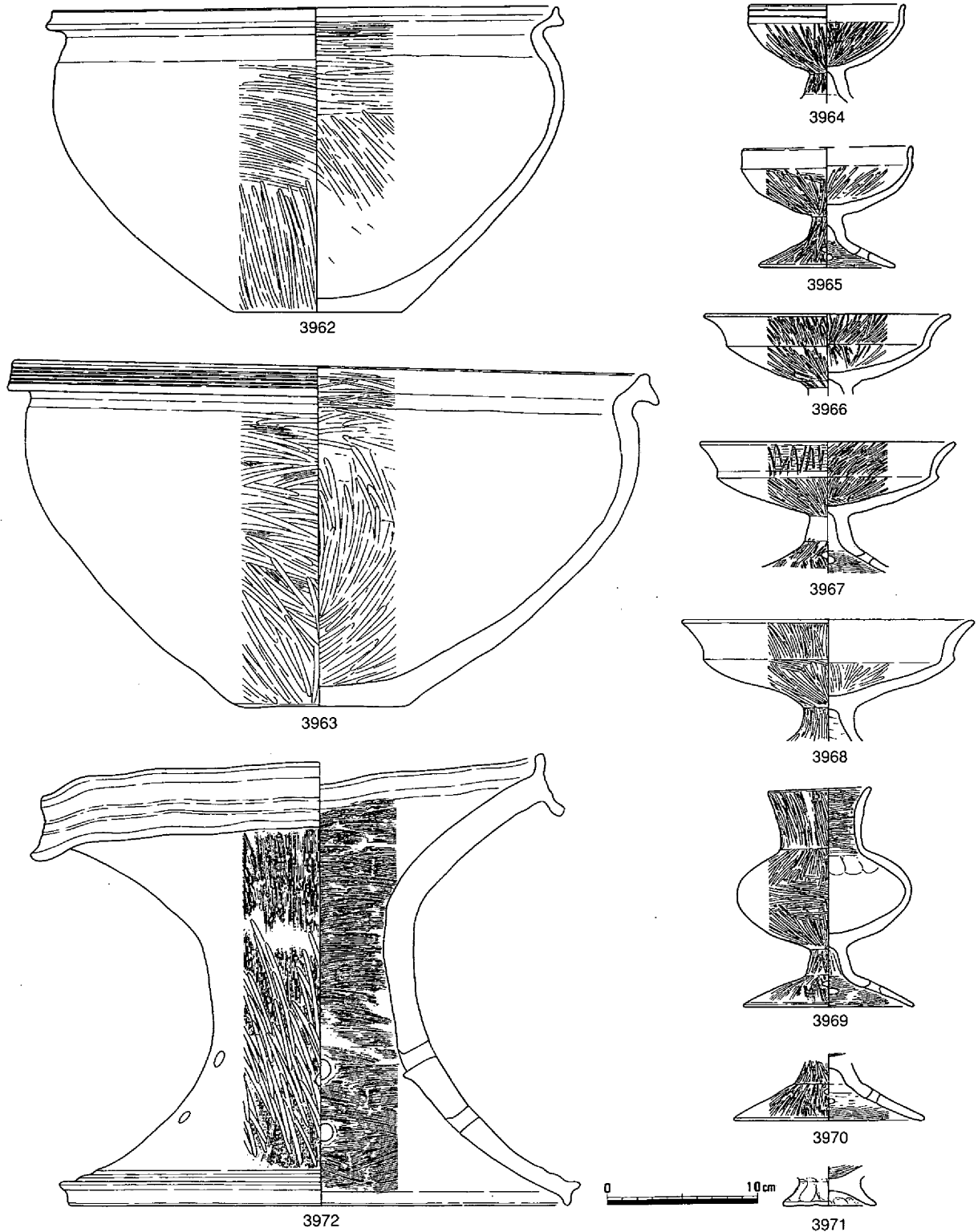


第1159図 溝38出土遺物② (1/4)



第1160図 溝38出土遺物③ (1/4)

3959・3960は体部外面がヘラミガキで仕上げられている点がほかと異なっている。3961～3963は鉢で体部内外面にはヘラミガキが施されている。3964～3968は高杯、3969は台付直口壺で、いずれも短脚である。3972は器台で、脚部には透かし穴が二段にわたって4個ずつ穿たれている。これらの土器の時期は弥・後・Ⅲと考えている。 (平井)



第1161図 溝38出土遺物④ (1/4)

## (8) 土器溜り

## 土器溜り1 (第548・1162～1172図、図版133)

Cf507区で検出した土器溜りである。弥生時代遺構配置図を作成してみると、遺構のほとんどない部分が存在している。地形は低いわけでもない。ただ弥生時代には広場となっていたものらしい。ここに土器を大量に山のように廃棄していたのである。その範囲は、破線で表わしているように、三角形を呈している。一辺約6mである。

出土した土器を復元してみると実測できるものが131点あった。器種は、長頸壺、壺、直口壺、台付壺、甕、高杯、鉢、台付鉢、器台、製塩土器などがある。3973～3990は長頸壺である。3973は、口縁端面に4条の沈線と刻み目、長頸部の15条の沈線とハケメ、体部外面のハケメ後ヘラミガキ、体部内面のヘラケズリが見られる。3974は長頸部の16条の沈線の下に刺突文がある。3975は口縁部に波状文を付け、沈線下に刺突文を施す。3978は、口縁部に鋸歯文、長頸部中央に横「ハ」の字形の刺突文を付けている。3979は口径22.8cm、底径9.0cm、器高43.8cmと全形を測ることができる。3981の刺突文は竹管による。3982は刻み目、鋸歯文、竹管文、沈線文などの装飾が施されている。3990は竹管文が肩にも付けられている。3991は直口壺で口径は9.6cmである。3993は小形の壺で、口径7.5cm、底径5.2cm、器高9.6cmである。3995はほとんど完形品である。3996は台付直口壺で、器表面を丁寧にヘラミガキしている。脚にある透かし孔は丸く、4個穿たれている。口径6.2cm、底径13.0cm、器高13.8cmである。3997は台付壺であるが、台が欠損している。3998は小形台付鉢と考えられる。3999～4001は鉢であろう。3999の口径は10.4cmである。4000の口径は10.2cmである。4001の口径は12.2cmである。この鉢には煤が付着している。4002の壺は鋸歯文をもつ。4006の壺は、口径18.2cm、底径10.0cm、器高25.2cmである。4007の壺には煤が付着している。4008～4010は壺でも甕でもどちらでもよい器形である。4012～4036は甕であろう。4020の甕は、口径16.4cm、底径8.5cm、器高22.4cmである。4031～4036の甕は、単純な外反する口縁部をもつ。4036の小形の甕はほぼ完形で、口径8.4cm、底径4.2cm、器高11.3cmである。4037～4065は高杯である。4048はほぼ完形で、口径18.5cm、底径12.0cm、器高12.3cmである。4066～4070は大形の鉢である。4066は、口径44.3cm、底径12.0cm、器高20.7cmである。4071～4077は小形の鉢である。4080～4082は台付鉢で、4098～4103は製塩土器のラッパ底である。

この遺構の時期は、土器から見て、弥・後・Ⅱ～Ⅲであろう。(浅倉)

## 土器溜り2 (第548・1172図)

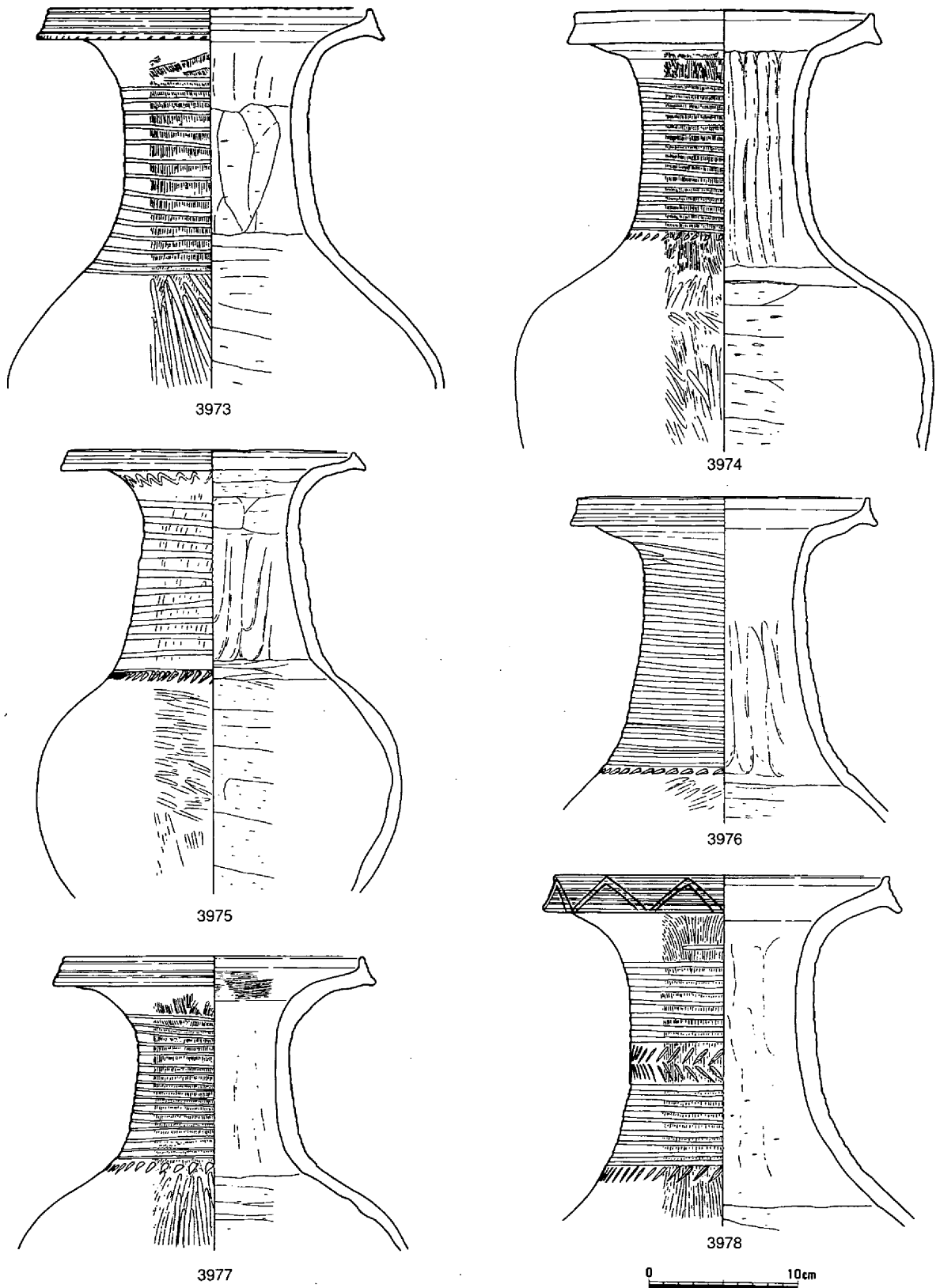
竪穴住居52の北側と東側で検出した土器溜りである。長さ350cm、幅100cmの範囲であった。弥生土器は、16点が実測できた。壺、甕、高杯、鉢がある。

この遺構の時期は、弥・後・Ⅰ～Ⅱであろう。(浅倉)

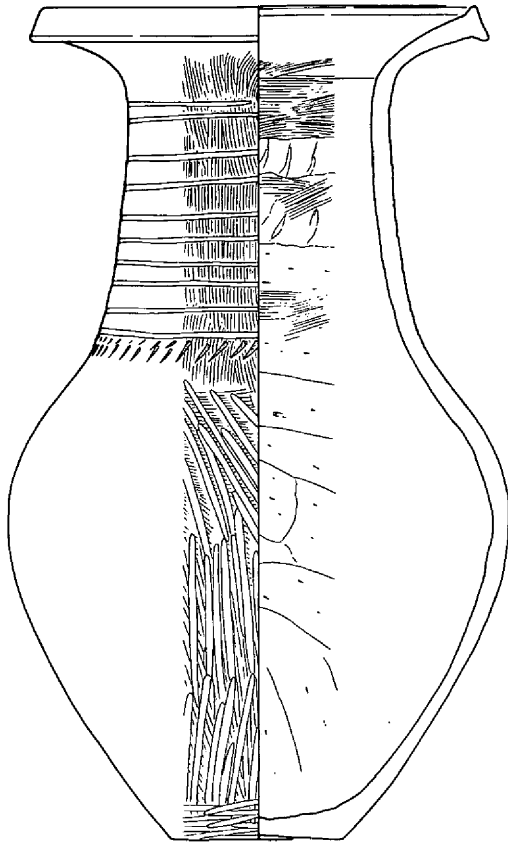
## 土器溜り3 (第548・1173図)

竪穴住居63と66の北側で検出した土器溜りである。長さ550cm、幅100cmの範囲であった。弥生土器は、10点が実測できた。壺、甕、高杯、鉢がある。4126の鉢は、丁寧にヘラミガキされた赤い土器である。4127の鉢は、完形品で、古代の高台付き椀のような土器である。4128の鉢は、中形品であり、やや深い器形である。

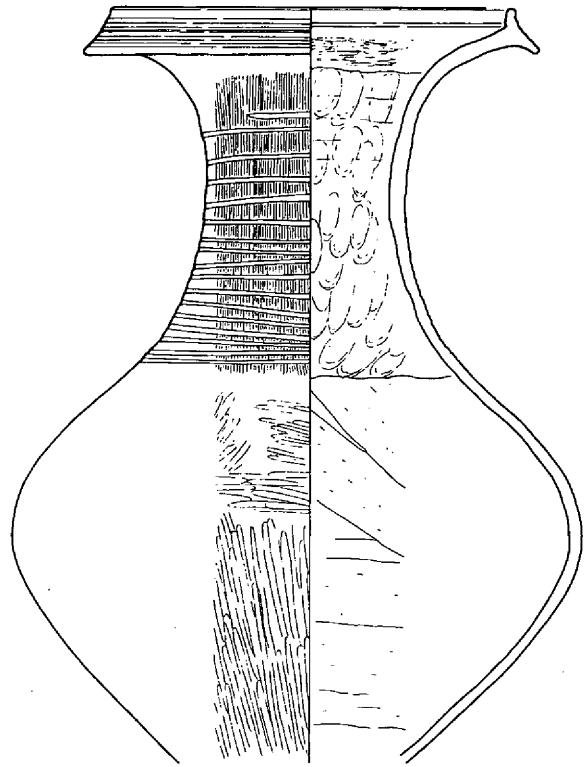
この遺構の時期は、弥・後・Ⅲであろう。(浅倉)



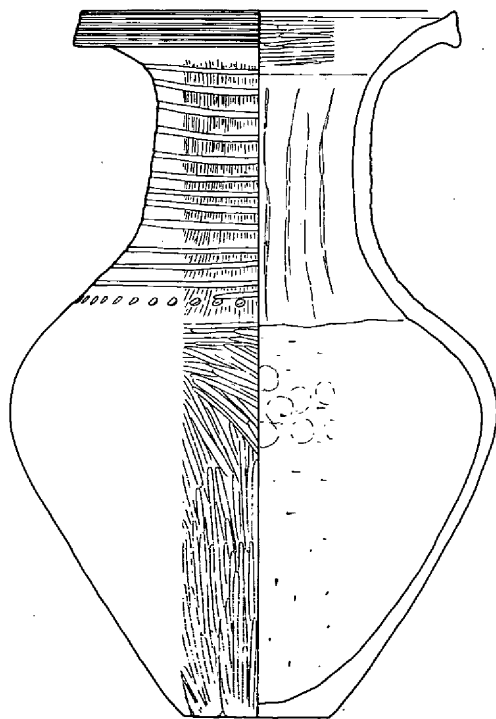
第1162図 土器溜り1出土遺物① (1/4)



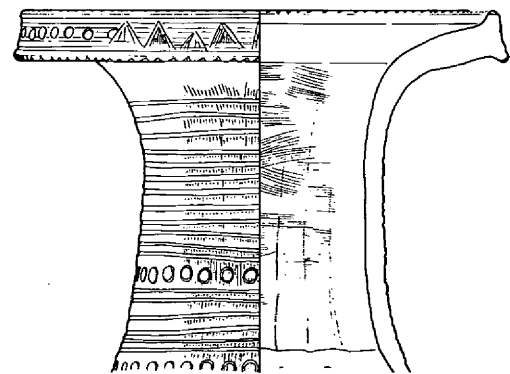
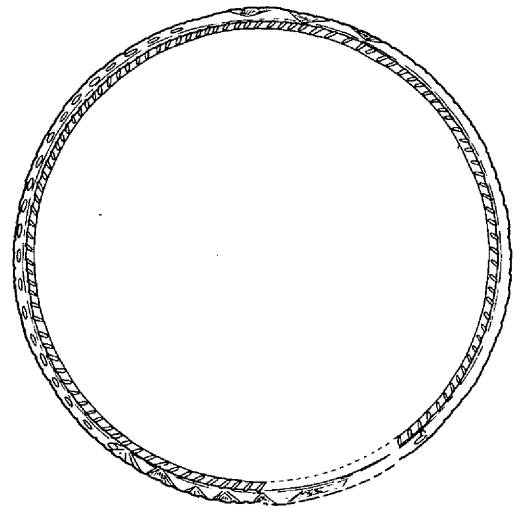
3979



3980

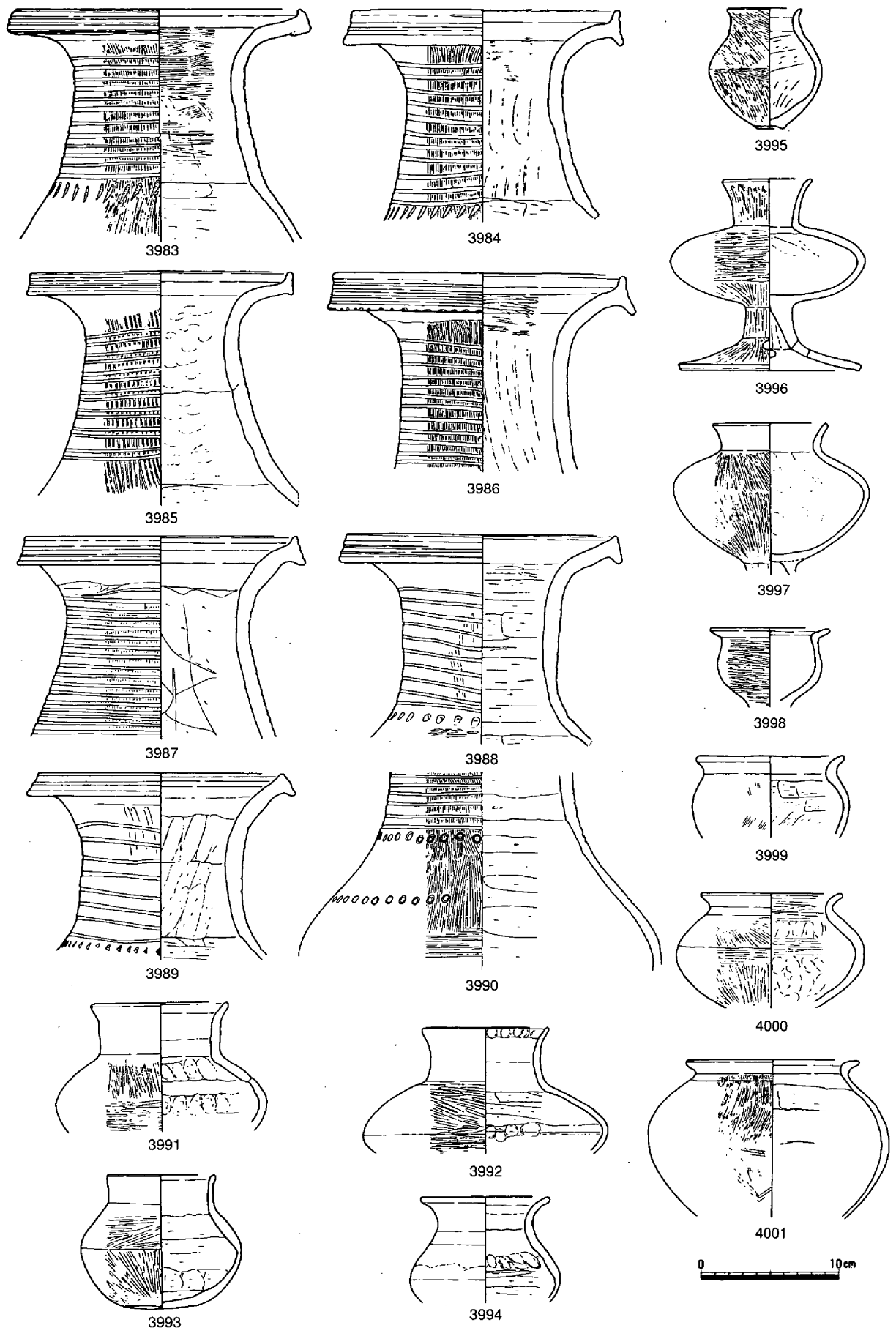


3981



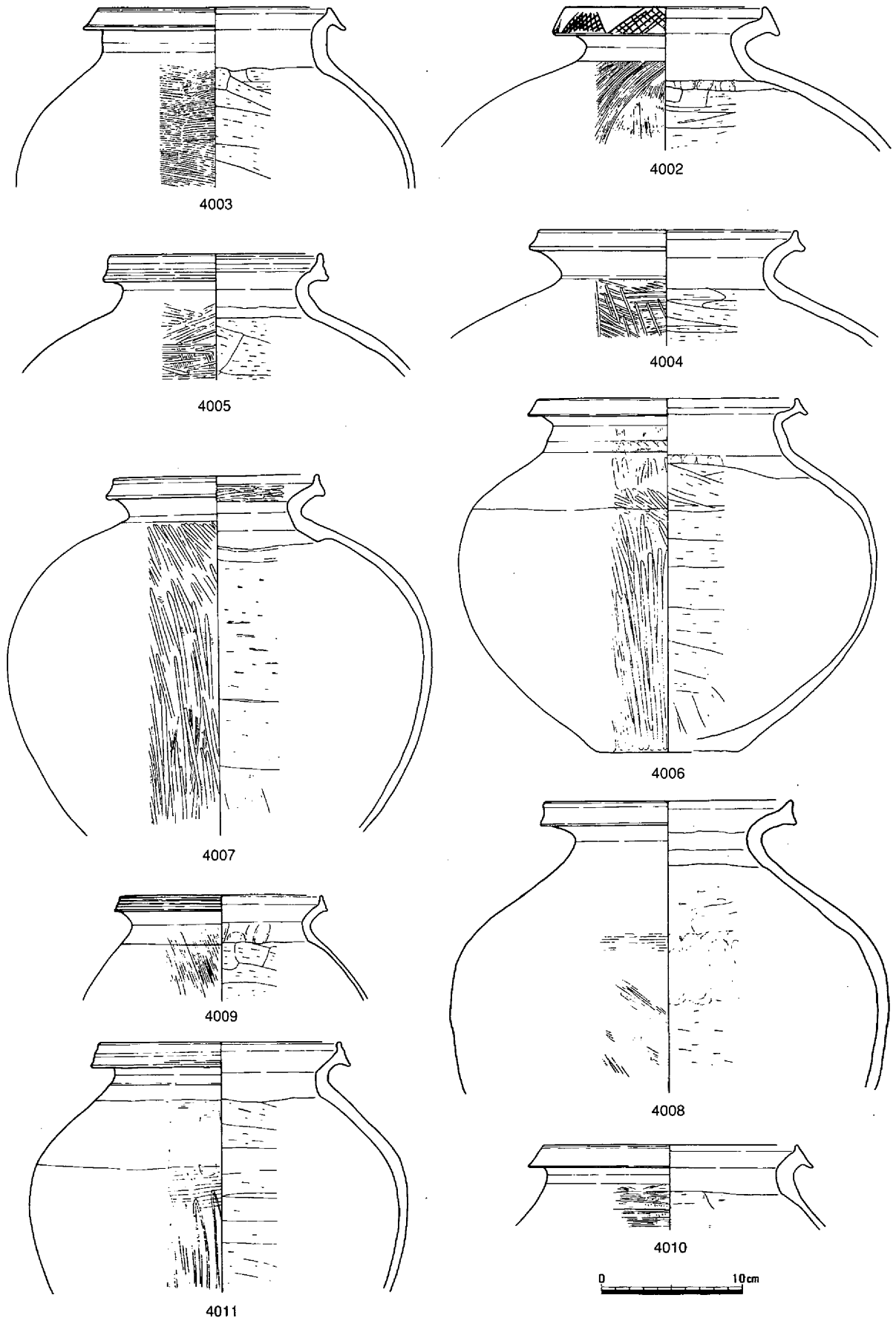
3982

第1163図 土器溜り1 出土遺物② (1/4)

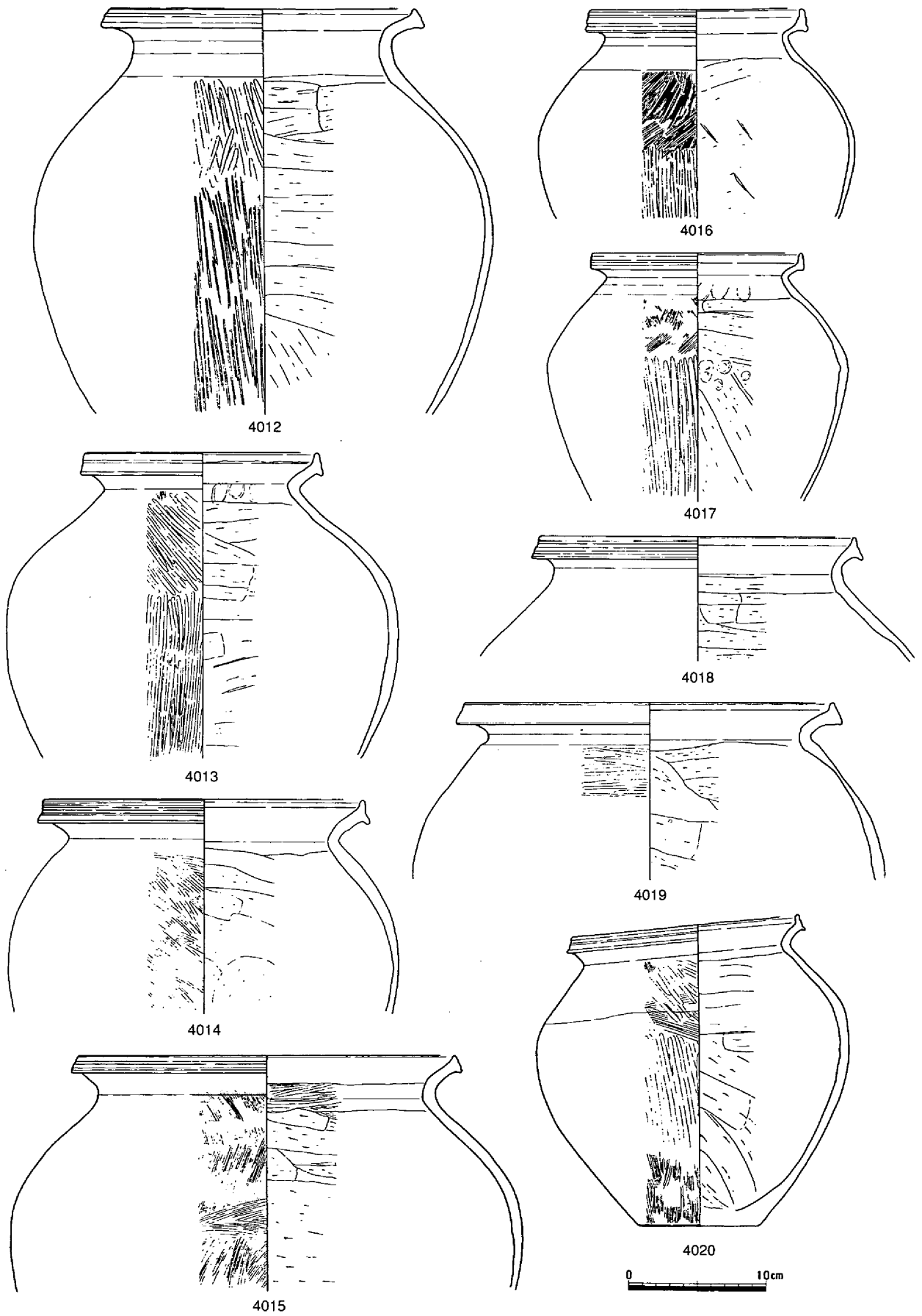


第1164図 土器溜り1出土遺物③ (1/4)

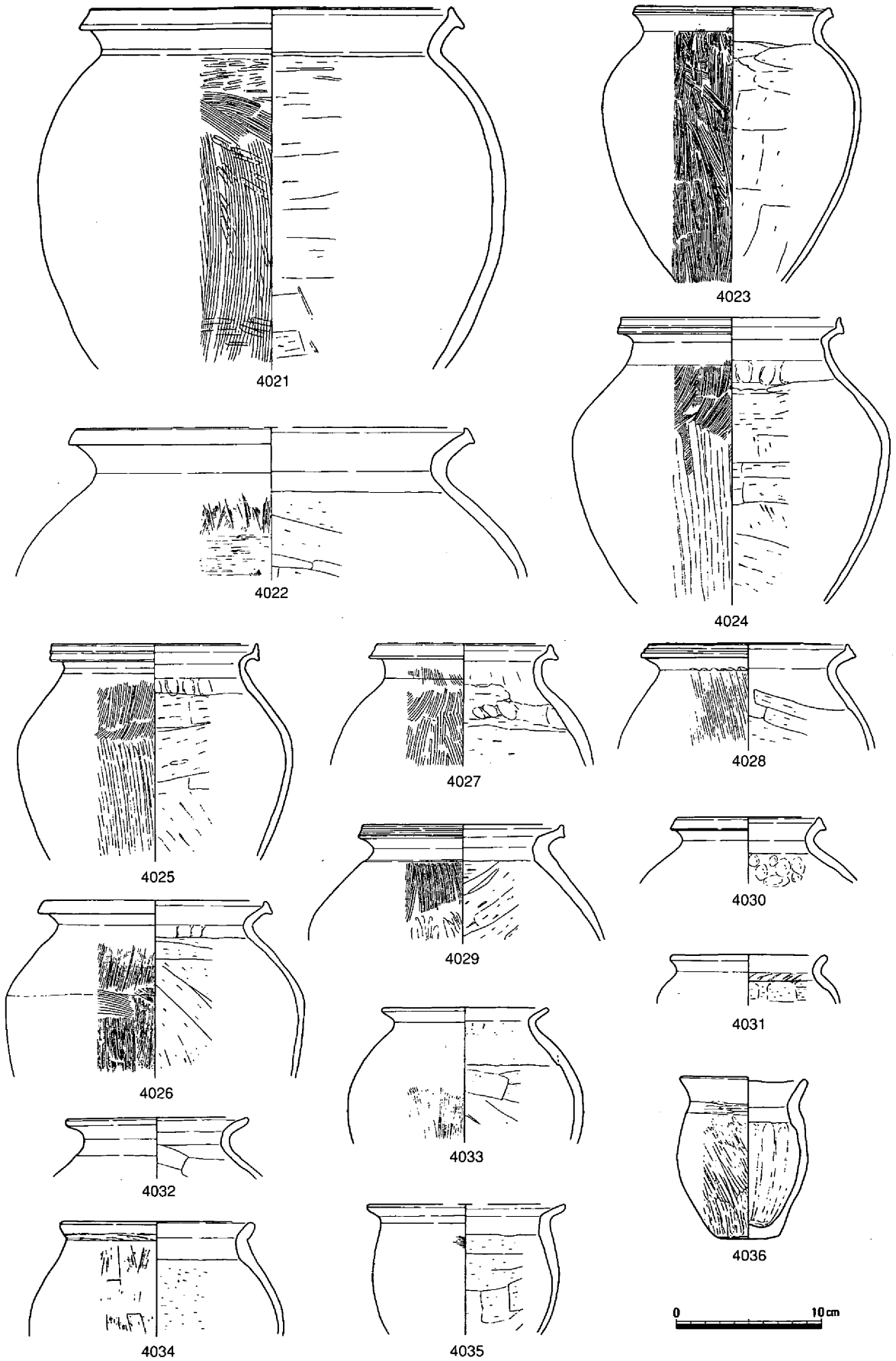




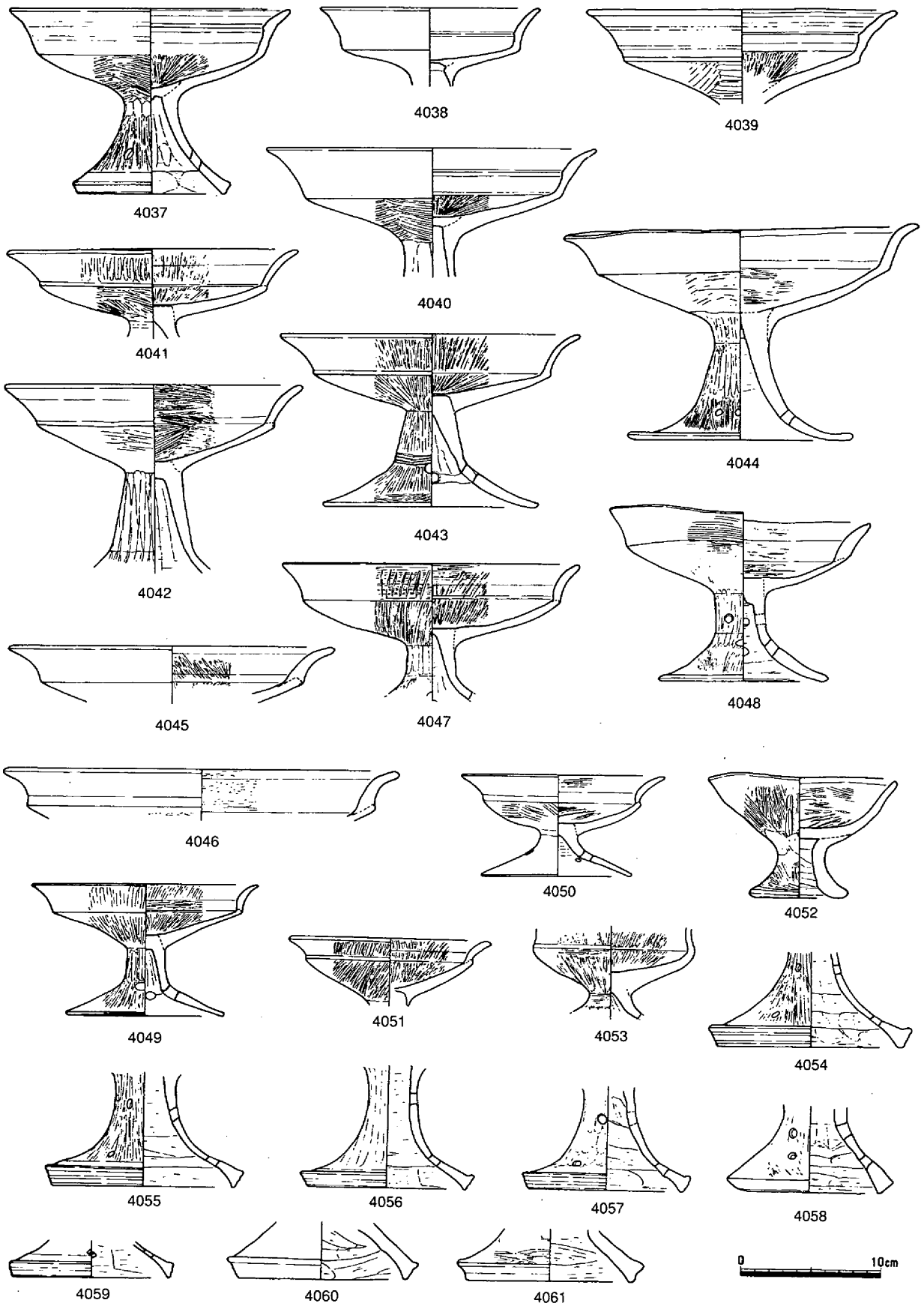
第1165図 土器溜り1 出土遺物④ (1/4)



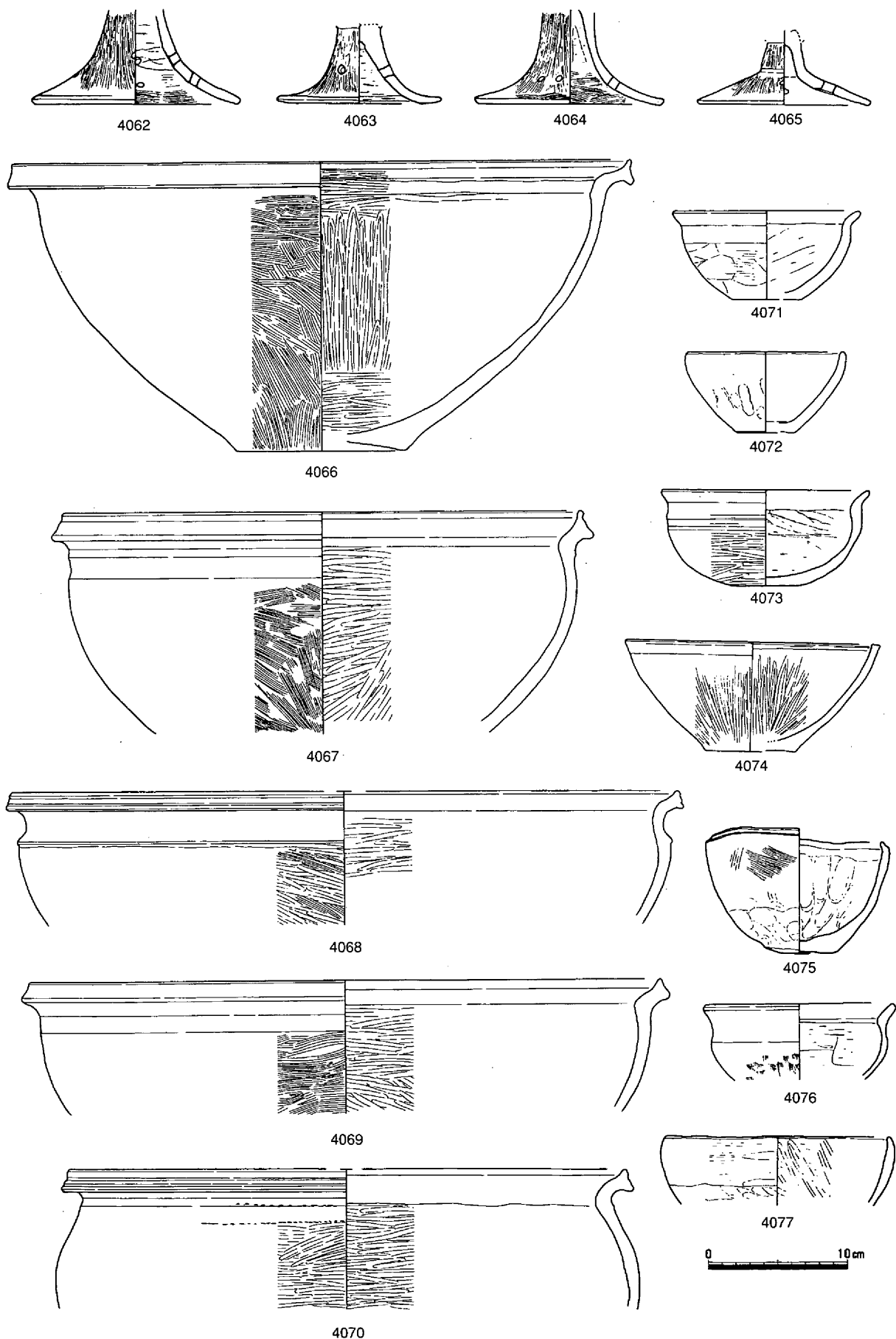
第1166図 土器溜り1出土遺物⑤ (1/4)



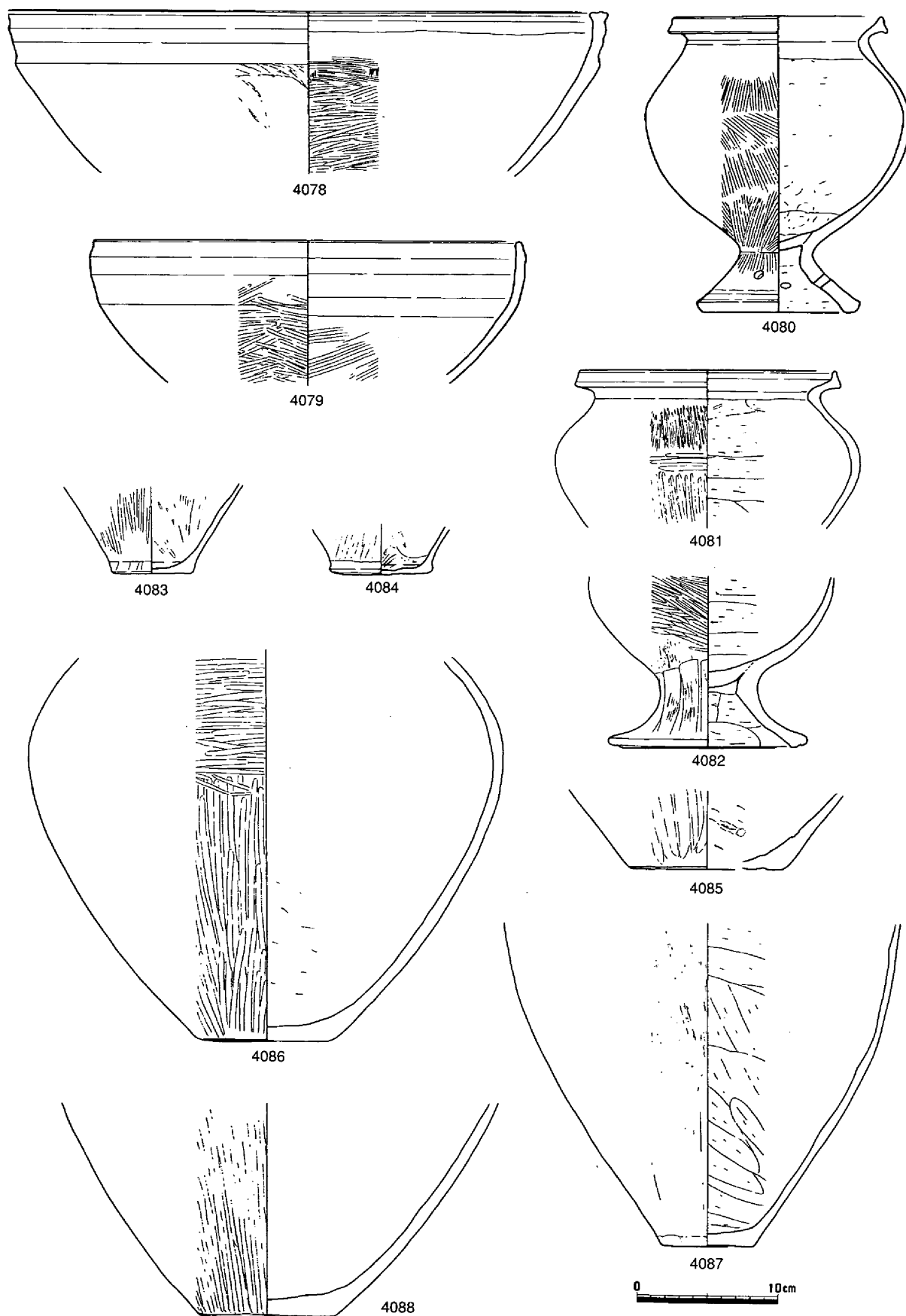
第1167図 土器溜り1出土遺物⑥ (1/4)



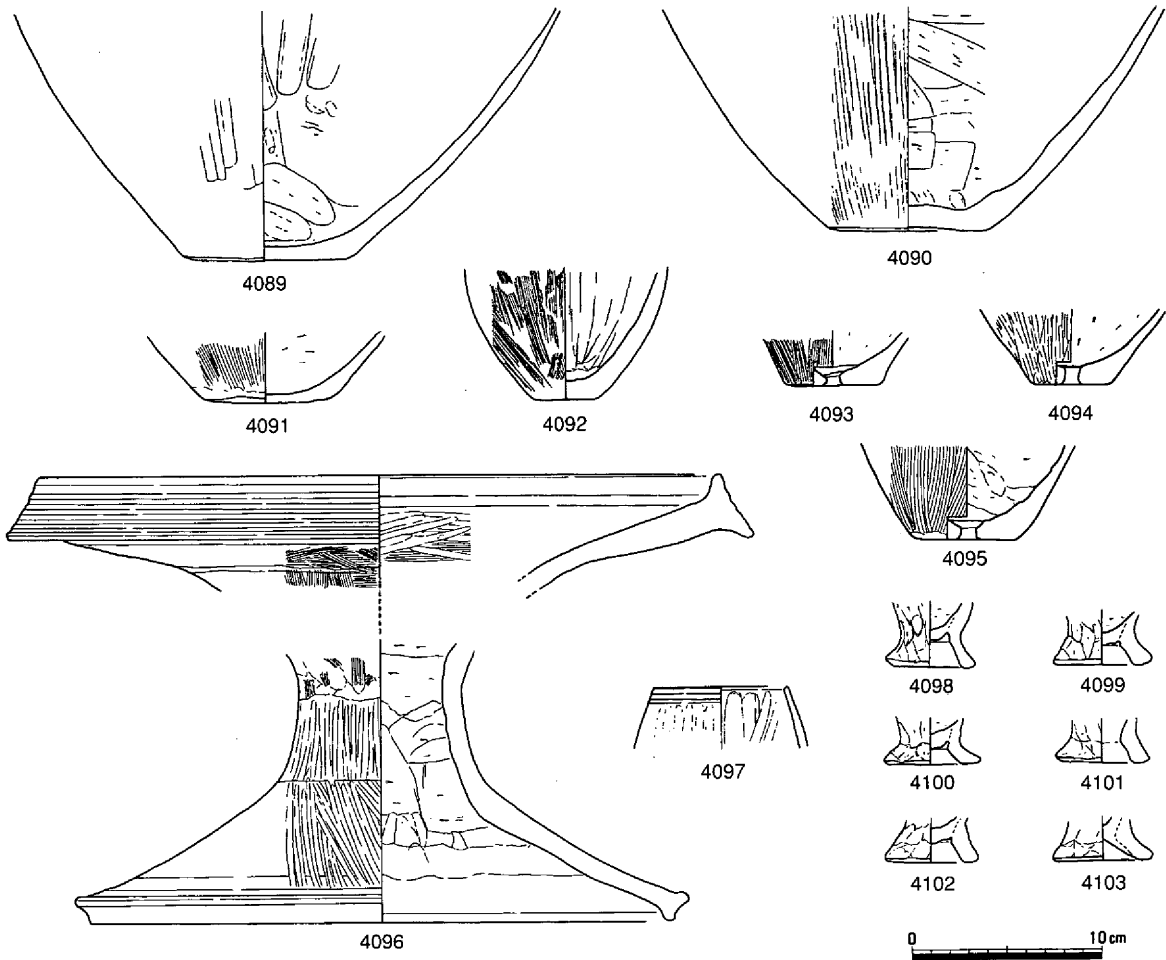
第1168図 土器溜り1出土遺物⑦ (1/4)



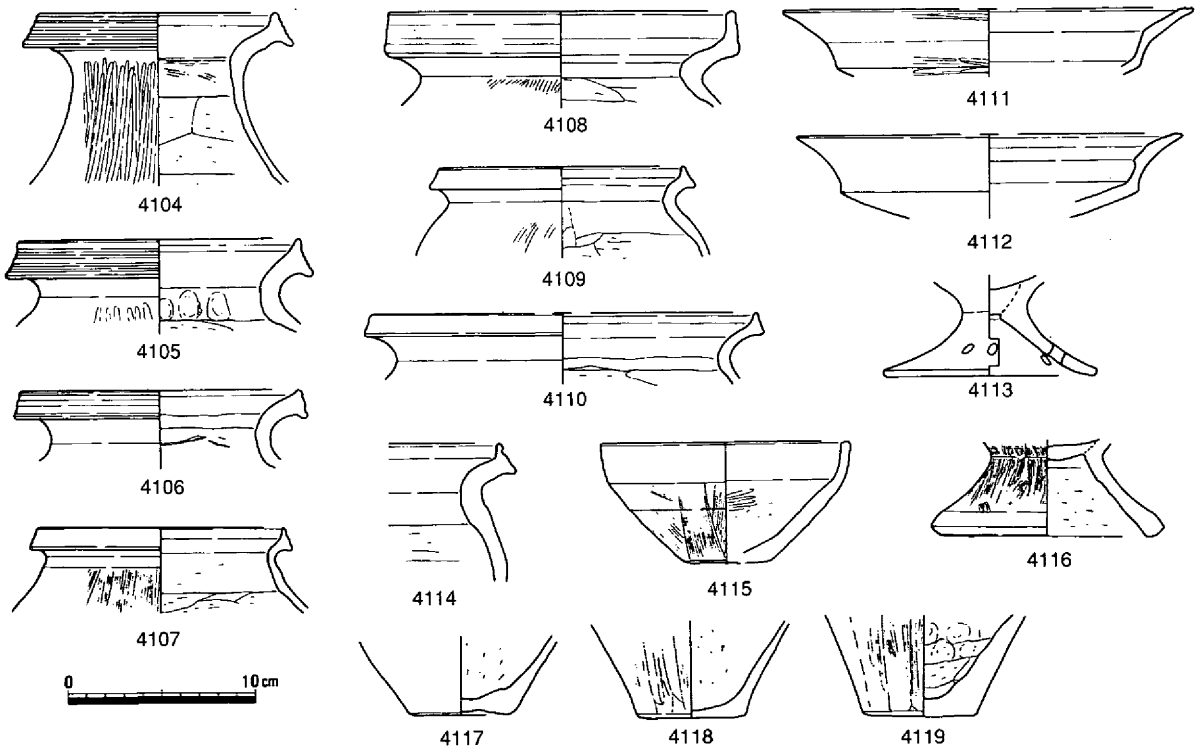
第1169図 土器溜り1出土遺物⑧ (1/4)



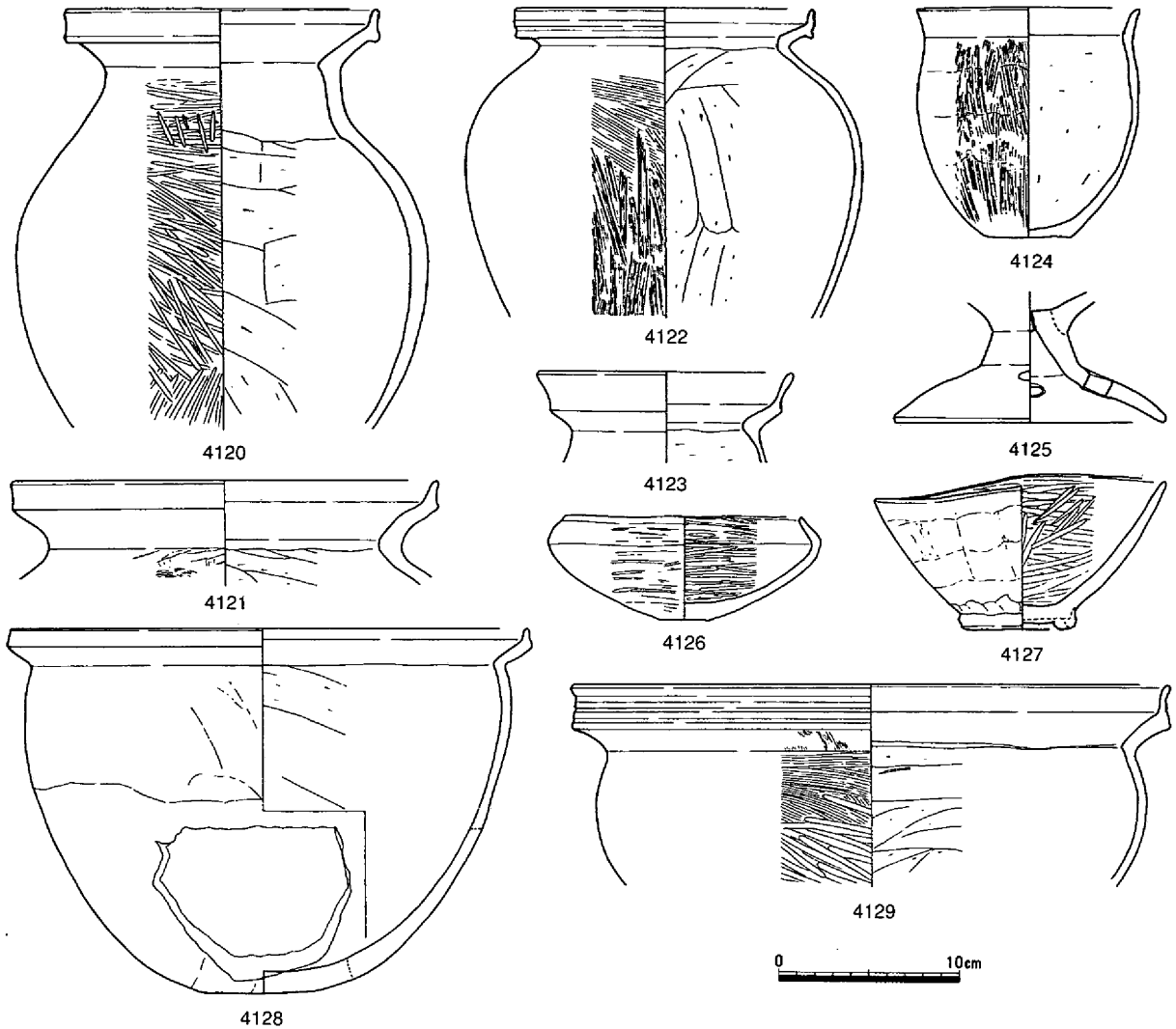
第1170図 土器溜り1出土遺物⑨ (1/4)



第1171図 土器溜り1 出土遺物⑩ (1/4)



第1172図 土器溜り2 出土遺物 (1/4)



第1173図 土器溜り3出土遺物 (1/4)

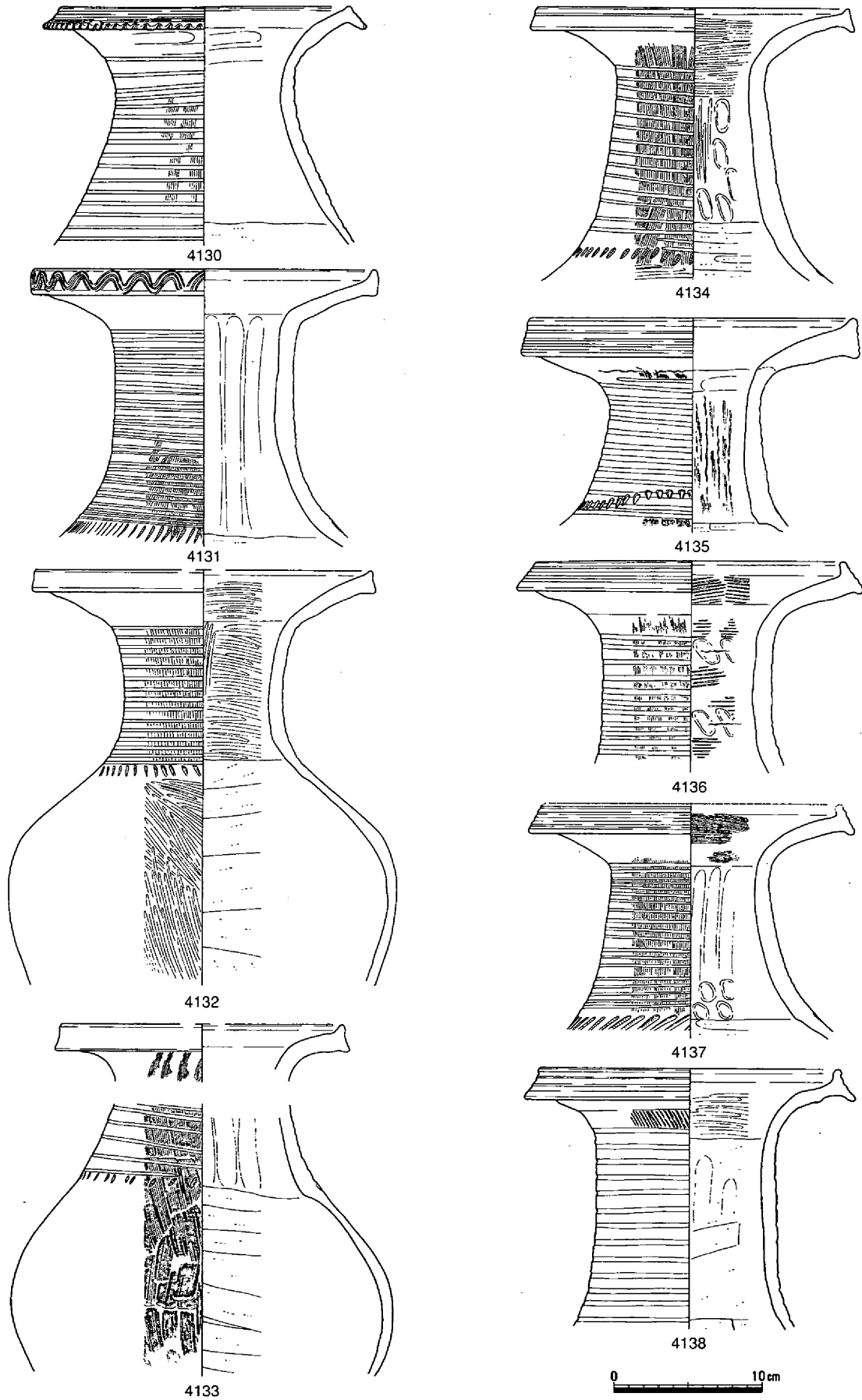
土器溜り4 (第550・1174~1180図)

Ci6 05区を中心に径約10mの範囲に形成された土器溜りで、溜り内は古代以降と思われる数個の柱穴によって切られ、また、南東部を古墳時代住居によって一部削平を受けていた。溜りには暗茶褐色粘質土に混じって土器が出土しており、特に多く出土した中央付近で厚さ約20cmを測る。

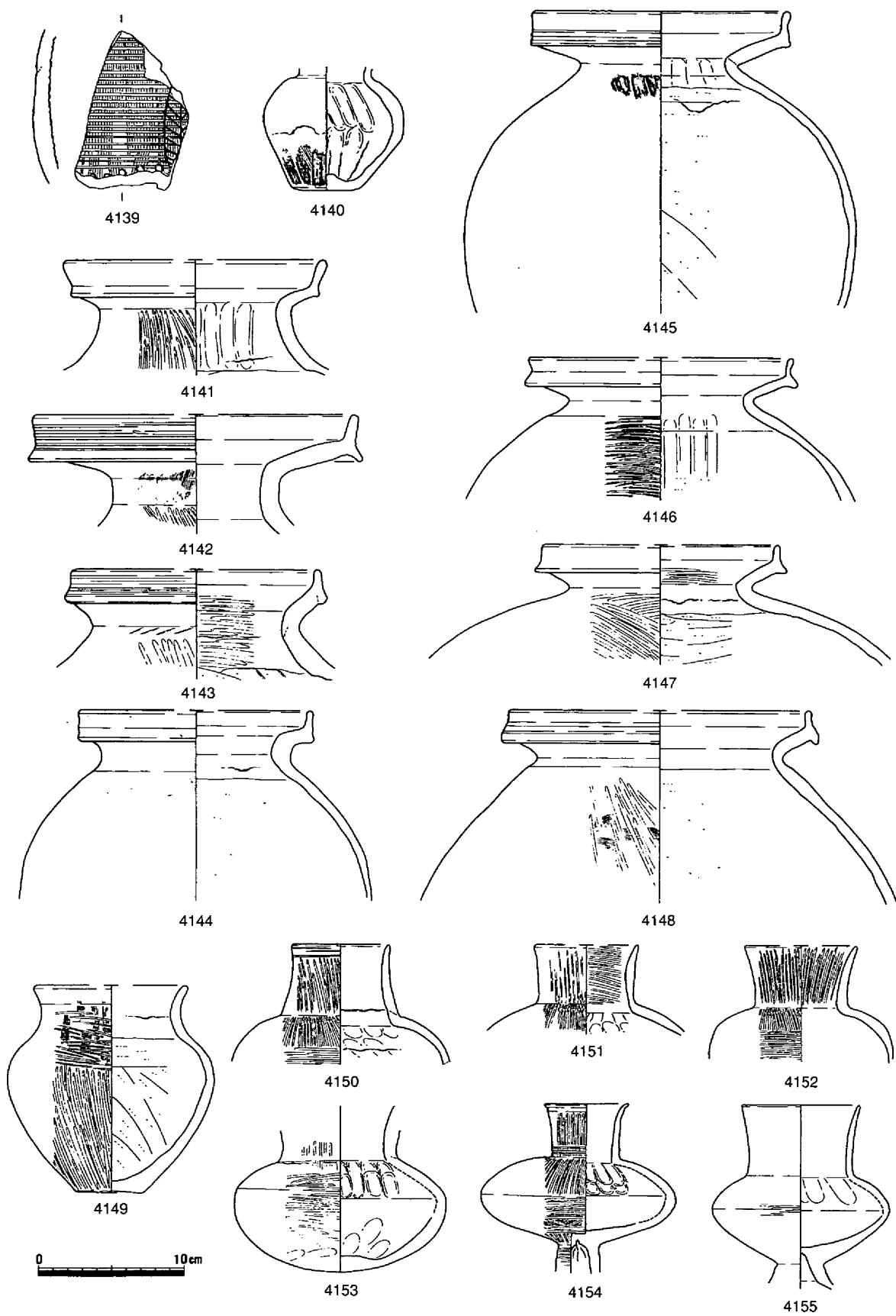
遺物の総数はコンテナにして45箱で、その内訳は壺32個、甕119個、高杯77個、器台3個、鉢41個の272個体以上である。器種別には壺約11%、甕約44%、高杯約28%、器台1%、鉢約15%を占め、圧倒的に甕の比率が高く、高杯がこれに続く。鉢は小形のものが大半を占めた。

壺は長頸壺4130~4139、広口壺4141・4142、形態が甕に似る4143~4148などがあり、小形の壺4149、直口壺などがある。長頸壺は口縁端部が斜め外方に引き出され、刻み目が巡る古い様相の4130から、強いナデによって口縁端部に凹部を形成する4132、上下に拡張する4138などがある。4139の頸部にはヘラ状工具による木葉状の線刻がなされている。大形の壺4141~4148は口縁端部がいずれも拡張して立ち上がる。小形の壺4149は緩く外反する口縁に、端部を丸くおさめている。直口壺は口縁端部に浅い凹線を施す4150・4154や、台が付く4154・4155などがあり、4153の底部は丸い。甕は口縁端部を肥厚させるものから拡張させるものまで様々であるが、前者は小形なものに多い。甕4198は口縁部が「く」

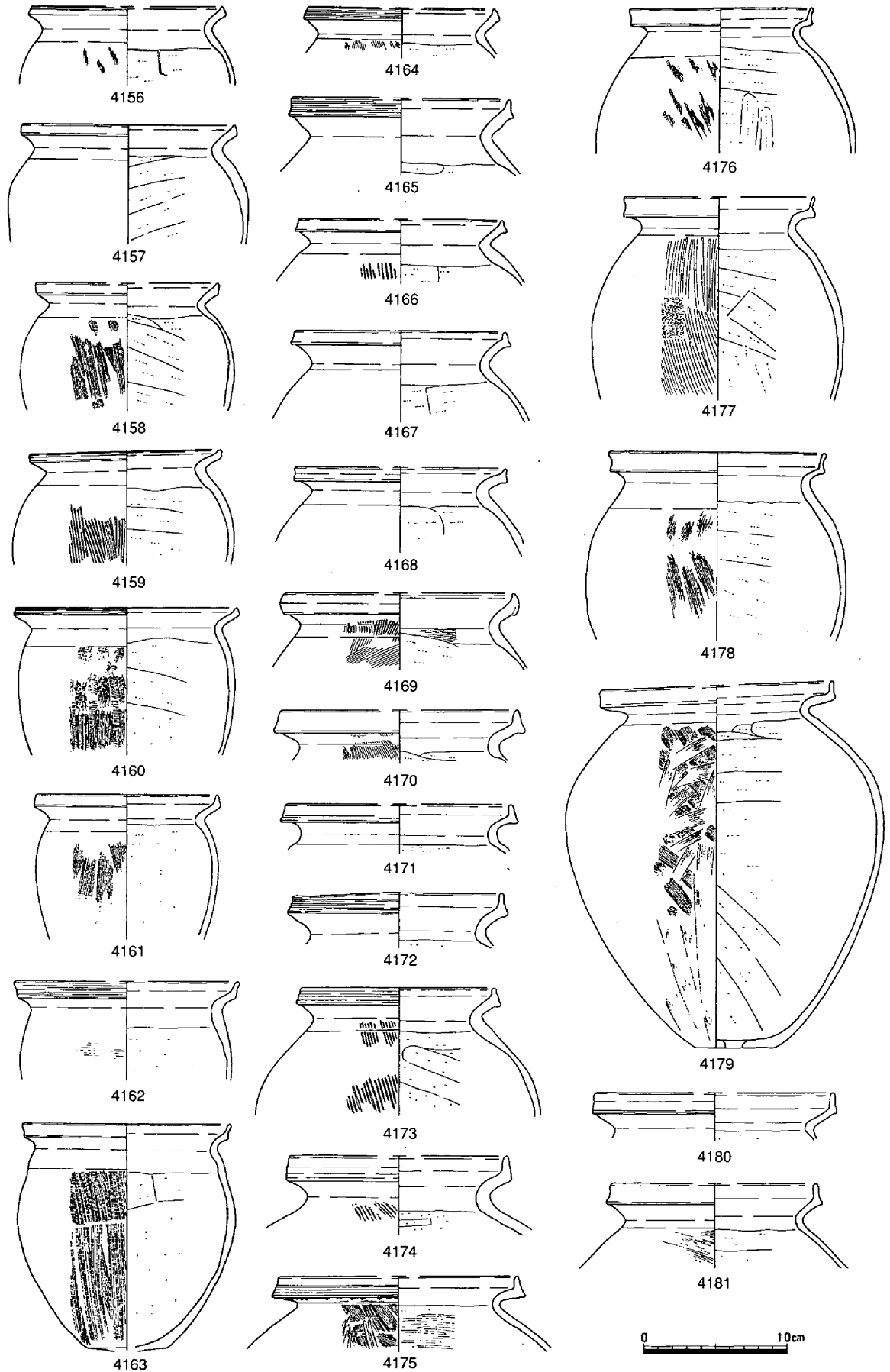




第1174図 土器溜り4出土遺物① (1/4)

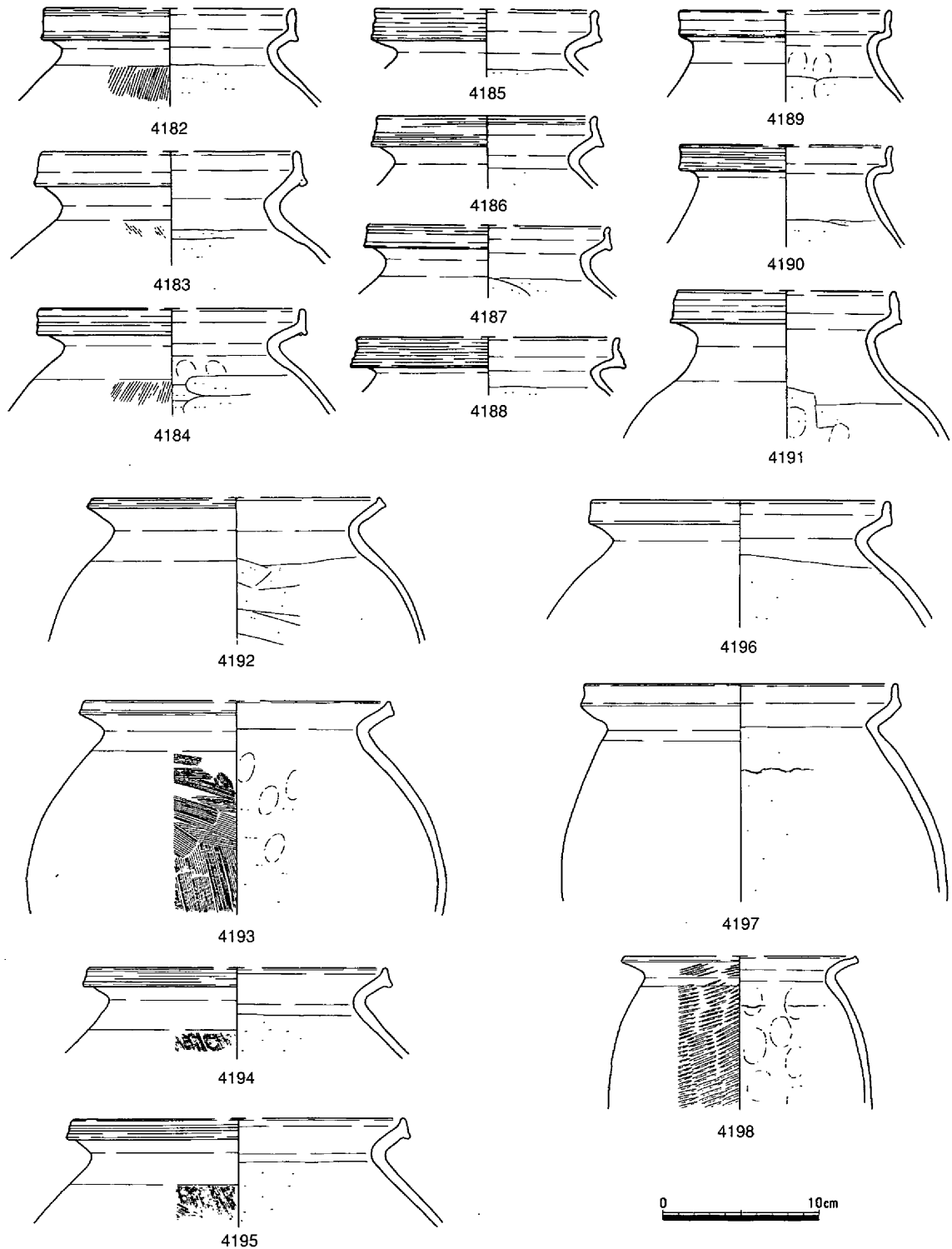


第1175図 土器溜り4出土遺物② (1/4)

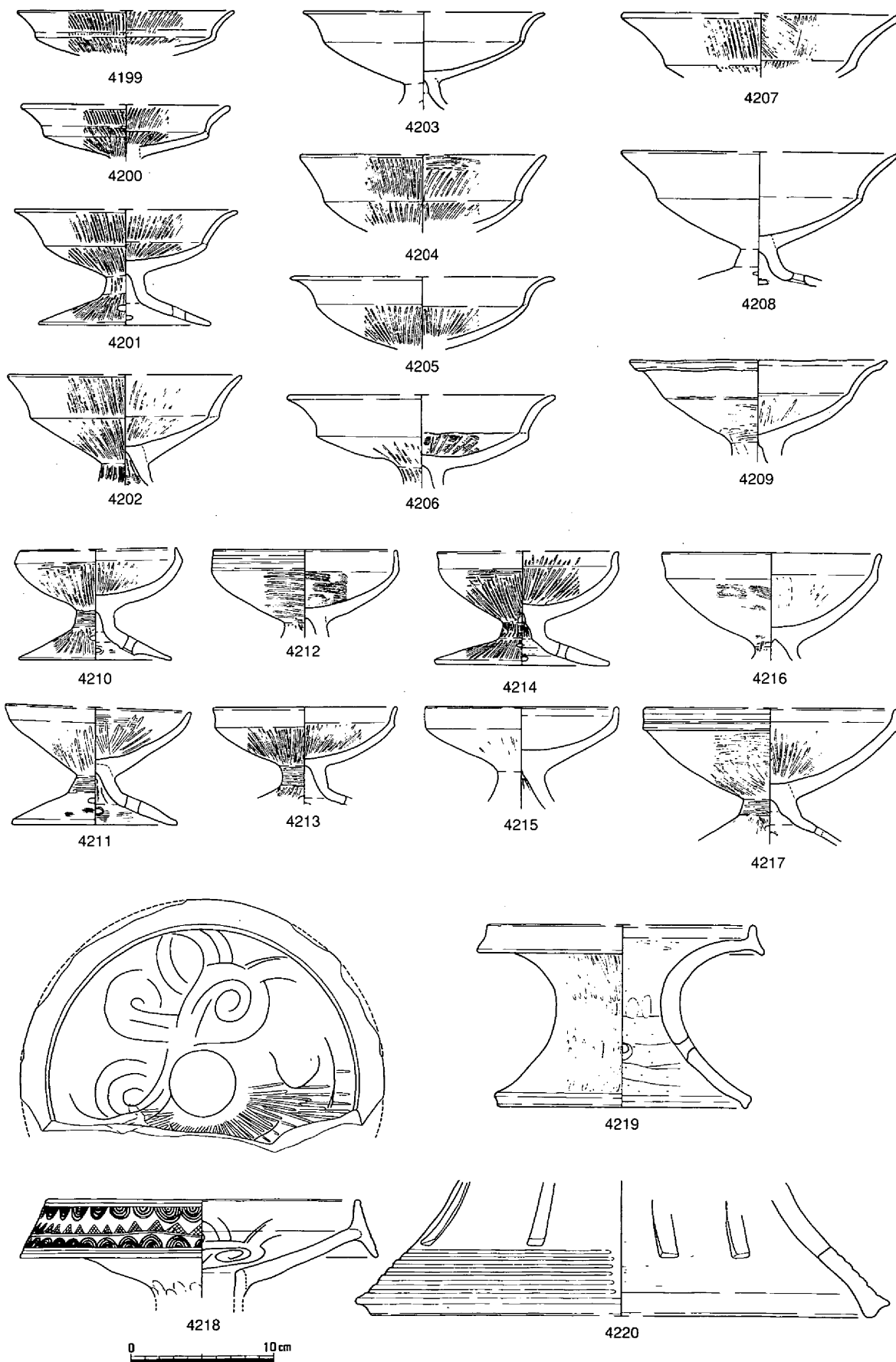


第1176図 土器溜り4出土遺物③ (1/4)

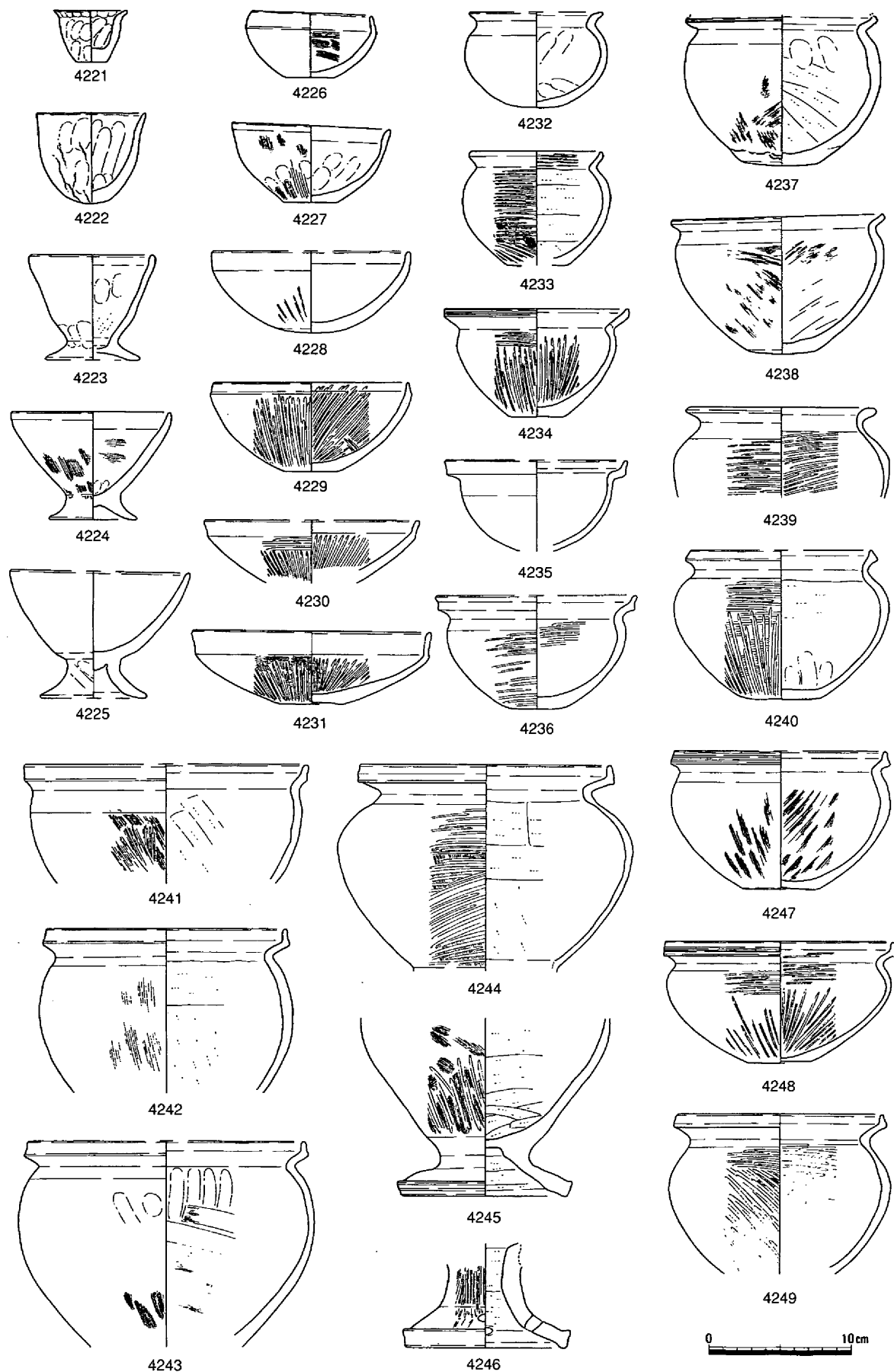
状に外反し、端部はわずかに上方に摘み出している。外面はタタキ調整がなされ、内面はナデている。高杯4199～4209はいずれも口縁が外反し、短脚をもつ。高杯4210～4217は碗状を呈し、口縁が直立気味に立ち上がるもので、4212・4217は凹線状のヨコナデが巡る。器台4218は狭い筒部から口縁は屈曲して開き、端部は上下に拡張し、やや内傾して立ち上がる。拡張面には扇形文および鋸歯文を巡らせ、器台受け部にはヘラミガキの後、ヘラ状工具による線刻がなされている。3条が単位と思われる直弧



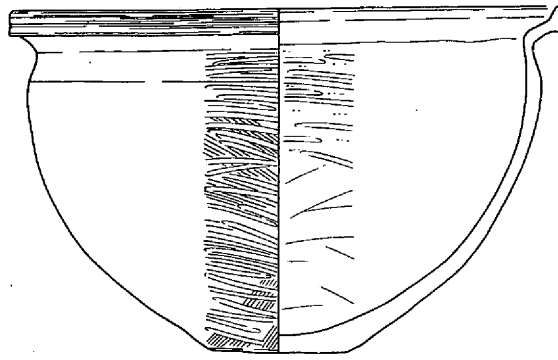
第1177図 土器溜り4出土遺物④ (1/4)



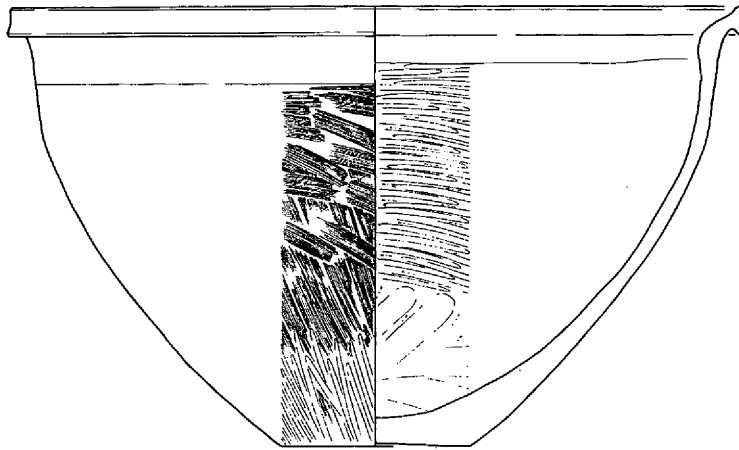
第1178図 土器溜り4出土遺物⑤ (1/4)



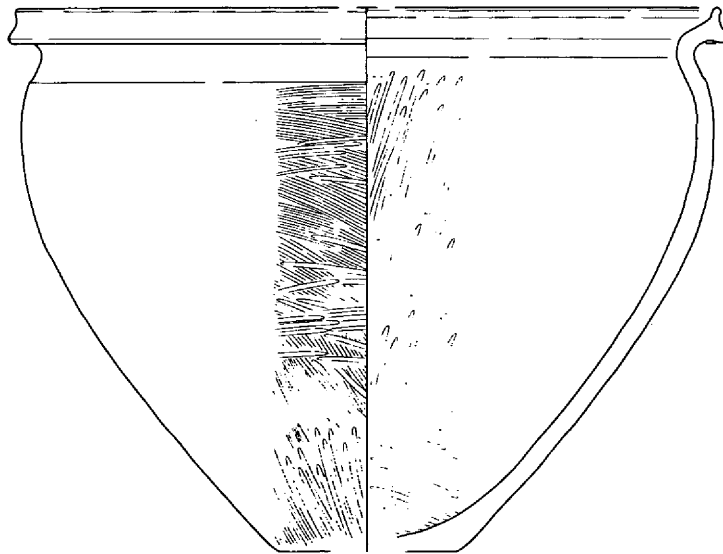
第1179図 土器溜り4出土遺物⑥ (1/4)



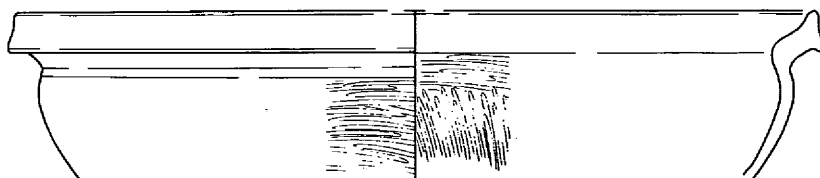
4250



4251



4252



4253

0 10cm

第1180図 土器溜り4出土遺物⑦ (1/4)

文状の線刻で、右側約半分は器表面の磨滅が著しく明瞭ではない。鉢は小形の4221～4249と大形の4250～4253があり、小形のものには台が付くもの、浅くボウル状を呈すもの、形態的には甕に似るものなどバラエティーが多い。

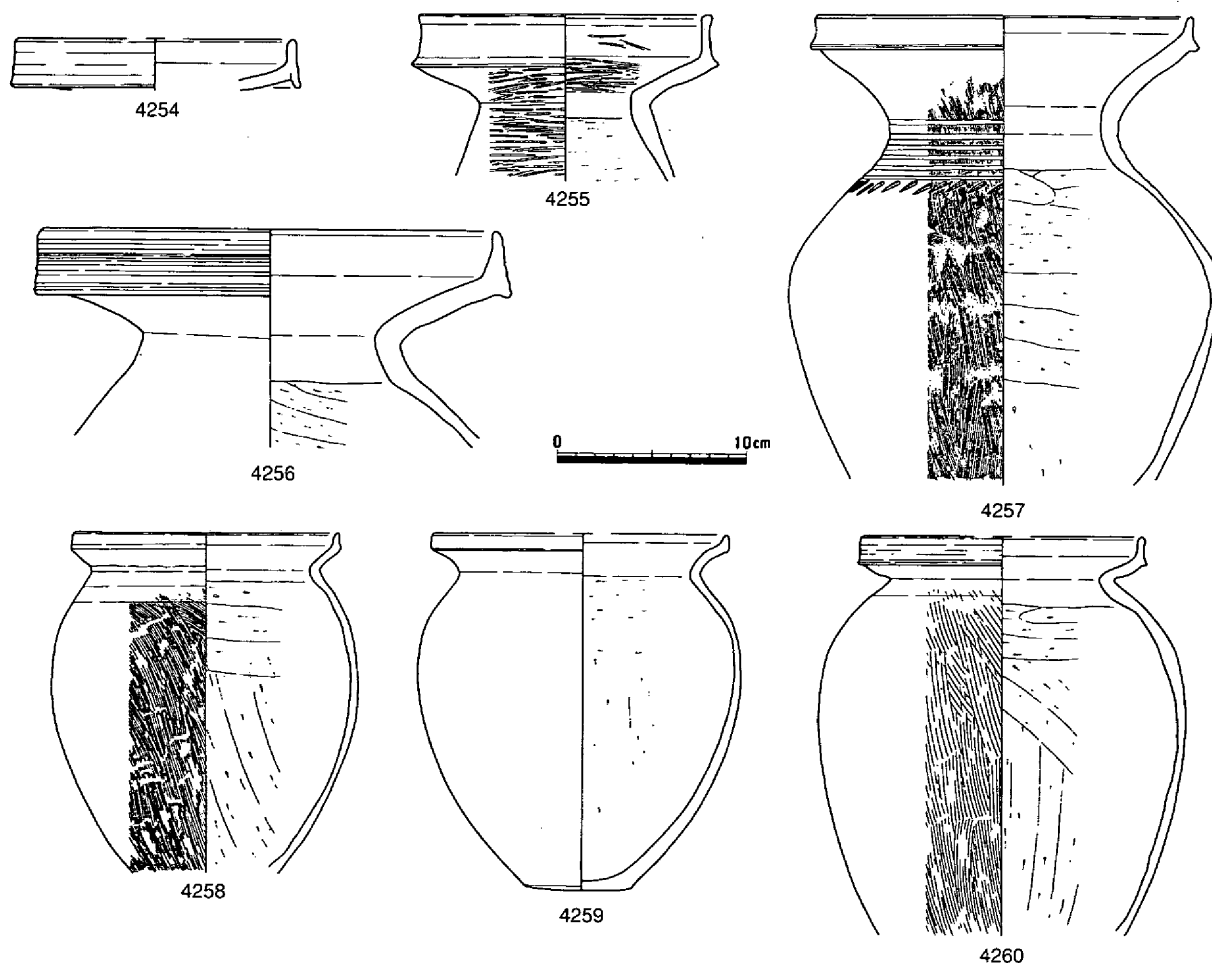
以上、出土した土器群はやや古い様相もあるものの、おおむね弥・後・Ⅲの特徴を示していた。また、土器溜りはほかの弥生時代遺構との重複は確認されず、この期を通じて土器廃棄場所として機能を果たしていたものと考えられる。 (江見)

土器溜り5 (第551・1181・1182図)

調査区でも東端部中央あたりのDa609区に位置する。この土器溜りは弥生後期に属する土壌412の上部にあり、土壌よりは40cmほど上部において検出され、3×4mの範囲にわたって土器片が集中してみられた。

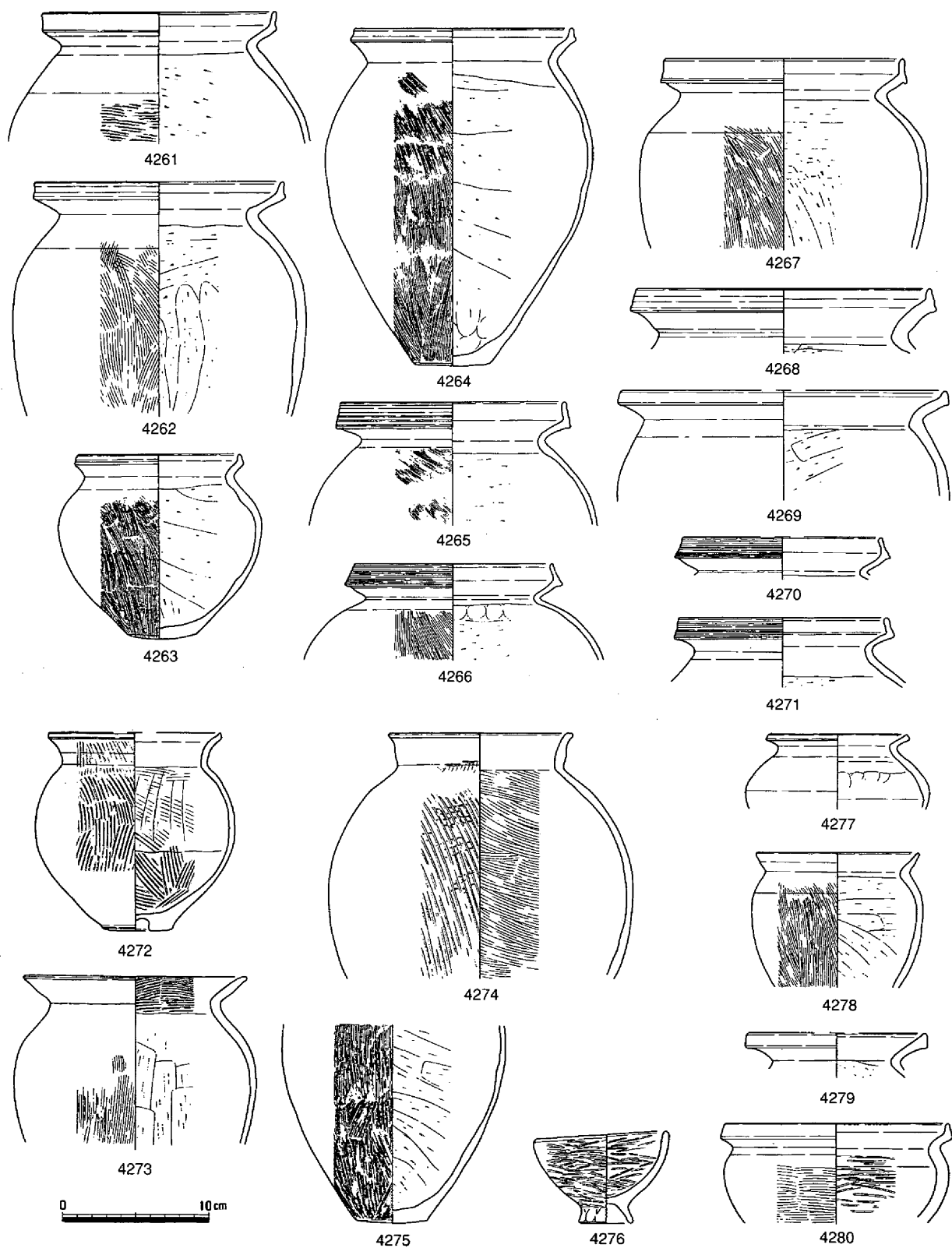
出土した土器類には壺、甕、鉢がある。壺では、長頸で二重口縁をもち内外面に丁寧なヘラミガキを施す4255と、短く内傾する頸部に二重口縁をもつ4256・4257がある。4256では上方に立つ口縁部の外面には凹線を施す。4257は上方で肩の張る卵形の体部をなし、頸部には5条の沈線と肩部には刺突文がみられる。

甕では口縁部を短く上方につまみあげるもの、上方に強く立ち上がるもの、「く」の字状を呈するものがある。このうち4265・4266・4270・4271では上部に強く立ち上がる口縁部外面に数条の凹線が施



第1181図 土器溜り5出土遺物① (1/4)





第1182図 土器溜り5出土遺物② (1/4)

されており古墳時代の吉備型甕の系譜につながる。さらに楕円形の体部に短く立つ口縁部をもち、外面にはタタキ後ハケ、内面はハケ調整を施す。

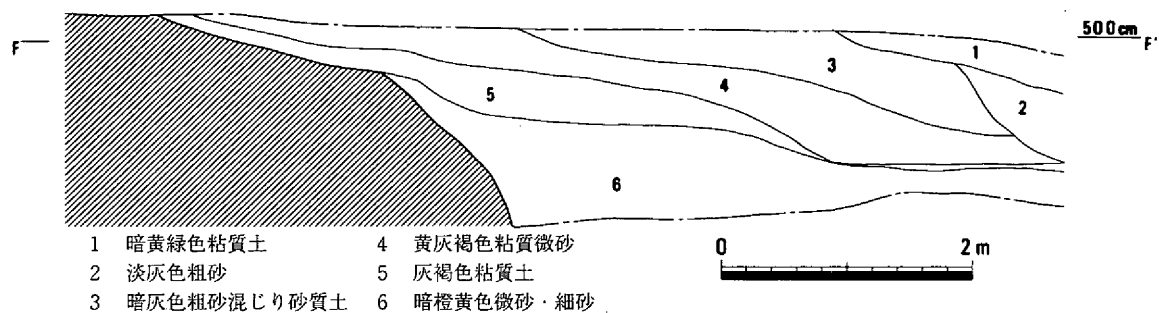
鉢では碗形の体部に短い台がつく4276と口縁部が外反する4280がある。そのほかでは口縁部片4254が小型器台の可能性はある。

この土器溜り自体は後世に弥生土器包含層を削平することによって形成されたと思われる。これらの土器群の示す時期は、弥・後・IVである。 (弘田)

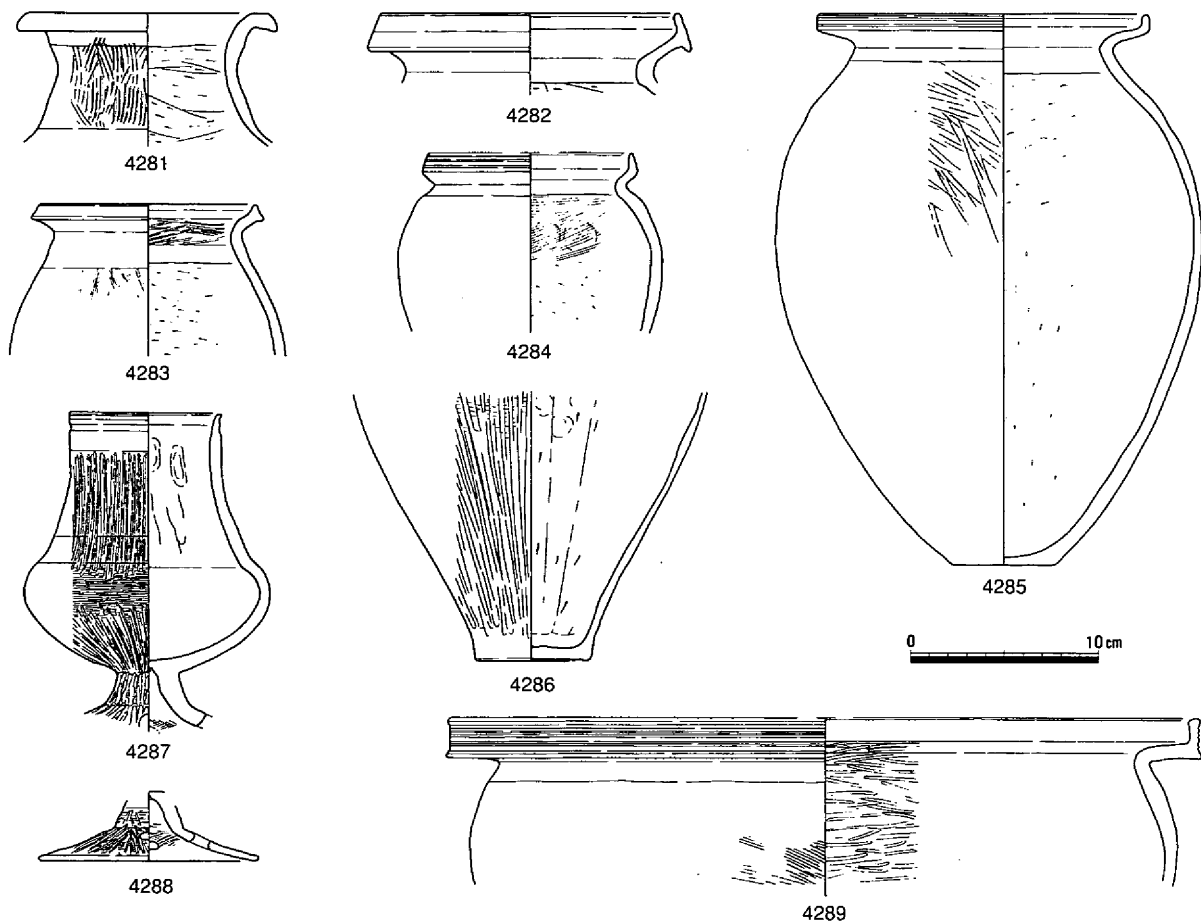
### (9) 河道

#### 河道4 (第551・1183図)

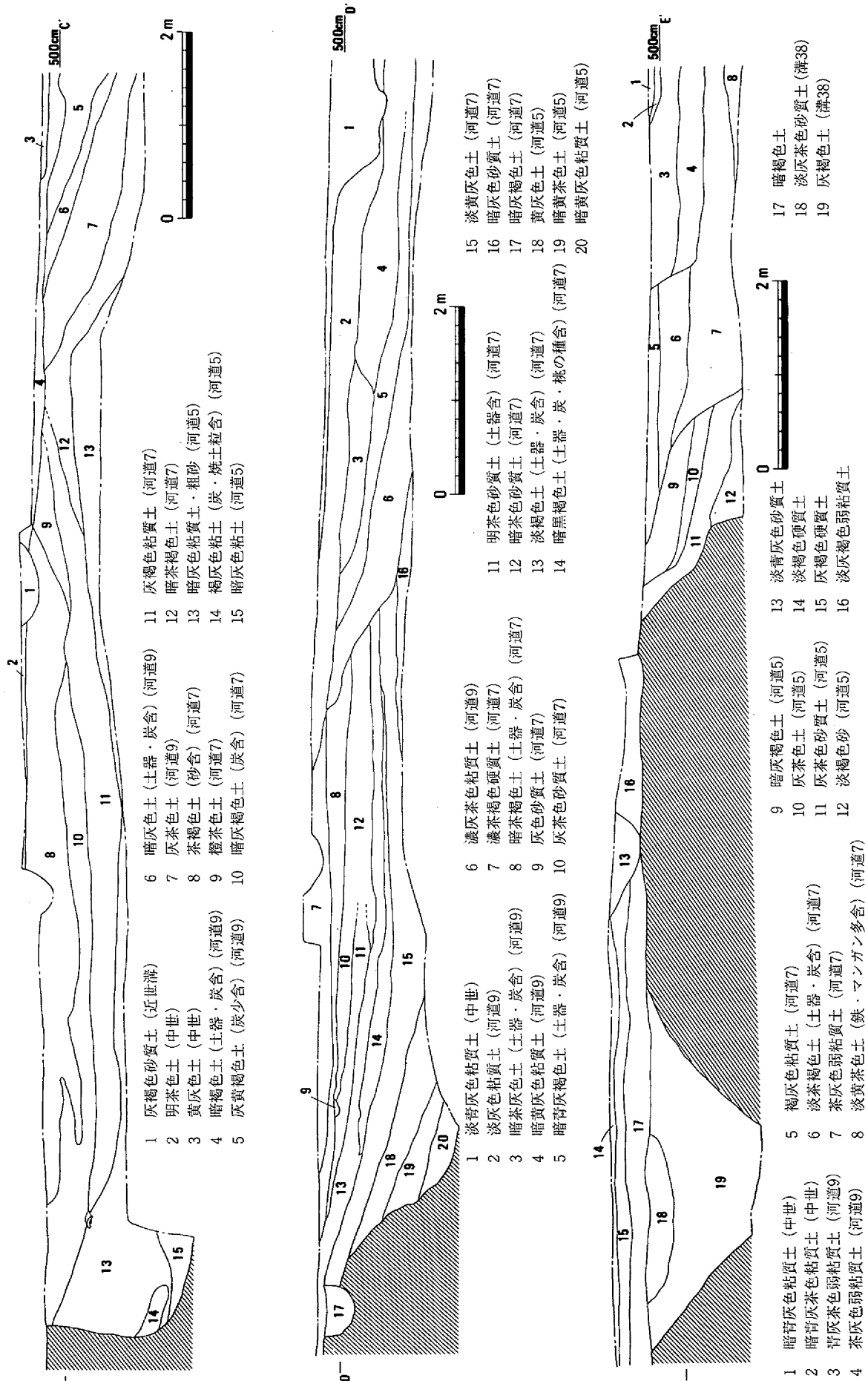
調査区の東端部において断面図に示したような南東部に下がる肩口を確認することができている。肩口は微高地を挟るように北東から南西方向に走っており、微砂・細砂が厚く堆積していた。南西部分は河道5が切っているように検出でき、時期差を想定している。遺物はほとんど出土しなかったが、河道5より古いことから弥・後・IIIより古く、弥・後・I頃ではないかと推測している。 (平井)



- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 暗黄緑色粘質土     | 4 黄灰褐色粘質微砂  |
| 2 淡灰色粗砂       | 5 灰褐色粘質土    |
| 3 暗灰色粗砂混じり砂質土 | 6 暗橙黄色微砂・細砂 |



第1183図 河道4 (1/60)・河道5出土遺物 (1/4)



第1184図 河道5 (1/60)

河道5 (第551・1183・1184図)

調査区の南東部において東西方向に検出した。微高地から南側に下がる肩口のみを確認することができている。第1185図C断面図の13~15層、D断面図の18~20層、E断面図の9~12層が河道5の堆積層に相当し、集落の存在する微高地を挟んでいるように観察できた。南側には古墳時代、古代、中世段階の河道堆積層が認められるため、河道の幅は確認できていない。遺物は少量の土器片を採集することができ、時期的には弥・後・Ⅲ~Ⅳ期のものが最も新しかった。(平井)

(10) 柱穴

調査区からは弥生時代に伴うと思われる柱穴が多数検出されている。しかしながら、建物として確認できないものの柱穴内から比較的多くの土器片が出土するもの、あるいは完形のものなどがある。

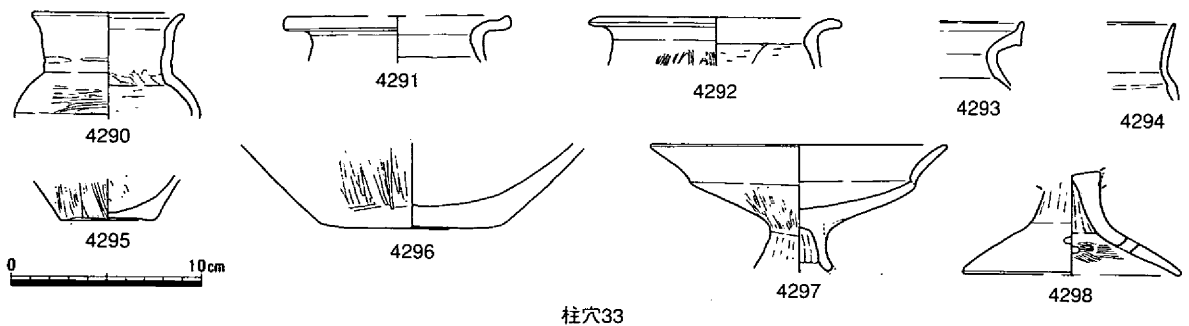
柱穴33からは弥・後・Ⅰに遡る甕4292もあるが、壺4290や高杯4297など弥・後・Ⅲの様相を示すものが出土しており、柱穴34・35からは弥・後・Ⅰの甕および高杯が出土している。

柱穴36~42はおおむね弥・後・Ⅲの範疇に入るもので、長頸壺4307の作りは雑で稚拙である。柱穴43・44は弥・後・Ⅰの範疇で、後者の口縁部にはいずれも凹線が巡る。

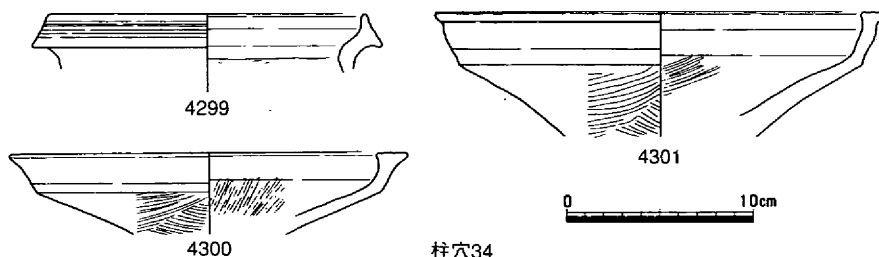
柱穴45~47はおおむね弥・後・Ⅲのもので、甕4324はほぼ完形である。口縁は「く」字状に大きく開き、端部は内傾気味に立ち上がり、下端は摘み出されている。拡張面には5条の凹線が巡る。底部は穿孔され、後に甑として利用されたものと思われ、器表面は全体に煤が付着している。甕4325は拡張する口縁に胴部との屈曲部はあまり締まらず、倒卵形の長銅に続き上げ底気味の平底に達する。高杯4328の口縁には凹線が巡る。

柱穴48の甕4332は内面の肩部付近まで押圧成形痕が残り、弥・後・Ⅰまで遡りうるものの、高杯4333は弥・後・Ⅱの前半まで下りそうである。

柱穴49~52は同じく弥生時代後期前半に遡る資料で、柱穴49の甕はいずれも完形である。4334の口縁は緩く開き端部を上方へ摘み出している。胴部は倒卵形を呈し、張った肩部から内湾気味に下半に

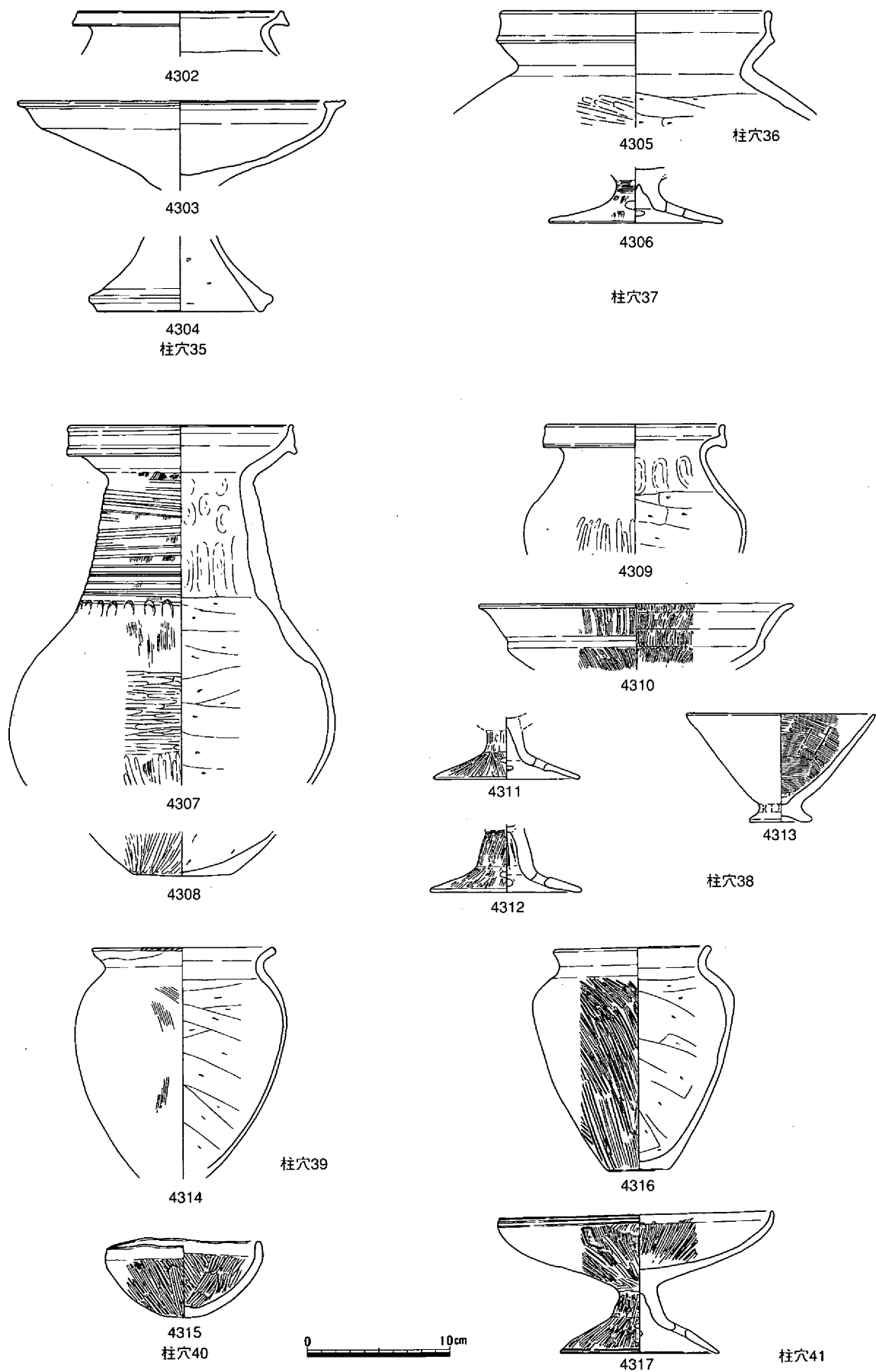


柱穴33

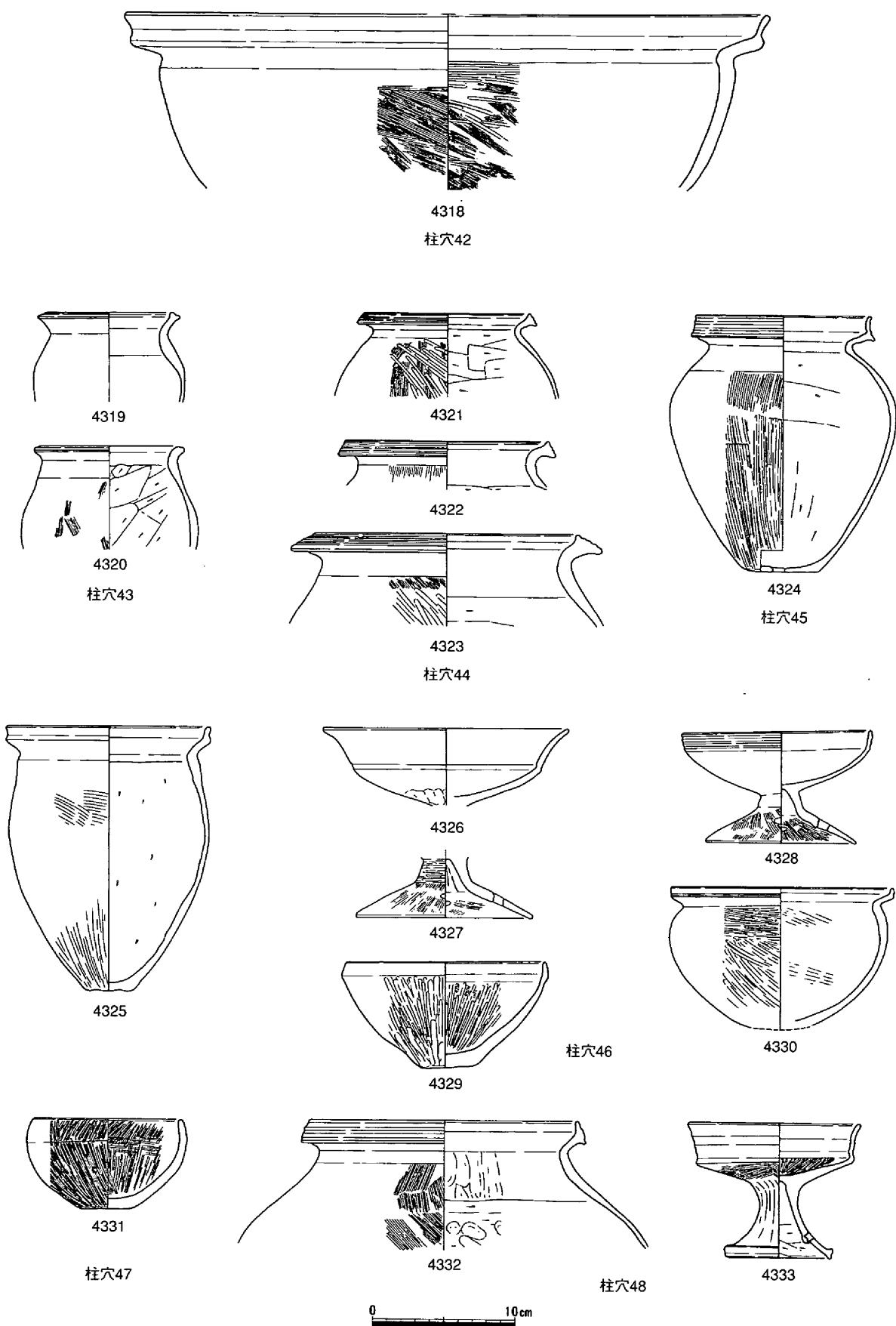


柱穴34

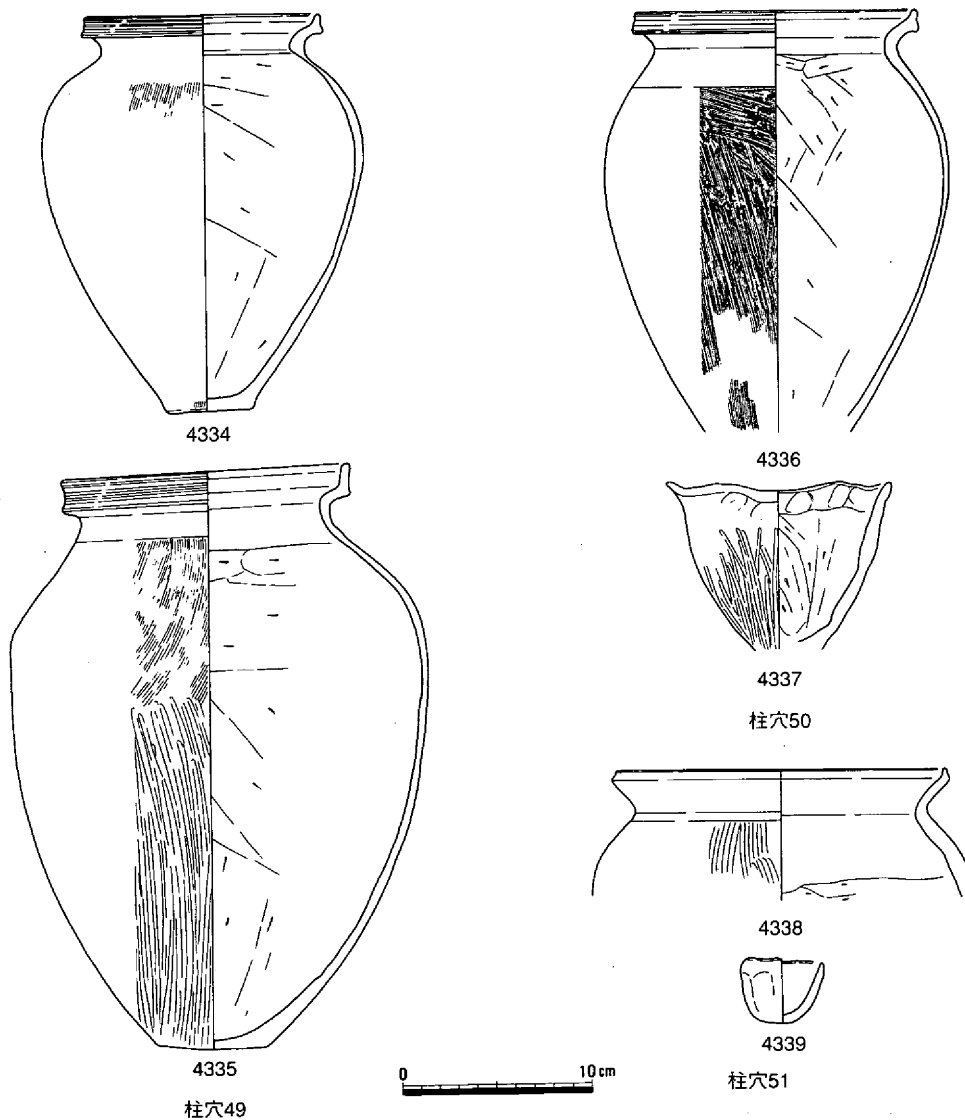
第1185図 柱穴33・34出土遺物 (1/4)



第1186図 柱穴35~41出土遺物 (1/4)



第1187図 柱穴42~48出土遺物 (1/4)



第1188図 柱穴49～51出土遺物 (1/4)

向かい、底部は逆反りし平底に至る。口縁端部にはクシ状工具によるヨコナデがなされている。4335は口縁端部が上方に拡張し、胴部は長胴ながら緩く内湾して平底へと達している。口縁拡張面には上記同様にヨコナデによる条線が認められる。

柱穴53～59は弥・後・Ⅲを中心とするもので、柱穴58・59の鉢4350・4351はこの形態のものとしては比較的大形に属す。高杯4344は柱穴60の4352とほぼ同様の形態を示し、弥・後・Ⅱの範疇である。

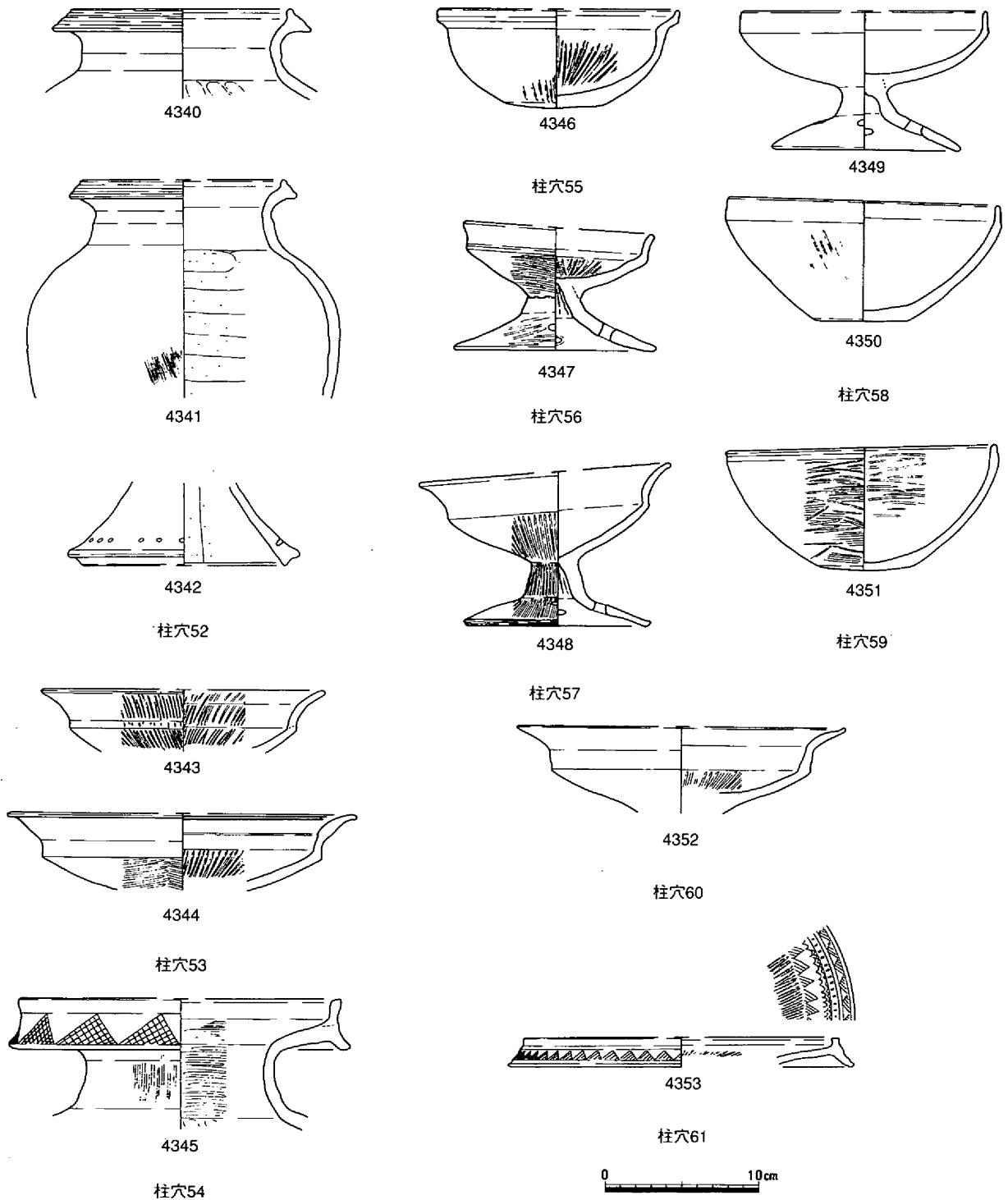
柱穴61の4353は装飾付き高杯の破片と思われるもので、作りはシャープである。口縁外面に鋸歯文を巡らせ、内側は放射線状にヘラミガキを施した後に鋸歯文および2条の波状文を、端面に2個1対の刺突文を巡らせてる。

柱穴62の4354は口縁部を凹線文が巡る弥・後・Ⅰの大形鉢である。

柱穴63～66はおおむね弥・後・Ⅲを中心としたもので、柱穴67～70は弥生時代後期前半代を示す遺物で、柱穴67の製塩土器4362は脚端部に面をもち肥厚する。柱穴70の台付鉢は緩く内湾気味に開く体部に、口縁端部はわずかながら上部へ摘み出し面をもつ。脚部は緩く開き、端部は肥厚するもので弥

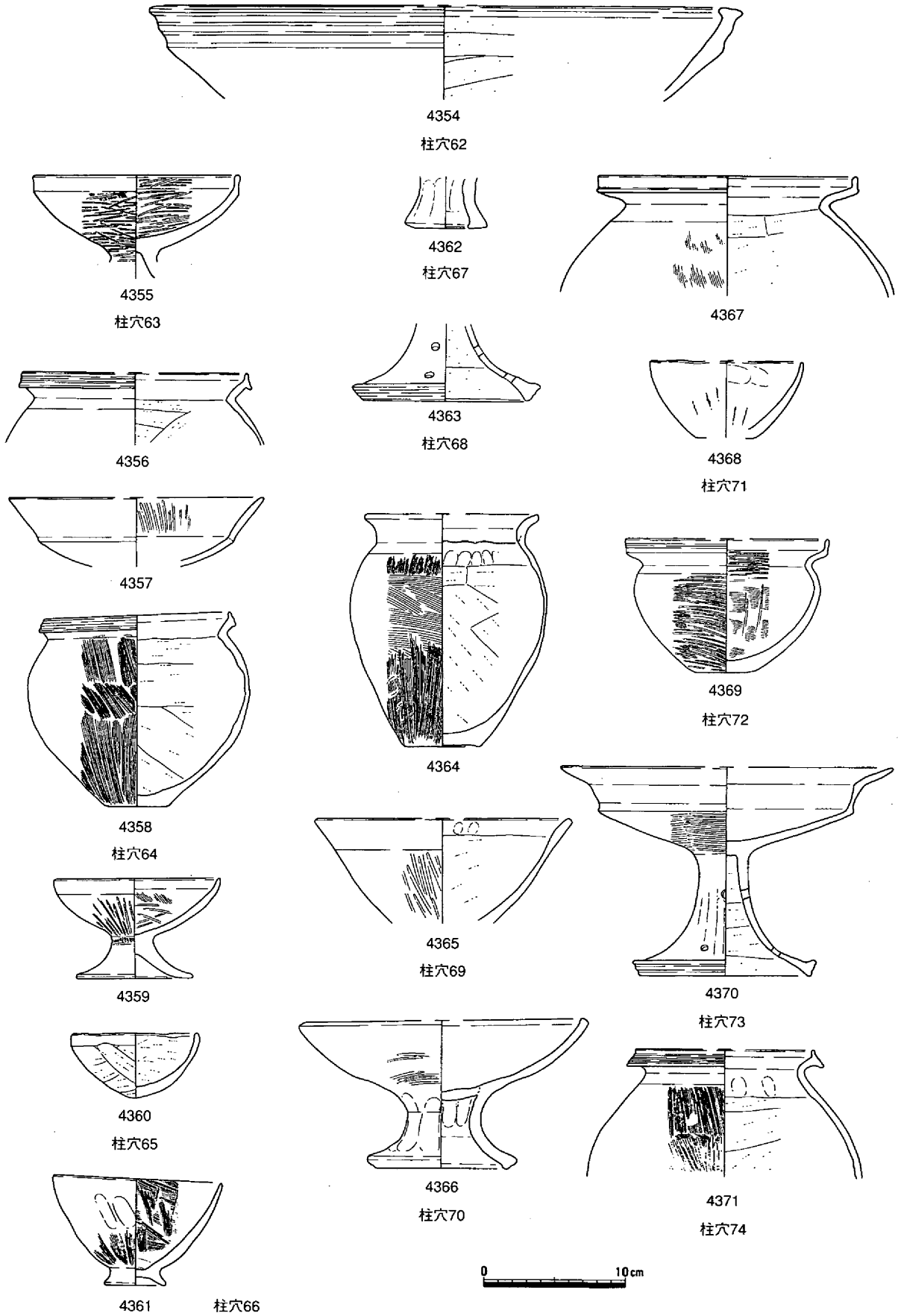
生時代中期の様相を残すものである。

柱穴71・72は弥・後・Ⅲ～Ⅳにかけてのものである。柱穴73・74は後期後半のもので高杯4370は前出の4352などと同様に口縁が直立気味に外傾して立ち上がり、さらに屈曲して大きく斜め外方に延びる。脚部は細く、緩くカーブを描きながら広がり、肥厚する端部に達する。脚部には上下2個の円孔が3か所に穿たれており、弥・後・Ⅱの好資料である。 (江見)



第1189図 柱穴52～61出土遺物 (1/4)





第1190図 柱穴62~74出土遺物 (1/4)

(11) 遺構に伴わない遺物 (第1191~1201図、図版134・164・166・167)

4372~4375は調査区でもっとも古く遡る遺物でもある前期の甕である。ほかに一次調査でも出土しているがいずれも同様の口縁部下に多条の沈線を巡らせるもので、口縁部はほぼ水平に折れ曲がり、端部には刻み目が巡る。沈線は比較的浅く、細い。4374の沈線下には刺突文が巡る。4375の内外面には押圧痕跡が認められ、その後ハケ調整している。

長頸壺と思われる4376は口縁が緩く開き、端部は肥厚し、上部に凹線が巡る。頸部はハケ調整の後、沈線が巡る。壺4377の口縁上面にはヘラ状工具による線刻が描かれている。

4378~4380は長頸壺で、中葉から後半にかけてのもので、4380の頸部下端には断面方形の突帯が付され、上面には刺突が巡らされる。壺4381~4384は弥・後・Ⅲ~Ⅳにかけてのもので、4382~4384の口縁拡張部には円弧文、鋸歯文、波状文などが施されている。

4386・4387は弥・後・Ⅰの短頸壺と思われ、口縁部が鋭く外反し水平方向に引き出している。

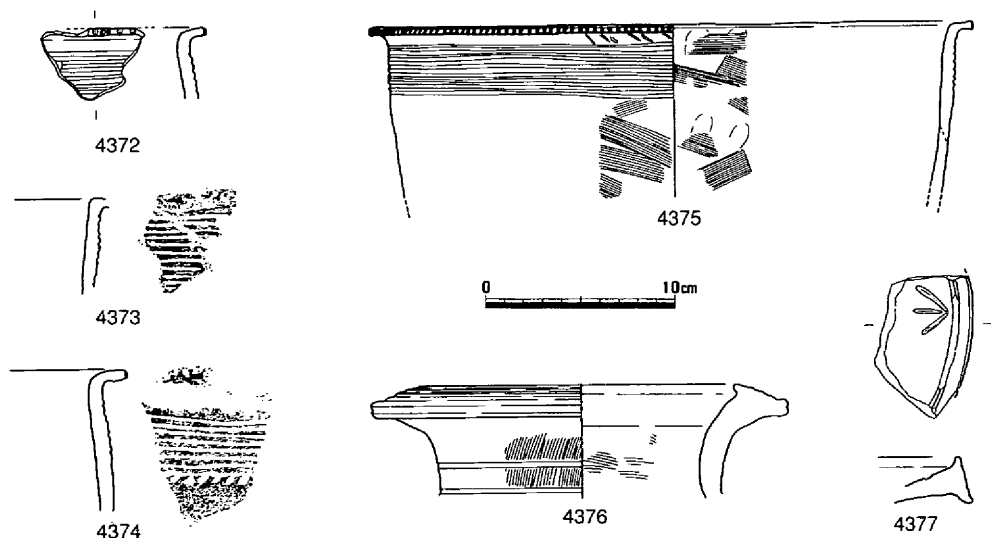
4388は燈色を呈し、胎土に砂粒をほとんど含まないもので、頸部に3条の貼付突帯を付し、クシガキ沈線下はクシ状工具による刺突文および波状文を繰り返し巡らせている。

4390~4394は台付直口壺で、4392は弥・後・Ⅱに遡る可能性があるが、ほかは後半のものであろう。

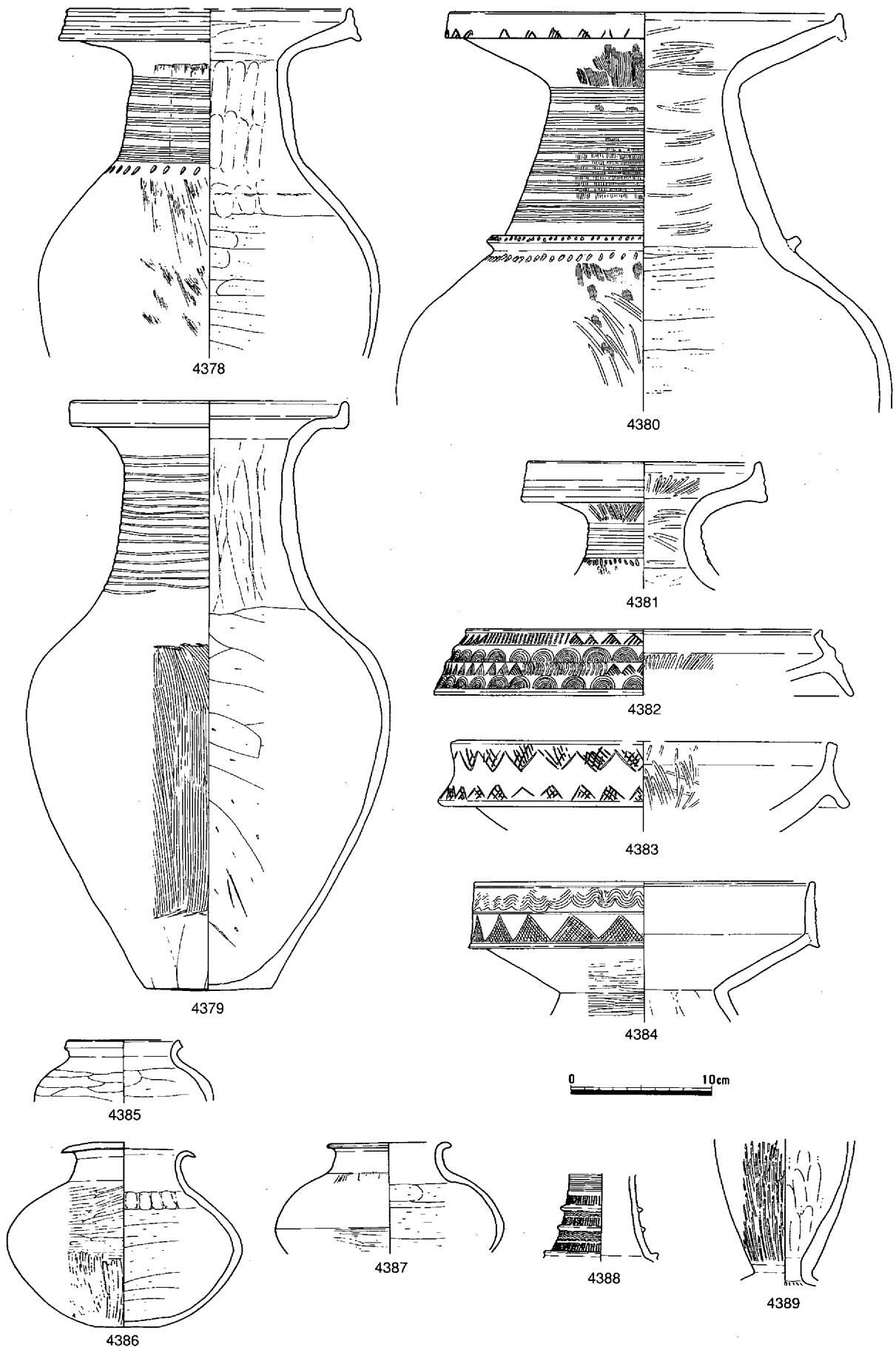
4395の甕は口縁が緩く外反し、屈曲して斜め上方に立ち上がる。県北ないし山陰からの搬入と思われる。甕4397・4398・4400・4405・4406・4408~4410は弥・後・Ⅰ期の、ほかは弥・後Ⅲ~Ⅳにかけてのものと思われる。内外面ハケ調整痕を顕著に残す4407は九州方面からの搬入品であろうか。

高杯4411~4413は後期前半のもので、4412・4413は浅い杯部に口縁が斜め外方に立ち上がる。脚部は「ハ」字状に開き、4412の端部は肥厚している。いずれも脚部には3か所に円孔が穿たれ、杯部中央は円盤充填によっている。弥・後・Ⅱの前半を示すものである。4416は外反する口縁のあり方から弥・後・Ⅲの範疇のものと思われるが、脚柱部がなく、杯部下から「ハ」字状に開く。4414・4415・4417などは弥・後・Ⅳの特徴を示し、4423の大形のものとは弥・後・Ⅲに遡るものが多い。

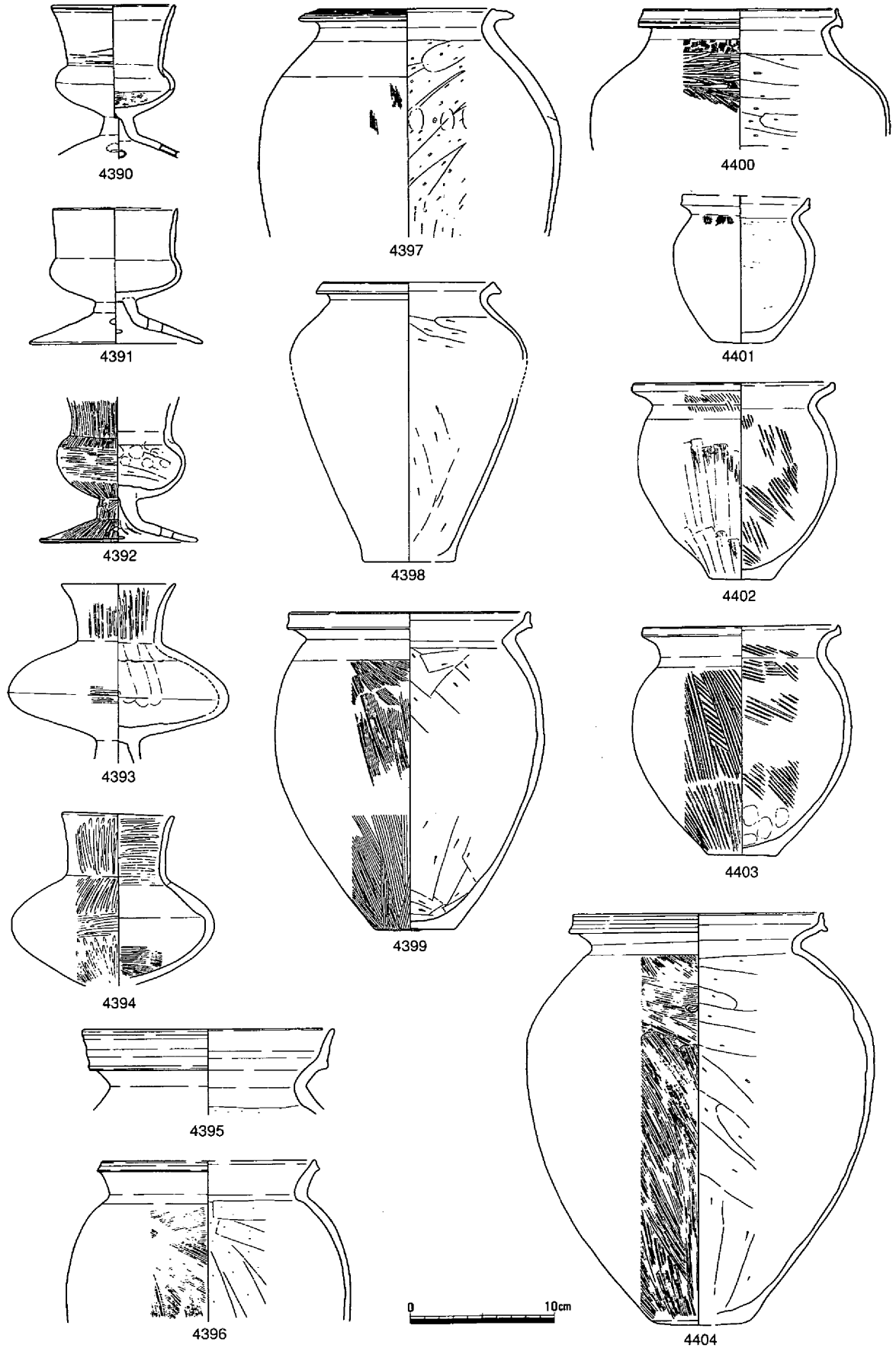
鉢4431は体部が斜め外方に延び口縁端部は丸くおさめている。4432は口縁端部に面をもち、口縁下



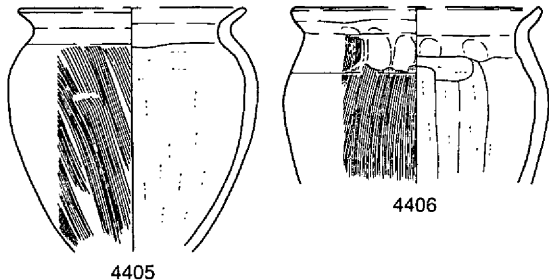
第1191図 遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ① (1/4)



第1192図 遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ② (1/4)

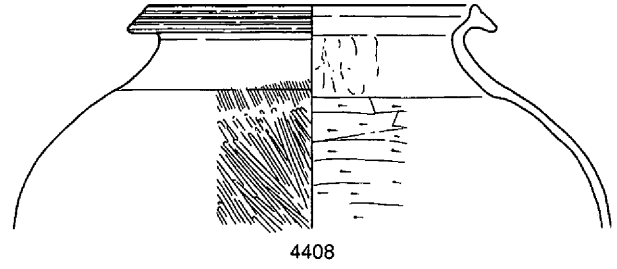


第1193図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）③（1/4）

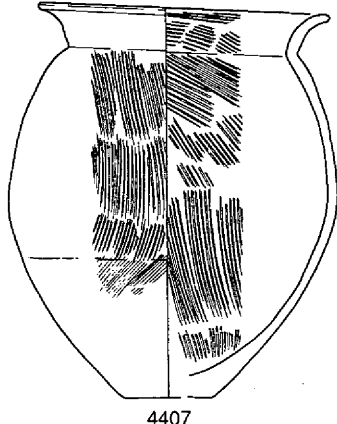


4405

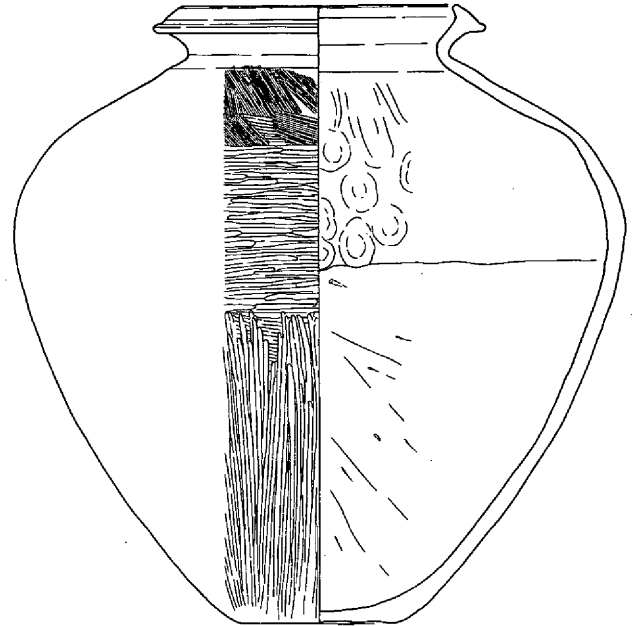
4406



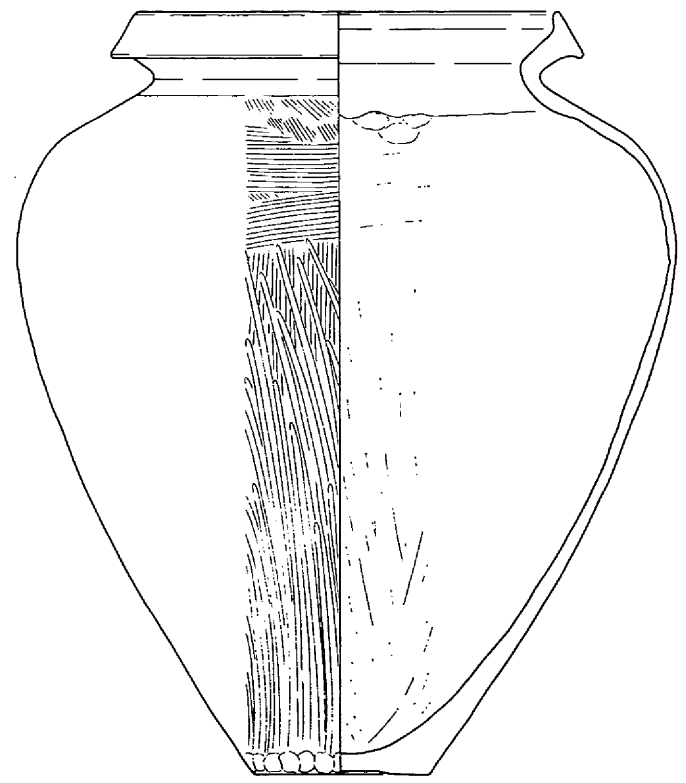
4408



4407



4409

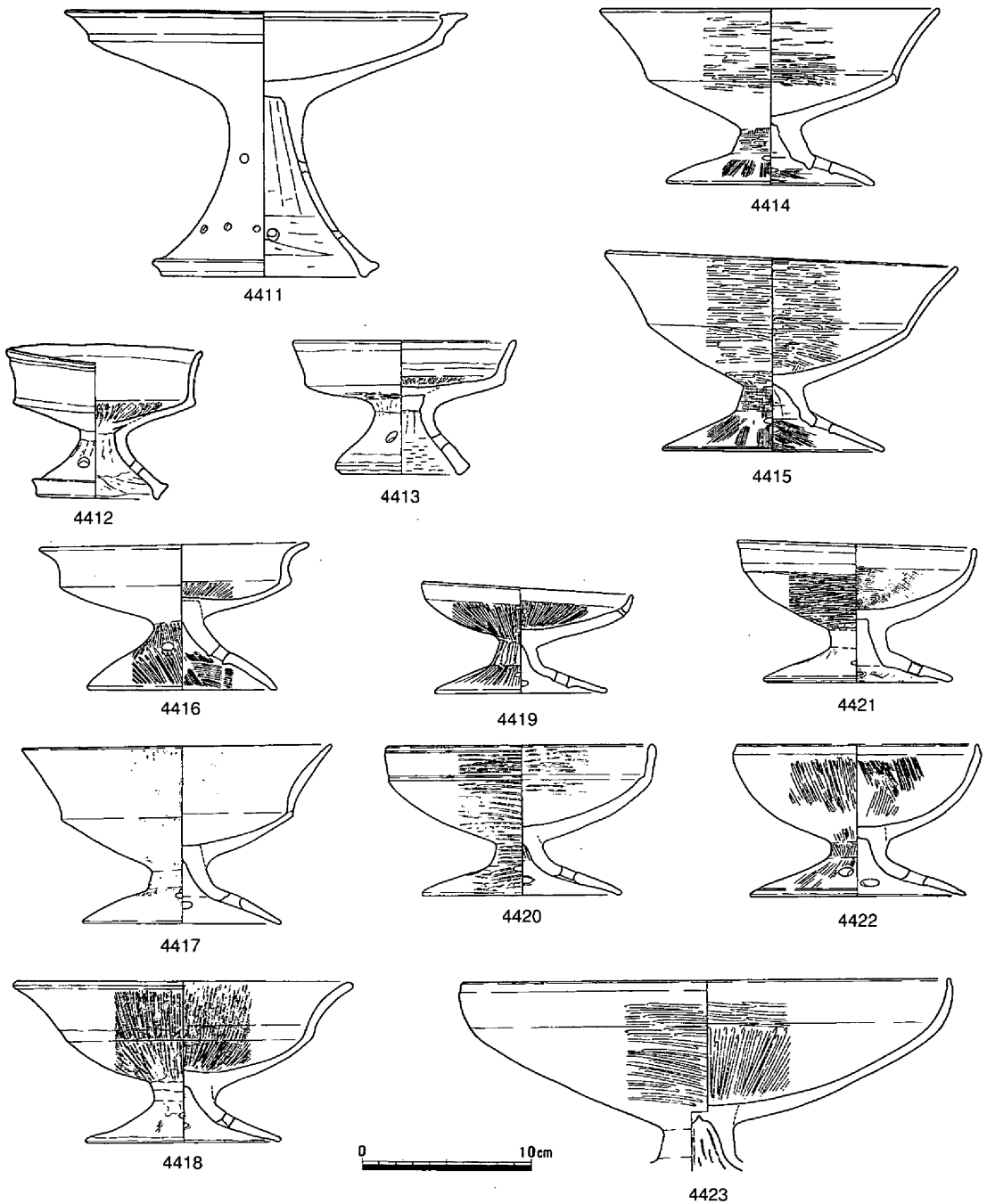


4410

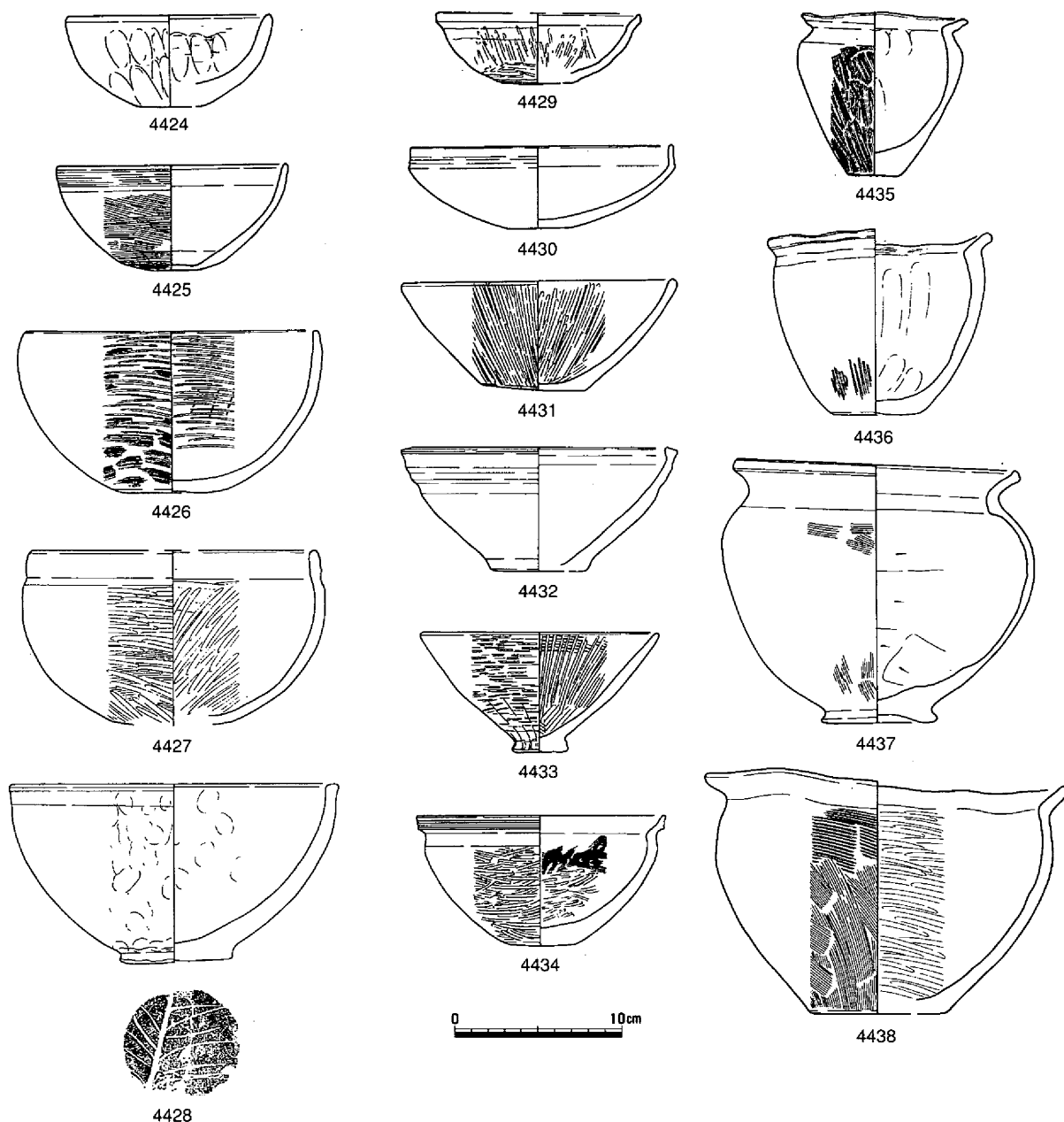
第1194図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）④（1/4）

に凹線が巡る。いずれも後期前半に遡るものと思われる。4424~4428は椀形を呈すもので口径に対し比較的深く、弥・後・IVの範疇のものか。4442の台付鉢には円孔が穿たれている。4446・4447は後世の混入の可能性もある。

器台4451は筒部から緩やかに大きく開く口縁に、端部は内傾気味に立ち上がり、上下に拡張させる。口縁上端は面をもち、下端は丸くおさめる。拡張面には6条の凹線を巡らせ、その上から鋸歯文を配している。緩くカーブする筒部は大きく「ハ」字状に開いて端部は肥厚し、凹部を形成する。筒部には3か所に沈線を巡らせ、裾部には凹線が巡る。また、上下2か所、4方向に長方形の透かしが開けられている。4452は前者に比べやや器高が高く、透かしも円孔で、前者に比べやや古い様相をもつも



第1195図 遺構に伴わない遺物 (弥生時代) ⑤ (1/4)

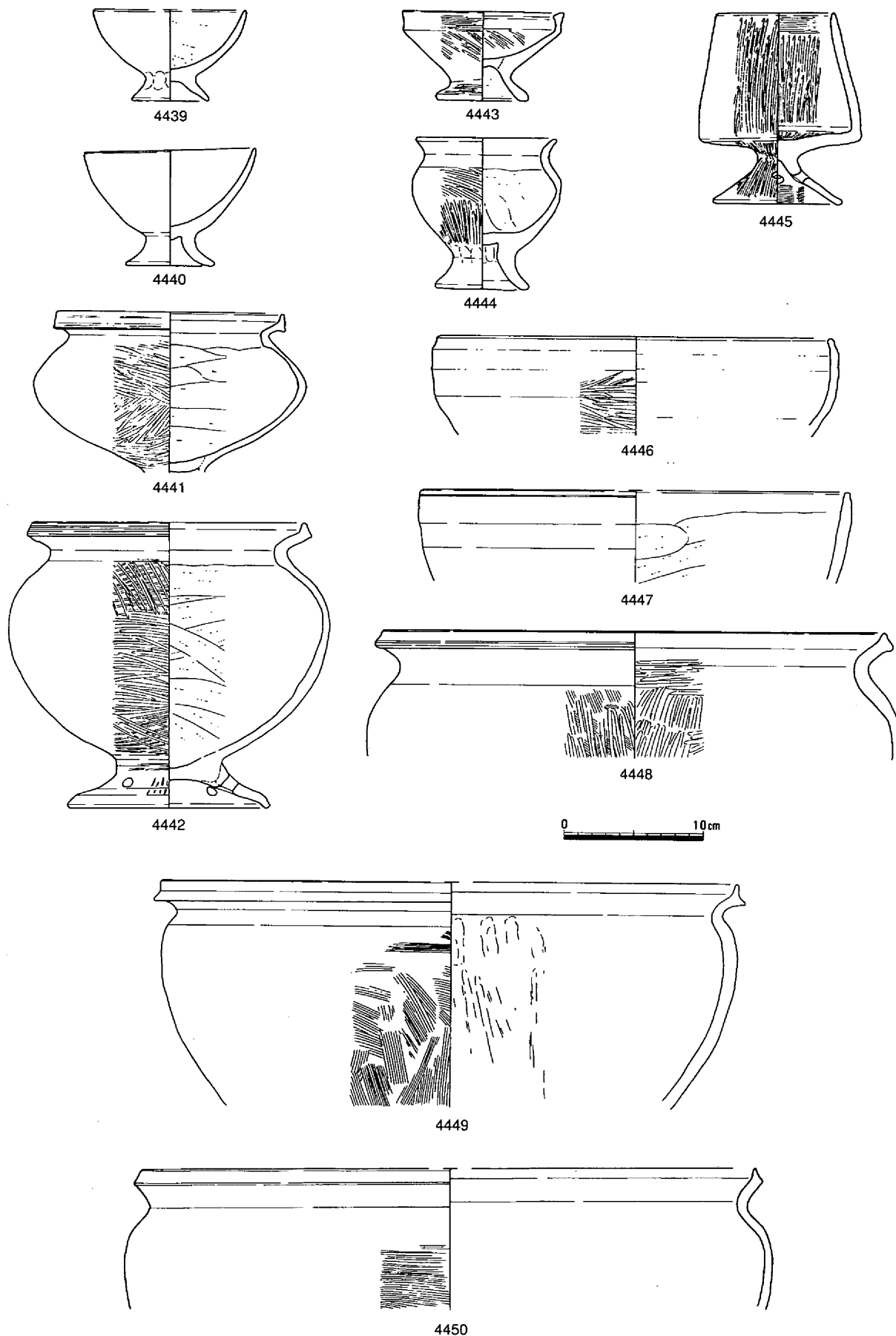


第1196図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑥（1/4）

ののいずれも後期前半と思われる。

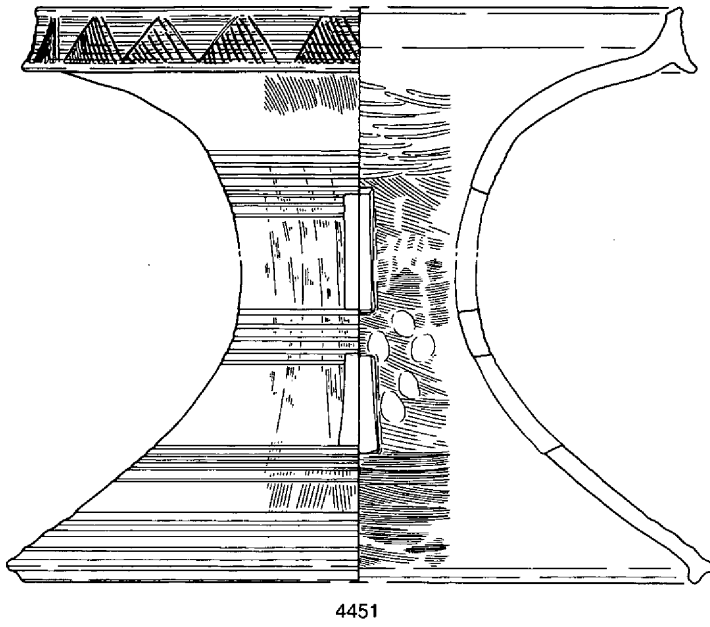
製塩土器4462～4470は外面に縦方向のヘラケズリが顕著で、脚端に面を持つものが多い。また、粘土を充填して底部を形成しており、弥・後・I～IIにかけての特徴をもつものである。

石製品は太型蛤刃石斧S157をはじめ、砥石S158～160、石錐S161～163、石鏃S164～166、石包丁S167～171・173・176、スクレーパーS175・178、楔S174などが出土している。S158は身部上面が滑らかで、石斧が折れた後に磨石として利用されている。S160は砂岩製で、5面の使用痕が認められ、上面には縦方向の細く浅いくぼみが確認された。S164～166はいずれも有茎式で、1.9～3.5gを量る。石包丁S167・170は器表面がよく磨かれている。S174は粘板岩製で、石包丁の未製品か。楔S174は上部および左側が敲打され、下部および右側に刃が付く。なお、石錐？S156は堆積層から弥生時代と判断したが、古墳時代に入る可能性もある。

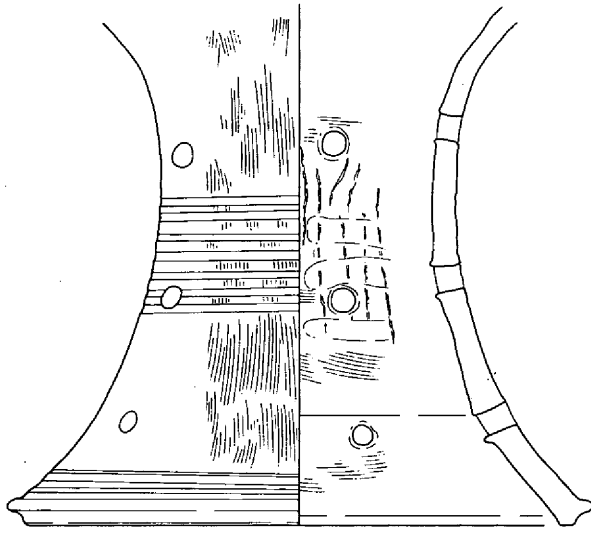


第1197図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑦（1/4）





4451



4452



4462



4453



4456



4459



4463



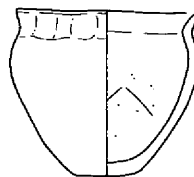
4467



4454



4457



4460



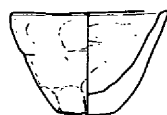
4464



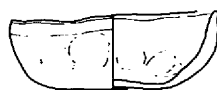
4468



4455



4458



4461



4465



4469



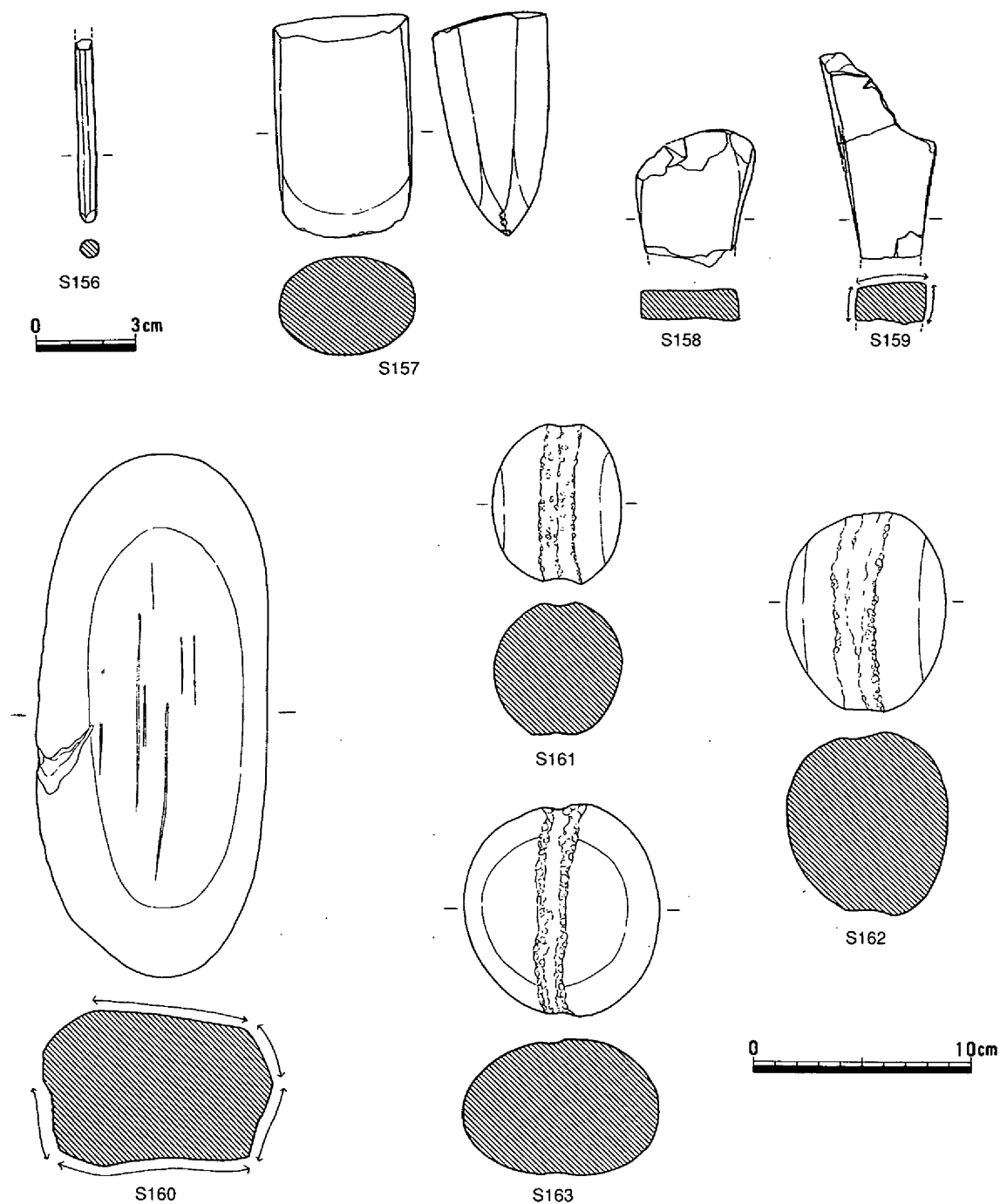
4466



4470



第1198図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑧（1/4）



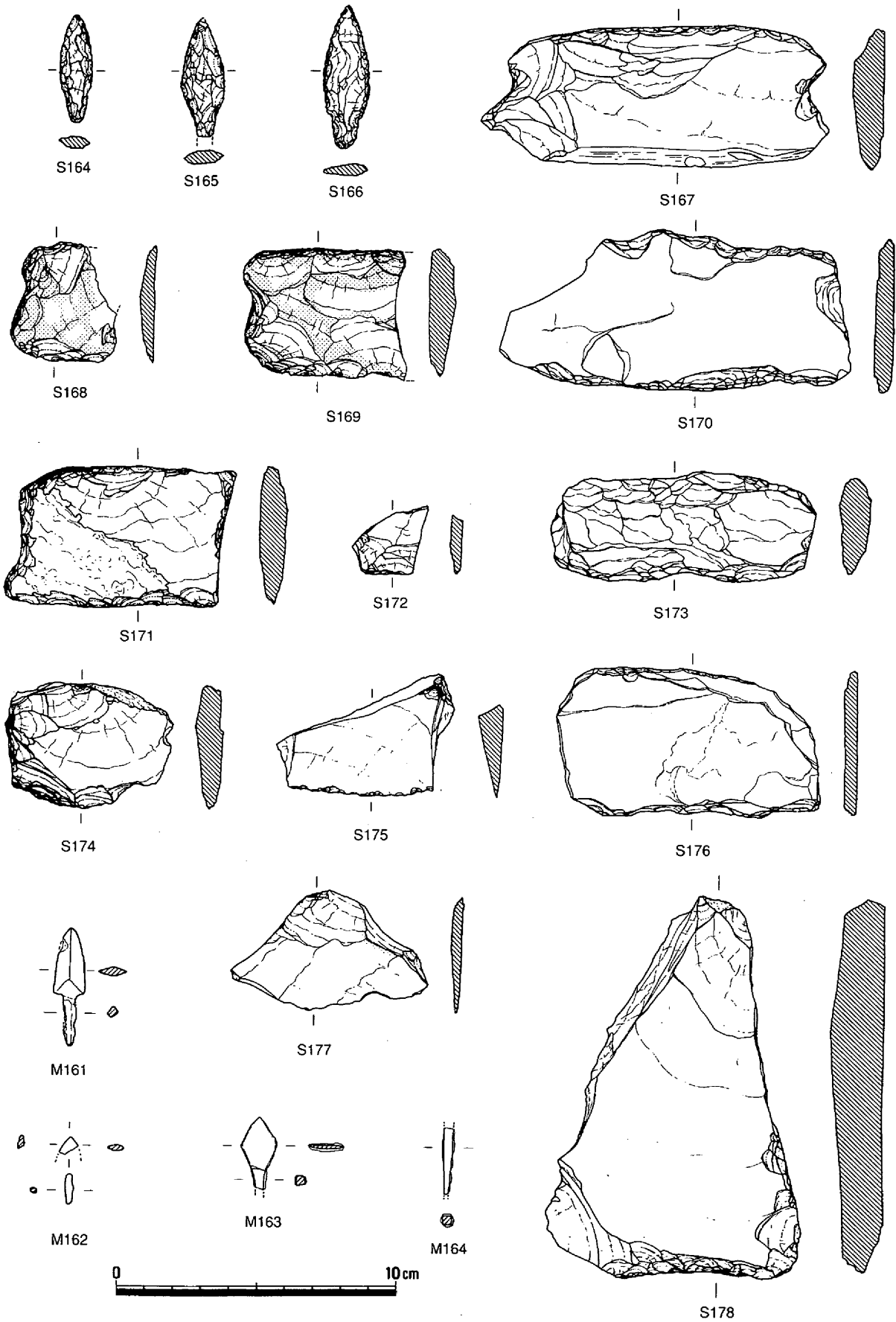
第1199図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑨（1/2,1/3）

金属製品は銅鏃M161・162、鉄鏃M163、銅鐸片M165などが出土している。銅鐸は前述の竪穴住居67の埋没後に掘り込まれた中世の柱穴から出土したものである。M165は鐸身の一部で、上下を区画する2本の突線と、縦方向の突線1本およびその右側に2本目が辛うじて確認される。鐸身中央部の破片と推定され、銅鐸は近畿式の6区画袈裟摺文銅鐸の破片ではないと思われる。

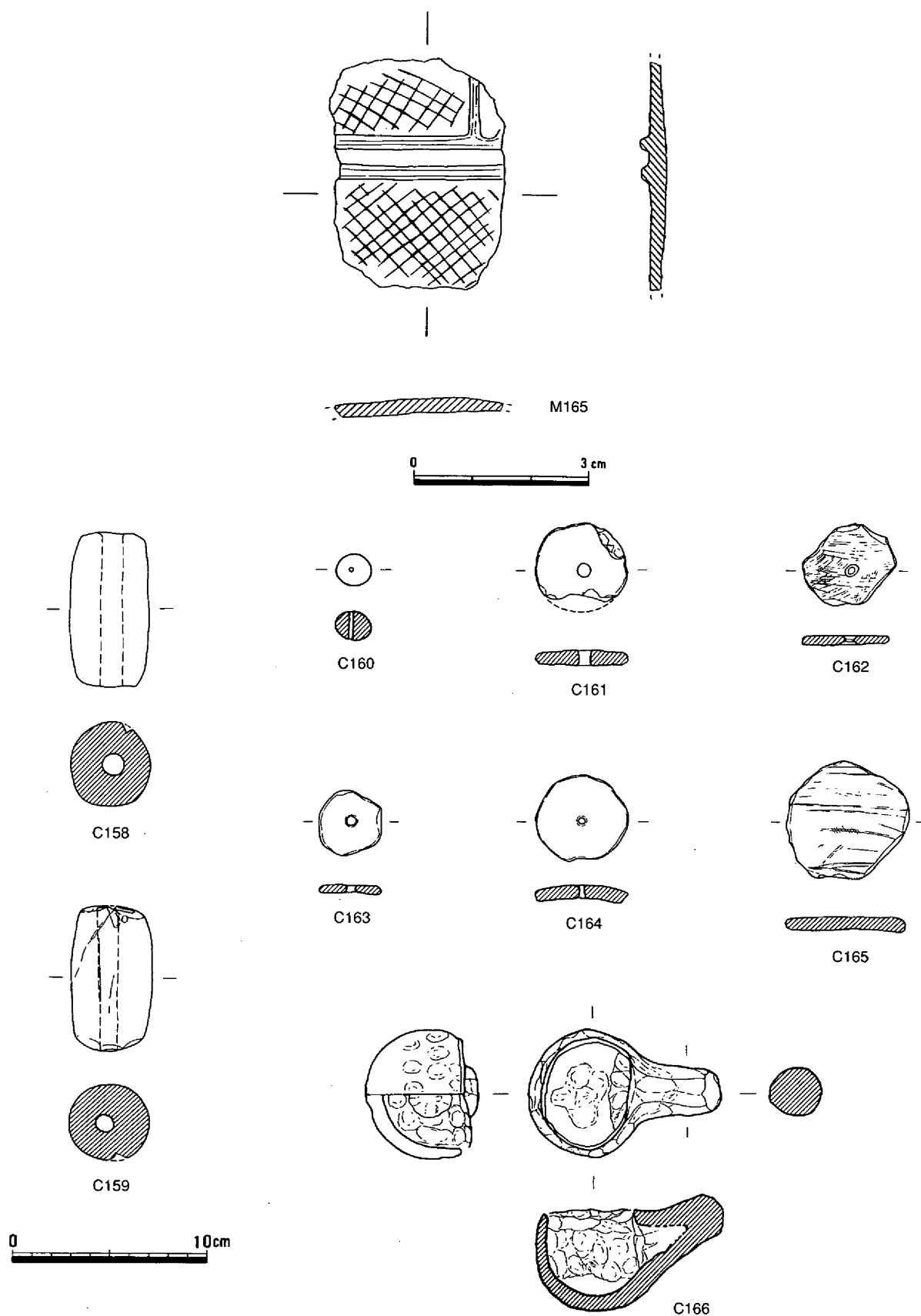
なお、釘M164は弥生時代遺物包含層からの出土であるが混入の可能性が高い。

土製品は土錘C158・159、土玉C160、紡錘車C161～166、把手付椀C166などがあるが、土玉は古墳時代に入る可能性がある。

（江見）



第1200図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑩（1/2）



第1201図 遺構に伴わない遺物（弥生時代）⑪（1/1,1/3）

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第2分冊)

2000年3月16日 印刷

2000年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター

岡山市西花尻1325-3

発 行 岡山県教育委員会

岡山市内山下2-4-6

印 刷 岡山県農協印刷株式会社

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第3分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第3分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

# 第三分冊目次

## 第3章 高塚遺跡

### 第3節 角田調査区

3	古墳時代の遺構と遺物	773
(1)	概要	773
(2)	竪穴住居	779
(3)	掘立柱建物	893
(4)	土壙	894
(5)	溝	899
(6)	河道	900
(7)	柱穴	915
(8)	遺構に伴わない遺物	915
4	古代～中世の遺構と遺物	925
(1)	概要	925
(2)	掘立柱建物	929
(3)	柵列	945
(4)	土壙墓	946
(5)	火葬墓	953
(6)	井戸	953
(7)	土壙	955
(8)	鍛冶炉	965
(9)	溝	966
(10)	土器溜り	969
(11)	窪地	970
(12)	河道	971
(13)	柱穴	985
(14)	遺構に伴わない遺物	990
5	近世の遺構と遺物	997
(1)	概要	998
(2)	素掘溝群	998
第4節	まとめ	999
1	弥生時代の集落変遷	999
2	高塚遺跡フロヤ調査区検出の銅鐸埋納壙とその出土銅鐸について	1003
3	高塚遺跡出土の貨泉について	1017



4	古墳時代の集落について	1032
5	古墳時代中期の土器	1038
6	古代・中世における集落の変遷	1045
<b>第4章</b>	<b>三手遺跡</b>	<b>1051</b>
第1節	調査の概要	1051
1	向原ⅡA区の概要	1051
2	向原ⅡB区の概要	1053
3	向原Ⅲ区の概要	1055
	(1) 下層の遺構と遺物	1055
	(2) 上層の遺構と遺物	1057
第2節	まとめ	1059
<b>付載</b>	<b>自然科学による鑑定・分析</b>	
1	高塚遺跡出土の銅鐸・貨泉・棒状銅製品の鉛同位体比 .....馬淵久夫 平尾良光 榎本淳子 早川泰弘	1063
2	高塚銅鐸の埋納壙内土壌にかかわる顔料物質の微量化学分析 .....安田博幸 金杉直子	1071
3	高塚遺跡出土の銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の分析	白石 純 1075
4	高塚遺跡出土土器の胎土分析	白石 純 1079
5	高塚遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査	大澤正己・鈴木瑞穂 1087
6	高塚遺跡出土の中世人骨について	池田次郎 1131
7	高塚遺跡出土の烏帽子（烏帽子様乾燥遺物）について	・(財)元興寺文化財研究所 1137
8	高塚遺跡の自然科学分析	・パリオ・サーヴェイ株式会社 1151

### 第3章 高塚遺跡

## 図目次

第1202図	角田調査区古墳時代主要遺構全体図 (1/750) …… 774	第1249図	竪穴住居150出土遺物② (1/4) …… 817
第1203図	角田調査区古墳時代主要遺構部分図① (1/300) …… 775	第1250図	竪穴住居151 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 818
第1204図	角田調査区古墳時代主要遺構部分図② (1/300) …… 776	第1251図	竪穴住居152 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 818
第1205図	角田調査区古墳時代主要遺構部分図③ (1/300) …… 777	第1252図	竪穴住居153 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4) …… 819
第1206図	角田調査区古墳時代主要遺構部分図④ (1/300) …… 778	第1253図	竪穴住居154 (1/60) …… 820
第1207図	竪穴住居127 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 779	第1254図	竪穴住居154カマド(1/30)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3) …… 821
第1208図	竪穴住居128 (1/60) …… 780	第1255図	竪穴住居155 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/4) …… 822
第1209図	竪穴住居128出土遺物 (1/4) …… 781	第1256図	竪穴住居155出土遺物② (1/4) …… 823
第1210図	竪穴住居129 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 781	第1257図	竪穴住居156 (1/60)・出土遺物① (1/4) …… 824
第1211図	竪穴住居130 (1/60)・出土遺物① (1/4) …… 782	第1258図	竪穴住居156出土遺物② (1/4,1/3) …… 825
第1212図	竪穴住居130出土遺物② (1/4) …… 783	第1259図	竪穴住居157 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 826
第1213図	竪穴住居131 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 784	第1260図	竪穴住居158 (1/60,1/30) …… 827
第1214図	竪穴住居132 (1/60)・出土遺物① (1/6) …… 784	第1261図	竪穴住居158出土遺物 (1/4,1/3) …… 828
第1215図	竪穴住居132出土遺物② (1/4) …… 785	第1262図	竪穴住居159 (1/60) …… 829
第1216図	竪穴住居132出土遺物③ (1/4) …… 786	第1263図	竪穴住居159カマド (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4) …… 830
第1217図	竪穴住居132出土遺物④ (1/6) …… 787	第1264図	竪穴住居160 (1/60)・出土遺物① (1/3) …… 831
第1218図	竪穴住居133 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4) …… 788	第1265図	竪穴住居160出土遺物② (1/4) …… 832
第1219図	竪穴住居134 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 789	第1266図	竪穴住居160出土遺物③ (1/4) …… 833
第1220図	竪穴住居135 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 790	第1267図	竪穴住居160出土遺物④ (1/4,1/3) …… 834
第1221図	竪穴住居136 (1/60) …… 790	第1268図	竪穴住居161 (1/60) …… 835
第1222図	竪穴住居136出土遺物 (1/4,1/3) …… 791	第1269図	竪穴住居161カマド (1/30)・出土遺物① (1/4) …… 836
第1223図	竪穴住居137 (1/60) …… 792	第1270図	竪穴住居161出土遺物② (1/4) …… 837
第1224図	竪穴住居137出土遺物 (1/4) …… 793	第1271図	竪穴住居162 (1/60) …… 837
第1225図	竪穴住居138 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3) …… 794	第1272図	竪穴住居162カマド (1/30)・出土遺物 (1/4) …… 838
第1226図	竪穴住居138出土遺物② (1/4) …… 795	第1273図	竪穴住居163 (1/60,1/30) …… 839
第1227図	竪穴住居139 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 796	第1274図	竪穴住居163出土遺物 (1/4,1/1,1/3) …… 840
第1228図	竪穴住居140 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1) …… 797	第1275図	竪穴住居164カマド (1/30)・出土遺物 (1/4) …… 841
第1229図	竪穴住居140出土遺物② (1/4) …… 798	第1276図	竪穴住居165 (1/60) …… 842
第1230図	竪穴住居141 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3) …… 799	第1277図	竪穴住居165出土遺物 (1/4,1/3) …… 843
第1231図	竪穴住居141出土遺物② (1/4) …… 800	第1278図	竪穴住居166 (1/60,1/30) …… 844
第1232図	竪穴住居142 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3) …… 801	第1279図	竪穴住居166出土遺物 (1/4) …… 845
第1233図	竪穴住居142 (1/60)・出土遺物② (1/4,1/1) …… 802	第1280図	竪穴住居167カマド (1/30) …… 845
第1234図	竪穴住居143 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1) …… 803	第1281図	竪穴住居168 (1/60) …… 846
第1235図	竪穴住居143出土遺物② (1/4) …… 804	第1282図	竪穴住居168カマド (1/30)・出土遺物① (1/4) …… 847
第1236図	竪穴住居144 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3,1/1) …… 805	第1283図	竪穴住居168出土遺物② (1/4) …… 848
第1237図	竪穴住居144出土遺物② (1/4) …… 806	第1284図	竪穴住居169 (1/60) …… 849
第1238図	竪穴住居145① (1/60) …… 807	第1285図	竪穴住居169カマド (1/30)・出土遺物① (1/4) …… 850
第1239図	竪穴住居145② (1/60)・出土遺物① (1/3) …… 808	第1286図	竪穴住居169出土遺物② (1/4,1/3) …… 851
第1240図	竪穴住居145出土遺物② (1/4) …… 809	第1287図	竪穴住居169出土遺物③ (1/2,1/3) …… 852
第1241図	竪穴住居146 (1/60,1/30) …… 810	第1288図	竪穴住居170 (1/60) …… 852
第1242図	竪穴住居146出土遺物 (1/4) …… 811	第1289図	竪穴住居170カマド (1/30)・出土遺物 (1/4) …… 853
第1243図	竪穴住居147 (1/60)・出土遺物 (1/4) …… 812	第1290図	竪穴住居171 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/1) …… 854
第1244図	竪穴住居148 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3) …… 813	第1291図	竪穴住居171出土遺物② (1/4) …… 855
第1245図	竪穴住居148出土遺物② (1/4) …… 814	第1292図	竪穴住居171出土遺物③ (1/4) …… 856
第1246図	竪穴住居149 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/4) …… 815	第1293図	竪穴住居172 (1/60,1/30) …… 857
第1247図	竪穴住居149出土遺物② (1/4) …… 816	第1294図	竪穴住居172出土遺物① (1/4) …… 858
第1248図	竪穴住居150 (1/60)・出土遺物① (1/3) …… 816	第1295図	竪穴住居172出土遺物② (1/4,1/3) …… 859

第1296図	竪穴住居173 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	860	第1346図	土壇433・434 (1/30) ……	897
第1297図	竪穴住居174 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/2) ……	861	第1347図	土壇435 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	897
第1298図	竪穴住居174出土遺物② (1/4) ……	862	第1348図	土壇436 (1/30) ……	897
第1299図	竪穴住居174出土遺物③ (1/4) ……	863	第1349図	土壇437 (1/30) ……	898
第1300図	竪穴住居175 (1/60) ……	864	第1350図	土壇438 (1/30) ……	898
第1301図	竪穴住居175カマド(1/30)・出土遺物(1/1,1/3,1/4) ……	865	第1351図	土壇439 (1/30) ……	898
第1302図	竪穴住居176 (1/60,1/30) ……	865	第1352図	土壇440 (1/30) ……	898
第1303図	竪穴住居176出土遺物 (1/4) ……	866	第1353図	土壇441 (1/30) ……	898
第1304図	竪穴住居177 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	866	第1354図	土壇442 (1/30) ……	898
第1305図	竪穴住居178 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4) ……	867	第1355図	溝39 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	899
第1306図	竪穴住居179 (1/60) ……	868	第1356図	溝40 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	899
第1307図	竪穴住居179カマド(1/30)・出土遺物①(1/3,1/1) ……	869	第1357図	溝41 (1/30) ……	900
第1308図	竪穴住居179出土遺物② (1/4) ……	870	第1358図	溝42 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	900
第1309図	竪穴住居179出土遺物③ (1/4) ……	871	第1359図	河道7 (1/60) ……	901
第1310図	竪穴住居180 (1/60) ……	871	第1360図	河道7下層出土遺物① (1/4) ……	902
第1311図	竪穴住居180出土遺物 (1/4) ……	872	第1361図	河道7下層出土遺物② (1/4) ……	903
第1312図	竪穴住居181 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	872	第1362図	河道7下層出土遺物③ (1/4) ……	904
第1313図	竪穴住居182 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3) ……	873	第1363図	河道7下層出土遺物④ (1/4) ……	905
第1314図	竪穴住居183・184 (1/60) ……	874	第1364図	河道7下層出土遺物⑤ (1/4) ……	906
第1315図	竪穴住居183出土遺物 (1/4,1/1) ……	875	第1365図	河道7下層出土遺物⑥ (1/4) ……	907
第1316図	竪穴住居184カマド(1/30)・出土遺物①(1/1,1/3) ……	875	第1366図	河道7下層出土遺物⑦ (1/2) ……	907
第1317図	竪穴住居184出土遺物② (1/4) ……	876	第1367図	河道7中層出土遺物 (1/4) ……	908
第1318図	竪穴住居184出土遺物③ (1/4) ……	877	第1368図	河道7上層出土遺物① (1/4) ……	909
第1319図	竪穴住居184出土遺物④ (1/4) ……	878	第1369図	河道7上層出土遺物② (1/4) ……	910
第1320図	竪穴住居185 (1/60,1/30) ……	879	第1370図	河道7上層出土遺物③ (1/4) ……	911
第1321図	竪穴住居185出土遺物 (1/4) ……	880	第1371図	河道7上層出土遺物④ (1/4,1/3) ……	912
第1322図	竪穴住居186 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) ……	881	第1372図	河道7出土遺物① (1/4) ……	913
第1323図	竪穴住居187 (1/60) ……	881	第1373図	河道7出土遺物② (1/4,1/3) ……	914
第1324図	竪穴住居187カマド (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4) ……	882	第1374図	柱穴75～80出土遺物 (1/4,1/3) ……	915
第1325図	竪穴住居188 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3) ……	883	第1375図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)① (1/4,1/3) ……	916
第1326図	竪穴住居188出土遺物② (1/4) ……	884	第1376図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)② (1/4) ……	917
第1327図	竪穴住居189 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	885	第1377図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)③ (1/4) ……	918
第1328図	竪穴住居190 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1) ……	886	第1378図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)④ (1/4) ……	919
第1329図	竪穴住居190出土遺物② (1/4) ……	887	第1379図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)⑤ (1/4) ……	920
第1330図	竪穴住居191 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1) ……	888	第1380図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)⑥ (1/4) ……	921
第1331図	竪穴住居191出土遺物② (1/4) ……	889	第1381図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)⑦ (1/4) ……	922
第1332図	竪穴住居191出土遺物③ (1/3) ……	890	第1382図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)⑧ (1/4) ……	923
第1333図	竪穴住居190・191出土遺物① (1/4) ……	890	第1383図	遺構に伴わない遺物(古墳時代)⑨ (1/3) ……	924
第1334図	竪穴住居190・191出土遺物② (1/3) ……	891	第1384図	角田調査区古代～中世主要遺構全体図 (1/750) ……	926
第1335図	竪穴住居192出土遺物 (1/4) ……	891	第1385図	角田調査区古代～中世主要遺構部分図①(1/300) ……	927
第1336図	竪穴住居192・193 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	892	第1386図	角田調査区古代～中世主要遺構部分図②(1/300) ……	928
第1337図	掘立柱建物54 (1/60) ……	893	第1387図	掘立柱建物55 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	929
第1338図	土壇425 (1/40)・出土遺物 (1/4) ……	894	第1388図	掘立柱建物56 (1/60) ……	930
第1339図	土壇426 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	895	第1389図	掘立柱建物57 (1/60) ……	931
第1340図	土壇427 (1/30) ……	895	第1390図	掘立柱建物58 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	932
第1341図	土壇428 (1/30) ……	895	第1391図	掘立柱建物59 (1/60) ……	933
第1342図	土壇429 (1/30) ……	895	第1392図	掘立柱建物60 (1/60) ……	933
第1343図	土壇430 (1/30)・出土遺物 (1/4) ……	896	第1393図	掘立柱建物61 (1/60) ……	934
第1344図	土壇431 (1/60)・出土遺物 (1/4) ……	896	第1394図	掘立柱建物62 (1/60) ……	935
第1345図	土壇432 (1/30) ……	896	第1395図	掘立柱建物63 (1/60) ……	936

第1396図	掘立柱建物64 (1/60) .....	937
第1397図	掘立柱建物65 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	398
第1398図	掘立柱建物66 (1/60) .....	939
第1399図	掘立柱建物67 (1/60) .....	939
第1400図	掘立柱建物68 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	940
第1401図	掘立柱建物69 (1/60) .....	941
第1402図	掘立柱建物70 (1/60) .....	941
第1403図	掘立柱建物71 (1/60) .....	942
第1404図	掘立柱建物72 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	942
第1405図	掘立柱建物73 (1/60)・出土遺物 (1/4) .....	943
第1406図	掘立柱建物74 (1/60) .....	944
第1407図	掘立柱建物75 (1/60) .....	944
第1408図	掘立柱建物76 (1/60) .....	945
第1409図	欄列 1 (1/60) .....	945
第1410図	土墳墓 8 (1/30) .....	946
第1411図	土墳墓 9 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	946
第1412図	土墳墓10 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4) .....	947
第1413図	土墳墓11 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	947
第1414図	土墳墓12 (1/30) .....	948
第1415図	土墳墓13 (1/30) .....	948
第1416図	土墳墓14 (1/30) .....	948
第1417図	土墳墓15 (1/30) .....	948
第1418図	土墳墓16 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	949
第1419図	土墳墓18 (1/30)・出土遺物① (1/4) .....	949
第1420図	土墳墓18出土遺物② (1/3) .....	950
第1421図	土墳墓19 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	950
第1422図	土墳墓20 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	950
第1423図	土墳墓21 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4,1/3) .....	951
第1424図	土墳墓22 (1/30) .....	952
第1425図	土墳墓23 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	952
第1426図	土墳墓24 (1/30) .....	952
第1427図	土墳墓25 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	953
第1428図	火葬墓 1 出土遺物 (1/4) .....	953
第1429図	井戸 6 (1/40) .....	954
第1430図	井戸 6 出土遺物 (1/4) .....	955
第1431図	土壇43 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	955
第1432図	土壇44 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	955
第1433図	土壇45 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	956
第1434図	土壇46 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	957
第1435図	土壇47 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	957
第1436図	土壇48 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	958
第1437図	土壇49～453 (1/30)・出土遺物① (1/3) .....	958
第1438図	土壇49～453出土遺物② (1/4) .....	959
第1439図	土壇454 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	960
第1440図	土壇455 (1/30) .....	960
第1441図	土壇456 (1/30) .....	960
第1442図	土壇457 (1/30) .....	960
第1443図	土壇458 (1/30) .....	960
第1444図	土壇459 (1/30) .....	961
第1445図	土壇460 (1/30)・出土遺物 (1/3) .....	961

第1446図	土壇461 (1/30) .....	961
第1447図	土壇462 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	961
第1448図	土壇463 (1/30) .....	962
第1449図	土壇464 (1/30) .....	962
第1450図	土壇465 (1/30) .....	962
第1451図	土壇466 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	962
第1452図	土壇467 (1/30) .....	962
第1453図	土壇468 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	963
第1454図	土壇469 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	963
第1455図	土壇470 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	964
第1456図	土壇471 (1/30) .....	964
第1457図	土壇472 (1/30)・出土遺物 (1/4) .....	964
第1458図	土壇473 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	965
第1459図	鍛冶炉 1 (1/30) .....	965
第1460図	溝43～46 (1/60)・出土遺物① (1/4,1/3) .....	966
第1461図	溝43～46出土遺物② (1/4,1/3) .....	967
第1462図	溝47・48 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3) .....	968
第1463図	溝49 (1/30) .....	969
第1464図	土器溜り 6 出土遺物 (1/4) .....	969
第1465図	窪地 5 出土遺物 (1/4,1/2,1/3) .....	970
第1466図	窪地 6・7 (1/60) 出土遺物 (1/4,1/3) .....	971
第1467図	河道 8 (1/80)・出土遺物 (1/4) .....	972
第1468図	河道 9① (1/80)・上層出土遺物 (1/3,1/4) .....	972
第1469図	河道 9② (1/60) .....	973
第1470図	河道 9 下層出土遺物 (1/4,1/3) .....	973
第1471図	河道 9 出土遺物① (1/4) .....	974
第1472図	河道 9 出土遺物② (1/4) .....	975
第1473図	河道 9 出土遺物③ (1/4) .....	976
第1474図	河道 9 出土遺物④ (1/4) .....	977
第1475図	河道 9 出土遺物⑤ (1/4) .....	978
第1476図	河道 9 出土遺物⑥ (1/4) .....	979
第1477図	河道 9 出土遺物⑦ (1/4) .....	980
第1478図	河道 9 出土遺物⑧ (1/4,1/3) .....	981
第1479図	河道 9 中層出土遺物① (1/4) .....	982
第1480図	河道 9 中層出土遺物② (1/4) .....	983
第1481図	河道 9 中層出土遺物③ (1/4) .....	984
第1482図	河道 9 中層出土遺物④ (1/4) .....	985
第1483図	河道 9 中層出土遺物⑤ (1/4,1/3) .....	986
第1484図	柱穴81～94出土遺物 (1/4,1/3) .....	987
第1485図	柱穴95～107出土遺物 (1/4) .....	988
第1486図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ① (1/4) .....	989
第1487図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ② (1/4) .....	990
第1488図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ③ (1/4) .....	991
第1489図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ④ (1/4) .....	992
第1490図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑤ (1/4) .....	993
第1491図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑥ (1/4) .....	994
第1492図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑦ (1/3,1/2) .....	995
第1493図	遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑧ (1/3) .....	996
第1494図	角田調査区近世主要遺構全体図 (1/750) .....	997
第1495図	素掘溝群 2 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/3) .....	998

第1496図	弥生時代主要遺構変遷図	1000
第1497図	高塚銅鐸・妹銅鐸出土地周辺遺跡分布図 (1/150,000)	1010
第1498図	袋状土壙と竪穴住居35 (1/100)	1017
第1499図	竪穴住居の時期別規模	1032
第1500図	竪穴住居の配置 (1/2,000)	1033

第1501図	カマド	1034
第1502図	土師器壺・甕・高杯の分類 (1/12)	1039
第1503図	竪穴住居出土の主な須恵器・軟質土器・模倣土器 (1/12)	1043
第1504図	中世遺構の配置	1047~1048

## 表目次

表5	竪穴住居推移表	1002
表6	吉備地域出土銅鐸ならびに銅鐸形銅製品・土製品 一覧表	1009
表7	迷路派流水文銅鐸一覧表	1009

表8	高塚遺跡出土「貨泉」一覧表	1020
表9	日本出土「貨泉」(弥生時代) 一覧表	1030~1031
表10	竪穴住居と土師器の類型	1040

## 写真目次

写真10	角田調査区竪穴住居作業風景 (西から)	773
写真11	角田調査区竪穴住居132の遺物出土状況 (東から)	773
写真12	角田調査区井戸6作業風景 (西から)	925

写真13	角田調査区建物群調査風景 (西から)	925
写真14	角田調査区近世遺構調査風景 (西から)	998

## 第4章 三手遺跡

## 図目次

第1図	発掘調査位置図 (1/2,000)	1051
第2図	向原ⅡA区平断面図 (平面1/300・断面横1/300,縦1/60)	1052
第3図	向原ⅡA区出土遺物 (1/4)	1052
第4図	向原ⅡB区平断面図 (平面1/300・断面横1/300,縦1/60)	1053
第5図	向原ⅡB区出土遺物 (1/4)	1054

第6図	下層遺構配置図および断面 (1/300,1/30,1/100)	1055
第7図	基本層序 (1/30)	1055
第8図	溝1 (1/40)	1056
第9図	上層遺構配置図および断面 (1/300,1/100)	1057
第10図	向原Ⅲ区出土遺物① (1/4)	1058
第11図	向原Ⅲ区出土遺物② (1/3,1/2)	1059

## 写真目次

写真1	溝1 (東から)	1056
-----	----------	------

写真2	上層溝群 (東から)	1057
-----	------------	------

## 表目次

表1	向原ⅡA区土器観察表	1053
表2	向原ⅡB区土器観察表	1054

表3	向原Ⅲ区土器観察表	1058
表4	向原Ⅲ区土製品一覧表	1059

### 3 古墳時代の遺構と遺物

#### (1) 概要

調査区の古墳時代の遺構は、南北を河道にはさまれた微高地上の中央部より東に多く、西半部ではやや薄くなる。内訳は竪穴住居66軒、掘立柱建物1棟、土壇7基、溝4条、河道2条、柱穴などがある。なかでも竪穴住居は前期に属するもの5軒、中期に属するもの51軒、後期に属するもの10軒と圧倒的に中期の住居が多く、また調査地内にまんべんなく広がるのに対して前期の住居は西半部に、後期の住居は東半に片寄る傾向にある。そのうち中・後期では大半が造り付けのカマドをもち、なかには小型で平面形が長方形を呈する住居やコーナー部分にカマドを付設した住居もある。

出土遺物には須恵器、土師器などの土器類、鉄製農工具、耳環など金属器、玉類、石製模造品や砥石などの石器、羽口、土錘、獣形などの土製品、鉄滓がある。とりわけ河道出土の刻骨、住居跡から一括出土した韓式系土器や初期須恵器、還元焰焼成の土師器、須恵器形態の土師器など中期を中心とした遺物に注目すべきものがある。

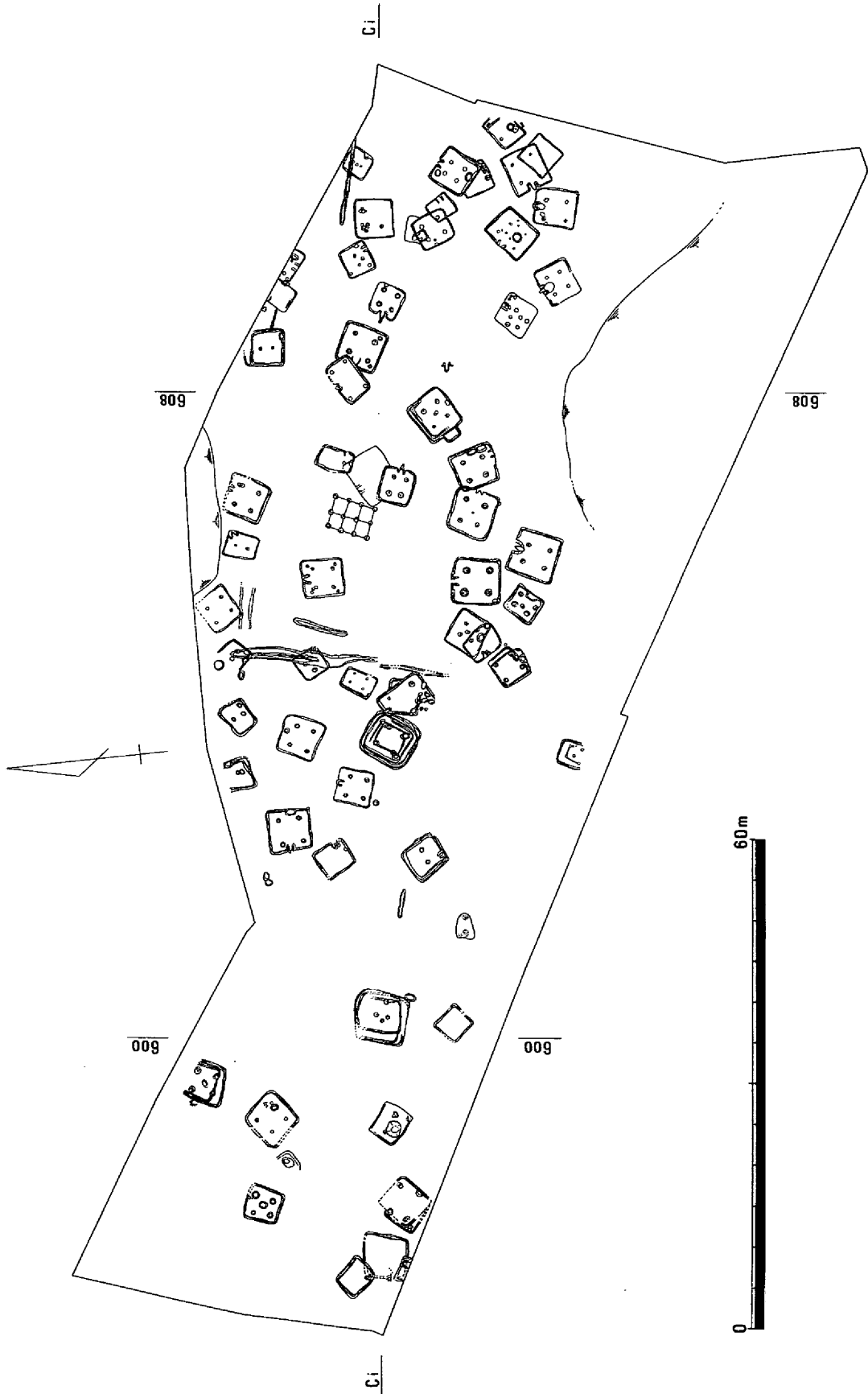
(弘田)



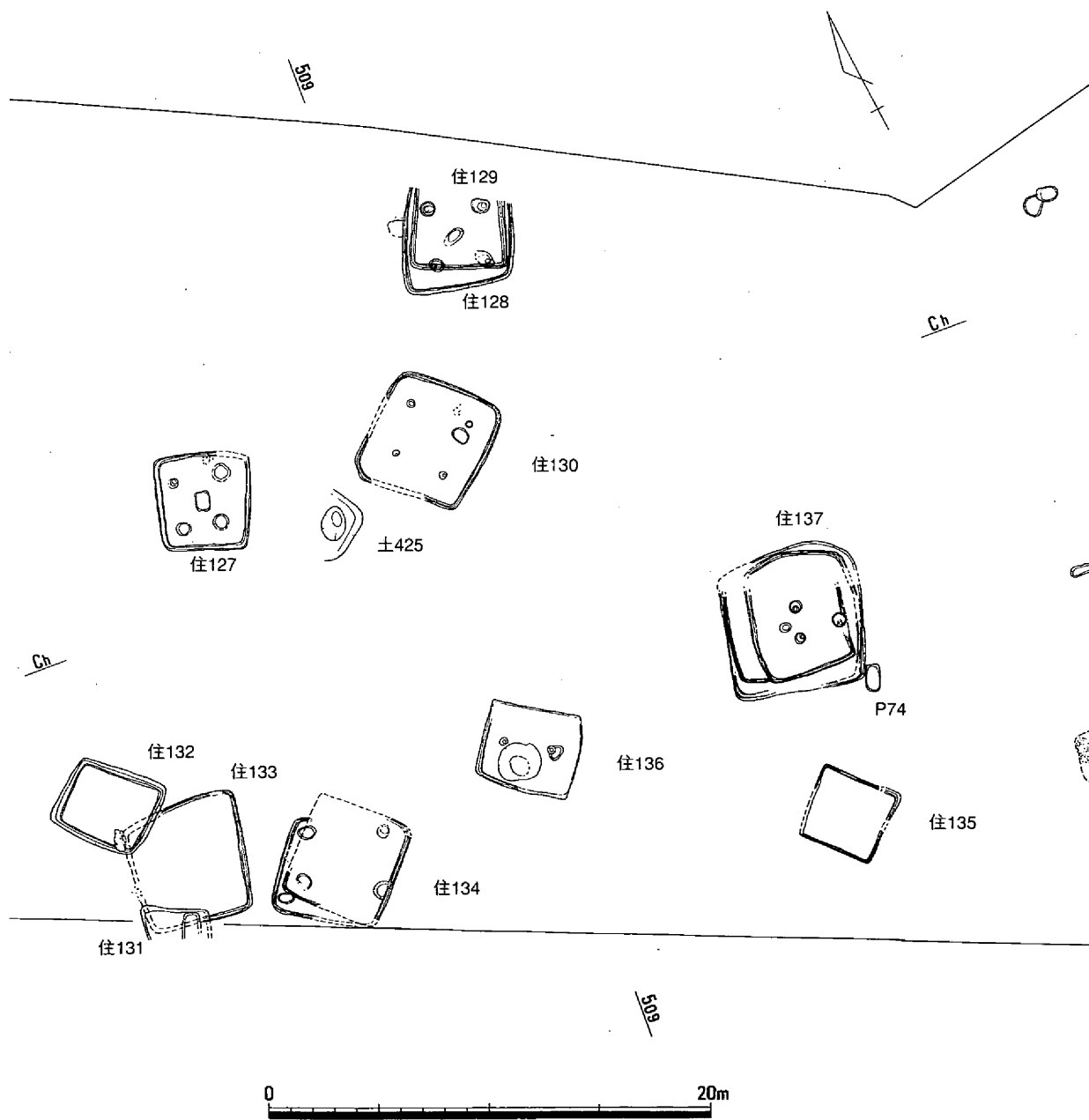
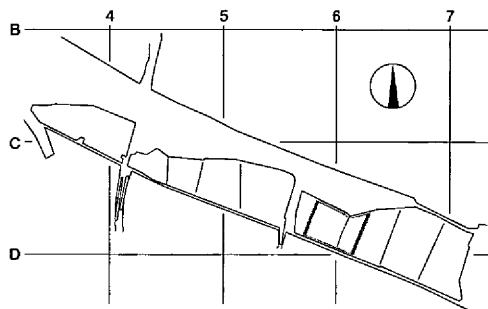
写真10 角田調査区竪穴住居  
作業風景（西から）



写真11 角田調査区竪穴住居  
132の遺物出土状況（東から）



第1202図 角田調査区古墳時代主要遺構全体図 (1750)

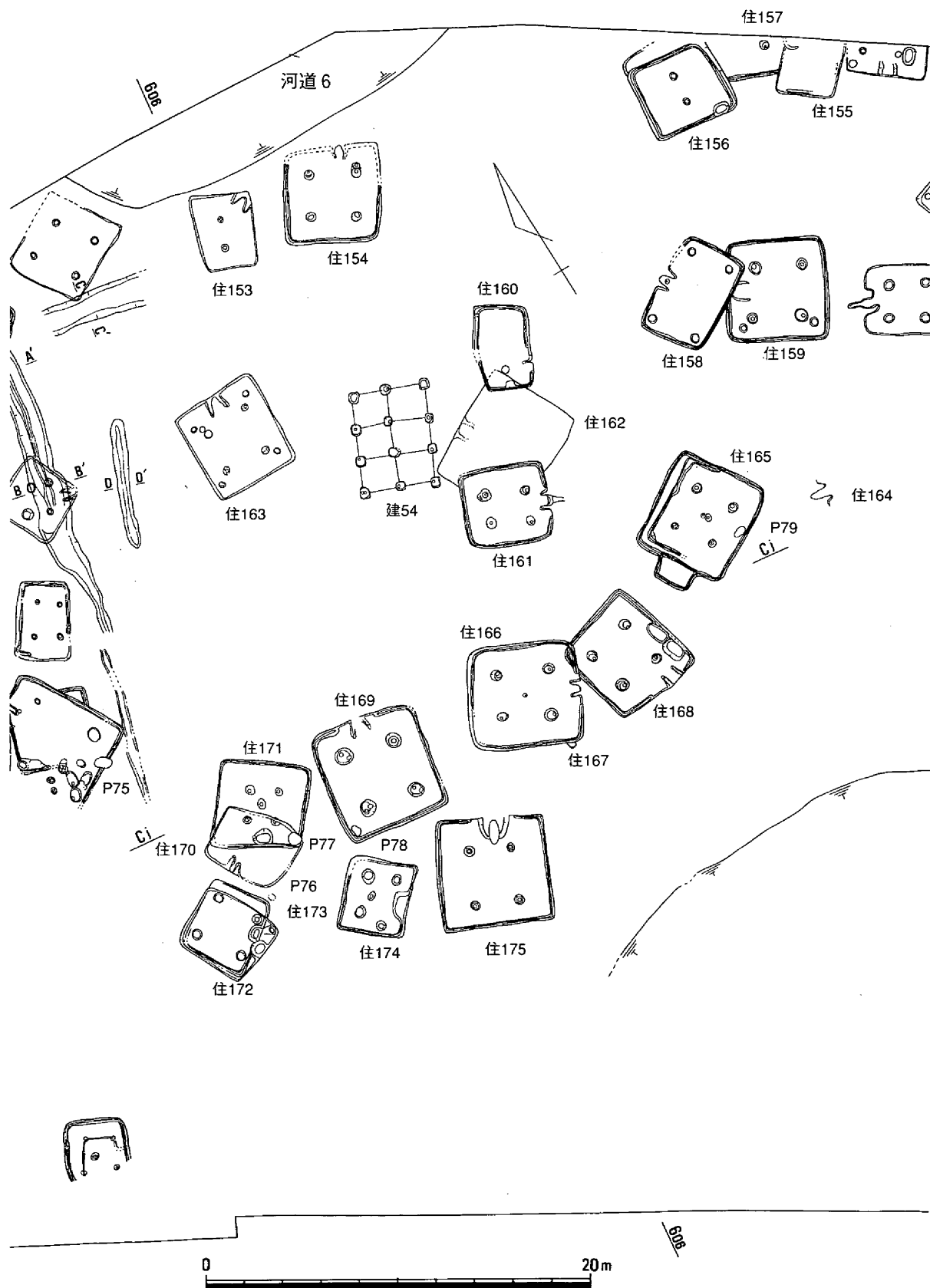


第1203図 角田調査区古墳時代主要遺構部分図① (1/300)

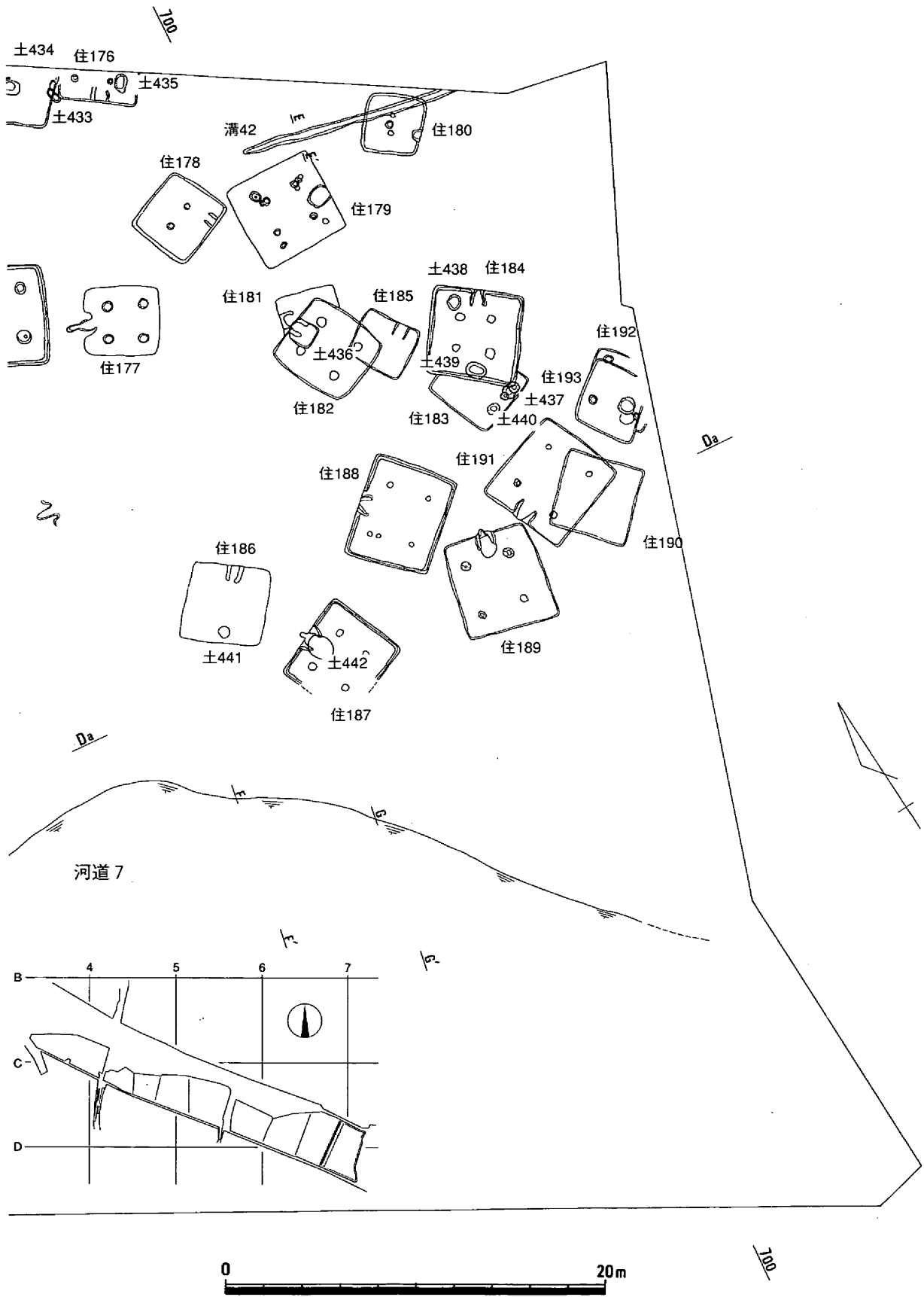




第1204図 角田調査区古墳時代主要遺構部分図② (1/300)



第1205図 角田調査区古墳時代主要遺構部分図③ (1/300)



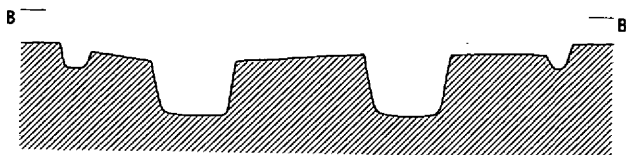
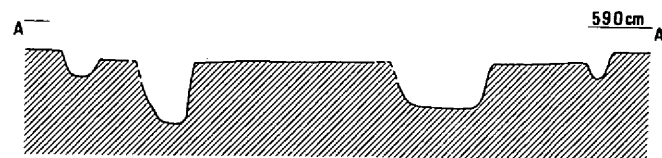
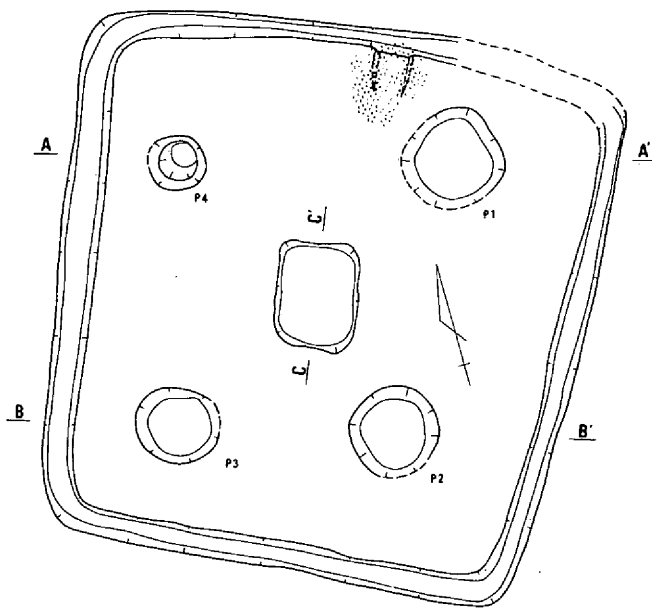
第1206図 角田調査区古墳時代主要遺構部分図④ (1/300)

## (2) 竪穴住居

### 竪穴住居127 (第1203・1207図、図版52)

Cg 5 08区で検出した方形の竪穴住居である。規模は、長さ431cm、幅417cm、深さ9cmを測ることができる。長軸の向きは、N-24°-Eである。床面積は、17.0m<sup>2</sup>になる。床面の標高は、561cmである。支柱穴は4本で、柱間は171~225cmを測る。中央穴と考えられる長方形の浅い掘り込みが検出されている。また、北の壁中央部に浅い溝状のくぼみが認められるが、カマドの残痕の可能性もある。遺物は、2点出土している。4471は、製塩土器の口縁部である。外面には平行タタキが上部に施されている。4472は、土師器の甑の把手である。

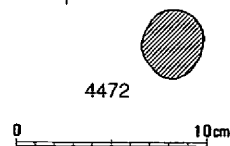
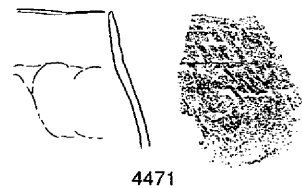
遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古墳時代後期であろう。 (浅倉)



### 竪穴住居128 (第1203・1208・1209図、図版52)

Cf 5 09区の南端で検出した方形の竪穴住居である。北の一部は現用水路土手のため調査できなかった。規模は、長さ480cm、幅417cm、深さ45cmを測ることができる。長軸の向きは、N-20°-Eである。床面積は、19.2m<sup>2</sup>になる。床面の標高は、523cmである。支柱穴は4本で、柱間は245~260cmを測る。中央穴と考えられる楕円形土壇とカマドの残痕らしき焼けた部分を検出している。

遺物は、土師器を2点採集している。4473は、高杯で、口縁端部と脚裾部を欠



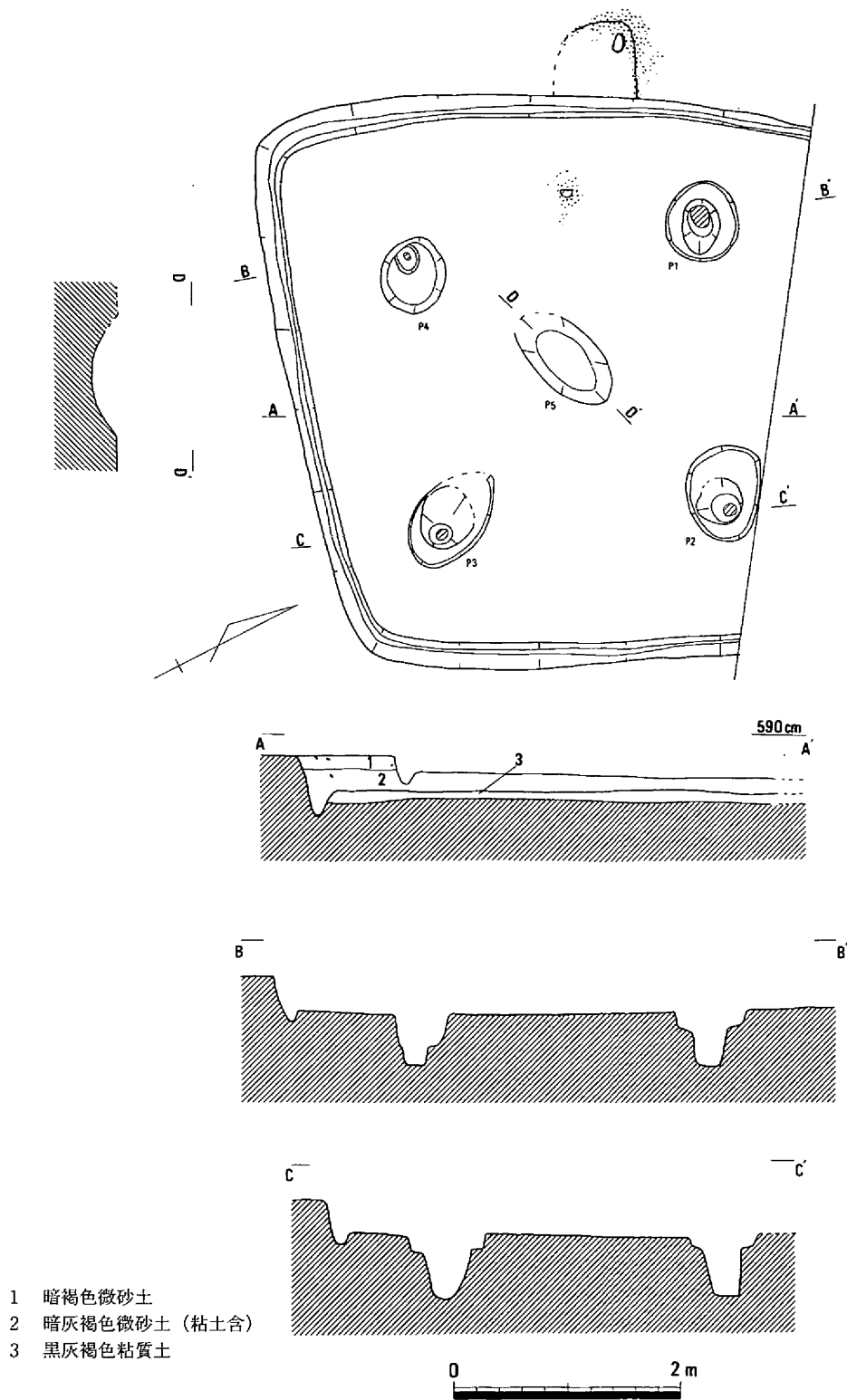
第1207図 竪穴住居127 (1/60)・出土遺物 (1/4)

損している。4474は、甑で底部を欠いている。

遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古墳時代中期であろう。 (浅倉)

竪穴住居129 (第1203・1210図、図版52)

Cf509区で検出した方形の竪穴住居である。竪穴住居128の上層遺構になる。規模は、長さ410cm、

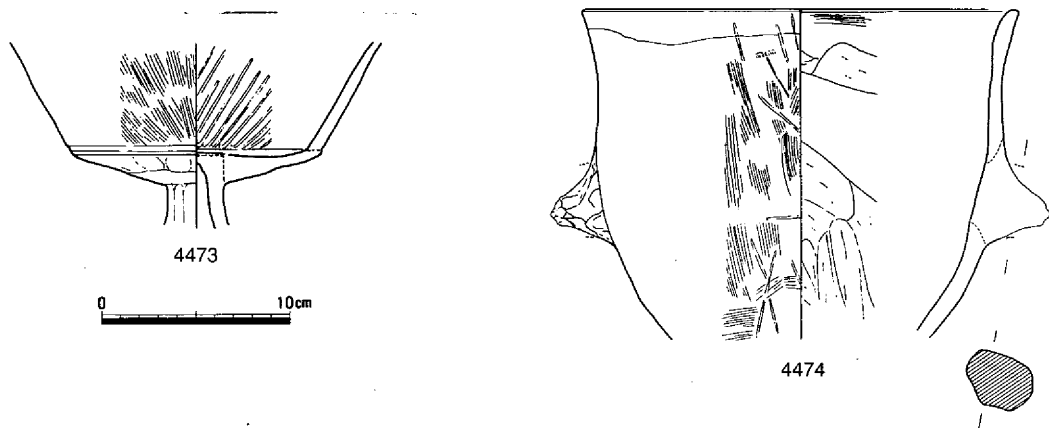


第1208図 竪穴住居128 (1/60)

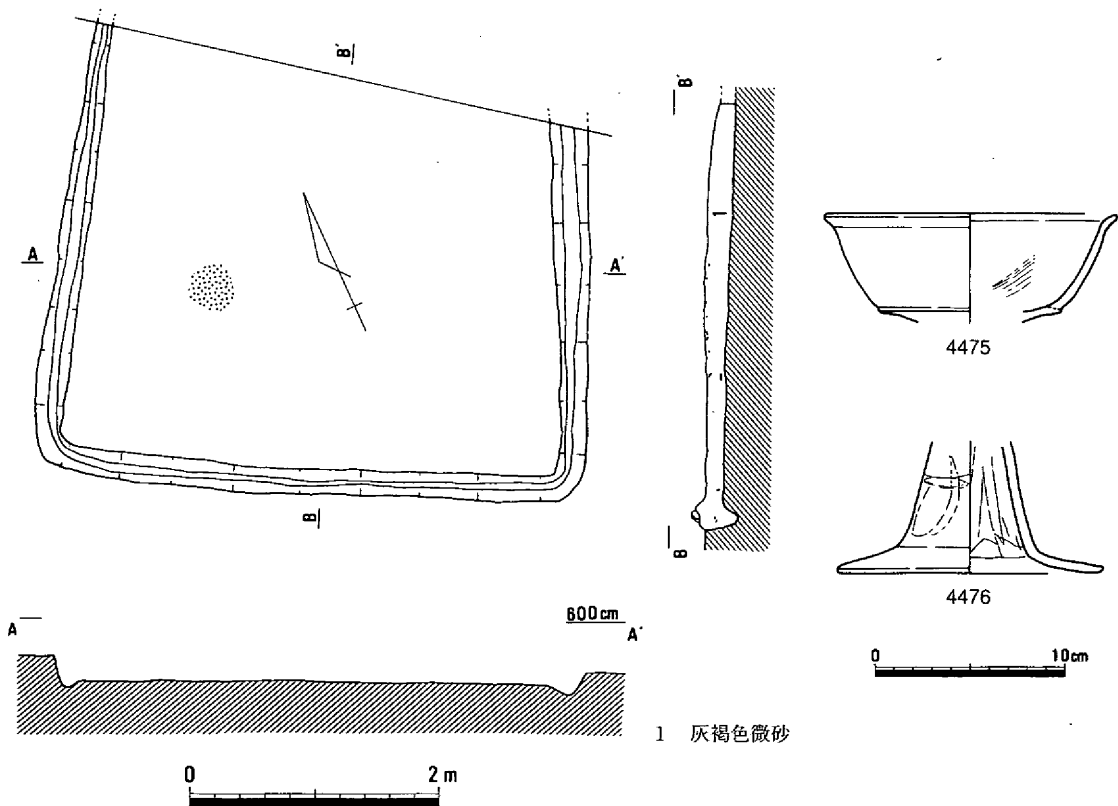
幅328cm、深さ22cmを測ることができる。長軸の向きは、N-65°-Wである。床面積は、13.0m<sup>2</sup>になる。床面の標高は、549cmである。主柱穴はない。焼土面が1か所認められることから、火事に遭ったものであろう。

遺物は、2点の土師器が出土している。4475は、高杯の杯部である。口縁端部にわずかに外反する癖を持っている。口径は、15.2cmを測る。4476は、高杯の脚部である。4475と同一個体の可能性があるが、接合できる部分が見つからなかった。底径は、13.6cmである。

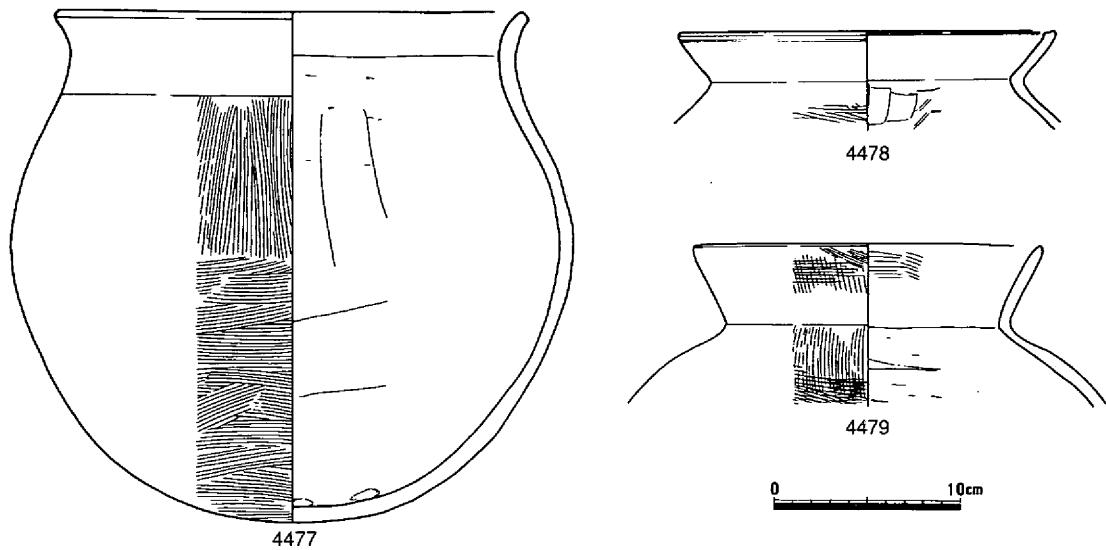
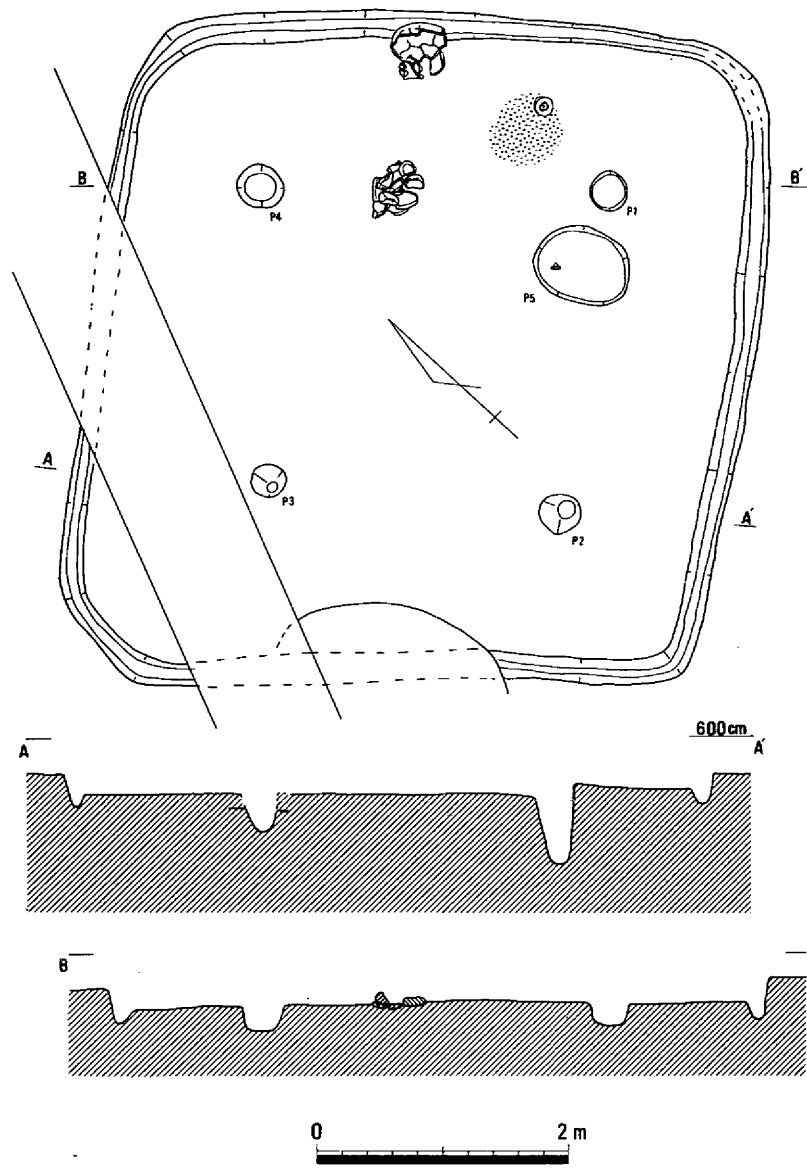
遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古墳時代中期であろう。 (浅倉)



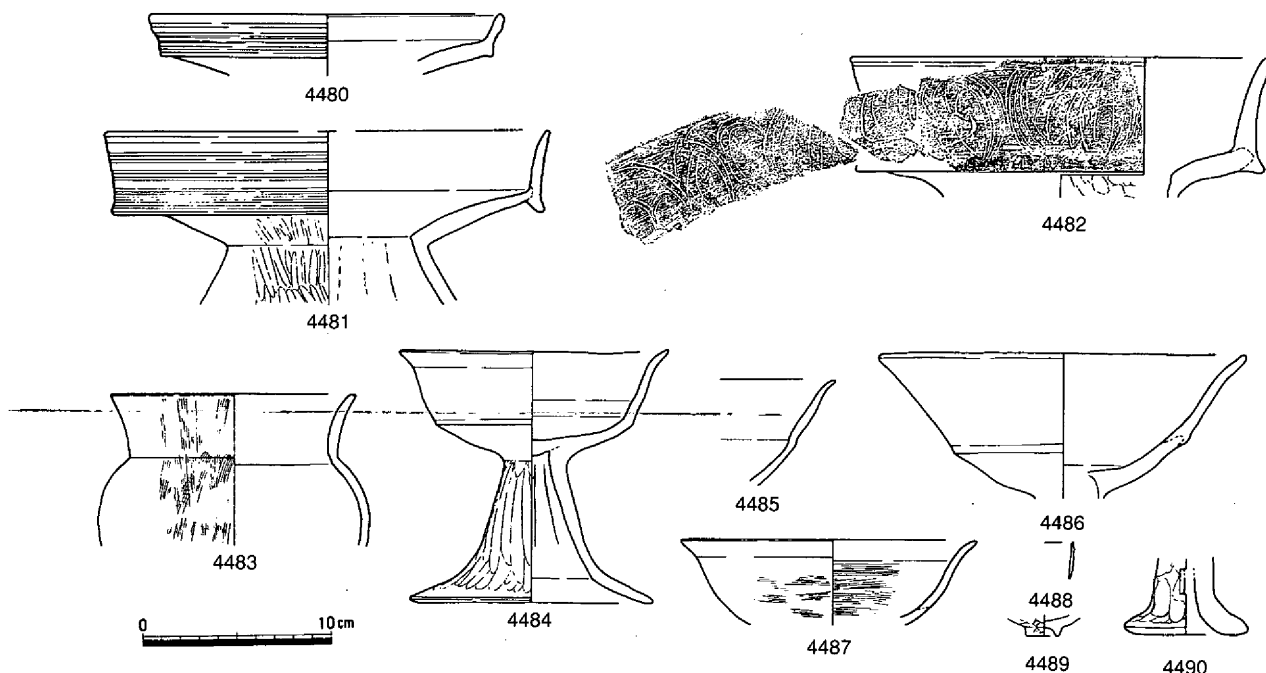
第1209図 竪穴住居128出土遺物 (1/4)



第1210図 竪穴住居129 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第1211図 竪穴住居130 (1/60)・出土遺物① (1/4)



第1212図 竪穴住居130出土遺物② (1/4)

## 竪穴住居130 (第1203・1211・1212図、図版53・137)

Cg 509区で検出した方形の竪穴住居である。竪穴住居128の南3m離れている。規模は、長さ522cm、幅520cm、深さ18cmを測ることができる。長軸の向きは、N-41°-Wである。床面積は、25.4㎡になる。床面の標高は、556cmである。支柱穴は4本存在する。焼土面が1か所認められることから、火事に遭ったものであろう。

遺物は、14点の土師器が出土している。4477は、全形の推定できる甕である。口縁端部がわずかに外反する癖を持っている。底部は丸い。口径は24.5cm、器高は27.0cmを測る。4478・4479は、甕の口縁部である。口径は、19.8cm・18.6cmである。4480は、口径18.4cmの二重口縁壺である。4481は、口径16.5cmの二重口縁壺である。4482の二重口縁壺は、口縁外面に弧文で飾っている。4483は、小形壺である。4484は、完形の高杯で、口径14.2cm、底径13.0cm、器高13.4cmを測る。4485～4487は、高杯である。4488～4490は、製塩土器であろう。

遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古・中・Ⅱであろう。

(浅倉)

## 竪穴住居131 (第1203・1213図)

Ci 507区で検出した方形の竪穴住居である。調査区外に半分が残っている。規模は、長さ300cm、幅154cm、深さ32cmを測ることができる。床面積は、3.4㎡になる。床面の標高は、565cmである。支柱穴はない。焼土面も見えない。壁体溝もない。

遺物は、1点の須恵器が出土している。4491は、杯蓋で、口径は17.2cmを測る。

遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古・後・Ⅱであろう。

(浅倉)

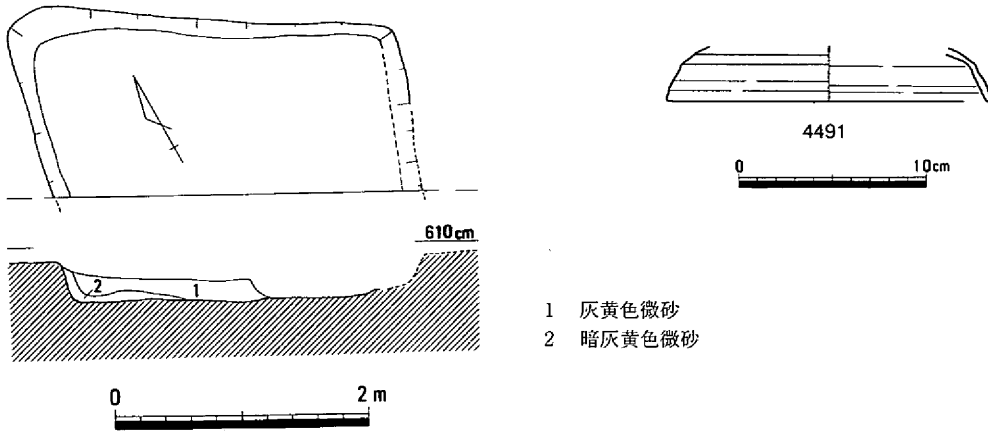
## 竪穴住居132 (第1203・1214～1217図、図版53・137～139)

Ch 507区で検出した長方形の小形竪穴住居である。規模は、長さ396cm、幅322cm、深さ40cmを測ることができる。長軸の向きはN-39°-Wである。床面積は、12.7㎡になる。床面の標高は、534cmである。支柱穴はない。焼土面も見えない。壁体溝は、南のコーナー部分を除いて全周巡っている。

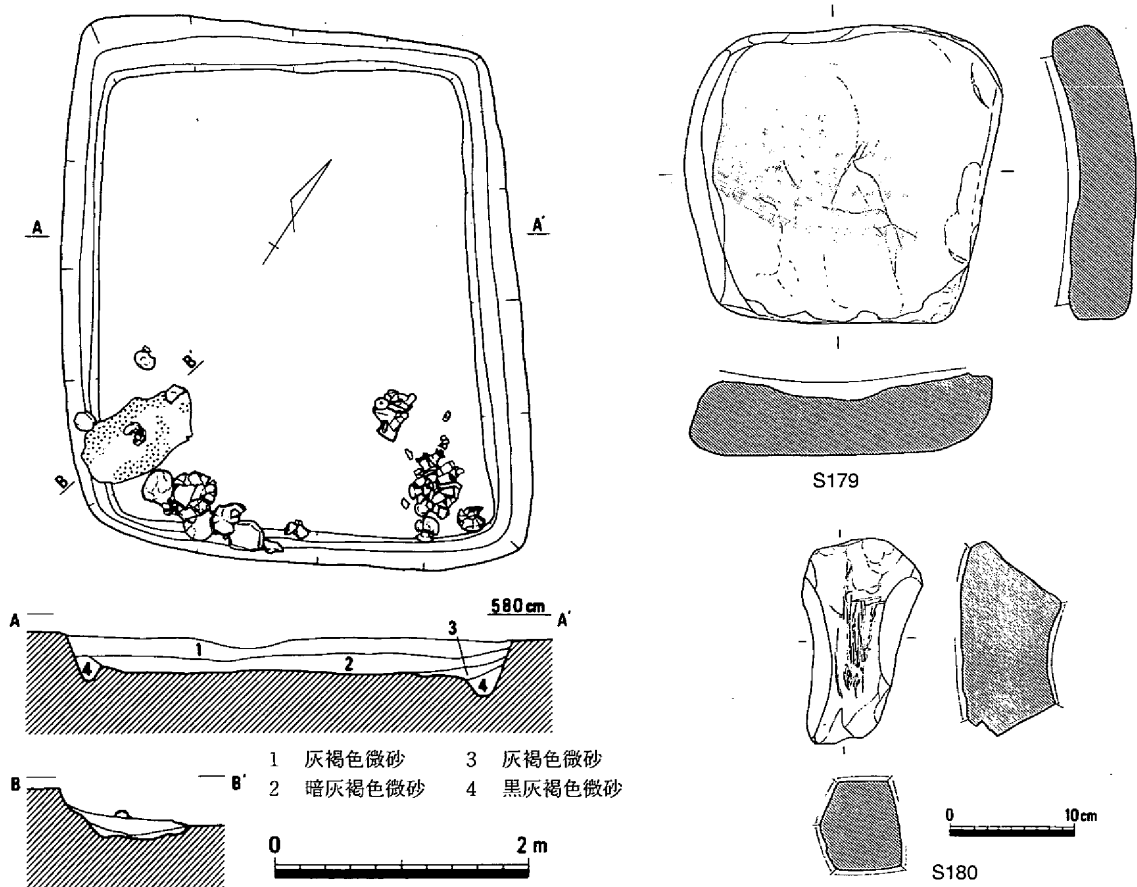


そのコーナーには造り付けのカマドが検出できた。カマドの中と周辺には土器が潰れた状態で発掘できた。何らかの災害に遭って緊急に脱出したものであろう。

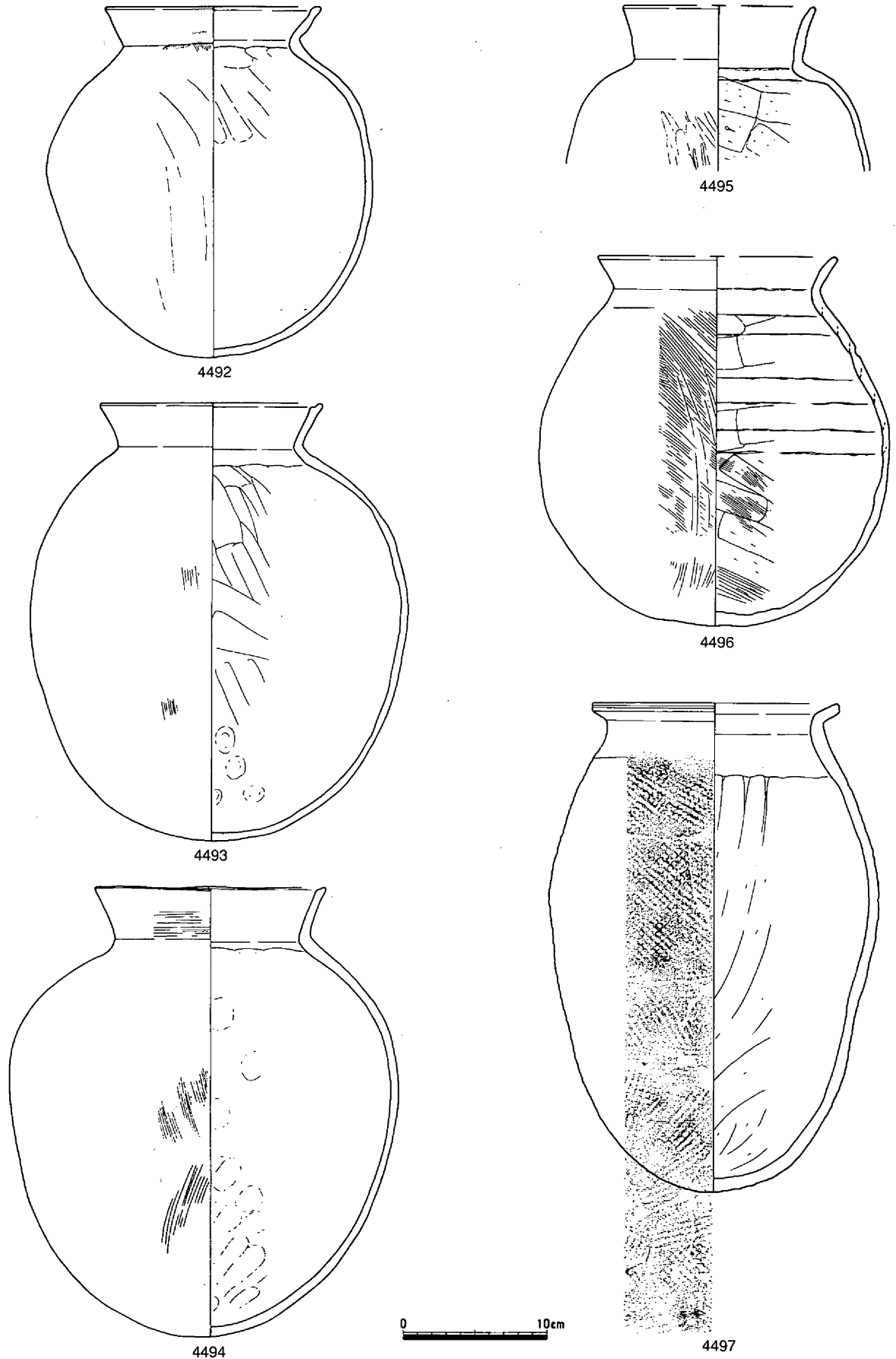
遺物は、2点の石器と22点の土器が出土している。S33は、ヒン岩製の石皿である。S34は、流紋岩製の砥石である。4492～4509・4512・4513は、土師器あるいは軟質土器である。4492は、完形で、外反する口縁部はわずかに段を持ち、端部は角張る。口径14.8cm、器高24.1cmの丸底の壺である。4493・4494も完形の壺である。4496は、前の壺と比較すると、器表面は粗いハケメである以上に手触



第1213図 竪穴住居131 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第1214図 竪穴住居132 (1/60)・出土遺物① (1/6)

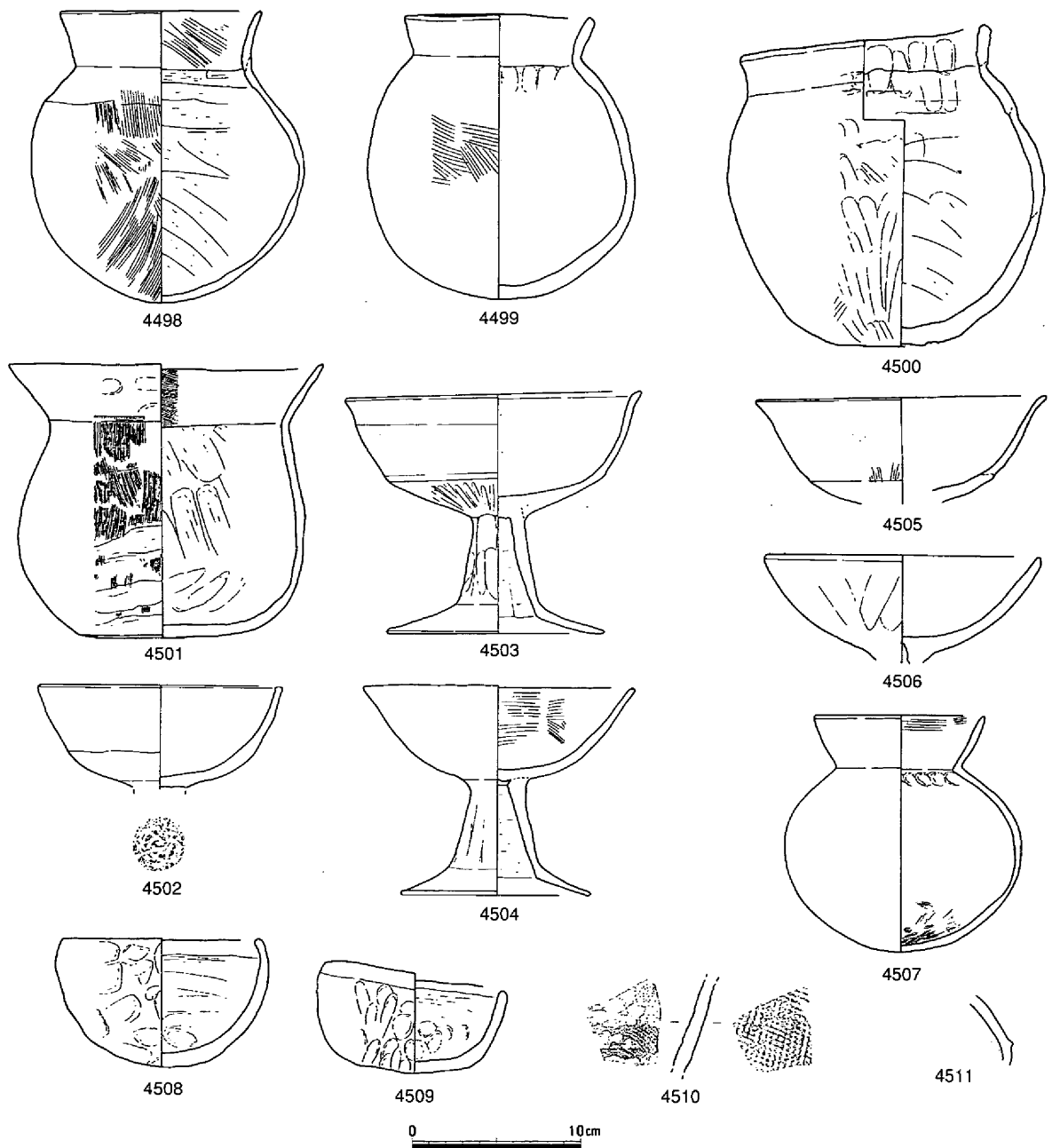


第1215図 豎穴住居132出土遺物② (1/4)

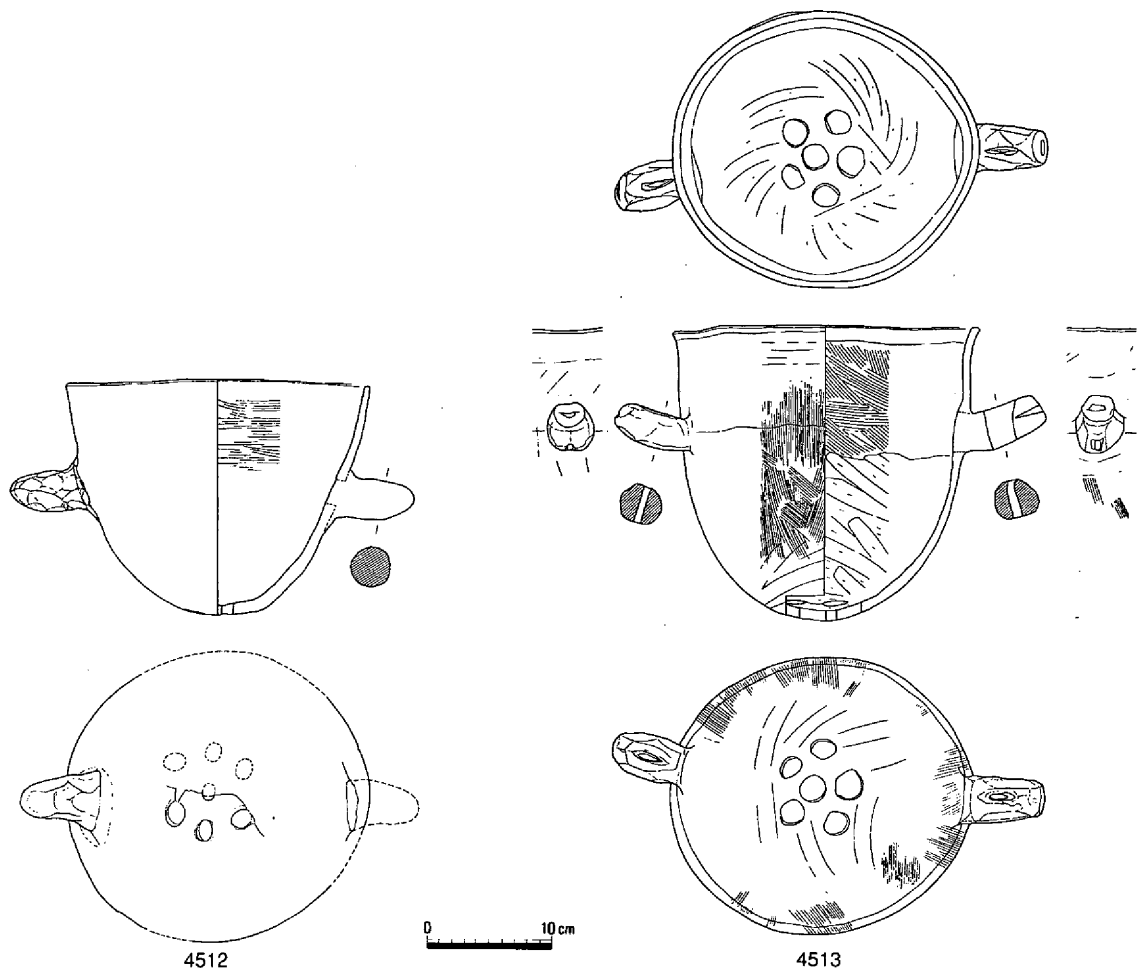
りがごつごつしている。4497は、胴の長い甕で、格子目のタタキが丸底の外面に至るまで施されている。内面は指頭ナデしている。韓式系土器と呼ばれるものである。完形に復元できた。口径は17.0cm、器高は34.0cmを測る。4498は、ほぼ完形の小形丸底壺で、口径11.8cm、器高17.4cmある。4499～4501は、ぼてぼてした幼稚な作りの甕である。それに比べて4507は、丁寧な作りの小形丸底壺の完形品である。4502～4506は、高杯である。4504は、ほぼ完形で、口径16.1cm、底径11.1cm、器高12.4cmある。4508・4509は、粗い作りの鉢である。4510は、セピア色を呈した陶質土器の甕腹である。4511は初期須恵器か陶質土器の杯蓋の破片で、この住居の時期決定の資料として極めて貴重な土器である。4512の甑は、丸い孔を1プラス6個穿つ。4513の甑は、把手にヘラで穴をあける特徴がある。

遺構や遺物の観察から、この住居の使用された時期は、古・中・Iであろう。

(浅倉)



第1216図 竪穴住居132出土遺物③ (1/4)



第1217図 竪穴住居132出土遺物④ (1/6)

## 竪穴住居133 (第1203・1218図)

Ci507区の北部で検出した方形の竪穴住居である。規模は、長さ547cm、幅352cm、深さ6cmを測ることができる。床面積は、26.5㎡になる。床面の標高は、570cmである。主柱穴はない。焼土面も見えない。壁体溝は、西壁中央部分を除いて全周巡っている。その部分には造り付けのカマドの残痕が検出できた。竪穴住居132を切っていたように記憶している。

遺物は、土師器4点と管状土錘が出土している。C167の管状土錘は、長さ80mm、厚さ42mmある。4514・4515は、口縁端部が立ち上がる甕で、4516は外反する甕である。4517は高杯である。

遺構や遺物の観察からこの遺構の時期は、古墳時代中期～後期であろう。

(浅倉)

## 竪穴住居134 (第1203・1219図)

Ci508区の北部で検出した方形の竪穴住居である。竪穴住居133から最短で1m東に離れている。2軒の重複がみられる。下層のa住居の規模は、長さ480cm、幅428cm、深さ20cmを測ることができる。床面積は、20.5㎡になる。床面の標高は、546cmである。主柱穴は4本で、3本を確認している。上層のb住居の規模は、長さ475cm、幅450cm、深さ20cmを測ることができる。床面積は、20.5㎡になる。床面の標高は、546cmである。主柱穴は4本で、2本を確認した。

遺物は、土師器4点が出土している。4518は外反する口縁部を持つ甕である。二重口縁の残影が見られる。体部外面は粗いハケメ、内面はヘラケズリしている。4519は高杯の脚部である。底径は12.4

cmである。丸い透かし孔は、4個穿たれている。4520・4521は高杯の杯部である。4520の口径は18.0cmで、4521は16.8cmを測る。

遺構や遺物の観察から、この遺構の時期は、古墳時代中期であろう。(浅倉)

**竪穴住居135** (第1203・1220図、図版140)

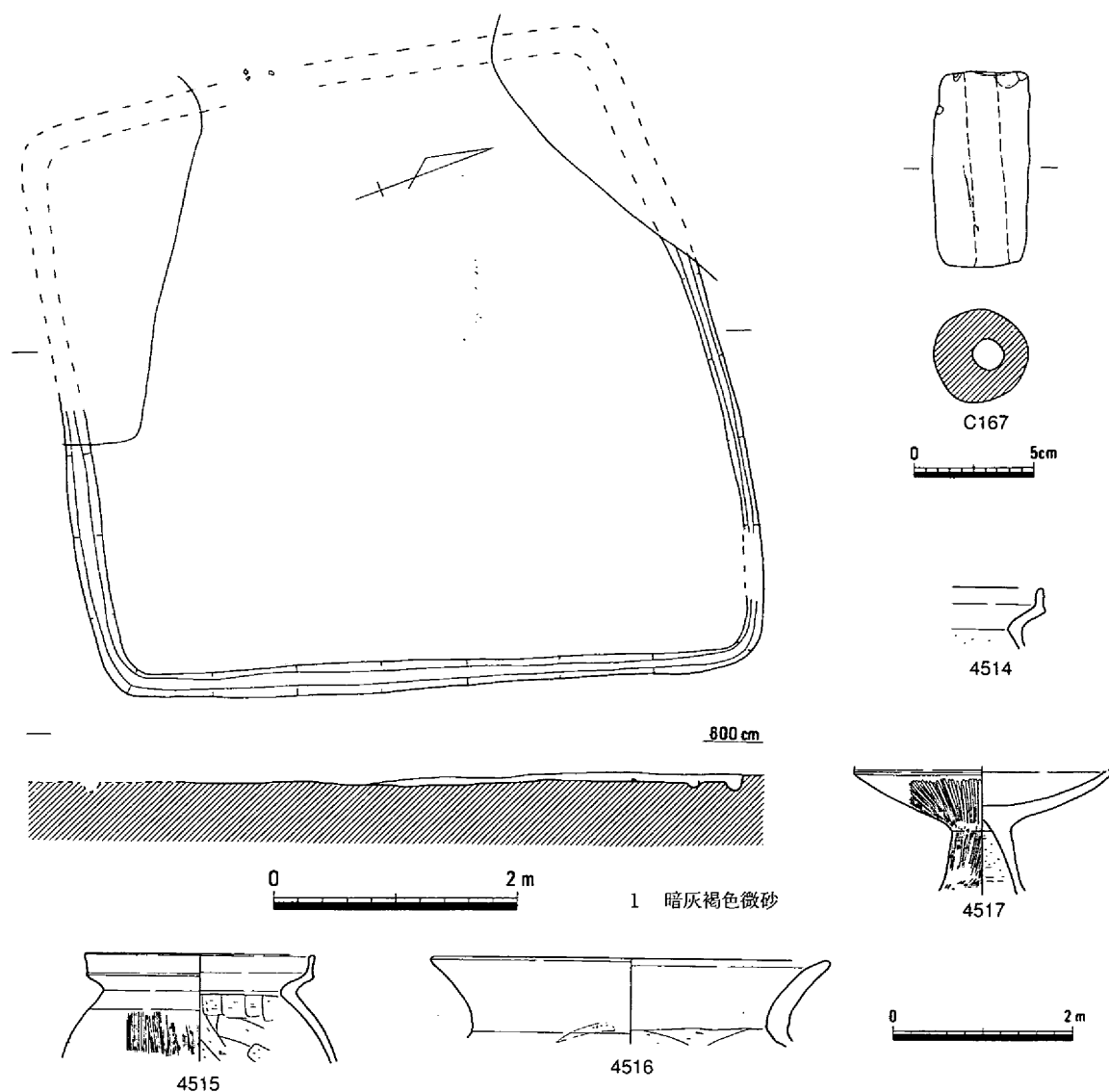
Ci600区の南西部で検出した方形の竪穴住居である。規模は、長さ361cm、幅331cm、深さ20cmを測ることができる。床面積は、11.4㎡になる。床面の標高は、528cmである。支柱穴はない。焼土面は西角にある。その部分には造り付けのカマドがあったのであろう。壁体溝は、全周巡っている。

遺物としては、完形の土師器を含む4点の土器が出土している。4522は、完形の高杯で、口径15.8cmある。4523も完形で、口径は16.8cmある。4524は、中形の鉢である。4525は、製塩土器である。

遺構や遺物の観察から、この遺構の時期は、古墳時代中期であろう。(浅倉)

**竪穴住居136** (第1203・1221・1222図、図版54・140)

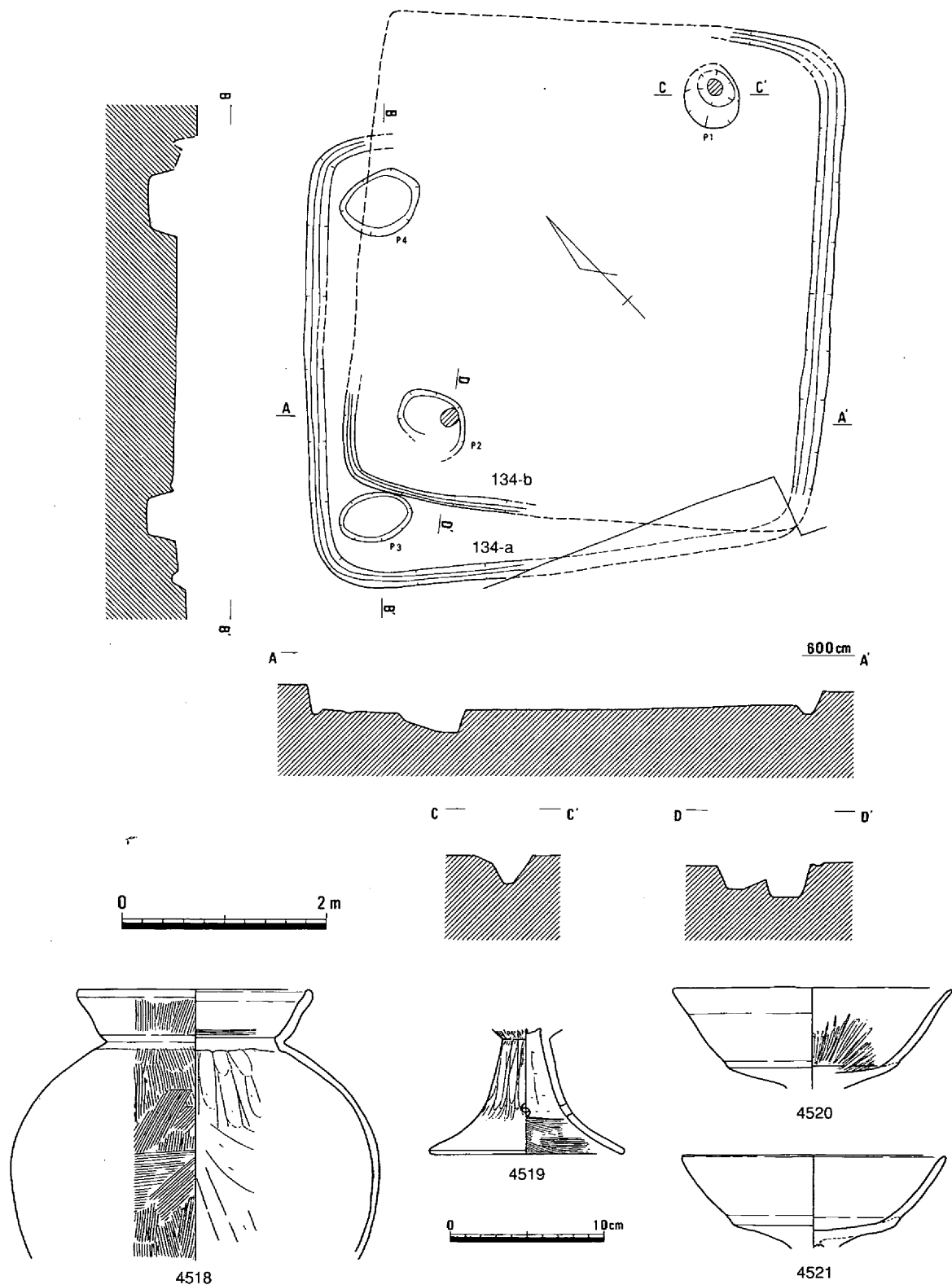
Ci509区の北部で検出した方形の竪穴住居である。規模は、長さ443cm、幅359cm、深さ40cmを測ることができる。床面積は、15.3㎡になる。床面の標高は、522cmである。支柱穴は2本検出してい



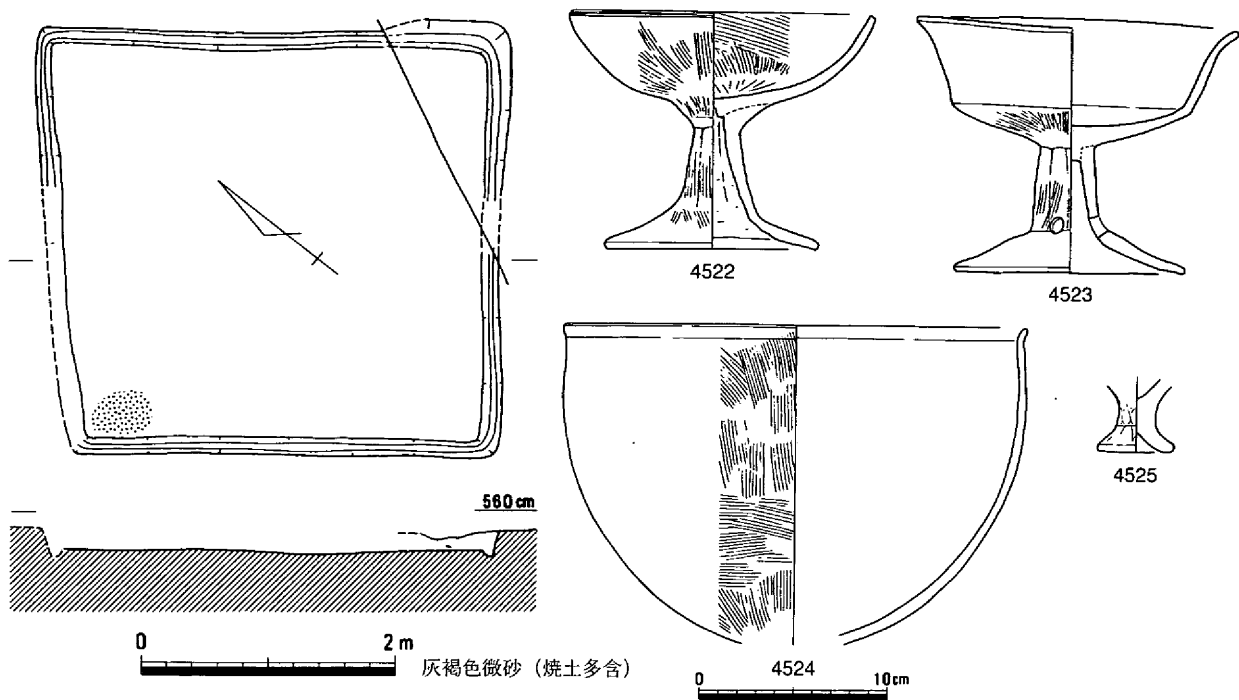
第1218図 竪穴住居133 (1/60)・出土遺物 (1/3,1/4)

る。焼土面は南角にある。その部分には造り付けのカマドがあったのであろう。壁体溝は、全周巡っていない。図のように土器は南に片寄って出土した。竪穴住居132のあり方に似ている。

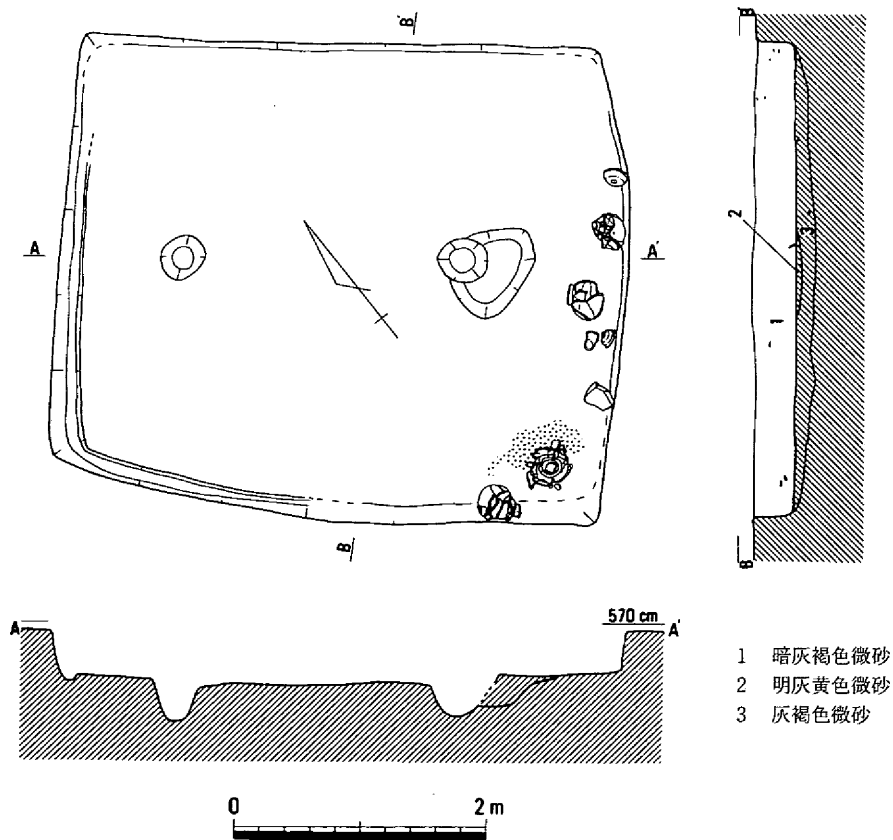
遺物としては、ほぼ完形の土師器を含む11点の土器と鉄器が1点出土している。4526～4530は、丸



第1219図 竪穴住居134 (1/60)・出土遺物 (1/4)

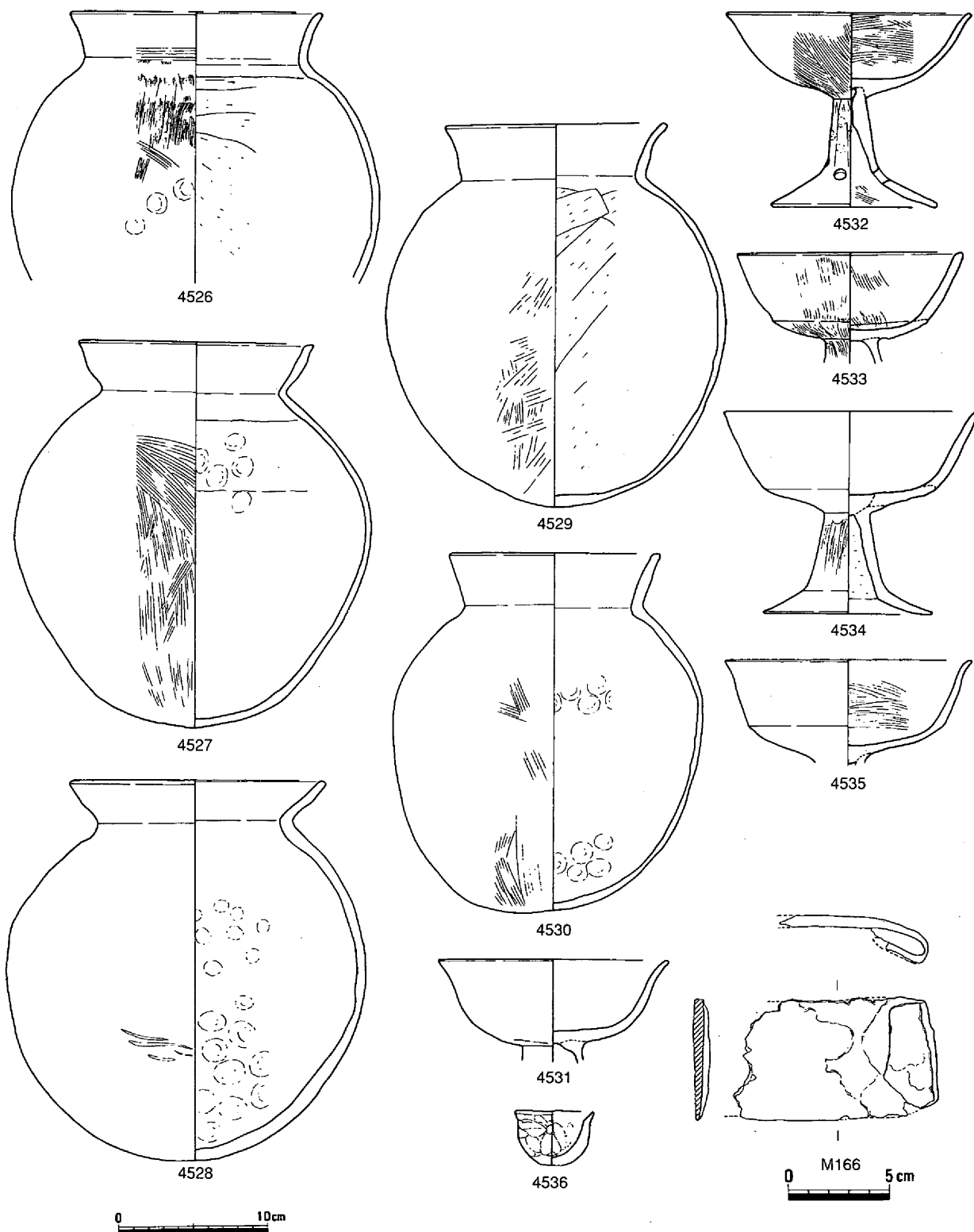


第1220図 竪穴住居135 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第1221図 竪穴住居136 (1/60)

底の甕である。いずれも煤が付着している。4527はほぼ完形で、口縁部に段を持ち、口径は15.5cm、器高25.8cmを測る。4528は、内面に指頭圧痕が著しい。4529は、内面のヘラケズリ調整がよく見える。4530は、口径は15.8cm、器高23.9cmを測る。4531～4535は、高杯である。4534は、ほぼ完形で、口径16.9cm、底径11.2cm、器高13.5cmを測る。4536は、手捏ね鉢である。M166は、鋤であろう。



第1222図 竪穴住居136出土遺物 (1/4,1/3)

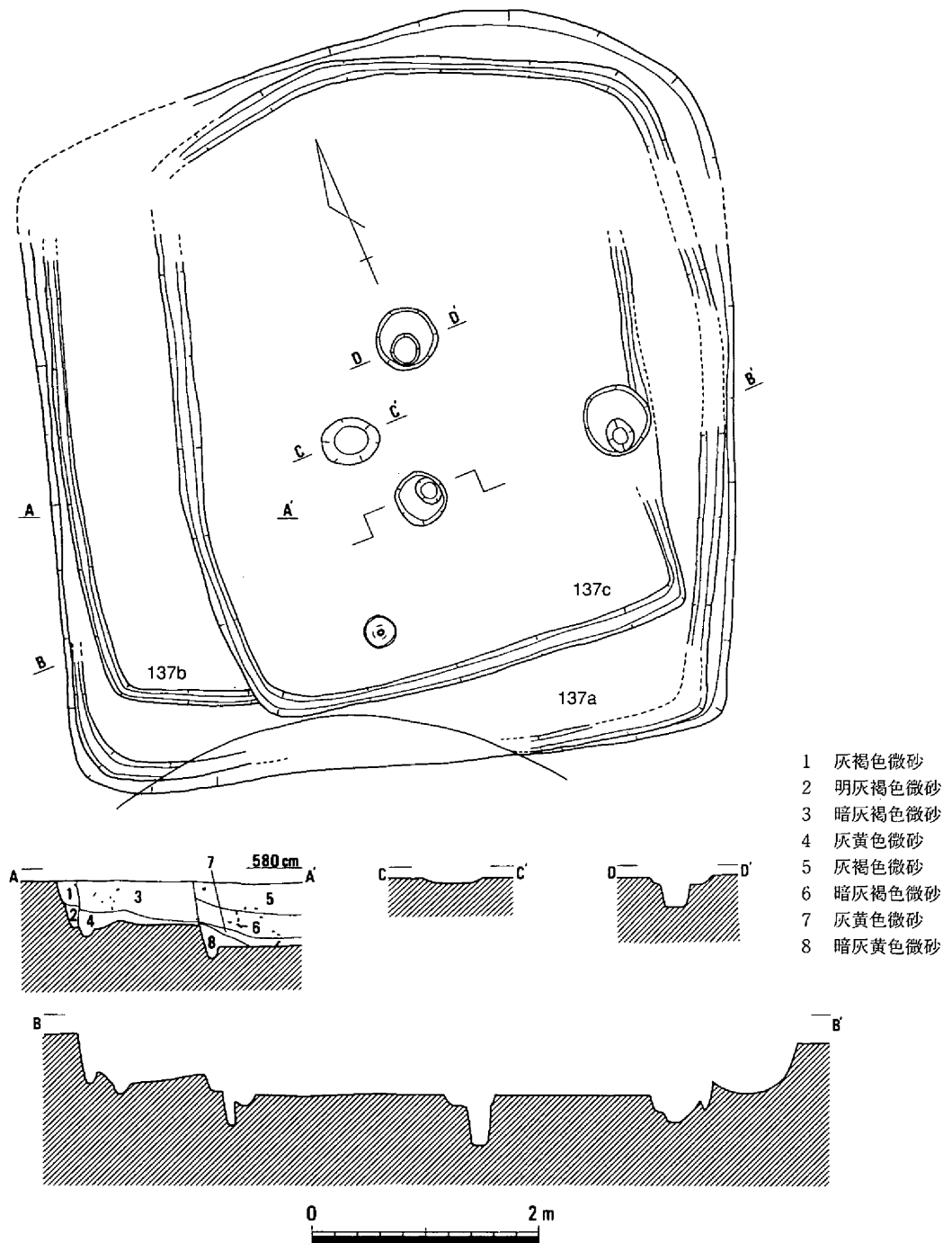


遺構や遺物の観察からこの遺構の時期は、古墳時代中期であろう。

(浅倉)

竪穴住居137 (第1203・1223・1224図、図版54・141)

Ci600区の北西部で検出した方形の竪穴住居群である。3軒の重なり合いが確認できた。規模は、下層のa住居の床面積が32.6㎡、中層のb住居の床面積が19.4㎡に、上層のc住居の床面積は11.2㎡になる。床面の標高は、510~530cmである。しだいに縮小し、深く掘ったことがわかる。支柱穴は2本しか検出できていない。焼土面はa住居に1か所ある。壁体溝は、全周巡っていない。

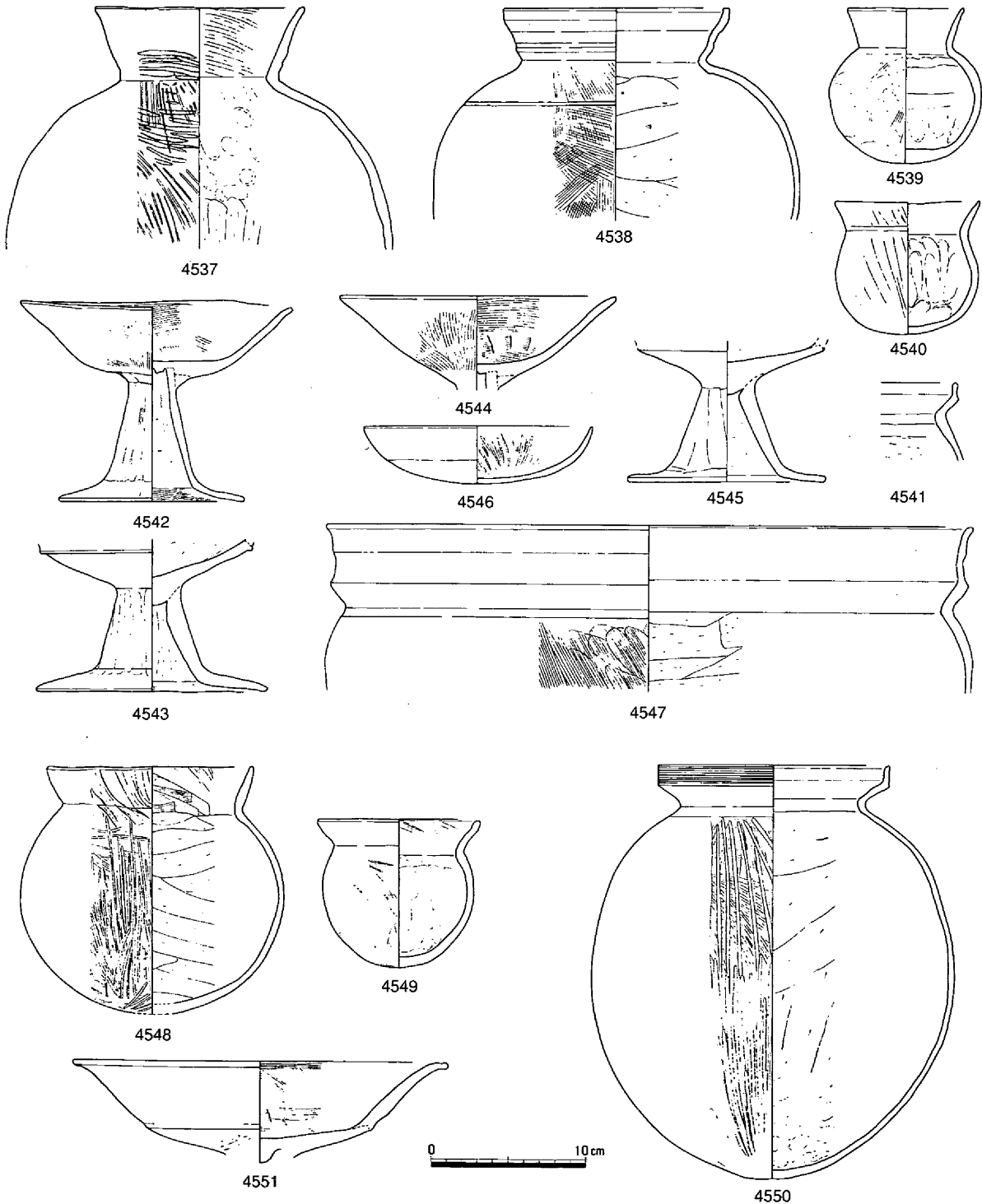


第1223図 竪穴住居137 (1/60)

遺物としては、15点の土師器が出土している。4537は、タタキのあとハケメされた甕である。4537は、口縁部に段を持ち、肩部に沈線を描く。4539・4540は、小形丸底壺である。4542～4545は、高杯である。4547は、大形の鉢である。4550は、ほぼ完形の甕で、口縁端外面にクシガキ沈線を持った吉備系のいわゆるボウフラ形の甕である。

遺構や遺物の観察からこの遺構の時期は、古墳時代前期～中期であろう。

(浅倉)

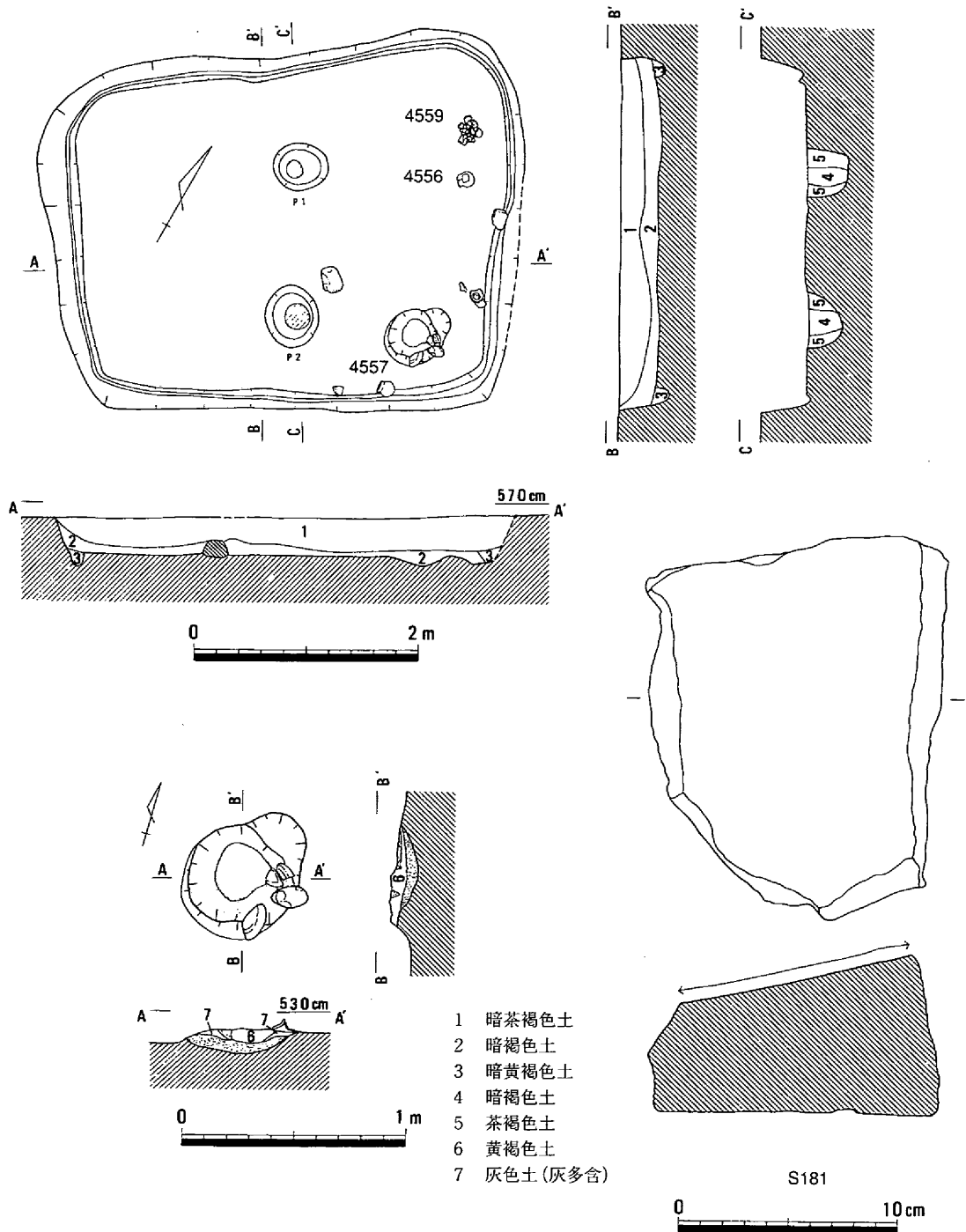


第1224図 豎穴住居137出土遺物 (1/4)

竪穴住居138 (第1204・1225・1226図、図版54・142)

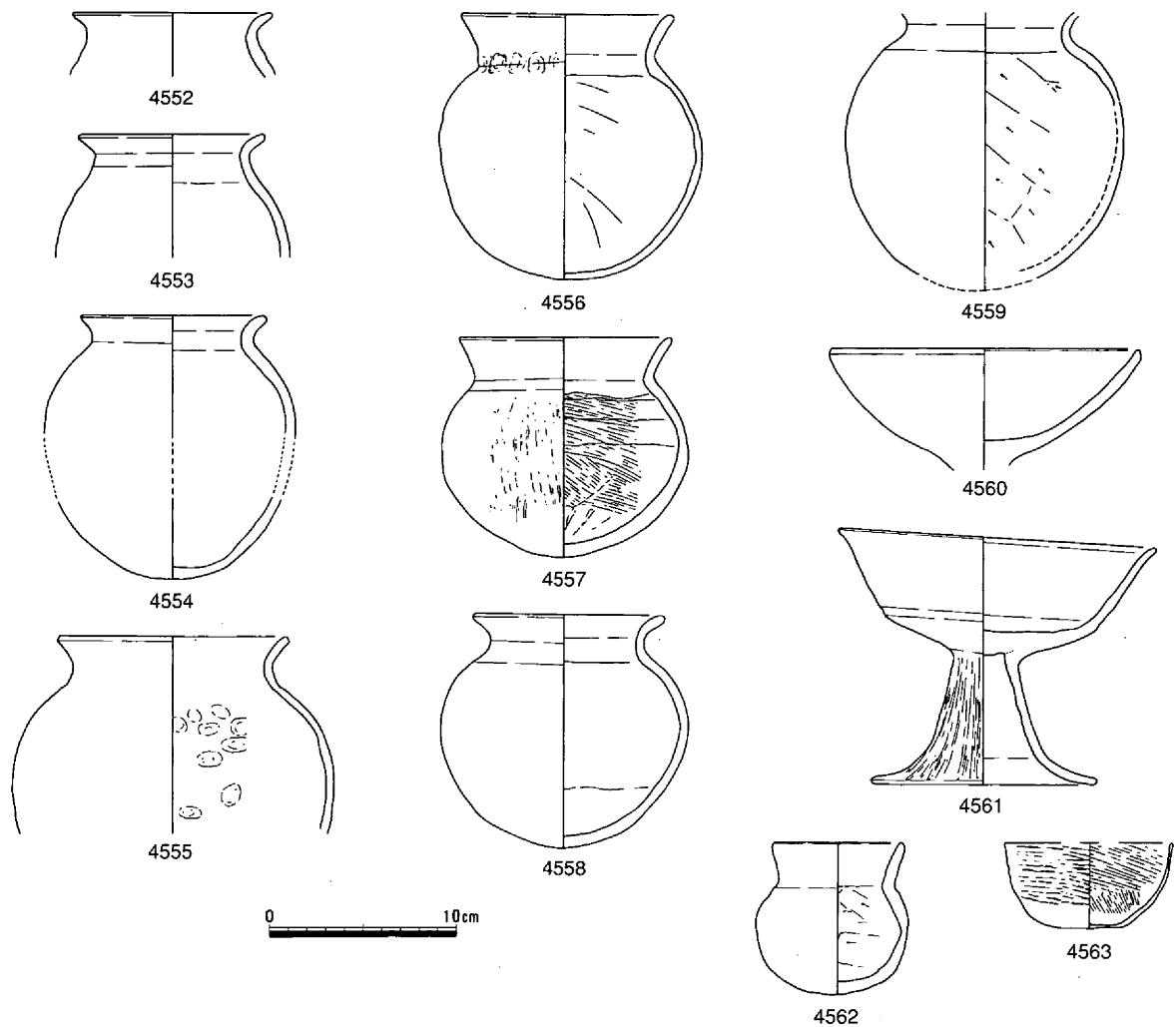
竪穴住居139と146の間で検出された住居である。平面形は長方形で、規模は長辺が420cm、短辺が324cm、深さは検出面から36cmを測る。床面は平坦で、壁際には幅約20cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡っている。2本の主柱で構成される竪穴住居で、柱間距離は134cmである。床面の東コーナーには50×60cmのカマド基底部分が発見された。周囲がよく焼けた炉内には灰がみられた。

遺物は床面の東側を中心に土師器の甕4552～4554、4556～4559、壺4555・4562、高杯4560・4561、



- 1 暗茶褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 茶褐色土
- 6 黄褐色土
- 7 灰色土(灰多含)

第1225図 竪穴住居138 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3)



第1226図 竪穴住居138出土遺物② (1/4)

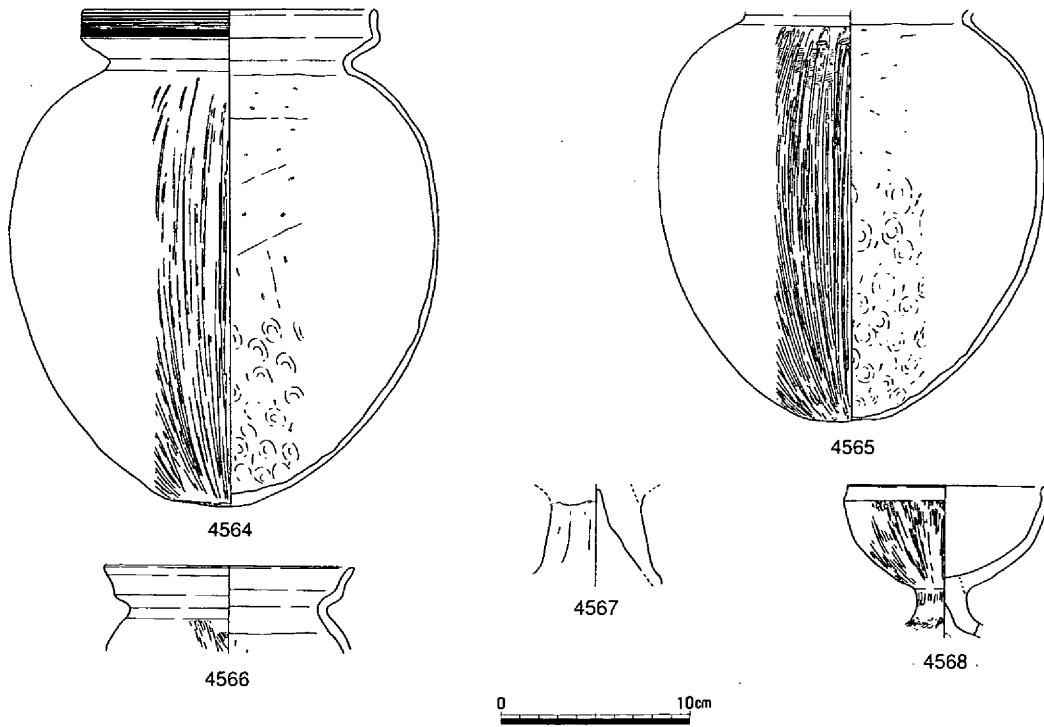
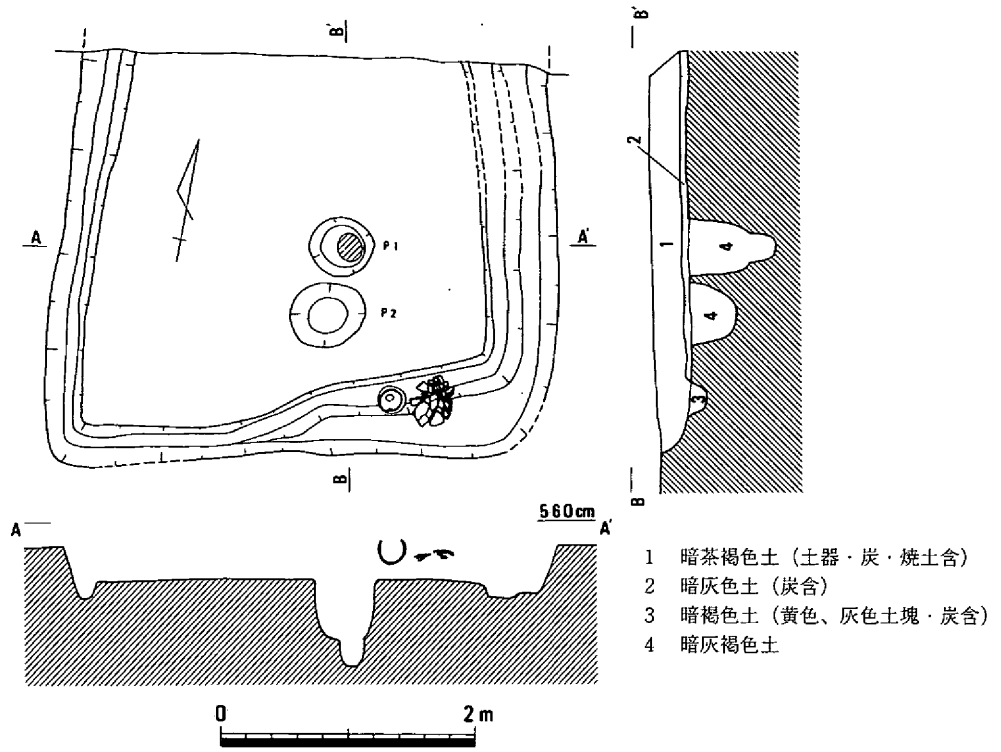
製塩土器4563など完形のものを含め各器種の土器が出土している。石器ではヒン岩製の砥石 S 181が出土している。これらの遺物からみて、この住居の時期は古・中に属するものと思われる。(松本) 竪穴住居139 (第1204・1227図)

竪穴住居138の西約3mの位置で検出された住居である。北側は調査区外となるが、一辺が約4mの方形を呈するものと思われる。検出面からの深さは26cmを測り、壁際には幅20cm、深さ5～15cmの壁体溝が巡るが、住居の東側は壁体溝が内側にあり、部分的な改修も考えられる。主柱は1本のみ検出されたが、2本柱で構成される竪穴住居と思われる。なお、カマドの痕跡は認められなかった。

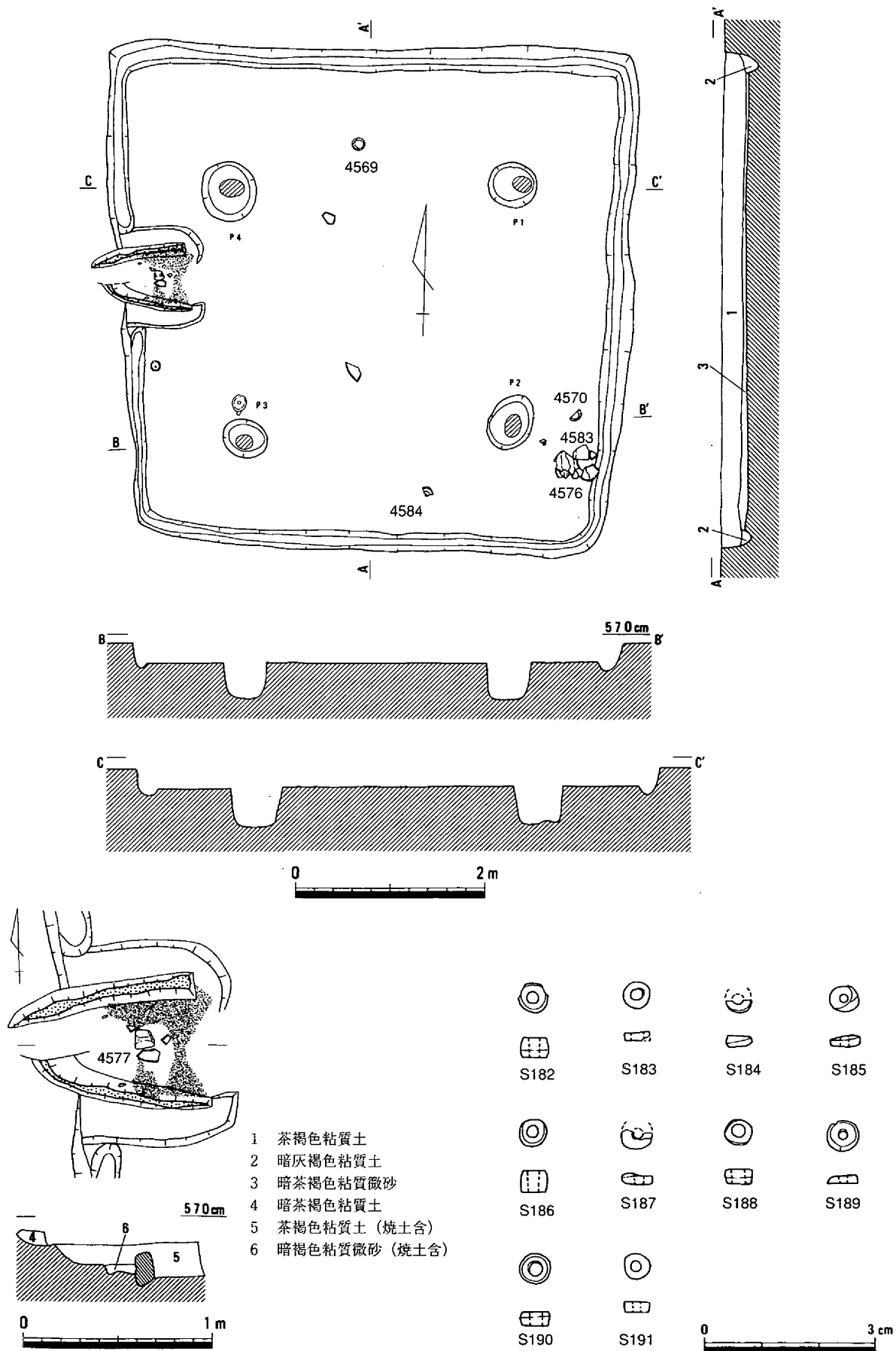
遺物は床面の南東コーナー付近で、まとめて出土した。遺物としては土師器の甕4564～4566、高杯4567・4568などがある。これらの遺物からみて、時期は古・前・Iに属すると思われる。(松本)

竪穴住居140 (第1204・1228・1229図、図版55・142・164)

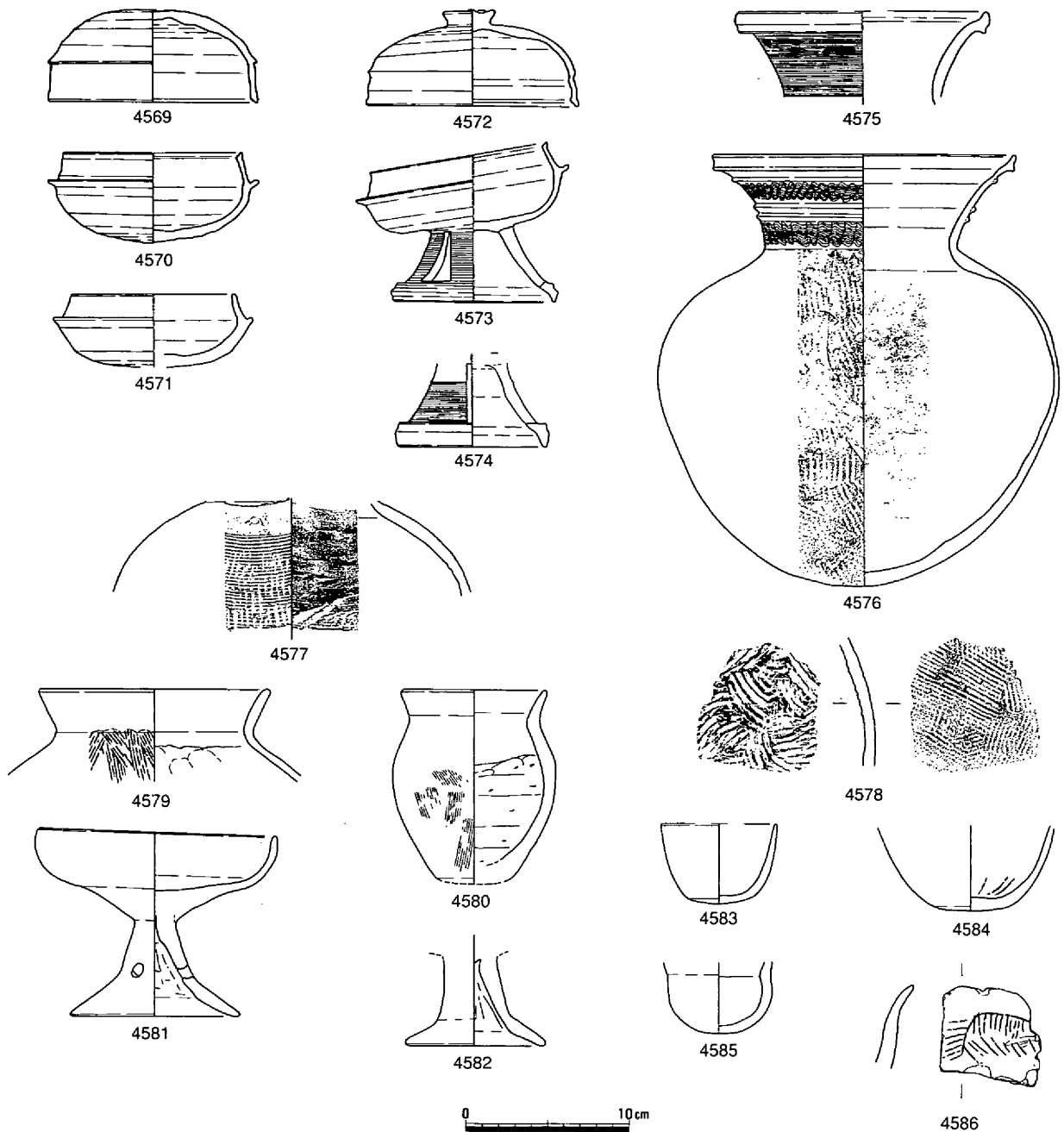
竪穴住居139の西約3mの位置で検出された住居である。平面形は方形を呈し、規模は長辺が560cm、短辺が518cmで、深さは検出面から25cmを測る。床面は平坦で、西辺の中央部に造り付けのカマドが遺存しており、煙道部もわずかに残存していた。燃烧部の底面には支脚となる石が2個置かれていた。両袖とも幅約15cm、長さ100cm、高さ約20cmを測り、細長い形態をする。壁際には幅約20cm、深



第1227図 竪穴住居139 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第1228図 竪穴住居140 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1)

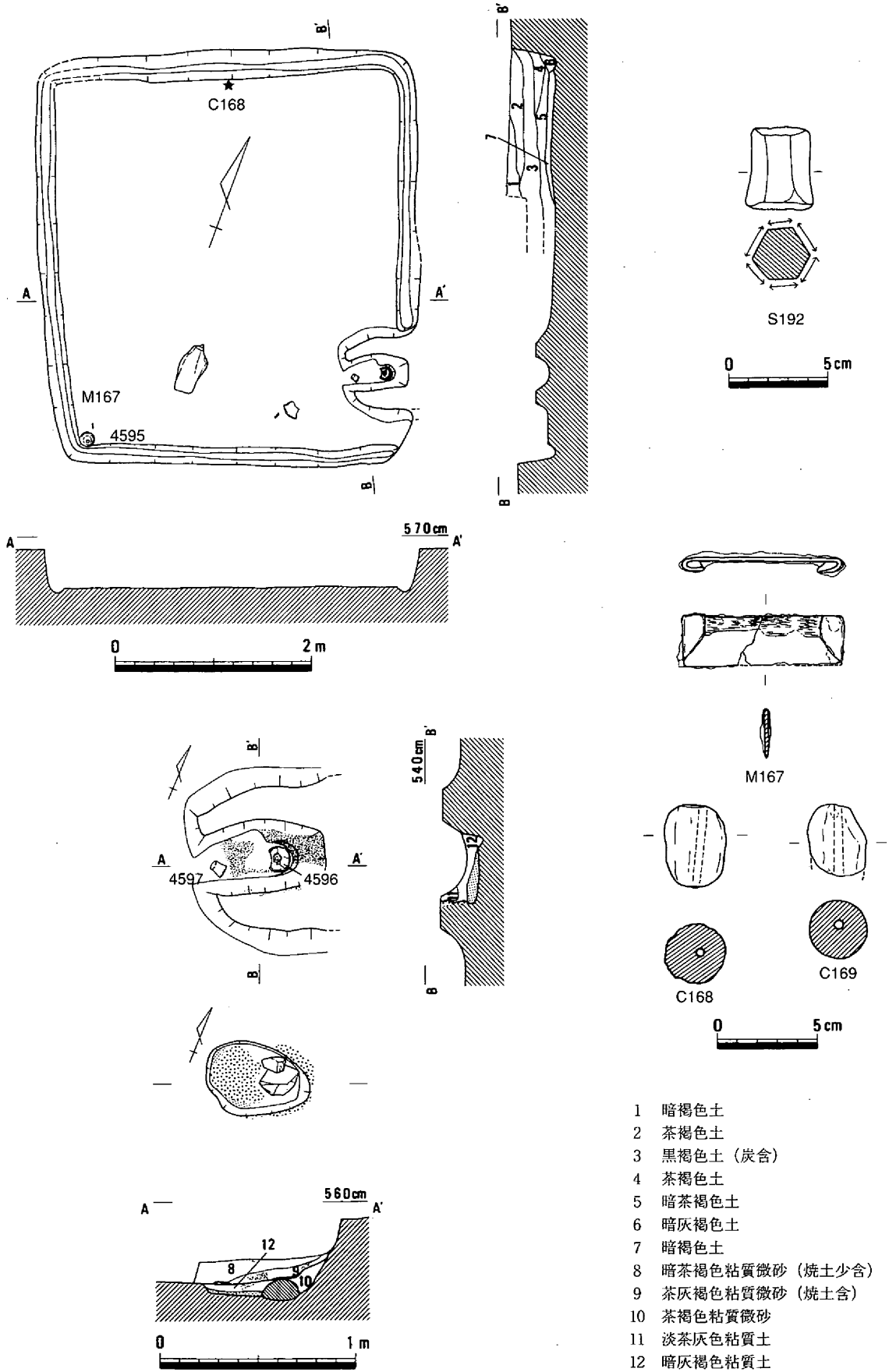


第1229図 竪穴住居140出土遺物② (1/4)

さ約10cmの壁体溝が巡り、カマドの両端まで取り付いている。4本柱で構成される住居である。

遺物は床面から須恵器の杯蓋4569、杯身4570・4571、高杯蓋4572、高杯4573・4574、壺4575～4577、甕4578、土師器の甕4579・4580、高杯4581・4582、鉢4583～4586、石製品では白玉（蛇紋岩・滑石）S182～191が出土している。これらの遺物からみて、時期は古・中に属すると思われる。（松本）  
 竪穴住居141（第1204・1230・1231図、図版143・164・167・169）

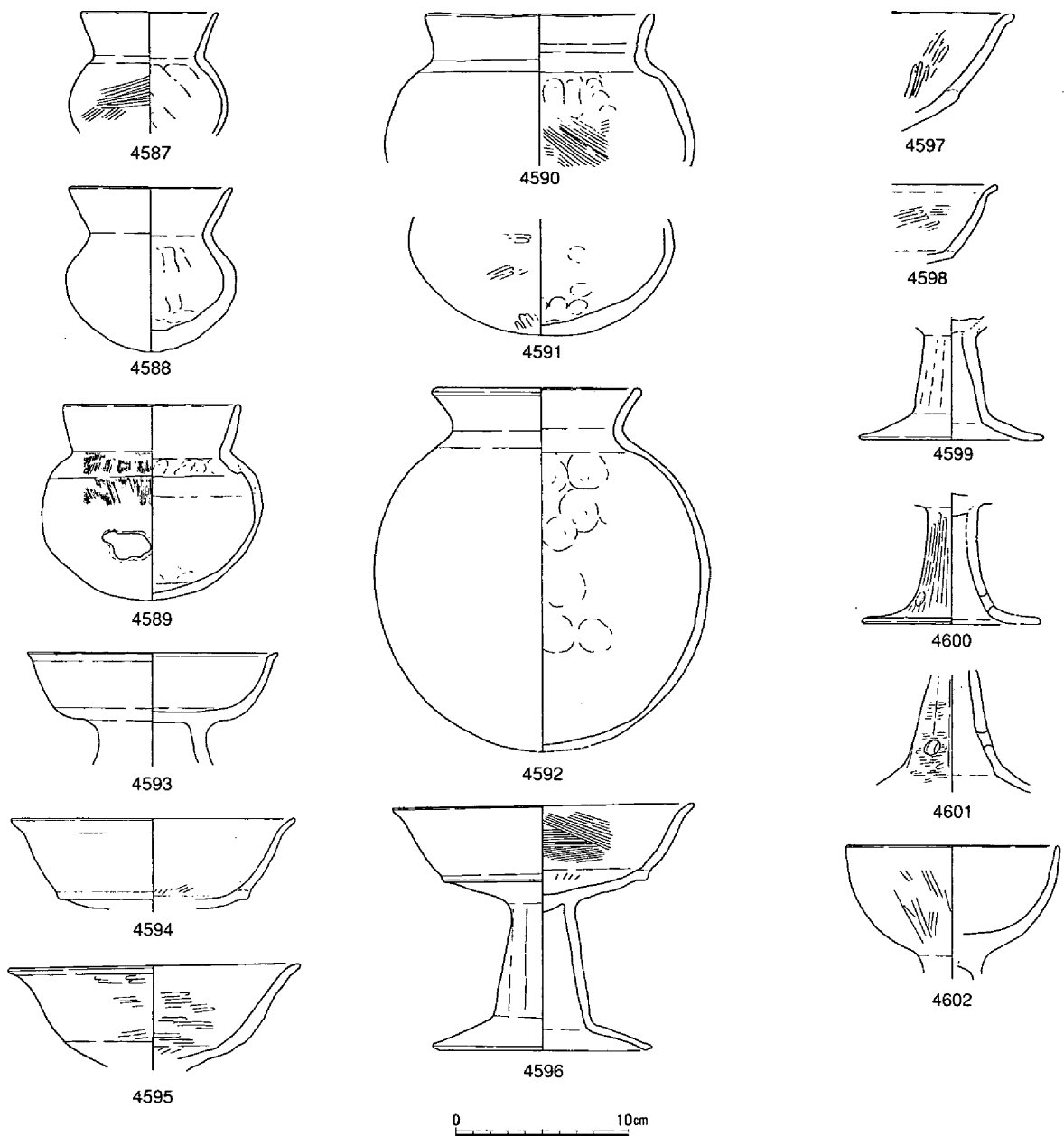
竪穴住居140の南隣において検出された。平面形は方形を呈し、規模は長辺が420cm、短辺が390cmで、深さは検出面から40cmを測る。床面は平坦で、南東のコーナーに造り付けのカマドが遺存していた。燃焼部の底面には支脚となる角礫が2個みられ、その上には甕4591が置かれていた。両袖とも幅



- 1 暗褐色土
- 2 茶褐色土
- 3 黒褐色土 (炭含)
- 4 茶褐色土
- 5 暗茶褐色土
- 6 暗灰褐色土
- 7 暗褐色土
- 8 暗茶褐色粘質微砂 (焼土少含)
- 9 茶灰褐色粘質微砂 (焼土含)
- 10 茶褐色粘質微砂
- 11 淡茶灰色粘質土
- 12 暗灰褐色粘質土

第1230図 竪穴住居141 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3)





第1231図 竪穴住居141出土遺物② (1/4)

約40cm、長さ約80cm、高さ20cmを測る。壁際には幅約20~30cm、深さ約5~10cmの壁体溝が巡り、北側の壁体溝はカマドの端まで取り付いている。なお、床面では主柱を検出することができなかった。

遺物は床面から土師器の壺4587・4588、甕4589~4592、高杯4593~4602、石器ではよく使用された砥石S192、鉄製品では木質部がよく残る手鎌M167、土製品では土錘C168・169など各種の遺物が出土している。これらの遺物からみて、この住居の時期は古・中に属すると思われる。(松本)

竪穴住居142 (第1204・1232・1233図、図版55・56・143)

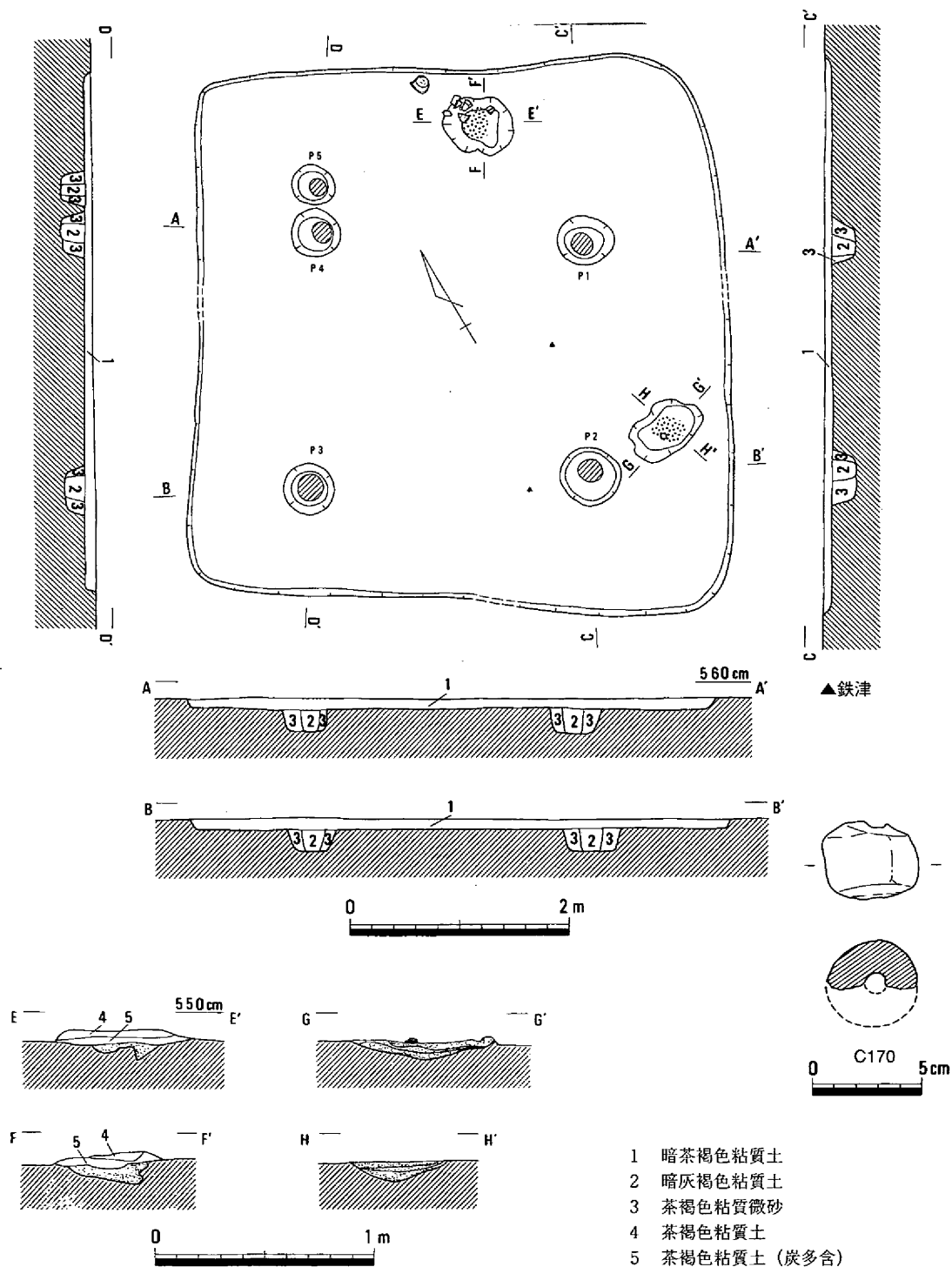
竪穴住居140と148の間で検出された。平面形は方形を呈し、規模は長辺が504cm、短辺が484cmで、深さは検出面から10cmを測る。壁体溝は確認されなかった。4本の主柱で構成される住居で、柱間距離は208~256cmである。掘り方は径40~50cm、深さは20cmを測り、径20cmの柱痕跡が確認された。ま

た、床面の北辺中央部の壁際と東辺の南コーナー近くの2か所で炉底が検出された。北辺の炉はカマドの燃焼部と推察されるが、東辺の炉は床面に鉄滓が出土することから鍛冶炉の可能性も考えられる。

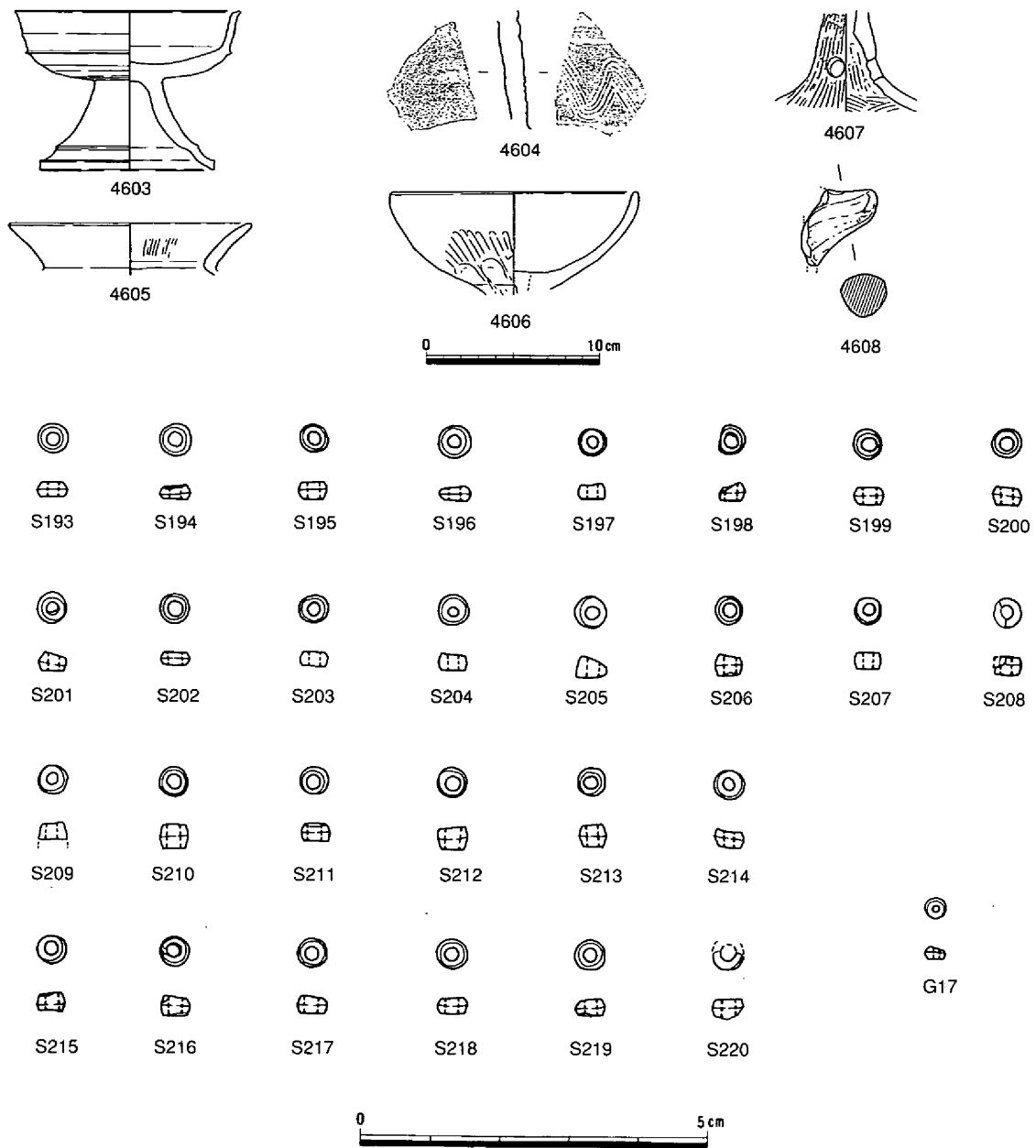
遺物としては須恵器の高杯4603、器台4604、土師器の甕4605、高杯4606・4607、甑4608、土錘C170、白玉S193~220、ガラス製の小玉G17などがある。時期は古・中に属すると思われる。(松本)

竪穴住居143 (第1204・1234・1235図、図版56・143・164)

竪穴住居145の西隣で検出された。平面形は方形を呈し、規模は長辺が440cm、短辺が422cmで、深



第1232図 竪穴住居142 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3)



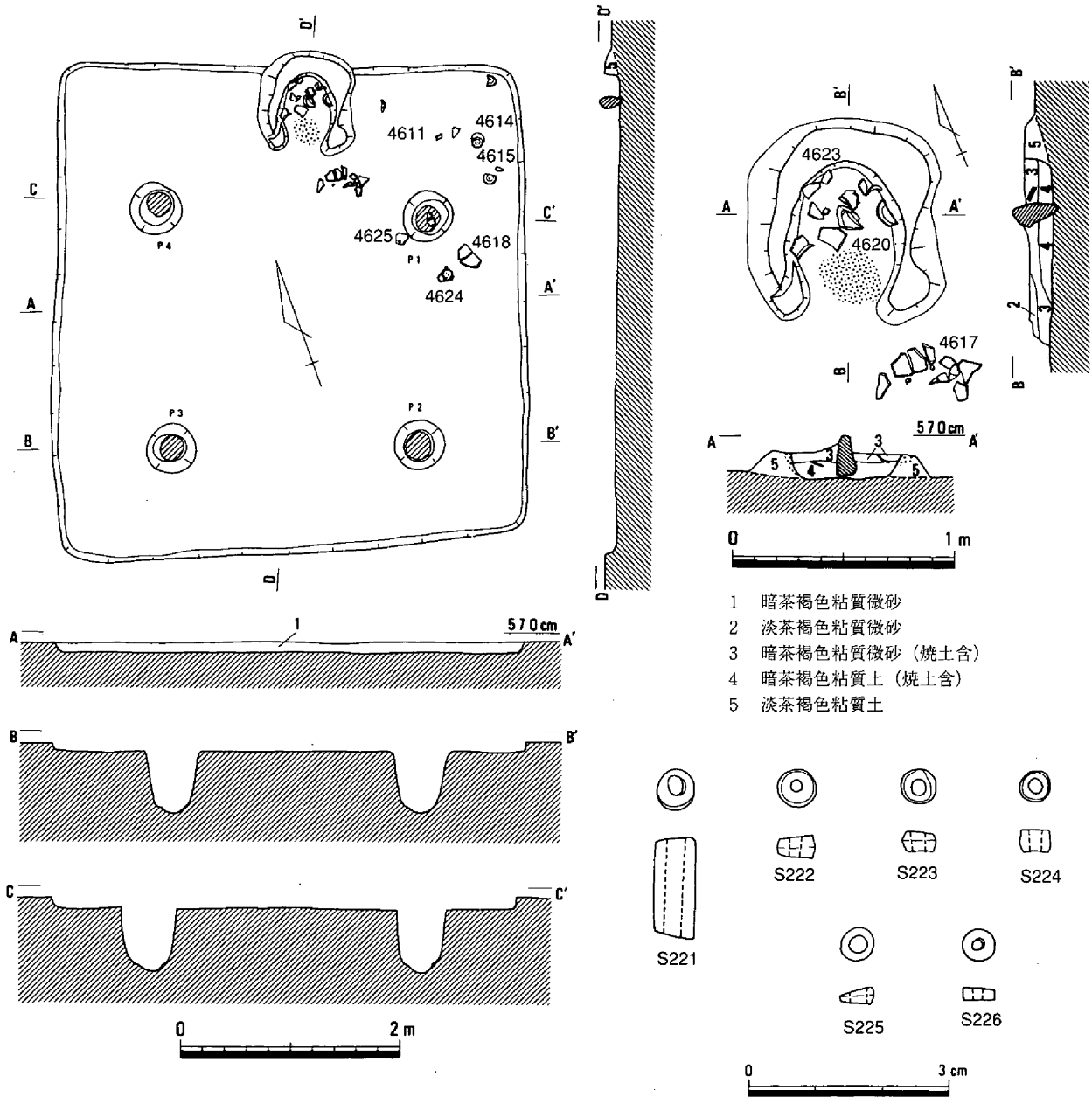
第1233図 竪穴住居142 (1/60)・出土遺物② (1/4,1/1)

さは検出面から10cmを測る。壁体溝は確認されなかった。北辺の中央部に造り付けのカマドがある。燃焼部には支脚の石が置かれ、その周辺には土師器の甕が壊れた状態で出土した。両袖とも幅約20cm、長さ約80cm、高さ10cmを測る。主柱が4本で構成される竪穴住居である。柱間距離は208~246cmであり、掘り方の径は45~50cm、深さは50~60cmを測り、径が20~25cmの柱痕跡が確認されている。

遺物としては須恵器の杯蓋、杯身、高杯蓋、高杯、甕、器台、土師器の甕、高杯、鉢、製塩土器などの土器と石製品では管玉、白玉などがある。時期は古・中に属すると思われる。(松本)

竪穴住居144 (第1204・1236・1237図、図版56・57・143・144)

この住居は一度建て替えられていて、西辺で2条の壁体溝を検出する。柱穴は同じものを使用したようで、床面には2本の主柱しか検出されてない。土層断面図などから、住居は東寄りに建て替えら



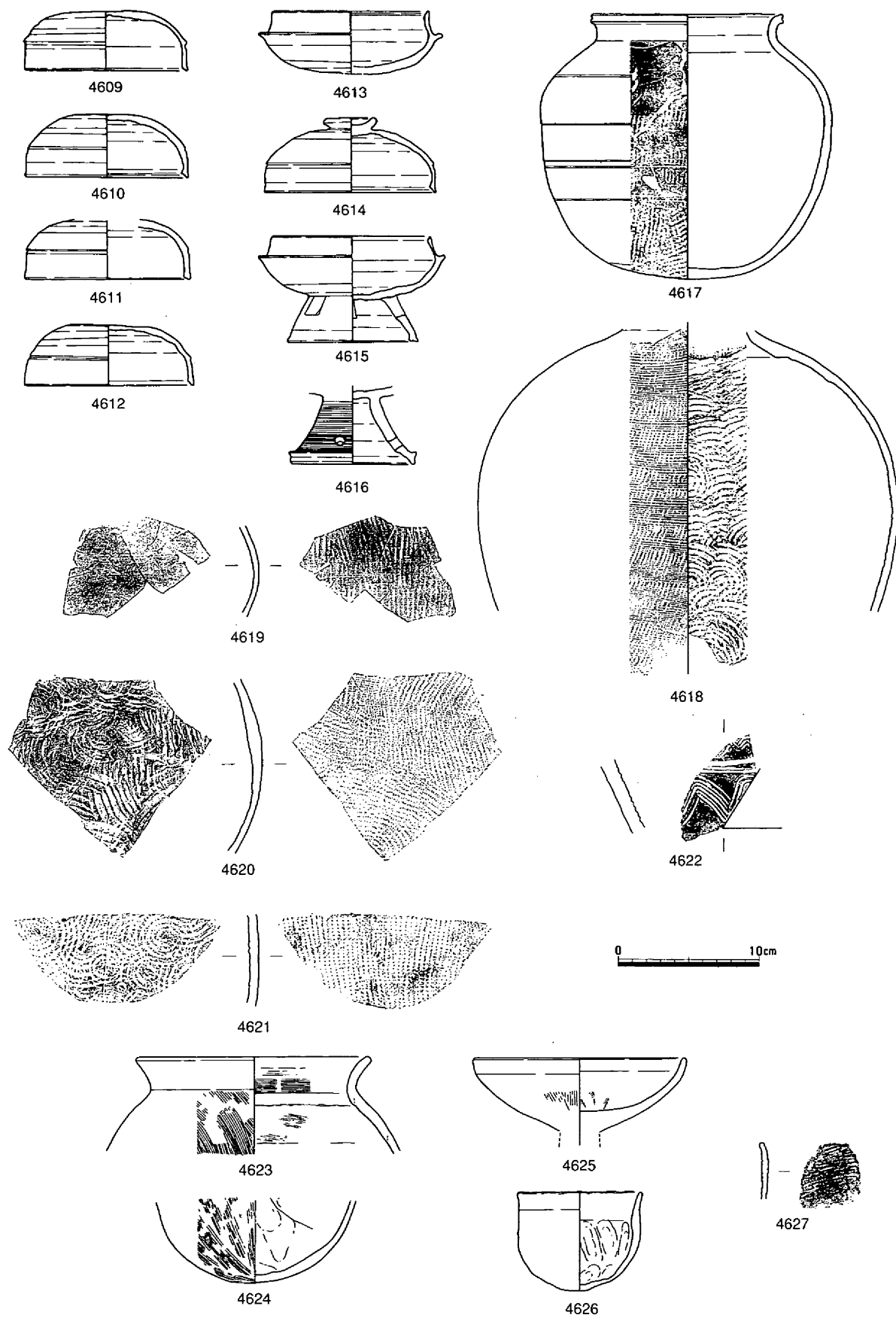
第1234図 竪穴住居143 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1)

れているが、西辺以外は移動ないため、むしろ西辺を狭くした住居である。平面形は方形を呈し、最初は長辺が452cm、短辺が440cmあった住居が、長辺が418cm、短辺が404cmの規模に縮小された。カマドは新旧とも存在するが、旧カマドは東辺の南角にわずかに残存し、新カマドは南辺の西角に造り付けていた。カマドは一度掘られた後、粘土を埋めて構築している。燃焼部に支脚の石がおかれていた。

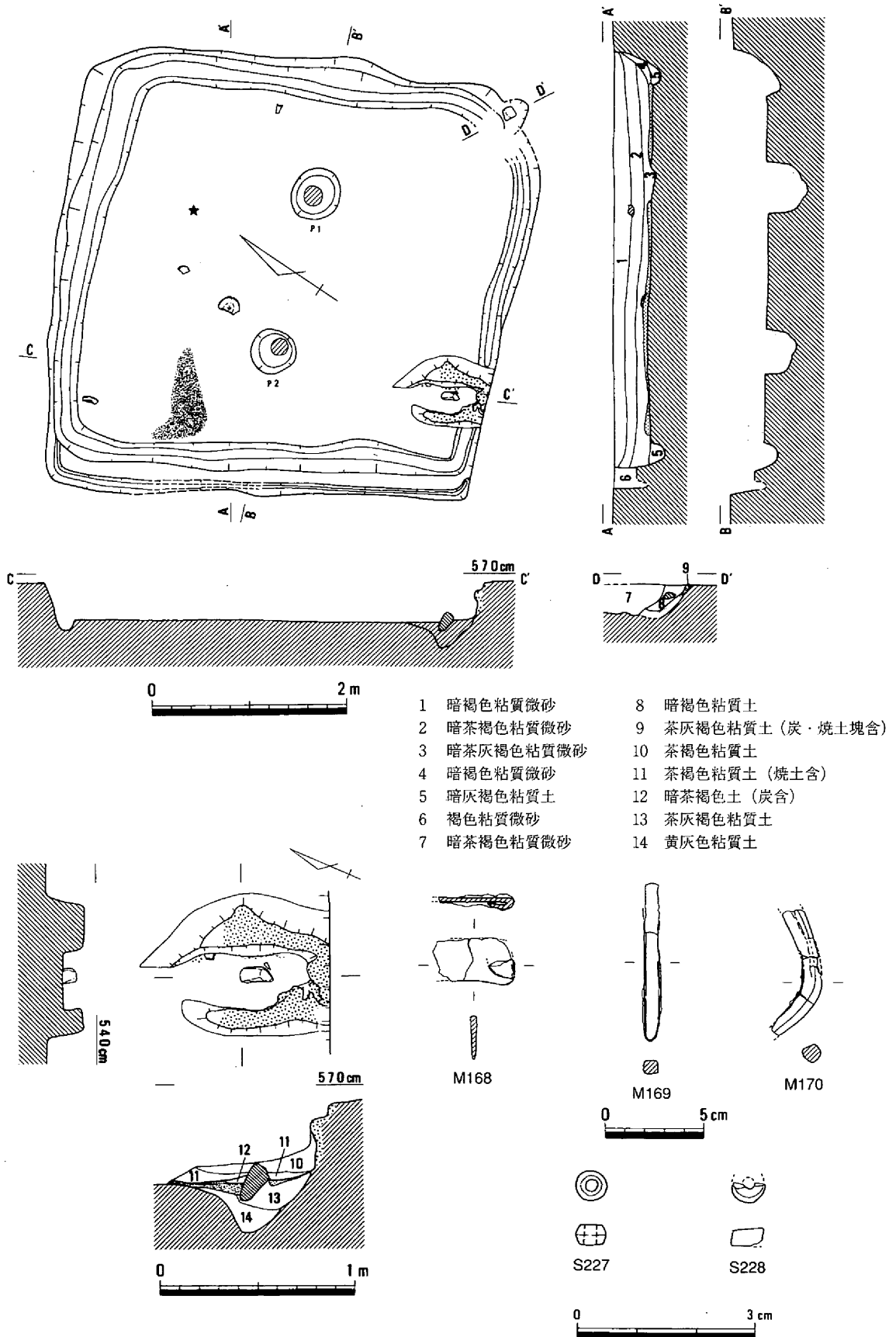
遺物では須恵器の甗、土師器の壺、甕、高杯、柑、手捏ね土器、製塩土器、甑、鉄製品では鎌、釘、鏃、石製品では白玉などが出土している。時期は古・中に属すると思われる。(松本)

竪穴住居145 (第1204・1238~1240図、図版57・144・169)

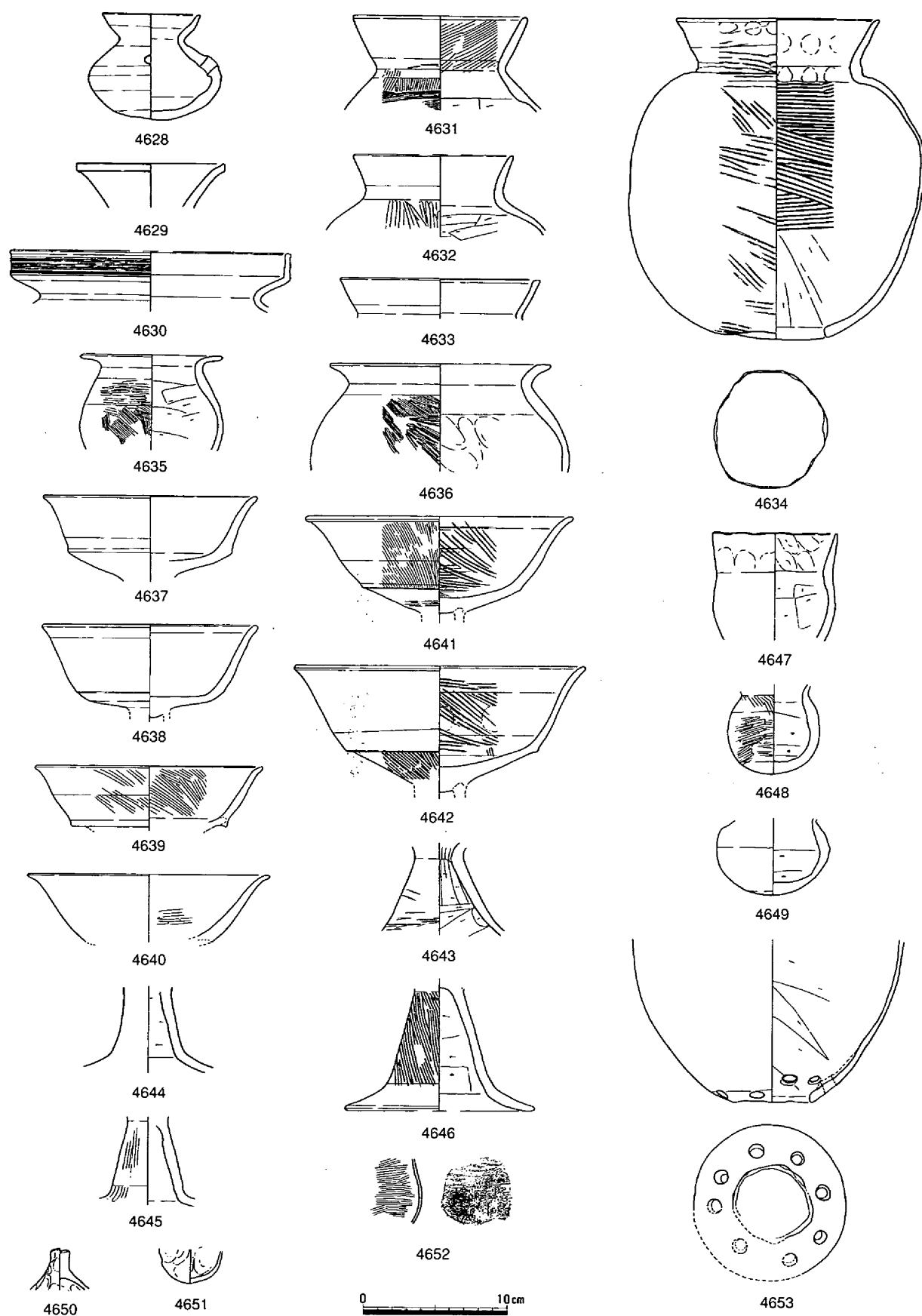
竪穴住居143の東隣で検出された。この住居は二度建て替えられていて、3条の壁体溝が検出された。主柱穴はいずれの住居も4本柱で構成されるが、145aと145bでは柱穴が6本しか確認されない



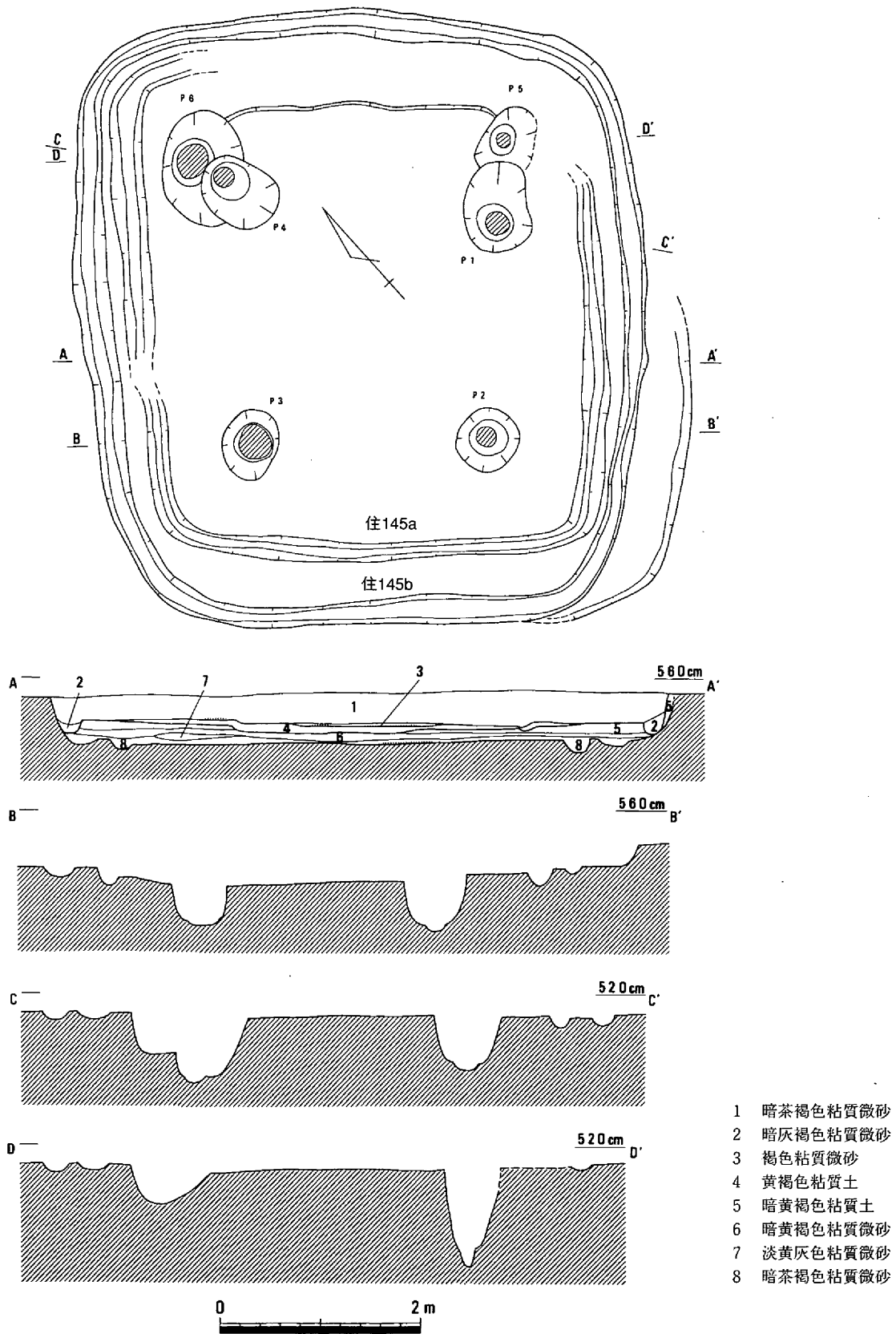
第1235図 竪穴住居143出土遺物② (1/4)



第1236図 竪穴住居144 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3,1/1)

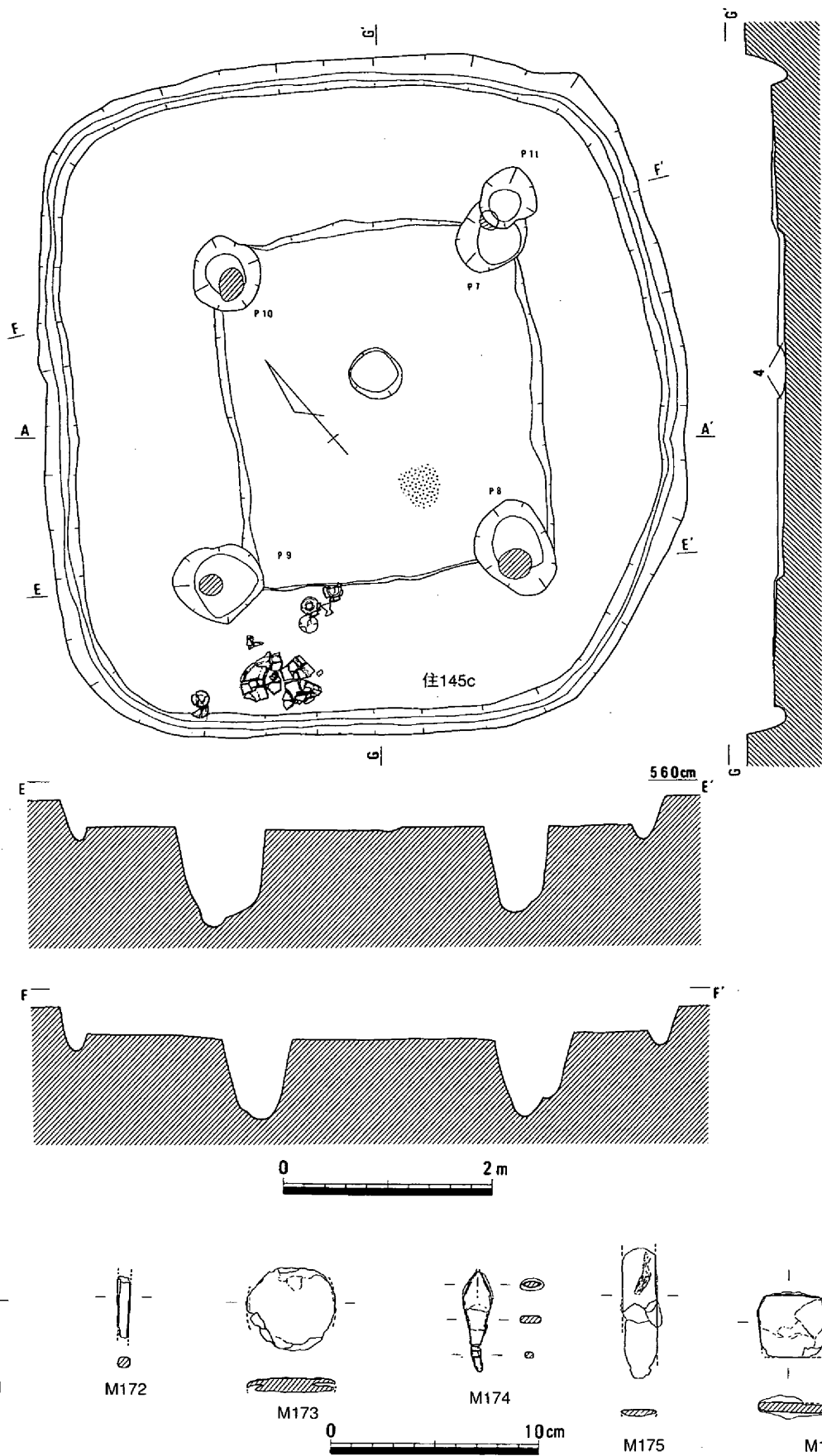


第1237図 竪穴住居144出土遺物② (1/4)

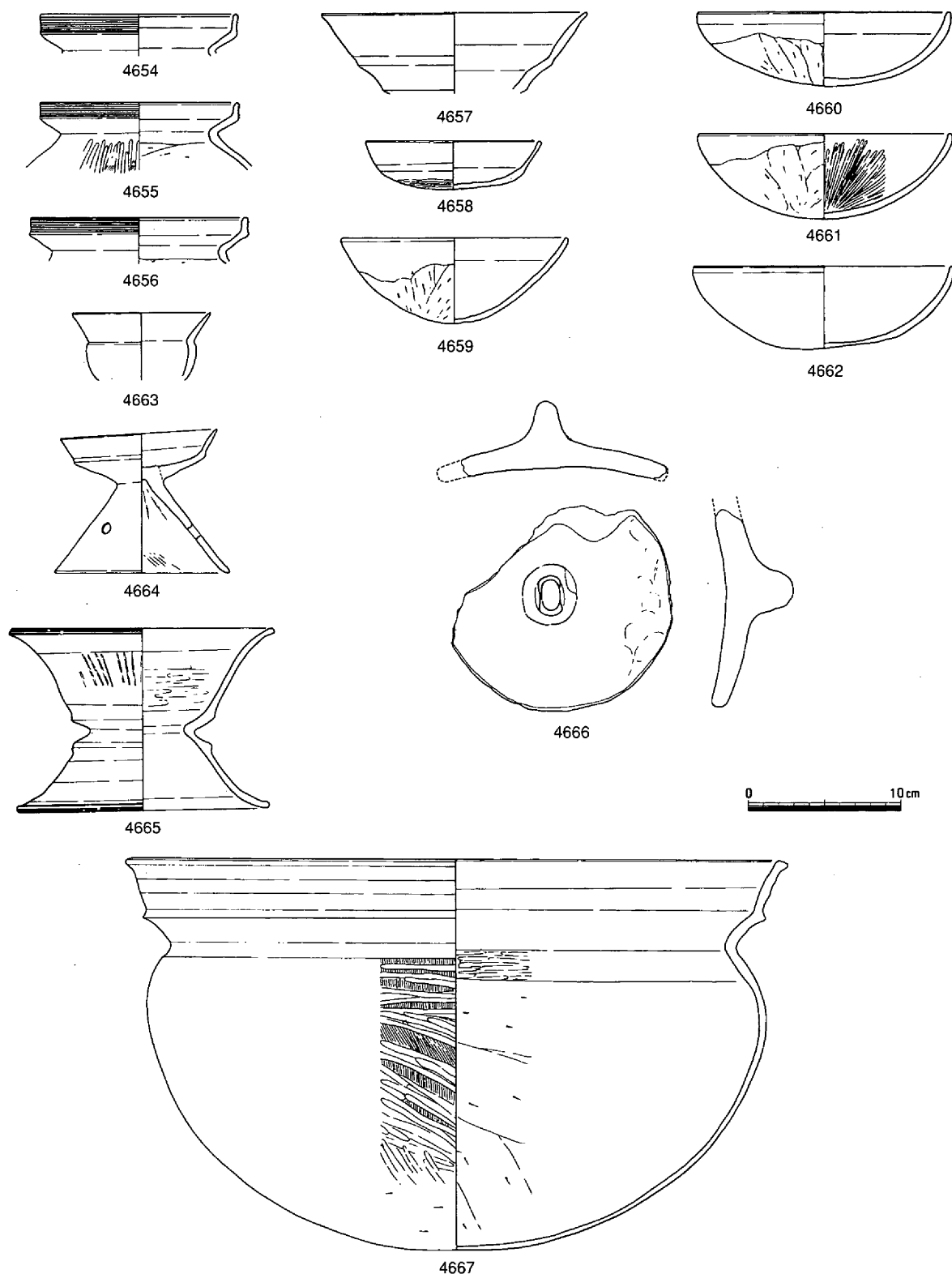


第1238図 竪穴住居145① (1/60)





第1239図 竪穴住居145② (1/60)・出土遺物① (1/3)



第1240図 竪穴住居145出土遺物② (1/4)

ため、南辺の2本は再使用されたようである。主柱間距離は a が234~296cm、b が234~280cmを測る。土層断面観察によって、a から b に拡張していることが確認されているが、北辺の柱穴は切り合い関係からみて南に少し移動させているようである。平面形はいずれも隅丸方形を呈し、145 a は長辺が

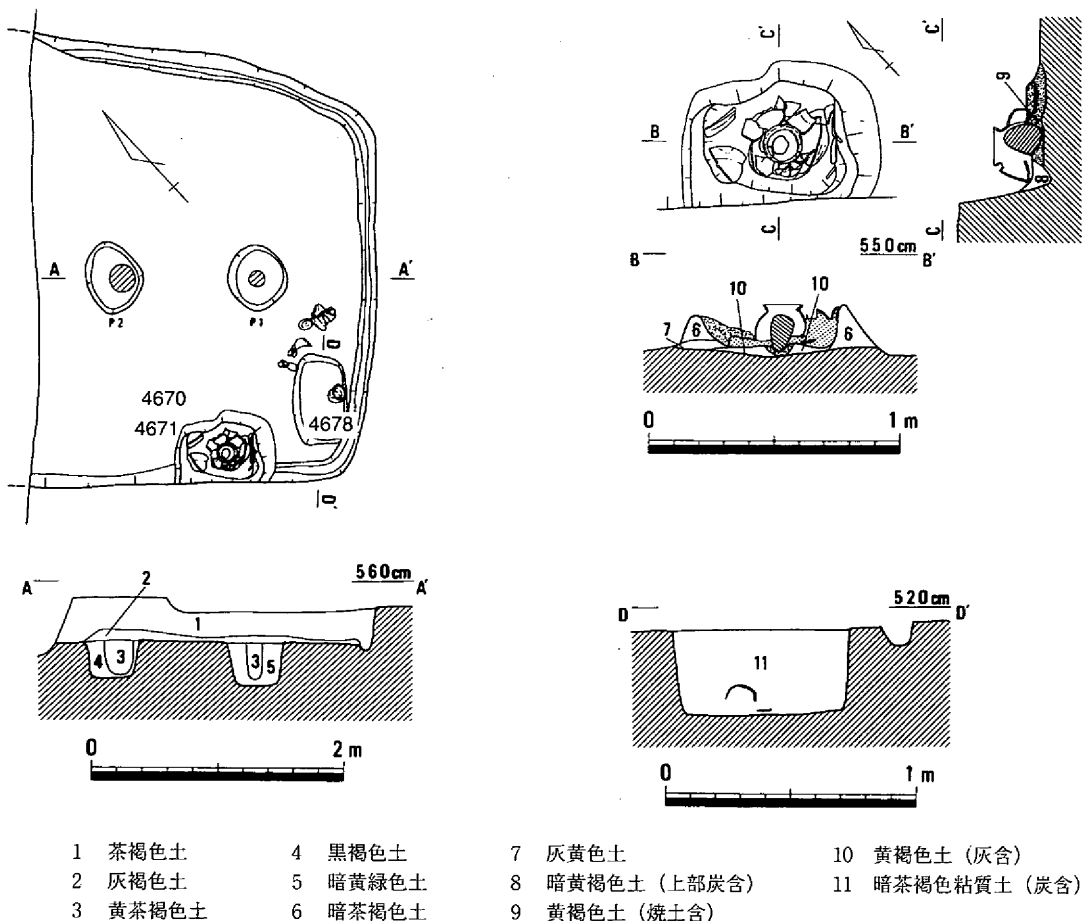
478cm、短辺が462cmで、145 b では長辺が594cm、短辺が554cmの規模に拡張されていた。最も新しい住居である145 c の平面形は隅丸方形を呈し、長辺が626cm、短辺が592cmを測る。主柱穴は4本で、四隅の対角線上にみられ、主柱間距離は254~328cmを測る。柱の掘り方は60~90cm、深さは80~100cmを測り、径が20~30cmの柱痕跡が確認されている。床面には壁体に沿って幅110~140cm、高さ約10cmの高床部が全周する。なお、床面の中央部にはくぼみと径40cmの被熱を受けた箇所が検出されている。

遺物としては土師器の甕、高杯、鉢、柑、器台、鼓形器台、蓋、鉄製品では鏃M174と器種、用途不明のものがある。これらの遺物からみて、時期は古・前・Iに属すると思われる。(松本)

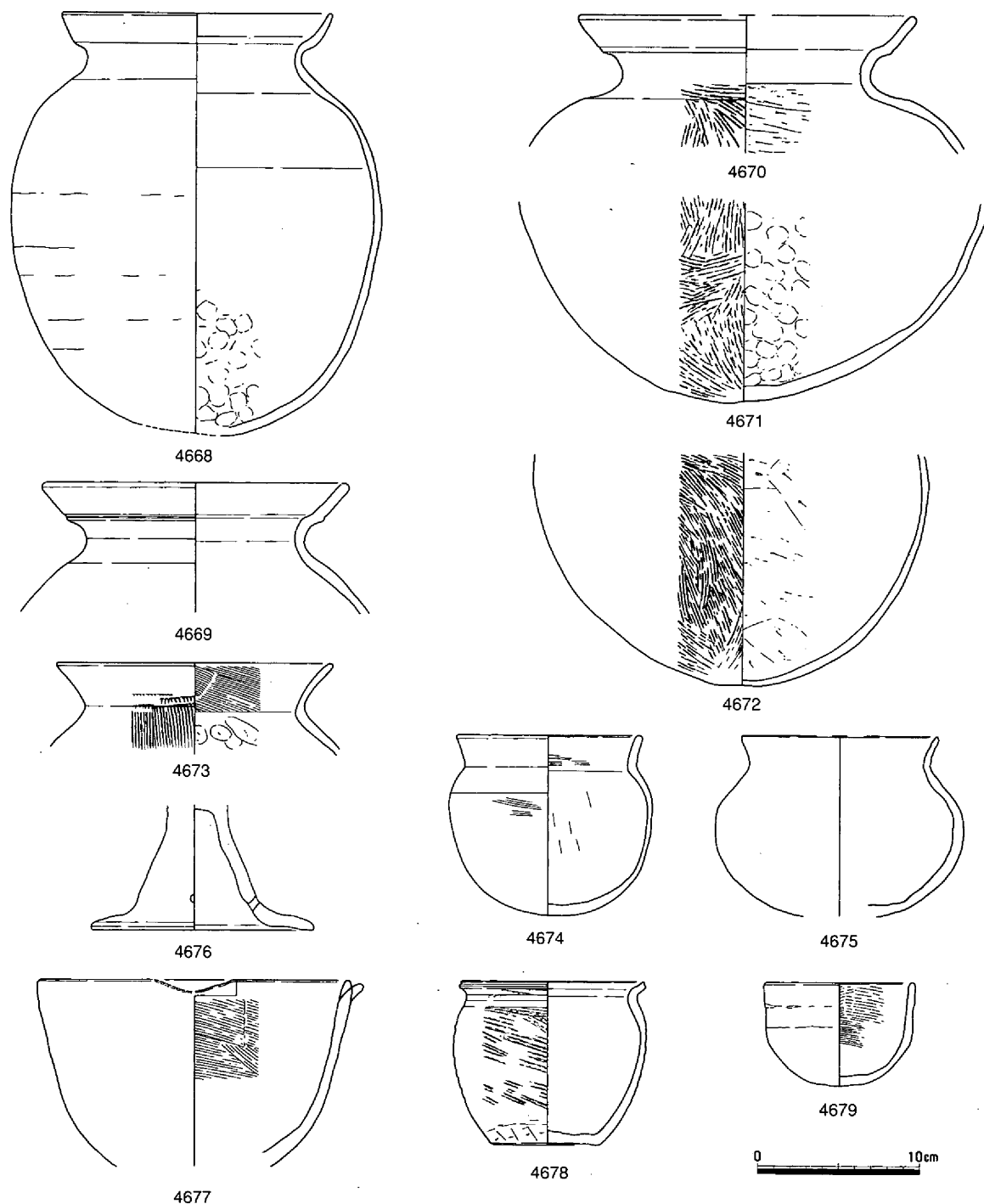
**竪穴住居146** (第1204・1241・1242図、図版58・144)

竪穴住居147の西隣で検出された。遺構は溝39に切られていたが、確認された規模は長辺が266cm、短辺が338cmを測り、平面形は方形を呈する。検出面からの深さは28cmを測る。床面は平坦で、南コーナーに造り付けのカマドが遺存していた。燃烧部の底面には支脚となる角礫が1個置かれるとともに、内部には土師器壺がみられた。袖幅は10~20cm、長さ約50cm、高さ10~20cmを測る。南から東の壁際には幅約10~20cm、深さ10cm前後の壁体溝が巡るが、カマドの端まで取り付いていた。また、カマドの東には炭や土師器が入った方形土壇(40×70×34cm)が設置されていた。2本の主柱で構成される住居で、柱間距離は110cmである。

遺物としては、土師器の壺、甕、高杯、鉢などのほかに、器壁外面に格子目のタタキを施した軟質土器の平底甕4678がある。これらの遺物からみて、時期は古・中に属すると思われる。(松本)



第1241図 竪穴住居146 (1/60,1/30)



第1242図 竪穴住居146出土遺物 (1/4)

竪穴住居147 (第1204・1243図、図版145)

竪穴住居146の東隣に位置する。残存する規模は長辺が450cm、短辺が410cm、深さは8cmを測る。平面形は方形を呈する。壁体溝は確認できなかった。4本の支柱で構成される住居で、柱間距離は205~245cmである。出土遺物の量は少ないが、須恵器の甕4680、土師器の甕4681、線刻のある器種不明のもの4682などがある。これらの遺物からみて、時期は古・中に属すると思われる。(松本)

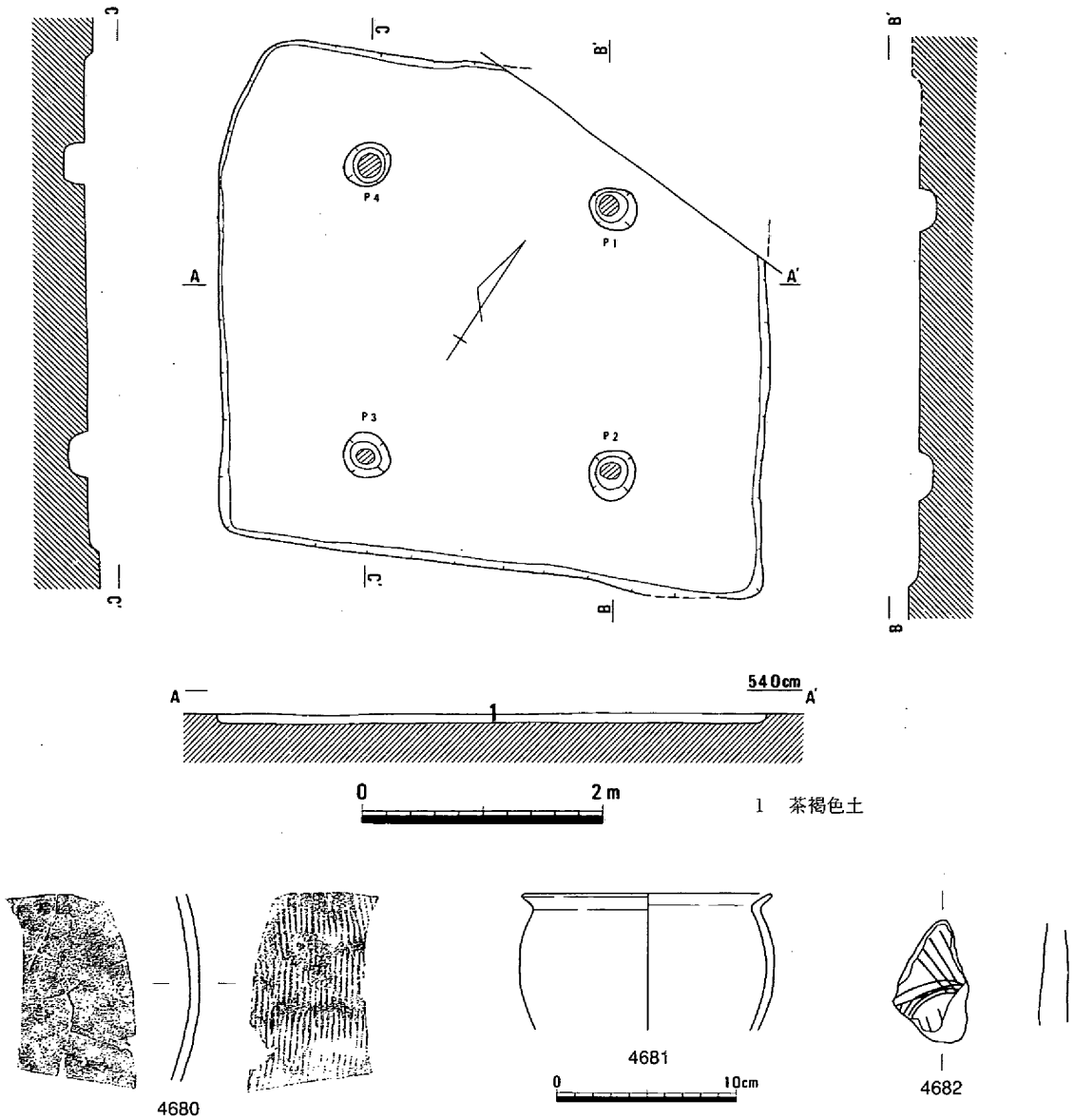
竪穴住居148 (第1204・1244・1245図、図版58・59・145)

竪穴住居150の北に位置する。平面形は方形を呈し、規模は長辺が330cm、短辺が310cmで、深さは

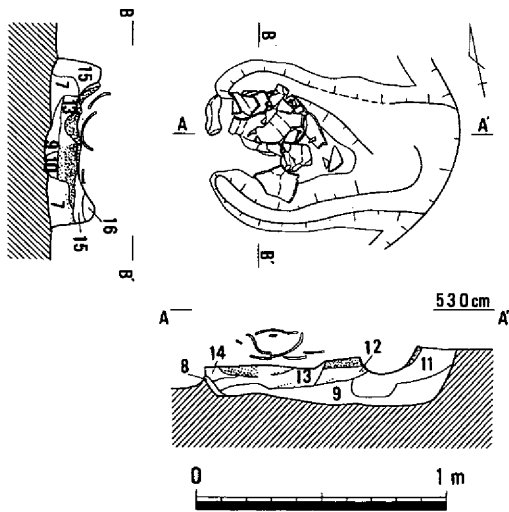
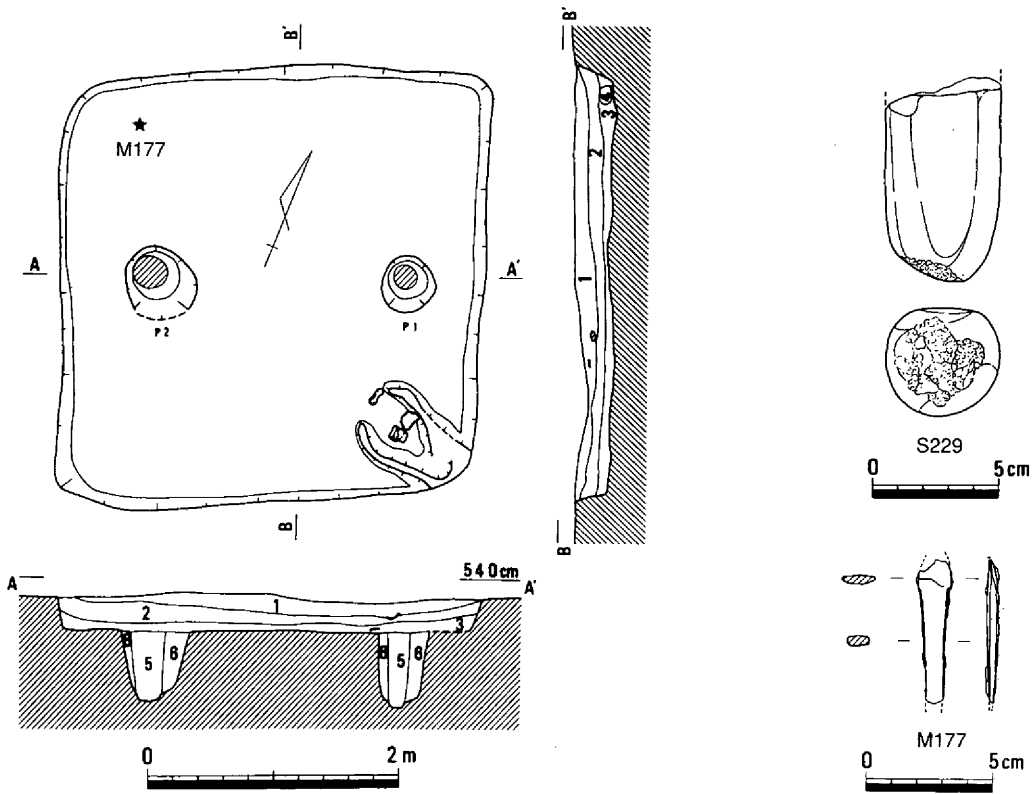
検出面から28cmを測る。壁体溝は確認されなかった。東辺と南辺の角に造り付けのカマドがある。袖幅は10~20cm、長さは90~100cm、高さは約20cmを測るが、北袖がやや細長い形態となる。燃烧部内には土師器の甕が潰れた状態で出土している。2本の主柱で構成される住居で、柱間距離は205cmである。遺物としては、須恵器の蓋、台付杯、土師器の壺、甕、高杯、鉢、甑と鉄製品では鉈、石製品では叩き石がある。これらの遺物から、時期は古・中に属すると思われる。(松本)

竪穴住居149 (第1204・1246・1247図、図版59・145)

Ci604区に位置し、後述の竪穴住居151の上層から検出された。平面は方形を呈すが、住居南西半部は検出し得なかった。規模は残存する東辺で608cm、深さ27cmを残す。主柱は4本と推定されるが、床面東側から2個の柱穴を検出したのみで、その柱穴間距離は337cmを測る。床面は貼床がなされ、北辺中央東寄りと推定される箇所から造り付けのカマドが検出された。カマドは自然石を支柱として



第1243図 竪穴住居147 (1/60)・出土遺物 (1/4)



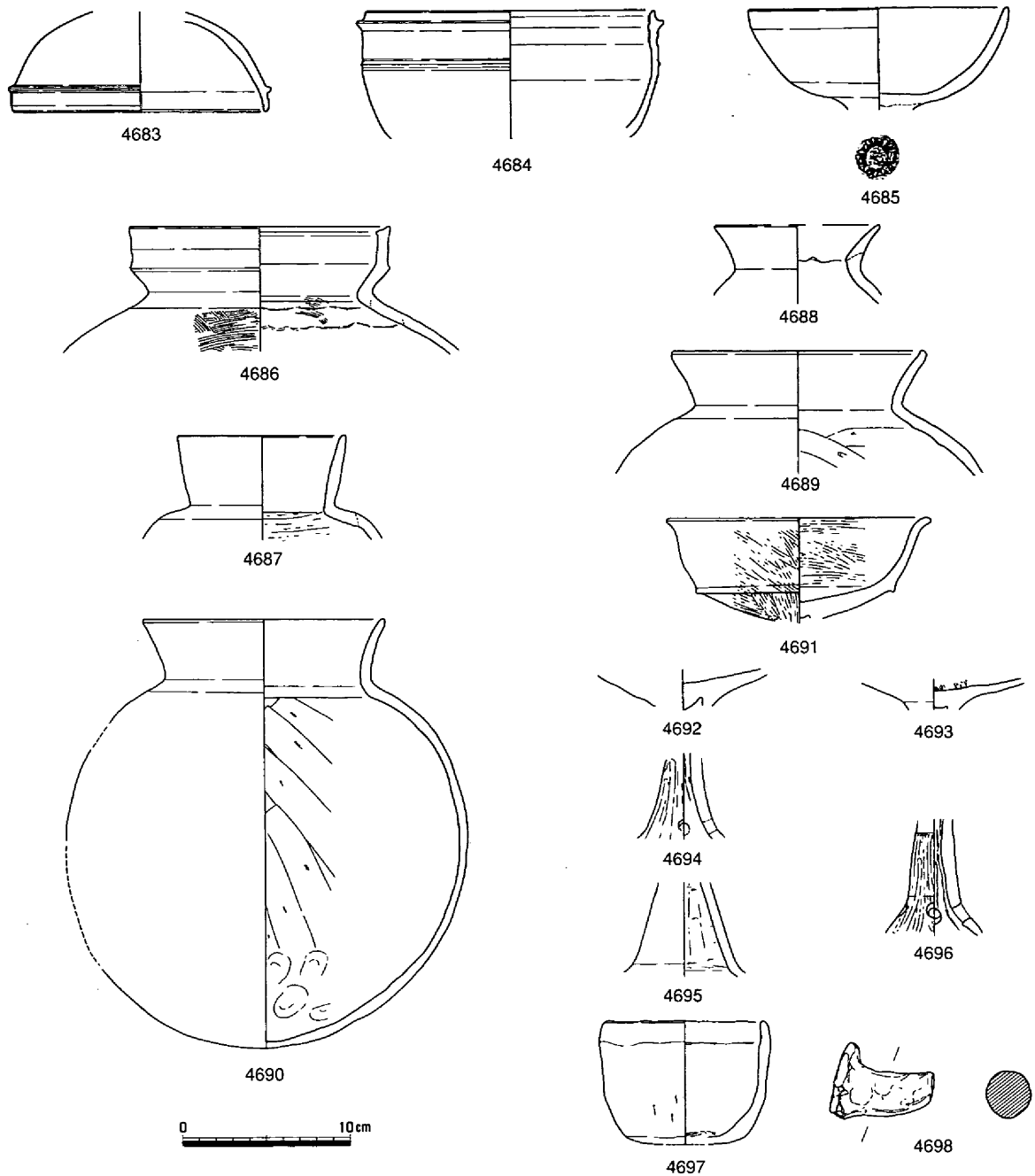
- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 暗茶褐色粘質土 (炭含)
- 3 暗褐色粘質土
- 4 淡茶褐色粘質土
- 5 黄灰色粘質土
- 6 淡黄褐色粘質微砂
- 7 茶褐色粘質土
- 8 淡灰色粘質土
- 9 黄橙色粘質土
- 10 黄褐色粘質土
- 11 暗黄褐色粘質土
- 12 淡茶褐色粘質土
- 13 暗黄褐色粘質土
- 14 暗茶灰色粘質土
- 15 茶灰色粘質土
- 16 暗茶色粘質土

第1244図 竪穴住居148 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3)

おり、床面上層からは甕4703が出土した。ほかに図示した遺物は覆土中からのもので、これらは古・中・Ⅱの特徴を示すものである。 (江見)

竪穴住居150 (第1204・1248・1249図、図版59・145)

竪穴住居148と151の間で検出された焼失住居である。平面形は長方形を呈し、規模は長辺が392cm、短辺が272cmで、深さは検出面から18cmを測る。南壁以外で壁体溝が巡っており、幅15~20cm、深さは10cmを測る。床面直上には炭化材が広範囲に認められるとともに、北側では使用木材の大きさを推定させるものもみられた。4本の主柱で構成される竪穴住居であり、柱間距離は120~180cmである。



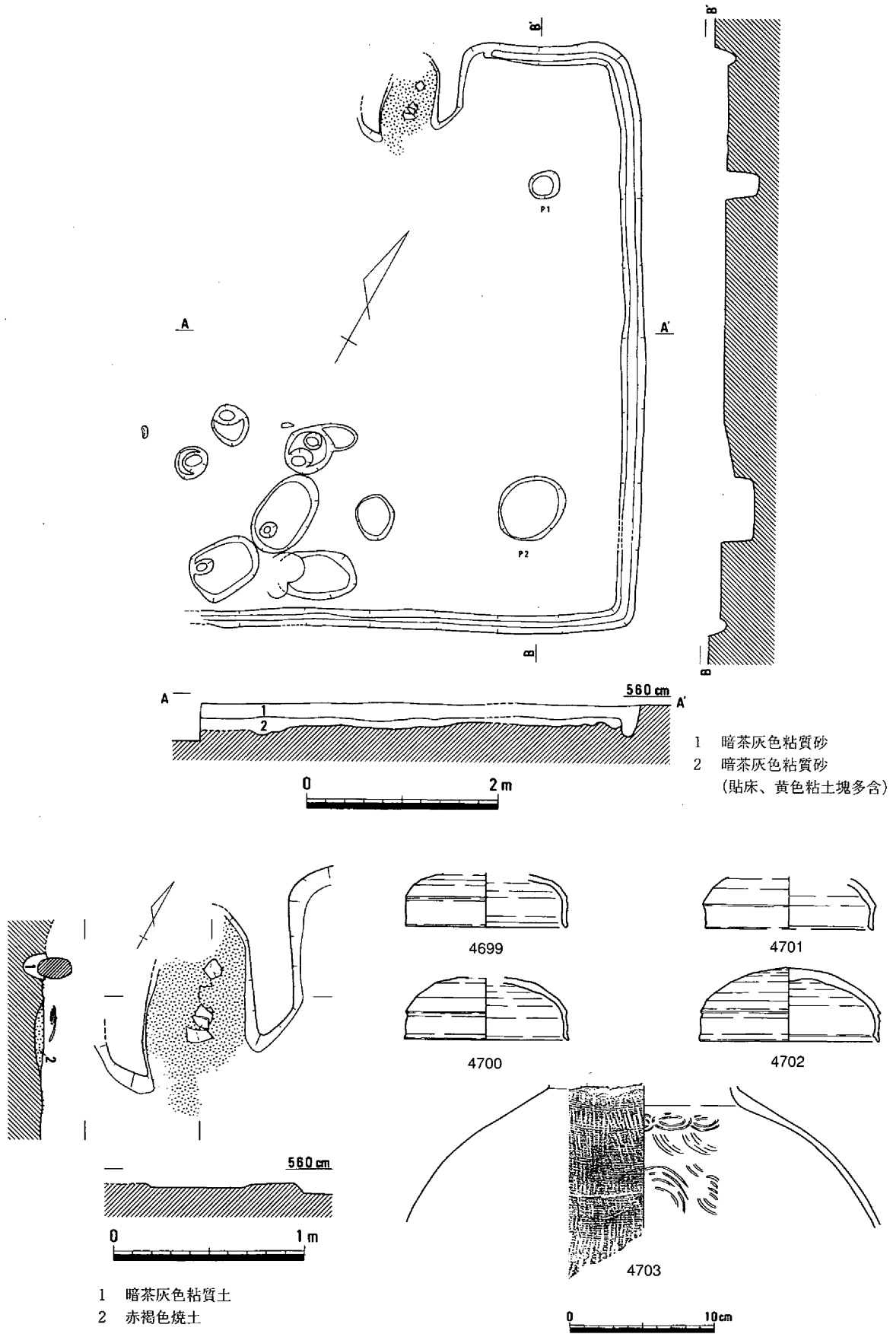
第1245図 竪穴住居148出土遺物② (1/4)

柱の掘り方は20～35cm、深さは約15cmを測り、径10～15cmの柱痕跡が確認されている。

遺物としては、須恵器の壺、土師器の甕、高杯、柑、手捏ね土器、鉄鏃がある。高杯4714と4715は同一個体の可能性が強い。これらの遺物から、時期は古・中に属すると思われる。(松本)

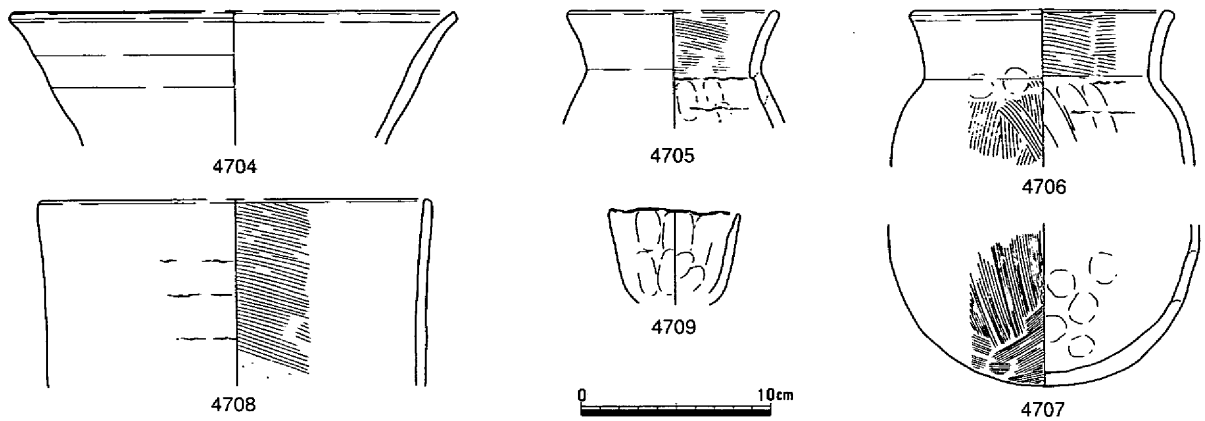
竪穴住居151 (第1204・1250図、図版59)

竪穴住居149の下層から検出された。平面方形を呈し、規模は425×392cm、深さ22cmを残すものの遺構の切り合いから残存度は低い。推定床面積は約14m<sup>2</sup>で比較的小規模である。床面は貼床がなされ、周囲に巡る壁体溝は明瞭に検出し得たものの、住居内から検出した柱穴からは主柱を明らかにする事はできなかった。出土遺物は少なく、図示し得た甕4724は歪みが大きく、甕も小破片であるが、古・



第1246図 竪穴住居149 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/4)





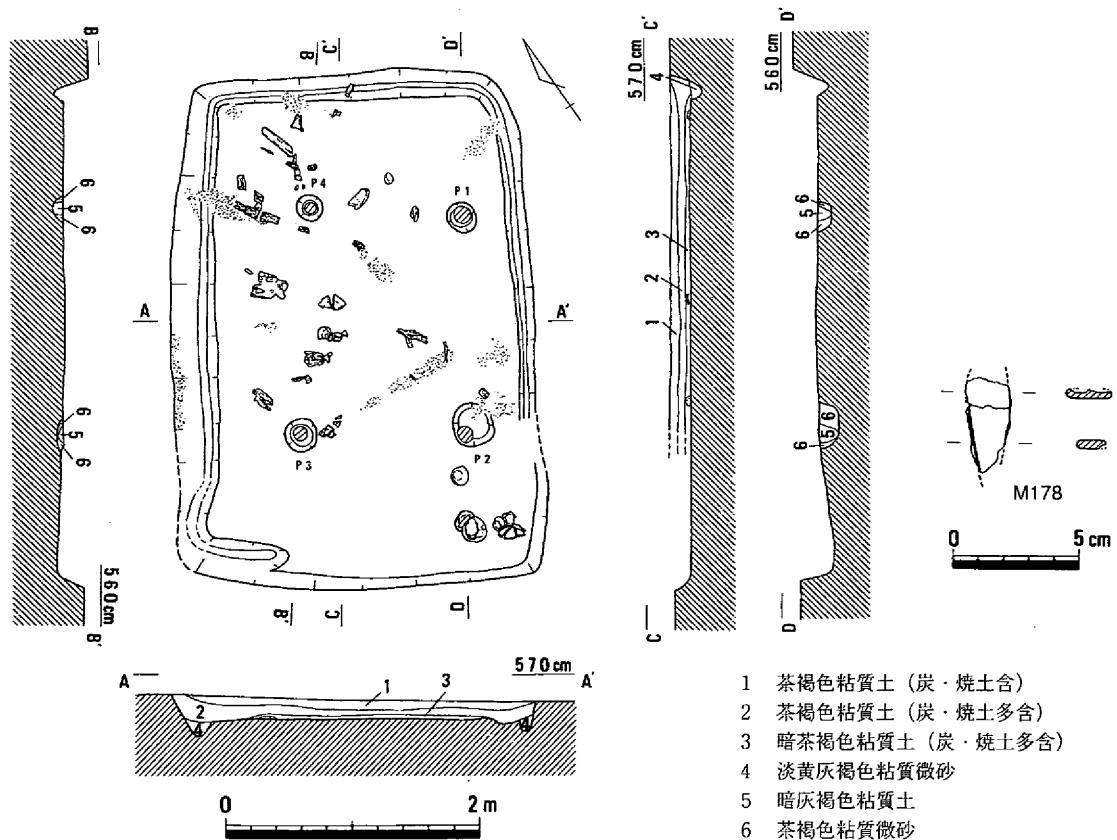
第1247図 竪穴住居149出土遺物② (1/4)

中・Ⅱの範疇のものと思われる。

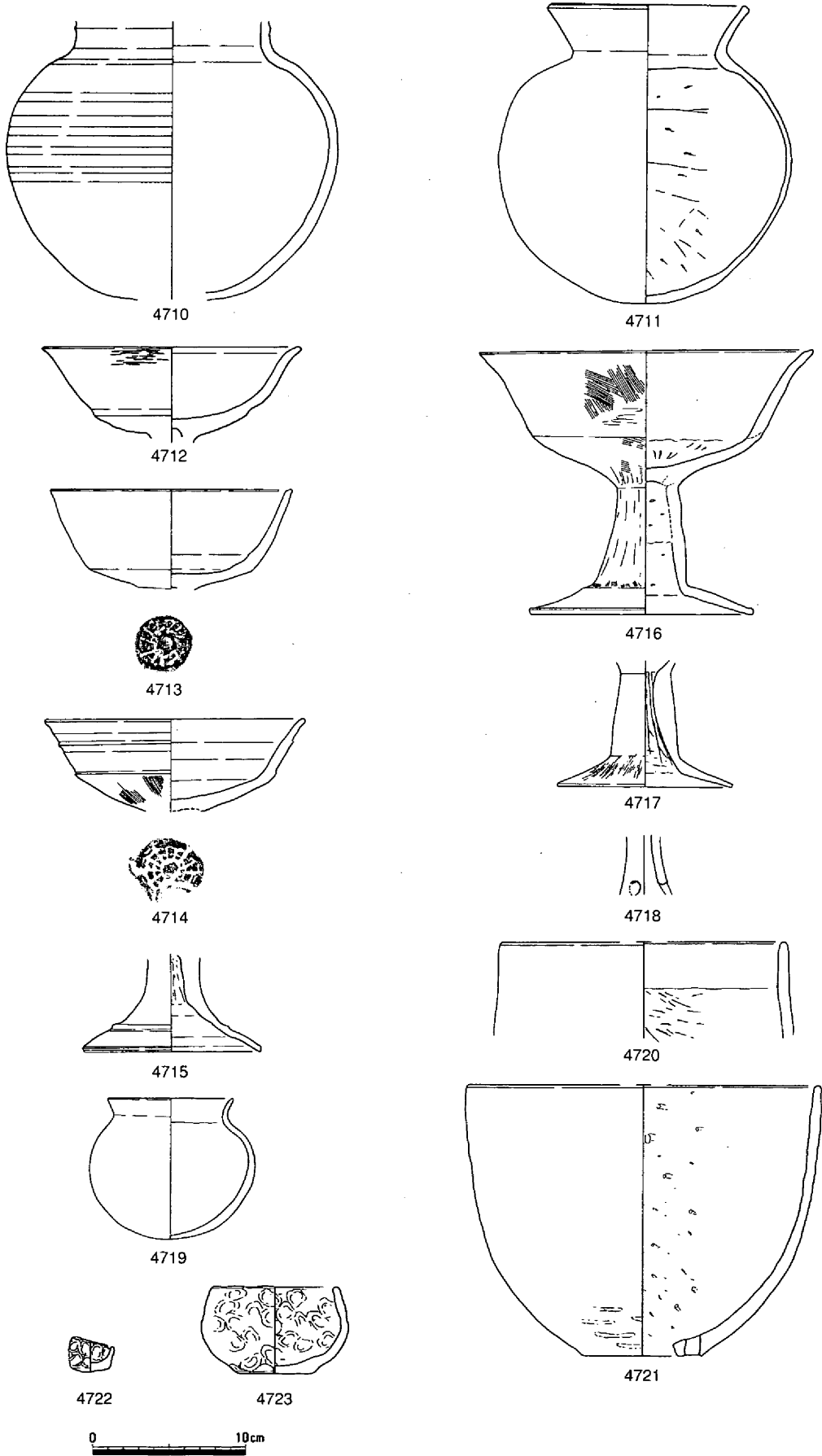
(江見)

竪穴住居152 (第1204・1251図、図版60)

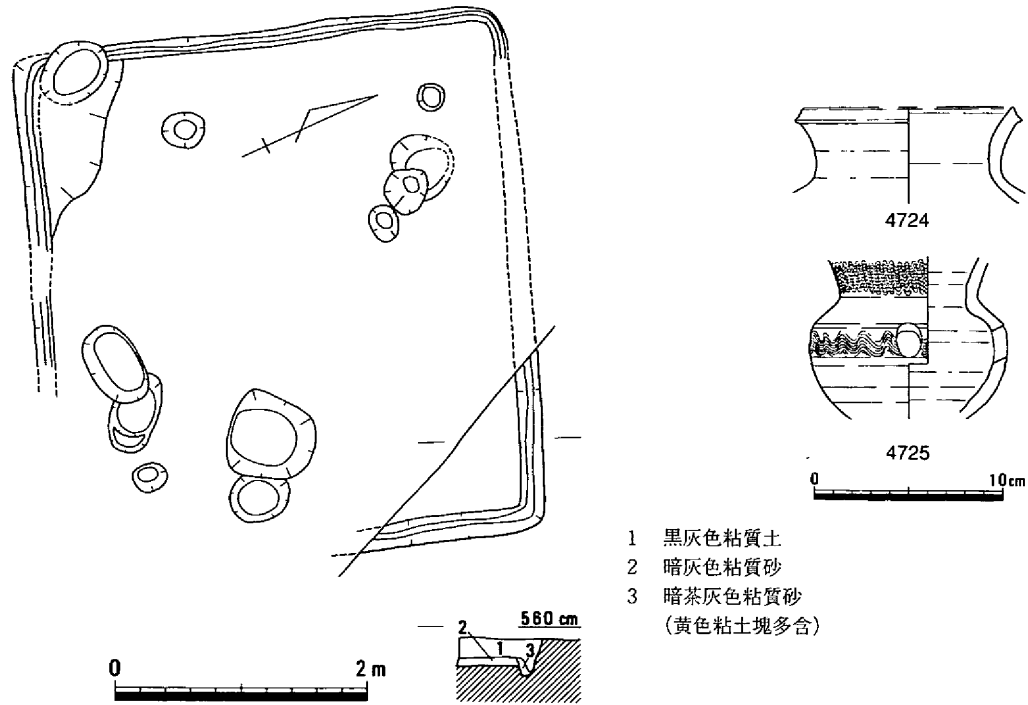
Da6 03区に位置し、住居の南部分は河道9によって削平を受けて検出された。平面方形を呈し、規模は一辺約330cm、深さ15cmを残す。主柱は4本からなり、柱穴間距離は145~175cmを測る。住居は壁に沿って壁体溝とともに高さ約10cmの高床部が巡る。しかしながら東部は途切れ、その東辺中央部に出入り口が設置されたものと推定される。住居中央西寄りに径45cm、深さ約20cmの中央穴が設置されている。遺物は少なく、図示し得た壺、甕、鉢は古・前・Ⅱの特徴を示す。 (江見)



第1248図 竪穴住居150 (1/60)・出土遺物① (1/3)

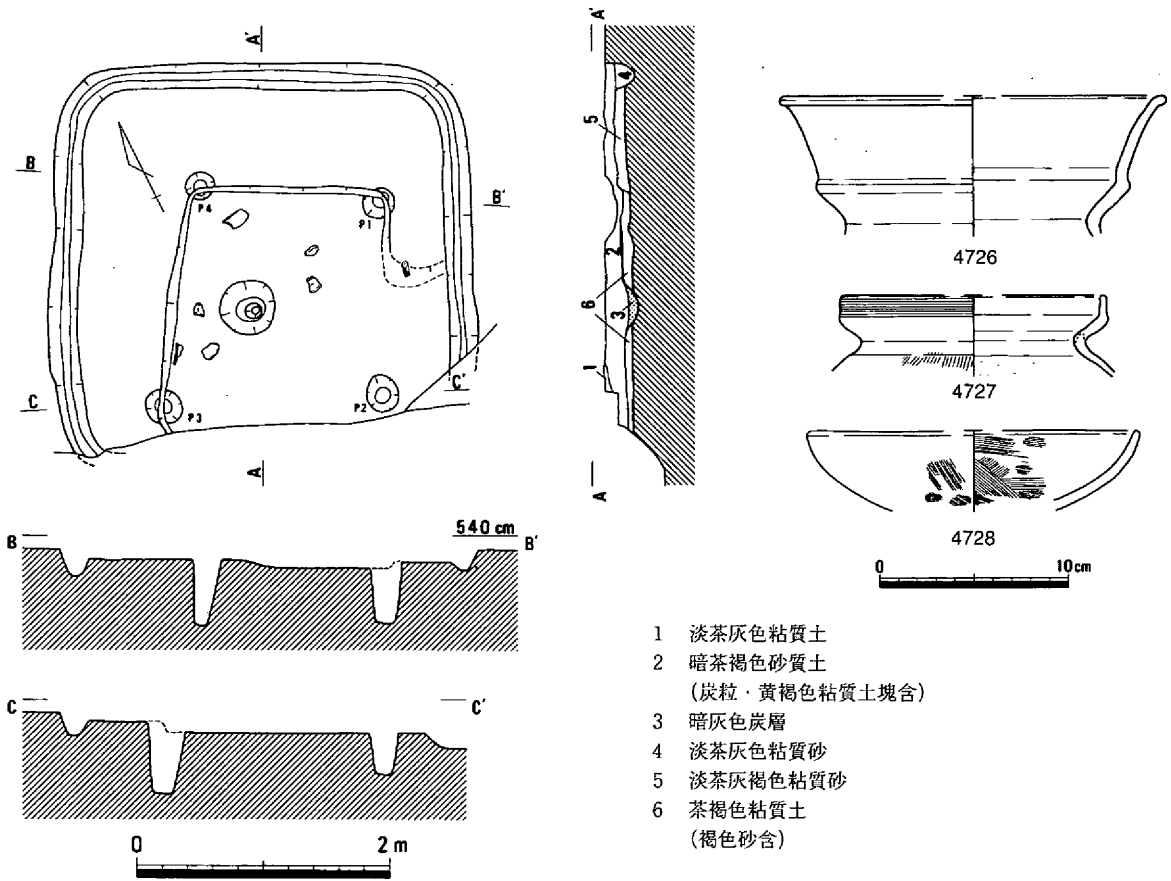


第1249図 竪穴住居150出土遺物② (1/4)



- 1 黑灰色粘質土
- 2 暗灰色粘質砂
- 3 暗茶灰色粘質砂  
(黄色粘土塊多含)

第1250図 竪穴住居151 (1/60)・出土遺物 (1/4)

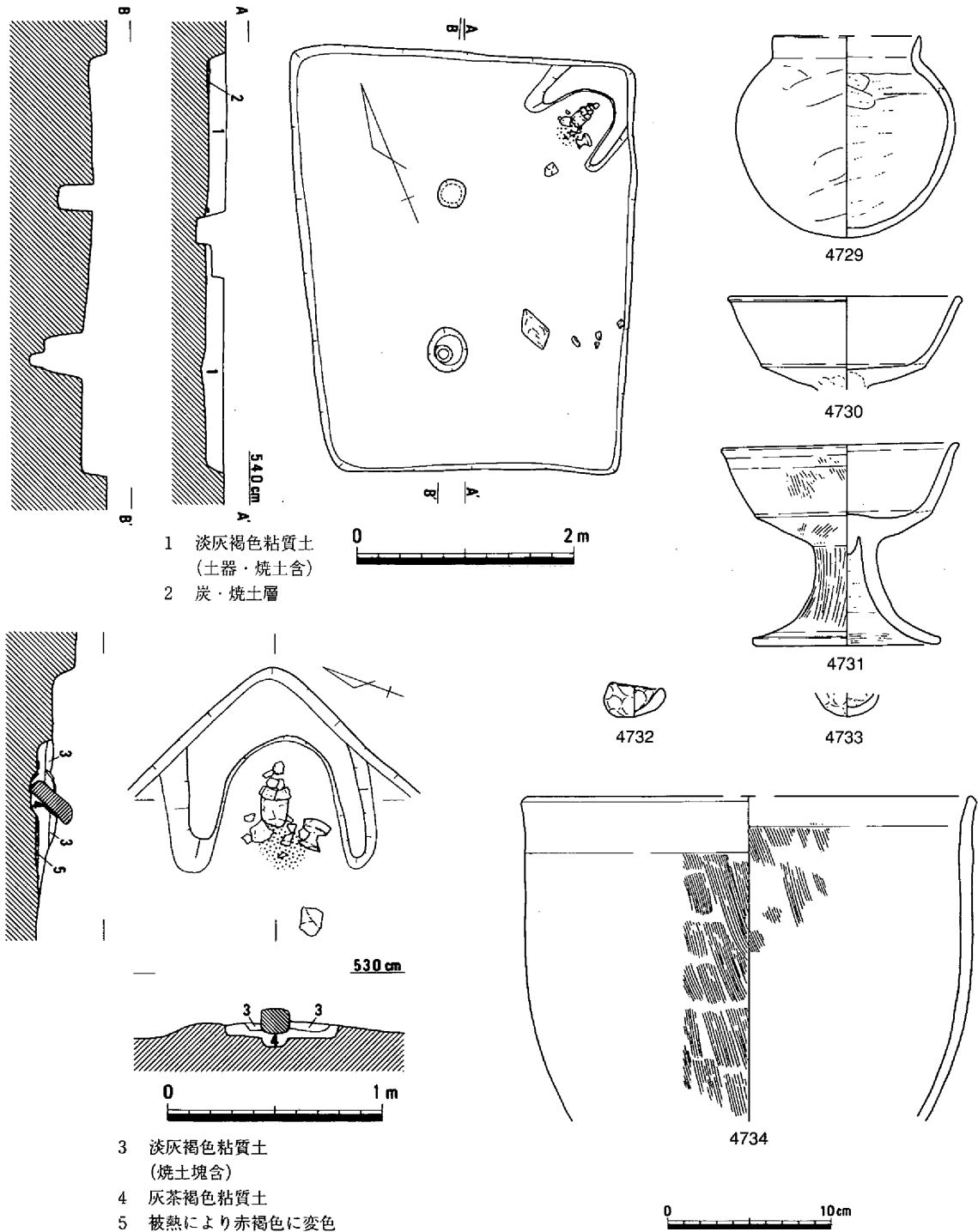


- 1 淡茶灰色粘質土
- 2 暗茶褐色砂質土  
(炭粒・黄褐色粘質土塊含)
- 3 暗灰色炭層
- 4 淡茶灰色粘質砂
- 5 淡茶灰褐色粘質砂
- 6 茶褐色粘質土  
(褐色砂含)

第1251図 竪穴住居152 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居153 (第1205・1252図、図版60・146)

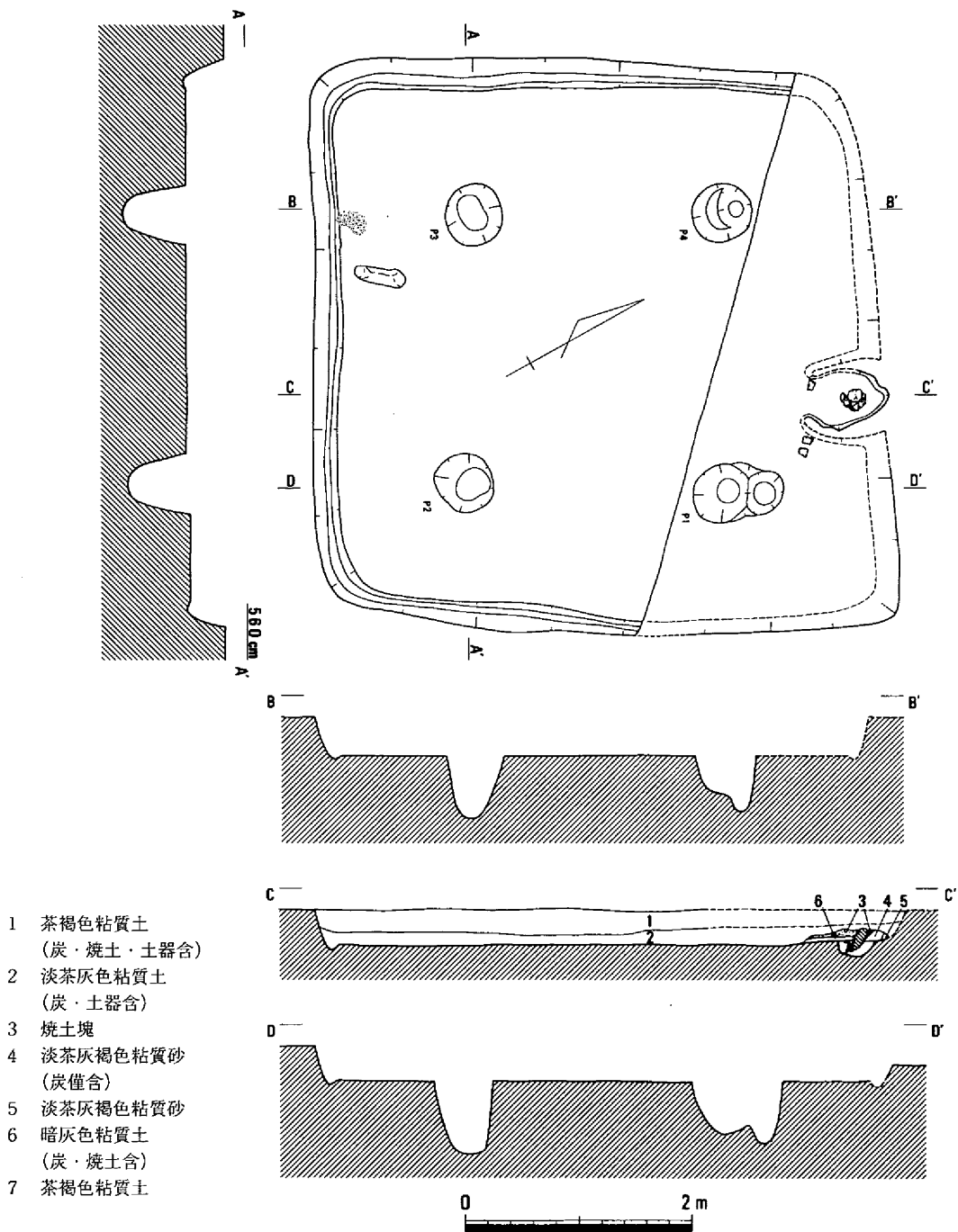
調査区の中央北部、Cg606区から検出された。平面不整長方形を呈す。規模は380×481cm、深さ20cmを残し、床面積は10.7m<sup>2</sup>を測る。主柱は2本からなり、その距離は149cmを測る。住居北東隅に造り付けのカマドが設置されていた。カマド内には自然石による支柱が立てられ、その周りから甕4729、高杯4730・4731が出土した。ほかに手捏ね鉢4732・4733、甌4734、作業台と思われる角礫などが出土しており、これら遺物の特徴から当住居は古・中・Iに廃棄されたものと推定される。(江見)



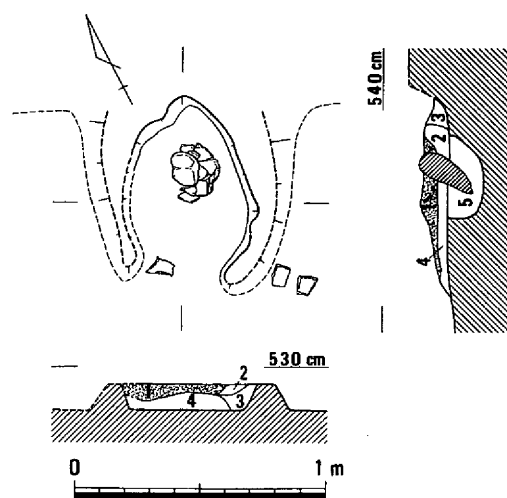
第1252図 竪穴住居153 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居154 (第1205・1253・1254図、図版61・146・165)

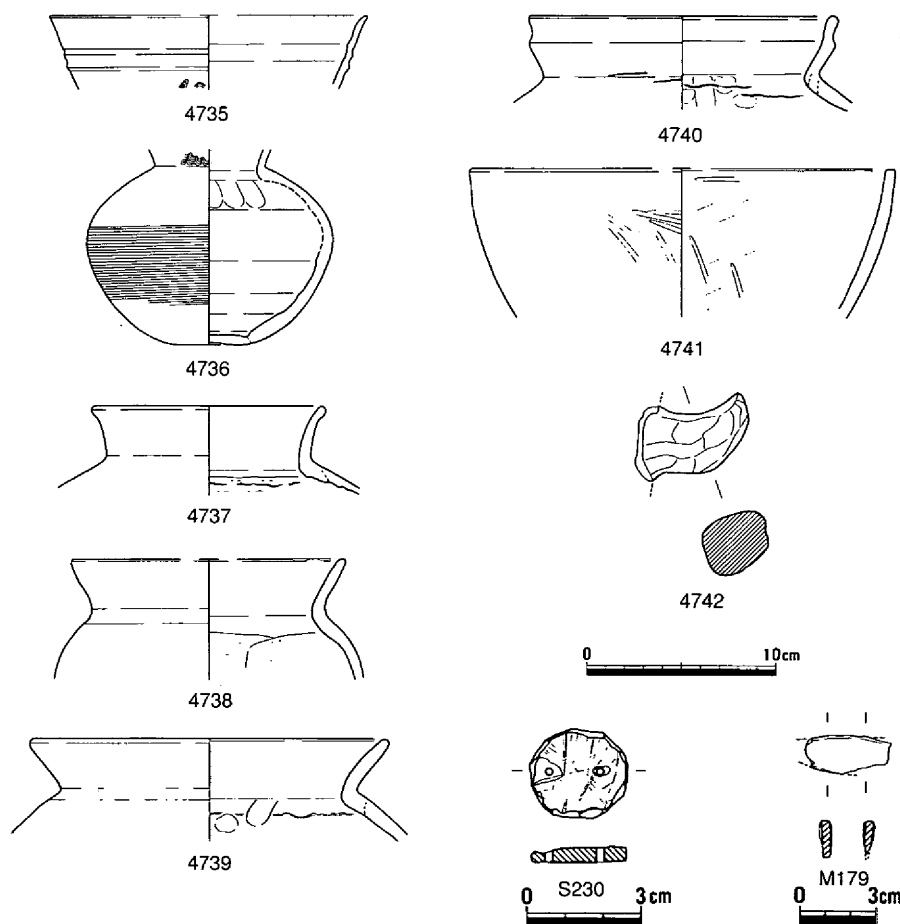
竪穴住居153の東から検出され、住居北部は中世斜面によって削平されている。平面方形を呈し、規模は一辺約500cm、深さ約30cmを残し、床面積は約23m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴間距離は225~249cmを測る。壁際には壁体溝が巡り、住居北辺中央東寄りに造り付けカマドが設置されている。カマド内には自然石による支柱が立てられ、周辺から甕片が押し潰された状態出土した。一方、南壁中央西寄りには被熱箇所が、また、床面南東隅には朱の付着が認められた。遺物は土器類4735~4742のほか、双孔円板S 230、刀子M179が出土しており、古・中の範疇のものであろう。(江見)



第1253図 竪穴住居154 (1/60)



- 1 焼土塊
- 2 淡茶灰褐色粘質砂  
(炭僅含)
- 3 淡茶灰褐色粘質砂
- 4 暗灰色粘質土  
(焼土・炭含)
- 5 茶褐色粘質土

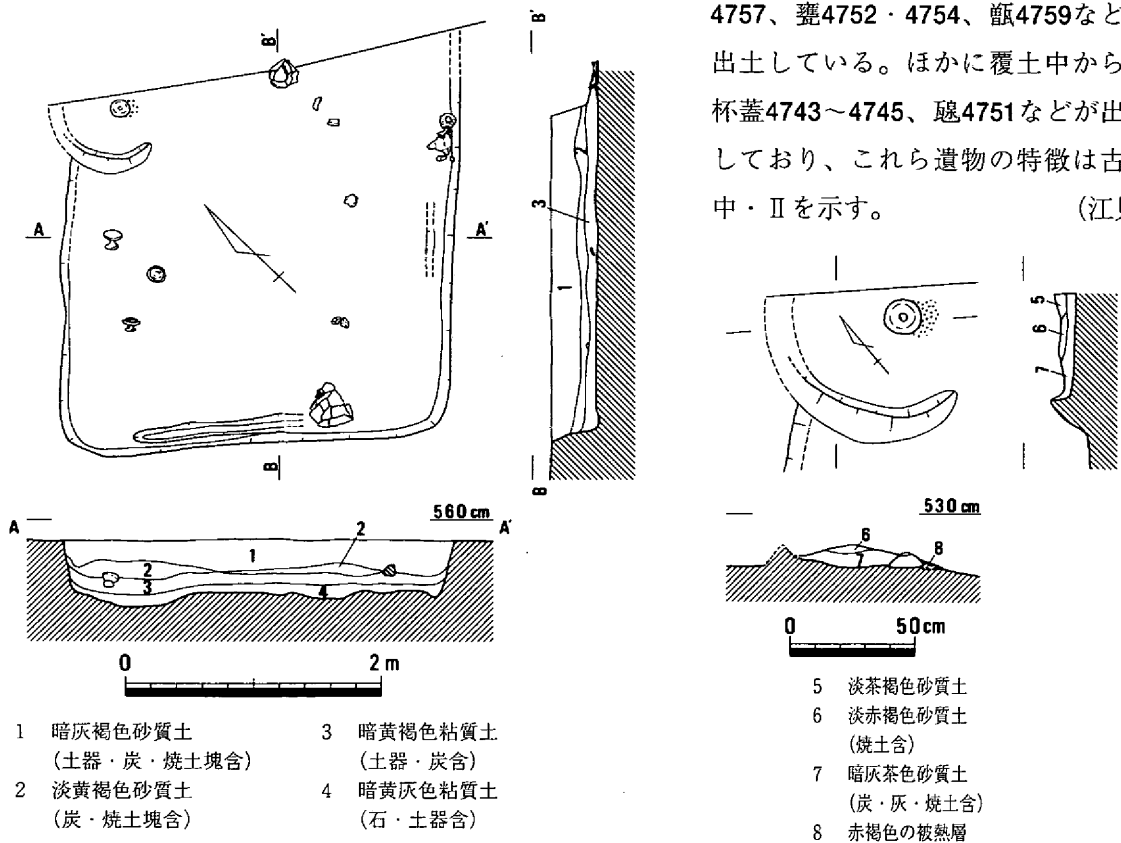


第1254図 竪穴住居154カマド (1/30)・出土遺物 (1/4,1/2,1/3)

竪穴住居155 (第1205・1255・1256図、図版61・62・146)

調査区の北東部、Cg609区から検出され、住居北部は調査区外に延びる。平面長方形を呈し、規模は320cm以上×310cm、深さ47cmを残し、推定床面積は約10m<sup>2</sup>を測る。主柱は確認されなかったが、壁体溝は部分的ながら検出され、本来は浅いながらも巡っていた可能性が高い。住居北辺中央東寄りからは造り付けカマドが検出された。残存状況は悪いが、カマドの煙道部は住居壁よりわずかながら突出しており、カマド中央からは高杯4756が伏せた状態で出土した。高杯前面に被熱面が確認されたが、高杯下には認められなかったことから支柱として利用されたものと思われる。遺物は比較的多く、

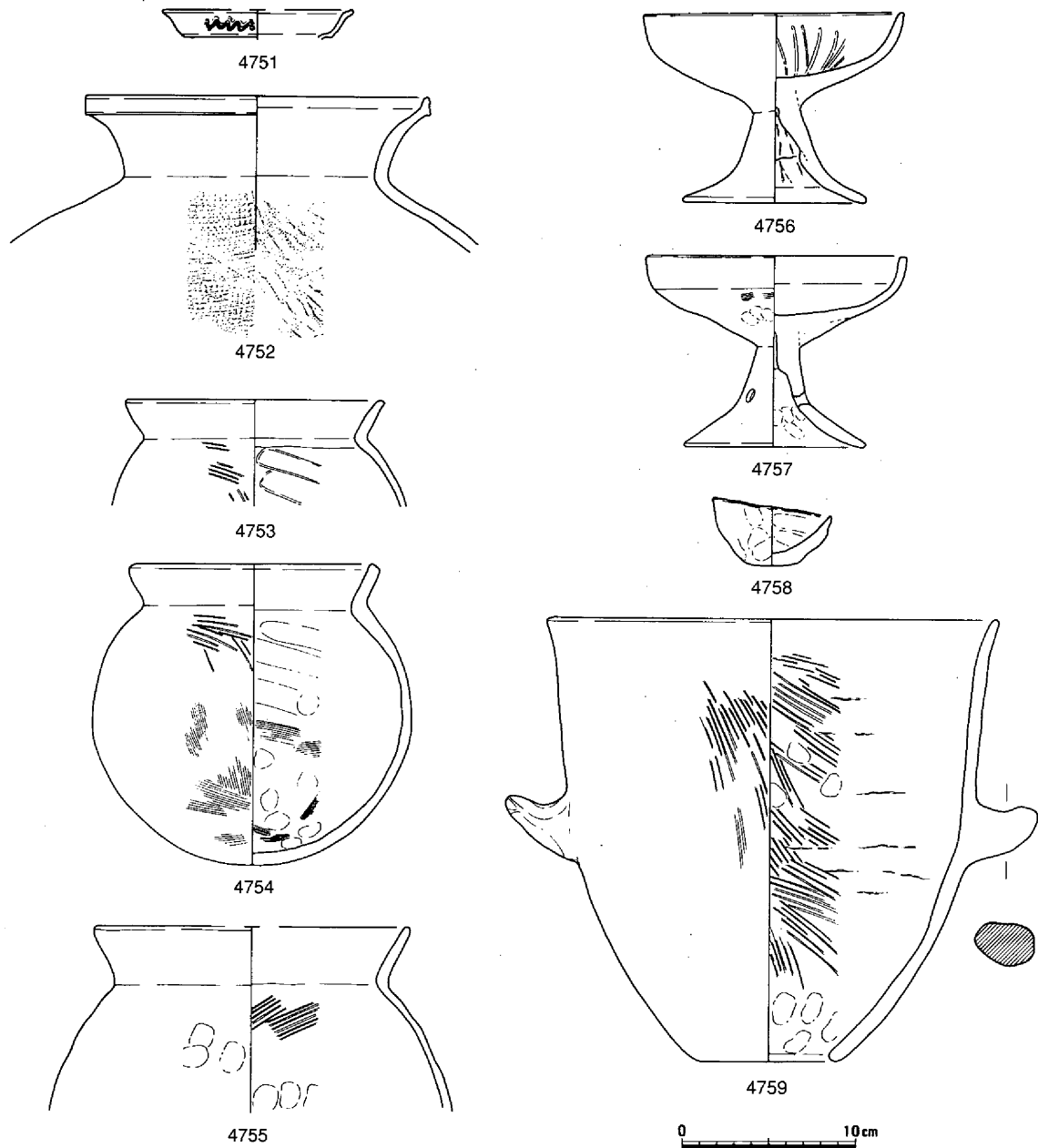
床面からは杯身4748、高杯4750・4757、甕4752・4754、甑4759などが出土している。ほかに覆土中からは杯蓋4743~4745、甕4751などが出土しており、これら遺物の特徴は古・中・Ⅱを示す。(江見)



- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 暗灰褐色砂質土<br>(土器・炭・焼土塊含) | 3 暗黄褐色粘質土<br>(土器・炭含) |
| 2 淡黄褐色砂質土<br>(炭・焼土塊含)    | 4 暗黄灰色粘質土<br>(石・土器含) |

- |                        |
|------------------------|
| 5 淡茶褐色砂質土              |
| 6 淡赤褐色砂質土<br>(焼土含)     |
| 7 暗灰茶色砂質土<br>(炭・灰・焼土含) |
| 8 赤褐色の被熱層              |

第1255図 竪穴住居155 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/4)

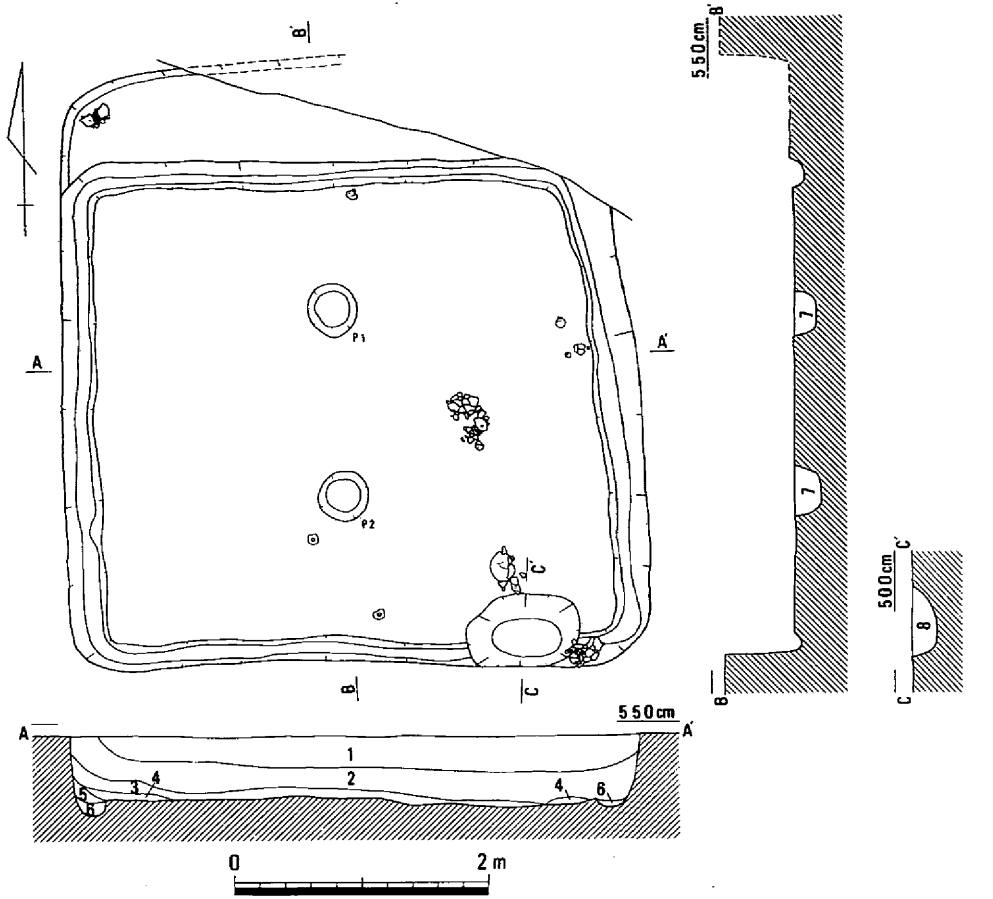


第1256図 竪穴住居155出土遺物② (1/4)

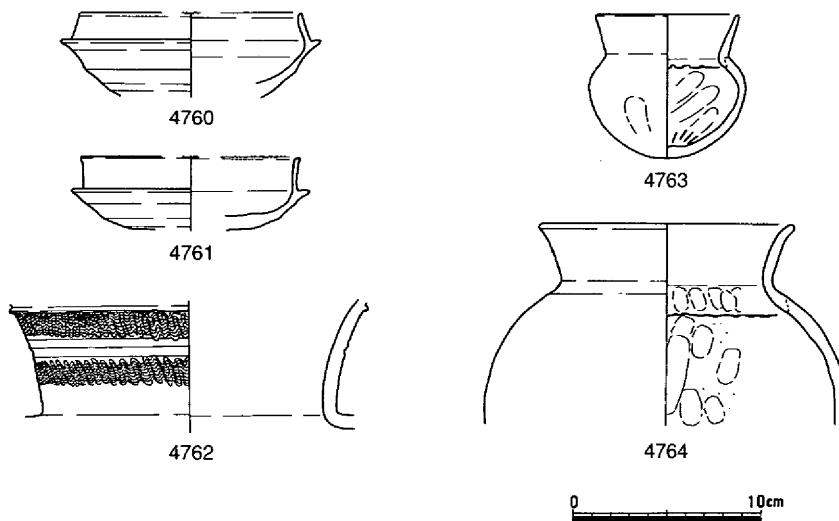
竪穴住居156 (第1205・1257・1258図、図版146・169)

Cg 6 08区に位置し、竪穴住居155の西数mから検出された。平面長方形を呈し、北側に幅約80cm、高さ約10cmの高まりが検出され高床部の可能性を考えたが、新旧の別住居の可能性もある。規模は455×480cm、深さ56cmを残し、推定床面積約20m<sup>2</sup>を測る。主柱は2本からなり、その距離は約150cmを測るが、いずれも柱穴は25cm余りと浅い。一方、住居南東からは60×80cm、深さ約20cmの長方形土壌が検出された。土壌内には淡茶褐色粘質微砂が堆積するのみであったが、その北から甗4772が、東から甗4764が検出され、ほかに床面からは小形壺4763、高杯4767・4770、甗4773などが出土している。

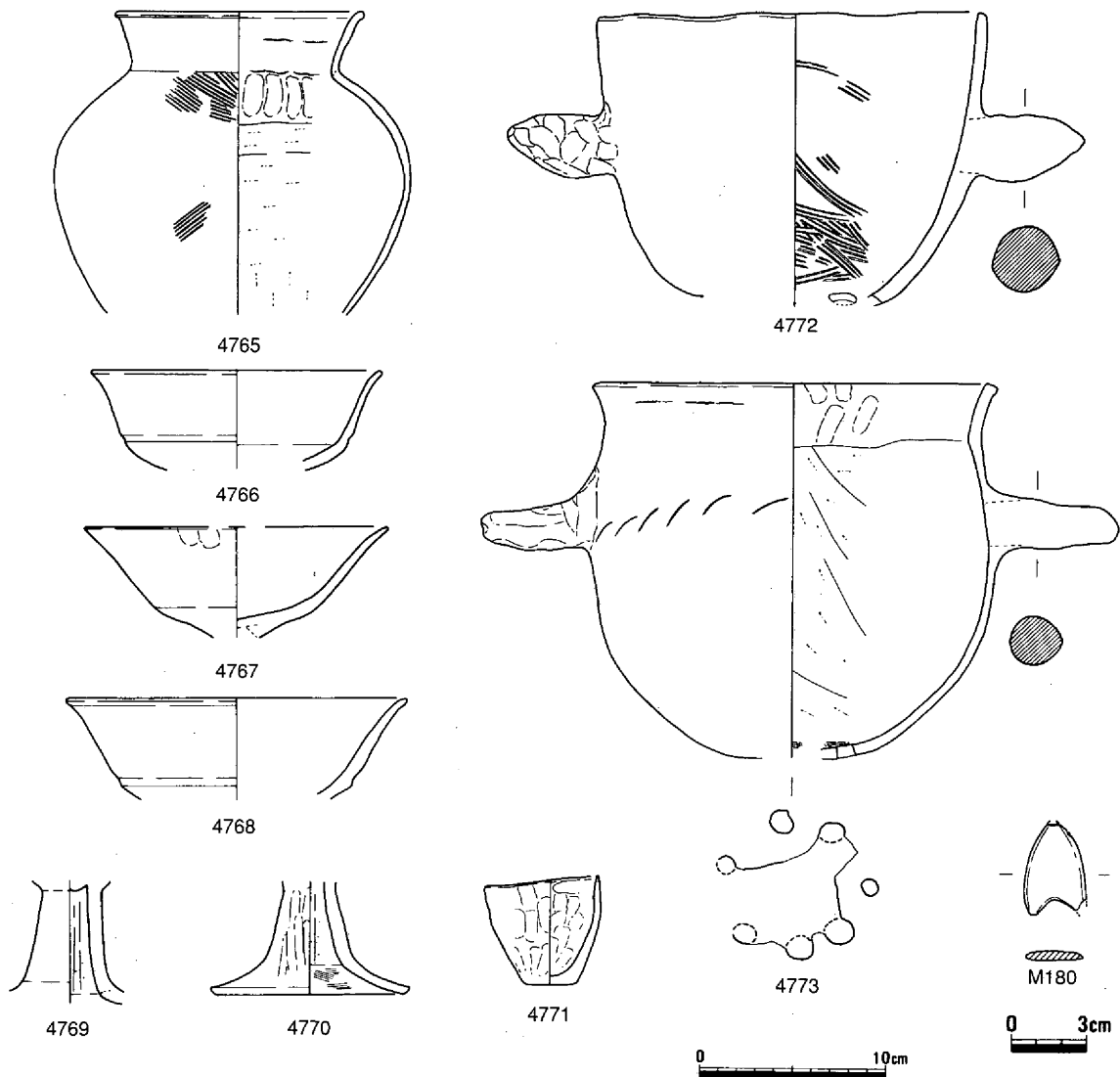




- |                        |                    |                    |            |
|------------------------|--------------------|--------------------|------------|
| 1 暗灰褐色粘質砂              | 3 暗茶灰色粘質土<br>(炭粒含) | 5 暗灰粘質砂<br>(炭多含)   | 7 淡灰褐色砂質土  |
| 2 暗茶灰色粘質砂<br>(灰色粘質土塊含) | 4 茶褐色微砂            | 6 淡茶灰色砂質土<br>(炭僅含) | 8 淡赤褐色粘質微砂 |



第1257図 竪穴住居156 (1/60)・出土遺物① (1/4)



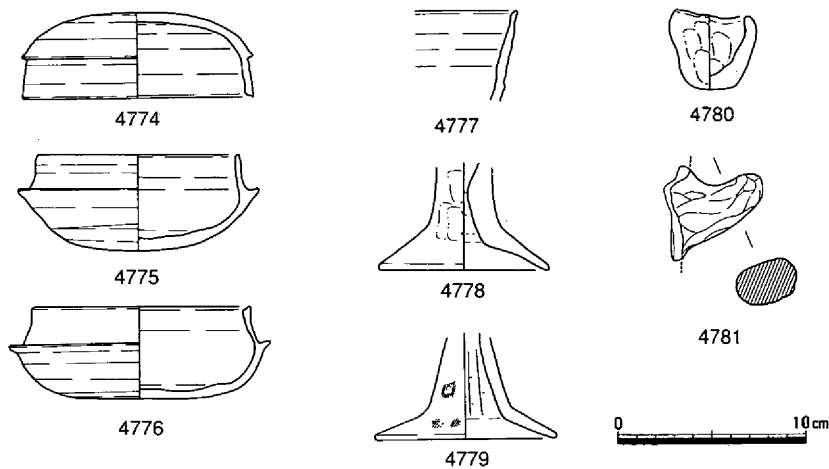
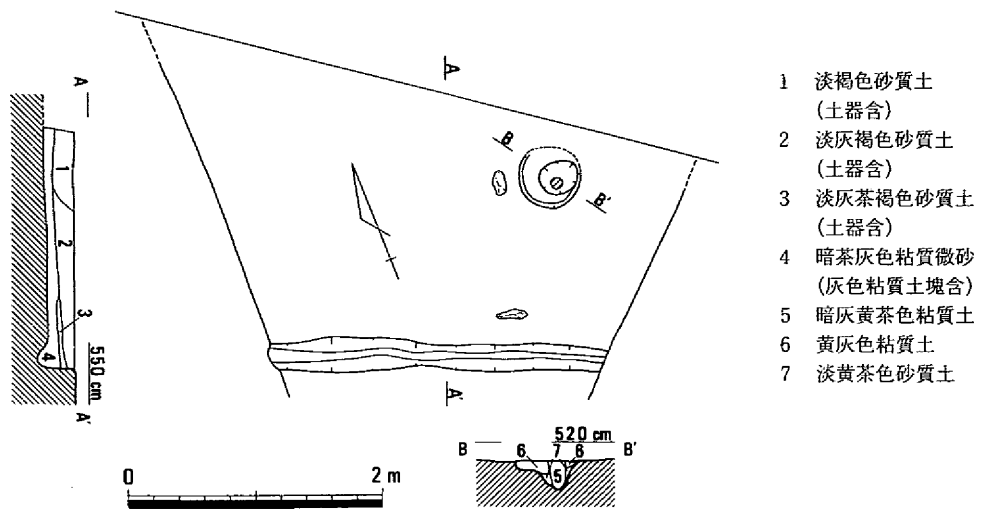
第1258図 竪穴住居156出土遺物② (1/4,1/3)

また、住居覆土からは杯身4760・4761、壺4762、鉄鏃M180や鉄滓などが出土している。

遺物は床面の甕・高杯の形態や断面円形の把手と底部に複数の円孔を穿つ甑など、その特徴は古い様相を示しているのに対し、覆土上層からは須恵器が出土しており、当住居は古・中・I～IIの比較的長期間をかけて埋没したものと考えている。なお、当住居は調査時点で後述の竪穴住居157を切って検出されたと判断したが、遺物のあり方から新旧逆の可能性も否めない。(江見)

**竪穴住居157 (第1205・1259図)**

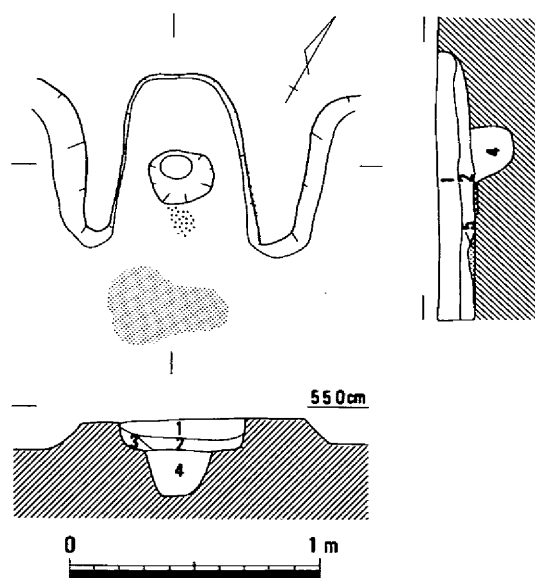
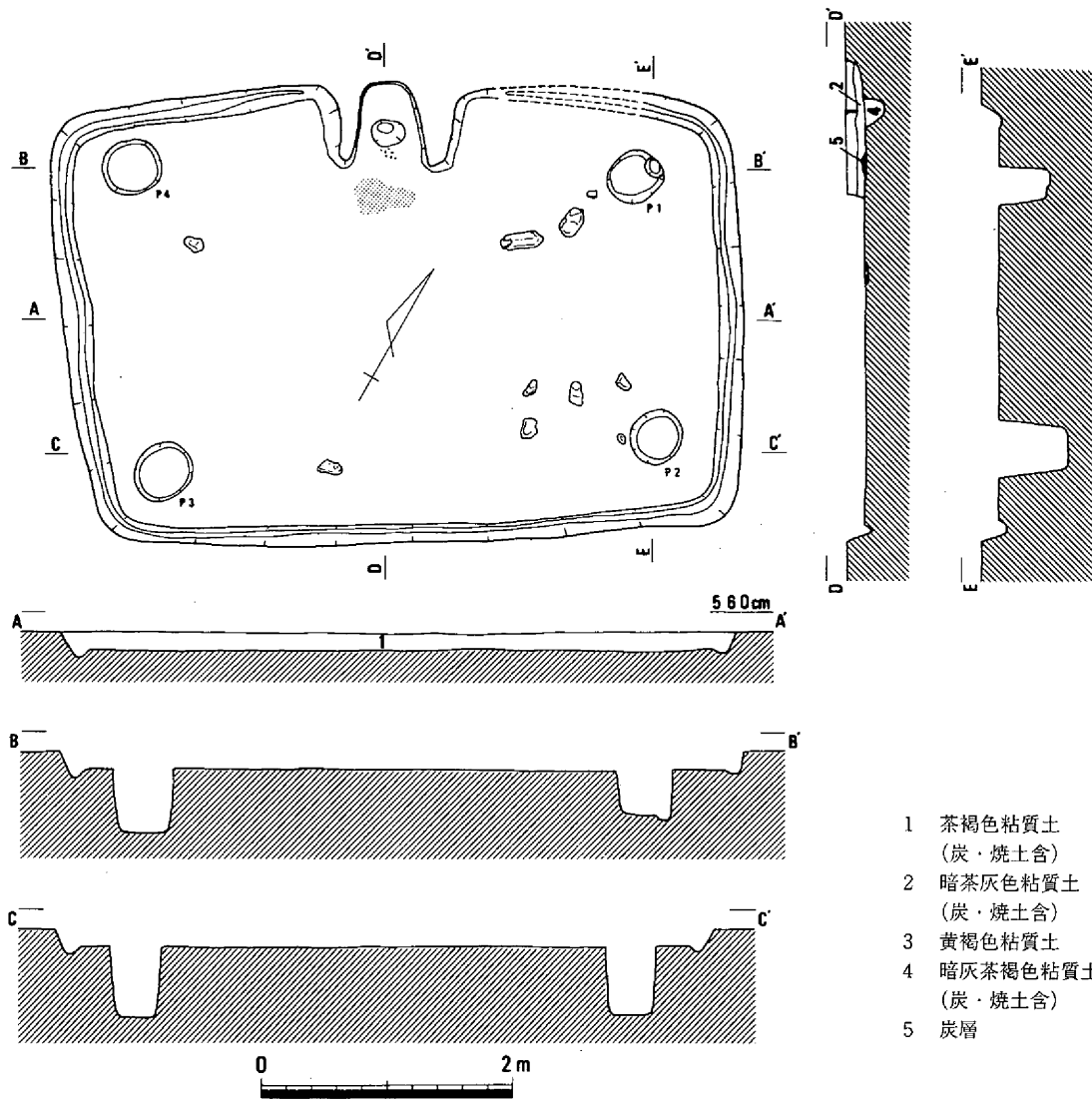
竪穴住居156の東に接して検出された。平面は方形と思われるものの、住居の南方の一部を検出するにとどまった。検出面からの深さは24cmを残す。住居からは幅約20cmの壁体溝および厚さ約10cmの貼床が検出された。また、床面からは径約50cm、深さ約20cmの柱穴1個を検出したが当住居に伴うものかは判然としなかった。床面からは河原石2個が出土したのみで、遺物はいずれも覆土中からであった。杯蓋4774、杯身4775・4776、壺4777、高杯4778・4779、ミニチュア鉢4780、甑4781などで、これら遺物の特徴から当住居は古・中・IIには廃絶したものと考えられる。(江見)



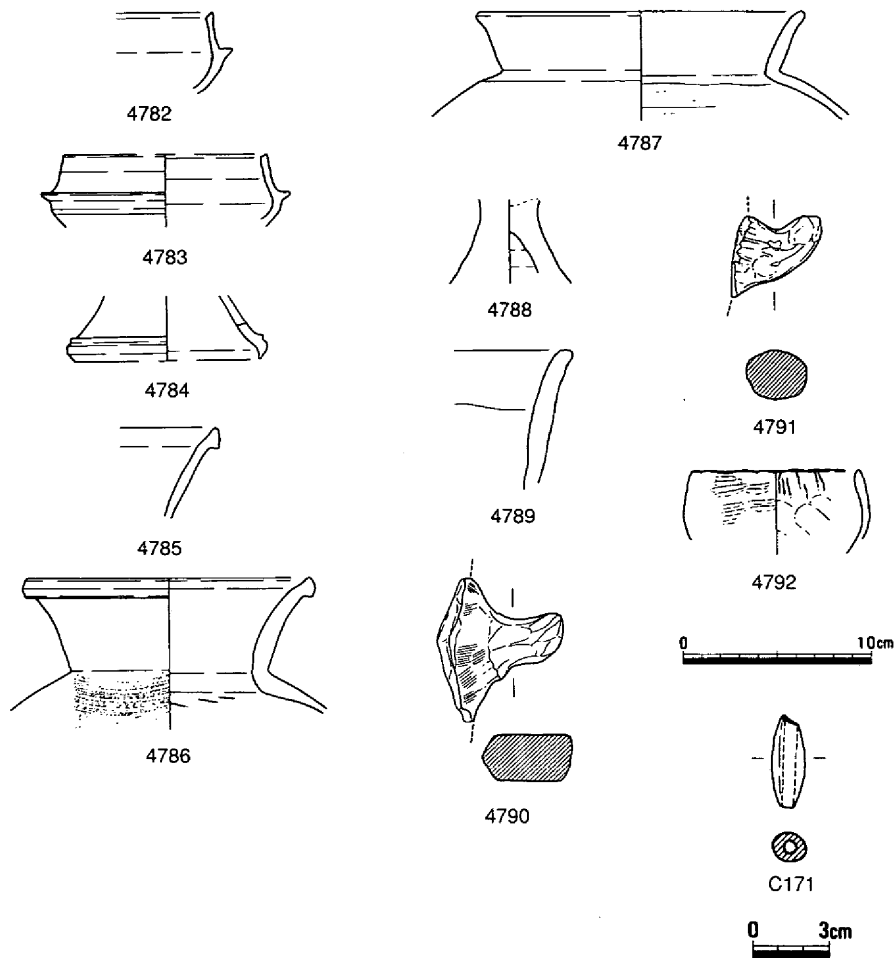
第1259図 竪穴住居157 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居158 (第1205・1260・1261図、図版62・167)

Ch6 08区に位置し、竪穴住居159を切って検出された。平面長方形を呈し、規模は364×548cm、深さ14cmを残す。床面積は17.5㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約40cm、深さ約50cmを測り、P1では柱痕跡を確認された。柱穴は四隅に立てられ、その距離は東西方向約400cm、南北方向約220cmを測る。床面の周囲には壁体溝が巡り、住居北辺中央には造り付けカマドが設置されていた。カマドは燃焼部に被熱面が確認され、カマドの前面には散漫ながら炭の広がり確認された。一方、被熱面の背後からは径約20cm、深さ約20cmの小土壇が検出された。土壇内埋土には炭や焼土粒を含むもので、自然石による支柱を抜き取った後、埋め戻されたものと思われる。なお、煙道部は住居壁とほぼ同一線上にとどまっている。また、床面からは自然石および土器片が散在する状態で検出されている。



第1260図 竪穴住居158 (1/60,1/30)

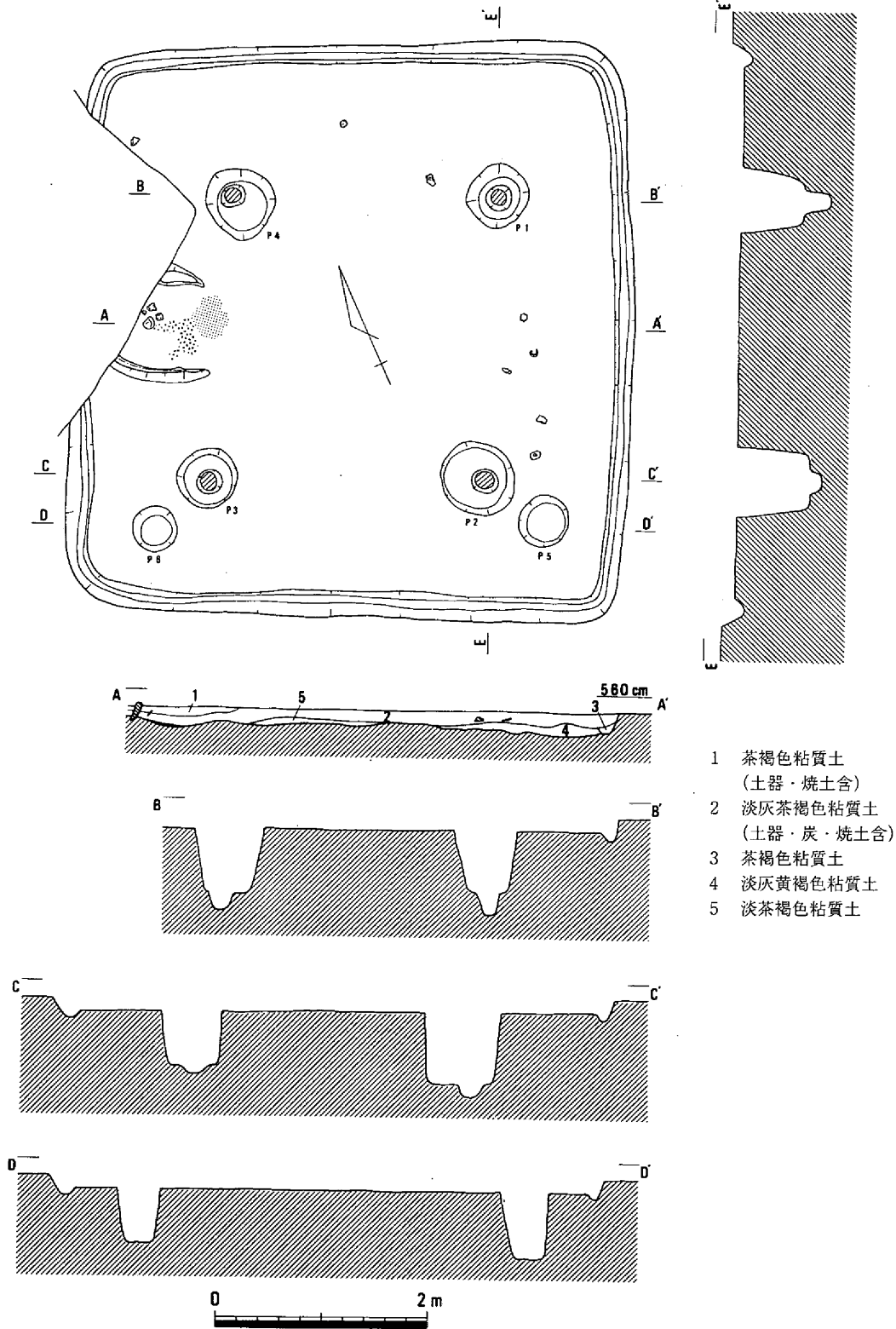


第1261図 竪穴住居158出土遺物 (1/4,1/3)

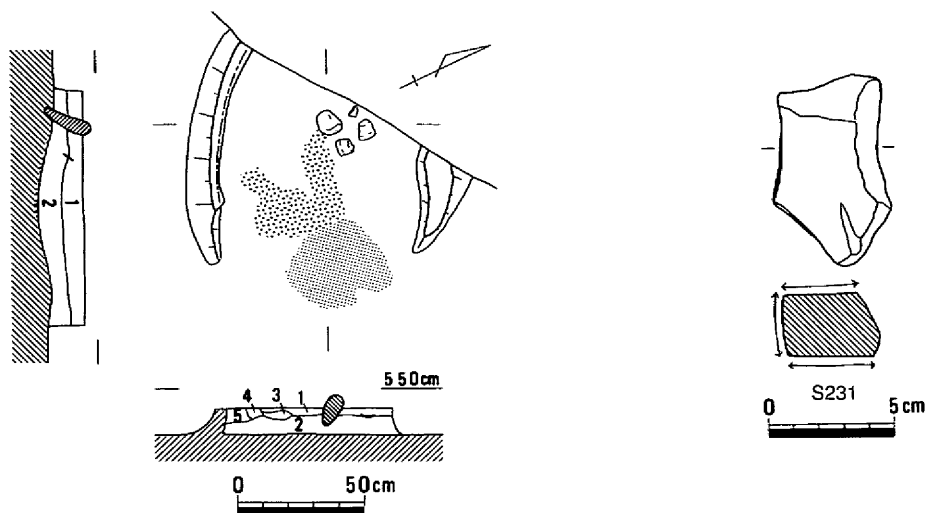
出土遺物は須恵器の杯身4782・4783、高杯4784、甕4785、壺4786、土師器の甕4787、高杯4788、甑4789～4791、製塩土器4792、土錘C171などである。土器類はいずれも破片で、古い様相をもつ高杯4788も混じっているが、当住居は須恵器の特徴から古・中・Ⅱに廃絶したものと思われる。(江見) 竪穴住居159 (第1205・1262・1263図、図版63・147・165)

竪穴住居158の東に位置し、これに北西の一部を切られて検出された。平面は方形を呈し、規模は521×528cm、深さ約20cmを残す。床面積は約24㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径60～70cm、深さ約60cmを測り、いずれも柱痕跡が確認された。柱穴間距離は248～265cmを測る。また、P2・3の隅側から径約40cm、深さ約60cmの柱穴が検出されており、南部2主柱に補助的な役割をもたせた柱が立てられていたものと考えている。床面周囲には壁体溝が巡り、住居の西辺ほぼ中央に造り付けのカマドが設置されていた。カマドは残存状態が悪く、南側の袖も著しく狭く本来のあり方ではないと推定されるが、燃焼部中央が前後に緩くくぼみ、支柱石の前面からは被熱面および炭粒の広がり確認された。また、床面からは東部を中心に土器片が散在する状態で検出されている。

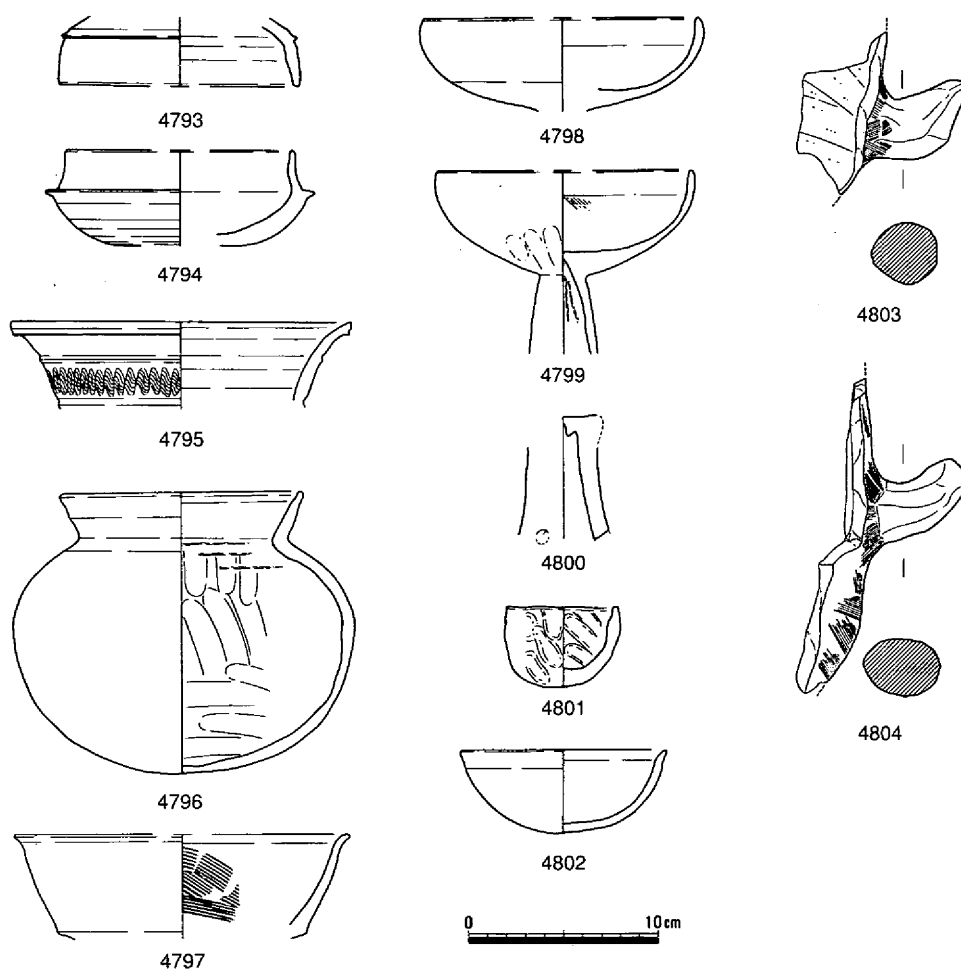
出土遺物は流紋岩製の砥石S231、須恵器の杯蓋4793、杯身4794、土師器の壺4796、高杯4797～4800、手捏ね鉢4801、小形鉢4802、甑4803・4804などである。いずれも破片であったが、これら遺物の特徴から当住居は古・中・Ⅱには廃絶したものと考えられる。(江見)



第1262図 竪穴住居159 (1/60)



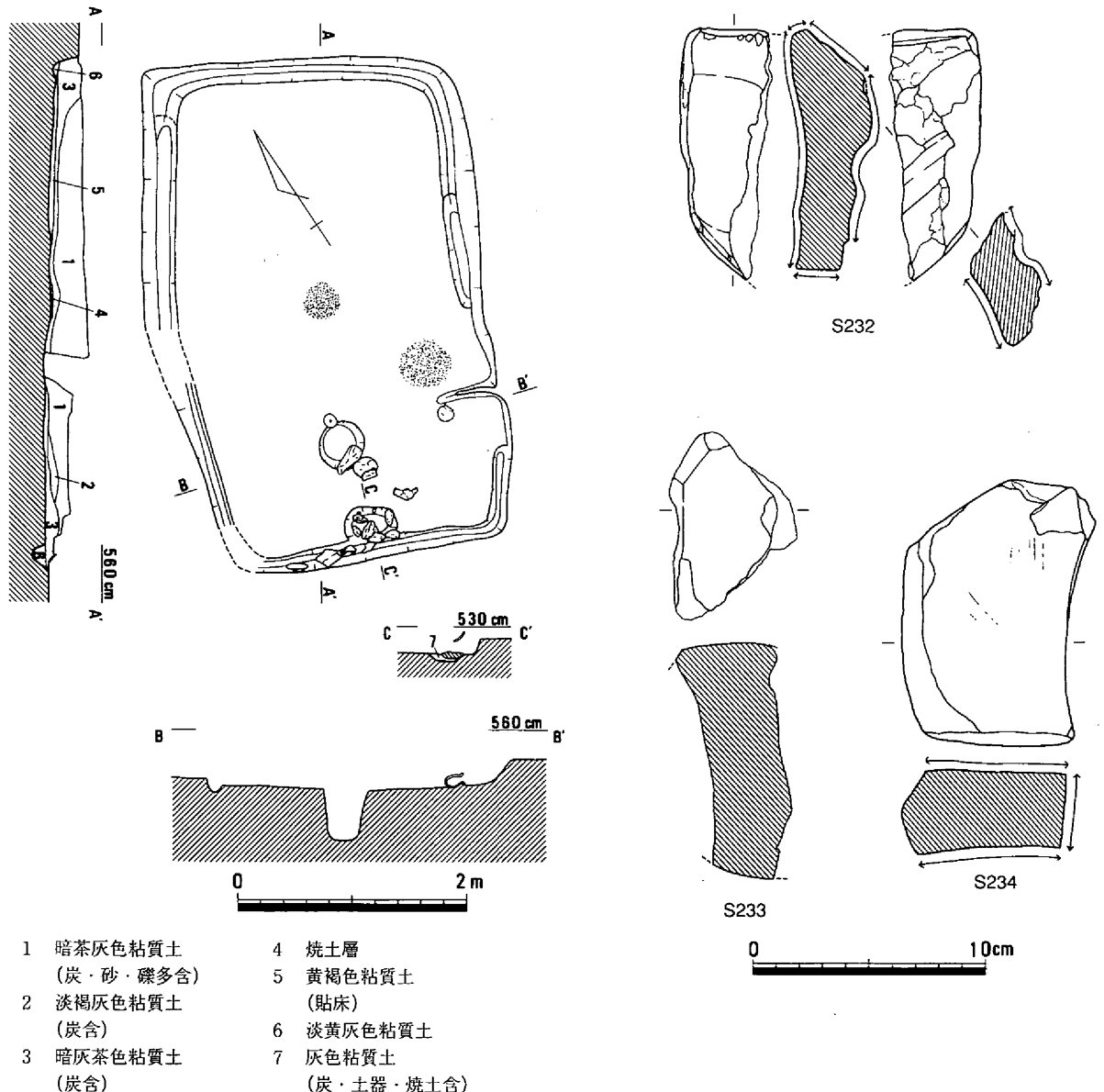
- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| 1 茶褐色粘質土<br>(土器・焼土含)     | 3 灰茶色粘質土<br>(焼土多含) |
| 2 淡灰茶褐色粘質土<br>(土器・炭・焼土含) | 4 淡灰黄褐色粘質土         |
|                          | 5 淡灰褐色粘質土          |



第1263図 豎穴住居159カマド (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)

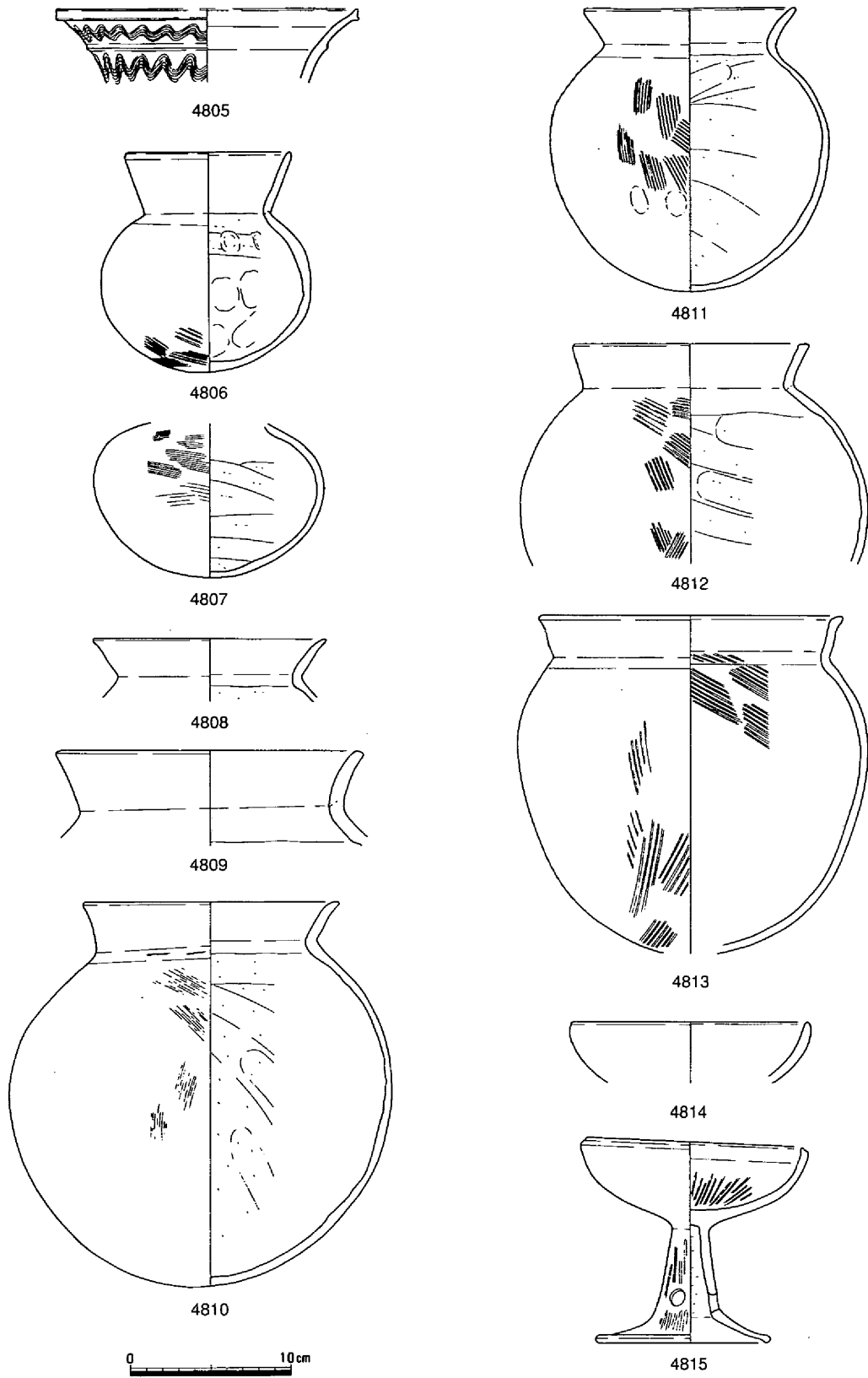
竪穴住居160 (第1205・1264~1267図、図版147・165・167)

竪穴住居159の西15mに位置し、後述の竪穴住居162の下層から検出された。平面不整長方形を呈し、規模は295×435cm、深さ約35cmを残す。床面積は10.5m<sup>2</sup>を測る。主柱は2本からなるものと推定しているが、住居内からは南部中央部分から径約40cm、深さ約45cmの柱穴1個を検出したのみで、北部からは検出し得なかった。床面周囲には壁体溝が巡り、住居東辺中央南寄りからは造り付けのカマドが検出された。カマドは残存状況が著しく悪く、燃焼部と思われる径40cm余りの被熱面と直線的に延びる袖部分を検出したのみで北側の袖は確認し得なかった。また、床面中央からも径約30cmの被熱面を検出している。遺物は砥石 S 232~234、須恵器の壺4805、土師器の壺4806・4807、甕4808~4813、高杯4814~4830、鉢4831~4837、手捏ね鉢4838~4840、甑4841・4842、土錘C 172~174、鉄滓などが出土しており、これら遺物の特徴は古・中・Iの範疇のものと考えられる。(江見)

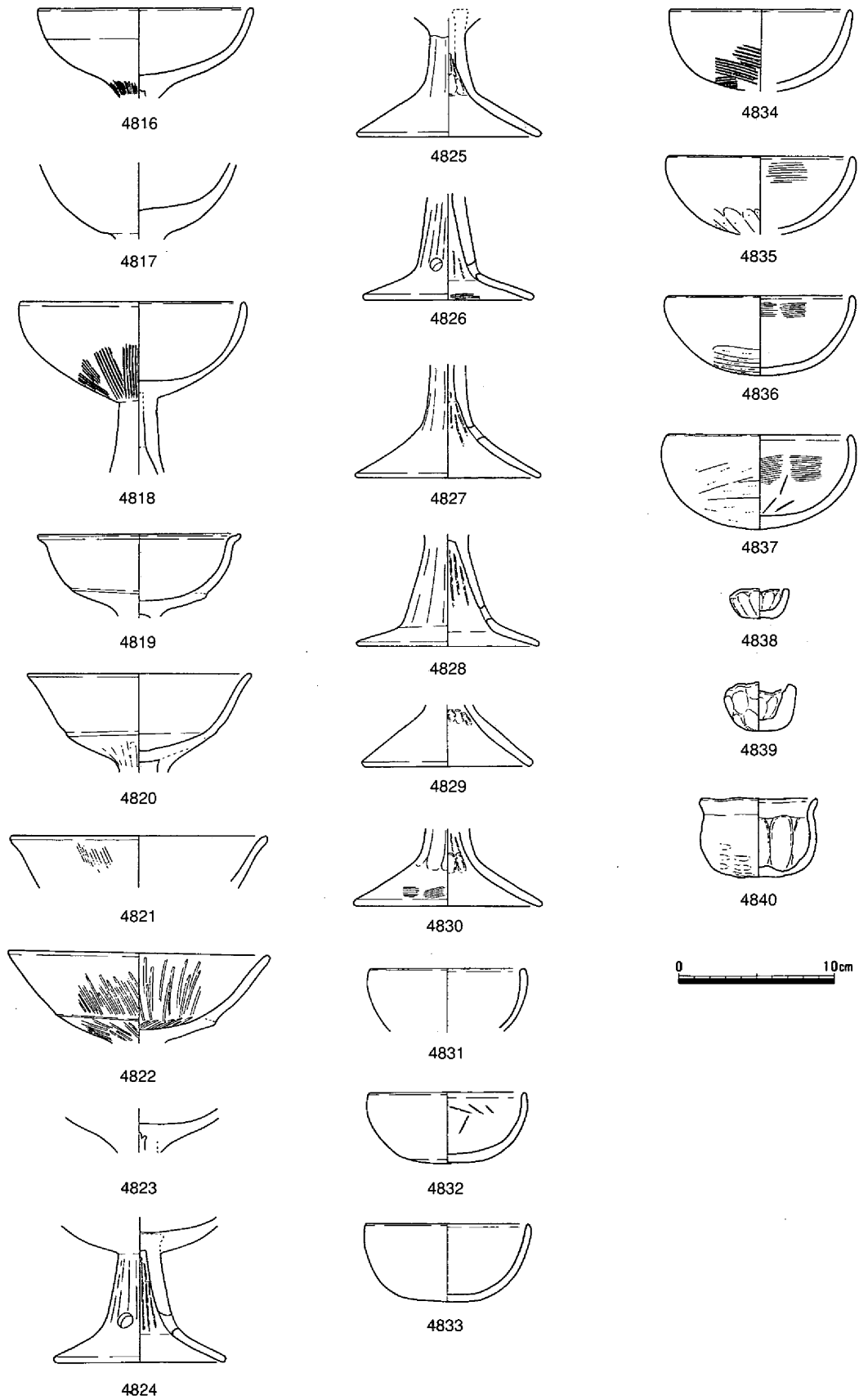


第1264図 竪穴住居160 (1/60)・出土遺物① (1/3)

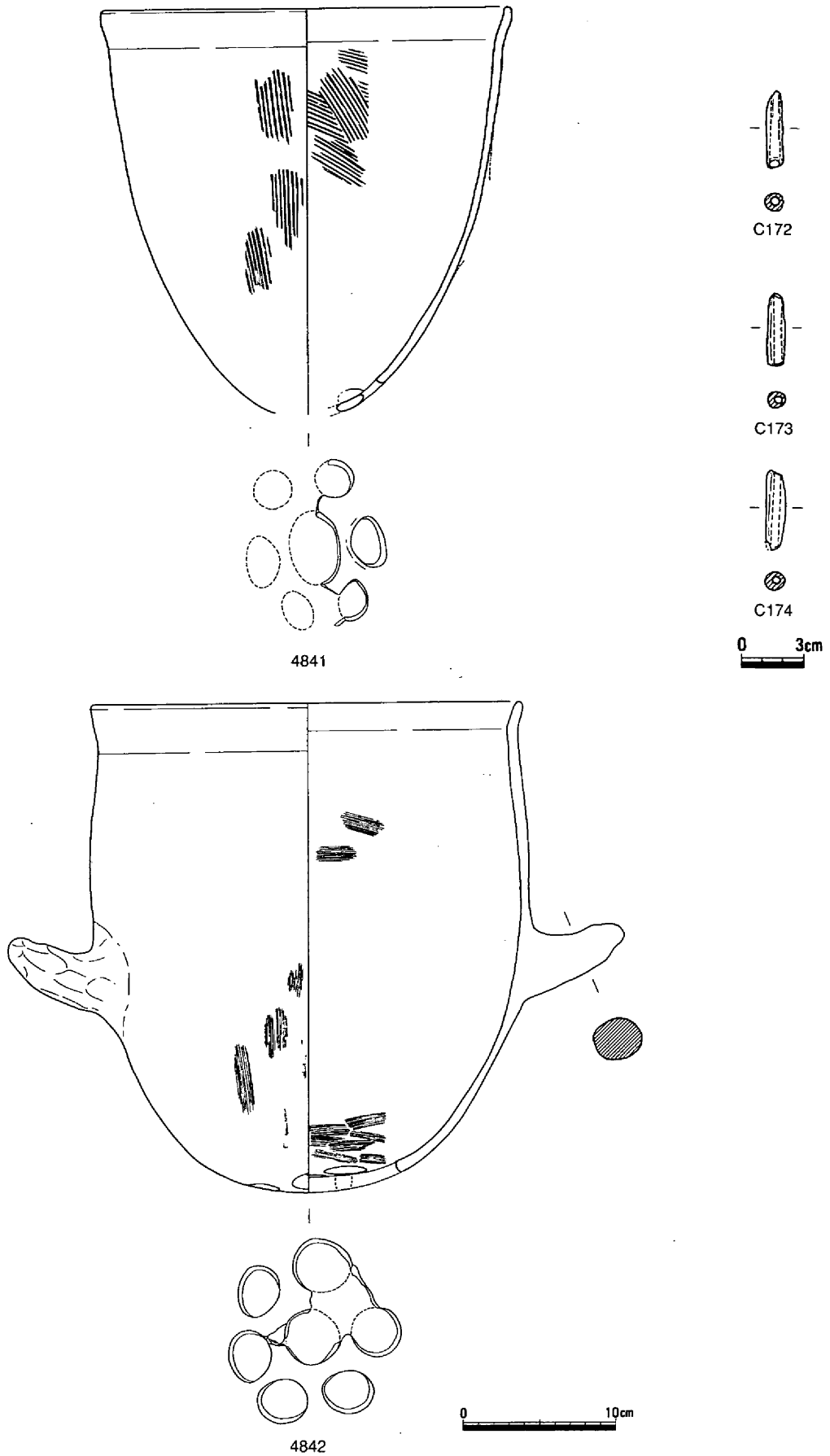




第1265図 竪穴住居160出土遺物② (1/4)



第1266図 竪穴住居160出土遺物③ (1/4)

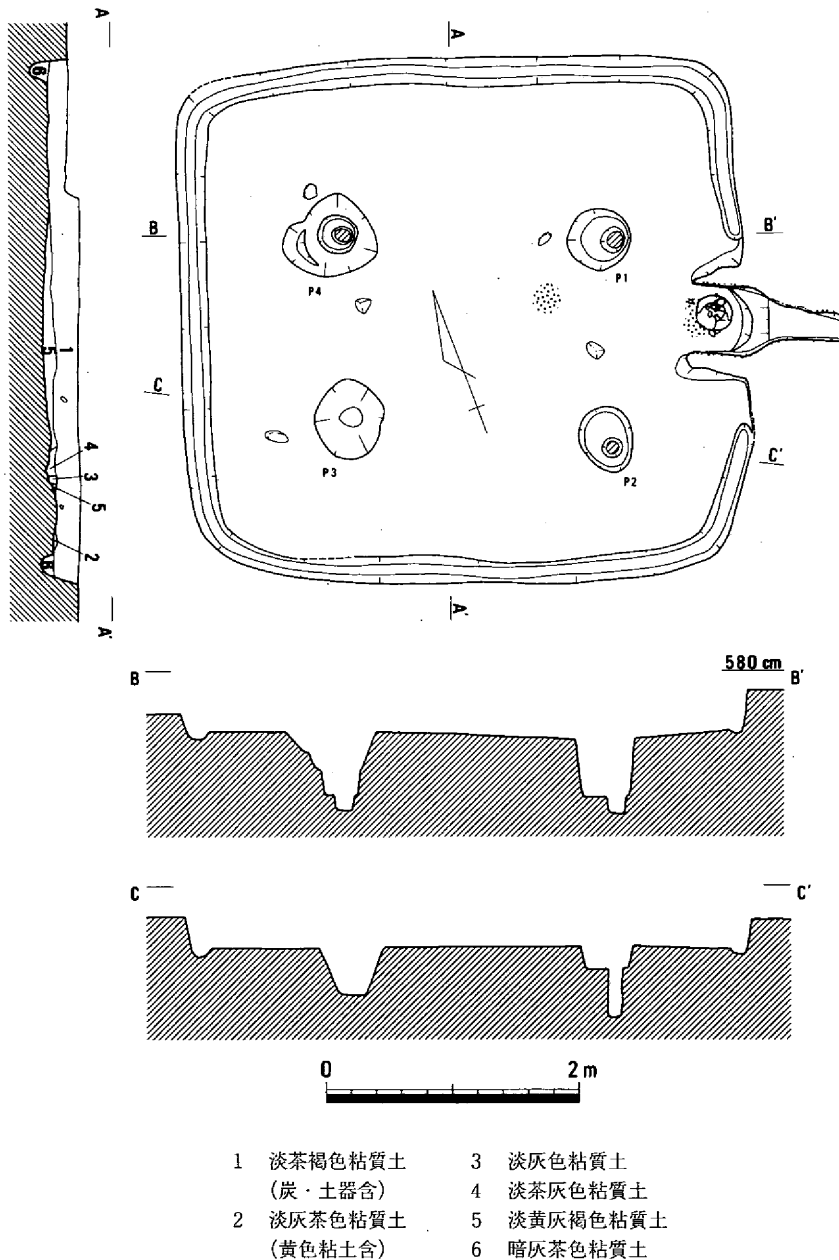


第1267図 竪穴住居160出土遺物④ (1/4,1/3)

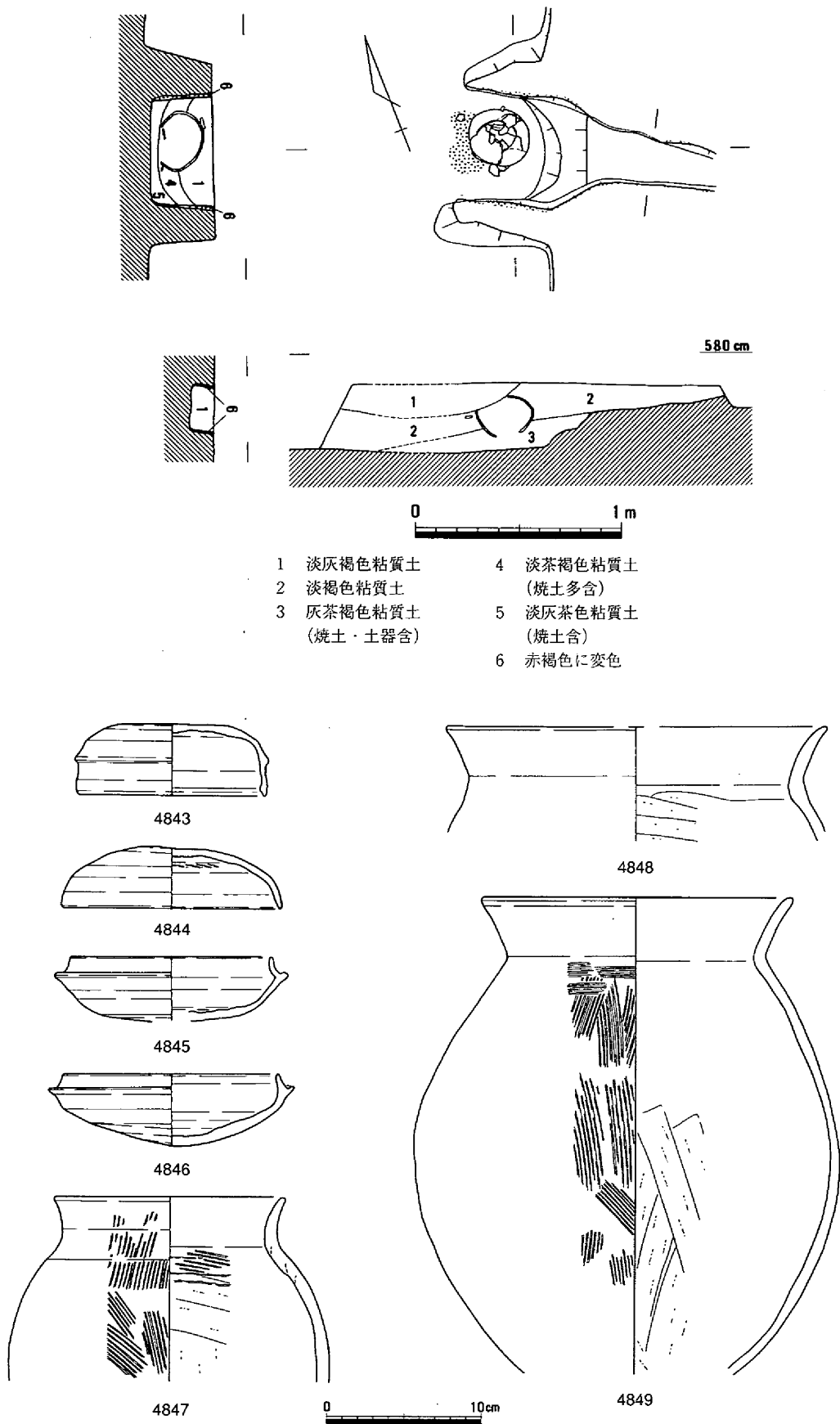
竪穴住居161 (第1205・1268～1270図、図版63)

竪穴住居160の南8mに位置し、竪穴住居162を切って検出された。平面方形を呈し、規模は415×448cm、深さ28cmを残す。床面積は16.9m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径40～60cm、深さ20～50cmを測り、P3を除きいずれも柱痕跡が確認された。柱穴間距離は143～215cmを測る。床面周囲には壁体溝が巡り、住居東辺中央からは造り付けのカマドが検出された。カマドは燃烧部の奥壁が住居の壁よりわずかながら突出しており、さらに外部に向かって延びる煙道が検出された。一方、燃烧部中央からは甕4850が出土している。また、床は中央部に貼床がなされ、床面全体を平坦にしており、中央東寄りから径約20cmの被熱面を確認している。

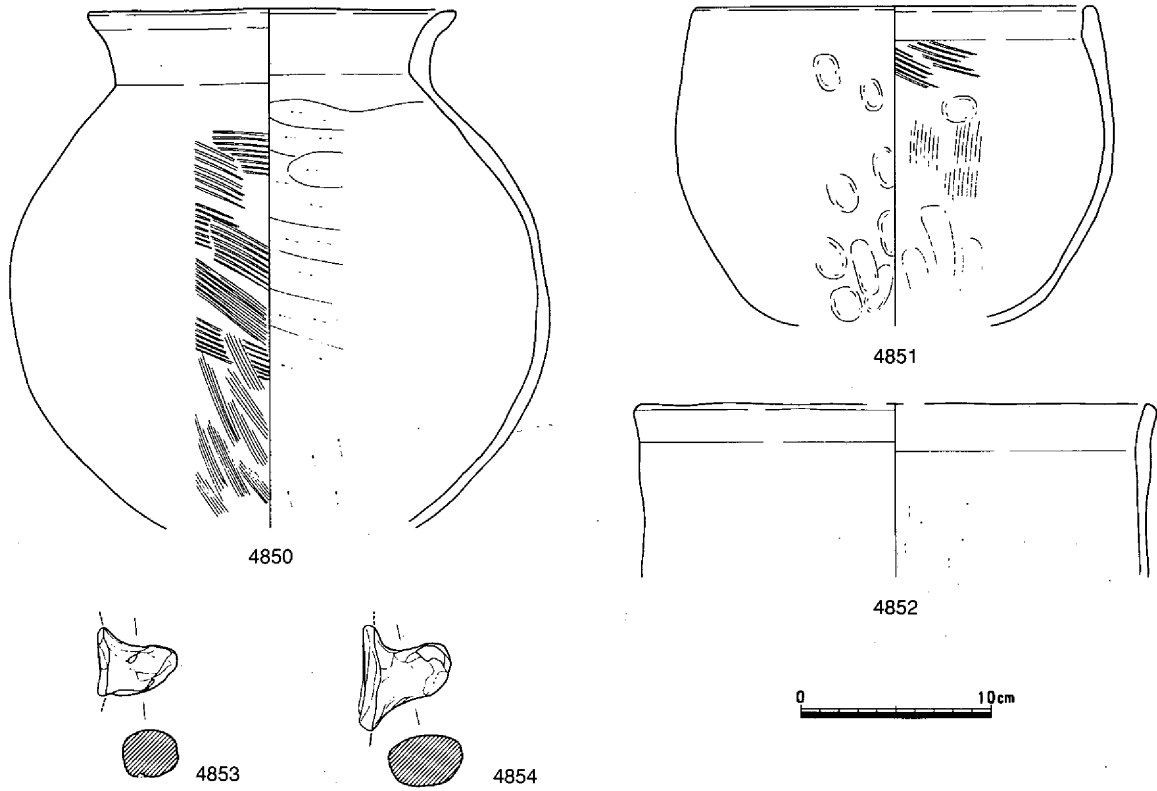
遺物は主に覆土中から出土しており、須恵器の杯蓋4843・4844、杯身4845・4846、土師器の甕4847～4849、甌4853～4852、鉄滓などで、古・後・Ⅱには廃絶した住居であろう。(江見)



第1268図 竪穴住居161 (1/60)



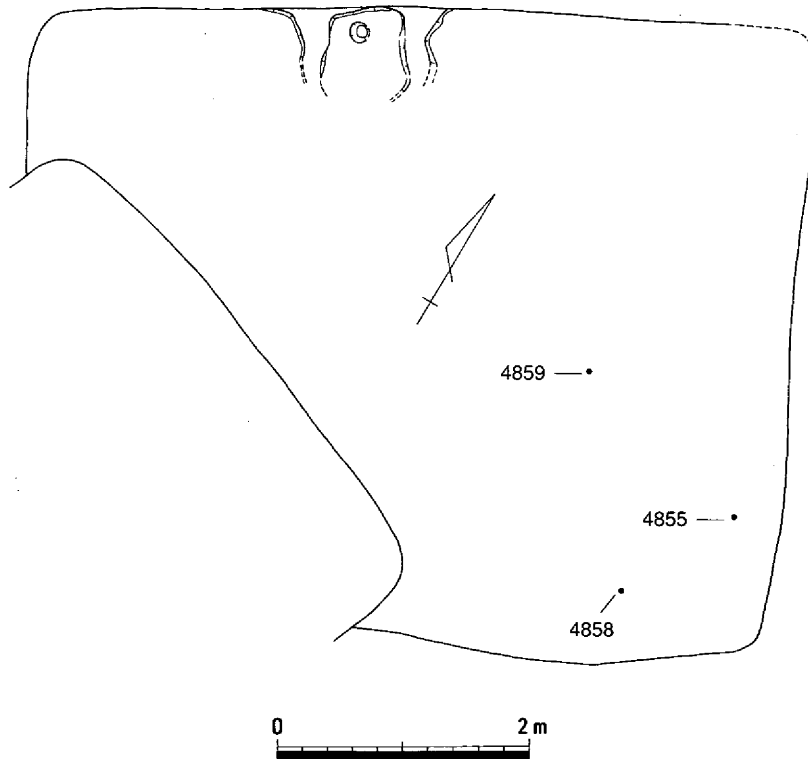
第1269図 竪穴住居161カマド (1/30)・出土遺物① (1/4)



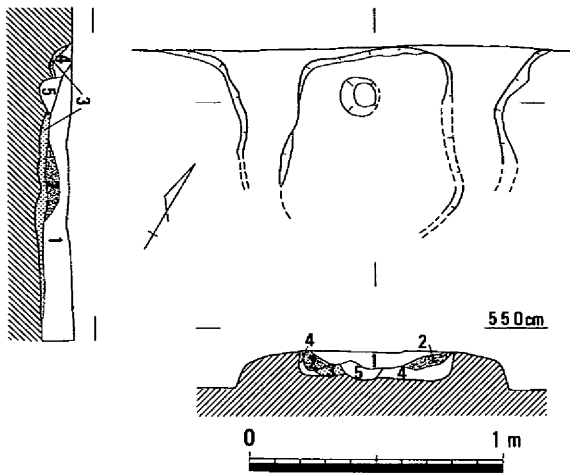
第1270図 竪穴住居161出土遺物② (1/4)

竪穴住居162 (第1205・1271・1272図、図版64)

竪穴住居161の北に位置し、それに一部切られ、竪穴住居160を切って検出された。平面不整長方形



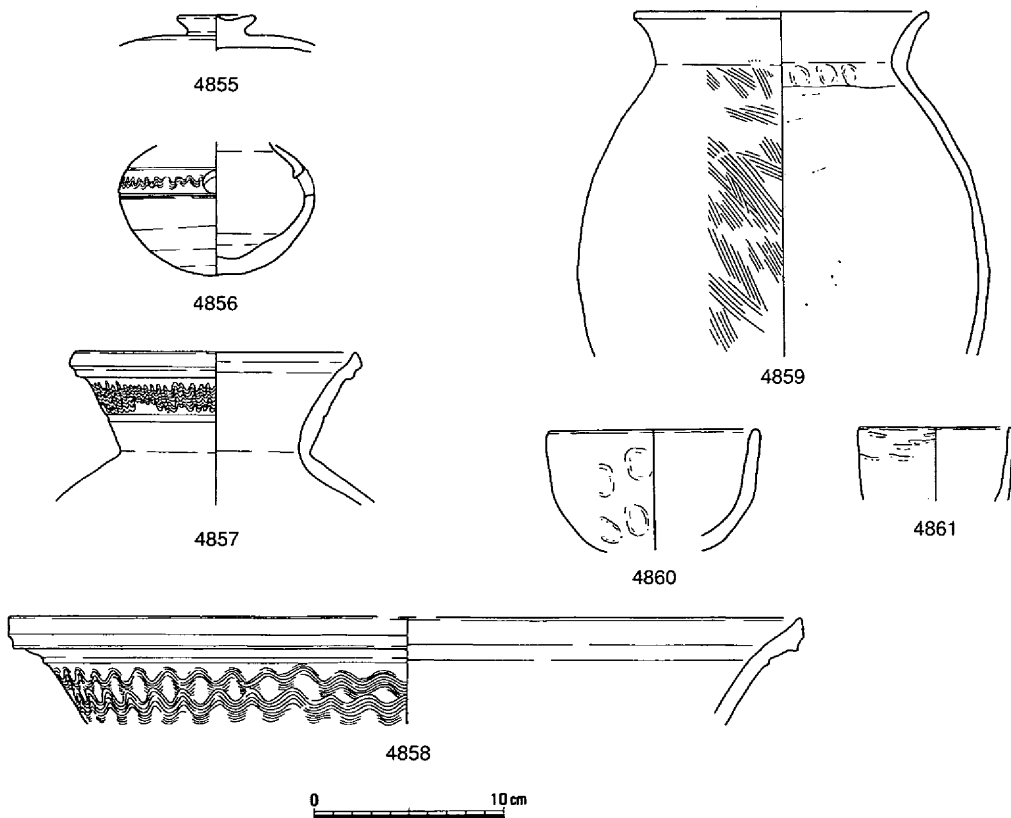
第1271図 竪穴住居162 (1/60)



- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 暗茶灰色粘質土<br>(炭含)  | 4 茶灰色粘質土<br>(炭含)  |
| 2 赤褐色焼土<br>(炭・灰含)  | 5 茶灰色粘質土<br>(炭多含) |
| 3 暗灰色炭層<br>(炭・焼土含) |                   |

を呈す輪郭と住居北辺中央に設置されたカマドを検出したのみで、規模は497×615cm、推定床面積約30m<sup>2</sup>を測る比較的大形の住居である。床面は不明瞭で住居南東部に散在して出土した土器群などが住居内遺物と理解された。カマドは燃烧部の中央やや奥に支柱石の抜き取り痕跡と思われる土壌が確認された。なお、燃烧部の奥壁は住居壁と同一線上に設置されている。

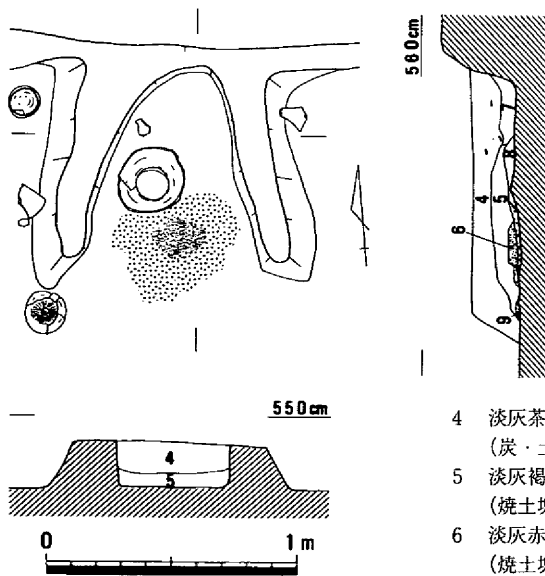
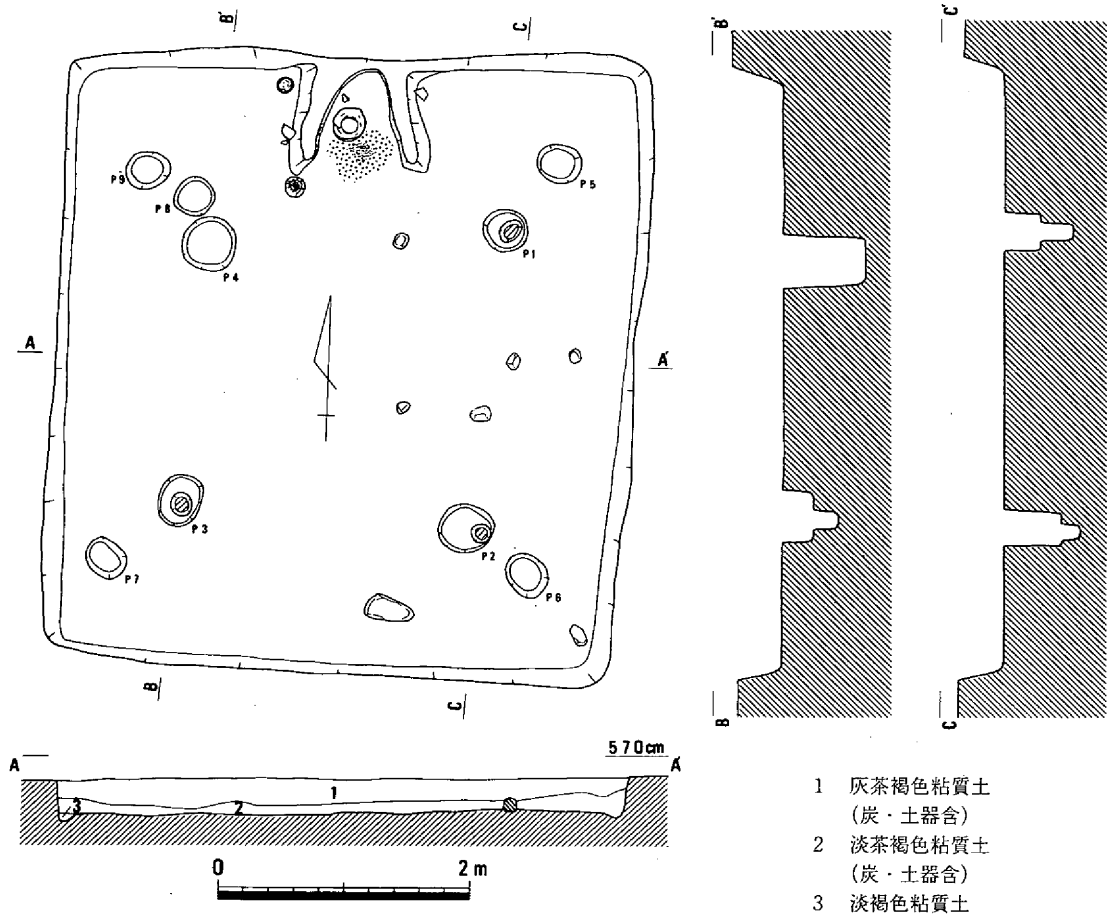
出土遺物はいずれも破片で、須恵器の杯蓋4855、甕4856、壺4857、器台4858、土師器の甕4859、碗4860、製塩土器4861などで、これら遺物の特徴から当住居は古・中・Ⅱには廃絶したものである。(江見)



第1272図 竪穴住居162カマド (1/30)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居163 (第1205・1273・1274図、図版64)

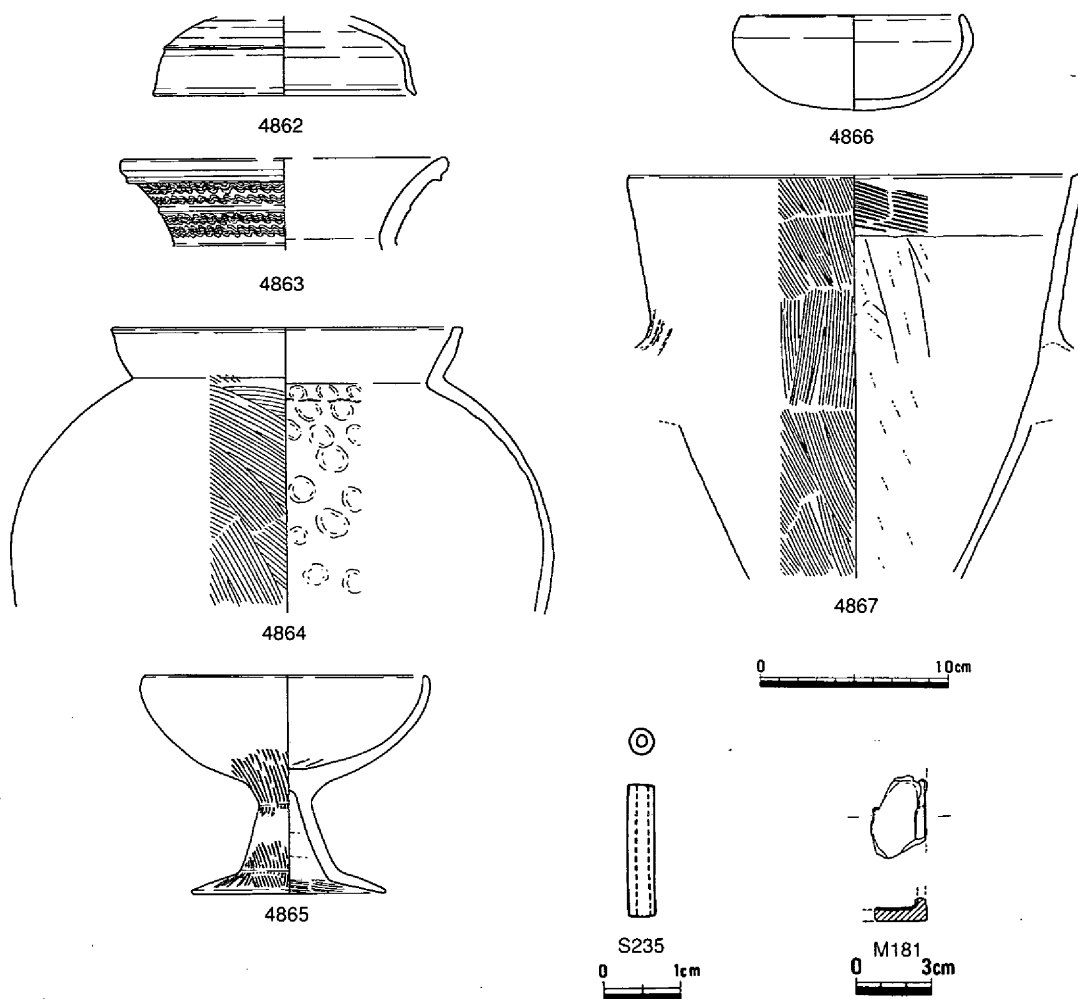
竪穴住居162の北西10mから検出された。平面方形を呈し、規模は459×504cm、深さ30cmを残す。



床面積は21.3㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約40cm、深さ30~60cmを測り、P1~3には柱痕跡が明瞭に残っていた。柱穴間距離は216~248cmを測る。また、主柱穴の四隅壁側からはP5~9の柱穴が検出された。径約40cm、深さ約40cmを測り、主柱を補助する機能を持っていたものと考えている。床面周囲には壁体溝が巡り、住居北辺中央からは造り付けのカマドが検出された。カマドは燃焼部の奥壁

第1273図 竪穴住居163 (1/60,1/30)



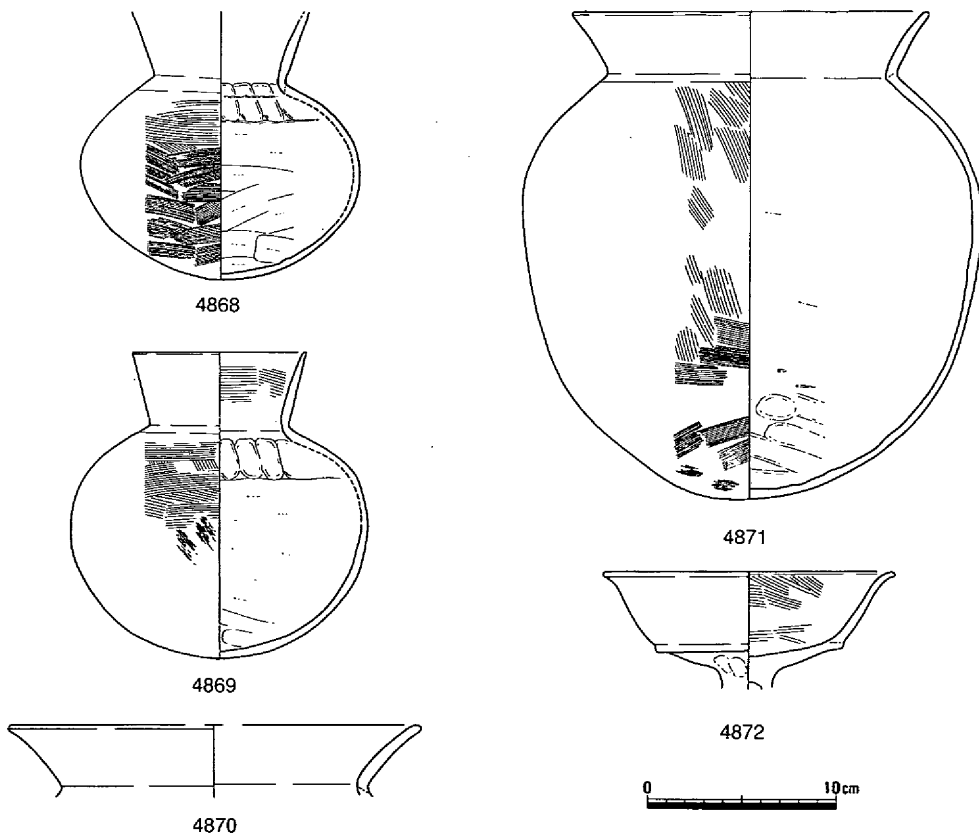
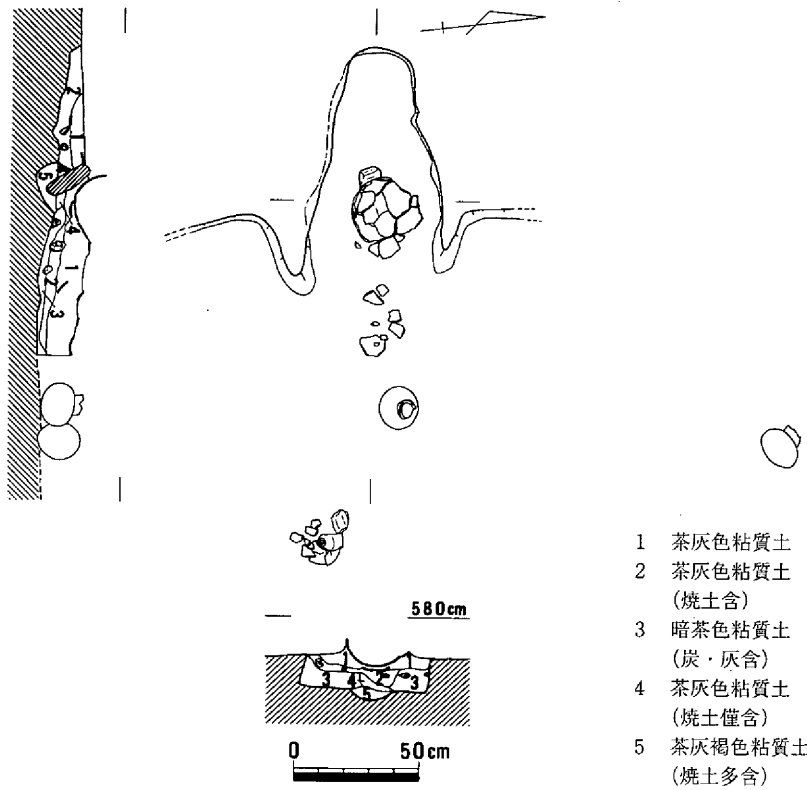


第1274図 竪穴住居163出土遺物 (1/4,1/1,1/3)

が住居の壁と同一線上に設置されている。また、燃焼部からは径約50cmにおよぶ被熱面が検出されたが、支柱となるものは確認されなかった。カマド内からは転倒した状態で甕4864が出土している。ほかに床面遺物としては、カマドの焚き口の横から高杯4865、西側奥壁から碗4866、カマド周辺から甑4867の破片が散在していた。なお、須恵器の杯蓋4862、壺4863、碧玉製管玉 S 235、不明鉄製品 M181、鉄滓などが覆土上層から出土している。これら遺物の特徴から、当住居は古・中・Ⅱに廃絶したものと考えられる。 (江見)

竪穴住居164 (第1205・1275図、図版65)

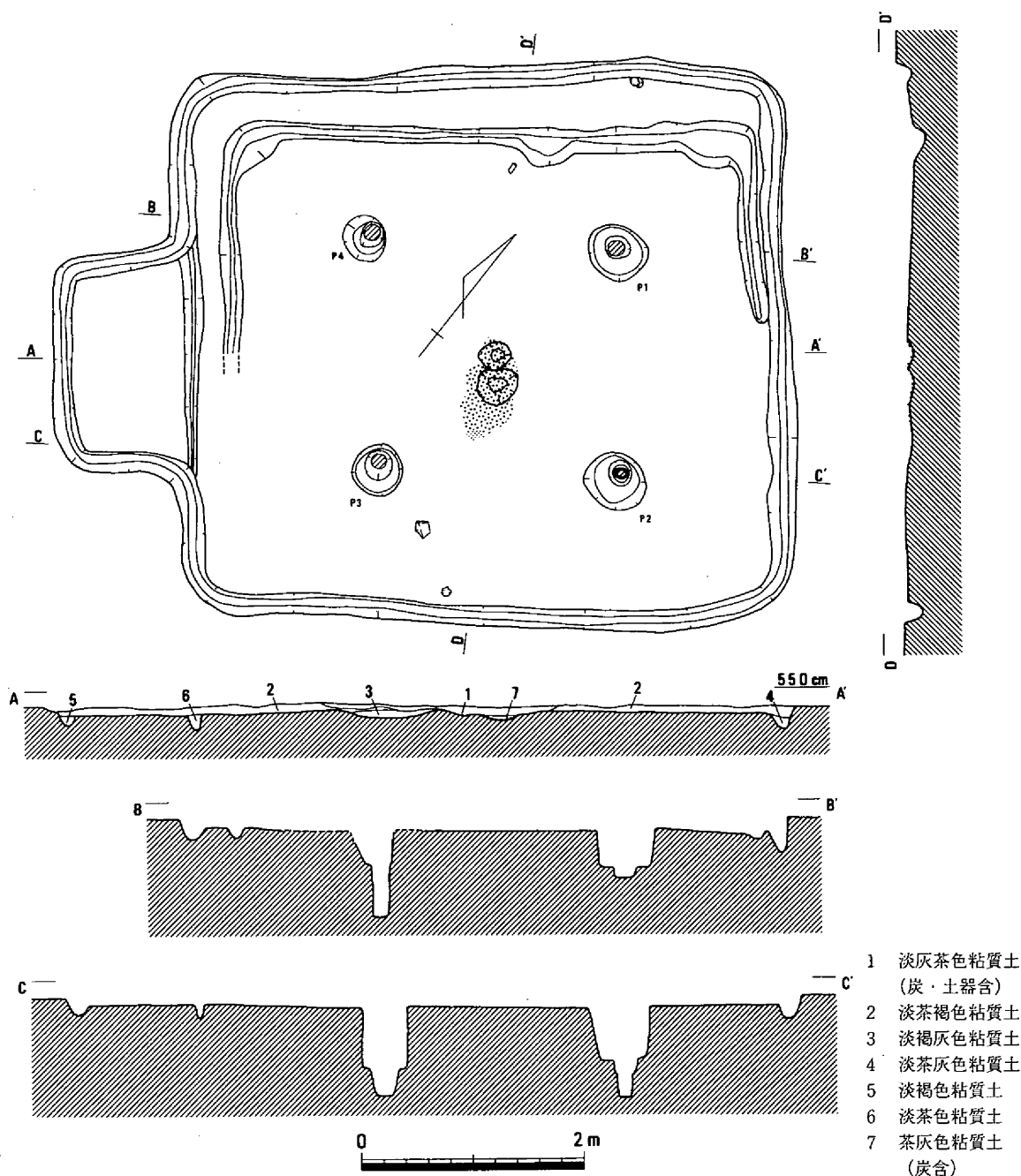
Ci6 08区から検出された住居で、造り付けのカマドおよび当住居内遺物と思われるものを部分的に確認するにとどまった。検出されたカマドは住居西辺に設置されたものと推定され、燃焼部幅約50cm、長さ約90cmを測る。袖は短く、予想される住居壁ラインが燃焼部のほぼ中央にあたることから、燃焼部から煙道は大きく住居から突出して設置されていたものと判断される。燃焼部中央やや奥よりには支柱石が設置され、その上部に接するように甕4871が出土している。また、カマドの前方から直口壺4869、高杯4872が、北部から直口壺4868が出土している。直口壺はいずれも胴部上半に横方向のハケメが施され、甕4871の内面は不明瞭ながらヘラケズリされている。高杯は胎土に粗砂が混入し、内面にハケメが確認される。以上、遺物は古・中・Ⅰの範疇のものと思われる。 (江見)



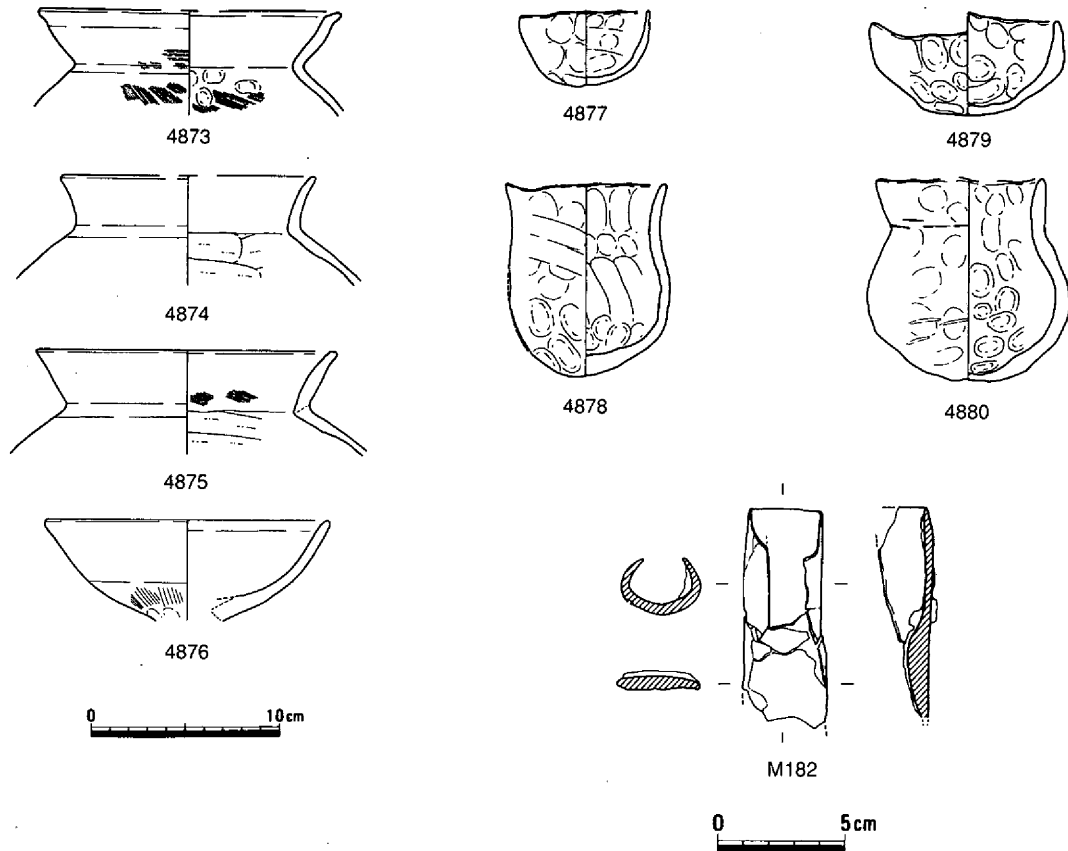
第1275図 竪穴住居164カマド (1/30)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居165 (第1205・1276・1277図、図版65)

竪穴住居164の西数mから検出された。平面は方形を呈し、南西壁の中央に出入り口を想像させる突出部をもつ。規模は502×550cmの方形に、120×200cmの突出部が足された状況で、周囲を壁体溝が巡る。また、床面下からは突出部と区画するように壁体溝が掘られるとともに、北半部の内側からも壁体溝が確認されている。内側のそれは拡張による掘り直しとも考えられるが、柱位置からすれば外周の壁体溝と一致するため何らかの区画の意図をもって巡らされたものかもしれない。床面積は28m<sup>2</sup>を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約50cm、深さ30~50cmを測り、いずれの柱穴も柱痕跡が明瞭に残る。特にP4は柱穴下50cm余りも柱が沈んでおり、上屋の重量が異常であったと想像さ



第1276図 竪穴住居165 (1/60)



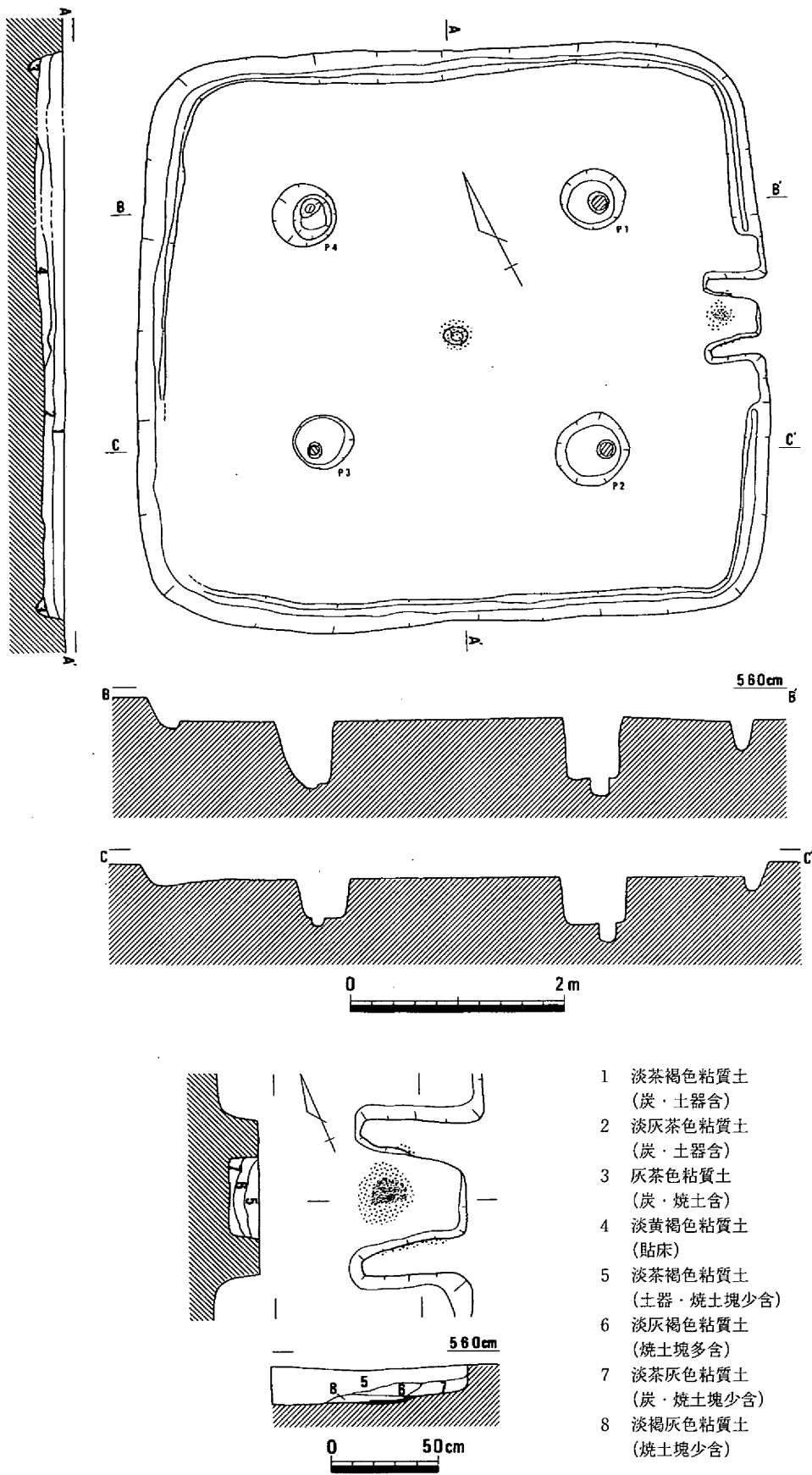
第1277図 竪穴住居165出土遺物 (1/4,1/3)

れる。床面中央からは浅くくぼむ炉を検出している。径20cmおよび40cm、深さ数cmのくぼみを中心に南北方向に被熱面が検出され、くぼみには炭粒を含む茶灰色粘質土が堆積していた。

遺物は主に覆土中から出土しており、床面からは中央南壁際で小形壺4880が出土したのみであった。いずれも土師器で須恵器は含まれず、甕4873~4875、高杯4876、手捏ね鉢4877、鉢4878・4879などで、甕4873の口縁端部に内傾する面をもち、高杯4876は鈍いながら外面に杯部と口縁部の境を示す稜線が走る。鉢および壺は小形で手捏ね風の押圧ナデで作られている。また、住居の中央北寄りから鉄斧M182が出土している。覆土中からのもので、刃部を欠損しているが、推定長950mm、幅31mm、重さ71.79gを測る袋状鉄斧である。土器の特徴から当住居は古・中・Iに廃絶したものである。(江見) 竪穴住居166 (第1205・1278・1279図、図版65・66)

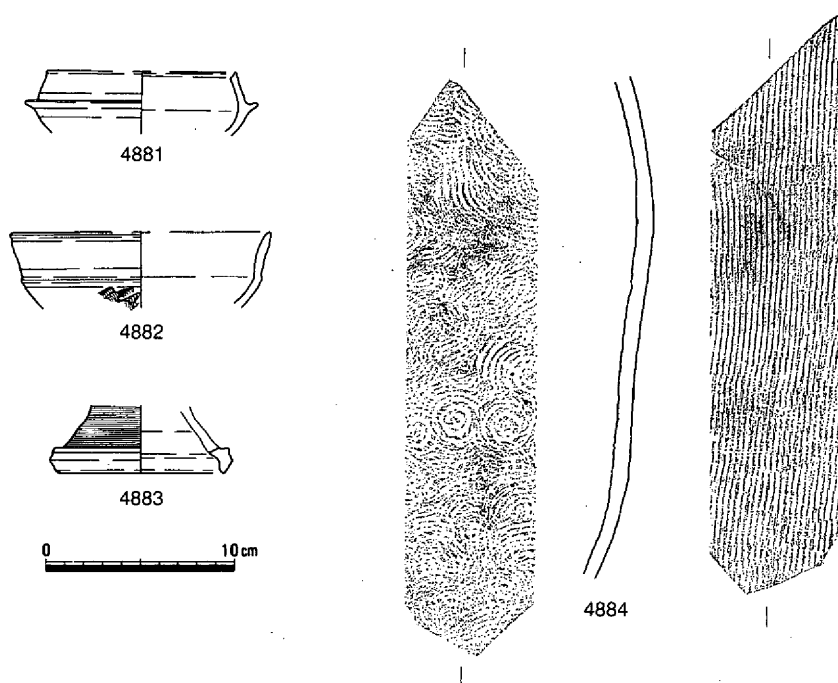
Cj6 06区、竪穴住居165の西15mに位置し、後述の竪穴住居167・168を一部切って検出された。平面方形を呈し、規模は532×586cm、深さ26cmを残す。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約60cm、深さ40~60cmを測り、いずれも柱痕跡が確認された。柱穴間距離は225~272cmを測る。床面周囲には壁体溝が巡り、住居東辺中央からは造り付けのカマドが検出された。燃焼部には径約50cmの被熱面が検出されたが支柱は確認されなかった。なお、燃焼部の奥壁は住居壁とほぼ同一ライン上にある。また、床面中央からも炉状遺構が検出されている。径約20cmの範囲に被熱面が認められ、中央部がわずかにくぼんでいた。

遺物は覆土中から出土している。図示し得たのは須恵器のみであったがわずかながらの土師器の細片と鉄滓が出土している。須恵器は杯身4881、高杯4882・4883、甕4884などで、杯身の口縁端部のあり方や、短脚高杯の特徴などから、当住居は古・中・IIに廃絶したものである。(江見)



- 1 淡茶褐色粘質土  
(炭・土器含)
- 2 淡灰茶色粘質土  
(炭・土器含)
- 3 灰茶色粘質土  
(炭・焼土含)
- 4 淡黄褐色粘質土  
(貼床)
- 5 淡茶褐色粘質土  
(土器・焼土塊少含)
- 6 淡灰褐色粘質土  
(焼土塊多含)
- 7 淡茶灰色粘質土  
(炭・焼土塊少含)
- 8 淡褐灰色粘質土  
(焼土塊少含)

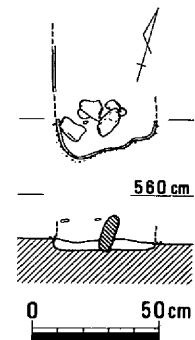
1278図 竪穴住居166 (1/60,1/30)



第1279図 竪穴住居166出土遺物 (1/4)

竪穴住居167 (第1205・1280図)

竪穴住居166の南端から検出されたもので、造り付けのカマドの一部を確認するにとどまった。カマドは住居南壁に設置されたものと思われ、明らかにし得た燃焼部は平面長方形を呈し、幅約40cm、深さ数cmを残す。燃焼部中央奥壁寄りに自然石による支柱が設置され、周辺から土師器の甕片が出土した。甕は胴部片と思われ、その所属時期は不明であるが、南辺に設置されたカマドは少なく、また、古い様相をもつ住居に多く見られる傾向があることや切り合い関係から、当住居は古・中・Iに遡る可能性も考えられる。(江見)



茶灰色粘質土  
(焼土含)

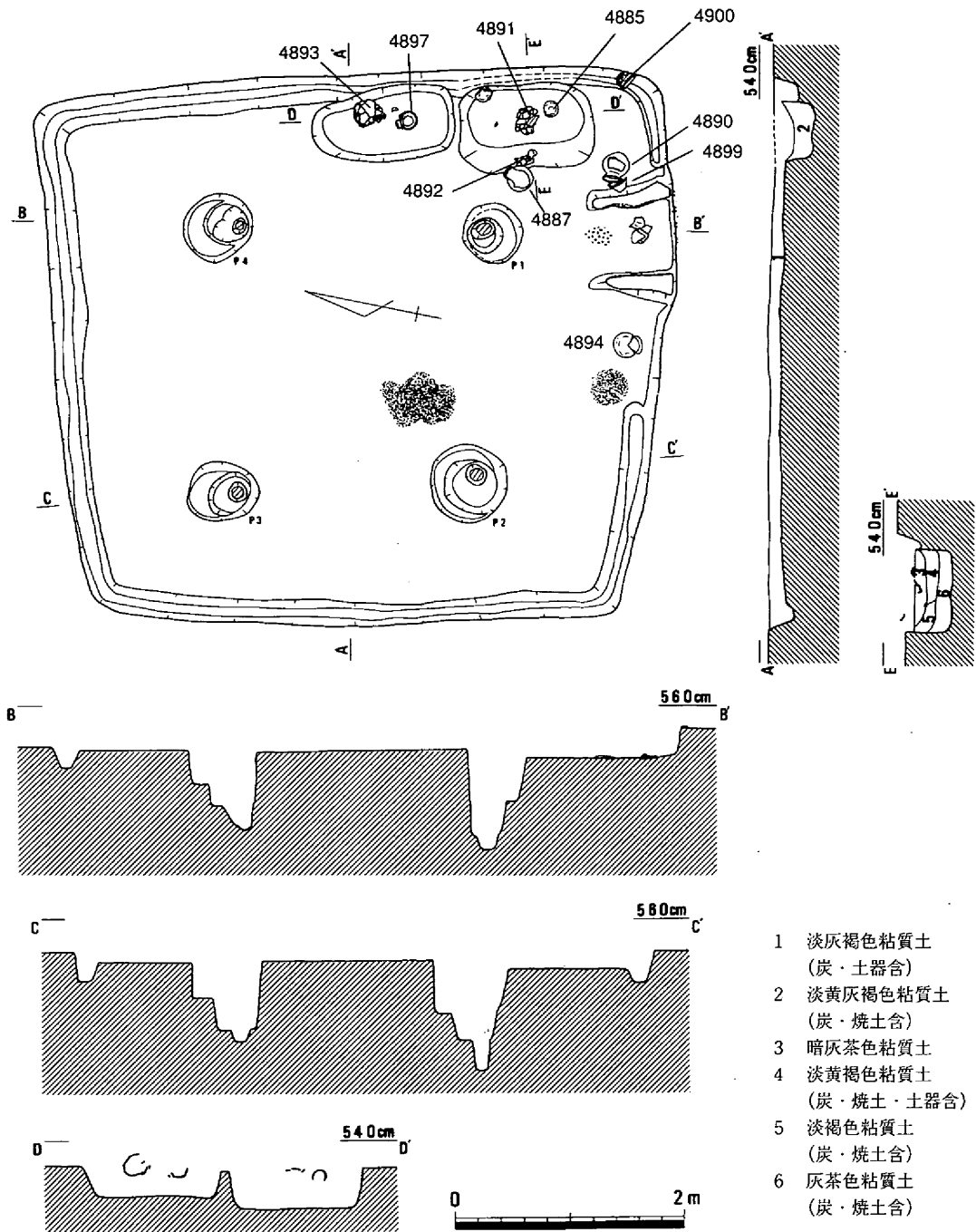
第1280図 竪穴住居167  
カマド (1/30)

竪穴住居168 (第1205・1281～1283図、図版66)

竪穴住居166の東に接して検出され、これに切られている。平面不整形を呈し、規模は482×526cm、深さ12cmを残す。床面積は23.3㎡を測る。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径60～70cm、深さ50～70cmを測り、いずれも二段掘りされており、底部からはさらに柱痕跡が確認された。柱穴間距離は208～233cmを測る。床面周囲には壁体溝が巡り、住居南辺東寄りには造り付けのカマドが設置されていた。カマドは奥壁および袖が直線的に伸び、平面矩形を呈す。奥壁は歪ながら住居壁とほぼ同一ライン上にある。袖基底部分は幅約20cm、長さ約80cmを測り、燃焼部中央に自然石による支柱が立てられていた。焚き口付近が最も熱を帯びており、15×20の範囲に被熱面が確認された。一方、住居南東部からは2基の土壇が検出された。北側の土壇は65×120cm、深さ25cmを測り、南側のそれは70×115cm、深さ35cmと南側の土壇がやや規模が大きい。いずれも壁に沿って掘り込まれており、貯蔵施設の可能性を推定しているが、図示したように両土壇とも上層から土器が出土しており、これらの遺物は床面からはわずかに低いものの、土

墳埋没後の床面遺物と思われるものであった。このことから、両土壙は住居廃絶時にはすでに埋まっていたと思われる。また、床面中央および南壁付近の2か所から被熱面が検出されており、中央付近のそれは被熱部分が厚さ3cmに及んでいた。

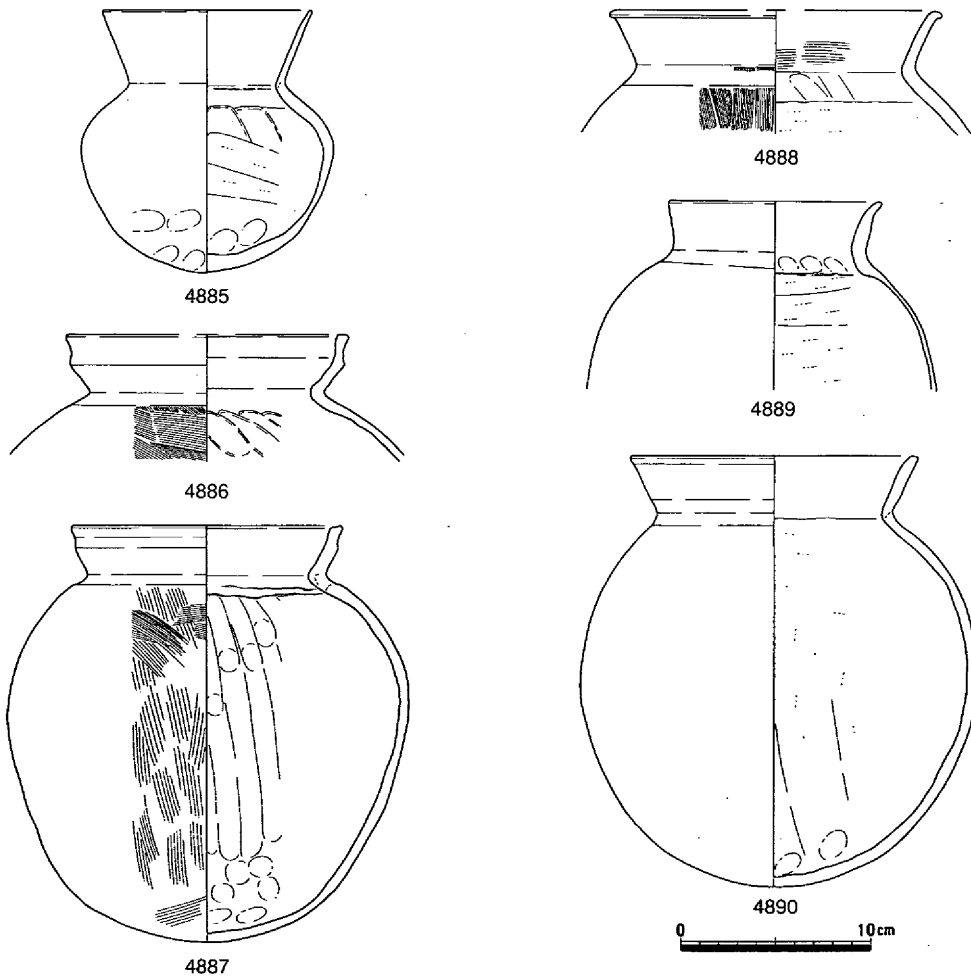
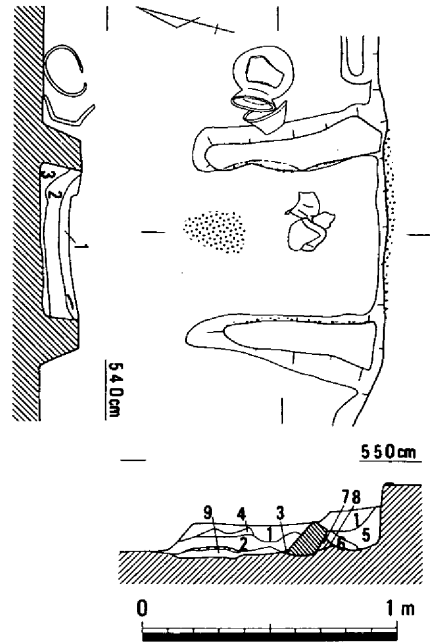
床面遺物は南東部の長方形土壙上からカマド周辺にかけて出土しており、また、覆土からも比較的多くの土器がまとまって出土している。土師器のみで、壺4885、甕4886~4894、高杯4895~4903、甌4904・4905などである。甕は内面をヘラケズリするものもあるが、不明瞭なものが多く、ユビナデ、ユビオサエなどの認められるものがある。高杯は碗状を呈す4895と杯部と口縁部の境に明瞭に稜線が



第1281図 竪穴住居168 (1/60)

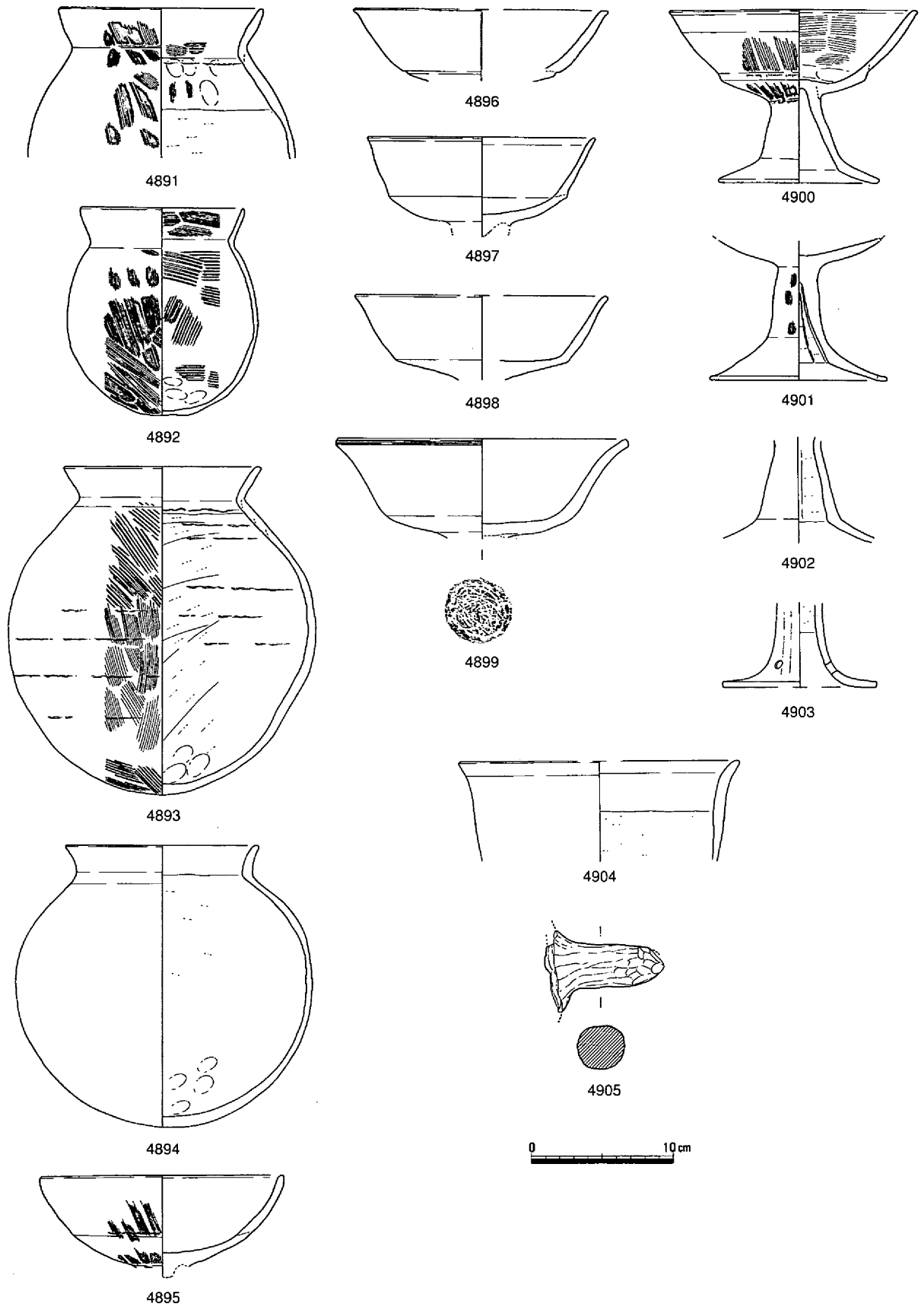
走る4896~4900があり、4899器壁が厚く比較的大形な器種で、口縁端部には面をもち、脚部接合面に刻み目を入れている。これら遺物の特徴から、当住居は古・中・Iに廃絶したものと思われる。(江見)

- 1 淡茶褐色粘質土 (炭含)
- 2 淡灰褐色粘質土 (焼土多含)
- 3 灰茶色粘質土 (炭・灰含)
- 4 淡褐色砂質土 (竈の壁土)
- 5 淡褐色粘質土 (焼土含)
- 6 暗灰茶色粘質土 (焼土多含)
- 7 暗褐色粘質土 (焼土含)
- 8 茶褐色粘質土
- 9 淡茶褐色粘質土 (被熱により赤褐色に変色)



第1282図 竪穴住居168カマド (1/30)・出土遺物① (1/4)

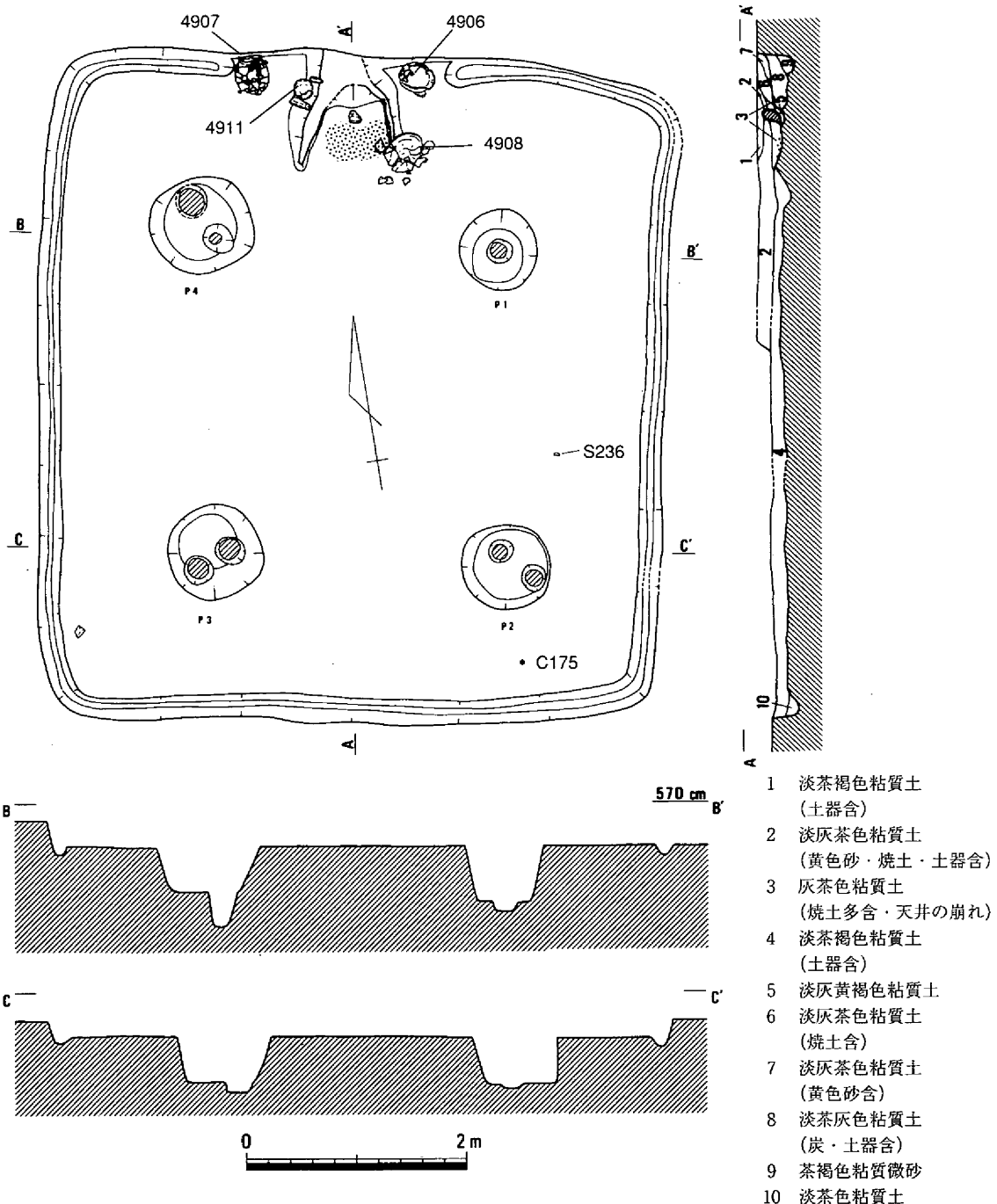




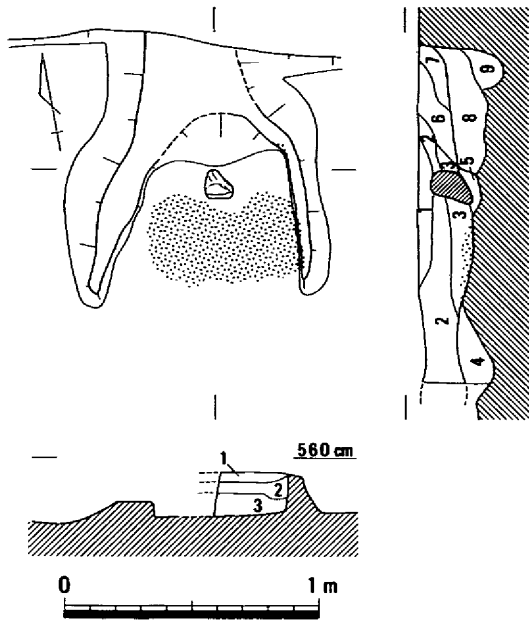
第1283図 竪穴住居168出土遺物② (1/4)

竪穴住居169 (第1205・1284～1287図、図版67)

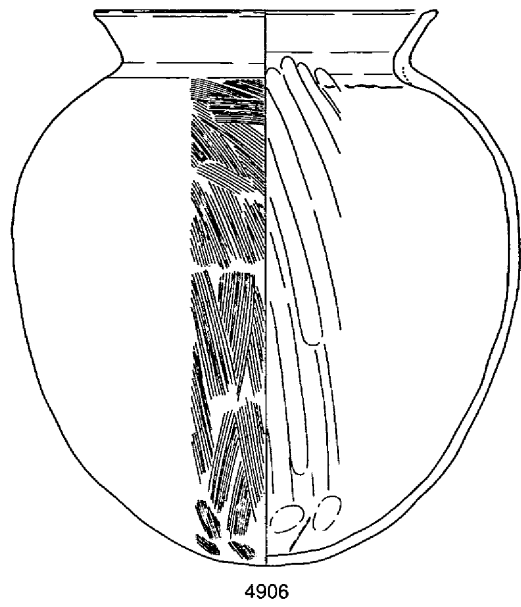
竪穴住居168の西13mから検出された。平面方形を呈し、規模は567×600cm、深さ21cmを残す。主柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径70～90cm、深さ40～50cmを測り、いずれの柱穴にも柱痕跡が確認された。柱穴間距離は202～218cmを測る。床面周囲には壁体溝が巡り、住居北辺中央には造り付けのカマドが設置されていた。カマドは燃焼部の奥壁が住居壁より内側に入っていた。燃焼部の奥壁寄りに自然石の支柱が立てられ、その前面40×60cmの範囲に被熱面が広がっていた。遺物はカマド周辺から甕、高杯が、床面南東部から石製および土製の紡錘車が出土した。ほかに覆土からも比較的多くの遺物が出土しており、特に、高杯4916は接合部に刻み目を入れており、甕4921は外面に格子目タタ



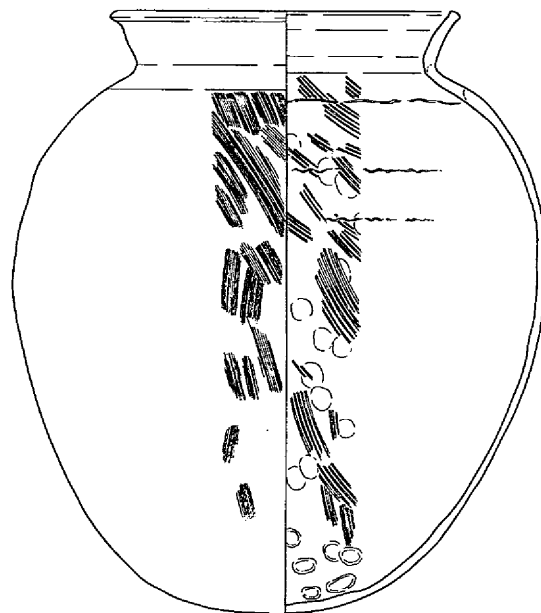
第1284図 竪穴住居169 (1/60)



- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 淡茶褐色粘質土<br>(土器含)        | 5 淡灰黄褐色粘質土           |
| 2 淡灰茶色粘質土<br>(黄色砂・焼土・土器含) | 6 淡灰茶色粘質土<br>(焼土含)   |
| 3 灰茶色粘質土<br>(焼土多含・天井の崩れ)  | 7 淡灰茶色粘質土<br>(黄色砂含)  |
| 4 淡茶褐色粘質土<br>(土器含)        | 8 淡茶灰色粘質土<br>(炭・土器含) |
|                           | 9 茶褐色粘質微砂            |



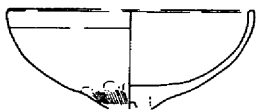
4906



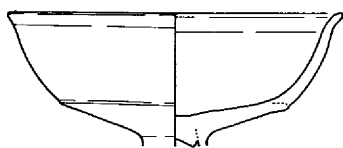
4907



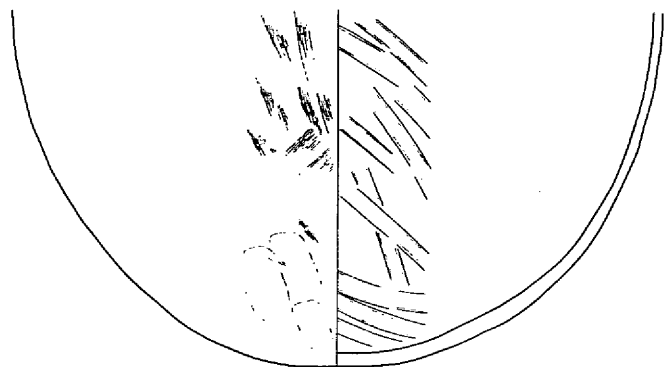
4909



4910



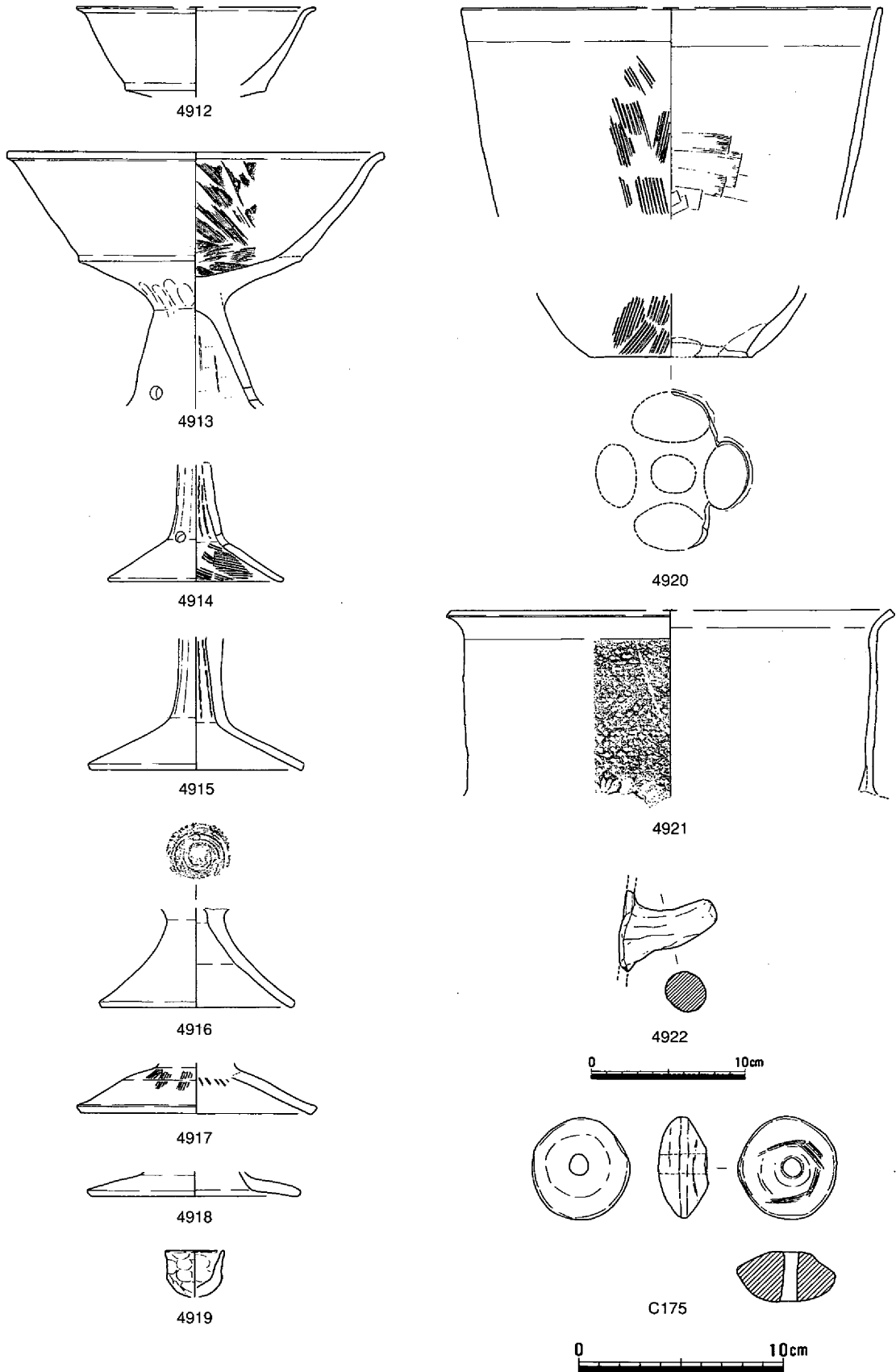
4911



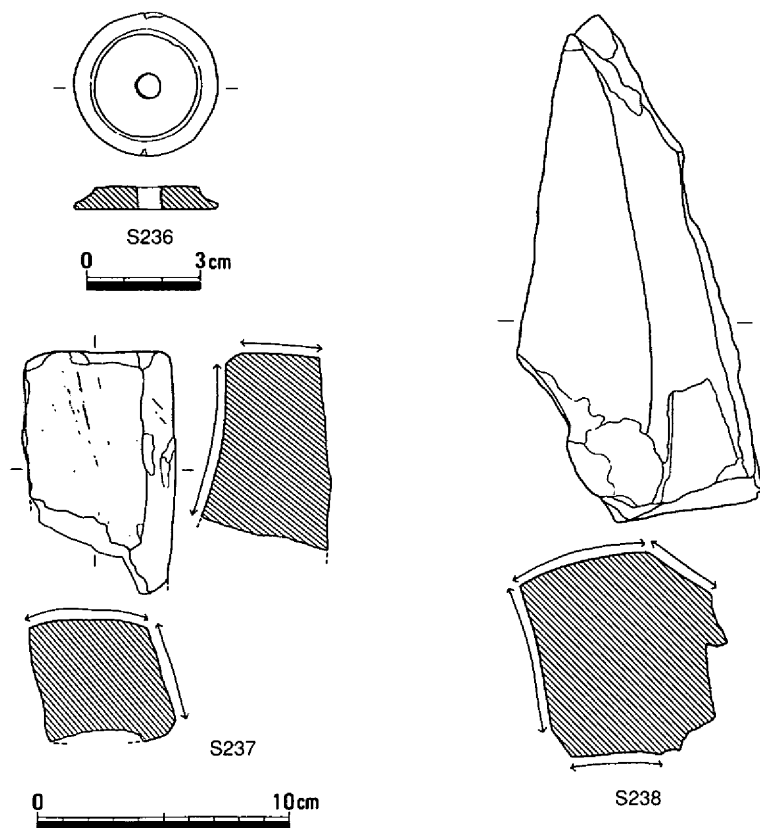
4908

第1285図 竪穴住居169カマド (1/30)・出土遺物① (1/4)

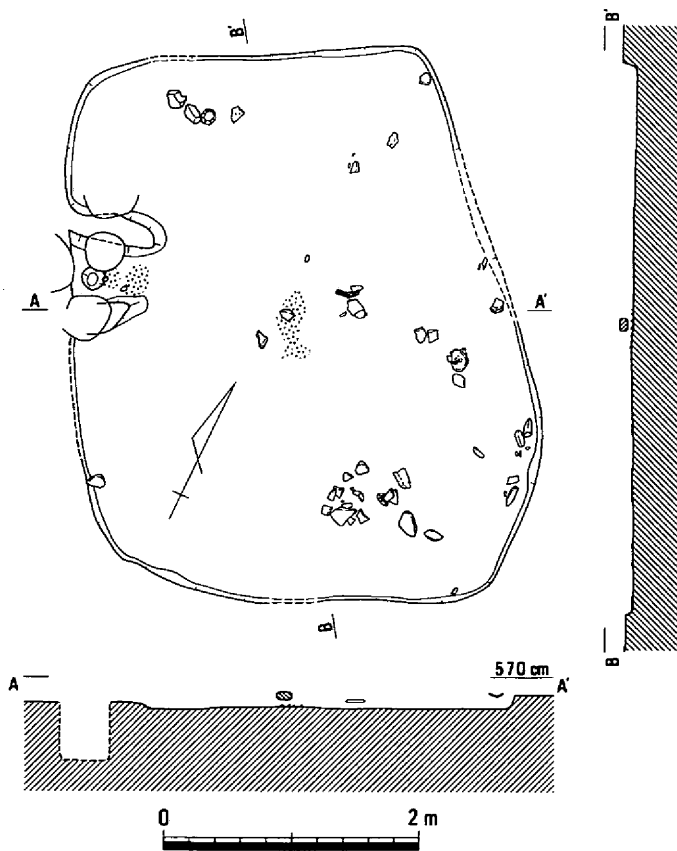
キが施されるなど、初期須恵器および韓式系土器の影響が認められる。古・中・Iであろう。（江見）



第1286図 竪穴住居169出土遺物② (1/4,1/3)



第1287図 竪穴住居169出土遺物③ (1/2,1/3)



第1288図 竪穴住居170 (1/60)

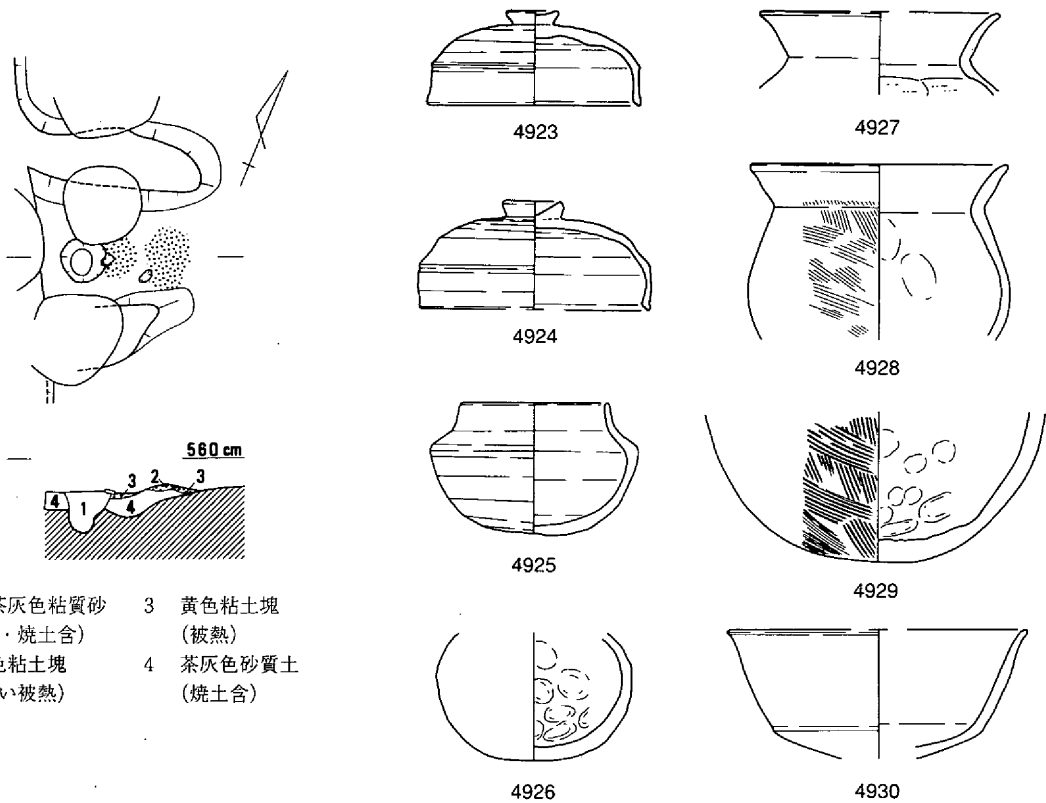
竪穴住居170 (第1205・1288・1289図、図版67)

竪穴住居169の南西数mに位置し、北に重複する竪穴住居171を切っけて検出された。平面不整形長方形を呈し、規模は350×432cm、深さ10cmを残す。住居南辺中央西寄りから造り付けのカマドを検出したが、主柱および壁体溝は確認されず、床面においても遺物の検出状況から推定したものである。

カマドは後世の柱穴に切られ、不明瞭な部分が多いが、燃焼部は矩形に近い平面形を呈すとともに、奥壁が住居壁ラインと同一線上に位置する。燃焼部中央の奥壁寄りに立てられていたと推定される支柱は抜き取られていた。また、カマド下部には埋土に焼土の混入する浅い土壌が掘り込まれ、その上面を燃焼部の床面としており、除湿施設として機能を果たしたのか。なお、床面中央からは20×50cmの広い範囲に被熱面が認められた。

遺物は推定される床面全体から自然石などとともに散在する状態で出土している。須恵器の杯蓋4923・4924、短頸壺4925、

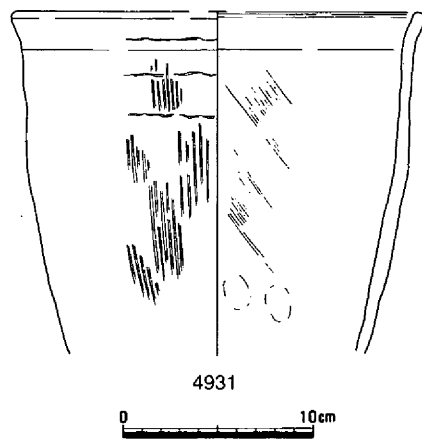
土師器の甕4926~4929、高杯4930、甌4931などで、須恵器の特徴から、当住居は古・中・Ⅱに廃絶したものである。(江見)



- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 暗茶灰色粘質砂<br>(炭・焼土含) | 3 黄色粘土塊<br>(被熱)   |
| 2 黄色粘土塊<br>(強い被熱)    | 4 茶灰色砂質土<br>(焼土含) |

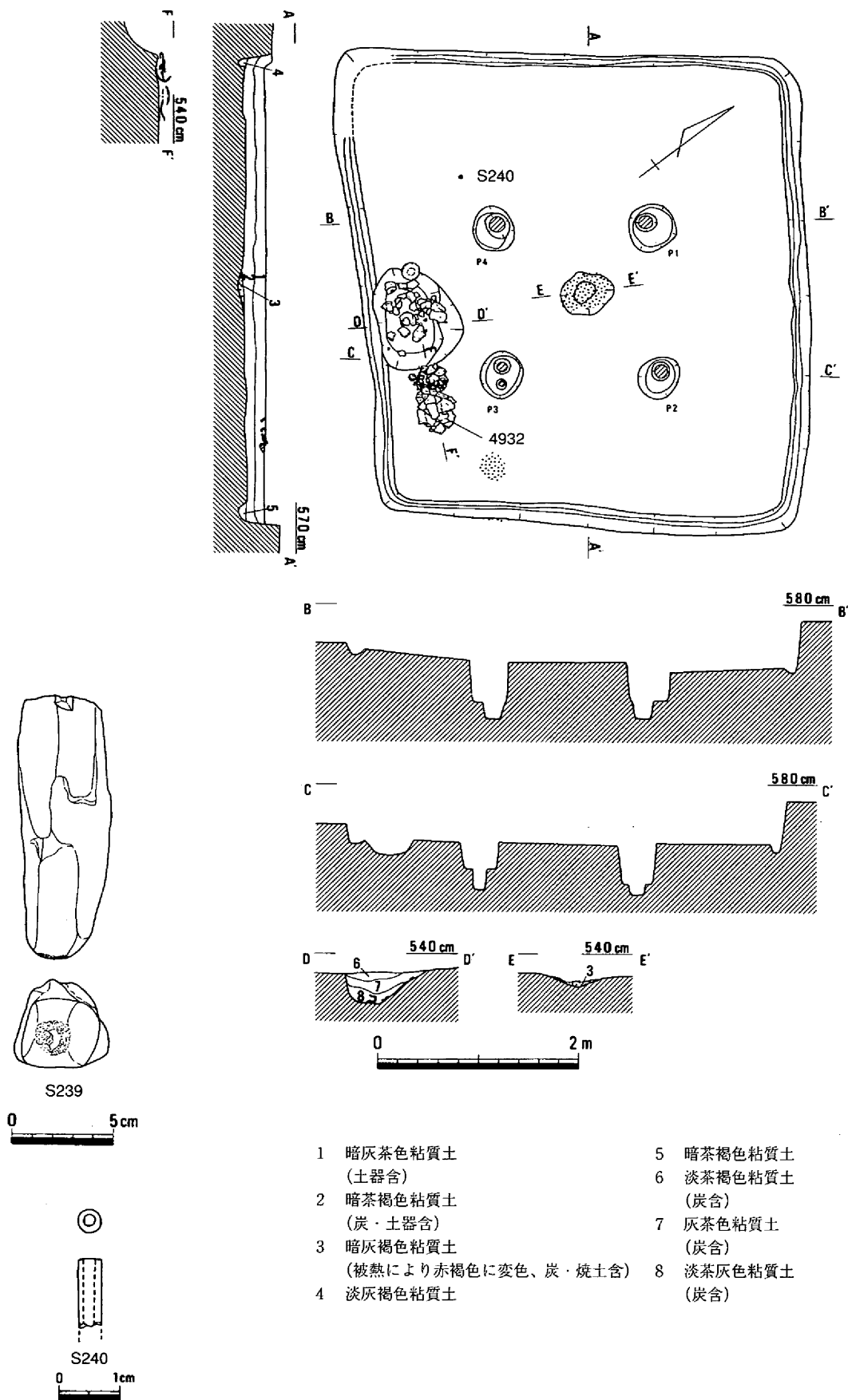
竪穴住居171 (第1205・1290~1292図、  
図版68)

竪穴住居170の北に接して検出され、それによって住居南半が上部削平を受けている。平面不整形を呈し、規模は445×470cm、深さ34cmを残す。床面積は19.6㎡を測る。支柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約40cm、深さ30~40cmを測り、いずれも柱痕跡が確認された。柱穴間距離は142×159cmで、床面積のわりには壁から離れ、中央に寄っている。床面の周囲には壁体溝が巡る。床面中央からは炉状遺構が検出されている。径40cm、深さ5cm余りの浅いくぼみを呈し、最大厚4cmの被熱面が40×50cmの範囲に広がっていた。また、住居南部からも径30cmの被熱面が確認されている。一方、住居南壁中央には貯蔵穴と思われる土壌が検出されている。壁に沿って掘り込まれ、80×100cm、深さ約30cmを測る。北壁は緩い傾斜をもち、そのほかは急である。

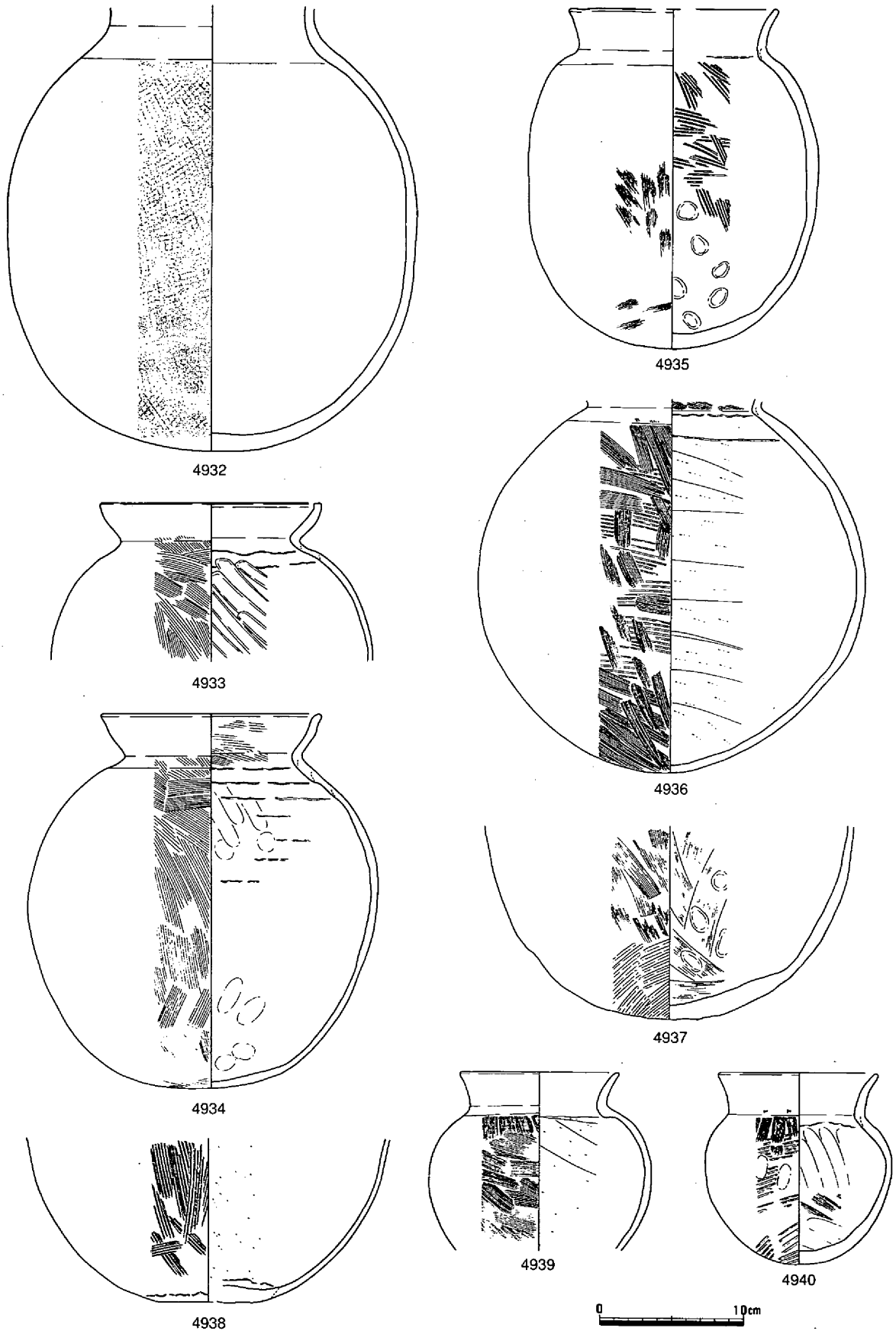


第1289図 竪穴住居170カマド (1/30)・出土遺物 (1/4)

遺物は比較的多く出土しており、特に床面からは滑石製の管玉をはじめ貯蔵穴から南東部にかけて一括して出土している。貯蔵穴の東部床面からは壺4932、甕4936が押し潰されたように、貯蔵穴から

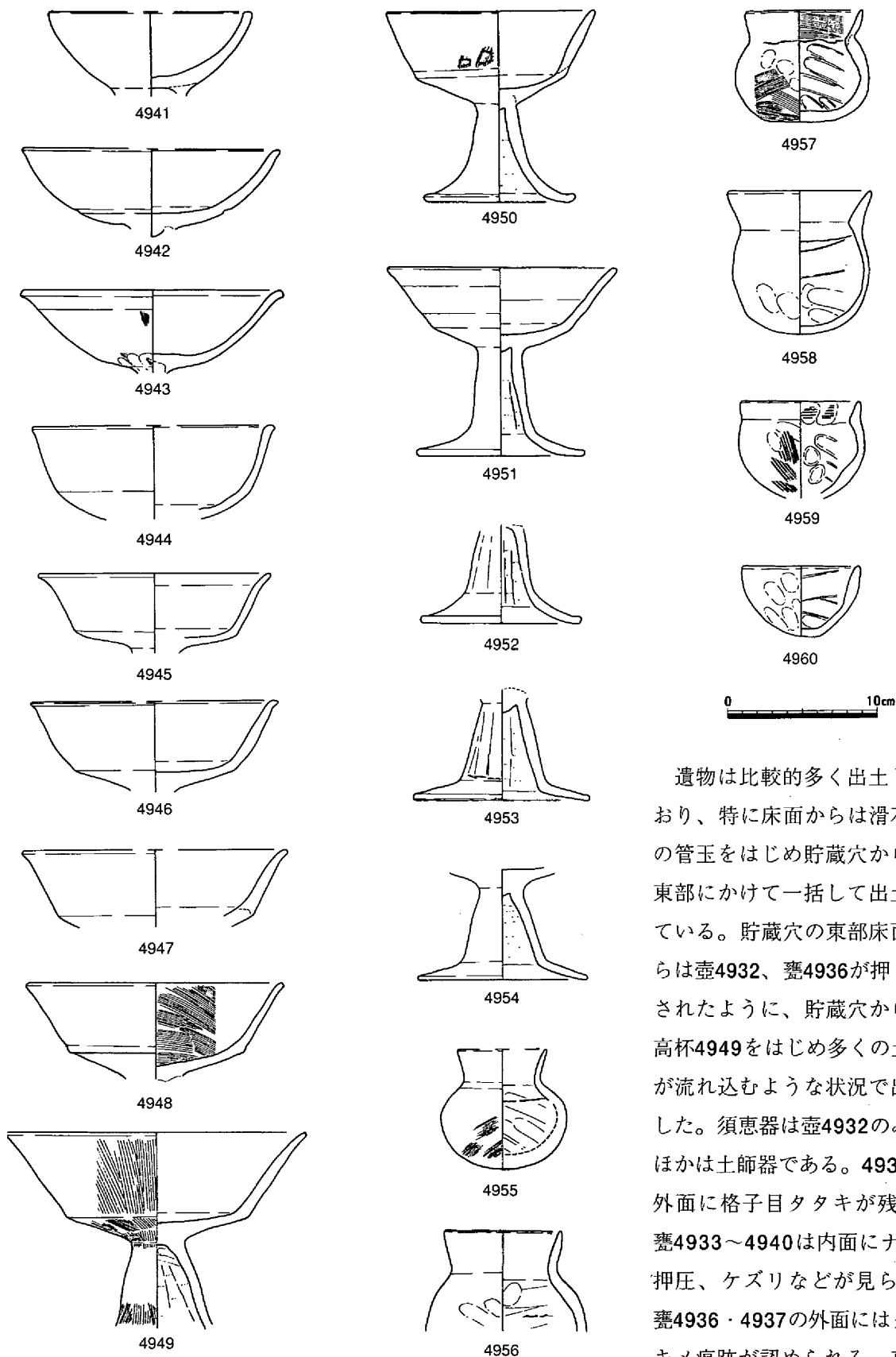


第1290図 豎穴住居171 (1/60)・出土遺物① (1/3, 1/1)



第1291図 竪穴住居171出土遺物② (1/4)



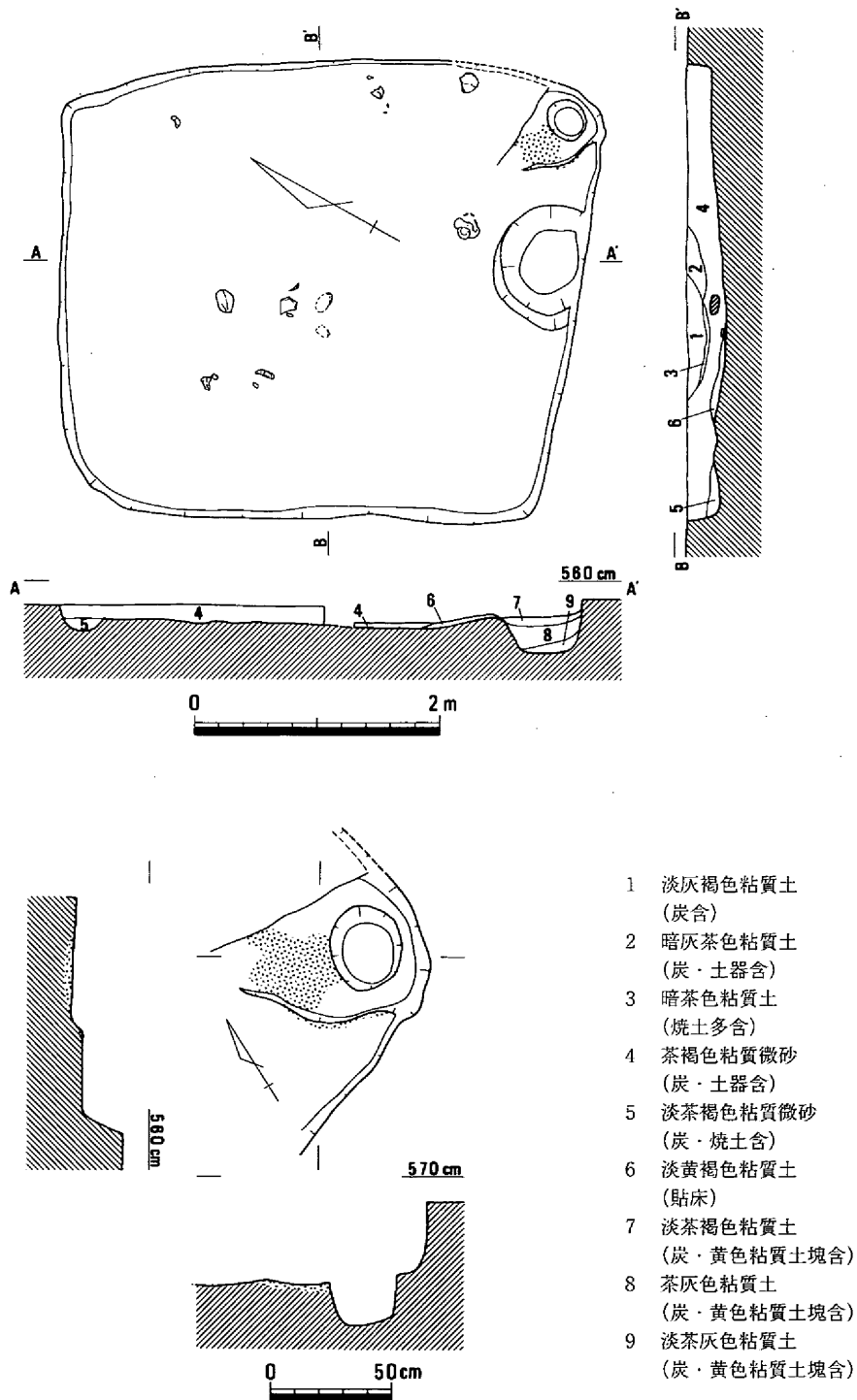


第1292図 竪穴住居171出土遺物③ (1/4)

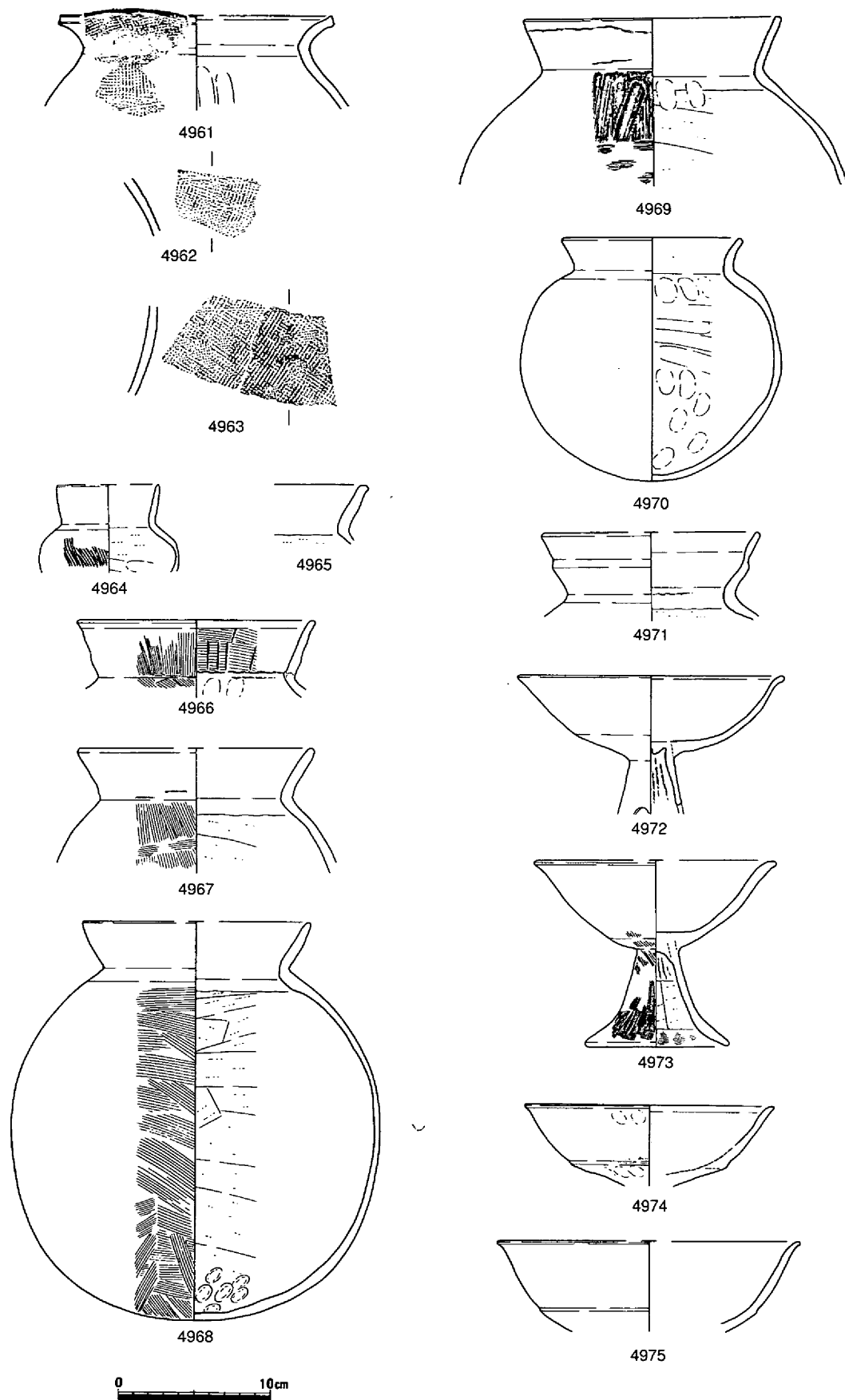
遺物は比較的多く出土しており、特に床面からは滑石製の管玉をはじめ貯蔵穴から南東部にかけて一括して出土している。貯蔵穴の東部床面からは壺4932、甕4936が押し潰されたように、貯蔵穴からは高杯4949をはじめ多くの土器が流れ込むような状況で出土した。須恵器は壺4932のみでほかは土師器である。4932は外面に格子目タタキが残る。甕4933～4940は内面にナデ、押圧、ケズリなどが見られ、甕4936・4937の外面にはタタキメ痕跡が認められる。高杯4941～4954は杯部が椀状の4941や杯部と口縁が稜線によ

竪穴住居172 (第1205・1293～1295図、図版68)

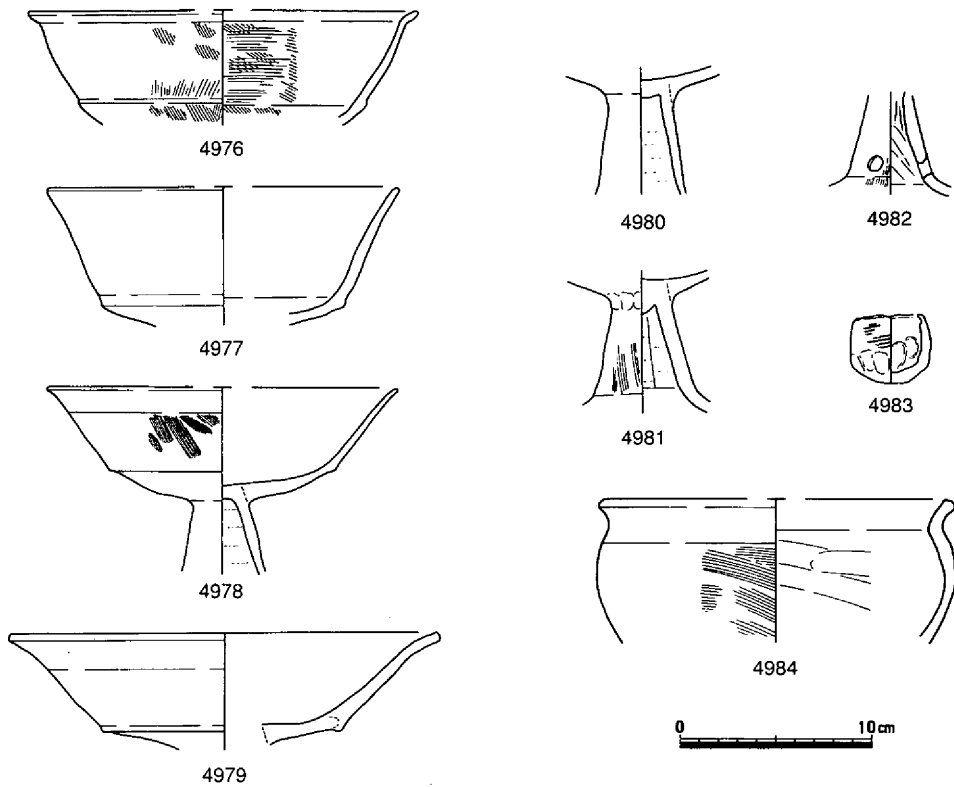
竪穴住居171の南西に位置し、後述の竪穴住居173を切って検出された。平面不整形を呈し、規模は372×423cm、深さ31cmを残す。床面積は14.2㎡を測る。主柱は確認し得なかったが、床面の周囲には部分的に壁体溝が確認され、本来は巡っていたものと思われる。住居南東隅からは造り付けのカマドが、南壁のカマド寄りから貯蔵穴と思われる土壌が検出されている。カマドは燃烧部が後世の柱穴によって切られ、北側の袖も削平を受けた残存状態の悪いものであった。貯蔵穴は不整形円形を呈し、



第1293図 竪穴住居172 (1/60,1/30)



第1294図 竪穴住居172出土遺物① (1/4)

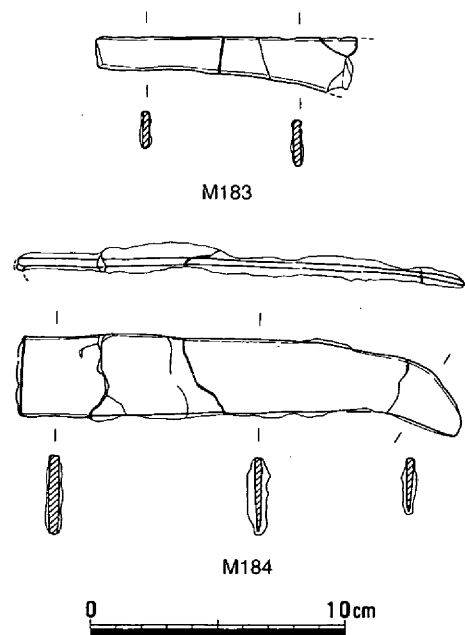


規模は70×100cm、深さ30cmを測る。

遺物は覆土中から比較的多く出土しており、床面からは甕4970、刀子M183、鉄鎌M184などで、ほかの土器類は破片であった。須恵器の甕4961～4963は同一個体と思われる。外面に縄文風の細かな格子目タタキの後、平行沈線を施している。土師器の甕は「く」字状に広がる口縁が主で、高杯の杯部は深いものが多い。土器の特徴から当住居は古・中・Ⅰに廃絶したものと思われる。(江見)

竪穴住居173 (第1205・1296図、図版68)

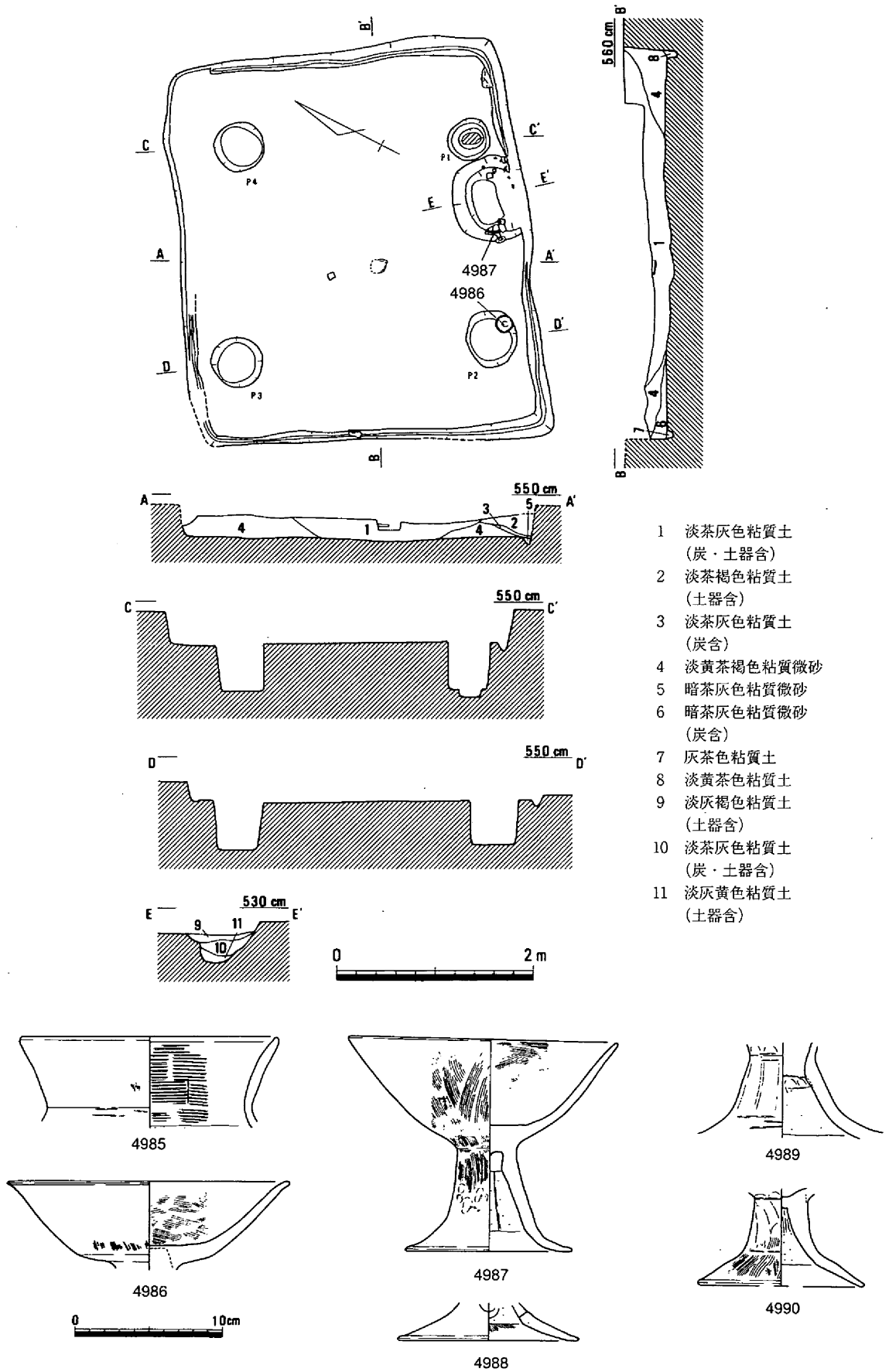
竪穴住居172とほぼ重複し、その下部から検出された。平面方形を呈し、規模は357×397cm、深さ44cmを残す。床面積は13.3m<sup>2</sup>を測る。支柱は4本からなり、柱穴の掘り方は径約50cm、深さ約50を測り、P1からは柱痕跡が確認された。柱穴間距離は207



第1295図 竪穴住居172出土遺物② (1/4,1/3)

～258cmを測り、南北両壁に近接した位置に立てられている。南壁中央東寄りからは貯蔵穴と思われる土壌が検出された。楕円形を呈し、75×90cm、深さ30cmを測る。土壌北側から東西上部に浅い段が確認されている。

遺物は土師器のみで、床面からは高杯4986が、また、貯蔵穴に流れ込むように高杯4987、甕4985などが出土している。遺物の特徴から、当住居は古・前・Ⅲに廃絶したものと思われる。(江見)



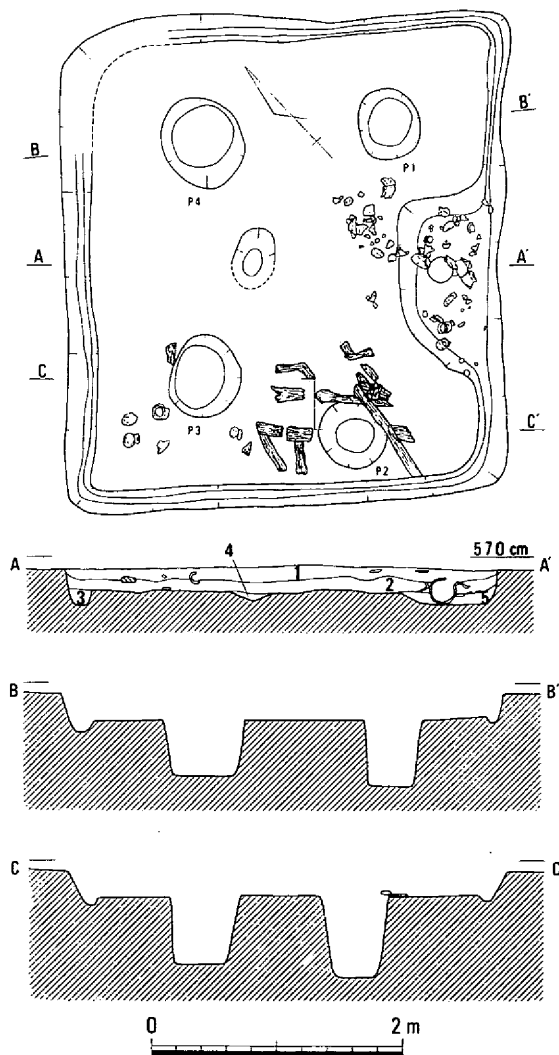
- 1 淡茶灰色粘質土  
(炭・土器含)
- 2 淡茶褐色粘質土  
(土器含)
- 3 淡茶灰色粘質土  
(炭含)
- 4 淡黄茶褐色粘質微砂
- 5 暗茶灰色粘質微砂
- 6 暗茶灰色粘質微砂  
(炭含)
- 7 灰茶色粘質土
- 8 淡黄茶色粘質土
- 9 淡灰褐色粘質土  
(土器含)
- 10 淡茶灰色粘質土  
(炭・土器含)
- 11 淡灰黄色粘質土  
(土器含)

第1296図 豎穴住居173 (1/60)・出土遺物 (1/4)

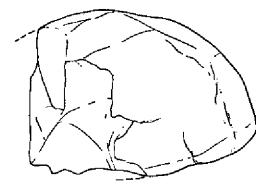
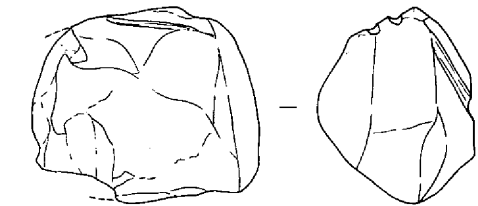
竪穴住居174 (第1205・1297~1299図、図版69)

竪穴住居173の南東8mから検出された、火災によって焼失した住居である。平面方形を呈し、規模は343×384cm、深さ22cmを残す。主柱は4本からなるが、P2の位置はやや壁際に寄っている。住居南東部は床面が一段下がった平坦面が造られており、床面中央西よりからは炉状遺構が検出されている。遺物は多く、覆土上部には土器溜りを形成していた。また、床面南西部からはヤナギ属を含む建築材と思われる炭化木をはじめ、小形の壺類が出土し、南東部の平坦面にも土器が流れ込んだ状況が窺えた。なお、有孔円板S242、勾玉S243は小形壺付近の覆土中からのものである。

須恵器の高杯、把手付椀、土師器の壺・甕・高杯・鉢など、古・中・Iの範疇であろう。(江見)



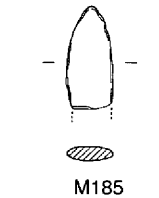
- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 淡褐色粘質微砂<br>(炭・土器含)  | 3 淡茶褐色粘質土                |
| 2 暗茶褐色粘質微砂<br>(炭・土器含) | 4 暗灰色粘質土<br>(グライ化、炭・土器含) |
|                       | 5 茶褐色粘質土<br>(土器含)        |



C176



S241



M185



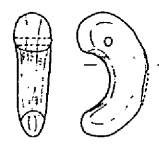
M186



M187



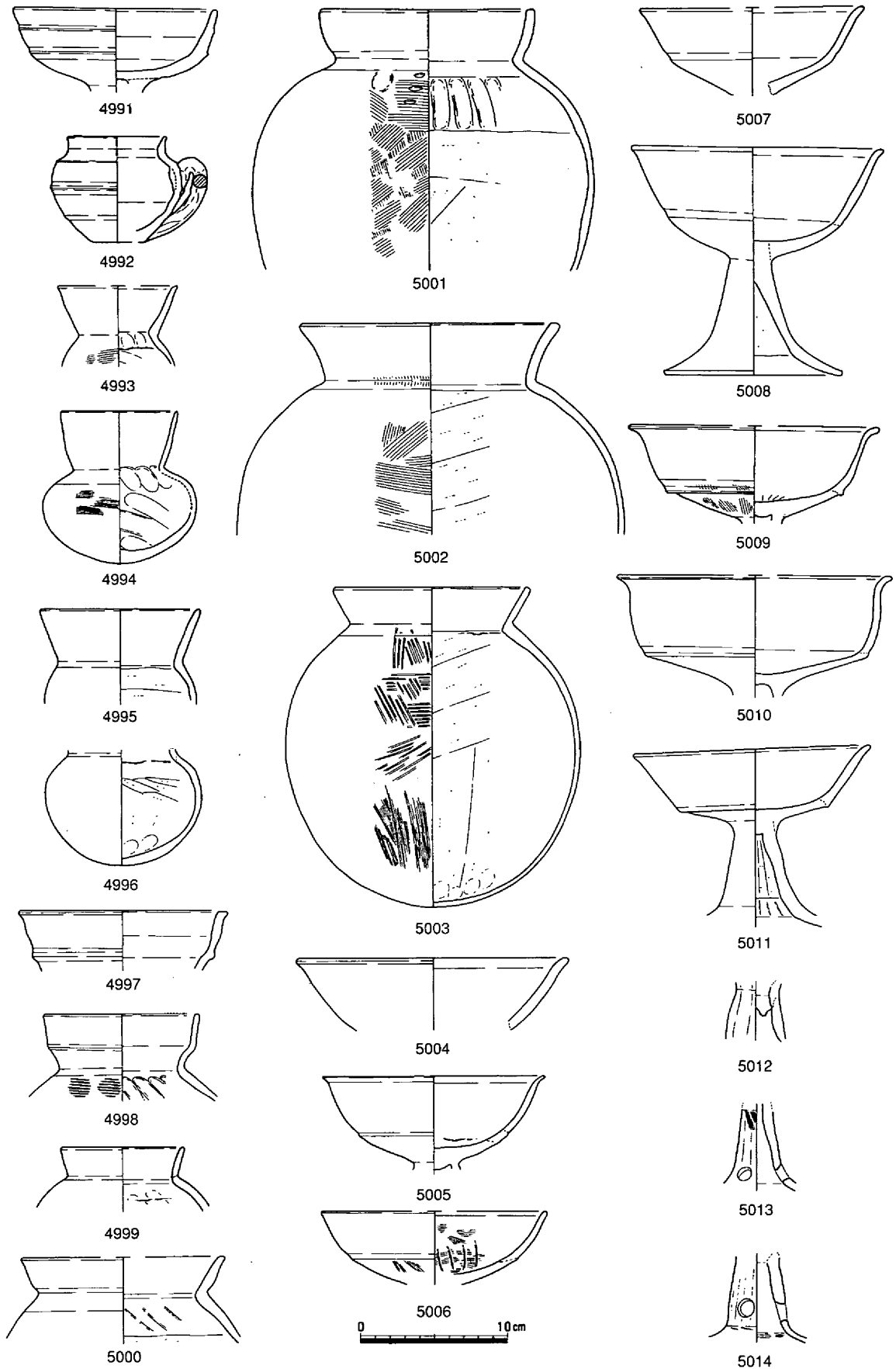
S242



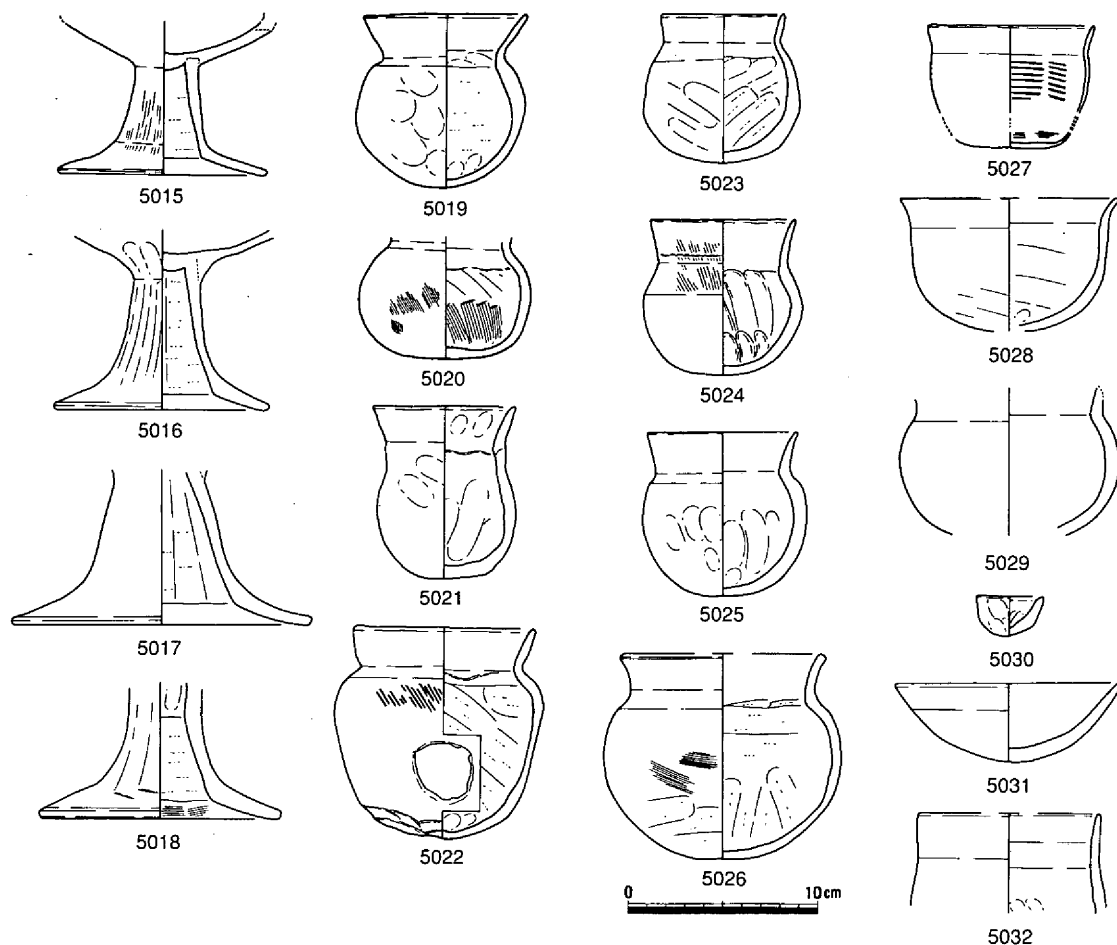
S243



第1297図 竪穴住居174 (1/60)・出土遺物① (1/3,1/2)



第1298図 竪穴住居174出土遺物② (1/4)



第1299図 竪穴住居174出土遺物③ (1/4)

## 竪穴住居175 (第1205・1300・1301図、図版151・165・167)

竪穴住居169の南で検出された。方形を呈するが、正方形に近い平面形を呈している。規模は長辺が580cm、短辺が558cmで、深さは検出面から13cmを測る。床面は平坦で、北辺の中央部に造り付けのカマドがある。両袖とも幅約30cm、長さ80cm、高さ20cmを測り、燃烧部が長方形を呈するものであった。壁際には幅約10~20cm、深さ約10~15cmの壁体溝が巡り、カマドの端約30cmまで取り付いている。4本の支柱で構成される住居で、柱間距離は220~280cmを測る。柱の掘り方は径40~50cm、深さは約50cmを測り、径20~30cmの柱痕跡が確認された。

遺物としては、須恵器の高杯5033、土師器の甕5034~5036、土錘C177~180、滑石製の白玉S244などが出土している。これらの遺物からみて、時期は古・後に属すると思われる。(松本)

## 竪穴住居176 (第1206・1302・1303図、図版151)

調査区の東北隅、Cg6 09区に位置する。大半は調査区外となるが調査範囲での規模は、一辺が435cm、深さが25cmを測り、床面では柱穴2本とカマドが検出できた。

カマド内は燃烧・焼成部の底面に薄い炭層が堆積しており、その中央では方形の石を立てて支脚としていたほか、熱影響によって奥の壁面も赤変していた。さらにこの床が5cm程上に埋没した段階で土器類5037~5041が出土しており、さらに土師器高杯が石支脚の上に倒立状態で検出されたことからこの高杯が支脚に転用されたと思われる。

出土遺物からみて、この住居の時期は古・中・Iである。

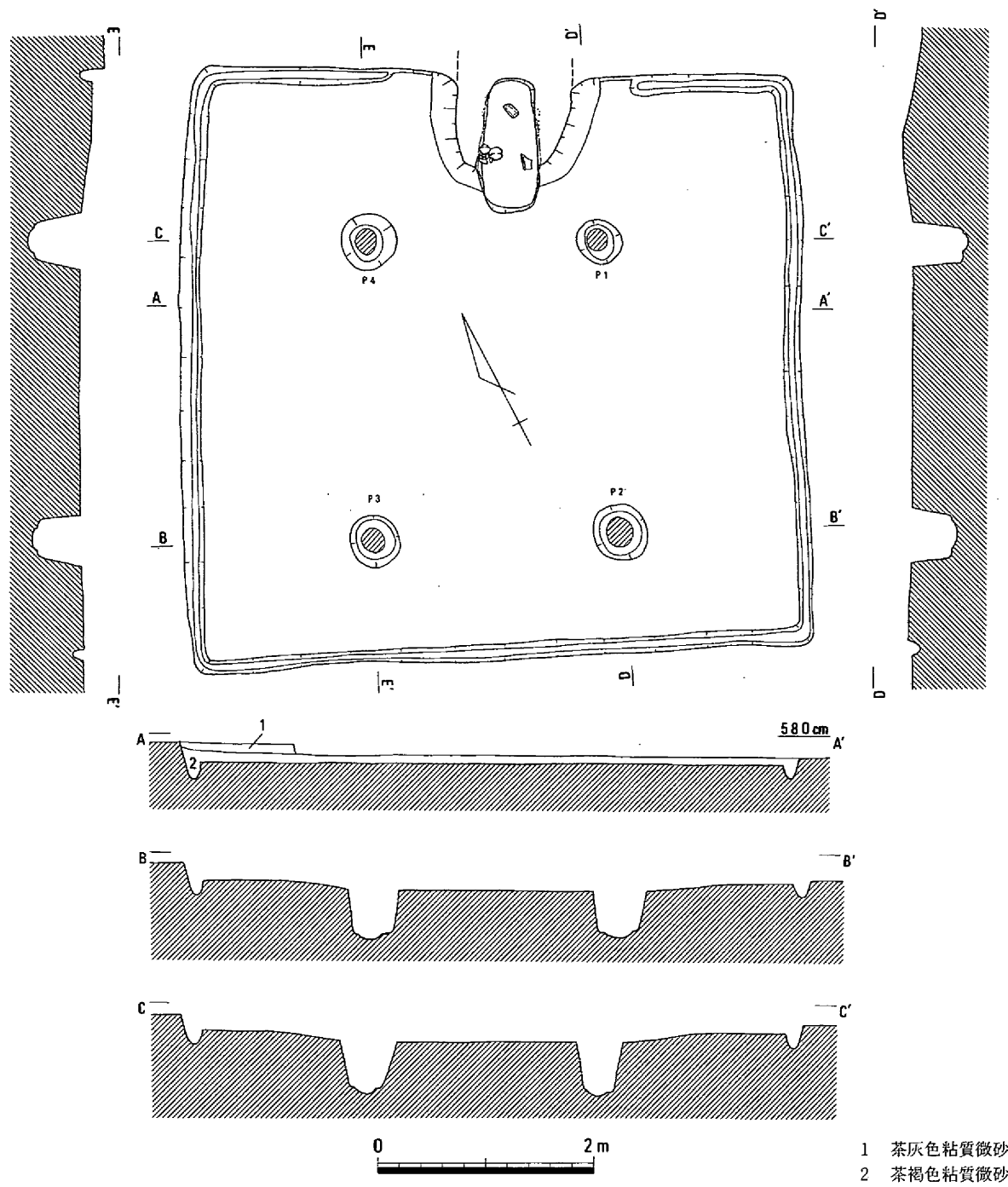
(弘田)



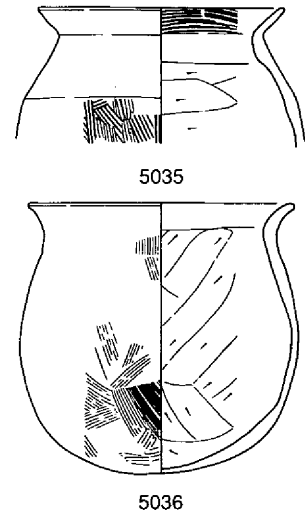
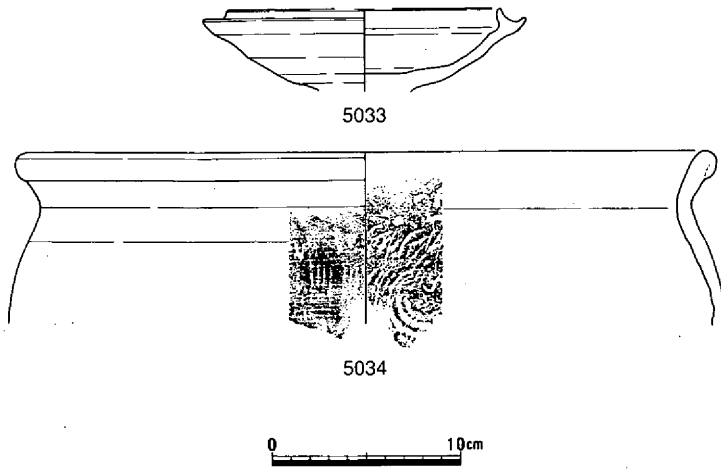
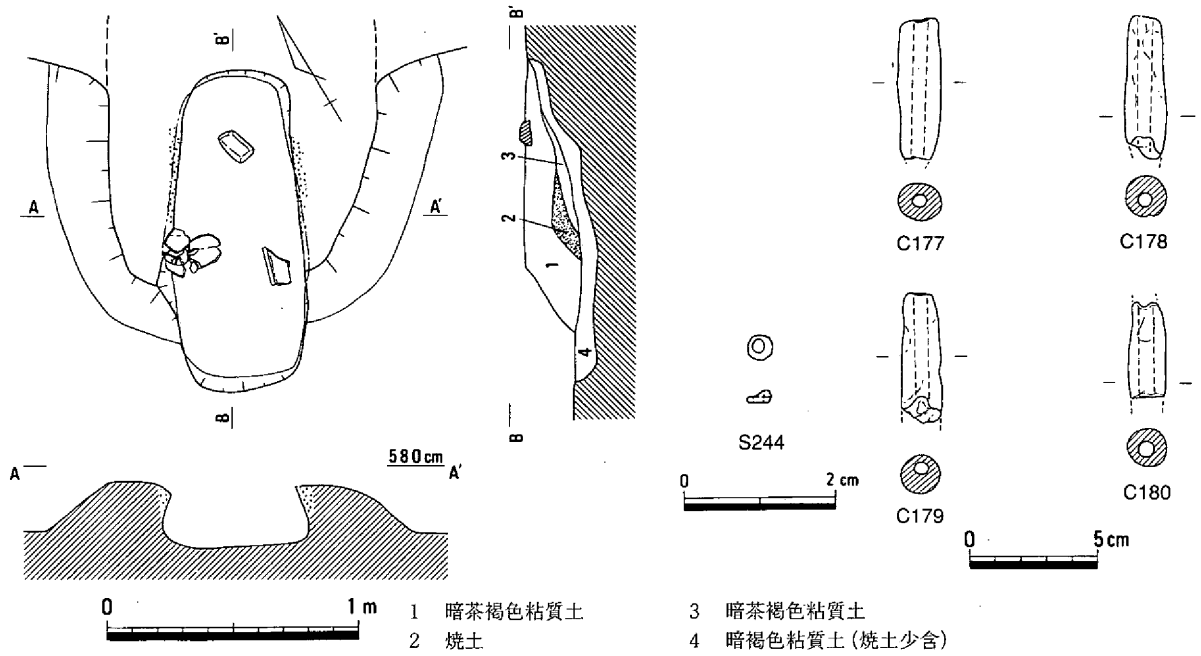
竪穴住居177 (第1206・1304図、図版69)

調査区の北東部に位置する。平面形は365×395cmの長方形で、床面までの深さは8cm残存していたのみである。北西の壁のほぼ中央にはカマドが設置されていた。カマドは住居内に袖を作り出し、煙道は住居外にのびていた。燃烧部を示す被熱面は明瞭には残存していなかった。

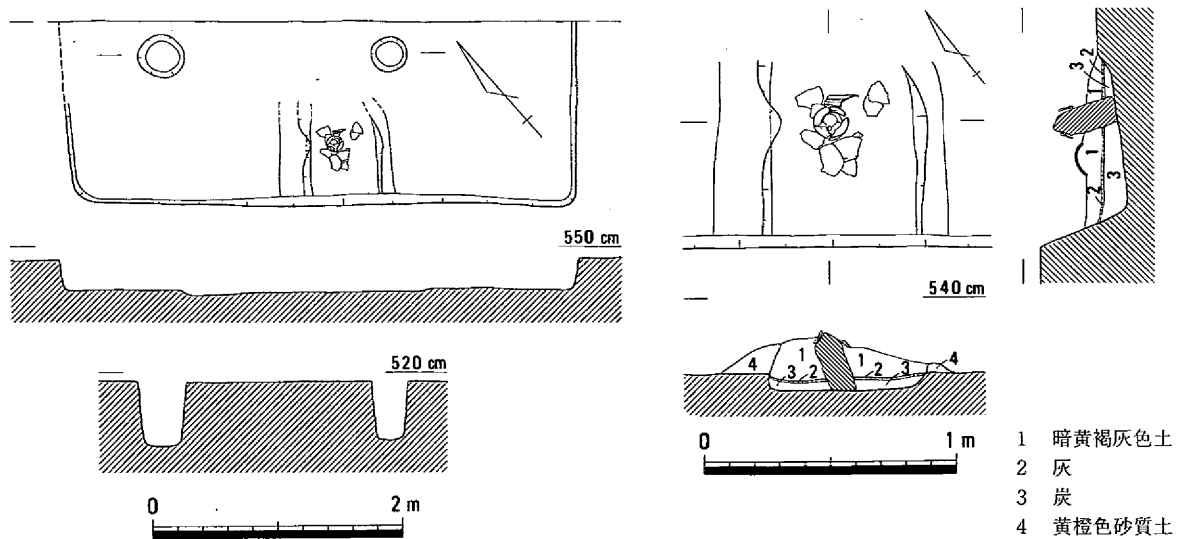
柱穴は4本確認できた。掘り方は直径50cm前後の円形で、深さは50~70cmを測る。P1・2・4では柱痕跡を確認することができた。



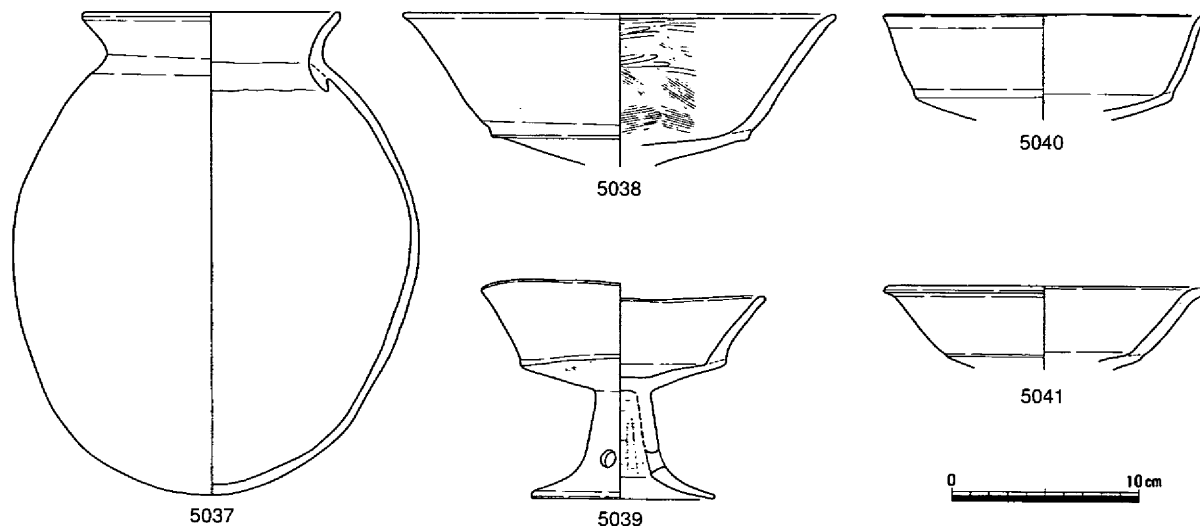
第1300図 竪穴住居175 (1/60)



第1301図 竪穴住居175カマド (1/30)・出土遺物 (1/1,1/3,1/4)

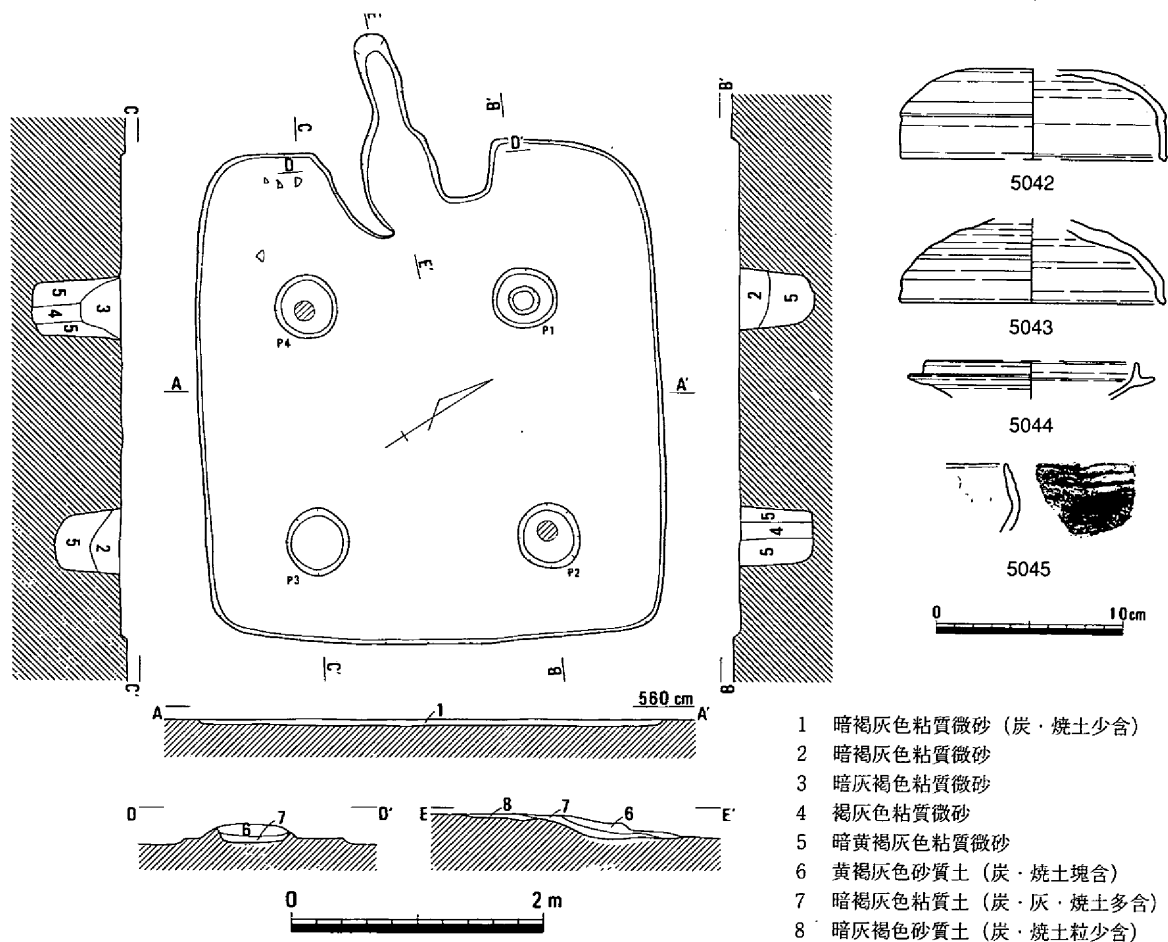


第1302図 竪穴住居176 (1/60,1/30)



第1303図 竪穴住居176出土遺物 (1/4)

遺物は埋土中から須恵器・土師器が少量出土している。5042～5044は杯の小片で、形状や調整から時期差が考えられる。5045は外面にタタキ痕跡が残存しており、製塩土器と理解している。最も新しい遺物は7世紀前葉と考えている。(平井)

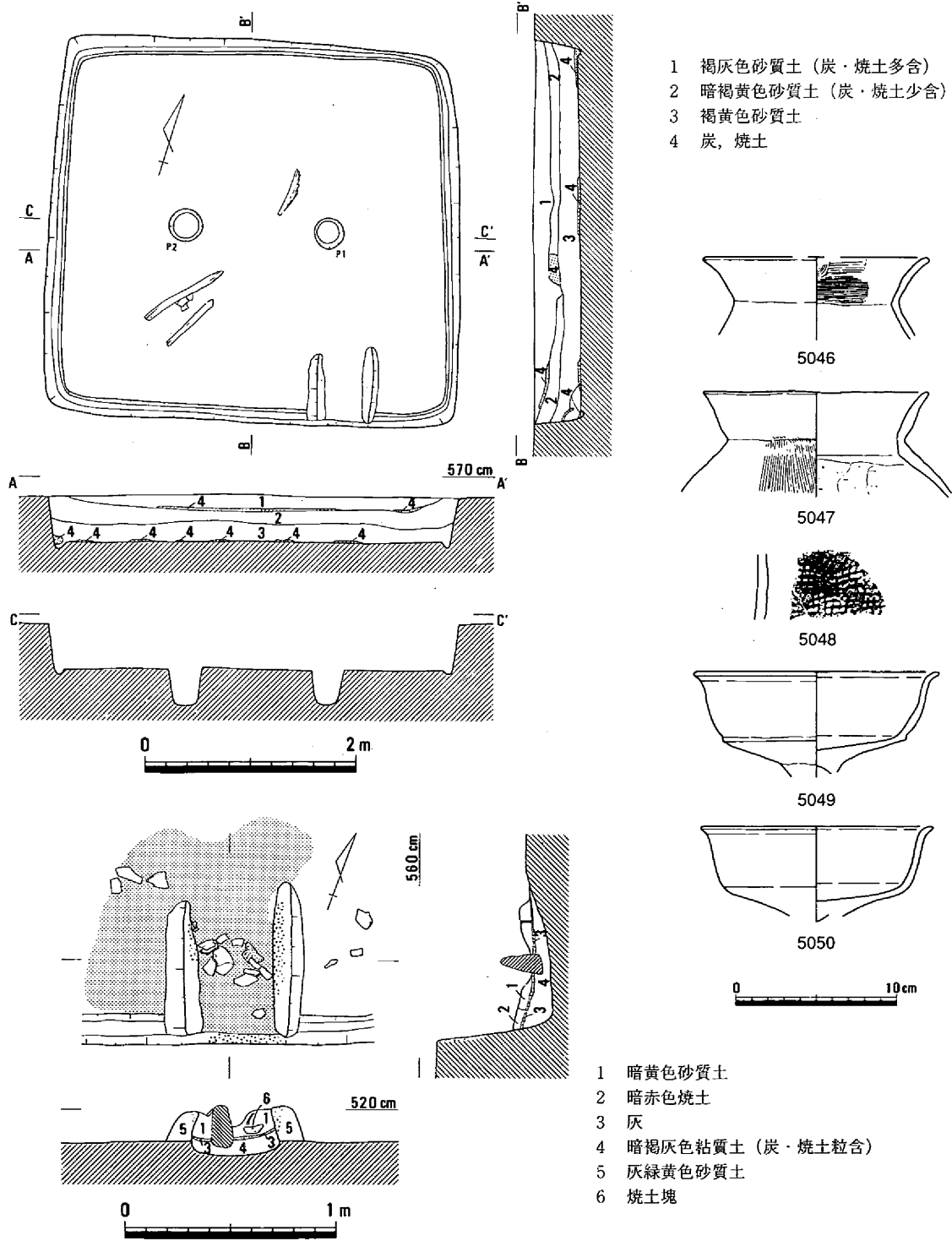


- 1 暗褐色粘質微砂 (炭・焼土少含)
- 2 暗褐色粘質微砂
- 3 暗灰褐色粘質微砂
- 4 褐色粘質微砂
- 5 暗黄褐色粘質微砂
- 6 黄褐色砂質土 (炭・焼土塊含)
- 7 暗褐色粘質土 (炭・灰・焼土多含)
- 8 暗灰褐色砂質土 (炭・焼土粒少含)

第1304図 竪穴住居177 (1/60)・出土遺物 (1/4)

竪穴住居178 (第1206・1305図、図版69・70)

竪穴住居177の北東隣りに位置する。平面形は360×395cmの方形で、床面までの深さは45cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁は垂直に近く立ち上がっていた。壁際には幅10cm前後、深さ8cm前後の溝を検出することができた。床面上には炭化材が少し残存しており、炭や焼土も薄く堆積していたことから、火災を被っていたものと考えられる。南側の壁の東寄りにはカマドが設置されていた。カマドは長さ70cm前後、高さ約20cmの直線的な袖が残存していた。カマド内の燃焼部には棒状の河原石

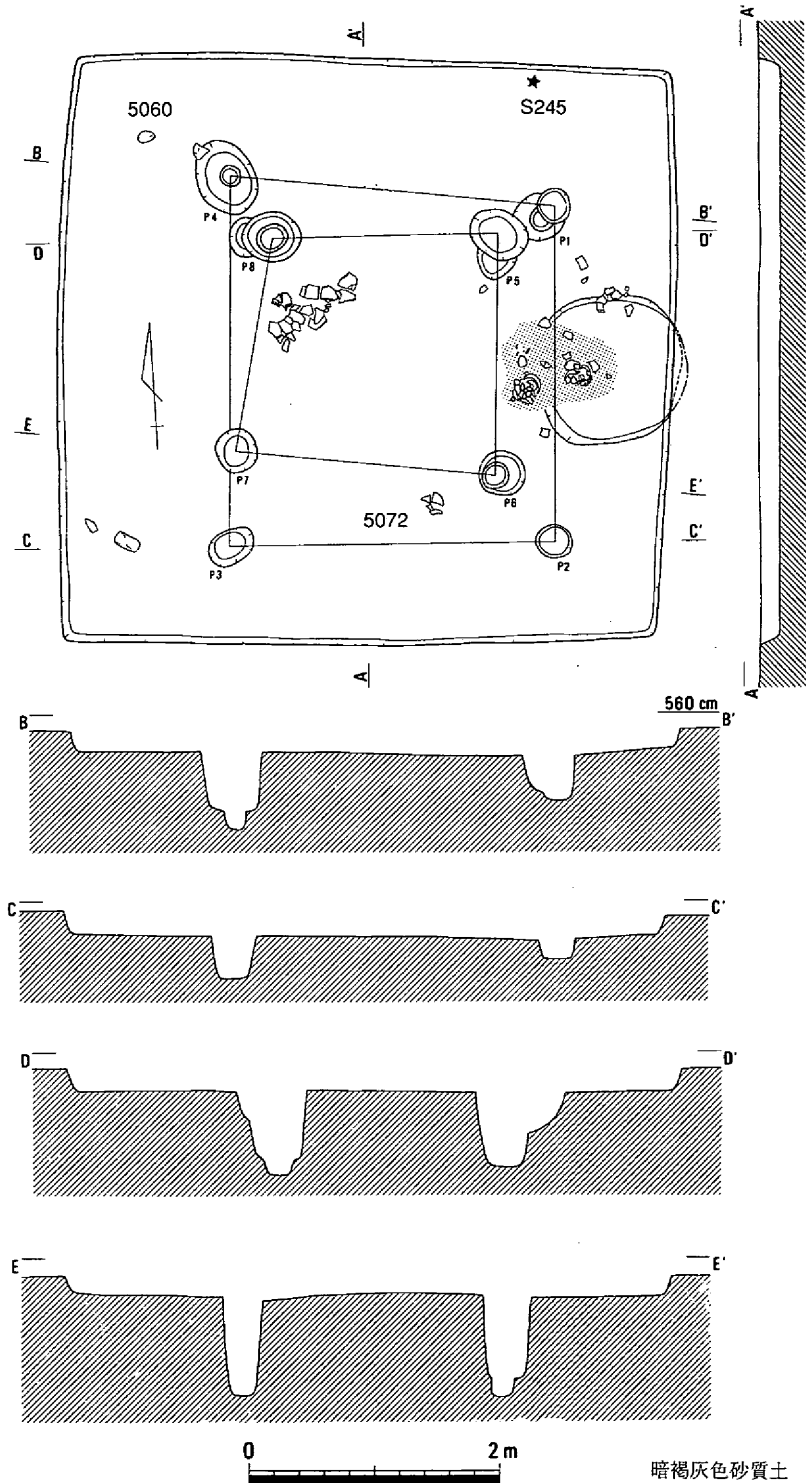


- 1 褐灰色砂質土 (炭・焼土多含)
- 2 暗褐色砂質土 (炭・焼土少含)
- 3 褐黄色砂質土
- 4 炭, 焼土

- 1 暗黄色砂質土
- 2 暗赤色焼土
- 3 灰
- 4 暗褐色粘質土 (炭・焼土粒含)
- 5 灰緑黄色砂質土
- 6 焼土塊

第1305図 竪穴住居178 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4)

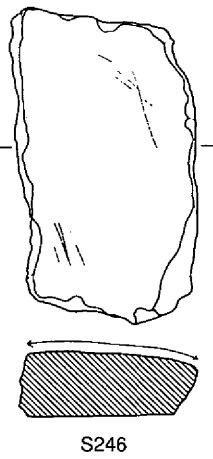
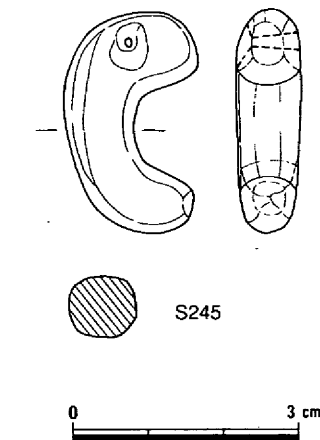
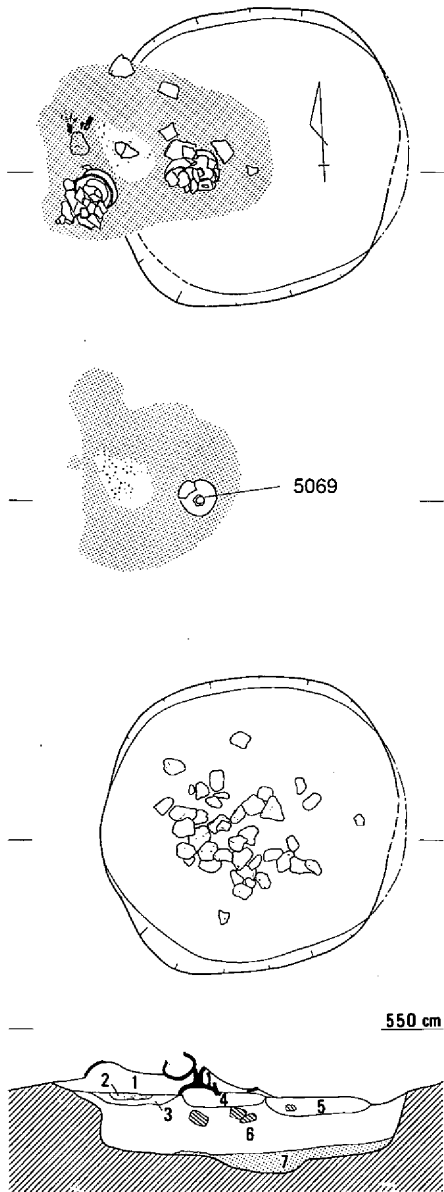
が立てられており、支柱として用いられたと考えられる。またカマド内および周辺には土器片や炭が散っていた。柱穴は2本検出できた。掘り方は直径30cm前後の円形で、深さは床面から約35cmを測る。遺物は埋土中や床面上から土師器と鉄滓が1個出土している。5046・5047は甕、5049・5050は高杯である。5048の外面上には格子目タタキが観察でき、煤が付着している。長胴甕で朝鮮系軟質土器と考えている。時期は古・中・Iではなかろうか。(平井)



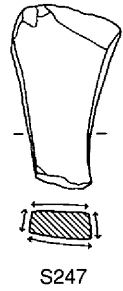
第1306図 竪穴住居179 (1/60)

竪穴住居179 (第1206・1306～1309図、図版70・152・165)

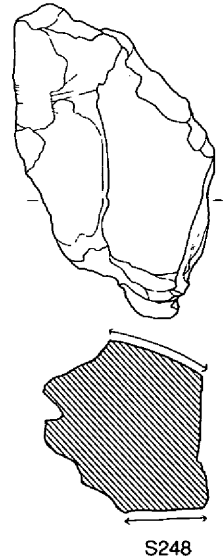
竪穴住居178の東隣りに位置する。平面形は470×490cmの方形で、深さは床面まで15cmを測る。東側の壁際には炭や焼土が分布する部分がありカマドの痕跡と考えられる。燃焼部は壁から70cm内側にあり、高杯5069が伏せた状態で残存しており支柱として用いられたと考えられる。このカマドの下には平面形が直径約120cmの円形で深さ約30cmの土壇が検出できた。土壇の埋土中には小礫、炭、焼土が多く含まれておりカマドの除湿装置的な役割を果たしていたのかもしれない。支柱穴は8本と考えており、図示したようにP1～4とP5～8で構成されていたと考えている。遺物は須恵器5051～5053、土師器5054～5076、めのう製の勾玉S245、砥石S246～248、土錘C181～183が出土した。5058はカマド内から出土した完形に近い鉢で被熱している。5059の内面と5057の体部外面下半には図示したような線刻が観察できた。5070の杯部と脚部の接合部には刻みが施されている。時期は古・中・I～IIであろう。(平井)



S246

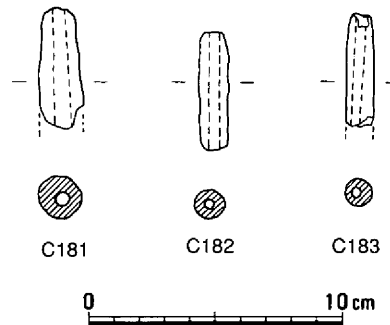


S247

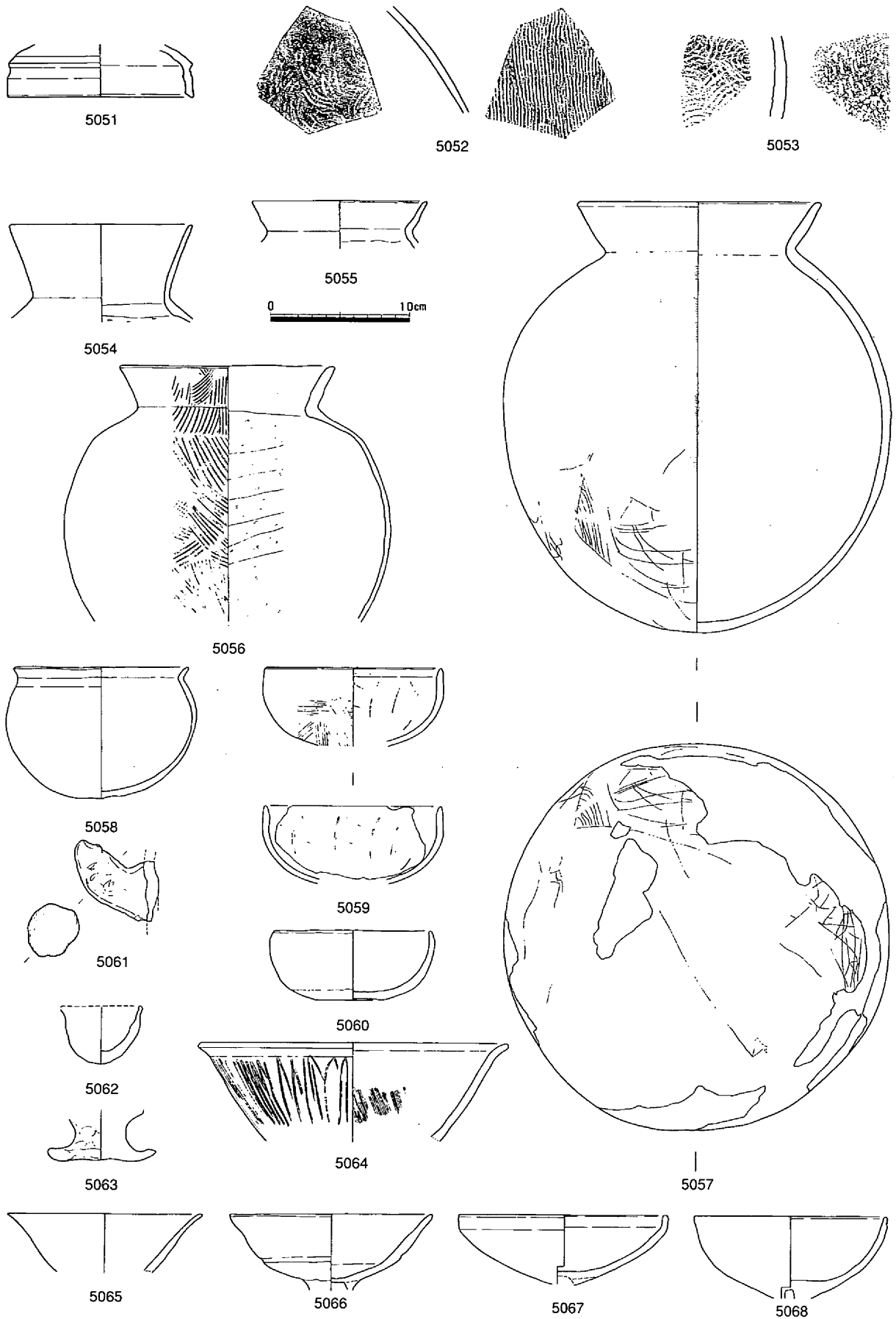


S248

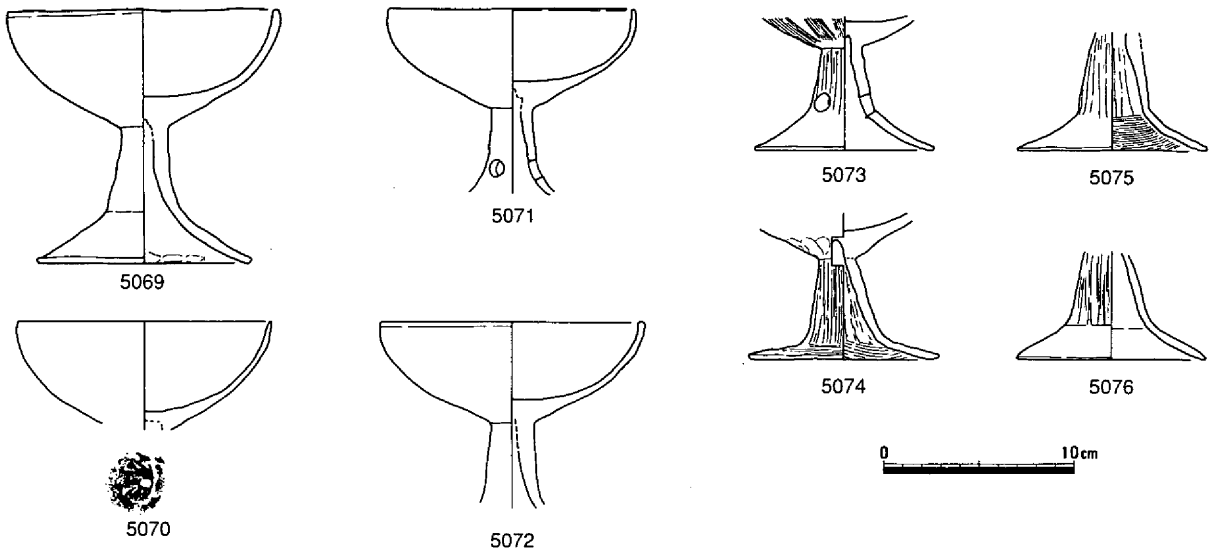
- 1 灰黄色砂質土 (焼土多含)
- 2 焼土塊
- 3 赤橙色砂質土 (よく焼けている)
- 4 黄灰色砂質土 (炭・焼土多含)
- 5 黄灰色砂質土 (炭・焼土多含)
- 6 暗灰黄色砂質土 (炭・焼土多含)
- 7 炭, 焼土塊



第1307図 竪穴住居179カマド (1/30)・出土遺物① (1/3,1/1)



第1308図 竪穴住居179出土遺物② (1/4)

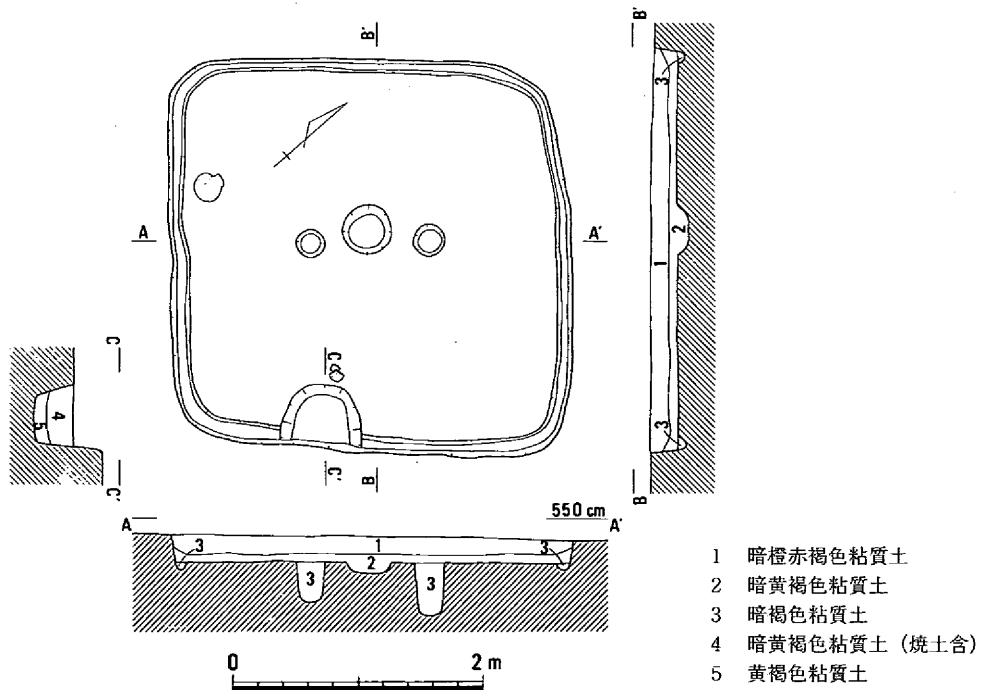


第1309図 竪穴住居179出土遺物③ (1/4)

竪穴住居180 (第1206・1310・1311図、図版71)

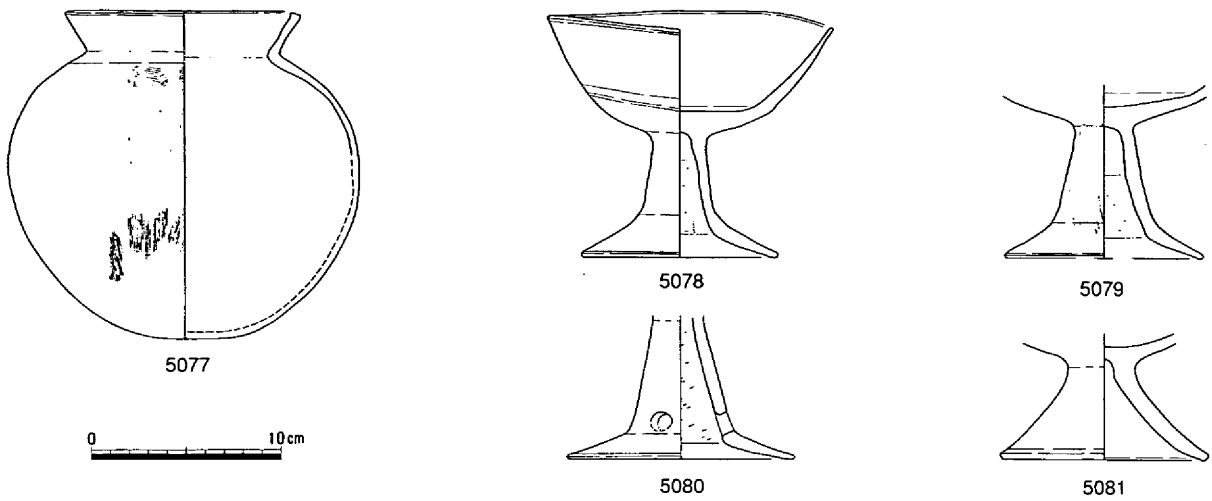
調査区の東北隅あたりのCi700区に位置する。規模は、長辺410cm、短辺380cm、深さが22cmを測る方形の竪穴住居である。床面では、ほぼ中央あたりに浅いくぼみがみられたが埋土は住居全体の覆土下層と同じで炭や焼土はみられなかった。また、それをはさんで2本の主柱穴があり、さらに南東部の壁体沿いには深さ34cm程で隅丸方形を呈した土壇1基がみられた。この埋土の上層は暗黄褐色土で、焼土を含んでいた。性格はわからないが一つにはカマドの下部構造の可能性も考えられる。

出土した土器類では口縁端部を内側に肥厚させた甕5077、高杯5078～5081がある。これらからみて、



第1310図 竪穴住居180 (1/60)





第1311図 竪穴住居180出土遺物 (1/4)

この住居の時期は、古・中・Iである。

(弘田)

竪穴住居181 (第1206・1312図、図版71)

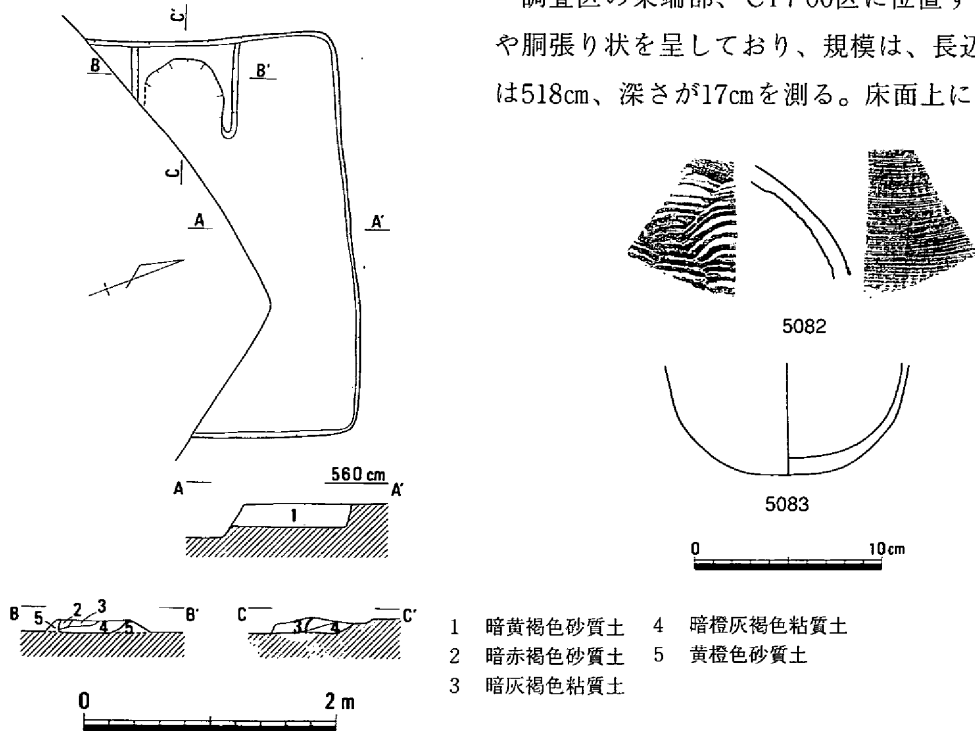
調査区の東端部のCi700区に位置し、後述する竪穴住居182に切られる。規模は、東西の一辺が373cm測り、深さは19cmを測る。また、北東の壁体沿いに造り付けのカマドをもつが、壁体溝や柱穴は確認されていない。

出土遺物をみると、須恵器の甕5082と土師器底部片5083がある。遺物や切り合い関係から判断して

この住居の時期は、古・後・IIの可能性が高い。(弘田)

竪穴住居182 (第1206・1313図、図版71)

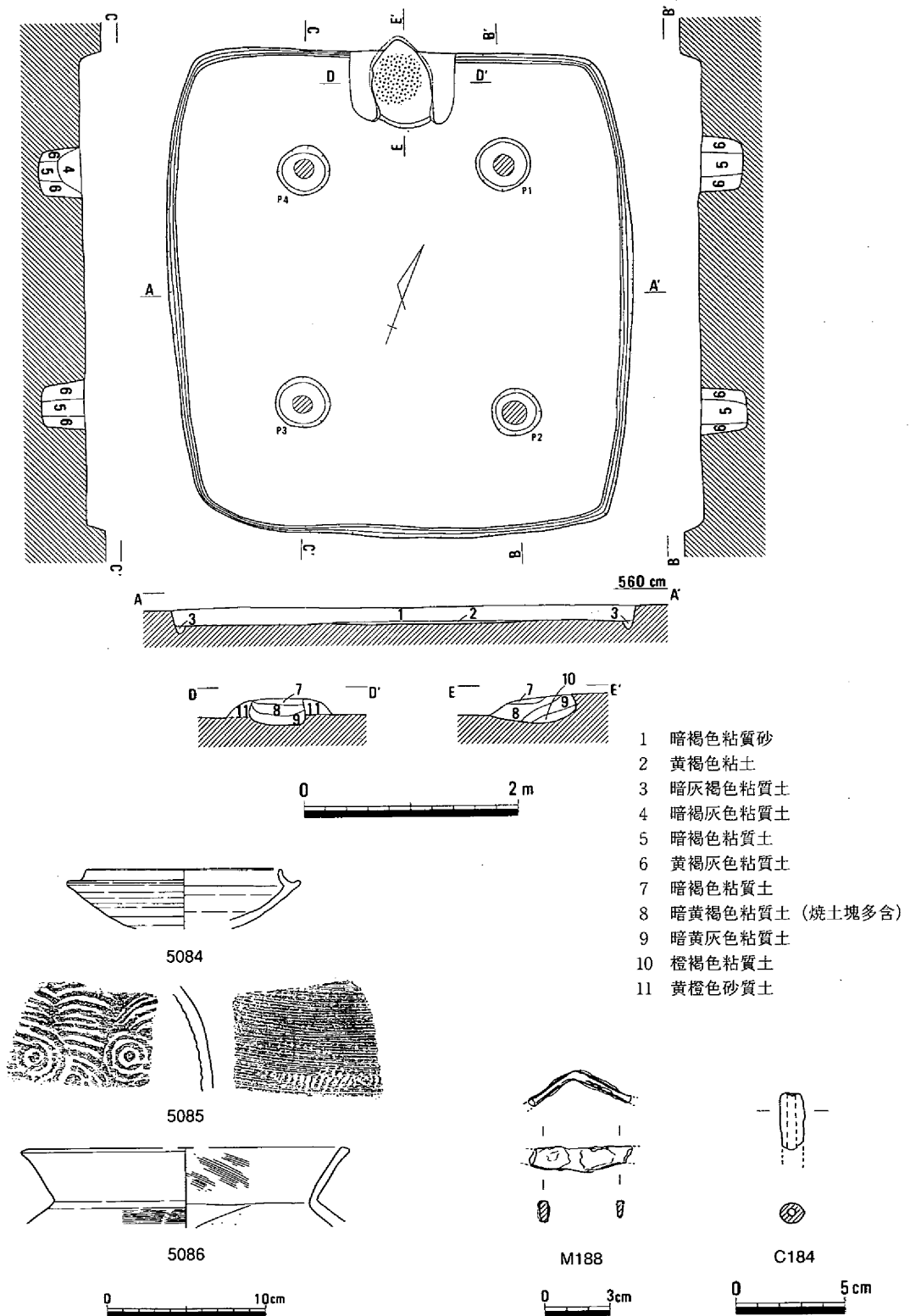
調査区の東端部、Ci700区に位置する。平面形がやや胴張り状を呈しており、規模は、長辺が573cm、短辺は518cm、深さが17cmを測る。床面上には住居北側の辺



第1312図 竪穴住居181 (1/60)・出土遺物 (1/4)

のほぼ中央に造り付けのカマドがあった。焼土面はみられなかったものの焼土部は床面より一段低く、煙道は検出面ではわずかに住居外に突出するのみで真っ直ぐ立ち上がる傾向にあると思われる。また、支柱穴は4本でいずれも直径16~26cm程の柱痕跡が明瞭に認められた。

出土した土器類のうち須恵器の杯身5084は底部に回転ヘラケズリを施す。同じく須恵器の甕腹5085



- 1 暗褐色粘質砂
- 2 黄褐色粘土
- 3 暗灰褐色粘質土
- 4 暗褐色粘質土
- 5 暗褐色粘質土
- 6 黄褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土
- 8 暗黄褐色粘質土 (焼土塊多含)
- 9 暗黄褐色粘質土
- 10 橙褐色粘質土
- 11 黄褐色砂質土

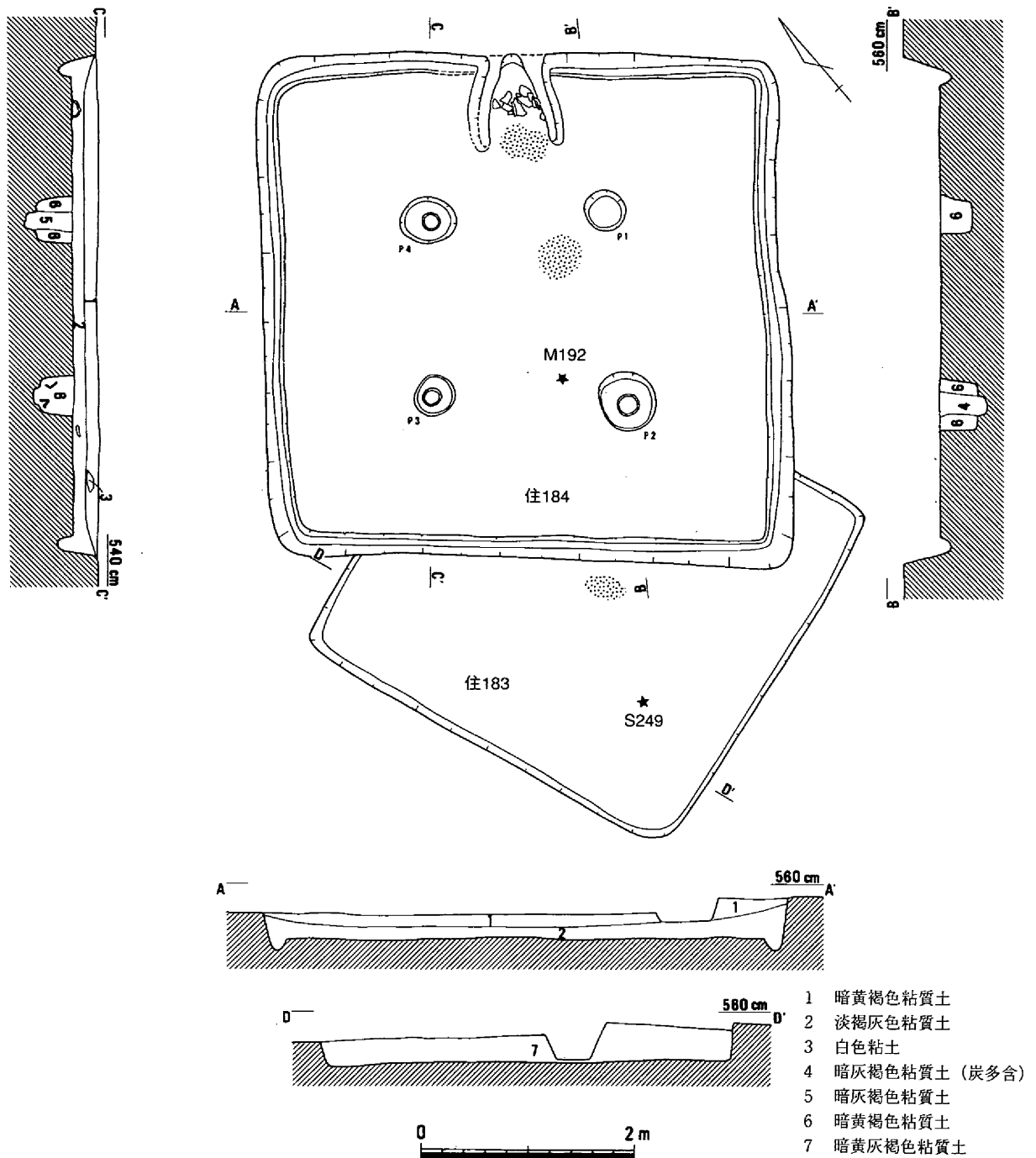
第1313図 竪穴住居182 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

と土師器の甕5086があり、土器以外では鉄製の刀子M188や土錘C184がある。以上の遺物からみて、この住居の時期は、古・後・Ⅱである。 (弘田)

竪穴住居183 (第1206・1314・1315図)

調査区の北東端部に位置する。全体の形状は竪穴住居184に切られているため明確ではないが、平面形は約370×390cmの方形で、深さは38cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際に溝は検出できなかった。床面のほぼ中央部に焼土面が1か所存在していた。床面に柱穴は確認できなかった。

遺物は埋土中や床面上から少量の土師器や蛇紋岩製の白玉S249が出土している。5088は床面から



第1314図 竪穴住居183・184 (1/60)

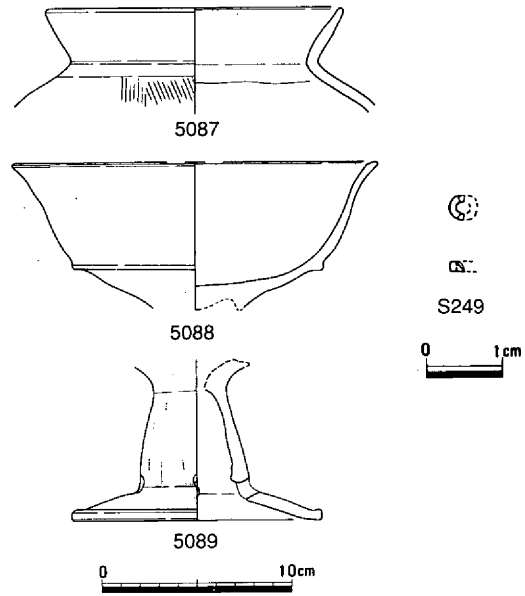
の出土で、5089の透かし穴は4方向に穿たれている。**S 249**は約半分が欠損している。土器はその特徴から古・中・Iと考えられる。想定される時期からはカマドが敷設されている可能性も考えられるが、竪穴住居184の建築のために壊されてしまったのかもしれない。(平井)

**竪穴住居184** (第1206・1314・1316~1319図、図版72・152・153・165)

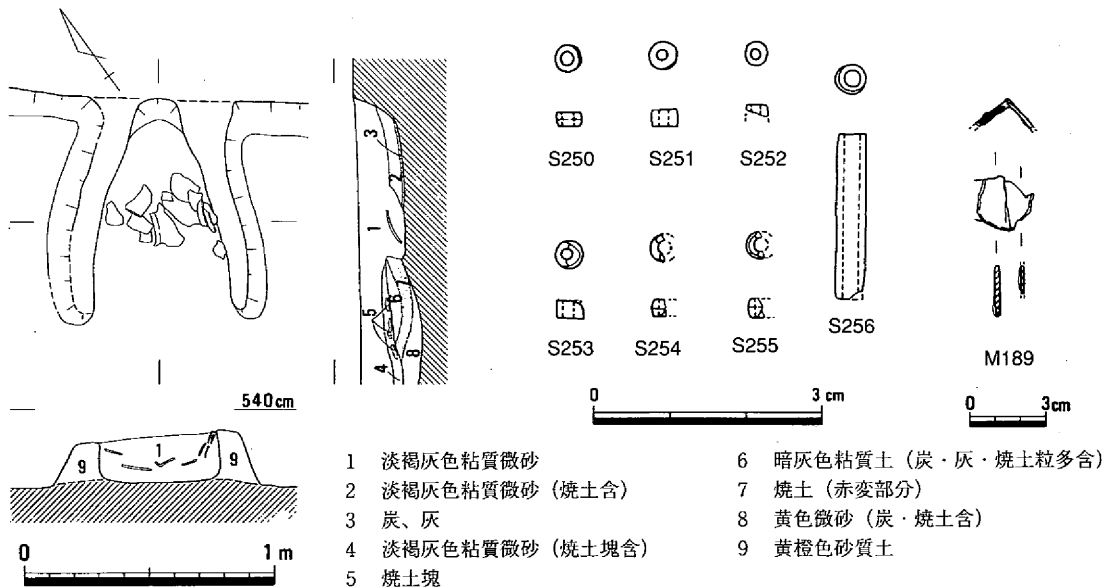
調査区の北東端部で竪穴住居183を切っている。平面形は475×490cmの方形で、深さは38cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際には幅10cm前後、深さ約15cmの溝が掘られていた。床面のほぼ中央部には焼土面が存在していた。また北東側の壁のほぼ中央にはカマドが敷設されていた。カマドは幅15~20cm、長さ約90cm、高さ16~20cmの袖が両側に残存しており、煙道が住居外にのびていないことが特徴である。カマド内には炭・焼土・灰が多く残存しており、燃焼部からは土器片**5108**が出土している。また燃焼部の焼土面が新旧二面に存在していた。主柱穴は4本検出できており、平面形は直径35~60cmの円形で、深さは床面から30~45cm残存していた。またP 2・3・4には柱痕跡が確認できている。

出土遺物は須恵器**5090~5092**・**5147**、土師器**5093~5146**・**5148~5170**、石器**S 250~256**、鉄器**M189**を図示した。このうち第1319図の須恵器**5147**、土師器**5148~5170**と石器**S 253~256**はこの竪穴住居を検出する以前に堆積していた遺物で、出土した位置関係から竪穴住居上層の遺物と考えている。

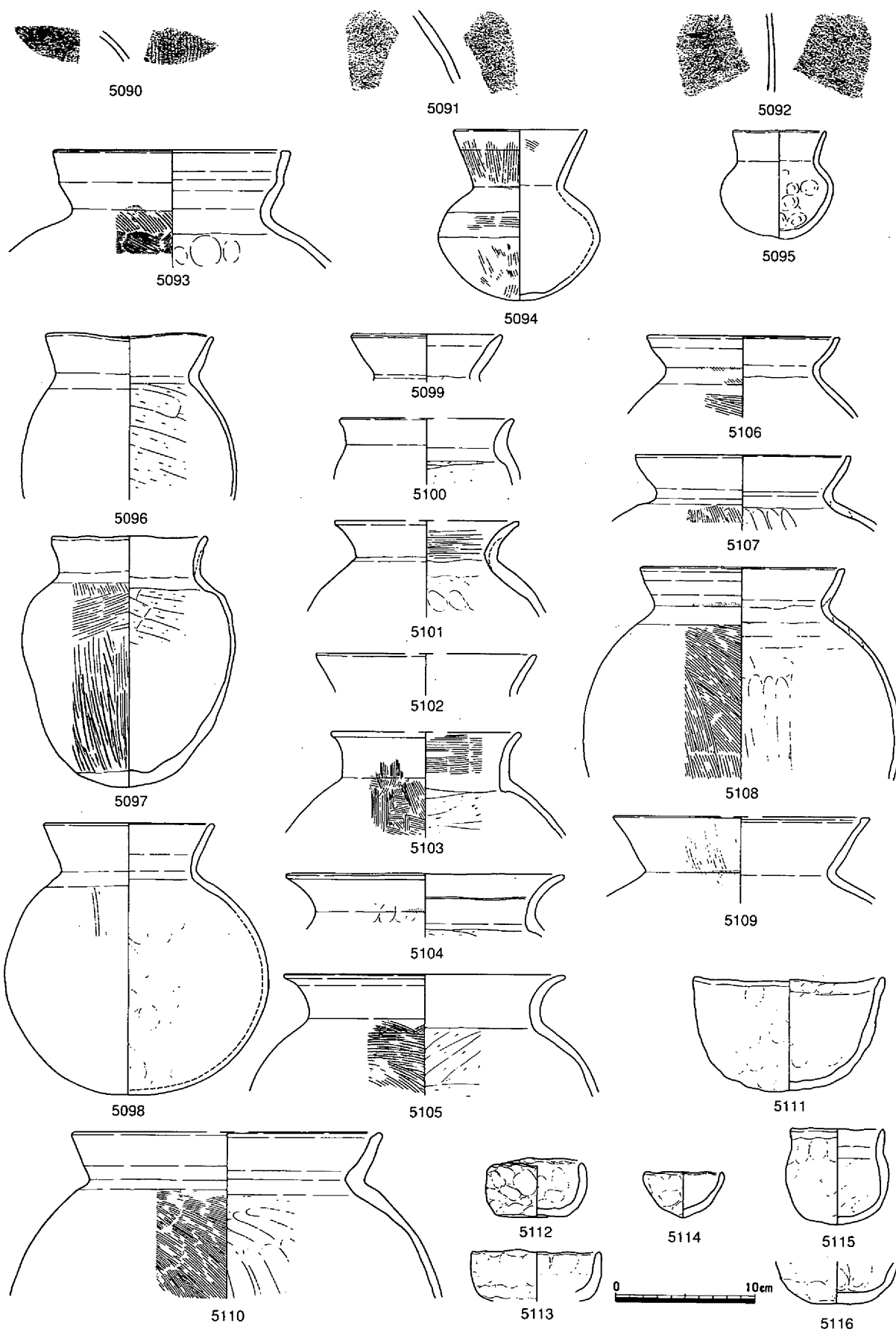
**5090~5092**の内面調整はナデである。壺**5093**は柱穴P 3からの出土である。小形壺**5095**、甕**5098**・**5099**・**5104**・**5105**・高杯**5123~5126**・**5131**・**5134**・**5140**・**5141**・**5144**は床面から出土している。壺の



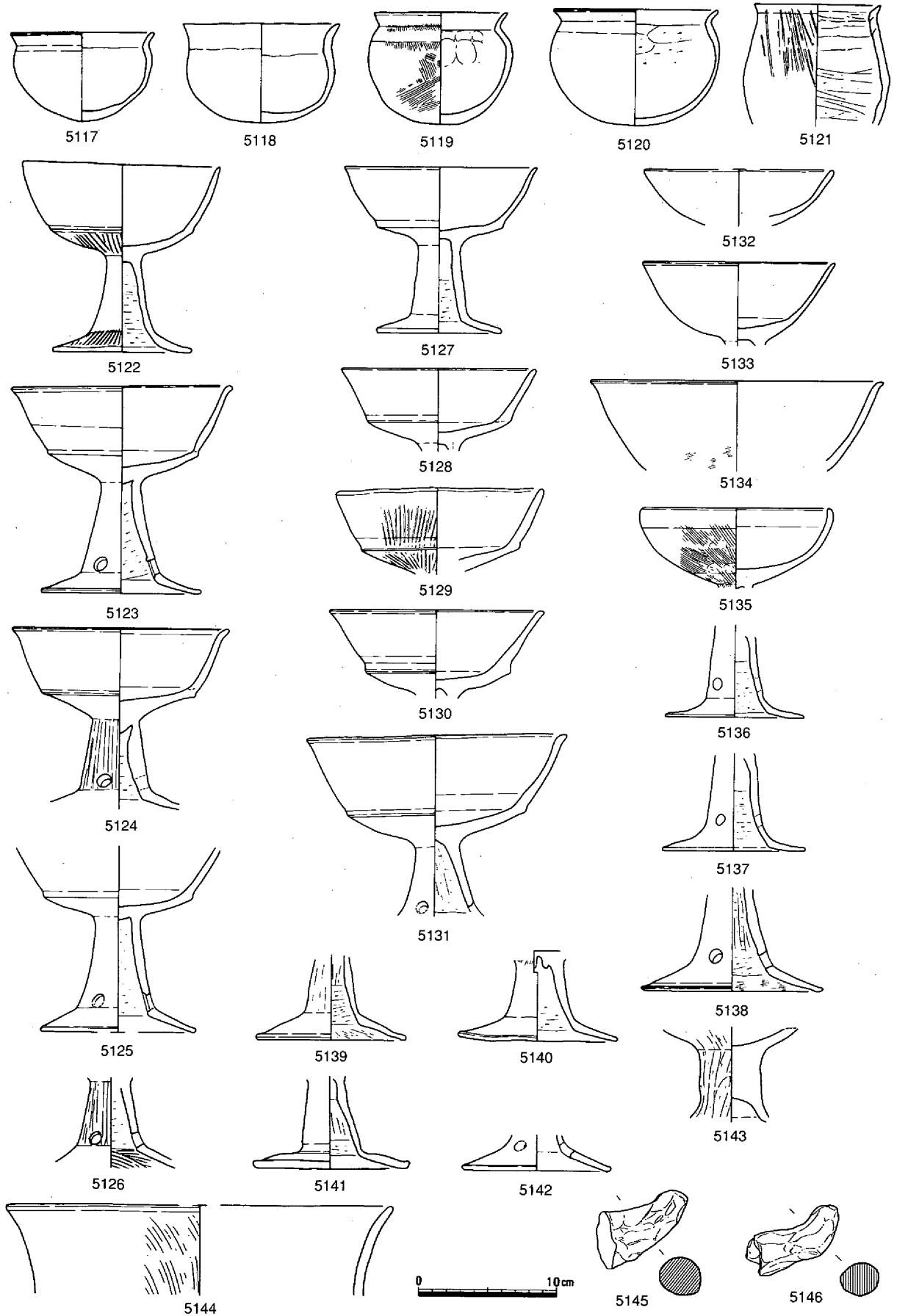
第1315図 竪穴住居183出土遺物 (1/4,1/1)



第1316図 竪穴住居184カマド (1/30)・出土遺物① (1/1,1/3)

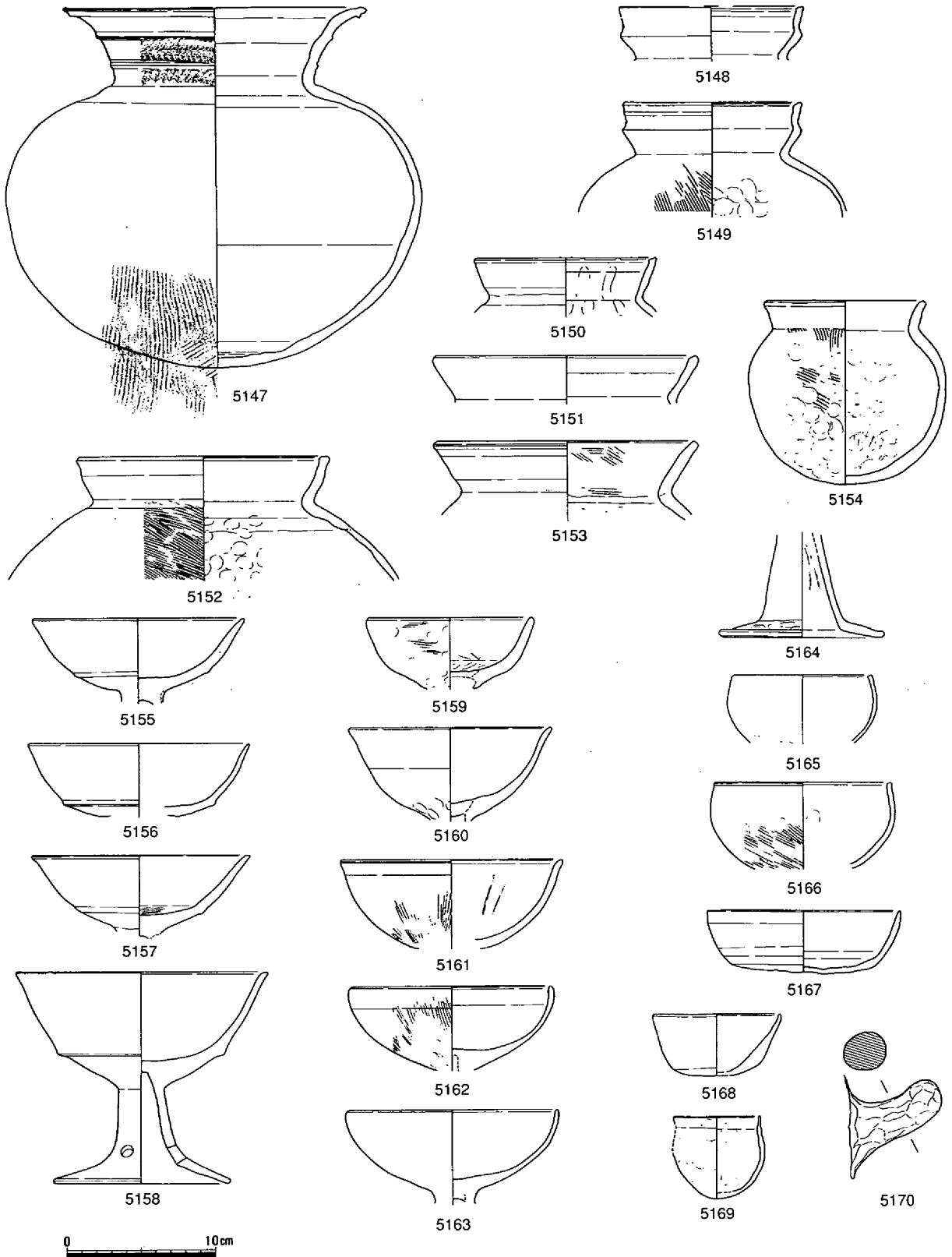


第1317図 竪穴住居184出土遺物② (1/4)



第1318図 竪穴住居184出土遺物③ (1/4)

口縁部は屈曲の弱い二重口縁である。甕の内面調整にはケズリとナデとがあり、高杯杯部には有段のものと椀形のものがある。5121は平底の鉢になる可能性がある。上層出土土器については高杯杯部形状において椀形のものが多いといえる。S 250～252は埋土中から出土した蛇紋岩製の白玉である。



第1319図 竪穴住居184出土遺物④ (1/4)

S 253は蛇紋岩製の白玉、S 254・255は滑石製の白玉、S 256は蛇紋岩製の管玉である。

これらの遺物の時期は古・中・I～IIと考えている。

(平井)

#### 竪穴住居185 (第1206・1320・1321図・図版71・72・153)

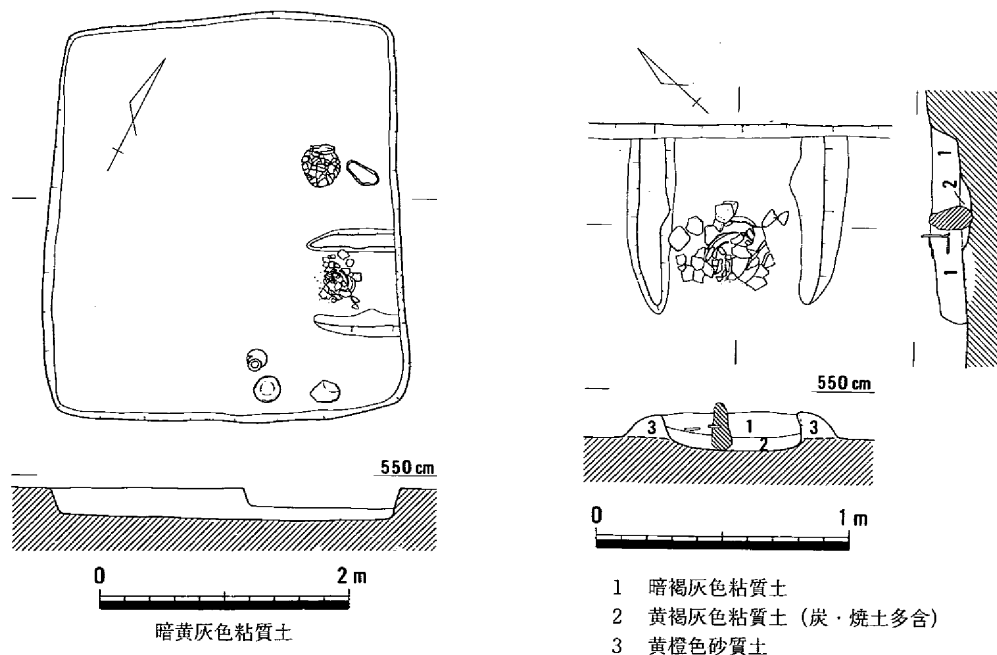
Ch700区に位置する。規模は、長辺402cm、短辺339cm、深さが25cmと小形で長方形を呈する竪穴住居である。床面上においては造り付けのカマドを東側の長辺の中央からやや東隅に寄ったところで検出している。焼成部は住居床面よりわずかに高くなり、石を立てて支脚としていた。この周囲から5178が出土している。煙道は住居の検出レベルでは外に突出せず、奥の壁面が強い熱影響を受けていた。また、これ以外には柱穴や壁体溝は認められなかったが、床面上からは完形に近い形で土器数個体が出土している。

5171・5176・5180はカマドの南側床上で出土した。5171は須恵器の甕で、体部外面には縄席文タタキと沈線3条を巡らす。5176は土師器の壺であるが須恵器的な形態をとり、調整もヨコナデを施す。高杯5180は鉢状の杯部をなし、杯底部周囲にヘラケズリを施す。5177は土師器甕の底部を穿孔して甑としたもので、カマド北側の床上から出土している。また、5181は形態、調整が土師器でありながら還元炎焼成となった高杯である。以上の土器類が示すこの住居の時期は、古・中・Iである。

(弘田)

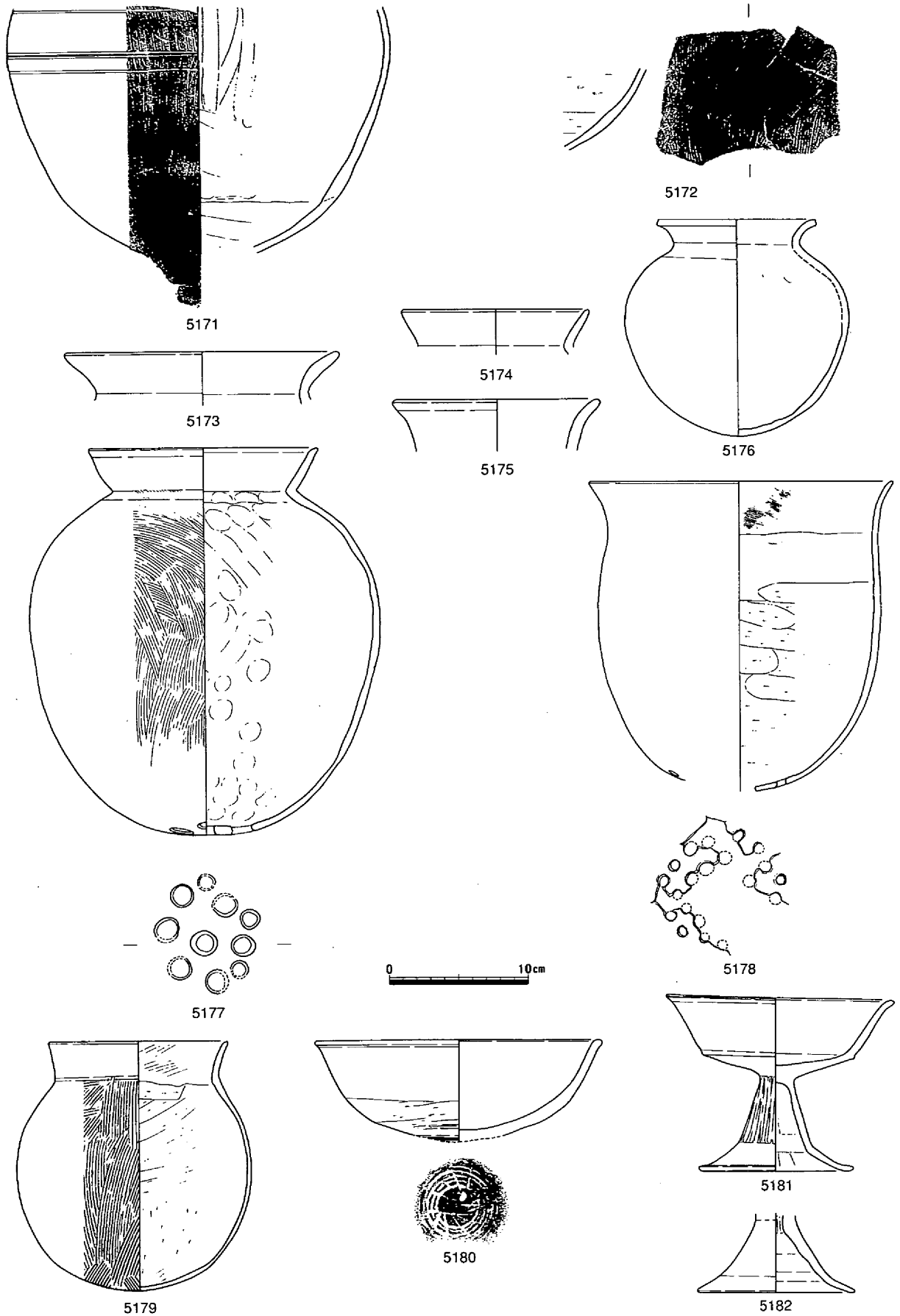
#### 竪穴住居186 (第1206・1322図、図版73)

調査区の東端部に位置する。平面形は425×430cmの方形で、深さは8cm残存していたのみである。床面はほぼ平らで、壁際に溝は検出できなかった。埋土は淡灰褐色砂質土が1層のみであった。主柱穴は検出できなかったが、北東側の壁のほぼ中央部にカマドが敷設されていた。カマドは幅15～25cm、長さ100cm前後、高さ約8cmの袖が両側に残存しており、煙道が住居外にのびていないのが特徴である。カマドの内部には長さ約20cmの棒状の川原石が立てた状態で残存しており、支柱として用いられたものと考えられる。またこの支柱の南側には強く焼けた被熱面があり、燃焼部と考えている。遺物は埋土中から少量の須恵器・土師器が、またカマド内から鉄器M190が出土している。これらの遺物

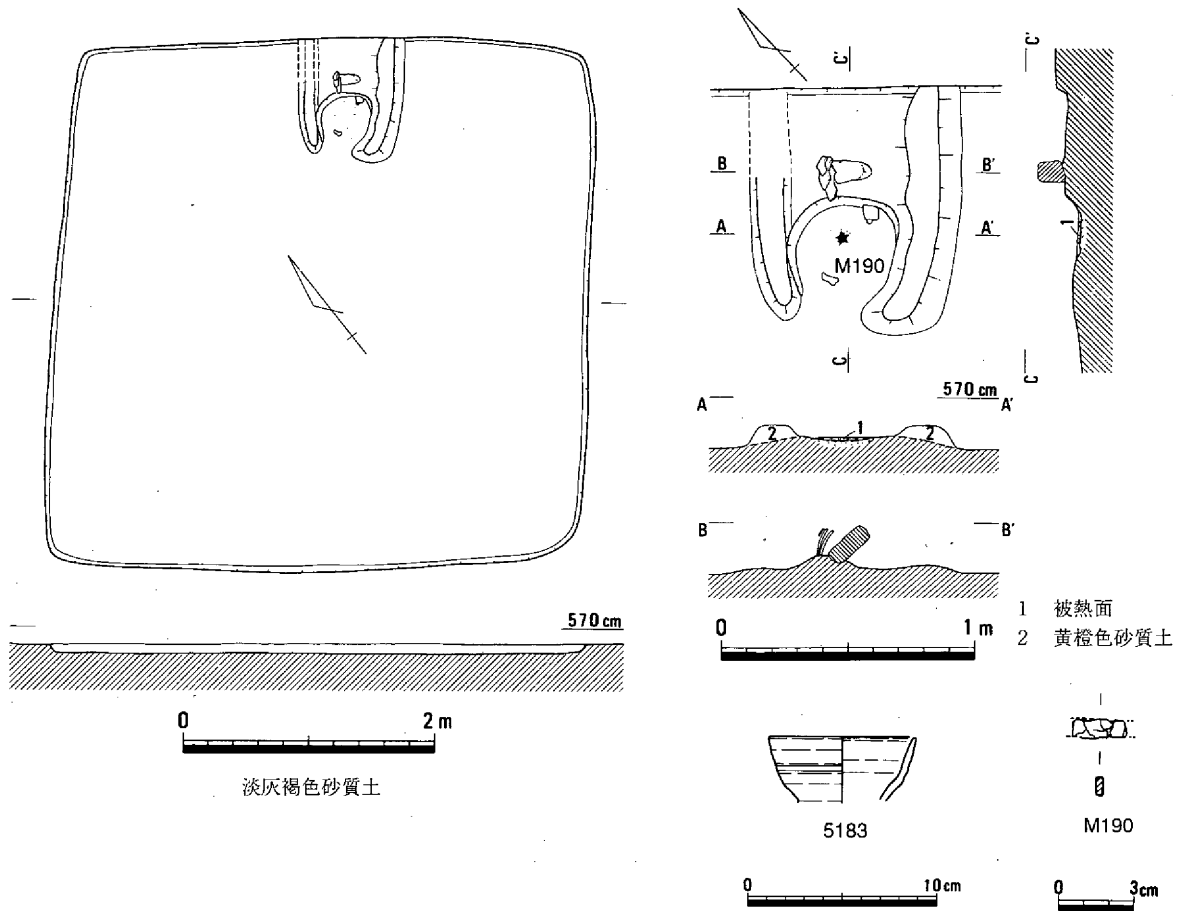


第1320図 竪穴住居185 (1/60,1/30)

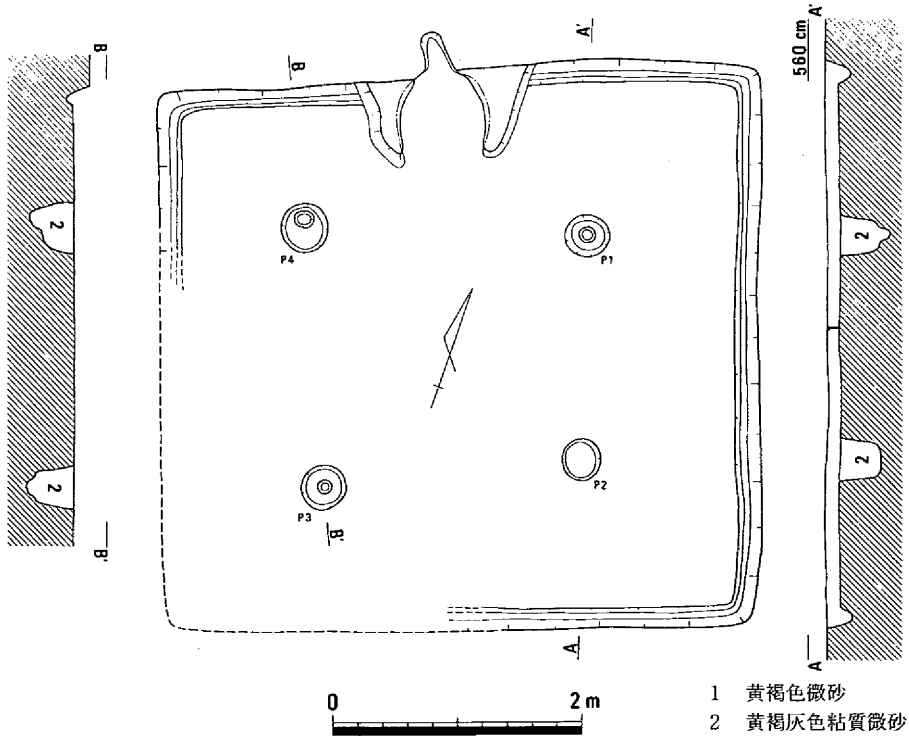




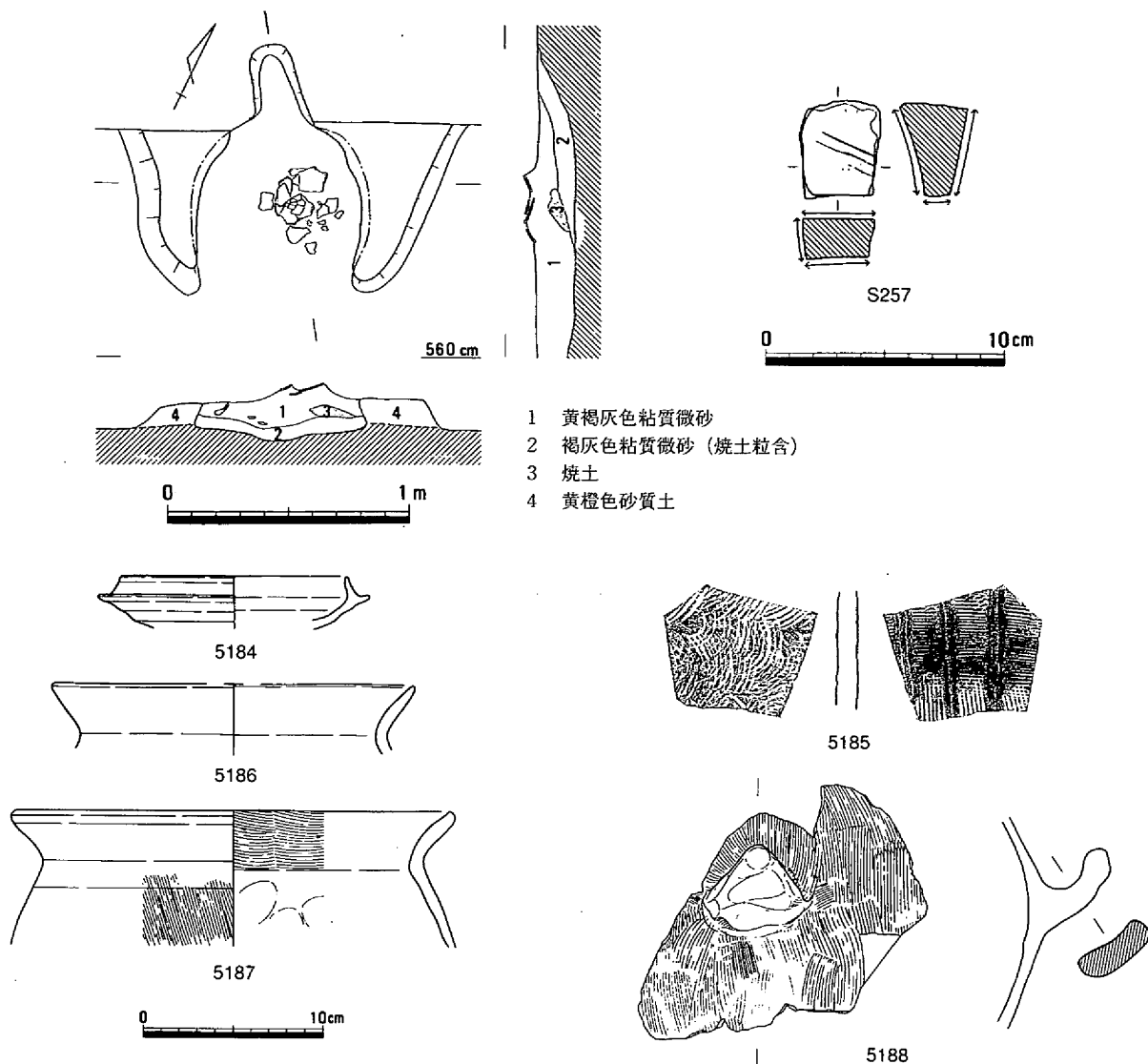
第1321図 豎穴住居185出土遺物 (1/4)



第1322図 竪穴住居186 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



第1323図 竪穴住居187 (1/60)



第1324図 竪穴住居187カマド (1/30)・出土遺物 (1/3,1/4)

の時期については明確ではないが古・後・Ⅱと考えている。

(平井)

竪穴住居187 (第1206・1323・1324図、図版73)

調査区の東端部、竪穴住居186の南東隣りに位置する。平面形は南端部が未検出ではあるが、約450×480cmの方形で、深さは約10cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際には幅10cm前後、深さ約10cmの溝が掘られていた。

北側の壁のほぼ中央部にはカマドが敷設されている。カマドは、最大幅約40cm、長さ約70cm、高さ約10cmの袖が両側につくられており、煙道部は住居外にのびている。燃焼部には焼土面が存在しており、上層には土器が埋没していた。

支柱穴は4本確認でき、P1・3・4には柱痕跡が確認できた。柱穴の掘り方は直径30~40cmの円形で、深さは床面から約30~40cmを測る。

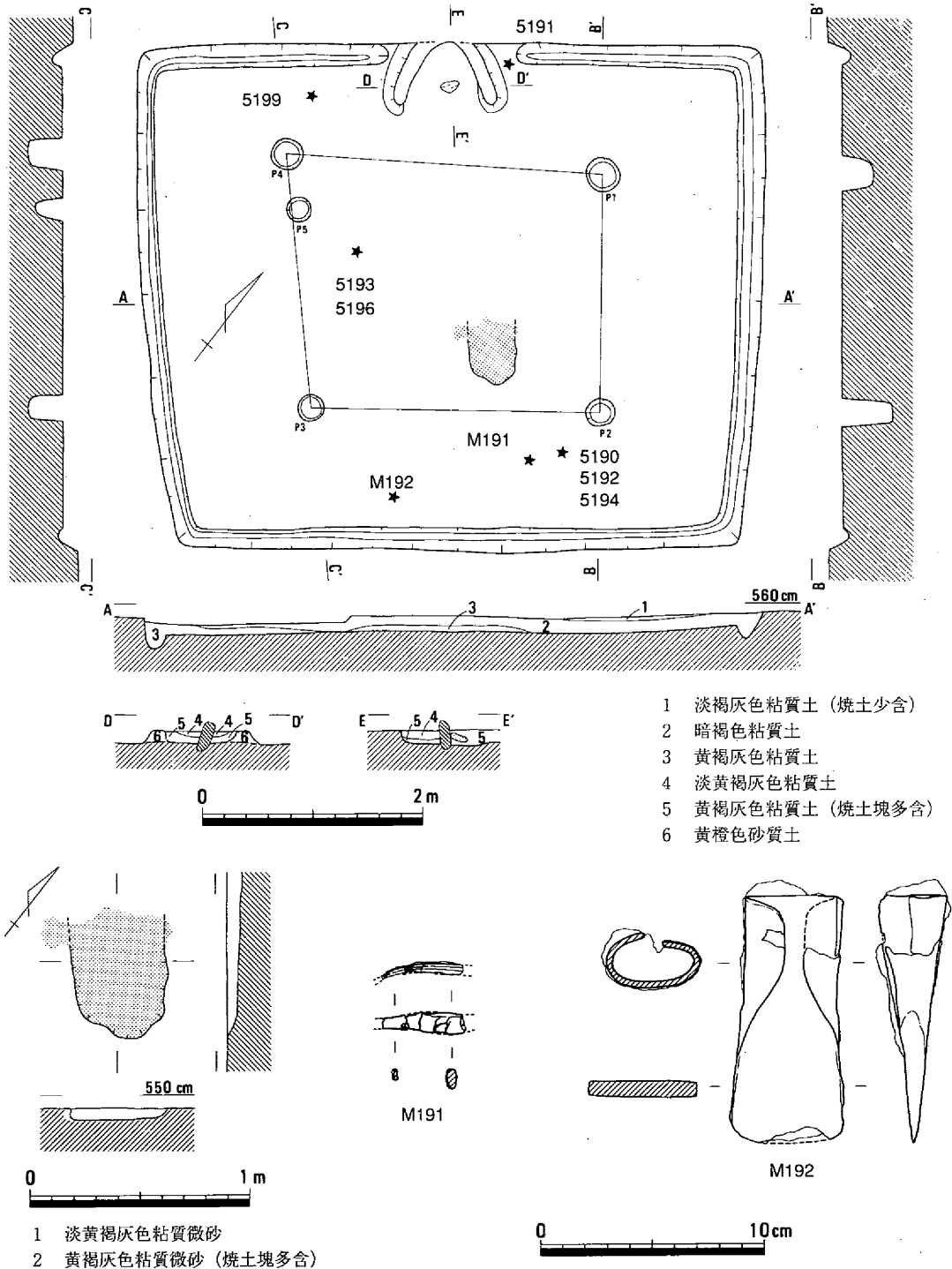
遺物は須恵器5184・5185、土師器5186~5188、流紋岩製の砥石S257などが出土している。5187の胎土中には金雲母が多く含まれている。遺物の時期は古・後・Ⅱと考えている。

(平井)

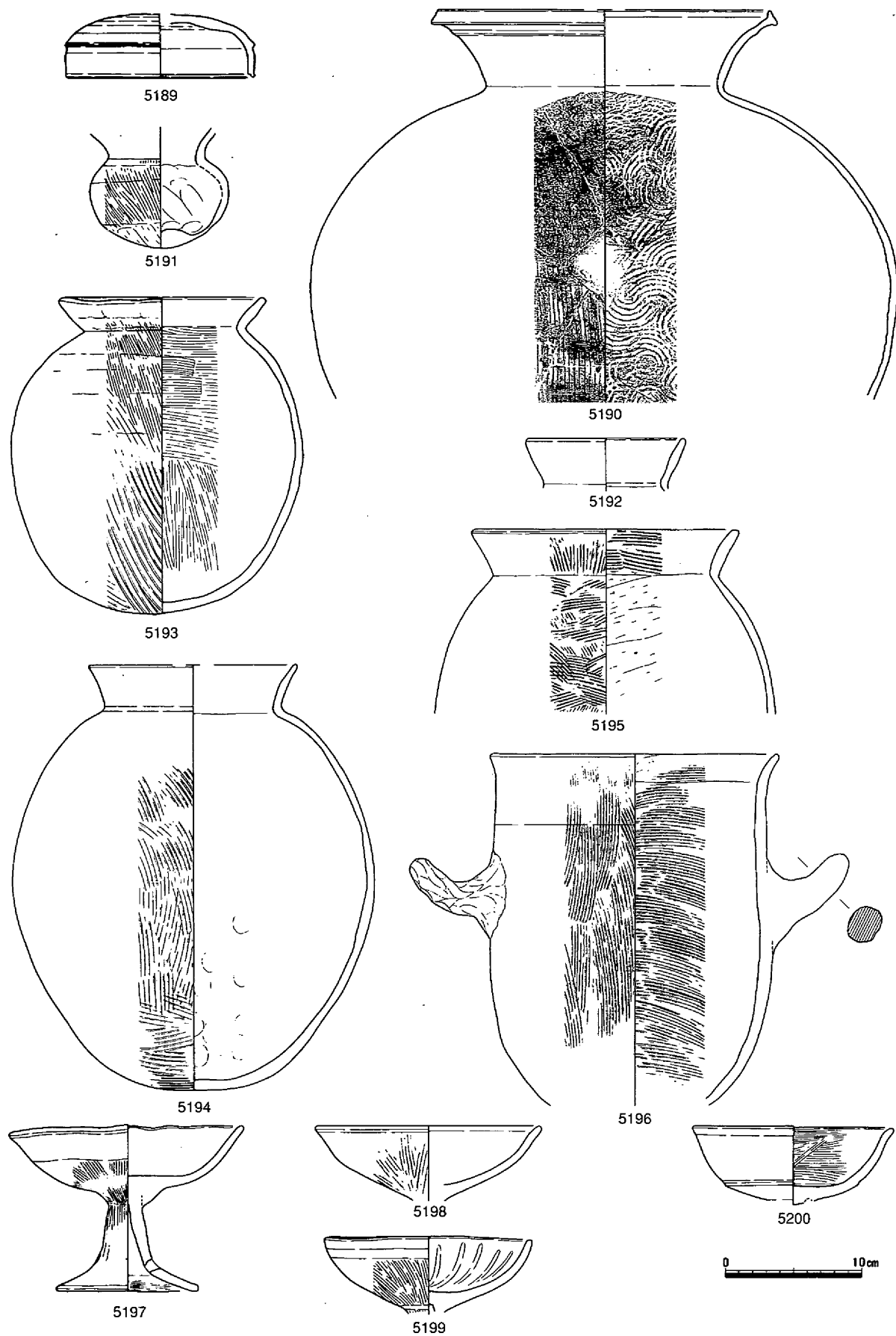
竪穴住居188 (第1206・1325・1326図、図版73・154・169)

調査区の東端部に位置する。平面形は約458×565cmの台形状を呈し、深さは床面まで13cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際には幅10cm前後で、深さ約10cmの溝が掘られていた。

北西の壁のほぼ中央部にはカマドが敷設されていた。カマドは、最大幅約20cm、長さ約70cm、高さ約10cmの袖が両側につくられており、煙道部は住居外にのびていない。燃烧部には直径約8cm、長さ約25cmの円柱状の川原石が立てた状態で残存しており、支柱として用いられたものと考えられる。ま



第1325図 竪穴住居188 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/3)



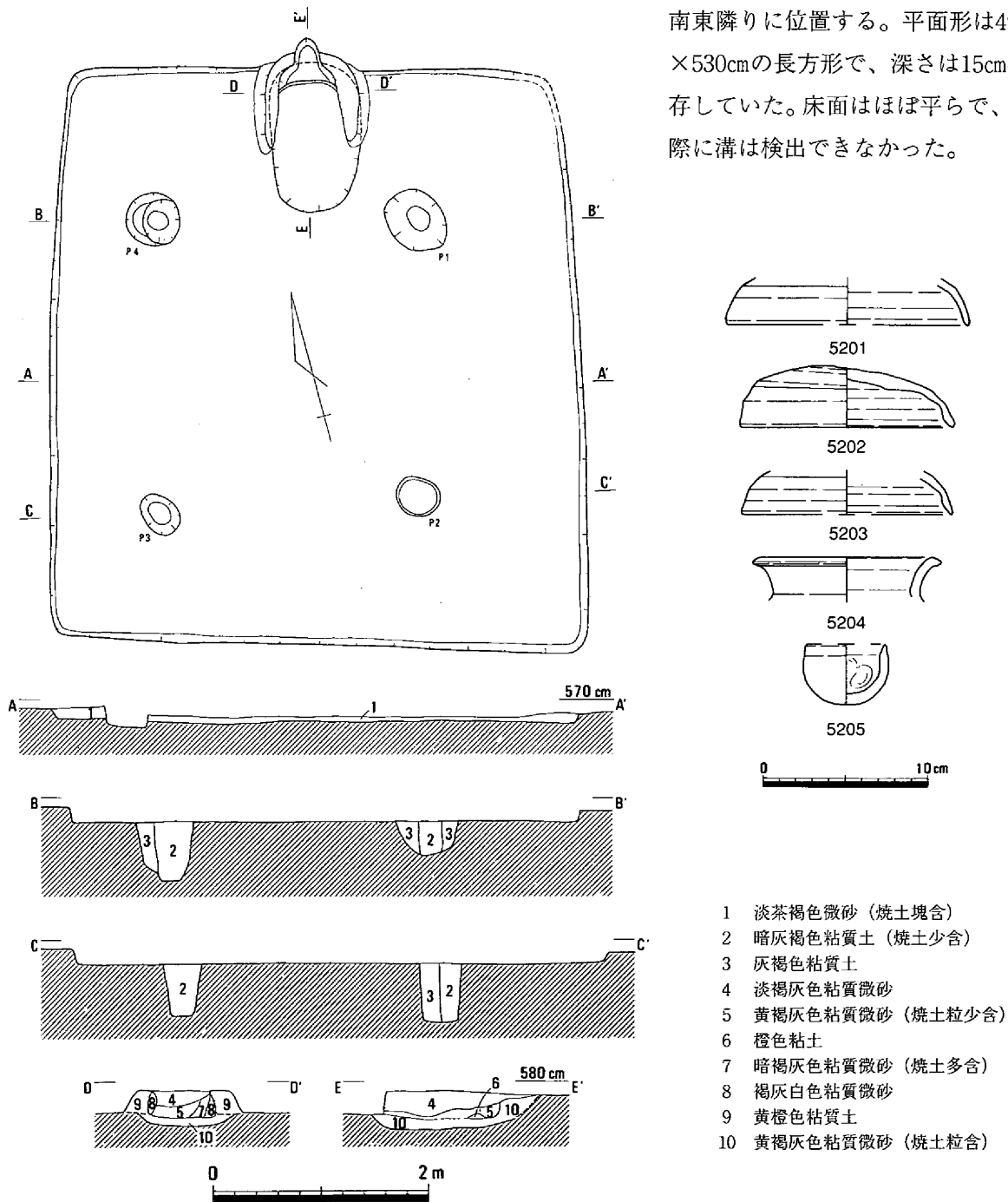
第1326図 豎穴住居188出土遺物② (1/4)

た燃焼部からは高杯5200が出土している。支柱穴は4本と考えている。柱穴掘り方の平面形は直径20～30cmの円形で、床面からの深さは30～45cmである。床面のほぼ中央部には被熱面が3か所と火を炊いたと考えられる土壌状のくぼみが存在している。土壌状のくぼみの壁は被熱しており、埋土中には焼土塊を多く含んでいた。炉跡として用いられたものと考えられる。

遺物は埋土中や床面上から須恵器5189・5190、土師器5191～5200、鉄器M191・192などが出土している。M192は一部欠損しているが袋状鉄斧である。時期は古・中・Ⅱではなかろうか。(平井)

竪穴住居189 (第1206・1327図)

調査区の東端部、竪穴住居188の南東隣りに位置する。平面形は495×530cmの長方形で、深さは15cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際に溝は検出できなかった。



- 1 淡茶褐色微砂 (焼土塊含)
- 2 暗灰褐色粘質土 (焼土少含)
- 3 灰褐色粘質土
- 4 淡褐灰色粘質微砂
- 5 黄褐灰色粘質微砂 (焼土粒少含)
- 6 橙色粘土
- 7 暗褐灰色粘質微砂 (焼土多含)
- 8 褐灰白色粘質微砂
- 9 黄橙色粘質土
- 10 黄褐灰色粘質微砂 (焼土粒含)

第1327図 竪穴住居189 (1/60)・出土遺物 (1/4)

北側の壁のほぼ中央部にはカマドが敷設されていた。カマドは最大幅約20cm、長さ約80cm、高さ約20cmの袖が両側に造られており、煙道部は住居外にのびていた。また燃焼部の下部には、長さ約135cm、幅約85cm、深さ約10cmの土壇が掘られていた。支柱穴は4本確認できた。柱穴の掘り方は径30～50cmの円形や楕円形で、床面からの深さは30～55cmであった。遺物は埋土中から少量の須恵器5201～5204、土師器5205が出土しており、時期は古・後・Ⅱと考えている。(平井)

**竪穴住居190** (第1206・1328・1329・1333・1334図、図版154・165・167)

調査区の東端部に位置する。平面形は410×420cmの方形で、深さは30cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際に溝は検出できなかった。

床面の中央部北寄りには約20×30cmの長方形状で、深さ約5cmの浅いくぼみが存在しており、北と南側の壁が被熱していた。炉として用いられたのかもしれない。カマドは検出できていない。

この住居に伴うと考えられる柱穴は検出できなかった。

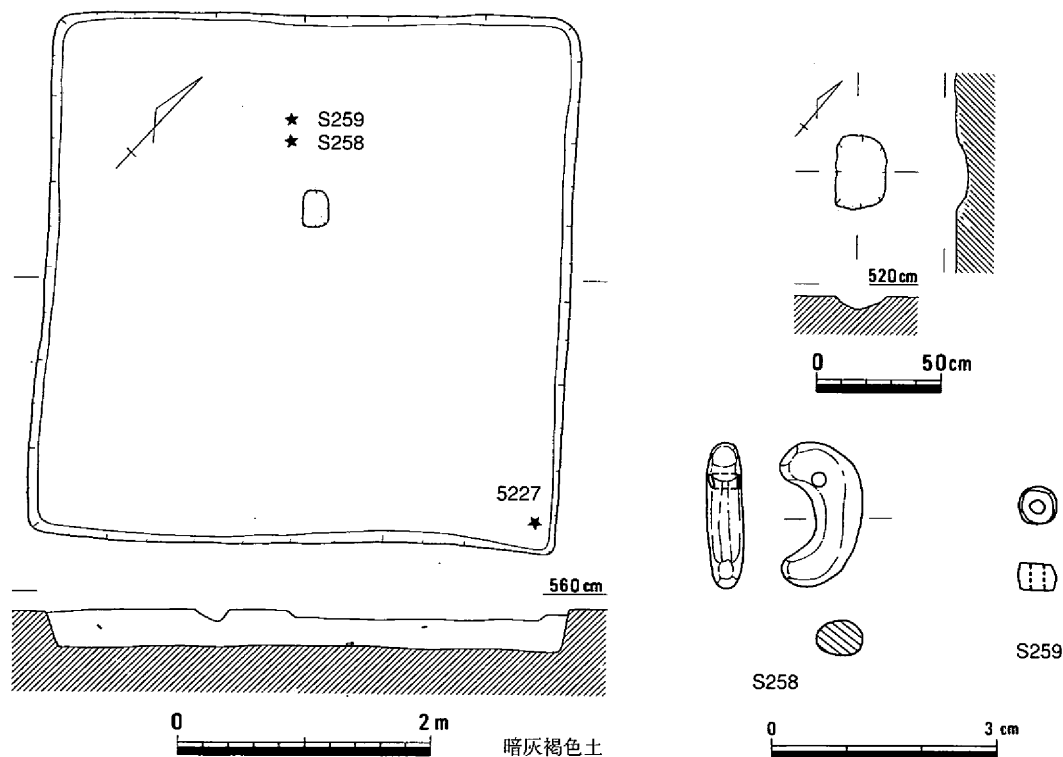
遺物は埋土中から土師器5206～5230と滑石製の勾玉S258、蛇紋岩製の白玉S259などが出土している。5208～5211は甕で体部内面はケズリのものが多い。5212～5225は高杯で、杯部は有段、脚部内面はケズリである。5214は脚部との接合部に刻目が施されている。5227はいわゆる朝鮮系軟質土器で体部外面には格子目のタタキ痕が残存している。小片のため、傾きは推定である。5228は小片ではあるが平底の杯と考えている。5229は製塩土器である。

これらの遺物の時期は古・中・Ⅰと考えている。

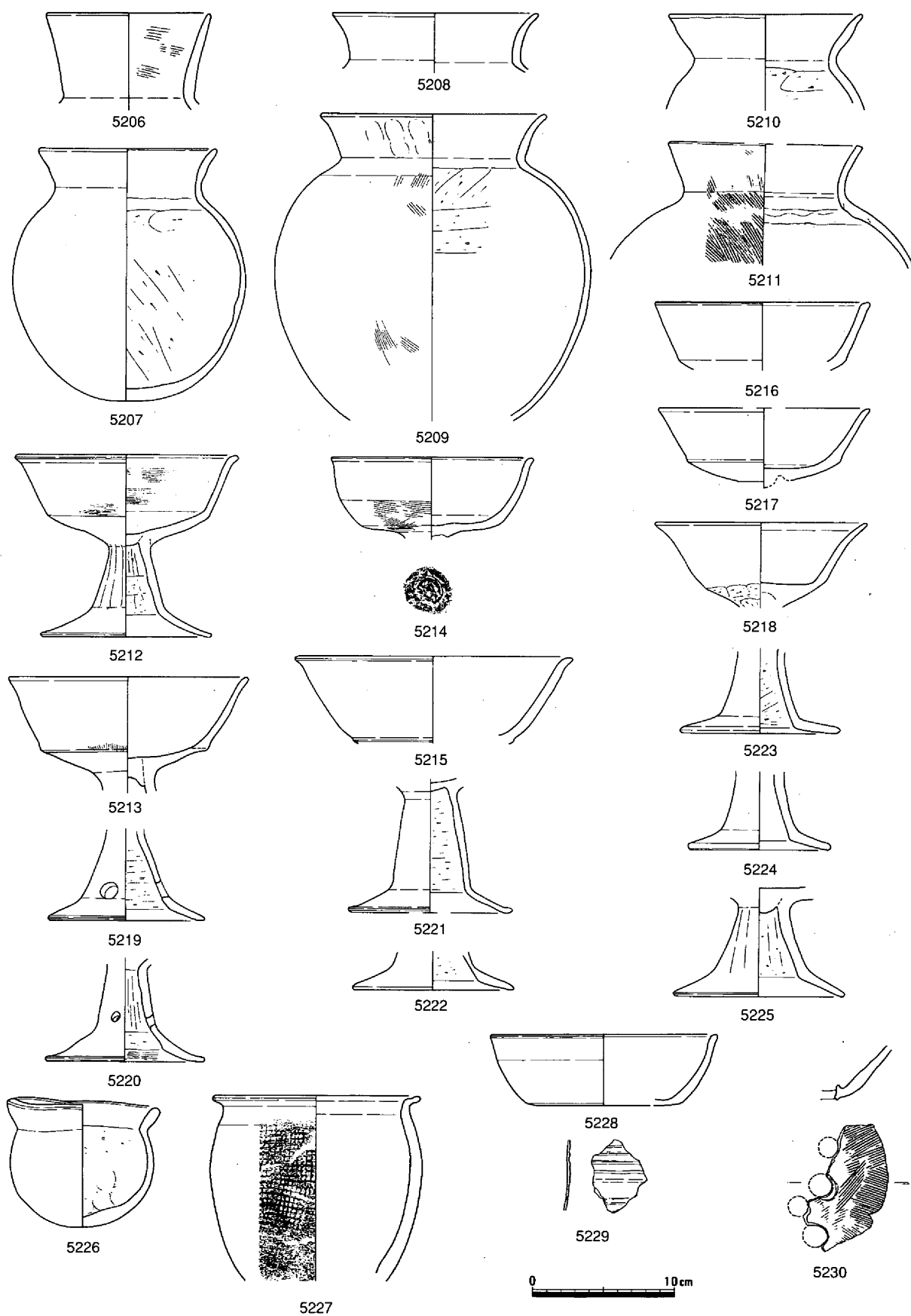
(平井)

**竪穴住居191** (第1206・1330～1334図、図版154・167)

調査区の東端部に位置し、竪穴住居190を切っている。平面形は492×530cmの方形で、深さは12cm残存していた。床面はほぼ平らで、壁際に溝は検出できなかった。

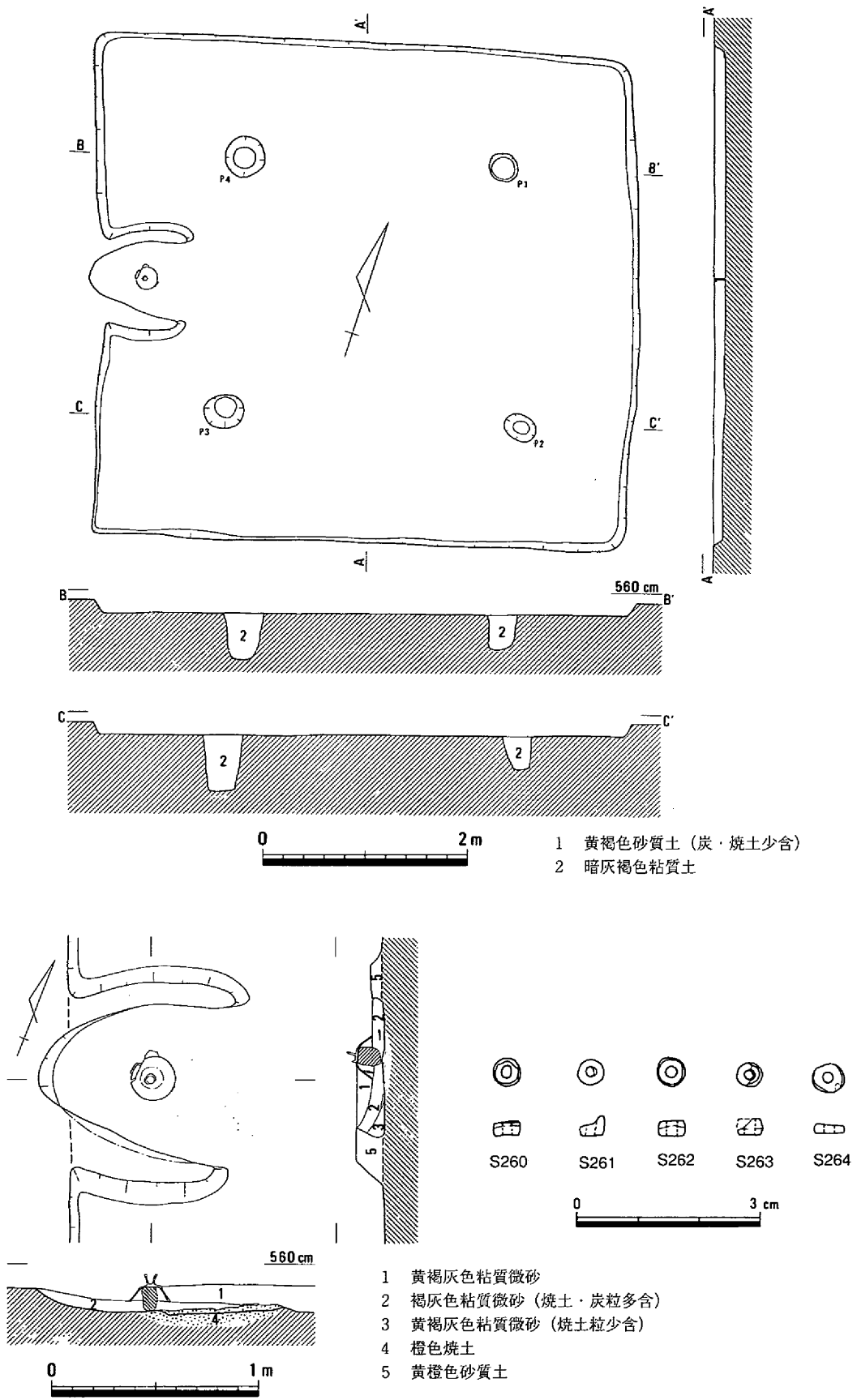


第1328図 竪穴住居190 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1)

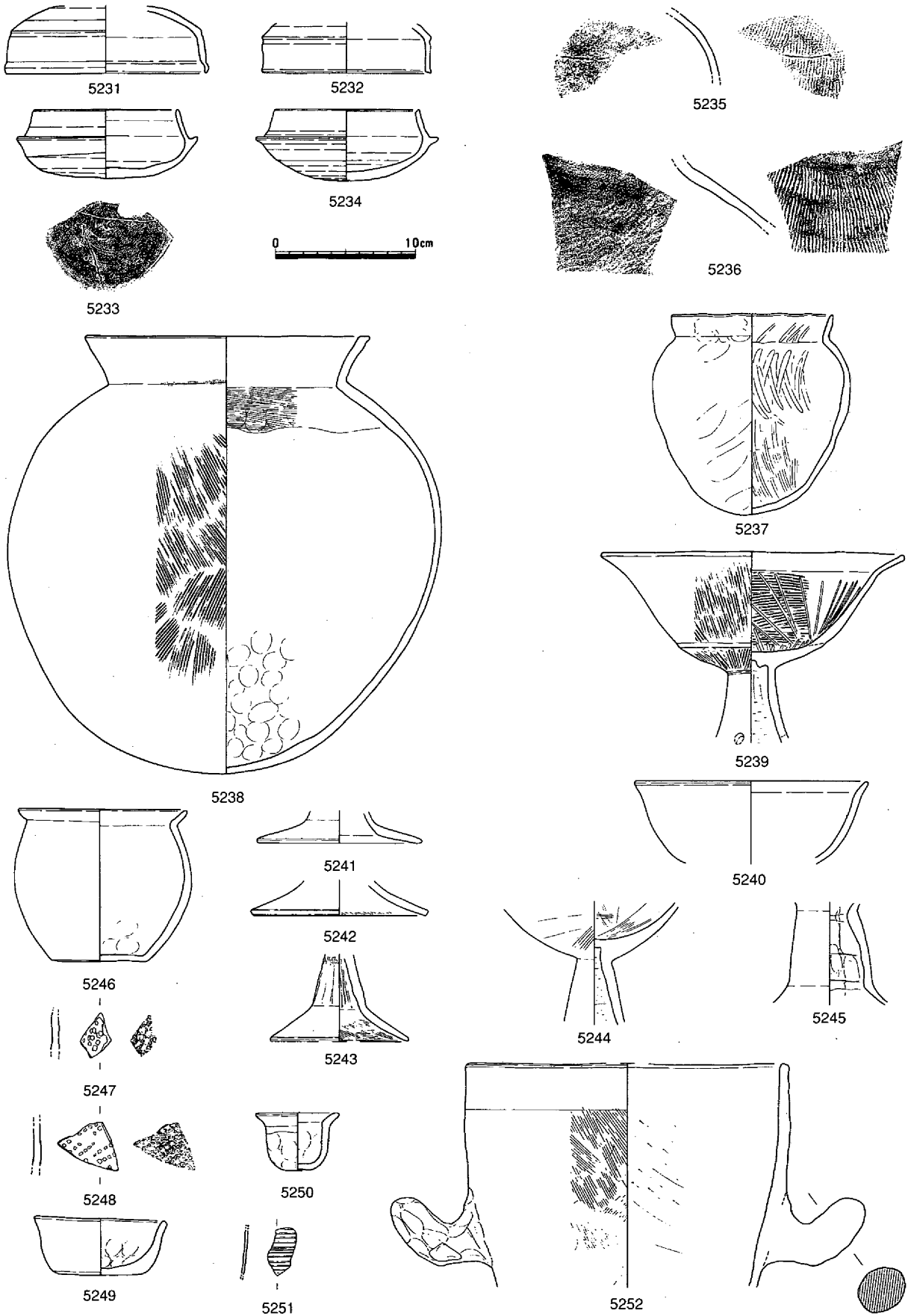


第1329図 竪穴住居190出土遺物② (1/4)

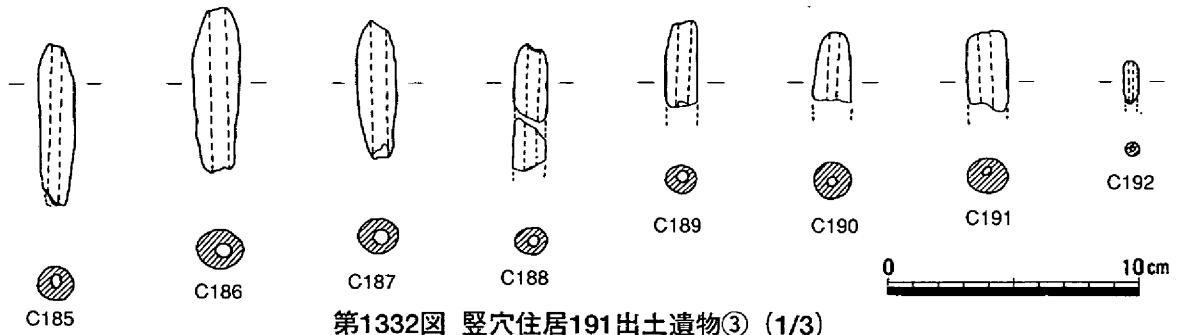




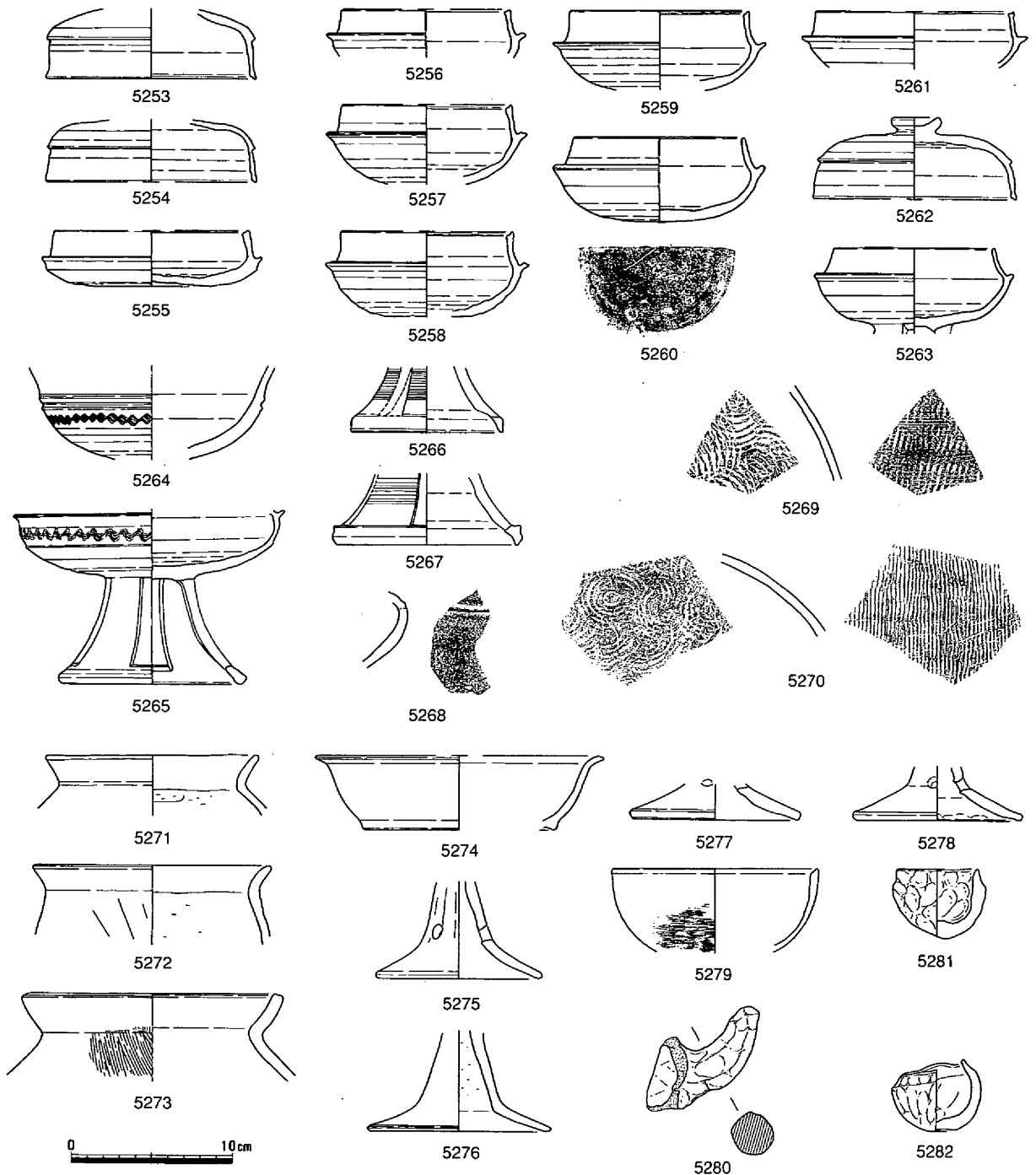
第1330図 豎穴住居191 (1/60,1/30)・出土遺物① (1/1)



第1331図 竪穴住居191出土遺物② (1/4)

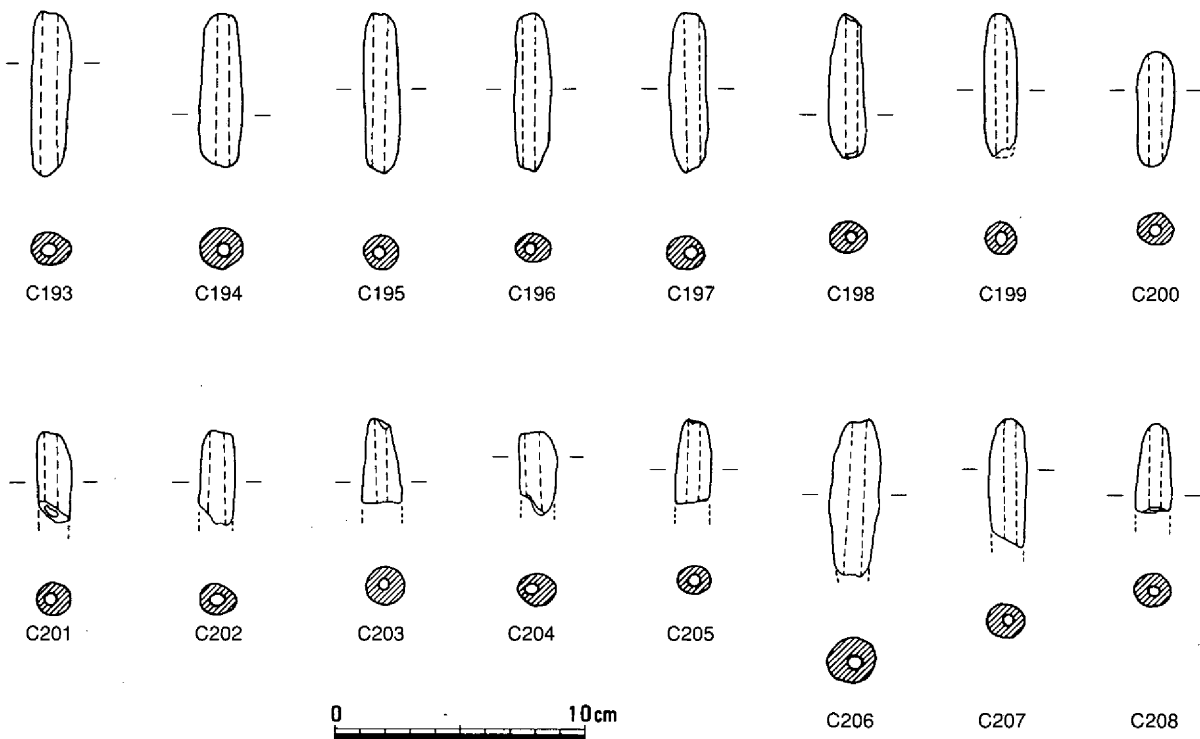
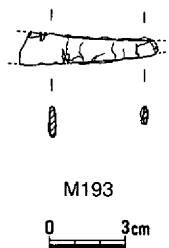


第1332図 竪穴住居191出土遺物③ (1/3)



第1333図 竪穴住居190・191出土遺物① (1/4)

西側の壁のほぼ中央部にはカマドが敷設されていた。カマドは最大幅32cm、長さ78~90cm、高さ15cmの袖が両側につくられており、煙道は一部住居外にのびていた。燃焼部には、強い被熱面が観察できた。また直径6cm前後で長さ約12cmの円柱状の川原石が立てられ、かつその上には高杯が伏せられており、支柱として用いられたものと考えられる。支柱穴は4本確認できた。



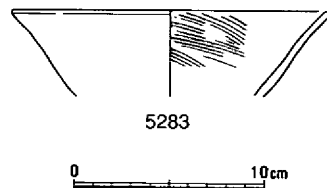
第1334図 竪穴住居190・191出土遺物② (1/3)

遺物は床面や埋土中から須恵器5231~5236、土師器5237~5252、石製白玉S260~264、土錘C185~192などが出土している。5246は平底鉢で、外面に格子目タタキは施されていないが朝鮮系軟質土器と考えている。5247・5248も同じく朝鮮系軟質土器と考えている。外面に格子目タタキ痕が残存しており、同一個体片と考えている。須恵器とこれらの朝鮮系軟質土器が共存かどうかについては、住居址内に廃棄された資料群であり確実ではなかろう。5251は製塩土器で、他にも破片は多く出土している。これらの遺物のうち最も新しいのは古・中・Ⅱであろう。

なお第1333・1334図に示した遺物は竪穴住居190と191を検出中に出土した遺物である。(平井)

竪穴住居192 (第1206・1335・1336図)

調査区の東端部に位置する。規模は竪穴住居193に切られていることと、調査区外にのびているため明らかではないが、平面形は方形を呈する。深さは25cm残存しており、床面はほぼ平らであった。柱穴はP1~3を検出しているが、壁に近接している点に疑問が残る。遺物は床面上から高杯5283が出土しており、時期は古・中・Ⅰと考えている。(平井)



第1335図 竪穴住居192 出土遺物 (1/4)

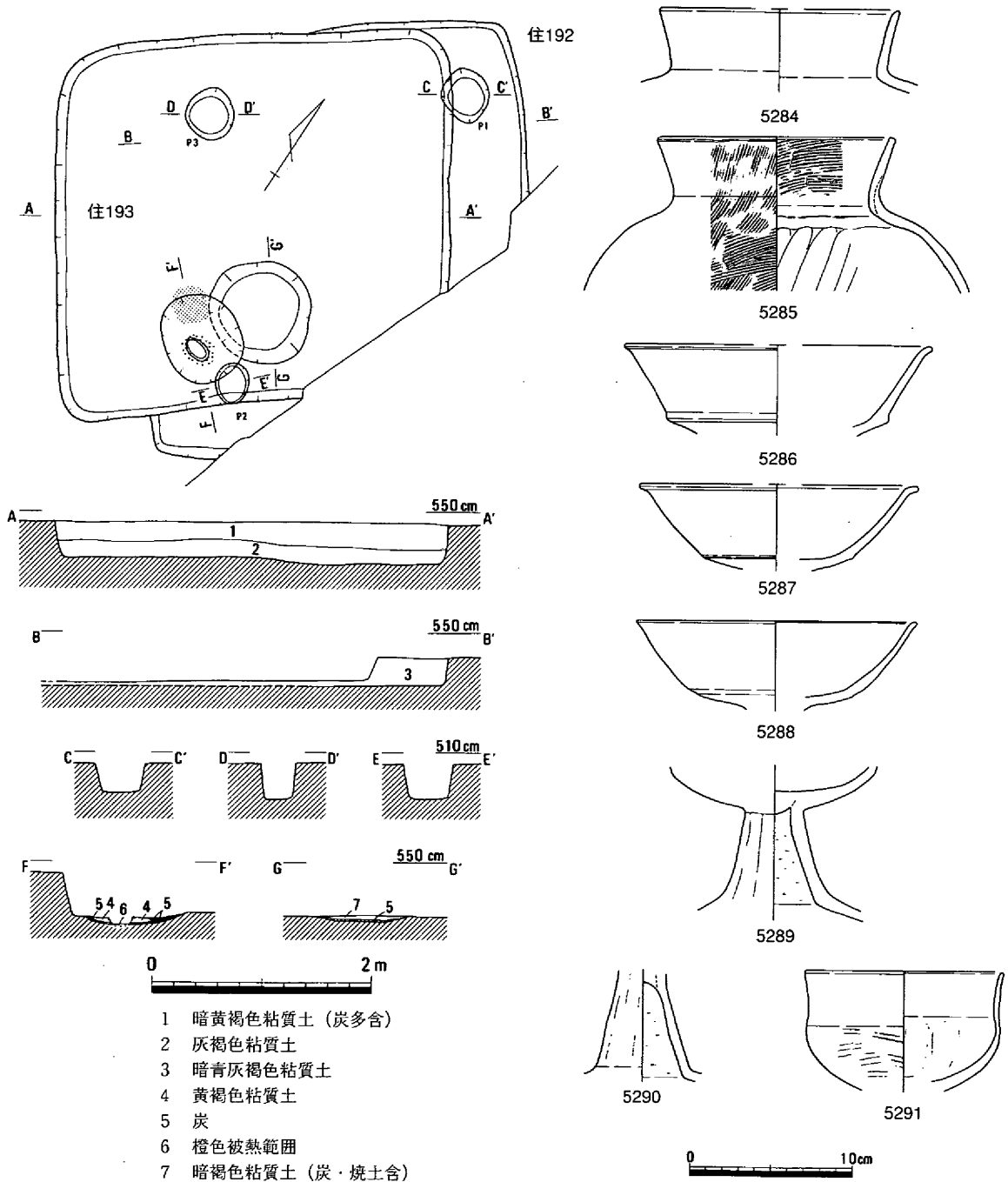
竪穴住居193 (第1206・1336図)

調査区の東端部に位置し、竪穴住居192を切っている。平面形は336×357cmの方形で、深さは38cm残存していた。

南東の壁際には土壌を2基検出した。西側の土壌は約70×80cm楕円形で、深さは約10cmを測る。北側には炭が散布し、中央部にはよく焼けた焼土面が確認でき、炉跡と推定できる。

この土壌に切られる形で検出できた東側の土壌は直径約90cmの不整形形で、底面には炭が散布していた。竪穴住居192に伴う炉跡かもしれない。

遺物は埋土中から土師器5284~5291が出土しており、時期は古・中・Iと考えている。(平井)

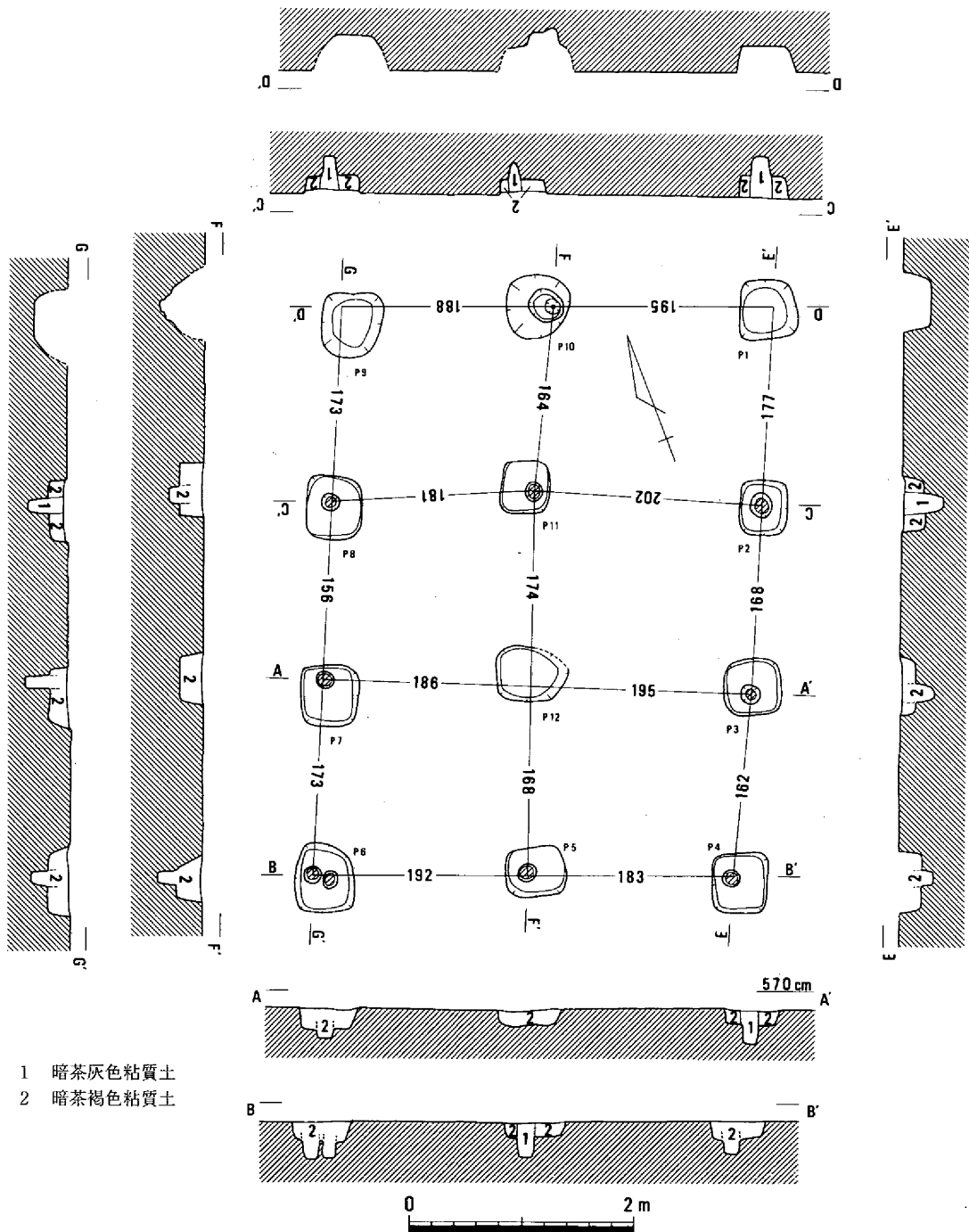


第1336図 竪穴住居192・193 (1/60)・出土遺物 (1/4)

### (3) 掘立柱建物

#### 掘立柱建物54 (第1205・1337図、図版74)

Ch 606区から検出された当調査区唯一の建物である。桁行3間、梁間2間の総柱建物で倉庫と思われる。南北棟で、棟方向はN-24°-Eを示す。桁行375~383cm、梁間502~507cm、床面積19.4m<sup>2</sup>を測る。柱穴の掘り方は数個を除き方形を呈し、規模は一辺50cm前後、深さ15cm前後を測り、大半に径15cm余りの柱痕跡が認められた。柱穴間距離は桁が156~177cm、梁が183~195cmと梁がやや長い。遺物はP11から古・中と思われる甑細片が出土しており、当項に報告した。(江見)



- 1 暗茶灰色粘質土
- 2 暗茶褐色粘質土

第1337図 掘立柱建物54 (1/60)

(4) 土壙

土壙425 (第1203・1338図)

Cg 508区の南部で、竪穴住居127の東で検出された方形の土壙である。東角の部分だけが残存しており、そのほかは中世溝で破壊されている。一段あって、楕円形の掘り込みがある。

遺物は、7点の土師器が出土している。5292～5297は、丸底壺である。5292は、完形品で、口径12.2cm、器高15.3cmを測る。5298は、高杯の杯部である。

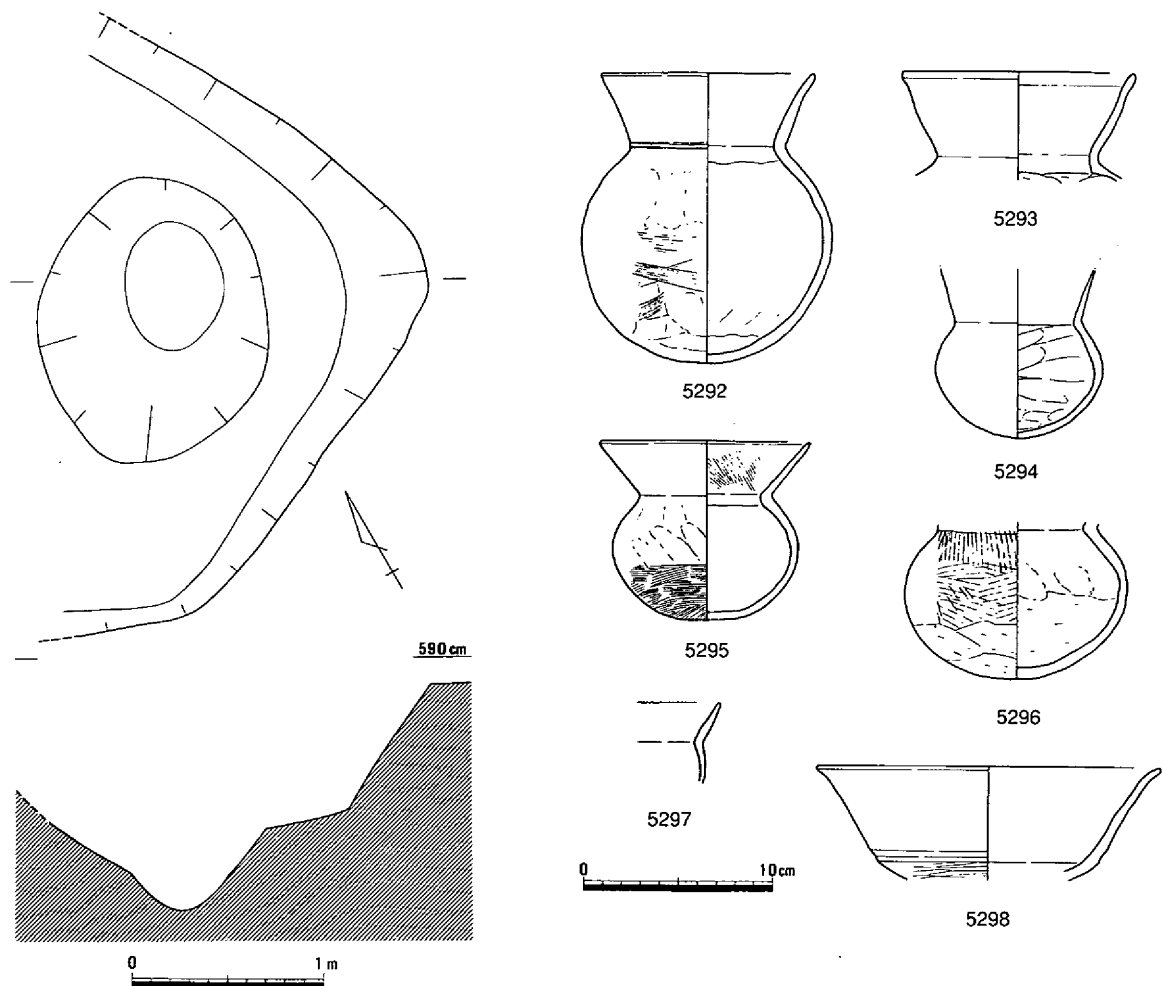
遺構や遺物の観察からこの遺構の時期は、古墳時代中期であろう。 (浅倉)

土壙426 (第1204・1339図)

竪穴住居146の西で検出された。規模は102×107cmの円形を呈し、深さは30cmを測る。床面には凹凸がみられる。掘り方の東側は垂直となるが、西側は緩やかに傾斜し二段掘りとなる。埋土は2層に区分されるが、下層には焼土が含まれていた。遺物は両層から出土しており、図示できる遺物として甕5299～5301がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は古・前・Iと思われる。 (松本)

土壙427 (第1204・1340図)

竪穴住居146の南西で、接する状態で検出された。規模は63×109cmの楕円形を呈し、深さは53cmを



第1338図 土壙425 (1/40)・出土遺物 (1/4)

測る。床面はほぼ平坦で、断面はU字形となる。埋土は3層に区分されるが、2層には多量の炭が含まれていた。出土遺物はないが、検出レベルからみて時期は古・後の頃と思われる。(松本)

**土壌428** (第1204・1341図)

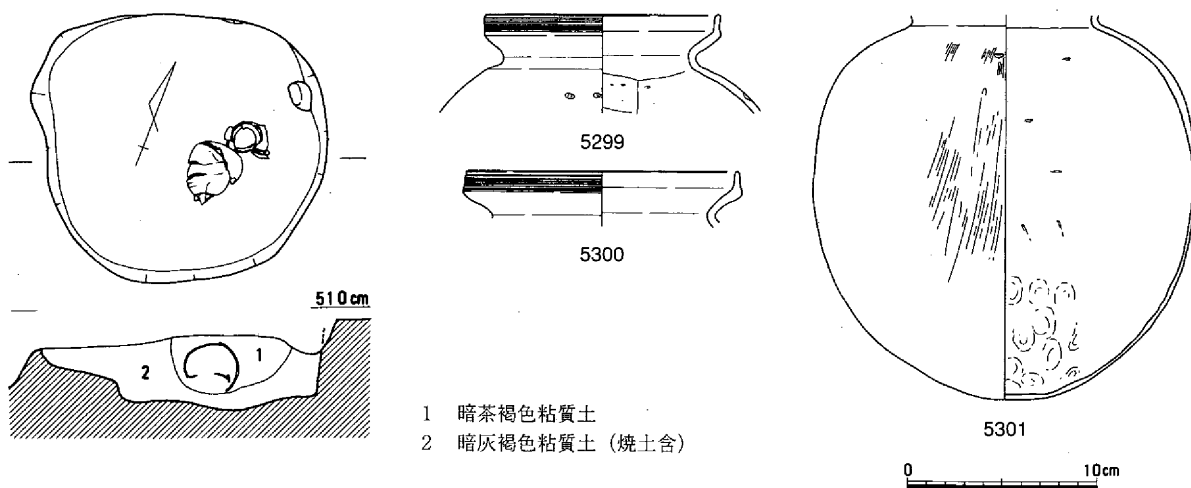
竪穴住居139を切る状態で検出された。規模は76×92cmの隅丸方形を呈し、深さは22cmを測る。床面は平坦であり、断面は逆台形となる。遺物はないが、古・中～後の頃と思われる。(松本)

**土壌429** (第1204・1342図、図版74)

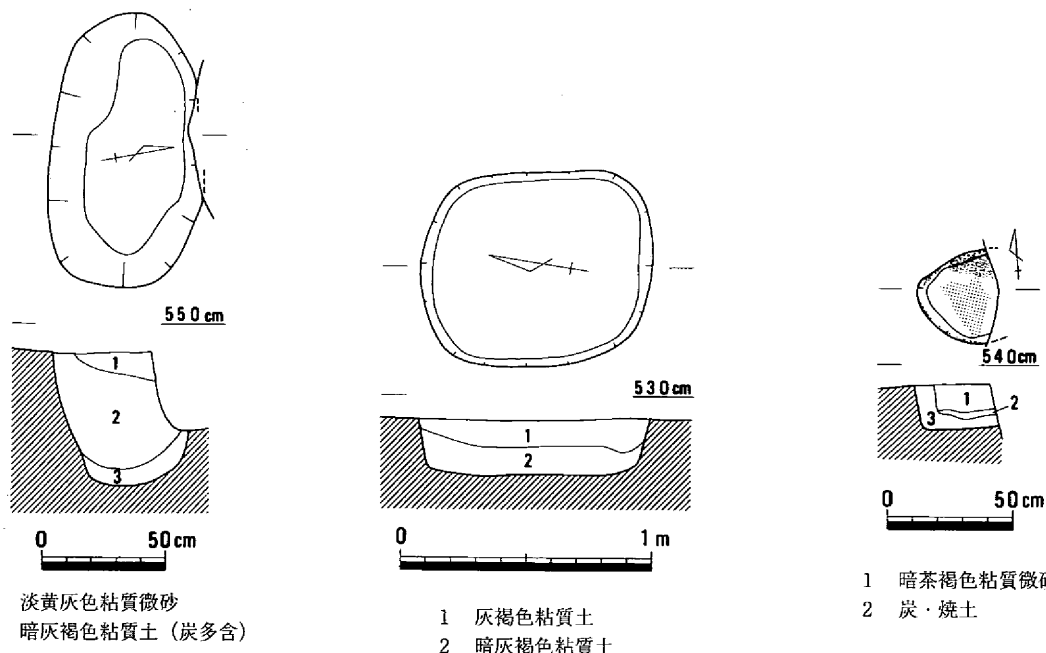
竪穴住居140の南東コーナーで検出された。規模は32×37cm、深さは17cmを測る。周囲や内部に炭や焼土があるため、カマドの可能性はある。遺物はないが、時期は古・後の頃と思われる。(松本)

**土壌430** (第1204・1343図)

竪穴住居140を切る状態で検出された。規模は78×122cmの方形を呈し、深さは23cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。埋土は1層である。出土遺物としては須恵器の高杯5302・5303がある。



第1339図 土壌426 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1340図 土壌427 (1/30)

第1341図 土壌428 (1/30)

第1342図 土壌429 (1/30)



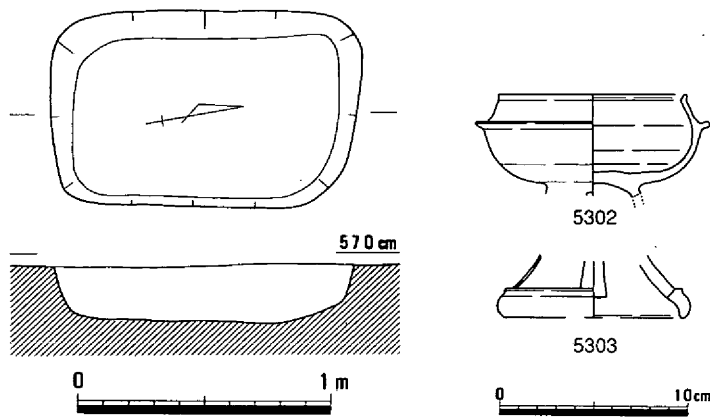
5302は杯部、5303は脚部である。なお、この遺物は竪穴住居140の遺物と近似しており、なんらかの原因で混入した可能性が考えられる。時期は古・中～後と推察される。(松本)

土壌431 (第1204・1344図)

竪穴住居144の西約2mの位置で検出された遺構である。規模は45×353cmの東西に細長い楕円形を呈し、深さは23cmを測る。この遺構の形態はむしろ溝を想定させる。断面はU字形を呈し、埋土は2層に区分された。出土遺物としては二重口縁の壺5304、甕5305・5306などがある。甕の口縁部はやや内傾する。これらの遺物の特徴からみて、廃棄された時期は古・前・Iと思われる。(松本)

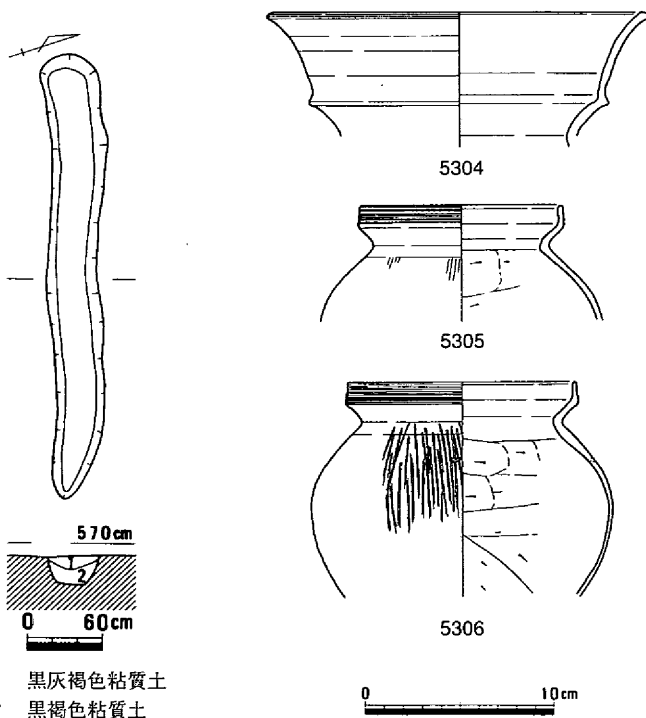
土壌432 (第1204・1345図)

竪穴住居143の南隣で検出された。規模は62×67cmの不整円形を呈し、深さは29cmを測る。床面は平坦で、断面はU字形となる。埋土の2層で、堆積はレンズ状を呈している。出土遺物はないが、遺構検出レベルからみて、古・後の頃と推察される。(松本)



淡茶灰褐色粘質微砂

第1343図 土壌430 (1/30)・出土遺物 (1/4)

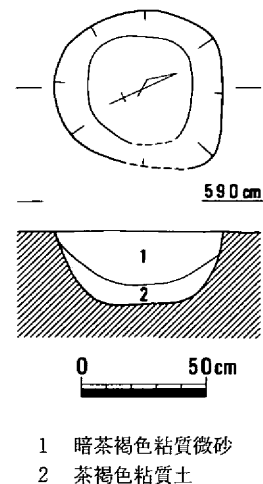


- 1 黒灰褐色粘質土
- 2 黒褐色粘質土

第1344図 土壌431 (1/60)・出土遺物 (1/4)

土壌433 (第1206図・1346図)

Cg 6 09区に位置し、古・中・Ⅱの竪穴住居155に切られる形で検出した、平面形が隅丸長方形を呈する土壌である。規模は、長さが84cm、幅は35cmで、深さが23cmを測る。図示し得ないが土師器の甕片が出土しており、それと遺構の切り合いから判断して、時期は中期と考えられる。(弘田)



- 1 暗茶褐色粘質微砂
- 2 茶褐色粘質土

第1345図 土壌432 (1/30)

**土壌434** (第1206図・1346図)

さきの土壌433に切られた、平面形が隅丸長方形を呈する土壌である。規模は、幅が31cm、深さは16cmで、埋土には炭を含んでいた。出土遺物はないものの、遺構の切り合い関係などからこの土壌の時期は中期に属すると推定できる。(弘田)

**土壌435** (第1206図・1347図)

竪穴住居176の床面直下において検出した、平面形が楕円形を呈する土壌である。規模は、長さが89cm、幅は78cmで、深さが29cmを測る。出土した土師器の甕底部5307や遺構の切り合いから判断して、時期は中期と思われる。(弘田)

**土壌436** (第1206図・1348図)

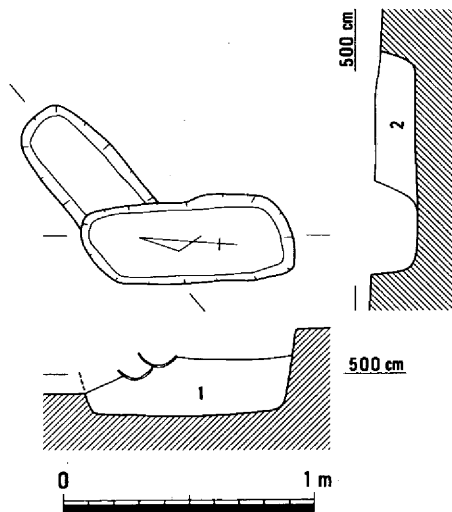
竪穴住居182のカマド下層において検出できた方形の土壌で、軸線が住居とおおむね一致することからも、本来はカマドの下部構造であったかもしれない。規模は、長さが150cm、幅は145cm、深さが30cmを測る。時期は古・後・Ⅱとみられる。(弘田)

**土壌437** (第1206・1349図)

調査区の東端部に位置する。平面形は柱穴が3個連なったような形状で、深さは約30cm残存していた。時期は古墳時代中期と考えており、位置関係から竪穴住居183に関連する土壌かもしれない。(平井)

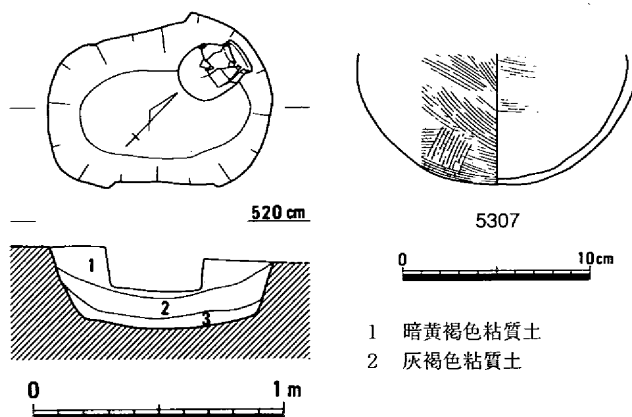
**土壌438** (第1206・1349図)

調査区の東端部に位置する。平面形は72×83cmの不整楕円形で、深さは7cm残存していた。時期は古墳時代中期と考えており、位置関係から竪穴住居184に関連する土壌かもしれない。(平井)



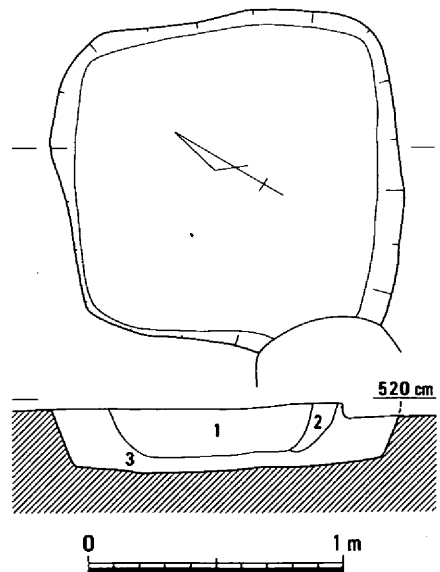
- 1 暗黄灰色砂
- 2 暗茶褐色粘質土 (炭含)

第1346図 土壌433・434 (1/30)



- 1 暗黄褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土

第1347図 土壌435 (1/60)・出土遺物 (1/4)

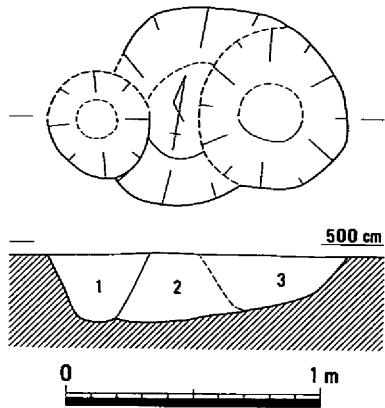


- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗橙褐色粘質土

第1348図 土壌436 (1/30)

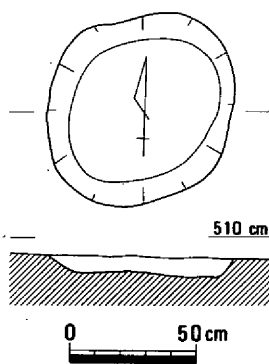
土壌439 (第1206・1351図)

調査区の東端部に位置する。平面形は85×109cmの長楕円形で深さは14cmを測る。断面形は皿形で埋土は少量の炭を含む暗灰褐色粘質土が1層のみであった。時期は古墳時代としか捉えられないが、位置関係から竪穴住居184に関連する土壌かもしれない。(平井)



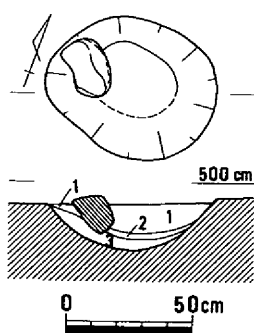
- 1 暗灰褐色粘質土 (やや黒みを帯びる)
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗灰褐色粘質土 (やや粘性が強い)

第1349図 土壌437 (1/30)



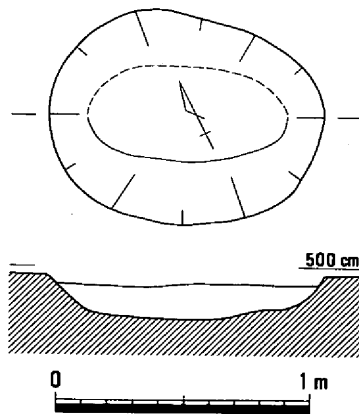
暗灰褐色粘質土  
(焼土塊小片多含)

第1350図 土壌438 (1/30)



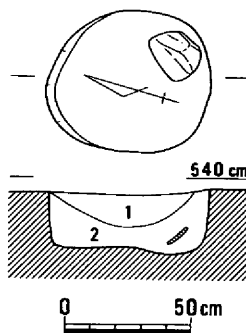
- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 淡黄灰色土 (炭, 炭含)
- 3 灰褐色粘質土

第1352図 土壌440 (1/30)



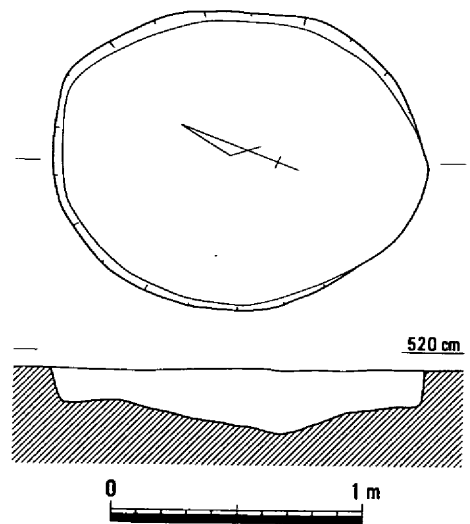
暗灰褐色粘質土 (炭少含)

第1351図 土壌439 (1/30)



- 1 淡黄茶色弱粘質土
- 2 淡黄褐色弱粘質土

第1353図 土壌441 (1/30)



淡黄褐色微砂

第1354図 土壌442 (1/30)

土壌440 (第1206・1352図)

調査区の東端部に位置する。平面形は56×67cmの楕円形で、深さは18cm残存していた。時期は古墳時代としか捉えられないが、位置関係から竪穴住居183に関連する土壌かもしれない。(平井)

土壌441 (第1206・1353図)

調査区の東端部に位置する。平面形は61×65cmの楕円形で、深さは23cm残存していた。埋土は2層に分離でき、断面形は逆台形で底面には凹凸が認められた。時期は古墳時代中期としか捉えられない。(平井)

土壌442 (第1206・1354図)

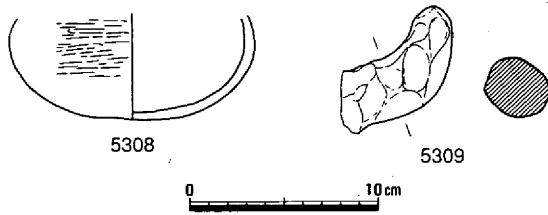
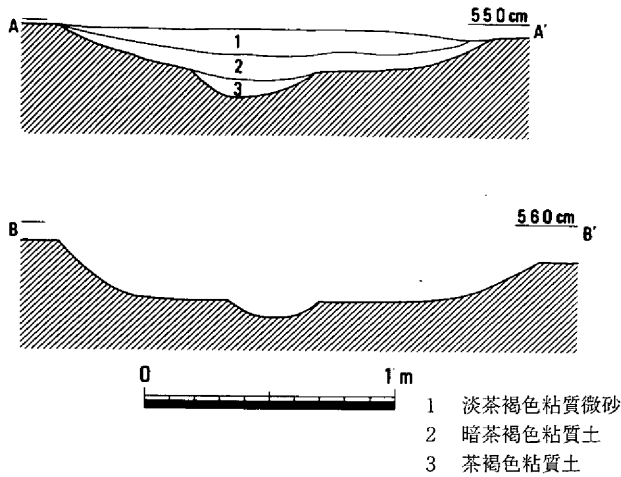
調査区の東端部に位置する。平面形は118×150cmの楕円形で、深さは25cm残存していた。竪穴住居187のカマド燃焼部の下部に位置しており、埋土中から出土した土器から時期的にも竪穴住居の時期に一致することから、カマドの下部施設ではないかと考えられる。(平井)

(5) 溝

溝39 (第1204・1355図)

竪穴住居146・148を切る状態で検出された遺構である。溝は南北方向に走行するもので、確認された

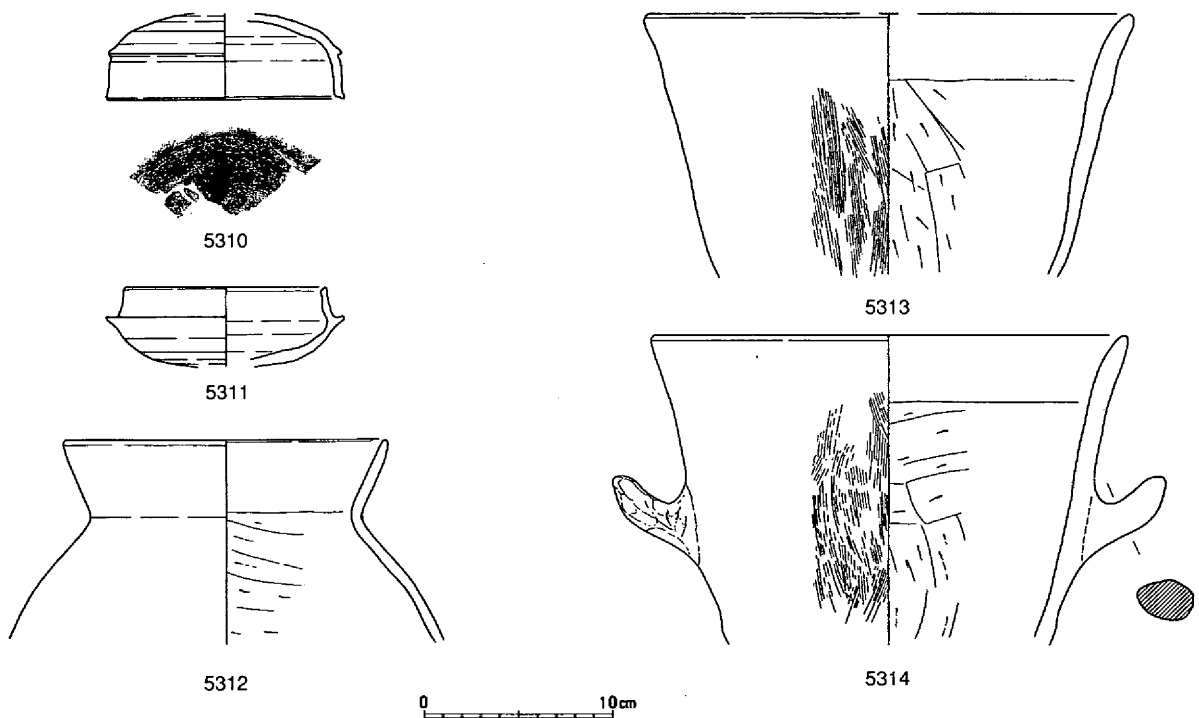
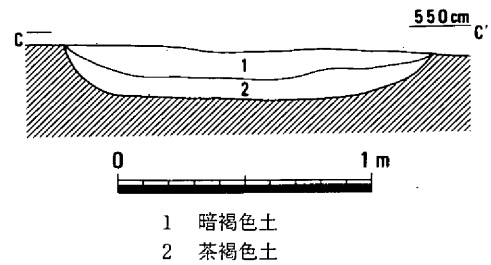
最大幅は約160cm、深さは30cmを測る。底面の中央部に一段低くなる幅約50cm、深さ10cmの溝が検出され、溝の改修が確認されている。断面は皿状となる。遺物は溝内から土師器の鉢5308、甑の把手5309などが出土している。これらの遺物からみて、古・後の時期に属すると思われる。(松本)



第1355図 溝39 (1/30)・出土遺物 (1/4)

溝40 (第1204・1356図)

竪穴住居147の南に位置し、この住居を切る状態で検出された。溝は東西に走行するものであるが、確認された規模は長さ約5m、



第1356図 溝40 (1/30)・出土遺物 (1/4)

最大幅約160cm、深さは20cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面は皿状となっている。埋土は2層に区分された。

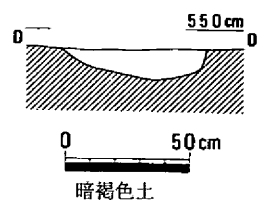
遺物は溝内から須恵器の杯蓋5310、杯身5311、土師器の甕5312、甑5313・5314などが出土している。これらの遺物からみて、この溝は古・後の時代に属するものと思われる。

(松本)

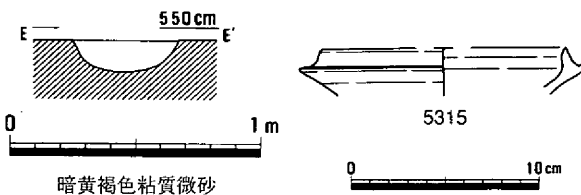
溝41 (第1204・1357図)

溝39の東約3mの位置で検出された。溝39と同様に南北に走行するもので、確認された規模は長さ約7m、最大幅約90cm、深さは約10cmを測る。埋土は暗褐色土であり、断面は皿状を呈している。時期を決める遺物はないが、遺構検出レベルからみて古・後の時期が推察される。

(松本)



第1357図 溝41 (1/30)



第1358図 溝42 (1/30)・出土遺物 (1/4)

溝42 (第1206・1358図)

調査区の北東端部に位置する。幅約40cm、深さ15cm前後で、長さ約12mを検出することができた。断面形は皿形で、埋土は暗黄褐色粘質微砂が1層のみであった。方向はほぼ東西方向で、竪穴住居180を切るかたちで検出できた。遺物は少量の土器片が出土しており、時期は古・後・IIと考えている。

(平井)

(6) 河道

河道6 (第1205・1467図)

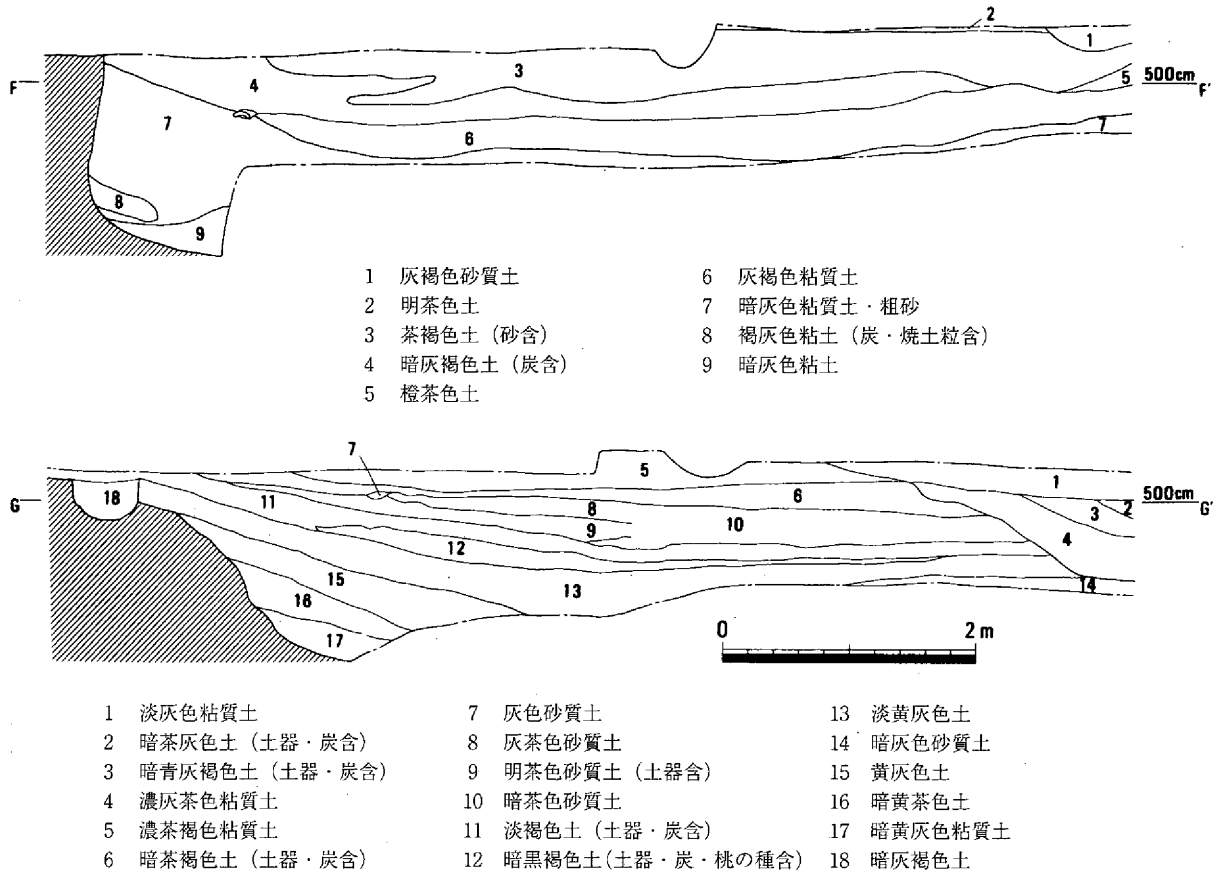
調査区の中央東寄りの北端から検出した河道で、当微高地の北側を挟むような状況であった。中世の第1467図に示す第4～6層がこれにあたり、第4層の暗茶灰色粘質土から図示し得る遺物はなかったが、わずかながら須恵器細片が出土した。河道肩部付近には前述してきた古・中に属す竪穴住居が数軒検出されており、その位置関係はあまりに接近していることから、当河道は古・中以降に大きく挟っていったものと思われる。

(江見)

河道7 (第1202・1206・1359～1373図、図版155～159・168・170)

調査区の南東部において検出した旧河道である。この地区は弥生時代後期後葉の段階に微高地を挟むかたちで旧河道5が形成されていた地区である。弥生時代後期後葉以降については引き続き河道になっていたのではないかと推測できるが、土層断面から次に確認できるのはここで報告する古墳時代中期の河道7である。

第1359図に示した断面図は、第1206図に位置を示しているF・G断面図である。F断面図の7～9層、およびG断面図の15～17層が前述した弥生時代後期後葉段階の河道堆積層である。河道7として報告するのはこの堆積層を切るかたちで観察できるF断面図の3～6層、およびG断面図の5～14層である。土層を確認した場所によって堆積状況はそれぞれ異なっているが、いずれも色調や土質、炭などの混入物の違いによって幾層かに分離することができる。特にG断面周辺においては12層より上層において土器が多く出土し、かつ12層は炭を多く含む点で特徴的であったため、11層より上位を上層出土遺物、12層出土遺物を中层出土遺物、13・14層を下層出土遺物として取り上げることとした。ただし土層は地点ごとに若干異なっている可能性があったため、これらの遺物が完全に同一層位から



第1359図 河道7 (1/60)

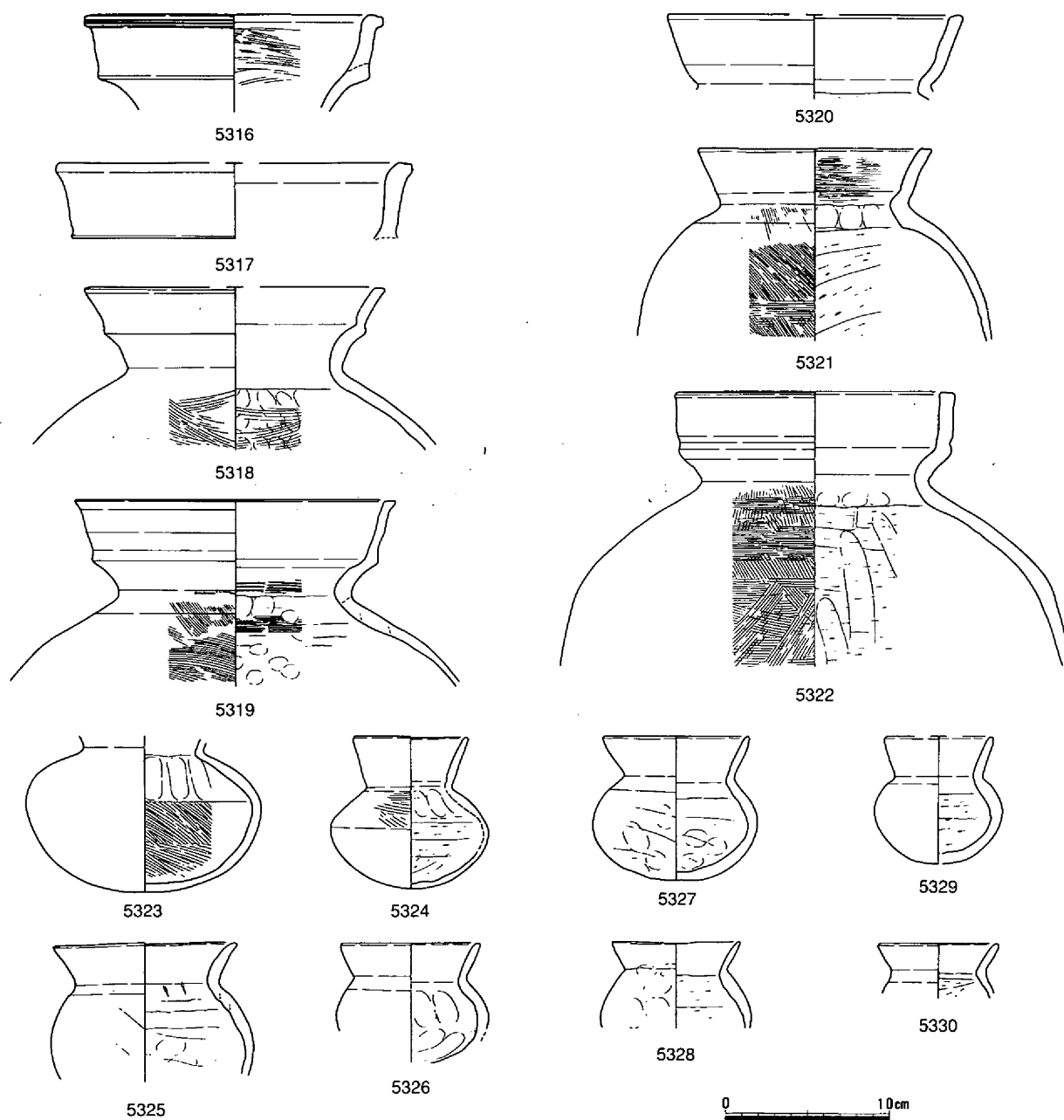
出土したものとは言い切れない。

また第1184図のE断面図は第551図に位置を示しているE断面図であるが、河道7の堆積層はこの土層の中では5～8層に相当する。

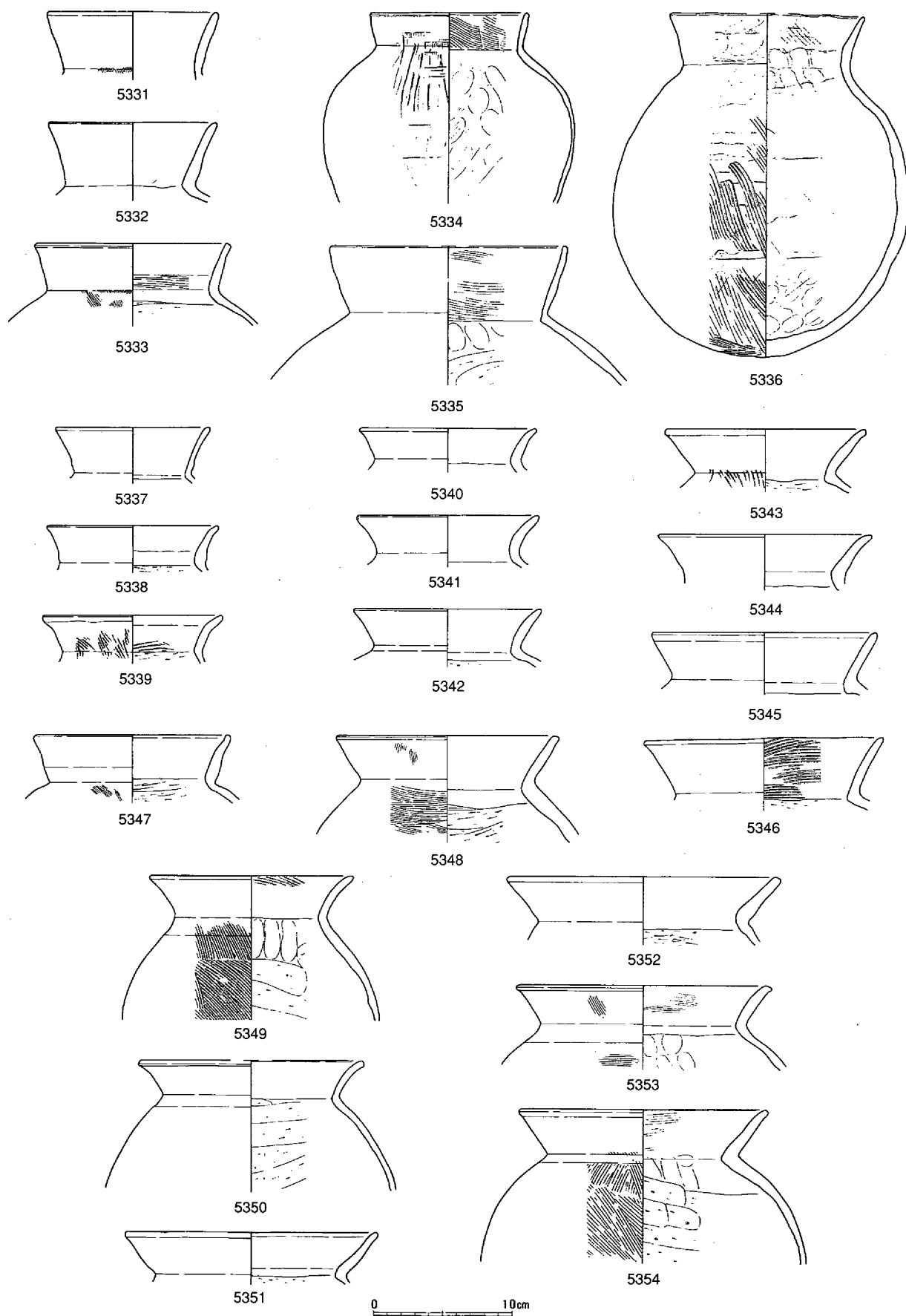
なおF断面図の1・2層は中世、G断面図の1～4層は古代の河道の堆積層であり、古代・中世の節において報告しているが、これらの土層とのより詳しい関係については第1184図のC・D断面図を参考にされたい。

河道7から出土した遺物としては土器が最も多いが、その他に石器・鉄器・鹿角製品が認められた。下層出土としては土器、鹿角製品がある。5316～5322は壺である。いわゆる二重口縁のものが多いのが特徴であろう。しかし二重口縁の形状は同一ではなく様々な形態が認められる。二重口縁の屈曲度合いは概して鈍いといえる。体部外面調整はいずれもハケメである。5322のハケメは回転を利用してのように思われる。体部内面調整には指オサエのちハケメのものと、ケズリのものがある。5323～5330は小形の壺と考えている。口縁部は逆ハの字形にのび、底は丸底である。口縁部は内外面ともヨコナデで仕上げられている。体部外面はハケメや指オサエ・ナデで、内面はケズリのものと指オサエ・ナデのものがある。口縁部の長さや口径と器高の比率は一定しておらず、定型化されているとは言い難い。5331～5369は甕と考えている。口縁部は逆ハの字状に開くものがほとんどであるが、直線的なものや内湾するもの、外湾するものなどがあり一定していない。口唇部の形状についても尖るものや丸いもの、角張るものなど様々である。全体の器形について理解できる個体は限られているが、

それらによると肩は強く張るものではなく、なで肩のものが多い。体部は丸くなく、卵形に近いものが多い。また確実に長胴といえるものはない。底部は丸底である。調整については、口縁部は内外面ともヨコナデがほとんどであるが、ハケメや指オサエを施したものが少量認められる。体部外面調整は細かくないハケメのものがほとんどである。内面は指オサエ・ナデのものとケズリのものがある。5358～5361のように口縁部が内湾気味にのび、口唇部が面を持つものは指オサエ・ナデである。5368・5369は胴部の破片で、外面に金属で書かれたような沈線紋が観察できる。5356の体部外面調整は、縦方向の平行タタキが施された後横方向の回転を利用したハケメ（カキメ）で、全体の器形については他の甕よりは陶質土器や最古式の須恵器に類似していると思われる。このことから5356は通常の土師器ではなく、陶質土器か須恵器の技法や形態を意識してつくられた土器と考えている。5370～5413

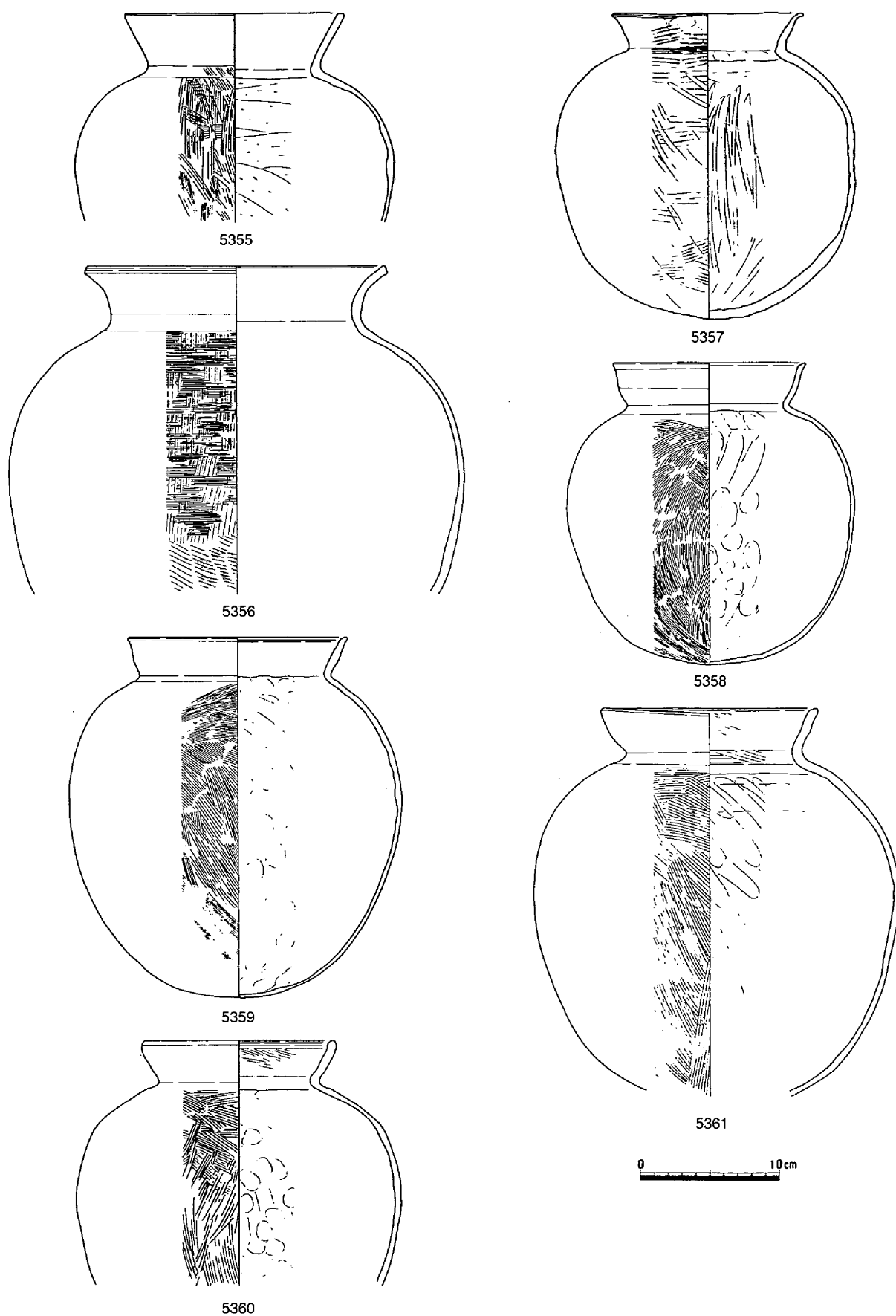


第1360図 河道7下層出土遺物① (1/4)

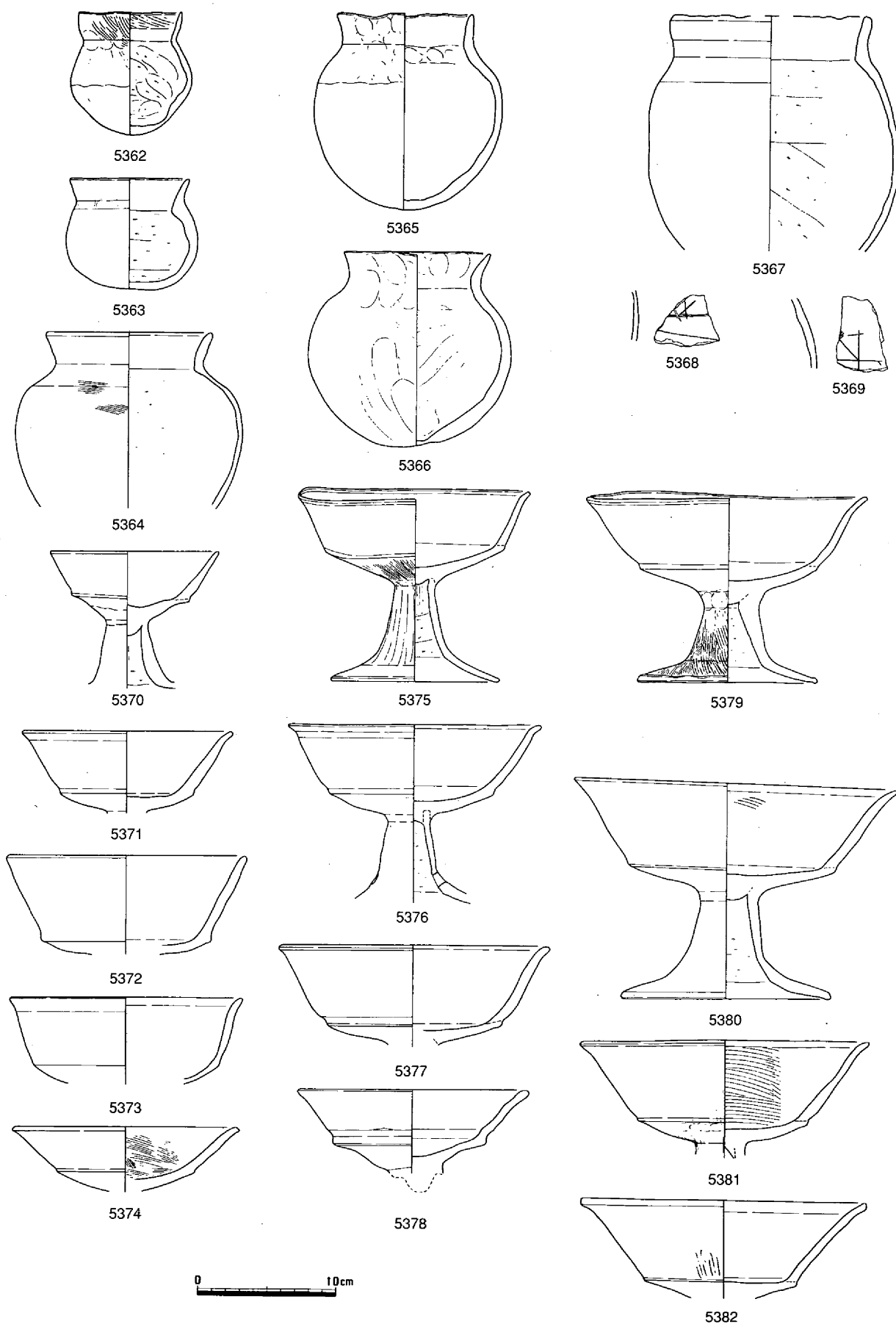


第1361図 河道7下層出土遺物② (1/4)

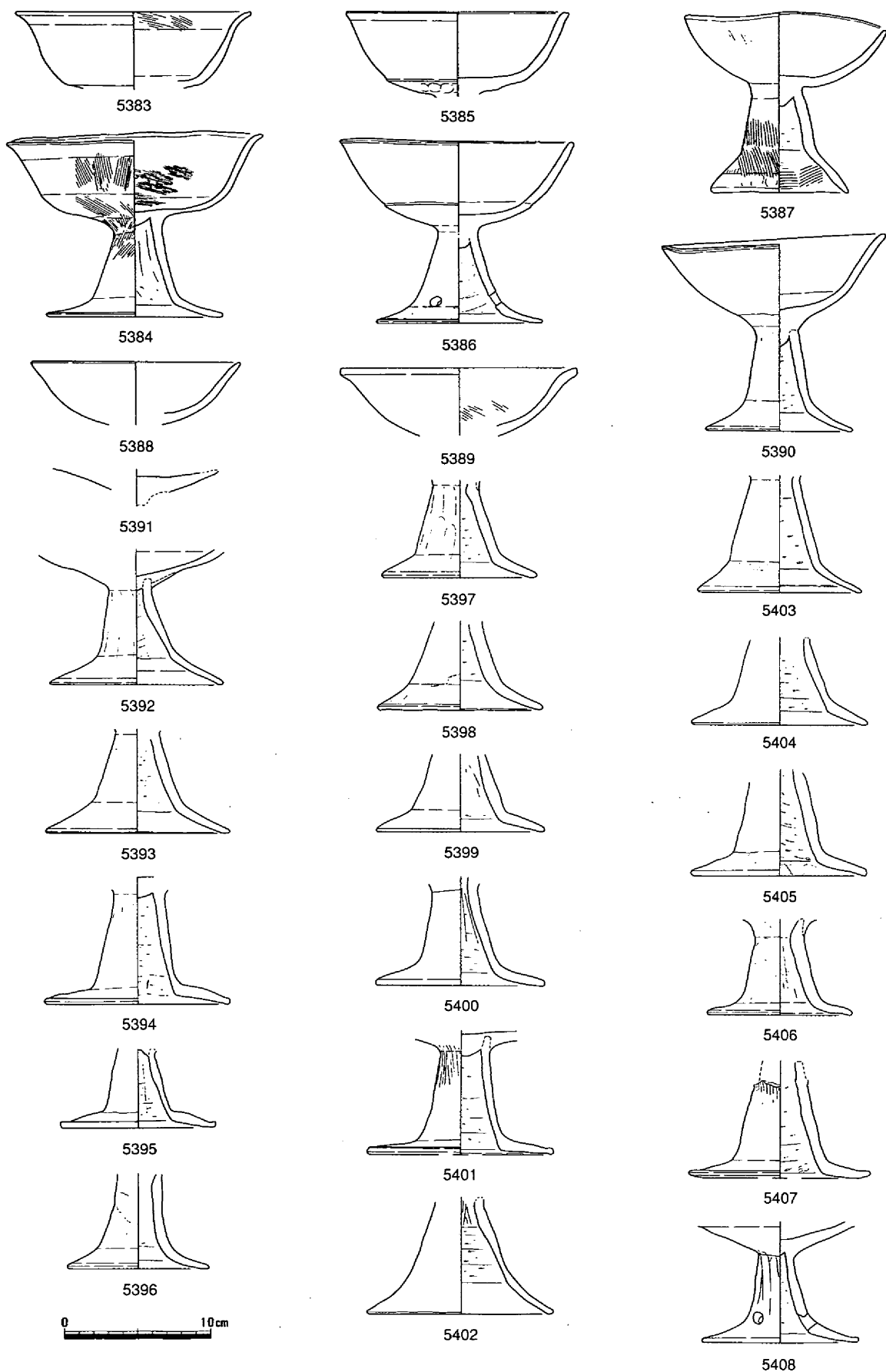




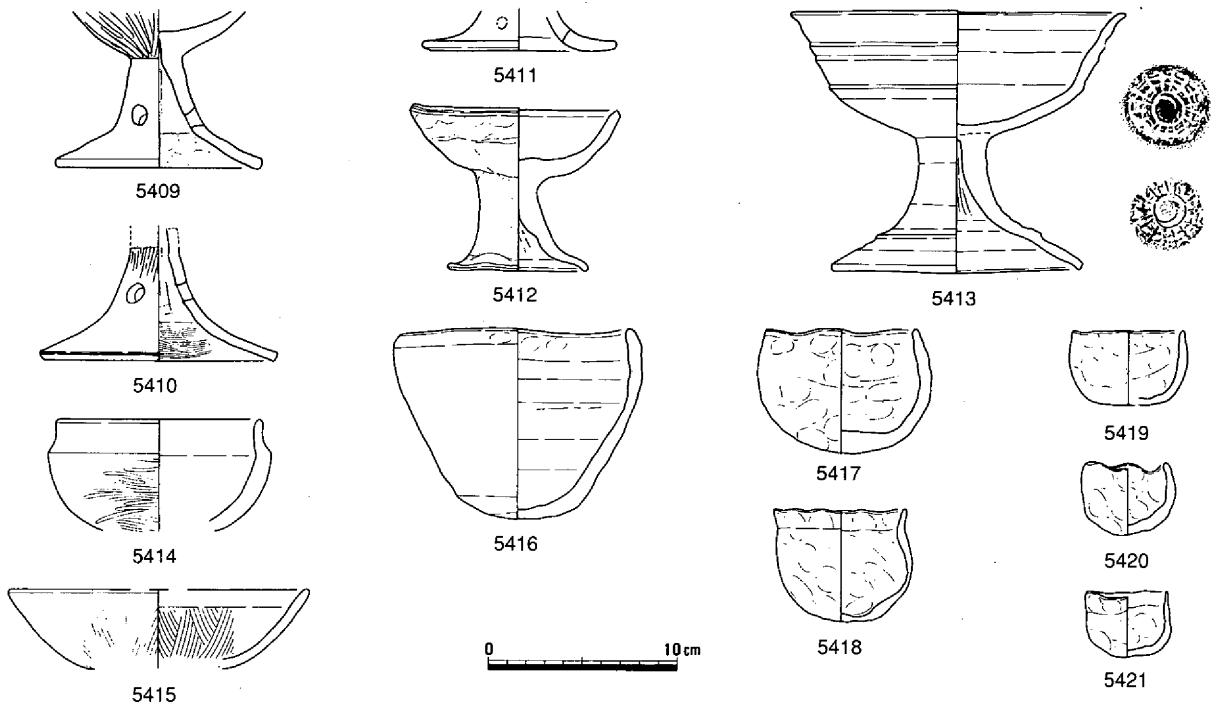
第1362図 河道7下層出土遺物③ (1/4)



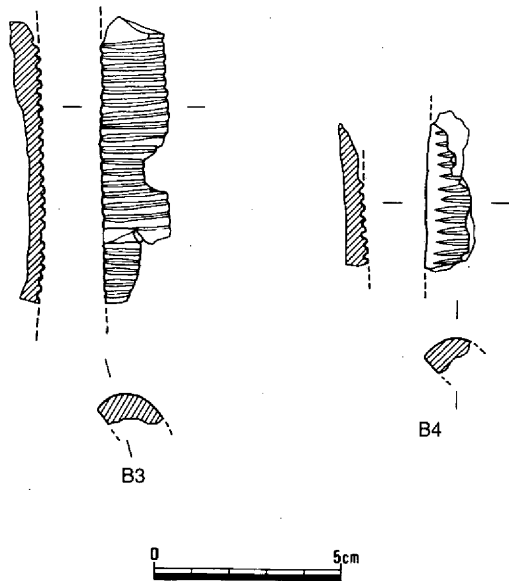
第1363図 河道7下層出土遺物④ (1/4)



第1364図 河道7下層出土遺物⑤ (1/4)



第1365図 河道7下層出土遺物⑥ (1/4)



第1366図 河道7下層出土遺物⑦ (1/2)

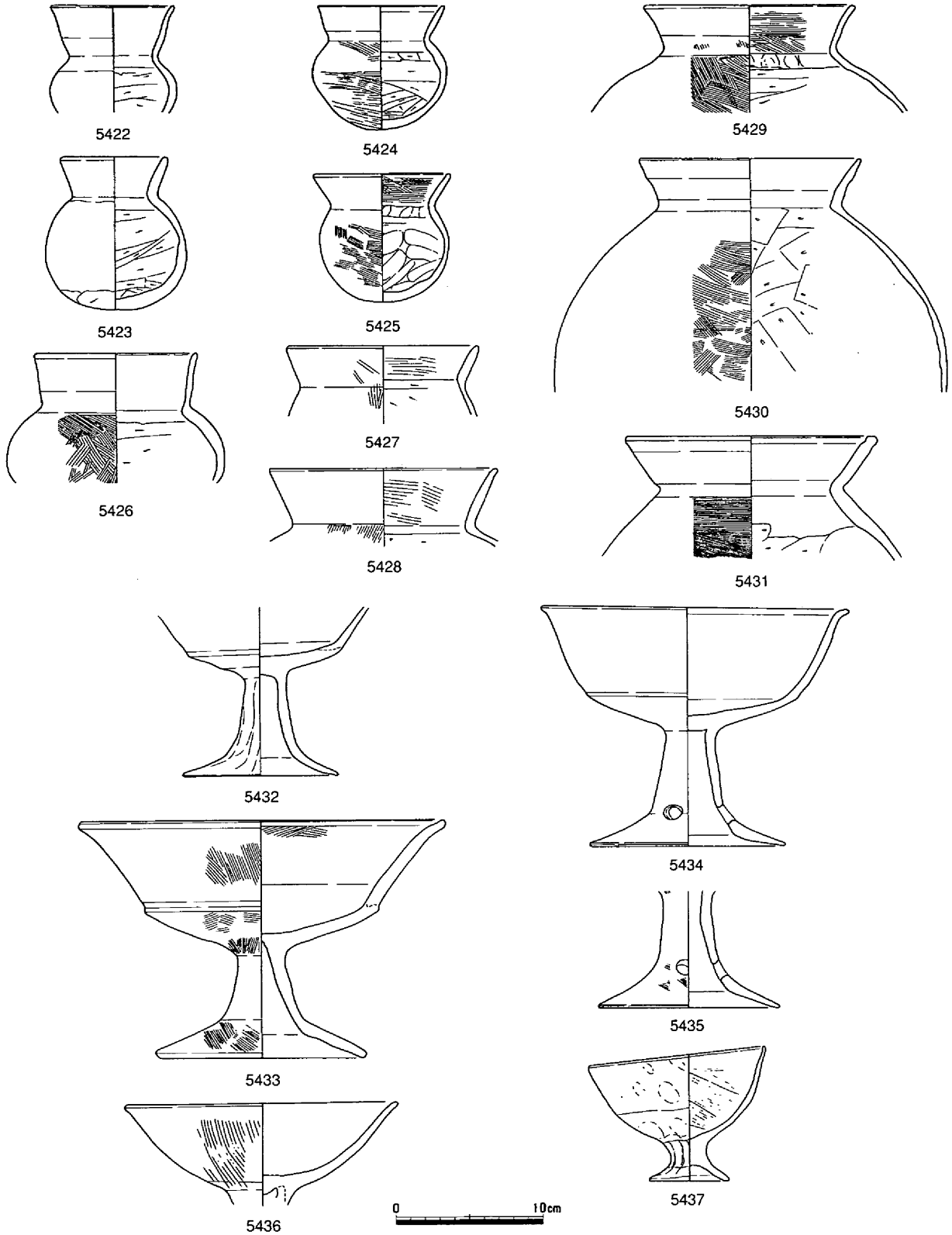
は高杯である。杯部の形状には屈曲するものと碗形のもの、およびそれらの中間のものがあり、大きさや形状に違いがあるといえよう。脚部はハの字状の筒部から裾部が強く開いており、筒部内面調整はほとんどすべて横方向のケズリで稜線が認められるのが特徴的である。脚部に透かし穴が存在するものが少量ある。透かし穴の位置は筒部の下位で、数はいずれも3個である点が共通している。杯部と脚部の接合方法については5375・5376・5390・5392・5401などでは筒状の脚部を杯部底面に差し込んでいることが確認できており、特徴的であると考えている。ただし5413は異なっており、杯部の接合面に拓本に示したような刻目を施して接着しやすくする工夫がなされている（脚部にも杯部の刻目に対応する痕跡

が残存しており、拓本で示した）。その他に5413は、筒部内面がケズリではないという調整の特徴や杯部と脚裾部に突線状の高まりが施されているなどの形態上の特徴から、陶質土器や最古式の須恵器の形状と技法によって製作された土師器と考えられる。

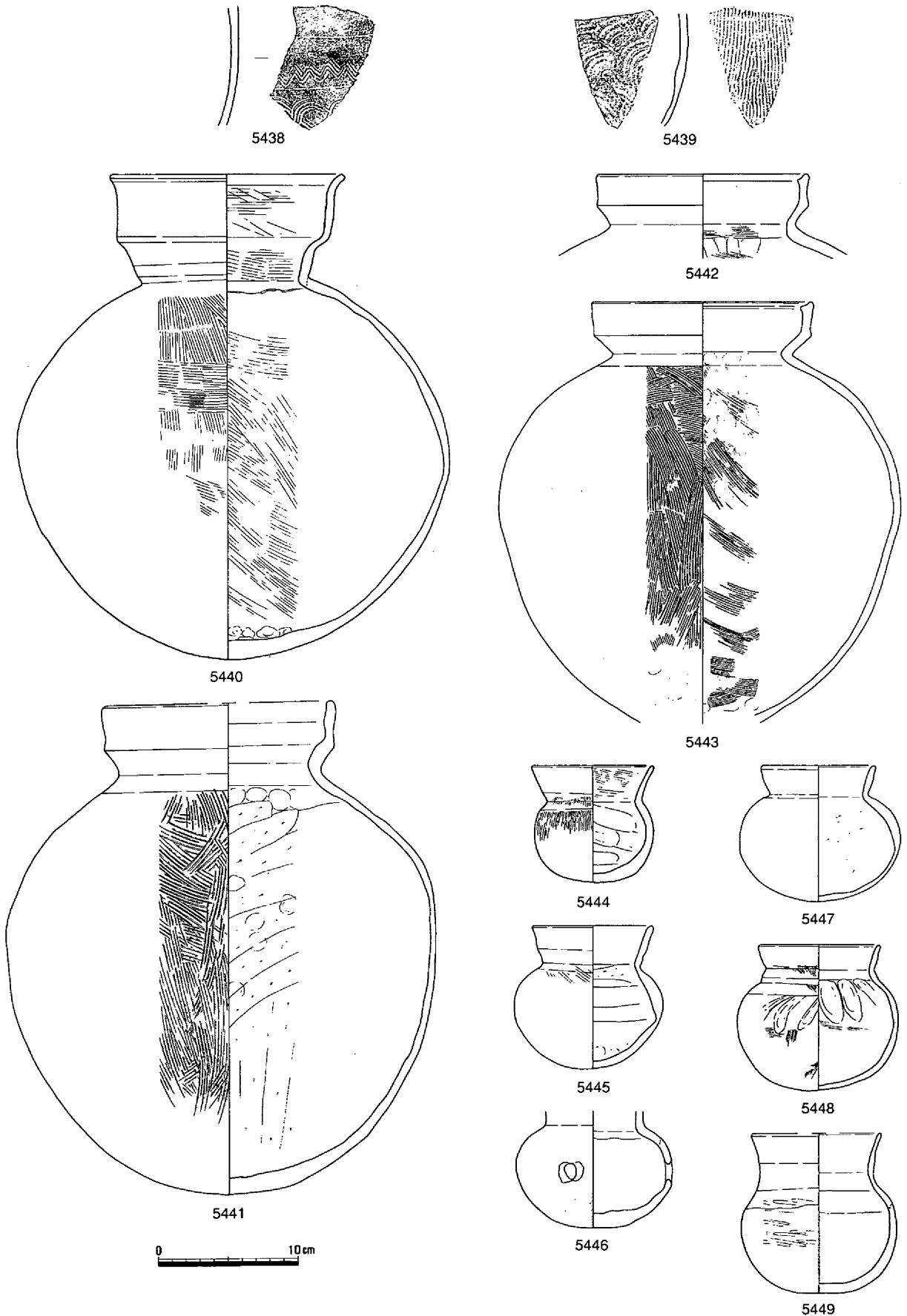
第1366図のB3・4は鹿角製品で、表面には規則的に鋭利な刃物による溝が彫られている。また表面は部分的に磨滅している。この2片は同一個体である可能性が高い。いわゆる刻骨であろう。

第1368図は中層から出土した土器である。5422～5425は小形丸底の壺である。形状は一致していない。5427～5431は甕である。逆ハの字形の口縁部で、体部外面ハケメ、内面ケズリである。5432～5436

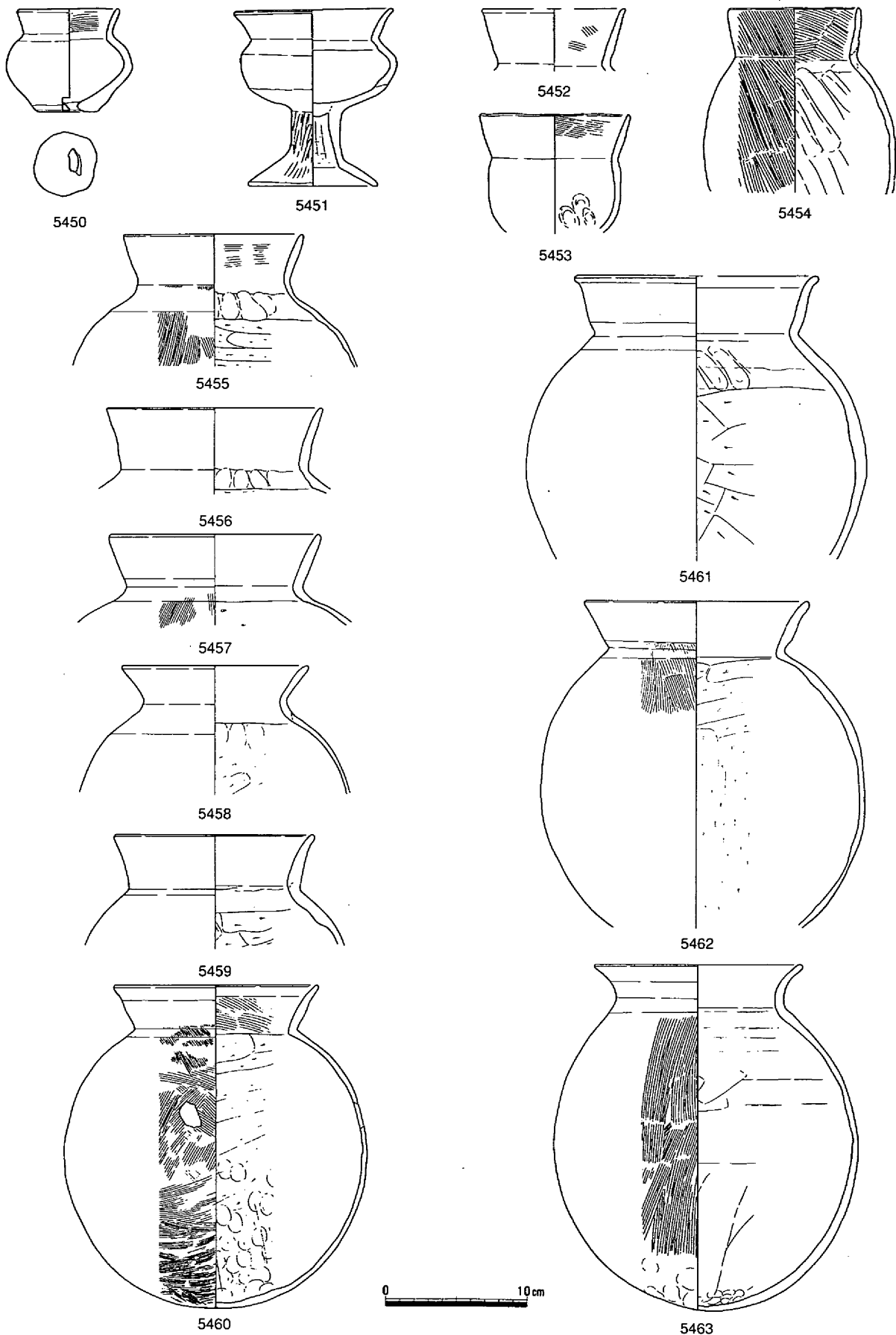
は高杯である。全体が図化できた5433と5434を比較すると、形状や調整が異なっている。第1368～1371図は上層出土遺物である。5438は外面にクシガキ紋が施されており、陶質土器か初期須恵器と考えられる。5439は須恵器で、外面に平行タタキ、内面に青海波紋が観察できる。5450は平底の小形壺



第1367図 河道7中層出土遺物 (1/4)

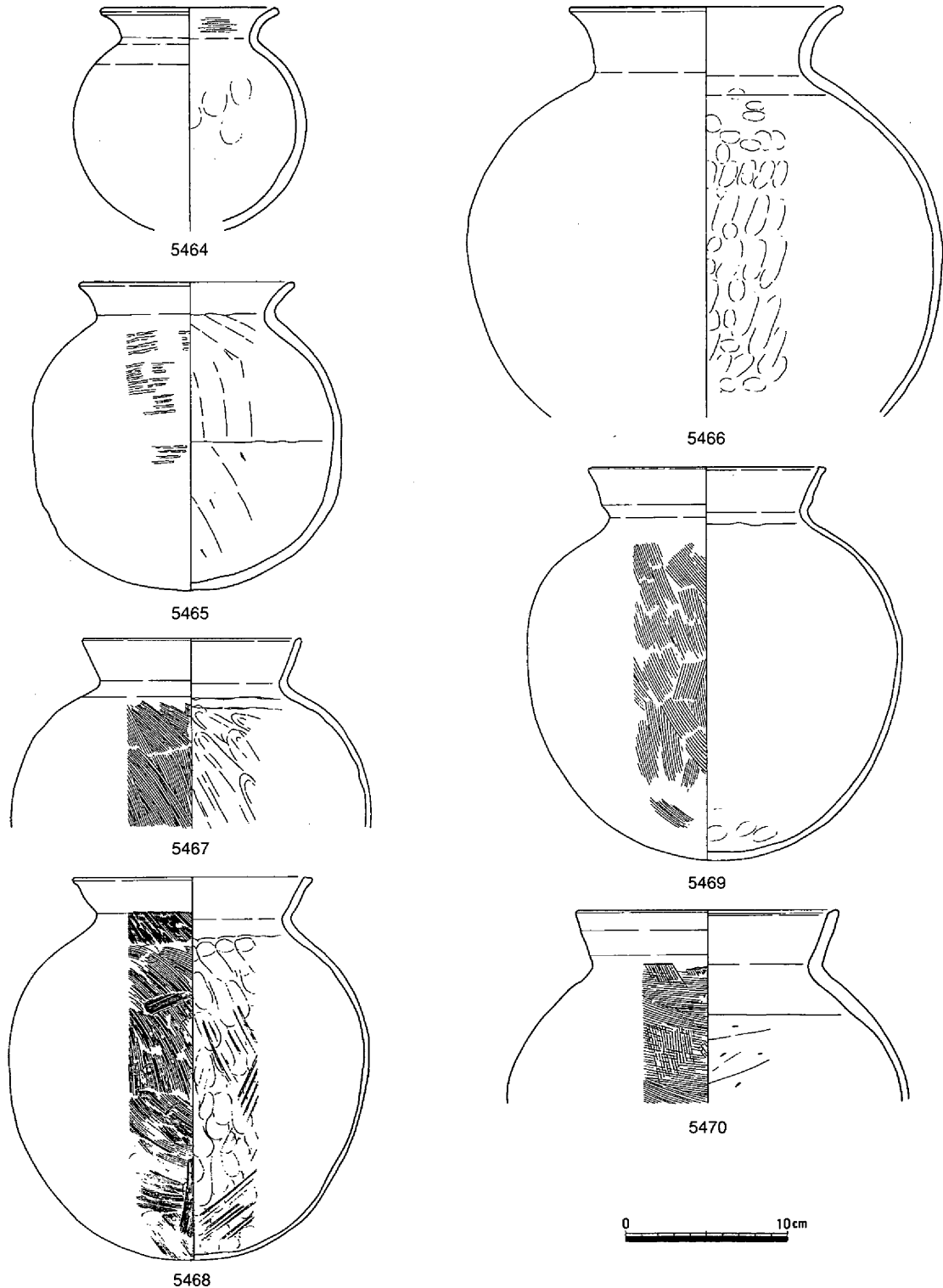


第1368図 河道7上層出土遺物① (1/4)



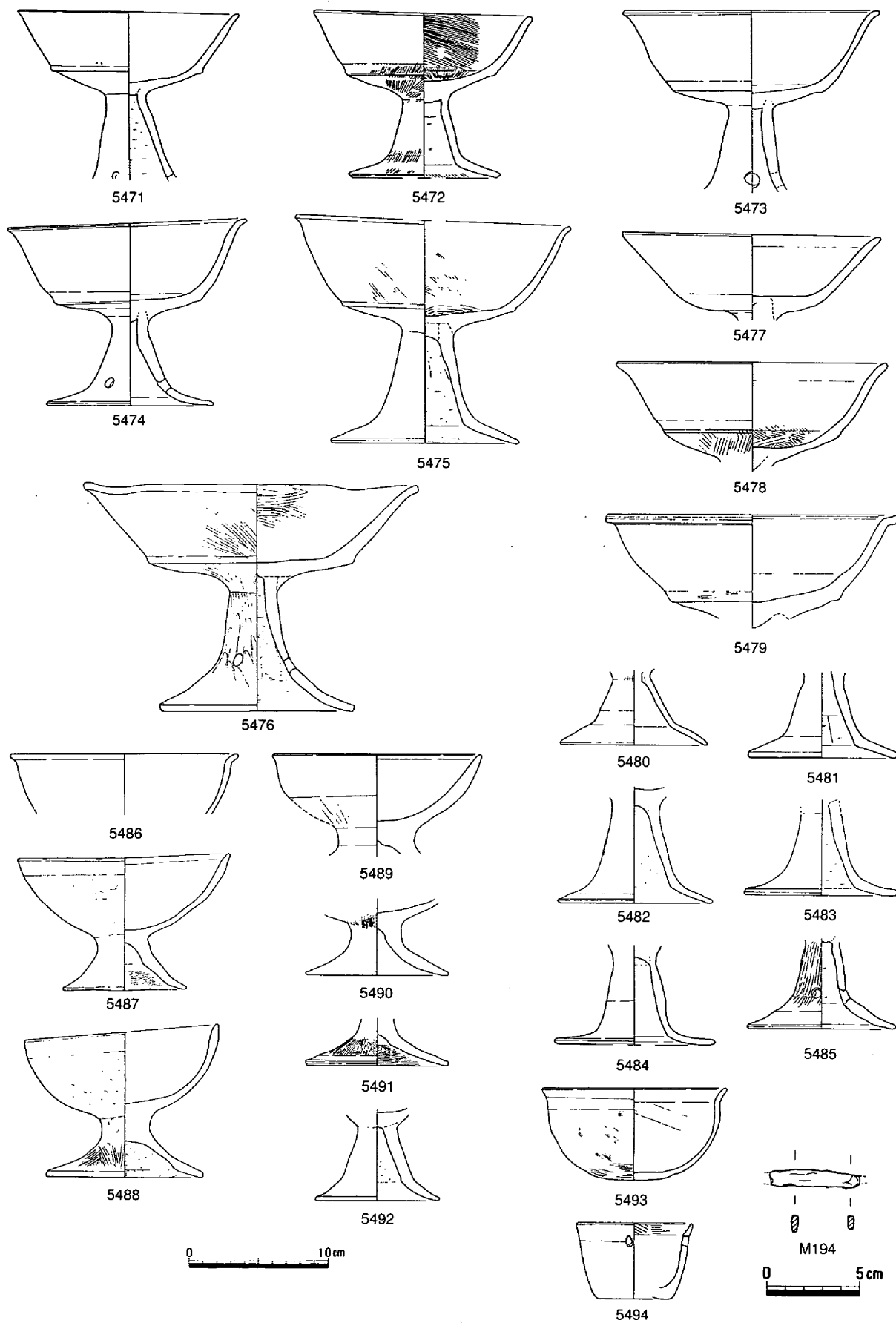
第1369図 河道7上層出土遺物② (1/4)

で、底面には穴が穿たれている。5455～5470は甕で、体部内面調整はケズリのもと指オサエ・ナデのものがある。体部形状は5460のように球形に近いものと5463のように下膨れで長いものがある。5471～5492は高杯、5493・5494は鉢である。第1372・1373図は出土層位が明確でない遺物である。5509は外面に格子目タタキが施されており、朝鮮系軟質土器であろう。5519の口縁部には補修痕がある。5531は平面形が長方形の皿状土器である。河道7出土土器の時期は古・中・Iが多い。(平井)

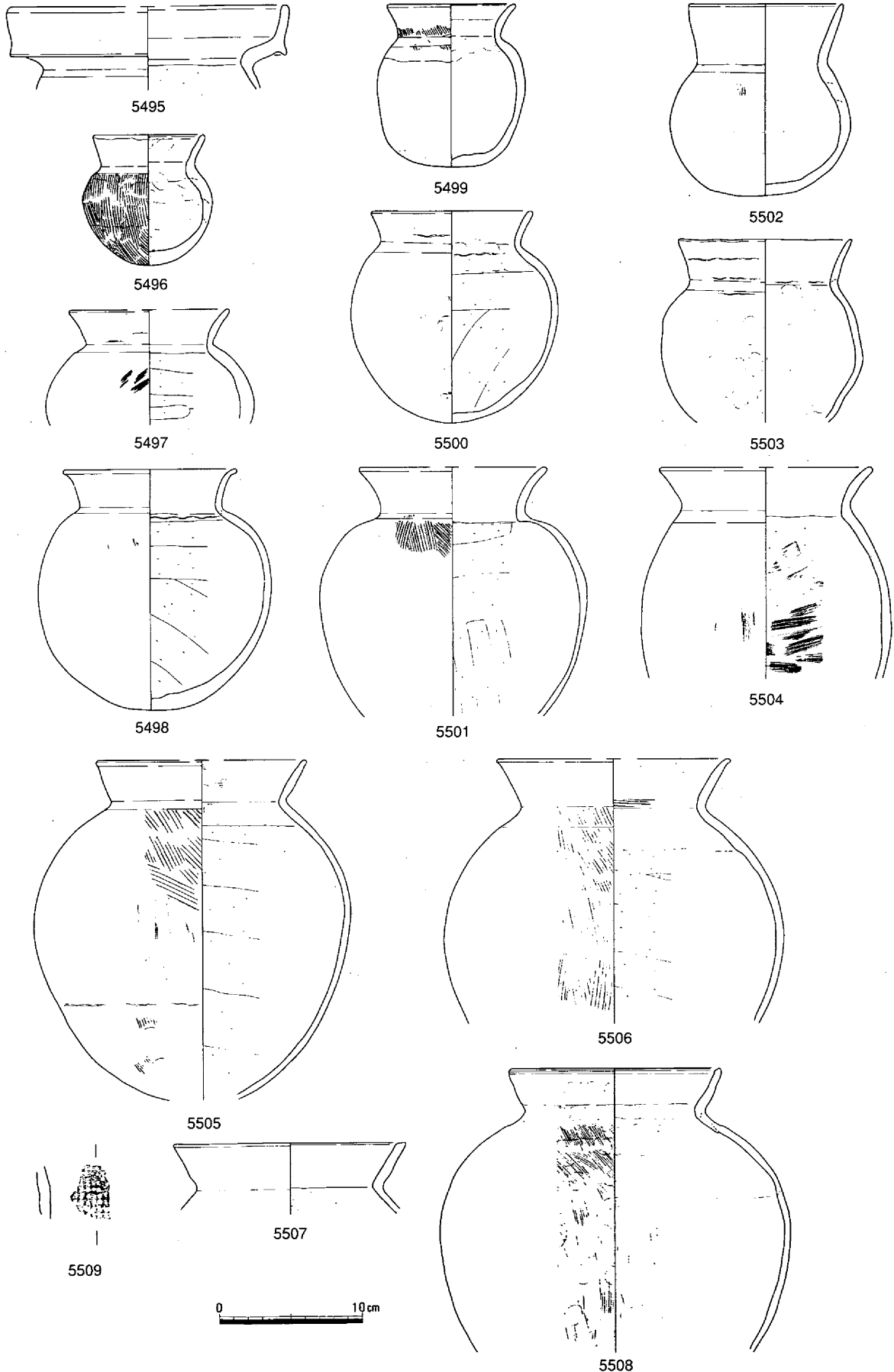


第1370図 河道7上層出土遺物③ (1/4)

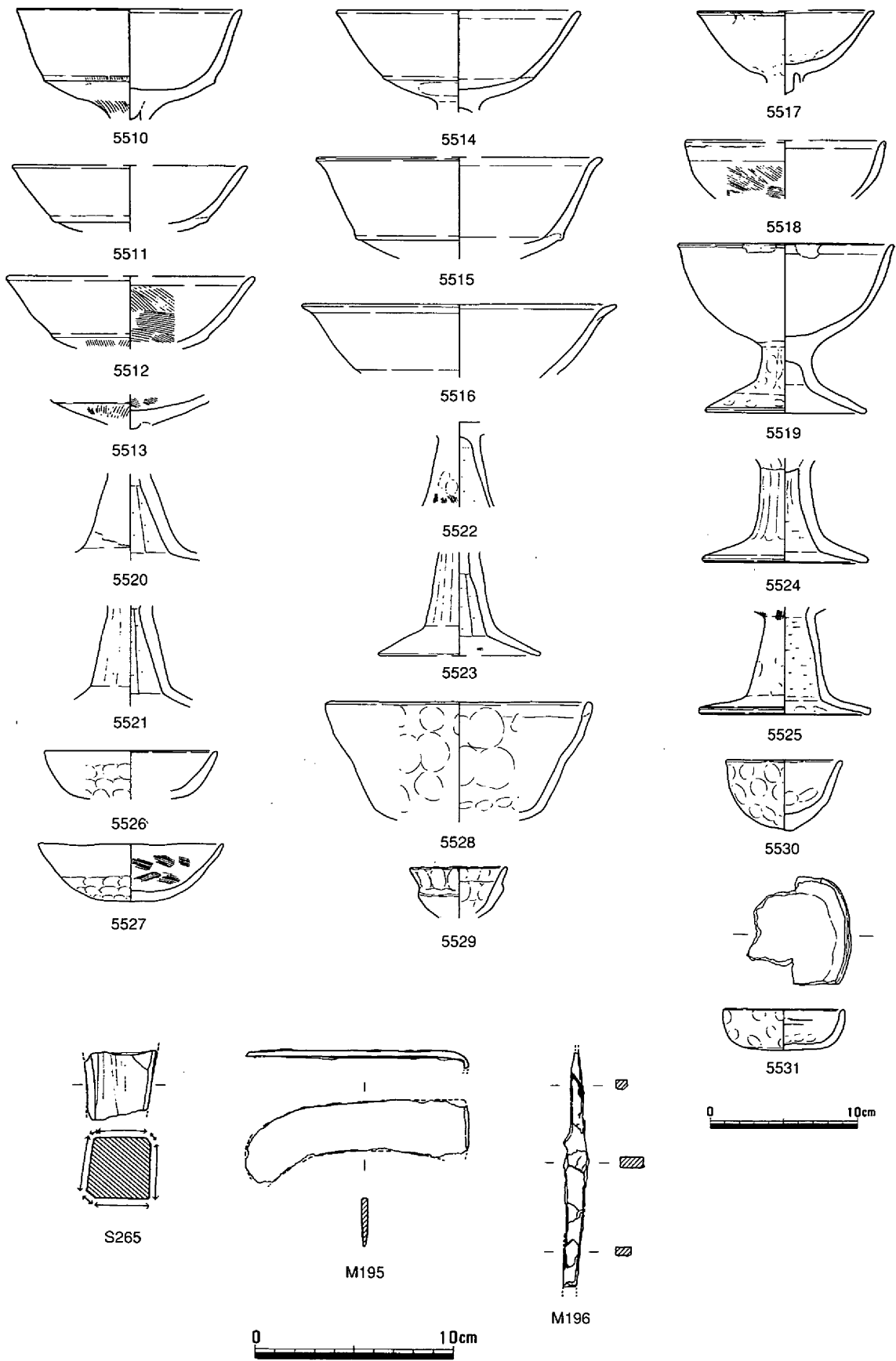




第1371図 河道7上層出土遺物④ (1/4,1/3)



第1372図 河道7出土遺物① (1/4)



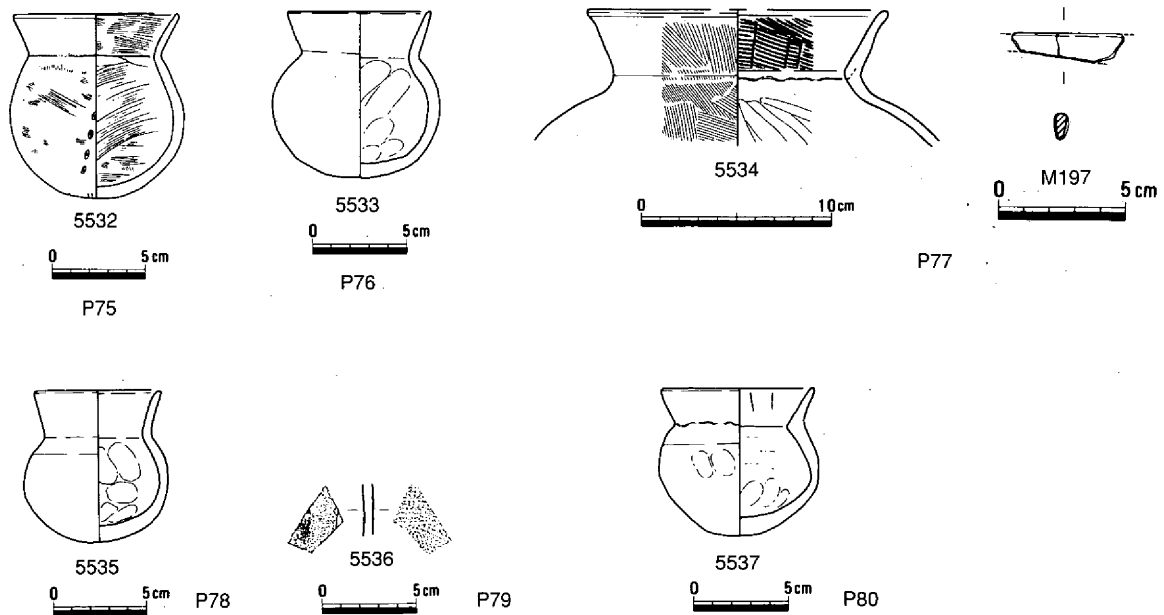
第1373図 河道7出土遺物② (1/4,1/3)

## (7) 柱穴

## 柱穴75～80 (第1374図、図版155・170)

検出された多くの柱穴のなかで、古墳時代に属する可能性を指摘できるものは非常に少ない。ここでは、埋土中の遺物をもとに、この時期と考えられる6本の柱穴を取り上げた。これらの位置関係や平面形態は、第1205・1206図に示している。いずれも古墳時代中期と思われる。

5532は柱穴75、5533は柱穴76、5534とM197は柱穴77、5535は柱穴78、5536は柱穴79、5537は柱穴80からの出土遺物である。土師器では甕・小形の丸底壺、須恵器では壺の小片を掲載している。5532の胴部内面はハケメ、5537はヘラケズリが施されるが、5533・5535・5534はユビナデやユビオサエのみである。5536は須恵器片で、縄蓆文が認められる。M197は刀子の茎と思われる。(柴田)



第1374図 柱穴75～80出土遺物 (1/4,1/3)

## (8) 遺構に伴わない遺物 (第1375～1383、図版165・168・170)

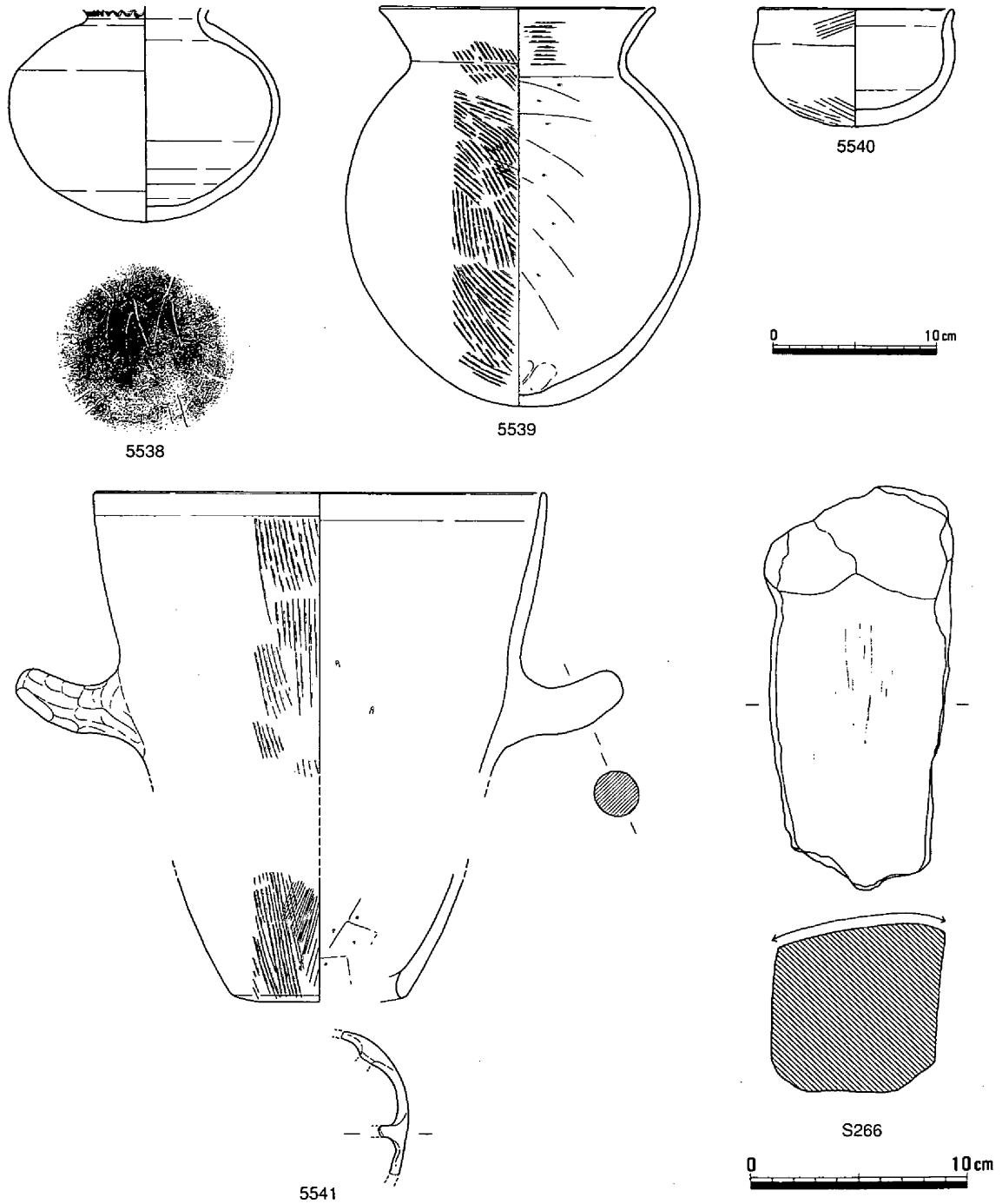
ここで取り上げたほとんどの遺物は、一部を除き遺構から遊離して出土したものの他に、調査の際に関係する遺構を特定できなかったもの、明らかに時期の異なる遺構に混入したと判断できたものなどである。ただし、土製品や金属製品については、その時期が明確でないものもあると思われる。

種別としては、土器125点、石製品2点、金属製品8点、土製品14点を掲載している。時期的には、古墳時代中期～後期と思われるものが多く、前期とされるものは比較的少ないようである。この点は、検出遺構の数量とも関連していると考えられる。

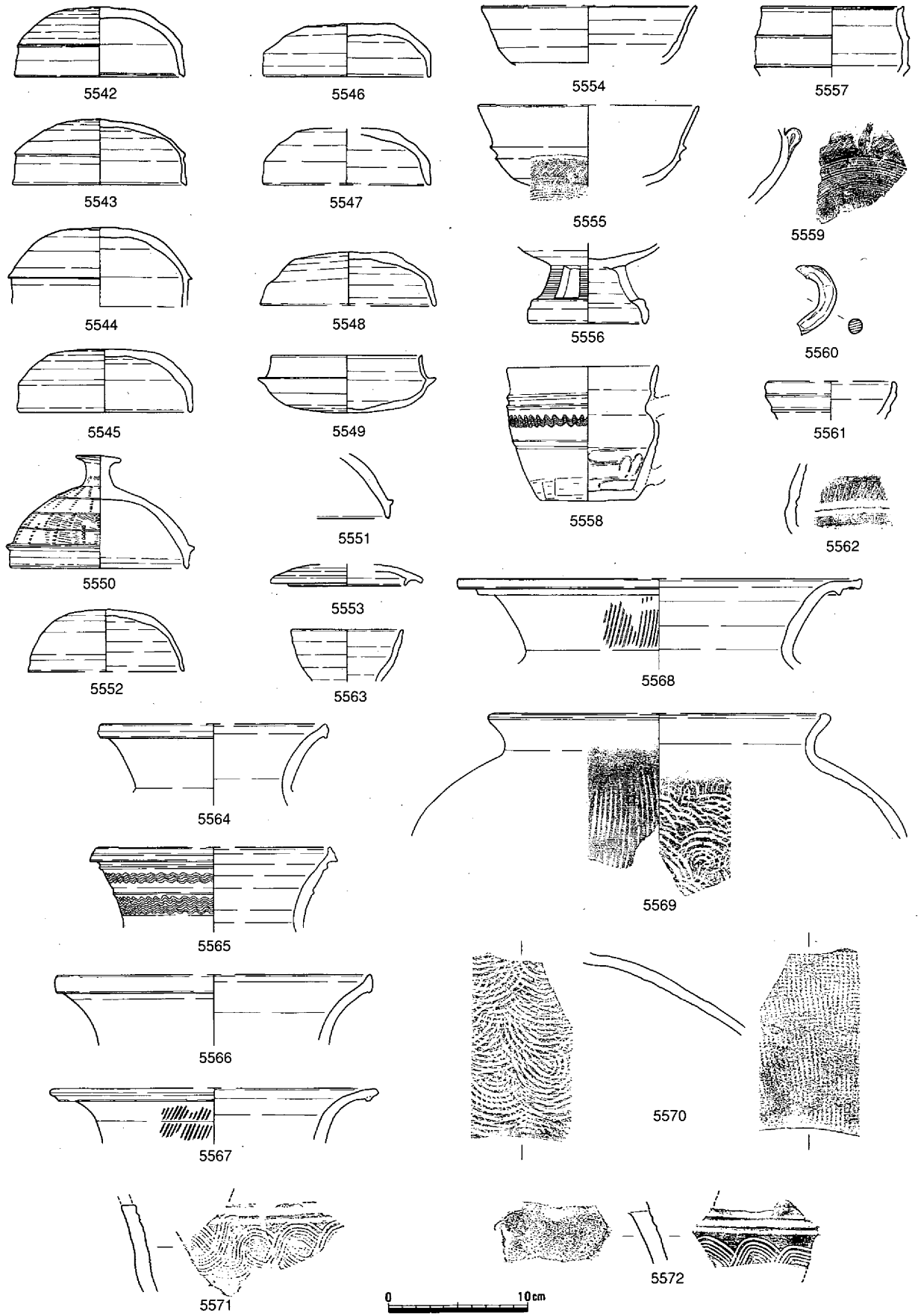
第1375図の5538～5541とS266は、竪穴住居144の西方約10mに位置する焼土面に伴って出土したものである(第1204図参照)。東西2面の焼土面の内、東は最大長120cm、西は160cmを測る。検出した海拔高は、東578cm、西563cmである。西の方には炭化材も認められ、遺物はこれに伴っている。須恵器5538以外は焼土面上からの出土である。この焼土面は、竪穴住居の一部である可能性も考えられる。

が、周辺の住居の床面よりかなり高く、住居の検出面前後の高さである。こうした状況から、断言を控え、あえてここで報告した。

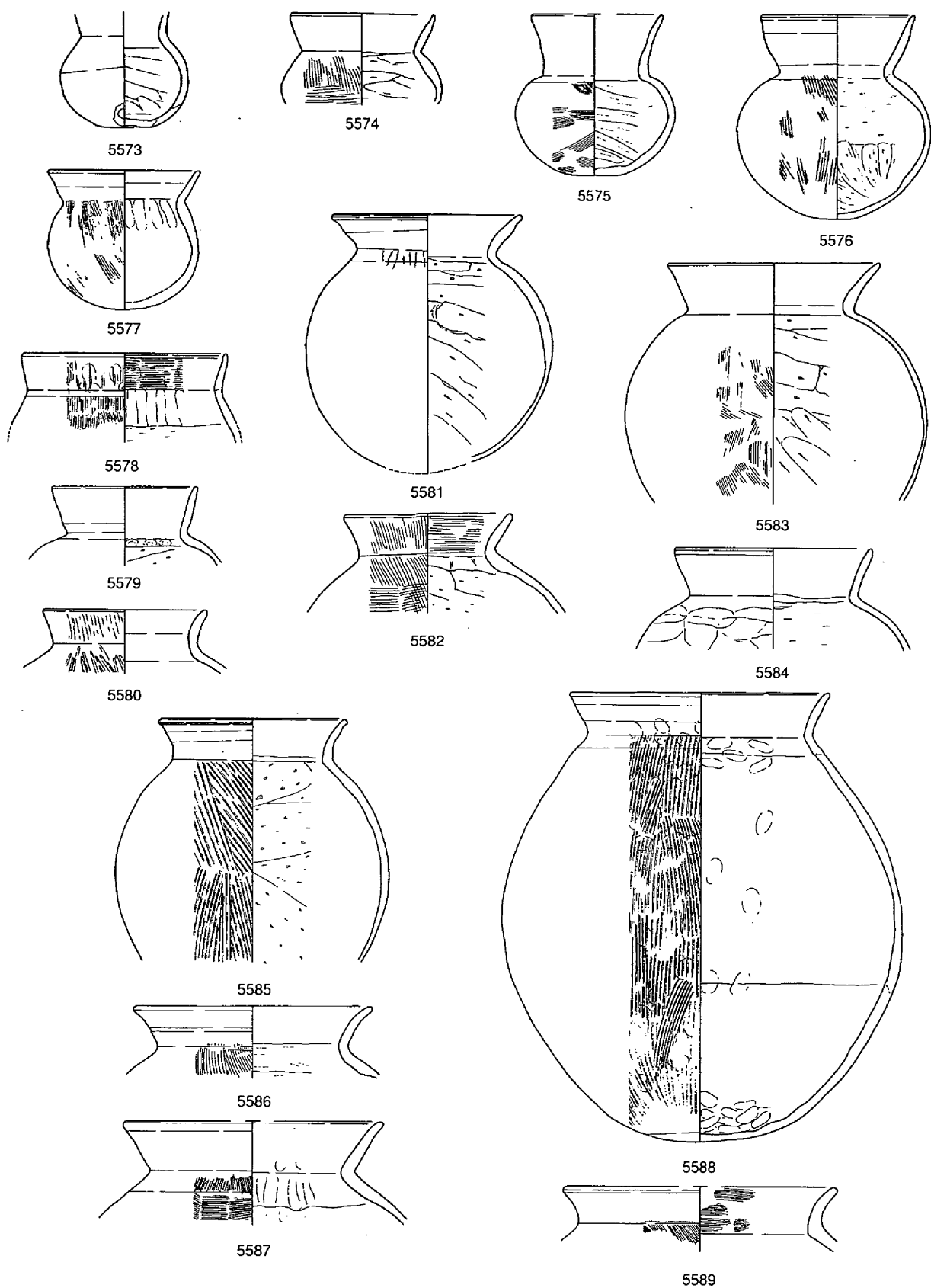
5538は須恵器の直口壺で、頸部にクシガキ波状紋が施され、底部にはヘラ記号が認められる。5539は土師器の甕で、口縁部はわずかに外反してのび、胴部は卵形である。胴部内面は、底部を除きヘラケズリが施される。5540は土師器の鉢で、口縁部が外方へ短くのびる。5541は把手付甌で、外面はハケメ、内面はヘラケズリが認められる。S 266は流紋岩製の砥石で、使用面は1面あり、擦痕が確認される。



第1375図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）① (1/4,1/3)



第1376図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）②（1/4）

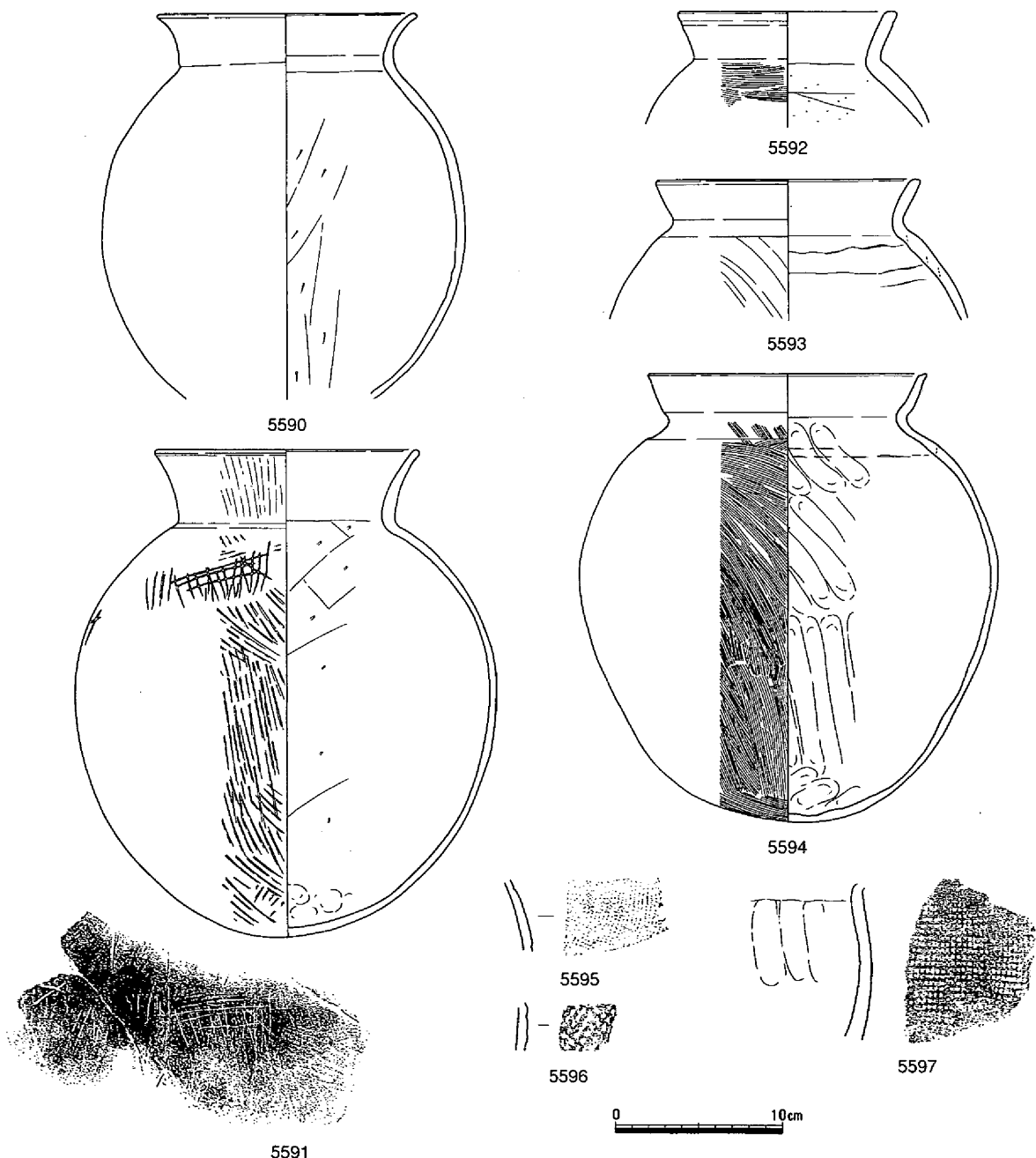


第1377図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）③（1/4）

土器 (第1376~1382図)

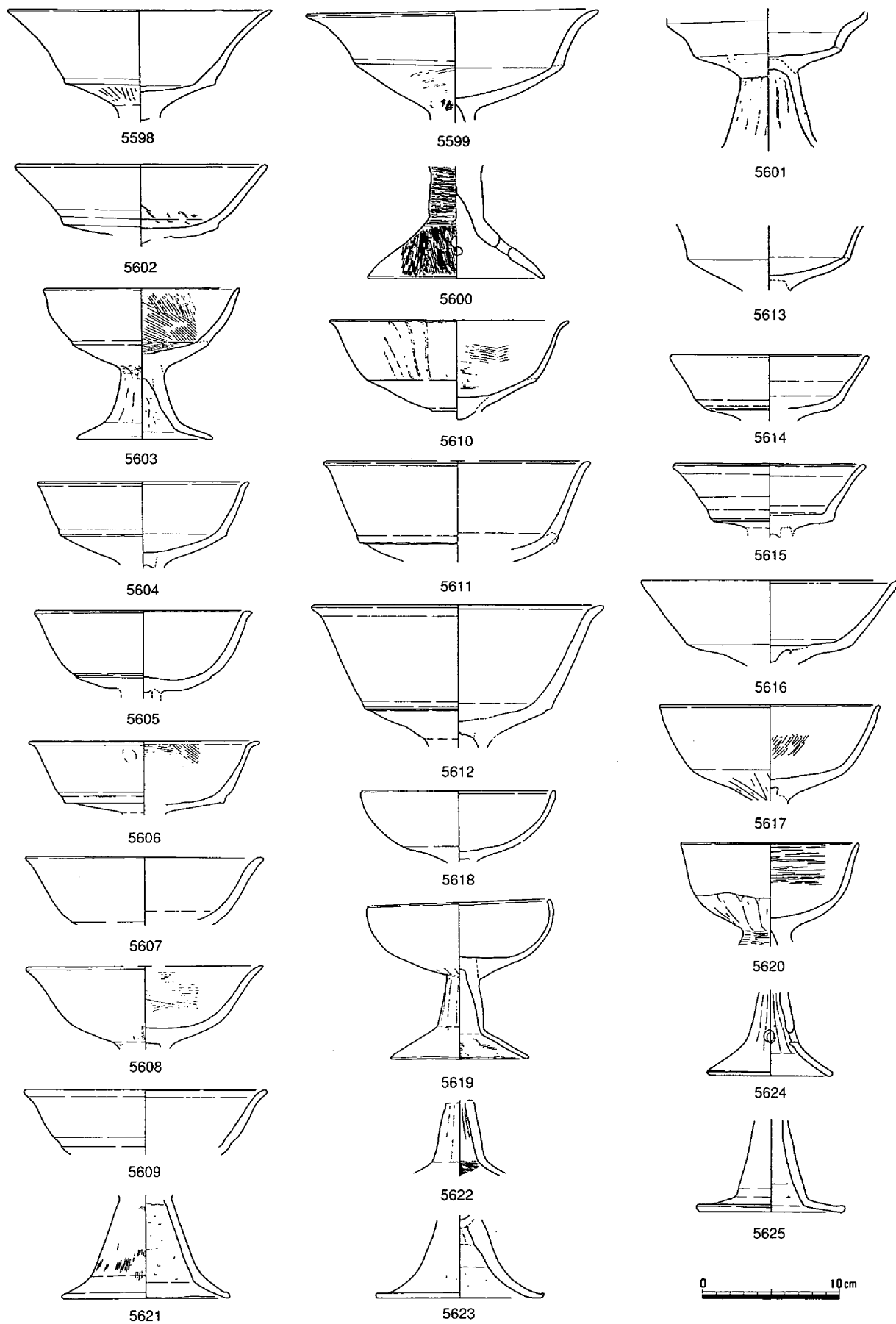
掲載した須恵器は、杯蓋・杯・高杯 (蓋)・把手付鉢・甗・壺 (蓋)・甕・器台等がある。

5542~5544は口縁部の立ち上がりが高い。口縁端部は内傾面を形成し、稜はやや鈍い。5545~5548の口縁端部は丸くおさめている。5550は新羅系の蓋である。胎土中に大きな砂粒は少ないが、細かなものは多い。天井部は丸みを帯び、稜は突出する。端部は丸くおさめられ、鋭さはない。ハケメの後ナデを行い、3条の浅い沈線を描いてから刺突紋を施している。5551には紋様は認められない。5554・5555の高杯は、口縁部が斜め上方にのびる。後者は稜が比較的鋭く、波状紋が施されている。底部外面はカキメが認められる。甕には、口縁部が上下に拡張する5564~5566と、丸くおさまる5567がある。後者は端部付近に突帯が施されている。5571・5572は器台の脚部片である。いずれも組紐紋が施



第1378図 遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ④ (1/4)





第1379図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）⑤（1/4）

され、三角形ないしは台形の透かしは千鳥状に配置されている。2条の突帯は退化している。

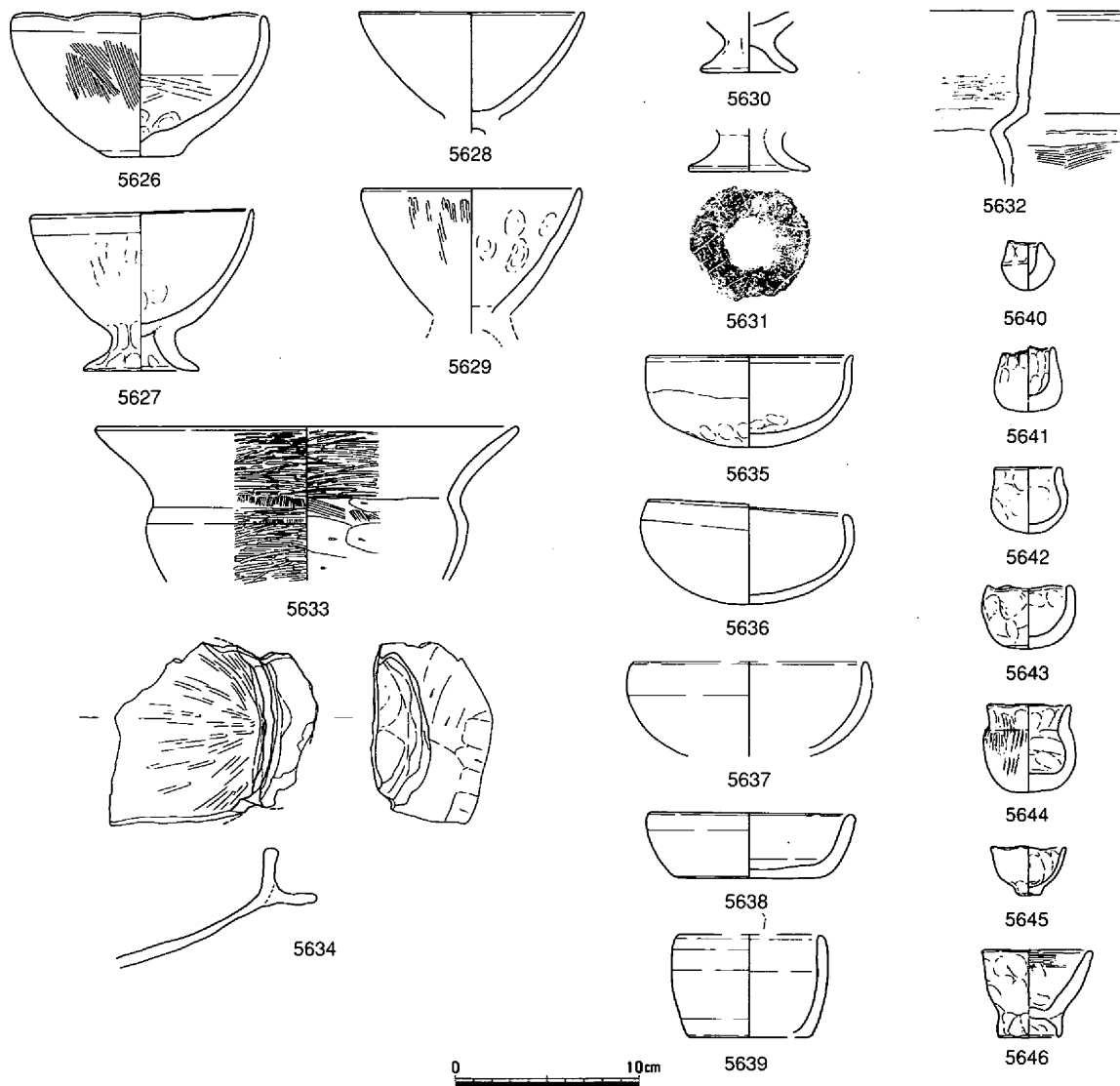
掲載した土師器・軟質土器は、壺・甕・高杯・鉢・台付鉢・甑・手捏ね土器等がある。

5573～5594は小形壺や甕で、前者は胴部が球形、後者は胴長である。内面はヘラケズリが多いが、ユビナデのものもある。5591は肩部に線刻が認められる。5595～5597は軟質土器で、格子タタキが施される。高杯には、口縁部が外反するもの5598・5599、内湾して端部が外反するもの5603～5612、杯部が椀状のもの5618・5619などがある。前二者は稜の形状でも分類される。甑には、1孔のもの5647、円形孔を配するもの5649・5651、小さい円形孔のみで構成するもの5650、楕円形孔のもの5648・5653などがある。5649は口縁部外面にヘラ記号が認められる。把手の形状もさまざまである。

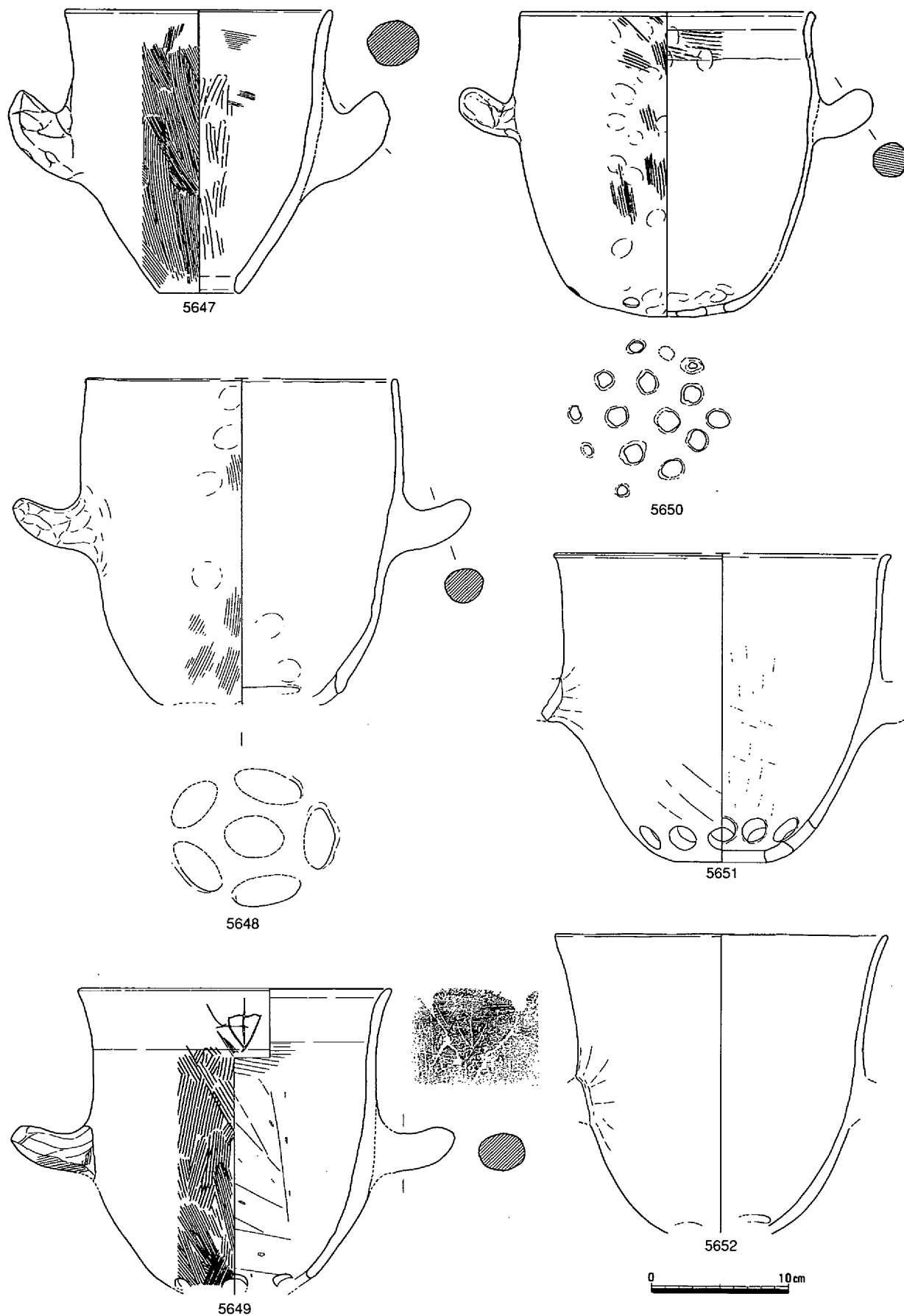
石製品・金属製品・土製品 (第1383図)

掲載した石製品は2点、金属製品は8点、土製品は14点である。

S 267は滑石製で、最大径28mmの有孔円盤である。中央に径3mmの小孔が開けられている。S 268は蛇紋岩製の双孔円盤で、最大径は30mmを測り、径2.2mmの小孔が施されている。表面には一定方向の



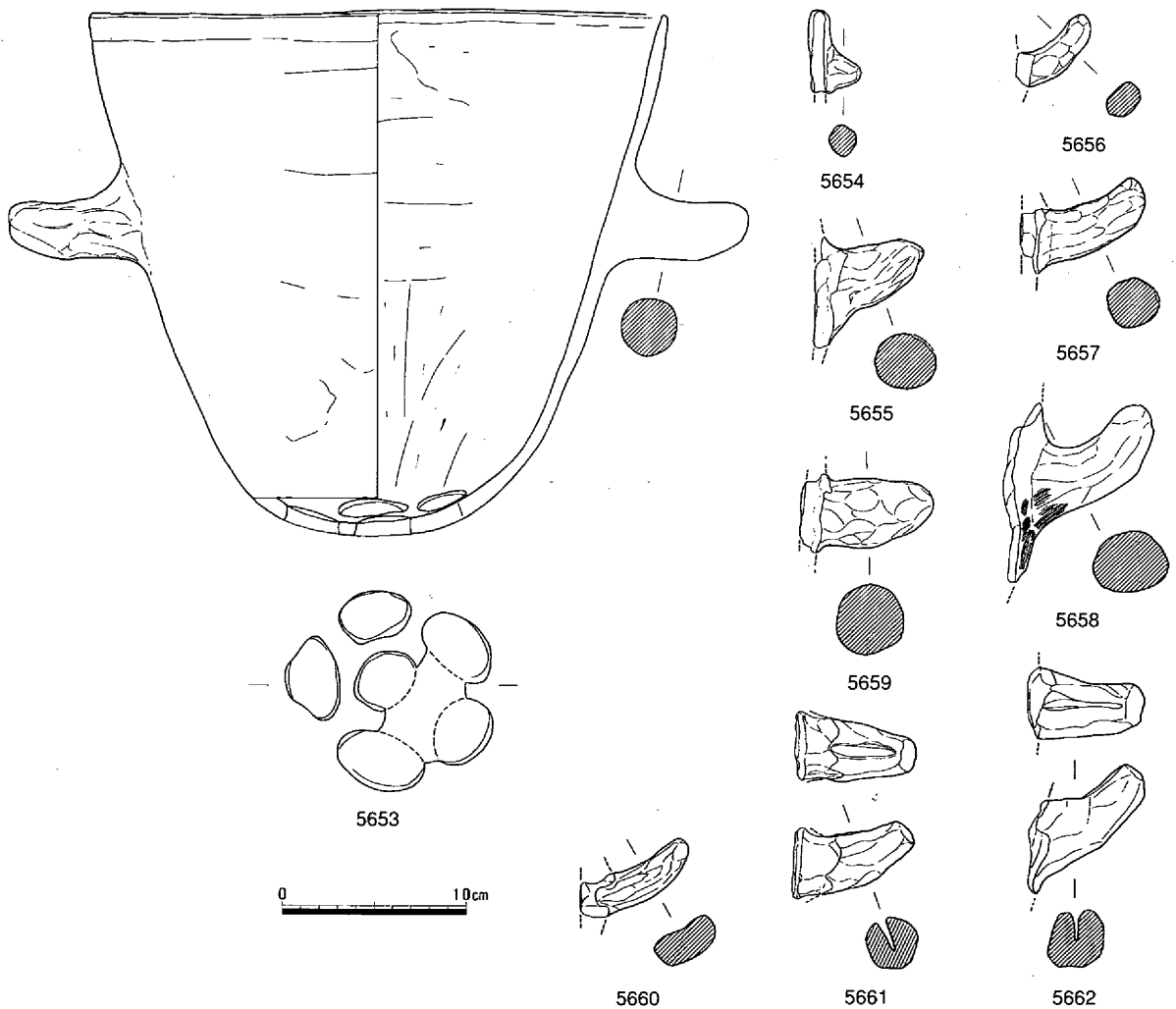
第1380図 遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ⑥ (1/4)



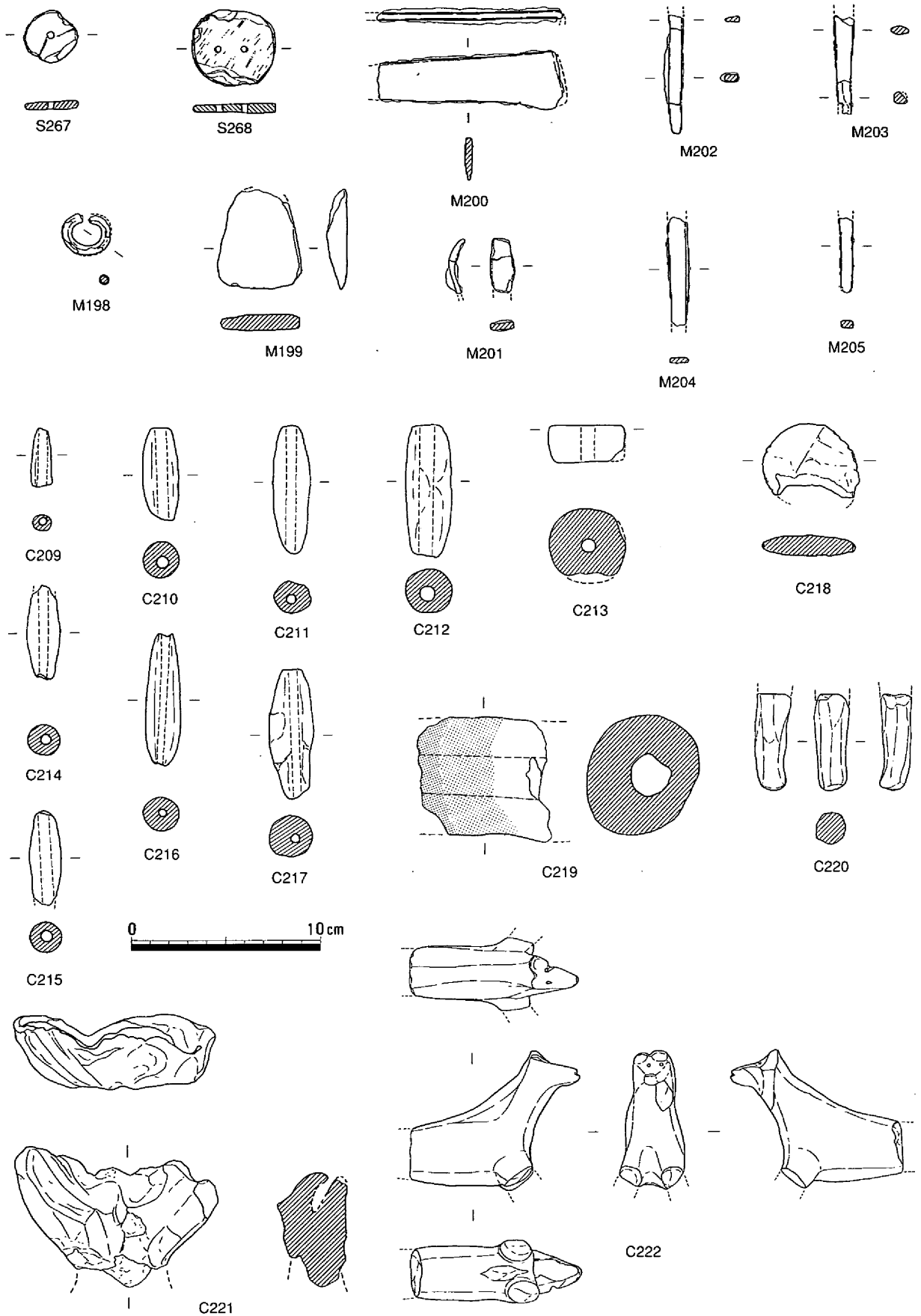
第1381図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）⑦ (1/4)

擦痕が認められる。

M198は外径25mmの耳環で、銅芯が径5mmの銀張りである。M199は欠損部分が多いが、鉄斧の刃部である。M200は曲刃鎌と思われる。着柄部分が幅広になり、装着角度は90度に近い。M201は、厚さ6mmの板状の鉄片で、湾曲しているが、器種は不明である。M202・M204・M205は器種は不明であるが、断面が扁平で茎部分と思われる。M203も茎部分と思われるが、断面は上部が楕円形、下部は方形である。C209～217は管状土錘であるが、C209～216はやや歪な紡錘形を呈し、C217は円筒形である。C209は最大径11mmと小形で、C210～212は長さ50mm程度、最大径11mmを測る。C213～216は長さ70mm程度、最大径18～24.5mmでやや大きい。C217は長さ20mmで扁平である。C218は最大径50mm、厚さ11mmの円盤形土製品である。部分的であるが、周縁に刻目が施されている。C219は羽口の先端部分である。外径は68mm、送風孔は径21mmを測る。C220は、胎土中に粗砂や礫が認められる。上面は膨らみを有するが、下面は比較的平らである。C221は動物形土製品の脚部と思われ、下端はわずかに屈曲している。胎土中には砂粒や雲母片が多い。C222は動物形土製品で、胎土中の砂粒は少ない。耳は頭頂部に並んでおり、前方へ向いている。後頭部から背部にかけては、ナデにより面を形成している。これらの点から、犬などを表現した可能性があると思われる。(柴田)



第1382図 遺構に伴わない遺物 (古墳時代) ⑧ (1/4)



第1383図 遺構に伴わない遺物（古墳時代）⑨（1/3）

## 4 古代～中世の遺構と遺物

## (1) 概要

古代から中世にかけての当調査区は遺構密度が調査区西方に高く、東に希薄になる傾向が認められた。西半部では掘立柱建物を中心として遺構の広がりが認められた。東半部においても掘立柱建物が皆無だったとは思えないが復元するにはいたらなかった。しかしながら東半部では南北に河道を検出しており、全体的に遺構が少ない古代にあって、南部の河道からは豊富な古代遺物が出土している。

検出された主な遺構は掘立柱建物22棟、土壇墓18基、井戸1基、土壇27基、溝7条、窪地3か所、河道2などある。このうち古代の遺構は掘立柱建物4棟、土壇墓1、土壇5基など、中世に比べ希薄な状況が確認された。調査区西半部中央付近に建物群が所在する一方、調査区東部から火葬墓が検出されるなど、当時の遺構立地の一端を示しているように思われた。

中世の遺構は西半部の掘立柱建物を中心に、その周囲に土壇墓が大きく2か所にまとまって検出されており、青白磁の合子および銅鏡を副葬するもの、烏帽子が出土したものなどがみられ、また、下部に曲物を設置する木組みの井戸など興味深い遺構遺物が見つまっている。(江見)

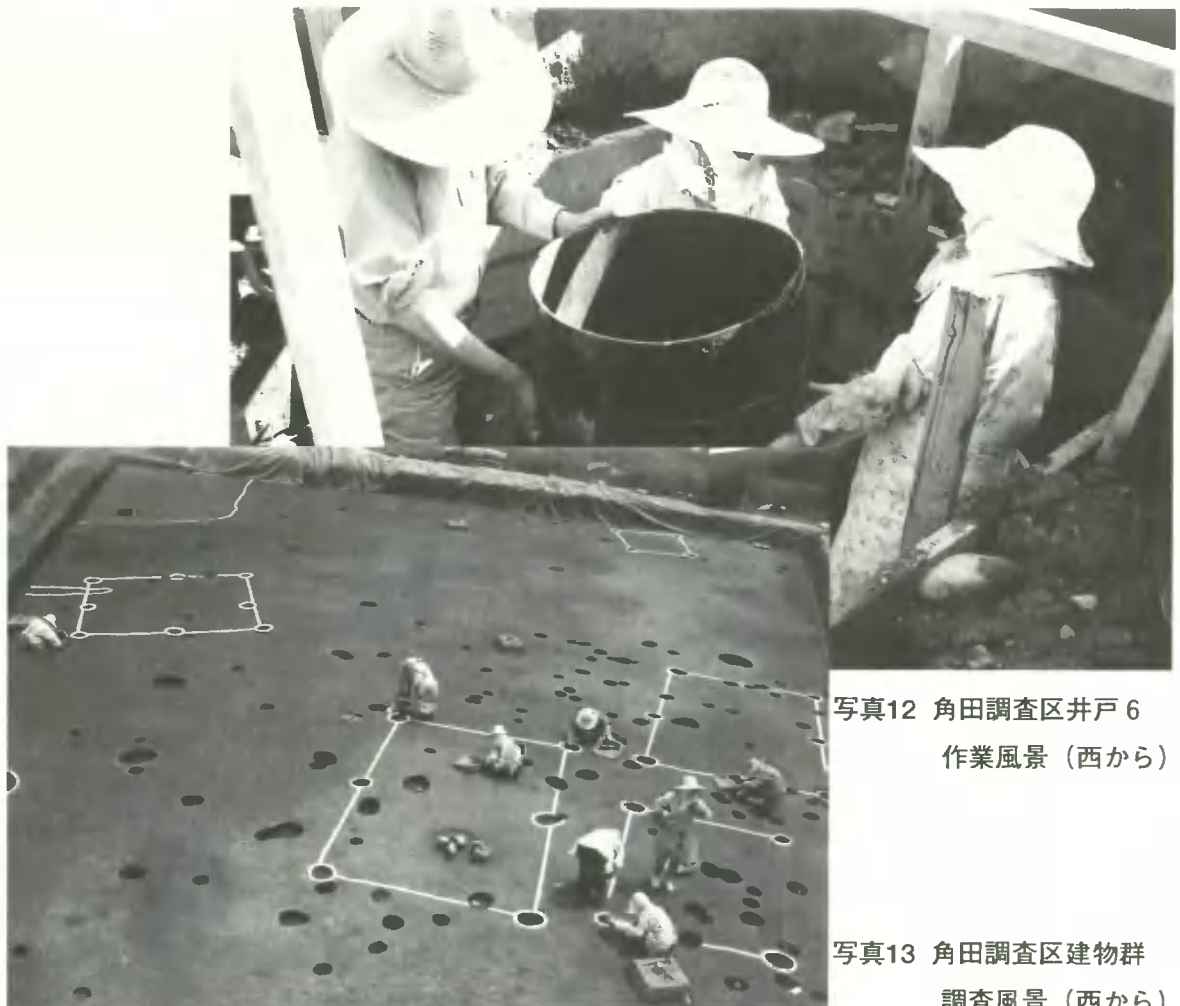
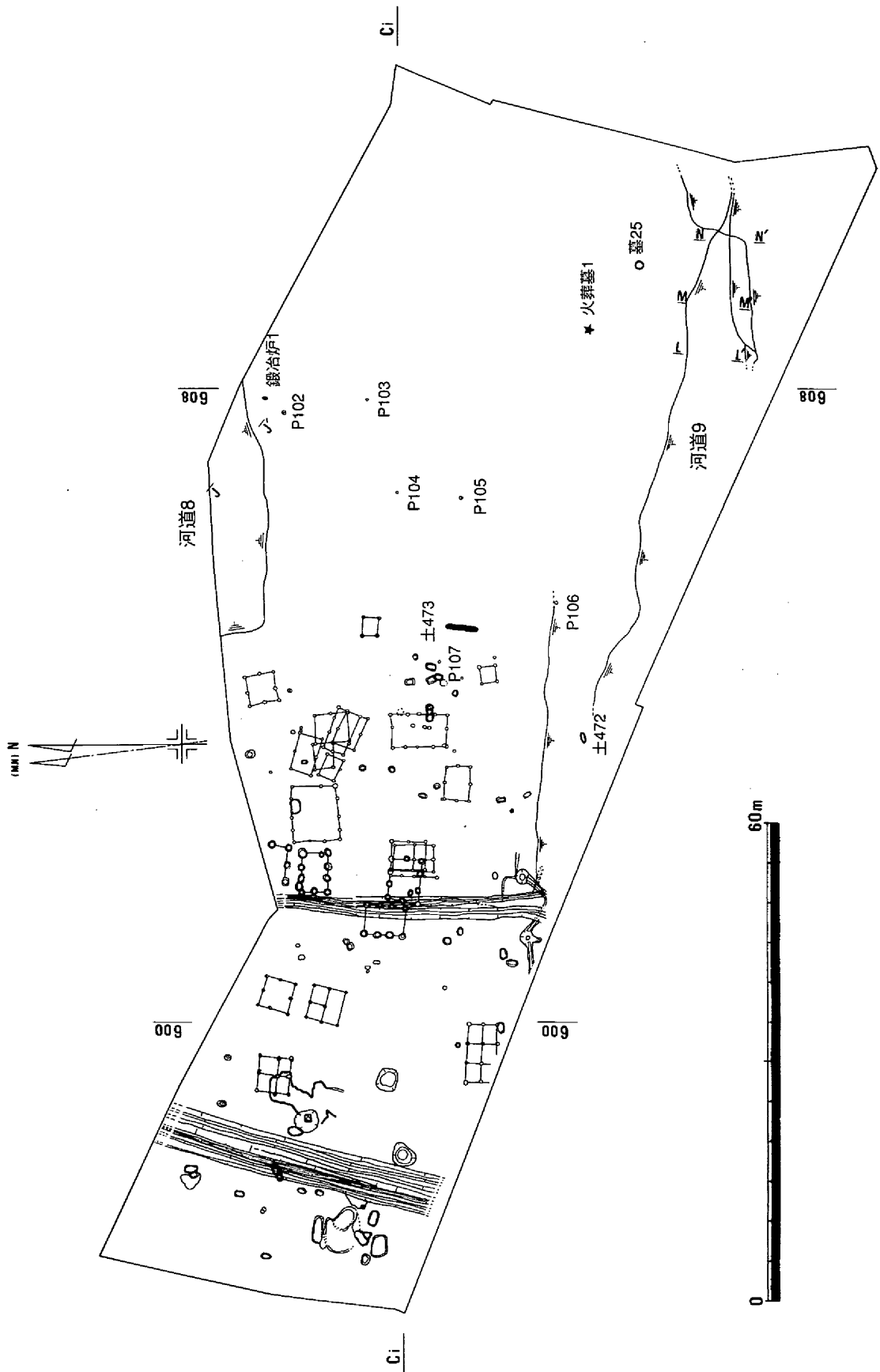
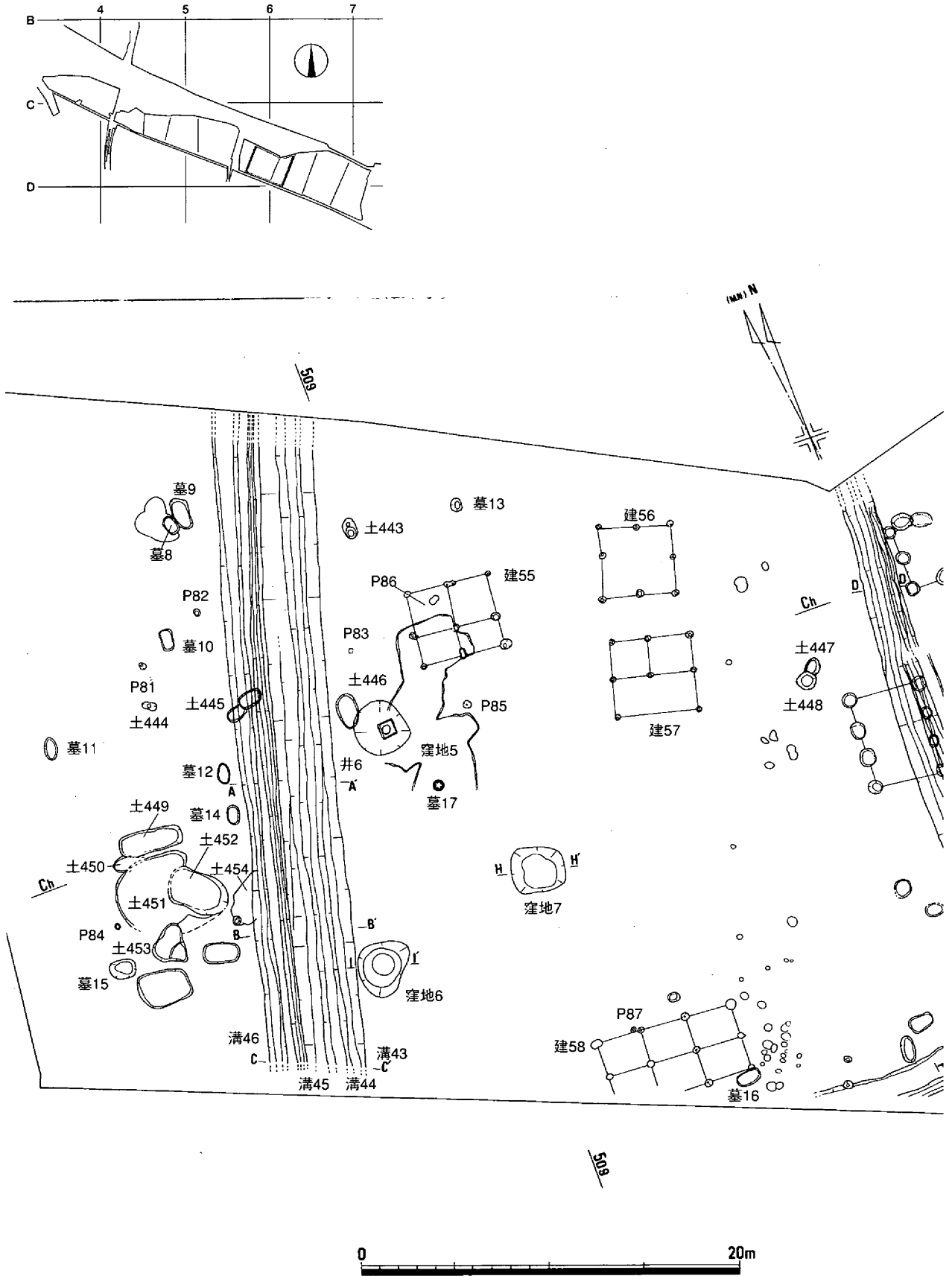


写真12 角田調査区井戸6  
作業風景（西から）

写真13 角田調査区建物群  
調査風景（西から）

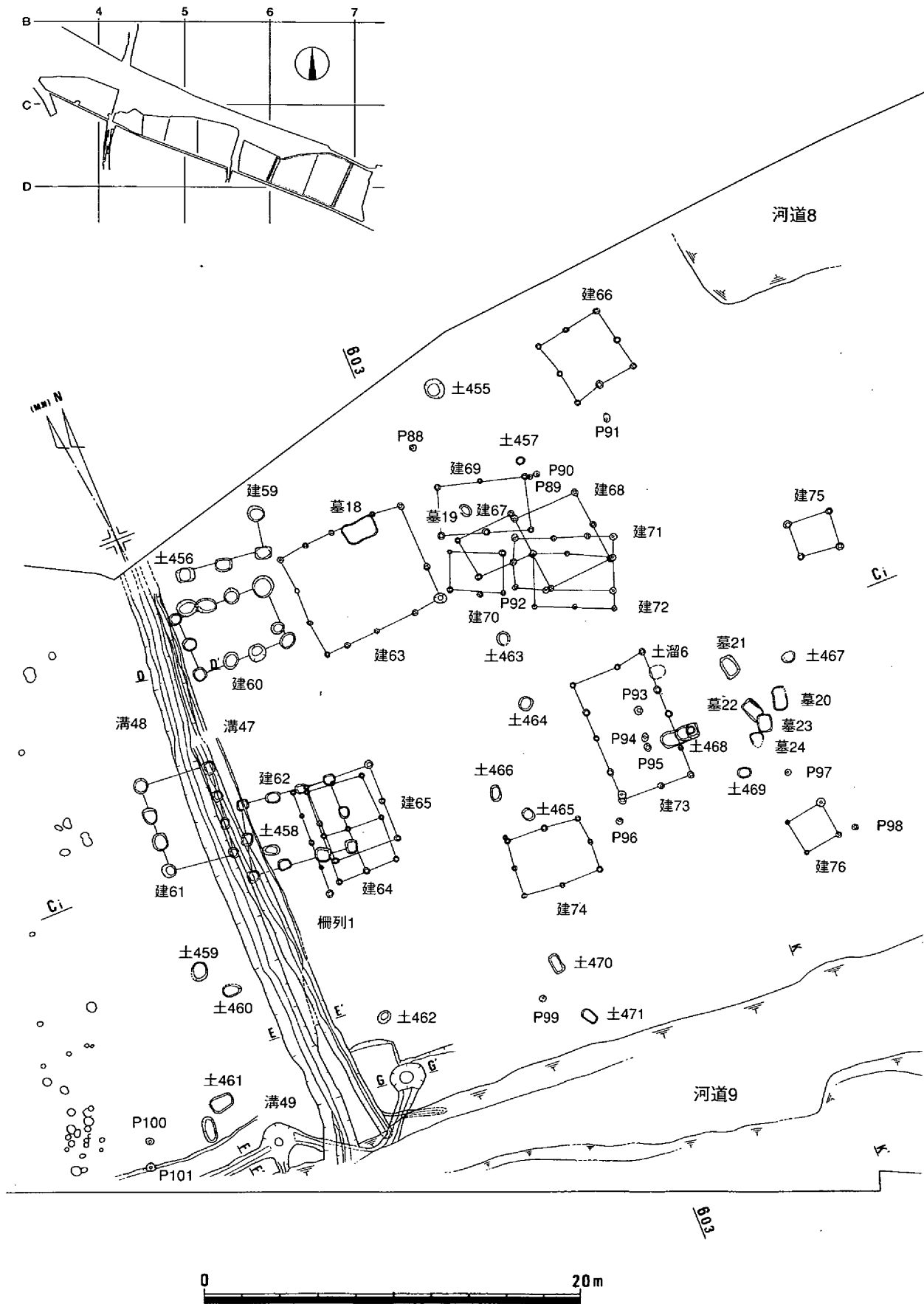


第1384図 角田調査区古代～中世主要遺構全体図 (1/750)



第1385図 角田調査区古代~中世主要遺構部分図① (1/300)





第1386図 角田調査区古代～中世主要遺構部分図② (1/300)

## (2) 掘立柱建物

### 掘立柱建物55 (第1385・1387図)

Cg509区で検出したほぼ正方形の建物である。間数は、 $2 \times 2$ 間である。しかし、南側の柱間は、北よりも狭い。桁行は440~448cm、梁間は397~402cm、棟方向は $N-76^{\circ}-W$ を指している。

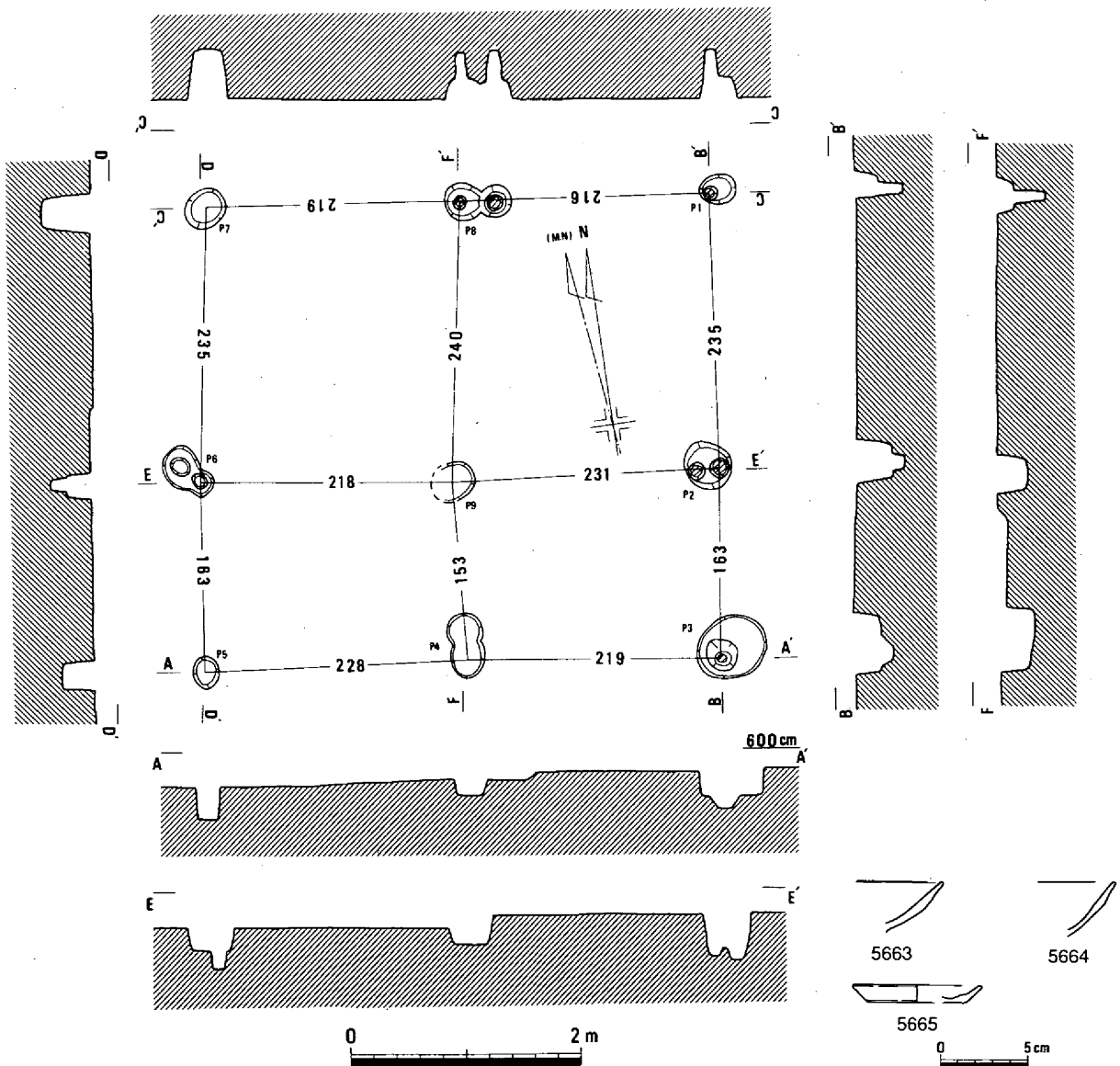
柱穴から出土した遺物は、3点の土師器である。5663は椀で、口径も器高も推定できないほどの口縁部細片である。5664も同じような椀の細片である。5665は小皿である。

柱穴埋土の色調と遺物から、この建物の時期は鎌倉時代に属する。

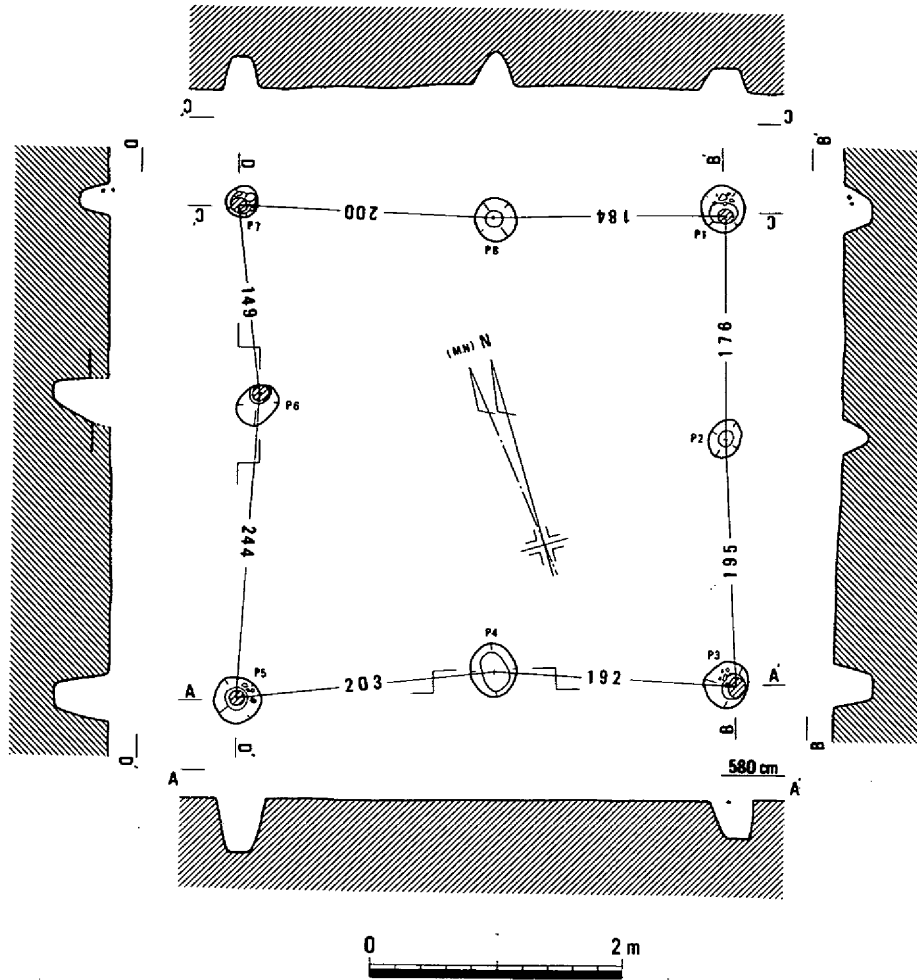
(浅倉)

### 掘立柱建物56 (第1385・1388図)

Cg600区で検出したほぼ正方形の建物である。建物55の東5mの所にほぼ同じ棟方向で建ってい



第1387図 掘立柱建物55 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第1388図 掘立柱建物56 (1/60)

る。間数は、 $2 \times 2$  間である。桁行は390~396cm、梁間は373~393cm、棟方向は $N-67^{\circ}-W$ を指している。

遺物はないが、柱穴埋土の色調から、この建物の時期は中世と考えられる。(浅倉)

**掘立柱建物57** (第1385・1389図、図版74)

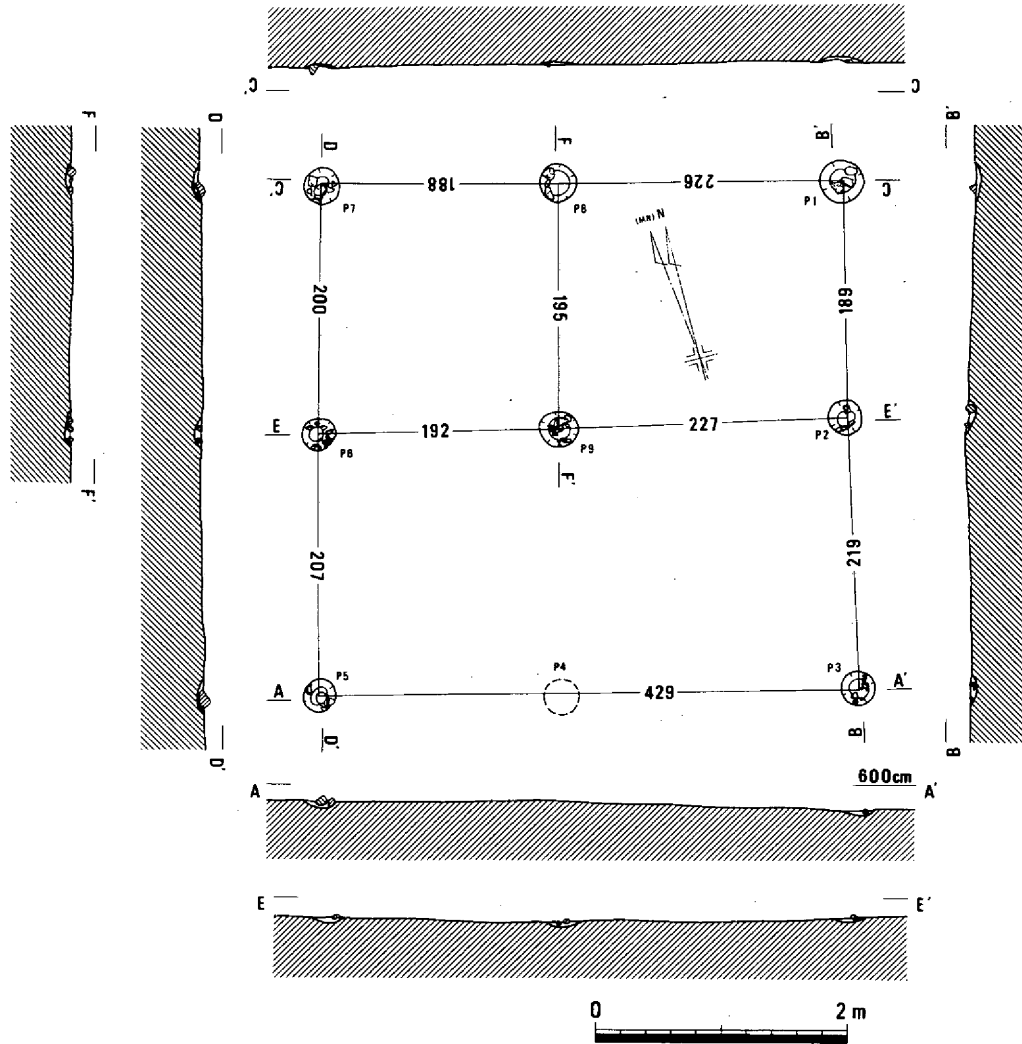
Ch600区で検出したほぼ正方形の建物である。建物56の南2mの所にほぼ同じ棟方向で建っている。間数は、 $2 \times 2$  間である。桁行は411~429cm、梁間は404~408cm、棟方向は $N-69^{\circ}-W$ を指している。南列の中央柱穴は、精査したにもかかわらず検出できなかった。また、柱穴の中には柱根を支えるために、小石を数個入れているものがほとんどである。

遺物はないが、柱穴埋土の色調から、この建物の時期は中世と考えられる。(浅倉)

**掘立柱建物58** (第1385・1390図、図版160)

Cj509区北端で検出した東西に長い長方形の建物である。建物57の南16mの所にほぼ同じ棟方向で建っている。間数は、 $3 \times 2$  間である。桁行は727~730cm、梁間は357~376cm、棟方向は $N-70^{\circ}-W$ を指している。南列の西端柱穴は、調査区外のため検出できなかった。また、柱穴の中には柱痕が認められるものもある。

柱穴から出た遺物としては土師器が2点ある。5666は、椀の高台部分である。底径は、6.0cmを測



第1389図 掘立柱建物57 (1/60)

る。体部下半には指頭圧痕が残っている。5667は、小皿である。底部外面にはヘラキリ後に板目がついている。

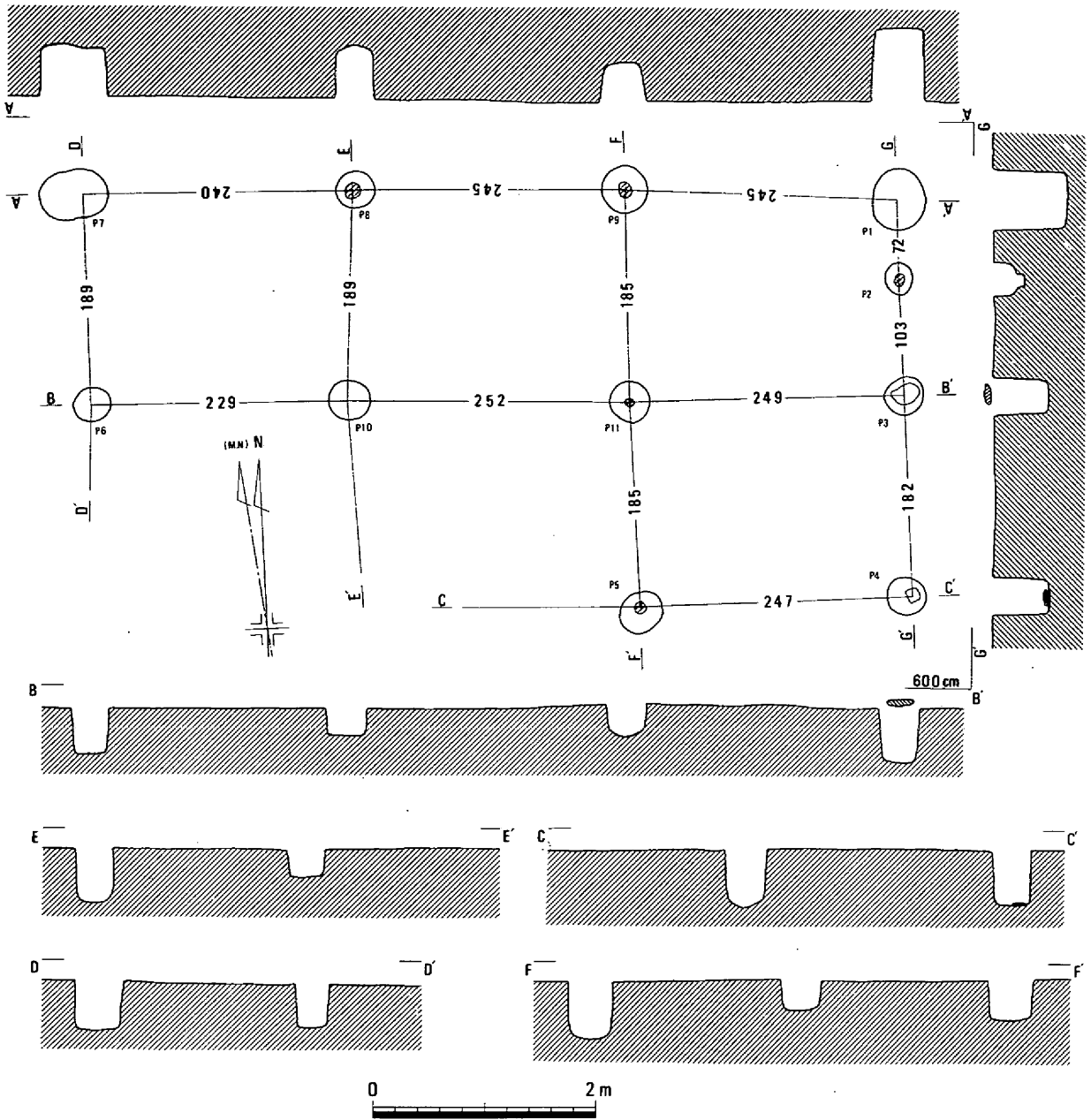
遺物と柱穴埋土の色調から、この建物の時期は鎌倉時代と考えられる。(浅倉)

**掘立柱建物59** (第1386・1391図、図版75)

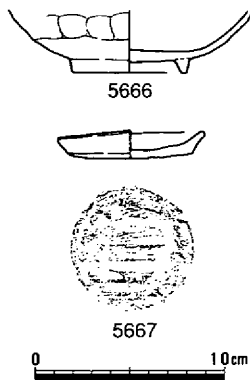
この建物は掘立柱建物60・63の北に位置する。現状では2×1間の掘立柱建物で、主軸はN-17°-Eである。規模は桁行が428cm、柱間距離は207~221cmを測る。梁間は205cm、柱間距離は205cmである。掘り方は円形と隅丸方形で、深さは40~50cmを測り、径25~30cmの柱痕跡が確認された。なお、遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて古代の時期に属する可能性がある。(松本)

**掘立柱建物60** (第1386・1392図)

この建物は掘立柱建物63の西隣に位置する3×2間の掘立柱建物で、主軸はN-8°-Eである。規模は桁行が507cm、柱間距離が135~197cmを測る。梁間は354cm、柱間距離は178~322cmである。掘り方の平面形は円形ないし隅丸方形で、深さは20~50cmを測り、径20~30cmの柱痕跡が一部の柱穴において確認されている。建物の時期を示す遺物は出土していないが、遺構の検出レベル、柱の掘り方、規模等からみて、古代の時期に属する可能性がある遺構である。(松本)



第1390図 掘立柱建物58 (1/60)・出土遺物 (1/4)

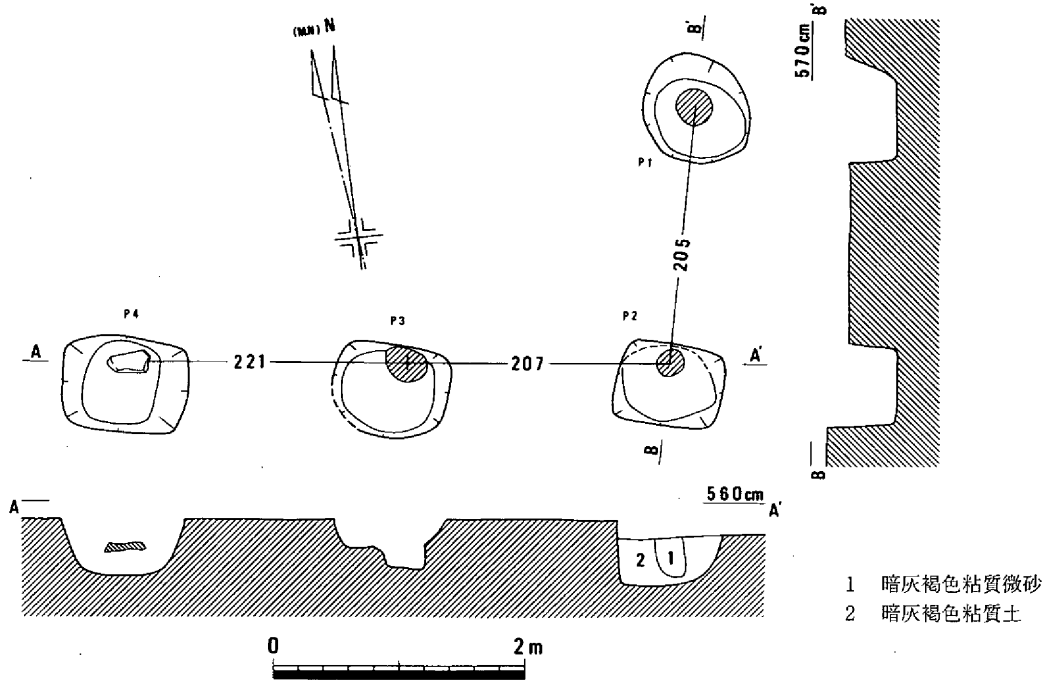


**掘立柱建物61** (第1386・1393図、図版75)

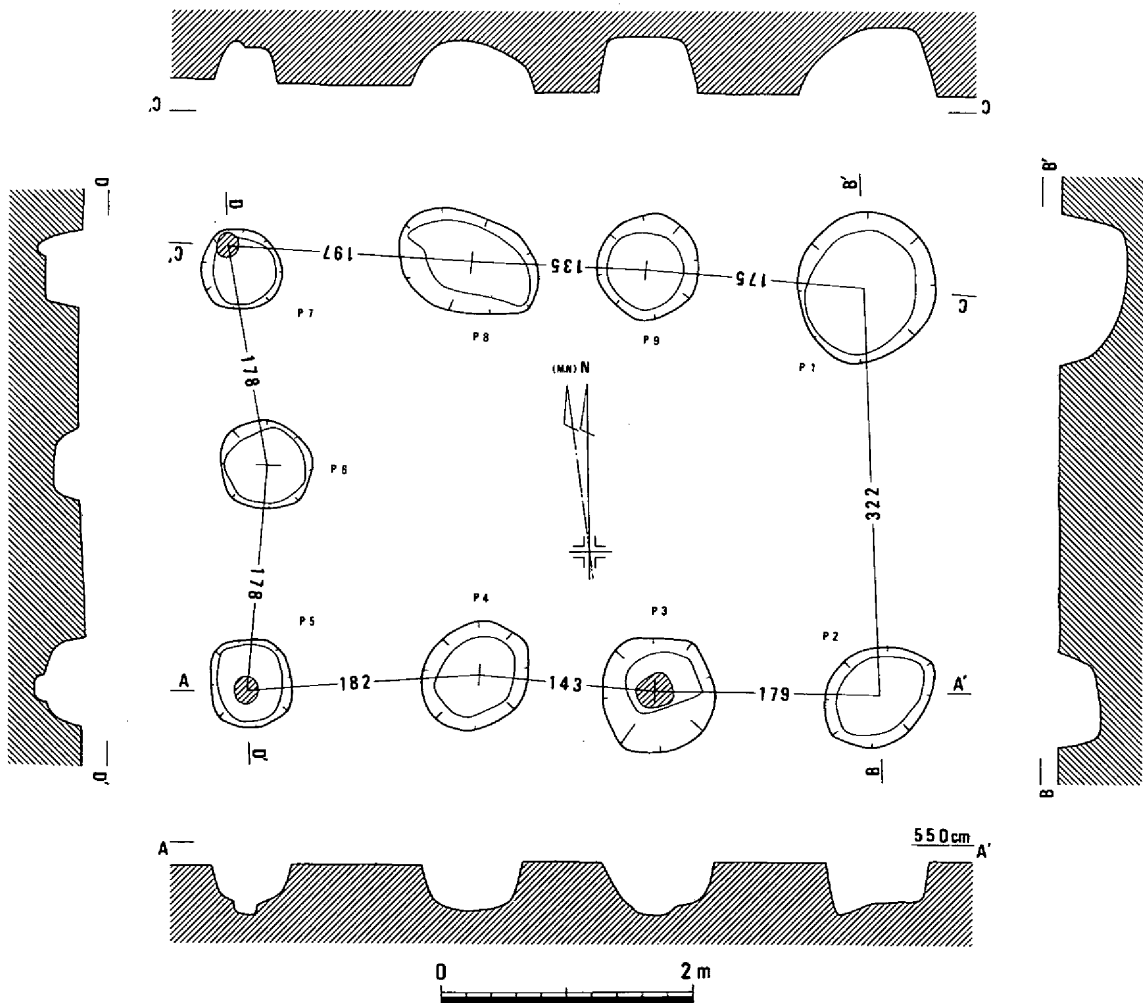
この建物は掘立柱建物62の北西に位置し、溝47・48に切られる状態で検出された。3×1間の掘立柱建物で、主軸はN-73°-Wで、規模は桁行が502cm、柱間距離が152~170cmを測る。梁間は369cm、柱間距離は345~369cmである。掘り方は円形ないし隅丸方形を呈し、深さは25~40cmを測り、径15~25cmの柱痕跡が確認されている。遺物はないが、切り合い関係、検出レベル、柱穴規模等から古代に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物62** (第1386・1394図、図版75)

この建物は掘立柱建物64・65と切り合い関係をもつ、3×2間の掘立



第1391図 掘立柱建物59 (1/60)



第1392図 掘立柱建物60 (1/60)

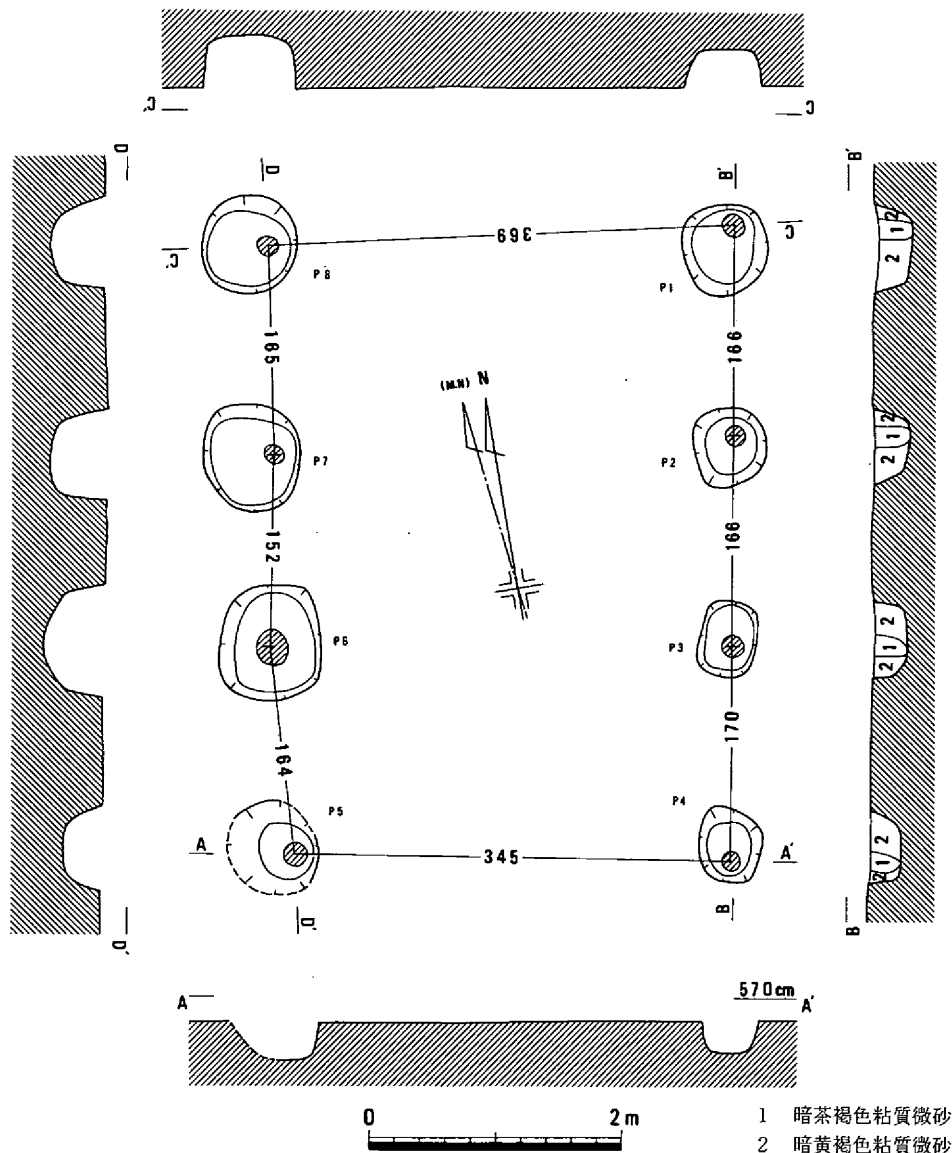
柱建物で、主軸はN-13°-Eである。規模は桁行が560cm、柱間距離が152~190cmを測る。梁間は387cm、柱間距離が181~205cmである。掘り方規模は最小が50×65cm、最大が75×80cmを測る。平面形は方形ないし隅丸方形を呈し、深さは25~30cmを測り、径15~20cmの柱痕跡が確認されている。遺物の出土はないが、切り合い関係、検出レベル、柱穴規模等からみて古代に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物63 (第1386・1395図)**

この建物は掘立柱建物60の東隣に位置する4×3間の掘立柱建物で、主軸はN-4°-Eである。規模は桁行が714cm、柱間距離が116~238cmを測る。梁間は580cm、柱間距離は188~364cmである。掘り方は円形で、深さは10~35cmを測り、径が15~20cmの柱痕跡が確認された。遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて中世頃の時期に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物64 (第1386・1396図)**

この建物は掘立柱建物62・65と重複する2×2間の掘立柱建物で、主軸はN-78°-Wである。規模は桁行が524cm、柱間距離が240~262cmを測る。梁間は334cm、柱間距離は150~176cmである。掘り方



第1393図 掘立柱建物61 (1/60)

は円形で、深さは25～35cmを測り、径が10～15cmの柱痕跡が確認された。遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて中世の時期に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物65** (第1386・1397図、図版160)

この建物は掘立柱建物62・64と重複する2×1間の掘立柱建物で、主軸はN-80°-Wである。規模は桁行が428cm、柱間距離が208～218cmを測る。梁間は364cm、柱間距離は354～364cmである。掘り方は円形で、深さは30～40cmを測り、径が10～15cm前後の柱痕跡が確認されている。

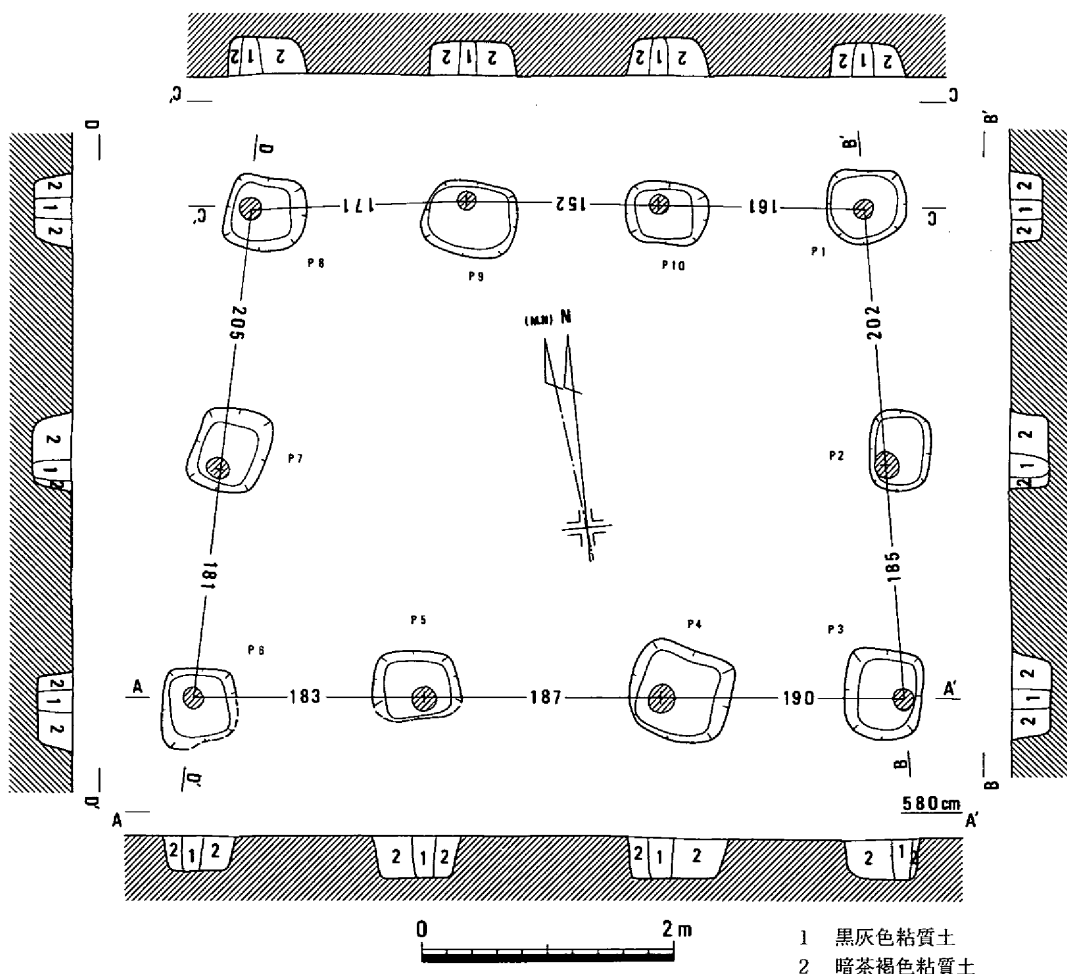
遺物は柱穴内から土師器の小皿5668・5669が出土している。底部はいずれもヘラによる切り離し痕がみられた。中世の時期の範疇に入ると思われる。(松本)

**掘立柱建物66** (第1386・1398図)

この建物は河道8の西約10mに位置する2×2間の掘立柱建物で、主軸はN-5°-Wである。規模は桁行が378cm、柱間距離が165～193cmを測る。梁間は373cm、柱間距離は150～217cmである。掘り方は円形で、深さは10～15cmと浅いが、径が10cm前後の柱痕跡が確認されている。遺物はないが、遺構の検出レベル、柱穴の規模等からみて、中世の時期の範疇に入ると思われる。(松本)

**掘立柱建物67** (第1386・1399図)

この建物は掘立柱建物63の東隣に位置し、建物68～72などと重複する1×1間の掘立柱建物で、主軸はN-1°-Wである。規模は桁行が322cm、柱間距離が316～322cmを測る。梁間は246cm、柱間距離



第1394図 掘立柱建物62 (1/60)



は228～246cmである。掘り方は円形を呈し、深さは15～20cmを測り、径が10～15cmの柱痕跡が確認されている。遺物はないが、切り合い関係、柱穴規模等から中世の範疇に入ると思われる。 (松本)

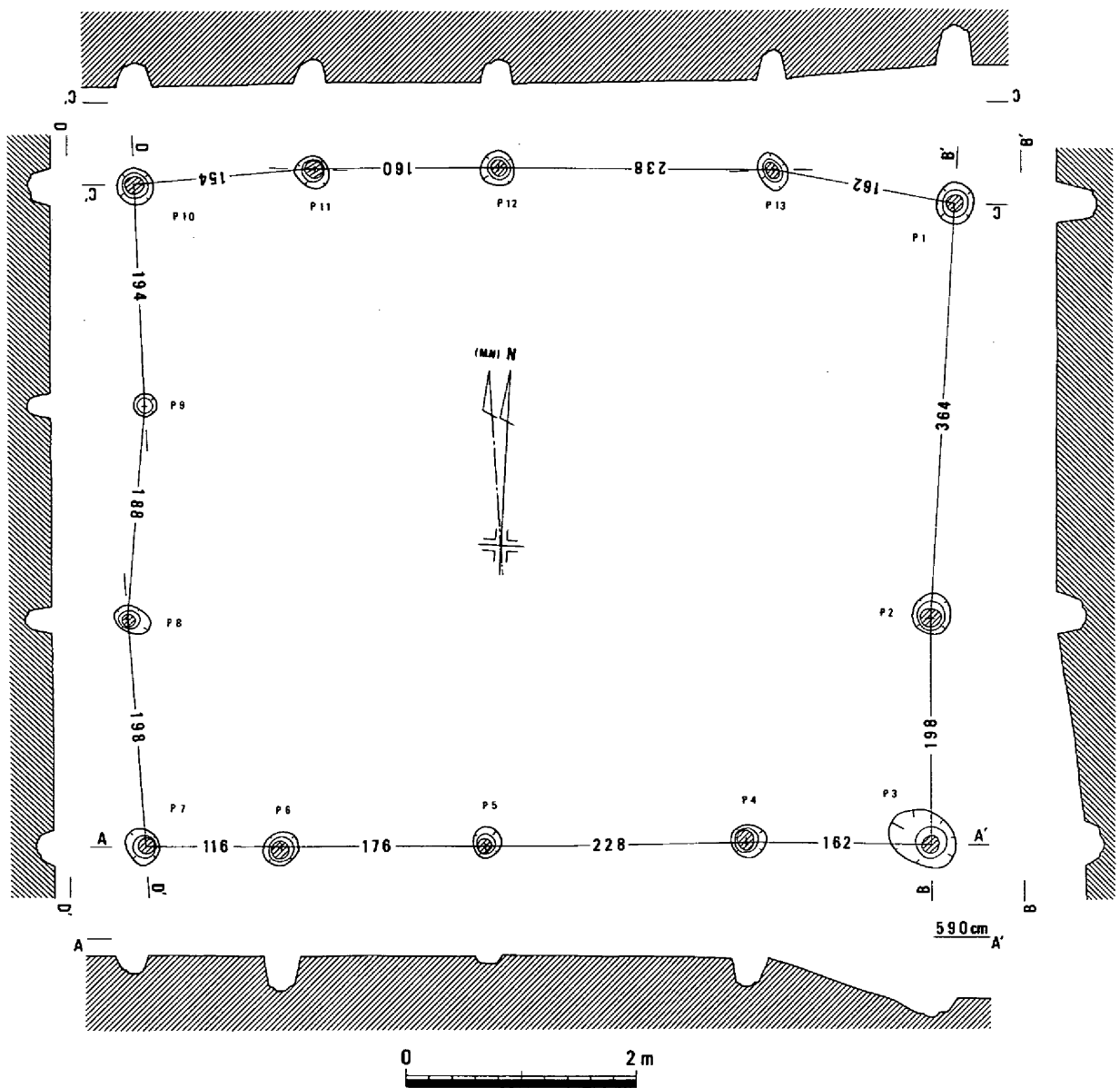
**掘立柱建物68** (第1386・1400図)

この建物は掘立柱建物67・69・71・72と重複する2×1間の掘立柱建物で、主軸はN-86°-Wである。規模は桁行が419cm、柱間距離が198～210cmを測る。梁間は366cm、柱間距離は362～366cmである。掘り方は円形を呈し、深さは15～30cmを測り、径が15cm前後の柱痕跡が確認されている。

時期を示す遺物としては、柱穴内から高台付の碗**5670**が出土している。これは早鳥式土器ないし吉備系土師器碗と呼ばれるものであるため、中世(13世紀代)に属すると思われる。 (松本)

**掘立柱建物69** (第1386・1401図、図版76)

この建物は掘立柱建物67・68と重複する2×1間の掘立柱建物で、主軸はN-22°-Eである。規模は桁行が476cm、柱間距離が224～249cmを測る。梁間は292cm、柱間距離は264～292cmである。掘り方



第1395図 掘立柱建物63 (1/60)

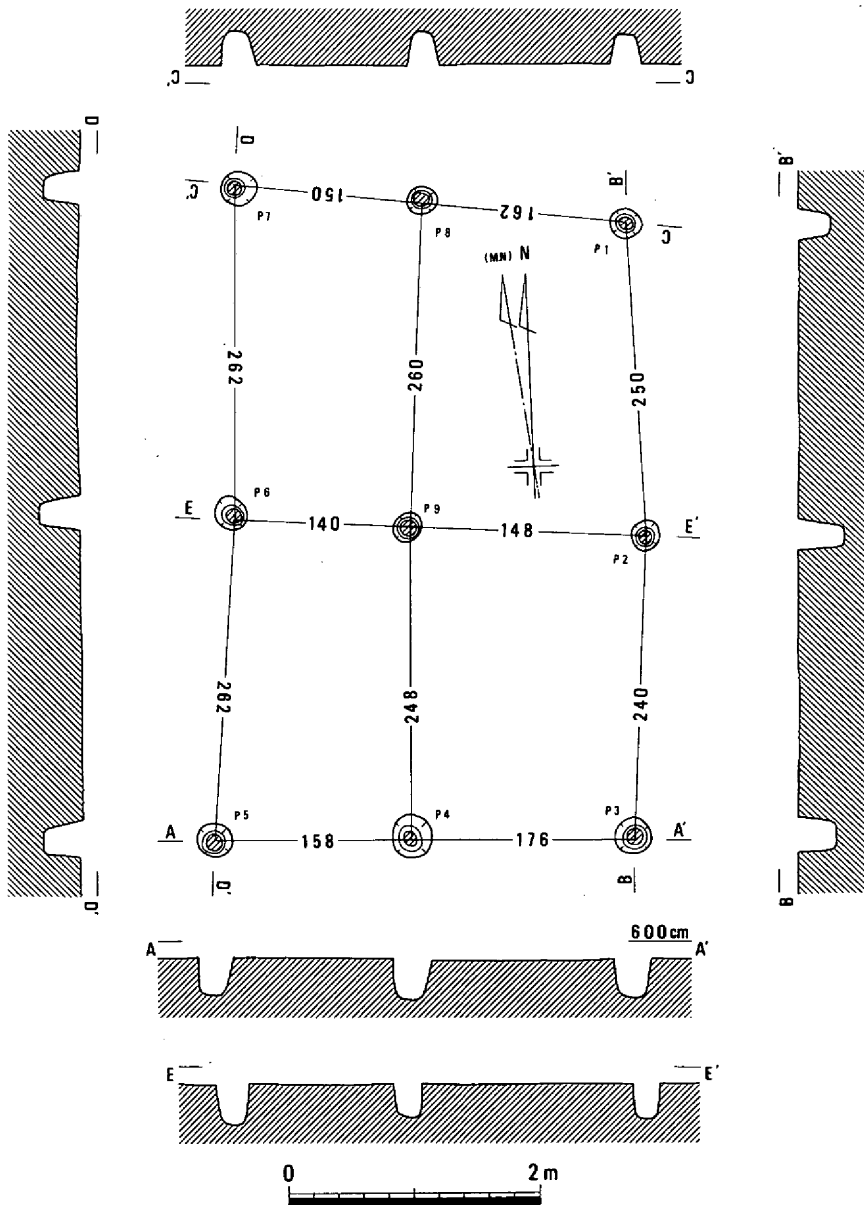
は円形を呈し、深さは10~15cmを測り、径が10cm前後の柱痕跡が確認されている。遺物はないが、切り合い関係、柱穴規模等から時期は中世の範疇に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物70** (第1386・1402図、図版76)

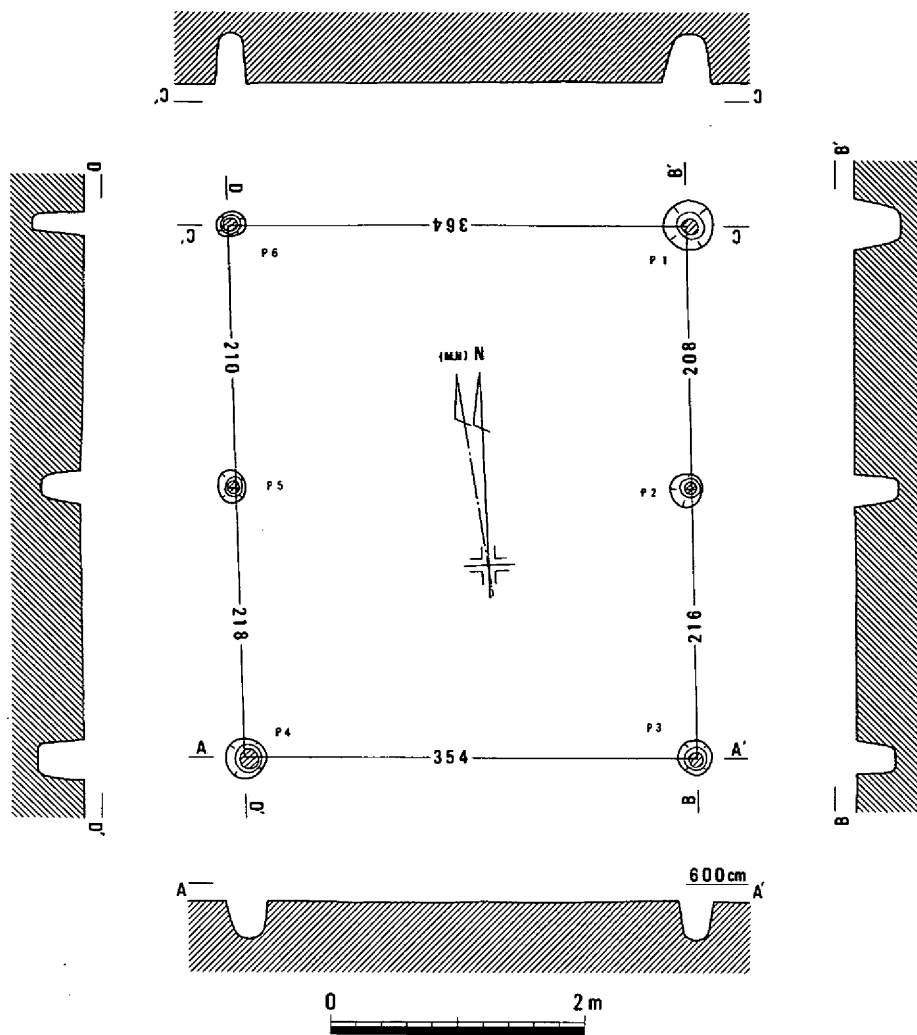
この建物は掘立柱67と重複する1×1間の掘立柱建物で、主軸はN-30°-Eである。規模は桁行が284cm、梁間は208cmを測る。掘り方の平面形は円形を呈し、深さは10cm前後と浅いが、径5~10cmの柱痕跡が確認されている。建物の時期を示す遺物は出土していないが、遺構の検出レベル、柱の掘り方、規模等から見て、中世の範疇に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物71** (第1386・1403図)

この建物は掘立柱建物67・68・71と重複する3×2間の掘立柱建物で、主軸はN-27°-Eである。規模は桁行が534cm、柱間距離は140~320cmを測る。梁間は294cm、柱間距離は112~182cmである。掘



第1396図 掘立柱建物64 (1/60)



第1397図 掘立柱建物65 (1/60)・出土遺物 (1/4)

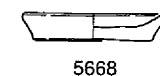
り方の平面形は円形で、深さは10~25cmを測り、径が10~15cmの柱痕跡が確認されている。遺物の出土はないが、切り合い関係、検出レベル、柱穴規模等から見て中世の時期に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物72** (第1386・1404図、図版76)

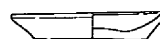
この建物は掘立柱建物68・71と重複する2×1間の掘立柱建物で、主軸はN-28°-Eである。規模は桁行432cm、柱間距離は182~250cmを測る。梁間は288cm、柱間距離は280~288cmである。掘り方の平面形は円形で、深さは10~20cm測り、径が15cm前後の柱痕跡が確認された。遺物としては土師器の小皿5671が出土している。時期は中世に属すると思われる。(松本)

**掘立柱建物73** (第1386・1405図、図版160)

この建物は掘立柱建物74の北東に位置する4×2間の掘立柱建物で、主軸はN-84°-Eである。規模は桁行が716cm、柱間距離は140~226cmを測る。梁間は422cm、柱間距離は162~260cmである。掘り方はいずれも円形を呈する。深さは25~60cmを測り、全体的に残存状態は良好であった。また、柱穴内には径が15cm前後の柱痕跡が確認されている。遺物は柱穴内から早島式土器と呼称される高台付椀

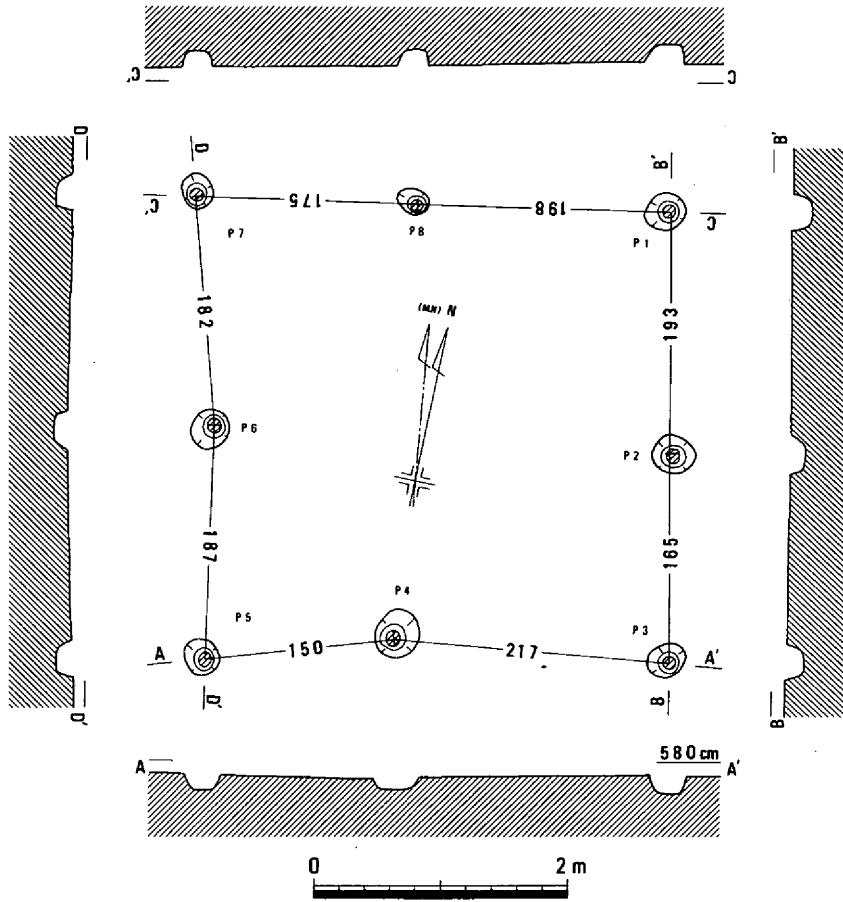


5668

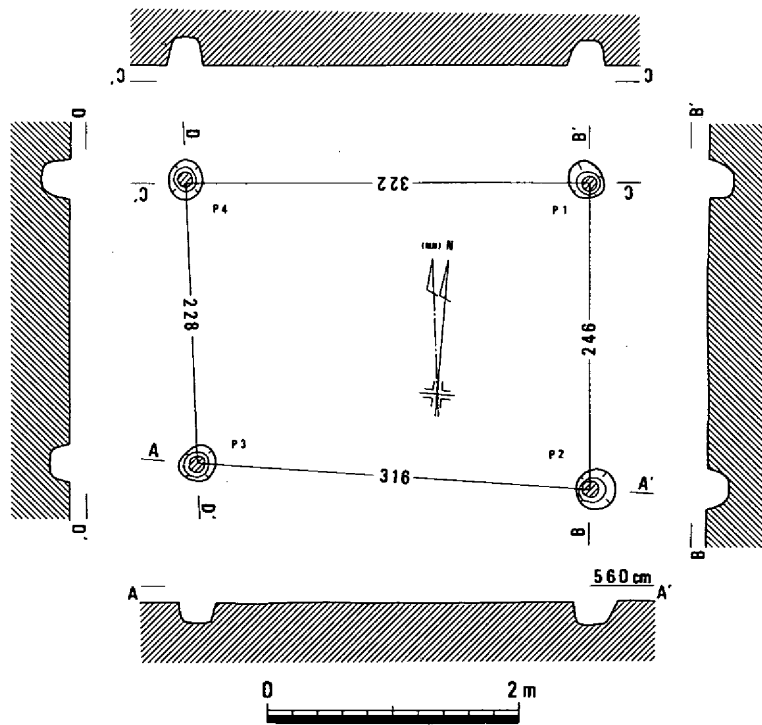


5669

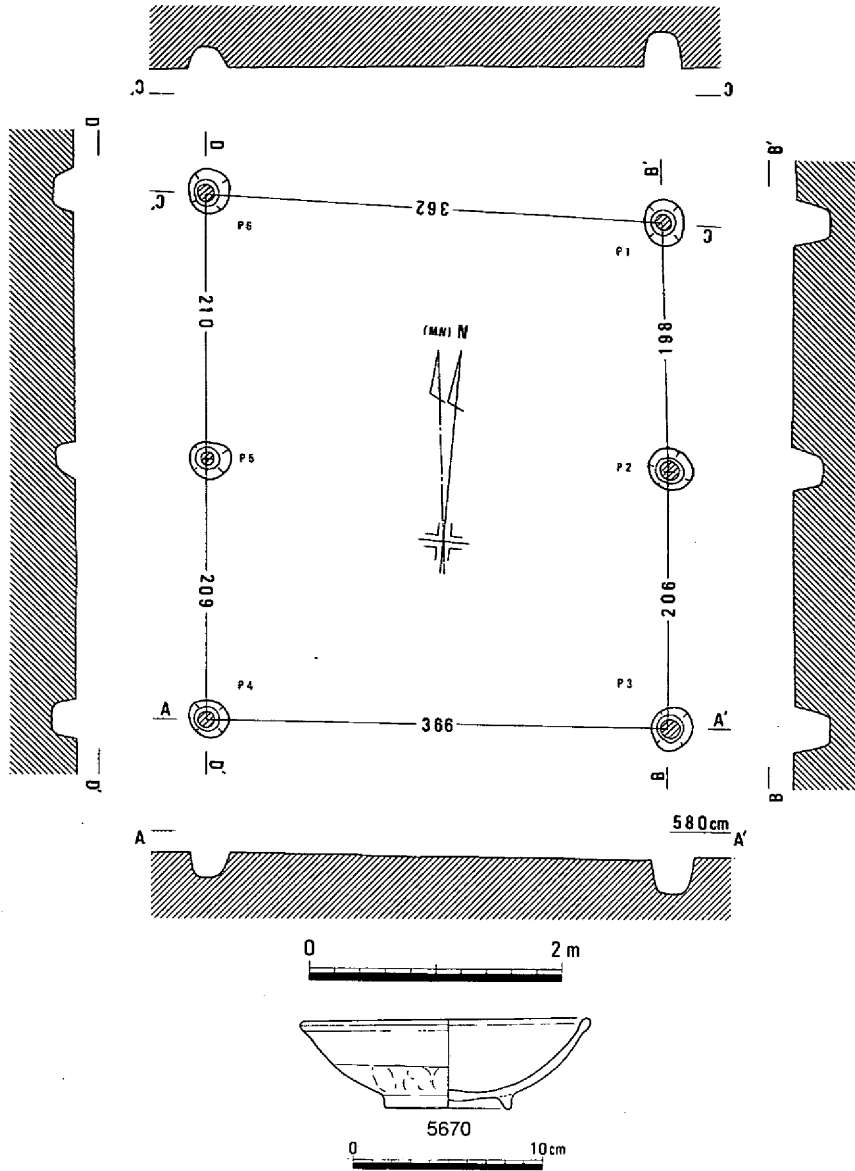




第1398図 掘立柱建物66 (1/60)



第1399図 掘立柱建物67 (1/60)



第1400図 掘立柱建物68 (1/60)・出土遺物 (1/4)

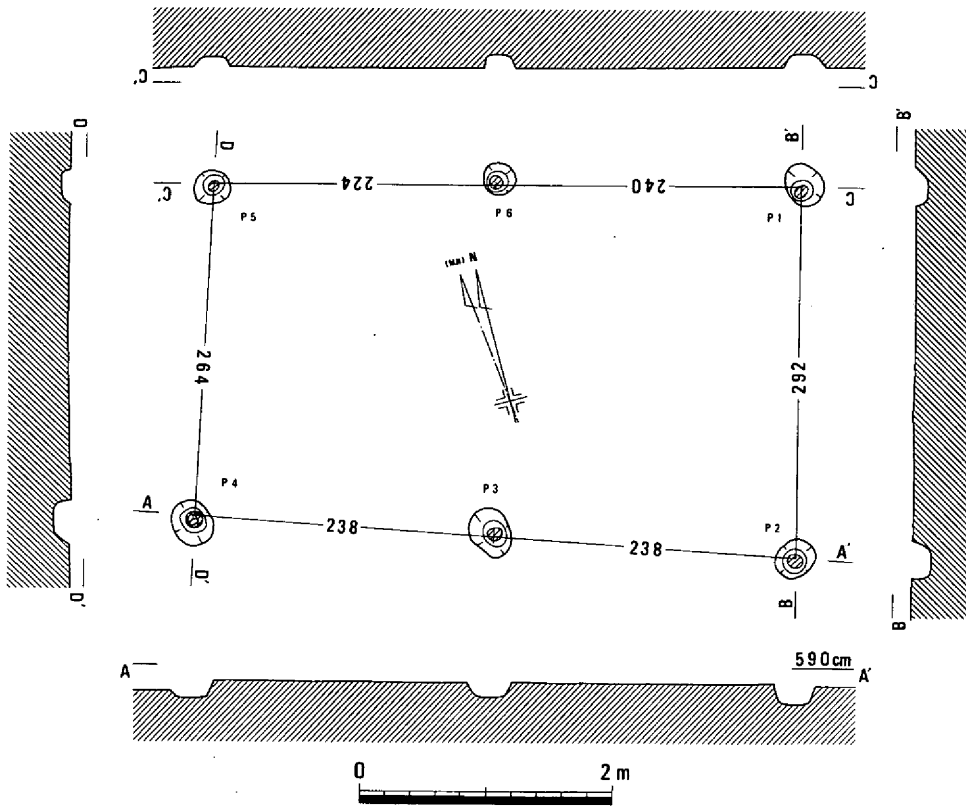
5672が完形で出土している。遺物からみて、この建物の時期は中世（13世紀）に属する。（松本）

**掘立柱建物74**（第1386・1406図）

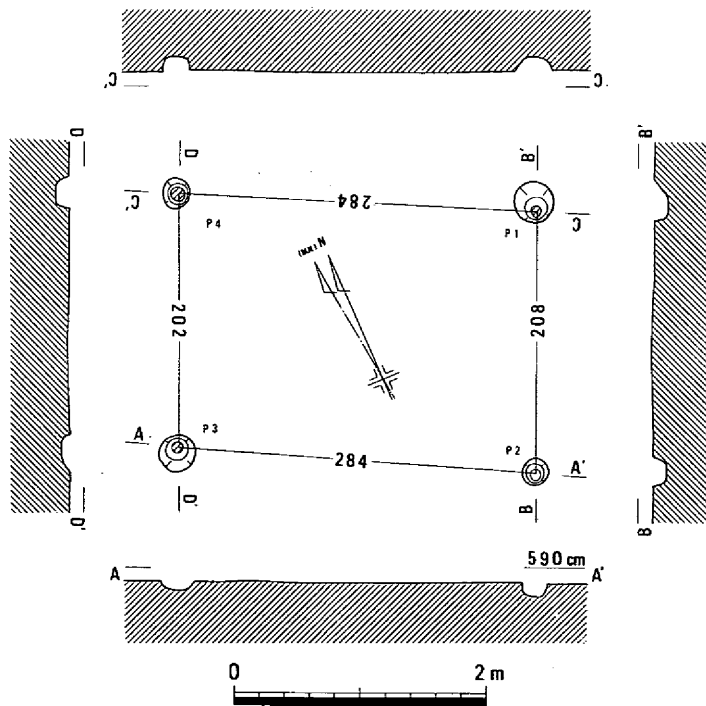
この建物は掘立柱建物73の南西に位置する2×2間の掘立柱建物で、主軸はN-11°-Eである。規模は桁行が440cm、柱間距離は194~222cmを測る。梁間は308cm、柱間距離は140~160cmである。掘り方は円形で、深さは15~30cmを測る。遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて、中世の時期に属すると思われる。（松本）

**掘立柱建物75**（第1386・1407図）

この建物は掘立柱建物71の東約9mの位置で検出された1×1間の掘立柱建物で、主軸はN-11°-Eである。規模は桁行が232cm、梁間は198cmを測り、柱間距離は188~198cmである。掘り方は円形で、深さは10~20cmと浅いが、径が10~15cmの柱痕跡が確認されている。遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて、中世の時期に属すると思われる。（松本）

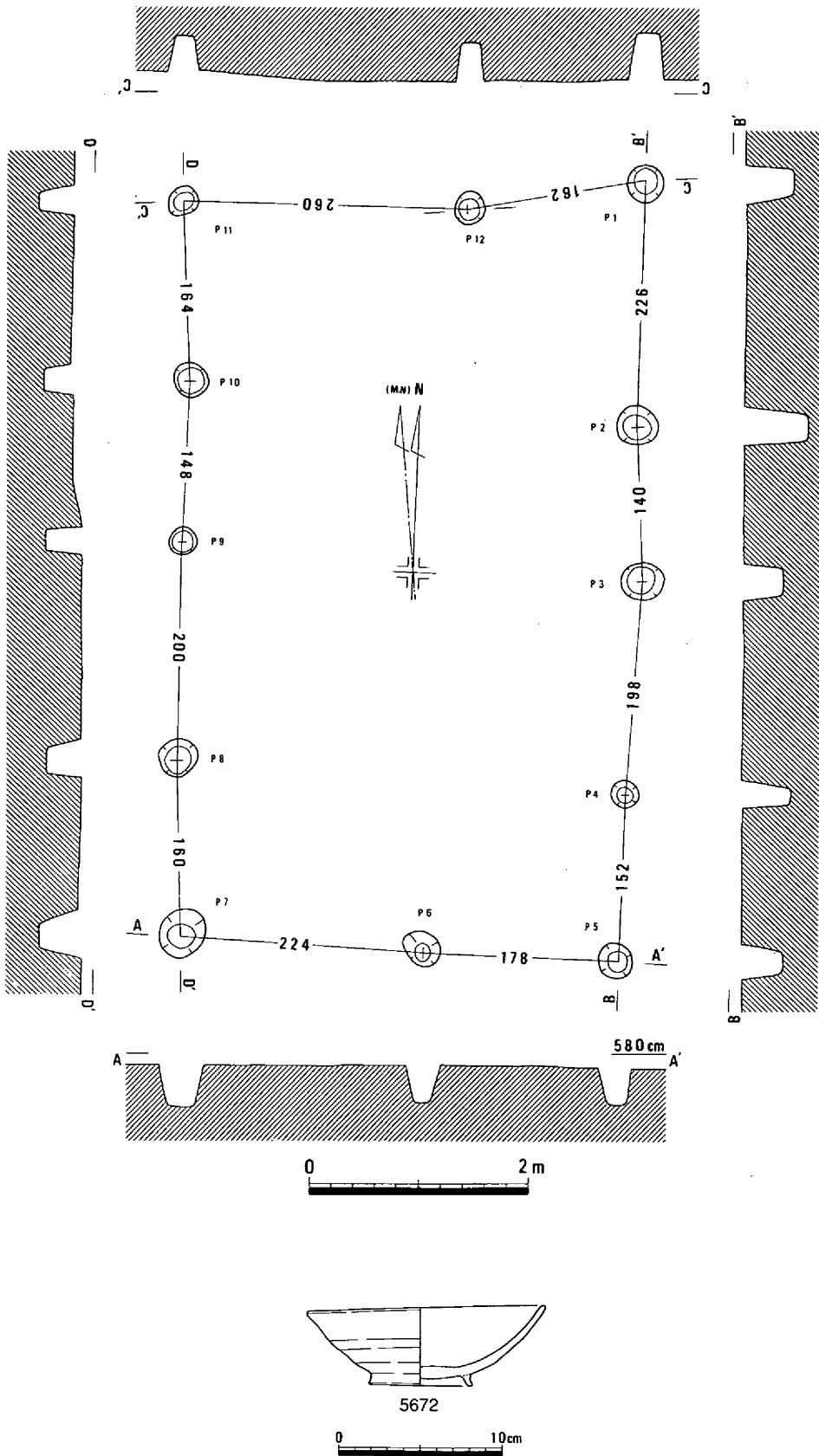


第1401図 掘立柱建物69 (1/60)



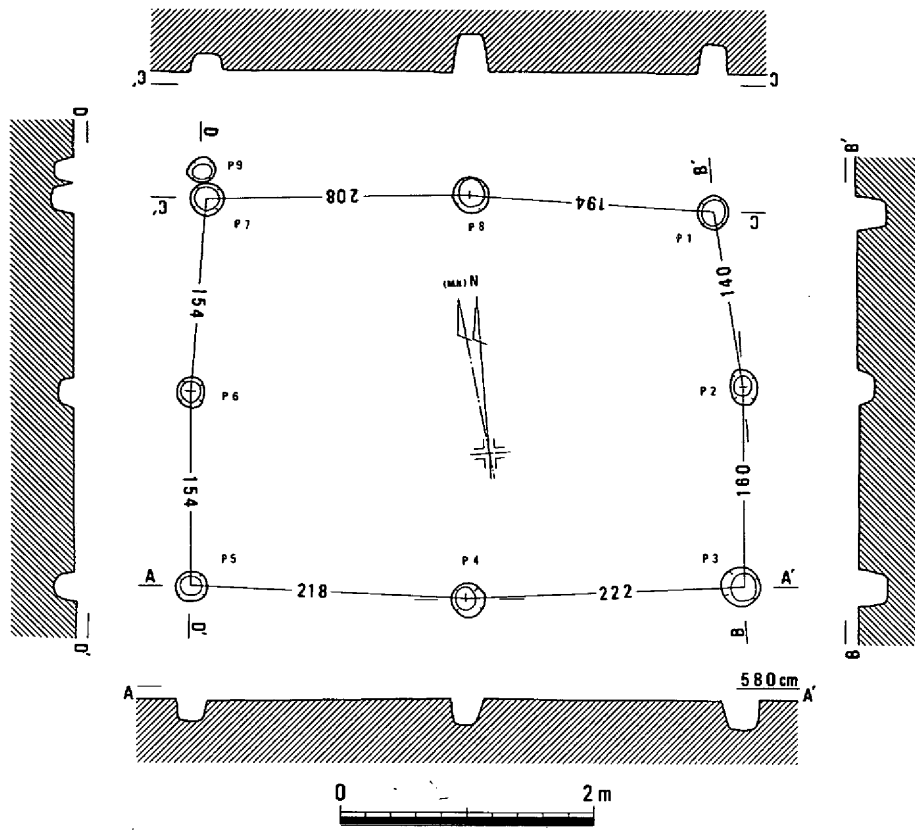
第1402図 掘立柱建物70 (1/60)



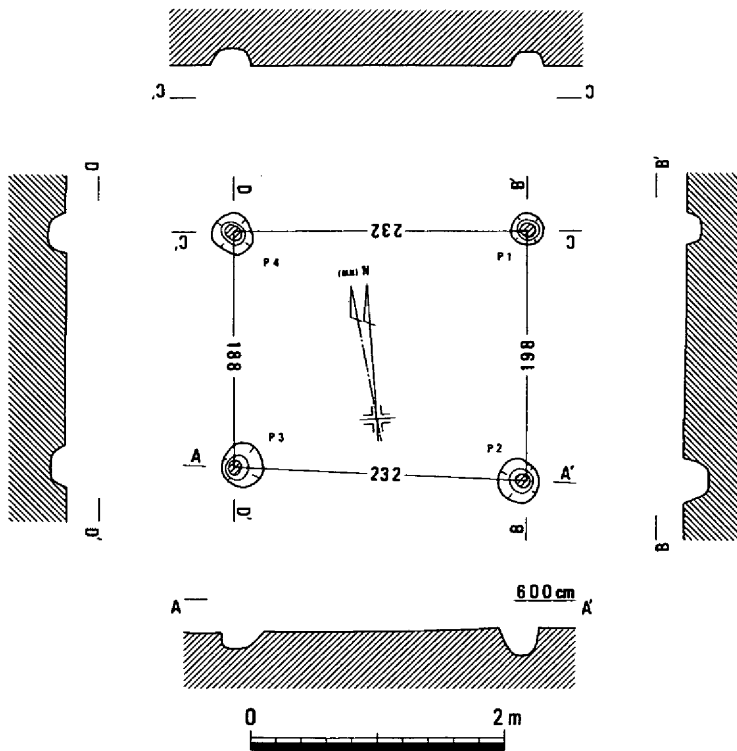


第1405図 掘立柱建物73 (1/60)・出土遺物 (1/4)





第1406図 掘立柱建物74 (1/60)



第1407図 掘立柱建物75 (1/60)

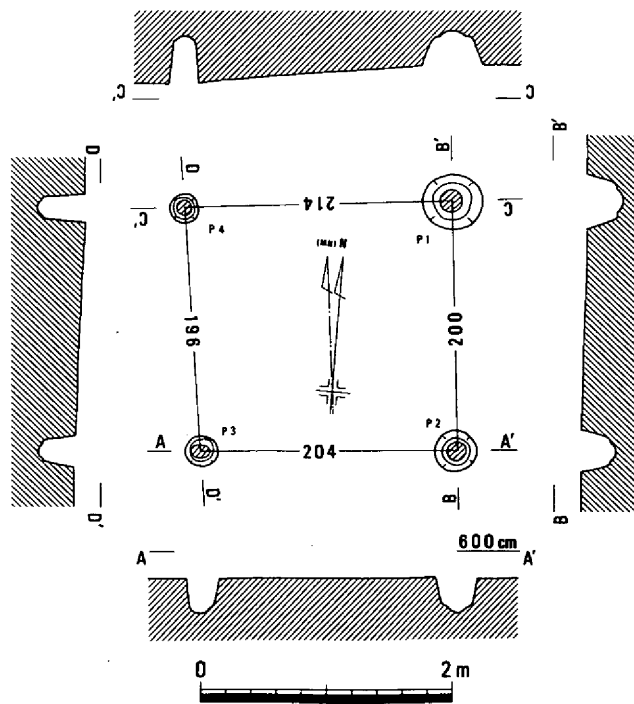
掘立柱建物76 (第1386・1408図)

この建物は掘立柱建物73の南東約5mの位置で検出された1×1間の掘立柱建物で、主軸はN-2°-Eである。規模は桁行が214cm、柱間距離は204~214cmを測る。梁間は200cm、柱間距離は196~200cmである。掘り方は円形で、深さは25~40cmを測り、径10~15cmの柱痕跡が確認されている。遺物の出土はないが、検出レベル、柱穴規模等からみて、中世の時期に属すると思われる。(松本)

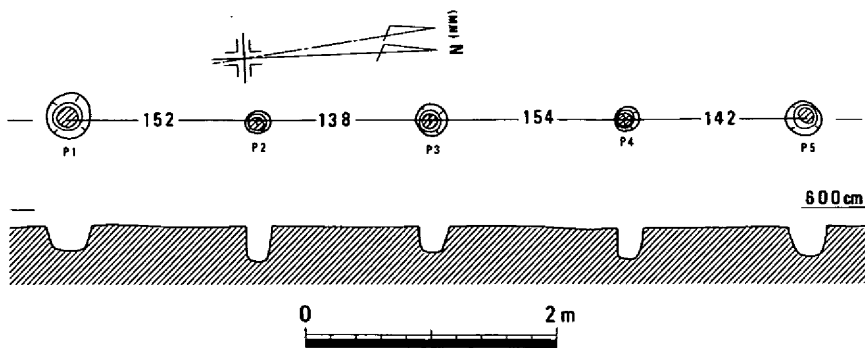
(3) 柵列

柵列1 (第1386・1409図)

この柵列は掘立柱建物64・65の東側で検出された。南北の柱穴列である。規模は5間(586cm)であるが、柱間距離は138~152cmを測る。掘り方は円形で、深さは20~25cmを測り、径10~15cmの柱痕跡が確認された。遺物はないが、検出レベル等からみて中世の時期に属すると思われる。(松本)



第1408図 掘立柱建物76 (1/60)



第1409図 柵列1 (1/60)

(4) 土墳墓

土墳墓 8 (第1385・1410図)

Cf508区の西北部で検出した小形の小判形土墳墓である。人骨の内、残存していたのは頭部の一部と足の大腿骨の一部だけである。鑑定の結果は、小児ではなく成人である。座棺であったものであろう。棺を埋めた後に、人頭大から拳大の角礫を長方形に組み、中央に人頭大の角礫を乗せて、墓標としたものと解釈できる。

副葬品はないが、土層の観察から中世に属する墓と考えたい。

(浅倉)

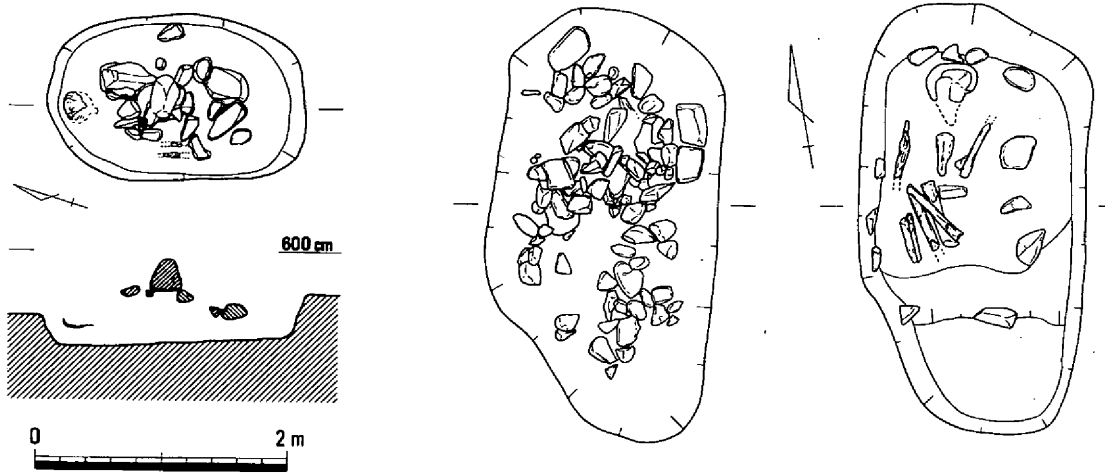
土墳墓 9 (第1385・1411図、図版76)

Cf508区の西北部で検出した中形の不整小判形土墳墓である。土墳墓8のすぐ東で接して掘られている。血縁関係の墓であろう。人骨の内残存していたのは頭部の一部と手足の太い部分だけである。成人で、座棺であったものであろう。棺を埋めた後に、人頭大から拳大の角礫を長方形に組んでいたものであろうが、かなり崩れている。墓標としたものはなくなっている。

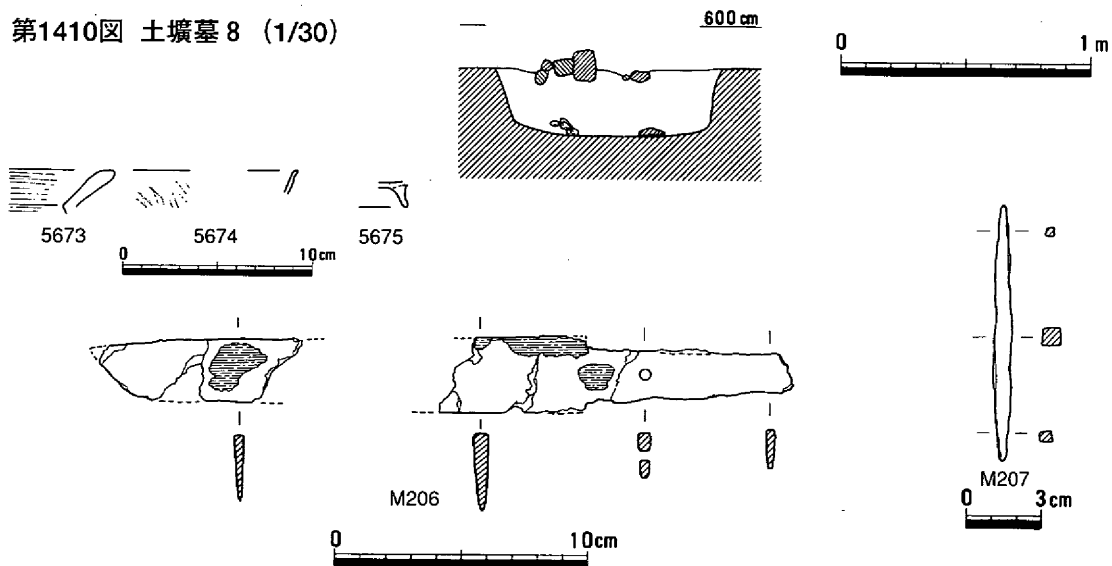
副葬品は短刀1振りがある。棺釘と考える鉄器と土師器細片が伴っている。

遺物と土層の観察から、鎌倉時代に属する墓と考えたい。

(浅倉)



第1410図 土墳墓 8 (1/30)



第1411図 土墳墓 9 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

土壙墓10 (第1385・1412図、図版76・160)

Cf507区の南端部で検出した小形の長方形土壙墓である。土壙墓8の南5mの位置に掘り込まれている。人骨の内残存していたのは、頭部の一部と手足の太い部分だけである。成人で、屈葬である。胸に当たる場所に1個の無傷の土師器の碗を伏せて置いてあった。

副葬品は、その碗のほかに小皿とガラス玉の半分が残っていた。

遺物と土層の観察から、鎌倉時代に属する墓と考えたい。(浅倉)

土壙墓11 (第1385・1413図)

Cg507区の北東部で検出した楕円形土壙墓である。土壙墓10から南西8m離れている。人骨は残っていない。ほかの土壙墓と比べて、平面形も断面形も異なっている。

埋積土中から土師器が採集できた。亀山焼もある。

遺物と土層の観察から、鎌倉時代に属する墓と考えたい。(浅倉)

土壙墓12 (第1385・1414図、図版77)

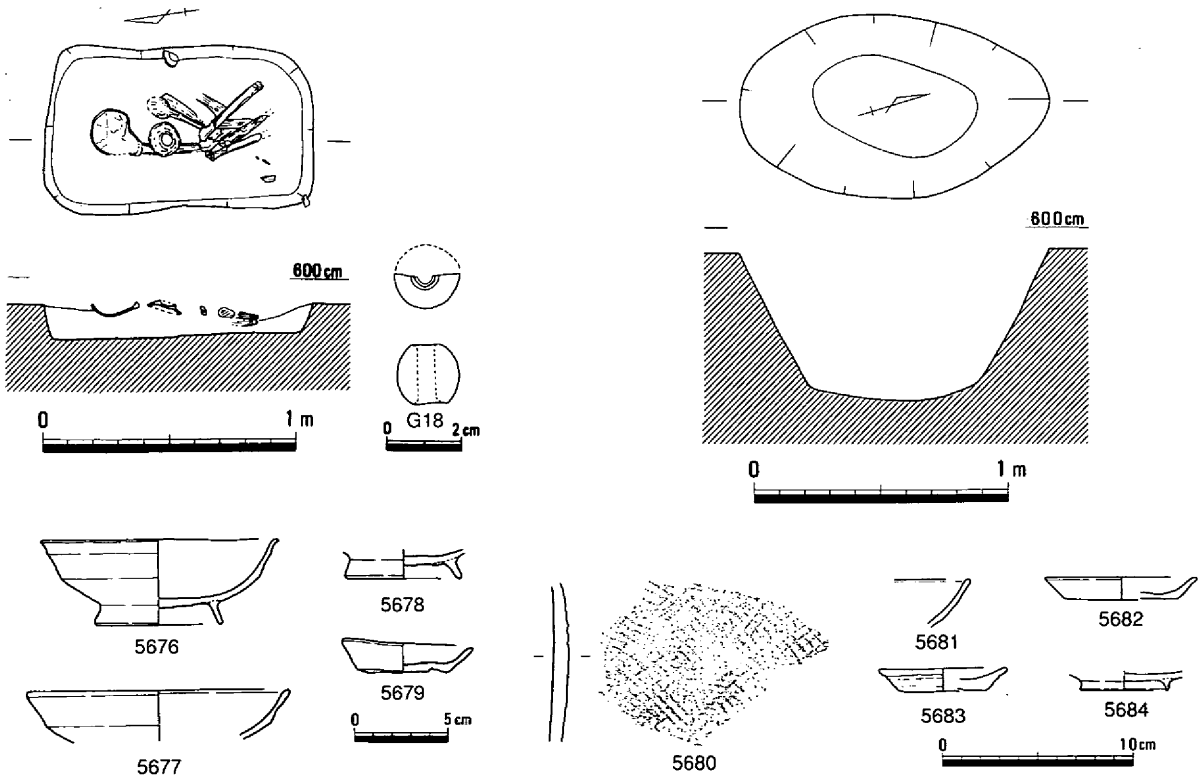
Cg507区の南東部で検出した不整小判形土壙墓である。土壙墓11の東9mに掘られている。人骨は消失している。棺を埋めた後に、拳大の円礫を楕円形に積み上げていたものであろう。

副葬品はまったくない。釘もない。

土層の観察から中世に属する墓と考えたい。(浅倉)

土壙墓13 (第1385・1415図、図版77)

Cf509区の南部で検出した楕円形土壙墓である。土壙墓12の北東19mに掘られている。人骨は頭蓋骨と手足の太く厚い部位が残存していた。座った状態で発掘できた。上部30cmには小石が敷かれていた。



第1412図 土壙墓10 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4)

第1413図 土壙墓11 (1/30)・出土遺物 (1/4)

副葬品はまったくない。釘もない。

土層の観察から中世に属する墓と考えたい。

(浅倉)

**土壙墓14** (第1385・1416図)

Cg507区の南端部で検出した長方形土壙墓である。土壙墓12の南1mに掘られている。人骨は頭蓋骨と手足の太く厚い部位が残存していた。座った状態で発掘できた。

副葬品はまったくない。釘もない。

土層の観察から中世に属する墓と考えたい。

(浅倉)

**土壙墓15** (第1385・1417図)

Cf507区の西端部で検出した楕円形土壙墓である。土壙墓14の南西9mの所に掘られている。人骨は残存していない。

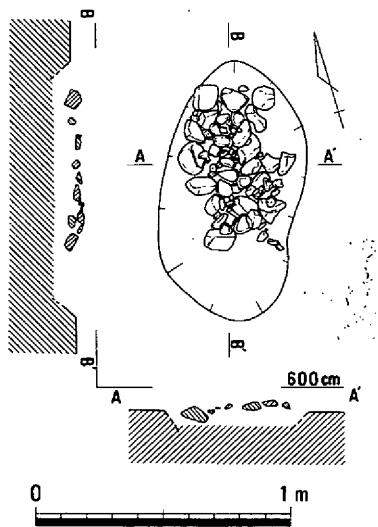
副葬品はまったくない。釘も出てない。

土層の観察から中世に属する墓と考えたい。

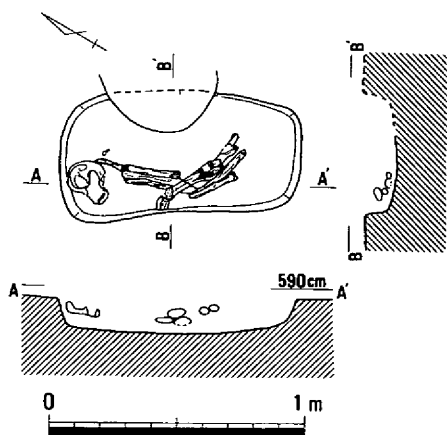
(浅倉)

**土壙墓16** (第1385・1418図、図版160)

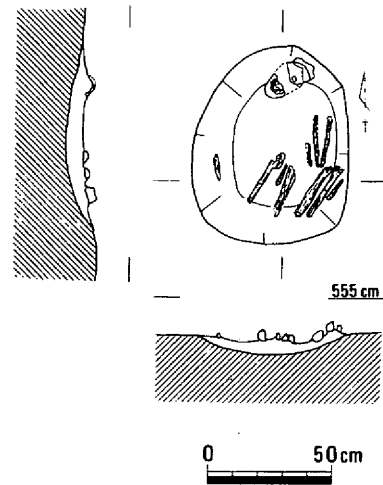
Cj509区の北西部で検出した長方形土壙墓であ



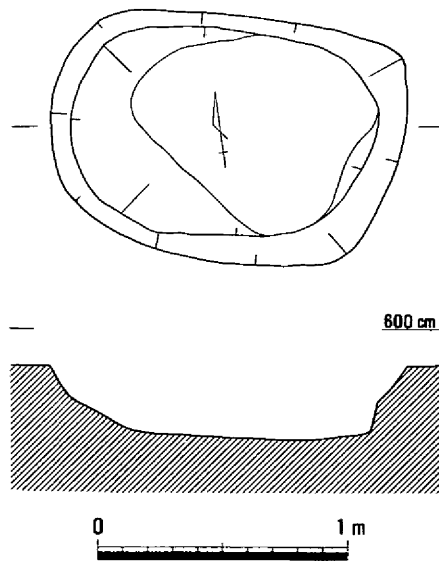
第1414図 土壙墓12 (1/30)



第1416図 土壙墓14 (1/30)



第1415図 土壙墓13 (1/30)



第1417図 土壙墓15 (1/30)

る。掘立柱建物58の南東隅に掘られている。人骨は残存していない。

副葬品として土師器碗が1点出土している。5685は、完形品である。口径は14.5cm、器高は4.8cm、底径は6.0cmを測ることができる。

土層の観察から中世に属する墓と考えたい。(浅倉)

**土墳墓17** (第1385図、図版77)

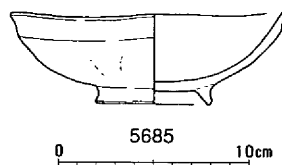
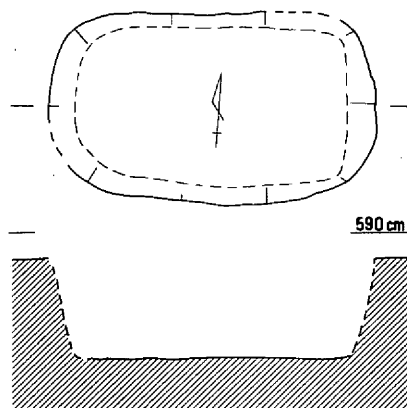
Ch508区の南西部で検出した形の不明な土墳墓である。土墳墓12の東10mの位置に掘られていた。人骨は残存していなかった。石なども含んでいない。発掘当時は調査区の南端であったため、土の色もよく見えず、遺構の性格が明らかでなかった。

副葬品と考えられる黒漆塗りの烏帽子が出土している。前側が潰れた形の武士層が被るものである。

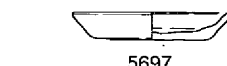
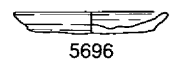
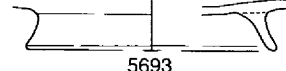
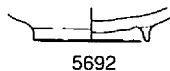
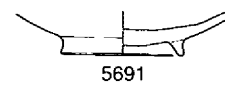
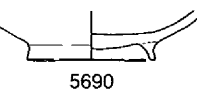
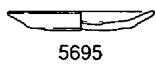
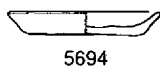
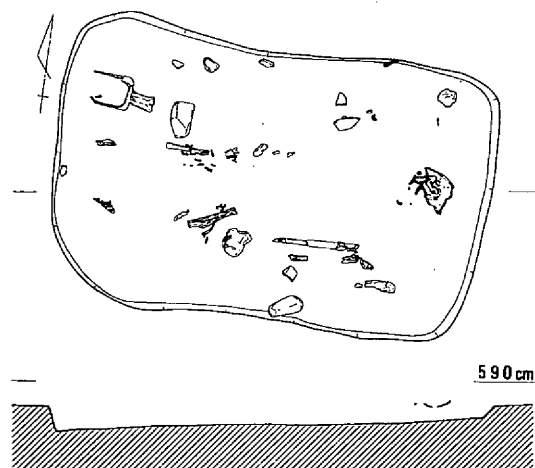
土層の観察から鎌倉時代に属する墓と考えたい。(浅倉)

**土墳墓18** (第1386・1419・1420図、図版78)

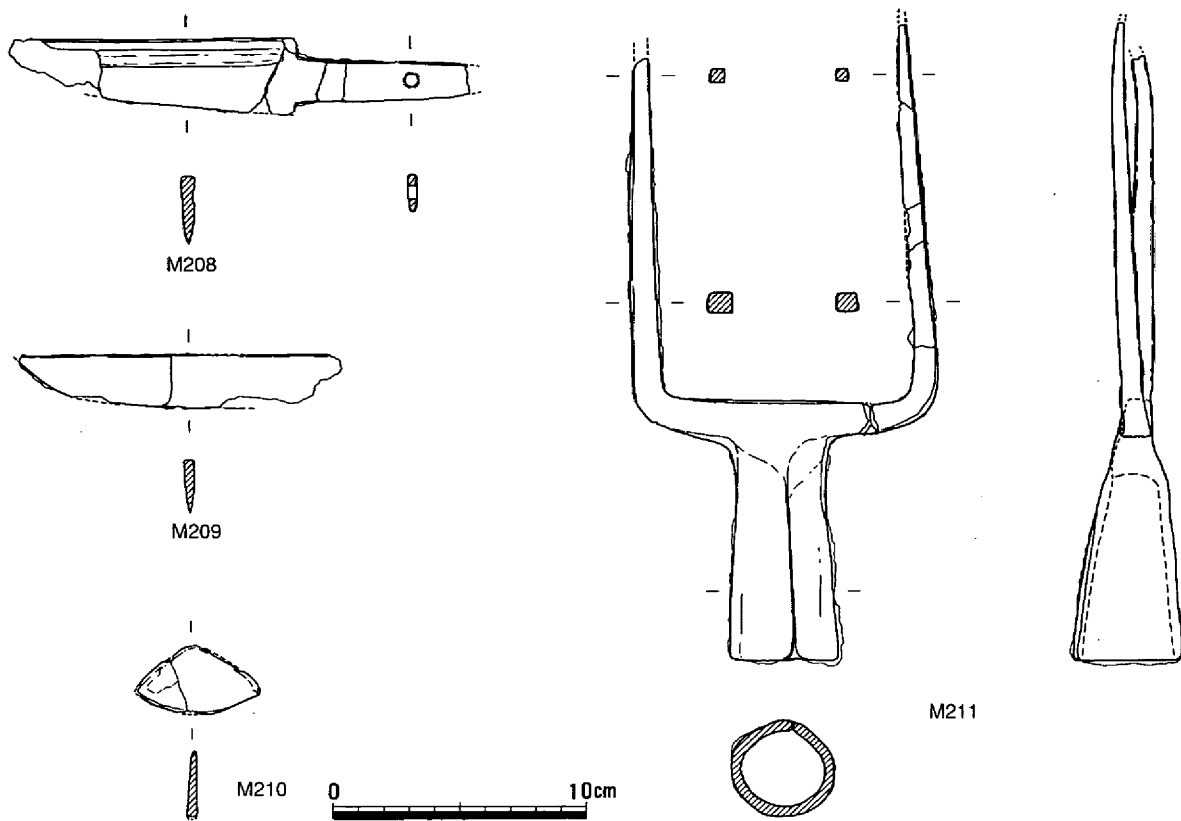
この遺構は掘立柱建物63と重複して検出された。削平が著しいため、遺構の残存状態は極めて悪い。規模は長径176cm、短径111cmを測り、平面形は長方形を呈する。深さは検出面から10cmを測り、底面は平坦である。墓壙内には頭骨・左右の大腿骨・歯などが残存していた。人骨の出土状



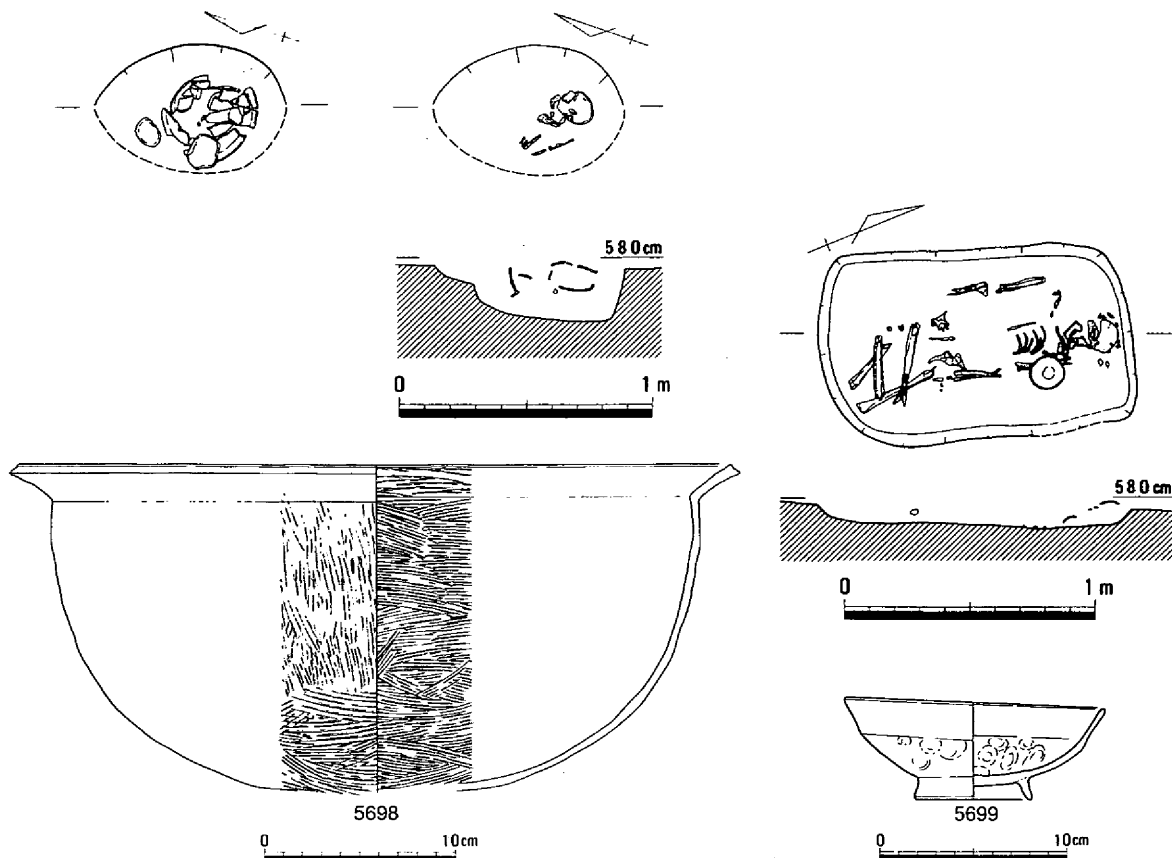
第1418図 土墳墓16 (1/30)・  
出土遺物 (1/4)



第1419図 土墳墓18 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第1420図 土壙墓18出土遺物② (1/3)



第1421図 土壙墓19 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1422図 土壙墓20 (1/30)・出土遺物 (1/4)

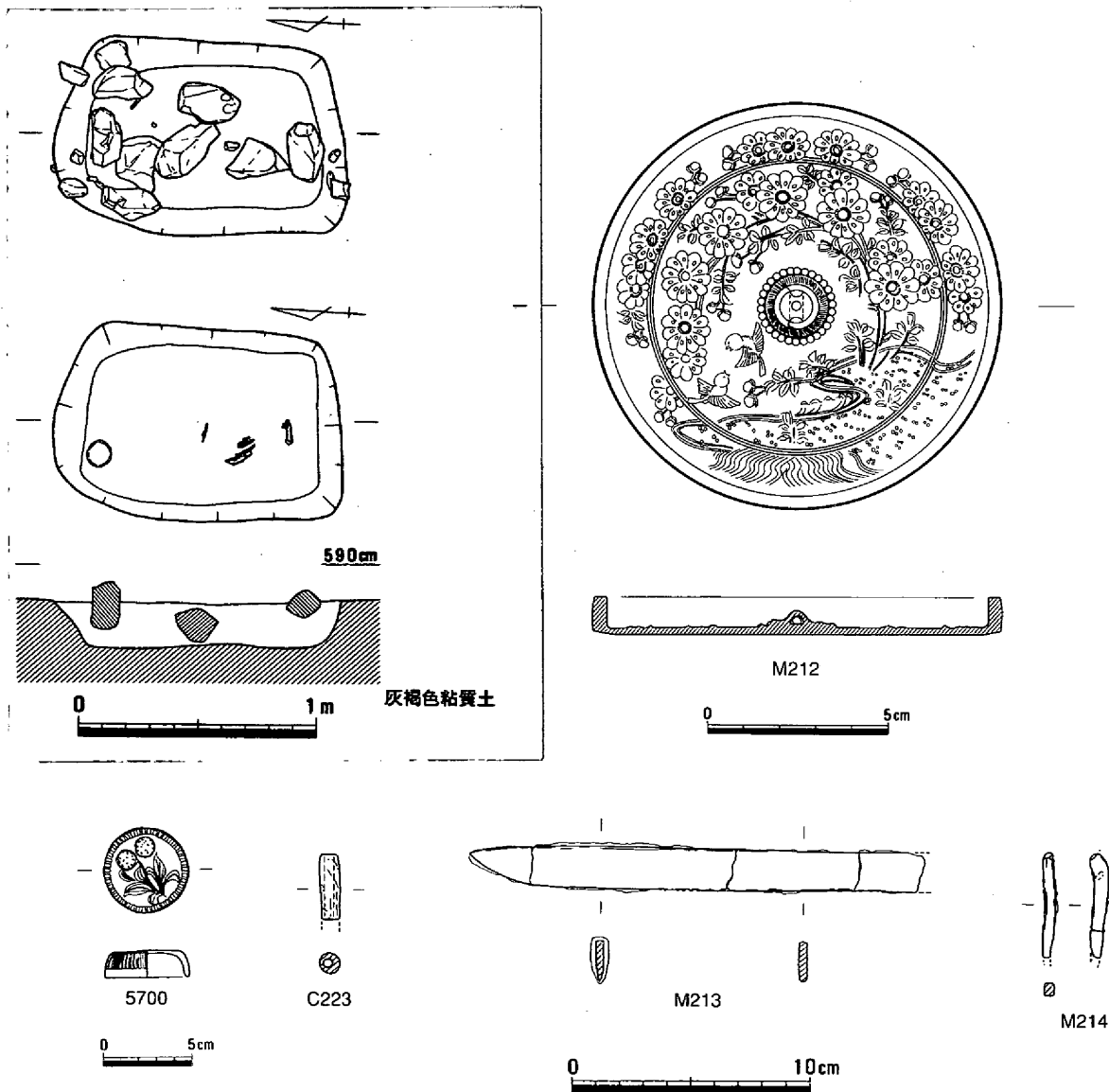
態からみて、頭部を東にする仰臥伸展葬と想定される。なお、歯の磨耗は軽微であるため、小児ないし若年者と推定されるが、性別は不明である。副葬品としては土師器の高台付椀・盤・小皿、鉄製品では刀子・火打ち金・二又槍などが出土している。時期は中世（13世紀後半）と思われる。（松本）

**土墳墓19**（第1386・1421図、図版78・160）

この遺構は掘立柱建物69と重複して検出された。規模は長径76cm、短径52cmを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは21cmを測り、底面は平坦に近い。墓壙内には鍋が埋納されており、内部からは頭骨や上腕骨などの人骨が出土した。骨の大きさからみて、幼小児が埋葬されたと想定される。副葬品はないが、埋納に使用された鍋からみて、時期は鎌倉時代後半頃と思われる。（松本）

**土墳墓20**（第1386・1422図、図版79・160）

土墳墓22の東隣に位置する。規模は長径125cm、短径78cmを測り、平面形は長方形を呈する。深さは検出面から8cmと浅いが、底面はほぼ平坦である。墓壙内には頭骨を含め大部分の骨が残存していた。人骨の出土状態からみて頭部を北にする、仰臥伸展葬であったと想定される。なお、歯の磨耗度



第1423図 土墳墓21 (1/30)・出土遺物 (1/2,1/4,1/3)



は強く、骨格の強大であることから、壮年後半の男性と推定されている。副葬品としては、高台付碗5699が左上腕骨付近から出土している。時期は中世（13世紀中頃）と思われる。（松本）

**土壙墓21**（第1386・1423図、図版79・160・168・170）

土壙墓22の北約1.5mの位置で検出された。規模は長径122cm、短径81cmを測り、平面形は長方形を呈する。深さは19cmを測り、底面は平坦である。墓壙内には四肢長骨の断片のみ出土したが、性別や年齢等は不明であった。鉄釘が出土していることから、遺体は木棺に埋葬されていたと考えられる。なお、墓壙内には20cmほどの角礫が9個と小角礫が出土したが、これらは当初から置かれたものではなく、盛土に置かれていた角礫が落ち込んだものと思われる。副葬品としては、青白磁の合子蓋、刀子、銅鏡などがある。銅鏡は州浜菊花双鳥鏡M212と呼称されるもので、製作が13世紀後半～14世紀前半と考えられることから、この遺構もほぼ同時期頃と思われる。（松本）

**土壙墓22**（第1386・1424図、図版79）

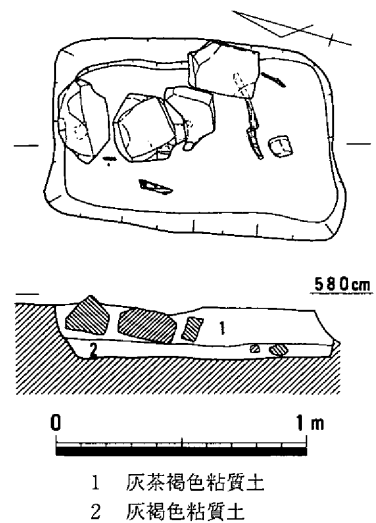
土壙墓23に切られる状態で検出された。規模は長径120cm、短径77cmを測り、平面形は長方形を呈する。深さは検出面から22cmを測り、底面は平坦である。墓壙内には人骨片が残存しているが、年齢や性別等は不明である。なお、墓壙内には20～30cm程の角礫が出土したが、これは盛土に置かれていた角礫が落ち込んだものと思われる。副葬品はないが、時期は中世（13～14世紀代）のものと思われる。（松本）

**土壙墓23**（第1386・1425図、図版160）

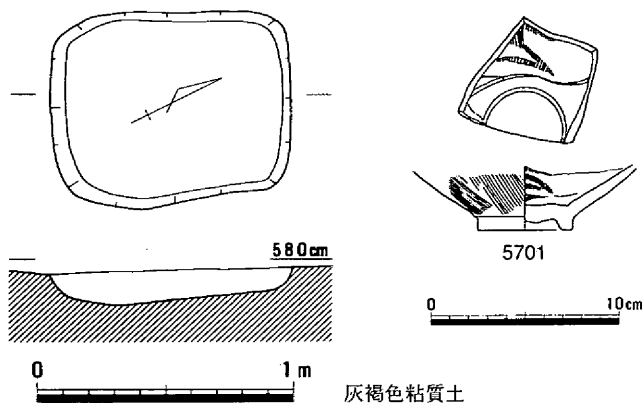
土壙墓22を切る状態で検出された。規模は長径94cm、短径78cmを測り、平面形は方形を呈する。深さは検出面から13cmを測り、底面はほぼ平坦である。墓壙内には人骨が残存してない。副葬品としては、同安窯系の青磁碗が出土している。時期は中世（13世紀代）と思われる。（松本）

**土壙墓24**（第1386・1426図）

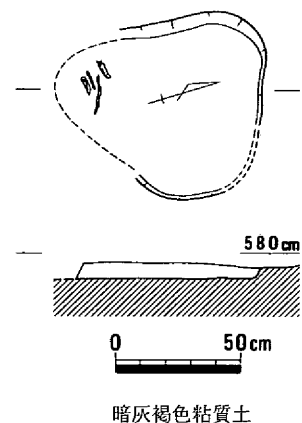
規模は長径83cm、短径76cmを測り、平面形は隅丸三角形を呈し、深さは6cmを測り、底面は平坦である。人骨は上腕骨と手骨などが出土しているが、性別や年齢等は不明である。副葬品はないが、時期は中世（13世紀代）と思われる。（松本）



第1424図 土壙墓22 (1/30)



第1425図 土壙墓23 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1426図 土壙墓24 (1/30)

## 土壙墓25 (第1384図・1427図)

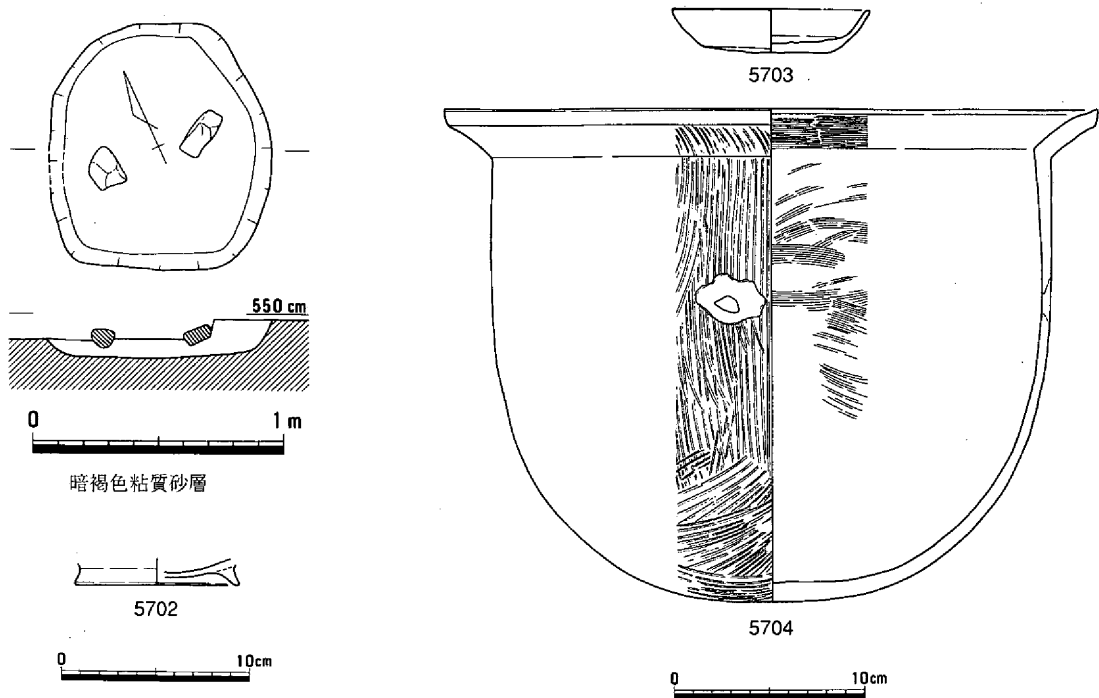
調査区の東端やや南に位置する土壙で、平面形がやや不整形の隅丸方形を呈する。規模は、長さが97cm、幅は88cmで、深さが14cmを測る。底面から5cmほど浮いた状態で角礫2個が検出されたことから土壙墓と考えられる。

出土した5702は内黒の椀であり、この土壙の時期は10世紀後半ころと思われる。(弘田)

## (5) 火葬墓

## 火葬墓1 (第1384・1428図、図版80・160)

調査区の東端部に位置する。遺構検出中に5704の甕をつぶれた状態で発見した。土器の周辺からは穴に納められた痕跡を見いだせなかったため、位置を記録し、写真を撮影したのみで土器を取り上げた(図版76)。その後の整理過程で甕の中から杯を発見し、甕の体部には意識的な穿孔が確認できた。このことから火葬骨は確認できなかったが、火葬墓として報告することとする。(平井)



第1427図 土壙墓25 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1428図 火葬墓1 出土遺物 (1/4)

## (6) 井戸

## 井戸6 (第1385・1429・1430図、図版80・160・161)

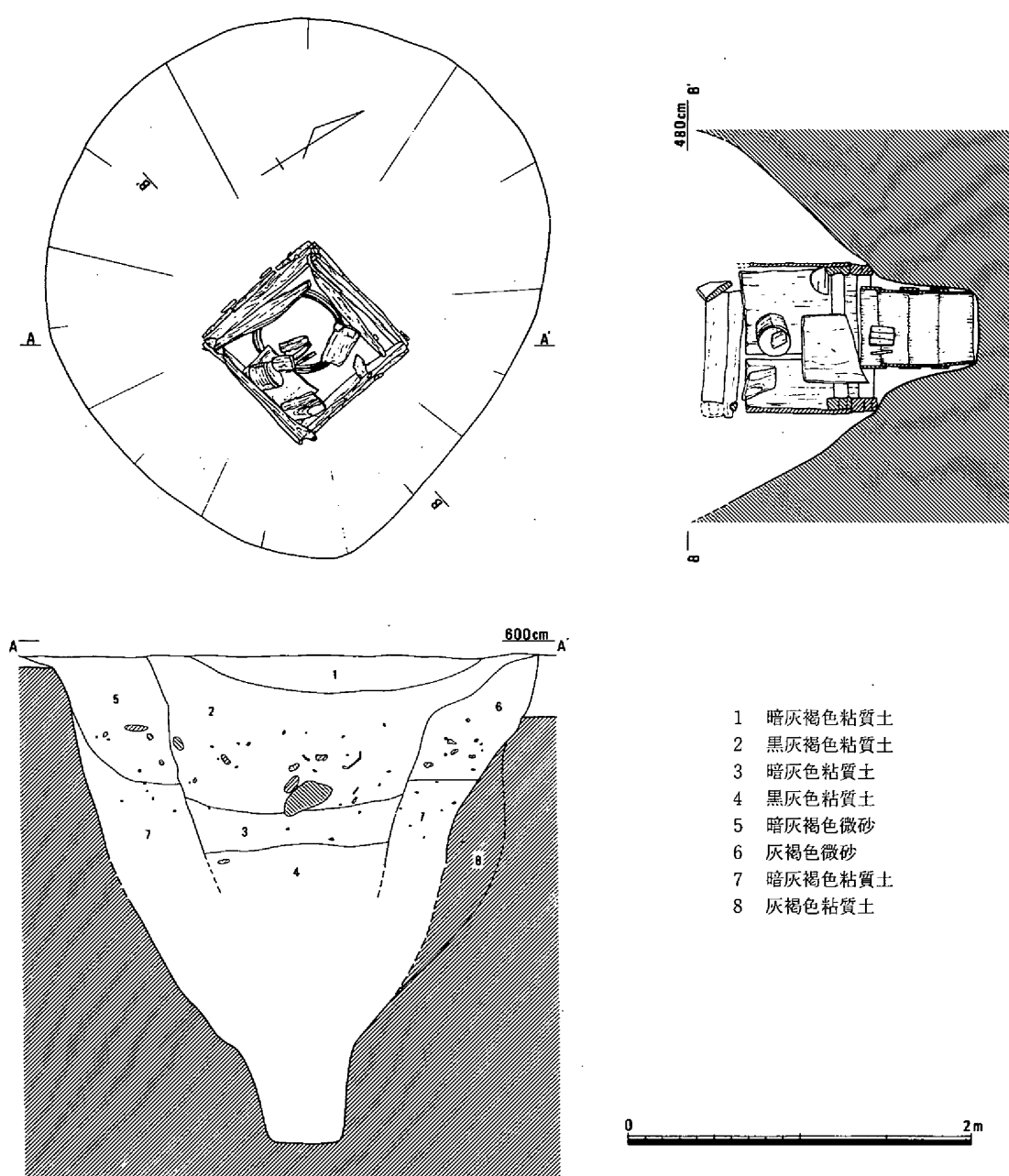
Cg508区南東部で検出した井戸である。掘り方は、平面形がほぼ円形で、検出面における大きさは、長さ312cm、幅296cm、深さ300cmを測る。底面の標高は312cmあり、断面形は漏斗形を呈する。井戸枠は、底面から約60cmの所から構築されている。四隅に丸杭を打ち込み、その間に幅30cm程度、長さ80cmの立板を3～4枚立て並べ、厚さ6cm、幅12cm、長さ80cmの横棧木を2枚ずつ二段に使っている。現代の土木工事における土留め支保工事である。その井戸枠の内部にさらに大形の曲げ物を1個

井戸底面に入れ込んでいる。木材鑑定の結果は、縦木および杭がスギかヒノキなどの針葉樹で、横棧木はキリ、曲げ物はスギであった。

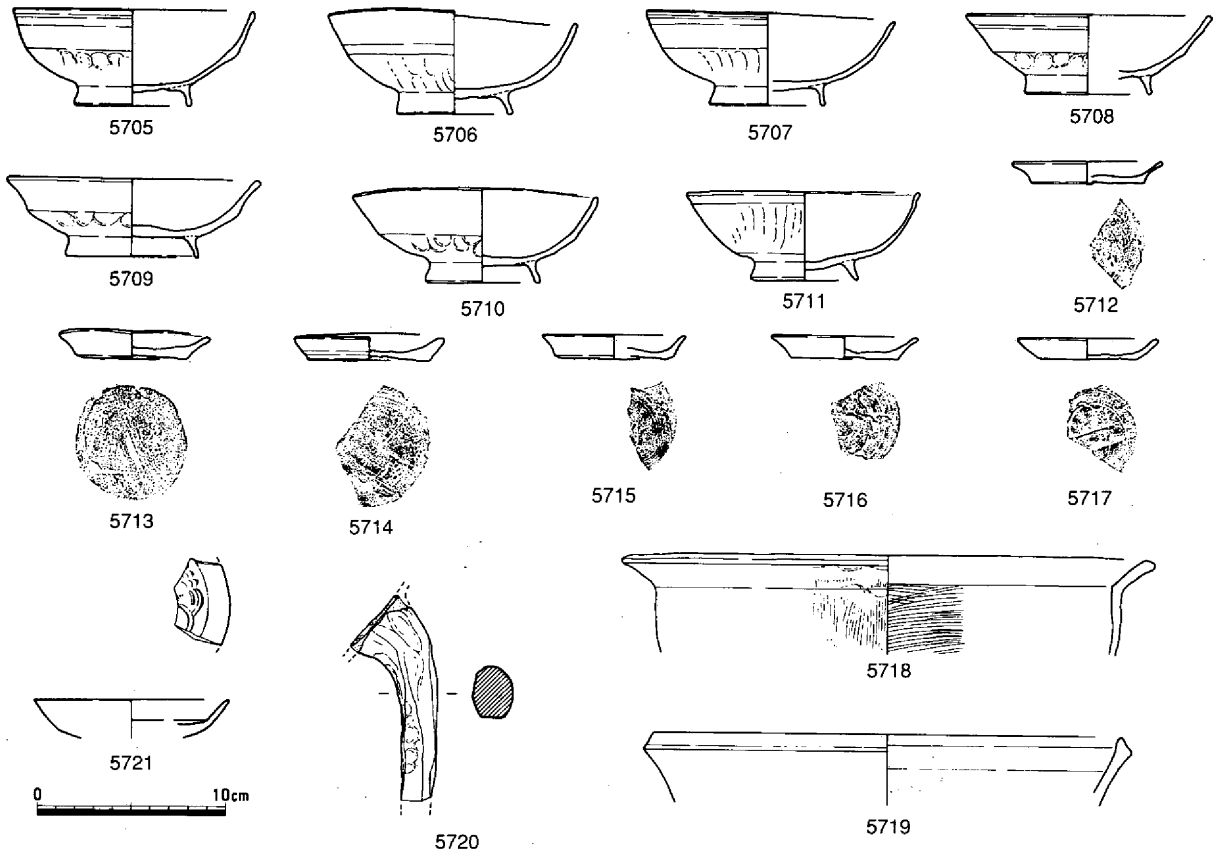
井戸内からは、小形の曲げ物のほかには土師器多数と須恵質土器や青磁が出土している。曲げ物は、事情があって、実測できていない。スギの薄い板をサクラの皮で綴じたものである。5705~5711は土師器の高台付椀で、5706はほぼ完形品である。5706は口径13.0cm、底径6.2cm、器高5.7cmを測ることができる。5712~5717は土師器の小皿であり、5713はほぼ完形品である。5713は口径8.0cm、底径5.9cm、器高1.6cmを測り、底部に板目が残っている。5719は須恵質土器の鉢である。5718は土師器の鍋である。5720の鍋の脚は5718に付くかもしれない。5721は同安窯系青磁の皿である。

遺構や遺物から見て、この井戸の使われていた時期は鎌倉時代と考えられる。

(浅倉)



第1429図 井戸6 (1/40)

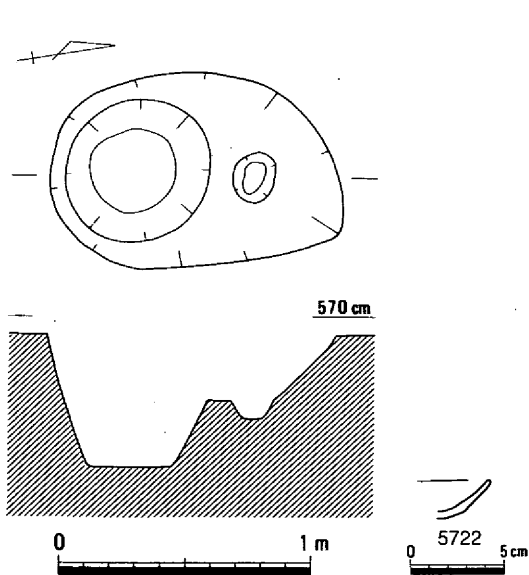


第1430図 井戸6出土遺物 (1/4)

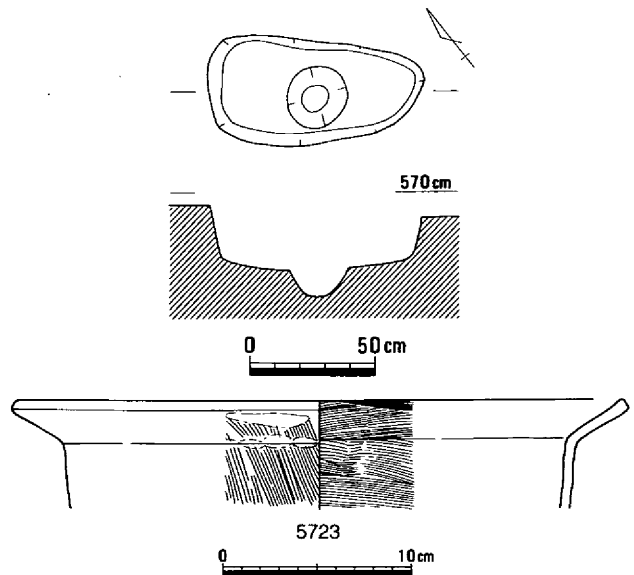
(7) 土壇

土壇443 (第1385・1431図)

Cf508区の南東部で溝44の東に1m離れて検出した楕円形土壇である。規模は、長さ114cm、幅76



第1431図 土壇443 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1432図 土壇444 (1/30)・出土遺物 (1/4)

cm、深さ26cmを測る。

出土した土師器の小皿1点から見て、時期は中世に属する。

(浅倉)

**土壌444** (第1385・1432図)

Cg507区の南部で溝45の西に4m離れて検出した不整楕円形土壌である。底部中央部が円形にくぼんでいる。規模は、長さ85cm、幅42cm、深さ37cmを測る。

出土した土師器鍋1点から見て、時期は中世に属する。

(浅倉)

**土壌445** (第1385・1433図)

Cg508区の西部で溝45の下層で検出した隅丸方形土壌である。規模は、長さ129cm、幅83cm、深さ10cmを測る。

遺物は、土師器椀と小皿が1点ずつ出土している。5724の椀は、完形品ではない。

出土した土師器から見て、時期は中世に属する。

(浅倉)

**土壌446** (第1385・1434図、図版161)

Ch508区の中央部で井戸6の上層で検出した楕円形土壌である。規模は、長さ188cm、幅99cm、深さ64cmを測る。

遺物は、土師器椀が7点、小皿が2点、軒丸瓦が出土している。5726の椀は、高台が欠けている。5727は口縁部片で、5728~5732は高台の破片である。5733は、土師器小皿で、口径7.3cm、底径5.6cm、器高1.6cmを測る。5734は、完形品である。5735は、軒丸瓦で、瓦当文様は平城宮式の6225垂式である。瓦当部分の厚さは、6.6cmもある。

出土した土師器から見て、時期は鎌倉時代に属する。

(浅倉)

**土壌447** (第1385・1435図)

Ch600区の東端部で検出した楕円形土壌である。底部西端に円形のくぼみがある。規模は、長さ95cm、幅75cm、深さ24cmを測る。

遺物は、須恵器2点と土師器が1点出土している。5737の杯蓋は、完形品ではない。

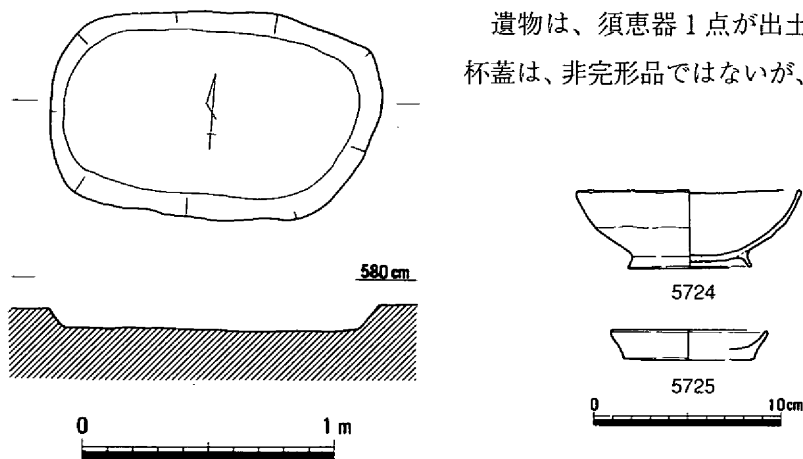
出土した土師器から見て、時期は奈良時代に属する。

(浅倉)

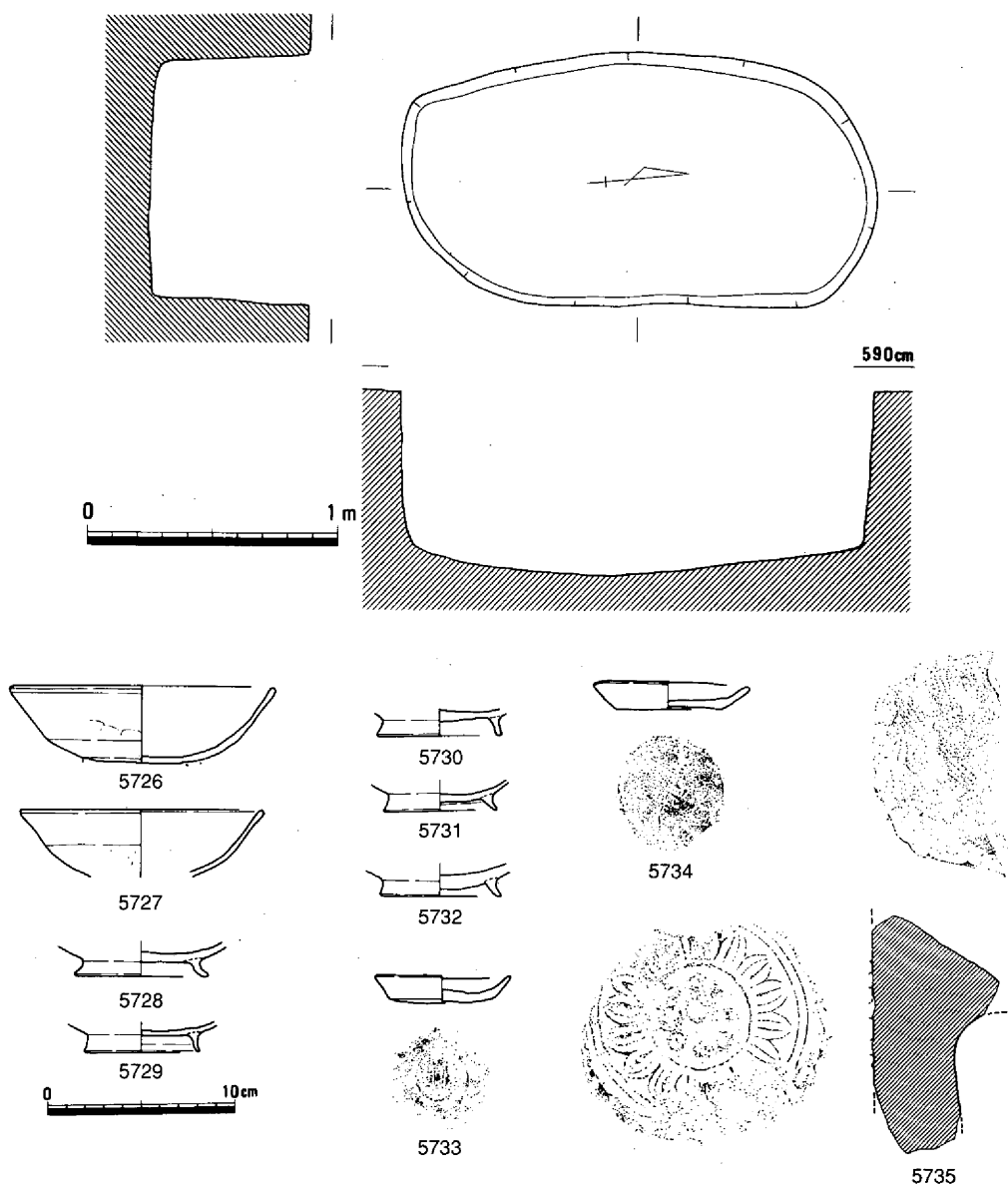
**土壌448** (第1385・1436図)

Ch600区の東端部で検出した隅丸方形土壌である。土壌447に一部切られている。規模は、長さ94cm、幅92cm、深さ32cmを測る。

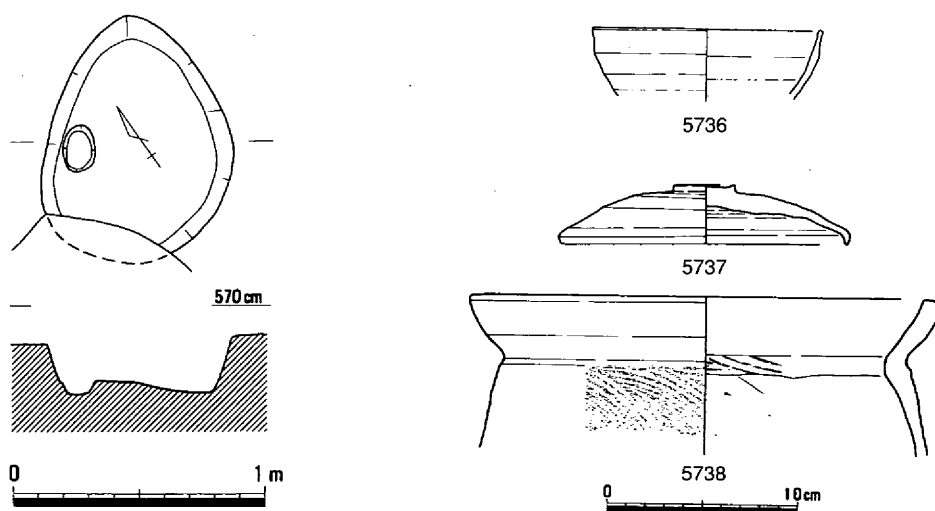
遺物は、須恵器1点が出土している。5739の杯蓋は、非完形品ではないが、口径14.2cmを測る。



第1433図 土壌445 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1434図 土壇446 (1/30)・出土遺物 (1/4)

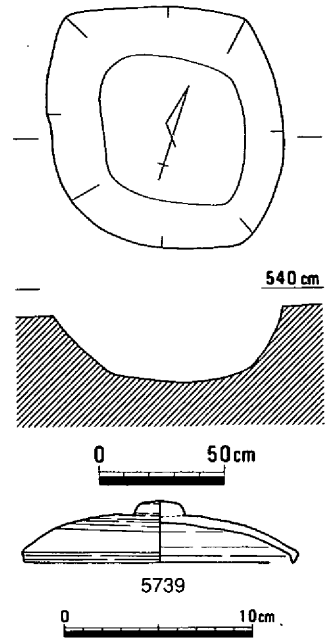


第1435図 土壇447 (1/30)・出土遺物 (1/4)

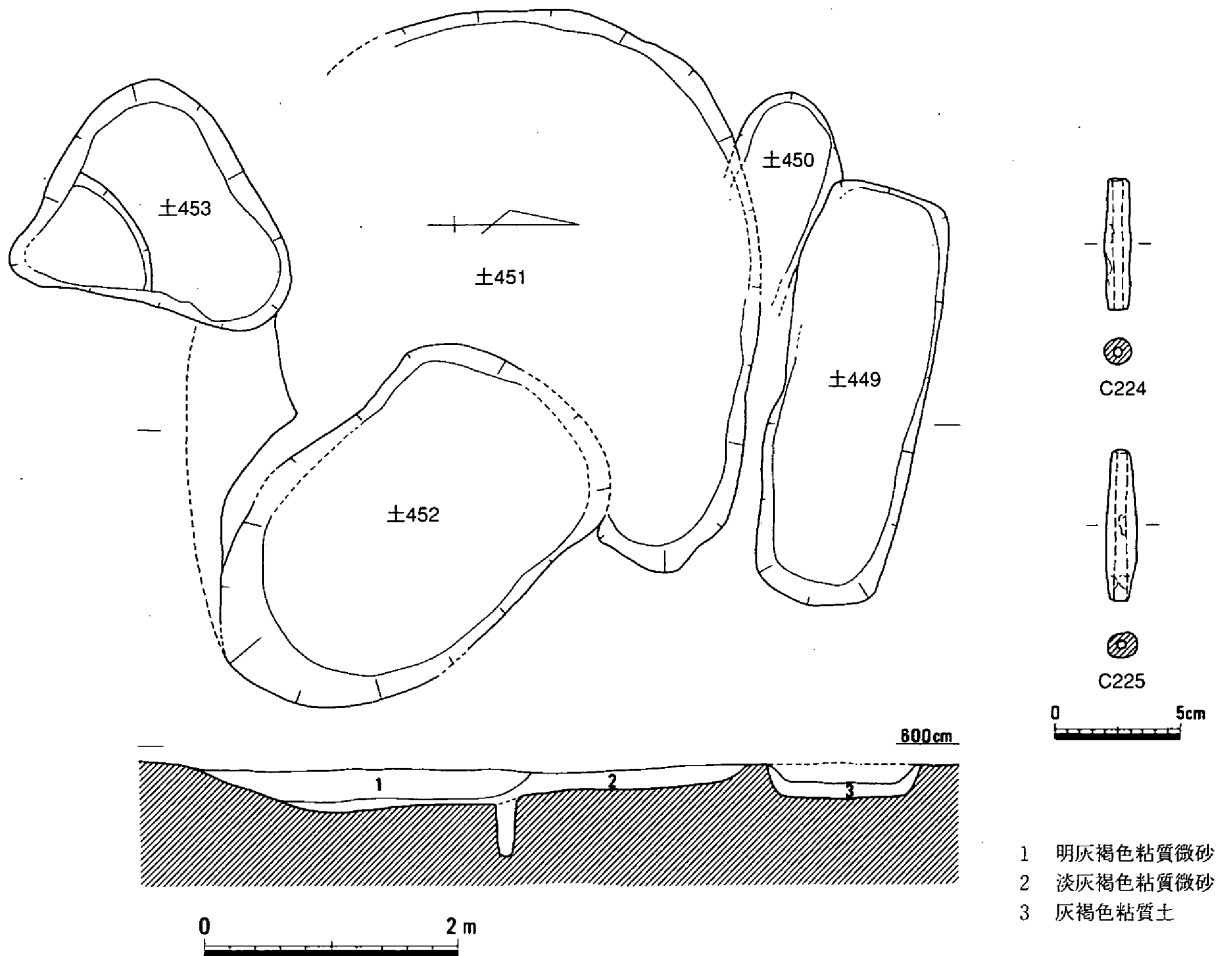
つまみは突起が低いので、持ち上げにくい。

出土した須恵器から見て、時期は奈良時代に属する。(浅倉)  
 土壙449~453 (第1385・1437・1438図、図版161)

Ch507区の北西部で検出した土壙群である。土壙449は長方形で、規模は、長さ170cm、幅60cm、深さ14cmを測る。土壙450は、楕円形だが、全形は不明である。土壙451は、不整円形で、浅い窪地と考えた方が妥当である。土壙452は、土壙451の上層で検出した。土壙453も上層で検出した三角形の土壙である。土壙449と450は、ほぼ平行関係にある。土壙435は、長方形土壙のくずれたものであろう。遺物は、管状土錘が2点と土師器10数点およびカマド片、須恵質土器鉢などが出土している。C224の管状土錘は、両端と中央部の厚さが同じである。C225の管状土錘は、両端は中央部の厚さより細い。5740~5748は土師器高台付椀である。5741は、ほぼ完形品である。5747には重ね焼痕跡が観察される。5749~5759は土師器皿であり、5751も完形品である。5760は、土器の小形鍋である。5761~5763は、土師質のカマドの部品である。



第1436図 土壙448 (1/30)  
 ・出土遺物 (1/4)



第1437図 土壙449~453 (1/30)・出土遺物① (1/3)

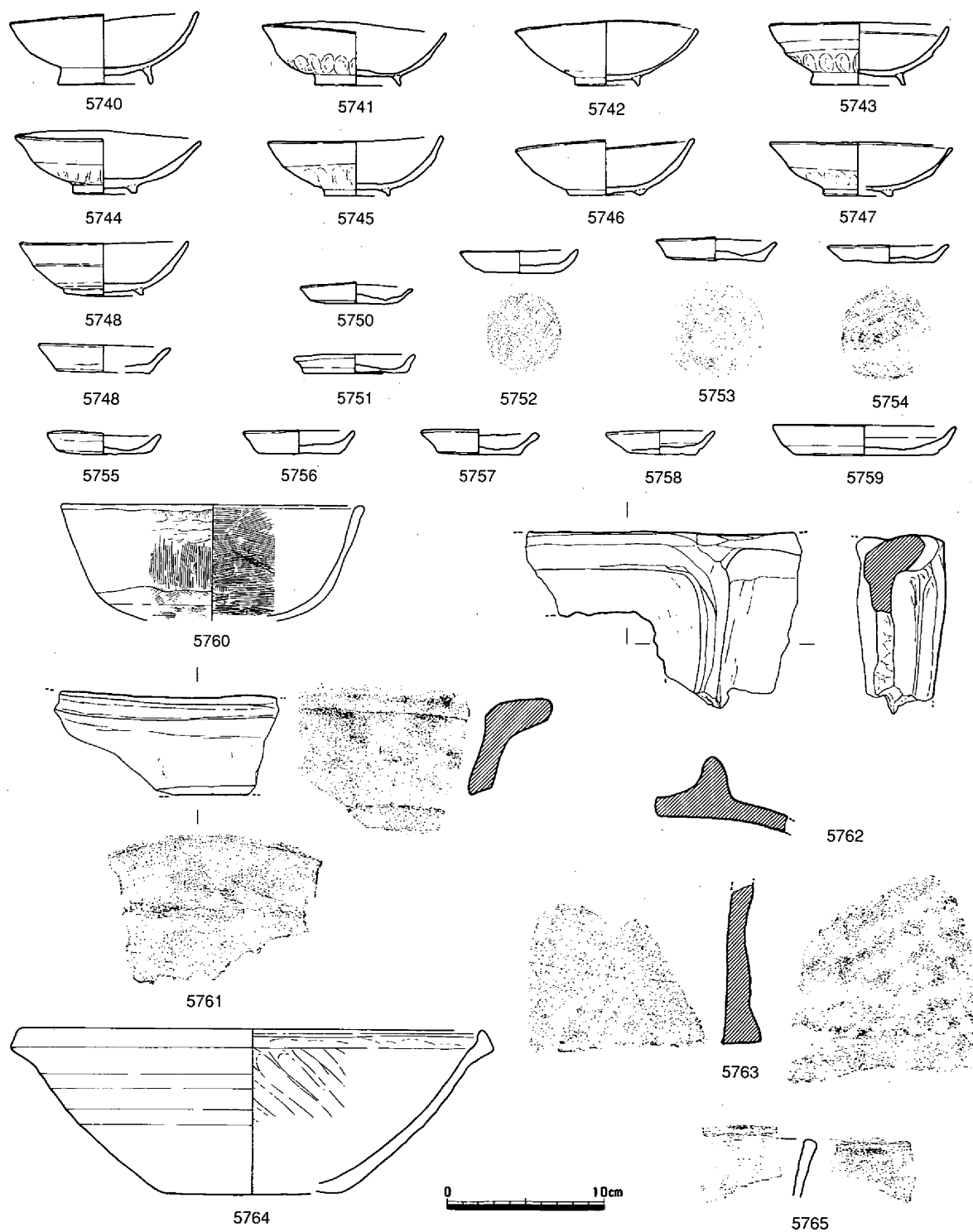
5764は、5760のような鍋の口縁部であろう。

出土した土師器から見て、時期は鎌倉時代に属する。

(浅倉)

土壇454 (第1385・1439図、図版161)

Ch507区の中央やや東より、溝45に切られている土壇で、長方形を呈する。



第1438図 土壇449~453出土遺物② (1/4)



土師器が2点出土している。高台付椀である。

土器から見て、鎌倉時代と考えたい。

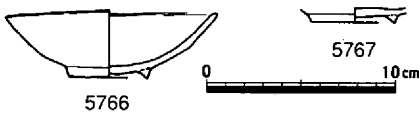
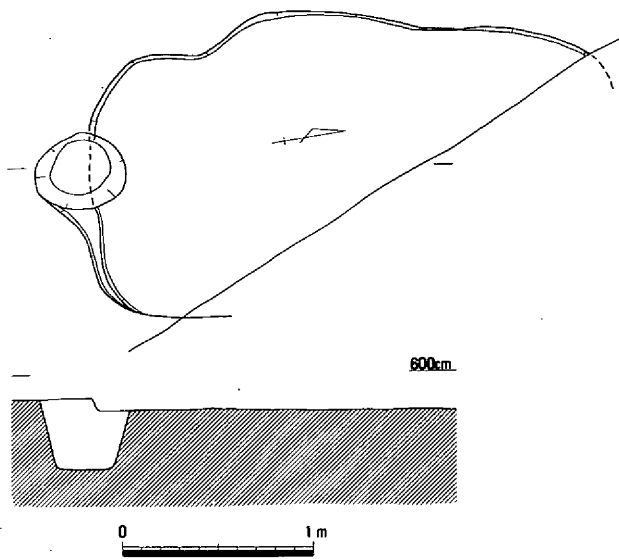
(浅倉)

土壇455 (第1386・1440図)

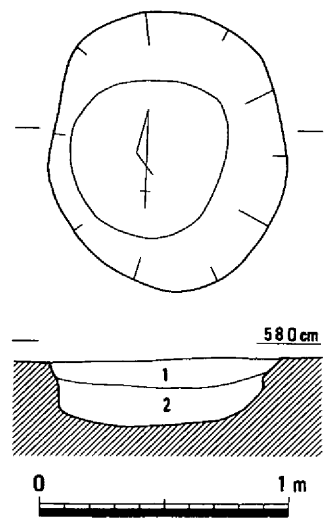
掘立柱建物66の西約6mの位置で検出された。規模は96×112cmの楕円形を呈し、深さは26cmを測る。底面は平坦である。出土遺物はないが、検出レベルからみて時期は中世の頃と思われる。(松本)

土壇456 (第1386・1441図)

掘立柱建物60と切り合い関係をもつ遺構である。規模は89×113cmの楕円形を呈し、深さは12cmを測る。底面は平坦である。埋土は暗黄褐色粘質土だけである。断面は逆台形を呈している。出土遺物はないが、廃棄された時期は遺構の検出レベル、切り合い関係等から中世と思われる。(松本)

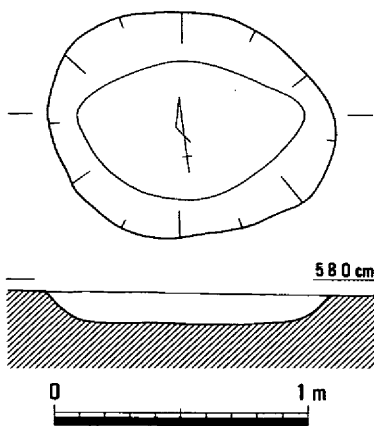


第1439図 土壇454 (1/30)・出土遺物 (1/4)



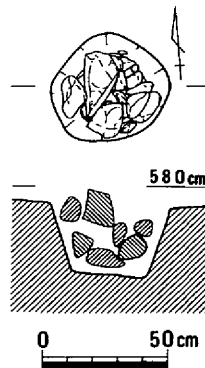
- 1 淡灰褐色砂質土
- 2 淡茶灰褐色粘質微砂

第1440図 土壇455 (1/30)

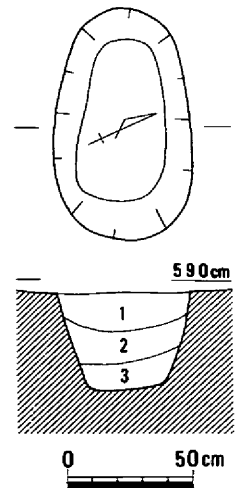


暗黄褐色粘質土

第1441図 土壇456 (1/30)



第1442図 土壇457 (1/30)



- 1 淡茶褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗灰色粘質土

第1443図 土壇458 (1/30)

土壙457 (第1386・1442図・図版81)

土壙455の南約6mで検出された。規模は43×48cmの円形を呈し、深さは28cmを測る。底面は平坦である。壙内には5～15cmの小角礫が充填されていた。遺物はないが時期は中世と思われる。(松本)

土壙458 (第1386・1443図)

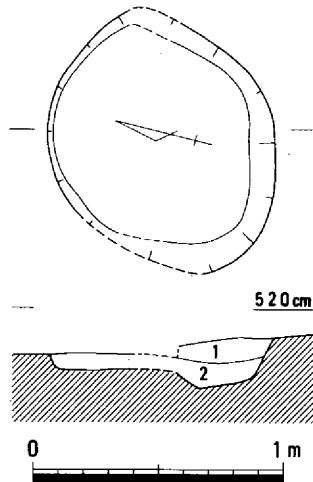
掘立柱建物62と切り合い関係をもつ遺構である。規模は55×92cmの楕円形を呈し、深さは38cmを測る。底面は平坦である。埋土は3層に区分されるが、堆積はやや水平に近い状態である。出土遺物がないため、時期の確定が困難であるが、廃棄された時期は古代ないし中世と思われる。(松本)

土壙459 (第1386・1444図)

掘立柱建物61の南約5mの位置で検出された。規模は99×108cmの楕円形を呈し、深さは18cmを測る。底面は南側がくぼんでいるが、北側では平坦となる。埋土は2層に区分されるが、堆積は水平である。出土遺物がないため、時期の確定は困難であるが、廃棄された時期は中世と思われる。(松本)

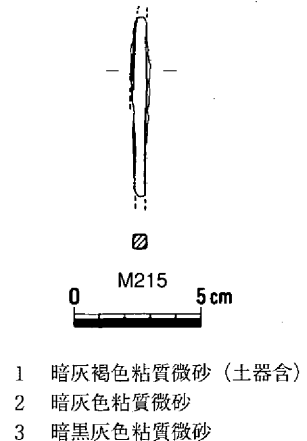
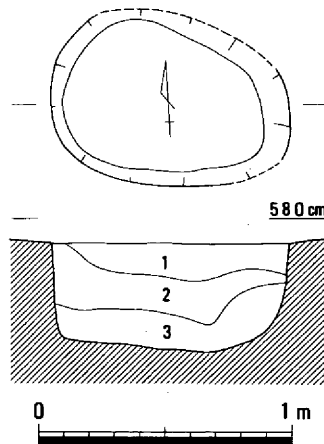
土壙460 (第1386・1445図)

土壙459の南約2mで検出された。規模は69×97cmの楕円形を呈し、深さは42cmを測る。底面は平坦である。埋土の堆積はレンズ状を呈している。遺物としては、鉄釘のほかに図示してないが土師器がある。これらの遺物から時期は中世(13世紀中・後)のものと思われる。(松本)



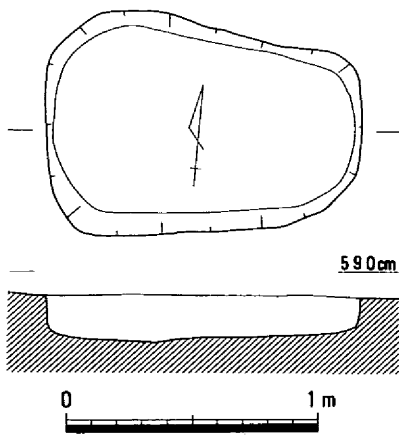
- 1 黄褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土

第1444図 土壙459 (1/30)



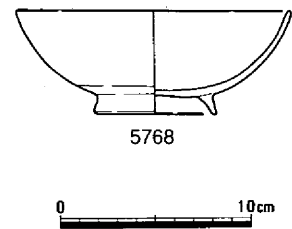
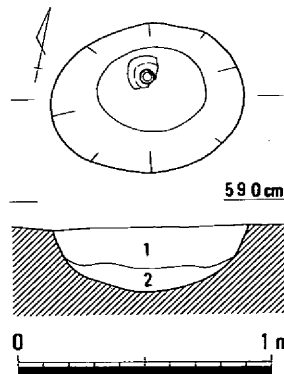
- 1 暗灰褐色粘質微砂 (土器合)
- 2 暗灰色粘質微砂
- 3 暗黒灰色粘質微砂

第1445図 土壙460 (1/30)・出土遺物 (1/3)



- 暗茶褐色粘質微砂

第1446図 土壙461 (1/30)



- 1 暗褐色粘質微砂
- 2 暗黄灰色粘質微砂

第1447図 土壙462 (1/30)・出土遺物 (1/4)

**土壙461** (第1386・1446図)

土壙460の南西約5mに位置する。規模は88×126cmの隅丸方形を呈し、深さは19cmを測る。底面は平坦である。時期は弥・後とも考えられるが、中世の遺構と考えたい。(松本)

**土壙462** (第1386・1447図、図版161)

土壙461の東約9mの位置で検出された。規模は59×76cmの楕円形を呈し、深さは26cmを測る。底面は中央がくぼみ、断面は皿形を呈する。埋土は2層に区分される。遺物としては、土師器の高台付碗5768が出土している。これらの遺物から廃棄された時期は中世(13世紀中)と思われる。(松本)

**土壙463** (第1386・1448図)

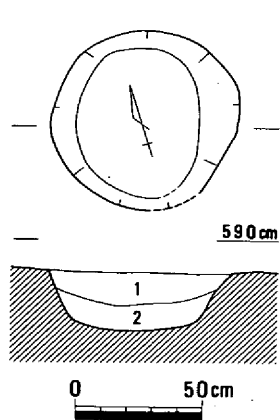
土壙464の北約3mの位置で検出された。規模は72×75cmの円形を呈し、深さは23cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は2層に区分される。時期を示す遺物はないが、中世と思われる。(松本)

**土壙464** (第1386・1449図)

土壙463の南約3mの位置で検出された。規模は81×82cmの円形を呈し、深さは26cmを測る。底面は平坦である。埋土は2層に区分される。時期を示す遺物はないが、中世と思われる。(松本)

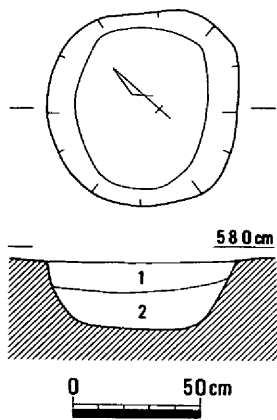
**土壙465** (第1386・1450図)

土壙466の南約1mの位置で検出された。規模は59×67cmの円形を呈し、深さは25cmを測る。底面は平坦である。埋土は2層に区分される。時期を示す遺物はないが、中世と思われる。(松本)



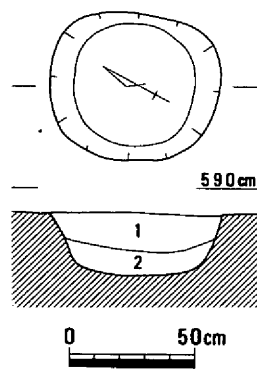
- 1 黄灰褐色粘質微砂
- 2 茶灰褐色粘質土

第1448図 土壙463 (1/30)



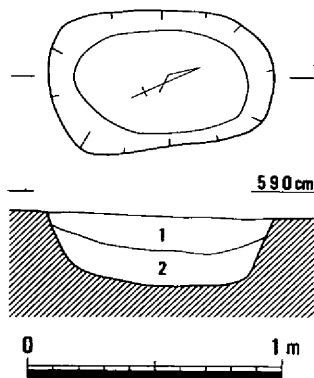
- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗茶灰褐色粘質土

第1449図 土壙464 (1/30)

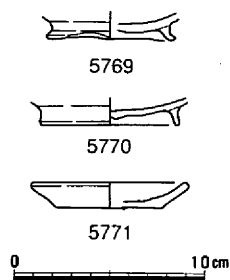


- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土

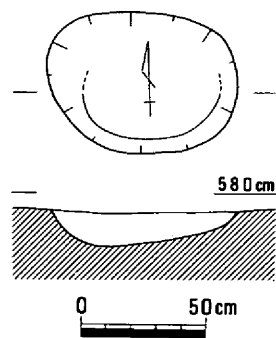
第1450図 土壙465 (1/30)



第1451図 土壙466 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- 1 暗茶灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土



- 1 暗灰褐色粘質微砂

第1452図 土壙467 (1/30)

**土壌466** (第1386・1451図)

土壌465の北約1mの位置で検出された。規模は56×89cmの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。底面は平坦である。埋土は2層に区分される。出土遺物としては、高台付椀**5769・5770**、小皿**5771**がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は中世(13世紀後半)と思われる。(松本)

**土壌467** (第1386・1452図)

土壌墓21の東約2mの位置で検出された。規模は57×77cmの楕円形を呈し、深さは13cmを測る。底面は西側に傾斜する。埋土は1層である。時期を示す遺物はないが、中世と思われる。(松本)

**土壌468** (第1386・1453図)

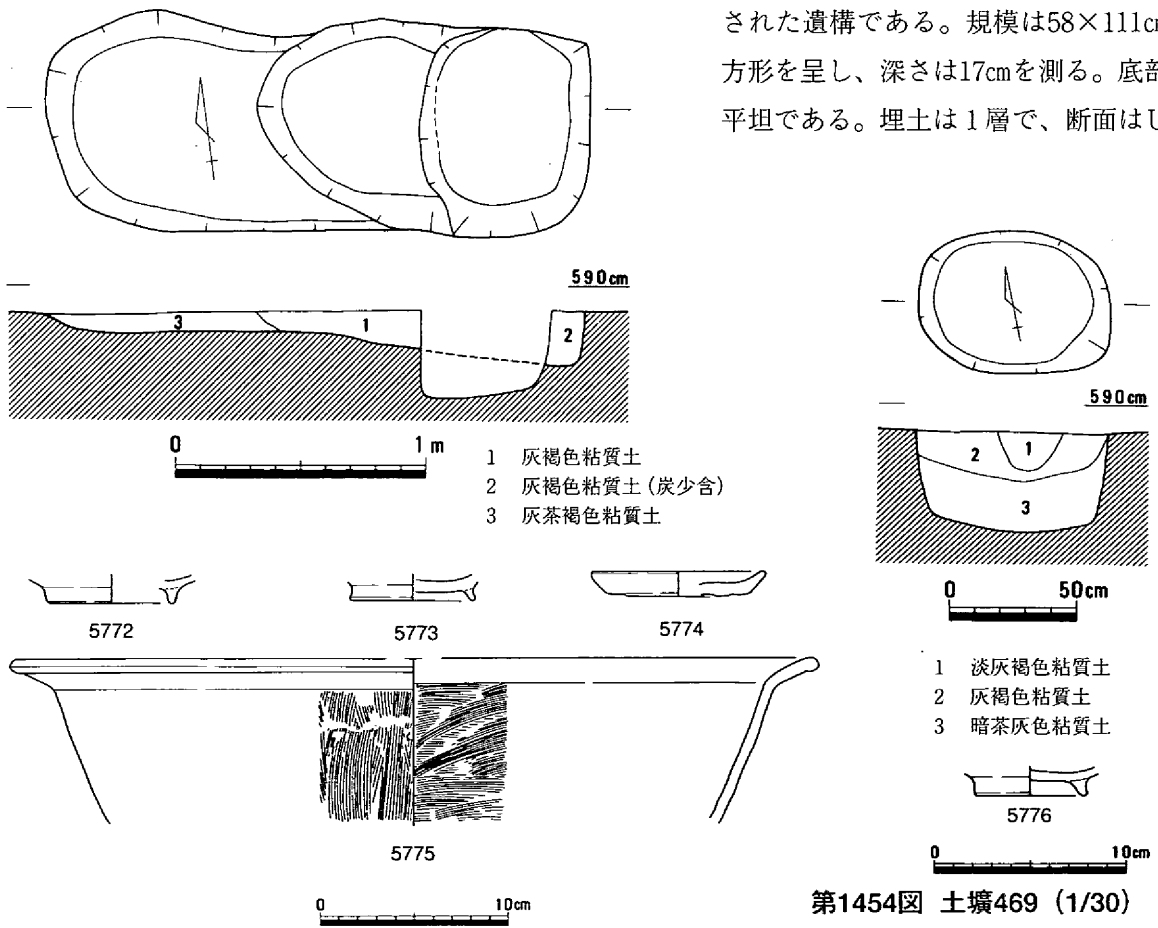
掘立柱建物73と切り合い関係をもつ遺構である。土壌3個が連続して検出されたものをまとめている。西から順次新しいことが、断面観察で確認されている。規模は87×217cmを測り、不整楕円形となる。最終土壌の埋土には炭が含まれている。出土遺物は、土師器の高台付椀**5772・5773**、小皿**5774**・鍋**5775**がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は中世(14世紀中頃)と思われる。(松本)

**土壌469** (第1386・1454図)

土壌468の南約3mの位置で検出された。規模は56×75cmの楕円形を呈し、深さは39cmを測る。底面は平坦に近い状態である。埋土は3層に区分される。出土遺物としては、土師器の高台付椀**5776**がある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は中世(13世紀後半)と思われる。(松本)

**土壌470** (第1386・1455図)

掘立柱建物74の南約4mの位置で検出された遺構である。規模は58×111cmの方形を呈し、深さは17cmを測る。底部は平坦である。埋土は1層で、断面はU字



第1453図 土壌468 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第1454図 土壌469 (1/30)  
・出土遺物 (1/4)

形となる。出土遺物としては、土師器の高台付碗5777・5778、小皿5779、丸瓦5780などがある。これらの遺物からみて、廃棄された時期は中世（13世紀後半）と思われる。（松本）

**土壙471**（第1386・1456図）

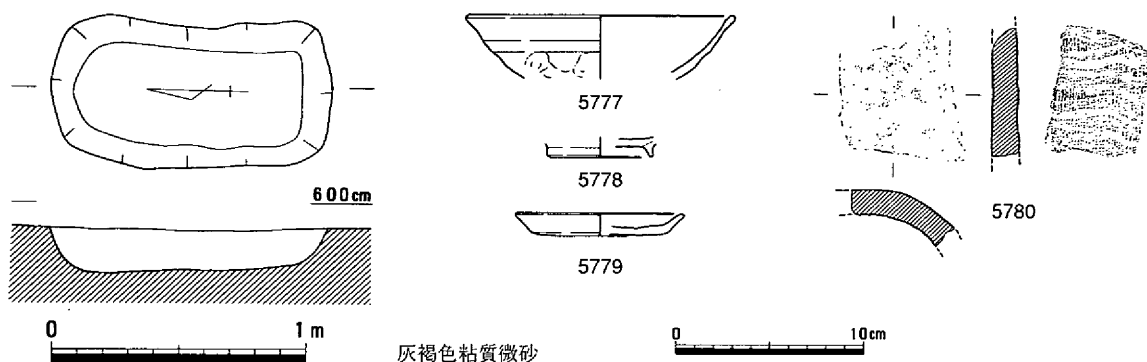
土壙470の南約2mの位置で検出された。規模は51×96cmの方形を呈し、深さは5cmを測る。底面は平坦である。埋土は1層である。出土遺物はないが、時期は中世と思われる。（松本）

**土壙472**（第1384・1457図）

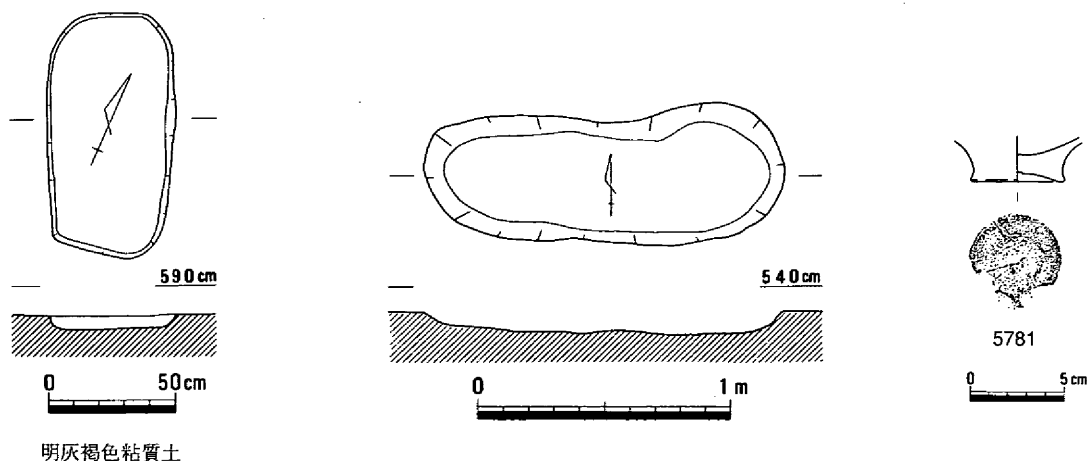
調査区の中央南部、河道9の緩斜面下から検出された。東西方向に主軸をもつ平面楕円形の土壙で、規模は49×142cm、深さ10cmを残す。浅いたわみ状を呈し、底部はやや凹凸し、これより土師器碗5781が出土しており、古代の範疇のものか。（江見）

**土壙473**（第1384・1458図、図版170）

調査区のほぼ中央から検出された、南北方向に長い土壙である。平面楕円形を呈し、規模は56×385cm、深さ約30cmを残す。土壙の掘り方は壁が逆台形状に傾斜し、底部は凹凸しながら最深の中央部に向かっている。土壙内には拳から人頭大の礫によって埋め尽くされており、その間から炭、骨片、土器片などが散在する状態であった。遺物としては、土師器の碗5782、鍋5788・5789、亀山焼のこね鉢5783、甕5786・5787、備前焼の甕5785、瓦5790、鉄製品M216などが出土しており、これら遺物の特徴から中世（13世紀）と思われる。（江見）

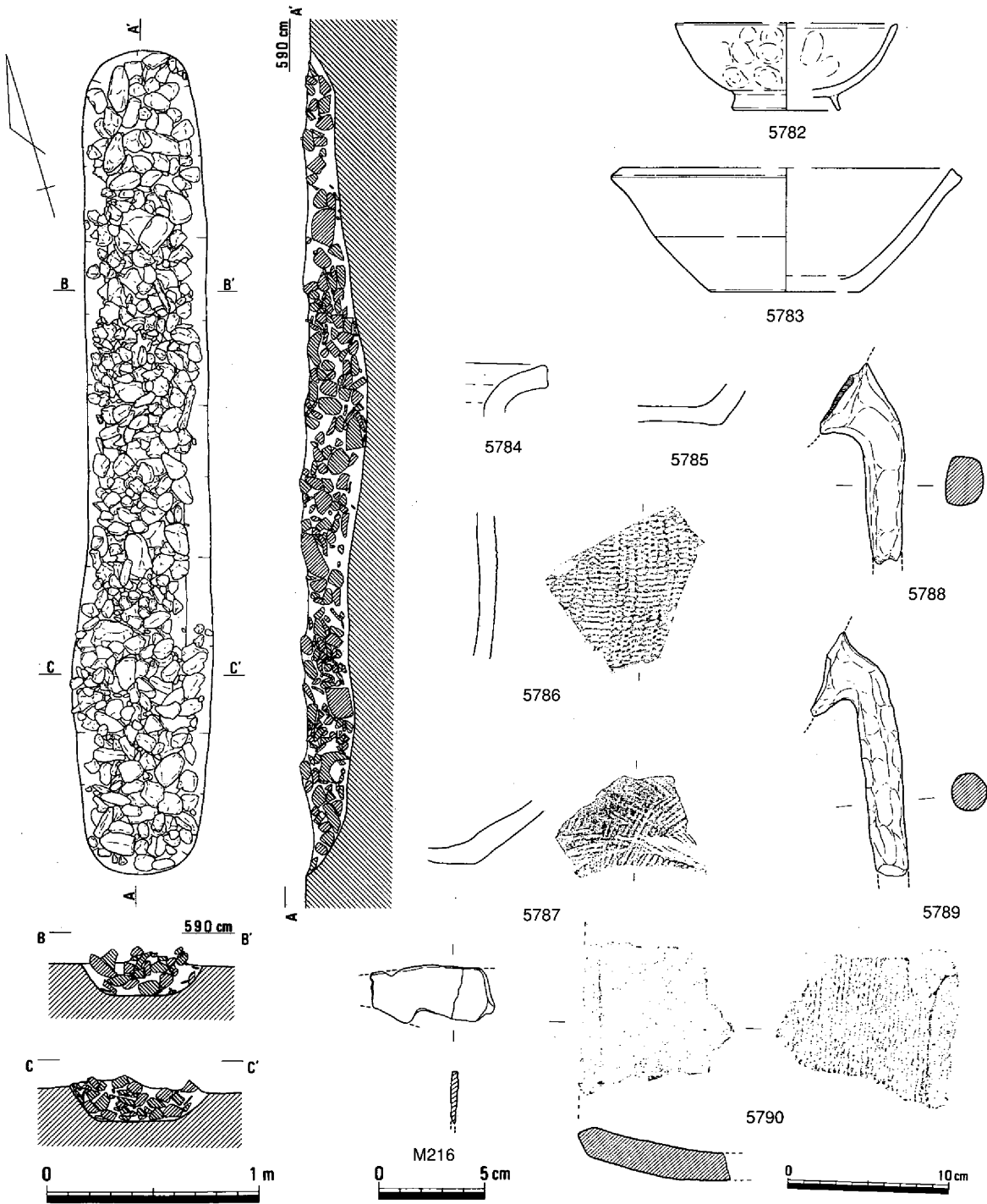


第1455図 土壙470 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第1456図 土壙471 (1/30)

第1457図 土壙472 (1/30)・出土遺物 (1/4)

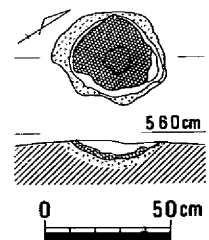


第1458図 土壌473 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)

(8) 鍛冶炉

鍛冶炉 1 (第1384・1459図)

調査区の北東部から検出された。微高地の北緩斜面上にあたり、規模は径30cm前後、深さ5cm余りを測り、このくぼんだ炉の上部に鉄滓、炭粒、焼土、小礫を含む淡黄灰色砂質土が堆積していた。炉は暗青灰白色に



第1459図 鍛冶炉 1 (1/30)

硬く焼け締まった部分の厚さが約2cmを測り、被熱の影響を受けた部分は暗赤茶色を呈し、径50cm前後、厚さ4cm前後の広がり方が確認された。伴出遺物は鉄滓のみで、中世の範疇であろう。（江見）

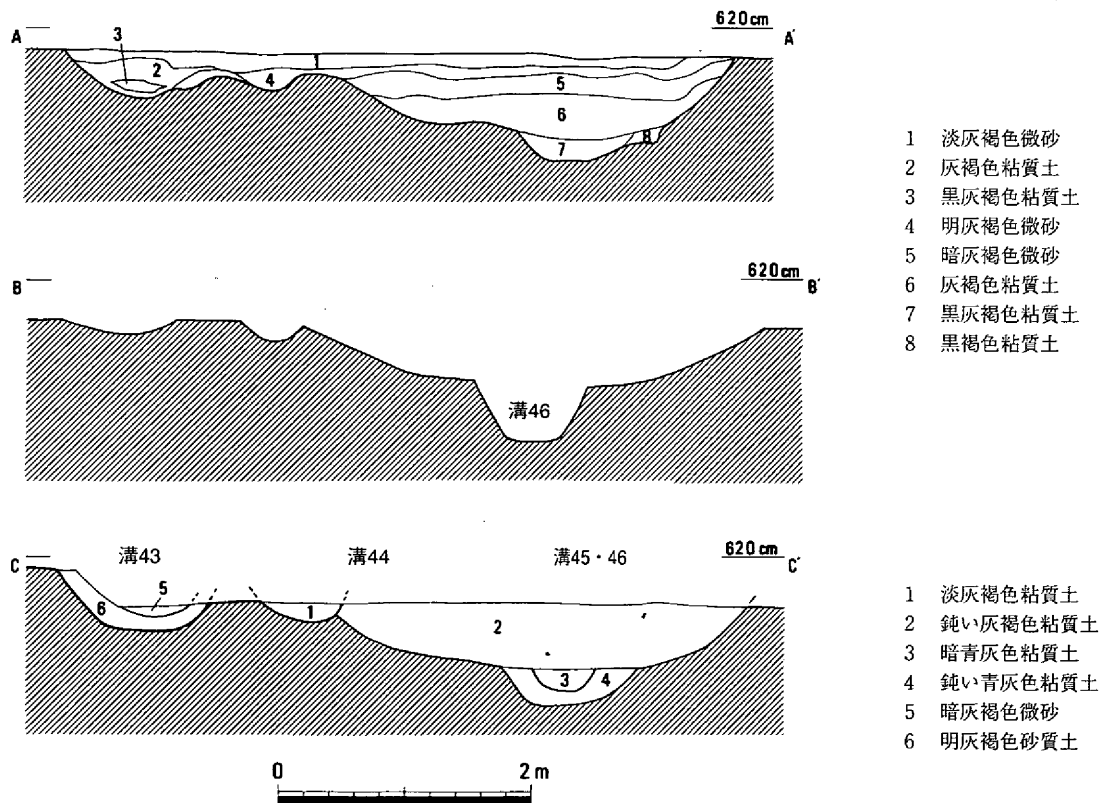
### (9) 溝

溝43～46 (第1385・1460・1461図、図版162)

Cf508からCf1507区にはほぼ南北に方向に直線で平行して延びる溝群である。東から溝43、溝44、溝45、溝46と呼称した。検出した溝の長さは、いずれも調査区の幅一杯の33mである。幅は、125cm、65cm、135cm、110cmを測る。深さは、50cm、15cm、50cm、50cmであった。土層断面の観察から、溝45は溝44に切られ、溝46の上層であることが判定できる。溝43は、溝44と同時に存在していたものと考えてもよい。

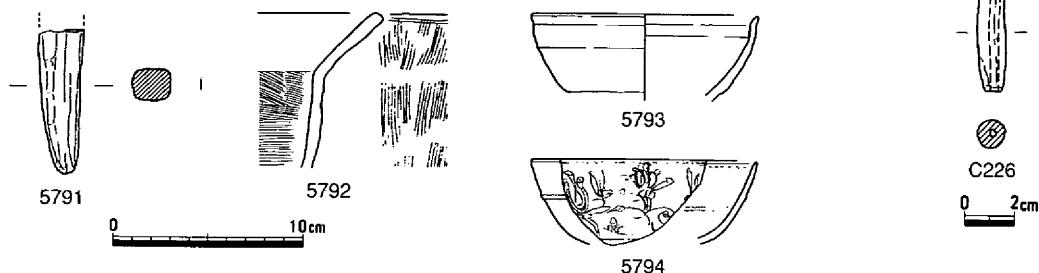
遺物は、土器としては土鍋の脚や鍋の口縁部、瀬戸天目、伊万里碗、亀山焼こね鉢、土師器碗、土師器皿、丸瓦、青磁碗、カマドが出土している。ほかに、管状土錘、鉄器も出ている。

遺構や遺物から、溝群の時期は中世と考えられる。宅地区画の溝であろう。（浅倉）

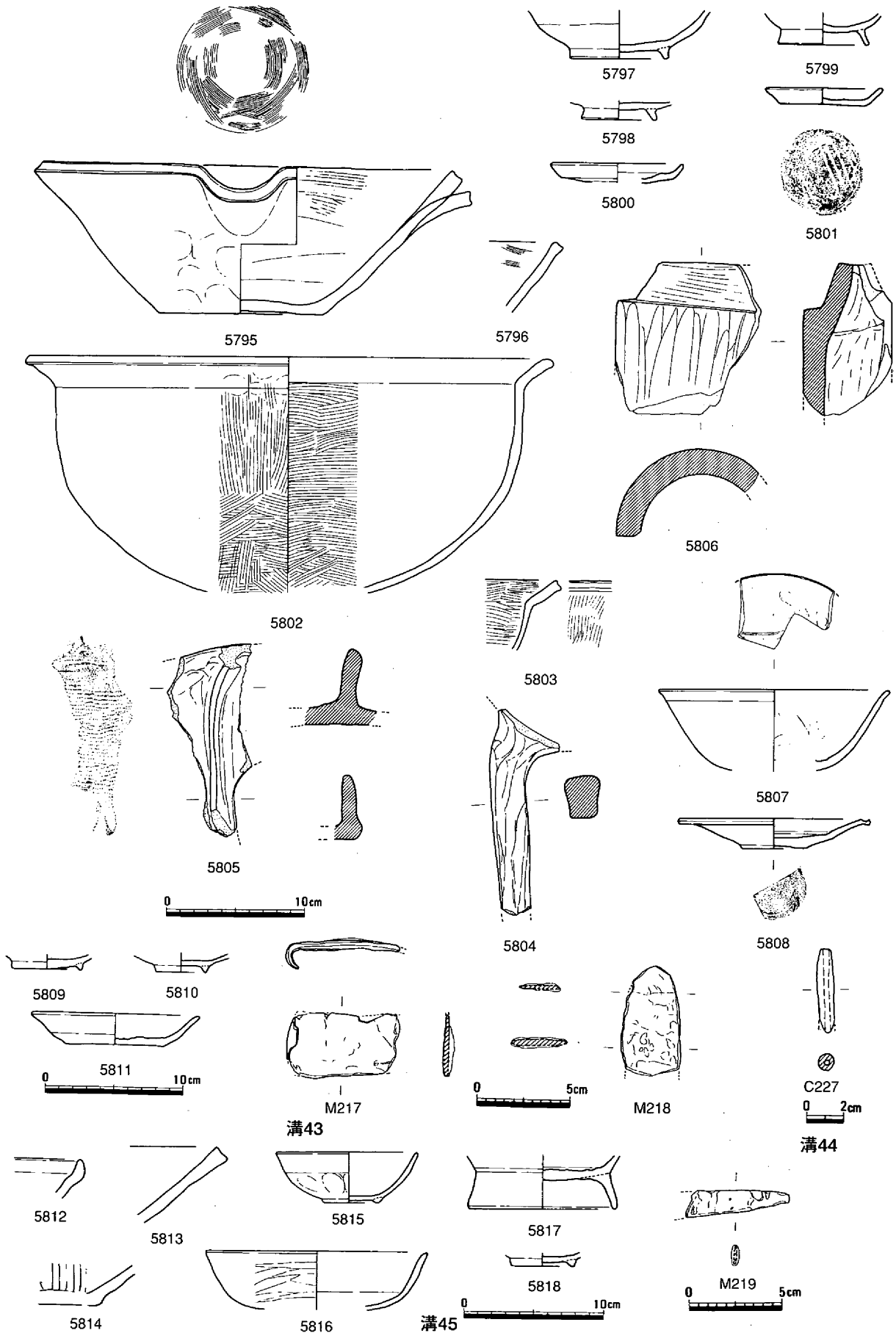


- 1 淡灰褐色微砂
- 2 灰褐色粘質土
- 3 黒灰褐色粘質土
- 4 明灰褐色微砂
- 5 暗灰褐色微砂
- 6 灰褐色粘質土
- 7 黒灰褐色粘質土
- 8 黒褐色粘質土

- 1 淡灰褐色粘質土
- 2 鈍い灰褐色粘質土
- 3 暗青灰色粘質土
- 4 鈍い青灰色粘質土
- 5 暗灰褐色微砂
- 6 明灰褐色砂質土



第1460図 溝43～46 (1/60)・出土遺物① (1/4,1/3)



第1461図 溝43~46出土遺物② (1/4,1/3)



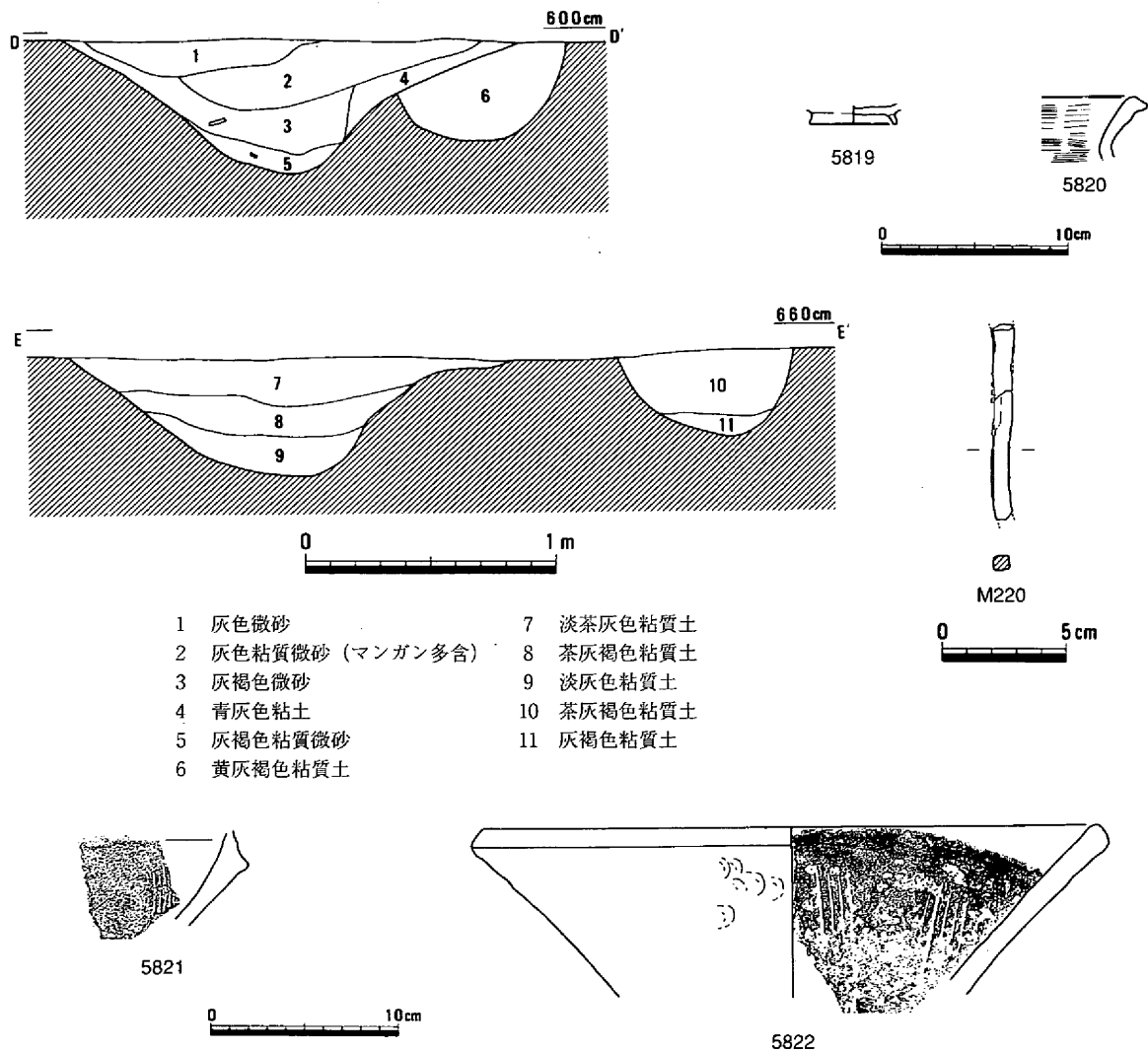
溝47 (第1386・1462図)

掘立柱建物61・62、溝48と切り合い関係をもつ遺構である。南北に直線的に流れる水路で、約35mの長さで検出した。検出面での溝の幅は70cm前後で、深さは40cm程度を測る。断面形はU字状を呈している。溝底のレベルからみて、水は南から北に向けて流れていたものと思われる。溝48との前後関係は断面観察によって、溝47が古いことが確認されている。出土遺物としては、土師器の高台付碗・鍋・鉄釘などがある。これらの遺物からみて、時期は中世(13世紀中頃)と思われる。(松本)

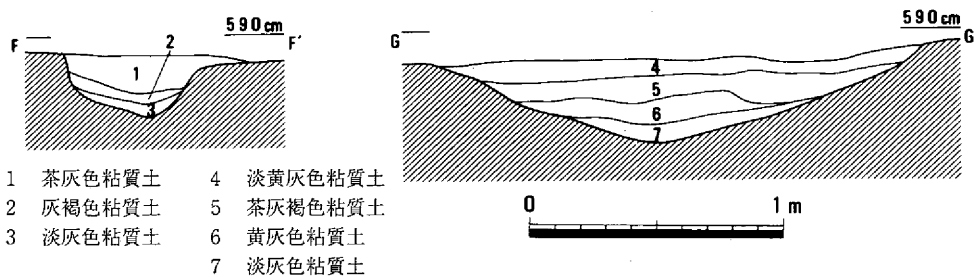
溝48 (第1386・1462図・図版155)

溝48は溝47を切る状態で検出された。溝は南北にほぼ直線に流れる大形の水路であるが、北で東、南で西に少し湾曲している。溝は約35mの長さで検出されたが、検出面での規模は幅が2m前後で、深さは50cm程度を測る。断面形は逆台形状を呈している。溝47と同様に、溝底レベルからみて、水は南から北に向けて流走していたと思われる。埋土は北では5層に、南では3層に区分されている。

図示できる出土遺物としては、備前焼の播鉢5821、亀山焼の播鉢5822がある。これらの遺物からみて、この遺構の時期は中世(15世紀代)と思われる。(松本)



第1462図 溝47・48 (1/30)・出土遺物 (1/4,1/3)



第1463図 溝49 (1/30)

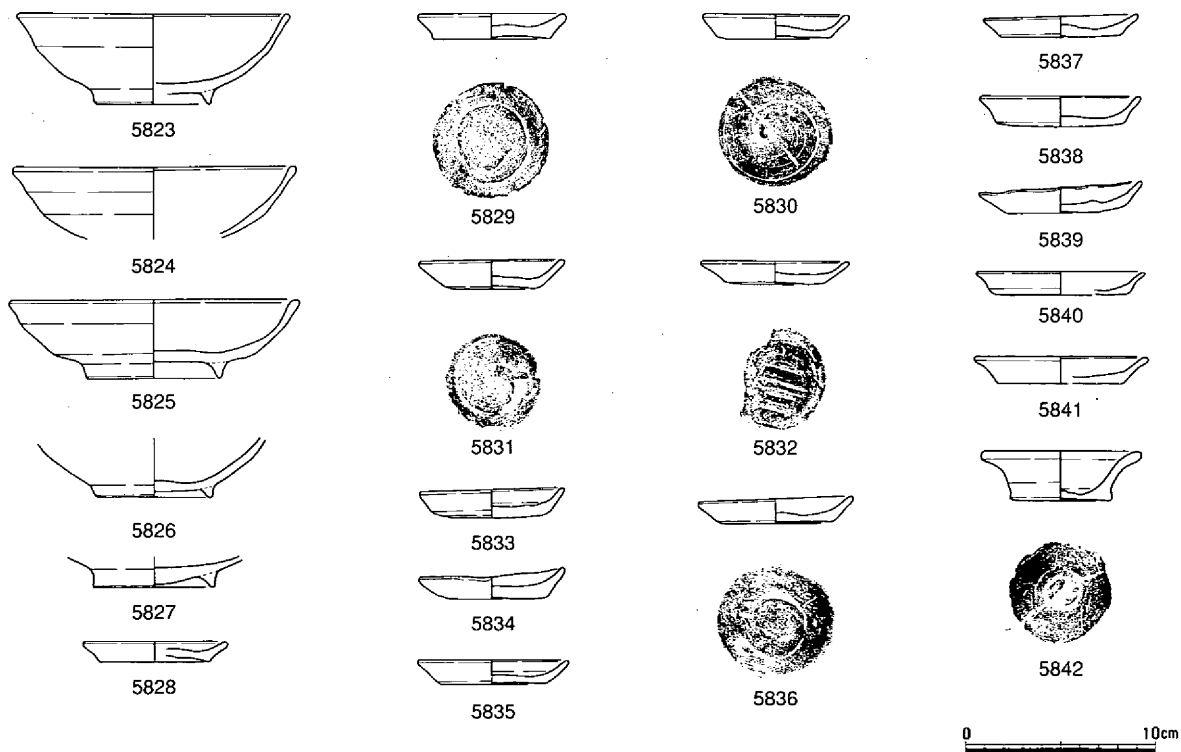
溝49 (第1386・1463図)

溝48に切られ、溝47を切る状態で検出された。北東にある溜池（1×3×0.4m）状の遺構から水を流す水路と思われる。溝は直角に枝状に分かれている。検出面での規模は幅が70cm前後、深さは22cm程度である。埋土は溜池状遺構で4層に、溝が3層に区分された。図示できる出土遺物はないが、遺構の切り合い関係からみて、時期は中世（14～15世紀代）と思われる。（松本）

(10) 土器溜り

土器溜り6 (第1386・1464図、図版162)

掘立柱建物73に接して検出された。土器溜りからは、土師器の高台付椀5823～5827、小皿5828～5841、器台5842などが出土している。5823～5827は早島式土器ないし吉備系土師器椀と呼ばれるもので、口径14～15cm、器高4.2～4.7cm、色調は灰白色を呈する。5828～5841は底部の切り離し痕跡がヘラキリ、ヘラキリ後ナデ、板目痕などに分類される。時期は中世（13世紀中頃）と思われる。（松本）



第1464図 土器溜り6 出土遺物 (1/4)

(11) 窪地

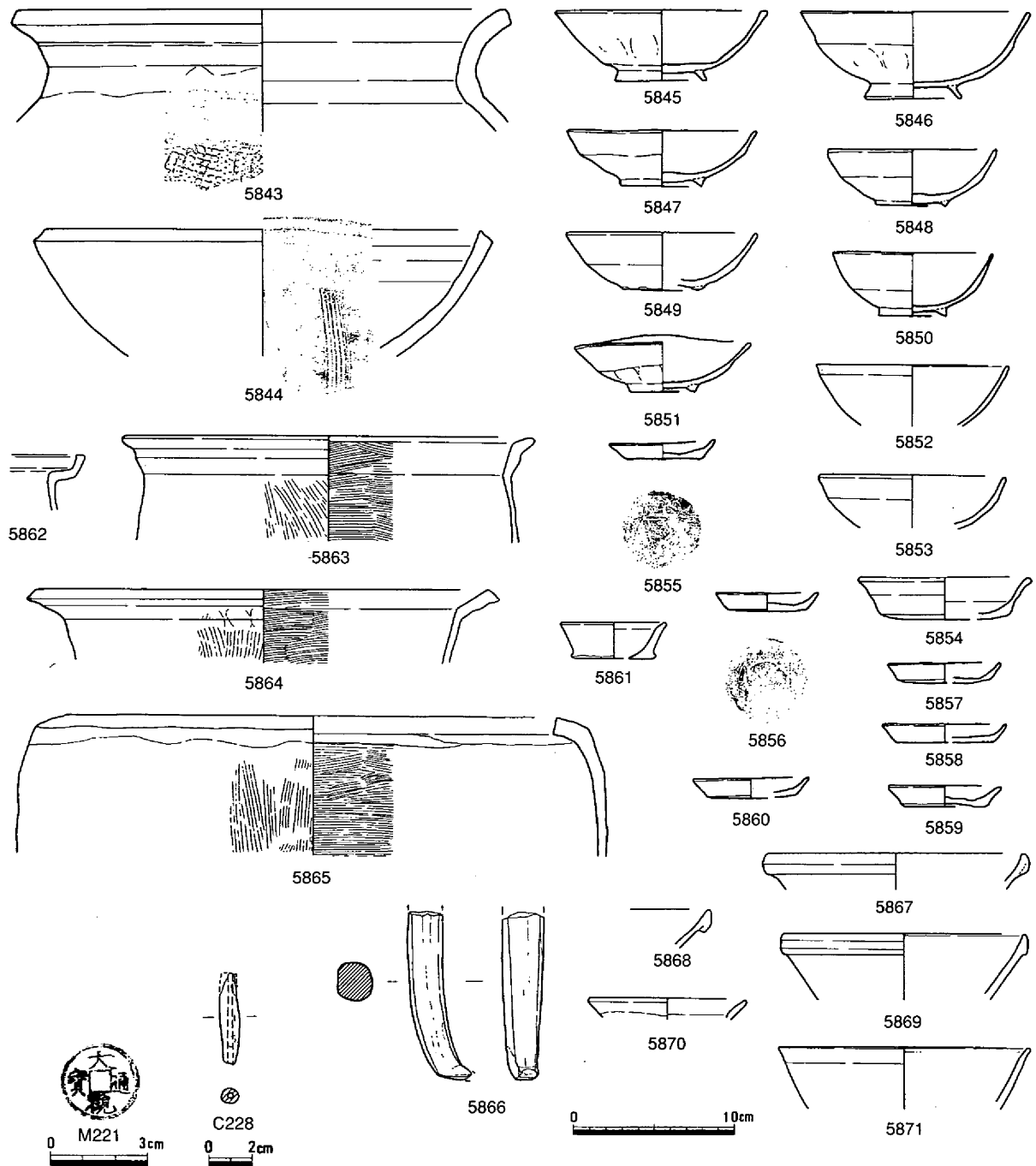
窪地5 (第1385・1465図)

Cg508区の井戸6東側で検出したかなり大きな不定形の窪地である。灰色粘土で埋まっていた。中世宅地造成の時に埋めたてられたものであろう。

土器類としては、亀山焼甕、備前焼播鉢、土師器椀、土師器皿、土師器器台、土師質土器鍋、土師器火鉢、青磁、白磁が出土している。ほかに、古銭「大観通寶」や管状土錘が出ている。

遺構や遺物から、この窪地の時期は中世と考えられる。

(浅倉)



第1465図 窪地5出土遺物 (1/4,1/2,1/3)

窪地6 (第1385・1466図)

Ci508区南の溝43東側で検出したほぼ円形の窪地である。灰色粘土で埋まっていた。窪地5と同様に中世宅地造成の時に埋め立てられたものであろう。

土器類としては、土師器椀・土師器器台・白磁が出土している。

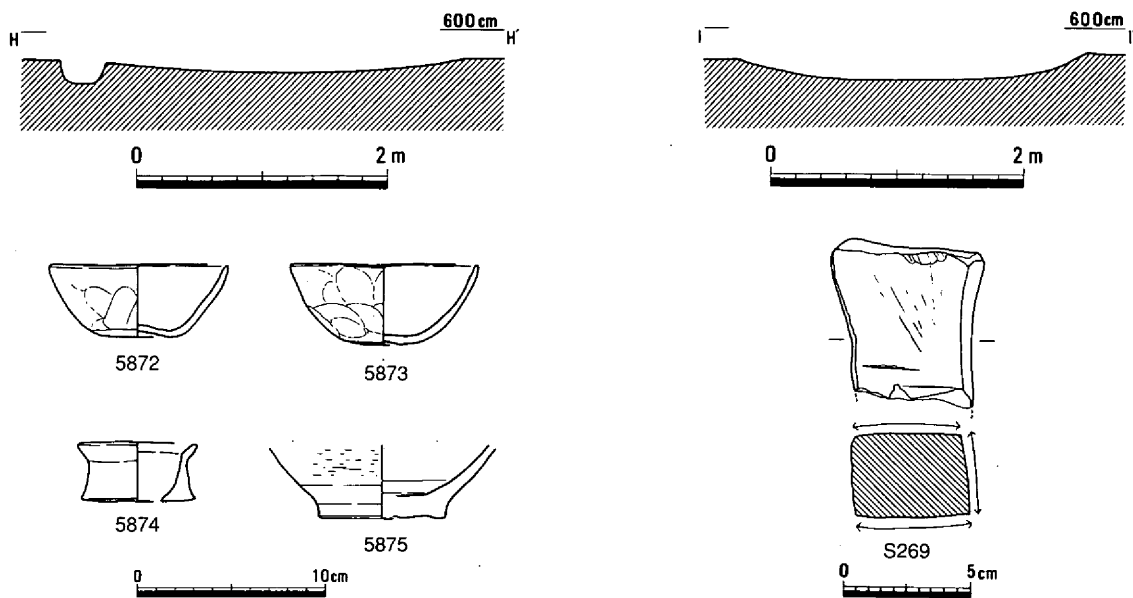
遺構や遺物から、この窪地の時期は中世と考えられる。 (浅倉)

窪地7 (第1385・1466図)

Ch509区南の溝43東側9mで検出したほぼ方形の窪地である。灰色粘土で埋まっていた。窪地5と同様に中世宅地造成の時に埋め立てられたものであろう。

遺物としては、流紋岩製の砥石1点が出土している。

遺構や遺物から、この窪地の時期は中世と考えられる。 (浅倉)



第1466図 窪地6・7 (1/60)・出土遺物 (1/4,1/3)

(12) 河道

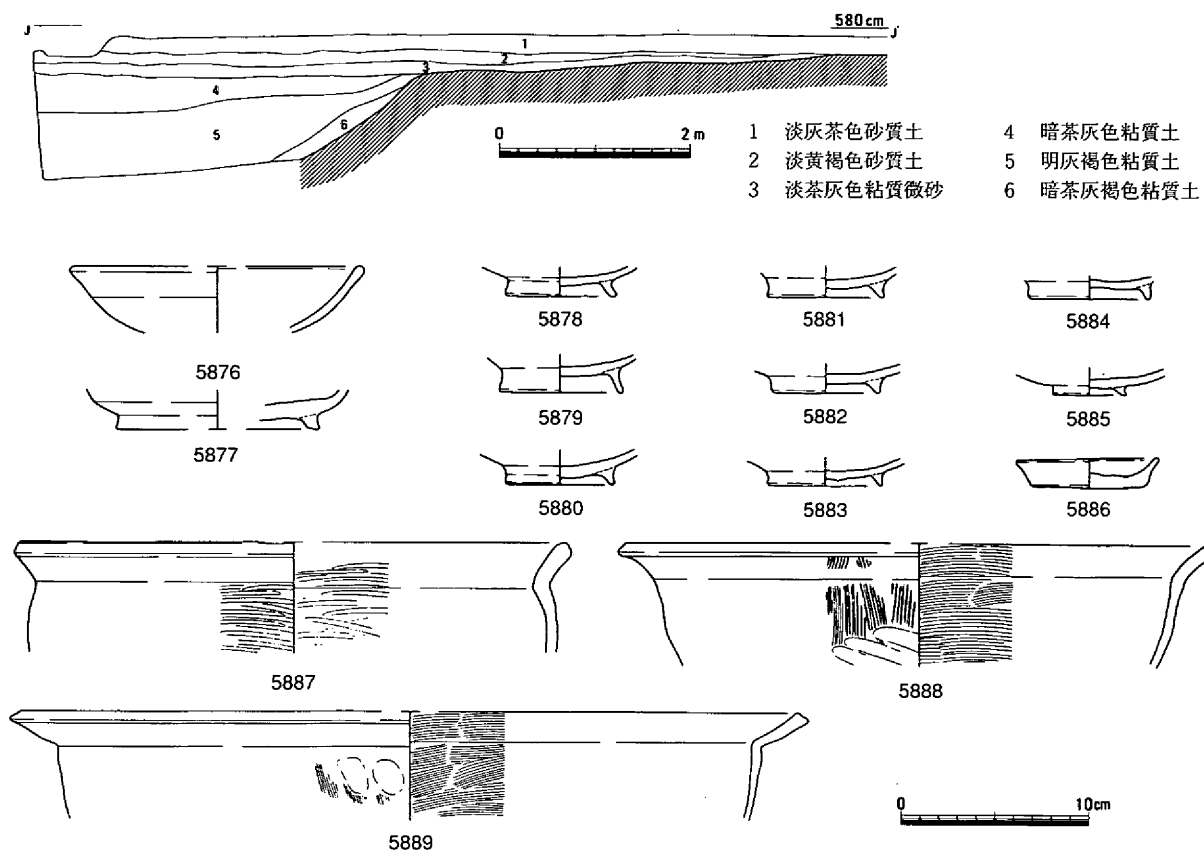
河道8 (第1384・1467図)

調査区の中央東寄りの北端から検出されたもので、北に緩く傾斜する部分を確認している。第1～3層がこれにあたり、第4層以下は古墳時代の河道と認識している。このため、当河道は斜面の包含層としての取り扱いが適切であるかもしれないが、平面的には古墳時代の河道を一回り大きくした箇所から斜面が始まっており、調査区外において本来の河道の下がり所在すると推定した。

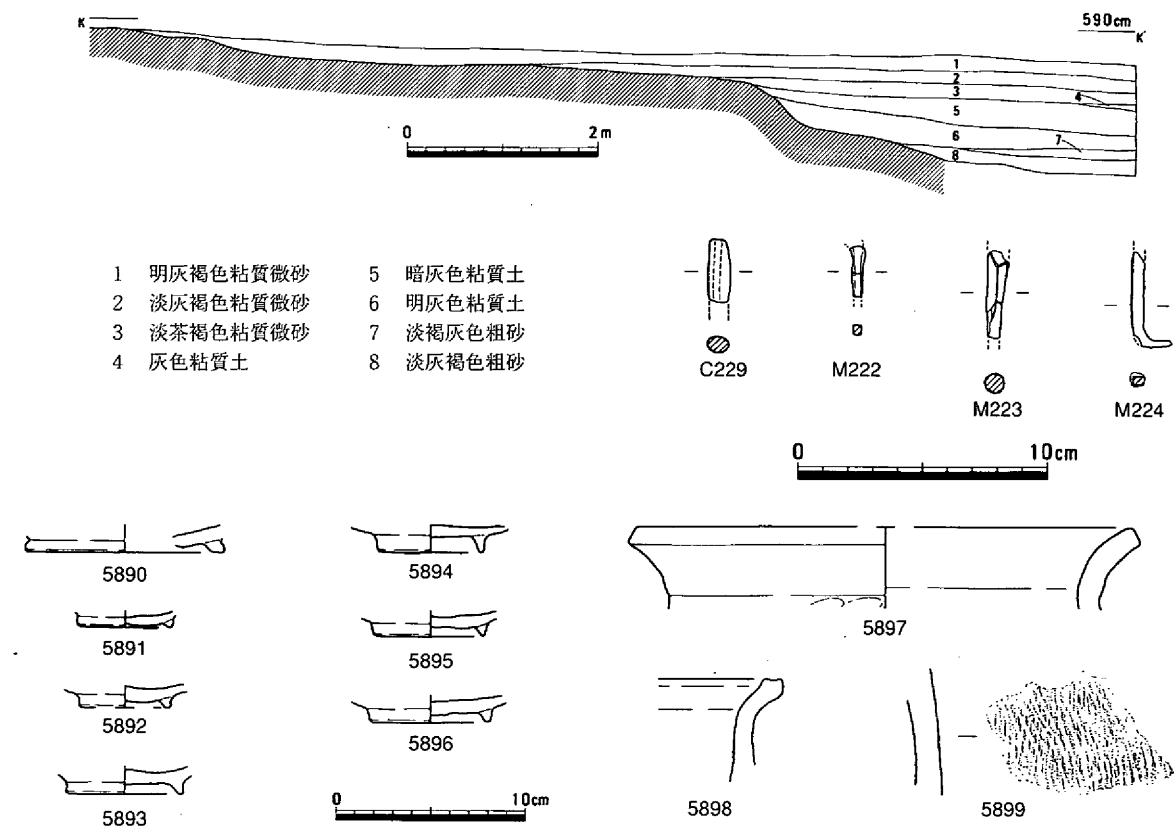
出土した遺物は古代の須恵器杯5877のほかは土師器に限られ、椀・小皿・鍋など、鎌倉時代に属するものである。 (江見)

河道9 (第1384・1386・1468～1483図、図版162・168・170)

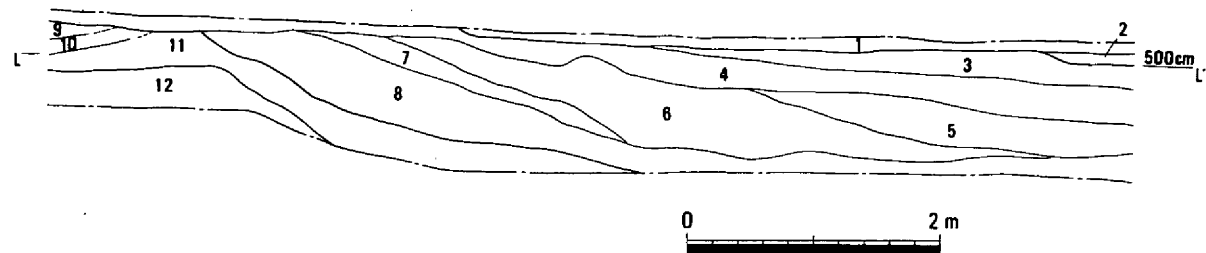
調査区の南東部において検出した旧河道である。この地区は古墳時代中期の河道7が存在していた所であるが、堆積土層の観察では河道7を切る状況で河道9が堆積しており、古墳時代後期から奈良



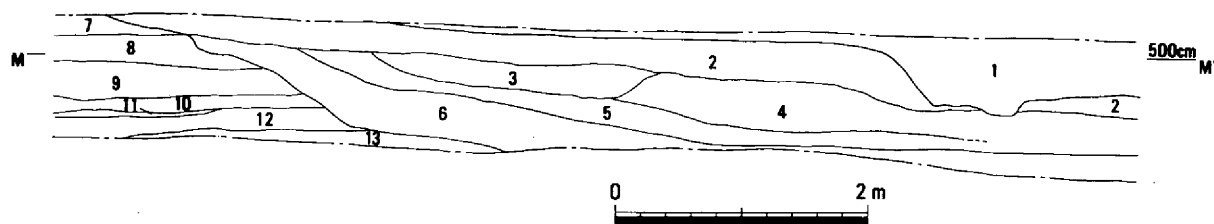
第1467図 河道8 (1/80)・出土遺物 (1/4)



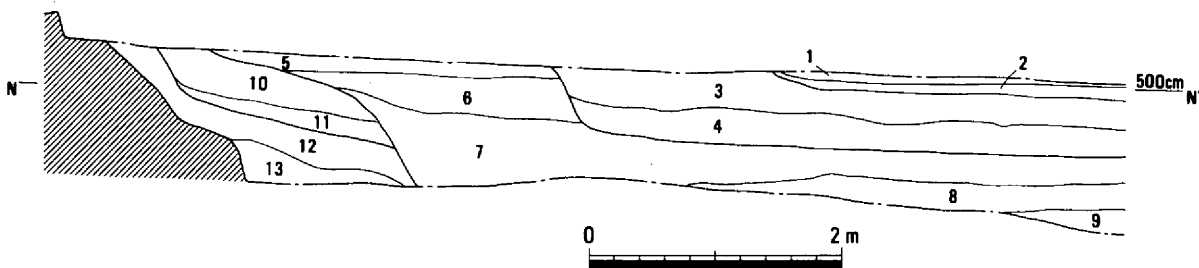
第1468図 河道9① (1/80)・上層出土遺物 (1/3,1/4)



- |                  |                |              |
|------------------|----------------|--------------|
| 1 黄灰色土           | 5 黒褐色土 (土器・炭含) | 9 橙茶色土       |
| 2 淡灰色土           | 6 灰黄褐色土 (炭少含)  | 10 灰褐色粘質土    |
| 3 淡黒褐色土 (土器・炭少含) | 7 暗灰色土 (土器・炭含) | 11 暗茶褐色土     |
| 4 暗褐色土 (土器・炭含)   | 8 灰茶色土         | 12 暗灰色粘質土・粗砂 |



- |            |                    |           |
|------------|--------------------|-----------|
| 1 暗青灰色粘質土  | 6 淡茶褐色土 (土器・炭含)    | 10 暗灰褐色土  |
| 2 暗青灰茶色粘質土 | 7 茶灰色弱粘質土          | 11 灰茶色土   |
| 3 青灰茶色弱粘質土 | 8 淡黄茶色土 (鉄・マンガン多含) | 12 灰茶色砂質土 |
| 4 茶灰色弱粘質土  | 9 暗灰色粘質土           | 13 淡褐色砂   |
| 5 褐灰色粘質土   |                    |           |



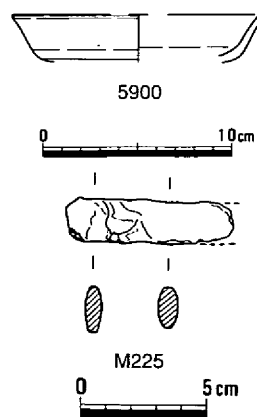
- |                 |                  |                      |
|-----------------|------------------|----------------------|
| 1 淡青灰色粘質土       | 5 暗青灰褐色土 (土器・炭含) | 10 淡褐色土 (土器・炭含)      |
| 2 淡灰色粘質土        | 6 濃灰茶色粘質土        | 11 暗黒褐色土 (土器・炭・桃の種含) |
| 3 暗茶灰色土 (土器・炭含) | 7 濃茶褐色粘質土        | 12 淡黄灰色土             |
| 4 暗黄灰色粘質土       | 8 暗茶褐色土 (土器・炭含)  | 13 暗灰色砂質土            |
|                 | 9 暗茶色砂質土         |                      |

第1469図 河道9② (1/60)

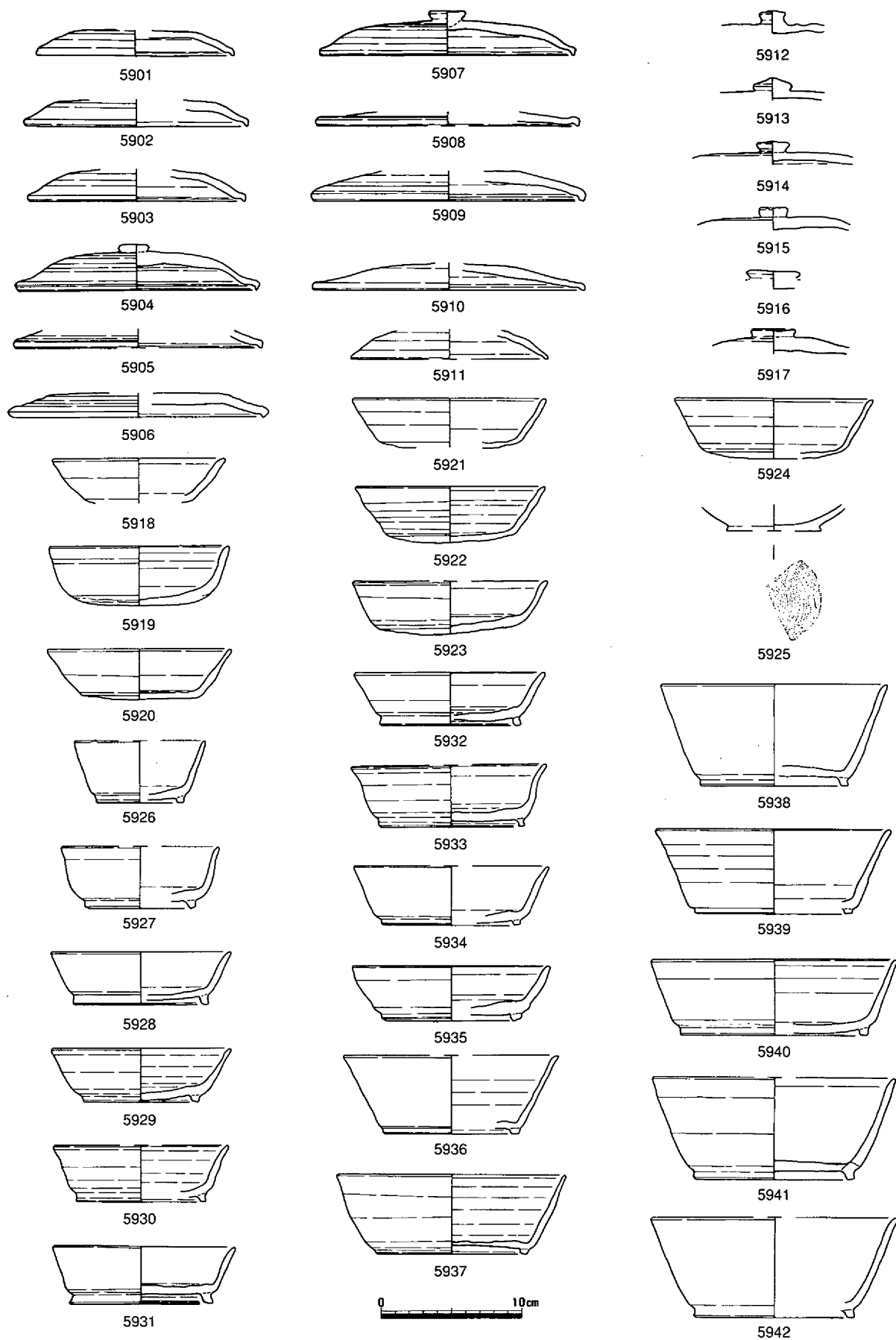
時代の状況については知る事ができなかった。しかしながら河道5埋没後河道7が堆積する間も河道であったと考えるべきであろう。

第1468図に示したK断面図は、第1386図に示したKの位置の断面図である。図示した土製品C229、鉄器M225~227、土器5890~5899は断面図の1・2層から出土した遺物である。土器の時期は古代は少量で多くは中世であり、中世段階の堆積層と考えられる。

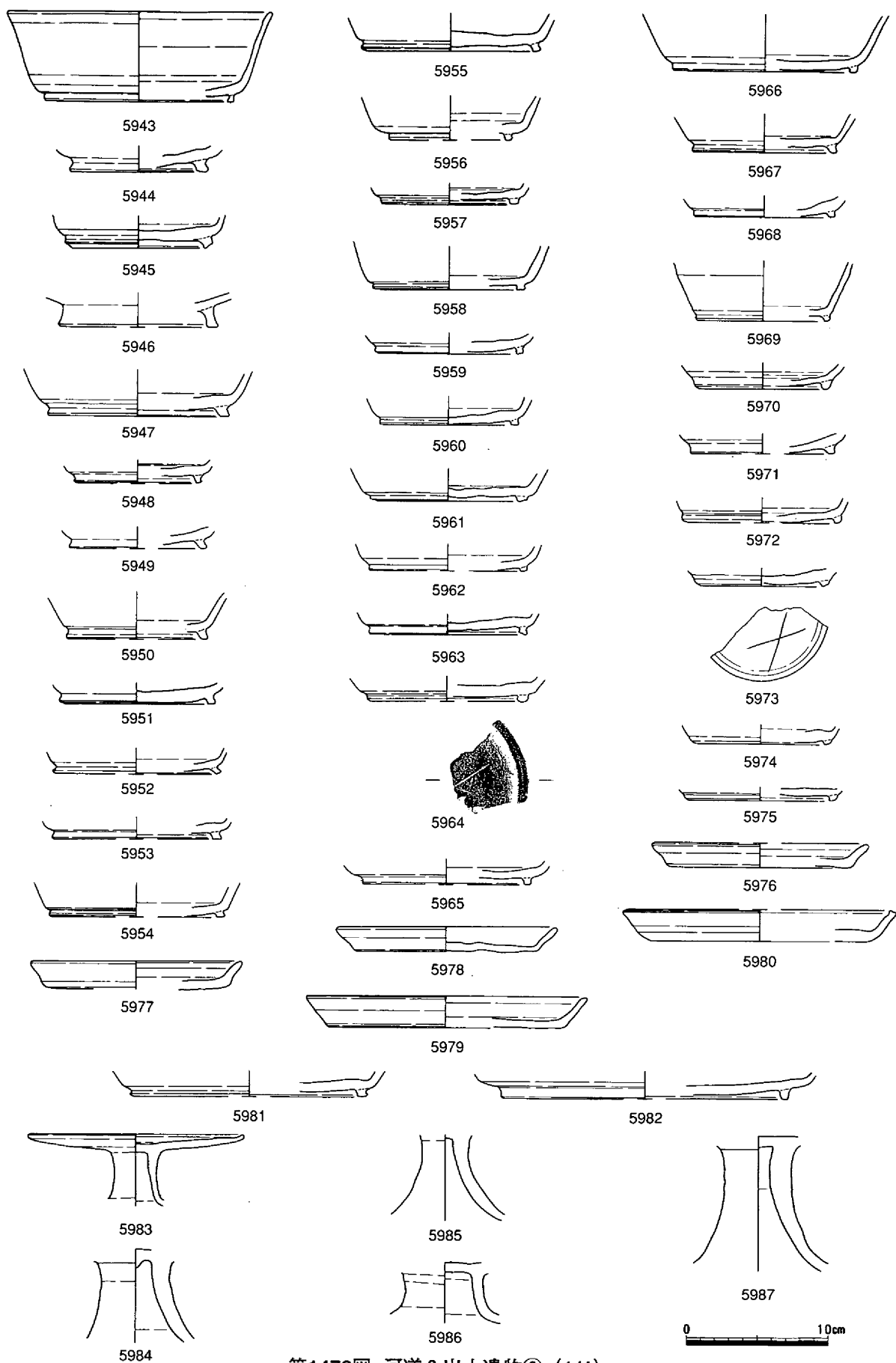
第1469図に示した断面図は、第1384図に示したL・M・Nの位置の断面図である。河道9として報告する堆積層のうちL断面図の1・2層、M断面図の1層、N断面図の1~4層は灰色系統の堆積層である。この堆積層から出土した遺物については、第1468図に上層出



第1470図 河道9下層  
出土遺物(1/4,1/3)

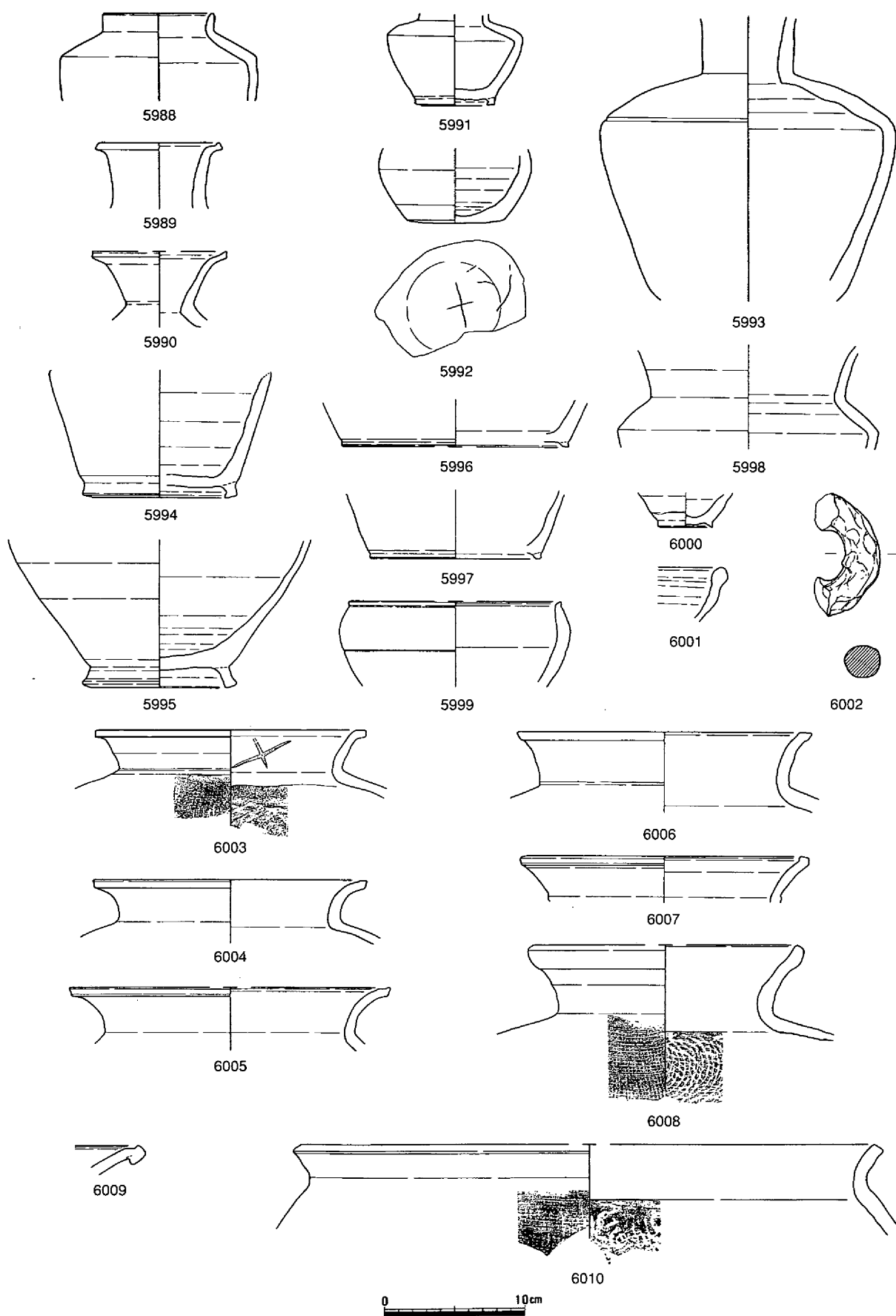


第1471図 河道9出土遺物① (1/4)



第1472図 河道9出土遺物② (1/4)



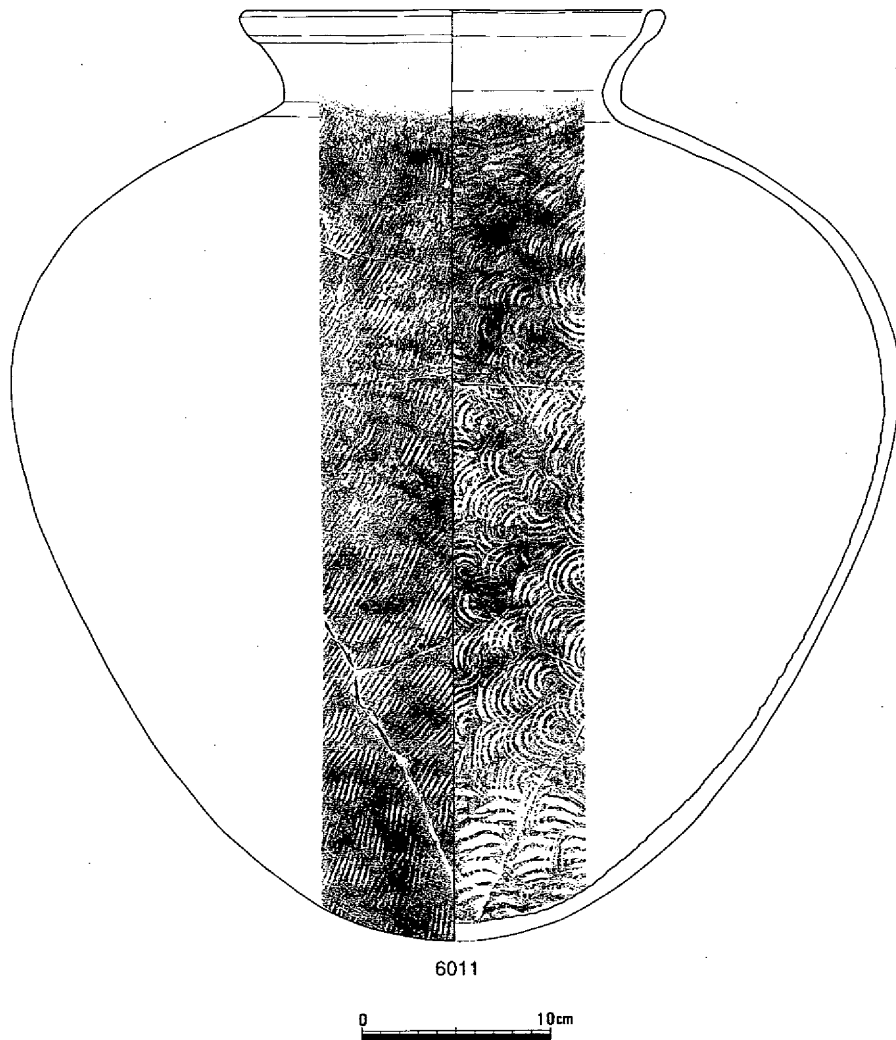


第1473図 河道9 出土遺物③ (1/4)

土遺物として示しており、中世段階の遺物が多かった。この中世段階の堆積層は北側の微高地上にも薄くではあるが堆積しており、遺構検出レベルの違いによってその範囲は微妙に異なることとなった。しかし南端部近くでは約50cmの深さで急に下がる部分があり第1384図ではこの範囲を図示している。なおこの中世段階の堆積層の状況からは、河道とは言い難く、低位部と呼ぶべき地域になっていたのではなかろうか。

河道9として報告する堆積層のうち古代の堆積層は、L断面図の3～8層、M断面図の2～6層、N断面図の5～9層に相当する。この堆積層は褐色系統の粘質土が主体であった。また、M断面図の3～7層には土器と共に炭を多く含んでいたのに対してその下層の8層には炭を含まず土器も少なかった。そのためL断面周辺から出土した遺物については、3～7層を中層、8層を下層として報告している。なおL断面図の9～12層、M断面図の7～13層、N断面図の10・11層は河道7として報告している古墳時代中期の堆積層であり、N断面図の12・13層は河道4として報告している弥生時代後期の堆積層である。

河道9として報告する堆積層のうち古代の堆積層から出土した遺物については第1470～1483図に掲載している。第1470図は下層から出土した土師器杯5900と鉄器M225である。下層出土遺物は少なく、



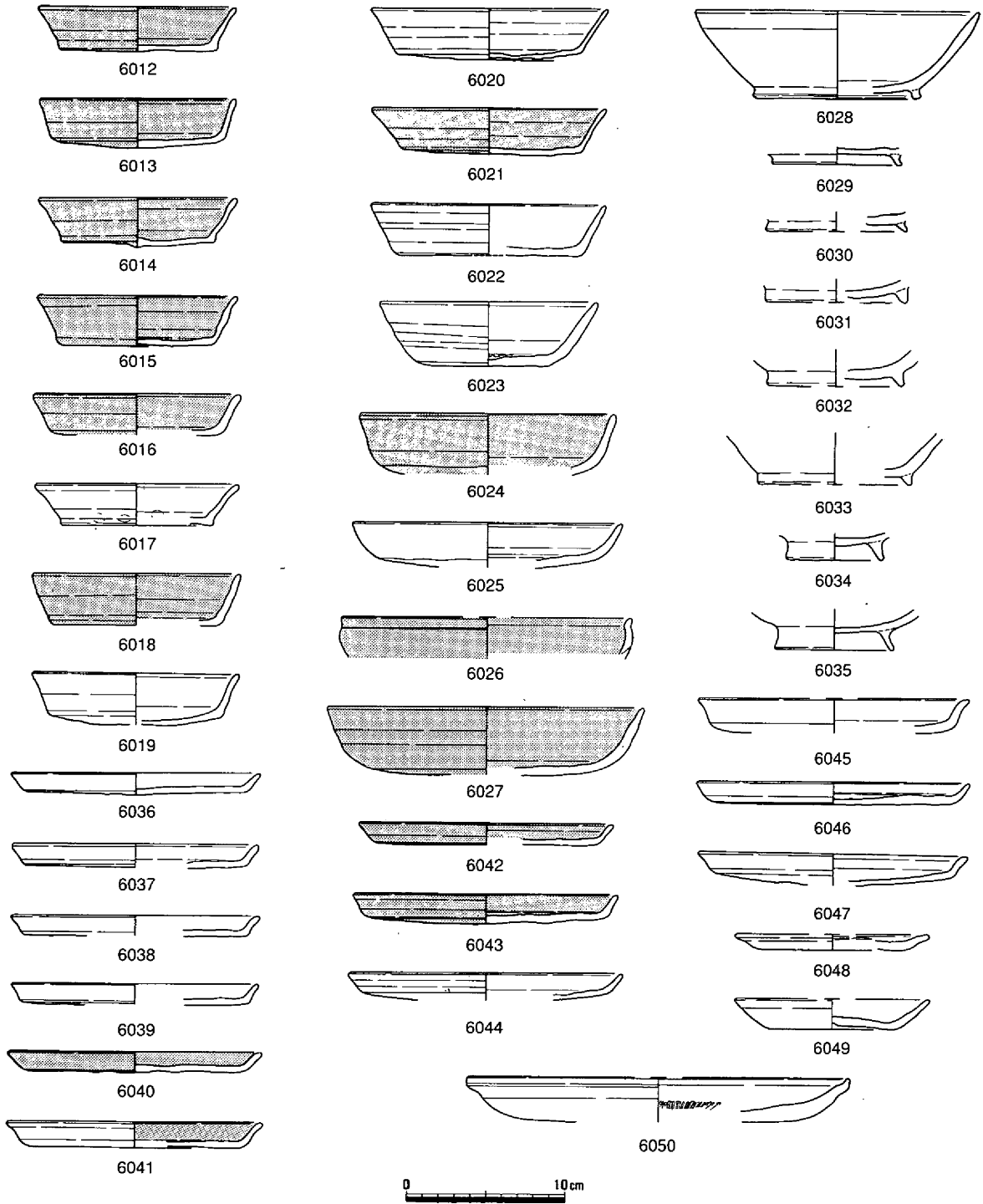
第1474図 河道9出土遺物④ (1/4)

中層との詳細な比較は難しかった。

第1471～1478図は中層か下層か明確に区別できなかった遺物であるが、多くは中層から出土した遺物ではないかと推測している。

第1479～1483図は前述した中層から出土した遺物である。こうした第1471～1483図に掲載した遺物については、特徴的と思われる幾つかの事柄について以下報告しておきたい。

須恵器については、器種、法量などについては観察表を参照されたいが、胎土と焼成という観点か

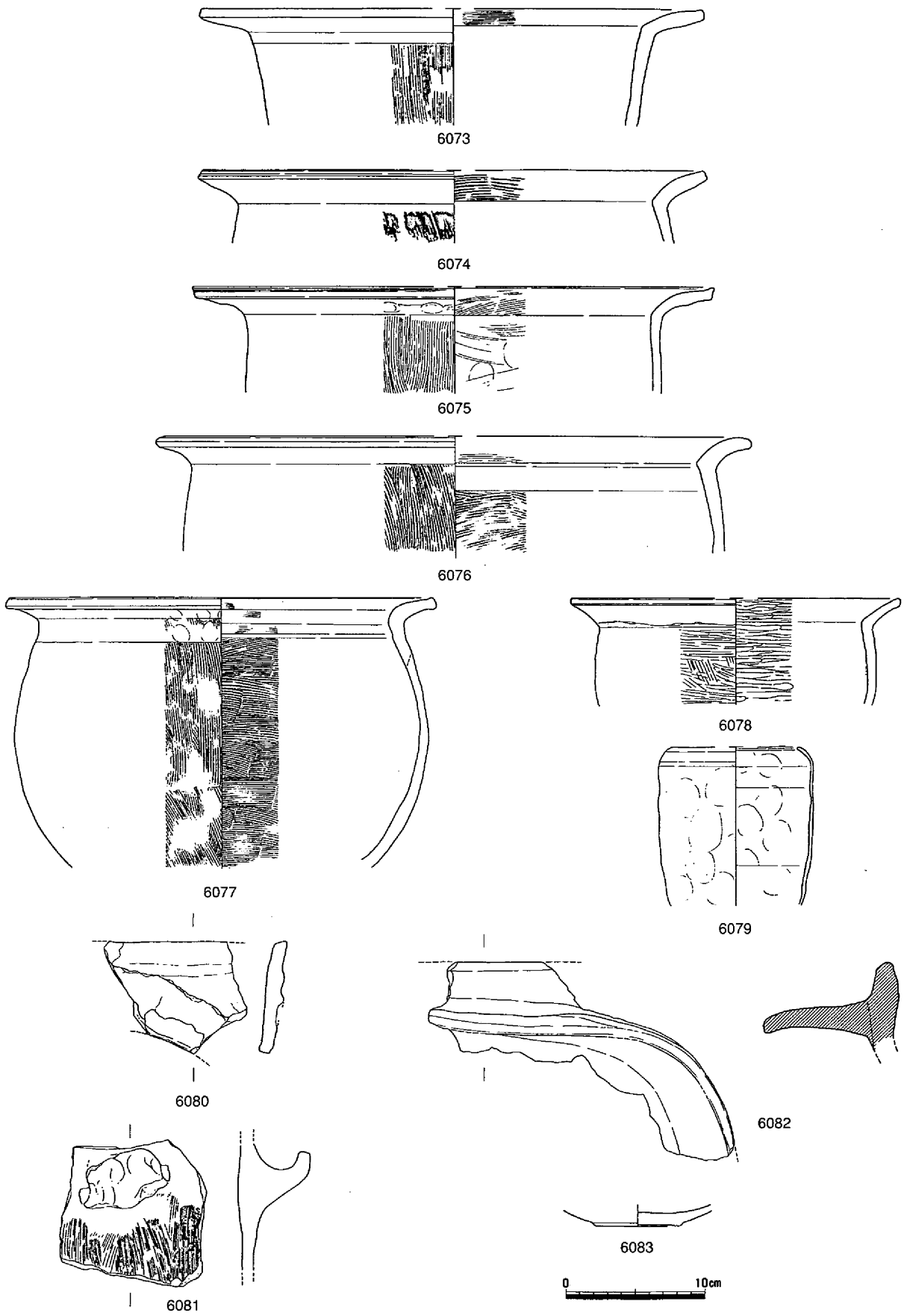


第1475図 河道9出土遺物⑤ (1/4)

ら二つのグループを抽出することができる。すなわち胎土が精良で焼成良好（堅緻）なものとは胎土に砂粒を多く含み焼成が不良（甘い）のものとはあり、前者のグループには5919・5940・5942・5946・5966・5989・5998・6004・6005・6089・6091～6093・6097があり、後者のグループには5906・5908・5944・5947・5949・5952・5960・5961・5964・5979・5968・5971・5973・5974・5976・5981・6095・6100・6101・6107がある。この二つのグループについては生産地の違いである可能性があり、技法の



第1476図 河道9出土遺物⑥ (1/4)



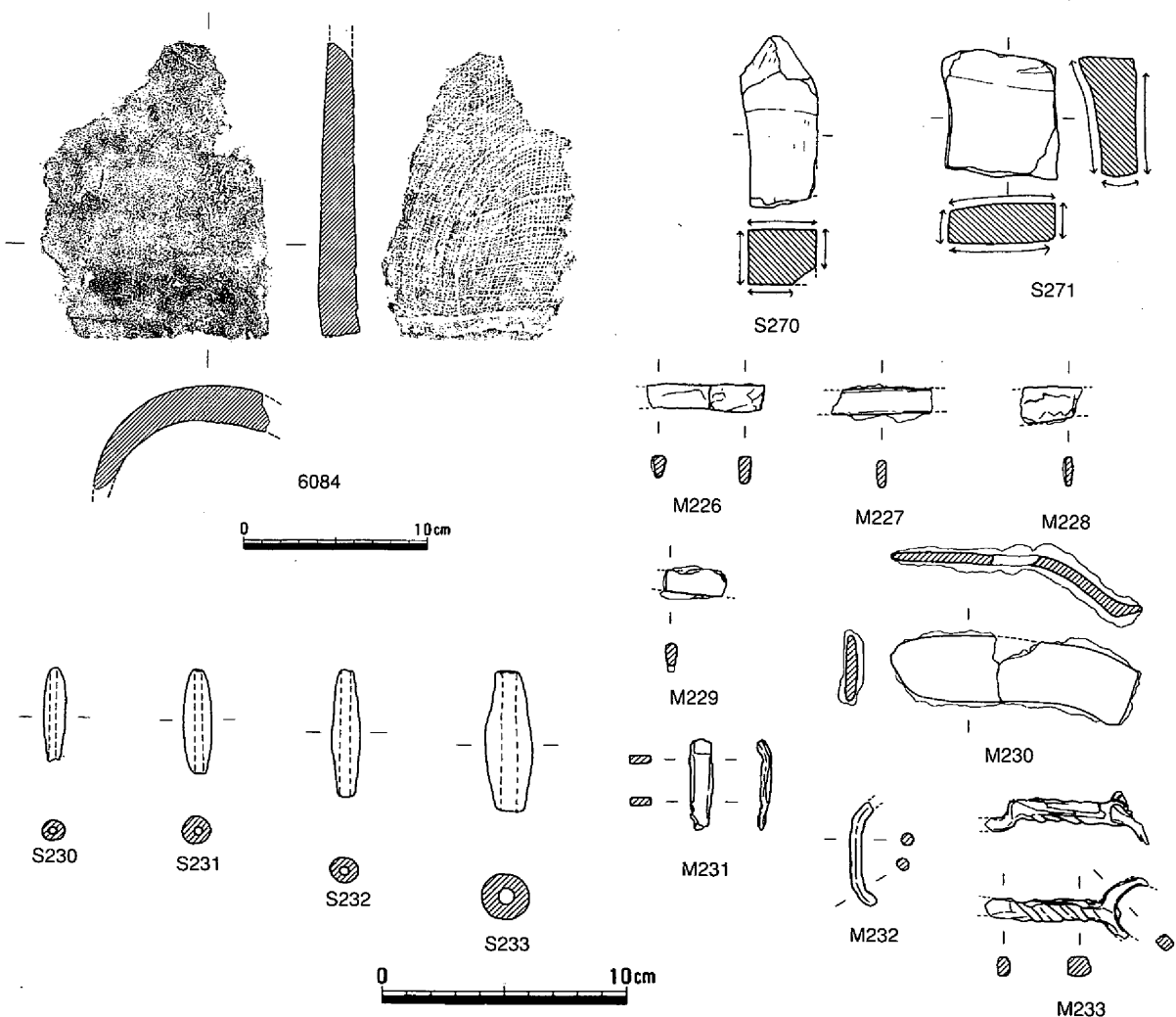
第1477図 河道9出土遺物⑦ (1/4)

違いや胎土分析などを含めて今後検討してゆきたい。

次に注目したいのは5920・5921・5922・5924・5977・6022・6086・6087の杯や皿である。これらの須恵器の特徴は底部外面調整と器形である。すなわち底部外面調整は周縁ヘラキリで、中央部が指による押圧・ナデがあり、器形は同器種の土師器に酷似している。このように底部調整と器形の特徴からこれらの須恵器は土師器の技法・形態でつくられた須恵器ということができよう。備中地域における須恵器製作の経緯を考える上で参考になる資料といえる。

5919・5923の底部外面調整は中心までヘラキリであり、前述した土師器の技法でつくられた須恵器とは異なっている。5910の天井部内面、5941の底部内面、6098の底部外面は硯として転用されたのではないかと考えている。5928・5938・5956の胎土には黒色粒が目立っているが、他の須恵器に含まれていないとは言い切れない。5964・5973・5992の底部外面、および6003の口縁部内面にはヘラ記号が確認できる。5902の天井部外面調整は板ナデ（ハケメ）である。6001は篠窯跡（京都府）で製作されている鉢に類似している。6104は特徴的な高台をもっており、産地が気に掛かる。

土師器については、杯や皿の底部外面調整に注目してみると、ケズリのものと周縁ヘラキリ、中央部指による押圧・ナデのものなどがある。底部外面ケズリのものには6024・6027、6115・6117・6118・6119などがあり、古い様相と考えることができる。杯6012～6015・6020・6021・6122、皿6036・6040



第1478図 河道9出土遺物⑧ (1/4,1/3)

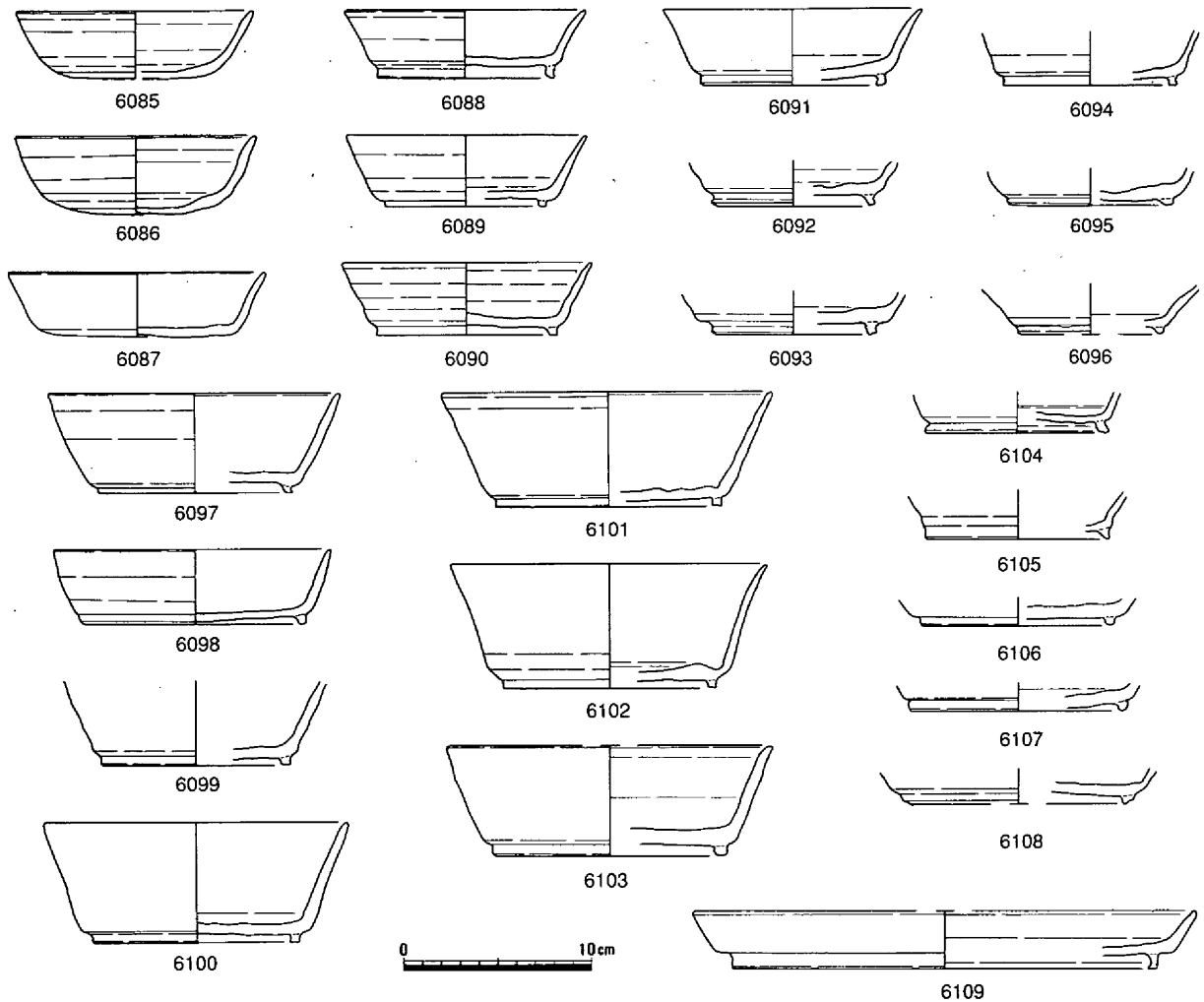
・6043・6046・6168・6169・6171などの底部外面調整は周縁ヘラキリ、中央部指による押圧・ナデがよく観察できる。杯・皿の丹塗り（ベンガラ）については観察できた部分についてはスクリーンで示しているが、磨滅によって消失した個体も多いと思われる。底部外面以外は丹塗りのものが多いのではないかと考えている。6050は蓋であろう。

胎土は良好なものが多い。胎土の色調はチョコレート色のものが多いが、6013・6016・6137・6155・6171は灰白色である。

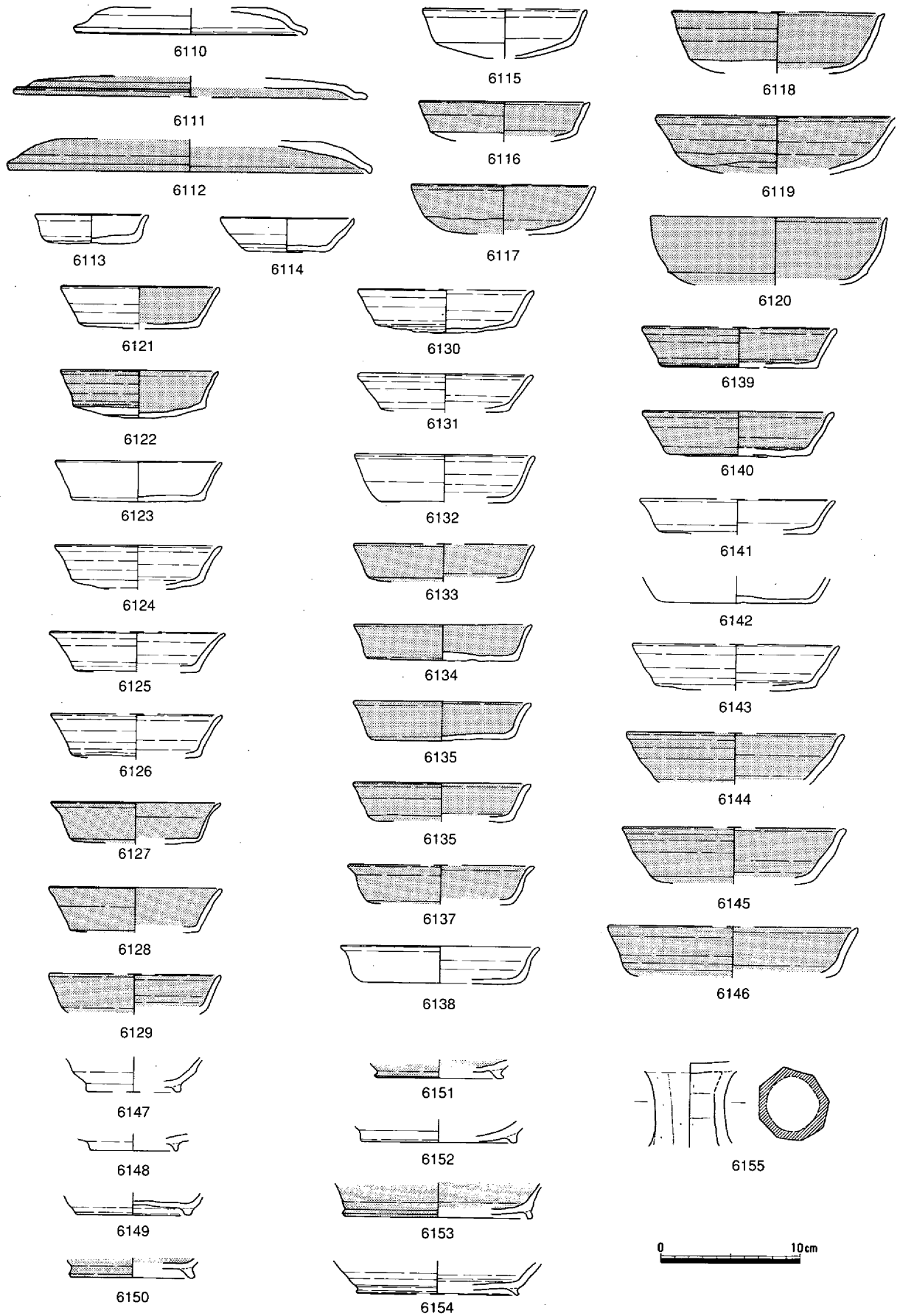
6051～6055、6176は内黒碗であろう。6083は緑釉陶器である。杯6113・6134・6135の内面には煤が付着しており、その状況から灯明容器として使用されたものと考えている。6161・6171・6174の内面、6177の外面にはヘラガキ紋が確認できる。

6084は丸瓦、S270・271は砥石、M226～233は鉄器、C230～233は土錘である。鉄器は器種がわからないものが多いが、M233は馬具（轡）と考えている。残存状況は良くないが形状から5世紀前半頃のものと考えられる。出土例の少ない重要品であるが、河道9からは混入品として出土したもので、本来は古墳時代中期の堅穴住居や土壙、あるいは河道の遺物であったものと考えておきたい。

土器の時期については6世紀後半～7世紀前半須恵器も掲載しているが、杯の形状（口径と器高の比率）や調整技法、丹塗りの範囲などから、9世紀前半のものが多いと考えている。（平井）

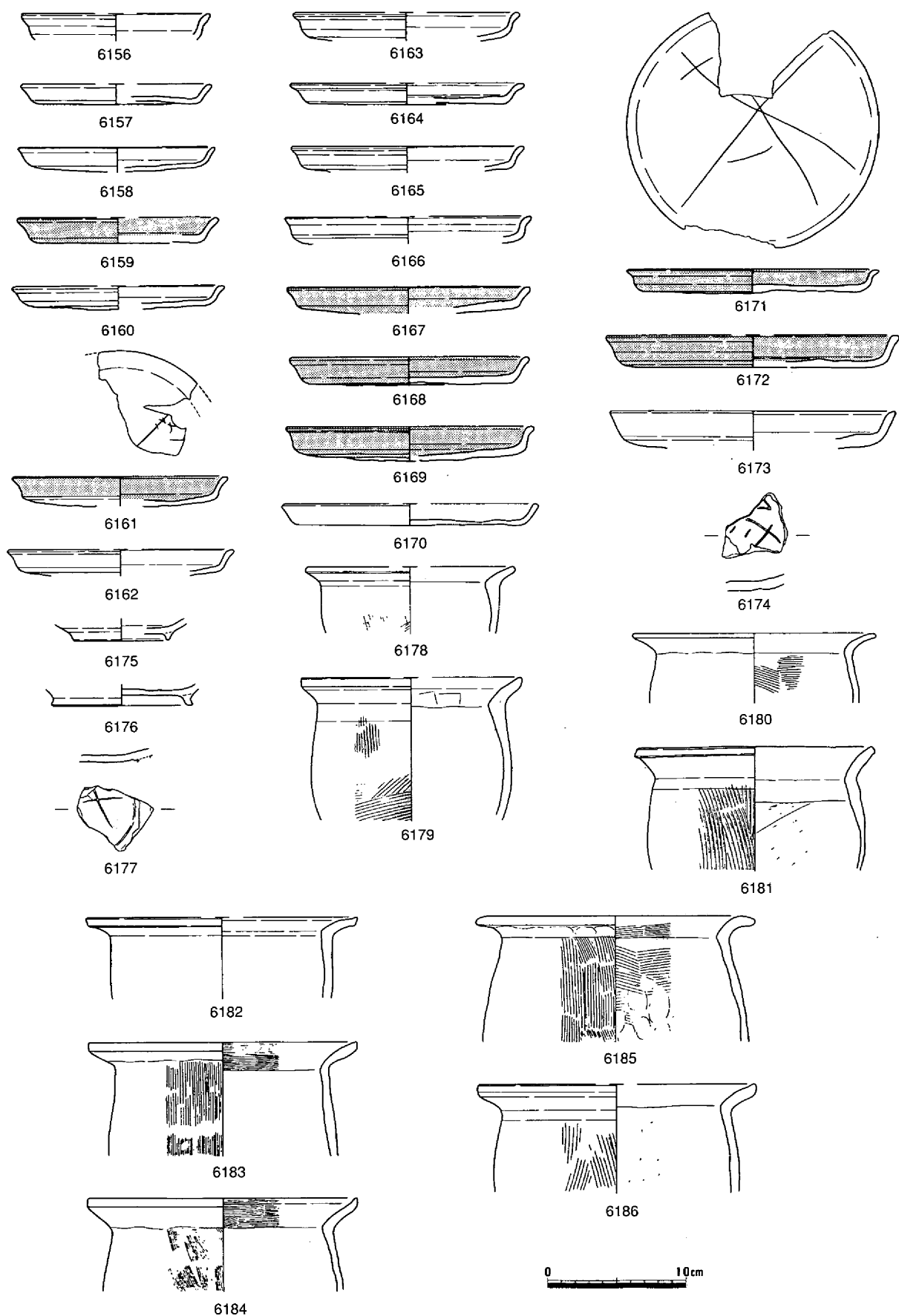


第1479図 河道9 中層出土遺物① (1/4)



第1480図 河道9中層出土遺物② (1/4)





第1481図 河道9中層出土遺物③ (1/4)

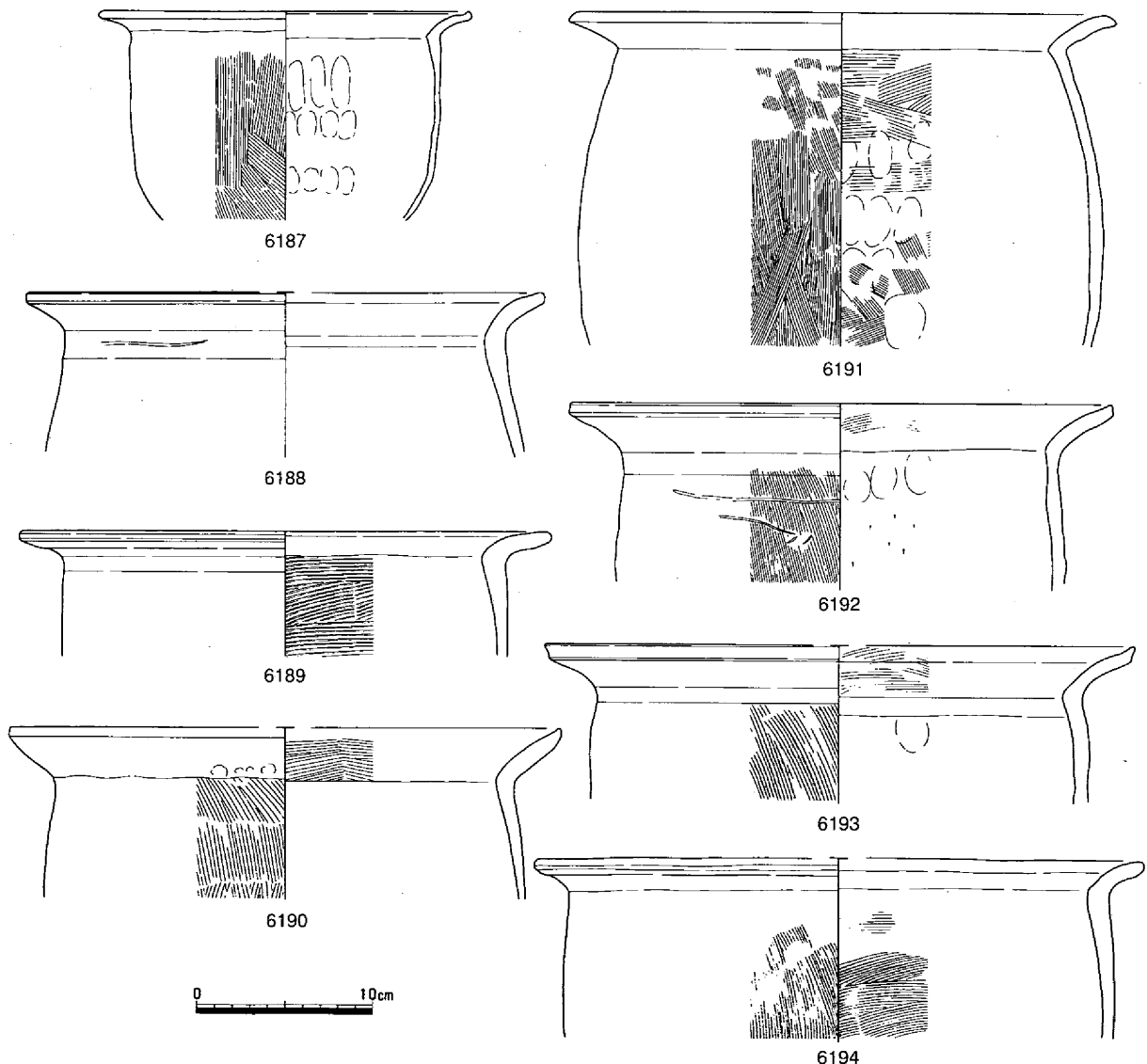
(13) 柱穴

柱穴81～107 (第1484・1485図、図版161・162)

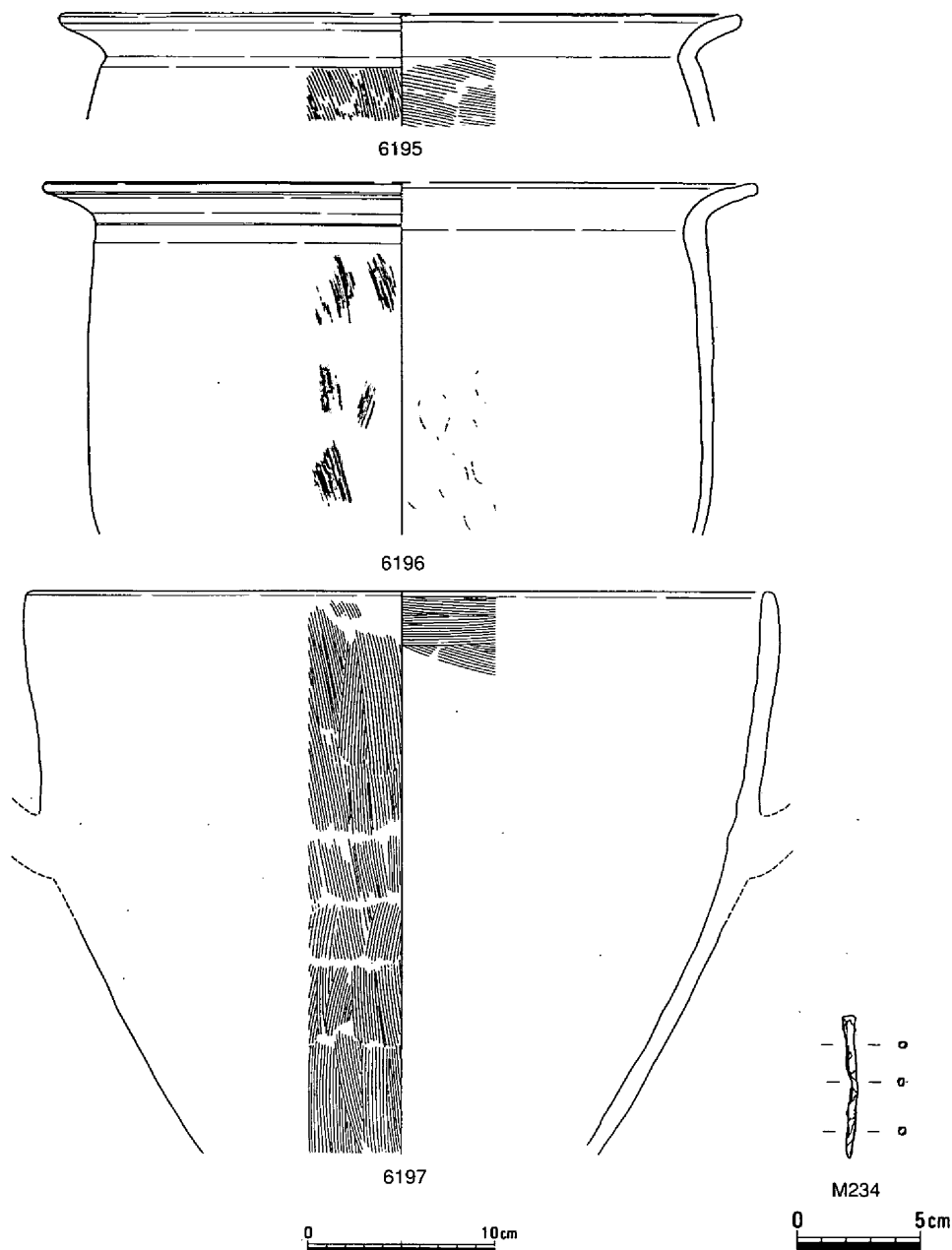
古代から中世にかけては、非常に多くの柱穴が検出されているが、中世のものはとりわけ多いと思われる。当然これらは、本来は掘立柱建物をはじめとした何らかの遺構を構成するものであろうが、調査では明らかにし得なかったものである。ここでは、比較的良好な状態で遺物が出土した柱穴など27本について取り上げた。これらの位置関係や平面形態は、第1385～1387図に示している。

このうち、柱穴87は掘立柱建物58の柱穴近くに位置し、柱穴89は掘立柱建物69の北東隅、柱穴92は掘立柱建物70の南辺近く、柱穴93～95は掘立柱建物73の内側に認められ、建物との関連を有するものも存在する可能性があると思われる。

6198は、柱穴81から出土した龍泉窯系の青磁碗である。6199～6204は、柱穴82から出土している。6200・6202～6204は底部ヘラキリである。6205・6206は、柱穴83からの出土である。6207は、柱穴84



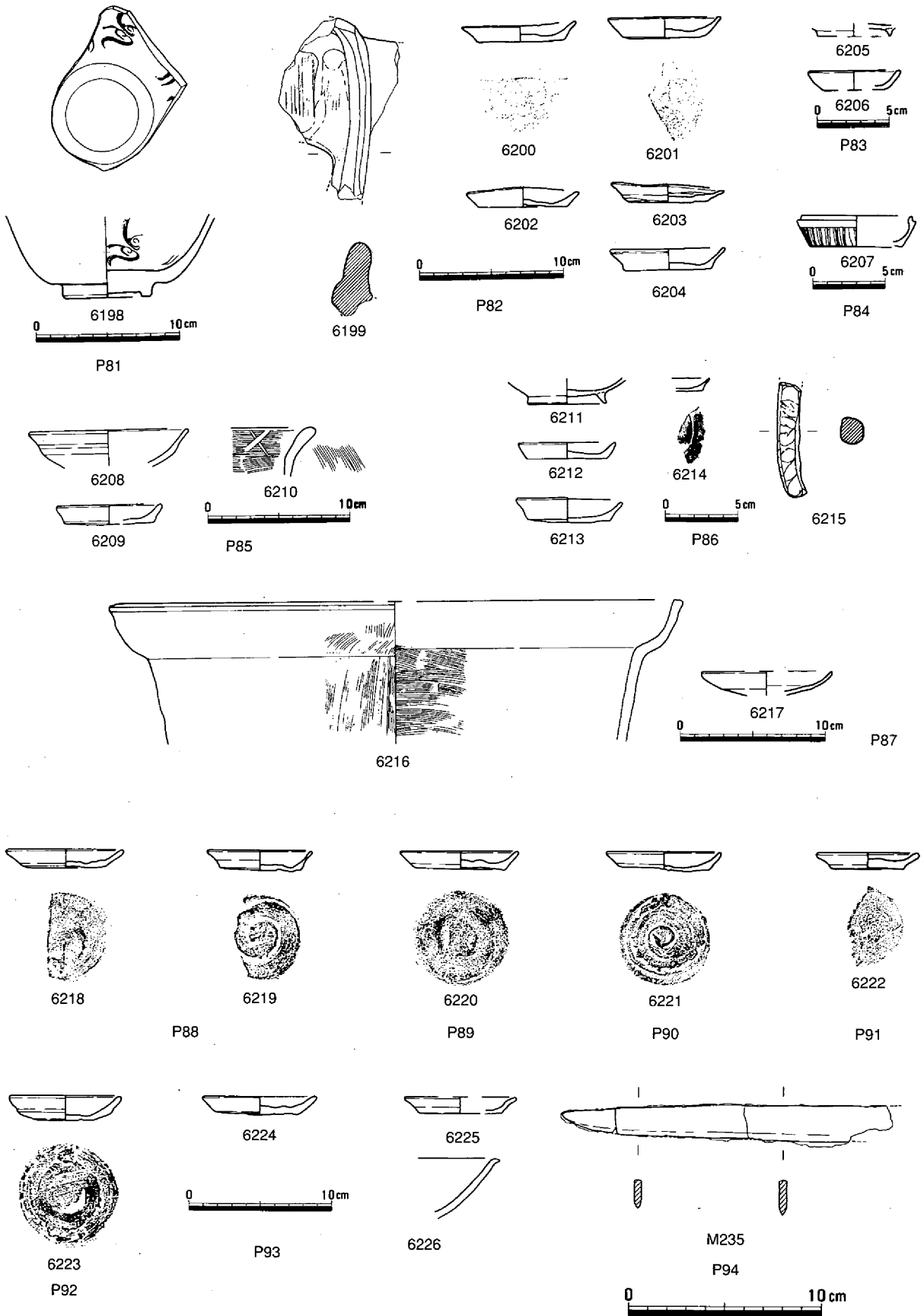
第1482図 河道9中層出土遺物④ (1/4)



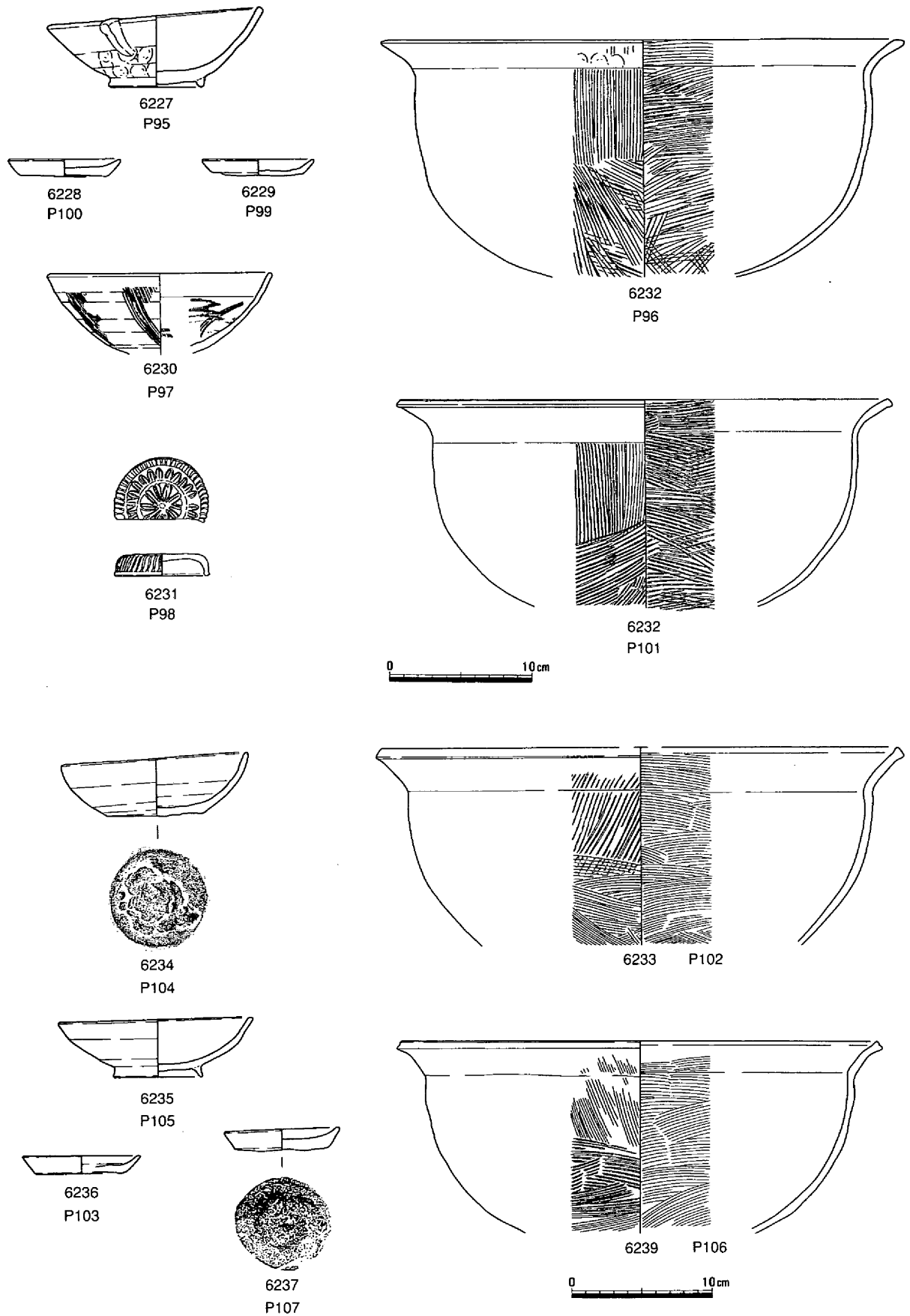
第1483図 河道9中層出土遺物⑤ (1/4,1/3)

から出土した青白磁の合子である。6208～6210は柱穴85から、6211～6215は柱穴86から、6216・6217は柱穴87から出土している。6216は口縁部が強く屈曲する。6217は白磁の皿である。6218～6223は小皿で、底部はすべてヘラキリである。6223は板目が残っており、内面に煤が認められる。6224・6225の小皿と6226の白磁碗は、柱穴93から出土している。M235は柱穴94から出土した刀子である。6227の高台付椀は柱穴95からの出土で、口縁部には製作時の補修が認められる。6228は柱穴100、6229は柱穴99からの出土で、いずれもヘラキリである。6230は、柱穴97から出土した青磁碗、6231は柱穴98から出土した青白磁の合子蓋である。6234は柱穴104から出土した土師器椀で、体部は内湾する。6235は柱穴105から出土の高台付椀である。6232・6233・6238・6239は鍋で、口縁部は緩やかに外反し、端部に面を形成する。

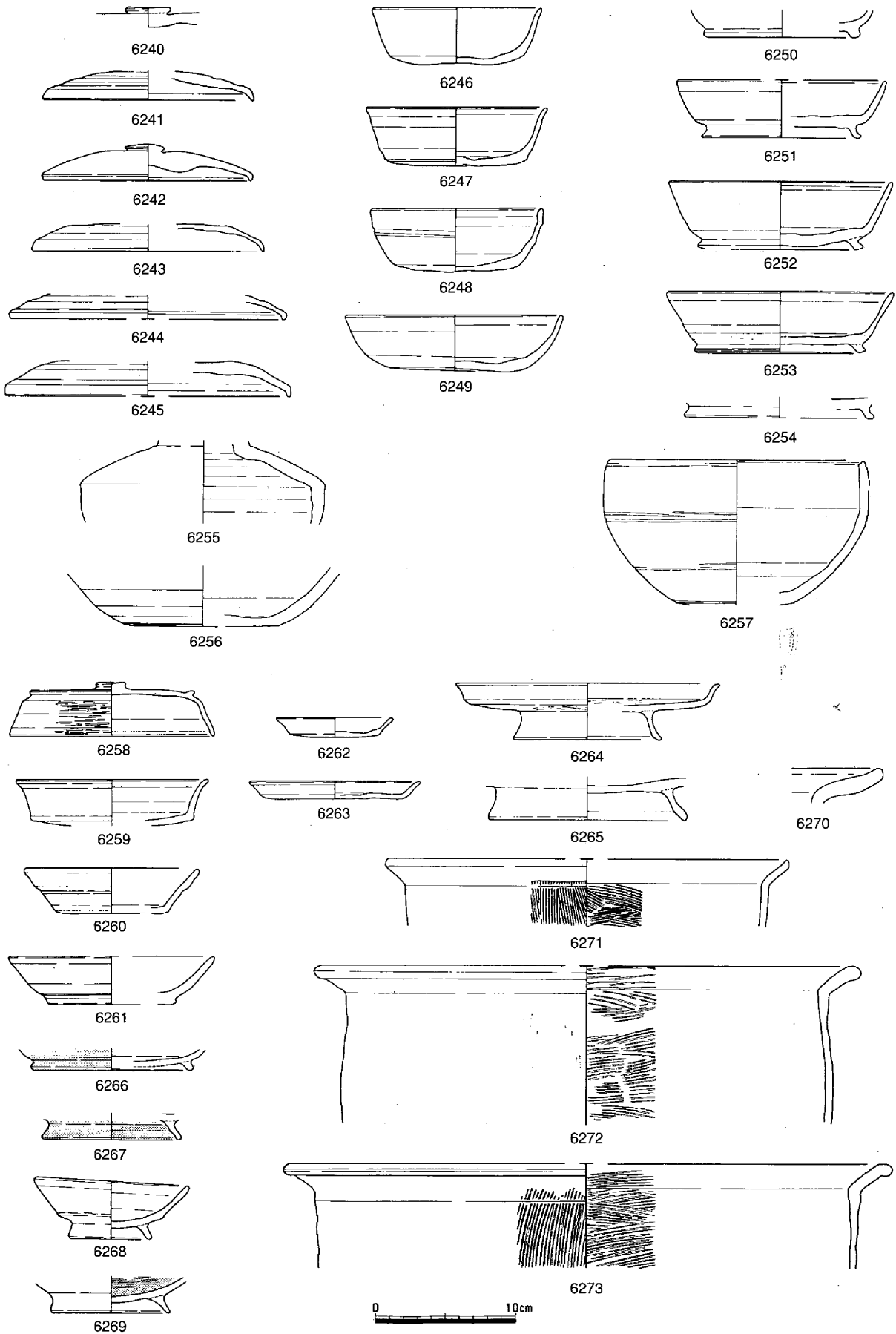
(柴田)



第1484図 柱穴81~94出土遺物 (1/4,1/3)



第1485図 柱穴95~107出土遺物 (1/4)



第1486図 遺構に伴わない遺物（古代～中世）①（1/4）

(14) 遺構に伴わない遺物

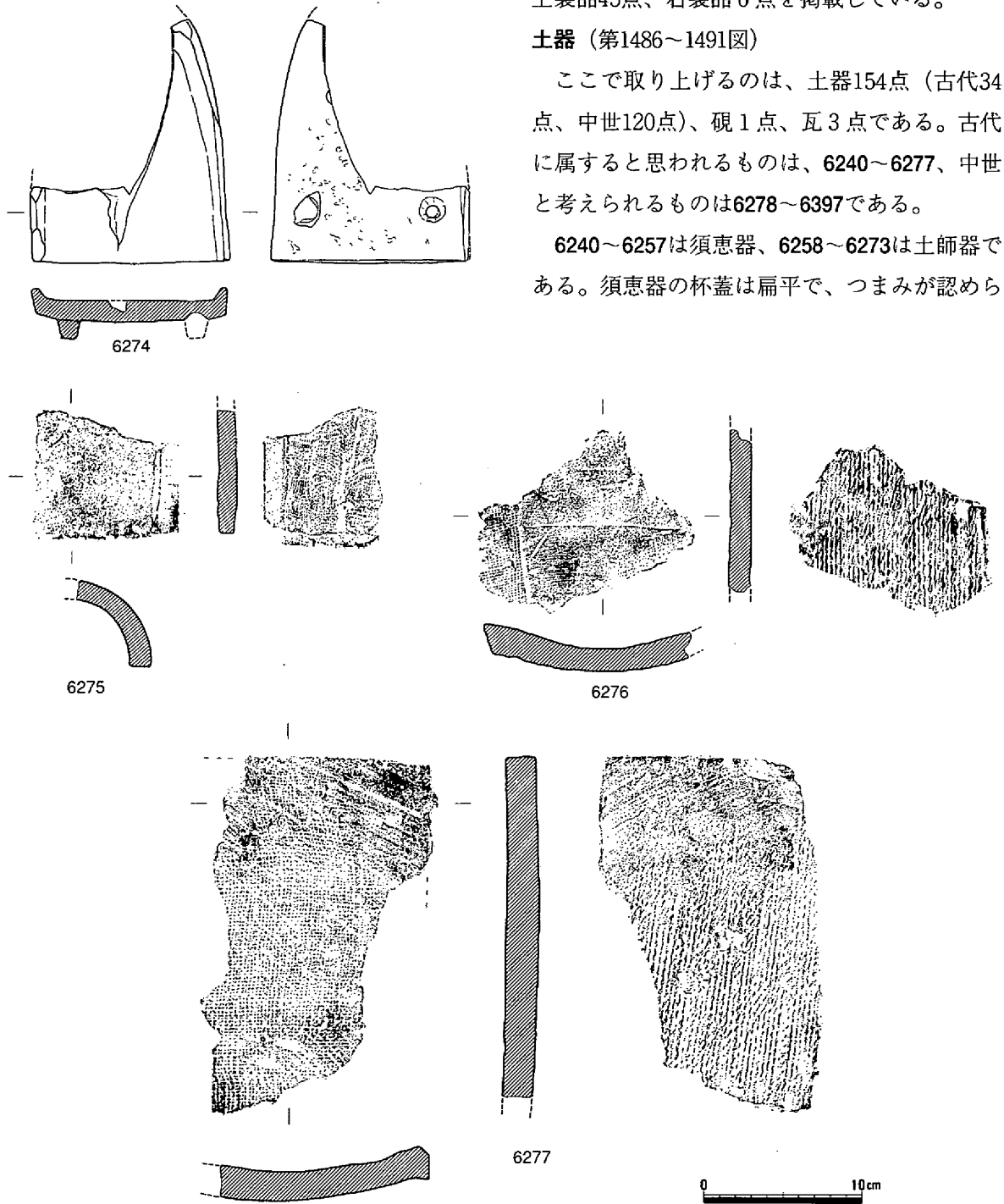
ここで取り上げた遺物は、遺構から遊離して出土したもののほかに、調査の際に関係する遺構を特定できなかったもの、明らかに時期の異なる遺構に混入したと判断できたものなどである。ただし、土製品や金属製品については、その時期が明確でないものもある。

種別では、土器・瓦等158点、金属製品35点、土製品45点、石製品6点を掲載している。

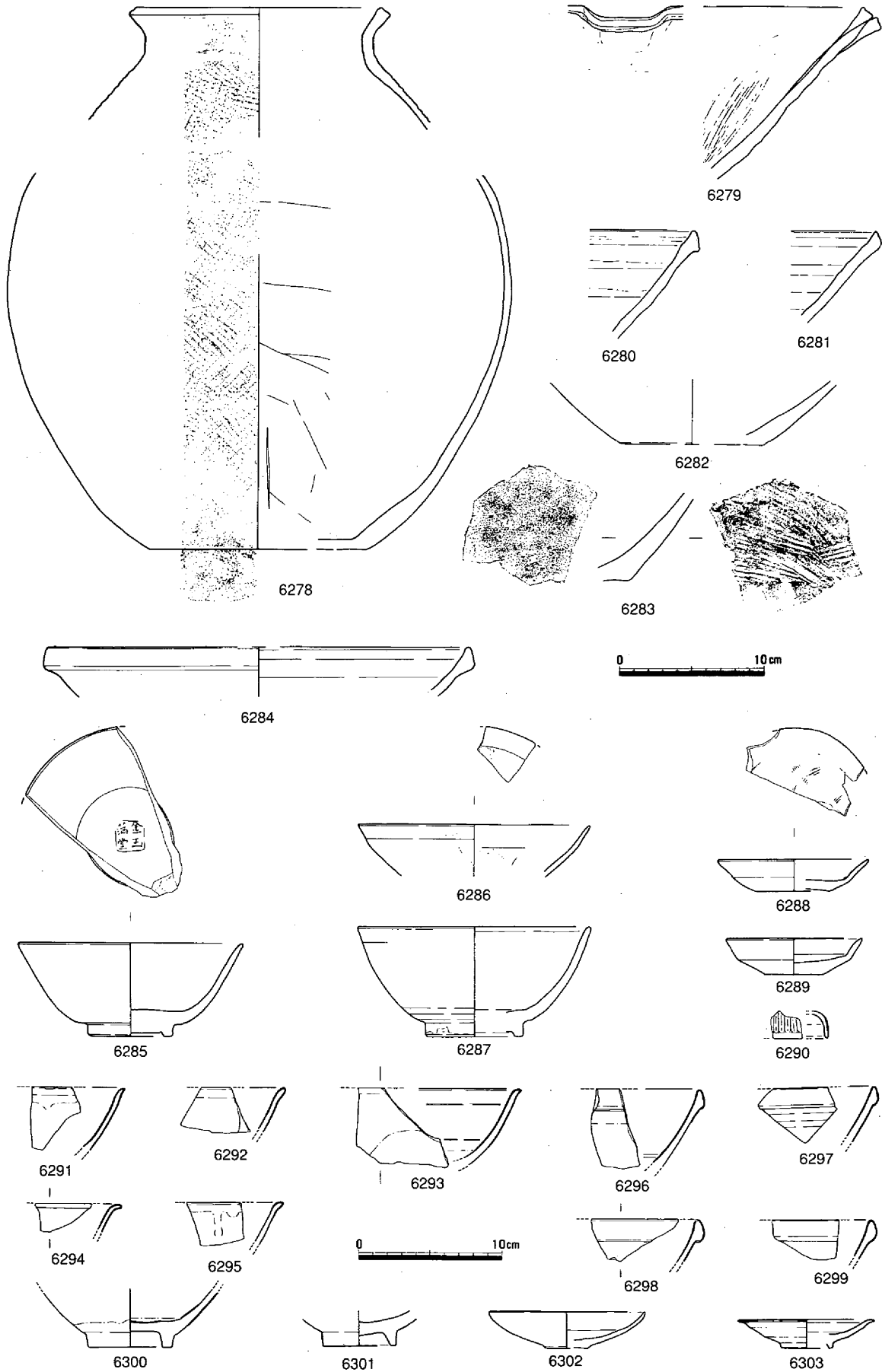
土器 (第1486~1491図)

ここで取り上げるのは、土器154点 (古代34点、中世120点)、硯1点、瓦3点である。古代に属すると思われるものは、6240~6277、中世と考えられるものは6278~6397である。

6240~6257は須恵器、6258~6273は土師器である。須恵器の杯蓋は扁平で、つまみが認めら



第1487図 遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ② (1/4)



第1488図 遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ③ (1/4)



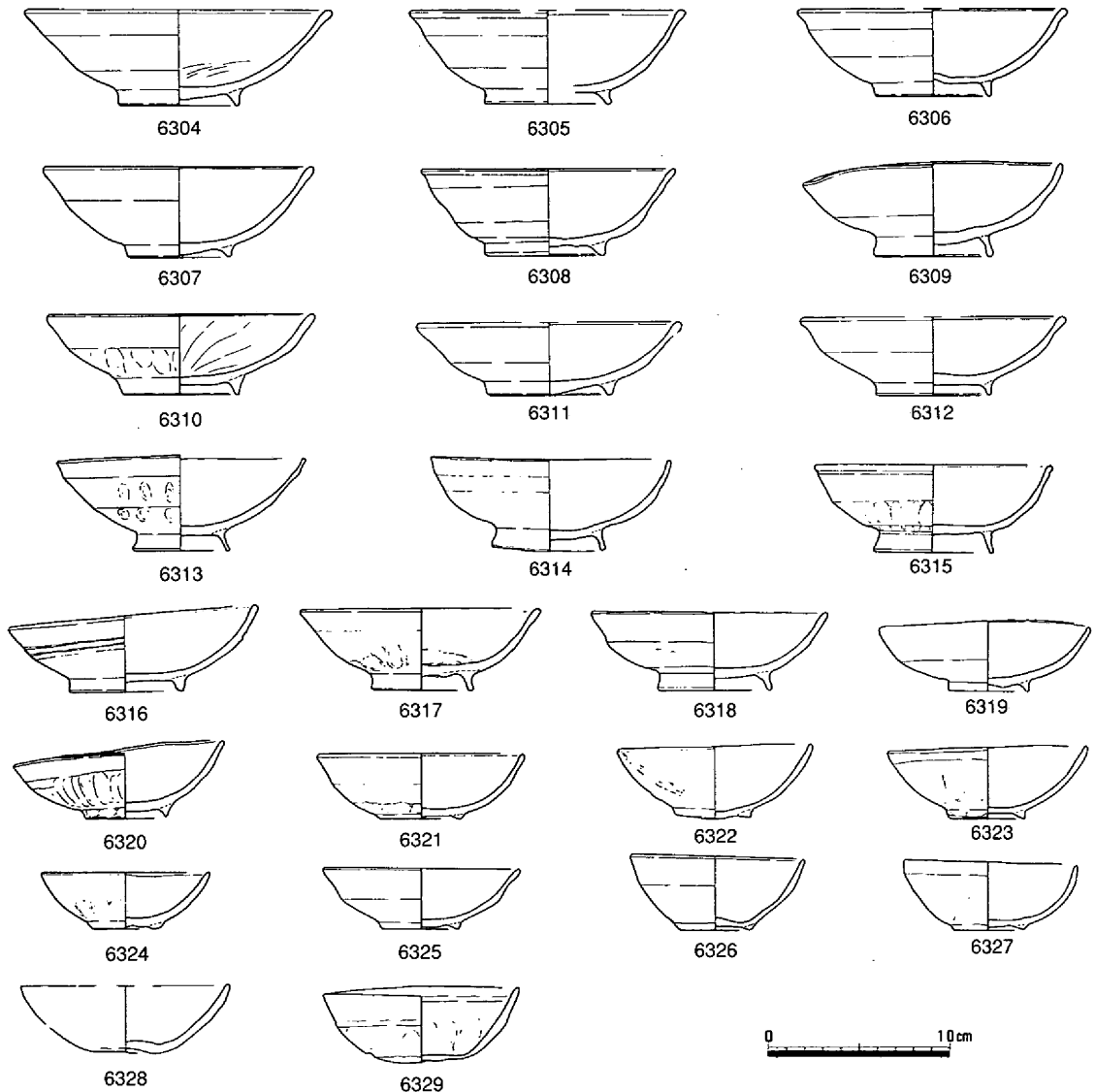
れ、口縁部は折り曲げられている。杯身には高台を有するものと無いものがある。6258は丹塗り土器である。伏せた高台付杯にボタン状のつまみを付したような形態で、ヘラミガキが施されている。6266・6267も丹塗り土器で、後者は高台内面にも丹が塗られている。

6274は須恵質の風字硯である。大きく欠損した部分があるが、1つの脚が残存し、対の脚については剥離した痕跡が認められる。脚は面取りが行われている。硯面の中央部がよく磨耗し、平滑になっている。瓦はあまり出土していないが、丸瓦6275、平瓦6276・6277を図示している。

6278は亀山焼の甕である。6281・6282～6284は須恵質土器で、こね鉢の口縁部は上方にわずかにのびるものと、下方にも肥厚するものがある。6279・6280は瓦質土器のこね鉢である。

6285・6287は青磁碗で、前者は龍泉窯系である。6286・6288・6289は龍泉窯系の青磁皿で、内面にはクシ状工具による紋様がみられる。6291・6293～6301は白磁碗で、口縁部には端部が外方へのびるものと玉縁を呈するものがある。6302・6303は白磁皿である。

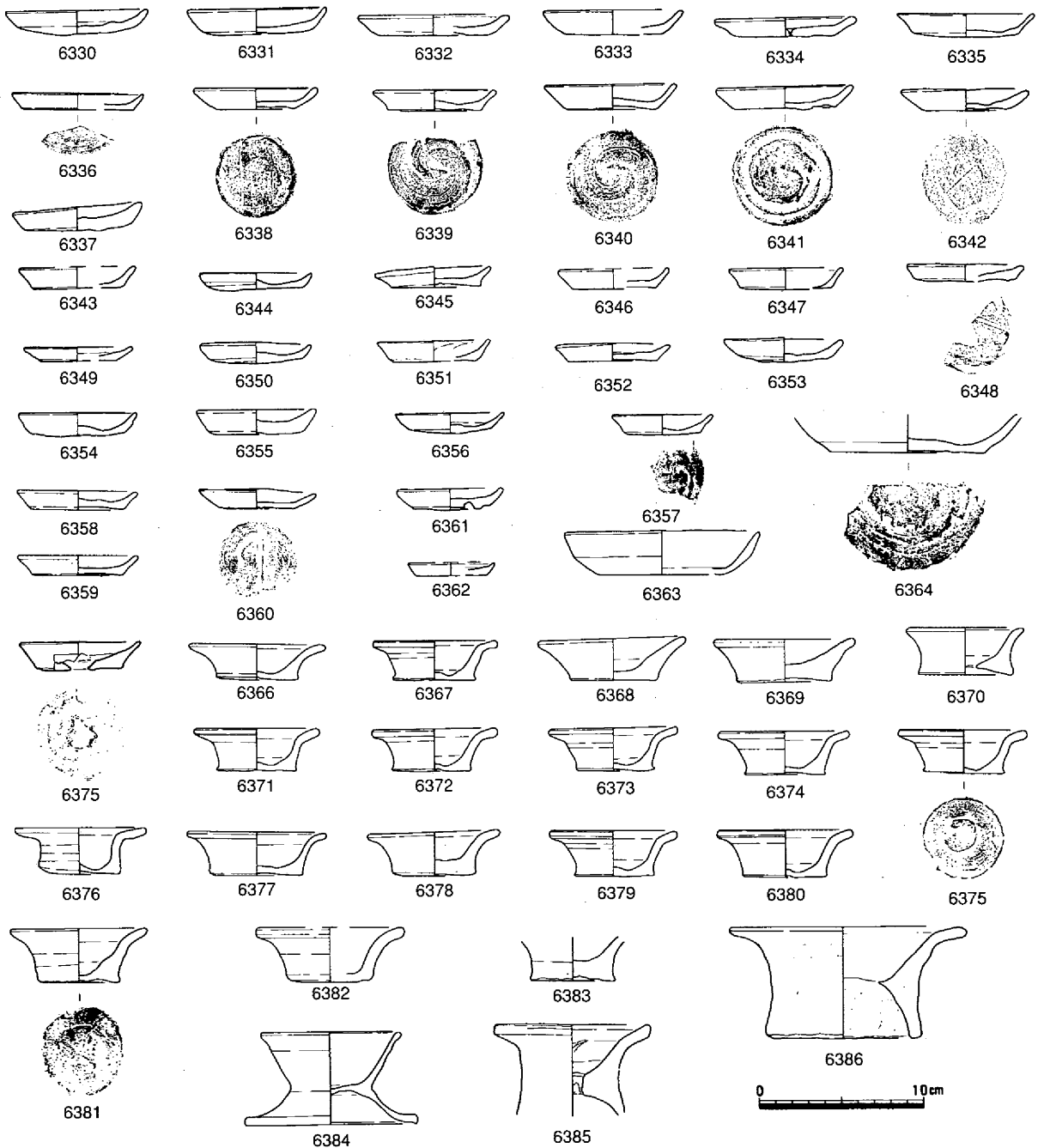
6304～6327は土師質の高台付碗である。6304～6308・6310～6312は口径14～16cmで、口縁部がわず



第1489図 遺構に伴わない遺物（古代～中世）④（1/4）

かに外反する。高台の断面形は三角形である。6309・6313～6315・6318は口径12～14cm、口縁部は内湾する。高台は高く、厚さは薄い。6319～6327は口径9～11cmと小さく、高台は非常に矮小である。6328・6329は椀で、前者は底部が盛り上がるものである。6330～6362・6365は、ほとんどの底部がヘラキリで、板目が認められるものもある。6366～6383は小杯で、底部はヘラキリである。6384は台付小杯で、杯部は比較的真っすぐのび、台部は「ハ」字状に大きく開く。6385・6386はやや大形の小杯に直立する台が取り付けくもので、底が抜けている。6387～6391は鍋である。体部と比較すると、口縁部は厚みを増し、端部は外方へのびるものが多い。6392は三足鍋の脚である。

金属製品・土製品・石製品 (第1492・1493図)

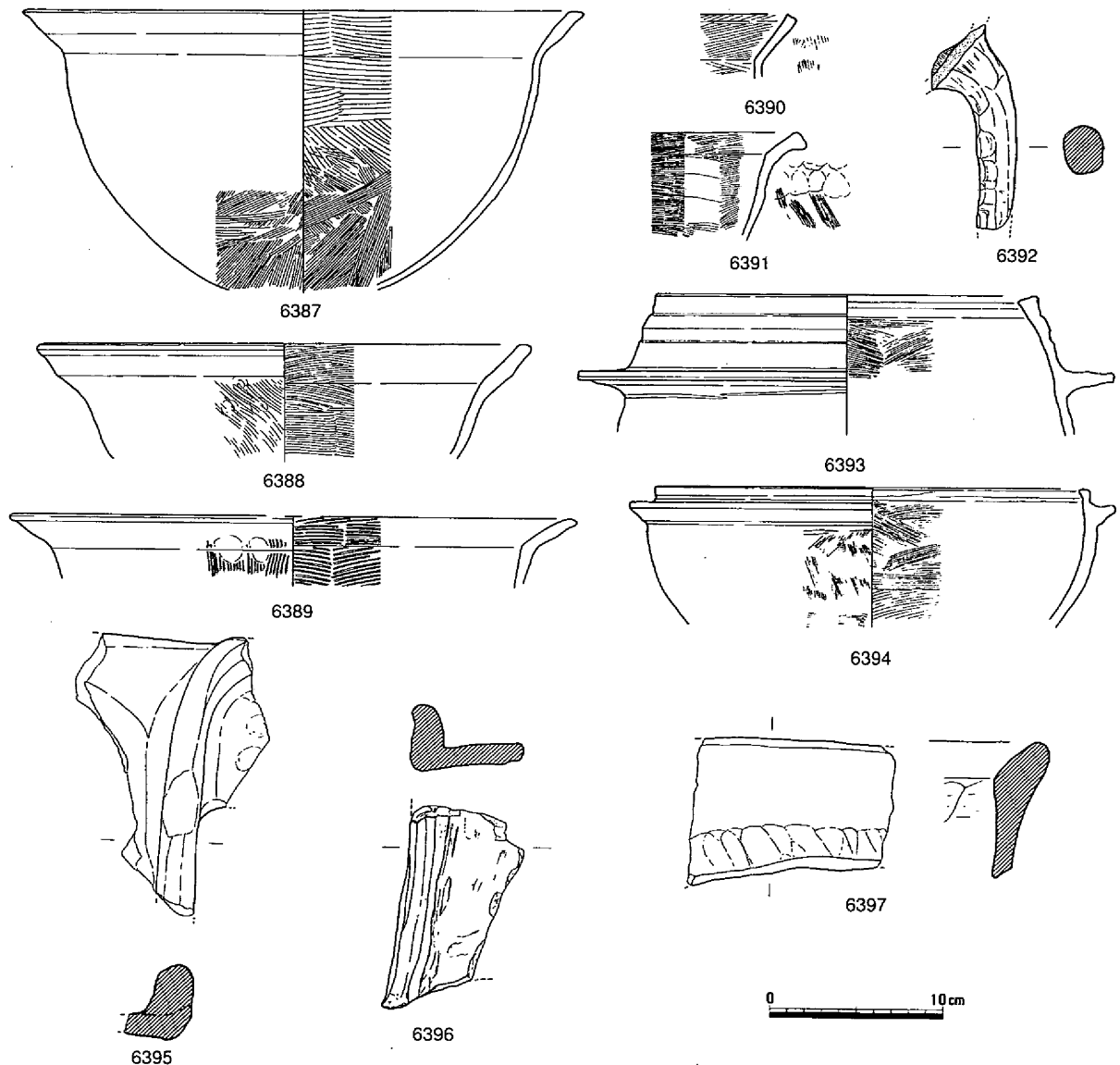


第1490図 遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑤ (1/4)

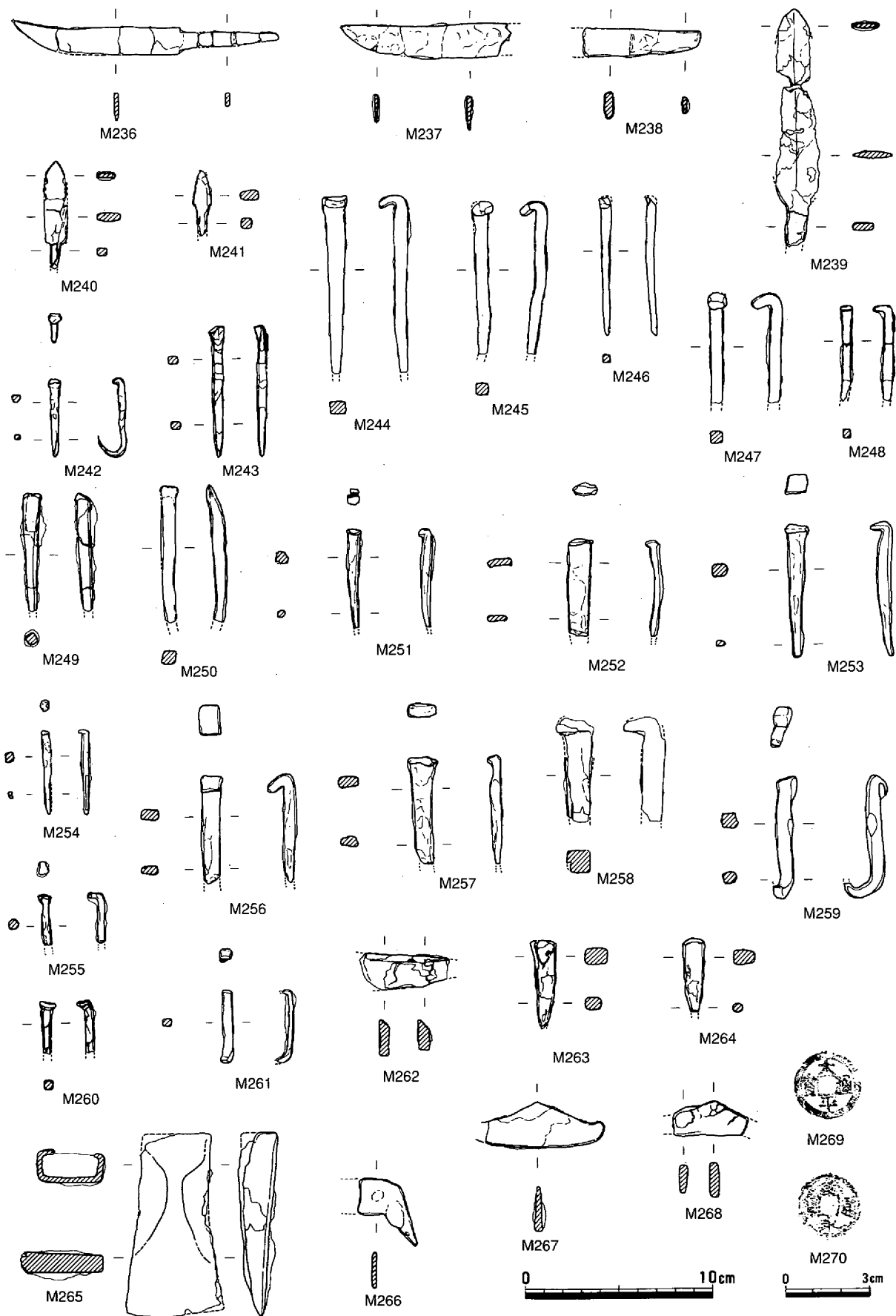
掲載した金属製品は35点で、銭貨2点を除くとすべて鉄製品である。M236～238は刀子で、M236は両関式である。M239は鉄剣で、長さ126mm・幅23.1mmを測る。M243・244は鉄鏃である。M242～261は釘で、大きさにはさまざまなものが認められる。また、断面が方形のものが多いが、長方形のものもある。M263・264は楔と思われる。M268は有袋鉄斧で、装着部の断面は長方形を呈する。M269は鎌で、着柄部は三角形を呈し屈曲する。M267・268は火打金と思われる。M269は、初鑄977年の太平通寶、M270は近世の遺物である。

掲載した土製品は45点で、羽口1点を除くとすべて土錘である。C234は棒状で、中心の通し孔は貫通していないが、端部には小孔が施されている。C235～277は管状土錘で、ほとんどのものが紡錘形というよりは円筒形である。長さ50mm前後のものがあるが、長さ40mm前後で径10mm以下の小さいものが多く認められる。C278は羽口片で、表面にガラス質の黑色溶解物が付着している。

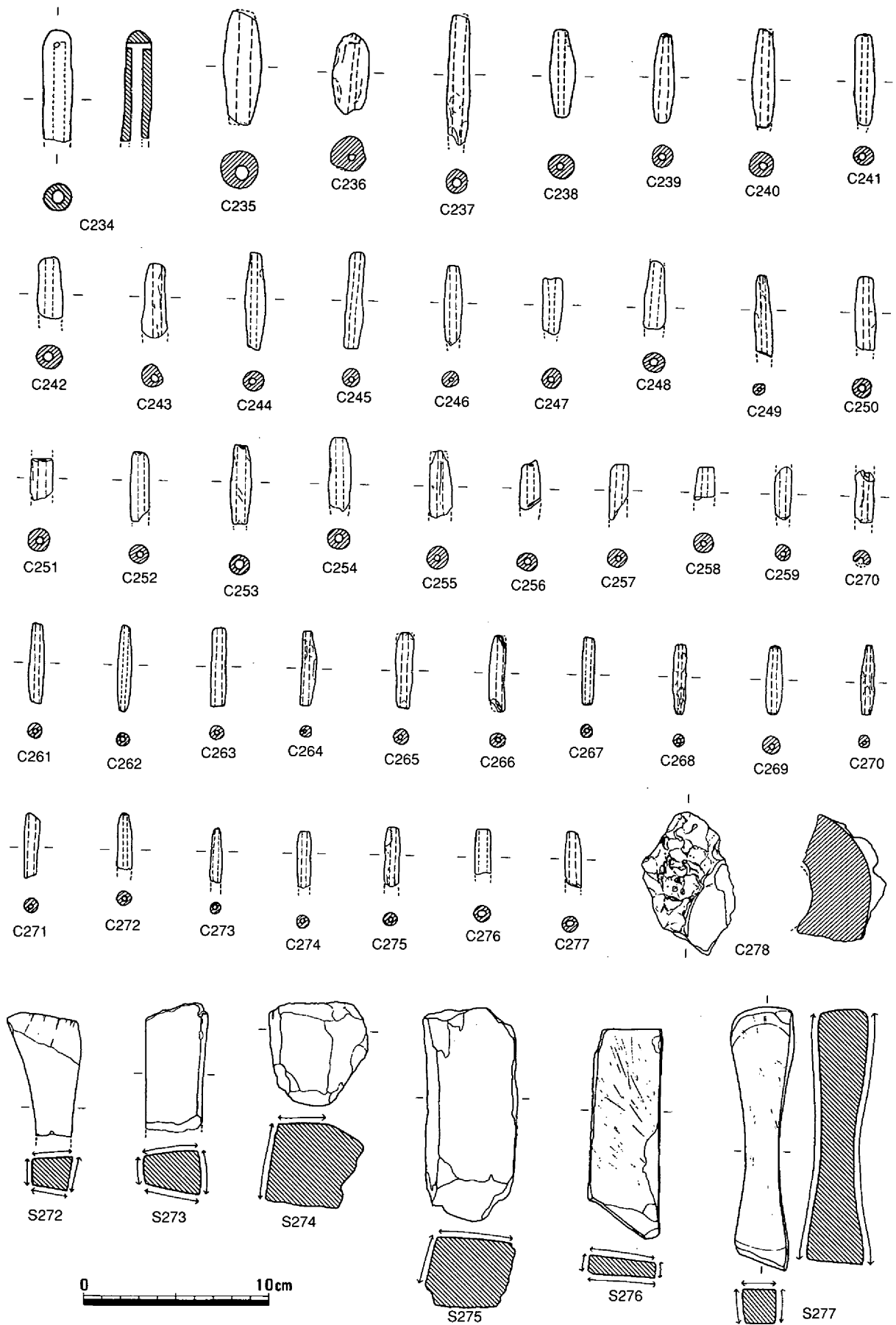
掲載した石製品は砥石6点である。S275は泥質片岩製、S276は頁岩製で、それ以外は流紋岩製である。いずれも使用面は2～4面で、S276は板状になっている。(柴田)



第1491図 遺構に伴わない遺物（古代～中世）⑥（1/4）

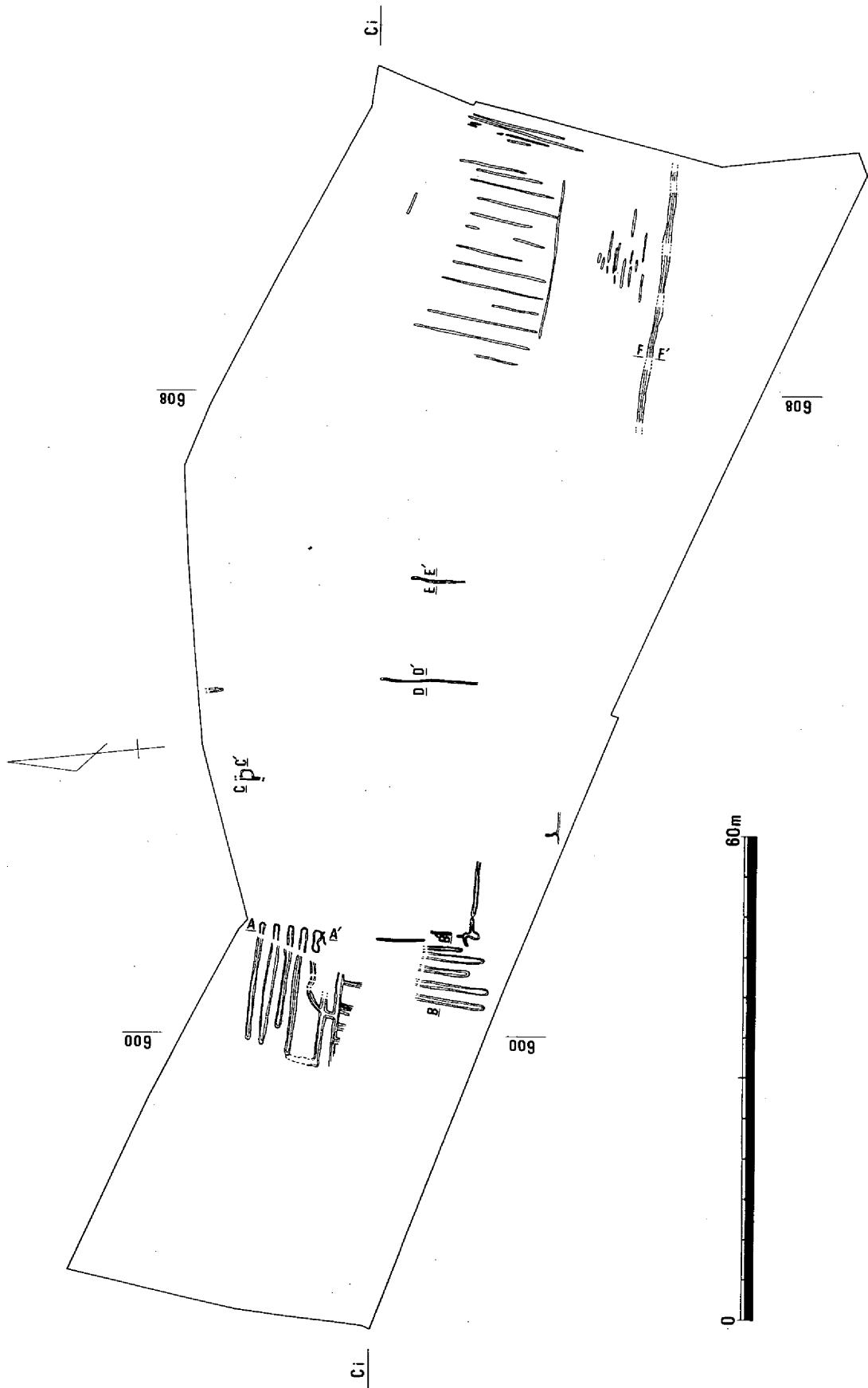


第1492図 遺構に伴わない遺物 (古代～中世) ⑦ (1/3,1/2)



第1493図 遺構に伴わない遺物 (古代~中世) ⑧ (1/3)

5 近世の遺構と遺物



第1494図 角田調査区近世主要遺構全体図 (1/750)

### (1) 概要

角田調査区では、近世の遺構として確実に捉えることができるものは、素掘溝群だけであった。検出された素掘溝群も調査区全体に認められるのではなく、場所によって検出されないことが確認されている。このことは、近世における土地利用形態を考えるうえで参考になると思われる。(松本)

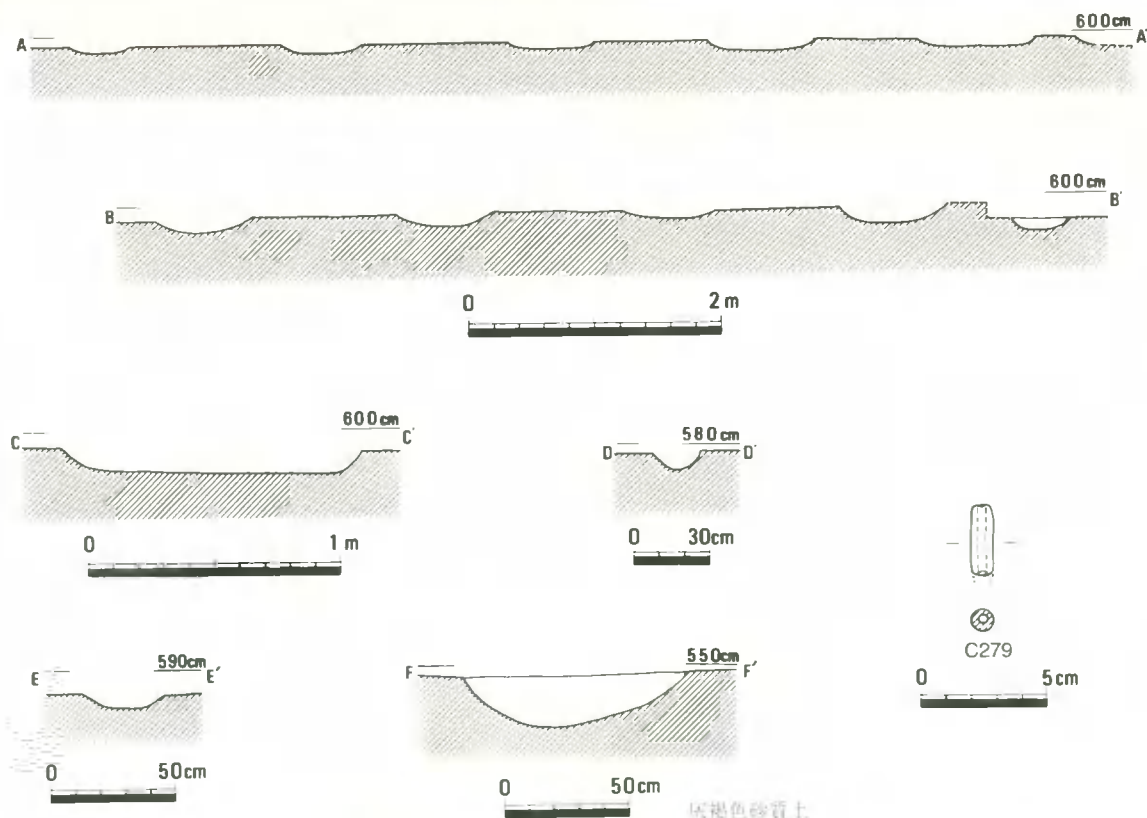
### (2) 素掘溝群

#### 素掘溝群2 (第1494・1495図・図版81)

調査区の東と西に分かれて検出された。溝は東西、南北方向に規則的に掘削されているが、東で検出された溝群と西とでは方位、規模が異なっている。東の溝は幅が30cm前後、深さ約5cm程であるが、西の溝は幅が50cm前後、深さは5～10cm程である。断面形は皿形である。図示できる遺物としては、土錘C279がある。時期を決める遺物はないが、近世の頃と思われる。(松本)



写真14 角田調査区近世遺構調査風景 (西から)



第1495図 素掘溝群2 (1/60,1/30)・出土遺物 (1/3)

## 第4節 まとめ

### 1 弥生時代の集落変遷

#### はじめに

弥生時代の高塚遺跡からは竪穴住居106軒、掘立柱建物5棟、袋状土壙129基、方形土壙163基など多くの遺構が検出された。いっぽう、遺物においても総箱数1691のうち大半の遺物が弥生時代に属しており、なかでも特筆されるものとして銅鐸2個および25枚におよぶ貨泉の出土が挙げられる。この発見は単に岡山県下のみならず、全国的にもその在り方に注目が集まり、今後の弥生時代集落の実体解明にも大きく影響を与えるものと思われる。銅鐸および貨泉については後に項を設け、また、銅製品については第4分冊の付載において科学分析を行っており、当項では竪穴住居を中心に集落変遷を略述し、短絡的な結末ながら足守川下流域における弥生時代後期集落の在り方を粗描しておきたい。

#### 微高地復元（第4・1496図）

高塚遺跡からは弥生時代前期に遡る遺物が僅かばかり確認されている。しかしながら、今回の調査では遺構の検出までには至らず、前節で報告してきたように弥生時代後期前半の多くの遺構検出をもって居住区の出現、本格的な集落形成が開始されたものと思われる。この弥生時代後期を通じて、微高地（集落）の広がりには南東限が角田調査区の溝および斜面にあたり、北限は中世斜面によって削平を受け、本来は幾分北に広がっていたものと推定されるものの、ほぼ塚廻り調査区から角田調査区に至る、調査区北端部に確認された中世斜面付近と思われる。なお、南西端は遺構の検出は見なかったものの塚廻り調査区にまで微高地の基盤らしき比較的安定した粘土層が確認されている。この調査状況および周辺地形から復元すれば、微高地は北東から南西に細長く蕨状に延びた形状を示し、その規模は東西約400m、南北約80m、面積約30,000m<sup>2</sup>を測るものと思われる。そして、今調査面積約16,000m<sup>2</sup>はこの微高地のほぼ中央部にあたるとともに、微高地部分（集落）の約1/2が明らかになったものと推定している。

#### 集落の変遷（第1496図）

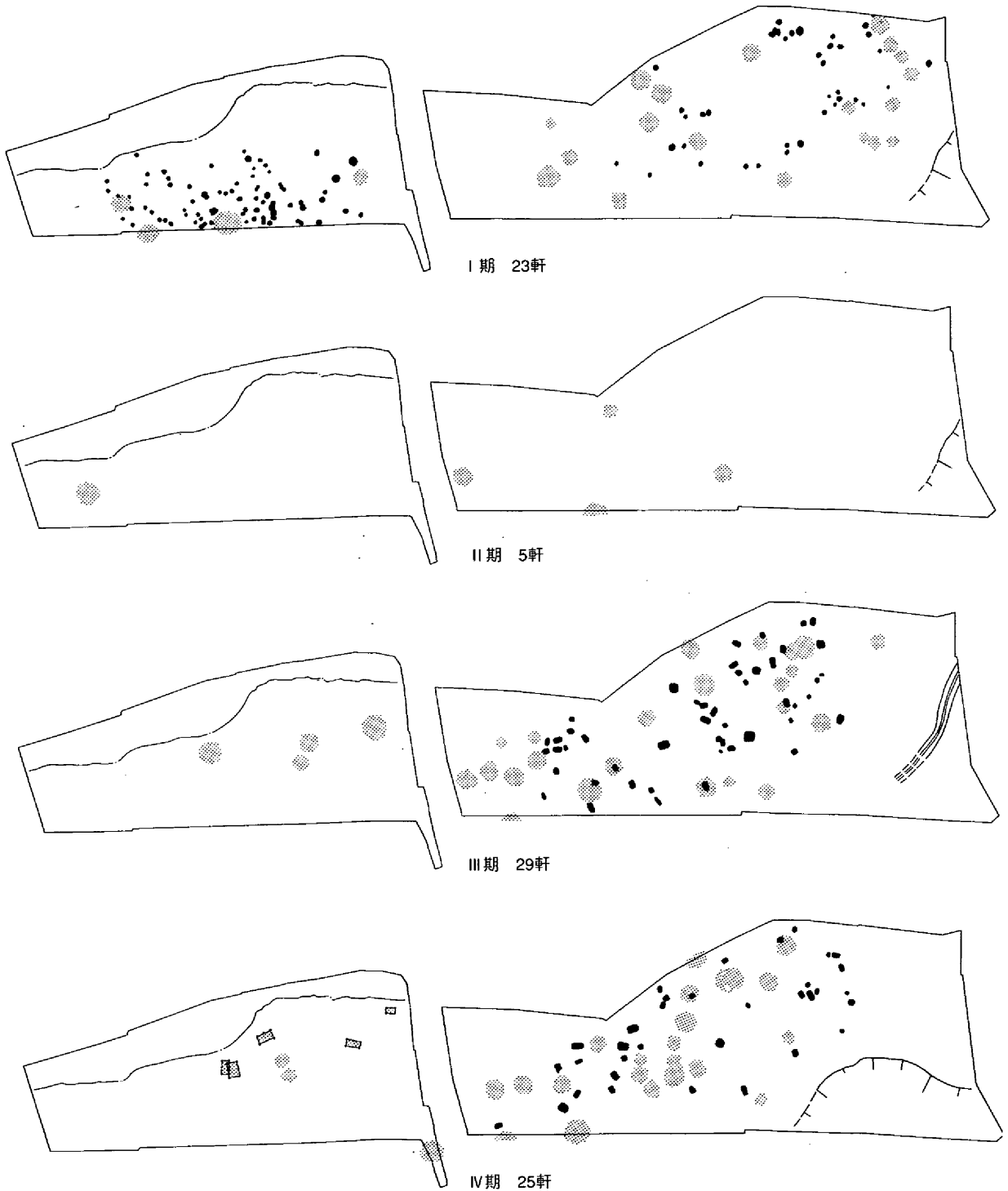
弥・後・I期に属す竪穴住居は23軒検出しており、その分布は調査区全体に散在する状況が確認されたが、黒点で示す袋状土壙の分布が東西に大きく分かれ、最低でも2グループから構成されていたものと思われる。また、住居形態は後期を通じて円形あるいは隅丸方形を基本とするものが一般的な傾向のなか、東側の住居群から方形ないしは隅丸長方形の住居が検出された。方形の竪穴住居121・124・125は床面積が10m<sup>2</sup>余りの小規模な竪穴住居で、いずれも柱穴をもたず、中央穴のみが検出された。また、隅丸長方形の竪穴住居98は主柱4本からなるが、中央穴は確認されず、これら竪穴は一般の住居とは別の用途を考えなければならないであろう。

弥・後・II期になると竪穴住居は5軒に減少する。微高地中央部に疎らに点在する状況を示し、この期に属す袋状土壙もいくつかは所在するものと思われるが、明確にこの期の遺物を共伴する袋状土壙は検出されなかった。また、検出された住居はいずれもII期の前半に廃絶したものと考えられ、次のIII期の間には空白の期間が存在するようである。なお、I期からII期へは住居の数が激減しているかのように見えるが、I期の実年代幅は広く、実際はII期とさほど変化はなく、やや減少気味に移



していったものと考えている。

弥・後・Ⅲ期には再び居住区として利用されるようになる。この期に属す竪穴住居は29軒検出して  
おり、後期を通じて最も多い。微高地の東側にやや片寄る傾向が認められ、袋状土塋と同様の機能を  
果たすと考える方形土塋の検出状況においても同様である。竪穴住居は平面形態が円形を基本として  
おり、高床部をもつ住居を3軒検出した。竪穴住居58・79・114で、前二者が壁に沿って一周するの



第1496図 弥生時代主要遺構変遷図

に対し、後者は東方壁際の一部にのみ段状に設置されており、住居からは翡翠の勾玉や性格不明の鹿角製品が出土するなど、一般住居とは異なる性格の竪穴住居と思われた。また、住居規模が床面積10㎡に満たないものが4軒含まれ、その果たす機能を考える上で、I期の方形住居との関連を検討する必要があるように思われる。高床部をもつ住居および小規模住居の所在からこの時期には4～10軒前後を単位とする、最低3グループが所在したものと考えている。

弥・後・IV期には住居はやや減少し25軒検出された。Ⅲ期と同様に微高地東部を中心に居住しており、方形土壇の在り方も同様である。また、この期には微高地西部から3棟の掘立柱建物が検出された。その性格としては住居とも考えられるが、東部に展開される地下貯蔵庫と推定する方形土壇に対し、高床で管理する倉庫としての機能を考えている。いっぽう、竪穴住居には高床部をもつもの3軒および小規模住居3軒が検出されており、10軒前後を単位とした2～3グループが所在するものと考えている。なお、高床部をもつ竪穴住居91からは土製玉が出土しており、竪穴住居77は高床部をもつ形態に拡張建て替えがなされたもので、建て替え前の住居からではあるが石製勾玉が出土しており、他の住居とはやや様相を異にするものと思われる。また、東部の方形土壇群に対し、西部の高床倉庫との位置関係から、この遺構配置は単なる複数の単位集団からなるムラではなく、中規模な集合体としての在り方が明瞭に示された状況と理解している。

以上、高塚遺跡(ムラ)は弥生時代後期の開始とともに居住し始めるが、Ⅱ期後半には一時期この地から住まいは無くなる。しかしながらⅢ期には再び多くの人々が居住し始め、数グループからなる中規模の集落を形成する。そしてⅣ期にはやや減少するものの、その在り方はⅢ期と同様に数グループからなるとともに、そこにはさらに一つのまとまりのある集合体としての姿が確認された。その後この集落内の住居は古墳時代初頭には激減し、再度大集落の姿を見せるのは古墳時代中期になってからのことである。

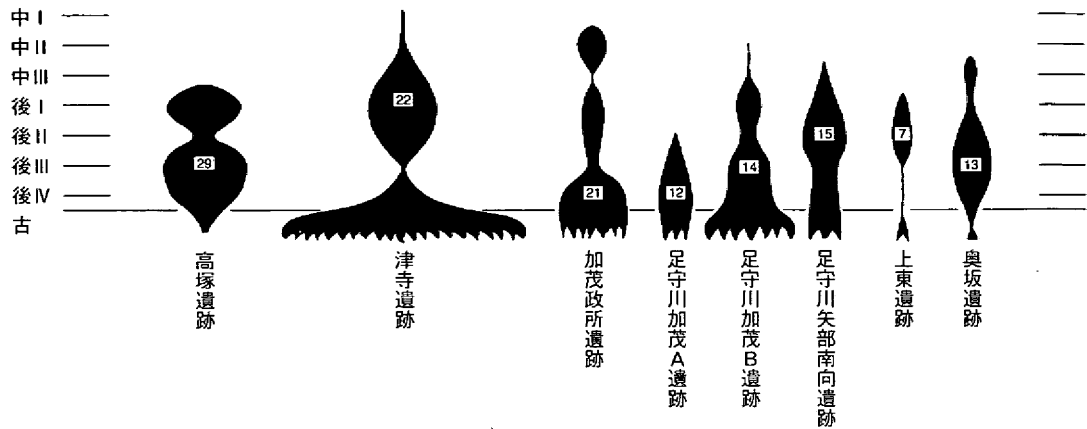
#### 周辺遺跡の状況(表5 竪穴住居推移表)

足守川下流域に広がる平野部は約30年前の山陽新幹線建設に伴う上東遺跡の調査以来、足守川改修工事、山陽自動車道建設など大規模な開発工事に伴って発掘調査がなされ、多くの資料が蓄積されてきた。しかしながら、調査面積はその予想される集落(微高地)の範囲からすればほんの一部に過ぎず、全体像を明確にできたものはない。そのような状況の中で、冒頭でも記したように、今回調査を実施した高塚遺跡は調査地点が推定される集落の中心部にあたり、居住域の約半分を明らかにできたとと思われるとともに、推定される住居の大半の報告がなされたものと考えている。いっぽう、先年報告された津寺遺跡においても、推定される微高地に対して未調査部分が所々存在するものの、未調査部分によって居住区の実体が大幅に変化することはないと判断される。ここで周辺に所在する集落の推移を見ていきたい。

津寺遺跡<sup>(2)</sup>は高塚遺跡の南東約2kmに位置する。弥生時代の微高地推定面積は36,000㎡余りで、弥生時代の竪穴住居は87軒、掘立柱建物7棟、袋状土壇283基ほか多くの遺構が検出されている。竪穴住居は中・Ⅱ期に属するものから検出され、中・Ⅲ期から増加傾向を示す。後・Ⅰ期の22軒をもってピークを迎えるが、その後は急激に減少し、後・Ⅲ期にはあたかも見張小屋を残すかのよう<sup>(1)</sup>に1軒の竪穴住居が検出されるのみであった。しかし後・Ⅳ期には再び増加に転じ、古墳時代初頭には80軒余りからなる大集落に成長する。

加茂政所遺跡<sup>(3)</sup>は津寺遺跡から東方約700mに位置する。調査範囲は想定される微高地からすれば数

表5 竪穴住居推移表



10%に満たないが、竪穴住居は津寺遺跡と同様に中・II期から確認され、中・III期には見られないが、後期前半には細々と継続し、後・IV期には21軒と急激に増加に転じ、古墳時代へと続く。

足守川遺跡群（加茂A・B、矢部南向遺跡）は津寺遺跡から南方約1km、高塚遺跡から約3kmに位置する。河道を挟んで隣接する3遺跡は想定される微高地からすればごく一部を調査したに過ぎないが、矢部南向遺跡では15軒を検出した後・II期にピークを迎え、加茂B～Aとそのピークの下っていることが確認された。

上記に示した遺跡はいずれもいくつかの単位集団で構成された集合体からなるムラを形成しているように思われ、特に高塚遺跡および津寺遺跡の状況は当時のムラの在り方を示す良好な資料である。これまで、ともすれば調査地点外に調査で明らかになった時期以外の住居が所在する可能性を考え、その実態解明に攻めあぐむことが多かった。しかしながら、竪穴住居の津寺遺跡III期における激減や、高塚遺跡III期の増加現象は単に一微高地（ムラ）内で理解されることなく、少なくとも、広く足守川下流域一帯を統括する政治的な要因から集合体への何らかの移動の働きかけがなされたことを暗示しており、このような微高地間相互の再編状況はいずれはクニへの統合に繋がっていくものであり、その兆しは、現段階でのこの周辺一帯では、本格的な平野部への集落進出が多く認められる弥・後・I期まで遡ることが可能ではないだろうか。また、後期終末には高塚遺跡の所在する位置から南方にかけての集落増加の傾向が認められ、古墳時代に向って集落が拡大再編へと辿っていったものと思われる。

高塚遺跡の南西3.5kmの丘陵には楯築弥生墳丘墓<sup>(5)</sup>が所在する。これまでの共同墓地から隔絶した規模をもつこの墳丘墓の築造は、上記してきたこの一帯の集落が大きく改編・統合されていく一端が明らかとなった弥・後・III期にあたり、首長継承にまつわる新たな祭祀形態の出現によって、これまで集合体間で行われていた高塚銅鐸による共同体祭祀は急激にその必要性を喪失し、この時代の終焉をもって土中に葬られたものと理解している。 (江見)

註

- (1) 近藤義郎『前方後円墳の時代』岩波書店 1983
- (2) 高畑知功ほか「津寺遺跡5」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127』岡山県教育委員会 1998
- (3) 平井泰男ほか「加茂政所遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138』岡山県教育委員会 1999
- (4) 島崎東ほか「足守川加茂A・B・矢部南向遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94』岡山県教育委員会 1995
- (5) 近藤義郎ほか『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会 1992

## 2 高塚遺跡フロヤ調査区検出の銅鐸埋納壙とその出土銅鐸について

### はじめに

本書で報告したように、高塚遺跡の山陽自動車道建設に伴う発掘調査では数多くの成果が得られたが、フロヤ調査区での銅鐸埋納壙の検出は特筆されるものの一つである。近年、発掘調査において埋納銅鐸の出土する例が散見されるようになったとはいえ、その数は10数例に過ぎず、現在までに出土している約450個という数に比べればごく一部に過ぎない。さらに、発掘調査による検出であるため、その正確な出土状態や出土地点周辺の遺構・遺物も含めた出土遺跡の情報を多く得ることができる。このため、銅鐸の機能や性格、さらには年代などを考察するうえできわめて重要な資料といえる。

高塚遺跡における銅鐸埋納壙の検出は、これまでの銅鐸の研究に今後さまざまな影響を及ぼすものと考えられるが、それは大きくは二つの側面に分けることができる。一つは、1点の考古遺物としての銅鐸そのものが持つ情報で、これまでの分類案や編年論、さらには鑄造技術などに照らしてどのような位置を占めるかである。もう一面は、銅鐸埋納遺構としての在りようから導き出されるもので、使用方法や遺跡内での立地から類推される銅鐸の機能や性格、また、伴出遺物や近接遺構などによって示される年代観である。さらに、従来の分布状態に変化を与えるものであるかどうかなどにも及ぶ。この両側面に配慮しつつ、とりわけ、現在までに出土の確実な銅鐸が23個にのぼる吉備地域（岡山県と広島県東部）での様相を中心として、いくらかの検討を加えることとする。

なお、高塚遺跡フロヤ調査区からは、弥生時代後期前葉の袋状土壙から「貨泉」が25枚集中して出土していて、これも特筆される成果である。銅鐸埋納壙に近接し、後述するように銅鐸と関係のあった可能性が高いと考えている。このため、「貨泉」についての考察と重複する部分がかかりみられることをあらかじめ断っておきたい。また、銅鐸埋納壙の東に隣接する角田調査区からは銅鐸片が1点出土し、この事実も重要である。これについても当然にこの節の中で触れることとしたい。

### 高塚遺跡出土銅鐸の概要（第147～151・1201図 巻頭図版3・4 図版101・102・169）

高塚遺跡からは2点の銅鐸が出土した。1点（M45）はフロヤ調査区の銅鐸埋納壙から出土した完品であり、もう1点（M165）は鐸身の小破片で、角田調査区の弥生時代後期後半の竪穴住居67が埋没した後に、その埋土上面から掘られた中世の柱穴内から出土した。両者の出土地点は80m離れていた。前者を1号鐸、後者を2号鐸と呼称した論考がすでに存在する<sup>(1)</sup>が、この呼称では2点の銅鐸が同一遺構から出土したような印象を与えるおそれがある。このため、「高塚銅鐸」として類書に写真が掲載されている前者の完品を「高塚銅鐸」と呼び、後者の銅鐸片については必要があれば「高塚角田銅鐸片」と記すこととする。「高塚銅鐸片」という呼称も考えたが、「高塚銅鐸」との混乱を避けるため、あえて調査地区名（小字名）の角田を入れた。まず、高塚銅鐸の概要を述べ、次に、高塚角田銅鐸片に及ぶこととする。

高塚銅鐸は調査中に片側の<sup>(3)</sup>鰭の下端角部と飾り耳の一部を欠損したが、ほぼ完形を保っている。なお、実測図にみられる飾り耳の欠損部分についてはほとんどの破片を回収しているものの、完全には接合復元を終えていないため一部に遺漏がある。高塚銅鐸は、菱環部の内外に扁平な装飾部を付けた鈕と呼ばれる吊り手を持ち、<sup>(4)</sup>鰭から鈕にかけての外周線や身の区画線に突線を使用していることから、佐原真氏による型式分類<sup>(4)</sup>で新段階とされた突線鈕式銅鐸に分類される。鈕の外周には頂部に1個、左右の側面に2個、計3個の二頭渦文飾り耳を置き、鰭には3対の「B」字形の飾り耳を配している。

鈕孔の下端には鈕脚壁を設ける。身の上面にあたる舞はほぼ平坦で、身の側面はわずかに反りをもっている。鑿の下端は身の裾より12～18mm上に位置している。銅鑿の全高58.0cm、身高40.4cm、身裾長径26.7cm、同短径23.0cm、舞長径16.6cm、同短径15.0cm、鑿幅1.6～2.7cm、重量6420gを測る。身の厚さは裾が4mm、舞で4～6mmであるが、下辺横帯部分では3mmと薄い部分もあり、上端の区画突線部分では8mmと厚さを増している。鈕の厚さは菱環部が12mm、内外縁部で4mm、鈕脚壁は3mmである。

型持孔は舞に2個、身の上部に片面2個、両面では4個、身裾にも片面2個、両面で4個の計10個が存在する。舞の型持孔は不整形な円形を呈し、A面側が長径24mm、B面側が同18mmと大きさに違いがみられる。舞の内面から型持孔を観察すると、孔の周辺はほぼ平坦であるが、B面側の孔の周縁に一部かすかな段が認められる。この段の形状から判断すれば舞の型持は円形であったとみられる。舞の型持孔の周縁は断面図に示すように明瞭な面をもっていないため、銹化の進行によって孔の周縁が剥落し、孔が拡大したものと考える。身の型持孔はすべて方形で、上部の型持孔が10×14mm前後、裾の型持孔はやや裾広がりの上辺が11mm、下辺は15mm、高さは20mm程度を測る。A面の身上部左側の型持孔の欠損は調査時のものではない。身の型持孔は外面からみると上角がやや丸みをもっているものもあるが、それを内面から観察すると明瞭な方形の型持の痕跡を示す浅い段が認められ、湯が型持と外型の接触面に一部浸入して、バリが形成された結果とみられる。

鑿身の内面下方、裾の上部には内面突帯が1条巡らされている。突帯は蒲鉾形に近く、明瞭な磨滅痕跡は認められないが、ごく一部に細くなったり、低くなって頂部が平坦になった部分がみられた。突帯の幅は8mm前後、高さは2～3mmである。内面突帯は裾の下端線とほぼ平行するが、左右のA面とB面の接合部分で少し高くなっている。

高塚銅鑿の表面を観察すると、とくに裾の無文部分では細かな皺が多く認められ、B面では縦方向に面を違えることによって生じたような線が長く存在する。このような皺は鑄型表面の調整の痕跡とみられ、面違いの縦線は板状工具による表面の調整が途中で終わったことを示しているものと考えられる。当然に鑄型は砂型である。鈕や身の紋様部分には短い縦線が随所にみられ、鑄型の表面に細かなヒビが走っていたと推定される。また、舞の周縁部分がわずかに盛り上がり、とくにB面で顕著である。これは身の上端に突線を施すために鑄型に沈線を入れた時にできたものと考えられる。このように、この銅鑿は鑄型表面の入念な調整や、鑄造後の表面の研磨というような丁寧な仕上げは行われず、ほぼ鑄放しのままであったとみられる。裾の下端線を見るとA面では中央部が弧を描かず平坦となり、また、B面では中央付近に小さな割れが認められる。前述の型持孔のバリにも共通することであるが、裾の下端面や型持孔の周囲についても研磨して整えるということはみられない。高塚銅鑿は文様そのものは精緻で、また、鑄上がりもきわめて良好で高い技術力を示しているが、調整などの細部に粗さが認められた。第147図の側面Dには大きなズレがみられ、鑄造にあたって二つの外型を組み合わせる時、片方の鑄型が回転するように少しズレていたとみられる。ここにも粗さが存在する。

次に銅鑿の文様であるが、高塚銅鑿はその鈕の型式と身の文様構成から突線鈕式三区流水文銅鑿と表現される。身はA面、B面ともに突線によって上下3段に区画され、区画内に流水文を充填している。身の上端には3条の突線を巡らせ、上区と中区、中区と下区の間は2条の突線によって区画し、下区の下端にも2条の突線を走らせている。さらにその下には、右下がり(R)の平行斜線で内部を充填した鋸歯文を先端を上向きにして連続させた下辺横帯を配し、その下には4条の突線を裾部との境界線として巡らせている。区画内を四分分割して上区から下区まで貫通する縦線があるが、これは流水文

を割り付けるための補助線である。区画内の流水文は同一文様の繰り返しである。3段構成の横型流水文を上下2段に配し、上の下段と下の上段の両端を連結させ、下の下段の左右にできた空間には長楕円形の同心円文を置いている。ただ、この銅鐸では上下3区の割り付けに誤りがあったようで、下区が上の2区より上下に長くなり、同一の流水文を配置すると下端にわずかな空間が生じてしまった。そこで、A面では左半に中軸線をもつ長楕円文、右半に下に頭を置いた細長い二頭渦文を置き、B面では右半に下段の流水文から派生させた渦文と短直線を充填している。

鈕は内縁と菱環部と外縁からなる。外縁は外側から第1文様帯、第2文様帯に分けられ、菱環部、内縁ともに一つの文様帯を構成するため、鈕孔の周囲を4帯の文様帯が取り巻くこととなる。外縁の第1文様帯は鱗に連続している。各文様帯は2条の突線によって区画され、第1文様帯から鱗にかけての外周と内縁文様帯の内縁にも2条の突線が巡らされる。鈕孔の下端には鈕脚壁があり、そこにも2条の突線が配され、A面では下端にもう1条認められる。鈕孔は突線で囲まれているが、突線の内側にわずかな平坦面がみられる。鱗の下端には突線が引かれ、その上方に2条の突線が置かれる。B面の左側では鱗下端の突線が2条になっている。

第1文様帯、第2文様帯、内縁文様帯のいずれにも、尖端を内側に向け、底辺に対して右下がり(R)の平行斜線を充填した鋸歯文を連続させている。鋸歯文の割り付けは正確ではなく、かなり大小の差があり、とくに内縁文様帯で顕著である。また、B面の右側の鈕脚部では第1文様帯と第2文様帯間の突線が舞の右端から外へはずれているため、鈕脚付近の鋸歯文が小さくなっている。このようになりかなり不正確な鋸歯文の割り付けではあるが、下辺横帯の鋸歯文も含め、各文様帯で共通点が認められる。それは、それぞれの文様帯の端にある三角形は完全なものか、半分かのどちらかであるということである。たとえば、B面の第2文様帯の鋸歯文は左側が三角形の垂線が舞に接し、右側の三角形は完形で終わっている。また、鱗下端の三角形は左右いずれも垂線が鱗下端の突線にあたっている。割り付けが正確でないために、鋸歯文を片側からある程度同じ大きさで描いていくと、終わりがうまく完全な三角形にならなかったためであろうか。しかし鱗の場合を考えると半分の三角形から描き始めたということになる。むしろ文様帯の鈕頂部から描き始めたものであろうか。なお、第1文様帯のB面側の鈕頂部で、一つの三角形の空白部に左下がり(L)の斜線が2本認められたが、複合鋸歯文までにはなっていない。また、鋸歯文内の平行斜線を手早く引いたためか、所々で三角形の枠から飛び出した斜線が認められ、下辺横帯の鋸歯文の先端も区画突線の上部に突き抜けているものがある。

菱環文様帯は中央に軸線をもつ綾杉文を描いている。鈕脚と鈕頂に3条の平行線を引き、鈕頂の平行線から左側は「く」の字状の綾杉文、右側は逆「く」の字状の綾杉文というように、左右対称に配置している。

鱗から鈕にかけての外周には飾り耳が付けられ、銅鐸の装飾性を高めている。飾り耳には2種の形態があり、鈕の外周には二頭渦文が飾られ、鱗の外周には2個の半円を一組にした「B」字形飾り耳がみられる。二頭渦文は鈕頂部に1個と鈕頂部と鈕脚部との中間に左右2個、計3個が付けられている。二頭の渦は巻き方が対称的で、左が左巻き、右は右巻きになっている。そして、両方の渦線は直接には繋がらず、ともに鈕の外周突線から派生した蕨手文になっていて、二つの渦を3本ないし4本の弧線で結んでいる。B面では中央と右側の耳で、もっとも内側の弧線と渦線との接点付近と外周突線を繋ぐ線がみられる。二頭渦文の幅は46~51mmで、鈕頂部がとくに大きいということはない。しかし、渦文の高さでは鈕頂部が27mmであるのに、左右の耳は21~23mmと、かなりの開きがあり、い

ずれの渦文も3重であることを考えると、中央の飾り耳を一回り大きくする意図があったとみられる。「B」字形飾り耳は身の施文部分の上端・中央・下端の三カ所に、左右対になって計6個が付けられている。一つの半円は4重の重弧文で飾られているが、重弧文の直径や形には差異が認められる。鱗にはこの飾り耳に伴う耳脚はみられない。「B」字形飾り耳の二つの重弧文の幅は46~54mm、高さは10~13mmで、極端な大小の差はなかった。

さて、先に高塚銅鐸を突線鈕式三区流水文銅鐸と呼んだが、佐原氏によれば突線鈕式は編年的に五つの型式に細分される<sup>(4)</sup>。高塚銅鐸は鱗から鈕にかけての外周や鈕の文様帯の区画に2条の突線を用い、身の区画線としても2条の突線がみられることから、佐原氏は高塚銅鐸を突線鈕2式としている<sup>(5)</sup>。また、高塚銅鐸のもつ文様要素のうち、鈕脚壁、菱環文様帯の中央軸線、「B」字形飾り耳3対、二頭渦文飾り耳3個、鱗下端の身裾より上位などの特徴は、身の文様が袈裟襷文ではなくて流水文であることを除けば、突線鈕2式以降、近畿地方を中心に分布して、形態や装飾面からの共通性によって一群とされる近畿式銅鐸<sup>(6)</sup>に通有のものであることが難波洋三氏によって指摘されている<sup>(6)</sup>。さらに進藤武氏によれば、近畿式銅鐸との共通要素として、外縁文様帯の鋸歯文がR鋸歯文、身上半の型持孔が長方形などの特徴が追加されている<sup>(7)</sup>。

流水文についても特徴が指摘されている。それは、古段階や中段階の銅鐸の流水文は線上の任意の1点から線をたどると元の点に帰り着くのにに対し、高塚銅鐸の流水文では線に端のあるものが多く、線上の任意の1点から線をたどると左右さまざまな方向へ曲折し、また線の長短もあって、元の点に帰り着かない。佐原氏はこのような流水文を「迷路ふうの流水紋」と呼び、前者を「正統派」、後者を「迷路派」と言う場合もある。迷路ふうの流水文を飾る銅鐸はほとんどが新段階のものであり、流水文銅鐸の最後を飾り、これ以後流水文銅鐸は作られなくなる<sup>(8)</sup>。

以上のように、高塚銅鐸は突線鈕2式の迷路派流水文銅鐸に分類される。

次に高塚角田銅鐸片について説明したい。破片は身の部分であるが、銹化が進行している。外面は文様の一部が判別できる程度で、内面は小さな凹凸が全面にみられ、錆が砂粒を包み込んでいるようである。破片周囲の破面にはでこぼこがあり、錆が剥離した部分は淡青緑色を呈している。破片の周囲には小さな凹凸がみられたが、全体ではほぼ隅丸の長方形で、長軸が39mm、短軸は29mm、厚さは2~3mm、重量は9.33gを測る。破片は身の部分であるにもかかわらず平らで、図の縦方向ではわずかな反りがみられるものの、横方向では銅鐸特有の湾曲がみられず、むしろ上端と下端の間でかすかな捻りが認められる。このことからすれば、この銅鐸片は破碎した破片を平らになるように加工したものと考えることができる。

外面の文様でまず目に付くのが横走る2条の突線である。その上の線の右端近くから上方へ突線が伸び、その右にもう1条縦線が存在するようである。横走る2条の突線の下区画にはやや横長の斜格子文がみられ、上の区画でもX線撮影によってやはり横長の斜格子文が確認された。したがって、高塚角田銅鐸片の文様は袈裟襷文で、2条の突線によって文様帯を区画していると考えられる。文様帯は横帯が縦帯を切る形で、佐原氏の分類による伝統派のA系列<sup>(8)</sup>に属するようである。横帯の広さからみて軸突線はなかったものとみられる。高塚角田銅鐸片は突線鈕式袈裟襷文銅鐸と考えるが、2条の区画突線と軸突線の欠如から突線鈕式の前期、1式か2式の可能性が高いとみられる。この銅鐸が近畿式銅鐸かどうかはこの破片だけでは断言できないが、可能性はある。

### 吉備地域出土銅鐸のなかでの高塚銅鐸の位置

高塚銅鐸は突線鈕2式の迷路派流水文銅鐸であるが、これまでに吉備地域から出土した銅鐸のなかではどのような位置を占めるのであろうか。銅鐸の年代と文様の両面から考えてみたい。

現在までに吉備地域から出土したことが知られている銅鐸は表6のとおりである。このなかで確実に突線鈕式銅鐸といえるのは5例で、他に玉野市沖の海底出土の破片が1例存在する<sup>(9)</sup>。編年的な細別では、1式の岡山市草ヶ部大廻山出土銅鐸以外はすべて2式以降に属している。和気町和気寺屋敷出土銅鐸は所在不明のため詳細に検討することができないため、高塚銅鐸は吉備地域出土銅鐸のなかではもっとも新しい銅鐸の一つといえることができる。

高塚銅鐸は流水文銅鐸であるが、吉備地域から出土した銅鐸のほとんどは袈裟櫛文銅鐸で、流水文銅鐸は他に真備町妹銅鐸が1点あるにすぎない。妹銅鐸はやはり突線鈕2式であり、しかも迷路派流水文で飾られ、高塚銅鐸との親近性が認められる。吉備地域出土銅鐸の中ではこの2点の銅鐸がかなり特異な位置を占めているといえることができる。

それではこの2点の迷路派流水文銅鐸の関係はどのように考えられるだろうか。難波氏は迷路派流水文銅鐸を近畿式の特徴をもつb類とそれを持たないa類に細分し、a類がb類に時間的に先行する<sup>(10)</sup>とした。妹銅鐸はa類、高塚銅鐸はb類に属する。これに対して、佐原氏は高塚銅鐸の3区流水文から妹銅鐸の6区流水文への変化を考え、流水文自体も縮んだ形の繰り返しに終始する妹銅鐸を最後の流水文銅鐸とした<sup>(8)</sup>。このように、両者の考えは2点の銅鐸の年代的な前後関係について正反対の結果になっている。表7に出土地の確実な迷路派流水文銅鐸を示したが、難波氏によれば妹銅鐸と高塚銅鐸の間に大岩山Ⅱ-10号銅鐸が存在することになり、佐原氏によれば田村谷銅鐸の存在によって高塚銅鐸と妹銅鐸の年代差が広がる可能性がある。

形式的な変化として、1区から3区を経て6区に至る流れは自然な感じを受けるが、新段階銅鐸の主流となり、その終末を飾る近畿式の諸要素をもつものを最後の流水文銅鐸とすることにも理屈はある。高塚銅鐸は二頭渦文の飾り耳をもつが、鈕頂の飾り耳が他の2個の飾り耳よりも高くなっていて、最初期の近畿式よりはやや進んだ段階の銅鐸ではないかとみられる。迷路派流水文銅鐸の中ではこの銅鐸だけが耳脚をもたず、鈕の文様帯も鋸歯文のみで新しい傾向は否めない。妹銅鐸は鈕に連続渦文を飾り、3対の耳脚をもつなど古い傾向がみられるものの、区画突線は鱗にまで貫通し、三遠式銅鐸との関連を思わせ、やがて近畿式に取り入れられる新しい傾向を示す。身の上端の斜格子文も古い傾向ではなく、ことによれば三遠式銅鐸との関係も考慮する必要があるかもしれない。このように、高塚銅鐸と妹銅鐸の先後関係の決定には困難が伴う。そこで、突線鈕2式に属する4点の迷路派流水文銅鐸にみられる二つの文様形態、すなわち近畿式類似銅鐸と6区画流水文銅鐸のそれぞれ2点の銅鐸間の先後関係をまず考えてみる。

近畿式類似銅鐸は大岩山Ⅱ-10号銅鐸と高塚銅鐸で、流水文は同じ形態である。大岩山Ⅱ-10号銅鐸は鈕に連続渦文をもち、下辺横帯も連続渦文で飾る。身の上端付近の鱗には耳脚状の平行線がみられ、鈕頂の二頭渦文も高塚銅鐸ほどには強調されていない。また、鈕の区画突線も高塚銅鐸に比べて鈍い。突線鈕1式中野1号銅鐸をこの文様形態の先行するものと考えれば、なによりも身の区画突線の存在から高塚銅鐸がより新しいことは確実である。難波氏は、従来の佐原氏編年が大岩山Ⅱ-10号銅鐸を突線鈕1式としたことから、同銅鐸を製作年代が突線鈕2式と併行する突線鈕1式としたが、佐原氏は同銅鐸を新たに突線鈕2式としている<sup>(5)</sup>。



6区画流水文銅鐸は田村谷銅鐸と妹銅鐸で、流水文の形態は同一ではないが類似がみられ、ともに同じ形態の繰り返しである。総高も10cm以上の差がみられるが、もっとも大きな違いは飾り耳の有無である。田村谷銅鐸の突線は妹銅鐸の突線に比べると細く、また、流水文を描くための割付線も田村谷銅鐸はかすかで、妹銅鐸のように明瞭ではない。下辺横帯の連続渦文をみると田村谷銅鐸は巻数が多くて繊細で、大岩山Ⅱ-10号銅鐸と類似し、妹銅鐸はそれらよりも簡略である。田村谷銅鐸の鈕は外縁が1帯で、内縁の重弧文は中野1号銅鐸に類似している。さらに、田村谷銅鐸の鈕脚壁には綾杉文が飾られるが、妹銅鐸は近畿式銅鐸に通有の平行線である。このような文様の特徴から判断すると、妹銅鐸が田村谷銅鐸に後れて作られたと考える。

突線鈕2式の迷路派流水文銅鐸にみられる二つの文様形態が深い関係にあることは確かであるが、単純な時間的連続を示さないものとするれば、この二つの意匠を同時に共有していたと考えることはできないだろうか。高塚銅鐸と妹銅鐸はともに二つの意匠銅鐸の最後にあたるものであり、その製作時期はきわめて近接していたのではないかとみる。この2点の銅鐸は吉備地域における現時点での最後の銅鐸であり、また、ただ2点の流水文銅鐸である。

なお、吉備地域から出土した銅鐸の分布状況で特徴的なこととして、偏在するという傾向がみられる。一つに旭川下流域があり、弥生時代中期から後期にかけての拠点集落と考えられる百間川遺跡群の周辺で4点の銅鐸が出土している。また、井原市内ではいずれも扁平鈕2式の6区袈裟襷文銅鐸が3点出土している。また、中野倫太郎氏が4区袈裟襷文銅鐸第3系列b類に分類した<sup>(1)</sup>銅鐸が備前地域から4点出土していることも注目される。

#### 高塚遺跡周辺の遺跡分布（第1497図）

高塚銅鐸が出土した高塚遺跡は総社平野の南東端部に位置し、平野を流れる足守川・血吸川・砂川・前川がこの遺跡を目指すかのように集中し、遺跡周辺で合流する。合流した足守川は岡山市と倉敷市の境界となって、南に開いた三角形の平野部を南下する。この三角形の平野部には、弥生時代後期に至ると数多くの集落が形成されるようになり、なかでも津寺遺跡<sup>(11)</sup>・加茂政所遺跡<sup>(12)</sup>・足守川矢部南向遺跡<sup>(13)</sup>・上東遺跡<sup>(14)</sup>のような大規模な集落が形成される。また、周辺の丘陵には楯築弥生墳丘墓を頂点にして、雲山鳥打墳丘墓群・鯉喰神社墳丘墓などの首長墓が多く点在する。このように足守川流域は特殊壺形土器・特殊器台形土器に表象される吉備勢力の中核地域の一つと考えられている。さらに古墳時代に入ると、特殊器台形埴輪をもつ前方後円墳である中山茶臼山古墳（全長120m）や矢部大塚古墳（全長47m）が周辺の丘陵頂部に築造される。

総社平野における弥生時代後期の状況は発掘調査例が少なく、真壁遺跡<sup>(16)</sup>や南溝手遺跡<sup>(17)</sup>・窪木遺跡<sup>(18)</sup>において集落の一端が知られているにすぎない。しかし、平野の南辺の丘陵には宮山墳墓群<sup>(19)</sup>などの墳丘墓が所在し、古墳時代には吉備の大王墓とみられる大形の前方後円墳である造山古墳（全長350m）・作山古墳（全長286m）やこうもり塚古墳（全長100m）などが築造され、さらに備中国府・国分寺が営まれる。これらの古墳時代以降の発展状況から推測して、この地域が足守川流域にやや劣るとしても、弥生時代後期に吉備の中核地域の一角を占めていたことは確かであろう。

総社平野の西には高梁川が南流しているが、小田川が西から東へ流れて高梁川に合流し、その下流域には平野部が形成されている。高梁川を挟んでいるとはいえ、総社平野の西端部と捉えることができる。この小田川の下流平野の西端部から妹銅鐸が出土している。この下流平野部にも黒宮大塚墳丘墓<sup>(20)</sup>や立坂弥生墳丘墓<sup>(21)</sup>があり、古墳時代にはこうもり塚古墳とならぶ大形の横穴式石室をもつ箭田大塚

表6 吉備地域出土銅鑿ならびに銅鑿形銅製品・土製品一覽表

番号	地名	型式	鑿身文様
1	岡山県勝田郡勝央町念仏塚	外縁付鈕1式	4区袈裟繻文
2	〃	外縁付鈕1式	4区袈裟繻文
3	〃	外縁付鈕2式	3区横帯文
4	〃	扁平鈕1式	4区袈裟繻文
5	〃	扁平鈕1式	4区袈裟繻文
6	〃	扁平鈕1式	4区袈裟繻文
7	〃	扁平鈕1式	4区袈裟繻文
8	〃	扁平鈕1式	4区袈裟繻文
9	〃	扁平鈕2式	6区袈裟繻文
10	〃	?	袈裟繻文
11	〃	?	?
12	〃	扁平鈕2式	6区袈裟繻文
13	〃	扁平鈕2式	6区袈裟繻文
14	〃	扁平鈕2式	12区袈裟繻文
15	〃	扁平鈕2式	4区袈裟繻文

〈銅鑿形銅製品〉			
番号	地名	型式	鑿身文様
1	〃	銅鑿形土製品	袈裟繻文
2	〃	銅鑿形土製品	無文
3	〃	銅鑿形土製品	無文
4	〃	銅鑿形土製品	袈裟繻文?
5	〃	銅鑿形土製品	波状文
6	〃	銅鑿形土製品	無文
7	〃	銅鑿形土製品	突線文鑿齒文

※吉田広「銅鑿集成」『弥生後期の瀬戸内海』古代学協会四国支部第10回松山大会資料(古代学協会四国支部 1996年9月)を底本とし、註1・37文献により改訂、一部筆者加筆。

表7 迷路派流水文銅鑿一覽表

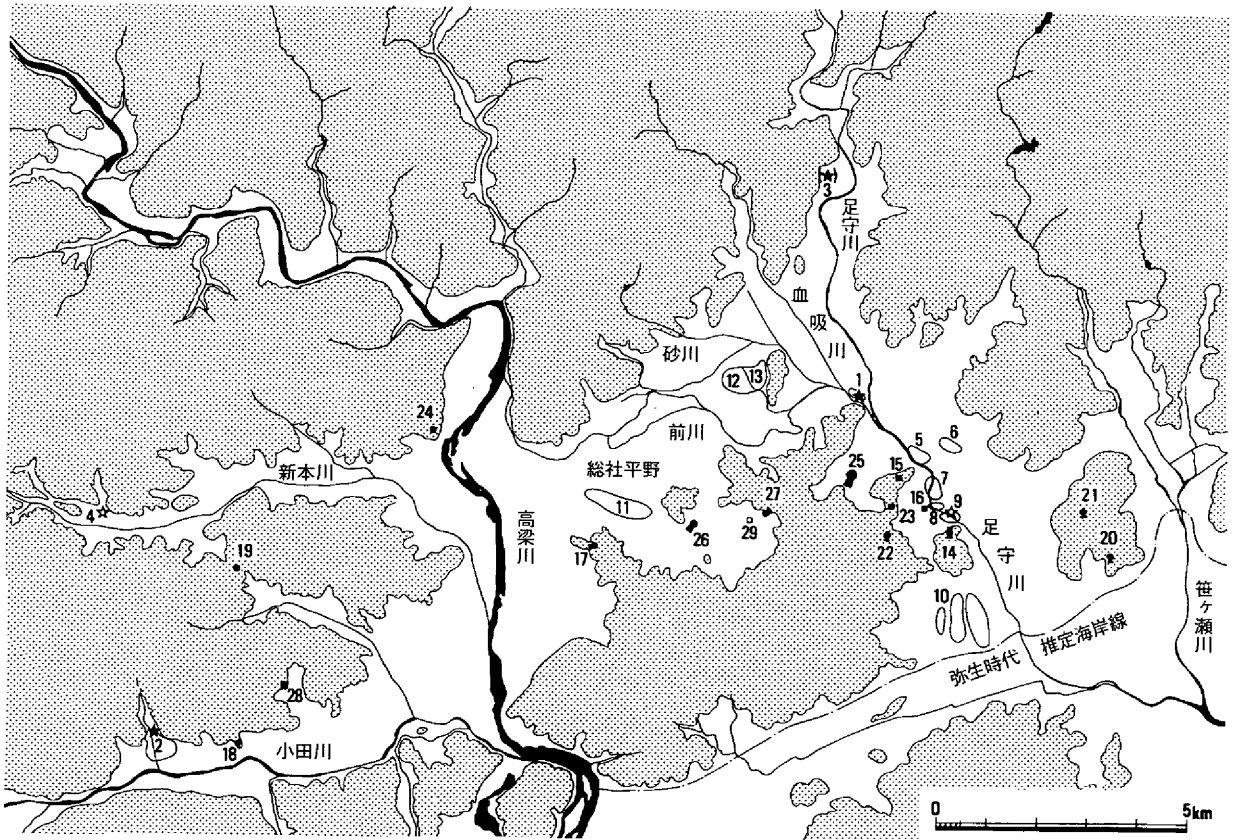
名称	出土地	型式	総高 (cm)	身		鈕					鑿			
				区画	割付線	下辺横帯	外縁第1	外縁第2	稜梁部	内縁	飾り耳	飾り耳	耳脚	
明石銅鑿	京都府与謝郡加悦町明石和田	扁平鈕2式	46.4	1区	無	鋸齒文	鋸齒文	二頭渦文+連続渦文	綾杉文	二頭渦文+鋸齒文	無	無	B字形1対	3対
中野1号銅鑿	鳥取県鳥取郡石見町中野飯屋	突線鈕1式	46.0	1区	有	鋸齒文	鋸齒文	鋸齒文	綾杉文	重弧文	B字形3個	B字形3対	B字形3対	3対
大岩山II-10号銅鑿	滋賀県野洲郡野洲町小篠原大岩山	突線鈕2式	53.4	1区	有	連続渦文	鋸齒文	連続渦文	綾杉文	連続渦文	二頭渦文3個	B字形3対	B字形3対	1対
高塚銅鑿	岡山県岡山市高塚フロヤ	突線鈕2式	58.0	3区	有	鋸齒文	鋸齒文	鋸齒文	綾杉文	鋸齒文	二頭渦文3個	B字形3対	B字形3対	無
田村谷銅鑿	徳島県阿南市桑野町山口田村谷	突線鈕2式	62.0	6区	有	連続渦文	鋸齒文	連続渦文	綾杉文	重弧文	無	無	無	1対
妹銅鑿	岡山県吉備郡真備町妹池ノ上	突線鈕2式	48.3	6区	有	鋸齒文(+連続渦文)	連続渦文	連続渦文+斜線文	綾杉文	綾杉文	B字形3個	B字形3対	B字形3対	3対

※この6例のほかには出土地不明辰馬410号銅鑿、出土地不明個人藏銅鑿の2例が知られている(註5)。

古墳が築かれている。また、総社平野の北東端部にあたる足守川上流域からは癖邪視文を描いた福田型銅鐸である上足守銅鐸が出土している。

このように、高塚銅鐸は総社平野から足守川流域に至る中枢地域の中央から出土し、この中枢地域の西端と北端からも銅鐸が出土していることとなる。春成氏は、核となる拠点的な大集落と周辺の小集落との有機的結合体である農業共同体に1～2個の銅鐸が保有されていたとし、「吉備地方は1個あるいはせいぜい2～3個のまとまりをもち、銅鐸保有の単位となっていたかのようにもみえる」とする。さらに、妹銅鐸・上足守銅鐸・和気銅鐸・安仁神社銅鐸・兼基銅鐸を吉備中心部への四方の入り口に埋納されたものとみる<sup>(22)</sup>。高塚銅鐸は総社平野から足守川下流域の平野を基盤とする農業共同体に属するものとみられることから、妹銅鐸や上足守銅鐸も吉備中枢部<sup>(23)</sup>全域ではなく、高塚銅鐸と同じ共同体に属するものと考えられる。

さらに、この総社平野から足守川流域に至る中枢地域では弥生時代後期以降に青銅器の出土が目立って多くなっている。高塚遺跡の銅鐸や貨泉の出土を初めとして、加茂政所遺跡では、弥・後・I～



- |                     |                         |              |            |
|---------------------|-------------------------|--------------|------------|
| 1 高塚銅鐸出土地<br>(高塚遺跡) | 7 足守川加茂A遺跡              | 14 楯築弥生墳丘墓   | 22 矢部大塚古墳  |
| 2 妹銅鐸出土地<br>(蓮池尻遺跡) | 8 足守川加茂B遺跡              | 15 雲山鳥打墳丘墓群  | 23 郷境墳墓群   |
| 3 上足守銅鐸出土地(伝)       | 9 足守川矢部南向遺跡<br>(銅鐸形銅製品) | 16 鯉喰神社墳丘墓   | 24 秦上沼古墳   |
| 4 横寺遺跡(銅鐸形銅製品)      | 10 上東遺跡                 | 17 宮山墳丘墓群    | 25 造山古墳    |
| 5 津寺遺跡              | 11 真壁遺跡                 | 18 黒宮大塚墳丘墓   | 26 作山古墳    |
| 6 加茂政所遺跡            | 12 南溝手遺跡                | 19 立坂弥生墳丘墓   | 27 こうもり塚古墳 |
|                     | 13 窪木遺跡                 | 20 矢藤治山弥生墳丘墓 | 28 箭田大塚古墳  |
|                     |                         | 21 中山茶白山古墳   | 29 備中国分僧寺  |

第1497図 高塚銅鐸・妹銅鐸出土地周辺遺跡分布図(1/150,000)

Ⅱ期の竪穴住居44から円環銅釧が、弥・後・Ⅳ期の土壙310からは有鉤銅釧が出土し、また、竪穴住居や土壙などから5点の銅鏃もみついている。津寺遺跡でも弥生時代後期の遺構から銅鏃が出土している。足守川加茂B遺跡<sup>(13)</sup>では、弥生時代後期後半の土壙84から櫛歯文鏡が出土し、古墳時代初頭の竪穴住居89からは蕨手状渦文鏡が、未調整の銅鏃も1点だが、弥・後・Ⅱ期前後の貝塚1に伴っていた。足守川加茂B遺跡に隣接する足守川加茂A遺跡<sup>(13)</sup>でも弥生時代後期終末の竪穴住居から銅鏃が1点出土している。足守川矢部南向遺跡では、弥・後・Ⅳ期（オノ町Ⅰ期併行）の竪穴住居48から小銅鐸が1点出土していて、高塚銅鐸の出土した高塚遺跡と近接していることから注目される。また、弥生時代後期前半と同後半の2軒の竪穴住居から銅鏃が1点ずつみつかった。上東遺跡からも貨泉が1枚出土<sup>(24)</sup>し、やはり高塚遺跡との関連で注意される。

足守川矢部南向遺跡から出土した小銅鐸について、江見正己氏は、それが銅鐸を忠実に模倣したもののみなし、型持孔の位置から外縁付鈕式銅鐸を実際に「見て」作ったものであるとした。そして、小銅鐸が作られた弥生時代後期後半まで人々の目に触れる形で伝世されていたとした<sup>(25)</sup>。江見氏は名指ししていないが、確かに上足守銅鐸は外縁付鈕式銅鐸である。しかしその後、足守川矢部南向遺跡に近接した高塚遺跡から高塚銅鐸が出土するに及んで、なぜ突線鈕式銅鐸を模倣しなかったのかという疑問が生じることとなる。江見氏が模倣品の根拠としたのは、身の型持孔の位置と舞孔内面の型持孔が1山であったことのみである。舞孔の型持孔が1山であるのは菱環鈕式と外縁付鈕1式銅鐸にみ<sup>(6)</sup>られ、身の型持孔の位置についての計測値は菱環鈕式と外縁付鈕式銅鐸の両者の分布範囲にあり、外縁付鈕式銅鐸と断定することはできない。榎本義讓氏は小銅鐸の鐸身下部が整形段階で削り取られる可能性を指摘し、総高は小銅鐸を分類する要素とはなりえないとしている<sup>(26)</sup>。また、松井一明氏は矢部南向小銅鐸を銅鐸からの脱却を図ることのできた小銅鐸として3類に分類し、銅鐸にきわめて類似した西日本型2類小銅鐸には含めていない<sup>(27)</sup>。このようなことから、矢部南向小銅鐸を外縁付鈕式銅鐸の模倣品とみることは困難と考える。

近年、総社平野の北西端部、高梁川の西岸に位置する新本川流域の横寺遺跡からも小銅鐸が出土した。やはり弥生時代後期の竪穴住居の床面上にあり、鐸身は無文で、型持孔もなかった<sup>(28)</sup>。矢部南向遺跡出土の小銅鐸とはやや形態を異にしているが、ともに竪穴住居跡から出土したことは注目される。また、新本川流域が銅鐸の空白地帯であったことも留意すべきであろう。

古墳時代初頭の遺構から出土したものではあるが、足守川流域から出土した青銅器として留意されるものに舶載品の後漢鏡がある。郷境墳墓群4号墓<sup>(29)</sup>には内行花文鏡片が副葬されていた。この副葬鏡は2個の穿孔があり、懸垂鏡片と考えられている。川西宏幸氏は銅鐸と古墳から出土した漢中期の伝世鏡の分布状況を検討し、その組み合わせに、外縁付鈕式銅鐸と方格規矩鏡（A類）・扁平鈕式銅鐸と内行花文鏡（B類）・突線鈕式銅鐸と内行花文鏡（C類）という規則性がみられることを指摘した。そして、鏡の入手によって銅鐸の埋納が促されたとし、弥生時代中期末には鏡の地域と突線鈕2式以後の銅鐸をもつ銅鐸の地域が形成されるとした<sup>(30)</sup>。郷境4号墓の鏡は破片であり、同一には論じられないが、足守川流域では漢中期の鏡を入手する機会があったことは確かであろう。上足守銅鐸の外縁付鈕式銅鐸と高塚銅鐸の突線鈕式銅鐸、そして内行花文鏡の組み合わせは川西論文には登場しなかった組み合わせであり、上足守銅鐸の埋納時期から今後問題になるとみられる。また、笹ヶ瀬川流域平野か足守川流域平野か、どちらを基盤とするか判断が難しいが、中山茶臼山古墳の南南東90mの丘陵頂部に築かれている矢藤治山弥生墳丘墓<sup>(31)</sup>からは舶載の方格規矩鏡が出土している<sup>(32)</sup>。なお、総社平

野の北西端に位置する秦上沼古墳<sup>(33)</sup>からは京都府椿井大塚山古墳から出土した鏡と同範関係にある三角縁天王日月四神四獣鏡が出土している。

### 高塚銅鐸の鑄造

高塚遺跡からは、25枚もの貨泉が重なった状態で、袋状土壙の埋土上方から土器片や炭・焼土片とともに出土した。この出土状態から考えて、貨泉は埋納されたものとはみられず、投棄ないしは遺棄された可能性が高い。弥生時代の遺構に伴っていたとみられる貨泉は、これまでに全国で20数点が出土しているが、そのほとんどは単独の出土にすぎず、1遺跡でみても大阪府亀井遺跡の4枚を最多とする<sup>(34)</sup>。このことからすれば25枚という数は異常といえる。しかし、それが投棄された状態で出土したということは、宝物として蓄えられたものではない以上、数についての特別な意識はなかったのではないかと思われる。むしろ、数についての意識の低さは、より膨大な量を保持していたことによるものではないかと想像をたくましくする。

高塚遺跡から出土した貨泉は、その出土状態から判断して、青銅器の原料として使用されたものとみることももっとも自然な解釈と考える。そして、貨泉が出土した袋状土壙に近接して高塚銅鐸が出土したことは、それが高塚銅鐸の原料であったのではないかと思わせる。残念ながら、高塚遺跡の発掘調査地区からは青銅器の鑄造を証明する直接の資料は検出されなかったが、1点だけこのことに関係するとみられる資料が出土している。それが高塚角田銅鐸片である。この銅鐸片は、前述したように、長さ39mm、幅29mmの方形で、平らに加工されていて、わずかな捻れが認められた。水野正好氏は、このような銅鐸の破砕片について、形を整えて新しい青銅器を鑄造するための素材としたと考えている<sup>(35)</sup>。春成氏は、このような銅鐸片について、銅鐸祭祀の終焉時に積極的に破砕されて他の器物に改鑄されていった可能性を考えている<sup>(22)</sup>。銅鐸の破砕片で銅鐸を鑄造することがあったかどうかは即断できないが、高塚遺跡において青銅器の鑄造が行われた可能性は高い。青銅器の鑄造には高度な技術が必要であったために、専門的な工人集団が高塚遺跡に在住していたことが考えられる。ここでは、高塚銅鐸は高塚遺跡で鑄造されたものと考えたい。高塚銅鐸は「見る銅鐸」のわりには表面の研磨などはみられず、鑄造後の調整は粗雑である。高塚銅鐸は農耕祭祀に使用されることよりも埋納行為のために用意された可能性はないのであろうか。そのように考えると、まず埋納場所が選定され、その地に工人集団が配置されたということが想定される。

春成氏は、田中琢氏が指摘した2個一括出土例についての2個セット使用の可能性にふれ、滋賀県大岩山から出土した銅鐸群の中に同大、ほぼ同型式の2個セットが容易に摘出できるとした。さらに、「一遺跡で対をなさないものは、実は他の遺跡のものと本来は一对をつくっていたのではないかとの疑いも生じてくる。」と述べ、同型式同大の2鐸が比較的近接して出土した例を指摘している。この「常時2個セット使用」<sup>(22)</sup>説によってすぐに連想されるのが高塚銅鐸と妹銅鐸の組み合わせである。この2個の銅鐸はいずれも迷路派流水文銅鐸に属し、しかもその最後のものである。高塚銅鐸が高塚遺跡で鑄造されたとしたら、同一の工人集団によって近接した時期に鑄造されたと思われる妹銅鐸もこの吉備地域で誕生した可能性はきわめて高い。この2個の銅鐸は総社平野から足守川流域を基盤とする農業共同体に属しているが、妹銅鐸は総社平野の西端に埋納され、高塚銅鐸は足守川下流域平野の北端に埋納されている。このように考えるならば、銅鐸は「邪霊の侵入路と推断した入り口付近で銅鐸祭祀を行った後埋納された<sup>(22)</sup>」という考えに合うように思われる。しかし、総社平野から足守川流域にかけての地域を一つの世界とすると、上足守銅鐸がむしろ北方の入り口に対応するものと考えられ

る。したがって、前述の説を貫徹するならば、高塚銅鐸はその世界のさらに中心を占める足守川下流域を二重に防護するものとみなされる。これに対して、高塚遺跡は総社平野と足守川下流域の境界に位置していることから、その世界の中心と捉えることも可能である。

佐原氏はかつて、迷路派流水文銅鐸は瀬戸内海沿岸での製品としていたが、最近では、高塚銅鐸が近畿式の特色を備えていることから畿内地方で作られたものと考えを変えている<sup>(5)</sup>。高塚銅鐸を鑄造した工人集団が畿内地方から来たものとして、彼等の地位は、春成氏によれば、「銅鐸の生産と配布を掌握する有力集団の首長たちによって収奪されつつ」あり、突線鈕式銅鐸製作以前の「弥生Ⅲ期、紀元前一世紀の時期に、」社会内で早くも低下し、「社会からの疎外が進んでいた」という。したがって、彼等工人集団は畿内地方の首長連合から派遣されたものと考えらるべきであろう。このことに関して、これまた春成氏の興味深い説がある。春成氏は銅鐸の配布に二様があり、突線鈕2式以降の銅鐸の配布がそれ以前とは明らかに異なり、農耕生産力の低い地域に片寄っていることを指摘する。そして、従来の贈与という形が成立しにくい地方に埋納されている銅鐸は、「鑄造集団である畿内の集団が関与して行った祭祀の遺産」であるとし、紀南地方の例については畿内の南の境界として畿内中枢部の諸集団によって強く意識されていたとする。ただ、「畿内集団が祭祀の主宰者であったとしても、これらの在地の集団とまったく無関係に祭祀が催されたとは考えにくい」とも述べている<sup>(22)</sup>。総社平野から足守川下流域にかけての地域は吉備の中枢部の一つであり、きわめて高い農耕生産力を誇っていたであろう。それゆえに、春成氏が、「聞く銅鐸」の配布にあたって原則となった、配布集団を上位とし被配布集団を下位とする贈答形式は成立しなかったのではなかろうか。確かに上足守銅鐸の存在から銅鐸祭祀圏に属してはいたが、上足守銅鐸は九州産の銅鐸である<sup>(37)</sup>。現時点では、総社平野から足守川下流域における地域に属する畿内産の銅鐸は高塚銅鐸と妹銅鐸であり、高塚銅鐸がこの吉備中枢部の一角で鑄造されたとする、そこには畿内の有力首長連合と吉備の有力首長連合の合意があったとみなしなければならない。高塚銅鐸が平野部の集落内に埋納されるというあまり類例のない状況、それも、総社平野から足守川流域の吉備中枢部のまさに中心点に埋納されるということの意味がそこに見出せるのではなかろうか。そして、畿内の首長連合にとってはこの地が西の境界として意識されていた可能性が考えられる。

このような銅鐸工人集団の派遣については、もう一つの吉備中枢部の一角である旭川下流域でも想定することができる。江戸時代に洪水調節のために旭川の放水路として開削された、百間川の改修工事に伴う発掘調査では多くの遺跡が検出されているが、その中でも百間川原尾島遺跡や百間川兼基・今谷遺跡は大規模な遺跡で、この地域における拠点的な集落と考えられる。百間川周辺では4体もの銅鐸が出土し、その型式は扁平鈕1式と同2式で、高塚銅鐸よりは古い段階のものである。百間川兼基・今谷遺跡では弥生時代中期中葉の掘立柱建物群が検出され、周辺の土壌には炭や焼土塊が包含され、ガラス溶滓を共伴するものがみられた<sup>(38)</sup>。このような検出状況からこの建物群は工房跡と推定され、この集落を核とする農業共同体はそこに従事する工人達を支えるだけの力を保持していたと考えられる。また、百間川原尾島遺跡では弥生時代後期の遺構から多くの青銅製品を出土している。中須賀調査区の土壙84からは前漢鏡の昭明鏡を模倣したとみられる銅鏡が出土し、かなりの数の竪穴住居や土壙には銅鏃が伴い、なかでも中須賀調査区の竪穴住居16からは3個の銅鏃が見つかった。また、注目される事実として、弥生時代後期中葉の中須賀調査区土壙40からは6区袈裟襷文銅鐸を模したとみられる銅鐸形土製品の破片が出土している<sup>(39)</sup>。このような状況は足守川下流域の状況とよく類似し、時

期的には前後するものの、銅鐸工人集団が在住していた可能性は無視できない。

それでは、高塚銅鐸を铸造した工人集団はその後どうなったのであろうか。一つの解釈として、銅鐸の铸造が終わった後に畿内地方へ帰還したとみる。その際に、原材料として持参したものの、余分となった貨泉や銅鐸片を遺棄していったと考えるのである。高塚銅鐸あるいは、妹銅鐸は迷路派流水文最後の銅鐸であり、進藤氏は迷路派流水文の工人集団は近畿式銅鐸の成立に関与したとし、それをもって流水文銅鐸は崩壊したと考えている<sup>(7)</sup>。しかし、難波氏の指摘によれば高塚銅鐸は身の流水文を除けば近畿式そのものであり、しかも鈕頂の二頭渦文が一回り大きくなっていて、近畿式の成立期よりいくらか時間の経過を経ているのではないかと思わせる部分があることから、近畿式に先立つものとは考えにくい。

もう一つの考えは、その後この地にとどまったとする解釈である。高塚銅鐸・妹銅鐸の铸造をもって流水文銅鐸は消滅する。吉備の地ではこの後には銅鐸を使用することはなくなり、廃棄されたのではなかろうか。高塚角田銅鐸片は銅鐸ではなく、他の青銅器に転用するための材料であったと考えた方がより理解しやすい。足守川流域では弥生時代後期の遺構から多くの青銅器が出土している。ちなみに、高塚遺跡から出土した高塚銅鐸・高塚角田銅鐸片、それに弥生時代後期後葉の方形土壙156の上面から出土した棒状銅製品(M158)の鉛同位体比はきわめて類似した値を示し、また、加茂政所遺跡の有鉤銅釧や足守川矢部南向遺跡の小銅鐸、それに足守川加茂B遺跡の櫛歯文鏡や銅鏃もすべて近似した値をもち、馬淵久夫氏・平尾良光氏・榎本淳子氏によれば近畿式・三遠式銅鐸の数値と誤差の範囲内で一致するという<sup>(40)</sup>。近畿式・三遠式銅鐸の鉛同位体比はきわめて限られた範囲にまとまるため同じ合金を使用して製作されたと考えられている<sup>(41)</sup>もので、高塚銅鐸を铸造した工人集団もその一部を保持していたのではないかとみられる。あるいはそれは数千枚にもよる貨泉の集積であったかもしれない。高塚遺跡から出土した12枚の貨泉の鉛同位体比の平均値は高塚銅鐸のそれとよく類似している。高塚銅鐸の铸造後、工人集団はなお吉備の地であって、これらの青銅器を製作させられたのではないだろうか。彼等は特殊技能の保持者であり、吉備の首長達にとっても従属させたいという要望は高かったに違いない。弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけて吉備と大和はきわめて密接な関係をもつようになる。そのはしりとして銅鐸工人集団の移譲ということが行われたとは考えられないであろうか。その見返りかは判断しかねるが、弥生時代終末に吉備の特殊壺形・器台型土器の製作工人が畿内に派遣されることはなかったであろうか。

最近、吉備地域における青銅器の製作に関して新しい知見が加わった。岡山市田益田中遺跡から細形銅剣の鑄型を転用したのではないかとみられる砥石が出土した。ただ、細形銅剣の鑄型とは断定できない要素もあり、また、砥石として転用されたものであり、年代も限定できていない<sup>(42)</sup>。今後の類例資料の増加を待つべきであろう。

#### おわりに

高塚遺跡から出土した銅鐸は3区流水文というこれまで知られていなかった文様構成をもち、また、これまで縁辺部で2体の銅鐸しか出土していなかった吉備の中枢部の中央から出土しただけに新たな問題を多く提起することになった。銅鐸埋納壙の年代をはじめ、貨泉や高塚角田銅鐸片との関係など、具体的な資料が乏しく、推論を重ねる結果に終わり、いたずらに問題を上げたにすぎなかったのではないかと危惧している。また、おもに春成氏の説を無批判に引用し、その適応の可能性に終始したきらいがなくもない。曲解を恐れるとともに、今後、より多くの論説に接し、さらに究明に努めたい。

残された問題は多く、多岐にわたるが、その一端に触れてひとまず終わりとしたい。総社平野から足守川流域にかけての吉備中枢部での畿内産銅鐸の流入がもっとも遅れ、その両側に位置する井原市と吉井川下流域ではそれ以前に銅鐸が流入している。時代を隔てるが、白鳳時代に、備中中枢部では華麗な備中式軒丸瓦が盛行するが、その両側に位置する笠岡市と吉井川下流域では山田寺式・川原寺式という畿内系の軒丸瓦が用いられる。歴史は繰り返されるのであろうか。

なお、表題に掲げながら、銅鐸埋納墳についてはほとんど触れることができなかった。後考に委ねざるをえないが、現段階での認識を記しておきたい。遺構の説明文でも述べたように、この土壌はその形状から銅鐸を埋納するために掘削されたものと考えている。埋納墳の検出状況だけでは銅鐸の土中保管説を証明するような事実はえられなかった。少なくとも、同じ地点に繰り返し埋納したということは認められない。銅鐸の埋納時期であるが、出土土器は小片であり、時期を確定するには至らない。高塚遺跡は弥・後・Ⅱの時期に一度集落が途絶えるようであり、その時期に埋納された可能性もあるが、その場合にはもう少し弥・後・Ⅰの土器片が出土してもいいように思われる。上述したように、銅鐸を鑄造した工人集団が高塚遺跡に在住していて、鑄造後あまり時を経ずに埋納されたとしたら、埋納時には高塚遺跡には集落が存在していたものとみられ、高塚銅鐸は集落の中央付近に埋納されたこととなる。吉備地域では雄町銅鐸と妹銅鐸がともに集落内に埋納されていたとみられ、高塚銅鐸も含め集落内での埋納例が多い。今後、究明すべき問題である。なお、発掘調査中の遺跡現地にて、佐原真氏からは有益な教示と指導をいただいた。末筆ながら記して感謝を申し上げます。 (岡本)

#### 註

- (1) 中野倫太郎「銅鐸」『吉備の考古学的研究』上 山陽新聞社 1992年
- (2) 喜谷美宣・宮本郁雄・森田稔『特別展 銅鐸の世界』神戸市スポーツ教育公社 1993年、佐原真・春成秀爾『銅鐸の美』毎日新聞社 1995年
- (3) 銅鐸の各部の名称については、佐原真『祭りのカネ銅鐸』（講談社 1996年）と難波洋三「銅鐸」（『弥生文化の研究』6 雄山閣出版 1986年）を参照
- (4) 佐原真「銅鐸の鑄造」『世界考古学大系』2 平凡社 1960年
- (5) 佐原真『祭りのカネ銅鐸』歴史発掘8 講談社 1996年
- (6) 難波洋三「銅鐸」『弥生文化の研究』6 雄山閣出版 1986年
- (7) 進藤武「近畿式銅鐸と三遠式銅鐸」『古代文化』第47巻第10号 古代学協会 1995年
- (8) 佐原真・春成秀爾『銅鐸の美』毎日新聞社 1995年
- (9) この海底出土銅鐸片はここでは吉備地域出土銅鐸としては扱わない。
- (10) 註(7)文献引用による。原典は未読。
- (11) 正岡睦夫・松本和男・岡田博・浅倉秀昭・二宮治夫「津寺遺跡」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査9』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告90 岡山県教育委員会 1994年、中野雅美・大橋雅也・澤山孝之・井上弘ほか「津寺遺跡2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98 岡山県教育委員会 1995年、亀山行雄・井上弘・大橋雅也・金田善敬ほか「津寺遺跡3」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104 岡山県教育委員会 1996年、亀山行雄・大橋雅也・浅倉秀昭・井上弘ほか「津寺遺跡4」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116 岡山県教育委員会 1997年、高畑知功・中野雅美・福田正継・清水竜太ほか「津寺遺跡5」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127 岡山県教育委員会 1998年
- (12) 松本和男・平井泰男・弘田和司・柴田英樹ほか「加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138 岡山県教育委員会 1999年
- (13) 島崎東・江見正己・光永真一・山磨康平ほか「足守川河川改修工事に伴う発掘調査」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94 岡山県教育委員会 1995年
- (14) 伊藤晃・柳瀬昭彦・池畑耕一・藤田憲司ほか「山陽新幹線建設に伴う調査Ⅱ」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告2 岡山県教育委員会 1974年、柳瀬昭彦・江見正己・中野雅美「川入・上東」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16 岡山県教育委員会 1977年
- (15) 近藤義郎『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会 1992年



### 第3章 高塚遺跡

- (16) 村上幸雄・高田明人・谷山雅彦「真壁遺跡」『総社市史』考古資料編 総社市 1987年
- (17) 平井泰男・久保恵里子・光永真一・岡田博ほか「南溝手遺跡1」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告100 岡山県教育委員会 1995年、平井泰男・久保恵里子・大橋雅也・柴田英樹ほか「南溝手遺跡2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告107 岡山県教育委員会 1996年
- (18) 岡田博・光永真一・平井泰男・岡本寛久ほか「窪木遺跡1」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告120 岡山県教育委員会 1997年、平井泰男・久保恵里子・岡田博・葛原克人ほか「窪木遺跡2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告124 岡山県教育委員会 1998年
- (19) 高橋護・鎌木義昌・近藤義郎「宮山墳墓群」『総社市史』考古資料編 総社市 1987年
- (20) 間壁忠彦・間壁霞子・藤田憲司「岡山県真備町黒宮大塚古墳」『倉敷考古館研究集報』第13号 倉敷考古館 1977年
- (21) 近藤義郎「新本立坂」総社市文化振興財団 1996年
- (22) 春成秀爾「銅鐸の時代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第1集 国立歴史民俗博物館 1982年
- (23) 高橋護「弥生後期の地域性」『吉備の考古学的研究』上 山陽新聞社 1992年
- (24) 下澤公明「県道矢掛寄島線改良事業に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財報告』28 岡山県教育委員会 1998年
- (25) 江見正己「岡山県倉敷市足守川矢部南向遺跡出土の小銅鐸について」『考古学雑誌』第73巻第4号 日本考古学会 1988年
- (26) 榎本義謙「草山遺跡出土の小銅鐸」『考古学雑誌』第73巻第4号 日本考古学会 1988年
- (27) 松井一明「静岡県袋井市愛野向山Ⅱ遺跡出土の小銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第2号 日本考古学会 1989年
- (28) 武田恭彰「新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査1」『総社市埋蔵文化財調査年報』4 総社市教育委員会 1994年
- (29) 松本和男・亀山行雄「郷境墳墓群」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 岡山県教育委員会 1994年
- (30) 川西宏幸「銅鐸の埋蔵と鏡の伝世」『考古学雑誌』第61巻第2号 日本考古学会 1975年
- (31) 近藤義郎氏はこの墳丘墓と宮山墳丘墓を古墳と考えている。近藤義郎「大和の最古型式前方後円墳と宮山型特殊器台」『みずほ』第16号 大和弥生文化の会 1995年
- (32) 近藤義郎「矢藤治山弥生墳丘墓」矢藤治山弥生墳丘墓発掘調査団 1995年
- (33) 中田啓司「秦上沼古墳」『総社市史』考古資料編 総社市 1987年
- (34) 本書第3章第4節「3 高塚遺跡出土の貨泉について」を参照
- (35) 水野正好「もう一つの銅鐸観」『日本歴史』第367号 吉川弘文館 1978年
- (36) 春成秀爾「銅鐸の製作工人」『考古学研究』第39巻第2号 考古学研究会 1992年
- (37) 春成秀爾「九州の銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第2号 日本考古学会 1989年
- (38) 高畑知功・正岡睦夫・下澤公明・浅倉秀昭・内藤善史ほか「百間川兼基遺跡1 百間川今谷遺跡1」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51 岡山県教育委員会 1982年
- (39) 正岡睦夫・光永真一・平井泰男・鳥崎東・高畑知功・岡田博ほか「百間川原尾鳥遺跡2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告56 岡山県教育委員会 1984年
- (40) 馬淵久夫・平尾良光・榎本淳子「足守川遺跡群出土青銅器の鉛同位体比について」『足守川河川改修工事に伴う発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94 岡山県教育委員会 1995年、平尾良光・榎本淳子「加茂政所遺跡出土銅鉤の鉛同位体比分析」『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138 岡山県教育委員会 1999年、高塚遺跡出土資料については本書付載参照。
- (41) 馬淵久夫「鉛同位体比による青銅器原料産地の推定」『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』クバプロ 1989年
- (42) 平井勝「銅剣鋳型様石製品」『田益田中(国立病院)遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告141 岡山県教育委員会 1999年
- (43) 高橋護「岡山市雄町遺跡出土の銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第4号 日本考古学会 1990年、高畑知功「蓮池尻遺跡」『蓮池尻遺跡 新庄尾上遺跡ほか 美野条理遺跡 二反田B遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告62 岡山県教育委員会 1986年

※迷路派流水文銅鐸の検討にあたっては下記の文献を併せて参照した。

三木文雄『流水文銅鐸の研究』吉川弘文館 1974年、野口義磨・佐々木利和『東京国立博物館図版目録』弥生遺物篇(金属器) 第一法規出版 1981年、野洲町立歴史民俗博物館編『大岩山出土銅鐸図録』野洲町立歴史民俗博物館(銅鐸博物館) 1988年

### 3 高塚遺跡出土の貨泉について

高塚遺跡の発掘調査による重要な成果の一つとして、中国「新」の時代に王莽によって新たに発行された貨幣である貨泉が多く出土したことを挙げるができる。

貨泉は、我が国では第9表<sup>(1)</sup>のように、弥生時代と考えられる遺構や包含層からの出土例が現在までに二十数枚報告されているが、高塚遺跡での出土のおもな意義については、(1) これまで報告されている総数をも上回る25枚がまとまって出土したこと、(2) 「袋状土壙」とよぶ明確な遺構から出土したこと、(3) 確実に共伴する弥生土器が一定量存在することなどを指摘することができよう。

貨泉は、日本の考古学においては、弥生時代の歴年代を推定するための重要な資料とされてきたところであり、1980年代前半には、近畿地方の弥生時代後期の始まりがA.D. 1世紀代にあることを主張する際の主要な根拠として用いられたことはよく知られている<sup>(2)</sup>。

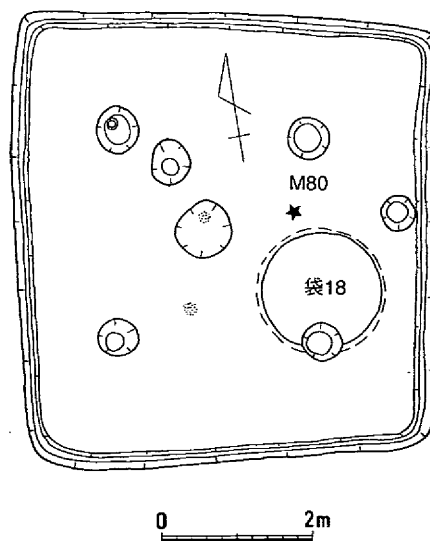
ここでは本文中で詳しくふれることのできなかつた出土状況や貨泉そのものの特徴、さらには共伴土器について報告するとともに、貨泉の用途や岡山県南部地域における弥生時代後期初頭の歴年代についても若干言及し、まとめとしたい。

#### 出土状況

貨泉は、発掘調査対象地の中央部に設定したフロヤ調査区の西半部で検出できた古墳時代前期の竪穴住居35の床面近くから1枚と、弥生時代後期前葉の袋状土壙18の埋土中から24枚が出土した。このうち竪穴住居35から出土した1枚(M80)(90年2月21日出土。数日後貨泉と判明)については、古墳時代前期のものではなく、第1498図に示したように、竪穴住居が袋状土壙18の上部を壊してつくられていること、および出土位置から本来は袋状土壙18に伴っていたものと考えておきたい。

袋状土壙18からは、最初90年2月28日に平面形を確認するため検出面を清掃していたところM46・47の2枚が文字面が合わさった状況で、またそれらより東へ約5cmの地点からほぼ同じ高さでM48が出土した。このためさらに周辺を精査したところ、3月2日にはM48の北隣りからM49が、またM48の南約7cmの地点からほぼ同じ高さでM50が、いずれも文字面を上に向けた状況で出土した。さらに翌3月3日には、M49の下からM51が文字面を上に向けた状況で出土した。この段階までに出土したM46～51の6枚の貨泉は、約7×10cmの狭い範囲内において約3cm以内のレベル差で出土している点を特徴として指摘できる。(第172図)

M46～51の出土状況について図面作成や写真撮影を終了した後、袋状土壙南側半分の掘り下げを開始したところ、ほぼ断面に当たる位置から、18枚の貨泉(M52～69)がまとまって出土した(3月6日)。これらは、前述したM46～51とは北東に約6cm離れており、また3～5cm深い位置から出土している。出土状況については第172図や写真を参照されたいが、約5×10cmの範囲内から重なり合いながら連



第1498図 袋状土壙18と竪穴住居35 (1/100)

なっている状況であり、具体的な証拠はつかめていないが、布でくるまれるか何らかの容器（袋や箱）に収められていたのではなかろうか。また孔に紐が通されていたかどうかについては、その可能性は低いと考<sup>(3)</sup>えている。

文字面の向きについては、これらの多くは錆び付いた状態であったが、取り上げ後の錆落としの段階で確認できたなかでは、M52・56・57・59・61・63・65・68が上向き、M53・54・55・58・60・62・64・66・67が下向きであった。

袋状土壙南側半掘完了後の土層断面観察によれば、M52～69の18枚は、検出面から約6～8cmの深さでレンズ状に堆積している炭・焼土層（第170図の2層）の上面に位置している。袋状土壙の埋土はこの2層を境に上層と下層とに分離でき、時間的な差異を想定することができる。すなわち、M52～69は、袋状土壙に土が底面から50cm前後堆積した後に埋められていると考えることができる。ただし、袋状土壙の埋土がこのように大きく上下二層に分離していることは、めずらしい事例ではなく（例えば袋状土壙78・80・82などを類例として挙げるができる）、また炭層を間層に挟むことも特筆すべき特徴とはいえないであろう。つまりM52～69については、布や何らかの容器に収められていたと推測できる点において、これまでの出土例にみられない特徴を指摘することができるが、それ以外には特別な意図をもって埋められたものとは考えにくい。このことは、後にもふれるように、土器の小片が各土層から出土していることや埋土の土層関係が一般的であることなどから、この袋状土壙そのものが特別な行為を行うとか、特別な意図の基に埋められたとは考えられないことから窺えよう。

一方、M46～51の6枚については、前述したように狭い範囲内からまとまって出土しているが、レベル的に僅かながらも違いがあるため、少なくともすべてがまとめて埋められたとは考えにくいものの、ほぼ同時に埋められたと考えてよいのではなかろうか。またM52～69と同じような理由から、特別な意図の基に埋められたとは考えにくい。

さらに、M46～51は1層上面から出土しており、M52～69との関係では、埋められる際に時間差があると想定できる。ただし、この時間差がどのくらいかについては不明である。

ところで、高塚遺跡では貨泉は何故袋状土壙から出土したのであろうか。袋状土壙については、断面の形状などから「貯蔵庫」と考える意見が多いが、何をどのように貯蔵したのかについては、実証されているとはいえない。しかしながら、たとえ袋状土壙が「貯蔵庫」であったとしても、袋状土壙の用途と貨泉の出土との間には、関連性はないものと考えている。すなわち、具体的な証拠があるわけではないが、袋状土壙＝「貯蔵庫」だから貨泉を「廃棄」したとは考えない。極端に言えば、竪穴住居跡のくぼみでも柱穴でも溝のなかでも、どこでもよかったのではなかろうか。そして出土状況からは、再び貨泉を取り出す意図はなかったと思われるため、貨泉は「廃棄」されたものと考えておきたい。

このように高塚遺跡では（1）袋状土壙の中に、単独とか少数ではなくまとまった枚数が、二回にわたって「廃棄」されていること、また（2）副葬品や祭祀品などのように、特別な取り扱いはなされていないということを出土状況についてのまとめとしておきたい。

#### 出土貨泉について

前述したように、古墳時代前期の竪穴住居35から出土した1枚も、本来袋状土壙18に廃棄されていたものと考えているので、25枚をまとめて考察の対象にしたい。

ここでは、以下に述べる4つの観点から分析を行う。

#### (1) 最大径<sup>(4)</sup>（第8表）

一部欠損のため不明確なものを除けば、21.6～23.8mmである。平均値は23.0mmであるが、23.8mmのM65と21.6mmのM49を除くと、22.5～23.4mmの範囲内に集中しているといえよう。『漢書』食貨志<sup>(5)</sup>によれば、王莽は天鳳元年（A.D.14年）に大錢、小錢を廃止して新たに貨布と貨泉を発行し、貨泉の大きさは径1寸と規定した。貨泉についての研究をまとめた高倉洋彰は、新代の度量衡について言及し、1寸は23.1mmと想定している<sup>(6)</sup>。また、王莽錢の尺度と重量について検討した塩屋勝利は、関野雄の研究を紹介しながら、天鳳元年段階の1寸は23.475mm前後ではないかと述べている<sup>(7)</sup>。このように、王莽によって規定された貨泉の大きさや重さを現在の度量衡に換算する値については、確定していないように思われるが、M49・65を除く多くは、王莽時代の規格に近い値を示しているものと考えておきたい。

## (2) 重さ（第8表）

一部欠損しているもの、および土や錆が付着しているために不正確なものを除けば、0.63～2.92gである。平均は1.86gで、前述した『漢書』食貨志で規定されている貨泉の重さである五銖=3.15～3.25g<sup>(8)</sup>に一致するものはなく、すべてそれよりも軽い。また、一部欠損や土や錆が付着しているもののうちM50・60・80については1.0g以下、M46・47・48・52・62については1.0～1.5g、M53は1.5～2.0gではないかと残存状況から推測できる。したがって、重さについては、1.0g以下が4/25で16%、1.1～1.5gが11/25で44%、1.6～2.0gが3/25で12%、2.1～2.5gが2/25で8%、2.6～3.0gが5/25で20%である。このことから、重さについては一定した傾向は認められず、かなりバラツキがあること、および王莽時代の規定の重さの半分以下のものが15/25で60%も含まれていることを、特徴として指摘しておきたい。

## (3) 郭について

(a) 周郭のうち裏面周郭（文字が鋳出されている面を表面とし、その反対面を裏面とする）については、すべてに存在しており、表面周郭については、M46・53以外にはその存在が確認できる。ただし、M46は無いように思われるが、土と錆のため不確実であり、M53は本来無かったのか後に削られたのかは不明である<sup>(9)</sup>。

(b) 表面孔郭は、不明なM50を除けば、有るものが11/24で46%、無いものが13/24で54%である（土や錆のため不明確なものについては第8表に？を付しているが、これらについても加えた数値である。裏面孔郭についても同じ）。裏面孔郭については、土や錆のため不明なM48・50を除いて、その存在がすべて確認できた<sup>(10)</sup>。

郭のうち表、裏面の周郭については、これまでの出土例から存在しているのが通常のようなものである（第9表）。一方、孔郭については、存在するものと存在しないものがあり、存在しないものについては、簡略化の結果で、新しい様相と考えられているようである<sup>(11)</sup>。高塚遺跡では、表面孔郭の無いものが半数以上出土している点を、特徴として指摘することができる。

## (4) 錢紋について<sup>(12)</sup>

確実に同じ書体（同じ范型）が無いことが指摘できる。以下、書体の特徴についていくつか記しておきたい。

「貨」の書体については、偏の上端部においてM52・54・55・56・61・64・69のように複雑なものとM46・47・50・51・53・57・60・62・63・67のように簡略化されたもの、M58・59・65・66・80のように中間的なものとに区別することができる。また傍の上部についてみると、M51・61が他と大き

第8表 高塚遺跡出土「貨泉」一覧表

掲載 番号	最大径 (mm)	最大孔 (mm)	最大厚 (mm)(土 、銅)	重量 (g)(欠損、 土、銅)	表面周部	表面孔部	裏面周部	裏面孔部	残存 状況	時期	備 考	取り上 げ番号
M46	22.1	6.9	2.1	(1.00)	あり	なし	あり	あり	欠損	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。一部欠損。肉眼で銭紋判断できる。裏面周部は歪周部より幅は狭い。	1
M47	—	—	(2.8)	(0.92)	なし?	なし?	あり	あり	欠損	弥・後・I	土、銅が少し付着。銭紋は肉眼では判断できないため、レントゲンフィルムから作図。2片を合成した図。	2
M48	(23.5)	(7.0)	(2.5)	(0.75)	あり	あり	?	?	欠損	弥・後・I	一部欠損。裏面には土と銅が付着しているため、郭は不明。銭紋は銅のため、不明瞭。	3
M49	21.6	7.0	(2.4)	0.63	あり?	なし?	あり	あり	不良	弥・後・I	土や銅が付着。銭紋は土と銅のため、肉眼では判断できない。レントゲンフィルムから作図。同様に范がずれたのか、あるいはバリエーションが残っているような印象を受ける部分がある。	4
M50	—	—	(1.9)	(0.57)	あり	?	あり	?	欠損	弥・後・I	土、銅がわずかに付着。銭紋は肉眼ではかすかに見える程度であるため、レントゲンフィルムで作図。3片あり、同一個体と考えているが、直接の接合関係にはない。	5
M51	23.2	7.0	2.0	1.07	あり	なし?	あり	あり	良	弥・後・I	銅がわずかに付着。銭紋は一部肉眼で見えるが、レントゲンフィルムで作図。	6
M52	22.8	8.0	2.0	(1.22)	あり	なし?	あり	あり	欠損	弥・後・I	一部欠損。裏面に土、銅多く付着。薄い印象。	7
M53	—	7.5	1.6	(1.10)	なし?	なし?	あり	あり	欠損	弥・後・I	裏面に土付着。一部欠損。銭紋は肉眼とレントゲンフィルムで作図。	8A
M54	23.1	6.3	2.0	2.69	あり	なし	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。	8B
M55	22.9	6.0	1.8	1.80	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。	8C
M56	23.1	6.5	1.7	2.68	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。孔にはバリ? 残存か。	8D
M57	23.2	6.0	2.0	2.52	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。孔にはバリ? 残存か。	8E
M58	23.0	7.0	(2.5)	(1.48)	あり	なし?	あり	あり	不良	弥・後・I	裏面に土、銅が少し付着。銭紋は肉眼では不鮮明なため、レントゲンフィルムを参考に作図。	9#
M59	23.3	6.5	2.0	2.90	あり	なし	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。孔にはバリ? 残存か。	9A
M60	—	6.5	1.8	(0.74)	あり?	なし?	あり?	あり	欠損	弥・後・I	一部欠損、銅少し付着。銭紋は肉眼では不鮮明なため、レントゲンフィルムを参考に作図。	10
M61	22.7	6.5	2.5	(1.40)	あり	?	あり	あり	良	弥・後・I	土、銅が少し付着。銭紋は肉眼では不鮮明なため、レントゲンフィルムで作図。	11
M62	22.8	6.2	1.8	(1.22)	あり	あり	あり	あり	欠損	弥・後・I	土、銅が少し付着。一部欠損。銭紋は肉眼で判断できる。孔にはバリ? 残存か。	12A
M63	22.9	7.2	1.9	1.82	あり	なし	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。	12B
M64	23.3	6.1	1.7	1.04	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できる。孔にはバリ? 残存か。	13
M65	23.8	7.0	2.0	2.06	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は一部不鮮明なため、レントゲンフィルムを参考に作図。	14A
M66	22.9	5.8	2.0	2.92	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。彫りが深い、最もリハリがある。銭紋は一部不鮮明なため、レントゲンフィルムを参考に作図。孔にはバリ? 残存か。范がずれた印象を受ける。	14B
M67	22.5	6.3	1.9	1.23	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で判断できるが、一部不鮮明。「泉」の一部は割れのため、ずれている。	14C
M68	23.4	6.5	(2.8)	(1.31)	あり?	なし?	あり	あり	不良	弥・後・I	裏面には土、銅多く付着。銭紋は肉眼では判断できないため、レントゲンフィルムから作図。	14D
M69	22.8	6.3	2	2.26	あり	あり	あり	あり	優	弥・後・I	土、銅ほとんどなし。残存状況良好。銭紋は肉眼で鮮明に判断できるが、シャープではない。孔にはバリ? 残存か。「泉」の文字に点があるのが特徴的。	17B
M80	—	—	2.2	(0.49)	あり	あり	あり	あり	欠損	弥・後・I?	土、銅ほとんどなし。銭紋は肉眼では不鮮明なため、レントゲンフィルムを参考に作図。一部欠損。破片も割れている。	15

く異なり、簡略化が窺え特徴的である。

「泉」の書体については、上半部が丸みを持つもの（M46・48・49・50・51・53・54・56・57・58・59・60・61・62・63・67・68）が17/23で74%、三角形状に尖るもの（M52・55・64・65・66・69）が6/23で26%であり、それぞれ最上端に突起を持つもの（M46・50・51・52・53・54・56・57・58・59・60・61・62・67・68）が15/23の65%と持たないもの（M48・49・55・63・64・65・66・69）が8/23の35%あり、突起をもつ割合は丸みを持つものが14/17で82%と高く、尖るものは1/6で17%と低い。

また「泉」のT字部分については、縦線がつながっているもの（M46・51・52・53・54・55・57・60・64・65・69）と切れているもの（M48・49・50・56・58・59・62・63・66）とに大きな違いを見出すことができる。

この他にも字の大きさやバランスの点で、幾つかの違いが認められる。全体的にみて簡略化の傾向を指摘し得るが、形式的なまとめや時期差を想定することはできなかった。

中国において貨泉は大量に鑄造されており、数多くの范型が存在していたのであり、高塚遺跡で見られるような銭紋の違いはその一部にすぎないのかもしれない。

以上、出土した貨泉について4つの観点から分析を行った<sup>(13)</sup>。

次に、これらの観点を組み合わせから考えてみたい。

第一に最大径と重さとの関係については、相関関係は認められない。たとえばM59・64は、最大径が共に23.3mmではあるが、重さは2.90gと1.04gで後者が前者の半分以下である。またM51・64より最大径の小さいM66・69の方が、2倍以上重い。ただしM49については最大径、重さとも最小であり、特異な存在と考えることができる。

第二に重さと表面孔郭の有無の関係についてはどうであろうか。表面孔郭のない13枚のうち、1g以下が2枚、1.1～1.5gが7枚、1.6～2.0gが2枚であり、2g以下と軽いものが全体の85%を占める。しかしながら、M54・59はそれぞれ2.69gと2.90gで重い。重さが軽いものには表面孔郭が無いものが多いという傾向は指摘できるが、例外も存在している。

第三に重さと銭紋の関係については、相関関係は考えられなかった。しいていえば、「貨」の字が特徴的なM51・61は、1.07gと1.40gで軽いことを指摘しておきたい。

#### 貨泉と共伴した弥生土器について

貨泉の出土した袋状土壙18からは、弥生土器がコンテナ2箱分出土している。これらは小片のものがほとんどであるが、実測図作成可能なものについてはほとんど作成し掲載している(第170・171図)。

土器は、南側半掘の際は正確な分層発掘ができなかったが、北側半分を掘り下げる際には、断面図に示した土層ごとに取り上げを行った。

貨泉は、第170図断面図の1層上面と2層中から出土していることは前述したとおりであるが、土器は、1層から666・672・673が、2層からは631・632・637・640～642・647・648・650・663～665・670・674・676・678・686・691～693が、また636・649・689・690は3層から出土しており、その他については確実ではないが、4～7層出土のものも含まれている。

出土層位について報告したが、資料数が少ないものの、層位によって明確な違いがあるとは考えたい。こうしたことから、図示できた土器すべてを対象として、これらの編年の位置づけについて考える。

本文中に記したように、これらが弥・後・Iに属するものであることは明らかで、特に説明は要しないと思う。<sup>(14)</sup>問題としたいのは、弥・後・Iの中ではどのくらいに位置づけられるのかという点である。

たとえば、高橋護の「上東式土器の細分編年基準」<sup>(15)</sup>によれば、本報告書の弥・後・Iとする時期は3期に細分されていると理解できる。ただし高橋は、この論文において用いた資料は、百間川遺跡群や雄町遺跡出土土器であり、たとえば高塚遺跡の所在する足守川下流域などの地域においては、別に編年を組み立てる必要があると指摘している。したがって、袋状土壙18出土土器を位置づけるためには、この地域での編年作業を行う必要がある。

高塚遺跡周辺においては、近年弥生時代遺跡の発掘調査が増加している。たとえば津寺遺跡、加茂政所遺跡、立田遺跡、足守川矢部南向遺跡、足守川加茂B遺跡などであり(第2図)、これらの遺跡からは当該期の土器資料が数多く出土している。

ここでは紙幅の関係もあり、編年についての詳細な検討については後日を期したいが、結論(現状での見通し)についてのみ記しておきたい。

弥・後・Iは以下の4段階に細分する。最も古い様相を示すのは津寺遺跡中屋調査区袋状土壙123・土壙335<sup>(16)</sup>、津寺遺跡西川調査区袋状土壙126出土土器<sup>(17)</sup>と考える。<sup>(18)</sup>それ以降、第2段階=津寺遺跡中屋調査区袋状土壙78<sup>(19)</sup>、高塚遺跡袋状土壙86→第3段階=加茂政所遺跡袋状土壙37<sup>(20)</sup>、高塚遺跡袋状土壙7→第4段階=津寺遺跡中屋調査区袋状土壙80<sup>(19)</sup>、高塚遺跡土壙291という変遷を想定している。

袋状土壙18出土土器群はおもに高杯の形状を根拠にして、第3段階に相当すると考えている。つまり、弥・後・Iの中でも後半の様相を示していると理解する。

### 考察

以上ここまで、三つの事柄にしぼってまとめを行った。次に若干の考察を行いたい。

考察の第一は、貨泉の用途についてである。中国では、貨泉は貨幣として用いるために鑄造されており、また出土は埋葬施設や穴蔵からの事例が多いらしい。<sup>(7)</sup>すなわち中国では、貨泉は貨幣、財産として用いられ、埋納されているのである。しかしながら、我が国から出土する貨泉が、貨幣として用いられたとは考えられない。では何のために入手したのであろうか。言いかえれば、貨泉は何に用いられたのであろうか。

この問題については、文献が存在していないため、貨泉の出土状況が考える参考になるであろう。これまで知られている我が国弥生時代出土の貨泉については、多くが包含層からの出土であり、遺構から出土した確実な事例としては豎穴住居(うてな遺跡<sup>(22)</sup>・平塚川添遺跡<sup>(23)</sup>)、と土壙(亀井遺跡<sup>(24)</sup>)、溝(原ノ辻遺跡<sup>(25)</sup>)の例があるのみで、不確実な事例として甕棺や箱式石棺という埋葬施設からの出土が知られているにすぎない。(第9表)。今回報告する高塚遺跡では、前述したように袋状土壙から多数出土し、しかも特別扱いを受けていなかったという新しい知見が得られたが、貨泉の用途などについて結論づけるには、未だ資料数が少ないといえる。こうした状況ではあるが、ここでは貨泉の用途について、従来から指摘されている事柄や私見を記しておきたい。

貨泉は、中国では莫大な数が鑄造されており、また1枚1枚は小品である。貨泉が同じ青銅製品といえども、北部九州において弥生時代中期から後期初めにかけて甕棺に副葬されている青銅製の鏡や武器形祭器などと同じような扱われ方はしていない。宝器的な扱い、威信材としての扱いはされていないと考えられることは、これまでの指摘のとおりであろう。<sup>(26)</sup>

貨泉を用いた祭祀が行われたとする推測についてはどうであろうか。最近出土した青谷上寺地遺跡

(鳥取県)は、銅鐸片、銅鏡、銅鐸形石製品などの出土から祭場跡と推測されている<sup>(27)</sup>。また上東遺跡(岡山県)では、船着き場と推測された土手状遺構の基礎から出土しており<sup>(28)</sup>、祭祀の可能性も考えることができる。貨泉は我が国では製作されておらず、大陸からもたらされた貴重品であるとの認識は持っていたであろうから、祭祀品として用いられる場合もあった可能性は考えられよう。

また不確実ではあるが、甕棺や箱式石棺から出土した例があることから、埋葬に際しての副葬品として用いられる場合もあったことは考えるべきであろう。

こうしたことから、我が国では貨泉は特定の用途にのみ用いられたのではないと考えたいが、今回高塚遺跡の出土状況から私見として述べたいのは、青銅器製作にあたっての原材料として用いられた場合がある可能性についてである。国産青銅器の製作については、舶載青銅器を鑄潰したと考える意見や国産の銅を材料としたとする意見がある一方、中国漢代の貨幣や貨泉が国産青銅器(特に銅鐸)の原材料として用いられたとする見解が、すでに梅原末治や杉原莊介、近藤喬一らによって公表されている。例えば、近藤は、弥生時代青銅器のうち特に銅鐸の中に含まれている微量の亜鉛の存在から、同じく亜鉛を含む中国前漢～王莽代の貨幣が、弥生時代中期中葉以降において青銅器原材料の一翼を担った可能性を想定している<sup>(29)</sup>。

高塚遺跡からは、鑄型・炉跡・溶滓・羽口など青銅器製作を直接的に証明する遺物や遺構は検出できていないが、以下に述べるような理由から、貨泉が青銅器生産の原材料として用いられたのではないかと想定する。(1) 貨泉は単独や少数ではなく、25枚が特別な取り扱いを受けずに廃棄されており、本来かなりの枚数が存在していたと推測できること。貨泉のみが原材料であったかどうかは不明だが<sup>(30)</sup>、貨泉は1枚が約3g以下であることから、原材料として用いるためには、少なくともかなりの枚数が必要ではなかろうか。(2) 埋納時期が貨泉とほぼ同時期である高塚銅鐸が、約60mしか離れていない地点に埋納されていること。銅鐸を畿内地方や北九州地方以外で生産したことは実証されていないが、ほぼ同時期の貨泉と銅鐸が同じ場所から出土した事実を重視して、貨泉が高塚銅鐸の原材料の一部として用いられたのではないかと推測する。(3) 高塚遺跡や周辺の遺跡からは、国産品と考えられる弥生時代の青銅製品が多数出土していること。例えば、足守川加茂B遺跡出土の鏡・銅鏃<sup>(31)</sup>、足守川矢部南向遺跡出土の「小銅鐸」<sup>(31)</sup>、津寺遺跡出土の銅鏃、加茂政所遺跡出土の銅釧・銅鏃<sup>(20)</sup>などがあり、特に足守川加茂B遺跡からは未加工(未研磨)の銅鏃が出土しており、近くで銅鏃の鑄造が行われたと想定できる<sup>(31)</sup>。また高塚遺跡角田調査区方形土塋156から出土した棒状の銅製品M158は、我が国では他に類例を見ないもので、用途についてはわからないが、可能性として青銅器鑄造のためのインゴットとも考えることができる。つまり、高塚遺跡を含む足守川下流地域には弥生時代において有力な集落が多数立地していたことがこれまでの発掘調査によって明らかにされており、青銅製品が多数出土していることから、この地域での青銅器生産を推測し、かつ貨泉がその原材料の一部として用いられたと推測するのである<sup>(32)</sup>。

考察の第二は、岡山県南部地域における弥生時代後期の歴年代についてである。貨泉は、一般的にはA.D.14年～40年まで発行されたと考えられている中国の貨幣であり、我が国弥生時代の歴年代を考えるための重要な資料の一つである。高塚遺跡からは、25枚の貨泉とともに弥生時代後期初頭の土器が一定量出土したのであり、歴年代について考えを及ばざるを得なかった。

まず我が国出土の貨泉の年代については、研究史的にみても以下の三つの見解があるのではなかろうか。



(1) 『漢書』食貨志で記されている新の天鳳元年（A.D.14年）から後漢の建武16年（A.D.40年）頃で、A.D.1世紀前半頃と考える見解<sup>(33)</sup>。

(2) A.D.1世紀の第3四半期あるいは第4四半期頃と考える見解<sup>(34)</sup>。

(3) 後漢後半（A.D.2世紀後半～3世紀初頭）頃と考える見解<sup>(35)</sup>。

筆者は次のように考える。

貨泉は、『漢書』食貨志によれば王莽によって天鳳元年（A.D.14年）に発行され（王莽伝では地皇元年＝A.D.20年とする）、その後、後漢の光武帝が五銖銭を復活させることによって、建武16年（A.D.40年）に廃止されたと記されているが、それ以降も流通していたり、私鑄銭がつけられていたことは、中国での出土状況から明らかである<sup>(7)</sup>。また出土貨泉には、大きさや重さ、銭紋の違い、郭の有無によって様々な型式が存在していることは、我が国出土の貨泉のみを検討してみても判明する事実である。そして、これらの型式の違いによって製作年代を明らかにすることができるかどうかことが重要ではあるが、この点については、中国において大量に出土している貨泉の更なる研究が必要であると考えられる。たとえば、河南省安陽市出土の貨泉を詳しく分析した載・謝の研究が、高倉洋彰や寺沢薫によって紹介されている<sup>(41)</sup>。これによると、貨泉は3類に分類され、新しくなるにつれて最大径が小さく、重さが軽くなる傾向があること、および孔郭が二重のものから持たないものに変化する傾向があるとされる。しかしまた、中国出土王莽銭の尺度と重量について検討した塩屋勝利は、「径のみ見た場合でも後漢末に私鑄されたと考えられる大貨泉を除き、1.9～2.4cmの間でさまざまな数値のバラツキが認められるのであり、「貨泉もまた発行直後から私鑄が行われ、後漢代においても継続したと考えられる」と述べている<sup>(7)</sup>。

したがって、我が国において弥生時代から出土する貨泉については、単純にA.D.14～40年とすることはできず、形式的な検討が必要である。

塩屋が紹介している中国での出土例（洛陽焼溝漢墓や洛陽西郊漢墓など）からは、径20mmより小さいものは後漢初期以降、径20mm以下で重さが規定の半分以下のものは後漢後期～晩期にみられるようになるのではないと思われる。また中国において王莽銭が墳墓や穴蔵から出土する傾向を検討した塩屋は、王莽銭の出土は後漢中期～後期には減少し、後漢末期に再び増加すると述べている<sup>(7)</sup>。

高塚遺跡では(1) 径20mm以下のものは出土していないので、後漢中期以前のものと考えられることができるかもしれない。しかし、出土していないだけであって、後漢中期以降に入手したとも考えることができる。(2) 重さだけに注目すれば、前述したように規定の半分以下の重さのものが15/25で60%を占めることから、後漢後期～晩期の年代が推測できるかもしれない。しかし、こうした軽いものが、発行当初に存在していないと証明されているわけではない。

また貨泉の製作年代がほぼ判明したとしても、高塚遺跡までの入手の期間については、実証することはできない。さらに袋状土壙18に廃棄されるまでの期間についても、同じく実証することはできないのである。

回りくどい記述になったが、結論としては、貨泉は現状ではA.D.14年（あるいはA.D.20年）以降という年代的上限を示すと理解するに留めざるを得ないと考える。それ以外は推測の域を出ないのである。

つまり、貨泉のみから年代を決定することは、現状では正しくないと考えるが、高塚遺跡では、A.D.40年以降貨泉を廃止して発行したと記録されている後漢の五銖銭が、1枚も混じっていない事実

を重視し、あえて推測が許されるならば、筆者は以下のように考える。

高塚遺跡の貨泉は、北部九州の奴国が後漢に朝貢したと記録されているA.D.57年に近い時期に楽浪郡経由で入手し（直接的か間接的かは不明）、土器一型式以内の間に廃棄されたと推測する。すなわち、高塚遺跡袋状土壌18出土土器の歴年代は、紀元1世紀第3四半期で、弥生後期土器の出現までには二土器型式が介在しているのであり、当地域での弥生時代後期の始まりは、紀元1世紀前半に相当すると推測する。

次に、歴年代を考えるその他の方法の一つとして、中国鏡などの豊富な舶載遺物によって研究が進んでいる、北部九州との土器併行関係を検討することが挙げられる。

中部瀬戸内と北部九州との弥生時代後期初頭の土器併行関係については、近年の小山田宏一<sup>(36)</sup>、杉本厚典<sup>(37)</sup>、平井典子<sup>(38)</sup>の研究成果からまとめてみたい。

那珂遺跡20次S E 03下層<sup>(39)</sup>と上天神遺跡S K 04<sup>(40)</sup>とは、直口壺の類似性から併行している。上天神遺跡S K 04は、高塚遺跡周辺の弥・後・I第2段階併行と想定する。那珂遺跡20次S E 03下層の北部九州での位置づけについては、「高三瀨（新）」段階とも考えられている<sup>(41)</sup>。したがって、高塚遺跡周辺と北部九州の後期初頭の土器編年は、ほぼ併行すると考える<sup>(42)</sup>。

このように考えるならば、高塚遺跡周辺での弥生時代後期初めの歴年代は、現状では未だ北部九州の年代観如何んにかかっている。北部九州での後期の始まりは、甕棺型式では桜馬場式と考えられていたが、集落出土土器との比較から立岩式とも考えられている。また立岩式に伴う前漢鏡群の年代については、定説を見ていない。いずれにせよ、この問題を論じるには力不足であり、今後の課題としておさざるを得ない。

一方、こうした考古学的方法とは別に、近年弥生時代の遺跡から出土する木材の年輪年代測定結果が、いくつか公表されるようになってきている。考古学的にみて、出土状況の良好な資料による年輪年代測定が積み重ねられることによって、各地域の弥生時代歴年代の大枠についても、いずれ明らかにされるであろう<sup>(43)(44)</sup>。

（平井）

#### 註

- (1) 第9表に掲載した貨泉については、実見したものはわずかである。ほとんどの数値は、文献の記述からの引用であり、特徴については、文献の記述や図・写真・拓本から判断している。
- (2) 森岡秀人「大阪湾沿岸の弥生土器の編年と年代」『高地性集落と倭国大乱』雄山閣 1984年  
森岡秀人「弥生時代歴年代をめぐる近畿第V様式の時間幅」『信濃』第37巻第4号 1985年  
寺沢 薫「弥生時代舶載製品の東方流入」『考古学と移住・移動』同志社大学文学部考古学研究室 1985年
- (3) 第172図の出土状況図は、取り上げ時の略図を基にしており、取り上げ後、複数枚が錆び付いていることが明らかになるなどのため、平面図と断面図の枚数が一致していない。
- (4) 測り方によって、僅かな誤差があることは考えられる。重さについても同様である。
- (5) 『漢書』（第三冊卷二一至卷二五（志一））中華書局
- (6) 高倉洋彰「王莽銭の流入と流通」『九州歴史資料館研究論集』14九州歴史資料館 1989年
- (7) 塩屋勝利「中国出土王莽銭に関する覚書」『福岡市立歴史資料館研究報告』第13集 福岡市立歴史資料館 1989年
- (8) 高倉氏は3.17g、塩屋氏は3.15~3.25gと推定されている。（前掲註6・7）
- (9) 後に周郭や孔郭をそぎ落とした「剪輪銭」や「剪郭銭」があるという。  
塩屋勝利（前掲註7）  
中國科學院考古研究所編輯『洛陽燒溝漢墓』 1959年

### 第3章 高塚遺跡

- (10) 原ノ辻遺跡や御幸中学校遺跡出土貨泉には存在していないらしい(第9表)。
- (11) 戴志强・謝世平「“貨泉”初探—兼論莽錢制作特徴的演变」『中国錢幣』1984年(未読)  
高倉氏(前掲註6)や寺沢氏(前掲註2)、塩屋氏(前掲註7)によって内容が紹介されている。
- (12) 土や錆が付着しているために肉眼で判読不明なものについては、レントゲンフィルムを参考にして作図した(第8表備考)。したがって、これらについては不正確な部分があるかもしれない。
- (13) この他にも、孔の大きさに大小が認められる。
- (14) 678については弥・後・Ⅱと考える意見もあるようだが、弥・後・Ⅰに多い器種と考えるべきであろう。
- (15) 高橋護「上東式の細分編年基準」『研究報告』第7号 岡山県立博物館 1986年
- (16) 「津寺遺跡5」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』127 岡山県教育委員会ほか 1998年
- (17) 「津寺遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』98 岡山県教育委員会ほか 1995年
- (18) 津寺遺跡中屋調査区袋状土壙123と土壙335出土土器については、中期の範疇や混在資料と考える意見があるが、ここでは後期的な土器(甕)が出現していることを重視して、後期の最古段階と理解している。
- (19) 「津寺遺跡4」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』116 岡山県教育委員会ほか 1997年
- (20) 「加茂政所遺跡、高松原古才遺跡、立田遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138 岡山県教育委員会ほか 1999年
- (21) 高塚遺跡から少し離れているが、井出村後遺跡(総社市)から良好な資料が出土している。  
谷山雅彦・平井典子「共同住宅建設に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』6 総社市教育委員会 1996年
- (22) 高木正文「熊本県菊池郡七城町うてな遺跡」『日本考古学年報』41(1988年度版) 吉川弘文館 1990年  
高木正文「熊本県うてな遺跡」『季刊考古学別冊9 邪馬台国時代の国々』雄山閣 1999年
- (23) 「平塚川添遺跡—発掘調査概報—」 甘木市教育委員会 1993年  
「平塚川添遺跡調査概報Ⅱ」『甘木市文化財調査報告』第29集 甘木市教育委員会 1994年
- (24) 「亀井・城山」 大阪文化財センター 1980年
- (25) 「原ノ辻遺跡」『長崎県文化財調査報告書』第124集 長崎県教育委員会 1995年
- (26) ただし、東日本で出土した米倉山B遺跡(山梨県)の場合は、宝器的な扱いを受けたのではないかと記されている。  
『アサヒグラフ』1992年12月25日号 朝日新聞社
- (27) 「渡来人登場—弥生文化を開いた人々—」 大阪府立弥生文化博物館 1999年  
『アサヒグラフ』1999年12月24日号 朝日新聞社
- (28) 文化庁編『発掘された日本列島'99』朝日新聞社 1999年
- (29) 近藤喬一「垂鉛よりみた弥生時代の青銅器の原材料」『展望アジアの考古学』1983年
- (30) 専門外のため誤解を恐れるが、例えば高塚銅鐸と貨泉の鉛同位対比の分析結果によれば、両者はすべてが一致しているわけではなく、高塚銅鐸が貨泉のみによって鑄造されたとは思われない。一方、銅鏃などの小型品については、貨泉のみが原材料となった可能性は考えられる。
- (31) 「足守川加茂A遺跡、足守川加茂B遺跡、足守川矢部南向遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』94 岡山県教育委員会ほか 1995年
- (32) 足守川加茂B遺跡と百間川原尾島遺跡から出土している小形仿製鏡(「異体字銘帯鏡」)は、北部九州ではなく瀬戸内と畿内で出土していることから、畿内、あるいは瀬戸内で生産された鏡ではないかと想定されている(高倉洋彰「弥生時代小形仿製鏡について(承前)」『考古学雑誌』第70巻3号 1985年、森岡秀人「「十」状図文を有する近畿系弥生小形仿製鏡の変遷」『横田健一先生古稀記念文化史論叢』(上)1987年)。また岡山市の田益田中遺跡出土の銅剣鑄型(筆者は鑄型と考えている)は、弥生時代前期後半から中期前半のものであるが、搬入品ではなく岡山県南部地域において青銅器生産が行われていたことを示唆していると考えられる。(「田益田中遺跡(国立病院)」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』141 岡山県教育委員会 1999年)  
近畿地方で貨泉が出土している亀井遺跡、巨摩廃寺においても青銅製品が出土している。特に亀井遺跡では、銅鐸片、「異体字銘帯鏡」が出土しており、高塚遺跡・足守川加茂B遺跡との類似性が指摘できる。さらに出土した弥生土器についても、讃岐産(亀井遺跡SD14出土の高杯や直口壺は、形状や胎土から讃岐産と考えている)のもの他に高塚遺跡周辺の土器と類似したものがある。こうした類似性は単なる偶然なのであろうか。なお、最近発掘調査が

行われている鳥取県の青谷上寺地遺跡でも、貨泉と共に銅鐸片や鏡が出土している。

(33) 森岡秀人「大阪湾沿岸の弥生土器と編年」(前掲註2)

「列島における貨泉の伝来を仮に超スピードなものとし、……第V様式の上限年代の可能性を西暦1世紀の前半の内に求めることを否定はできないであろう。」

森岡秀人「弥生時代歴年代論をめぐる近畿第V様式の時間幅」(前掲註2)

「新王莽による貨泉の鑄造の直後、ないしはほどなくそれらが列島にもたらされる蓋然性は、けっして低くはないのであり、第V様式初頭の一点に集約傾向を帯びつつある近畿の貨泉出土例をできるだけ遡らせて考える希望的観測もそれを目途とする。」

高倉洋彰「王莽銭の流入と流通」(前掲註6)

「戴・謝氏に依拠すれば、日本に流入した貨泉は第1類を欠いている。やや小形の例がかなりあることや、軽量の例が多いことは、形状とともに第II・III類の特徴に通じる。……つまり天鳳元年の初鑄時の例は流入しておらず、日本出土の王莽銭は新代末期から建武十六年を下限とする後漢初頭にかけての鑄造品である可能性をもっているのである。」

(34) 寺沢 薫「弥生時代舶載製品の東方流入」(前掲註2)

「貨泉も、後漢初期に下る資料は多いが、中期以降に下りうる例はない。……北部九州への銭貨の流入が前漢後半代でも終わり頃(前1世紀前半)から後漢初期(1世紀前半)の時間幅の中で大きく、前後して集中して流入したことが考えられる。」「おもに中国鏡や銭貨の年代観から、畿内第五様式の開始の実年代を西暦1世紀の第3四半期頃、その終焉(第五様式5)を西暦3世紀の第1四半期のなかで考えることができる。」

豊岡卓之「『畿内』第V様式歴年代の試み(上)(下)」『古代学研究』108・109号 古代学研究会 1985年

豊岡卓之「時は大海を渡る」『考古学ジャーナル』325号 ニューサイエンス社 1990年

「王莽代の文物が楽浪郡域に流入するのは後漢に入って、おそらくA.D.1世紀中頃であろうと考えた。」さらに日本列島への「流入期は楽浪郡域での流入期にやや遅れる可能性もある。よって流入期に埋納までの時間を想定したA.D.1世紀末～2世紀初頭が、北九州地域後期前葉の一時点に、また「畿内」第V様式成立期の年代として考えられる。」(1985年論文)

ただし1990年論文では、楽浪土域周辺で確認された木槨墓の構造とそれから出土した紀年銘遺物との関係を検討し、近畿の第V様式初頭は「おそらくA.D.1世紀の第3～4四半期を中心とした時期を念頭におくことになるであろう」とされている。

(35) 橋口達也「2.半両銭・貨泉について」『新町遺跡Ⅱ—福岡県糸島郡志摩町所在墳墓群の調査—』 志摩町教育委員会 1988年

「又貨泉も3・5等は2.65g、2.85gであるが、2は径もやや小さく、重さは1.30gとはほぼ半分の重さである。重量を単位とする貨幣が鑄造時にいくらか出き損ないが生じるといっても、あまりにも単位の重さより軽すぎる。このような貨幣は後漢後半頃の経済混乱期に私鑄されたものではなかろうかと考える。」「以上のことは御床松原・新町遺跡出土の半両銭・貨泉について述べたことであって、半両銭・五銖銭・王莽銭のなかで鑄造後まもなくあるいは通行中に流入し、しかるべき遺構・遺物から出土し、弥生時代の年代の一端をうかがい知る資料も存在することはいうまでもない。しかしながら日本出土のこれらの貨幣の多くは弥生時代後期後半頃に流入したものが大半を占めよう。」

久米雅雄「石才南遺跡の歴年代—貨泉による畿内第V様式土器・1世紀前半開始説への疑問—」『石才南遺跡—発掘調査報告書—』 大阪府埋蔵文化財協会 1988年

(36) 小山田宏一「近畿地方歴年代の再整理」『第40回埋蔵文化財研究集会 考古学と実年代 第1分冊発表要旨集』 埋蔵文化財研究会 1996年

(37) 杉本厚典「東部瀬戸内海と北部九州の弥生時代後期初頭の土器編年の平行関係」『香川考古』第5号 香川考古刊行会 1996年

(38) 平井典子「弥生時代後期における中部瀬戸内と北部九州の交流」『古代吉備』第19集 古代吉備研究会 1997年

(39) 「那珂遺跡8」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第324集 福岡市教育委員会 1993年

- (40) 「上天神遺跡」『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』第六冊 香川県教育委員会ほか 1995年
- (41) 田崎博之「基礎資料：各地域における弥生時代後期土器の様相 北部九州－筑前」『弥生後期の瀬戸内海－土器・青銅器・鉄器からみたその領域と交通－』古代学協会四国支部第10回松山大会資料 1996年  
杉本厚典「東部瀬戸内海と北部九州の弥生時代後期初頭の土器編年の平行関係」(前掲註36)
- (42) 近畿地方との関係については、河内地域に所在する亀井遺跡S D14出土の高杯が、形状や胎土から讃岐産と考えられる。この高杯の類似品は、上天神遺跡S D16や小山南谷遺跡<sup>(a)</sup>から出土しており、高塚遺跡周辺では弥・後・I第2段階併行と想定する(高塚遺跡周辺の高杯は、脚が長いのが通有である。上天神遺跡にも脚の長い高杯が出土しており、これらとの比較から想定した)。亀井遺跡S D14出土土器は、寺沢薫・森井貞雄によれば<sup>(b)</sup>後期初頭のV-0様式とされているので、高塚遺跡周辺と河内地方の後期初頭の土器編年は、ほぼ併行すると思われる。一方、板付遺跡S D31<sup>(c)</sup>からは亀井遺跡S D14や上天神遺跡S D16・小山南谷遺跡出土のものに類似した高杯が出土しており、讃岐産と考えられている。板付遺跡S D31出土土器は、やや時間幅をもつと考えられているが、北部九州と近畿地方の後期初頭は、I型式前後の幅で併行すると考えられている。
- なお1996年に大阪府池上曾根遺跡では、畿内河内地域第Ⅳ-3様式併行の土器を含む柱穴に遺存していた柱材の年輪年代が、B.C.52年であることが判明した<sup>(d)</sup>。1995年に公表された滋賀県二ノ畦横枕遺跡から出土した中期末の井戸材の年輪年代測定結果<sup>(e)</sup>をも参考にすれば、近畿地方の弥生時代中期末～後期初頭が、西暦紀元前後の1世紀の内にあることがほぼ動かしがなくなった点で重要と考える。より細かな歴年代については、土器編年の細分とともに年輪年代資料の増加によって、今後明らかにされるようになるであろう。
- (a) 片桐孝浩「小山・南谷遺跡 平成5年度」『県道高松志度線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』香川県教育委員会 1994年
- (b) 寺沢薫・森井貞雄「河内地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編1』木耳社 1989年
- (c) 「板付周辺遺跡調査報告書11」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第135集』福岡市教育委員会 1986年
- (d) 秋山浩三「B.C.52年の土器－池上曾根遺跡の大形建物・井戸出土資料と年輪年代－」『大阪文化財研究第11号』1996年
- (e) 佐伯英樹「滋賀県二ノ畦・横枕遺跡、下鈎遺跡」『第40回埋蔵文化財研究集会 考古学と実年代 第1分冊発表要旨集』埋蔵文化財研究会 1996年
- (43) 袋状土壌18の埋土中から検出した炭化材とモモ(核)の放射性炭素年代測定結果については、「付載自然科学による鑑定・分析」において報告している。これによると、炭化材はB.P.1930±90年、モモ(核)はB.P.1980±60年という測定年代である。
- (44) 脱稿後、福岡県春日市所在の須玖坂本遺跡において、貨泉が一枚、弥生時代後期の土器に伴って土壌から出土していることを知った。この貨泉の出土は、須玖坂本遺跡が、銅滓や鑄型の出土から弥生時代後期の青銅器を鑄造した遺跡と想定されていることと関連して重要であると考え。すなわち、貨泉が国産青銅器の原材料として用いられたとする説の証拠になるかも知れないからである。すでに、平尾良光は、国産青銅器の原材料として貨泉が用いられた可能性について考慮し、須玖坂本遺跡出土の貨泉や銅塊、銅滓、ルツボ土器付着の銅錆の鉛同位対比と蛍光X線分析を実施している。その結果に基づいて平尾は、鉛同位対比について、銅塊・銅滓が、近畿式・三遠式銅鐸や弥生後期の小形倣製鏡などと同じ特徴的な領域の値に一致するのに対して、貨泉がそれとは異なる前漢鏡の値を示していることから、貨泉を原材料とするには問題があり、さらに貨泉の分析例を増やして再検討すべきであるとしている。
- 春日市教育委員会『奴国の首都 須玖岡本遺跡』吉川弘文館 1994年
- 平尾良光「鉛同位対比法による春日市出土青銅器の研究」『春日市史・上』春日市史編纂委員会 1995年
- 須玖坂本遺跡出土貨泉については、春日市教育委員会の平田定幸氏と吉田佳広氏から教示を得た。特に土壌から出土した弥生土器については、中期から後期末までのものが含まれており、貨泉の時期を特定するには至らないと教えていただいている。

## 第9表の文献名一覧

- 朝日新聞社 1992年『アサヒグラフ1992年12月25日号』
- 甘木市教育委員会 1993年『平塚川添遺跡—発掘調査概報—』
- 甘木市教育委員会 1994年『平塚川添遺跡調査概報Ⅱ』『甘木市文化財調査報告』第29集
- 安楽勉 1998年「車出遺跡」『原ノ辻遺跡調査事務所調査報告書』第8集 長崎県教育委員会
- 梅木謙一ほか 1992年「桑原地区の遺跡—本文編—」『松山市文化財調査報告書』第26集 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 井上裕弘ほか 1983年「御床松原遺跡」『志摩町文化財調査報告書』第3集 志摩町教育委員会
- 梅原末治 1920年「湊村函石濱石器時代ノ遺跡」『京都府史蹟勝地調査會報告』第二冊 京都府
- 大阪府立弥生文化博物館 1999年『渡来人登場—弥生文化を開いた人々—』
- 岡内三真 1986年「7.貨幣・銅釧その他の輸入青銅器」『弥生文化の研究』6 雄山閣
- 岡崎敬・森貞次郎・小田富士雄 1969年「対馬」『長崎県文化財調査報告』8 長崎県教育委員会（未読）
- 春日市教育委員会編 1994年『奴国の首都 須玖岡本遺跡』吉川弘文館
- 春日市史編纂委員会編 1995年『春日市史・上』
- 岡崎敬 1982年「日本および韓国における貨泉・貨布および五銖銭について」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』
- 佐道弘之・新谷武夫 1973年『本谷遺跡発掘調査概報』（未読）
- 塩屋勝利 1989年「中国出土王莽銭に関する覚書」『福岡市立歴史資料館研究報告』第13集 福岡市立歴史資料館
- 菅波正人 1992年「堅粕1」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第274集 福岡市教育委員会
- 副島和明ほか 1995年「原ノ辻遺跡」『長崎県文化財調査報告書』第124集 長崎県教育委員会
- 高木正文 1990年「熊本県菊池郡七城町うてな遺跡」『日本考古学年報』41（1988年度版）吉川弘文館
- 高木正文 1999年「熊本県うてな遺跡」『季刊考古学別冊9 邪馬台国時代の国々』雄山閣
- 高倉洋彰 1989年「王莽銭の流入と流通」『九州歴史資料館研究論集』14 九州歴史資料館
- 高島徹ほか 1983年『亀井』大阪文化財センター
- 玉井功ほか 1982年『巨摩・瓜生堂』大阪文化財センター
- 寺川史郎・尾谷雅彦 1980年『亀井・城山』大阪文化財センター
- 寺沢薫 1985年「弥生時代舶載製品の東方流入」『考古学と移住・移動』同志社大学文学部考古学研究室
- 中山平次郎 1920年「考古雑録（一）」『考古学雑誌』第10巻第5号 日本考古学会（未読）
- 橋口達也 1987年「新町遺跡」『志摩町文化財調査報告書』第7集 志摩町教育委員会
- 橋口達也 1988年「新町遺跡Ⅱ」『志摩町文化財調査報告書』第8集 志摩町教育委員会
- 平岡勝昭・鶴島俊彦ほか 1983年「梅の木遺跡」『熊本県文化財調査報告』第62集 熊本県教育委員会
- 文化庁編 1999年『発掘された日本列島'99』朝日新聞社
- 前原市教育委員会 1996年『上罐子遺跡 みえてきた伊都国人の暮らし 出土木製遺物の概要』
- 水野清一・岡崎敬 1954年「老岐原ノ辻弥生式遺跡調査概報」『対馬の自然と文化』（未読）
- 村上正名 1954年「貨泉出土の古代遺跡」『吉備考古』88・89号
- 文殊省三 1986年「大和川河床出土の貨泉・鉢・台付無頸壺・蓋について」『大阪市立博物館研究紀要』18 大阪市立博物館（未読）
- 山梨県埋蔵文化財センター 1993年『年報』9
- 両角守一 1931年「貨泉を出せる青松海外遺跡」『考古学雑誌』第21巻第9号 日本考古学会
- 「亀井遺跡 S K3004」と「巨摩廃寺」出土貨泉の最大径と重量については、公表されている計測値が一致していない。今回の一覧表作成にあたっては、大阪府埋蔵文化財調査研究センターの藤永正明・国乗和雄両氏から測定結果の教示を得た。

第9表 日本出土「貨泉」(弥生時代) 一覧表

遺跡名	最大径 (mm)	最大孔 (mm)	最大厚 (mm)(土 、鏽)	重量 (g)(欠損 、土、鏽)	表面周部	表面孔部	裏面周部	裏面孔部	残存 状況
シゲノダン(長崎 県)	23.5	7.0	?	2.65	有り	無し	有り	有り	良
原ノ辻(長崎県)	23.2	6.7	(2.8)	(1.98)	有り	無し	?	無し	欠損
原ノ辻(長崎県)	23.0	?	1.6	1.3	有り	無し	有り	有り	良
車出(長崎県)	22.0	?	?	2.1	有り	無し	有り	有り	優
御床松原(福岡県)	23.0	?	?	1.3	有り	有り	有り	有り	優
御床松原(福岡県)	22.1	7.51	1.3	1.30	有り	無し	有り	有り	優
御床松原(福岡県)	22.9	6.9	1.9	2.65	有り	有り	有り	有り	優
御幸中学校校庭 (福岡県)	?	?	?	?	磨滅のため不詳	無し	磨滅のため不詳	無し	不良
新町(福岡県)	23.4	6.3	2.1	2.85	有り	有り	有り	有り	良
堅粕(福岡県)	—	6.3	1.2	—	有り	有り	有り	有り	欠損
平塚川添(福岡県)	?	?	?	(0.8)	有り	有り	有り	有り	欠損
須玖坂本遺跡(福 岡県)	?	?	?	?	有り(写真から)	無し(写真から)	?	?	欠損
上籬子(福岡県)	23	?	?	?	有り(写真から)	有り(写真から)	?	?	優
長田外園(熊本県)	23.0	?	?	?	有り(写真から)	有り(写真から)	有り(写真から)	有り(写真から)	良
うてな(熊本県)	22.5	6.5	?	?	有り	無し?	有り?	有り	欠損
樽味立添(愛媛県)	22.0	7.5	?	1.9	有り	有り	有り	有り	優
青谷上寺地(鳥取 県)	22	?	?	?	有り(写真から)	有り(写真から)	?	?	優
上東(岡山県)	22.9	?	?	2.5	有り	有り	有り	有り	優
瓜破(大阪府)	21.5	?	?	1.55	有り(写真から)	無し(写真から)	有り(写真から)	有り(写真から)	良
亀井(大阪府)	22.7	5.6	2.0	3.75	有り	有り	有り	有り	優
亀井(大阪府)	23.1	?	?	1.85	有り	有り	有り	有り	優
亀井(大阪府)	22.6	?	?	2.10	有り	無し	有り	有り	優
亀井(大阪府)	22.0	?	?	2.30	有り	有り	有り	有り	優
巨摩庵寺(大阪府)	21.5	?	?	1.28	有り(写真から)	無し?(写真から)	有り(写真から)	有り?(写真から)	良
米倉山B(山梨県)	22.0	?	?	2.3	有り(写真から)	有り(写真から)	?	?	不良
東宮裾(佐賀県)	?	?	?	?	?	?	?	?	
祇園社(佐賀県)	25	?	2	?	?	?	?	?	欠損
本谷(広島県)	23.0				有り	有り	有り	有り	良
函石浜(京都府)	22.5	6.2		2.2	有り	有り	有り	有り	優
函石浜(京都府)					有り	有り	有り	有り	欠損
西前田(感田)(福 岡県)					有り	有り	有り	有り	
青松海外(榎垣外) (長野県)					有り	無し	有り	有り	優
青松海外(榎垣外) (長野県)					有り	有り	有り	有り	優
青松海外(榎垣外) (長野県)					有り	有り	有り	有り	優

時期	備考	文献名	岡崎 1982年	寺沢 1985年	岡内 1986年	高倉 1989年	塩屋 1989年
弥・後・初～前半	孔上辺に穿上半星(小突起)。孔下辺右端に決紋。文字の上下部分に二次的な窪みをつくっている。	岡崎・森・小田1969年	○	○	○	○	○
弥・後・終末	一部欠損。土付着。「泉」字は丸みをもつ。	水野・岡崎1954年	○	○	○	○	○
弥・後	T10-23区1号溝から出土。	副島ほか1995年	-	-	-	-	-
弥・後	裏孔郭上辺左端決紋状。	安楽1998年	-	-	-	-	-
弥・後の可能性大(高倉)	下辺左端に決紋か。	岡崎1982年 高倉1989年	○	○	○	○	○
弥・後・前(井上)弥・後・末(橋口)弥・後・中(高倉)	D地区包含層第3層下部出土。背部の右方に点状の小突起。	井上1983年 橋口1988年 高倉1989年	-	○	○	○	○
弥・後・前(井上)弥・後・末(橋口)弥・後・中(高倉)	弥生時代包含層出土。	井上1983年 橋口1988年 高倉1989年	-	○	○	○	○
弥・後・後半～古・前・初	唯一の墳墓副葬例(箱式石棺)。二つ折れし、残り悪い。磨滅。	高倉1989年	×	○	×	○	△
弥・後・後半かそれ以降(高倉)	弥生～奈良の包含層から出土。范がずれている。	橋口1987・1988年 高倉1989年	-	-	-	○	△
弥・後か(高倉)	約半分欠損。	菅波1992年 高倉1989年	-	-	-	○	△
弥・後・中以前か	住居4010から出土。一部欠損。	甘木市教委1993・1994年	-	-	-	-	-
弥・後	溝の中の土壌状遺構から出土。弥生後期土器が相伴している。	春日市教委編1994年 春日市史編纂委員会編1995年	-	-	-	-	-
弥・後・前半		前原市教委1996年 大阪府立弥生文化博物館1999年	-	-	-	-	-
弥・後か(高倉)		平岡・鶴島1983年 高倉1989年	○	○	○	○	○
弥・後・末	劣化してもろい。取り上げ時に破片になった。住居址西南隅のベッド状遺構のない部分の床面から8cmほど上から出土。	高倉1989年 高木1990年 高木1999年	-	-	-	○	○
弥・後～中世	時期は特定できない。	梅木ほか1992年	-	-	-	-	-
弥・後		大阪府立弥生文化博物館1999年	-	-	-	-	-
弥・後・初	土手状遺構から出土。	文化庁編1999年	-	-	-	-	-
第Ⅳ様式(文殊) 第Ⅴ様式初(寺沢)	孔上辺の中央に穿上半星の小突起。	文殊1986年 高倉1989年 寺沢1985年	○	○	○	○	○
第Ⅴ様式前半(報告書)	SK3004上層出土。両側の下辺左端と背側の上辺両端が決紋状になっている。	寺川・小谷1980年 岡崎1982年 寺沢1985年 高倉1989年	○	○	○	○	○
第Ⅴ様式後半(報告書) 第Ⅴ様式前半(寺沢)	Bトレンチf9区Ⅷb層から出土。	高島ほか1983年 寺沢1985年 高倉1989年	○	○	○	○	○
第Ⅴ様式後半(報告書) 第Ⅴ様式前半(寺沢)	Bトレンチf9区Ⅷb層から出土。二枚重なった状態で出土。	高島ほか1983年 寺沢1985年 高倉1989年	○	○	○	○	○
第Ⅴ様式後半(報告書) 第Ⅴ様式前半(寺沢)	Bトレンチf9区Ⅷb層から出土。二枚重なった状態で出土。	高島ほか1983年 寺沢1985年 高倉1989年	○	○	○	○	○
第Ⅴ様式前半(寺沢)	後期Ⅴ(Ⅲ)遺構面に相当する包含層から出土。両孔郭は確認が困難で鍍上がりも悪い。背穿左上決紋らしき痕跡。	玉井ほか1982年 寺沢1985年 高倉1989年	○	○	○	○	○
弥・後・末～古・前・初	谷の埋土から出土。磨滅している。	朝日新聞社1992年 山梨県埋文1993年	-	-	-	-	-
桜馬場式壘棺	円形貨幣6～8枚が壘棺内から出土。貨泉の可能性もある。すべて散逸。	岡崎1982年	○	○	○	×	×
弥・中～後(寺沢)	壘棺内から円形青銅貨幣出土。計測値から貨泉と推測。消失。	岡崎1982年 寺沢1985年	○	○	○	×	×
中世か(高倉)	時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	村上1954年 佐道・新谷1973年 高倉1989年	○	○	○	×	○
中世か(高倉)	時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	梅原1920年 高倉1989年	○	△	○	×	○
中世か(高倉)	時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	梅原1920年 高倉1989年	○	△	○	×	○
中世か(高倉)	時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	中山1920年 高倉1989年	×	○	○	×	×
中世か(高倉)	面郭上辺の上に穿上星ありか。下辺右端に決紋。時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	両角1931年 寺沢1985年 高倉1989年	×	○	×	×	△
中世か(高倉)	背に穿上星あり。時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	両角1931年 寺沢1985年 高倉1989年	×	○	×	×	△
中世か(高倉)	面に穿上星あり。時期不明確。弥生時代ではない可能性もある(平井)。	両角1931年 寺沢1985年 高倉1989年	×	○	×	×	△



## 4 古墳時代の集落について

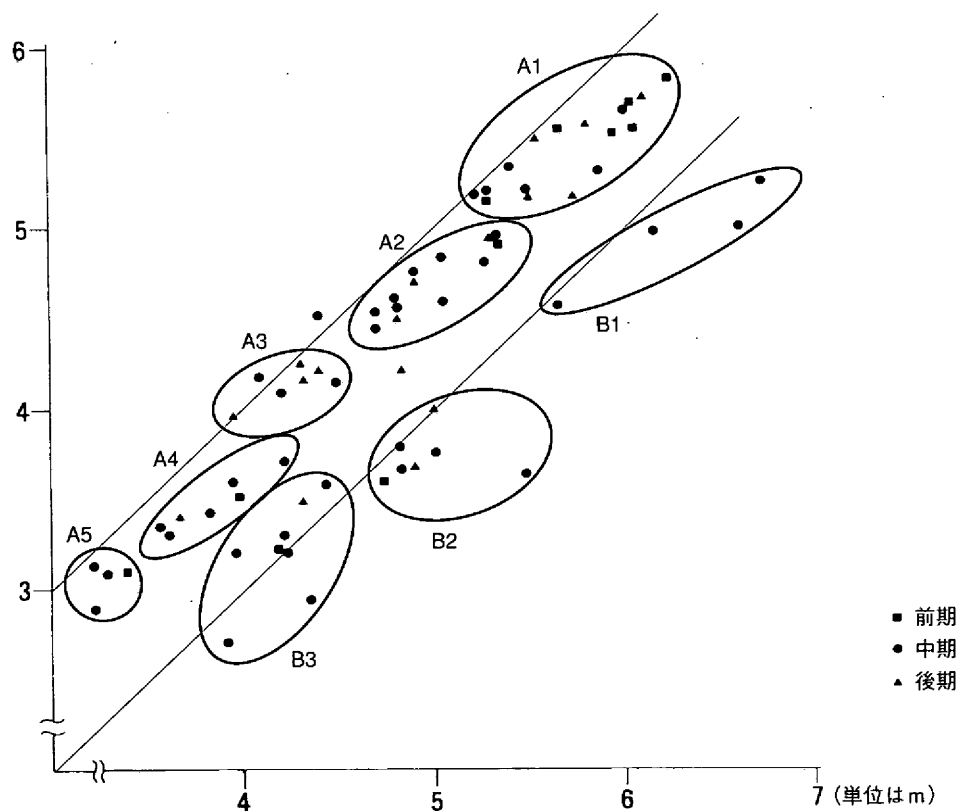
集落を構成するのは、竪穴住居104軒と数十基の土壙である。そのほかにも古墳時代と推定される掘立柱建物1棟と溝3条があるが、ここでは一般的な存在ではない。調査地内では、塚廻り調査区においてやや遺構が希薄であるものの、それ以外の2つの調査区においてはほぼ万遍なく遺構が広がっていた。

竪穴住居の配置をみると、前期の住居は、フロヤ調査区と角田調査区の西半に集中している。これに対し、中・後期の住居はほぼ全域にわたって存在するものの、特に角田調査区の東半部に集中していた。これは、前期の集落域を避けた集落選地の結果とみられる。

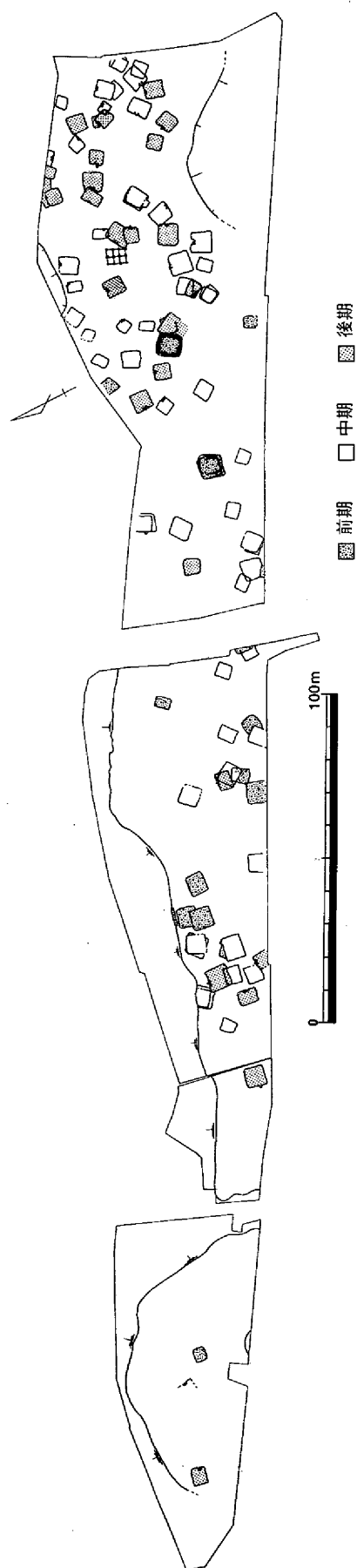
### 竪穴住居の時期および規模

集落は、前期Ⅰ段階から後期ⅢないしはⅣ段階まで連綿と続いている。そこで竪穴住居の数を時期別にみると、前期が18軒（うちⅠ期6軒、Ⅰ～Ⅱ期2軒、Ⅱ期1軒、Ⅱ～Ⅲ期1軒、Ⅲ期3軒、詳細不明4軒）、中期が65軒（うちⅠ期38軒、Ⅱ期13軒、不明7軒）、後期が21軒（うちⅠ期8軒、Ⅱ期13軒、Ⅲ期1軒、不明2軒）となり、中期の住居数が突出しているといえる。なお、時期区分は、編年表（表4）に従うが、竪穴住居140・143・149・155・157などは須恵器の検討から中期Ⅱではなく後期Ⅰとしたい（吉備においては、後期Ⅰの前半段階では、長脚1段透かし高杯はほとんどみられず、短脚高杯が一般的であったと考えている。）。その点が本文や巻末の一覧表と異なっている。

次に、住居の平面形態が方形のものをA類、長方形であればB類とし、さらに規模によって分類す



第1499図 竪穴住居の時期別規模



第1500図 竪穴住居の配置 (1/2,000)

る(第1499図)。A 1類：1辺が5 m以上で、平面形は方形を呈する。A 2類：1辺が4.5m以上で、長辺が5.3m以下の方形を呈す。A 3類：1辺が4.0~4.5mの方形である。A 4類：長辺が3.6~4.2m、短辺3.2~3.7 mの方形を呈す。A 5類：長辺3.2~3.4mの方形であるが、A類でも小型の住居の平面形はやや縦長の傾向にある。B 1類：平面形が長方形を呈し、長辺は5.6~6.8m、短辺が4.5~5.3mである。B 2類：長辺が4.7~5.5m、短辺は3.6~4.0mで、長方形を呈する。B 3類：長辺が3.9~4.5m、短辺は3.6~3.7mの長方形である。

小型のA 4・5類、B 2・3類では、支柱穴は2本ないしは存在しない場合が圧倒的であるが、住居150(B 3類)のように4本柱の例もある。

#### カマド

いずれも造り付けで、置きカマドはみられない。粘土を貼って構築しており、地山を削り出した例はない。また、すべて1つ懸けのカマドで、2つ懸けと推定できるものはない。さらに、カマドの下部には、防湿目的とみられる土壌が存在する例もいくつかみられた。

時期的には、中期1段階には出現し一般化するが、住居165などの例からみても、かならずしもすべてに存在するわけではない。カマドは、煙道が住居外に突出するものをⅠ類、壁帯に沿って立ち上がる場合はⅡ類とし、さらにⅡ類は住居内における位置によって4細分できる(第1501図)。

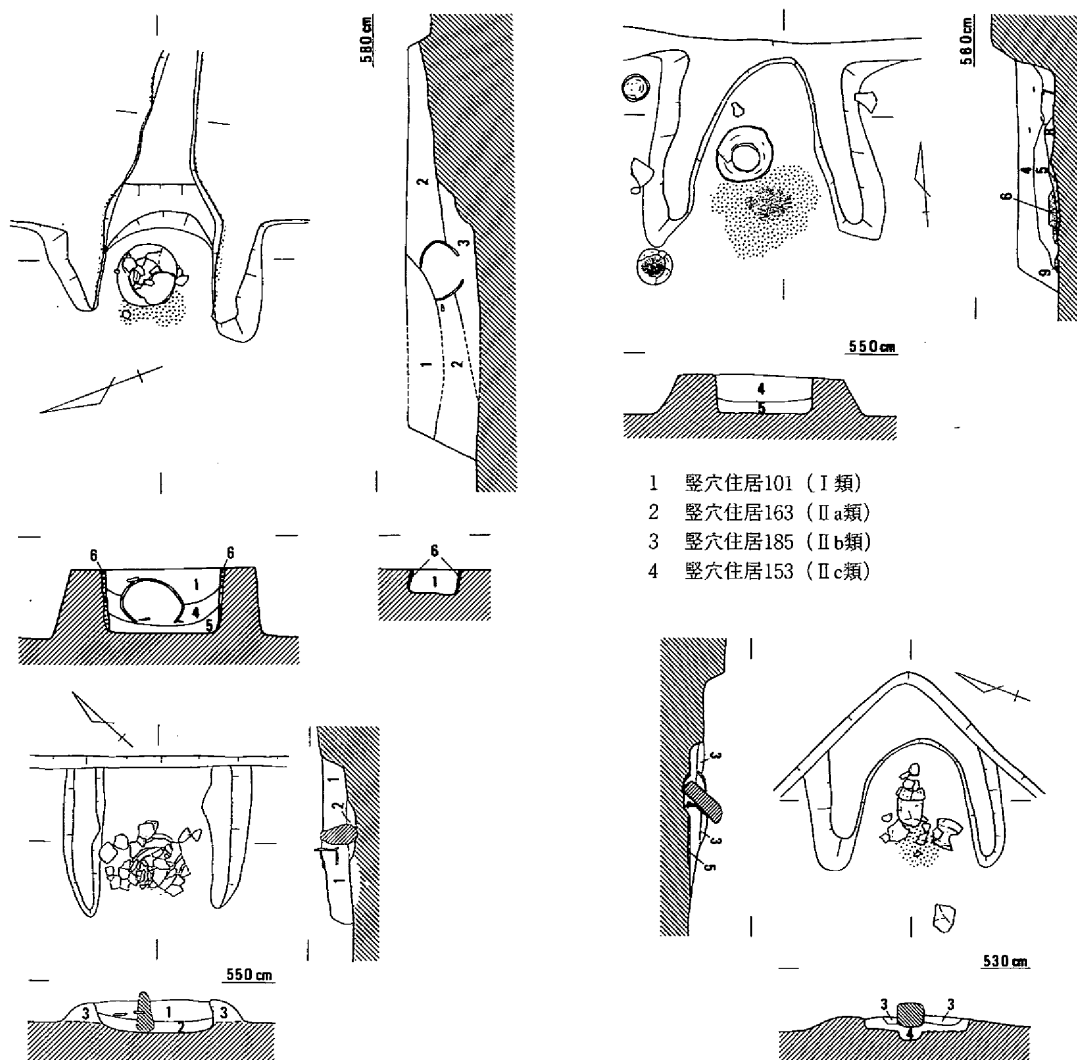
Ⅰ類は、中期Ⅰ段階では認められず、中期Ⅱの後半段階もしくは後期Ⅰ段階に出現する。また、検出面からの深さが数cmほどの住居においても、煙道が遺存している場合があった。つまりその段階において、竪穴の掘り込みが少なくなり、壁を立てた住居へと構造が変化していったことが考えられる。

Ⅱ類については、住居上部が削平を受けている場合もあると思われるが、煙り出しの存在は確認できていない。Ⅱ a類は、住居壁帯のほぼ中央に付設する例で、中期Ⅰにはすでに存在し、後期にかけて認められる。このうち、後期Ⅲに属する住居1などは、焼成部が壁体から床面中心へと離れた例であるが、これについて

は、煙道が削平を受けた可能性もを考えている。Ⅱb類は、燃焼部以外にも支脚の後ろの壁面が熱影響によって赤変するといった特徴がある。時期はいずれも中期Ⅰ段階に属しており、これらの住居が深く堅穴を掘る前期的な住居構造をとっていたことと、十分に機能する煙り出しが存在しなかったために火のまわりが強く、奥壁に影響を与えた可能性を考えたい。カマド導入期におけるの1つの特徴であろうか。

Ⅱc類は、住居コーナー部にかまどをもつ例で、コーナーに焼土面が存在した例（住居136・138）や、それに加えて倒立した高杯が遺存した例（住居135）も含める。これらの住居は、いずれも小型で平面形が長方形かやや縦長（A4・5類、B2・3類）であり、時期はいずれも中期Ⅰであった。こうした例を県下に求めると、百間川原尾島遺跡の堅穴住居<sup>(1)</sup>7がある。やはり平面形が長方形を呈し、時期は5世紀末と報告されている。また、Ⅱa類が中・Ⅰ段階においてすでに出現していることからしても、Ⅱc類はカマドの初現形態というよりも、小型住居における空間利用に際しての工夫であったとみられる。

さらに、カマドの主軸の方位については、規則性はみられない。とりわけ中期段階においては、東西南北と多様なあり様を示す。中期Ⅰでみると、東隅に位置する住居138・141・148・153、北東辺



- 1 堅穴住居101 (Ⅰ類)
- 2 堅穴住居163 (Ⅱa類)
- 3 堅穴住居185 (Ⅱb類)
- 4 堅穴住居153 (Ⅱc類)

第1501図 カマド

に位置する184・185、南東辺に位置する住居132・136・146・168・178、南から南西にある135・176に分かれるが、これは各々同時並存した可能性のあるグループであるかも知れない。

支脚は、石を立てる場合が多いが、倒立させた高杯を利用する場合があり、両者は時間的な先後関係ではない。ただし、支脚石の上から高杯をかぶせる例（住居176・191）が存在し、このほかにもカマド内から高杯が出土した例があることから、長期にわたるカマド利用に際して支脚が石から高杯へと変化した場合があったか、あるいはカマド廃絶にかかわる儀礼と考えられよう。

カマドに向かって左側の床面上に貯蔵穴をもつ（住居146・168）例がある。また、同様の場所から甗、甕など土器類が床面上からまとまって出土した（住居132・136）例があり、調理場かと思われる。住居内の空間利用をさぐる手がかりとなろう。

カマドのほかにも、床面中央に焼土面をもつ（住居184）、炉跡とみられる被熱を受けたくぼみがある（住居188・192・193）場合があるが、その用途については明らかにできなかった。

### 遺物

中期の竪穴住居からは、韓式系土器や初期須恵器が出土したほか、カマド出現に際して、新たな器種として甗が登場する。そのなかでも竪穴住居144・185の甗4634・4653・5177は、甗の形態をとりながらも、底部に穿孔がみられる。また、土師器の形態をとる須恵器4736・4932・4941（土師器的須恵器）や、須恵器の形態や技法をとる土師器4558・4714・4715・4899・4916・5176、あるいは須恵器質に焼成された土師器5181（須恵器的土師器）も多く認められた。とくに竪穴住居132・185からは、上記した数種の遺物の組み合わせがまとまって出土している。今回、中期の土器の蛍光X線分析を依頼した白石純氏（付載4参照）によれば、須恵器の胎土領域は一定のまとまりをもつものに対し、土師器では複数の領域に分かれており、なかには須恵器の領域と一致する一群が存在するようである。竪穴住居132においては、格子タタキの長胴甗4497、接合部に刻みを施した高杯4502、甗4499・4500、甗4512が須恵器4510・4501と同一の胎土的特徴を示した。そのほかにも軟質土器系の小型平底鉢4678、接合部に特徴のある高杯4899、須恵器の形態をとる土師器高杯4513、格子タタキの甗4921が須恵器と同一の胎土にグルーピングされている。

土器以外においても、竪穴住居172出土の曲刃鎌M184は、折り返し部の特徴から半島系の色彩が強い<sup>(2)</sup>。さらに、滑石製模造品（双孔円盤・勾玉・管玉・白玉）の存在が目につき、中期Ⅰを中心にして後期Ⅱまでの竪穴住居のうち14軒から出土している。古墳副葬品において、玉類を中心とした同種多量の滑石製品の副葬は、前方後円墳10期編年<sup>(3)</sup>の5期を特徴づける遺物であるが、今のところ周辺の遺跡を含めて、前期の住居からの出土はなく、古墳編年との間にタイムラグが生じている。この点については今後の検討課題としたい。

さらに、中期Ⅱ期にはいると、少なくとも6軒の住居から鍛冶滓が出土しており、集落内において鍛冶が行われた可能性が高い。中期Ⅰの住居からの出土はないが、県下においても随庵古墳<sup>(4)</sup>の鍛冶道具、窪木薬師遺跡<sup>(5)</sup>の鉄鋌、古墳副葬品の鉄滓などから製鉄の開始時期が古墳時代中期にさかのぼる可能性が高いとみられる。さらに、窪木薬師遺跡、斎富遺跡<sup>(6)</sup>などにおいて5世紀末以降の多くの住居などから鍛冶滓、鍛造剥片が出土しており、炉の存在から鍛冶集団の集落と考えられる。専門鍛冶集団がこの期に成立したことも考えられよう。

### 小結

前期の住居は、その規模から明瞭に大（A1類：7軒）小（B2・3類、A3・4類：各1軒）に

分かれた。このうち大型のものは、住居137・145のように通常2～3回の建て替えがみられるが、これは単なる遺構の切り合いではなく、ほぼ同一世代による行為と考えたい。対して小型の住居では建て替えはほとんどみられない。津寺遺跡では小型住居の掘削深度が1mに達する例も知られていることから、住居の改築は移動を前提としたのではなかろうか。大型住居の場合は、拡張や縮小に際しての地山の掘削や埋め立てを容易にする構造上の特徴があったと考えられる。壁を立てる構造であったこともその一つの可能性として考えておきたい。

中期における集落については、県下において現在のところまとまった調査例がない。高塚遺跡の属する足守川流域では、下流に位置する津寺遺跡<sup>(7)</sup>、加茂A・B遺跡<sup>(8)</sup>、矢部南向遺跡<sup>(9)</sup>において、前期における莫大な数の住居群が、中期には激減する。津寺遺跡においては、集落の廃絶の要因を前期Ⅲにおける洪水にもとめ、中山茶臼山古墳から尾上車山古墳へと続いた首長墓系列の交代とも強く結びついていることを強調する<sup>(10)</sup>。

このような現象は、備前地域においても認められよう。備前における古墳時代の集落としては、百間川遺跡群が知られている。百間川原尾島遺跡では、百・古・Ⅲ（中・Ⅰ古段階に相当）段階においてカマド・甌の存在がみられるものの、初期須恵器や韓式系土器など新来の文物が出土することはきわめて少ない。また、古墳時代前期における竪穴住居は、原尾島遺跡と沢田遺跡に存在するものの、中期になると原尾島遺跡<sup>(11)</sup>ではかなり減少、沢田遺跡<sup>(12)</sup>では廃絶するものの、かわって兼基遺跡、今谷遺跡<sup>(13)</sup>では、掘立柱建物、竪穴住居、井戸、溝から同時期の多数の土器が出土しており、さらに掘立柱建物13棟が集中する箇所もみられた。つまり中期における集落再編の動きとは、汎吉備南部的な動きであったとみられる。

さて韓式系土器や須恵器的土師器、土師器的須恵器を出土した住居の形態とは、小型2本柱で方形プランもしくは長方形プランの住居であった。こうした形態の住居の機能・性格については、一つには工房として理解されることがある。ここでは、こうした形態の住居が北部九州地域に多くみられる点や当遺跡の竪穴住居から韓式系土器などの朝鮮半島系の遺物が出土したことによって渡来系の人々とのかかわりを考えたい。また今回、胎土分析の結果ではあるが、須恵器的土師器や土師器的須恵器<sup>(14)</sup>の存在は、土師器工と須恵器工との交流のなかで理解される遺物ではなかろうか。この点は集落の性格を考えるうえで重要な点であろう。

そこで、中期における集落の拡大と長方形プランの住居群の存在、さらにそこにおいて韓式系土器が多数みられたことは何らかの関係があろう。韓式系土器は在地産の可能性が高いにしても、従来の高塚集落に渡来系の人々を編入したとみられる。

ところで、中期Ⅰの段階とは、吉備においてはまさに造山古墳造営の時期のあたり、備前・備中で小地域ごとの首長墳の造営は停止するといった、大首長権の伸張がピークを迎えた時期でもあった。また、高塚遺跡の位置は、造山古墳<sup>(15)</sup>の北1.5kmの位置にあり、さらに遺跡の背後は三須丘陵のうち北東部に突き出た低丘陵の先端部にあたる。その丘陵上には、雲上山11号墳<sup>(16)</sup>や法蓮古墳群<sup>(17)</sup>といった中期小墳の群集が多数認められており、副葬品には、韓式系土器や初期須恵器が含まれていた。さらにこの丘陵の周辺では、竪穴住居から鉄鋌、韓式系土器が出土した窪木業師遺跡が存在しており、古墳群とこの2集落との結びつきが考えられよう。ほかにこの段階における初期群小墳としては、総社市西山古墳群<sup>(18)</sup>があげられ、小規模方墳ながらも豊富な形象埴輪を持つ特異な存在であった。そしてその背後には、吉備の大首長の登場とその墳墓の造営が関わっていたことが考えられるのである。

そこで吉備における古式群小墳の成立とは、特定技術者集団を墓制における新たな身分秩序に組み込むことを機軸に進められた。それはまた集落再編の動きとも一致していたとみたいのである。(弘田)

## 註

- (1) 岡山県教育委員会『百間川原尾島遺跡』4 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 1995
- (2) 金田善敬・尾上元規の教示による。
- (3) 広瀬和雄「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国・四国編 近藤義郎編 山川出版 1991
- (4) 鎌木義昌・間壁忠彦・間壁霞子『隋庵古墳』総社市教育委員会 1965
- (5) 岡山県教育委員会『窪木薬師遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86 1993
- (6) 岡山県教育委員会『斎富遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告105 1996
- (7) 岡山県教育委員会『津寺遺跡』5 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127 1998
- (8) 岡山県教育委員会『加茂遺跡・加茂B遺跡・矢部南向遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94 1995
- (9) 註8に同じ。
- (10) 岡山県教育委員会『津寺遺跡』3 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104 1996
- (11) 岡山県教育委員会『百間川原尾島遺跡』3 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88 1994 岡山県教育委員会『百間川原尾島遺跡』5 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告106 1996
- (12) 岡山県教育委員会『百間川沢田遺跡』3 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84 1993
- (13) 岡山県教育委員会『兼基遺跡1・今谷遺跡1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51 1982 岡山県教育委員会『兼基遺跡3・今谷遺跡3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告114 1982
- (14) 三宮昌弘「初期須恵器製作集団と韓式系土器『韓式系土器』Ⅱ 1989
- (15) 岡山市教育委員会『造山第4号古墳』1998 造山古墳の年代については諸説あるが、安川満の見解が妥当と考える。
- (16) 総社市教育委員会『折敷山遺跡・雲上山11号墳』総社市埋蔵文化財発掘調査報告10 1993
- (17) 総社市教育委員会『法蓮古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告2 1985
- (18) 岡山県教育委員会『西山遺跡・西山古墳群ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告121 1997

## 5 古墳時代中期の土器

### はじめに

岡山県内において、陶質土器や軟質土器、初期の須恵器などが出現する頃の土師器の分析は、必ずしも十分には進展していない。それは当該期の発掘調査例や適当な一括資料が少ないという量的制約が大きな障壁になっていると思われる<sup>(1)</sup>。

当遺跡では、このような時期に相当する集落が調査され、いくつかの竪穴住居からはまとまった土器が出土している。ここでは、それらから出土した土器、主に土師器について検討する。資料としては必ずしも良好とは言えないものもあるが、竪穴住居の形態にいくつか特徴が認められることから、それと関連付けて分析し、渡来集団受容の在り方の一端を探りたい。

なお、竪穴住居覆土中の土器は、基本的に住居廃絶の下限を示すが、同時廃棄で一括性が高い場合以外は、一定の時間幅を考慮する必要がある。一方、床面の土器は、住居が機能していた時期、あるいはそれに限りなく近い廃絶時期を示すと言える。本来は、この3者間にどれだけの時間差が存在するかについて検討すべきであるが、今回は多くのが住居の機能時期に近いものと仮定した。

### 土師器と住居構造の分類

#### a 土師器壺・甕・高杯 (第1502図)

まず、土師器の壺・甕について分類するが、小形のものや、須恵器の器形を模倣しつつも焼成が土師質のものは除外している。底部はおおむね丸底であるが、胴部が球形のものや長胴のもの、肩部の張りの強さなど、さまざまなものがある。しかし、全体の形状が判明するものは少ないので、主に口縁部形態に着目している。

A類の口縁部は斜め外方に開く二重口縁である。B類は口縁部がやや内湾気味にのび、端部に水平あるいは内傾する面を形成する。なお、端部が内側に肥厚するものをB1類、ナデなどにより端部に面を形成しているものをB2類とする。特に前者は、体部が球形を呈する。C類は口縁部が短く内湾し、端部に水平面を形成する。D類の端部は、わずかに上方に摘み出されている。E類は口縁部が外反し、端部は丸くおさめる。F類は二重口縁の壺で、住居出土のものでは口縁部が垂直にのび、端部に面を形成するものが多いが、内傾するものや大きく外反するものもある。いずれの類も、胴部内面にはナデのみが認められるものが多い。しかし、B1類はすべてヘラケズリ、E類ではヘラケズリを施すものも多く見られる。

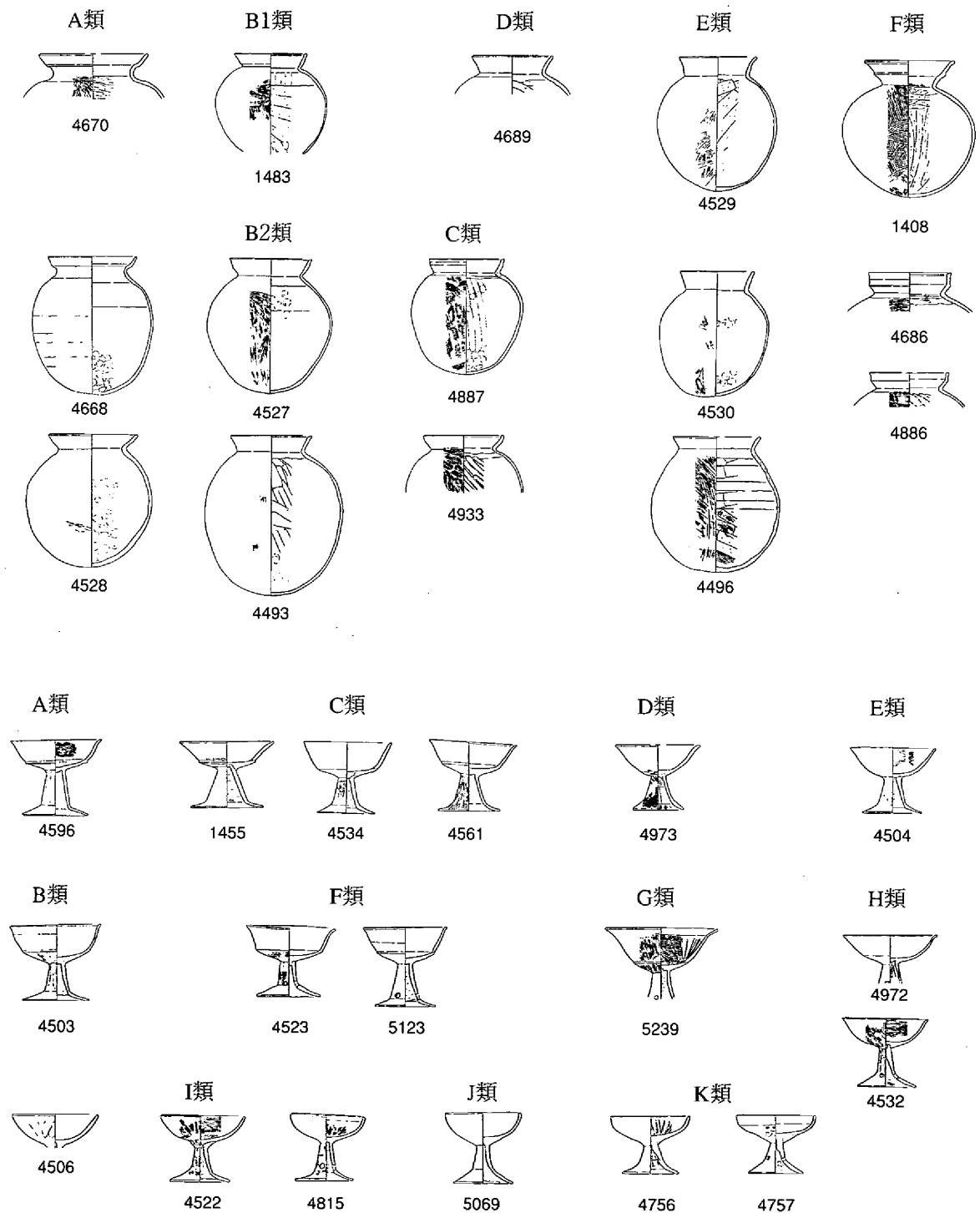
次に土師器の高杯について分類する。これもまた甕等と同様で、須恵器の模倣が顕著で、焼成が土師質であるものは除外する。杯部と脚部が分離して出土していることも多く、全体の形状が判明するものは必ずしも多くはない。

A～E類の脚柱部は比較的太く、スカシは施さず、F～I類の脚柱部は比較的細く、スカシを施すものである。杯部については、口縁部が内湾しながらのびて、端部が外反するものをA・B類とし、A類では屈曲部が突出する。口縁部が真つすぐあるいは外反しながらのびるものをC・F類としている。D・G類は杯底部が比較的小さく、口縁部が大きく外反するものである。E・H類は杯部が浅く皿状を呈し、口縁部が真つすぐあるいは外反する。I類は杯部が椀状であるが、口縁部は外方を指向してのびる。また端部は沈線をめぐらせたような形状のものがあり特徴的である。J類は杯部が椀状で内湾し、脚裾部の屈曲位置は高い。K類は杯部が浅い椀状を呈し、脚裾部は「ハ」字状に広がる。

杯と脚の接合部については十分検討しきれていないが、内側に盛り上がるものが特徴的に認められる。また、K類では内面に小孔を有するものが典型で、一部I・J類にも認められる。

**b 住居構造**

分類基準とその表示が、前項とは異なり混乱するかもしれないが、カマドの有無や取り付け位置をもとに分類する。カマドのないものをI類、カマドが住居の角に取り付くものをII類、壁の中央ではなく角の方に偏るものをIII類、壁の中央付近で柱間の中央に取り付くものをIV類とする。



第1502図 土師器壺・甕・高杯の分類 (1/12)



I類に該当するものは15軒あり、住居44・150を除き住居平面形はすべて正方形である。また、柱穴本数は、2本の住居44・156・180と不明のもの以外は4本である。II類は7軒あり、住居135・148を除き住居平面形はすべて長方形で、柱穴本数は基本的に2本である。III類は8軒で、住居146・160以外の住居平面形は正方形である。柱穴本数は基本的に2本と思われる。IV類には19軒の住居が該当し、住居平面形は基本的に正方形で柱穴本数は4本である。

次にカマドの形態であるが、特にその掘り方について注目したい。それは、住居の検出面で、カマドの掘り方が壁体の外へのびるかどうかである。これは、前項でも述べられているとおり、住居の壁や屋根などの構造とカマドとの関係やカマド自体の構造を示すものであろう。II・III類は、検出面と床面の比高は30~40cmを測るものが多く、比較的深いのが、この高さで外へのびる様子はない。一方、IV類の検出面と床面の比高は10~30cmと比較的浅いものが多く、その影響もあるのかどうか不明であるが外へのびないものが多い。しかしながら、住居140・170・191のように外へ出るものが認められる点は注目される。これらからは、TK23・47型式に相当する須恵器が出土しており、他にも同様の須恵器が認められる住居がある。これをIVb類として区別することにする。

時期について

a 土師器と住居類型 (表10)

ここで、土師器とそれらが出土している各住居類型との関係について検討する。

まず、壺・甕であるが、甕B~D類・壺F類は住居I~IVa類で広く認められるが、IVb類からは出土していない。甕E類は点数も多く、すべての住居類型で出土していると言える。ここから考えられることは、住居IVb類の甕等は他の住居より種類が乏しく、二重口縁のような形態を持たないということである。また、B1類は住居I類の一部(住居28・46・47・130)と関連していると思われ、これをIa類、それ以外をIb類と細分しておく。他には、甕A類が住居II・III類でのみ認められることも注意される。

次に高杯についてみると、高杯A~G類はほとんどの住居類型で出土しており、特に傾向を見出すことはできない。一方、高杯H類は住居I類に、H・I類は住居II~III類に多く認められ、高杯J類は住居IVa類、高杯K類はIVb類に多い。このように、住居構造と高杯の間には一定の関連が存在するものと推定される。さらに注目される点として、住居IVa類では、高杯K類を除く他の高杯類型

表10 竪穴住居と土師器の類型

類 型	カ マ ド 位置・掘り方	住居 平面形	柱穴 本数	土 師 器		住 居 番 号
				甕・壺	高 杯	
I a類	無し	正方形	4	B1~F	B~H	28 46 47 130
I b類	無し	正方形	4(2)	B2~F	B~H・(I)	25 26 44 150 156 165 171 173 174 180 190
II 類	角・出ない	長方形	2(4)	A・B2~F	A~H・I	132 135 136 138 148 153 172
III 類	偏在・出ない	正方形	2(4)	A・B2~F	A~H・I	30 141 144 146 160 168 178 185
IV a類	中央・出ない?	正方形	4	B2~F	B~J	127 142 154 163 169 176 179 184
IV b類	中央・出る?	正方形	4	Eのみ	(B~)K	140 143 149 155 158 159 170 188 191

とともに出土しているが、IV b類では他の高杯類型がほとんど出土していない。この点は、甕等の場合と同様、IV b類の住居から出土する高杯の種類が乏しいことを示している。

これらの点は、他遺跡でも確認される。津寺遺跡西川調査区の「竪穴住居-49<sup>(2)</sup>b」は、平面正方形で4本柱の住居である。カマドは住居の角に偏っているが、柱間の中央に作られている。住居IV類に分類され、煙道は壁から出ている。出土土師器には高杯J類と壺F類が認められており、IV a類にも煙道が壁から出るものが認められるようである。また、高杯もB・C類などが出土するなど多様であることも共通点としてあげられる。他にも、当遺跡の非常に近くに窪木薬師遺跡<sup>(3)</sup>が所在する。ここで検出された「竪穴住居-13」は平面長方形で柱穴は4本、カマドは角に偏っており、基本的に住居III類である。土師器は甕A類、軟質土器甌などが出土しており、当遺跡と類似する。

#### b 河道7の出土土器

河道7では、上層と下層の土器を分離して取り上げているので、それぞれ検討したい。両層とも須恵器模倣の土師器があるが、須恵器は非常に少なく、下層では確認されていない。また、両層とも甕B 1類が出土していない。

下層土器の特徴としては、壺F類では口縁部が強く外反するものがあり、屈曲箇所の後縁は明瞭である。甕B 2類は上層より多く見られ、口縁端部の内傾面も明確である。高杯については、I・J・K類が確認されていない。須恵器模倣の土師器は、甕5356・高杯5413などで認められる。

上層土器の特徴としては、壺F類では口縁部が垂直に立ち上がり、屈曲箇所の後縁がやや不明瞭なものもあり、口縁端部は内傾面を有するものも確認される。甕B 2類は上層ほど顕著ではない。高杯は下層と同様で、I・J・K類が出土していない。須恵器模倣の土師器は、甕5464・5465や脚付小形壺5451などが挙げられる。

出土量もあまり豊富とは言え切れず、層位による土器の差異はそれほど顕著ではないが、挙げるとすれば以上のような点が考えられる<sup>(4)</sup>。なお、高杯H類とI類はある程度並存する可能性があるため、河道埋没過程で投棄された土器は、おおむね住居I b～III類と関連するのではないかとと思われる。このことは、住居の方向性とも関連しているであろう。

#### c 時期について

以上、各住居類型に伴う土師器の壺・甕・高杯には、それぞれ特徴が認められる可能性が高いことがわかった。そこで、ここからは、その土師器の組合せを住居類型をもって表示する。

I類は、住居173がII類の172に切られているが、土器に関しては現状では類似している点が多い。しかし、I a類の存在や、I b類でも高杯I類がほとんど出土していないことから、II類との間には若干の時間差があると思われる。なお、甕B 1類は、大庭寺遺跡<sup>(5)</sup>T G 232号窯灰原の下層の土師器に類似しており、I a類はT G 232号窯に近い時期と思われる。

II・III類については、甕・高杯ともかなり類似している。これは、住居144で切り合い関係があるものの、両者が非常に近い性格を有することを示すものと考えられる。実際、住居132の甌4513と住居185の甌5178は、同じ胎土（砂粒少ない）の可能性が高く、住居132の長胴甕4497と住居185の甕5176・高杯5180もほぼ同じ胎土（砂粒非常に多い）と思われることは、これを裏付けている。さらに、窪木薬師遺跡「竪穴住居-13」（III類）では口縁部が短く外反する須恵器壺「215」が出土している。これがT G 232号窯の「D類」に該当するとすれば、頸部の突帯が沈線となっており、T G 232号窯より後出することを示唆すると思われる。つまり、II・III類はT G 232号窯より新しいと推定でき

るであろう。

IV a類については、甕等の顕著な差異はないが、高杯J類が認められる。これは、高杯I類とK類の中間的な形態として位置付けられ、時期差と考えたい。これは須恵器からも言える。I～Ⅲ類とIV a類の一部では初期の様相を呈するが、IV a類の住居142の高杯4603や住居179の杯蓋5051はTK216・208型式に相当する。また、I b～IV a類で比較的よく出土している甕B2類は、布留式期IV～<sup>(6)</sup>Vの甕に類似している。これは畿内では、TK208型式までの須恵器や軟質土器と共伴しており注目される。一方、高杯K類を出土するIV b類は他とは異なり、甕・高杯とも類型の組成が単純で、ほとんどがTK23・47型式の須恵器を伴うことは明らかである。

I b～Ⅲ類の土師器は厳密な細分が可能かどうかかわからないが、以上の点から、I a類はTG232号窯に近い時期、Ⅱ・Ⅲ類はTK73（・216）型式に並行する可能性が考えられる。次のIV a類はTK216・208型式、IV b類はTK23・47型式に並行すると考えることが妥当と思われる。

#### 須恵器・軟質（系）土器ほか（第1503図）

I～IV a類の須恵器には、高杯・（把手付）椀・把手付小形壺・鉢・甕・壺などがあり、ほとんどが初期の須恵器に見られる特徴を示す。また、基本的に杯が伴っていない点もそのような特徴を反映しているものと思われるが、ハケメを多用する壺・甕が確認されないことは注意される<sup>(7)</sup>。一方IV b類では杯が多く、当地域におけるこの器種の使用が一般化する時期を示していると考えられる。他には、長胴甕や土師器高杯の形をしたもの（4961・5181）もある。

軟質（系）土器もI～IV a類に多く、平底鉢・長胴甕・甗がある。平底鉢ではI類で5227、Ⅲ類で4678のように最大径が胴部上半にあるものと、IV b類の5246のように中央にあるものがあり、時期差を示す可能性がある<sup>(8)</sup>。長胴甕等の外面に施されたタタキが格子タタキのみである点は、奥ヶ谷窯跡と共通し当地域の特色と思われる。また、長胴甕4497の口縁端部は沈線をめぐらせたような形状で、高杯4899や土師器高杯I類の口縁端部の処理と同じであることは注目される。甗では口縁部が真っすぐのびるものや内湾するものもあるが、緩やかに外反するものが多い。棒状の把手は水平方向を指向してのび、特有の切り込みを持つものもある。

この他、須恵器壺の影響がうかがえる土師器や、杯部と脚部の接合面に同心円と放射状線刻、刺突等を組み合わせて施す高杯などもI～IV a類で目立つ。特にこの高杯の口縁端部は水平面を形成するものが多く注意される。

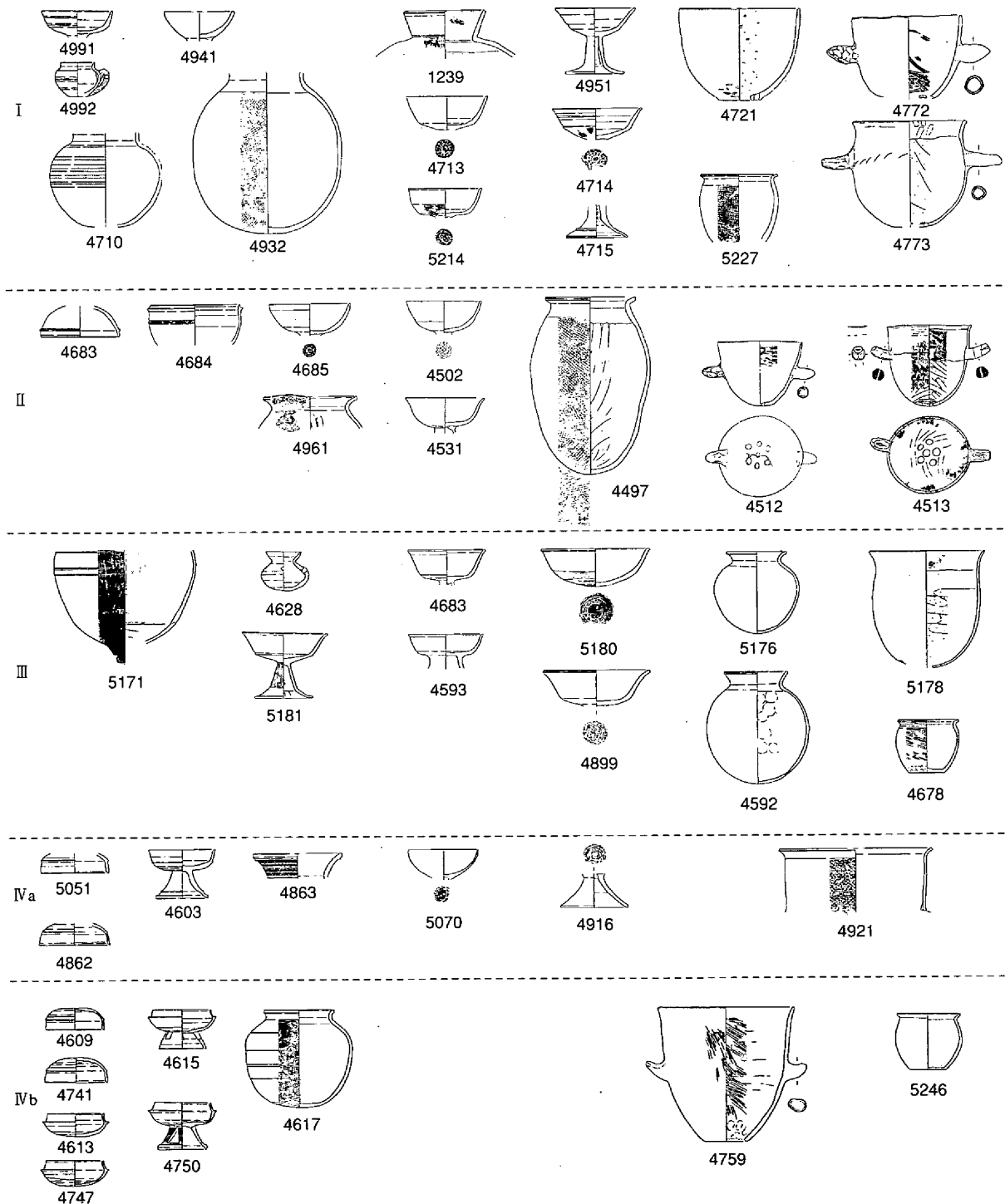
#### まとめ

高塚遺跡の古墳時代集落は前期初頭から認められており、I a類の時期（TG232号窯並行期頃）まではフロヤ調査区から角田調査区西半を中心に展開している。この傾向は、I b～Ⅲ類の時期（TK73型式並行期頃）にかけて大きく変化し、前期の住居がほとんど検出されていない角田調査区の東半部にも拡大している。この際、正方形で4本柱の住居系譜と並行して、カマドを有する2本柱の住居が出現、土器や他の遺物の様相からも、この時に一定規模の渡来集団の受容が行われたものと推測される。おそらく彼らやその保有する文化の一部は、在地集団にすみやかに受け入れられ、共生を始めたものと思われる。そうした事態が短期間のうちに進展し、一時混沌とした状況を生み出したことは、カマドを含めた住居構造や土器の多様性などの観点から首肯けるであろう。

しかし、IV a類の時期（TK216・208型式並行期頃）にいたって、それまでの多様性は解消・整理されていくものと思われる。つまり土器や住居が新しい要素を取り込み、倭の文化として「定型化」

を遂げた時期と言えよう。<sup>(9)</sup>また、この時には住居の方向性にも変化が現われており興味深い。<sup>(10)</sup>

当集落に示される性急な人や文化の受容が、時の流れの中で、ある程度自然に進行したものであるとすれば、双方には何らかの歴史的な友好関係が存在することが大前提となるであろう。しかし、そもその事の発端や規模、進展速度によってはもっと複雑な状況を呈し、非友好的な関係さえも十分考えられる。いずれにしても大規模で、受け入れ側に強い需要があったとすれば、政治的な力が強く働いたであろう。<sup>(11)</sup>この経緯や主体者像については今後、多角的に検討する必要がある。(柴田)



第1503図 竪穴住居出土の主な須恵器・軟質土器・模倣土器 (1/12)

註

- (1) 当地域の土師器編年については、以下の文献を参考にした。今回取り上げたものは、おおむね11~13期(高橋)、II~IV期(平井ほか)に相当する。また、須恵器の編年については基本的に陶邑のものを援用する。  
高橋護「土師器の編年3 中国四国」『古墳時代の研究』6 土師器と須恵器 1991  
平井泰男・高畑知功・柴田英樹「集成11土師器」『吉備の考古学的研究(下)』 1992  
田辺昭三「須恵器大成」角川書店 1981
- (2) 井上弘ほか「山陽自動車道建設に伴う発掘調査10」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』98岡山県教育委員会 1995
- (3) 島崎東ほか「窪木薬師遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』86岡山県教育委員会 1993
- (4) 菅生小学校裏山遺跡「溝-1」の出土土器には時期幅があり、当遺跡の河道7の土器と共通する点が認められる。須恵器器台「442」はTG232号窯の「A-1類」に該当すると思われ、須恵器高杯「440」もTG232号窯と共通する特徴を有する。また、壺や高杯「604」は河道7下層と類似している。ただし、I類に相当する土師器高杯「618」や軟質土器平底鉢「601」、少数だが甕B2類が認められ、住居144の須恵器甕と器形がよく似た「490」もある。  
中野雅美ほか「山陽自動車道建設に伴う発掘調査5」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』81岡山県教育委員会 1993
- (5) 岡戸哲紀・藤田憲司ほか「陶邑・大庭寺遺跡IV」『(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書』第90輯 大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会 1995
- (6) 米田敏幸「土師器の編年1 近畿」『古墳時代の研究』6 土師器と須恵器 1991
- (7) ハケメは、TG232号窯や奥ヶ谷窯跡で顕著に認められるため、初期の様相を示すI~III類・IVa類(一部)のほとんどがそれらより新しいか、一部同時期でも生産場所が異なることを示唆する。ただし、土師器の甕にはこれに似た粗いハケメを施すものがあり注目される。  
江見正己ほか「中国横断自動車道建設に伴う発掘調査4」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』121 岡山県教育委員会 1997
- (8) 大庭寺遺跡では、平底鉢の最大径の位置により、胴部上半の「393-OL」から中央部の「1-OL」への変化を提示している。
- (9) この移行時には、住居の壁や屋根等にも変化があったと思われる、煙道が燃焼部下方から横方向へのび、壁外に出ている。
- (10) I~III類の住居軸は北東~南西で前期とあまり変化はないが、IV類では南北方向がやや目立っていることや、カマドの位置が、II・III類で東あるいは南、IV類では北優位となっている点である。カマドは、住居平面形と柱配置そして出入口の関係から、合理的な配置になっていると考えられ、前者では人が頻繁に西へ向かって行動していた様子が、後者からは南へ行動する様子が想像される。この変化の原因は今後の検討課題である。
- (11) 当地域ではこの後、鉄器生産が盛んになっている。これは、単に朝鮮での政情不安を契機に技術者(集団)が渡来し定着したと考えるより、それ以上に当地の首長が彼らの招来を積極的に行った結果と見るのが妥当であると思われる。そして、この事態に大きく関与していたのは、造山古墳ないしは作山古墳の被葬者であろう。

## 6 古代・中世における集落の変遷

掘立柱建物を中心とする古代・中世の遺構は、それ以前の遺構群との切り合いの煩雑さ（調査の主眼が弥生・古墳時代が中心となったことも否めない）から、十分に認識できていない場合がある。特に柱穴などの時期が曖昧なものは、時期別の全体図からは省略している。つまり復元された掘立柱建物は当時の様子のごく一端を示すに過ぎない。さらに、近世以降の耕作に伴ってそれらの遺構が削平を受けた可能性もあることから考えても、当遺跡における古代・中世期の評価を低くみることはできないであろう。

### 当該期における遺跡の範囲

遺跡の北側は、河道3によって北側に位置する現在の高塚集落の乗る微高地とは分けられている。この河道は、トレンチによる調査のみであったが古墳時代の遺構を切って流れており、室町時代には徐々に埋没していたことが縁辺部の遺構の存在からも明らかである。この河道は、足守川への舟運に利していたばかりでなく防御的機能を有していた可能性は、中世集落の様相からもうかがい知れよう。また東では、現在の足守川と交差するように東西方向に走る河道によって三手遺跡との境をなしている。遺跡の西・南端はわからないが、調査地の南側では河道9の肩ラインを西に延長するように直線的に東西方向に走る現在の農道が走り、これが中世の屋敷群の南端線を踏襲している可能性があると思われる。

### 古代

遺構は、角田調査区からフロヤ調査区の東半部にかけて存在し、塚廻り調査区には存在しなかった。その内訳は、掘立柱建物9棟（うち倉庫と考えられる総柱建物5棟）、火葬墓1基、土墳墓1基、土墳5基である。また、井戸6は方形横棧支柱立板型の井戸であり、古代の遺物は出土しなかったが、土層断面と遺物の検討から13世紀前葉にはかなり埋没しており、その構築年代は古代にさかのぼるであろう。

遺物としては、奈良時代から平安時代末までの土器類が散見されるが、なかでも河道9からは9世紀代の土器類がまとまって出土しており、当該期の遺構は特定できないものの居住域あるいは人口の拡大がみられたことの傍証ではなかろうか。また、青銅製帯金具（巡方）、平城宮6225垂式の瓦や硯、鉄鉢形土器、丹塗り土器の存在などから一般的な集落とは考えにくい。

なおこの地は、総社市服部地区や岡山市足守地区にみられる条里制地割の南東端に位置し、調査地を中心とした周辺においても、必ずしも顕著ではないものの、東西南北方向の水田畦や水路を看取することができる。そこで真北を志向した溝30・31に注目すると、そこからは中世の遺物も出土しているものの奈良時代から平安（10世紀代）時代にかけての土器も比較的多く出土している。さらに、この溝と同様やはり真北方向へ流れる溝47・48があり、そこからは中世の遺物のみが出土したものの、両者間の距離はほぼ1町となることからその掘削時期が注目される。次に述べる中世前期の遺構群とは、この地割を踏襲して成立したのではないだろうか。

### 中世

溝によって区画された屋敷地が7か所存在する。ただ各々の成立の時期と存続の時間幅は微妙に異なる。また、屋敷地6ではさらにその内側を方形に囲う溝が存在し、この村の中心的な屋敷であった可能性が高い。屋敷地の全容が明らかとなったものはないが、屋敷地5は東西の幅50mあまり、屋敷

地6のうち溝32に囲まれた範囲は東西・南北が約35mであった。なお、石組み井戸2～5は各屋敷地に付属し、いずれも室町時代以降と考えられている。

なお、屋敷を区画する溝は17世紀初頭までの遺物を含んでおり、その一部は水路として近年まで利用されたと思われる。また、中世の建物やそれを取り巻く溝を切った素掘り溝群は畑作に伴うと考えられるが、17世紀初頭の土器が出土しており、江戸時代の所領化に伴い耕地へと転化したとみられる。

以下に中世を前期（鎌倉時代）と後期（南北朝・室町～戦国時代）に分けて、屋敷地ごとに遺構の変遷の概略を述べたい。

#### 中世前期の遺構

調査地の全域に遺構が存在する。先述した溝30、31のいずれかと溝47はこの段階においてすでに機能していたと思われる。屋敷地3・4間や6・7間の自然河道や現代の用水路（未掘）も屋敷地を画していたかもしれない。なお、屋敷地7・8の遺構は大半がこの時期に属し、この期以降は衰退していったと思われる。

#### 中世後期の遺構

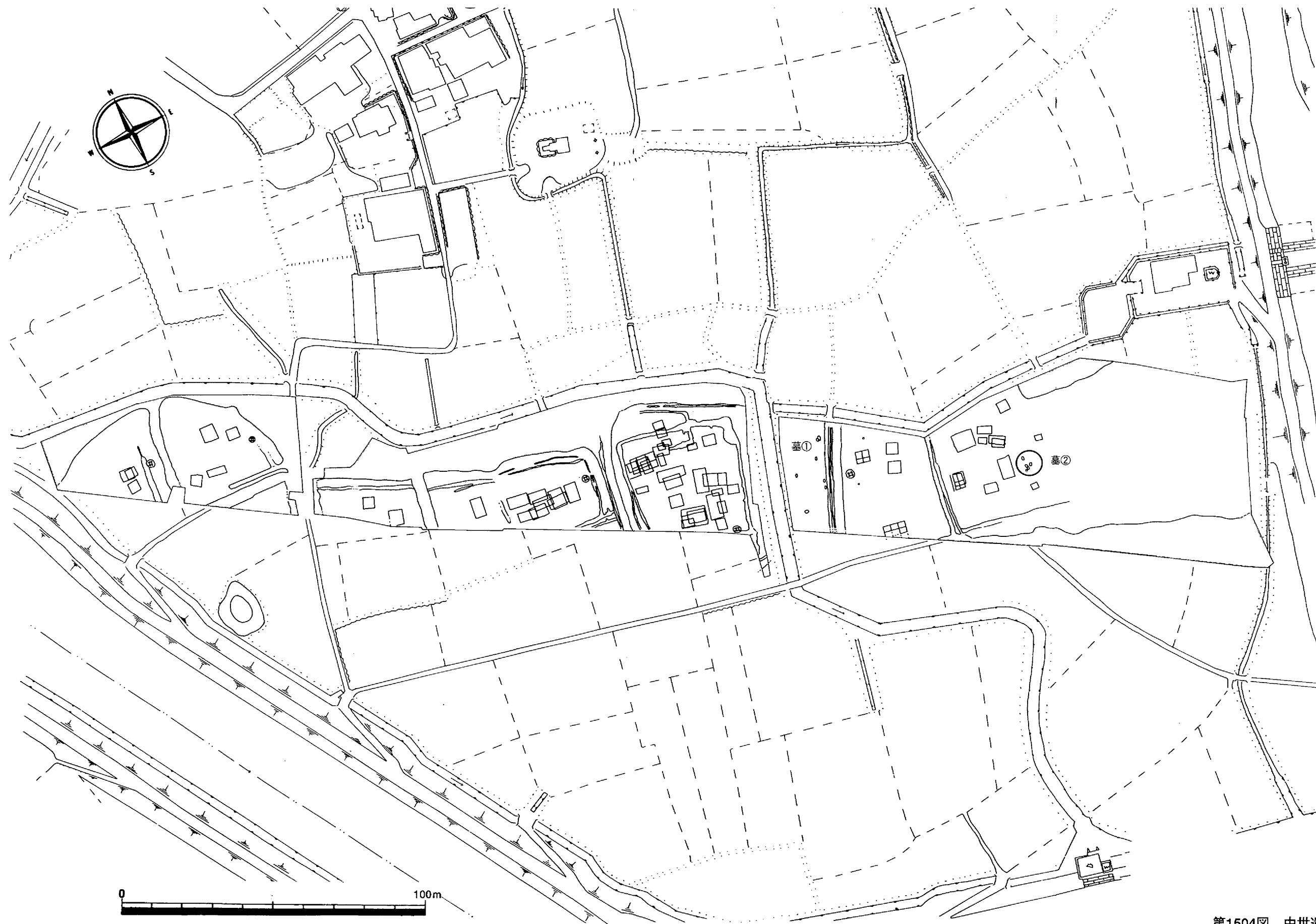
屋敷地1・2では井戸2に切られた溝3と溝6があるが、この箇所における屋敷地割は開放的なものであった。

溝48は溝47の掘り直しであり、15世紀まで機能していたとみられる。同様に溝31についても溝30がこの段階においてより大規模なものへと改修されたとみたい。溝43～46は、そのほかの区画溝と方位を違えており、遺構の切り合いと出土遺物からみてほかの区画溝に後出し、14世紀中葉以降に掘削され、17世紀前半には埋没しているようである。建物56・57はこの溝に平行して建てられており、時期も近いと思われる。また、溝20もこの時期であろう。

後期でも後半には、屋敷地1・2はより防御的な溝4・8によって画される。屋敷地4の溝11、さらには屋敷地5内ではさらに溝21、溝22～26によって囲まれた屋敷が、屋敷地6では溝33に囲まれた屋敷が出現する。石組み井戸はこの段階の各屋敷に属する。

なお、時期は明確にできなかったが、屋敷地2の北部にある掘立柱建物4の北側と掘立柱建物5のP9において炭化した穀類が出土している。この2棟の建物が穀倉であったと考えられることと、何らかの理由で焼失した可能性が考えられる。

**掘立柱建物** ここでは、掘立柱建物の復元が精力的になされた屋敷地6を取り上げたい。まず、建物の軸線が正方位に近い一群がある（建物29～35・37・39～41）。この一群は区画溝33と切り合い関係にある（建物29・35）か、非常に近接し（建物30・34）ており、同時には存在し得ないと判断できる。この群は溝30・31に規制された、中世前期の建物が主体であろう。ついで、棟方向がN-11°-E～N-17°-E、N-74°-W～N-79°-Wの間にある一群（建物36・38・42・45～47・49～53）と棟方向がN-17°-E、N-74°-Wの一群（建物36・38・43～48・50・51）がある。この両群のうち前者については、時期的な差異として認定することは困難であろう。建物33・53などは位置関係から溝32とは先後関係にあるとみなしたい。また、大型建物44・48・50が溝32によって囲われた宅地の主屋であった可能性が高い。しかも、溝32には一度の改修があることから、建物45と建物50（この2棟は渡り廊下などで繋がっていた可能性を考える）、建物44と建物48が各々同時に存在した可能性があるだろう。



第1504図 中世遺構の配置



次に、その構造と規模についてみる。1×1間（床面積4.5～8.3㎡）の建物は、7軒を数えた。2×1間（7.7～20.5㎡）は、14軒を数え、2×2間（10.8～23.9㎡）は、11軒あった。3×1間（14.5～25.3㎡）は、9軒あり、3×2間（12.2～42.8㎡）は、10軒を数え、3×3間（13.4～16.4㎡）は、3軒であった。また、桁行き4間の建物（15.3～50.8㎡）は、8軒存在した。さらに、桁行き5間の建物（21.5～40.9㎡）は、3軒であった。このうち最大規模は、屋敷地6の中心的建物である4×4間の掘建柱建物44で、床面積が50.8㎡を測った。これを同時期における県下最大級の掘建柱建物と比較すると、笠岡市園井土井遺跡<sup>(1)</sup>の建物が77㎡、山陽町馬屋遺跡<sup>(2)</sup>の建物19が68㎡であり、これらよりはひとまわり小さい。しかしながら、新見市に所在し、国人領主層の田治部氏の居館である田治部氏屋敷址<sup>(3)</sup>において、遺構の最盛期とみられる16世紀代に位置付けられた中心的建物の建物1（51.6㎡）とほぼ同規模であったことは、当遺跡の屋敷群の階層性を考えるうえで参考となろう。

**墓** 屋敷地単位で墓地を形成する。屋敷地7の西部に墓地を形成する①群と、屋敷地8の東端に形成する②群がある。前者は不定形な墓壇に人骨のみを埋葬するものが多いが、なかには上部施設とみられる礫群が墓壇内に落ち込んでいるものもある。後者では土壇の平面形が長方形を呈し、釘などの出土から木棺の使用が明らかである。副葬品には鏡、槍、刀、輸入陶磁器がみられる。この両者の違いは、2つの屋敷における優劣関係を示していると考えられよう。また、土壇墓2・6・7・18は屋敷地内に単独で存在し、いずれも伸展葬であった。なお、烏帽子の出土した墓17は、弥生時代の住居の覆土を掘り込んでおり、その概要のほとんどは不明であったが、13世紀末ころの土師質高台付椀が出土している。さてこれらは決して副葬品が傑出しているとはいえない（墓6・7は削平を受けている）ものの、墓18は②群のいずれよりも先行することから、屋敷の初代当主であった可能性を考えたい。いずれにせよ村内における侍身分の存在を知ることができる。

さて、出土遺物のなかでも陶磁器類について若干触れておく。包含層出土の例が多く、土師器との共伴関係に乏しいが、古相を示すグループに白磁碗・皿Ⅳ類、皿Ⅵ類、青磁の龍泉窯系・同安窯系碗・皿Ⅰ類があり、さらに14世紀以降の白磁のB・D類、龍泉窯系Ⅳ類とそれ以降の青磁類がみられる。出土した在地産土師器や土師質土器、須恵器や須恵質土器をみると、12世紀に属するものがごくわずかで、13世紀初頭以降出土量が増加し、15世紀代にかけて連綿と出土していることからみて、輸入陶磁器類の前者については、おもに13世紀代に使用されたとみるべきであろう。また、優品は少ないものの、大型盤などは一般的な集落から出土することが少ない遺物である。

#### まとめにかえて

山陽自動車道建設に伴い足守川左岸に沿って長さ1km強、幅60mにわたって発掘調査を行った、三手遺跡と津寺遺跡土筆山調査区および丸田調査区（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告90『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』9とし報告書を刊行している）を参考に瞥見する。

三手遺跡では、足守川を隔てて高塚遺跡に近い向原Ⅱ区において、狭長な微耕地上の低地に水田が検出されており、平安時代末にはすでに開墾されていたようである。ただし、津寺遺跡に連続する遺跡東部は近世まで湿地帯であった。微高地北西端部にある二面庇をもつ建物はお堂であろうか、その周りを土壇墓群がとりかこみ、副葬品をもつものでは平安時代末の土壇墓1（三手遺跡）をはじめ鎌倉時代初めの土壇墓2・3がある。中世段階には東半部においても水田化が図られ、畦畔の方向から条里地割の存在が想定されている。

土筆山調査区においも、少なくとも平安時代には水田の開墾が行われている。そして、12世紀に属

する遺構としては墓16がある（第1期）。

中世段階では大きく三つの単位の溝で囲まれた屋敷地があり、溝を中心とした遺構の切り合いから、集落の長期間の存続が考えられる。第2期（13世紀中～14世紀初）は、溝11・16を中心とした遺構である。第3期（14世紀中～15世紀前）は溝9などがある。第4期（15世紀代）は溝7・12を中心とした遺構がある。それ以降も溝は埋没しているが引き続き近世にかけての遺構が認められた。また、屋敷群北辺部と水田の間の微高地部は13世紀代を中心とする墓地であった。出土した遺物の量からは、14世紀代の土師質土器のへそ椀が目立ち、そのころが集落のピークであったと思われる。

次に、丸田調査区をみてみたい。ここでは9世紀代にはすでに微高地上において東西南北方向の格子目状溝が、低位部においても耕作に伴うとみられる溝が確認されている。また、10世紀以降は掘立柱建物や井戸、土壙などの遺構が存在する。中世では、14世紀にはすでに掘削されていたとみられる溝によって区画された屋敷地が3～4か所確認された。そのうちの一角では、鍛冶炉6基と鍛冶工具を多く副葬する土壙墓の存在から、鍛冶職人の屋敷であった可能性がある。

さて、この地の開発が少なくとも平安時代にさかのぼり、鎌倉時代には条里地割を踏襲した屋敷区画溝が成立し、集村と呼べるような状況を呈していたことはこれまでにみてきた通りである。これが室町時代になると、それまでの区画溝間においてさらに溝によって建物や井戸の四周を囲う宅地が成立し、より防御的な集村化した村の様子を呈することとなり、その変遷から富裕農民層から国人化への過程をたどることができそうである。

ところで、高塚遺跡や三手遺跡の所在する地は、律令制施行時には郷としての記載はなく、北に隣接する足守郷の一部であったと推定されており（津寺遺跡は津宇郡河面郷）、平安時代の中ごろには生石郷として分離、設置されたことが『和名抄』によって明らかである。さらに平安時代末には、八条院領の荘園であったことが知られるが、嘉応元年の足守荘絵図への記載が荘園としての初出であり、同2年には生石荘の田堵である散位賀陽清仲によって足守荘の所領の寄進が申請されている。生石郷（荘）の開発と高塚遺跡とのかかわりについては、今後の検討課題であろう。

さらに下って戦国期に入ると、天正年間に「井孫左」が総社市の宝福寺へ22貫文目を進納しているほか、この地域において生石姓の国人が活動している様子も文献からうかがい知れるところである。さて、天正10年の高松城水攻めのころには、この地はいわゆる境目に位置し、文献に記載されながらも所在の明らかでない「生石城」とともに何らかの役割をになっていたかも知れない。またそれが集落廃絶の一つの要因となったのではなかろうか。

やがてこの地は慶長6年には、足守藩木下家の所領となっており、耕地化もその段階で図られたとみられるのである。

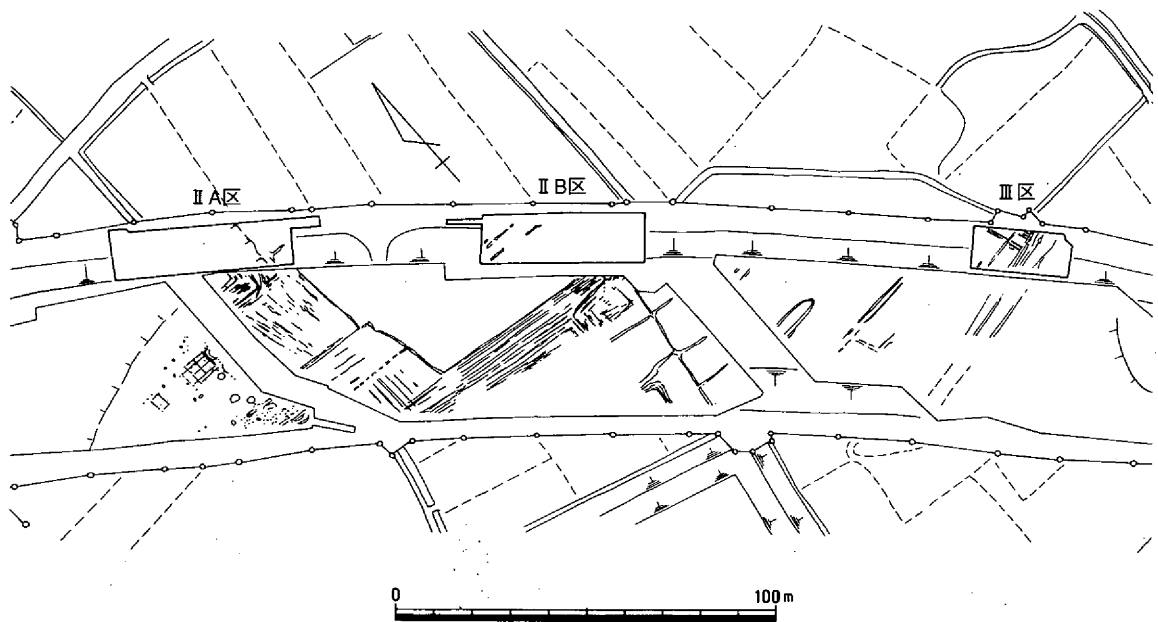
（弘田）

#### 註

- (1) 岡山県教育委員会【本谷遺跡ほか・園井土井遺跡・鍛冶屋遺跡】岡山県埋蔵文化財発掘調査報告70 1988
- (2) 岡山県教育委員会【松尾古墳群・斎富古墳群・馬屋遺跡ほか】岡山県埋蔵文化財発掘調査報告99 1995
- (3) 岡山県教育委員会【田冶部氏屋敷址】岡山県埋蔵文化財発掘調査報告67 1988

## 第4章 三手遺跡

### 第1節 調査の概要



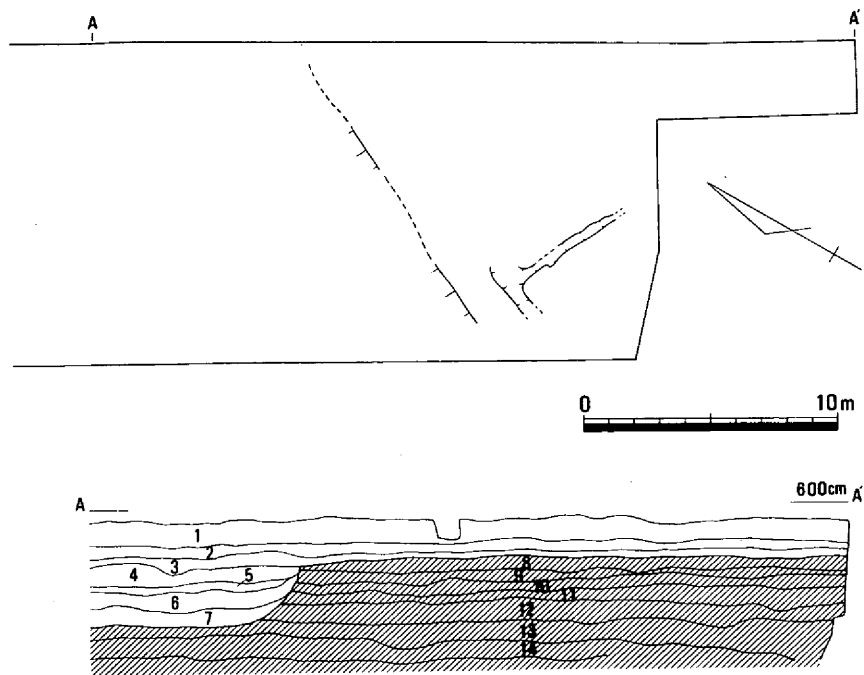
第1図 発掘調査位置図 (1/2,000)

#### 1 向原 II A区の概要

この調査区は、三手遺跡の西北端部に位置し、前回調査の北側にあたる。今回の調査区は、前回調査の知見からみて中世から近世の水田層が広がっていると考えられた。調査の結果でも、調査区全域に中世から近世以降の水田層が確認された。以下、その概要を記す。

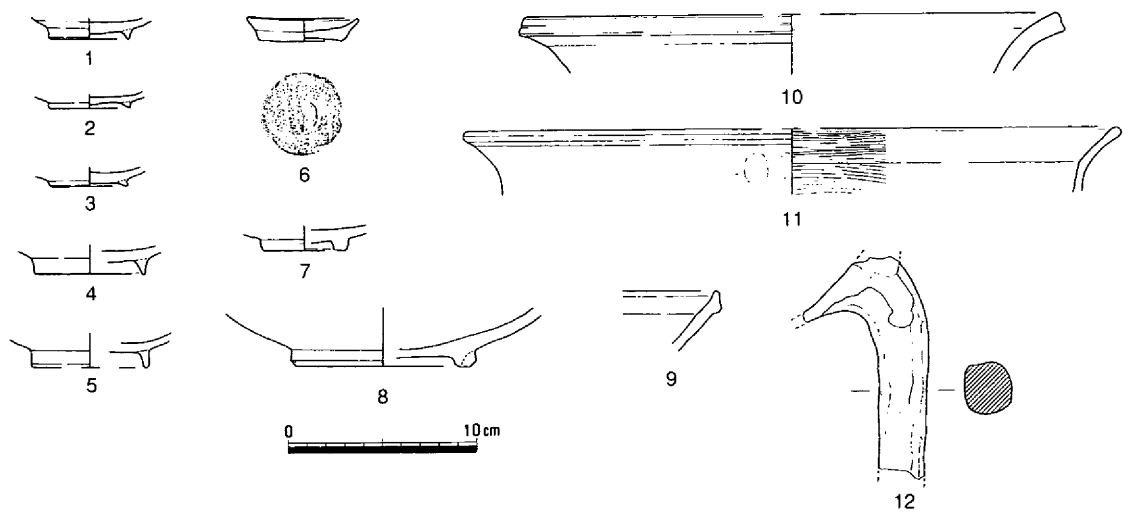
II A区では、第2図第3層下でほぼ南北方向に西側に落ちる状況を確認した。この落ち込みは、第3層～第7層が若干の凹凸が認められるもののほぼ水平堆積を示しており、この状況からみて水田層と判断された。また、この西側に落ち込む南北の方向は、現在の地割りの基軸線と合致している。これらの水田層からは、中世の時期を示す土器が若干量出土したが、これらの遺物に混ざって7・8などの近世陶磁器が確認されており第3層～第7層の水田層も近世と考えられる。東側の高所部には、第2図に示したように西側への落ち込みから約170cm東側に、T字状の溝の一部を確認した。この溝は、落ち込みと平行、直交の位置関係を示している。次の第8層～第14層については、上部層については中世の土器が少量包含するものの下部層からの出土遺物は認められない。第8層下の上部層は、その堆積状況からみて水田層と考えられ、時期も中世の可能性が強い。下部層については、時期及び水田層かどうかについても不明である。

(中野)



- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1 旧表土      | 6 灰褐色粘質土   | 11 灰褐色粘質土  |
| 2 灰綠色砂泥    | 7 暗灰黄褐色粘質土 | 12 灰茶褐色粘質土 |
| 3 淡灰綠色砂泥   | 8 淡灰綠色砂泥   | 13 灰色粘質土   |
| 4 淡茶灰褐色砂質土 | 9 灰黄褐色砂質土  | 14 暗灰色砂質土  |
| 5 淡灰黄褐色粘質土 | 10 淡灰褐色粘質土 |            |

第2图 向原ⅡA区平断面图 (平面1/300·断面横1/300, 縦1/60)



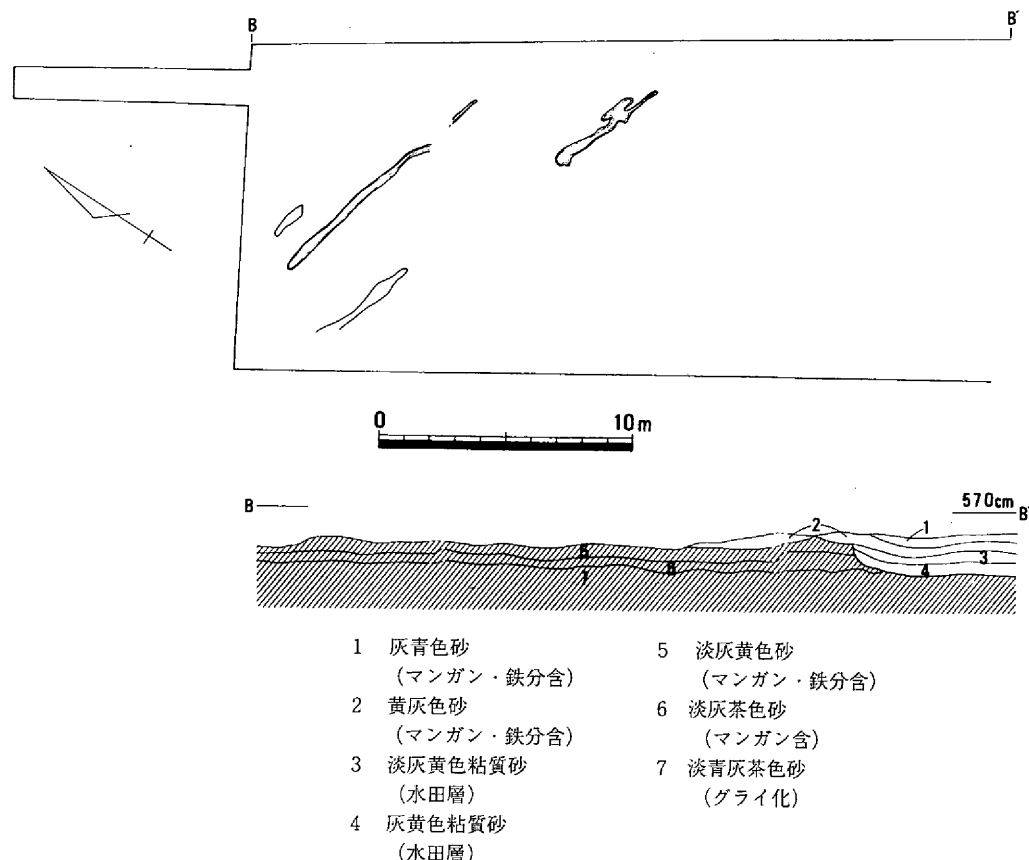
第3图 向原ⅡA区出土遺物 (1/4)

表1 向原ⅡA区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1	包含層	土師器?	椀	-	4.3	-	灰白色 (2.5Y7/1)	細砂、精良	
2		土師器	椀	-	4.4	-	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	貼付高台 黒斑C
3		土師器	椀	-	4.1~4.0	-	灰白色 (2.5Y8/1)	細砂、粗砂	早鳥式? 貼付高台
4		土師器	椀	-	5.8	-	浅黄橙色 (2.5Y8/2)	細砂	早鳥式? 貼付高台
5		土師器	椀	-	(6.0)	-	灰白色 (2.5Y8/1)	細砂	早鳥式? 貼付高台
6		土師器	小皿	5.9	4.4	1.2	浅黄橙色 (7.5YR8/2)	細砂、粗砂	ロクロの回転方向右、ヘラキリ底、圧痕あり
7		肥前陶磁器?	皿	-	4.4	-	灰白色 (5Y7/1)		釉調: あまり光沢がない-灰白色 (7.5Y7/1)
8		肥前陶磁器?	皿	-	9.2	-	鈍橙色 (2.5YR6/3)	細砂、粗砂	釉調: 光沢あり-褐色 (7.5YR4/4) 内面に胎土目
9		須恵器	こね鉢?	-	-	-	灰白色 (N8/)~灰色 (5/)	細砂	
10		須恵器	甕	(27.8)	-	-	灰白色 (N7/)	細砂	
11		土師器	鍋	(34.0)	-	-	灰黄褐色 (10YR5/2)	細砂	
12		土師器	鍋	-	-	-	灰黄色 (2.5Y6/2)	細砂	スス有り

## 2 向原ⅡB区の概要

調査区は前回調査を実施した向原Ⅱ区の北東側に接し、中世以後の水田が広がっているものと推定される。基本的な層位は、現代の耕作土直下からマンガンや鉄分を含む砂質土の水平体積層が重なっ

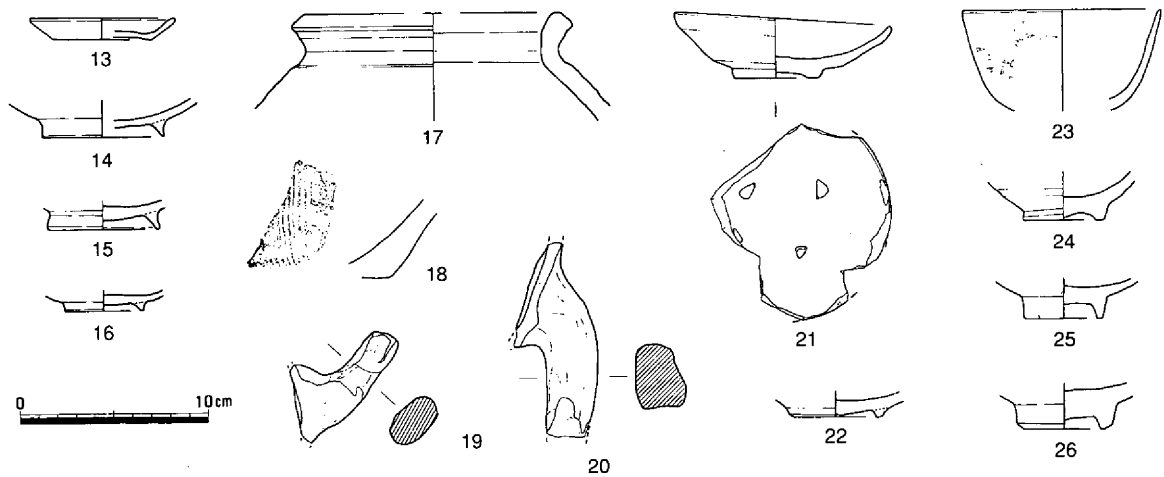


第4図 向原ⅡB区平断面図 (平面1/300・断面横1/300, 縦1/60)

ており、長期にわたる水田の形成を裏付けている。具体的な層位をB-B'の土層断面で見ると、北側の水田層を切って南東側に淡灰黄色粘質砂と灰黄色粘質砂を耕土とする2層の水田が形成されている。さらに、前者と後者を覆うように灰青色砂や黄灰色砂を耕土とする水田が形成される。大局的に見ると、土層5・6・7、土層3・4、土層1・2の3回ないし3時期の水田形成が認められる。その時期を決める確証はなく、現状では中世から近世という幅の中で考えておきたい。

なお、淡灰黄色砂上面で検出された東西方向に軸線を揃える浅くて細い溝は、畝状の遺構と考えられることから、畑地となっていた時期も想定される。

遺物はすべて土器で、各水田層から少量出土した。土師器の皿、椀、鍋、備前焼の壺や播鉢、肥前の皿や椀、染付の椀、唐津の椀、青磁椀などが認められ、中世から近世に至る水田形成の一端を示している。なお、19は土師器の甑で、中世以前のものである。(平井)



第5図 向原ⅡB区出土遺物(1/4)

表2 向原ⅡB区土器観察表

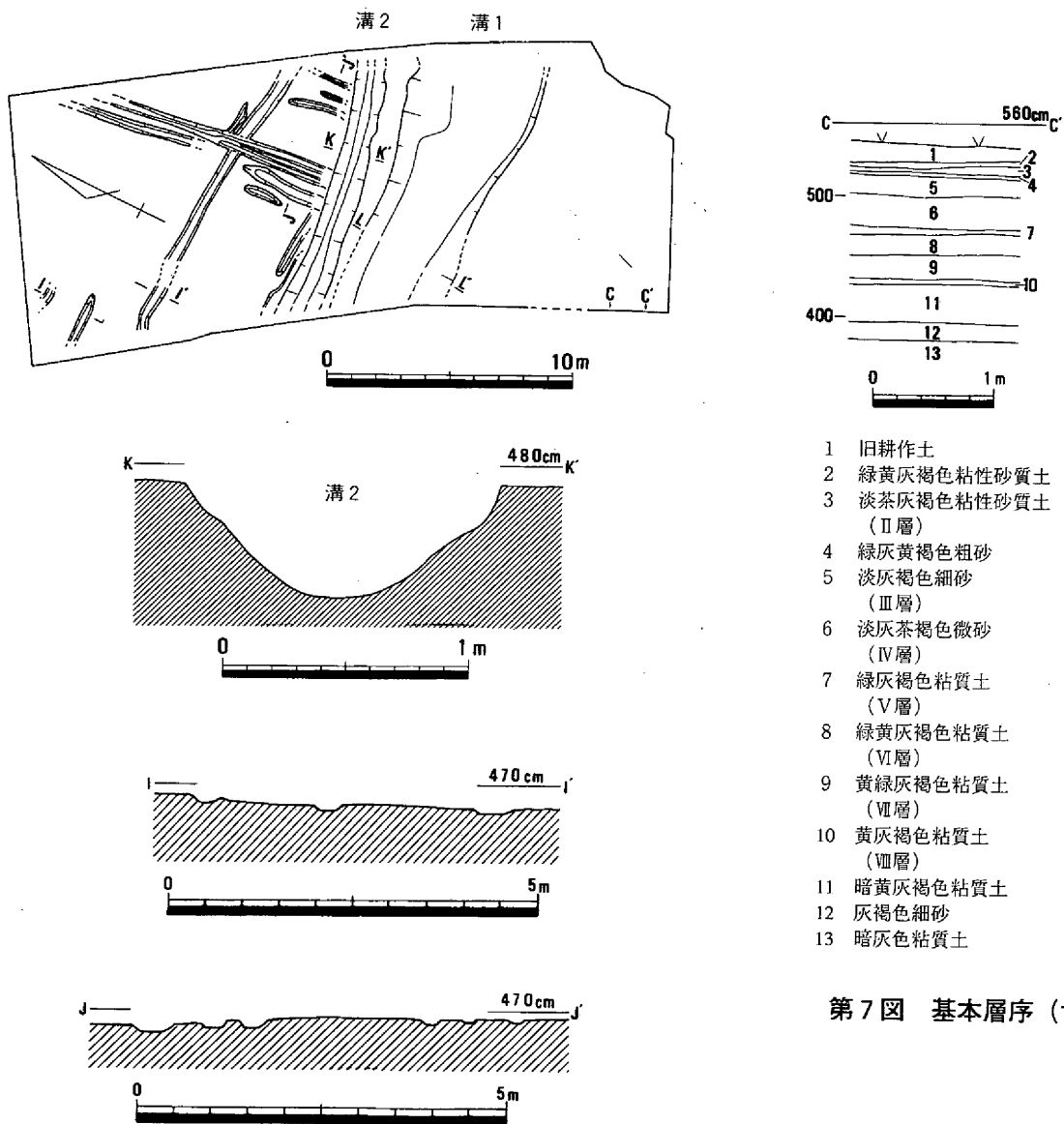
挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
13	包含層	土師器	皿	7.7	5.2	1.2	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
14		土師器	椀	-	6.4	-	鈍黄色(2.5Y6/3)	細砂	
15		土師器	椀?	-	5.8	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	
16		土師器	皿?	-	4.2	-	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
17		備前焼	壺?	(13.2)	-	-	褐灰色(10YR4/1)	細砂	
18		備前焼	播鉢	-	-	-	褐灰色(10YR5/1)	細砂	内面に卸し目
19		土師器	甑?	-	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	把手のみ
20		土師器	鍋?	-	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	脚部のみ
21		肥前陶磁器?	皿	11.2	(4.4)	-	灰白色(10YR7/1)	細砂、粗砂	釉調：光沢あり-灰オリーブ色(5Y6/2) 内面に胎土目
22		肥前陶磁器?	皿	-	4.9	-	鈍橙色(7.5YR7/3)		釉調：光沢なし-明緑灰色(10GY8/1)
23		染付	椀	10.2	-	-	明緑灰色(7.5GY8/1)		釉調：光沢なし-灰白色(N8/)
24		唐津	椀(高台)	-	4.2	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	釉調：光沢あり-灰オリーブ色(5Y6/2)
25		肥前陶磁器?	椀(高台)	-	4.0	-	灰白色(7.5YR8/2)		釉調：光沢なし-明緑灰色(10GY8/1)
26		青磁	椀(高台)	-	4.2	-	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	釉調：光沢あり-オリーブ灰色(10Y6/2)

### 3 向原Ⅲ区の概要

向原Ⅲ区は、今回の調査区の南端に位置し、前回調査との関係では、向原遺跡の東南端に位置している。基本層序としては、旧水田の耕作土が20~30cm、さらに床土が5~15cmがあり、その下層には近代から近世の水田層が存在する。VI層の淡灰茶褐色の微砂層を切った幅50cm、深さ15cm前後の溝状遺構がほぼ東西に10数条、溝が検出される。VI・VII層は中世水田あるいは畑と考えられる。VIII層以下は自然堆積層と考えられ、無遺物層となる。VI層を切った状態で、上層の東西方向とは異なる南北に走る溝状遺構、畑を区画するような溝が東西に1条、南北に1~2条みられ、溝2の北で交差する。

#### (1) 下層の遺構と遺物

溝1は、幅380~510cmを計り、深さは140~150cmである。溝検出面の標高は474cmである。調査区

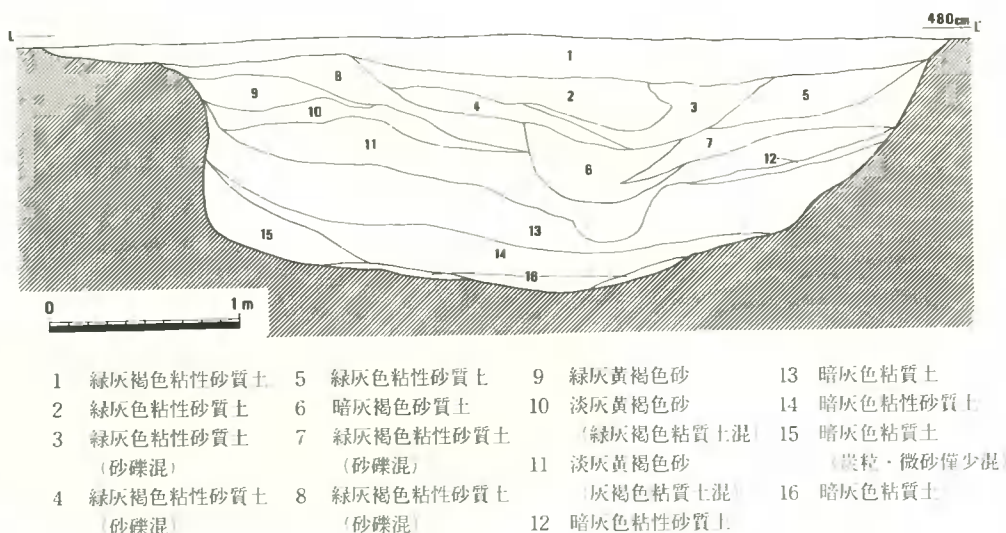


第7図 基本層序 (1/30)

第6図 下層遺構配置図および断面 (1/300, 1/30, 1/100)

をほぼ東西に走り、西から東に流路を取る溝である。溝内は複雑な流れをしていたようで、何回も改修が行われている様子が見られる。このことは水田用の水路として長く使用されていたことがうかがわれる。VI層の緑黄灰褐色粘質土を切り、東西に数条、幅40cm～50cm、深さ10～15cmの溝状遺構が南北に7条が部分的に1条は東西のものと交差するように検出された。溝内は灰白色細砂である。

溝1内からは29のにおい黄褐色を呈し、低い貼り付け高台を持つ土師質椀（早島式土器）、33の瓦質ぎみの貼り付け高台を持つ椀底部、36は底部を指で押えた土師質椀（早島式土器）、37の淡黄色を呈す無高台の土師質椀（早島式土器）などが出土している。これらはいずれも中世後半期に属するものと考えられる。（伊藤）



第8図 溝1 (1/40)

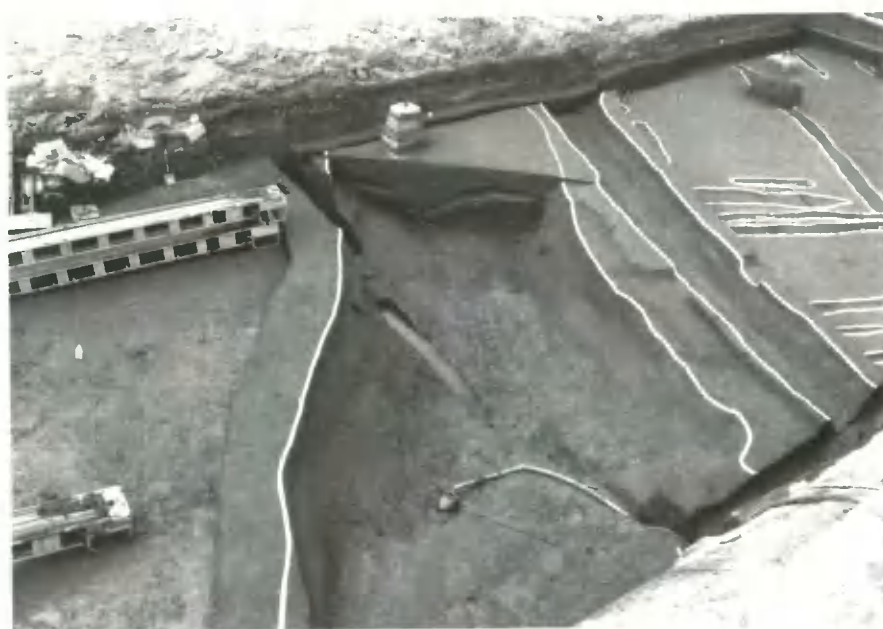


写真1 溝1 (東から)



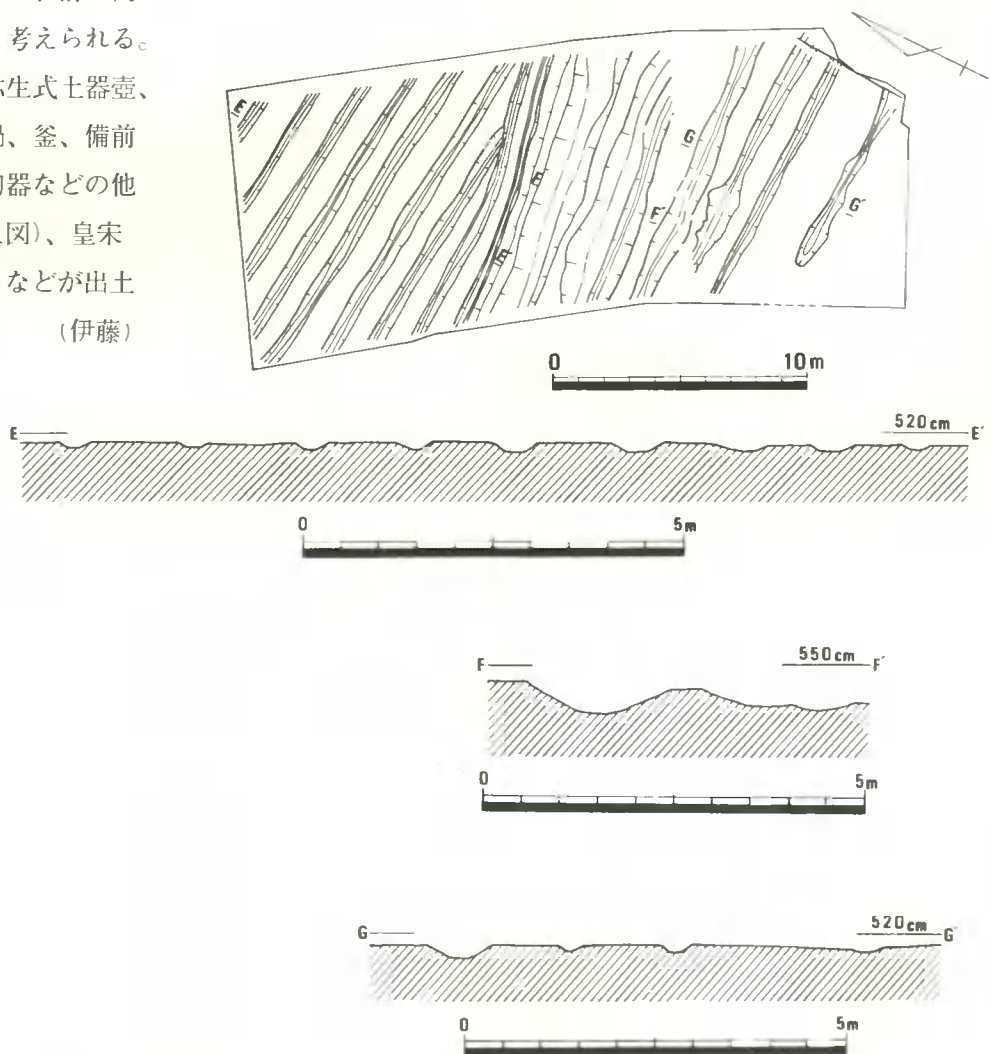
## (2) 上層の遺構と遺物

第IV層の淡灰茶褐色微砂層を切って、東西に走る幅200~250cm、深さ50cmの溝1条と、溝状遺構を14条検出した。溝は、水田に伴う用水路と考えられる。溝内から近世と考えられる半裁した菊花状文を描いた伊万里染め付け碗の小片が1点出土している。溝の南側に5条、北側に9条みられる幅40~60cm、深さ20~30cmの溝状遺構は、水田あるいは畑の耕作に伴うものと考えられる。溝状遺構内からの遺物はみられないが、溝と同じく近世のものと考えられる。

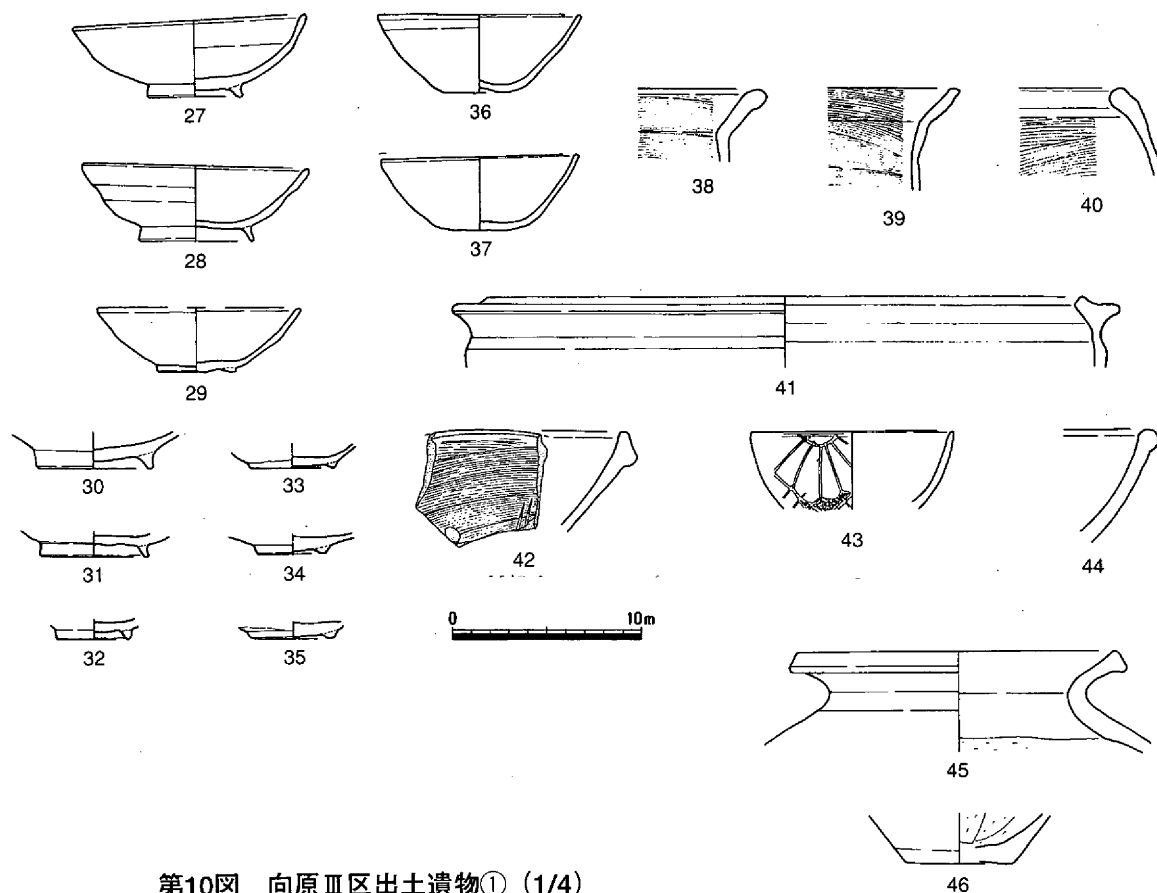
包含層からは弥生式土器壺、早島式土器椀、鍋、釜、備前焼すり鉢、肥前陶器などの他に土錘10点(第11図)、皇宋通宝(初铸1039)などが出土している。(伊藤)



写真2 上層溝群(東から)



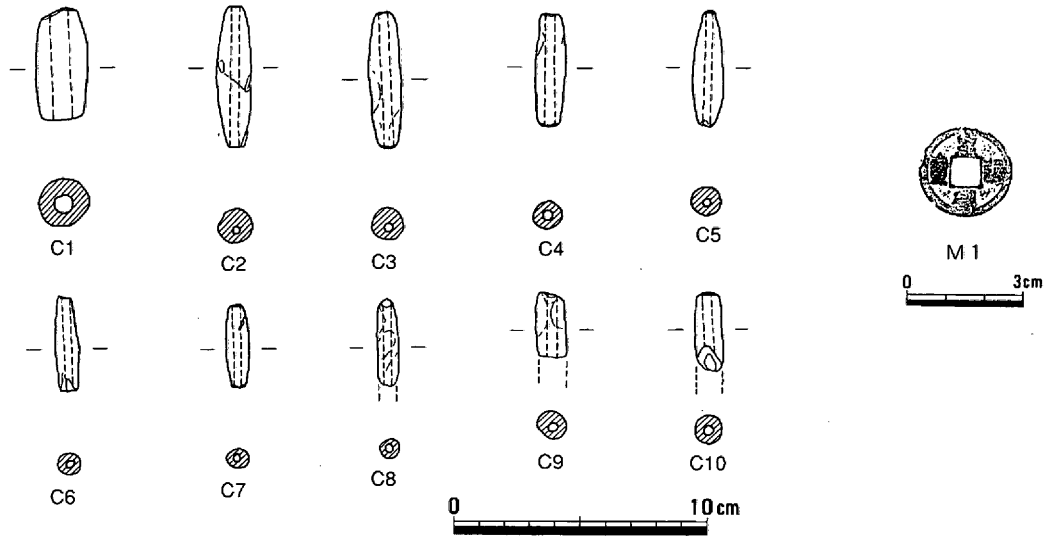
第9図 上層遺構配置図および断面(1/300, 1/100)



第10図 向原Ⅲ区出土遺物① (1/4)

表3 向原Ⅲ区土器観察表

押図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
27	Ⅳ層	土師器	碗	12.2	5.0	4.4	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
28		土師器	碗	11.9	6.1	4.1	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
29	溝1	土師器	碗	10.7	4.1	3.4	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
30	Ⅷ層	土師器	碗	—	5.9	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
31	Ⅵ層	土師器	碗	—	6.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	早鳥式 貼付高台
32	Ⅵ層	土師器	碗	—	3.9	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	早鳥式 貼付高台
33	溝1	瓦質土器?	碗	—	4.4	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	貼付高台 スス?
34	Ⅵ層	土師器	碗	—	3.7	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	早鳥式 貼付高台
35	Ⅵ層	土師器	碗	—	4.5	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	早鳥式 貼付高台
36	溝1	土師器	碗	10.6	—	4.1	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	完形
37	溝1	土師器	碗	10.3	—	4.0	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	ほぼ完形
38	Ⅵ層	土師器	鍋	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススA
39	Ⅵ層	土師器	鍋	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススA
40	Ⅵ層	土師器	鉢?	—	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	スス?
41		瓦器	鍋	(30.9)	—	—	暗灰色(N3)	細砂	
42	Ⅵ層	須恵器	插鉢	—	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	内面に卸し目
43	溝2	染付	碗	(10.6)	—	—	灰白色(N8)		釉調；光沢なし
44	Ⅲ層	肥前陶器?	片口鉢	(9.4)	—	—	灰白色(10Y7/1)~明赤灰色(10R4/1)	細砂	
45		弥生土器	甕	16.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
46		弥生土器	甕	—	5.7	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	黒斑C



第11図 向原Ⅲ区出土遺物② (1/3, 1/2)

表4 向原Ⅲ区土製品一覧表

挿図 番号	掲載遺構名	器種	法量 (cm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C 1	包含層	土錘	45.0	20.0	-	7.5	17.06	灰白色(10YR8/1)	細砂	中世	完形
C 2		土錘	57.0	14.5	-	3.0	8.96	鈍赤橙色(10Y6/4)	細砂		完形
C 3		土錘	55.0	12.5	-	3.5	8.16	灰白色(2.5Y8/1)	細砂		完形
C 4		土錘	46.0	11.5	-	4.0	5.08	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂		完形
C 5		土錘	46.5	12.5	-	3.0	6.21	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂		完形
C 6		土錘	38.5	10.0	-	3.0	2.05	明赤灰色(7.5R7/1)	細砂		ほぼ完形
C 7		土錘	33.0	9.0	-	3.0	2.04	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		完形
C 8		土錘	(35.0)	8.5	-	3.0	(1.04)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		破片
C 9		土錘	(26.5)	11.5	-	3.5	(3.61)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		破片
C 10		土錘	(32.0)	11.5	-	4.0	(3.54)	灰白色(2.5Y8/3)	細砂		破片

## 第2節 まとめ

岡山ジャンクションから総社インターチェンジ間における2車線時に調査された遺構の拡がりは、濃密なものではなかった。今回急遽4車線化の問題が生じ前回、人員の配置・工期の関係で調査できなかった場所の調査を実施したが、現在通行中の高速道の側面の掘削、矢板打ちなどの大土木工事をを行い調査を実施した結果である。

中世の溝1は前回の調査ではみられなかったが、まだ、東西に伸び、遺跡は拡がるものと考えられる。近世から中世にかけての水田跡あるいは畑地の調査の例、特に近世水田は、現代水田と重なる場合が多く、県内における発掘調査例は少なく、今後の課題となってくると思われる。(伊藤)

## 付載 自然科学による鑑定・分析

- 1 高塚遺跡出土の銅鐸・貨泉・棒状銅製品の鉛同位体比  
くらしき作陽大学 馬淵久夫  
東京国立文化財研究所 平尾良光 榎本淳子 早川泰弘
- 2 高塚銅鐸の埋納墳内土壌にかかわる顔料物質の微量化学分析  
安田博幸 金杉直子
- 3 高塚遺跡出土の銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の分析  
岡山理科大学自然科学研究所 白石 純
- 4 高塚遺跡出土土器の胎土分析  
岡山理科大学自然科学研究所 白石 純
- 5 高塚遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査  
大澤正己・鈴木瑞穂
- 6 高塚遺跡出土の中世人骨について  
池田次郎
- 7 高塚遺跡出土の烏帽子（烏帽子様乾燥遺物）について  
（財）元興寺文化財研究所
- 8 高塚遺跡の自然科学分析  
パリノ・サーヴェイ株式会社

## 1 高塚遺跡出土の銅鐸・貨泉・棒状銅製品の鉛同位体比

くらしき作陽大学食文化学部 馬淵久夫  
 東京国立文化財研究所 平尾良光  
 榎本淳子  
 早川泰弘

今回、岡山県古代吉備文化財センターの依頼により、高塚遺跡出土の銅関係資料14点について鉛同位体比を測定した。

資料のうち、銅鐸と貨泉が銅・スズ・鉛の合金でできていることは過去のデータから明らかなので、材質分析は省略した。棒状銅製品は日本国内で類似品の出土例がないため、鉛同位体比だけでなく、蛍光X線による材質分析を行ってその素性を明らかにした。

測定は東京国立文化財研究所で行い、鉛同位体比測定は榎本淳子が、蛍光X線分析は早川泰弘が、それぞれ分担した。

測定した銅製品の分析試料の内容を表1に示す。

表1 岡山市高塚遺跡出土銅製品分析試料一覧

種類	遺物番号	掲載番号	型式	形状	遺構	時期
1 流水文銅鐸		M45	突線紐2式	完形。高さ約60cm。6420g。	銅鐸埋納土壌	弥生時代後期初頭
2 袈裟襷文銅鐸		M165	?	破片。長辺39mm、短辺29mm、厚さ3mm。	中世ピットに混入	
3 棒状製品		M158	用途不明	完形。長さ134mm、最大径15mm。一方の端は尖り、もう一方はやや丸みを帯びて、中央が最も厚い。94.42g。	方形土壇(貯蔵穴)埋土上層	弥生時代後期末
4 貨泉	No. 1	M46		全部で25点あり。ほぼ完形のものが多い。13点分の錆あり。	装状土壇(貯蔵穴)埋土の上層	弥生時代後期初頭
5 貨泉	No. 2	M47				
6 貨泉	No. 3	M48				
7 貨泉	No. 6	M51				
8 貨泉	No. 8-E	M57				
9 貨泉	No. 9-A	M59				
10 貨泉	No. 10	M60				
11 貨泉	No. 11	M61				
12 貨泉	No. 12-A	M62				
13 貨泉	No. 13	M64				
14 貨泉	No. 14-D	M68				

## I. 鉛同位体比測定

鉛同位体比測定にはThermo Quest社製、表面電離型質量分析計Finnigan MAT Model 262を用いた。

試料は、棒状銅製品以外、すべて微量の錆びであり、水溶液からの電着法で鉛を精製した。棒状銅製品は、後述の材質分析の際に採取した微量の金属部分を試料とした。レニウム・フィラメントには常に数百ngの鉛を装着するように調製した。

測定結果を表2に示す。

表2 鉛同位体比測定結果

No.	試料	鉛同位体比			
		206 / 204	207 / 206	208 / 206	
1	流水文銅鐸	17.742	0.8763	2.1650	
2	袈裟襷文銅鐸	17.737	0.8762	2.1645	
3	棒状銅製品	17.747	0.8763	2.1653	
4	貨泉 no. 1	17.701	0.8780	2.1677	
5	貨泉 no. 2	17.721	0.8776	2.1674	
6	貨泉 no. 3	17.677	0.8789	2.1678	
7	貨泉 no. 6	17.935	0.8695	2.1503	
8	貨泉 no. 8-E	17.716	0.8775	2.1643	
9	貨泉 no. 9-A	17.822	0.8736	2.1518	
10	貨泉 no. 10	17.806	0.8742	2.1520	
11	貨泉 no. 11	17.771	0.8752	2.1610	
12	貨泉 no. 12-A	17.737	0.8765	2.1639	
13	貨泉 no. 13	17.714	0.8768	2.1639	
14	貨泉 no. 14-D	17.661	0.8796	2.1713	
	平均測定誤差 (1σ)	±0.010	±0.0002	±0.0006	
	貨泉 (須玖坂本遺跡)	17.784	0.8754	2.1642	文献 3)
	三遠式・近畿式銅鐸 (18 鐸の分布範囲)	17.724 ±0.035	0.8763 ±0.0008	2.1647 ±0.0017	文献 2)

## II. 棒状銅製品の蛍光X線分析

過去に類似品の出土例がない物体なので、まず非破壊蛍光X線分析で表層の化学組成を調べ (a)、つぎに、マイクロドリルによるφ1mmの本体内部の採取により金属光沢部分の蛍光X線分析を行った (b、c)。

### (a) 尖った先端部分

長さ134mmのこの物体は、一方の端が尖り、もう一方の端はやや丸みを帯びている。尖った先端部分は赤色で、おそらく第一酸化銅で覆われていると思われる。この赤色部分を測定した。

機器名：日本フィリップス社製DX-95

X線源：スカンジウム管球、50kV x 10μA

コリメータ径：20mm

測定時間：500sec、大気中

分析値を表3に示す。

### (b) 金属露出部の点分析

マイクロドリルにより空いた径1mmの孔の内部 (金属光沢部分) にX線ビームを当てて蛍光X線分

析を行った。

機器名：堀場製作所製XGT2000K

X線源：ロジウム管球、50kV x 1mA

X線ビーム径：0.1mm

測定時間：300sec、大気中

分析値を表3に示す。

(c) 金属粉末の分析

マイクロドリルで採取した金属粉末を蛍光X線で分析した。

機器名：セイコー電子工業株式会社製SEA5230E

X線源：モリブデン管球、50kV x 1mA

コリメータ径：0.1mm

測定時間：300sec、大気中

分析値を表3に示す。

表3 棒状銅製品の蛍光X線分析結果

元素	(a) 尖った先端部	(b) 金属露出部	(c) 金属粉末
Fe	— %	— %	0.04 %
Cu	87.99	93.30	93.54
As	0.00	0.00	0.77
Ag	0.44	0.00	0.04
Sn	0.13	0.02	0.05
Sb	0.25	1.49	0.05
Pb	11.19	5.19	5.51
計	100	100	100
使用機器	日本フィリップス社製 DX-95	堀場製作所製 XGT2000K	セイコー電子工業株式会社製 SEA5230E

注：表の%は計測された金属元素の総和を100としたときの数値である。従って、酸素、硫黄などの非金属元素は考慮されていない。

### III. 考察

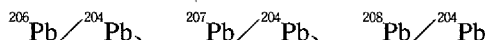
表2の同位体比から直ちにわかるように、今回測定した高塚遺跡出土の銅鐸・貨泉・棒状銅製品はすべて同じ産地の鉛を含んでいる。図1、図2にこれらの同位体比をプロットした。

#### 1) 鉛同位体比の表示法とその意味

鉛は質量数204、206、207、208の4種の同位体から成り、その混合比率（同位体比という）はわずかながら産出する鉱床ごとに違っている<sup>(註1)</sup>。

鉛同位体比の表示法はいろいろあり、各同位体の含有%でもよいし、どれか一つを基準にしてそれとの比をとる方法もある。地球科学や考古科学では後者の表示法を使って議論するのが普通である。

まず、地球科学では $^{204}\text{Pb}$ を基準としてそれとの比をとる。つまり論理的には



が必要にして十分である。このように $^{204}\text{Pb}$ を基準にとる理由は、46億年前に地球が誕生してから、この同位体だけは量が不変だからである。他の3つの同位体はウランあるいはトリウムが崩壊して生成するため、地球の中で量が増えてきた。理論計算で分母が変化するのは大変扱いにくいから、このようにするのである。地球科学では、1950年代から地球の鉛の同位体比変化を利用して、地球の年代や鉱床の年代を推定してきた。

一方、考古科学では資料に含まれる鉛の産地が違つかどうかを判別するのが第1の目的である。その場合、最も大切なのは判別能力の高いことである。

$^{204}\text{Pb}$ は地球の中で量が増えなかったために、どんな鉛でも他の3者の十分の一以下しか含まれていない。平均して鉛の1.4%を占めるに過ぎない。そこで当然量の多い3同位体の相互比をとったほうがよいことになる。考古科学に鉛同位体比を導入しようとする初期に、図表示に最も都合のよい比のとりかたを検討した結果、 $^{206}\text{Pb}$ を基準にとるのが最もよいことが経験的にわかった。

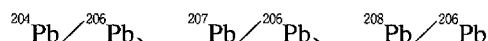


表2の測定値は、上記の方針で筆者らが20年前から実施している質量分析結果の表示法に倣ったものである。ただし、第1の比は逆数をとることにしている。地球科学を専門とする人はこの数値で鉛鉱床の素性がわかるからである。

表2の下方に平均的な測定誤差(1σ)を記した。 $^{204}\text{Pb}$ を含む比の相対誤差の大きいことがわかると思う。

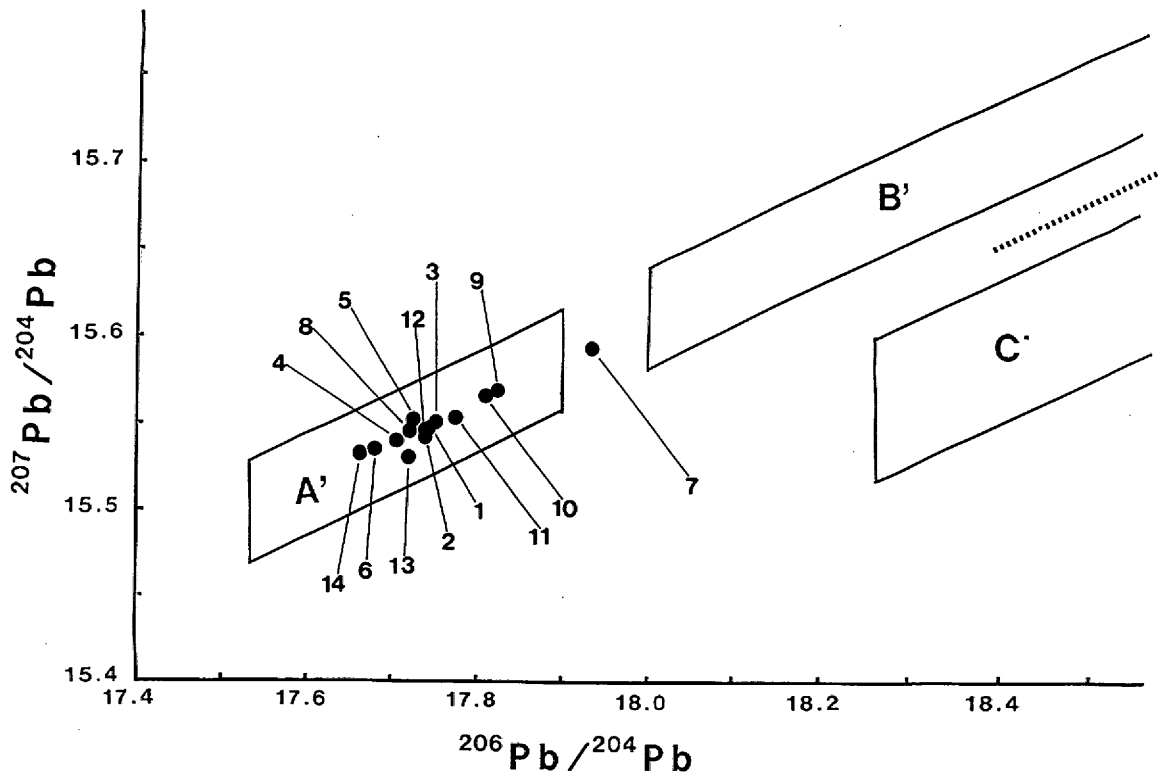
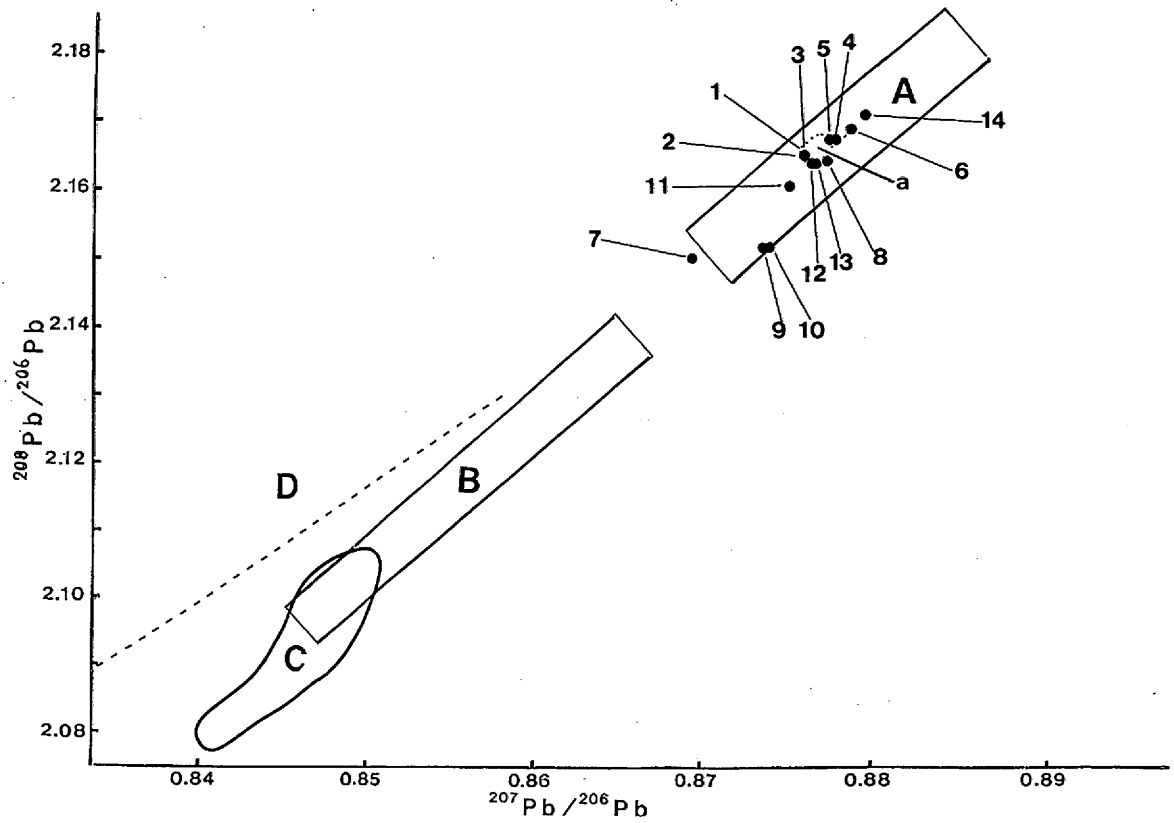
## 2) 鉛同位体比の図示法とその考古学的意味

図1は $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ と $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ をX軸とY軸にとったもので、一般的な鉛判別図である。すでに多数の考古学資料と鉛鉱石の測定により、時代別・種類別の青銅製品のグルーピングが確定している。各グループの分布域を大まかな枠で囲って領域A、B、Cと呼んでいる。資料の中に、ほぼ直線状に分布するものがあるのでラインDとよぶことにしている。A、B、C、Dの内容は下記のように<sup>1)</sup>なる。

- A: 前漢鏡と後漢中期頃までの漢式鏡(方格規矩鏡、連弧文鏡など)
- B: 後漢中期以降の漢式鏡(方格規矩鏡、連弧文鏡、多種の神獸鏡)
- C: 日本産の鉛鉱石の大部分
- D: 弥生時代に西日本地域に将来された多鈕細文鏡と銅利器

通常の場合、図1の表示で十分であるが、数学的な十分条件を充たすためには $^{204}\text{Pb}$ の入った比を確かめる必要がある。図2は筆者らとその趣旨で必要に応じて使う図で、鉛の鉱床年代に関連する図である。考古学資料をプロットしてみると、図1のA、B、C、Dは、それぞれA'、B'、C'、D'となる。図2の図示法が必要になるのは、図1でBとCが重なる部分に入るような資料が出た場合で、図2にプロットすれば日本産かどうか判定できることになる。





鉛同位体比分布図

領域A・A' は前漢鏡が分布する範囲である。高塚遺跡出土青銅器はすべてこの領域に入る。図中の番号は、

- 1：流水文銅鐸    2：袈裟禪文銅鐸    3：棒状銅製品    4～14：貨泉

### 3) 銅鐸

No. 1の流水文銅鐸は完形品で、近畿式(突線鈕2式)である。鉛同位体比は表2の下欄に示したように、1982年の銅鐸論文<sup>2)</sup>で筆者らが分類した近畿式・三遠式の特異な数値に一致し、当分類の正しさを保証するデータが一つ増えたことになる。<sup>(註2)</sup>図4では近畿式・三遠式の特異な数値範囲を点線の囲いaで示した。

No. 2の袈裟襷文銅鐸は、小破片で型式は不明、遺構も中世ピットに混入とのことで、発掘条件が不明確な資料である。鉛同位体比は近畿式・三遠式の特異な数値の中に入る。従って、論理的には外縁付鈕式、扁平鈕式、近畿式・三遠式の分布する領域Aの中に入るのも、どれか一つの型式に特定することはできない(逆は真ならず!)。しかし、もし、発掘箇所が弥生時代後期初頭よりは遡らないならば、近畿式・三遠式に属する可能性は高いといえる。

### 4) 貨泉

貨泉の鉛同位体比の測定は福岡県春日市須玖坂本遺跡の1点があるが<sup>3)</sup>、今回11点測定することができた。図1および図2のNo. 4~14である。

両図からみて、明らかに貨泉の鉛はすべて前漢鏡の鉛(領域A)と同じ産地であることがわかる。図にはプロットしていないが、須玖坂本遺跡の1点も同じである。このデータからいくつかの重要な事実が浮かび上がる。

まず、中国漢代の青銅器鑄造において、前漢鏡タイプの鉛はかなり長期にわたって(貨泉の初鑄は後14年)、独占的に使用されていたこと。そして、それは恐らく長安またはその近郊にあった官の鏡の工房でも、鑄銭の工房でも共通に使われたと思われることである。

第2に、過去に測定された前漢鏡は貨泉と同様に日本で出土したものである。鏡も銭貨もともに地方でも鑄造されていた可能性があるが、日本に将来されたものは中央での製品と考えられること。また、銭貨は改鑄されやすいが、王莽の頃には他の鉛が全く使われていなかったため、改鑄があっても領域Aから外れないようになっていられると思われることである。

第3に銅鐸の原料、特に外縁付鈕式の一部および扁平鈕式のもの、前漢鏡ないし貨泉の鉛と同じ産地のものが使われていることが、ますます確実になったことである。

### 5) 棒状銅製品

この物体の素性については全国で出土例がないため発掘担当者を悩ませ、用途不明とされてきた。一部の考古学者からは銅の素材ではないかとの見解が寄せられているとのことである。そこで、材質分析と鉛同位体比の測定が重要になる。

表3には、異なった条件で測定した蛍光X線分析の結果がまとめられているが、いずれにも共通していることは、この物体は若干の鉛が入った銅だということである。3種のデータの評価は次のようになる。

- (a) 尖った先端部：酸化被膜(cuprite)の外から測っているので、この数値は金属部分を表わしていない。鉛が多いように見えるが、埋蔵中の化学反応で表面の組成が変わったものと考えられる
- (b) 金属露出部：マイクロドリルにより空いた径1mmの孔の内部をX線ビームで測定しているので、

おおむね信用できるが、ジオメトリーからみて最良の測定条件とはいえない。アンチモンが1.49%と多いようにみえるが、参考値にとどめるべきである。

- (c) 金属粉末：最も良い条件で測定しているのもので、信頼できるデータである。これで見ると、鉛が5%程度入った近代工業化前の純銅といえる。近代工業化前と判断できるのは、鉄、ヒ素、アンチモン、スズ、銀などが微量に含まれているからである。

一方、表2の鉛同位体比をみると、明らかに近畿式・三遠式銅鐸の値である。偶然ではあるが、No.1流水文銅鐸とほとんど同じ数値になっている。これから次のような推論ができる。

- (1) この棒状銅製品は弥生時代後期に中国から将来されたものと考えられる。
- (2) 用途としては、銅または青銅製品の素材、との所見に矛盾しない。
- (3) 鉛同位体比からみて、下記の弥生時代後期の青銅器はこれと同質の素材を大量に使って製造されたと考えられる。
  1. 近畿式・三遠式銅鐸
  2. 西日本で出土している小形倣製鏡の多く
  3. 銅鏃<sup>4)</sup>・銅釧<sup>5)</sup>
  4. 静岡県以東で出土している小銅鐸

ただし、これらの青銅器は微量（通常数%）ながらスズを含んでいる。従って、鑄造の際には微量のスズを加えたと思われる。

弥生時代に金属状スズが存在したことは、吉野ケ里遺跡からの出土や、福岡市城南区片江カルメル修道院内遺跡からのスズ釧（銅釧とされてきたが、本田光子氏によると、スズでできていることが確かめられたという）の出土で確かである<sup>6)</sup>。

中口裕『銅の考古学』（1972）は、銅鐸の原料には過去にいろいろ説があり、国産説、輸入青銅器改鑄説、地金輸入説などがあったことを紹介している。この中に原田大六氏が、青銅器の原料について、大陸から銅とスズの地金を輸入したのではないかと述べていることを紹介している。

筆者の一人（馬淵）は、1989年に弥生時代の銅鐸などの原料、特に近畿式・三遠式銅鐸に代表される弥生時代後期の特異な原料を論じ、中国から将来されたインゴットの可能性を示唆した<sup>7)</sup>。

いま、ここに分析された棒状銅製品がその一つのサンプルであることはほぼ間違いのないように思われる。

#### IV. まとめ

高塚遺跡から出土した青銅遺物3種類は、鉛同位体比研究にとって重要な証拠を提供することになった。

まず第一に、貨泉が前漢鏡と共通の鉛（同じ地域の鉱山からの鉛）を含むことである。これは前漢のみならず新の時代にも同じ出所の鉛が使われ続けたことと、鏡にも銭貨にも共通だったことの、二つの意味がある。

第二に、国産の銅鐸が、前漢鏡のみならず貨泉と関係づけられたことである。1982年頃から、筆者らは外縁付鈕式以降の銅鐸が前漢鏡と同じ起源の鉛を含むことを主張してきた。今回、貨泉と結び付けられた意義は大きい。

第三に、棒状銅製品は弥生時代後期のある時期から盛んに作られた青銅製品の素材（地金、インゴ

ット)の一つだった可能性が高い。重量100グラム程度で、棒状であることは、融点が高い銅を融かすための技術的な理由からだったと考えられる。

中国(新)製の貨泉と、国産の銅鐸と、漢と倭の青銅文化を結ぶ漢から将来された棒状銅製品。これら3種の青銅が出土した高塚遺跡は鉛同位体比からみて、非常に意義深い遺跡である。

註1 厳密にいうと、一つの鋳床の中でも鉛同位体比が変動する場合がある。また、中国のように広い国では、鉛同位体比の変動は“わずか”ではなく20%にも及んでいる。

2 近畿式・三遠式銅鐸の鉛同位体比はすでに約40点が測定されているが、この特異な数値の例外は1点もない。

#### 引用文献

1) 鉛同位体比の詳細は下記の入門書を参照していただきたい。

馬淵久夫・富永健『考古学のための化学10章』正(1981)、続(1986) 東京大学出版会

2) 馬淵久夫・平尾良光：鉛同位体比法からみた銅鐸の研究、考古学雑誌、第68巻第1号、pp42~62(1982)

3) 平尾良光：鉛同位体比法による春日市出土青銅器の研究、『春日市史・上』春日市史編さん委員会編、pp860~901(1995)

4) 馬淵久夫・平尾良光・榎本淳子：足守川遺跡群出土青銅器の鉛同位体比について、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94』付載2、pp1126~1134(1995)

5) 平尾良光・馬淵久夫：東海地方で出土した弥生時代および古墳時代青銅器の科学的調査、『都田地区発掘調査報告書・下巻』浜松市・浜松市教育委員会、(財)浜松市文化協会編、pp590~611(1990)

6) 馬淵久夫・平尾良光：福岡県出土青銅器の鉛同位体比、考古学雑誌、第75巻第4号、pp385~432(1990)

7) 馬淵久夫：青銅器の原料、特集〈青銅器と弥生社会〉「季刊・考古学」第27号、pp18~22(1989)

## 2 高塚銅鐸の埋納墳内土壌にかかわる顔料物質の微量化学分析

安田博幸 金杉直子

高塚遺跡は、足守川・砂川合流点の北方に位置し、高塚集落の南に旧河道を挟んで所在する。弥生時代から中世にかけての集落跡で、山陽自動車道の建設に先だって発掘調査された。調査区は路線の中央付近を南北に横断する用水路で東西に二分されるが、その西側のフロヤ調査区より銅鐸が出土し、その埋納墳中の鐸身に接する土壌が試料として提供された。

今回、これらの土壌中に混在する顔料物質について、化学分析による鑑定を依頼されたので、筆者らの常法<sup>1)</sup>とするろ紙クロマトグラフ法と検出試薬による微量化学分析を行い、所見を得たので報告する。

### 1 試料の外観および分析用試料の採取

試料1：高塚遺跡・フロヤ1区銅鐸埋納墳（弥生時代後期）より採取の銅鐸内側に接した顕著な赤色部分の見られない黒褐色土壌。全量300 g。小塊状土壌の表面数箇所からそれぞれ約5 mgずつ採取し、分析用試料とした。

試料2：高塚遺跡・フロヤ1区銅鐸埋納墳（弥生時代後期）より採取の銅鐸外側に接した顕著な赤色部分の見られない黒褐色土壌。全量130 g。小塊状土壌の表面数箇所からそれぞれ約5 mgずつを採取し、分析用試料とした。

### 試料検液の作製

上記の分析用試料のそれぞれをガラス尖形管に移し、濃硝酸1滴と濃塩酸3滴を加え、加温して酸可溶性成分を溶解させたのち、適当量の蒸留水を加えて遠心分離機にかけ、酸不溶性成分から分離した上澄液を加熱濃縮して、ろ紙クロマトグラフ用の試料検液とする。試料検液の番号は、試料番号にそれぞれ対応させる。

### 2 ろ紙クロマトグラフ法と検出試薬による呈色反応からの顔料物質成分の確認

(a) まず、赤色顔料物質（水銀朱 $\text{HgS}$ およびベンガラ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）の存在を考慮して、東洋ろ紙No51 B（2 cm×40 cm）を使用し、ブタノール硝酸を展開溶媒として、試料検液と対照の鉄イオン（ $\text{Fe}^{3+}$ ）と水銀イオン（ $\text{Hg}^{2+}$ ）の標準液を同条件下で展開した。

展開の終わったろ紙を風乾してから縦に二分し、その一方は検出試薬として1%ジフェニルカルバジドのエタノール溶液を噴霧してからアンモニア蒸気に曝し、もう一方には検出試薬として0.05%ジチゾンのクロロホルム溶液を噴霧して、それらの際にろ紙上に発現するそれぞれの呈色スポットの位置（Rf値で表現する）と色調を検した。

上記試料検液ならびに対照イオンの標準液について得られたろ紙上のスポットのRf値と色調は、

表1 ジフェニルカルバジドによる呈色スポットのRf値

試料	Rf値（色調）	
試料検液1	0.15（紫褐色）	
試料検液2	0.10（紫褐色）	
$\text{Fe}^{3+}$ 標準液	0.19（紫褐色）	
$\text{Hg}^{2+}$ 標準液	0.94（紫色）	

下記の表1、表2のとおりである。

- (1) ジフェニルカルバジド・アンモニアによる検出：(Hg<sup>2+</sup>は紫色、Fe<sup>3+</sup>は紫褐色のスポットとして検出される。)
- (2) ジチゾンによる検出：(Hg<sup>2+</sup>は橙色スポットとして検出され、Fe<sup>3+</sup>は反応陰性のため呈色せず。)

表2 ジチゾンによる呈色スポットのRf値と色調

試料	Rf値 (色調)
試料検液 1	呈色スポットを発現せず
試料検液 2	呈色スポットを発現せず
Fe <sup>3+</sup> 標準液	呈色スポットを発現せず
Hg <sup>2+</sup> 標準液	0.92 (橙色)

(b) つぎに、試料中の青緑色物質が、銅鐸鐸身の銅成分(銅Cu)から酸化第一銅(Cu<sub>2</sub>O)を経て生成する銅錆(塩基性炭酸銅、CuCO<sub>3</sub>・Cu(OH)<sub>2</sub>)である可能性のあることを考慮して、東洋ろ紙No51B(2cm×40cm)を使用し、アセトン塩酸を展開溶媒として、試料検液と対照の銅イオン(Cu<sup>2+</sup>)の標準液を同条件下で展開した。

展開の終わったろ紙を風乾してから縦に二分し、その一方は検出試薬として0.2%ルベアン酸のエタノール溶液を噴霧してからアンモニア蒸気に曝し、もう一方は検出試薬として0.05%ジチゾンのクロホルム溶液を噴霧してからアンモニア蒸気に曝し、それらの際に、ろ紙上に発現するそれぞれの呈色スポットの位置(Rf値で表現する)と色調を検した。

上記試料検液ならびに対照のCu<sup>2+</sup>イオンの標準液について得られたろ紙上のスポットのRf値と色調は、下記の表3、表4のとおりである。

- (3) ルベアン酸・アンモニアによる検出：(Cu<sup>2+</sup>は青黒色のスポットとして検出される。)

表3 ルベアン酸による呈色スポットのRf値と色調

試料	Rf値 (色調)
試料検液 1	0.72 (青黒色)
試料検液 2	0.84 (青黒色)
Cu <sup>2+</sup> 標準液	0.85 (青黒色)

- (4) ジチゾン・アンモニアによる検出：(Cu<sup>2+</sup>は紫褐色のスポットとして検出される。)

表4 ジチゾンによる呈色スポットのRf値と色調

試料	Rf値 (色調)
試料検液 1	0.76 (紫褐色)
試料検液 2	0.83 (紫褐色)
Cu <sup>2+</sup> 標準液	0.86 (紫褐色)

### 3 判定

以上の結果のとおり、高塚遺跡・フロヤ調査区の1区の南端、弥生時代の集落が位置した微高地上より出土した埋納壙中における銅鐸の、鐸身内外の土壤の試料検液については、内側からも外側からもHg<sup>2+</sup>の存在は認められず、Fe<sup>3+</sup>のみが検出された。しかし、Fe<sup>3+</sup>の呈色が薄かったことや、試料の土壤中に明瞭に識別できる赤色が認められなかったことより、この呈色は土壤中の鉄(Fe)成分に由来するものと考えられ、銅鐸にベンガラや水銀朱が塗布されることはなかったものと推察される。

また、明瞭に検出された $\text{Cu}^{2+}$ の存在は、鐸身内外の土壌中にわずかに認められた青緑色物質が、やはり銅鐸鐸身からの銅成分（銅 $\text{Cu}$ から酸化第一銅 $\text{Cu}_2\text{O}$ を経て生成した銅銹、 $\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$ 塩基性炭酸銅）に由来するものであると考えられ、埋蔵中の銅鐸成分の土中への溶出逸散の様相を示唆するものとして興味深い。(1992年7月分析)

#### 註

(1) 安田博幸：「古代赤色顔料と漆喰の材料科学」『斉藤 忠編集 日本考古学論集1 考古学の基本的諸問題吉川弘文館 pp.389-407 (1986)』

安田博幸：「古代赤色顔料と漆喰の材料ならび技法の伝流に関する二、三の考察」『橿原考古学研究所論集』第七 吉川弘文館 pp.449-471 (1984)

本報告執筆後の平成元年（1994）10月24日に、大阪府八尾市春日町1丁目45-1の公共下水道工事現場において、現地表下2.5メートル付近で、鏝を上下に直立した状態で流水文銅鐸1個が発見され、慎重な調査の後取り上げられた。その際、銅鐸と密着していた粘土質土壌が採取されて筆者のもとに届けられた。

その粘土面に淡赤褐色物質が流水文様に転着しているのが認められたところから、その淡赤褐色物質の化学分析による鑑定が依頼された。

そこで、本報告で実施したのと全く同様の方法で、微量化学分析を適用したところ、全く同様の結果を得た。すなわち、淡赤褐色物質からは、 $\text{Cu}^{2+}$ が顕著に検出され、 $\text{Hg}^{2+}$ は全く検出されず、 $\text{Fe}^{3+}$ はわずかに検出された、ということである。したがって、淡赤褐色物質は、銅鐸に塗布されたかもしれない水銀朱（ $\text{HgS}$ ）でもベンガラ（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）でもなく、埋納銅鐸の銅（ $\text{Cu}$ ）成分が土中で化学変化をうけて、銅銹すなわち緑青（ろくしょう）＝塩基性炭酸銅（ $\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$ ）に達する一段階前の酸化第一銅（ $\text{Cu}_2\text{O}$ ）であることが明らかとなった。また、その淡赤褐色の物質は、保管中に徐々に緑青色の銅銹に変化していくことも観察された。

以上の結果は、「安田博幸、森 眞由美：八尾市春日町跡部遺跡出土の銅鐸鐸身に密着していた粘土面上の転着淡赤褐色物質の微量化学分析」として『八尾市立歴史民俗資料館 研究紀要 第9号』（1998）に報告されている。（1999年2月24日追記）

### 3 高塚遺跡出土の銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

#### 1 はじめに

高塚遺跡から出土した銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の成分を調べるため化学的分析を実施した。分析方法はエネルギー分散型蛍光X線分析法により遺物資料の表面を非破壊で分析した。また、赤色顔料の分析ではX線回折法も併用して行った。なお、蛍光X線の分析結果に関しては、ファンダメンタル・パラメーター法（理論計算法）により定量値を算出した。

なお、ここで分析した遺物は、すべて非破壊のため測定した試料表面の分析値である。そして第1表から第4表に示した分析値は、その遺物本来に含まれている成分の定量値ではなく、その遺物にどのような元素が、どれくらい含まれているかの大きな目安としての値を掲載した。したがって、この分析データの取り扱いに関しては十分に留意されたい。

#### 2 分析結果

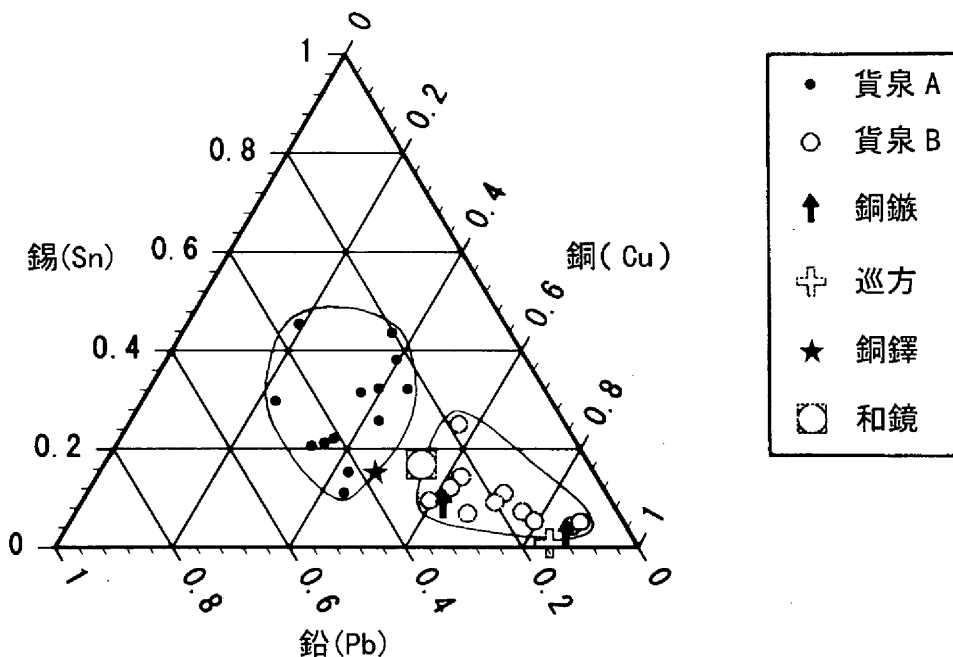
##### (1) 銅製品の分析

銅製品の分析では、貨泉、銅鏃、巡方、銅鐸、和鏡の各製品について分析し、結果を第1表に示した。この表より袋状土壙18内から出土した24点の貨泉には、いずれにも銅(Cu)、鉛(Pb)、錫(Sn)の各元素が主成分として含まれ、これ以外に珪素(Si)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)などが含まれていた。また、24点の貨泉には、重量に差がみられ、この重量が分析値にどのように関係しているか検討してみた。この結果、第1図の三角ダイアグラムから重量が軽い貨泉(貨泉A)は、銅の成分量が少なく、錫や鉛の成分が多い傾向にあり、重量が重い貨泉(貨泉B)は、銅の成分が多く錫や鉛の成分が少ない傾向にあることがわかった。

第1表 高塚遺跡出土銅製品(%)

番号	種別	資料番号	遺 構	時 期	最大径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備 考	Cu	Pb	Sn	Ni	Si	Al	Fe	Ti	Ag	Bi
1	貨泉	1	袋状土壙18	弥生後期	22.1	2.05	(1.00)	一部欠損	27.21	15.25	26.27	0.11	17.72	4.31	6.67	0.45	---	---
2	貨泉	2	袋状土壙18	弥生後期		3.30	(0.92)	破片2あり	29.98	21.57	24.61	0.11	12.91	3.35	3.84	---	---	---
3	貨泉	3	袋状土壙18	弥生後期	23.5	2.50	(0.75)	一部欠損	25.12	21.75	21.67	---	16.15	5.19	6.82	0.31	0.55	---
4	貨泉	4	袋状土壙18	弥生後期	21.6	2.37	0.63		28.59	16.12	34.61	0.11	10.35	2.07	4.13	1.11	0.78	---
5	貨泉	5	袋状土壙18	弥生後期		1.91	(0.56)	破片3あり	14.99	27.62	35.55	---	8.15	1.81	8.42	---	---	---
6	貨泉	6	袋状土壙18	弥生後期	23.2	2.00	1.07		25.08	34.21	15.42	0.07	11.71	2.78	5.49	0.47	0.38	---
7	貨泉	7	袋状土壙18	弥生後期	22.8	2.00	(1.22)	一部欠損	46.04	17.73	4.74	0.09	17.38	4.26	7.07	0.53	---	---
8	貨泉	8-B	袋状土壙18	弥生後期	23.1	2.00	2.69		65.58	14.03	6.28	0.25	11.54	---	0.62	---	0.21	---
9	貨泉	8-C	袋状土壙18	弥生後期	22.9	1.80	1.8		34.28	33.86	12.36	0.13	11.51	---	4.18	---	---	---
10	貨泉	8-D	袋状土壙18	弥生後期	23.1	1.70	2.68		75.56	8.31	3.83	0.28	10.02	---	1.05	---	---	---
11	貨泉	8-E	袋状土壙18	弥生後期	23.2	2.00	2.52		72.55	6.21	4.35	---	13.61	---	1.98	---	---	0.39
12	貨泉	9-A	袋状土壙18	弥生後期	23.0	2.50	1.48		34.21	35.09	8.77	0.09	14.99	3.31	2.81	0.16	---	---
13	貨泉	9-A	袋状土壙18	弥生後期	23.3	2.00	2.90		59.97	14.79	9.29	---	9.47	1.64	2.11	---	---	0.17
14	貨泉	10	袋状土壙18	弥生後期	21.0	1.80	(0.74)	一部欠損	43.21	13.87	19.12	0.21	14.68	3.04	3.86	0.18	---	---
15	貨泉	11	袋状土壙18	弥生後期	22.7	2.50	1.40		49.51	25.86	7.97	0.21	11.06	---	1.19	---	0.32	---
16	貨泉	12-A	袋状土壙18	弥生後期	22.8	1.80	1.22	一部欠損	49.93	18.51	11.51	---	12.98	3.16	1.56	---	0.32	---
17	貨泉	12-B	袋状土壙18	弥生後期	22.9	1.90	1.82		54.37	23.01	10.79	0.18	8.42	---	1.46	---	---	---
18	貨泉	13	袋状土壙18	弥生後期	23.3	1.70	1.04		29.13	32.59	17.68	0.05	9.43	2.67	3.03	---	0.39	---
19	貨泉	14-A	袋状土壙18	弥生後期	23.8	2.00	2.06		34.33	25.43	20.76	0.09	12.74	---	3.94	---	---	---
20	貨泉	14-B	袋状土壙18	弥生後期	22.9	2.00	2.92		66.45	12.79	4.52	0.21	14.04	---	0.76	---	---	---
21	貨泉	14-C	袋状土壙18	弥生後期	22.5	1.90	1.23		36.41	19.14	26.41	0.18	11.11	---	4.81	1.03	---	---
22	貨泉	14-D	袋状土壙18	弥生後期	23.4	2.75	1.31		26.96	32.95	16.28	---	11.33	2.95	5.22	0.16	---	---
23	貨泉	15	袋状土壙18	弥生後期			(0.49)	破片2あり	18.68	38.75	24.34	0.08	12.41	---	3.08	---	0.73	---
24	貨泉	17B	袋状土壙18	弥生後期	22.8	2.00	2.26		59.71	16.92	7.77	---	11.84	---	1.01	---	0.33	---
25	貨泉			弥生後期														
26	銅鏃	44	中世遺構検出中?						36.58	17.01	5.18	---	25.32	10.55	1.88	0.14	0.69	---
27	銅鏃	T-79	中世土壙						72.97	9.46	2.47	0.23	2.69	0.71	0.08	---	0.21	---
28	巡方	44	フロヤ調査区柱穴10	古代~中世					61.75	10.92	0.59	---	22.38	---	0.61	---	0.18	1.51
29	銅鐸	製後神文	中世土壙	弥生後期					22.13	17.56	7.21	0.06	28.81	12.25	9.21	0.56	0.18	---
30	和鏡	秋草双鳥文鏡	土壙墓21	中世					46.95	24.69	14.44	0.15	5.23	2.66	2.19	---	---	1.63





第1図 三角ダイヤグラム 高塚遺跡出土銅製品の銅、鉛、錫の含有量比

その他の銅製品では、銅鏃2点が銅成分が他の成分に比べ多く含まれていることがわかる。また、巡方も銅成分が61%と多く含まれていた。銅鐸では銅と鉛がやや多めに含まれており、和鏡では銅が多めに含まれ、鉛もやや多く含まれていた。

### (2) ガラス玉の分析

第2表に示した17点のガラス玉の分析を実施した。分析の結果、試料番号1～12と15～17の15点の小玉には、Si(珪素)、K(カリウム)、Fe(鉄)、Ti(チタン)、Al(アルミニウム)などが主成分として検出され、アルカリ石灰ガラスであることがわかる。特に、K(カリウム)量が11～23%と多く含まれていた。また、この他に含まれている成分としては、Cu(銅)、Pb(鉛)、Sn(錫)などで、色調の由来については、これらの成分が関与していると推測される。

また、試料番号13、14の丸玉には、Pb(鉛)が39～47%と多量に含まれていることから、鉛ガラスであることがわかる。

以上のように、高塚遺跡から出土した小玉、丸玉の分析を実施したところ、小玉はアルカリ石灰ガラスで、丸玉は鉛ガラスであることがわかった。

### (3) 赤色顔料の分析

第3表に挙げた古墳時代の住居跡内から出土した赤色顔料の由来について検討した。

試料番号1～3は、住居跡内の土壌に含まれていた赤色顔料であるが、第3表の蛍光X線分析の結果から、いずれにも鉄(Fe)が20%以上含まれていることがわかった。また、X線回折でも、赤鉄鉱の鉱物が検出されたことから、これらの赤色顔料はベンガラと考えられる。

試料番号4の石皿に付着した赤色顔料は、蛍光X線分析で微量の水銀(Hg)が検出されたことから朱と考えられる。

## (4) 金属滓の分析

金属滓の分析では、第4表に示した角田1区の住居跡などから出土した金属滓の成分について検討した。特に金属滓の表面には、茶色および青色に変色したところがみられ、この変色した部分の成分がどのような物質で構成されているか、表面分析を実施した。

この結果、表のように3点の金属滓にはすべて鉄分 (Fe) が含まれていた。それぞれの試料の鉄含有量は、試料番号1が38.74%、2が42.50%、3が56.67%であった。またその他の成分としては、Si (珪素) やAl (アルミニウム) などが含まれていた。以上の結果より、この金属滓は鉄滓と推測される。

第2表 高塚遺跡出土ガラス玉分析値 (%)

番号	調査区	種別	遺構	時期	最大径	最大厚	重量	Si	K	Ca	Fe	Al	Ti	Cu	Pb	Sn	Ba	備考
1	塚廻り1区	小玉	包含層	古墳	2.95	4.2	0.07	67.66	23.20	---	1.82	---	0.49	4.42	1.13	0.38	---	G1 水色
2	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	5	3.8	0.09	64.25	18.71	0.91	1.50	8.04	0.34	3.44	1.47	0.28	---	J1 水色
3	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	3.55	3.8	0.07	62.12	18.53	---	1.77	7.60	0.36	5.11	2.50	0.58	---	J2 水色
4	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	3.35	5.3	0.12	62.53	19.44	---	1.52	7.47	0.33	4.95	2.00	0.52	---	J3 水色
5	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	4.4	4.2	0.05	61.78	19.51	---	1.44	8.04	0.30	5.25	1.52	0.26	---	J4 水色
6	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	2.65	3.6	0.04	63.04	17.72	---	1.69	7.99	0.30	5.85	2.45	0.61	---	J5 水色
7	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	2.6	4	0.06	65.14	20.11	0.97	1.93	---	0.47	6.48	2.57	0.85	---	J6 水色
8	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	2.8	3.8	0.05	65.18	18.91	2.21	1.96	---	0.48	6.42	3.06	0.66	---	J7 水色
9	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	3.1	4.4	0.07	65.04	21.95	---	1.70	---	0.42	5.75	2.87	0.53	---	J8 水色
11	フロヤ3区	小玉	竪穴住居6	弥生後期	2	4.15	0.05	62.30	20.87	2.51	5.55	---	0.30	0.20	---	---	0.83	J9 水色
12	フロヤ3区	小玉	竪穴住居23	古墳後期				67.94	11.81	1.54	2.06	8.71	0.39	4.24	1.05	---	---	J10 紺色
13	角田4区	丸玉	中世土壇南		15.8	16.8	4.42	50.38	0.16	0.48	0.60	---	---	0.17	47.96	---	---	G1
14	角田3区	丸玉	竪穴住居142	古墳中期	3	4	0.02	37.31	2.99	1.94	1.68	6.94	0.65	0.20	39.00	5.31	---	黄色
15	フロヤ2A区	小玉	竪穴住居37	古墳中期				66.25	16.44	---	1.73	8.58	0.41	3.94	0.93	0.36	---	①
16	フロヤ2A区	小玉	竪穴住居30	古墳中期				65.06	21.02	---	1.84	6.87	---	3.45	1.39	---	---	②
17	フロヤ2A区	小玉	竪穴住居30	古墳中期				63.19	21.53	2.04	1.82	---	0.40	6.58	3.14	0.73	---	③

第3表 高塚遺跡出土赤色顔料の分析一覧表 (%)

No	種別	資料No	遺構	時期	Fe	Si	Al	K	Ca	Ti	Mn	Na	Hg
1	土壌		竪穴住居154	古墳時代	21.23	53.71	16.65	4.21	2.22	1.11	0.34	---	---
2	土壌	1	竪穴住居159	古墳時代	21.38	49.51	18.15	4.05	2.31	1.13	0.44	2.64	---
3	土壌	2	竪穴住居159	古墳時代	20.78	51.22	19.59	3.92	2.22	1.36	0.52	---	---
4	石皿		竪穴住居46	古墳中期	12.67	52.31	18.96	4.99	5.41	1.06	0.41	3.51	0.18

第4表 高塚遺跡出土金属滓の分析結果 (%)

番号	調査区	資料No	遺構	時期	Si	Al	Fe	Ca	K	Mn	Ti
1	角田1区	4	竪穴住居177	6~7世紀	32.57	13.13	38.74	5.07	4.94	0.78	0.74
2	角田1区	32	河道9	平安前期	34.55	15.36	42.50	2.19	3.68	0.51	0.90
3	角田1区	36	河道9	平安前期	25.13	11.41	56.67	2.05	3.16	0.66	0.59

### 3 まとめ

高塚遺跡から出土した銅製品、ガラス玉、赤色顔料、金属滓の材質分析を実施し、この分析結果を要約すると、

(1) 弥生時代後期の貨泉の表面分析では、銅・鉛・錫の含有量に差がみられA、Bの二つのグループに分類できた。これはAグループには錫成分が多く含まれ、Bグループは銅の成分が多く含まれる傾向にあった。

(2) ガラス玉の分析では、小玉がすべてアルカリ石灰ガラスで、丸玉が鉛ガラスであることがわかった。

(3) 赤色顔料の分析では、住居内の土壌より検出されたものはすべてベンガラで、石皿に付着した赤色顔料からは朱が検出された。

(4) 金属滓の分析では、表面が茶色および青色に変色した部分の表面分析を実施し、鉄が多量に含まれていることがわかり、この金属滓は鉄滓であることがわかった。

以上のように、非破壊分析で得られたデータからでも、遺物の材質に対していろいろな情報をもたらすことができることも十分認識しておく必要がある。

## 4 高塚遺跡出土土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

### 1 分析の目的

高塚遺跡出土の古墳時代から古代にかけての土師器、須恵器の胎土分析を実施し、以下のことについて検討した。

(1) 高塚遺跡出土の古墳時代中期の土師器、須恵器が、同一住居跡内出土土器の間で胎土にどのような差異がみられるか。

また、形態・成形技法的に特長のある土器（試料番号15長胴甕）がどのような胎土であるか検討した。

(2) 高塚遺跡出土の古代須恵器のなかで、肉眼観察による砂粒の胎土や焼成で、複数に分類できるが、この違いが理化学的な胎土分析でどのようなになるか。

また、京都府篠栗跡出土のものと形態・技法的に類似している鉢があるが、胎土的に違いがみられるか。

### 2 分析結果

分析は蛍光X線分析法で行い、分析試料・測定方法・試料調整などは、従来の方法に従った。分析試料は第1表に示した101点の土師器・須恵器で、このうち試料番号1～53までが古墳時代中期で、54～101が古代の土器である。

まず、古墳時代中期の須恵器と土師器の間で胎土に差があるかどうか検討した。この結果、第1図Ca/K-Sr/Rb散布図のように須恵器と土師器の間で胎土に差がみられた。須恵器はCa/K比が4以下でSr/Rb比が1.5以下の領域に須恵器が分布し、土師器はその分布域を含みながら広く散漫な分布をしている。また、土師器は複数の胎土に分かれるようである。また、須恵器の分布域に入る土師器には7(高杯)、9(高杯)、12(甑)、15(長胴甕)、18(甕)、19(甕)、22(鉢)、30(甕)、31(鉢)、41(甑)、43(高杯)がある。

第2図Ca/K-Sr/Rb散布図では、壱穴住居132から出土した土師器の胎土差について検討した。

この結果、明らかに二つの胎土に分かれた。一つは1、4、8、14、16、17、20のⅠグループで、もう一つは2、3、5、6、7、9、10、11、12、13、15、17、18、19、21、22のⅡグループである。器種別にみると甕では1、8、16と2、3、5、6、11、17、18、19に、高杯は4、20と7、9、13に別れ、甑も14と12に別れた。また、第1図で須恵器と土師器が識別できたことから第2図に須恵器の分布領域を入れると、この領域に5、6、7、9、12、15、18、19、22の土器が入った。なお、5と6は須恵器である。12(甑)と15(長胴甕)はこの須恵器の領域に入った。

第3図では、その他の住居跡および包含層から出土した土師器、須恵器の分布をみると、次のように大きく3つのグループに分かれると予想される。

Ⅲグループ……24(住居141)、27・28(住居144)、52(住居190)

Ⅳグループ……23(住居138)、26・29(住居144)、36(住居150)、37・38(住居156)

39(住居160)、51・53(住居190)

Vグループ……25(住居143)、30・31(住居146)、32・33・34(住居148)、35(住居150)

40(住居168)、41(住居169)、42(住居172)、43(No.85下がり)

44・45・46(包含層)、47(住居)、48(河道6下層)、49・50(住居185)

散布図から以上のように分類したが、Ⅲグループが第2図で分類したⅠグループと同じ領域で、Ⅴグループが須恵器の分布域にあたる。そして、Ⅳグループは土師器と須恵器の分布域の中間の領域となる。

次に古代の須恵器で、成形技法・砂粒・焼成の違いが胎土分析でどのように分類できるか検討した。

第4図K-Ca散布図では、

Aグループ……9、16、26、27、29、31、43、45、46、47、48

Bグループ……1、2、7、10、11、12、17、18、20、24、28、32、34、35、36、37、38、39、40、41

Cグループ……3、4、5、6、8、13、14、15、19、22、23、25、30、33、42、44

Dグループ……21

第5図Sr-Rb散布図では、

Aグループ……9、16、26、27、29、34、35、39、43

Bグループ……1、2、7、10、11、12、14、17、18、20、22、24、28、30、31、32、36、37、38、40、41、45、46、47、48

Cグループ……3、4、5、6、8、13、15、19、23、25、33、42、44

Dグループ……21

以上のように別れる。

そして、この両散布図に共通して別れる須恵器として

Aグループ……9、16、26、27、29、43

Bグループ……1、2、7、10、11、12、17、18、20、24、28、32、36、37、38、40、41

Cグループ……3、4、5、6、8、13、15、19、23、25、33、42、44

Dグループ……21

のようになる。

このように理化学的な胎土分析で分類されたものを、成形技法・砂粒・焼成などでみると、AとBグループには砂粒が粗く、焼成のやや悪いもの、Cグループには成形が土師器の作りのものが目立つ傾向がみられる。また、Dグループは全く離れたところに分布し、明らかに胎土が異なることがわかる。

試料番号31の鉢は形態が京都の篠窯跡と似ているが、胎土的にはどのようになるかでは、加茂政所遺跡出土の篠産と考えられる試料と共に、K-Ca散布図ではAグループに属し、Sr-Rb散布図ではBグループに属した。

### 3 まとめ

高塚遺跡の古墳時代から古代にかけての土師器、須恵器の分析結果について要点をまとめると、(1)古墳時代中期の土器では、須恵器と土師器の間で、胎土に差があることがわかった。それは土師器が広く散漫な分布をするのに対して、須恵器はある程度まとまる傾向にあった。また、以下の土

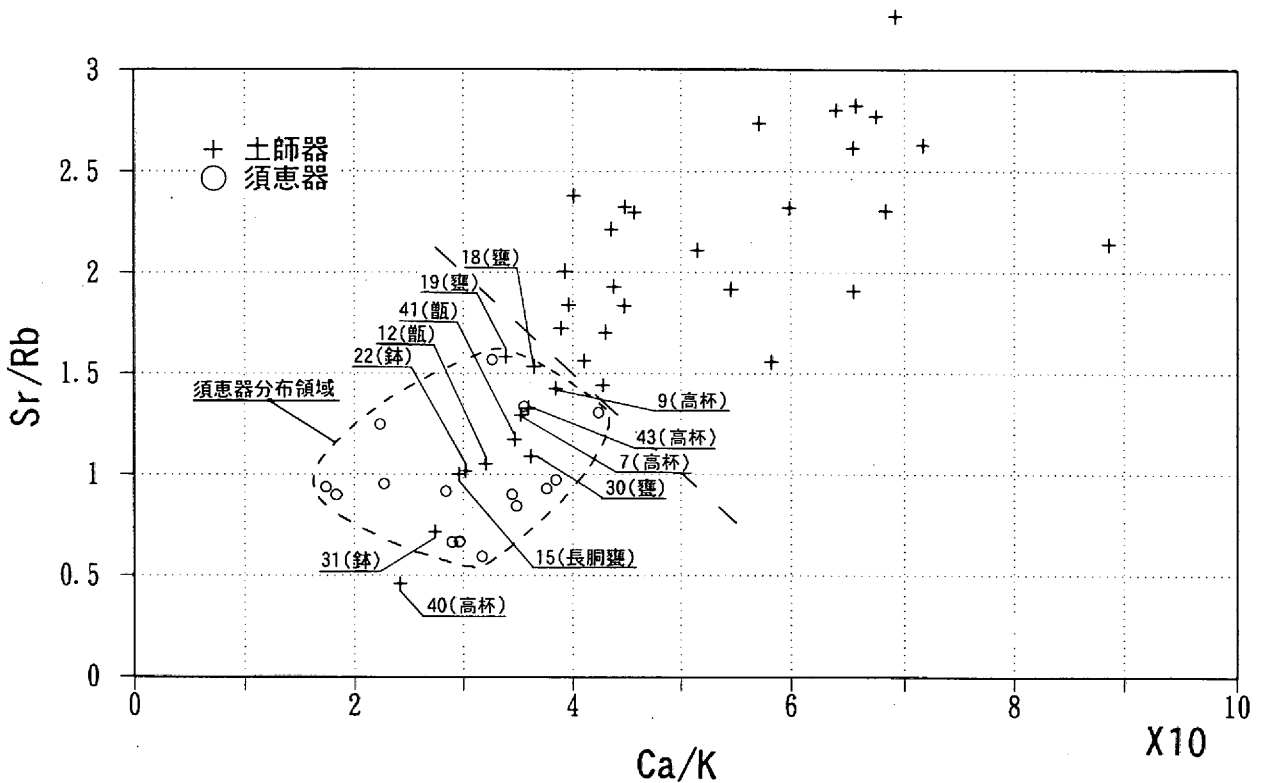
師器が須恵器胎土の分布域に分布しており

7(高杯)、9(高杯)、12(甑)、15(長胴甕)、18(甕)、19(甕)、22(鉢)、30(甕)、31(鉢)  
40(高杯)、41(甑)、43(高杯)

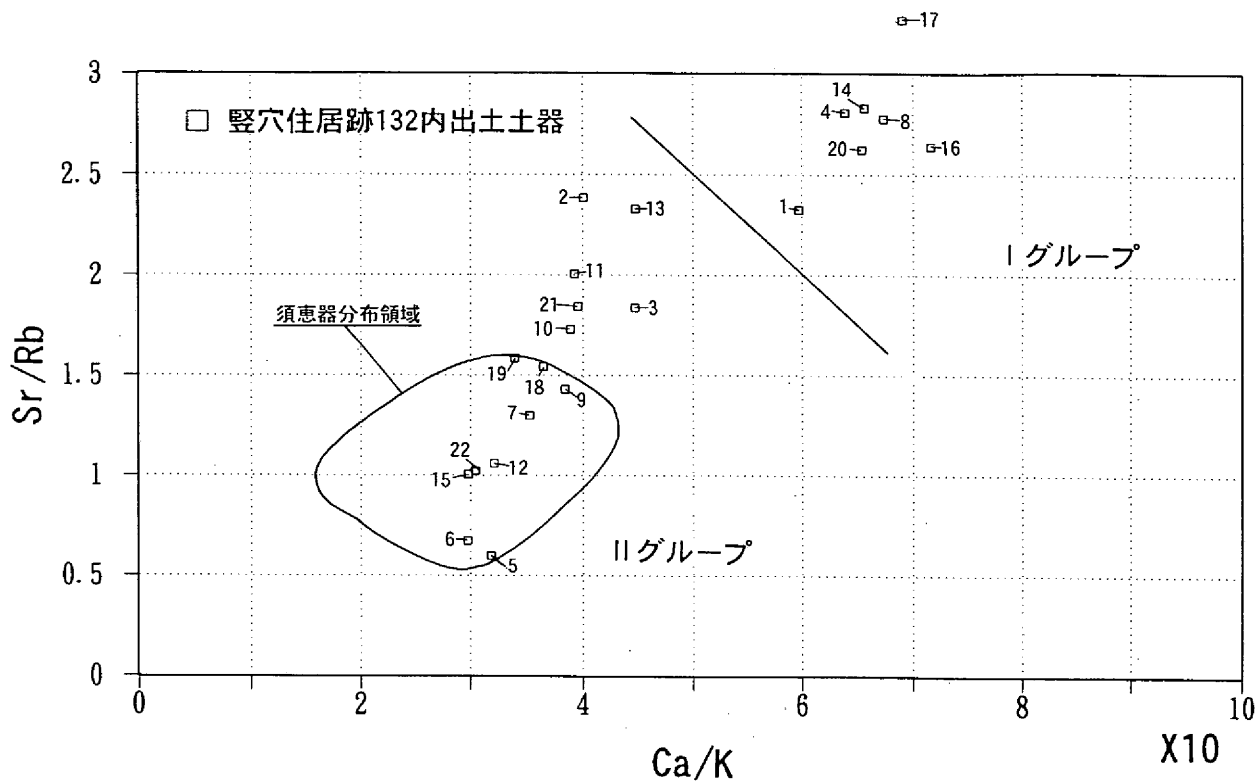
これらの土師器が形態・技法的どのように分類されるか検討を要する。

(2) 古代の須恵器の胎土分析では、成形技法・砂粒・焼成などの差異で、ある程度識別されたが明確な分類には至らなかった。また篠産と考えられる鉢は、加茂政所遺跡出土の篠産土器と胎土がほぼ一致した。今後は、生産地の土器との比較が必要である。

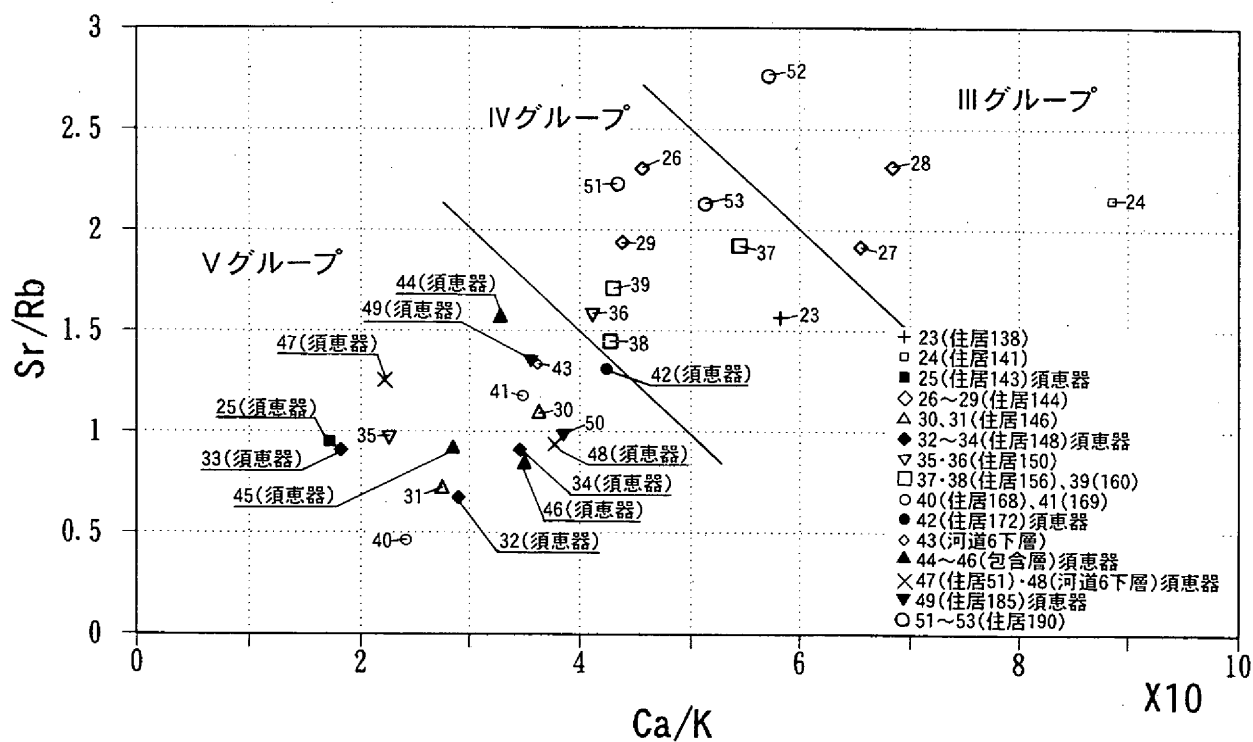
この分析の機会を与えて頂いた岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々にはいろいろお世話になりました。記して感謝いたします。



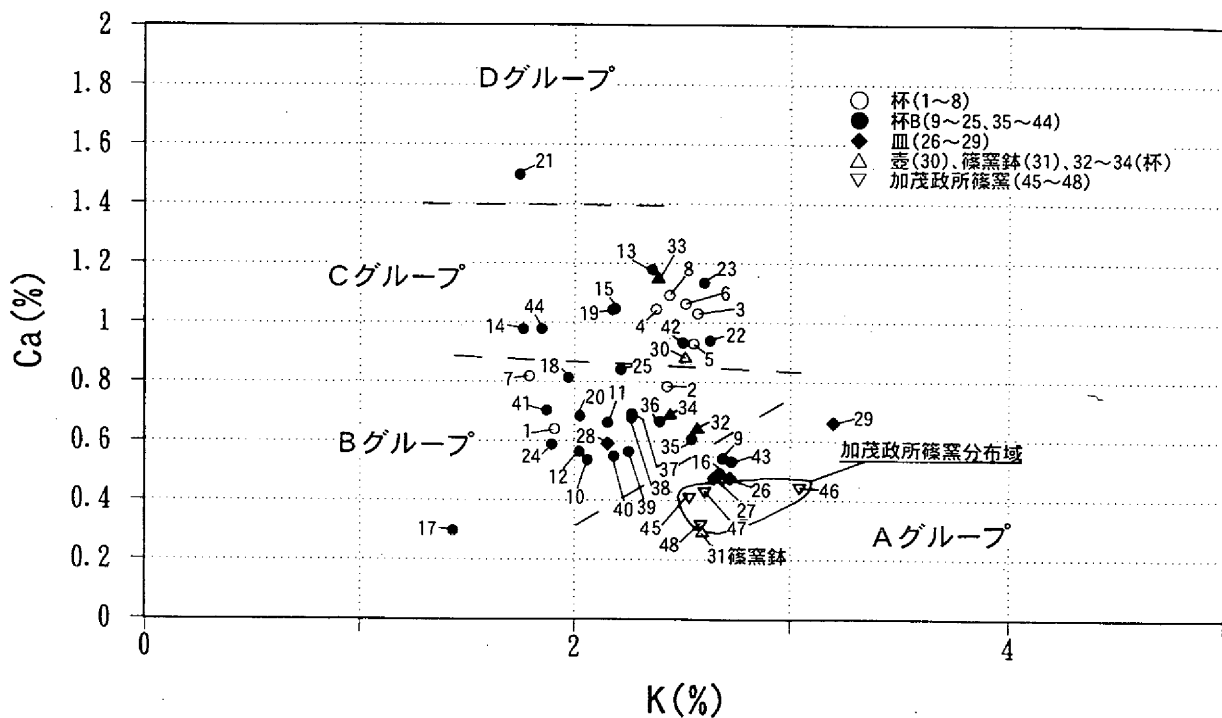
第1図 Ca/K-Sr/Rb 散布図 古墳時代土師器と須恵器の胎土比較



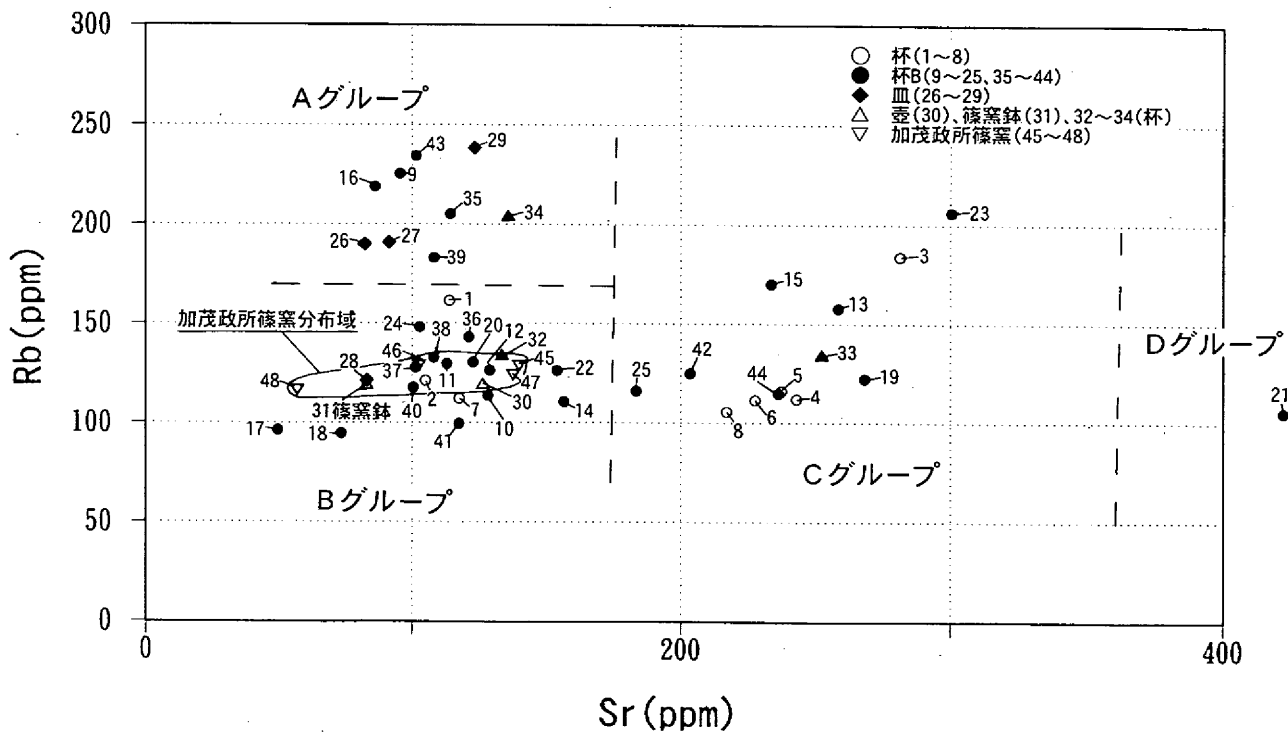
第2図 Ca/K-Sr/Rb散布図 古墳時代竪穴住居132内出土土器の胎土比較



第3図 Ca/K-Sr/Rb散布図 古墳時代各竪穴住居内出土土器の比較



第4図 K-Ca 散布図 古代土器の胎土、焼成差による比較



第5図 Sr-Rb 散布図 古代土器の胎土、焼成差による比較



第1表 高塚遺跡出土土器（古墳時代）の分析一覧表（%）ただしSr, Rbはppm

No	種類	器種	調査区	遺構	時期	K	Ca	Sr	Rb	備考	掲載No.
1	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.660	99155	66			4494
2	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.651	06233	97			4492
3	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.341	04175	95			4495
4	土師器	高杯	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.661	06221	79			4505
5	須恵器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.600	5160	100		格子叩き	4510
6	須恵器	蓋	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.400	7196	143			4511
7	土師器	高杯	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.920	68137	106			4506
8	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.541	04176	63			4493
9	土師器	高杯	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.400	92140	97		接合部	4502
10	土師器	広口壺	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.250	87172	99			4507
11	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.741	07265	132			4496
12	土師器	甌	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.360	75101	95			4512
13	土師器	高杯	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.960	88188	81			4503
14	土師器	甌	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.631	07196	69		抉り入り牛角把手	4513
15	土師器	長胴甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.500	74120	120		格子叩き	4497
16	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.901	36230	87			4498
17	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.621	12229	66		平底傾向	4501
18	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.400	87134	87			4500
19	土師器	甕	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.760	93156	98			4499
20	土師器	高杯	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	1.581	04193	73			4504
21	土師器	鉢	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.741	08207	112			4508
22	土師器	鉢	角田4区	竪穴住居132	古墳中期	2.460	7494	92			4509
23	土師器	甕	角田3区	竪穴住居138	古墳中期	1.560	91125	80			4555
24	土師器	高杯	角田3B区	竪穴住居141	古墳中期	1.521	35188	88			4594
25	須恵器	甕	角田3C区	竪穴住居143	6世紀初	2.240	39112	119			4617
26	土師器	高杯	角田3D区	竪穴住居144	古墳中期	2.431	11239	104			4638
27	土師器	高杯	角田3D区	竪穴住居144	古墳中期	1.551	01149	78			4642
28	土師器	甕	角田3D区	竪穴住居144	古墳中期	1.781	21215	93		底部穿孔	4634
29	土師器	甌	角田3D区	竪穴住居144	古墳中期	2.411	05196	101			4653
30	土師器	甕	角田3a区	竪穴住居146	古墳中期	2.210	80124	113			4670
31	土師器	鉢	角田3a区	竪穴住居146	古墳中期	2.680	73117	162		小型平底	4678
32	須恵器	蓋	角田3a区	竪穴住居148	古墳中期	2.300	6699	148			4683
33	須恵器	高杯	角田3a区	竪穴住居148	古墳中期	2.230	4196	106			4684
34	須恵器	高杯	角田3a区	竪穴住居148	古墳中期	2.160	74123	135		接合部「日輪状」	4685
35	須恵器	壺	角田3a区	竪穴住居150	古墳中期	2.490	56109	114			4710
36	土師器	高杯	角田3a区	竪穴住居150	古墳中期	2.290	94159	101		接合部「日輪状」	4714
37	土師器	甌	角田2区	竪穴住居156	古墳中期	2.291	24191	99			4773
38	土師器	高杯	角田2区	竪穴住居156	古墳中期	2.320	99149	103			4767
39	土師器	甌	角田2区	竪穴住居160	古墳中期	2.351	01194	114			4842
40	土師器	高杯	角田2区	竪穴住居168	古墳中期	2.630	6497	209			4899
41	土師器	甌	角田2区	竪穴住居169	古墳中期	1.730	60107	91		格子叩き	4921
42	須恵器	甕	角田2区	竪穴住居172	古墳中期	2.340	99149	113		格子叩き	4963
43	土師器	高杯	角田1区	河道6下層	古墳中期	2.380	85147	111		接合部「日輪状」	5413
44	須恵器	蓋	角田4区	包含層	古墳中期	1.970	64139	88		新羅系?	5550
45	須恵器	椀	角田2区	包含層	古墳中期	2.260	64106	115		把手つき	5558
46	須恵器	器台	角田3区	包含層	古墳中期	2.170	75118	139		組紐文	5571
47	須恵器	蓋	7042A区	竪穴住居37	古墳中期	2.290	51127	101			1272
48	須恵器	壺	角田2D区	河道6下層	古墳中期	2.120	80128	137		組紐文	5438
49	須恵器	甕	角田1B区	竪穴住居185	古墳中期	1.780	63124	93		縄蓆文叩き	5171
50	須恵器	高杯	角田1B区	竪穴住居185	古墳中期	2.120	81125	128			5181
51	土師器	平底鉢	角田1C区	竪穴住居190	古墳中期	2.441	06244	110		格子叩き	5227
52	土師器	平底鉢	角田1C区	竪穴住居190	古墳中期	1.971	12192	70			5246
53	土師器	甕办鉢	角田1C区	竪穴住居190	古墳中期	1.570	80160	76		格子叩き	5248

第2表 高塚遺跡出土土器（古代の須恵器）胎土分析一覧表（%）ただしSr, Rbはppm

No.	器種	調査区	遺構	K	Ca	Sr	Rb	備考	掲載No.
1	蓋	角田1区	河道8	1.90	0.64	113	160	砂粒、焼成	5906
2	蓋	角田1区	河道8	2.43	0.79	104	120	砂粒	5908
3	杯	角田1区	河道8	2.57	1.04	281	183	精良	5919
4	杯	角田1区	河道8	2.37	1.05	243	111	土師器の作り	5920
5	杯	角田1区	河道8	2.55	0.94	237	115	土師器の作り	5921
6	杯	角田1区	河道8	2.51	1.07	228	110	土師器の作り	5922
7	杯	角田1区	河道8	1.78	0.82	117	111	中心までへら切り	5923
8	杯	角田1区	河道8	2.44	1.10	217	104	土師器の作り	5924
9	杯B	角田1区	河道8	2.69	0.55	95	225	胎土に炭化粒	5928
10	杯B	角田1区	河道8	2.06	0.54	128	113	胎土に炭化粒	5938
11	杯B	角田1区	河道8	2.15	0.67	112	128	精良	5940
12	杯B	角田1区	河道8	2.02	0.57	128	125	精良	5942
13	杯B	角田1区	河道8	2.36	1.19	258	157	焼成	5944
14	杯B	角田1区	河道8	1.75	0.98	156	109	砂粒	5947
15	杯B	角田1区	河道8	2.19	1.05	233	170	砂粒、焼成	5949
16	杯B	角田1区	河道8	2.68	0.50	86	218	焼成	5952
17	杯B	角田1区	河道8	1.43	0.30	49	95	胎土に黒色粒	5956
18	杯B	角田1区	河道8	1.97	0.82	73	94	胎土に黒色粒	5960
19	杯B	角田1区	河道8	2.18	1.05	268	121	焼成	5961
20	杯B	角田1区	河道8	2.02	0.69	122	129	精良	5963
21	杯B	角田1区	河道8	1.74	1.50	501	102	焼成	5964
22	杯B	角田1区	河道8	2.63	0.94	153	125	砂粒	5968
23	杯B	角田1区	河道8	2.60	1.14	300	206	砂粒、焼成	5971
24	杯B	角田1区	河道8	1.89	0.59	102	147	砂粒、焼成	5973
25	杯B	角田1区	河道8	2.21	0.85	183	115	砂粒、焼成	5974
26	皿	角田1区	河道8	2.72	0.48	82	189	砂粒、焼成	5976
27	皿	角田1区	河道8	2.65	0.48	90	190	土師器の作り	5977
28	皿	角田1区	河道8	2.15	0.60	83	121	砂粒	5979
29	皿	角田1区	河道8	3.20	0.67	123	237	焼成	5981
30	壺底部	角田1区	河道8	2.51	0.89	126	120		5997
31	鉢	角田1区	河道8	2.59	0.30	82	120	篠産?	6001
32	杯	角田1区	河道8	2.57	0.66	133	134	土師器の作り	6022
33	杯	角田1区	河道8	2.38	1.16	252	134	土師器	6023
34	杯	角田1区	河道8上層	2.44	0.71	135	205		6086
35	杯B	角田1区	河道8上層	2.54	0.61	114	204		6087
36	杯B	角田1区	河道8上層	2.39	0.67	121	142	精良	6091
37	杯B	角田1区	河道8上層	2.26	0.70	101	127	精良	6092
38	杯B	角田1区	河道8上層	2.26	0.68	108	132	精良	6093
39	杯B	角田1区	河道8上層	2.25	0.57	108	182	砂粒	6095
40	杯B	角田1区	河道8上層	2.18	0.55	100	117	硬質	6097
41	杯B	角田1区	河道8上層	1.86	0.71	117	98	砂粒	6099
42	杯B	角田1区	河道8上層	2.50	0.94	204	124	砂粒	6100
43	杯B	角田1区	河道8上層	2.73	0.54	101	234	精良	6104
44	杯B	角田1区	河道8上層	1.84	0.98	237	114	砂粒	6107
45		加茂政所		2.53	0.41	137	122		
46		加茂政所		3.04	0.44	101	127		
47		加茂政所		2.60	0.43	139	127		
48		加茂政所	SK157	2.58	0.32	57	115		

## 5 高塚遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

大澤正己・鈴木瑞穂

### 概要

高塚遺跡の6調査区にわたる5世紀末から中世にかけての製鉄・鍛冶関連遺物（製錬滓、鍛冶滓、含鉄鉄滓、ガラス質滓、鉄器、鉄片）を調査して、次の点が明らかになった。

#### 〈1〉 角田Ⅱ・Ⅲ調査区出土鉄滓

5世紀代：住居跡出土鉄滓は、鍛冶炉の炉底で堆積形成された椀形鍛冶滓と不定形滓が混在する。これらは、鉱石系鉄素材の折り返し曲げ鍛接の高温作業で排出された滓であり、鉄器製作に繋がる鍛錬鍛冶滓に分類される。

また、赤熱鉄素材の表面酸化防止に粘土汁を塗布した際に生じたガラス質滓を共伴する。なお、椀形鍛冶滓のなかに銅（Cu）が1.32%と高値のものがあり（TKT-16）、含銅磁鉄鉱系と推定される。岡山県下の出土鉄滓で時折見受けられる成分系である<sup>(1)</sup>。

中世：角田Ⅱ区鍛冶炉1出土鉄滓は、5世紀代の鍛冶滓の傾向と同じように鍛錬鍛冶滓とガラス質滓が確認された。

#### 〈2〉 フロヤ3調査区出土鉄滓・鉄器（紡錘車）

6世紀代：当時期になると製鉄一貫体制のとられた鉱石製錬滓から鍛冶滓までが出土する。ただし、前者は製鉄炉の共伴遺物ではなく住居跡遺存品である故、製鉄操業の詳しい実態までの追求はできないが、製鉄の存在は傍証される。また、当区から鍛冶原料鉄となる荒鉄（製錬生成鉄で、表皮スラグや捲込みスラグ更には炉材粘土の不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）も検出された。高炭素鋼で炉外放冷もしくは水冷の熱履歴をもつマルテンサイト（Martensite：麻の葉模様の針状組織）をもつ共析鋼（C：0.77%）から過共析鋼（C：0.77%以上）である。鉄塊の不純物除去や成分調整につながる精錬鍛冶工程があったことが間接的に証明される。

出土鉄器は紡錘車の紡輪の調査であった。金属鉄は残存せず銹化鉄（Goethite： $\alpha$ -FeO·OH）のパーライト痕跡から極低炭素鋼の充当は判明したが、「焼き嵌め手法<sup>(2)</sup>」などの詳細な情報はとれなかった。

中世：炉外流出滓は鉱石系の製錬滓に分類される。

#### 〈3〉 角田Ⅰ調査区出土鉄滓

6世紀末～7世紀・平安時代：鉱石系鉄素材の精錬鍛冶から鍛錬鍛冶の工程で排出された滓であった。

#### 〈4〉 フロヤ1調査区出土鉄滓

中世：5世紀前半から中世の定かでない層位からの出土鉄滓である。鉱石系製錬滓であって中世に属する可能性が大きい。

#### 〈5〉 塚回り3B区出土品

中世：鍛冶原料鉄になりうる亜共晶組成（C：4.23%以下）の鉱石系白鑄鉄である。下げ処理によ

り錬鉄となりうる材質であった。

## 1 いきさつ

高塚遺跡は、岡山市高塚に所在して、旧高梁川の東分流によって形成された微高地上に立地する。山陽自動車建設に伴う発掘調査で検出された、弥生時代から古墳時代・古代・中世・近世にわたる複合遺跡である。この高塚遺跡に接して津寺遺跡（土筆山調査区<sup>(3)</sup>、西川調査区<sup>(4)</sup>、中屋調査区<sup>(5)</sup>、高田調査区<sup>(6)</sup>）があり、更には政所遺跡<sup>(7)</sup>などが存在し、過去に発掘調査されて鉄滓類の分析調査を行っている

高塚遺跡においても多くの製鉄関連遺物が出土しているため、これらの出土遺物を通して当時（古墳時代から中世）の鉄事情を把握する目的から金属学的調査の運びとなった。

## 2 調査方法

### 2-1 供試材

Table. 1 に供試材29点の履歴を示す。

### 2-2 調査方法

#### (1) 肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。

#### (2) マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の10倍もしくは20倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

#### (3) 顕微鏡組織

切り出した試料をベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンドの3 $\mu$ と1 $\mu$ で仕上げて光学顕微鏡観察を行った。なお、金属鉄のパールライトとフェライト結晶粒はナイトル（5%硝酸アルコール液）で腐食（Etching）している。

#### (4) ビッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

#### (5) CMA（Computer Aided X-Ray Micro Analyzer）調査

EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は別名X線マイクロアナライザーとも呼ばれる。分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

#### (6) 化学組成分析

Table. 1 供試材の履歴と調査項目

符号	調査区	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目				備考	
					大きさ(mm)	重量(g)	マクロ組織	顕微鏡組織	断面硬度	X線回折		CMA化学分析
TKT-1	塚廻り3B	包舎層	鉄片?	中世か?	21×16×11	9.19	○	○	○	○		
TKT-2	塚廻り3C	包舎層	合鉄鍛冶	中世か?	62×50×26	115.20	○	○	○	○		
TKT-3	フロヤ1	竪穴住居47	製錬滓	5c前~中	56×44×32	86.25	○	○	○	○		
TKT-4	フロヤ3	竪穴住居23	製錬滓	6c末	67×63×39	164.44	○	○	○	○		
TKT-5	フロヤ3	竪穴住居23	紡錘車	6c末	26×11×3	1.43	○	○	○	○		紡錘車の一部。供試材部ではメタル反応なし
TKT-6	フロヤ3	竪穴住居26	製錬滓	6c	45×39×29	51.17	○	○	○	○		
TKT-7	フロヤ3	竪穴住居22	楕形鍛冶滓	6c	34×35×24	29.72	○	○	○	○		
TKT-8	フロヤ3	竪穴住居24	製錬滓	6c	56×34×27	62.55	○	○	○	○		
TKT-9	フロヤ3	竪穴住居24	ガラス質滓	6c	40×32×20	23.49	○	○	○	○		
TKT-10	フロヤ3	竪穴住居24	炉外流出生	中~近世	83×55×20	108.85	○	○	○	○		
TKT-11	フロヤ3	包舎層	鉄塊系遺物	時期不明	22×21×14	9.42	○	○	○	○		
TKT-12	角田 I	竪穴住居189	鍛冶滓	6c末~7c	56×47×32	54.50	○	○	○	○		
TKT-13	角田 I	河道 9	楕形鍛冶滓	平安前期	70×44×34	206.67	○	○	○	○		
TKT-14	角田 II	竪穴住居156	楕形鍛冶滓	5c末	62×25×25	74.16	○	○	○	○		
TKT-15	角田 II	竪穴住居156	鍛冶滓	5c末	38×14×14	11.18	○	○	○	○		
TKT-16	角田 II	竪穴住居163	鍛冶滓	5c末	55×15×16	14.42	○	○	○	○		
TKT-17①	角田 II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	21×12×13	5.18	○	○	○	○		
TKT-17②	角田 II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	25×15×16	7.56	○	○	○	○		
TKT-17③	角田 II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	25×16×16	6.80	○	○	○	○		
TKT-18	角田 II	鍛冶炉 1	鍛冶滓	中世	25×11×10	3.39	○	○	○	○		
TKT-19	角田 II	鍛冶炉 1	鍛冶滓	中世	21×13×	2.14	○	○	○	○		
TKT-20	角田 II	竪穴住居161	鍛冶滓	5c末	34×23	26.04	○	○	○	○		
TKT-21	角田 II	竪穴住居166	鍛冶滓	5c末	32×15×22	26.22	○	○	○	○		
TKT-22	角田 II	河道 9	楕形鍛冶滓	古墳時代	57×24×25	78.54	○	○	○	○		
TKT-23①	角田 III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	30×18×13	16.36	○	○	○	○		
TKT-23②	角田 III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	27×17×12	16.03	○	○	○	○		
TKT-23③	角田 III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	30×17×15	11.85	○	○	○	○		
TKT-23④	角田 III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	27×12×23	6.20	○	○	○	○		
TKT-24	角田 III	河道 9	製錬滓	中世	33×27×30	35.42	○	○	○	○		

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S)、: 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化珪素 (SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム (Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム (Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化燐 (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、: ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

### 3 調査結果

#### TKT-1 鉄片

① 肉眼観察 : 平面は不整四角形を呈し、厚み 1 cm 程の偏平な鉄片である。用途は不明。表面は黒錆に覆われ、放射割れが認められて磁性は強い。

② 顕微鏡組織 : Photo. 1 ①~⑨に示す。①は銹化鉄 (Geothite :  $\alpha$ -FeO·OH) 中の捲込みスラグ、ガラス質スラグ中に微小金属鉄粒が晶出する。④~⑨には金属鉄 (Metallic Fe) 部分を示す。②③は研磨のままで腐食をしない組織で一部片状黒鉛の析出が認められる。④~⑨はナイトル (5%硝酸アルコール液) で腐食 (Etching) して現れた組織である。④⑤は白鑄鉄なりかけの組織である。⑥⑦は片状黒鉛とパーライトが析出する。

③ ビッカース断面硬度 : Photo. 1 の⑧⑨に金属鉄 (Metallic Fe) の硬度測定 of 圧痕を示す。⑧はパーライト部分で 364 Hv、⑨セメンタイト部分は 840 Hv であった。それぞれ組織に見合った値といえよう。

④ 化学組成分析 : Table. 2 に示す。酸化物定量での結果である。炭素 (C) 量は 1.73% と 2% に達せず鉄鉄になりきっていないが、二酸化珪素 (SiO<sub>2</sub>) 0.61%、酸化マンガン (MnO) 0.01%、五酸化燐 (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>) 0.01%、硫黄 (S) 0.04%、銅 (Cu) 0.005% であった。高純度の成分系からみて鉄製品の破片であろう。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.05%、バナジウム (V) 0.001% と両者は低めであるが、これから製鉄原料由来までの言及はできない。

#### TKT-2 鉄塊系遺物

① 肉眼観察 : 平面は楕円形で椀形を呈する鉄塊系遺物である。銹化が進行し黒錆の滲みや放射割れが著しい。上面は平坦気味で薄く黒灰色の表皮スラグが付着し、部分的に細かい気孔が発生する。下面は薄く粉炭痕が認められる。形状を重視すれば、成分調整の精錬鍛冶工程に入りかかった状態の鉄塊である可能性も考えられる。

② 顕微鏡組織 : Photo. 2 ①~⑨に示す。①表皮スラグ部分の鉱物相を示す。白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。ファイヤライト基地にヴスタイトの局部析出から製錬系鉄塊系遺物が想定される。

②~⑧金属鉄 (Metallic Fe) 組織を示す。②は一部に片状黒鉛析出が認められる。③~⑧はナイトル (5%硝酸アルコール液) で腐食 (Etching) して現れた組織である。パーライト領域の広いところから垂共晶組成の白鑄鉄である。

③ ビッカース断面硬度：Photo. 2 の⑦～⑨に硬度測定の前痕を示す。⑦はパーライト部分で292Hv、⑧はセメンタイト部分で956Hvであった。それぞれ組織に対応した値となる。⑨は淡灰色不定形結晶の硬度測定の前痕を示す。硬度値は695Hvであった。ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) の文献硬度値600～700Hvの範囲内であり、ファイヤライトに同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。こちらも酸化物定量での結果である。炭素 (C) は3.79%と亜共晶組成の銑鉄に見合った数値で、荒鉄なので不純物が多く、二酸化珪素 ( $\text{SiO}_2$ ) 8.82%、酸化マンガン ( $\text{MnO}$ ) 0.08%、五酸化燐 ( $\text{P}_2\text{O}_5$ ) 0.23%、硫黄 (S) 0.28%、銅 (Cu) 0.005%であった。該品は前述した銑鉄片に比べて未処理の夾雑物の多い成分傾向が顕著である。一方、砂鉄特有成分の二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ ) 0.05%、バナジウム (V) 0.001%などは低値である。鉱物組成と併せて考えると磁鉄鉱由来の鉄塊系遺物といえよう。

### 小結

中世の層位からの出土遺物 2 点の調査結果である。1 点は銑鉄片、残る 1 点は製錬系鉄塊系遺物 (銑鉄・鉱石系) と判明した。銑削しの大鍛冶原料鉄としての搬入品であろうか。

### TKT-3 製錬滓

① 肉眼観察：表面黄褐色の酸化土砂に覆われて、さらに滓の地も風化が進行しており外観からの判断が難しい試料である。上面以外は破面と思われ、製鉄炉の炉内滓の小割りされた破片ではないかと思われる。上面は細かい凹凸があり、中小の気孔がやや密に認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 3 ①～⑤に示す。鉱物組成は淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) と、粒内に微小析出物が認められる白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite :  $\text{FeO}$ ) が僅かに基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鉱石系製錬滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：淡灰色盤状結晶の硬度測定の前痕をPhoto. 3 ①に示す。硬度値は638Hvであった。ファイヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。

④ CMA調査：Photo.17 のSE (2次電子像) に示す鉱物相の高速定性分析結果がFig. 1 である。A-Rankで検出された元素は鉄 (Fe)、ガラス質成分 (Si+Al+Ca+Mg+K+Na)、燐 (P)、である。これは酸化物なので酸素 (O) が加わる。またB-Rankでチタン (Ti) が検出された。

この結果を視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値がPhoto.17である。SEに6の番号をつけた淡灰色盤状結晶は鉄 (Fe)、珪素 (Si) に白色輝点が集まり、定量分析値は64.8%FeO-31.6%SiO<sub>2</sub>でファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) が同定される。淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライトの結晶の外側に沿って周囲にやや濃い色調の2層構造が認められるためSE番号7をつけて調査した。特性X線像は鉄 (Fe)、珪素 (Si) に加えてカルシウム (Ca) に白色輝点が集まった。定量分析値は48.1%FeO-32.3%SiO<sub>2</sub>-18.7%CaOが得られ、灰かんらん石のライムオリピン (Lime Olivine :  $(\text{Ca} \cdot \text{Fe}) \text{O} \cdot \text{SiO}_2$ ) に同定されよう。

SEに8の番号をつけた淡茶褐色の羊歯の葉状の結晶はカルシウム (Ca)、鉄 (Fe)、珪素 (Si)、アルミニウム (Al) に白色輝点が集まった。前述した灰かんらん石のライムオリピン (Lime Olivine :  $(\text{Ca} \cdot \text{Fe}) \text{O} \cdot \text{SiO}_2$ ) 14.2%CaO-23.0%FeO-40.4%SiO<sub>2</sub>と、14.5%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>組成からカイヤナイト (Kyanite :  $\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot \text{SiO}_2$ ) あたりの混合組成の可能性を考えている。

Fig. 1 鉱石製鉄滓 (TKT-3) のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果

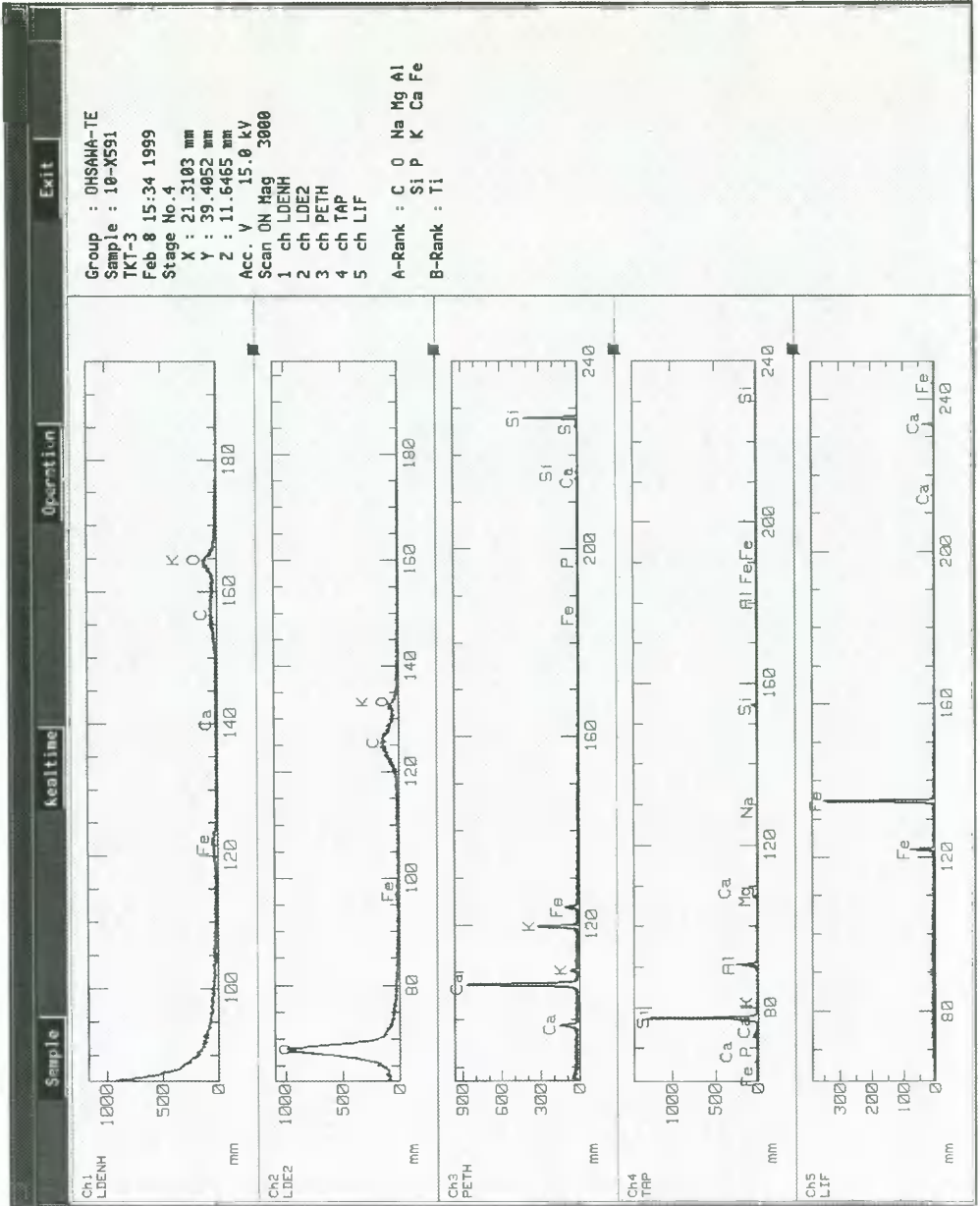




Table. 2 供試材の化学組成

試料番号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metal Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	二酸化シリコン (SiO <sub>2</sub> )	酸化アルミナ (Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K <sub>2</sub> O)	酸化ナトリウム (Na <sub>2</sub> O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO <sub>2</sub> )	酸化クロム (Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	硫黄 (S)	五酸化燐 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO <sub>2</sub> Total Fe
TKT-1	塚廻り3B	包舎層	鉄片?	中世か?	80.35	33.69	21.66	42.64	0.61	0.12	0.06	0.02	0.01	0.01	0.01	0.05	0.02	0.04	0.01	1.73	0.001	0.005	0.83	0.010	0.001
TKT-2	塚廻り3B	包舎層	含鉄鉄滓	中世か?	61.89	22.89	19.77	33.79	8.82	1.27	0.57	0.32	0.37	0.15	0.08	0.05	0.01	0.28	0.23	3.79	0.001	0.005	11.50	0.186	0.001
TKT-3	フロヤ1	壁穴住居47	製鉄滓	5c前~中	28.36	0.20	28.53	8.56	38.9	7.39	4.12	2.42	1.65	1.11	0.27	0.22	0.03	0.03	0.69	0.35	0.003	0.010	55.59	1.960	0.008
TKT-4	フロヤ3	壁穴住居23	炉底塊	6c末	35.09	0.18	39.77	5.72	36.3	6.50	3.26	1.66	1.73	0.55	0.33	0.16	0.02	0.01	0.46	0.14	0.001	0.008	50.00	1.425	0.005
TKT-6	フロヤ3	壁穴住居26	製鉄滓	6c	35.59	0.20	38.74	7.55	32.4	6.01	7.39	1.34	1.21	0.30	1.08	0.32	0.02	0.01	0.64	0.09	0.003	0.002	48.65	1.367	0.009
TKT-7	フロヤ3	壁穴住居22	楕形鍛冶滓	6c	61.32	0.16	59.61	21.20	8.88	3.02	1.45	0.58	1.25	0.25	0.18	0.09	0.01	0.01	0.40	0.11	0.001	0.002	15.43	0.252	0.001
TKT-8	フロヤ3	壁穴住居24	製鉄滓	6c	32.89	0.09	36.56	6.26	36.3	8.24	3.49	1.80	2.08	0.82	0.27	0.26	0.03	0.01	0.58	0.17	0.002	0.008	52.73	1.603	0.008
TKT-9	フロヤ3	壁穴住居24	ガラス質滓	6c	19.35	0.12	14.30	11.60	47.5	14.2	4.09	1.82	2.45	0.60	0.24	0.52	0.05	0.00	0.48	0.12	0.006	0.012	70.66	3.652	0.027
TKT-10	フロヤ3	欵状溝	炉外流出滓	中世	42.04	0.10	49.32	5.15	29.1	6.62	3.36	0.89	1.71	0.61	0.71	0.21	0.02	0.02	0.45	0.05	0.001	0.020	42.29	1.006	0.005
TKT-12	角田 I	壁穴住居189	鍛冶滓	6c末~7c	37.57	0.13	16.49	35.20	24.7	6.33	3.25	0.69	1.00	0.46	0.21	0.21	0.02	0.02	0.34	0.21	0.001	0.025	36.43	0.970	0.006
TKT-13	角田 I	河道9	楕形鍛冶滓	平安前期	62.10	0.16	67.35	13.71	11.0	2.64	1.38	0.45	0.67	0.26	0.16	0.12	0.01	0.01	0.22	0.12	0.001	0.020	16.40	0.264	0.002
TKT-14	角田 II	壁穴住居156	楕形鍛冶滓	5c末	60.61	0.12	61.80	17.80	12.0	3.50	1.15	0.42	0.72	0.36	0.06	0.13	0.01	<0.01	0.21	0.05	0.001	0.008	18.15	0.299	0.002
TKT-16	角田 II	壁穴住居163	鍛冶滓	5c末	10.42	0.09	8.24	5.61	57.0	13.1	4.11	1.58	3.72	1.69	0.18	0.47	0.10	0.00	0.44	0.10	0.004	1.32	81.20	7.793	0.045
TKT-20	角田 II	壁穴住居161	鍛冶滓	5c末	40.27	0.03	27.36	27.13	25.7	6.17	1.60	0.76	0.88	0.66	0.24	0.22	0.02	0.03	0.56	0.36	0.001	0.010	35.77	0.888	0.005
TKT-21	角田 II	壁穴住居166	鍛冶滓	5c末	44.65	0.11	39.11	20.22	23.2	6.18	2.48	0.58	1.19	0.50	0.49	0.13	0.01	0.03	0.69	0.16	0.002	0.005	34.13	0.764	0.003
TKT-22	角田 II	河道9	楕形鍛冶滓	古墳時代	55.81	0.09	46.41	28.09	16.6	4.09	0.75	0.51	0.67	0.45	0.09	0.13	0.01	0.01	0.24	0.07	0.004	0.070	23.07	0.413	0.002
TKT-24	角田 III	河道9	鍛冶流出滓	中世	37.08	0.07	3.94	48.54	29.5	5.98	4.46	3.20	1.31	0.72	0.63	0.33	0.03	0.01	0.35	0.08	0.008	0.015	45.17	1.218	0.009

SEに9の番号をつけた個所は、定量分析値が $59.3\%SiO_2-24.2\%Al_2O_3-4.1\%CaO-14.4\%K_2O-2.9\%FeO$ 組成となるので、珪酸塩のガラス質スラグと同定される。

SEに10の番号をつけた白色粒状結晶は鉄 (Fe)、酸素 (O) に白色輝点が集中し、定量分析値は $90.1\%FeO(3.4\%TiO_2-6.3\%Al_2O_3)$ なのでヴスタイト (Wüstite : FeO) に同定される。粒内にTi、Alの固溶が認められる。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分低くガラス分の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 28.36%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.20%、酸化第1鉄 (FeO) 28.53%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 8.56%の割合である。ガラス質成分は ( $SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$ ) 55.59%で、このうち塩基性成分 ( $CaO+MgO$ ) 6.54%と高めに含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) 0.22%、バナジウム (V) 0.003%は低値である。また脈石成分の酸化マンガンは (MnO) 0.27%とやや低値である。銅 (Cu) は0.010%とやや高い値を示す。鉍石系製錬滓の成分である。

#### 小結

鉍石製錬で排出された炉内滓の小割り破片である。5世紀前半から中世にかけての層位からの出土であるが、後者の中世に属する鉄滓であろう。

#### TKT-4 製錬滓

① 肉眼観察：平面が楕円形を呈する、やや厚手の試料である。全体的に褐色の酸化土砂の付着が顕著であるが、地の色調は黒灰色で細かい気孔が散在するも緻密な滓である。上下面は一部紫紅色を呈する部分がある。やや酸化状態であったのだろうか。側面3面は破面。長さ1cm程の木炭痕が数箇所に認められる。下面は長さ1cm程の木炭痕による凹凸が顕著である。製錬滓か鍛冶滓か判断が難しい遺物である。

② 顕微鏡組織：Photo. 3 ⑥～⑧に示す。淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2FeO \cdot SiO_2$ ) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。

③ ビッカース断面硬度：淡灰色盤状結晶の硬度測定の際の圧痕をPhoto. 3 ⑥に示す。硬度値は633Hvである。ファイヤライトの文献硬度値600～700Hvの範囲内であり、ファイヤライトに同定される。

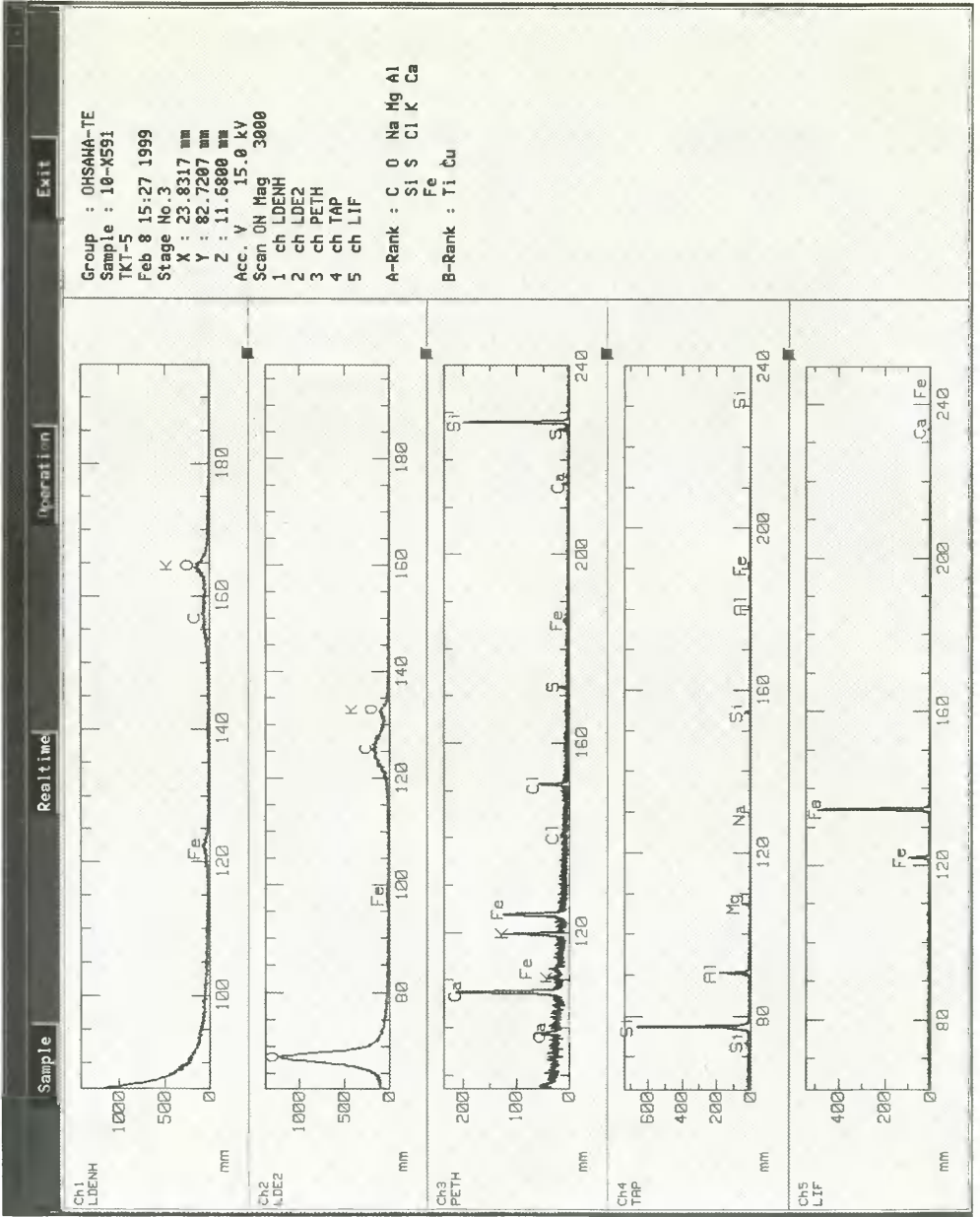
④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分低めでガラス分の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 35.09%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.18%、酸化第1鉄 (FeO) 39.77%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 5.72%の割合である。ガラス質成分 ( $SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$ ) 50.00%で、このうち塩基性成分 ( $CaO+MgO$ ) 4.92%を含む。チタン (Ti) 0.16%、バナジウム (V) 0.001%、酸化マンガン (MnO) 0.33%、銅 (Cu) 0.008%で鉍石系脈石成分が多い。形状的には椀形滓様にも見えるが製錬滓成分である。

#### TKT-5 鉄器

① 肉眼観察：紡錘車の紡輪からの採取試料である。側面と裏面は破面で偏平である。錆化の進行が進み金属鉄の遺存は認められない。

② 顕微鏡組織：Photo. 4 ①～⑤に示す。①は錆化鉄 (Goethite :  $\alpha-FeO \cdot OH$ ) 中の非金属介在物を示す。鍛打により展伸された非晶質珪酸塩である。②～⑤には錆化鉄 (Goethite :  $\alpha-FeO \cdot OH$ )

Fig. 2 紡錘車 (TKT-5) 紡輪鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果



部分を示す。金属鉄は既に残留せず錆化しているが、パーライト（Pearlite：フェライトとセメンタイトが交互に重なった層状組織）とフェライト結晶粒界の痕跡を留めている。0.1%以下の炭素含有量で、極軟鋼であったと推定される<sup>(11)</sup>。

鉄製紡錘車の製造は「焼き嵌め法」という鉄材の加熱時の膨張と、冷却時の収縮性を利用して紡輪と紡莖を固定する手法がとられるが、今回の供試材ではそれらの熱処理の痕跡は定かではなかった。

③ CMA調査：錆化鉄（Goethite）中の非金属介在物の高速定性分析結果をFig. 2に示す。A-Rankで検出された元素は鉄（Fe）、ガラス質成分（Si+Al+Ca+Mg+K+Na）、硫黄（S）、酸素（O）であった。

この結果を視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値がPhoto.18である。SE（2次電子像）に5の番号をつけた個所ではガラス質成分（Si+Al+Ca+Mg+K+Na）、酸素（O）に白色輝点が集中し、定量分析値64.5%SiO<sub>2</sub>-14.5%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-8.5%CaO-1.8%MgO-6.0%K<sub>2</sub>O-2.2%FeOが得られた。非晶質珪酸塩と同定される。

#### TKT-6 炉内滓

① 肉眼観察：平面は不整五角形を呈する炉内滓である。側面2面は破面。上面は平坦気味で長さ1cm以下の木炭痕が数個所認められる。下面は細かい木炭痕による凹凸が顕著である。地の色調は黒灰色で、表面やや風化気味である。表面に細かい気孔が散在するが緻密な滓である。製錬滓か鍛冶滓か判断が難しい遺物である。

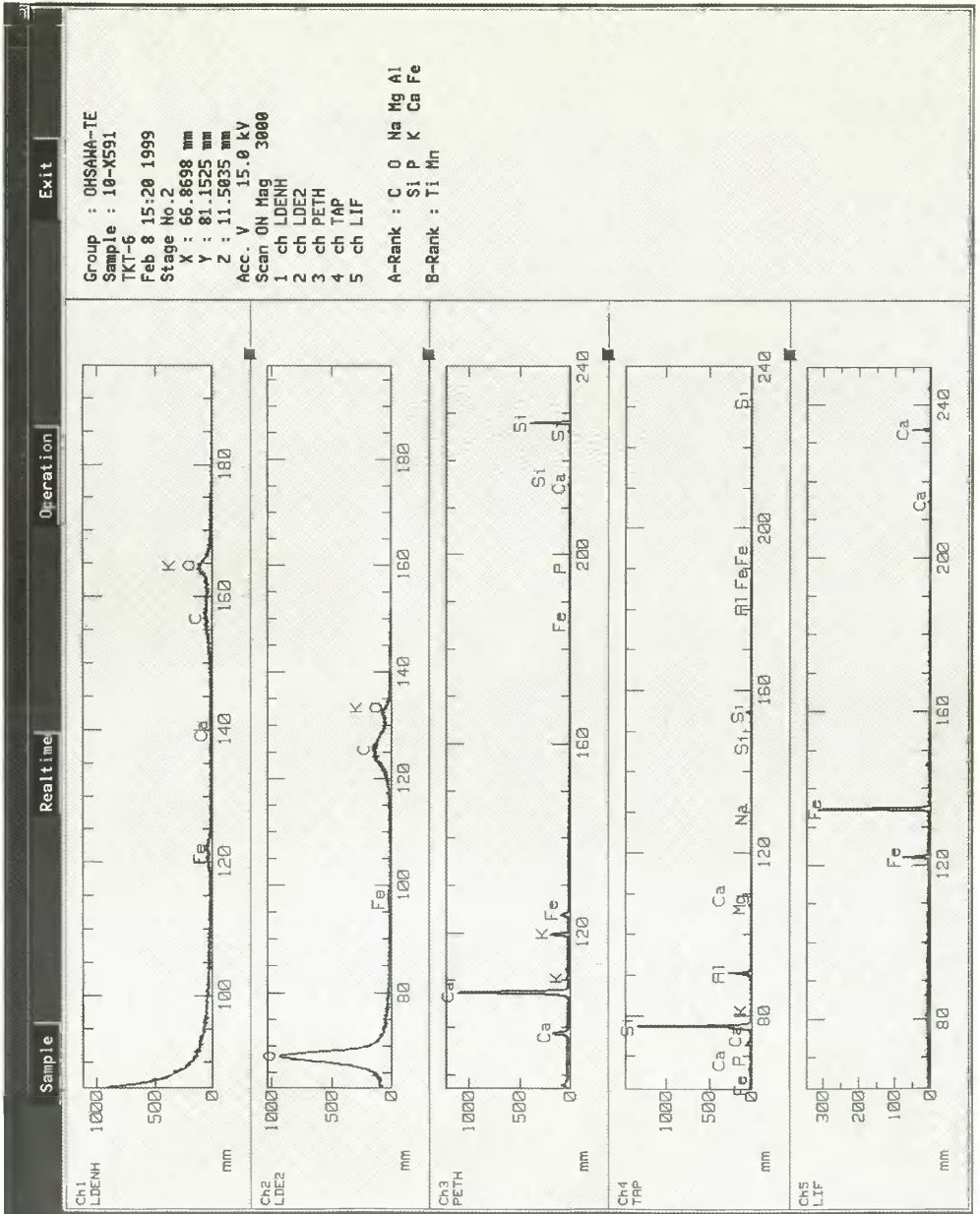
② 顕微鏡組織：Photo. 4⑥～⑧に示す。鉱物相は淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：2FeO・SiO<sub>2</sub>）が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。また、微小金属鉄粒が認められる。

③ ビッカース断面硬度：Photo. 4⑥に示す。淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の際の圧痕を示す。357Hvとファイヤライト（Fayalite：2FeO・SiO<sub>2</sub>）文献硬度値の600～700 Hvから大きく外れるが、風化と亀裂のため異常値を出したと考えられる。ファイヤライトに同定されよう。

④ CMA調査：Photo.19のSE（2次電子像）にある鉱物相の高速定性分析結果がFig. 3である。A-Rankで検出された元素は鉄（Fe）、ガラス質成分（Si+Al+Ca+Mg+K+Na）、磷（P）、これらは酸化物で存在するので酸素（O）が加わる。B-Rankでチタン（Ti）が検出された。前述したTKT-3製錬滓と同系鉱物組成である。

この結果を視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値がPhoto.19である。SEに1の番号をつけた淡灰色木ずれ状結晶は鉄（Fe）、珪素（Si）に白色輝点が集中し、定量分析値は40.0%SiO<sub>2</sub>-62.9%FeOであり、ファイヤライト（Fayalite：2FeO・SiO<sub>2</sub>）に同定される。これには3.3%CaO-1.8%MnOの固溶がある。SEに2の番号をつけた個所は、ガラス質成分（Si+Al+Ca+Mg+K）に白色輝点が集中し、定量分析値は43.9%SiO<sub>2</sub>-16.9%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-14.9%CaO-5.8%K<sub>2</sub>O組成で珪酸塩である。これには19.9%FeOの固溶がある。SEに3の番号をつけた片状結晶は鉄（Fe）、チタン（Ti）、珪素（Si）、アルミニウム（Al）、カルシウム（Ca）に白色輝点が集中し、定量分析値が11.6%CaO-43.2%FeO-27.0%SiO<sub>2</sub>-15.5%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>組成から灰かんらん石のライムオリピン（Lime Olivine：(Ca・Fe)O・SiO<sub>2</sub>）とカイヤナイト（Kyanite：Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・SiO<sub>2</sub>）の混合組成あたりの可能性が考えられる。SEの淡灰色木ずれ状結晶の表層部に4の番号をつけている。TKT-3と同様表層に沿ってやや濃い色調の2層構造が認められる。白色輝点は鉄（Fe）、珪素（Si）、に加えてカルシウム（Ca）に集中

Fig. 3 鉱石製錬滓 (TKT-6) のコンピュータプログラムによる高速度定性分析結果



し、定量分析値は32.6%SiO<sub>2</sub>-19.2%CaO-46.1%FeOであった。ライムオリピン (Lime Olivine : (Ca·Fe) O·SiO<sub>2</sub>) に同定される。

⑥ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分やや低くガラス分が多い。また、脈石成分 (CaO+MgO、TiO<sub>2</sub>、V、MnO) の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 35.59%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.20%、酸化第1鉄 (FeO) 38.74%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 7.55%の割合である。また、ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 48.65%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) 8.73%を含む。脈石成分は二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.32%、バナジウム (V) 0.003%、酸化マンガン (MnO) 1.08%とやや高値である。また銅 (Cu) は0.002%であった。鉍石系製錬滓の成分系である。

#### TKT-7 椀形鍛冶滓

① 肉眼観察：鍛冶炉の炉底に堆積形成された小型の椀形鍛冶滓である。側面1面は破面。上面は平坦ぎみで細かい気孔が散在する。下面には長さ1cm程の細かい木炭痕による凹凸が顕著に認められる。地の色調は黒灰色である。

② 顕微鏡組織：Photo. 5 ①～⑤に示す。鉍物組成は白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite : FeO) がやや凝集気味に晶出し、その粒間を淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) や、基地の暗黒色ガラス質スラグが埋める。鉄素材の繰り返し折り返し曲げ鍛接の高温作業で排出された鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto. 5 ①に示す。硬度値は421Hvであった。ヴスタイトの文献硬度値の下限を僅かに下回るが、ヴスタイト (Wüstite : FeO) に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分高くガラス分の低い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 61.32%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.16%、酸化第1鉄 (FeO) 59.61%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 21.20%の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) は15.43%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) 2.03%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.09%、バナジウム (V) 0.001%と低く、脈石成分の酸化マンガンも (MnO) 0.18%と低値である。銅 (Cu) 0.002%であった。鉍石系鍛錬鍛冶滓の成分系である。

#### TKT-8 製錬滓

① 肉眼観察：KTK-3と同様、表面黄褐色の酸化土砂に覆われて、さらに滓の地も風化が進行しており、外観からの判断が難しい試料である。1面を除き他は破面で、製鉄炉の炉内滓の小割り破片ではないかと思われる。破面には中小の気孔がやや密にみられる部分がある。また、破面には光沢が認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 5 ⑥～⑧に示す。鉍物組成は淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) と僅かに白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite : FeO) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鉍石系製錬滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：淡灰色盤状結晶の硬度測定の前痕をPhoto. 5 ⑥に示す。硬度値は657Hvとファイヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉱石製錬滓としての鉄分レベルを持った滓である。全鉄分 (Total Fe) 32.89% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、酸化第 1 鉄 (FeO) 36.56%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 6.26% の割合である。また、ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 52.73% で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 5.29% を含む。二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.26%、バナジウム (V) 0.002%、酸化マンガン (MnO) 0.27%、銅 (Cu) 0.008% であった。塩基性成分 (CaO+MgO) の 5.29% は製錬滓としての数値であろう。

#### TKT-9 ガラス質滓

① 肉眼観察：不定形、小型のガラス質滓である。地は黒色で流動状を呈する。側面 2 箇所小さく欠損した部分があり、全面気孔が密集しているのが認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 6 ①～⑤ に示す。暗黒色ガラス質スラグ基地中に白色多角形結晶マグネタイト (Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) が晶出している。①④⑤ではマグネタイトの凝集が認められる。炉壁の溶融物にスラグ分が混入したものである。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕を Photo. 6 ① に示す。硬度値は 613Hv であった。マグネタイトの文献硬度値を僅かに上回るがマグネタイト (Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) に同定されよう。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分低くガラス分の高い成分系である。また脈石成分 (TiO<sub>2</sub>, V, MnO) も高め傾向である。全鉄分 (Total Fe) 19.35% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.12%、酸化第 1 鉄 (FeO) 14.30%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 11.60% の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 70.66% で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 5.91% を含む。二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.52%、バナジウム (V) 0.006%、と比較的高値である。酸化マンガン (MnO) 0.24%、また銅 (Cu) が 0.012% とやや高めであり鉱石系の成分といえよう。

#### TKT-10 炉外流出滓

① 肉眼観察：平面不整五角形を呈する炉外流出滓の破片である。側面 3 面は破面。上面は酸化により紫紅色を呈する。表面には流動時の皺が各所に認められる。下面は細かい凹凸がみられ、酸化土砂の付着が顕著である。緻密な滓であるが、表面風化が認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 6 ⑥～⑧ に示す。鉱物組成は淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) と微量の白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite: FeO) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鉱石製錬滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：Photo. 6 ⑥ に示す。淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の前痕を示す。硬度値は 648Hv とファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) の文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。脈石成分が高めの成分系である。全鉄分 (Total Fe) は 42.04% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.10%、酸化第 1 鉄 (FeO) 49.32%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 5.15% の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) は 42.29% で、このうち滓と鉄の分離に寄与する塩基性成分 (CaO+MgO) は高めの 4.25% である。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.21%、バナジウム (V) 0.001% と低値である。脈石成分の酸化マンガン (MnO) は

0.71%と多い。銅 (Cu) も0.020%と高め傾向で鉱石系製錬滓の特徴を有するものであった。

#### TKT-11 鉄塊系遺物

① 肉眼観察：黄褐色の酸化土砂に分厚く覆われた小振りの鉄塊系遺物である。錆化のため大きく2片に割れている。

② マクロ組織：Photo.16に示す。断面は周辺部が錆化鉄となり、ゲーサイト中に針状セメンタイトの痕跡を留め、その内側を過共析鋼と共析鋼が混在する組織である。全体にまとまりの良好な鉄塊であるが0.1~0.3mm前後の点蝕が発生している。

③ 顕微鏡組織：Photo. 7 ①~⑨に示す。①は鉄中非金属介在物の硫化鉄 (FeS) である。その周囲にはFe-Fe<sub>3</sub>C-Fe<sub>3</sub>Pの三元系共晶であるステダイト (Steadite) が存在する。②③はウッドマンステッテン状組織④⑤は粗大な結晶粒からなる微細島状組織の集合体、さらに⑥⑧は初析セメンタイトが粒界に析出し、粒内に針状セメンタイトが析出した高炭素を含有する過共析鑄造組織をもち主として3種類の組織体によって構成されている。上記過共析組織及び素地の結晶粒から推定される加熱温度は1300℃であり、製鉄炉内から比較的速い冷却速度で冷却されたと推定される。

④ ビッカース断面硬度：⑦は共析パーライト組織のフェライトとセメンタイトの層状組織が変形した個所の硬度測定で286Hvを呈する。⑧は初析セメンタイト及び針状セメンタイト組織が生成した過共析組織で398Hvと極めて高い硬度値を示している。一方⑨は低炭素鋼のマルテンサイト組織のウッドマンステッテンが焼戻された組織に類似したところで229Hvであった。製錬系の鉄塊と推定されるが、実験的に再現の難しい熱サイクルを得た組織を呈するものであった。

⑤ CMA調査：Photo.20のSE (2次電子像) にある鉄中非金属介在物の高速定性分析結果をFig. 4に示す。A-Rankで検出された元素は鉄 (Fe)、燐 (P)、硫黄 (S)、錫 (Sn) である。

これを視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値がPhoto.20である。SEに1の番号をつけた個所は鉄 (Fe) と硫黄 (S) に白色輝点が集中し、定量分析値は64.8%Fe-35.1%S-1.8%Sn組成が得られた。硫化鉄 (FeS) に同定される。また、SEに2の番号をつけた個所は鉄 (Fe)、燐 (P) に白色輝点が集中し、定量分析値は87.2%Fe-7.3%P-1.7%Snであった。三元系共晶のステダイト (Steadite: Fe-Fe<sub>3</sub>C-Fe<sub>3</sub>P) に同定される。該品は高温生成物といえる。

#### 小結

フロヤ調査区3区は6世紀代の遺物が中心となり、中世が一部加わる。出土鉄滓からみて鉱石製錬から鍛冶作業が推定される。また鍛冶原料の鉄塊系遺物から製品としての紡錘車も存在するが、後者は錆化が激しくて鍛冶技術までの言及はできなかった。

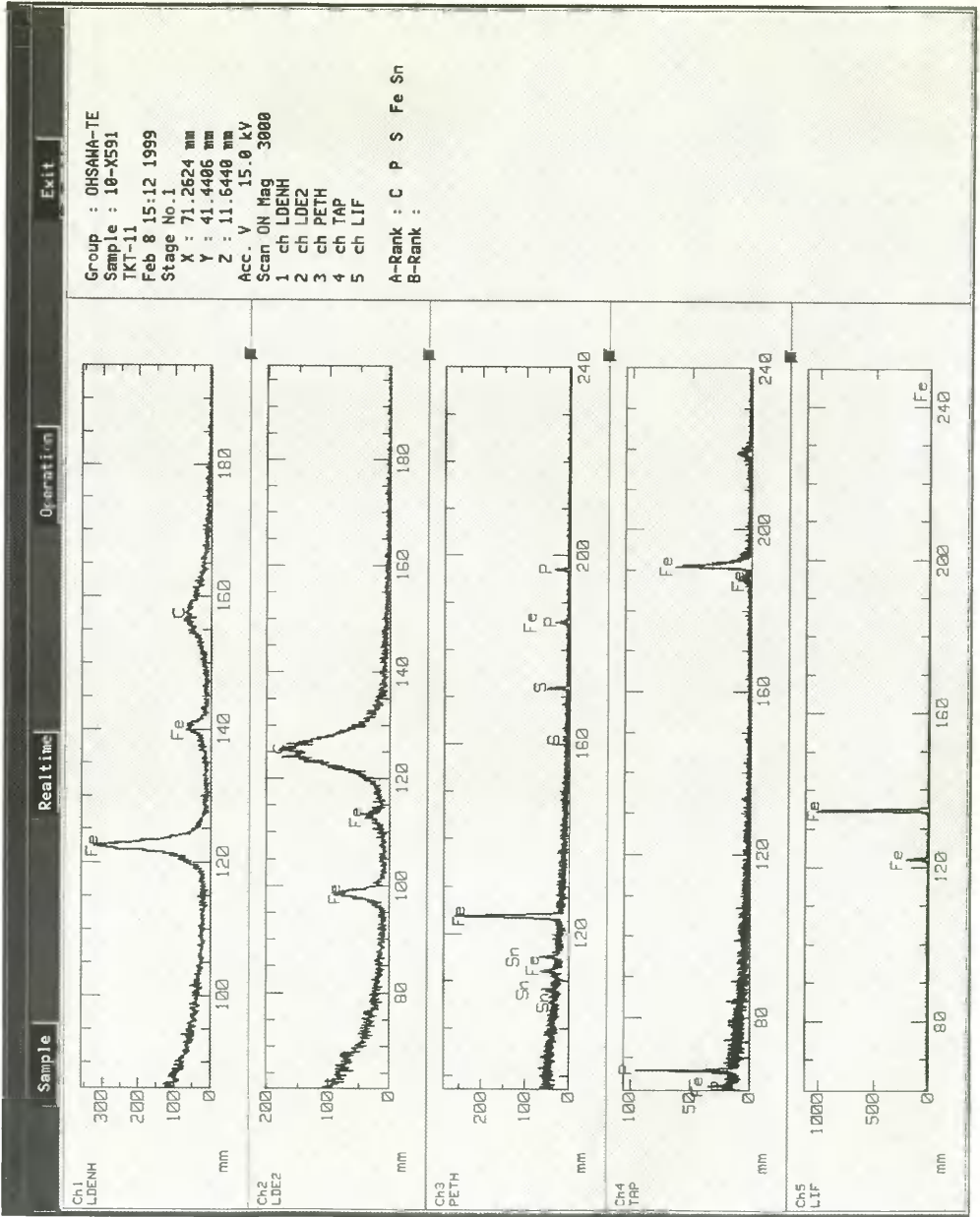
#### TKT-12 鍛冶滓

① 肉眼観察：ほぼ完形で軽い質感の不定形鍛冶滓である。上面には長さ1cm程の木炭痕が集中する個所があり、その周囲では僅かに黒錆が認められる。下面にも木炭痕による凹凸が認められる。表面は一部風化が認められ、細かい気孔が散在する。

② 顕微鏡組織：Photo. 8 ①~⑤に示す。①~③に鉄滓の鉱物組成を示す。白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite: FeO)、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色



Fig. 4 鉄器片 (TKT-11) 紡輪鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果



ガラス質スラグに晶出している。④⑤錆化鉄 (Goethite) 部分を示す。フェライト基地にとパーライトの痕跡を留めており、炭素量0.2%程の軟鋼になる組織である。

③ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分低くガラス質分の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 37.57%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.13%、酸化第1鉄 (FeO) 16.49%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 35.20%の割合である。含鉄 (錆化) のため酸化第2鉄の値が高い。ガラス質成分は (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 36.43%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) をやや多めの3.94%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) は0.21%、バナジウムは (V) 0.001%と低値である。酸化マンガン (MnO) 0.21%、銅は (Cu) 0.025%高めの値を示した。鉱石系精錬鍛冶滓の成分系である。該品は荒鉄 (製錬生成鉄で表皮スラグや捲込みスラグ、更には炉材粘土など不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物) の不純物除去と成分調整をはかった際の排出滓である。

#### TKT-13 椀形鍛冶滓

① 肉眼観察：平面不整五角形を呈する椀形鍛冶滓である。側面3面は破面。下面にも破面が認められる。上面は平坦気味で大きいもので径5mm程の中小の気孔が散在する。長さ1cm程の木炭痕も1箇所薄く認められる。下面は粉炭による凹凸が認められる。非常に緻密で重量感のある椀形鍛冶滓である。表面にはやや風化が認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 8⑥～⑧に示す。鉱物組成は白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite：FeO)、淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite：2FeO・SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：Photo. 8⑥に白色粒状結晶の硬度測定の際の圧痕を示す。452Hvとヴスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ヴスタイトに同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2 に示す。鉄分高くガラス分の少ない成分系である。全鉄分 (Total Fe) 62.10%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.16%、酸化第1鉄 (FeO) 67.35%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 13.71%の割合である。ガラス質成分は (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 16.40%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) 1.83%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.12%、バナジウム (V) 0.001%と低値である。酸化マンガン (MnO) 0.16%、銅 (Cu) は0.020%とやや高めであった。鉱石系鍛錬鍛冶滓に分類される。

#### 小結

角田調査区I区の6世紀末から7世紀の住居跡から精錬鍛冶滓、平安時代前期の包含層から鍛錬鍛冶滓が出土した。当区での鍛冶作業を予測させる遺物である。

#### TKT-14 椀形鍛冶滓

① 肉眼観察：小型、扁平ではほぼ完形の椀形鍛冶滓である。上面は黄褐色の酸化土砂の付着が著しいが、細かい木炭痕が数箇所認められる。下面は垂下時の凹凸を僅かに残す。

② 顕微鏡組織：Photo. 9①～⑤に示す。鉱物組成は白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite：FeO) がやや凝集気味に晶出し、その粒間を淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite：2FeO・SiO<sub>2</sub>) や基地の暗黒色ガラス質スラグが埋める。なお、②③には毛羽立ち状のヘーシナイト (Hercynite：FeO・

Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)が局部析出する。羽口近傍高温個所のものであろう。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto. 9 ①に示す。485Hvとヴスタイトの文献硬度値の範囲内でありヴスタイト (Wüstite : FeO) に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2に示す。鉄分多くガラス分の少ない成分系である。全鉄分 (Total Fe) 60.61%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.12%、酸化第1鉄 (FeO) 61.80%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 17.80%の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 18.15%で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 1.57%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.13%、バナジウム (V) 0.001%と低値であった。酸化マンガン (MnO) 0.06%、銅 (Cu) 0.008%であり鉍石系鍛錬鍛冶滓の成分系である。

#### TKT-15 椀形鍛冶滓 (ガラス質滓)

① 肉眼観察：小型で非常に軽い質感のガラス質の椀形鍛冶滓である。側面5面は破面。上面は被熱による気孔が顕著である。下面には灰白色で鍛冶炉床粘土の付着が認められる。切断面でも気孔が顕著で粘土分が被熱溶解して形成されたものと察知される。

② 顕微鏡組織：Photo. 9 ⑥～⑧に示す。暗黒色ガラス質スラグ中に微小析出物が認められる。

赤熱鉄素材の酸化防止に表面粘土汁を塗布するが、そうした粘土汁を多用した際の鍛錬鍛冶滓かと思われる。

#### TKT-16 鍛冶滓

① 肉眼観察：平面が不整三角形の鍛冶滓片である。側面2面は破面。灰黒色で表面がやや流動状を呈する。破面では細かい気孔が密に発生する。ガラス質主体の軽い質感の滓である。

② 顕微鏡組織：Photo. 10 ①～⑤に示す。①では暗黒色ガラス質スラグ中に白色のマグネタイト (Magnetite : Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) 晶出が認められた。また、②～⑤では淡灰色長柱状結晶ファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) と、白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite : FeO) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。

③ 化学組成分析：Table. 2に示す。鉄分低くガラス分の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 10.42%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、酸化第1鉄 (FeO) 8.24%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 5.61%の割合であった。また、ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 81.20%で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 5.69%を含む。二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.47%、バナジウム (V) 0.04%、酸化マンガン (MnO) 0.18%、また銅 (Cu) が1.32%と非常に高い値を示した。該品も粘土汁多用の鍛錬鍛冶滓の一種であろう。銅 (Cu) が異常に多いのは鉄素材が含銅磁鉄鉍の影響であろうか。

TKT-17 供試材は3点あり、①～③とも良く似た質感、大きさの小型の鍛冶滓 (6 g 前後) である。

#### TKT-17① 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型で軽い質感の鍛冶滓である。色調は灰褐色。表面には小さな気孔が点在し、やや風化が認められる。

② 顕微鏡組織：Photo. 10 ⑥～⑧に示す。白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色盤状

結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.10⑥に示す。372Hvと風化と割れの影響を受けて異常値を呈するが、ヴスタイトに同定されよう。

#### TKT-17② 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型で軽い質感の灰褐色の鍛冶滓片である。細かい気孔が各面にみられる。また、粉炭痕や木炭粉の噛み込みも認められる。表面はやや風化が進行している。

② 顕微鏡組織：Photo.11①に示す。白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite :  $\text{FeO}$ )、淡灰色盤状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。風化により割れや点蝕が認められる。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

#### TKT-17③ 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型で軽い質感の灰褐色の鍛冶滓片である。上面には細かい気孔が散在する。また、粉炭痕が認められる。表面はやや風化が進行している。

② 顕微鏡組織：Photo.11②～④に示す。微小白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite :  $\text{FeO}$ )、淡灰色繊維状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。風化による影響が顕著である。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

#### TKT-18 鍛冶滓 (ガラス質滓)

① 肉眼観察：小型、不定形の鍛冶滓片である。表面は比較的滑らかで細かい気孔が部分的に集中して認められる。地の色調は灰褐色で風化の進行が顕著であるがガラス質主体の滓である。

② 顕微鏡組織：Photo.11⑤～⑦に示す。⑤は暗黒色ガラス質スラグである。風化の影響が顕著である。⑥⑦暗黒色ガラス質スラグ中に微小析出物が認められる。赤熱鉄素材の酸化防止の粘土汁多用によるガラス質滓であろう。

#### TKT-19 鍛冶滓

① 肉眼観察：灰褐色で小型の鍛冶滓片である。表面には細かい気孔が認められる。破面でも中央部に内面光沢のある気孔が密に集中する。

② 顕微鏡組織：Photo.12①～③に示す。①は暗黒色ガラス質スラグである。②は白色樹枝状結晶ヴスタイト (Wüstite :  $\text{FeO}$ )、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。③は淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) のみが基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する部分である。赤熱鉄素材が粘土汁塗布の影響を受けて形成された鍛錬鍛冶滓の一種であろう。

#### TKT-20 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の椀形鍛冶滓片 (26 g) である。側面2面は破面である。色調は灰褐色。上面には細かい木炭痕が密にみられる。また、細かい気孔も認められる。下面にも数箇所木炭痕を留める。

② 顕微鏡組織：Photo.12④～⑧に示す。①は錆化鉄（Goethite： $\alpha$ -FeO·OH）部分である。⑤～⑧では基地の暗黒色ガラス質スラグ中に白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）を晶出する。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.12⑦に示す。558Hvと粒状結晶で高め傾向を呈するのは、マグネタイトの可能性をもつ。Photo.12⑧は錆化鉄の前痕である。硬度値を参考までに記載すると698Hvであった。

④ 化学組成分析：Table. 2に示す。全鉄分（Total Fe）40.27%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.03%、酸化第1鉄（FeO）27.36%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）27.13%の割合である。ガラス質成分（SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O）35.77%で、このうち塩基性成分（CaO+MgO）2.36%を含む。二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）0.22%、バナジウム（V）0.001%、酸化マンガン（MnO）0.24%であった。銅（Cu）は0.010%と比較的高値であった。鉍石系の鍛錬鍛冶滓に分類されよう。

#### TKT-21 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の鍛冶滓片（26g）である。表面風化の進行が著しい。細かい気泡が散在する。

② 顕微鏡組織：Photo.13①～⑤に示す。鉍物組成は白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）がやや凝集気味に晶出し、また淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.13①に示す。455Hvとヴスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ヴスタイト（Wüstite：FeO）に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2に示す。全鉄分（Total Fe）44.65%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.11%、酸化第1鉄（FeO）39.11%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）20.22%の割合である。ガラス質成分（SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O）は34.13%で、このうちに塩基性成分（CaO+MgO）3.06%を含む。二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）0.13%、バナジウム（V）0.002%、酸化マンガン（MnO）0.49%、銅（Cu）0.005%であった。鉍石系の鍛錬鍛冶滓である。

#### 小結

角田調査区Ⅱ区出土鉄滓の主体は、5世紀末に属する小型鍛冶滓（5～79g）である。繰り返し折り曲げ鍛接の高温作業で排出された鍛錬鍛冶滓である。いずれも鉄器製作に係わる滓であり、赤熱鉄素材の酸化防止の酸化防止粘土汁多用の証である。時代が下がり中世に比定される2点の鍛冶滓も鍛錬鍛冶滓に分類された。

#### TKT-22 梔形鍛冶滓

① 肉眼観察：小型でやや不定形の梔形鍛冶滓の完形品（76g）である。上下面ともに長さ1cmほどの木炭痕が認められる。地の色は黒灰色で表面はやや風化が認められる。下面には灰白色で砂質の鍛冶炉床土が付着している。

② 顕微鏡組織：Photo.13④～⑧に示す。白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）がやや凝集気味に晶出し、また淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.13④に示す。硬度値は472Hvとヴスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ヴスタイト (Wüstite: FeO) に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2に示す。鉄分多くガラス分の少ない成分系である。全鉄分 (Total Fe) 55.81%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、酸化第1鉄 (FeO) 46.41%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 28.09%の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 23.07%で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 1.26%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.13%、バナジウム (V) 0.004%、と低値であり、酸化マンガンも (MnO) 0.09%と少ない。銅 (Cu) のみは0.070%と高値であった。含銅鉍石系鍛錬鍛冶滓に分類されよう。

TKT-23 供試材は4点あり、①～④とも良く似た質感の鍛冶滓片である。

#### TKT-23① 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の鍛冶滓片 (16 g) である。上面は表面残存はごく一部で、破面には中小の気孔が散在する。気孔内が茶褐色を呈するものが多く、金属鉄粒が錆化した痕跡の可能性も考えられる。下面は表面を残しており、粉炭の痕跡が薄く認められる。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

② 顕微鏡組織：Photo.14①～⑤に示す。白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite: FeO) がやや凝集ぎみに晶出し、その粒間を淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) と基地の暗黒色ガラス質スラグが埋める。

③ ビッカース断面硬度：Photo.14④に白色粒状結晶の硬度測定の前痕を示す。硬度値は486Hvの硬度値を呈してヴスタイト (Wüstite: FeO) に同定される。⑤は白色粒状結晶凝集部分の硬度測定の前痕を示す。457Hvとやはりヴスタイトの文献硬度値の範囲内であり、これも同系でヴスタイト (Wüstite: FeO) に同定された。

#### TKT-23② 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の鍛冶滓片 (16 g) である。表面残存は1面のみで、他は破面である。表面は黒褐色で細かい凹凸を残す。破面には中小の気孔が散在し、細かい木炭痕が認められる。

② 顕微鏡組織：Photo.14⑥～⑧に示す。鉍物組成は白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite: FeO) がやや凝集気味に晶出し、また淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。一部風化の影響が顕著である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.14⑦⑧に示す。Wüstite (FeO) ⑦は硬度値が525Hvであり、マグネタイトに同定される。⑧は硬度値は388Hvであった。ヴスタイト粒と考えられるが、風化のためにそれぞれ異常値を示している。

#### TKT-23③ 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の鍛冶滓片 (12 g) である。表面から風化の進行が顕著である。上面には細かい木炭痕が認められる。また1箇所小さく層状に錆化部分を残す。ごく小さな含鉄部があったのであろう。

② 顕微鏡組織：Photo.15①に示す。鉍物組成は白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite: FeO) が凝集気味に晶出する。また淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) は風化による

影響が顕著である。これも鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.15①に示す。505Hv とヴスタイトの文献硬度値450～500Hvの上限を僅かに上回るがヴスタイト（Wüstite：FeO）に同定される。

#### TKT-23④ 鍛冶滓

① 肉眼観察：小型の鍛冶滓片（6.0g）である。表面から風化が進行する。上面には細かい木炭痕が認められる。破面には細かい気孔が散在する。

② 顕微鏡組織：Photo.15②～④に示す。①に鉄滓の鉱物組成を示す。白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）がやや凝集気味に晶出し、また淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。Photo.15③④錆化鉄（Goethite： $\alpha\text{-FeO}\cdot\text{OH}$ ）部分を示す。パーライト痕跡から炭素量は0.1%程度の極軟鋼であったと推定される。

③ ビッカース断面硬度：白色粒状結晶の硬度測定の前痕をPhoto. 15④に示す。514Hvとヴスタイトの文献硬度値を僅かに上回るがヴスタイト（Wüstite：FeO）に同定されよう。前痕に発生した大きな亀裂が誤差の原因であろう。

#### TKT-24 製錬滓

① 肉眼観察：小型の炉底塊の破片（35g）である。表面からの風化が著しい。本来は緻密な滓であったと思われる。5mm程の木炭痕が1個所、他に細かい気孔が点在する。

② 顕微鏡組織：Photo.13⑥～⑧に示す。鉱物組成は淡灰色不定形結晶ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）、粒内微小析出物が認められる白色樹枝状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）が基地の暗黒色ガラス質スラグ中に晶出する。鉱石系製錬滓の晶癖である。

③ ビッカース断面硬度：淡灰色盤状結晶の硬度測定の前痕をPhoto.13⑥に示す。696Hv とファイヤライトの文献硬度値600～700Hvの範囲内であり、ファイヤライト（Fayalite： $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）に同定される。

④ 化学組成分析：Table. 2に示す。鉄分低めでガラス分が多く、脈石成分（CaO+MgO、TiO<sub>2</sub>、V、MnO）も高めの成分系である。全鉄分（Total Fe）37.08%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.07%、酸化第1鉄（FeO）3.94%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）48.54%であった。ガラス質成分（SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O）45.17%で、このうちに塩基性成分（CaO+MgO）7.66%を含む。脈石成分の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）0.33%、バナジウム（V）0.008%、酸化マンガン（MnO）0.63%とやや高値で、銅（Cu）も0.015%とやや高値であった。鉱石製錬滓に分類される。

#### 小結

角田Ⅲ調査区から出土した5世紀末に属する椀形鍛冶滓は16g以下の小型品である。これらは精製された鉱石系鉄素材を鉄器に加工する段階で排出された鍛錬鍛冶滓である。一方、中世の炉底塊の小破片は鉱石系の製錬滓であった。

#### 4 まとめ

高塚遺跡では、古墳時代から中世にかけて鍛冶作業で排出された滓を多く出土する。5世紀末の段階では、鉍石系鉄素材を原料とした鍛錬鍛冶滓であるが、6世紀代になると荒鉄の不純物除去と成分調整の精錬鍛冶から鍛錬鍛冶を伴う一貫体制へと変化する。また、鉍石系製錬滓の混在から、周辺地域での製錬が予測されだす。

更に古代から中世にかけても製錬から鍛冶の動向は継続される。以上の様相は、この備中高松を中心とした小平野の微高地に立地する高塚遺跡や津寺遺跡及び加茂政所遺跡などの各集落においても観察することができた。今後鍛冶原料鉄の産地同定が残された研究課題となってくる。おそらく総社久代製鉄遺跡<sup>(8)</sup>や奥坂遺跡群<sup>(9)</sup>などが看過できない遺跡として挙げられよう。

#### 註

(1) 含銅磁鉄鉍系の鍛冶滓出土例として次の報告書が挙げられる。Cu: 0.12~0.17%の事例である。

- ・大澤正己「原尾島遺跡（藤原光町3丁目地区）出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『原尾島遺跡（藤原光町3丁目地区）』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告139）岡山県教育委員会 1999
- ・大澤正己・鈴木瑞穂「津島遺跡出土鉄滓の金属学的調査」『津島遺跡』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告145）岡山県教育委員会 1999
- ・大澤正己「矢部奥田遺跡・矢部古墳群A・矢部掘越遺跡出土鉄滓の金属学的調査」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告6』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告82）岡山県教育委員会 1993
- ・大澤正己「窪木薬師遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『前川河川改修工事に伴う発掘調査』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86）岡山県教育委員会 1993

(2) 焼き嵌め法は、鉄材の加熱時の膨張と冷却時の収縮性を利用して紡輪と紡茎を固定する。報告書は準備中であるが下記の報告で紡錘車の焼き嵌めの確認がとれている。

大澤正己「南山田遺跡出土鍛冶関連遺物・鉄製品の金属学的調査」『南山田遺跡』福島県郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 提出原稿 平成10年7月11日

(3) 大澤正己「津寺遺跡丸田Ⅳ区、土筆山3・5区出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告9』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告90）岡山県教育委員会・日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 1994

(4) 大澤正己「津寺遺跡西川調査区出土鉄滓の金属学的調査」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告10（その2）〈津寺遺跡2〉』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98）岡山県教育委員会・日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 1995

(5) 大澤正己「津寺遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告〈津寺遺跡4〉』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116）岡山県教育委員会・日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 1997

(6) 大澤正己「津寺遺跡（中屋調査区）出土鉄滓の金属学的調査」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告〈津寺遺跡5〉』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告128）岡山県教育委員会・日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 1998

(7) 大澤正己「加茂政所遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡～山陽自動車道建設に伴う発掘調査～』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138）岡山県教育委員会 1999

(8) 大澤正己「総社久代製鉄遺跡群出土製鉄関連遺物の金属学的調査」水島機会金属工業団地共同組合西団地遺跡群』（総社市埋蔵文化財調査報告9）総社市教育委員会 1991

(9) 大澤正己「奥坂製鉄遺跡群出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『奥坂遺跡群』（総社市埋蔵文化財調査報告15）総社市教育委員会 1999

(10) 日刊工業新聞社『焼結鉍組織写真および識別法』1968 ヴスタイトは450~500Hv、マグネタイトは500~600Hv、



ファイヤライトは600～700 Hvとある。

- (11) 山本科学工具研究社『標準顕微鏡組織 第1類炭素鋼・鋳鉄編』 1960 フェライト (Ferrite) : 純鉄に微量の炭素を固溶した  $\alpha$  相の鉄をいう。炭素の最大固溶量は常温で0.008%位である。

パーライト (pearlite : フェライトとセメンタイトが交互に重なり合って構成された層状組織)。鉄に炭素が約0.1%以上含まれてくるとパーライトが現われる。パーライトの占める面積は炭素含有量の増加に伴って増し、0.77%で全部パーライトなる。

Table. 3 出土遺物の調査結果のまとめ

No.	遺構名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	調査項目										所見
						Total Fe	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	塩基性成分	TiO <sub>2</sub>	V	MnO	ガラス質成分	Cu			
TKT-1	塚廻り3B	包含層	鉄片?	中世か?	白錆鉄、局部片状黒鉛析出、捲込みスラグ、珪酸塩系	80.35	42.64	0.08	0.05	0.001	0.01	0.83	0.005	錆鉄片		
TKT-2	塚廻り3B	包含層	含鉄鉄滓	中世か?	白錆鉄、局部片状黒鉛析出、表皮スラグ+F+W	61.89	33.79	0.89	0.05	0.001	0.08	11.50	0.005	珪石系黒鉛鉄滓、鍛冶原料鉄か		
TKT-3	フロヤ1	竪穴住居47	製鉄滓	5c前~中	F+W (粒内微小析出物)	28.36	8.56	6.54	0.22	0.003	0.27	55.59	0.010	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		
TKT-4	フロヤ3	竪穴住居23	製鉄滓	6c末	F	35.09	5.72	4.92	0.16	0.001	0.33	50.00	0.008	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		
TKT-5	フロヤ3	竪穴住居23	紡錘車	6c末	鉄化鉄、パーライト痕跡、介在物、非晶質珪酸塩	-	-	-	-	-	-	-	-	極佳系鋼査当、焼き板め技法不明瞭		
TKT-6	フロヤ3	竪穴住居26	製鉄滓	6c	F	35.59	7.55	8.73	0.32	0.003	1.08	48.65	0.002	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		
TKT-7	フロヤ3	竪穴住居22	楕形鍛冶滓	6c	W (やや凝集) +F	61.32	21.20	2.03	0.09	0.001	0.18	15.43	0.002	珪石系鋼査冶滓		
TKT-8	フロヤ3	竪穴住居24	製鉄滓	6c	F+W	32.89	6.26	5.29	0.26	0.002	0.27	52.73	0.008	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		
TKT-9	フロヤ3	竪穴住居24	ガラス質滓	6c	暗黒色ガラス質スラグ、M晶出	19.35	11.60	5.91	0.52	0.006	0.24	70.66	0.012	製鉄系炉壁溶融物		
TKT-10	フロヤ3	欅林溝	炉外流出滓	中世	F+W	42.04	5.15	4.25	0.21	0.001	0.71	42.29	0.020	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		
TKT-11	フロヤ3	包含層	鉄塊系遺物	時期不明	共析鋼~過共析鋼+20%以下、ケイト、マカニウム、介在物、FeS、ZnZn	-	-	-	-	-	-	-	-	珪石系塊系遺物、炉外急冷物、熱履歴		
TKT-12	角田1	竪穴住居189	鍛冶滓	6c末~7c	W+F、鉄化鉄、ZnZn基地にパーライト痕跡、軟鋼(0.2%)含む	37.57	35.20	3.94	0.21	0.001	0.21	36.43	0.025	珪石系鋼査冶滓		
TKT-13	角田1	河道9	楕形鍛冶滓	平安前期	W (やや凝集) +F	62.10	13.71	1.83	0.12	0.001	0.16	16.40	0.020	珪石系鋼査冶滓		
TKT-14	角田II	竪穴住居156	楕形鍛冶滓	5c末	W (凝集) +F	60.61	17.80	1.57	0.13	0.001	0.06	18.15	0.008	珪石系鋼査冶滓		
TKT-15	角田II	竪穴住居156	鍛冶滓	5c末	暗黒色ガラス質スラグ、微小析出物	-	-	-	-	-	-	-	-	酸化防止粘土汁多用の鋼査冶滓		
TKT-16	角田II	竪穴住居163	鍛冶滓	5c末	暗黒色ガラス質スラグ、M晶出、W+F	10.42	5.61	5.69	0.47	0.004	0.18	81.20	1.32	同上 (含銅磁鉄系か?)		
TKT-17①	角田II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	W+F	-	-	-	-	-	-	-	-	珪石系鋼査冶滓		
TKT-17②	角田II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	W+F 微小結晶	-	-	-	-	-	-	-	-	珪石系鋼査冶滓		
TKT-17③	角田II	竪穴住居160	鍛冶滓	5c末	W+F (やや風化)	-	-	-	-	-	-	-	-	珪石系鋼査冶滓		
TKT-18	角田II	鍛冶炉1	鍛冶滓	中世	暗黒色ガラス質スラグ、微小析出物	-	-	-	-	-	-	-	-	酸化防止粘土汁多用の鋼査冶滓		
TKT-19	角田II	鍛冶炉1	鍛冶滓	中世	暗黒色ガラス質スラグ、W+F	-	-	-	-	-	-	-	-	珪石系鋼査冶滓		
TKT-20	角田II	竪穴住居161	鍛冶滓	5c末	鉄化鉄、W+F	40.27	27.13	2.36	0.22	0.001	0.24	35.77	0.010	珪石系鋼査冶滓		
TKT-21	角田II	竪穴住居166	鍛冶滓	5c末	W (やや凝集) +F	44.65	20.22	3.06	0.13	0.002	0.49	34.13	0.005	珪石系鋼査冶滓		
TKT-22	角田II	河道9	楕形鍛冶滓	古墳時代	W (やや凝集) +F	55.81	28.09	1.26	0.13	0.004	0.09	23.07	0.07	珪石系鋼査冶滓 (含銅磁鉄系か?)		
TKT-23①	角田III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	W (凝集) +F	-	-	-	-	-	-	-	-	鋼査冶滓		
TKT-23②	角田III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	W (やや凝集) +F	-	-	-	-	-	-	-	-	鋼査冶滓		
TKT-23③	角田III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	W (凝集) +F	-	-	-	-	-	-	-	-	鋼査冶滓		
TKT-23④	角田III	竪穴住居142	楕形鍛冶滓	5c末	W (やや凝集) +F	-	-	-	-	-	-	-	-	鋼査冶滓		
TKT-24	角田III	河道9	製鉄滓	中世	F+W (粒内微小析出物)	37.08	48.54	7.66	0.33	0.008	0.63	45.17	0.015	磁鉄鉱を始発原料とする製鉄滓		

W: Wüstite (FeO)、F: Fayalite (2FeO·SiO<sub>2</sub>)、M: Magnetite (Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)

TKT-1  
 鉄片  
 1×400 捲込みスラグ、ガラス  
 質中に微小析出物  
 2×100 3×400 no etch 金属鉄局  
 部的片状黒鉛析出  
 1→リニタル etch. 1×100  
 5×400 白錆鉄なりかけ  
 6×100 7×400 片状黒鉛+ハー  
 ライト  
 8・9×200 硬度：364Hv・840Hv

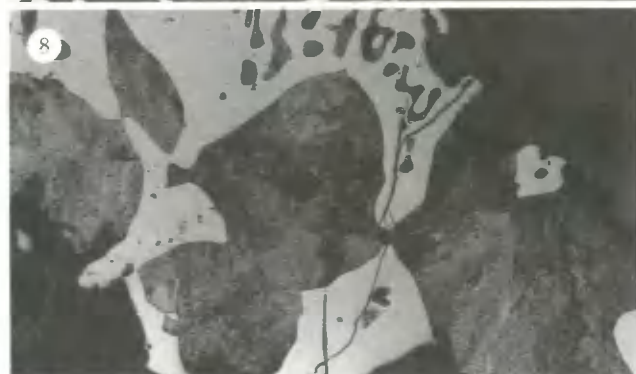
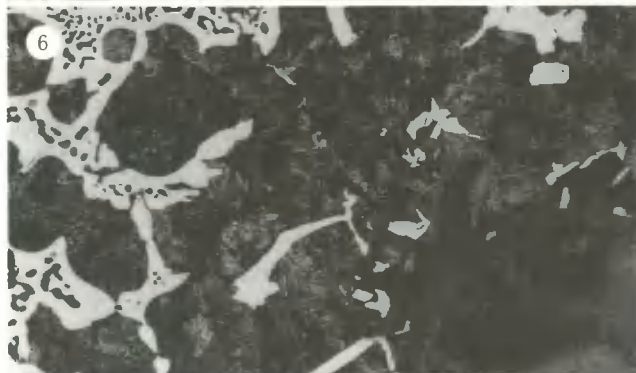
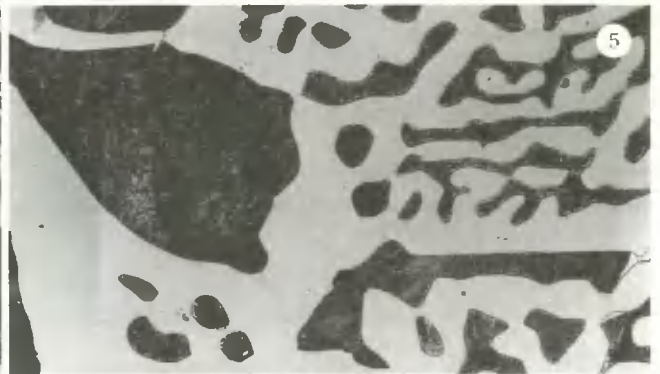
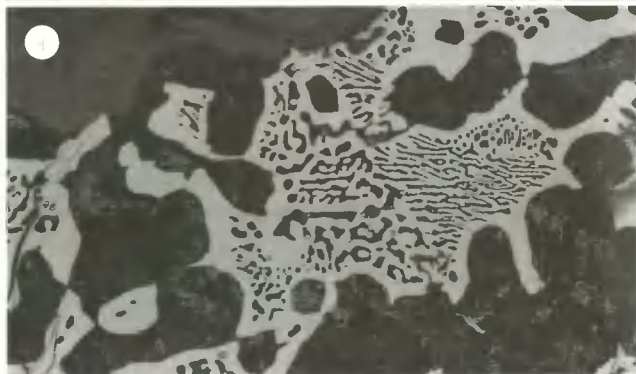


Photo. 1 鉄片の顕微鏡組織

TKT-2  
 含鉄鉄滓  
 1 ×100 表皮スラグ、ヴスタイト・  
 フマイヤライト  
 2 ×400 no etch 片状黒鉛  
 3 ~ 8 ナイタル etch. 3 ×100  
 4 ×400 亜共晶組成白鑄鉄  
 5 ×100 6 ×400 同上  
 7 ~ 8 ×200 硬度圧痕 : 7 292Hv  
 8 956Hv 9 695Hv

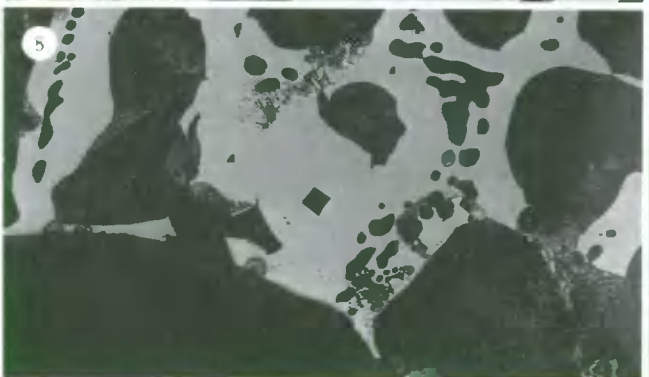
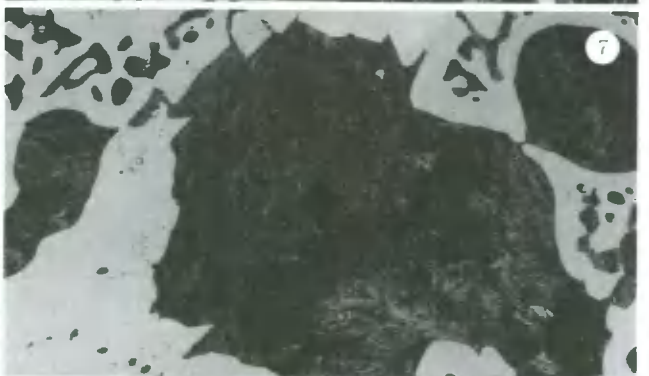
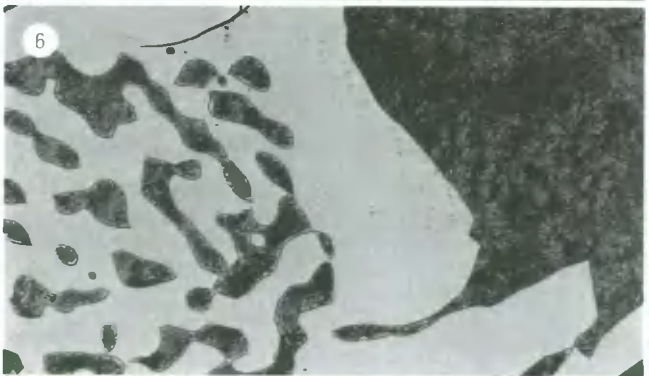
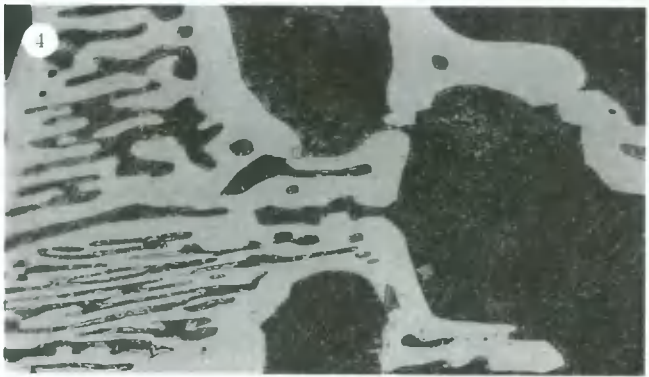
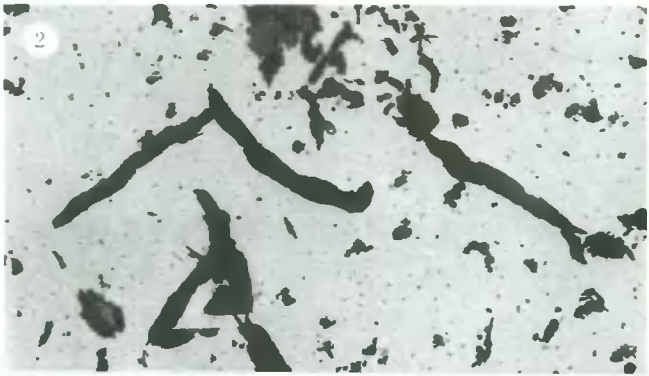
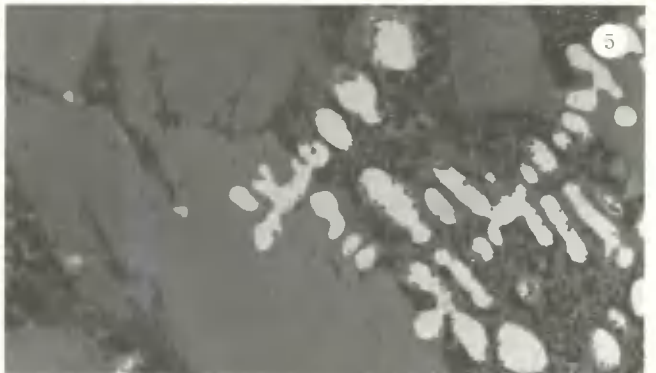
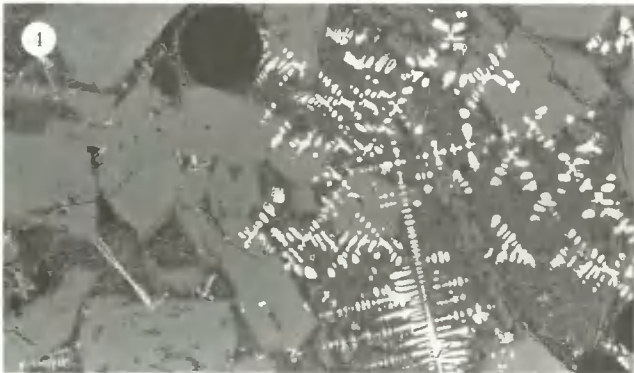
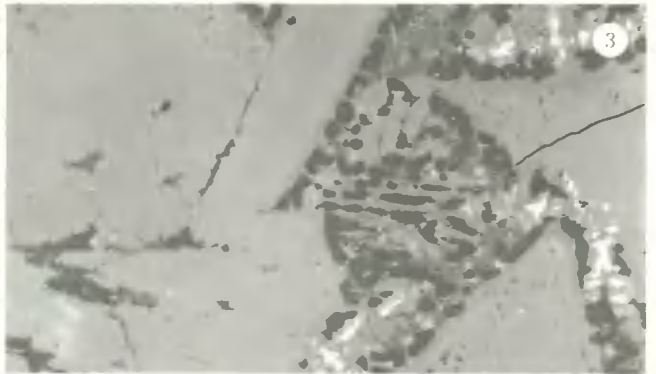
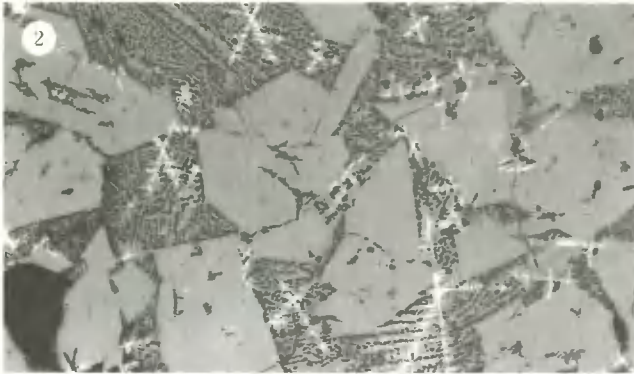
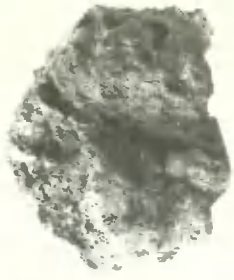


Photo. 2 含鉄鉄滓の顕微鏡組織



TKI-3  
 製錬滓（鉍石系）  
 1×200 硬度圧痕：638Hv  
 ファイヤライト  
 2×100 1×100 ファイヤライト  
 トウスタイト  
 1×100 2×400 ファイヤライト  
 ウスタイト（粒内微小析出物あり）



TKT-4  
 炉底塊  
 1×200 硬度圧痕：633Hv  
 ファイヤライト  
 7/8×100 ファイヤライト



Photo. 3 製錬滓・炉底塊の顕微鏡組織

TKT-5  
 鉄器 紡錘車  
 ①×400 非金属介在物：ガラス質  
 ②×100 ③×400 錆化鉄  
 パーライトとフェライト結晶結界  
 痕跡  
 ④×100 ⑤×400 同上



TKT-6  
 製錬滓  
 ⑥×200 硬度片断：357Hv 異常値  
 フェイライト+金属鉄粒  
 ⑦×100 ⑧×400 フェイライト

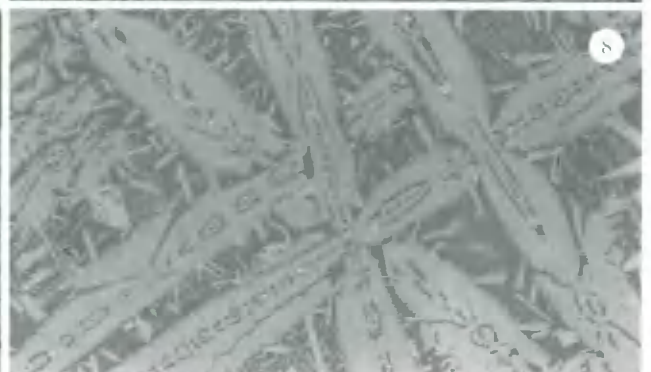
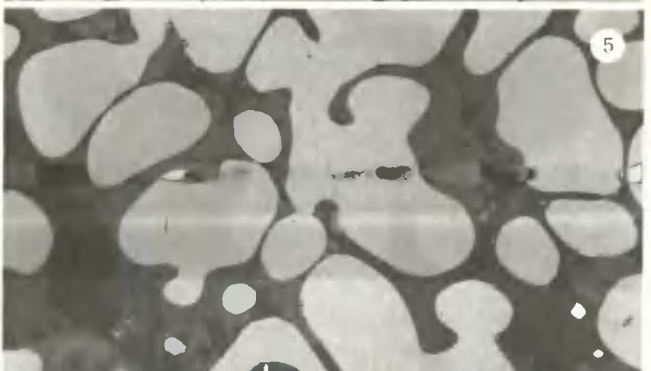
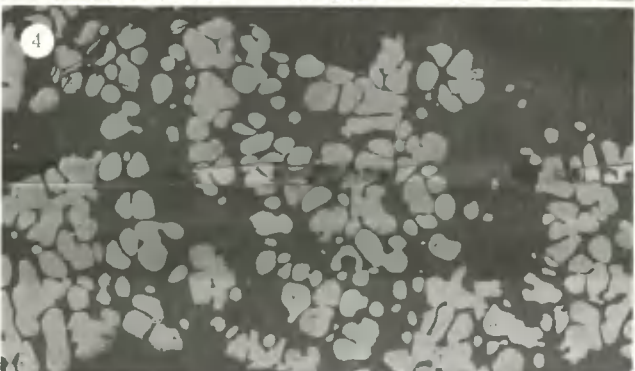
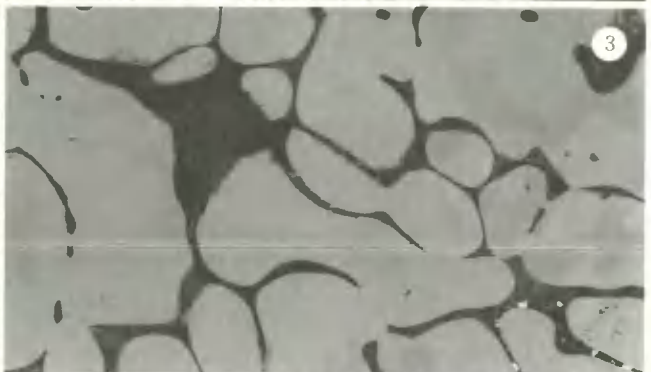
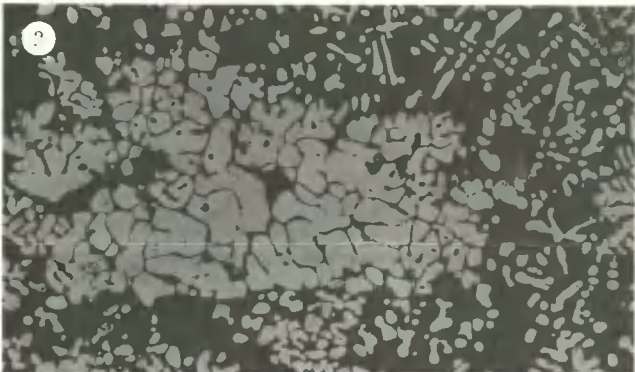
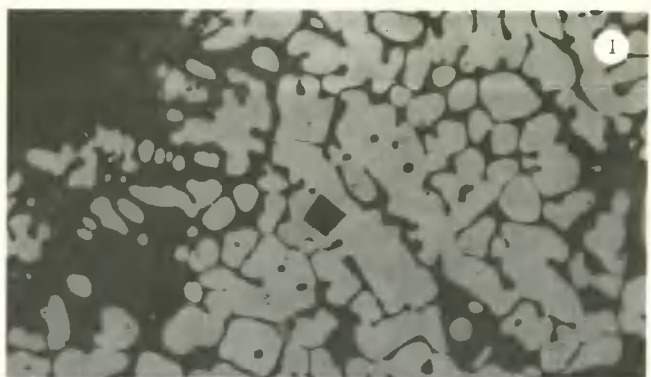


Photo. 4 鉄器・製錬滓の顕微鏡組織



TKT-7  
 椀形鍛治滓  
 1 × 200 硬度圧痕：421Hv  
 ヴスタイト  
 2 × 100 3 × 400 ヴスタイト凝集  
 ファイヤライト  
 4 × 100 5 × 400 ヴスタイト  
 ファイヤライト

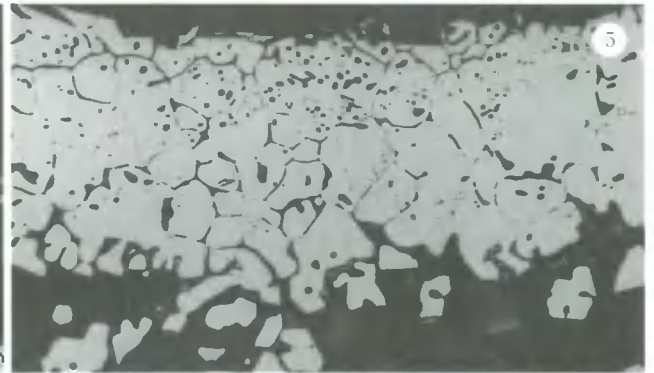
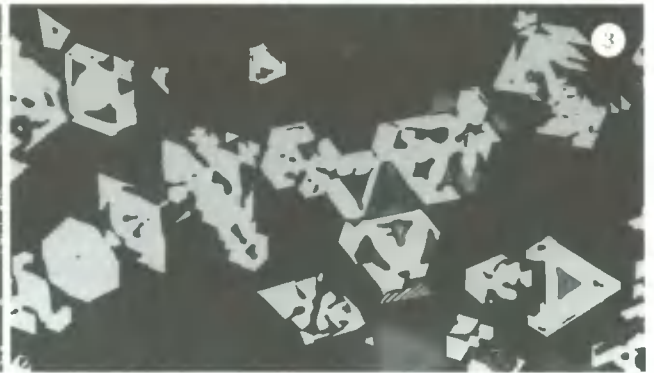
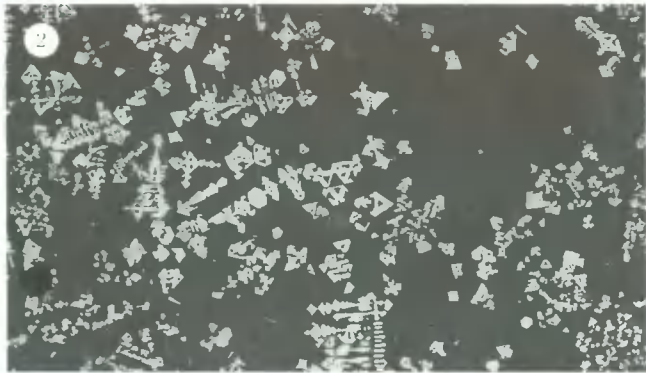
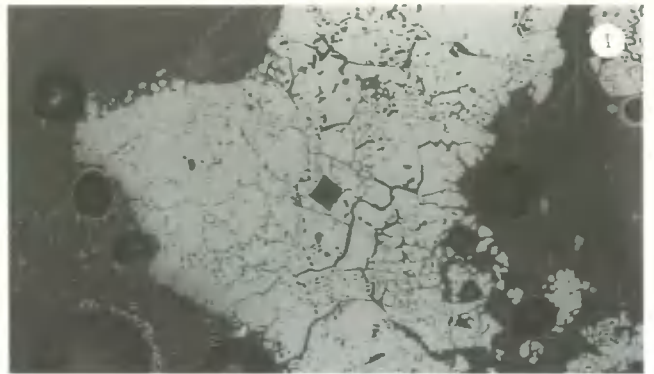


TKT-8  
 製錬滓  
 6 × 200 硬度圧痕：657Hv  
 ファイヤライト  
 7 × 100 8 × 400 ファイヤライト  
 ヴスタイト



Photo. 5 椀形鍛治滓と製錬滓の顕微鏡組織

TKT-9  
 ガラス質滓  
 1×200 硬度圧痕：613HV  
 凝集マグネタイト  
 2×100 3×400 暗黒色ガラス質  
 スラグ中にマグネタイト晶出  
 1×100 3×400 凝集マグネタイト



TKT-10  
 炉外流出滓  
 5×200 硬度圧痕：648HV  
 ファイヤライト  
 2×100 3×400 ファイヤライト・  
 ガスタイト

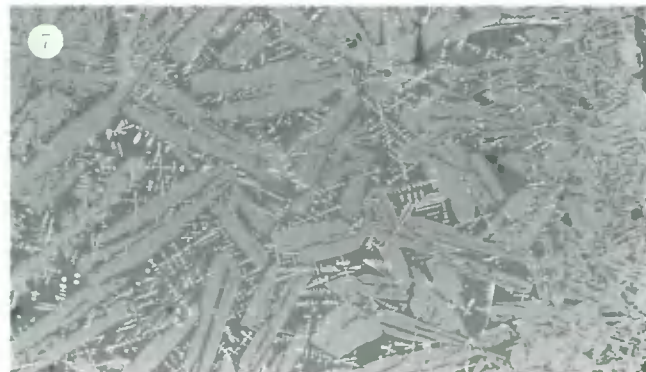
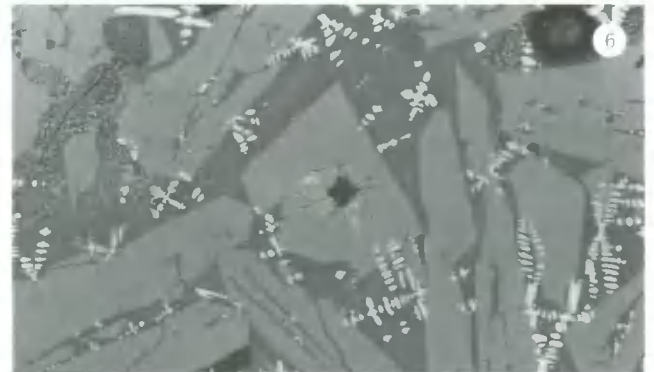


Photo. 6 ガラス質滓と炉外流出滓の顕微鏡組織



TKT-11

鉄器

①×100 非金属介在物 FeS・

ステナイト (Fe-Fe<sub>3</sub>C-Fe<sub>3</sub>P)

②×100 ③×100 ウィッドマン

ステッテン組織

④×100 ⑤×400 微細局状組織

⑥×100 局部的過共析鑄造組織

⑦⑧×200 硬度H痕

⑦286HV ⑧398HV

⑨229HV

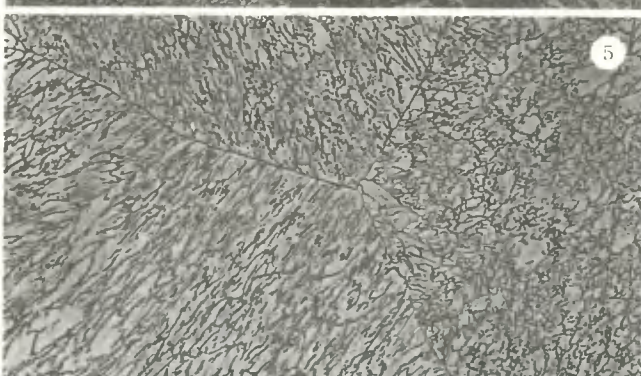
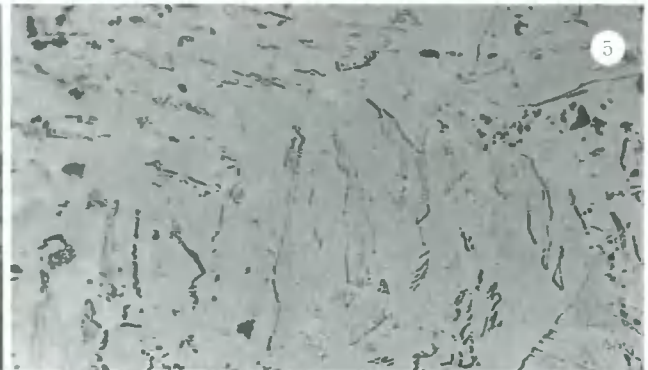
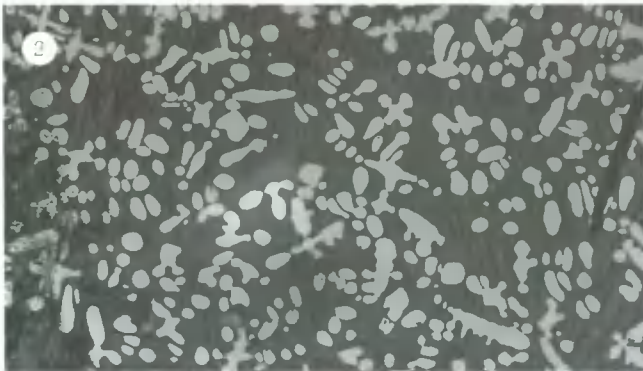
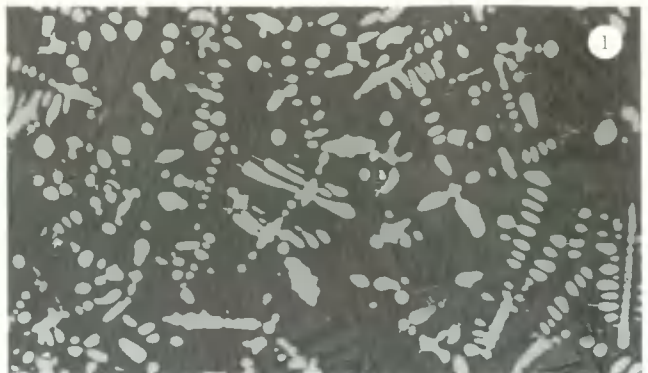


Photo. 7 鉄塊系遺物の顕微鏡組織

TKT-12  
 鍛冶滓  
 1×100 ヲスタイト・ファイヤ  
 ライト  
 2×100 3×400 同上  
 1×100 5×400 銹化鉄  
 Goethite | フェライト基地にパー  
 ライト痕跡



TKT-13  
 鍛冶滓  
 5×200 硬度圧痕：152HV  
 ヲスタイト  
 7×100 8×400 ヲスタイト・  
 ファイヤライト

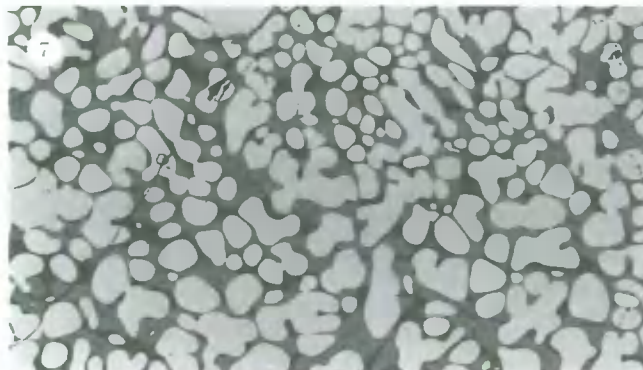
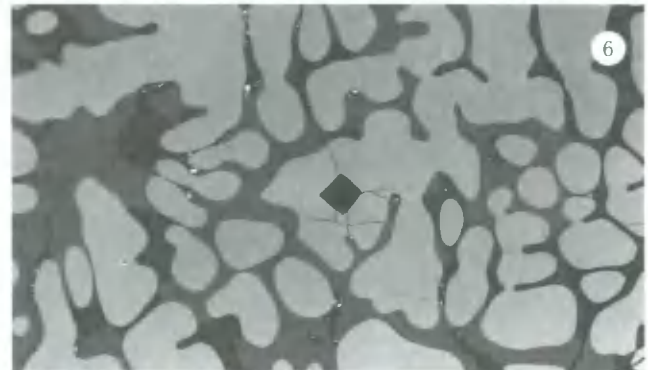
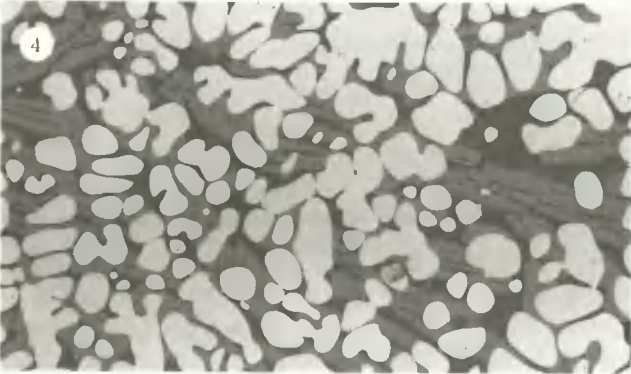
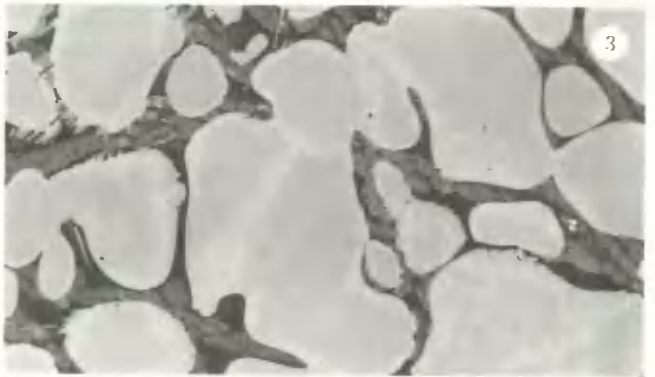
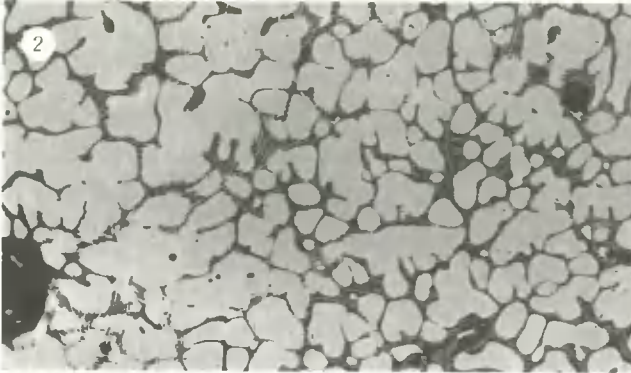
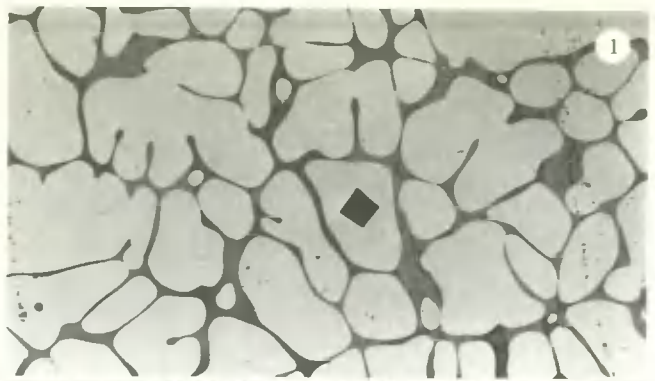
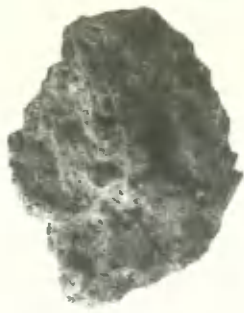


Photo. 8 鍛冶滓の顕微鏡組織



TKT-14  
 椀形鍛冶滓  
 1×200 硬度片痕：485Hv  
 ヴスタイト  
 2×100 3×400 ヴスタイト・  
 ファイヤライト・マネルナイト  
 1×100 3×400 ヴスタイト・  
 ファイヤライト



TKT-15  
 鍛冶滓「ガラス質滓」  
 9×200 暗黒色ガラス質スラグ中  
 に微小析出物品出  
 7×100 8×400 同上

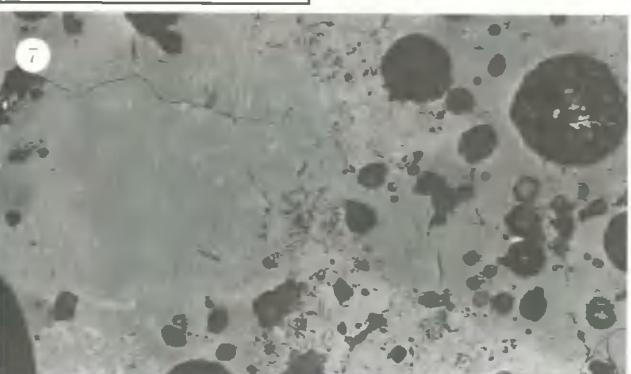
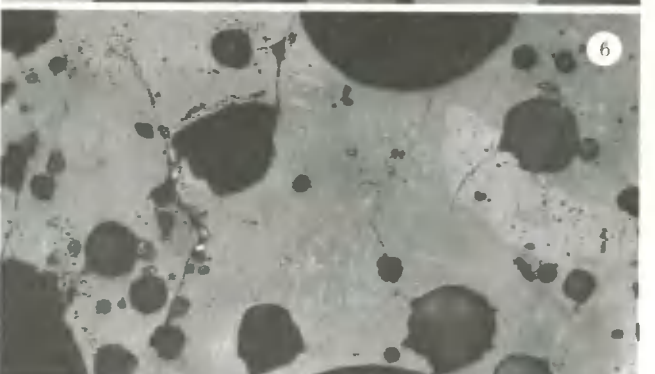
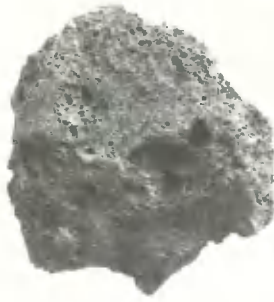
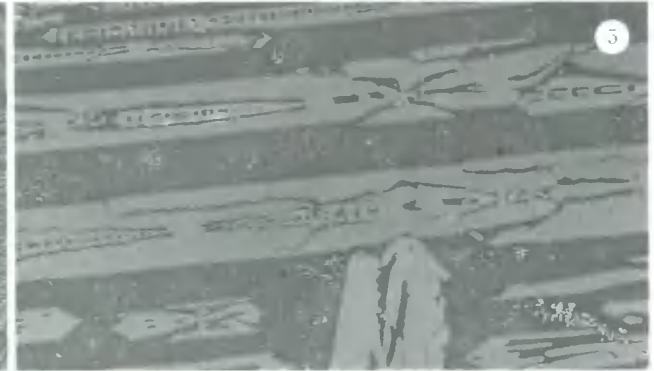
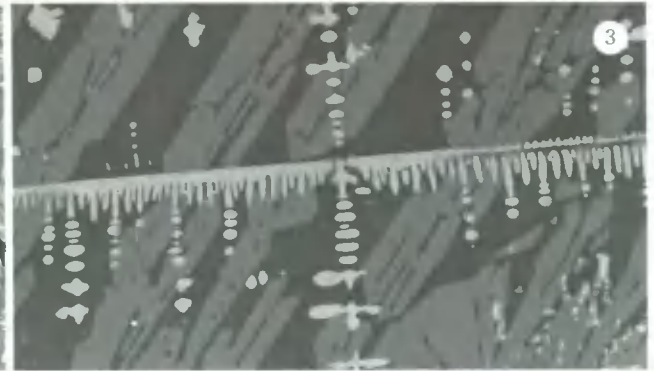
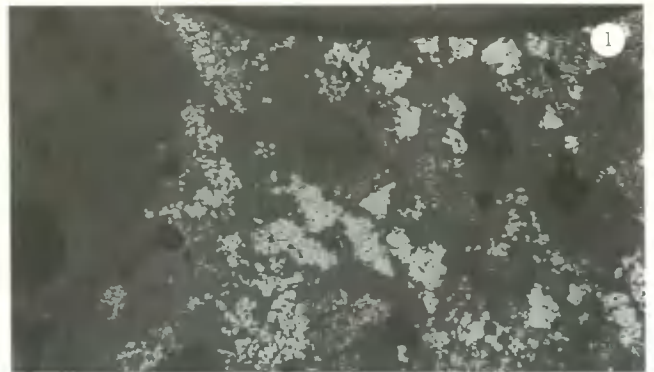


Photo. 9 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

TKT-16  
 鍛冶滓  
 1×100 暗黒色ガラス質スラグ中  
 にマグネタイト晶出  
 2×100 3×400 マネイライト  
 ・グスタイト  
 3×100 3×400 マネイライト  
 ・グスタイト 小粒



TKT-17-1  
 1×200 硬度圧痕：372Hv  
 グスタイト(酸化)  
 2×100 3×400 グスタイト  
 ・マネイライト

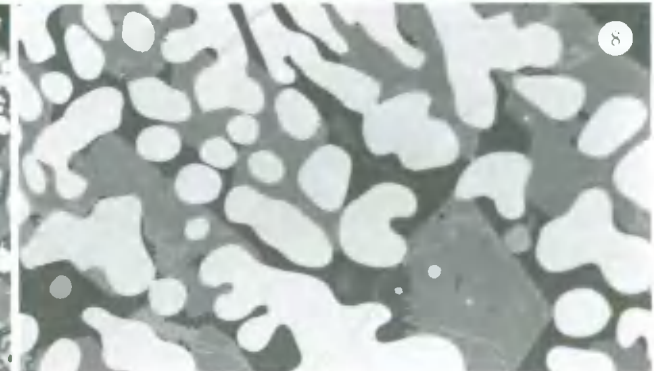
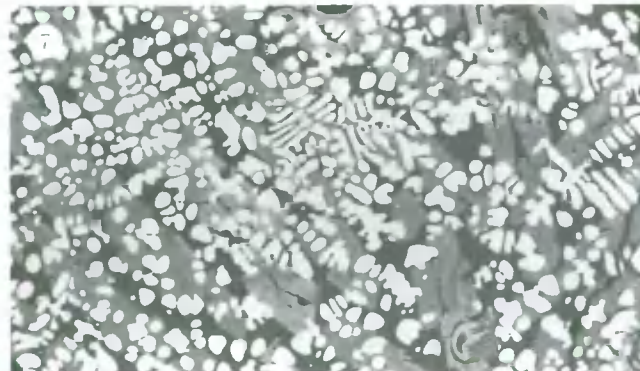
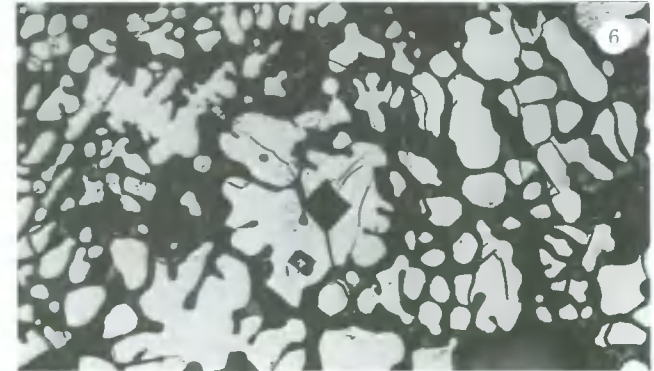
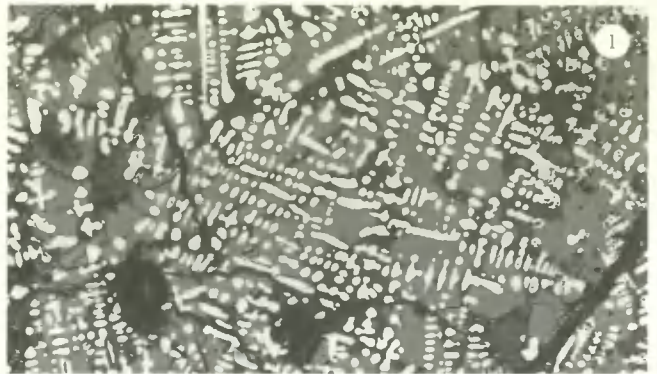


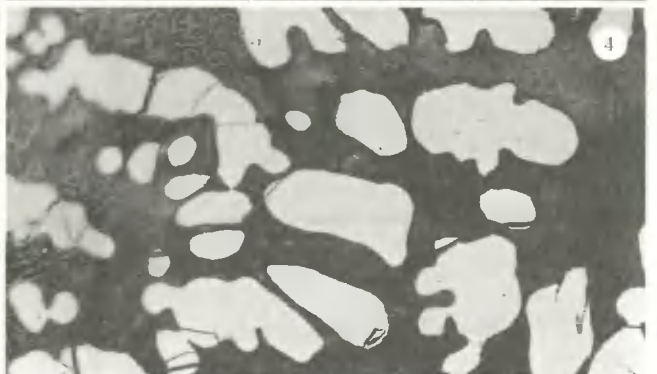
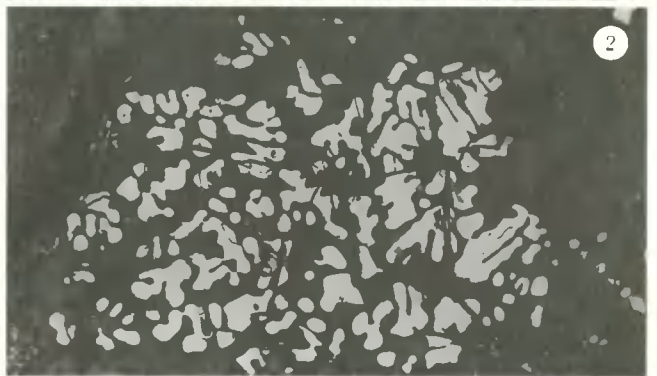
Photo.10 鍛冶滓の顕微鏡組織



TKT-17-2  
 鍛冶滓  
 ①×100 ウスタイト・ファイヤライ  
 ト



TKT-17-3  
 鍛冶滓  
 ②×200 ウスタイト・ファイヤ  
 イト (風化)  
 ③×100 ④×400 同上



TKT-18  
 鍛冶滓 (ガラス質滓)  
 ⑤×100 暗黒色ガラス質スラグ  
 ⑥×100 ⑦×400 暗黒色ガラス質  
 中の微小析出物

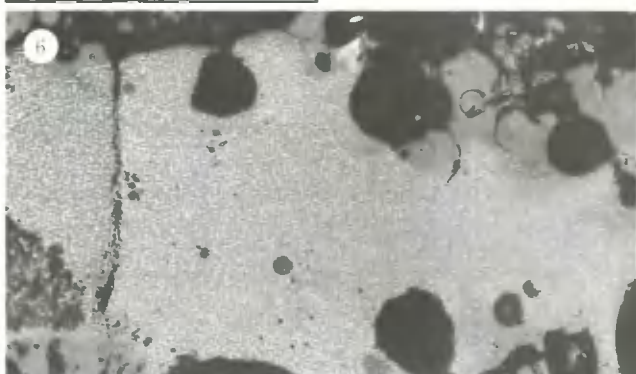
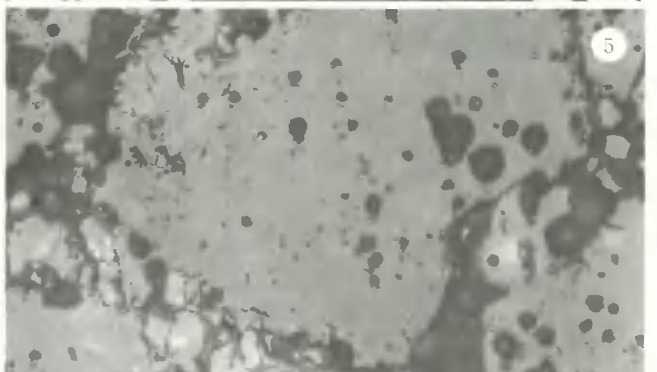
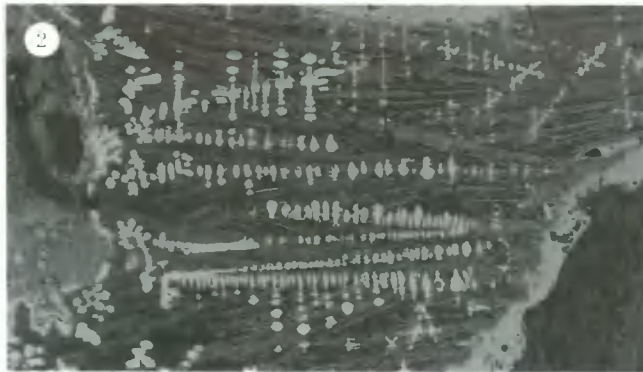
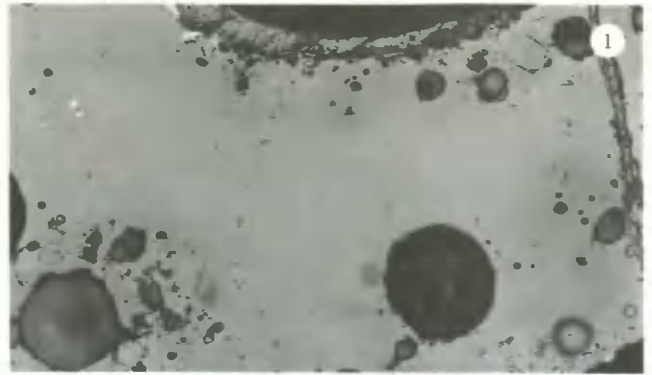


Photo.11 ガラス質滓の顕微鏡組織

TKT-19

鍛冶滓

①×100 暗黒色ガラス質スラグ  
②×100 ファイヤライト・ヴスタイト  
③×100 やや風化  
④×100 ファイヤライト



TKT-20

鍛冶滓

①×100 錆化鉄 (Goethite)  
②×100 ③×400 ヴスタイト・  
ファイヤライト  
④⑤×200 硬度圧痕：  
7558Hv：マグネタイト  
8698Hv：錆化鉄

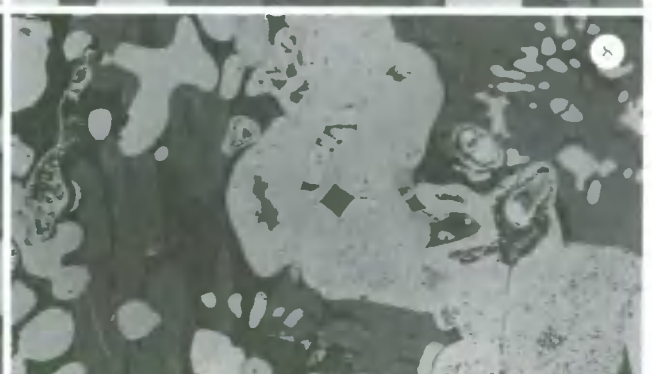
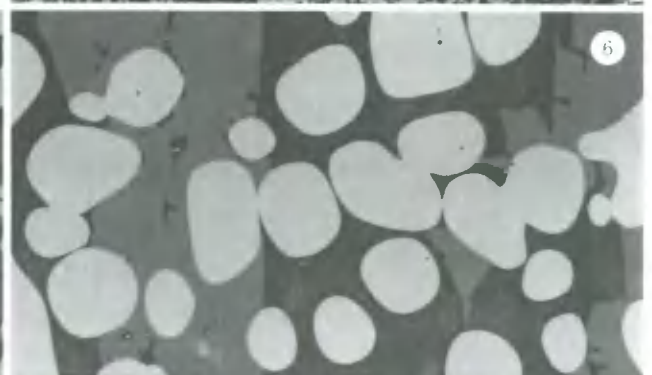
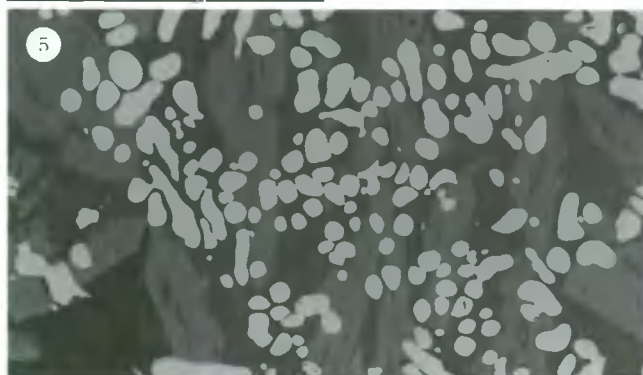
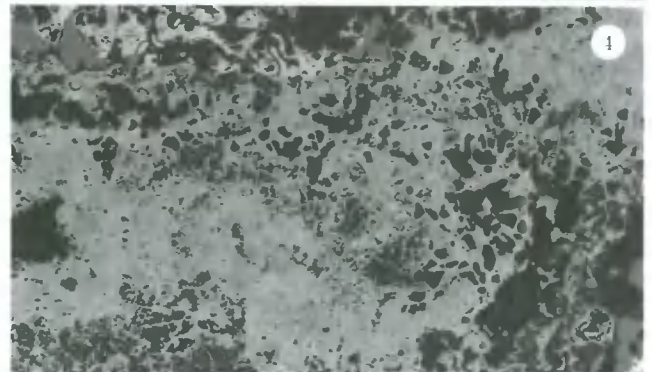
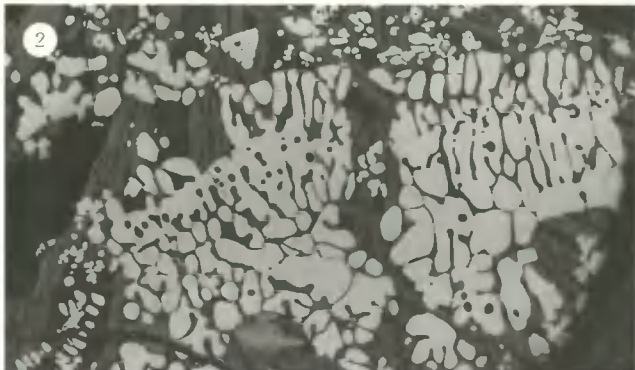
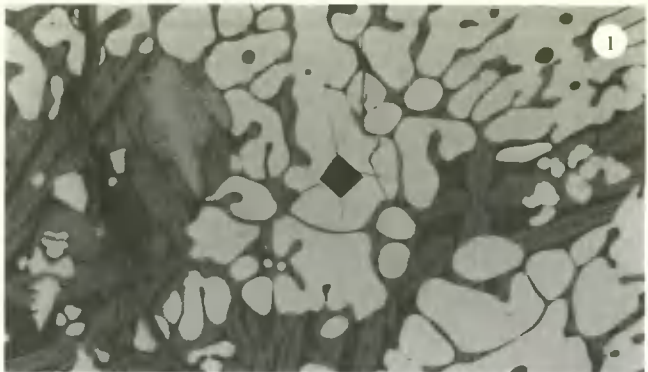


Photo.12 鍛冶滓の顕微鏡組織



TKT-21  
 鍛冶滓  
 1×200 硬度圧痕：455Hv  
 ヴスタイト  
 2×100 3×400 ヴスタイト（粒  
 内わずかにヘーシナイト析出）  
 ファイヤライト  
 1×100 3×400 同上



KTK-22  
 1×200 硬度圧痕：472Hv  
 ヴスタイト  
 5×100 6×400 ヴスタイト +  
 ファイヤライト  
 7×100 8×400 ヴスタイト・  
 ファイヤライト

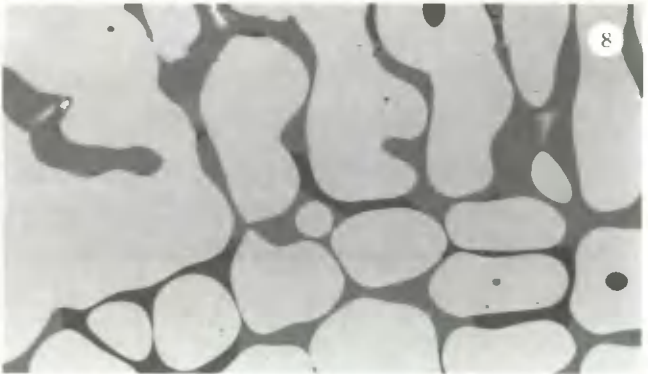
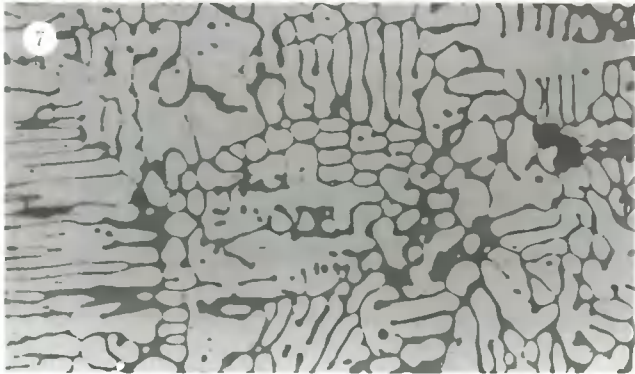
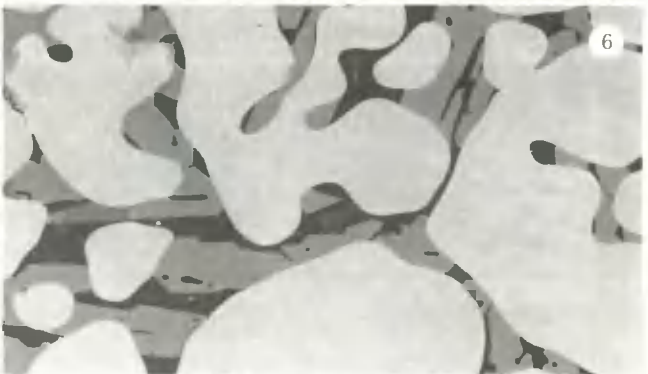
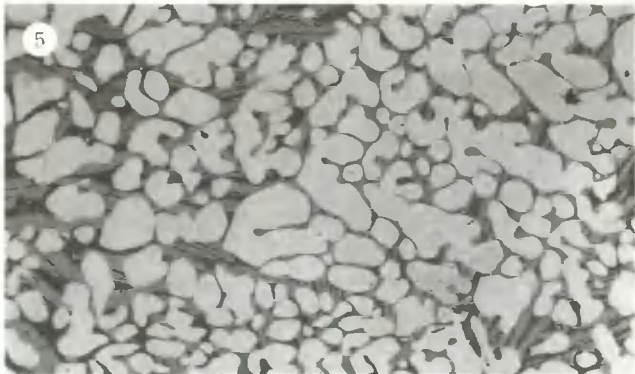
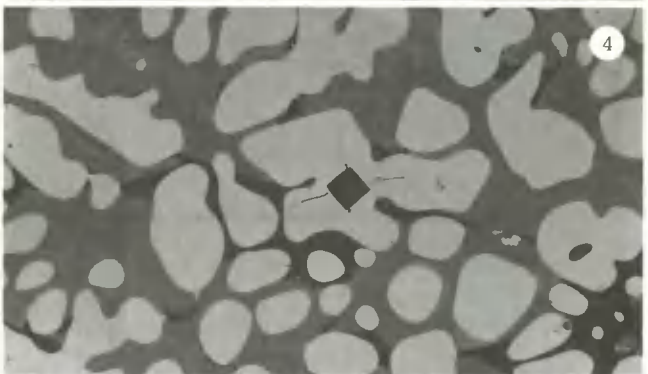
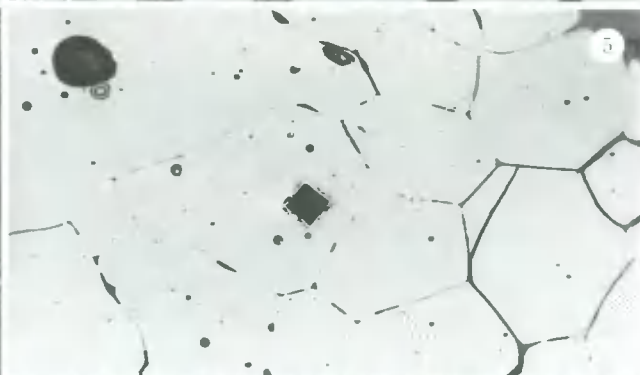
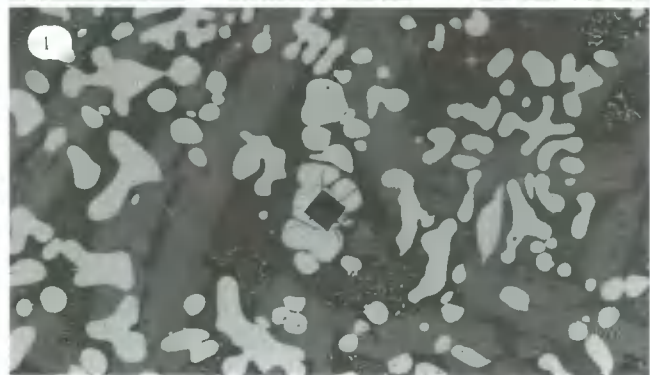
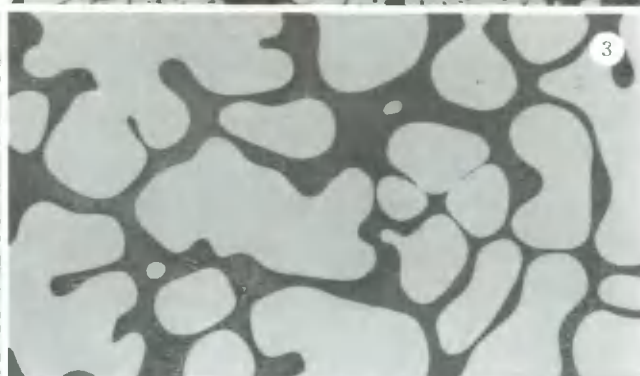
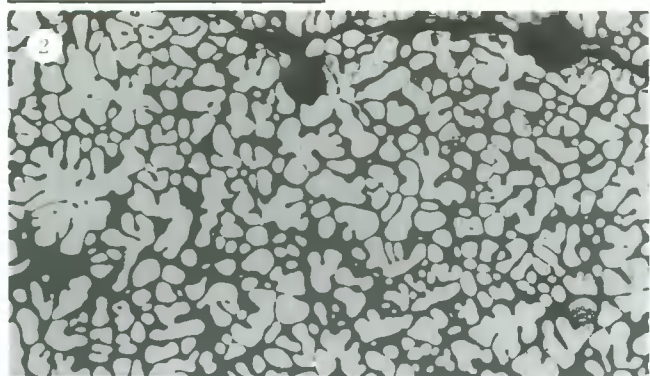
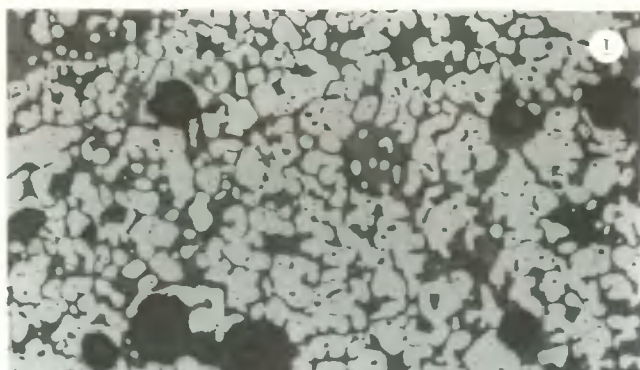


Photo.13 鍛冶滓の顕微鏡組織

TKT-231  
 椀形鍛冶滓  
 ①×200 ヴスタイト凝集  
 フライヤライト  
 ②×100 ③×400 ヴスタイト・  
 フライヤライト  
 ④⑤×200 硬度圧痕：  
 ④486Hv：ヴスタイト  
 ⑤457Hv：凝集ヴスタイト



TKT-232  
 椀形鍛冶滓  
 ①×400 ヴスタイト・フライヤ  
 イト  
 ②③×200 硬度圧痕：  
 ②525Hv：ヴスタイト  
 ③388Hv：ヴスタイト風化

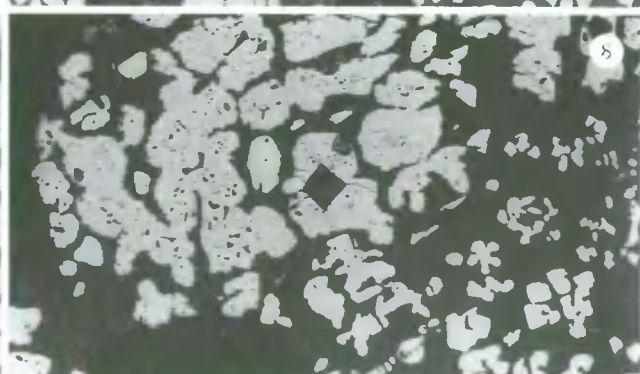
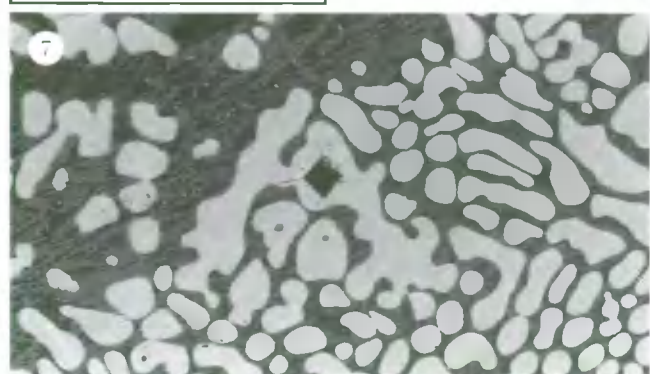
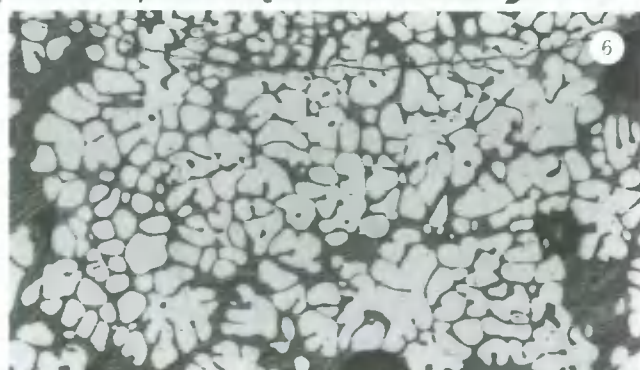
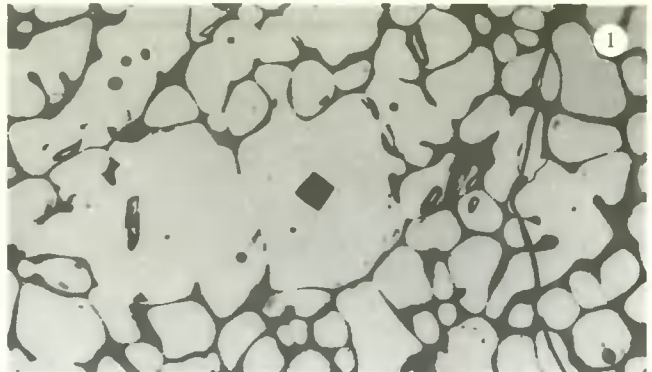


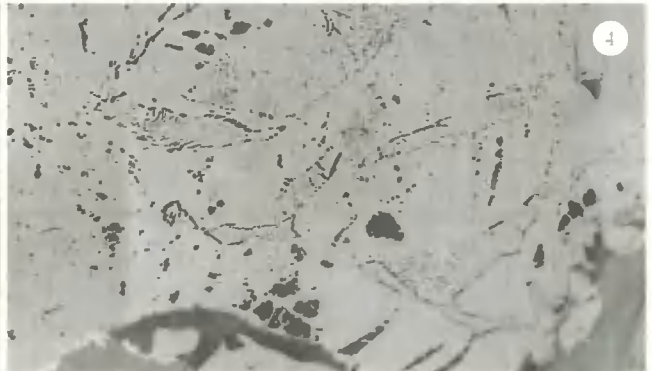
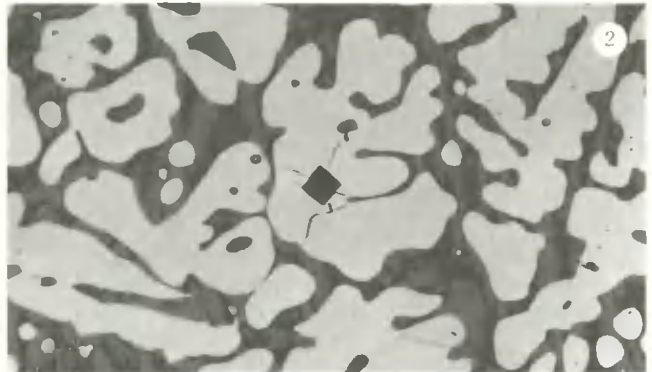
Photo.14 鍛冶滓の顕微鏡組織



TKT-23 1  
 桶形鍛冶滓  
 1×200 硬度H痕：505HV  
 ヲスタイト・凝集さみ



TKT-23 1  
 鍛冶滓  
 2×100 硬度H痕：514HV  
 ヲスタイト+ファイヤライト  
 3×100 1×400 銹化鏡  
 Geothite・パーライト痕跡



TKT-24  
 製錬滓  
 5×200 硬度H痕：696HV  
 ファイヤライト  
 6×100 3×400 ヲスタイト  
 粒内微小析出物あり  
 ファイヤライト



Photo.15 鍛冶滓と製錬滓の顕微鏡組織

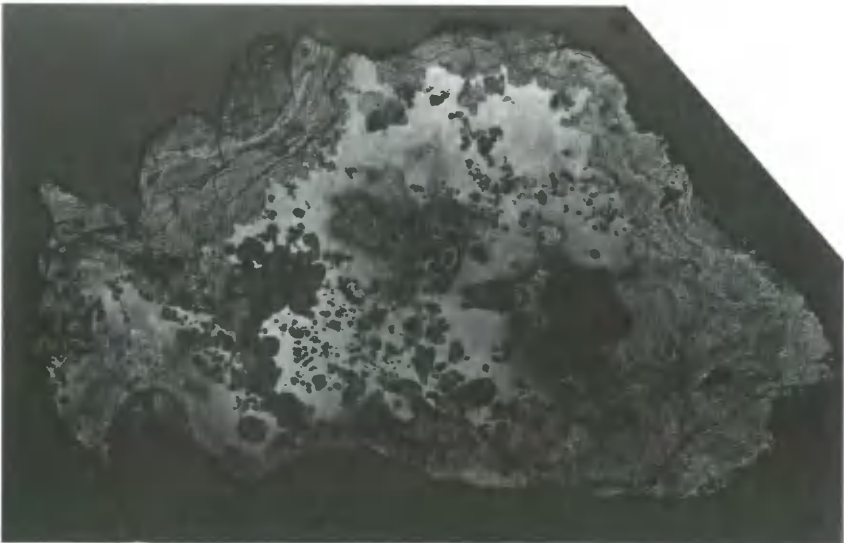
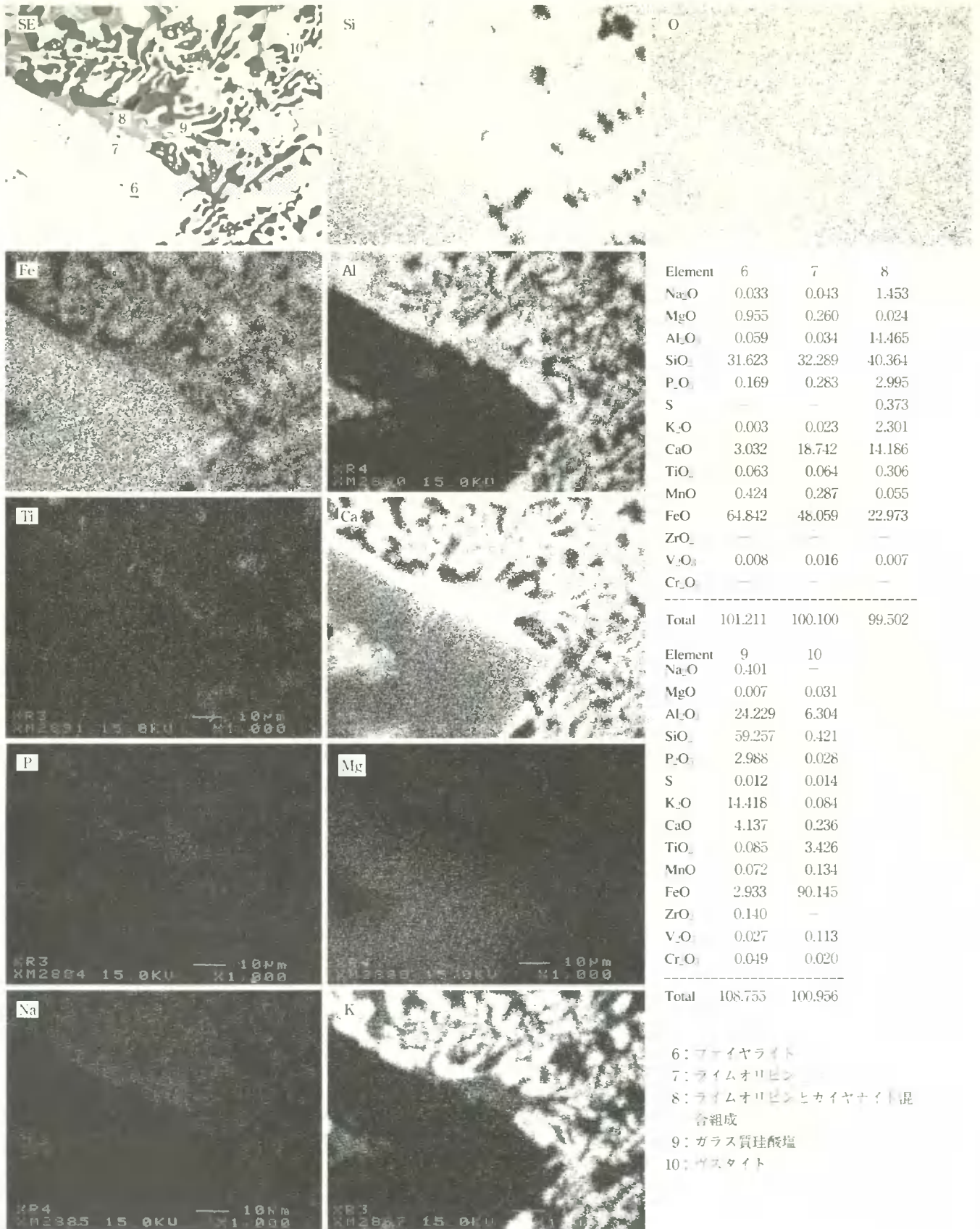


Photo.16 鉄塊系遺物（TKT-11）のマクロ組織×10



Element	6	7	8
Na <sub>2</sub> O	0.033	0.043	1.453
MgO	0.955	0.260	0.024
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.059	0.034	14.465
SiO <sub>2</sub>	31.623	32.289	40.364
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.169	0.283	2.995
S	—	—	0.373
K <sub>2</sub> O	0.003	0.023	2.301
CaO	3.032	18.742	14.186
TiO <sub>2</sub>	0.063	0.064	0.306
MnO	0.424	0.287	0.055
FeO	64.842	48.059	22.973
ZrO <sub>2</sub>	—	—	—
V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.008	0.016	0.007
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	—	—	—
-----			
Total	101.211	100.100	99.502
Element	9	10	
Na <sub>2</sub> O	0.401	—	
MgO	0.007	0.031	
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.229	6.304	
SiO <sub>2</sub>	59.257	0.421	
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	2.988	0.028	
S	0.012	0.014	
K <sub>2</sub> O	14.418	0.084	
CaO	4.137	0.236	
TiO <sub>2</sub>	0.085	3.426	
MnO	0.072	0.134	
FeO	2.933	90.145	
ZrO <sub>2</sub>	0.140	—	
V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.027	0.113	
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.049	0.020	
-----			
Total	108.755	100.956	

6: マネイヤライト  
7: ライムオリヒン  
8: ライムオリヒンとカイヤナイト混  
合組成  
9: ガラス質珪酸塩  
10: ガスタイト

Photo.17 鉍石製錬滓 (TKT-3) の特性×線像と定量分析値

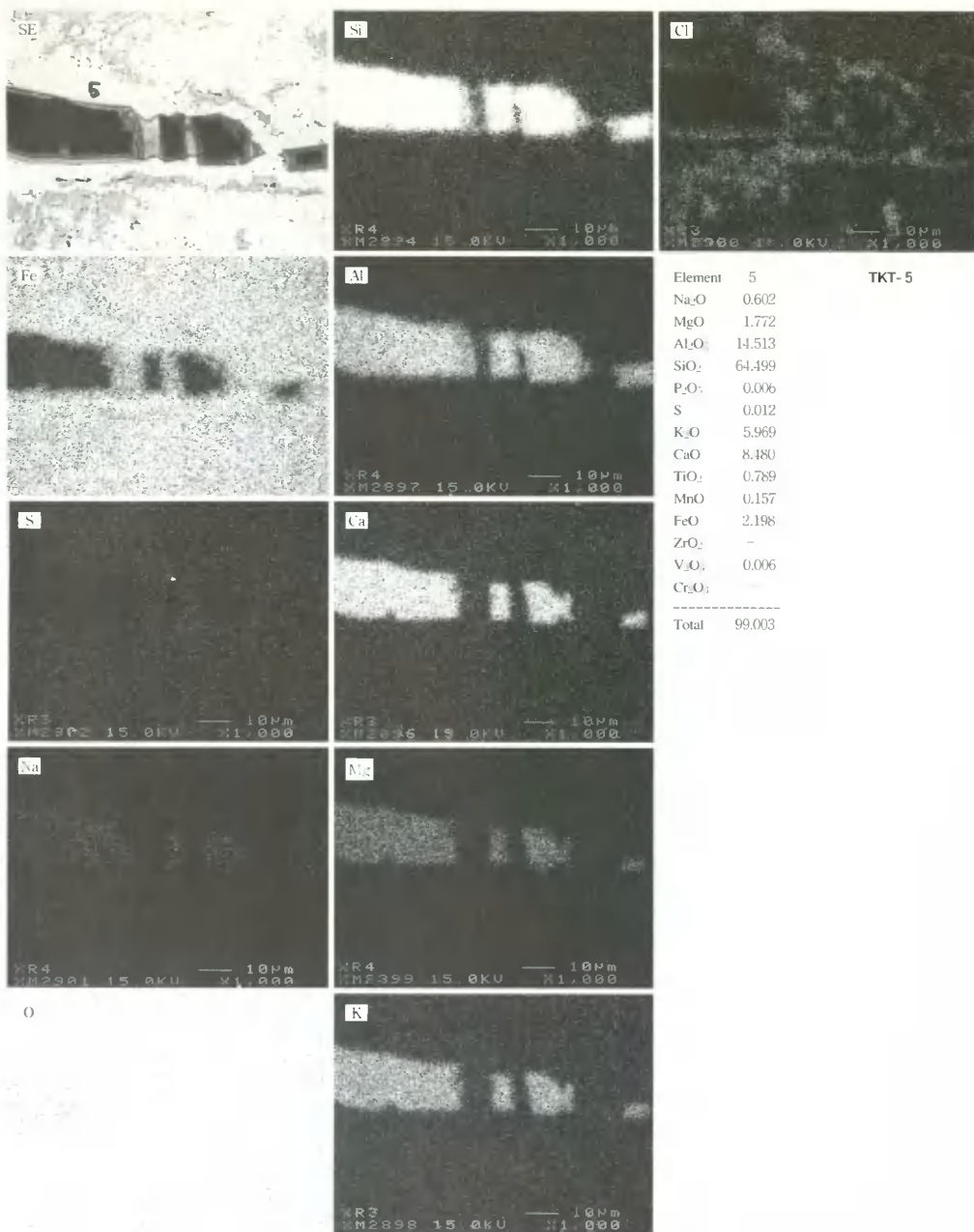


Photo.18 紡錘車（TKT-5）紡輪鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値



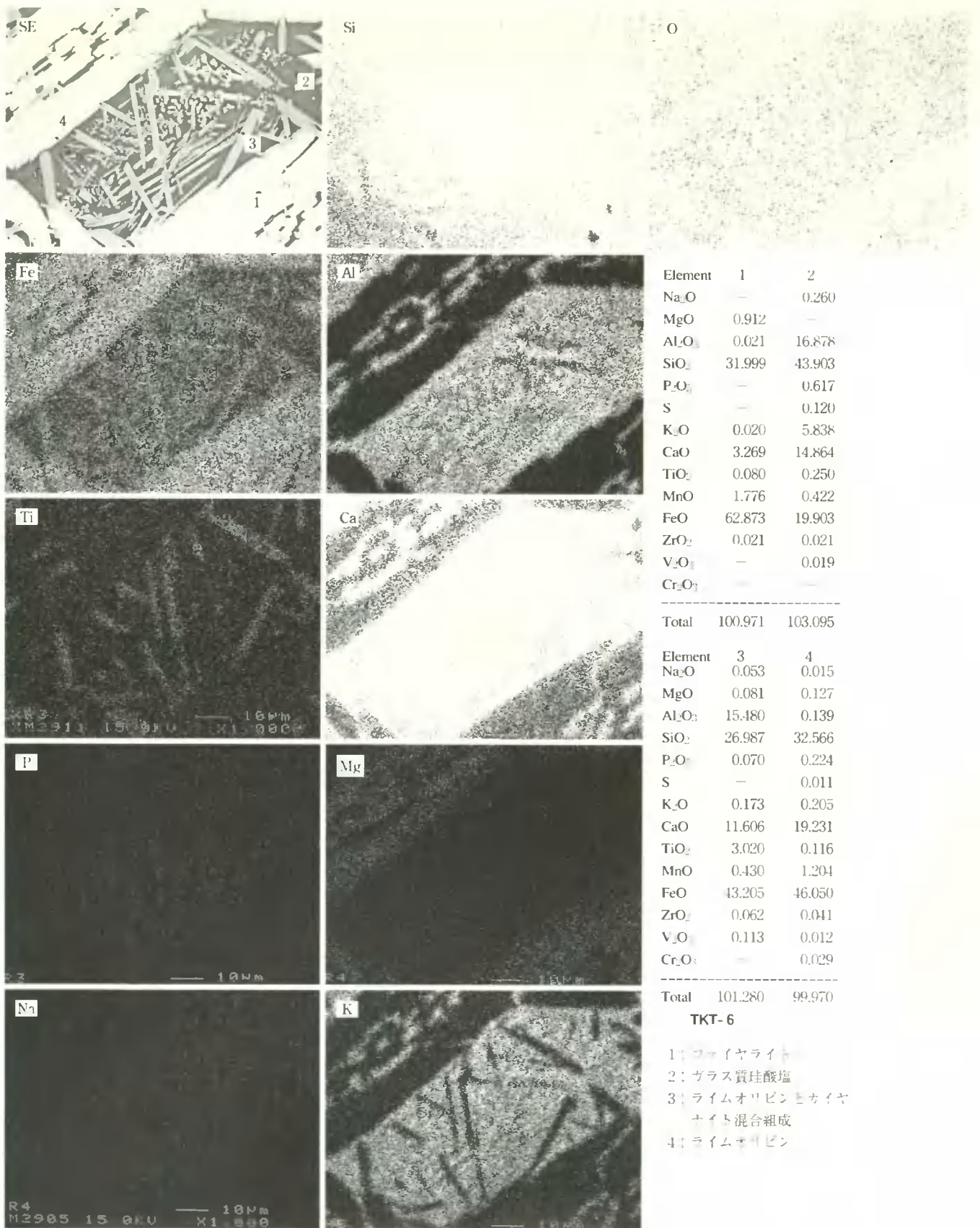
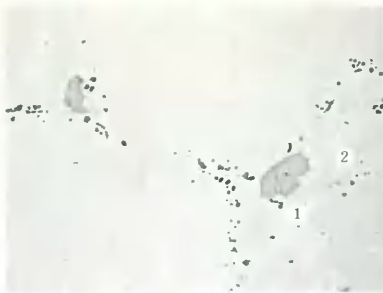
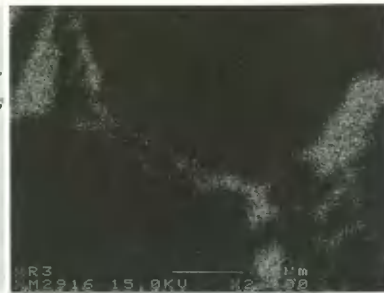


Photo.19 炉内滓 (TKT-6) の特性X線像と定量分析値

SE



P



Fe



S



Sn



TKT-11

Element	1	2
P	0.052	7.267
S	35.071	0.649
Fe	64.820	87.183
Sn	1.807	1.725
-----		
Total	101.750	96.824

Photo.20 鉄塊系遺物（TKT-11）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値

## 6 高塚遺跡出土の中世人骨について

池田 次郎

### 1 人骨の遺存状態と性、年齢の推定

#### 土壙墓19 (角田3 a区SK02)

羽釜内に右の頭頂骨、側頭骨、後頭骨など脳頭蓋骨、下顎骨骨体、上腕骨と前腕骨の骨体が埋納されていたが、いずれも小破片である。

骨の大きさから幼小児骨とみられる。

#### 土壙墓18 (角田3 b区SX01)

左右の側頭骨など脳頭蓋骨、左上腕骨、左右の大腿骨と脛骨の骨体の破片以外に、上顎右の第3大臼歯を除く全歯が遊離歯として遺存する。

大臼歯の磨耗度は著しく軽微で、小児もしくは若年者と推定されるが、確かではない。性の判別はできない。

#### 土壙墓21 (角田3 c区SX01)

四肢長骨の断片4点だけが検出された。

性、年齢とも判明しない。

#### 土壙墓20 (角田3 c区SX02)

大部分の頭蓋骨が遺存するが、上顎骨と下顎骨以外の骨は破損が著しく、接続することはできない。上顎骨は左右の歯槽突起と口蓋突起を、下顎骨は左半分と右骨体の後部を残し、上顎骨には左右の中切歯、側切歯、犬歯、第2小臼歯、第1大臼歯と右の第1小臼歯が、下顎骨には右の第2小臼歯から第3大臼歯までと、左の中切歯から第3大臼歯までの全歯が釘植している。

胸骨では右の肋骨断片が数本、上肢骨では右の鎖骨と肩甲骨、左右の上腕骨と前腕骨が残存するが、このうち左上腕骨が骨体の大部分を残す以外、いずれも小破片である。下肢骨としては、左右の寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨がある。長骨は骨端を欠くが骨体の大部分が残っている。

下顎骨の骨体は高く頑丈で、四肢長骨はいずれも著しく強大である。大臼歯の磨耗度は強いが、歯槽の閉鎖は認められない。壮年後半の男性骨と推定される。

#### 土壙墓24 (角田3 c区SX05)

上腕骨、手骨と思われる破片各2点が検出されている。

性、年齢とも判明しない。

### 2 埋葬姿勢

人骨が遺存していた土壙墓51基、1遺構における被葬者の埋葬姿勢を第1表(高塚遺跡分ののみ再掲)に示す。

散乱骨および改葬墓を別とすれば、2体以上が埋葬されている土壙墓はない。

溝の中から幼児2体分の歯が検出された津寺遺跡溝475・47<sup>(1)</sup>、礫に混じっていた津寺遺跡中世墓—<sup>(2)</sup>8、焼骨が検出された津寺遺跡土壙墓—<sup>(3)</sup>13、男女各1体の遺骨が改葬されている津寺遺跡土壙墓—<sup>(4)</sup>3、改葬の疑いがある加茂政所遺跡土壙墓—<sup>(5)</sup>13、羽釜内に幼小児骨が埋納されている高塚遺跡土壙墓—19

に残存する人骨は正常な解剖学的位置関係を保っていない。これらを除く46基の土壙墓のうち遺存人骨が少なく、埋葬姿勢を推定することができないものが12基ある。

埋葬姿勢が確認もしくは推定できた34基のうち仰臥伸展葬は4基で、それ以外は屈葬である。津寺遺跡土壙墓-15<sup>(6)</sup>の仰臥伸展人骨は、左の下肢を折りまげ、右足で立った状態で横たわっている。屈葬の内訳は、蹲踞姿勢をとる座位が2例、残りはすべて躯幹を棺底につけているが、そのうちの5例は膝を立てた仰臥で、23例が横臥である。横臥屈葬では左を下にした左側臥は5例認められるが、そのうち4例までが膝関節を軽くまげ、1例だけが強くまげている。これに対して右側臥18例のうち17例が股関節、膝関節とも強くまげている。したがって、下肢を強く折りまげた右側臥屈葬が圧倒的に多い。なお、津寺遺跡丸田Ⅲ区火葬墓<sup>(7)</sup>の焼けた人骨は、膝を強くまげた左側臥屈位の姿勢を保っており、遺体は土壙墓の中で焼かれ、そのまま埋葬されたものであろう。

次に頭位が判明している38例のうち、西北西、南西各1例を別とすれば、北と東を中心とする方位に納まり、北北東と北西の間に20例、北東と東南東の間に15例が入る。次に埋葬姿勢が確認された34例の頭位を検討すると、4例の仰臥伸展葬では全例がほぼ真東である。また、最も多数を占める右側臥屈葬18例のうち13例の頭位が北北東から北北西の間にある。それ以外の埋葬姿勢と頭位との間には規則性は認められない。

全国各地で発掘された中世土葬墓の報告例を通覧し、遺存する人骨から被葬者の埋葬姿勢、頭位を検討した池田(1982)によれば、埋葬姿勢は変異に富んでいるが、全体としてみれば右側臥屈位が多く、頭位は北東から北西の範囲内に入るものが圧倒的多数を占めるので、北頭位右側臥屈位で顔を西に向けた埋葬が中世の普遍的な葬法であったらうという。北頭位右側臥屈葬が最も多い津寺、三手、高塚遺跡の中世墓の埋葬様式も中世の一般的葬法に従っているといえよう。

### 3 人骨の形態特徴

骨の保存状態は著しく悪く、また土圧による変形や表面の剥離が多く、骨にみられる。そのため、計測、観察に堪える資料はきわめて少ない。頭蓋および四肢骨の個体別計測値を付表1～4に示す。

#### 頭蓋計測値

下顎骨を別とすれば、主要な計測値がえられた資料は津寺遺跡土壙墓-16<sup>(8)</sup>壮年女性骨だけである。

その頭蓋最大長(181mm)は女性としてはきわめて長く、後頭部が強く膨隆している。頭蓋最大幅は計測できないが、かなり狭いとみられ、長幅示数が長頭もしくは過長頭であることは確かである。バジオン・プレグマ高も計測できないが、比較的高い。なお、壮年男性の後頭部も強く後方に突出している。

顔高(110mm)、上顔高(65mm)、鼻高(49mm)など顔面高径は山口県吉母浜中世人(中橋・永井、1985)の平均値に一致し、熊本県尾窪中世人(内藤、1973)よりやや高い。中顔幅(98mm)も吉母浜中世人に近く、尾窪中世人より大きい。したがって、ウィルヒョーの顔示数(112.2)と上顔示数(66.3)は吉母浜中世人の平均値に合致し、顔示数は尾窪中世人よりやや小さく、上顔示数はやや大きい。これら中世人の間では両示数に大きな差は認められない。

鼻根部が破損しているため、その形態は明らかでないが、齒槽側面角(53°)は尾窪中世人よりやや大きく、吉母浜中世人および鎌倉材木座中世人(鈴木・他、1956)の平均値よりはるかに小さい。

下顎骨計測値は男性5例、女性2例で計測できたが、津寺遺跡土壙墓-16<sup>(8)</sup>女性以外の計測値は他集団と比較できない。津寺遺跡土壙墓-16<sup>(8)</sup>女性の数値は、下顎長がやや小さく、オトガイ高、下顎体高



がやや高い以外、吉母浜、鎌倉材木座の中世人と大差ない。咬合型は鋏状である。

津寺遺跡土壙墓<sup>(8)</sup>-16女性は、著しい長頭、低顔、齒槽性突顎という中世日本人頭蓋の特性を具えている。

### 下肢骨計測値

四肢骨のうち、資料数が比較的多い左の大腿骨と脛骨の計測値を比較するが、この中には性別が確定でない資料や右下肢骨計測値が2、3含まれている(第2表)。比較集団は、男性では広島県の福山市丁谷貝塚(池田、1993)と帝釈峡遺跡群寄倉岩陰遺跡(池田、1980)、山口県吉母浜遺跡(中橋・永井、1985)、神奈川県鎌倉材木座(香原、1956)の中世人、西日本(城、1938)と東日本(Yamaguchi、1986)の古墳人、津雲縄文人(池田、1988)、畿内現代人(平井・田幡、1928)の8集団、女性ではそのうち寄倉中世人を除く7集団である。なお、男性の脛骨計測値の比較には、鎌倉材木座中世人の代わりに極楽寺中世人(寺沢・佐倉、1961)を用いた。

中世日本人下肢骨の特徴として、大腿骨骨体上部の扁平性(香原、1956)と、大腿骨の柱状性と脛骨の扁平性が弱いこと(内藤・他、1979)が知られている。大腿骨の中央および骨体上部の横断示数が小さく、脛骨の中央および栄養孔部の横断示数が大きい吉母浜、材木座・極楽寺中世人の下肢骨はこの特徴をよく示している。

山陽自動車道岡山工事区<sup>(9)</sup>中世人の大腿骨中央横断示数は、女性では比較した中世人との間に大きな差はみられないが、男性の場合、中世人、古墳人のいずれよりも大きく、畿内現代人に近い。大腿骨骨体上部横断示数は、男女とも丁谷あるいは寄倉の中世人より大きく、西日本、東日本古墳人の数値に近い。脛骨の中央横断示数は、男女とも丁谷、寄倉など広島中世人に近く、吉母浜、極楽寺中世人や古墳人よりやや小さい。栄養孔部の横断示数では、男性は極楽寺中世人と一致し、それ以外の中世人、西日本古墳人より僅かに小さく、女性は丁谷、吉母浜中世人にやや劣り、西日本古墳人に近い。脛骨の扁平性および男性大腿骨の柱状性は中世人としてはやや強いが、津雲縄文人に比べればはるかに弱い。

以上、岡山工事区出土の中世人の大腿骨は、骨体上部の扁平性を欠き、男性では柱状性が強いなど中世人の特徴を示さず、脛骨の扁平性も中世人としてはやや強いが、この点では広島の中世人に類似する。

### 註

- (1) 岡山県教育委員会『津寺遺跡5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127 1998
- (2) 岡山県教育委員会『三手遺跡・津寺遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 90 1994
- (3) 註1に同じ。
- (4) 岡山県教育委員会『津寺遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 98 1995
- (5) 岡山県教育委員会『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 138 1999
- (6) 註1に同じ。
- (7) 註2に同じ。
- (8) 註1に同じ。
- (9) 高塚遺跡、三手遺跡、津寺遺跡、加茂政所遺跡が該当する。

本文は、池田次郎「山陽自動車道建設工事に伴う発掘調査による岡山工事区出土の人骨—中世人骨」『三手遺跡・津寺遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 90 1994の再掲である。再掲にあたり、旧遺構名を各報告書掲載の新遺構名に改め文献註をつけたほか、第1表は高塚遺跡分のみに留めた。(編集)

## 参考文献

- 平井 隆・田幡丈夫 1928 現代日本人骨の人類学的研究 第四部 下肢骨の研究 其一 大腿骨・膝蓋骨・脛骨及腓骨に就て。人類学雑誌、43、附録：1-82.
- 池田次郎 1980 帝釈寄倉岩陰遺跡出土の中世人骨について。「広島大学文学部帝釈峽遺跡群発掘調査室年報 Ⅲ」 pp.99-105. 広島大学文学部帝釈峽遺跡群発掘調査室.
- 池田次郎 1982 香川県西村遺跡出土の中世人骨とその埋葬について。「西村遺跡Ⅲ」 pp.95-98. 香川県教育委員会.
- 池田次郎 1988 吉備地方海岸部の縄文時代人骨—時代差と地域性の成立。「考古学と関連科学」 pp.331-371. 鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会、岡山.
- 池田次郎 1993 福山市草戸千軒町遺跡（第42次調査）および丁谷貝塚出土の中世人骨。「草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ—北部地域北半部の調査—」 pp.255-274. 広島県教育委員会
- 城 一郎 1938 古墳時代日本人骨の人類学的研究 第三部 下肢骨。人類学輯報（京都帝国大学医学部病理学教室人類学業績）、1：245-324.
- 香原志勢 1956 四肢骨特に大腿骨の形質。日本人類学会編「鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨」 pp.149-154. 岩波書店、東京.
- 内藤芳篤 1973 人骨。「尾窪—熊本県下益城郡城南町尾窪中世墓群の調査」 pp.62-78. 熊本県教育委員会.
- 内藤芳篤・松下孝幸・分部哲秋・田代和則 1979 九州の中世人骨について（会）。人類学雑誌、87：171.
- 中橋孝博・永井昌文 1985 山口県下関市吉母浜遺跡出土の弥生・中世人骨。「吉母浜遺跡」 pp.154-225. 下関市教育委員会.
- 鈴木 尚・林 都志夫・田辺義一・佐倉 朔 1956 頭骨の形質。日本人類学会編「鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨」 pp.75-148. 岩波書店、東京.
- 寺沢俊男・佐倉 朔 1961 極楽寺出土中世日本人の脛骨横断形（会）。日本人類学会・日本民族学会連合大会記事、15：30-33.
- Yamaguchi, B. 1986 Metric characters of the femora and tibiae from protohistoric sites in eastern Japan. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, Ser. D, 12: 11-23.

第1表 高塚遺跡出土の中世人骨

遺跡名	調査区名	土壌墓番号	被葬者の年齢・性	埋葬姿勢			備考
				頭位	下肢	躯幹	
高塚遺跡	角田3a区	19号	幼小児	—	—	—	羽釜内
高塚遺跡	角田3b区	18号	不明・不明	東	伸	仰臥	
高塚遺跡	角田3c区	21号	不明・不明	(北)	不明	不明	
高塚遺跡	角田3c区	20号	壮年・男性	北	屈	仰臥	
高塚遺跡	角田3c区	24号	不明・不明	不明	不明	不明	

( ) 内は不確実

第2表(1) 男性下肢骨計測値の比較(左)

	中 世						古 墳		縄文	現代
	岡 山	広 島	山 口	神奈川	西日本	東日本	津雲	畿内		
大腿骨	n	M	丁谷1号	寄倉	吉母浜	材木座				
6中央矢状径	12	29.7	28	30	28.1	27.2	27.2	28.9	29.0	26.8
7中央横径	12	27.7	27	29	27.7	26.8	26.8	28.4	26.0	25.6
8中央周	11	90.8	88	94	87.8	86.0	85.9		87.4	83.1
9'骨体上部最大径	9	31.9	32	34	*32.1	*31.6	32.9	32.5	31.7	30.0
10'骨体上部最小径	9	24.4	23	24	*24.4	*23.9	24.4	25.5	24.3	23.8
6/7中央横断示数	12	107.6	103.7	103.4	101.3	102.5	101.8	102.2	111.8	106.4
10'/9'骨体上部横断示数	9	76.9	71.9	70.6	*76.1	*75.7	74.7	78.9	*76.7	79.4
脛骨						極楽寺				
8中央最大径	6	30.8	29	32	29.6	30.4	28.9	30.6	32.3	28.5
8a栄養孔部最大径	2	33.0	35	34	33.8	34.0	33.3		35.2	32.6
9中央横径	6	21.0	20	22	21.6	22.1	21.4	22.6	20.4	21.0
9a栄養孔部横径	2	22.5	25	24	24.0	23.6	23.4		22.2	23.6
10骨体周	6	83.7	83	84	80.8	83.5	80.9		84.5	79.0
9/8中央横断示数	6	69.1	69.0	68.8	73.0	73	74.3	73.8	63.3	73.7
9a/8a栄養孔部横断示数	2	68.4	71.4	70.6	71.0	69.8	70.4		63.0	72.4

\*9骨体上横径 10骨体上矢状径 10/9上骨体横断示数 \*\*10/9上骨体横断示数 83.1

岡山は高塚遺跡、三手遺跡、津寺遺跡、加茂政所遺跡のデータ(以下同じ)

第2表(2) 女性下肢骨計測値の比較(左)

	中 世					古 墳		縄文	現代
	岡 山	広 島	山 口	神奈川	西日本	東日本	津雲	畿内	
大腿骨	n	M	丁谷2号	吉母浜	材木座				
6中央矢状径	5	24.4	25	23.3	22.9	24.5	24.4	25.2	23.8
7中央横径	5	25.4	26	24.8	23.5	24.7	26.7	24.2	23.5
8中央周	5	78.2	82	76.1	73.8	78.1		78.0	74.8
9'骨体上部最大径	2	30.5	32	*29.1	*28.0	31.0	30.8	29.4	28.2
10'骨体上部最小径	2	22.0	21	*20.9	*20.4	22.4	22.0	22.2	20.9
6/7中央横断示数	5	96.3	96.2	94.5	96.6	100.0	91.9	104.5	102.3
10'/9'骨体上部横断示数	2	72.1	65.7	*72.0	*73.0	72.2	71.6	*73.0	74.5
脛骨									
8中央最大径	5	24.6	27	26.1		26.9	26.9	27.3	24.4
8a栄養孔部最大径	3	29.7	33	29.7		29.5		30.5	27.7
9中央横径	5	18.4	20	18.3		19.0	20.0	17.9	18.5
9a栄養孔部横径	3	21.3	23	20.0		21.1		19.4	21.0
10骨体周	6	68.8	77	70.3		73.1		73.4	68.1
9/8中央横断示数	5	74.8	74.1	70.4		70.8	74.7	65.8	77.0
9a/8a栄養孔部横断示数	3	71.7	69.7	67.4		71.9		63.6	75.4

\*9骨体上横径 10骨体上矢状径 10/9上骨体横断示数 \*\*10/9上骨体横断示数 78.2

付表2 下顎骨計測値 (男性)

	土壙墓20
67 前下顎幅	
68 下顎長	
69 オトガイ高	
69(1) 体高	28
69(2) 体高	26
69(3) 体厚	14
70 枝高	
70(3) 下顎切痕高	
71 枝幅	
71(1) 下顎切痕幅	
79 下顎角	
71/70 下顎枝示数	
70(3)/71(1) 下顎切痕示数	

付表3 上肢骨計測値 (男性)

	土壙墓20
鎖骨	右
4 中央矢状径	
5 中央垂直径	
6 中央周	
5/4 骨体横断示数	
上腕骨	
4 下端幅	
5 中央最大径	25
6 中央最小径	18
7 最小周	65
7a 中央周	73
6/5 骨体横断示数	72.0
橈骨	
3 最小周	
4 骨体横径	
5 骨体矢状径	
5/4 骨体横断示数	
尺骨	
11 骨体前後径	
12 骨体横径	
11/12 骨体横断示数	

付表4 下肢骨計測値 (男性)

	土壙墓20	
	右	左
大腿骨		
6 中央矢状径	30	30
7 中央横径	28	28
8 中央周	93	93
9' 骨体上部最大径	30	30
10' 骨体上部最小径	25	25
6/7 中央横断示数	107.0	107.0
10'/9' 骨体上部横断示数	83.3	83.3
脛骨		
8 中央最大径	31	30
8a 栄養孔部最大径		
9 中央横径	21	19
9a 栄養孔部横径		
10 骨体周	86	81
10a 骨体周		
10b 最小周		70
9/8 中央横断示数	67.7	63.3
9a/8a 栄養孔部横断示数		
腓骨		
2 中央最大径		18
3 中央最小径		11
4 中央周		51
3/2 中央横断示数		61.1

## 7 高塚遺跡出土の烏帽子（烏帽子様乾燥遺物）について

（財）元興寺文化財研究所

岡山市高塚遺跡土墳墓17出土の烏帽子（烏帽子様乾燥遺物）について遺物の形状、成分、膜構造を調査し、遺物の判定および技法の解析を試みた。

### 1 使用器機および分析条件

- ・ 実体顕微鏡（（株）オリンパス SZH-II LD）
- ・ 金属顕微鏡（（株）オリンパス BH2-UMA）
- ・ 電子顕微鏡（（株）日立製作所 S-415）
- ・ ミクロトーム（（株）日本ミクロトーム研究所製 ST-201）
- ・ フーリエ変換型赤外分光光度計（FT-IR）（日本電子（株）製 JIR-6000）

赤外線を試料に照射することにより得られる、分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

### 2 分析方法と結果

#### 2-1 形状観察

最も大きい断片（写真1）に、折り返しの見られる箇所や折られて数層になった膜が観測され、形状から遺物を判断できる可能性があると考えられた。

そこで、冠師、烏帽子折の伝統技術者森本安彦御夫妻に実見して頂いたところ、最も大きい断片にみられた折り返し箇所の場所や大きさ、輪郭等から折烏帽子（写真2）であることが明らかとなった（写真3, 4, 5, 6）。

また本資料について以下のご教示を頂いた。

- ① 平安末期から室町時代まで使用された折烏帽子である。
- ② 折り方は源氏の後三年折りと逆であり平家の折り方と考えられる。
- ③ 平織りの麻製烏帽子（写真3, 5）に紗を貼り合わせたり、和紙を裏打ちし漆で固める技法が考えられる。

#### 2-2 膜の成分分析および膜構造

形状の異なる以下の3カ所の膜について成分分析および膜構造の観察を行った。

- ① 表面が黒褐色で点が規則的に並んだ模様がみられる膜（写真7. a, b, c）
- ② 表面が黒褐色で縦と横の線が布目と考えられる膜（写真8. a, b, c）
- ③ 表面が黒褐色で模様のみられない膜（写真9. a, b）

実体顕微鏡で表面（茶褐色面）を観察した結果①は平織りと考えられ、②は布目痕に隙間が多く見られることより紗または羅等のからみ織りと考えられた。③は繊維様の物質は観察されなかった。

## 2-2-1 方法

### 1) FT-IR分析

①、②、③の膜の表面（黒褐色面）を少量採取しFT-IR分析をおこなった。また ①、②については、膜の表面（茶褐色で布目痕がみられる面）の繊維とみられる箇所、③については茶色の裏面を少量採取しFT-IR分析をおこなった。

### 2) 電子顕微鏡観察

電子顕微鏡で茶褐色面の観察をおこなった。

### 3) 膜構造観察

少量の塗膜を採取し、樹脂包埋後、マイクロームを用いて膜断面の切片を作成した。

スライドガラス上で固定して永久プレパラートとし、金属顕微鏡（暗視野）で塗構造の観察をおこなった。

## 2-2-2 結果

### ①表面が黒褐色で点が規則的に並んだ模様がみられる膜

#### 1) FT-IR分析

#### 2) SEM観察

繊維は土壌による汚染と成分の流出および崩壊が激しく明瞭な観察が不可能で、繊維種の同定はできなかった。（写真10）。

#### 3) 膜構造

膜構造は、 $30\mu\text{m}$ 、 $50\mu\text{m}$ 、 $55\mu\text{m}$ 、の褐色系漆層が3層であった。布とみられる組織は観察されなかった（写真7c）。

### ②表面が黒褐色で縦と横の線が布目と考えられる膜

#### 1) FT-IR分析

膜表面の黒褐色部分はFT-IR分析の結果、漆であった（図2-1）。

土壌成分の吸収が強く、繊維の吸収は不明瞭であった（図2-2）。

#### 2) SEM観察

繊維は土壌による汚染と成分の流出および崩壊が激しく明瞭な観察が不可能で、繊維種の同定はできなかった。（写真11）。

#### 3) 膜構造

膜構造は、下地とみられる $30\mu\text{m}$ 以下の層の上に、 $20\mu\text{m}$ さらに $45\mu\text{m}$ の赤銅系漆層であった。布とみられる組織は観察されなかった（写真8c）。

### ③表面が黒褐色で模様のみられない膜

#### 4) FT-IR分析

膜表面の黒褐色部分はFT-IR分析の結果、漆であった（図3-1）。

土壌成分の吸収が強く繊維の吸収は不明瞭であった（図3-2）。

#### 5) SEM観察

繊維は確認できなかった（写真12）。

#### 6) 膜構造

膜構造は、 $60\mu\text{m}$ の層の上にさらに $60\mu\text{m}$ の赤銅系漆層が観察された（写真9a）。繊維と

みられる組織は観察されなかった（写真9c）。

### 3 考察

漆膜をのぞいて有機質の状態が悪く繊維種等の分析や観察が不可能であった。しかし、形状観察や漆が表面に塗られていることなどから、本資料は折烏帽子である可能性が高いと考えられた。

#### 編集者註

烏帽子が出土した土壙墓17は、弥生時代の竪穴住居63の埋土に掘り込まれていた。そのため、歯牙（30歳前後で性別は確実ではないが女性か小柄な男性との鑑定結果を得た。）が出土したことや断面観察から土壙墓として認識しながらも、平面的には墓壙を確認することができなかった。また、発掘から整理まで約10年の歳月が経ち、その間に遺物の劣化を招いてしまった。なお、本文中には図示していないが、13世紀末ころの土師質高台付碗の小片を土壙墓出土遺物として取り上げている。



写真1. 分析前の資料



写真2. 折烏帽子の模型（後三年折り）





写真3. 折烏帽子（後三年折の逆折り）



岡山市高塚遺跡 烏帽子？の部分

写真4. 資料の断片（写真3と同じとみられる面）



写真5. 折烏帽子（後三年折りの逆折り）



写真6. 資料の断片（写真5と同じとみられる面）



a 5倍



b 20倍

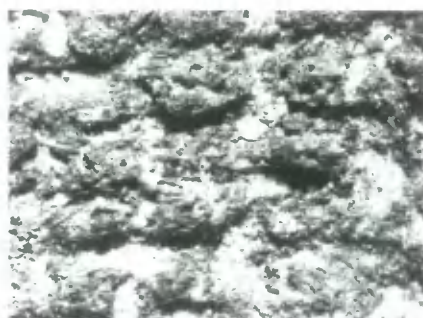


c 膜の横断面 75倍

写真7. ①表面が黒褐色で点が規則的に並んだ模様が見られる膜



a 5倍



b 20倍



c 膜の横断面 75倍

写真8. ②表面が黒褐色で縦と横の線が布目と考えられる膜



a 5倍



b 膜の横断面 75倍

写真9. ③表面が黒褐色で模様のみられない膜



写真10.  
600倍



写真11.  
600倍

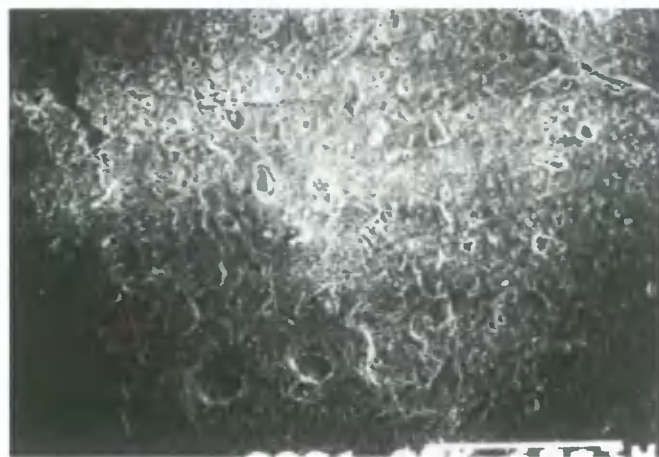


写真12.  
600倍

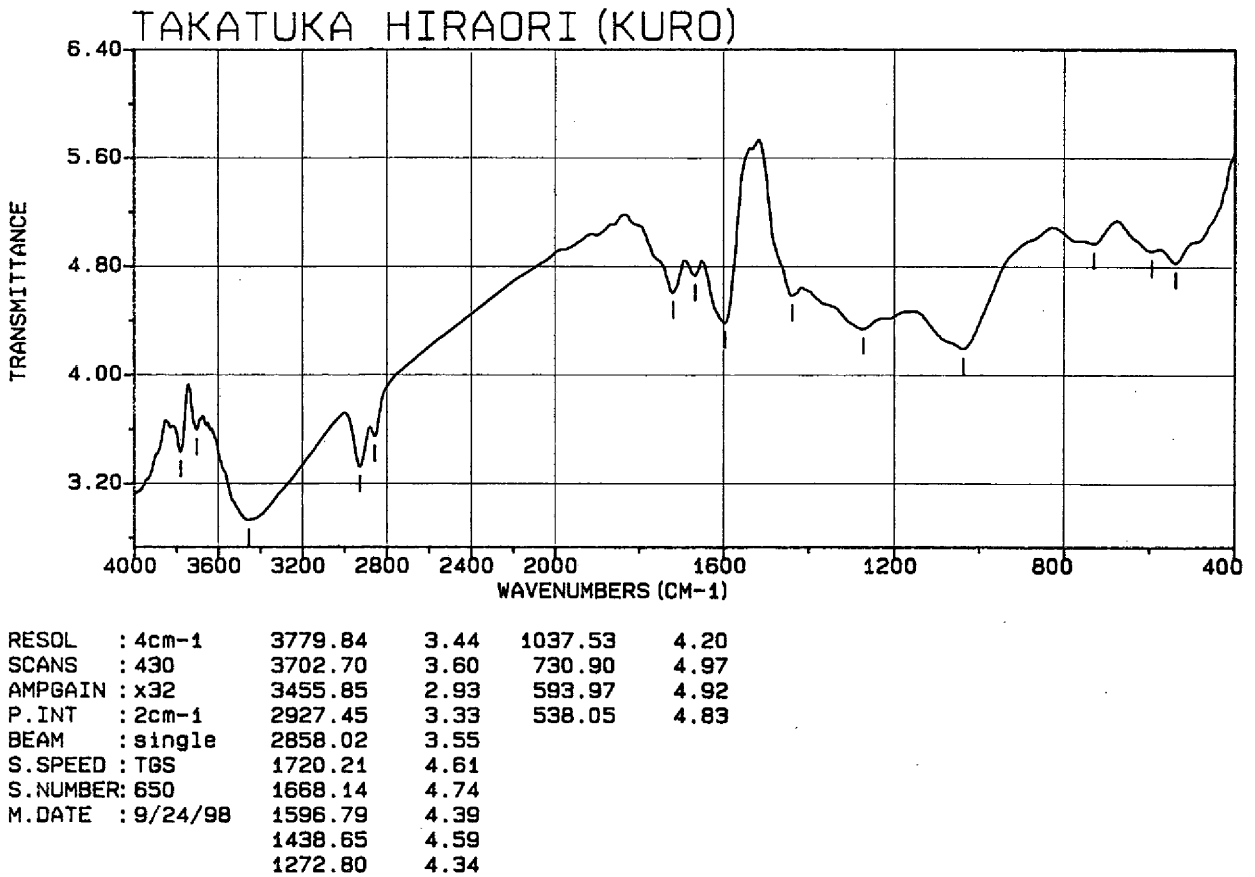


図1-1. ①点が規則的に並んだ膜（表面）のFT-IRチャート

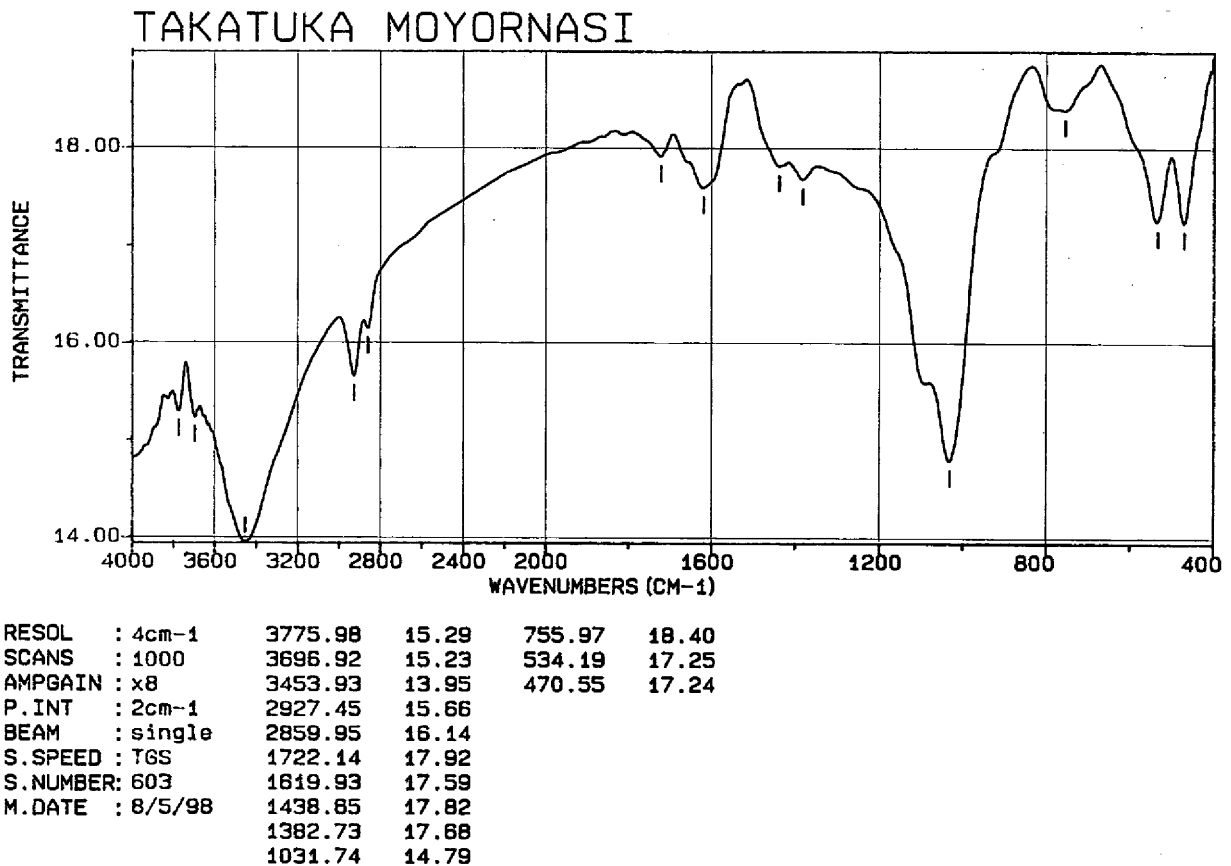
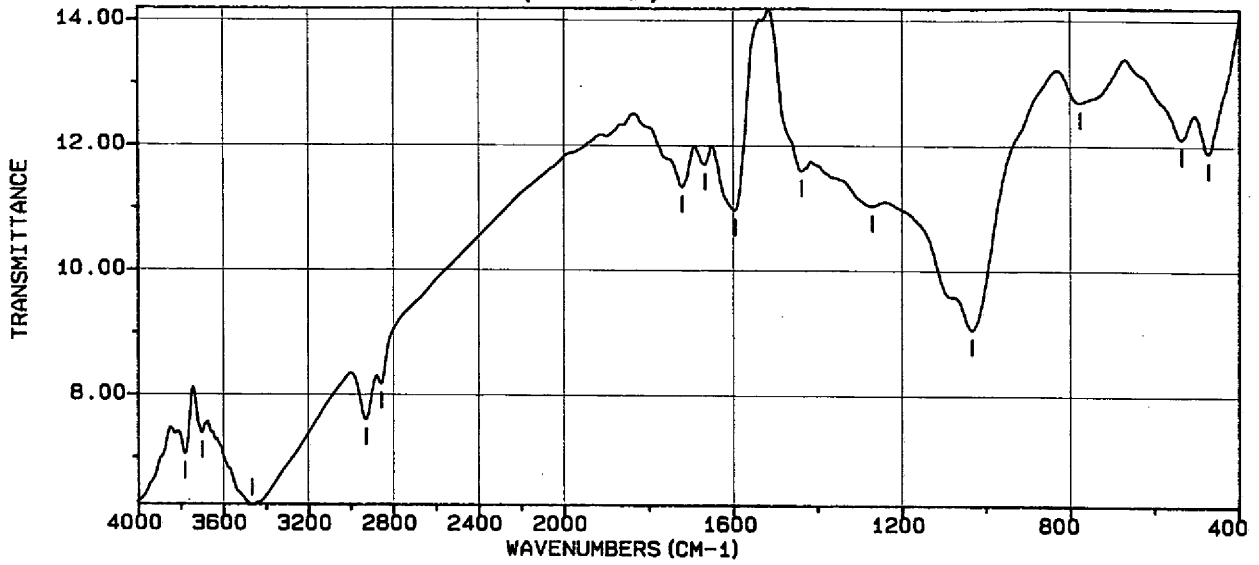


図1-2. ①点が規則的に並んだ膜（表面）のFT-IRチャート

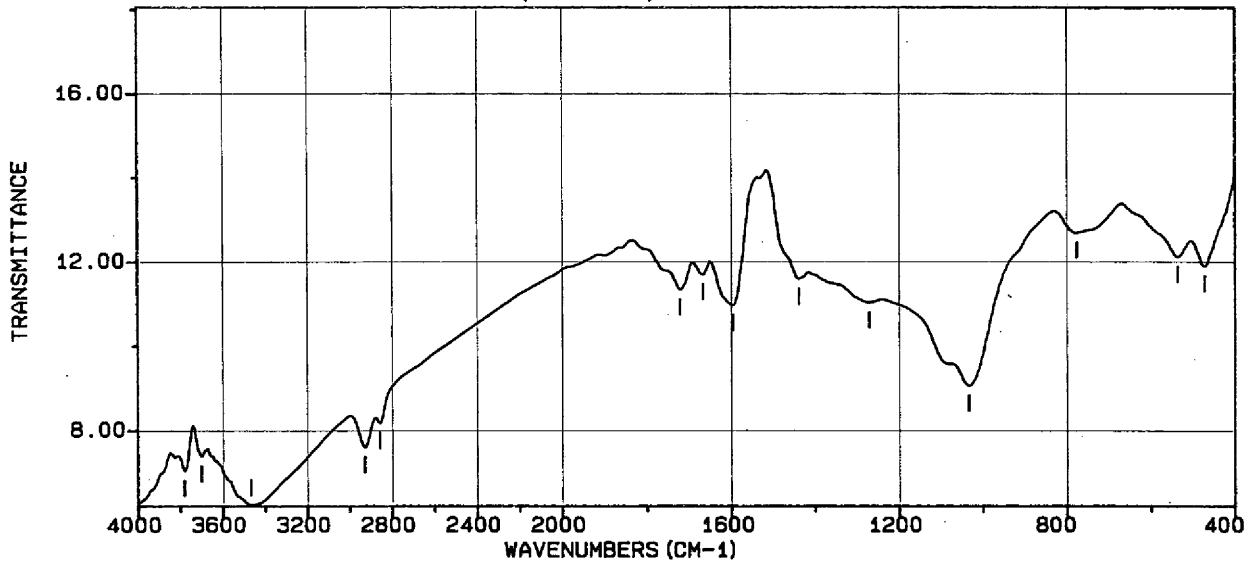
### TAKATUKA SAYA (KURO)



RESOL	: 4cm-1	3781.77	7.06	1033.67	9.07
SCANS	: 515	3700.77	7.40	777.18	12.70
AMPGAIN	: x16	3469.35	6.24	536.12	12.12
P.INT	: 2cm-1	2929.38	7.61	472.48	11.90
BEAM	: single	2858.02	8.18		
S.SPEED	: TGS	1722.14	11.35		
S.NUMBER	: 645	1668.14	11.71		
M.DATE	: 9/22/98	1596.79	10.98		
		1438.65	11.61		
		1270.88	11.05		

図 2-1. ②縦と横の線がみられる膜 (表面) のFT-IRチャート

### TAKATUKA SAYA (KURO)

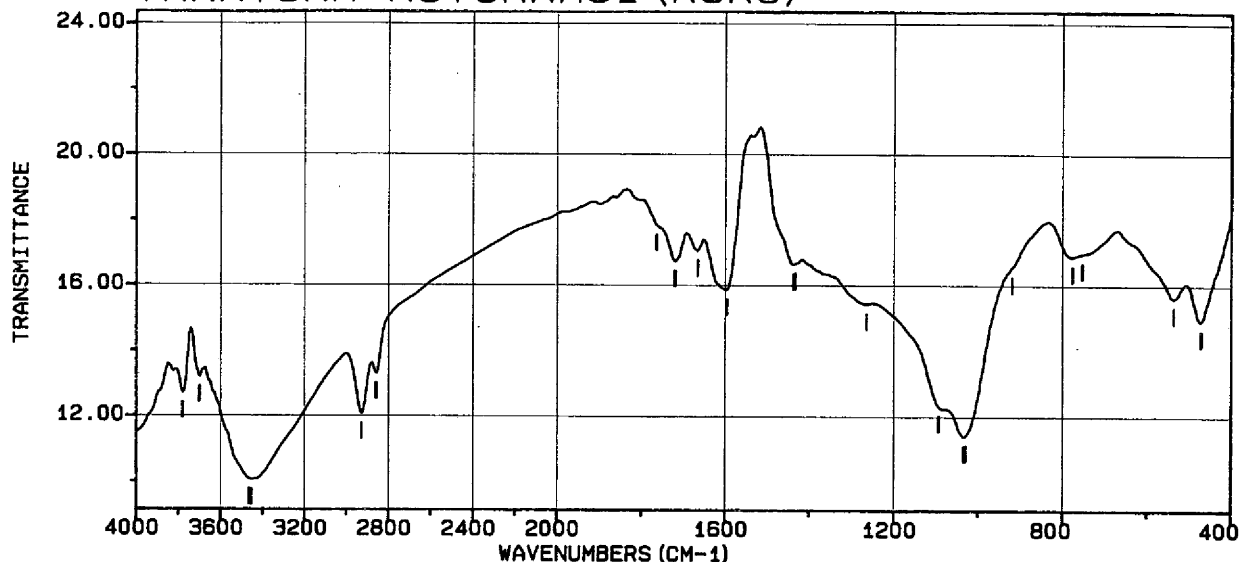


RESOL	: 4cm-1	3781.77	7.06	1033.67	9.07
SCANS	: 515	3700.77	7.40	777.18	12.70
AMPGAIN	: x16	3469.35	6.24	536.12	12.12
P.INT	: 2cm-1	2929.38	7.61	472.48	11.90
BEAM	: single	2858.02	8.18		
S.SPEED	: TGS	1722.14	11.35		
S.NUMBER	: 645	1668.14	11.71		
M.DATE	: 9/22/98	1596.79	10.98		
		1438.65	11.61		
		1270.88	11.05		

図 2-2. ②縦と横の線がみられる膜 (裏面) のFT-IRチャート



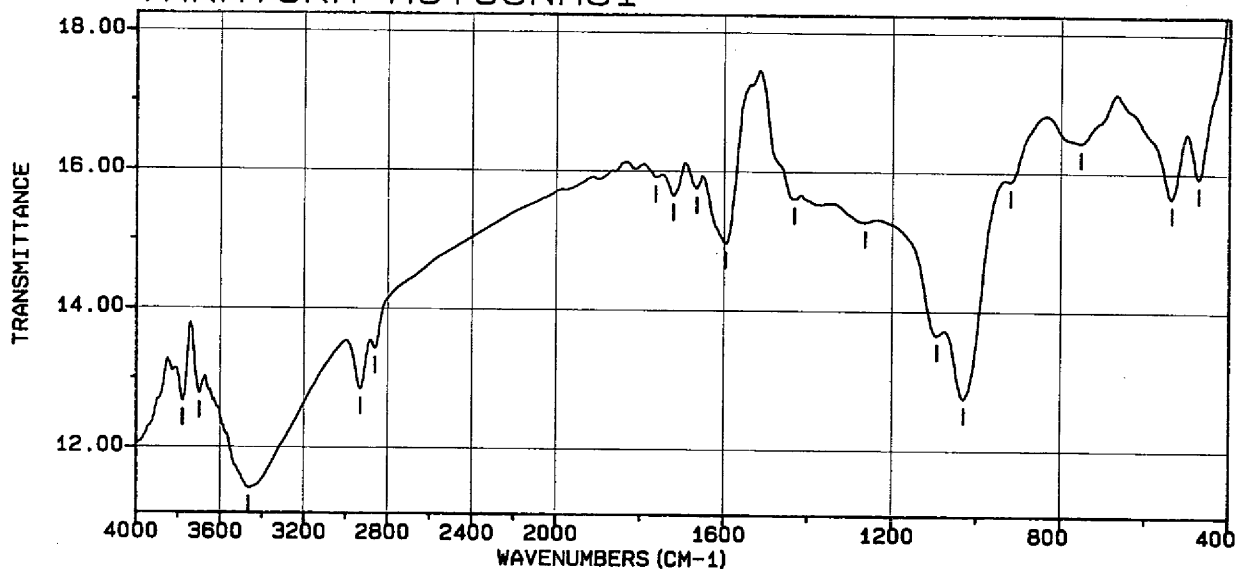
### TAKATUKA MOYORNASI (KURO)



RESOL : 4cm-1	3781.77	12.72	1720.21	16.74	919.89	16.56
SCANS : 890	3779.84	12.72	1666.22	17.07	777.18	16.90
AMPGAIN : x8	3700.77	13.20	1598.72	15.88	754.04	16.99
P.INT : 2cm-1	3465.50	10.07	1596.79	15.89	536.12	15.63
BEAM : single	3453.93	10.06	1438.65	16.65	472.48	14.94
S.SPEED : TGS	2929.38	12.08	1432.87	16.67	470.55	14.94
S.NUMBER: 644	2859.95	13.31	1265.09	15.45		
M.DATE : 9/22/98	2858.02	13.31	1093.45	12.33		
	1764.57	17.85	1033.67	11.41		
	1722.14	16.75	1029.81	11.42		

図3-1. ③模様のみられない膜膜（表面）のFT-IRチャート

### TAKATUKA MOYOUNASI



RESOL : 4cm-1	3779.84	12.67	1265.09	15.29
SCANS : 1000	3700.77	12.78	1093.45	13.67
AMPGAIN : x8	3465.50	11.43	1029.81	12.76
P.INT : 2cm-1	2929.38	12.85	919.89	15.89
BEAM : single	2859.95	13.44	754.04	16.45
S.SPEED : TGS	1764.57	15.92	536.12	15.66
S.NUMBER: 641	1722.14	15.66	472.48	15.94
M.DATE : 9/22/98	1666.22	15.76		
	1598.79	14.97		
	1432.87	15.62		

図3-2. ③模様のみられない膜膜（裏面）のFT-IRチャート

## 8 高塚遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

高塚遺跡の発掘調査では、弥生時代から中世の集落が検出されており、多くの遺物も出土している。今回の自然科学分析調査は、遺構の構築年代、住居構築材等の用材、遺構出土の種実の種類をあきらかにすることにある。そのため、放射性炭素年代測定、樹種同定、種実同定をそれぞれ実施する。

### 1 試料

試料は、住居跡等の遺構から出土した炭化材や種実である。試料の詳細に関しては、各分析結果とともに表に示す。

### 2 方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

測定は学習院大学年代測定室が実施した。なお、年代値の計算には、放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用した。

#### (2) 樹種同定

炭化していないものに関しては剃刀の刃を用いて、試料の木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製した。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定した。

一方炭化したものは、樹種3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定した。

#### (3) 種実同定

肉眼あるいは双眼実体顕微鏡下で観察を行い、その形態的特徴から種類を同定する。

### 3 結果

#### (1) 放射性炭素年代測定

年代測定結果を表1に記す。また、これらの試料については、樹種同定および種実同定を行ったので、その結果についても併せて記す。年代測定結果は、5点中4点が1930~2020y. B. P. の範囲に集中し、1点が1110y. B. P. であった。一方炭化材は、広葉樹3種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属)に同定され、種実遺体はモモに同定された。各種類の記載については、後述する樹種同定および種実同定の結果と併せて行う。

#### (2) 樹種同定

樹種同定結果を表2に示す。No11, 12の2点は、保存状態が悪いために木材組織の観察ができず、不明とした。その他の試料は、針葉樹1種類(マツ属複雑管束亜属)、広葉樹9種類(ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・トチノキ・トネリコ属)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

表1 放射性炭素年代測定結果

No.	調査区	遺構名	種類	推定時期	年代値	Code No.
1	フロヤII A区	袋状土壌18	コナラ属コナラ亜属コナラ節 (材)	弥生時代後期	1930±90	Gak-20061
2	フロヤII A区	袋状土壌18	モモ (核)	弥生時代後期	1980±60	Gak-20062
3	フロヤII A区	竪穴住居37	コナラ属アカガシ亜属 (材)	古墳時代	1950±40	Gak-20063
4	フロヤI区	竪穴住居48	コナラ属コナラ亜属コナラ節 (材)	古墳時代	2020±60	Gak-20064
5	フロヤII C区	竪穴住居13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (材)	弥生時代	1110±50	Gak-20065

・マツ属複維管束亜属 (Pinus subgen. Diploxylon) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道及び水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヤナギ属 (Salix) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2～3個が複合して、年輪全体にほぼ一様に分布する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris) ブナ科

試料は、年代測定用の小片で、実体顕微鏡のみの観察。環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20列細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ (Zelkova serrata (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の

表2 樹種同定結果

No.	調査区	遺構名	種類	時代・時期	用途など	樹種
1	塚廻りII区	井戸3	生木	中世	椀	クリ
2	塚廻りII区	井戸3	生木	中世	杓子	マツ属複維管束亜属
3	塚廻りII区	井戸3	生木	中世	下駄	マツ属複維管束亜属
4	塚廻りII区	河道1	生木	弥生時代	高杯	ケヤキ
5	フロヤII A区	井戸4	生木	中世	漆塗り椀	クリ
6	フロヤII B区	河道3	生木	中世	漆塗り椀	トチノキ
7	角田I C区	竪穴住居37	炭化材	古墳時代後半	住居構築材	トネリコ属
8	角田II E区	竪穴住居174	炭化材	古墳時代後半	住居構築材	ヤナギ属
9	角田II E区	竪穴住居170	炭化材	古墳時代後半	住居構築材	ヤマグリ
10	角田III A区	竪穴住居150	炭化材	古墳時代中期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
11	角田III C区	竪穴住居94	炭化材	弥生時代後期	住居構築材	不明
12	角田III C区	竪穴住居96, Pit	炭化材	弥生時代後期	住居構築材	不明

紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高で、しばしば結晶を含む。

・ヤマガワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で孔圏部は1～5列、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

・トネリコ科 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で孔圏部は2～3列、孔圏外でやや緩やかに管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

### (3) 種実同定

同定の結果、イネ、オオムギ、モモが検出された。以下に、検出された種類の形態的特徴を示す。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており、大きさは6mm程度。紡錘形で先端部は尖り基部は丸い。片側には1本の深い溝があり、その反対側の基部には肺の痕跡がありまるくくぼむ。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさは4mm程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように見える。表面には数本の筋がみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。褐色～黒褐色で大きさは3cm程度。核の形は楕円形で、やや扁平である。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり、先端部はやや劣る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

表3 樹種同定結果

No.	調査区	遺構名	推定時期	種類(個数)
1	塚廻り3A区	包含層	中世	イネ(多数)
2	塚廻り3A区	建物4, P9	中世	オオムギ(9)
3	塚廻り4C区	溝11	中世	モモ(多数)
4	角田4SE区	竪穴住居67	弥生時代後期末	モモ(1)
5	角田4SE区	竪穴住居67	弥生時代後期末	モモ(1)
6	角田4SE区	竪穴住居135	古墳時代中期	モモ(2)

## 4 考察

### (1) 遺構の構築年代

各資料の推定年代は、試料番号の1と2が弥生時代後期、試料番号の5が弥生時代、試料番号の34が古墳時代と考えられている。これまで各地で行われた年代測定結果から、弥生時代後期は2～3世紀頃、古墳時代は3世紀後半～6世紀末頃と考えられている(日本第4紀学会ほか, 1992)。

今回の年代測定結果をみると、袋状土壌18(試料番号1, 2)は、いずれも弥生時代中期の年代に相当する。いずれも炭化していることから、遺構内で火を受けて炭化したり、周囲で炭化したものが破棄された可能性がある。モモの果実は1年で成熟するため、木材のように年輪の形成年代と伐採・

使用年代に差が生じることは考えにくい。また、2点の年代測定値が誤差範囲で一致していることを考慮すると、遺構の構築年代が遺構の構築年代が弥生時代中期の可能性はある。

一方、古墳時代とされる竪穴住居37と竪穴住居48から出土した炭化材（試料番号3, 4）の年代測定値はいずれも試料番号1, 2と近似した値であり、弥生時代中期に相当する。木材を用いた年代測定で推定値よりも古い値が得られた場合、古材の再利用や混入、樹齢の問題などが考えられる。（東村, 1990）今回についても、袋状土壙18で近似した年代測定値が得られていることから、同様の可能性が指摘できる。

弥生時代とされる竪穴住居13から出土した炭化材（試料番号5）は、1110y. B. P. であった。この年代値を暦年代に換算すると、9世紀前半に相当し、推定年代よりも400~500年ほど新しいことになる。そのため、後世の炭化材が混入した可能性も考えられる。

今後他の炭化材などについても年代測定を行い、年代測定試料を増やすことで各遺構の構築年代に関する詳細を明らかにしたい。

## （2）住居構築材および出土種実について

弥生時代の住居構築材にはクヌギ節、古墳時代の住居構築材にはコナラ節、アカガシ亜属、ヤマグワ、ヤナギ属、トネリコ属が認められた。鳥取県倉吉市で行われた調査例では、ヤナギ属を除く各種類が住居構築材に確認されており（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1990,1991,1992,1994,1996a,1996b, 1997a,1997b）、今回の結果とも一致する。岡山県では住居構築材に関する調査例が少ないが、今回の結果から本地域においてもこれらの種類が利用されていたことがうかがえる。また、弥生時代と古墳時代とで種類が異なるが、調査点数が少ないために断定には至らない。また、弥生時代の高杯にはケヤキが認められた。高杯にはこれまでにおこなわれた調査例でもケヤキやヤマグワが多く認められており（島地・伊東, 1988；伊東, 1991）、今回の結果とも一致する。

中世の木製品では、杓子と下駄に複維管束亜属、椀にクリとトチノキが認められた。杓子に複維管束亜属が認められた例は少ないが、針葉樹を利用している点では一致している。一方、下駄に複維管束亜属が認められた例は、福山市草戸千軒町遺跡等でも報告されており、（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1997c）、調和的である。近世にはいと、明石城武家屋敷跡でも確認例があり（島地, 1992）、中世以降の下駄の材として利用されていたことがうかがえる。しかし、大量に認められた例は少なく、一般的な用材であったかは不明である。

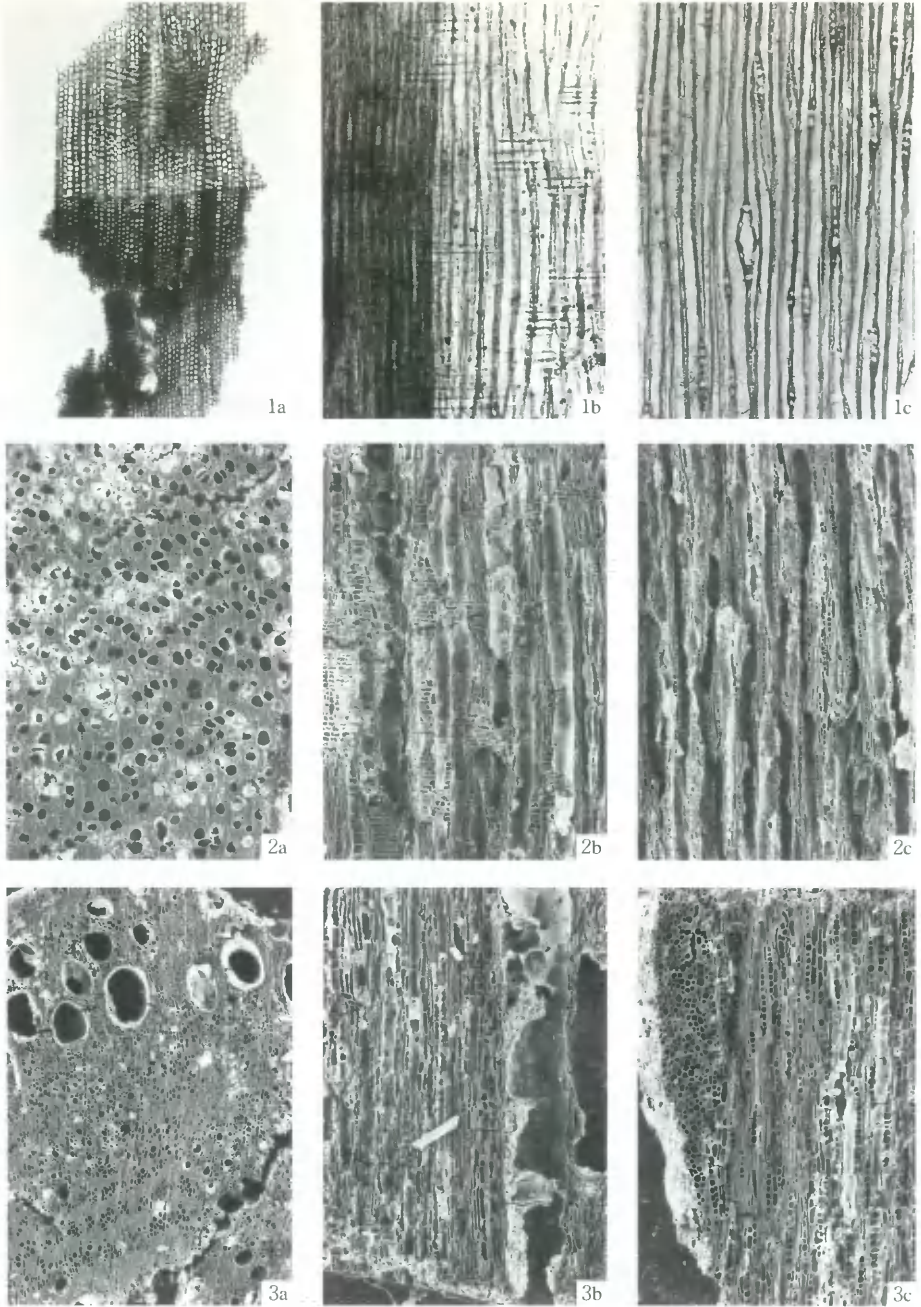
椀は漆塗りとそうでないものがあり、クリ2点、トチノキ1点であった。いずれも椀の材に確認された例がある。（島地・伊東, 1988；伊東, 1991）。民俗事例では、クリはケヤキ系、トチノキはブナ系に利用され、材質などからランクが異なっている（橋本, 1979）。この傾向は、遺跡から出土した椀にも見られ、ケヤキ系の木材で作られた椀の方が、ブナ系の椀よりも漆塗りが丁寧であることが多い（北野, 1999）。これらの事例から、本遺跡においてもクリとトチノキとでは、椀のランクが異なっていた可能性がある。

なお、種実遺体で検出された3種類は、いずれも栽培のために渡来した種類であり、周辺での栽培・利用が示唆される。

## 引用文献

- 橋本鉄男（1979）ものと人間の文化史31 ろくろ. 444p., 法政大学出版局.
- 伊東隆夫（1991）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ. 木材研究・資料, 26, p.91-189.
- 北野信彦（1999）生産技術面からみた江戸遺跡出土漆器の生産・流通・消費. 江戸遺跡研究会第12回大会 江戸の物流  
—陶磁器・漆器・瓦から— [発表要旨], P.5-24.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1990）大仙峯遺跡1号住居址出土炭化材同定について. 倉吉市文化財調査報告書第60集  
「立縫遺跡群V 大仙峯遺跡発掘調査報告書」, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1991）頭根後谷遺跡住居址出土の炭化材樹種同定について. 倉吉市文化財調査報告書第61  
集「立縫遺跡群VI 頭根後谷遺跡発掘調査報告書」, 付1-11. 倉吉市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1992）炭化植物の同定と炭化材の14C年代. 倉吉市文化財調査報告書 第69集「中尾遺跡  
発掘調査報告書」, p.130-140. 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1994）炭化材の樹種と年代. 倉吉市文化財調査報告書第76集「長谷遺跡発掘調査報告書」,  
p.109-116, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1996a）夏谷遺跡から出土した炭化材の樹種. 倉吉市文化財調査報告書第84集「夏谷遺跡発  
掘調査報告書」, p.261-268, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1996b）横谷遺跡群 炭化物鑑定報告. 倉吉市文化財調査報告書第86集「横谷遺跡群発掘調  
査報告書 別冊」, p.1-5, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1997a）下張坪遺跡C地区から出土した炭化材の樹種. 倉吉市文化財調査報告書第88集「下  
張坪遺跡発掘調査報告書」, p.113-123, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1997b）両長谷遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類. 倉吉市文化財調査報告書第89集  
「両長谷遺跡発掘調査報告書」, P.57-61, 倉吉市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1997c）草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種. 草戸千軒町遺跡調査研究報告1「草戸千  
軒町遺跡出土の下駄」, p.70-86, 広島県立歴史博物館.
- 島地 謙（1992）明石城武家屋敷跡出土木製品の樹種. 兵庫県文化財調査報告第109冊「明石市明石城武家屋敷跡 —山陽  
電鉄連続立体交差事業に伴う発掘調査報告書—」, p.103-119, 兵庫県教育委員会.
- 島地 謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧. 296p., 雄山閣.

図版1. 木材・炭化材(1)

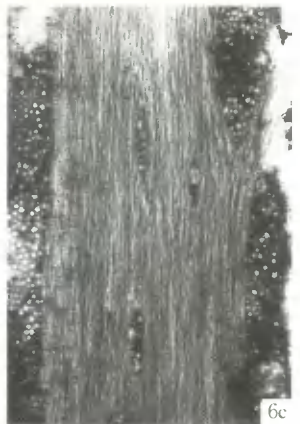
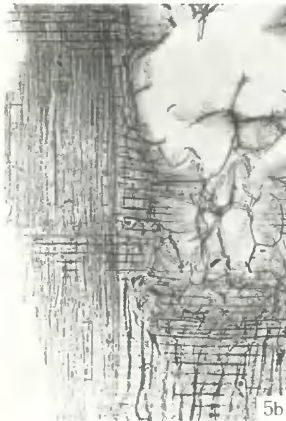
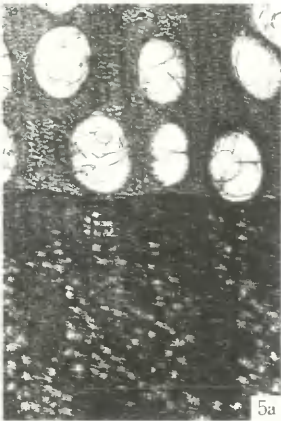
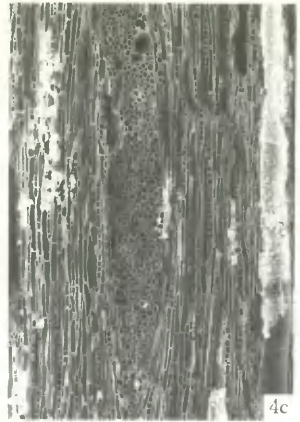
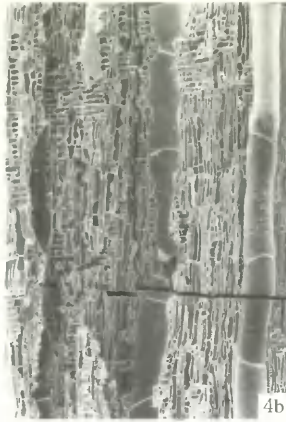
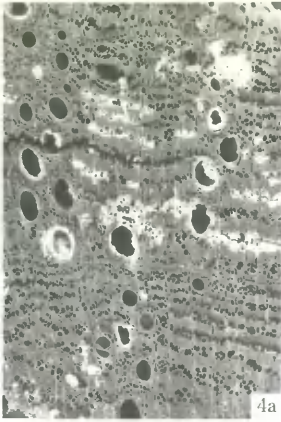


- 1. マツ属複維管束亜属 (木製品No.3)
  - 2. ヤナギ属 (炭化材No.8)
  - 3. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (炭化材No.10)
- a : 木口、b : 柀目、c : 板目

200 $\mu$ m : a  
200 $\mu$ m : b, c



図版2. 木材・炭化材(2)

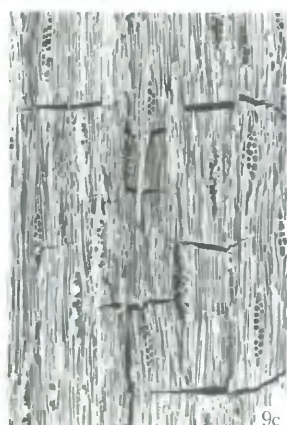
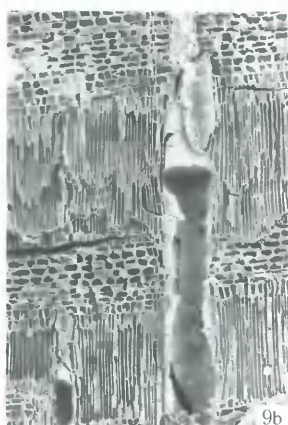
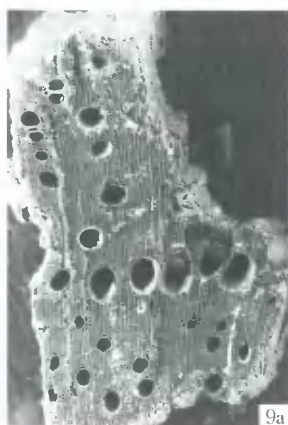
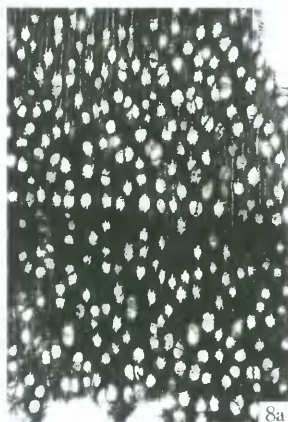
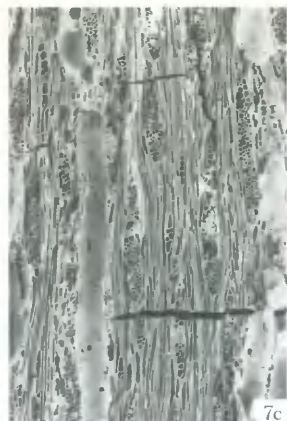
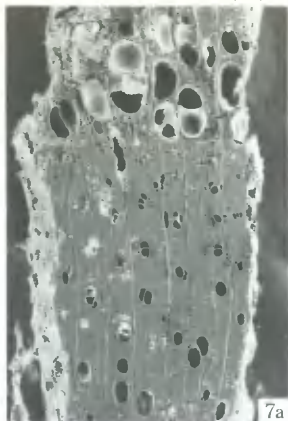


4. コナラ属アカガシ亜属(年代測定No.3)  
 5. クリ(木製品No.5)  
 6. ケヤキ(木製品No.1)  
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

200 $\mu$ m : a  
 200 $\mu$ m : b, c



図版3. 木材・炭化材 (3)



7. ヤマグチ (炭化材No. 9)  
8. トチノキ (木製品No. 1)  
9. トネリコ属 (炭化材No. 7)  
a : 木口、b : 柁目、c : 板目、

200  $\mu$ m : a  
200  $\mu$ m : b, c

図版4 種実遺体



1



2



3



5



6



7

1 cm



(1, 2)

1 cm



(3)

1 cm



(4-7)

- 1. イネ (試料番号1)
- 2. オオムギ (試料番号2)
- 3. モモ (試料番号3)
- 4. モモ (試料番号4)
- 5. モモ (試料番号5)
- 6. モモ (試料番号6)
- 7. モモ (試料番号6)

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第3分冊)

2000年3月16日 印刷

2000年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター

岡山市西花尻1325-3

発 行 岡山県教育委員会

岡山市内山下2-4-6

印 刷 岡山県農協印刷株式会社

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第4分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第4分冊)

2000

日本道路公団中国支社津山工事事務所

岡 山 県 教 育 委 員 会

# 第四分冊目次

高塚遺跡遺構一覧表・遺物観察表・遺構名称新旧対照表

写真図版目次

報告書抄録

山陽自動車道関連発掘調査一覧

## 遺構一覧表

竪穴住居	1163	袋状土塋	1170
掘立柱建物	1168	方形土塋	1173
銅鐸埋納塋	1168	土塋	1177
土塋墓	1169	焼成土塋	1186
井戸	1169	窪地	1187

## 遺物観察表

一次調査土器	1188	金属器	1312
塚廻り調査区土器	1188	木器・木製品	1316
フロヤ調査区土器	1197	ガラス製品	1316
角田調査区土器	1217	玉類	1317
土製品	1302	瓦	1319
石器・石製品	1307		

## 遺構名称新旧対照表

竪穴住居	1320	土塋	1326
掘立柱建物	1321	溝	1330
土塋墓	1322	土器溜り	1331
火葬場・鍛冶炉	1323	窪地	1331
焼成土塋	1323	河道	1331
井戸	1323	柵列・柱穴列	1332
袋状土塋	1323	柱穴	1332
方形土塋	1324		

## 写真図版

塚廻り調査区		3 溝 8 (北から)	
図版 1	1 竪穴住居 1 (西から)	フロヤ調査区	
	2 竪穴住居 4 (西から)	図版 4	1 竪穴住居 6 (北から)
	3 竪穴住居 5 (西から)		2 竪穴住居 9 (西から)
図版 2	1 掘立柱建物 8 (東から)		3 竪穴住居 10 (北から)
	2 井戸 2 (南から)	図版 5	1 竪穴住居 12 (西から)
	3 井戸 3 (東から)		2 竪穴住居 13 (南から)
図版 3	1 中世柱穴群 (南東から)		3 竪穴住居 14 (東から)
	2 溝 3 と中世柱穴群 (南から)	図版 6	1 竪穴住居 15 (北西から)

- 2 竪穴住居16 (南から)
- 3 竪穴住居17 (南から)
- 図版7 1 銅鐸検出状況 (北から)
- 2 銅鐸掘り下げ (北から)
- 3 銅鐸完掘状況 (南東から)
- 図版8 1 袋状土壙18 断面 (南から)
- 2 袋状土壙18 貨泉出土状態
- 3 袋状土壙18 (北から)
- 図版9 1 袋状土壙74 (北東から)
- 2 袋状土壙76 (北東から)
- 3 袋状土壙78 (南西から)
- 図版10 1 袋状土壙80 (北西から)
- 2 袋状土壙82 (南西から)
- 3 袋状土壙86 (北東から)
- 図版11 1 土壙59 (南から)
- 2 土壙116 (北東から)
- 3 土壙141 (北から)
- 図版12 1 土壙144 (南から)
- 2 土壙154 (南西から)
- 3 土壙159 (北東から)
- 図版13 1 竪穴住居21 (北東から)
- 2 竪穴住居22 (東から)
- 3 竪穴住居23 (北から)
- 図版14 1 竪穴住居24 (北東から)
- 2 竪穴住居25 (北から)
- 3 竪穴住居26 (北から)
- 図版15 1 竪穴住居35 (北から)
- 2 竪穴住居36 (北から)
- 3 竪穴住居37 (北から)
- 図版16 1 竪穴住居38 (北から)
- 2 竪穴住居39 (南東から)
- 3 竪穴住居42 (南東から)
- 図版17 1 竪穴住居43 (北西から)
- 2 竪穴住居44 (北西から)
- 3 竪穴住居45 (北西から)
- 図版18 1 竪穴住居46 (北東から)
- 2 竪穴住居47 (北東から)
- 3 竪穴住居48 (北から)
- 図版19 1 掘立柱建物17・18・19 (北から)
- 2 掘立柱建物21・25・27 (東から)
- 3 掘立柱建物40・41 (南から)
- 図版20 1 掘立柱建物43・44・45 (北から)
- 2 中世掘立柱建物群 (西から)
- 3 掘立柱建物50 (西から)
- 図版21 1 土壙墓2 (東から)
- 2 土壙墓3 (南西から)
- 3 土壙墓5 (北西から)
- 図版22 1 土壙墓6 (東から)
- 2 井戸4 (東から)
- 3 井戸5 (北東から)

- 図版23 1 土壙179・180 (西から)
- 2 土壙184 (北から)
- 3 溝20 (北から)
- 図版24 1 溝30・31 (南から)
- 2 溝32と中世掘立柱建物群 (西から)
- 3 近世素掘溝群 (西から)
- 角田調査区
- 図版25 1 竪穴住居50 (北から)
- 2 竪穴住居51 (北から)
- 3 竪穴住居52 (北東から)
- 図版26 1 竪穴住居53 (北から)
- 2 竪穴住居53 (下層) (北から)
- 3 竪穴住居54 (東から)
- 図版27 1 竪穴住居57 (南から)
- 2 竪穴住居65・66 (北東から)
- 3 竪穴住居67 (北から)
- 図版28 1 竪穴住居70 (南から)
- 2 竪穴住居72 (南西から)
- 3 竪穴住居77 (東から)
- 図版29 1 竪穴住居77 (下層) (東から)
- 2 竪穴住居77勾玉出土状況
- 3 竪穴住居78 (西から)
- 図版30 1 竪穴住居79 (南から)
- 2 竪穴住居80 (西から)
- 3 竪穴住居80銅鏃出土状況
- 図版31 1 竪穴住居84 (南南東から)
- 2 竪穴住居88 (北西から)
- 3 竪穴住居90 (東から)
- 図版32 1 竪穴住居91 (南から)
- 2 竪穴住居94 (西から)
- 3 竪穴住居96 (東から)
- 図版33 1 竪穴住居98 (東南東から)
- 2 竪穴住居103 (南から)
- 3 竪穴住居104 (南から)
- 図版34 1 竪穴住居105 (北東から)
- 2 竪穴住居106 (北西から)
- 3 竪穴住居107 (南から)
- 図版35 1 竪穴住居108 (南から)
- 2 竪穴住居109 (北から)
- 3 竪穴住居110 (北から)
- 図版36 1 竪穴住居111 (南西から)
- 2 竪穴住居112 (西から)
- 3 竪穴住居113 (北西から)
- 図版37 1 竪穴住居114A (北から)
- 2 竪穴住居115 (北から)
- 3 竪穴住居116 (北から)
- 図版38 1 竪穴住居118 (東から)
- 2 竪穴住居119 (南から)
- 3 竪穴住居120 (北東から)
- 図版39 1 竪穴住居120中央穴周辺 (南西から)

- 2 竪穴住居123 (北から)
- 3 竪穴住居126 (南東から)
- 図版40 1 袋状土壙100 (南から)
- 2 袋状土壙107 (西から)
- 3 袋状土壙114 (南東から)
- 図版41 1 袋状土壙116 (南から)
- 2 袋状土壙117 (西から)
- 3 方形土壙1 (北東から)
- 図版42 1 方形土壙3・4 (西から)
- 2 方形土壙5 (東から)
- 3 方形土壙6 (南から)
- 図版43 1 方形土壙23 (西から)
- 2 方形土壙50・51 (東から)
- 3 方形土壙80 (南西から)
- 図版44 1 方形土壙92 (北から)
- 2 方形土壙94 (東から)
- 3 方形土壙群 (南から)
- 図版45 1 方形土壙115 (南西から)
- 2 方形土壙116 (南から)
- 3 方形土壙120 (南から)
- 図版46 1 方形土壙135 (北西から)
- 2 方形土壙136 (北から)
- 3 銅鐸片出土状況 (北から)
- 図版47 1 土壙189 (南から)
- 2 土壙259 (南西から)
- 3 土壙272 (南から)
- 図版48 1 土壙284 (北西から)
- 2 土壙291 (西から)
- 3 土壙314 (北から)
- 図版49 1 土壙349 (東から)
- 2 土壙354 (東から)
- 3 土壙363 (東から)
- 図版50 1 土壙366 (西から)
- 2 土壙379 (南東から)
- 3 土壙390 (東から)
- 図版51 1 調査区近景 (東から)
- 2 調査風景 (北から)
- 3 土器溜り4 (南東から)
- 図版52 1 竪穴住居127 (南から)
- 2 竪穴住居128 (北から)
- 3 竪穴住居129 (北から)
- 図版53 1 竪穴住居130 (北から)
- 2 竪穴住居132 (東から)
- 3 竪穴住居132遺物出土状況 (東から)
- 図版54 1 竪穴住居136 (北東から)
- 2 竪穴住居137 (北から)
- 3 竪穴住居138 (南西から)
- 図版55 1 竪穴住居140 (南から)
- 2 竪穴住居140カマド (東から)
- 3 竪穴住居142 (南南西から)

- 図版56 1 竪穴住居142遺物出土状況 (北西から)
- 2 竪穴住居143 (西北西から)
- 3 竪穴住居144 (北北西から)
- 図版57 1 竪穴住居144カマド (西から)
- 2 竪穴住居145 (南西から)
- 3 竪穴住居145遺物出土状況 (南東から)
- 図版58 1 竪穴住居146 (南東から)
- 2 竪穴住居146カマド (北東から)
- 3 竪穴住居148 (南西から)
- 図版59 1 竪穴住居148カマド (北から)
- 2 竪穴住居149・151 (南東から)
- 3 竪穴住居150 (北から)
- 図版60 1 竪穴住居152 (南から)
- 2 竪穴住居153 (南から)
- 3 竪穴住居153カマド (北から)
- 図版61 1 竪穴住居154 (南西から)
- 2 竪穴住居154カマド (南から)
- 3 竪穴住居155 (南西から)
- 図版62 1 竪穴住居155カマド (南東から)
- 2 竪穴住居158 (南東から)
- 3 竪穴住居158カマド (南東から)
- 図版63 1 竪穴住居159 (東から)
- 2 竪穴住居161 (西から)
- 3 竪穴住居161カマド (北西から)
- 図版64 1 竪穴住居162 (南から)
- 2 竪穴住居163 (南から)
- 3 竪穴住居163カマド (南から)
- 図版65 1 竪穴住居164カマド (東から)
- 2 竪穴住居165 (北東から)
- 3 竪穴住居166 (西から)
- 図版66 1 竪穴住居166カマド (北西から)
- 2 竪穴住居168 (北から)
- 3 竪穴住居168カマド (北西から)
- 図版67 1 竪穴住居169 (南から)
- 2 竪穴住居169カマド (南から)
- 3 竪穴住居170 (北東から)
- 図版68 1 竪穴住居171 (北東から)
- 2 竪穴住居172 (南東から)
- 3 竪穴住居173 (北西から)
- 図版69 1 竪穴住居174 (南東から)
- 2 竪穴住居177 (東から)
- 3 竪穴住居178 (北から)
- 図版70 1 竪穴住居178カマド (北西から)
- 2 竪穴住居179 (南から)
- 3 竪穴住居179カマド (北西から)
- 図版71 1 竪穴住居180 (南東から)
- 2 竪穴住居181・182・185 (南西から)
- 3 竪穴住居182 (南から)
- 図版72 1 竪穴住居184 (西から)
- 2 竪穴住居185 (西から)



- 3 竪穴住居185カマド (南西から)
- 図版73 1 竪穴住居186 (南西から)  
2 竪穴住居187 (北東から)  
3 竪穴住居188 (南東から)
- 図版74 1 掘立柱建物54 (南から)  
2 土壙429 (東から)  
3 掘立柱建物57 (北から)
- 図版75 1 掘立柱建物59 (東から)  
2 掘立柱建物61 (東南東から)  
3 掘立柱建物62 (東から)
- 図版76 1 掘立柱建物69・70・72 (北西から)  
2 土壙墓9 (北東から)  
3 土壙墓10 (東から)
- 図版77 1 土壙墓12 (西から)  
2 土壙墓13 (東から)  
3 土壙墓17烏帽子出土状況 (北から)
- 図版78 1 土壙墓18 (西から)  
2 土壙墓18遺物出土状況 (北から)  
3 土壙墓19 (東から)
- 図版79 1 土壙墓20 (南南西から)  
2 土壙墓21 (東から)  
3 土壙墓22 (南南東から)
- 図版80 1 火葬墓1 (南から)  
2 井戸6 (東から)  
3 井戸6木枠・曲げ物検出状況 (東から)
- 図版81 1 土壙457 (南から)  
2 近世素掘溝群 (南から)  
3 近世素掘溝群 (北から)
- 図版82 1 微高地下がり (5世紀)  
2 微高地下がり (奈良～平安時代)  
3 微高地下がり (中世)
- 塚廻り調査区
- 図版83 竪穴住居出土遺物・井戸
- 図版84 土壙・溝出土遺物①
- 図版85 溝出土遺物②
- 図版86 金属製品
- 図版87 古銭・土製品
- 図版88 木製品
- 図版89 石製品・ガラス製品
- フロヤ調査区
- 図版90 竪穴住居出土遺物①・袋状土壙出土遺物①
- 図版91 袋状土壙出土遺物②
- 図版92 袋状土壙出土遺物③
- 図版93 袋状土壙出土遺物④
- 図版94 袋状土壙出土遺物⑤・土壙出土遺物①
- 図版95 土壙出土遺物②
- 図版96 竪穴住居出土遺物②
- 図版97 竪穴住居出土遺物③
- 図版98 竪穴住居出土遺物④
- 図版99 竪穴住居出土遺物⑤

- 図版100 土壙出土遺物③・柱穴
- 図版101 銅鐸
- 図版102 銅鐸細部・金属製品
- 図版103 袋状土壙18出土貨泉①
- 図版104 袋状土壙18出土貨泉②・竪穴住居出土貨泉
- 図版105 土製品・石製品①
- 図版106 石製品②
- 角田調査区
- 図版107 竪穴住居出土遺物①
- 図版108 竪穴住居出土遺物②
- 図版109 竪穴住居出土遺物③
- 図版110 竪穴住居出土遺物④
- 図版111 竪穴住居出土遺物⑤
- 図版112 竪穴住居出土遺物⑥
- 図版113 竪穴住居出土遺物⑦
- 図版114 竪穴住居出土遺物⑧
- 図版115 竪穴住居出土遺物⑨
- 図版116 竪穴住居出土遺物⑩
- 図版117 袋状土壙出土遺物①
- 図版118 袋状土壙出土遺物②
- 図版119 方形土壙出土遺物①
- 図版120 方形土壙出土遺物②
- 図版121 方形土壙出土遺物③
- 図版122 方形土壙出土遺物④
- 図版123 土壙出土遺物①
- 図版124 土壙出土遺物②
- 図版125 土壙出土遺物③
- 図版126 土壙出土遺物④
- 図版127 土壙出土遺物⑤
- 図版128 土壙出土遺物⑥
- 図版129 土壙出土遺物⑦
- 図版130 土壙出土遺物⑧
- 図版131 土壙出土遺物⑨
- 図版132 土壙出土遺物⑩
- 図版133 土器溜り出土遺物②
- 図版134 土器溜り出土遺物②
- 図版135 柱穴出土遺物①
- 図版136 柱穴出土遺物②
- 図版137 竪穴住居出土遺物①
- 図版138 竪穴住居出土遺物②
- 図版139 竪穴住居出土遺物③
- 図版140 竪穴住居出土遺物④
- 図版141 竪穴住居出土遺物⑤
- 図版142 竪穴住居出土遺物⑥
- 図版143 竪穴住居出土遺物⑦
- 図版144 竪穴住居出土遺物⑧
- 図版145 竪穴住居出土遺物⑨
- 図版146 竪穴住居出土遺物⑩
- 図版147 竪穴住居出土遺物⑪
- 図版148 竪穴住居出土遺物⑫

図版149 竪穴住居出土遺物㉓  
図版150 竪穴住居出土遺物㉔  
図版151 竪穴住居出土遺物㉕  
図版152 竪穴住居出土遺物㉖  
図版153 竪穴住居出土遺物㉗  
図版154 竪穴住居出土遺物㉘  
図版155 柱穴出土遺物③・溝出土遺物①・河道出土遺物①・包含層①  
図版156 河道出土遺物②  
図版157 河道出土遺物③  
図版158 河道出土遺物④  
図版159 河道出土遺物⑤  
図版160 掘立柱建物・土墳墓・井戸出土遺物①  
図版161 井戸出土遺物②・土墳出土遺物①・柱穴出土遺物③・包含層②  
図版162 柱穴出土遺物④・溝出土遺物②・土器溜り出土遺物③  
図版163 石製品①  
図版164 石製品②

図版165 石製品③  
図版166 土製品①  
図版167 土製品②  
図版168 土製品③・ガラス製品・骨製品  
図版169 金属製品①  
図版170 金属製品②  
塚廻り・角田調査区  
図版171 青磁①  
塚廻り調査区  
図版172 青磁②・白磁①  
図版173 青磁③・中国産染付・瀬戸  
図版174 唐津①  
角田調査区  
図版175 青磁④  
図版176 青磁⑤・白磁②・唐津②

## 遺構一覧表凡例

- ・（数値）は、残存最大値を表す。
- ・空欄と記入漏れを区別するために、備考以外の項目については－を記入した。

### 竪穴住居

- ・平面形は、床面の形態を示した。推定した形は（ ）を付けて示した。
- ・規模は、壁体溝の上場（外側）を測定し、その最大値を示した。
- ・深さは、検出面から床面の最深部までの距離を示した。
- ・長軸の向きは、柱穴の midpoint を結んだ軸について、磁北を基準として示している。ただし、それができない場合は、壁体溝で計測し、（ ）を付けて示した。
- ・床面積は、壁体溝の下場（外側）で囲まれた床面積を示した。
- ・標高は、床面中央付近の海拔高を示した。
- ・支柱の B/A は、住居本来の柱の数を A、その内で確認された本数を B として表した。
- ・高床部は、設けられた辺の数、住居内方形土壇はその数を示した。
- ・中央穴を伴う場合は○、●はそれが焼けていることを表す。
- ・焼土面の数値は、中央穴やカマド以外の被熱か所の数を示した。
- ・カマドが壁体のほぼ中央に位置するものは、○。隅に偏るものは●で表す。

### 掘立柱建物

- ・桁行と梁間は、両端の柱穴での直線距離を測り、その最大値～最小値を示した。ただし、柱痕のある場合は、その midpoint を結んだ距離とした。柱間距離もこれに準ずる。
- ・面積は、建坪の面積で表した。
- ・棟方向は、梁の midpoint を結んだ線について磁北を基準として表した。
- ・柱穴の掘り方平面形は、すべての柱穴の代表的なものを示した。

### 銅鐸埋納壙、土壇墓、井戸、袋状土壇、方形土壇、土壇、焼成土壇

- ・断面形は、壁の立ち上がり形態と床面形態の組み合わせをもとに記号で示す。  
立ち上がり形態 I：壁が上方に向かって狭くなる傾向のあるもの（袋状）  
II：垂直に近いもの（筒状）  
III：上方に向かって広がる傾向のもの（逆台形）  
床面 a：平坦なもの b：比較的中央がくぼむもの  
c：比較的中央が高くなるもの d：明確な溝が巡るもの  
e：凹凸の著しいもの とする。
- ・土壇墓の主軸は、遺構の長軸について磁北を基準として示した。
- ・袋状土壇・方形土壇の面積は、下場で測定した値を示した。
- ・底面標高は、最深部の海拔高で示した。ただし、底にピットなどがある場合は、それを無視した。

## 遺物観察表凡例

- ・（数値）は、残存最大値を表す。
- ・空欄と記入漏れを区別するために、備考・特徴以外の項目については－を記入した。
- ・土器以外の遺物の法量と重量は、最大値を示した。
- ・器種によって項目を長さを高さ、幅を直径、厚みを器高などに読み替えることとする。
- ・器種・種別などについてはできるだけそれぞれに沿ったものとした。ただし、瓦、製塩土器は種別に。手捏ね、ミニチュアは器種に記載した。
- ・土器の口径の（数値）は、その残存率が1/6以下であることを示す。
- ・色調は、『新版標準土色帖』（農林水産庁農林水産技術会議事務監修 財団法人日本色彩研究色票監修 1991年版）を使用した。
- ・胎土は、主に含まれている砂礫の粒径を次の4段階で示している。2.0 mm以上を礫、2.0～1.0 mmを粗砂、1.0～0.5 mmを細砂、水澆粘土のような場合は精良とした。このため『新版標準土色帖』などで行われている粒径の区分とは異なる。
- ・土器のススは、土器全体に及ぶものをA、胴部上半に及ぶものをB、胴部下半でとどまるものをCとし、BやCであっても、口縁部にススがみられるものは、B'・C'として示した。
- ・土器の黒斑は、認められる部位により、口縁部をA、胴部をB、底部をCとして示した。
- ・図より分かると思われる沈線・凹線などの特徴は、特徴の項から省くなど簡略化に努めた。
  
- ・三手遺跡の各表については、本文中に掲載し、以下高塚遺跡のものだけを掲載した。
- ・瓦・玉類については、材質による表以外に各表から抽出した表も掲載した。

## 竪穴住居一覧表

塚廻り

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-°-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設					時期	備考
		長さ	幅	深さ						高床部	方形土壇	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居 1	方形	483	433	24	N-64-W	17.8	561	4/4	194~181	-	-	-	-	○	古・後・Ⅲ	土鍾30点
竪穴住居 2	(方形)	(233)	(102)	10	?	2.2	569	-	-	-	-	-	-	○	古・中・Ⅰ	
竪穴住居 3	方形	426	(240)	17	(N-87-W)	5.1	563	-	-	-	-	-	-	-	古	
竪穴住居 4	方形	339	311	11	N-88-W	8.9	575	なし	-	-	-	-	1	-	古・前・Ⅲ	炭化材
竪穴住居 5	方形	553	551	21	N-11-E	28.7	589	4/4	315~293	-	-	-	-	○	古・後・Ⅱ	

フロヤ

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-°-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設					時期	備考
		長さ	幅	深さ						高床部	方形土壇	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居 6	円形	740	675	38	N-76-W	33.9	536	6/6	234~191	-	-	○	2	-	弥・後・Ⅱ	中央穴周囲に炭 ガラス 玉10点・紡錘車
竪穴住居 7	円形	544	540	15	-	25.4	543	-	-	-	-	-	1	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居 8	円形	374	(83)	38	-	1.7	538	1/	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	焼失
竪穴住居 9	円形	680	675	40	-	(36.0)	532	6/6	290~225	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居10	円形	815	(480)	32	-	(48.0)	540	4/8	280~220	-	-	○	2	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居11	隅丸方形	(200)	361	11	-	(5.5)	527	2/2	210	-	-	-	-	-	弥	
竪穴住居12	円形	405	373	35	-	12.2	533	4/4	237~218	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居13	円形	436	400	30	-	10.9	530	4/4	202~160	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居14	円形	517	495	82	-	17.1	547	4/4	259~243	-	-	○	1	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居15	隅丸方形	609	600	43	-	22.7	526	4/4	269~252	-	-	○	1	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居16	円形	771	762	34	-	38.9	519	5/5	288~190	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
竪穴住居17	円形	439	430	40	-	11.9	531	4/4	197~170	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居18	(円形)	(620)	(300)	23	-	(29.0)	543	-	-	-	-	○	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居19	隅丸方形	(220)	(50)	23	-	(1.2)	560	-	-	-	-	-	-	-	弥	
竪穴住居20	?	(120)	(90)	18	-	(1.8)	564	-	-	-	-	-	-	-	弥	
竪穴住居21	方形	424	331	28	N-48-E	11.3	558	-	-	-	-	-	1	-	古・中・Ⅰ?	焼土面竈
竪穴住居22a	方形	477	(350)	7	N-40-W	14.8	558	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅲ	
竪穴住居22b	方形	(302)	(220)	18	N-40-W	11.7	565	-	-	-	-	-	(1)	●	古・前・Ⅲ	
竪穴住居23	方形	608	598	29	N-83.5-W	33.3	564	4/4	404~295	-	-	-	-	○	古・後・Ⅱ	
竪穴住居24	方形	490	369	7	N-10-E	17.4	597	-	-	-	-	-	-	○	古・後・Ⅱ~Ⅲ	
竪穴住居25	方形	470	453	14	N-10-E	20.2	559	2/4	230	-	-	-	2	-	古・中・Ⅰ?	
竪穴住居26	方形	480	462	14	N-1-E	18.7	592	4/4	277~235	-	-	-	8	-	古・中・Ⅱ	炭化材多数 勾玉
竪穴住居27	方形	565	555	25	-	(3.5)	559	-	-	-	-	-	-	-	古・前?	
竪穴住居28	方形	534	534	25	-	26.7	550	-	-	-	-	-	2	-	古・中・Ⅰ	
竪穴住居29	方形	(250)	(210)	8	-	(3.9)	566	-	-	-	-	-	-	○	古・後	
竪穴住居30	方形	672	526	20	-	30.4	567	-	-	-	-	-	-	●	古・中・Ⅱ	
竪穴住居31	長方形	(324)	378	8	-	9.8	596	-	-	-	-	-	-	○	古・後・Ⅱ	
竪穴住居32	(方形)	?	?	0	-	?	?	-	-	-	-	-	-	○?	古・中・Ⅰ	
竪穴住居33	方形	493	(48)	20	?	1.6	534	-	-	-	-	-	-	-	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居34	方形	533	493	5	-	25.6	556	-	-	-	-	-	1	-	古・前	
竪穴住居35	方形	605	556	25	N-6-E	30.2	531	4/4	290~265	-	1	-	2	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居36	方形	528	516	68	N-89-W	23.6	478	4/4	300~275	-	1	○	1	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居37	方形	520	(402)	29	N-68-W	18.3	571	4/4	222~215	-	-	-	1	-	古・中・Ⅰ	
竪穴住居38	方形	579	(472)	38	-	25.1	522	4/4	230~190	-	-	-	2	-	古・前・Ⅰ	
竪穴住居39	方形	536	510	10	N-33-W	(23.1)	558	4/4	270~260	-	-	-	1	○	古・中	
竪穴住居40	方形	391	204	15	N-85-W	6.6	572	4/4	310~210	-	-	-	-	○	古・後・Ⅱ	
竪穴住居41	方形	565	538	16	N-36-W	27.7	561	4/4	252~243	-	-	-	-	○	古・中	
竪穴住居42	方形	493	394	39	N-37-E	16.8	535	2/2	176	3	○	○	2	-	古・前・Ⅰ?	
竪穴住居43	方形	441	346	59	N-44-E	13.2	520	2/2	188	-	○	○	1	-	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居44	方形	475	386	46	N-48-E	17.3	546	2/2	162	-	△	○	1	-	古・中・Ⅰ	
竪穴住居45	隅丸方形	504	(450)	21	N-13-W	(14.7)	564	3/4	265~244	-	-	○	-	-	古・前・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居46	方形	(432)	(460)	54	N-38-E	(16.6)	520	2/4	-	?	?	?	1	-	古・中・Ⅰ	
竪穴住居47	方形	415	400	38	N-44-W	12.2	532	4/4	253~161	-	-	-	3	-	古・中・Ⅰ	
竪穴住居48	方形	453	(315)	20	N-89-W	(12.8)	554	-	-	-	○	○	1	-	古・中・Ⅰ	

竪穴住居一覧表

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設				時期	備考
		長さ	幅	高さ						高床部	方形土壇	中央穴	焼土面		
竪穴住居49	隅丸方形	(400)	(110)	44	-	(2.1)	537	-	-	-	-	○	-	古・前	

角田

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設				時期	備考
		長さ	幅	高さ						高床部	方形土壇	中央穴	焼土面		
竪穴住居50	円形	328	305	36	-	7.9	514	-	-	-	-	○	-	弥・後・Ⅲ	中央炉
竪穴住居51	円形	373	332	48	-	9.7	536	-	-	-	-	-	3	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居52	隅丸方形	308	312	27	N-5-E	8.6	522	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居53A	円形	424	400	20	N-72-W	13.0	478	4/4	246~212	-	-	○	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居53B	円形	475	460	56	N-19-E	17.8	504	4/4	235~212	-	-	○	1	弥・後・Ⅳ	粘土あり
竪穴住居54	円形	572	572	40	N-85-E	25.9	530	5/5	300~210	-	-	○	3	弥・後・Ⅱ	中央穴付近に焼土
竪穴住居55	(方形)	(120)	(105)	50	-	(0.7)	520	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居56	隅丸方形	356	(98)	66	-	(2.3)	534	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居57	円形	584	555	38	N-80-E	24.9	502	4/5	236~230	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居58	円形	454	420	24	N-67-E	14.8	492	2/2	320	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居59	(円形)	180	(20)	30	N-73-E	(16.4)	538	4/4	222~190	-	-	-	-	弥・後・	
竪穴住居60	(円形)	(446)	(100)	2	-	(9.2)	510	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ	
竪穴住居61a	円形	570	541	68	N-89-W	23.2	504	4/4	344~230	-	-	○	-	弥・後・Ⅲ	
竪穴住居61b	(円形)	700	(680)	30	N-26-E	(33.5)	538	6/6	303~146	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ~Ⅲ	
竪穴住居62	(方形)	(365)	(330)	20	N-75-E	(14.5)	520	3/4	325~244	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居63	円形	575	516	16	-	23.0	546	2/	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ~Ⅲ	
竪穴住居64	方形	395	393	33	N-82.5-W	(15.2)	503	3/4	207~200	-	-	○	-	弥・後・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居65	楕円形	678	(525)	20	-	(30.6)	540	-	-	-	-	-	1	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居66	円形	545	522	46	N-17-E	22.3	517	3/4	257~221	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居67 a	(円形)	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ	
竪穴住居67 b	円形	620	(620)	50	-	(30.0)	520	-	-	-	-	○	1	弥・後・Ⅳ	中央穴付近が窪み、その辺り焼土
竪穴住居67 c	円形	680	(670)	28	N-82-W	(35.0)	542	6/6	331~230	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居67 d	円形	(732)	696	50	N-25-W	(43.0)	520	5/5	340~244	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居68	(円形)	732	(394)	46	N-24-W	(40.0)	525	4/6	227~153	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	中央穴炭を伴う
竪穴住居69	(隅丸)	(516)	(200)	60	-	(5.4)	550	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ	
竪穴住居70	円形	460	403	26	-	14.1	510	4/4	196~168	-	-	○	1	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
竪穴住居71	隅丸方形	(520)	(500)	17	N-15-E	(21.0)	490	3/4	256~244	-	-	○●	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居72	隅丸方形	474	208	46	N-21.5-W	(19.0)	502	3/4	232~196	-	-	-	-	弥・後	住73aに切られる 土315を切る
竪穴住居73 a	(隅丸方形)	(160)	(90)	14	-	(2.6)	520	1/	-	-	-	-	-	弥・後	住72を切る
竪穴住居73 b	不明	(208)	-	10	-	(1.2)	518	-	-	-	-	-	-	弥・後	
竪穴住居74	楕円形	420	(346)	12	-	(8.6)	528	2/4	186	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ~Ⅱ	住72・方土38に切られる
竪穴住居74	不明	-	-	24	-	-	514	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居75	円形	590	(422)	22	-	(25.6)	493	3/4	201~190	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居76	方形	(260)	(54)	(23)	-	(2.8)	496	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅰ	
竪穴住居77 a	多角形	610	588	50	-	27.9	491	6/6	270~200	-	-	○	-	弥・後	
竪穴住居77 b	多角形	668	642	46	-	31.8	499	5/6	258~232	-	-	○●	-	弥・後	
竪穴住居77 c	多角形	688	661	40	-	33.7	502	5/6	254~220	5	-	○●	1	弥・後・Ⅳ	土333を切る
竪穴住居78	円形	534	508	23	-	21.4	502	4/4	250~216	-	-	-	1	弥・後・Ⅳ	方土34・36・38に切られる
竪穴住居79 a	五角形	616	590	26	-	23.4	496	4/5	282~250	5	-	-	3	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居79 b	円形	656	620	26	-	26.0	496	4/5	282~250	5	-	-	3	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居80	(不整)円形	(636)	(528)	22	-	(27.2)	502	5/5	310~210	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	住81を切る 土326に切られる
竪穴住居81	円形	(780)	(736)	20	-	(45.5)	506	6/7	380~174	-	-	-	-	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	方土47に切られる
竪穴住居82	不明	(500)	(146)	24	-	(4.8)	500	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅱ~Ⅲ?	住81に切られる
竪穴住居83	不明	654	(160)	20	(N-60-W)	(9.5)	520	-	-	-	-	-	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居84	円形	600	(486)	35	-	26.7	498	5/5	260~198	-	-	-	2	弥・後・Ⅰ~Ⅱ	
竪穴住居85	円形	247	(220)	30	-	(9.3)	530	3/4	360~180	-	-	-	-	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
竪穴住居86 a	円形	426	426	24	-	14.1	516	4/4	228~202	-	-	○●	-	弥・後・Ⅳ	土334・方土48を切る
竪穴住居86 b	円形	426	426	32	-	14.1	498	3/4	210~208	-	-	○●	-	弥・後・Ⅳ	
竪穴住居87	円形	468	466	25	-	16.8	484	3/4	240~208	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	立て替え1回 土273に切られる
竪穴住居88	円形	368	346	46	-	9.7	505	4/4	208~172	-	-	○	-	弥・後・Ⅳ	

竪穴住居一覧表

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設					時期	備考
		長さ	幅	深さ						高床部	方形土	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居89	楕円形	550	(164)	26	-	(8.2)	527	4/4	282~204	-	-	-	-	-	弥・後・I~II	
竪穴住居90 a	円形	502	(458)	45	-	17.2	512	4/4	272~242	-	-	-	-	-	弥・後・IV	
竪穴住居90 b	多角形	556	524	40	-	20.7	521	5/5	300~164	-	-	-	-	-	弥・後・IV	方土54に切られる 柱 替え
竪穴住居91 a	円形	392	356	50	-	17.4	500	4/4	188~160	-	-	-	-	-	弥・後	
竪穴住居91 b	円形	472	446	36	-	16.2	518	4/4	212~180	4	-	○	-	-	弥・後・III~IV	
竪穴住居91 c	円形	472	446	36	-	10.4	518	4/4	212~180	4	-	○●	-	-	弥・後・IV	
竪穴住居92	隅丸方形	(180)	(220)	32	?	(1.3)	525	-	-	-	-	-	-	-	弥・後・I	
竪穴住居93	円形	480	480	31	-	14.8	510	4/4	236~220	-	-	○	-	-	弥・後・IV	方土68を切る
竪穴住居94	円形	650	580	42	-	25.5	508	5/5	266~232	-	-	○	-	-	弥・後・IV	柱替え
竪穴住居95	円形	488	(406)	35	-	(18.6)	508	2/4	~250	-	-	-	-	-	弥・後・IV?	柱間は190cmかも
竪穴住居96 a	円形	458	424	46	-	14.4	493	4/4	220~210	-	-	-	-	-	弥・後・III~IV	
竪穴住居96 b	円形	534	494	36	-	20.0	504	5/5	206~190	-	-	-	-	-	弥・後・III~IV?	
竪穴住居97	円形	500	484	46	-	(20.2)	494	5/5	170~228	2	-	○	1	-	弥・後・I	土352に切られる
竪穴住居98	方形	498	194	25	N-18-E	18.0	515	4/4	258~194	-	-	-	-	-	弥・後・I	方土59・61に切られる
竪穴住居99	不整形円形	558	553	48	N-81-W	22.6	507	4/4	286~255	-	-	-	-	-	弥・後・III	
竪穴住居100	不整形円形	291	(267)	16	N-8-W	(5.2)	515	2/4	115	-	-	○	-	-	弥・後・III?	
竪穴住居101	円形	416	394	34	N-80-W	10.7	505	4/4	143~124	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居102	円形	548	542	43	N-2-W	20.7	503	4/4	276~258	-	-	○	-	-	弥・後・II	
竪穴住居103	円形	694	674	43	N-87-E	33.1	507	6/6	268~187	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居104	(円形)	460	450	46	-	(7.6)	502	3/4	190~184	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居105	円形	620	606	33	N-54-E	26.4	498	5/5	243~210	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居106	円形	435	407	42	N-79-W	12.6	494	4/4	230~219	-	-	○	1	-	弥・後・III	
竪穴住居107	不整形円形	599	558	41	N-84-W	23.0	485	4/4	283~205	4	-	○	1	-	弥・後・IV	
竪穴住居108	隅丸方形	533	(493)	40	N-71-W	(21.6)	493	4/4	253~241	-	-	○	2	-	弥・後・I	
竪穴住居109	円形	368	359	22	N-80-E	(9.1)	519	4/4	218~175	-	-	○	2	-	弥・後・III	
竪穴住居110	円形	473	466	36	N-71-W	15.4	497	4/4	208~178	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居111	不整形円形	374	348	51	N-14-W	9.0	493	4/4	168~141	-	-	○	-	-	弥・後・III~IV	
竪穴住居112	不整形円形	375	316	23	N-15-W	(9.3)	504	4/4	203~118	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居113	隅丸方形	367	355	25	N-45-E	9.4	501	4/4	197~174	-	1	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居114A	不整形円形	566	535	47	N-71-W	(22.5)	480	4/4	244~184	-	1	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居114B	円形	569	522	52	N-76-W	22.0	488	4/4	311~208	-	○	○	2	-	弥・後・III	
竪穴住居115	不整形円形	369	347	29	N-2-E	9.0	512	4/4	154~119	?	-	○	1	-	弥・後・III~IV	
竪穴住居116	不整形円形	431	407	31	N-88-W	(13.1)	509	4/4	215~172	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居117	円形	462	452	34	-	15.3	496	4/4	240~196	-	-	○	-	-	弥・後・I	土398を切る
竪穴住居118	円形	543	520	30	-	19.7	443	4/4	235~205	-	-	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居119	円形	467	440	45	-	14.4	495	4/4	212~192	-	-	○	-	-	弥・後・III	
竪穴住居120	円形	502	479	33	-	17.3	462	4/4	255~205	-	-	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居121	不整形円形	432	424	35	-	10.3	460	-	-	-	-	○	2	-	弥・後・I	
竪穴住居122	円形	353	(303)	28	-	(10.1)	504	2/?	-	-	-	○	3	-	弥・後・I	
竪穴住居123	円形	492	488	50	-	16.0	489	4/4	210~200	-	-	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居124	方形	418	398	22	-	8.2	476	-	-	-	-	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居125	円形	(308)	(307)	8	-	(7.0)	502	-	-	-	-	○	-	-	弥・後・I	
竪穴住居126	円形	361	353	10	-	9.8	502	4/4	170~140	-	-	-	-	-	弥・後・I	
竪穴住居127	方形	431	417	9	N-24-E	17.0	561	4/4	225~171	-	-	○	-	○	古・後	
竪穴住居128	方形	480	(417)	45	N-20-E	19.2	523	4/4	260~245	-	-	1	1	●	古・中?	
竪穴住居129	方形	410	(328)	22	N-65-W	13.0	549	?	-	-	-	-	1	-	古・中・I	
竪穴住居130	方形	522	520	18	N-41-W	25.4	556	4/4	275~234	-	-	-	1	-	古・中・II	
竪穴住居131	方形	300	(154)	32	-	(3.4)	565	-	-	-	-	-	-	-	古・後・II	
竪穴住居132	方形	396	322	40	N-39-W	12.7	534	-	-	-	-	-	-	○	古・中・I	韓式系土器
竪穴住居133	方形	547	(352)	6	-	26.5	570	-	-	-	-	-	-	○	古・中・I	
竪穴住居134 a	方形	(480)	428	20	N-55-W	20.5	546	3/4?	315	-	-	-	-	-	古・中・I	
竪穴住居134 b	(方形)	475	450	20	N-52-W	(10.0)	546	2/4	-	-	-	-	-	-	古・中・I	
竪穴住居135	方形	361	331	20	N-39-W	11.4	528	-	-	-	-	-	-	?	古・中・I	粘土 (南角)
竪穴住居136	方形	443	359	40	N-49-W	15.3	522	2/2	220	-	-	-	1	○	古・中・I (古)	
竪穴住居137 a	(方形)	614	568	40	N-15-E	32.6	530	-	-	-	-	-	-	-	古・前・II~III	
竪穴住居137 b	(方形)	(410)	-	40	N-14-E	(19.4)	520	-	-	-	-	-	-	-	古・前・II~III	
竪穴住居137 c	(方形)	(430)	404	57	N-14-E	(11.2)	510	2/2	123	-	-	-	1	-	古・前・II~III	
竪穴住居138	長方形	420	324	36	(N-61-E)	11.5	522	2/2	134	-	-	-	-	●	古・中	

竪穴住居一覽表

遺構名	平面形	規模 (cm)			長軸の向き N-E-W	床面積 (㎡)	標高 (cm)	主柱	柱間 (cm)	付属施設					時期	備考
		長さ	幅	深さ						高床部	方形土壇	中央穴	焼土面	カマド		
竪穴住居139	方形	316	372	26	(N-11-W)	(11.0)	514	1/2	—	—	—	—	—	古・前・I		
竪穴住居140	方形	560	518	25	N-88-E	26.5	533	4/4	308~252	—	—	—	—	○	古・中	土430に切られる
竪穴住居141	方形	500	376	40	(N-22-W)	14.7	518	—	—	—	—	—	—	●	古・中	
竪穴住居142	方形	504	484	10	N-56-W	22.4	535	4/4	256~208	—	—	—	—	○○	古・中	
竪穴住居143	方形	440	422	10	N-21-E	17.7	552	4/4	246~208	—	—	—	—		古・中	
竪穴住居144 a	方形	404	418	38	(N-33-W)	16.5	522	2/2	158	—	—	—	1	●●	古・中	
竪穴住居144 b	方形	440	452	38	(N-33-W)	18.8	522	2/2	158	—	—	—	1	●●	古・中	
竪穴住居145 a	隅丸方形	(500)	440	50	N-39-E	21.5	495	4/4	296~234	1	—	—	—	—	古・前・I	
竪穴住居145 b	隅丸方形	594	554	50	N-39-E	29.7	495	4/4	280~234	1	—	—	—	—	古・前・I	
竪穴住居145 c	隅丸方形	626	592	38	N-41-E	33.2	505	4/4	328~254	4	—	○	1		古・前・I	
竪穴住居146	方形	(266)	338	28	N-46-W	(8.4)	513	2/2	110	—	—	—	—	●	古・中	溝39に切られる
竪穴住居147	方形	450	410	8	N-33-W	(16.7)	514	4/4	245~205	—	—	—	—	—	古・中	
竪穴住居148	方形	330	310	28	(N-24.5-W)	10.2	498	2/2	205	—	—	—	—	●	古・中	
竪穴住居149	(方形)	608	—	27	—	—	526	2/4	337	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居150	長方形	392	272	18	N-36-E	9.8	536	4/4	180~120	—	—	—	—	—	古・中	焼失
竪穴住居151	方形	425	(392)	22	N-68-W	(15.5)	529	—	—	—	—	—	—	—	古・中・II	
竪穴住居152	方形	333	(286)	15	N-31-E	(8.5)	507	4/4	175~144	3	—	○	—	—	古・前・II	
竪穴住居153	不整長方形	481	380	20	N-25-E	10.7	501	2/2	149	—	—	—	—	●	古・中・I	
竪穴住居154	方形	505	(498)	32	N-62-W	(22.7)	508	4/4	249~225	—	—	—	—	○	古・中	
竪穴住居155	(長方形)	(320)	310	47	N-47-E	(10.0)	501	—	—	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居156	長方形	(482)	455	56	N-2-W	(21.6)	491	2/2	149	—	1	—	—	—	古・中・I~II	
竪穴住居157	(方形)	(250)	(180)	24	—	(7.4)	514	1/?	—	—	—	—	—	—	古・中・II	
竪穴住居158	長方形	548	364	14	N-59-E	17.5	530	4/4	413~215	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居159	方形	528	521	21	N-29-E	(23.9)	528	4/4	265~248	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居160	不整長方形	435	295	38	N-25-E	10.5	513	1/2	—	—	1	—	○	○	古・中・I	
竪穴住居161	方形	448	415	28	N-65-W	16.9	527	4/4	215~143	—	—	—	○	○	古・後・II	
竪穴住居162	(不整長方形)	615	497	—	(N-62-E)	(30.0)	529	—	—	—	—	—	—	—	古・中・II	
竪穴住居163	方形	504	459	30	N-5-E	21.3	520	4/4	248~216	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居164	?	—	—	—	—	—	548	—	—	—	—	—	—	○	古・中・I	竈のみ
竪穴住居165	方形	661	502	8	N-54-E	28.0	524	4/4	218~202	3	1	—	—	—	古・中・I	突出部あり
竪穴住居166	方形	586	532	26	N-65-W	27.6	531	4/4	272~225	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居167	?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	古・中	竈のみ
竪穴住居168	不整形	526	482	12	N-14-W	23.3	521	4/4	233~208	—	2	—	2	●	古・中・I	
竪穴住居169	方形	600	567	21	N-8-E	31.6	533	4/4	278~245	—	—	—	—	○	古・中・I	
竪穴住居170	不整長方形	432	350	10	N-32-W	13.5	546	—	—	—	—	—	1	○	古・中・II	
竪穴住居171	不整形	470	445	34	N-58-W	19.6	519	4/4	159~142	—	1	—	1	—	古・中・I	
竪穴住居172	不整形	423	372	31	N-23-W	14.2	523	—	—	—	1	—	—	○	古・中・I	
竪穴住居173	方形	397	357	44	N-60-E	13.3	504	4/4	258~207	—	1	—	—	—	古・前・III	
竪穴住居174	方形	383	343	22	N-48-E	12.1	542	4/4	248~133	—	1	—	—	—	古・中・I	
竪穴住居175	方形	580	558	13	N-61-W	30.4	553	4/4	280~220	—	—	—	—	○	古・後	
竪穴住居176	方形	(435)	(420)	25	—	(5.7)	513	2/4	185	—	—	—	—	●	古・中・I	
竪穴住居177	方形	395	365	8	N-63-W	13.3	545	4/4	190~173	—	—	—	—	○	古・後・II	
竪穴住居178	方形	395	360	45	N-76-E	12.7	510	2/2	135	—	—	—	—	●	古・中・I	
竪穴住居179	方形	490	470	15	N-84-W	21.6	450	4/4	293~172	—	—	—	—	○	古・後・II	
竪穴住居180	方形	322	315	22	N-39-E	9.1	507	2/2	95	—	1	○	—	—	古・中・I	
竪穴住居181	方形	(373)	(183)	19	—	3.5	534	—	—	—	—	—	—	●	古・後・II?	
竪穴住居182	方形	573	518	17	N-23-W	18.2	530	4/4	235~190	—	—	—	—	○	古・後・II	
竪穴住居183	方形	396	373	38	—	不明	512	—	—	—	—	—	1	—	古・中・I	
竪穴住居184	方形	490	475	38	N-36-E	21.3	510	4/4	190~168	—	—	—	—	○	古・中・I~II	
竪穴住居185	方形	323	290	25	—	8.2	516	—	—	—	—	—	—	●	古・中・II	
竪穴住居186	方形	430	425	8	—	17.1	550	—	—	—	—	—	—	○	古・後・II?	
竪穴住居187	方形	480	450	10	N-68-E	(15.7)	555	4/4	228~180	—	—	—	—	○	古・後・II	
竪穴住居188	方形	565	458	13	N-55-E	23.2	535	4/4	285~215	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居189	方形	530	495	15	N-15-E	24.2	550	4/4	270~240	—	—	—	—	○	古・後・II	
竪穴住居190	方形	420	410	30	—	16.4	518	—	—	—	—	—	—	—	古・中・I	
竪穴住居191	方形	530	492	12	N-74-E	24.6	539	4/4	290~255	—	—	—	—	○	古・中・II	
竪穴住居192	方形	不明	不明	25	—	(1.7)	不明	3/4	—	—	—	—	—	—	古・中・I	
竪穴住居193	方形	357	336	38	—	(10.3)	508	—	—	—	—	—	1	—	古・中・I	



掘立柱建物一覧表

調査区	遺構名	規模			柱間距離(cm)		面積 (㎡)	棟方向 N・E・W	柱穴掘り 方平面形	時期	備考
		間数	桁行(cm)	梁間(cm)	桁	梁					
塚廻り	掘立柱建物1	2×2	435~432	384~381	256~180	212~170	16.3	N-87-W	円形	中世	
	掘立柱建物2	2×2	350~337	314~312	184~162	182~134	10.8	N-88.5-E	円形	中世	図上作成
	掘立柱建物3	2×2	312~327	312~327	226~140	174~142	12.7	N-1.5-E	円形	中世	図上作成
	掘立柱建物4	2×2	507~484	472~467	254~236	256~214	23.9	N-4-E	円形	中世	中心ずれるが総柱 図上作成
	掘立柱建物5	2×2	400~375	364~361	204~174	192~170	13.6	N-83-W	円形	中世	中心ずれるが総柱 図上作成
	掘立柱建物6	2×2	386	398~336	204~182	194~154	13.7	N-83.5-W	円形	中世	総柱 図上作成
	掘立柱建物7	3×1	604~601	250~222	216~194	250~222	14.5	N-84-W	円形	中世	図上作成
	掘立柱建物8	2×2	376~370	364~357	200~176	198~160 138~104	13.6	N-77-W	円形	中世	変則の二間。東側は同幅で、3間 図上作成
	掘立柱建物9	2×2	482	465	270~222	250~242	22.8	N-16-W	円形	中世	図上作成
フロヤ	掘立柱建物10	2×1	415	205	200~210	205	8.4	N-32-E	円形	弥	
	掘立柱建物11	2×1	429	329	195~214	312~329	12.4	N-17-E	円形	弥	
	掘立柱建物12	2×1	442	240	205~222	240~250	10.6	N-86-W	円形	弥	
	掘立柱建物13	2×1	395	196	190~204	178~196	7.3	N-51-W	円形	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	掘立柱建物14	2×1	290	158	130~148	156~158	4.4	N-59-W	円形	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	掘立柱建物15	2×2	290	243	152~136	128~118	7.2	N-3-E	円形	古代	
	掘立柱建物16	3×2	790	419	230~305	201~216	31.8	N-69-W	円形	平安	
	掘立柱建物17	2×2	350	306	138~202	117~163	9.8	N-79-W	円形	古代	
	掘立柱建物18	2×2	400	396	191~209	190~206	15.5	N-64-W	円形	古代	
	掘立柱建物19	(3)×2	(434)	397	206~222	197~200	(16.8)	N-74-W	隅丸方形	古代	東へ延びる可能性
	掘立柱建物20	3×2	633~627	403~378	228~184	221~180 140~116	24.4	N-8-E	楕円形	中世	変則の二間。南側は同幅で、3間
	掘立柱建物21	3×1	690	366	233~225	366~363	25.3	N-85-W	円形	中世	
	掘立柱建物22	3×1	631	332	227~190	332~312	19.9	N-82-W	円形	中世	図上復元
	掘立柱建物23	3×1	632	346	231~190	346~340	21.8	N-84-W	円形	中世	図上復元
	掘立柱建物24	3×1	650	351	224~208	351~340	22.2	N-88-E	円形	中世	
	掘立柱建物25	3×1	593	408	200~190	408~390	23.6	N-85-E	円形	中世	
	掘立柱建物26	3×2	615	475	233~172	239~236	28.7	N-1-W	円形	中世	
	掘立柱建物27	3×1	660	349	246~201	349~347	22.7	N-83-E	円形	中世	
	掘立柱建物28	3×1	623	401	221~196	401~376	23.7	N-3-E	円形	中世	図上復元
	掘立柱建物29	2×1	510	415	220~270	415	20.5	N-2-E	円形	中世	
	掘立柱建物30	5×1	717~740	290~300	140~165	290~300	21.5	N-86-W	円形	中世	
	掘立柱建物31	3×2	842	508	230~307	202~298	42.8	N-87-W	円形	鎌倉後半	
	掘立柱建物32	2×1	426	304	200~226	300~304	12.8	N-3-E	円形	鎌倉前半	
	掘立柱建物33	2×1	438	198	228~190	198~185	8.1	N-87-E	円形	中世	
	掘立柱建物34	1×1	332	248	90~242	240~248	8.1	N-85-W	円形	鎌倉?	
	掘立柱建物35	1×1	330	265	326~330	244~265	8.3	N-83-W	円形	鎌倉?	
	掘立柱建物36	1×1	287	220	282~287	220	6.2	N-78.5-W	円形	中世	
	掘立柱建物37	1×1	257	221	237~246	217~221	5.2	N-81.5-W	円形	中世	
	掘立柱建物38	2×1	534	320	251~275	311~320	16.4	N-77-W	円形	鎌倉	
	掘立柱建物39	2×1	419	214	193~225	213~214	8.9	N-7-E	円形	鎌倉後半	
	掘立柱建物40	4×1	943	370	194~305	338~370	34.4	N-81-W	円形	室町?	
	掘立柱建物41	3×1	604	403	197~206	400~403	24.2	N-82-W	円形	中世	
	掘立柱建物42	2×1	443	396	212~231	394~396	17.4	N-79-W	円形	鎌倉	
掘立柱建物43	2×1	447	260	208~230	260	11.2	N-74-W	円形	中世		
掘立柱建物44	4×4	823	637	172~284	105~221	50.8	N-74-W	円形	室町?		
掘立柱建物45	3×2	600	392	196~208	168~222	23.4	N-76-W	円形	中世		
掘立柱建物46	2×1	322	200	158~161	198~200	6.3	N-79.5-W	円形	室町		
掘立柱建物47	2×1	430	341	178~242	330~346	14.3	N-78-W	円形	中世		
掘立柱建物48	4×1	814	438	195~212	414~438	34.6	N-17-E	円形	室町?		
掘立柱建物49	2×1	371	213	170~201	207~213	7.7	N-77-W	円形	中世		
掘立柱建物50	4×1	858	475	168~245	251~253	37.9	N-15-E	円形	中世		
掘立柱建物51	2×1	406	275	196~204	222~225	8.9	N-12-E	円形	鎌倉後半		
掘立柱建物52	2×1	405	338	196~207	326~338	13.3	N-11-E	円形	中世		
掘立柱建物53	2×1	403	304	188~205	288~304	11.8	N-75-W	円形	中世		

掘立柱建物一覽表

調査区	遺構名	規模			柱間距離 (cm)		面積 (m <sup>2</sup> )	棟方向 N- -E-W	柱穴掘り 方平面形	時期	備考
		間数	桁行 (cm)	梁間 (cm)	桁	梁					
角田	掘立柱建物54	3 × 2	383~375	507~502	177~156	195~183	19.4	N-24-E	方形	古・中?	
	掘立柱建物55	2 × 2	448~440	402~397	231~216	240~163	17.7	N-76-W	楕円形	鎌倉	
	掘立柱建物56	2 × 2	396~390	393~373	203~184	244~149	14.1	N-67-W	円形	中世	
	掘立柱建物57	2 × 2	429~411	408~404	227~182	219~189	17.1	N-69-W	円形	中世	
	掘立柱建物58	3 × 2	730~727	376~357	252~229	189~182	27.0	N-70-W	楕円形	鎌倉	
	掘立柱建物59	2 × 1	(428)	(205)	207~221	205	(8.8)	N-17-E	円形 隅丸方形	古代	
	掘立柱建物60	3 × 2	507	354	135~197	178~322	16.4	N-8-E	円形 隅丸方形	古代?	
	掘立柱建物61	3 × 1	502	369	152~170	345~369	17.8	N-73-W	円形 隅丸方形	古代	
	掘立柱建物62	3 × 2	560	387	152~190	181~205	20.3	N-13-E	方形	古代	
	掘立柱建物63	4 × 3	714	580	116~238	188~364	40.9	N-4-E	円形	中世?	
	掘立柱建物64	2 × 2	524	334	240~262	150~176	16.4	N-78-W	円形	中世	
	掘立柱建物65	2 × 1	428	364	208~218	354~364	15.2	N-80-W	円形	中世	
	掘立柱建物66	2 × 2	373	378	150~217	165~193	13.0	N-5-W	円形	中世	
	掘立柱建物67	1 × 1	322	246	316~322	228~246	7.4	N-1-W	円形	中世	
	掘立柱建物68	2 × 1	419	366	198~210	362~366	15.1	N-86-W	円形	中世	
	掘立柱建物69	2 × 1	476	292	224~249	264~292	13.1	N-22-E	円形	中世	
	掘立柱建物70	1 × 1	284	208	284	202~208	5.8	N-30-E	円形	中世	
	掘立柱建物71	3 × 2	534	294	140~320	112~182	15.3	N-27-E	円形	中世	
	掘立柱建物72	2 × 1	432	288	182~250	280~288	12.2	N-28-E	円形	中世	
	掘立柱建物73	4 × 2	716	422	140~226	162~260	28.3	N-84-E	円形	中世	
掘立柱建物74	2 × 2	440	308	194~222	140~160	13.4	N-11-E	円形	中世		
掘立柱建物75	1 × 1	232	198	232	188~198	4.5	N-11-E	円形	中世		
掘立柱建物76	1 × 1	214	200	204~214	196~200	4.1	N-2-E	円形	中世		

銅鐸埋納墳一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ					
フロヤ	銅鐸埋納墳	75	43	40	558	隅丸長方形	Ⅲb	弥・後・I	

土墳墓一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	主 軸 N- E-W	時期	備 考
		長さ	幅	深さ						
塚廻り	土墳墓 1	(98)	91	8	578	(楕円形)	III a	N-30-W	? (中世)	
フロヤ	土墳墓 2	209	102	15	575	方形	III a	N-12-E	室町	人骨・刀・釘
	土墳墓 3	94	59	5	601	長方形	III a	N-1-W	中世	釘、人骨
	土墳墓 4	128	53	6	602	長方形	III a	N-1-W	中世	人骨
	土墳墓 5	180	158	6	549	隅丸長方形	III a	N-79-W	中世(室町)	人骨・土師器皿 3
	土墳墓 6	103	82	16	535	隅丸長方形	III a	N-12-E	中世(室町)	漆器椀
	土墳墓 7	153	81	7	596	長方形	III a	N-7-E	中世	
	角田	土墳墓 8	101	66	19	563	小判形	III a	N-14-W	中世
土墳墓 9		172	95	32	557	不整小判形	III a	N-11-E	鎌倉	
土墳墓 10		117	66	(18)	(572)	長方形	III a	N-9-W	鎌倉	
土墳墓 11		122	72	60	531	楕円形	III a	N-10-E	鎌倉	
土墳墓 12		102	56	-	-	不整小判形	III a	N-20-E	中世	
土墳墓 13		78	62	11	530	楕円形	III a	N-1-W	中世	この上部30cmに石が敷いてある
土墳墓 14		93	48	14	675	長方形	III a	N-30-W	中世	
土墳墓 15		142	98	29	556	楕円形	III a	N-68-W	中世	
土墳墓 16		129	74	(40)	(540)	長方形	II a	N-85-E	中世	
土墳墓 17		-	-	-	-	-	-	-	鎌倉	烏帽子出土・掘方など不明 烏帽子のレベルは、546cm
土墳墓 18		176	111	10	574	長方形	III a	N-90-E	中世	
土墳墓 19		76	52	21	554	楕円形	III b	N-20-W	鎌倉	
土墳墓 20		125	78	8	568	長方形	III a	N-15-E	中世	
土墳墓 21		122	81	19	555	長方形	III a	N-0-	中世	
土墳墓 22		120	77	22	554	長方形	III a	N-15-W	中世	
土墳墓 23		94	78	13	563	方形	III a	N-25-E	中世	
土墳墓 24		83	76	6	570	隅丸三角形	III a	N-30-E	中世	
土墳墓 25		97	88	14	533	隅丸方形	III a	N-26-W	古代?	角礫 2個出土

井戸一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備 考
		長さ	幅	深さ					
塚廻り	井戸 1	66	49	73	521	不整形	II a	古・前・III	土器
	井戸 2	246	225	(255)	(350)	隅丸方形	III a	室町	石組み (円形)
	井戸 3	190	180	(190)	(275)	円形	II a	室町	石組み 上に腕型の掘り込みらしきもの
フロヤ	井戸 4	229	216	(190)	(410)	円形	III a	室町~江戸	石組み
	井戸 5	123	107	(210)	(398)	円形	III a	中世(室町)	石組み
角田	井戸 6	312	296	300	312	円形	III a	鎌倉	井戸枠 80×84×105 井筒φ48 縦木 針葉樹:ヒノキ? (スギ?) 横木:キリ 縦木隅:ヒノキ

袋状土壙一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (m <sup>2</sup> )				底面 標高 (cm)	底面形	断面形	時期	備 考
		上面径	底面径	深さ	面積					
フロヤ	袋状土壙 1	131	125	65	1.16	486	楕円形	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙 2	112	125	52	1.06	502	楕円形	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙 3	129	140	46	1.47	478	不整円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙 4	107	99	24	(0.76)	510	円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙 5	118	127	43	1.26	501	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙 6	133	150	72	1.57	490	隅丸方形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙 7	146	165	66	2.12	480	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙 8	115	108	18	(0.98)	518	楕円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙 9	153	(112)	32	(1.41)	526	(楕円形)	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙10	123	136	27	1.32	518	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙11	142	163	86	2.16	482	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙12	129	125	40	1.32	518	円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙13	137	135	101	1.45	482	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙14	126	141	53	1.54	500	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙15	96	91	33	0.66	516	楕円形	Ⅲ a	弥・後・I ?	
	袋状土壙16	148	167	55	2.05	489	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙17	136	168	63	2.03	495	(円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壙18	153	163	55	2.14	464	円形	I a	弥・後・I	貨泉
	袋状土壙19	149	133	70	1.42	472	円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙20	142	173	88	2.46	462	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙21	144	127	36	1.56	524	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙22	119	129	43	1.28	507	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙23	112	118	73	1.27	485	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙24	115	148	66	1.52	495	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙25	118	138	78	1.97	484	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙26	132	172	52	1.91	495	不整楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙27	130	172	45	1.27	517	楕円形	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙28	(138)	(118)	53	(0.86)	505	(隅丸長方形)	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙29	(152)	(130)	53	(1.28)	500	(楕円形)	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙30	126	147	76	(1.39)	469	(円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壙31	204	190	82	3.06	517	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙32	(112)	(99)	40	(0.48)	502	(円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壙33	(113)	(132)	40	(1.26)	483	(円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壙34	122	125	47	(1.00)	496	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙35	126	149	66	1.85	478	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙36	159	160	55	1.96	508	円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙37	112	123	82	(1.10)	480	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙38	(86)	(92)	52	(0.19)	506	(楕円形)	I b	弥・後・I	
	袋状土壙39	128	124	34	1.21	527	楕円形	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙40	127	136	50	1.30	495	円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壙41	(160)	(134)	40	(1.93)	498	(楕円形)	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙42	100	110	87	1.38	477	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙43	97	147	94	1.39	487	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙44	140	155	94	1.62	478	不整楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙45	150	120	37	(0.59)	516	(楕円形)	Ⅲ b	弥・後・I	
	袋状土壙46	140	120	94	1.43	478	楕円形	Ⅱ a	弥・後・I	
	袋状土壙47	106	90	19	0.76	548	楕円形	Ⅲ a	弥・後・I	
	袋状土壙48	(132)	(136)	41	(0.71)	500	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壙49	141	141	36	(0.94)	496	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壙50	(108)	(112)	34	(0.93)	489	(円形)	I a	弥・後・I	

袋状土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (㎡)				底面 標高 (cm)	底面形	断面形	時期	備 考
		上面径	底面径	深さ	面積					
フロヤ	袋状土壌51	146	126	31	1.70	492	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壌52	150	130	55	(1.35)	504	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壌53	122	94	59	0.69	498	楕円形	II b	弥・後・I	
	袋状土壌54	(167)	109	79	0.60	496	楕円形	III b	弥・後・I	
	袋状土壌55	84	76	44	0.57	497	楕円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌56	108	97	41	0.68	532	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌57	118	129	34	(0.96)	530	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壌58	110	100	75	1.32	507	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌59	150	120	65	(1.44)	493	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壌60	85	88	34	0.64	537	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌61	169	280	76	3.03	483	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌62	130	152	74	1.63	487	不整円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌63	176	(175)	32	(2.33)	498	楕円形	III a	弥・後・I	
	袋状土壌64	157	185	70	2.25	485	不整楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌65	160	155	41	2.05	489	不整円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌66	144	137	23	1.45	496	不整楕円形	III b	弥・後・I	
	袋状土壌67	153	137	60	1.26	498	不整円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌68	141	141	55	1.26	465	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌69	87	87	38	0.63	506	円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌70	80	84	23	0.58	500	楕円形	III a	弥・後・I	
	袋状土壌71	109	110	80	0.87	479	楕円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌72	110	128	54	1.20	492	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌73	105	89	28	0.74	517	不整円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌74	144	138	50	1.46	487	円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌75	133	156	64	1.71	498	不整円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌76	162	166	94	(1.43)	492	楕円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌77	138	142	80	1.54	479	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌78	200	190	70	2.71	515	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌79	164	159	73	(1.65)	495	不整円形	I c	弥・後・I	
	袋状土壌80	185	150	75	1.67	495	円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌81	148	150	50	(1.28)	489	円形	II b	弥・後・I	
	袋状土壌82	166	171	96	2.16	455	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌83	240	160	82	1.78	472	円形	III a	弥・後・I	
	袋状土壌84	119	120	89	0.98	474	円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌85	156	165	55	1.93	496	楕円形	I c	弥・後・I	
	袋状土壌86	258	183	96	2.58	466	円形	I a	弥・後・I	
袋状土壌87	199	190	33	2.81	466	円形	I a	弥・後・I~II		
袋状土壌88	142	136	29	(1.11)	522	円形	I a	弥・後・I?		
袋状土壌89	146	137	63	1.33	467	隅丸方形	II a	弥・後・I		
袋状土壌90	(150)	(70)	50	測定不能	464	(円形)	? e	弥・後・I?		
袋状土壌91	126	121	85	1.37	430	円形	I a	弥・後・I		
袋状土壌92	155	143	65	1.07	457	不整円形	I e	弥・後・I		
袋状土壌93	239	222	76	3.18	463	不整円形	I e	弥・後・I?		
袋状土壌94	112	107	39	0.97	488	円形	I a	弥・後		
袋状土壌95	(167)	(65)	47	(0.58)	478	不整円形	II a	弥		
袋状土壌96	178	172	48	2.06	465	楕円形	II a	弥・後		
袋状土壌97	179	165	13	(1.64)	476	楕円形	II b	弥・後・I		
袋状土壌98	162	174	50	1.63	480	楕円形	I c	弥・後		
袋状土壌99	106	(74)	44	(0.54)	485	円形	I a	弥・後		
袋状土壌100	198	199	32	2.15	478	楕円形	II a	弥・後		

袋状土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (m <sup>2</sup> )				底面 標高 (cm)	底面形	断面形	時期	備考
		上面径	底面径	深さ	面積					
角田	袋状土壌101	(40)	(101)	16	(0.39)	474	楕円形	I a	弥・後	
	袋状土壌102	146	138	15	(1.91)	476	楕円形	III a	弥・後	
	袋状土壌103	162	165	47	2.30	478	円形	I a	弥・後	
	袋状土壌104	119	(71)	32	0.74	493	(円形)	I c	弥・後	
	袋状土壌105	204	179	28	(2.39)	483	不整円形	III b	弥・後	
	袋状土壌106	106	112	33	1.00	478	円形	I c	弥・後	
	袋状土壌107	159	164	86	1.75	442	楕円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌108	160	135	81	1.53	447	不整円形	II b	弥・後・I	
	袋状土壌109	146	132	83	1.23	447	不整円形	II b	弥・後・I	
	袋状土壌110	131	109	62	1.17	456	不整円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌111	104	99	40	0.74	460	円形	II b	弥・後	
	袋状土壌112	114	125	76	1.13	447	円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌113	(168)	128	30	1.54	505	不整円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌114	100	102	53	0.83	475	円形	II b	弥・後・I	
	袋状土壌115	133	131	22	1.39	502	隅丸方形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌116	125	115	81	0.93	456	円形	II c	弥・後・I	
	袋状土壌117	113	126	92	1.22	443	不整円形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌118	140	117	79	0.95	449	不整円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌119	127	120	69	1.13	450	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌120	112	110	53	0.98	435	隅丸方形	I b	弥・後・I	
	袋状土壌121	198	176	88	1.45	442	円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌122	(196)	(195)	123	1.93	388	(楕円形)	I a	弥・後・I	
	袋状土壌123	140	128	61	1.26	453	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌124	150	157	66	1.58	451	楕円形	I d	弥・後・I	
	袋状土壌125	97	100	64	0.73	472	楕円形	I a	弥・後・I	
	袋状土壌126	156	147	92	1.57	446	円形	I b	弥・後	
	袋状土壌127	89	70	37	0.51	500	楕円形	II a	弥・後・I	
	袋状土壌128	141	134	82	1.27	459	楕円形	III b	弥・後・I	
	袋状土壌129	110	95	55	0.72	478	不整円形	I a	弥・後・I	

方形土壇一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (㎡)				底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ	面積					
角田	方形土壇 1	202	139	31	2.09	523	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 2	272	154	26	3.62	534	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 3	305	180	50	4.47	485	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 4	(172)	172	52	(1.50)	485	(方形)	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 5	221	142	87	1.99	477	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 6	232	140	70	2.29	483	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 7 a	177	(130)	35	(1.91)	459	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 7 b	215	82	12	(1.10)	494	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 8	237	163	57	2.90	500	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 9	264	(140)	56	1.94	500	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 10 a	199	169	30	3.00	485	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 10 b	(170)	(130)	(13)	2.08	497	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 10 c	?	?	(13)	1.30	483	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 11	146	96	40	1.14	518	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 12	155	112	43	1.15	515	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 13	144	100	29	0.68	561	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 14	204	122	55	1.91	506	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 15	270	(180)	65	4.33	494	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 16	218	149	71	2.30	494	不整形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇 17	220	171	56	2.56	443	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 18	305	232	86	2.65	466	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 19	233	156	41	2.86	496	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 20	198	83	65	1.12	503	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 21	(325)	197	91	2.06	475	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 22	218	145	87	1.54	470	長方形	Ⅰ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇 23	315	197	90	4.85	444	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 24	325	221	78	5.11	476	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 25	(110)	115	29	(0.93)	513	不整形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ?	
	方形土壇 26	143	115	26	1.37	514	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 27	172	144	24	1.86	518	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 28	160	146	22	1.99	520	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 29	153	151	48	1.60	493	不整形	Ⅱ b	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 30	(195)	124	56	(1.58)	458	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 31	172	150	65	1.96	460	方形	Ⅲ c	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 32	188	135	62	2.21	465	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 33	272	122	40	2.45	475	長方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 34	187	160	33	2.59	479	方形	Ⅱ b	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 35	260	246	62	4.61	457	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 36	151	136	13	1.83	498	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 37	(165)	108	6	(1.39)	485	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇 38	223	171	49	2.52	458	長方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 39	366	200	64	5.39	465	長方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇 40	244	180	66	3.24	426	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 41	(148)	(50)	45	(0.45)	479	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 42	170	124	48	1.67	477	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇 43	205	146	42	2.93	484	長方形	Ⅰ a	弥・後・Ⅳ	
方形土壇 44	183	118	40	1.69	495	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ		
方形土壇 45	267	115	37	2.46	486	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ		
方形土壇 46	186	132	16	1.78	482	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ		

方形土壇一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (㎡)				底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ	面積					
角田	方形土壇47	(150)	120	52	(1.29)	459	長方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇48	349	190	64	4.68	419	不整正方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇49	233	105	94	0.62	437	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇50	298	(140)	66	2.34	475	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇51	292	100	72	3.18	468	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇52	221	160	68	2.45	492	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇53	136	136	24	1.23	481	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇54	185	145	49	2.24	499	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇55	284	196	99	3.57	452	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇56	174	108	68	1.60	493	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇57	138	99	49	1.44	509	方形	Ⅰ b	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇58	222	154	115	2.40	406	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇59	203	134	18	2.14	521	不整長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇60	(230)	267	100	(4.72)	466	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇61	214	177	55	3.07	518	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅱ	
	方形土壇62	293	236	115	5.35	453	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅱ	
	方形土壇63	169	126	28	1.66	504	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅱ~Ⅲ	
	方形土壇64	167	109	50	1.30	498	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇65	276	173	96	3.90	455	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇66	270	109	35	2.31	510	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅱ~Ⅲ	
	方形土壇67	168	135	66	1.58	494	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇68	284	196	68	4.50	463	方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇69	236	195	65	3.54	482	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇70	147	108	27	1.29	532	不整方形	Ⅰ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇71	151	112	38	1.30	515	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇72	155	98	47	1.09	501	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇73	257	193	99	2.98	445	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇74	265	170	80	2.92	462	不整長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇75	254	154	38	3.45	497	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇76	(200)	(115)	31	(1.99)	497	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇77	125	65	30	0.61	505	長方形	Ⅱ e	弥・後	
	方形土壇78	223	132	25	(2.17)	490	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇79	188	(140)	46	(2.18)	469	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇80	(221)	(126)	59	2.32	471	長方形	Ⅰ a	弥・後	
	方形土壇81	294	163	58	(3.87)	455	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
方形土壇82	(147)	(137)	32	1.67	497	不整方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇83	283	244	44	4.95	473	不整方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ		
方形土壇84	154	145	48	(1.64)	486	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇85	213	147	82	2.59	456	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇86	121	70	10	(0.76)	529	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇87	140	116	47	1.24	502	長方形	Ⅱ a	弥・後		
方形土壇88	267	169	64	2.15	486	不整長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ		
方形土壇89	186	110	63	1.52	478	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇90	270	176	110	4.03	439	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
方形土壇91	216	(180)	30	(3.20)	459	長方形	Ⅱ a	弥・後		
方形土壇92	176	132	37	1.77	483	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ		
方形土壇93	277	(190)	11	(4.40)	498	長方形	Ⅱ a	弥・後		
方形土壇94	161	139	48	1.42	476	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ		
方形土壇95	185	143	46	2.37	478	長方形	Ⅱ a	弥・後		



方形土壇一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (㎡)				底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ	面積					
角田	方形土壇96	160	146	31	(1.60)	498	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇97	(150)	103	46	(1.20)	472	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇98	159	98	27	1.34	491	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇99	225	154	58	2.50	454	不整長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇100	222	168	51	(2.50)	460	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ?	
	方形土壇101	147	121	54	1.48	456	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇102	147	104	84	1.26	462	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇103	249	152	73	3.07	452	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇104	(204)	(76)	66	(1.46)	455	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇105	235	148	55	2.51	463	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇106	219	206	73	3.49	467	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇107	207	175	76	2.68	463	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇108	166	(112)	88	(1.65)	452	不整形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇109	130	87	70	0.83	452	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇110	250	150	70	(2.50)	450	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇111	(173)	(90)	55	(1.40)	471	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇112	141	138	61	1.72	473	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇113	162	137	36	(1.62)	483	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇114	160	148	62	1.88	471	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇115	150	132	24	1.58	490	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇116	114	115	34	1.10	500	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇117	149	148	22	1.79	494	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇118	133	(108)	30	1.08	499	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ?	
	方形土壇119	167	(137)	18	(1.96)	497	不整形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇120	249	215	54	(4.52)	450	不整形	Ⅱ c	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇121	(70)	84	23	(0.49)	482	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇122	112	(88)	20	(0.79)	487	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇123	306	154	57	4.37	468	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇124	182	115	53	1.83	463	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇125	194	155	75	1.99	460	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇126	185	135	38	2.05	498	不整長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇127	187	128	56	2.05	470	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇128	235	205	21	4.27	500	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇129	218	154	70	2.71	454	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇130	304	164	60	4.35	495	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇131	(150)	161	39	2.05	514	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇132	196	147	55	2.16	480	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇133	177	167	47	(2.30)	477	不整形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇134	158	142	56	1.60	469	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇135	172	108	22	1.51	503	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇136	148	109	21	(1.40)	485	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇137	126	83	70	0.83	463	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇138	118	116	45	0.91	486	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇139	182	176	57	2.53	465	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
方形土壇140	147	81	43	0.91	487	長方形	Ⅱ a	弥・後		
方形土壇141	136	113	50	1.25	471	不整形	Ⅱ a	弥・後		
方形土壇142	237	178	78	3.35	463	長方形	Ⅱ c	弥・後・Ⅲ		
方形土壇143	140	88	53	0.96	488	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ		
方形土壇144	100	68	47	(0.40)	487	長方形	Ⅱ e	弥・後		

方形土壇一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm) / 面積 (㎡)				底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ	面積					
角田	方形土壇145	(96)	109	37	(0.85)	488	方形	Ⅱ b	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇146	250	245	88	4.50	446	方形	Ⅱ c	弥・後	
	方形土壇147	195	117	55	1.98	470	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇148	222	219	72	4.39	453	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇149	139	89	32	(0.90)	498	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇150	247	210	84	4.35	449	不整方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇151	239	137	50	(2.87)	467	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇152	152	95	32	(1.11)	492	長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇153	(105)	81	40	(0.88)	502	長方形	Ⅱ a	弥・後・前?	
	方形土壇154	302	266	6	7.27	492	不整方形	Ⅱ c	弥・後・Ⅲ	
	方形土壇155	137	111	62	1.17	474	不整長方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇156	230	184	78	2.32	450	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇157	160	124	42	1.47	492	長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇158	168	141	49	1.96	495	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	方形土壇159	(132)	(42)	(17)	(0.45)	464	方形	(Ⅱ a)	弥・後	
	方形土壇160	176	173	75	2.69	454	方形	Ⅱ a	弥・後	
	方形土壇161	315	146	63	3.76	467	長方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	方形土壇162	134	134	36	1.41	482	方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
方形土壇163	146	112	62	1.14	460	不整方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ		

土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
塚廻り	土壙1	79	40	7	586	楕円形	Ⅲ a	古・後	
	土壙2	151	(78)	21	571	(楕円形)	Ⅲ b	古・前・Ⅲ	
	土壙3	78	64	27	564	不定形	Ⅲ a	古	
	土壙4	110	68	21	580	小判形	Ⅲ c	古・後・Ⅲ	
	土壙5	(46)	43	20	554	不定形	Ⅱ a	古・後・Ⅲ	
	土壙6	(95)	89	10	567	不整楕円形	Ⅲ b	中世	焼土塊
	土壙7	(80)	77	12	579	(方形)	Ⅲ a	中世	底に灰か炭の層
	土壙8	147	93	18	578	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙9	152	90	13	577	小判形	Ⅲ a	中世	
	土壙10	264	179	12	568	不整楕円形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙11	114	85	41	556	不整楕円形	Ⅱ a	鎌倉	
	土壙12	87	78	30	554	不整円形	Ⅲ b	室町	石
	土壙13	164	90	35	555	不整楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙14	99	94	21	571	円形	Ⅱ a	鎌倉	
	土壙15	100	74	21	567	不定形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙16	126	105	27	564	隅丸方形	Ⅲ a	中世	
	土壙17	(180)	132	16	571	隅丸方形	Ⅲ a	中世	
	土壙18	151	58	16	562	小判形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙19	177	88	5	577	楕円形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙20	(174)	147	11	571	不定形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙21	378	302	58	543	不定形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙22	96	72	20	543	不正方形	Ⅲ b	鎌倉	
	土壙23	247	(114)	22	556	(方形)	Ⅲ e	鎌倉	
	土壙24	188	95	18	562	不整楕円形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙25	245	149	9	578	不定形	Ⅲ b	鎌倉	
	土壙26	199	(118)	40	518	不定形	Ⅲ b	室町	
フロヤ	土壙27	222	170	72	510	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙28	146	126	31	520	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙29	135	124	32	518	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙30	185	141	19	520	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙31	112	97	29	540	楕円形	Ⅲ c	弥・後・Ⅰ	
	土壙32	190	86	20	520	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙33	113	96	9	535	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙34	76	71	31	554	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ?	
	土壙35	222	199	25	520	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙36	118	72	26	535	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙37	129	63	8	550	隅丸長方形	Ⅲ a	弥?	
	土壙38	111	82	30	534	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙39	110	103	31	530	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙40	86	79	13	530	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙41	88	76	37	548	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙42	129	117	16	575	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙43	125	120	36	509	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙44	129	103	35	506	不定形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙45	103	88	40	538	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙46	96	71	35	540	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙47	(90)	73	19	528	長楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙48	85	(58)	30	518	(楕円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙49	81	60	21	538	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	

土壤一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
フロヤ	土壌50	96	73	26	515	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌51	79	75	30	544	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壌52	92	56	36	505	長楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌53	134	125	65	478	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌54	81	79	38	518	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌55	209	133	26	515	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌56	200	128	58	496	隅丸長方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壌57	(134)	77	18	540	(長方形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌58	159	129	62	514	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌59	155	97	34	503	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・中・Ⅲ	
	土壌60	89	78	44	529	不整円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壌61	213	150	46	531	楕円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅰ	
	土壌62	188	186	28	520	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌63	167	116	44	511	隅丸長方形	Ⅲ e	弥・後・Ⅳ	
	土壌64	149	116	52	506	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・?	
	土壌65	(64)	151	35	503	方形	Ⅲ a	弥	
	土壌66	(100)	141	33	504	長方形	Ⅲ a	弥	
	土壌67	237	146	60	483	隅丸長方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	土壌68	108	98	34	530	円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壌69	(198)	93	27	499	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	土壌70	103	55	16	521	隅丸長方形	Ⅲ a	弥	
	土壌71	196	172	41	527	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壌72	151	117	37	510	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌73	159	131	42	496	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌74	115	93	34	534	隅丸長方形	Ⅰ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌75	76	70	18	530	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌76	116	108	23	540	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌77	72	67	15	534	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌78	74	71	16	518	不整円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌79	(123)	(44)	10	545	(隅丸方形)	Ⅲ c	-	
	土壌80	81	56	20	538	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌81	110	103	31	524	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌82	93	93	25	550	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌83	(120)	(110)	37	547	(隅丸方形)	Ⅲ c	弥・後・Ⅰ	
	土壌84	126	94	27	555	楕円形	Ⅱ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌85	127	(75)	59	519	楕円形	Ⅲ b	弥	
	土壌86	128	72	34	548	長楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌87	146	98	28	561	長方形	Ⅲ a	弥・後	
	土壌88	103	95	28	541	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌89	(175)	(64)	68	529	不定形	Ⅲ a	弥	
	土壌90	(150)	(100)	45	521	(方形)	Ⅲ a	弥・後	
	土壌91	341	189	55	513	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌92	296	182	89	487	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌93	(386)	170	31	534	不定形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌94	113	(80)	24	541	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壌95	(150)	131	27	540	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壌96	(75)	63	28	509	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壌97	83	41	38	529	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
土壌98	118	113	46	519	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ		

土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
フロヤ	土壙99	91	66	44	523	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙100	98	90	38	508	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙101	206	160	24	546	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙102	(119)	(116)	32	544	不定形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙103	103	85	34	518	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙104	(213)	125	46	501	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙105	87	57	49	520	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙106	67	63	35	535	円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙107	81	67	35	534	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙108	206	119	32	514	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙109	88	83	38	498	方形	Ⅲ b	弥	
	土壙110	111	71	34	512	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙111	(171)	105	31	518	(長方形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙112	176	145	60	484	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙113	182	92	43	505	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙114	129	103	55	513	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙115	105	73	37	531	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙116	114	81	36	534	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙117	(170)	142	38	510	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙118	108	82	44	498	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙119	141	110	51	515	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙120	102	88	34	521	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙121	128	87	33	520	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙122	83	72	45	506	円形	Ⅲ b	弥	
	土壙123	139	99	20	529	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙124	(153)	(100)	36	521	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙125	105	83	37	524	不整楕円形	Ⅲ a	弥	
	土壙126	135	105	28	536	楕円形	Ⅲ a	弥	
	土壙127	199	134	61	483	楕円形	Ⅲ e	弥	
	土壙128	105	93	30	536	円形	Ⅲ a	弥	
	土壙129	84	63	34	539	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙130	140	102	40	510	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙131	151	133	24	527	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙132	154	105	26	524	隅丸長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙133	(125)	(85)	33	516	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
土壙134	78	72	25	545	円形	Ⅲ b	弥・後		
土壙135	173	101	38	511	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙136	102	76	50	519	楕円形	Ⅲ b	弥		
土壙137	169	163	33	539	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙138	114	110	35	534	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ		
土壙139	114	77	15	549	楕円形	Ⅲ a	弥・後		
土壙140	107	82	29	537	楕円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙141	129	100	72	500	楕円形	Ⅲ c	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙142	82	69	64	507	円形	Ⅱ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙143	81	66	32	540	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ		
土壙144	240	181	24	548	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ		
土壙145	71	62	28	535	楕円形	Ⅲ a	弥・後		
土壙146	192	119	18	542	楕円形	Ⅲ a	弥		
土壙147	(80)	65	18	562	隅丸長方形	Ⅲ a	弥		

土壙一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
フロヤ	土壙148	118	74	39	539	楕円形	Ⅲ c	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙149	108	52	21	557	長楕円形	Ⅲ c	弥・後	
	土壙150	(135)	95	49	530	楕円形	Ⅲ b	弥	
	土壙151	278	233	68	489	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙152	154	127	35	518	楕円形	Ⅲ a	弥	
	土壙153	(100)	(88)	47	546	(楕円形)	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙154	213	106	46	555	楕円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙155	133	121	33	555	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙156	101	(80)	61	516	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙157	(160)	(100)	63	496	(方形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙158	(167)	151	33	547	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙159	(120)	82	42	528	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙160	143	114	43	545	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壙161	(88)	97	22	548	楕円形	Ⅲ a	弥	
	土壙162	126	84	25	546	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙163	218	(146)	27	541	方形	Ⅲ a	弥	
	土壙164	97	71	40	546	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙165	(220)	(100)	13	555	(円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙166	(150)	98	29	544	(不整楕円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙167	(100)	95	16	554	(不整楕円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙168	94	77	17	549	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙169	270	207	8	580	不整楕円形	Ⅲ a	古・中・Ⅰ	
	土壙170	150	89	32	522	長楕円形	Ⅲ a	古・中・Ⅰ	
	土壙171	110	74	35	540	楕円形	Ⅲ a	古・前	
	土壙172	100	98	30	562	不整円形	Ⅲ b	古・前	
	土壙173	195	183	14	537	方形	Ⅲ e	古・中	
	土壙174	152	(80)	72	542	方形	Ⅱ a	古・中	
	土壙175	315	(150)	8	610	長方形	Ⅲ a	中世	
	土壙176	228	217	87	566	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙177	147	62	43	548	不整長方形	Ⅲ b	中世~近世	
	土壙178	207	100	12	565	長方形	Ⅲ a	中世	
	土壙179	490	260	30	575	不整長方形	Ⅲ a	中世	
	土壙180	485	269	20	550	不整楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙181	221	104	9	596	不整長方形	Ⅲ a	中世	
	土壙182	169	130	50	528	不整楕円形	Ⅲ b	中世?	
	土壙183	114	99	9	585	円形	Ⅲ c	中世	
土壙184	522	360	39	548	(不定形)	Ⅲ b	中世		
土壙185	273	144	38	566	不定形	Ⅲ c	中世		
土壙186	(250)	264	11	603	楕円形	Ⅲ e	中世		
土壙187	126	93	33	542	楕円形	Ⅱ a	中世		
角田	土壙188	186	140	32	513	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙189	193	103	22	524	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壙190	122	112	30	535	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙191	83	69	18	545	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	粘土
	土壙192	262	180	40	530	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙193	(140)	76	17	537	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙194	105	58	27	535	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙195	65	(50)	26	554	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙196	200	192	43	522	方形	Ⅲ a	弥・中・?	

土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
角田	土壙197	69	60	42	543	円形	Ⅱ b	弥・後・Ⅲ	弥・後・Ⅱの土器混入
	土壙198	136	94	30	534	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙199	95	75	21	547	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙200	89	62	49	517	楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙201	93	77	23	532	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙202	(76)	58	57	504	楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙203	100	87	21	530	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙204	102	54	22	511	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙205	115	104	41	516	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙206a	104	68	31	524	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙206b	(55)	53	37	510	(楕円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙207	309	72	14	536	長楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙208	111	81	24	515	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙209	116	76	29	523	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙210	111	106	24	509	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙211	89	42	17	541	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙212	110	(90)	59	500	不定形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙213	(132)	89	26	564	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ～Ⅲ	
	土壙214	(78)	(64)	38	554	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙215	135	(44)	20	545	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	壁面から深さ60cm
	土壙216	95	61	32	535	不整隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙217	111	105	43	522	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙218	105	73	33	517	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙219	(140)	78	31	521	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙220	210	162	7	548	長方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙220	162	93	(16)	532	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙221	128	83	14	532	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙222	171	140	57	491	不整形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙223	105	(67)	45	515	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙224	115	109	34	519	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙225	180	114	30	520	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙226	108	105	22	537	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙227	105	58	7	555	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙228	178	(130)	21	506	(不整形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙229	83	45	19	534	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙230	266	172	91	468	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙231	97	87	21	584	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙232	105	88	23	574	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ～Ⅱ	
	土壙233	87	62	25	524	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙234	70	70	36	528	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙235	84	(42)	57	485	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙236	115	(108)	18	565	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙237	189	130	31	525	方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
土壙238	127	(65)	34	529	(方形)	Ⅲ a	弥・後		
土壙239	118	89	13	565	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ		
土壙240	(160)	144	38	474	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ?		
土壙241	118	(80)	41	475	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ		
土壙242	93	85	31	523	円形	Ⅱ a	弥・後?		
土壙243	94	71	39	536	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ		

土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期
		長さ	幅	深さ				
角田	土壌244	127	78	30	526	楕円形	II a	弥・後・III
	土壌245	87	79	28	547	不整円形	II b	弥・後・IV
	土壌246	165	(87)	26	537	不整楕円形	III b	弥・後・IV
	土壌247	(87)	109	28	515	不整楕円形	III a	弥・後・IV
	土壌248	99	88	24	549	隅丸方形	III a	弥・後・IV
	土壌249	180	108	40	501	不整楕円形	II a	弥・後・I
	土壌250	162	125	27	504	不整隅丸方形	III a	弥・後
	土壌251	127	72	27	504	(不整)楕円形	III a	弥・後
	土壌252	145	115	20	511	隅丸方形	III a	弥・後・I
	土壌253	122	101	35	494	隅丸方形	III b	弥・後・I?
	土壌254	57	52	25	521	円形	III a	弥・後・III~IV
	土壌255	(186)	77	16	516	隅丸長方形	III c	弥・後
	土壌256	76	51	47	487	楕円形	III a	弥・後・II~
	土壌257	113	71	33	484	楕円形	III a	弥・後・I
	土壌258	83	76	16	535	楕円形	III a	弥・後・III
	土壌259	81	74	17	551	円形	III a	弥・後・IV
	土壌260	98	(75)	29	508	不整楕円形	III b	弥・後・I~II
	土壌261	80	69	37	525	不整円形	III a	弥・後・IV?
	土壌262	105	83	27	512	楕円形	III a	弥・後・I~II
	土壌263	102	88	22	538	円形	III a	弥・後・III~IV
	土壌264	(80)	89	32	521	(楕円形)	III b	弥・後・IV
	土壌265	86	68	30	522	隅丸方形	II b	弥・後・I
	土壌266	125	(93)	10	506	楕円形	III a	弥・後・I~II?
	土壌267	108	(70)	34	515	楕円形	III a	弥・後・IV
	土壌268	118	81	45	504	不整楕円形	II a	弥・後・I~II
	土壌269	(85)	82	8	(537)	円形	III a	弥・後・IV
	土壌270	106	74	43	507	長楕円形	III a	弥・後・II
	土壌271	66	62	27	533	円形	III a	弥・後・IV
	土壌272	83	54	10	531	隅丸方形	III a	弥・後・III
	土壌273	181	168	43	497	不整円形	II a	弥・後・IV
	土壌274	95	87	24	517	不整円形	III a	弥・後・I~II?
	土壌275	122	91	40	499	隅丸方形	II a	弥・後・II~
	土壌276	130	108	43	477	不整円形	III a	弥・後・I
	土壌277	96	79	30	490	楕円形	III b	弥・後・I~II?
	土壌278	123	111	47	492	円形	III b	弥・後・IV
	土壌279	70	47	10	538	楕円形	III b	弥・後・IV
	土壌280	94	60	16	533	楕円形	III b	弥・後・I~II
	土壌281	133	98	40	501	不整楕円形	III b	弥・後・IV
	土壌282	(114)	(95)	9	528	楕円形	III a	弥・後・IV
	土壌283	121	103	41	497	不整円形	III b	弥・後・IV
	土壌284	132	97	41	500	楕円形	III a	弥・後・II~III
	土壌285	105	87	36	493	不整楕円形	III b	弥・後・IV
土壌286	115	100	31	518	円形	III a	弥・後・II	
土壌287	110	(65)	14	492	(不整楕円形)	(III a)	弥・後・I~II?	
土壌288	80	67	24	536	楕円形	III b	弥・後・II	
土壌289	94	93	40	510	円形	II a	弥・後・IV	
土壌290	(100)	101	15	571	不整楕円形	III b	弥・後・I	
土壌291	121	117	58	504	円形	III b	弥・後・III	
土壌292	176	86	49	511	不整楕円形	III b	弥・後・III	



土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
角田	土壇293	110	92	52	497	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅱ	
	土壇294	(160)	81	13	534	隅丸方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	土壇295	89	51	14	535	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇296	78	74	32	530	円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇297	84	78	21	530	円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇298	100	82	39	509	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇299	97	67	44	488	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇300	143	(67)	30	509	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇301	(138)	84	28	521	隅丸方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	土壇302	116	96	19	531	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇303	116	79	36	513	楕円形	Ⅲ b	弥・後?	
	土壇304	113	120	31	520	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ	
	土壇305	106	90	16	543	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壇306	166	98	16	533	隅丸方形	Ⅱ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇307	148	56	19	531	隅丸方形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	土壇308	116	90	28	521	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後?	
	土壇309	115	90	40	509	楕円形	Ⅲ b	弥・後?	
	土壇310	122	(67)	49	490	(不整楕円形)	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ	
	土壇311	84	61	24	508	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ	
	土壇312	112	84	48	496	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇313	182	102	36	499	方形	Ⅱ d	弥・後・Ⅳ?	
	土壇314	(185)	(135)	29	525	(不整楕円形)	Ⅱ c	弥・後・Ⅳ	
	土壇315	(240)	(81)	42	460	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇316	336	69	36	507	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壇317	332	58	15	538	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇318	103	85	31	520	不整楕円形	Ⅱ b	弥・後・Ⅲ	
	土壇319	80	70	50	491	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
	土壇320	131	100	53	438	楕円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅰ	
	土壇321	138	122	18	481	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	土壇322	148	98	16	483	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇323	(200)	84	26	523	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇324	115	87	72	468	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇325	68	67	23	520	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇326	84	73	36	514	不整隅丸方形	Ⅲ e	弥・後・Ⅳ	
	土壇327	72	62	24	519	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ?	
	土壇328	86	68	38	504	不整楕円形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ	
	土壇329	105	98	18	526	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇330	82	51	7	483	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇331	138	89	26	494	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ?	
	土壇332	134	115	30	497	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ~Ⅲ	
	土壇333	228	210	23	474	不整円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
土壇334	140	(75)	20	498	隅丸方形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ		
土壇335	124	74	10	498	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ		
土壇336	132	58	31	489	不整楕円形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ		
土壇337	133	110	41	496	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅱ		
土壇338	82	64	31	528	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ		
土壇339	93	62	31	501	不整楕円形	Ⅱ a	弥・後		
土壇340	94	80	36	515	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ~Ⅱ		
土壇341	91	80	49	492	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ		

土壤一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
角田	土壙342	88	76	29	467	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅱ～	
	土壙343	157	106	18	510	方形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙344	104	86	27	499	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙345	84	64	27	526	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙346	57	55	13	539	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壙347	108	83	13	515	隅丸方形	Ⅱ a	弥・後	
	土壙348	70	61	46	501	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壙349	78	(70)	38	480	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅱ	
	土壙350	(73)	(40)	19	520	(円形)	Ⅲ c	弥・後・Ⅰ～Ⅱ	
	土壙351	115	80	28	520	不整楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙352	216	186	19	527	方形	Ⅱ b	弥・後・Ⅱ?	
	土壙353	102	81	47	514	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙354	201	133	37	504	楕円形	Ⅰ b	弥・後・Ⅱ	
	土壙355	(135)	103	37	510	楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅰ～Ⅱ	
	土壙356	146	106	14	592	楕円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙357	89	81	51	476	不整円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙358	123	92	48	482	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙359	100	98	63	466	不整円形	Ⅱ a	弥・後	
	土壙360	(93)	(76)	15	515	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壙361	105	(90)	20	464	不整円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙362	104	88	18	506	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙363	99	91	15	494	不整楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅰ	
	土壙364	151	121	87	440	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙365	(80)	116	41	469	不整円形	Ⅱ a	弥・後	
	土壙366	123	83	64	471	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
	土壙367	144	108	45	505	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙368	43	36	(3)	(545)	楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壙369	106	91	43	501	円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙370	89	81	47	497	円形	Ⅱ a	弥・後	
	土壙371	174	96	9	501	不整長方形	Ⅲ e	弥・後	
	土壙372	187	78	34	501	楕円形	Ⅲ c	弥・後	
	土壙373	102	82	20	496	不整円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壙374	79	74	41	495	不整円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙375	100	58	15	486	長方形	Ⅲ e	弥・後	
	土壙376	86	80	24	500	不整円形	Ⅲ e	弥・後・Ⅳ	
	土壙377	129	120	42	480	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壙378	74	66	23	532	円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壙379	58	53	19	536	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ	
	土壙380	132	84	34	487	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
土壙381	112	63	21	512	長方形	Ⅱ a	弥・後		
土壙382	109	96	48	488	不整円形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ		
土壙383	188	158	23	510	不整円形	Ⅱ e	弥・後・Ⅳ		
土壙384	119	104	56	478	不整円形	Ⅱ e	弥・後・Ⅲ		
土壙385	108	84	42	496	不整円形	Ⅲ a	弥・後		
土壙386	98	87	31	518	不整円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ		
土壙387	225	193	43	476	不整円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ		
土壙388	(80)	60	15	461	不整円形	Ⅲ b	弥・後		
土壙389	84	67	11	525	不整方形	Ⅲ a	弥・後		
土壙390	284	(170)	34	529	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ		

土壇一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
角田	土壇391	80	86	32	507	楕円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅲ	
	土壇392	110	46	22	513	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇393	110	95	27	505	不整円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ?	
	土壇394	85	83	40	505	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇395	114	113	66	488	円形	Ⅱ a	弥・後・Ⅳ	
	土壇396	85	75	27	505	円形	Ⅱ b	弥・後・Ⅰ	
	土壇397	97	59	24	508	隅丸方形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇398	155	102	26	507	(方形)	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇399	(116)	(32)	(26)	(494)	(不整楕円形)	(Ⅲ?)	弥・後・Ⅳ?	
	土壇400	103	96	53	487	円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅳ	
	土壇401	100	(40)	38	472	(不整円形)	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壇402	167	148	17	462	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇403	130	110	25	459	楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壇404	121	98	15	480	隅丸方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇405	89	87	27	476	不整形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇406	143	84	23	483	長方形	Ⅲ b	弥・後	
	土壇407	107	64	34	484	長楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇408	78	62	21	490	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇409	100	(26)	24	511	(楕円形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇410	85	60	38	504	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壇411	84	75	19	508	円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇412	260	256	20	530	不整円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇413	72	64	36	500	不整円形	Ⅲ b	弥・後	
	土壇414	58	(36)	21	505	(不整長方形)	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇415	104	94	31	502	隅丸正方形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇416	95	80	21	504	不整楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇417	115	105	12	520	不整形	Ⅲ a	弥・後・Ⅰ	
	土壇418	123	107	14	510	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇419	117	90	15	517	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇420	99	89	13	530	楕円形	Ⅲ a	弥・後・Ⅲ~Ⅳ?	
	土壇421	87	62	9	530	楕円形	Ⅲ a	弥・後	
	土壇422	123	73	31	502	不整楕円形	Ⅲ b	弥・後・Ⅰ	
	土壇423	192	146	17	510	(不整楕円形)	Ⅲ a	弥・後	
	土壇424	(173)	(37)	45	465	(不整楕円形)	Ⅲ a	弥・後	竪穴住居の可能性あり
	土壇425	(220)	(270)	76	500	(方形)	Ⅲ b	古・中・Ⅰ	
	土壇426	107	102	30	469	円形	Ⅲ e	古・前・Ⅰ	
	土壇427	109	63	53	486	楕円形	Ⅲ b	古・後?	
	土壇428	92	76	22	498	隅丸方形	Ⅲ a	古・中~後	
	土壇429	(32)	37	17	515	(楕円形)	Ⅲ a	古・後?	(炉) カマド?
	土壇430	122	78	23	543	方形	Ⅲ a	古・中~後	
	土壇431	353	45	23	537	長楕円形	Ⅲ a	古・前・Ⅰ	
	土壇432	67	62	29	549	不整円形	Ⅲ a	古・後?	
	土壇433	84	35	23	483	隅丸長方形	Ⅲ a	古・中	
土壇434	(51)	31	16	476	隅丸長方形	Ⅲ a	古・中		
土壇435	89	78	29	477	楕円形	Ⅲ b	古・中		
土壇436	150	145	30	490	方形	Ⅲ a	古・後・Ⅱ	住182カマドの下層に位置する	
土壇437	118	79	27	468	不整形	Ⅲ a	古・中		
土壇438	83	72	7	444	不整楕円形	Ⅲ a	古・中		
土壇439	109	85	14	479	長楕円形	Ⅲ a	古		

土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	
		長さ	幅	深さ					
角田	土壙440	67	56	18	473	楕円形	Ⅲ a	古	
	土壙441	65	61	23	513	楕円形	Ⅲ a	古・中	
	土壙442	150	118	25	488	楕円形	Ⅲ b	古・後・Ⅱ	住187カマドの下層に位置する
	土壙443	114	76	26	537	楕円形	Ⅲ c	中世	
	土壙444	85	42	37	528	不整楕円	Ⅲ b	中世	
	土壙445	129	83	10	560	隅丸方形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙446	188	99	64	518	楕円形	Ⅱ a	鎌倉	
	土壙447	(95)	75	24	534	楕円形	Ⅲ c	奈良	
	土壙448	94	92	32	503	隅丸方形	Ⅲ a	奈良	
	土壙449 ~453	598	(444)	25	551	不定形	Ⅲ b	鎌倉	
	土壙454	(260)	(160)	6	581	長方形	Ⅲ a	鎌倉	
	土壙455	112	96	26	546	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙456	113	89	12	563	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙457	48	43	28	544	円形	Ⅲ a	中世	
	土壙458	92	55	38	547	楕円形	Ⅲ a	古代?	
	土壙459	108	99	18	489	楕円形	Ⅲ b	中世?	
	土壙460	97	69	42	527	楕円形	Ⅱ a	中世	
	土壙461	126	88	19	563	隅丸方形	Ⅱ a	中世	
	土壙462	76	59	26	554	楕円形	Ⅲ b	中世	
	土壙463	75	72	23	554	円形	Ⅲ a	中世	
	土壙464	82	81	26	547	円形	Ⅲ a	中世	
	土壙465	67	59	25	555	円形	Ⅲ a	中世	
	土壙466	89	56	27	553	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙467	77	57	13	559	楕円形	Ⅲ a	中世	
	土壙468	217	87	34	546	不整楕円形	Ⅲ e	中世	
	土壙469	75	56	39	540	楕円形	Ⅲ b	中世	
	土壙470	111	58	17	572	方形	Ⅲ a	中世	
	土壙471	96	51	5	573	方形	Ⅱ a	中世	
	土壙472	142	49	10	520	楕円形	Ⅲ a	古代?	
	土壙473	385	56	29	552	楕円形	Ⅲ b	中世	

焼成土壌一覽表

調査区	遺構名	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	平面形	断面形	時期	備考
		長さ	幅	深さ					
塚廻り	焼成土壙 1	99	77	13	580	隅丸方形	Ⅲ a	古墳	底に灰か炭の層
	焼成土壙 2	126	86	21	575	方形	Ⅲ a	古墳	底に灰か炭の層
	焼成土壙 3	76	62	30	566	不定形	Ⅲ b	古墳	底にもう一段(そこまでの深さ16cm)焼土面一部
	焼成土壙 4	75	62	15	560	不定形	Ⅲ a	古墳	
	焼成土壙 5	88	(81)	14	575	円形	Ⅲ a	中世	底に炭層 下がりに焼土
	焼成土壙 6	72	(35)	10	563	楕円形	Ⅲ a	中世	
	焼成土壙 7	118	110	16	565	不定形	Ⅲ a	中世	
フロヤ	焼成土壙 8	59	58	11	549	不整円形	Ⅲ a	中世	底に炭層 壁上部に焼土

窪地一覧表

調査区	遺構名	平面形	規模 (cm)			時期	備考
			長さ	幅	深さ		
塚廻り	窪地 1	(方形)	404	(140)	54	室町	
	窪地 2	方形	306	(218)	12	鎌倉	竪穴住居址状遺構
	窪地 3	楕円形	480	320	68	鎌倉	
	窪地 4	楕円形	(450)	(324)	(15)	室町	
角田	窪地 5	不定形	(920)	(450)	(5)	中世	
	窪地 6	円形	310	266	20	中世	
	窪地 7	方形	281	244	10	中世	

一次調査土器観察表

挿図番号	試掘地点	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1	B-6	弥生土器	甕	(22.4)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	口縁部刻目
2	B-4	弥生土器	甕	(30.0)	-	-	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂、粗砂	ススA
3	B-4	弥生土器	鉢	(29.8)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
4	B-4	弥生土器	甕	14.9	-	-	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5	B-4	弥生土器	甕	(16.2)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
6	B-4	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	
7	B-22	土師器	壺	13.8	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
8	B-8	土師器	甌	(28.5)	13.1	-	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	底部穿孔(推定6個)
9	B-4	土師器	椀	14.4	6.3	4.4	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂、礫	早島式
10	B-4	土師器	椀	15.5	6.1	5.0	灰白色(5Y8/1)	細砂	早島式
11	B-23	土師器	椀	9.0	2.3	2.6	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	ほぼ完形
12	B-23	土師器	皿	5.4	4.9	1.0	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	
13	B-4	土師器	皿	7.5	5.7	1.6	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
14	B-24	土師器	鍋	(27.0)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
15	B-24	土師器	甕	-	-	-	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂、粗砂	スス
16	B-21	備前焼	播鉢	(24.4)	-	-	灰色(N5/7)	細砂	
17	B-21	備前焼	播鉢	(27.2)	-	-	暗赤褐色(2.5YR3/4)	細砂	
18	B-12	備前焼	甕	(28.0)	-	-	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂、礫	

塚廻り調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴		
				口径	底径	器高					
19	河道1	弥生土器	壺	15.4	-	(16.7)	橙色(7.5YR6/6)	細砂			
20		弥生土器	壺	12.3	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂			
21		弥生土器	壺	14.5	-	(6.0)	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂			
22		弥生土器	壺	20.0	-	-	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂			
23		弥生土器	甕	16.9	-	(5.0)	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂			
24		弥生土器	甕	13.0	-	-	浅黄褐色(7.5YR8/6)	粗砂	ススA		
25		弥生土器	甕	13.0	-	-	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂			
26		弥生土器	甕	13.8	-	(8.0)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	表面剥離		
27		弥生土器	甕	15.0	-	-	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂			
28		弥生土器	甕	13.6	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂			
29		弥生土器	甕	13.5	-	(4.5)	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂			
30		弥生土器	鉢	(15.8)	-	(4.2)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂			
31		弥生土器	高杯	20.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂			
32		弥生土器	高杯	23.0	-	-	赤褐色(10YR6/8)	細砂			
33		弥生土器	高杯	22.2	-	-	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂			
34		弥生土器	高杯	25.0	-	(3.5)	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	口縁部凹線7条 内面ヘラミガキ		
35		弥生土器	高杯	(15.4)	-	(4.0)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂			
36		弥生土器	高杯	17.7	-	(3.7)	灰白色(7.5Y8/2)	細砂、粗砂	穿孔2個残存(未貫通)		
37		河道2	弥生土器	甕	11.0	-	-	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂		
38			弥生土器	鉢	(36.2)	-	-	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	スス	
39		包含層	弥生土器	壺	24.8	-	-	灰白色(7.5YR8/2)	細砂		
40			弥生土器	壺	13.0	-	(14.3)	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	ススB	
41			弥生土器	甕	(32.6)	-	-	橙色(7.5YR7/6)	粗砂		
42			弥生土器	高杯	23.2	-	-	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂		
43			弥生土器	高杯	22.0	12.1	19.4	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂		
44			弥生土器	高杯	21.6	-	(7.5)	橙色(5YR6/6)	細砂		
45			弥生土器	高杯	-	12.0	(10.0)	橙色(5YR7/6)	細砂	孔3個×3(未貫通)	
46			竪穴住居1	須恵器	杯蓋	12.4	5.8	3.6	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	天井部ヘラキリ 焼成不良
47				土師器	甕	12.0	-	(9.0)	赤褐色(10YR5/4)	礫	
48		土師器		甕	-	-	(10.0)	鈍赤褐色(5YR5/4)	礫	ススB	
49		土師器		甕	19.0	-	(9.3)	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
50		土師器		高杯	14.1	-	(6.5)	橙色(7.5YR6/8)	精良		
51		土師器		高杯	13.9	-	(10.2)	橙色(7.5YR7/6)	精良		
52		土師器		高杯	14.0	-	(6.1)	橙色(5YR7/6)	精良		
53		土師器		高杯	20.2	-	(11.4)	鈍黄褐色(10YR7/4)	粗砂	外面磨減 内面ハケメ	

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
54	竪穴住居 1	土師器	甗	26.0	—	(19.0)	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	底部穿孔 ススB
55	竪穴住居 2	土師器	甗	14.2	—	(23.9)	鈍橙色(7.5YR6/3)	粗砂	
56		土師器	甗	(15.0)	—	(13.4)	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススB
57		土師器	高杯	14.8	(11.8)	13.4	灰白色(5YR8/2)	細砂	
58		土師器	直口壺	12.0	—	15.5	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部摩滅
59		土師器	直口壺	9.0	—	11.7	橙色(5YR7/6)	細砂	
60		土師器	直口壺	—	—	(9.0)	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	
61	土師器	鉢	11.6	—	5.2	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂、粗砂		
62	竪穴住居 4	土師器	高杯	16.0	—	(5.9)	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	摩滅のため不鮮明
63	竪穴住居 5	須恵器	杯蓋	13.0	—	4.2	灰白色(10YR7/1)	細砂	回転ヘラケズリ
64		須恵器	高杯	—	13.0	(6.5)	灰色(N6/)	細砂	
65		須恵器	壺	8.0	—	(6.0)	灰色(N4/)	細砂	
66		須恵器	?	13.8	—	(5.3)	灰色(5Y6/1)	細砂	
67		須恵器	甗	15.0	—	(6.8)	灰白色(2.5Y8/1)	精良	
68	井戸 1	土師器	甗	13.4	—	28.5	明赤褐色(5YR5/8)	礫	ススA
69	土壇 2	土師器	甗	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂	
70	土壇 4	須恵器	杯蓋	(14.8)	—	(4.2)	灰色(N7/)	細砂	天井部回転ヘラケズリ
71	土壇 5	製塩土器	—	11.8	—	(10.2)	鈍赤褐色(5YR5/3)	礫	平行タタキ
72	溝 1	須恵器	杯身	(11.0)	—	—	灰白色(N7/)	精良	
73	包含層	須恵器	杯蓋	12.2	—	—	灰白-ブ色(5Y6/2)	細砂	回転ヘラケズリ
74		須恵器	杯蓋	14.0	—	(4.8)	灰色(5Y5/1)	細砂	回転ヘラケズリ
75		須恵器	杯身	11.4	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	回転ヘラケズリ
76		須恵器	杯身	9.6	—	—	灰白色(10Y7/1)	精良	
77		須恵器	杯身	(9.0)	—	—	灰白色(N7/)	精良	
78		須恵器	杯蓋	9.4	—	—	青灰色(5BG6/1)	粗砂	回転ヘラケズリ
79	包含層	須恵器	把手付高杯	(18.4)	—	—	暗青灰色(5B3/1)	精良	脚部透し孔4個 底部ヘラケズリ
80		須恵器	高杯	13.8	8.8	7.2	灰色(7.5Y5/1)	細砂	
81		須恵器	高杯	9.8	—	—	灰白色(N7/)	粗砂	自然釉
82		須恵器	高杯	—	10.0	—	灰白色(10Y8/1)	細砂	
83		須恵器	甗	18.5	—	(9.8)	灰白色(N7/)	細砂	
84		須恵器	甗	—	—	(4.5)	灰色(N5/)	細砂	格子タタキ
85	須恵器	甗	—	—	—	暗緑灰色(10GY4/1)	細砂	車輪文 当て具痕	
86	須恵器	甗	(20.0)	—	(1.4)	暗灰色(N3/)	細砂		
87	土師器	甗	14.0	—	(9.0)	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂		
88	土師器	甗	(11.2)	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	黒斑B	
89	土師器	甗	18.4	—	27.1	灰白色(10YR8/2)	粗砂	ススB	
90	土師器	甗	(32.4)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂	口縁黒斑A	
91	井戸 2	甗	(22.0)	—	(4.5)	灰色(N5/)	細砂	格子タタキ	
92		土師器	擂鉢	33.4	14.8	(17.8)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
93		青磁	碗	—	—	(2.0)	明緑灰色(5G7/1)	精良	明代
94		瓦質土器	羽釜	(35.8)	—	(3.9)	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	
95		備前焼	甗	—	—	—	灰赤色(7.5R4/2)	細砂(粗砂、礫)	表面自然釉
96	井戸 3	甗	(18.0)	—	—	灰色(N4/)	細砂(粗砂、礫)		
97		土師器	高台付皿	—	(5.8)	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂(粗砂、礫)	ヘラキリ後ナデ
98		唐津	皿	11.8	3.8	3.6	鈍黄褐色(10YR5/4)	精良	口縁部輪花 体部下半釉ハギ 1590~1610年代
99	土師器	高台付碗	(11.7)	5.0	3.6	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	内面ススカ黒斑 黒斑A	
100	土壇 10	土師器	高台付碗	—	4.6	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
101		土師器	高台付碗	—	4.8	—	明赤灰色(10R3/1)	細砂	ススC
102	土壇 11	土師器	高台付碗	—	5.0	(1.3)	灰白色(5Y8/1)	精良	
103		土師器	皿	7.2	—	(1.3)	鈍橙色(5YR7/3)	精良	
104	土壇 12	甗	片口擂鉢	(30.6)	—	(11.1)	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	ススC
105	土壇 14	土師器	高台付碗	9.4	2.8	3.8	灰白色(10YR8/1)	粗砂	ユビオサエ
106		土師器	皿	6.3	5.4	1.4	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具の圧痕
107	土壇 15	土師器	高台付碗	—	6.5	(1.9)	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	
108	土壇 18	土師器	高台付碗	—	5.2	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	黒斑C
109		土師器	甗	(17.0)	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	粗砂	ススA
110	土壇 19	土師器	高台付碗	(10.9)	4.1	4.1	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	ススA
111		土師器	高台付碗	—	4.8	—	灰白色(2.5Y8/1)	精良	内底部黒斑 黒斑C
112		土師器	高台付碗	—	4.4	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ススC

塚廻り調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
113	土壇19	土師器	皿	6.4	5.6	1.1	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
114		土師器	皿	(7.0)	(4.6)	1.1	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧
115		土師器	鍋	(32.5)	—	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂	ススA
116	土壇20	土師器	皿	7.7	6.6	1.4	鈍黄橙色(10YR7/2)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧 内底面ス
117		土師器	皿	6.8	5.5	1.4	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧
118		土師器	皿	6.2	4.6	1.5	浅黄色(2.5Y7/3)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧
119	土壇21	亀山焼	甕	—	—	—	灰色(5Y5/1)	粗砂	平行タタキ 同心円文
120		亀山焼	甕	—	—	—	灰色(N4/)	粗砂	外面布目
121		土師器	皿	7.6	5.1	1.2	赤灰色(10R6/1)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 完形
122		土師器	皿	7.0	5.4	1.3	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧
123		土師器	高台付碗	13.4	(5.8)	4.5	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
124		土師器	高台付碗	(11.7)	4.6	3.3	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	高台接地面に棒状のもの?の圧痕
125		土師器	高台付碗	—	4.8	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
126		土師器	高台付碗	—	3.9	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
127		土師器	鍋	34.0	—	—	暗赤灰色(10R4/1)	細砂	ススA
128		土師器	高台付碗	12.0	—	—	灰白色(5Y8/2)	細砂	
129	土壇22	土師器	高台付碗	—	5.2	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
130		土師器	高台付碗	11.9	5.3	5.1	灰白色(5YR8/2)	細砂	
131		土師器	鍋	11.8	—	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂	ススA
132	土壇23	土師器	高台付碗	—	(6.0)	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
133	土壇24	土師器	高台付碗	—	(5.2)	—	灰白色(5Y8/1)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ
134	土壇25	土師器	高台付碗	(11.2)	4.5	(3.3)	灰白色(2.5Y8/2)	精良	
135		土師器	碗	11.3	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	
136	土壇25	土師器	高台付碗	10.7	4.9	3.4	灰白色(2.5Y8/2)	精良	内底部ユビオサエ ほぼ完形
137	土壇26	備前焼	大甕	(48.0)	—	—	暗赤色(7.5R3/4)	粗砂、礫	
138		備前焼	擂鉢	—	—	—	暗赤色(7.5R3/4)	粗砂、礫	
139		瓦質土器	火鉢	36.0	23.0	32.0	赤-黒色(5Y3/1)	細砂	4足脚
140	溝2	亀山焼	擂鉢	(29.0)	—	(3.5)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	
141		土師器	皿	6.6	5.7	0.9	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	底部ヘラキリ
142		土師器	皿	(6.0)	—	1.2	鈍橙色(7.5YR6/4)	精良	底部ヘラキリ後板状工具痕
143		土師器	鍋	(31.8)	—	(5.9)	褐灰色(7.5YR4/1)	精良	
144		土師器	鍋	—	—	—	灰白色(5YR8/1)	粗砂	
145		土師器	台付皿	(17.2)	—	(2.2)	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ユビオサエ
146	溝3	亀山焼	甕	(23.8)	—	(8.0)	灰色(N5/)	細砂	格子タタキ 同心円の当て具痕
147		備前焼	甕	37.0	—	(13.7)	褐灰色(5YR4/1)	細砂	
148		土師器	皿	9.1	—	2.7	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	
149		土師器	皿	9.4	—	2.6	灰白色(10YR7/1)	精良	
150		土師器	皿	9.4	—	2.5	明赤灰色(2.5YR7/2)	細砂	底部ユビオサエ
151		土師器	皿	8.6	—	2.4	灰白色(10YR8/1)	精良	底部ユビオサエ? ほぼ完形
152		土師器	皿	12.2	—	1.6	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	板状工具によるナデ
153		土師器	皿	11.8	—	2.0	灰白色(10YR8/2)	精良	底部ヘラキリ
154		土師器	台付皿	14.6	10.0	4.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ 内面スス
155		土師器	皿	7.0	5.5	1.3	灰白色(10YR7/1)	細砂	底部板状工具の圧痕
156	土師器	皿	6.6	4.5	1.5	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	底部ヘラキリ	
157	土師器	皿	6.8	—	1.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ	
158	土師器	皿	6.2	4.0	0.9	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂	底部板状工具の圧痕 ほぼ完形	
159	土師器	皿	6.3	3.0	1.0	鈍黄橙色(10YR7/3)	精良	底部ヘラキリ後ナデ ほぼ完形	
160	土師器	皿	6.0	5.1	1.0	淡橙色(5YR8/3)	精良	底部板状工具の圧痕 ほぼ完形	
161	土師器	皿	6.3	5.1	1.2	灰白色(10YR8/2)	精良	底部ヘラキリ	
162	土師器	鍋	34.2	—	(12.2)	暗灰色(N3/)	細砂	ススA	
163	土師器	鍋	(30.4)	—	(7.8)	黒褐色(10YR3/1)	細砂	ススA	
164	土師器	鍋	—	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	脚のみ	
165	溝4	備前焼	甕	—	—	—	鈍赤褐色(7.5YR4/3)	細砂	
166		唐津	皿	10.6	3.9	3.1	(軸)灰赤-ブ'色(5Y6/2)	精良	胎土目3か所 1600~1610年代
167		唐津	皿	13.0	5.2	4.0	灰褐色(5YR6/2)	精良	胎土目4か所 1600~1610年代 完形
168		唐津	皿	—	4.5	1.3	赭褐色(10YR54/4)	精良	砂目4か所 1610~1620年代
169		染付	碗	13.0	—	(4.0)	染付暗青灰色(5B3/1)	精良	明末~清初
170	染付	皿	—	5.2	(1.3)	染付暗青灰色(5B3/1)	精良	明末~清初	



塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
171	溝4	亀山焼	甕	16.0	—	(14.2)	灰色(N5/)	礫	
172		亀山焼	甕	(22.0)	—	(6.3)	灰色(N4/)	細砂	
173		亀山焼	甕	(32.0)	—	(9.5)	灰色(N5/)	細砂	
174		亀山焼	甕	(38.0)	—	—	暗灰色(N3/)	細砂	表面剥離
175		亀山焼	甕	(40.8)	—	(12.0)	灰色(5Y5/1)	細砂	
176		亀山焼	甕	40.5	—	(14.5)	灰色(N5/)	細砂	
177		亀山焼	播鉢	(40.0)	(16.1)	(12.9)	黄灰色(2.5Y6/1)	精良	ユビオサエ 底部摩滅著しい
178		亀山焼	播鉢	30.0	12.4	14.0	褐灰色(10YR4/1)	粗砂	
179		備前焼	播鉢	24.0	—	—	暗灰色(N3/)	細砂	
180		備前焼	播鉢	29.4	—	(9.5)	赤灰色(2.5YR4/1)	細砂	自然釉
181		土師器	高台付碗	12.0	6.0	4.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ユビオサエ
182		土師器	高台付碗	12.3	5.5	4.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	重ね焼痕
183		土師器	高台付碗	12.0	5.8	4.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ユビオサエ
184		土師器	高台付碗	—	5.7	(3.8)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
185		土師器	高台付碗	—	6.5	(1.9)	鈍黄褐色(10YR5/4)	細砂	
186		土師器	高台付碗	—	5.1	(1.3)	灰白色(10YR8/1)	細砂	
187		土師器	高台付碗	—	4.9	(1.8)	灰白色(10YR8/1)	細砂	重ね焼痕
188		土師器	皿	7.5	5.2	1.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧
189		土師器	皿	7.8	5.2	1.7	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 完形
190	土師器	皿	7.4	5.7	1.5	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧	
191	土師器	皿	7.6	5.5	1.4	鈍褐色(7.5YR7/3)	粗砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 完形	
192	土師器	皿	7.2	6.1	1.3	橙色(5YR6/6)	精良		
193	土師器	台付皿	18.6	7.5	3.6	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂	外面ナデ 内面ユビオサエ後ナデ ススA	
194	土師器	鍋	40.0	—	(12.5)	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂		
195	土師器	鍋	32.0	—	(14.3)	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	ススA	
196	土師器	鍋	32.0	—	(12.2)	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	口縁部ヘラ記号 ススA	
197	土師器	竈	(42.0)	(37.0)	(32.5)	橙色(5YR6/6)	粗砂		
198	瓦質土器	甕	31.8	—	(5.0)	灰色(5Y5/1)	細砂		
199	溝7	土師器	高台付碗	(14.0)	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
200		土師器	皿	7.6	5.6	1.3	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧
201	溝8	備前焼	大甕	(44.7)	—	—	赤灰色(7.5R5/1)	粗砂、礫	
202		備前焼	大甕	—	—	—	灰赤色(7.5R4/2)	精良	
203		備前焼	播鉢	(27.4)	(12.6)	(13.0)	赤色(7.5R4/8)	細砂	底部植物繊維の圧痕
204		備前焼	播鉢	(29.2)	—	—	灰赤色(10R4/2)	粗砂、礫	口縁部下重ね焼痕 口縁部釉
205		瓦質土器	鍋	21.0	—	—	灰色(N4/)	細砂	
206	溝8	土師器	杯	10.2	6.6	2.3	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	底部回転イトキリ 内面灯明痕
207		土師器	杯	9.0	5.1	2.5	淡褐色(5YR8/4)	精良	底部回転イトキリ
208		土師器	灯明皿?	—	?	—	鈍褐色(5YR7/4)	精良	ススA
209		青磁	高台付碗	—	5.5	—	灰白色(N7/)	精良	底部釉ハギ
210		唐津	皿	5.5	4.0	2.9	赤褐色(10R5/4)	精良	底部イトキリ 砂目4 ススC
211		唐津	碗	—	3.7	—	鈍褐色(5YR6/4)	精良	底部墨書 胎土目2
212		唐津	灰釉小杯	6.8	3.2	3.8	灰赤色(10R4/2)	精良	底部ヘラケズリ
213		唐津	高台付鉢	19.4	8.2	12.3	灰黄褐色(10YR6/2)	精良	底部釉ハギ 胎土目 口縁部重ね焼痕
214		瓦質土器	羽釜?	(26.2)	—	—	暗緑灰色(10GY4/1)	細砂	
215	瓦	巴文軒丸瓦	—	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	精良	最大厚(1.65cm) 最大長(13cm) 瓦当部スス	
216	溝9	唐津	高台付皿	12.0	3.7	3.6	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	精良	釉ハギ ヘラケズリ
217	溝10	亀山焼	甕	(32.6)	—	—	灰色(5Y6/1)	粗砂	
218		備前焼	播鉢	25.0	—	—	灰褐色(5YR4/2)	粗砂、礫	
219		土師器	高台付碗	—	6.1	—	灰白色(7.5Y8/1)	粗砂	重ね焼痕?
220		土師器	高台付碗	10.1	4.4	3.4	灰白色(10YR8/2)	細砂	
221		土師器	高台付碗	12.1	5.7	4.0	灰白色(2.5Y8/2)	精良	
222		土師器	鍋	30.2	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	底部工具痕 ススA
223	溝11	備前焼	甕	27.2	—	(18.5)	褐灰色(5YR4/2)	粗砂	自然釉
224		亀山焼	播鉢	(34.8)	12.0	11.0	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ハケメ後ユビオサエ
225		亀山焼	播鉢	33.9	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	ハケメ後ナデ
226		陶器	深鉢	28.4	—	(16.8)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂	
227		瓦質土器	鍋	(25.0)	—	(7.0)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂	
228		土師器	鍋	30.8	—	(8.4)	灰色(5Y6/1)	細砂	紐孔2孔1対

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
229	溝11	土師器	鍋	23.4	—	12.0	褐灰色(10YR4/1)	細砂	紐孔2孔1対 ススA
230		土師器	羽釜	—	—	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂	ススB
231	窪地1	備前焼	甕	(28.8)	—	—	暗紫灰色(5RP3/1)	細砂	
232		備前焼	播鉢	—	(15.8)	—	赤褐色(10R4/4)	粗砂	
233		土師器	椀	(11.5)	—	—	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	
234		土師器	皿	8.0	5.2	1.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
235		土師器	皿	6.3	5.2	1.4	鈍橙色(5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ 完形
236		土師器	皿	7.0	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
237		土師器	鍋	35.4	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
238		青磁	小碗	—	4.0	(2.5)	オリープ黄色(7.5Y6/3)	精良	同安窯系
239		青磁	皿	13.8	—	—	緑灰色(5G6/1)	精良	稜花皿
240	窪地2	土師器	高台付椀	—	7.0	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
241	窪地3	龜山焼?	鉢	(23.0)	—	—	灰色(N5/)	細砂	こね鉢
242		土師器	高台付椀	11.8	4.8	4.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	
243		土師器	高台付椀	(11.0)	4.5	4.4	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
244		土師器	高台付椀	11.8	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ユビオサエ後ナデ
245		土師器	高台付椀	—	4.6	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
246		土師器	高台付椀	—	5.1	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	底面スス
247		土師器	高台付椀	—	5.1	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	底面スス
248		土師器	鍋	36.2	—	—	黒褐色(5YR3/1)	細砂	ススA
249		土師器	鍋	—	—	—	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	
250	窪地4	龜山焼	こね鉢	—	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	
251		土師器	高台付椀	11.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
252	窪地4	土師器	高台付椀	—	5.5	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
253		土師器	高台付椀	—	6.5	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	
254		土師器	高台付椀	—	6.0	—	灰白色(5Y8/1)	細砂	
255		土師器	皿	7.7	5.3	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ 完形
256		土師器	皿	7.5	4.8	1.9	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ユビオサエ?
257		土師器	皿	7.6	3.0	2.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ
258		土師器	皿	8.2	5.6	2.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ 完形
259		土師器	甕	(32.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	スス
260		青磁	碗	16.0	—	(3.0)	明緑灰色(7.5GY7/1)	精良	同安窯系
261	河道3	備前焼	壺	9.1	11.2	—	灰赤色(7.5R4/2)	細砂	
262		備前焼	壺	9.1	11.2	—	灰赤色(7.5R4/2)	細砂	底部ヘラキリ
263		龜山焼	甕	(39.6)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
264		龜山焼	甕	(34.0)	—	—	灰色(5Y4/1)	細砂	
265		備前焼	播鉢	32.4	21.0	10.5	暗赤色(7.5R3/4)	粗砂、礫	
266		龜山焼	鉢	—	—	—	褐灰色(5YR5/2)	細砂、粗砂	内表面剥離
267		龜山焼	播鉢(片口)	31.0	—	(6.5)	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	ユビナデ 内面ススA
268		土師器	高台付椀	11.0	5.2	3.6	灰白色(5Y8/1)	粗砂、礫	灯明痕
269		土師器	高台付椀	—	6.0	(1.6)	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
270		土師器	高台付椀	—	6.8	(2.0)	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	
271		土師器	高台付椀	—	5.8	(1.6)	褐灰色(5YR5/1)	粗砂、礫	
272		土師器	皿	6.7	5.4	1.2	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形 ススA
273		土師器	皿	7.3	5.9	1.1	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 ほぼ完形
274		土師器	鍋	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
275		瀬戸	椀	9.2	—	—	暗赤褐色(5Y3/2)	精良	
276		陶器	鉢	(28.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂	
277		青磁	高台付椀	—	5.4	—	オリープ灰色(10Y6/2)	精良	上田分類B~C 14C後~15C 底部軸ハギ
278	青磁	碗	11.2	—	—	オリープ灰色(10Y6/2)	精良	上田分類B類-III×IV	
279	青磁	碗	(11.2)	—	—	オリープ灰色(10Y6/2)	精良	上田分類B類-IV	
280	青磁	碗	(15.4)	—	—	灰オリープ色(5Y6/2)	精良	上田分類D類-II	
281	青磁	碗	—	—	—	緑灰色(5GY6/1)	精良		
282	青磁	大型盤	—	—	—	オリープ灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系IV類	
283	白磁	碗	—	—	—	灰白色(5Y7/2)	精良	IV類	
284	染付	高台付椀	—	4.8	—	全体明緑灰色(10GY8/1)	精良	底部軸ハギ 中国産	
285	柱穴1	土師器	皿	6.2	5.2	1.4	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧
286		土師器	皿	7.2	6.1	1.2	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
287	柱穴 2	土師器	皿	—	—	—	淡黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
288		土師器	皿	6.1	5.7	1.1	淡黄橙色(7.5YR8/4)	精良	底部ヘラキリ
289		土師器	皿	5.9	5.0	1.1	鈍黄橙色(10YR7/3)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧 完形
290	柱穴 3	備前焼	皿	11.4	7.0	2.1	暗紫灰色(5RP4/1)	細砂	底部回転イトキリ
291		土師器	高台付碗	11.6	5.0	3.8	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	内面底部スス 完形
292	柱穴 4	青磁	碗	16.0	—	(3.5)	オリーブ灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系上田分類B-III しのぎ蓮弁文
293	柱穴 5	土師器	高台付碗	11.0	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂	
294		土師器	高台付碗	—	5.6	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
295	柱穴 6	土師器	皿	6.5	5.7	1.8	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良	底部ヘラキリ ほぼ完形
296		土師器	皿	11.7	—	2.5	灰黄色(2.5Y6/2)	精良	底部ヘラキリ後ナデ? ユビオサエ?
297	柱穴 7	青磁	碗	(14.8)	—	—	オリーブ灰色(10Y6/2)	精良	蓮弁模様 龍泉窯系IV類
298		白磁	碗	7.8	—	—	灰白色(N8/)	精良	森田D類 14C末~15C
299		白磁	碗	7.8	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	精良	
300	柱穴群	備前焼	播鉢	—	—	—	黒褐色(10YR3/2)	細砂	
301		備前焼	播鉢	—	—	—	赤褐色(2.5YR4/6)	細砂	
302		須恵器	鉢	—	—	—	灰白色(N7/)	細砂	東播系?
303		須恵器	こね鉢	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	東播系
304		亀山焼	播鉢	(28.0)	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
305		亀山焼	甕	(30.1)	—	—	暗青灰色(5B3/1)	細砂	
306		亀山焼	こね鉢	(27.6)	—	—	灰色(N6/)	粗砂	
307		土師器	高台付碗	12.0	5.9	4.3	灰白色(10Y8/1)	細砂	内面口縁部内外面スス
308		土師器	高台付碗	11.4	4.7	3.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
309		土師器	高台付碗	—	(4.4)	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	外面丁寧なナデではない
310		土師器	高台付碗	11.6	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
311		土師器	高台付碗	—	6.8	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
312		土師器	高台付碗	—	6.9	—	浅黄色(2.5Y8/4)	細砂	
313		土師器	高台付碗	—	(6.0)	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
314		土師器	高台付碗	—	6.6	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
315		土師器	高台付碗	—	6.8	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
316		土師器	高台付碗	—	7.0	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	内底部スス
317		土師器	高台付碗	—	4.6	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	外面雑なナデ
318		土師器	高台付碗	—	4.0	—	灰白色(7.5Y8/1)	精良	
319		土師器	高台付碗	—	4.4	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
320		土師器	高台付碗	—	4.8	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
321		土師器	高台付碗	—	4.2	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
322		土師器	高台付碗	—	4.0	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	内底部スス
323		土師器	へそ碗	9.0	—	2.3	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	底部付近粗いナデ
324		土師器	杯	8.9	—	2.4	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	完形
325		土師器	皿	16.0	—	—	黒色(2.5Y2/1)	精良	
326		土師器	皿	14.0	(10.3)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	灯明痕?
327		土師器	皿	13.4	—	3.0	赤褐色(10R6/6)	細砂	底部ユビオサエ後ナデ
328		土師器	皿	8.0	4.9	1.5	浅黄橙色(10YR8/3)	礫	底部回転ヘラキリ
329		土師器	皿	7.5	5.4	1.6	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧
330		土師器	皿	6.5	5.1	1.4	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 口縁部ススA
331		土師器	皿	6.5	5.5	1.8	赤褐色(10R6/8)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧
332		土師器	皿	6.3	5.3	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ 完形
333		土師器	皿	5.9	4.5	1.1	淡赤褐色(2.5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧
334	土師器	皿	6.4	5.3	1.2	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ	
335	土師器	皿	6.3	—	1.2	淡赤褐色(2.5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ ほぼ完形	
336	土師器	皿	5.7	4.8	1.2	褐色(5YR7/6)	精良	底部ヘラキリ後板状工具押圧 完形	
337	土師器	皿	7.7	3.4	1.4	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧	
338	土師器	皿	6.1	4.9	1.4	赤褐色(10YR6/6)	精良	底部ヘラキリ	
339	土師器	皿	6.1	4.8	1.7	淡黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ ほぼ完形	
340	土師器	皿	7.6	6.4	1.3	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂		
341	土師器	皿	6.4	5.5	1.0	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ	
342	瓦質土器	鉢	13.2	—	—	灰色(N4/)	精良		
343	瀬戸	碗	—	3.9	—	灰白色(7.5Y7/1)	精良	高台部イトキリ	
344	青磁	高台付碗	—	5.8	—	灰緑'色(5Y6/2)	精良	龍泉窯系 打ち欠き	

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
345	柱穴群	白磁	碗	-	7.0	(3.5)	灰白色(7.5Y7/2)	精良	IV-I類	
346		土師器	甕	(26.0)	-	-	赤黒色(10R2/1)	粗砂	ススA	
347		土師器	鍋	34.3	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススA	
348	包合層	土師器	椀	14.0	-	-	褐灰色(10YR6/1)	細砂	外面ユビオサエ 内面ミガキ	
349		土師器	椀	(14.6)	-	-	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	ミガキ	
350		黒色土器	高台付椀	-	6.4	-	灰白色(10YR7/1)	細砂	内黒	
351		土師器	高台付椀	-	5.8	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		
352		備前焼	皿	10.9	-	2.5	赤色(10R5/6)	細砂	口縁部自然釉	
353		備前焼	高台付椀	10.0	5.8	2.7	赤色(10YR5/6)	細砂	底部イトキリ ヘラ記号	
354		備前焼	德利	2.8	4.5	9.1	赤褐色(10R4/3)	細砂、礫	釉少量付着 底部ヘラケズリ ほぼ完形	
355		備前焼	甕	-	-	-	明赤灰色(10R4/1)	細砂		
356		備前焼	甕	-	-	(9.6)	褐灰色(5YR5/1)	細砂	自然釉	
357		備前焼	甕	27.0	-	(10.0)	暗赤褐色(5Y3/3)	細砂	自然釉	
358		備前焼	大甕	-	-	-	暗赤色(7.5R3/4)	細砂		
359		備前焼	大甕	-	(39.2)	-	灰白色(N7/)	細砂	底部ケズリ?	
360		備前焼	甕	-	34.5	(9.0)	褐灰色(5YR4/1)	細砂		
361		備前焼	甕	-	19.0	(9.0)	灰色(5Y6/1)	礫	内外面ハケ後ナデ	
362		備前焼	播鉢	-	-	-	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂		
363		備前焼	播鉢	-	-	(4.8)	灰赤色(2.5YR4/2)	細砂		
364		備前焼	播鉢	-	-	-	赤灰色(10R5/1)	細砂、粗砂、礫		
365		備前焼	播鉢	(29.7)	-	(5.6)	灰白色(N4/)	細砂		
366		亀山焼	甕	-	-	-	灰白色(N6/)	細砂		
367		亀山焼	甕	(33.5)	-	(6.0)	灰白色(N5/)	細砂		
368		亀山焼	甕	40.4	-	(12.7)	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	当て具痕後ハケ後ナデ	
369		亀山焼	片口鉢	-	-	-	灰白色(N5/)	粗砂	(こね鉢)	
370		亀山焼	播鉢	38.4	15.0	13.9	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂		
371		亀山焼	鉢	-	14.0	(3.3)	灰色(N5/)	細砂		
372		亀山焼	播鉢	(31.3)	-	(6.4)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
373		包合層	亀山焼	播鉢	(32.0)	-	(3.2)	褐灰色(10YR6/1)	細砂	
374		包合層	亀山焼	播鉢	25.4	-	-	灰白色(10YR7/1)	粗砂	
375		包合層	亀山焼	播鉢	(24.6)	-	-	灰白色(5YR8/1)	細砂	
376		包合層	亀山焼	播鉢	(29.8)	(7.5)	-	鈍橙色(10YR7/2)	細砂	
377		包合層	須恵器	こね鉢	-	-	(3.5)	灰色(N6/)	細砂	自然釉 東播系
378		包合層	須恵器	鉢	-	(13.0)	-	灰白色(N7/)	細砂	底部イトキリ 東播系
379		包合層	土師器	高台付椀	14.5	-	-	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	ユビオサエ?
380		包合層	土師器	高台付椀	14.5	4.8	5.3	明褐灰色(7.5YR7/1)	細砂	内面スス
381		包合層	土師器	高台付椀	12.9	-	(3.3)	灰白色(10YR8/2)	細砂	
382	包合層	土師器	高台付椀	-	6.5	(1.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂		
383	包合層	土師器	高台付椀?	-	6.8	(2.0)	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	底部ヘラキリ	
384	包合層	土師器	高台付椀	-	6.2	(1.7)	灰白色(10YR8/1)	細砂		
385	包合層	土師器	高台付椀	-	6.0	(1.5)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
386	包合層	土師器	高台付椀	-	6.0	(1.8)	灰白色(10YR8/2)	細砂	重ね焼痕	
387	包合層	土師器	高台付椀	-	5.8	(1.6)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ	
388	包合層	土師器	高台付椀	-	6.1	(1.5)	灰白色(10YR8/1)	粗砂		
389	包合層	土師器	高台付椀	-	5.7	(1.9)	灰白色(10YR8/1)	細砂		
390	包合層	土師器	高台付椀	-	5.8	(1.5)	灰白色(10YR8/1)	細砂		
391	包合層	土師器	高台付椀	-	5.3	(1.7)	灰白色(10YR8/2)	細砂		
392	包合層	土師器	高台付椀	11.6	5.3	4.2	灰白色(10YR8/2)	細砂		
393	包合層	土師器	高台付椀	12.0	-	(2.7)	橙色(5YR7/6)	細砂		
394	包合層	土師器	高台付椀	11.4	5.0	3.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	完形	
395	包合層	土師器	高台付椀	11.5	3.9	3.6	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
396	包合層	土師器	高台付椀	10.1	4.2	3.4	灰白色(10YR8/2)	細砂		
397	包合層	土師器	高台付椀	-	4.7	(3.0)	灰白色(10YR8/1)	細砂		
398	包合層	土師器	高台付椀	-	3.8	(1.2)	灰白色(10YR8/1)	細砂		
399	包合層	土師器	高台付椀	-	4.2	(1.0)	灰白色(10YR7/1)	細砂		
400	包合層	土師器	高台付椀	-	5.8	(1.3)	灰白色(10YR8/1)	粗砂		
401	包合層	土師器	高台付椀	-	3.7	-	灰白色(10YR8/1)	精良		
402	包合層	土師器	高台付椀	-	4.1	-	灰白色(7.5Y8/1)	細砂		
403	包合層	土師器	(へそ)椀	9.4	-	2.6	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面ユビオサエ? 底部ユビオサエ	

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
404		土師器	(へそ)椀	8.9	4.6	2.7	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	完形
405		土師器	(へそ)椀	8.8	—	2.5	鈍橙色(10YR7/2)	細砂	完形
406		土師器	燗台	9.3	—	(6.9)	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂、粗砂	
407		土師器	皿	8.5	6.3	2.5	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形 黒斑A~C
408		土師器	皿	9.8	6.4	4.5	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	内面ヘラケズリ
409		土師器	皿	7.6	6.1	3.5	浅黄色(2.5YR8/3)	細砂	底部ヘラで切り込んでいる
410		土師器	脚付皿	8.2	5.8	3.4	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	
411		土師器	皿	13.4	—	(2.1)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ? ユビオサエ残る
412		土師器	皿	11.6	(6.0)	2.6	赤橙色(10R6/8)	精良	底部ユビオサエ
413		土師器	皿	11.4	—	2.2	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
414		土師器	皿	10.4	8.4	2.2	鈍橙色(7.5YR6/3)	粗砂	底部ヘラキリ
415		土師器	皿	8.2	7.2	1.5	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	底部ヘラキリ 完形
416		土師器	皿	9.1	5.4	1.5	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部イトキリ
417		土師器	皿	7.6	6.8	1.0	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ
418		土師器	皿	7.2	5.1	1.4	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ 板状の圧痕
419		土師器	皿	7.6	5.8	1.2	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 板状の圧痕
420		土師器	皿	7.4	6.6	1.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	底部ヘラキリ 内面重ね焼痕 完形
421		土師器	皿	6.9	4.7	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	底部ヘラキリ
422		土師器	皿	7.0	5.3	1.5	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ 完形
423		土師器	皿	6.7	5.2	1.2	淡橙色(5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具押圧 ほぼ完形
424		土師器	皿	6.8	5.2	1.5	鈍橙色(5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ 完形
425		土師器	皿	6.6	5.7	1.9	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形
426		土師器	皿	6.7	5.0	1.5	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
427		土師器	皿	6.8	5.0	1.6	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	底部ヘラキリ 完形
428		土師器	皿	7.4	6.0	1.4	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	底部ヘラキリ
429		土師器	皿	6.6	5.3	1.4	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	底部ヘラキリ 完形
430		土師器	皿	6.9	4.7	1.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形
431	包含層	土師器	皿	6.3	4.5	1.5	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	底部ヘラキリ
432		土師器	皿	6.6	4.6	1.4	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ
433		土師器	皿	6.3	4.5	1.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ 完形
434		土師器	皿	6.4	6.0	0.9	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
435		土師器	皿	6.7	6.0	1.2	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ 完形
436		土師器	皿	6.1	4.7	1.4	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	底部ヘラキリ 完形
437		土師器	皿	6.0	4.9	1.5	鈍橙色(5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ 完形
438		土師器	皿	5.9	5.0	0.9	鈍橙色(5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ 完形
439		土師器	皿	6.0	5.0	1.0	淡赤橙色(2.5YR7/4)	精良	底部ヘラキリ 完形
440		土師器	皿	5.5	4.8	1.0	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形
441		土師器	皿	6.4	5.6	1.1	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ
442		土師器	皿	6.0	4.4	1.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ
443		土師器	皿	8.6	—	2.0	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	ユビオサエ
444		土師器	皿	8.1	—	1.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ナデ
445		土師器	皿	8.0	—	2.0	淡黄橙色(10YR8/3)	細砂	底部ナデ
446		土師器	皿	8.1	—	2.0	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	ヘラ文様か、焼成後の傷? 底部ナデ 完形
447		土師器	皿	7.5	—	1.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	底部ナデ 完形
448		土師器	皿	5.6	—	1.1	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	底部ナデ 完形
449		土師器	台付皿	15.8	12.0	3.8	淡橙色(5YR8/3)	精良	底部ヘラキリ
450		土師器	台付皿	17.4	8.5	3.7	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	ユビオサエ ススA
451		土師器	台付皿	17.8	8.0	3.9	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	ユビオサエ
452		土師器	台付皿	16.4	8.0	3.6	橙色(2.5YR6/6)	礫	ユビオサエ
453		土師器	台付皿	16.0	7.8	3.6	鈍橙色(7.5YR7/3)	礫	ユビオサエ 完形
454		土師器	台付皿	—	8.6	(3.3)	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	底部ユビオサエ
455		土師器	台付皿	—	8.0	(5.0)	鈍橙色(5YR7/3)	礫	
456		土師器	鍋	39.9	—	(22.3)	灰褐色(7.5YR4/2)	粗砂	ススA
457		土師器	鍋	31.0	—	(9.8)	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	
458		土師器	鍋	33.3	—	(13.0)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
459		土師器	鍋	32.3	—	—	黒色(N2/)	細砂	ススA
460		土師器	鍋	(32.0)	—	(11.5)	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	ススB
461		土師器	鍋	(24.0)	—	(5.6)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	

塚廻り調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
462		土師器	鍋	(29.4)	(5.0)	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	
463		土師器	鍋	(29.2)	—	(6.3)	黒褐色(7.5YR3/1)	粗砂	ススA
464		土師器	壺	(31.8)	—	(5.9)	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	ススA
465		土師器	鍋	32.0	—	17.0	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	ススA
466		土師器	羽釜	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
467		土師器	鍋	(35.8)	—	(4.0)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
468		土師器	鍋	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	長さ20.8 厚さ3.3×2.7cm
469		土師器	鍋	—	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
470		青磁	碗	(9.8)	—	—	灰緑-7'色(7.5Y6/2)	精良	龍泉窯系 I-6-b
471		青磁	碗	—	5.8	(2.0)	7'-7'灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系 1-2~3類 (草花文)
472		青磁	碗	(15.8)	(6.8)	(7.0)	7'-7'灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系IV-A×ウ
473		青磁	碗	—	—	5.2	7'-7'灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系IV-イ 底部釉ハギ
474		青磁	碗	12.0	—	(2.5)	7'-7'灰色(10Y6/2)	精良	龍泉窯系 上田分類B-III×IV
475		青磁	碗	13.8	—	—	灰緑-7'色(5Y5/2)	精良	龍泉窯系 上田分類D-II
476		青磁	碗	15.8	—	(4.8)	7'-7'灰色(10Y5/2)	精良	龍泉窯系 上田分類D-II
477		青磁	碗	—	—	(4.0)	明緑灰色(5G7/1)	精良	龍泉窯系IV-イ
478		青磁	碗	—	—	—	7'-7'灰色(5Y6/1)	精良	上田分類C-IV?
479		白磁	碗	—	—	(2.5)	灰緑-7'色(7.5Y6/2)	精良	IV類
480	包含層	白磁	碗	—	—	(1.7)	灰緑-7'色(7.5Y6/2)	精良	IV類
481		白磁	碗	—	—	—	灰白色(7.5Y7/2)	精良	IV類
482		白磁	碗	15.6	—	(3.0)	灰白色(5Y7/1)	精良	IV類
483		白磁	碗	15.8	—	(2.2)	灰緑-7'色(5Y6/2)	精良	IV類
484		白磁	碗高台	—	6.8	—	灰白色(5Y7/2)	精良	外面釉なし 内面施釉
485		染付	碗	—	4.4	(5.5)	青黒色(5B2/1)	精良	明末~清初
486		唐津	皿 折縁皿	12.0	4.0	3.9	灰緑-7'色(5Y6/2)	精良	胎土目4か所 1600~1610年代
487		唐津	皿	11.0	4.0	2.9	灰緑-7'色(7.5Y5/2)	精良	胎土目4か所 1600~1610年代
488		唐津	碗	11.8	4.5	3.8	灰緑-7'色(5Y5/3)	精良	口縁部輪花(胴部中心下釉なし)
489		唐津	碗	—	3.0	(2.4)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	内側と外の上部釉 底部は釉ハギ
490		唐津	碗	—	5.3	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	外面施釉後釉ハギ 内面施釉・表面貫入
491		瀬戸	皿	—	5.6	(2.0)	灰緑-7'色(7.5Y5/2)	精良	静止イトキリ(蛇の目高台)
492		瀬戸	おろし皿	10.4	4.5	1.7	7'-7'黄色(7.5Y6/3)	精良	底部イトキリ
493		瀬戸	菊皿	10.4	6.6	2.1	7'-7'色(5Y5/6)	精良	1590年代
494		瓦質土器	?	(12.0)	—	(3.0)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	雷文スタンプ文様
495		瓦質土器	羽釜	24.2	—	(4.2)	灰白色(5Y8/1)	粗砂	
496		瓦	軒丸瓦	—	—	—	灰白色(5Y8/1)	細砂	縦13.2 横13.9 中央厚1.2cm
497		備前焼	?	—	3.2	—	暗赤色(7.5R3/4)	精良	外面底部イトキリ
498	溝12	白磁	高台付碗	—	6.8	—	浅黄色(2.5Y7/3)	精良	外面釉なし 内面施釉
499		備前焼	擂鉢	—	—	—	灰赤色(10R6/2)	細砂	
500	溝15	亀山焼	甕	(50.0)	—	—	暗灰色(N3/)	細砂	
501		唐津	高台付碗	—	3.8	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	胎土目

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
502	竪穴住居 6	弥生土器	壺	17.0	—	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂		
503		弥生土器	壺	—	5.3	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂	外面ハケ状工具によるナデ? 内面ナ デ?	
504		弥生土器	壺	26.0	—	—	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂	外面紐通し孔 1 個 沈線 6 条残	
505		弥生土器	壺	13.8	—	—	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂		
506		弥生土器	壺	15.6	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂		
507		弥生土器	甗	14.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
508		弥生土器	甗	13.0	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂		
509		弥生土器	甗	19.4	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂		
510		弥生土器	甗	16.6	—	—	橙色 (2. 5YR6/6)	細砂	黒斑 B	
511		弥生土器	高杯	21.8	—	—	橙色 (5YR6/8)	精良		
512		弥生土器	高杯	—	13.7	—	橙色 (5YR6/8)	精良		
513		弥生土器	高杯	—	10.5	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
514		弥生土器	高杯	—	14.4	—	橙色 (5YR7/6)	細砂		
515		弥生土器	高杯	19.0	8.0	(10.0)	鈍橙色 (10YR7/3)	精良		
516		弥生土器	壺	7.9	3.2	7.1	橙色 (5YR6/6)	精良		
517		弥生土器	手捏ね鉢	4.2	1.5	3.1	灰褐色 (7. 5YR4/2)	粗砂	完形	
518		弥生土器	鉢	38.0	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂		
519		製塩土器	—	—	5.8	—	鈍橙色 (5YR7/4)	礫		
520		製塩土器	—	—	5.6	—	鈍橙色 (5YR7/4)	礫		
521		製塩土器	—	—	5.4	—	褐色 (7. 5YR4/3)	粗砂		
522		製塩土器	—	—	6.0	—	鈍橙色 (5YR7/4)	礫		
523		弥生土器	器台	26.6	25.2	23.8	橙色 (2. 5YR6/8)	粗砂	ほぼ完形 黒斑 B C	
524		竪穴住居 7	弥生土器	甗	(19.5)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
525	弥生土器		甗	(13.8)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂、粗砂	スス B'	
526	弥生土器		甗	(17.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂		
527	弥生土器		高杯	(12.2)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂、粗砂		
528	弥生土器		高杯	—	—	—	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂		
529	竪穴住居 8	弥生土器	甗	—	(5.9)	—	灰黄褐色 (10YR6/2)	細砂		
530	竪穴住居 9	弥生土器	鉢	11.1	4.5	9.7	橙色 (2. 5YR6/8)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑 C	
531		弥生土器	高杯	19.0	—	—	明赤褐色 (5YR5/8)	細砂、粗砂	透し孔 4 方向	
532		弥生土器	鉢	(13.4)	4.0	(4.9)	橙色 (2. 5YR6/8)	細砂		
533	竪穴住居 10	弥生土器	壺	(16.9)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
534		弥生土器	壺	(16.2)	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂		
535		弥生土器	壺	(12.7)	—	—	明赤褐色 (2. 5YR5/6)	細砂		
536		弥生土器	甗	(17.2)	—	—	橙色 (2. 5YR6/6)	粗砂、礫		
537		弥生土器	甗	(15.2)	—	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂		
538		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂		
539		弥生土器	高杯	—	—	—	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂、粗砂		
540		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色 (10R6/6)	細砂		
541		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、礫		
542		弥生土器	高杯	(20.6)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	粗砂		
543		弥生土器	高杯	(20.2)	—	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂		
544		弥生土器	高杯	(21.2)	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂		
545		弥生土器	高杯	—	11.4	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔 1 方向のみ確認	
546		製塩土器	—	—	5.4	—	浅黄褐色 (10YR8/3)	細砂、粗砂		
547	竪穴住居 12	弥生土器	甗	14.2	—	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂		
548		弥生土器	甗	10.7	—	—	黒褐色 (7. 5YR3/1)	細砂、粗砂		
549		弥生土器	高杯	—	11.3	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	透し孔 4 方向	
550	竪穴住居 13	弥生土器	甗	(16.5)	—	—	橙色 (2. 5YR6/6)	細砂		
551		弥生土器	甗	—	7.1	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂		
552	竪穴住居 14	弥生土器	甗	15.5	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、礫		
553		弥生土器	甗	20.0	—	—	鈍黄褐色 (10YR7/4)	粗砂		
554		弥生土器	高杯	15.9	9.9	8.0	鈍橙色～ 橙色 (7. 5YR6/4～6/6)	細砂	ほぼ完形	
555		弥生土器	高杯	—	15.0	—	橙色 (2. 5YR6/6)	精良		
556		弥生土器	壺	5.1	10.7	12.5	浅黄褐色 (7. 5YR8/4)	細砂、礫	ほぼ完形	
557		弥生土器	高杯	(10.0)	(9.6)	(8.9)	橙色 (5YR6/6)	粗砂、礫		
558		弥生土器	鉢	41.4	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂、礫	スス C	
559		製塩土器	—	—	5.3	—	暗灰色～黒色 (N3/1)	粗砂、礫		
560		竪穴住居 15	弥生土器	高杯	15.2	—	—	鈍黄褐色 (10YR7/3)	精良	黒斑 B
561			弥生土器	高杯	11.6	—	—	鈍黄褐色 (10YR7/3)	精良	

フロヤ調査区土器観察表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
562	竪穴住居15	弥生土器	鉢	14.0	6.5	5.9	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	黒斑B	
563		弥生土器	鉢	(37.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑B	
564	竪穴住居16	弥生土器	高杯	—	(8.7)	—	鈍橙色(7.5YR7/4) 橙色(7.5YR7/6)	細砂		
565		弥生土器	鉢	(33.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫	黒斑A	
566	竪穴住居17	弥生土器	器台	16.4	—	—	橙色(2.5Y6/8)	細砂、礫		
567		弥生土器	甕	(9.7)	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂、粗砂		
568		弥生土器	鉢	15.6	4.0	7.6	鈍赤褐色(5YR5/4)	粗砂、礫	黒斑B	
569	銅鐸埋納塚	弥生土器	台付鉢	(13.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	肩部凹線2条	
570	袋状土壙3	弥生土器	壺	—	8.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑C	
571	袋状土壙6	弥生土器	甕	(11.9)	—	—	鈍黄褐色(10YR5/3)	細砂、粗砂		
572		弥生土器	甕	(11.4)	—	—	赤褐色(5YR4/6)	細砂		
573		弥生土器	甕	(12.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
574		弥生土器	壺	(17.3)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
575		弥生土器	甕	(17.3)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、礫		
576		弥生土器	甕	(17.3)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	ススA	
577	袋状土壙7	弥生土器	甕	(14.4)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂		
578		弥生土器	甕	(15.1)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂		
579		弥生土器	甕	(12.9)	—	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂	ススA	
580		弥生土器	甕	(13.7)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂		
581		弥生土器	高杯	(22.7)	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
582		弥生土器	高杯	(19.4)	—	—	黒褐色(10YR3/2)	粗砂		
583		弥生土器	高杯	(20.3)	(13.9)	21.3	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
584		弥生土器	高杯	—	12.2	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
585		袋状土壙10	弥生土器	壺	33.2	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	黒斑B
586			弥生土器	甕	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
587	弥生土器		甕	—	6.0	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂		
588	弥生土器		高杯	(21.3)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
589	製塩土器	—	—	6.5	—	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂、礫			
590	袋状土壙11	弥生土器	壺	17.1	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂、礫	螺旋状凹線	
591		弥生土器	長頸壺	15.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	螺旋状凹線	
592		弥生土器	甕	(6.6)	—	—	黒褐色(10YR3/1)	細砂		
593		弥生土器	甕	—	7.0	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	ススC	
594		弥生土器	甕	—	(8.4)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑C	
595		弥生土器	甕	(11.5)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂		
596		弥生土器	甕	(12.9)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂		
597		弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
598		弥生土器	甕	11.1	5.0	22.0	橙色(5YR6/6)	細砂		
599		弥生土器	甕	(18.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A	
600		弥生土器	甕	(13.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫	タタキ? ススB'	
601		弥生土器	高杯	(21.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
602		弥生土器	高杯	(27.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
603		弥生土器	高杯	24.0	—	—	赤褐色(10R6/8)	粗砂	内外面丹塗り 角閃石多い	
604		弥生土器	高杯	—	7.4	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
605		弥生土器	高杯	—	(12.4)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
606	弥生土器	高杯	—	(14.8)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑C		
607	弥生土器	台付鉢?	(31.3)	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、礫			
608	製塩土器	—	—	5.5	—	灰黄色(2.5Y6/2)	粗砂			
609	製塩土器	—	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	粗砂			
610	製塩土器	—	—	6.4	—	暗灰色(N3/)	細砂			
611	製塩土器	—	—	5.6	—	鈍褐色(2.5YR6/4) 鈍赤褐色(2.5YR5/4)	粗砂			
612	製塩土器	—	—	6.0	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂			
613	製塩土器	—	—	5.4	—	灰黄褐色(10YR5/2)	粗砂			
614	製塩土器	—	—	5.4	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂、礫			
615	袋状土壙12	弥生土器	壺	24.6	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
616		弥生土器	甕	12.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
617		弥生土器	壺	12.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	表面二次焼成 ススB 黒斑AB	
618		弥生土器	甕	13.8	7.9	26.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁部凹線? 2~3条	
619		弥生土器	高杯	24.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	口縁部に凹線3条	
620		弥生土器	高杯	—	13.6	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	脚裾部クシガキ沈線(3段残/6条)・ヘラガキ沈線(1か所残/7本)	
621		弥生土器	器台	16.5	13.9	15.6	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	胴部透し孔2個 黒斑C	



フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
622	袋状土壇13	弥生土器	壺	8.4	—	—	褐灰色(10YR6/1)	粗砂、礫	黒斑B
623		弥生土器	壺	—	6.0	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	ススC
624		弥生土器	高杯	(21.0)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
625		弥生土器	高杯	24.5	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススA
626		弥生土器	高杯	(25.0)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
627		弥生土器	高杯	(29.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	ススA?
628		弥生土器	高杯	(22.7)	13.3	19.5	橙色(5YR7/6)	粗砂	
629	袋状土壇16	弥生土器	甗	(13.9)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	肩部外面平行タタキ
630	袋状土壇17	弥生土器	甗?	20.9	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B
631	袋状土壇18	弥生土器	壺	(17.0)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
632		弥生土器	甗	(14.5)	—	—	淡橙色(5YR8/4)	粗砂	
633		弥生土器	壺	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
634		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(2.5YR5/3)	細砂	
635		弥生土器	壺	(10.0)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
636		弥生土器	鉢?	(11.2)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂、礫	内外面丹塗り
637		弥生土器	壺	(17.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂、礫	
638		弥生土器	甗	—	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	
639		弥生土器	甗	(11.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR4/3)	細砂	
640		弥生土器	甗	(13.9)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
641		弥生土器	甗	(14.9)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
642		弥生土器	甗	(15.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
643		弥生土器	壺	(11.8)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	
644		弥生土器	甗	(14.1)	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	
645		弥生土器	甗	(17.9)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
646		弥生土器	甗	(11.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
647		弥生土器	甗	(12.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
648		弥生土器	甗	(12.7)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	
649		弥生土器	甗	(14.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR5/3)	粗砂、礫	
650		弥生土器	甗	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
651		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
652		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
653		弥生土器	甗	—	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
654		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
655		弥生土器	甗	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
656		弥生土器	器台	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
657		弥生土器	甗	—	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
658		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
659		弥生土器	甗	—	—	—	赤色(10R5/8)	細砂	
660		弥生土器	甗	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
661		弥生土器	甗	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
662		弥生土器	高杯甗	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
663		弥生土器	甗	—	(10.2)	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	粗砂	
664		弥生土器	甗	—	(11.3)	—	灰色(5Y4/1)	粗砂	
665		弥生土器	甗	—	(10.6)	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
666		弥生土器	甗	—	(4.0)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
667		弥生土器	甗	—	(7.4)	—	明赤褐色(5YR5/6)	粗砂、礫	
668		弥生土器	甗	—	(6.0)	—	褐色(7.5YR4/4)	粗砂	
669		弥生土器	甗	6.2	—	—	暗赤灰色(2.5YR3/1)	粗砂	
670		弥生土器	甗	—	(6.0)	—	褐色(7.5YR4/4)	粗砂	
671		弥生土器	甗	—	(6.0)	—	鈍橙色(10YR6/4)	細砂	
672		弥生土器	甗	—	(5.9)	—	黒褐色(2.5Y3/2)	細砂	
673	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍赤褐色(2.5YR4/4)	細砂、礫		
674	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
675	弥生土器	高杯	(21.0)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂		
676	弥生土器	高杯	(20.7)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
677	弥生土器	高杯	(24.8)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6) チョコレート	細砂	内外面丹塗り	
678	弥生土器	高杯	(11.8)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂		
679	弥生土器	高杯	—	(9.5)	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
680	弥生土器	高杯	—	(9.7)	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
681	弥生土器	高杯	—	(11.3)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
682	弥生土器	高杯	—	12.4	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫		

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
683	袋状土壇18	弥生土器	高杯	—	(7.4)	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂		
684		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
685		弥生土器	高杯	—	12.8	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、礫		
686		弥生土器	蓋?	(14.8)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、礫		
687		弥生土器	壺?	(24.1)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
688		弥生土器	器台	—	(28.4)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
689		製塩土器	—	—	5.0	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂		
690		製塩土器	—	—	3.4	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	粗砂		
691		製塩土器	—	—	6.1	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂		
692		製塩土器	—	—	(6.0)	—	灰黄褐色(10YR5/2)	粗砂		
693		製塩土器	—	—	6.1	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂		
694	袋状土壇19	弥生土器	甕	9.2	4.2	8.7	赤橙色(10R6/6)	細砂、礫	完形	
695		弥生土器	甕	(12.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
696		弥生土器	甕	(14.6)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	ススA	
697		弥生土器	壺?	(16.2)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂		
698		弥生土器	高杯	21.8	—	—	橙色(5Y6/6)	細砂、粗砂		
699		弥生土器	高杯	24.5	—	—	橙色(2.5YR7/8~6/8)	細砂、粗砂		
700		弥生土器?	高杯	(11.9)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
701		弥生土器	台付鉢	—	14.1	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
702		製塩土器	—	—	6.2	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂		
703		袋状土壇20	弥生土器	高杯	23.4	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂、礫	脚柱部透し孔4方向2段6個(内2個未貫通) 黒斑A
704	弥生土器		高杯	24.8	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A	
705	弥生土器		高杯	27.6	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	ススA	
706	弥生土器		高杯	—	12.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔(3つ孔3か所・1つ孔3か所)・ヘラガキ沈線(4本1か所・5本4か所・6本1か所)	
707	弥生土器		高杯	—	15.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚裾部透し孔(1個残存)・ヘラガキ沈線(4本3か所・5本1か所)4か所残 黒斑C	
708	弥生土器	甕	15.1	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	ススB		
709	袋状土壇22	弥生土器	甕?	—	7.8	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	ススC?	
710	弥生土器	甕	—	4.7	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂、粗砂	ススC?		
711	袋状土壇23	弥生土器	壺	15.0	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂		
712	袋状土壇24	弥生土器	高杯	(21.7)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
713	袋状土壇25	弥生土器	甕	23.0	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂、礫		
714	袋状土壇27	弥生土器	鉢	(59.0)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
715	袋状土壇28	弥生土器	甕	14.2	—	—	橙色(5YR7/8~6/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑B	
716	弥生土器	甕	(30.6)	—	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂		
717	袋状土壇29	弥生土器	高杯	(10.6)	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
718	製塩土器	—	—	6.5	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	粗砂	黒斑C	
719	弥生土器	甕	15.8	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
720	袋状土壇31	弥生土器	甕	16.1	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
721		弥生土器	高杯	(19.1)	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
722		弥生土器	高杯	(18.0)	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
723	袋状土壇34	弥生土器	甕	11.4	—	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂	ススB
724	袋状土壇35	弥生土器	甕	13.0	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
725		弥生土器	壺	17.4	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	
726		弥生土器	高杯	19.6	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
727		弥生土器	高杯	20.6	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	
728		弥生土器	高杯	23.2	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
729		弥生土器	高杯	(24.3)	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
730		弥生土器	壺	(13.4)	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	体部にタタキメわずか
731	袋状土壇36	弥生土器	甕	13.6	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
732		弥生土器	甕	(15.1)	—	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	黒斑B
733		弥生土器	高杯	22.2	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
734		弥生土器	鉢	5.7	4.5	8.0	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
735		弥生土器	器台	(23.6)	22.4	25.5	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁部刻目6本と4本のみ確認 体部凹線20~21条 黒斑C
736	弥生土器	甕	(12.5)	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂		
737	袋状土壇37	弥生土器	高杯	(22.0)	—	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
738	製塩土器	—	—	(5.7)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂、細砂、礫		
739	袋状土壇38	弥生土器	甕	16.4	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
740	袋状土壇40	弥生土器	高杯	(20.6)	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
741	袋状土壙41	弥生土器	壺	(13.6)	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
742	袋状土壙42	弥生土器	甕	(23.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	ススA
743	袋状土壙43	弥生土器	高杯	20.2	14.0	22.0	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	脚裾部ヘラガキ沈線5~6条1組3か所 残(推定6組)
744		弥生土器	高杯	23.3	13.3	22.1	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	脚柱部クシガキ沈線7条1組6段 透し 孔3方5段15個(内5個未貫通) 脚裾部 ヘラガキ沈線8条1組6か所・7条1組 1か所
745	袋状土壙44	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	
746	袋状土壙44	弥生土器	器台	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	
747	袋状土壙46	弥生土器	壺	(12.6)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
748		弥生土器	高杯	—	—	(7.9)	赤褐色(10R6/8)	粗砂	
749		弥生土器	高杯	—	15.3	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
750		弥生土器	高杯	(16.6)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	
751	袋状土壙47	弥生土器	甕	13.1	6.2	24.3	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	口縁部歪み ススB'
752		弥生土器	器台	(23.0)	22.6	23.4	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	体部沈線4条 方形透し孔3方向 円形 縦2列透し孔3方向 脚裾部凹線5条 黒斑B・C
753		製塩土器	—	—	5.2	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススC
754	袋状土壙48	弥生土器	高杯	21.4	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
755		弥生土器	高杯	—	16.4	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	脚柱部透し孔3方向(未貫通)
756		弥生土器	鉢?	7.8	4.2	—	灰黄色(2.5YR6/2)	細砂	
757		製塩土器	—	—	5.6	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	ススC
758		製塩土器	—	—	4.6	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
759		弥生土器	壺	(12.2)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
760	袋状土壙51	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
761		弥生土器	壺	12.0	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂	
762		弥生土器	高杯	19.8	—	—	鈍橙色(5YR7/3)~ 赤褐色(10R6/6)	細砂	
763		弥生土器	蓋	(10.5)	3.8	—	淡褐色(5YR8/3)	細砂	口縁部歪み
764		弥生土器	蓋	8.6	4.4	(8.6)	灰白色(10YR8/2)	細砂	
765	袋状土壙52	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫	
766		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
767	袋状土壙53	弥生土器	甕	14.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
768		弥生土器	甕	17.0	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
769		弥生土器	壺	13.6	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
770	袋状土壙54	弥生土器	壺	13.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
771		弥生土器	甕	11.5	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	
772		弥生土器	甕	13.8	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	ススA
773		弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
774		弥生土器	甕	—	4.9	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
775		弥生土器	甕	—	5.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススC
776		弥生土器	甕	—	5.6	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	
777		弥生土器	高杯	18.9	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
778		弥生土器	鉢	18.4	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
779		弥生土器	器台	—	22.9	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔2個確認
780	袋状土壙56	弥生土器	甕	(16.2)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	
781		弥生土器	壺	(16.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑C
782		弥生土器	高杯	(20.6)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂、礫	
783		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
784		弥生土器	高杯	—	(12.8)	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
785		弥生土器	鉢	(31.7)	—	(18.5)	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	ススA
786	袋状土壙57	弥生土器	甕	14.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	体部刺突文(クシガキ状) タタキメ
787		弥生土器	甕	(14.6)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
788		弥生土器	甕	(16.1)	—	—	鈍橙色(5YR7/4) 橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
789		弥生土器	甕	—	(6.5)	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
790		弥生土器	壺	13.7	8.5	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
791		弥生土器	高杯	(22.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
792		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)~ 橙色(6/6)	細砂、粗砂	
793		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
794		袋状土壙58	弥生土器	高杯	(18.9)	9.0	11.5	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂、礫
795	袋状土壙59	弥生土器	甕	(14.7)	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	粗砂	
796		弥生土器	壺	(14.8)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
797	袋状土壙59	弥生土器	壺	(18.5)	—	—	橙色(5YR7/6~6/6)	細砂、粗砂、礫		
798		弥生土器	甕	12.9	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑B	
799		弥生土器	甕	(20.2)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
800		弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚柱部透し孔4方向(2個1組3方向+1個の透し孔)	
801		弥生土器	高杯	—	12.1	—	橙色(5YR6/8)	細砂		
802		弥生土器	壺	—	7.5	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
803	袋状土壙62	弥生土器	甕	13.7	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
804		弥生土器	甕	(15.1)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
805		製塩土器	—	—	6.0	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
806	袋状土壙62	製塩土器	—	—	6.0	—	黒褐色(2.5Y2/1)	細砂、粗砂		
807		製塩土器	—	—	5.8	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂		
808		製塩土器	—	—	5.8	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
809	袋状土壙64	弥生土器	壺	(13.0)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	ススC?	
810		弥生土器	壺	(15.5)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
811		弥生土器	壺	(14.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B	
812		弥生土器	甕	12.3	(5.7)	23.6	橙色(5YR7/6)~ 鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	ススB 黒斑B・C	
813		弥生土器	甕	(14.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB 黒斑B・C	
814		弥生土器	甕	—	7.2	—	橙色(5YR6/6)	粗砂、礫		
815		弥生土器	甕	(14.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススB	
816		弥生土器	甕	15.5	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)~ 鈍黄橙色(7/2)	礫、細砂、粗砂	ススB'	
817		弥生土器	甕	(18.4)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
818		弥生土器	甕	42.8	—	—	淡橙色(5YR8/4)~ 橙色(7/6)	細砂、粗砂		
819		弥生土器	高杯	(20.5)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
820		弥生土器	壺	(15.5)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
821		弥生土器	高杯	—	15.6	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
822		弥生土器	高杯	12.4	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、礫		
823		製塩土器	—	—	5.7	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂、礫		
824		製塩土器	—	—	5.0	—	暗灰色(2.5YR5/2)	細砂、粗砂、礫		
825		製塩土器	—	—	6.3	—	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂、粗砂、礫		
826		弥生土器	器台?	—	(20.1)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	上下不詳	
827		袋状土壙65	弥生土器	壺	(13.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	
828			弥生土器	高杯	—	(12.9)	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
829	袋状土壙66	弥生土器	甕	(15.0)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	チョコレート色 角閃石	
830	袋状土壙67	弥生土器	壺	13.3	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
831		弥生土器	甕	15.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
832		弥生土器	甕	18.4	—	—	明褐色(5YR7/2)	細砂	黒斑BC	
833		弥生土器	台付壺	19.3	12.7	25.8	橙色(2.5YR7/6)	細砂	透し孔2個組7方向内9個貫通5個未貫通 脚裾部クシガキ文7本組7方向	
834		弥生土器	高杯	18.2	9.9	12.5	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚裾部ヘラガキ文6~8条組6方向	
835	弥生土器	高杯	21.0	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂			
836		弥生土器	高杯	—	13.7	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔5方向3段残(未貫通あり) 黒斑C	
837	袋状土壙68	弥生土器	高杯	24.5	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
838	袋状土壙71	弥生土器	甕	(13.2)	6.0	23.1	橙色(5YR6/6)	粗砂	ほぼ完形	
839		弥生土器	甕	9.5	4.3	13.6	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂、礫	ほぼ完形 ススB 黒斑B	
840		弥生土器	甕	12.6	5.4	25.5	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂		
841		弥生土器	甕	(11.4)	—	—	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粗砂		
842		弥生土器	高杯	(16.8)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂		
843	袋状土壙73	弥生土器	甕	15.8	—	—	橙色(5YR7/6)	精良		
844	袋状土壙74	弥生土器	壺	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	ススA	
845		弥生土器	甕	(11.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ススB'	
846		弥生土器	甕	13.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ススB'	
847		弥生土器	甕	19.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂		
848		弥生土器	高杯	—	15.1	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂		
849		弥生土器	高杯	—	7.0	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂		
850			弥生土器	?	(6.2)	6.8	5.0	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	モミ痕
851	袋状土壙76	弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススA	
852		弥生土器	甕	13.6	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂		
853		弥生土器	甕	15.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、礫		
854		弥生土器	高杯	24.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫		

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
855	袋状土壙76	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7. 5YR6/4)	細砂	
856		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6. 5/6)	細砂	
857		弥生土器	高杯	—	15. 7	—	明赤褐色(2. 5YR5/6)	粗砂	
858		製塩土器	—	—	5. 9	—	褐灰色(7. 5YR4/1)	粗砂	
859	袋状土壙77	弥生土器	壺	12. 0	—	—	橙色(2. 5YR6/6)	細砂	
860		弥生土器	甕	14. 4	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
861		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2. 5YR6/8)	細砂	
862		弥生土器	鉢	46. 8	—	—	鈍橙色(7. 5YR7/4)	細砂、礫	
863	袋状土壙78	弥生土器	壺	(12. 7)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、礫	
864		弥生土器	甕	13. 3	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、礫	ススB'
865		弥生土器	壺	—	7. 8	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	ススB・C 黒斑C
866	袋状土壙79	土師器	甕?	12. 8	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	ススB
867		弥生土器	甕	18. 9	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、礫	ススB
868		土師器	高杯	20. 4	—	—	赤橙色(10R6/8)	粗砂	
869		製塩土器	—	—	6. 0	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、礫	
870		製塩土器	—	—	5. 6	—	淡黄色(2. 5Y8/3)	粗砂	ススA
871		製塩土器	—	—	5. 7	—	灰黄色(2. 5Y6/2)	細砂、礫	
872		製塩土器	—	—	6. 8	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、礫	
873		製塩土器	—	—	5. 6	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	
874		製塩土器	—	—	61. 5	—	浅黄色(2. 5Y7/3)	粗砂、礫	
875		製塩土器	—	—	61. 5	—	鈍黄色(2. 5Y6/4)	細砂	
876	袋状土壙80	弥生土器	壺	20. 4	—	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂、礫	黒斑C
877		弥生土器	甕	13. 1	—	—	橙色(5YR7/6)		
878		弥生土器	甕	—	12. 9	—	鈍橙色(7. 5YR7/4)	粗砂	黒斑A
879		弥生土器	甕	12. 8	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
880		弥生土器	甕	11. 0	—	—	浅黄褐色(10YR8/3~8/4)	粗砂	ススA 黒斑B
881		弥生土器	甕	14. 2	5. 3	25. 1	鈍橙色(7. 5YR7/4)	細砂、礫	ススB'
882		製塩土器	—	7. 5	3. 4	9. 6	浅黄色(2. 5Y7/3)	細砂、礫	黒斑C
883		製塩土器	—	—	6. 4	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	粗砂	
884		製塩土器	—	—	6. 0	—	灰黄色(2. 5Y6/2)	粗砂	
885		製塩土器	—	—	5. 7	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂	
886		製塩土器	—	—	6. 3	—	灰黄色(2. 5Y6/2)	粗砂	
887		製塩土器	—	—	6. 5	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	
888		袋状土壙81	弥生土器	高杯	21. 0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫
889	袋状土壙83	弥生土器	甕	14. 2	—	—	浅黄褐色(7. 5YR8/4)	細砂	
890	袋状土壙84	弥生土器	壺	(16. 0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	
891		弥生土器	壺	15. 0	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	粗砂	
892		弥生土器	壺	14. 0	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	
893		弥生土器	壺	(18. 9)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
894		弥生土器	甕	(13. 0)	—	—	橙色(2. 5YR6/6)	細砂	
895		弥生土器	甕	15. 7	—	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	粗砂	
896		弥生土器	甕	(13. 0)	—	—	橙色(7. 5YR7/6)	粗砂	
897		弥生土器	甕	(15. 0)	—	—	鈍橙色(7. 5YR7/4)	粗砂	
898		弥生土器	甕	(15. 3)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
899		弥生土器	甕	14. 4	4. 7	25. 8	鈍橙色(10YR7/3)	礫	ススB
900		弥生土器	甕	11. 8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ススB'
901		弥生土器	甕	(18. 0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、礫	ススB 黒斑B
902		弥生土器	高杯	(19. 6)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススB'
903		弥生土器	高杯	(21. 4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
904		弥生土器	器杯	—	15. 5	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
905		製塩土器	—	—	5. 8	—	灰黄色(10YR6/2)	細砂、礫	
906		製塩土器	—	—	6. 0	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂、礫	
907	製塩土器	—	—	5. 7	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、礫		
908	製塩土器	—	—	6. 0	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、礫		
909	製塩土器	—	—	5. 9	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂、礫		
910	袋状土壙85	弥生土器	甕	14. 4	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
911		弥生土器	甕	15. 0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
912		弥生土器	甕	14. 2	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、礫	ススA
913		弥生土器	甕	12. 5	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、礫	
914		弥生土器	甕	13. 0	—	—	橙色(7. 5YR6/6)	細砂、礫	黒斑A・B
915		弥生土器	甕	12. 1	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススB

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載道構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
916	袋状土壙85	弥生土器	壺	13.2	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4~8/6)	細砂、礫		
917		弥生土器	壺	12.9	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂		
918		弥生土器	甕	19.1	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂		
919		弥生土器	高杯	20.8	—	—	橙色(5YR7/6~7/8)	細砂、礫		
920	袋状土壙86	弥生土器	壺	13.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ススA?	
921		弥生土器	壺	(16.0)	—	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂	黒斑B	
922		弥生土器	壺	12.8	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂		
923		弥生土器	甕	17.8	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
924		弥生土器	甕	14.8	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	粗砂	黒斑B	
925		弥生土器	甕	13.0	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂、礫	黒斑B	
926		弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
927		弥生土器	甕	15.7	—	—	鈍褐色(7.5YR4/5)	粗砂	ススA	
928		弥生土器	甕	17.9	—	33.2	—	—	—	
929		弥生土器	壺	14.7	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂、礫		
930		弥生土器	甕	15.1	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、礫	黒斑B	
931		弥生土器	甕	14.5	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、礫	ススB'	
932		弥生土器	甕	12.6	6.5	23.3	橙色(5YR6/6)	粗砂	完形 ススC 黒斑A~C	
933		弥生土器	小型甕	10.0	—	(13.0)	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	ススA	
934		弥生土器	甕	14.6	5.7	23.3	鈍褐色(7.5YR7/4)	礫	完形	
935		弥生土器	高杯	18.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、礫	黒斑A	
936		弥生土器	高杯	18.6	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
937		弥生土器	高杯	20.6	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	ススA	
938		弥生土器	高杯	15.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂		
939		弥生土器	高杯	(13.7)	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
940		弥生土器	高杯	—	13.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	黒斑C	
941		弥生土器	高杯	—	16.4	—	明赤褐色(5YR5/6)	粗砂		
942		弥生土器	鉢	40.7	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	黒斑B・C	
943		製塩土器	—	—	5.0	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	粗砂		
944		製塩土器	—	—	4.9	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	礫		
945		製塩土器	—	—	6.0	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	粗砂		
946		製塩土器	—	—	4.6	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
947		袋状土壙86	製塩土器	—	—	6.2	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂、礫	
948		製塩土器	—	—	5.0	—	鈍赤褐色(2.5Y5/3)	礫		
949		製塩土器	—	—	(6.4)	—	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂		
950		製塩土器	—	—	5.2	—	暗灰色(N3/)	粗砂		
951		製塩土器	—	—	5.6	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂		
952		製塩土器	—	—	4.8	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、礫		
953		製塩土器	—	—	4.9	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂		
954	製塩土器	—	—	5.1	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂			
955	製塩土器	—	—	5.1	—	鈍赤褐色(2.5Y5/4)	粗砂			
956	製塩土器	—	—	5.2	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂			
957	製塩土器	—	—	5.7	—	灰色(5Y6/1)	細砂、礫			
958	製塩土器	—	—	5.6	—	鈍褐色(2.5YR6/4)	粗砂			
959	製塩土器	—	—	(5.3)	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、礫			
960	製塩土器	—	—	5.0	—	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂			
961	製塩土器	—	—	5.2	—	黒褐色(2.5YR3/1)	粗砂			
962	製塩土器	—	—	(6.6)	—	黒色(N2/)	粗砂			
963	製塩土器	—	—	5.4	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂			
964	製塩土器	—	—	6.5	—	暗灰色(N3/)	粗砂			
965	製塩土器	—	—	5.8	—	赤褐色(10YR6/6)	粗砂、礫			
966	製塩土器	—	—	4.6	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、礫			
967	製塩土器	—	—	6.4	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	粗砂			
968	製塩土器	—	—	6.6	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	礫			
969	製塩土器	—	—	5.4	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂			
970	製塩土器	—	—	4.8	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂			
971	製塩土器	—	—	5.8	—	灰黄色(2.5Y6/2)	粗砂、礫			
972	製塩土器	—	—	5.3	—	鈍褐色(10YR7/3)	細砂、礫			
973	製塩土器	—	—	5.6	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	粗砂			
974	製塩土器	—	—	5.0	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、礫			
975	土壙27	弥生土器	長頸壺	(20.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	精良、粗砂、礫		
976		弥生土器	長頸壺	(21.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
977	土壇27	弥生土器	壺	13.4	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
978		弥生土器	甕	14.6	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
979		弥生土器	甕	11.0	—	21.8	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂	
980		弥生土器	甕	23.2	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	
981		弥生土器	高杯	19.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
982		弥生土器	高杯	—	13.6	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
983		弥生土器	台付鉢	16.0	6.5	14.6	橙色(5YR6/6)	細砂	
984	土壇30	弥生土器	甕	(14.4)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	白い
985		弥生土器	壺	(16.0)	—	—	橙色(5YR6/6~7/6)	細砂、粗砂	
986		弥生土器	甕	—	(8.9)	—	灰褐色(7.5Y6/2)	細砂、粗砂	黒斑B
987	土壇31	弥生土器	高杯	—	14.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	脚裾部透し孔上2個・下1個残・凹線?
988		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
989	土壇33	弥生土器	鉢	(13.4)	—	5.3	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂	
990	土壇36	弥生土器	壺	13.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
991	土壇39	弥生土器	高杯	22.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
992		弥生土器	高杯	—	16.2	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
993		弥生土器	器台	(35.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
994	土壇40	弥生土器	台付鉢	—	8.6	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	黒斑C
995	土壇42	弥生土器	鉢	36.0	10.8	17.4	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	ほぼ完形 黒斑B・C
996	土壇43	弥生土器	壺	12.2	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	砂粒多い
997		弥生土器	甕	—	6.2	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	底部穿孔(径1.7cm) ススC
998		弥生土器	甕	13.2	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	ススB
999		弥生土器	台付鉢	—	14.6	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
1000		弥生土器	器台	—	22.3	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	体部円形透し孔5方向?
1001	土壇56	弥生土器	甕	15.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	口縁部凹線2条 ススB
1002	土壇58	弥生土器	壺	15.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
1003		弥生土器	壺	—	8.2	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
1004		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
1005		弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	
1006		弥生土器	甕	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススA
1007		弥生土器	甕	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1008		弥生土器	甕	9.0	(4.0)	15.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB
1009		弥生土器	高杯	—	12.0	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
1010		弥生土器	高杯	(15.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、粗砂	
1011		製塩土器	—	—	4.9	—	—	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂、粗砂、礫
1012	土壇59	弥生土器	壺	13.2	6.7	27.9	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑B BC
1013		弥生土器	壺	12.0	6.3	25.1	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	肩部圧痕文 ほぼ完形 黒斑B・C
1014		弥生土器	壺	—	6.6	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	黒斑B・C
1015		弥生土器	壺	12.5	4.8	25.2	灰白色(10YR7/1)	細砂	ススB 黒斑A
1016		弥生土器	甕	14.4	—	—	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂	ススA
1017		弥生土器	甕	14.0	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
1018		弥生土器	甕	15.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	
1019		弥生土器	甕	—	6.6	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
1020		弥生土器	甕	—	5.8	—	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂	
1021		弥生土器	甕	—	5.8	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
1022		弥生土器	高杯	—	10.3	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススC
1023		弥生土器	器台	20.7	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	口縁凹線4条・棒状浮文3個×4組
1024		弥生土器	器台	—	21.2	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	沈線8条2段残 透し孔上段5方向・下段7方向
1025	弥生土器	器台	17.8	19.3	27.1	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形	
1026	土壇60	弥生土器	甕	13.8	6.2	(26.5)	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部焼成後の穿孔 ススC
1027		弥生土器	甕	15.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
1028		弥生土器	甕	14.6	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススA
1029	土壇61	弥生土器	壺	10.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
1030		弥生土器	高杯	—	11.5	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	脚裾部未貫通の孔2個残
1031		弥生土器	鉢	53.8	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
1032		弥生土器	鉢	—	12.1	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	
1033	土壇62	弥生土器	高杯	18.6	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
1034		弥生土器	鉢	(18.3)	7.1	5.9	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
1035	土壇71	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	肩部貝殻圧痕文
1036	土壇76	弥生土器	高杯	(19.5)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1037		弥生土器	高杯	—	(13.9)	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑C

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1038	土壌76	弥生土器	高杯	—	(13.0)	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
1039	土壌81	弥生土器	高杯	—	(15.2)	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
1040	土壌83	弥生土器	壺	11.8	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
1041		弥生土器	高杯	24.0	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
1042	土壌84	製塩土器	—	—	6.3	—	黄灰色 (2.5Y5/1)	粗砂	
1043	土壌88	弥生土器	甕	(14.3)	—	—	褐色 (7.5YR4/3)	細砂	
1044	土壌91	弥生土器	甕	16.7	—	—	橙色 (5YR6/8)	粗砂	
1045	土壌92	弥生土器	壺	10.4	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	黒斑A
1046		弥生土器	壺	16.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR6/4)	粗砂、礫	黒斑A・B
1047		弥生土器	壺	12.0	—	—	橙色 (5YR5.5/6)	細砂	
1048		弥生土器	甕	13.2	—	—	鈍橙色 (10YR7/4)	細砂	ススB'
1049		弥生土器	甕	12.0	—	—	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂	
1050		弥生土器	甕	12.0	—	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂	
1051		弥生土器	甕	13.1	6.4	25.3	橙色 (2.5YR6/6)	粗砂、礫	ほぼ完形 ススB・C
1052		弥生土器	壺	16.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	精良	
1053		弥生土器	甕	15.1	7.6	28.8	橙色 (5YR7/6~6/6)	粗砂、礫	ほぼ完形 ススB'
1054		弥生土器	甕	20.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂	ススB' ?
1055		弥生土器	甕	15.0	5.9	16.6	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	粗砂	黒斑ABC
1056	弥生土器	高杯	(21.2)	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂、礫	黒斑A	
1057	土壌92	弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色 (2.5YR6/6)	粗砂	
1058	土壌93	製塩土器	—	—	5.6	—	浅黄色 (2.5Y7/4)	細砂	ススC
1059		製塩土器	—	—	5.6	—	褐色 (7.5YR4/1)	細砂	ススC
1060		製塩土器	—	—	5.2	—	鈍黄橙色 (10YR6/4)	細砂	ススC
1061	土壌94	弥生土器	高杯	(22.5)	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂	
1062	土壌98	弥生土器	甕	(10.4)	—	—	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂	
1063	土壌101	弥生土器	高杯	(17.8)	—	—	橙色 (5Y6/6)	細砂	
1064	土壌102	弥生土器	甕	(13.0)	—	—	橙色 (7.5YR6/6)	細砂	
1065	土壌103	弥生土器	甕	—	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
1066	土壌107	弥生土器	高杯	(19.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂、礫	
1067	土壌70	弥生土器	高杯	—	(12.0)	—	浅黄橙色 (10YR8/4)	細砂	
1068	土壌140	弥生土器	高杯	18.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
1069	土壌138	弥生土器	鉢	13.6	6.0	7.8	橙色 (7.5YR6/6)	粗砂	完形 黒斑C
1070	土壌140	弥生土器	高杯	(13.6)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
1071	土壌141	弥生土器	甕	(15.8)	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	粗砂	ススA ?
1072		弥生土器	高杯	18.3	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
1073	土壌141	弥生土器	高杯	12.1	11.5	6.5	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
1074	土壌143	土師器	甕	(15.8)	—	—	浅黄橙色 (10YR8/3)	粗砂	ススA
1075	土壌144	弥生土器	甕	(14.0)	—	—	明赤褐色 (2.5YR5/6)	細砂	
1076		弥生土器	鉢	26.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	粗砂	
1077		弥生土器	鉢	(35.4)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
1078		弥生土器	鉢	(45.0)	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂	
1079		弥生土器	壺	—	(12.3)	—	浅黄橙色 (10YR8/4)	細砂、礫	黒斑B・C
1080	土壌151	弥生土器	壺	14.5	—	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂	
1081		弥生土器	壺	13.2	7.5	31.0	橙色 (7.5YR6/6)	細砂、礫	黒斑C
1082		弥生土器	甕	12.6	—	—	灰黄褐色 (10YR5/2)	粗砂	
1083		弥生土器	甕	14.6	—	—	鈍褐色 (7.5YR5/4)	細砂、礫	ススB
1084		弥生土器	甕	13.6	6.6	31.0	鈍橙色 (7.5YR7/4)	粗砂	ほぼ完形
1085		弥生土器	高杯	(22.6)	—	—	灰白色 (2.5Y8/2)~ 灰黄色 (7/2)	細砂、礫	
1086		弥生土器	高杯	22.4	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	粗砂	黒斑A
1087		弥生土器	高杯	23.0	—	—	明赤褐色 (2.5YR5/6)	細砂、礫	
1088		弥生土器	高杯	—	(11.9)	—	鈍赤褐色 (2.5YR5/4)	細砂	
1089		弥生土器	高杯	14.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	粗砂	
1090	弥生土器	高杯	23.4	14.9	26.0	橙色 (5YR7/6)	細砂、礫	黒斑C	
1091	土壌154	弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂	
1092		弥生土器	壺	(16.7)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
1093		弥生土器	壺	20.5	—	—	鈍褐色 (5YR7/4~6/4)	細砂、粗砂、礫	
1094		弥生土器	甕	(11.2)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂、粗砂	
1095		弥生土器	甕	(13.7)	—	—	橙色 (2.5Y6/6)	細砂	
1096		弥生土器	甕	18.8	—	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂	
1097		弥生土器	甕	15.6	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	粗砂、礫	ススB
1098		弥生土器	甕	(16.7)	—	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂、礫	黒斑B



フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1099	土壇154	弥生土器	甕	(16.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	—	
1100		弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススB
1101		弥生土器	甕	(15.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
1102		弥生土器	甕	15.6	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	—	黒斑A・B
1103		弥生土器	甕	(12.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	
1104		弥生土器	甕	15.6	—	—	褐色(7.5YR4/3)	粗砂	
1105		弥生土器	甕	(14.7)	—	—	橙色(5YR7/6~6/6)	細砂、粗砂、礫	
1106		弥生土器	甕	(16.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3~7/4)	粗砂、礫	
1107		弥生土器	甕	(13.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	砂砂	黒斑A
1108		弥生土器	甕	(14.2)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
1109		弥生土器	甕	(14.2)	—	—	橙色(7.5YR7/6~6/6)	粗砂、礫	ススC?
1110		弥生土器	甕	—	10.4	—	橙色(5YR7/8~6/6)	細砂、粗砂	
1111		弥生土器	甕	10.0	—	9.4	灰褐色(5YR4/2)	—	
1112		弥生土器	鉢	(30.0)	—	—	橙色(5YR6/6)	—	
1113		弥生土器	壺	7.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1114		弥生土器	台付直口壺	(7.9)	—	—	鈍橙色(5YR7/4) 橙色(5YR6/6)	粗砂、礫	黒斑B
1115		弥生土器	高杯	16.4	9.9	8.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1116		弥生土器	高杯	15.6	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
1117		弥生土器	高杯	(18.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	精良	
1118		弥生土器	高杯	—	(10.4)	—	橙色(2.5YR6/6)~ 明赤褐色(5/6)	粗砂、礫	
1119		弥生土器	高杯	—	12.8	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	—	黒斑C
1120		弥生土器	高杯	—	14.9	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	—	
1121		弥生土器	高杯	14.7	—	—	鈍橙色(5YR6/4) 橙色(5YR6/6)	粗砂、礫	黒斑A
1122		弥生土器	高杯	11.3	7.6	7.8	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	黒斑C・B
1123	弥生土器	鉢	16.9	4.9	8.0	鈍赤褐色(5YR5/4)	粗砂、礫		
1124	弥生土器	鉢	15.4	2.8	7.1	明赤褐色(2.5YR5/6)	—	ススC	
1125	弥生土器	鉢	15.6	(4.0)	5.9	橙色(5YR6/6)	細砂		
1126	弥生土器	鉢	14.0	4.6	5.6	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
1127	弥生土器	鉢	14.0	4.0	—	灰黄色(2.5YR7/2)	細砂	黒斑A・B	
1128	弥生土器	鉢	12.0	4.6	6.4	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
1129	弥生土器	鉢	14.2	—	(5.6)	鈍赤褐色(5YR5/4)	—	黒斑A	
1130	弥生土器	鉢	59.0	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、礫	黒斑B・C	
1131	弥生土器	鉢	45.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	黒斑C	
1132	弥生土器	鉢	(43.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	—		
1133	土壇156	弥生土器	壺	(15.6)	—	—	橙色(5YR7/6~6/6)	細砂、礫	
1134	土壇150	弥生土器	甕	(16.8)	7.5	29.2	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	黒斑B・C
1135		弥生土器	甕	13.0	(4.5)	17.3	橙色(7.5YR6/6)	細砂、礫	ススC 黒斑C
1136		弥生土器	甕	12.7	5.2	21.1	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、礫	ほぼ完形 黒斑C
1137		弥生土器	甕	16.5	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	ほぼ完形 ススC
1138		弥生土器?	壺	15.0	5.0	19.7	鈍黄橙色(10YR6/4)	粗砂、礫	ススC 黒斑C
1139		弥生土器	鉢	8.4	(5.0)	5.9	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	ほぼ完形
1140		弥生土器	鉢	16.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
1141	弥生土器	鉢	20.4	—	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂	黒斑B?	
1142	弥生土器	鉢	(20.6)	7.5	—	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂、礫	黒斑B・C	
1143	弥生土器	甕	15.0	—	—	赤褐色(10R5/4)	細砂		
1144	弥生土器	高杯	(18.9)	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂、礫		
1145	弥生土器	高杯	—	11.4	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂		
1146	弥生土器	高杯	23.8	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂		
1147	土壇160	弥生土器	甕	12.4	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂	
1148	土壇165	土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1149	土壇166	土師器	高杯	(19.0)	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	粗砂	
1150	柱穴8	弥生土器	高杯	15.0	9.6	7.5	橙色(2.5YR7/6~6/6)	細砂、礫	ほぼ完形
1151		弥生土器	高杯	17.0	(10.7)	(8.4)	橙色(5YR7/6~6/6)	細砂、礫	
1152		弥生土器	高杯	10.7	10.3	7.9	橙色(2.5YR6/6)	細砂、礫	
1153	包含層	弥生土器	長頸壺	17.5	10.9	(42.4)	橙色(2.5YR7/8)	粗砂	
1154		弥生土器	長頸壺	16.0	8.0	37.1	橙色(5YR6/8)	粗砂	
1155		土師器	壺	15.2	8.7	37.9	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	
1156		弥生土器	甕	13.1	5.2	25.0	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	ススB'
1157		弥生土器	甕	12.6	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B
1158		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1159	包含層	弥生土器	台付鉢	(16.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂、細砂、礫	
1160		弥生土器	直口壺	7.9	5.1	14.9	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススA
1161		弥生土器	壺	22.8	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ススA
1162		弥生土器	鉢	15.6	3.9	5.0	赤橙色(10R6/6)	細砂、粗砂	
1163		弥生土器	高杯	13.5	9.2	8.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1164		弥生土器	高杯	22.0	—	—	橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
1165		弥生土器	高杯	14.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	黒斑A
1166		弥生土器	高杯	20.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1167		弥生土器	高杯	23.0	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
1168		弥生土器	高杯	21.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1169		弥生土器	高杯	6.0	7.0	4.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1170		弥生土器	高杯脚	—	(6.0)	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
1171		弥生土器	器台	—	12.0	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
1172		弥生土器	器台	—	—	—	橙色(5YR5.5/6)	粗砂、礫	線刻面
1173		製塩土器	—	—	5.8	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
1174		製塩土器	—	—	5.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
1175		製塩土器	—	—	4.9	—	褐灰色(10YR6/1)	粗砂	
1176		製塩土器	—	—	5.1	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	粗砂	内面スス
1177		製塩土器	—	—	5.3	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
1178		製塩土器	—	—	4.6	—	褐色灰色(10YR4/1)	粗砂	
1179	製塩土器	—	—	3.8	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		
1180	製塩土器	—	—	5.8	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、礫		
1181	製塩土器	—	—	4.1	—	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂		
1182	製塩土器	—	—	3.7	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
1183	製塩土器	—	—	5.4	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂		
1184	製塩土器	—	—	4.6	—	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂、粗砂		
1185	製塩土器	—	—	4.9	—	灰白色(10YR7/1)	細砂		
1186	製塩土器	—	—	3.8	—	褐灰色(5YR5/1)	細砂、粗砂		
1187	製塩土器	—	—	4.2	—	鈍橙色(2.5YR6/3)	粗砂		
1188	製塩土器	—	—	7.6	—	鈍黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
1189	製塩土器	—	—	5.6	—	褐灰色(5YR4/1)	細砂、粗砂、礫		
1190	製塩土器	—	—	6.0	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂		
1191	竪穴住居21	土師器	壺	25.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑B
1192	竪穴住居22	土師器	甕	12.0	—	19.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
1193		土師器	高杯	18.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススA
1194	竪穴住居22	土師器	高杯	(15.8)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
1195		土師器	高杯	(17.8)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1196	竪穴住居23	製塩土器	—	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	タタキ
1197		須恵器	杯蓋	14.1	—	4.7	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1198		須恵器	杯蓋	13.2	—	4.1	灰白色(5Y8/2)	細砂	
1199		須恵器	杯蓋	13.6	—	4.1	灰白色(5Y6/1)	細砂	
1200		須恵器	杯身	14.2	—	—	灰白色(5Y8/1)	細砂	
1201		須恵器	高杯	12.8	—	3.7	明青灰色(5BG4/1)	細砂	
1202		須恵器	杯身	14.4	—	—	灰色(N6/)	精良	
1203		須恵器	杯身	(12.8)	—	4.2	赤灰色(2.5YR6/1)	細砂	
1204		須恵器	杯身	11.8	—	3.5	灰色(N7/)	粗砂	
1205		須恵器	杯身	11.9	—	3.9	灰色(10Y5/1)	細砂	
1206		須恵器	高杯	12.4	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂	長方形の透し孔2個1対×2か所
1207		須恵器	高杯	14.4	—	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	長方形の透し孔2個1対×3か所
1208		須恵器	高杯	—	—	—	暗青灰色(5B4/1)	細砂	
1209		須恵器	高杯	—	—	—	緑灰色(10G5/1)	細砂	長方形の透し孔2個1対×2か所
1210		須恵器	高杯	15.0	—	—	灰白色(N7/)	細砂	
1211		須恵器	高杯	(14.6)	—	—	灰色(N6/)	細砂	
1212		須恵器	高杯	13.8	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1213		須恵器	高杯	13.2	—	—	灰白色(N7/)	細砂	
1214		須恵器	甌	—	15.0	—	灰色(N4/)	細砂	外面自然釉
1215		須恵器	短頸壺	6.2	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂	
1216	須恵器	甕	20.0	—	—	暗青灰色(10BG4/1)	細砂		
1217	須恵器	甌	24.2	—	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂	内面当て具後ナデ	
1218	土師器	甕	(13.3)	—	—	赤灰色(2.5YR4/1)	粗砂、礫		
1219	土師器	甕	(13.8)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	粗砂		

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1220	竪穴住居23	土師器	甕	(14.9)	—	—	赤色(10R5/8)	粗砂	
1221		土師器	甗	—	(13.2)	—	橙色(7.5YR7/6)	礫	
1222		土師器	甗	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	粗砂	黒斑B
1223		土師器	甗	—	—	—	橙色(5YR7/8)	粗砂	
1224	竪穴住居24	須恵器	杯蓋	(16.0)	—	—	青灰色(5B6/1)	細砂	
1225		須恵器	杯蓋	14.8	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂	
1226		須恵器	杯蓋	(14.3)	—	—	灰白色(N7/)	細砂	
1227		須恵器	杯身	11.3	—	—	灰色(N6/)	精良	
1228	竪穴住居25	土師器	甕	14.7	—	18.6	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススB
1229		土師器	甕	12.2	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
1230		土師器	高杯	13.5	9.4	12.3	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
1231		土師器	高杯	14.1	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
1232		土師器	高杯	15.4	—	3.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1233		土師器	手捏ね鉢	3.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	完形
1234		須恵器	甕	—	—	—	暗青灰色(5B3/1)	細砂	
1235	竪穴住居26	土師器	高杯	(15.4)	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	粗砂	
1236		土師器	高杯	—	15.5	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
1237		土師器	甕	16.3	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂	
1238	竪穴住居28	土師器	壺	20.8	—	—	淡黄色(2.5YR3/)	細砂	黒斑A
1239		土師器	甕	15.9	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	
1240		土師器	甕	12.2	2.3	13.1	黄褐色(7.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	
1241		土師器	甕	10.9	1.0	15.2	明赤褐色(5YR5/8)	細砂、粗砂	黒斑B
1242		土師器	甕	14.7	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	
1243		土師器	高杯	16.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
1244		土師器	高杯	18.3	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
1245		土師器	高杯	(20.2)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	
1246		土師器	手捏ね鉢	4.8	1.5	2.4	鈍赤褐色(5YR5/2)	細砂	
1247		須恵器	高杯	(11.0)	—	—	灰色(N6/)	細砂	
1248	竪穴住居30	土師器	甕	12.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	黒斑A?
1249		土師器	高杯	(13.2)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
1250	竪穴住居32	土師器	壺	13.7	—	29.2	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B
1251		土師器	甕	14.0	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
1252		土師器	壺	10.8	—	—	淡黄色(2.5YR3/)	細砂、粗砂	
1253		土師器	甕	13.0	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
1254		土師器	高杯	17.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
1255	竪穴住居33	弥生土器	高杯	19.2	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	精砂、細砂	黒斑A
1256		弥生土器	高杯	—	(14.4)	—	褐色(7.5YR7/6)	精砂、細砂	
1257	竪穴住居35	土師器	甕	15.3	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	
1258		土師器	壺	(25.8)	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	
1259		土師器	甕	(17.1)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂	
1260		土師器	鉢	12.0	—	5.0	褐色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1261		土師器	鉢	12.5	—	5.5	褐色(5YR7/6)	精良	ほぼ完形
1262		土師器	鉢	13.0	—	6.6	褐色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
1263		土師器	器台	10.1	—	—	褐色(5YR6/6)	細砂	
1264		土師器	片口鉢	8.8	—	3.3	褐色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
1265	竪穴住居36	弥生土器	壺	15.4	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂	黒斑A
1266		弥生土器	壺	17.7	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B
1267		弥生土器	甕	13.0	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ススA
1268		弥生土器	甕	14.2	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	ススA
1269		弥生土器	高杯	—	14.8	—	褐色(5YR7/6)	細砂	脚裾部透し孔1個残 黒斑C
1270		弥生土器	鉢	11.4	—	—	褐色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	
1271		土師器	壺	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	黒斑A・B
1272	須恵器	高杯or杯蓋	(16.6)	—	—	灰色(N4/)	精良		
1273	土師器	碗	(10.3)	—	—	灰色(N4/)	細砂		
1274	土師器	壺	(15.8)	—	—	褐色(2.5YR6/8)	細砂		
1275	竪穴住居37	土師器	壺	(21.4)	—	29.9	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、礫	ススB
1276		土師器	甕	(17.0)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	粗砂、礫	黒斑B・C
1277		土師器	甕	(12.2)	—	(18.6)	褐色(5YR6/6)	粗砂、礫	
1278		土師器	甕	(13.0)	—	20.6	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、礫	ススB'
1279		土師器	甕	(14.4)	—	25.0	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	黒斑B
1280		土師器	壺	(10.0)	—	—	褐色(5YR6/6)	細砂	

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1281	竪穴住居37	土師器	小型壺	(9.4)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、礫	
1282		土師器	壺	(10.7)	—	—	鈍橙色(7.5YR8/4~7/3)	粗砂	
1283		土師器	甕	11.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	
1284		土師器	甕	(6.6)	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	粗砂	
1285		土師器	甕	(16.3)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
1286		土師器	甕	14.3	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	粗砂、礫	ススA 黒斑B
1287		土師器	壺	(18.4)	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
1288		土師器	甕	(12.7)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススA
1289		土師器	甕	(14.4)	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑A
1290		土師器	甕	(16.2)	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	
1291		土師器	甕	(15.1)	—	—	灰黄色(2.5Y7/1)	細砂	焼成白っぽい 黒斑B
1292		土師器	壺	17.9	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
1293		土師器	高杯	(15.1)	(12.0)	12.4	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
1294		土師器	高杯	(19.0)	(12.1)	11.8	灰白色(10YR8/2) 橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	黒斑C
1295		土師器	高杯	(17.3)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1296		土師器	高杯	—	(15.5)	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	黒斑B
1297		土師器	高杯	18.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑A
1298		土師器	高杯	18.1	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
1299		土師器	高杯	(21.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1300		土師器	高杯	—	11.0	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	
1301		土師器	高杯	(15.5)	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂	黒斑A B
1302		土師器	高杯	(17.5)	10.9	13.2	鈍黄橙色(10YR6/3)	粗砂	黒斑A
1303		土師器	高杯	20.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1304		土師器	高杯	—	(13.6)	—	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	
1305		土師器	高杯	—	12.1	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂	
1306		土師器	高杯	—	12.6	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
1307		土師器	高杯	—	13.2	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	焼成白い 黒斑B
1308		土師器	高杯	—	(12.3)	—	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	
1309		土師器	高杯	—	(11.2)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
1310		土師器	高杯	—	(11.8)	—	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	面をもたない
1311		土師器	高杯	—	(13.4)	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
1312		土師器	高杯	—	(11.8)	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1313		土師器	高杯	—	(11.9)	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
1314		土師器	高杯	—	(11.1)	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
1315		土師器	小型壺	—	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	黒斑C
1316		土師器	壺	(9.4)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
1317		土師器	壺	(10.0)	—	13.3	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	ススB
1318		土師器	壺	(7.9)	1.5	9.2	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑B
1319		土師器	手捏れ小型甕?	7.8	—	7.5	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	黒斑A C
1320		土師器	壺	—	3.2	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂、礫	黒斑A C
1321		土師器	壺	(9.8)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	
1322		土師器	壺	8.8	—	7.9	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑A B
1323		土師器	壺	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ススB 黒斑A B
1324		土師器	甕	(10.9)	—	13.6	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	
1325		土師器	小型壺	9.6	—	10.6	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	黒斑B
1326		土師器	手捏ね鉢	6.4	3.5	7.0	橙色(5YR6/6)	細砂	ほぼ完形
1327		製塩土器	—	(7.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A B C
1328	土師器	鉢	(15.1)	—	7.0	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑C	
1329	土師器	鉢	(11.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A B	
1330	土師器	手捏ね鉢	6.0	—	4.0	橙色(5YR6/6)	粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑A B C	
1331	土師器	手捏ね鉢	(4.2)	—	3.2	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	ほぼ完形	
1332	土師器	蓋	12.8	4.3	5.7	橙色(5YR6/6)	細砂	ほぼ完形 黒斑B C	
1333	土師器	手捏ね鉢	(6.3)	—	4.9	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	完形	
1334	土師器	手捏ね鉢	(6.2)	—	4.0	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂		
1335	竪穴住居38	土師器	小型壺	(10.5)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1336		土師器	甕	(14.6)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	ススA
1337		土師器	甕	12.7	—	16.5	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	ほぼ完形 ススB'
1338		土師器	甕	15.5	—	26.0	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	穿孔意識的かは不詳 ほぼ完形 ススC 黒斑C
1339	竪穴住居39	須恵器	甕	—	—	—	灰色(N6)	細砂	土器溜まり出土
1340		土師器	壺	10.2	—	—	赤褐色(10R6/6)	細砂、粗砂	黒斑B C

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1341	竪穴住居39	土師器	甕	12.5	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	土器溜まり出土
1342		土師器	高杯	24.4	10.8	14.8	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	ススB'
1343		土師器	高杯	15.3	8.9	10.6	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ススA 土器溜まり出土
1344		土師器	高杯	13.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1345		土師器	高杯	16.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
1346		土師器	高杯	15.2	10.4	11.6	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂	土器溜まり出土
1347		土師器	高杯	—	11.1	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑BC
1348		土師器	高杯	—	12.4	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
1349		土師器	甌	23.7	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・B
1350		土師器	鉢	9.8	—	4.0	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑C
1351		土師器	手捏ね鉢	9.3	4.5	5.1	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
1352	土師器	鉢	14.5	3.1	5.2	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 土器溜まり出土	
1353	竪穴住居40	須恵器	杯身	12.2	—	—	灰白色(N7.5/1)	密	
1354		須恵器	高杯	—	9.1	—	灰色(N6.5/1)	密	
1355		須恵器	杯蓋	—	—	—	灰色(N6/1)	精良	
1356		須恵器	杯蓋	9.7	—	—	灰白色(N5/1)	密	
1357		土師器	甕	(15.4)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	粗砂	
1358		土師器	甕?	(14.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1359	竪穴住居42	土師器	高杯	(19.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	精良	
1360		土師器	鉢	12.6	—	—	鈍赤褐色(7.5YR5/4)	細砂、礫	黒斑C
1361		土師器	鉢?	(12.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
1362		土師器	甕	(13.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	粗砂	
1363	竪穴住居43	土師器	甕	(14.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	ススA
1364		土師器	甕	(14.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ススA
1365		土師器	高杯	18.8	—	—	橙色(5YR6/6)	精良	
1366		土師器	支脚	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	支脚のみ
1367		土師器	壺	(20.4)	—	—	灰白色(2.5YR8/2)	細砂	黒斑A
1368	土師器	壺	19.5	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
1369	土師器	甕	11.1	—	19.2	明黄褐色(10YR7/4)	細砂	ほぼ完形 ススC? 黒斑A	
1370	土師器	壺	(12.6)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂		
1371	土師器	甕	(17.0)	—	—	灰白色(2.5YR8/2)	細砂	ススC 黒斑A・B	
1372	土師器	甕	17.0	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススC	
1373	土師器	甕	13.4	—	20.1	橙色(2.5YR6/6)	細砂、礫		
1374	土師器	甕	(13.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂		
1375	土師器	甕	13.5	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
1376	土師器	壺	11.7	—	15.3	明褐色(5YR7/2)	礫		
1377	土師器	壺	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ススB	
1378	土師器	小型壺	10.8	—	11.2	橙色(5YR6/6)	細砂	ススC	
1379	土師器	小型壺	8.4	—	9.5	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	ほぼ完形	
1380	土師器	壺	8.2	—	9.5	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂		
1381	土師器	小型壺	8.0	—	—	暗灰色(2.5Y5/2)	礫		
1382	土師器	高杯	15.2	9.2	11.1	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	黒斑A	
1383	竪穴住居44	土師器	高杯	18.1	(11.7)	12.2	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、礫	黒斑A
1384		土師器	高杯	18.7	13.5	13.9	灰白色(10YR8/2)	粗砂	
1385		土師器	高杯	18.7	12.1	12.9	鈍褐色(7.5YR6/4)	礫	
1386		土師器	高杯	(16.3)	(12.1)	(12.4)	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
1387		土師器	高杯	16.7	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	黒斑A
1388		土師器	高杯	24.0	15.4	14.8	灰白色(10YR8/2)	細砂、礫	ほぼ完形
1389		土師器	高杯	—	(13.1)	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1390		土師器	高杯	18.6	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	黒斑A
1391		土師器	高杯	10.4	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、礫	
1392		土師器	高杯	19.2	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	
1393		土師器	高杯	17.8	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、礫	黒斑A・B
1394	土師器	高杯	(14.0)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂		
1395	土師器	高杯	—	12.3	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂		
1396	土師器	高杯	—	11.2	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂		
1397	土師器	高杯	—	11.2	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
1398	土師器	高杯	—	12.0	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、礫		
1399	土師器	高杯	—	10.6	—	灰白色(10YR8/1)	細砂		
1400	土師器	高杯	—	11.8	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂、礫		
1401	土師器	高杯	—	136.0	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	礫		

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載道構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
1402	竪穴住居44	土師器	高杯	13.4	-	-	鈍橙色 (7. 5YR7. 5/3)	細砂		
1403		須恵器	壺	14.7	-	-	灰色 (N4/1)	精良		
1404		土師器	壺	-	-	-	浅黄橙色 (7. 5YR8/4)	細砂		
1405	竪穴住居45	土師器	甕	(13. 4)	-	-	灰黄色 (10YR6/2)	細砂		
1406	竪穴住居46	土師器	甕?	(12. 3)	-	-	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	粗砂	ススA?	
1407		土師器	壺	17. 5	-	-	明赤褐色 (2. 5YR5/6)	細砂		
1408		土師器	壺	12. 9	-	26. 0	鈍黄橙色 (10YR6/3)	粗砂		
1409		土師器	甕	15. 4	-	-	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂	ススB	
1410		土師器	甕	(18. 0)	-	-	橙色 (7. 5YR7/6~6/6)	粗砂	ススA	
1411		土師器	壺	14. 0	-	-	鈍黄橙色 (10YR6/4)	細砂、礫	黒斑B	
1412		土師器	壺	14. 4	-	22. 8	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	粗砂	ススB・C	
1413		土師器	?	12. 8	-	-	橙色 (5YR6/6)	細砂		
1414		土師器	甕	(14. 2)	-	-	灰黄色 (10YR6/2)	粗砂、礫		
1415		土師器	?	139. 0	-	-	灰黄色 (2. 5YR7/2)	粗砂、礫		
1416		土師器	甕	13. 1	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂		
1417		土師器	甕	(11. 6)	-	-	橙色 (5YR6/6)	粗砂	ススA	
1418		土師器	甕	12. 7	-	-	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂	ススC'	
1419		土師器	甕	12. 8	-	-	鈍橙色 (10YR7/2)	礫	黒斑B?	
1420		土師器	甕	12. 9	-	-	浅黄橙色 (10YR8/3)	粗砂		
1421		土師器	甕	10. 8	-	-	灰白色 (2. 5Y7/1)	粗砂	黒斑A	
1422		土師器	甕	13. 3	-	-	橙色 (5YR7/6)	粗砂	ススA	
1423		土師器	?	(15. 8)	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂		
1424		土師器	甕	(13. 0)	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂		
1425		土師器	甕	(13. 9)	-	-	灰黄褐色 (10YR6/2)	粗砂	ススA	
1426		土師器	甕	13. 9	-	-	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂、礫		
1427		土師器?	甕	17. 6	-	-	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂、礫	ススB	
1428		土師器	壺	11. 2	-	-	鈍褐色 (7. 5YR5/4)	細砂		
1429		土師器	壺	13. 9	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂		
1430		土師器	壺	11. 5	-	-	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	黒斑A?	
1431		土師器	壺	11. 4	-	16. 0	灰白色 (2. 5Y8/2)	粗砂	ほぼ完形 ススC 黒斑AB	
1432		土師器	甕?	12. 2	-	-	灰白色 (5Y7/1)	粗砂	ススC	
1433		竪穴住居46	土師器	壺	10. 8	-	-	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂	
1434		土師器	甕	9. 6	-	-	灰黄色 (10YR5/2)	粗砂	ススB'	
1435		土師器	甕	8. 6	-	12. 0	灰黄色 (2. 5Y7/2)	細砂	完形 ススA 黒斑B	
1436		土師器	壺	9. 5	-	10. 7	橙色 (7. 5YR6/6)	細砂	ススB	
1437		土師器	甕	9. 0	-	-	鈍黄橙色 (10YR6/4)	精良	ススC	
1438		土師器	壺	11. 2	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/4)	粗砂		
1439	土師器	甕	10. 2	-	-	鈍赤褐色 (10YR7/4)	粗砂	黒斑AB		
1440	土師器	壺	7. 3	-	7. 6	鈍橙色 (2. 5YR6/4)	粗砂	ほぼ完形		
1441	土師器	甕	7. 4	-	8. 6	灰白色 (2. 5Y7/1)	細砂	ススA 黒斑C		
1442	土師器	壺	8. 4	-	8. 2	灰黄色 (2. 5Y7/2)	細砂	ほぼ完形		
1443	土師器	甕	8. 6	-	-	黄灰色 (2. 5Y6/1)	細砂	ススC'		
1444	土師器	壺	9. 8	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/3)	粗砂、礫			
1445	土師器	壺	(8. 5)	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/4)	粗砂			
1446	土師器	壺?	8. 7	-	9. 5	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂			
1447	土師器	壺	9. 6	-	7. 8	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂	完形 黒斑C		
1448	土師器	甕	(100. 0)	-	97. 5	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	ススB		
1449	土師器	壺	-	-	-	橙色 (5YR6/6)	細砂	黒斑A・C		
1450	土師器	壺	(8. 8)	-	-	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂			
1451	土師器	壺	9. 3	-	9. 0	橙色 (5YR7/6)	細砂	ほぼ完形		
1452	土師器	鉢?	9. 2	-	-	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂			
1453	土師器	甕	8. 5	-	9. 3	橙色 (5YR7/6)	礫	ススB?		
1454	土師器	壺	-	-	-	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂	黒斑C		
1455	土師器	高杯	(17. 6)	(13. 5)	(12. 6)	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	粗砂、礫	黒斑A		
1456	土師器	高杯	15. 0	10. 6	12. 3	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	粗砂			
1457	土師器	高杯	(20. 9)	14. 1	12. 2	浅黄橙色 (10YR8/3)	粗砂、礫			
1458	土師器	高杯	18. 1	12. 8	11. 5	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂			
1459	土師器	高杯	(16. 9)	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂			
1460	土師器	高杯	(18. 3)	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂			
1461	土師器	高杯	-	14. 6	-	浅黄橙色 (10YR8/3)	粗砂	赤色顔料? 黒斑A		
1462	土師器	高杯	18. 8	-	-	橙色 (5YR7/6)	細砂			

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
1463	竪穴住居46	土師器	高杯	18.5	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
1464		土師器	高杯	—	12.1	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂		
1465		土師器	高杯	18.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
1466		土師器	高杯	25.0	15.8	16.8	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、礫		
1467		土師器	高杯	(15.8)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	精良		
1468		土師器	高杯	16.2	11.0	11.7	鈍橙色(5YR6/4)	粗砂		
1469		土師器	高杯	18.9	11.9	12.5	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		
1470		土師器	椀	13.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂		
1471		土師器	高杯	—	13.9	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
1472		土師器	高杯	—	15.4	—	灰白色(2.5Y8/7)	粗砂		
1473		土師器	高杯	—	12.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
1474		土師器	高杯	—	12.0	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂		
1475		土師器	高杯	—	10.9	—	鈍橙色(10YR6/3)	細砂		
1476		土師器	高杯	—	14.1	—	鈍黄褐色(10YR5/3)	細砂		
1477		土師器	高杯	12.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
1478		土師器	鉢	15.1	—	8.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ほぼ完形	
1479		土師器	鉢?	11.7	—	8.9	鈍黄橙色(10YR5/4)	粗砂	ほぼ完形 黒斑A B	
1480		土師器	手捏ね小鉢	6.2	—	3.9	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	ほぼ完形	
1481		竪穴住居47	須恵器	壺	(18.0)	—	—	灰白色(N7/1)	細砂	
1482			弥生土器	壺	(15.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススA
1483	土師器		甕	13.6	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂		
1484	弥生土器		甕	14.2	—	—	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂、粗砂		
1485	弥生土器		甕	12.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、礫		
1486	弥生土器		甕	14.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
1487	土師器		小型丸底壺	(6.9)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	黒斑B	
1488	土師器		小型丸底壺	8.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
1489	土師器		鉢	13.4	—	—	灰黄色(10YR5/2)	細砂		
1490	土師器		手捏ね鉢	3.7	—	2.9	橙色(5YR6/6)	細砂	ほぼ完形	
1491	土師器		高杯	18.5	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂		
1492	弥生土器		高杯	23.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A	
1493	土師器		高杯	—	(12.8)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂、礫		
1494	土師器	高杯	—	(12.8)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂、礫			
1495	竪穴住居48	土師器	高杯	15.0	—	—	橙色(7.5YR7/16)	細砂、粗砂	黒斑A	
1496		土師器	高杯	15.7	11.0	13.0	鈍黄橙色(10YR7/12)	粗砂、礫		
1497	土壙169	土師器	甕	(16.6)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂		
1498	土壙170	土師器	甕	12.9	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂	ススB	
1499		土師器	甕	(13.3)	—	19.8	灰白色(10YR8/2)	粗砂	ススB'	
1500	土壙173	土師器	壺	(14.8)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂		
1501		土師器	甕	15.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑A	
1502		土師器	壺	12.3	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	粗砂		
1503		土師器	鉢	12.7	—	7.6	灰白色(10YR8/2)	粗砂		
1504		土師器	壺	9.2	—	8.8	灰白色(2.5YR7/1)	粗砂	ほぼ完形 黒斑B	
1505		土師器	高杯	15.7	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、礫		
1506		土師器	高杯	(15.0)	—	—	灰白色(2.5YR7.5/8)	細砂	黒斑A	
1507		土師器	高杯	—	14.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、礫		
1508		土師器	高杯	—	(11.8)	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫		
1509		土師器	ミチナ7鉢	3.5	—	2.4	鈍黄褐色(10YR6/3)	粗砂	ほぼ完形	
1510	土壙174	土師器	甕	14.9	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	粗砂	黒斑B	
1511	包含層	須恵器	杯蓋?	(11.4)	—	—	灰色(N5/)	精良		
1512		須恵器	杯蓋	9.8	—	3.4	灰白色(N7)	細砂		
1513		須恵器	杯身	10.8	3.2	3.5	灰色(N4)	細砂	ほぼ完形	
1514		須恵器	杯身	11.1	—	3.8	灰色(10Y6/1)	細砂、粗砂、礫		
1515		須恵器	高杯	11.0	—	—	灰色(N6/)	精密		
1516		須恵器	高杯	—	—	—	青灰色(10BG6/1)	細砂		
1517		弥生土器	台付鉢	—	14.7	—	橙色(2.5YR7/8~6/8)	細砂、礫		
1518		弥生土器	壺	29.5	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑A・B	
1519		土師器	甕	15.3	—	29.7	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂、礫		
1520		土師器	甕	14.8	—	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂		
1521		土師器	甕	12.4	—	13.2	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	黒斑B	
1522		土師器	埴	9.4	—	8.7	灰白色(5YR8/2)	細砂、粒砂		
1523		土師器	小型壺	8.8	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂		

フロヤ調査区土器観察表

插图 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1524	包含層	土師器	小型甕	9.3	—	10.3	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑 B
1525		土師器	甕	11.4	—	—	淡黄色 (2.5Y8/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑 B
1526		土師器	高杯	19.9	11.4	13.4	灰白色 (10YR8/2)	細砂、粗砂	黒斑 C
1527		弥生土器	高杯	22.2	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	粗砂	黒斑 A
1528		土師器	高杯	24.0	15.0	11.6	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
1529		弥生土器	高杯	15.6	11.5	13.6	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	黒斑 A
1530		弥生土器	高杯	16.1	11.7	12.5	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	細砂、礫	
1531		土師器	高杯	(14.1)	10.6	11.5	灰白色 (10YR8/2)	粗砂	
1532		土師器	高杯	15.0	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑 A
1533		土師器	高杯	13.9	9.1	10.8	浅黄橙色 (10YR8/3)	粗砂	
1534		土師器	鍋	—	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂	
1535		土師器	ミナヅ鉢	3.4	2.1	3.6	灰褐色 (7.5YR5/2)	細砂	
1536		土師器	ミナヅ鉢	4.3	—	2.7	褐灰色 (7.5YR5/1)	細砂	完形
1537	土師器	台付杯?	2.3	2.8	3.0	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	ほぼ完形	
1538	掘立柱建物25	土師器	碗	—	3.6	—	灰白色 (10YR8/2)	細砂	
1539	掘立柱建物26	備前焼	擂鉢	—	(16.2)	—	灰褐色 (5YR4/2)	粗砂	
1540	掘立柱建物31	土師器	碗	10.0	3.8	3.7	灰白色 (10YR8/1~7/1)	細砂	
1541		土師器	碗	10.0	4.0	3.0	灰白色 (2.5Y7/1)	細砂、礫	
1542		土師器	皿	7.3	5.1	0.9	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂	
1543	掘立柱建物32	土師器	碗	11.7	2.3	3.2	灰白色 (10YR8/2)	精良	
1544		土師器	碗	9.8	4.2	2.3	灰白色 (10YR8/1)	粗砂	
1545		魚住焼	こね鉢	—	—	—	灰白色 (7.5Y7/1)	細砂	
1546	掘立柱建物39	土師器	碗	(11.7)	5.7	4.2	灰白色 (10YR8/2)	細砂	
1547	掘立柱建物40	龜山焼	甕	25.6	—	—	灰色 (N6/~5/)	細砂、礫	
1548	土墳 2	土師器	皿	8.0	5.9	1.3	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂、粗砂	完形
1549		土師器	皿	8.3	6.1	1.4	浅黄色 (2.5Y8/3)	細砂	
1550		土師器	皿	8.3	6.3	1.8	灰白色 (10Y8/1)	細砂、粗砂	ほぼ完形
1551		土師器	皿	8.4	6.0	1.2	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1552		土師器	皿	8.0	5.8	1.1	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1553	土墳 5	土師器	皿	7.0	5.8	1.1	灰黄色 (2.5Y7/2)	細砂	完形 黒斑 C
1554		土師器	皿	7.3	6.0	1.4	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂	完形
1555		土師器	皿	7.6	6.0	1.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	細砂	完形
1556	井戸 4	龜山焼	擂鉢	(28.5)	—	—	褐灰色 (7.5YR6/1)	細砂	
1557	井戸 5	龜山焼	摺鉢 (片口)	—	—	—	灰黄色 (2.5Y7/2)	細砂	
1558		備前焼	摺鉢 (片口)	—	—	—	灰赤色 (10R4/2)	細砂	
1559	土墳 177	瀬戸焼	天目	12.2	4.4	6.5	黒色 (N2/)	精良	スス C
1560	土墳 178	土師器	?	—	5.4	—	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1561	土墳 179	土師器	碗	10.6	(4.1)	3.0	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	スス B
1562		土師器	碗	(10.6)	3.6	3.2	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1563		土師器	碗	(11.1)	4.5	3.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	細砂	
1564		土師器	碗	10.9	(4.6)	3.8	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1565		魚住焼	鉢	(25.0)	(9.3)	12.0	灰色 (10Y5/1~4/1)	粗砂、礫	
1566		龜山焼	甕	—	(15.4)	—	灰色 (N4/)	精良	
1567	土墳 180	土師器	小皿	7.5	5.7	1.5	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂、粗砂、礫	
1568		土師器	小皿	7.2	6.1	1.9	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂	
1569		須恵器	壺?	—	—	—	灰白色 (7.5Y7/1)	粗砂	
1570	土墳 182	土師器	碗	—	6.5	—	淡黄色 (2.5Y8/3)	細砂	
1571	土墳 184	土師器	碗	(13.0)	—	—	灰白色 (10YR8/2)	細砂	
1572		土師器	?	—	4.2	—	浅黄色 (2.5Y7/3)	細砂	
1573		土師器	碗	—	4.1	—	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	
1574		魚住焼	鉢	—	—	—	灰白色 (2.5Y7/1)	細砂	
1575		魚住焼	壺	—	—	—	青灰色 (5B5/)	粗砂	
1576		魚住焼	鉢	(7.6)	—	—	灰色 (5Y6/1)	細砂	
1577		瓦質土器	鉢	28.4	—	—	灰白色 (7/)	粗砂、礫	
1578	石鍋	鍋	29.6	—	—	灰色 (N6/1)	—	スス A	
1579	龜山焼	甕	—	—	—	灰白色 (10YR7/1)	粗砂、礫		
1580	溝 20	龜山焼	擂鉢	(34.0)	—	—	灰色 (N4/)	細砂	
1581		備前焼	擂鉢	—	—	—	赤色 (10R5/6)	細砂	
1582		備前焼	大甕	—	—	—	赤褐色 (10R4/3)	細砂	
1583		唐津?	高台付碗	11.2	6.6	2.0	灰白色 (5YR8/2)	細砂	
1584		瓦器	内耳鍋	29.4	—	—	灰色 (5Y4/1)	細砂	スス A
1585	溝 29	瓦	平瓦	—	—	—	灰色 (N6/)	細砂	布目 6本/1cm



フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1586	溝31	須恵器	杯蓋	(14.8)	—	—	灰色(N5/)	細砂	
1587		須恵器	杯蓋	(15.0)	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
1588		須恵器	杯身	—	(9.4)	—	灰色(N5/)	細砂	
1589		須恵器	杯身	—	(11.1)	—	灰色(N4/)	粗砂	胎土粗い
1590		須恵器	杯身	(11.8)	6.7	7.8	灰色(N5/)	細砂	
1591		土師器	内黒椀	—	6.6	4.9	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂	
1592	溝30	土師器	内黒椀	(16.2)	(7.2)	6.0	灰黄色(2.5Y6/2)	精良	
1593	溝31	土師器	内黒椀	15.7	7.7	7.1	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
1594	溝30・31	土師器	高台付椀	11.8	5.2	4.7	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
1595		土師器	高台付椀	11.8	5.8	4.4	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	ほぼ完形
1596		土師器	高台付椀	11.9	5.1	4.6	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂	
1597		土師器	小皿	7.1	5.3	1.7	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	
1598		土師器	小皿	7.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1599		土師器	小皿	5.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
1600		土師器	壺	(10.0)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	内外面赤色顔料
1601		瓦質土器	片口鉢	30.8	10.5	10.8	灰色(5Y4/1)	細砂、粗砂	内面スス
1602		亀山焼	甕	32.0	—	—	灰-7°灰色(2.5GY6/1)	細砂、粗砂、礫	
1603		亀山焼	甕	(18.8)	—	—	灰色(N6)	細砂、粗砂	
1604	亀山焼	甕	—	—	—	灰色(N6)	細砂、粗砂、礫		
1605	溝32	土師器	皿	6.6	—	1.4	鈍橙色(2.5YR6/4)	精良	完形
1606		備前焼	大甕	—	—	—	暗赤褐色(2.5YR3/2)	細砂	
1607		備前焼	大甕	—	—	—	褐色(10YR4/1)	細砂	
1608		備前焼	壺	(25.0)	—	—	灰褐色(7.5YR5/2) 灰色(N4/)	細砂、礫	
1609		備前焼	大甕	—	—	—	暗赤褐色(7.5YR3/2)	細砂	
1610		亀山焼	甕	—	—	—	灰色(N4/)	細砂	
1611		瀬戸焼	瓶子	—	—	—	(釉)灰-7°色(7.5Y5/2)	細砂	
1612		土師器	鉢	—	—	—	明褐色(5YR7/2)	細砂	
1613		備前焼	播鉢	—	—	—	灰赤色(10R4/2) 赤褐色(10R4/3)	精良	
1614		亀山焼	播鉢	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
1615	柱穴26	土師器	椀	15.7	6.6	5.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
1616		土師器	椀	14.4	6.2	5.3	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、礫	ほぼ完形
1617	柱穴25	土師器	椀	11.7	5.2	4.1	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	
1618	柱穴27	土師器	椀	11.7	4.9	34.2	灰白色(10YR8/2)	細砂、礫	ほぼ完形
1619	柱穴28	土師器	椀	12.1	5.4	4.3	灰白色(10YR8/2)	細砂、礫	ほぼ完形
1620	柱穴16	土師器	高台付椀	11.2	4.3	3.4	灰白色(10YR7/1)	細砂	ススA
1621	柱穴20	土師器	高台付椀	11.0	4.6	3.2	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1622	柱穴19	土師器	高台付椀	9.5	2.9	4.2	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1623	柱穴17	土師器	高台付椀	10.0	4.1	3.4	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	完形
1624	柱穴22	土師器	高台付椀	3.9	—	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	
1625	柱穴30	土師器	小皿	6.3	5.1	1.4	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
1626	柱穴29	土師器	小皿	7.3	6.1	1.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、礫	完形
1627	柱穴23	土師器	小皿	7.5	6.3	1.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1628	柱穴22	土師器	小皿	6.6	5.6	1.4	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ほぼ完形
1629	柱穴30	土師器	脚台?	—	4.6	2.3	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、礫	完形
1630		土師器	脚台?	—	5.8	2.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	完形
1631	柱穴21	土師器	器台	7.5	5.4	3.5	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
1632	柱穴31	土師器	椀	10.7	4.5	2.9	灰白色(10YR8/1~8/2)	細砂	
1633	柱穴18	土師器	高台付椀	11.2	5.4	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	
1634	柱穴31	土師器	椀	12.1	3.0	3.7	灰白色(2.5Y8/1~8/2)	細砂	
1635	柱穴18	土師器	高台付椀	—	3.0	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	
1636	柱穴31	土師器	皿	7.0	6.0	1.2	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1637		土師器	皿	7.2	5.9	1.1	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1638	柱穴18	土師器	小皿	6.9	5.7	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良	
1639		土師器	小皿	7.1	5.6	1.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
1640		土師器	小皿	7.1	5.7	1.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	完形
1641		土師器	小皿	6.9	6.0	1.5	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	完形
1642		土師器	小皿	7.4	6.4	1.3	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
1643		土師器	小皿	7.3	6.0	1.3	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
1644		土師器	小皿	7.2	6.2	1.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
1645		土師器	小皿	7.1	6.1	1.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	

フロヤ調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1646	柱穴18	土師器	小皿	7.4	5.8	1.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
1647		土師器	小皿	7.0	5.8	1.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
1648		土師器	小皿	7.2	6.1	1.3	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
1649		土師器	小皿	7.3	6.2	1.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
1650		土師器	小皿	7.2	6.0	1.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
1651		土師器	小皿	7.0	6.1	1.3	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	ほぼ完形
1652	柱穴31	土師器	鍋	(21.2)	-	-	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	ススC
1653	包含層	須恵器	杯	14.8	-	2.9	灰色(N6/)	細砂、礫	
1654		須恵器	杯蓋	15.8	-	-	灰色(5Y6/1)	粗砂	
1655		須恵器	杯蓋	16.4	-	-	灰色(10Y6/1)	細砂	
1656		須恵器	杯	12.3	8.2	5.0	褐灰色(10YR6/1)	細砂、粗砂	
1657		須恵器	鉢	17.0	-	-	灰色(5Y6/1)	精良	
1658		須恵器	広口壺	-	10.4	-	灰白色(N8/)	精良	
1659		土師器	内黒椀	13.4	7.0	5.5	外：鈍橙色(10YR7/4) 内：黒褐色(10YR3/1)	細砂	
1660		土師器	椀	12.0	5.6	4.4	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1661		土師器	高台付椀	11.3	5.0	4.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	
1662		土師器	高台付椀	11.3	5.5	4.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
1663		土師器	高台付椀	11.2	5.4	4.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
1664		土師器	高台付椀	11.2	4.1	3.6	灰白色(10YR8/1)	細砂	
1665		土師器	椀	10.7	3.5	3.6	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	
1666		土師器	椀	9.0	(2.9)	3.8	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
1667		土師器	椀	10.0	4.9	4.8	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
1668		土師器	小皿	7.0	5.4	1.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	ほぼ完形
1669		土師器	台付杯	7.2	-	-	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
1670		土師器	鍋	30.9	-	-	灰白色(10YR7/1)	細砂	
1671		瓦質土器	鉢	22.0	-	-	褐灰色(10YR5/1)	細砂	
1672		土師器	釜	13.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
1673	亀山焼	甗	(28.0)	-	-	灰色(N)	細砂、粗砂、礫		
1674	亀山焼	甗	-	(15.2)	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂		
1675	備前焼	甗	-	-	-	灰色(N5)	細砂、粗砂		
1676	備前焼	播鉢	(23.4)	-	-	灰色(YR8/3)	細砂		
1677	白磁	皿	(13.6)	-	-	灰白色(2.5GY)	細砂		
1678	白磁	碗	-	6.1	-	灰白色(2.5GY8/1)			
1679	青磁	碗	-	-	-	利-7° 灰色(10Y5/2~6/2)	精良		
1680	白磁	合子	-	-	-	明緑灰色(5G7/1) 明緑灰色(7.5GY8/1)	精良		
1681	瓦	平瓦	厚22.0	-	-	-	細砂、礫		
1682	唐津焼	皿	11.3	4.0	3.0	灰白色(10Y7/1)			
1683	唐津焼	皿	10.5	3.2	3.1	利-7° 灰色(2.5GY6/1)			
1684	唐津焼	皿	-	-	-	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂、礫	内部砂目積み痕 1610~1630年	
1685	近世素堀溝1	土師器	皿	(7.6)	-	1.3	橙色(2.5YR6/6)	精良	
1686		備前焼	播鉢	-	-	-	赤褐色(10R4/4)	細砂	
1687		備前焼	鉢	(27.6)	-	-	鈍赤褐色(7.5YR4/3)	粗砂、礫	
1688		唐津焼	碗	-	4.2	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良	砂目積み
1689		瓦質土器	鉢	(35.0)	-	-	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	黒斑A

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1690	竪穴住居50	弥生土器	壺	19.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ヨコナデ・疑凹線
1691		弥生土器	甕	13.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
1692		弥生土器	甕	12.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	外面ハケ状工具によるナデ
1693		弥生土器	甕	20.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
1694		弥生土器	甕	15.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	礫	
1695		弥生土器	甕	—	5.6	—	灰褐色(7.5YR4/2)	粗砂	ススB
1696		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	礫	不明
1697		弥生土器	高杯	15.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1698		弥生土器	高杯	8.4	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑A
1699		弥生土器	高杯	—	8.5	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	ナデ
1700		弥生土器	高杯	17.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	透し孔4個
1701		弥生土器	高杯	—	8.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔6個 内面ヘラケズリ
1702		弥生土器	鉢	13.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ハケメ
1703		弥生土器	高杯	—	12.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1704		弥生土器	鉢	14.9	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
1705		弥生土器	台付鉢	—	12.4	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
1706		弥生土器	鉢	(34.0)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A
1707		弥生土器	鉢	10.6	3.5	4.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面ナデ 内面ハケメ
1708		弥生土器	鉢	11.2	4.0	4.8	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	ナデ 完形
1709		弥生土器	手捏ね椀?	7.4	—	3.9	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	完形 ユビオサエ
1710	弥生土器	手捏ね椀?	5.6	—	2.3	橙色(5YR6/8)	細砂	ユビオサエ	
1711	竪穴住居51	弥生土器	甕	(19.8)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
1712		弥生土器	甕	(13.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1713		弥生土器	甕	(11.4)	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	
1714		弥生土器	壺	(11.6)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
1715		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1716		弥生土器	高杯	14.2	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
1717		弥生土器	高杯	—	10.4	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔4個
1718		弥生土器	鉢	13.5	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	外面ユビオサエ・ハケ後ミガキ
1719		弥生土器	鉢	(13.8)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	精良	口縁部沈線6条
1720		弥生土器	鉢	10.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1721	弥生土器	鉢	26.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	内面ハケ後工具ナデ	
1722	竪穴住居52	弥生土器	壺	(25.8)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1723		弥生土器	長頸壺	19.0	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
1724		弥生土器	壺	9.3	3.9	9.5	橙色(5YR7/6)	粗砂	完形
1725		弥生土器	高杯	—	—	—	褐灰色(10YR4/1)	細砂	
1726		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色(10YR6/8)	細砂、粗砂	
1727		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	ヘラミガキ
1728		弥生土器	器台	(30.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ヘラミガキ
1729		弥生土器	器台	—	(37.0)	—	橙色(5YR6/6)	細砂	内面ヨコナデ
1730	竪穴住居53A	弥生土器	壺	15.3	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	
1731		弥生土器	壺	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
1732		弥生土器	鉢	10.4	4.4	5.1	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
1733	竪穴住居53B	弥生土器	甕	(14.1)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
1734		弥生土器	壺	(13.7)	7.0	27.3	橙色(5YR7/6)	細砂	
1735		弥生土器	壺	15.3	7.7	27.2	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ほぼ完形
1736		弥生土器	鉢	(37.6)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
1737		弥生土器	鉢	—	—	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂	
1738		弥生土器	壺	(27.8)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
1739		弥生土器	甕	(18.6)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
1740		弥生土器	甕	19.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
1741	竪穴住居53	弥生土器	甕	15.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ハケメ
1742		弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂、粗砂	
1743		弥生土器	壺	15.8	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂	口縁部凹線
1744		弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	粗砂、礫	
1745		弥生土器	甕	13.8	—	—	浅黄橙色(10YR8/4)	粗砂	
1746		弥生土器	?	—	5.8	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	外面ナデ

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1747	竪穴住居53	弥生土器	高杯	20.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良	
1748		弥生土器	高杯	—	10.6	—	橙色(5YR7/8)	精良	透し孔4個 内面ハケメ
1749		弥生土器	高杯	—	12.8	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	透し孔4個
1750		弥生土器	鉢	14.6	3.0	6.6	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1751		弥生土器	鉢	15.8	6.4	6.4	橙色(5YR7/6)	細砂	
1752		弥生土器	鉢	15.6	5.8	6.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1753		弥生土器	台付鉢	12.8	7.0	(10.5)	橙色(2.5YR6/6)	細砂	外面指オサエ後ハケメ
1754		弥生土器	台付鉢	14.6	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂	
1755		弥生土器	鉢	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	
1756		弥生土器	甕	7.4	3.4	7.5	赤橙色(10R6/8)	細砂	外面ヘラオサエ 内面ケズリ ほぼ完形
1757	弥生土器	手摺ね	(4.9)	2.0	(5.0)	赤褐色(10R5/4)	細砂	ユビオサエ ほぼ完形	
1758	竪穴住居54	弥生土器	壺	13.0	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
1759		弥生土器	甕	16.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1760		弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ナデ
1761		弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	外面タタキ後ナデ 内面ヘラケズリ後ユビナデ
1762		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	外面ナデ
1763		弥生土器	台付直口壺	—	10.8	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔3個残 黒斑B
1764		弥生土器	高杯	19.6	10.7	12.2	赤橙色(10R6/8)	細砂	完形 黒斑A・C
1765		弥生土器	高杯	22.5	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂	ススA
1766		弥生土器	高杯	22.3	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
1767		弥生土器	台付鉢	—	8.2	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1768		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	外面ハケメ
1769		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	外面ナデ 内面ヘラケズリ
1770	弥生土器	鉢	(40.0)	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	礫		
1771	竪穴住居55	弥生土器	甕	14.2	5.2	14.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑B
1772	弥生土器	甕	17.0	—	—	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂		
1773	竪穴住居56	弥生土器	壺	24.3	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
1774		弥生土器	壺	22.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	礫	
1775		弥生土器	壺	23.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	精良	
1776		弥生土器	甕	12.8	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	
1777		弥生土器	鉢	(29.0)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
1778		弥生土器	鉢	21.2	3.5	10.9	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑C
1779		弥生土器	高杯	18.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良	摩滅 黒斑A
1780		弥生土器	高杯	—	12.4	—	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔4個
1781		弥生土器	台付直口壺	8.8	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	外面ヘラミガキ
1782		弥生土器	台付直口壺	—	—	—	浅黄橙(10YR8/4)	細砂	
1783	弥生土器	甕	15.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
1784	弥生土器	甕	17.6	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	頸部内面ハケメ 黒斑A	
1785	弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	外面ヘラナデ?	
1786	竪穴住居57-58	弥生土器	高杯	10.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ヘラミガキ 内面ハケメ後ヘラミガキ
1787	弥生土器	高杯	10.4	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
1788	弥生土器	高杯	—	10.8	—	橙色(5YR7/8)	細砂	透し孔4個	
1789	弥生土器	高杯	—	(7.0)	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	透し孔4個 内面ヘラケズリ	
1790	弥生土器	鉢	14.5	5.0	6.7	赤色(10R5/8)	細砂	ほぼ完形	
1791	弥生土器	鉢	(34.2)	—	—	橙色(5YR7/8)	粗砂	外面ハケメ	
1792	竪穴住居60・61a	弥生土器	甕	14.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1793		弥生土器	甕	(20.0)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
1794		弥生土器	鉢	9.8	—	7.5	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
1795		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ヨコナデ
1796		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ヨコナデ
1797		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	外面ヨコナデ 内面ヘラケズリ
1798		弥生土器	壺	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	ヨコナデ 凹線3条
1799		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ヨコナデ
1800		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	外面ヨコナデ
1801		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	外面ヨコナデ
1802		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	外面ヨコナデ 内面粗いハケメ

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
1803	竪穴住居60・61a	弥生土器	高杯	13.6	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
1804		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ヨコナデ	
1805		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	ヨコナデ	
1806		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ヨコナデ	
1807		弥生土器	高杯	26.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
1808		弥生土器	高杯	(15.0)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	透し孔1個残	
1809	竪穴住居61a	弥生土器	高杯	—	(29.6)	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
1810		弥生土器	高杯	17.3	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	透し孔2個残	
1811	竪穴住居61a・b	弥生土器	長頸壺	(19.3)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/3)	細砂		
1812		弥生土器	壺	9.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
1813		弥生土器	壺	8.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A	
1814		弥生土器	甕	14.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
1815		弥生土器	甕	16.8	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂		
1816		弥生土器	甕	14.2	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	ススA	
1817		弥生土器	甕	(11.2)	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑B	
1818		弥生土器	高杯	19.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
1819		弥生土器	高杯	(12.6)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良		
1820		弥生土器	碗	11.9	4.0	5.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	内面ナデ	
1821		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍橙色(7.5YR6/3)	細砂	外面ユビオサエ・ハケメ?	
1822		弥生土器	高杯	(10.9)	—	—	橙色(5YR7/6)	精良		
1823		弥生土器	台付鉢?	—	10.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面ナデ 黒斑C	
1824		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	外面ヘラオサエ 内面ヘラケズリ	
1825		弥生土器	壺	(14.9)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
1826		製塩土器	—	—	5.0	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	外面ヘラケズリ 内面ナデ	
1827		弥生土器	小型高杯	—	6.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ナデ 内面ナデ	
1828		竪穴住居62	弥生土器	壺	8.4	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
1829			弥生土器	底部片	—	5.2	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑C
1830			弥生土器	甕	16.0	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	ススC
1831	弥生土器		甕	17.5	6.1	25.4	灰白色(10YR8/2)	粗砂	黒斑C	
1832	弥生土器		甕	14.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ススB	
1833	弥生土器		高杯	14.5	9.8	7.1	橙色(5YR7/8)	粗砂	ナデ	
1834	弥生土器		高杯	13.8	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	精良		
1835	弥生土器		台付鉢	12.8	4.8	10.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	剥離 黒斑A~C	
1836	弥生土器		台付鉢	10.9	4.6	7.5	鈍黄褐色(10YR7/4)	粗砂	完形 黒斑A B~C	
1837	弥生土器		丸底鉢形	—	12.8	—	橙色(5YR7/8)	粗砂		
1838	弥生土器		鉢	12.0	—	—	橙色(5YR7/8)	粗砂	ハケメ	
1839	弥生土器		鉢	14.8	4.8	7.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑A~C	
1840	弥生土器		鉢	11.5	3.0	7.4	鈍橙色(5YR7/4)	精良	黒斑C	
1841	弥生土器		鉢	14.5	4.0	8.1	橙色(5YR7/6)	精良	完形 黒斑B~C	
1842	弥生土器		鉢	14.5	4.0	8.0	橙色(2.5YR7/6)	細砂	内面不明 完形	
1843	弥生土器		鉢	13.2	3.9	7.0	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	外面ナデ 黒斑A~B	
1844	弥生土器		鉢	14.4	—	7.9	橙色(2.5YR7/6)	精良	ほぼ完形	
1845	弥生土器		鉢	21.8	8.1	11.5	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	外面ナデ 内面ケズリ後ナデ 黒斑A~C	
1846	竪穴住居63		弥生土器	長頸壺	20.0	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
1847			弥生土器	長頸壺	20.5	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
1848		弥生土器	長頸壺	23.5	8.5	42.7	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑C	
1849		弥生土器	長頸壺	17.8	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂		
1850		弥生土器	長頸壺	21.0	10.9	36.9	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂		
1851		弥生土器	長頸壺	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	転用器台	
1852		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ヨコナデ・ヘラミガキ 口縁部凹線 3条 内面ヨコナデ	
1853		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ヨコナデ	
1854		弥生土器	甕	15.7	5.7	26.4	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂		
1855		弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ナデ	
1856	弥生土器	甕	16.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂			
1857	弥生土器	甕	16.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ハケ後ナデ		
1858	弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	不明		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1859	竪穴住居63	弥生土器	甕	16.0	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	外面ヨコナデ
1860		弥生土器	甕	(14.4)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑A
1861		弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1862		弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1863		弥生土器	甕	13.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	
1864		弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1865		弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
1866		弥生土器	甕	12.9	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1867		弥生土器	甕	13.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1868		弥生土器	甕	(8.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1869		弥生土器	高杯	23.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	口縁部凹線5条
1870		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
1871		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ナデ
1872		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	内外面ヘラミガキ?
1873		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍赤橙色(10YR6/4)	精良	内外面ヘラミガキ?
1874		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	内外面ヘラミガキ
1875		弥生土器	高杯	—	11.6	—	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔2個残
1876		弥生土器	高杯	—	12.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面ヘラミガキ 透し孔4個 内面ハケメ
1877		弥生土器	蓋	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔3個 内外面ナデ
1878		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
1879		弥生土器	鉢	17.5	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	礫	ナデ?
1880		弥生土器	鉢	15.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ナデ
1881		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ヨコナデ
1882		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	外面ヘラミガキ
1883		弥生土器	台付鉢	12.9	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ナデ
1884		弥生土器	台付鉢	15.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良	内面ナデ
1885		弥生土器	台付鉢	15.7	—	—	橙色(5YR6/6)	礫	ナデ?
1886		弥生土器	台付鉢	9.5	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	ナデ
1887		弥生土器	台付鉢	16.2	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	外面ナデ 焼成後底部穿孔
1888		弥生土器	台付鉢	—	9.4	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	外面ヘラケズリ後ナデ
1889		弥生土器	台付鉢	—	6.9	—	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ヘラミガキ 内面ヘラミガキ
1890		弥生土器	鉢	(30.2)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
1891		弥生土器	器台	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1892	竪穴住居64	弥生土器	長頸壺	16.4	7.2	36.0	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	黒斑B・C
1893		弥生土器	長頸壺	16.0	8.6	35.0	橙色(5YR6/6)	粗砂	完形 黒斑B～C
1894		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
1895		弥生土器	壺	13.5	8.2	31.3	明赤褐色(2.5YR5/6)	礫	黒斑B～C
1896		弥生土器	壺	13.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	頸部内面ヘラミガキ?
1897		弥生土器	壺	15.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
1898		弥生土器	壺	21.0	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	タタキ後ハケメ
1899		弥生土器	甕	15.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
1900		弥生土器	甕	13.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1901		弥生土器	甕	30.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面不明
1902		弥生土器	高杯	16.4	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	外面ヨコナデ・ヘラミガキ 内面ヨコナデ
1903		弥生土器	高杯	—	10.0	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	外面ヘラミガキ 透し孔5個
1904		弥生土器	高杯	—	9.4	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	外面ナデ 未貫通孔11個
1905	弥生土器	高杯	16.0	—	—	赤色(10R5/6)	細砂	摩滅不明	
1906	弥生土器	蓋	12.0	—	1.6	橙色(5YR6/6)	細砂	ナデ 完形	
1907	弥生土器	器台	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂		
1908	弥生土器	器台	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	礫	透し孔	
1909	製塩土器	—	—	6.0	—	橙色(2.5YR6/6)	礫		
1910	竪穴住居65	弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
1911		弥生土器	高杯	—	14.0	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	透し孔
1912		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	外面凹線4条 ハケメ 黒斑A
1913	竪穴住居66	弥生土器	壺	23.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	カゴメ 黒斑A・B
1914		弥生土器	壺	24.5	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1915	竪穴住居66	弥生土器	壺	23.2	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
1916		弥生土器	壺	20.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
1917		弥生土器	壺	-	10.6	-	鈍黄橙色(10YR6/3)	粗砂、礫	黒斑C ススC
1918		弥生土器	台付直口壺	(9.8)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ススB
1919		弥生土器	甕	14.0	4.7	24.4	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	黒斑B C
1920		弥生土器	甕	-	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	ヘラミガキ? 黒斑C
1921		弥生土器	甕	14.0	-	-	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	黒斑B
1922		弥生土器	甕	12.6	4.3	15.7	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	黒斑B C
1923		弥生土器	甕	18.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
1924		弥生土器	蓋	-	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
1925		弥生土器	高杯	16.9	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔4個内3個残
1926		弥生土器	鉢	(14.9)	4.4	7.7	赤橙(10R6/8)	細砂	黒斑B
1927		弥生土器	鉢	17.4	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	ススB
1928		竪穴住居67	弥生土器	甕	10.6	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂
1929	弥生土器		甕	16.4	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
1930	弥生土器		甕	14.0	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	ススB
1931	弥生土器		甕	15.0	5.2	(22.6)	橙色(5YR7/6)	細砂	ススB 黒斑B・C
1932	弥生土器		高杯	-	13.4	-	橙色(5YR7/8)	細砂	
1933	弥生土器		高杯	-	19.8	-	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	透し孔 ハケメ後ヘラミガキ ススC
1934	弥生土器		蓋	-	-	-	灰赤色(2.5YR4/2)	細砂	透し孔 脚内面ヘラケズリ ススC
1935	弥生土器		壺	15.1	-	-	赤橙色(10R6/8)	細砂	転用器台
1936	弥生土器		甕	19.2	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	ヘラミガキ・ヘラオサエ
1937	弥生土器		壺	14.2	6.3	27.4	橙色(5YR7/6)	細砂	ススB 黒斑C
1938	弥生土器		高杯	16.2	-	-	赤橙色(10R6/8)	細砂	透し孔4個 黒斑A
1939	弥生土器		台付鉢	9.6	8.6	9.2	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔4個 脚部ハケ状工具
1940	弥生土器		高杯	-	8.5	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂	透し孔4個 ナデ後ハケメ
1941	弥生土器		高杯	-	8.6	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	透し孔4個 ナデ後ヘラミガキ
1942	弥生土器		高杯	-	11.7	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔4個 ナデ後ヘラミガキ
1943	弥生土器		高杯	-	8.7	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂	透し孔4個 ハケメ後ヘラミガキ
1944	弥生土器		鉢	11.7	2.0	6.7	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	ナデ 内面ハケメ 完形
1945	弥生土器		鉢	14.4	3.5	5.3	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑A B C
1946	弥生土器		手捏ね	2.6	2.0	1.9	橙色(2.5YR7/8)	細砂	完形
1947	弥生土器		手捏ね	2.8	1.4	2.1	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ほぼ完形 黒斑B C
1948	弥生土器	ミチャア壺	3.2	3.5	6.0	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	完形	
1949	弥生土器	ミチャア	4.1	2.3	4.9	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	完形 黒斑B・C	
1950	竪穴住居68	弥生土器	甕	17.0	6.8	25.7	橙色(5YR6/6)	礫	ススB 黒斑A・C
1951		弥生土器	甕	12.5	4.6	16.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1952		弥生土器	甕	12.6	4.0	16.2	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1953		弥生土器	高杯	19.0	12.1	10.0	橙色(5YR6/6)	精良	内外面ハケ後ヘラミガキ 透し孔4個 黒斑A
1954		弥生土器	高杯	(18.4)	-	-	褐灰色(10YR4/1)	細砂	外面ヘラケズリ 黒斑A
1955		弥生土器	高杯	12.6	-	-	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔4個
1956		弥生土器	鉢	-	-	-	褐灰色(10YR4/1)	細砂、粗砂、礫	内面ヘラケズリ 黒斑A B
1957		弥生土器	高台付鉢	15.4	(6.0)	(8.5)	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑B〜C
1958		弥生土器	鉢	14.8	4.0	8.2	橙色(5YR7/6)	細砂	ほぼ完形
1959		弥生土器	鉢	16.4	4.3	7.5	橙色(5YR7/6)	細砂	ほぼ完形
1960		弥生土器	鉢	28.8	-	-	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	外面ヘラオサエ後ハケ 黒斑B
1961		弥生土器	台付壺	8.6	-	-	橙色(5YR7/6)	精良	
1962		弥生土器	手捏ね	5.2	4.1	4.7	橙色(5YR6/6)	細砂	
1963		弥生土器	甕	21.8	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
1964		弥生土器	甕	12.0	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
1965		竪穴住居69	弥生土器	高杯	17.3	-	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂、粗砂、礫
1966	弥生土器		高杯	-	10.2	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔4個
1967	竪穴住居70	弥生土器	甕	12.6	-	-	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	
1968		弥生土器	甕	13.2	-	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
1969		弥生土器	甕	16.8	-	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	
1970		弥生土器	甕?	-	5.5	-	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ 黒斑C

角田調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
1971	竪穴住居70	弥生土器	甕?	—	4.0	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ
1972		弥生土器	甕?	—	5.6	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 黒斑C
1973		弥生土器	甕	—	5.2	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
1974		弥生土器	高杯	21.6	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
1975		弥生土器	高杯	(25.5)	—	—	明赤褐色(5YR5/8)	細砂、粗砂、礫	
1976		弥生土器	高杯	—	12.7	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	透し孔1個残
1977		弥生土器	高杯	—	(17.0)	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
1978		弥生土器	鉢	12.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	外面ケズリ後ミガキ
1979		弥生土器	鉢	(25.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
1980		弥生土器	台付鉢	—	6.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
1981	竪穴住居71	弥生土器	壺	9.6	7.2	17.1	橙色(7.5YR7/6)	細砂	黒斑A・B
1982		弥生土器	?	—	5.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
1983		弥生土器	台付鉢	10.2	4.9	9.5	淡黄橙色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂、礫	
1984	弥生土器	壺	—	9.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
1985	竪穴住居73	弥生土器	高杯	9.8	7.6	6.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔2個残 黒斑C
1986		弥生土器	高杯	—	9.6	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔3個残 黒斑C
1987		製塩土器	—	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
1988	竪穴住居72	弥生土器	壺	—	7.3	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B・C
1989		弥生土器	高杯	18.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
1990		弥生土器	高杯	19.3	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
1991		弥生土器	高杯	20.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
1992		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	透し孔3個残
1993		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔2個残
1994		弥生土器	鉢	14.4	4.4	6.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
1995		弥生土器	台付鉢	—	8.5	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
1996	竪穴住居75・76	弥生土器	甕	(17.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
1997		弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
1998		弥生土器	甕	13.7	—	—	淡黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	
1999	竪穴住居77	弥生土器	壺	—	4.2	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
2000		弥生土器	甕	8.6	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	黒斑B
2001		弥生土器	甕	(15.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
2002		弥生土器	甕	13.8	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	ススB
2003		弥生土器	甕	14.6	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑A・B
2004		弥生土器	甕	14.6	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
2005		弥生土器	甕	15.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2006		弥生土器	甕	14.1	4.0	21.5	橙色(2.5YR7/8)	細砂	黒斑B・C
2007		弥生土器	甕	15.5	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	外面工具ナデ 黒斑B
2008		弥生土器	壺	19.3	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、礫	黒斑A
2009		弥生土器	甕	18.3	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ススA
2010		弥生土器	壺	—	4.0	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
2011		弥生土器	壺	—	4.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2012		弥生土器	鉢	—	3.8	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
2013		弥生土器	甕	—	5.1	—	灰褐色(5YR5/2)	細砂	ススB
2014		弥生土器	高杯	16.6	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	透し孔2個残 黒斑A・B
2015		弥生土器	高杯	21.0	14.9	12.1	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	透し孔4個 ほぼ完形
2016		弥生土器	高杯	—	—	—	赤褐色(10R6/6)	細砂	
2017		弥生土器	高杯	—	10.6	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂、粗砂	透し孔5方向赤色顔料? 黒斑C
2018		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	透し孔4個
2019		弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色(5YR7/8)	精良	透し孔2個残
2020		弥生土器	高杯	15.4	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂	
2021		弥生土器	鉢	12.9	4.1	9.8	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	外面タタキ ほぼ完形 黒斑C
2022		弥生土器	鉢	20.6	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
2023		弥生土器	鉢	32.8	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	ススB
2024		弥生土器	鉢	46.8	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A・B
2025		弥生土器	鉢	50.4	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2026	弥生土器	器台	(21.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂		
2027	弥生土器	器台	(22.0)	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂		



角田調査区土器観察表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2028	竪穴住居77	弥生土器	器台	-	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	鋸歯文
2029		弥生土器	器台	-	-	-	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	鋸歯文
2030		弥生土器	器台	-	20.4	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔2個残
2031	竪穴住居78	弥生土器	甕	12.5	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
2032		弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2033		弥生土器	甕	-	3.6	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂、礫	
2034		弥生土器	甕	-	7.0	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
2035		弥生土器	甕	16.4	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
2036	竪穴住居79	弥生土器	甕	(15.8)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
2037		弥生土器	甕	16.7	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
2038		弥生土器	甕	16.4	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2039		弥生土器	甕	18.3	-	-	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	
2040		弥生土器	甕	19.2	-	-	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2041		弥生土器	甕	-	3.5	-	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂	
2042		弥生土器	甕	-	5.4	-	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	
2043		弥生土器	高杯	13.7	-	-	橙色(5YR6/6)	精良	
2044		弥生土器	高杯	16.0	-	-	橙色(5YR6/6)	精良	黒斑A B
2045		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/8)	精良	
2046		弥生土器	高杯	-	9.4	-	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔4個残
2047		弥生土器	高杯	-	11.3	-	明赤褐色(5YR5/8)	細砂	透し孔3個残
2048		弥生土器	高杯	-	10.6	-	橙色(5YR6/8)	細砂	透し孔3個残
2049		弥生土器	高杯	-	9.3	-	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	透し孔4個残
2050		弥生土器	高杯	-	10.5	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	透し孔4個残
2051	弥生土器	高杯	-	10.8	-	橙色(5YR6/6)	精良	透し孔4個	
2052	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂		
2053	弥生土器	鉢	15.4	4.0	7.5	明赤褐色(5YR5/8)	細砂	黒斑B C	
2054	弥生土器	台付鉢	8.6	4.1	9.7	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂		
2055	弥生土器	台付鉢	-	3.1	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
2056	竪穴住居80	弥生土器	壺	(20.8)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2057		弥生土器	壺	-	9.3	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ケズリ 黒斑C
2058		弥生土器	壺	-	10.2	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
2059		弥生土器	高杯	10.7	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔1個のみ
2060		弥生土器	高杯	-	13.2	-	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔4個
2061		弥生土器	鉢	8.6	3.3	5.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形
2062		弥生土器	鉢	34.2	12.1	26.7	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ケズリ後ナデ
2063	竪穴住居81	弥生土器	高杯	16.8	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	外面ケズリ後ミガキ 黒斑A
2064	竪穴住居83	弥生土器	甕	9.0	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
2065		弥生土器	甕	12.5	-	-	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
2066		弥生土器	甕	-	5.9	-	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ ススC
2067	竪穴住居84	弥生土器	鉢	(15.5)	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
2068		弥生土器	甕	14.6	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2069		弥生土器	甕	(14.8)	-	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
2070		弥生土器	甕	16.2	-	-	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	
2071		弥生土器	甕	15.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2072		弥生土器	甕	-	6.2	-	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	
2073		弥生土器	高杯	23.4	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
2074		弥生土器	高杯	-	(7.7)	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ハケメ後ミガキ
2075		弥生土器	鉢	20.8	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	外面ケズリ 黒斑B
2076		弥生土器	鉢	16.5	6.0	6.5	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 黒斑C
2077	弥生土器	鉢	-	8.1	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ 黒斑C	
2078	竪穴住居85	弥生土器	甕	14.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2079		弥生土器	甕	15.2	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
2080		弥生土器	甕	-	-	-	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	ケズリ外面ハケメ
2081		弥生土器	高杯	-	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
2082		弥生土器	高杯	-	-	-	淡褐色(5YR8/4)	精良	
2083		弥生土器	鉢	13.2	-	-	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	
2084	竪穴住居86	弥生土器	壺	-	8.1	-	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	内面底スス 底部外面ケズリ ススB

角田調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2085	竪穴住居86	弥生土器	甕	13.3	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	外面工具ナデ
2086		弥生土器	甕	12.9	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	ケズリ
2087		弥生土器	甕	13.2	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2088		弥生土器	甕	13.3	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
2089		弥生土器	甕	13.4	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ケズリ
2090		弥生土器	甕	16.1	4.8	18.8	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ケズリ後ナデ 被熱 ススB'
2091		弥生土器	壺	-	11.8	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 黒斑C
2092		弥生土器	甕	16.2	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
2093		弥生土器	甕	11.1	4.5	17.0	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	外面工具ナデ ほぼ完形 黒斑C
2094		弥生土器	甕	13.9	-	-	橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
2095		弥生土器	甕	15.9	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ケズリ
2096		弥生土器	甕	(14.2)	-	-	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
2097		弥生土器	甕	14.8	5.0	14.9	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑BC
2098		弥生土器	甕	16.2	-	-	淡赤橙色(2.5YR?)	細砂、粗砂、礫	被熱 黒斑A
2099		弥生土器	甕	16.3	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススB 黒斑A
2100		弥生土器	甕	16.1	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
2101		弥生土器	甕	16.8	-	-	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	
2102		弥生土器	甕	16.9	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2103		弥生土器	甕	16.9	-	-	鈍橙色(7.5YR)	細砂	
2104		弥生土器	甕	16.5	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
2105		弥生土器	甕	17.0	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	
2106		弥生土器	甕	17.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2107		弥生土器	甕	8.1	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2108		弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	ススB
2109		弥生土器	甕	-	2.1	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑C
2110		弥生土器	甕	-	5.0	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑C
2111		弥生土器	甕	-	5.0	-	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ
2112		弥生土器	甕	-	5.0	-	褐灰色(10YR4/1)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑C
2113		弥生土器	甕	-	4.5	-	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂	ススC
2114		弥生土器	高杯	15.8	11.7	9.2	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	脚部透し孔4個
2115		弥生土器	高杯	-	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2116		弥生土器	高杯	11.6	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
2117		弥生土器	高杯	(15.8)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2118		弥生土器	高杯	(18.8)	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
2119	弥生土器	高杯	20.9	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
2120	弥生土器	高杯	-	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
2121	弥生土器	高杯	-	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
2122	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔2個残	
2123	弥生土器	高杯	-	10.6	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	透し孔4個	
2124	弥生土器	高杯	-	(10.0)	-	橙色(5YR7/8)	細砂	透し孔4個	
2125	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔4個 小孔	
2126	弥生土器	高杯	-	13.2	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	透し孔4個	
2127	弥生土器	高杯	-	14.3	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔3個残	
2128	弥生土器	台付直口壺	9.3	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
2129	弥生土器	台付直口壺	-	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	小孔	
2130	弥生土器	台付直口壺	-	-	-	淡橙色(5YR8/3)	細砂	黒斑B	
2131	弥生土器	鉢	-	3.9	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	外面ケズリ後ナデ ススC	
2132	弥生土器	鉢	14.0	4.3	5.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ ほぼ完形	
2133	弥生土器	鉢	14.4	3.8	8.9	淡橙色(2.5YR7/3)	細砂	内面工具ナデ 底部外面ミガキ 黒斑B	
2134	弥生土器	鉢	25.3	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
2135	弥生土器	鉢	26.4	-	-	赤橙色(10R6/6)	細砂	内面工具ナデ? 黒斑B	
2136	弥生土器	鉢	36.3	10.2	22.5	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ 黒斑ABC	
2137	弥生土器	台付鉢	9.2	-	-	橙色(7.5YR7/6)	精良		
2138	弥生土器	台付鉢	11.4	5.2	8.0	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
2139	弥生土器	台付鉢	12.2	6.8	7.5	赤橙色(10R6/6)	細砂、粗砂	完形	
2140	弥生土器	台付鉢	17.2	8.1	10.7	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	内面スス 完形 ススB	
2141	弥生土器	台付鉢	11.3	10.6	10.9	橙色(2.5YR7/6)	精良	透し孔4	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2142	竪穴住居86	弥生土器	台付鉢	—	6.6	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
2143		弥生土器	台付鉢	—	9.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2144	竪穴住居87	弥生土器	壺	16.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	頸部線刻
2145		弥生土器	壺	20.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	口縁部鋸歯文
2146		弥生土器	壺	—	8.5	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B C
2147		弥生土器	甗	11.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑A B
2148		弥生土器	甗	13.5	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	ススB
2149		弥生土器	甗	10.3	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A
2150		弥生土器	甗	14.4	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2151		弥生土器	甗	16.4	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
2152		弥生土器	甗	15.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2153		弥生土器	甗	16.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	外面ハケ状工具ナデ
2154		弥生土器	甗	—	2.1	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2155	弥生土器	高杯	12.7	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	透し孔1個残	
2156	弥生土器	高杯	—	10.3	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	透し孔4個	
2157	弥生土器	手捏ね鉢	4.8	—	3.7	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	完形	
2158	製塩土器	—	—	5.2	—	明褐色(5YR7/2)	粗砂		
2159	竪穴住居88	弥生土器	甗	13.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、礫	黒斑A
2160		弥生土器	甗	—	5.2	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂	ススC 黒斑C
2161		弥生土器	甗	—	5.6	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススC 黒斑C
2162		弥生土器	高杯	17.4	11.2	10.1	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔4個
2163		弥生土器	高杯	11.2	10.8	8.0	橙色(2.5YR7/6)	精良	透し孔4個 ほぼ完形
2164		弥生土器	台付鉢	—	6.7	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2165		弥生土器	鉢	11.6	5.4	6.4	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ほぼ完形 黒斑B C
2166		弥生土器	鉢	16.8	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	外面工具ナデ
2167	製塩土器	—	—	5.4	—	褐色(10YR4/1)	細砂、粗砂		
2168	竪穴住居90	弥生土器	甗	15.2	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
2169		弥生土器	甗	9.8	4.0	10.4	橙色(2.5YR7/6)	細砂	完形 黒斑A B C・A B
2170		弥生土器	鉢	15.8	3.8	7.8	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑B
2171		弥生土器	高杯	17.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔3個残
2172		弥生土器	高杯	14.4	—	—	浅黄橙色(5YR8/3)	細砂	
2173	弥生土器	高杯	13.3	12.0	9.9	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂	透し孔3個残	
2174	竪穴住居91	弥生土器	甗	11.4	3.7	11.6	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂	内面ケズリ後ユビナデ 完形 黒斑C
2175		弥生土器	甗	14.4	—	—	鈍赤褐色(10R6/4)	細砂、粗砂	被熱
2176		弥生土器	甗	—	2.6	—	赤褐色(10R5/4)	細砂	底部外面ハケメ ススC
2177		弥生土器	高杯	18.8	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	
2178		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	脚柱部沈線3条残
2179	弥生土器	鉢	12.0	—	5.8	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
2180	弥生土器	台付鉢	11.7	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂		
2181	弥生土器	台付鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
2182	製塩土器	—	—	4.8	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂		
2183	竪穴住居93	弥生土器	甗	13.5	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2184		弥生土器	鉢	—	2.8	—	橙色(5YR7/6)	精良	
2185		弥生土器	手捏ね鉢	—	2.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2186	竪穴住居94	弥生土器	甗	12.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2187		弥生土器	甗	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2188		弥生土器	甗	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2189		弥生土器	甗	16.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
2190		弥生土器	甗	(21.1)	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、粗砂	内面工具ナデ
2191		弥生土器	甗	12.1	—	—	暗赤褐色(5YR3/2)	細砂、粗砂、礫	内面ケズリ後ナデ
2192		弥生土器	甗	13.6	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
2193		弥生土器	甗	15.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2194		弥生土器	甗	14.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2195		弥生土器	甗	14.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	外面肩部指頭圧痕
2196		弥生土器	甗	—	3.6	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	内外面ナデ
2197		弥生土器	高杯	15.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2198		弥生土器	鉢	(27.2)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	内面ケズリ後ミガキ

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2199	竪穴住居95	弥生土器	甕	10.0	—	—	鈍橙色(2.5YR6/3)	細砂	
2200		弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2201		弥生土器	甕	12.6	—	—	鈍橙色(5YR7/6)	細砂	ケズリ後ナデ
2202		弥生土器	甕	8.7	4.2	11.8	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑B・BC
2203		弥生土器	甕	—	4.8	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2204		弥生土器	甕	—	5.4	—	灰赤色(2.5YR6/2)	細砂、粗砂	外面工具ナデ 底部外面ケズリ ススC
2205		弥生土器	高杯	—	11.9	—	橙色(5YR6/8)	細砂	透し孔3個残 黒斑C
2206		弥生土器	鉢	9.4	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
2207		弥生土器	鉢	13.5	3.8	7.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	内面工具ナデ 底部外面ナデ 黒斑A B C
2208		弥生土器	台付鉢	10.1	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
2209	竪穴住居96	弥生土器	壺	15.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	ハケメ後ミガキ
2210		弥生土器	壺	(16.8)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ケズリ ススA
2211		弥生土器	甕	14.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
2212		弥生土器	甕	21.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2213		弥生土器	甕	14.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	ケズリ
2214		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	ススA
2215		弥生土器	甕	16.5	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2216		弥生土器	甕	11.8	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ススB
2217		弥生土器	甕	15.1	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2218		弥生土器	甕	14.2	5.4	15.1	明褐色(5YR7/2)	細砂、粗砂、礫	ススB
2219		弥生土器	甕	—	5.8	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	底部穿孔 内面ケズリ 黒斑C
2220		弥生土器	甕	—	6.0	—	鈍橙色(2.5YR6/3)	粗砂	内面ケズリ 黒斑C
2221		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2222		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色(10YR6/6)	細砂	
2223		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔2個残
2224		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂	透し孔2個残
2225		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
2226		弥生土器	鉢	(15.6)	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂	黒斑B
2227		弥生土器	鉢	(15.8)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	外面ミガキ?
2228		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2229	弥生土器	鉢	(15.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
2230	弥生土器	高台付鉢	—	3.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良		
2231	竪穴住居97	弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススB'
2232		弥生土器	甕	—	6.3	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	内面スス 底部外面ハケメ ススA
2233		弥生土器	甕	—	7.6	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	ススA
2234		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	竹管文3方向
2235		弥生土器	高杯	—	12.2	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	未貫通孔3個×10組
2236		弥生土器	高杯	—	16.0	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	竹管文1個残
2237		製塩土器	—	—	5.8	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	
2238	竪穴住居98	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	肩部線刻
2239		弥生土器	鉢	44.2	19.3	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2240		弥生土器	壺	14.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2241		弥生土器	壺	18.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
2242		弥生土器	壺	16.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	螺旋状沈線
2243		弥生土器	甕	—	8.4	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ケズリ
2244		弥生土器	甕	11.6	6.1	—	赤褐色(10R5/4)	細砂、粗砂	
2245		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	ススC
2246		弥生土器	甕	20.1	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2247		弥生土器	高杯	27.8	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	ススA'
2248	弥生土器	高杯	—	16.4	—	赤褐色(10R6/8)	細砂、粗砂	透し孔1個残	
2249	竪穴住居99	弥生土器	甕	(12.5)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2250		弥生土器	甕	(13.3)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
2251		弥生土器	甕	(14.7)	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	
2252		弥生土器	甕	(15.2)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
2253		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
2254		弥生土器	小型甕	(8.7)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2255	竪穴住居99	弥生土器	小型甕	—	3.7	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
2256		弥生土器	甕	—	6.1	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂	
2257		弥生土器	壺	—	6.2	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2258		弥生土器	鉢	(19.1)	—	—	明黄褐色(10YR7/6)	細砂、粗砂	
2259		弥生土器	鉢	18.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2260		弥生土器	鉢	(36.8)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
2261		弥生土器	脚台	—	5.4	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2262	竪穴住居100	弥生土器	鉢	(15.2)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2263		弥生土器	甕	(14.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2264	竪穴住居101	弥生土器	甕	9.9	5.7	(12.2)	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	口縁部透し孔1個1対?
2265		弥生土器	高杯	(15.7)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2266		弥生土器	鉢	21.1	4.9	9.2	赤橙色(10R6/6)	細砂、粗砂	
2267	竪穴住居102	弥生土器	高杯	22.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚柱部透し孔3個
2268		弥生土器	高杯	23.4	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
2269		弥生土器	製塩土器	—	5.4	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2270		弥生土器	台付壺	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔1個確認
2271	竪穴住居103	弥生土器	甕	13.9	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2272		弥生土器	甕	16.9	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
2273		弥生土器	甕	(15.6)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
2274		弥生土器	甕	(17.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
2275		弥生土器	甕	—	4.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2276		弥生土器	高杯	12.0	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	
2277		弥生土器	高杯	(18.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2278		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
2279		弥生土器	鉢	(19.7)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2280		竪穴住居104	弥生土器	甕	14.2	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂
2281	弥生土器		甕	(17.0)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2282	弥生土器		甕	—	8.6	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂、粗砂	黒斑B C
2283	竪穴住居105	弥生土器	甕	23.0	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂、粗砂	
2284		弥生土器	高杯	17.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2285		弥生土器	高杯	16.2	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2286		弥生土器	高杯	19.8	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
2287		弥生土器	鉢	10.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2288		弥生土器	鉢	15.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	ススB?
2289		弥生土器	鉢	10.8	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
2290		弥生土器	鉢	—	4.8	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
2291		弥生土器	台付鉢	—	8.0	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススC
2292		竪穴住居106	弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂
2293	弥生土器		壺	—	6.4	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
2294	弥生土器		高杯	(17.4)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	精良	
2295	弥生土器		高杯	17.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	精良	
2296	弥生土器		鉢	8.7	3.4	4.3	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2297	弥生土器		壺	(17.3)	9.3	(38.3)	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	頸部沈線20条 肩部刺突文 黒斑C
2298	竪穴住居107	弥生土器	甕	(13.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
2299		弥生土器	甕	15.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB'
2300		弥生土器	甕	15.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
2301		弥生土器	甕	13.6	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
2302		弥生土器	甕	15.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2303		弥生土器	甕	15.0	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
2304		弥生土器	甕	—	4.4	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	転用甕 底部穿孔 ススB
2305		弥生土器	甕	(18.0)	8.6	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑B 底部?
2306		弥生土器	甕	—	8.1	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C
2307		弥生土器	甕	—	11.2	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
2308		弥生土器	高杯	14.0	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
2309		弥生土器	高杯	20.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	黒斑A
2310		弥生土器	高杯	17.0	12.4	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
2311		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	透し孔数不明 4個確認

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
2312	竪穴住居107	弥生土器	高杯	—	10.7	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
2313		弥生土器	台付鉢	11.8	4.6	6.3	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
2314		弥生土器	台付鉢	11.2	3.9	5.9	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
2315		弥生土器	台付鉢	—	3.2	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
2316		弥生土器	鉢	11.4	4.0	6.3	橙色(5YR7/6)	細砂	ほぼ完形 黒斑B C	
2317		弥生土器	台付鉢	15.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
2318		弥生土器	台付鉢	16.0	7.8	9.9	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	粘土痕 ほぼ完形	
2319		弥生土器	鉢	13.4	5.1	10.2	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂	粘土痕 ほぼ完形 黒斑A B C	
2320		弥生土器	鉢	—	3.8	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑C	
2321		弥生土器	鉢	(12.7)	2.7	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑B C	
2322		弥生土器	鉢	14.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
2323		弥生土器	鉢	18.2	5.0	10.8	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑A B C	
2324		弥生土器	鉢	10.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑B C	
2325		弥生土器	鉢	16.8	4.3	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ススA	
2326		弥生土器	鉢	23.4	—	12.8	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ススB	
2327		弥生土器	鉢	46.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
2328		弥生土器	鉢	12.0	5.0	12.9	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑A B C	
2329	弥生土器	鉢	18.2	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫			
2330	竪穴住居108	弥生土器	長頸壺	16.5	(7.6)	(37.4)	灰白色(10YR8/2)~ 鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	体部線刻 黒斑A B	
2331		弥生土器	壺	14.0	6.4	(25.7)	鈍黄橙色(10YR7/3)~ 淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	黒斑A B	
2332		弥生土器	甕	(22.5)	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂		
2333	竪穴住居109	弥生土器	高杯	(12.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
2334		弥生土器	高杯	—	12.9	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔推定4方向	
2335	竪穴住居110	弥生土器	甕	13.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
2336		弥生土器	高杯	(16.2)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
2337		弥生土器	高杯	—	11.2	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススC?	
2338		弥生土器	鉢	17.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
2339		弥生土器	鉢	(31.8)	9.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ススA	
2340		弥生土器	壺	(17.0)	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	ススB	
2341	弥生土器	壺	19.2	9.6	37.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススC		
2342	弥生土器	甕	12.2	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂			
2343	弥生土器	甕	15.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂			
2344	弥生土器	甕	14.0	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂			
2345	弥生土器	甕	18.0	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂			
2346	弥生土器	甕	10.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂			
2347	竪穴住居111	弥生土器	甕	—	4.2	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススC	
2348		弥生土器	高杯	(17.2)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良		
2349		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	透し孔4方向	
2350		弥生土器	鉢	(14.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
2351		弥生土器	鉢	(16.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		
2352		弥生土器	台付鉢	—	6.4	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	ススC?	
2353		弥生土器	台付鉢	—	5.1	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑C	
2354		弥生土器	鉢	25.5	7.6	15.1	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	黒斑C	
2355		竪穴住居112	弥生土器	甕	(14.7)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
2356			弥生土器	壺底	—	6.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑C
2357	弥生土器		高杯	17.6	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	黒斑A	
2358	弥生土器	高杯	—	(11.9)	—	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔2個確認推定4方向?		
2359	竪穴住居113	弥生土器	壺	12.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
2360		弥生土器	壺	14.1	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂		
2361		弥生土器	壺	15.3	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
2362		弥生土器	壺	—	7.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	体部刺突文 ススB	
2363		弥生土器	壺	12.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
2364		弥生土器	壺	13.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	体部タタキ痕 ススB	
2365		弥生土器	壺	21.1	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	口縁内部3個1組の竹管文5方向(推定) 黒斑B C	
2366		弥生土器	壺	12.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2367	竪穴住居113	弥生土器	壺	13.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB
2368		弥生土器	壺	18.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑BC
2369		弥生土器	壺	11.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	頸部～肩部刺突文
2370		弥生土器	壺	13.6	7.4	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	ススB
2371		弥生土器	壺	11.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	頸部初痕1個確認 ススA
2372		弥生土器	長頸壺	18.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	刻目?10個1組4か所 二重の竹管文3個1組4か所
2373		弥生土器	甕	11.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2374		弥生土器	甕	14.5	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
2375		弥生土器	甕	16.4	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	胴部刺突文
2376		弥生土器	甕	(13.7)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	ススB?
2377		弥生土器	甕	13.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2378		弥生土器	甕	14.0	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2379		弥生土器	甕	8.5	5.2	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ススB
2380		弥生土器	甕	11.4	8.2	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ススA
2381		弥生土器	甕	—	8.2	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	
2382		弥生土器	高杯	24.3	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	脚柱部透し孔4方(1個未貫通)
2383		弥生土器	高杯	23.6	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
2384		弥生土器	高杯	—	(13.5)	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	脚裾部ヘラガキ沈線7条1組残
2385		弥生土器	高杯	—	12.4	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	黒斑C
2386		弥生土器	高杯	—	14.3	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	脚部透し孔2段(上段2個・下段3個)残(内3個未貫通)(推定上段4方・下段8方)
2387		弥生土器	高杯	—	10.0	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	脚部透し孔4方4段16個 脚裾部沈線?1条 黒斑C
2388		弥生土器	器台	—	(20.8)	—	橙色(5YR6/6)	細砂	脚部透し孔2個残(推定4個)
2389		弥生土器	器台	—	22.6	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔5方2段残
2390	弥生土器	器台	28.6	25.4	31.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	脚部透し孔7方2段14個	
2391	製塩土器	—	—	5.5	—	褐色(10YR6/1)	細砂、粗砂		
2392	製塩土器	—	—	5.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
2393	竪穴住居114	弥生土器	甕	(15.3)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2394		弥生土器	甕	—	5.0	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
2395		弥生土器	高杯	—	(12.0)	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2396		弥生土器	鉢	20.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススA
2397		弥生土器	鉢	(19.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2398		弥生土器	鉢	—	7.4	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑C
2399		弥生土器	ミチア7台付鉢	4.6	3.0	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
2400		弥生土器	ミチア7鉢	4.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2401		弥生土器	台付鉢	12.2	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
2402		弥生土器	台付鉢	12.5	6.5	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススA
2403		弥生土器	蓋	18.6	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
2404	竪穴住居115	弥生土器	台付直口壺	7.8	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	脚裾部透し孔推定4方向?
2405		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2406		弥生土器	壺	—	9.1	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススC
2407		弥生土器	甕	(14.0)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2408		弥生土器	甕	(13.4)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2409		弥生土器	甕	—	5.2	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススC
2410		弥生土器	甕	—	5.6	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ススC
2411		弥生土器	甕	—	5.9	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ススC
2412		弥生土器	甕	—	5.7	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2413		弥生土器	甕	—	5.7	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	ススC?
2414		弥生土器	高杯	17.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
2415	弥生土器	高杯	—	10.8	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
2416	弥生土器	高杯	—	10.5	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
2417	弥生土器	鉢	13.6	4.0	7.8	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
2418	弥生土器	台付鉢	17.6	8.9	9.8	浅黄橙色(7.5YR8/8)	細砂	黒斑A	
2419	弥生土器	鉢	(32.8)	9.2	27.9	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C?	
2420	製塩土器	—	11.6	2.9	(12.7)	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、粗砂	黒斑C	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2421	竪穴住居116	弥生土器	甕	—	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	
2422		弥生土器	高杯	—	(12.2)	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔1方向確認
2423		弥生土器	鉢	(16.3)	4.2	7.5	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	細砂、粗砂	黒斑B
2424	竪穴住居117	弥生土器	甕	12.0	—	—	灰白色 (2.5YR8/2)	細砂、粗砂	ススB'
2425		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	ミガキ内面5・外面7分割
2426		製塩土器	—	—	6.0	—	黒褐色 (2.5Y3/1)	細砂、粗砂、礫	
2427	竪穴住居118	弥生土器	甕	(10.2)	—	—	灰黄褐色 (10YR6/2)	細砂	
2428		弥生土器	甕	14.2	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂	黒斑A
2429		弥生土器	甕	(17.6)	—	—	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂、粗砂	
2430		弥生土器?	甕	(14.0)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂	肩部外面タタキ痕
2431		弥生土器?	甕	(16.4)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
2432		弥生土器	甕	(26.0)	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂	
2433		弥生土器?	高杯	(18.4)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
2434		弥生土器	高杯	—	10.7	—	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑C
2435		弥生土器	高杯	15.0	—	—	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂、粗砂	
2436		製塩土器	—	—	4.6	—	黒褐色 (10YR3/1)	細砂	
2437		竪穴住居119	弥生土器	甕	(12.0)	—	—	灰褐色 (7.5YR5/2)	細砂、粗砂
2438	弥生土器		甕	(13.8)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
2439	弥生土器		甕	(14.7)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
2440	弥生土器		甕	14.8	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	
2441	弥生土器		高杯	(14.7)	—	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂	
2442	弥生土器		ミナコト壺	2.4	3.6	4.9	橙色 (7.5YR6/6)	細砂	
2443	竪穴住居120	弥生土器	甕	(12.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
2444		弥生土器	甕	(15.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
2445		弥生土器	甕	(15.2)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
2446		弥生土器	高杯	(19.5)	—	—	橙色 (5YR7/6)	精良	
2447		弥生土器	高杯	(20.1)	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	
2448		弥生土器	高杯	(16.3)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	脚裾部ヘラガキ沈線8条1組(推定8組)
2449	竪穴住居121	弥生土器	甕	8.8	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2450		弥生土器	甕	(12.2)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	ススA
2451		弥生土器	甕	(13.0)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	
2452		弥生土器	甕	12.1	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂	
2453		弥生土器	甕	(12.2)	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	
2454		弥生土器	甕	(14.0)	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂	
2455		弥生土器	甕	13.4	—	—	橙色 (7.5YR6/6)	細砂、粗砂	
2456		弥生土器	甕	(11.8)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂、粗砂	
2457		弥生土器	甕	13.8	—	—	明赤褐色 (2.5YR5/8)	細砂、粗砂、礫	ススB
2458		弥生土器	甕	(16.6)	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2459		弥生土器	甕	17.8	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	細砂、粗砂	ススA?
2460		弥生土器	甕	—	6.1	—	灰褐色 (7.5YR5/2)	細砂	
2461		弥生土器	壺	—	7.8	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂	
2462		弥生土器	高杯	(19.0)	—	—	鈍赤褐色 (2.5YR5/3)	細砂	
2463		弥生土器	高杯	(22.5)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
2464		弥生土器	高杯	(20.5)	—	—	浅黄橙色 (10YR8/4)	細砂、粗砂	
2465		弥生土器	高杯	—	12.6	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	脚裾部竹管文3個1組(推定9組)・沈線1条
2466		製塩土器	—	—	(5.8)	—	灰黄褐色 (10YR6/2)	細砂、粗砂	径歪み
2467	竪穴住居122	製塩土器	—	—	5.5	—	明褐色 (7.5YR7/2)	粗砂	ススC
2468	竪穴住居123	弥生土器	壺	16.5	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
2469		弥生土器	甕	(21.6)	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	
2470		弥生土器	甕	(18.6)	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂、粗砂	
2471		弥生土器	壺	14.6	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススA
2472		弥生土器	甕	(11.2)	—	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
2473		弥生土器	甕	(14.6)	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	
2474		弥生土器	甕	—	6.8	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂、粗砂	ススC?
2475		弥生土器	高杯	(28.8)	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	



角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
2476	竪穴住居123	弥生土器	高杯	—	12.6	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	脚柱部クシガキ沈線6条1組14組残・透し孔2個残(推定8個) 脚裾部クシガキ沈線6条1組5組残(推定16組?)・凹線3条 外面赤色顔料塗布 胎土角閃石多い 色調チョコレート色	
2477		弥生土器	高杯	—	(15.4)	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
2478		弥生土器	鉢	30.1	10.9	27.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	底部ヘラ記号 黒斑BC	
2479		弥生土器	器台	(29.3)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C	
2480	竪穴住居124	弥生土器	壺	13.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂		
2481		弥生土器	甕	(12.1)	—	—	褐灰色(10YR4/1)	細砂、粗砂		
2482		弥生土器	壺	13.1	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂		
2483		弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススA	
2484	竪穴住居125	弥生土器	壺	18.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
2485		弥生土器	壺	14.5	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B	
2486		弥生土器	壺	16.8	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
2487		弥生土器	壺	8.7	(5.5)	13.6	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
2488		弥生土器	高杯	25.3	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
2489		弥生土器	高杯	—	14.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
2490		弥生土器	手捏ね鉢	(4.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
2491		竪穴住居126	弥生土器	甕	(13.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2492	弥生土器		高杯	(22.2)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂		
2493	袋状土壙89	弥生土器	甕	14.6	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
2494		弥生土器	甕	14.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
2495		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
2496		弥生土器	甕	—	5.6	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	底部外面ミガキ	
2497		袋状土壙90	弥生土器	甕	—	6.9	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	
2498		袋状土壙91	弥生土器	高杯	—	9.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	沈線7本5組
2499	袋状土壙92	弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススA	
2500		弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススA	
2501		弥生土器	高杯	24.0	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂		
2502	袋状土壙97	弥生土器	壺	14.1	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	内面クシ状工具による刺突文2方向確認 頸部クシ状工具による刺突文	
2503		弥生土器	壺	14.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
2504		弥生土器	壺	(14.4)	7.6	(39.3)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B	
2505		弥生土器	壺	10.5	—	(23.8)	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B	
2506		弥生土器	甕	10.7	—	—	赤褐色(10R6/6)	細砂、粗砂		
2507		弥生土器	高杯	—	12.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚裾部3個1組の透し孔(未貫通)7方向?	
2508		弥生土器	高杯	23.0	15.1	19.7	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	脚柱部透し孔縦方向4個4方向確認(未貫通あり)	
2509		弥生土器	台付鉢	20.9	13.3	23.8	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	脚裾部4~5個1組の竹管文6方向確認 黒斑B	
2510		袋状土壙105	弥生土器	器台	27.8	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	
2511			弥生土器	ミチユ鉢	4.6	—	2.9	橙色(7.5YR7/6)	細砂	黒斑C
2512	袋状土壙107	弥生土器	壺	13.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	頸部刺突文	
2513		弥生土器	壺	15.8	—	—	淡褐色(5YR8/3)	細砂、粗砂		
2514		弥生土器	甕	14.0	6.6	28.9	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	胴部刺突 底部穿孔 黒斑C ススB	
2515		弥生土器	甕	17.2	7.8	36.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	胴部刺突 ススC?	
2516	袋状土壙108	弥生土器	壺	(7.1)	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂		
2517		弥生土器	高杯	(23.1)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂		
2518	袋状土壙109	弥生土器	壺	18.2	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	二重の竹管文3個1組残(外面) 竹管文2段4組+下段3個残(内面) 黒斑B?	
2519		弥生土器	壺	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂	頸部刺突文	
2520		弥生土器	甕	13.3	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂		
2521		弥生土器	甕	12.9	—	—	褐色(2.5YR6/6)	細砂		
2522		弥生土器	甕	12.7	—	—	褐色(7.5YR7/6)	細砂		
2523		弥生土器	甕	—	8.0	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂		
2524		弥生土器	甕	—	6.7	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂		
2525		弥生土器	甕	—	6.3	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂	ススC?	
2526		弥生土器	壺	—	8.7	—	褐色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
2527		弥生土器	高杯	23.7	15.4	—	褐色(5YR6/6)	細砂		

角田調査区土器観察表

押図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2528	袋状土壇109	弥生土器	器台	25.3	21.9	35.7	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	二重の竹管文4個1組8組
2529		弥生土器	壺	12.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
2530	袋状土壇110	弥生土器	甕	(14.8)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
2531		弥生土器	高杯	—	(15.6)	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂、礫	
2532		弥生土器	甕	12.2	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
2533	袋状土壇112	弥生土器	甕	12.8	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	
2534		弥生土器	甕	11.5	5.6	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
2535		弥生土器	高杯	(22.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	口縁部凹線4条
2536	袋状土壇113	弥生土器	高杯	24.2	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	口縁部凹線2条
2537		弥生土器	壺	13.8	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	頸部刺突文
2538		弥生土器	壺	12.0	6.6	17.5	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形
2539	袋状土壇114	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	口縁部凹線2条
2540		弥生土器	高杯	(25.9)	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
2541		製塩土器	—	(15.6)	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂、粗砂	
2542		弥生土器	壺	19.4	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	
2543		弥生土器	甕	(11.9)	—	—	褐色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2544	袋状土壇115	弥生土器	甕	—	6.4	—	褐色(2.5YR6/8)	細砂	
2545		弥生土器	甕	—	5.8	—	褐灰色(5YR5/1)	細砂	
2546		弥生土器	高杯	—	8.8	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	
2547		弥生土器	器台	21.2	—	—	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	胴上部透し孔6個・下に6個 黒斑A
2548		弥生土器	長頸壺	15.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2549		弥生土器	長頸壺	16.6	—	—	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	頸部沈線15条(螺旋)
2550		弥生土器	壺	14.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	肩部刺突文
2551		弥生土器	壺	12.9	7.0	30.9	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	肩部刺突文 ススB
2552		弥生土器	壺	—	—	—	褐色(5YR6/6)	細砂、粗砂	表面線刻
2553		弥生土器	壺	—	—	—	褐色(5YR6/6)	細砂	表面線刻
2554		弥生土器	甕	13.0	—	—	褐色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	表面タタキ ススB
2555		弥生土器	甕	14.4	—	—	褐色(2.5YR7/6)	細砂	胴部刺突 表面タタキ
2556		弥生土器	甕	12.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
2557	袋状土壇116	弥生土器	甕	16.0	—	—	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	表面タタキ ススB
2558		弥生土器	甕	13.4	5.4	26.8	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	ススB
2559		弥生土器	甕	16.2	7.2	26.8	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
2560		弥生土器	高杯	23.2	—	—	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	口唇部凹線?(条数不明)
2561		弥生土器	高杯	—	15.2	—	褐色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔5個残(推定13個)
2562		製塩土器	—	—	4.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ススC
2563		製塩土器	—	—	2.6	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
2564		製塩土器	—	—	4.0	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
2565		製塩土器	—	—	3.8	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
2566		製塩土器	—	—	3.6	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ススC
2567		製塩土器	—	—	4.0	—	淡褐色(5YR6/3)	細砂、粗砂、礫	ススC
2568		弥生土器	壺	11.0	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	ススB
2569		弥生土器	壺	—	9.2	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂、粗砂	黒斑B
2570		弥生土器	甕	14.2	—	—	褐色(2.5YR6/6)	細砂	
2571		弥生土器	甕	14.5	6.4	25.7	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	底部穿孔 ススABC
2572		弥生土器	甕	10.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
2573		弥生土器	甕	(14.6)	—	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	ススA
2574		弥生土器	甕	13.0	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	ススA
2575		弥生土器	甕	—	5.8	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	ススC
2576	袋状土壇117	弥生土器	甕	—	6.4	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	ススC
2577		弥生土器	高杯	17.0	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	口縁部凹線6条
2578		弥生土器	鉢	18.4	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススA
2579		製塩土器	—	15.8	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂、粗砂、礫	ススA
2580		製塩土器	—	(16.0)	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂	ススA
2581		製塩土器	—	(16.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	
2582		製塩土器	—	—	5.1	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ススC
2583		製塩土器	—	—	4.0	—	灰白色(2.5Y7/1)~ 淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	ススC

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2584	袋状土壙117	製塩土器	—	—	4.0	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	
2585		製塩土器	—	—	4.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
2586		製塩土器	—	—	6.1	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ススC
2587		製塩土器	—	—	4.0	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂、礫	
2588		製塩土器	—	—	4.4	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
2589		製塩土器	—	—	4.9	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
2590		製塩土器	—	—	4.0	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂、礫	
2591		製塩土器	—	—	4.0	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	
2592		製塩土器	—	—	4.4	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂、礫	
2593		製塩土器	—	—	5.4	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	
2594	製塩土器	—	—	4.0	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススC	
2595	袋状土壙119	弥生土器	甗	14.3	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススA
2596		弥生土器	高杯	20.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	外面ミガキ8分割
2597	袋状土壙120	弥生土器	壺	18.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2598	袋状土壙121	弥生土器	甗	12.3	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	被熟 ススA
2599		弥生土器	甗	13.3	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2600		弥生土器	甗	14.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B
2601		弥生土器	甗	14.6	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	黒斑A
2602		弥生土器	甗	—	6.1	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ススA
2603		弥生土器	甗	—	5.6	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ナデ ススA
2604		弥生土器	高杯	(22.2)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2605		弥生土器	高杯	—	9.0	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
2606	袋状土壙122	弥生土器	甗	15.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2607	袋状土壙123	弥生土器	甗	12.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2608		弥生土器	甗	14.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2609		弥生土器	甗	(14.3)	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	
2610		弥生土器	甗	12.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
2611		弥生土器	鉢	17.5	—	—	鈍黄褐色(10YR5/3)	細砂、粗砂	
2612		製塩土器	—	—	5.7	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂
2613	製塩土器	—	—	6.3	—	—	淡黄色(2.5YR8/3)～ 鈍赤褐色(10R6/4)	細砂	黒斑C
2614	袋状土壙124	弥生土器	壺	12.0	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂、粗砂	
2615		弥生土器	壺	18.6	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	口縁部外面凹線5条・2重竹管文3個組 全体5個? 内面連続2列竹管文全体5 個? 黒斑A
2616	袋状土壙125	弥生土器	壺	18.5	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2617		弥生土器	甗	12.4	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
2618		弥生土器	甗	12.6	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	
2619		弥生土器	甗	24.5	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
2620		弥生土器	甗	11.0	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂	歪んでいる
2621		弥生土器	甗	14.7	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
2622		弥生土器	甗	—	4.6	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
2623		弥生土器	高杯	(20.3)	13.3	15.5	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚部4個1組の未貫通透し孔全体5個?
2624		弥生土器	高杯	—	15.2	—	橙色(5YR7/8)	細砂	脚裾部ヘラガキ沈線5本1組(推定14組)
2625		製塩土器	—	—	5.2	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2626	製塩土器	—	—	5.7	—	鈍褐色(2.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫		
2627	袋状土壙126	弥生土器	壺	(12.4)	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	2628と同一個体?
2628		弥生土器	壺	(13.0)	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
2629		弥生土器	甗	13.6	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	粗砂	ススA
2630		弥生土器	甗	11.8	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、礫	
2631		弥生土器	甗	13.6	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	
2632		弥生土器	鉢	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2633		弥生土器	甗	15.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ススA
2634		弥生土器	甗	(15.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2635		弥生土器	甗	9.9	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
2636		弥生土器	甗	13.8	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	色調は白っぽい
2637	弥生土器	甗	13.4	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂		
2638	弥生土器	鉢	10.2	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2639	袋状土壙126	弥生土器	鉢	10.0	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	口縁部穿孔1個残
2640		弥生土器	甕	14.4	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	精良	
2641		弥生土器	鉢	(19.0)	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	ススB?
2642		弥生土器	鉢?	14.8	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂、粗砂	
2643		弥生土器	鉢	(30.8)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂	スス
2644	袋状土壙127	弥生土器	器台	(19.7)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2645	袋状土壙128	弥生土器	甕	12.7	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
2646		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂	口縁下端部スス
2647		弥生土器	甕	13.9	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3) 褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	肩部刺突文 口縁下端部スス
2648		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2649		製塩土器	—	—	5.9	—	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	
2650	袋状土壙129	弥生土器	壺	(18.5)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫	
2651		弥生土器	甕	14.4	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2652		弥生土器	甕	—	6.8	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2653		弥生土器	高杯	(22.5)	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	口縁部沈線4条?
2654	方形土壙1	弥生土器	壺	19.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
2655		弥生土器	甕	14.9	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	黒斑B~C 2656と同一個体?
2656		弥生土器	甕	—	5.7	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	黒斑B~C 2655と同一個体?
2657		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	外面ハケメ 内面不明
2658		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	外面ハケメ
2659	方形土壙2	弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	外面ヘラミガキ?
2660		弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
2661		弥生土器	甕	20.0	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
2662		弥生土器	甕	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	
2663		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2664		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2665		弥生土器	壺	(22.4)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2666		弥生土器	壺	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	
2667	方形土壙3	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2668		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑A
2669		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	精良	
2670		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
2671		弥生土器	高杯	18.0	—	—	橙色(5YR6/6)	精良	外面工具ナデ・ヘラミガキ?
2672		弥生土器	鉢	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	
2673		弥生土器	鉢	(17.2)	6.9	(11.0)	橙色(5YR6/8)	細砂	黒斑B C
2674	方形土壙4	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2675		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2676		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2677		弥生土器	高杯?	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
2678		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	口縁部凹線2条 内面ナデ
2679	方形土壙5	弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2680		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂	
2681		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
2682		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2683	方形土壙6	弥生土器	甕	18.0	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	
2684		弥生土器	甕	14.0	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	
2685	方形土壙7	弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
2686		弥生土器	甕	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	黒斑A
2687		弥生土器	甕	13.0	—	—	橙色(5YR7/8)	粗砂	黒斑A B
2688		弥生土器	鉢?	—	3.3	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	ヘラミガキ 黒斑C
2689		弥生土器	鉢	—	—	—	灰褐色(5YR4/2)	細砂	
2690		製塩土器	—	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	ヘラケズリ
2691	方形土壙8	弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
2692		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
2693		弥生土器	鉢	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
2694		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	外面不明

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2695	方形土壙8	弥生土器	高台付鉢?	—	10.0	—	橙色(2.5YR6/8)	礫	外面不明
2696	方形土壙9	弥生土器	甕	14.5	5.6	20.7	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑C
2697		弥生土器	甕	16.6	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	ススB'
2698		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
2699		弥生土器	甕	—	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
2700		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
2701		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	口縁部凹線約4条残
2702		弥生土器	甕	—	—	—	褐灰色(10YR4/1)	細砂	外面ハケメ
2703		弥生土器	高杯	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2704		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	精良	
2705		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色(10R6/6)	精良	
2706		弥生土器	台付鉢	—	3.8	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
2707		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色(10R6/8)	精良	
2708		弥生土器	高杯	—	11.2	—	赤色(10R5/8)	細砂	透し孔4個
2709		弥生土器	鉢	20.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	黒斑A,B
2710	弥生土器	台付鉢	—	4.8	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
2711	弥生土器	台付鉢	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	内面ケズリ後ハケメ 外面ユビナデ	
2712	方形土壙10	弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2713		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2714		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2715		弥生土器	甕	—	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	外面ヘラミガキ
2716		弥生土器	甕	—	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	
2717		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2718		弥生土器	脚部	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2719		弥生土器	高杯	18.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2720		弥生土器	器台	—	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	口縁部凹線4条
2721		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2722	弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
2723	方形土壙11	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2724		弥生土器	?	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	外面ヨコナデ 透し孔
2725		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	口縁部凹線6条
2726	方形土壙12	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
2727		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2728		弥生土器	壺	18.4	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
2729		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
2730		弥生土器	壺	—	—	—	黒褐色(5YR3/1)	粗砂	
2731		弥生土器	甕	12.0	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	
2732	弥生土器	甕	14.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
2733	弥生土器	甕	12.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
2734	弥生土器	甕	(13.5)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
2735	弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
2736	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂		
2737	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
2738	方形土壙13	弥生土器	甕	—	—	—	鈍赤褐色(5YR4/3)	細砂	外面ヘラミガキ
2739		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2740		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2741		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
2742		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/4)	細砂	
2743		弥生土器	高杯	—	(13.7)	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良	外面ヘラミガキ後ハケメ 透し孔2個残
2744		弥生土器	鉢	12.0	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	ナデ?
2745		弥生土器	鉢	—	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂	内面ヘラケズリ後ヘラミガキ
2746		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	ハケメ 内面ヘラケズリ
2747		弥生土器	甕	15.2	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	ススB
2748	弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	透し孔5個	
2749	方形土壙17	弥生土器	壺	15.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
2750		弥生土器	甕	14.8	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑B~C
2751	方形土壙18	弥生土器	甕	13.4	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	

角田調査区土器観察表

持図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2752	方形土壙19	弥生土器	甗	15.6	—	—	鈍橙色 (5YR6/3)	細砂	
2753		弥生土器	鉢	17.8	—	—	鈍橙色 (5YR6/4)	精良	
2754	方形土壙20	弥生土器	甗	15.2	5.5	(20.5)	橙色 (5YR6/6)	礫	ススC
2755		弥生土器	甗	19.0	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	礫	黒斑A
2756		弥生土器	台付鉢	14.5	11.4	18.5	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	完形 黒斑C
2757		弥生土器	高杯	—	15.0	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔4個
2758		弥生土器	鉢	(28.0)	—	—	橙色 (5YR6/7)	粗砂	
2759	方形土壙21	弥生土器	甗	(16.0)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂	
2760	方形土壙22	弥生土器	甗	15.6	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	
2761		弥生土器	甗	11.8	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	
2762	方形土壙23	弥生土器	壺	21.2	—	—	橙色 (5YR7/4)	粗砂、礫	
2763		弥生土器	壺	20.6	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2764		弥生土器	壺	(21.2)	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	口縁部鋸歯文
2765		弥生土器	壺	22.2	—	—	淡橙色 (5YR8/3)	粗砂、礫	黒斑A・B
2766		弥生土器	壺	16.9	8.1	24.1	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑C
2767		弥生土器	壺	15.6	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
2768		弥生土器	甗	12.4	4.2	20.0	灰白色 (5YR8/2)	粗砂	ほぼ完形 黒斑B・C
2769		弥生土器	甗	(12.6)	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
2770		弥生土器	甗	12.8	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂	
2771		弥生土器	甗	13.0	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
2772		弥生土器	甗	13.8	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	外面ハケ状工具ナデ
2773		弥生土器	甗	14.6	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A
2774		弥生土器	甗	14.8	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
2775		弥生土器	甗	16.6	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	
2776		弥生土器	甗	15.3	5.0	(23.5)	淡橙色 (5YR8/4)	粗砂、礫	ススA
2777		弥生土器	甗	14.2	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
2778		弥生土器	甗	16.7	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
2779		弥生土器	甗	(15.2)	—	—	鈍橙色 (10YR7/3)	細砂	
2780		弥生土器	甗	15.6	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	粗砂	ススB 黒斑C
2781		弥生土器	甗	16.3	—	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	
2782	弥生土器	甗	17.4	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
2783	弥生土器	甗	21.6	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
2784	弥生土器	甗	16.2	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂		
2785	弥生土器	甗	(11.8)	—	—	橙色 (7.5YR6/6)	細砂		
2786	弥生土器	甗	(14.2)	—	—	淡黄色 (2.5Y8/3)	細砂		
2787	弥生土器	甗	14.0	—	—	灰白色 (10YR8/2)	細砂	ススB	
2788	弥生土器	甗	14.6	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂		
2789	弥生土器	甗	15.0	—	—	淡黄色 (2.5Y8/3)	細砂		
2790	弥生土器	甗	15.6	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂		
2791	弥生土器	甗	13.9	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂		
2792	弥生土器	甗	15.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂	黒斑B	
2793	弥生土器	甗	16.4	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	内面ケズリ	
2794	弥生土器	甗	18.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂		
2795	弥生土器	甗	—	—	—	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂		
2796	弥生土器	甗	(16.9)	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススC	
2797	弥生土器	甗	10.3	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂		
2798	弥生土器	甗	11.8	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂		
2799	弥生土器	甗	13.2	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂		
2800	弥生土器	甗	15.8	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
2801	弥生土器	甗	—	6.3	—	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂	底部外面ミガキ ススC	
2802	弥生土器	甗	—	4.9	—	褐灰色 (7.5YR4/1)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 焼成後穿孔 ススA	
2803	弥生土器	甗	—	6.0	—	淡黄橙色 (10YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
2804	弥生土器	甗	—	4.6	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂	外面底部ハケ状工具ナデ	
2805	弥生土器	甗	—	3.4	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	焼成後穿孔 ススC	
2806	弥生土器	甗	—	4.0	—	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	細砂、粗砂、礫	外面工具ナデ	
2807	弥生土器	甗	—	4.6	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB	
2808	弥生土器	高杯	16.0	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔4個残	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2809	方形土壙23	弥生土器	高杯	18.7	—	—	淡橙色(2.5YR6/6)	精良	
2810		弥生土器	高杯	21.0	—	—	橙色(7.5YR6/8)	精良	
2811		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔3個残
2812		弥生土器	高杯	17.1	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂、礫	黒斑ABC AB BC
2813		弥生土器	高杯	14.5	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	透し孔3個残
2814		弥生土器	高杯	15.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2815		弥生土器	高杯	16.9	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
2816		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	精良	透し孔4個
2817		弥生土器	高杯	—	12.1	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	透し孔4個
2818		弥生土器	高杯	—	13.0	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔4個
2819		弥生土器	鉢	10.8	2.7	5.3	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑ABC
2820		弥生土器	鉢	9.7	2.2	5.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	完形
2821		弥生土器	鉢	13.8	3.9	6.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑ABC
2822		弥生土器	鉢	(13.0)	3.9	5.5	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	外面6分割ミガキ 黒斑A
2823		弥生土器	鉢	14.4	—	6.3	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	ほぼ完形
2824		弥生土器	鉢	10.0	—	—	暗灰黄色(2.5YR5/2)	細砂、粗砂	
2825		弥生土器	鉢	10.9	3.2	8.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ
2826		弥生土器	鉢	14.3	—	—	鈍橙色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑AB
2827		弥生土器	鉢	14.3	—	—	橙色(2.5YR7/8)	精良	黒斑AB
2828		弥生土器	鉢	14.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2829		弥生土器	鉢	15.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	外面ハケ状工具ナデ
2830		弥生土器	鉢	16.9	5.2	11.7	橙色(2.5YR7/8)	粗砂	ススA
2831		弥生土器	鉢	17.8	3.0	8.8	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑B
2832		弥生土器	鉢	30.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
2833		弥生土器	鉢	(39.5)	10.5	23.9	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	木葉痕 黒斑C
2834		弥生土器	鉢	40.0	10.0	21.7	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑BC
2835		弥生土器	鉢	45.5	10.2	22.5	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑BC
2836		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面ミガキ
2837		弥生土器	台付鉢	12.8	8.3	8.1	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形
2838		弥生土器	台付鉢	(14.3)	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔1個残
2839		弥生土器	台付鉢	—	11.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔4個
2840		弥生土器	台付鉢	—	7.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
2841		弥生土器	台付鉢	6.8	3.7	5.3	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ほぼ完形 ススA?
2842	弥生土器	直口壺	10.6	6.9	19.3	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	内面ミガキ? ススB 黒斑BC	
2843	弥生土器	直口壺	9.8	—	—	淡橙色(5YR8/4)	精良		
2844	弥生土器	台付直口壺	13.5	14.8	22.4	淡赤橙色(2.5YR7/4)	精良	透し孔4個	
2845	弥生土器	台付直口壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	精良		
2846	弥生土器	台付直口壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
2847	方形土壙24	弥生土器	甕	12.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2848		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
2849		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2850		弥生土器	甕	—	2.5	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
2851		弥生土器	甕	—	5.6	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑C
2852		弥生土器	甕	—	4.8	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	ススA 黒斑C
2853		弥生土器	鉢	(11.0)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	内面ケズリ後ミガキ
2854	方形土壙28	弥生土器	壺	—	7.0	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
2855	方形土壙29	弥生土器	甕	14.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2856	方形土壙30	弥生土器	壺	—	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
2857		弥生土器	甕	(13.0)	—	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂	
2858		弥生土器	?	—	2.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2859	方形土壙31	弥生土器	高杯	—	11.2	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良、細砂	透し孔2個残
2860	方形土壙32	弥生土器	甕	(14.5)	—	—	黒褐色(10YR3/1)	細砂、礫	
2861		弥生土器	甕	—	3.3	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2862		弥生土器	甕	—	4.5	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂	
2863		弥生土器	甕	—	8.4	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
2864		弥生土器	?	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ
2865		方形土壙35	弥生土器	甕	(14.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2866	方形土壙35	弥生土器	壺	—	5.6	—	鈍橙色 (5YR6/4)	精良、細砂	底部外面ケズリ
2867		弥生土器	鉢	9.6	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	粗砂	黒斑C
2868		弥生土器	小形甕	7.4	2.4	5.9	鈍橙色 (5YR7/3)	粗砂、礫	
2869		弥生土器	高杯	—	9.8	—	橙色 (2. 5YR6/6)	精良、粗砂、礫	透し孔4個残
2870	方形土壙36	弥生土器	壺	—	5.1	—	灰白色 (10YR7/1)	細砂、粗砂	
2871		弥生土器	高杯	19.4	—	—	橙色 (5YR7/8)	精良	
2872		弥生土器	鉢	(20.0)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂	
2873	方形土壙43	弥生土器	甕	20.0	—	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂	
2874		弥生土器	蓋	14.4	—	6.6	橙色 (2. 5YR6/8)	粗砂	ススA
2875	方形土壙44	弥生土器	高杯	—	(9.8)	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	透し孔4個残
2876	方形土壙45	弥生土器	甕	(13.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2877	方形土壙46	弥生土器	壺	(20.4)	—	—	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂、粗砂、礫	
2878		弥生土器	壺	(26.0)	—	—	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
2879		弥生土器	壺	18.3	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂	黒斑A
2880		弥生土器	壺	23.6	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
2881		弥生土器	壺	22.3	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2882		弥生土器	壺	18.2	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	
2883		弥生土器	壺	—	9.4	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
2884		弥生土器	壺	—	9.6	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
2885		弥生土器	壺	(13.9)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
2886		弥生土器	甕	13.8	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
2887		弥生土器	甕	15.2	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
2888		弥生土器	壺	15.8	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
2889		弥生土器	甕	16.4	—	—	鈍橙色 (2. 5YR6/4)	細砂	
2890		弥生土器	甕	15.8	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
2891		弥生土器	甕	—	5.7	—	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ 黒斑C
2892		弥生土器	甕	—	6.6	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂、粗砂	内面スス
2893		弥生土器	甕	—	6.0	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ ススC
2894		弥生土器	高杯	17.2	12.8	10.7	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂	透し孔4個残
2895		弥生土器	高杯	17.6	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/3)	精良	
2896		弥生土器	高杯	—	11.2	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔4方向
2897		弥生土器	高杯	—	12.0	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	透し孔4個
2898	弥生土器	高杯	—	13.0	—	橙色 (2. 5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔4個 黒斑C	
2899	弥生土器	鉢	14.2	5.4	6.8	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
2900	弥生土器	鉢	13.6	4.2	7.4	橙色 (2. 5YR7/8)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
2901	弥生土器	鉢	13.4	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂	ススA	
2902	弥生土器	台付鉢	—	10.4	—	赤橙色 (10R6/8)	細砂		
2903	弥生土器	小形壺	—	—	—	灰褐色 (7. 5YR6/2)	細砂、礫		
2904	弥生土器	鉢	41.2	14.0	24.7	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ケズリ	
2905	方形土壙50	弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
2906		弥生土器	甕	12.3	—	—	橙色 (7. 5YR6/6)	細砂、粗砂	
2907		弥生土器	甕	13.0	—	—	灰褐色 (5YR5/2)	細砂	
2908	方形土壙51	弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
2909		弥生土器	甕	—	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	
2910		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	透し孔4個
2911	方形土壙52	弥生土器	甕	—	4.2	—	鈍赤褐色 (5YR5/3)	細砂	底部外面ミガキ
2912		弥生土器	甕	—	4.0	—	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂	
2913		弥生土器	高杯	—	11.2	—	橙色 (2. 5YR7/6)	細砂	透し孔4個
2914	方形土壙53	弥生土器	壺	20.6	—	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	鋸歯文1個残
2915		弥生土器	甕	(20.2)	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	
2916	方形土壙54	弥生土器	甕	17.1	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂、粗砂	
2917	方形土壙55	弥生土器	直口壺	7.6	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
2918		弥生土器	直口壺	—	2.9	—	橙色 (5YR7/6)	精良	黒斑B
2919		弥生土器	甕	11.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	
2920		弥生土器	甕	15.6	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
2921		弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色 (2. 5YR6/6)	細砂、粗砂	
2922		弥生土器	甕	13.0	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	黒斑B



角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
2923	方形土壙55	弥生土器	甕	18.0	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
2924		弥生土器	甕	—	6.0	—	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ	
2925		弥生土器	甕	—	8.3	—	灰白色 (10YR8/2)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑C	
2926		弥生土器	高杯	10.7	11.2	7.3	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔3個残	
2927		弥生土器	高杯	12.1	9.8	9.9	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	透し孔 ほぼ完形	
2928		弥生土器	高杯	15.6	12.1	9.5	橙色 (5YR6/6)	細砂	透し孔4	
2929		弥生土器	高杯	13.6	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
2930		弥生土器	高杯	14.0	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂		
2931		弥生土器	高杯	14.8	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	黒斑A	
2932		弥生土器	高杯	14.2	13.0	11.2	鈍橙色 (7.5YR7/4)	精良	透し孔4 ほぼ完形 黒斑A・C	
2933		弥生土器	高杯	15.5	9.9	9.6	鈍橙色 (5YR7/4)	精良	透し孔4 ほぼ完形	
2934		弥生土器	高杯	—	10.4	—	灰白色 (5YR8/2)	細砂	透し孔4 小孔	
2935		弥生土器	高杯	—	12.2	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	透し孔4 小孔	
2936		弥生土器	高杯	—	6.9	—	灰白色 (2.5Y8/2)	細砂	黒斑C	
2937		弥生土器	鉢	10.5	3.4	7.2	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂	ススA	
2938		弥生土器	鉢	11.3	3.9	9.4	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 ススA	
2939		弥生土器	鉢	6.5	4.1	6.4	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑ABC	
2940		弥生土器	鉢	14.8	4.0	6.6	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	ススB	
2941		弥生土器	蓋	—	14.1	—	橙色 (5YR6/6)	精良	透し孔2個	
2942		方形土壙60	弥生土器	壺	23.5	—	—	橙色 (2.5YR7/8)	細砂	
2943	弥生土器		甕	15.7	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂		
2944	弥生土器		甕	16.7	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂	外面ハケメ?	
2945	弥生土器		甕	19.8	—	—	橙色 (2.5YR7/8)	細砂		
2946	弥生土器		器台	—	(32.2)	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	透し孔1個残	
2947	方形土壙61	弥生土器	壺	14.2	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	細砂、粗砂	螺旋状沈線	
2948		弥生土器	甕	(17.2)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂		
2949		弥生土器	甕	22.0	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	粗砂		
2950		弥生土器	器台	—	(26.6)	—	鈍赤褐色 (5YR5/3)	細砂、粗砂、礫	透し孔2個残方形1・円形1	
2951	方形土壙62	弥生土器	壺	16.8	—	—	赤色 (10R5/6)	細砂		
2952		弥生土器	壺	(24.0)	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂		
2953		弥生土器	甕	10.6	—	—	赤色 (10R5/8)	細砂		
2954		弥生土器	甕	16.0	—	—	赤褐色 (10R4/4)	細砂		
2955		弥生土器	甕	17.6	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂		
2956		弥生土器	甕	22.6	—	—	黄橙色 (7.5YR7/8)	細砂		
2957		弥生土器	高杯	20.5	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂		
2958		弥生土器	高杯	18.0	—	—	灰白色 (2.5Y8/1)	細砂	ススA	
2959		弥生土器	高杯	18.2	—	—	赤褐色 (10R6/8)	細砂		
2960		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔2個残	
2961		製塩土器	—	—	5.4	—	赤褐色 (10R6/6)	細砂		
2962	弥生土器	台付鉢	—	(10.4)	—	灰褐色 (5YR4/2)	細砂	透し孔1個残		
2963	方形土壙66	弥生土器	壺	19.0	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	粗砂	ススA	
2964		弥生土器	壺	19.4	—	—	橙色 (2.5YR6/6)	粗砂		
2965		弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
2966		弥生土器	甕	15.6	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	粗砂		
2967		弥生土器	甕	—	7.5	—	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂	底部外面ミガキ ススC	
2968		弥生土器	高杯	—	11.8	—	明褐色 (7.5YR7/2)	細砂	透し孔2個1対で4個	
2969		弥生土器	鉢	(22.4)	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	粗砂	黒斑B	
2970		方形土壙67	弥生土器	甕	8.2	—	—	鈍褐色 (7.5YR5/3)	細砂、粗砂	内面ナデ 黒斑A
2971	方形土壙70	弥生土器	甕	15.5	—	—	明赤褐色 (2.5YR5/6)	細砂	外面上半工具ナデ ススA	
2972		弥生土器	甕	(17.0)	—	—	明赤褐色 (2.5YR5/8)	細砂	ススC	
2973		弥生土器	甕	16.6	—	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	内面にスス ススA	
2974		弥生土器	甕	16.6	—	—	灰白色 (2.5Y8/1)	細砂	内面ケズリ	
2975		弥生土器	甕	—	4.0	—	灰褐色 (5YR4/2)	細砂	底部外面ハケメ ススB 黒斑C	
2976		弥生土器	鉢	9.8	3.4	5.8	橙色 (5YR7/6)	細砂	底部外面ハケメ	
2977		弥生土器	鉢	11.2	4.2	5.4	赤色 (10R5/8)	細砂	底部外面ハケメ 黒斑A	
2978		弥生土器	甕	10.4	—	—	橙色 (5YR7/6)	粗砂		
2979		方形土壙71	弥生土器	高杯	11.8	10.3	7.8	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂	透し孔4

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
2980	方形土壙71	弥生土器	高杯	—	10.6	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良	外面ハケメ 透し孔3個残
2981		弥生土器	台付鉢	—	9.0	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	脚内面にスス
2982	方形土壙78	弥生土器	壺	12.2	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	体部不明瞭な線刻 頸部刺突文 黒斑A
2983		弥生土器	甕	(17.8)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	ススB
2984		弥生土器	甕	(15.3)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A
2985		弥生土器	高杯	(13.4)	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
2986		弥生土器	器台	—	28.2	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂、礫	透し孔円形8個・方形4個
2987	方形土壙81	弥生土器	甕	12.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2988		弥生土器	甕	14.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
2989		弥生土器	甕	17.9	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
2990		弥生土器	甕	—	4.3	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、礫	ススC
2991		弥生土器	甕	—	5.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
2992		弥生土器	鉢	13.2	—	7.4	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
2993	方形土壙82	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑A
2994		弥生土器	高杯	—	8.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
2995	方形土壙83	弥生土器	壺	18.8	—	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	
2996		弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススA?
2997		弥生土器	甕	14.5	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
2998		弥生土器	高杯	10.8	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
2999		弥生土器	高杯	11.1	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3000		弥生土器	高杯	11.7	—	—	橙色(5YR6/6)	精良	
3001		弥生土器	高杯	(16.1)	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	
3002		弥生土器	高杯	14.6	10.9	8.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3003		弥生土器	高杯	17.0	11.7	9.1	鈍褐色(5YR6/4)	精良	脚裾部に透し孔2個残(推定4個)
3004		弥生土器	高杯	17.1	11.4	10.4	橙色(5YR6/6)	精良	
3005		弥生土器	台付鉢	12.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3006	弥生土器	鉢	9.5	3.8	8.7	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、粗砂		
3007	弥生土器	鉢	(37.2)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂		
3008	方形土壙84	弥生土器	甕	(13.1)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススA
3009		弥生土器	甕	—	5.5	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
3010	方形土壙85	弥生土器	甕	(16.8)	—	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	
3011		弥生土器	高杯	(16.0)	—	—	鈍褐色(5YR6/4)~ (7.5YR7/4)	細砂	
3012	弥生土器	鉢	(23.0)	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
3013	方形土壙86	弥生土器	小形鉢	8.7	3.0	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
3014	方形土壙88	弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3015		弥生土器	甕	(16.3)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3016		弥生土器	甕	8.9	(4.0)	(11.2)	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
3017		弥生土器	甕	—	6.2	—	褐色(7.5YR5/1)	細砂、粗砂	
3018		弥生土器	壺	—	7.9	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3019		弥生土器	高杯	16.1	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A
3020		弥生土器	高杯	16.8	—	—	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	黒斑A
3021		弥生土器	高杯	20.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3022		弥生土器	高杯	—	12.4	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
3023		弥生土器	高杯	—	11.3	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3024		弥生土器	台付鉢	(13.0)	5.3	6.5	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C
3025		弥生土器	鉢	13.3	4.0	5.4	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑B
3026		弥生土器	鉢	17.1	5.6	6.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑A
3027		弥生土器	台付鉢	12.9	6.2	7.8	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
3028	方形土壙89	弥生土器	甕	(21.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
3029		弥生土器	甕	3.0	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂	ススC
3030		弥生土器	鉢	10.4	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	黒斑B
3031		弥生土器	鉢	(16.0)	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	
3032	方形土壙90	弥生土器	甕	13.3	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3033		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
3034		弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3035		弥生土器	甕	14.8	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	ススB

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
3036	方形土壇90	弥生土器	甕	12.1	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
3037		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂		
3038		弥生土器	高杯	20.3	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
3039		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、精良		
3040		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、精良		
3041		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚部透し孔4個	
3042		弥生土器	鉢	(16.3)	6.4	8.2	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫		
3043	方形土壇92	弥生土器	壺	26.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)~ 淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂		
3044		弥生土器	壺	22.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
3045		弥生土器	壺	19.8	9.9	(38.2)	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	黒斑C	
3046		弥生土器	壺	—	11.0	—	灰白色(10YR8/1)		スス?	
3047		弥生土器	壺	—	7.7	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑C	
3048		弥生土器	壺	—	5.6	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂、礫	搬入土器 黒斑C	
3049		弥生土器	甕	15.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良		
3050		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂		
3051		弥生土器	甕	(9.5)	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		
3052		弥生土器	甕	11.6	—	—	淡橙色(5YR8/3)~ (5YR8/4)	細砂、粗砂		
3053		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
3054		弥生土器	甕	14.4	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	ススB	
3055		弥生土器	甕	16.1	4.2	28.4	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	底部穿孔	
3056		弥生土器	甕	—	5.2	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ススB	
3057		弥生土器	甕	—	5.0	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂		
3058		弥生土器	甕	—	2.4	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
3059		弥生土器	甕	—	5.0	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	穿孔 ススC	
3060		弥生土器	高杯	18.0	—	—	淡橙色(5YR8/4)	精良		
3061		弥生土器	高杯	18.6	—	—	鈍橙色(5YR7/3)~ 浅黄橙色(7.5YR8/4)	精良		
3062		弥生土器	高杯	13.4	13.2	(10.7)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	黒斑A C	
3063	弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良			
3064	弥生土器	高杯	—	14.3	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良			
3065	弥生土器	鉢	12.2	4.6	6.3	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑B		
3066	弥生土器	鉢	15.3	4.6	6.2	淡橙色(5YR8/3)	精良	ほぼ完形		
3067	弥生土器	鉢	13.1	4.7	12.5	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	黒斑B		
3068	弥生土器	鉢	(19.4)	7.9	14.6	赤橙色(10R6/4)	細砂、粗砂	黒斑B		
3069	弥生土器	鉢	21.8	6.6	(12.4)	鈍橙色(5YR7/3)~ 鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	黒斑C		
3070	方形土壇94	弥生土器	壺	17.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
3071		弥生土器	壺	26.8	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂		
3072		弥生土器	壺	—	10.8	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
3073		弥生土器	甕	15.7	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
3074		弥生土器	甕	15.2	5.6	24.6	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	穿孔 完形 ススC	
3075		弥生土器	甕	(12.0)	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
3076		弥生土器	甕	(16.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3077		弥生土器	甕	16.2	—	—	明赤色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂		
3078		弥生土器	甕	—	5.0	—	褐色(10YR5/1)	細砂		
3079		弥生土器	甕	—	4.4	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススC	
3080		弥生土器	壺	—	6.0	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
3081		弥生土器	鉢	39.3	10.8	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
3082		弥生土器	高杯	18.5	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
3083		弥生土器	台付鉢	—	7.0	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂		
3084		弥生土器	台付鉢	—	9.8	—	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
3085		方形土壇96	弥生土器	甕	16.1	—	—	褐色(10YR4/1)	細砂	
3086		弥生土器	鉢	7.0	2.6	5.6	橙色(5YR6/6)	細砂		
3087		方形土壇99	弥生土器	甕	14.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3088			弥生土器	高杯	—	12.0	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	黒斑C
3089	弥生土器		鉢	18.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
3090	弥生土器	鉢	33.8	—	—	明赤褐色(5YR5/8)	細砂			

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3091	方形土壙102	弥生土器	高杯	15.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)		
3092		弥生土器	高杯	-	10.9	-	橙色(5YR6/6)		
3093		弥生土器	高杯	11.3	8.2	10.2	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	ほぼ完形
3094	方形土壙103	弥生土器	高杯	19.1	-	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
3095	方形土壙105	弥生土器	甕	13.8	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
3096		弥生土器	甕	(12.1)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
3097		弥生土器	壺	-	6.5	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	
3098		弥生土器	高杯	(10.8)	-	-	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
3099	方形土壙106	弥生土器	高杯	(17.7)	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3100		弥生土器	高杯	-	13.6	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3101	方形土壙107	弥生土器	甕	(15.6)	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
3102	方形土壙110	弥生土器	甕	(20.4)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
3103		弥生土器	鉢	-	6.4	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3104		弥生土器	甕	-	4.3	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
3105		弥生土器	高杯	-	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔1個確認
3106	方形土壙113	弥生土器	壺	21.0	-	-	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B
3107		弥生土器	甕	(11.1)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
3108		弥生土器	甕	(12.9)	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3109		弥生土器	甕	(15.6)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
3110		弥生土器	甕	-	5.6	-	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	黒斑C
3111		弥生土器	壺	-	6.3	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑C
3112		弥生土器	甕	-	5.3	-	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	底部穿孔
3113		弥生土器	鉢	13.0	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
3114		弥生土器	高杯	-	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3115		弥生土器	鉢	(48.4)	-	-	橙色(5YR6/6)~ 淡褐色(5YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑B
3116	方形土壙114	弥生土器	甕	(17.2)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ススA
3117		弥生土器	高杯	(20.2)	-	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	
3118		弥生土器	高杯	-	9.7	-	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
3119	方形土壙116	弥生土器	壺	(25.4)	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
3120	方形土壙118	弥生土器	高杯	(14.6)	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3121		弥生土器	高杯	-	(12.2)	-	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂	
3122	方形土壙120	弥生土器	壺	17.6	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	
3123		弥生土器	鉢	-	-	-	褐色(7.5YR6/2)	細砂	
3124	方形土壙123	弥生土器	甕	(14.0)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3125		弥生土器	甕	(14.1)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
3126		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3127	方形土壙129	弥生土器	高杯	16.4	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3128	方形土壙130	弥生土器	甕	12.6	-	-	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	
3129		弥生土器	甕	-	6.0	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	ススC
3130		弥生土器	鉢	10.0	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
3131		弥生土器	鉢	14.4	5.6	9.5	橙色(5YR7/6)	細砂	ススA
3132	方形土壙134	弥生土器	甕	15.2	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3133		弥生土器	甕	-	5.7	-	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑C
3134	方形土壙135	弥生土器	甕	(16.8)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3135		弥生土器	高杯	17.6	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
3136		弥生土器	鉢	9.9	-	4.8	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑C
3137	方形土壙136	弥生土器	壺	23.1	-	-	暗赤褐色(5YR3/2)	細砂、粗砂	
3138		弥生土器	壺	25.4	-	-	黒褐色(7.5YR3/2)	細砂、粗砂	黒斑A
3139		弥生土器	壺	20.5	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑B
3140		弥生土器	壺	19.4	9.7	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑AC
3141		弥生土器	壺	16.1	-	-	7-7 褐色(2.5Y4/3)	細砂、粗砂	口縁部・頸部内面有彩色?
3142		弥生土器	壺	24.6	-	-	褐色(7.5YR4/3)	細砂、粗砂	
3143		弥生土器	壺?	16.1	7.3	33.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑B
3144		弥生土器	壺	-	9.7	-	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	体部線刻文 黒斑C
3145	弥生土器	甕	10.3	2.8	12.0	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
3146	弥生土器	甕	13.9	2.8	14.4	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑B	

角田調査区土器観察表

種図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3147	方形土壙136	弥生土器	甕	14.6	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
3148		弥生土器	甕	18.0	8.0	16.4	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	ススB
3149		弥生土器	鉢	19.0	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	黒斑B
3150		弥生土器	鉢	42.2	12.2	22.8	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	黒斑C
3151	方形土壙137	弥生土器	脚台?	—	16.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3152	方形土壙138	弥生土器	鉢	(12.8)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3153	方形土壙139	弥生土器	壺	19.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
3154		弥生土器	壺	—	6.8	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	
3155		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3156		弥生土器	甕	13.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
3157		弥生土器	甕	(15.4)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	ススA
3158		弥生土器	甕	18.8	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
3159		弥生土器	甕	16.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
3160		弥生土器	高杯	16.8	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
3161		弥生土器	鉢	17.9	6.4	—	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂	黒斑B
3162		弥生土器	鉢	(18.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	黒斑C
3163		方形土壙142	弥生土器	甕	—	7.0	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂
3164	弥生土器		ミチナ鉢	—	2.4	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
3165	弥生土器		鉢	—	4.9	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
3166	方形土壙143	弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3167		弥生土器	鉢	—	6.2	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	黒斑C
3168		弥生土器	鉢	16.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3169		弥生土器	台付鉢	—	6.0	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
3170	方形土壙145	弥生土器	鉢	—	—	—	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂、粗砂	
3171		弥生土器	鉢	(18.7)	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑B
3172		弥生土器	台付鉢	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3173	方形土壙147	弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
3174	方形土壙149	弥生土器	壺	16.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3175		弥生土器	甕	(15.2)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3176		弥生土器	甕	—	5.9	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
3177		弥生土器	高杯	—	10.8	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
3178		弥生土器	高杯	—	(10.7)	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	透し孔2個残
3179	方形土壙150	弥生土器	甕	—	4.1	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
3180		弥生土器	鉢	14.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
3181	方形土壙153	弥生土器	甕	(14.5)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3182	方形土壙154	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3183		弥生土器	甕	—	4.3	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
3184		弥生土器	壺	—	9.4	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
3185		弥生土器	壺	23.7	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	口縁部鋸歯文
3186	方形土壙156	弥生土器	甕	17.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	ススB'
3187		弥生土器	甕	21.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3188		弥生土器	高杯	18.4	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
3189		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	透し孔3個残
3190		弥生土器	鉢	15.9	3.8	8.3	橙色(5YR7/6)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑ABC
3191	方形土壙158	弥生土器	甕	16.8	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	外面ハケ状工具ナデ
3192		弥生土器	甕	18.1	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
3193		弥生土器	甕	—	3.9	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	外面ハケ状工具ナデ 黒斑C
3194		弥生土器	高杯	16.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3195		弥生土器	高杯	—	10.4	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔4個
3196	方形土壙161	弥生土器	甕	10.8	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	外面ハケメ後ミガキ
3197	土壙188	弥生土器	壺	16.8	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
3198	土壙189	弥生土器	壺	19.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3199		弥生土器	壺	14.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3200		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3201		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3202		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3203		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載道標名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3204	土壇189	弥生土器	壺	13.2	—	—	明黄褐色(10YR7/6)	細砂	丹塗リ? 調整不明
3205		製塩土器	—	—	(4.5)	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
3206		製塩土器	—	—	(3.3)	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3207	土壇190	弥生土器	壺	12.0	7.8	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
3208		弥生土器	壺	(15.4)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
3209		弥生土器	甕	11.2	13.1	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
3210		弥生土器	高杯	(12.9)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3211		弥生土器	台付鉢	(20.1)	12.6	18.8	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	完形 黒斑B
3212		製塩土器	—	—	6.3	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	礫	ススC
3213		製塩土器	—	—	5.6	—	褐灰色(7.5YR6/1)	礫	
3214		製塩土器	—	—	5.6	—	暗灰色(3N)	粗砂、礫	ススC
3215	土壇191	弥生土器	甕	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂	
3216		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	内面ヘラケズリ
3217	土壇192	弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
3218		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3219		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
3220	土壇193	土師器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	外面クシ状工具 内面ヘラケズリ
3221		弥生土器	甕	—	—	—	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂	口縁部凹線2条
3222		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/8)	精良	ヘラミガキ 透し孔
3223		弥生土器	脚部	—	4.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3224	土壇194	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3225		弥生土器	高杯	(30.0)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	黒斑A
3226		弥生土器	高杯	15.3	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
3227		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ハケメ 黒斑C
3228		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3229	土壇195	弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	
3230		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
3231	土壇197	弥生土器	甕	16.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3232		弥生土器	甕	15.6	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
3233		弥生土器	高杯	(18.8)	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
3234		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR7/8)	細砂	外面ハケメ後ヘラミガキ 黒斑C
3235		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	透し孔4個
3236		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
3237		弥生土器	鉢	12.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3238		弥生土器	鉢	(15.4)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3239		弥生土器	鉢	14.7	3.0	5.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3240	土壇198	弥生土器	甕	14.0	—	—	褐灰色(5YR4/1)	細砂	
3241		弥生土器	甕	16.0	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂	
3242	土壇199	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ヨコナデ
3243		弥生土器	壺	19.3	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	外面ナデ
3244		弥生土器	壺	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3245		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3246		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	
3247		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
3248		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	
3249		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
3250	土壇200	弥生土器	壺	22.0	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	頸部内面ヘラミガキ
3251		弥生土器	甕	17.6	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	
3252		弥生土器	甕	12.4	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	
3253	土壇201	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	精良	
3254		弥生土器	甕	17.6	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
3255		弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
3256		弥生土器	甕	16.8	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3257		弥生土器	甕	12.0	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
3258		弥生土器	甕	—	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	
3259		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3260		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	

角田調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3261	土壙201	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3262		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3263		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	
3264	土壙202	弥生土器	甕	-	-	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	口縁部沈線3条 ハケメ
3265		弥生土器	高杯	18.1	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	ススA
3266	土壙203	弥生土器	高杯	24.0	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	口縁部凹線5条 内外面ヘラミガキ
3267	土壙204	弥生土器	甕	(16.8)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	外面ヘラミガキ 内面ヘラミガキ・ヘラケズリ
3268		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	外面不明 透し孔4個
3269		弥生土器	高杯	17.6	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	ヘラミガキ
3270		弥生土器	台付鉢	(11.7)	3.2	8.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	外面ヘラケズリ・ナデ 内面工具ナデ
3271	土壙205	弥生土器	長頸壺	20.0	-	-	赤色(10R5/8)	粗砂	
3272		弥生土器	壺	19.0	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3273		弥生土器	甕	17.0	-	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
3274		弥生土器	壺	15.8	-	-	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂	
3275		弥生土器	甕	15.2	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ハケメ
3276		弥生土器	甕	11.5	-	-	赤橙色(10R6/8)	細砂	
3277		弥生土器	甕	15.6	-	-	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	
3278		弥生土器	甕	11.4	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3279		弥生土器	甕	(22.3)	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3280		弥生土器	高杯	19.3	9.8	13.5	赤褐色(10R6/8)	細砂	透し孔3個
3281		弥生土器	高杯	21.5	-	-	赤褐色(10R6/8)	細砂	外面ハケメ後ヘラミガキ 透し孔5個
3282		弥生土器	高杯	-	10.5	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	透し孔5個
3283		弥生土器	高杯	21.0	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	内面不明
3284		弥生土器	鉢	42.5	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
3285		弥生土器	鉢	33.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	外面ナデ ヘラミガキ
3286		弥生土器	台付鉢	12.2	6.0	8.3	橙色(5YR6/6)	粗砂	ナデ
3287		弥生土器	台付甕	-	11.5	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3288	弥生土器	台付甕	-	9.3	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面不明 透し孔5個	
3289	弥生土器	器台	(37.2)	-	-	淡黄褐色(7.5YR/3)	細砂		
3290	弥生土器	器台	(31.8)	-	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂		
3291	弥生土器	器台	35.8	-	-	淡褐色(5YR8/3)	細砂		
3292	弥生土器	器台	-	32.8	-	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂	ハケメ後ヘラミガキ 透し孔	
3293	土壙206	弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3294	土壙207	弥生土器	長頸壺	17.4	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3295		弥生土器	甕	15.2	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	
3296		弥生土器	甕	13.9	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A B
3297		弥生土器	台付鉢	20.8	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	オサエ後ハケメ
3298		弥生土器	器台	-	29.4	-	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂	透し孔 ハケメ後ヘラミガキ
3299	土壙209	弥生土器	甕	-	-	-	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	
3300		弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
3301		弥生土器	甕	-	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3302	土壙208	弥生土器	高杯	-	10.2	-	淡黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	透し孔1個残
3303	土壙209	弥生土器	高杯	17.2	-	-	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂	
3304		弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3305	土壙210	弥生土器	甕	-	-	-	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	外面ハケメ
3306		弥生土器	甕	10.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3307		弥生土器	高杯	16.4	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	
3308	土壙211	弥生土器	甕	-	-	-	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
3309		弥生土器	甕	-	-	-	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
3310		弥生土器	高杯	-	-	-	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂	口縁部凹線4条
3311	土壙212	弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ヨコナデ・ハケメ
3312		弥生土器	甕	-	-	-	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	外面ヨコナデ・ハケメ 内面ヘラケズリ
3313	土壙213	弥生土器	甕	13.6	-	-	橙色(5YR6/8)	礫	
3314	土壙214	弥生土器	甕	(15.4)	-	-	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	
3315		弥生土器	鉢	(19.6)	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
3316	土壙215	弥生土器	高杯	(22.4)	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3317	土壇215	弥生土器	高杯	—	14.0	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	透し孔
3318	土壇216	弥生土器	高杯	(18.0)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ヨコナデ
3319		弥生土器	高杯	—	16.0	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	透し孔12個
3320	土壇217	弥生土器	器台	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔・刻目? 内面工具痕
3321		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
3322		弥生土器	?	—	4.5	—	赤色(10R5/6)	細砂	外ハケ 黒斑C
3323		弥生土器	高杯	—	—	—	赤褐色(10R4/3)	細砂	透し孔4個残 内面ヘラケズリ
3324		弥生土器	高杯	—	13.0	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3325	土壇218	弥生土器	甕	(17.0)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面不明
3326	土壇219	弥生土器	甕	12.0	—	—	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	
3327	土壇220	弥生土器	甕	15.5	—	—	褐色(5YR4/1)	粗砂	
3328		弥生土器	高杯	22.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
3329	土壇221	弥生土器	甕	18.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3330	土壇222	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3331		弥生土器	甕	15.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	粗砂	
3332		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
3333		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3334		弥生土器	甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	
3335	土壇223	弥生土器	壺	21.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3336		弥生土器	甕	12.0	—	—	橙色(5YR6/8)	礫	
3337		弥生土器	甕	16.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3338		弥生土器	高杯	21.5	11.4	13.0	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	透し孔4個
3339		弥生土器	高杯	—	12.0	—	鈍橙色(5YR7/3)	粗砂	透し孔3個
3340		弥生土器	高杯	—	9.8	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3341		弥生土器	壺	—	9.0	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	内面ナデ 黒斑C
3342		弥生土器	器台	33.0	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3343		弥生土器	鉢	18.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	ナデ
3344		弥生土器	鉢	21.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂	
3345	土壇224	弥生土器	甕	(13.8)	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	粗砂	外面ヨコナデ
3346		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3347	土壇225	弥生土器	高杯	16.6	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	外面ハケメ後ヘラミガキ 内面ヘラミガキ
3348		弥生土器	高杯	14.6	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	
3349		弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3350	土壇226	弥生土器	甕	13.4	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂	
3351		弥生土器	高杯	17.2	12.6	8.4	橙色(2.5YR7/6)	細砂	透し孔4個
3352		弥生土器	高杯	—	11.1	—	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔3個残
3353		弥生土器	高杯	11.2	(9.5)	7.2	橙色(2.5YR7/6)	細砂	透し孔4個の内3個残
3354		弥生土器	脚部	—	11.7	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	ススC
3355		弥生土器	鉢	10.8	2.9	5.4	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3356	土壇227	弥生土器	台付鉢	10.8	12.1	9.4	橙色(5YR6/8)	細砂	透し孔4個
3357		弥生土器	鉢	10.4	—	—	橙色(5YR6/8)	精良	
3358	土壇228	弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	外面ヘラミガキ 黒斑B
3359		弥生土器	直口壺	—	—	—	橙色(7.5YR7/8)	細砂	透し孔
3360	土壇229	弥生土器	壺	(17.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3361		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
3362		弥生土器	直口壺	9.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	外面摩滅わずかにヘラミガキ
3363		弥生土器	高杯	(21.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	口縁部凹線
3364		弥生土器	高杯	(24.7)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3365		弥生土器	高杯	—	12.4	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	2つ単位の透し孔2組残
3366		弥生土器	壺	(11.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	紐通し孔1個残
3367		弥生土器	碗	(13.1)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3368	土壇230	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3369		弥生土器	高杯?	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3370		弥生土器	高杯	—	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	透し孔・ヘラミガキ
3371		弥生土器	鉢	13.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3372	土壇231	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	外面ヨコナデ・ハケメ 口縁部凹線6条



角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3373	土壇232	弥生土器	壺	(29.4)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3374		弥生土器	壺	14.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3375		弥生土器	壺	12.0	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂	
3376		弥生土器	ミニチュア壺	(4.7)	5.2	3.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	2個組の紐通し孔1組残
3377	土壇233	弥生土器	壺	17.0	—	—	鈍黄橙色(10YR5/4)	細砂	
3378	土壇234	弥生土器	壺	13.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3379	土壇235	弥生土器	壺	19.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	礫	
3380		弥生土器	鉢	15.8	—	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	
3381	土壇236	弥生土器	壺	26.4	9.2	40.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑C
3382		弥生土器	壺	23.2	8.8	37.0	橙色(5YR6/8)	細砂	黒斑B・C
3383		弥生土器	壺	25.7	—	(39.9)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑C
3384		弥生土器	壺	20.2	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	内面ヘラケズリ後ナデ
3385		弥生土器	壺	27.3	11.4	45.5	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	黒斑C
3386		弥生土器	壺	23.3	10.1	32.2	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑C
3387		弥生土器	壺	11.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3388		弥生土器	壺	12.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3389		弥生土器	壺	14.0	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂	
3390		弥生土器	壺	19.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3391		弥生土器	壺	20.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	黒斑A
3392		弥生土器	壺	21.0	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	
3393		弥生土器	壺	15.8	7.5	33.8	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑B・C
3394		弥生土器	台付壺	—	10.4	—	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔4個
3395		弥生土器	手捏ね	6.7	2.5	3.5	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3396		弥生土器	鉢	36.5	13.5	24.5	橙色(5YR7/8)	細砂	黒斑A・B～C
3397		弥生土器	高杯	12.8	10.0	7.2	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔4個
3398		弥生土器	高杯	13.0	10.5	7.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔4個
3399		弥生土器	高杯	13.0	9.8	7.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔4個
3400		弥生土器	高杯	—	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	透し孔4個 内面ナデ
3401	土壇237	弥生土器	壺	12.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3402		弥生土器	高杯	—	(14.6)	—	橙色(5YR6/6)	細砂	竹管文15個
3403		弥生土器	器台	—	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3404	土壇238	弥生土器	壺	—	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	口縁部凹線5条
3405	土壇239	弥生土器	高杯	12.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	
3406	土壇241	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3407		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3408		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3409	土壇244	弥生土器	壺	15.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3410	土壇245	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3411	土壇246	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔1個残
3412	土壇247	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3413	土壇248	弥生土器	壺	11.5	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	
3414		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/6)	細砂	
3415		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3416	土壇249	弥生土器	壺	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3417		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3418		弥生土器	壺	—	6.0	—	灰褐色(5YR5/2)	細砂	
3419		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3420	土壇252	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3421		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3422		弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3423	土壇254	弥生土器	鉢	14.8	5.3	7.5	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	完形 黒斑ABC
3424	土壇258	弥生土器	鉢	39.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3425	土壇259	弥生土器	壺	15.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
3426		弥生土器	壺	—	1.7	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
3427		弥生土器	高杯	15.7	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
3428		弥生土器	高杯	17.3	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
3429	弥生土器	高杯	17.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔1個残	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
3430	土城259	弥生土器	高杯	18.7	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂		
3431		弥生土器	高杯	11.4	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫		
3432		弥生土器	高杯	11.7	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂		
3433		弥生土器	高杯	17.3	—	—	橙色(5YR6/8)	精良		
3434	土城263	弥生土器	甕	9.9	4.8	10.2	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	被熱 内面ユビナデ ほぼ完形 黒斑A	
3435	土城271	弥生土器	甕	13.5	5.3	21.6	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	焼成後穿孔 ほぼ完形 ススB 黒斑B C	
3436		弥生土器	甕	(13.9)	5.6	20.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	焼成後穿孔 ほぼ完形	
3437		弥生土器	高杯	—	12.7	—	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔4個	
3438		弥生土器	鉢	19.0	6.6	15.0	淡黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ ほぼ完形 黒斑ABC	
3439	土城272	弥生土器	壺	18.9	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	螺旋状沈線	
3440		弥生土器	蓋	9.1	—	—	黒色(5Y3/1)	細砂		
3441		弥生土器	壺	14.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A	
3442		弥生土器	壺	14.6	—	—	橙色(2.5YR7/6)	粗砂、礫		
3443		弥生土器	甕	—	5.5	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	焼成後穿孔 黒斑BC	
3444		弥生土器	高杯	11.7	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B	
3445		弥生土器	高杯	—	14.2	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	透し孔5方向?内3個残	
3446		弥生土器	高杯	—	11.1	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	透し孔1個残	
3447		弥生土器	台付鉢	—	8.2	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂		
3448		土城278	弥生土器	直口壺	8.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3449			弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3450			弥生土器	甕	—	4.2	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	ススC
3451	弥生土器		甕	15.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB	
3452	弥生土器		甕	13.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	内面にスス ススA	
3453	弥生土器		鉢	10.2	2.4	4.3	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	外面ミガキ? ほぼ完形 黒斑ABC	
3454	弥生土器		鉢	11.4	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
3455	弥生土器		台付鉢	(11.2)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
3456	土城281	弥生土器	高杯	—	10.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔4個	
3457	土城284	弥生土器	台付直口壺	8.8	9.1	16.6	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔 上4個下8個 完形	
3458	土城285	弥生土器	甕	8.8	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑AB	
3459		弥生土器	甕	9.2	3.2	11.6	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・B・C	
3460		弥生土器	甕	8.8	3.1	11.1	鈍橙色(2.5YR6/3)	細砂	黒斑ABC	
3461		弥生土器	甕	9.8	3.4	13.6	鈍橙色(YR6/3)	細砂、粗砂	黒斑A・C	
3462		弥生土器	甕	12.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
3463		弥生土器	甕	10.1	—	—	淡黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂		
3464		弥生土器	甕	—	5.0	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C	
3465		弥生土器	甕	13.0	3.9	23.0	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ススB 黒斑BC	
3466		弥生土器	甕	13.5	—	18.9	鈍橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂		
3467		弥生土器	甕	12.2	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂		
3468		弥生土器	甕	—	5.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
3469		弥生土器	甕	—	4.6	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂		
3470		弥生土器	甕	—	5.8	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	内面スス	
3471		弥生土器	高杯	17.1	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
3472		弥生土器	高杯	17.0	10.7	8.1	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	小孔 黒斑A	
3473		弥生土器	高杯	15.3	10.1	8.6	橙色(2.5YR4/5)	細砂、粗砂、礫	透し孔4個	
3474		弥生土器	高杯	18.4	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑C	
3475		土城286	弥生土器	甕	14.3	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3476	弥生土器		甕	12.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
3477	土城288	弥生土器	壺	23.0	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂		
3478		弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	内面スス	
3479		弥生土器	高杯	(20.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3480		弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	透し孔1個残	
3481		弥生土器	高杯	20.6	10.3	13.9	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ミガキ5分割 透し孔3方向 完形	
3482		土城289	弥生土器	甕	12.4	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	
3483	弥生土器		鉢	11.6	2.9	6.9	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	外面ミガキ? 黒斑B	
3484	弥生土器		鉢	10.7	3.7	8.6	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	平底 ススB'	
3485	弥生土器		手握ね鉢	5.6	1.5	3.2	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3486	土壇291	弥生土器	甕	13.0	6.1	25.6	橙色(5YR7/8)	細砂	底部外面ハケメ
3487		弥生土器	甕	14.8	—	—	赤橙色(10R6/8)	細砂	ススB
3488		弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	
3489		弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3490		弥生土器	高杯	21.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3491		弥生土器	高杯	(24.3)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3492		弥生土器	高杯	(17.0)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	粗砂	
3493	弥生土器	鉢	18.8	5.3	7.7	橙色(2.5YR6/8)	精良		
3494	土壇292	弥生土器	壺	(31.6)	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	
3495		弥生土器	甕	16.0	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	
3496		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3497		弥生土器	高杯	18.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3498		弥生土器	鉢	19.0	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	ススA
3499	土壇295	弥生土器	甕	13.4	4.9	27.8	浅黄褐色(2.5YR8/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ
3500		弥生土器	甕	13.4	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	
3501		弥生土器	甕	15.0	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
3502		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A
3503		弥生土器	甕	14.8	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
3504		弥生土器	甕	13.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3505		弥生土器	甕	—	4.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ
3506		弥生土器	甕	—	5.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3507		弥生土器	甕	—	4.9	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ ススC
3508		弥生土器	甕	—	4.7	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	ススC
3509		弥生土器	甕	(15.2)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
3510		弥生土器	甕	12.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	
3511		弥生土器	高杯	17.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	精良	
3512	弥生土器	高杯	18.0	—	—	橙色(5YR6/6)	精良		
3513	弥生土器	高杯	—	14.0	—	橙色(7.5YR6/6)	精良	透し孔4内2個残	
3514	弥生土器	高杯	—	10.9	—	橙色(7.5YR7/6)	精良	透し孔1個残	
3515	土壇298	弥生土器	甕	—	5.4	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ 黒斑C
3516	弥生土器	高杯	—	9.8	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂、礫	透し孔1個残	
3517	土壇299	弥生土器	甕	—	5.3	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ
3518	土壇300	弥生土器	甕	—	6.0	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	底部外面ケズリ
3519		弥生土器	高杯	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂	ケズリ
3520		弥生土器	高杯	(21.6)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
3521		弥生土器	高杯	(24.6)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3522	土壇302	弥生土器	甕	13.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3523		弥生土器	壺	—	7.0	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	黒斑C
3524		弥生土器	壺	—	10.0	—	橙色(5YR6/4)	粗砂	底部外面ミガキ 黒斑C
3525		弥生土器	高杯	11.3	10.4	7.6	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	透し孔4 ほぼ完形
3526		弥生土器	台付壺	6.7	11.1	10.8	橙色(5YR6/8)	細砂	内面ナデ 完形
3527		弥生土器	台付壺	8.3	11.0	12.7	橙色(2.5YR7/6)	精良	透し孔4個 ほぼ完形 黒斑B
3528		弥生土器	台付直口壺	6.7	9.0	12.9	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔4個 ほぼ完形
3529		弥生土器	鉢	19.2	4.0	8.7	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	底部外面ケズリ 黒斑AC
3530		弥生土器	鉢	24.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A
3531		土壇305	弥生土器	壺	—	4.5	—	褐灰色(5YR4/1)	細砂
3532	弥生土器		甕	15.4	—	—	灰褐色(5YR5/2)	細砂	
3533	弥生土器		甕	18.8	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3534	弥生土器		高杯	22.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3535	土壇306	弥生土器	壺	(17.6)	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
3536	土壇311	弥生土器	甕	14.4	5.2	24.6	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ ススB 黒斑C
3537		弥生土器	甕	8.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B
3538		弥生土器	甕	10.0	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、粗砂	
3539		弥生土器	高杯	17.6	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
3540		弥生土器	高杯	—	8.4	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	透し孔4個
3541		弥生土器	台付鉢	7.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B
3542		土壇312	弥生土器	甕	(13.3)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3543	土壙312	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	透し孔4個
3544		弥生土器	台付鉢	10.8	6.8	7.8	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
3545	土壙314	弥生土器	壺	24.4	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3546		弥生土器	壺	—	11.2	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
3547		弥生土器	壺	—	9.7	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 黒斑C
3548		弥生土器	壺	—	10.4	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂、礫	ススB 黒斑C
3549		弥生土器	甕	13.0	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂	ススA
3550		弥生土器	甕	—	5.0	—	鈍赤橙色(10R6/4)	細砂、粗砂、礫	
3551		弥生土器	甕	16.6	—	—	明褐色(5YR7/2)	細砂、粗砂	
3552		弥生土器	甕	—	—	—	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂、粗砂	黒斑A
3553		弥生土器	甕	—	5.0	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	黒斑C
3554		弥生土器	甕	—	5.4	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ 黒斑C
3555		弥生土器	鉢	13.8	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
3556		弥生土器	鉢	29.6	9.3	20.5	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ 黒斑ABC
3557	土壙315	弥生土器	甕	(17.4)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	赤色顔料
3558		弥生土器	甕	—	5.0	—	褐色(7.5YR6/1)	細砂、粗砂、礫	ススA
3559	土壙316	弥生土器	壺	19.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂	
3560		弥生土器	壺	—	9.4	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ 黒斑C
3561		弥生土器	甕	12.1	3.4	14.4	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、粗砂	ススA
3562		弥生土器	甕	14.4	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A
3563		弥生土器	甕	13.6	—	—	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	
3564		弥生土器	甕	20.5	6.7	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ
3565		弥生土器	高杯	15.3	11.2	8.2	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔4個 ほぼ完形
3566		弥生土器	高杯	16.8	—	—	鈍橙色(2.5YR6/3)	細砂	黒斑A
3567		弥生土器	高杯	19.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3568		弥生土器	高杯	21.7	13.1	12.0	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔4個 ススB
3569		弥生土器	高杯	10.7	8.2	9.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	透し孔4個 ほぼ完形
3570		弥生土器	高杯	(9.8)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
3571	弥生土器	鉢	17.2	5.6	9.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
3572	土壙318	弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂	透し孔2個残
3573		弥生土器	高杯	—	8.2	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	透し孔2個残
3574	土壙319	弥生土器	高杯	—	12.8	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	透し孔4個残
3575		弥生土器	高杯	—	8.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3576	土壙320	弥生土器	壺	(14.4)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	粗砂	
3577		弥生土器	甕	9.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	黒斑A
3578		弥生土器	甕	15.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	
3579		弥生土器	甕	13.4	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	
3580		弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	粗砂	
3581		弥生土器	甕	12.6	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	ススB
3582		弥生土器	甕	—	5.8	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	底部穿孔 黒斑C
3583		弥生土器	甕	—	4.8	—	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	
3584		弥生土器	甕	—	6.6	—	灰褐色(5YR6/2)	粗砂	
3585		弥生土器	甕	—	8.2	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
3586		弥生土器	高杯	25.7	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
3587		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良、細砂	透し孔3段3方向
3588	弥生土器	高杯	—	15.0	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ヘラガキ沈線 黒斑C	
3589	土壙325	弥生土器	甕	9.2	—	—	褐色(10YR4/1)	細砂	
3590		弥生土器	甕	11.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3591	土壙326	弥生土器	甕	11.0	—	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂、粗砂、礫	
3592		弥生土器	壺	21.8	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	黒斑A
3593		弥生土器	甕	10.3	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3594		弥生土器	甕	16.7	6.9	22.1	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
3595		弥生土器	甕	16.8	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
3596		弥生土器	甕	15.6	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂	
3597		弥生土器	甕	15.3	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3598		弥生土器	高杯	17.2	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
3599		弥生土器	高杯	17.4	—	—	橙色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
3600	土壙328	弥生土器	甕	(11.6)	4.5	12.8	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB	
3601		弥生土器	甕	(14.3)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B	
3602		弥生土器	甕	(13.5)	(2.1)	15.6	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA	
3603		弥生土器	甕	15.1	—	—	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂、粗砂		
3604		弥生土器	甕	16.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
3605		弥生土器	甕	—	2.8	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
3606		弥生土器	台付鉢	13.7	3.6	6.4	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
3607	弥生土器	鉢	34.2	—	—	橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A		
3608	土壙329	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3609	土壙335	弥生土器	高杯	—	14.8	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂		
3610		弥生土器	高杯	—	11.2	—	橙色(7.5YR7/6)	精良	透し孔4個	
3611	土壙337	弥生土器	甕	(11.6)	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫		
3612		弥生土器	甕	18.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
3613		弥生土器	甕	22.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂		
3614		弥生土器	甕	—	5.8	—	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	底部外面ミガキ? 黒斑C	
3615		弥生土器	甕	—	7.0	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ 黒斑C	
3616		弥生土器	甕	—	5.9	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ? ススC	
3617		弥生土器	甕	—	9.8	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ	
3618		弥生土器	高杯	13.0	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	外面放射状・周縁4分割 中央平行・周縁4分割	
3619		弥生土器	高杯	19.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3620		弥生土器	高杯	—	10.4	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	透し孔1個残	
3621		弥生土器	高杯	—	13.8	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	透し孔4個 小孔	
3622	弥生土器	鉢	(11.5)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	外面工具ナデ		
3623	弥生土器	鉢	(18.0)	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂			
3624	土壙338	弥生土器	甕	12.8	4.5	20.3	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	外面工具ナデ 黒斑C	
3625		弥生土器	甕	13.9	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
3626		弥生土器	甕	16.0	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂		
3627		弥生土器	甕	15.5	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
3628		弥生土器	甕	15.8	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂		
3629		弥生土器	高杯	16.0	11.0	10.3	橙色(2.5YR7/6)	精良	透し孔4個 ほぼ完形	
3630	土壙340	弥生土器	甕	15.0	—	—	橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂		
3631	土壙341	弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	ススB'	
3632		弥生土器	甕	14.0	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂		
3633		弥生土器	甕	14.3	6.1	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3634		弥生土器	甕	25.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂		
3635		弥生土器	甕	11.9	—	—	鈍褐色(7.5Y7/4)	細砂		
3636		弥生土器	甕	14.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3637		弥生土器	甕	8.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂		
3638		弥生土器	高杯	21.9	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫		
3639		弥生土器	高杯	—	(13.6)	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	未貫通の透し孔	
3640		弥生土器	台付鉢	—	9.7	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔3個	
3641		弥生土器	鉢	8.2	—	3.4	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形	
3642		弥生土器	台付鉢	8.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3643		土壙342	弥生土器	高杯	17.6	—	—	橙色(2.5YR6/8)	精良	
3644		土壙343	弥生土器	甕	—	7.3	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	ススB
3645	土壙344	弥生土器	甕	12.0	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂		
3646	土壙346	弥生土器	甕	14.6	—	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	ススB	
3647		弥生土器	甕	14.8	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	粗砂、礫		
3648		弥生土器	甕	—	3.4	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂		
3649		弥生土器	甕	—	4.0	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	ススC	
3650		弥生土器	鉢	13.9	2.6	8.5	橙色(2.5YR7/6)	細砂		
3651		弥生土器	鉢	14.8	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂		
3652	土壙348	弥生土器	高杯	—	10.0	—	赤褐色(10R6/6)	細砂、粗砂		
3653	土壙349	弥生土器	壺	10.8	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3654		弥生土器	壺	7.0	5.1	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑AB	
3655		弥生土器	壺	10.6	5.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススB'	

角田調査区土器観察表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3656	土壙349	弥生土器	甕	16.6	-	-	灰褐色(5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	
3657		弥生土器	甕	14.6	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススA
3658		弥生土器	甕	13.3	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3659		弥生土器	甕	13.7	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B
3660		弥生土器	甕	-	6.4	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
3661		弥生土器	高杯	23.4	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3662		弥生土器	高杯	-	11.2	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	脚部上段透し孔1個残・下段透し孔5個残
3663		弥生土器	高杯	-	11.4	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	脚部上段透し孔3個・下段透し孔5個 黒斑C
3664	弥生土器	器台	16.2	13.0	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	脚部沈線14条(螺旋) 脚部透し孔(上)2個残	
3665	土壙350	弥生土器	器台	-	23.6	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	透し孔2段4方向
3666	土壙351	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔1個残
3667	土壙352	弥生土器	鉢	(28.8)	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
3668	土壙353	弥生土器	壺	17.6	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
3669		弥生土器	甕	17.6	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
3670		弥生土器	甕	15.0	7.3	17.9	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
3671		弥生土器	壺	-	9.0	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
3672		弥生土器	甕	-	5.2	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	焼成後穿孔
3673		弥生土器	高杯	11.8	9.8	7.9	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	透し孔4個
3674		弥生土器	高杯	-	11.3	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	
3675		弥生土器	鉢	36.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑A
3676	土壙354	弥生土器	直口壺	8.8	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑A B
3677		弥生土器	高杯	22.8	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3678		弥生土器	高杯	-	12.0	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	脚裾部透し孔1個確認
3679		弥生土器	鉢	8.9	3.7	5.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	完形 黒斑A B
3680	土壙355	弥生土器	長頸壺	-	8.9	-	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	肩部刺突文 黒斑B
3681		弥生土器	甕	14.8	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
3682		弥生土器	甕	13.4	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
3683		弥生土器	甕	12.4	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
3684		弥生土器	甕	12.3	6.2	21.2	橙色(2.5YR7/8)	細砂	転用瓶 底部に穿孔 ススB
3685		弥生土器	高杯	19.8	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
3686		弥生土器	高杯	19.5	9.3	12.9	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	脚裾部3個1組の竹管文4方向
3687		弥生土器	鉢	7.5	3.7	10.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A
3688	弥生土器	台付鉢	17.0	11.7	22.0	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑A	
3689	土壙356	弥生土器	高杯	(14.8)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
3690		弥生土器	高杯	-	(11.6)	-	赤色(10R5/6)	細砂	脚裾部透し孔4個?
3691	土壙360	弥生土器	甕	-	6.0	-	黒褐色(10YR3/1)	細砂、粗砂	
3692	弥生土器	器台	-	22.3	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂、粗砂	透し孔5個	
3693	土壙362	弥生土器	高杯	-	9.7	-	浅黄橙色(10YR8/3)		
3694	土壙363	弥生土器	高杯	-	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
3695	土壙366	弥生土器	壺	17.0	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	
3696		弥生土器	高杯	10.8	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3697		弥生土器	高杯	14.0	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	黒斑A
3698		弥生土器	高杯	12.8	10.4	8.6	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑A
3699		弥生土器	高杯	14.4	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	黒斑C
3700	土壙373	弥生土器	鉢	20.8	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3701		弥生土器	壺	-	6.0	-	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂	
3702		弥生土器	鉢	18.8	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
3703		弥生土器	台付鉢	14.9	7.8	9.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑C
3704	土壙374	弥生土器	甕	11.3	4.8	11.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外部からの穿孔1個 黒斑A C
3705		弥生土器	甕	10.5	5.1	11.2	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A C
3706		弥生土器	甕	10.7	4.3	11.2	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑A C
3707		弥生土器	甕	10.5	4.9	11.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	黒斑B C
3708		弥生土器	甕	11.9	5.2	12.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A C
3709		弥生土器	甕	10.6	5.0	16.3	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A B
3710		弥生土器	甕	11.9	4.3	11.6	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A C

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3711	土壙374	弥生土器	甕	11.5	5.0	11.1	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑BC
3712		弥生土器	甕	11.0	4.3	12.2	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑BC
3713		弥生土器	甕	11.5	5.2	13.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑AC
3714		弥生土器	甕	12.0	4.8	12.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	黒斑BC
3715		弥生土器	甕	12.0	4.7	13.9	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑BC
3716		弥生土器	甕	12.0	5.3	13.0	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑AC
3717		弥生土器	甕	12.0	5.2	12.4	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑AC
3718		弥生土器	甕	12.2	4.8	13.1	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑BC
3719		弥生土器	甕	11.4	5.9	15.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑BC
3720		弥生土器	甕	11.2	6.0	10.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑BC
3721		弥生土器	甕	12.5	4.7	13.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑BC
3722		弥生土器	甕	10.0	5.1	11.3	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	底部葉の痕跡(木葉底) 黒斑BC
3723		弥生土器	甕	11.6	6.1	10.1	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部葉の痕跡(木葉底) 黒斑BC
3724		弥生土器	甕	10.7	5.7	11.6	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	底部葉の痕跡(木葉底) 黒斑BC
3725		弥生土器	甕	-	5.6	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3726		弥生土器	甕	14.7	5.4	20.5	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	ススB?
3727		弥生土器	甕	16.5	5.1	21.8	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ススC
3728		弥生土器	鉢	13.6	3.5	8.0	橙色(5YR6/6)	細砂	
3729		弥生土器	鉢	13.0	-	8.0	橙色(5YR7/6)	細砂	
3730		弥生土器	鉢	14.8	4.9	9.0	橙色(5YR7/6)	細砂	底部葉の痕跡(木葉底) 黒斑AB
3731		弥生土器	鉢	15.1	4.9	9.1	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑A
3732		弥生土器	鉢	16.9	7.0	8.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑C
3733		弥生土器	台付鉢	12.6	5.7	7.5	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	ほぼ完形
3734		弥生土器	甕	14.4	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
3735		弥生土器	甕	15.3	(6.1)	15.8	橙色(5YR6/8)	細砂	ススA
3736		弥生土器	甕	18.7	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	ススB
3737		弥生土器	鉢	-	7.5	-	黒褐色(5YR2/1)	細砂、粗砂	黒斑C
3738		弥生土器	高杯	20.6	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	高杯杯部の裏底2か所突いた痕
3739		弥生土器	高杯	-	12.7	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
3740		弥生土器	鉢	16.0	-	-	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂	
3741		弥生土器	鉢	13.1	4.7	6.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	ほぼ完形
3742		弥生土器	鉢	13.5	4.1	7.9	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	口縁部凹部形成
3743		弥生土器	台付鉢	13.0	5.7	9.0	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3744	弥生土器	鉢	23.0	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂		
3745	弥生土器	鉢	44.0	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫		
3746	弥生土器	甕	-	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂		
3747	弥生土器	鉢?	-	5.8	-	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑C	
3748	弥生土器	台付直口壺	7.0	10.7	-	橙色(5YR7/8)	細砂		
3749	弥生土器	甕	11.3	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
3750	弥生土器	甕	-	4.9	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C	
3751	弥生土器	甕	-	4.8	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫		
3752	弥生土器	甕	13.4	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂		
3753	弥生土器	甕	15.2	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
3754	弥生土器	高杯	18.4	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂		
3755	弥生土器	台付鉢	-	7.6	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔3個残	
3756	弥生土器	甕	15.4	6.6	23.3	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	ススA	
3757	弥生土器	甕	16.4	6.2	23.1	灰白色(10YR8/2)	粗砂	黒斑C	
3758	弥生土器	鉢	15.6	6.2	9.0	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂、礫		
3759	弥生土器	甕	(16.1)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂		
3760	弥生土器	壺?	-	5.5	-	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂、粗砂		
3761	弥生土器	壺?	-	5.2	-	灰色(N4/7)	細砂、粗砂		
3762	弥生土器	壺	-	10.0	-	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂		
3763	弥生土器	高杯	17.7	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
3764	弥生土器	高杯	(18.0)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3765	弥生土器	高杯	(18.3)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂		
3766	弥生土器	高杯	-	-	-	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂		
3767	弥生土器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
3768	土壙384	弥生土器	鉢	16.2	4.7	6.9	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B C	
3769	土壙386	弥生土器	壺	16.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
3770		弥生土器	壺	16.1	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
3771		弥生土器	壺	14.2	—	—	橙色(5YR6/5)	細砂		
3772		弥生土器	壺	(15.6)	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂		
3773		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	脚部透し孔4方向?	
3774		弥生土器	器台	—	(27.3)	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A	
3775	土壙387	弥生土器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3776		弥生土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3777		弥生土器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑A	
3778	土壙390	弥生土器	甕	—	5.4	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
3779		弥生土器	蓋	15.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
3780		弥生土器	台付壺	5.3	12.4	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂		
3781		弥生土器	壺	7.6	3.8	10.7	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	完形 黒斑C	
3782		弥生土器	台付直口壺	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑B	
3783		弥生土器	台付直口壺	—	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	黒斑B	
3784		弥生土器	直口壺	—	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	黒斑B	
3785		弥生土器	壺	(19.4)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
3786		弥生土器	壺	17.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
3787		弥生土器	長頸壺	17.0	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
3788		弥生土器	壺	21.9	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		
3789		弥生土器	長頸壺	21.6	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	頸部螺旋状沈線	
3790		弥生土器	壺	21.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	頸部螺旋状沈線 頸部刺突文	
3791		弥生土器	長頸壺	20.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
3792		弥生土器	長頸壺	21.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	頸部刺突	
3793		弥生土器	壺	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	肩部刺突列点文3段	
3794		弥生土器	長頸壺	20.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	肩部刺突文	
3795		弥生土器	壺	18.9	7.9	34.6	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	黒斑C	
3796		弥生土器	甕	14.8	—	—	淡黄色(5YR8/4)	細砂、粗砂	黒斑A B	
3797		弥生土器	甕	14.9	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、礫		
3798		弥生土器	甕	15.4	—	—	淡黄色(5YR8/3)	細砂、粗砂		
3799		弥生土器	甕	13.7	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
3800		弥生土器	甕	13.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
3801		土壙390	弥生土器	甕	16.3	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
3802			弥生土器	甕	13.9	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3803			弥生土器	甕	14.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3804			弥生土器	甕	14.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
3805			弥生土器	甕	13.9	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB
3806			弥生土器	甕	14.3	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B
3807			弥生土器	甕	(18.2)	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂	黒斑A B
3808			弥生土器	甕	18.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
3809			弥生土器	甕	12.5	4.8	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ほぼ完形
3810			弥生土器	甕	13.8	6.1	22.6	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	転用瓶 底部穿孔 黒斑B ススB
3811			弥生土器	甕	12.5	4.4	19.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑A B BC
3812			弥生土器	甕	14.2	4.4	20.2	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A ススB
3813			弥生土器	甕	14.5	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ススB
3814			弥生土器	甕	15.3	5.1	21.8	浅黄橙色(10YR7/4)	細砂	ススA
3815			弥生土器	甕	16.6	5.2	24.9	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3816			弥生土器	甕	15.7	6.4	25.7	橙色(2.5YR7/6)	細砂	肩部刺突文A 2
3817			弥生土器	甕?	—	8.7	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	ススC?
3818			弥生土器	甕	11.9	5.1	15.8	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑B C
3819			弥生土器	甕	15.3	5.1	21.2	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	ススB
3820	弥生土器		甕	—	5.7	—	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂		
3821	弥生土器		甕	—	5.5	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂		
3822	弥生土器		甕	—	5.0	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
3823	弥生土器		甕	—	5.3	—	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂		
3824	弥生土器		甕?	—	5.7	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂		



角田調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
3825	土墳390	弥生土器	甕?	—	5.9	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
3826		弥生土器	甕	—	6.6	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂		
3827		弥生土器	甕	—	5.2	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	転用甕 底部穿孔1個	
3828		弥生土器	高杯		16.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
3829		弥生土器	高杯		19.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3830		弥生土器	高杯		(20.0)	—	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	
3831		弥生土器	高杯		17.3	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	黒斑A B
3832		弥生土器	高杯		19.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
3833		弥生土器	高杯		—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3834		弥生土器	高杯		16.2	10.7	7.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑A
3835		弥生土器	高杯		17.3	9.8	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
3836		弥生土器	高杯		18.2	11.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
3837		弥生土器	高杯		17.4	12.2	10.2	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3838		弥生土器	高杯		16.5	10.6	10.1	淡赤橙色(2.5YR7/4)~ 鈍橙色(5YR7/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑A C
3839		弥生土器	高杯		(19.7)	11.8	9.8	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
3840		弥生土器	高杯		11.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3841		弥生土器	高杯		11.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3842		弥生土器	高杯		—	10.4	—	鈍橙色(5YR7/3)~ 橙色(5YR6/6)	細砂	
3843		弥生土器	高杯		—	10.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
3844		弥生土器	高杯		—	10.0	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良	
3845		弥生土器	高杯		—	9.4	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
3846		弥生土器	甕		6.7	2.4	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B C
3847		弥生土器	鉢		(7.8)	4.3	12.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B C
3848		弥生土器	鉢		14.4	4.5	7.5	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
3849		弥生土器	鉢		16.0	5.4	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
3850		弥生土器	鉢		11.9	5.3	6.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
3851		弥生土器	鉢		(9.2)	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3852		弥生土器	ミチャウ甕		12.2	3.2	10.0	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB
3853		弥生土器	鉢		16.4	6.5	14.1	橙色(2.5YR7/6)	細砂	ススB
3854		弥生土器	鉢?		17.7	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A?
3855		弥生土器	台付鉢		—	10.2	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	ススC
3856		弥生土器	台付鉢		—	9.0	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑C
3857		弥生土器	台付鉢		—	6.4	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3858		弥生土器	台付鉢		—	15.1	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	底部透し孔6個
3859		弥生土器	鉢		37.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
3860		弥生土器	鉢		38.4	12.6	20.4	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑C
3861		弥生土器	鉢		57.0	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	
3862		弥生土器	ヒサゴ形		7.1	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
3863	土墳391	弥生土器	甕	15.2	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	ススA	
3864		弥生土器	甕	—	4.0	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂		
3865		弥生土器	甕	—	4.8	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	黒斑C	
3866	土墳394	弥生土器	甕	18.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
3867		弥生土器	甕	14.8	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂、礫		
3868	土墳395	弥生土器	壺	14.3	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂		
3869		弥生土器	甕	16.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
3870		弥生土器	甕	15.8	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
3871		弥生土器	甕	12.1	4.5	17.2	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑A・B C	
3872		弥生土器	甕	14.6	5.1	21.2	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ 黒斑B C	
3873		弥生土器	甕	15.5	4.9	24.0	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ススB 黒斑B	
3874		弥生土器	甕	14.5	6.8	20.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ススB'	
3875		弥生土器	甕	17.0	5.6	21.2	淡褐色(5YR8/4)	細砂	底部外面工具ナデ ほぼ完形 黒斑B C	
3876		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
3877		弥生土器	甕	16.0	5.8	23.5	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	底部外面工具ナデ ほぼ完形 黒斑A B C	
3878		弥生土器	甕	15.0	5.9	25.5	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	工具ナデ ほぼ完形 黒斑A B C	
3879	弥生土器	甕	15.4	5.3	24.1	橙色(2.5YR7/6)	細砂	底部外面ハケメ ほぼ完形 ススC 黒斑B C		

角田調査区土器観察表

棟号 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3880	土壇395	弥生土器	甕	12.1	5.7	21.2	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ほぼ完形 ススC 黒斑B C
3881		弥生土器	甕	15.6	5.0	18.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ほぼ完形 黒斑A B C
3882		弥生土器	甕	16.4	6.0	19.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ほぼ完形 黒斑B C
3883		弥生土器	甕	11.6	4.6	22.8	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケメ ススB' 黒斑B C
3884		弥生土器	甕	11.0	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂	外面ハケメ? 3884~3888同じ胎土
3885		弥生土器	甕	13.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	3884~3888同じ胎土
3886		弥生土器	甕	15.0	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	コピナデ 3884~3888同じ胎土
3887		弥生土器	甕	10.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	3884~3888同じ胎土
3888		弥生土器	甕	13.3	5.2	20.8	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	底部外面ハケメ 内面上半工具ナデ 3884~3888同じ胎土 ススB'
3889		弥生土器	甕	—	5.0	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	底部外面ナデ 黒斑C
3890		弥生土器	甕	—	4.3	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	内面工具痕 3884~3888同じ胎土
3891		弥生土器	甕	—	5.6	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	底部外面ミガキ 3884~3888同じ胎土
3892		弥生土器	高杯	17.6	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑A B
3893		弥生土器	鉢	13.4	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂	3884~3888同じ胎土
3894		弥生土器	鉢	13.2	2.8	6.4	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑A・B
3895		弥生土器	鉢	10.5	4.6	6.3	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑A・C
3896		弥生土器	鉢	12.8	3.5	8.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	内面横方向のコピナデ 黒斑C
3897		弥生土器	鉢	13.0	5.4	9.3	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	内外面ハケ状工具ナデ 黒斑B C
3898		弥生土器	鉢	15.4	2.4	11.0	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	内外面ハケ状工具ナデ ススB
3899		弥生土器	台付鉢	13.3	—	—	橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔4個
3900	弥生土器	台付直口壺	—	10.1	—	橙色(5YR7/6)	精良	透し孔4個	
3901	土壇396	弥生土器	甕	12.4	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	口縁部線2条 ススA
3902	土壇398	弥生土器	甕	13.4	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
3903		弥生土器	甕	9.2	3.5	14.2	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑B C
3904		弥生土器	甕	10.9	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A B C
3905		弥生土器	甕	11.8	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	
3906		弥生土器	甕	11.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
3907		弥生土器	甕	14.3	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ススB'
3908		弥生土器	甕	15.5	5.5	(22.0)	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ナデ ススB
3909		弥生土器	甕	—	4.6	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ススC 黒斑C
3910		弥生土器	甕	—	4.6	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂、粗砂	底部外面ナデ 黒斑C
3911		弥生土器	高杯	17.4	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	
3912	弥生土器	鉢	16.0	(9.4)	6.7	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	底部外面ケズリ	
3913	弥生土器	鉢	29.3	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂		
3914	弥生土器	甕	7.7	3.0	(8.5)	灰褐色(5YR6/2)	細砂	底部外面ナデ	
3915	土壇400	弥生土器	甕	16.8	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ススB
3916		弥生土器	鉢	13.3	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3917		弥生土器	鉢	14.2	3.8	6.4	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ミガキ ほぼ完形 黒斑A B C A・C
3918		弥生土器	鉢	16.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
3919	土壇401	弥生土器	蓋	12.9	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	肩部外面タキ後ハケメ
3920	土壇402	弥生土器	台付鉢?	(31.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)~橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	体部刺突文3列
3921	土壇403	弥生土器	甕	—	5.8	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂、粗砂	黒斑C
3922		弥生土器	高杯	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
3923	土壇404	弥生土器	高杯	10.4	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
3924	土壇409	弥生土器?	高杯	21.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
3925	土壇411	弥生土器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3926	土壇415	弥生土器	甕	17.1	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂	
3927	土壇416	弥生土器	壺	16.2	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	
3928	土壇420	弥生土器	壺	—	6.1	—	褐灰色(5YR5/1)	細砂	ススC
3929	土壇422	弥生土器	甕	11.7	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	肩部刺突文?
3930	溝38	弥生土器	壺	18.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	頸部螺旋状沈線2条(16~18段) 肩部刺突文 器台転用?
3931		弥生土器	壺	18.4	7.7	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	ススC
3932		弥生土器	壺	21.3	9.0	36.5	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	頸部螺旋状沈線2条(18段~20段) 肩部刺突文 黒斑C
3933		弥生土器	壺	20.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	頸部外面沈線(磨滅)

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3934	溝38	弥生土器	壺	18.9	8.2	34.3	鈍黄褐色(10YR5/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
3935		弥生土器	壺	17.0	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3936		弥生土器	甕	10.5	7.6	21.1	灰白色(7.5YR8/2)	粗砂	底部穿孔(径1.3cm) ほぼ完形 ススA
3937		弥生土器	甕	19.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB 黒斑B
3938		弥生土器	甕	12.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
3939		弥生土器	甕	12.7	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ススB
3940		弥生土器	甕	15.0	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂	ススA
3941		弥生土器	甕	13.2	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	ススB
3942		弥生土器	甕	15.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB
3943		弥生土器	甕	15.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	ススB
3944		弥生土器	甕	(14.8)	—	—	灰白色(7.5YR8/2)~ 橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
3945		弥生土器	甕	15.4	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	ススB
3946		弥生土器	甕	15.4	5.9	(26.2)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	黒斑ABC
3947		弥生土器	甕	11.2	6.8	13.8	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB 黒斑B
3948		弥生土器	甕	—	6.4	—	赤褐色(10R5/4)	細砂、粗砂	ススC
3949		弥生土器	甕	—	5.7	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂	ススA
3950		弥生土器	甕	—	6.0	—	黄灰色(2.5Y5/1)~ 鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
3951		弥生土器	甕	—	5.5	—	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	黒斑C
3952		弥生土器	甕	17.7	—	—	赤色(10R5/6)	細砂、粗砂	ススC 黒斑B
3953		弥生土器	甕	—	5.9	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	ススB
3954		弥生土器	甕	15.2	6.4	26.3	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
3955		弥生土器	甕	14.2	(7.2)	(15.2)	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁部凹線状の文様? ススA
3956		弥生土器	甕	17.0	—	—	赤色(10R5/6)	細砂、粗砂	ススC
3957		弥生土器	甕	22.4	9.0	36.9	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	ススC
3958		弥生土器	甕	14.4	6.4	(26.9)	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB
3959		弥生土器	甕	13.8	6.2	26.3	浅黄橙色(2.5YR8/3)	細砂、粗砂	ほぼ完形 ススA
3960		弥生土器	甕	(14.5)	5.3	28.6	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB'
3961		弥生土器	鉢	40.2	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂	黒斑A
3962		弥生土器	鉢	32.8	10.8	20.2	浅黄橙色(10YR8/3)	粗砂	黒斑AB
3963		弥生土器	鉢	41.2	11.4	22.5	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	ススA
3964		弥生土器	高杯	10.2	—	—	鈍赤褐色(10R6/4)	精良	胎土は精製
3965		弥生土器	高杯	(11.1)	8.8	8.0	淡赤褐色(2.5YR7/4)	精良	
3966		弥生土器	高杯	16.3	—	—	橙色(2.5YR6/6)	精良	
3967		弥生土器	高杯	16.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	精良	胎土は精製 ススA
3968		弥生土器	高杯	19.2	—	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂、粗砂	ススB
3969		弥生土器	台付直口壺	6.7	11.4	14.4	浅黄橙色(7.5YR8/3)~ 鈍褐色(5YR7/4)	精良	胎土は精製
3970		弥生土器	高杯	—	12.4	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	精良	胎土は精製
3971		製塩器	—	—	6.0	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
3972		弥生土器	器台	32.8	32.5	29.9	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	脚部透し孔2段4組8個 ススA・C
3973	土器溜り1	弥生土器	長頸壺	21.0	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
3974		弥生土器	長頸壺	19.6	—	—	橙色(2.5YR6/8)	礫	
3975		弥生土器	長頸壺	19.0	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
3976		弥生土器	長頸壺	19.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	転用器台?
3977		弥生土器	長頸壺	19.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
3978		弥生土器	長頸壺	22.3	—	—	橙色(5YR6/8)	粗砂	
3979		弥生土器	長頸壺	22.8	9.0	43.8	橙色(5YR6/8)	粗砂	黒斑C
3980		弥生土器	長頸壺	20.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂	
3981		弥生土器	長頸壺	19.8	7.8	37.2	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑A・B・C
3982		弥生土器	長頸壺	24.5	—	—	橙色(2.5YR7/8)	粗砂	転用器台?
3983		弥生土器	長頸壺	20.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A
3984		弥生土器	長頸壺	18.7	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂	転用器台?
3985		弥生土器	長頸壺	18.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	転用器台?
3986		弥生土器	長頸壺	20.8	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂	
3987		弥生土器	長頸壺	19.2	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
3988		弥生土器	長頸壺	19.4	—	—	淡褐色(5YR8/4)	粗砂	転用器台? 黒斑A

角田調査区土器観察表

補図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
3989	土器溜り 1	弥生土器	長頸壺	19.4	-	-	橙色(5YR7/6)	粗砂	転用器台?
3990		弥生土器	壺	-	-	-	橙色(5YR6/6)	粗砂	
3991		弥生土器	直口壺	9.6	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
3992		弥生土器	直口壺	9.0	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	黒斑B
3993		弥生土器	直口壺	7.5	5.2	9.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
3994		弥生土器	壺	9.0	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	外面ナデ
3995		弥生土器	壺	5.4	2.0	8.7	橙色(7.5YR7/6)	細砂	ほぼ完形 黒斑A
3996		弥生土器	台付壺	6.2	13.0	13.8	橙色(5YR6/8)	細砂	透し孔4個 内面ナデ
3997		弥生土器	台付壺	8.0	-	-	橙色(5YR7/6)	粗砂	内面工具ナデ 黒斑B
3998		弥生土器	小型台付鉢	8.6	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
3999		弥生土器	鉢	10.4	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	黒斑B
4000		弥生土器	鉢	10.2	-	-	橙色(5YR6/6)	粗砂	
4001		弥生土器	鉢	12.2	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB
4002		弥生土器	壺	14.0	-	-	橙色(2/5YR6/6)	細砂	
4003		弥生土器	壺	16.3	-	-	赤橙色(10R6/8)	細砂	
4004		弥生土器	壺	18.2	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
4005		弥生土器	壺	15.0	-	-	橙色(2/5YR7/6)	細砂、粗砂	
4006		弥生土器	壺	18.2	10.0	25.2	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	黒斑C
4007		弥生土器	壺	14.6	-	-	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	ススC
4008		弥生土器	壺	17.4	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
4009		弥生土器	壺	14.3	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
4010		弥生土器	壺	18.0	-	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
4011		弥生土器	甕	17.0	-	-	赤橙色(10R6/6)	細砂	
4012		弥生土器	甕	21.7	-	-	赤橙色(10R6/6)	細砂	
4013		弥生土器	甕	16.6	-	-	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
4014		弥生土器	甕	22.8	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
4015		弥生土器	甕	26.8	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
4016		弥生土器	甕	15.0	-	-	橙色(5YR6/6)	粗砂	ススB
4017		弥生土器	甕	15.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススB
4018		弥生土器	甕	22.7	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
4019		弥生土器	甕	16.6	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4020		弥生土器	甕	16.4	8.5	22.4	橙色(5YR7/6)	粗砂	黒斑C
4021		弥生土器	甕	25.0	-	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
4022		弥生土器	甕	(27.0)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
4023		弥生土器	甕	13.2	-	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	黒斑A~C
4024		弥生土器	甕	14.8	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
4025		弥生土器	甕	(14.2)	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
4026		弥生土器	甕	15.3	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	ススB
4027		弥生土器	甕	12.0	-	-	鈍褐色(10YR7/3)	粗砂	
4028		弥生土器	甕	13.5	-	-	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
4029		弥生土器	甕	13.8	-	-	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂	
4030		弥生土器	甕	9.8	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4031		弥生土器	甕	10.4	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
4032		弥生土器	甕	12.6	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4033	弥生土器	甕	11.6	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ススB	
4034	弥生土器	甕	13.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4035	弥生土器	甕	(13.5)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	外面わずかにハケメ	
4036	弥生土器	甕	8.4	4.2	11.3	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	ほぼ完形	
4037	弥生土器	高杯	19.3	10.0	13.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔3個 黒斑A	
4038	弥生土器	高杯	15.2	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂	ヨコナデ・不明	
4039	弥生土器	高杯	22.0	-	-	赤褐色(10R6/8)	細砂		
4040	弥生土器	高杯	23.0	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑A	
4041	弥生土器	高杯	20.3	-	-	赤褐色(10R6/8)	細砂		
4042	弥生土器	高杯	20.6	-	-	橙色(2.5YR6/8)	粗砂		
4043	弥生土器	高杯	20.8	15.1	12.3	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	透し孔4方 黒斑A	
4044	弥生土器	高杯	25.2	16.0	15.3	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	杯部外面ヘラケズリ 透し孔2組×3 透し孔未貫通(1) ほぼ完形	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4045	土器溜り 1	弥生土器	高杯	22.4	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	
4046		弥生土器	高杯	27.6	—	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	
4047		弥生土器	高杯	20.9	—	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	透し孔 4 個
4048		弥生土器	高杯	18.5	12.0	12.3	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	外面ハケメ・透し孔上下段各 4 個 ほぼ 完形
4049		弥生土器	高杯	15.8	10.8	9.4	橙色 (5YR6/8)	細砂	透し孔 4 個
4050		弥生土器	高杯	14.4	10.6	7.3	橙色 (5YR6/8)	細砂	透し孔 4 個
4051		弥生土器	高杯	14.1	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	
4052		弥生土器	高杯	13.2	7.0	8.8	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂	完形 スス A
4053		弥生土器	高杯	—	—	—	赤橙色 (10R6/6)	細砂	透し孔
4054		弥生土器	高杯	—	13.1	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	透し孔 2 段×3 方
4055		弥生土器	高杯	—	12.5	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔 2 段×3 方
4056		弥生土器	高杯	—	10.9	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔上下各 2 個?
4057		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	透し孔上下各 3 個
4058		弥生土器	高杯	—	10.0	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	透し孔上下各 3 個
4059		弥生土器	高杯	—	10.6	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂	透し孔
4060		弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色 (5YR6/8)	粗砂	黒斑 C
4061		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	外面ハケメ・ヘラミガキ
4062		弥生土器	高杯	—	14.5	—	赤色 (10R5/8)	細砂	透し孔上下各 4 個
4063		弥生土器	高杯	—	11.8	—	橙色 (2.5YR7/6)	細砂	透し孔 4 個
4064		弥生土器	高杯	—	13.0	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	透し孔 2 個×3 方
4065		弥生土器	高杯	—	12.1	—	橙色 (2.5YR7/6)	細砂	透し孔 4 個
4066		弥生土器	鉢	44.3	12.0	20.7	橙色 (5YR6/6)	細砂	底部ヘラミガキ 黒斑 C
4067		弥生土器	鉢	37.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
4068		弥生土器	鉢	(47.8)	—	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂	
4069		弥生土器	鉢	45.2	—	—	橙色 (5YR6/6)	粗砂	
4070		弥生土器	鉢	(40.0)	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
4071		弥生土器	鉢	13.0	5.0	6.3	明赤褐色 (2.5YR5/6)	細砂	ヘラオサエ 黒斑 A
4072		弥生土器	鉢	11.0	4.3	5.8	淡赤褐色 (2.5YR7/4)	細砂	
4073		弥生土器	鉢	14.7	5.1	6.8	橙色 (2.5YR6/8)	粗砂	黒斑 A~C
4074		弥生土器	鉢	18.0	6.3	7.8	赤褐色 (10R6/6)	細砂	
4075		弥生土器	鉢	12.0	5.6	9.0	橙色 (2.5YR7/8)	細砂	ほぼ完形 黒斑 B C
4076		弥生土器	鉢	13.2	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
4077		弥生土器	鉢	16.0	—	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂	
4078		弥生土器	鉢	(41.8)	—	—	橙色 (5YR6/8)	粗砂	外面不明 口縁部凹線 2 条 黒斑 A
4079		弥生土器	鉢	29.8	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	
4080		弥生土器	台付鉢	14.5	10.6	20.8	橙色 (5YR6/8)	細砂	透し孔 5 個
4081		弥生土器	壺	17.8	—	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂	黒斑 B
4082		弥生土器	台付壺	—	11.6	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂	
4083		弥生土器	底部	—	5.5	—	鈍黄橙色 (10YR7/2)	細砂	ヘラミガキ
4084		弥生土器	底部	—	6.9	—	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂	ヘラミガキ 黒斑 C
4085		弥生土器	底部	—	11.0	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	
4086	弥生土器	壺	—	9.3	—	橙色 (7.5YR7/6)	粗砂	黒斑 C	
4087	弥生土器	底部	—	6.5	—	黄褐色 (7.5YR8/8)	細砂	黒斑 C	
4088	弥生土器	底部	—	9.4	—	赤褐色 (10R6/8)	粗砂	黒斑 C	
4089	弥生土器	甕	—	8.6	—	鈍橙色 (10YR7/4)	細砂	ヘラミガキ? 黒斑 C	
4090	弥生土器	甕	—	8.5	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	黒斑 C	
4091	弥生土器	壺 or 甕	—	6.7	—	褐色 (7.5YR4/4)	細砂、粗砂	底部のみ	
4092	弥生土器	甕?	—	3.3	—	橙色 (7.5YR7/6)	細砂	内面ナデ 黒斑 A~C	
4093	弥生土器	甕	—	5.0	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	底部焼成後穿孔	
4094	弥生土器	甕	—	4.0	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	粗砂	底部焼成後穿孔	
4095	弥生土器	甕	—	5.2	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	底部焼成後穿孔 黒斑 C	
4096	弥生土器	器台	36.2	31.0	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	黒斑 C	
4097	弥生土器	無頸壺	6.9	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂		
4098	製塩土器	—	—	3.5	—	鈍橙色 (5YR7/4)	礫		
4099	製塩土器	—	—	4.0	—	鈍褐色 (5YR7/3)	礫		
4100	製塩土器	—	—	4.8	—	橙色 (2.5YR6/6)	礫		

角田調査区土器観察表

神田 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4101	土器溜り 1	製塩土器	—	—	3.7	—	鈍橙色(5YR7/4)	礫	
4102		製塩土器	—	—	3.6	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	礫	
4103		製塩土器	—	—	5.0	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	礫	
4104	土器溜り 2	弥生土器	長頸壺	12.4	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
4105		弥生土器	甕	14.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
4106		弥生土器	甕	14.8	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
4107		弥生土器	甕	13.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
4108		弥生土器	甕	18.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
4109		弥生土器	甕	12.8	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
4110		弥生土器	甕	(20.4)	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	
4111		弥生土器	高杯	21.4	—	—	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	外面わずかにヘラミガキ
4112		弥生土器	高杯	(19.4)	—	—	明赤灰色(2.5YR7/1)	細砂、粗砂	
4113		弥生土器	高杯	—	11.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	外面2孔1対の透し孔2個残
4114		弥生土器	鉢	—	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
4115		弥生土器	鉢	13.0	4.4	6.4	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
4116		弥生土器	脚部	—	10.4	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂	
4117		弥生土器	甕	—	5.0	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	
4118		弥生土器	甕	—	5.6	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、粗砂、礫	
4119	弥生土器	甕	—	5.8	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、礫		
4120	土器溜り 3	弥生土器	壺	16.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	礫	
4121		弥生土器	甕	23.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
4122		弥生土器	甕	16.1	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂	
4123		弥生土器	甕	13.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	精良	
4124		弥生土器	甕	12.0	4.6	12.5	橙色(5YR6/6)	粗砂	
4125		弥生土器	高杯	—	14.8	—	橙色(5YR6/6)	精良	不明 透し孔4個
4126		弥生土器	鉢	13.0	2.8	5.8	橙色(5YR7/6)	精良	
4127		弥生土器	鉢	16.0	5.5	8.5	鈍褐色(7.5YR7/3)	粗砂	完形
4128		弥生土器	鉢	28.0	6.4	20.0	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	焼成後穿孔
4129		弥生土器	鉢	32.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
4130	土器溜り 4	弥生土器	長頸壺	19.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A
4131		弥生土器	長頸壺	23.0	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	
4132		弥生土器	長頸壺	(22.8)	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
4133		弥生土器	長頸壺	(19.0)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4134		弥生土器	長頸壺	20.7	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	頸部螺旋状沈線14~16段
4135		弥生土器	長頸壺	21.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
4136		弥生土器	壺	20.6	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
4137		弥生土器	長頸壺	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	
4138		弥生土器	長頸壺	20.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B
4139		弥生土器	壺	—	—	—	黄褐色(10YR7/4)	細砂	線刻
4140		弥生土器	壺	—	4.6	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑B C
4141		弥生土器	壺	17.3	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
4142		弥生土器	壺	(21.7)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4143		弥生土器	壺	16.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
4144		弥生土器	甕	(15.8)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4145		弥生土器	壺	17.4	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
4146		弥生土器	壺	(18.2)	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
4147		弥生土器	壺	16.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB
4148		弥生土器	壺	20.8	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
4149		弥生土器	壺	(10.2)	4.8	14.4	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂、粗砂	
4150	弥生土器	直口壺	6.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂		
4151	弥生土器	直口壺	7.2	—	—	鈍褐色(5YR7/4)	細砂		
4152	弥生土器	直口壺	(7.8)	—	—	鈍褐色(5YR7/3)	細砂		
4153	弥生土器	直口壺	—	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
4154	弥生土器	台付壺	5.8	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
4155	弥生土器	台付壺	8.2	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂		
4156	弥生土器	甕	13.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
4157	弥生土器	甕	14.7	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4158	土器溜り4	弥生土器	甕	12.7	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	
4159		弥生土器	甕	13.3	-	-	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	
4160		弥生土器	甕	15.3	-	-	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	
4161		弥生土器	甕	12.6	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
4162		弥生土器	甕	15.5	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
4163		弥生土器	甕	14.6	5.4	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
4164		弥生土器	甕	12.8	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	
4165		弥生土器	甕	15.2	-	-	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
4166		弥生土器	甕	14.1	-	-	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	
4167		弥生土器	甕	14.6	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
4168		弥生土器	甕	(14.6)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
4169		弥生土器	壺	15.8	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4170		弥生土器	甕	16.4	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
4171		弥生土器	甕	15.6	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
4172		弥生土器	甕	14.5	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
4173		弥生土器	甕	13.4	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
4174		弥生土器	壺	15.2	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
4175		弥生土器	甕	(16.6)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁下部列点文
4176		弥生土器	甕	12.5	-	-	明褐灰色(7.5YR7/1)	細砂、粗砂	
4177		弥生土器	甕	(13.0)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	胴部布目痕 ススB
4178		弥生土器	甕	14.9	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	丹塗り 黒斑A
4179		弥生土器	甕	(16.0)	(5.4)	25.1	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	転用瓶 ススC
4180		弥生土器	甕	(16.4)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
4181		弥生土器	甕	14.2	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
4182		弥生土器	甕	(15.6)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
4183		弥生土器	壺?	(16.1)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
4184		弥生土器	甕	16.4	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
4185		弥生土器	甕	14.0	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
4186		弥生土器	甕	13.8	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
4187		弥生土器	甕	15.1	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
4188		弥生土器	甕	(14.4)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
4189		弥生土器	甕	13.3	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
4190		弥生土器	甕	(13.3)	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
4191		弥生土器	壺	13.8	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4192		弥生土器	甕	18.0	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB
4193		弥生土器	甕	19.4	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4194		弥生土器	甕	18.9	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4195		弥生土器	甕	20.8	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
4196		弥生土器	甕	18.8	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
4197		弥生土器	甕	19.8	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4198		弥生土器	甕	(14.7)	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4199		弥生土器	高杯	14.8	-	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4200	弥生土器	高杯	14.2	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
4201	弥生土器	高杯	(15.4)	11.8	-	鈍橙色(5YR7/4)	精良		
4202	弥生土器	高杯	(16.2)	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	精良		
4203	弥生土器	高杯	16.6	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4204	弥生土器	高杯	16.8	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4205	弥生土器	高杯	17.8	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4206	弥生土器	高杯	(18.2)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
4207	弥生土器	高杯	18.7	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4208	弥生土器	高杯	18.8	-	-	橙色(2.5YR7/6)	精良		
4209	弥生土器	高杯	17.4	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
4210	弥生土器	高杯	(10.8)	10.5	-	淡橙色(5YR8/3)	細砂		
4211	弥生土器	高杯	-	11.4	-	鈍橙色(5YR7/3)	細砂		
4212	弥生土器	高杯	12.7	-	-	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂		
4213	弥生土器	高杯	12.6	-	-	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂		
4214	弥生土器	高杯	(12.4)	11.8	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	黒斑C	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4215	土器溜り 4	弥生土器	高杯	13.2	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4216		弥生土器	高杯	14.8	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂		
4217		弥生土器	高杯	(17.2)	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂		
4218		弥生土器	器台	21.8	—	(6.7)	黄橙色 (7.5YR7/8)	細砂	杯部内面不規則なヘラガキ文	
4219		弥生土器	器台	(18.0)	17.0	(12.6)	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	黒斑 C	
4220		弥生土器	器台	—	34.4	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	透し孔 6 個?	
4221		弥生土器	手捏ね鉢	5.0	2.0	3.6	灰白色 (10YR7/1)	細砂		
4222		弥生土器	鉢	7.4	—	6.3	橙色 (2.5YR7/6)	細砂	ほぼ完形 黒斑 A B C	
4223		弥生土器	台付鉢	8.3	(6.3)	—	灰白色 (10YR8/2)	細砂		
4224		弥生土器	台付鉢	10.9	7.5	6.0	灰白色 (10YR8/2)	細砂、粗砂、礫		
4225		弥生土器	台付鉢	(12.2)	(7.0)	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂		
4226		弥生土器	鉢	8.2	3.4	4.6	橙色 (5YR7/6)	細砂		
4227		弥生土器	鉢	10.8	5.6	5.3	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
4228		弥生土器	鉢	(13.4)	4.8	5.7	橙色 (2.5YR7/6)	細砂	黒斑 B C	
4229		弥生土器	鉢	13.4	3.6	6.2	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂		
4230		弥生土器	鉢	14.6	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂		
4231		弥生土器	鉢	16.2	4.4	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑 A	
4232		弥生土器	鉢	(9.0)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4233		弥生土器	鉢	—	4.0	—	橙色 (2.5YR7/6)	細砂、粗砂		
4234		弥生土器	鉢	12.8	3.8	(7.5)	淡橙色 (5YR8/3)	細砂		
4235		弥生土器	鉢	12.4	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂		
4236		弥生土器	鉢	(13.8)	4.2	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4237		弥生土器	鉢	—	5.6	—	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	黒斑 B C	
4238		弥生土器	鉢	14.6	4.8	9.6	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	スス B	
4239		弥生土器	鉢	12.6	—	—	淡橙色 (5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4240		弥生土器	鉢	12.6	5.6	10.4	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑 B C	
4241		弥生土器	鉢?	19.3	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂		
4242		弥生土器	鉢?	16.4	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	スス B	
4243		弥生土器	鉢	19.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂		
4244		弥生土器	台付鉢	17.2	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	丹塗り	
4245		弥生土器	台付鉢	—	11.4	—	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂	黒斑 C	
4246		弥生土器	台付鉢?	—	11.1	—	淡赤橙色 (2.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑 C	
4247		弥生土器	鉢	(14.7)	5.4	9.7	橙色 (2.5YR6/6)	細砂		
4248		弥生土器	鉢	15.9	4.3	8.4	橙色 (5YR7/6)	細砂		
4249		弥生土器	鉢?	14.2	—	—	明赤褐色 (5YR5/6)	細砂	黒斑 B ?	
4250		弥生土器	鉢	28.9	7.4	18.2	橙色 (2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑 B C ((内 A B))	
4251		弥生土器	鉢	38.2	10.0	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑 B C	
4252		弥生土器	鉢	(37.0)	9.4	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑 B	
4253		弥生土器	鉢	(42.2)	—	—	橙色 (2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫		
4254		土器溜り 5	弥生土器	小型器台?	(14.5)	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂	
4255			弥生土器	壺	15.3	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
4256			弥生土器	壺	23.8	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
4257	弥生土器		壺	19.8	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂		
4258	弥生土器		甕	13.8	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	スス C	
4259	弥生土器		甕	(15.5)	5.7	18.9	橙色 (7.5YR6/6)	細砂、粗砂	スス C	
4260	弥生土器		甕	(14.7)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂、粗砂	全体著しく歪む スス B	
4261	弥生土器		甕	15.7	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
4262	弥生土器		甕	16.7	—	—	明褐灰色 (7.5YR7/2) ~ 橙色 (2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
4263	弥生土器		甕	11.0	4.7	12.5	橙色 (7.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑 B・B C ?	
4264	弥生土器		甕	14.6	5.2	23.0	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂		
4265	弥生土器		甕	15.2	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂		
4266	弥生土器		甕	13.3	—	—	鈍黄橙色 (10YR6/3)	細砂、粗砂	黒斑 B ?	
4267	弥生土器		甕	16.0	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂、粗砂		
4268	弥生土器		甕	19.6	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂		
4269	弥生土器		甕	(21.7)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	黒斑 B	
4270	弥生土器		甕	(13.2)	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/4)	細砂		



角田調査区土器観察表

持図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4271	土器溜り 5	弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂	
4272		弥生土器	甕	(11.6)	4.8	13.3	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂、粗砂	
4273		弥生土器	甕	15.3	—	—	灰褐色 (5YR4/2)	細砂	
4274		弥生土器	甕	12.3	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/4)	細砂、粗砂	体部外面タタキ後ハケメ ススC
4275		弥生土器	甕	—	4.8	—	橙色 (2. 5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑C
4276		弥生土器	台付鉢	8.8	3.4	6.0	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	
4277		弥生土器	甕	9.2	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
4278		弥生土器	甕	10.8	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	ススC
4279		弥生土器	甕	(12.0)	—	—	浅黄褐色 (10YR8/3)	細砂	口縁歪んでいる
4280		弥生土器	鉢	15.0	—	—	淡赤褐色 (2. 5YR7/4)	細砂	
4281	河道 4	弥生土器	壺	12.4	—	—	鈍黄褐色 (10YR7/3)	細砂	ススB
4282		弥生土器	甕	15.4	—	—	鈍黄褐色 (10YR7/2)	細砂、粗砂	
4283		弥生土器	甕	11.2	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
4284		弥生土器	甕	(10.6)	—	—	鈍橙色 (5YR6/3)	細砂、粗砂	ススB
4285		弥生土器	甕	17.2	4.3	(29.1)	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂	体部外面にハケメ ススC
4286		弥生土器	甕	—	6.0	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	底部外面ナデ ススA
4287		弥生土器	台付直口壺	7.8	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/3)	細砂	透し孔 1 個残
4288		弥生土器	高杯	—	11.2	—	鈍橙色 (5YR7/4)	精良	脚部透し孔 4 個
4289		弥生土器	鉢	(39.6)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂	
4290		柱穴 33	弥生土器	直口壺	(7.8)	—	—	鈍黄褐色 (10YR6/4)	細砂、粗砂
4291	弥生土器		甕	(11.6)	—	—	鈍橙色 (5YR6/3)	細砂、粗砂	
4292	弥生土器		甕	13.4	—	—	鈍褐色 (7. 5YR7/3)	細砂	
4293	弥生土器		甕	—	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	
4294	弥生土器		壺	—	—	—	橙色 (7. 5YR6/6)	精良	
4295	弥生土器		底部	—	5.0	—	褐灰色 (10YR4/1)	細砂	
4296	弥生土器		甕	—	9.4	—	灰黄褐色 (10YR6/2)	細砂、粗砂	
4297	弥生土器		高杯	15.6	—	—	橙色 (5YR7/8)	精良	透し孔
4298	弥生土器		高杯	—	(11.4)	—	橙色 (5YR7/6)	精良	透し孔 2 個残
4299	弥生土器		甕	16.5	—	—	橙色 (5YR7/8)	細砂	
4300	柱穴 34	弥生土器	高杯	21.0	—	—	赤褐色 (10R6/8)	細砂	
4301		弥生土器	高杯	23.8	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	
4302	柱穴 35	弥生土器	甕	14.0	—	—	鈍橙色 (2. 5YR6/4)	細砂	
4303		弥生土器	高杯	20.0	—	—	赤色 (10R4/8)	細砂、粗砂、礫	
4304		弥生土器	高杯	—	10.8	—	橙色 (10R5/8)	細砂、粗砂	
4305	柱穴 36	弥生土器	壺	18.3	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂、粗砂	
4306	柱穴 37	弥生土器	高杯	—	11.9	—	橙色 (2. 5YR7/6)	細砂	透し孔 4
4307	柱穴 38	弥生土器	壺	15.4	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	螺旋状沈線 黒斑 B
4308		弥生土器	甕	—	7.0	—	灰褐色 (7. 5YR5/2)	細砂、粗砂、礫	底部外面ミガキ ススC
4309		弥生土器	甕	12.2	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	ススB'
4310		弥生土器	高杯	21.5	—	—	橙色 (5YR6/6)	精良	黒斑 A
4311		弥生土器	高杯	—	9.9	—	赤褐色 (10R5/3)	細砂	透し孔 4 方向 4 個残
4312		弥生土器	高杯	—	10.3	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	透し孔 4 方向ともに残
4313		弥生土器	台付鉢	13.0	4.0	7.6	浅黄褐色 (10YR8/3)	細砂、粗砂	
4314	柱穴 39	弥生土器	甕	12.5	—	—	鈍赤褐色 (2. 5YR5/4)	細砂、粗砂	外面ハケ状工具ナデ ススC
4315	柱穴 40	弥生土器	鉢	10.5	1.9	5.5	鈍褐色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
4316	柱穴 41	弥生土器	甕	10.6	4.2	15.6	鈍褐色 (5YR6/4)	細砂	底部外面ミガキ 黒斑 B C
4317		弥生土器	高杯	18.8	10.9	9.9	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔 4
4318	柱穴 42	弥生土器	鉢	44.6	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
4319	柱穴 43	弥生土器	甕	8.6	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	
4320		弥生土器	甕	9.6	—	—	暗赤褐色 (5YR3/2)	細砂、粗砂	
4321	柱穴 44	弥生土器	甕	11.5	—	—	赤褐色 (5YR4/6)	細砂、粗砂、礫	
4322		弥生土器	甕	14.1	—	—	鈍赤褐色 (5YR5/4)	細砂、粗砂	ハケ状工具ナデ
4323		弥生土器	甕	18.4	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂、粗砂	
4324	柱穴 45	弥生土器	甕	12.2	4.9	18.0	灰白色 (10YR8/2)	細砂	穿孔 ほぼ完形 黒斑 A・B
4325	柱穴 46	弥生土器	甕	14.1	3.4	18.6	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	外面下半ミガキ 底部外面ナデ 黒斑 B C
4326		弥生土器	高杯	17.0	—	—	淡褐色 (5YR8/4)	精良	内面赤色顔料

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4327	柱穴46	弥生土器	高杯	—	12.2	—	橙色 (2.5YR7/6)	精良	透し孔4個
4328		弥生土器	高杯	13.2	10.4	8.0	橙色 (2.5YR7/6)	精良	透し孔4個
4329		弥生土器	鉢	13.8	4.1	7.5	淡赤橙色 (2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	完形
4330		弥生土器	鉢	15.4	—	—	橙色 (2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	内面ハケメ後ナデ 黒斑C
4331	柱穴47	弥生土器	鉢	10.2	3.6	6.3	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ナデ ほぼ完形
4332	柱穴48	弥生土器	甕	18.6	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
4333		弥生土器	高杯	11.9	7.2	9.4	橙色 (5YR7/6)	細砂	外面ミガキ5分割 黒斑A
4334	柱穴49	弥生土器	甕	12.2	4.5	20.9	灰白色 (7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	底部外面ナデ 完形 ススB 黒斑BC
4335		弥生土器	甕	15.0	5.8	30.5	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	底部外面ナデ ほぼ完形 ススC 黒斑A
4336		弥生土器	甕	14.5	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB
4337	柱穴50	弥生土器	鉢	11.5	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
4338	柱穴51	弥生土器	甕	17.2	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
4339		弥生土器	手捏ね鉢	4.0	—	3.4	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂	
4340	柱穴52	弥生土器	甕	13.9	—	—	赤橙色 (10R6/8)	細砂、粗砂	黒斑A
4341		弥生土器	甕	12.8	—	—	橙色 (7.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB
4342		弥生土器	高杯	—	12.8	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	脚部未貫通透し孔横に3個1組2方向確認推定8方向
4343	柱穴53	弥生土器	高杯	17.7	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	黒斑AB
4344		弥生土器	高杯	(21.7)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	黒斑AB
4345	柱穴54	弥生土器	壺	(20.4)	—	—	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
4346	柱穴55	弥生土器	鉢	(15.4)	6.7	6.4	橙色 (2.5YR6/6)	精良	黒斑C
4347	柱穴56	弥生土器	高杯	11.9	12.8	(8.0)	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
4348	柱穴57	弥生土器	高杯	(15.9)	11.6	—	赤橙色 (10R6/6)	細砂	
4349	柱穴58	弥生土器	高杯	15.7	12.2	8.9	橙色 (5YR7/6)	精良	
4350		弥生土器	鉢	17.3	6.2	7.8	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑ABC
4351	柱穴59	弥生土器	鉢	17.4	6.1	7.9	橙色 (2.5YR6/6)	細砂	
4352	柱穴60	弥生土器	高杯	21.2	—	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	
4353	柱穴61	弥生土器	裝飾付高杯	(20.4)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	口縁内部2個1対の竹管連続文 波状文2列 鋸歯文 口縁外部鋸歯文
4354	柱穴62	弥生土器	鉢	(39.0)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B
4355	柱穴63	弥生土器	高杯	14.5	—	—	橙色 (2.5YR7/8)	細砂	黒斑A
4356	柱穴64	弥生土器	甕	16.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
4357		弥生土器	高杯	18.2	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
4358		弥生土器	鉢	13.2	4.6	13.8	橙色 (2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
4359	柱穴65	弥生土器	高杯	11.6	8.3	7.1	橙色 (5YR7/6)	細砂	
4360		弥生土器	鉢	8.8	—	4.6	橙色 (2.5YR7/8)	細砂、粗砂	黒斑BC
4361	柱穴66	弥生土器	台付鉢	11.9	4.2	7.5	橙色 (2.5YR7/6)	細砂	
4362	柱穴67	製塩土器	—	—	5.8	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂	
4363	柱穴68	弥生土器	高杯	—	11.5	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	脚部透し孔縦2個1列3方向確認 黒斑C
4364	柱穴69	弥生土器	甕	12.1	5.4	—	橙色 (5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	ススA
4365		弥生土器	鉢	(17.8)	—	—	鈍橙色 (5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
4366	柱穴70	弥生土器	台付鉢	(19.6)	9.2	(10.4)	明褐灰色 (7.5YR7/2)	細砂、粗砂	
4367	柱穴71	弥生土器	甕	18.0	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススA
4368		弥生土器	鉢	(10.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
4369	柱穴72	弥生土器	鉢	14.2	4.2	—	橙色 (2.5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
4370	柱穴73	弥生土器	高杯	23.4	12.0	14.8	鈍橙色 (7.5YR7/3)	細砂、粗砂	脚部透し孔3方向2段6個
4371	柱穴74	弥生土器	甕	(12.4)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	ススA
4372	包含層	弥生土器	甕	—	—	—	黄灰色 (2.5Y5/1)	細砂、粗砂	
4373		弥生土器	甕	—	—	—	鈍橙色 (7.5YR7/4)	粗砂	
4374		弥生土器	甕	—	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	粗砂	ススA
4375		弥生土器	甕	(32.0)	—	(9.1)	淡黄色 (2.5Y8/4)	細砂、粗砂	ススB
4376		弥生土器	壺	16.4	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	内面に布目痕?
4377		弥生土器	壺	—	—	—	橙色 (5YR6/8)	細砂	
4378		弥生土器	壺	20.0	—	—	鈍橙色 (7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
4379		弥生土器	長頸壺	19.4	9.2	42.0	鈍橙色 (5YR7/4)	粗砂	黒斑C
4380		弥生土器	壺	27.6	—	—	淡黄色 (2.5Y8/3)	細砂	ススAB?
4381		弥生土器	壺	16.4	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂	

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4382	包含層	弥生土器	壺?	25.2	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
4383		弥生土器	壺	24.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	
4384		弥生土器	壺	(26.4)	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
4385		弥生土器	壺	7.8	-	-	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
4386		弥生土器	壺	8.1	4.3	13.2	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	ほぼ完形
4387		弥生土器	甕	8.9	-	-	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
4388		弥生土器	壺	-	-	-	橙色(5YR6/8)	精良	
4389		弥生土器	壺?	-	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	
4390		弥生土器	直口壺	8.4	-	-	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	
4391		弥生土器	台付壺	8.4	11.9	9.4	橙色(7.5YR7/6)	細砂	不明 透し孔4個
4392		弥生土器	壺	-	10.5	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔4個
4393		弥生土器	壺	7.8	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
4394		弥生土器	台付壺	7.7	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
4395		弥生土器	甕	17.3	-	-	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
4396		弥生土器	甕	14.6	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
4397		弥生土器	甕	11.9	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	黒斑B
4398		弥生土器	甕	11.8	6.4	-	赤橙色(10R6/6)	細砂	被熱
4399		弥生土器	甕	16.4	5.2	(22.1)	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部外面ハケメ ススA
4400		弥生土器	甕	13.4	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	スス 黒斑A・AB
4401		弥生土器	甕	(8.8)	4.2	(10.2)	赤橙色(10R6/6)	細砂、粗砂	
4402		弥生土器	甕	14.0	4.6	(13.8)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススC
4403		弥生土器	甕	13.6	4.8	(16.0)	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂	口縁部ヨコナデによる凹部形成 ススB
4404		弥生土器	甕	17.3	6.9	28.6	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	底部外面ハケメ 黒斑BC
4405		弥生土器	甕	13.0	-	-	褐灰色(10YR6/1)	細砂	ススA
4406		弥生土器	甕	11.7	-	-	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、粗砂	ススB
4407		弥生土器	甕	15.2	(4.8)	(20.7)	褐灰色(10YR6/1)	細砂、粗砂	ススAB
4408		弥生土器	甕	17.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4409		弥生土器	甕	14.2	8.2	(32.8)	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
4410		弥生土器	甕	22.0	9.4	40.3	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4411		弥生土器	高杯	22.8	11.8	15.8	橙色(5YR7/8)	細砂	上段3個 透し孔3個1組で3か所
4412		弥生土器	高杯	10.4	7.2	9.3	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	
4413		弥生土器	高杯	13.0	7.0	7.9	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔3個 完形
4414		弥生土器	高杯	19.9	12.0	10.7	橙色(5YR6/6)	細砂	透し孔2個残
4415		弥生土器	高杯	20.7	12.9	12.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔4個残
4416		弥生土器	高杯	15.9	11.2	8.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
4417		弥生土器	高杯	(19.6)	11.1	9.5	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	
4418		弥生土器	高杯	18.2	11.6	10.7	橙色(5YR7/6)	細砂	
4419		弥生土器	高杯	12.4	9.8	6.7	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	口縁穿孔1個 透し孔4個 ほぼ完形
4420		弥生土器	高杯	15.6	11.8	8.9	橙色(2.5YR7/6)	細砂	
4421		土師器	高杯	14.2	10.6	8.3	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	ほぼ完形
4422		弥生土器	高杯	(14.3)	12.7	9.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔4
4423		弥生土器	高杯	29.0	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
4424		弥生土器	鉢	12.0	-	-	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	ユビオサエ
4425	弥生土器	鉢	13.5	6.3	6.3	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂		
4426	弥生土器	鉢	17.2	6.9	9.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑BC ススB'	
4427	弥生土器	鉢	(16.9)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂		
4428	弥生土器	鉢	(19.5)	6.9	10.7	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫	黒斑C	
4429	弥生土器	鉢	(12.0)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	ヘラミガキ	
4430	弥生土器	鉢	15.6	3.6	4.9	灰白色(10YR8/2)	細砂		
4431	弥生土器	鉢	16.1	6.2	6.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
4432	弥生土器	鉢	16.4	5.7	7.4	赤色(10R5/6)	細砂、粗砂		
4433	弥生土器	台付鉢	(14.0)	2.9	7.2	橙色(5YR6/8)	細砂	底部外面ケズリ	
4434	弥生土器	鉢	14.8	3.8	7.8	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B	
4435	弥生土器	鉢	9.5	3.0	9.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑BC	
4436	弥生土器	甕	12.9	5.3	10.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	二次焼成をうけている 完形 ススA	
4437	弥生土器	高台付鉢	16.4	5.9	15.9	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ススB 黒斑C	
4438	弥生土器	鉢	21.5	8.1	14.7	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	黒斑BC	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4439	包含層	弥生土器	台付鉢	(10.6)	5.4	(6.4)	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑B
4440		弥生土器	台付鉢	12.0	6.0	(8.2)	鈍橙色(7.5YR7/3)~ 灰白色(7.5Y7/2)	細砂、粗砂	
4441		弥生土器	台付鉢	15.9	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑B
4442		弥生土器	台付鉢	19.0	14.3	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	脚部透し孔3方向確認推定6方向 黒斑 内面C
4443		弥生土器	台付鉢	11.4	6.2	6.3	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	
4444		弥生土器	台付鉢	9.9	6.6	10.8	橙色(5YR6/6)	細砂	
4445		弥生土器	台付鉢	8.3	9.3	13.5	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
4446		弥生土器	鉢	28.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ヘラミガキ 内面ナデ
4447		弥生土器	鉢	30.2	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4448		弥生土器	鉢	35.8	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
4449		弥生土器	鉢	(41.0)	-	-	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	
4450		弥生土器	鉢	(43.4)	-	-	橙色(5YR7/6)	粗砂	
4451		弥生土器	器台	(33.7)	(37.3)	(30.2)	橙色(2.5YR7/6)~ 橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
4452		弥生土器	器台	28.6	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	透し孔5個×3段(合計15個)
4453		弥生土器	壺	-	3.1	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂	ススC
4454		弥生土器	手捏ね鉢	4.2	2.1	3.3	灰黄褐色(10YR4/2)	粗砂	ユピナデ
4455		弥生土器	ミナツフ	5.5	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	ユピオサエ
4456		弥生土器	手捏ね鉢	5.1	-	3.0	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ユピオサエ
4457		弥生土器	鉢	6.2	2.0	6.1	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑C
4458		弥生土器	碗	8.5	3.0	5.5	橙色(5YR6/6)	粗砂	ヘラオサエ ヘラケズリ 黒斑A~C
4459		弥生土器	手捏ね	7.7	3.5	5.0	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ユピオサエ
4460		弥生土器	壺	9.5	3.6	8.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、礫	
4461		弥生土器	碗	10.8	6.0	4.0	明褐色(7.5YR5/6)	粗砂	ユピナデ 完形
4462		製塩土器	-	12.0	-	-	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粗砂	ヘラケズリ
4463		製塩土器	-	-	3.1	-	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	
4464		製塩土器	-	-	4.4	-	褐灰色(7.5YR5/1)	粗砂	ヘラオサエ
4465		製塩土器	-	-	2.8	-	鈍赤橙色(10R6/4)	細砂、粗砂、礫	
4466		製塩土器	-	-	3.8	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
4467		製塩土器	-	-	3.6	-	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂	ヘラオサエ
4468		製塩土器	-	-	3.6	-	灰褐色(7.5YR6/2)	粗砂	ヘラオサエ
4469		製塩土器	-	-	4.2	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	粗砂	ヘラオサエ 黒斑C
4470		製塩土器	-	-	3.5	-	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	ヘラオサエ
4471		製塩土器	-	-	-	-	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂、粗砂	格子タタキ
4472		土師器	?	-	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
4473		土師器	高杯	19.5	-	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂	
4474		土師器	甔	21.6	-	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススB
4475		土師器	高杯	15.2	-	-	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
4476		土師器	高杯	-	13.6	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	
4477		土師器	壺	24.5	-	27.0	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	内面ヘラケズリ後ナデ
4478		土師器	壺	19.8	-	-	灰褐色(5YR6/2)	細砂	ススA
4479		土師器	壺	18.6	-	-	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
4480		土師器	壺	18.4	-	-	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
4481		土師器	壺	16.5	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
4482		土師器	壺	22.0	-	-	鈍橙色(5YR6/3)	粗砂	
4483	土師器	壺	12.8	-	-	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂		
4484	土師器	高杯	14.2	13.0	13.4	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	外面ヘラオサエ 内面ヘラケズリ ほぼ 完形	
4485	土師器	高杯	-	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	精良	ヘラミガキ	
4486	土師器	高杯	19.0	-	-	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂		
4487	土師器	高杯	16.0	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	ハケメ?	
4488	製塩土器	-	-	-	-	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	タタキ	
4489	製塩土器	-	-	1.9	-	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	ユピオサエ	
4490	土師器	高杯?	-	6.8	-	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂		
4491	須恵器	坏蓋	17.2	-	-	青灰色(10BG5/1)	細砂	回転ヘラケズリ	
4492	土師器	壺	14.8	-	24.1	明赤褐色(5YR5/8)	礫	ナデ 完形	
4493	土師器	壺	15.4	-	30.4	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	ススB	

角田調査区土器観察表

押図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4494	竪穴住居132	土師器	壺	16.0	—	31.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	内面ユピナデ 完形 黒斑B~C
4495		土師器	壺	—	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂、礫	外面ヘラオサエ? ミガキ?
4496		土師器	壺	(16.4)	—	25.6	褐色(10YR5/1)	細砂	ススA
4497		土師器	甕	17.0	—	34.0	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	ススB 黒斑C 韓式系土器
4498		土師器	壺	11.8	—	17.4	黄橙色(7.5YR7/8)	細砂	ほぼ完形 ススB
4499		土師器	甕	10.7	—	17.0	赤色(10R5/8)	粗砂	内面ヘラケズリ ほぼ完形 ススB 黒斑B C
4500		土師器	甕	14.4	7.0	14.3	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂、礫	外面ユピオサエ・ナデ 黒斑ABC
4501		土師器	甕	(18.6)	—	16.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	黒斑ABC
4502		土師器	高杯	14.2	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
4503		土師器	高杯	17.4	12.4	14.3	橙色(2.5YR7/6)	精良	
4504		土師器	高杯	16.1	11.1	12.4	鈍赤褐色(7.5R5/3)	細砂	ほぼ完形 ススA
4505		土師器	高杯	17.5	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	外面摩滅わずかにハケメ?
4506		土師器	高杯	16.3	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	外面ヘラオサエ
4507		土師器	壺	10.1	—	14.1	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	内面ハケ後ナデ 完形 黒斑B
4508		土師器	鉢	11.5	—	7.1	明赤褐色(2.5YR5/8)	粗砂、礫	ほぼ完形
4509		土師器	鉢	10.6	6.8	6.6	赤色(10R5/8)	粗砂、礫	ほぼ完形
4510		須恵器	甕	—	—	—	灰色(6N)	精良	同心円文ナデ消し
4511		須恵器	蓋	—	—	—	灰色(5N)	細砂	
4512		土師器	甌	24.1	—	13.1	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	内面ハケ後ナデ 黒斑A~C
4513		土師器	甌	24.0	—	23.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	底部ユピナデ 抉入り牛角状把手 完形 黒斑A~C
4514	竪穴住居133	土師器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
4515		土師器	甕	12.4	—	—	灰白色(10YR7/1)	細砂	
4516		土師器	甕	22.0	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
4517		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
4518	竪穴住居134	土師器	甕	15.2	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	黒斑A~B
4519		土師器	高杯	—	12.4	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	透し孔4個
4520		土師器	高杯	18.0	—	—	赤褐色(10R6/8)	細砂	
4521	竪穴住居135	土師器	高杯	16.8	—	—	鈍赤褐色(10R6/4)	粗砂	
4522		土師器	高杯	15.8	11.0	12.6	橙色(5YR6/6)	細砂	完形 黒斑A~C
4523		土師器	高杯	16.8	12.0	13.0	鈍橙色(5YR6/4)	粗砂	透し孔3個 完形
4524		土師器	鉢	24.4	—	(17.0)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
4525		製塩土器	—	—	3.9	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	ナデ
4526	竪穴住居136	土師器	甕	(16.4)	—	—	灰色(4N)	細砂	ススA
4527		土師器	甕	(15.5)	—	25.8	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	ススA
4528		土師器	甕	16.5	—	25.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑B・C
4529		土師器	甕	14.4	—	25.6	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススC 黒斑B
4530		土師器	甕	15.8	—	23.9	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	ススB
4531		土師器	高杯	15.2	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
4532		土師器	高杯	15.9	10.9	12.9	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	透し孔2個残
4533		土師器	高杯	14.9	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	ススA
4534		土師器	高杯	16.9	11.2	13.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ほぼ完形 ススA
4535		土師器	高杯	16.2	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
4536	土師器	手捏ね	(5.2)	—	3.6	橙色(5YR6/6)	細砂	ユピオサエ	
4537	竪穴住居137	土師器	壺	13.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂	外面タキ後ハケ 口縁部内面ハケ
4538		土師器	壺	14.4	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
4539		土師器	小型丸底壺	7.4	—	10.0	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂	ハケメ後ナデ
4540		土師器	小型甕	9.2	—	8.6	赤褐色(10R6/8)	細砂	ほぼ完形
4541		土師器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
4542		土師器	高杯	17.5	11.8	12.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
4543		土師器	高杯	—	15.0	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	杯部内面ミガキ
4544		土師器	高杯	17.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
4545		土師器	高杯	—	—	12.5	橙色(5YR6/6)	礫	
4546		土師器	皿	14.6	—	3.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	外面ヘラケズリ?
4547		土師器	鉢	41.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
4548		土師器	甕	13.2	—	15.9	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
4549		土師器	小型甕	10.6	—	9.6	淡褐色(5YR8/4)	細砂	完形 黒斑B

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4550	竪穴住居137	土師器	甕	14.8	—	26.5	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	ほぼ完形 黒斑B~C	
4551		土師器	高杯	24.3	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	外面ヘラミガキ 黒斑A	
4552	竪穴住居138	土師器	甕	10.4	—	—	橙色(7.5YR6/4)	細砂		
4553		土師器	甕	9.6	—	6.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	内面ナデ	
4554		土師器	甕	9.6	—	—	橙色(2.5YR7/6)	粗砂	内面ナデ 黒斑C	
4555		土師器	壺	12.0	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4556		土師器	甕	11.1	—	14.1	灰褐色(5YR6/2)	細砂	内面ナデ ほぼ完形 ススA	
4557		土師器	甕	11.0	—	11.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	完形	
4558		土師器	甕	9.9	—	12.4	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂	内面ナデ	
4559		土師器	甕	—	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	ススB'	
4560		土師器	高杯	16.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4561		土師器	高杯	16.5	11.4	13.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂		
4562		土師器	蓋	6.6	—	8.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	完形	
4563		製塩土器	—	—	3.5	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4564	竪穴住居139	土師器	甕	15.2	—	26.4	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	ススC	
4565		土師器	甕	—	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	黒斑BC	
4566		土師器	甕	(13.0)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		
4567		土師器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔1個残	
4568		土師器	高杯	10.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔2個残	
4569		須恵器	杯蓋	12.6	—	5.6	灰色(N6)	細砂	砂粒左方向 完形	
4570	須恵器	杯身	10.8	—	5.5	灰色(N6)	細砂	砂粒左方向		
4571	須恵器	杯身	9.8	—	4.5	灰色(5Y5/1)	細砂	重ね焼き痕 自然釉 砂粒右方向		
4572	須恵器	高杯蓋	13.0	—	5.9	青灰色(5B6/1)	細砂、粗砂	砂粒右方向		
4573	須恵器	高杯	10.9	9.6	9.8	灰色(10Y6/1)	粗砂	カキメ 透し孔3個		
4574	須恵器	高杯	—	9.0	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	カキメ 透し孔2個残		
4575	須恵器	壺	—	(15.2)	—	灰色(7.5Y6/1)	細砂	カキメ		
4576	須恵器	壺	18.5	—	26.7	青灰色(5PB6/1)	細砂、粗砂	内面同心円当具後ナデ消し		
4577	須恵器	壺	—	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	内面同心円当具後ナデ消し		
4578	須恵器	甕	—	—	—	灰白色(10YR7/1)	細砂			
4579	土師器	甕	14.0	—	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂	内面ユビナデ		
4580	土師器	甕	8.6	—	—	褐色(5YR6/1)	細砂			
4581	土師器	高杯	14.5	10.2	11.4	淡橙色(5YR8/3)	精良	透し孔3個残		
4582	土師器	高杯	—	8.2	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良			
4583	土師器	鉢	—	3.8	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂			
4584	土師器	鉢	—	4.6	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂			
4585	土師器	鉢	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	黒斑ABC		
4586	土師器	鉢?	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	線刻		
4587	竪穴住居141	土師器	壺	7.8	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	内面ユビナデ	
4588		土師器	壺	9.2	—	9.6	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	内面ユビナデ	
4589		土師器	甕	10.6	—	11.6	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	内面ナデ 穿孔 ススB	
4590		土師器	甕	13.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
4591		土師器	甕	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	内面ユビナデ	
4592		土師器	甕	11.4	—	21.4	明褐色(5YR7/2)	細砂、粗砂	内面ナデ 黒斑AB	
4593		土師器	高杯	14.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
4594		土師器	高杯	16.4	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂		
4595		土師器	高杯	16.7	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	杯部外面ユビオサエ痕	
4596		土師器	高杯	17.4	12.0	14.3	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
4597		土師器	高杯	—	—	—	赤色(10R5/6)	細砂、粗砂、礫		
4598		土師器	高杯	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
4599		土師器	高杯	—	10.4	—	鈍橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4600		土師器	高杯	—	10.4	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	透し孔3個	
4601		土師器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔3個	
4602		土師器	高杯	(12.4)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	外面ハケメ?	
4603		竪穴住居142	須恵器	高杯	12.8	9.9	9.3	灰色(N5)	細砂	
4604			須恵器	器台	—	—	—	灰色(N5)	細砂、粗砂	
4605	土師器		甕	13.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂		
4606	土師器		高杯	14.0	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑A	

角田調査区土器観察表

棟号 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4607	竪穴住居142	土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	透し孔3個	
4608		土師器	甌	—	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	把手のみ	
4609	竪穴住居143	須恵器	杯蓋	11.1	—	4.2	灰色(N6)	細砂、粗砂、礫	外面自然釉 砂粒左方向	
4610		須恵器	杯蓋	11.2	—	4.4	青灰色(5B6/1)	細砂	砂粒左方向	
4611		須恵器	杯蓋	11.3	—	—	緑灰色(7.5GY5/1)	細砂	砂粒左方向	
4612		須恵器	杯蓋	11.7	—	4.3	青灰色(5B6/1)	細砂	砂粒左方向	
4613		須恵器	杯身	10.8	—	4.4	灰白色(N7)	細砂、粗砂	砂粒右方向	
4614		須恵器	高杯蓋	11.9	—	5.3	灰-? 灰色(2.5GY5/1)	細砂	外面自然釉 砂粒右方向	
4615		須恵器	高杯	11.0	9.0	7.5	灰白色(N7)	細砂	透し孔3個 砂粒左方向	
4616		須恵器	高杯	—	8.4	—	灰白色(N7)	細砂	透し孔3個	
4617		須恵器	甌	13.4	9.5	18.7	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	上半平行タタキ 下半格子タタキ	
4618		須恵器	甌	—	—	—	灰白色(N7)	細砂	平行タタキ後カキメ	
4619		須恵器	甌	—	—	—	灰白色(N6)	細砂	平行タタキ	
4620		須恵器	甌	—	—	—	暗青灰色(5B6/1)	細砂	平行タタキ	
4621		須恵器	甌	—	—	—	灰色(N6)	細砂、粗砂、礫	格子タタキ?	
4622		須恵器	器台	—	—	—	灰色(N4)	細砂	波状文	
4623	土師器	甌	15.8	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	内面ナデ?		
4624	土師器	甌	—	—	—	明褐色(5YR7/1)	細砂、粗砂、礫	内面ナデ		
4625	土師器	高杯	14.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	内面ハケメ後ナデ		
4626	土師器	鉢	8.7	—	7.0	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	内面ユビナデ 黒斑BC		
4627	製塩土器	—	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	平行タタキ		
4628	竪穴住居144	須恵器	壺	6.6	7.5	—	灰色(N4)	細砂	自然釉 ほぼ完形	
4629		土師器	壺	10.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4630		土師器	甌	19.0	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂		
4631		土師器	壺	11.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4632		土師器	甌	(10.9)	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	黒斑B	
4633		土師器	甌	13.6	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂		
4634		土師器	甌	14.0	8.0	22.4	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	タタキメ 底部打ち欠き(8.3×8.0cm)	
4635		土師器	甌	9.6	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
4636		土師器	甌	15.0	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	内面ユビナデ	
4637		土師器	高杯	(14.5)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
4638		土師器	高杯	14.5	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂		
4639		土師器	高杯	15.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
4640		土師器	高杯	16.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4641		土師器	高杯	18.1	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
4642		土師器	高杯	20.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
4643		土師器	高杯	—	—	—	鈍黄橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	外面工具痕	
4644		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
4645		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂		
4646		土師器	高杯	—	(12.8)	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4647		土師器	埴	8.6	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂		
4648		土師器	埴	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
4649		土師器	埴	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部外面ハケ状工具?	
4650		土師器	手捏ね	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4651		土師器	手捏ね	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂		
4652		製塩土器	—	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)		内面ハケメ?	
4653		土師器	甌	—	5.4	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	底部の孔7個残	
4654		竪穴住居145	土師器	甌	12.8	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
4655			土師器	甌	12.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
4656	土師器		甌	14.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4657	土師器		高杯	17.3	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良		
4658	土師器		鉢	11.3	—	3.2	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
4659	土師器		鉢	14.6	—	5.6	淡褐色(5YR8/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑BC	
4660	土師器		鉢	16.1	—	4.9	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑BC	
4661	土師器		鉢	16.2	—	5.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	ほぼ完形	
4662	土師器		鉢	16.7	—	5.4	灰白色(10YR8/1)	細砂	ほぼ完形	
4663	土師器		埴	9.0	—	—	橙色(5YR7/6)	精良		

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4664	竪穴住居145	土師器	器台	10.2	11.3	9.4	鈍橙色(7.5YR7/4)	精良	透し孔3方向 ほぼ完形
4665		土師器	鼓形器台	17.1	16.3	12.0	淡橙色(5YR8/4)	細砂	ほぼ完形 黒斑A B
4666		土師器	蓋	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	
4667		土師器	鉢	42.2	—	25.7	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A・B C・C
4668	竪穴住居146	土師器	壺	16.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ススB
4669		土師器	壺	18.6	—	—	灰色(5Y4/1)	細砂、粗砂、礫	
4670		土師器	壺	(20.4)	—	—	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	ススA
4671		土師器	壺	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	黒斑C
4672		土師器	甕	—	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂、礫	
4673		土師器	甕	16.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
4674		土師器	甕	11.2	—	11.2	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	内外面ハケ状工具ナデ? 黒斑A
4675		土師器	甕	(12.0)	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	
4676		土師器	高杯	—	13.8	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔1残
4677		土師器	鉢	19.1	—	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	注口つき
4678		軟質土器	平底甕	11.3	6.6	10.2	褐灰色(10YR6/1)	細砂、粗砂	格子タタキ 内面横方向のナデ
4679	土師器	鉢	9.0	—	6.4	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、礫		
4680	竪穴住居147	須恵器	甕	—	10.6	—	灰色(N6)	細砂	内面無文当具(木目)
4681		土師器	甕	13.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
4682		土師器	?	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	線刻
4683	竪穴住居148	須恵器	蓋	14.9	—	—	灰色(N5)	細砂、粗砂	
4684		須恵器	台付杯	17.1	—	—	灰色(10Y6/1)	微砂	
4685		須恵器	高杯	15.4	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	接合面刻目
4686		土師器	壺	15.4	—	—	鈍橙色	細砂、粗砂、礫	黒斑A B
4687		土師器	壺	9.9	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	ススA
4688		土師器	壺	(9.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	
4689		土師器	甕	14.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
4690		土師器	甕	14.2	—	25.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
4691		土師器	高杯	15.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
4692		土師器	高杯	—	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
4693		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
4694		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良	透し孔2個
4695		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/8)	細砂	
4696		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	精良、細砂	透し孔2個残
4697	土師器	鉢	9.4	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	精良	底部内面工具ナデ	
4698	土師器	甌	—	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	把手のみ	
4699	竪穴住居149	須恵器	杯蓋	11.0	—	—	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	ロクロの回転左
4700		須恵器	杯蓋	11.2	—	—	灰色(N6/)	細砂	ロクロの回転右
4701		須恵器	杯蓋	11.4	—	—	灰色(N6/)	細砂	
4702		須恵器	杯蓋	12.3	—	—	灰色(N6/)	細砂	ロクロの回転右
4703		須恵器	甕	—	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
4704		土師器	高杯?	23.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
4705		土師器	甕	(10.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	
4706		土師器	甕	13.1	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、礫	
4707		土師器	甕	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
4708		土師器	甌?	(20.0)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
4709		土師器	手捏ね鉢	6.8	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
4710	竪穴住居150	須恵器	壺	—	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	
4711		土師器	甕	12.4	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
4712		土師器	高杯	16.6	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑A
4713		土師器	高杯	15.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
4714		土師器	高杯	17.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	4715と同一? 黒斑A B
4715		土師器	高杯	—	11.5	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	4714と同一?
4716		土師器	高杯	21.4	14.3	17.2	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形
4717		土師器	高杯	—	(11.2)	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	
4718		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	精良、細砂	透し孔3個
4719		土師器	埴	—	8.0	—	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	黒斑B
4720		土師器	甌	(18.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	



角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載道標名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4721	竪穴住居150	土師器	甌	—	—	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	底部穿孔5個残	
4722		土師器	手捏ね鉢	2.7	2.4	2.0	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ほぼ完形	
4723		土師器	手捏ね碗	8.0	5.3	5.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑ABC	
4724	竪穴住居151	須恵器	甕	(11.0)	—	—	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂	全体に歪み	
4725		須恵器	甕	—	—	—	灰色(N6/)	細砂	肩部自然釉	
4726	竪穴住居152	土師器	壺	(20.1)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
4727		土師器	甕	(13.7)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂		
4728		土師器	鉢	(17.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
4729	竪穴住居153	土師器	甕	(8.9)	—	12.4	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂、粗砂		
4730		土師器	高杯	14.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4731		土師器	高杯	14.2	11.3	12.3	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4732		土師器	手捏ね鉢	3.0	—	2.0	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	完形	
4733		土師器	手捏ね鉢	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4734		土師器	甌	(27.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
4735	竪穴住居154	須恵器	高杯	16.8	—	—	灰白色(N7/)	細砂	体部波状文	
4736		須恵器	壺	—	3.6	—	暗オリーブ色(5Y4/3)	細砂	胴部タタキ 頸部波状文 肩部・内面底部釉	
4737		土師器	甕	12.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
4738		土師器	甕	14.4	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
4739		土師器	甕	18.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
4740		土師器	甕	16.0	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4741		土師器	鉢	22.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
4742		土師器	甌	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	把手のみ 最大長6.5cm・最大幅3.5cm・最大厚3.0cm	
4743	竪穴住居155	須恵器	杯蓋	12.0	—	4.8	灰色(7.5Y6/1)	細砂	ヘラケズリの方向右→左	
4744		須恵器	杯蓋	12.9	—	—	青灰色(10BG5/1)	細砂	口縁部内側釉	
4745		須恵器	杯蓋	12.8	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	口縁・体部釉 ヘラケズリの方向右→左	
4746		須恵器	杯身	10.2	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂	体部釉	
4747		須恵器	杯身	11.0	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	ヘラケズリの方向右→左	
4748		須恵器	杯身	11.0	—	5.4	灰色(5Y6/1)	細砂	ヘラケズリの方向右→左 ほぼ完形	
4749		須恵器	杯身	(12.8)	—	—	灰色(10Y5/1)	細砂		
4750		須恵器	高杯	10.8	9.2	9.0	灰色(10Y6/1)	細砂	透し孔3個 ヘラケズリの方向右→左 脚部にカキメ 完形	
4751		須恵器	はそう?	(11.0)	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	波状文 内側少量釉	
4752		須恵器	甕	19.9	—	—	灰色(10Y6/1)	細砂	体部タタキ	
4753	土師器	甕	14.8	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂			
4754	土師器	甕	13.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススC		
4755	土師器	甕	(18.0)	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂			
4756	土師器	高杯	14.8	10.4	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂			
4757	土師器	高杯	14.3	10.2	11.1	灰白色(5YR8/2)	細砂	脚部透し孔3個 ほぼ完形 黒斑A		
4758	土師器	手捏ね杯	6.9	3.1	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑BC		
4759	土師器	甌	25.3	8.0	25.4	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	ススC		
4760	竪穴住居156	須恵器	杯身	11.6	—	—	青灰色(10BG6/1)	細砂	ヘラケズリ方向左まわり ロクロ右	
4761		須恵器	有蓋高杯	11.4	—	—	灰色(N5/)	細砂	ヘラケズリ方向左まわり ロクロ右	
4762		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N6/)	細砂、粗砂、礫	頸部10条前後の波状線2列 凹線2条	
4763		土師器	壺	7.7	2.0	7.6	明赤褐色(5YR5/8)	細砂、粗砂、礫	黒斑AB	
4764		土師器	甕	13.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススAB	
4765		土師器	甕	13.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ススB	
4766		土師器	高杯	15.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
4767		土師器	高杯	16.6	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂		
4768		土師器	高杯	18.5	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4769		土師器	高杯	—	—	—	赤色(10YR5/8)	細砂、粗砂、礫		
4770		土師器	高杯	—	10.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4771		土師器	ミチナリ鉢	6.3	2.8	5.7	浅黄褐色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
4772		土師器	甌	21.0	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	底部透し孔2個 ススB	
4773		土師器	甌	21.6	7.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部透し孔7個 黒斑B ススAB	
4774		竪穴住居157	須恵器	杯蓋	12.0	—	4.5	オリーブ灰色(2.5GY5/1)	細砂、粗砂	ロクロの回転は逆回り

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4775	竪穴住居157	須恵器	杯身	10.4	—	5.1	灰色(N6/)	細砂、粗砂	ロクロの回転は順回り 底底部外面一部自然釉	
4776		須恵器	杯身	11.3	—	4.8	灰色(N6/)	細砂	ロクロの回転は逆回り	
4777		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	口縁部波状文	
4778		土師器	高杯	—	8.9	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
4779		土師器	高杯	—	9.6	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4780		土師器	ミナヅメ鉢	3.9	2.3	4.2	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑AC	
4781		土師器	甌?	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	把手のみ	
4782	竪穴住居158	須恵器	杯身	—	—	—	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂		
4783		須恵器	杯身	10.6	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	ヘラケズリの方向右→左	
4784		須恵器	高杯	—	(9.6)	—	灰赤色(7.5R6/2)	細砂	透し孔個数不明	
4785		須恵器	甌	—	—	—	灰色(5Y5/1)	細砂	内面釉	
4786		須恵器	壺	14.8	—	—	灰白色(10YR7/1)	細砂		
4787		土師器	甌	17.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4788		土師器	高杯	—	—	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂		
4789		土師器	甌	—	—	—	褐灰色(10YR5/1)	細砂	ススA	
4790		土師器	甌?	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	把手のみ	
4791		土師器	甌?	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	把手のみ	
4792		製塩土器	—	(8.8)	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		
4793		竪穴住居159	須恵器	杯蓋	(12.4)	—	—	灰色(N7)	細砂	
4794	須恵器		杯身	(11.7)	—	—	灰色(N6)	細砂、粗砂	ヘラケズリの方向左→右	
4795	須恵器		壺	(17.7)	—	—	灰色(5Y4/1)	細砂		
4796	土師器		壺	12.3	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑B	
4797	土師器		高杯	(17.4)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂		
4798	土師器		高杯	(14.4)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4799	土師器		高杯	(13.3)	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂		
4800	土師器		高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4801	土師器		手捏ね鉢	5.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
4802	土師器		鉢	10.7	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
4803	土師器		甌	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	把手のみ 最大長5.5cm・最大幅3.3cm・最大厚3.4cm	
4804	土師器		甌	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	把手のみ 最大長4.3cm・最大幅3.9cm・最大厚3.4cm	
4805	竪穴住居160		須恵器	壺	(18.6)	—	—	灰色(N5/)	細砂	口縁部に波状文2段残
4806			土師器	壺?	10.1	—	13.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
4807			土師器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	
4808		土師器	甌	14.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4809		土師器	甌	18.3	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂		
4810		土師器	甌	15.7	—	24.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑C	
4811		土師器	甌	13.1	—	17.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4812		土師器	甌	14.7	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
4813		土師器	甌	19.2	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂		
4814		土師器	高杯?	14.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
4815		土師器	高杯	13.5	11.0	12.9	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚部透し孔3個 黒斑AC	
4816		土師器	高杯	13.7	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
4817		土師器	高杯	—	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂		
4818		土師器	高杯	14.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
4819		土師器	高杯	13.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4820		土師器	高杯	14.5	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
4821		土師器	高杯	16.7	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂		
4822		土師器	高杯	17.0	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫		
4823		土師器	高杯	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂		
4824		土師器	高杯	—	11.1	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	脚部透し孔3個	
4825	土師器	高杯	—	11.9	—	橙色(5YR6/6)	精良			
4826	土師器	高杯	—	11.0	—	橙色(5YR7/6)	精良	脚部透し孔3個		
4827	土師器	高杯	—	12.0	—	橙色(5YR6/6)	精良	脚部透し孔1個残		
4828	土師器	高杯	—	11.8	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	脚部透し孔2個		
4829	土師器	高杯	—	11.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑C		

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4830	竪穴住居160	土師器	高杯	—	12.2	—	橙色(5YR7/6)	精良		
4831		土師器	鉢	10.0	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
4832		土師器	鉢	10.0	—	4.6	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		
4833		土師器	杯	10.5	—	5.0	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
4834		土師器	鉢	11.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
4835		土師器	鉢	11.7	—	—	橙色(5YR7/8)	精良		
4836		土師器	鉢	11.8	—	5.2	橙色(5YR6/6)	精良、細砂		
4837		土師器	鉢	11.7	—	6.1	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂		
4838		土師器	手捏ね鉢	3.8	1.7	1.9	橙色(5YR7/6)	細砂	充形 黒斑AC	
4839		土師器	手捏ね鉢	3.8	—	3.2	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂		
4840		土師器	手捏ね鉢	7.4	—	5.1	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂		
4841		土師器	甌	25.9	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	底部穿孔4個確認(推定7個) ススA	
4842		土師器	甌	27.8	—	31.8	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	底部穿孔7個 ススA	
4843		竪穴住居161	須恵器	杯蓋	11.8	—	4.6	灰色(N6/)	細砂、粗砂	ロクロの回転は順回り
4844	須恵器		杯蓋	14.0	—	4.0	青灰色(5B6/1)	細砂、粗砂	ロクロの回転は順回り	
4845	須恵器		杯身	12.9	—	—	灰色(N6/)	細砂、粗砂	ロクロの回転は順回り 自然釉	
4846	須恵器		杯身	13.7	—	4.6	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、粗砂	ロクロの回転は順回り ほぼ充形 焼成やや不良	
4847	土師器		壺	14.7	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
4848	土師器		甕	(24.7)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂		
4849	土師器		甕	20.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	ススB	
4850	土師器		甕	19.6	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂、粗砂、礫	ススB	
4851	土師器		鉢	20.5	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
4852	土師器		甌	(26.4)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂		
4853	土師器		甌?	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	把手のみ 最大長4.2cm・最大幅2.9cm・最大厚2.5cm	
4854	土師器		甌?	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	把手のみ 最大長4.6cm・最大幅3.9cm・最大厚2.7cm	
4855	竪穴住居162		須恵器	杯蓋	—	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、粗砂	ヘラケズリ方向右→左
4856			須恵器	甌	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	体部に沈線3~4条 釉が付着 波状文5~6条 穿孔
4857		須恵器	壺	14.8	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	口縁部波状文	
4858		須恵器	器台	(41.8)	—	—	灰色(10Y5/1)	細砂	口縁部波状文10~13条・14~15条	
4859		土師器	甕	15.4	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ススB	
4860		土師器	碗	11.0	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂		
4861		製塩土器	—	8.0	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂		
4862		竪穴住居163	須恵器	杯蓋	13.6	—	—	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	
4863			須恵器	壺	16.8	—	—	灰白色(N7/)	細砂	口縁部波状文4条・3条・4条・4条
4864			土師器	甕	18.2	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
4865	土師器		高杯	14.6	10.2	11.7	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
4866	土師器		鉢	11.7	—	5.0	橙色(5YR7/6)	細砂		
4867	土師器		甌	(23.8)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4868	土師器		直口壺	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂		
4869	竪穴住居164		土師器	直口壺	9.2	—	16.1	淡褐色(5YR8/4)	細砂、粗砂	黒斑B
4870		土師器	甕	21.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
4871		土師器	甕	18.6	—	25.7	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススB	
4872		土師器	高杯	15.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4873	竪穴住居165	土師器	甕	15.6	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑A	
4874		土師器	甕	13.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑A	
4875		土師器	甕	15.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
4876		土師器	高杯	15.0	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	ほぼ充形	
4877		土師器	手捏ね鉢	6.7	—	4.0	灰色(N4/)	細砂	ほぼ充形	
4878		土師器	鉢	8.5	—	10.2	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	二次焼成痕	
4879		土師器	鉢	9.5	—	5.4	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	充形 黒斑AB	
4880		土師器	壺	(8.7)	—	10.8	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑B	
4881		竪穴住居166	須恵器	杯身	(10.0)	—	—	灰色(N6/)	細砂、粗砂	
4882			須恵器	高杯	(13.6)	—	—	灰色(5/)	細砂、粗砂	杯部波状文
4883	須恵器		高杯	—	8.7	—	灰色(N6/)	細砂	脚裾部透し孔推定4方向?	
4884	須恵器		壺	—	—	—	灰色(5/)	細砂、粗砂	外面平行クタクキ 内面同心円当て具痕	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
4885	竪穴住居168	土師器	壺	11.0	—	13.9	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂、礫		
4886		土師器	甕	(14.8)	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
4887		土師器	甕	14.2	—	22.1	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ススB <sup>1</sup>	
4888		土師器	甕	(16.6)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ススA	
4889		土師器	甕	11.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4890		土師器	壺	15.0	—	22.8	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ほぼ完形 ススC	
4891		土師器	壺	13.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫		
4892		土師器	壺	11.0	—	—	灰褐色(5YR6/2)	細砂		
4893		土師器	甕	13.4	—	22.8	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ススC	
4894		土師器	甕	13.2	—	19.6	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
4895		土師器	高杯	16.6	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4896		土師器	高杯	17.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂		
4897		土師器	高杯	15.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫		
4898		土師器	高杯	(17.4)	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
4899		土師器	高杯	20.0	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂		
4900		土師器	高杯	17.0	11.0	12.0	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
4901		土師器	高杯	—	12.3	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
4902		土師器	高杯	—	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂、礫		
4903		土師器	高杯	—	10.6	—	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂、粗砂	脚裾部透し孔3個(2個残)	
4904		土師器	甌	19.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫		
4905		土師器	甌	—	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂、礫	把手のみ 最大長8.3cm・最大幅3.3cm・最大厚3.0cm	
4906		竪穴住居169	土師器	甕	18.0	—	29.6	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑BC
4907			土師器	甕	18.0	—	31.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	黒斑BC?
4908			土師器	甕	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑B?
4909	土師器		鉢	12.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂		
4910	土師器		高杯	12.8	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂		
4911	土師器		高杯	17.4	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	黒斑A	
4912	土師器		高杯	(15.6)	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂		
4913	土師器		高杯	24.6	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	脚柱部透し孔3個	
4914	土師器		高杯	—	11.4	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	脚裾部透し孔3個	
4915	土師器		高杯	—	14.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
4916	土師器		高杯	—	12.6	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
4917	土師器		高杯	—	15.2	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂		
4918	土師器		高杯	—	13.6	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂		
4919	土師器		手捏お鉢	3.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
4920	土師器		甌	27.2	10.0	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	底部穿孔3個確認(推定5個)	
4921	土師器		甌	28.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	表面格子目タタキ(後ハケメ)	
4922	土師器	甌	—	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	最大長6.5cm・最大幅2.5cm・最大厚2.7cm		
4923	竪穴住居170	須恵器	杯蓋	11.2	—	5.0	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	ロクロの回転左	
4924		須恵器	杯蓋	12.1	—	5.7	灰色(N5/)	細砂	ロクロの回転方向不明 つまみ部あたりに自然釉	
4925		須恵器	有蓋短頸壺	7.5	—	6.9	灰色(N6/)	細砂、粗砂	重ね焼痕 ロクロの回転右	
4926		土師器	甕	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	二次焼成をうけている	
4927		土師器	甕	(12.1)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4928		土師器	甕	13.1	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
4929		土師器	甕	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ススC	
4930		土師器	高杯	15.5	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂		
4931		土師器	甌	(21.1)	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	黒斑BC	
4932		竪穴住居171	須恵器	壺	—	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	表面格子目タタキ 黒斑B
4933	土師器		甕	15.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
4934	土師器		甕	15.0	—	(25.8)	明褐色(7.5YR7/2)	細砂		
4935	土師器		甕	(14.1)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB	
4936	土師器		甕	—	—	—	鈍橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	ススB	
4937	土師器		甕	—	—	—	淡橙色(5YR8/3)~ 橙色(2.5YR7/6)	細砂	ススC	
4938	土師器		甕	—	7.0	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススB?	
4939	土師器		甕	10.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ススB	

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4940	竪穴住居171	土師器	小型甕	10.8	—	13.2	灰白色 (7. 5YR8/2)	細砂	ススC
4941		土師器	高杯	12.4	—	—	褐灰色 (10YR5/1)	細砂	
4942		土師器	高杯	16.8	—	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂、粗砂	
4943		土師器	高杯	17.0	—	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	黒斑A?
4944		土師器	高杯	15.8	—	—	鈍橙色 (10YR7/2)	細砂	
4945		土師器	高杯	15.2	—	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	
4946		土師器	高杯	(16.2)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	
4947		土師器	高杯	17.6	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	黒斑A?
4948		土師器	高杯	16.8	—	—	鈍橙色 (2. 5YR6/4)	細砂	
4949		土師器	高杯	19.8	—	—	淡赤橙色 (2. 5YR7/4)	細砂	
4950		土師器	高杯	13.8	9.4	12.7	淡赤橙色 (2. 5YR7/3)	細砂	
4951		土師器	高杯	14.8	10.8	(12.5)	灰白色 (10YR8/1)	細砂	
4952		土師器	高杯	—	10.4	—	橙色 (7. 5YR7/6)	細砂	
4953		土師器	高杯	—	11.6	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂	
4954		土師器	高杯	—	(11.2)	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	
4955		土師器	壺	(5.8)	—	—	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂、粗砂	
4956		土師器	壺	7.8	—	—	明褐色 (7. 5YR7/2)	細砂	ススB
4957		土師器	壺	7.6	—	7.4	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	
4958		土師器	小型甕	9.4	—	9.6	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	ススA
4959		土師器	鉢	7.8	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/3)	細砂	
4960	土師器	手捏ね鉢	7.7	—	4.7	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑B	
4961	竪穴住居172	須恵器	甕	(17.6)	—	—	灰色 (N6/)	細砂	縄蓆文
4962		須恵器	甕	—	—	—	灰色 (N6/)	細砂	縄蓆文 4961と同一個体?
4963		須恵器	甕	—	—	—	灰色 (N6/)	細砂	縄蓆文 4961と同一個体?
4964		土師器	小型壺	(6.6)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂	
4965		土師器	甕	—	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4966		土師器	甕	15.3	—	—	灰褐色 (7. 5YR6/2)	細砂、粗砂、礫	
4967		土師器	甕	(15.2)	—	—	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	
4968		土師器	甕	(14.8)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
4969		土師器	甕	16.9	—	—	浅黄橙色 (10YR8/3)	細砂、粗砂	口唇部凹線1条
4970		土師器	甕	11.7	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
4971		土師器	壺	(14.2)	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂	
4972		土師器	高杯	17.6	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	脚柱部透し孔3個残(2個)
4973		土師器	高杯	(15.8)	9.2	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/4)	細砂、粗砂	
4974		土師器	高杯	16.4	—	—	淡赤橙色 (2. 5YR7/4)	細砂、粗砂	
4975		土師器	高杯	(20.0)	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
4976		土師器	高杯	(20.4)	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/3)	細砂、粗砂	
4977		土師器	高杯	(18.4)	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/3)	細砂、粗砂	
4978		土師器	高杯	(18.4)	—	—	鈍橙色 (7. 5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
4979		土師器	高杯	22.6	—	—	淡橙色 (5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
4980		土師器	高杯	—	—	—	浅黄橙色 (7. 5YR8/6)	細砂、粗砂、礫	
4981	土師器	高杯	—	—	—	灰白色 (7. 5YR8/2)	細砂		
4982	土師器	高杯	—	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	脚柱部透し孔3個	
4983	土師器	手捏ね鉢	(3.3)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂		
4984	土師器	鉢	(18.0)	—	—	橙色 (5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
4985	竪穴住居173	土師器	甕	17.2	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂	
4986		土師器	高杯	19.9	—	—	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂、粗砂	
4987		土師器	高杯	18.2	11.4	14.5	鈍橙色 (7. 5YR6/4)	細砂	黒斑B
4988		土師器	高杯	—	12.4	—	橙色 (5YR7/6)	細砂	脚部透し孔2個確認推定4方向? 黒斑C
4989		土師器	高杯	—	—	—	灰白色 (7. 5YR8/2)	細砂	
4990		土師器	高杯	—	(11.4)	—	灰白色 (10YR8/1)	細砂	黒斑C
4991	竪穴住居174	須恵器	高杯	13.6	—	—	黄灰色 (2. 5Y6/1)	細砂	
4992		須恵器	把手付桶	6.5	3.6	7.2	青灰色 (5B5/1)	細砂	
4993		土師器	小型壺	8.0	—	—	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂	
4994		土師器	直口壺	7.8	—	10.4	鈍橙色 (5YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形 ススB
4995		土師器	小型壺	10.6	—	—	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	

角田調査区土器観察表

棟号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
4996	竪穴住居174	土師器	小型壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
4997		土師器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
4998		土師器	小型壺	10.3	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
4999		土師器	小型壺	8.2	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
5000		土師器	甕	13.7	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
5001		土師器	甕	14.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	肩部刺突文B 3 肩部指頭圧痕残
5002		土師器	甕	17.2	—	—	鈍橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
5003		土師器	甕	13.0	—	21.8	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	黒斑B C
5004		土師器	高杯	18.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5005		土師器	高杯	15.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
5006		土師器	高杯	15.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
5007		土師器	高杯	15.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
5008		土師器	高杯	17.1	12.0	15.6	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
5009		土師器	高杯	17.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、礫	
5010		土師器	高杯	18.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5011		土師器	高杯	16.2	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
5012		土師器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	
5013		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚部透し孔3個
5014		土師器	高杯	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	脚部透し孔3個
5015		土師器	高杯	—	11.1	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
5016		土師器	高杯	—	11.4	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	
5017		土師器	高杯	—	16.0	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5018		土師器	高杯	—	12.6	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5019		土師器	小型壺	8.6	—	9.2	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
5020		土師器	小型壺	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
5021		土師器	小型壺	7.5	—	9.1	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
5022		土師器	小型甕	9.5	—	11.2	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	胴部穿孔1個 ほぼ完形
5023		土師器	小型壺	6.3	—	7.9	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
5024		土師器	小型壺	7.6	—	8.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススA
5025		土師器	小型壺	7.8	—	8.7	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑A B ?
5026	土師器	小型壺	10.3	—	10.9	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂、礫		
5027	土師器	小型甕	8.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂		
5028	土師器	鉢	11.4	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂		
5029	土師器	小型壺	—	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂		
5030	土師器	鉢	3.4	—	2.1	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
5031	土師器	鉢	11.8	—	4.2	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
5032	土師器	小型壺	9.4	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂		
5033	竪穴住居175	須恵器	高杯	(14.5)	—	—	灰白色(10Y7/1)	細砂、粗砂	内面仕上げナデ
5034		須恵器	甕	36.0	—	—	灰白色(N8)	細砂、粗砂、礫	
5035		土師器	甕	12.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	外面ハケメ後ミガキ?
5036		土師器	甕	13.8	—	14.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
5037	竪穴住居176	土師器	甕	13.2	—	25.8	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
5038		土師器	高杯	22.8	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂	
5039		土師器	高杯	14.6	9.5	11.7	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、粗砂	脚部透し孔3個確認 全体被熱
5040		土師器	高杯	16.9	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	全体被熱
5041	土師器	高杯	16.9	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂		
5042	竪穴住居177	須恵器	杯蓋	(14.0)	—	—	灰色(N5/)	細砂、粗砂	ロクロの回転は右
5043		須恵器	杯蓋	14.2	—	—	灰色(N8/)	細砂、粗砂	ロクロの回転は右
5044		須恵器	杯身	11.3	—	—	灰色(N5/)	細砂	
5045		製塩土器	—	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	面タタキ
5046	竪穴住居178	土師器	甕	14.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	精良、礫	
5047		土師器	甕	14.0	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、礫	
5048		土師器	長胴甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	粗砂	格子タタキ(外面) スス
5049		土師器	高杯	15.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、礫	
5050		土師器	高杯	14.4	—	—	橙色(5YR7/8)	細砂	ヘソ突起
5051	竪穴住居179	須恵器	杯蓋	13.6	—	—	灰白色(N7/)	細砂	厚みがある印象
5052		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N4/)	細砂	同心円タタキと平行タタキ 外面磨蝕

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
5053	竪穴住居179	須恵器	壺	-	-	-	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂	同心円タタキと平行タタキ 外面磨滅	
5054		土師器	壺	13.0	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、礫		
5055		土師器	甕	12.6	-	-	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂		
5056		土師器	甕	15.2	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、礫	ススA	
5057		土師器	甕	17.4	-	31.2	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	黒斑B	
5058		土師器	鉢	12.4	-	9.5	灰白色(5YR8/2)	細砂、礫	全体被熱	
5059		土師器	鉢	13.2	-	-	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂、礫		
5060		土師器	杯	11.4	-	5.0	灰白色(5Y7/1)	細砂、礫	ほぼ完形	
5061		土師器	甌	-	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂		
5062		土師器	手捏ね鉢	5.8	-	4.2	明赤褐色(5YR5/8)	粗砂、礫		
5063		土師器	?	-	5.8?	-	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
5064		土師器	高杯	22.0	-	-	橙色(5YR6/8)	細砂	全体被熱?	
5065		土師器	高杯	14.0	-	-	赤褐色(10R5/4)	細砂	内外面全体被熱	
5066		土師器	高杯	14.6	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂、礫		
5067		土師器	高杯	15.0	-	-	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	接合痕	
5068		土師器	高杯	14.0	-	-	橙色(5YR7/8)	細砂、礫	脚部接合部穿孔	
5069		土師器	高杯	14.4	11.2	13.4	橙色(5YR7/8)	細砂	ほぼ完形	
5070		土師器	高杯	13.5	-	-	鈍橙色(2.5YR6/4)	精良	脚の接合面放射状の刻み 全体被熱	
5071		土師器	高杯	13.0	-	-	赤橙色(10R6/8)	精良	脚部透し孔3個 全体被熱	
5072		土師器	高杯	14.0	-	-	橙色(2.5YR7/6)	精良、礫	全体被熱	
5073		土師器	高杯	-	5.4	-	黄橙色(7.5YR8/8)	細砂	透し孔3個	
5074		土師器	高杯	-	9.8	-	橙色(5YR7/6)	精良	脚の内側シボリメ	
5075		土師器	高杯	-	10.0	-	橙色(5YR7/6)	精良	脚の内側シボリメ ハケメ	
5076		土師器	高杯	-	10.0	-	橙色(5YR7/6)	細砂、礫		
5077		竪穴住居180	土師器	甕	12.4	-	17.4	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	体部内面ナデアゲ 黒斑B・B
5078			土師器	高杯	14.9	9.9	-	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	黒斑A・C
5079			土師器	高杯	-	(10.4)	-	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂、礫	
5080	土師器		高杯	-	11.6	-	浅黄橙色(10YR8/3)～ 橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	透し孔	
5081	土師器	高杯?	-	10.7	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂			
5082	竪穴住居181	須恵器	甕?	-	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂		
5083		土師器	甕	-	-	-	赤褐色(10R6/8)	細砂		
5084	竪穴住居182	須恵器	杯身	12.2	-	-	灰白色(N7/)	細砂	ロクロの回転右	
5085		須恵器	壺	-	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂		
5086		土師器	甕	(19.9)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
5087	竪穴住居183	土師器	甕	15.6	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
5088		土師器	高杯	(19.3)	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
5089		土師器	高杯	-	13.2	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	脚部透し孔4個	
5090	竪穴住居184	須恵器	壺?	-	-	-	灰色(N5/)	精良		
5091		須恵器	壺?	-	-	-	灰白色(2.5Y8/1)	細砂		
5092		須恵器	甕	-	-	-	灰色(7.5Y5/1)	細砂	傾き不詳	
5093		土師器	甕	16.5	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
5094		土師器	壺	9.3	-	12.3	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	完形	
5095		土師器	小型壺	6.5	-	7.8	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	全体に歪み	
5096		土師器	高杯	-	-	-	鈍橙色(2.5YR6/3)	細砂		
5097		土師器	甕	11.0	-	12.9	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススB'	
5098		土師器	甕	11.8	-	19.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
5099		土師器	小型壺	10.5	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
5100		土師器	甕	(12.0)	-	-	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂		
5101		土師器	甕	13.0	-	-	赤褐色(10R6/6)	細砂、礫		
5102		土師器	壺	15.4	-	-	淡黄色(2.5Y8/4)	細砂、礫		
5103		土師器	甕	13.4	-	-	橙色(2.5YR7/8)	細砂、礫		
5104	土師器	甕	19.8	-	-	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂			
5105	土師器	甕	19.7	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂			
5106	土師器	甕	13.6	-	-	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂、粗砂			
5107	土師器	甕	15.4	-	-	赤褐色(10R6/6)	細砂、礫			
5108	土師器	壺	14.4	-	-	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂	黒斑B		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5109	整穴住居184	土師器	甕	(18.4)	—	—	橙色(7.5YR7/6)	精良、細砂、粗砂	
5110		土師器	甕	(21.5)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5111		土師器	鉢	13.5	—	8.2	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・黒斑AB
5112		土師器	手捏ね鉢	6.4	4.4	4.2	灰白色(10YR7/1)	細砂	黒斑ABC
5113		土師器	碗	9.2	8.0	3.5	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂、礫	
5114		土師器	手捏ね鉢	5.5	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
5115		土師器	手捏ね壺	6.6	—	6.8	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	完形
5116		土師器	碗	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
5117		土師器	鉢	10.4	—	6.5	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂	完形 黒斑B
5118		土師器	鉢	11.4	—	—	淡黄色(2.5YR8/3)	細砂	ほぼ完形 黒斑B
5119		土師器	鉢	9.6	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、礫	黒斑B
5120		土師器	鉢	11.8	—	8.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形
5121		土師器	鉢?	9.0	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	平底鉢類似 内傾接合
5122		土師器	高杯	14.4	10.0	13.7	橙色(5YR7/8)	細砂、礫	脚の内側がヘラケズリ
5123		土師器	高杯	15.8	11.5	15.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	脚部透し孔3個確認
5124		土師器	高杯	15.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	脚柱部透し孔1個のみ
5125		土師器	高杯	—	(11.0)	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	脚部透し孔3個確認
5126		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	脚部透し孔3個確認
5127		土師器	高杯	14.0	9.0	10.0	赤色(10R5/8)	細砂、礫	脚の内側ヘラケズリ
5128		土師器	高杯	14.0	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	
5129		土師器	高杯	14.8	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
5130		土師器	高杯	15.6	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
5131		土師器	高杯	18.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚柱部透し孔1個残 黒斑AB
5132		土師器	碗	(13.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	口縁歪み
5133		土師器	高杯	13.7	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	黒斑A
5134		土師器	高杯	21.1	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
5135		土師器	高杯	13.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
5136		土師器	高杯	—	10.0	—	橙色(2.5YR7/0)	細砂	脚の内側ヘラケズリ 透し孔1個
5137		土師器	高杯	—	10.2	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂	脚の内側ヘラケズリ 透し孔1個
5138		土師器	高杯	—	13.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	脚部透し孔3個
5139		土師器	高杯	—	11.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
5140		土師器	高杯	—	11.6	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
5141		土師器	高杯	—	11.5	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5142		土師器	高杯	—	10.8	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	脚部透し孔1個残
5143		土師器	高杯?	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5144		土師器	甌	(28.2)	—	—	浅黄色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑A?
5145		土師器	甌	—	—	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂	
5146		土師器	甌	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5147		須恵器	壺	20.0	—	24.4	灰色(7.5Y4/1)~ 灰~黒色(3/1)	粗砂、礫	
5148		土師器	壺	(12.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
5149		土師器	壺	(12.0)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
5150		土師器	甕	(12.2)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)~ 橙色(6/6)	細砂、礫	
5151	土師器	甕	(17.6)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
5152	土師器	甕	(14.7)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2~ 7/3)	粗砂、礫		
5153	土師器	甕	(17.4)	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂、礫		
5154	土師器	甕	(10.5)	—	12.5	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑C'	
5155	土師器	高杯	(14.1)	—	—	灰色(5Y6/1) 鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂、礫		
5156	土師器	高杯	(14.8)	—	—	赤色(10R5/6)	細砂		
5157	土師器	高杯	14.3	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂		
5158	土師器	高杯	(16.8)	(11.5)	14.4	橙色(5YR6/8)	細砂		
5159	土師器	高杯	(11.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	粗砂、礫		
5160	土師器	高杯	(13.6)	—	—	橙色(5YR7/8)	粗砂、礫	黒斑A・B	
5161	土師器	高杯	14.8	—	—	橙色(7.5YR7/4)~ 橙色(5YR6/6)	粗砂、礫		
5162	土師器	高杯	13.3	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	精製粘土	



角田調査区土器観察表

補図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5163	竪穴住居184	土師器	高杯	(14.1)	—	—	明黄褐色(10YR7/6)	細砂	
5164		土師器	高杯	—	10.6	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
5165		土師器	椀	(9.5)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5166		土師器	椀	11.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	
5167		須恵器	杯身	13.1	10.0	4.3	灰白色(N7/)	細砂	焼成やや軟質
5168		土師器	杯	8.6	5.7	4.3	鈍黄褐色(10YR7/2)	粗砂、細砂	ススA? 黒斑A・B・C
5169		土師器	鉢	5.8	—	5.6	灰白色(2.5YR8/1~8/2)	粗砂	ほぼ完形 黒斑B・C
5170		土師器	甌	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
5171	竪穴住居185	須恵器	甕?	—	—	—	灰白色(N7/)	細砂	体部沈線 細蒨文
5172		土師器	甌?	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	
5173		土師器	甕	19.2	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
5174		土師器	甕	13.4	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
5175		土師器	甕	14.4	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
5176		土師器	壺	11.2	—	15.8	橙色(7.5YR7/6)	細砂	須恵器的な土師器 ほぼ完形
5177		土師器	甌	16.2	—	28.0	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	底部穿孔10個 ほぼ完形
5178		土師器	甌	22.1	—	22.5	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	底部穿孔 黒斑B・B
5179		土師器	甕	12.7	—	18.1	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	
5180		土師器	高杯	20.5	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	底部脚部貼付痕 ロクロの回転右 須恵器の技法で作られた土師器
5181		須恵器	高杯	16.4	10.0	12.9	灰色(N6/)	細砂	土師器の形態・技法で作られた須恵器
5182	土師器	高杯	—	11.2	—	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂		
5183	竪穴住居186	須恵器	壺?	7.7	—	—	灰色(N6/)	細砂	内面自然釉
5184	竪穴住居187	須恵器	杯身	12.4	—	—	灰色(N6/)	細砂	
5185		須恵器	壺?	—	—	—	灰色(N4/)	細砂、粗砂	表面自然釉3本 傾き不詳
5186		土師器	甕	(19.8)	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
5187		土師器	甕	23.9	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	胎土金雲母が目立つ
5188		土師器	甕	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	スス
5189	竪穴住居188	須恵器	杯蓋	13.4	—	—	灰色(N6/)	細砂、礫	ロクロの回転右?
5190		須恵器	壺	(23.5)	—	—	灰白色(10Y7/1)	細砂	外面自然釉 口頸部外面1条の鈍い突帯
5191		土師器	壺	—	—	—	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	ススB
5192		土師器	甕?	11.0	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
5193		土師器	甕	14.2	—	22.4	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A
5194		土師器	甕	(14.9)	—	30.8	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	
5195		土師器	甕	19.1	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
5196		土師器	甌	20.2	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	口縁~胴部楕円形 ススA
5197		土師器	高杯	16.8	10.3	12.0	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑A・C
5198		土師器	高杯	16.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
5199		土師器	高杯	14.9	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	内面暗文?
5200	土師器	高杯	14.6	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	外面丹塗り痕?	
5201	竪穴住居189	須恵器	杯蓋	(14.5)	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	焼成不良
5202		須恵器	杯蓋	12.7	—	3.8	灰色(6/)	細砂、粗砂	全体歪み著しい
5203		須恵器	杯蓋	(12.6)	—	—	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	
5204		須恵器	壺?	10.2	—	—	灰色(N5/)	細砂	
5205		土師器	手捏ね鉢	(4.7)	—	3.7	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂、礫	
5206	竪穴住居190	土師器	壺	11.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
5207		土師器	甕	12.6	—	17.8	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂、礫	
5208		土師器	甕	14.4	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	
5209		土師器	甕	15.7	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ススB?
5210		土師器	甕	13.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
5211		土師器	甕	(13.5)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
5212		土師器	高杯	15.4	12.1	12.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	黒斑C
5213		土師器	高杯	16.9	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	胎土砂粒多い
5214		土師器	高杯	14.1	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	
5215		土師器	高杯	19.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5216		土師器	高杯	15.0	—	—	明赤褐色(2.5YR5/3)	細砂、粗砂、礫	胎土砂粒多い
5217	土師器	高杯	14.7	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂、礫	胎土砂粒多い	
5218	土師器	高杯	14.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		

角田調査区土器観察表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5219	竪穴住居190	土師器	高杯	—	11.1	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	脚部透し孔3個 胎土砂粒多い
5220		土師器	高杯	—	11.2	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	脚柱部透し孔3個
5221		土師器	高杯	—	(12.6)	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	
5222		土師器	高杯	—	11.4	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	
5223		土師器	高杯	—	11.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
5224		土師器	高杯	—	10.0	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
5225		土師器	高杯	—	12.0	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
5226		土師器	鉢	10.9	—	9.1	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	ほぼ完形
5227		土師器	平底鉢	(14.1)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	タタキ成形(外面格子目タタキ)
5228		土師器	杯	15.8	10.9	5.0	橙色(5YR7/6)	細砂	
5229		製塩土器	—	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	外面平行タタキ
5230		土師器	甌	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5231	竪穴住居191	須恵器	杯蓋	14.2	—	—	灰白色(N7/)	精良	体部歪み著しい 口縁端部特徴的 天井部変形
5232		須恵器	杯蓋	12.9	—	—	灰色(N6/)	細砂	
5233		須恵器	杯身	10.2	—	—	灰色(N6/)	細砂	
5234		須恵器	杯身	10.2	—	5.0	灰色(N6/)	細砂、粗砂	ロクロの回転左
5235		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N5/)	細砂、粗砂	肩部?自然釉
5236		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N6/)	細砂	タタキ成形 内面同心円文
5237		土師器	甕	11.1	—	14.3	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	口縁部歪み著しい
5238		土師器	甕	20.1	—	30.9	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂、粗砂	黒斑B
5239		土師器	高杯	21.0	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	杯部内面暗文 脚柱部透し孔1個残
5240		土師器	高杯	16.3	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
5241		土師器	高杯	—	11.4	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂	
5242		土師器	高杯	—	12.2	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
5243		土師器	高杯	—	9.8	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5244		土師器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
5245		土師器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
5246		土師器?	平底鉢	12.0	7.0	10.8	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑C
5247		須恵器	長胴甕	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂、粗砂	外面格子目タタキ 5248と同一個体 傾き不詳
5248		須恵器	長胴甕	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/4)	細砂、粗砂	外面格子目タタキ 傾き不詳
5249		土師器	碗	9.2	6.7	4.2	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5250		土師器	手捏ね鉢	6.0	—	4.1	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	
5251		製塩土器	—	—	—	—	褐灰色(10YR4/1)	細砂	外面タタキ
5252		土師器	甌	(22.6)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁部歪み
5253		須恵器	杯蓋	(12.8)	—	—	灰色(N6/)	細砂	自然釉 天井部静止ケズリ
5254		須恵器	杯蓋	(13.0)	—	—	灰色(N5/)	細砂	
5255	須恵器	杯身	12.0	—	—	灰色(N6/)	細砂、礫	ロクロの回転左 焼き歪み?	
5256	須恵器	杯身	10.3	—	—	灰色(N6/)	細砂		
5257	須恵器	杯身	(10.4)	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂	ロクロの回転左 ケズリは右方向	
5258	須恵器	杯身	9.5	—	—	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	ロクロの回転左	
5259	須恵器	杯身	11.1	—	—	青灰色(5PB6/1)	細砂、粗砂	ロクロの回転左	
5260	須恵器	杯身	10.6	—	—	灰色(N6/)	細砂	底体部外面火樺	
5261	須恵器	杯身	12.4	—	—	灰白色(N7/)	細砂		
5262	須恵器	杯蓋	(12.7)	—	5.2	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	つまみ径3.15cm	
5263	須恵器	高杯	10.0	—	—	灰白色(N7/)	細砂	脚部に透し孔4か所 ロクロの回転右	
5264	須恵器	高杯	—	—	—	灰色(N5/)	細砂、粗砂	胴部波状文6本を1条とする線1条 沈線2条	
5265	須恵器	高杯	—	11.7	—	灰白色(5Y7/1)	精良	杯部波状文 脚部透し孔4個	
5266	須恵器	高杯	—	9.2	—	灰白色(N7/)	細砂	脚部透し孔3方向?	
5267	須恵器	高杯	—	11.2	—	灰白色(N7/)	細砂	脚部透し孔4か所	
5268	須恵器	甕?	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	胴部?波状文	
5269	須恵器	壺?	—	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂		
5270	須恵器	壺?	—	—	—	灰色(N6/)	細砂		
5271	土師器	甕	12.8	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂		
5272	土師器	甕	14.8	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
5273	土師器	甕	16.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
5274	竪穴住居190・191	土師器	高杯	(17.2)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
5275		土師器	高杯	—	9.9	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔3個残	
5276		土師器	高杯	—	11.5	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂、粗砂		
5277		土師器	高杯	—	(10.3)	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、礫	透し孔1個残 黒斑C	
5278		土師器	高杯	—	10.4	—	橙色(5YR7/6)	細砂	脚部透し孔2個確認	
5279		土師器	碗	12.9	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
5280		土師器	甌	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂		
5281		土師器	手捏ね鉢	5.0	—	4.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
5282		土師器	手捏ね鉢	4.0	—	4.5	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑C	
5283		竪穴住居192	土師器	高杯	16.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	
5284	竪穴住居193	土師器	甌	(14.6)	—	—	鈍赤褐色(5YR4/4)	細砂、粗砂、礫		
5285		土師器	甌	14.6	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫		
5286		土師器	高杯	(18.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂		
5287		土師器	高杯	(17.1)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂、粗砂		
5288		土師器	高杯	17.2	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		
5289		土師器	高杯	—	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、粗砂、礫		
5290		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
5291		土師器	鉢?	12.0	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
5292		土壇425	土師器	小型丸底壺	11.2	—	15.3	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	完形 黒斑B~C
5293			土師器	小型丸底壺	12.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	礫	
5294	土師器		小型丸底壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	粗砂	黒斑B~C	
5295	土師器		小型丸底壺	11.0	—	9.4	橙色(7.5YR7/6)	細砂		
5296	土師器		小型丸底壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	礫		
5297	土師器		小型丸底壺	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
5298	土師器		高杯	18.2	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
5299	土師器		甌	12.3	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂		
5300	土壇426	土師器	甌	14.4	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂		
5301		土師器	甌	—	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂	黒斑A・B・C	
5302	土壇430	須恵器	高杯	10.0	—	—	灰色(5Y5/1)	粗砂	透し孔数不明	
5303		須恵器	高杯	—	9.5	—	灰色(5Y5/1)	粗砂	透し孔2個残 自然釉	
5304	土壇431	土師器	壺	19.3	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂	内面スス	
5305		土師器	甌	10.4	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂		
5306		土師器	甌	11.9	—	—	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
5307	土壇435	土師器	甌	—	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
5308	溝39	土師器	鉢	—	—	—	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂		
5309		土師器	甌	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	把手	
5310	溝40	須恵器	杯蓋	—	12.6	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	内面同心円当具 砂粒左方向	
5311		須恵器	杯身	10.7	—	—	褐灰色(10YR6/1)	細砂	砂粒右方向	
5312		土師器	甌	17.0	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂		
5313		土師器	甌	(25.0)	—	—	淡褐色(5YR8/4)	細砂	ススB	
5314		土師器	甌	20.8	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
5315	溝42	須恵器	杯身	13.0	—	—	灰白色(7.5Y7/1)	細砂		
5316	河道7下層	土師器	壺	16.9	—	—	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂		
5317		土師器	壺	(21.5)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂		
5318		土師器	壺	(17.0)	—	—	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂		
5319		土師器	壺	19.2	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂		
5320		土師器	壺	(18.0)	—	—	鈍黄褐色(10YR6/4)	細砂		
5321		土師器	壺	14.0	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	黒斑A・B	
5322		土師器	壺	16.7	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	細砂、粗砂		
5323		土師器	壺	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫		
5324		土師器	壺	6.8	—	9.2	橙色(2.5YR6/6)	細砂	完形	
5325		土師器	甌?	10.8	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂		
5326		土師器	壺	8.1	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・B・C	
5327		土師器	壺	8.8	—	8.7	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	ススB	
5328		土師器	壺	7.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
5329	土師器	壺	(6.3)	—	(7.7)	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑B・C		
5330	土師器	壺	7.1	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂			

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5331	河道7下層	土師器	壺	12.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
5332		土師器	壺	11.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
5333		土師器	壺	13.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
5334		土師器	壺	11.1	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	黒斑B?
5335		土師器	壺	(16.7)	—	—	赤橙色(10R6/6)	細砂	
5336		土師器	壺	(13.4)	—	24.5	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂	黒斑A・B・C
5337		土師器	壺	11.0	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
5338		土師器	壺	12.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂	
5339		土師器	壺	12.6	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂、粗砂	
5340		土師器	壺	12.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	スス
5341		土師器	壺	12.8	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
5342		土師器	壺	13.4	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂、粗砂	
5343		土師器	壺	14.0	—	—	灰褐色(5YR5/2)	細砂、粗砂、礫	
5344		土師器	壺	15.0	—	—	灰褐色(5YR5/2)	細砂	
5345		土師器	壺	15.9	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5346		土師器	壺	16.9	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
5347		土師器	壺	13.8	—	—	褐灰色(10YR6/1)~ 灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	
5348		土師器	壺	15.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫	ススA
5349		土師器	壺	14.6	—	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑B?
5350		土師器	壺	(16.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
5351		土師器	壺	18.1	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂	
5352		土師器	壺	19.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂、粗砂、礫	
5353		土師器	壺	18.2	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5354		土師器	壺	17.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂、礫	ススB'
5355		土師器	壺	15.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	ススB'
5356		土師器	壺	21.0	—	—	灰白色(10YR8/2)	粗砂	胴部外面平行タキ後カキメ 須恵器の 成形調整
5357		土師器	壺	13.3	—	21.7	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂	
5358		土師器	壺	13.6	—	21.5	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑
5359		土師器	壺	15.2	—	25.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑A
5360		土師器	壺	13.4	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	ススB
5361		土師器	壺	15.2	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	黒斑B
5362		土師器	壺	7.3	—	8.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	完形 黒斑A
5363		土師器	壺	8.4	—	7.9	橙色(5YR7/6)	細砂	完形
5364		土師器	壺	11.8	—	—	褐色(7.5YR4/3)	細砂、粗砂	
5365		土師器	壺?	9.5	—	14.0	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 黒斑BC
5366		土師器	壺	10.4	—	14.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	
5367		土師器	壺	13.8	—	—	黄橙色(10YR8/6)	粗砂、礫	径が不確か ススB
5368		土師器	壺?	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	外面線刻 上下傾き不詳
5369		土師器	壺?	—	—	—	褐色(7.5YR4/3)	細砂	外面線刻 上下傾き不詳
5370		土師器	高杯	12.2	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
5371		土師器	高杯	15.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
5372		土師器	高杯	17.0	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂、粗砂	
5373		土師器	高杯	16.6	13.4	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
5374		土師器	高杯	16.0	—	—	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
5375		土師器	高杯	16.4	11.8	(13.8)	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
5376		土師器	高杯	18.1	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	脚部透し孔2方向確認
5377		土師器	高杯	19.5	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂	
5378		土師器	高杯	16.4	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
5379		土師器	高杯	19.0	12.6	14.7	浅黄橙色(10YR8/4)~ 橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	
5380		土師器	高杯	23.0	14.9	15.8	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
5381		土師器	高杯	20.6	—	—	鈍褐色(7.5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	
5382		土師器	高杯	20.1	—	—	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂、粗砂	
5383		土師器	高杯	15.8	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	
5384	土師器	高杯	17.4	12.0	12.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形	
5385	土師器	高杯	15.1	—	—	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	胎土砂粒多い	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
5386	河道7下層	土師器	高杯	15.7	11.0	12.7	橙色(2.5YR6/8)	細砂、粗砂、礫	脚部透し孔3方向確認 黒斑A	
5387		土師器	高杯	13.9	9.4	12.3	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂		
5388		土師器	高杯	15.1	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫		
5389		土師器	高杯	16.0	-	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
5390		土師器	高杯	15.2	10.1	13.6	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	黒斑A	
5391		土師器	高杯	-	-	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑	
5392		土師器	高杯	-	11.8	-	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂		
5393		土師器	高杯	-	12.5	-	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
5394		土師器	高杯	-	12.6	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
5395		土師器	高杯	-	10.3	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂		
5396		土師器	高杯	-	9.6	-	灰白色(10YR7/1)	細砂、粗砂		
5397		土師器	高杯	-	10.5	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫		
5398		土師器	高杯	-	11.2	-	灰褐色(5YR6/2)	細砂、粗砂	黒斑	
5399		土師器	高杯	-	11.2	-	灰白色(10YR8/2)	細砂		
5400		土師器	高杯	-	11.3	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
5401		土師器	高杯	-	(12.7)	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
5402		土師器	高杯	-	12.4	-	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂、粗砂、礫		
5403		土師器	高杯	-	11.3	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂、礫		
5404		土師器	高杯	-	11.9	-	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ススC	
5405		土師器	高杯	-	11.8	-	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	外面ナデ仕上げ	
5406		土師器	高杯	-	10.0	-	褐灰色(10YR5/1)	細砂、粗砂		
5407		土師器	高杯	-	(12.5)	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂		
5408		土師器	高杯	-	10.6	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	透し孔3個	
5409		土師器	高杯	-	10.6	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	透し孔3個	
5410		土師器	高杯	-	12.1	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂	脚柱部透し孔3方向確認	
5411		土師器	高杯	-	8.6	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	透し孔3個	
5412		土師器	高杯	10.8	7.5	8.7	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	全体著しく歪んでいる	
5413		土師器	高杯	17.0	12.9	13.8	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	ロクロ成形? 須恵器の作り ほぼ完形	
5414		土師器	鉢	10.6	-	-	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	黒色磨研風	
5415		土師器	鉢?	(15.8)	-	-	褐灰色(7.5YR4/1)	細砂、粗砂		
5416		土師器	鉢?	11.9	-	10.0	赤色(10R5/6)	細砂、粗砂、礫	口径歪み 外面全体被熟 黒斑AB	
5417		土師器	手捏ね碗	7.7	-	6.6	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
5418		土師器	手捏ね鉢	6.8	-	6.0	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂		
5419		土師器	手捏ね鉢	7.7	-	3.9	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		
5420		土師器	手捏ね鉢	(5.0)	-	3.8	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	口縁部著しく歪む ほぼ完形	
5421		土師器	手捏ね鉢	4.2	-	3.5	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂		
5422		河道7中層	土師器	柑	8.1	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5423			土師器	柑	6.8	-	10.5	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、礫	
5424			土師器	柑	8.3	-	8.5	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ほぼ完形
5425			土師器	柑	9.0	-	8.8	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	内面ユビナデ ほぼ完形
5426			土師器	壺	10.7	-	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ススA'
5427			土師器	甕	12.7	-	-	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑A
5428			土師器	甕	15.2	-	-	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	ススA
5429			土師器	甕	14.1	-	-	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	
5430			土師器	甕	(15.0)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	
5431			土師器	甕	16.0	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
5432			土師器	高杯	-	(10.5)	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
5433			土師器	高杯	24.4	13.7	16.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	
5434	土師器		高杯	20.8	13.1	16.5	橙色(7.5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔3個残	
5435	土師器		高杯	-	12.2	-	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	透し孔3個残	
5436	土師器		高杯	18.2	-	-	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑B	
5437	土師器		台付鉢	12.0	5.2	9.2	淡橙色(5YR8/3)	細砂	内面ハケ状工具ナデ	
5438	河道7上層	須恵器	壺	-	-	-	灰色(N4)	細砂	波状文 組紐文	
5439		須恵器	甕	-	-	-	灰色(N6/)	微砂	表面タタキメ	
5440		土師器	壺	16.4	-	34.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑B・BC	
5441		土師器	甕	(16.0)	-	(35.0)	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	ススB	
5442	土師器	壺	15.0	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂			

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載道構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5443	河道7上層	土師器	壺	16.2	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	ススB 黒斑A・B
5444		土師器	壺	8.5	—	8.4	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	内面ユビナデ ほぼ完形
5445		土師器	壺	8.6	—	10.2	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・B
5446		土師器	壺	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	穿孔(人為的かは不詳) 胎土砂粒多い
5447		土師器	壺	8.0	—	9.7	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	完形 黒斑A・B・B
5448		土師器	壺	8.5	—	10.5	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	完形 ススA'
5449		土師器	壺	(9.3)	—	11.4	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
5450		土師器	壺	7.0	4.9	7.3	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	底部穿孔1個(焼成後外側から) 胎土砂粒多い ほぼ完形 黒斑B
5451		土師器	台付壺	11.2	9.1	12.6	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5452		土師器	甗	(10.2)	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5453		土師器	埴	10.4	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂	
5454		土師器	壺	9.2	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	内面ユビナデ ススA
5455		土師器	甗	12.6	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	黒斑C
5456		土師器	甗	15.2	—	—	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂	焼成やや不良
5457		土師器	甗	14.6	—	—	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	ススA
5458		土師器	甗	13.1	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ススB
5459		土師器	甗	13.8	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	
5460		土師器	甗	14.2	—	22.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	胴部焼成後穿孔1個残 ススB
5461		土師器	甗	(16.8)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ススB
5462		土師器	甗	15.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	黒斑A・B
5463		土師器	甗	14.5	—	24.5	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
5464		土師器	甗	11.1	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
5465		土師器	甗	12.6	—	19.2	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 ススB
5466		土師器	甗	16.5	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂、礫	黒斑B
5467		土師器	甗	13.4	—	—	淡赤橙色(2.5YR7/3)	細砂	外面赤色顔料 黒斑B
5468		土師器	甗	14.8	—	23.7	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	底部穿孔1個残 ススA
5469		土師器	甗	14.7	—	24.4	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	ほぼ完形
5470		土師器	甗	15.8	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススB
5471		土師器	高杯	15.6	—	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	脚部透し孔3個
5472		土師器	高杯	(15.1)	10.3	12.0	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
5473		土師器	高杯	18.1	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔2個残
5474		土師器	高杯	16.8	11.3	13.5	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	透し孔3個残
5475		土師器	高杯	(19.5)	13.0	(16.1)	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
5476		土師器	高杯	23.6	13.6	16.3	鈍橙色(5YR7/3)	細砂、粗砂	脚部透し孔3個 口縁端部と脚端部は水平でない 焼き歪み?
5477		土師器	高杯	18.5	—	—	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	
5478		土師器	高杯	19.2	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂	
5479		土師器	高杯	20.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
5480		土師器	高杯	—	10.4	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	黒斑C
5481		土師器	高杯	—	10.4	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
5482		土師器	高杯	—	11.3	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5483		土師器	高杯	—	11.1	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	ススC?
5484		土師器	高杯	—	(11.4)	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑C
5485		土師器	高杯	—	10.5	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	透し孔3方向3個残
5486		土師器	高杯	16.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
5487		土師器	高杯	15.1	8.8	9.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	黒斑A
5488		土師器	高杯	13.5	11.0	(10.4)	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	
5489		土師器	台付鉢	14.7	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
5490		土師器	高杯	—	10.2	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	
5491		土師器	高杯	—	10.0	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
5492	土師器	高杯	—	8.8	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂		
5493	土師器	鉢	13.3	—	6.6	淡橙色(5YR8/3)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 ススA	
5494	土師器	鉢	8.2	5.2	5.4	淡橙色(5YR8/4)	細砂、粗砂	焼成前穿孔	
5495	土師器	壺	19.0	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂、粗砂		
5496	河道7	土師器	壺	7.5	2.0	8.9	橙色(2.5YR6/6) 浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、礫、粗砂	ほぼ完形 黒斑B・C
5497		土師器	壺	11.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5498	河道 7	土師器	甕	11.8	—	16.6	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
5499		土師器	壺	8.7	5.0	11.2	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、礫、粗砂	黒斑B
5500		土師器	甕	11.0	—	14.5	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
5501		土師器	甕	13.0	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	
5502		土師器	壺	10.4	5.5	13.2	灰白色(10YR8/2)	細砂、礫、粗砂	黒斑B・C
5503		土師器	甕	11.8	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂、粗砂	
5504		土師器	甕	14.6	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5505		土師器	甕	14.4	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
5506		土師器	甕	15.8	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
5507		土師器	甕	16.0	—	—	鈍黄褐色(10YR6/3)	細砂、粗砂	
5508		土師器	甕	(14.4)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5509		土師器	甕	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	外面格子目タタキ 上下不詳 スス
5510		土師器	高杯	15.1	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	微砂	
5511		土師器	高杯	(15.6)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	
5512		土師器	高杯	(16.5)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5513		土師器	高杯	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	
5514		土師器	高杯	16.3	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5515		土師器	高杯	(19.2)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
5516		土師器	高杯	(20.9)	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	粗砂	
5517		土師器	高杯	(11.9)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	
5518		土師器	高杯	13.4	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
5519		土師器	高杯	14.3	10.6	11.5	鈍褐色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	
5520		土師器	高杯	—	—	—	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂、粗砂	
5521		土師器	高杯	—	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	
5522		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
5523		土師器	高杯	—	(10.8)	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
5524		土師器	高杯	—	(10.8)	—	赤褐色(10YR6/6)	粗砂、礫	
5525		土師器	高杯	—	(11.4)	—	浅黄褐色(10YR8/3)	粗砂、礫	ススC
5526		土師器	杯	11.6	(7.1)	(3.2)	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
5527		土師器	碗	12.4	4.7	3.9	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	胎土砂粒多い
5528		土師器	杯	18.0	—	—	明赤褐色(5YR5/8)	細砂、粗砂	黒斑C
5529		土師器	鉢	6.3	—	—	鈍褐色(5YR6/4)	細砂、礫	黒斑ABC
5530	土師器	鉢	7.7	—	4.8	橙色(5YR7/6)	細砂、礫	黒斑A・B・C	
5531	土師器	鉢?	(8.0)	(5.2)	(2.8)	灰白色(10YR8/2)	粗砂	底面四角形?	
5532	柱穴75	土師器	小型丸底壺	8.8	—	9.8	赤灰色(2.5YR5/1)	細砂	ススA
5533	柱穴76	土師器	壺	7.5	—	8.8	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	黒斑ABC
5534	柱穴77	土師器	甕	15.6	—	—	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5535	柱穴78	土師器	壺	6.6	—	8.0	鈍褐色(2.5YR6/4)	細砂	黒斑C
5536	柱穴79	須恵器	壺	—	—	—	灰色(5/)	細砂	縄文
5537	柱穴80	土師器	壺	7.9	—	7.8	鈍褐色(5YR6/4)	細砂、粗砂	完形
5538	包含層	須恵器	壺	—	—	—	灰色(N6)	細砂、粗砂	底部ヘラ記号 波状文
5539		土師器	甕	16.5	—	24.2	褐色(5YR6/6)	細砂、粗砂	ススA 黒斑B
5540		土師器	鉢	11.7	—	7.2	褐色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	ほぼ完形 ススA
5541		土師器	甕	(27.0)	10.6	—	褐色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
5542		須恵器	杯	(11.8)	(5.2)	5.0	灰色(N6/)	粗砂、礫	
5543		須恵器	杯蓋	12.2	—	4.6	灰白色(5Y7/1)	細砂	砂粒方向右
5544		須恵器	杯	—	—	—	灰色(N5)	細砂、粗砂	
5545		須恵器	杯	(12.3)	—	4.5	青灰色(5BG5/1)	粗砂、礫	
5546		須恵器	杯	(11.6)	6.4	3.7	灰色(N7/~6/)	粗砂、礫	
5547		須恵器	杯蓋	(11.6)	—	4.0	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	
5548		須恵器	杯?	(12.4)	6.8	—	灰白色(N8)	細砂	
5549		須恵器	杯身	10.6	—	4.1	灰色(N6)	細砂	砂粒方向右
5550		須恵器	蓋	12.4	—	8.0	灰色(N4/)	細砂	沈線3条 刺突文4列 新羅系
5551		須恵器	杯蓋	—	—	—	灰色(N4/)	細砂	ヨコナデ
5552		須恵器	蓋	11.2	—	—	灰色(N6)	細砂	
5553		須恵器	蓋	8.2	—	—	チ-7' 灰色(10Y6/2)	細砂	
5554		須恵器	高杯	(14.9)	—	—	灰色(N7)	細砂	外面ケズリ

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5555	包含層	須恵器	高杯	(15.4)	—	—	灰色(N4/)	細砂	
5556		須恵器	高杯	—	8.1	—	灰色(6/)	細砂、粗砂	脚部透し孔推定3方向 脚部カキメ
5557		須恵器	壺鉢	(9.8)	—	—	青灰色(5B5/1)	粗砂	
5558		須恵器	把手付鉢	10.4	6.6	9.5	灰白色(10Y8/1)	細砂	
5559		須恵器	把手付鉢?	—	—	—	灰色(N4/)	精良	
5560		須恵器	碗	—	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂	把手
5561		須恵器	壺	(8.8)	—	—	灰色(7.5Y4/1)	細砂	
5562		須恵器	壺?	—	—	—	暗灰色(N3/)	細砂	
5563		須恵器	はそう?	(7.8)	—	—	灰色(10Y6/1)	粗砂	
5564		須恵器	壺	(16.0)	—	—	灰白色(N7)	細砂、粗砂、礫	
5565		須恵器	壺	(16.5)	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5566		須恵器	壺?	(22.2)	—	—	灰色(N5/)	細砂	
5567		須恵器	甕	(23.4)	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂	
5568		須恵器	甕	(28.2)	—	—	灰色(N4/)	細砂	口縁部内側自然釉
5569		須恵器	甕	23.0	—	—	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	
5570		須恵器	甕	—	—	—	灰色(N6/)	細砂、粗砂	外面タタキメ・自然釉 内面同心円当て具痕
5571		須恵器	器台	—	—	—	赤灰色(10R4/2)	細砂	組紐文 透し孔2個
5572		須恵器	器台	—	—	—	赤-ア 灰色	細砂	透し孔2個 組紐文
5573		土師器	小形壺	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	焼成後穿孔
5574		土師器	小型丸底壺	9.7	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	
5575		土師器	壺	(8.9)	4.2	(11.2)	淡黄色(2.5YR3)	細砂	ススB
5576		土師器	壺	(10.6)	3.5	14.2	灰白色(10YR8/1~8/2)	細砂	ススB'
5577		土師器	壺	10.3	—	9.8	灰白色(10YR8/2~8/3) 淡黄橙色	粗砂、礫	黒斑BC
5578		土師器	甕	(13.9)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂、礫	
5579		土師器	壺	9.9	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	外面ハケ状工具ナデ
5580		土師器	甕	11.2	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	粗砂、礫	
5581		土師器	甕	12.8	—	—	明褐色(5YR7/2)	細砂、粗砂	外面工具ナデ 黒斑B
5582		土師器	甕	11.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
5583		土師器	甕	14.6	—	—	灰白色(5YR8/2)	細砂、粗砂、礫	完形
5584		土師器	甕	13.6	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂	
5585		土師器	甕	(12.6)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	粗砂、礫	ススB?
5586		土師器	甕	16.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	口縁部ヨコナデによる凹部形成
5587		弥生土器	壺	(14.4)	—	—	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	
5588		土師器	壺	17.7	(9.5)	31.2	淡黄橙色(7.5YR8/6)	粗砂、礫	黒斑B
5589		土師器	甕	(18.7)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
5590		土師器	甕	15.2	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
5591		土師器	甕	15.6	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂、粗砂	肩部線刻 黒斑B
5592		土師器	甕	12.8	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
5593		土師器	甕	15.4	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	外面工具ナデ
5594		土師器	甕	16.4	—	26.8	鈍黄褐色	細砂、粗砂	黒斑C
5595		土師器	陶質土器壺	—	—	—	灰色(7.5Y4/1)	細砂	格子タタキ 圏線3条残
5596		軟質土器	甕	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	格子タタキ
5597		朝鮮系軟質土器	鉢	—	—	—	橙色(5YR6/6)	粗砂、礫	
5598		土師器	高杯	18.7	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂	
5599		土師器	高杯	20.9	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
5600		土師器	高杯	—	12.6	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	透し孔4個内3個残
5601		土師器	高杯	—	—	—	橙色(5YR7/6)	精良	
5602		土師器	高杯	17.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	
5603		土師器	高杯	13.9	9.6	10.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	
5604		土師器	高杯	(14.8)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂	
5605	土師器	高杯	15.0	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂		
5606	土師器	高杯	(16.1)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/3)	粗砂、礫		
5607	土師器	陶質土器壺	—	—	—	灰色(7.5Y4/1)	細砂	格子タタキ 圏線3条残	
5608	土師器	高杯	16.8	—	—	鈍黄褐色(10YR8/3)	細砂	黒斑A	
5609	土師器	高杯	(17.2)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	粗砂、礫		
5610	土師器	高杯	17.0	—	—	淡黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	外面ヘラオサエ後ナデ	



角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴	
				口径	底径	器高				
5611	包含層	弥生土器	高杯	(18.8)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
5612		土師器	高杯	(20.6)	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂		
5613		土師器	高杯	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂	不明	
5614		土師器	高杯	(14.1)	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂		
5615		土師器	高杯	13.5	—	—	浅黄橙色(10YR8/4)	粗砂、礫	黒斑A	
5616		土師器	高杯	18.5	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	内面へラミガキ?	
5617		土師器	高杯	15.7	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	杯部外面ケズリ後ナデ	
5618		土師器	高杯	13.8	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
5619		土師器	高杯	(13.8)	9.8	11.5	橙色(5YR7/6)	細砂	黒斑A・C	
5620		土師器	高杯	12.8	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	黒斑A	
5621		土師器	杯	—	—	—	灰色(2.5Y7/1)~ 灰黄色(7/2)	細砂		
5622		土師器	高杯	—	—	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂		
5623		土師器	高杯	—	12.0	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	粗砂	外面ナデ	
5624		土師器	高杯	—	8.6	—	橙色(5YR7/8)	細砂、粗砂	透し孔3個残	
5625		土師器	高杯	—	10.4	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂、礫	黒斑C	
5626		土師器	鉢	14.0	4.0	7.8	橙色(2.5YR7/6)	細砂	内面工具ナデ ほぼ完形	
5627		弥生土器	台付鉢	(12.0)	6.1	8.7	橙色(5YR7/6~6/6)	粗砂、礫		
5628		土師器	台付鉢	12.1	—	—	鈍橙色(5YR6/5)	細砂		
5629		土師器	台付鉢	11.7	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂、粗砂、礫		
5630		製塩土器	—	—	5.0	—	淡赤橙色(2.5YR7/4)	細砂		
5631		土師器	台付鉢	—	6.4	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂、礫		
5632		土師器	鉢	—	—	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫		
5633		土師器	鉢	22.8	—	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	黒斑AB	
5634		土師器	把手付鉢	—	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂、礫	赤色顔料	
5635		土師器	鉢	10.9	—	4.9	灰黄色(2.5Y7/2)	粗砂、礫		
5636		土師器	鉢	10.8	2.0	5.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	ほぼ完形 黒斑A	
5637		土師器	高杯?	(12.6)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		
5638		土師器	杯	10.9	8.1	3.6	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	口縁内部スス 完形	
5639		須恵器	鉢	7.8	6.8	5.6	青灰色(5B6/1)	細砂		
5640		土師器	手捏ね鉢	1.7	—	2.7	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		
5641		土師器	手捏ね鉢	2.4	—	3.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂	完形	
5642		弥生土器	小鉢	(3.5)	2.3	3.6	橙色(5YR7/6)	粗砂、礫	ほぼ完形	
5643		土師器	手捏ね鉢	4.3	2.6	3.4	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂		
5644		土師器	手捏ね鉢	4.4	2.4	4.7	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	黒斑AB	
5645		土師器	ミチア鉢	4.0	1.4	2.6	橙色(5YR6/6)	細砂	完形	
5646		土師器	小鉢	5.8	3.5	4.7	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂、礫	黒斑ABC	
5647		土師器	甌	18.6	5.7	20.4	橙色(5YR6/8)	細砂、粗砂		
5648		土師器	甌	(22.0)	—	—	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	体部底穿孔推定5個? 黒斑C スス	
5649		土師器	甌	21.8	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂、礫	底部穿孔2個残	
5650		土師器	甌	(20.6)	11.0	21.8	明黄褐色(10YR7/6) 橙色(5YR6/6)	粗砂	ススB	
5651		土師器	甌	(23.6)	—	22.3	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	体部底穿孔4個残推定12個? ススC	
5652		土師器	甌	23.8	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	体部底穿孔推定6個? 黒斑B スス	
5653		土師器	甌	31.0	—	28.1	橙色(5YR7/6)	細砂	外面ユビオサエ・ナデ 黒斑A~C	
5654		土師器	甌?	—	—	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂、粗砂	把手のみ	
5655		土師器	甌?	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	把手のみ 最大長5.5cm・最大幅3.2cm・最大厚3.3cm	
5656		土師器	甌?	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	把手のみ	
5657		土師器	甌?	—	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	把手のみ	
5658		土師器	甌?	—	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂、礫	把手のみ	
5659		土師器	甌?	—	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	細砂、粗砂	把手のみ 最大長6.9cm・最大幅3.6cm・最大厚3.8cm	
5660		土師器	甌?	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	把手のみ	
5661		土師器	甌?	—	—	—	浅黄褐色(10YR8/3)	細砂	最大長6.4cm・最大幅3.7cm・最大厚2.9cm	
5662		土師器	甌?	—	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	把手のみ	
5663		堀立柱建物55	土師器	碗	—	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
5664			土師器	碗	—	—	—	灰白色(10YR8/1)	粗砂	

角田調査区土器観察表

押図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5665	掘立柱建物55	土師器	皿	7.4	5.6	1.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5666	掘立柱建物58	土師器	高台付椀	—	6.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5667		土師器	小皿	7.6	6.6	1.5	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具痕
5668	掘立柱建物65	土師器	小皿	7.4	6.2	1.4	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ヘラキリ
5669		土師器	小皿	8.1	5.9	1.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	ヘラキリ
5670	掘立柱建物68	土師器	高台付椀	14.9	6.6	4.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	内面に重ね焼痕
5671	掘立柱建物72	土師器	小皿	8.8	5.9	1.7	灰白色(7.5YR8/2)	精良	
5672	掘立柱建物73	土師器	高台付椀	14.4	6.2	5.0	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	内面スス 完形
5673		土師器	鍋	—	—	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	
5674	土墳墓8・9	土師器	椀	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5675		土師器	椀	—	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5676		土師器	椀	12.5	6.5	4.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	コビオサエ 完形
5677	土墳墓10	土師器	皿	14.0	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	
5678		土師器	椀	—	6.0	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5679		土師器	皿	7.0	4.3	1.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	ヘラキリ
5680		土師器	甕	—	—	—	褐灰色(7.5YR6/1)	粗砂	
5681		土師器	椀	—	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5682	土墳墓11	土師器	皿	8.0	5.8	1.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
5683		土師器	皿	6.8	4.4	1.3	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	
5684		土師器	高台付椀	—	5.5	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5685	土墳墓16	土師器	高台付椀	14.5	6.0	4.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	完形
5686		土師器	高台付椀	(13.0)	—	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	
5687		土師器	高台付椀	(13.4)	—	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
5688		土師器	高台付椀	14.8	—	—	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂、礫	外面ミガキ?
5689		土師器	高台付椀	(15.9)	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂、粗砂	
5690		土師器	高台付椀	—	6.6	—	灰白色(10Y8/1)	細砂、粗砂	
5691	土墳墓18	土師器	高台付椀	—	6.3	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	内面重ね焼痕
5692		土師器	高台付椀	—	6.0	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	
5693		土師器	高台付皿	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	
5694		土師器	小皿	8.0	5.7	1.3	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	ヘラキリ後ナデ
5695		土師器	小皿	7.8	5.6	1.0	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	ヘラキリ後ナデ
5696		土師器	小皿	8.0	6.7	1.2	淡橙色(5YR8/4)	細砂	ヘラキリ後ナデ ほぼ完形
5697		土師器	小皿	8.2	6.3	1.5	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ヘラキリ後ナデ
5698	土墳墓19	土師器	鍋	37.2	—	—	褐灰色(7.5YR5/1)	細砂	ススA
5699	土墳墓20	土師器	高台付椀	13.8	6.0	5.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	完形
5700	土墳墓21	青白磁	合子蓋	4.6	—	1.5	(胎土)灰白色(N8)	精良	13C~ 完形
5701	土墳墓23	青磁	椀	—	3.8	—	(胎土)灰白色(N8)	精良	削り出し高台 12C中~後
5702	土墳墓25	土師器	内黒椀?	—	8.6	—	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
5703	火葬墓1	土師器	皿	10.4	6.7	2.3	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂	
5704		土師器	甕	34.4	—	26.0	灰黄褐色(10YR5/2)	粗砂	甕棺に使用 胸部穿孔1個残 ススB
5705		土師器	高台付椀	12.6	6.2	5.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	重ね焼痕
5706		土師器	高台付椀	13.0	6.2	5.7	灰白色(5Y8/2)	細砂	ほぼ完形
5707		土師器	高台付椀	13.0	6.1	5.0	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	ススA
5708		土師器	高台付椀	13.0	6.6	4.2	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
5709		土師器	高台付椀	13.4	7.0	4.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5710		土師器	高台付椀	12.8	6.1	5.1	灰白色(N8/)	細砂	
5711		土師器	高台付椀	12.2	5.6	4.6	灰白色(5Y8/1)	細砂	ススB
5712	井戸6	土師器	皿	8.0	6.0	1.2	灰白色(5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5713		土師器	皿	8.0	5.9	1.6	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部板状工具痕 ほぼ完形
5714		土師器	皿	8.0	6.5	1.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部板状工具痕
5715		土師器	皿	7.6	6.4	1.3	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5716		土師器	皿	7.8	5.8	1.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5717		土師器	皿	7.5	5.0	1.1	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部板状工具痕
5718		土師器	鍋	27.2	—	—	浅黄褐色(7.5YR8/3)	細砂	ススA
5719		須恵器	鉢	24.8	—	—	灰色(N4/)	精良	東播系こね鉢
5720		土師器	鍋	—	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	
5721	井戸6	青磁	皿	10.4	—	—	明緑灰色(5G7/1)	精良	龍泉系皿 1-2

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5722	土壇443	土師器	皿	-	-	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
5723	土壇444	土師器	鍋	32.0	-	-	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ススA
5724	土壇445	土師器	高台付椀	11.8	(6.5)	4.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5725		土師器	皿	8.2	(7.0)	1.6	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
5726	土壇446	土師器	高台付椀	14.0	-	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5727		土師器	高台付椀	13.0	-	-	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	ススA
5728		土師器	高台付椀	-	7.2	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5729		土師器	高台付椀	-	6.2	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5730		土師器	高台付椀	-	6.2	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5731		土師器	高台付椀	-	6.0	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススC
5732		土師器	高台付椀	-	6.5	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5733		土師器	皿	7.3	5.6	1.6	浅黄橙色(10YR8/2)	細砂	底部板状工具痕
5734		土師器	皿	8.3	5.6	1.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部板状工具痕 完形
5735		瓦	軒丸瓦	-	-	-	灰色(N5)	細砂	最大長12.5 幅13.0 厚さ6.6cm 6225 垂式
5736	土壇447	須恵器	椀	11.8	-	-	灰白色(10YR6/1)	細砂	ヨコナデ
5737		須恵器	杯蓋	15.0	-	3.1	灰白色(10YR8/1)	細砂	回転ヘラケズリ
5738		土師器	甗	24.5	-	-	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	
5739	土壇448	須恵器	杯蓋	14.2	-	3.3	褐灰色(10YR6/1)	細砂	回転ヘラケズリ
5740	土壇449~453	土師器	高台付椀	12.0	5.8	4.6	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5741		土師器	高台付椀	11.7	3.7	3.1	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ほぼ完形
5742		土師器	高台付椀	11.6	4.0	4.2	灰白色(10YR8/1)	粗砂	
5743		土師器	高台付椀	11.2	5.9	4.0	灰白色(2.5Y8/1)	精良	
5744		土師器	高台付椀	11.8	5.4	4.3	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	
5745		土師器	高台付椀	11.1	4.1	3.8	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂	
5746		土師器	高台付椀	11.3	4.8	3.5	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	
5747		土師器	高台付椀	11.5	4.3	3.4	灰白色(7.5YR8/2)	精良	ユビオサエ 重ね焼痕
5748		土師器	高台付椀	10.7	5.0	3.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ほぼ完形
5749		土師器	皿	8.2	5.8	1.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5750		土師器	皿	7.0	5.7	1.4	灰白色(10YR8/2)	精良	底部ヘラキリ後ナデ
5751		土師器	皿	7.5	6.4	1.5	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	底部板状工具痕 完形
5752		土師器	皿	7.4	4.9	1.5	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ ほぼ完形
5753		土師器	皿	7.6	6.4	1.5	浅黄橙(7.5YR8/3)	細砂	底部ヘラキリ ほぼ完形
5754		土師器	皿	7.6	5.6	1.2	浅黄橙(7.5YR8/4)	精良	底部ヘラキリ
5755		土師器	皿	7.5	6.6	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
5756		土師器	皿	7.1	5.2	1.5	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂	灯明皿? 底部ヘラキリ
5757		土師器	皿	7.3	5.3	1.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ 完形
5758		土師器	皿	5.9	4.4	1.6	灰白色(5YR8/2)	細砂	底部板状工具痕
5759		土師器	皿	11.4	9.0	1.9	淡橙色(5YR8/3)	細砂	外面板状工具痕
5760	土師器	鍋	19.0	-	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	ススC	
5761	土師器	竈	-	-	-	鈍赤褐色(5YR4/3)	粗砂、礫	ススA	
5762	土師器	竈	-	-	-	鈍橙色(5YR6/3)	粗砂		
5763	土師器	竈	-	-	-	灰白色(2.5YR8/1)	粗砂		
5764	瓦器 亀山焼	こね鉢	29.4	-	10.4	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂		
5765	土師器	鍋	-	-	-	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	ハケメ	
5766	土壇454	土師器	高台付椀	11.1	4.2	3.6	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	底部ヘラキリ後ナデ
5767		土師器	椀	-	4.6	-	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	底部ヘラキリ
5768	土壇462	土師器	高台付椀	14.2	6.0	5.6	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	内部重ね焼痕
5769	土壇466	土師器	高台付椀	-	6.4	-	灰白色(10YR8/2)	精良	
5770		土師器	高台付椀	-	7.0	-	灰白色(10YR8/2)	精良	ユビオサエ 内面重ね焼痕
5771		土師器	小皿	8.0	5.6	1.4	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ
5772	土壇468	土師器	高台付椀	-	6.2	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5773		土師器	高台付椀	-	6.4	-	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	黒斑C
5774		土師器	皿	9.0	7.4	1.3	鈍橙色(5YR7/4)	精良	ヘラキリ
5775	土壇468	土師器	鍋	(42.2)	-	-	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	ススA
5776	土壇469	土師器	高台付椀	-	5.6	-	灰白色(10YR7/1)	細砂	
5777	土壇470	土師器	椀	7.0	-	-	灰白色(7.5Y8)	細砂、粗砂、礫	早島式

角田調査区土器観察表

種目 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5778	土壙470	土師器	椀	—	5.2	—	灰白色(7.5Y8/)	細砂	早島式
5779		土師器	皿	8.8	6.7	1.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	板目痕?
5780		瓦	丸瓦	—	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂	
5781	土壙472	土師器	椀	—	5.0	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	焼成やや不良
5782	土壙473	土師器	椀	(13.7)	(6.7)	5.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	早島式
5783		亀山焼	こね鉢	(20.2)	(9.3)	7.7	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	焼成やや不良
5784		亀山焼	甕	—	—	—	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	
5785		備前焼	壺	—	—	—	灰赤色(7.5R4/2)	細砂、粗砂	
5786		亀山焼	壺	—	—	—	灰白色(N7/)	細砂	表面格子目タタキ
5787		亀山焼	甕	—	—	—	灰白色(N7/)	細砂	表面タタキメ
5788		土師器	鍋	—	—	—	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5789		土師器	鍋	—	—	—	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5790		瓦	平瓦	—	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5791		溝43~46	土師器	鍋	—	—	—	鈍橙色(7.5Y7/3)	細砂
5792	土師器		鍋	—	—	—	灰黄褐色(10Y6/2)	細砂	
5793	瀬戸天目		碗	12.0	—	—	暗赤褐色(2.5YR3/2)	精良	施軸
5794	伊万里?		碗	12.0	—	—	青灰色(10B5/1)	精良	施軸
5795	溝43	亀山焼	こね鉢	29.5	11.8	10.5	灰白色(10Y7/1)	細砂	外面ユビナデ 内面ナデ・ハケメ
5796		亀山焼	こね鉢	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	
5797		土師器	椀	—	6.8	—	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5798		土師器	椀	—	5.2	—	灰褐色(7.5Y5/2)	細砂	
5799		土師器	椀	—	6.4	—	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5800		土師器	皿	9.2	8.0	—	鈍黄褐色(10Y7/2)	細砂	
5801		土師器	皿	8.0	6.0	1.2	橙色(2.5Y6/8)	細砂	底部ヘラキリ 完形
5802		土師器	鍋	37.5	—	—	灰黄褐色(10Y4/2)	細砂	ススA
5803		土師器	鍋	—	—	—	鈍黄褐色(10Y6/3)	細砂	
5804		土師器	鍋	—	—	—	鈍黄褐色(10Y7/3)	細砂	ナデ
5805		土師器	竈	—	—	—	鈍褐色(7.5Y6/3)	細砂	
5806		瓦	玉縁丸瓦	—	—	—	黒褐色(10Y3/1)	細砂	最大長(11.0) 最大幅(10.2) 厚さ 2.5cm
5807		青磁	碗	16.4	—	—	青-ア 灰色(10Y6/2)	精良	龍1-2 蓮花文
5808		唐津	皿 溝縁	13.6	4.7	2.2	灰青-ア 色(7.5Y5/3)	精良	1610~1630年 底部イトキリ
5809		溝46	土師器	椀	—	5.0	—	鈍黄褐色(10Y7/2)	精良
5810	土師器		椀	—	3.6	—	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5811	土師器		皿	12.0	7.2	2.2	鈍橙色(5Y7/3)	粗砂	底部ヘラキリ
5812	溝45	須恵器	鉢	—	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	ナデ 自然釉
5813		亀山焼	こね鉢	—	—	—	褐灰色(10Y6/1)	細砂	
5814		亀山焼	すり鉢	—	—	—	鈍黄褐色(10Y7/3)	粗砂	ハケメ後ナデ
5815		土師器	椀	10.2	4.0	3.7	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5816		土師器	杯	16.0	—	—	灰褐色(7.5Y6/2)	細砂	
5817		土師器	脚部	—	10.4	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	
5818	溝47	土師器	椀	—	4.4	—	灰白色(10Y7/1)	精良	
5819		土師器	高台付椀	—	(4.5)	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
5820	溝48	土師器	鍋	—	—	—	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	
5821		備前焼	擂鉢	—	—	—	灰褐色(5Y5/2)	細砂、粗砂	
5822		亀山焼	擂鉢	(32.8)	—	—	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂、粗砂	
5823	土器溜り6	土師器	高台付椀	14.3	6.1	4.7	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	重ね焼痕
5824		土師器	高台付椀	15.0	—	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
5825		土師器	高台付椀	15.3	7.0	4.2	灰白色(10Y8/2)	細砂	
5826		土師器	高台付椀	—	6.2	—	灰白色跡-No.なし	細砂	
5827		土師器	高台付椀	—	6.0	—	灰白色(10Y8/1)	細砂	重ね焼痕 ユビオサエ
5828		土師器	皿	7.5	5.8	1.1	灰白色(10Y8/1)	細砂	ヘラキリ
5829		土師器	皿	7.3	6.3	1.4	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	ヘラキリ ほぼ完形
5830		土師器	皿	7.6	6.0	1.4	浅黄褐色(7.5Y8/3)	細砂	ヘラキリ 完形 黒斑C
5831		土師器	皿	7.5	5.0	1.6	灰白色(10Y8/1)	細砂	ヘラキリ後ナデ ほぼ完形
5832		土師器	皿	7.8	5.3	1.2	灰白色(7.5Y8/2)	細砂	板目
5833	土師器	皿	7.6	5.5	1.6	灰白色(7.5Y8/1)	精良	ヘラキリ後ナデ ほぼ完形	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5834	土器溜り 6	土師器	皿	7.6	5.3	1.7	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ後ナデ 完形
5835		土師器	皿	8.0	5.6	1.2	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	ヘラキリ後ナデ ほぼ完形
5836		土師器	皿	8.0	5.7	1.4	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	ヘラキリ後ナデ 完形
5837		土師器	皿	8.1	6.2	1.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	ヘラキリ後ナデ
5838		土師器	皿	8.2	6.6	1.6	淡橙色(5YR8/3)	精良	ヘラキリ後ナデ
5839		土師器	皿	8.5	6.3	1.7	灰白色(10YR8/1)	細砂	ヘラキリ後ナデ
5840		土師器	皿	8.6	7.0	1.3	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ後ナデ
5841		土師器	皿	9.0	6.6	1.5	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ヘラキリ
5842		土師器	器台	8.1	5.3	2.6	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	ヘラキリ後ナデ
5843	窪地 5	亀山焼	壺	30.0	—	—	灰色(N6/)	細砂	
5844		備前焼	播鉢	26.6	—	—	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	
5845		土師器	椀	13.0	5.7	4.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	重ね焼痕
5846		土師器	椀	14.0	5.8	5.4	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
5847		土師器	椀	11.5	5.0	3.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5848		土師器	椀	10.4	4.3	3.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	完形
5849		土師器	椀	11.8	4.8	3.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5850		土師器	椀	10.0	4.0	3.8	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	
5851		土師器	椀	(11.0)	4.0	3.5	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	重ね焼痕
5852		土師器	椀	12.0	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5853		土師器	椀	11.6	—	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5854		土師器	皿	10.5	8.0	2.6	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5855		土師器	皿	6.5	4.6	1.0	灰白色(10YR8/1)	細砂	底部ヘラキリ 完形 黒斑C
5856		土師器	皿	6.3	4.9	1.1	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ 完形
5857		土師器	皿	7.0	6.0	1.2	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ
5858		土師器	皿	7.8	6.0	1.2	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	底部ヘラキリ
5859		土師器	皿	7.0	5.0	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
5860		土師器	皿	7.0	5.0	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
5861		土師器	器台	6.4	5.0	2.2	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
5862		瓦器	鍋	—	—	—	褐灰色(7.5YR6/1)	細砂	
5863		土師器	鍋	25.0	—	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂	
5864		土師器	鍋	27.5	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
5865		土師器	火鉢	30.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
5866		土師器	鍋	—	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	ナデ
5867		白磁	碗	15.6	—	—	灰白色(7.5Y7/2)	精良	白磁碗 IV
5868		白磁	碗	(15.0)	—	—	明緑灰色(10GY8/1)	精良	白磁碗 IV
5869		白磁	碗	15.0	—	—	灰白色(7.5Y8/1)	精良	IVの口縁12点
5870	青磁	皿	9.7	—	—	灰青-ブ'色(5Y6/2)	細砂	施釉	
5871	青磁	碗	15.6	—	—	青-ブ'灰色(10Y4/2)	精良	龍泉系 I-1-a	
5872	窪地 6	土師器	椀	9.4	4.0	3.8	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5873		土師器	椀	9.8	3.8	4.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
5874		土師器	皿	6.2	6.0	3.1	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	底部ヘラキリ 完形
5875	窪地 7	白磁	碗	—	6.6	—	灰白色(5Y8/1)	精良	IV-1
5876	河道 8	土師器	椀	(10.6)	3.5	14.2	灰白色(10YR8/1~8/2)	細砂	スズB'
5877		須恵器	杯	(13.9)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂、礫	
5878		土師器	椀	—	5.6	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5879		土師器	椀	—	6.6	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
5880		土師器	椀	—	5.6	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
5881		土師器	椀	—	6.1	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5882		土師器	椀	—	5.6	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	
5883		土師器	椀	—	6.0	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5884		土師器	椀	—	6.4	—	灰白色(10YR8/1)	細砂	
5885		土師器	椀	—	3.8	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5886	土師器	小皿	7.5	6.2	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		
5887	土師器	鍋	(28.7)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂		
5888	河道 8	土師器	鍋	(31.2)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	
5889		土師器	鍋	(40.7)	—	—	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
5890	河道 9	須恵器	杯	—	10.2	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載道橋名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5891	河道9	土師器	碗	—	4.8	—	明褐色(7.5YR7/1)	細砂	
5892		土師器	碗	—	(4.6)	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5893		土師器	碗	—	6.0	—	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
5894		土師器	碗	—	5.4	—	浅黄橙色(10YR8/4)	細砂	
5895		土師器	碗	—	5.6	—	灰白色(10YR8/2)	細砂	
5896		土師器	碗	—	6.2	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底面錆
5897		須恵器	甕	(26.2)	—	—	灰色(7.5Y7/1)	細砂	
5898		須恵器	甕?	—	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂	
5899		須恵器	甕	—	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂	表面タキキ痕
5900		土師器	杯	(13.2)	(10.2)	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
5901		須恵器	杯蓋	13.8	—	—	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂	表面釉
5902		須恵器	杯蓋	15.6	—	—	灰白色(10YR7/1)	細砂、粗砂	天井部板ナデ(ハケメ)
5903		須恵器	杯蓋	15.2	—	—	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂	
5904		須恵器	杯蓋	(16.8)	—	3.2	灰白色(7.5Y7/1)~ 灰色(6/1)	細砂、粗砂	
5905		須恵器	蓋	(17.3)	—	—	青灰色(5B5/1)	細砂	
5906		須恵器	杯蓋	17.8	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、粗砂	胎土・砂粒目立つ 焼成不良
5907		須恵器	蓋	17.9	—	3.2	灰色(5Y6/1)	細砂	ケズリ 砂粒右方向
5908		須恵器	蓋	(18.5)	—	—	灰白色(N8/)	細砂、粗砂	胎土砂粒目立つ
5909		須恵器	蓋	19.0	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5910		須恵器	蓋	19.2	—	—	灰色(N6/)	細砂	自然釉 外面重ね焼痕? 内面硯として使用?
5911		須恵器	杯蓋	11.8	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	焼成不良
5912		須恵器	蓋	—	—	—	灰色(N6/)	細砂	
5913		須恵器	蓋	—	—	—	灰白色(N7)	細砂	砂粒右方向
5914		須恵器	蓋	—	—	—	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
5915		須恵器	杯蓋	—	—	—	灰白色(N8/)	細砂、粗砂	
5916		須恵器	杯蓋	—	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5917		須恵器	蓋	—	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
5918		須恵器	杯身	12.0	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	焼成不良
5919		須恵器	杯身	12.5	8.0	4.2	灰白色(2.5Y7/1)	粗砂、礫	黒斑A・B・C
5920		須恵器	杯	12.8	8.2	3.6	灰白色(2.5Y8/2)	粗砂	重ね焼痕 黒斑A
5921		須恵器	杯	13.6	9.4	(3.5)	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂	黒斑A
5922		須恵器	杯身	13.3	8.6	4.0	淡黄色(2.5Y8/3)	粗砂、礫	ほぼ完形
5923		須恵器	杯身	(13.8)	9.8	3.8	灰色(N6/)	細砂、粗砂	底部外面中心までヘラキリ
5924		須恵器	杯身	14.2	9.5	4.3	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	口縁部重ね焼痕 底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ 焼成不良
5925		須恵器	碗	—	6.6	—	灰白色(7.5Y7/1)	細砂	底部カキメ
5926		須恵器	杯身	(9.2)	6.0	—	青灰色(5B6/1)	細砂	
5927		須恵器	杯身	—	7.0	—	灰色(7.5Y6/1)	細砂	
5928		須恵器	高台付杯	12.7	9.4	(3.7)	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂	胎土炭火粒含む
5929		須恵器	杯身	12.6	8.2	3.8	灰色(N6/)	細砂	
5930		須恵器	杯身	(12.3)	(9.2)	4.0	灰色(N5/)	細砂	自然釉
5931		須恵器	杯身	12.8	10.0	4.1	灰色(10Y6/1)	細砂、粗砂	
5932		須恵器	杯身	—	10.0	3.8	灰色(N6/) オリーブ灰色(2.5GY6/1)	礫、粗砂	高台径内8.9cm
5933	須恵器	杯身	(13.9)	10.3	4.5	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂		
5934	須恵器	杯身	—	9.0	—	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂		
5935	須恵器	高台付杯	13.9	8.8	3.9	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	焼成不良	
5936	須恵器	杯身	—	9.4	—	灰色(10Y6/1)	細砂、粗砂		
5937	須恵器	杯身	16.2	10.7	5.7	灰色(N6/)	細砂		
5938	須恵器	高台付杯	16.1	10.2	7.2	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂	胎土炭火粒含む	
5939	須恵器	高台付杯	(16.8)	10.4	6.0	灰赤色(2.5YR5/1)	細砂	焼成不良	
5940	須恵器	杯身	(17.4)	13.3	5.4	灰白色(5Y8/1)	細砂	高台径内12.2cm	
5941	須恵器	杯身	(17.3)	11.6	7.3	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂	底部内面は硯として使用?	
5942	須恵器	杯身	(17.4)	(11.2)	7.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂		
5943	須恵器	杯身	18.7	13.5	6.3	灰色(N6/)	細砂		
5944	須恵器	杯身	—	9.8	—	白色(N9/)	細砂	焼成不良	
5945	須恵器	杯身	—	10.5	—	灰白色(N8/)	細砂、粗砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
5946		須恵器	?	-	(11.3)	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	胎土・焼成精良
5947		須恵器	杯身	-	12.9	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂	胎土中に黒い石を含む 胎土が粗く焼成も甘い
5948		須恵器	杯身	-	(9.0)	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、礫	
5949		須恵器	杯身	-	(9.8)	-	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	胎土粗く 焼成不良
5950		須恵器	杯身	-	(10.0)	-	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
5951		須恵器	高台付杯	-	10.2	-	灰色(5Y6/1)	細砂	
5952		須恵器	杯身	-	(12.0)	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	焼成不良
5953		須恵器	杯身	-	(12.1)	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂	
5954		須恵器	杯身	-	(12.6)	-	灰色(5Y6/1)	細砂	
5955		須恵器	高台付杯	-	11.7	-	灰白色(N8)	細砂	
5956		須恵器	杯身	-	(8.6)	-	灰色(N6/)	細砂、粗砂	胎土炭火粒含む
5957		須恵器	杯身	-	9.7	-	灰色(N6/)	細砂	
5958		須恵器	高台付杯	-	10.7	-	褐灰色(10YR6/1)	細砂	
5959		須恵器	杯身	-	9.8	-	灰白色(10Y7/1)	細砂	
5960		須恵器	杯身	-	9.6	-	青灰色(10BG5/1)	細砂、粗砂	胎土砂粒目立つ
5961		須恵器	杯身	-	10.2	-	灰黄色(2.5Y7/2)～ 灰白色(N8/)	細砂	焼成不良
5962		須恵器	杯身	-	(11.1)	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5963		須恵器	杯身	-	11.2	-	灰色(N5/)	細砂	底部外面ヘラケズリ
5964		須恵器	杯身	-	(11.4)	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	底部に線刻? 焼成不良
5965		須恵器	杯身	-	(11.9)	-	灰色(10Y4/1)	細砂	ロクロの回転右 底部外面ヘラケズリ
5966		須恵器	杯身	-	13.0	-	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	ロクロの回転右
5967		須恵器	杯身	-	10.2	-	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	
5968		須恵器	杯身	-	9.6	-	灰色(10Y6/1)	細砂	胎土砂粒目立つ
5969		須恵器	杯身	-	9.2	-	灰色(10Y6/1)	細砂	
5970		須恵器	杯身	-	9.5	-	灰白色(N7/)	細砂	
5971		須恵器	杯身	-	(10.1)	-	灰色(5Y4/1)	細砂	胎土粗く 焼成不良
5972		須恵器	杯身	-	(11.2)	-	灰白色(5Y7/1)	細砂	
5973	河道9	須恵器	杯身	-	8.6	-	灰白色(5Y8/2)	細砂、粗砂、礫	胎土粗く 焼成不良
5974		須恵器	杯身	-	9.8	-	灰白色(N8/)	細砂	胎土粗く 焼成不良
5975		須恵器	杯身	-	10.0	-	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂	
5976		須恵器	皿	(15.2)	(13.1)	1.7	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	胎土粗く 焼成不良
5977		須恵器	皿	(14.8)	(12.7)	2.0	灰白色(N8/～7/)	粗砂、礫	土師器の作りをした須恵器
5978		須恵器	皿	15.4	13.0	(1.7)	灰色(5Y6/1)	細砂、粗砂	
5979		須恵器	皿	19.9	16.8	2.2	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂、粗砂	胎土砂粒目立つ
5980		須恵器	皿	(18.2)	15.4	2.2	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂	
5981		須恵器	皿	-	(16.9)	-	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	焼成不良
5982		須恵器	皿	-	(20.2)	-	灰白色(N7/)	細砂	
5983		須恵器	高杯	15.2	-	-	灰色(N6/)	細砂	
5984		須恵器	高杯	-	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	
5985		須恵器	高杯	-	-	-	灰色(N6/)	細砂	
5986		須恵器	高杯	-	-	-	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	脚部
5987		須恵器	高杯	-	-	-	灰白色(10Y8/1)	細砂、粗砂、礫	
5988		須恵器	短頸壺	7.7	-	-	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	外面自然釉
5989		須恵器	壺	(8.4)	-	-	灰白色(N7/)	細砂	
5990		須恵器	壺	-	-	-	灰色(7.5Y7/1)	細砂	脚部部釉
5991		須恵器	壺	-	4.8	-	緑灰色(10GY6/1)	細砂、粗砂、礫	
5992		須恵器	壺	-	6.8	-	灰色(N5/～4/)	粗砂、礫	
5993		須恵器	壺	-	-	-	青灰色(10BG6/1)	細砂、粗砂、礫	
5994		須恵器	長頸壺	-	11.0	-	灰色(5Y6/1)	細砂	自然釉
5995		須恵器	長頸壺	-	11.0	-	灰白色(N7/)	細砂	
5996		須恵器	壺	-	(16.2)	-	青灰色(5PB6/1)	細砂	
5997		須恵器	杯身	-	12.0	-	灰色(10Y6/1)	細砂	体部ヨコナデで仕上げていない
5998		須恵器	壺	-	-	-	灰色(N6/)	細砂	自然釉
5999		須恵器	鉢鉢?	(14.9)	-	-	灰白色(N7/)	細砂、礫	
6000		須恵器	壺?	-	(3.8)	-	灰色(N6/)	細砂	焼成堅緻
6001		須恵器	鉢	-	-	-	灰白色(5Y8/1)	粗砂、礫	窯?

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6002	河道 9	須恵器	?	-	-	-	灰白色(N8)	細砂	把手のみ
6003		須恵器	甕	19.1	-	-	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	口縁部内面線刻 タタキ成形(平行タタキ)
6004		須恵器	甕	19.4	-	-	灰白色(10YR8/1)	細砂、粗砂	口縁部全体的軸
6005		須恵器	甕	(22.8)	-	-	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	自然釉
6006		須恵器	甕	21.0	-	-	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	内面タタキ
6007		須恵器	甕	20.8	-	-	灰色(N6/)	細砂	
6008		須恵器	甕	19.0	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂	
6009		須恵器	甕	-	-	-	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	粗砂、礫	黒斑A
6010		須恵器	甕	(41.2)	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	胎土炭火粒含む
6011		須恵器	大甕	22.0	-	(49.3)	灰白色(5Y7/1)~ 灰色(N5/)	細砂	
6012		土師器	鉢	12.3	9.8	2.8	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
6013		土師器	杯	(12.0)	(10.2)	-	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	胎土白っぽい
6014		土師器	杯	12.2	9.4	3.2	鈍橙色(7.5YR7/4~6/4)	細砂	内外面丹塗り
6015		土師器	杯	12.4	9.3	3.2	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6016		土師器	杯	(12.6)	(10.8)	-	橙色(2.5YR6/6)	粗砂	
6017		土師器	杯	(12.6)	(9.2)	2.6	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
6018		土師器	鉢	12.8	10.2	3.3	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
6019		土師器	杯	12.8	10.6	3.3	鈍橙色(5YR7/4)	精良	
6020		土師器	杯	14.8	11.4	3.2	橙色(7.5YR6/6)	粗砂	
6021		土師器	杯	14.6	11.1	2.9	鈍橙色(7.5YR6/4)~ 橙色(6/6)	粗砂	ほぼ完形
6022		須恵器	杯	(14.6)	(11.1)	3.3	灰白色(10YR8/1)	細砂	土師器の作りをした須恵器
6023		土師器	杯身	13.5	6.6	4.1	淡黄色(2.5YR3)	粗砂、礫	
6024		土師器	杯	(15.9)	(13.4)	-	明赤褐色(5YR5/8)	粗砂	
6025		土師器	杯	(16.8)	(13.6)	-	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂、礫	丹塗りなし
6026		土師器	鉢?	(18.1)	-	-	鈍橙色(7.5YR5/4)	粗砂、礫	(内外面丹塗り)
6027		土師器	杯	(19.8)	(14.4)	(4.3)	橙色(2.5Y6/8)	細砂	
6028		土師器	杯	(17.9)	(10.6)	5.6	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	チョコレート色 黒斑A
6029		土師器	高台	-	5.0	-	灰褐色(5YR6/1)	細砂	内面底部ス
6030		土師器	碗	-	8.8	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
6031		土師器	高台付碗	-	6.3	-	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂、礫	
6032		土師器	高台付碗	-	5.7	-	灰白色(2.5YR2)	細砂、粗砂	
6033		土師器	杯	-	(9.6)	-	灰褐色(5YR6/2)	細砂	
6034		土師器	碗	-	6.0	-	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
6035		土師器	高台付碗	-	7.4	-	灰赤色(2.5YR4/2)	細砂、粗砂	
6036		土師器	皿	(15.4)	(14.0)	1.4	橙色(7.5YR6/6)	細砂	
6037		土師器	皿	(15.2)	(13.5)	(1.5)	橙色(5YR6/8)	粗砂	丹塗り不詳
6038		土師器	皿	(15.2)	(13.8)	2.8	橙色(5YR6/6)	細砂	丹塗り不詳
6039		土師器	皿	(15.3)	(14.0)	1.4	橙色(7.5YR6/6)	細砂	丹塗り不詳
6040		土師器	皿	(15.6)	(13.6)	1.3	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	丹塗りであったらう
6041		土師器	皿	(15.8)	(12.9)	1.6	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	外面不詳
6042		土師器	皿	15.8	13.7	1.3	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂、粗砂	
6043		土師器	皿	(16.6)	(14.8)	1.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6044		土師器	皿	(17.0)	(15.4)	-	鈍黄橙色(10YR7/4~ 6/4)	細砂	丹塗り不詳
6045		土師器	杯	(17.0)	-	-	橙色(5YR7/6)	細砂	丹塗り不詳
6046		土師器	皿	(16.5)	14.8	1.4	鈍橙色(7.5YR7/4~6/4)	細砂	丹塗り不詳
6047		土師器	皿	17.1	13.2	2.0	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良	
6048		土師器	皿	12.2	-	-	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
6049		土師器	皿	12.4	(7.8)	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6050		土師器	盤	(24.2)	-	-	橙色(2.5YR6/6)	精良	内外面赤色顔料?
6051		黒色土器	高台付碗	-	6.1	-	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	
6052		黒色土器	高台付碗	-	6.8	-	明褐色(5YR7/2)	細砂	
6053		黒色土器	高台付碗	-	7.3	-	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂、礫	
6054		黒色土器	高台付碗	-	7.6	-	灰白色(5YR8/1)	細砂	
6055		黒色土器	高台付碗	(13.2)	7.9	4.4	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
6056		土師器	甕	(14.5)	-	-	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂、礫	スズB



角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6057	河道 9	土師器	甕	(16.4)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
6058		土師器	甕	17.6	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂	
6059		土師器	甕	(17.1)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
6060		土師器	甕	(18.3)	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	
6061		土師器	甕	18.7	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
6062		土師器	甕	19.6	—	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂、粗砂	
6063		土師器	甕	19.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
6064		土師器	甕	(20.9)	—	—	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	
6065		土師器	甕	21.0	—	—	鈍橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
6066		土師器	甕	(22.6)	—	—	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
6067		土師器	甕	24.2	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	外面に粗いハケメ?
6068		土師器	甕	25.6	—	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	黒斑A
6069		土師器	甕	29.6	—	—	灰白色(10YR8/1)	粗砂	
6070		土師器	甕	(31.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6071		土師器	甕	(33.2)	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	
6072		土師器	甕	32.8	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	ススB
6073		土師器	甕	35.4	—	—	鈍黄橙色(10YR6/4)	細砂	
6074		土師器	甕	35.4	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	
6075		土師器	甕	(36.8)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6076		土師器	甕	(40.9)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	黒斑A B
6077		土師器	甕	(29.7)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	粗砂、礫	黒斑B・C
6078		土師器	土鍋	23.3	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂	ススA
6079		土師器	?	(9.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	粗砂	
6080		土師器	甕	—	—	—	鈍褐色(7.5YR6/3)	粗砂	
6081		土師器	甕	—	—	—	明褐色(7.5YR7/1)	粗砂	
6082		土師器	甕	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	スス
6083		緑釉陶器	碗	—	6.2	—	灰青-7'色(7.5Y6/2)	細砂	削り出し高台
6084		瓦	丸瓦	—	—	—	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	
6085		須恵器	杯身	12.5	8.4	3.6	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	黒斑C
6086		須恵器	杯身	12.5	8.6	4.2	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	粘土紐痕 底部外面周縁ヘラキリー中央部押圧ナデ
6087		須恵器	杯身	13.5	10.5	3.5	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	底部外面粘土紐痕 周縁ヘラキリー
6088		須恵器	杯身	12.9	9.5	3.7	灰白色(N7/)	細砂	
6089		須恵器	杯身	12.8	8.1	3.3	灰白色(5Y8/1)	細砂、粗砂	粘土紐痕
6090		須恵器	杯身	13.2	9.7	3.9	灰色(N6/)	細砂、粗砂	
6091		須恵器	杯身	14.0	10.0	4.1	灰色(N8/)	精良	やや生焼
6092		須恵器	杯身	—	—	8.4	灰白色(N8/)	精良	焼成やや不良
6093		須恵器	杯身	—	—	9.0	灰白色(2.5Y8/1)	精良	焼成やや不良 ススC
6094		須恵器	杯身	—	9.4	—	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	
6095		須恵器	杯身	—	9.0	—	灰白色(N7/)	細砂、粗砂	粘土砂粒目立つ
6096		須恵器	杯	—	(7.6)	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	
6097		須恵器	杯身	15.5	10.3	5.4	灰色(N5/)	細砂、粗砂	
6098		須恵器	杯身	14.7	12.0	4.0	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	底部外面を転用硯
6099		須恵器	杯身	14.0	10.0	4.0	灰色(N6/)	細砂、粗砂	胎土砂粒目立つ
6100		須恵器	杯身	16.0	11.0	6.4	灰白色(7.5Y8/2)	細砂、粗砂	焼成不良 胎土に砂粒多い
6101		須恵器	杯身	17.7	12.1	6.1	灰白色(N7/)	細砂	焼成不良
6102		須恵器	杯身	16.9	11.4	6.6	灰色(N5/)	細砂、粗砂	
6103		須恵器	杯身	(17.4)	12.6	5.9	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
6104		須恵器	杯身	—	—	10.0	灰色(N8/)	精良	
6105	須恵器	杯	—	(9.8)	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂		
6106	須恵器	杯身	—	—	10.4	灰色(N6/)	細砂、粗砂		
6107	須恵器	杯身	—	—	11.6	灰白色(5YR8/1)	細砂、粗砂	胎土砂粒目立つ 焼成やや不良	
6108	須恵器	杯身	—	(11.7)	—	灰赤色(2.5YR5/2)	細砂、粗砂、礫		
6109	須恵器	皿	(27.0)	(23.0)	(3.2)	灰白色(2.5Y8/)	細砂	焼成不良	
6110	土師器	杯蓋	16.3	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂、粗砂		
6111	土師器	蓋	25.0	—	—	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂		
6112	土師器	蓋	26.0	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6113	河道9	土師器	杯	8.0	6.0	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂	内面スス 灯明に使用?
6114		土師器	杯	9.6	5.6	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	断面黒色 赤色顔料無し
6115		土師器	杯	11.6	9.9	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
6116		土師器	杯	12.0	10.5	—	橙色(5YR7/6)	細砂	底部外面ケズリ
6117		土師器	杯	13.1	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6118		土師器	杯	(15.2)	(10.9)	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	ススC
6119		土師器	杯	17.2	13.5	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6120		土師器	高杯	17.0	—	—	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂	内外面赤色顔料
6121		土師器	杯	11.2	8.8	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	内面のみ赤色顔料?
6122		土師器	杯	11.3	9.6	3.4	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6123		土師器	杯	11.8	9.4	—	橙色(5YR7/6)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ 赤色顔料有無不詳
6124		土師器	杯	11.9	9.5	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6125		土師器	杯	(12.5)	(8.8)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6126		土師器	杯	(12.3)	(9.2)	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
6127		土師器	杯	12.2	(8.8)	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	内外面赤色顔料塗布
6128		土師器	杯	12.4	(9.2)	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	内外面赤色顔料?
6129		土師器	杯	(12.3)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6130		土師器	杯	(12.5)	(10.0)	3.1	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6131		土師器	杯	12.4	9.2	—	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	
6132		土師器	杯	12.8	9.3	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	赤色顔料不明
6133		土師器	杯	(12.8)	10.9	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂	
6134		土師器	杯	12.7	10.9	—	橙色(2.5YR7/8)	細砂、粗砂、礫	内面と口縁の一部スス 灯明に使用? 底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6135		土師器	杯	12.6	10.1	—	橙色(2.5YR7/6)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ 灯明皿として使用?
6136		土師器	杯	12.6	10.6	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6137		土師器	杯	(13.2)	(10.0)	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	胎土は灰白色
6138		土師器	杯	14.0	11.2	—	橙色(2.5YR6/6)	細砂	内外面とも赤色顔料なし
6139		土師器	杯	(13.8)	(11.5)	2.9	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面ケズリ?
6140		土師器	杯	13.6	10.1	3.3	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6141		土師器	杯	(13.8)	(11.0)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	内外面磨減
6142		土師器	杯	—	11.4	—	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	底部外面ケズリ?
6143		土師器	杯	(14.8)	(11.6)	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
6144		土師器	杯	(15.4)	—	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	
6145		土師器	杯	(15.8)	(11.2)	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	
6146		土師器	杯	(17.8)	—	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面ケズリ
6147		土師器	杯	—	(6.6)	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
6148		土師器	杯?	—	6.2	—	橙色(2.5YR6/8)	細砂	
6149		土師器	杯	—	8.1	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	貼付高台 底部外面押圧ナデ
6150		土師器	杯	—	8.9	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	
6151		土師器	杯?	—	9.2	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
6152		土師器	杯	—	11.3	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	内面スス
6153		土師器	杯	—	13.7	—	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	須恵器類似
6154		土師器	杯	(11.7)	—	—	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	貼付高台 赤色顔料不詳
6155		土師器	高杯	—	—	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	胎土灰白色
6156		土師器	皿	(13.1)	—	—	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	
6157		土師器	皿	(13.2)	11.6	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
6158		土師器	皿	13.6	12.0	—	橙色(5YR7/6)	細砂	内外面磨減
6159	土師器	皿	(14.0)	(12.0)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
6160	土師器	皿	(14.9)	(12.5)	1.7	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ	
6161	土師器	杯	(15.0)	(13.2)	—	淡橙色(5YR8/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ	
6162	土師器	皿	(15.8)	(13.5)	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	精良	内外面磨減	
6163	土師器	皿	(15.8)	(13.6)	—	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	内外面磨減	
6164	土師器	皿	(16.4)	(13.6)	—	橙色(5YR6/6)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ 赤色顔料不詳	
6165	土師器	皿	16.4	13.9	—	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂		
6166	土師器	皿	(17.4)	(16.1)	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
6167	土師器	皿	17.0	15.8	—	橙色(5YR7/6)	細砂		

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6168	河道 9	土師器	皿	16.7	14.2	2.0	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6169		土師器	皿	17.4	16.4	2.5	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6170		土師器	杯	(17.8)	16.1	—	橙色(5YR6/8)	細砂	内外面磨減 底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6171		土師器	皿	17.7	15.4	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	胎土は灰白色 底部外面周縁ヘラキリ 中央部押圧ナデ
6172		土師器	皿	(20.6)	(18.4)	2.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	底部内面ス
6173		土師器	皿	20.3	18.3	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
6174		土師器	皿?	—	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	内面線刻
6175		土師器	内黒碗	—	(6.8)	—	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	貼付高台 内面ス
6176		土師器	内黒碗?	—	10.0	—	浅黄橙色(7.5YR8/6)	細砂	底部外面押圧ナデ
6177		土師器	碗	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	高台の底に線刻
6178		土師器	甕	(14.6)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
6179		土師器	甕	(15.5)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
6180		土師器	甕	17.4	—	—	明褐色(7.5YR7/1)	細砂、粗砂	
6181		土師器	甕	16.8	—	—	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂、粗砂	
6182		土師器	甕	(19.1)	—	—	明赤褐色(2.5YR5/6)	細砂	
6183		土師器	甕	19.0	—	—	橙色(10YR7/6)	細砂	
6184		土師器	鍋	19.1	—	—	明赤褐色(2.5YR5/8)	細砂	
6185		土師器	甕	18.0	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	
6186		土師器	甕	(19.7)	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	
6187		土師器	甕	21.0	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂	黒斑B
6188		土師器	甕	(29.0)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂、粗砂	頸部沈線状の条痕
6189		土師器	甕	30.1	—	—	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
6190		土師器	甕	31.0	—	—	橙色(5YR7/6)	細砂	
6191		土師器	甕	30.4	—	—	橙色(5YR7/6)	粗砂、細砂	ススB 黒斑B
6192		土師器	甕	30.1	—	—	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	胴部沈線状の条痕?・刺突文風の痕? 胎土雲母目立つ
6193		土師器	甕	(33.0)	—	—	鈍橙色(5YR6/4)	細砂	
6194		土師器	甕	(34.1)	—	—	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂、粗砂	
6195		土師器	甕	(36.4)	—	—	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	ススA?
6196		土師器	甕	(37.8)	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	頸部沈線状の線1条
6197	土師器	甕	39.2	—	—	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂		
6198	柱穴81	青磁	碗	—	6.0	—	緑灰色(5G6/1)	精良	龍I-4
6199	柱穴82	土師器	竈	—	—	—	橙色(5YR6/6)	細砂、粗砂	
6200		土師器	皿	7.8	6.1	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ
6201		土師器	皿	7.6	5.8	1.5	灰白色(10YR8/1)	細砂	イトキリ
6202		土師器	皿	7.6	6.0	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	底部ヘラキリ
6203		土師器	皿	7.8	5.6	1.5	灰白色(10YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ
6204		土師器	皿	7.8	6.0	1.5	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部ヘラキリ
6205		土師器	高台付碗	—	(5.0)	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	
6206	柱穴83	土師器	皿	(6.2)	(4.3)	1.4	灰白色(7.5YR8/1)	細砂	底部ヘラキリ
6207	柱穴84	青白磁	合子	7.5	6.2	1.2	灰白色(10Y8/1)	精良	
6208	柱穴85	土師器	碗	11.0	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂	
6209		土師器	皿	7.2	6.2	1.2	灰白色(5YR8/2)	細砂	
6210		土師器	鍋	—	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	ススA
6211	柱穴86	土師器	高台付碗	—	5.4	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
6212		土師器	皿	6.6	5.6	1.1	淡橙色(5YR8/3)	細砂	
6213		土師器	皿	7.3	5.8	1.7	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6214		土師器	皿	—	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	底部ヘラキリ
6215		土師器	鍋	—	—	—	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	ユビオサエ
6216	柱穴87	土師器	鍋	38.4	—	—	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	外面ハケメ 内面ハケメ ススA
6217		白磁	皿	(9.0)	—	—	明刈-7' 灰色(2.5CY7/1)	精良	皿 VI-1-a
6218	柱穴88	土師器	皿	7.9	6.0	1.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ
6219		土師器	皿	7.1	5.6	1.6	灰白色(10YR8/2)	細砂	ヘラキリ
6220	柱穴89	土師器	皿	8.0	6.2	1.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ 完形
6221	柱穴90	土師器	皿	7.7	6.3	1.4	浅黄褐色(7.5YR8/4)	細砂	ヘラキリ
6222	柱穴91	土師器	皿	6.8	5.0	1.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6223	柱穴92	土師器	皿	7.6	6.6	1.7	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	内面スス 板目痕 完形
6224		土師器	小皿	7.8	5.9	1.3	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6225	柱穴93	土師器	小皿	(7.8)	(5.8)	1.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6226		白磁	碗	(17.0)	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂	12C中～後
6227	柱穴95	土師器	高台付碗	(14.1)	6.5	5.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂、礫	重ね焼痕 体部補修痕
6228	柱穴100	土師器	皿	7.7	6.1	1.2	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ヘラキリ ほぼ完形
6229	柱穴99	土師器	小皿	7.7	6.3	1.2	灰白色(10YR8/1)	細砂	ヘラキリ ほぼ完形
6230	柱穴97	青磁	碗	15.5	-	-	浅黄色(5Y7/3)	細砂	12C中～後
6231	柱穴98	青白磁	合子蓋	6.4	-	1.6	灰白色(2.5GY8/1)	精良	13C～
6232	柱穴96	土師器	鍋	35.5	-	-	鈍橙色(7.5YR5/3)	細砂、粗砂	ススB
6233	柱穴101	土師器	鍋	34.4	-	-	赤灰色(2.5YR4/1)	細砂	ススA
6234	柱穴104	土師器	碗	13.0	6.8	4.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	ヘラキリ底 未調整
6235	柱穴105	土師器	碗	13.4	6.2	4.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	貼付高台
6236	柱穴103	土師器	小皿	8.2	6.1	1.3	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	ヘラキリ底 圧痕 ロクロの回転方向不明
6237	柱穴107	土師器	小皿	7.9	6.6	1.5	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
6238	柱穴102	土師器	鍋	(36.5)	-	-	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	ススA
6239	柱穴106	土師器	鍋	33.8	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススA
6240		須恵器	蓋	-	-	-	灰色(N6/)	細砂	つまみ径3.2cm
6241		須恵器	杯蓋	15.0	-	-	灰色(5Y6/1)	細砂	外面ヘラケズリ 内面仕上げナデ
6242		須恵器	蓋	14.7	-	2.6	灰白色(7.5Y7/1)	細砂、粗砂	緑色の自然釉
6243		須恵器	皿	(16.5)	-	-	黄灰色(2.5Y6/1)	細砂	
6244		須恵器	蓋	19.6	-	-	灰白色(N7/)	細砂	
6245		須恵器	蓋	(20.4)	-	-	褐灰色(10YR4/1)	細砂	
6246		須恵器	杯	(11.8)	-	-	黒色(N2/)	細砂	焼成不良
6247		須恵器	杯身	(12.6)	(9.7)	4.2	灰白色(N7/)	粗砂	底面不詳
6248		須恵器	杯身	12.1	-	8.9	黒色(2.5Y2/1)	細砂、粗砂、礫	
6249		須恵器	杯	15.3	9.8	4.1	灰白色(2.5Y7/1)	細砂、粗砂	ススA'
6250		須恵器	杯	-	11.1	-	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	
6251		須恵器	杯	(14.7)	11.0	-	灰白色(N7)	細砂	
6252		須恵器	杯身	(15.7)	(10.6)	4.9	灰白色(5Y7/1)	細砂	
6253		須恵器	杯	(15.8)	(12.2)	4.4	灰白色(5Y7/1)	粗砂、礫	
6254		須恵器	杯?	-	(13.2)	-	灰白色(N7)	細砂	
6255		須恵器	壺?	-	-	-	灰白色(10YR7/1)	細砂	
6256		須恵器	?	-	11.0	-	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	砂粒左方向
6257		須恵器	鉢	18.0	8.2	10.3	灰色(5Y6/1)	細砂	ヨコナデ・沈線
6258		土師器	杯蓋	14.6	-	3.9	橙色(2.5YR7/6)	細砂、粗砂	丹塗り
6259	包含層	土師器	杯	(13.6)	-	-	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	丹塗り不詳 チョコレート色
6260		土師器	皿	12.3	8.2	3.3	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂	
6261		土師器	杯	(14.6)	(8.8)	-	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
6262		土師器	小皿	8.2	6.4	-	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6263		土師器	小皿	12.4	9.8	1.3	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂、粗砂	
6264		土師器	台付皿	18.6	10.2	4.0	橙色(5YR6/6)	精良	ヨコナデ・ヘラミガキ
6265		土師器	台付皿	-	14.0	-	橙色(5YR7/8)	細砂	外面ヨコナデ 内面ヘラケズリ後ナデ
6266		土師器	杯	-	(9.8)	-	橙色(5YR7/6)	粗砂	外面丹塗り
6267		土師器	碗	-	(9.2)	-	鈍赤橙色(5YR5/4)	粗砂	高台内外面丹塗り
6268		土師器	碗	10.9	5.9	4.2	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	貼付高台
6269		土師器	内黒碗	-	7.9	-	灰白色(10YR8/2) 鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂	黒斑C
6270		土師器	鍋?	-	-	-	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂	
6271		土師器	鍋	(28.4)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	ススB
6272		土師器	鍋	(38.0)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂	
6273		土師器	鍋	(43.4)	-	-	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	
6274		須恵器	風字硯	-	-	-	灰色(N6/)	精良	
6275		瓦	丸瓦	-	-	-	灰褐色(5YR5/2)	細砂	内面布目 最大長7.95 最大幅4.4 最大厚1.4cm
6276		瓦	平瓦	-	-	-	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	
6277		瓦	平瓦	-	-	-	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	

角田調査区土器観察表

挿図 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6278		須恵器	壺	17.0	—	—	灰色(N5/)	細砂	
6278		須恵器	壺	—	—	—	灰色(N5/)	細砂	
6279		瓦器	こね鉢	—	—	—	褐灰色(10YR4/1)	細砂	外面ユビオサエ 内面ハケメ後ユビナデ
6280		瓦器	こね鉢	—	—	—	灰白色(10YR7/1)	細砂	ヨコナデ
6281		須恵器	こね鉢	—	—	—	灰色(N6/)	細砂	ヨコナデ
6282		須恵器	こね鉢	—	(10.0)	—	灰色(N5/)	細砂	
6283		亀山焼	壺	—	—	—	灰白色(N4)	細砂、粗砂	
6284		須恵器	こね鉢	(29.2)	—	—	灰色(N6/)	細砂	
6285		青磁	碗	15.4	5.8	6.5	オリーブ灰色(10Y6/2)	精良	龍 I-1-b 『金玉満堂』
6286		青磁	碗	16.0	—	—	オリーブ黄色(7.5Y6/3)	精良	龍皿 I-1-b
6287		青磁	高台付碗	16.0	6.0	7.7	灰白色(10Y7/1)	精良	高台内面の一部に釉
6288		青磁	皿	10.4	4.8	2.2	明緑灰色(5G7/1)	精良	龍皿 I-2-b
6289		青磁	皿	9.2	4.0	2.5	オリーブ灰色(10Y6/2)	精良	龍皿 I-2-a
6290		青白磁	合子蓋	—	—	—	明オリーブ灰色(5GY7/1)	細砂、精良	
6291		白磁	碗	—	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂、精良	
6292		青磁	碗	—	—	—	オリーブ灰色(10Y5/2)	細砂、精良	
6293		白磁	碗	—	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂	
6294		白磁	碗	—	—	—	灰白色(10Y7/2)	細砂、精良	
6295		白磁	碗	—	—	—	オリーブ灰色(7.5Y6/2)	細砂、精良	
6296		白磁	碗	—	—	—	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、精良	IV類
6297		白磁	碗	—	—	—	灰白色(10Y8/1)	細砂、精良	IV類
6298		白磁	碗	—	—	—	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	細砂、精良	IV類
6299		白磁	碗	—	—	—	灰白色(7.5Y7/2)	細砂、精良	IV類
6300		白磁	碗	—	5.8	(4.0)	灰オリーブ色(7.5Y6/2)	細砂	見込み部分に釉のハギ取り
6301		白磁	高台付碗	—	5.1	—	オリーブ灰色(10Y6/2)	精良	
6302		広東産白磁	皿	10.8	3.0	2.6	明オリーブ灰色(5GY7/1)	精良	中国? 6類 6-1-a
6303		白磁	皿	9.5	3.6	2.0	灰白色(2.5GY8/1)	精良	皿 III-1
6304		土師器	高台付碗	16.3	6.4	5.2	灰白色(5Y8/1)	細砂、粗砂	
6305	包含層	土師器	碗	15.0	6.9	5.1	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6306		土師器	高台付碗	(14.3)	6.2	4.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	重ね焼痕
6307		土師器	高台付碗	14.4	5.4	5.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
6308		土師器	碗	13.7	6.3	4.7	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂	完形
6309		土師器	高台付碗	14.0	6.2	5.2	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ほぼ完形
6310		土師器	高台付碗	14.3	6.1	4.4	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂、礫	
6311		土師器	高台付碗	(13.9)	6.4	4.0	灰白色(7.5Y8/2)	細砂、粗砂、礫	重ね焼痕
6312		土師器	高台付碗	(14.1)	6.2	4.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	
6313		土師器	高台付碗	13.3	5.3	5.1	灰白色(2.5Y8/1)	細砂	ほぼ完形
6314		土師器	高台付碗	12.8	5.7	5.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6315		土師器	高台付碗	12.9	6.3	4.9	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
6316		土師器	碗	13.3	6.0	4.1	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂	
6317		土師器	高台付碗	12.8	5.2	4.5	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ススA
6318		土師器	高台付碗	12.8	6.1	4.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
6319		土師器	高台付碗	11.5	4.3	3.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	
6320		土師器	高台付碗	11.3	4.4	4.2	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	完形
6321		土師器	高台付碗	11.0	4.4	3.6	灰白色(10YR8/2)	精良	
6322		土師器	高台付碗	10.5	3.8	5.1	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6323		土師器	高台付碗	10.8	4.0	4.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
6324		土師器	高台付碗	9.0	3.0	31.0	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6325		土師器	高台付碗	10.6	4.0	3.3	浅黄橙色(7.5YR8/3)	精良	
6326		土師器	高台付碗	9.4	3.9	4.0	灰白色(10YR8/2)	細砂、粗砂	
6327		土師器	高台付碗	9.4	4.0	3.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
6328		土師器	碗	11.2	—	—	灰白色(7.5YR8/2)	細砂、粗砂	
6329		土師器	碗	10.6	5.0	4.2	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂、粗砂	
6330		土師器	皿	8.6	7.6	7.4	灰白色(7.5YR7/2)	精良	ヘラキリ ほぼ完形
6331		土師器	小皿	8.5	6.2	1.7	灰白色(2.5Y8/1)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6332		土師器	皿	9.1	6.8	1.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂、粗砂	外面底ヘラケズリ
6333		土師器	皿	8.3	6.0	1.5	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂	ヘラキリ

角田調査区土器観察表

挿図番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6334	包含層	土師器	皿	8.3	6.1	11.5	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	ヘラキリ
6335		土師器	皿	(31.2)	—	—	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	
6336		土師器	皿	8.0	6.8	1.0	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ヘラキリ
6337		土師器	小皿	7.8	6.6	1.7	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6338		土師器	小皿	7.4	4.8	1.3	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	板目痕 完形
6339		土師器	杯	7.4	5.8	1.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ロクロの回転右 イトキリ底
6340		土師器	小皿	7.7	5.4	1.6	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂、粗砂	ヘラキリ ほぼ完形
6341		土師器	小皿	8.2	6.1	1.6	橙色(2.5YR7/6)	細砂	ヘラキリ ほぼ完形 ススC
6342		土師器	皿	7.8	5.5	1.3	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	底部板状工具痕 完形
6343		土師器	皿	(7.0)	5.4	1.3	橙色(5YR7/6)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6344		土師器	皿	6.9	6.0	1.1	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	
6345		土師器	皿	7.1	5.6	1.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	底部板状工具痕
6346		土師器	皿	(6.6)	(5.2)	1.2	灰白色(2.5Y8/1)	粗砂、礫	ヘラキリ
6347		土師器	皿	6.8	5.6	1.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	精良	ヘラキリ
6348		土師器	皿	6.9	6.2	1.1	淡橙色(5YR8/3)	細砂	底部板状工具痕
6349		土師器	皿	—	—	—	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ヘラキリ
6350		土師器	皿	6.7	6.0	1.3	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂、粗砂	底部ヘラキリ
6351		土師器	皿	6.8	5.0	1.3	鈍橙色(5YR7/4)	精良	ヘラキリ後ナデ
6352		土師器	皿	7.0	5.4	1.2	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	
6353		土師器	皿	7.1	5.2	1.5	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂、粗砂	完形
6354		土師器	皿	7.1	6.0	1.4	褐灰色(10YR4/1)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6355		土師器	小皿	7.4	5.9	1.5	橙色(7.5YR7/6)	細砂	
6356		土師器	皿	6.7	5.1	1.3	淡橙色(5YR8/3)	細砂	ヘラキリ
6357		土師器	皿	6.0	4.8	1.3	灰白色(2.5Y7/1)	細砂	ヘラキリ
6358		土師器	小皿	7.4	5.7	1.2	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂	
6359		土師器	小皿	7.4	5.6	1.2	灰白色(10YR8/2)	細砂	
6360		土師器	灯明皿	7.2	4.7	1.2	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	底部ヘラキリ後板状工具痕 完形 ススA
6361		土師器	皿	6.4	—	1.3	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	ヘラキリ後板目痕 植物圧痕?
6362		土師器	皿	(5.3)	4.4	0.8	褐灰色(10YR4/1)	細砂	ヘラキリ
6363		土師器	皿	11.8	(7.6)	(2.7)	灰白色(7.5Y8/1)	細砂	
6364		土師器	杯	—	9.2	—	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6365		土師器	皿	7.2	5.4	1.8	灰白色(5Y8/1)	細砂	底部穿孔
6366		土師器	小杯	8.0	4.9	2.1	橙色(7.5YR7/6)	精良	ヘラキリ
6367		土師器	小杯	7.4	5.0	2.5	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂	ヘラキリ
6368		土師器	小皿	8.8	5.0	2.7	鈍橙色(5YR7/4)	細砂	ヘラキリ
6369		土師器	皿	—	8.1	2.7	鈍橙色(5YR6/4)	細砂、粗砂	
6370		土師器	皿	6.9	5.7	2.9	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ
6371		土師器	小杯	7.5	5.0	2.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ 完形
6372		土師器	小杯	7.5	4.8	2.6	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	ヘラキリ 完形
6373		土師器	小杯	7.7	4.8	2.7	灰白色(10YR8/1)	細砂	ヘラキリ 完形
6374		土師器	小杯	7.8	4.9	2.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ
6375		土師器	小杯	7.5	5.5	2.7	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ ススA
6376		土師器	器台	8.0	5.0	2.9	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂	ヘラキリ ほぼ完形
6377	土師器	小杯	8.3	5.7	2.8	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ 完形	
6378	土師器	小杯	7.9	4.8	2.8	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	ヘラキリ	
6379	土師器	小杯	7.5	4.8	2.8	灰白色(7.5YR8/1)	細砂、粗砂、礫	ヘラキリ 完形	
6380	土師器	小杯	8.0	5.1	2.9	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂、粗砂	ヘラキリ ほぼ完形	
6381	土師器	小杯	8.2	4.9	3.3	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	ヘラキリ	
6382	土師器	小杯	8.9	5.2	3.4	浅黄色(2.5Y7/3)	細砂		
6383	土師器	小杯	—	5.1	—	鈍橙色(10YR7/4)	細砂	ヘラキリ	
6384	土師器	台付杯	8.5	10.6	5.7	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂		
6385	土師器	皿	9.2	—	—	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂		
6386	土師器	皿	13.8	8.3	6.8	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		
6387	土師器	土鍋	30.4	—	—	灰褐色(7.5YR6/2)	細砂	ススA	
6388	土師器	鍋	27.8	—	—	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂、粗砂		
6389	土師器	鍋	(31.4)	—	—	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		

角田調査区土器観察表

挿入 番号	掲載遺構名	種別	器種	法量 (cm)			色調	胎土	特徴
				口径	底径	器高			
6390	包含層	土師器	鍋	-	-	-	鈍赤褐色 (7.5YR7/3)	細砂	ススA
6391		土師器	鉢	-	-	-	鈍黄色 (2.5Y6/3)	細砂、粗砂	
6392		土師器	鍋	-	-	-	鈍橙色 (5YR7/3)	細砂	外面ユビオサエ ススC
6393		瓦器	羽釜	22.0	-	-	灰色 (5Y6/1)	細砂	ヨコナデ
6394		土師器	羽釜	24.8	-	-	鈍黄橙色 (10YR7/3)	細砂	ススA
6395		土師器	竈	-	-	-	橙色 (5YR6/6)	細砂、粗砂、礫	
6396		土師器	竈	-	-	-	橙色 (5YR7/6)	粗砂	
6397		土師器	竈	-	-	-	灰褐色 (7.5YR4/2)	細砂、粗砂、礫	

土製品一覽表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	法量(mm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C 1	B-6	土錘	41.0	8.0	-	3.0	2.75	褐灰色(10YR4/1)		中世	
C 2	堅穴住居 1	土錘	70.0	22.0	-	6.5	34.61	灰白色(10YR8/1)	細砂	古・後・III	完形
C 3		土錘	68.5	20.5	-	(6.5)	31.10	灰白色(10YR8/2)	細砂		完形
C 4		土錘	70.5	22.5	-	5.0	36.75	灰白色(10YR8/2)	細砂, 礫		完形
C 5		土錘	69.0	22.0	-	5.5	36.20	浅黄橙色(7.5YR8/2)	細砂		ほぼ完形
C 6		土錘	(55.0)	20.0	-	(6.0)	20.78	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
C 7		土錘	62.0	27.0	-	5.0	40.82	灰白色(10YR8/2)	細砂		ほぼ完形
C 8		土錘	48.0	27.0	-	7.5	32.52	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C 9		土錘	51.2	25.5	-	(7.0)	35.64	灰白色(10YR8/2)	細砂		完形
C 10		土錘	50.5	25.0	-	(7.0)	30.99	橙色(5YR6/8)	細砂, 礫		完形
C 11		土錘	52.0	20.0	-	(6.0)	23.92	橙色(5YR6/8)	粗砂, 礫		ほぼ完形
C 12		土錘	49.5	29.0	-	6.5	19.59	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		完形
C 13		土錘	47.0	20.0	-	(6.0)	19.04	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		完形
C 14		土錘	46.0	23.0	-	7.0	25.53	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂		完形
C 15		土錘	46.0	19.0	-	5.5	15.85	灰白色(10YR8/2)	細砂		ほぼ完形
C 16		土錘	49.5	25.0	-	(6.5)	30.40	鈍橙色(7.5YR7/3)	礫		完形
C 17		土錘	45.0	22.0	-	5.5	18.64	灰白色(10YR8/1)	細砂, 粗砂, 礫		
C 18		土錘	(42.5)	19.5	-	6.0	19.66	灰白色(10YR8/2)	粗砂		
C 19		土錘	48.0	26.0	-	(6.0)	32.34	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		完形
C 20		土錘	48.0	20.0	-	5.5	18.45	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂, 粗砂		完形
C 21		土錘	41.0	24.0	-	(6.0)	25.77	橙色(7.5YR7/6)	細砂, 礫		完形
C 22		土錘	44.0	24.0	-	8.0	26.40	褐灰色(10YR5/1)	細砂, 粗砂		完形
C 23		土錘	(37.5)	21.0	-	(5.5)	14.14	橙色(2.5YR6/6)	粗砂		
C 24		土錘	32.0	17.0	-	5.5	7.85	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂, 粗砂		
C 25		土錘	28.5	23.0	-	5.5	14.71	灰白色(2.5Y8/1)	細砂, 粗砂		
C 26	土錘	31.0	22.0	-	6.0	17.04	灰白色(10YR8/1)	細砂			
C 27	土錘	(27.2)	18.0	-	7.5	7.34	橙色(2.5YR7/6)	細砂			
C 28	土錘	60.0	20.0	-	6.0	23.56	灰白色(10YR8/1)	細砂, 礫	L字型に孔		
C 29	包含層	土錘	72.5	21.5	-	(6.5)	37.13	橙色(7.5YR7/6)	細砂	古	完形
C 30		土錘	57.0	22.5	-	(6.5)	30.47	鈍橙色(5YR7/4)	細砂, 礫		完形
C 31		土錘	55.5	23.0	-	(7.0)	30.00	灰白色(2.5Y8/2)	細砂, 礫		完形
C 32		土錘	54.5	20.0	-	7.0	27.12	灰白色(7.5YR8/1)	細砂		完形
C 33		土錘	62.5	22.5	-	(6.0)	27.73	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂		
C 34		土錘	57.0	20.0	-	(6.0)	21.99	灰白色(10YR8/2)	細砂, 礫		ほぼ完形
C 35		土錘	48.0	24.0	-	(6.0)	31.71	橙色(7.5YR7/6)	細砂		完形
C 36		土錘	(36.0)	19.0	-	6.0	8.87	鈍橙色(5YR7/4)	細砂, 礫		
C 37		土錘	(29.0)	20.0	-	4.0	12.24	灰褐色(5YR5/2)	精良		
C 38		土錘	(41.0)	19.0	-	(5.5)	12.24	浅黄橙色(10YR8/3)	細砂		
C 39		土錘	(44.5)	20.5	-	(6.5)	17.97	灰白色(2.5Y8/2)	細砂, 礫		
C 40		土錘	(43.0)	21.5	-	(6.5)	17.64	灰白色(2.5Y8/2)	細砂		
C 41		土錘	(41.0)	24.5	-	7.5	25.74	橙色(5YR6/8)	粗砂		
C 42		土錘	49.0	18.0	-	(7.5)	13.57	灰黄色(2.5Y7/2)	細砂		ほぼ完形
C 43		土錘	(47.0)	21.0	-	5.0	17.70	灰白色(7.5YR8/2)	細砂		
C 44		土錘	42.0	16.0	-	5.0	6.99	灰白色(2.5Y8/1)	細砂, 粗砂		
C 45		土錘	(24.5)	16.0	-	4.0	4.71	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂, 礫		
C 46	溝 3	土錘	(47.0)	8.5	-	(2.5)	3.05	橙色(2.5YR7/6)	精良	中世	ほぼ完形
C 47	溝 8	土錘	(40.0)	10.0	-	(3.5)	4.18	鈍黄橙色(10YR7/2)	精良	中世	ほぼ完形
C 48	柱穴	土錘	(32.0)	8.5	-	3.0	2.62	鈍赤褐色(2.5YR5/4)	細砂	中世	
C 49		土錘	(23.0)	9.5	-	3.5	1.81	浅黄橙色(10YR8/4)	精良		
C 50	包含層	紡錘車?	24.0	20.0	9.0	なし	6.54	灰色(N6/)	精良	中世	須恵器 転用品
C 51		土錘	(60.0)	13.0	-	(3.0)	7.97	淡橙色(5YR8/4)	細砂		ほぼ完形
C 52		土錘	54.0	14.0	-	3.0	9.86	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂		完形
C 53		土錘	51.0	11.5	-	(3.2)	6.40	橙色(5YR6/8)	細砂		完形
C 54		土錘	47.0	9.0	-	(2.5)	3.07	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		ほぼ完形
C 55		土錘	45.0	10.5	-	(4.0)	4.51	鈍橙色(7.5YR7/3)	精良		ほぼ完形
C 56		土錘	46.0	10.0	-	(3.0)	4.27	灰白色(10YR8/1)	精良		ほぼ完形
C 57		土錘	48.0	8.0	-	(2.5)	2.43	淡赤橙色(2.5YR7/3)	精良		完形
C 58		土錘	(44.0)	10.0	-	(2.5)	3.92	鈍橙色(5YR6/4)	細砂		ほぼ完形



土製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	法量(mm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C59	包含層	土錘	(39.5)	11.0	—	(3.0)	4.64	赤橙色(10R6/6)	細砂	中世	
C60		土錘	(23.0)	10.5	—	(4.0)	2.33	灰白色(5YR8/1)	細砂		
C61		土錘	(23.0)	9.0	—	2.5	1.21	鈍赤橙色(10R6/4)	精良		
C62	竪穴住居6	紡錘車	57.0	26.0	3.0	8.0	10.54	黒(7.5YR2/1)	細砂	弥・後・II	土器片の転用
C63		紡錘車	49.0	46.0	7.0	7.1	18.54	黒(2.5Y2/1)	粗砂～細砂		
C64		紡錘車	51.0	25.0	6.0	6.0	11.54	橙(5YR7/6)	細砂		土器片の転用
C65		紡錘車	50.0	36.0	6.0	4.8	13.96	黒褐(10YR3/2)	粗砂～細砂		土器片の転用
C66		紡錘車	48.0	46.0	6.0	3.1	15.12	灰黄褐(10YR5/2)	細砂		土器片の転用
C67		紡錘車	43.0	34.0	4.0	4.0	8.18	鈍褐(7.5YR6/3)	細砂		土器片の転用
C68		紡錘車	43.0	40.0	5.0	4.8	9.83	鈍褐(7.5YR5/4)	粗砂～細砂		土器片の転用
C69		紡錘車	44.0	39.0	4.0	6.2	8.64	橙(7.5YR7/6)	粗砂～細砂		土器片の転用
C70		紡錘車	36.0	35.0	4.0	4.0	6.10	浅橙(5YR8/4)	細砂		土器片の転用
C71		紡錘車	42.0	41.0	4.0	4.6	9.11	橙(5YR7/6)	粗砂～細砂		土器片の転用
C72		紡錘車	58.0	54.0	7.0	3.5	21.93	橙(2.5YR6/8)	細砂,粗砂		土器片の転用
C73		分銅形	78.0	68.0	17.0	—	110.46	黒褐(10YR3/1)	細砂		
C74	竪穴住居8	紡錘車	21.0	21.0	5.0	3.5	2.67	明褐灰色(7.5YR7/2)	細砂	弥・後・I	
C75	竪穴住居9	円板状	63.0	58.0	7.5	—	41.56	橙色(5YR6/6)	細砂	弥・後・III～IV	
C76	竪穴住居10	土錘	(41.0)	19.0	—	7.0	17.91	灰褐色(7.5YR5/2)	細砂	弥・後・後半	
C77	竪穴住居16	紡錘車	39.0	42.5	5.0	6.0	7.87	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	弥・後・III～IV	表面スス
C78	袋状土壙11	勾玉	48.0	17.0	15.0	4.0	21.13	灰白色(10YR8/2)	細砂	弥・後・I	
C79		円板状	39.5	38.0	5.0	—	10.75	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
C80	袋状土壙23	円板状	(28.0)	41.0	7.0	—	9.47	鈍橙色(5YR6/3)	細砂	弥・後・I	
C81	袋状土壙35	分銅形	89.0	100.5	21.0	—	196.22	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	弥・後・I	
C82	土壙88	土玉	19.5	18.0	—	3.0	5.87	橙色(2.5YR6/8)	細砂	弥・後・I	
C83	包含層	紡錘車	45.0	42.0	5.0	3.9	12.09	浅黄橙(7.5YR8/6)	細砂～粗砂	弥	
C84		紡錘車	41.0	41.0	3.0	7.0	8.07	橙(5YR7/8)	細砂～粗砂		
C85		紡錘車	45.5	49.0	7.0	6.5	14.79	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂		完存
C86		紡錘車	41.0	40.5	4.5	4.0	7.91	鈍黄褐色(10YR7/3)			
C87		土錘?	37.0	22.0	—	4.8	24.47	浅黄橙(7.5YR8/3)	細砂		紡錘車?
C88		土錘	30.0	26.0	—	3.0	13.59	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂		沈線
C89	竪穴住居23	土錘	46.0	9.0	—	3.0	3.42	明赤褐(2.5YR5/8)	細砂	古・後・II	指圧痕
C90		フイゴ羽口	(49.0)	(30.9)	(17.2)	—	2.58	暗青灰色(5BG4/1)			
C91	竪穴住居37	土玉	27.0	20.0	—	3.0	12.13	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	古・中・I	完形
C92	竪穴住居40	紡錘車	48.0	48.0	21.0	9.0	59.00	黒褐色(7.5YR3/1)	粗砂	古・後・II	表面スス
C93	竪穴住居46	土錘	(52.5)	37.0	—	(14.0)	35.35	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	古・中・I	
C94		土錘	108.0	35.5	—	17.0	132.41	鈍橙色(7.5YR6/4)	細砂	古・中・I	黒斑
C95	包含層	土錘	65.0	27.0	—	3.8	43.91	明赤褐(2.5YR5/8)	粗砂～細砂	古	
C96		土錘	51.0	20.0	—	6.1	15.30	淡橙(5YR8/4)	細砂		
C97		土錘	(46.0)	22.0	—	5.9	21.14	橙(5YR7/8)	細砂,礫		
C98		鏡形	54.0	37.0	20.0	3.0	21.60	黄灰(2.5Y5/1)	細砂		
C99		鏡形?	34.0	34.0	16.5	2.0	11.78	橙色(5YR7/6)	細砂		
C100	掘立柱建物20	土錘	(30.0)	8.0	—	2.1	2.16	橙(2.5YR7/8)	—	中世	
C101	掘立柱建物31	土錘	68.0	10.0	—	4.0	7.05	灰白色(10YR8/2)	細砂	中世	完存
C102	井戸5	土錘	(34.0)	8.0	—	3.0	2.17	橙色(2.5YR7/6)	細砂	中世	
C103	土壙180	土錘	40.5	10.0	—	3.0	3.52	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂	中世	
C104	溝32	土錘	48.0	13.0	—	5.0	8.07	橙色(5YR6/6)	細砂	中世	
C105	柱穴11	土錘	(49.0)	14.0	—	6.0	8.94	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂	中世	
C106	柱穴13	土錘	43.0	9.0	—	2.0	2.37	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	中世	ほぼ完形
C107	包含層	土錘	56.0	14.0	—	4.0	9.09	淡橙色(5YR8/3)	細砂	古代・中世	ほぼ完形
C108		土錘	48.0	10.0	—	3.2	5.15	橙(5YR7/6)	細砂	中世	
C109		土錘	43.5	13.5	—	3.5	7.64	鈍橙色(5YR7/3)	細砂	古代・中世	完存
C110		土錘	42.0	9.0	—	3.0	2.98	浅黄橙(7.5YR8/3)	細砂	中世	指圧痕
C111		土錘	4.0	9.5	—	2.0	3.04	鈍褐色(7.5YR7/4)	細砂	古代・中世	完形
C112		土錘?	(31.0)	17.0	—	3.5	7.53	鈍褐色(5YR6/3)	細砂	古代・中世	
C113	近世素掘溝	土錘	45.0	17.0	—	6.0	11.23	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	近世	
C114		土錘	42.0	9.5	—	2.0	3.24	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂		ほぼ完形
C115		土錘	(25.0)	8.5	—	3.0	1.54	鈍褐色(5YR7/3)	細砂		
C116		土錘	(24.0)	8.0	—	3.0	1.43	鈍褐色(2.5YR6/3)	細砂		

土製品一覽表

掲載番号	掲載遺構名 / 調査地点名	器種	法量 (mm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C117	近世素掘溝	平板状	35.0	34.0	16.0	—	24.31	明褐色(5YR7/2)	細砂	近世	備前焼
C118	竪穴住居53	紡錘車	58.0	57.0	10.0	なし	33.42	橙色(5YR6/8)	粗砂	弥・後	土器片の転用 未製品
C119		紡錘車	55.0	53.0	10.0	なし	40.54	橙色(7.5YR7/6)	粗砂		土器片の転用 未製品
C120		紡錘車	30.0	37.0	5.0	なし	7.69	鈍橙色(5YR7/4)	細砂		土器片の転用 未製品
C121		紡錘車	43.0	42.0	6.0	なし	13.41	鈍橙色(5YR7/4)	粗砂		土器片の転用 未製品
C122		紡錘車	30.0	31.0	9.0	なし	8.01	橙色(5YR6/8)	細砂		土器片の転用 未製品
C123	竪穴住居54	紡錘車	34.0	36.0	4.0	(4.5)	6.22	浅黄褐色(7.5YR8/4)	粗砂	弥・後	土器片の転用 未製品
C124		紡錘車	46.0	45.0	6.0	なし	12.71	橙色(2.5YR7/8)	粗砂～細砂	弥・後・IV	土器片の転用 未製品
C125	竪穴住居 61a・b	紡錘車	42.0	44.5	2.5	なし	7.18	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	弥・後	土器片の転用
C126		紡錘車	36.0	35.0	4.0	7.0	6.23	橙色(2.5YR6/6)	細砂		土器片の転用 未製品
C127	竪穴住居63	紡錘車	50.0	64.0	7.0	13.0	25.82	橙色(2.5YR6/6)	細砂	弥・後・I～	土器片の転用 未製品
C128	竪穴住居70	土錘	(45.5)	30.0	13.5	6.0	(33.39)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂, 粗砂	弥・後・III～IV	
C129	竪穴住居71	土錘	27.0	32.0	16.0	3.0	(20.68)	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	弥・後・I	
C130	竪穴住居77	紡錘車	53.5	54.0	10.2	6.0	27.01	鈍赤褐色(2.5YR5/3)	細砂	弥・後・IV	
C131		土錘?	24.0	21.0	(12.0)	なし	(5.42)	灰色(5Y4/1)	細砂		
C132	竪穴住居91	紡錘車	55.0	59.5	4.6	なし	19.80	鈍褐色(5YR7/3)	細砂, 粗砂	弥・後・IV	上面凹み2か所 未製品
C133		玉	19.0	24.0	—	なし	8.82	橙色(5YR6/6)	細砂	弥・後	刺突文 ほぼ完形
C134	竪穴住居93	紡錘車	(47.0)	(29.3)	5.5	7.0	(9.55)	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	弥・後	
C135	竪穴住居94	紡錘車	(40.0)	49.0	5.6	7.0	(12.94)	黒色(10YR2/1)	細砂, 粗砂	弥・後・IV	
C136		紡錘車?	30.0	34.0	5.0	なし	6.18	橙色(2.5YR7/6)	細砂, 粗砂, 礫		未製品?
C137	竪穴住居95	土錘	44.5	34.0	—	5.5	52.96	橙色(2.5YR7/6)	細砂	弥・後・IV?	完形
C138	竪穴住居102	紡錘車?	26.0	24.0	4.0	—	2.90	明褐色(7.5YR5/6)	細砂	弥	
C139	竪穴住居103	紡錘車	47.0	(28.5)	4.5	(11.0)	7.99	橙色(5YR6/6)	細砂	弥	
C140		紡錘車	48.0	43.0	5.0	5.0	12.22	橙色(5YR6/8)	細砂		焼成やや不良
C141		紡錘車	30.0	28.0	6.0	4.0	6.09	橙色(5YR6/6)	細砂		
C142		紡錘車	33.0	31.0	5.0	4.0	5.33	橙色(5YR6/6)	細砂		焼成やや不良
C143		紡錘車	41.5	34.0	4.0	6.0	6.53	鈍黄褐色(10YR7/4)	細砂		焼成やや不良
C144		紡錘車	38.0	37.0	5.3	5.5	8.99	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂		
C145		竪穴住居104	紡錘車	32.5	31.0	5.0	4.0	4.69	明褐色(7.5YR5/6)		細砂
C146	竪穴住居105	紡錘車	36.0	31.0	3.0	5.0	4.10	鈍褐色(7.5YR5/3)	細砂	—	焼成不良
C147	竪穴住居110	紡錘車	40.5	38.0	35.0	4.5	9.58	鈍褐色(6YR6/4)	細砂	弥	焼成やや不良
C148	竪穴住居119	紡錘車	26.5	26.5	4.5	3.5	3.53	鈍赤褐色(5YR5/3)	細砂	弥・後・III	ほぼ完形
C149	袋状土壘103	土玉	—	—	8.0	—	5.37	黒褐色(2.5Y3/1)	細砂	弥	
C150	方形土壘61	土錘	57.0	26.0	—	6.5	28.19	橙色(5YR7/6)	細砂	弥・後	ほぼ完形
C151	方形土壘65	土錘	(46.0)	31.5	—	6.0	(40.46)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	弥・後	
C152	方形土壘107	丁字頭勾玉	(36.0)	(16.5)	(19.5)	3.5	(14.48)	橙色(5YR6/6)	細砂	弥	
C153	方形土壘139	土偶	(5.0)	2.0	2.0	—	22.32	鈍黄褐色(10YR7/2)	細砂	弥	
C154	方形土壘146	紡錘車	46.0	(26.0)	5.0	6.0	8.94	橙色(7.5YR6/6)	細砂	弥	
C155	土壘205	土錘	78.0	42.0	—	7.2	140.17	灰黄褐色(10YR4/2)	細砂	弥・後・II	
C156	土壘335	紡錘車	51.0	49.0	6.0	3.0	19.72	鈍赤褐色(5YR5/4)	細砂	弥・後・III～IV	
C157	土壘401	棒状	83.0	33.0	26.0	—	77.93	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	弥・後・I	
C158	包含層	土錘	80.0	39.0	—	10.5	129.83	橙色(2.5YR6/6)	粗砂～細砂	弥	
C159		土錘	75.0	41.0	—	9.0	127.33	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	弥	
C160		土玉	18.5	16.0	—	2.0	4.10	橙色(5YR6/6)	—	古・中・I?	完存
C161		紡錘車	(36.5)	47.5	8.6	7.0	(16.56)	橙色(7.5YR6/6)	細砂	弥・後	
C162		紡錘車	48.0	41.0	5.0	5.0	12.79	鈍赤褐色(5YR5/3)	粗砂～細砂	弥	土器片の転用
C163		紡錘車	33.0	32.0	5.0	5.0	5.32	橙色(7.5YR7/6)	細砂	—	焼成やや不良
C164		紡錘車	47.5	43.0	7.1	3.5	16.62	鈍褐色(7.5YR6/4)	細砂	—	
C165	紡錘車	63.0	60.0	8.0	なし	39.38	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	古・前・III～	土器片の転用 未製品	
C166	包含層	把手付碗	5.3	—	5.8	—	139.05	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂	—	手握ね 完形 最短長4.7mm
C167	竪穴住居133	土錘	82.0	40.0	—	18.0	128.68	鈍褐色(5YR7/4)	粗砂～細砂	古・前・III～	
C168	竪穴住居141	土錘	42.0	31.0	—	3.5	39.66	灰赤色(2.5YR6/2)	細砂, 粗砂	古・中	完形
C169		土錘	(37.0)	28.5	—	4.5	(30.37)	鈍褐色(5YR6/4)	細砂		
C170	竪穴住居142	土錘	36.0	41.0	—	9.0	(36.86)	鈍褐色(5YR7/4)	細砂	古・中	
C171	竪穴住居158	土錘	36.5	13.0	—	4.5	5.94	明褐色(7.5YR7/2)	細砂	古	
C172	竪穴住居160	土錘	38.0	8.0	—	4.0	3.74	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	古	
C173		土錘	35.0	8.0	—	3.0	3.64	橙色(5YR7/6)	細砂		焼成やや不良

土製品一覽表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	法量(mm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C174	竪穴住居160	土鏝	39.0	9.0	-	3.0	4.04	灰白色(10YR8/1)	細砂	古	
C175	竪穴住居169	紡錘車	50.0	48.0	23.0	9.0	53.06	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	古	
C176	竪穴住居174	?	(89.5)	76.2	6.0	-	430.82	褐灰色(10YR5/1)	粗砂, 砂礫	古	
C177	竪穴住居175	土鏝	(56.0)	17.0	-	5.0	(15.24)	橙色(5YR6/6)	細砂	古・後	
C178		土鏝	(57.0)	16.5	-	5.5	(12.01)	褐灰色(10YR4/1)	細砂, 粗砂, 礫		
C179		土鏝	(51.5)	16.0	-	5.0	(13.51)	黒褐色(2.5Y3/1)	細砂		
C180		土鏝	(38.0)	15.0	-	6.5	(8.61)	黒褐色(10YR3/2)	細砂		
C181		土鏝	(47.5)	17.0	-	5.5	11.01	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂		
C182	竪穴住居179	土鏝	47.0	12.0	-	3.5	6.95	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂	古・中・I~II	ほぼ完形
C183		土鏝	(45.0)	11.0	-	3.5	5.33	橙色(5YR6/6)	細砂		
C184	竪穴住居182	土鏝	(26.0)	11.5	-	3.5	2.63	橙色(5YR6/6)	細砂	古・後・II?	
C185	竪穴住居191	土鏝	65.0	14.0	-	5.0	11.20	橙色(5YR6/8)	細砂	古・中・II	ほぼ完形
C186		土鏝	66.0	18.0	-	6.5	16.79	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		ほぼ完形
C187		土鏝	55.0	15.5	-	6.0	9.71	橙色(7.5YR7/3)	細砂		ほぼ完形
C188		土鏝	(51.0)	13.0	-	5.0	(5.81)	橙色(5YR6/8)	細砂		接合不能
C189		土鏝	34.5	12.0	-	4.5	4.11	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂		
C190		土鏝	(28.0)	15.0	-	4.0	6.09	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂		
C191		土鏝	(32.0)	16.0	-	3.5	7.61	灰褐色(7.5YR4/2)	細砂, 粗砂		
C192		土鏝	(17.0)	6.0	-	2.0	0.53	明赤褐色(5YR5/6)	細砂		
C193	竪穴住居190	土鏝	64.5	15.5	-	6.0	12.15	灰白色(2.5Y8/2)	細砂, 粗砂	古・中・I	ほぼ完形
C194		土鏝	60.0	17.0	-	5.0	15.92	橙色(7.5YR7/6)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C195		土鏝	63.0	14.0	-	4.5	11.49	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C196		土鏝	62.5	14.0	-	5.0	9.66	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C197		土鏝	63.0	15.0	-	5.0	12.01	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C198		土鏝	57.5	15.0	-	4.0	9.76	鈍橙色(7.5YR7/3)	細砂, 粗砂		完形
C199		土鏝	56.5	13.0	-	5.5	8.06	橙色(5YR6/8)	細砂, 粗砂		ほぼ完形
C200		土鏝	45.0	14.5	-	4.0	7.02	橙色(5YR6/8)	細砂		ほぼ完形
C201		土鏝	(36.0)	13.5	-	5.0	5.86	橙色(5YR6/6)	細砂, 粗砂		
C202		土鏝	(37.5)	14.0	-	6.0	5.58	鈍橙色(5YR7/4)	細砂, 粗砂		
C203		土鏝	(33.0)	16.0	-	4.0	6.58	橙色(5YR6/6)	細砂		
C204		土鏝	(33.0)	15.0	-	5.5	4.97	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		
C205		土鏝	(33.5)	13.5	-	5.0	4.43	橙色(5YR6/8)	細砂, 粗砂		
C206	竪穴住居190-191	土鏝	(62.0)	19.5	-	6.0	20.18	鈍黄橙色(10YR6/3)	細砂	古・中・II	
C207		土鏝	(51.0)	15.0	-	4.0	9.73	橙色(5YR6/6)	細砂		
C208		土鏝	(35.0)	14.0	-	4.5	5.14	橙色(7.5YR7/6)	細砂		
C209	包含層	土鏝	31.0	11.0	-	4.0	3.56	鈍褐色(7.5YR7/3)	細砂	-	
C210		土鏝	(49.5)	17.5	-	5.5	(11.56)	灰白色(5YR8/2)	細砂	古?	
C211		土鏝	(50.0)	11.5	-	6.0	(10.43)	淡黄色(2.5Y8/3)	細砂, 粗砂	古?	
C212		土鏝	49.5	18.5	-	6.0	15.72	灰白色(10YR8/1)	粗砂	古?	ほぼ完形
C213		土鏝	71.0	18.0	-	4.0	21.08	橙色(7.5YR6/6)	細砂	-	
C214		土鏝	68.0	17.0	-	5.0	17.94	鈍褐色(7.5YR6/3)	細砂	古・中?	ほぼ完形
C215		土鏝	69.0	23.5	-	4.5	32.60	灰白色(7.5YR8/2)	細砂	古?	ほぼ完形
C216		土鏝	70.5	24.5	-	8.0	37.95	灰白色(10YR8/1)	細砂	古?	完形
C217		土鏝	20.0	41.0	-	7.0	(29.94)	橙色(5YR7/6)	粗砂	古・中?	
C218		円板状	39.5	50.0	11.0	-	19.22	橙色(5YR7/6)	細砂, 粗砂, 礫	古・中・I?	刻み目
C219		羽口	(63.0)	(68.0)	(63.0)	21.0	226.30	灰色(N6/)	細砂, 粗砂	古・中・I?	
C220		舟形?	(60.0)	(107.0)	36.0	-	186.46	鈍橙色(5YR6/3)	細砂, 粗砂, 礫	?	
C221		土馬	(51.0)	(17.0)	16.0	-	21.85	鈍褐色(5YR6/4)	細砂	-	
C222		(馬・犬)形	(6.0)	(19.0)	-	-	(43.32)	橙色(5YR6/6)	細砂	-	
C223	土壙墓21	土鏝	(27.5)	8.5	-	3.5	(1.94)	灰白色(2.5Y8/2)	細砂, 粗砂	中世	
C224	土壙449~453	土鏝	53.0	11.0	-	3.4	5.36	浅黄橙色(7.5YR8/4)	粗砂~細砂	中世	
C225		土鏝	60.0	12.0	-	3.9	7.19	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂		
C226	溝43・46	土鏝	44.0	12.0	-	3.0	6.01	橙色(5YR7/6)	細砂	中世	
C227	溝44	土鏝	(45.0)	9.0	-	3.5	2.93	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂	中世	
C228	窪地5	土鏝	43.0	9.0	-	2.8	2.44	赤色(10R5/6)	細砂	中世	
C229	河道9	土鏝	(25.0)	7.0	-	3.0	(1.54)	淡褐色(5YR8/3)	細砂	-	
C230		土鏝	38.0	9.0	-	3.0	2.84	暗赤~灰白色(2.5GY4/1)	細砂, 粗砂	平安	ほぼ完形

土製品一覧表

掲載 番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	法量(mm)				重量 (g)	色調	胎土	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径					
C231	河道9	土錘	42.0	11.0	—	3.0	5.36	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	平安	ほぼ完形
C232		土錘	51.0	11.5	—	4.0	5.08	橙色(5YR6/6)	細砂,粗砂,礫	古代	ほぼ完形
C233		土錘	56.5	19.0	—	6.5	16.29	橙色(7.5YR7/6)	細砂	古代	ほぼ完形
C234		土錘	(61.0)	16.0	—	7.0	13.15	褐灰色(10YR4/1)	細砂		孔はT字型
C235		土錘	61.0	20.0	—	8.1	20.45	浅黄橙色(10YR8/4)	粗砂~細砂		
C236		土錘	43.0	19.0	—	3.8	13.03	橙色(5YR7/6)	細砂		一部削られている
C237		土錘	(70.0)	12.0	—	4.9	9.28	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		
C238		土錘	47.0	14.0	—	4.0	6.82	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂,粗砂		完形
C239		土錘	48.0	12.0	—	4.8	7.39	灰白色(10YR8/2)	細砂		
C240	土錘	53.0	13.0	—	4.2	8.43	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂			
C241	土錘	(49.0)	11.0	—	4.0	(5.25)	橙色(2.5YR6/6)	細砂		ほぼ完形	
C242	土錘	(33.0)	13.5	—	5.0	(5.53)	黄灰色(2.5Y4/1)	細砂			
C243	土錘	(40.0)	12.0	—	5.5	6.05	浅黄橙色(7.5YR8/4)	細砂		砂多い	
C244	土錘	53.0	10.5	—	3.5	5.32	鈍黄橙色(10YR7/2)	細砂		ほぼ完形	
C245	土錘	51.0	9.0	—	3.0	4.78	赤褐色(10R5/3)	細砂			
C246	土錘	(43.0)	9.0	—	3.6	3.27	橙色(2.5YR7/6)	細砂			
C247	土錘	(30.5)	10.5	—	3.0	(3.30)	鈍橙色(5YR7/4)	細砂			
C248	土錘	(37.0)	11.5	—	4.0	(3.76)	灰白色(10YR8/2)	細砂			
C249	土錘	(43.0)	9.0	—	3.0	2.94	灰白色(10YR8/1)	細砂			
C250	土錘	(40.0)	10.0	—	4.0	4.62	鈍橙色(7.5YR7/4)	粗砂~細砂			
C251	土錘	(22.0)	12.0	—	4.8	3.19	鈍橙色(7.5YR7/4)	細砂		縦に沈線二条	
C252	土錘	(36.5)	10.0	—	3.5	(3.08)	鈍黄橙色(10YR7/3)	細砂			
C253	土錘	(43.0)	11.0	—	5.0	(3.77)	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂		ほぼ完形	
C254	土錘	(40.0)	12.0	—	4.5	(5.26)	橙色(2.5YR6/6)	細砂			
C255	土錘	(35.0)	12.0	—	3.0	5.25	灰白色(10YR8/1)	細砂			
C256	包含層	土錘	(26.5)	11.5	—	3.5	(2.51)	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂	中世	
C257	土錘	(30.0)	10.0	—	3.5	2.74	灰白色(10Y8/2)	粗砂~細砂			
C258	土錘	(18.0)	11.0	—	3.0	2.20	橙色(2.5YR6/6)	細砂			
C259	土錘	(28.0)	9.0	—	3.0	2.25	灰白色(2.5Y8/2)	細砂			
C260	土錘	(28.0)	10.0	—	2.8	2.38	橙色(5YR7/6)	細砂			
C261	土錘	43.0	8.0	—	3.0	2.71	橙色(2.5YR7/6)	細砂			
C262	土錘	47.0	7.5	—	3.0	2.72	灰白色(5Y8/2)	細砂			
C263	土錘	42.0	8.0	—	4.2	3.05	灰褐色(5YR6/2)	細砂			くぼみ
C264	土錘	41.0	8.0	—	2.6	2.50	橙色(2.5YR6/6)	細砂			指圧痕
C265	土錘	41.0	9.0	—	3.0	3.22	灰白色(7.5YR8/2)	細砂			
C266	土錘	41.0	8.0	—	2.5	2.82	褐灰色(10YR4/1)	細砂			
C267	土錘	36.0	6.0	—	2.0	2.69	浅黄橙色(7.5YR8/3)	細砂			
C268	土錘	38.0	7.0	—	2.8	1.97	橙色(5YR7/6)	細砂			指圧痕
C269	土錘	37.0	10.0	—	2.5	2.98	灰白色(7.5YR8/2)	細砂			
C270	土錘	38.0	7.0	—	2.7	1.97	赤褐色(10R6/6)	細砂			指圧痕
C271	土錘	36.0	8.0	—	3.7	2.07	鈍赤褐色(10R6/3)	粗砂~細砂			
C272	土錘	(31.0)	8.5	—	2.5	(1.90)	淡赤褐色(2.5YR7/4)	細砂			
C273	土錘	(29.0)	6.0	—	2.0	1.48	灰白色(2.5Y8/2)	細砂			
C274	土錘	(31.0)	8.0	—	2.5	1.87	赤褐色(10R6/8)	細砂			
C275	土錘	(32.0)	8.0	—	3.5	2.15	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂			くぼみ
C276	土錘	(24.5)	9.0	—	3.5	(1.77)	鈍黄橙色(10YR7/4)	細砂			
C277	土錘	(29.0)	9.0	—	3.0	2.16	橙色(2.5YR7/6)	細砂			
C278	羽口	(77.0)	(51.0)	(41.0)	—	129.93	鈍橙色(2.5YR6/4)	細砂,粗砂			
C279	近代	土錘	(28.0)	9.0	—	3.0	(2.09)	鈍赤褐色(10R6/4)	細砂	中~近世	

石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名/試掘地点名	器種(遺物名)	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
S 1	包含層	石包丁	サヌカイト	94.5	55.0	14.0	89.60	弥	打製
S 2		石鏃	サヌカイト	46.5	14.5	6.0	4.30		
S 3	包含層	勾玉	蛇紋岩	39.0	17.0	6.0	6.99	古	
S 4	井戸 2	石臼	黒雲母花崗岩(粗粒)	247.0	130.0	64.0	2640.00	室町	
S 5		砥石	流紋岩	71.0	28.0	24.0	59.68		
S 6	井戸 3	砥石	流紋岩(溶岩)	67.0	79.5	67.0	515.50	鎌倉～室町	
S 7	土壙26	砥石	流紋岩	85.0	48.0	25.0	159.67	室町	
S 8	溝 3	砥石	流紋岩	70.0	30.0	23.0	54.71	中世	
S 9	溝 4	砥石	流紋岩	30.0	25.0	12.0	10.93	中世	
S10	溝 7	?	頁岩	38.5	17.0	4.5	3.00	中世	
S11	溝 9	砥石	頁岩	103.0	59.0	15.0	135.35	中世	
S12	柱穴	砥石	流紋岩	54.0	43.0	11.0	40.30	中世	
S13		砥石	流紋岩	57.0	112.0	36.0	387.96		
S14	包含層	砥石	流紋岩	50.0	36.0	20.0	48.64	中世	
S15		砥石	頁岩	48.5	36.5	9.0	28.70		
S16		砥石	流紋岩	38.0	31.0	14.0	30.71		
S17		砥石	流紋岩(溶岩)	24.5	15.5	9.0	7.60		
S18		砥石	流紋岩	61.0	25.0	22.0	49.05		
S19		砥石	頁岩	51.0	26.0	10.0	17.47		
S20		砥石	流紋岩	79.0	23.0	21.0	50.64		
S21		砥石	アブライト	63.0	53.0	19.0	93.49		
S22		砥石	アブライト	55.0	62.0	16.0	78.45		
S23		砥石	流紋岩	60.0	36.0	32.0	101.55		
S24		砥石	流紋岩	62.0	37.0	34.0	137.65		
S25		砥石	凝灰質流紋岩	83.5	37.5	32.5	150.30		
S26		硯	頁岩	(68.0)	75.0	14.0	118.96		
S27		硯	頁岩	(61.0)	88.0	21.0	232.14		
S28		溝14	石臼	角閃石安山岩	193.0	193.0	124.0		5250.00
S29	竪穴住居 8	スレーパー	サヌカイト	40.5	44.0	10.4	12.30	弥・後・I	楔として使用?
S30	竪穴住居13	管玉	蛇紋岩	42.6	4.7	—	1.63	弥・後・IV	孔径2.4mm
S31	竪穴住居15	管玉	碧玉	16.0	4.5	—	0.55	弥・後・III	完存 孔径1.8mm
S32		管玉	碧玉	8.7	4.1	—	0.20		完存 孔径1.8mm
S33	竪穴住居17	石鏃	サヌカイト	35.0	23.0	6.5	4.80	弥・後・I	
S34		石鏃	サヌカイト	41.5	19.0	5.0	4.30		
S35		スレーパー	サヌカイト	26.5	22.0	6.0	3.50		
S36	袋状土壙84	スレーパー	サヌカイト	49.5	28.0	8.5	11.10	弥・後・I	
S37	袋状土壙85	スレーパー	サヌカイト	64.5	35.5	7.5	14.80	弥・後・I	
S38	袋状土壙86	石包丁	サヌカイト	105.0	41.5	12.2	66.70	弥・後・I	完存
S39		石包丁	サヌカイト	89.0	49.5	9.0	50.90		完存
S40	土壙154	楔形	サヌカイト	18.0	32.0	6.5	4.70	弥・後・III～IV	手ずれ顯著
S41	包含層	石包丁	サヌカイト	109.0	48.0	11.0	71.70	弥	
S42		石包丁	サヌカイト	76.0	39.0	7.5	30.70		
S43		石包丁	蛇紋岩?	53.0	37.5	8.0	18.60		
S44		鏃	サヌカイト	32.0	16.0	4.8	2.30		
S45		石鏃	サヌカイト	36.5	15.5	5.0	2.70		
S46		U・F?	サヌカイト	44.5	28.5	8.0	7.90		
S47		スレーパー	サヌカイト	51.0	37.0	9.5	20.00		
S48		楔	サヌカイト	63.5	35.5	12.5	29.00		
S49		楔	サヌカイト	21.0	22.0	5.3	3.10		
S50		?	サヌカイト	56.0	15.0	7.0	6.60		のみ状
S51	竪穴住居22	砥石	頁岩	95.5	39.0	26.2	174.70	古・前・III	
S52	竪穴住居23	白玉	滑石	(5.1)	5.8	—	0.27	古・後・II	孔径2.0mm
S53		白玉	滑石	(3.3)	4.5	—	0.10		孔径1.4mm
S54		白玉	滑石	2.2	4.3	—	0.05		孔径1.5mm
S55		白玉	滑石	(3.9)	4.9	—	0.10		孔径1.85mm
S56		白玉	滑石	(2.0)	4.9	—	測定不能		孔径(1.9)mm
S57	竪穴住居26	勾玉	メノウ	24.0	8.1	7.0	3.00	古・中・II	孔径2.2mm

石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種 (遺物名)	材 質	法 量(mm)			重量 (g)	時 期	備 考
				最大長	最大幅	最大厚			
S 58	竪穴住居28	勾玉	滑石	30.0	11.0	8.2	5.79	古・中・I	孔径2.0mm
S 59	竪穴住居30	白玉	滑石	5.5	4.0	—	0.18	古・中・II	孔径2.0mm
S 60		白玉	滑石	5.7	4.1	—	0.18		孔径2.0mm
S 61		白玉	滑石	5.7	3.5	—	0.15		孔径2.0mm
S 62		白玉	滑石	5.6	3.0	—	0.11		孔径2.0mm
S 63		白玉	滑石	5.6	3.2	—	0.15		孔径2.0mm
S 64		白玉	滑石	5.4	3.5	—	0.14		孔径2.0mm
S 65		白玉	滑石	5.7	3.3	—	0.15		孔径2.0mm
S 66		白玉	滑石	5.5	2.5	—	0.08		孔径2.0mm
S 67		白玉	滑石	5.7	3.1	—	0.12		孔径2.0mm
S 68		白玉	滑石	5.7	3.7	—	0.17		孔径2.0mm
S 69		白玉	滑石	5.8	2.5	—	0.12		孔径2.0mm
S 70		白玉	滑石	5.8	3.2	—	0.15		孔径2.0mm
S 71		白玉	滑石	5.5	3.5	—	0.13		孔径2.0mm
S 72		白玉	滑石	5.0	1.9	—	0.07		孔径2.0mm
S 73		白玉	滑石	5.6	2.0	—	0.09		孔径2.0mm
S 74		白玉	滑石	5.7	3.0	—	0.21		孔径2.0mm
S 75		白玉	滑石	5.7	3.0	—	0.14		孔径2.0mm
S 76	管玉	黒よう岩	4.5	1.7	—	0.55	孔径1.8mm		
S 77		砥石	古銅輝石 安山岩?	248.0	106.5	27.5	1209.70		材質は玄武岩にも似ている
S 78	竪穴住居37	磨石	角閃ヒン岩	193.0	88.0	65.0	1463.30	古・中・I	先端磨減 杵?
S 79	竪穴住居39	勾玉	蛇紋岩	(17.0)	7.5	3.7	0.76	古・中	孔径1.5mm
S 80	竪穴住居40	砥石	流紋岩(リソイド岩)	105.5	43.0	57.5	282.70	古・後・II	
S 81	竪穴住居43	砥石	古銅輝石安山岩	157.0	137.5	46.5	1451.10	古・前	
S 82	竪穴住居46	白	ヒン岩	181.0	194.0	82.0	2520.00	古・中・I	朱が付着
S 83	竪穴住居47	円板状	滑石	23.0	22.4	3.0	2.19	古・中・I	
S 84		砥石	砂岩(細粒)	176.5	91.5	54.0	1415.10		
S 85	竪穴住居49	砥石	流紋岩(リソイド岩)	97.0	24.0	23.0	69.20	古・前	
S 86	土壙170	勾玉	滑石?	30.5	9.5	9.5	5.74	古・中・I	孔径3.0mm
S 87	包含層	勾玉	蛇紋岩	38.0	11.5	11.0	12.99	古墳	孔径2.0mm
S 88		勾玉	滑石	15.0	5.5	4.2	0.65	古墳	孔径1.5mm
S 89		管玉	滑石	(11.7)	4.2	—	0.30	古墳?	孔径2.3mm
S 90	掘立柱建物26	砥石	流紋岩(溶岩)	193.0	57.0	36.0	553.30	中世	
S 91	井戸5	茶臼	砂岩	(231.0)	(19.2)	116.0	4365.00	中世	
S 92	溝26	白	砂岩(細粒)	113.5	(30.0)	41.0	194.50	中世	
S 93	溝32	茶臼	砂岩	(118.0)	68.0	16.0	145.00	中世	
S 94		茶臼	安山岩	(114.0)	(36.0)	80.0	382.50		
S 95		茶臼	安山岩	(140.0)	(36.5)	82.5	1818.30		
S 96		茶臼	砂岩	(136.0)	(78.0)	60.0	554.50		
S 97		茶臼	砂岩	(132.0)	(51.0)	32.0	126.30		
S 98	包含層	砥石	流紋岩(溶岩)	26.0	31.0	48.7	285.60	弥	
S 99		砥石	流紋岩(溶岩)	96.5	97.0	73.0	1150.80	古代・中世	
S 100		砥石	アブライト	163.0	84.5	51.5	718.70	古代・中世	
S 101		砥石	流紋岩(溶岩)	59.0	55.5	24.0	73.80	古代・中世	
S 102		砥石	流紋岩(溶岩)	54.0	57.5	49.0	177.70	古代・中世	
S 103		砥石	流紋岩(溶岩)	67.5	36.5	30.3	105.90	古代・中世	
S 104		砥石	流紋岩(溶岩)	76.5	45.0	25.0	118.20	古代・中世	
S 105		砥石	流紋岩(溶岩)	65.5	46.5	33.0	109.90	古代・中世	
S 106		砥石	流紋岩(溶岩)	61.0	29.5	24.0	52.50	古代・中世	
S 107		砥石	頁岩	50.0	38.5	6.0	18.90	中世	
S 108		?	流紋岩(溶岩)	89.0	79.0	19.0	202.50	弥	
S 109	竪穴住居51	砥石	流紋岩(溶岩)	138.0	79.0	50.0	455.80	弥・後・IV	
S 110	竪穴住居53A	石斧	緑色片岩	84.0	26.0	16.5	71.10	弥・後・III	小型方柱状片刃石斧
S 111	竪穴住居63	石鏃	サヌカイト	22.0	13.5	3.0	1.20	弥・後・I~	
S 112	竪穴住居64	石斧	頁岩	59.0	12.5	15.0	19.60	弥・後・II	方柱状片刃石斧
S 113		砥石	?	25.0	25.0	7.5	6.01		
S 114	竪穴住居70	石包丁	サヌカイト	61.0	45.0	10.5	45.50	弥・後・III~IV	打製

石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種 (遺物名)	材質	法 量(mm)			重量 (g)	時 期	備 考
				最大長	最大幅	最大厚			
S 115	竪穴住居73	砥石	流紋岩熔岩	70.0	42.5	16.0	53.00	弥・後	
S 116	竪穴住居77	勾玉	透角閃石	13.0	5.0	3.1	0.37	弥・後	孔径2.0mm
S 117		作業台	石英斑岩(黒色)	359.0	298.0	84.5	1200.00		
S 118	竪穴住居80	叩き石	石英斑岩	60.0	43.5	40.0	139.00	弥・後・Ⅳ	孔径2.0mm
S 119		管玉	グリーンタフ	(17.3)	5.2	—	0.59		
S 120	竪穴住居82	管玉	碧玉	9.3	4.8	—	0.30	弥・後・Ⅱ～Ⅲ	孔径2.5mm
S 121	竪穴住居84	石包丁?	サヌカイト	64.0	48.0	6.5	20.10	弥・後・Ⅰ～Ⅱ	打製
S 122	竪穴住居91	叩き石・磨石	流紋岩熔岩	44.0	42.5	29.5	69.50	弥・後・Ⅳ	
S 123	竪穴住居93	砥石	流紋岩熔岩	137.0	73.0	59.0	534.60	弥・後・Ⅳ	
S 124	竪穴住居96	管玉	グリーンタフ	6.7	3.5	—	0.10	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	孔径1.5mm
S 125	竪穴住居103	叩き石	流紋岩(溶岩)	113.0	63.5	27.0	239.40	弥・後・Ⅲ	
S 126	竪穴住居107	砥石	流紋岩(溶岩)	125.5	45.5	24.0	154.30	弥・後・Ⅳ	
S 127	竪穴住居114A	勾玉	翡翠	13.3	7.5	3.3	0.75	弥・後・Ⅲ	孔径2.0mm(小1.0)mm
S 128		砥石	ホルンフェルス	79.0	49.0	25.0	124.20		
S 129	竪穴住居116	管玉	碧玉	12.0	(7.3)	—	0.64	弥・後・Ⅲ	孔径3.0mm
S 130	竪穴住居117	石鏃	サヌカイト	26.5	19.5	4.5	2.20	弥・後・Ⅰ	打製
S 131		石包丁?	サヌカイト	31.5	25.5	6.0	4.80		
S 132		楔	サヌカイト	51.5	36.0	11.0	21.80		
S 133	竪穴住居118	楔?	サヌカイト	24.5	18.0	6.0	4.20	弥・後・Ⅰ	
S 134	竪穴住居120	鏃	サヌカイト	30.5	12.0	2.5	0.90	弥・後・Ⅰ	
S 135	竪穴住居123	砥石	流紋岩(溶岩)	146.5	133.5	63.0	1363.60	古・後・Ⅰ	筋あり
S 136	袋状土壙97	スレーパー	サヌカイト	58.0	42.5	9.0	16.40	弥・後・Ⅰ	
S 137	袋状土壙116	石包丁	緑色片岩	134.5	49.0	9.0	93.10	弥・後・Ⅰ	
S 138	方形土壙23	スレーパー?	サヌカイト	87.0	94.0	31.0	310.20	弥・後・Ⅳ	
S 139		石鏃	サヌカイト	38.5	18.5	4.0	2.70		
S 140		砥石	古銅輝石安山岩	58.5	46.5	51.0	187.80		
S 141	方形土壙37	砥石	流紋岩熔岩	126.0	105.5	54.0	552.10	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
S 142	方形土壙41	勾玉	透角閃石	16.5	7.0	4.3	0.74	弥・後・Ⅳ?	孔径2.5mm
S 143	方形土壙57	砥石	流紋岩熔岩	302.0	168.0	65.0	4990.00	弥・後・Ⅳ	
S 144	方形土壙103	砥石	溶結凝灰岩	80.5	69.0	22.5	98.30	弥・後・Ⅳ	
S 145	方形土壙106	石包丁	粘板岩	101.0	43.0	5.0	29.60	弥・後・Ⅲ	
S 146	土壙213	石包丁	サヌカイト	93.5	47.5	14.5	89.90	弥・後・Ⅱ	
S 147	土壙230	白玉	滑石?	3.3	4.4	—	0.09	弥・後・Ⅳ	孔径1.75mm
S 148	土壙355	凹石	溶結凝灰岩	61.0	94.5	89.0	775.50	弥・後・Ⅰ～Ⅱ	
S 149	土壙365	石包丁	サヌカイト	45.0	56.0	9.0	39.70	弥・後	打製
S 150	土壙368	石包丁	サヌカイト	79.0	42.5	9.0	38.60	弥・後	打製
S 151		石包丁	サヌカイト	82.5	49.0	9.3	41.90		打製
S 152		石包丁	サヌカイト	93.0	47.0	10.5	60.10		打製
S 153		石包丁	サヌカイト	109.5	46.0	8.2	61.10		打製
S 154	土壙376	砥石	ホルンフェルス	94.0	68.5	33.0	302.20	弥・後	
S 155	土壙390	叩き石	花崗岩質砂岩	12.5	42.0	31.0	249.60	弥・後・Ⅲ	
S 156	包含層	石鏃?	石灰岩	(55.5)	5.5	—	3.16	—	
S 157		石斧	ひん岩	115.0	61.0	51.0	517.10	—	
S 158		砥石	ホルンフェルス	63.0	54.0	14.5	74.80	—	
S 159		砥石	流紋岩(溶岩)	94.0	52.5	49.0	76.50	—	
S 160		砥石	砂岩(細粒)	239.0	100.4	84.0	3000.00	弥	
S 161		石鏃	流紋岩(溶岩)	73.0	58.0	60.0	359.30	—	
S 162		石鏃	ヒン岩	91.0	73.5	84.0	800.90	弥	ザクロ石閃石細粒花崗岩含む
S 163		石鏃	ハンレイ岩	97.0	89.0	62.0	890.20	弥	
S 164		石鏃	サヌカイト	38.0	11.5	4.2	1.90	—	
S 165		石鏃	サヌカイト	40.5	15.5	5.0	3.20	弥	
S 166		石鏃	サヌカイト	50.0	16.5	4.5	3.50	弥	
S 167		石包丁	頁岩	122.0	49.5	12.0	97.20	弥	刃部よく磨かれる 磨製
S 168		石包丁	サヌカイト	37.5	42.5	6.0	9.20	弥	打製
S 169		石包丁	サヌカイト	58.0	46.5	10.0	37.40	弥	打製
S 170	石包丁	泥質片岩	123.0	56.0	6.0	70.60	—		
S 171	石包丁	サヌカイト	82.5	50.0	13.2	62.00	—		

石器・石製品一覧表

掲載 番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種 (遺物名)	材 質	法 量(mm)			重 量 (g)	時 期	備 考
				最大長	最大幅	最大厚			
S172	包含層	R. F?	サヌカイト	27.0	24.0	4.5	3.20	—	
S173		石包丁	粘板岩	93.5	39.0	11.5	59.80	弥	未製品?
S174		楔	サヌカイト	60.0	44.5	11.5	34.90	—	
S175		スレーパー	サヌカイト	63.0	43.0	10.0	19.70	—	
S176		石包丁	泥質片岩	93.0	52.5	4.5	35.40	—	
S177		U・F?	サヌカイト	70.5	42.5	4.5	12.40	弥	
S178		スレーパー?	サヌカイト	135.5	90.0	19.0	255.50	弥	
S179	竪穴住居132	石皿	ヒン岩	237.0	242.0	60.0	6900.00	古・中・I	
S180		砥石	流紋岩	158.0	95.0	81.0	1400.00		
S181	竪穴住居138	砥石	ヒン岩	174.0	137.0	89.0	2680.00	古・中	
S182	竪穴住居140	白玉	蛇紋岩	3.7	5.0	—	0.13	古・中	孔径2.0mm
S183		白玉	蛇紋岩	1.8	4.8	—	0.04		孔径(2.2mm)
S184		白玉	滑石	2.0	(4.5)	—	0.03		孔径(1.8mm)
S185		白玉	滑石	2.0	5.0	—	0.08		孔径1.5mm
S186		白玉	蛇紋岩	3.8	4.7	—	0.12		孔径2.0mm
S187		白玉	蛇紋岩	(2.0)	(5.4)	—	0.04		孔径(2.0)mm
S188		白玉	滑石	2.5	4.5	—	0.09		孔径2.2mm
S189		白玉	滑石	1.5	5.5	—	0.06		孔径1.5mm
S190		白玉	蛇紋岩	2.5	5.0	—	0.09		孔径2.2mm
S191		白玉	滑石	2.0	4.5	—	0.06		孔径1.7mm
S192	竪穴住居141	砥石	流紋岩燦岩	42.5	33.5	27.5	56.40	古・中	
S193	竪穴住居142	白玉	滑石	2.3	4.2	—	0.04	古・中	孔径1.8mm
S194		白玉	滑石	2.0	4.3	—	0.04		孔径2.0mm
S195		白玉	滑石	2.5	4.0	—	0.04		孔径2.0mm
S196		白玉	滑石	2.0	4.6	—	0.05		孔径1.8mm
S197		白玉	滑石	2.2	3.8	—	0.03		孔径1.8mm
S198		白玉	滑石	(2.8)	3.8	—	0.04		孔径2.0mm
S199		白玉	滑石	2.5	4.0	—	0.06		孔径2.0mm
S200		白玉	滑石	2.8	4.0	—	0.05		孔径2.0mm
S201		白玉	滑石	3.0	4.0	—	0.06		孔径1.8mm
S202		白玉	滑石	1.0	4.0	—	0.04		孔径2.0mm
S203		白玉	滑石	2.0	4.0	—	0.05		孔径1.8mm
S204		白玉	滑石	2.3	4.2	—	0.07		孔径1.3mm
S205		白玉	蛇紋岩	3.0	4.5	—	0.07		孔径2.0mm
S206		白玉	蛇紋岩	3.0	3.8	—	0.06		孔径1.7mm
S207		白玉	蛇紋岩	2.5	3.8	—	0.05		孔径1.5mm
S208		白玉	蛇紋岩	(2.5)	(3.6)	—	0.05		孔径(1.5)mm
S209		白玉	蛇紋岩	2.8	3.9	—	0.06		孔径1.8mm
S210		白玉	蛇紋岩	3.5	4.0	—	0.07		孔径2.0mm
S211		白玉	蛇紋岩	2.7	4.0	—	0.05		孔径2.0mm
S212		白玉	蛇紋岩	3.3	4.2	—	0.06		孔径2.0mm
S213	白玉	蛇紋岩	3.3	4.0	—	0.06	孔径1.8mm		
S214	白玉	蛇紋岩	2.7	4.1	—	0.05	孔径1.7mm		
S215	白玉	蛇紋岩	3.0	4.0	—	0.06	孔径2.0mm		
S216	白玉	蛇紋岩	3.0	4.2	—	0.06	孔径2.0mm		
S217	白玉	蛇紋岩	2.5	4.2	—	0.05	孔径2.0mm		
S218	白玉	蛇紋岩	2.3	4.2	—	0.06	孔径2.0mm		
S219	白玉	蛇紋岩	2.5	4.2	—	0.05	孔径2.0mm		
S220	白玉	蛇紋岩	(3.0)	(4.5)	—	0.02	孔径(2.0)mm		
S221	竪穴住居143	管玉	蛇紋岩	15.2	6.1	—	0.94	古・中	孔径3.0mm
S222		白玉	蛇紋岩	3.5	5.8	—	0.18		孔径2.0mm
S223		白玉	蛇紋岩	3.0	5.0	—	0.12		孔径2.5mm
S224		白玉	蛇紋岩	3.3	4.7	—	0.09		孔径2.0mm
S225		白玉	蛇紋岩	2.5	5.0	—	0.07		孔径2.5mm
S226		白玉	滑石	2.0	4.8	—	0.09		孔径2.0mm
S227	竪穴住居144	白玉	滑石	3.2	5.0	—	0.10	古・中	孔径2.0mm
S228		白玉	滑石	3.0	(5.5)	—	0.05		孔径(2.0)mm



石器・石製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種(遺物名)	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
S 229	竪穴住居148	叩き石・磨石	砂岩 細粒	81.0	45.5	43.0	241.60	古・中	
S 230	竪穴住居154	双孔円板	滑石	25.5	23.5	4.5	4.00	古・中	孔径共に2.0mm
S 231	竪穴住居159	砥石	流紋岩(溶岩)	76.0	47.0	27.5	140.50	古・中・II	
S 232	竪穴住居160	砥石	流紋岩(溶岩)	108.0	44.5	38.5	160.00	古・後・II	
S 233		砥石	流紋岩(溶岩)	80.5	55.0	102.5	350.40		
S 234		砥石	流紋岩(溶岩)	114.5	82.5	44.5	639.30		
S 235	竪穴住居163	管玉	碧玉	17.5	3.8	—	0.33	古・中	孔径1.5mm
S 236	竪穴住居169	紡錘車	蛇紋岩	38.0	37.5	6.0	12.95	古・中・I	孔径6.5mm
S 237		砥石	流紋岩(溶岩)	97.5	60.5	62.0	387.40		
S 238		砥石	流紋岩(溶岩)	203.0	98.0	95.0	1672.90		
S 239	竪穴住居171	叩き石	ホルンフェルス	131.5	46.5	44.0	384.10	古・中・I	
S 240		管玉	滑石	(11.3)	3.8	—	0.26		孔径2.0mm
S 241	竪穴住居174	叩き石	ひん岩	135.0	53.5	46.5	498.60	古・中・I	
S 242		有孔円板	滑石	27.0	(15.0)	3.0	1.60		孔径1.5mm
S 243		勾玉	?	37.5	11.5	10.0	6.88		孔径2.5mm
S 244	竪穴住居175	白玉	滑石	1.5	3.3	—	0.01	古・後	孔径1.5mm
S 245	竪穴住居179	勾玉	メノウ	29.0	9.5	8.5	5.29	古・中・I~II	孔径3.0mm
S 246		砥石	流紋岩(溶岩)	126.5	74.5	29.5	375.10		
S 247		砥石	流紋岩(溶岩)	73.0	43.5	32.0	63.20		
S 248		砥石	流紋岩(溶岩)	125.0	79.0	76.5	679.20		
S 249	竪穴住居183	白玉	蛇紋岩	1.4	(3.2)	—	0.01以下	古・中・I	孔径計測不能
S 250	竪穴住居184	白玉	蛇紋岩	3.5	2.0	—	0.03	古・中・I	孔径2.0mm
S 251		白玉	蛇紋岩	3.8	2.3	—	0.05		孔径1.3mm
S 252		白玉	蛇紋岩	3.2	1.5	—	0.01		孔径1.5mm
S 253		白玉	蛇紋岩	3.8	2.7	—	0.05		孔径1.5mm
S 254		白玉	滑石	(3.8)	2.3	—	0.02		孔径計測不能
S 255		白玉	滑石	(3.8)	2.5	—	0.02		孔径計測不能
S 256		管玉	蛇紋岩	22.0	4.0	—	0.43		孔径2.0mm
S 257	竪穴住居187	砥石	流紋岩(溶岩)	41.5	34.0	28.0	44.20	古・後・II	
S 258	竪穴住居190	勾玉	滑石	19.0	6.5	4.5	1.09	古・中・I	孔径
S 259		白玉	蛇紋岩	4.6	5.0	—	0.15		孔径2.0mm
S 260	竪穴住居191	白玉	蛇紋岩	4.5	2.5	—	0.06	古・中・II	孔径1.8mm
S 261		白玉	蛇紋岩	4.1	3.5	—	0.06		孔径1.7mm
S 262		白玉	滑石	4.5	2.5	—	0.07		孔径2.0mm
S 263		白玉	滑石	4.0	2.8	—	0.05		孔径1.5mm
S 264		白玉	滑石	5.0	1.5	—	0.05		孔径1.5mm
S 265	河道7	砥石	流紋岩(溶岩)	35.5	36.0	36.0	59.50	古・中・I	被熱
S 266	包含層(古墳)	砥石	流紋岩熔岩	183.0	87.0	95.0	1750.00	古・中	
S 267		有孔円板	滑石	28.0	27.0	4.5	5.08	古	孔径3.0mm
S 268		双孔円板	蛇紋岩	30.0	3.5	—	4.50	古	孔径共に2.20mm 模造品
S 269	窪地6	砥石	流紋岩	66.5	60.5	46.5	217.30	中世	
S 270	河道9	砥石	流紋岩(溶岩)	69.0	31.0	38.0	77.80	古代	
S 271		砥石	流紋岩(溶岩)	51.5	47.5	23.5	73.70		
S 272	包含層	砥石	流紋岩(溶岩)	66.5	39.5	30.0	72.90	?	被熱
S 273		砥石	流紋岩(溶岩)	70.0	33.5	29.5	84.20	?	
S 274		砥石	流紋岩(溶岩)	56.0	53.5	48.0	154.90	?	
S 275		砥石	泥質片岩(黒色?)	115.0	51.5	43.0	385.80	?	
S 276		砥石	頁岩	113.5	39.5	13.2	87.20	中世?	
S 277		砥石	流紋岩熔岩	142.0	34.0	32.0	207.60	古・中?	

金属器一覽表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	材質	法量(mm)			重量 (g)	時期	備考		
				最大長	最大幅	最大厚					
M1	B-16	銭貨	銅	21.0	20.0	0.5	1.02	—			
M2	竪穴住居5	刀子	鉄	(43.0)	13.0	2.0	5.01	古・後・II			
M3	井戸3	包丁	鉄	280.0	50.0	3.0	(129.49)	鎌倉～室町	把付(ヒノキ)		
M4	溝3	銭貨	銅	21.4	—	1.0	1.58	中世	開元通寶 唐武徳4年(621)		
M5	溝8	銭貨	銅	24.0	—	1.3	2.43	中世	紹聖元寶 北宋紹聖元年(1094)		
M6	溝11	包丁	鉄	28.5	50.0	刃部:4.9 柄部:1.1	(212.20)	近世	推定最大長250.0mm		
M7	柱穴6	釘	鉄	(74.9)	49.0	6.0	8.61	中世			
M8	柱穴7	銭貨	銅	25.5	—	1.3	2.25	中世	永樂通寶 永樂6年(1368)		
M9	柱穴群	銭貨	銅	25.4	—	1.4	3.29	中世	聖宋元寶 北宋建中靖國元年(1101)		
M10		銭貨	銅	24.6	—	1.3	1.66		政和通寶 政和元年(1111)		
M11		銭貨	銅	25.7	—	1.2	1.76		天口通寶		
M12		銭貨	銅	23.8	—	1.5	2.30		嘉定通寶 嘉定元年(1208)		
M13		銭貨	銅	24.4	—	1.3	2.61		皇宋通寶 寶元2年(1039)		
M14		銭貨	銅	24.2	—	1.1	1.87		皇宋通寶 寶元2年(1039)		
M15		鉄釘	鉄	48.6	11.0	3.1	3.70				
M16		鎌	鉄	(62.0)	(41.0)	7.2	(11.73)				
M17	鎌	鉄	69.4	21.2	4.2	4.93					
M18	釘?	鉄	94.3	10.0	7.1	42.41					
M19	鉄器	鉄	59.6	16.9	7.4	13.03					
M20	鉄片	鉄	51.8	18.3	8.9	16.18					
M21	鉄器	鉄	(59.0)	17.5	11.0	25.30					
M22	鉄器	鉄	(36.3)	17.1	11.0	12.95					
M23	釘	鉄	63.3	—	7.9	7.83					
M24	釘	鉄	40.1	6.2	5.3	2.83					
M25	釘	鉄	59.6	4.0	4.0	13.32					
M26	釘	鉄	36.1	24.1	6.0	5.20					
M27	銭貨	銅	25.1	—	1.2	1.42		開元通寶 唐武徳4年(621)?			
M28	銭貨	銅	24.2	—	1.1	2.47		開元通寶 唐武徳4年(621)			
M29	包含層	銭貨	銅	22.6	—	1.2	1.82	中世	祥符通寶 北宋大中祥符2年(1002)?		
M30		銭貨	銅	25.1	—	1.4	3.79		天聖元寶 天聖元年(1023)		
M31		銭貨	銅	25.8	—	1.7	3.35		天聖元寶 天聖元年(1023)		
M32		銭貨	銅	24.7	—	1.4	2.80		皇宋通寶? 寶元2年(1039)		
M33		銭貨	銅	25.2	—	1.6	2.81		皇宋通寶		
M34		銭貨	銅	24.4	—	1.3	2.96		皇宋通寶 寶元2年(1039)		
M35		銭貨	銅	23.5	—	1.6	3.85		熙寧元寶 北宋熙寧元年(1068)		
M36		銭貨	銅	24.8	—	1.4	3.66		元豐通寶 北宋元豐元年(1078)		
M37		銭貨	銅	24.4	—	1.4	3.07		元豐通寶? 北宋元豐元年(1078)		
M38		銭貨	銅	24.4	—	1.2	1.94		元祐通寶 北宋元祐8年(1093)		
M39		銭貨	銅	24.1	—	1.7	3.15		元祐通寶 北宋元祐8年(1093)		
M40		銭貨	銅	23.2	—	1.3	3.23		洪武通寶 明洪武元年(1368)		
M41		銭貨	銅	23.7	—	1.4	1.56		洪武通寶? 天正元祿の頃		
M42		銭貨	銅	21.4	—	1.1	1.10				
M43		竪穴住居10	鉈	鉄	(75.0)	15.2	(3.5)		(10.70)	弥・後・I	
M44		竪穴住居14	?	鉄	(47.0)	23.0	4.0		(16.21)	弥・後・III	
M45	銅鑄埋納壻	銅鑄	銅	58.0	31.5	12.0	6420.00	弥・後・I			
M46	袋状土壻18	銭貨	銅	22.1	—	2.1	1.00	弥・後・I	貨泉		
M47		銭貨	銅	—	—	2.8	(0.92)		貨泉		
M48		銭貨	銅	23.5	—	2.5	(0.75)		貨泉		
M49		銭貨	銅	21.6	—	2.4	(0.63)		貨泉		
M50		銭貨	銅	—	—	(1.9)	(0.57)		貨泉		
M51		銭貨	銅	23.2	—	2.0	1.07		貨泉		
M52		銭貨	銅	22.	—	2.0	(1.22)		貨泉		
M53		銭貨	銅	—	—	1.6	(1.10)		貨泉		
M54		銭貨	銅	23.1	—	2.0	2.69		貨泉		
M55		銭貨	銅	22.9	—	1.8	1.80		貨泉		
M56		銭貨	銅	23.1	—	1.7	2.68		貨泉		
M57		銭貨	銅	23.2	—	2.0	2.52		貨泉		
M58		銭貨	銅	23	—	2.5	1.48		貨泉		
M59		銭貨	銅	23.3	—	2.0	2.90		貨泉		
M60		銭貨	銅	(21.0)	—	1.8	0.74		貨泉		
M61		銭貨	銅	22.7	—	2.5	1.40		貨泉		
M62		銭貨	銅	22.8	—	1.8	1.22		貨泉		
M63		銭貨	銅	22.9	—	1.9	1.82		貨泉		
M64		銭貨	銅	23.3	—	1.7	1.04		貨泉		
M65		銭貨	銅	23.8	—	2.0	2.06		貨泉		
M66		銭貨	銅	22.9	—	2.0	2.92		貨泉		
M67	銭貨	銅	22.5	—	1.9	1.23	貨泉				

金属器一覽表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M68	袋状土壙18	錢貨	銅	23.4	—	(2.8)	1.31	弥・後・I	貨泉
M69		錢貨	銅	22.8	—	2.0	2.26		貨泉
M70	土壙135	?	鉄	(21.3)	(7.5)	(5.0)	(1.50)	弥・後・I	
M71	土壙144	鏃	鉄	(46.7)	(13.0)	(5.0)	(3.80)	弥・後・III~IV	
M72		斧	鉄	(69.0)	40.0	25.0	(78.46)		
M73	土壙154	摘鎌	鉄	73.5	27.0	7.5	(43.16)	弥・後・III~IV	
M74		?	鉄	(38.0)	(8.0)	(7.5)	(4.70)		
M75	柱穴8	鋏先?	鉄	83.0	(43.0)	10.5	(96.09)	弥	
M76	竪穴住居25	板状鉄斧?	鉄	(43.5)	33.6	7.2	19.36	古・中・I?	
M77	竪穴住居30	摘鎌?	鉄	56.0	(29.0)	3.5	(13.10)	古・中・II	
M78		?	鉄	(44.0)	(30.0)	(6.3)	(15.80)		
M79	竪穴住居35	?	鉄	(20.5)	(8.5)	(4.2)	(1.30)	古・前・I	
M80		錢貨	銅	—	—	2.2	(0.49)		貨泉
M81	竪穴住居36	?	鉄	(37.5)	(9.0)	(4.0)	(5.10)	古・前・I	
M82		?	鉄	(41.0)	(8.5)	(3.5)	(2.50)		
M83		釘	鉄	(14.0)	(7.6)	(8.0)	(1.10)		
M84	包含層	斧	鉄	(74.0)	39.5	22.0	(124.72)	古墳	
M85	掘立柱建物25	鏃	鉄	(84.0)	(33.0)	(8.0)	(14.30)	中世	雁股
M86	掘立柱建物31	釘?	鉄	(62.0)	13.0	(9.0)	(12.70)	中世	
M87	掘立柱建物32	錢貨	銅	24.6	—	1.1	2.30	中世	皇宋通寶
M88	掘立柱建物34	錢貨	銅	23.3	—	1.3	2.20	中世	皇宋通寶
M89	掘立柱建物35	錢貨	銅	25.1	—	1.5	2.40	中世	天聖元寶
M90	土壙墓2	劍	鉄	305.0	24.0	7.0	120.90	室町	
M91		釘	鉄	(22.2)	9.8	4.2	5.96		
M92		釘	鉄	(100.0)	12.9	8.0	12.47		
M93		釘?	鉄	75.0	12.1	7.0	16.86		
M94	土壙墓3	釘	鉄	(32.0)	(9.5)	(7.9)	(5.60)	中世	
M95		釘	鉄	(20.0)	(12.0)	(8.0)	(3.90)		
M96		釘	鉄	(40.0)	(6.5)	(6.0)	(3.20)		
M97	土壙184	釘	鉄	(45.5)	(8.8)	(5.2)	(4.80)	中世	
M98	溝20	?	鉄	(33.0)	9.1	8.0	3.87	中世	
M99	溝21	?	鉄	(59.5)	14.9	13.0	14.12	中世	
M100	溝31	斧	鉄	119.0	44.0	25.0	(322.74)	中世	
M101	溝32	錢貨	銅	24.4	—	1.4	3.20	中世	元口口寶
M102		錢貨	銅	25.2	—	1.6	2.90		祥符元寶
M103		錢貨	銅	24.7	—	1.3	3.00		景祐元寶
M104		?	鉄	(28.0)	(20.1)	(9.8)	(7.00)		
M105		?	鉄	(42.4)	(20.0)	(10.0)	(10.90)		
M106		?	鉄	24.0	13.0	4.0	2.75		
M107		鏃	鉄	(34.5)	11.0	11.0	(4.50)		
M108		釘	鉄	(48.0)	17.0	6.0	(5.60)		
M109		釘	鉄	(37.0)	(7.0)	(6.0)	(1.80)		
M110		釘	鉄	(39.0)	(5.0)	(4.0)	(2.00)		
M111	柱穴10	巡方	銅	21.5	24.3	3.0	(2.70)	古代	
M112	柱穴15	刀子	鉄	(51.7)	(17.2)	(4.0)	(7.20)	中世	
M113	柱穴12	?	鉄	40.0	37.0	(10.0)	(24.17)	中世	
M114	柱穴14	釘	鉄	(76.0)	(7.8)	(7.0)	(9.60)	中世	
M115	柱穴24	錢貨	銅	24.7	—	1.4	3.00	中世	嘉祐通寶
M116	柱穴32	錢貨	銅	24.7	—	1.1	2.50	中世	嘉祐元寶
M117	包含層	錢貨	銅	23.0	—	1.3	(2.40)	中世	元祐通寶
M118		錢貨	銅	24.8	—	1.1	3.20	中世	熙寧元寶
M119		錢貨	銅	24.9	—	1.1	1.90	中世	元符通寶
M120		錢貨	銅	(20.4)	—	(1.3)	(0.90)	中世	祥符元寶
M121		鏃	鉄	121.8	10.1	3.1	9.01	古	
M122		?	鉄	(76.7)	(14.5)	(4.5)	(10.40)	古代・中世	
M123		?	鉄	(52.5)	(17.0)	(6.0)	(16.90)	古代・中世	
M124		?	鉄	(36.3)	(12.5)	(6.0)	(3.90)	古代・中世	
M125		?	鉄	(30.0)	(17.0)	4.0	(3.87)	古代・中世	
M126		?	鉄	(45.0)	(28.0)	5.0	(14.98)	古代・中世	
M127		?	鉄	(36.4)	(4.3)	(5.8)	(2.50)	古代・中世	
M128		釘	鉄	(44.0)	11.0	5.0	(2.80)	古代・中世	
M129		釘	鉄	(30.0)	(10.0)	(7.0)	(4.00)	古代・中世	
M130	釘	鉄	(59.1)	(6.0)	(5.0)	(4.20)	古代・中世		
M131	釘	鉄	(59.5)	(9.0)	(8.5)	(7.90)	古代・中世		

金属器一覧表

掲載 番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M132	包含層	釘	鉄	(37.0)	5.5	6.0	(2.60)	古代・中世	
M133		?	鉄	(49.5)	(11.5)	(6.0)	(6.00)	古代・中世	
M134	近世素掘溝	?	鉄	(49.0)	8.0	8.2	(5.90)	近世	
M135		釘	鉄	(50.8)	(6.0)	(5.0)	(5.10)		
M136		釘	鉄	(77.0)	(7.0)	(6.0)	(7.00)		
M137	竪穴住居58	鋤・鍬先	鉄	41.0	—	7.5	40.75	弥・後・Ⅳ	1個体だが接合できない
M138	竪穴住居77	鎌	鉄	(39.0)	(11.0)	4.0	(5.01)	弥・後・Ⅳ	整頭形
M139		鉋	鉄	(50.0)	11.0	4.0	(5.15)		
M140		鉋	鉄	(62.0)	(8.0)	(4.5)	(3.20)		
M141		斧	鉄	(72.0)	(43.0)	(8.0)	(54.17)		
M142		刀子	鉄	(43.0)	(12.0)	(4.0)	(4.85)		
M143		刀子	鉄	(32.0)	(11.0)	4.0	(6.64)		
M144	竪穴住居80	鍬	銅	(36.0)	(10.0)	(6.0)	(4.68)	弥・後・Ⅳ	保存状態悪い
M145		鎌	鉄	(100.0)	(30.0)	(4.0)	(39.92)		別個体付着?
M146		刀子	鉄	(86.0)	(16.0)	(4.0)	(12.75)		
M147	竪穴住居86	鉋?	鉄	(45.0)	(10.0)	(3.5)	(3.44)	弥・後・Ⅳ	茎
M148	竪穴住居87	鉋?	鉄	(20.0)	(7.5)	(2.3)	(0.87)	弥・後・Ⅳ	茎
M149	竪穴住居90	手鎌	鉄	(81.0)	(36.0)	(3.3)	(20.36)	弥・後・Ⅳ	木質が残る 裏面剥離
M150	竪穴住居104	鍬	銅	(17.0)	(12.0)	2.0	0.17	弥	
M151	竪穴住居105	鉋	鉄	(116.0)	11.0	7.0	31.03	弥	
M152	竪穴住居123	?	鉄	(23.0)	(13.9)	(3.0)	(1.70)	弥・後・Ⅰ	
M153		釘	鉄	(30.3)	(5.0)	(4.5)	(2.30)		
M154	方形土壙24	鍬	鉄	(29.0)	(9.0)	(2.5)	(1.49)	弥・後・Ⅲ~Ⅳ	
M155	方形土壙39	鍬	鉄	(29.0)	10.0	5.0	(2.50)	弥・後・Ⅳ?	整頭形
M156	方形土壙52	刀子	鉄	(34.0)	(15.5)	(3.5)	(6.87)	弥・後・Ⅳ	
M157	方形土壙123	鉋?	鉄	(35.2)	(14.0)	5.0	4.39	弥	
M158	方形土壙156	紡錘形	銅	(132.1)	15.6	14.0	94.42	弥・後・Ⅳ	純銅?
M159	土壙356	鉋?	鉄	(28.0)	(12.0)	6.0	3.31	弥	
M160	土壙391	板	鉄	(24.0)	(15.0)	(6.0)	2.65	弥	
M161	包含層	鍬	銅	42.0	11.0	3.0	4.13	弥	有茎
M162		鍬	銅	9.6	8.5	3.5	0.21		有茎 接合不能
M163		鍬	鉄	(37.0)	(19.0)	5.0	4.26		
M164		釘	鉄	(35.5)	(5.5)	7.0	2.88		
M165		銅鏝	銅	40.0	29.0	5.0	9.44		畿内式 胴部破片
M166	竪穴住居136	鋤・鍬先?	鉄	(115.0)	(60.0)	(5.5)	117.50	古・中	
M167	竪穴住居141	手鎌	鉄	81.5	26.0	2.0	(22.45)	古・中	木質残る
M168	竪穴住居144	鎌	鉄	(41.5)	24.0	3.0	(7.45)	古・中	
M169		釘	鉄	(64.0)	(9.0)	(8.0)	(11.35)		
M170		茎	鉄	(80.0)	(7.5)	(6.5)	(11.25)		
M171	竪穴住居145	鍬?	鉄	(29.0)	(5.3)	(4.0)	(1.76)	古・前	茎
M172		鍬?	鉄	(30.0)	(6.0)	(5.0)	(1.78)		茎
M173		円板状?	鉄	42.0	(40.0)	(6.8)	(17.83)		保存状態悪い
M174		鍬	鉄	(48.0)	14.0	3.5	(4.30)		
M175		茎?	鉄	(63.0)	(16.5)	(3.0)	(6.09)		
M176		方形板状?	鉄	(34.0)	30.0	4.5	(18.49)		
M177	竪穴住居148	鉋	鉄	(57.0)	13.0	4.5	(4.48)	古・中	
M178	竪穴住居150	鍬	鉄	(38.0)	18.0	(3.8)	(6.41)	古・中	
M179	竪穴住居154	刀子	鉄	(33.5)	15.0	5.0	3.88	古・中	
M180	竪穴住居156	鍬	鉄	(30.0)	23.0	3.1	6.82	古・中	
M181	竪穴住居163	—	鉄	(33.0)	(22.0)	6.0	5.71	古・中	
M182	竪穴住居165	斧	鉄	92.0	31.0	5.0	71.79	古・中	
M183	竪穴住居172	刀子	鉄	(102.5)	21.5	5.0	16.02	古	鋸かも
M184		鎌	鉄	(176.0)	31.0	8.0	86.68		
M185	竪穴住居174	鉋?	鉄	(40.5)	(18.8)	5.9	6.85	弥	
M186		板	鉄	(39.0)	(27.0)	5.0	4.71		
M187		板	鉄	(32.0)	(20.5)	3.0	2.43		
M188	竪穴住居182	?	鉄	(48.5)	(19.0)	(4.0)	(6.10)	古・後・Ⅱ	
M189	竪穴住居184	?	鉄	(25.5)	(21.0)	(2.0)	(2.30)	古・中・Ⅰ	
M190	竪穴住居186	?	鉄	(21.5)	(7.3)	(2.8)	(1.00)	古・後・Ⅱ?	
M191	竪穴住居188	?	鉄	(37.1)	(9.5)	(4.3)	(2.50)	古・中・Ⅰ	
M192		斧	鉄	116.0	50.5	24.5	(224.80)		
M193	竪穴住居190・191	?	鉄	(54.0)	(13.3)	(2.5)	4.30	古・中・Ⅱ	

金属器一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M194	河道7	?	鉄	(48.5)	(9.0)	(3.7)	(5.10)	古・中・I	(茎)
M195		鎌	鉄	112.0	(29.0)	3.3	(21.28)		
M196	河道7	刀子	鉄	(118.5)	(12.5)	(5.8)	15.70	古・中・I	
M197	柱穴77	刀子?	鉄	(45.0)	11.0	5.5	4.35	古	
M198	包含層	耳環	銅	25.0		5.0	(7.16)	古	灰白色
M199		斧	鉄	(53.0)	44.0	6.0	(40.90)	古?	
M200		鎌	鉄	(98.0)	31.0	4.0	(34.79)	古・中?	
M201		?	鉄	(29.0)	13.0	6.0	3.15	古	
M202		鎌?	鉄	(64.0)	(8.0)	3.8	(4.79)	古・中?	
M203		鎌	鉄	(52.5)	(10.5)	(6.0)	(5.61)	古・中?	
M204		鎌?	鉄	(58.0)	(10.5)	(3.0)	(6.70)	古・中?	茎
M205		鎌?	鉄	(40.0)	(7.5)	(4.0)	(2.85)	古・中?	茎
M206	土壙墓9	刀	鉄	—	31.0	6.0	50.05	中世(鎌倉)	刃部の計測値で、茎は、長さ18mm 厚さ5mm
M207		釘?	鉄	101.0	8.0	7.5	14.37		
M208	土壙墓18	小刀	鉄	(181.0)	30.7	6.0	(35.38)	中世	桶・目釘穴あり
M209		刀子	鉄	(127.0)	(21.0)	(4.0)	(17.10)		
M210		火打金	鉄	(49.0)	(27.0)	4.0	(5.17)		
M211		二又槍	鉄	(253.0)	121.0	38.5	(254.25)		
M212	土壙墓21	鏡	銅	112.5	—	9.0	211.77	中世	洲浜菊花双鳥鏡
M213		刀子	鉄	(190.0)	17.0	4.0	(40.40)		
M214		釘	鉄	(43.5)	5.0	5.0	(3.30)		
M215	土壙460	釘	鉄	(71.0)	(5.5)	5.7	(7.26)	中世	
M216	土壙473	板	鉄	(58.0)	(27.0)	3.0	9.75	中世	包丁?
M217	溝46	鋤先か鍬先	鉄	(60.0)	35.0	6.0	21.29	中世	
M218		鉄板状	鉄	(59.1)	30.8	7.0	18.50		
M219	溝45	鎌?	鉄	(57.0)	14.9	4.4	5.95	中世	刀子の中子かも
M220	溝48	釘	鉄	(79.0)	(9.0)	(8.0)	(6.67)	中世	
M221	窪地5	銭貨	銅	24.9		1.6	3.30	中世	大観通寶 大観元年(1107)
M222	河道9	釘	鉄	(20.0)	6.0	4.0	0.90		
M223		鎌?	鉄	(34.0)	(7.0)	8.0	4.13		茎の部分?
M224		釘	鉄	(38.0)	5.0	5.0	2.92		
M225		?	鉄	(66.2)	(17.1)	(7.8)	(13.90)	古代	
M226		刀子	鉄	(47.5)	(11.0)	(5.0)	(5.50)	古代	
M227		刀子?	鉄	(40.0)	(10.5)	(3.5)	(6.95)	平安	茎
M228		刀子	鉄	(24.0)	(14.0)	(3.0)	(2.80)	古代	
M229		?	鉄	(21.0)	(11.0)	(5.5)	(4.00)	古代	
M230		鎌	鉄	101.0	27.0	6.0	(45.10)	古代?	
M231		釘	鉄	(36.0)	9.0	4.5	(3.10)	古代	
M232			鉄	(41.8)	(5.0)	(5.0)	(2.50)	古代	
M233		馬具	鉄	(66.0)	(23.0)	(10.5)	(13.00)	古墳	轡
M234		釘	鉄	58.0	5.2	4.0	2.90	古代	
M235		柱穴94	刀子	鉄	(170.0)	(19.0)	(4.0)	(42.46)	中世
M236	包含層	刀子	鉄	(142.5)	15.0	2.2	(11.62)	中世	
M237		刀子	鉄	(90.8)	18.7	4.4	12.17	中世	
M238		刀子の中子	鉄	(62.1)	14.5	5.8	8.77	中世	
M239		剣?	鉄	(126.0)	23.1	4.0	(20.20)	古代・中世?	
M240		鎌	鉄	(57.1)	12.5	4.5	—	古・中・I	
M241		鎌	鉄	(35.0)	(9.8)	(5.0)	(3.70)	中世	
M242		釘?	鉄	45.0	5.3	5.5	2.27	中世	
M243		釘	鉄	69.9	8.0	5.2	3.90	中世	完存
M244		釘	鉄	(94.0)	13.3	7.5	(24.68)	中世	
M245		釘	鉄	(81.5)	11.0	6.0	(14.12)	中世	
M246		釘	鉄	(73.0)	(6.5)	5.0	4.89	中世	
M247		釘	鉄	(59.0)	10.0	6.0	(8.38)	中世	
M248		釘	鉄	(51.0)	6.5	4.8	(4.79)	中世	
M249		釘	鉄	(63.0)	10.0	7.0	(11.95)	中世	
M250	釘	鉄	(73.0)	9.0	7.0	(8.67)	中世		
M251	釘	鉄	(54.5)	7.6	8.0	4.88	中世		
M252	釘	鉄	(51.4)	14.9	5.0	7.08	中世		
M253	釘	鉄	71.0	12.0	6.8	17.88	中世		
M254	釘	鉄	42.4	3.8	4.6	2.57	中世		
M255	釘	鉄	(22.0)	6.5	5.4	1.41	中世		
M256	釘	鉄	(58.0)	12.0	7.0	13.98	中世		

金属器一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M257	包含層(中世)	釘	鉄	(57.7)	16.8	7.0	11.83	中世	
M258		釘	鉄	(56.0)	(20.0)	12.0	(33.61)	中世	保存状態悪い
M259		釘	鉄	65.5	8.8	8.5	13.24	中世	
M260		釘	鉄	(28.0)	8.5	4.7	(2.10)	古代~中世	
M261		釘	鉄	(38.3)	6.2	4.6	1.69	中世	
M262		?	鉄	(48.1)	(19.0)	(6.2)	(17.00)	?	
M263		楔?	鉄	(47.0)	13.9	9.0	(9.70)	?	
M264		楔? 釘?	鉄	(39.0)	11.8	7.8	(6.60)	中世	
M265		斧	鉄	98.0	51.0	17.0	(148.40)	古代・中世?	
M266		鎌の中子?	鉄	(33.5)	19.5	3.1	5.05	中世	
M267		火打金	鉄	(64.0)	24.0	4.0	(14.23)	中世	
M268		?	鉄	(40.3)	(18.3)	(5.0)	(6.60)	?	
M269		銭貨	銅	24.5	-	1.1	2.67	古代	太平通寶 太平興國二年(977)
M270		銭貨	銅	23.4	-	1.4	1.22	?	寛永通寶

木器・木製品一覧表

掲載番号	掲載遺構名 /試掘地点名	器種	樹種	法量(mm)			重量(g)	時期	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
W1	B-16	椀	?	-	6.0	-	-	中世?	内面に赤色顔料
W2	河道2	高杯	ケヤキ	(24.0)	-	-	-	弥生	
W3	井戸2	下駄	マツ属	(135.0)	82.0	8.0	-	室町	鼻緒の孔径7mm
W4		椀	クリ	(126.0)	-	64.0	-		
W5		杓子	マツ属	208.0	(86.0)	30.0	-		柄117×29mm
W6	井戸3	桶状	?	98.0	56.0	7.0	-	鎌倉~室町	曲げ物の底板
W7		底	?	90.7	61.2	5.1	-		
W8		下駄	?	206.0	(59.0)	12.0	-		草戸千軒IV期前半C類28に類似
W9		桶	?	106.4	82.3	13.9	-		持ち手部分
W10	土壙墓6	椀?	?	-	-	-	-	中世・	漆塗り 漆部分のみ残
W11	井戸4	椀?	?	14.6	6.8	(9.9)	-	中世	漆塗り

ガラス一覧表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(mm)				重量(g)	色調	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径				
G1	包含層	玉	3.0	4.2	-	1.7	0.07	水色	古	
G2	竪穴住居6	小玉	5.0	3.8	-	1.2	0.09	水色	弥・後・II	孔三角形
G3		小玉	3.4	5.3	-	1.9	0.12	水色		
G4		小玉	2.8	3.8	-	1.3	0.05	水色やや緑がかる		
G5		小玉	3.1	4.4	-	1.8	0.07	水色		
G6		小玉	2.0	4.2	-	1.2	0.05	コバルトブルー		
G7		小玉	2.6	4.0	-	1.5	0.06	水色		
G8		小玉	3.6	3.8	-	1.6	0.07	水色		
G9		小玉	1.6	3.6	-	1.1	0.01	水色		
G10		小玉	4.4	4.2	-	1.3	0.05	水色		
G11		小玉	2.7	3.6	-	1.6	0.04	水色		
G12		竪穴住居23	小玉	2.9	4.2	-	1.2	0.06		
G13	竪穴住居30	小玉	4.3	3.4	-	1.8	0.08	水色	古・中・II	
G14		小玉	(2.5)	2.5	-	1.0	0.01	水色		
G15	竪穴住居37	小玉	4.2	3.4	-	1.5	0.07	水色	古・中・I	
G16	土壙390	管玉	12.5	7.5	-	3.0	1.53	淡青緑	弥・後・III	
G17	竪穴住居142	小玉	3.0	4.0	-	1.0	0.02	黄色	古・中	
G18	土壙墓10	丸玉	15.8	16.8	-	4.4	4.42	灰白色	鎌倉	

玉類一覽表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(mm)				重量(g)	色調/材質	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径				
S 3	包含層	勾玉	39.0	17.0	6.0	—	6.99	蛇紋岩	古	
G 1		玉	3.0	4.2	—	1.7	0.07	水色		
G 2	竪穴住居6	小玉	5.0	3.8	—	1.2	0.09	水色	弥・後・Ⅱ	孔三角形
G 3		小玉	3.4	5.3	—	1.9	0.12	水色		
G 4		小玉	2.8	3.8	—	1.3	0.05	水色やや緑がかかる		
G 5		小玉	3.1	4.4	—	1.8	0.07	水色		
G 6		小玉	2.0	4.2	—	1.2	0.05	コバルトブルー		
G 7		小玉	2.6	4.0	—	1.5	0.06	水色		
G 8		小玉	3.6	3.8	—	1.6	0.07	水色		
G 9		小玉	1.6	3.6	—	1.1	0.01	水色		
G 10		小玉	4.4	4.2	—	1.3	0.05	水色		
G 11		小玉	2.7	3.6	—	1.6	0.04	水色		
S 30		竪穴住居13	管玉	42.6	4.7	—	2.4	1.63		
S 31	竪穴住居15	管玉	16.0	4.5	—	1.8	0.55	碧玉	弥・後・Ⅲ	完存 完存
S 32		管玉	8.7	4.1	—	1.8	0.20	碧玉		
C 78	袋状土壙11	勾玉	48.0	17.0	15.0	4.0	21.13	灰白色(10YR8/2)	弥・後・Ⅰ	細砂
S 52	竪穴住居23	白玉	(5.1)	5.8	—	2.0	0.27	滑石	古・後・Ⅱ	
S 53		白玉	(3.3)	4.5	—	1.4	0.10	滑石		
S 54		白玉	2.2	4.3	—	1.5	0.05	滑石		
S 55		白玉	(3.9)	4.9	—	1.9	0.10	滑石		
S 56		白玉	(2.0)	4.9	—	(1.9)	測定不能	滑石		
G 12		小玉	2.9	4.2	—	1.2	0.06	水色		
S 57	竪穴住居26	勾玉	24.0	8.1	7.0	2.2	3.00	メノウ	古・中・Ⅱ	
S 58	竪穴住居28	勾玉	30.0	11.0	8.2	2.0	5.79	滑石	古・中・Ⅰ	
S 59	竪穴住居30	白玉	5.5	4.0	—	2.0	0.18	滑石	古・中・Ⅱ	
S 60		白玉	5.7	4.1	—	2.0	0.18	滑石		
S 61		白玉	5.7	3.5	—	2.0	0.15	滑石		
S 62		白玉	5.6	3.0	—	2.0	0.11	滑石		
S 63		白玉	5.6	3.2	—	2.0	0.15	滑石		
S 64		白玉	5.4	3.5	—	2.0	0.14	滑石		
S 65		白玉	5.7	3.3	—	2.0	0.15	滑石		
S 66		白玉	5.5	2.5	—	2.0	0.08	滑石		
S 67		白玉	5.7	3.1	—	2.0	0.12	滑石		
S 68		白玉	5.7	3.7	—	2.0	0.17	滑石		
S 69		白玉	5.8	2.5	—	2.0	0.12	滑石		
S 70		白玉	5.8	3.2	—	2.0	0.15	滑石		
S 71		白玉	5.5	3.5	—	2.0	0.13	滑石		
S 72		白玉	5.0	1.9	—	2.0	0.07	滑石		
S 73		白玉	5.6	2.0	—	2.0	0.09	滑石		
S 74		白玉	5.7	3.0	—	2.0	0.21	滑石		
S 75		白玉	5.7	3.0	—	2.0	0.14	滑石		
S 76		管玉	4.5	1.7	—	1.8	0.55	黒よう岩		
G 13	竪穴住居31	小玉	4.3	3.4	—	1.8	0.08	水色	古・中・Ⅱ	
G 14		小玉	(2.5)	2.5	—	—	0.01	水色		
C 91	竪穴住居37	土玉	27.0	20.0	—	3.0	12.13	鈍橙色(5YR7/3)	古・中・Ⅰ	完形 細砂
G 15		小玉	4.2	3.4	—	1.5	0.07	水色		
S 79	竪穴住居39	勾玉	17.0	7.5	3.7	1.5	0.76	蛇紋岩	古・中	
S 86	土壙170	勾玉	30.5	9.5	9.5	3.0	5.74	滑石?	古・中・Ⅰ	
S 87	包含層	勾玉	38.0	11.5	11.0	2.0	12.99	蛇紋岩	古	
S 88		勾玉	15.0	5.5	4.2	1.5	0.65	滑石		
S 89		管玉	(11.7)	4.2	2.0	2.3	0.30	滑石		
S 116	竪穴住居77	勾玉	13.0	5.0	3.1	2.0	0.37	透角閃石	弥・後	
S 119	竪穴住居80	管玉	(17.3)	5.2	—	2.0	0.59	グリーンタフ	弥・後・Ⅳ	
S 120	竪穴住居82	管玉	9.3	4.8	—	2.5	0.30	碧玉	弥・後・Ⅱ～Ⅲ	
C 133	竪穴住居91	玉	19.0	24.0	—	—	8.82	橙色(5YR6/6)	弥・後	刺突文 ほぼ完形 細砂
S 124	竪穴住居96	管玉	6.7	3.5	—	1.5	0.10	グリーンタフ	弥・後・Ⅲ～Ⅳ	
S 127	竪穴住居114A	勾玉	13.3	7.5	3.3	2.0	0.75	翡翠	弥・後・Ⅲ	孔径小は、(1.0)mm
C 16	土壙390	管玉	12.5	7.5	—	3.0	1.53	淡青緑	弥・後・Ⅲ	
S 129	竪穴住居116	管玉	12.0	(7.3)	—	3.0	0.64	碧玉	弥・後・Ⅲ	
C 149	袋状土壙103	土玉	—	—	8.0	—	5.37	黒褐色(2.5Y3/1)	弥	細砂
S 142	方形土壙41	勾玉	16.5	7.0	4.3	2.5	0.74	透角閃石	弥・後・Ⅳ?	
C 152	方形土壙107	丁字頭勾玉	(36.0)	(16.5)	(19.5)	3.5	(14.48)	橙色(5YR6/6)	弥	細砂
S 147	土壙230	白玉	3.3	4.4	—	1.8	0.09	滑石?	弥・後・Ⅳ	
C 160	包含層	土玉	18.5	16.0	—	2.0	4.10	橙色(5YR6/6)	古・中・Ⅰ?	完存

玉類一覽表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(mm)				重量(g)	色調/材質	時期	特徴・備考		
			最大長	最大幅	最大厚	孔径						
S182	竪穴住居140	白玉	3.7	5.0	-	2.0	0.13	蛇紋岩	古・中			
S183		白玉	1.8	4.8	-	(2.2)	0.04	蛇紋岩				
S184		白玉	2.0	(4.5)	-	(1.8)	0.03	滑石				
S185		白玉	2.0	5.0	-	1.5	0.08	滑石				
S186		白玉	3.8	4.7	-	2.0	0.12	蛇紋岩				
S187		白玉	(2.0)	(5.4)	-	(2.0)	0.04	蛇紋岩				
S188		白玉	2.5	4.5	-	2.2	0.09	滑石				
S189		白玉	1.5	5.5	-	1.5	0.06	滑石				
S190		白玉	2.5	5.0	-	2.2	0.09	蛇紋岩				
S191		白玉	2.0	4.5	-	1.7	0.06	滑石				
S193		竪穴住居142	白玉	2.3	4.2	-	1.8	0.04		滑石	古・中	
S194	白玉		2.0	4.3	-	2.0	0.04	滑石				
S195	白玉		2.5	4.0	-	2.0	0.04	滑石				
S196	白玉		2.0	4.6	-	1.8	0.05	滑石				
S197	白玉		2.2	3.8	-	1.8	0.03	滑石				
S198	白玉		(2.8)	3.8	-	2.0	0.04	滑石				
S199	白玉		2.5	4.0	-	2.0	0.06	滑石				
S200	白玉		2.8	4.0	-	2.0	0.05	滑石				
S201	白玉		3.0	4.0	-	1.8	0.06	滑石				
S202	白玉		1.0	4.0	-	2.0	0.04	滑石				
S203	白玉		2.0	4.0	-	1.8	0.05	滑石				
S204	白玉		2.3	4.2	-	1.3	0.07	滑石				
S205	白玉		3.0	4.5	-	2.0	0.07	蛇紋岩				
S206	白玉		3.0	3.8	-	1.7	0.06	蛇紋岩				
S207	白玉		2.5	3.8	-	1.5	0.05	蛇紋岩				
S208	白玉		(2.5)	(3.6)	-	(1.5)	0.05	蛇紋岩				
S209	白玉		2.8	3.9	-	1.8	0.06	蛇紋岩				
S210	白玉		3.5	4.0	-	2.0	0.07	蛇紋岩				
S211	白玉		2.7	4.0	-	2.0	0.05	蛇紋岩				
S212	白玉		3.3	4.2	-	2.0	0.06	蛇紋岩				
S213	白玉		3.3	4.0	-	1.8	0.06	蛇紋岩				
S214	白玉		2.7	4.1	-	1.7	0.05	蛇紋岩				
S215	白玉		3.0	4.0	-	2.0	0.06	蛇紋岩				
S216	白玉		3.0	4.2	-	2.0	0.06	蛇紋岩				
S217	白玉		2.5	4.2	-	2.0	0.05	蛇紋岩				
S218	白玉		2.3	4.2	-	2.0	0.06	蛇紋岩				
S219	白玉		2.5	4.2	-	2.0	0.05	蛇紋岩				
S220	白玉		(3.0)	(4.5)	-	(2.0)	0.02	蛇紋岩				
G17	小玉		3.0	4.0	-	1.0	0.02	黄色				
S221	竪穴住居143		管玉	15.2	6.1	-	3.0	0.94	蛇紋岩	古・中		
S222			白玉	3.5	5.8	-	2.0	0.18	蛇紋岩			
S223			白玉	3.0	5.0	-	2.5	0.12	蛇紋岩			
S224			白玉	3.3	4.7	-	2.0	0.09	蛇紋岩			
S225		白玉	2.5	5.0	-	2.5	0.07	蛇紋岩				
S226		白玉	2.0	4.8	-	2.0	0.09	滑石				
S227	竪穴住居144	白玉	3.2	5.0	-	2.0	0.10	滑石	古・中			
S228		白玉	3.0	(5.5)	-	(2.0)	0.05	滑石				
S235	竪穴住居163	管玉	17.5	3.8	-	1.5	0.33	碧玉	古・中			
S240	竪穴住居171	管玉	(11.3)	3.8	-	2.0	0.26	滑石	古・中・I			
S243	竪穴住居174	勾玉	37.5	11.5	10.0	2.5	6.88	?	古・中・I			
S244	竪穴住居175	白玉	1.5	3.3	-	1.5	0.01	滑石	古・後			
S245	竪穴住居179	勾玉	29.0	9.5	8.5	-	5.29	メノウ	古・中・I~II			
S249	竪穴住居183	白玉	1.4	(3.2)	-	-	0.01以下	蛇紋岩	古・中・I			
S250	竪穴住居184	白玉	3.5	2.0	-	2.0	0.03	蛇紋岩	古・中・I			
S251		白玉	3.8	2.3	-	1.3	0.05	蛇紋岩				
S252		白玉	3.2	1.5	-	1.5	0.01	蛇紋岩				
S253		白玉	3.8	2.7	-	1.5	0.05	蛇紋岩				
S254		白玉	(3.8)	2.3	-	計測不能	0.02	滑石				
S255		白玉	(3.8)	2.5	-	計測不能	0.02	滑石				
S256		管玉	22.0	4.0	-	2.0	0.43	蛇紋岩				
S258	竪穴住居190	勾玉	19.0	6.5	4.5	-	1.09	滑石	古・中・I			
S259		白玉	4.6	5.0	-	2.0	0.15	蛇紋岩				
S260	竪穴住居191	白玉	4.5	2.5	-	1.8	0.06	蛇紋岩	古・中・II			
S261		白玉	4.1	3.5	-	1.7	0.06	蛇紋岩				



玉類一覽表

掲載番号	掲載遺構名	器種	法量(mm)				重量(g)	色調/材質	時期	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚	孔径				
S262	竪穴住居191	白玉	4.5	2.5	—	2.0	0.07	滑石	古・中・Ⅱ	
S263		白玉	4.0	2.8	—	1.5	0.05	滑石		
S264		白玉	5.0	1.5	—	1.5	0.05	滑石		
M204	包含層	耳環	25.0	—	5.0	—	(7.16)	銅	古	灰白色
G18	土壇墓10	丸玉	15.8	16.8	—	4.4	4.42	灰白色	古	

瓦一覽表

挿入番号	掲載遺構名	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	特徴
				最大長	最大幅	最大厚			
215	溝8	瓦	巴文軒丸瓦	13.0	(7.2)	1.7	明褐灰色(7.5YR7/2)	精良	瓦当部スス
496	包含層	瓦	軒丸瓦	13.2	13.9	1.2	灰白色(5Y8/1)	細砂	
1585	溝29	瓦	平瓦	(7.2)	(8.0)	2.2	灰色(N6/)	細砂	布目6本/1cm
1681	包含層	瓦	平瓦	(10.8)	(8.0)	2.2	—	細砂、礫	
5735	土壇446	瓦	軒丸瓦	12.5	13.0	6.6	灰色(N5/)	細砂	6225並式
5780	土壇470	瓦	丸瓦	(6.4)	(6.0)	1.2	灰白色(5Y7/1)	細砂	
5790	土壇473	瓦	平瓦	(8.0)	(10.8)	2.0	灰白色(2.5Y8/2)	細砂	
5806	溝45	瓦	玉縁丸瓦	(11.0)	(10.2)	2.5	黒褐色(10YR3/1)	細砂	
6084	河道9	瓦	丸瓦	(16.0)	(12.0)	2.0	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂	
6275	包含層	瓦	丸瓦	8.0	4.4	1.4	灰褐色(5YR5/2)	細砂	内面布目
6276		瓦	平瓦	(10.0)	(12.4)	1.6	灰白色(5Y7/1)	細砂、粗砂、礫	
6277		瓦	平瓦	(21.2)	(12.8)	2.0	灰白色(7.5Y8/1)	細砂、粗砂	

竪穴住居名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
竪穴住居1	塚廻り2	SH-01	正岡
竪穴住居2	塚廻り3B	SH-02	正岡
竪穴住居3	塚廻り3B	SH-03	正岡
竪穴住居4	塚廻り3B	SH-01	正岡
竪穴住居5	塚廻り4A	No.6	浅倉
竪穴住居6	フロヤ3A	No.11	浅倉
竪穴住居7	フロヤIIA	No.168	平井
竪穴住居8	フロヤIIA	No.160	平井
竪穴住居9	フロヤ2C	No.30	岡本
竪穴住居10	フロヤIIA	No.80, 113	平井
竪穴住居11	フロヤ2C	No.48	岡本
竪穴住居12	フロヤ2C	No.23	岡本
竪穴住居13	フロヤ2C	No.46	岡本
竪穴住居14	フロヤ1	No.199	岡本
竪穴住居15	フロヤ1	No.201	岡本
竪穴住居16	フロヤ1	No.120	岡本
竪穴住居17	フロヤ1	No.154	岡本
竪穴住居18	フロヤ1	No.178	岡本
竪穴住居19	フロヤ1	No.152	岡本
竪穴住居20	フロヤ1	No.179	岡本
竪穴住居21	フロヤ3A	No.13	浅倉
竪穴住居22a	フロヤ3A	No.9下	浅倉
竪穴住居22b	フロヤ3A	No.9上	浅倉
竪穴住居23	フロヤ3B	No.8	浅倉
竪穴住居24	フロヤ3A	No.6	浅倉
竪穴住居25	フロヤ3A	No.10	浅倉
竪穴住居26	フロヤ3	No.5	浅倉
竪穴住居27	フロヤIIA	No.172	平井
竪穴住居28	フロヤIIA	No.135	平井
竪穴住居29	フロヤIIA	No.144	平井
竪穴住居30	フロヤIIA	No.70a, b	平井
竪穴住居31	フロヤIIA	No.62	平井
竪穴住居32	フロヤIIA	No.148	平井
竪穴住居33	フロヤIIA	No.179	平井
竪穴住居34	フロヤIIAB	No.145	平井
竪穴住居35	フロヤIIA	No.155	平井
竪穴住居36	フロヤIIA	No.129	平井
竪穴住居37	フロヤIIA	No.51	平井
竪穴住居38	フロヤIIA	No.58	平井
竪穴住居39	フロヤ2C	No.22	岡本
竪穴住居40	フロヤ1	No.191	岡本
竪穴住居41	フロヤ1	No.190	岡本
竪穴住居42	フロヤ1	No.184	岡本
竪穴住居43	フロヤ1	No.43	岡本
竪穴住居44	フロヤ1	No.170	岡本
竪穴住居45	フロヤ1	No.181	岡本
竪穴住居46	フロヤ1	No.180	岡本
竪穴住居47	フロヤ1	No.156	岡本
竪穴住居48	フロヤ1	No.157	岡本
竪穴住居49	フロヤ1	No.162	岡本
竪穴住居50	角田4NW	NWNo.16	浅倉
竪穴住居51	角田4NE	NENa.17	浅倉
竪穴住居52	角田4NE	NENa.22	浅倉
竪穴住居53A	角田4NE	NENa.11-1	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
竪穴住居53B	角田4NE	NENa.11-2	浅倉
竪穴住居54	角田4SW	SWNo.5, 5'	浅倉
竪穴住居55	角田4SW	SWNo.19	浅倉
竪穴住居56	角田4SW	SWNo.16	浅倉
竪穴住居57	角田4SW	SWNo.6-1	浅倉
竪穴住居58	角田4SW	SWNo.6-2	浅倉
竪穴住居59	角田4SW	SWNo.7	浅倉
竪穴住居60	角田4SW	SWNo.11	浅倉
竪穴住居61a	角田4SW	SWNo.12	浅倉
竪穴住居61b	角田4SW	SWNo.13	浅倉
竪穴住居62	角田4SE	SENo.16	浅倉
竪穴住居63	角田4NE~SE	NENa.13	浅倉
竪穴住居64	角田4NE	NENa.38	浅倉
竪穴住居65	角田4SE	SENo.14-2	浅倉
竪穴住居66	角田4SE~NE	SENo.14-1	浅倉
竪穴住居67	角田4SE	SENo.8, 15	浅倉
竪穴住居68	角田4SE	SENo.11	浅倉
竪穴住居69	角田4SE	SENo.12	浅倉
竪穴住居70	角田3b	SH-03	松本
竪穴住居71	角田3a	SH-13	松本
竪穴住居72	角田3a	SH-04a	松本
竪穴住居73	角田3a	SH-04b, c	松本
竪穴住居74	角田3a	SH-05b, c	松本
竪穴住居75	角田3a	SH-14a	松本
竪穴住居76	角田3a	SH-14b	松本
竪穴住居77A	角田3a	SH-10 3面	松本
竪穴住居77B	角田3a	SH-10旧	松本
竪穴住居77C	角田3a	SH-10新	松本
竪穴住居78	角田3a	SH-12	松本
竪穴住居79	角田3a	SH-11旧・新	松本
竪穴住居80	角田3a	SH-06a	松本
竪穴住居81	角田3a	SH-06b	松本
竪穴住居82	角田3a	SH-06c	松本
竪穴住居83	角田3a	SH-03	松本
竪穴住居84	角田3c	SH-10	松本
竪穴住居85	角田3c	SH-09	松本
竪穴住居86	角田3c	SH-03古・新	松本
竪穴住居87	角田3b	SH-04	松本
竪穴住居88	角田3d	SH-05	松本
竪穴住居89	角田3d	SH-06	松本
竪穴住居90	角田3d	SH-03旧・新	松本
竪穴住居91	角田3d	SH-02古・中	松本
竪穴住居92	角田3e	SH-01	松本
竪穴住居93	角田3d	SH-04	松本
竪穴住居94	角田3c	SH-05	松本
竪穴住居95	角田3c	SH-06	松本
竪穴住居96	角田3c	SH-02	松本
竪穴住居97	角田3c	SH-08	松本
竪穴住居98	角田3e	SH-02	松本
竪穴住居99	角田III F	No.181	江見
竪穴住居100	角田III F	No.187	江見
竪穴住居101	角田II E・III F	No.153	江見
竪穴住居102	角田II E	No.152	江見
竪穴住居103	角田II B	No.43	江見

### 竪穴住居名称新旧对照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
竪穴住居104	角田ⅡA B	No.44	江見
竪穴住居105	角田ⅡB	No.16	江見
竪穴住居106	角田ⅡB	No.60	江見
竪穴住居107	角田ⅡC	No.62	江見
竪穴住居108	角田ⅡB	No.64	江見
竪穴住居109	角田ⅡC	No.111	江見
竪穴住居110	角田ⅡC	No.130	江見
竪穴住居111	角田ⅡD	No.133	江見
竪穴住居112	角田ⅡC	No.132	江見
竪穴住居113	角田ⅡC	No.99	江見
竪穴住居114A	角田ⅡD	No.124	江見
竪穴住居114B	角田ⅡD	No.123	江見
竪穴住居115	角田ⅡE	No.150	江見
竪穴住居116	角田ⅡE	No.149	江見
竪穴住居117	角田2 d 南	SH-02	松本
竪穴住居118	角田ⅠA	No.10	平井
竪穴住居119	角田ⅠA	No.17	平井
竪穴住居120	角田ⅠA	No.11	平井
竪穴住居121	角田ⅠB	No.18	平井
竪穴住居122	角田ⅠB	No.61	平井
竪穴住居123	角田ⅠC	No.51	平井
竪穴住居124	角田ⅠD	No.78	平井
竪穴住居125	角田ⅠD	No.80	平井
竪穴住居126	角田ⅠD	No.76	平井
竪穴住居127	角田4 NW	NWNo.15	浅倉
竪穴住居128	角田4 NE	NENo.16	浅倉
竪穴住居129	角田4 NE	NENo.15	浅倉
竪穴住居130	角田4 NE	NENo.12	浅倉
竪穴住居131	角田4 SW	SWNo.15	浅倉
竪穴住居132	角田4 SW	SWNo.9	浅倉
竪穴住居133	角田4 SW	SWNo.8	浅倉
竪穴住居134a	角田4 SW～SE	SWNo.20	浅倉
竪穴住居134b	角田4 SW～SE	SWNo.14	浅倉
竪穴住居135	角田4 SE	SENo.19	浅倉
竪穴住居136	角田4 SE	SENo.7-1, 2	浅倉
竪穴住居137a	角田4 NE～SE	NENo.18-3	浅倉
竪穴住居137b	角田4 NE～SE	NENo.18-2	浅倉
竪穴住居137c	角田4 NE～SE	NENo.18-1	浅倉
竪穴住居138	角田3 a	SH-05	松本
竪穴住居139	角田3 a	SH-08	松本
竪穴住居140	角田3 b	SH-02	松本
竪穴住居141	角田3 b	SH-01	松本
竪穴住居142	角田3 a	SH-09 a	松本
竪穴住居143	角田3 c	SH-01	松本
竪穴住居144	角田3 d	SH-01旧・新	松本
竪穴住居145a	角田3 c	SH-04下	松本
竪穴住居145b	角田3 c	SH-04下	松本
竪穴住居145c	角田3 c	SH-04上	松本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
竪穴住居146	角田3 a	SH-04 d	松本
竪穴住居147	角田3 a	SH-02	松本
竪穴住居148	角田3 a	SH-07	松本
竪穴住居149	角田ⅡE	No.172	江見
竪穴住居150	角田3 a	SH-01	松本
竪穴住居151	角田ⅡE	No.189	江見
竪穴住居152	角田ⅡF	No.186	江見
竪穴住居153	角田ⅡB	No.59	江見
竪穴住居154	角田ⅡA	No.15	江見
竪穴住居155	角田ⅡA	No.2	江見
竪穴住居156	角田ⅡA	No.3	江見
竪穴住居157	角田ⅡA	No.5	江見
竪穴住居158	角田ⅡB	No.47	江見
竪穴住居159	角田ⅡB	No.49	江見
竪穴住居160	角田ⅡB・C	No.42	江見
竪穴住居161	角田ⅡC	No.72	江見
竪穴住居162	角田ⅡC	No.84	江見
竪穴住居163	角田ⅡC	No.70	江見
竪穴住居164	角田ⅡC	No.75	江見
竪穴住居165	角田ⅡC	No.88	江見
竪穴住居166	角田ⅡD	No.101	江見
竪穴住居167	角田ⅡD	No.142	江見
竪穴住居168	角田ⅡD	No.122	江見
竪穴住居169	角田ⅡE	No.169	江見
竪穴住居170	角田ⅡE	No.164	江見
竪穴住居171	角田ⅡE	No.173	江見
竪穴住居172	角田ⅡE	No.155	江見
竪穴住居173	角田ⅡE	No.163	江見
竪穴住居174	角田ⅡE	No.151	江見
竪穴住居175	角田2 d 南	SH-01	松本
竪穴住居176	角田ⅠA	No.13	平井
竪穴住居177	角田ⅠB	No.20	平井
竪穴住居178	角田ⅠA	No.04	平井
竪穴住居179	角田ⅠA	No.05	平井
竪穴住居180	角田ⅠA	No.07	平井
竪穴住居181	角田ⅠB	No.28	平井
竪穴住居182	角田ⅠB	No.26	平井
竪穴住居183	角田ⅠB	No.58	平井
竪穴住居184	角田ⅠB	No.30	平井
竪穴住居185	角田ⅠB	No.27	平井
竪穴住居186	角田ⅠC	No.31	平井
竪穴住居187	角田ⅠC	No.47	平井
竪穴住居188	角田ⅠC	No.38	平井
竪穴住居189	角田ⅠC	No.54	平井
竪穴住居190	角田ⅠC	No.56	平井
竪穴住居191	角田ⅠC	No.55	平井
竪穴住居192	角田ⅠB	No.68	平井
竪穴住居193	角田ⅠB	No.57	平井

### 掘立柱建物名称新旧对照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
掘立柱建物1	塚廻り2	建物2	正岡

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
掘立柱建物2	塚廻り2	建物3	正岡

## 掘立柱建物名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
掘立柱建物3	塚廻り2	建物5	正岡
掘立柱建物4	塚廻り2	建物8	正岡
掘立柱建物5	塚廻り3A	建物10	正岡
掘立柱建物6	塚廻り3B	建物8	正岡
掘立柱建物7	塚廻り3B	建物9	正岡
掘立柱建物8	塚廻り4A	No.5	浅倉
掘立柱建物9	塚廻り4	No.4	浅倉
掘立柱建物10	フロヤ2C	No.53	岡本
掘立柱建物11	フロヤ2C	No.54	岡本
掘立柱建物12	フロヤ2C	No.55	岡本
掘立柱建物13	フロヤ1	No.126	岡本
掘立柱建物14	フロヤ1	No.45	岡本
掘立柱建物15	フロヤII A	No.47	平井
掘立柱建物16	フロヤ1	No.138	岡本
掘立柱建物17	フロヤ1	No.219	岡本
掘立柱建物18	フロヤ1	No.210	岡本
掘立柱建物19	フロヤ1	No.142	岡本
掘立柱建物20	フロヤ3	建物1	浅倉
掘立柱建物21	フロヤII A	No.39	平井
掘立柱建物22	フロヤII A	No.186	平井
掘立柱建物23	フロヤII A	No.187	平井
掘立柱建物24	フロヤII A	No.33	平井
掘立柱建物25	フロヤII A	No.40	平井
掘立柱建物26	フロヤII A	No.41	平井
掘立柱建物27	フロヤII A	No.34	平井
掘立柱建物28	フロヤII A	No.188	平井
掘立柱建物29	フロヤ2C	No.29	岡本
掘立柱建物30	フロヤ2C	No.27	岡本
掘立柱建物31	フロヤ2C	No.26	岡本
掘立柱建物32	フロヤ2C	No.28	岡本
掘立柱建物33	フロヤII A	No.4	平井
掘立柱建物34	フロヤ1	No.18	岡本
掘立柱建物35	フロヤ1	No.19	岡本
掘立柱建物36	フロヤ1	No.13	岡本
掘立柱建物37	フロヤ1	No.20	岡本
掘立柱建物38	フロヤ1	No.130	岡本
掘立柱建物39	フロヤ1	No.212	岡本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
掘立柱建物40	フロヤ1	No.128	岡本
掘立柱建物41	フロヤ1	No.207	岡本
掘立柱建物42	フロヤ1	No.129	岡本
掘立柱建物43	フロヤ1	No.214	岡本
掘立柱建物44	フロヤ1	No.215	岡本
掘立柱建物45	フロヤ1	No.216	岡本
掘立柱建物46	フロヤ1	No.17	岡本
掘立柱建物47	フロヤ1	No.12	岡本
掘立柱建物48	フロヤ1	No.208	岡本
掘立柱建物49	フロヤ1	No.139	岡本
掘立柱建物50	フロヤ1	No.209	岡本
掘立柱建物51	フロヤ1	No.140	岡本
掘立柱建物52	フロヤ1	No.213	岡本
掘立柱建物53	フロヤ1	No.137	岡本
掘立柱建物54	角田II C	No.71	江見
掘立柱建物55	角田4NE	NENo.7	浅倉
掘立柱建物56	角田4NE	NENo.24	浅倉
掘立柱建物57	角田4NE	NENo.6	浅倉
掘立柱建物58	角田4SE	SENo.2-1	浅倉
掘立柱建物59	角田3b	SB-01	松本
掘立柱建物60	角田3b	SB-02	松本
掘立柱建物61	角田3d	SB-04	松本
掘立柱建物62	角田3d	SB-03	松本
掘立柱建物63	角田3b	SB-03	松本
掘立柱建物64	角田3d	SB-01	松本
掘立柱建物65	角田3d	SB-02	松本
掘立柱建物66	角田3a	SB-02	松本
掘立柱建物67	角田3a	SB-07	松本
掘立柱建物68	角田3a	SB-08	松本
掘立柱建物69	角田3a	SB-03	松本
掘立柱建物70	角田3a	SB-05	松本
掘立柱建物71	角田3a	SB-06	松本
掘立柱建物72	角田3a	SB-04	松本
掘立柱建物73	角田3c	SB-02	松本
掘立柱建物74	角田3c	SB-01	松本
掘立柱建物75	角田3a	SB-01	松本
掘立柱建物76	角田3c	SB-03	松本

## 土墳墓名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土墳墓1	塚廻り3B	ST-01	正岡
土墳墓2	フロヤ3B	No.14	浅倉
土墳墓3	フロヤII AB	No.37	平井
土墳墓4	フロヤII AB	No.38	平井
土墳墓5	フロヤ1	No.4	岡本
土墳墓6	フロヤ1	No.104	岡本
土墳墓7	フロヤ1	No.141	岡本
土墳墓8	角田4NW	NWNo.4-2	浅倉
土墳墓9	角田4NW	NWNo.4-1	浅倉
土墳墓10	角田4NW	NWNo.6	浅倉
土墳墓11	角田4NW	NWNo.2-2-2-8	浅倉
土墳墓12	角田4NW	NWNo.7	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土墳墓13	角田4NE	NENo.5	浅倉
土墳墓14	角田4SW	SWNo.2-1	浅倉
土墳墓15	角田4SW	SWNo.2-10	浅倉
土墳墓16	角田4SE	SENo.3	浅倉
土墳墓17	角田4NE	NENo.13住居内	浅倉
土墳墓18	角田3b	SX-01	松本
土墳墓19	角田3a	SK-02	松本
土墳墓20	角田3c	SX-02	松本
土墳墓21	角田3c	SX-01	松本
土墳墓22	角田3c	SX-04	松本
土墳墓23	角田3c	SX-03	松本
土墳墓24	角田3c	SX-05	松本

土墳墓名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土墳墓25	角田 1 D	No.73	平井

火葬墓・鍛冶炉名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
火葬墓 1	角田 I	No.70	平井
鍛冶炉	角田 II	No.1	江見

焼成土壙名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
焼成土壙 1	塚廻り 2	SK-09	正岡
焼成土壙 2	塚廻り 2	SK-03	正岡
焼成土壙 3	塚廻り 2	SK-07	正岡
焼成土壙 4	塚廻り 3 A	SK-11	正岡

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
焼成土壙 5	塚廻り 3 A	SK-8	正岡
焼成土壙 6	塚廻り 3 A	SK-10	正岡
焼成土壙 7	塚廻り 3 A	SK-9	正岡
焼成土壙 8	フロヤ 2 C	No.5	岡本

井戸名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
井戸 1	塚廻り 2	SK-10	正岡
井戸 2	塚廻り 2	SE-01	正岡
井戸 3	塚廻り 3 C	SE-01	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
井戸 4	フロヤ II A	No.32	平井
井戸 5	フロヤ I	No.135	岡本
井戸 6	角田 4 NE~NW	NENo.14	浅倉

袋状土壙名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
袋状土壙 1	フロヤ II A	No.163	平井
袋状土壙 2	フロヤ II A	No.165	平井
袋状土壙 3	フロヤ II A	No.175	平井
袋状土壙 4	フロヤ II A B	No.176	平井
袋状土壙 5	フロヤ II A	No.183	平井
袋状土壙 6	フロヤ II A	No.158	平井
袋状土壙 7	フロヤ II A	No.180	平井
袋状土壙 8	フロヤ II A B	No.184	平井
袋状土壙 9	フロヤ II A B	No.174	平井
袋状土壙 10	フロヤ II A	No.171	平井
袋状土壙 11	フロヤ II A	No.159	平井
袋状土壙 12	フロヤ II A B	No.156	平井
袋状土壙 13	フロヤ II A	No.64	平井
袋状土壙 14	フロヤ II A	No.178	平井
袋状土壙 15	フロヤ II A B	No.167	平井
袋状土壙 16	フロヤ II A	No.166	平井
袋状土壙 17	フロヤ II A	No.152	平井
袋状土壙 18	フロヤ II A	No.169	平井
袋状土壙 19	フロヤ II A	No.170	平井
袋状土壙 20	フロヤ II A	No.153	平井
袋状土壙 21	フロヤ II A	No.118	平井
袋状土壙 22	フロヤ II A	No.119	平井
袋状土壙 23	フロヤ II A	No.126	平井
袋状土壙 24	フロヤ II A	No.124	平井
袋状土壙 25	フロヤ II A	No.125	平井
袋状土壙 26	フロヤ II A	No.140	平井
袋状土壙 27	フロヤ II A	No.134	平井
袋状土壙 28	フロヤ II A	No.74	平井
袋状土壙 29	フロヤ II A	No.73	平井
袋状土壙 30	フロヤ II A	No.139	平井

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
袋状土壙 31	フロヤ II A	No.120	平井
袋状土壙 32	フロヤ II A	No.147	平井
袋状土壙 33	フロヤ II A	No.146	平井
袋状土壙 34	フロヤ II A	No.138	平井
袋状土壙 35	フロヤ II A	No.137	平井
袋状土壙 36	フロヤ II A	No.112	平井
袋状土壙 37	フロヤ II A	No.173	平井
袋状土壙 38	フロヤ II A	No.128	平井
袋状土壙 39	フロヤ II A	No.122	平井
袋状土壙 40	フロヤ II A	No.114	平井
袋状土壙 41	フロヤ II A B	No.106	平井
袋状土壙 42	フロヤ II A	No.123	平井
袋状土壙 43	フロヤ II A	No.117	平井
袋状土壙 44	フロヤ II A	No.68	平井
袋状土壙 45	フロヤ II A	No.93	平井
袋状土壙 46	フロヤ II A	No.79	平井
袋状土壙 47	フロヤ II A B	No.95	平井
袋状土壙 48	フロヤ II A	No.105	平井
袋状土壙 49	フロヤ II A	No.108	平井
袋状土壙 50	フロヤ II A	No.110	平井
袋状土壙 51	フロヤ II A	No.109	平井
袋状土壙 52	フロヤ II A	No.78	平井
袋状土壙 53	フロヤ 2 C	No.34	岡本
袋状土壙 54	フロヤ 2 C	No.33	岡本
袋状土壙 55	フロヤ II A	No.98	平井
袋状土壙 56	フロヤ II A	No.55	平井
袋状土壙 57	フロヤ II A	No.87	平井
袋状土壙 58	フロヤ II A	No.86	平井
袋状土壙 59	フロヤ II A	No.92	平井
袋状土壙 60	フロヤ II A	No.56	平井

袋状土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
袋状土壌61	フロヤⅡA	No.83	平井
袋状土壌62	フロヤⅡA	No.82	平井
袋状土壌63	フロヤⅡA B	No.111	平井
袋状土壌64	フロヤⅡA	No.85	平井
袋状土壌65	フロヤⅡA	No.75	平井
袋状土壌66	フロヤⅡA	No.76	平井
袋状土壌67	フロヤ2 C	No.39	岡本
袋状土壌68	フロヤ2 C	No.50	岡本
袋状土壌69	フロヤⅡA	No.100	平井
袋状土壌70	フロヤⅡA B	No.94	平井
袋状土壌71	フロヤⅡA	No.84	平井
袋状土壌72	フロヤⅡA	No.96	平井
袋状土壌73	フロヤⅡA	No.97	平井
袋状土壌74	フロヤ1	No.237	岡本
袋状土壌75	フロヤ1	No.223	岡本
袋状土壌76	フロヤ1	No.206	岡本
袋状土壌77	フロヤ1	No.221	岡本
袋状土壌78	フロヤ1	No.224	岡本
袋状土壌79	フロヤ1	No.234	岡本
袋状土壌80	フロヤ1	No.235	岡本
袋状土壌81	フロヤ1	No.236	岡本
袋状土壌82	フロヤ1	No.222	岡本
袋状土壌83	フロヤ1	No.229	岡本
袋状土壌84	フロヤ1	No.168	岡本
袋状土壌85	フロヤ1	No.238	岡本
袋状土壌86	フロヤ1	No.160	岡本
袋状土壌87	角田3 d	SK-26	松本
袋状土壌88	角田3 e	SK-24	松本
袋状土壌89	角田3 a	SK-48	松本
袋状土壌90	角田3 a	SK-64	松本
袋状土壌91	角田3 a	SK-63	松本
袋状土壌92	角田3 c	SK-37	松本
袋状土壌93	角田3 c	SK-26	松本
袋状土壌94	角田3 c	SK-30	松本
袋状土壌95	角田3 c	SK-38	松本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
袋状土壌96	角田ⅡE	No.198	江見
袋状土壌97	角田ⅡE	No.199	江見
袋状土壌98	角田ⅡA	No.6	江見
袋状土壌99	角田ⅡA	No.9	江見
袋状土壌100	角田ⅡA	No.24	江見
袋状土壌101	角田ⅡA	No.26	江見
袋状土壌102	角田ⅡA	No.27	江見
袋状土壌103	角田ⅡA	No.14	江見
袋状土壌104	角田ⅡB	No.67	江見
袋状土壌105	角田ⅡA	No.23	江見
袋状土壌106	角田ⅡA	No.31	江見
袋状土壌107	角田ⅡB	No.54	江見
袋状土壌108	角田ⅡB	No.56	江見
袋状土壌109	角田ⅡB	No.53	江見
袋状土壌110	角田ⅡB	No.51	江見
袋状土壌111	角田ⅡD	No.128	江見
袋状土壌112	角田ⅡC	No.121	江見
袋状土壌113	角田ⅡC	No.113	江見
袋状土壌114	角田ⅡC	No.98	江見
袋状土壌115	角田ⅡC	No.120	江見
袋状土壌116	角田ⅡE	No.159	江見
袋状土壌117	角田ⅡE	No.165	江見
袋状土壌118	角田2 d 南	SK-20	松本
袋状土壌119	角田2 d 南	SK-22	松本
袋状土壌120	角田2 d 南	SK-15	松本
袋状土壌121	角田2 d 南	SK-03	松本
袋状土壌122	角田ⅠA	No.16	平井
袋状土壌123	角田ⅠA	No.12	平井
袋状土壌124	角田ⅠA	No.15	平井
袋状土壌125	角田ⅠB	No.29	平井
袋状土壌126	角田ⅠB	No.60	平井
袋状土壌127	角田ⅠC	No.52	平井
袋状土壌128	角田ⅠC	No.43	平井
袋状土壌129	角田ⅠC	No.40	平井

方形土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌1	角田4 NE	NENo.29	浅倉
方形土壌2	角田4 NE	NENo.28	浅倉
方形土壌3	角田4 NE	NENo.23	浅倉
方形土壌4	角田4 NE	NENo.25	浅倉
方形土壌5	角田4 NE	NENo.27	浅倉
方形土壌6	角田4 NE	NENo.26	浅倉
方形土壌7-a	角田4 NE	NENo.39-1	浅倉
方形土壌7-b	角田4 NE	NENo.39-2	浅倉
方形土壌8	角田4 NE	NENo.No.35	浅倉
方形土壌9	角田4 NE	NENo.19	浅倉
方形土壌10 a	角田4 NE	NENo.30-1	浅倉
方形土壌10 b	角田4 NE	NENo.30-2	浅倉
方形土壌10 c	角田4 NE	NENo.30-3	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌11	角田4 NE	NENo.36	浅倉
方形土壌12	角田4 NE	NENo.34	浅倉
方形土壌13	角田4 NE	NENo.20	浅倉
方形土壌14	角田4 SW	SWNo.10-5	浅倉
方形土壌15	角田4 SE	SENo.11を切る	浅倉
方形土壌16	角田4 SW	SWNo.10-18	浅倉
方形土壌17	角田4 SE	SENo.10-46	浅倉
方形土壌18	角田4 SE	SENo.10-49	浅倉
方形土壌19	角田4 SE	SENo.10-44	浅倉
方形土壌20	角田4 SE	SENo.10-2	浅倉
方形土壌21	角田4 SE	SENo.10-8	浅倉
方形土壌22	角田4 SE	SENo.10-27	浅倉
方形土壌23	角田3 b	SK-14	松本

方形土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌24	角田3 b	SK-12	松本
方形土壌25	角田3 d	SK-42	松本
方形土壌26	角田3 d	SK-38	松本
方形土壌27	角田3 d	SK-23	松本
方形土壌28	角田3 d	SK-29	松本
方形土壌29	角田3 d	SK-40	松本
方形土壌30	角田3 a	SK-47	松本
方形土壌31	角田3 a	SK-53	松本
方形土壌32	角田3 a	SK-49	松本
方形土壌33	角田3 a	SK-61	松本
方形土壌34	角田3 a	SK-56	松本
方形土壌35	角田3 a	SK-62	松本
方形土壌36	角田3 a	SK-55	松本
方形土壌37	角田3 a	SK-65	松本
方形土壌38	角田3 a	SK-60	松本
方形土壌39	角田3 a	SK-34	松本
方形土壌40	角田3 a	SK-44	松本
方形土壌41	角田3 a	SK-29	松本
方形土壌42	角田3 a	SK-28	松本
方形土壌43	角田3 a	SK-33	松本
方形土壌44	角田3 a	SK-32	松本
方形土壌45	角田3 a	SK-14	松本
方形土壌46	角田3 a	SK-12	松本
方形土壌47	角田3 a	SK-38	松本
方形土壌48	角田3 c	SK-39	松本
方形土壌49	角田3 c	SK-27	松本
方形土壌50	角田3 c	SK-29	松本
方形土壌51	角田3 c	SK-24	松本
方形土壌52	角田3 d	SK-07	松本
方形土壌53	角田3 d	SK-19	松本
方形土壌54	角田3 d	SK-16	松本
方形土壌55	角田3 d	SK-13	松本
方形土壌56	角田3 e	SK-38	松本
方形土壌57	角田3 d	SK-10	松本
方形土壌58	角田3 e	SK-43	松本
方形土壌59	角田3 e	SK-40	松本
方形土壌60	角田3 e	SK-46	松本
方形土壌61	角田3 e	SK-13	松本
方形土壌62	角田3 e	SK-14	松本
方形土壌63	角田3 e	SK-28	松本
方形土壌64	角田3 e	SK-15	松本
方形土壌65	角田3 e	SK-22	松本
方形土壌66	角田3 e	SK-27	松本
方形土壌67	角田3 e	SK-09	松本
方形土壌68	角田3 d	SK-33	松本
方形土壌69	角田3 e	SK-31	松本
方形土壌70	角田3 e	SK-12	松本
方形土壌71	角田3 e	SK-32	松本
方形土壌72	角田3 e	SK-18	松本
方形土壌73	角田3 e	SK-29	松本
方形土壌74	角田3 c	SK-18	松本
方形土壌75	角田II E	No.191	江見
方形土壌76	角田II E	No.193	江見

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌77	角田II E	No.175	江見
方形土壌78	角田II E	No.196	江見
方形土壌79	角田II E	No.200	江見
方形土壌80	角田II E	No.197	江見
方形土壌81	角田II E	No.192	江見
方形土壌82	角田II E	No.194	江見
方形土壌83	角田II E	No.195	江見
方形土壌84	角田II E	No.166	江見
方形土壌85	角田II E	No.158	江見
方形土壌86	角田II E	No.156	江見
方形土壌87	角田II E	No.176	江見
方形土壌88	角田II E	No.154	江見
方形土壌89	角田II E	No.157	江見
方形土壌90	角田III F	No.177	江見
方形土壌91	角田II A	No.28	江見
方形土壌92	角田II A	No.19	江見
方形土壌93	角田II A	No.25	江見
方形土壌94	角田II A	No.12	江見
方形土壌95	角田II A	No.13	江見
方形土壌96	角田II A	No.11	江見
方形土壌97	角田II A	No.18	江見
方形土壌98	角田II A	No.17	江見
方形土壌99	角田II A	No.21	江見
方形土壌100	角田II A	No.22	江見
方形土壌101	角田II A	No.32	江見
方形土壌102	角田II B	No.33	江見
方形土壌103	角田II B	No.36	江見
方形土壌104	角田II B	No.57	江見
方形土壌105	角田II B	No.52	江見
方形土壌106	角田II B	No.50	江見
方形土壌107	角田II A	No.45	江見
方形土壌108	角田II B	No.46	江見
方形土壌109	角田II B	No.68	江見
方形土壌110	角田II B	No.61	江見
方形土壌111	角田II C	No.139	江見
方形土壌112	角田II C	No.80	江見
方形土壌113	角田II B	No.58	江見
方形土壌114	角田II C	No.79	江見
方形土壌115	角田II C	No.78	江見
方形土壌116	角田II C	No.77	江見
方形土壌117	角田II C	No.77	江見
方形土壌118	角田II C	No.76	江見
方形土壌119	角田II C	No.148	江見
方形土壌120	角田II C	No.145	江見
方形土壌121	角田II C	No.147	江見
方形土壌122	角田II B	No.63	江見
方形土壌123	角田II B	No.69	江見
方形土壌124	角田II C	No.146	江見
方形土壌125	角田II C	No.83	江見
方形土壌126	角田II C	No.82	江見
方形土壌127	角田II C	No.135	江見
方形土壌128	角田II C	No.110	江見
方形土壌129	角田II C	No.112	江見

### 方形土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌130	角田ⅡC	No.119	江見
方形土壌131	角田ⅡC	No.118	江見
方形土壌132	角田ⅡC	No.85	江見
方形土壌133	角田ⅡC	No.104	江見
方形土壌134	角田ⅡC	No.105	江見
方形土壌135	角田ⅡC	No.103	江見
方形土壌136	角田ⅡE	No.137	江見
方形土壌137	角田ⅡC	No.87	江見
方形土壌138	角田ⅡC	No.91	江見
方形土壌139	角田ⅡC	No.106	江見
方形土壌140	角田ⅡD	No.97'	江見
方形土壌141	角田ⅡD	No.126	江見
方形土壌142	角田ⅡD	No.115	江見
方形土壌143	角田ⅡD	No.114	江見
方形土壌144	角田ⅡC	No.89	江見
方形土壌145	角田ⅡC	No.109	江見
方形土壌146	角田ⅡC	No.86	江見

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
方形土壌147	角田ⅡC	No.117	江見
方形土壌148	角田ⅡC	No.107	江見
方形土壌149	角田ⅡD	No.125	江見
方形土壌150	角田ⅡC	No.131	江見
方形土壌151	角田ⅡC	No.144	江見
方形土壌152	角田ⅡE	No.188	江見
方形土壌153	角田ⅡE	No.170	江見
方形土壌154	角田ⅡE	No.183	江見
方形土壌155	角田ⅡE	No.162	江見
方形土壌156	角田2 d 南	SK-07	松本
方形土壌157	角田2 d 南	SK-16	松本
方形土壌158	角田2 d 南	SK-09	松本
方形土壌159	角田2 d 南	SK-21	松本
方形土壌160	角田2 d 南	SK-19	松本
方形土壌161	角田2 d 南	SK-18	松本
方形土壌162	角田2 d 南	SK-04	松本
方形土壌163	角田2 d 南	SK-05	松本

### 土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌1	塚廻り2	SK-2	正岡
土壌2	塚廻り2	SK-12	正岡
土壌3	塚廻り2	土壌13	正岡
土壌4	塚廻り2	土壌4	正岡
土壌5	塚廻り2	SK-17	正岡
土壌6	塚廻り2	SK-18	正岡
土壌7	塚廻り2	SK-01	正岡
土壌8	塚廻り3 B	SK-01	正岡
土壌9	塚廻り3 B	SK-02	正岡
土壌10	塚廻り3 B	SK-07	正岡
土壌11	塚廻り3 A	SK-7	正岡
土壌12	塚廻り3 A	SK-06	正岡
土壌13	塚廻り3 A	SK-04	正岡
土壌14	塚廻り3 A	SK-05	正岡
土壌15	塚廻り3 A	SK-03	正岡
土壌16	塚廻り3 A	SK-01	正岡
土壌17	塚廻り3 A	SK-02	正岡
土壌18	塚廻り3 B	SK-10	正岡
土壌19	塚廻り3 B	SK-08	正岡
土壌20	塚廻り3 B	SK-09	正岡
土壌21	塚廻り3 B	SK-12	正岡
土壌22	塚廻り3 B	SK-11	正岡
土壌23	塚廻り3 B	SK-04	正岡
土壌24	塚廻り3 C	SK-03	浅倉
土壌25	塚廻り3 B	SK-05	正岡
土壌26	塚廻り1	土壌1	正岡
土壌27	フロヤ3 B	No.12	浅倉
土壌28	フロヤⅡA B	No.164	平井
土壌29	フロヤⅡA B	No.181	平井
土壌30	フロヤⅡA	No.157	平井

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌31	フロヤⅡA	No.131	平井
土壌32	フロヤⅡA B	No.177	平井
土壌33	フロヤⅡA	No.161	平井
土壌34	フロヤⅡA B	No.72	平井
土壌35	フロヤⅡA B	No.162	平井
土壌36	フロヤⅡA	No.133	平井
土壌37	フロヤⅡA B	No.151	平井
土壌38	フロヤⅡA B	No.130	平井
土壌39	フロヤⅡA	No.121	平井
土壌40	フロヤⅡA	No.136	平井
土壌41	フロヤⅡA B	No.61	平井
土壌42	フロヤⅡA	No.59	平井
土壌43	フロヤⅡA	No.107	平井
土壌44	フロヤⅡA B	No.115	平井
土壌45	フロヤⅡA B	No.67	平井
土壌46	フロヤⅡA B	No.66	平井
土壌47	フロヤⅡA B	No.185	平井
土壌48	フロヤⅡA B	No.154	平井
土壌49	フロヤⅡA B	No.150	平井
土壌50	フロヤⅡA B	No.149	平井
土壌51	フロヤⅡA B	No.65	平井
土壌52	フロヤⅡA B	No.142	平井
土壌53	フロヤⅡA B	No.141	平井
土壌54	フロヤⅡA B	No.127	平井
土壌55	フロヤⅡA B	No.143	平井
土壌56	フロヤⅡA	No.116	平井
土壌57	フロヤⅡA B	No.132	平井
土壌58	フロヤ2 C	No.16	岡本
土壌59	フロヤ2 C	No.47	岡本
土壌60	フロヤ2 C	No.24	岡本



### 土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌61	フロヤ2C	No.18	岡本
土壌62	フロヤ2C	No.32	岡本
土壌63	フロヤ2C	No.20	岡本
土壌64	フロヤ2C	No.21	岡本
土壌65	フロヤ2C	No.40	岡本
土壌66	フロヤ2C	No.45	岡本
土壌67	フロヤ2C	No.43	岡本
土壌68	フロヤ2C	No.36	岡本
土壌69	フロヤ2C	No.49	岡本
土壌70	フロヤ2C	No.52	岡本
土壌71	フロヤ2C	No.25	岡本
土壌72	フロヤ2C	No.37	岡本
土壌73	フロヤ2C	No.51	岡本
土壌74	フロヤIIAB	No.90	平井
土壌75	フロヤIIAB	No.102	平井
土壌76	フロヤIIA	No.81	平井
土壌77	フロヤIIAB	No.103	平井
土壌78	フロヤIIAB	No.104	平井
土壌79	フロヤIIAB	No.101	平井
土壌80	フロヤIIAB	No.99	平井
土壌81	フロヤIIA	No.91	平井
土壌82	フロヤIIAB	No.53	平井
土壌83	フロヤ1	No.192	岡本
土壌84	フロヤ1	No.186	岡本
土壌85	フロヤ1	No.205	岡本
土壌86	フロヤ1	No.187	岡本
土壌87	フロヤ1	No.188	岡本
土壌88	フロヤ1	No.227	岡本
土壌89	フロヤ1	No.189	岡本
土壌90	フロヤ1	No.239	岡本
土壌91	フロヤ1	No.220	岡本
土壌92	フロヤ1	No.198	岡本
土壌93	フロヤ1	No.47	岡本
土壌94	フロヤ1	No.64	岡本
土壌95	フロヤ1	No.65	岡本
土壌96	フロヤ1	No.82	岡本
土壌97	フロヤ1	No.61	岡本
土壌98	フロヤ1	No.54	岡本
土壌99	フロヤ1	No.53	岡本
土壌100	フロヤ1	No.92	岡本
土壌101	フロヤ1	No.48	岡本
土壌102	フロヤ1	No.3	岡本
土壌103	フロヤ1	No.111	岡本
土壌104	フロヤ1	No.76	岡本
土壌105	フロヤ1	No.60	岡本
土壌106	フロヤ1	No.58	岡本
土壌107	フロヤ1	No.57	岡本
土壌108	フロヤ1	No.75	岡本
土壌109	フロヤ1	No.77	岡本
土壌110	フロヤ1	No.81	岡本
土壌111	フロヤ1	No.90	岡本
土壌112	フロヤ1	No.88	岡本
土壌113	フロヤ1	No.78	岡本
土壌114	フロヤ1	No.50	岡本
土壌115	フロヤ1	No.51	岡本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌116	フロヤ1	No.52	岡本
土壌117	フロヤ1	No.91	岡本
土壌118	フロヤ1	No.89	岡本
土壌119	フロヤ1	No.49	岡本
土壌120	フロヤ1	No.96	岡本
土壌121	フロヤ1	No.95	岡本
土壌122	フロヤ1	No.99	岡本
土壌123	フロヤ1	No.103	岡本
土壌124	フロヤ1	No.125	岡本
土壌125	フロヤ1	No.197	岡本
土壌126	フロヤ1	No.196	岡本
土壌127	フロヤ1	No.230	岡本
土壌128	フロヤ1	No.200	岡本
土壌129	フロヤ1	No.39	岡本
土壌130	フロヤ1	No.108	岡本
土壌131	フロヤ1	No.115	岡本
土壌132	フロヤ1	No.117	岡本
土壌133	フロヤ1	No.116	岡本
土壌134	フロヤ1	No.40	岡本
土壌135	フロヤ1	No.113	岡本
土壌136	フロヤ1	No.35	岡本
土壌137	フロヤ1	No.29	岡本
土壌138	フロヤ1	No.28	岡本
土壌139	フロヤ1	No.37	岡本
土壌140	フロヤ1	No.34	岡本
土壌141	フロヤ1	No.27	岡本
土壌142	フロヤ1	No.26	岡本
土壌143	フロヤ1	No.25	岡本
土壌144	フロヤ1	No.23	岡本
土壌145	フロヤ1	No.46	岡本
土壌146	フロヤ1	No.69	岡本
土壌147	フロヤ1	No.22	岡本
土壌148	フロヤ1	No.21	岡本
土壌149	フロヤ1	No.31	岡本
土壌150	フロヤ1	No.145	岡本
土壌151	フロヤ1	No.158	岡本
土壌152	フロヤ1	No.183	岡本
土壌153	フロヤ1	No.153	岡本
土壌154	フロヤ1	No.150	岡本
土壌155	フロヤ1	No.144	岡本
土壌156	フロヤ1	No.163	岡本
土壌157	フロヤ1	No.164	岡本
土壌158	フロヤ1	No.155	岡本
土壌159	フロヤ1	No.145	岡本
土壌160	フロヤ1	No.143	岡本
土壌161	フロヤ1	No.166	岡本
土壌162	フロヤ1	No.165	岡本
土壌163	フロヤ1	No.167	岡本
土壌164	フロヤ1	No.175	岡本
土壌165	フロヤ1	No.176	岡本
土壌166	フロヤ1	No.173	岡本
土壌167	フロヤ1	No.177	岡本
土壌168	フロヤ1	No.174	岡本
土壌169	フロヤIIA	No.63	平井
土壌170	フロヤIIA	No.182	平井

### 土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌171	フロヤII A B	S K03	平井
土壌172	フロヤI	No.30	岡本
土壌173	フロヤI	No.169	岡本
土壌174	フロヤI	No.159	岡本
土壌175	フロヤII A	No.35	平井
土壌176	フロヤII A B	S K04	平井
土壌177	フロヤII B	S K02	平井
土壌178	フロヤ2 C	No.14	岡本
土壌179	フロヤII A	No.48	平井
土壌180	フロヤII A	No.49	平井
土壌181	フロヤII A B	No. 3	平井
土壌182	フロヤ2 C	No.19	岡本
土壌183	フロヤI	No.14	岡本
土壌184	フロヤI	No.202	岡本
土壌185	フロヤI	No.136	岡本
土壌186	フロヤI	No.131	岡本
土壌187	フロヤI	No.146	岡本
土壌188	角田4 NW	NWNo.11	浅倉
土壌189	角田4 NW	NWNo.10	浅倉
土壌190	角田4 NW	NWNo. 2-13	浅倉
土壌191	角田4 NW	NWNo. 2-9	浅倉
土壌192	角田4 NW	NWNo.17	浅倉
土壌193	角田4 NW	NWNo.23	浅倉
土壌194	角田4 NW	NWNo. 2-17	浅倉
土壌195	角田4 NW	NWNo.13	浅倉
土壌196	角田4 NW	NWNo.22	浅倉
土壌197	角田4 NW	NWNo.2-6	浅倉
土壌198	角田4 NE	NENo.10-5	浅倉
土壌199	角田4 NE	NENo.10-04	浅倉
土壌200	角田4 NE	NENo.10-06	浅倉
土壌201	角田4 NE	NENo.10-63	浅倉
土壌202	角田4 NE	NENo.10-35	浅倉
土壌203	角田4 NE	NENo.10-57	浅倉
土壌204	角田4 NW	NWNo.14	浅倉
土壌205	角田4 NE	NENo.10-88	浅倉
土壌206	角田4 NE	NENo.10-83-1, 2	浅倉
土壌207	角田4 SE	SENo.10-32	浅倉
土壌208	角田4 NE	NENo.10-95	浅倉
土壌209	角田4 NE	NENo.10-94	浅倉
土壌210	角田4 NE	NENo.10-52	浅倉
土壌211	角田4 NE	NENo.10-31	浅倉
土壌212	角田4 NE	NENo.10-49	浅倉
土壌213	角田4 NE	NENo.10-51	浅倉
土壌214	角田4 NE	NENo.10-73	浅倉
土壌215	角田4 SW	SWNo.10-9	浅倉
土壌216	角田4 SW	SWNo.10-12	浅倉
土壌217	角田4 SW	SWNo.18	浅倉
土壌218	角田4 SW	SWNo.10-15	浅倉
土壌219	角田4 SE	SENo.10-60	浅倉
土壌220	角田4 SE	SENo.10-59	浅倉
土壌221	角田4 SE	SENo.10-62	浅倉
土壌222	角田4 NE	NENo.40	浅倉
土壌223	角田4 NE	NENo.41	浅倉
土壌224	角田4 SE	SENo.10-06	浅倉
土壌225	角田4 SE	SENo.10-63	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌226	角田4 SE	SENo.10-14	浅倉
土壌227	角田4 SE	SENo. 9-4	浅倉
土壌228	角田4 SE	SENo.10-61	浅倉
土壌229	角田4 NE	NENo.10-69	浅倉
土壌230	角田4 NE	NENo.10-01	浅倉
土壌231	角田4 NE	NENo.10-68	浅倉
土壌232	角田4 NE	NENo.10-66	浅倉
土壌233	角田4 NE	NENo.10-12	浅倉
土壌234	角田4 NE	NENo.10-10	浅倉
土壌235	角田4 NE	NENo.10-13	浅倉
土壌236	角田4 NE	NENo. 3	浅倉
土壌237	角田4 SE	SENo.10-52	浅倉
土壌238	角田4 SE	SENo.10-19	浅倉
土壌239	角田4 SE	SENo. 9-1	浅倉
土壌240	角田3 b	S K-16	松本
土壌241	角田3 b	S K-15	松本
土壌242	角田3 b	S K-10	松本
土壌243	角田3 b	S K-03	松本
土壌244	角田3 b	S K-11	松本
土壌245	角田3 b	S K-02	松本
土壌246	角田3 b	S K-07	松本
土壌247	角田3 b	S K-20	松本
土壌248	角田3 b	S K-04	松本
土壌249	角田3 b	S K-17	松本
土壌250	角田3 b	S K-24	松本
土壌251	角田3 b	S K-23	松本
土壌252	角田3 b	S K-19	松本
土壌253	角田3 b	S K-18	松本
土壌254	角田3 a	S K-17	松本
土壌255	角田3 b	S K-21	松本
土壌256	角田3 a	S K-43	松本
土壌257	角田3 a	S K-66	松本
土壌258	角田3 b	S K-08	松本
土壌259	角田3 d	S K-04	松本
土壌260	角田3 b	S K-13	松本
土壌261	角田3 d	S K-05	松本
土壌262	角田3 d	S K-32	松本
土壌263	角田3 d	S K-02	松本
土壌264	角田3 d	S K-15	松本
土壌265	角田3 d	S K-08	松本
土壌266	角田3 d	S K-22	松本
土壌267	角田3 d	S K-18	松本
土壌268	角田3 d	S K-11	松本
土壌269	角田3 d	S K-17	松本
土壌270	角田3 d	S K-09	松本
土壌271	角田3 d	S K-06	松本
土壌272	角田3 d	S K-24	松本
土壌273	角田3 d	S K-25	松本
土壌274	角田3 d	S K-31	松本
土壌275	角田3 d	S K-30	松本
土壌276	角田3 d	S K-36	松本
土壌277	角田3 d	S K-35	松本
土壌278	角田3 d	S K-27	松本
土壌279	角田3 d	S K-14	松本
土壌280	角田3 d	S K-12	松本

土壤名称新旧对照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌281	角田3 d	SK-28	松本
土壌282	角田3 d	SK-39	松本
土壌283	角田3 d	SK-37	松本
土壌284	角田3 d	SK-34	松本
土壌285	角田3 c	SK-33	松本
土壌286	角田3 c	SK-10	松本
土壌287	角田3 c	SK-25	松本
土壌288	角田3 e	SK-07	松本
土壌289	角田3 e	SK-20	松本
土壌290	角田3 e	SK-01	松本
土壌291	角田3 e	SK-41	松本
土壌292	角田3 e	SK-10	松本
土壌293	角田3 e	SK-26	松本
土壌294	角田3 e	SK-34	松本
土壌295	角田3 e	SK-19	松本
土壌296	角田3 e	SK-08	松本
土壌297	角田3 c	SK-13	松本
土壌298	角田3 c	SK-15	松本
土壌299	角田3 c	SK-20	松本
土壌300	角田3 c	SK-21	松本
土壌301	角田3 e	SK-35	松本
土壌302	角田3 e	SK-45	松本
土壌303	角田3 e	SK-36	松本
土壌304	角田3 e	SK-25	松本
土壌305	角田3 e	SK-11	松本
土壌306	角田3 e	SK-17	松本
土壌307	角田3 e	SK-23	松本
土壌308	角田3 e	SK-21	松本
土壌309	角田3 e	SK-16	松本
土壌310	角田3 e	SK-39	松本
土壌311	角田3 e	SK-33	松本
土壌312	角田3 e	SK-30	松本
土壌313	角田3 a	SK-50	松本
土壌314	角田3 a	SK-07	松本
土壌315	角田3 a	SK-39	松本
土壌316	角田3 a	SK-46	松本
土壌317	角田3 a	SK-19	松本
土壌318	角田3 a	SK-30	松本
土壌319	角田3 a	SK-27	松本
土壌320	角田3 a	SK-40	松本
土壌321	角田3 a	SK-11	松本
土壌322	角田3 a	SK-10	松本
土壌323	角田3 a	SK-06	松本
土壌324	角田3 a	SK-26	松本
土壌325	角田3 a	SK-18	松本
土壌326	角田3 a	SK-08	松本
土壌327	角田3 a	SK-13	松本
土壌328	角田3 a	SK-09	松本
土壌329	角田3 a	SK-04	松本
土壌330	角田3 a	SK-45	松本
土壌331	角田3 a	SK-25	松本
土壌332	角田3 a	SK-23	松本
土壌333	角田3 a	SK-58	松本
土壌334	角田3 c	SK-35	松本
土壌335	角田3 c	SK-19	松本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌336	角田3 c	SK-34	松本
土壌337	角田3 c	SK-23	松本
土壌338	角田3 c	SK-12	松本
土壌339	角田3 c	SK-31	松本
土壌340	角田3 c	SK-11	松本
土壌341	角田3 c	SK-22	松本
土壌342	角田3 a	SK-42	松本
土壌343	角田3 a	SK-31	松本
土壌344	角田3 a	SK-21	松本
土壌345	角田3 a	SK-22	松本
土壌346	角田3 a	SK-15	松本
土壌347	角田3 a	SK-24	松本
土壌348	角田3 a	SK-05	松本
土壌349	角田II E	No.201	江見
土壌350	角田3 a	SK-16	松本
土壌351	角田3 c	SK-14	松本
土壌352	角田3 c	SK-17	松本
土壌353	角田3 c	SK-16	松本
土壌354	角田III F	No.182	江見
土壌355	角田III F	No.179	江見
土壌356	角田II B	No.65	江見
土壌357	角田II A	No.7	江見
土壌358	角田II A	No.8	江見
土壌359	角田II A	No.10	江見
土壌360	角田II A	No.37	江見
土壌361	角田II A	No.35	江見
土壌362	角田II A	No.20	江見
土壌363	角田II A	No.30	江見
土壌364	角田II B	No.55	江見
土壌365	角田II A	No.29	江見
土壌366	角田II B	No.48	江見
土壌367	角田II A	No.4	江見
土壌368	角田II A	No.38	江見
土壌369	角田II B	No.39	江見
土壌370	角田II B	No.41	江見
土壌371	角田II B	No.66	江見
土壌372	角田II C	No.134	江見
土壌373	角田II C	No.108	江見
土壌374	角田II C	No.90	江見
土壌375	角田II C	No.129	江見
土壌376	角田II C	No.100	江見
土壌377	角田II C	No.96	江見
土壌378	角田II C	No.74	江見
土壌379	角田II C	No.73	江見
土壌380	角田II C	No.95	江見
土壌381	角田II C	No.102	江見
土壌382	角田II C	No.92	江見
土壌383	角田II C	No.93	江見
土壌384	角田II D	No.97	江見
土壌385	角田II D	No.116	江見
土壌386	角田II D	No.94	江見
土壌387	角田II D	No.127	江見
土壌388	角田II C	No.141	江見
土壌389	角田II C	No.81	江見
土壌390	角田II E	No.180	江見

### 土壌名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌391	角田ⅡE	No.171	江見
土壌392	角田2 d 南	SK-17	松本
土壌393	角田2 d 南	SK-10	松本
土壌394	角田2 d 南	SK-08	松本
土壌395	角田2 d 南	SK-01	松本
土壌396	角田2 d 南	SK-11	松本
土壌397	角田2 d 南	SK-12	松本
土壌398	角田2 d 南	SK-13	松本
土壌399	角田2 d 南	SK-06	松本
土壌400	角田2 d 南	SK-02	松本
土壌401	角田ⅠB	No.23	平井
土壌402	角田ⅠA	No.24	平井
土壌403	角田ⅠB	No.25	平井
土壌404	角田ⅠA	土壌1	平井
土壌405	角田Ⅰ	No.44	平井
土壌406	角田Ⅰ	No.45	平井
土壌407	角田Ⅰ	No.35	平井
土壌408	角田Ⅰ	No.34	平井
土壌409	角田ⅠA	No.6	平井
土壌410	角田Ⅰ	No.09	平井
土壌411	角田ⅠA	No.8	平井
土壌412	角田Ⅰ	No.37	平井
土壌413	角田Ⅰ	No.41	平井
土壌414	角田Ⅰ	No.42	平井
土壌415	角田ⅠD	No.71	平井
土壌416	角田ⅠD	No.74	平井
土壌417	角田Ⅰ	No.75	平井
土壌418	角田Ⅰ	No.49	平井
土壌419	角田Ⅰ	No.65	平井
土壌420	角田ⅠB	No.66	平井
土壌421	角田Ⅰ	No.67	平井
土壌422	角田ⅠD	No.72	平井
土壌423	角田Ⅰ	No.77	平井
土壌424	角田Ⅰ	No.87	平井
土壌425	角田4 NW	NWN.12	浅倉
土壌426	角田3 a	SK-36	松本
土壌427	角田3 a	SK-37	松本
土壌428	角田3 a	SK-35	松本
土壌429	角田3 b	SK-22	松本
土壌430	角田3 b	SK-05	松本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土壌431	角田3 d	SK-03	松本
土壌432	角田3 c	SK-04	松本
土壌433	角田Ⅰ	No.21	平井
土壌434	角田Ⅰ	No.22	平井
土壌435	角田ⅠA	No.19	平井
土壌436	角田Ⅰ	No.36	平井
土壌437	角田Ⅰ	No.62	平井
土壌438	角田Ⅰ	No.59	平井
土壌439	角田Ⅰ	No.63	平井
土壌440	角田Ⅰ	No.64	平井
土壌441	角田Ⅰ	No.39	平井
土壌442	角田Ⅰ	No.53	平井
土壌443	角田4 NW	NWN.2-15	浅倉
土壌444	角田4 NW	NWN.2-10	浅倉
土壌445	角田4 NW	NWN.2-11	浅倉
土壌446	角田4 NW	NWN.2-1	浅倉
土壌447	角田4 NE	NEN.10-44	浅倉
土壌448	角田4 NE	NEN.10-45	浅倉
土壌449~453	角田4 SW	SW 2-11-12-13-14-15	浅倉
土壌454	角田4 SW	SWNo.2-5	浅倉
土壌455	角田3 a	SK-01	松本
土壌456	角田3 b	SK-01	松本
土壌457	角田3 a	SK-03	松本
土壌458	角田3 d	SK-01	松本
土壌459	角田3 d	SK-20	松本
土壌460	角田3 e	SK-06	松本
土壌461	角田3 e	SK-03	松本
土壌462	角田3 e	SK-05	松本
土壌463	角田3 c	SK-08	松本
土壌464	角田3 c	SK-02	松本
土壌465	角田3 c	SK-06	松本
土壌466	角田3 c	SK-05	松本
土壌467	角田3 c	SK-03	松本
土壌468	角田3 c	SK-09	松本
土壌469	角田3 c	SK-01	松本
土壌470	角田3 e	SK-02	松本
土壌471	角田3 e	SK-04	松本
土壌472	角田ⅢF	No.184	江見
土壌473	角田ⅡE	No.160	江見

### 溝名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
溝1	塚廻り1	SD-4	正岡
溝2	塚廻り2	SD-04	正岡
溝3	塚廻り2	SD-03	正岡
溝4	塚廻り2	D-1	正岡
溝5	塚廻り3 B	SD-5	正岡
溝6	塚廻り3 B	SD-6	正岡
溝7	塚廻り3 B	SD-7	正岡

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
溝8	塚廻り1	SD-3	正岡
溝8	塚廻り3 C	SD-3	正岡
溝9	塚廻り3 B	SD-3	正岡
溝10	塚廻り3 C	SD-05	正岡
溝11	塚廻り4 B	SD-3-1	浅倉
溝12	塚廻り3	農道下近世溝	正岡
溝13	塚廻り3 C	SD-02	正岡

### 溝名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
溝14	塚廻り3C	SD-01	正岡
溝15	塚廻り1	SD-02	正岡
溝16	フロヤII	番号なし	正岡
溝17	フロヤI	No.70	岡本
溝18	フロヤI	No.72	岡本
溝19	フロヤI	No.71	岡本
溝20	フロヤIII A	No.3-1	浅倉
溝21	フロヤIII	No.3-3	浅倉
溝22	フロヤII	No.36	平井
溝23	フロヤII	SD-02	平井
溝24	フロヤII	SD-03	平井
溝25	フロヤII	SD-05	平井
溝26	フロヤII A・II C	No.43, 44, 45, 50・7, 11	平井
溝27	フロヤII	No.46	平井
溝28	フロヤII C	No.15	岡本
溝29	フロヤII	No.42	平井
溝30	フロヤII	No.89	平井
溝30	フロヤII C	No.3	岡本
溝31	フロヤII	No.88	平井
溝31	フロヤII C	No.3	岡本
溝32 a	フロヤII	No.2	平井

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
溝32 a	フロヤII C	No.1	岡本
溝32 b	フロヤII	No.1	平井
溝32 b	フロヤII C	No.2	岡本
溝32	フロヤI	No.5, 11, 15, 16	岡本
溝33	フロヤI	No.1	岡本
溝34	フロヤI	No.2, 7	岡本
溝35	フロヤI	No.127	岡本
溝36	フロヤI	No.132	岡本
溝37	フロヤI	No.172	岡本
溝38	角田1	No.69溝	平井
溝39	角田3 a	SD-04	松本
溝40	角田3 a	SD-02	松本
溝41	角田3 a	SD-03	松本
溝42	角田1 A	No.3	平井
溝43	角田4 NW~SW	NW-SWNo.3-3	浅倉
溝44	角田4 NW~SW	NW-SWNo.3-2	浅倉
溝45	角田4 NW~SW	NW-SWNo.3-1	浅倉
溝46	角田4 NW~SW	NW-SWNo.3-4	浅倉
溝47	角田3 b	SD-02	松本
溝48	角田3 b	SD-01	松本
溝49	角田3	SD-3	松本

### 土器溜り名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土器溜り1	角田4 NW	NWNo.5	浅倉
土器溜り2	角田4 NE	NENo.4	浅倉
土器溜り3	角田4 NE	NENo.32	浅倉
土器溜り4	角田II E	No.168	江見

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
土器溜り5	角田1 C	No.32	平井
土器溜り6	角田3 C	土器溜り1	松本

### 窪地名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
窪地1	塚廻り3B	SX-01	正岡
窪地2	塚廻り3A	SX-01	正岡
窪地3	塚廻り3B	たわみ2	正岡
窪地4	塚廻り3C	SK-06	浅倉

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
窪地5	角田4 NE	No.8	浅倉
窪地6	角田4 SE	No.5-1	浅倉
窪地7	角田4 SE	No.5-2	浅倉

### 河道名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
河道1	塚廻り3A	T-1, 2, 3, 斜面堆積	正岡
河道2	塚廻り1	第2段階斜面堆積	正岡
河道3	塚廻り		正岡
河道4	角田1	No.88下がり	平井
河道5	角田1	No.86下がり	平井

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
河道6	角田2 A	北斜面	江見
河道7	角田1	No.85古墳下がり下層	平井
河道8	角田2 A	北斜面2・3層	江見
河道9	角田2 E	南斜面1・2層	江見
河道9	角田1	No.84古墳下がり	平井

柵列・柱穴列名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
柵列 1	角田 3 d	柵-01	松本
柱穴列 1	フロヤ 1	No.218	岡本
柱穴列 2	角田 I	No.14	平井

柱穴名称新旧対照表

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
柱穴 1	塚廻り 2	P151	正岡
柱穴 2	塚廻り 2	P130	正岡
柱穴 3	塚廻り 3 B	P364	正岡
柱穴 4	塚廻り 3 B	P92	正岡
柱穴 5	塚廻り 3 B	P163	正岡
柱穴 6	塚廻り 3 B	P116	正岡
柱穴 7	塚廻り 4 B	No. 1 -18	浅倉
柱穴 8	フロヤ II C	P429	岡本
柱穴 9	フロヤ I	P-2120	岡本
柱穴 10	フロヤ I	P-1557	岡本
柱穴 11	フロヤ III	No. 1 -294	浅倉
柱穴 12	フロヤ II A	P-73	平井
柱穴 13	フロヤ II	103	平井
柱穴 14	フロヤ II A	P-240	平井
柱穴 15	フロヤ II B	C26	松本
柱穴 16	フロヤ II C	P-239	岡本
柱穴 17	フロヤ II C	P-60	岡本
柱穴 18	フロヤ II C	P-57	岡本
柱穴 19	フロヤ II C	P-127	岡本
柱穴 20	フロヤ II C	P-347	岡本
柱穴 21	フロヤ II C	P-36	岡本
柱穴 22	フロヤ II C	P-38	岡本
柱穴 23	フロヤ II C	P-39	岡本
柱穴 24	フロヤ I	P-24	岡本
柱穴 25	フロヤ I	P-121	岡本
柱穴 26	フロヤ I	P-225	岡本
柱穴 27	フロヤ I	P-228	岡本
柱穴 28	フロヤ I	P-233	岡本
柱穴 29	フロヤ I	P-1022	岡本
柱穴 30	フロヤ I	P-345	岡本
柱穴 31	フロヤ I	P-1076	岡本
柱穴 32	フロヤ I	KP27	岡本
柱穴 33	角田 4 NW	NWNo. 1 -132	浅倉
柱穴 34	角田 4 NE	NENo. 7 -276	浅倉
柱穴 35	角田 3 b	C93	松本
柱穴 36	角田 3 b	C90	松本
柱穴 37	角田 3 b	C89	松本
柱穴 38	角田 3 b	C119	松本
柱穴 39	角田 3 a	C413	松本
柱穴 40	角田 3 d	C210	松本
柱穴 41	角田 3 c	C296	松本
柱穴 42	角田 3 a	C419	松本
柱穴 43	角田 3 a	C405	松本
柱穴 44	角田 3 a	C379	松本

報告書名	調査	調査名称	調査担当者
柱穴 45	角田 3 e	C320	松本
柱穴 46	角田 3 e	C382	松本
柱穴 47	角田 3 e	C217	松本
柱穴 48	角田 3 e	C251	松本
柱穴 49	角田 3 e	C157	松本
柱穴 50	角田 3 e	C285	松本
柱穴 51	角田 3 c	C262	松本
柱穴 52	角田 2 C	P663	江見
柱穴 53	角田 2 C	P153	江見
柱穴 54	角田 2 C	P214	江見
柱穴 55	角田 2 A	P15	江見
柱穴 56	角田 2 E	P535	江見
柱穴 57	角田 2 E	P578	江見
柱穴 58	角田 2 C	P152	江見
柱穴 59	角田 2 C	P111	江見
柱穴 60	角田 2 E	P504	江見
柱穴 61	角田 2 F	P617	江見
柱穴 62	角田 2 F	P585	江見
柱穴 63	角田 2 F	P616	江見
柱穴 64	角田 2 F	P178	江見
柱穴 65	角田 2 F	P630	江見
柱穴 66	角田 2 F	P597	江見
柱穴 67	角田 2 E	P668	江見
柱穴 68	角田 2 E	P669	江見
柱穴 69	角田 2 E	P361	江見
柱穴 70	角田 2 E	P416	江見
柱穴 71	角田 2 D	P237	江見
柱穴 72	角田 2 C	P173	江見
柱穴 93	角田 3 c	C119	松本
柱穴 94	角田 3 c	柱穴 199	松本
柱穴 95	角田 3 c	C71	松本
柱穴 96	角田 3 c	C69	松本
柱穴 97	角田 3 c	C128	松本
柱穴 98	角田 3 c	C148	松本
柱穴 99	角田 3 e	C71	松本
柱穴 100	角田 3 e	C30	松本
柱穴 101	角田 3 e	C35	松本
柱穴 102	角田 2 A	P 6	江見
柱穴 103	角田 2 A	P68	江見
柱穴 104	角田 2 C	P110	江見
柱穴 105	角田 2 C	P113	江見
柱穴 106	角田 2 E	P413	江見
柱穴 107	角田 2 E	P513	江見

塚廻り調査区

1 竪穴住居 1  
(西から)



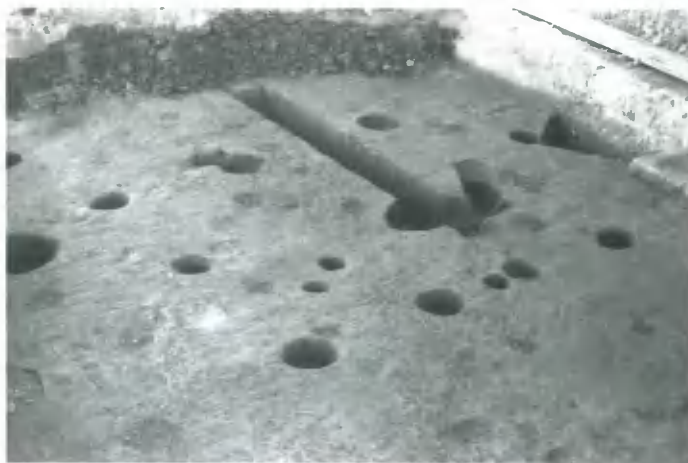
2 竪穴住居 4  
(西から)



3 竪穴住居 5  
(西から)



塚廻り調査区



1 掘立柱建物 8  
(東から)



2 井戸 2  
(南から)



3 井戸 3  
(東から)



塚廻り調査区



1 中世柱穴群  
(南東から)

2 溝3と中世柱穴群  
(南から)

3 溝8  
(北から)

フロヤ調査区



1 竪穴住居6  
(北から)



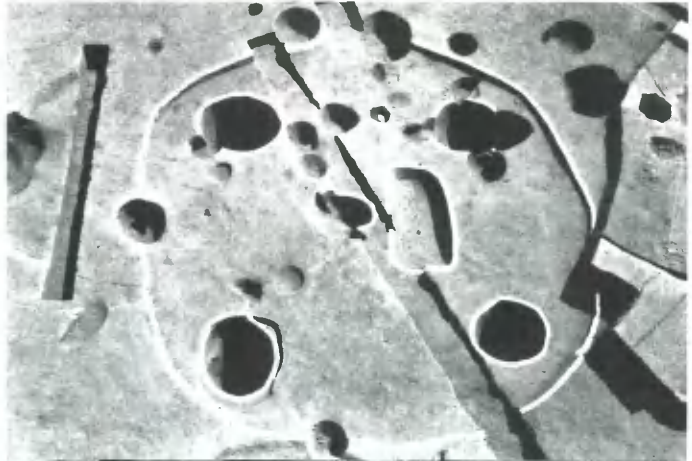
2 竪穴住居9  
(西から)



3 竪穴住居10  
(北から)

フロヤ調査区

1 竪穴住居12  
 (西から)

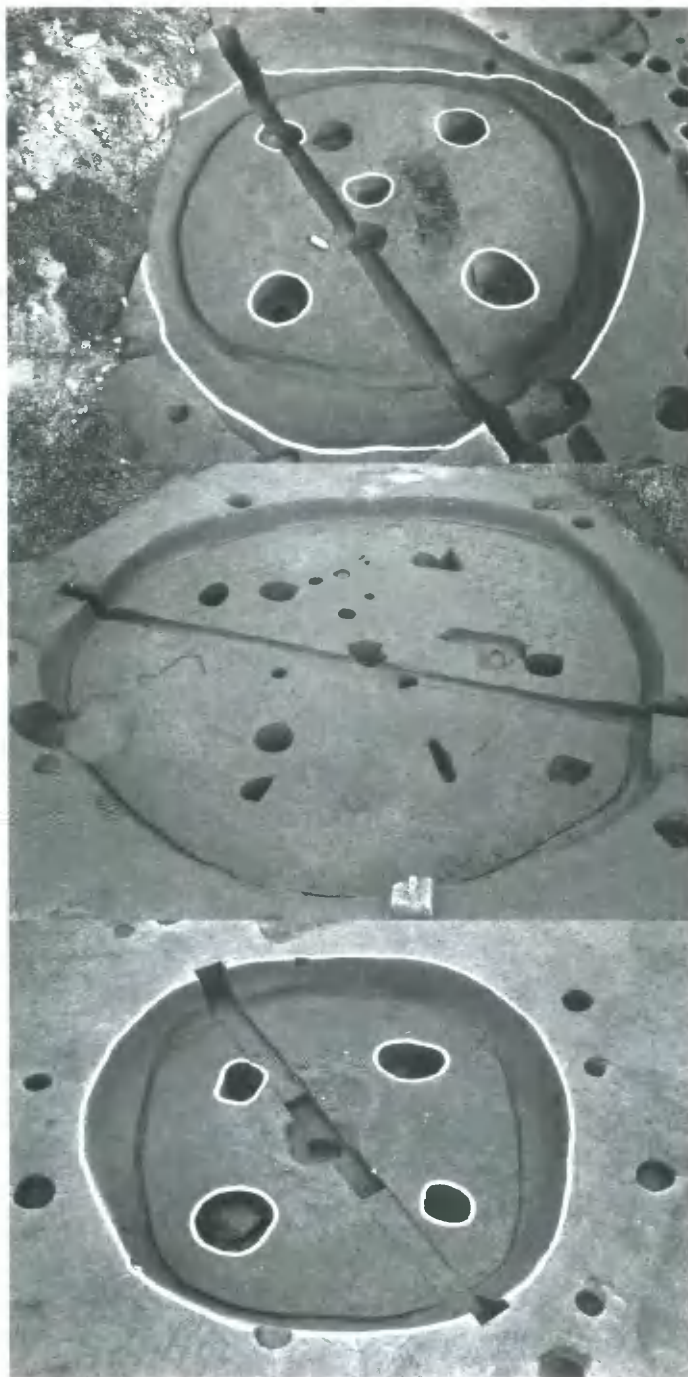


2 竪穴住居13  
 (南から)



3 竪穴住居14  
 (東から)





1 竖穴住居15  
(北西から)

2 竖穴住居16  
(南から)

3 竖穴住居17  
(南から)



フロヤ調査区

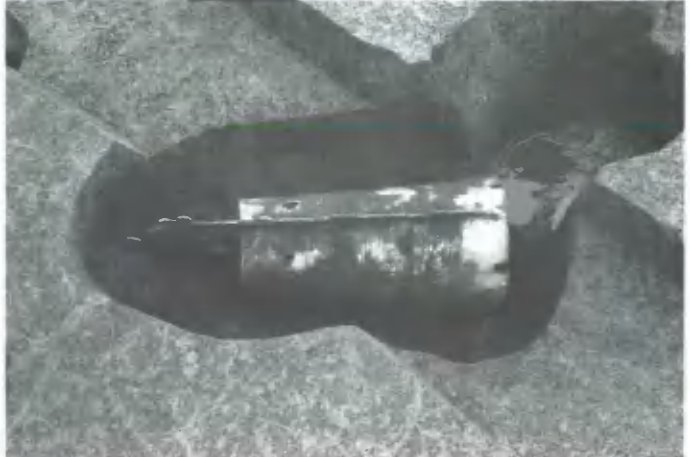
1 銅鐸検出状況  
(北から)



2 銅鐸掘り下げ  
(北から)



3 銅鐸完掘状況  
(南東から)





1 袋状土壙18 断面  
(南から)



2 袋状土壙18  
貨泉出土状態



3 袋状土壙18  
(北から)

フロヤ調査区

1 袋状土壙74  
(北東から)



2 袋状土壙76  
(北東から)



3 袋状土壙78  
(南西から)



フロヤ調査区



1 袋状土壇80  
(北西から)



2 袋状土壇82  
(南西から)



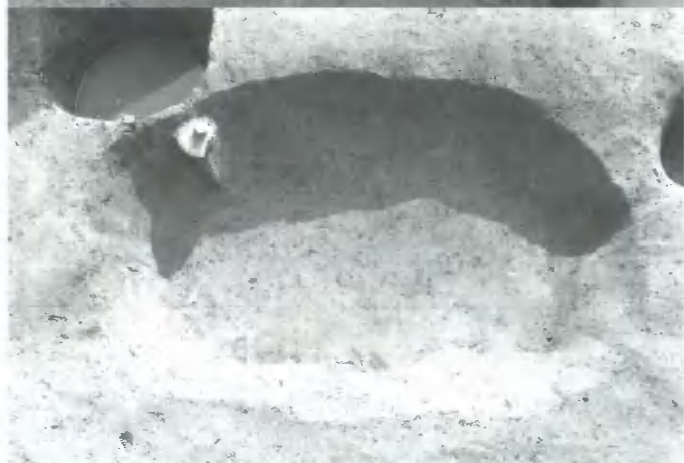
3 袋状土壇86  
(北東から)



フロヤ調査区



1 土壌59  
(南から)



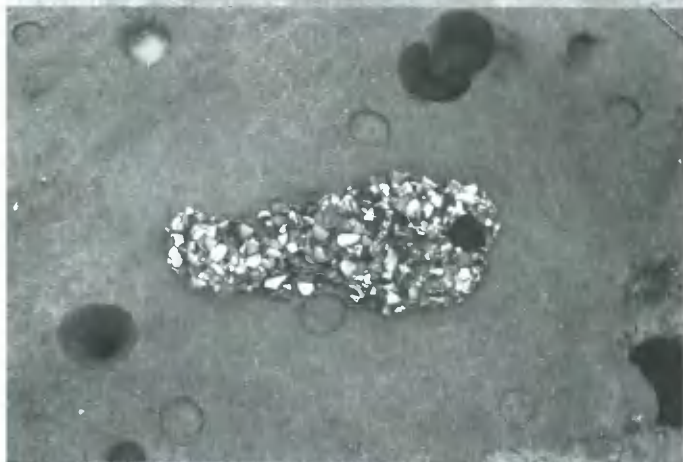
2 土壌116  
(北東から)



1 土壌141  
(北から)



1 土壌144  
(南から)



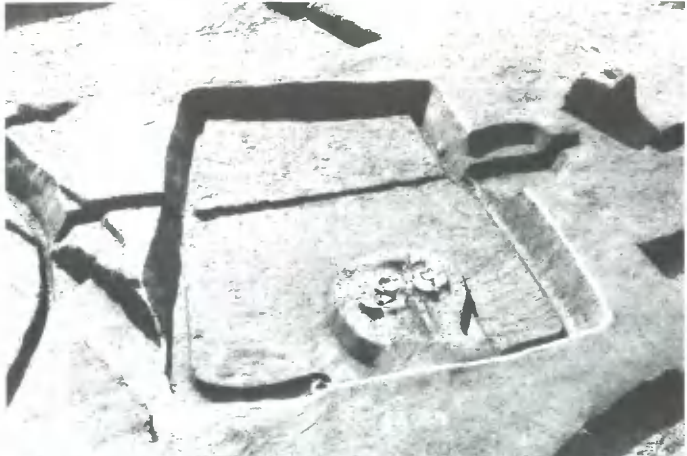
2 土壌154  
(南西から)



3 土壌159  
(北東から)

フロヤ調査区

1 竪穴住居21  
(北東から)



2 竪穴住居22  
(東から)



3 竪穴住居23  
(北から)





1 竪穴住居24  
(北東から)



2 竪穴住居25  
(北から)



3 竪穴住居26  
(北から)

フロヤ調査区

1 竪穴住居35  
(北から)

2 竪穴住居36  
(北から)

3 竪穴住居37  
(北から)





フロヤ調査区



1 竪穴住居38  
(北から)



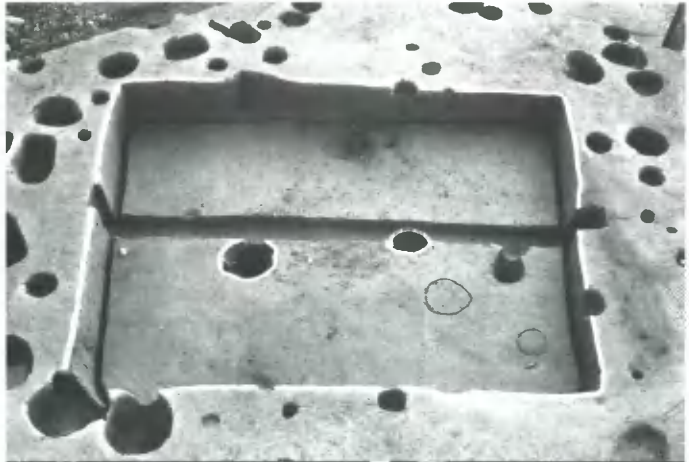
2 竪穴住居39  
(南東から)



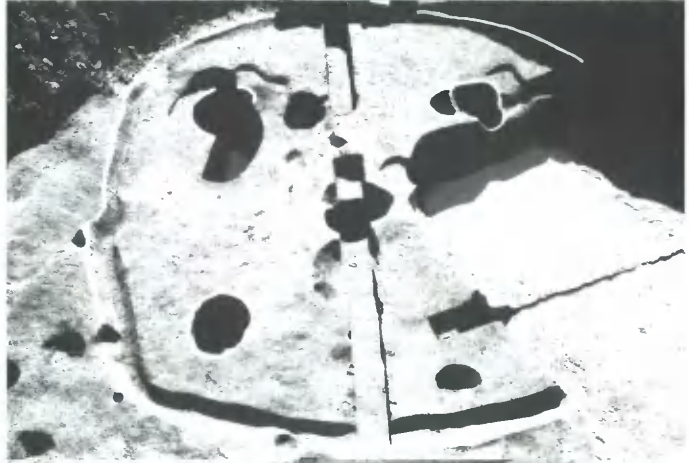
3 竪穴住居42  
(南東から)

フロヤ調査区

1 竪穴住居43  
(北西から)



2 竪穴住居44  
(北西から)



3 竪穴住居45  
(北西から)



フロヤ調査区



1 豎穴住居46  
(北東から)



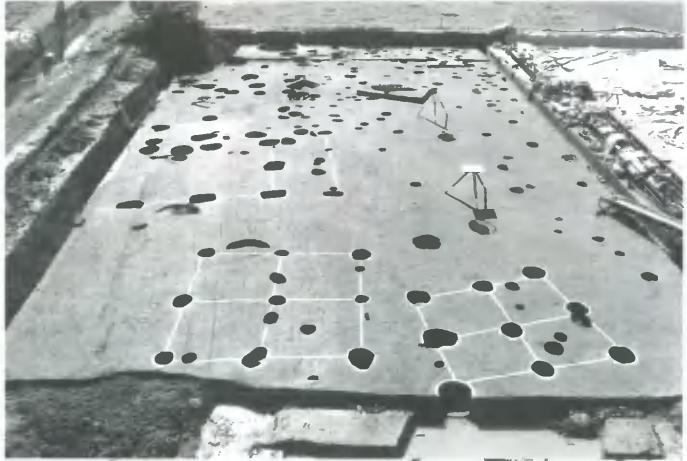
2 豎穴住居47  
(北東から)



3 豎穴住居48  
(北から)



フロヤ調査区



1 掘立柱建物  
17・18・19  
(北から)



2 掘立柱建物  
21・25・27  
(東から)



3 掘立柱建物40・41  
(南から)

フロヤ調査区



1 掘立柱建物  
43・44・45  
(北から)



2 中世掘立柱建物群  
(西から)

3 掘立柱建物50  
(西から)

フロヤ調査区



1 土墳墓 2  
(東から)



2 土墳墓 3  
(南西から)



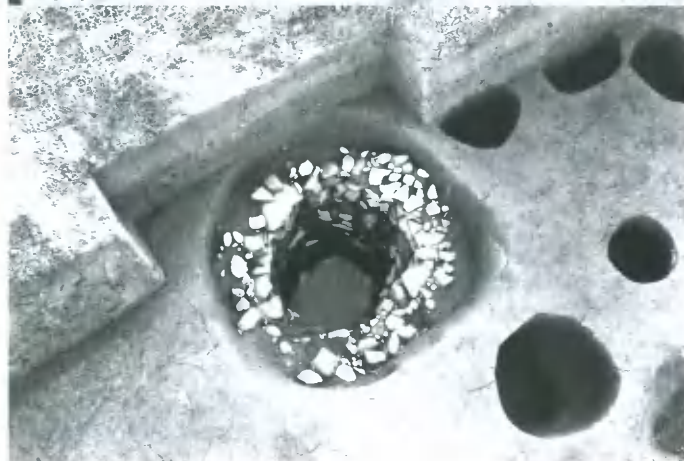
3 土墳墓 5  
(北西から)



1 土壇基6  
(東から)



2 井戸4  
(東から)



3 井戸5  
(北東から)

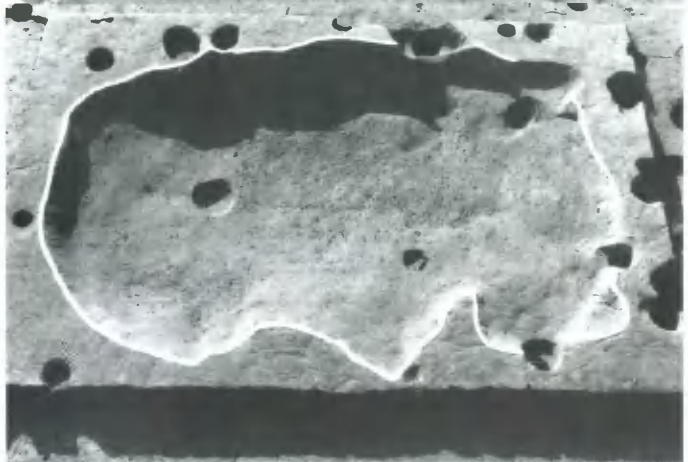


フロヤ調査区

1 土壇179・180  
(西から)

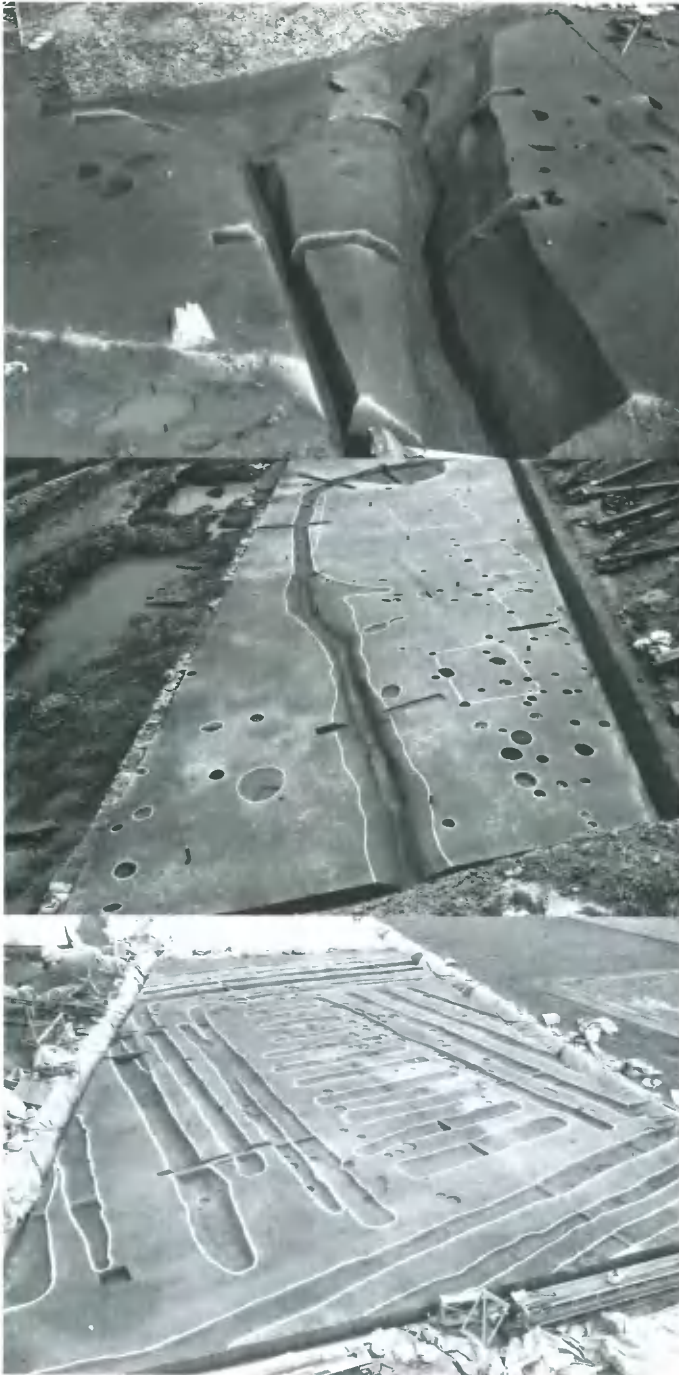


2 土壇184  
(北から)



3 溝20  
(北から)





1 溝30・31  
(南から)

2 溝32と  
中世掘立柱建物群  
(西から)

3 近世素掘溝群  
(西から)

角田調査区

1 竪穴住居50  
(北から)

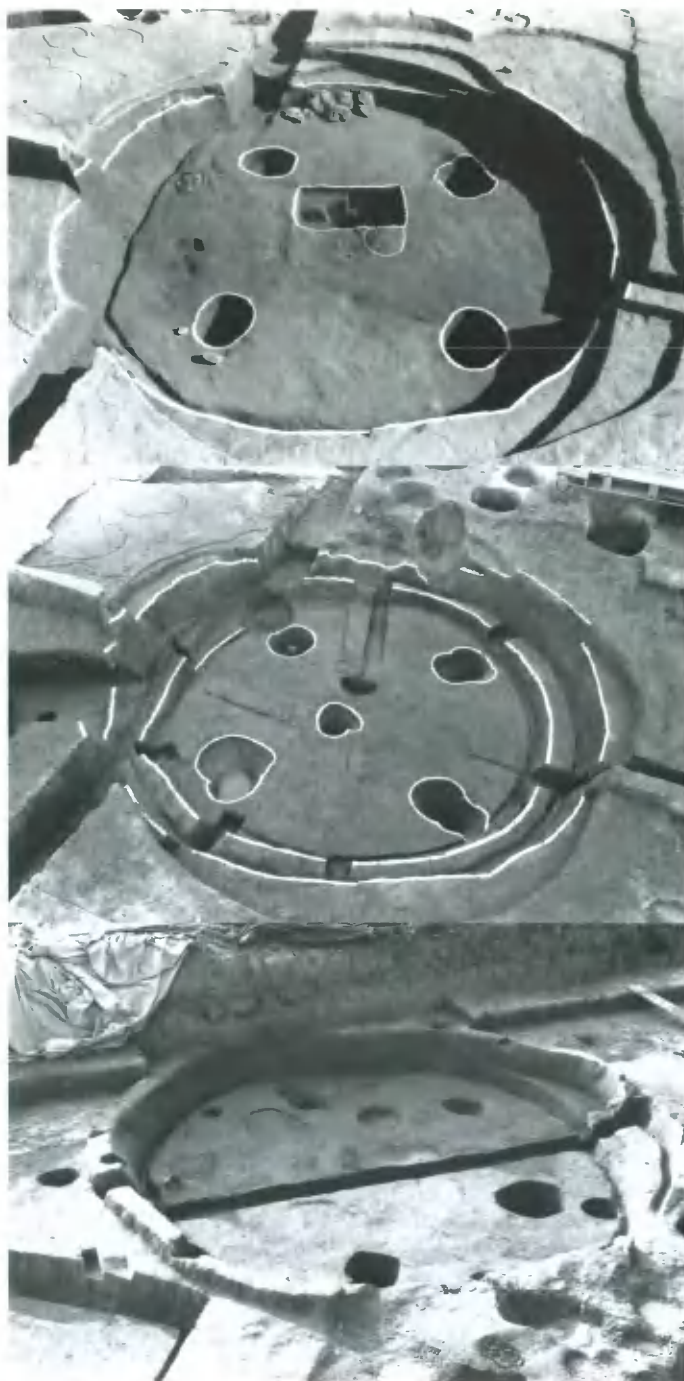


2 竪穴住居51  
(北から)



3 竪穴住居52  
(北東から)





1 竪穴住居53  
(北から)

2 竪穴住居53(下層)  
(北から)

3 竪穴住居54  
(東から)

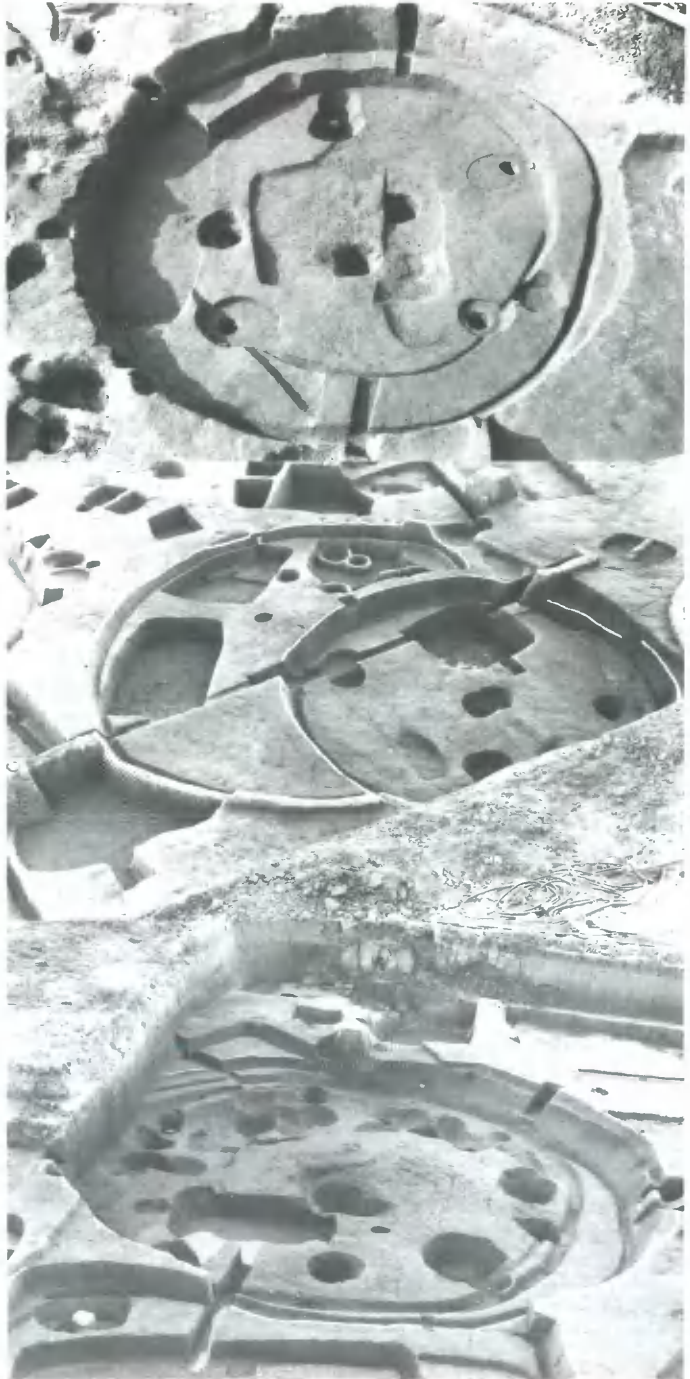


角田調査区

1 竪穴住居57  
(南から)

2 竪穴住居65・66  
(北東から)

3 竪穴住居67  
(北から)





1 竪穴住居70  
(南から)



2 竪穴住居72  
(南西から)



3 竪穴住居77  
(東から)

角田調査区

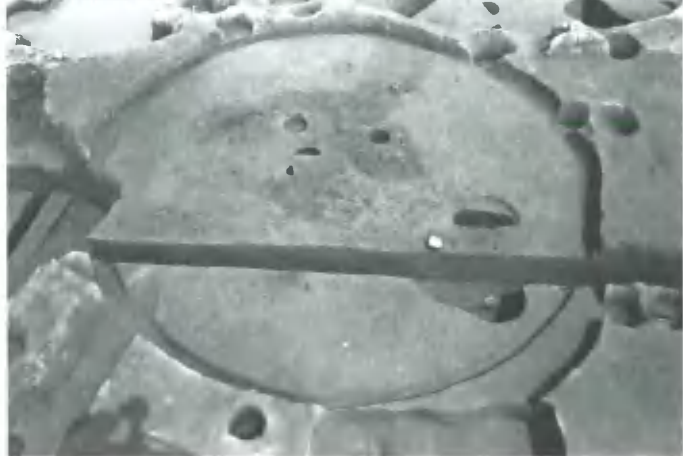
1 竪穴住居77(下層)  
(東から)



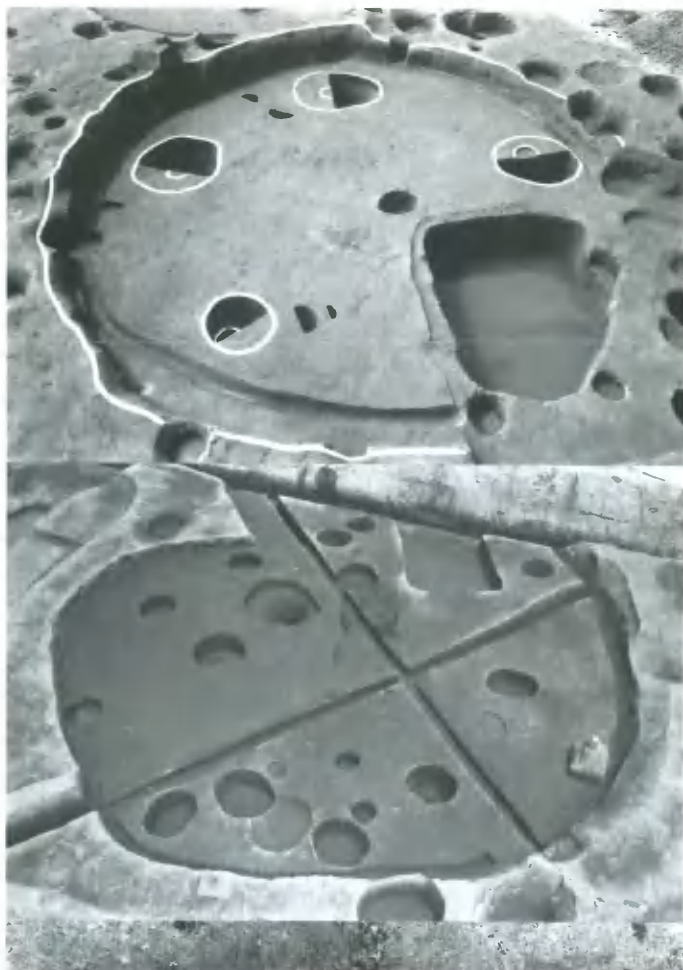
2 竪穴住居77  
勾玉出土状況



3 竪穴住居78  
(西から)



角田調査区



1 竪穴住居79  
(南から)

2 竪穴住居80  
(西から)



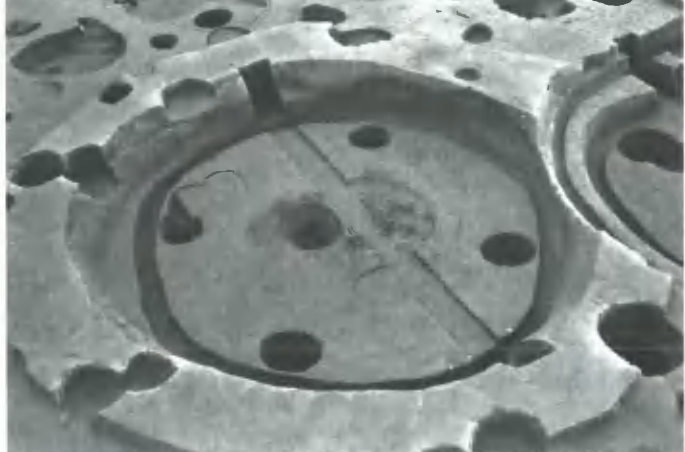
3 竪穴住居80  
銅鏡出土状況

角田調査区

1 竪穴住居84  
(南南東から)



2 竪穴住居88  
(北西から)

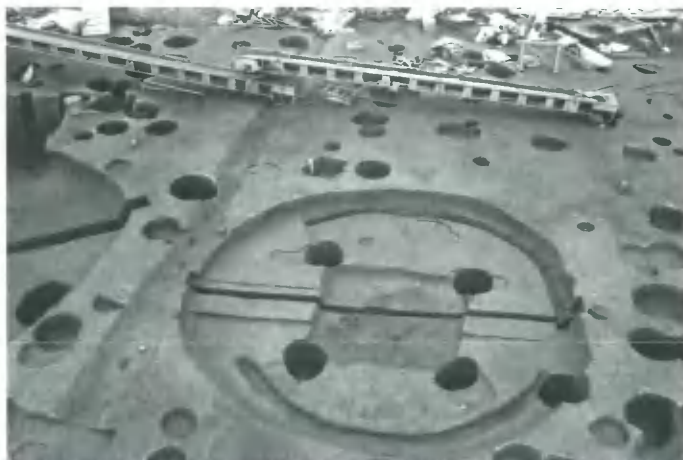


3 竪穴住居90  
(東から)





角田調査区



1 竪穴住居91  
(南から)



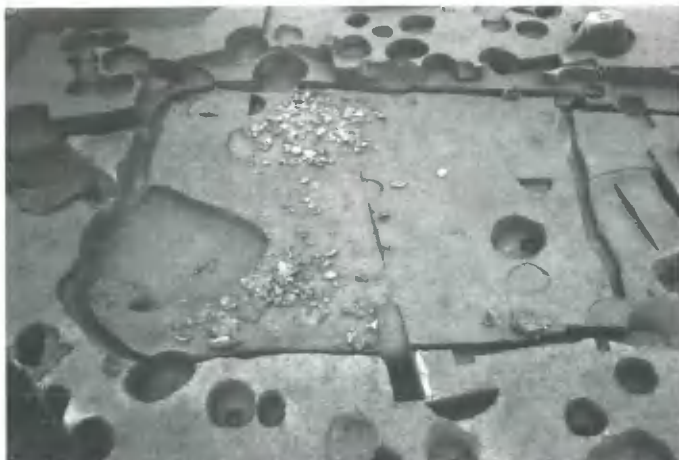
2 竪穴住居94  
(西から)



3 竪穴住居96  
(東から)

角田調査区

1 竪穴住居98  
(東南東から)

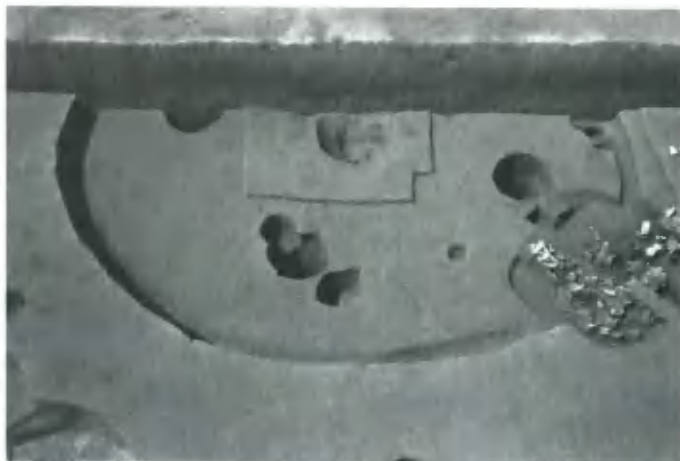


2 竪穴住居103  
(南から)



3 竪穴住居104  
(南から)





1 豎穴住居105  
(北東から)



2 豎穴住居106  
(北西から)



3 豎穴住居107  
(南から)



角田調査区

1 竪穴住居108  
(南から)



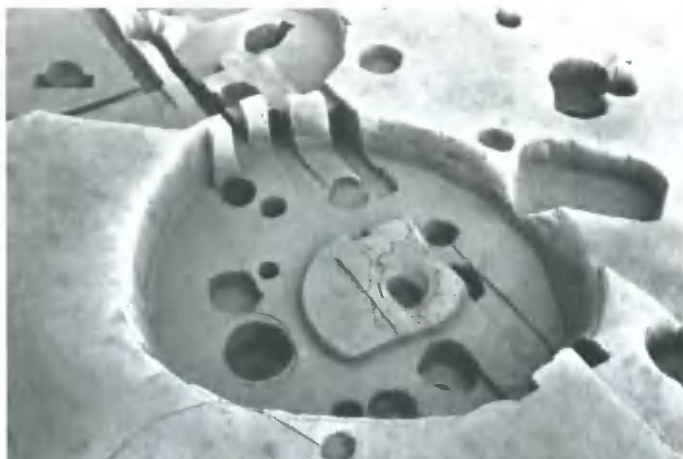
2 竪穴住居109  
(北から)



3 竪穴住居110  
(北から)



角田調査区



1 竖穴住居111  
(南西から)



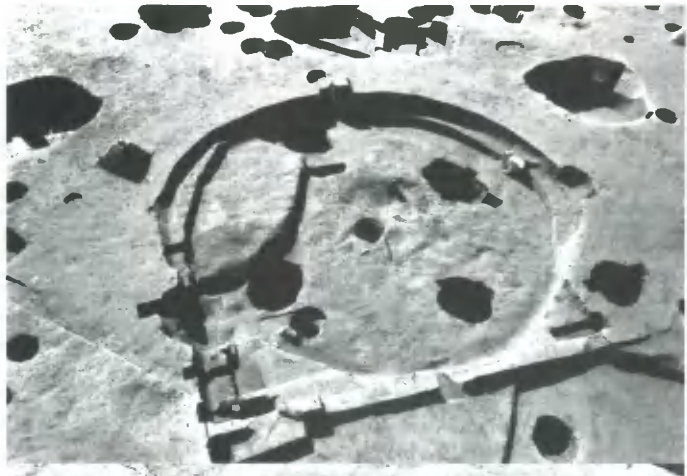
2 竖穴住居112  
(西から)



3 竖穴住居113  
(北西から)

角田調査区

1 竪穴住居114A  
(北から)



2 竪穴住居115  
(北から)



3 竪穴住居116  
(北から)





1 豎穴住居118  
(東から)



2 豎穴住居119  
(南から)

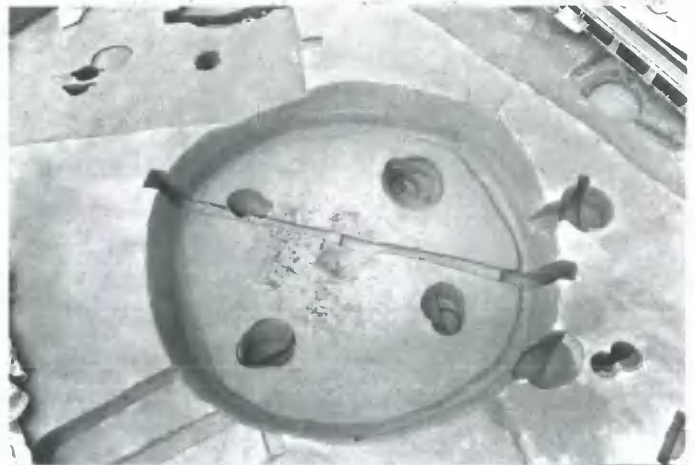


3 豎穴住居120  
(北東から)

角田調査区



1 竪穴住居120  
中央穴周辺  
(南西から)

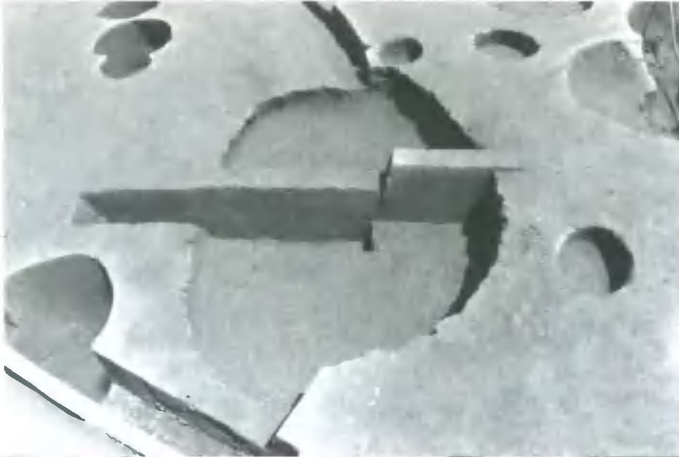


2 竪穴住居123  
(北から)



3 竪穴住居126  
(南東から)





1 袋状土壙100  
(南から)



2 袋状土壙107  
(西から)



3 袋状土壙114  
(南東から)

角田調査区

1 袋状土壇116  
(南から)



2 袋状土壇117  
(西から)



3 方形土壇1  
(北東から)





1 方形土壇 3・4  
(西から)



2 方形土壇 5  
(東から)

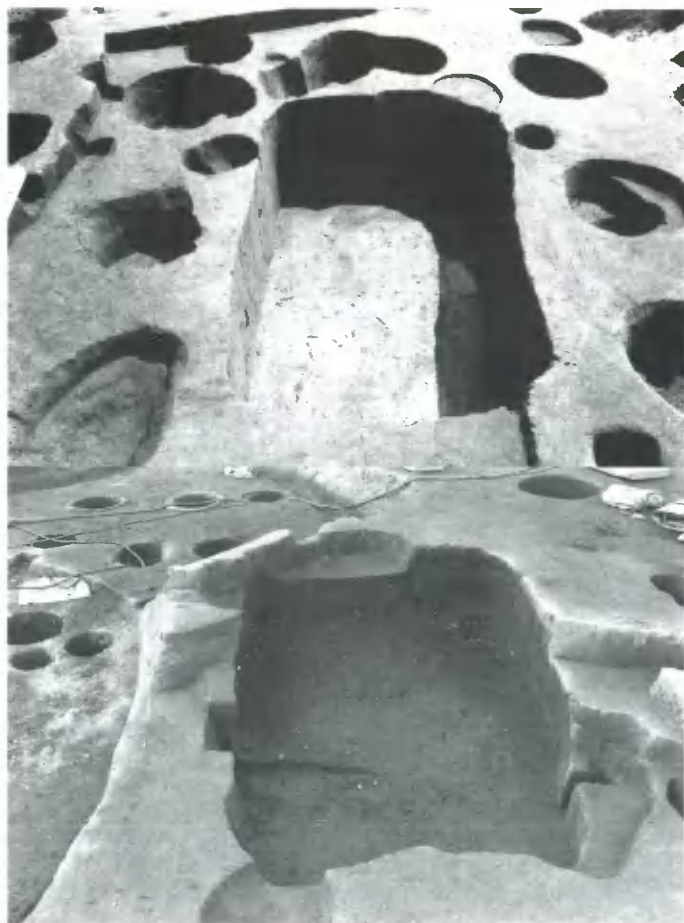


3 方形土壇 6  
(南から)



角田調査区

1 方形土壇23  
(西から)



2 方形土壇50・51  
(東から)



3 方形土壇80  
(南西から)



1 方形土壇92  
(北から)



2 方形土壇94  
(東から)



3 方形土壇群  
(南から)

角田調査区

1 方形土壇115  
(南西から)



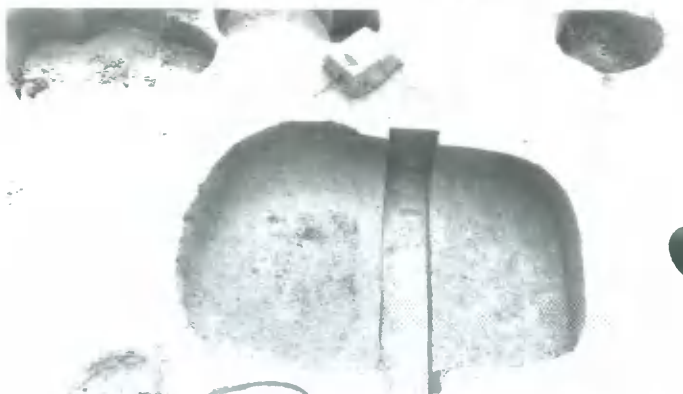
2 方形土壇116  
(南から)



3 方形土壇120  
(南から)



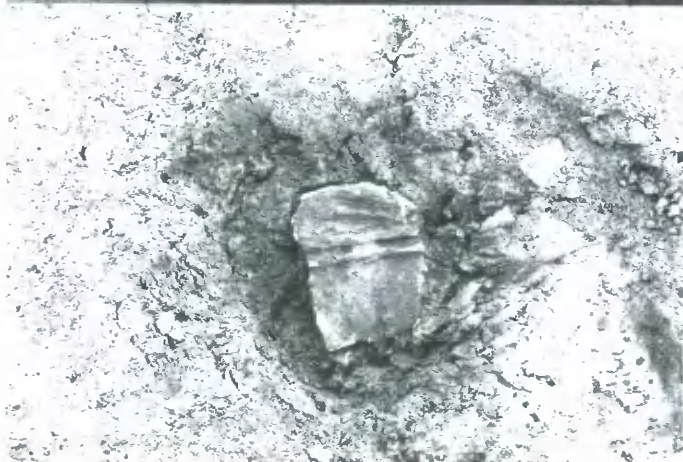
角田調査区



1 方形土壇135  
(北西から)



2 方形土壇136  
(北から)



3 銅鐸片出土状況  
(北から)

角田調査区

1 土壙189  
(南から)



2 土壙259  
(南西から)



3 土壙272  
(南から)





角田調査区



1 土壙284  
(北西から)



2 土壙291  
(西から)



3 土壙314  
(北から)

角田調査区

1 土壙349  
(東から)



2 土壙354  
(東から)



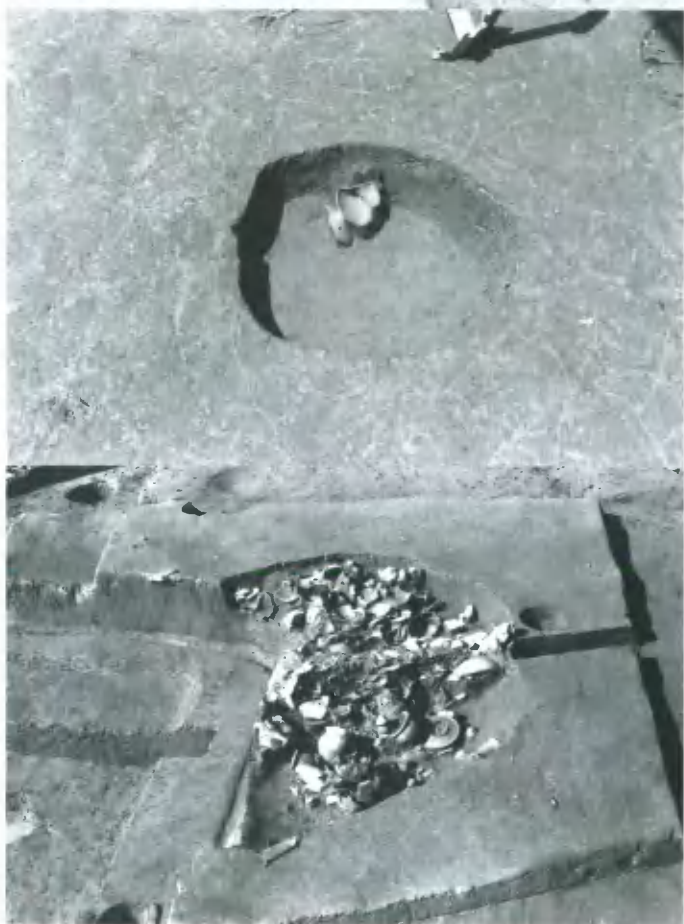
3 土壙363  
(東から)



角田調査区



1 土壙366  
(西から)



2 土壙379  
(南東から)

3 土壙390  
(東から)



角田調査区

1 調査区近景  
(東から)



2 調査風景  
(北から)



3 土器溜り 4  
(南東から)





1 豎穴住居127  
(南から)



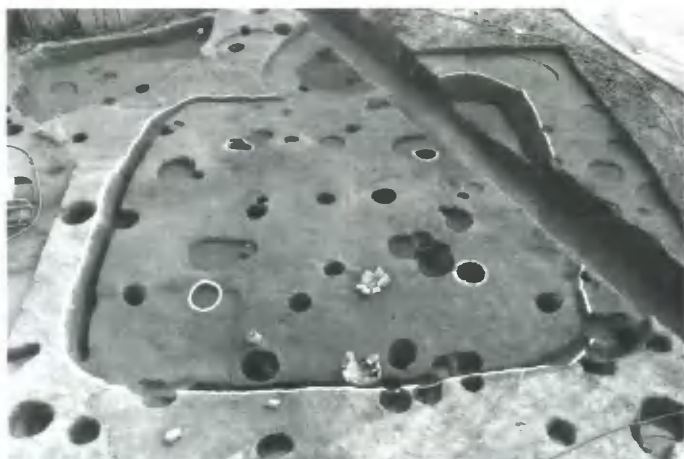
2 豎穴住居128  
(北から)



3 豎穴住居129  
(北から)

角田調査区

1 竪穴住居130  
(北から)

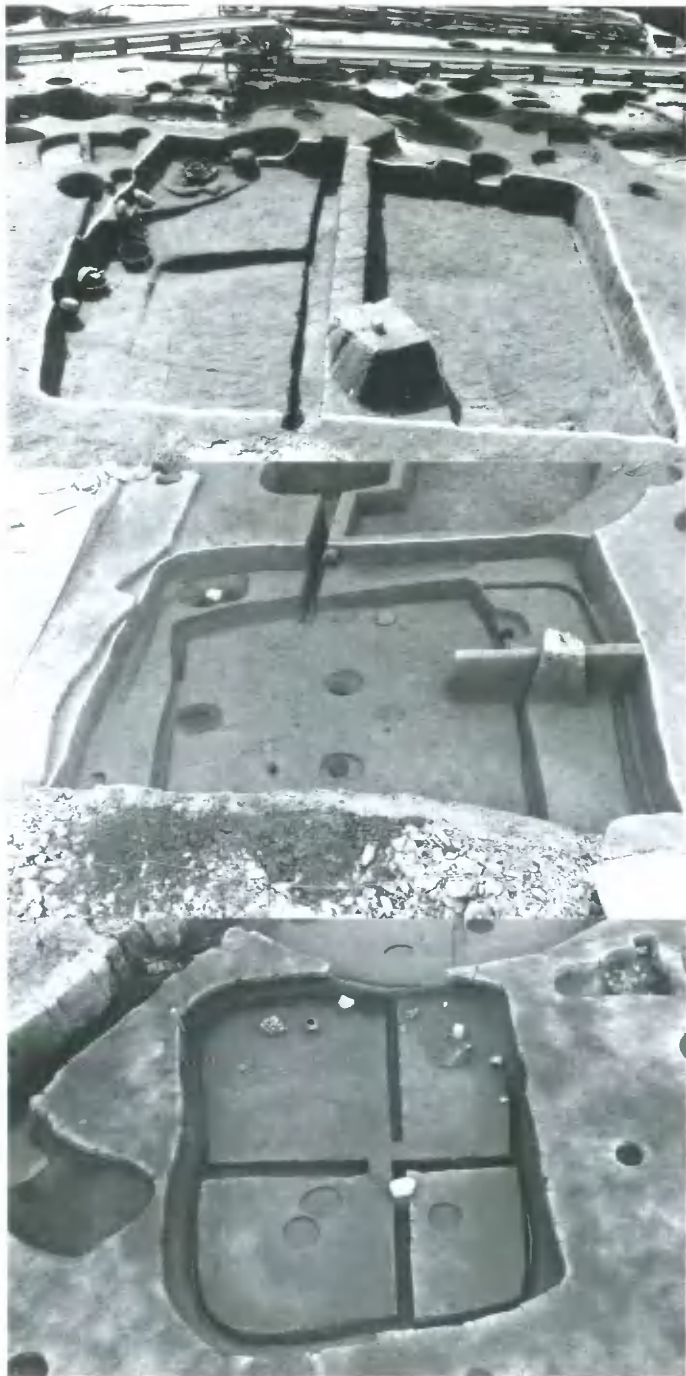


2 竪穴住居132  
(東から)



3 竪穴住居132  
遺物出土状況  
(東から)





1 竪穴住居136  
(北東から)

2 竪穴住居137  
(北から)

3 竪穴住居138  
(南西から)



角田調査区

1 竪穴住居140  
(南から)



2 竪穴住居140  
カマド  
(東から)



3 竪穴住居142  
(南南西から)





1 竪穴住居142  
遺物出土状況  
(北西から)



2 竪穴住居143  
(西北西から)



3 竪穴住居144  
(北北西から)

角田調査区

- 1 竪穴住居144  
カマド  
(西から)



- 2 竪穴住居145  
(南西から)



- 3 竪穴住居145  
遺物出土状況  
(南東から)



1 竪穴住居146  
(南東から)



2 竪穴住居146  
カマド  
(北東から)



3 竪穴住居148  
(南西から)



角田調査区

1 竪穴住居148  
カマド  
(北から)



2 竪穴住居149・151  
(南東から)



3 竪穴住居150  
(北から)





1 竖穴住居152  
(南から)



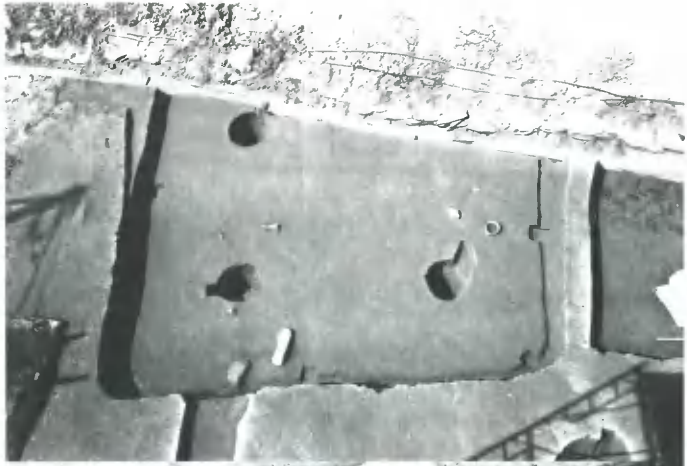
2 竖穴住居153  
(南から)



3 竖穴住居153  
カマド  
(北から)

角田調査区

1 竪穴住居154  
(南西から)



2 竪穴住居154  
カマド  
(南から)

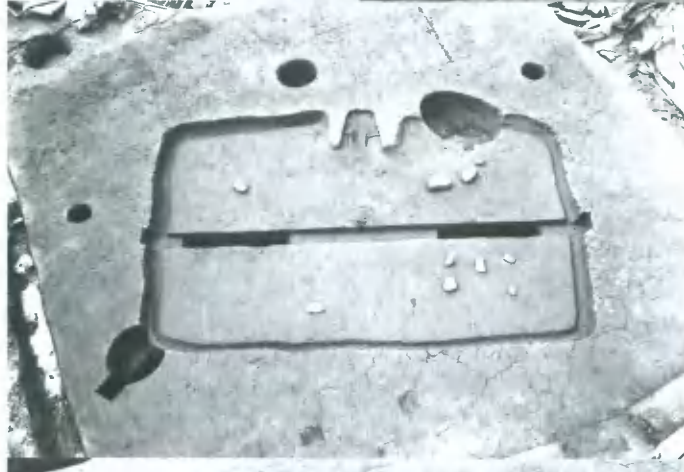


3 竪穴住居155  
(南西から)





1 豎穴住居155  
カマド  
(南東から)



2 豎穴住居158  
カマド  
(南東から)



3 豎穴住居158  
カマド  
(南東から)

角田調査区

1 竪穴住居159  
(東から)



2 竪穴住居161  
(西から)



3 竪穴住居161  
カマド  
(北西から)







1 豎穴住居162  
(南から)



2 豎穴住居163  
(南から)



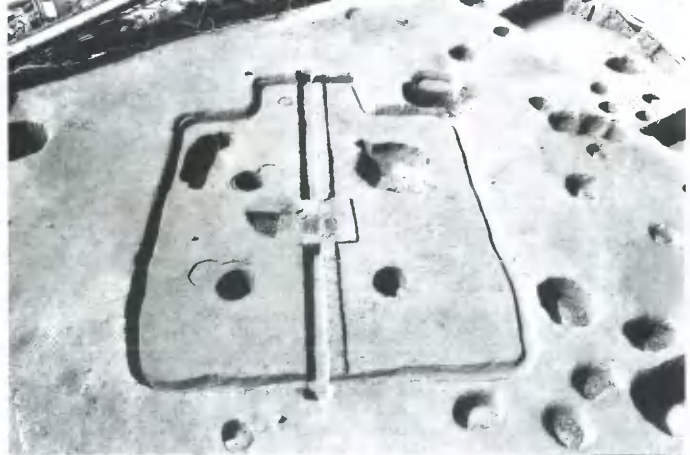
3 豎穴住居163  
カマド  
(南から)

角田調査区

1 竪穴住居164  
カマド  
(東から)



2 竪穴住居165  
(北東から)

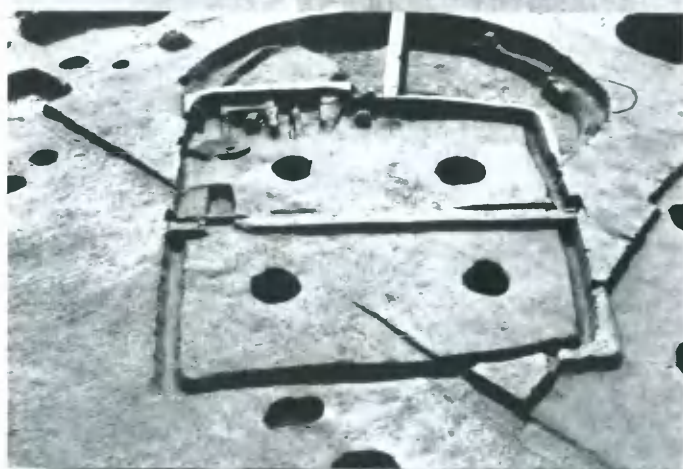


3 竪穴住居166  
(西から)





1 竪穴住居166  
カマド  
(北西から)



2 竪穴住居168  
カマド  
(北から)



3 竪穴住居168  
カマド  
(北西から)

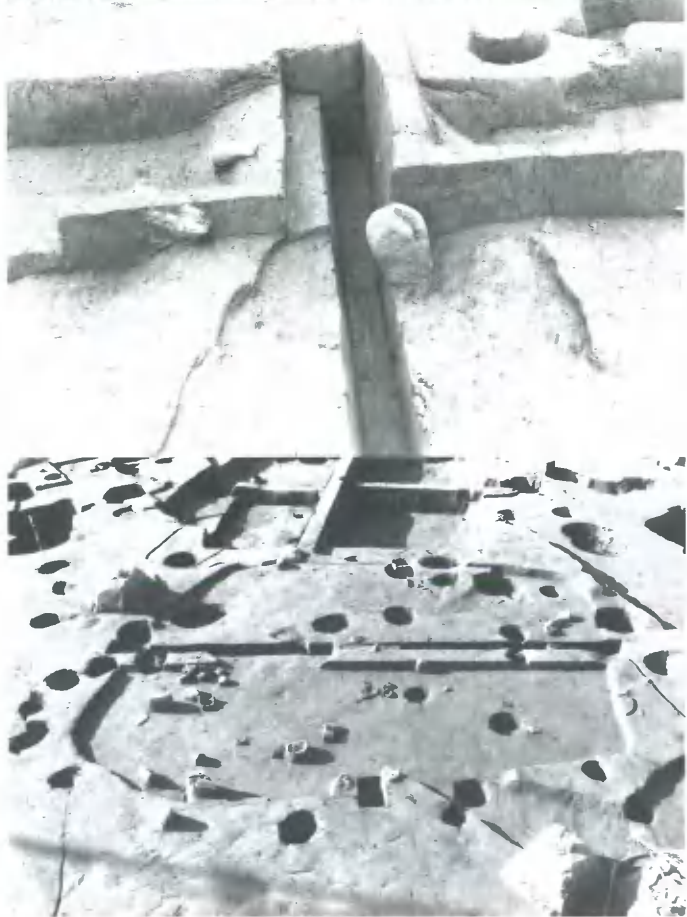


角田調査区

1 竪穴住居169  
(南から)



2 竪穴住居169  
カマド  
(南から)

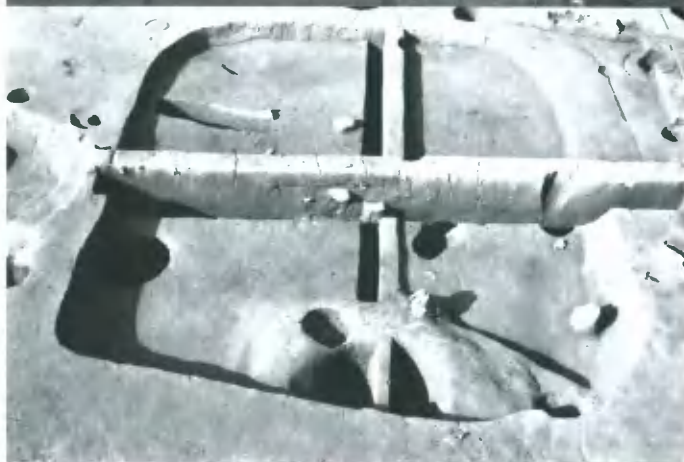


3 竪穴住居170  
(北東から)

角田調査区



1 竪穴住居171  
(北東から)



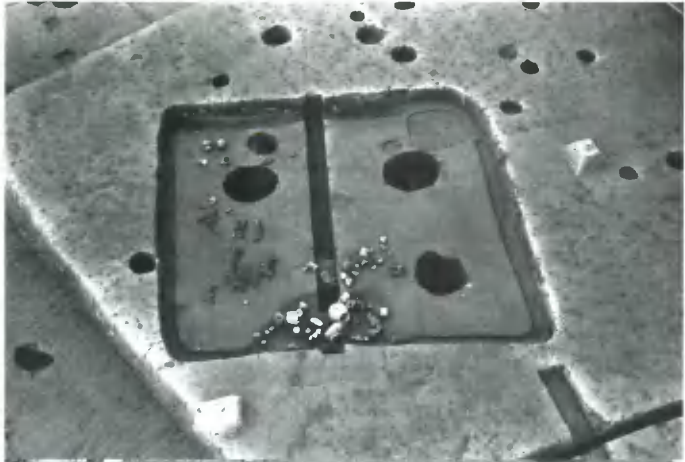
2 竪穴住居172  
(南東から)



3 竪穴住居173  
(北西から)

角田調査区

1 竪穴住居174  
(南東から)



2 竪穴住居177  
(東から)



3 竪穴住居178  
(北から)



角田調査区



1 竪穴住居178  
カマド  
(北西から)



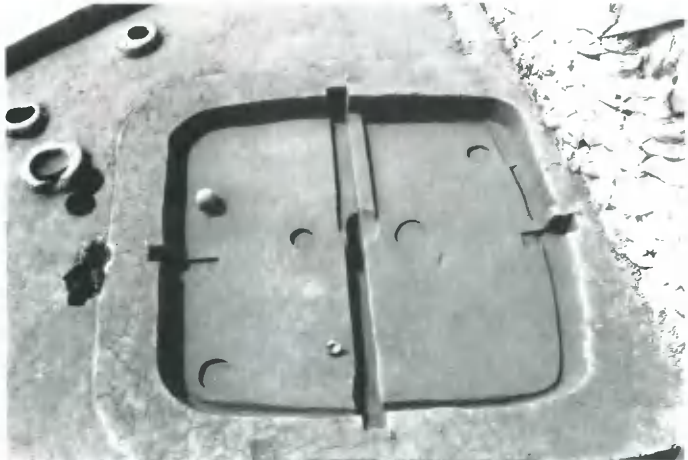
2 竪穴住居179  
(南から)



3 竪穴住居179  
カマド  
(北西から)

角田調査区

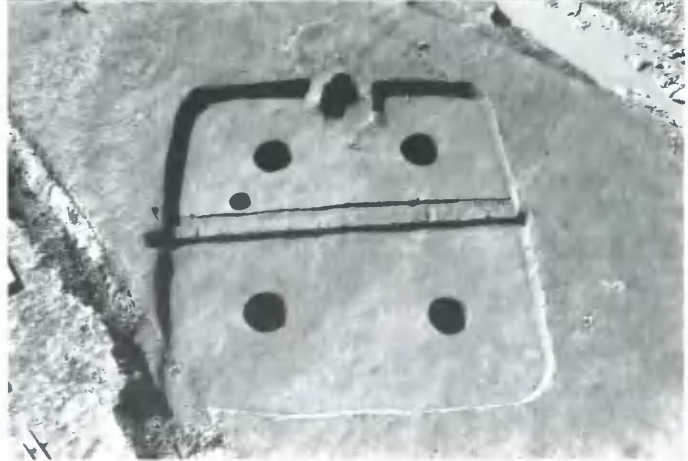
1 竪穴住居180  
(南東から)



2 竪穴住居  
181・182・185  
(南西から)



3 竪穴住居182  
(南から)





角田調査区



1 竖穴住居184  
(西から)



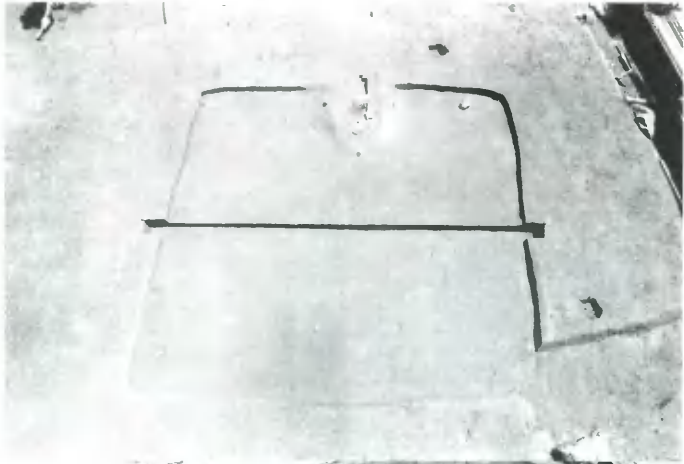
2 竖穴住居185  
(西から)



3 竖穴住居185  
カマド  
(南西から)

角田調査区

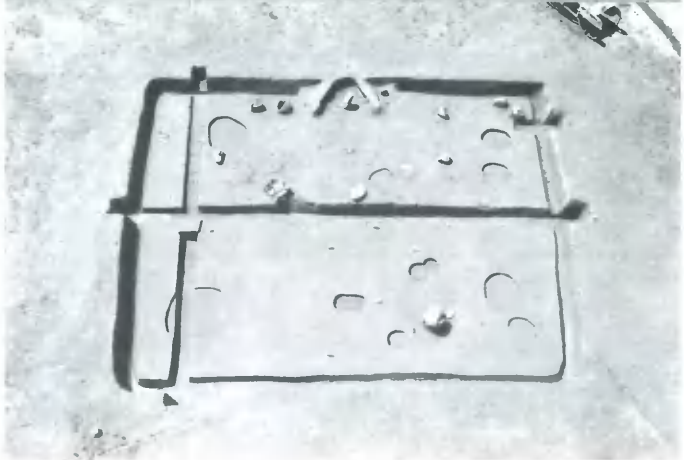
1 竪穴住居186  
(南西から)



2 竪穴住居187  
(北東から)



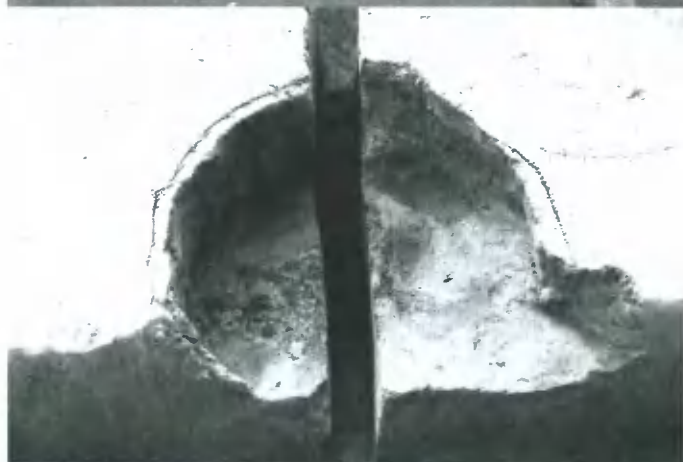
3 竪穴住居188  
(南東から)



角田調査区



1 掘立柱建物54  
(南から)



2 土壙429  
(東から)



3 掘立柱建物57  
(北から)

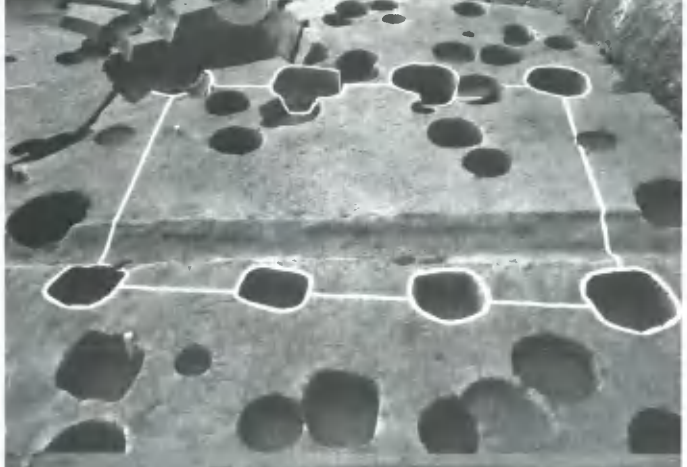


角田調査区

1 掘立柱建物59  
(東から)



2 掘立柱建物61  
(東南東から)



3 掘立柱建物62  
(東から)



角田調査区



1 掘立柱建物  
69・70・72  
(北西から)

2 土壇墓9  
(北東から)

3 土壇墓10  
(東から)

角田調査区

1 土墳墓12  
(西から)



2 土墳墓13  
(東から)



3 土墳墓17  
烏帽子出土状況  
(北から)





1 土壙墓18  
(西から)



2 土壙墓18  
遺物出土状況  
(北から)



3 土壙墓19  
(東から)

角田調査区

1 土壙墓20  
(南南西から)



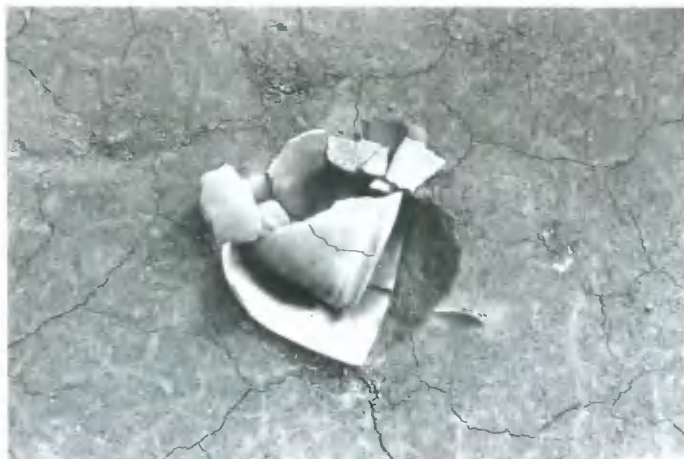
2 土壙墓21  
(東から)



3 土壙墓22  
(南南東から)







1 火葬墓1  
(南から)



2 井戸6  
(東から)



3 井戸6木枠・  
曲げ物検出状況  
(東から)

角田調査区

1 土壙457  
(南から)



2 近世素掘溝群  
(南から)



3 近世素掘溝群  
(北から)



角田調査区



1 微高地下がり  
(5世紀)



2 微高地下がり  
(奈良～平安時代)



3 微高地下がり  
(中世)



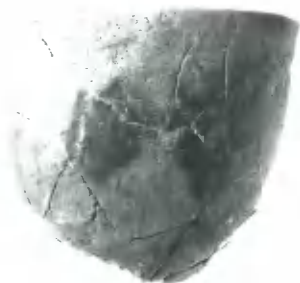
塚廻り調査区



50



53



54



58



57



59



61



55



68

50、53、54  
竪穴住居 1  
55、57、58  
59、61  
竪穴住居 2  
68  
井戸 1

塚廻り調査区



121



124



130



122

121、122、124、127

土塚21

130、131

土塚22

139

土塚26



127



139



131



148



149



150



153



152



155



156



157



161



154

148、149、150、152、153、154

155、156、157、161、162

溝3



162

塚廻り調査区



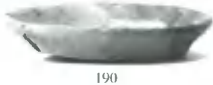
181



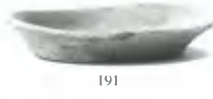
183



182



190



191



188



193



195



171



180

165、171、180  
181、182、183  
188、190、191  
193、195  
溝4  
203、206、207  
溝8  
221、222  
溝10



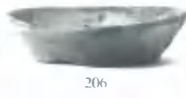
222



165



221



206

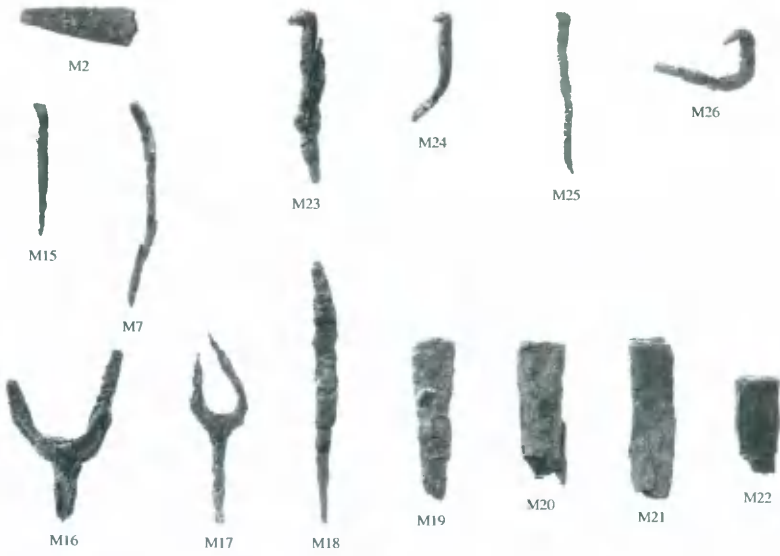


207



203

塚廻り調査区



M2 竪穴住居5 M7 柱穴6  
M15、M16、M17、M18、M19、M20、M21、M22、M23、M24、M25、M26 包含層



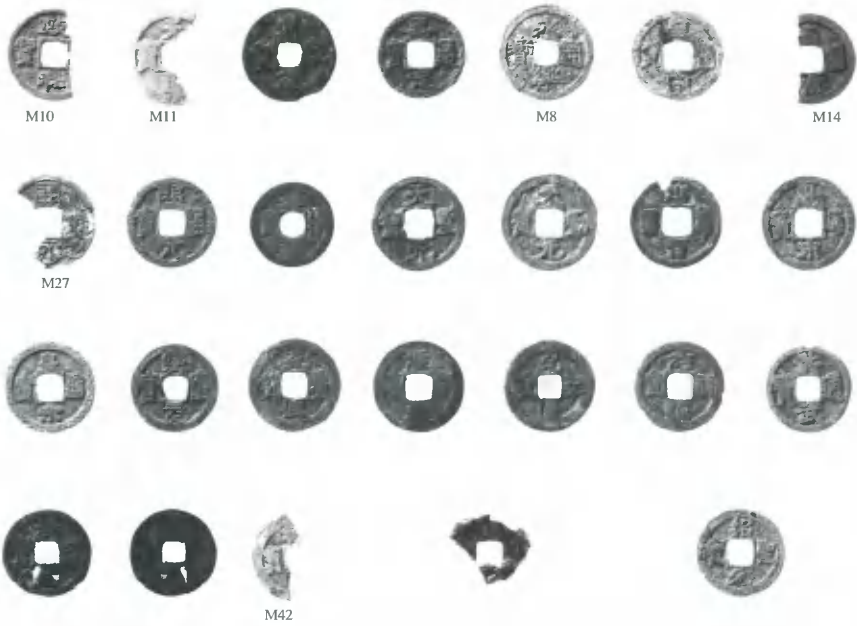
M3



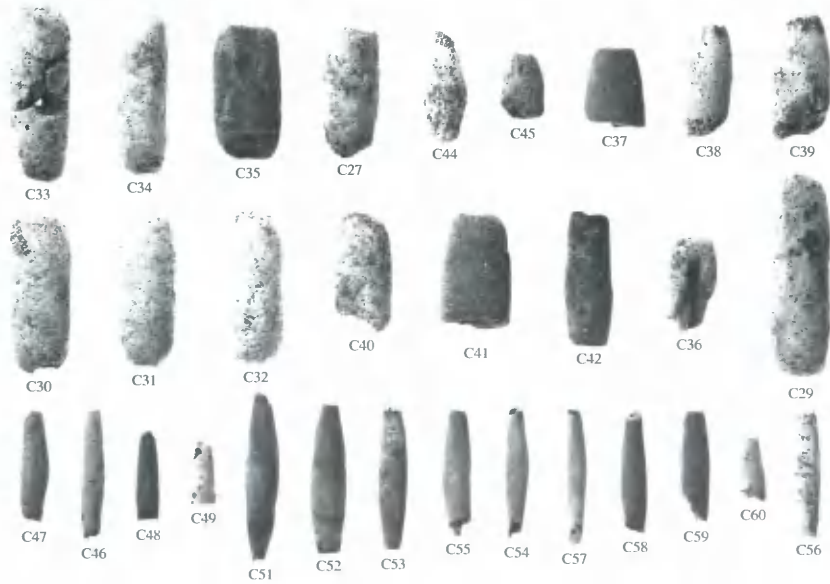
M6

M3 井戸3 M6 溝11

塚廻り調査区



M8 柱穴 7 M10、M11、M14 柱穴 M27、M42 包含層



C27 竪穴住居 1 C46 溝 3 C47 溝 8 C48、C49 柱穴  
 C29、C30、C31、C32、C33、C34、C35、C36、C37、C38、C39、C40、C41、C42、C44、C45、  
 C51、C52、C53、C54、C55、C56、C57、C58、C59、C60 包含層

塚廻り調査区



W3



W5



W4



W6



W7



W8



W9

W3, W4, W5 井戸2  
W6, W7, W8, W9 井戸3

塚廻り調査区



S1



S2



S3

S1、S2、S3 包含層



S4



S6



S28

S4、S5 井戸2

S6 井戸3 S7 土壙26

S8 溝3 S11 溝9 S28 溝15



S5



S15



S16



S7



S8



S11



S19



S23



S22



S24



S25



S26



S27



G1

S15、S16、S19、S22、S23、S24、S25、S26、S27 包含層

G1 包含層

石製品・ガラス製品



フロヤ調査区



515



554

515、523  
竪穴住居 6  
554、556、557  
竪穴住居 14  
568  
竪穴住居 17



523



556



557



583



568



598



694

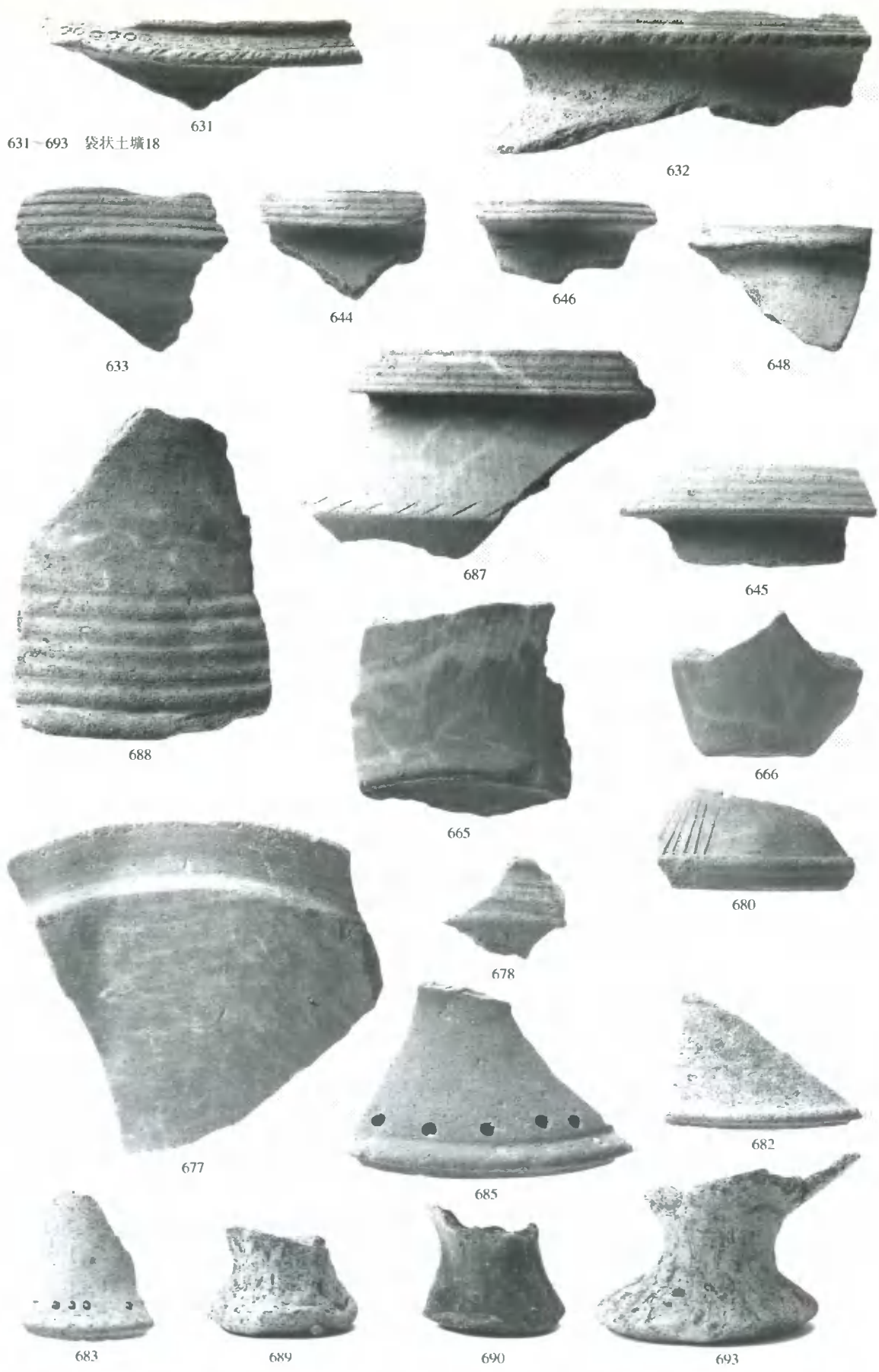


764

583 袋状土壙 7      694 袋状土壙 19  
598 袋状土壙 11      764 袋状土壙 51



フロヤ調査区



631~693 袋状土壙18

フロヤ調査区



618



621

- 618、621 袋状土壙12
- 628 袋状土壙13
- 735 袋状土壙36、41
- 744 袋状土壙43
- 751 袋状土壙47



628



735



744



751

フロヤ調査区



733	袋状土壙43	840	袋状土壙71
752	袋状土壙47	882	袋状土壙80
794	袋状土壙58	934	袋状土壙86
812	袋状土壙64		

フロヤ調査区



932



1053



979



1055



1069



1073



995



1123

- 932
- 袋状土壙86
- 979
- 土壙27
- 995
- 土壙42
- 1053
- 土壙92
- 1055
- 土壙92
- 1069
- 土壙138
- 1073
- 土壙141
- 1123
- 土壙154



フロヤ調査区



1084



1090



1136



1139



1134



1137



1142

1084、1090 土壙151

1134、1136、1137、1139、1142 土壙159

フロヤ調査区



1191



1192



1193



1207



1197



1199



1230



1204



1205



1236



1228

- 1191 竪穴住居21
- 1192、1193 竪穴住居22
- 1197、1199
- 1204、1205
- 1207 竪穴住居23
- 1228、1230 竪穴住居25
- 1236 竪穴住居26

フロヤ調査区



1240



1250



1360



1270



1241



1302



1325



1328



1329



1275



1278

- 1240、1241 竪穴住居28
- 1250 竪穴住居32      1270 竪穴住居36
- 1360 竪穴住居42
- 1275、1278、1302、1325、1328
- 1329 竪穴住居37

フロヤ調査区



1277



1338



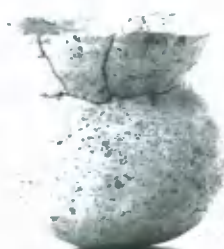
1318



1380



1337



1379



1369



1384



1385

1277、1318  
竪穴住居37  
1337、1338  
竪穴住居38  
1369、1379  
1380、1384  
1385  
竪穴住居44



フロヤ調査区



1408



1411



1440



1446



1428



1431



1479

1408~1466  
竪穴住居46



1455



1457



1466



1461

フロヤ調査区



1498



1504



1499



1503



1565



1564



1563



1540



1150



1151



1152



1616



1618



1619



1625



1634



1629



1636



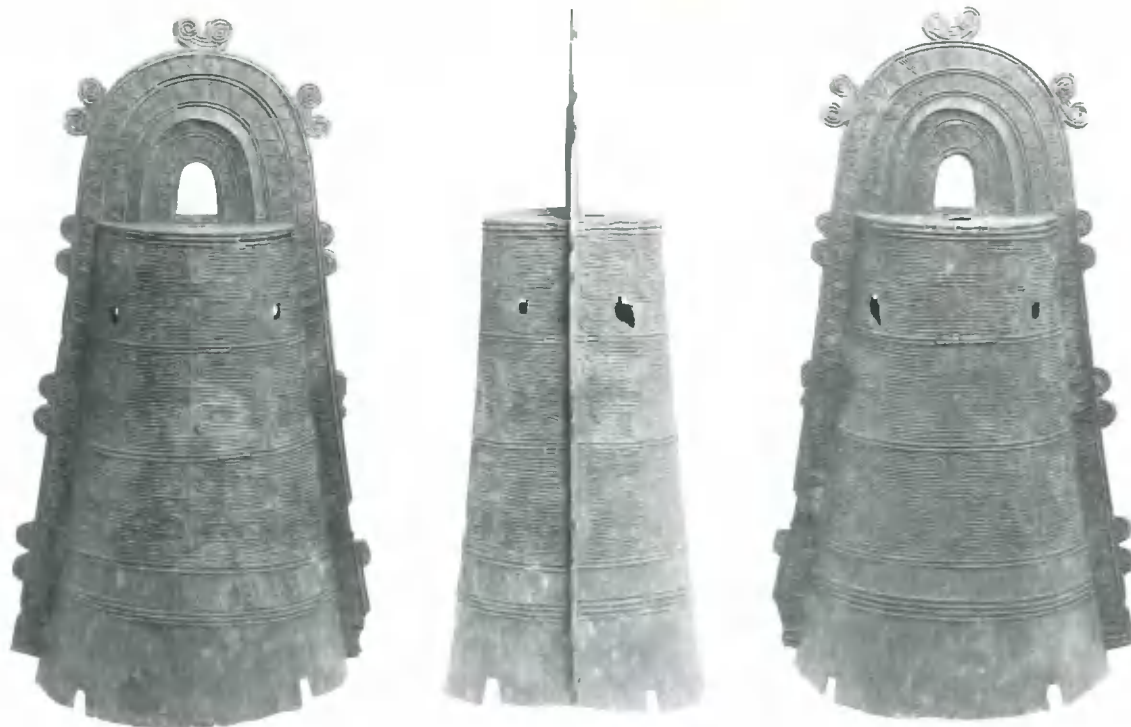
1630



1637

- 1498、1499 土壙170
- 1503、1504 土壙173
- 1563、1564、1565 土壙179
- 1540 掘立柱建物31
- 1150、1151、1152 柱穴9
- 1616 柱穴26
- 1618 柱穴27
- 1619 柱穴28
- 1625、1629、1630 柱穴30
- 1634、1636、1637 柱穴31

フロヤ調査区



M45



M45 銅鐸埋納壙



銅鐸

フロヤ調査区



M45 銅鐸埋納土塊

M45



M111

M111



M72



M73

M72 土塊144

M73 土塊154

M75 柱穴 8

M84 包含層

M100 溝31

M111 柱穴10



M75



M84



M100



M90



M90 土塊墓 2



M113

M113 柱穴12



フロヤ調査区



M46

M50



M47

M52



M48

M54



M49

M55



M51

M56



M53

M57



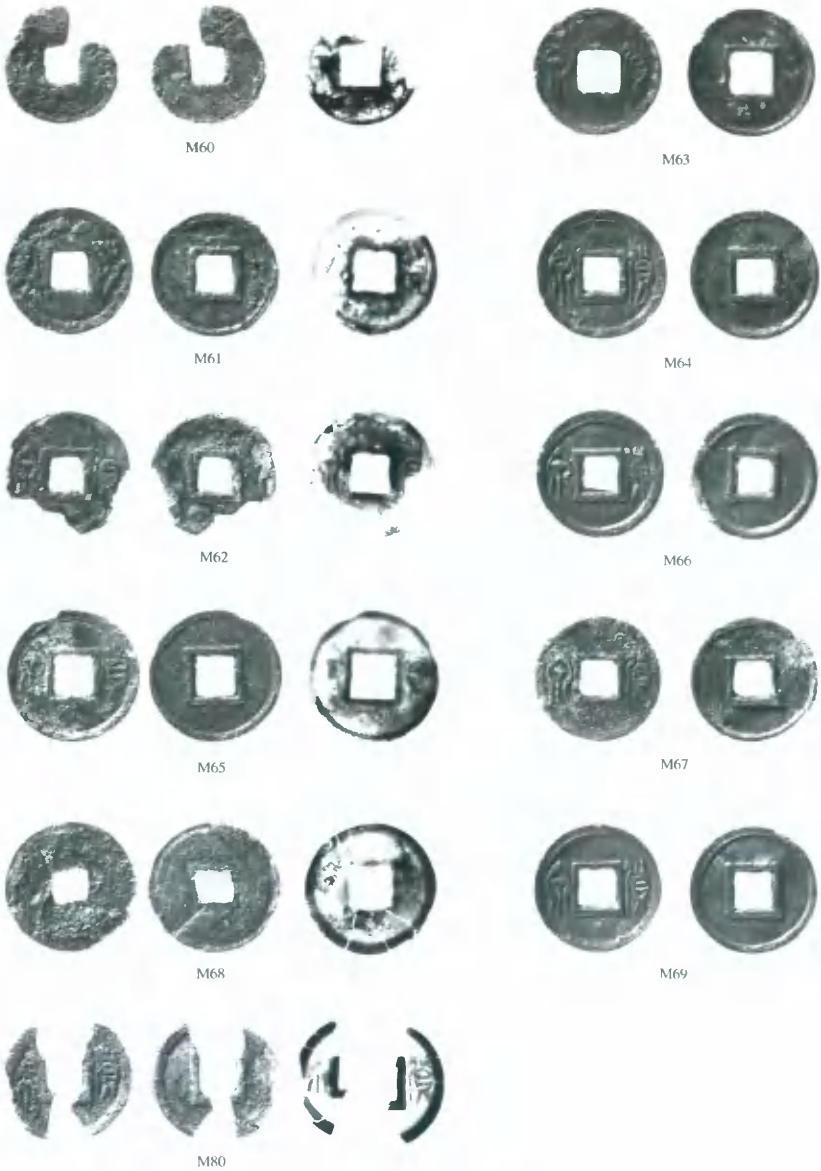
M58

M59

M46、M47、M48、M49、M50、M51、M52、M53、M54、M55、M56、M57、M58、M59 袋状土壙18

袋状土壙18出土貨泉 1

フロヤ調査区



M60、M61、M62、M63、M64、M65、M66、M67、M68、M69 袋状土壘18  
M80 竪穴住居35

フロヤ調査区



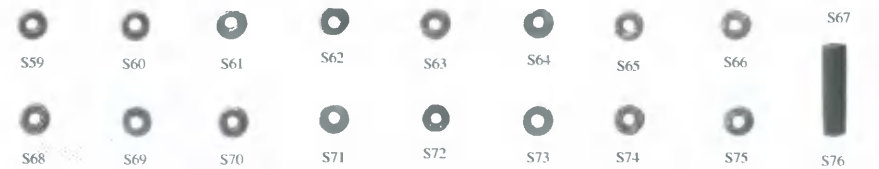
C74 竪穴住居 8  
C75 竪穴住居 9  
C76 竪穴住居10

C77 竪穴住居16  
C78、C79 袋状土塊11  
C80 袋状土塊23

C82 土塊88  
C85 包含層  
C91 竪穴住居37  
C92 竪穴住居40  
C94 竪穴住居46  
C98、C99 包含層  
C102 井戸 5  
C103 土塊180  
C104 溝32

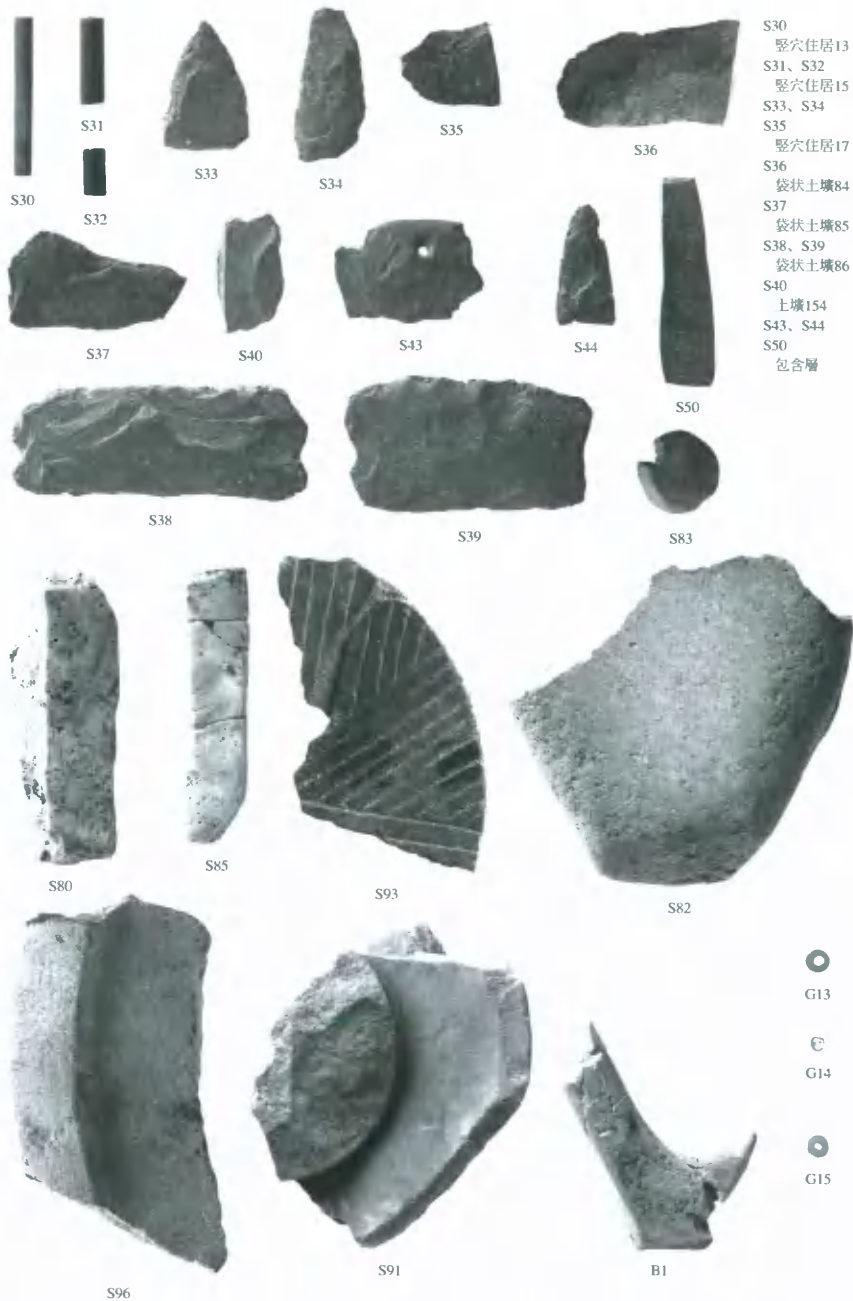


S58 竪穴住居28 S79 竪穴住居39 S86 土塊170 S87、S88 包含層



S59、S60、S61、S62、S63、S64、S65、S66、S67、S68、S69、S70、S71、S72、S73、S74、S75、S76 竪穴住居30

フロヤ調査区





角田調査区



1717



1718



1720



1724



1734



1735



1757



1754



1756



1753



1787



1764



1790

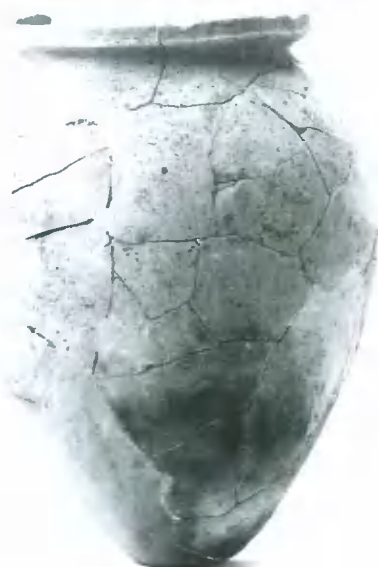
- 1717、1718
- 1720
- 竪穴住居51
- 1724 竪穴住居52
- 1734、1735
- 1753、1754
- 1756、1757
- 竪穴住居53
- 1764 竪穴住居54
- 1787、1790
- 竪穴住居58

角田調査区



1773

1773、1778  
竪穴住居56  
1830、1831  
1836、1839  
竪穴住居62  
1848、1850  
竪穴住居63



1830



1778



1839



1836



1831



1848



1850

角田調査区



1847



1854



1893



1892



1895



1897

1847、1854  
竪穴住居63  
1892、1893、1895、1897  
竪穴住居64

角田調査区



1913



1919



1925



1918



1922



1937



1935



1939



1938



1945

1913、1918、1919  
1922、1925  
豎穴住居66  
1935、1937、1938  
1939、1945  
豎穴住居67



角田調査区



1950



1961



1959



1958



1953



1981



1983



2006



2015



2053



2054



2021

- 1950、1953
- 1958、1959
- 1961
- 竪穴住居68
- 1981
- 1983
- 竪穴住居71
- 2006
- 2015
- 2021
- 竪穴住居77
- 2053
- 2054
- 竪穴住居79



2062



2090



2076



2138



2097



2139



2093



2114



2141



2136

2062 竪穴住居80  
2076 竪穴住居84  
2090、2093、2097、2114  
2136、2138、2139、2141  
竪穴住居86

角田調査区



2155



2157



2162



2169



2163



2165



2171



2173



2202



2242



2207



2238

- 2155、2157  
竪穴住居87
- 2162、2163、2165  
竪穴住居88
- 2169、2171、2173  
竪穴住居90
- 2202、2207  
竪穴住居95
- 2238、2242  
竪穴住居98

角田調査区



2264



2266



2296



2286



2328



2314



2310



2319



2322



2330



2330

2264、2266  
 竪穴住居101  
 2286  
 竪穴住居105  
 2296  
 竪穴住居106  
 2310、2314、2319  
 2322、2328  
 竪穴住居107  
 2330  
 竪穴住居108



角田調査区



2331



2339



2341



2354



2368



2362

- 2331 竪穴住居108
- 2339 竪穴住居110
- 2341 竪穴住居111
- 2354 竪穴住居113
- 2362
- 2368
- 竪穴住居113



2365



2375



2396



2390



2402



2404



2417



2418

- 2365、2375
- 2390
- 竪穴住居113
- 2396
- 竪穴住居114A
- 2402
- 竪穴住居114B
- 2404、2417
- 2418
- 竪穴住居115

角田調査区



2508



2509

- 2508
- 2509
- 袋状土壙97
- 2514
- 2515
- 袋状土壙107
- 2528
- 袋状土壙109
- 2534
- 袋状土壙112



2515



2514



2528



2534



2538



2551



2552



2558



2571

2538  
袋状土壙114  
2551、2552、2558  
袋状土壙116  
2571  
袋状土壙117



角田調査区



2696



2756

- 2696  
方形土壙9
- 2756  
方形土壙20
- 2766  
2767  
方形土壙23
- 3074
- 3081  
方形土壙94



2766



2767



3074



3081

角田調査区



2776



2768



2813



2825



2844



2835



2833



2837

2768、2776、2813、2825  
2833、2835、2837、2844  
方形土壙23

角田調査区



2881



2894



2899



2917



2926



2928



2940



2938



2933



3006



2998



3002



3025



3013

- 2881、2894、2899 方形土壇46
- 2917、2926、2928、2933、2938、2940 方形土壇55
- 2998、3002、3006 方形土壇83
- 3013 方形土壇86
- 3025 方形土壇88

角田調査区



3027



3016



3045



3026



3065



3131



3062



3055

3016、3026、3027  
方形土壙88  
3045、3055、3062、3065  
方形土壙92  
3131 方形土壙130  
3136 方形土壙135



3143



3136



3143、3148 方形土壙136



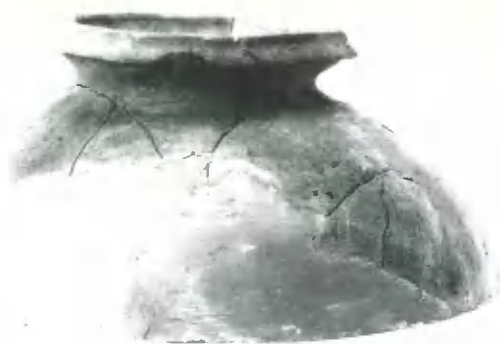
3148



角田調査区



3271



3274



3279



3353



3284



3355



3281



3280

3271、3274、3279  
3280、3281、3282、3284  
3286、3288  
土壙205  
3353、3355  
土壙226



3288



3282



3286



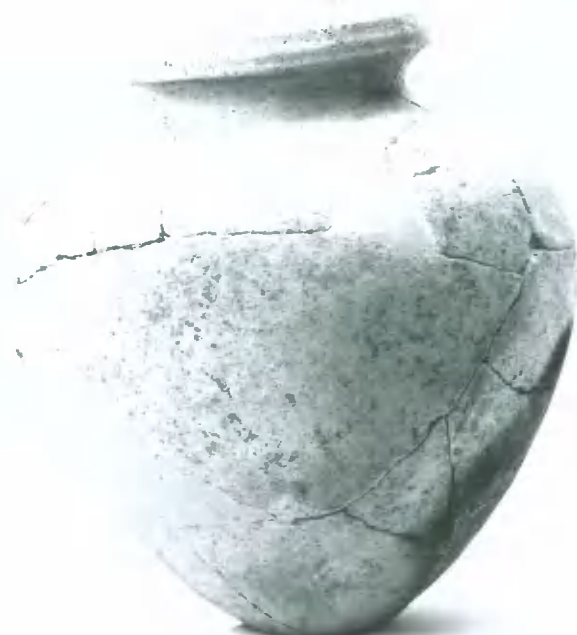
3381



3386



3382



3393



3394



3396



3397

3381、3382、3386  
3393、3394、3396  
3397

土壙236

角田調査区



3423



3429



3434



3436



3435



3439



3438



3444



3457

- 3423
- 土壙254
- 3429
- 土壙259
- 3434
- 土壙263
- 3435、3436
- 3438
- 土壙271
- 3439、3444
- 土壙272
- 3457
- 土壙284

角田調査区



3465



3472



3473



3486



3481



3525



3527



3499



3528



3529

3465、3472  
3473  
土壙285  
3481  
土壙288  
3486  
土壙291  
3499  
土壙295  
3525、3527  
3528、3529  
土壙302



角田調査区



3546



3564



3594



3568



3624



3571



3629

- 3546
- 土壙314
- 3564、3568
- 3571
- 土壙316
- 3594
- 土壙326
- 3624、3629
- 土壙338

角田調査区

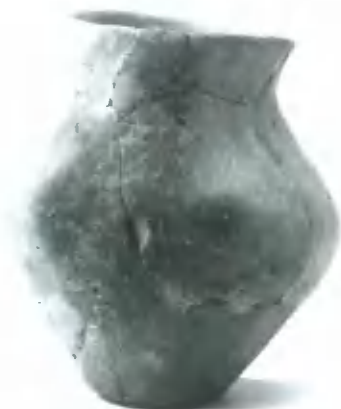


3606



3650

3606 土城328  
3650 土城346  
3654、3655、3664  
土城349  
3670、3673  
土城353  
3727、3728、3729  
3730、3733  
土城374



3654



3655



3673



3664



3670



3727



3728



3730



3729



3733

角田調査区



3706



3710



3718



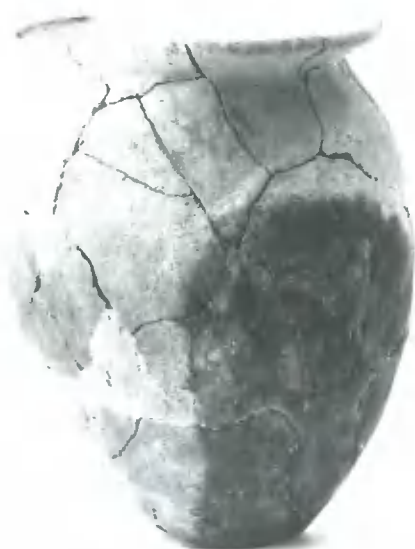
3723



3724



3758



3726



3756



3735



3742



3743

3706、3710、3718、3723、3724、3726 土壇374

3735、3742、3743 土壇376

3756、3758 土壇383

角田調査区



3794



3795



3816



3814



3780



3838



3848



3849



3853



3849



3839

3780 ~ 3853  
土壙390



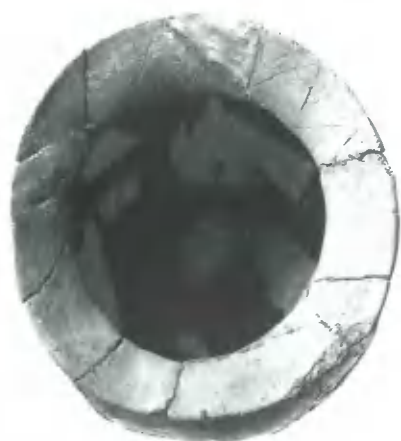
角田調査区



3883



3882



3872



3875



3872



3895



3896



3897



3899

3872 ~ 3899 土壙395



3873



3874



3894



3903



3908



3917

3873、3874、3894 土壇395  
3903、3908 土壇398  
3917 土壇400

角田調査区



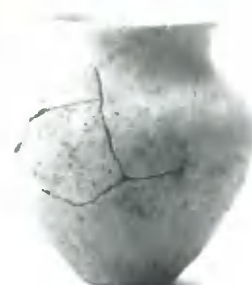
3979



3995



4036



4149



3993



4179



4037



4163



4201



4208



4210



4211



4234



4236

3979、3993、3995、4036、4037  
土器溜り1  
4149、4163、4179、4201、4208  
4210、4211、4234、4236  
土器溜り4



4154



4218



4219



4402



4224



4247



4226



4436



4403



4438

4154、4218、4219  
4224、4226、4247  
土器溜り4  
4402、4403、4436  
4438  
包含層



角田調査区



4307



4313



4315



4317



4324



4316



4329



4334



4328



4333

- 4307、4313  
柱穴37
- 4315  
柱穴39
- 4316、4317  
柱穴40
- 4324  
柱穴45
- 4328、4329  
柱穴46
- 4333  
柱穴48
- 4334  
柱穴49

角田調査区



4335



4346



4347



4350



4349



4351



4364



4366



4369



4370

- 4335
- 柱穴49
- 4346
- 柱穴55
- 4347
- 柱穴56
- 4349
- 4350
- 柱穴58
- 4351
- 柱穴59
- 4364
- 柱穴69
- 4366
- 柱穴70
- 4369
- 柱穴72
- 4370
- 柱穴73

角田調査区



4477



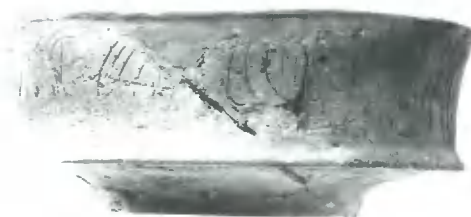
4484



4490



4486



4482

4477、4482、4484、4486、4490  
 竪穴住居130

4493、4494 竪穴住居132



4493



4494

角田調査区



4492



4496



4497



4498



4499



4501



4508



4500



4507

4492、4496、4497  
4498、4499、4500  
4501、4507、4508  
竪穴住居132



角田調査区



4503



4512



4504



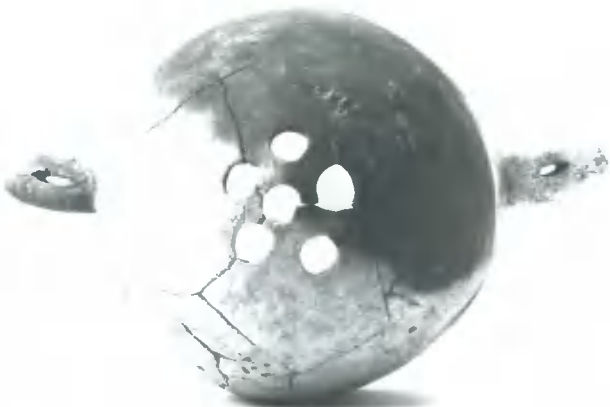
4513



4509



4522

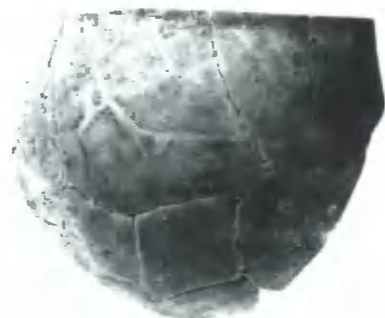


4513



4523

4503、4504、4509、4512、4513  
竪穴住居132  
4522、4523  
竪穴住居135



4524



4526



4528



4529



4532



4534

4524 竖穴住居135  
4526、4528、4529、4532、4534  
竖穴住居136

角田調査区



4538



4542



4539



4544



4545



4546



4549



4548



4550



4551

4538、4539、4542、4544、4545  
4546、4548、4549、4550、4551  
竪穴住居137

角田調査区



4556



4557



4558



4559



4562



4561



4563



4569



4570

4556、4557、4558  
4559、4561、4562  
4563  
竪穴住居138  
4569、4570  
4572、4573  
4576  
竪穴住居140



4572



4573



4576

角田調査区



4588



4589



4592



4596



4603



4609



4614



4612



4613



4615



4617



4634

- 4588、4589
- 4592、4596
- 竖穴住居141
- 4603
- 竖穴住居142
- 4609、4612
- 4613、4614
- 4615、4617
- 竖穴住居143
- 4634
- 竖穴住居144





4628



4653



4660



4674



4678



4662



4665



4664



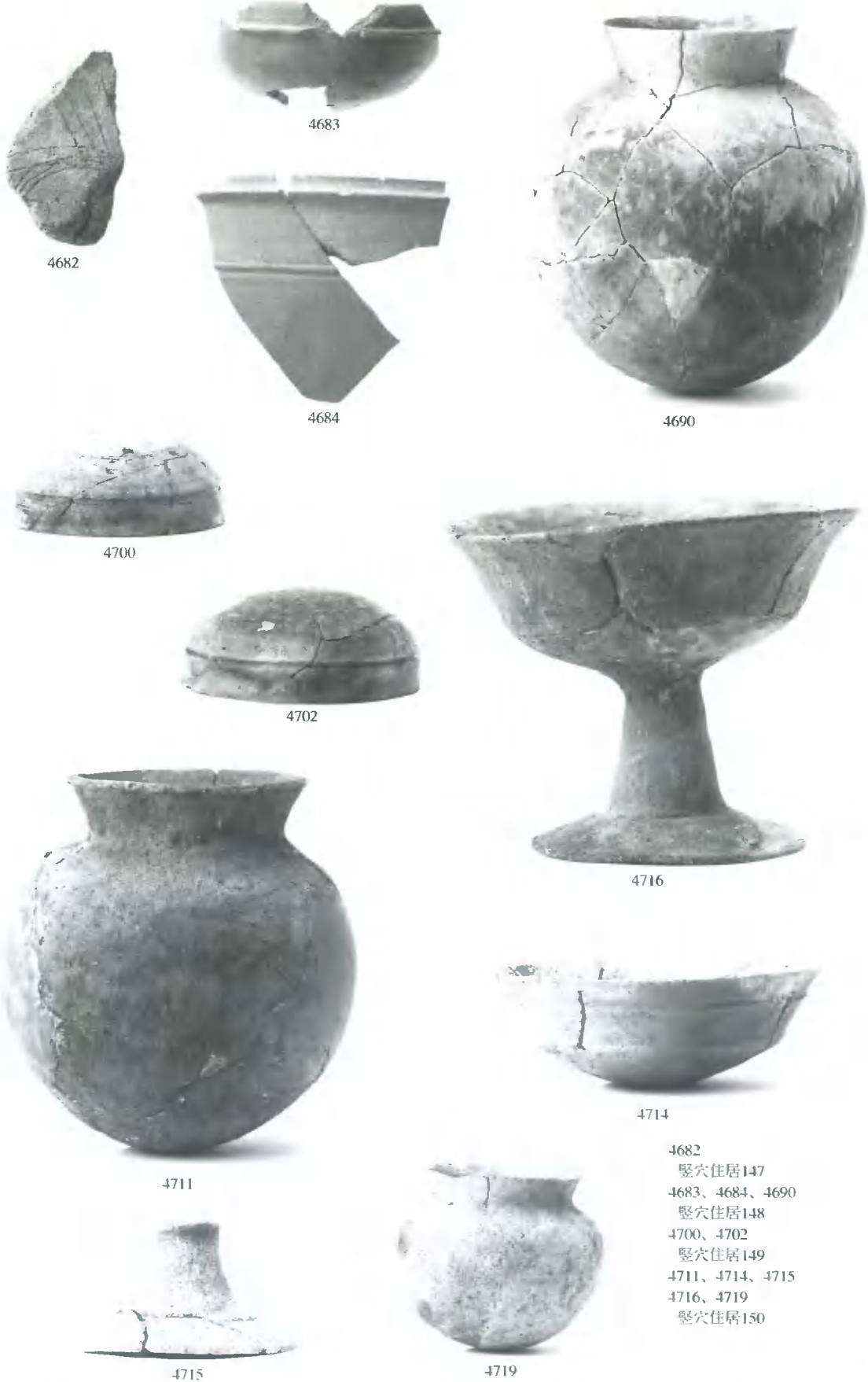
4668



4667

4628、4653  
竪穴住居144  
4660、4662、4664  
4665、4667  
竪穴住居145  
4668、4674、4678  
竪穴住居146

角田調査区



- 4682  
竪穴住居147
- 4683、4684、4690  
竪穴住居148
- 4700、4702  
竪穴住居149
- 4711、4714、4715  
4716、4719  
竪穴住居150

角田調査区



4731



4736



4743



4744



4748



4750



4747



4759



4757

- 4731 竖穴住居153
- 4736 竖穴住居154
- 4743、4744、4747、4748、4750
- 4757、4759 竖穴住居155
- 4765、4773 竖穴住居156



4765



4773



角田調査区



4796



4802



4836



4806



4813



4815



4842



4859



4857

4796、4802  
 竪穴住居159  
 4806、4813、4815  
 4836、4842  
 竪穴住居160  
 4857、4859  
 竪穴住居162



4849



4850



4844



4846



4866



4868



4865

4844、4846、4849  
4850  
竪穴住居161  
4865、4866  
竪穴住居163  
4868、4869、4871  
竪穴住居164



4869



4871

角田調査区



4875



4876



4880



4885



4890



4875、4876、4880  
 竪穴住居165  
 4885、4890  
 4894、4900  
 竪穴住居168  
 4906、4907  
 竪穴住居169



4894



4900



4906



4907

角田調査区



4923



4924



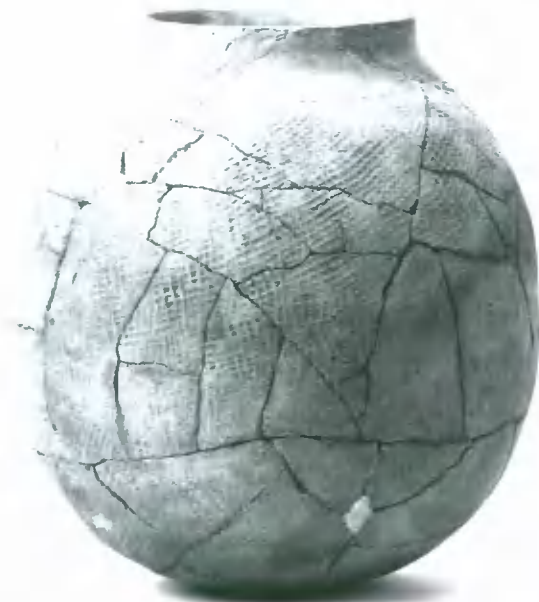
4925



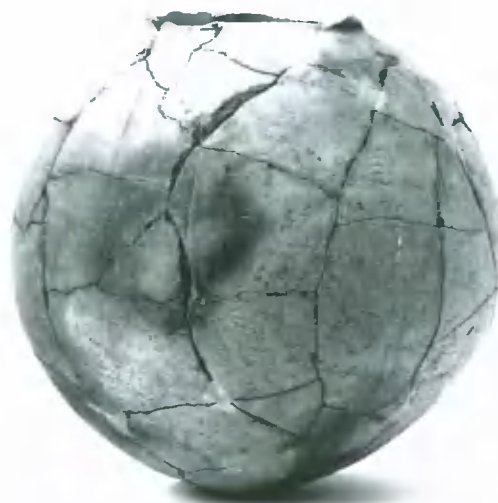
4940



4933



4932



4936



4950



4951

4923、4924、4925  
 竪穴住居170  
4932、4933、4936  
4940、4950、4951  
 竪穴住居171



角田調査区



4970



4987



4992



5019



5008



4994



5025



5036

4970  
 竪穴住居172  
 4987  
 竪穴住居173  
 4992、4994、5008  
 5019、5025  
 竪穴住居174  
 5036  
 竪穴住居175  
 5037、5039  
 竪穴住居176



5037



5039



5057



5077



5078



5069



5097



5122



5098



5094



5095



5123

5057、5069 竪穴住居179  
5077、5078 竪穴住居180  
5094、5095、5097  
5098、5122、5123  
竪穴住居184

角田調査区



5111



5115



5119



5176



5178



5177



5179



5177



5181

5111、5115  
5119  
    竪穴住居184  
5176、5177  
5178、5179  
5181  
    竪穴住居185



5193



5196



5197



5238



5227



5233



5226



5246

5193、5196、5197  
竪穴住居188  
5226、5227  
竪穴住居190  
5233、5238、5246  
竪穴住居191



角田調査区



5532



5533



5535



5537



5649



5357



5336



5358



5362



5363

5532 柱穴75    5533 柱穴76  
 5535 柱穴78    5537 柱穴80  
 5649 包含層  
 5336、5357、5358、5362、5363  
 河道7下層

角田調査区



5324



5326



5327



5418



5359



5365



5420



5421



5366



5375



5413



5379

5324、5326、5327、5359、5365  
5366、5375、5379、5413、5418  
5420、5421 河道7下層

角田調査区



5384



5386



5412



5387



5390



5416



5423



5433



5424



5425



5434

5384、5386、5387  
5390、5412、5416  
河道7下層  
5423、5424、5425  
5433、5434  
河道7中層

角田調査区



5440



5443



5465



5445



5447



5469



5460

5440、5443、5445、5447  
5460、5465、5469  
河道7上層



角田調査区



5444



5450



5463



5468



5451



5472



5474



5489



5476



5487

5444、5450  
5451、5463  
5468、5472  
5474、5476  
5487、5489  
河道7上層

角田調査区



5667



5669



5672



5685



5676



5679



5699



5698



5700



5700



5701



5705



5703



5706



5704

- |           |         |           |       |
|-----------|---------|-----------|-------|
| 5667      | 掘立柱建物58 | 5699      | 土墳墓20 |
| 5669      | 掘立柱建物65 | 5700      | 土墳墓21 |
| 5672      | 掘立柱建物73 | 5701      | 土墳墓23 |
| 5676、5679 | 土墳墓10   | 5703、5704 | 火葬墓1  |
| 5685      | 土墳墓16   | 5705、5706 | 井戸6   |
| 5698      | 土墳墓19   |           |       |

角田調査区



5707



5710



5711

5707、5710、5711、5713、5714 井戸6



5713



5714



5726



5733



5734

5726、5733、5734 土壇446



5740



5743



5746



5754



5756



5766



5768



5764



6231



6234



6231



6313

5740、5743、5746、5754、5756、5764 土壇449～453

5766 土壇454

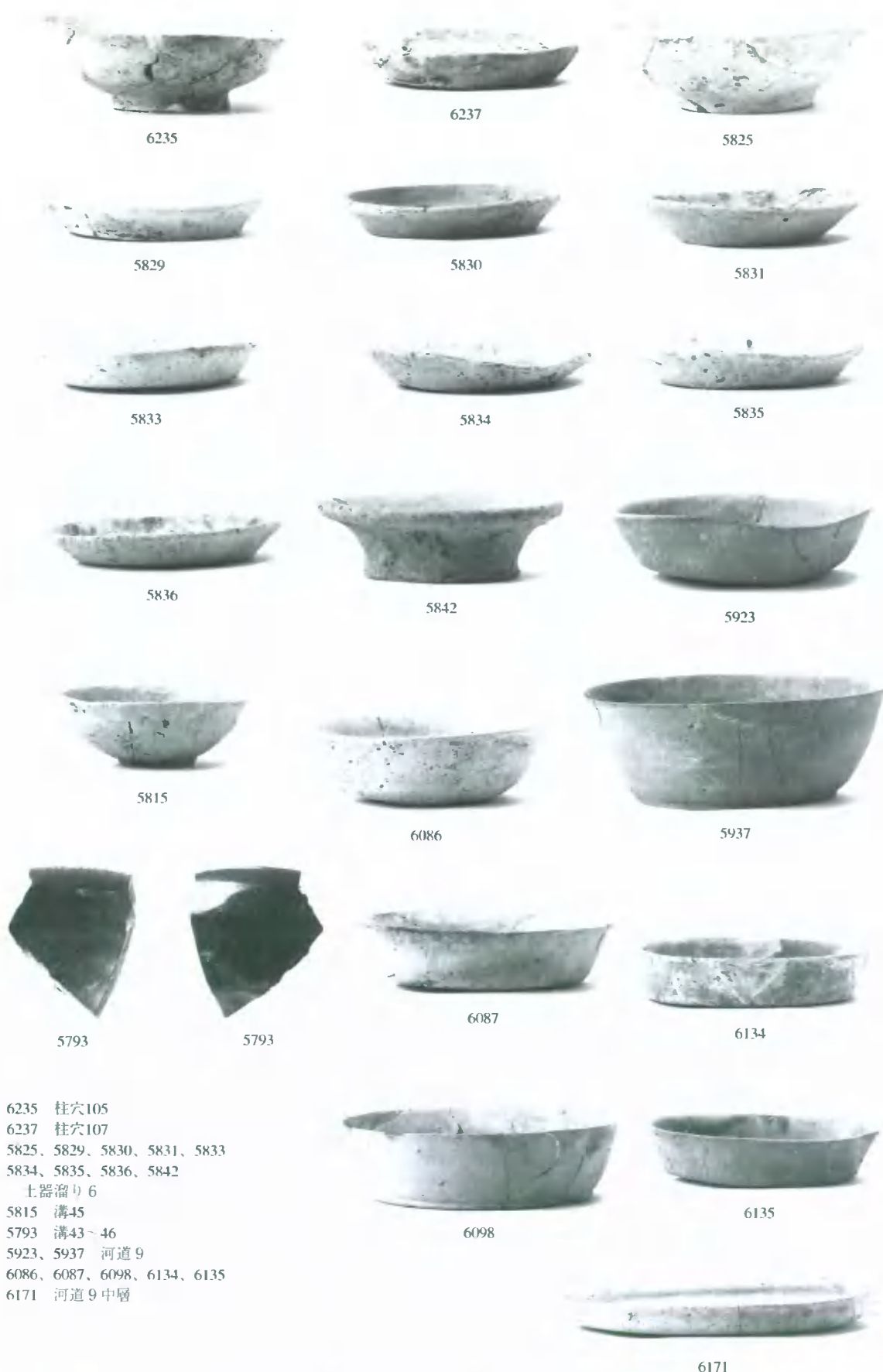
5768 土壇462

6231 柱穴98

6234 柱穴104

6313 包含層

角田調査区



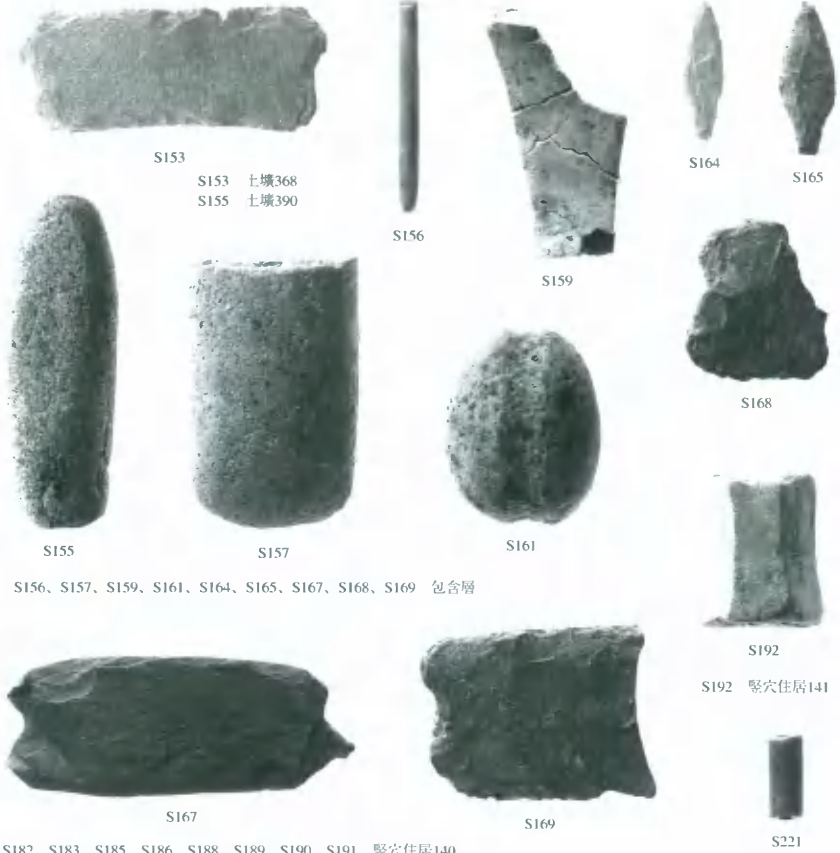
- 6235 柱穴105
- 6237 柱穴107
- 5825、5829、5830、5831、5833
- 5834、5835、5836、5842
- 土器溜り6
- 5815 溝45
- 5793 溝43~46
- 5923、5937 河道9
- 6086、6087、6098、6134、6135
- 6171 河道9中層



角田調査区



角田調査区



S156、S157、S159、S161、S164、S165、S167、S168、S169 包含層

S182、S183、S185、S186、S188、S189、S190、S191 竪穴住居140



S193、S194、S195、S196、S197、S198、S199、S200、S201、S202、S203、S204、S205、S206、S207、S209、S210、S211、S212、S213、S214、S215、S216、S217、S218、S219 竪穴住居142

S221、S222、S223、S224、S225、S226 竪穴住居143 S227 竪穴住居144

角田調査区



S230



S231



S235



S234



S233



S236



S244



S240



S238

- S230 竪穴住居154
- S231 竪穴住居159
- S233、S234 竪穴住居160
- S235 竪穴住居163
- S236、S238 竪穴住居169
- S239、S240 竪穴住居171
- S241、S242、S243 竪穴住居174
- S244 竪穴住居175
- S245、S246 竪穴住居179
- S256 竪穴住居184
- S258 竪穴住居190
- S266、S267、S277 包含層



S239



S241



S245



S243



S242



S256



S246



S258



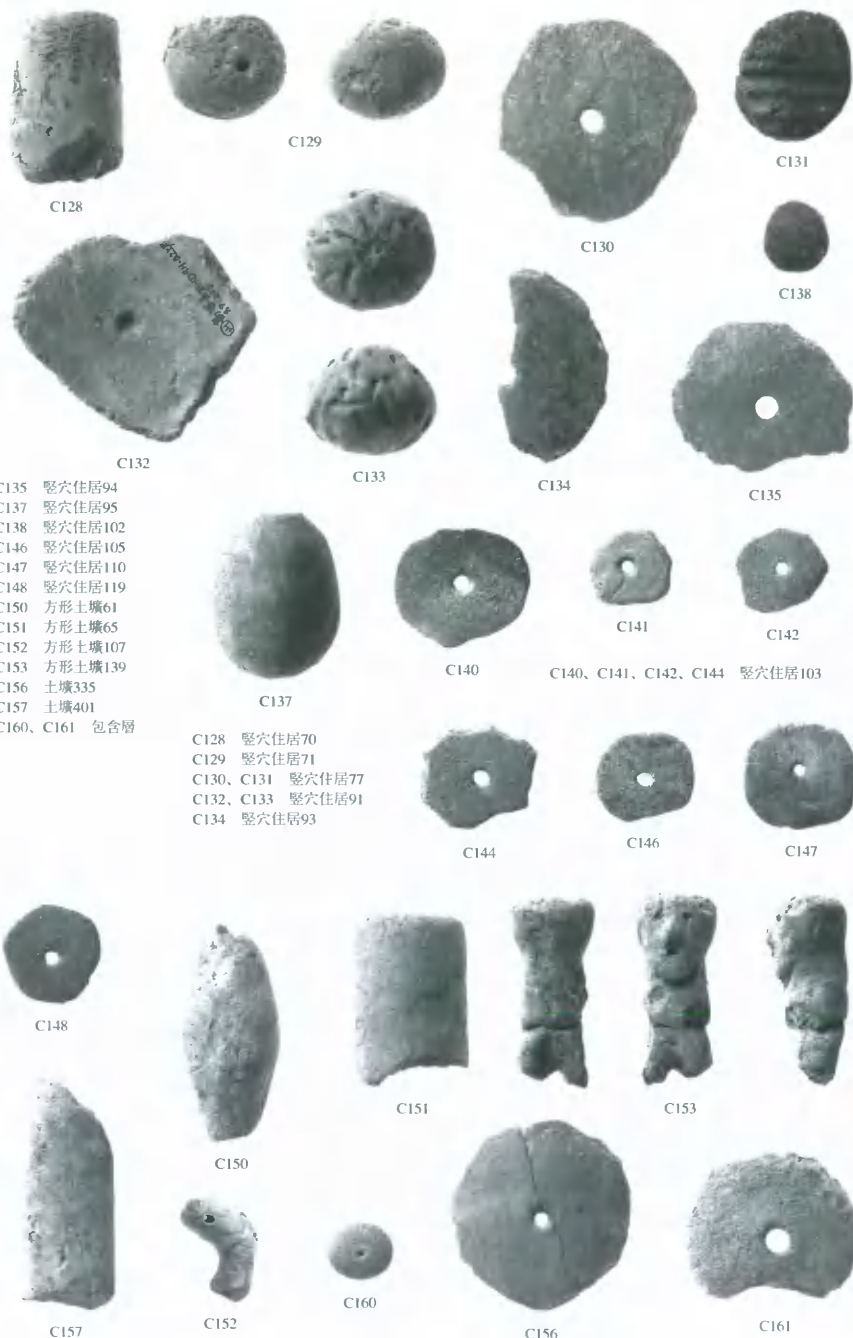
S267



S266



S277



- C135 竪穴住居94
- C137 竪穴住居95
- C138 竪穴住居102
- C146 竪穴住居105
- C147 竪穴住居110
- C148 竪穴住居119
- C150 方形土壇61
- C151 方形土壇65
- C152 方形土壇107
- C153 方形土壇139
- C156 土壇335
- C157 土壇401
- C160、C161 包含層

- C128 竪穴住居70
- C129 竪穴住居71
- C130、C131 竪穴住居77
- C132、C133 竪穴住居91
- C134 竪穴住居93

C140、C141、C142、C144 竪穴住居103

角田調査区



C166



C163



C168



C169



C164

C163, C164, C166 包含層  
C168, C169 竪穴住居141  
C175 竪穴住居169



C170



C175



C171



C172



C179



C173



C174



C180



C181



C177



C178

C181, C182, C183 竪穴住居179

C177, C178, C179, C180 竪穴住居175



C182



C183



C185



C186



C187



C193



C194



C195

C185, C186, C187 竪穴住居191

C193, C194, C195, C196, C197, C198, C199 竪穴住居190



C196



C197



C198



C199



C206



C207



C209

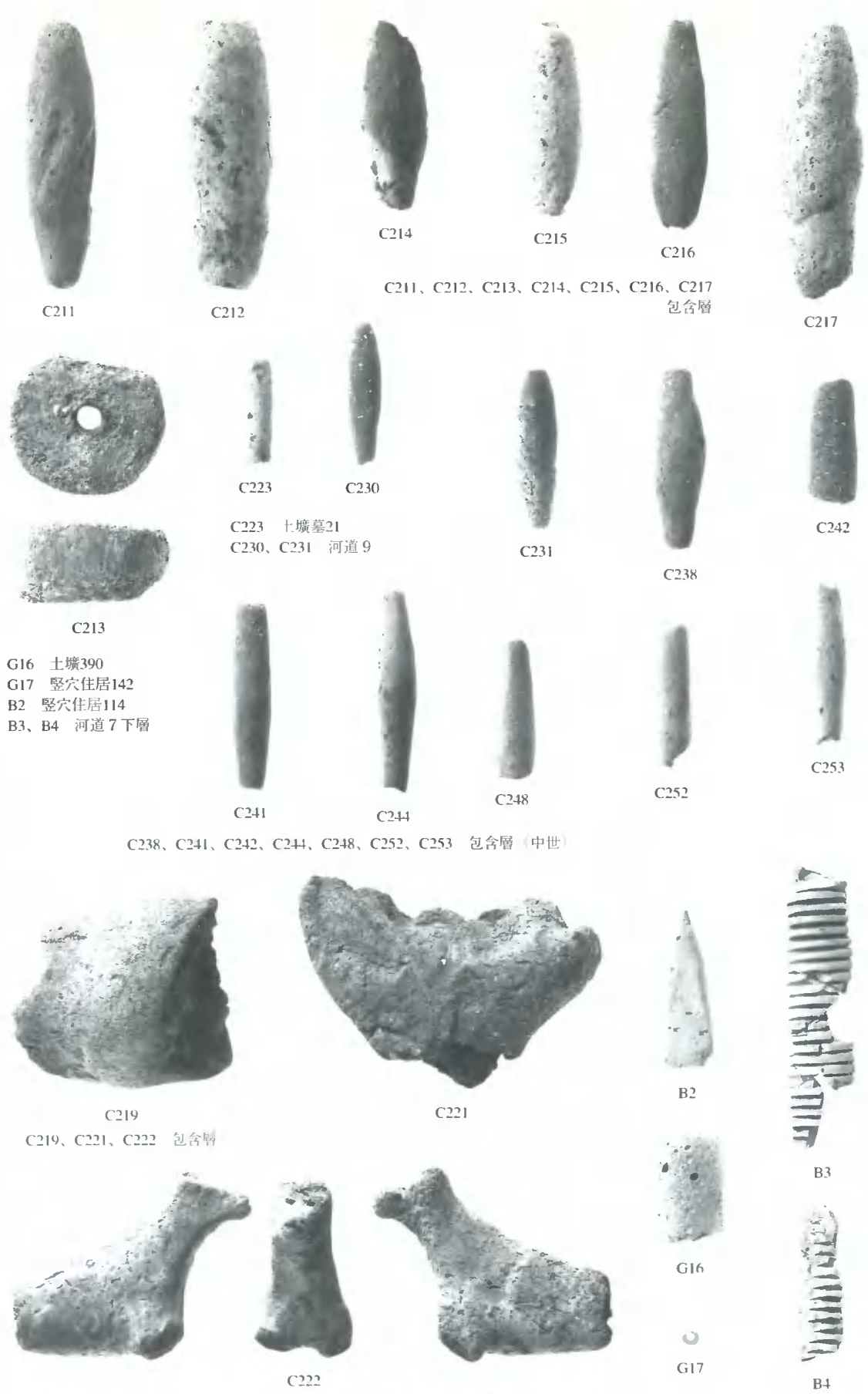


C210

C206, C207 竪穴住居190・191

C209, C210 包含層

角田調査区



C211

C212

C214

C215

C216

C217

C211, C212, C213, C214, C215, C216, C217  
包含層

C223

C230

C231

C238

C242

C223 土壙墓21  
C230, C231 河道9

C213

C241

C244

C248

C252

C253

C238, C241, C242, C244, C248, C252, C253 包含層 (中世)

C219

C221

B2

C219, C221, C222 包含層

B3

G16

C222

G17

B4



角田調査区



M138



M139



M141

M138、M139、M141 竪穴住居77



M150



M151

M150 竪穴住居104

M151 竪穴住居105



M144

M144 竪穴住居80

M149 竪穴住居90



M149



M157



M160



M158



M167

M167 竪穴住居141



M165

M157 方形土壇123

M158 方形土壇156

M160 土壇391

M165 包含層



M173



M174

M173、M174、M176 竪穴住居145



M176



M180

M180 竪穴住居156

M182 竪穴住居165



M182



M192



M184



M183

M183、M184 竪穴住居172

M185 竪穴住居174

M192 竪穴住居188



M185

角田調査区



M195



M197

M195 河道7  
M197 柱穴77



M201



M198

M198、M201 包含層



M208



M216



M208、M209  
M210、M211  
土壌墓18

M216 土壌473

M209



M213



M210



M211



M222



M212



M223

M212、M213 土壌墓21



M224

M222、M223、M224 河道9上層  
M235 柱穴94



M235



塚廻り・角田調査区



塚廻り調査区



塚廻り調査区



塚廻り調査区



角田調査区



角田調査区



報告書抄録

ふりがな	たかつかいせき みていせき2							
書名	高塚遺跡 三手遺跡2							
副書名	山陽自動車道建設に伴う発掘調査							
巻次	18							
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	150							
編著者名	江見正己 平井泰男 弘田和司 柴田英樹 田坂佳子 築地由行 二宮治夫 井上 弘 東 恵子 難波拓史 室山博文 正岡陸夫 松本和男 浅倉秀昭 岡本寛久 伊藤 晃 高畑知功 平井 勝 中野雅美 亀山行雄 馬淵久夫 大澤正己 安田博幸 白石 純 池田次郎							
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター							
所在地	〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3 TEL086-293-3211							
発行機関	岡山県教育委員会							
所在地	〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6 TEL086-224-2111							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかつか 高塚	おかやましたかつか 岡山市高塚	33201		34度 41分 22秒	133度 48分 30秒	19890401～ 19900331	16,195	山陽自動車 道建設に伴 う発掘調査
みて 三手	おかやましみて 岡山市三手	33201		34度 41分 10秒	133度 48分 45秒	19950104～ 19950331	1,730	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
高塚	集落 墓地 畑地	弥生	竪穴住居	110軒	弥生土器、石器、土製 品(分銅形土製品他)、 玉類、金属器(銅鐸・貨 泉他)	弥生時代から中・近世に かけての集落遺跡  銅鐸・貨泉の出土		
		古墳	竪穴住居	109軒	土師器、須恵器、韓式 系土器、土製品、玉類、 金属器		古墳時代後期の住居から 韓式系土器出土	
		古代・中世	掘立柱建物	71棟	備前焼、亀山焼、陶磁 器、瓦質土器、瓦、土製 品、金属器(和鏡他)、 獣骨、銭貨、鉄滓		建物・井戸等を取り囲む 溝で構成される屋敷跡	
		近世	井戸	1基	土師器、備前焼、陶磁 器、金属器、宋銭、木器 (げた・漆塗り椀)、鉄滓			
三手	水田	中・近世	溝 水田		土師器、須恵器、 陶磁器	中・近世にかけての集落 遺跡		

### 山陽自動車道関連発掘調査一覧表

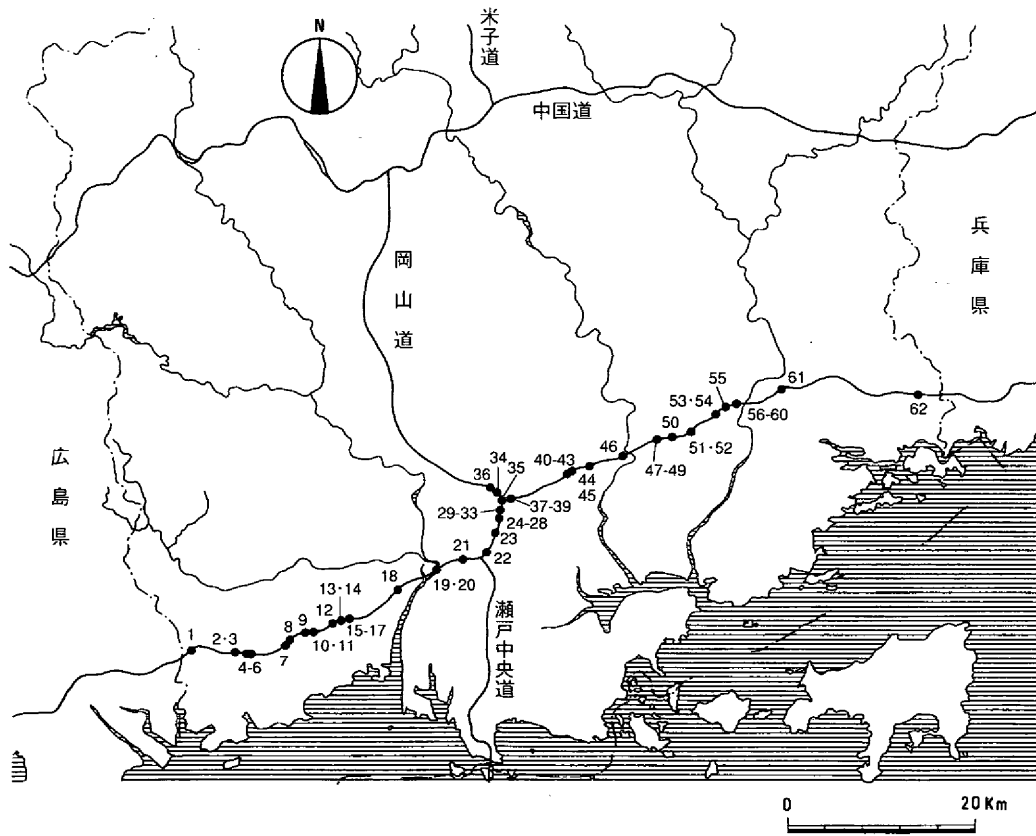
番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年度	調査面積	調査担当者	報告書
1	内山遺跡 内山古墳	笠岡市篠坂	散布地(一次調査のみ)	昭和59年度	550㎡	福田	70
2	中畦遺跡	笠岡市小平井	散布地(一次調査のみ)	昭和59年度	98㎡	福田	70
3	鍛冶屋遺跡	笠岡市小平井	古墳時代～中世の集落・製鉄跡	昭和59～61年度	29,328㎡	松本・岡田・福田・田中	70
4	園井上井遺跡	笠岡市園井	中世の集落	昭和59～60年度	5,570㎡	福田・田中	70
5	彌宜ヶ崎遺跡	笠岡市園井	散布地(一次調査のみ)	昭和59年度	460㎡	福田	70
6	本谷遺跡	笠岡市今立	中世の集落	昭和59年度	200㎡	福田	70
7	沖の店遺跡	鴨方町小坂西	中世の聚跡	昭和55年度	1,200㎡	伊藤・浅倉	42
8	小坂東兩名遺跡 大畦遺跡	鴨方町小坂東 鴨方町小坂東	散布地(一次調査のみ) 散布地(一次調査のみ)	昭和55年度 昭和55年度	3,000㎡ 300㎡	伊藤・浅倉	42
9	和田遺跡 宮の臨古墳	鴨方町益坂 鴨方町地頭上	弥生時代の墳墓群 古墳時代の墳墓	昭和54年度 昭和54年度	250㎡	伊藤・浅倉 伊藤・浅倉	42 42
10	向原遺跡	鴨方町益坂	-	昭和54年度		伊藤・浅倉	42
11	阿坂古墳	鴨方町益坂	古墳時代の墳墓	昭和54年度		伊藤・浅倉	42
12	上竹西の坊遺跡	金光町阿坂	弥生時代～古代の集落・窯跡	昭和56・58年度	9,650㎡	正岡・井上・福田・古谷野・武田	69
13	唐津池北遺跡	倉敷市玉島道口	弥生時代の集落	昭和58～59年度	5,230㎡	正岡・福田・古谷野	69
14	道口遺跡	倉敷市玉島	古墳時代の集落	昭和58～59年度	1,830㎡	正岡・福田・古谷野	69
15	沢寺遺跡	倉敷市玉島八島	中世の集落・貝塚	昭和58～59年度	2,940㎡	正岡・福田・古谷野	69
16	西光坊遺跡	倉敷市玉島八島	中世の集落・貝塚	昭和58～59年度	480㎡	正岡・福田・古谷野	69
17	亀山遺跡	倉敷市玉島八島	中世の集落・貝塚・窯跡・墳墓	昭和58～60年度	10,160㎡	正岡・岡田・福田・古谷野・田中・武田	69
18	中山1・2号貝塚	船穂町中山	中世の貝塚	昭和59年度	850㎡	浅倉・中野	81
19	酒津八幡山平谷遺跡	倉敷市酒津	古墳時代の遺物包含層	昭和59年度	770㎡	浅倉・中野	81
20	酒津一水江遺跡	倉敷市酒津	弥生時代～中世の遺物包含層	昭和59年度	260㎡	浅倉・中野	81
21	菅生小学校裏山遺跡 西坂古墳	倉敷市西坂 倉敷市西坂	旧石器～中世の集落 古墳時代の墳墓	昭和59・60～62年度 昭和61年度	21,450㎡	浅倉・中野・亀山・小松原 中野・亀山	81 81
22	三田散布地	倉敷市三田	中世の水田	昭和61年度	200㎡	井上	81
23	二子14号墳	倉敷市二子	古墳時代の墳墓	昭和61～62年度	1,700㎡	井上・松本・亀山	81
24	矢部古墳群A	倉敷市矢部	古墳時代の墳墓群	昭和59・61年度	4,400㎡	浅倉・大智	82
25	矢部古墳群B	倉敷市矢部	弥生時代の集落・古墳時代の墳墓群	昭和59・61～62年度	2,400㎡	井上・大智	82
26	矢部大塚遺跡	倉敷市矢部	弥生時代の集落・中世の祭祀跡	昭和59・62年度	1,200㎡	内藤・大智	82
27	矢部奥田遺跡	倉敷市矢部	縄文時代の貝塚・古墳時代の粘土探掘跡	昭和59・62年度	2,800㎡	山藤・内藤・大智・佐守	82
28	矢部堀越遺跡	倉敷市矢部	弥生時代～中世の集落・墳墓	昭和59・62年度	7,400㎡	浅倉・内藤・大智・石田	82
29	郷境墳墓群	岡山市津寺	弥生時代～古墳時代の墳墓群	昭和61～62年度	1,365㎡	井上・松本・亀山	89
30	前池内遺跡 前池内3号墳 前池内4～7号墳	岡山市津寺 岡山市津寺 岡山市津寺	弥生時代～中世の集落・墳墓 古墳時代の墳墓 古墳時代の墳墓群	昭和61～62年度 昭和62年度 昭和63年度	6,835㎡ 1,675㎡ 990㎡	正岡・井上・中野・川崎・小松原 田中・亀山 中野・福田・後藤	89 89 89
31	後池内遺跡 後池内古墳	岡山市津寺 岡山市津寺	弥生時代・中世の集落 古墳時代の墳墓	昭和61年度 平成元年度	240㎡	正岡・井上・田中・川崎・亀山 葛原・土井	89 89
32	黒住・雲山遺跡	岡山市津寺	縄文時代～中世の集落・墳墓	昭和61～63年度	24,463㎡	正岡・松本・井上・山藤・内藤・田中・川崎・片山・大智・佐守・澤山・柴田	89
33	雨崎・天神山遺跡	岡山市津寺	縄文時代～中世の集落・墳墓・城跡	昭和61～平成元年度	15,729㎡	正岡・浅倉・井上・内藤・岡本・宇垣・片山・石田・大智・澤山・柴田	89
34	三手遺跡	岡山市三手	古墳時代～近世の集落・水田・墳墓	昭和61・63年度 平成6年度	20,584㎡ 1,730㎡	正岡・小柴・山藤・二宮・吉田・中野・川崎・小田・福田・亀山・大橋・後藤・伊藤・平井・中野・三上・小延・東呂木・大村・山本・高見・姥原	90 150
35	津寺遺跡	岡山市津寺	弥生時代～近世の集落・水田・官衙・墳墓	昭和61・63～平成4年度	87,290㎡	葛原・正岡・小柴・井上・松本・高畑・山藤・岡田・二宮・福田・浅倉・林・吉田・野上・中野・遠藤・栗尾・垣内・井上・川崎・光永・島崎・源・小田・福田・広瀬・山本・片山・田代・亀山・安井・佐守・大橋・小松原・澤山・弘田・柴田・古市・桑原・村田・久保・森・後藤・飯島・佐伯・谷岡・土井・石黒・波多野・守屋	90 98 104 116 127
36	高塚遺跡	岡山市高塚	弥生時代～中世の集落・祭祀跡	昭和62～平成元年度	16,195㎡	正岡・松本・浅倉・窪田・古谷野・江見・岡本・栗尾・垣内・川崎・平井・長川・佐守・小松原・弘田・横山・森・谷岡・石田	150
37	加茂教所遺跡	岡山市加茂	弥生時代～近世の集落・寺院・水田・墳墓・竊盗跡	平成元～4年度	12,686㎡	正岡・松本・浅倉・窪田・古谷野・出原・江見・岡本・吉久・平井・川崎・長川・平松・亀山・古市・佐守・澤山・弘田・横山・柴田・森・守屋	138
38	高松原古才遺跡	岡山市高松原古才	弥生時代～中世の集落	平成元～2年度	1,682㎡	正岡・浅倉・古谷野・窪田・川崎・弘田	138
39	立田遺跡	岡山市立田	弥生時代～中世の集落	平成元～2年度	1,103㎡	森・守屋	
40	富原西奥古墳	岡山市富原	古墳時代の墳墓	昭和62・63年度	300㎡	松本・佐守	83
41	富原大池奥山遺跡	岡山市富原	一次調査のみ	昭和63年度	300㎡	松本・佐守	83
42	大岩遺跡	岡山市富原	弥生時代～近世の集落・墳墓	平成4年度	1,583㎡	正岡・浅倉・二宮・古谷野・中野・松岡・澤山・柴田	128
43	田益遺跡	岡山市田益	弥生時代～中世の集落・墳墓	平成2～3年度	5,440㎡	伊藤・松本・岡田・二宮・窪田・野上・山本・佐守・長門	128
44	白壁古墳	岡山市横井上	古墳時代の墳墓	平成2年度	300㎡	松本・佐守	83



### 山陽自動車道関連発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年度	調査面積	調査担当者	報告巻
45	白壁良遺跡	岡山市横井上	古墳時代～古代の製鉄跡・墳墓	平成4年度	3,500㎡	下澤・竹井・瀬川	128
46	平瀬古墳群	岡山市玉柏	古墳時代の墳墓群	平成元年度	1,000㎡	葛原・井上・大智	83
47	馬屋遺跡	山陽町馬屋	古代～中世の集落	平成3～4年度	10,412㎡	伊藤・下澤・二宮・窪田・野上・平松・横山	99
48	池新田遺跡	山陽町徳崎		平成3年度	1,120㎡	伊藤・下澤・二宮・窪田・野上・平松・横山	99
49	新屋敷遺跡	山陽町徳崎	弥生時代の集落	平成3年度	1,164㎡	伊藤・下澤・二宮・窪田・野上・平松・横山	99
50	長尾遺跡	山陽町	遺物包含層	平成3年度	50㎡	下澤・平松・横山	99
51	斎富遺跡	山陽町斎富	縄文時代～中世の集落	平成3～4年度	20,580㎡	伊藤・下澤・井上・岡田・福田・平井・二宮・窪田・大森・野上・古谷野・竹井・吉久・山田・石田・山本・長川・田原・栗呂木・松岡・平松・安井・大橋・高田・横山・氏平・瀬川・長門・根木	105
52	斎富古墳群	山陽町斎富	古墳時代・中世の墳墓群	平成2～4年度	1,683㎡	下澤・栗原・福田・松岡・安井・古市・澤山	99
53	勘定口2号墳	瀬戸町塩納	古墳時代の墳墓	平成4年度	370㎡	福田	99
54	塩納成遺跡A 塩納成遺跡B	瀬戸町塩納 瀬戸町塩納	遺物包含層	平成2年度 平成2年度	73㎡ 80㎡	下澤・栗原 下澤・栗原	99
55	実教寺北遺跡 実教寺南遺跡	瀬戸町万富 瀬戸町万富	遺物包含層	平成元～2年度 平成元～2年度	270㎡ 340㎡	下澤・栗原・大智 下澤・栗原	99
56	保木池尻遺跡	瀬戸町保木	一次調査のみ	平成元年度	190㎡	下澤・大智	99
57	保木西遺跡	瀬戸町保木	一次調査のみ	平成元年度	220㎡	下澤・大智	99
58	保木東遺跡	瀬戸町保木	一次調査のみ	平成2年度	200㎡	下澤・栗原	99
59	奥池西遺跡 奥池北遺跡	瀬戸町万富 瀬戸町万富	一次調査のみ	平成2年度 平成2年度	537㎡	下澤・栗原	99
60	松尾古墳群 松尾窯跡	瀬戸町万富 瀬戸町万富	古墳時代の墳墓群 中世の窯跡	平成元～2年度 平成元年度	610㎡	下澤・栗原・大智 下澤・大智	99
61	満願寺遺跡	熊山町奥吉原	一次調査のみ	平成2年度	58㎡	下澤・栗原	99
62	荒神社東遺跡	備前市福石	一次調査のみ	昭和52年度	80㎡	岡本	25

358,103㎡



岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150

高 塚 遺 跡  
三 手 遺 跡 2

山 陽 自 動 車 道  
建 設 に 伴 う 発 掘 調 査

18

(第4分冊)

2000年3月16日 印刷

2000年3月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター

岡山市西花尻1325-3

発 行 岡山県教育委員会

岡山市内山下2-4-6

印 刷 岡山県農協印刷株式会社